年度	2015	授業コード	A50363B01
科目名	心理学基礎Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Psychology Ⅱ		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	ひとは，日常生活の中で，様々に感じ，考え，行動しています。心理学は，このような「人のこころ」の知るための学問です。心理学者たちは，「人のこころ」の謎に迫るために，長年にわたって様々な研究を行ってきました。 この講義では，私たちが日常生活で直面する様々な問題や疑問を取りあげながら，心理学によって明らかにされてきた「人のこころ」について紹介していきます。講義を通して，一般的にイメージされる「心理学」とは違う，学問としての心理学を知ってもらいたいと思います。 心理学入門Ⅰ Ⅰでは，日常で出会う問題を取り上げながら，様々な心理学の研究領域について講義します。具体的な研究の内容を紹介し，心理学で使用されている実験，調査などの方法についても説明します。 講義で得た知識を使いながら，日常で出会う「人のこころ」に関する疑問について考えていきましょう。		
教材（テキスト）	指定しません。適宜，資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に適宜，紹介します。		
教材（その他）	講義中に適宜，紹介します。		
評価方法	授業中に実施する理解度チェックや小レポートなどの課題（50%） 筆記試験（50%）		
到達目標	①心理学の諸領域に関する幅広い知識を身につける。 ②日常で出会う様々な問題を，心理学の視点から理解できるようになる。		
準備学習	各講義で学んだことを日常場面の問題に関連づけて考え，理解を深めてください。 また，講義の冒頭に復習のための小テストを実施する場合があるので，前回分の講義の内容を理解したうえで，次の講義に臨んでください。		

受講者への要望

①講義中の私語や携帯電話による通話は，他の受講者の迷惑になるため，厳禁とします。どうしても，誰かと話したい，話さなければならない，という場合は，一度退室してください。また，場合により，講師から退室を求めることもありますので，注意してください。
②質問や要望を記入する用紙を講義中に配布します。何かあれば，用紙に記入し，講義後に提出してください。
③また，講師に直接の質問したい場合は，原則として講義後にお願いします。
④講義期間中に，様々な心理学実験や調査のデモを行う予定です。是非，積極的に参加してください。
⑤春学期開講科目の心理学入門Ⅰを受講しておくことで，講義内容を理解しやすくなると思います。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション・心理学とは？①
2　オリエンテーション・心理学とは？②

第 3 回～第 14 回までの講義内容は，受講者全員の興味に合わせて，以下のテーマから選出します。
1 つのテーマにつき，2 回の講義を行う予定です。

テーマ
・ からだとこころの意外な関係
・ イメージのもつ影響力
・ しっかりと覚えるためには？
・ 自分をうまくコントロールする方法
・ 忘れたいことがあるとき
・ シロクマについて考えるな
・ 「○○したい！」とうまく付き合う
・ ストレスに対処する
・ 面倒なことは後回し
・ 心の健康と基礎心理学
・ 感情ってなんだろう

15　改めて，心理学ってなに？

受講者の希望を取り入れながら，講義の内容・順序・ボリュームを調整していく予定です。
また，講義中に受講者に課題を課すことがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	A80000101
科目名	日本経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	2012 年に発足した安倍内閣のもとで,「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な取り組みが実施される中, 我が国経済も今年こそは内需主導の本格的な経済成長を実現するとの期待が高まっている．2014 年には消費税率が引き上げられ, 財政健全化に向けての取組がなされたものの, その後の経済成長の低迷を受け, 2015 年に予定されていた消費税率の引き上げを見送るべく，総選挙が実施された. この間とくに注目すべきは，経済のグローバル化の進展により，円安にもかかわらず輸出が伸び悩んでいる．我が国経済の本格的な回復には,「第 3 の矢」を放ち，内需主導の経済成長を実現することが喫緊の課題である．第 3 の矢がいつ放たれるのか，国際的には，TPP への参加問題も大きな課題となっているし，アジア諸国との外交関係も景気に微妙な影響を及ぼすことになるかも知れない. 本講義では，その時々のトピックスにも注意を向けながら，日本経済の特徴を理解できるように平易に解説する.		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版		
教材（その他）	講義用レジュメを配付する		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を理解する		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		

受講者への要望

「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける.

講義の順序とポイント

1. 序　章　日本経済の現況
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
4. 第 2 章　バブル景気と失われた 20 年
5. 第 2 章　バブル景気と失われた 20 年
6. 第 2 章　バブル景気と失われた 20 年
7. 第 3 章　金融システムの動揺
8. 第 3 章　金融システムの動揺
9. 第 4 章　財政赤字の急増
10. 第 4 章　財政赤字の急増
11. 第 5 章　産業構造の変化と労働市場の変容
12. 第 5 章　産業構造の変化と労働市場の変容
13. 第 6 章　生活不安とセイフティネット
14. 第 6 章　生活不安とセイフティネット
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	A80000501
科目名	ビジネスのための数学入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、高校で既習の 1 次関数・2 次関数からはじめて、微分・偏微分や行列などより高度な抽象的な内容（B で取り上げる）に発展させていく。ただ、従来の数学のように定理・証明の積み重ねではなく、定理の直感的な意味の把握とその実践としての問題演習を中心に進めていく予定である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントと Web のホームページ		
評価方法	授業レポート（52%），その理解度を確認する演習・試験（48%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 特に数列の計算・関数のグラフ・微分の計算と応用などの能力を獲得すること。		
準備学習	高校の数学の教科書や図書館の参考書などで復習すること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで自習するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，その演習として簡単な問題を課し提出してもらう予定である。
高校数学の復習から始めるので事前に高校教科書の該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1. 数と集合
2. 集合と命題
3. 整式の計算・方程式・不等式
４．２次関数・２次不等式・２次不等式・
5. 数列
6. 数列の極限
7. 関数
8. 集合・関数・方程式・不等式・数列について総合演習
9. 指数関数
１０．対数関数
11. 関数の極限と微分
12. 微分の公式
13. 微分の計算
14. 微分の応用
15. 指数・対数関数・関数の極限・微分法について総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	A85000301
科目名	会計学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業の経営活動を数値で表そうとするとき、その記帳は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として 「企業の成績表」ともいえる「決算書」(財務諸表)が作成される。したがって、こうした簿記技法とその背景に ある会計理論は、企業経営にとっての必須事項となっている。 （2）経理事務がコンピュータ化されている今日においても、取引情報をインプットするのは人間の手であり、又、 アウトプットされた会計情報を読み解くのも人間の頭によらざるを得ない。簿記・会計の知識が組織経営に とって極めて重要である理由は、ここにある。 （3）このような観点から、本講義では、簿記・会計を初めて学ぶ者を対象として、企業経営に役立つ会計情報の 意義と決算書の内容、そして会計の応用分野について、出来るだけ分かり易く解説する。将来的なビジネス 対応を念頭に置き、積極的な関心を持って受講していただきたい。		
教材（テキスト）	明神信夫・笹倉淳史・水野一朗 編著 『アカウンティング―現代会計入門―【四訂版】』 同文舘出版、￥2,500		
教材（参考文献）	（1）弘兼憲史 著 『知識ゼロからの決算書の読み方』 幻冬舎　￥1,300 （2）大阪商工会議所編 『ビジネス会計検定試験 公式テキスト３級【第２版】』 中央経済社 ￥1,500		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	原則として、平素の受講状況等(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。 （2）組織活動の財・サービスを計数的に測定・伝達するシステムの基本が理解できる。 （3）経済的意思決定に対する会計情報の有用性が理解できる。		
準備学習	（1）講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト個所を、事前に解読して準備しておくこと。 （2）配布する私製アンケート「Minute Paper」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。		

受講者への要望

（1）まずは、会計学の専門用語に慣れることが肝心であり、関連する箇所を予習して講義に臨むように希望する。
（2）本講義内容は、経営学部での学習にとって非常に有益なものとなろう。
（3）遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎるような場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得る。

1．講義の展開予定と評価、簿記と会計
2．会計の役立ち
3．会計情報の内容
4．会計情報の開示＝制度会計におけるディスクロージャー＝
5．会計情報の読み方（1）＝経営分析と収益性分析＝
6．会計情報の読み方（2）＝安全性分析と成長性分析＝
7．会計情報の信頼性＝会計監査＝
8．会計情報の作り方（1）＝簿記及び会計の基本ルール＝
9．会計情報の作り方（2）＝連結財務諸表の作成＝
10．会計情報と原価管理＝原価計算＝
11．会計情報と利益管理＝管理会計＝
12．会計情報と税務＝税務会計＝
13．会計情報と国際化＝国際会計＝
14．会計情報と環境＝環境会計＝

１５．　会計学の展望と資格

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	AC1000601
科目名	ビジネスパーソンの常識	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	日根野　健	旧科目名称	
講義概要	学生がビジネスパーソンになり、収入を得るようになったときに必要な基本知識を身につけることを目標とします。 大きく 3 部構成としています。 第 1 部　投資信託による資産運用 債券、株式、REIT に投資する投資信託を取り上げます。10 年以上の長期間をかけて資産形成していくには、どのような投資信託を活用すればよいか、具体的な投資信託を取り上げながら、事例で学びます。 第 2 部　生命保険によるリスクへの備え 死亡のリスク、重い病気や介護等のリスク、医療のリスク、老後のリスク、それぞれのリスクをヘッジするために、どのような生命保険があるか、学びます。 第 3 部　社会保険の仕組みと日本の課題 給与明細の読み方を通して、所得税・住民税や健康保険・厚生年金保険・雇用保険の制度について取り上げます。 就職活動にも役立つような形で各トピックスを学習していきます。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配付する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜プリントを配付する。		
評価方法	レポート（50%）、定期テスト（50%） (1) レポートの内容は、投資信託分析レポートの作成とする。 (2) 定期テストの内容は、授業中に実施するワークの内容と類似したものを出題する。		
到達目標	社会人としての基本的なマネーに関する知識（ファイナンシャル・リテラシー）を修得することを目標とします。		
準備学習	毎授業の最初に、前回の授業内容に関するワークを実施します。 そのため、前回の授業内容のポイントの復習を、毎回の授業の準備学習として行ってください。		
受講者への要望			
社会人になると給与により収入を得るようになります。でも、その全てが使えるわけではありません。税金を払ったり、社会保険料を払ったり、将来のために貯蓄したりしなければなりません。 そのようなときに必要となる知識（ファイナンシャル・リテラシー）を身につけることを目標にしています。 将来必要になる知識ですので、ぜひ積極的に履修してください。			
講義の順序とポイント			
1.初任給 198,000 円をどう使う？ 　就職し、大卒の平均初任給 198,000 円を得たとき、実際銀行口座にはいくら振り込まれるのでしょうか？ 　給料から様々なものが控除され、生活費に使い、それでもなお残ったお金は、貯蓄や投資にまわすはずです。 　でも、貯蓄や投資にはどのような手段があるのでしょうか？具体的な金融商品の利回りなどを確認します。 　資産運用のための投資信託、リスクヘッジのための生命保険の必要性について学びます。 【第 1 部　投資信託】 2.投資信託とは何か？			

投資の一手段である投資信託とは、どのような仕組みなのでしょうか。
委託会社、受託会社、販売会社の関係や、どのような仕組みで、投資信託から利益や損失が発生するのかを取り上げます。

3.交付目論見書の読み方
投資信託の内容を判断するためには、目論見書（もくろみしょ）を読めなくてはなりません。
実際の投資信託の交付目論見書を見ながら、どこにポイントがあるのか、事例で学んでいきます。

4.インデックス型とアクティブ型
投資信託にはインデックス型とアクティブ型があります。
それぞれの特徴や違いを学びます。

5.分配金、シャープレシオ
投資信託のパフォーマンスを評価するために、分配金とシャープレシオを学びます。
分配金については、普通分配金と特別分配金の違いに注目します。

6.資産クラス、確定拠出年金制度
投資信託の投資対象としての資産クラス（国内、国外の債券、株式、不動産）を取り上げます。
また、　確定拠出年金について、具体的にどのような制度なのかを確認します。

7.経済指標と投資信託の基準価額の関係
長期金利や株価の動向が投資信託の基準価額にどのように影響するかを学びます。

8.主な委託会社、販売会社、投資信託
主な委託会社にはどのような会社があるか、主な販売会社にはどのような会社があるかを紹介します。
また、投資信託については、純資産総額が 1 兆円を超える投資信託にはどのようなものがあるか、紹介します。

【第 2 部　生命保険】
9.生命保険の 3 類型
家計の問題を解決するひとつの手段が生命保険です。定期保険、終身保険、養老保険といった基本的な保険の特徴について学習します。

10.定期保険の比較
実際の定期保険の商品を取り上げ、定期保険の目的（活用方法）、選択する際のポイントに触れます。

11.養老保険の比較、終身保険
実際の養老保険・終身保険の商品を取り上げ、養老保険・終身保険の目的（活用方法）、選択する際のポイントに触れます。

12.年金保険の比較、団体信用生命保険
実際の年金保険の商品を取り上げ、年金保険の目的（活用方法）、選択する際のポイントに触れます。
また、団体信用生命保険を紹介します。

13.遺族年金、高額療養費制度
公的年金、公的保険としてどのような制度が用意されているかを取り上げます。

【第 3 部　社会保険】
14.給料から引かれる健康保険料、厚生年金保険料とは何なのか？
さらに給料からは、健康保険料や厚生年金保険料が差し引かれます。
健康保険料や厚生年金保険料とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
また、健康保険や厚生年金の会計がどのような状態なのか、財政問題も取り上げます。

15.給料から引かれる所得税、住民税とは何なのか？
給料からは、所得税や住民税が差し引かれます。
所得税や住民税とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
また、所得税や住民税がどのように利用されているか、日本の財政問題も取り上げます。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	AC1130402
科目名	統計学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、統計学の基本である　記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この２つの項目を総合して評価する。		
到達目標	データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握できること。確率分布の基本を理解すること。		
準備学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるように心がけること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。
テキストにそって講義を進めるので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.統計と情報
2.データの代表値，散らばりと四分位範囲
3.分散・標準偏差
4.データの相関
5.回帰分析
6.事象と確率・確率の法則
7.確率変数の期待値と分散
8.データの分析と確率についての総合演習
9.確率変数の和と期待値，独立な確率変数と期待値・分散
10.二項分布
11.正規分布
12.母集団と標本
13.統計的推定
14.統計的検定
15.確率分布と統計的推定検定についての総合演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	AC1220164
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	平易な総合英語教材を使用して、＜読む・書く・聞く・話す＞4技能の基礎力を養成する。＜読む・書く＞については、実践的な文法と句読法を学び、文やパラグラフの展開・文脈などに注目しながら、読解と作文の基礎力を養う。＜聞く・話す＞については、日本語を母語とする英語学習者向けのストレッチ式発声法を用いて、「ネイティブ発音」の技法を習得する。テキストの読解と音読を通じて、英語文化に親しみ、英語によるグローバルなコミュニケーションの基本技法を学ぶ。		
教材（テキスト）	First Steps to Global Communication 南雲堂 1,800。		
教材（参考文献）	「ネイティブ発音」科学的上達法―おどろきのストレッチ式発声術　講談社（ブルーバックス新書）980。		
教材（その他）			
評価方法	積極的な学習態度・発表・授業内小テスト・学習ノート作成など等による平常点（30%）、レポート（20%）、定期テスト（50%）。全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は5９点以下の不合格とする。（3分の2以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の4技能習得により、グローバル社会におけるコミュニケーション力の基礎を養う。		
準備学習	予習と復習の課題を完成させる。各回授業に係る復習小テストをする。参考文献の重要事項について調べ、レポートを書く。		

受講者への要望

積極的な態度で授業に参加する。テキストと学習ノート等のほか、必ず辞書を持参する。毎授業時に学習ノートを作成する。遅刻、居眠り、私語その他学習の妨げになる行為・行動は厳禁。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション
2．都会生活の利点と問題点：リスニングとスピーキングについて
3．公共の場における花木の保全：リーディングとライティングについて
4．インスタントラーメン：発音記号と辞書の使い方
5．宇宙で輝く期待の星：文法と音法
6．家庭における男女の役割分担：発音と発声、発話（1）
7．スマートフォンについて：文の音読（1）
8．地球温暖化への対策：文法と読解（1）
9．食物アレルギーへの警報：発音と発声、発話（2）
10．応援団で活躍する女子学生：文の音読（2）
11．イギリス人と標語：文法と読解（2）
12．花を主役にしたお祭り：発音と発声、発話（3）
13．ニュージーランドの特産物、先住民族：文の音読（3）
14．地球に優しい撮影術：文法と読解（3）
15．キャンディ・クラッシュ・サガ：まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	AC1220266
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 A」を発展させた形で授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、＜読む・書く・聞く・話す＞4 技能の基礎力をさらに向上させる。テキストの読解と音読を通じて、英語文化に親しみ、英語によるグローバルなコミュニケーションの力を高める。＜読む・書く＞については、関係詞・不定詞・動名詞・分詞など等の文法項目や重要語句の意味を確認しながら、課題・発表を含む演習を実施する。＜聞く・話す＞については、「総合英語Ⅰ」の授業に引き続き、日本語を母国語とする英語学習者向けのストレッチ式発声法を用いて、「ネイティブ発音」の技法＜発展編＞を練習する。またテキストＣＤのリスニング問題を解答し、その要約文を繰り返し音読・暗記することでスピーキング力を養う。		
教材（テキスト）	Basic Faster Reading〔New Edition〕 成美堂 1,900。		
教材（参考文献）	「ネイティブ発音」科学的上達法―おどろきのストレッチ式発声術　講談社（ブルーバックス新書）980。		
教材（その他）			
評価方法	積極的な学習態度・発表・授業内小テスト・学習ノート作成など等による平常点（30%）、レポート（20%）、定期テスト（50%）。全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格とする。（3 分の 2 以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の 4 技能習得により、グローバル社会におけるコミュニケーション力をさらに向上させる。		
準備学習	予習と復習の課題を完成させる。各回授業に係る復習小テストをする。参考文献の重要事項について調べ、レポートを書く。		

受講者への要望

積極的な態度で授業に参加する。テキストと学習ノート等のほか、必ず辞書を持参する。毎授業時に学習ノートを作成する。遅刻、居眠り、私語その他学習の妨げになる行為は厳禁。

講義の順序とポイント

1．　オリエンテーション
2．　ライオンの生態：リスニングとスピーキングについて
3．　日本人の国民食：リーディングとライティングについて
4．　世界遺産・ピサの斜塔：発音記号と辞書の使い方＜発展篇＞
5．　言葉を理解する犬：文法と音法
6．　タブレットで読書：発音と発声、発話（1）
7．　バレンタイン・デー：文の音読（1）
8．　世界遺産・タージマハル：文法と読解（1）
9．　デスクトップパソコンとノートパソコン：発音と発声、発話（2）
10.　メビウスの輪：文の音読（2）
11.　休日に仕事を：文法と読解（2）
12.　アメリカの朝食：発音と発声、発話（3）
13.　FIFA ワールドカップ：文の音読（3）
14.　血液型で性格判断：文法と読解（3）
15.　テレビのリアリティ番組：まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	J20001A0A
科目名	ミクロ経済学基礎	単位数	2
科目名（英語表記）	Elementary Microeconomics		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	経済学 A
講義概要	本講義では、経済学の最も基本となる「需要・供給分析」を学ぶ。 この講義を通じて身につく知識は以下のことである。 （1）需要曲線と供給曲線の意味 （2）均衡価格の意味 （3）余剰の意味		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	プリント、動画教材等		
教材（その他）	新聞記事などを適宜紹介する。		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	経済的な取引を需要曲線と供給曲線によって上手く表せることを理解する。 需要曲線と供給曲線を描いて余剰分析ができるようになる。		
準備学習	次に学習する内容の中で用いられる数学の知識が不足している場合には、数学の事前学習をする。しかし、本講義で用いられる数学の知識は中学校までで学習するものである。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．需要と供給　需要曲線と供給曲線 3．価格の決定　供給量の変化と均衡価格 4．需要と供給の応用　需要曲線のシフト 5．需要曲線と消費者行動　需要曲線の形と支出額 6．需要曲線と消費者余剰　消費を通して得られる利益 7．消費者行動のまとめと中間試験 8．費用の構造①　費用の分類 9．費用の構造②　各種費用曲線 １０．利潤最大化　供給曲線と費用 １１．生産者余剰　収入と費用 １２．完全競争市場　価格調整と均衡 １３．余剰分析　市場取引と資源配分 １４．市場競争と経済発展　競争のメリット １５．重要事項の確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★		★	★	★★

年度	2015	授業コード	J20001A0C
科目名	ミクロ経済学基礎	単位数	2
科目名（英語表記）	Elementary Microeconomics		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	経済学 A
講義概要	本講義では、経済学の最も基本となる「需要・供給分析」を学ぶ。 この講義を通じて身につく知識は以下のことである。 （1）需要曲線と供給曲線の意味 （2）均衡価格の意味 （3）余剰の意味		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	プリント、動画教材等		
教材（その他）	新聞記事などを適宜紹介する。		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	経済的な取引を需要曲線と供給曲線によって上手く表せることを理解する。 需要曲線と供給曲線を描いて余剰分析ができるようになる。		
準備学習	次に学習する内容の中で用いられる数学の知識が不足している場合には、数学の事前学習をする。しかし、本講義で用いられる数学の知識は中学校までで学習するものである。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．需要と供給　需要曲線と供給曲線 3．価格の決定　供給量の変化と均衡価格 4．需要と供給の応用　需要曲線のシフト 5．需要曲線と消費者行動　需要曲線の形と支出額 6．需要曲線と消費者余剰　消費を通して得られる利益 7．消費者行動のまとめと中間試験 8．費用の構造①　費用の分類 9．費用の構造②　各種費用曲線 １０．利潤最大化　供給曲線と費用 １１．生産者余剰　収入と費用 １２．完全競争市場　価格調整と均衡 １３．余剰分析　市場取引と資源配分 １４．市場競争と経済発展　競争のメリット １５．重要事項の確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★		★	★	★★

年度	2015	授業コード	J20001B0A
科目名	マクロ経済学基礎	単位数	2
科目名（英語表記）	Elementary Macroeconomics		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	経済学 B
講義概要	現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学部生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる範囲は，経済成長、失業、インフレ・デフレなどマクロ経済学の基本である。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	プリント、動画教材等		
教材（その他）	プリント、動画教材等		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	（1）国民経済計算の仕組みと財政政策について、マクロ経済学の基礎となる理論を理解する。 （2）報道等で扱われる経済ニュースを理解するための基礎知識を習得する。		
準備学習	基本事項の予習と、授業内容の復習を行う。その実施は口頭による質疑応答によって確認される。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済の考え方 第 2 回 経済主体と経済行為 第 3 回 国内総生産 第 4 回 国内総生産と物価 第 5 回 物価の計算方法 第 6 回 経済成長率の計算 第 7 回 支出面と分配面の国内総生産 第 8 回 中間試験と振り返り学習 第 9 回 マクロ経済の需要と供給 第 10 回 経済成長と寄与度 第 11 回 マクロ経済学で用いる数学 第 12 回 需要の波及と乗数プロセス 第 13 回 消費関数 第 14 回 マクロ経済の均衡 第 15 回 45 度線モデルで見る財政政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★		★	★	

年度	2015	授業コード	J20001B0C
科目名	マクロ経済学基礎	単位数	2
科目名（英語表記）	Elementary Macroeconomics		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	経済学 B
講義概要	現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学部生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる範囲は，経済成長、失業、インフレ・デフレなどマクロ経済学の基本である。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	プリント、動画教材等		
教材（その他）	プリント、動画教材等		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	（1）国民経済計算の仕組みと財政政策について、マクロ経済学の基礎となる理論を理解する。 （2）報道等で扱われる経済ニュースを理解するための基礎知識を習得する。		
準備学習	基本事項の予習と、授業内容の復習を行う。その実施は口頭による質疑応答によって確認される。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済の考え方 第 2 回 経済主体と経済行為 第 3 回 国内総生産 第 4 回 国内総生産と物価 第 5 回 物価の計算方法 第 6 回 経済成長率の計算 第 7 回 支出面と分配面の国内総生産 第 8 回 中間試験と振り返り学習 第 9 回 マクロ経済の需要と供給 第 10 回 経済成長と寄与度 第 11 回 マクロ経済学で用いる数学 第 12 回 需要の波及と乗数プロセス 第 13 回 消費関数 第 14 回 マクロ経済の均衡 第 15 回 45 度線モデルで見る財政政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★		★	★	

年度	2015	授業コード	J2000200B
科目名	日本経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	2012 年に発足した安倍内閣のもとで,「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な取り組みが実施される中, 我が国経済も今年こそは内需主導の本格的な経済成長を実現するとの期待が高まっている．2014 年には消費税率が引き上げられ, 財政健全化に向けての取組がなされたものの, その後の経済成長の低迷を受け, 2015 年に予定されていた消費税率の引き上げを見送るべく，総選挙が実施された. この間とくに注目すべきは，経済のグローバル化の進展により，円安にもかかわらず輸出が伸び悩んでいる．我が国経済の本格的な回復には,「第 3 の矢」を放ち，内需主導の経済成長を実現することが喫緊の課題である．第 3 の矢がいつ放たれるのか，国際的には，TPP への参加問題も大きな課題となっているし，アジア諸国との外交関係も景気に微妙な影響を及ぼすことになるかも知れない. 本講義では，その時々のトピックスにも注意を向けながら，日本経済の特徴を理解できるように平易に解説する.		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版		
教材（その他）	講義用レジュメを配付する		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を理解する		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		

受講者への要望

「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける.

講義の順序とポイント

1. 序　章　日本経済の現況
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
4. 第 2 章　バブル景気と失われた 20 年
5. 第 2 章　バブル景気と失われた 20 年
6. 第 2 章　バブル景気と失われた 20 年
7. 第 3 章　金融システムの動揺
8. 第 3 章　金融システムの動揺
9. 第 4 章　財政赤字の急増
10. 第 4 章　財政赤字の急増
11. 第 5 章　産業構造の変化と労働市場の変容
12. 第 5 章　産業構造の変化と労働市場の変容
13. 第 6 章　生活不安とセイフティネット
14. 第 6 章　生活不安とセイフティネット
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J20019002
科目名	白書で学ぶ現代日本	単位数	2
科目名（英語表記）	Lectures on Contemporary Japan in White Paper		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	（１）　本講義は政府機関が発表している様々な白書および報告書を、実際にその作成に携わった政府関係者より説明して頂き、現代の日本社会の様々な側面を系統立てて理解することを目的とする。経済問題だけでなく、新聞やＴＶ等で取り上げられる様々な現代日本の社会問題の本質を理解したいと考える者にとって、必ず有益な内容となるであろう。 （２）　毎年、政府が発表する膨大な報告書類の中でも「白書」は、より正式な政府の見解として各方面から注目されている。この白書には、①法律に基いて国会に提出される白書、②閣議に報告または配布される白書、③その他の白書、の３つのタイプがある。いずれも政府の見解には違いないが、閣議了解を必要とする白書は内閣の統一見解としての性格を有するため、原案作成を担当する各省庁は他の関係省庁との協議を必要とする。本講義では、各省庁間の現場で展開される協議・調整についても一定の解説が期待できる。 （３）　白書の基本的な構成は、①現状分析、②これまでの政策の効果と今後の政策課題、③特集、というケースが多い。特に、③特集では、その時々に社会的関心の高いテーマに焦点が当てられ、そのテーマへの系統だった理解には有益な内容となっている。		
教材（テキスト）	毎回の講義で解説資料等を配布する。		
教材（参考文献）	（１）白書の要約版等を予習資料として京学なび上で配布する。 （２）各省庁発表の白書の本文は、省庁ＨＰ上で閲覧・ダウンロード可能であり、是非とも活用されたい。		
教材（その他）	適宜、指定・紹介する。		
評価方法	①毎回の受講レポート 70% ②レポートおよび授業内発表 30%		
到達目標	①　現在日本の社会経済問題の構造およびそれへの政策対応に関する基本的な考え方や分析手法を学び、時事問題への確実な理解を深める。 ②　学生各自の専門分野と直接・間接に関連する政策課題について理解を深め、卒業研究に役立てる。 ③　聞き取り力、質問力、表現力など、就職活動の実践で役立つスキルの向上を目指す。		
準備学習	①　講義で取り上げる白書の概要をまとめた資料を京学なび上に用意するので、それらに目を通しておく。 ②　省庁ＨＰ上にある白書関連サイトを閲覧し、自分の関心の焦点を明確にしておく。		

受講者への要望

１．就職活動に向けた準備の一環と位置付けて取り組むこと。
２．卒業論文のテーマ選択を意識して受講すること。
３．私語や途中退席など、問題のある受講態度には厳しく対応する。

講義の順序とポイント

１．講義の順序
第１回：講義の概要の説明、および「白書」とは何か
第２回－第７回（前半）：毎回１つの白書を取り上げていく。
第８回：前半の白書の要点整理とその確認
第９回－第１４回（後半）：毎回１つの白書を取り上げていく。
第１５回：後半の白書の要点整理とその確認

２．昨年 2014 年度の本講義で取り上げた白書は以下の通りである。
① 経済財政白書（内閣府）　② 労働経済白書（厚生労働省）　③ 環境白書（環境省）　④ 厚生労働白書（厚生労働省）　⑤ 国土交通白書（国土交通省）　⑥ 食料・農業・農村白書（農林水産省）　⑦ 防衛白書（防衛省）　⑧ 外交青書（外務省）　⑨ 観光白書（観光庁）　⑩ 犯罪白書（法務省）　⑪ 少子化社会対策白書（内閣府）　⑫ 情報通信白書（総務省）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J20020A01
科目名	コンピュータによる統計学入門 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Computer Statistics A		
担当者名	臼井　正	旧科目名称	コンピュータによる統計学入門
講義概要	Excel の操作に習熟するとともに、統計学の基礎的概念を学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、適宜プリントを配布する		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（50%；出席状況等による）＋レポート（50%）。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	Excel での関数、グラフ作成、データ分析ツールなどの操作に習熟するとともに、記述統計（平均、標準偏差、相関係数など）、確率分布（二項分布、ポアソン分布）など、統計学の基礎的概念を学ぶことを目指す。		
準備学習	Excel を使って授業を進めていくので、Excel の基本操作が出来ていることが望ましいが、授業の中でも適宜指導するつもりである。これまで受講した Excel の授業の復習をしておきましょう。		

受講者への要望

引き続き B を受講することが望ましい。
積み重ねの授業なので、出来るだけ欠席しないように。

講義の順序とポイント

1. データの平均、データのソート、移動平均
2. 同上
3. データの分散、四分位偏差、偏差値
4. 同上
5. 度数分布
6. 同上
7. 相関、散布図、回帰曲線
8. 同上
9. 分割表
10. 乱数
11. 同上
12. ２項分布
13. 同上
14. ポアソン分布
15. 同上

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2015	授業コード	J20020B01
科目名	コンピュータによる統計学入門 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Computer Statistics B		
担当者名	臼井　正	旧科目名称	コンピュータによる統計学入門
講義概要	Excel の操作に習熟するとともに、統計学の基礎的概念を学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、適宜プリントを配布する		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%；出席状況等による）＋レポート（50%）。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	Excel での操作に習熟するとともに、確率分布（正規分布など）、区間推定・検定など、統計学の基礎的概念を学ぶことを目指す。		
準備学習	A を受講済みであることが望ましいが、B のみ受講する学生にも配慮する。		
受講者への要望			
積み重ねの授業なので、出来るだけ欠席しないように。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期の復習問題 2.　標準正規分布 3. 正規分布 4. ｔ 分布 5. 同上 6. カイ２乗分布 7. 同上 8. 大数の法則、中心極限定理 9. 同上 10. 区間推定 11. 同上 12. 仮説検定 13. 同上 14. 適合度と独立性の検定 15. 復習問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2015	授業コード	J20021A01
科目名	デリバティブ入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Derivatives A		
担当者名	無相　大拙	旧科目名称	
講義概要	・デリバティブ（派生商品）の基礎に係る説明を行うとともに、世間一般に多く観られるデリバティブを使った商品・事業・経営の実際を教授する。 ・受講者が、明日から身近に使える「デリバティブの考え方、利用方法」を会得するため、今の経済実態或いは 企業で活用されている資産・経営管理という観点から、デリバティブの実際を観ていく。		
教材（テキスト）	随時指示		
教材（参考文献）	随時指示		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点出席状況(60%)。授業中に使用するプリントあるいは小テストの評価（４０％）		
到達目標	生活のあらゆる場所で、当たり前のように使用されているデリバティブ商品の分析と組成方法の習得		
準備学習	経済・国際面の動向を、新聞・ネット・TV等で追うこと。		
受講者への要望			
正解、不正解を問わず、自由闊達な発言を望む。			
講義の順序とポイント			
１．世界経済の動向と予測 ２．予測に沿った資産価格の動き ３．資産価格を決定する要因 ４．株式 ５．債券 ６．為替 ７．デリバティブの使用例ー先物 ８．デリバティブの使用例ーオプション ９．デリバティブの使用例ースワップ １０．リスク管理手法とは １１．リスク管理手法とデリバティブ １２．金融商品とデリバティブ １３．デリバティブによる商品組成 １４．デリバティブによる商品組成 １５．今後のデリバティブの発展 ※講義日について この科目は、次の日時に開講します。いずれも金曜日の４・５講時連続です。 4月10日、4月24日、5月8日、5月22日、6月5日、6月19日、7月3日、7月17日			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J20021B01
科目名	デリバティブ入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Derivatives B		
担当者名	無相　大拙	旧科目名称	
講義概要	・デリバティブ（派生商品）の基礎に係る説明の詳細は、春季のデリバティブ入門 A に譲ることとし,B では、世間一般に多く観られるデリバティブを使った商品・事業・経営の実際を中心に教授する。 ・受講者が、明日から身近に使える「デリバティブの考え方、利用方法」を会得するため、今の経済実態或いは 企業で活用されている資産・経営管理という観点から、デリバティブの実際を観ていく。		
教材（テキスト）	随時指示		
教材（参考文献）	随時指示		
教材（その他）	教材（その他） 適宜プリントを配布		
評価方法	平常点出席状況(60%)。授業中に使用するプリントあるいは論文の評価（４０％）		
到達目標	生活のあらゆる場所で、当たり前のように使用されているデリバティブ商品の分析と組成方法の習得		
準備学習	経済・国際面の動向を、新聞・ネット・TV 等で追うこと。		
受講者への要望			
正解、不正解を問わず、自由闊達な発言を望む。			
講義の順序とポイント			
１．世界経済の動向と予測 ２．予測に沿った資産価格の動き ３．資産価格を決定する要因 ４．株式 ５．債券 ６．為替 ７．デリバティブの使用例ー先物 ８．デリバティブの使用例ーオプション ９．デリバティブの使用例ースワップ １０．リスク管理手法とは １１．リスク管理手法とデリバティブ １２．金融商品とデリバティブ １３．デリバティブによる商品組成 １４．デリバティブによる商品組成 １５．今後のデリバティブの発展 ※講義日について この科目は、次の日時に開講します。いずれも金曜日の４・５講時連続です。 9 月 25 日、10 月 9 日、10 月 30 日、11 月 13 日、11 月 27 日、12 月 11 日、1 月 8 日、1 月 22 日			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J20029A01
科目名	日本経済論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	The Japanese Economy A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	日本経済の現状について解説し、日本が直面している問題の解決策について考察します。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	『ゼミナール日本経済入門』（日本経済新聞社）		
教材（その他）			
評価方法	レポート（30%）、授業内発表（5%）、定期試験（65%）		
到達目標	日本の置かれている立場を理解する。		
準備学習	上記の教材（参考文献）が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

自分の国に対する理解を深めてほしいと思います。

講義の順序とポイント

1　家族のあり方の変化と日本経済①
2　家族のあり方の変化と日本経済②
3　デフレとは何か
4　近年の日本経済の歩み①　プラザ合意
5　近年の日本経済の歩み②　バブルの発生
6　近年の日本経済の歩み③　バブルの崩壊
8　近年の日本経済の歩み④　デフレの始まり
9　近年の日本経済の歩み⑤　デフレからの脱却
10　日本と近隣諸国の関係①　総説
11　日本と近隣諸国の関係②　ロシア
12　日本と近隣諸国の関係③　韓国
13　日本と近隣諸国の関係④　韓国
14　日本と近隣諸国の関係⑤　中国
15　日本と近隣諸国の関係⑥　中国

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★★

年度	2015	授業コード	J20029B01
科目名	日本経済論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	The Japanese Economy B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	第 2 次世界大戦後の日本経済は、戦後復興期、高度経済成長期、オイルショックと円高不況期、バブル経済の崩壊と失われた 10 年（あるいは 20 年）の時期を経て、大きく変化してきた。その結果、経済の目標も生産の量的拡大から生活の質を重視する方向へとシフトしつつある。しかし一方では、近年急速に進む経済のグローバル化と少子高齢化のなかで、日本経済の将来に対する深刻な不安材料も指摘されていて、これまでの社会システムでは対応しきれない、さまざまな問題が生じている。 本講義は、必要に応じて多くの統計資料を用いながら、日本経済の仕組みと日本経済が抱えている今日的課題について理論的かつ総合的に解説することを目的とする。		
教材（テキスト）	塚崎公義『増補改訂・よくわかる日本経済入門』（朝日新書、2015 年）		
教材（参考文献）	片岡剛士『アベノミクスのゆくえ――現在・過去・未来の視点から考える』（光文社新書）2013 年 服部茂幸『アベノミクスの終焉』（岩波新書）2014 年		
教材（その他）	毎回プリント配布（毎回の講義ファイルは事前に「京学なび」の授業資料としてアップする）		
評価方法	平常点（６０％）宿題 6 回提出＋授業内発表（１０％）＋定期試験（３０％）		
到達目標	受講生自身が自分の身の周りで日々生じている経済事象の変化を自分の感性で感じ取り、授業で学んだ経済知識を使って理解できる学習能力を身につけてもらうことを、到達目標とする。		
準備学習	指定された教科書の、講義にかかわるところを事前に読んで授業に出席すること。		
受講者への要望			
①「日本経済論Ａ」とは内容が重ならないように調整しているので、「日本経済論Ａ」とあわせて受講することが望ましい。 ②授業への意欲的な受講を臨む。受講生からの質問、あるいは教員から受講生への問いかけにたいする積極的発言は、「授業内発表」の評価点とする。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス（講義の目標、成績評価） ２．日本経済の TODAY（最近の日本経済の動向） ３．景気の謎を解く①（景気循環など） ４　景気の謎を解く② ５．新成長の設計①（経済成長の理論、国民所得の決定など） ６．新成長の設計② ７．物価と市場経済①（デフレ・インフレの経済学、日本の物価問題など） ８．物価と市場経済② ９．人口減少時代の財政①（財政の役割、公共財の理論など） １０．人口減少時代の財政② １１．金融システムの再構築①（金融政策、不良債権問題など） １２．金融システムの再構築② １３．アベノミクスについて考える① １４．アベノミクスについて考える② １５．経営革新と雇用問題（企業経営など）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			★

年度	2015	授業コード	J20030A01
科目名	産業組織論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Industrial Organization A		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	今日，日本の産業では、企業間で様々な競争が繰り広げられている。この競争は企業にとって，また社会にとってどの様な意味を持つのだろうか。 　この講義ではベインの産業組織論に基づいて、産業組織分析の方法を学び、日本の市場での企業間の競争の実態と原理をとらえよう。 　はじめに、産業組織を学ぶために必要な理論を確認する。１～３章が理論編で、ベインらの産業組織論の方法と体系に基づく。そのあと具体的な企業間の競争の状態を見ていく。 それぞれの項目で日本の産業組織の実態を紹介する。 　こうして産業組織論の原理の理解と現実の産業における競争関係を明らかにする。		
教材（テキスト）	『産業組織論入門』，土井教之編、ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）	毎回プリントを配付する。		
教材（その他）	なし		
評価方法	平常点２０点(授業内容について質問，要望，感想を書いて提出。(出席点ではない。) 試験に代わるレポート 80 点。		
到達目標	産業組織論の基礎範畴である市場構造，市場行動，市場成果，産業政策を理解する。 具体的な日本の産業における自由競争，寡占支配の実態を知っておくこと。 就職しようとする業界でどのような競争が繰り広げられているかつかんでおくこと。		
準備学習	寡占価格を理解しなければならないので価格論（「ミクロ経済学１」「ミクロ経済学２」で講義）を学習しておくとよい。スティグリッツ『ミクロ経済学』が参考になる。		

受講者への要望

価格論を学習しておくこと。
現在の日本の産業における企業間の競争に関心を持っておくこと。
就職しようとする業界の競争状態に関心を持っておくこと。

講義の順序とポイント

Ⅰ　産業組織論の方法
１ (1)産業組織論の枠組み
(2)産業組織論の主要概念
２　　①産業・市場構造
３　　②競争・市場行動
４　　③企業・市場成果
５　　④産業政策
Ⅱ　市場の構造と企業の行動
ミクロ経済学の基礎
６ (1)完全競争
７ (2)独占的競争
８ (3)独占
(4)寡占
９　①協調
１０　②複占
企業の経済学
(5)企業の理論
１１ ①利潤極大化，売上高極大化
１２ ②所有と経営の分離
Ⅲ　産業組織論の発展

１３ (1)ゲームの理論１
１４ (2)ゲームの理論２
１５　産業組織理論　市場構造，市場行動，市場成果分析の枠組み

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J20030B01
科目名	産業組織論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Industrial Organization B		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	今日，日本の産業では、企業間で様々な競争が繰り広げられている。この競争は企業にとって，また社会にとってどの様な意味を持つのだろうか。 この講義ではベインの産業組織論に基づいて、産業組織分析の方法を学び、日本の市場での企業間の競争の実態と原理をとらえよう。 　はじめに産業組織を学ぶために必要な理論を確認する。そのあと具体的な企業間の競争の状態を見ていく。 それぞれの項目で日本の産業組織の実態を紹介する。 　こうして産業組織論の原理の理解と現実の産業における競争関係を明らかにする。		
教材（テキスト）	『産業組織論入門』，土井教之編、ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）	毎回授業でレジュメを配付する		
教材（その他）	なし		
評価方法	平常点２０点(授業内容について質問，要望，感想を書いて提出。(出席点ではない.) 試験に代わるレポート 80 点。		
到達目標	到達目標 産業組織論の基礎範疇である市場構造，市場行動，市場成果，産業政策を理解する。 具体的な日本の産業における自由競争，寡占支配の実態を知っておくこと。 就職しようとする業界でどのような競争が繰り広げられているかつかんでおくこと。		
準備学習	寡占価格を理解しなければならないので価格論（「ミクロ経済学１」「ミクロ経済学２」で講義）を学習しておくとよい。スティグリッツ『ミクロ経済学』が参考になる。		

受講者への要望

価格論を学習しておくこと。
現在の日本の産業における企業間の競争に関心を持っておくこと。
就職しようとする業界の競争状態に関心を持っておくこと。

講義の順序とポイント

戦略と競争の分析
Ⅳ　合併
１ 合併の効果，実態
Ⅴ　企業協定
２ (1)カルテル，事例
３ (2)垂直的取引制限
Ⅵ　戦略的行動
４ (1)戦略的行動
５ (2)参入阻止価格論
Ⅶ　企業の価格・非価格戦略
６ (1)価格・非価格戦略
７ (2)製品差別化
Ⅷ　最近の産業組織
８ (1)ネットワーク
９ (2)イノベーション
10 (3)グローバル化，貿易
Ⅸ　公共政策
11 (1)競争政策 独禁政策
12 (2)規制緩和 規制と規制緩和
Ⅹ　日本の産業組織

13 (1)大型家電販売
14 (2)大型スーパー
15　産業組織論の見方　市場構造，市場行動，市場成果，産業政策

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J20039001
科目名	情報システム設計実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practice of Information System Design		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	現代の情報社会はそれ自体がシステムであり、産業、地域社会、家庭などもそれぞれシステムとして機能している。このような時代背景のもとで必要とされるシステムの設計、運用に関する基本的な知識・技術などについて実習をふまえて習得を目指す。 　本講義では、情報処理システムがどのような仕組みなのか、実際にシステムを開発する立場となって必要な基本設計、外部設計、内部設計、プログラミング、テスト、保守・管理の基礎知識を学ぶ。 実習では、システムの設計を経験して、高度情報社会に対応できる基本的な想像能力と実践的な技術の習得を目標とする		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	木暮　仁　著「情報システム設計論」　日科技連 加藤　英雄　著　「SE のための図解システム設計の基礎」　　共立出版株式会社		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「課題演習+レポート」(30%)+「システム設計実習」(30%)+平常点(40%)		
到達目標	1.　情報システムの設計、運用に関する基本的な知識、技術の習得。 2.　基本的なシステム設計の実習により、情報社会で必要な実践的な技術の習得。		
準備学習	1.　どのような情報システムがあるのか学習しておくこと。		
受講者への要望			
1.　第１回はガイダンスを行うので必ず出席すること。欠席の場合は「受講の意思がない」とみなす。 2.　毎回講義の最後に、当日の講義のまとめと次回の実習内容に関して説明を行うので各自復習および予習を行うこと。 3.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める			
講義の順序とポイント			
1.　情報システム設計実習の学び方 2.　システム設計とは 3.　システムの開発について 4.　システムの開発手順 5.　基本設計 6.　外部設計 7.　内部設計 8.　プログラミング設計 9.　システムの試験 10.　システムの保守管理 11.　システム設計実習(1) 12.　システム設計実習(2) 13.　システム設計実習(3) 14.　システム設計実習(4) 15.　設計実習したシステムの検証と考察			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J20055A01
科目名	経済政策 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面しています．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きいといえます．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類することができます．こうした個別具体的な政策を 理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論を理解する必要があります． 　本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げます．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』高菅出版， 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	経済政策論の基礎理論の理解を目標とする．		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		

受講者への要望

経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．

講義の順序とポイント

1. 日本経済の現況と政策課題（1）
2. 日本経済の現況と政策課題（2）
3. 経済政策論の誕生と学問的性格
4. 市場社会の変容（1）
5. 市場社会の変容（2）
6. 多元社会化と国家の変質（1）
7. 多元社会化と国家の変質（2）
8. 政策形成過程
9. 利益団体の役割とその諸問題
10. 政策目的の階層構造
11. 政策手段とその分類
12. 市場メカニズムの諸問題
13. 政治的調整メカニズムの諸問題
14. 団体交渉メカニズムの諸問題
15. 国家主権超克の動き

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J20055B01
科目名	経済政策Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy B		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	我が国は人口減少社会に移行する中，経済社会のあり方が問われています．高度経済成長の成果を踏まえ，「日本型福祉国家」の建設を目指してきましたが，経済的・社会的環境の変化により，福祉国家政策は行き詰まり，いまや政策体系の根本的な見直しを迫られています．欧州諸国でも「福祉国家の危機」が，1980 年以降急速に政治問題化し，欧州委員会を中心に「持続可能な社会保障制度の再構築」が模索されています． 本講義では，マクロ経済政策の基本的な事項の理解に努めるとともに，人口減少社会における持続可能な社会保障制度のあり方について考えます．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	人口減少社会における社会保障保を巡る諸問題の理解を目標とする		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1. 社会体制と政策思想 2.福祉国家の 2 類型 3.新しい社会問題 4.福祉国家の基本構想 5.成長と分配の総合政策（１） 6.成長と分配の総合政策（２） 7.成長と分配の総合政策（３） 8.成長と分配の総合政策（４） 9.成長と分配の総合政策（５） 10.雇用と経済安定化政策（１） 11.雇用と経済安定化政策（２） 12.雇用と経済安定化政策（３） 13.移行的労働市場論 14.フレキシキュリティ政策 15.社会的包摂のための政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J20056A01
科目名	社会政策Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Policy A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	今日、わが国では他に類を見ない速さで少子・高齢化が進んでいる。こうした状況の下で、社会保障に期待される役割はますます大きくなっているが、それが大きな困難に直面していることも周知の通りである。 そこでこの講義では、今日われわれの生活にとって欠くことのできないものとなっている社会保障について、はじめにその全体像を概観した上で、医療保障、所得保障、介護保障というその主要な分野を取り上げ、それぞれの制度の目的と概要を確認するとともに、その現状と問題点などについて考察を行う。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	足立正樹・井上久子（編著）『社会保障の光と陰』高菅出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
評価方法	授業内課題（45%）、　学期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の諸制度の目的と意義を理解すること。		
準備学習	・日ごろから社会保障関係のみならず、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・理解をより深めるため、秋学期開講予定の「社会政策Ｂ」をあわせて受講することが望ましい。
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．授業の進め方と講義の概要：国民生活と社会保障
２．少子・高齢化の進行
３．医療保障の概念と制度
４．医療保障の制度体系
５．医療保険制度の現状
６．医療保険制度の課題
７．所得保障の諸制度
８．年金制度の概要①
９．年金制度の概要②
１０．年金制度の現状
１１．年金制度の課題
１２．高齢者介護をめぐる状況①
１３．高齢者介護をめぐる状況②
１４．介護保険制度の概要と課題
１５．高齢者介護システムの類型

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J20056B01
科目名	社会政策Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Policy B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	今日、わが国では他に類を見ない速さで少子・高齢化が進んでいる。こうした状況の下で、社会保障に期待される役割はますます大きくなっているが、それが大きな困難に直面していることも周知の通りである。 そこでこの講義では、まず、社会保障の概念と制度体系について述べた上で、社会保障が私たちの社会において必要になった理由を、歴史的視点および超歴史的視点から考える。 さらに、社会保障の登場から今日に至るまでの歴史的展開を見ていくことで、戦後西側諸国の指導像となった「福祉国家」がどのように成立し、どのような特徴を持つのか、そしてそこに生じた困難とはどのようなものなのかを考察する。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	足立正樹・井上久子（編著）『社会保障の光と陰』高菅出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
評価方法	授業内課題（45%）、　学期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の諸制度の目的と意義を理解すること。		
準備学習	・日ごろから社会保障関係のみならず、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・理解をより深めるため、春学期開講予定の「社会政策Ａ」を受講しておくことが望ましい。
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．授業の進め方と講義の概要：国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度①
３．社会保障の概念と制度②
４．社会保障の体系と二定型
５．わが国における社会保障の概念
６．社会保障の必要性：超歴史的視点から①
７．社会保障の必要性：超歴史的視点から②
８．社会保障の必要性：歴史的視点から①
９．社会保障の必要性：歴史的視点から②
１０．社会保障の必要性：歴史的視点から③
１１．社会保障の源流
１２．社会保障の登場と発展
１３．福祉国家の光と陰①　福祉国家の発展
１４．福祉国家の光と陰②　福祉国家の危機
１５．わが国における社会保障の歴史的展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J20057A01
科目名	ファイナンシャル・エコノミクス s	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics (s)		
担当者名	秋田　将知	旧科目名称	
講義概要	金融全般についての，幅広い講義を行う．特に，金融取引，金融市場，金融機関，金融システム，プルーデンス政策についての基礎的な知識の習得を目標とする．これらの言葉の意味，概念は，なんとなく知っているが上手く説明できない，という学生も多い．この講義では，これらをきちんと認識できるように順序立てて説明していく．そもそも，金融とはなにか，なんのために金融取引が行われているのか，なんのために金融市場や金融機関が存在するのか，という根本から説明する．		
教材（テキスト）	特になし．		
教材（参考文献）	講義中に紹介する．		
教材（その他）	適宜プリントを配布する．		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（４０％），定期テスト（６０％）．		
到達目標	金融全般について，大学生にふさわしい知識を習得する．		
準備学習	去年までに金融関連科目を受講していることが望ましい．		
受講者への要望			
ひとつひとつの物事，事象を区別して見たり覚えるだけではなく，それぞれがどのように結びついているのか，関係しているのか，という視点を持ってください．			
講義の順序とポイント			
１：ガイダンス（金融とは） ２：経済学における金融 ３：金融の本質と役割 ４：金融取引１ ５：金融取引２ ６：金融市場１ ７：金融市場２ ８：金融機関１ ９：金融機関２ １０：金融システム１ １１：金融システム２ １２：金融制度・規制１ １３：金融制度・規制２ １４：金融と情報の非対称性 １５：金融とは（見直し・確認）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J20057B0A
科目名	ファイナンシャル・エコノミクス f	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics (f)		
担当者名	秋田　将知	旧科目名称	
講義概要	企業および個人の意思決定に焦点を当て，前半は企業金融について学び，後半は金融契約について考える．この講義では，個人の意思決定，相互作用の環境に注目した金融のテーマを掘り下げて解説する．これらのテーマを理解するうえで重要なのは，物事を順序立てて，論理的に考えることである．ファイナンシャル・エコノミクス s（春学期）で学んだ知識，認識，理解を活用する講義であり，毎回，学生諸君に思考することを要求する．		
教材（テキスト）	特になし．		
教材（参考文献）	講義中に紹介する．		
教材（その他）	適宜プリントを配布する．		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（４０%），定期テスト（６０%）．		
到達目標	物事を論理的に考える．		
準備学習	去年までに金融関連科目を受講していることが望ましい．		
受講者への要望			
ある時点での意思決定が将来にどのような影響を及ぼすか，ということについて論理的に考える意識を持ってください．			
講義の順序とポイント			
１：ガイダンス（金融とは） ２：企業金融とは ３：資本コスト１ ４：資本コスト２ ５：企業の投資１ ６：企業の投資２ ７：企業の資金調達１ ８：企業の資金調達２ ９：情報の非対称性と金融契約 １０：逆選択問題 １１：モラル・ハザード問題 １２：インセンティブ契約 １３：企業統治１ １４：企業統治２ １５：金融とは（見直し・確認）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J20062A01
科目名	財政学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Finance A		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	現在の我が国はバブル崩壊後に長期の不況に陥り、その一方で少子高齢化に伴う社会保障問題や多額の政府債務残高に直面し、2014 年 4 月から消費税の引き上げが行われた。本講義では日本や諸外国の財政状況や政府の役割に注目する。特にミクロ的な視点に立ち、上記の問題や現象がなぜ生じるのか、また我々の日常生活にどのような影響を及ぼすのか、そして解決方法をモデルや現実に観測されるデータを用い理解する。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	授業で使用するレジュメを配布する。		
評価方法	授業態度 10%、小テスト 20%、期末試験 70%		
到達目標	税金が家計や企業に与える影響や公共財の役割を理解する。		
準備学習	・ミクロ経済学の知識があることが望ましいので、１年次に履修したミクロ経済学基礎の講義ノートを読み返し　　ておくこと。 ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。

講義の順序とポイント

1.はじめに
2.需要と供給
3.市場メカニズム(1)
4.市場メカニズム(2)
5.余剰分析
6.課税と超過損失(1)
7.課税と超過損失(2)
8.小テスト及び公共財とは
9.公共財の最適供給(1)
10.公共財の最適供給(2)
11.公共財の最適供給(3)
12.外部性とは
13.外部性：ピグー税とコースの定理(1)
14.外部性：ピグー税とコースの定理(2)
15.外部性：ピグー税とコースの定理(3)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	★

年度	2015	授業コード	J20062B01
科目名	財政学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Finance B		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	現在の我が国はバブル崩壊後に長期の不況に陥り、その一方で少子高齢化に伴う社会保障問題や多額の政府債務残高に直面し、2014 年 4 月から消費税の引き上げが行われた。本講義では日本や諸外国の財政状況や政府の役割に注目する。特にマクロ的な視点に立ち、上記の問題や現象がなぜ生じるのか、また我々の日常生活にどのような影響を及ぼすのか、そして解決方法をモデルや現実に観測されるデータを用い理解する。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	授業で使用するレジュメを配布する。		
評価方法	授業態度 10%、小テスト 20%、期末試験 70%		
到達目標	政府の役割、経済政策の効果、我が国の年金制度が直面する問題を理解すること。		
準備学習	・マクロ経済学の知識があることが望ましいので、１年次に履修したマクロ経済学基礎の講義ノートを読み返しておくこと ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
・積極的な質問を歓迎します。 ・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。			
講義の順序とポイント			
1.はじめに 2.政府の役割 3.GDP とは何か 4.GDP と三面等価の定理 5.景気と需要(1) 6.景気と需要(2) 7.フィスカルポリシー(1) 8.小テストとフィスカルポリシー(2) 9.ビルトインスタビライザー(1) 10.ビルトインスタビライザー(2) 11.社会保障(1)：社会保障と再分配 12.社会保障(2)：我が国の社会保障制度① 13.社会保障(3)：我が国の社会保障制度② 14.社会保障(4)：少子高齢化と年金制度① 15.社会保障(5)：少子高齢化と年金制度②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	★

年度	2015	授業コード	J20064A01
科目名	金融論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Money and Banking A		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	金融の基礎について講義をする。貨幣の役割、中央銀行の役割、民間金融機関の役割を中心に、金融を学ぶことは何故必要かが分かってもらえる講義にする。短期金融市場、株式市場、債券市場、為替市場についても説明し、ファイナンシャルプランナーを目指す人、金融機関就職を希望する人はもちろんのこと、今後社会に出た時に必要な基礎教養を身に付けたい人にも十分役立つ講義にする。金融政策を中心に扱う金融論Ｂも併せて受講してほしい。		
教材（テキスト）	第１回目の講義時に紹介します。		
教材（参考文献）	講義の進展に応じて紹介していきます。		
教材（その他）			
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：出席,小テスト等を含む 20%		
到達目標	ファイナンスについての基本的知識を身に着ける。		
準備学習	講義前に新聞やニュースでその日の経済の動きを事前に把握しておくこと。少なくともその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		

受講者への要望

「金融論Ｂ」「企業金融論」「金融入門」は併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい

講義の順序とポイント

1.貨幣とは何か
2.銀行の役割
3.中央銀行の役割
4.金融政策の方法
5.信用創造について
6.金融政策はどのように経済に影響するのか
7.短期金融市場の役割
8.債券についてⅠ
9.債券についてⅡ
10 株式についてⅠ
11 株式についてⅡ
12.為替レートについてⅠ
13..為替レートについてⅡ
14.物価の決定理論Ⅰ
15.物価の決定理論Ⅱ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J20064B01
科目名	金融論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Money and Banking B		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	金融政策および金融システムについて講義する。具体的には日本銀行やアメリカの中央銀行、連邦準備銀行は日々どのように金融政策を実施し、危機が生じたときにどのように政策対応するのか、また金融システムを健全に維持するためにはどのような規制が必要であるかを中心に講義する。とくに本年度は、アベノミクスを中心に日本の長期デフレ不況と日銀の金融政策について解説する。身近な事例を紹介しつつ、金融政策の理解を深める。できるだけ平易な解説になるように努めたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	講義の進展に応じて参考文献を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：出席,小テスト等を含む 20%		
到達目標	金融政策、金融危機に関する、新聞記事などが十分理解でき、経済政策、とくに金融政策に関して自分なりの意見が述べられるようにする。		
準備学習	ノートを整理すること。新聞の経済記事をよく読んでおくこと。講義の前に必ずその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		

受講者への要望

「金融論 A」「企業金融論」「金融入門」は併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい。

講義の順序とポイント

1 金融危機と金融政策（概説）
2 伝統的金融政策と非伝統的金融政策
3 日銀の伝統的金融調節
4 連邦準備の伝統的金融政策
5 デフレと金融政策
6 金融政策の評価
　テーラルール、NAIRU、オーカンの法則
7 大恐慌（29 年の株価大暴落と連銀の政策対応）
　金本位制、債務デフレ、クレディットビュー、マネビュー
8 日本のバブル：1980 年代後半の金融政策と政治
9　日本の長期デフレ不況：1990 年代
10　アベノミクス登場の背景と意義
11 アメリカの住宅バブルと金融政策
12 リーマンショックと金融政策
　too big to fail 政策、モラルハザード、影の金融システム、スティグマ
13　2000 年代の金融政策、日米比較
14 北欧の金融システムと金融危機
　公的資金の役割、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー
15 金融規制のあり方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J20065001
科目名	ファイナンスの数理	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics of Finance		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	本講義では、投資理論として「どのようなポートフォリオを構築すればよいのか」について代表的な考えを述べる。 具体的には、PC 上で稼働する表計算ソフトとして幅広く利用されている Excel を活用しながら、証券投資分析手法を寛容に学んでいく。証券投資理論に関しては、株式投資分析、債券投資分析、先物とオプションについて、講義を行うつもりである。また、ファイナンスの基礎知識が全くないことを前提に、PC を使いながら出来るだけ平易に解説するつもりである。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント配布を行う。		
教材（参考文献）	藤林/岡村/矢野（2001）『Excel で学ぶファイナンス：証券投資分析』 金融財政事情研究会. 藤田康範（2013）『金融・経済のための統計学入門』 日本実業出版社. 今野浩（2000）『金融工学の挑戦』　中央新書.		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	平常点(30%)；複数回のレポート等による。 定期試験(70%)。		
到達目標	ファイナンスの基本理論を EXCEL などの演習を通じて理解度を深めてゆく 。		
準備学習	証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 複数回、小テストを行うので前回の講義内容を復習すること。 ファイナンス関連科目を多く履修していることが望ましい。		
受講者への要望			
統計学の正規分布等の基礎知識を有していることが望ましいが、とくになくても問題はない。 レポート課題を Excel で解くが、これも初めから指導する。			
講義の順序とポイント			
１．ポートフォリオのリターンとリスク ２．同上 ３．マーケット・モデル ４．同上 ５．資本資産価格モデル（CAPM） ６．同上 ７．債券の価格と利回り ８．同上 ９．イールドカーブの特性 １０．債券のリスク（価格変動リスク、信用リスク）とポートフォリオ １１．同上 １２．先物の理論価格とヘッジ １３．オプションの概要 １４．同上 １５．まとめ： 演習の復習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★

年度	2015	授業コード	J20066A01
科目名	時系列データ分析 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Analysis A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	時系列データ分析
講義概要	月次や四半期などの経済データはその時々の経済ショックを受けながら変動する。また、GDP やマネー、金利、物価などはお互いに影響しながら動いていく。それらの間にどのような関係が成り立つかを分析する。さまざまな分析手法を用いるが、特に、この講義では、最小二乗法を中心に、定常、非定常の検定を学ぶ。EViews という分析ソフトを使用。EViews という経済分析ソフトを使って、経済データのいろいろな分析、推計、モデル作成などを行う。		
教材（テキスト）	毎回、「京学なび」にて、必要な資料を EXCEL で、使用データを EViews のファイルで配布。		
教材（参考文献）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教材（その他）			
評価方法	毎回の課題提出（30%）と 2 回程度のレポート提出（20%）、定期試験（50%）		
到達目標	（1）最小二乗法による推定ができるようになり、推定結果が解釈できる。 （2）経済データが定常か非定常かを単位根検定できる。 （3）系列相関の有無（毎回の経済ショックが過去の影響を引きずっているか）。		
準備学習	EViews というソフトはクリックするだけで結果を出してくれる。計算手法そのものの理解は、統計学や数学、コンピュータのプログラムなど膨大な知識を要求するので、気にしなくてもよい。大事なことは、何を分析しているのか、分析結果の経済学的な意味合いである。経済学の基礎知識として、ミクロ、マクロ、金融論、計量経済学などを履修済、あるいは、履修中であることが望ましい。 予習：毎回の資料を「京学なび」で事前配布するので、読んでおくこと。 復習：毎回の資料（課題）の最後に、次週までに解いておくべき課題（発展問題）を示しておくので、その課題を解いて、次の授業までに「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		

受講者への要望

数学やコンピュータへの拒否反応を持たないようにしてほしい。これらははじめは難しそうでも、使っていれば慣れてくる。
経済学的な意味合いがもっとも大事である。経済の基礎勉強に励んでほしい。

講義の順序とポイント

（1）データ取得と加工、EViews の基本操作とグラフ表示
（2）季節調整、平均化、smoothing、記述統計
（3）最小二乗法による推定――回帰直線
（4）最小二乗法による推定――重回帰
（5）最小二乗法による推定――ダミー変数導入による賃金の推定（男女、年齢、経験の影響）
（6）自己相関、相互相関
（7） 時系列データにおける相関関数（時間遅れの影響）
（8）レベル変数（非定常）と階差変数（定常）
（9）系列相関の考え方
（10）単位根検定（定常、非定常）――トレンドの検定、ERS 検定、KPSS 検定
（11）単位根検定――日本のデータ
（12） 単位根検定――ヨーロッパのデータ、アメリカのデータ
（13）レベル変数間の推定
（14）階差変数（成長率）間の推定
（15）レベル推定と階差推定の関係

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J20066B01
科目名	時系列データ分析B	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Analysis B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	時系列データ分析
講義概要	月次や四半期などの経済データはその時々の経済ショックを受けながら変動する。また、GDP やマネー、金利、物価などはお互いに影響しながら動いていく。それらの間にどのような関係が成り立つかを分析する。さまざまな分析手法を用いるが、特に、この講義では、主として、最小二乗推定を用いて、マクロ経済システムを推定する。経済時系列手法により、GDP、マネー、金利、株式などの変数からなる VAR モデルを推定する。インパルス応答によるモデルの動きを調べて、作成したモデルの検証方法も調べる。		
教材（テキスト）	毎回、必要な資料を EXCEL で、使用データを EViews のファイルで事前配布。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の課題提出（30%）と 2 回程度のレポート提出（20%）、定期試験（50%）		
到達目標	（1）最小二乗法による推定ができるようになり、推定結果の経済的な意味合いを理解できる。 （2）VAR モデルの推定ができる。 （3）インパルス応答によるモデルの検証ができる。		
準備学習	経済学の基礎知識として、ミクロ、マクロ、金融論、計量経済学などを履修済、あるいは、履修中であることが望ましい。 予習：毎回、EXCEL によって資料と課題を事前配布するので、読んでおくこと。 復習：毎回の資料配布時に、資料の最後に課題（発展問題）を入れておくので、次回の授業までに、課題を解いて「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		
受講者への要望			
数学やコンピュータへの拒否反応を持たないようにしてほしい。これらははじめは難しそうでも、使っていれば慣れてくる。 経済学的な意味合いがもっとも大事である。経済の基礎勉強に励んでほしい。			
講義の順序とポイント			
（1）EViews の基本操作とグラフ表示 （2）最小二乗法による推定――その 1 （3）最小二乗法による推定――その 2 （4）最小二乗法による推定――その 3 （5）自己相関、相互相関 （6） 時系列データにおける相関関数（時間遅れの影響） （7）レベル変数（非定常）と階差変数（定常） （8）物価の特徴（インフレ率）と Phillips 曲線 （9）金利の特徴（短期金利、長期金利） （１０）推定と AIC 規範 （１１）VAR モデルの推定、level 変数 （１２）VAR モデルの推定、成長率モデル （１３）インパルス応答 （１４）GDP とマネーと金利の関係 （１５）日本・USA・ヨーロッパ諸国の具体例と相違点			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J20069001
科目名	リスク・マネジメント論	単位数	2
科目名（英語表記）	Risk Management		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	金融工学とは、金融市場で資金を運用する際に生じるリスクを工学的な手法を用いて計測し、適切に管理することを目的して発展してきた学問である。当該分野は、数学、統計学、経済学等の手法を駆使してリスク測定・管理を行う。本講義では、金融・経済で用いられる統計学に焦点を当てながら、金融工学におけるリスク測定・管理の手法を理解していく。ただし、数学が苦手な文系の受講者を想定しており、初歩から理解を深めていく予定である。		
教材（テキスト）	藤田康範（2013）『金融・経済のための統計学入門』 日本実業出版社.		
教材（参考文献）	土方薫（2004）『文系人間のための金融工学の本』 日本経済新聞社. 今野浩（2000）『金融工学の挑戦』 中公新書.		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	平常点(30%)；複数回のレポート等による。 定期試験(70%)。		
到達目標	本講義を通じて、データ整理の基本から、ブラック・ショールズ・モデルまでを理解すること。統計学を使って、安く買って高く売る、しかもリスクを減らす方法を理解すること。		
準備学習	事前に各回のテキストを読んで、自分なりの解釈をして講義に臨むこと。 参考文献欄に挙げた文献すべてを学期中に読破すること。 ファイナンス関連科目を多く履修していることが望ましい。		
受講者への要望			
授業中の私語厳禁・携帯電話利用禁止。			
講義の順序とポイント			
1. データ整理の基本： 平均と分散、標準偏差 2. データ整理の基本： 共分散と相関係数 3. ポートフォリオの適切な組合せ方： 収益率の平均と標準偏差 4. ポートフォリオの適切な組合せ方： 資本資産評価モデル（CAPM）と$\sqrt{t}$ルール 5. 「めったにない安値」で買い、「めったにない高値」で売る： 確率分布とは？ 6. 「めったにない安値」で買い、「めったにない高値」で売る： めったにない安値と高値の計算 7. 最悪の損失を最小化する方法： バリュー・アット・リスク(VaR)とは？ 8. 最悪の損失を最小化する方法： ポートフォリオの VaR を求める 9. 「よくある価格」を知るための方法： 「よくある価格」の推定 10. 「よくある価格」を知るための方法： 「よくある価格」が変化したかを検定する 11. 売買する権利の価格を求める： オプションとは？ 12. 売買する権利の価格を求める： オプションの価格を求める 13. ブラック・ショールズ・モデル： 連続時間における元利合計を求める 14. ブラック・ショールズ・モデル： ブラック・ショールズ・モデルでオプション価格を求める 15. まとめ： 演習の復習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★

年度	2015	授業コード	J20070001
科目名	金融市場論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Financial Market		
担当者名	秋田　将知	旧科目名称	
講義概要	先ず，金融市場の分類や機能についての包括的な説明をする．次に，特に重要である証券市場（株式市場・債券市場），貸出市場について講義する．これらの後に，金融市場を理解する上で欠かすことができない要素である，情報の非対称性が引き起こす様々な問題について考える． この講義では，金融および金融市場について，大学生にふさわしい知識を習得することを目標としている．したがって，特別に専門的な内容は扱わない．ただし，利子率を用いた簡単な計算は講義に用いる．		
教材（テキスト）	特になし．		
教材（参考文献）	講義中に紹介する．		
教材（その他）	適宜プリントを配布する．		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（４０％），定期テスト（６０％）．		
到達目標	金融および金融市場について，大学生にふさわしい知識を習得する．		
準備学習	去年までに金融関連科目を受講していることが望ましい．		
受講者への要望			
他の金融関連科目にも出席するようにしてください．			
講義の順序とポイント			
１：ガイダンス（金融とは） ２：金融市場の概要 ３：金融市場の種類と性質 ４：株式市場１ ５：株式市場２ ６：債券市場１ ７：債券市場２ ８：貸出市場１ ９：貸出市場２ １０：利子率 １１：割引現在価値 １２：情報の非対称性とは １３：逆選択問題と金融市場 １４：モラル・ハザード問題と金融市場 １５：金融市場とは（見直し・確認）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J20075A01
科目名	国際金融論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	国際金融論は，国際間の金融取引に焦点を当て，そこで無視することができない為替レートについて学習する学問になっています．国際金融論 A では，国際金融取引の現状から比較的初歩的な為替レート決定理論について説明します．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○高木信二(1992)『入門　国際金融』　日本評論社 ○藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 ○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○藤原秀夫・小川英治・地主敏樹(2001)『国際金融』 有斐閣アルマ ○小川英治(2002)『国際金融入門』　日本経済新聞社 ○宮尾龍蔵(2005)『コアテキスト・マクロ経済学』　新世社		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際金融論の初歩的な内容である国際金融取引の基礎や外国為替の仕組み，為替レートと貿易収支の関係についてまず学習し，最終的に初歩的な為替レート決定理論である購買力平価や金利平価を理解することを目標とする．		
準備学習	金融論とマクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましいので，できればそれらの授業を受講した上でのぞんでください．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに提出するようにして下さい．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とします．遅刻の場合，その理由を求めます．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求めます．			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．国際金融取引の基礎：グローバル化するもの・お金の動き 3．国際金融取引の基礎：開放経済における国民所得勘定 4．国際金融取引の基礎：開放経済における国民所得勘定 5．国際金融取引の基礎：国際収支表の見方・書き方 6．国際金融取引の基礎：国際資本移動が生じる理由 7．外国為替の基礎：外国為替の仕組み，外国為替市場の特徴 8．外国為替の基礎：為替レートの見方，名目為替レートと実質為替レート 9．為替レートと貿易収支の調整：円高・円安と貿易収支 10．為替レートと貿易収支の調整：マーシャル・ラーナー条件 11．為替レートと貿易収支の調整：J カーブ効果 12．為替レートの決定：購買力平価（絶対的購買力平価） 13．為替レートの決定：購買力平価（相対的購買力平価） 14．為替レートの決定：購買力平価不成立に関する理論（バラッサ・サミュエルソンの定理） 15．為替レートの決定：金利平価			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J20075B01
科目名	国際金融論B	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	国際金融論は，国際間の金融取引に焦点を当て，そこで無視することができない為替レートについて学習する学問になっています．国際金融論 B では，主要な為替レート決定モデルから為替レート変動が実体経済に与える影響について説明します．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○高木信二(1992)『入門　国際金融』　日本評論社 ○藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 ○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○藤原秀夫・小川英治・地主敏樹(2001)『国際金融』 有斐閣アルマ ○小川英治(2002)『国際金融入門』　日本経済新聞社 ○宮尾龍蔵(2005)『コアテキスト・マクロ経済学』　新世社		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際金融論の主要な内容である為替レートの決定と為替変動がマクロ経済に与える影響について理解することを目標とする．		
準備学習	金融論とマクロ経済学と国際金融論 A の授業を履修しておくことが望ましいので，できればそれらの授業を受講した上でのぞんでください．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに提出するようにして下さい．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とします．遅刻の場合，その理由を求めます．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求めます．			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．為替レート決定理論を分析するための準備 3．為替レート決定理論を分析するための準備 4．為替レート決定理論：フローアプローチ 5．為替レート決定理論：伸縮価格マネタリーモデル 6．為替レート決定理論：硬直価格マネタリーモデル 7．為替レート決定理論：為替リスク，リスク・プレミアム 8．為替レート決定理論：ポートフォリオ・バランス・モデル 9．為替介入の方法と効果：介入の仕組みと効果経路 10．開放経済における政策効果を分析するための準備：マクロ経済学の分野である IS-LM 分析の復習 11．開放経済における政策効果を分析するための準備：マクロ経済学の分野である IS-LM 分析の復習 12．開放経済における政策効果：固定相場制における財政金融政策（資本移動が完全なケース） 13．開放経済における政策効果：変動相場制における財政金融政策（資本移動が完全なケース） 14．開放経済における政策効果：固定相場制における財政金融政策（資本移動がないケース） 15．開放経済における政策効果：変動相場制における財政金融政策（資本移動がないケース）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J20078A01
科目名	簿記原理Ｉｓ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Bookkeeping I (s)		
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
講義概要	簿記とは、企業の経営活動の結果を帳簿に記録する手法であり、技術です。簿記の原理を知り、財務諸表から企業の財政状態や経営成績を読み取る能力は、現在の企業人に強く求められる必須の教養であるといってよいでしょう。 この授業では、はじめて簿記を学ぶ人を対象に、個人企業（主に商店）の簿記の構造と理論をわかりやすく解説するとともに、練習問題等を多く取り入れ、実際の簿記の技術を身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	TAC 簿記検定講座著『合格テキスト日商簿記３級　Ver.７.0』（TAC 出版）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 50%、授業内提出物（小テストを含む）50%から総合的に評価します。		
到達目標	日商簿記検定３級の範囲の知識の習得を目指します。		
準備学習	準備学習というより、次の授業までに必ず前回の授業内容の復習を心掛けるようにしてください。		
受講者への要望			
この授業は複式簿記の基礎的な知識と技術の習得を目的としています。授業には積極的に参加し、簿記に対する関心を深め、しっかりとした知識と技術を身に付けるよう心掛けて下さい。			
講義の順序とポイント			
１，簿記って何！ ２，簿記の流れ ３，簿記上の取引 ４，日常の手続き ５，商品売買１ ６，商品売買２ ７，商品売買３ ８，現金、当座預金 ９，小口現金、手形 １０，期中の取引１ １１，期中の取引２ １２，期中の取引３ １３，期中の取引４ １４，期中の取引５ １５，試算表の作成と復習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J20078B0A
科目名	簿記原理Ｉｆ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Bookkeeping I (f)		
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
講義概要	簿記とは、企業の経営活動の結果を帳簿に記録する手法であり、技術です。簿記の原理を知り、財務諸表から企業の財政状態や経営成績を読み取る能力は、現在の企業人に強く求められる必須の教養であるといってよいでしょう。 この授業では、はじめて簿記を学ぶ人を対象に、個人企業（主に商店）の簿記の構造と理論をわかりやすく解説するとともに、練習問題等を多く取り入れ、実際の簿記の技術を身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	TAC 簿記検定講座著『合格テキスト日商簿記３級　Ver.７.0』（TAC 出版）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 50%、授業内提出物（小テストを含む）50%から総合的に評価します。		
到達目標	日商簿記検定３級の範囲の知識の習得を目指します。		
準備学習	準備学習というより、次の授業までに必ず前回の授業内容の復習を心掛けるようにしてください。		
受講者への要望			
この授業は複式簿記の基礎的な知識と技術の習得を目的としています。授業には積極的に参加し、簿記に対する関心を深め、しっかりとした知識と技術を身に付けるよう心掛けて下さい。			
講義の順序とポイント			
１，試算表の作成１ ２，試算表の作成２ ３，試算表の作成３ ４，決算の手続き１ ５，決算の手続き２ ６，決算の手続き３ ７，勘定の締め切り ８，財務諸表の作成１ ９，財務諸表の作成２ １０，財務諸表の作成３ １１，簿記一巡の手続き１ １２，簿記一巡の手続き２ １３，伝票式会計 １４，その他の簿記１ １５，その他の簿記２と復習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J20085A01
科目名	マーケティングⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Marketing I		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	マーケティング・マインドを身につけるための講座です。 マーケティング・マインドとは、普段日常として見ている現実を意識的に要素に細分化し、要素を組みなおして再構築、さらに新しいアイデアによってデザインし直すための思考能力です。 デザインする対象は商品であったり、コミュニケーションであったり、世代や嗜好で分類される人であったり、様々なものが対象となり、社会に夢を作っていきます。 前期はマーケティングの学問としての枠組みを学び、後期は様々な題材をテーマにしながら戦略的マーケティングからソーシャルマーケティングまでカバーする予定です。社会に役立つマーケティングの科学を実感します。		
教材（テキスト）	和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略（第４版）』有斐閣アルマ　2,160 円		
教材（参考文献）	適宜指示します。		
教材（その他）	パワーポイントおよびプリントを適宜配布		
評価方法	小レポート(20%)、定期テスト(60%)、授業時の発言の積極性(20%)		
到達目標	●マーケティングの独特の考え方を身につける ●抽象的なものの見方や思考ができるようにする ●マーケティングの視点で現実を分析できるようにする ●マーケティングの基礎的な理論構成と概念を理解する		
準備学習	ホットトピックスについて、その都度授業で指示しますので、その問題について、ネットや新聞で概要を予習することを求めます。		

受講者への要望

遅刻、途中退席は不可。
授業中の私語と SNS の使用の禁止を求めます。
授業に主体的に参加し、講義への積極的なコントリビューション(貢献）を期待します。
一回でも授業が欠けるとその後の理解に支障が出ますので連続的に出席してください。

講義の順序とポイント

1. マーケティング・マインドとは
2. マーケティング課題の作り方
3. 細分化(セグメンテーション)１　時代の変遷と世代論
4. 細分化(セグメンテーション)２　嗜好や特徴による分類
5. 細分化(セグメンテーション)３　多変量解析の方法
6. 構造化１　情報を整理する基本的な方法について
7. 構造化２　ラダリング
8. 構造化３　ポジショニング
9. 差別化
10. マーケティングの領域　４Ｐ理論
11. 商品と価格
12. 流通とプロモーション　売り場の科学
13. ブランド論１　アーカー教授のブランド・エクイティ
14. ブランド論２　ブランド・ビルディングからブランド・マネジメントへ
15. 戦略的マーケティング

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J20085B01
科目名	マーケティングII	単位数	2
科目名（英語表記）	Marketing II		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	マーケティング・マインドを更に深めるための講座です。 マーケティング課題に対してのソリューション手法の数々を学びます。 戦略的マーケティング、ソーシャルマーケティング、共創マーケティング（マーケティング 2.0）、マイクロファイナンスなどの最新のマーケティングトレンドも取り入れて、マーケティングのダイナミックな現在進行形の展開を学びます。		
教材（テキスト）	和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略（新版）』有斐閣アルマ　2000 円＋税		
教材（参考文献）	フィリップ・コトラー他　恩蔵直人監訳『コトラーのマーケティング 3.0　ソーシャル・メディア時代の新法則』朝日新聞出版　2,592 円		
教材（その他）	パワーポイントおよびプリントを適宜配布		
評価方法	小レポート(20%)、定期テスト(60%)、授業時の発言の積極性(20%)		
到達目標	●社会の問題をソリューション可能なマーケティング課題への課題設定ができるようにする ●マーケティングのダイナミクスを実感する		
準備学習	ホットトピックスについて、その都度授業で指示しますので、その問題について、ネットや新聞で概要を予習することを求めます。		

受講者への要望

●遅刻、途中退席は不可。授業中の私語と SNS の使用の禁止を求めます。
●授業中の積極的な発言や質問により、授業にコントリビューション(貢献)を期待します。
●一回でも授業が欠けるとその後の理解に支障が出ますので連続的に出席してください。

講義の順序とポイント

1. 戦略的マーケティング
2. マーケティングの様々な手法
3. ソーシャルマーケティング
4. 消費者とは誰か　消費者から生活者へ
5. 戦後の消費と現在の消費
6. トレンドとヒット商品
7. トレンドの消滅とインサイト
8. マイクロトレンド　マストレンドから小さいけれど強力な魅力のある市場
9. スペンド・シフト　モノの買い方が変わりつつある。投票のようにモノを買う。モノを買うのはそれを作った人を承認することにつながる
10. ソーシャルマーケティング　社会を良くすることと消費の共存
11. キュレーション　消費者同士が盛り立てる市場
12. マイクロファイナンス　少額の投資で作り手に関わりながら消費を楽しむ新型消費
13. 作り手と買い手の一体化　プロシューマーと呼ばれるメイカーズ革命
14. マーケティング 3.0　消費者が商品を通して社会をデザインする共創消費
15. 欲望創造のマーケティングへの挑戦

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J20117001
科目名	現代ドイツ事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Current Topics in Germany		
担当者名	大前　智美	旧科目名称	
講義概要	「ドイツ」という国について、みなさんはどんなことを知っているでしょうか？ドイツだけでなく「ドイツ語」を話す国はどれぐらいあるか知っているでしょうか？ この講義では、「ドイツ」の文化、社会、歴史、街並みなど、それぞれテーマを決めて、自発的にドイツについて調べてみましょう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	現代ドイツを知るための 62 章【第 2 版】　明石出版 ISBN-10: 4750337986		
教材（その他）	PC を使って WEB から必要な情報を調べられるようにしておきましょう。		
評価方法	出席状況等による平常点 60%、授業中にまとめるレポート・発表 40%で評価します。		
到達目標	「ドイツ」について、これまで知らなかった一面を知り、ドイツに旅してみたいという気持ち、知識を高める。		
準備学習	必要な情報を収集する方法を身につける。 パワーポイントなどで発表資料を作成できるようにする。		
受講者への要望			
積極的に授業に参加し、課題に取り組むこと。　自ら発見する努力をしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス：講義の内容、進め方についての説明。ドイツについて紹介します。 2. ドイツ語圏について 3.「ドイツ」の文化について、それぞれテーマを決めて、調査します 4. 調査した内容をレポートとしてまとめます。① 5. 調査した内容をレポートとしてまとめます。② 6. レポート内容を発表しましょう。① 7. レポート内容を発表しましょう。② 8.「ドイツの街」について調べてみましょう。① 9.「ドイツの街」について調べましょう。② 10.「ドイツの街」について、調べた内容をレポートとしてまとめます。 ただし、発表することを念頭においたレポート資料を作成しましょう。 11.「ドイツの街」について発表しましょう① 12.「ドイツの街」について発表しましょう。② 13.「ドイツ語圏」について新たな発見は？ 14. ドイツ事情、ドイツ文学について講義 15. この講義を通して知った新たな「ドイツの一面」についてレポートを作成します。 この授業では上記の通り、グループで調査、まとめ、発表を行います。 また、それ以外にこちらから色々な資料を用意し、ドイツの街、文化、産業、映画などについて紹介します。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J20117002
科目名	現代ドイツ事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Current Topics in Germany		
担当者名	大前　智美	旧科目名称	
講義概要	「ドイツ」という国について、みなさんはどんなことを知っているでしょうか？ドイツだけでなく「ドイツ語」を話す国はどれぐらいあるか知っているでしょうか？ この講義では、「ドイツ」の文化、社会、歴史、街並みなど、それぞれテーマを決めて、自発的にドイツについて調べてみましょう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	現代ドイツを知るための 62 章【第 2 版】　明石出版 ISBN-10: 4750337986		
教材（その他）	PC を使って WEB から必要な情報を調べられるようにしておきましょう。		
評価方法	出席状況等による平常点 60%、授業中にまとめるレポート・発表 40%で評価します。		
到達目標	「ドイツ」について、これまで知らなかった一面を知り、ドイツに旅してみたいという気持ち、知識を高める。		
準備学習	必要な情報を収集する方法を身につける。 パワーポイントなどで発表資料を作成できるようにする。		

受講者への要望

積極的に授業に参加し、課題に取り組むこと。　自ら発見する努力をしてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス：講義の内容、進め方についての説明。ドイツについて紹介します。
2. ドイツ語圏について
3.「ドイツ」の文化について、それぞれテーマを決めて、調査します
4. 調査した内容をレポートとしてまとめます。①
5. 調査した内容をレポートとしてまとめます。②
6. レポート内容を発表しましょう。①
7. レポート内容を発表しましょう。②
8.「ドイツの街」について調べてみましょう。①
9.「ドイツの街」について調べましょう。②
10.「ドイツの街」について、調べた内容をレポートとしてまとめます。
ただし、発表することを念頭においたレポート資料を作成しましょう。
11.「ドイツの街」について発表しましょう①
12.「ドイツの街」について発表しましょう。②
13.「ドイツ語圏」について新たな発見は？
14. ドイツ事情、ドイツ文学について講義
15. この講義を通して知った新たな「ドイツの一面」についてレポートを作成します。

この授業では上記の通り、グループで調査、まとめ、発表を行います。
また、それ以外にこちらから色々な資料を用意し、ドイツの街、文化、産業、映画などについて紹介します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J20177001
科目名	環境経済学	単位数	4
科目名（英語表記）	Environmental Economics		
担当者名	今井　晴雄	旧科目名称	
講義概要	環境問題に取り組んでその経済政策的な解決を図る学問体系としての環境経済学を、実例等に即しながら学ぶ。		
教材（テキスト）	栗山浩一・馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ(第 2 版)』　有斐閣　2300 円＋税		
教材（参考文献）	適宜指定する。		
教材（その他）	教員が作成したスライドのプリント（無料配布）：予定。		
評価方法	復習レポート(60%) 最終レポートテスト(40%) 他に、授業での貢献、随意レポート、実験点やその補助などによる加点機会を設けることがありうる。		
到達目標	環境問題が経済の観点からなぜ問題となるかを理解し、それに対処する政策手段にどのようなものがあるかを述べることができるようになる。		
準備学習	ミクロ経済学の初級知識である価格や限界費用といった概念は、授業内でも説明を与えるが、事前に復習しておくことが望ましい。また、環境問題としてどのようなものが取り上げられているかについて、日常のニュース等から知識をある程度、蓄えておくことが役立つ。これらは、授業中の質疑や復習レポート等で成果として反映されることもある。		

受講者への要望

税や排出取引市場について取り扱うことがあるので、これらを扱う経済学の知識を持ち合わせている方が望ましい。

講義の順序とポイント

春学期

1　環境問題：環境問題にはどんなものがあったか、またあるか
2　経済学と環境問題：市場でうまく扱えない問題
3　成長と環境問題：環境クズネッツ曲線
4　ごみ問題：負の価値を持つ財
5　気候変動：過去の排出の蓄積がもたらす問題：公共財
6　外部性と市場の失敗：私的な費用、便益
7　共有地問題：コモンズの管理形態
8　公共財：ただ乗り問題
9　直接規制：政府当局の能力
10　税と補助金；社会的費用の私的負担
11　コースの定理：当事者による解決と権利関係
12　排出量取引：財と市場の創設
13　政策選択：政策手段の長所と短所
14　廃棄物とリサイクル：デポジット制
15　京都議定書：地球環境問題の国際交渉

秋学期

1　復習
2　地球環境問題：京都議定書の後の国際交渉
3　価値評価：市場がないときに価格を見つける
4　顕示選好：人々の行動が指し示す価値
5　CVM:アンケートで聞く
6　費用便益：評価を用いた目標決定
7　企業と環境：企業は環境に配慮すべきか？
8　CSR:社会的責任の果たし方
9　環境リスク
10　生物多様性：不可逆性
11　貿易と環境：ダンピング
12　技術進歩：特許と買い取り
13　持続可能発展：可能か？

14　エネルギー：再生可能エネルギーだけで足りるか
15　全体のレビュー

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J20190A01
科目名	西洋経済史 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic History of Western Countries A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	農耕の始まりから産業革命に至るまでの経済の歴史を通観します。まず、西アジアで始まったムギの栽培や牧畜がヨーロッパに伝わり発達していった過程を跡付けます。併せてヨーロッパの粗放的な休閑農業と日本の労働集約的な中耕農業を比較します。 　次いで大航海時代の到来に伴うヨーロッパ諸国の海外進出が産業革命へと連なっていく過程を追います。新世界（アメリカ大陸）と旧世界（ヨーロッパ）の出会いから生じた様々な変化について考えます。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	鵜飼保雄・大澤良（2010 年）『品種改良の世界史　作物編』悠書館。		
教材（その他）			
評価方法	レポート（30%）、授業内発表（5%）、定期試験（65%）		
到達目標	経済史の大きな流れを理解する。		
準備学習	上記の教材（参考文献）が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

歴史を学ぶことに興味をもってほしい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　人類、初めてパンを焼く（農耕の起源）
3　人類、初めてチーズを作る（牧畜の起源）
4　ムギとイネ（西洋の粗放農業と東洋の集約農業）
5　二圃式農法
6　三圃式農法
7　農業革命
8　食の東西比較
9　宗教と経済
１０　キリスト教世界の膨張（レコンキスタ）
１１　コロンブスとはどのような人だったのか（大航海時代の幕明け）
12　アメリカ大陸から来た栽培植物①タバコ・トマト
13　アメリカ大陸から来た栽培植物②トウモロコシ・ジャガイモ
14　砂糖と綿の世界史
15　産業革命（工業化）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★★

年度	2015	授業コード	J20190B01
科目名	西洋経済史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic History of Western Countries B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	コーヒーと絹（生糸）の２つの物産を通して経済の歴史について考えます。現在の日本では大手コーヒー・チェーン店が各地にあるため、コーヒーは欧米のものだと思い込んでいる人がいるようです。しかし、コーヒーを世界で最初に飲んだのはイスラーム世界の人びとでした。その後、ヨーロッパ諸国が植民地でコーヒーを生産するようになり、ジャワやサントスといったブランドが誕生した過程をたどります。 　絹（シルク）を世界で最初に利用したのは中国ですが、絹織物の原料になる生糸を器械的に生産する技術はヨーロッパで確立されました。日本は器械製糸の技術を富岡製糸場などを通じて知り、世界最大の生糸輸出国へと成長したのですが、その過程で様々な困難を解決しなければなりませんでした。生糸の輸出をめぐって日本がイタリアや中国を相手に展開した国際競争について考えます。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	玉川寛治（2002 年）『製糸工女と富国強兵の時代』新日本出版社。		
教材（その他）			
評価方法	レポート（30%）、授業内発表（5%）、定期試験（65%）		
到達目標	歴史を学ぶ中で経済学の基本的な考え方を身につける。		
準備学習	上記の教材（参考文献）が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
歴史を学ぶことに興味をもってほしい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　コーヒーに関する予備知識 3　イスラーム世界におけるコーヒーの発見と普及 4　ヨーロッパ諸国へのコーヒーの伝播 5　ヨーロッパ諸国の植民地におけるコーヒーの生産 6　ブラジルにおけるコーヒー産業の発展① 7　ブラジルにおけるコーヒー産業の発展② 8　絹に関する予備知識（養蚕・製糸・絹織） 9　ヨーロッパ絹産業の特徴とアメリカ絹工業の台頭 10　日本の開国と生糸輸出の始まり １１　製糸結社によるシグナリングと逆選択の解消 12　製糸結社による綛の標準化とアメリカ的生産方式 13　風土と蚕品種（ヨーロッパ・日本・中国の比較） 14　富岡製糸場の意義と限界（信州上一番格生糸の長所と短所） 15　欧米の生糸市場における国際競争の帰趨			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★★

年度	2015	授業コード	J20199A01
科目名	経済数学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics for Economics A		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、高校で既習の 1 次関数・2 次関数からはじめて、微分・偏微分や行列などより高度な抽象的な内容（B で取り上げる）に発展させていく。ただ、従来の数学のように定理・証明の積み重ねではなく、定理の直感的な意味の把握とその実践としての問題演習を中心に進めていく予定である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントと Web のホームページ		
評価方法	授業レポート（52%），その理解度を確認する演習・試験（48%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 特に数列の計算・関数のグラフ・微分の計算と応用などの能力を獲得すること。		
準備学習	高校の数学の教科書や図書館の参考書などで復習すること。		
受講者への要望			
数学的な記号や法則は，本だけで自習するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，その演習として簡単な問題を課し提出してもらう予定である。 高校数学の復習から始めるので事前に高校教科書の該当箇所に目を通しておいてください。			
講義の順序とポイント			
1. 数と集合 2. 集合と命題 3. 整式の計算・方程式・不等式 ４．２次関数・２次不等式・２次不等式・ 5. 数列 6. 数列の極限 7. 関数 8. 集合・関数・方程式・不等式・数列について総合演習 9. 指数関数 １０．対数関数 11. 関数の極限と微分 12. 微分の公式 13. 微分の計算 14. 微分の応用 15. 指数・対数関数・関数の極限・微分法について総合演習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J20199B01
科目名	経済数学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics for Economics B		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、経済数学 A で学習した内容をもとに、微分・偏微分や行列などより高度な抽象的な内容を取り上げていく。ただ、従来の数学のように定理・証明の積み重ねではなく、定理の直感的な意味の把握とその実践としての問題演習を中心に進めていく予定である。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	レジメプリントと Web のホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 　特に行列の計算と応用・偏微分の計算と応用などの能力を獲得すること。		
準備学習	高校の数学の教科書や図書館の参考書などで復習すること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで自習するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，その演習として簡単な問題を課し提出してもらう予定である。
数学は積み重ねなので毎回の授業プリントとレポートの解答を見て復習しておいてください。

講義の順序とポイント

1. ベクトル
2. 行列
3. 行列式
4. 逆行列
5. 掃き出し法
6. ランク
7. ベクトルと行列の計算の演習
8. ベクトルと行列について総合演習
9. 固有値と対角化
10. 2 次形式
11. 2 変数関数の偏微分
12. 2 変数関数の極大・極小
13. 2 変数関数の条件付極値
14. 固有値・2 次形式・多変数関数について練習
15. 行列の応用と偏微分について総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	J2020100A
科目名	経済データの見方 （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Analysis of Economic Data		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済の動きを理解するためには、現実のデータ（経済統計など）から現状を見る必要がある。経済の主要なデータ、たとえば、国全体の経済の動きは SNA というシステムにまとめられている。GDP など経済の基本中の基本となっている用語を理解するとともに、その動きがどうなっているか、他のどのような要因と関連しているかなど、主にデータ面から理解を深める。 　データの基本的性格を知るだけでなく、経済理論とどう関わっているかを調べるのも重要である。単に、何％増えた減ったではなく、その原因となるデータも押さえることが重要。この授業は、特に、マクロ経済学と関連性が高く、理論を現実データで検証するという役割も持っている。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内テストを何回も実施し、その成績によって判定する。 期末試験は実施しない。 授業への出席は当然なので、３回欠席（病気等を除く）した場合不合格とする。		
到達目標	マクロ経済の基本用語とその現実の動きを理解する。 経済の要素間の関連（理論的バックグラウンド）を理解する。		
準備学習	マクロ経済学を勉強することが望ましい。 時々、宿題を出すので、授業外の時間にそれをまとめ、次回の授業で提出する。 予習復習、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		
受講者への要望			
①授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、入退室などマナー違反は許されない ②実際に手を動かして文章を作ったり、計算したりする事が重要			
講義の順序とポイント			
１　講義の全体構成、ＳＮＡと日本経済、経済の循環 ２　付加価値とＧＤＰ ３　ＧＤＰと需要項目 ４　１人あたりＧＤＰ、日本は豊かな国か ５　経済成長と需要の寄与度 ６　景気変動と景気動向 ７　物価指数 ８　物価指数の実際 ９　人口 １０　労働人口、失業と賃金、物価 １１　利子率とマネー １２　為替レート １３　輸出入、内需・外需 １４　世界をかけめぐるマネー １５　様々な経済政策 資料はプリントを配布する。授業の進捗に合わせて、内容を変更することがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J20206A01
科目名	経済学史 A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economic Thought A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	経済学は、封建制の解体のなかから生まれてきた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するための学問である。封建制がいち早く解体したイギリスでは、早くも１６世紀の絶対王政の時代に近代社会を経済学的に把握しようとする試みが、主として当時の商人や政策担当者によって開始された。こうした「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776 年）によってその原型が完成され、その後今日に至まで２００年以上の歴史をへて発展してきた。 経済学史Ａでは、近代国家の成立とともに始まる経済学の歴史を、第１部「資本主義成立期の経済学」（重商主義と重農主義）と第２部「古典派経済学の成立と解体」（スミスからＪ・Ｓ・ミルまで）にわけて概説する。		
教材（テキスト）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）		
教材（参考文献）	日本経済新聞社編『経済学をつくった巨人たち―先駆者の理論・時代・思想』（日経ビジネス人文庫）、同『経済学の巨人― 危機と闘う』（同上）		
教材（その他）	毎回の講義資料を、講義当日にプリントにて配布するとともに、「京学なび」→「授業資料」として事前にアップする。		
評価方法	平常点（３０％）毎回の確認テスト・出席状況など＋レポート試験（７０％）		
到達目標	現代経済学の理解に決定的な意味を持つイギリス古典派経済学の成立・発展・解体の学説史的流れを探求する。これによって、現代経済学が抱えている問題をより一層深く理解するとともに、今日の経済問題について新たな知見を得ることを目標とする。		
準備学習	「講義の順序」に即して、あらかじめ指定された教科書の当該章をしっかり予習してから授業に出席すること。		

受講者への要望

授業で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問すること。また、教員から受講生に授業内容に関連して質問するので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの問いかけに対する積極的な発言については、いずれも平常点の加点対象とする。

講義の順序とポイント

１．経済学史Ａの課題
２．重商主義の定義
３．重商主義の経済政策論
４．重商主義の経済学説
５．重農主義成立の歴史的背景
６．ケネー『経済表』の分析(1)
７．ケネー『経済表』の分析(2)
８．アダム・スミスの生涯と著作
９．『国富論』解説(1)
１０．『国富論』解説(2)
１１．『国富論』解説(3)
１２．マルサス人口論
１３．リカードウの経済学(1)
１４．リカードウの経済学(2)
１５．Ｊ・Ｓ・ミルと現代

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	J20206B01
科目名	経済学史 B	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economic Thought B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	経済学は、封建制の解体のなかから生まれてきた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するためにつくられた学問である。「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776 年）によってその原型が完成されたが、経済学史Ｂでは、そのスミスに始まるイギリス古典派経済学の解体にともなう近代経済学成立と、「ケインズ革命」を経て現代に至るまでの現代経済学の発展史を概説する。		
教材（テキスト）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）		
教材（参考文献）	日本経済新聞社編『現代経済学の巨人たち― 20 世紀の人・時代・思想』（日経ビジネス人文庫）、同『経済学の巨人― 危機と闘う』（同上）		
教材（その他）	毎回の講義資料を、講義当日にプリントにて配布するとともに、「京学なび」→「授業資料」として事前にアップする。		
評価方法	平常点（３０％）毎回の確認テスト・出席状況など＋レポート試験（７０％）		
到達目標	現代経済学の出発点は 1870 年代の「限界革命」理論の確立に求められる。この「限界革命」と 1930 年代の「ケインズ革命」によって飛躍的な発展をとげた現代経済学の流れを正しく理解することによって、今日の経済問題の解明について新たな知見を得ることを目標とする。		
準備学習	「講義の順序」に即して、あらかじめ指定されたテキストを予習してから授業に出席すること。テキストに記載がない項目については、事前に授業資料を「京学なび」にアップしておくので、予習しておくことを求める。		

受講者への要望

授業で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問すること。また、こちらからも授業内容に関連して質問するので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの質問に対する積極的な発言については、いずれも平常点の加点対象とする。

講義の順序とポイント

１．経済学史Ｂの課題――古典派経済学から近代経済学へ
２．マルクスと現代(1)
３．マルクスと現代(2)
４．近代経済学の成立(1)
５．近代経済学の成立(2)
６．イギリス・ケンブリッジ学派の経済学（マーシャルとピグー）
７．シュンペーターの経済学
８．ソースタイン・ヴェブレンの制度主義経済学
９．ケインズ革命(1)
１０．ケインズ革命(2)
１１．ケインズ革命(3)
１２．ケインズ以降の現代経済学の展開(1)
１３．ケインズ以降の現代経済学の展開(2)
１４．現代経済学の新潮流
１５．現代経済学の課題と経済学史研究

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						★

年度	2015	授業コード	J20207A01
科目名	計量経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Econometrics A		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済・社会データを数量的に分析するための基本的な方法の学習、データの分析。 当初、データは教員が提供し、それを Excel 等を使って分析する。 分析結果をレポートにして完成させる。図表の書き方、文章の書き方などもチェックし、細かく修正してもらう。 （なぜ注意されるのか、どう修正すれば社会的要求水準になるのか考えてもらう） これを何回も題材を変えながら繰り返す。 A、B を別々に履修可能であるが、A はより入門的である。B は必ずしも A を受けていなくても良いが、A を前提にした内容になる場合があるため、出来るだけ連続して取って欲しい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料を何回か提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する。 レポートの書き方や図表の作り方を詳細に指示するので、それを守る必要がある。指示した水準で作業できれば合格できる。 毎回出席は当然であり、3 回欠席（病気等を除く）した場合は不合格とする。 期末テストは実施しない。		
到達目標	Excel を使いこなす 回帰分析など分析手法を身につける 高い水準のレポートが書けるようにする		
準備学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでは全く不十分なので、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 授業外の時間にその勉強をすること、次回の授業でそれを確かめること、ノートの整理などに時間を使ってほしい。 計量経済学 B も受講することが望ましい。		
受講者への要望			
ノートを必ず作り、書き込むことが重要である。 積極的に参加することが必要。授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすることが必要。			
講義の順序とポイント			
１　講義の全体構成 ２　平均と分散 ３　平均と分散の実例 ４　課題（１）の提示と分析 ５、６　課題（１）の修正と完成 ７　回帰分析その１ ８　回帰分析その２ ９　回帰分析を使った課題（２）の提示と分析 １０、１１　課題（２）の修正と完成 １２　回帰分析と評価 １３　回帰分析と評価その２ １４　最終課題（３）の提示と分析 １５　課題（３）の修正と提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★

年度	2015	授業コード	J20207B01
科目名	計量経済学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Econometrics B		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済・社会データを数量的に分析する。 回帰分析などやや高度な分析手法も学ぶ。 データは投書は教員が提供し、それを Excel 等を使って分析するが、やがて、官庁統計などを自分で利用して分析に用いる。 分析結果をレポートにして完成させる。 これを何回も題材を変えながら繰り返す。 この科目は、A よりも進んだ内容となるが、必ずしも A が前提になるわけではない。A、B と連続して受講することが望まし い。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料をその都度提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する。 期末テストは実施しない。 出席は当然であるので、3 回欠席（病気等を除く）したら不合格とする。		
到達目標	Excel を使いこなす 回帰分析など分析手法を身につける 高い水準のレポートが書けるようにする		
準備学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでなく、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 計量経済学 A と併せ学習することを望ましい		

受講者への要望

積極的に参加することが必要である。
授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすることが重要である。

講義の順序とポイント

1 授業の全体構成の説明と入門的分析事例
2 回帰分析の入門
3 回帰分析方法
4 回帰分析方法 その２
5 統計的検定
6 統計的検定 その２
7 分析課題への取り組み
８～１０ 同改訂
１１ 課題（２）の提示と分析
１２ 同改訂
１３ 同改訂
１４ 多変量解析入門
１５ 多変量解析入門 その２

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★

年度	2015	授業コード	J20209A01
科目名	マクロ経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics A		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	経済学 A
講義概要	マクロ経済学基礎、もしくはマクロ経済学入門に続く講義である。マクロ経済の仕組みを理解するとき、初めは貨幣が存在しないという仮定を置くと良い。しかし、現実には貨幣が存在し、資金の貸借が行われている。資金の動きを決定づけるものが利子率（金利）であり、本講義では貨幣と利子率の導入からマクロ経済の描写が始まる。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	プリント、動画教材等		
教材（その他）	新聞記事などを適宜紹介する。		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	本学では、マクロ経済学の講義を貨幣の存在しない財市場だけからなるモデルから始める。本講義ではそこに貨幣が登場するが、そもそも貨幣とは何であるのかを理解できることが第一の目標である。そして、貨幣と同時に導入されるのが利子率であり、貨幣市場で決まる利子率が財市場において投資行動に影響するという相互作用を理解することが第二の目標である。		
準備学習	次に学習する内容の中で用いられる数学の知識が不足している場合には、数学の事前学習をする。しかし、本講義で用いられる数学の知識は中学校までで学習するものである。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済学基礎の復習 第 2 回 貨幣の定義 第 3 回 マネーサプライ 第 4 回 ハイパワードマネーと信用乗数 第 5 回 景気と信用乗数 第 6 回 貨幣数量式 第 7 回 貨幣需要と金利、GDP 第 8 回 中間試験と振り返り学習 第 9 回 資産市場と財市場 第 10 回 金融政策 第 11 回 財政政策 第 12 回 発展的な経済モデル 第 13 回 フィリップス曲線とインフレ 第 14 回 失業 第 15 回 現実の労働市場			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★★

年度	2015	授業コード	J20209B01
科目名	マクロ経済学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics B		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	
講義概要	本講義はマクロ経済学Ａに続く講義である。財市場と貨幣市場を想定したマクロ経済モデルでは、均衡において国内所得と利子率が決定する。しかし、均衡状態は他の事情が変化することによって不均衡状態となる。また、均衡における国内所得が失業を見過ごせないほど低い場合がある。このような場合の経済の動きを解説する時に IS-LM モデルが用いられる。講義としては、労働市場を考慮し、国際間の経済取引を導入するといった方向で展開していく。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	プリント、動画教材等		
教材（その他）	適宜指定する。		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	毎日の新聞報道に登場する経済事象を、マクロ経済モデルを用いて説明できるようになることが目標である。		
準備学習	かなり複雑な経済モデルになるので、毎回練習問題を復習する必要がある。それを行ったかどうかは講義中の口頭による質疑応答で確認される。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済モデルの復習 第 2 回 IS-LM モデルの応用 第 3 回 物価の変化と IS-LM モデル 第 4 回 総需要曲線と総供給曲線 第 5 回 財政とマクロ経済 第 6 回 初期の経済成長モデル 第 7 回 新古典派の経済成長モデル 第 8 回 中間試験と振り返り学習 第 9 回 開放経済と外国為替 第 10 回 外国為替レートの変動要因 第 11 回 マンデル=フレミングの理論 第 12 回 比較優位 第 13 回 景気循環 第 14 回 景気動向指数の仕組み 第 15 回 マクロ経済学と関わる経済学の他分野			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★★

年度	2015	授業コード	J20211A01
科目名	ミクロ経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomics A		
担当者名	今井　晴雄	旧科目名称	
講義概要	ミクロ経済学基礎からより深い内容へと導く内容となる。概念の一般性や、限界を明確に受け止められるようになって、ミクロ経済学の全体を概観できるようになることが主眼である。		
教材（テキスト）	伊藤元重著、『入門経済学（第 3 版)』日本評論社　3000 円＋税		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	教員が作成したスライドのプリント（無料配布）：予定。		
評価方法	毎回の復習テスト(60%) 最終レポート試験(40%) ＊授業への貢献や、随意レポート、実験点やその補助等の加点項目を設ける場合がありうる。		
到達目標	市場の働きのもととなる、需要と供給の背景にある要因と、その意味について、人に説明できるようになること。		
準備学習	ミクロ経済学基礎を復習し、需要供給曲線のグラフのいろいろな見方とその実際例について準備する。講義中の質疑や復習レポートとしてその結果が反映される。		
受講者への要望			
数式等は、なるべくそれを用いた方が好都合と思う人にだけ使うようにする予定であるが、記号は用いざるをえないことがあるので、記号表記については予期して下さい。			
講義の順序とポイント			
1．復習と展望：ミクロ経済学の目的：「資源配分問題」 2．概念の復習：財・サービス、需要、供給 3．需要と供給の一致（黄金のクロス）の復習 4．需要と供給の一致（黄金のクロス）の利用 5．需要の決定要因と価格、１　弾力性 6．需要の決定要因と価格、２消費者全体 7．生産費用と供給量 8．企業の利潤最大化行動と供給量 9．消費者余剰と生産者余剰 １０．自由競争市場と余剰最大化 １１．最適な資源配分と競争市場 １２．余剰の利用：消費税 １３．ゲーム理論：人々の行動の直接的な相互依存 １４．ゲーム理論：応用 １５．ゲーム理論：経済学での意義			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J20211B01
科目名	ミクロ経済学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomics B		
担当者名	今井　晴雄	旧科目名称	
講義概要	ミクロ経済学基礎、ミクロ経済学 A の内容をさらに深化させた内容となる。需要や供給概念の背景にある関係のさらなる一般化や、市場とそれ以外の仕組みの比較が視野に入るようになる。		
教材（テキスト）	伊藤元重著、『入門経済学(第 3 版)』日本評論社　3000 円＋税。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	教員が作成したスライドのプリント（無料配布）予定。		
評価方法	毎回の復習テスト(60%) 期末レポートテスト(40%) ＊授業への貢献や、随意レポート、実験点やその補助当の加点項目を設ける場合がありうる。		
到達目標	いろいろな企業行動についての理解のいとぐちを目にし、また、消費者の需要決定の背後にある関係を掘り下げることによって何が得られるかを理解するようになること。		
準備学習	若干の数式操作が必要になる場合がある。別の理解法もつねに設ける予定であるが、このような操作を用いる方が理解の早道にはなるので、最低限の技術を経済数学等で身に着けることが望ましい。復習レポート等でこれらはチェックされる機会がある。		
受講者への要望			
ミクロ経済学基礎、ミクロ経済学 A の上位コースである点を弁えて履修すること。			
講義の順序とポイント			
１．独占市場 ２．独占はなぜ問題か ３．独占と競争の間：寡占 ４．独占と競争の間：別の可能性 ５．外部性の問題 ６．外部性のさまざまな形 ７．外部性の弊害を補正する政策 ８．不完全情報と市場：レモン ９．不完全情報と市場：モラルハザード １０．上級ミクロに向けて：効用関数 １１．上級ミクロに向けて：所得の効果、価格の効果と需要 １２．上級ミクロに向けて：弾力性再訪 １３．上級ミクロに向けて：生産関数と企業行動 １４．上級ミクロに向けて：費用関数 １５．上級ミクロに向けて：長期と短期			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J20214001
科目名	やさしい税の話	単位数	2
科目名（英語表記）	Elementary Theory of Tax		
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
講義概要	税とは、私たちの生活に密接にかかわるものであり、その数は５０種類にも及ぶといわれています。この授業では、特に私たちの生活に直接かかわる身の回りの税について、わかりやすく解説します。 講義の順序とポイントは以下に示すとおりですが、これとは別に特別講師を迎えた授業の実施も予定しています。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリントを中心に授業を進めます。		
教材（参考文献）	授業中に必要に応じて指示します。		
教材（その他）			
評価方法	平常点 50%、授業内提出物（小テストを含む）50%から総合的に評価します。		
到達目標	テレビや新聞等の税に関する報道の意味内容を正しく理解することができるように、税に関する基礎的な知識や考え方を知り、納税者としての義務と権利に深い関心を持ってもらうことができれば、この授業の目標が達成されたものと考えます。		
準備学習	テレビ、新聞等の税に関する報道には特に関心を持って注目し、その具体的な意味内容や影響について考えるよう心掛けてください。		
受講者への要望			
授業には積極的に参加し、税に関する基礎的な知識の習得を目指して下さい。税に対する関心を深め、納税の義務と納税者としての権利について考えてみて下さい。			
講義の順序とポイント			
１，　税金って何？ ２，　税の歴史 ３，　所得にかかる税金 ４，　サラリーマンと税金 ５，　事業経営者と税金 ６，　学生と税金 ７，　保険金・年金と税金 ８，　相続・贈与と税金 ９，　会社経営と税金 １０，その他の税金 １１，ちょっと得する税金豆知識！ １２，税金についての不服申し立て １３，納税者の義務と権利 １４，特別講演 １５，税に関する復習の授業			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J20219A01
科目名	公共経済学　A	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	公共経済学
講義概要	本講義では政府の経済的役割について検討する。独占や外部効果、あるいは公共財供給など「市場の失敗」と呼ばれる、市場機構が効率的な資源配分に失敗するいくつかケースについて、政府が果たすべき役割を社会的厚生という観点から分析を行う。 また、政府活動の結果として生じる財政赤字や所得再分配についても経済学的な視点から検討を加える。		
教材（テキスト）	教科書は特に指定しない。独自の講義資料を配布する。		
教材（参考文献）	（1）井堀利宏『基礎コース・公共経済学』新世社 （2）土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社 （3）スティグリッツ『公共経済学（上)』東洋経済新報社		
教材（その他）	講義に関連する新聞記事等を適宜配布する。		
評価方法	中間・期末試験６０％　平常点２０％　レポート点２０％		
到達目標	（1）資源配分の効率性とは何か、またその経済学的な判断基準を理解する。 （2）市場の失敗において生じる資源配分の非効率性を理解する。 （3）市場の失敗への政府の政策対応がもたらす資源配分上の効果について理解する。 （4）政府の失敗が生じるメカニズムについて理解する。		
準備学習	配布資料の指定箇所について事前に目を通し、問題意識や理解が不明瞭な点を明確にして講義に臨むことが望ましい。		

受講者への要望

（1）現代社会の公共経済学的課題とその背景を理解しよう。
（2）学んだ理論について現実の経済問題への応用可能性とその限界を考えよう。

講義の順序とポイント

1．公共経済学とはどのような学問か　：公共経済学の分析対象、公共経済学成立の歴史的背景、政府部門拡大のメカニズム
2．公共経済学における政府の役割　：政府の範囲、資源配分機能、所得再配分機能、安定化機能
3．所得分配の公平性：所得再分配と公正、補償原理、功利主義、ロールズ基準
4．資源配分の効率性（1）：パレート最適、ｴｯｼﾞﾜｰｽﾎﾞｯｸｽ・ﾀﾞｲｱｸﾞﾗﾑ、効用可能性曲線
5．資源配分の効率性（2）：完全競争市場均衡、消費者余剰、生産者余剰
6．資源配分の効率性（3）：政府の市場介入と死荷重１、価格規制、数量規制
7．資源配分の効率性（4）：政府の市場介入と死荷重２、参入規制、課税
8．市場の失敗（1）：独占、費用逓減産業
9．市場の失敗（2）：外部効果、外部経済、外部不経済
10．市場の失敗（3）：外部効果の内部化、ピグー税、コースの定理
11．市場の失敗（4）：公共財の定義、公共財の最適供給、リンダール均衡
12．政府の失敗（1）：財政赤字、基礎的財政収支、ソブリン・リスク、クラウディング・アウト
13．政府の失敗（2）：公債、リカードの中立性命題、公債の世代間負担問題
14．現代日本における公共経済学的課題（1）：震災復興における政府の役割
15．現代日本における公共経済学的課題（2）：社会保障制度改革、税制改革

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J20219B01
科目名	公共経済学 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	公共経済学
講義概要	本講義では、政治過程を市場として捉え、民主主義的な政治運営の限界を理解する。 まず、社会的意思決定の方法としての様々な投票制度の性質を検討する。次に、社会的意思決定過程に影響を与える有権者、政治家、官僚、圧力団体などの各主体の行動原理について考察する。そのうえで、非効率な資源配分をもたらす「市場の失敗」を補完すべき役割にある政府が最適な政策の選択に失敗するメカニズムについて理解する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。独自の講義資料を配布する。		
教材（参考文献）	（1）加藤寛『入門公共選択：政治の経済学』勁草書房 （2）フェルドマン＆セラーノ 『厚生経済学と社会的選択』ｼｰｴｰﾋﾞｰ出版 （3）谷口洋志『公共経済学』創成社		
教材（その他）	講義に関連する新聞記事等を適宜配布する。		
評価方法	中間・期末試験６０％　平常点２０％　レポート点２０％		
到達目標	（1） 政府を構成する各主体、およびその外部から影響を与えうる各主体の行動原理、およびその行動が政府の意思決定に与える影響とそのメカニズムについて理解する。 （2） 政府の失敗がもたらす資源配分上の非効率性を理解する。		
準備学習	配布資料の指定箇所を事前に目を通し、問題意識や理解が不明瞭な点を明確にしてから講義に臨むことが望ましい。		
受講者への要望			
（1）講義前の予習が重要である。記憶よりも理解を優先して学ぶ姿勢が近道である。 （2）学んだ理論について現実の経済問題への応用可能性とその限界を考える習慣を身に着けよう。			
講義の順序とポイント			
1．公共選択論とはどのような学問か？：公共選択論の分析対象と範囲 2．政府とは何か？：政府の誕生、政府の範囲と類型 3．投票（1）：集合的意思決定、投票のルール 4．投票（2）：各種の投票ルール、各種投票ルールの論理的非整合性 5．投票（3）：ｱｼﾞｪﾝﾀﾞ・ｺﾝﾄﾛｰﾙ、戦略的投票 6．投票（4）：投票のパラドックス、中位投票者定理、単峰性選好 7．投票（5）：アローの一般不可能性定理 8．選挙（1）：有権者の投票行動、棄権、政党とイデオロギー 9．選挙（2）：小選挙区制と比例代表制、政治的景気循環、足による投票 10．官僚制（1）：官僚制、ニスカネン・モデル 11．官僚制（2）：ミギュエ＝ベランジェ・モデル、日本の官僚制 12．レント・シーキング：レント・シーキングとその類型、日本の財政投融資制度 13．圧力団体：圧力団体の定義と類型、日本の圧力団体、政権交代と圧力団体 14．財政赤字の政治経済学：J.M.ブキャナン、立憲的政治経済学 15．現代日本における公共選択論的課題：高齢化と選挙、財政赤字、地方分権			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J2023600A
科目名	ゼミ 5	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar V		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	日本学生経済ゼミナール大会（インター大会）への出場に向けて、ゼミを行う。具体的には、ゼミ学生を 2 チームに分割し、各チームで情報を収集しながら、論文作成をする。各チームは、金融および経済政策の中から論文テーマを選定し、ゼミ内で資料作成や報告を行う。論文テーマの例としては、「日本経済とアベノミックス」、「シェールガス革命と日本経済」、「法人税減税の政策効果」、「TPP と日本農業の課題」「経済成長と所得格差」等が考えられる。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	岩田規久男（2009）『金融危機の経済学』 東洋経済. 岩田規久男/浜田宏一/原田泰 編（2013）『リフレが日本経済を復活させる』 中央経済社. 植田和男 編（2010）『世界金融・経済危機の全貌』 慶応義塾大学出版会. 白川方明（2008）『現代の金融政策』 日本経済新聞社. 服部茂幸（2014）『アベノミックスの終焉』 岩波新書.		
教材（その他）	適宜、指定する。		
評価方法	平常点(60%); 演習内の発表内容等による。 ゼミ参加熱意(40%)		
到達目標	収集した資料に基づいて意見を述べ、論文を作成する能力を身に着けること。		
準備学習	発表にあたっているグループは協力して、しっかりとレジュメ作成をしなければならない。		

受講者への要望

無断欠席、遅刻を厳禁する。
ゼミは学生主体であるため、積極的な姿勢でゼミに取り組むことが求められる。
インター大会への参加を単位要件としており、そのための論文作りに励んでもらいたい。

講義の順序とポイント

12 月のインターゼミ参加に合わせて、夏休み中に論文作成に取り組む。
9,10,11 月はゼミ内でディスカッションして理解を深める。
テーマは、金融および経済政策に関する諸問題から選ぶ。

1． インター参加のグループ分け
2． インター参加テーマの設定
3． テーマごとの参考文献の紹介
4． グループ 1 の報告①
5． グループ 1 の報告②
6． グループ 2 の報告①
7． グループ 2 の報告②
8． グループ 1 の報告③
9． グループ 1 の報告④
10． グループ 2 の報告③
11． グループ 2 の報告④
12． レポートの書き方指導
13． レポート作成①
14． レポート作成②
15． レポート作成③

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J2023600B
科目名	ゼミ 5	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅴ		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	日本の経済政策に関する各グループ毎の研究テーマを決定し、ゼミ論文に必要な調査と資料作成・報告を行う。		
教材（テキスト）	2014 年衆議院選挙向けの各政党のマニフェスト		
教材（参考文献）	適宜、案内する。		
教材（その他）			
評価方法	２回の中間報告(40%)、個人レポート（40%)、報告発表(20%)		
到達目標	ゼミ論文のための個人レポートの完成と報告		
準備学習	選択した経済政策の実施に期待されている経済的・社会的効果と、その発生・波及メカニズムを説明する基本理論を調べて理解する。		
受講者への要望			
（1）なぜその経済政策が必要と考えられるのか、その背景にある日本社会・経済の現状を確認せよ。 （2）その経済政策により政党は何を実現しようとしているのか、目指している将来の日本の社会経済状況について確認せよ。			
講義の順序とポイント			
1.ゼミ 5 の概要説明とグループ編成 2.マニフェスト関係の資料収集（1） 3.マニフェスト関係の資料収集（2） 4.研究テーマの選択 5.研究テーマに関する調査と分析（1） 6.研究テーマに関する調査と分析（2） 7.第 1 回中間報告 8.研究テーマに関する調査と分析（3） 9.研究テーマに関する調査と分析（4） 10.第 2 回中間報告 11.個人レポートの執筆（1） 12.個人レポートの執筆（2） 13.個人レポートの執筆（3） 14.レポート発表（1） 15.レポート発表（2）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	J2023600C
科目名	ゼミ５	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅴ		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	２回生までに得た知識と各自の関心をもとに各自の研究テーマを決定し、６セメで提出する「ゼミ論文」の完成に向けた準備を行う。そのために、各自の選択した文献について、毎回数名の報告担当者を決め、その要約報告を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ生には報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。 なお、授業の時間の一部を使って、時事問題についての解説やそれに関する討論を行うことがある。		
教材（テキスト）	各自の選択したテーマに応じて収集すること。		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに応じて収集すること。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに応じて収集すること。		
評価方法	平常点（質問、討論への参加状況等）（60%）、報告内容等（40%）		
到達目標	現代の経済・社会問題に対して自らの視点から意見を述べられること。		
準備学習	新聞・テレビ等で報道される様々な経済・社会問題に日ごろから注意を払うこと。 スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。 参考文献を熟読し、レジュメにまとめておくこと。		

受講者への要望

・無断欠席、遅刻を厳禁する。やむを得ず欠席する場合には、必ず担当者に連絡すること。
・授業回数の３分の１以上に欠席または遅刻した場合には単位を認定しないので、十分注意すること。
・毎回必ず１回以上発言（質問等）をすること。
・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないこと。
・メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡すること。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション：ゼミの内容・方針・進め方について
2.各自の学習テーマの決定
3.各自の学習テーマの概要・主要参考文献についての報告(1)
4.各自の学習テーマの概要・主要参考文献についての報告(2)
5.各自の学習テーマに関する報告(1-1)
6.各自の学習テーマに関する報告(1-2)
7.各自の学習テーマに関する報告(1-3)
8.各自の学習テーマに関する報告(2-1)
9.各自の学習テーマに関する報告(2-2)
10.各自の学習テーマに関する報告(2-3)
11.各自の学習テーマに関する報告(3-1)
12.各自の学習テーマに関する報告(3-2)
13.各自の学習テーマに関する報告(3-3)
14.各自の学習テーマに関する報告(3-4)
15.今学期のまとめと来学期に向けて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J2023600D
科目名	ゼミ５	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅴ		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	ゼミ４と同じく、「自由ゼミ」方式とよぶやり方で、ゼミをおこなう。「自由ゼミ」方式とは、ゼミ担当教員があらかじめいくつかの基本テーマを設定し、その枠内でゼミ生一人ひとりが自分で取り組んでみたいテーマを自由に選び、同じ関心をもつゼミ生とグループを組んで研究するゼミ運営のことです。各グループでテーマが確定したら、各グループの代表（キャップ）と、テキストや資料を選び、研究計画を立てて、研究報告やレポート作成をおこないます。 昨年（ゼミ４）のテーマを参考のために示せば、「コマーシャル論」（広告の経済的効果)、「情報化社会」（アップル vs. グーグル)、「財税問題」（消費税を考える）でした。		
教材（テキスト）	１回目のゼミにおいて、各テーマごとの文献リストを参考資料として提示する。文献リストには、比較的入手しやすい最近の新書や文庫を示しています。最終的には、担当教員のアドバイスを参考にして、各グループの判断でテキストを選ぶものとする。		
教材（参考文献）	各グループのテーマが決まれば、その段階で研究テーマごとに文献リストを提示する。		
教材（その他）	適宜情報を提供し、必要な資料については印刷し配布する。		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等による＋グループ研究報告２回（６０％）＋個別報告１回（１０％）		
到達目標	ゼミ活動を通じて学生が自主的な学習スタイルを形成し、グループ研究において個人が果たすべき責任能力を身につけてもらうことを目標としている。		
準備学習	① 日頃から社会・経済問題に広く関心をもち、自分が研究したいと思うてえーまに関する資料を収集する。 ② ゼミの研究テーマについては、自宅でも自主的に学習する時間を十分に確保する。 ③ 研究グループ内でのミーティングをしっかり行い、各自が個人で果たすべき役割を着実に誠意をもって実行する。		

受講者への要望

各グループには、研究責任者としてキャップをおく。キャップがしっかりと内部調整をしなかったり、あるいは逆にグループメンバーがキャップに積極的に協力する姿勢で取り組まないと、研究報告書が未完成になったり、所定の期日に研究報告ができなかったりする。結果を達成できなかったグループについては、運営方法の改善を指導したり、どうしても改善が望めない場合には、グループの再編や解散を行う。

講義の順序とポイント

１．ゼミ５のガイダンス
２．研究グループと研究テーマ＆テキスト等の決定
３．教員による模擬研究報告
４．研究計画書の作成と提出
５．研究報告書の報告・説明
６．個別研究報告(1)
７．個別研究報告(2)
８．個別研究報告(3)
９．研究報告の批評(1)
１０．グループ中間報告
１１．個別研究報告
１２．個別研究報告
１３．研究報告の批評(2)
１４．グループ研究報告
１５．研究報告の総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★		★		

年度	2015	授業コード	J2023600E
科目名	ゼミ 5	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅴ		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	ゼミ 5 は主に計量的手法に慣れる。Excel を使って各種の統計を分析する。様々な観点から分析し、それをレポートにまとめる訓練をする。 資料を集め、分析視点を磨き、さらに、分析手法も勉強する。 できるだけ「個人のなかの作業」にせず、みなの前で発表し、批判を受けて改訂する・・・といった機会を設ける。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内レポート、授業中の応答、発表に対する取り組み姿勢など平常の総合評価が 100％		
到達目標	資料を収集し、読み込むこと、多面的に視点を構築できること		
準備学習	必ず、宿題となった資料を作成し、発表に備えること		
受講者への要望			
みんなで協力してゼミをもり立てること。粘り強くとりくむこと			
講義の順序とポイント			
1　ゼミ方針に関する討議 2　ゼミテーマ会議 3　テーマ解題（前半） 4　テーマ解題（後半） 5　データ収集と指導 6　データ収集と指導 7　資料解説（前半） 8　資料解説（後半） 9　データ分析 10　データ分析 11　データ分析 12　発表（前半） 13　発表（後半） 14　コメントと方針 15　今後の分析内容の調整			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	J2023600G
科目名	ゼミ 5	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅴ		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	昨年度はアベノミクスと株価について学んだが、本年度は 1930 年代の世界大恐慌は何故生じたかを基本に、日本の 1980 年代後半のバブル、その後のバブル崩壊に伴う長期デフレ不況、アメリカのサブプライ金融危機を含む、最近のいくつかの金融危機がどのようにして生じたかについて学ぶ。これらのテーマを中心にして、課題を設定し、インター大会出場を目指す。		
教材（テキスト）	未定、第 1 回目のゼミにて指示する		
教材（参考文献）	岩田規久男『金融危機の経済学』東洋経済 ホールとファ-グソン『大恐慌』多賀出版 パーカー『大恐慌を見た 11 人の経済学者はどう生きたか』中央経済社 田中『現代日本経済』日本評論社		
教材（その他）			
評価方法	平常点（70%）出席状況、発表内容等を含む（70%)、ゼミ参加熱意(30%)		
到達目標	アベノミクス、大恐慌、および金融危機について自分なりの意見が述べられる。		
準備学習	発表にあたっているグループは協力して、しっかりとレジュメ作成しなければならない。		
受講者への要望			
本年度はインタゼミに参加を予定している。できればすべてのグループが出場することを願っている。インターゼミ参加のための論文作りに励む。			
講義の順序とポイント			
12 月のインターゼミ参加に合わせて、夏休み中に論文作成に取り組む。9,10,11 月はゼミ内でディスカッションして理解を深める。内容は大恐慌、金融危機、に関する金融問題。 １．インター参加のグループ分け ２．インター参加テーマの設定 ３．テーマごとの参考文献の紹介 ４．グループ１の報告① ５．グループ１の報告② ６．グループ２の報告① ７．グループ２の報告② ８．グループ３の報告① ９．グループ３の報告② １０．グループ１の報告 １１．グループ２の報告 １２．グループ３の報告 １３．レポートの書き方指導 １４．レポート作成① １５．レポート作成②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J2023600H
科目名	ゼミ 5	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅴ		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の作成に向けてゼミを行う．国際金融，国際経済の中から自分でテーマを選定し，資料作成や報告を行う．また，報告に対して学生主体で討論を行う．		
教材（テキスト）	なし．		
教材（参考文献）	適宜指定する．		
教材（その他）	適宜指定する．		
評価方法	報告態度　３０％　討論への参加　３０％　課題への取り組み　４０％		
到達目標	自分で資料を収集し，それを元に意見を述べ，論文を作成する能力を身につける．		
準備学習	国際金融論 A，国際金融論 B，国際経済学 A，国際経済学 B を事前に履修（または同時登録）して内容を理解しておいて下さい．また，資料作成や報告で指摘されたことは，次のゼミの時間までに修正して，どのように修正したかを教員に説明するようにして下さい．		
受講者への要望			
資料の収集・作成も行いますが，報告主体でゼミ運営を行うので，報告義務をきちんと履行することを求めます．履行しない場合，厳正な対処を行うので，注意して下さい．			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成① 3. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成② 4. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成③ 5. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成④ 6. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成⑤ 7. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成⑥ 8. 報告と討論① 9. 報告と討論② 10. 報告と討論③ 11. 報告と討論④ 12. 報告と討論⑤ 13. 報告と討論⑥ 14. 報告と討論⑦ 15. 報告と討論⑧			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J2023700A
科目名	サブゼミ 5	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 5		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	日本学生経済ゼミナール大会（インター大会）への出場に向けて、ゼミを行う。具体的には、ゼミ学生を 2 チームに分割し、各チームで情報を収集しながら、論文作成をする。各チームは、金融および経済政策の中から論文テーマを選定し、ゼミ内で資料作成や報告を行う。論文テーマの例としては、「日本経済とアベノミックス」、「シェールガス革命と日本経済」、「法人税減税の政策効果」、「TPP と日本農業の課題」「経済成長と所得格差」等が考えられる。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	岩田規久男（2009）『金融危機の経済学』 東洋経済. 岩田規久男/浜田宏一/原田泰 編（2013）『リフレが日本経済を復活させる』 中央経済社. 植田和男 編（2010）『世界金融・経済危機の全貌』 慶応義塾大学出版会. 白川方明（2008）『現代の金融政策』 日本経済新聞社. 服部茂幸（2014）『アベノミックスの終焉』 岩波新書.		
教材（その他）	適宜、指定する。		
評価方法	平常点(60%); 演習内の発表内容等による。 ゼミ参加熱意(40%)		
到達目標	収集した資料に基づいて意見を述べ、論文を作成する能力を身に着けること。		
準備学習	発表にあたっているグループは協力して、しっかりとレジュメ作成をしなければならない。		

受講者への要望

無断欠席、遅刻を厳禁する。
ゼミは学生主体であるため、積極的な姿勢でゼミに取り組むことが求められる。
インター大会への参加を単位要件としており、そのための論文作りに励んでもらいたい。

講義の順序とポイント

12 月のインターゼミ参加に合わせて、夏休み中に論文作成に取り組む。
9,10,11 月はゼミ内でディスカッションして理解を深める。
テーマは、金融および経済政策に関する諸問題から選ぶ。

1． インター参加のグループ分け
2． インター参加テーマの設定
3． テーマごとの参考文献の紹介
4． グループ 1 の報告①
5． グループ 1 の報告②
6． グループ 2 の報告①
7． グループ 2 の報告②
8． グループ 1 の報告③
9． グループ 1 の報告④
10． グループ 2 の報告③
11． グループ 2 の報告④
12． レポートの書き方指導
13． レポート作成①
14． レポート作成②
15． レポート作成③

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J2023700B
科目名	サブゼミ 5	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 5		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	日本の経済政策に関する各グループ毎の研究テーマを決定し、ゼミ論文に必要な調査と資料作成・報告を行う。		
教材（テキスト）	2014 年衆議院選挙向けの各政党のマニフェスト		
教材（参考文献）	適宜、案内する。		
教材（その他）			
評価方法	２回の中間報告(40%)、個人レポート（40%)、報告発表(20%)		
到達目標	ゼミ論文のための個人レポートの完成と報告		
準備学習	選択した経済政策の実施に期待されている経済的・社会的効果と、その発生・波及メカニズムを説明する基本理論を調べて理解する。		

受講者への要望

（1）なぜその経済政策が必要と考えられるのか、その背景にある日本社会・経済の現状を確認せよ。
（2）その経済政策により政党は何を実現しようとしているのか、目指している将来の日本の社会経済状況について確認せよ。

講義の順序とポイント

1.ゼミ 5 の概要説明とグループ編成
2.マニフェスト関係の資料収集（1）
3.マニフェスト関係の資料収集（2）
4.研究テーマの選択
5.研究テーマに関する調査と分析（1）
6.研究テーマに関する調査と分析（2）
7.第 1 回中間報告
8.研究テーマに関する調査と分析（3）
9.研究テーマに関する調査と分析（4）
10.第 2 回中間報告
11.個人レポートの執筆（1）
12.個人レポートの執筆（2）
13.個人レポートの執筆（3）
14.レポート発表（1）
15.レポート発表（2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	J2023700C
科目名	サブゼミ 5	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 5		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	２回生までに得た知識と各自の関心をもとに各自の研究テーマを決定し、６セメで提出する「ゼミ論文」の完成に向けた準備を行う。そのために、各自の選択した文献について、毎回数名の報告担当者を決め、その要約報告を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ生には報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。 なお、授業の時間の一部を使って、時事問題についての解説やそれに関する討論を行うことがある。		
教材（テキスト）	各自の選択したテーマに応じて収集すること。		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに応じて収集すること。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに応じて収集すること。		
評価方法	平常点（質問、討論への参加状況等）（60%）、報告内容等（40%）		
到達目標	現代の経済・社会問題に対して自らの視点から意見を述べられること。		
準備学習	新聞・テレビ等で報道される様々な経済・社会問題に日ごろから注意を払うこと。 スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。 参考文献を熟読し、レジュメにまとめておくこと。		

受講者への要望

・無断欠席、遅刻を厳禁する。やむを得ず欠席する場合には、必ず担当者に連絡すること。
・授業回数の３分の１以上に欠席または遅刻した場合には単位を認定しないので、十分注意すること。
・毎回必ず１回以上発言（質問等）をすること。
・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないこと。
・メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡すること。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション：ゼミの内容・方針・進め方について
2.各自の学習テーマの決定
3.各自の学習テーマの概要・主要参考文献についての報告(1)
4.各自の学習テーマの概要・主要参考文献についての報告(2)
5.各自の学習テーマに関する報告(1-1)
6.各自の学習テーマに関する報告(1-2)
7.各自の学習テーマに関する報告(1-3)
8.各自の学習テーマに関する報告(2-1)
9.各自の学習テーマに関する報告(2-2)
10.各自の学習テーマに関する報告(2-3)
11.各自の学習テーマに関する報告(3-1)
12.各自の学習テーマに関する報告(3-2)
13.各自の学習テーマに関する報告(3-3)
14.各自の学習テーマに関する報告(3-4)
15.今学期のまとめと来学期に向けて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J2023700D
科目名	サブゼミ５	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 5		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	ゼミ４と同じく、「自由ゼミ」方式とよぶやり方で、ゼミをおこなう。「自由ゼミ」方式とは、ゼミ担当教員があらかじめいくつかの基本テーマを設定し、その枠内でゼミ生一人ひとりが自分で取り組んでみたいテーマを自由に選び、同じ関心をもつゼミ生とグループを組んで研究するゼミ運営のことです。各グループでテーマが確定したら、各グループの代表（キャップ）と、テキストや資料を選び、研究計画を立てて、研究報告やレポート作成をおこないます。 昨年（ゼミ４）のテーマを参考のために示せば、「コマーシャル論」（広告の経済的効果)、「情報化社会」（アップル vs. グーグル)、「財税問題」（消費税を考える）でした。		
教材（テキスト）	１回目のゼミにおいて、各テーマごとの文献リストを参考資料として提示する。文献リストには、比較的入手しやすい最近の新書や文庫を示しています。最終的には、担当教員のアドバイスを参考にして、各グループの判断でテキストを選ぶものとする。		
教材（参考文献）	各グループのテーマが決まれば、その段階で研究テーマごとに文献リストを提示する。		
教材（その他）	適宜情報を提供し、必要な資料については印刷し配布する。		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等による＋グループ研究報告２回（６０％）＋個別報告１回（１０％）		
到達目標	ゼミ活動を通じて学生が自主的な学習スタイルを形成し、グループ研究において個人が果たすべき責任能力を身につけてもらうことを目標としている。		
準備学習	① 日頃から社会・経済問題に広く関心をもち、自分が研究したいと思うてえーまに関する資料を収集する。 ② ゼミの研究テーマについては、自宅でも自主的に学習する時間を十分に確保する。 ③ 研究グループ内でのミーティングをしっかり行い、各自が個人で果たすべき役割を着実に誠意をもって実行する。		

受講者への要望

各グループには、研究責任者としてキャップをおく。キャップがしっかりと内部調整をしなかったり、あるいは逆にグループメンバーがキャップに積極的に協力する姿勢で取り組まないと、研究報告書が未完成になったり、所定の期日に研究報告ができなかったりする。結果を達成できなかったグループについては、運営方法の改善を指導したり、どうしても改善が望めない場合には、グループの再編や解散を行う。

講義の順序とポイント

１．ゼミ５のガイダンス
２．研究グループと研究テーマ＆テキスト等の決定
３．教員による模擬研究報告
４．研究計画書の作成と提出
５．研究報告書の報告・説明
６．個別研究報告(1)
７．個別研究報告(2)
８．個別研究報告(3)
９．研究報告の批評(1)
１０．グループ中間報告
１１．個別研究報告
１２．個別研究報告
１３．研究報告の批評(2)
１４．グループ研究報告
１５．研究報告の総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★		★		

年度	2015	授業コード	J2023700E
科目名	サブゼミ 5	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 5		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	ゼミ 5 は主に計量的手法に慣れる。Excel を使って各種の統計を分析する。様々な観点から分析し、それをレポートにまとめる訓練をする。 資料を集め、分析視点を磨き、さらに、分析手法も勉強する。 できるだけ「個人のなかの作業」にせず、みなの前で発表し、批判を受けて改訂する・・・といった機会を設ける。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内レポート、授業中の応答、発表に対する取り組み姿勢など平常の総合評価が 100％		
到達目標	資料を収集し、読み込むこと、多面的に視点を構築できること		
準備学習	必ず、宿題となった資料を作成し、発表に備えること		
受講者への要望			
みんなで協力してゼミをもり立てること。粘り強くとりくむこと			
講義の順序とポイント			
1　ゼミ方針に関する討議 2　ゼミテーマ会議 3　テーマ解題（前半） 4　テーマ解題（後半） 5　データ収集と指導 6　データ収集と指導 7　資料解説（前半） 8　資料解説（後半） 9　データ分析 10　データ分析 11　データ分析 12　発表（前半） 13　発表（後半） 14　コメントと方針 15　今後の分析内容の調整			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	J2023700G
科目名	サブゼミ 5	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 5		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	昨年度はアベノミクスと株価について学んだが、本年度は 1930 年代の世界大恐慌は何故生じたかを基本に、日本の 1980 年代後半のバブル、その後のバブル崩壊に伴う長期デフレ不況、アメリカのサブプライ金融危機を含む、最近のいくつかの金融危機がどのようにして生じたかについて学ぶ。これらのテーマを中心にして、課題を設定し、インター大会出場を目指す。		
教材（テキスト）	未定、第 1 回目のゼミにて指示する		
教材（参考文献）	岩田規久男『金融危機の経済学』東洋経済 ホールとファ-グソン『大恐慌』多賀出版 パーカー『大恐慌を見た 11 人の経済学者はどう生きたか』中央経済社 田中『現代日本経済』日本評論社		
教材（その他）			
評価方法	平常点（70%）出席状況、発表内容等を含む（70%)、ゼミ参加熱意(30%)		
到達目標	アベノミクス、大恐慌、および金融危機について自分なりの意見が述べられる。		
準備学習	発表にあたっているグループは協力して、しっかりとレジュメ作成しなければならない。		
受講者への要望			
本年度はインタゼミに参加を予定している。できればすべてのグループが出場することを願っている。インターゼミ参加のための論文作りに励む。			
講義の順序とポイント			
12 月のインターゼミ参加に合わせて、夏休み中に論文作成に取り組む。9,10,11 月はゼミ内でディスカッションして理解を深める。内容は大恐慌、金融危機、に関する金融問題。 １．　インター参加のグループ分け ２．　インター参加テーマの設定 ３．　テーマごとの参考文献の紹介 ４．　グループ１の報告① ５．　グループ１の報告② ６．　グループ２の報告① ７．　グループ２の報告② ８．　グループ３の報告① ９．　グループ３の報告② １０．　グループ１の報告 １１．　グループ２の報告 １２．　グループ３の報告 １３．　レポートの書き方指導 １４．　レポート作成① １５．　レポート作成②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J2023800A
科目名	ゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar VI		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	春学期に続き、日本学生経済ゼミナール大会（インター大会）への出場に向けて、ゼミを行う。具体的には、ゼミ学生を 2 チームに分割し、各チームで情報を収集しながら、論文作成をする。各チームは、金融および経済政策の中から論文テーマを選定し、ゼミ内で資料作成や報告を行う。論文テーマの例としては、「日本経済とアベノミックス」、「シェールガス革命と日本経済」、「法人税減税の政策効果」、「TPP と日本農業の課題」「経済成長と所得格差」等が考えられる。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	岩田規久男（2009）『金融危機の経済学』 東洋経済. 岩田規久男/浜田宏一/原田泰 編（2013）『リフレが日本経済を復活させる』 中央経済社. 植田和男 編（2010）『世界金融・経済危機の全貌』 慶応義塾大学出版会. 白川方明（2008）『現代の金融政策』 日本経済新聞社. 服部茂幸（2014）『アベノミックスの終焉』 岩波新書.		
教材（その他）	適宜、指定する。		
評価方法	平常点(60%); 演習内の発表内容等による。 ゼミ参加熱意(40%)		
到達目標	インター大会に参加し、他大学の学生と徹底した議論ができること。		
準備学習	インター大会における議論のための資料集め、およびゼミ生同士のディスカッション。		

受講者への要望

無断欠席、遅刻を厳禁する。
ゼミは学生主体であるため、積極的な姿勢でゼミに取り組むことが求められる。
インター大会への参加を単位要件としており、そのための論文作りに励んでもらいたい。

講義の順序とポイント

12 月のインターゼミ参加に合わせて、夏休み中に論文作成に取り組む。
9,10,11 月はゼミ内でディスカッションして理解を深める。
テーマは、金融および経済政策に関する諸問題から選ぶ。

1．グループ 1 論文発表①
2．グループ 1 論文発表②
3．グループ 1 論文発表③
4．グループ 2 論文発表①
5．グループ 2 論文発表②
6．グループ 2 論文発表③
7．ディベート①
8．ディベート②
9．インター参加の注意と説明
10．反省会①
11．反省会②
12．論文まとめ①
13．論文まとめ②
14．論文まとめ③
15．来年度にむけて諸注意

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J2023800B
科目名	ゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar VI		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	各個人の研究内容を統合し、グループ毎にゼミ論文の完成を目指す。		
教材（テキスト）	2014 年衆議院選挙向けの各政党のマニフェスト		
教材（参考文献）	適宜、案内する。		
教材（その他）			
評価方法	第 1 回中間報告 30%、第 2 回中間報告 30%、ゼミ論文 40%		
到達目標	グループ毎に設定したテーマに沿って各自が作成したレポートを統合し、研究論文としてまとめ、発表できる能力を身につける。		
準備学習	（1）研究論文の基本フォームを理解しておく。 （2）研究報告の基本作法を確認ししておく。		

受講者への要望

（1）研究論文のテーマに関連する最新情報の入手を日頃から心がける。
（2）図表データの加工方法とその論文での活用方法を身につける。
（3）最終的な論文としての統合についてメンバーでイメージを共有する。

講義の順序とポイント

1.ゼミ 6 の概要：目標とスケジュール確認
2.研究論文の基本フォーム（1）
3.研究論文の基本フォーム（2）
4.ゼミ論文の章立て作成と分担確認（1）
5.ゼミ論文の章立て作成と分担確認（2）
6.第 1 回中間報告
7.ゼミ論文の作成（1）
8.ゼミ論文の作成（2）
9.ゼミ論文の作成（3）
10.第 2 回中間報告（1）
11.第 2 回中間報告（2）
12.ゼミ論文の最終作成（1）
13.ゼミ論文の最終作成（2）
14.ゼミ論文の最終作成（3）
15.論文の完成と提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J2023800C
科目名	ゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar VI		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	ゼミ 5 に引き続き、各自の設定したテーマに沿って「ゼミ論文」の完成を目指す。そのために、各自の選択した文献について、毎回数名の報告担当者を決め、その要約報告を行ってもらう。あるいは、学期後半には「ゼミ論文」作成の進捗状況を報告してもらう。また、報告者以外のゼミ生には報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。 なお、授業の時間の一部を使って、時事問題についての解説やそれに関する討論を行うことがある。		
教材（テキスト）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（その他）	各自のテーマに応じて収集すること。		
評価方法	平常点（質問、討論への参加状況等）（60%）、報告内容等（40%）		
到達目標	現代の経済社会問題に対して自ら視点から意見を述べられること。		
準備学習	新聞・テレビ等で報道される様々な経済・社会問題に日ごろから注意を払うこと。 スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。 参考文献を熟読し、レジュメにまとめておくこと。		

受講者への要望

・無断欠席、遅刻を厳禁する。やむを得ず欠席する場合には、必ず担当者に連絡すること。
・授業回数の 3 分の 1 以上に欠席または遅刻した場合には単位を認定しないので、十分注意すること。
・毎回必ず 1 回以上発言（質問等）をすること。
・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないこと。
・メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡すること。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション
2.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-1)
3.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-2)
4.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-3)
5.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-4)
6.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-1)
7.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-2)
8.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-3)
9.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-4)
10.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-1)
11.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-2)
12.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-3)
13.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-4)
14.ゼミ論文についての最終報告(1)
15.ゼミ論文についての最終報告(2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J2023800D
科目名	ゼミ６	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar VI		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	ゼミ５に引き続き、 私が「自由ゼミ」と呼ぶやり方で、ゼミを運営する。「自由ゼミ」方式とは、ゼミ担当教員が予めいくつかの基本テーマを設定し、その枠内でゼミ生一人一人が」自分で取り組んでみたいテーマを選び、同じ関心を持つ他のゼミ生とグループを組んで研究するゼミ運営のことである。各グループでテーマが確定したら、グループの代表（キャップ）と、テキストや資料を選び、研究計画を立てて、研究レポートを作成し、個別報告やグループ報告を行う。 　基本的にはゼミ５の研究テーマを引き継ぐことになるが、研究目標が達成されない研究グループについては、運営上のアドバイスやメンバーの再編を行うが場合もある。		
教材（テキスト）	１回目のゼミにおいて、各テーマごとの文献リストを参考資料として提示する。文献リストには、比較的入手しやすい最近の新書や文庫を示しています。最終的には、担当教員のアドバイスを参考にして、各グループの判断でテキストを選ぶものとする。		
教材（参考文献）	各グループのテーマが決まれば、その段階で研究テーマごとに文献リストを提示する。		
教材（その他）	適宜情報を提供し、必要な資料については印刷し配布する。		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等による＋グループ研究報告２回（６０％）＋個別報告１回（１０％）		
到達目標	ゼミ活動を通じて学生が自主的な学習スタイルを形成し、グループ研究において個人が果たすべき責任能力を身につけてもらうことを目標としている。		
準備学習	① 日頃から社会・経済問題に広く関心をもち、自分が研究したいと思うてえーまに関する資料を収集する。 ② ゼミの研究テーマについては、自宅でも自主的に学習する時間を十分に確保する。 ③ 研究グループ内でのミーティングをしっかり行い、各自が個人で果たすべき役割を着実に誠意をもって実行する		

受講者への要望

　各グループには、研究責任者としてキャップをおく。キャップがしっかりと内部調整をしなかったり、あるいは逆にグループメンバーがキャップに積極的に協力する姿勢で取り組まないと、研究報告書が未完成になったり、所定の期日に研究報告ができなかったりする。結果を達成できなかったグループについては、運営方法の改善を指導したり、どうしても改善が望めない場合には、グループの再編や解散を行う。

講義の順序とポイント

１．ゼミ６のガイダンス
２．研究グループと研究テーマ＆テキスト等の決定
３．教員による模擬研究報告
４．研究計画書の作成と提出
５．研究報告書の報告・説明
６．個別研究報告(1)
７．個別研究報告(2)
８．個別研究報告(3)
９．研究報告の批評(1)
１０．グループ中間報告
１１．個別研究報告
１２．個別研究報告
１３．研究報告の批評(2)
１４．グループ研究報告
１５．研究報告の総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★		

年度	2015	授業コード	J2023800E
科目名	ゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar VI		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	ゼミ 6 はゼミ 5 に引き続き、主に計量的手法に慣れる。Excel を使って各種の統計を分析する。様々な観点から分析し、それをレポートにまとめる訓練をする。 資料を集め、分析視点を磨き、さらに、分析手法も勉強する。 できるだけ「個人のなかの作業」にせず、みなの前で発表し、批判を受けて改訂する・・・といった機会を設ける。 就職活動も近くなるので、「働くということ」に関してもディスカッションする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内レポート、授業中の応答、発表に対する取り組み姿勢など平常の総合評価が 100％		
到達目標	資料を収集し、読み込むこと、多面的に視点を構築できること		
準備学習	必ず、宿題となった資料を作成し、発表に備えること		

受講者への要望

みんなで協力してゼミをもり立てること。粘り強くとりくむこと

講義の順序とポイント

1　ゼミ方針に関する討議
2　ゼミテーマ会議
3　テーマ解題（前半）
4　テーマ解題（後半）
5　データ収集と指導
6　データ収集と指導
7　資料解説（前半）
8　資料解説（後半）
9　データ分析
10　データ分析
11　データ分析
12　発表（前半）
13　発表（後半）
14　コメントと方針
15　今後の分析内容の調整

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	J2023800G
科目名	ゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar VI		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	春学期に続き、金融危機について学ぶ。　具体的には、1930 年代の世界大恐慌は何故生じたかを基本に、日本の 1980 年代後半のバブル、その後のバブル崩壊に伴う長期デフレ不況、アメリカのサブプライ金融危機を含む、最近のいくつかの金融危機がどのようにして生じたかについて学ぶ。これらのテ－マを中心にして、課題を設定し、インタ－大会出場を目指す。　今学期は論文作成が中心となる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	ホ－ルとファ-グソン『大恐慌』多賀出版 パ－カー『大恐慌を見た 11 人の経済学者はどう生きたか』中央経済社 田中『現代日本経済』日本評論社		
教材（その他）			
評価方法	平常点（70%）出席状況、発表内容等を含む（70%)、ゼミ参加熱意(30%)		
到達目標	インターゼミに参加し、他大学の学生と徹底した議論ができること。		
準備学習	インタ-ゼミでの議論のための資料集め、およびゼミ生同士のディスカッション。		
受講者への要望			
見学者も含めて、インタ－ゼミに全員が参加できるようにしょう。			
講義の順序とポイント			
12 月のインターゼミ参加に合わせて、夏休み中に論文作成に取り組む。9,10,11 月はゼミ内でディスカッションして理解を深める。内容はアベノミクス、大恐慌、金融危機、に関する金融問題。 １．　グループ１論文発表 ２．　グループ１論文発表 ３．　グループ２論文発表 ４．　グループ２論文発表 ５．　グループ３論文発表 ６．　グループ３論文発表 ７．　ディベート① ８．　ディベート② ９．　ディベート③ １０．　インター参加の注意と説明 １１．　反省会 １２．　論文まとめ① １３．　論文まとめ② １４．　論文まとめ③ １５．　来年度にむけて諸注意			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J2023800H
科目名	ゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar VI		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の作成に向けてゼミを行う．国際金融，国際経済の中から自分でテーマを選定し，資料作成や報告を行う．また，報告に対して学生主体で討論を行う．		
教材（テキスト）	なし．		
教材（参考文献）	適宜指定する．		
教材（その他）	適宜指定する．		
評価方法	報告態度　３０％　討論への参加　３０％　課題への取り組み　４０％		
到達目標	自分で資料を収集し，それを元に意見を述べ，論文を作成する能力を身につける．		
準備学習	国際金融論 A，国際金融論 B，国際経済学 A，国際経済学 B を事前に履修（または同時登録）して内容を理解しておいて下さい．また，資料作成や報告で指摘されたことは，次のゼミの時間までに修正して，どのように修正したかを教員に説明するようにして下さい．		
受講者への要望			
資料の収集・作成も行いますが，報告主体でゼミ運営を行うので，報告義務をきちんと履行することを求めます．履行しない場合，厳正な対処を行うので，注意して下さい．			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成① 3. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成② 4. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成③ 5. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成④ 6. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成⑤ 7. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成⑥ 8. 報告と討論① 9. 報告と討論② 10. 報告と討論③ 11. 報告と討論④ 12. 報告と討論⑤ 13. 報告と討論⑥ 14. 報告と討論⑦ 15. 報告と討論⑧			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J2023900A
科目名	サブゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 6		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	春学期に続き、日本学生経済ゼミナール大会（インター大会）への出場に向けて、ゼミを行う。具体的には、ゼミ学生を 2 チームに分割し、各チームで情報を収集しながら、論文作成をする。各チームは、金融および経済政策の中から論文テーマを選定し、ゼミ内で資料作成や報告を行う。論文テーマの例としては、「日本経済とアベノミックス」、「シェールガス革命と日本経済」、「法人税減税の政策効果」、「TPP と日本農業の課題」「経済成長と所得格差」等が考えられる。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	岩田規久男（2009）『金融危機の経済学』 東洋経済. 岩田規久男/浜田宏一/原田泰 編（2013）『リフレが日本経済を復活させる』 中央経済社. 植田和男 編（2010）『世界金融・経済危機の全貌』 慶応義塾大学出版会. 白川方明（2008）『現代の金融政策』 日本経済新聞社. 服部茂幸（2014）『アベノミックスの終焉』 岩波新書.		
教材（その他）	適宜、指定する。		
評価方法	平常点(60%); 演習内の発表内容等による。 ゼミ参加熱意(40%)		
到達目標	インター大会に参加し、他大学の学生と徹底した議論ができること。		
準備学習	インター大会における議論のための資料集め、およびゼミ生同士のディスカッション。		

受講者への要望

無断欠席、遅刻を厳禁する。
ゼミは学生主体であるため、積極的な姿勢でゼミに取り組むことが求められる。
インター大会への参加を単位要件としており、そのための論文作りに励んでもらいたい。

講義の順序とポイント

12 月のインターゼミ参加に合わせて、夏休み中に論文作成に取り組む。
9,10,11 月はゼミ内でディスカッションして理解を深める。
テーマは、金融および経済政策に関する諸問題から選ぶ。

1．グループ 1 論文発表①
2．グループ 1 論文発表②
3．グループ 1 論文発表③
4．グループ 2 論文発表①
5．グループ 2 論文発表②
6．グループ 2 論文発表③
7．ディベート①
8．ディベート②
9．インター参加の注意と説明
10．反省会①
11．反省会②
12．論文まとめ①
13．論文まとめ②
14．論文まとめ③
15．来年度にむけて諸注意

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J2023900B
科目名	サブゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 6		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	各個人の研究内容を統合し、グループ毎にゼミ論文の完成を目指す。		
教材（テキスト）	2014 年衆議院選挙向けの各政党のマニフェスト		
教材（参考文献）	適宜、案内する。		
教材（その他）			
評価方法	第 1 回中間報告 30%、第 2 回中間報告 30%、ゼミ論文 40%		
到達目標	グループ毎に設定したテーマに沿って各自が作成したレポートを統合し、研究論文としてまとめ、発表できる能力を身につける。		
準備学習	（1）研究論文の基本フォームを理解しておく。 （2）研究報告の基本作法を確認ししておく。		

受講者への要望

（1）研究論文のテーマに関連する最新情報の入手を日頃から心がける。
（2）図表データの加工方法とその論文での活用方法を身につける。
（3）最終的な論文としての統合についてメンバーでイメージを共有する。

講義の順序とポイント

1.ゼミ 6 の概要：目標とスケジュール確認
2.研究論文の基本フォーム（1）
3.研究論文の基本フォーム（2）
4.ゼミ論文の章立て作成と分担確認（1）
5.ゼミ論文の章立て作成と分担確認（2）
6.第 1 回中間報告
7.ゼミ論文の作成（1）
8.ゼミ論文の作成（2）
9.ゼミ論文の作成（3）
10.第 2 回中間報告（1）
11.第 2 回中間報告（2）
12.ゼミ論文の最終作成（1）
13.ゼミ論文の最終作成（2）
14.ゼミ論文の最終作成（3）
15.論文の完成と提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J2023900C
科目名	サブゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 6		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	ゼミ 5 に引き続き、各自の設定したテーマに沿って「ゼミ論文」の完成を目指す。そのために、各自の選択した文献について、毎回数名の報告担当者を決め、その要約報告を行ってもらう。あるいは、学期後半には「ゼミ論文」作成の進捗状況を報告してもらう。また、報告者以外のゼミ生には報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。 なお、授業の時間の一部を使って、時事問題についての解説やそれに関する討論を行うことがある。		
教材（テキスト）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（その他）	各自のテーマに応じて収集すること。		
評価方法	平常点（質問、討論への参加状況等）（60%）、報告内容等（40%）		
到達目標	現代の経済社会問題に対して自ら視点から意見を述べられること。		
準備学習	新聞・テレビ等で報道される様々な経済・社会問題に日ごろから注意を払うこと。 スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。 参考文献を熟読し、レジュメにまとめておくこと。		

受講者への要望

・無断欠席、遅刻を厳禁する。やむを得ず欠席する場合には、必ず担当者に連絡すること。
・授業回数の 3 分の 1 以上に欠席または遅刻した場合には単位を認定しないので、十分注意すること。
・毎回必ず 1 回以上発言（質問等）をすること。
・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないこと。
・メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡すること。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション
2.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-1)
3.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-2)
4.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-3)
5.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-4)
6.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-1)
7.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-2)
8.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-3)
9.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-4)
10.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-1)
11.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-2)
12.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-3)
13.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-4)
14.ゼミ論文についての最終報告(1)
15.ゼミ論文についての最終報告(2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J2023900D
科目名	サブゼミ６	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 6		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	ゼミ５に引き続き、 私が「自由ゼミ」と呼ぶやり方で、ゼミを運営する。「自由ゼミ」方式とは、ゼミ担当教員が予めいくつかの基本テーマを設定し、その枠内でゼミ生一人一人が」自分で取り組んでみたいテーマを選び、同じ関心を持つ他のゼミ生とグループを組んで研究するゼミ運営のことである。各グループでテーマが確定したら、グループの代表（キャップ）と、テキストや資料を選び、研究計画を立てて、研究レポートを作成し、個別報告やグループ報告を行う。 　基本的にはゼミ５の研究テーマを引き継ぐことになるが、研究目標が達成されない研究グループについては、運営上のアドバイスやメンバーの再編を行うが場合もある。		
教材（テキスト）	１回目のゼミにおいて、各テーマごとの文献リストを参考資料として提示する。文献リストには、比較的入手しやすい最近の新書や文庫を示しています。最終的には、担当教員のアドバイスを参考にして、各グループの判断でテキストを選ぶものとする。		
教材（参考文献）	各グループのテーマが決まれば、その段階で研究テーマごとに文献リストを提示する。		
教材（その他）	適宜情報を提供し、必要な資料については印刷し配布する。		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等による＋グループ研究報告２回（６０％）＋個別報告１回（１０％）		
到達目標	ゼミ活動を通じて学生が自主的な学習スタイルを形成し、グループ研究において個人が果たすべき責任能力を身につけてもらうことを目標としている。		
準備学習	① 日頃から社会・経済問題に広く関心をもち、自分が研究したいと思うてえーまに関する資料を収集する。 ② ゼミの研究テーマについては、自宅でも自主的に学習する時間を十分に確保する。 ③ 研究グループ内でのミーティングをしっかり行い、各自が個人で果たすべき役割を着実に誠意をもって実行する		

受講者への要望

　各グループには、研究責任者としてキャップをおく。キャップがしっかりと内部調整をしなかったり、あるいは逆にグループメンバーがキャップに積極的に協力する姿勢で取り組まないと、研究報告書が未完成になったり、所定の期日に研究報告ができなかったりする。結果を達成できなかったグループについては、運営方法の改善を指導したり、どうしても改善が望めない場合には、グループの再編や解散を行う。

講義の順序とポイント

１．ゼミ６のガイダンス
２．研究グループと研究テーマ＆テキスト等の決定
３．教員による模擬研究報告
４．研究計画書の作成と提出
５．研究報告書の報告・説明
６．個別研究報告(1)
７．個別研究報告(2)
８．個別研究報告(3)
９．研究報告の批評(1)
１０．グループ中間報告
１１．個別研究報告
１２．個別研究報告
１３．研究報告の批評(2)
１４．グループ研究報告
１５．研究報告の総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★		

年度	2015	授業コード	J2023900E
科目名	サブゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 6		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	ゼミ 6 はゼミ 5 に引き続き、主に計量的手法に慣れる。Excel を使って各種の統計を分析する。様々な観点から分析し、それをレポートにまとめる訓練をする。 資料を集め、分析視点を磨き、さらに、分析手法も勉強する。 できるだけ「個人のなかの作業」にせず、みなの前で発表し、批判を受けて改訂する・・・といった機会を設ける。 就職活動も近くなるので、「働くということ」に関してもディスカッションする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内レポート、授業中の応答、発表に対する取り組み姿勢など平常の総合評価が 100％		
到達目標	資料を収集し、読み込むこと、多面的に視点を構築できること		
準備学習	必ず、宿題となった資料を作成し、発表に備えること		
受講者への要望			
みんなで協力してゼミをもり立てること。粘り強くとりくむこと			
講義の順序とポイント			
1　ゼミ方針に関する討議 2　ゼミテーマ会議 3　テーマ解題（前半） 4　テーマ解題（後半） 5　データ収集と指導 6　データ収集と指導 7　資料解説（前半） 8　資料解説（後半） 9　データ分析 10　データ分析 11　データ分析 12　発表（前半） 13　発表（後半） 14　コメントと方針 15　今後の分析内容の調整			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	J2023900G
科目名	サブゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 6		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	春学期に続き、金融危機について学ぶ。　具体的には、1930 年代の世界大恐慌は何故生じたかを基本に、日本の 1980 年代後半のバブル、その後のバブル崩壊に伴う長期デフレ不況、アメリカのサブプライ金融危機を含む、最近のいくつかの金融危機がどのようにして生じたかについて学ぶ。これらのテ－マを中心にして、課題を設定し、インタ－大会出場を目指す。　今学期は論文作成が中心となる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	ホ－ルとファ-グソン『大恐慌』多賀出版 パ－カー『大恐慌を見た 11 人の経済学者はどう生きたか』中央経済社 田中『現代日本経済』日本評論社		
教材（その他）			
評価方法	平常点（70%）出席状況、発表内容等を含む（70%)、ゼミ参加熱意(30%)		
到達目標	インターゼミに参加し、他大学の学生と徹底した議論ができること。		
準備学習	インタ-ゼミでの議論のための資料集め、およびゼミ生同士のディスカッション。		
受講者への要望			
見学者も含めて、インタ－ゼミに全員が参加できるようにしょう。			
講義の順序とポイント			
12 月のインターゼミ参加に合わせて、夏休み中に論文作成に取り組む。9,10,11 月はゼミ内でディスカッションして理解を深める。内容はアベノミクス、大恐慌、金融危機、に関する金融問題。 １．　グループ１論文発表 ２．　グループ１論文発表 ３．　グループ２論文発表 ４．　グループ２論文発表 ５．　グループ３論文発表 ６．　グループ３論文発表 ７．　ディベート① ８．　ディベート② ９．　ディベート③ １０．　インター参加の注意と説明 １１．　反省会 １２．　論文まとめ① １３．　論文まとめ② １４．　論文まとめ③ １５．　来年度にむけて諸注意			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J2024000C
科目名	ゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅶ		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	
講義概要	卒業論文作成前に準備となる学習を行う。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	日本経済，地域経済に関する書籍等		
教材（その他）	2011 年度ゼミ 6 でまとめられた資料		
評価方法	学習への取り組み方で評価する。		
到達目標	卒業論文のテーマを決定できる知識を身につける。		
準備学習	ゼミ 4 からゼミ 6 までの内容を整理しておく。		

受講者への要望

就職活動の進捗状況により，学習への集中力が影響を受けることと思われる。しかし，成人として社会生活を送る上では二つ以上の事柄に対してバランスを取りながら注力していかなければならない状況がほとんどである。早期に進路が決定するに越したことは無いが，就職活動と学習を並行して行うことは有益な経験となるはずである。

講義の順序とポイント

第 1 回 授業計画の確認
第 2 回 振り返り学習 1
第 3 回 振り返り学習 2
第 4 回 日本経済についての資料研究
第 5 回 日本経済についての資料研究
第 6 回 日本経済についての資料研究
第 7 回 地域経済についての資料研究
第 8 回 地域経済についての資料研究
第 9 回 地域経済についての資料研究
第 10 回 研究テーマ設定
第 11 回 研究テーマ設定
第 12 回 研究テーマ設定
第 13 回 研究計画作成
第 14 回 研究計画作成
第 15 回 展望報告会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J2024000D
科目名	ゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅶ		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	ゼミ生に分担して３冊の本の内容を要約してもらい、その内容について全員で討論を行います。		
教材（テキスト）	（１）池上彰（2013）『池上彰のやさしい経済学２』日本経済新聞出版社。 （２）高橋克徳・河合太介・永田稔・渡部幹（2008）『不機嫌な職場』講談社。 （３）池上彰（2009）『わかりやすく伝える技術』講談社。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	本の要約と報告（50%）、討論への参加（50%）		
到達目標	読解力を身につける。		
準備学習	上記教材（テキスト）が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

本を繰り返し読んで内容を理解するよう努めてください。

講義の順序とポイント

1　教材（テキスト）（１）の内容要約と討論①
2　教材（テキスト）（１）の内容要約と討論②
3　教材（テキスト）（１）の内容要約と討論③
4　教材（テキスト）（１）の内容要約と討論④
5　教材（テキスト）（１）の内容要約と討論⑤
6　教材（テキスト）（２）の内容要約と討論①
7　教材（テキスト）（２）の内容要約と討論②
8　教材（テキスト）（２）の内容要約と討論③
9　教材（テキスト）（２）の内容要約と討論④
10　教材（テキスト）（２）の内容要約と討論⑤
11　教材（テキスト）（３）の内容要約と討論①
12　教材（テキスト）（３）の内容要約と討論②
13　教材（テキスト）（３）の内容要約と討論③
14　教材（テキスト）（３）の内容要約と討論④
15　教材（テキスト）（３）の内容要約と討論⑤

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J2024000E
科目名	ゼミ７	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅶ		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	本ゼミは、現代日本における社会的諸問題を中心に、広く東アジアの社会と文化をテーマとする。ゼミ７では、これまでの研究をふまえて、卒業論文としてまとめるべく、準備を重ねていく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	各自が、自分のテーマにそって、見つけていくこと。		
評価方法	ゼミでの取り組み（60%）＋個人の報告・発表（40%）		
到達目標	卒業論文の執筆を開始できるだけの、十分な準備をすること。		
準備学習	ゼミでの発表・報告の準備をしっかりすること。		
受講者への要望			
自分の研究テーマをどんどん深めていってほしい。様々な手段を用いて、情報を集め、考察を重ね、研究対象の実態に迫ってほしい。			
講義の順序とポイント			
１・昨年度のふりかえり、その１ ２・昨年度のふりかえり、その２ ３・研究のすすめかたについて ４・論文の書き方について、その１ ５・論文の書き方について、その２ ６・研究の進行、その１ ７・研究の進行、その２ ８・研究の進行、その３ ９・研究の進行、その４ 10・研究の進行、その５ 11・研究成果の発表、その１ 12・研究成果の発表、その２ 13・研究成果の発表、その３ 14・研究成果の発表、その４ 15・夏休みの課題を決める			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J2024000F
科目名	ゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅶ		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	マクロマネー系の特性を調べる。マネーを precautionary demand や transaction demand に分解して、中央銀行の金融政策がどの程度、有効に働くかを考える。特に、金融緩和期において、量的な金融緩和の効果があったかどうかを、日本、アメリカ、ヨーロッパの各ケースごとに調べる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（毎回の授業の取り組み姿勢）100％		
到達目標	（1）時系列データの統計処理を行う。 （2）各種の推定や検定の計算手法を身に着ける。 （3）卒業論文の骨格を作る。		
準備学習	3 回生時の金融システムの理解		
受講者への要望			
出席すること			
講義の順序とポイント			
1.インフレ時のマネー変動 2.同上 3.同上 4.同上 5.デフレ時のマネー変動 6.同上 7.同上 8.同上 9.マネー、GDP、金利、準備金（中央銀行）の関係 10.同上 11.同上 12.同上 13.流動性の罠の検証 14.同上 15.同上			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J2024000G
科目名	ゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅶ		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	昨年度は 1930 年代の世界大恐慌は何故生じたかを基本に、日本の 1980 年代後半のバブル、その後のバブル崩壊に伴う長期デフレ不況、アメリカのサブプライ金融危機を含む、最近のいくつかの金融危機がどのようにして生じたかについて学んだ。本年度はこれらのテーマを中心にして、各人が課題を設定し、卒業論文作成にとりかかる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	ホールとファーグソン 『大恐慌』 多賀出版 パーカ 『大恐慌を見た経済学者 11 人はどう生きたか』 中央経済社 安達誠司 『デフレは終わるのか』 東洋経済 『脱デフレの歴史分析』 藤原書店 岩田規久男 『日本銀行、デフレの番人』日経新聞社 『デフレと超円高』講談社 『デフレの経済学』東洋経済 『まずデフレを止めよ』日本経済新聞社 『昭和恐慌の研究』東洋経済 『日本経済を学ぶ』ちくま新書 原田泰 『デフレは何故怖いか』 文春新書 若田部昌澄 『改革の経済学』 ダイヤモンド、2005 若田部昌澄 「失敗に学ぶマクロ経済政策」 『経済セミナー』 2007 年 4 月号から 8 月号に掲載 竹森俊平 『デフレは 3 度くる』（上巻） 講談社 『経済論戦は蘇る』東洋経済 林 『大恐慌のアメリカ』 岩波新書 秋元 『世界大恐慌』 講談社 侘美 『大恐慌型不況 』講談社		
教材（その他）			
評価方法	平常点（70%）出席状況、発表内容等を含む（70%)、ゼミ参加熱意(30%)		
到達目標	アベノミクス、デフレ不況、金融政策に関する自分なりの意見が持てるようにする。		
準備学習	毎回報告を求めるので、その資料を PPT で作成しなければならない		
受講者への要望			
基本的に欠席は認めないが、就職活動で休まざるを得ない時には、必ず事前と事後報告すること。			
講義の順序とポイント			
5 月中に担当者と相談の上、各自の卒論のテーマを決めるが、その内容は日本経済、金融危機および大恐慌に関するものとする。 7 月末までに卒論前のレポート提出、これにより成績評価をする。 脚注、参考文献の書き方が、卒論同様に整っていなければならない。 1． 卒論についての説明 2． テーマ設定のポイントおよび参考文献紹介 3． テーマおよび論文概要報告① 4． テーマおよび論文概要報告② 5． テーマおよび論文概要報告③ 6． テーマおよび論文概要報告④ 7． テーマおよび論文概要報告⑤ 8． テーマおよび論文概要報告⑥ 9． テーマおよび論文概要報告⑦ １０． テーマおよび論文概要報告⑧ １１． 卒論概要論文の提出とコメント①			

１２．　卒論概要論文の提出とコメント②
１３．　卒論概要論文の提出とコメント③
１４．　全体の総括
１５．　夏休み中の論文作成の方針指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J2024000H
科目名	ゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅶ		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	テーマを設定し、卒業論文の作成に向けた準備を行う。各自が選択したテーマについて、報告担当者が、その要約報告を行い、ポイントとなる問題について議論する。		
教材（テキスト）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（その他）	各自のテーマに応じて収集すること。		
評価方法	調査報告(20%)、中間進捗報告(20%)、卒業論文素案(30%)、各回の課題(30%)		
到達目標	各自の設定したテーマについて、卒業論文作成に向けて十分な知識を得ること。		
準備学習	新聞や雑誌、あるいはネット上のニュース記事に目を通し、書物をじっくり読む。		
受講者への要望			
積極的に卒業論文テーマに取り組み、日頃から新聞や雑誌、あるいはネット上のニュース記事に目を通し、卒業論文作成に向けて必要な文献・資料を収集すること。			
講義の順序とポイント			
1.テーマの決定 2.卒業論文作成に向けての研究計画作成 3.卒業論文作成に向けての研究計画報告 4.卒業論文作成に向けての関連資料の収集 5.卒業論文作成に向けての関連資料の収集 6.卒業論文テーマの関連資料の調査報告(1) 7.卒業論文テーマの関連資料の調査報告(2) 8.卒業論文テーマの関連資料の調査報告(3) 9.卒業論文テーマの関連資料の調査報告(4) 10.卒業論文作成の中間報告(1) 11.卒業論文作成の中間報告(2) 12.卒業論文作成の中間報告(3) 13.卒業論文作成の中間報告(4) 14.今学期のまとめ(素案提出) 15.今学期のまとめ(今後の方針)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J2024100C
科目名	サブゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 7		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	
講義概要	卒業論文作成前に準備となる学習を行う。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	日本経済，地域経済に関する書籍等		
教材（その他）	2011 年度ゼミ 6 でまとめられた資料		
評価方法	学習への取り組み方で評価する。		
到達目標	卒業論文のテーマを決定できる知識を身につける。		
準備学習	ゼミ 4 からゼミ 6 までの内容を整理しておく。		

受講者への要望

就職活動の進捗状況により，学習への集中力が影響を受けることと思われる。しかし，成人として社会生活を送る上では二つ以上の事柄に対してバランスを取りながら注力していかなければならない状況がほとんどである。早期に進路が決定するに越したことは無いが，就職活動と学習を並行して行うことは有益な経験となるはずである。

講義の順序とポイント

第 1 回 授業計画の確認
第 2 回 振り返り学習 1
第 3 回 振り返り学習 2
第 4 回 日本経済についての資料研究
第 5 回 日本経済についての資料研究
第 6 回 日本経済についての資料研究
第 7 回 地域経済についての資料研究
第 8 回 地域経済についての資料研究
第 9 回 地域経済についての資料研究
第 10 回 研究テーマ設定
第 11 回 研究テーマ設定
第 12 回 研究テーマ設定
第 13 回 研究計画作成
第 14 回 研究計画作成
第 15 回 展望報告会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J2024100D
科目名	サブゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 7		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	ゼミ生に分担して３冊の本の内容を要約してもらい、その内容について全員で討論を行います。		
教材（テキスト）	（１）池上彰（2013）『池上彰のやさしい経済学２』日本経済新聞出版社。 （２）高橋克徳・河合太介・永田稔・渡部幹（2008）『不機嫌な職場』講談社。 （３）池上彰（2009）『わかりやすく伝える技術』講談社。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	本の要約と報告（50%）、討論への参加（50%）		
到達目標	読解力を身につける。		
準備学習	上記教材（テキスト）が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

本を繰り返し読んで内容を理解するよう努めてください。

講義の順序とポイント

1　教材（テキスト）（１）の内容要約と討論①
2　教材（テキスト）（１）の内容要約と討論②
3　教材（テキスト）（１）の内容要約と討論③
4　教材（テキスト）（１）の内容要約と討論④
5　教材（テキスト）（１）の内容要約と討論⑤
6　教材（テキスト）（２）の内容要約と討論①
7　教材（テキスト）（２）の内容要約と討論②
8　教材（テキスト）（２）の内容要約と討論③
9　教材（テキスト）（２）の内容要約と討論④
10　教材（テキスト）（２）の内容要約と討論⑤
11　教材（テキスト）（３）の内容要約と討論①
12　教材（テキスト）（３）の内容要約と討論②
13　教材（テキスト）（３）の内容要約と討論③
14　教材（テキスト）（３）の内容要約と討論④
15　教材（テキスト）（３）の内容要約と討論⑤

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J2024100E
科目名	サブゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 7		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	本ゼミは、現代日本における社会的諸問題を中心に、広く東アジアの社会と文化をテーマとする。ゼミ 7 では、これまでの研究をふまえて、卒業論文としてまとめるべく、準備を重ねていく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	各自が、自分のテーマにそって、見つけていくこと。		
評価方法	ゼミでの取り組み（60%）＋個人の報告・発表（40%）		
到達目標	卒業論文の執筆を開始できるだけの、十分な準備をすること。		
準備学習	ゼミでの発表・報告の準備をしっかりすること。		

受講者への要望

自分の研究テーマをどんどん深めていってほしい。様々な手段を用いて、情報を集め、考察を重ね、研究対象の実態に迫ってほしい。

講義の順序とポイント

1・昨年度のふりかえり、その 1
2・昨年度のふりかえり、その 2
3・研究のすすめかたについて
4・論文の書き方について、その 1
5・論文の書き方について、その 2
6・研究の進行、その 1
7・研究の進行、その 2
8・研究の進行、その 3
9・研究の進行、その 4
10・研究の進行、その 5
11・研究成果の発表、その 1
12・研究成果の発表、その 2
13・研究成果の発表、その 3
14・研究成果の発表、その 4
15・夏休みの課題を決める

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J2024100F
科目名	サブゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 7		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	マクロマネー系の特性を調べる。マネーを precautionary demand や transaction demand に分解して、中央銀行の金融政策がどの程度、有効に働くかを考える。特に、金融緩和期において、量的な金融緩和の効果があったかどうかを、日本、アメリカ、ヨーロッパの各ケースごとに調べる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（毎回の授業の取り組み姿勢）100％		
到達目標	（1）時系列データの統計処理を行う。 （2）各種の推定や検定の計算手法を身に着ける。 （3）卒業論文の骨格を作る。		
準備学習	3 回生時の金融システムの理解		
受講者への要望			
出席すること			
講義の順序とポイント			
1.インフレ時のマネー変動 2.同上 3.同上 4.同上 5.デフレ時のマネー変動 6.同上 7.同上 8.同上 9.マネー、GDP、金利、準備金（中央銀行）の関係 10.同上 11.同上 12.同上 13.流動性の罠の検証 14.同上 15.同上			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J2024100G
科目名	サブゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 7		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	昨年度は 1930 年代の世界大恐慌は何故生じたかを基本に、日本の 1980 年代後半のバブル、その後のバブル崩壊に伴う長期デフレ不況、アメリカのサブプライ金融危機を含む、最近のいくつかの金融危機がどのようにして生じたかについて学んだ。本年度はこれらのテーマを中心にして、各人が課題を設定し、卒業論文作成にとりかかる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	ホールとファーグソン 『大恐慌』 多賀出版 バーカ 『大恐慌を見た経済学者 11 人はどう生きたか』 中央経済社 安達誠司 『デフレは終わるのか』 東洋経済 『脱デフレの歴史分析』 藤原書店 岩田規久男 『日本銀行、デフレの番人』日経新聞社 『デフレと超円高』講談社 『デフレの経済学』東洋経済 『まずデフレを止めよ』日本経済新聞社 『昭和恐慌の研究』東洋経済 『日本経済を学ぶ』ちくま新書 原田泰 『デフレは何故怖いか』 文春新書 若田部昌澄 『改革の経済学』 ダイヤモンド、2005 若田部昌澄 「失敗に学ぶマクロ経済政策」 『経済セミナー』 2007 年 4 月号から 8 月号に掲載 竹森俊平 『デフレは 3 度くる』（上巻） 講談社 『経済論戦は蘇る』東洋経済 林 『大恐慌のアメリカ』 岩波新書 秋元 『世界大恐慌』 講談社 侘美 『大恐慌型不況 』講談社		
教材（その他）			
評価方法	平常点（70%）出席状況、発表内容等を含む（70%)、ゼミ参加熱意(30%)		
到達目標	アベノミクス、デフレ不況、金融政策に関する自分なりの意見が持てるようにする。		
準備学習	毎回報告を求めるので、その資料を PPT で作成しなければならない		
受講者への要望			
基本的に欠席は認めないが、就職活動で休まざるを得ない時には、必ず事前と事後報告すること。			
講義の順序とポイント			
5 月中に担当者と相談の上、各自の卒論のテーマを決めるが、その内容は日本経済、金融危機および大恐慌に関するものとする。 7 月末までに卒論前のレポート提出、これにより成績評価をする。 脚注、参考文献の書き方が、卒論同様に整っていなければならない。 1． 卒論についての説明 2． テーマ設定のポイントおよび参考文献紹介 3． テーマおよび論文概要報告① 4． テーマおよび論文概要報告② 5． テーマおよび論文概要報告③ 6． テーマおよび論文概要報告④ 7． テーマおよび論文概要報告⑤ 8． テーマおよび論文概要報告⑥ 9． テーマおよび論文概要報告⑦ １０． テーマおよび論文概要報告⑧ １１． 卒論概要論文の提出とコメント①			

１２．　卒論概要論文の提出とコメント②
１３．　卒論概要論文の提出とコメント③
１４．　全体の総括
１５．　夏休み中の論文作成の方針指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J2024100H
科目名	サブゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 7		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	テーマを設定し、卒業論文の作成に向けた準備を行う。各自が選択したテーマについて、報告担当者が、その要約報告を行い、ポイントとなる問題について議論する。		
教材（テキスト）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（その他）	各自のテーマに応じて収集すること。		
評価方法	調査報告(20%)、中間進捗報告(20%)、卒業論文素案(30%)、各回の課題(30%)		
到達目標	各自の設定したテーマについて、卒業論文作成に向けて十分な知識を得ること。		
準備学習	新聞や雑誌、あるいはネット上のニュース記事に目を通し、書物をじっくり読む。		
受講者への要望			
積極的に卒業論文テーマに取り組み、日頃から新聞や雑誌、あるいはネット上のニュース記事に目を通し、卒業論文作成に向けて必要な文献・資料を収集すること。			
講義の順序とポイント			
1.テーマの決定 2.卒業論文作成に向けての研究計画作成 3.卒業論文作成に向けての研究計画報告 4.卒業論文作成に向けての関連資料の収集 5.卒業論文作成に向けての関連資料の収集 6.卒業論文テーマの関連資料の調査報告(1) 7.卒業論文テーマの関連資料の調査報告(2) 8.卒業論文テーマの関連資料の調査報告(3) 9.卒業論文テーマの関連資料の調査報告(4) 10.卒業論文作成の中間報告(1) 11.卒業論文作成の中間報告(2) 12.卒業論文作成の中間報告(3) 13.卒業論文作成の中間報告(4) 14.今学期のまとめ(素案提出) 15.今学期のまとめ(今後の方針)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J2024200C
科目名	ゼミ 8	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅷ		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	
講義概要	各自が設定したテーマに基づいて卒業論文を作成する。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	各自のテーマにより異なる。		
教材（その他）	各自のテーマにより教材・資料が必要となる。		
評価方法	卒業論文作成に費やした努力によって評価する。 （論文自体の評価は別途行われる）		
到達目標	卒業論文作成のためにできる限り努力することが目標であり，上限は無い。		
準備学習	ゼミ 4 からゼミ 7 までの内容を整理しておく。		

受講者への要望

就職活動の進捗状況により，学習への集中力が影響を受けることと思われる。しかし，成人として社会生活を送る上では二つ以上の事柄に対してバランスを取りながら注力していかなければならない状況がほとんどである。早期に進路が決定するに越したことは無いが，就職活動と卒業論文の作成を並行して行うことは有益な経験となるはずである。

講義の順序とポイント

第 1 回 卒業論文の書き方
第 2 回 卒業論文のテーマ設定
第 3 回 卒業論文の作成と添削指導
第 4 回 卒業論文の作成と添削指導
第 5 回 卒業論文の作成と添削指導
第 6 回 中間報告
第 7 回 中間報告
第 8 回 中間報告
第 9 回 論文修正
第 10 回 論文修正
第 11 回 論文修正
第 12 回 論文修正
第 13 回 論文修正
第 14 回 最終報告
第 15 回 最終報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J2024200D
科目名	ゼミ 8	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅷ		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	卒業論文を作成してもらいます。		
教材（テキスト）	池上彰（2009）『わかりやすく伝える技術』講談社。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業論文の中間報告（80%）、卒業論文の提出（20%）		
到達目標	卒業論文と呼ぶにふさわしい論文を完成させる。		
準備学習	上記の教材（テキスト）を繰り返し読むこと。		

受講者への要望

論文を書くには一定のルールに沿って書く必要がありますから、そのルールを身につけてください。できるだけ多くの参考文献を読んでください。

講義の順序とポイント

1　卒業論文の書き方
2　資料の蒐集①
3　資料の蒐集②
4　資料の蒐集③
5　資料の蒐集④
6　資料の蒐集⑤
7　論文の執筆①
8　論文の執筆②
9　論文の執筆③
10　論文の執筆④
11　論文の執筆⑤
12　論文の修正と点検①
13　論文の修正と点検②
14　論文の発表①
15　論文の発表②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J2024200E
科目名	ゼミ８	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅷ		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	本ゼミは、現代日本における社会的諸問題を中心に、広く東アジアの社会と文化をテーマとする。ゼミ７では、これまでの研究をふまえて、いよいよ卒業論文としてまとめる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	ゼミでの取り組み（40%）＋個人の報告・発表・成果（60%）		
到達目標	しっかりとした卒業論文を完成させること		
準備学習	優れた卒業論文を完成させるためには当然ながら授業時間内だけでは足りない。時間外にもしっかりと必要な準備・作業をしてほしい。		
受講者への要望			
すばらしい卒業論文を完成させて卒業してください。			
講義の順序とポイント			
１・ゼミ７のふりかえり ２・各人の課題と段取りの確認、その１ ３・各人の課題と段取りの確認、その２ ４・研究の執筆、その１ ５・研究の執筆、その２ ６・研究の執筆、その３ ７・研究の執筆、その４ ８・研究の執筆、その５ ９・研究の執筆、その６ 10・最終報告と修正の確認、その１ 11・最終報告と修正の確認、その２ 12・最終報告と修正の確認、その３ 13・修正作業、その１ 14・修正作業、その２ 15・最終の修正作業			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J2024200F
科目名	ゼミ 8	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅷ		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	デフレ時、インフレ時におけるマクロマネー系の特性		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（毎回の授業の取り組み姿勢）30%と卒業論文の出来具合 70%		
到達目標	卒業論文の完成		
準備学習	金融システムの理解		
受講者への要望			
出席して卒業論文を完成させる。			
講義の順序とポイント			
1.日本、アメリカ、ヨーロッパ各地域の特性研究 2.インフレ時のモデル 3.モデル推計 4.インパルス応答 5.共和分検証 6.デフレ時のモデル 7.モデル推計 8.準備金の特性検証 9.インパルス応答 10.全期間を通したモデル 11.モデル推計 12.インパルス応答 13.共和分検証 14.各地域の特徴と相違点 15.卒論発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J2024200G
科目名	ゼミ 8	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅷ		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	前学期は 1930 年代の世界大恐慌は何故生じたかを基本に、日本の 1980 年代後半のバブル、その後のバブル崩壊に伴う長期デフレ不況、アメリカのサブプライ金融危機を含む、最近のいくつかの金融危機がどのようにして生じたかについて学んだ。そしてこれらのテ－マを中心にして、各人が課題を設定し、卒業論文作成にとりかかった。その論文を今学期中に完成させる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	ホールとファーグソン 『大恐慌』 多賀出版 パーカ 『大恐慌を見た経済学者 11 人はどう生きたか』 中央経済社 安達誠司 『デフレは終わるのか』 東洋経済 『脱デフレの歴史分析』 藤原書店 岩田規久男『日本銀行、デフレの番人』日経新聞社 『デフレと超円高』講談社 『デフレの経済学』東洋経済 『まずデフレを止めよ』日本経済新聞社 『昭和恐慌の研究』東洋経済 『日本経済を学ぶ』ちくま新書 原田泰 『デフレは何故怖いか』 文春新書 若田部昌澄 『改革の経済学』 ダイヤモンド、2005 若田部昌澄 「失敗に学ぶマクロ経済政策」 『経済セミナー』 2007 年 4 月号から 8 月号に掲載 竹森俊平 『デフレは 3 度くる』（上巻） 講談社 『経済論戦は蘇る』東洋経済 林 『大恐慌のアメリカ』 岩波新書 秋元 『世界大恐慌』 講談社 侘美 『大恐慌型不況 』講談社		
教材（その他）			
評価方法	卒論の内容(100%)		
到達目標	金融危機、大恐慌の研究を通して、経済を見る目を養う。		
準備学習	この時期、ほとんどの学生は就職活動を終了していると思われるので、自宅で卒論完成目指して全力を尽くすこと。何度も書き直しを求められるので、その覚悟が必要である。		

受講者への要望

申すまでもなく、諸君の集大成としての卒業論文であるので、安易な論文は認められない。何度も書き直させられることを覚悟すること。教務課に提出しても、卒論としてのレベルに達していなければ当然却下されるので注意すること。

講義の順序とポイント

卒論の教務課への最終締切りは 1 月半ばであるが、12 月半ばまでに担当者に提出しなければならない。
その後、何度も修正を求められる。
締切り間際に、駆け込み的に直接教務課に提出しても、卒論として認められず、却下されるので注意すること。

1. 各ゼミ生の夏休み中の卒論進捗状況の報告
2. 一次卒論報告①（以下毎時間２－３名が報告者となる）
3. 一次卒論報告②
4. 一次卒論報告③
5. 一次卒論報告④
6. 一次卒論報告⑤
7. 二次卒論報告①
8. 二次卒論報告②
9. 二次卒論報告③

１０．　二次卒論報告④
１１．　二次卒論報告⑤
１２．　卒論最終チェック①
１３．　卒論最終チェック②
１４．　卒論最終チェック③
１５．　卒論総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★★		

年度	2015	授業コード	J2024200H
科目名	ゼミ 8	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅷ		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	各自の設定したテーマに基づいて研究を行い、大学生活の総仕上げとして卒業論文を完成させる。そのために、卒業論文の概要および研究進捗状況の中間報告を経て、卒業論文の完成を目指す。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（その他）	各自のテーマに応じて収集すること。		
評価方法	各回課題（20%）、報告等（20%）、卒業論文（60%）		
到達目標	各自の設定したテーマについて、卒業論文を完成させること。		
準備学習	各自の設定したテーマについて、必要な文献・資料を収集・分析し、十分な知識を得ること。		

受講者への要望

卒論のテーマについて、日ごろからできるだけ多く情報を集め理解・整理しておく。資料の収集と整理は、社会生活等においても必須であり、意識的に取り組むこと。

講義の順序とポイント

1. 卒業論文の作成方法について
2. 関心領域の絞込みと資料収集
3. 分析視点の絞込みと資料収集
4. 「卒業論文」のテーマ選択・決定
5. 各自テーマの関連資料の調査報告(1)
6. 各自テーマの関連資料の調査報告(2)
7. 各自テーマの関連資料の調査報告(3)
8. 各自テーマの関連資料の調査報告(4)
9. 「卒業論文」の中間進捗の報告(1)
10. 「卒業論文」の中間進捗の報告(2)
11. 「卒業論文」の中間進捗の報告(3)
12. 「卒業論文」の中間進捗の報告(4)
13. 「卒業論文」の素案提出および発表
14. 「卒業論文」の素案提出および発表
15. 卒論最終チェック

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J2024300D
科目名	サブゼミ 8	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 8		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	卒業論文を作成してもらいます。		
教材（テキスト）	池上彰（2009）『わかりやすく伝える技術』講談社。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業論文の中間報告（80%）、卒業論文の提出（20%）		
到達目標	卒業論文と呼ぶにふさわしい論文を完成させる。		
準備学習	上記の教材（テキスト）を繰り返し読むこと。		

受講者への要望

論文を書くには一定のルールに沿って書く必要がありますから、そのルールを身につけてください。できるだけ多くの参考文献を読んでください。

講義の順序とポイント

1　卒業論文の書き方
2　資料の蒐集①
3　資料の蒐集②
4　資料の蒐集③
5　資料の蒐集④
6　資料の蒐集⑤
7　論文の執筆①
8　論文の執筆②
9　論文の執筆③
10　論文の執筆④
11　論文の執筆⑤
12　論文の修正と点検①
13　論文の修正と点検②
14　論文の発表①
15　論文の発表②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J2024300E
科目名	サブゼミ８	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 8		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	本ゼミは、現代日本における社会的諸問題を中心に、広く東アジアの社会と文化をテーマとする。ゼミ７では、これまでの研究をふまえて、いよいよ卒業論文としてまとめる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	ゼミでの取り組み（40%）＋個人の報告・発表・成果（60%）		
到達目標	しっかりとした卒業論文を完成させること		
準備学習	優れた卒業論文を完成させるためには当然ながら授業時間内だけでは足りない。時間外にもしっかりと必要な準備・作業をしてほしい。		
受講者への要望			
すばらしい卒業論文を完成させて卒業してください。			
講義の順序とポイント			
１・ゼミ７のふりかえり ２・各人の課題と段取りの確認、その１ ３・各人の課題と段取りの確認、その２ ４・研究の執筆、その１ ５・研究の執筆、その２ ６・研究の執筆、その３ ７・研究の執筆、その４ ８・研究の執筆、その５ ９・研究の執筆、その６ 10・最終報告と修正の確認、その１ 11・最終報告と修正の確認、その２ 12・最終報告と修正の確認、その３ 13・修正作業、その１ 14・修正作業、その２ 15・最終の修正作業			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J2024300F
科目名	サブゼミ 8	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 8		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	デフレ時、インフレ時におけるマクロマネー系の特性		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（毎回の授業の取り組み姿勢）30%と卒業論文の出来具合 70%		
到達目標	卒業論文の完成		
準備学習	金融システムの理解		
受講者への要望			
出席して卒業論文を完成させる。			
講義の順序とポイント			
1.日本、アメリカ、ヨーロッパ各地域の特性研究 2.インフレ時のモデル 3.モデル推計 4.インパルス応答 5.共和分検証 6.デフレ時のモデル 7.モデル推計 8.準備金の特性検証 9.インパルス応答 10.全期間を通したモデル 11.モデル推計 12.インパルス応答 13.共和分検証 14.各地域の特徴と相違点 15.卒論発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J2024300G
科目名	サブゼミ 8	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 8		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	前学期は 1930 年代の世界大恐慌は何故生じたかを基本に、日本の 1980 年代後半のバブル、その後のバブル崩壊に伴う長期デフレ不況、アメリカのサブプライ金融危機を含む、最近のいくつかの金融危機がどのようにして生じたかについて学んだ。そしてこれらのテ－マを中心にして、各人が課題を設定し、卒業論文作成にとりかかった。その論文を今学期中に完成させる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	ホールとファーグソン 『大恐慌』 多賀出版 パーカ 『大恐慌を見た経済学者 11 人はどう生きたか』 中央経済社 安達誠司 『デフレは終わるのか』 東洋経済 『脱デフレの歴史分析』 藤原書店 岩田規久男『日本銀行、デフレの番人』日経新聞社 『デフレと超円高』講談社 『デフレの経済学』東洋経済 『まずデフレを止めよ』日本経済新聞社 『昭和恐慌の研究』東洋経済 『日本経済を学ぶ』ちくま新書 原田泰 『デフレは何故怖いか』 文春新書 若田部昌澄 『改革の経済学』 ダイヤモンド、2005 若田部昌澄 「失敗に学ぶマクロ経済政策」 『経済セミナー』 2007 年 4 月号から 8 月号に掲載 竹森俊平 『デフレは 3 度くる』（上巻） 講談社 『経済論戦は蘇る』東洋経済 林 『大恐慌のアメリカ』 岩波新書 秋元 『世界大恐慌』 講談社 侘美 『大恐慌型不況 』講談社		
教材（その他）			
評価方法	卒論の内容(100%)		
到達目標	金融危機、大恐慌の研究を通して、経済を見る目を養う。		
準備学習	この時期、ほとんどの学生は就職活動を終了していると思われるので、自宅で卒論完成目指して全力を尽くすこと。何度も書き直しを求められるので、その覚悟が必要である。		

受講者への要望

申すまでもなく、諸君の集大成としての卒業論文であるので、安易な論文は認められない。何度も書き直させられることを覚悟すること。教務課に提出しても、卒論としてのレベルに達していなければ当然却下されるので注意すること。

講義の順序とポイント

卒論の教務課への最終締切りは 1 月半ばであるが、12 月半ばまでに担当者に提出しなければならない。
その後、何度も修正を求められる。
締切り間際に、駆け込み的に直接教務課に提出しても、卒論として認められず、却下されるので注意すること。

1．各ゼミ生の夏休み中の卒論進捗状況の報告
2．一次卒論報告①（以下毎時間２－３名が報告者となる）
3．一次卒論報告②
4．一次卒論報告③
5．一次卒論報告④
6．一次卒論報告⑤
7．二次卒論報告①
8．二次卒論報告②
9．二次卒論報告③

１０．　二次卒論報告④
１１．　二次卒論報告⑤
１２．　卒論最終チェック①
１３．　卒論最終チェック②
１４．　卒論最終チェック③
１５．　卒論総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★★		

年度	2015	授業コード	J2024300H
科目名	サブゼミ 8	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 8		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	各自の設定したテーマに基づいて研究を行い、大学生活の総仕上げとして卒業論文を完成させる。そのために、卒業論文の概要および研究進捗状況の中間報告を経て、卒業論文の完成を目指す。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（その他）	各自のテーマに応じて収集すること。		
評価方法	各回課題（20%）、報告等（20%）、卒業論文（60%）		
到達目標	各自の設定したテーマについて、卒業論文を完成させること。		
準備学習	各自の設定したテーマについて、必要な文献・資料を収集・分析し、十分な知識を得ること。		

受講者への要望

卒論のテーマについて、日ごろからできるだけ多く情報を集め理解・整理しておく。資料の収集と整理は、社会生活等においても必須であり、意識的に取り組むこと。

講義の順序とポイント

1. 卒業論文の作成方法について
2. 関心領域の絞込みと資料収集
3. 分析視点の絞込みと資料収集
4. 「卒業論文」のテーマ選択・決定
5. 各自テーマの関連資料の調査報告(1)
6. 各自テーマの関連資料の調査報告(2)
7. 各自テーマの関連資料の調査報告(3)
8. 各自テーマの関連資料の調査報告(4)
9. 「卒業論文」の中間進捗の報告(1)
10. 「卒業論文」の中間進捗の報告(2)
11. 「卒業論文」の中間進捗の報告(3)
12. 「卒業論文」の中間進捗の報告(4)
13. 「卒業論文」の素案提出および発表
14. 「卒業論文」の素案提出および発表
15. 卒論最終チェック

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J2024400B
科目名	キャリアゼミ５	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar 5		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	多くの企業等では、大学新卒者の採用の際、選考の初期において応募者に適性検査（学力試験等）を課す。その代表的なものがＳＰＩ(Synthetic Personality Inventory)と呼ばれるものであり、通常この試験において一定の成績を修めなければ選考の次の段階（面接等）に進むことができない。そして、このＳＰＩで出題される問題は、「言語」、「非言語」の両分野に渡り、多様であることから、準備を怠れば対処が困難である。何より、ＳＰＩに対応できるだけの基礎学力を修得することは、今後の大学での学習や卒業後の就業においても有用かつ必要である。 そこで本科目では、ＳＰＩへの取り組みを通じて日本語運用能力と数的処理能力の向上を目指す。加えて、自分自身を内省することなどを通じて自己の適性や長所の把握を促すとともに、就職活動に向けた様々な情報提供を行うことで進路観や職業観の明確化を図る。		
教材（テキスト）	柳本新二(著)『「1 日 10 分」から始める SPI 基本問題集'16 年版』大和出版（各自で購入すること） キャリアサポートセンター(編)『就職ガイド 2015』（授業中に配布する）		
教材（参考文献）	必要に応じて授業中に指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示または配布する。		
評価方法	授業中に課される小テスト（50%）、期末試験（50%）。 ただし、単位認定を受けるには別途指示する要件（キャリアサポートセンター主催の行事への参加等）を満たさなければならない。		
到達目標	・本科目で扱う言語分野の練習問題すべてに正解できるだけの語彙力・読解力を修得すること。 ・本科目で扱う非言語分野の練習問題の解法を完全に理解すること。 ・卒業後に向けた自身の進路観・職業観を明確にすること。		
準備学習	・テキスト『就職ガイド 2015』を熟読しておくこと。 ・「自己分析シート」をまず独力で書いてみること。 ・前回の授業で学習した練習問題を復習し、各回の授業の最初に行う確認テスト（小テスト）に備えること。 ・次回学習する項目の例題を自ら解いた上で、解答・解説を熟読しておくこと。		

受講者への要望

・遅刻、途中退出、および他の受講者の迷惑となる行為を厳禁する。
・本科目が自己のよりよいキャリア形成に結び付くものであることを強く意識すること。
・指示される課題を終えた場合は、それに満足することなく、科目担当者に助言を受け、さらなる課題に取り組むこと。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス：本科目の趣旨と内容、『就職ガイド 2015』の活用法について、他
2.自己分析①：自己分析シートを書く
3.自己分析②：自己分析シートを推敲する
4.自己分析③：自己分析シートを完成させる
5.SPI 対策・言語①：文法
6.SPI 対策・言語②：敬語
7.SPI 対策・言語③：ことわざ・慣用句
8.SPI 対策・言語④：文章構成
9:SPI 対策・言語⑤：文章整序
10.SPI 対策・非言語①：損益
11.SPI 対策・非言語②：精算
12.SPI 対策・非言語③：割引
13.SPI 対策・非言語④：集合
14.SPI 対策・非言語⑤：資料読取
15.自己分析④：自己分析シートを再考し「キャリアゼミ６」に備える

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	★★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J2024400C
科目名	キャリアゼミ５	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar 5		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	多くの企業等では、大学新卒者の採用の際、選考の初期において応募者に適性検査（学力試験等）を課す。その代表的なものがＳＰＩ(Synthetic Personality Inventory)と呼ばれるものであり、通常この試験において一定の成績を修めなければ選考の次の段階（面接等）に進むことができない。そして、このＳＰＩで出題される問題は、「言語」、「非言語」の両分野に渡り、多様であることから、準備を怠れば対処が困難である。何より、ＳＰＩに対応できるだけの基礎学力を修得することは、今後の大学での学習や卒業後の就業においても有用かつ必要である。 そこで本科目では、ＳＰＩへの取り組みを通じて日本語運用能力と数的処理能力の向上を目指す。加えて、自分自身を内省することなどを通じて自己の適性や長所の把握を促すとともに、就職活動に向けた様々な情報提供を行うことで進路観や職業観の明確化を図る。		
教材（テキスト）	柳本新二(著)『「1 日 10 分」から始める SPI 基本問題集'16 年版』大和出版（各自で購入すること） キャリアサポートセンター(編)『就職ガイド 2015』（授業中に配布する）		
教材（参考文献）	必要に応じて授業中に指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示または配布する。		
評価方法	授業中に課される小テスト（50%）、期末試験（50%）。 ただし、単位認定を受けるには別途指示する要件（キャリアサポートセンター主催の行事への参加等）を満たさなければならない。		
到達目標	・本科目で扱う言語分野の練習問題すべてに正解できるだけの語彙力・読解力を修得すること。 ・本科目で扱う非言語分野の練習問題の解法を完全に理解すること。 ・卒業後に向けた自身の進路観・職業観を明確にすること。		
準備学習	・テキスト『就職ガイド 2015』を熟読しておくこと。 ・「自己分析シート」をまず独力で書いてみること。 ・前回の授業で学習した練習問題を復習し、各回の授業の最初に行う確認テスト（小テスト）に備えること。 ・次回学習する項目の例題を自ら解いた上で、解答・解説を熟読しておくこと。		

受講者への要望

・遅刻、途中退出、および他の受講者の迷惑となる行為を厳禁する。
・本科目が自己のよりよいキャリア形成に結び付くものであることを強く意識すること。
・指示される課題を終えた場合は、それに満足することなく、科目担当者に助言を受け、さらなる課題に取り組むこと。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス：本科目の趣旨と内容、『就職ガイド 2015』の活用法について、他
2.自己分析①：自己分析シートを書く
3.自己分析②：自己分析シートを推敲する
4.自己分析③：自己分析シートを完成させる
5.SPI 対策・言語①：文法
6.SPI 対策・言語②：敬語
7.SPI 対策・言語③：ことわざ・慣用句
8.SPI 対策・言語④：文章構成
9:SPI 対策・言語⑤：文章整序
10.SPI 対策・非言語①：損益
11.SPI 対策・非言語②：精算
12.SPI 対策・非言語③：割引
13.SPI 対策・非言語④：集合
14.SPI 対策・非言語⑤：資料読取
15.自己分析④：自己分析シートを再考し「キャリアゼミ６」に備える

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	★★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J2024400H
科目名	キャリアゼミ５	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar 5		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	多くの企業等では、大学新卒者の採用の際、選考の初期において応募者に適性検査（学力試験等）を課す。その代表的なものがＳＰＩ(Synthetic Personality Inventory)と呼ばれるものであり、通常この試験において一定の成績を修めなければ選考の次の段階（面接等）に進むことができない。そして、このＳＰＩで出題される問題は、「言語」、「非言語」の両分野に渡り、多様であることから、準備を怠れば対処が困難である。何より、ＳＰＩに対応できるだけの基礎学力を修得することは、今後の大学での学習や卒業後の就業においても有用かつ必要である。 そこで本科目では、ＳＰＩへの取り組みを通じて日本語運用能力と数的処理能力の向上を目指す。加えて、自分自身を内省することなどを通じて自己の適性や長所の把握を促すとともに、就職活動に向けた様々な情報提供を行うことで進路観や職業観の明確化を図る。		
教材（テキスト）	柳本新二(著)『「1 日 10 分」から始める SPI 基本問題集'16 年版』大和出版（各自で購入すること） キャリアサポートセンター(編)『就職ガイド 2015』（授業中に配布する）		
教材（参考文献）	必要に応じて授業中に指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示または配布する。		
評価方法	授業中に課される小テスト（50%）、期末試験（50%）。 ただし、単位認定を受けるには別途指示する要件（キャリアサポートセンター主催の行事への参加等）を満たさなければならない。		
到達目標	・本科目で扱う言語分野の練習問題すべてに正解できるだけの語彙力・読解力を修得すること。 ・本科目で扱う非言語分野の練習問題の解法を完全に理解すること。 ・卒業後に向けた自身の進路観・職業観を明確にすること。		
準備学習	・テキスト『就職ガイド 2015』を熟読しておくこと。 ・「自己分析シート」をまず独力で書いてみること。 ・前回の授業で学習した練習問題を復習し、各回の授業の最初に行う確認テスト（小テスト）に備えること。 ・次回学習する項目の例題を自ら解いた上で、解答・解説を熟読しておくこと。		

受講者への要望

・遅刻、途中退出、および他の受講者の迷惑となる行為を厳禁する。
・本科目が自己のよりよいキャリア形成に結び付くものであることを強く意識すること。
・指示される課題を終えた場合は、それに満足することなく、科目担当者に助言を受け、さらなる課題に取り組むこと。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス：本科目の趣旨と内容、『就職ガイド 2015』の活用法について、他
2.自己分析①：自己分析シートを書く
3.自己分析②：自己分析シートを推敲する
4.自己分析③：自己分析シートを完成させる
5.SPI 対策・言語①：文法
6.SPI 対策・言語②：敬語
7.SPI 対策・言語③：ことわざ・慣用句
8.SPI 対策・言語④：文章構成
9:SPI 対策・言語⑤：文章整序
10.SPI 対策・非言語①：損益
11.SPI 対策・非言語②：精算
12.SPI 対策・非言語③：割引
13.SPI 対策・非言語④：集合
14.SPI 対策・非言語⑤：資料読取
15.自己分析④：自己分析シートを再考し「キャリアゼミ６」に備える

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	★★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J2024500A
科目名	キャリアゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar 6		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	本科目は、３回生が就職活動に向けて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターと連携しつつ、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。 　そのために、春学期の「キャリアゼミ５」での準備、特に自己分析に基づいて、自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」を行う。さらには、就職活動で必ず求められる「エントリーシート」、「履歴書」などの書き方を指導する中で、いかに他者とコミュニケーションができているかを確認する。 　なお、これらは社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリアサポートセンターの専門スタッフによる面接を受けることを単位認定要件として課す。また、キャリアサポートセンター提供の行事への参加も義務付ける。		
教材（テキスト）	『就職ガイド 2015』		
教材（参考文献）	『2015 年度版・就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定　2015』 ダイヤモンド社　等		
教材（その他）	キャリアサポートセンター作成の資料等を必要に応じて配布する		
評価方法	ゼミ担当教員の指導の下、与えられた課題（履歴書、エントリーシート等）を期日までに完成させ提出すること(100%)。ただし、単位認定を受けるには、別途指示する要件（キャリアポートセンターでの面談、就職対策講座 STEP1(基礎）の受講、内定獲得基礎講座の受講など）を満たさなければならない。		
到達目標	自らのキャリア形成プランに基づき、次の一歩としての就職活動に向けた具体的な準備を進める。履歴書やエントリーシートの作成、あるいは面接対策などの実践的な取り組みを通じて、自分を表現する技術を社会的に要求される水準まで磨き上げる。		
準備学習	(1)自分の将来を意識し、それに向けて今すべきことを確実に行う。 (2)提出するシートは、今の自分にとって「完成」であると納得できる水準まで磨き上げる。 (3)日常生活の中で、企業・業界関連情報に対して注意を払うと同時に、様々な社会時事問題に関する理解を広め、両者の間での直接・間接の結び付きを考える。		

受講者への要望

(1)就職活動は、時期を逃すとチャンスを失うことを肝に銘じること。
(2)各時間ごとの課題を確実に完了し、以後、熟考・推敲を繰り返して、自分を表現する技術を高めること。
(3)スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。

講義の順序とポイント

1.自己分析の再考と自己ＰＲ
　「キャリアゼミ５」で行った自己分析を元に、自分の長所を口頭で説明する。
2.仕事研究：業界研究
3.仕事研究：企業研究(1)：企業選択
4.仕事研究：企業研究(2)：企業選択理由の口頭発表
5.仕事研究：企業研究(3)：企業研究シートの作成
6.仕事研究：企業研究(4)：企業研究シートの完成
　2~6 では、配布する資料を用いて志望する業界、企業を具体的に選択し、情報を収集・整理する。
7.キャリアサポートセンターによるゼミ訪問
　キャリアサポートセンターのスタッフや学生就活サポーターの話しを聞き、今すべきことについて助言を受ける。
8.履歴書を書く(1)
9.履歴書を書く(2)
10.エントリーシートを書く(1)
11.エントリーシートを書く(2)
12.エントリーシートを書く(3)
　8~12 では、企業への提出を想定して履歴書、エントリーシートを完成させる。
13.就職活動に向けての実践練習(1)
14.就職活動に向けての実践練習(2)
15.就職活動に向けての実践練習(3)

13~15 では、次のようなことに取り組む。
履歴書、エントリーシートの内容を口頭で説明する。
グループ面接、グループディスカッション、個別面接等の練習を行う。
電話やメールのマナーを確認する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J2024500B
科目名	キャリアゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar 6		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	本科目は、３回生が就職活動に向けて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターと連携しつつ、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。 　そのために、春学期の「キャリアゼミ５」での準備、特に自己分析に基づいて、自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」を行う。さらには、就職活動で必ず求められる「エントリーシート」、「履歴書」などの書き方を指導する中で、いかに他者とコミュニケーションができているかを確認する。 　なお、これらは社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリアサポートセンターの専門スタッフによる面接を受けることを単位認定要件として課す。また、キャリアサポートセンター提供の行事への参加も義務付ける。		
教材（テキスト）	『就職ガイド 2015』		
教材（参考文献）	『2015 年度版・就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定　2015』 ダイヤモンド社　等		
教材（その他）	キャリアサポートセンター作成の資料等を必要に応じて配布する		
評価方法	ゼミ担当教員の指導の下、与えられた課題（履歴書、エントリーシート等）を期日までに完成させ提出すること(100%)。ただし、単位認定を受けるには、別途指示する要件（キャリアポートセンターでの面談、就職対策講座 STEP1(基礎）の受講、内定獲得基礎講座の受講など）を満たさなければならない。		
到達目標	自らのキャリア形成プランに基づき、次の一歩としての就職活動に向けた具体的な準備を進める。履歴書やエントリーシートの作成、あるいは面接対策などの実践的な取り組みを通じて、自分を表現する技術を社会的に要求される水準まで磨き上げる。		
準備学習	(1)自分の将来を意識し、それに向けて今すべきことを確実に行う。 (2)提出するシートは、今の自分にとって「完成」であると納得できる水準まで磨き上げる。 (3)日常生活の中で、企業・業界関連情報に対して注意を払うと同時に、様々な社会時事問題に関する理解を広め、両者の間での直接・間接の結び付きを考える。		

受講者への要望

(1)就職活動は、時期を逃すとチャンスを失うことを肝に銘じること。
(2)各時間ごとの課題を確実に完了し、以後、熟考・推敲を繰り返して、自分を表現する技術を高めること。
(3)スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。

講義の順序とポイント

1.自己分析の再考と自己ＰＲ
　「キャリアゼミ５」で行った自己分析を元に、自分の長所を口頭で説明する。
2.仕事研究：業界研究
3.仕事研究：企業研究(1)：企業選択
4.仕事研究：企業研究(2)：企業選択理由の口頭発表
5.仕事研究：企業研究(3)：企業研究シートの作成
6.仕事研究：企業研究(4)：企業研究シートの完成
　2~6 では、配布する資料を用いて志望する業界、企業を具体的に選択し、情報を収集・整理する。
7.キャリアサポートセンターによるゼミ訪問
　キャリアサポートセンターのスタッフや学生就活サポーターの話しを聞き、今すべきことについて助言を受ける。
8.履歴書を書く(1)
9.履歴書を書く(2)
10.エントリーシートを書く(1)
11.エントリーシートを書く(2)
12.エントリーシートを書く(3)
　8~12 では、企業への提出を想定して履歴書、エントリーシートを完成させる。
13.就職活動に向けての実践練習(1)
14.就職活動に向けての実践練習(2)
15.就職活動に向けての実践練習(3)

13~15 では、次のようなことに取り組む。
履歴書、エントリーシートの内容を口頭で説明する。
グループ面接、グループディスカッション、個別面接等の練習を行う。
電話やメールのマナーを確認する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J2024500C
科目名	キャリアゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar 6		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本科目は、３回生が就職活動に向けて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターと連携しつつ、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。 　そのために、春学期の「キャリアゼミ５」での準備、特に自己分析に基づいて、自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」を行う。さらには、就職活動で必ず求められる「エントリーシート」、「履歴書」などの書き方を指導する中で、いかに他者とコミュニケーションができているかを確認する。 　なお、これらは社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリアサポートセンターの専門スタッフによる面接を受けることを単位認定要件として課す。また、キャリアサポートセンター提供の行事への参加も義務付ける。		
教材（テキスト）	『就職ガイド 2015』		
教材（参考文献）	『2015 年度版・就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定　2015』 ダイヤモンド社　等		
教材（その他）	キャリアサポートセンター作成の資料等を必要に応じて配布する		
評価方法	ゼミ担当教員の指導の下、与えられた課題（履歴書、エントリーシート等）を期日までに完成させ提出すること(100%)。ただし、単位認定を受けるには、別途指示する要件（キャリアポートセンターでの面談、就職対策講座 STEP1(基礎）の受講、内定獲得基礎講座の受講など）を満たさなければならない。		
到達目標	自らのキャリア形成プランに基づき、次の一歩としての就職活動に向けた具体的な準備を進める。履歴書やエントリーシートの作成、あるいは面接対策などの実践的な取り組みを通じて、自分を表現する技術を社会的に要求される水準まで磨き上げる。		
準備学習	(1)自分の将来を意識し、それに向けて今すべきことを確実に行う。 (2)提出するシートは、今の自分にとって「完成」であると納得できる水準まで磨き上げる。 (3)日常生活の中で、企業・業界関連情報に対して注意を払うと同時に、様々な社会時事問題に関する理解を広め、両者の間での直接・間接の結び付きを考える。		

受講者への要望

(1)就職活動は、時期を逃すとチャンスを失うことを肝に銘じること。
(2)各時間ごとの課題を確実に完了し、以後、熟考・推敲を繰り返して、自分を表現する技術を高めること。
(3)スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。

講義の順序とポイント

1.自己分析の再考と自己ＰＲ
　「キャリアゼミ５」で行った自己分析を元に、自分の長所を口頭で説明する。
2.仕事研究：業界研究
3.仕事研究：企業研究(1)：企業選択
4.仕事研究：企業研究(2)：企業選択理由の口頭発表
5.仕事研究：企業研究(3)：企業研究シートの作成
6.仕事研究：企業研究(4)：企業研究シートの完成
　2~6 では、配布する資料を用いて志望する業界、企業を具体的に選択し、情報を収集・整理する。
7.キャリアサポートセンターによるゼミ訪問
　キャリアサポートセンターのスタッフや学生就活サポーターの話しを聞き、今すべきことについて助言を受ける。
8.履歴書を書く(1)
9.履歴書を書く(2)
10.エントリーシートを書く(1)
11.エントリーシートを書く(2)
12.エントリーシートを書く(3)
　8~12 では、企業への提出を想定して履歴書、エントリーシートを完成させる。
13.就職活動に向けての実践練習(1)
14.就職活動に向けての実践練習(2)
15.就職活動に向けての実践練習(3)

13~15 では、次のようなことに取り組む。
履歴書、エントリーシートの内容を口頭で説明する。
グループ面接、グループディスカッション、個別面接等の練習を行う。
電話やメールのマナーを確認する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J2024500D
科目名	キャリアゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar 6		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	本科目は、3回生が就職活動に向けて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターと連携しつつ、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。 　そのために、春学期の「キャリアゼミ５」での準備、特に自己分析に基づいて、自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」を行う。さらには、就職活動で必ず求められる「エントリーシート」、「履歴書」などの書き方を指導する中で、いかに他者とコミュニケーションができているかを確認する。 　なお、これらは社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリアサポートセンターの専門スタッフによる面接を受けることを単位認定要件として課す。また、キャリアサポートセンター提供の行事への参加も義務付ける。		
教材（テキスト）	『就職ガイド 2015』		
教材（参考文献）	『2015 年度版・就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定　2015』 ダイヤモンド社　等		
教材（その他）	キャリアサポートセンター作成の資料等を必要に応じて配布する		
評価方法	ゼミ担当教員の指導の下、与えられた課題（履歴書、エントリーシート等）を期日までに完成させ提出すること(100%)。ただし、単位認定を受けるには、別途指示する要件（キャリアポートセンターでの面談、就職対策講座 STEP1(基礎）の受講、内定獲得基礎講座の受講など）を満たさなければならない。		
到達目標	自らのキャリア形成プランに基づき、次の一歩としての就職活動に向けた具体的な準備を進める。履歴書やエントリーシートの作成、あるいは面接対策などの実践的な取り組みを通じて、自分を表現する技術を社会的に要求される水準まで磨き上げる。		
準備学習	(1)自分の将来を意識し、それに向けて今すべきことを確実に行う。 (2)提出するシートは、今の自分にとって「完成」であると納得できる水準まで磨き上げる。 (3)日常生活の中で、企業・業界関連情報に対して注意を払うと同時に、様々な社会時事問題に関する理解を広め、両者の間での直接・間接の結び付きを考える。		

受講者への要望

(1)就職活動は、時期を逃すとチャンスを失うことを肝に銘じること。
(2)各時間ごとの課題を確実に完了し、以後、熟考・推敲を繰り返して、自分を表現する技術を高めること。
(3)スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。

講義の順序とポイント

1.自己分析の再考と自己ＰＲ
　「キャリアゼミ５」で行った自己分析を元に、自分の長所を口頭で説明する。
2.仕事研究：業界研究
3.仕事研究：企業研究(1)：企業選択
4.仕事研究：企業研究(2)：企業選択理由の口頭発表
5.仕事研究：企業研究(3)：企業研究シートの作成
6.仕事研究：企業研究(4)：企業研究シートの完成
　2~6 では、配布する資料を用いて志望する業界、企業を具体的に選択し、情報を収集・整理する。
7.キャリアサポートセンターによるゼミ訪問
　キャリアサポートセンターのスタッフや学生就活サポーターの話しを聞き、今すべきことについて助言を受ける。
8.履歴書を書く(1)
9.履歴書を書く(2)
10.エントリーシートを書く(1)
11.エントリーシートを書く(2)
12.エントリーシートを書く(3)
　8~12 では、企業への提出を想定して履歴書、エントリーシートを完成させる。
13.就職活動に向けての実践練習(1)
14.就職活動に向けての実践練習(2)
15.就職活動に向けての実践練習(3)

13~15 では、次のようなことに取り組む。
履歴書、エントリーシートの内容を口頭で説明する。
グループ面接、グループディスカッション、個別面接等の練習を行う。
電話やメールのマナーを確認する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J2024500E
科目名	キャリアゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar 6		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	本科目は、3回生が就職活動に向けて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターと連携しつつ、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。 　そのために、春学期の「キャリアゼミ５」での準備、特に自己分析に基づいて、自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」を行う。さらには、就職活動で必ず求められる「エントリーシート」、「履歴書」などの書き方を指導する中で、いかに他者とコミュニケーションができているかを確認する。 　なお、これらは社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリアサポートセンターの専門スタッフによる面接を受けることを単位認定要件として課す。また、キャリアサポートセンター提供の行事への参加も義務付ける。		
教材（テキスト）	『就職ガイド 2015』		
教材（参考文献）	『2015 年度版・就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定　2015』 ダイヤモンド社　等		
教材（その他）	キャリアサポートセンター作成の資料等を必要に応じて配布する		
評価方法	ゼミ担当教員の指導の下、与えられた課題（履歴書、エントリーシート等）を期日までに完成させ提出すること(100%)。ただし、単位認定を受けるには、別途指示する要件（キャリアポートセンターでの面談、就職対策講座 STEP1(基礎）の受講、内定獲得基礎講座の受講など）を満たさなければならない。		
到達目標	自らのキャリア形成プランに基づき、次の一歩としての就職活動に向けた具体的な準備を進める。履歴書やエントリーシートの作成、あるいは面接対策などの実践的な取り組みを通じて、自分を表現する技術を社会的に要求される水準まで磨き上げる。		
準備学習	(1)自分の将来を意識し、それに向けて今すべきことを確実に行う。 (2)提出するシートは、今の自分にとって「完成」であると納得できる水準まで磨き上げる。 (3)日常生活の中で、企業・業界関連情報に対して注意を払うと同時に、様々な社会時事問題に関する理解を広め、両者の間での直接・間接の結び付きを考える。		

受講者への要望

(1)就職活動は、時期を逃すとチャンスを失うことを肝に銘じること。
(2)各時間ごとの課題を確実に完了し、以後、熟考・推敲を繰り返して、自分を表現する技術を高めること。
(3)スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。

講義の順序とポイント

1.自己分析の再考と自己ＰＲ
　「キャリアゼミ５」で行った自己分析を元に、自分の長所を口頭で説明する。
2.仕事研究：業界研究
3.仕事研究：企業研究(1)：企業選択
4.仕事研究：企業研究(2)：企業選択理由の口頭発表
5.仕事研究：企業研究(3)：企業研究シートの作成
6.仕事研究：企業研究(4)：企業研究シートの完成
　2~6 では、配布する資料を用いて志望する業界、企業を具体的に選択し、情報を収集・整理する。
7.キャリアサポートセンターによるゼミ訪問
　キャリアサポートセンターのスタッフや学生就活サポーターの話しを聞き、今すべきことについて助言を受ける。
8.履歴書を書く(1)
9.履歴書を書く(2)
10.エントリーシートを書く(1)
11.エントリーシートを書く(2)
12.エントリーシートを書く(3)
　8~12 では、企業への提出を想定して履歴書、エントリーシートを完成させる。
13.就職活動に向けての実践練習(1)
14.就職活動に向けての実践練習(2)
15.就職活動に向けての実践練習(3)

13~15 では、次のようなことに取り組む。
履歴書、エントリーシートの内容を口頭で説明する。
グループ面接、グループディスカッション、個別面接等の練習を行う。
電話やメールのマナーを確認する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J2024500G
科目名	キャリアゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar 6		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	本科目は、３回生が就職活動に向けて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターと連携しつつ、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。 　そのために、春学期の「キャリアゼミ５」での準備、特に自己分析に基づいて、自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」を行う。さらには、就職活動で必ず求められる「エントリーシート」、「履歴書」などの書き方を指導する中で、いかに他者とコミュニケーションができているかを確認する。 　なお、これらは社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリアサポートセンターの専門スタッフによる面接を受けることを単位認定要件として課す。また、キャリアサポートセンター提供の行事への参加も義務付ける。		
教材（テキスト）	『就職ガイド 2015』		
教材（参考文献）	『2015 年度版・就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定　2015』 ダイヤモンド社　等		
教材（その他）	キャリアサポートセンター作成の資料等を必要に応じて配布する		
評価方法	ゼミ担当教員の指導の下、与えられた課題（履歴書、エントリーシート等）を期日までに完成させ提出すること(100%)。ただし、単位認定を受けるには、別途指示する要件（キャリアポートセンターでの面談、就職対策講座 STEP1(基礎）の受講、内定獲得基礎講座の受講など）を満たさなければならない。		
到達目標	自らのキャリア形成プランに基づき、次の一歩としての就職活動に向けた具体的な準備を進める。履歴書やエントリーシートの作成、あるいは面接対策などの実践的な取り組みを通じて、自分を表現する技術を社会的に要求される水準まで磨き上げる。		
準備学習	(1)自分の将来を意識し、それに向けて今すべきことを確実に行う。 (2)提出するシートは、今の自分にとって「完成」であると納得できる水準まで磨き上げる。 (3)日常生活の中で、企業・業界関連情報に対して注意を払うと同時に、様々な社会時事問題に関する理解を広め、両者の間での直接・間接の結び付きを考える。		

受講者への要望

(1)就職活動は、時期を逃すとチャンスを失うことを肝に銘じること。
(2)各時間ごとの課題を確実に完了し、以後、熟考・推敲を繰り返して、自分を表現する技術を高めること。
(3)スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。

講義の順序とポイント

1.自己分析の再考と自己ＰＲ
　「キャリアゼミ５」で行った自己分析を元に、自分の長所を口頭で説明する。
2.仕事研究：業界研究
3.仕事研究：企業研究(1)：企業選択
4.仕事研究：企業研究(2)：企業選択理由の口頭発表
5.仕事研究：企業研究(3)：企業研究シートの作成
6.仕事研究：企業研究(4)：企業研究シートの完成
　2~6 では、配布する資料を用いて志望する業界、企業を具体的に選択し、情報を収集・整理する。
7.キャリアサポートセンターによるゼミ訪問
　キャリアサポートセンターのスタッフや学生就活サポーターの話しを聞き、今すべきことについて助言を受ける。
8.履歴書を書く(1)
9.履歴書を書く(2)
10.エントリーシートを書く(1)
11.エントリーシートを書く(2)
12.エントリーシートを書く(3)
　8~12 では、企業への提出を想定して履歴書、エントリーシートを完成させる。
13.就職活動に向けての実践練習(1)
14.就職活動に向けての実践練習(2)
15.就職活動に向けての実践練習(3)

13~15 では、次のようなことに取り組む。
履歴書、エントリーシートの内容を口頭で説明する。
グループ面接、グループディスカッション、個別面接等の練習を行う。
電話やメールのマナーを確認する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J2024500H
科目名	キャリアゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar 6		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	本科目は、3回生が就職活動に向けて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターと連携しつつ、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。 　そのために、春学期の「キャリアゼミ５」での準備、特に自己分析に基づいて、自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」を行う。さらには、就職活動で必ず求められる「エントリーシート」、「履歴書」などの書き方を指導する中で、いかに他者とコミュニケーションができているかを確認する。 　なお、これらは社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリアサポートセンターの専門スタッフによる面接を受けることを単位認定要件として課す。また、キャリアサポートセンター提供の行事への参加も義務付ける。		
教材（テキスト）	『就職ガイド 2015』		
教材（参考文献）	『2015 年度版・就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定　2015』 ダイヤモンド社　等		
教材（その他）	キャリアサポートセンター作成の資料等を必要に応じて配布する		
評価方法	ゼミ担当教員の指導の下、与えられた課題（履歴書、エントリーシート等）を期日までに完成させ提出すること(100%)。ただし、単位認定を受けるには、別途指示する要件（キャリアポートセンターでの面談、就職対策講座 STEP1(基礎）の受講、内定獲得基礎講座の受講など）を満たさなければならない。		
到達目標	自らのキャリア形成プランに基づき、次の一歩としての就職活動に向けた具体的な準備を進める。履歴書やエントリーシートの作成、あるいは面接対策などの実践的な取り組みを通じて、自分を表現する技術を社会的に要求される水準まで磨き上げる。		
準備学習	(1)自分の将来を意識し、それに向けて今すべきことを確実に行う。 (2)提出するシートは、今の自分にとって「完成」であると納得できる水準まで磨き上げる。 (3)日常生活の中で、企業・業界関連情報に対して注意を払うと同時に、様々な社会時事問題に関する理解を広め、両者の間での直接・間接の結び付きを考える。		

受講者への要望

(1)就職活動は、時期を逃すとチャンスを失うことを肝に銘じること。
(2)各時間ごとの課題を確実に完了し、以後、熟考・推敲を繰り返して、自分を表現する技術を高めること。
(3)スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。

講義の順序とポイント

1.自己分析の再考と自己ＰＲ
　「キャリアゼミ５」で行った自己分析を元に、自分の長所を口頭で説明する。
2.仕事研究：業界研究
3.仕事研究：企業研究(1)：企業選択
4.仕事研究：企業研究(2)：企業選択理由の口頭発表
5.仕事研究：企業研究(3)：企業研究シートの作成
6.仕事研究：企業研究(4)：企業研究シートの完成
　2~6 では、配布する資料を用いて志望する業界、企業を具体的に選択し、情報を収集・整理する。
7.キャリアサポートセンターによるゼミ訪問
　キャリアサポートセンターのスタッフや学生就活サポーターの話しを聞き、今すべきことについて助言を受ける。
8.履歴書を書く(1)
9.履歴書を書く(2)
10.エントリーシートを書く(1)
11.エントリーシートを書く(2)
12.エントリーシートを書く(3)
　8~12 では、企業への提出を想定して履歴書、エントリーシートを完成させる。
13.就職活動に向けての実践練習(1)
14.就職活動に向けての実践練習(2)
15.就職活動に向けての実践練習(3)

13~15 では、次のようなことに取り組む。
履歴書、エントリーシートの内容を口頭で説明する。
グループ面接、グループディスカッション、個別面接等の練習を行う。
電話やメールのマナーを確認する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J20265001
科目名	ネットワークセキュリティ論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Network Security		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	インターネットの普及とともに，ネットワークの世界も，サーバを攻撃対象とする不正アクセス，ユーザを対象とする詐欺など，現実の社会と同じような危険に直面している。脅威と対策に関するいくつかの事例をオープンソースの OS である Linux 上で実験することにより，セキュリティに対する具体的な理解を深めていく。		
教材（テキスト）	教科書： 独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　540 円		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（60%）、その理解度を確認するレポート試験（40%）、この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	ネットワークにおける脅威と対策の基本を習得すること。		
準備学習	普段から新聞・テレビ・インターネットなどで取り上げられるネットワーク上の脅威・リスク・事件に注意をはらっておくこと。		

受講者への要望

第一に実習においてキーボード入力（アルファベット）が必要なので、標準的なスピードでタイピングが出来ること。
第二に大学の電子メールのＩＤを取得し、使い方を理解していること。
簡潔に書かれたテキストを採用していますので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.今日のセキュリティリスク
2.情報セキュリティの基礎
3.マルウェア(コンピュータウィルス)
4.見えない脅威とその対策
5.組織の一員としての情報セキュリティ対策
6.実際のセキュリティ対策
7.セキュリティ技術
8.情報セキュリティの基本についてのまとめと演習
9.暗号
10.電子認証
11.暗号化通信 1
12.暗号化通信 2
13.ファイアウォール
14.情報セキュリティ関連の法規と制度
15.情報セキュリティのまとめと現在の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J20265002
科目名	ネットワークセキュリティ論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Network Security		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	インターネットの普及とともに，ネットワークの世界も，サーバを攻撃対象とする不正アクセス，ユーザを対象とする詐欺など，現実の社会と同じような危険に直面している。脅威と対策に関するいくつかの事例をオープンソースの OS である Linux 上で実験することにより，セキュリティに対する具体的な理解を深めていく。		
教材（テキスト）	教科書： 独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　540 円		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（60%）、その理解度を確認するレポート試験（40%）、この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	ネットワークにおける脅威と対策の基本を習得すること。		
準備学習	普段から新聞・テレビ・インターネットなどで取り上げられるネットワーク上の脅威・リスク・事件に注意をはらっておくこと。		

受講者への要望

第一に実習においてキーボード入力（アルファベット）が必要なので、標準的なスピードでタイピングが出来ること。
第二に大学の電子メールのＩＤを取得し、使い方を理解していること。
簡潔に書かれたテキストを採用していますので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.今日のセキュリティリスク
2.情報セキュリティの基礎
3.マルウェア(コンピュータウィルス)
4.見えない脅威とその対策
5.組織の一員としての情報セキュリティ対策
6.実際のセキュリティ対策
7.セキュリティ技術
8.情報セキュリティの基本についてのまとめと演習
9.暗号
10.電子認証
11.暗号化通信 1
12.暗号化通信 2
13.ファイアウォール
14.情報セキュリティ関連の法規と制度
15.情報セキュリティのまとめと現在の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J20328001
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	この講義は NPO 法人「エイプロシス」の協力で実施されます。毎回、現場で証券取引に実体験してこられた、実務経験者による講義となります。レジメは毎回用意され、それに沿って講義が展開されます。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説していただきます。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義されます。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。		
教材（テキスト）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	期末試験 60%、平常点：出席,小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得し、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。		
準備学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		
受講者への要望			
毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。			
講義の順序とポイント			
1．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて 2．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み 3．　マネープランの必要性と金融商品 4．　債券の基礎知識 5．　債券投資の実際 6.　株式投資の魅力とリスク 7.　株価の変動要因 8.　決算書の見方 9.　主な投資指標の見方 10.　株式投資の判断 11.　投資信託をの基礎知識 12.　投資信託を選ぶポイント 13.　資産運用の概要 14.　資産運用はどうあるべきか 15．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J20329001
科目名	財政入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	景気の低迷、所得格差、少子高齢化など、今日の我が国はさまざまな問題を抱えている。そして、こうした問題を解決していくために、改めて政府の役割やあるべき姿を見直す必要がある。本講義では政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深めることを目的とする。講義の前半では、主にマクロ経済学の視点から講義を進め、後半では主にミクロ経済学の視点から講義を進める。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	「コンパクト財政学　第 2 版」　上村 敏之　新世社		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	授業態度 10%、小テスト 20%、期末試験 70%		
到達目標	政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深める。		
準備学習	・経済学に関する基礎科目を並行して受講することが望ましい。 ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
・積極的な質問を歓迎します。 ・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。			
講義の順序とポイント			
1.はじめに 2.財政の 3 機能 3.経済安定化機能(1):経済安定化の必要性 4.経済安定化機能(2):需要と景気 5.経済安定化機能(3):政府の景気対策① 6.経済安定化機能(4):政府の景気対策② 7.所得再分配(1):再分配の必要性 8.小テスト及び所得再分配(2):再分配の方法 9.所得再分配(3):ジニ係数と所得格差 10.資源の効率的配分(1):需要と供給 11.資源の効率的配分(2):市場メカニズム 12.資源の効率的配分(3):市場の失敗 13.租税(1):租税三原則 14.租税(2):所得税と消費税① 15.租税(3):所得税と消費税②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★

年度	2015	授業コード	J20330001
科目名	情報社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Society		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報と社会の関わりを、情報技術・システム・産業・機器・生活からふれ、情報化が社会生活に及ぼす影響、情報機器の発達と生活意識様式の変化について概略する。コンピュータ情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化により、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を述べる。情報化社会の情報と個人、職業・教育について理解し、自己のあり方生き方と職業を考える。		
教材（テキスト）	なし、各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	講義時の小課題（10%）、レポート（35%）、定期試験（55%）		
到達目標	情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に講義前には、任意の情報関連の事項を一件選択し、概要を他の人に説明できるように整理する。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事を素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。

講義の順序とポイント

1.消費社会と情報社会
情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化
マスメディアの多様化と情報環境の変化、ディジタル経済
2.情報技術
情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理
3.新しい情報技術
ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題
電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点
電子署名・電子認証、電子取引
4.情報システム
集中と分散、情報産業の多様化
コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業
5.情報と産業
情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化
企業倫理
高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット
6.情報と職業
労働・職業上の問題
情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質
職業と自己実現、職業観と職業意識
7.情報と個人
日常生活と情報システム、情報モラル、ディジタル格差
個人情報の保護、個人情報の取得・利用に際してのルール
知的財産、企業等による個人情報の利用
8.情報と著作権
情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権
知的所有権
9.情報と教育
人間形成、情報社会で求められる教育

情報環境、マルチメディア
10.IT 技術者
IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用
IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法
11.情報と通信
u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消
情報アクセスへの格差、情報格差
通信・放送の融合・連携
12.情報倫理 （1）
情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護
13.情報倫理 （2）
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール
個人情報の保護
14.情報化と社会 （1）
高度情報通信社会の諸課題
情報化とグローバル化に伴う生活の変化
15.情報化と社会 （2）
産業、社会生活、モラル、人との関わり
現代社会の情報の意義役割の理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J20374001
科目名	現代アメリカ事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Current Topics in the U.S.A.		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	第二次世界大戦後、アメリカ合衆国は日本にとって最も身近な存在の一つとなっています。しかし、今世紀に入り、9･11 同時多発テロ、イラク戦争勃発、オバマ政権誕生などの出来事が起こっていて、アメリカの実情は複雑なものと言えます。でもこのことは決して突発的なことではなく、宗教的、歴史的なものをはじめとしたアメリカの様々な背景があってのことです。本講義ではアメリカの家族、教育、宗教、経済、地域文化など様々な観点で現代アメリカをとらえていきます。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。毎回授業後にコメントを書いてもらいますので、受講生は講義内容のメモを取ることができるようにしておいてください。		
教材（参考文献）	なし。授業中に指示します。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	毎回の授業のコメントペーパー30 点、学期末レポート 70 点。なお、欠席 6 回で失格とします。		
到達目標	アメリカの諸問題について関心をもち、様々な角度から問題点などを考察することができるようにします。		
準備学習	新聞やテレビなどを通じてアメリカでのさまざまな出来事に関心を持っておくと同時に、どうしてそのようなことが起こったのかを考察するように心がけてください。授業中でも講義で取り上げるテーマにあわせて説明します。		

受講者への要望

アメリカに対するイメージをあれこれ頭に思い浮かべてください。（もちろんみなさんが持つイメージは現状と違っていいです。）講義中にコメントや意見を言っていただくこともあります。（ちなみに「答え」ではないですから「正解」を出す必要はありません。）講義はしっかり聴いてメモをとるように心がけてください。

講義の順序とポイント

ここに講義の順序を記載します。もし授業中での学生のコメント、意見や議論が活発になれば、授業進行が変更になることも考えられます。

1. 授業の説明、アメリカ概説～自由の国アメリカ
2. 地域文化～中西部アメリカと西部アメリカ
3. 地域文化～東部アメリカと南部アメリカ
4. 人種問題～移民の国アメリカ
5. 人種問題～同一民族のコミュニティーは何のため？
6. 宗教問題～神への強い信仰心
7. 宗教問題～アメリカ人はオカルト好き？
8. ここまでのまとめ
9. アメリカの家族～夫婦関係は？いつ子どもは成人に？
10. アメリカの教育～教育現場でのいじめは？義務教育でも学校行かず？
11. 銃規制～何のための銃？
12. テロの脅威～９・１１の余波
13. 軍事問題～イラク戦争の意義は？
14. アメリカ企業のしくみ
15. まとめ、期末レポートの説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J20374002
科目名	現代アメリカ事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Current Topics in the U.S.A.		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	第二次世界大戦後、アメリカ合衆国は日本にとって最も身近な存在の一つとなっています。しかし、今世紀に入り、9･11 同時多発テロ、イラク戦争勃発、オバマ政権誕生などの出来事が起こっていて、アメリカの実情は複雑なものと言えます。でもこのことは決して突発的なことではなく、宗教的、歴史的なものをはじめとしたアメリカの様々な背景があってのことです。本講義ではアメリカの家族、教育、宗教、経済、地域文化など様々な観点で現代アメリカをとらえていきます。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。毎回授業後にコメントを書いてもらいますので、受講生は講義内容のメモを取ることができるようにしておいてください。		
教材（参考文献）	なし。授業中に指示します。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	毎回の授業のコメントペーパー30 点、学期末レポート 70 点。なお、欠席 6 回で失格とします。		
到達目標	アメリカの諸問題について関心をもち、様々な角度から問題点などを考察することができるようにします。		
準備学習	新聞やテレビなどを通じてアメリカでのさまざまな出来事に関心を持っておくと同時に、どうしてそのようなことが起こったのかを考察するように心がけてください。授業中でも講義で取り上げるテーマにあわせて説明します。		

受講者への要望

アメリカに対するイメージをあれこれ頭に思い浮かべてください。（もちろんみなさんが持つイメージは現状と違っていいです。）講義中にコメントや意見を言っていただくこともあります。（ちなみに「答え」ではないですから「正解」を出す必要はありません。）講義はしっかり聴いてメモをとるように心がけてください。

講義の順序とポイント

ここに講義の順序を記載します。もし授業中での学生のコメント、意見や議論が活発になれば、授業進行が変更になることも考えられます。

1. 授業の説明、アメリカ概説～自由の国アメリカ
2. 地域文化～中西部アメリカと西部アメリカ
3. 地域文化～東部アメリカと南部アメリカ
4. 人種問題～移民の国アメリカ
5. 人種問題～同一民族のコミュニティーは何のため？
6. 宗教問題～神への強い信仰心
7. 宗教問題～アメリカ人はオカルト好き？
8. ここまでのまとめ
9. アメリカの家族～夫婦関係は？いつ子どもは成人に？
10. アメリカの教育～教育現場でのいじめは？義務教育でも学校行かず？
11. 銃規制～何のための銃？
12. テロの脅威～９・１１の余波
13. 軍事問題～イラク戦争の意義は？
14. アメリカ企業のしくみ
15. まとめ、期末レポートの説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J20440A01
科目名	労働経済論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Labor Economics A		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	我が国はバブル崩壊後に長期の不況に陥り、それに伴い労働者を取り巻く環境が大きく変化した。企業の業績悪化に伴い、日本の雇用形態の特徴である終身雇用や年功序列型賃金が見直され、また近年は契約社員やパートタイマーなどの非正規雇用の増加が観測される。さらに日本の総人口が減少を始め、少子高齢化による労働力の確保が必要とされる。労働経済学の授業では、雇用や賃金、失業の決定などを理論的に解説し、現在の我が国で観測される問題を考察する。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	太田 聰一・橘木 俊詔「労働経済学入門 新版」有斐閣(2012/2)		
教材（その他）	授業で使用するレジュメを配布する。		
評価方法	授業態度 10%、小テスト 20%、期末試験 70%		
到達目標	我が国の雇用および労働市場を取り巻く問題を理解する。		
準備学習	新聞やニュースなどを通じ、我が国や諸外国の労働市場で観測される問題に関心を持つこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。
・労働経済論 B も受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

1.はじめに
2.労働経済学とは(1)働くことの意味
3.労働経済学とは(2)雇用者と自営業
4.賃金と雇用(1)労働需要
5.賃金と雇用(2)労働供給
6.我が国の現状(1)経済成長率、インフレ率、失業率
7.我が国の現状(2)出生率、高齢化率、政府債務残高
8.小テスト及び賃金格差(1)教育と生産性
9.賃金格差(2)企業内訓練と生産性
10.賃金格差(3)賃金交渉、効率賃金仮説
11.教育・訓練の効果(1)教育の役割
12.教育・訓練の効果(2)企業内訓練
13.離職(1)離職のメカニズム
14.離職(2)若年の離職
15.非正規雇用

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★

年度	2015	授業コード	J20440B01
科目名	労働経済論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Labor Economics B		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	我が国はバブル崩壊後に長期の不況に陥り、それに伴い労働者を取り巻く環境が大きく変化した。企業の業績悪化に伴い日本の雇用形態の特徴でもある終身雇用や年功序列型賃金が見直され、また近年は契約社員やパートタイマーなどの非正規雇用の増加が観測される。さらに日本の総人口が減少を始め、少子高齢化による労働力の確保が必要とされる。労働経済学の授業では、雇用や賃金、失業の決定などを理論的に解説し、現在の我が国で観測される問題を考察する。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	太田 聰一・橘木 俊詔「労働経済学入門 新版」有斐閣(2012/2)		
教材（その他）	授業で使用するレジュメを配布する。		
評価方法	授業態度 10%、小テスト 20%、期末試験 70%		
到達目標	我が国の雇用および労働市場を取り巻く問題を理解する。		
準備学習	新聞やニュースなどを通じ、我が国や諸外国の労働市場で観測される問題に関心を持つこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。
・労働経済論 A を受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

1.はじめに
2.失業(1)我が国の失業率の推移
3.失業(2)失業発生のメカニズム
4.失業(3)失業対策
5.若年の雇用(1)平成不況と若年失業
6.若年の雇用(2)若年失業の問題①
7.若年の雇用(3)若年失業の問題②
8.小テスト及び若年の雇用(4)若年失業解消に向けて
9.女性の雇用(1)女性の就業と M 字カーブ
10.女性の雇用(2)統計的差別
11.女性の雇用(3)男女共同参画社会
12.高齢者の雇用(1)我が国における高齢化の現状
13.高齢者の雇用(2)定年の延長と高齢者の雇用
14.高齢者の雇用(3)高齢化と技能継承問題
15.高齢者の雇用(4)高齢者の雇用に向けて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★

年度	2015	授業コード	J20478001
科目名	企業金融論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics for Business		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	企業金融は金融論の一分野であり、とくに企業の資金調達の方法を中心に学ぶ。 具体的には、資金調達の方法である株式発行と社債発行に大別し、それぞれに関連した分析方法を学ぶ。分析方法を学ぶ際には、主に計算を通じた算定を行うので、数学や数式に抵抗を感じるかもしれない。しかしながら、電卓で計算できる簡単な設定から学ぶ予定なので、心配はない。 本講義では、企業金融における基本的な考え方を理解し、確認することを目的としている。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	平常点(20%)；複数回のレポート等による。 定期試験(80%)。		
到達目標	証券市場や金融市場について理解する。 企業金融における理論や技法の基礎的知識を習得する。		
準備学習	各回のレジュメを事前に「京学なび」にアップロードするので、講義前に目を通しておくこと。 証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 自分の好きな企業の経営方針、事業内容および財務情報等を学期中に調査すること。 金融論、ファイナンスの数理を併せて受講することが望ましい。		
受講者への要望			
授業中の私語厳禁・携帯電話利用禁止。 電卓を毎回持参すること。			
講義の順序とポイント			
1. 企業金融輪なぜ学ぶか 2. 金融市場の役割 3. 財務諸表の基礎と企業の資金調達手段 4. 企業の資金調達 - 株式発行 5. 財務諸表の分析 ① - 収益性 6. 財務諸表の分析 ② - 財務安全性と成長性 7. 株式分析 - 配当割引モデル 8. 株式分析 - ポートフォリオ分析 ① 9. 株式分析 - ポートフォリオ分析 ② 10. 株式分析 - マーケット・モデル 11. 株式分析 - 資本資産価格評価モデル（CAPM） 12. 企業の資金調達 - 社債発行と証券化 13. 債券の価格と利回り ① 14. 債券の価格と利回り ② 15. まとめ： 演習の復習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★

年度	2015	授業コード	J20482A01
科目名	日本文学概論Ａ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Studies of Japanese Literature A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	平安時代の物語		
教材（テキスト）	プリントを用意する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内に作成する小レポート　３点満点×１５回 単元ごとに提出する中レポート　20 点満点×３回 以上の合計を 100 点満点に換算する。		
到達目標	平安文学の中でも、特に物語を概観し、同時代の物語文学の状況について基礎的な知識を身につける。 また、物語が問いかけたテーマについて、時代を超えて考察する。		
準備学習	高校の日本史・文学史における平安時代の記述を読んでおくことが望ましい。		

受講者への要望

授業内ではしばしば発言を求めるので、積極的に答えてほしい。

講義の順序とポイント

1　授業の概要、評価方法等について　竹取物語１　口承伝承と書かれた物語
2　竹取物語２　求婚難題譚
3　竹取物語３　帝の造型
4　竹取物語４　月に帰る姫
5　竹取物語５　「かぐや姫」の罪

6　伊勢物語１　在原業平・実像と和歌と物語（一代記の発想）
7　伊勢物語２　二条のきさきとの秘話
8　伊勢物語３　伊勢斎宮との秘話
9　伊勢物語４　政治の裏側で
10　伊勢物語５　拡大する「昔男」像

11　源氏物語１　初めてのリアリズム（読者からの異議申し立て）
12　源氏物語２　男のリアリズム　光源氏の息子・夕霧の元服
13　源氏物語３　夕霧、大学受験
14　源氏物語４　夕霧の初恋
15　源氏物語５　夕霧の恋の成就

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	J20482B01
科目名	日本文学概論Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Studies of Japanese Literature B		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	平安時代史を文学資料で読む		
教材（テキスト）	プリントを用意する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の授業での小レポート　4 点×15 回 単元ごとの中レポート　20 点× 3 回 以上を加算して 100 点満点に換算する。		
到達目標	平安文学から、実在の人物たちの人生と思想を知ることで、その置かれた状況、文化的土壌、人間の普遍的葛藤などを学ぶ。また、いくつかの資料を対照することで、人物像や事実を立体的に把握する。		
準備学習	土佐日記・古今和歌集・蜻蛉日記・大鏡・紫式部日記について、その概要と文学史上の位置づけを調べておくこと。		

受講者への要望

授業内ではしばしば意見を求めるので、積極的に発言してほしい。

講義の順序とポイント

1　授業の概要 評価方法等の説明
　紀貫之１　土佐日記以前　菅原道真とその失脚
2　紀貫之２　土佐日記以前　漢詩と古今和歌集
3　紀貫之３　土佐日記以前　醍醐天皇と紀貫之
4　紀貫之４　土佐日記　男の日記と女の日記

5　道長の父１　藤原兼家の人物像
6　道長の父２　妻の著作　蜻蛉日記その赤裸々な愛憎
7　道長の父３　妻の著作　蜻蛉日記はなぜ公表されたか
8　道長の父４　兄との確執
9　道長の父５　陰謀そして外祖父摂政　即位式の生首

10　紫式部１　過酷な人生
11　紫式部２　夫の死と源氏物語
12　紫式部２　宮仕え、彰子との出会い
13　紫式部３　漢文進講
14　紫式部４　藤原道長との関係
15　紫式部５　権力からの脱皮　宇治十帖へ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			★

年度	2015	授業コード	J20484001
科目名	京都のベンチャー企業論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Venture Corporation in Kyoto		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	この講座のキーワードは、京都およびベンチャー企業である。京都は伝統と革新のはざまにあって、日々進化し続けている。その結果現在では、一次産業から二次産業そして三次産業にわたりまた伝統企業からベンチャー企業まで、京都ブランドという名において、世界にその存在感を示している。そして多くの老舗企業が存立する中にあって京セラ、村田製作所、オムロン、ローム、堀場製作所、島津製作所などなど枚挙に暇がないほどのベンチャー企業が輩出していることは、特筆に値する。 このため本講座では、ベンチャー企業に横たわる、京都の歴史、文化、産業、ビジネス（老舗）についての理解を踏まえたうえで、ベンチャービジネスの数次にわたるブーム（流行）およびその本質（不易）の両面から、京都の地域性をも考慮に入れ、京都のベンチャー企業への知見を得たい。 特に総論としては、ベンチャー企業を支える、イノベーションと企業家精神について、各論としては、京都を代表するベンチャー企業を事例として研究したい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて講義内容についてのプリントを配布する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	京都のベンチャー企業研究を通して、京都への理解およびベンチャー企業への理解を進め、習得した知見を社会生活においても活用できることを達成目標とします。 なお、授業においては、ワークショップやグループディスカッションを予定しており、これらに積極的に参加することにより、目的達成への協働の重要性の認識やコミュニケーション能力の涵養を図りたい。		
準備学習	日頃から京都という地域、ベンチャーというビジネスに関心を持つとともに、それらに関する諸情報の入手にメディアなどの活用を心掛ける。 また授業内において行うグループディスカッションの資料などは、事前に配布するので熟読しておくこと。		
受講者への要望			
京都およびベンチャー企業に興味を持ち、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　本講義の概要と進め方 2　京都の歴史・文化・産業・ビジネスについて① 3　京都の歴史・文化・産業・ビジネスについて② 4　京都の歴史・文化・産業・ビジネスについて③ 5　京都ベンチャー企業を支えるイノベーションと企業家精神について① 6　京都ベンチャー企業を支えるイノベーションと企業家精神について② 7　京都ベンチャー企業における理念・戦略・組織① 8　京都ベンチャー企業における理念・戦略・組織② 9　京都ベンチャー企業における理念・戦略・組織③ 10　京都におけるベンチャー支援システム① 11　京都におけるベンチャー支援システム② 12　京都ベンチャー企業の事例研究① 13　京都ベンチャー企業の事例研究② 14　ベンチャービジネスの実際（ビジネスチャンスの発見・経営資源の調達・ビジネスモデルの構築）① 15　ベンチャービジネスの実際（ビジネスチャンスの発見・経営資源の調達・ビジネスモデルの構築）②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J20523001
科目名	家計金融論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics for Household		
担当者名	坂本　勝	旧科目名称	
講義概要	こだわりのライフスタイルがもてはやされる時代。 好きなように生きるのは個人の自由ですが、そこには「自己責任」の認識を持たなければなりません。 得をするのも損をするのも、自分の選択した「ライフプランニング」の巧拙で大きく変わります。 実社会では現実に「知っている人は得をして、知らない人は損をする」ことが起こります。 この講座では、上手なライフプランの実現に必要な知識となるファイナンシャルプランニングを学びます。 金融商品･年金･保険･税金や実現の前提となる金融や経済情勢を、家計簿やチラシの見方、ポイントカードなど日常生活の身近な事例から解説していきます。 人生 80 年、あなたのこれからの人生で、いくらの生活資金が必要でしょう？また、いくら準備できますか？ 全て、この視点を持って講義に参加してください。		
教材（テキスト）	なし、各講義で適時プリントを配布する。		
教材（参考文献）	日々の新聞（新聞名は問わない）　朝刊・夕刊・曜日版など		
教材（その他）	学生生活マネー＆キャリアハンドブック（日本 FP 協会） その他プリントを適時配布		
評価方法	授業中に行なう確認テスト（40%）　レポート課題（20%）　定期テスト（40%）		
到達目標	最終目標は、生涯に必要となる資金計画を具体的に把握し、 そのために必要な手立てが行なえる能力を身につけるレベルです。 全ての講義回はそのための基本知識です。		
準備学習	新聞等経済ニュースには目を通すように。 特に、自分の生活に直結する『金銭・データ』は、メモをしておくように。 毎回の授業最初に行う確認テストにおいて、質問を行ないます。		

受講者への要望

各回の講義内容は難しいものではありません。
「面白そう」「ためになりそう」など履修動機は問いませんが、成績は、公表している評価方法により厳密に判定します。

経済状況を知る上で、新聞は必読です。購読が無理でも図書館で確認してください。
日々の習慣にないのであれば、必ず読むように心がけてください。
半期続ければ、今後の展開に自分なりの意見が持てるようになります。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス
2.ライフプランニング①（一生涯に必要な金額）
3.ライフプランニング②（ライフイベントに必要となる金額）
4.ライフプランニング③（社会保険制度の仕組み）
5.ライフプランニング④（年金制度の概要）
6.保険の知識①（生命保険の仕組み）
7.保険の知識②（損害保険の仕組み）
8.金融商品①（経済状況と金融の関連性）
9.金融商品②（各金融機関の特性と金融商品）
10.金融商品③（主な金融商品の知識）
11.金融商品④（投資型金融商品の知識）
12.不動産の知識①（不動産関連法規）
13.不動産の知識②（不動産の活用と税金）
14.生活に関連する税の知識①（所得税の仕組み）
15.生活に関連する税の知識②（消費税、相続・贈与税）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J2056200A
科目名	世界経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the World Economy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	経済のグロ－バル化が急速に進展する今日、世界経済の動向および実情を的確に理解することは極めて重要です。この講義は 3 人の講師がリレ－方式で実施します。ヨ－ロッパ（内山）、アジア（尾崎）、アメリカ（宮川）を中心にして、いま世界経済はどのような状況になっているのか、世界経済の潮流が分析、紹介されます。　この講義では毎回理解度を確認するための小テストが実施されるので、休まないようにすることが大切です。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	講義進度に応じて紹介をする。		
教材（その他）			
評価方法	平常点により評価（毎回講義内で講義理解度を見るための小テストを実施するので、その点数および出席状況））。		
到達目標	世界経済の現状をおおまかに把握でき、自分なりに世界経済の現状について語れること。		
準備学習	事前に資料を配布する、また参考文献を紹介するので、講義前にそれらの文献、資料をよく読んでおくこと。		
受講者への要望			
この講義では出席も重視されるので、病気以外は絶対に休まないこと。			
講義の順序とポイント			
1．　世界の中の EU 2．　欧州統合の歴史---拡大の歴史--- 3．　欧州統合の歴史---深化の歴史--- 4．　EU の政治機構と経済 5．　リスボン戦略から新経済成長戦略「欧州２０２０」へ 6．　世界の中のアジア 7．　巨大国家、中国とインドの躍進 8．　東アジアの国々と社会 9．　奇蹟の経済成長と経済危機 10. 変貌する貿易・産業構造、日本・中国・アメリカ 11.　世界の中のアメリカ 12.「大草原の小さな家」時代のアメリカ 13.　大恐慌のアメリカ 14.　偉大な社会、ケネディの時代からインフレと戦うレ－ガンの時代 15. サブプライムショックとアメリカ経済			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J20565001
科目名	情報処理技術	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Processing Technology		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	社会人には、一定の情報に関する知識と情報技術が求められている。データの特徴に応じた情報の整理・分類、必要に応じた表・グラフの作成、さらに、業務・処理フローを把握し、改善を加え、情報処理が行える情報技術である。これら、知識・技術を習得するための講座である。		
教材（テキスト）	なし　各講義で資料をネットワークから配布する。		
教材（参考文献）	教材から指示する。		
教材（その他）	ネットワークから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況と提出物（40%）等,e-learning により課す課題評価（60%）		
到達目標	社会人として必要なコンピュータ操作が行え、機能を把握し、データから表・関係データベースを作成し、業務に活用できる。		
準備学習	新技術・機器等の推移を知ることを心がけ、情報関連機器等に用いられている技術等を調べ、概要を把握する。また、関連するソフトウエアは単純な例を用い、実際に使用し、特性等を理解しておく。		

受講者への要望

能動的な姿勢で課題に取り組むことを期待する。

講義の順序とポイント

1.講義の概要、e-learning の進め方
　セキュリティ問題と対策
　　セキュリティと暗号技術、ディジタル署名
　システムの信頼性、ネットワークの接続と信頼性
2.基本的なデータ構造
　各種データ構造の特徴
　線形構造と木構造、表・スタック・キュー・2 分探索木
　表計算
　　表計算を使った集計・統合処理および検索・抽出処理
3.SQL 文から見たデータベース
　　テーブル作成からサブクエリ
4.データベース
　データベースの種類と特徴
　ファイル 正規化演習
5.リレーショナルデータベース
　構造と正規化、設計
6.データベースを使ったデータ処理（１　正規化作業）
　データ整理、集計、分析
7.データベースを使ったデータ処理（２　Select 文の基本）
　データ整理、集計、分析
8.データベースと SQL（１　データ処理演習）
　SQL 言語による操作
　　問い合わせ、副問い合わせ
9.データベースと SQL（２　流れのある処理）
　SQL 言語による定義・生成と修正
　　表の設計、表・ビューの定義
10.データベースの設計・利用
　　演習　ＳＱＬ操作理解確認演習
11.SQL によるデータベースの定義・利用
　　演習　SQL・データベースまとめ課題
12.スクリプト(java)
　スクリプト記述の基本

基本処理手順のスクリプト記述 13.スクリプトと基本アルゴリズム 連接・繰り返し・判断 イベント処理 14.基本的なアルゴリズム 並べ替え処理と記述、関数作成・割り込み スクリプト演習：バブルソート 15.総合演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J20566001
科目名	情報社会と経済	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Enocomics		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	20 世紀末に情報通信技術分野のイノベーションにより、世界各国で「工業社会から情報社会」への進化」が加速してきた。日本の経済や個人の生活の枠組みはこの IT 革命と呼ばれているイノベーションと同期するスピードで変わり始め、その先には「進化する高度情報社会」が到来しようとしている。これからの高度情報社会では、生活や経済がどのように さらに変化していくのでしあろうか？ 21 世紀の情報社会ではこれまでの工業社会では経験できなかった新しい事業形態や製品が創発されてきている。その結果、経済活動に大きな影響力のある銀行・証券などの金融業界をはじめ、製造業、農業、個人生活のインフラである交通、エネルギー、流通、さらには行政、教育、サービス等のあらゆる分野で変化がおこりつつある。 本講義は、①この IT 革命を引き起こした技術イノベーションはどのようなものなのか？ ②IT イノベーションによって各分野でどのような変化がおこっているのか？ を考察し、暮らしへの影響や企業経営への影響、国家経済への影響等について学習し、その結果、これからの私たちの「経済活動」すなわち「暮らし」はどのように変化していくのか推測する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に適時指示する		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+「平常点」(30%)		
到達目標	IT イノベーションよる暮らしへの影響や企業経営への影響、国家経済への影響等について学習し、これからの高度情報化社会での「経済活動」すなわち「暮らし」はそのように進化するのか等の知見の習得。		
準備学習	情報社会になって「新しく創出された事業は各業界でどのような例があるか？」、あるいは「インターネットバンキング」、「電子マネー」など工業社会での事業携帯の違いを予習しておくこと。		

受講者への要望

1. 講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。
2. 講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

1. 講義の内容と進め方について
2. 工業社会から情報社会へ （産業革命から IT 革命）
3. IT 革命を引き起こした技術イノベーション
4. IT 革命を引き起こしたキーテクノロジー(1) ノイマン式コンピュータの開発
5. IT 革命を引き起こしたキーテクノロジー(2) 情報通信技術の進歩（インターネット）
6. IT 革命を引き起こしたキーテクノロジー(3) 半導体の発明と開発競争（集積技術、量産技術）
7. 情報社会を創発したグローバル企業 （インテル、モトローラ、ノキア、マイクロソフト、アップル）
8. 情報社会で創業した企業（グーグル、フェイスブック、楽天、ヤフー等）
9. 情報社会での企業の技術経営
10. 情報社会での新しい事業(1) モバイルフォン
11. 情報社会での新しい事業(2) 電子商取引
12. 情報社会での新しい事業(3) 電子マネー
13. 情報社会での既存業界における新しい事業形態 （金融（銀行、証券)、小売り（百貨店、スーパー、書店）等）
14. 情報社会が経済に与える影響
15. これからの高度情報社会での暮らしと経済

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J20569001
科目名	Ｗｅｂ技術応用	単位数	1
科目名（英語表記）	Web Technological Application Theory		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	Web アプリケーションを構築するために必要な機能を解説し、Web ページ作成と効果的な Web ページ技法の修得をねらいとする。ホームページを記述する HTML 言語、またホームページ作成ソフトを用いてホームページを作成し、HTML の構造・特徴、運用上必要な事項、スクリプトによる動的なページの作成について説明する。インターネット技術の多様性と Web 技術を体系的に学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、各講義で資料をネットワークドライブから配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	ネットワークドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	授業中に課す課題（70%）および課題 Web ページ作成（30%）により評価する。（課題 Web ページ作成は必修）		
到達目標	目的に応じた Web ページの製作が行え、効果的な情報発信が行える。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、Web ページ記述言語等の仕様の推移を調べ、追加された事項等を把握し、可能ならば試用する。試用できない場合は、仮記述を講義時に確認することとし、記述のみを行う。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

１．ホームページとインターネット
　インターネット技術の多様性
２．ホームページ閲覧ソフト、公開ソフトの解説
　Web アプリケーションを構築するために必要な機能
３．ホームページ作成ソフトと HTML の解説
４．タグを用いたページの作成
　基本的なタグの解説、画像を含むページの作成
５．ページ間リンク記述
演習：基本的なタグ、各種リンクタグの適用
６．ページの公開
　ウエブサーバ機能の解説
演習：サイト管理
７．ホームページ作成ソフトを用いたページの作成
　スタイルシートと適用
演習：スタイルシートの作成と適用
８．フレームを持つページの作成、各種リンクの作成
演習：フレームを持つページの作成
９．マルチメディアの組み込み
演習：マルチメディアを含んだページの作成
１０．HTML とスクリプト
　スクリプトの基礎、HTML の生成、マウス処理
演習：スクリプトによる動的なページの作成
１１．フォームとスクリプト処理
　フォームとスクリプトの利用、データベースの利用
演習：データベースとの連携
演習：アンケートページの作成
１２．情報モラルについて
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、
プライバシーの保護
１３．既存資料から Web ページの作成　（携帯端末の利用）

演習：既存資料から Web ページの作成 １４．Web ページの作成と提出 演習：課題 Web ページ作成 １５．Web ページの作成と提出 演習：Web ページの改善

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J20570A01
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Planning Ⅰ		
担当者名	岡本　久嗣	旧科目名称	
講義概要	本講義はＦＰの基礎である不動産運用設計、金融商品設計、保険、リタイヤメントプランニングの基礎を学習する。また、春学期の「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ資格の認定講義となっているため、本講義の位置づけはそれらの科目と同様にＦＰ資格取得を目指す講義としたい。		
教材（テキスト）	『ファイナンシャル・プランニング入門　第 2 版』(日本 FP 協会)および、「FP 基礎」学習時のテキストとして、『FP 総論』(日本 FP 協会)		
教材（参考文献）	宮口定雄『税務ハンドブック　平成 27 年度版』パーソナル社、『3 級 FP テキストⅠ・Ⅱ　2015～2016 年度版』　FPK 研修センター		
教材（その他）	問題集の使用を予定		
評価方法	レポートの提出を義務づける。そのレポートの内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	難易度を高く設定はしないが、FP としての基本を理解し、AFP 資格審査試験取得チャレンジに向けた知識の習得を図る。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		

受講者への要望

受講者への要望

春学期の「ファイナンシャルプランニングⅠ」「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ認定の講座になっているのでＦＰ資格の取得を目指す学生は全科目を受講すること。(ファイナンシャルプランニングⅠ・Ⅱ・Ⅲと金融入門の合計 4 科目)

講義の順序とポイント

1　ファイナンシャル・プランニングを学ぶ意味
2　FP の社会的役割
3 社会的責任とコンプライアンス
4 不動産の見方
5 不動産の動向と分析
6 金融・経済の知識
7 最近の金融動向
8 利回り計算と割引現在価値
9 株式と債券
10 投資信託
11 金融派生商品
12 生命保険
13 損害保険
14 リタイヤメントプラントと年金問題
15 ファイナンシャルプランニングⅡに向けて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J20570B01
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅡ	単位数	4
科目名（英語表記）	Financial PlanningⅡ		
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	日本の税制の仕組みと各税目を理解したうえで、「ライフサイクル(人間の一生)」の中で税金とどのように向き合うことになるのかを学ぶ講義である。よって「税金の話」だと考えてもらいたい。なお、住宅取得、金融商品売買、退職等のライフイベントの内容については春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」の中で学習をする。		
教材（テキスト）	『タックスプランニング』(日本 FP 協会)、『税務ハンドブック　平成 27 年度版』(宮口定雄著・コントロール社)他		
教材（参考文献）	国税庁 パンフレット「暮らしの税情報」（平成 27 年度版） 三木義一　『日本の税金』　岩波新書		
教材（その他）	ファイナンシャルプランニングⅠで使用する『FP3 級テキストⅠ・Ⅱ』(FPK 研修センター)		
評価方法	レポート(提案書)の提出を義務づける。その提案書の内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	社会人になるということは『納税者』になること。税を学びながら、自分の将来設計をより具体的に描けるようになってもらいたい。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		

受講者への要望

春学期のファイナンシャル・プランニングⅠと共にファイナンシャル・プランニングⅡは AFP 認定の講義となっているので FP 資格に興味のある学生は併せて履修をしてほしい。

講義の順序とポイント

1	租税法律主義と税法体系
2	直接税と間接税
3	申告納税方式と賦課課税方式
4	所得税の概要と仕組み
5	利子所得
6	配当所得
7	不動産所得
8	事業所得
9	給与所得
10	退職所得
11	山林所得
12	譲渡所得
13	一時所得
14	雑所得
15	非課税所得
16	相続税①
17	相続税②
18	相続税③
19	贈与税①
20	贈与税②
21	金融商品売買に関わる税金①
22	金融商品売買に関わる税金②
23	不動産に関わる税金①
24	不動産に関わる税金②
25	不動産に関わる税金③
26	公的年金等の税金①
27	公的年金等の税金②
28	公的年金等の税金③
29	実例の考察①

30　　実例の考察②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J20572A01
科目名	情報処理概論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Information Processing A		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	情報社会において企業、学校、家庭を問わずパーソナルコンピュータやインターネットは必需品として使用されており、社会科学系、自然科学系を問わず、社会でどのような分野の仕事に就こうとも多かれ少なかれ情報処理システムを利用することになる。このような情報社会での進化に取り残されることなく暮らしてしていくにはワープロ、表計算ソフトウエアの操作方法等の知識だけではなく、情報処理に関する知識を習得することが必要不可欠となってきている。 　本講義では、「コンピュータの歴史」、「ハードウエア、ソフトウエアの基本的構成」等の情報社会での生活に不可欠な情報処理技術の基礎知識を習得する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	井上　義祐、小池　俊隆　編書　「経営情報処理概論（改訂版）」　同文館出版 飯島　淳一　著　「入門　情報システム学」 上山　清二　著　「Web で学ぶ情報処理概論」　晃洋書房		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+平常点(30%)		
到達目標	コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	現代の進化している情報社会での「暮らしの中の情報機器・システムはどのようなものがあるか？」、また「それらの機器・システムでのコンピュータの役割は何か？」等を予習しておくこと。		

受講者への要望

1.　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。
2.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

1.　講義の内容と進め方
2.　コンピュータの歴史
3.　コンピュータの種類
4.　ディジタルとアナログ
5.　ハードウエアとソフトウエア
6.　情報の表現　10 進数と 2 進数
7.　コンピュータの計算の仕組みー2 進数による計算
8.　コンピュータの基本論理回路
9.　コンピュータの構成装置(1) 入力装置　出力装置
10.　コンピュータの構成装置(2) 制御装置　演算装置　　記憶装置
11.　コンピュータの情報処理方式(1)　コンピュータシステムと信頼性
12.　コンピュータの情報処理方式(2)　集中処理と分散処理
13.　コンピュータの情報処理方式(3)　シンプレックス、デュプレックス、デュアルシステム等
14.　情報技術と通信技術の結合
15.　これからの情報処理技術

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J20572A02
科目名	情報処理概論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Information Processing A		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	情報社会において企業、学校、家庭を問わずパーソナルコンピュータやインターネットは必需品として使用されており、社会科学系、自然科学系を問わず、社会でどのような分野の仕事に就こうとも多かれ少なかれ情報処理システムを利用することになる。このような情報社会での進化に取り残されることなく暮らしてしていくにはワープロ、表計算ソフトウエアの操作方法等の知識だけではなく、情報処理に関する知識を習得することが必要不可欠となってきている。 　本講義では、「コンピュータの歴史」、「ハードウエア、ソフトウエアの基本的構成」等の情報社会での生活に不可欠な情報処理技術の基礎知識を習得する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	井上　義祐、小池　俊隆　編書　「経営情報処理概論（改訂版）」　同文館出版 飯島　淳一　著　「入門　情報システム学」 上山　清二　著　「Web で学ぶ情報処理概論」　晃洋書房		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+平常点(30%)		
到達目標	コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	現代の進化している情報社会での「暮らしの中の情報機器・システムはどのようなものがあるか？」、また「それらの機器・システムでのコンピュータの役割は何か？」等を予習しておくこと。		

受講者への要望

1.　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。
2.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

1.　講義の内容と進め方
2.　コンピュータの歴史
3.　コンピュータの種類
4.　ディジタルとアナログ
5.　ハードウエアとソフトウエア
6.　情報の表現　10 進数と 2 進数
7.　コンピュータの計算の仕組みー2 進数による計算
8.　コンピュータの基本論理回路
9.　コンピュータの構成装置(1) 入力装置　出力装置
10.　コンピュータの構成装置(2) 制御装置　演算装置　　記憶装置
11.　コンピュータの情報処理方式(1)　コンピュータシステムと信頼性
12.　コンピュータの情報処理方式(2)　集中処理と分散処理
13.　コンピュータの情報処理方式(3)　シンプレックス、デュプレックス、デュアルシステム等
14.　情報技術と通信技術の結合
15.　これからの情報処理技術

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J20572B01
科目名	情報処理概論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Information Processing B		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	情報社会において企業、学校、家庭を問わずパーソナルコンピュータやインターネットは必需品として使用されており、社会科学系、自然科学系を問わず、社会でどのような分野の仕事に就こうとも多かれ少なかれ情報処理システムを利用することになる。このような情報社会での進化に取り残されることなく暮らしてしていくにはワープロ、表計算ソフトウエアの操作方法等の知識だけではなく、情報処理に関する知識を常に習得することが必要不可欠となってきている。 　本講義では、「OS」、「情報システム」、「ネットワーク技術」、「セキュリティ技術」等の情報社会での生活に不可欠な情報処理技術の基礎知識を習得する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	井上　義祐、小池　俊隆　編書　「経営情報処理概論（改訂版）」　同文館出版 飯島　淳一　著　「入門　情報システム学」 上山　清二　著　「Web で学ぶ情報処理概論」　晃洋書房		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+平常点(30%)		
到達目標	コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	現代の進化している情報社会での「暮らしの中の情報機器・システムはどのようなものがあるか？」、また「それらの機器・システムでのコンピュータの役割は何か？」等を予習しておくこと。		
受講者への要望			
1.　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。 2.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1.　講義の内容と進め方 2.　OS について 3.　情報システム（1）　勘定系システム、　POS システム、 4.　情報システム（2）　地理情報システム、図書館システム 5.　情報ネットワークシステム　LAN WAN PAN 6.　電話ネットワークとインターネット 7.　SNS 8.　個人情報 9.　情報社会での知的財産権 10. 反社会的情報 11.　コンピュータウイルス 12. 情報社会での危険 13. 情報倫理とネチケット 14. 企業での情報セキュリティ 15　高度情報社会への発展（暮らしのなかの情報処理）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J20572B02
科目名	情報処理概論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Information Processing B		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	情報社会において企業、学校、家庭を問わずパーソナルコンピュータやインターネットは必需品として使用されており、社会科学系、自然科学系を問わず、社会でどのような分野の仕事に就こうとも多かれ少なかれ情報処理システムを利用することになる。このような情報社会での進化に取り残されることなく暮らしてしていくにはワープロ、表計算ソフトウエアの操作方法等の知識だけではなく、情報処理に関する知識を常に習得することが必要不可欠となってきている。 　本講義では、「OS」、「情報システム」、「ネットワーク技術」、「セキュリティ技術」等の情報社会での生活に不可欠な情報処理技術の基礎知識を習得する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	井上　義祐、小池　俊隆　編書　「経営情報処理概論（改訂版）」　同文館出版 飯島　淳一　著　「入門　情報システム学」 上山　清二　著　「Web で学ぶ情報処理概論」　晃洋書房		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+平常点(30%)		
到達目標	コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	現代の進化している情報社会での「暮らしの中の情報機器・システムはどのようなものがあるか？」、また「それらの機器・システムでのコンピュータの役割は何か？」等を予習しておくこと。		
受講者への要望			
1.　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。 2.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1.　講義の内容と進め方 2.　OS について 3.　情報システム（1）　勘定系システム、　POS システム、 4.　情報システム（2）　地理情報システム、図書館システム 5.　情報ネットワークシステム　LAN WAN PAN 6.　電話ネットワークとインターネット 7.　SNS 8.　個人情報 9.　情報社会での知的財産権 10. 反社会的情報 11.　コンピュータウイルス 12. 情報社会での危険 13. 情報倫理とネチケット 14. 企業での情報セキュリティ 15　高度情報社会への発展（暮らしのなかの情報処理）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J20573A01
科目名	国際経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年，グローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつのかを学習するのが国際経済学です．国際経済学 A では，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，基礎的な貿易モデルから貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明します．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の初歩的な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，貿易政策の貿易効果に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	ミクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましいので，できればミクロ経済学を受講した上でのぞんでください．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに提出するようにして下さい．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とします．遅刻の場合，その理由を求めます．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求めます．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰 3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰 4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡 5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1) 6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2) 7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1) 8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2) 9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡 10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1) 11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2) 12. 貿易政策の理論：関税の効果(1) 13. 貿易政策の理論：関税の効果(2) 14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果 15. 貿易政策の理論：消費税の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J20573B01
科目名	国際経済学 B	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年，グローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつのかを学習するのが国際経済学です．国際経済学 B では，まず，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，応用的な貿易モデルから貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明します．また，別のグローバル化の要因であるヒトやカネの国際移動が経済に当たる影響についても説明します．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の主要な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，生産要素移動の経済に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	ミクロ経済学と国際経済学 A の授業を履修しておくことが望ましいので，できればそれらの科目を受講した上でのぞんでください．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに提出するようにして下さい．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とします．遅刻の場合，その理由を求めます．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求めます．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. リカード・モデル：絶対優位と比較優位 3. リカード・モデル：生産可能性フロンティア 4. リカード・モデル：相対価格と貿易パターン 5. リカード・モデル：世界市場での相対価格の決定 6. リカード・モデル：自由貿易均衡と貿易利益 7. ヘクシャー=オリーン・モデル：リカード・モデルとヘクシャー=オリーン・モデル 8. ヘクシャー=オリーン・モデル：固定係数モデル 9. ヘクシャー=オリーン・モデル：リプチンスキー定理 10. ヘクシャー=オリーン・モデル：ヘクシャー=オリーン定理 11. ヘクシャー=オリーン・モデル：ストルパー=サミュエルソン定理 12. ヘクシャー=オリーン・モデル：要素価格均等化定理 13. 生産要素の国際移動：国際間の資本移動とは 14. 生産要素の国際移動：リカード・モデルにおける労働移動の効果 15. 生産要素の国際移動：2 生産要素モデルでの資本移動の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J20574A01
科目名	福祉社会論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Welfare Society A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	戦後、西側各国が政策目標として掲げた「福祉国家」は、高度経済成長期にその黄金期を迎えた。しかし、高度成長が終わりを告げ、加えて人口構造の高齢化が進む中で、従来の福祉国家路線を歩み続けることが困難であるということは誰の目にも明らかになっていった。こうした状況の下で、福祉国家をめぐっては様々な方向から議論が展開されてきたが、近年、それらの中でも、福祉国家をたんに再生させようとするのではなく、それを超えようとする議論、すなわち「福祉社会」への移行の道を探る動きが活発になっている。 そこで本講義では、現代の少子高齢社会日本が抱える諸問題について、年金、医療、介護といった社会保障の各分野との関連において多角的に検討し、来たるべき福祉社会を展望したい。 なお、本講義は「福祉社会論」であって、「社会福祉論」ではないので、受講（予定）者には誤解のないよう注意してもらいたい。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	足立正樹（著）『高齢社会と福祉社会』高管出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、　学期末試験（55%）		
到達目標	高齢化の進行とともに先進諸国にどのような問題が発生しているのか、その背景も含めて理解し、今後のわが国の社会のあり方について考える視座を得ること。		
準備学習	・日ごろから広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・理解をより深めるため、「福祉社会論Ｂ」（秋学期開講）をあわせて受講することが望ましい。
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．授業の進め方と講義の概要
２．国民生活と社会保障
３．少子・高齢社会の到来①　（参考文献の第１章）
４．少子・高齢社会の到来②　（同上）
５．社会保障の誕生　（同上）
６．社会保障の普及　（同上）
７．日本の社会保障　（同上）
８．高齢化と医療保障　（同上）
９．高齢化と年金問題　（同上）
１０．介護問題登場の背景　（参考文献の第２章）
１１．四種類の介護供給システム　（同上）
１２．わが国の介護保障システムの展開　（同上）
１３．公的介護保険の構造と問題点　（同上）
１４．介護保険の 2005 年改正とその後の展開　（同上）
１５．福祉国家から福祉社会へ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J20574B01
科目名	福祉社会論 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Welfare Society B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	戦後、西側各国が政策目標として掲げた「福祉国家」は、高度経済成長期にその黄金期を迎えた。しかし、高度成長が終わりを告げ、加えて人口構造の高齢化が進む中で、従来の福祉国家路線を歩み続けることが困難であるということは誰の目にも明らかになっていった。こうした状況の下で、福祉国家をめぐっては様々な方向から議論が展開されてきたが、近年、それらの中でも、福祉国家をたんに再生させようとするのではなく、それを超えようとする議論、すなわち「福祉社会」への移行の道を探る動きが活発になっている。 そこで本講義では、現代の少子高齢社会日本における労働のあり方、さらには少子化、高齢化の要因とその影響について考察することを通じて、来たるべき「福祉社会」を展望したい。 なお、本講義は「福祉社会論」であって、「社会福祉論」ではないので、受講（予定）者には誤解のないよう注意してもらいたい。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	足立正樹（著）『高齢社会と福祉社会』高管出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、　学期末試験（55%）		
到達目標	高齢化の進行とともに先進諸国にどのような問題が発生しているのか、その背景も含めて理解し、今後のわが国の社会のあり方について考える視座を得ること。		
準備学習	・日ごろから広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・理解をより深めるため、本科目とともに「福祉社会論Ａ」（春学期開講）をあわせて受講することが望ましい。
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．少子化と高齢化
２．労働時間の短縮　（参考文献の第３章）
３．労働と自由時間　（同上）
４．わが国の勤労観　（同上）
５．自由時間の意識と活用形態　（同上）
６．無償労働と自由時間の使途　（同上）
７．少子社会の問題　（参考文献の第４章）
８．少子化の趨勢　（同上）
９．　「近代」の原理と人口動態　（同上）
１０．社会保障の限界　（同上）
１１．少子化対策の種類と各国の少子化対策　（同上）
１２．近代の精神　（参考文献の第５章）
１３．自由主義の構想と資本主義の内在的諸問題　（同上）
１４．福祉国家の誕生と経済社会問題　（同上）
１５．福祉国家批判と福祉社会の展望　（同上）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J20575001
科目名	技術移転論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	２１世紀の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。２０世紀におけるわが国の企業における技術経営戦略の一つであった「追いつき、追い越せ」のキャッチアップ時代とは異なり、いまや我々の前に進むべき用意された道はなく自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。その実現の手段として大学等の「知」を活用した国の産業競争力の強化という観点から産学官連携における技術移転は２１世紀における重要な位置付けであると考えられている。 　本講義では「技術移転」についての基礎知識を習得し、産学官連携や企業の技術経営の事例、地域との連携事例を学習していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	「産学官連携推進の知恵」、文部科学省産学官連携企画編集員会 「産学官連携の新たな展開に向けて」、文部科学省研究振興局		
教材（その他）			
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)＋「レポート＋試験」(50%）＋平常点(30%)		
到達目標	技術移転に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	技術移転、産学官連携活動の興味ある事例を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
１）　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること ２）　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める			
講義の順序とポイント			
1.　講義の内容と進め方 2.　技術移転とは？　産学官連携とは？ 3.　産学官連携支援体制づくり 4.　大学の「知」の発掘・発信と産業界のニーズ把握 5.　マッチング 6.　共同研究契約と知的財産権 7.　イノベーションを誘発する仕組み 8.　大学発ベンチャーの育成と支援 9.　産学官の連携事例（その１） 10. 産学官の連携事例（その２） 11. 産学官の連携事例（その３） 12. 地域と大学の連携事例（その１） 13. 地域と大学の連携事例（その２） 14. 地域と大学の連携事例（その３） 15. これからの連携と技術移転			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J20577001
科目名	幸福指標論	単位数	2
科目名（英語表記）	Happiness Index Designing		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	家族を作ることが消費の目的であるという戦後家族消費の時代は 1990 年代の後半に節目を迎えました。人生の中で、多くの人が正社員になり、終身雇用と年功序列の中でお金を貯めながら消費を楽しみ、定年後は悠々自適の老後を迎えるという消費の方程式が揺らいでいます。そして消費の主体は家族から個人になり、さらに人々は消費以外に人生の意味や目的を求め始めています。 戦後長く続いてきたお金と消費による幸福への信仰が崩れ、人々はお金や消費が目的ではない人生の幸福を求めています。この新しい幸福の尺度への関心は、日本だけでなく世界に広がっています。 2000 年代からブームになった幸福論をレビューして、今求められている幸福とは何かを整理します。 また、幸福論の理解の実践として、心理学や行動経済学の成果を踏まえつつ、各国や自治体の幸福指標づくりへの取り組みを紹介します。		
教材（テキスト）	キャロル・グラハム著　多田洋介訳『幸福の経済学―人々を豊かにするものは何か』日本経済新聞出版社 2,160 円		
教材（参考文献）	山田昌弘＋電通チームハピネス『幸福の方程式』ディスカヴァー携書　1,080 円		
教材（その他）	パワーポイントおよびプリントを適宜配布		
評価方法	小レポート(20%)、定期テスト(60%)、授業時の発言の積極性(20%)		
到達目標	●2000 年代から論じられている「幸福論」の切実な議論を理解し、これからの社会に求められている社会のデザインに重要な指標であることを理解する ●幸福論や行動経済学で論じられている主要な学説や論点を理解する ●各国や自治体が作成している幸福指標の考え方と内容について理解する		
準備学習	次回の授業に関連する資料を事前に配布しますので、事前に資料を熟読することを求めます		

受講者への要望

●遅刻、途中退席は不可。授業中の私語と SNS 使用の禁止を求めます。
●授業中の積極的な発言や質問により、授業にコントリビューション(貢献)を期待します
●一回でも授業が欠けるとその後の理解に支障が出ますので連続的に出席してください。

講義の順序とポイント

1. 幸福論ブームの流れ　なぜ人々は幸福を意図的に論じることになったのか
2. 幸福論の系譜　アリストテレスから行動経済学まで
3. 日本における幸福感の変遷
4. 幸福の種類　個人の幸福と社会の幸福、今の幸福と人生の幸福、幸福と不幸の関係
5. 人が幸福になれない理由　ヒューリスティックとバイアス、プロスペクト理論
6. 幸福と経済の関係
7. 幸福と労働との関係
8. 未来の消費は人を幸福に導いてくれるか
9. 各国の幸福指標の取り組み　OECD、ブータン、日本、フランス、イギリス
10. 幸福と不況や災害
11. マイクロファイナンス
12. ナッジ（選びたい選択を選ぶことが社会を良くすることになるしかけ）
13. SNS を社会の幸福に役立てる
14. 京都の幸福指標　京都幸福宣言
15. 幸福指標を政策に適用することの是非

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J30009001
科目名	アントレプレナー論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Entrepreneurship		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	急速に変動する社会におけるアントレプレナー（起業家）の現状と課題を知り、新しく事業を起こすために必要な考え方やノウハウとスキル、そのステップを理解する。 単に自ら事業を起こすだけでなく、企業内においても企業内起業や新規事業立ち上げができるアントレプレナーシップ（起業家精神）が求められている。その社会的背景と現状、起業の意義、そして起業するためには何をしなければならないのか、どのような課題設定をし、問題解決しなければならないのかを、起業の段階ごとに事例とともに学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	『事業構想と経営』梅木晃、井形浩治、堀池敏男、大石友子著（嵯峨野書院、2004 年） 『ベンチャー型新規開業事業の新動向』梅木晃、井形浩治、村上義昭、堀池敏男、大石友子著（嵯峨野書院、2007 年） 『起業学入門』高橋徳行著（経済産業調査会）		
教材（その他）	毎回レジュメプリントを配布する。 ビデオ・ＤＶＤ教材を活用する。		
評価方法	各回小レポート（50%）・授業内テスト（50%）		
到達目標	アントレプレナーの現状と課題を知り、新しく事業を起こすことの意味を知り、そのために必要な考え方とステップを理解することを目標とする。		
準備学習	講義終了時に課題を指定するので、それに関わる新聞や雑誌等を読んでおくこと。		

受講者への要望

他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。
積極的に授業参加をしてもらいたい。
やむを得ない遅刻・欠席の場合は、必ず事前または事後に報告すること。

講義の順序とポイント

1. アントレプレナーの定義と役割
2. 産業構造の変化とアントレプレナー
3. 労働市場から見た起業の意味
4. 新規開業調査に見る起業の実態
5. さまざまな支援体制
6. 海外のアントレプレナー
7. アメリカのアントレプレナー
8. 起業のステップ
9. ケーススタディ　事業機会の認識
10. 〃　経営資源の調達
11. 〃　資金調達
12. 〃　組織の作り方
13. 〃　人材確保と育成
14. 〃　創業時のマーケティング
15. 起業に関わる動向と課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★		★	★

年度	2015	授業コード	J30020001
科目名	キャリア・マネジメント論	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Management		
担当者名	楠奥　繁則	旧科目名称	
講義概要	君は勉強という言葉を耳にすると、無意識的に「嫌なもの」「苦痛なもの」など、ネガティブなものをイメージしてしまいませんか？実は、そのような大学生は多いのです（私もそうでした）。そのために、大学での学修に夢中になれない学生さんがわが国では多いのです。 卒業後、みなさんが充実したキャリアが歩めるようになるには、大学での学修が非常に重要になります。それはなぜでしょうか？また、大学での学修に夢中になるにはどのようにすればいいのでしょうか？この講義では、それらのことについて議論していきます。卒業後のキャリアについて真剣に考えている方、また、せっかく大学に入学したけれども、大学での学修に夢中になれない方に、是非この講義を履修して頂きたいと思います。なお、この講義は心理学の視点から議論します。心理学を全く学んだことがないけれども、心理学に興味のある方も履修してくれたらと思います。一緒に心理学を楽しんでみませんか？		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	本田由紀先生のツイッター< https://twitter.com/hahaguma>		
教材（その他）	配布資料などに基づいて授業を行います。		
評価方法	試験（100%）　※出席回数が 9 回以下の場合、試験を受けることはできません。		
到達目標	理論などの高度専門知識を用いて、仮説を導けるようになることを到達目標とします。そんなに難しいことではございません。しっかりと、説明しますので、ご心配なく。		
準備学習	授業で学んだ理論などの高度専門知識と、みなさん自身の経験（例えば、サークルやアルバイトの経験）や、身の周りの出来事、あるいは、社会問題などとを関連させて考えるようにしてほしいです。講義でそのやり方はアドバイスいたします。		
受講者への要望			
耳慣れない心理学の理論が多く登場すると思います。丁寧に説明いたしますので、一緒に心理学を楽しんでもらえたらと幸いです。			
講義の順序とポイント			
1. 科学するとは？：大学で学ぶということについて 2. 若者を取り巻く労働経済について 3. キャリア未決定問題と非正規雇用というキャリアについて 4. 職業能力開発について：社会人基礎力で十分か？資格取得だけでいいのか？ 5. 知識基盤社会と知識労働者について：プロのギャンブラーは知識労働者か？ 6. わが国の若者が勉強嫌いになる理由① 7. わが国の若者が勉強嫌いになる理由② 8. 大学生のアイデンティティについて 9. 個人で何でもできることが職業的「自立」を意味するのか？：SOC の視点から 10. 他者の自殺について考える 11. ブラック企業について：組織心理学の視点から 12. 労働者の権利について 13. 他者と自分を勇気づけるには？：セルフ・エフィカシー理論の視点から 14. なぜ大学での学びが君たちのキャリア形成に関わるのか？ 15. 大学での学びに夢中になるには？			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2015	授業コード	J30033001
科目名	スポーツ栄養学	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Nutrition		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	最近の日本人スポーツ選手には、プロ・アマを問わず、世界で活躍する選手が増えてきた。このような活躍の裏には、科学的理論に基づいたトレーニングの積み重ねがあるのは当然であるが、忘れてはいけないのがそのトレーニング効果を最大にする栄養・食事サポートである。 「スポーツ栄養学」では、スポーツに必要な体づくりや骨づくり、あるいはスポーツ能力に影響するスタミナや疲労回復のための栄養・食事の在り方について、その基礎と実際を学ぶ。ここで学ぶ理論と実際は、競技に関わる運動選手ばかりでなく、健康づくりのために運動・スポーツを愛好している者や、運動と栄養でもう少し健康になりたいと願っている全ての者に適用できるものである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	岡村浩嗣編著「市民からアスリートまでのスポーツ栄養学」		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	平常点（10%）、ミニテスト（20%）、定期試験（70%）		
到達目標	スポーツに必要な体づくりや骨づくり、あるいはスポーツ能力に影響するスタミナや疲労回復のための栄養・食事の在り方についてその理論を理解し、実際のスポーツや生活に生かせる知識を身につける。		
準備学習	授業のテキスト（レジメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業１週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。		

受講者への要望

日頃から、自分の食生活に関心を持つこと。
講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。
講義で得た知識を用いて健康増進や競技力向上を目指した食事を実践してほしい。
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません

講義の順序とポイント

1. はじめに：スポーツ栄養の意義
2. マクロ栄養素とその機能
3. ミクロ栄養素とその機能
4. エネルギー発生のメカニズムとエネルギー代謝
5. 運動と糖質および脂質代謝
6. 運動と蛋白質・アミノ酸代謝
7. 消化吸収
8. 体づくり（筋肉づり・骨づくり）と栄養
9. スタミナづくりと栄養
10. 運動と水分補給
11. 貧血・疲労の予防、回復と栄養
12. 肥満、痩せの健康障害と体重調節
13. コンディショニングと試合前・試合後の食事
14. 食事摂取基準
15. まとめ：健康づくりに必要な効果的なトレーニングと食生活

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J30052A01
科目名	ブランド・マネジメント論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Brand Management Ⅰ		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	ブランドがなぜマーケティングの中心課題となったのか、ブランド論が成立するまでの成り立ちを中心に、ブランドとは何か、ブランドをどう作るかについて学びます。 ブランドはマーケティングの歴史の中でも最も華やかな理論であり、マーケティングの集大成としての意味合いも持っています。 ブランドの本質を知ることで、ブランドをつくり、ブランドをコントロールするという、経営に最も近いマーケティング最高のスキルを学ぶことができます。		
教材（テキスト）	デービッド・アーカー『ブランド論---無形の差別化を作る 20 の基本原則』ダイアモンド社 2,592 円		
教材（参考文献）	田中洋『企業価値を高めるブランド戦略』講談社新書　820 円		
教材（その他）	パワーポイントおよびプリントを適宜配布		
評価方法	小レポート(20%)、定期テスト(60%)、授業時の発言の積極性(20%)		
到達目標	●ブランドを表面的な理解ではなく、本質から理解する ●ブランドの成り立ちを理解することで、ブランドの未来を洞察できるようにする		
準備学習	ブランド事例について、資料を事前に配布する場合があるので、その際は事前に資料を購読することを求めます		

受講者への要望

●遅刻、途中退席は不可。私語と授業中のＳＮＳの使用は禁止します。
●授業中の積極的な発言や質問により、授業にコントリビューション(貢献)を期待します
●一回でも授業が欠けるとその後の理解に支障が出ますので連続的に出席してください。

講義の順序とポイント

1. ブランドの起源　特にマーケティングコミュニケーションの視点から
2. 記号論としてのブランド　記号の消費
3. ブランド以前とブランド以降のマーケティングの考え方
4. ブランドとは何か　ブランドの種類、ブランドという体験、ブランドとＣＩの違い
5. デービッド・アーカー教授のブランド・エクイティ論
6. ブランドの時代としての 1990 年
7. ブランド・ビルディング　ブランドをどのようにつくるのか、つくれるのか
8. ブランド事例研究　飲料におけるブランド
9. 経営課題としてのブランド　ブランド・マネジメント、ブランドマネージャー
10. ブランドデザイン
11. ブランドのコミュニケーション
12. ブランドの測定と評価
13. ブランドからの逃走　倦ブランド、嫌ブランド　マクドナルド化する社会
14. インターネット時代のブランド　統一したブランドイメージの解体
15. これからの人はブランドの何にお金を払うのか（モノ、記号、安心、ブランド世界、体験）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J30052B01
科目名	ブランド・マネジメント論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Brand Management II		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	ブランドによって成功した事例を多数学びます。 マーケティングが経営課題として捉えられ、マスメディアからネットを含んだクロスメディア時代への変遷のなかで戦略的なコミュニケーション戦略としても捉えられています。 ダイナミックなマーケティングの展開の古典的な事例から最新の事例まで、アイデアいっぱいのマーケティングの世界を堪能します。		
教材（テキスト）	パワーポイントおよびプリントを適宜配布		
教材（参考文献）	熊本県庁チームくまモン『くまモンの秘密　地方公務員集団が起こしたサプライズ』幻冬舎新書 886 円 佐藤可士和『佐藤可士和の超整理術』日経ビジネス人文庫 571 円		
教材（その他）			
評価方法	小レポート(20%)、定期テスト(60%)、授業時の発言の積極性(20%)		
到達目標	●ブランドの応用事例を多数学び、世の中をブランドの体系として見ることができる眼力を養うと共に、ブランドをつくり、マネージできる基礎的なノウハウを身につけます		
準備学習	ブランド事例について、資料を事前に配布しますので、事前に資料を熟読することを求めます。		

受講者への要望

●遅刻、途中退席は不可。授業中の私語と SNS 使用の禁止を求めます。
●授業中の積極的な発言や質問により、授業にコントリビューション(貢献)を期待します
●一回でも授業が欠けるとその後の理解に支障が出ますので連続的に出席してください。

講義の順序とポイント

1. ブランド vs 低価格品　企業ビジョン　コモディティ化の回避
2. ブランドとユーザーの高齢化対策
3. サウス・ウエスト航空　優位なバリューチェーンをつくる
4. スターバックス　人の価値観を変える
5. ナイキ　こだわりでブランドを作る
6. 無印良品　シンプルという究極の価値のデザイン
7. ユニクロ　進化を続けるブランド
8. くまモン　拡散させるためのデザイン
9. R25　市場を開拓するためのデザイン
10. 缶コーヒー　競合を制するブランド
11. マルちゃん製麺　プレミアム商品戦略
12. 政党　政策をブランディングする
13. 大学のブランディング
14. 日本のブランディング
15. ブランド視点で見た消費社会の将来（人生と消費とブランドの関係）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J30061001
科目名	ベンチャー・ビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Venture Business Management		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	ベンチャービジネスについては、数次にわたるブーム（流行）の都度盛んに論じられてきた。しかし今日の経営を取り巻く環境変化を考えると、その変化への対応にはイノベーションの概念にかかる理解が不可分であり、ビジネスには、常にイノベーションを根幹とした、ベンチャービジネスの側面があると捉えることも可能である。その意味において、本講座ではベンチャービジネスの「流行」の側面を考察するに留まらず「不易」の側面からの接近も行いたい。このためベンチャービジネスの根底にあるイノベーションの本質およびベンチャービジネスをになう企業家(起業家）の理念・戦略・組織を中心に実践的な側面も併せ講義をする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	井形浩治、梅木晃編『事業構想と経営』（嵯峨野書院、2004 年） 井形浩治共著『ベンチャー型新規開業事業の新展開』（嵯峨野書院、2007） Ｐ.Ｆ.ドラッカー著上田惇夫訳『イノベーションと企業家精神』（ダイヤモンド社、2007）		
教材（その他）	必要に応じて講義内容についてのプリントを配布する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	ベンチャービジネスについての「基本と原則」および「実践」についての理解を目標として、社会においてもその知識およびその思考プロセスについて、活用が図れることを目的に学習を行う。		
準備学習	日頃からベンチャービジネスに関心を持つとともに、それらに関する諸情報の入手にあらゆるメディアの活用を心掛ける。 　授業で用いる資料については事前配布を行うので熟読されたい。		
受講者への要望			
ベンチャービジネスへの興味を持ち、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに(本講義の概要) 2　ベンチャービジネス(以下 VB という）の定義 3　VB の変遷の歴史 4　VB とイノベーション・企業（起業）家精神 5　VB の経営理念 6　VB の組織と戦略 1 7　VB の組織と戦略 2 8　VB とリーダーシップ 9　VB における会計的側面 １０　VB における資本政策と資金調達 １１　VB 創造の実際（VB のデザインからプランニングへ） １２　VB の事業機会の認識(ビジネスチャンスの発見) １３　VB の経営資源の調達(ベンチャー支援策の活用) １４　VB システムの構築(ビジネスモデル特許など) １５　本論の将来展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J30069001
科目名	リーダーシップ論	単位数	2
科目名（英語表記）	Leadership		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	組織とは，なんらかの目的のために形成されるものであるが，現代社会においては，このような組織がさまざまな形で存在している。そのような組織が目的を達成するためには，その組織の構成員の諸活動を目的達成の方向にむかって１つにまとめなければならないが，そのような働きかけの１つとして重要な役割を果たすものがリーダーシップである。 企業を取り巻く環境が非常に複雑で動態的な今日，このリーダーシップ研究の重要性はますます高くなっている。そこで本講義では，リーダーシップに関する基礎理論の学習を中心に行うことによって，リーダーシップの本質について検討してみたいと考えている。本講義を通して，将来，学生諸子が企業組織に参加したときに，主体的に行動し，活躍するための基礎力が養われれば幸いである。		
教材（テキスト）	基本的に教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントやレジュメをを配布する。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで１度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. リーダーシップとはどのようなものかということについて、簡単な説明をすることができる。 2. リーダーシップ論の歴史的な変遷を理解する。 3. 代表的なリーダーシップ論を簡単に説明することができる。		
準備学習	1. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 2. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 3. 日常においてリーダーシップに関する現象に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講者への要望

１．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
２．講義への積極的な参加を望む。

講義の順序とポイント

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

1. オリエンテーション
2. 組織におけるマネジメントとリーダーシップ
3. リーダーシップの特性論
4. リーダーシップの行動論① －ミシガン・オハイオ研究－
5. リーダーシップの行動論② －マネジリアル・グリッド－
6. リーダーシップの行動論③ －PM 理論－
7. 個人の動機とリーダーシップ
8. 前半のまとめと理解度の確認　（小テストを予定）
9. リーダーシップの条件適合理論① －リーダー行動の連続線モデル、コンティンジェンシー・モデル－
10. リーダーシップの条件適合理論② －目標経路理論－
11. リーダーシップの条件適合理論③ －3 次元リーダー効果性モデル－
12. リーダーシップ論のその後の動向① －リーダーシップ研究センターの状況対応リーダーシップ－
13. リーダーシップ論のその後の動向② －EQ リーダーシップ、サーバント・リーダーシップ、変革のリーダーシップなど－
14. リーダーシップ論のその後の動向③ －リーダーシップとフォロワーシップ－
15. リーダーシップ論の講義を通して学んだことの総括

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	7	7	9	11	15	17

年度	2015	授業コード	J30070001
科目名	応用商業簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Bookkeeping for a Commercial Fir m		
担当者名	伊藤　久人	旧科目名称	
講義概要	日本商工会議所簿記検定 3 級程度の実力を前提にして、より実践的な取引の記帳など中級程度の簿記の学習を進めます。日本商工会議所簿記検定 2 級商業簿記のうち、株式会社の会計処理と本支店会計をカバーすることを目指します（各種取引の処理は「商業簿記Ⅱ」でカバーします)。		
教材（テキスト）	1 回目の講義にて使用するテキストを紹介する（購入は必要)。 また、テキストとは別に、レジュメの配布を行う場合もある。		
教材（参考文献）	講義において必要に応じ推薦する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点(取組姿勢)30%、試験 70%		
到達目標	1. 複式簿記の意義と特徴を理解している 2. 中規模企業の資金調達（株式および社債の発行）取引の記帳ができる 3. 本支店合併財務諸表を作成できる		
準備学習	1. テキスト等において事前に目を通してください 2. 講義で指示された課題を解いて、次回の講義に臨んでください 3.　講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、次回の講義で質問してください		

受講者への要望

1. 原則として、「商業簿記Ⅰ」の単位取得者または日商簿記 3 級合格者が対象です。 「商業簿記Ⅱ」との同時履修を強く勧めます。
2. 簿記の基礎知識がない人は、「入門簿記」または「簿記原理」を履修してください。
3. 自分の理解度を確認するために、また、就職活動の一助とするために、日商簿記検定への挑戦を勧めます。
4. 講義を欠席すると、その後の理解に著しい支障が出る恐れがあります。欠席する講義のフォローは必ず行ってください。

講義の順序とポイント

Ⅰ商業簿記Ⅰの復習
1．簡単なテスト（成績には関係ありません）と講義概要の紹介（商業簿記Ⅱとの違い）
2．商業簿記Ⅰの復習

Ⅱ商業簿記Ⅰから応用商業簿記へ
3．株式会社の会計（その１）：株式会社の設立
4．株式会社の会計（その２）：増資
5．株式会社の会計（その３）：剰余金
6．株式会社の会計（その４）：利益の処分/損失の処理
7．株式会社の会計（その５）：社債(1)
8．株式会社の会計（その６）：社債(2)
9．株式会社の会計（その７）：株式会社会計の総復習
10. 本支店会計（その１）：本支店会計の意義と連結財務諸表
11. 本支店会計（その２）：本支店間の取引
12. 本支店会計（その３）：未達事項
13. 本支店会計（その４）：内部取引と内部利益の控除
14. 本支店会計（その５）：本支店合併財務諸表
15. 本支店会計（その６）：本支店会計の総復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J30076001
科目名	会計学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業の経営活動を数値で表そうとするとき、その記帳は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として 「企業の成績表」ともいえる「決算書」(財務諸表)が作成される。したがって、こうした簿記技法とその背景に ある会計理論は、企業経営にとっての必須事項となっている。 （2）経理事務がコンピュータ化されている今日においても、取引情報をインプットするのは人間の手であり、又、 アウトプットされた会計情報を読み解くのも人間の頭によらざるを得ない。簿記・会計の知識が組織経営に とって極めて重要である理由は、ここにある。 （3）このような観点から、本講義では、簿記・会計を初めて学ぶ者を対象として、企業経営に役立つ会計情報の 意義と決算書の内容、そして会計の応用分野について、出来るだけ分かり易く解説する。将来的なビジネス 対応を念頭に置き、積極的な関心を持って受講していただきたい。		
教材（テキスト）	明神信夫・笹倉淳史・水野一朗 編著 『アカウンティング―現代会計入門―【四訂版】』 同文舘出版　￥2,500		
教材（参考文献）	（1）弘兼憲史 著 『知識ゼロからの決算書の読み方』 幻冬舎　￥1,300 （2）大阪商工会議所編 『ビジネス会計検定試験 公式テキスト３級【第２版】』 中央経済社 ￥1,500		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	原則として、平素の受講状況等(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。 （2）組織活動の財・サービスを計数的に測定・伝達するシステムの基本が理解できる。 （3）経済的意思決定に対する会計情報の有用性が理解できる。		
準備学習	（1）講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト個所を、事前に解読して準備しておくこと。 （2）配布する私製アンケート「Minute Paper」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。		

受講者への要望

（1）まずは、会計学の専門用語に慣れることが肝心であり、関連する箇所を予習して講義に臨むように希望する。
（2）本講義内容は、経営学部での学習にとって非常に有益なものとなろう。
（3）遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎるような場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得る。

1．講義の展開予定と評価、簿記と会計
2．会計の役立ち
3．会計情報の内容
4．会計情報の開示＝制度会計におけるディスクロージャー＝
5．会計情報の読み方（1）＝経営分析と収益性分析＝
6．会計情報の読み方（2）＝安全性分析と成長性分析＝
7．会計情報の信頼性＝会計監査＝
8．会計情報の作り方（1）＝簿記及び会計の基本ルール＝
9．会計情報の作り方（2）＝連結財務諸表の作成＝
10．会計情報と原価管理＝原価計算＝
11．会計情報と利益管理＝管理会計＝
12．会計情報と税務＝税務会計＝
13．会計情報と国際化＝国際会計＝
14．会計情報と環境＝環境会計＝

１５．　会計学の展望と資格

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J30088001
科目名	外書講読	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading of Foreign Literature on Busines s Administration		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	講義では、ブランドに関するノウハウを数ページずつの 22 話に知識ハックとしてまとめた本を教材にします。この本は、「あたるもマーケ、売れるもマーケ、マーケティング 22 の法則」という大ベストセラーに続く第 2 弾で、前著の内容をブランド風に書き直したもので、この本もまたわかりやすさからベストセラーになりました。 短い文章の中に含蓄の深い文言を発見することができます。 毎回の冒頭にある見出しのワードを分析するだけで、マーケティングと英語の感覚を養えます。 事例豊富で読者を引き込むアメリカ人らしい本の書き方も楽しんでもらいたいと思います。		
教材（テキスト）	Al Ries and Laura Ries The 22 Immutable Laws of Branding　1,800 円程度		
教材（参考文献）	パワーポイントおよびプリントを適宜配布		
教材（その他）			
評価方法	定期テスト(70%)、授業時の発言の積極性(30%)		
到達目標	●ブランド論で学んだことを改めて整理する ●英語で書かれた論理によってブランドを改めて理解しなおす		
準備学習	各回の授業に該当する部分について、事前に読んで理解しておくことを求めます。		
受講者への要望			
●遅刻、途中退席は不可。授業中の私語と SNS 使用の禁止を求めます。 ●授業中の積極的な発言や質問により、授業にコントリビューション(貢献)を期待します。 ●一回でも授業が欠けるとその後の理解に支障が出ますので連続的に出席してください。			
講義の順序とポイント			
1. ブランド拡張をするときに犯しがちな誤り 2. ブランドの核心を焦点化する 3. ブランドは広告ではつくれない 4. ブランドの維持には広告が必要 5. 心に刺さるブランドワードを 1 つだけ作れ 6. 信頼を獲得すること 7. ブランド力に必要な知覚品質 8. カテゴリーの代名詞になること 9. 他のブランドと共生すること 10. 一般名詞になってはいけない 11. ブランドと社名の関係 12. 安易なサブブランドの危険性 13. ブランドロゴの視覚的効果 14. ブランドの成功は 10 年単位で考える 15. ブランドに寿命はあるか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J30098001
科目名	管理会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Accounting		
担当者名	大田　住吉	旧科目名称	
講義概要	・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 ① 実際のビジネス現場で起きるケーススタディ（事例研究）について学ぶ「ビジネス・スクール形式」。 ② グループ討議、プレゼン、質疑応答などを繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学ぶ。 ③ 定員 30 名程度の少人数グループ討議形式。 ・学習テーマは、以下のとおりです。 (a)　管理会計は「攻めの会計」「戦略のための会計」と言われます。それは何を意味するのか？ (b)　なぜ、管理会計を学ぶことが必要なのか？ (c) 管理会計は、財務会計や税務会計とは明らかに異なるルールがあります。それは、何か？ (d) 管理会計を、ビジネス戦略にどう活かせば良いのか？		
教材（テキスト）	・すべて担当教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布します。		
教材（参考文献）	・必要に応じ、参考文献などを紹介します。		
教材（その他）	・必要に応じ、解答例、参考資料などを配布します。 ・なお、授業には計算問題があります。電卓（一般的なもので可）を必ず持参下さい。		
評価方法	①グループ討議への参加意欲・発言内容（40%）、 ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力（30%）、 ③プレゼン力および質疑応答対応力（30%） による総合評価		
到達目標	・実社会で通用するビジネス・リーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・管理会計をビジネス戦略にどう活かせば良いのかについて分析し、判断し、表現する、実践的な能力を身に つけることを期待します。		
準備学習	＜予習＞ ・授業で配布するオリジナルテキストは、事前に熟読しておいて下さい。 ・業界事情、専門用語などについては、自分で調べ、理解して下さい。 ＜復習＞ ・授業の最後には、必ず 5～10 分の「本日のポイント」の講義があります。その内容について、しっかり復習し、 自分の「武器」として使えるようにしておいて下さい。 ・授業の中で、他のグループメンバーの意見等で参考になると感じたものは、その内容をしっかり復習して下さ い。		

受講者への要望

・29 年間の民間企業でのビジネス経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！
・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。

講義の順序とポイント

1　　ガイダンス　～この授業で何を学ぶのか？、管理会計とは、何か？～

2～5　　【ビジネス事例Ⅰ】　「空席に怯まず、満席に奢らず」（イタリアレストランA社の事例）
＜テーマ＞　　安定的な利益を計上し、創業・開業を成功させるために必要な管理会計とは？
＜ポイント＞　　開業・企業設立準備、売上・利益計画、資金繰り、損益分岐点ほか

6～9　　【ビジネス事例Ⅱ】　「犯人を探せ！」（リサイクルショップB社の事例）
＜テーマ＞　　性質の異なる複数店舗の利益をどう分析し、マネジメントするのか？
＜ポイント＞　　要因分析、影響度分析、多店舗小売業の販売戦略ほか

１０～１５　　【ビジネス事例Ⅲ】　「輝け！インストアベーカリー」（パン製造小売業C社の事例）
＜テーマ＞　　市場環境や取引先ニーズに合わせた製造小売業における新製品の価格決定戦略とは？

＜ポイント＞　　標的市場と価格設定、標的顧客別の新製品価格決定手法、ビジネス戦略の策定ポイントほか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J30101001
科目名	人材ポートフォリオ論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大石　友子	旧科目名称	企業と人材
講義概要	産業構造が変化し、企業活動も変革をもとめられているが、その中で企業と人材の関係も大きく様変わりしてきている。また、行政機関、大企業、中小企業、ベンチャー企業等、企業形態や企業文化による違いを理解する。 どういった人材を採用育成し､」能力を最大限に発揮させるかは､経営者にとって重要な課題であることに着目し、企業における人材ポートフォリオを実例とともに学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回レジュメプリントを配布する。		
評価方法	各回小レポート（50%）・授業内テスト(50%）		
到達目標	企業にとっての人材の重要性を知り、企業内ポートフォリオのありかたについて自ら考える力をつける。		
準備学習	日常的に企業と人材に関わる事柄に興味をもち、ニュース等で最新の情報を得る努力をすること。		

受講者への要望

他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。
積極的に授業に参加してもらいたい。
やむを得ない遅刻・欠席の場合は、必ず事前または事後に報告すること。

講義の順序とポイント

1. 人材をめぐる動向
2. 人材ポートフォリオとは何か
3. 経済の変化と人材の変化
4. 日本型雇用の変化
5. 新しい雇用形態と就労形態
6. 人材サービス業の変遷
7. 大企業における人材
8. 中小企業と人材
9. ベンチャー企業と人材
10. 行政機関と人材
11. ポートフォリオの新しい考え方
12. コンピテンシー
13. 企業内起業家の育成
14. 評価制度の功罪
15. 人材をめぐる課題と展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	★★

年度	2015	授業コード	J30103001
科目名	企業家史	単位数	2
科目名（英語表記）	Great Entrepreneurs		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	明治より昭和戦後まで、都市型産業の成長、大量生産体制の構築を先導した企業家を取り　　上げる。 可能であれば、いま少し取り上げる企業家を増やしたいと考えている。		
教材（テキスト）	なし。毎回資料を配付する。		
教材（参考文献）	講義の中でその都度紹介し、必要な文献は配付資料に記載する。		
教材（その他）	次の書籍を推薦する。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎『企業家たちの挑戦』中央公論新社 宇田川・生島編『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣		
評価方法	試験を中心とするが、レポートなどを加味して、総合的に評価する。		
到達目標	経営学・経営史の基礎的知識を習得し、企業家の行動原理を理解する。		
準備学習	講義終了時に次回講義のテーマをお知らせするので予習をすること。		

受講者への要望

おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をすること。
日本経済の発展を導いた企業家の考察を通して、その革新性と普遍性について問いかけたい。

講義の順序とポイント

1.企業家史の課題、企業家・企業者と革新
2.財閥組織者の企業家活動(中上川彦次郎)
3.工業化期の建設業の革新(大林芳五郎)
4.電気鉄道網の形成(小林一三)
5.国産ウィスキーの製造と洋酒文化の普及(鳥居信治郎・竹鶴政孝)
6.在来産業・酒造業の革新(大倉恒吉)
7.重化学工業の成長(野口 遵)
8.電気機械国産化の道のり(小平浪平)
9.家庭電器産業の興隆(松下幸之助)
10.自動車国産化への挑戦(豊田喜一郎・鮎川義介)
11.本田宗一郎･藤沢武夫と「世界のホンダ」
12.井深 大･盛田昭夫とソニー
13.日本型生産システムの構築(大野耐一)
14.流通のイノベーション(中内功・鈴木敏文)
15.大量生産時代と大量消費時代の担い手

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J30113A01
科目名	京都の観光産業 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Tourism Industry in Kyoto I		
担当者名	櫻井　正明	旧科目名称	京都の観光産業 A
講義概要	世界での「観光」の重要性を理解し、我が国の取り組みや地域での取り組み、観光関連産業などを考察するので、「京都の観光産業」を念頭に置きつつ、主として「国際観光」についての講義となる。 パワーポイント・スライドを中心とした講義形式とし、授業ごとにプリント資料を配布する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	『観光白書』各年度版　観光庁編 『観光学大事典』　香川　眞編　木楽舎発行		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、授業ごとにプリントを配布する		
評価方法	授業への取組状況（授業中課題ミニッツ・レポート、受講態度等）を 20% 期中でのレポートを 20% 期末での定期テストを 60% カードリーダーの不正使用は 3 回で授業取組状況配点を 0 点とする。		
到達目標	現代社会における「観光の重要性」を理解する。		
準備学習	新聞などのメディアに掲載される観光関連情報に日々関心を持っておくこと		
受講者への要望			
筆記具、ノートを持って教室に入ること。 私語厳禁，教室内飲食厳禁、　教室内脱帽である。　他学生の受講への迷惑行為と認められた者は退室させる。			
講義の順序とポイント			
1.この科目のオリエンテーション（講義概要、評価方法など） 2.観光とは 3.現代における観光の意義 4.観光の歴史 5.観光の現状と課題（国内観光、京都市の事例） 6.観光の現状と課題（海外観光） 7.観光の現状と課題（訪日外国人観光、京都市の事例） 8.観光対象と観光資源（世界の観光資源、京都市の観光資源） 9.地域社会と観光振興 10.旅行産業 11.運輸産業 12.宿泊産業 13.テーマパーク産業 14.クルーズ 15.「観光産業」のこれから			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J30113B01
科目名	京都の観光産業Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Tourism Industry in Kyoto Ⅱ		
担当者名	櫻井　正明	旧科目名称	京都の観光産業Ｂ
講義概要	日本の観光政策、国と自治体,京都の事例を含めて講義する。また観光マーケティングについて旅行産業、航空産業、宿泊産業など産業別に学ぶ。 教科書は用いないが、パワーポイント・スライドを中心とした講義とし、授業ごとにプリント資料を配布する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	『観光マーケティング論』　山上　徹著　白桃書房 『観光白書』　各年度版　観光庁編 『観光学大事典』　香川　眞編　木楽舎		
教材（その他）	パワーポイントを活用し授業ごとにプリントを配布する。		
評価方法	授業への取組状況（授業中課題ミニッツレポート、受講態度等）を 20% 期中でのレポートを 20% 期末での定期テストを 60% カードリーダーの不正使用は 3 回で授業取組状況配分を 0 点とする。		
到達目標	国、自治体の観光政策、観光関連産業の事業取り組みでのマーケティングの基本について理解を深める。		
準備学習	新聞等のメディアによる観光関連の情報に日々関心を持っておくこと。		

受講者への要望

観光を総合的に理解する意欲を持って受講すること。
筆記具、ノートを持って教室に入ること。
私語厳禁、教室内飲食厳禁、教室内脱帽である。他学生の受講への迷惑行為と認められたものは退室させる。

講義の順序とポイント

1.この科目のオリエンテーション（講義概要、評価方法など）
2.世界での観光事象データの解説
3.日本の観光政策①
4.日本の観光政策②
5.観光マーケティング理論①
6.観光マーケティング理論②
７.地方自治体のマーケティング
8.地方自治体のマーケティング(京都市のケース①)
9.地方自治体のマーケティング(京都市のケース②)
10.観光産業のマーケティング（旅行産業）
11.観光産業のマーケティング（航空産業①）
12.観光産業のマーケティング（航空産業②）
13 観光産業のマーケティング（宿泊産業）.
14.観光産業のマーケティング（テーマパークなど）
15.「観光産業」のこれから

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J30126001
科目名	業界事情研究	単位数	2
科目名（英語表記）	A Study of the Industry		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	日本の産業は戦後「奇跡」と呼ばれるまでの大きな発展と変貌を遂げてきた。また今日グローバル化時代を迎え、今後の課題などが明らかとなってきている。そこで日本を代表する業界を取り上げその過去・現在・未来についての考察を行いたい。加えてその業界の発展の要となった経営手法(例えば自動車産業におけるトヨタ看板方式、アパレル産業における SPA、流通・外食産業におけるチェーンマネジメントシステムなどについての理解も進めたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	講義内容についてのプリントを配布する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、試験 50%		
到達目標	日本産業を代表する業界に関する知識を涵養するとともに、受講生の進路選択への参考とすることを目標とする。		
準備学習	さまざまな業界に興味を持つとともに、関連する情報収集に新聞、雑誌、テレビなど多くのメディアを通じて努め受講に望むこと。 授業に用いる資料については事前に配布を行うので熟読されたうえ、授業に臨まれたい。また適宜レポートを求めるためその準備として、学習した事項については、常に復讐を心掛けられたい。		
受講者への要望			
真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに(本講座の概要) 2　戦後日本産業の軌跡 ① 3　② 4　③ 5　加工組立産業（業界）① 6　② 7　消費財産業（業界）　① 8　② 9　流通産業（業界）　① 10　② 11　外食産業（業界）　① 12　② 13　金融産業（業界）　① 14　② 15　各業界の展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J30140001
科目名	経営学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Management Theories		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	学説の流れを学ぶことを通して、いかなる経営課題に対して先人はどのように取り組んだかを理解する。経営学は課題解決に必要とされる知識を様々な学問領域から借用しており、経営課題によって、その課題の解決に向けて採択されるアプローチは異なってくる。よって、この講義においては、多角的視点の涵養と温故知新につながると捉えている。		
教材（テキスト）	なし。プリントを適時配布する。　DVD 教材や OHC を活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	中間課題・宿題（45%）と期末課題・宿題（45%）、 および講義内小テストや感想文、等により評価する（10%）。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊多角的な視点で事象を分析することができる。		
準備学習	＊毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくべきかを指示するので、熟読しておくこと。 ＊課題・宿題（問題集）を手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		

受講者への要望

＊経営学総論の単位を取得している方が望ましい。
＊遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
＊配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。

講義の順序とポイント

1.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。（テイラー、フォード、ファヨール、クーンツ、労働組合、等）
2.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。
3.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。（メイヨー、レスリスバーガー、等）
4.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。
5.近代管理論、協働システム、誘因―貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。（バーナード、サイモン、マーチ、サイアート、オルセン、等）　　中間課題 について。
6.近代管理論、協働システム、誘因―貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。
7.ドイツ経営経済学、方法論争、私経済学、規範的経営経済学、技術論的経営経済学、経営共同決定法、意思決定、等。（ワイヤーマン、シェーニッツ、ブレンターノ、シュマーレンバッハ、グーデンベルグ、ニックリッシュ、フィッシャー、等）
8.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、職務再設計、期待理論、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、等。（マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等）
9.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、職務再設計、期待理論、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、等。（マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等）
10.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。（ウッドワード、バーンズ、ストーカー、ローレンス、ローシュ、等）
11.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。
12.日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。
13.日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。　　期末課題について。
14.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。（チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーグ、BCG、ポーター、ハメル、プラハラード、等）
15.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J30141001
科目名	経営学総論	単位数	4
科目名（英語表記）	Principles of Business Administration		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	再履修クラスとして開講される。 「経営学」は、課題解決に必要とされる知識を様々な学問領域から借用しており、それぞれが独自の研究対象・研究方法・学問体系を持つ経済学・社会学・心理学・工学などの総体あるいは集合体となっている。本講義では、この特徴を有する経営学の基本的な内容をできるだけ分かりやすく説明することを通して、“経営学とはどのようなことを研究するのか”、また“どのような応用ができそうなのか”、などの関心を湧き立て、より深い学びへと誘うことを目的としている。より詳しく、より専門的には、これから経営学部が提供する諸講義・ゼミで深めていってもらいたいとの考えに基づき設定された初学者向けの科目である。		
教材（テキスト）	なし。プリントを適時配布する。　　DVD 教材や OHC を活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	課題・宿題（50%） および授業内小テスト、授業内感想文、受講・取組姿勢、等（50%）により評価する。		
到達目標	＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 ＊今後、どの経営領域の学びを深めたいか、どのようなことに応用できそうかなどの関心を抱くことができる。		
準備学習	＊毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくべきかを指示するので、熟読しておくこと。 ＊課題・宿題（問題集）を手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		

受講者への要望

＊遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
＊配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。

講義の順序とポイント

1.講義の進め方について。なぜ経営学が必要か？　これから（下記の進行の中で）登場する学説について。①
2.講義の進め方について。　なぜ経営学が必要か？　これから（下記の進行の中で）登場する学説について。②
3.豊かさの時代と企業。　業績とは？　加工貿易とは。貿易収支、経常収支、GDP、変動為替相場制。企業の国際化。①
4.豊かさの時代と企業。業績とは？　加工貿易とは。貿易収支、経常収支、GDP、変動為替相場制。企業の国際化。②
5.会社の類型。株とは？、株式会社とは？　中小企業と大企業の数と従業員数。証券取引所、証券会社、銀行の役割。財務諸表の重要性。①
6.会社の類型。株とは？、株式会社とは？　中小企業と大企業の数と従業員数。証券取引所、証券会社、銀行の役割。財務諸表の重要性。②
7.会社の類型。株とは？、株式会社とは？　中小企業と大企業の数と従業員数。証券取引所、証券会社、銀行の役割。財務諸表の重要性。③
8.企業統治（コーポレート･ガバナンス）とは。株主総会、監査役(会)、取締役(会)の役割と関係。企業統治の事例 。ステークホルダーと企業の社会的責任。①
9.企業統治（コーポレート･ガバナンス）とは。株主総会、監査役(会)、取締役(会)の役割と関係。企業統治の事例 。ステークホルダーと企業の社会的責任。②
10.企業統治（コーポレート･ガバナンス）とは。株主総会、監査役(会)、取締役(会)の役割と関係。企業統治の事例 。ステークホルダーと企業の社会的責任。③
11.経営組織の形態。戦略とは。ポジショニングの戦略論と資源ベースの戦略論。経営戦略と組織の関係。経営戦略の事例。バリューチェーン。アライアンスと持株会社。①
12.経営組織の形態。戦略とは 。ポジショニングの戦略論と資源ベースの戦略論。経営戦略と組織の関係。経営戦略の事例。バリューチェーン。アライアンスとホールディング。②
13.経営組織の形態。戦略とは 。ポジショニングの戦略論と資源ベースの戦略論。経営戦略と組織の関係。経営戦略の事例。バリューチェーン。アライアンスと持株会社。③
14.労働市場と労働法。日本企業におけるコース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、等について。産業・職業構造の推移。各業界における就業状況。①

15.労働市場と労働法。日本企業におけるコース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、等について。産業・職業構造の推移。各業界における就業状況。②
16.労働市場と労働法。日本企業におけるコース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、等について。産業・職業構造の推移。各業界における就業状況。③
17.若年労働市場の現状と課題。
18.非正規社員と正規社員。人材派遣の仕組み。新規学卒者の卒業後の進路。目標、欲求、モチベーション。①
19.非正規社員と正規社員。人材派遣の仕組み。新規学卒者の卒業後の進路。モチベーション。目標、欲求、モチベーション。②
20.テイラー＝フォード生産方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式。自動車メーカーとディーラー(販売会社)の関係①
21.テイラー＝フォード生産方式。ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式。自動車メーカーとディーラー(販売会社)の関係②　課題について。
22.マーケティングの概念。マーケティングミックス：４Ｃと４P、市場調査、広告効果。メーカー、商社、卸、小売の関係。フランチャイズ。①　課題について。
23.マーケティングの概念。マーケティングミックス：４Ｃと４P、市場調査、広告効果。メーカー、商社、卸、小売の関係。フランチャイズ。②
24.ICT の展開。サプライチェーンマネジメント(SCM)やクラウド(cloud)とは何か。①
25.ICT の展開。サプライチェーンマネジメント(SCM)やクラウド(cloud)とは何か。②
26.R&D(研究開発)の現状。起業の現状。イノベーションとアントレプレナーシップ。ビジネスモデル。①
27.R&D(研究開発)の現状。起業の現状。イノベーションとアントレプレナーシップ。ビジネスモデル。②
28.ナレッジマネジメントについて。暗黙知と形式知の関係。①
29.ナレッジマネジメントについて。暗黙知と形式知の関係。②
30.未来の経営について。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J30155001
科目名	経営情報概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Management and Information Systems		
担当者名	天野　秀治	旧科目名称	
講義概要	進化し続ける情報化社会において情報通信技術がどのように活かされているのか、企業活動現場の実務事例をベースに経営と情報の関わりについての知識を高めることにより、社会に出たときに役立つスキルを身につけることを目的としている。また、グループ研究によって経営情報システムを活用した新規起業を企画・立案し事業計画書を作成することにより、イノベーション創出の可能性や企業活動におけるその重要性を認識すると同時に創造性を豊かにする取り組みを行う。「概論」では経営情報システムの応用に重点をおいている。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。PowerPoint を活用する。		
教材（参考文献）	宮川公男, 上田泰, 『経営情報システム』, 中央経済社, 2014 福崎稔,守屋政平他, 『情報化時代の基礎知識』, 弓箭書院, 2014 矢沢久雄, 『これから IT 業界で働く人のための情報処理技術の基本』, 日本実業出版社, 2013		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（受講態度、授業への貢献度、取組姿勢・30%）、講義内レポート（20%）、最終レポート（50%）		
到達目標	・情報通信技術の知識を体系的に修得すると同時に、経営情報システムの基本および応用について総合的に理解する。 ・情報通信技術の活用方法を修得する。 ・企業活動における経営情報システムの内容や実例を理解する。 ・実社会の職場における情報通信技術スキルの重要性、有意性を理解する。 ・情報通信技術の可能性を検討することにより創造力を高める。		
準備学習	講義終了時に次回のテーマを示すので予習しておくこと。グループ討議に関するテーマについては次回までにアイデアを考えておくこと。		

受講者への要望

経営情報システムは企業経営の根幹であるが、今や行政経営でも極めて重要な役割を果たしている。よって企業への就職希望者だけでなく公務員志望者にとっても重要なテーマであるため、基本的な仕組みやその活用方法、および将来性について理解を深め、人間力の向上に役立ててもらいたい。企業および政治・地方自治における現場経験者として講義を行うので、実社会で役立つ知識を身につけることを期待する。

講義の順序とポイント

講義は概ね下記の通り進めるが、毎回グループにて情報通信技術を活用した起業や経営改善を考える。

1. ガイダンス、経営情報システムとは何か
2. 高度情報化社会における企業経営
3. 意思決定支援システム
4. 情報通信技術の基盤
5. 情報通信ネットワーク
6. ネットビジネスⅠ（ビジネスモデル）
7. ネットビジネスⅡ（電子商取引の事例研究）
8. ネットビジネスⅢ（イノベーション）
9. オフィスにおける情報通信技術の活用
10. グループ研究Ⅰ（マーケット調査）
11. グループ研究Ⅱ（企画・立案）
12. グループ研究Ⅲ（事業計画書）
13. グループ発表
14. 企業活動現場で必要な情報通信技術
15. これからの経営情報システム

最終レポート

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J30156001
科目名	経営情報入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Information Systems for Management		
担当者名	天野　秀治	旧科目名称	
講義概要	進化し続ける情報化社会において情報通信技術がどのように活かされているのか、企業活動現場の実務事例をベースに経営と情報の関わりについての知識を高めることにより、社会に出たときに役立つスキルを身につけることを目的としている。また、新規起業や競争の厳しい業種等における経営改善策として、情報通信技術を活用したアイデアをグループで討議しながら考えることにより、情報通信技術のもつイノベーション創出の可能性について理解を深める。特に「入門」では基本的な知識の習得に重点をおいている。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。PowerPoint を活用する。		
教材（参考文献）	竹安数博, 石井康夫, 樋口友紀, 『現代経営情報システム』, 中央経済社, 2013 小泉澄, 野々山隆幸他, 『最新 IT を活用する経営情報論』, テンブックス, 2014 福崎稔,守屋政平他, 『情報化時代の基礎知識』, 弓箭書院, 2014 矢沢久雄, 『これから IT 業界で働く人のための情報処理技術の基本』, 日本実業出版社, 2013		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（受講態度、授業への貢献度、取組姿勢・30%）、講義内レポート（20%）、最終レポート（50%）		
到達目標	・ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークに関する基本的な知識を体系的に修得すると同時に、経営情報システムについて総合的に理解する。 ・情報通信技術の活用方法を修得する。 ・情報通信に関わるトラブルシューティングのノウハウを身につける。 ・実社会の職場における情報通信技術スキルの重要性、有意性を理解する。 ・情報通信技術の可能性を検討することにより創造力を高める。		
準備学習	講義終了時に次回のテーマを示すので予習しておくこと。グループ討議に関するテーマについては次回までにアイデアを考えておくこと。		

受講者への要望

情報通信技術が経済の牽引力となっている昨今、このスキルを身に付けておけばあらゆる業種において将来に亘って非常に有用であることは間違いない。企業および政治・地方自治における現場経験者として講義を行うので、実社会で役立つ知識を身につけることを期待する。

講義の順序とポイント

講義は概ね下記の通り進めるが、毎回グループにて情報通信技術を活用した起業や経営改善を考える。

1. ガイダンス、経営情報システムとは何か
2. 情報システムの歴史
3. 経営情報システムの基盤１（ハードウェア、ソフトウェア）
4. 経営情報システムの基盤２（オープンシステム、データベース）
5. 経営情報システムの基盤３（情報通信ネットワーク）
6. 経営情報システムの基盤４（モバイルコンピューティング、ソーシャルネットワーク）
7. 情報セキュリティ
8. 業務アプリケーション
9. トラブルシューティング
10. 経営情報システムの事例１（基幹業務、情報系システム）
11. 経営情報システムの事例２（ネットワーク系）
12. 経営情報システムの事例３（新規ビジネス、ビッグデータ）
13. 情報通信技術を活用した起業に関する発表
14. 企業活動現場で必要な経営情報システムに関するスキル
15. これからの経営情報システム

最終レポート

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J30161001
科目名	経営数学	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Mathematics		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	経営科学の基礎的な考え方と分析方法について学習するのが、本講義の目的です。経営科学は、経営上の問題を数学や統計学的手法を用いて分析し、問題解決に役立てるための学問です。 この講義では、経営科学の入門として、最も基本的な分析手法である統計基本量、回帰分析、線形計画法について勉強します。また、これらを理解する上で必要となる関数と領域についても勉強します。 これらの学習を通して、その数学的な論理的理解とともに、経営科学における分析方法について理解を深めます。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	宮川公男、野々山隆幸、佐藤修著　『入門経営科学　改訂版』　実教出版		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)　定期試験(70%)		
到達目標	・経営理論に基づき現実の組織行動を論理・実証的に捉えることができる。 ・問題を関数やグラフを用いて具体的に表現することができる。 ・数理的表現に基づいて問題の分析ができ、結論を導き出すことができる。		
準備学習	・講義で配布するプリントを熟読しておくこと。 ・詳細は各講義の最後に指示する。		
受講者への要望			
数学は知識を１段１段積み上げて行く学問です。休みが重なると講義内容が理解出来なくなるので、毎回出席することを望む。			
講義の順序とポイント			
1　経営数学の講義について 2　平均値と度数分布(１)　平均値 3　平均値と度数分布(２)　度数分布 4　関数と領域(１)　１次関数 5　関数と領域(２)　２次関数 6　関数と領域(３)　領域 7　関数と領域(４)　演習問題 8　回帰分析(１)　散布図と相関 9　回帰分析(２)　単回帰式 10　回帰分析(３)　演習問題 11　線形計画法(１)　線形計画問題 12　線形計画法(２)　グラフによる解法 13　線形計画法(３)　シンプレックス法① 14　線形計画法(４)　シンプレックス法② 15　線形計画法(５)　演習問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★★

年度	2015	授業コード	J30163A01
科目名	経営戦略論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Strategy I		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考文献）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
講義の順序とポイント			
1 はじめに 2 ポジショニング戦略と競争戦略 3 ポジショニング戦略と競争戦略 2 4 ポイントカード 5 価格戦略 6 価格戦略 2 7 経営と数字 8 事例研究：餃子の王将とサイゼリヤ 9 ビジネスモデル 10 顧客囲い込み 11 デファクトスタンダード 12 株式会社 13 M&A 14 日本型経営 15 日本型経営 2 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J30163B01
科目名	経営戦略論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Strategy Ⅱ		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考文献）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
講義の順序とポイント			
1 はじめに 2 成長マトリックス 3 多角化戦略 4 多角化戦略 2 5 選択と集中 6 ブランド戦略 7 ブランド戦略 2 8 PPM 9 PPM2 10 事例研究：アシックス 11 組織と戦略 12 組織と戦略 2 13 事例研究：デジカメ 14 ソリューションビジネス 15 経営者とは 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J30166A01
科目名	経営組織論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Organization Theory I		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	組織とは，なんらかの目的のために形成されるものであるが，個人はそのような組織を自ら形成したり，あるいはすでに形成されている組織に自らの主体的な意思決定で入ったりするものである。現代社会においては，このような組織がさまざまな形で存在しているが，個人が生活を営んでいく上では，これらの組織との関係を避けて通ることはできない。したがって，個人がより良く生きていくためには，組織というものを理解することが不可欠なのである。 経営組織論は，そのような組織の中でも、我々の日常生活に密接な関わりを持つ企業組織を研究対象としているが，経営組織論Ⅰでは，組織の特徴と組織における個人に関して基本的な点を理解することを目的としている。 また，本講義を通して，企業組織に参加する自分をイメージしてもらい，現代社会を生き抜いていくための基礎力が養われれば幸いである。		
教材（テキスト）	基本的に、教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。		
教材（参考文献）	バーナード著，山本安次郎 / 田杉競 / 飯野春樹訳『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社，1968 年。 その他，必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントやレジュメをを配布する。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで 1 度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. 「個人」、「組織」および「個人と組織との関係」とはどのようなものであるのかを理解する。 2. 個人はなぜ組織に入り、そこで活動を続けるのかという個人の行動原理を理解する。 3. 組織の立場から管理者は個人に対してどのような役割を果たすべきかということを理解する。		
準備学習	1. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 2. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 3. 日常において組織と個人の関係に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講者への要望

1．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
2．講義への積極的な参加を望む。

講義の順序とポイント

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

1. オリエンテーション
2. 経営学における組織論の展開
3. 組織における個人の捉え方
4. 組織の定義と成立条件①
5. 組織の定義と成立条件②
6. 公式組織と非公式組織・組織の起源と成長
7. 組織の専門化と組織形態
8. 前半のまとめと理解度の確認 （小テストを予定）
9. 個人の行動原理と組織の行動原理
10. 組織の均衡① -誘因の方法-
11. 組織の均衡② -説得の方法-
12. 組織における権限の理論
13. 組織の道徳的側面
14. 組織における意思決定と人間の合理性
15. 経営組織論Ⅰの講義を通して学んだことの総括

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	J30166B01
科目名	経営組織論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Organization Theory Ⅱ		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	組織とは，なんらかの目的のために形成されるものであるが，個人はそのような組織を自ら形成したり，あるいはすでに形成されている組織に自らの主体的な意思決定で入ったりするものである。現代社会においては，このような組織がさまざまな形で存在しているが，個人が生活を営んでいく上では，これらの組織との関係を避けて通ることはできない。したがって，個人がより良く生きていくためには，組織というものを理解することが不可欠なのである。 経営組織論は、そのような組織の中でも、我々の日常生活に密接な関わりを持つ企業組織を研究対象としているものである。経営組織論Ⅰでは組織の特徴と組織における個人に関して学習したが、その内容を踏まえ、経営組織論Ⅱでは、アメリカとドイツにおいて経営組織論がどのように生成し、展開されてきたのかということを検討し、そのことによって、現実の組織の諸問題を解明していきたいと考えている。また、本講義を通して、企業組織に参加する自分をイメージしてもらい、現代社会を生き抜いていくための基礎力が養われれば幸いである。		
教材（テキスト）	基本的に、教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。		
教材（参考文献）	バーナード著，山本安次郎 / 田杉競 / 飯野春樹訳『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社，1968 年。 その他，必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントやレジュメをを配布する。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで 1 度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. 「個人」、「組織」および「個人と組織との関係」とはどのようなものであるのかを理解する。 2. 個人はなぜ組織に入り、そこで活動を続けるのかという個人の行動原理を理解する。 3. 組織の立場から管理者は個人に対してどのような役割を果たすべきかということを理解する。		
準備学習	1. 講義終了時に次回の範囲（参考文献で関係する部分の章）を指定するので、その内容を熟読しておくこと。 2. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 3. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 4. 日常において組織と個人の関係に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講者への要望

1．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
2．講義への積極的な参加を望む。

講義の順序とポイント

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

1. オリエンテーション
2. 経営学における組織論の展開
3. 組織における個人の捉え方
4. 組織の定義と成立条件①
5. 組織の定義と成立条件②
6. 公式組織と非公式組織・組織の起源と成長
7. 組織の専門化と組織形態
8. 前半のまとめと理解度の確認　（小テストを予定）
9. 個人の行動原理と組織の行動原理
10. 組織の均衡① -誘因の方法-
11. 組織の均衡② -説得の方法-
12. 組織における権限の理論
13. 組織の道徳的側面
14. 組織における意思決定と人間の合理性
15. 経営組織論Ⅱの講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	J30169001
科目名	経営統計学	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Statistics		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	ビジネス分野における重要課題として、「予測」と「要因分析」があります。的確な予測や要因分析を行うには、数学や統計学的手法を用いた定量的なデータ分析が必要になります。 この講義では、「良製品の予測」や「売上高の予測」等に着目して、統計学的手法によるデータ分析の方法について学習します。ここでは、これらの手法の理論的な理解よりも、それを応用するという観点から講義します。 主に講義形式で行いますが、５回程度データ処理の実習を行います。グラフの作成、確率の計算、回帰分析等を、表計算ソフトを使って行います。実習には、パソコン応用 A のレベルの知識が必要となります。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	上田太一郎監修 『Excel で学ぶ時系列分析と予測』 オーム社		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)　授業内実習(70%)		
到達目標	・経営理論に基づき現実の組織行動を論理・実証的に捉えることができる。 ・データを統計的に整理し、データの特徴を表やグラフを用いて説明できる。 ・変数間の関係を検証するために統計的手法を活用できる。		
準備学習	講義の資料を京学なび「授業資料」にアップロードするので、プリントアウトして予習しておくこと。 また、実習の後に課題を課すので、指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

・数学は知識を１段１段積み上げて行く学問です。休みが重なると講義内容が理解出来なくなるので、毎回出席することを望む。
・数学や統計学の基礎知識も必要になるので、統計入門や経営数学を受講していることが望ましい。
・パソコン応用 A を履修していることが望ましい。

講義の順序とポイント

1　統計学について
2　経営統計学について
3　確率分布の利用(１)　確率分布
4　確率分布の利用(２)　いろいろな確率分布
5　確率分布の利用(３)　確率分布の利用・実習
6　回帰分析の利用(１)　相関
7　回帰分析の利用(２)　回帰分析の方法
8　回帰分析の利用(３)　予測
9　回帰分析の利用(４)　実習
10　時系列分析の利用(１)　重回帰分析（２変数）の方法
11　時系列分析の利用(２)　重回帰分析（多変数）の方法
12　時系列分析の利用(３)　予測
13　時系列分析の利用(４)　実習
14　実習(１)　確率分布の利用・相関
15　実習(２)　回帰分析と予測

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★★

年度	2015	授業コード	J30173001
科目名	経営分析論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statement Analysis		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	みなさんにとって良い会社とはどのような会社を意味するのでしょうか。技術力があってユニークな製品やサービスを提供している会社、それは消費者の視点からみると確かに良い会社です。給料が高くて休みがたくさんあって福利厚生が充実している会社、就職先としては理想的かもしれません。これらは極端な例ですが、つまるところ、会社に対する視点が変わればよい会社の判断基準も変わってくるのです。 企業を評価する手法として知られる経営分析は、貸借対照表や損益計算書といった財務諸表に代表される会計情報をもとに、収益性、安全性、成長性といった観点から企業の業績や状態を見極める有力な方法です。そのような分析を進めるためにはまず、財務諸表の構造と基本的な性質を理解しておく必要があります。さらには経営学全般にわたる知識も必要になります。 本講義では、このような財務分析の特質をふまえ、経営分析を総合的に把握することから開始し、続いて財務諸表分析の手法について解説していく予定です。		
教材（テキスト）	内藤文雄　『会計学エッセンス』中央経済社　2600 円		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する予定です		
評価方法	授業内レポート(40 点)、授業内テスト(60 点)		
到達目標	会計情報の読み方を理解している。 会計情報の開示制度を理解し、利用できる。 財務諸表の分析手法を活用し、財政状態、経営成績、資金運用上の問題を発見できる。		
準備学習	毎回授業の最後に次回の内容を紹介するので、教科書の指定ページを読んでくること		
受講者への要望			
積極的な講義への参加を期待します。			
講義の順序とポイント			
1.　企業分析の意義 2.　会計の役割と株式会社 3.　ディスクロージャー制度 4.　貸借対照表の見方 5.　損益計算書の見方 6.　いくつかの業種の財務諸表 7.　収益性の分析(1) 8.　収益性の分析(2) 9.　 損益分岐点分析(1) 10. 損益分岐点分析(2) 11. 安全性分析 12. 資金繰りの分析 13. キャッシュフロー計算書の見方 14. 企業グループと連結決算 15. 企業の総合評価			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J3017700A
科目名	研究ゼミナールⅠ	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar I		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	実在の企業の戦略をまとめたケースを参考にしながら、自分でいろいろと情報収集・分析し、その企業の戦略をまとめます。 専門ゼミで学んだ知識やスキルを活用しながら、さらに高度なレベルを目指します。 ケースは一応用意しますが、希望する企業や業界があればそれにも応じます。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	実際に分析する企業に応じて、参考文献を適宜紹介します。		
教材（その他）	適宜プリントを配付します。		
評価方法	平常点（受講姿勢やグループワークでの貢献度など）50%。レポートおよび発表（50%）。		
到達目標	書籍、雑誌、インターネット等から必要な資料を収集し、企業の経営戦略を分析することができる。		
準備学習	ゼミの時間は発表が中心になるので、事前に発表のための調査や資料準備をしておくこと。		

受講者への要望

資料調査、分析、グループディスカッション、パソコンでのプレゼンテーション資料作成、発表など、実習が中心となりますので、積極的な参加を求めます。
なお、経営戦略論Ⅰ、Ⅱを事前あるいは本ゼミと併行して履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

専門ゼミナール、研究ゼミナールⅠ、Ⅱは継続して履修します。研究ゼミナールⅠでは、専門ゼミナールで学んだことを活かして、さらに深く企業の経営戦略を分析します。
また、毎回の講義の中で一定の時間を割いて、社会での生活や就職活動の際に必要な基礎的な能力を伸ばすための学習も行う予定です。

1. 春学期オリエンテーション
2. 企業の選択、参考文献の紹介
3. 参考文献の要点整理
4. 参考文献の要点整理
5. 中間発表、ディスカッション
6. 中間発表、ディスカッション
7. 情報収集と分析
8. 情報収集と分析
9. 中間発表、ディスカッション
10. 中間発表、ディスカッション
11. 追加調査
12. 追加調査
13. 発表、ディスカッション
14. 発表、ディスカッション
15. 春学期まとめと秋学期への課題提示
16. 秋学期オリエンテーション
17. 企業の選択、参考文献の紹介
18. 参考文献の要点整理
19. 参考文献の要点整理
20. 中間発表、ディスカッション
21. 中間発表、ディスカッション
22. 情報収集と分析
23. 情報収集と分析
24. 中間発表、ディスカッション
25. 中間発表、ディスカッション
26. 追加調査
27. 追加調査

28.　発表、ディスカッション
29.　発表、ディスカッション
30.　発表、ディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J3017700D
科目名	研究ゼミナールⅠ	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar I		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	インターネットに代表される広域ネットワークの普及はわれわれの生活まで変革を迫っている。 高度情報化がすすむつれ、企業にもこれまで以上に迅速な対応を迫られている。 ちょっとした判断の遅れが取り返しのつかないことになる中で、情報システムの高度化とそれへの適応がますます重要なものになってきている。 反面、広域ネットワークの普及によって企業秘密の漏えい、不正なネットワークへの侵入、ネットワークを取り巻く倫理の欠如などの問題が噴出している。 授業概要、ゼミスケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。 その他の特記事項　時間外での相当量の学習、調査を要する。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	8GB 以上の USB メモリ。		
評価方法	受講・発表など授業での取り組み 60%、演習課題及びレポート 40%で評価する。		
到達目標	経営における情報システムと情報管理の動向や問題点を整理し、今後の展望を明らかにする。 中でも、春学期は、 1.現在の情報システムの動向や問題点を整理する。 2.現在の情報管理の動向や問題点を整理する。 ことを重点目標とする。 秋学期は、 1.情報システム、情報管理の手法を実際に構築する。 2.構築したシステム、手法を検討する。 ことを重点目標とする。		
準備学習	授業外でのワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションの活発な利用で、コンピュータのビジネス利用のための基礎素養向上のための文字入力トレーニング(学年末に 450 字/10 分)、表作成、文書作成練習を常にしておくこと。		
受講者への要望			
経営、及び情報というものに興味を持ち、自らの積極的な参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
専門ゼミの内容から、関心のあるテーマを選び、個人研究報告または共同研究報告をすすめていく。 《研究ゼミナール Is》 1.はじめに 2.レポートの書き方の復習 3.経営学の基礎知識の復習 4.外部アカウントの取得 5.セキュリティアップデートとアプリケーション環境の更新 WAMP の構築 6.ホームページの作成(1) 7.ホームページの作成(2) 8.ホームページの作成(3) 9.ホームページの作成(4) 10.プログラミング(1) 11.プログラミング(2) 12.プログラミング(3)			

13.プログラミング(4)
14.レジュメの作成
15.中間報告会

《研究ゼミナール If》
春学期の研究をもとに実際に情報管理手法をパソコンに展開し、情報システムの構築を行う。
そして、その成果を個人研究報告または共同研究報告してもらう。

16.はじめに、セキュリティアップデート
17.経営学の基礎知識の復習
18.セキュリティアップデートとアプリケーション環境の更新
19.情報システムの構築演習(1)
20.情報システムの構築演習(2)
21.情報システムの構築演習(3)
22.情報システムの構築演習(4)
23.情報システムの構築演習(5)
24.セキュリティアップデートとアプリケーション環境の更新
25.各自の情報管理テーマ（設定）
26.各自の情報管理のテーマ（レジュメの作成）
27.各自の情報管理のテーマ（レジュメの作成）
28.各自の情報管理のテーマ（発表）
29.各自の情報管理のテーマ（発表）
30.学年末発表会

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J3017700E
科目名	研究ゼミナールⅠ	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar I		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	経営や産業に関連するテーマを中心に、学生自身がテーマや問題を設定し、それに関する資料を収集・整理し、レジュメを作成し（あるいはレポート・論文を作成し)、他のゼミ生の前で発表し、討論する。		
教材（テキスト）	用いません。		
教材（参考文献）	そのつど、指示します。		
教材（その他）			
評価方法	ゼミでの発表　80% ゼミでの討論参加　20%		
到達目標	以下の、一連の流れができること。 1. 自分で問題設定できること 2. 資料・文献を収集できること 3. 仮説や論説を作成できること 4. 人前で、自分の考えを発表できること 5. 討論において、論理的に説明できること		
準備学習	毎回のゼミの終了時に、次回のゼミの内容と予習すべきことがらを指示する。 なお、ふだんから、新聞・雑誌に目を通し、TV なども見つつ、常に問題意識を持つようにすること。		
受講者への要望			
元気良く、積極的に討論に参加してください。			
講義の順序とポイント			
01　ゼミの運営方法に関して 02　A 君の発表 03　B さんの発表 04　C 君の発表 05　D さんの発表 06　E 07　F 08　G 09　H 10　I 11　J 12　K 13　L 14　M 15　N	16　O 17　P 18　Q 19　R 20　S 21　T 22　U 23　V 24　W 25　X 26　Y 27　Z 28　a 29　b 30　c		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J3017700F
科目名	研究ゼミナールⅠ	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar I		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミの延長線上で、各自関心のあるテーマを選び、個人研究報告または共同研究報告をすすめていく。 各学期中に研究の途中経過をパワーポイントを用いてプレゼンテーションしてもらう予定である。		
教材（テキスト）	開講後指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）			
評価方法	平常の講義への取り組み姿勢(40%)と最終レポート(60%)		
到達目標	会計情報から企業の財政状態、経営成績、資金状況を理解できる。 企業の業績や財務状態に影響を及ぼす外部要因、内部要因について説明できる。		
準備学習	各自に報告テーマを課すので、パワーポイント等によるプレゼン資料の準備をしてくること。報告に当たっていないものは、各自次回の内容について、指示されたテキストを読んでくること。 問題意識を持って新聞記事等のニュースに注意を向けること。		

受講者への要望

積極的に議論に参加すること。
毎回きちんと出席すること。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は必ず連絡すること。これは社会人としての常識であり、ゼミ生には、大人として、社会人としての自覚ある行動を身につけていただきたい。

講義の順序とポイント

1. 演習計画のガイダンス
2. ゼミ・レポートの書き方
3. 研究テーマの報告と決定(1)
4. 研究テーマの報告と決定(2)
5. 図書館での資料検索
6. 財務データの入手方法
7. 貸借対照表の見方
8. 損益計算書の見方
9. キャッシュ・フロー計算書の見方
10. クロスセクション分析と時系列分析
11. 財務分析の手法(1)　収益性分析
12. 財務分析の手法(2)　安全性分析
13. 財務分析の手法(3)　成長性分析
14. 財務分析結果の報告(1)
15. 財務分析結果の報告(2)
16. 企業経営と会計
17. 日本の会計制度の概要
18. 業種による財務データの違い
19. 会計情報の開示制度
20. 有価証券報告書の見方
21. 企業集団と連結会計
22. セグメント情報
23. 企業の戦略と会計
24. 企業の抱えるリスク
25. 株価と財務データ
26. 配当と株価
27.業績見通しと株価
28.総合評価の方法
29.最終報告(1)
30.最終報告(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J3017700H
科目名	研究ゼミナールⅠ	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar I		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	今日のビジネスでは、インターネットに代表される情報ネットワークが重要なツールとして活用されています。そこでインターネットを活用したビジネスを学ぶために必要な経営学の知識を身につけることを目的とします。 春学期には表計算ソフトを使いデータを加工、処理する知識を身につけます。秋学期には、就職活動に役立つことも取り入れていきます。例えば、企業へのエントリーや、教養試験等の対策をします。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。 ビデオ教材、新聞記事、雑誌記事等を活用します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（６０％）。授業中に課すレポート（４０％）。		
到達目標	インターネットビジネスを学ぶために必要な経営学の知識を理解することを目標とします。 表計算ソフトを使いデータを加工・処理する知識を身につけることを目標とします。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおいてください。 企業経営の動向を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持つようにしてください。		

受講者への要望

出席を重視します。欠席・遅刻をしないこと。

講義の順序とポイント

1　春学期オリエンテーション
2　レポートの書き方の復習①
3　レポートの書き方の復習②
4　ワープロソフト、プレゼンテーションソフトの使い方の復習
5　表計算ソフトの使い方（関数、グラフの作成）
6　表計算ソフトの使い方（データベース機能など）
7　表計算ソフトの使い方（応用）
8　経営学の知識①（共通教材の提供）
9　経営学の知識②（情報収集の仕方）
10　経営学の知識③（レジュメの作成）
11　経営学の知識④（レジュメの作成）
12　経営学の知識⑤（発表）
13　経営学の知識⑥（まとめ）
14　SPI、時事問題等
15　春学期の研究ゼミナールⅠを通して学んだことの総括
16　秋学期オリエンテーション
17　経営学の知識の復習①
18　経営学の知識の復習②
19　経営学の知識の復習③
20　インターネットビジネスの研究①（各自のテーマの設定）
21　インターネットビジネスの研究②（資料収集）
22　インターネットビジネスの研究③（概要の作成）
23　インターネットビジネスの研究④（概要の作成）
24　インターネットビジネスの研究⑤（発表）
25　業界研究①
26　業界研究②
27　企業研究①
28　企業研究②
29　企業研究③
30　秋学期の研究ゼミナールⅠを通して学んだことの総括

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J3017700L
科目名	研究ゼミナールⅠ	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar I		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	研究ゼミナールⅠでは、文献研究と事例研究（その前提となる文献検索・収集）を併行して進め ねばならない。文献研究では、指定した文献の報告を通じて、企業家活動に関する基礎敵地意識の修得に努めねばならない。これを踏まえて各自課題を選び、秋学期には各自の研究成果を報告し、ゼミナールⅠ終了レポートをまとめてもらう。		
教材（テキスト）	なし。配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	報告・レポートなどで総合的に評価する。		
到達目標	歴史の連続と断絶を理解し、自分の立脚点を歴史のなかに位置づけることができる。		
準備学習	輪番報告の形式で進め、報告者にはレジュメの作成を課すので、順次各自の資料をを読み進め速やかにレジュメを作成すること。		

受講者への要望

出席は義務である。ただ出席するだけでなく、毎回必ず発言するなど、積極的に参加すること。

講義の順序とポイント

春学期：指定された文献を読み報告する。
1.江戸時代の経営
2.明治の企業家たち
3.近代産業経営の成立
4.財閥の多角化と組織
5.重化学工業化と新興財閥
6.技術経営の誕生
7.「日本的」人事管理とサラリーマンの誕生
8.都市型ビジネスの成立
9.「経済民主化」と企業変革
10.大衆消費社会の到来と家電メーカーの発展
11.企業集団とメインバンク
12.日本的生産システム
13.流通のイノベーション
14.変貌する総合商社
15.日本的経営とその変容
秋学期：夏季休暇中に進めた各自の研究を逐次報告してもらう。
16～20.各自の研究報告第一回（１）～(5)
21～25.各自の研究報告第二回（１）～(5)
26～30.各自の研究報告第三回（１）～(5)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J3017700M
科目名	研究ゼミナールⅠ	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar I		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	企業経営のうえで重要な資源としての人材の重要性について把握し、どういう育成をすれば人は成長し、企業の業績アップに効果を与えるか。また、個人の立場としては、自らの能力を活用するためにはどうすればいいのかを考える。 さまざまな業界の可能な限り最新の企業のケースを用い、自分が経営者ならどうするか、従業員ならどうするかを考えていく。 内容に応じて、グループワークと個人作業を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	プリントと資料を配布する。		
評価方法	授業内発表（70%）・レポート（30%）		
到達目標	企業経営における人材の重要性を理解し、関心のある企業について調べる力をつけることを目標とする。 また、グループワーク等を通じて、問題解決能力、企画力、提案力を身につける。		
準備学習	学習の段階に応じて課題として選択したテーマに基づいて資料を収集しておくこと。		

受講者への要望

毎回の出席と積極的参加。
メンバー相互の協力で楽しく達成感の得られるゼミにしましょう。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（ゼミの目的と進め方）
2. グループワーク①
3. グループワーク②
4. ケーススタディ①新聞・雑誌から
5. ケーススタディ②　〃
6. ケーススタディ③ビデオで見る事例
7. ケーススタディ④　〃
8. 企業と個人のキャリアの関係①
9. 企業と個人のキャリアの関係②
10. グループ研究テーマ設定
11. 企画書作り①
12. 〃　②
13. グループ研究・調査
14. 〃
15. 〃
16. グループ研究まとめ作業
17. グループ研究発表
18. 企業見学準備
19. 企業見学準備
20. 企業見学
21. 企業見学
22. レポート作成の方法
23. レポートのテーマ決め
24. レポート作成
25. レポート作成
26. レポート発表
27. レポート発表

28.　レポート発表 29.　研究ゼミⅡに向けて 30.　　〃

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J3017700Q
科目名	研究ゼミナールⅠ	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar I		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	HRM(Human Resources Management)に関する事例をまずは輪読し、採用、動機づけ、解雇、などがいかにして企業で行われているかを理解する。また、若年労働市場の現状と課題を学ぶ。10%にせまる失業率、多くのフリーターやニート、就職して 3 人に 1 人が辞めるという大卒の離職率、週 50 時間にせまる長時間労働、などの若年労働者の現状についてゼミで討議する。 　加えて、あなたが大学卒業後に進みたい業界あるいは企業を中心にして、その業界や企業が抱えている問題を発見し、そしてその問題が生ずる理由を明らかにしていただく。問題が無い産業や企業は皆無である。特定の問題とその生起の理由に関してレジュメ作成・発表し、最終的には、レポートあるいは論文に仕立ててもらう。		
教材（テキスト）	なし。資料を適時配布する。		
教材（参考文献）	なし。資料を適時配布する。		
教材（その他）	なし。資料を適時配布する。		
評価方法	課題・宿題（30%）、および受講・発表・取組姿勢（70%）により評価する。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする組織の一員として、現実の問題に対して解決策を提案・実践しようとする姿勢を持つことができる。 ＊企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について認識できる。 ＊エントリーシートや筆記試験に対応できる。		
準備学習	＊初回の授業においてこれから使う資料について説明を行う。どの資料を次回使用するかを毎回指示するので、熟読しておくこと。 ＊例えば、新規学卒就職者の 3 年以内の離職率データを使い、業界による相違やその相違理由を明らかにせよ、などの課題・宿題を指示する。 ＊宿題や小テストなどを通してゼミで習ったことの確認を行う場合もあるので、授業で使用した資料を必ず熟読しておくこと。		

受講者への要望

＊何事にもチャレンジする方を望む。
＊パソコンを使うことが多いので、そのつもりで履修すること。
＊経営学総論の単位を取得している方が望ましい。 および、パソコン入門またはパソコン応用の単位を取得している方が望ましい。

講義の順序とポイント

1.パソコンの起動、メールの設定、ゼミの進行について 各種ビジネスソフトの教習①
2.各種ビジネスソフトの教習②
3.各種ビジネスソフトの教習③
4.企業規模・年齢・業界別の所得分析
5.上場企業の離職率、有給休暇消化率、新卒採用状況、等について①
6.上場企業の離職率、有給休暇消化率、新卒採用状況、等について②
7.上場企業の離職率、有給休暇消化率、新卒採用状況、等について③
8.上場企業の離職率、有給休暇消化率、新卒採用状況、等について④
9.勤務地限定制度の有無、労働時間について①
10.勤務地限定制度の有無、労働時間について②
11.SPI、時事問題①
12.SPI、時事問題②
13.未上場企業の HRM について①
14.未上場企業の HRM について②
15.エントリーとは？　エントリーシートの書き方について①
16.エントリーとは？　エントリーシートの書き方について②
17.エントリーシートの書き方について③

18.財務諸表の読み方と経営分析の仕方について①
19.財務諸表の読み方と経営分析の仕方について②
20.財務諸表の読み方と経営分析の仕方について③
21.成果主義・能力主義とは何か？①
22.成果主義・能力主義とは何か？②
23.初任給は決め手にならない。昇給・昇進・出向や転籍に関して①
24.初任給は決め手にならない。昇給・昇進・出向や転籍に関して②
25.不祥事を起こした会社・人財軽視の会社について①
26.不祥事を起こした会社・人財軽視の会社について②
27.エントリーシートの書き方について④　留学・進学について
28.SPI、時事問題③
29.研究論文について①
30.研究論文について② 来期のゼミについて。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	J3017700R
科目名	研究ゼミナールⅠ	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar I		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	現代社会においては、組織というものがさまざまな形で存在しているが、個人が生活を営んでいく上では、それらの組織との関係を避けて通ることはできないものである。そのなかでも、われわれが生活してゆくうえで、企業という組織は必要不可欠な存在となっている。経営学および経営組織論はその企業を研究の対象としている学問である。 2 回生の専門ゼミナールでは経営学の基礎について復習し、経営組織に関する基礎的な研究成果を学習したが、研究ゼミナールⅠではそれらに基づきながら、経営組織に関する研究をさらに深め、組織の行動と個人の行動の本質を探る。このことによって、次年度の研究ゼミナールⅡで各自が研究を行う際の土台を構築したい。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて指示する。		
評価方法	基本的には、平常点（受講中の積極的な発言や理解度の確認のための感想文など）30%、報告内容 40%、学期末のレポート 30%の割合で評価する。 ゼミナールに関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては、評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1.　経営学あるいは経営組織論について基本的な文献を読むことができる。 2. 上記の文献について、内容を要約することができる。 3. 上記の文献を用いて、4000 字程度のレポートを書くことができる。 4. 上記のレポートについて、人前で発表することができる。		
準備学習	1. 受講者は、次回の講義で扱う内容（配布資料・指定された文献）を読み、報告者に対する質問を考えておく。 2. 報告者は、自分が担当する部分をまとめて、報告用のプリントを準備しておく。 3. 受講者は、前回の内容を復習しておく。		

受講者への要望

1．ゼミナールへの積極的な参加を望む。
2．必ず出席すること。（遅刻・欠席については厳しく対処する。）
3．講義は主として学生による報告，質疑および議論によって行うため、事前の学習が不可欠である。
4．研究ゼミナールⅠ（宮田担当）を希望する者は、キャリアゼミ B（宮田担当）を受講していることが望ましい。

講義の順序とポイント

講義は主として学生による報告，質疑および議論によって行う。具体的には，経営学および経営組織論に関するテキストに基づき，学生の１人（あるいはグループ）がそのテキストの一定部分を担当し，資料を作成して報告する。その後，質疑や議論を行うことによって理解を深める。これを順番に行っていく。受講者全員の積極的な参加を期待する。
基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，初回の講義で報告者を割り当て，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
さらに、毎回の講義の中で一定の時間を割いて、社会での生活や就職活動の際に必要な基礎的な能力を伸ばすための学習も行う予定である。

1. 春学期オリエンテーション
2. 経営学総論①
3. 経営学総論②
4. 経営学総論③
5. 科学的管理法①
6. 科学的管理法②
7. 科学的管理法③
8. 管理過程学派①
9. 管理過程学派②
10. 人間関係論①
11. 人間関係論②
12. 人間関係論③

13. 各自興味のある理論についてのレポート作成
14. 各自興味のある理論についてのレポート発表
15. レポートに関する議論と研究ゼミナールⅠ（春学期）を通して学んだことの総括
16. 秋学期オリエンテーション
17. 近代組織論①
18. 近代組織論②
19. 近代組織論③
20. 組織における個人の行動①
21. 組織における個人の行動②
22. モチベーション論①
23. モチベーション論②
24. モチベーション論③
25. リーダーシップ論①
26. リーダーシップ論②
27. リーダーシップ論③
28. 各自興味のある理論についてのレポート作成
29. 各自興味のある理論についてのレポート発表
30. レポートに関する議論と研究ゼミナールⅠ（秋学期）を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J3017700S
科目名	研究ゼミナールⅠ	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar I		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	研究ゼミナールⅠでは、ゼミ生の興味を主体にスポーツだけでなく、あらゆるビジネスを研究対象に、文献やインターネットからの情報などの研究成果を学び、学生自身が課題を見つけることを出発とします。 しかし、それまでに総合学問としての経営学の基礎を学び、 組織経営や人的管理、心理学や生理学など、スポーツに関連する多様な学びを深め、研究の視点を広げてください。 　さらに組織の行動と個人の行動の本質を探り、スポーツビジネスに応用するというビジネスマインドを持ってください。ビジネスは今後さらに進化していくと考えられますが、それをけん引するシステムを構築するぐらいの気持ちで取り組みたいものです。 　本研究ゼミナールは担当者の専門とするスポーツビジネス研究というテーマだけでなく、多様なビジネスを対象として調査研究・実践を行います。企業が果たす社会的使命とは何か?何が必要なのか？新しい公共の理念に沿った企業の発展に何が大切なのか。そんなことも大きな研究テーマのひとつです。特に将来、経営を専門に学んで世に出て行く皆さん、企業の仕組みを学びつつ、担当者の専門とするスポーツに親しみながら「スポーツの未来」を考える時間を学生の時期に作ってほしいと願っています。次年度の研究ゼミナールⅡに向かって、実践と理論を結び付けていきましょう。		
教材（テキスト）	スポーツビジネス最強の教科書（平田竹男著、東洋経済新報社）		
教材（参考文献）	スポーツビジネスの最前線（平田竹男・中村好男編著、講談社）		
教材（その他）	必要に応じて指示する。		
評価方法	レポート(50%)。発表とゼミナールへの積極的関与(50%)。		
到達目標	1. 経営学の基礎的な知識の習得に努める。 2. スポーツ・その他のビジネスの文献を検索し、内容を要約できる。 3. ２つの文献から、ビジネスの課題を把握し、自らのテーマとすることができる。 4. みんなの前で、プレゼンテーションができる。		
準備学習	1. ゼミの時間に与えられた課題を次回のゼミまでに完成して発表できるようにする。 2. 報告する前に、配布用のレジュメを準備する。 3. わからない専門用語は前もって調べておく。		
受講者への要望			
1. ゼミには積極的に参加する。 2. 遅刻や無断欠席をしない。 3. 自分でも進んで興味のあることを見つける努力をし、それに関する文献などを集める。			
講義の順序とポイント			
１．春学期オリエンテーション、スポーツビジネスの世界 ２．日本のスポーツビジネスの現状を発表しよう ３．アメリカの４大スポーツリーグの現状を発表しよう ４．欧米のリーグ構造と特徴について知ろう ５．欧米のプロスポーツクラブについて知ろう ６．プロ野球の球団比較 ７．Ｊリーグの理念と１００年構想 ８．Ｊリーグのチーム比較をしよう ９．ｂｊリーグについて調べよう １０.個人競技のスポーツビジネス １１.メディアとスポーツ １２.スポーツとインターネット １３.スポーツとスポンサーシップ １４.スポーツ産業の動向 １５.スポーツ産業の動向 １６.秋学期オリエンテーション			

１７.スポーツ基本法を読み解く
１８.スポーツ基本法を読み解く
１９.スポーツ基本法を読み解く
２０.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成
２１.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成
２２.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成
２３.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成
２４.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成
２５.個人研究と報告・レポート作成
２６.個人研究と報告・レポート作成
２７.個人研究と報告・レポート作成
２８.論文の書き方①
２９.論文の書き方②
３０.研究計画の作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	

年度	2015	授業コード	J3017700T
科目名	研究ゼミナールⅠ	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar I		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本ゼミナールでは、娯楽市場における規模の経済を討議する。具体的には、①専門ゼミナールで収集されたデータを使って、オーケストラ楽団の規模の経済性を確認し、②プロスポーツチームの場合には、その結果がどうなるのかを予想し、③実際に調査し、④なぜ③の結果が生じたのかを報告しあう。 前半は①から③まで進め、夏休みにレポートを課す。後半は④をじっくりと進めていく。		
教材（テキスト）	適宜、指示する。		
教材（参考文献）	なし。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	演習内調査（50%）、演習内報告（50%）		
到達目標	マーケティング現象を説明する仮説を検証することができる		
準備学習	相関分析と回帰分析の行い方を復習しておくこと。 講義終了時に、相関分析および回帰分析が行えるデータを配布する。各自、指示のあった作業を次回までに予習しておくこと。なお、講義内では前回の講義範囲に関連する小試験を課す。復習をしておくこと。		

受講者への要望

課外の活動も予定しているので、時間に余裕のある人の受講が望ましい。
また他大学の図書館へ出向く可能性もあるので、図書館で共通閲覧証の発行を求めておいてほしい。

講義の順序とポイント

■春学期
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2.「オーケストラ楽団の規模の経済 1」：データ解析の方法を解説する
3.「オーケストラ楽団の規模の経済 2」：データ解析の結果を提示する
4.「オーケストラ楽団の規模の経済 3」：データ解析の結果を提示する
5.「仮説構築 1」：全員がプロスポーツの場合どうなるのかを予想する
6.「仮説構築 2」：全員の予想を提示し、討議する
7.「プロスポーツチームの規模の経済 1」：実際のデータを収集する
8.「プロスポーツチームの規模の経済 2」：実際のデータを収集する
9.「プロスポーツチームの規模の経済 3」：実際のデータを収集する
10.「プロスポーツチームの規模の経済 4」：実際のデータを収集する
11.「プロスポーツチームの規模の経済 5」：実際のデータを収集する
12.「プロスポーツチームの規模の経済 6」：実際のデータを収集する
13.「仮説の検証」：データ解析の結果を報告する
14.「中間討議」：これまでの進捗状況を報告する
15.「夏休みの課題の提示」：夏休み中に行うレポート課題を提示する
■秋学期
16.「夏休みの課題の提出」：レポートを提出し、仮説検証の方法を解説する
17.「結果を説明する仮説の報告 1」：担当者がレジュメで仮説を報告する
18.「結果を説明する仮説の報告 2」：担当者がレジュメで仮説を報告する
19.「結果を説明する仮説の報告 3」：担当者がレジュメで仮説を報告する
20.「結果を説明する仮説の報告 4」：担当者がレジュメで仮説を報告する
21.「結果を説明する仮説の報告 5」：担当者がレジュメで仮説を報告する
22.「結果を説明する仮説の報告 6」：担当者がレジュメで仮説を報告する
23.「仮説検証の方法の報告 1」：担当者がレジュメで検証方法を報告する
24.「仮説検証の方法の報告 2」：担当者がレジュメで検証方法を報告する
25.「仮説検証の方法の報告 3」：担当者がレジュメで検証方法を報告する
26.「仮説検証の方法の報告 4」：担当者がレジュメで検証方法を報告する
27.「仮説検証の方法の報告 5」：担当者がレジュメで検証方法を報告する

28.「仮説検証の方法の報告 6」：担当者がレジュメで検証方法を報告する
29.「報告会」：全員が進捗状況を報告する
30.「最終討議」：これまでの結果から討議を行う

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J3017700U
科目名	研究ゼミナールⅠ	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar I		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	研究ゼミナールⅠでは、専門ゼミナールで学んだ基礎知識を活かし、スポーツ経営を題材としたテーマによる研究を「テーマ決定」、「情報収集」、「レポート作成」、「発表」という段階で進めて行く。研究を進めるなかで、経営学を学ぶと共に論文作成の基礎能力を高める。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（受講態度など）５０％　レポート２５％　　発表２５％により評価する。		
到達目標	研究テーマについての情報収集能力を高め、研究成果を他者に伝えるための構成・文章力を身に付ける。		
準備学習	気になる情報はPC・携帯・情報誌などを利用し、調べる癖を付け、調べた内容をノートなどに残す。		

受講者への要望

常日頃から、経営やスポーツの情報にアンテナを張り、気になる情報を収集して下さい。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション
２．専門ゼミの復習
３．レポートの書き方の復習
４．レポートの書き方の復習
５．研究テーマの決定
６．研究テーマの決定
７．研究テーマの情報収集
８．研究テーマの情報収集
９．研究テーマの情報収集
１０．研究レポート作成
１１．研究レポート作成
１２．研究レポート作成
１３．研究発表
１４．研究発表
１５．春学期の講義を通して学んだことの総括
１６．オリエンテーション
１７．前期研究発表の分析
１８．前期研究発表の分析
１９．研究事例の考察
２０．研究事例の考察・後期研究テーマの決定
２１．後期研究テーマの決定
２２．研究テーマの情報収集
２３．研究テーマの情報収集
２４．研究テーマの情報収集
２５．研究レポート作成
２６．研究レポート作成
２７．研究レポート作成
２８．研究発表
２９．研究発表
３０．秋学期の講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J30181001
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミ、研究ゼミⅠで学んだことをさらに深く研究し、卒業研究としてまとめます。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介します。		
教材（その他）	適宜プリントを配付します。		
評価方法	平常点（受講姿勢やグループワークでの貢献度など）50%。レポートおよび発表（50%）。		
到達目標	自分で研究テーマをみつけることができる。 研究テーマに関する文献や関連資料を収集することができる。 研究成果を論文としてまとめることができる。		
準備学習	ゼミの時間は発表が中心になるので、事前に発表のための調査や資料準備をしておくこと。		

受講者への要望

資料調査、分析、グループディスカッション、パソコンでのプレゼンテーション資料作成、発表など、実習が中心となりますので、積極的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

専門ゼミナール、研究ゼミナールⅠ、IIは継続して履修します。研究ゼミナールIIでは、専門ゼミ、研究ゼミⅠで学んだことをさらに深く研究し、大学生活の集大成として、卒業研究としてまとめます。

1. オリエンテーション
2. 研究の進め方、論文のまとめ方について
3. 研究テーマ案の検討
4. 関連文献、資料の調査
5. 関連文献、資料の調査
6. 研究計画の作成
7. 研究テーマ、研究計画の発表、意見交換
8. 研究テーマ、研究計画の発表、意見交換
9. 研究テーマ、研究計画の決定
10. 研究論文作成
11. 研究論文作成
12. 研究論文作成
13. 途中経過発表、意見交換
14. 途中経過発表、意見交換
15. 研究論文作成
16. 研究論文作成
17. 研究論文作成
18. 途中経過発表、意見交換
19. 途中経過発表、意見交換
20. 研究論文作成
21. 研究論文作成
22. 研究論文作成
23. 途中経過発表、意見交換
24. 途中経過発表、意見交換
25. 研究論文作成
26. 研究論文作成
27. 研究論文作成
28. 研究発表
29. 研究発表
30. 研究発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J30181002
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）本ゼミナールでは、次のような展開方法を予定している。 ①就職活動が本格化する前に、「自己分析」に関して再確認する。 ②企業会計をめぐる最新の動向と財務会計分野の問題点を再確認する。 ③6月頃には、ゼミナリステン全員が卒業論文のテーマを選定し、必要な資料収集を開始する。 ④論文構成（章立て）を検討し、夏季休暇中には就職活動と並行して、論文作成に取り組む。 ⑤秋セメスターには、論文の推敲を重ねる中で、各自レジュメを作成し、研究報告を行う。 ⑥最終的には、本ゼミナールの卒業論文として完成するよう指導する。 （2）本ゼミナールにおける単位取得要件は、原則的に卒業論文の提出であることに注意して頂きたい。なお、 卒業論文は、別途「卒業研究」としての申請や学生論集『ビジネス・アカデミア』への投稿のベースとなる ことを再認識して欲しい。卒業論文は大学での学習面の総括であり、積極的な取り組みを期待している。		
教材（テキスト）	（1）明神信夫・笹倉淳史・水野一朗編著『アカウンティング―現代会計入門―【四訂版】』 同文舘出版 ￥2,500 （2）日本経済新聞社 編 『財務諸表の見方【第11版】』 日本経済新聞出版社 ￥860		
教材（参考文献）	各自の選定した卒論テーマに関連する適切な文献を指示する。		
教材（その他）	適宜、プリント配布を行う。		
評価方法	原則として、平素のゼミへの取組状況等（50%）、卒業論文（50%）に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）最新の企業会計制度の現状を理解することにより、企業を取り巻く現実の諸問題に対して解決策を提案・ 実践しようとする姿勢を持つことができる。 （2）会計専門職の実社会における意義や役割を理解することができる。 （3）卒業論文の作成を通じて、企業経営に重要な影響を及ぼす会計事象の課題について、問題点の発見・ 整理・分析・評価などのプロセスを実体験することができる。		
準備学習	（1）常に、自主的に課題へ取り組む姿勢を示すことが肝要であり、平素より積極的な姿勢を準備すること。 （2）必ず疑問・問題意識をもってゼミへ参加するよう、事前準備に努めること。 （3）双方向の活発な議論となるように、コミュニケーション能力あるいはディベート能力を事前準備として磨き、 ゼミへの参加を心がけること。		
受講者への要望			
（1）「会計学専攻」としての本ゼミナール履修者は、会計学分野に関する知識充実に努め、その集大成として卒業論文を作成し、さらには、学生論集への投稿まで結びつけて頂きたい。 （2）特に、公認会計士を志望して専門職大学院への進学を希望す者、あるいは、税理士等を志望して大学院への進学を希望する者にとっては、こうした卒業論文作成の経験は極めて重要であり、必修課業であるともいえる。大学における会計学履修の総括 として、特定のテーマについてまとめることが学習の総まとめの一端となり、また、大学院進学後に修士論文などを作成する際 の大きなステップとしての重要な必須経験となるからである。 （3）一般企業などへの就職を指向する場合も、自主的なテーマ設定・資料収集・下書き・推敲といった一連のプロセスを経て完成 する卒業論文こそ、大学における唯一の「自主的な学習成果」となり、社会人となった際にも、その経験は生きることとなろう。 （4）以上のことを再認識し、ゼミの卒業論文作成に積極的に取り組んで頂きたい。		
講義の順序とポイント			
本研究ゼミナールIIの展開内容は、次のように予定している。 【春セメスター】			

1．ゼミナール・ガイダンス
2．自己分析などに関する手法と内容
3．自己分析などに関する演習
4．企業会計分野における最新の動向
5．財務会計分野の問題点の確認(1)
6．財務会計分野の問題点の確認(2)
7．テーマ選定の指導と演習(1)
8．テーマ選定の指導と演習(2)
9．資料収集の指導と演習(1)
10．資料収集の指導と演習(2)
11．論文構成に関する指導
12．論文構成に関する演習(1)
13．論文構成に関する演習(2)
14．卒業論文作成に関する確認
15．セメスター総括および質疑応答

【秋セメスター】
1．卒業論文作成に関する再確認
2．論文構成に関する再確認
3．論文構成に関する演習(1)
4．論文構成に関する演習(2)
5．論文構成に関する演習(3)
6．研究報告(1)
7．研究報告(2)
8．研究報告(3)
9．研究報告(4)
10．研究報告(5)
11．研究報告(6)
12．研究報告(7)
13．研究報告(8)
14．秀作報告
15．演習総括および質疑応答

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J30181004
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	インターネットに代表される広域ネットワークの普及はわれわれの生活まで変革を迫っている。 高度情報化がすすむつれ、企業にもこれまで以上に迅速な対応を迫られている。 ちょっとした判断の遅れが取り返しのつかないことになる中で、情報システムの高度化とそれへの適応がますます重要なものになってきている。 反面、広域ネットワークの普及によって企業秘密の漏えい、不正なネットワークへの侵入、ネットワークを取り巻く倫理の欠如などの問題が噴出している。 授業概要、ゼミスケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。(但し、予告なしにアドレスが変更されることがある。) その他の特記事項　時間外での相当量の学習、調査を要する。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	8GB 以上の USB メモリ		
評価方法	受講・発表など授業での取り組み 40%、演習課題及びレポート 60%で評価する。		
到達目標	経営における情報システムと情報管理の動向や問題点を整理し、今後の展望を明らかにする。そして各自のテーマを選択し、卒業論文作成に向けた知の充実を図る。		
準備学習	授業外でのワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションの活発な利用で、コンピュータのビジネス利用のための基礎素養向上のための文字入力トレーニング(学年末に 500 字/10 分)、表作成、文書作成練習を常にしておくこと。		

受講者への要望

経営、及び情報というものに興味を持ち、自らの積極的な参加を期待する。

講義の順序とポイント

新しい IT 技術の経営分野への適用可能性について、調査、比較、検証し、個人研究による卒業論文にまとめていく形態の指導を行っていく。

1.今後、重要になってくる新たな情報システム、新たな情報管理の手法を実験的に構築する。

2.実験構築した内容の評価を行う。

研究ゼミナールII s ≪春学期≫

1　はじめに

2～3　経営学の基礎・応用知識の復習

4～5　テーマの設定

6　中間報告

7～14　資料収集、システム構築、レジュメの作成、報告、検証、討論を重ねる

15　中間発表会

研究ゼミナールII f ≪秋学期≫

16　はじめに、セキュリティアップデート

17　春学期の復習

18～20　論文の書き方

21～27　卒業論文(卒業制作)の作成

28-29　論文発表

30　学年末発表会

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J30181005
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	経営や産業に関連するテーマを中心に、学生自身がテーマや問題を設定し、それに関する資料を収集・整理し、レジュメを作成し（あるいはレポート・論文を作成し)、他のゼミ生の前で発表し、討論する。		
教材（テキスト）	用いません。		
教材（参考文献）	そのつど、指示します。		
教材（その他）			
評価方法	ゼミでの発表　　40% レジュメ　　40% ゼミでの討論参加　　20%		
到達目標	以下の、一連の流れができること。 1. 自分で問題設定できること 2. 資料・文献を収集できること 3. 仮説や論説を作成できること 4. 人前で、自分の考えを発表できること 5. 討論において、論理的に説明できること		
準備学習	毎回のゼミの終了時に、次回のゼミの内容と予習すべきことがらを指示する。 なお、ふだんから、新聞・雑誌に目を通し、TV なども見つつ、常に問題意識を持つようにすること。		
受講者への要望			
元気良く、積極的に討論に参加してください。			
講義の順序とポイント			
01 ゼミの運営方法に関して 02　A 君の発表 03　B さんの発表 04　C 君の発表 05　D さんの発表 06　E 07　F 08　G 09　H 10　I 11　J 12　K 13　L 14　M 15　N	16　O 17　P 18　Q 19　R 20　S 21　T 22　U 23　V 24　W 25　X 26　Y 27　Z 28　a 29　b 30　c		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J30181006
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	卒業研究指導		
教材（テキスト）	研究テーマに合わせて個別に指導します		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	中間報告(20%)、最終報告(20%)、最終レポート(60%)		
到達目標	問題意識を持って研究対象を見つめ、問題の所在を明らかにするとともに、体系的に説明できる能力を身につける		
準備学習	各自の研究テーマに沿った課題を与えるので、他の参加者にも理解してもらえるようなプレゼン資料の準備をしてくること。		

受講者への要望

遅刻・欠席にあたっては事前に連絡すること。

講義の順序とポイント

春学期：

1. 各自の今後の研究方向の決定
2. 卒業研究の書き方の指導(1)
3. 卒業研究の書き方の指導(2)
4. 卒業研究の書き方の指導(3)
5. 関連書籍･データの収集(1)
6. 関連書籍･データの収集(2)
7. 関連書籍・データの収集(3)
8. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(1)
9. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(2)
10. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(3)
11. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(4)
12. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(5)
13. 中間報告(1)
14. 中間報告(2)
15. 中間報告(3)

秋学期：

16. 卒業研究の方向性の確認(1)
17. 卒業研究の方向性の確認(2)
18. 卒業研究の方向性の確認(3)
19. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(1)
20. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(2)
21. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(3)
22. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(4)
23. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(5)
23. 論文形式の再確認
24. 受講生ごとの問題点とその確認(1)
25. 受講生ごとの問題点とその確認(2)
26. 受講生ごとの問題点とその確認(3)
27. 受講生ごとの問題点とその確認(4)
28. 最終報告(1)
29. 最終報告(2)
30. 最終報告(3)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J30181008
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	研究ゼミナールＩで学んだことを基に、論文のテーマを決めます。各自の設定したテーマごとにレジュメの作成、報告というかたちですすめ、卒業論文の作成につなげていきます。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	各自の研究テーマに合わせて適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリント等の資料を配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（３０％）。授業中に課すレポート（７０％）。		
到達目標	論文を作成するための知識（テーマ設定、情報収集・整理、構成力、文章力等）の習得を目標とします。 経営学の応用的な知識を理解することを目標とします。		
準備学習	講義修了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおいてください。		

受講者への要望

能動的な姿勢で論文作成をするよう心がけてください。

講義の順序とポイント

1　春学期オリエンテーション
2　経営学の知識の復習①
3　経営学の知識の復習②
4　経営学の知識の復習③
5　論文テーマの設定①
6　論文テーマの設定②
7　論文テーマの設定③
8　資料収集①
9　資料収集②
10　論文構成の作成①
11　論文構成の作成②
12　論文構成の作成③
13　論文構成の発表①
14　論文構成の発表②
15　春学期の研究ゼミナールIIを通して学んだことの総括
16　秋学期オリエンテーション
17　論文の書き方①
18　論文の書き方②
19　中間報告に向けた準備①（資料収集、論文の作成）
20　中間報告に向けた準備②（資料収集、論文の作成）
21　中間報告に向けた準備③（論文の作成）
22　中間報告に向けた準備④（論文の作成）
23　中間報告①
24　中間報告②
25　論文の作成①
26　論文の作成②
27　論文の作成③
28　論文の作成④
29　最終報告
30　秋学期の研究ゼミナールIIを通して学んだことの総括

授業の進度に応じて順序が入れ替わったり、変更したりすることがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J30181010
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	研究ゼミナールIIでは、研究ゼミナールⅠで学んだ知識を活かし、スポーツ経営を題材としたテーマによる研究を「テーマ決定」、「情報収集」、「レポート作成」、「発表」という段階で進めて行く。研究を進めるなかで、経営学を学ぶと共に論文作成に取り組む。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（受講態度など）５０％　レポート２５％　　発表２５％により評価する。		
到達目標	研究テーマについての情報収集能力を高め、研究成果を他者に伝えるための構成・文章力を身に付け、論文を作成することができる。		
準備学習	気になる情報はPC・携帯・情報誌などを利用し、調べる癖を付け、調べた内容をノートなどに残す。		

受講者への要望

常日頃から、経営やスポーツの情報にアンテナを張り、気になる情報を収集して下さい。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション
２．研究ゼミⅠの復習
３．レポートの書き方の復習
４．レポートの書き方の復習
５．研究テーマの決定
６．研究テーマの決定
７．研究テーマの情報収集
８．研究テーマの情報収集
９．研究テーマの情報収集
１０．研究レポート作成
１１．研究レポート作成
１２．研究レポート作成
１３．研究発表
１４．研究発表
１５．春学期の講義を通して学んだことの総括
１６．オリエンテーション
１７．前期研究発表の分析
１８．前期研究発表の分析
１９．研究事例の考察
２０．研究事例の考察・後期論文テーマの決定
２１．後期論文テーマの決定
２２．論文の情報収集
２３．論文の情報収集
２４．論文の情報収集
２５．論文作成
２６．論文作成
２７．論文作成
２８．論文発表
２９．論文発表
３０．秋学期の講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待						

年度	2015	授業コード	J30181012
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	研究ゼミナールIIにおいては、研究ゼミナールⅠで選んだ課題について、研究報告を積み重ね、卒　業論文にまで研究を深めてもらう。		
教材（テキスト）	全員に統一したテキストはない。		
教材（参考文献）	各自の研究テーマに必要な参考文献については個々に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	報告・卒業研究などで総合的に評価する。		
到達目標	卒業研究（論文）を完成する。 歴史の連続と断絶を理解し、自分の立脚点を歴史のなかに位置づけることができる。		
準備学習	各自の卒業研究の完成に向かって全力を注いでもらいたい。具体的には、各自各回報告のために準備し、報告時に合わせてレジュメ又はパワーポイントを作成すること。		
受講者への要望			
出席は義務である。ただ出席するだけではなく、毎回必ず発言するなど、積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
春学期： 1～4.ゼミナールⅠ終了論文の確認と今後の研究方向、 5～9.第一回研究報告、 10～14.第二回研究報告、 15.夏季休業中の研究に関する指導 秋学期： 16～20.夏季休業中の研究報告、 21～25.卒業論文の構想検討、 26～30.論文の最終検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J30181013
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	研究ゼミⅠで学んだこと、感じた問題意識を基に、卒業研究のテーマを見つける。 テーマに関する情報収集や整理、分析を通じ、問題意識を明確化するとともに、論文としてまとめる構成力・文章力も育成する。また、ゼミ内で、お互いのテーマや進捗状況だけでなく、卒業後に進む企業についての情報交換等も行い、理解を深める。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	テーマに応じて適宜提供する。		
評価方法	授業内発表（50%）、レポート等提出物（50%）		
到達目標	経営学部生として学んだ4年間のまとめとして、自らテーマを定めて情報収集や分析を行い、研究成果としてまとめる力を獲得する。		
準備学習	専門ゼミ、研究ゼミⅠを通じて設定したテーマについて、卒業研究としてまとめられるよう資料収集と整理を行い、 毎月第1週の授業時に提出すること。		

受講者への要望

大学で学んだことの集大成としての卒業研究に取り組むことは、社会人になってからのキャリアに向けての自分自身への大きなプレゼント。就職活動と並行しながら積極的にチャレンジすること。

講義の順序とポイント

1.　ゼミの目的と方法
2.　論文の書き方①
3.　〃　②
4.　研究テーマの見つけ方
5.　テーマの洗い出し
6.　テーマ周辺情報収集
7.　〃
8.　関連書籍・データの収集
9.　〃
10. 整理・分析
11.　〃
12. テーマの決定
13.　〃
14. 意見交換会
15. 構成
16.　〃
17. 補足情報収集
18. 卒業研究作成
19.　〃
20.　〃
21.　〃
22.　中間報告会
23.　卒業研究作成
24.　〃
25.　〃
26.　手直し作業
27.　手直し作業

28. 提出
29. 論集用原稿手直し
30. 〃

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J30181014
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	研究ゼミナールIで学んだことを基盤に、各自が自分のテーマにそって論文をまとめていこう。 スポーツの世界で、今何が課題となっているのだろうか?人間はスポーツという知識を全て情報としてストックできているのであろうか? さて、君はスポーツをどの程度理解しているのだろうか?学問とは、いつでも、わからないことからスタートし、わかろうとして、知識を追求し、さまざまな感覚と、人々の行動から多くを学んでいくものだ。 学び、明らかにされたことだけが知識なのだろうか？学校で学んだことだけが知識なのだろうか?メディアに取り上げられながら、スポーツのルールは日々変化していく、新しい戦略や技術がこれからも必要である。ひとは 24 時間学び続けているのではないだろうか? 41 年前の 1970 年 4 月 11 日、13 時 13 分に打ち上げられたアポロ 13 号は、地球から 33 万 km 離れた宇宙で発生した爆発事故により、搭載していた 酸素ボンベ、電力供給ライン、燃料電池を失った。当時、有人宇宙飛行史上最大といわれたこの事故において、アポロ 13 号のクルーとミッション管制センターは、 現状把握のための情報の収集・分析、課題解決策の立案・開発、意思決定を繰り返し、奇跡の生還を成し遂げた。このように情報は人の意思決定や行動に不可欠 であり、またそれらに大きな影響を与える。4 年間の最後に、学ぶとは何かを考え、よりよき人生に繋げていこう。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	毎回のレポート(50%)。 毎回の発表とゼミナールへの積極的関与(50%)。		
到達目標	1. 各自が目標とする課題の解決に努める。 2. 計画的に課題をこなし、目標を達成できるように努力する。 3. 毎回、自らのテーマとすることが達成できるようにする。 4. プレゼンテーションの質を高め、人の心を動かす発表ができるようにする。		
準備学習	1. ゼミの時間に与えられた課題を次回のゼミまでに完成して発表できるようにする。 2. 報告する前に、準備を怠らないようにする。 3. わからない専門用語は前もって調べ、質問に答えられるようにしておく。		

受講者への要望

1. ゼミには積極的に参加する。
2. 遅刻や無断欠席をしない。
3. 自分でも進んで興味のあることを見つける努力をし、それに関する文献などを集める。

講義の順序とポイント

研究ゼミナールIIでは主として学生の報告やディスカッションで進めていくという参加型の授業をします。そこでは事前学習、報告書の作成という積極的なアクションが実行されないと授業は成立しません。今までのように講義を聞き、ノートを取るという受け身の姿勢ではなく、ゼミ生全員の積極的な態度が必要です。ゼミの時間を有意義にするのはあなた自身であるということで、他に責任転嫁をしないで取り組んでください。初回の講義だけは課題がありますが、次回からはみなさんが主役です。

１．春学期オリエンテーション、研究とはなにか？
２．自分史を創ろう！内発的な動機付け、自尊心、尊厳、好奇心、喜び①
３．自分史を創ろう！自分のビジョンと真摯な志、チームの中の自分、競争②
４．自分史を創ろう！感謝と行動、現実を変えてきた行動とは?③
５．自分史を創ろう！スポーツは学習する組織である。④
６．卒論研究①
７．卒論研究②
８．卒論研究③
９．資料分析①
１０.資料分析②
１１.資料分析③
１２資料分析④

１３資料分析⑤
１４.資料分析⑥
１５..資料分析⑦
１６.秋学期オリエンテーション
１７.自分史 2012 の配布・評価
１８.卒業研究中間発表
１９.卒論研究
２０.卒論研究
２１.卒論研究
２２.卒論研究
２３.卒論研究
２４.卒論研究
２５.卒論研究提出
２６.卒論研究手直し
２７.卒論研究手直し
２８.卒業研究発表資料作成
２９.卒業研究発表資料作成
３０.卒業研究発表会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J30181015
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本ゼミナールでは、スポーツの市場における戦力均衡と営業利益率の関係を討議する具体的には、①先行研究を批判的に読み込み、②1 次データを収集分析し、報告する。 そのために前半では（1）提示されたテキストを輪読し、（2）2 次データの収集を行ない、後半では（1）1 次データを収集し、（2）それらを分析し、報告する。		
教材（テキスト）	適宜、指示する。		
教材（参考文献）	なし。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	演習内調査（50%）、演習内報告（50%）		
到達目標	マーケティング現象を説明する仮説を検証し、報告書にまとめることができる。		
準備学習	相関分析と回帰分析の行い方を復習しておくこと。 講義終了時に、相関分析および回帰分析が行えるデータを配布する。各自、指示のあった作業を次回までに予習しておくこと。なお、講義内では前回の講義範囲に関連する小試験を課す。復習をしておくこと。		

受講者への要望

課外の活動も予定しているので、時間に余裕のある人の受講が望ましい。
また他大学の図書館へ出向く可能性もあるので、図書館で共通閲覧証の発行を求めておいてほしい。

講義の順序とポイント

■春学期
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2.「テキストの提示」：このゼミナールで取り組む本年度の課題を提示する
3.「チーム決定」：課題遂行は複数のチームで行うため、チームを決定する
4.「テキスト輪読 1」：担当チームがレジュメで内容を報告する
5.「テキスト輪読 2」：担当チームがレジュメで内容を報告する
6.「テキスト輪読 3」：担当チームがレジュメで内容を報告する
7.「2 次データ収集 1」：担当チームが収集状況を報告する
8.「2 次データ収集 2」：担当チームが収集状況を報告する
9.「2 次データ収集 3」：担当チームが収集状況を報告する
10.「2 次データ収集 4」：担当チームが収集状況を報告する
11.「2 次データ収集 5」：担当チームが収集状況を報告する
12.「2 次データ収集 6」：担当チームが収集状況を報告する
13.「2 次データ分析報告 1」：担当チームが分析結果を報告する
14.「2 次データ分析報告 2」：担当チームが分析結果を報告する
15.「中間討議」：これまでの進捗状況を確認する
■秋学期
16.「1 次データ収集のための心得」：現場に降り立つ際の注意事項を説明する
17.「1 次データ収集 1」： 担当チームが収集状況を報告する
18.「1 次データ収集 2」： 担当チームが収集状況を報告する
19.「1 次データ収集 3」： 担当チームが収集状況を報告する
20.「1 次データ収集 4」： 担当チームが収集状況を報告する
21.「1 次データ収集 5」： 担当チームが収集状況を報告する
22.「1 次データ収集 6」： 担当チームが収集状況を報告する
23.「1 次データ収集 7」： 担当チームが収集状況を報告する
24.「1 次データ収集 8」： 担当チームが収集状況を報告する
25.「1 次データ分析報告 1」： 担当チームが分析結果を報告する
26.「1 次データ分析報告 2」： 担当チームが分析結果を報告する
27.「1 次データ分析報告 3」： 担当チームが分析結果を報告する

28.「報告会 1」：担当チームが全分析結果を報告する
29.「報告会 2」：担当チームが全分析結果を報告する
30.「最終討議」：これまでのゼミナールを総括する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★★		★

年度	2015	授業コード	J30181016
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	研究ゼミナールＩにおける研究成果を踏まえて卒業論文・卒業制作に取り組む。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	研究課題により適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	取組姿勢 50%、研究成果（卒業論文、卒業レポートなど）50%		
到達目標	大学４年間にわたる学習の集大成として卒業論文の作成および学習成果を活用可能な進路の決定を行うことを目標とする。 　また日常でのコミュニケーションや意見交換を通じてリクルート活動に求められるスキルの涵養も図りたい。		
準備学習	論文作成のため必要とされる文献はじめ必要な情報および進路決定に必要な情報の入手および活用を日頃から心掛けてゼミに臨むよう準備されたい。		

受講者への要望

研究ゼミナールＩ受講者の受講が望ましい。また論文作成のテーマについては、事業構想関連の選択を希望する。

講義の順序とポイント

１回生からのゼミナールにおける研究により習得した、知識、スキルなどを活用して、ゼミナールの集大成としての卒業論文・卒業制作（以下卒論と言う）を行う。このため卒論など作成のための基礎知識の取得から完成までの研究を進める。 一方春学期は、進路決定に重要な時期でもあり、適宜リクルート活動における課題問題点について、個別またはゼミ全体での解決にも取り組みたい。

1　はじめに（本ゼミナールの概要）
2　論文作成に関する基礎知識の習得(論文の書き方、まとめ方、論述の進め方、研究方法、情報の集め方など）①
3　論文作成に関する基礎知識の習得②
4　論文作成に関する基礎知識の習得③
5　論文作成に関する基礎知識の習得④
6　論文作成に関する基礎知識の習得⑤
7　論題の選定(文献研究・事例研究・フィールドワークの実施を通じて行う）①
8　論題の選定②
9　論題の選定③
10　論題についての仮説と検証についての考察（研究方法の考察を含む）①
11　論題についての仮説と検証についての考察②
12　論題についての仮説と検証についての考察③
13　論文の作成（論旨および論文構成の考察ならびに論述を進める）①
14　論文の作成②
15　論文の作成③
16　論文の作成④
17　論文の作成⑤
18　中間発表会（論文作成の進捗状況、今後の進め方などについて検討を行う）①
19　中間発表会②
20　中間発表会③
21　論文の作成⑥
22　論文の作成⑦
23　論文の作成⑧
24　論文の作成⑨
25　論文の作成⑩
26　論文の作成⑪
27　論文の作成⑫

28　発表会および講評①
29　発表会および講評②
30　発表会および講評③

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J30181017
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	あなたが大学卒業後に進みたい業界あるいは企業を中心にして、その業界や企業が抱えている問題を発見し、そしてその問題が生ずる理由を明らかにしていただく。問題が無い産業や企業は皆無である。特定の問題とその生起の理由に関してレジュメ作成・発表し、最終的には論文に仕立ててもらう。		
教材（テキスト）	なし。プリントを適時配布する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	研究論文の内容(70%）および受講・発表・取組姿勢（30%）により評価する。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする組織の一員として、現実の問題に対して解決策を提案・実践しようとする姿勢を持つことができる。 ＊企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について認識できる。		
準備学習	＊研究論文のテーマに即した文献を毎回指示するので、それを指定された日までに要約して文書化し、提出すること。 ＊研究論文のテーマを指定された日までに提出すること。 ＊研究論文の修正箇所を指定された日までに修正すること。 ＊研究論文を指定された日までに提出すること。		

受講者への要望

経営管理論、経営組織論、あるいは人的資源管理論の単位を取得している方が望ましい。
研究論文の作成に意欲ある人を望む。

講義の順序とポイント

1.パソコンの起動、メールの設定、ゼミの進行に関して
2.エントリーシートの書き方について①
3.エントリーシートの書き方について②
4.研究論文のテーマ発表①
5.研究論文のテーマ発表②
6.研究論文のテーマ発表③
7.SPI、時事問題①
8.SPI、時事問題②
9.就職活動の近況報告と未内定者との面談
10.研究論文の書き方について①
11.研究論文の書き方について②
12.研究論文の書き方について③
13.研究論文の書き方について④
14.就職活動の近況報告と未内定者との面談
15.研究論文の中間発表①
16.研究論文の中間発表②
17.研究論文の中間発表③
18.研究論文の中間発表④
19.就職活動の近況報告と未内定者との面談
20.研究論文の提出と発表①・・・内容と書き方のチェック
21.研究論文の提出と発表②・・・内容と書き方のチェック
22.研究論文の提出と発表③・・・内容と書き方のチェック
23.研究論文の提出と発表④・・・内容と書き方のチェック
24.研究論文の提出と発表⑤・・・内容と書き方のチェック
25.研究論文の修正①、就職活動の近況報告と未内定者との面談
26.研究論文の修正②、就職活動の近況報告と未内定者との面談

27.研究論文の修正③、就職活動の近況報告と未内定者との面談 28.研究論文の修正④、就職活動の近況報告と未内定者との面談 29.研究論文の修正⑤、就職活動の近況報告と未内定者との面談 30.未内定者との面談

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J30181018
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	現代社会においては、組織というものがさまざまな形で存在しているが、個人が生活を営んでいく上では、それらの組織との関係を避けて通ることはできないものである。そのなかでも、われわれが生活してゆくうえで、企業という組織は必要不可欠な存在となっている。経営学および経営組織論はその企業を研究の対象としている学問である。 2 回生の専門ゼミナールでは経営学の基礎について復習し、経営組織に関する基礎的な研究成果を学習した。3 回生の研究ゼミナールⅠではそれらに基づきながら、経営組織に関する研究をさらに深め、組織の行動と個人の行動の本質を探った。 本ゼミナールでは、2・3 回生で学んだことを土台にし、経営組織に関して各自が興味のある組織現象を研究する。そのことによって、二年半に及ぶゼミナールの集大成としてもらいたい。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて指示する。		
評価方法	基本的には、平常点（受講中の積極的な発言や理解度の確認のための感想文など）30%、報告内容 30%、学期末のレポート(あるいは論文)40%の割合で評価する。 ゼミナールに関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては、評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1.　経営学あるいは経営組織論の中で、自らが関心のある事柄について文献を用いて調べることができる。 2. 上記の内容を要約することができる。 3. 上記の文献を用いて、6000 字程度のレポートを書くことができる。 4. 上記のレポートについて、人前で発表することができる。		
準備学習	1. 学年末に提出するレポートに向けて、各自関心のある組織現象に関する文献に目を通しておく。 2. 報告者は、自分が担当する部分をまとめて、報告用のプリントを準備しておく。 3. 他の学生が報告した研究内容について質問やアドバイスができるように日常から考えておく。		

受講者への要望

1．ゼミナールへの積極的な参加を望む。
2．必ず出席すること。（遅刻・欠席については厳しく対処する。）
3．講義は主として学生による報告，質疑および議論によって行うため、事前の学習が不可欠である。

講義の順序とポイント

講義は主として学生による報告，質疑および議論によって行う。具体的には，経営学および経営組織論に関するテキストに基づき，各自が興味のある組織現象を研究する。その際、学生の 1 人（あるいはグループ）がそのテキストの一定部分を担当し，資料を作成して報告する。その後，質疑や議論を行うことによって理解を深める。これを順番に行っていく。受講者全員の積極的な参加を期待する。
基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，初回の講義で報告者を割り当て，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
さらに、毎回の講義の中で一定の時間を割いて、社会での生活や就職活動の際に必要な基礎的な能力を伸ばすための学習も行う予定である。

1. 春学期オリエンテーション
2. 研究ゼミナールⅠの復習①
3. 研究ゼミナールⅠの復習②
4. 研究の進め方
5. 研究テーマの洗い出し①
6. 研究テーマの洗い出し②
7. 研究テーマに関連する文献・データの収集①
8. 研究テーマに関連する文献・データの収集②
9. 文献・データの整理・分析①
10. 文献・データの整理・分析②
11. 研究テーマの確定・研究計画書の作成①

12. 研究テーマの確定・研究計画書の作成②
13. 研究計画発表
14. 研究計画についての意見交換①
15. 研究計画についての意見交換②および研究ゼミナールII（春学期）を通して学んだことの総括
16. 秋学期オリエンテーション
17. 研究論文（研究レポート）作成①
18. 研究論文（研究レポート）作成②
19. 意見交換・補足情報の収集・分析
20. 研究論文（研究レポート）作成③
21. 研究論文（研究レポート）作成④
22. 研究論文（研究レポート）作成⑤
23. 中間報告・意見交換①
24. 中間報告・意見交換②
25. 研究論文（研究レポート）作成⑥
26. 研究論文（研究レポート）作成⑦
27. 研究論文（研究レポート）作成⑧
28. 研究論文（研究レポート）作成⑨
29. 研究発表
30. 研究発表についての意見交換および研究ゼミナールII（春学期）を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J30185001
科目名	原価計算論	単位数	2
科目名（英語表記）	Cost Accounting		
担当者名	大田　住吉	旧科目名称	
講義概要	・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 ① 実際のビジネス現場で起きるケーススタディ（事例研究）について学ぶ「ビジネス・スクール形式」。 ② グループ討議、プレゼン、質疑応答などを繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学ぶ。 ③ 定員 30 名程度の少人数グループ討議形式。 ・学習テーマは、以下のとおりです。 (a) 「原価計算」とは、何か？ 新製品開発において、「原価」や「価格」はどういう意味を持つのか？ (b) なぜ、原価計算を学ぶことが必要なのか？ (c) 業種、用途、品質、製造方法、生産量などが全く異なる様々な製品の「原価」を、具体的にどうやって計算 すれば良いのか？ (d) 原価計算を、ビジネス戦略にどう活かせば良いのか？		
教材（テキスト）	・すべてオリジナル担当教員による作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用します。		
教材（参考文献）	・必要に応じ、参考文献などを紹介します。		
教材（その他）	・必要に応じ、解答例、参考資料などを配布します。 ・なお、授業には、計算問題があります。電卓（一般的なもので可）を必ず持参下さい。		
評価方法	①グループ討議への参加意欲・発言内容（40%）、 ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力（30%）、 ③プレゼン力および質疑応答対応力（30%） による総合評価		
到達目標	・実社会で「戦力」として通用するビジネス・リーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・原価計算をビジネス戦略にどう活かせば良いのかについて分析し、判断し、表現する、実践的な能力を身に つけることを期待します。		
準備学習	＜予習＞ ・授業で配布するオリジナルテキストは、事前に熟読しておいて下さい。 ・業界事情、専門用語などについては、自分で調べ、理解して下さい。 ＜復習＞ ・授業の最後には、必ず 5～10 分の「本日のポイント」の講義があります。その内容について、しっかり復習し、 自分の「武器」として使えるようにしておいて下さい。 ・授業の中で、他のグループメンバーの意見等で参考になると感じたものは、その内容をしっかり復習して下さ い。		
受講者への要望			
・29 年間の民間企業でのビジネス経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！ ・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス　～この授業で何を学ぶのか？、原価計算とは、何か？～ 2～7　【ビジネス事例Ⅰ】「『新製品開発』を考える」（健康食品製造販売業Ｄ社の事例） ＜テーマ＞　新製品・新商品開発を成功させるために必要な原価計算とは？ ＜ポイント＞　直接費と間接費、変動費と固定費、目標生産量、目標利益、赤字転落の理由ほか 8～１１　【ビジネス事例Ⅱ】「攻める原価管理」（地方銀行Ｅ社の事例） ＜テーマ＞　マンレート、マシンレート、限界利益等を用いたコストマネジメントとは？ ＜ポイント＞　製品１個あたりの原価計算、マンレート、マシンレート、コスト差異分析、完成品原価と仕掛品原価、			

限界利益ほか

１２～１５　【ビジネス事例Ⅲ】「『新製品開発』を考える EpisodeⅡ」（健康食品製造販売業Ｄ社の事例）

＜テーマ＞　実際のビジネス現場で使われている原価計算手法とは？

＜ポイント＞　全部原価計算、直接原価計算、活動基準原価計算、原価マネジメント戦略ほか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★★	★★		★★

年度	2015	授業コード	J30194A01
科目名	工業簿記Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Factory Bookkeeping Ⅰ		
担当者名	島　吉伸	旧科目名称	
講義概要	本講義は、製造業において実施される工業簿記および原価計算の基本知識を身につけてもらうことを目的としています。日商簿記２級工業簿記程度の内容を扱います。		
教材（テキスト）	上埜　進他著「工業簿記・原価計算の基礎　第３版」税務経理協会		
教材（参考文献）	岡本　清・廣本敏郎（編著）　「新検定　簿記講義２級工業簿記」　中央経済社 岡本　清・廣本敏郎（編著）　「新検定　簿記ワークブック２級工業簿記」　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 60%　中間テスト 40%		
到達目標	工業簿記および原価計算の基礎知識を身につけること。		
準備学習	毎講義終了時に指示する。		
受講者への要望			
学習内容を定着させるために、講義終了後、問題集を利用して学習した内容を繰り返し演習しておくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回　工業簿記とはなにか 第２回　原価計算の手続きと工業簿記の構造 第３回　材料費の計算（１） 第４回　材料費の計算（２） 第５回　材料費の計算（３） 第６回　労務費の計算（１） 第７回　労務費の計算（２） 第８回　経費の計算 第９回　中間テスト 第 10 回　製造間接費の計算（１） 第 11 回　製造間接費の計算（２） 第 12 回　個別原価計算 第 13 回　総合原価計算（１） 第 14 回　総合原価計算（２） 第 15 回　講義全体のまとめ 定期試験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J30194B01
科目名	工業簿記II	単位数	2
科目名（英語表記）	Factory Bookkeeping II		
担当者名	島　吉伸	旧科目名称	
講義概要	本講義は、製造業において実施される工業簿記および原価計算の基本知識を身につけてもらうことを目的としています。日商簿記２級工業簿記程度の内容を扱います。		
教材（テキスト）	上埜　進他著「工業簿記・原価計算の基礎　第２版」税務経理協会		
教材（参考文献）	岡本　清・廣本敏郎（編著）　「新検定　簿記講義２級工業簿記」　中央経済社 岡本　清・廣本敏郎（編著）　「新検定　簿記ワークブック２級工業簿記」　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 60%　小テスト 40%		
到達目標	工業簿記および原価計算の基礎知識を身につけること。		
準備学習	毎講義終了時に指示する。		
受講者への要望			
学習内容を定着させるために、講義終了後、問題集を利用して学習した内容を繰り返し演習しておくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回　　原価計算総論・「工業簿記Ｉ」の確認 第２回　　部門費の計算（1） 第３回　　部門費の計算（２） 第４回　　部門別個別原価計算 第５回　　単純総合原価計算・組別総合原価計算 第６回　　等級別総合原価計算 第７回　　工程別総合原価計算 第８回　　仕損・減損の処理 第９回　　連産品の原価計算・副産物の処理 第 10 回　　中間テスト 第 11 回　　標準原価計算（１） 第 12 回　　標準原価計算（２） 第 13 回　　直接原価計算（１） 第 14 回　　直接原価計算（２） 第 15 回　　工場会計の独立 定期試験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J30196001
科目名	広告ビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advertising Business Studies		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	「説明」ではなく「説得」のビジネスとしての広告ビジネスへの理解を学びます。 広告メッセージの作り方を知るためのコンセプトづくりの技術、伝える相手（ターゲット）に有効に伝えるために徹底的にターゲットを研究する手法としてのセグメンテーション(細分化)とポジショニング、買ってもらうためのコミュニケーションから買い続けるためのコミュニケーションを提唱するブランド論、そしてインターネットが登場して以降のオムニチャネル対応など、広告の有効性と限界、その特性について学びます。 普段何気なく見ている広告の裏にも緻密な戦略や企画、アイデアがあることを知り、面白さを追求しただけに見える広告コミュニケーションにも単なる思い付きではなくビジネスとしての厳しい戦略性、コスト意識、リスクテイクを求められていることを学びます。		
教材（テキスト）	岸志津江・田中洋・島村和恵『現代広告論　新版』有斐閣アルマ 2,268 円		
教材（参考文献）	電通「日本の広告費」　電通ホームページ		
教材（その他）			
評価方法	小レポート(20%)、定期テスト(60%)、授業時の発言の積極性(20%)		
到達目標	●広告の裏にある戦略やアイデアを読み解く力をつける ●広告によって、商品の売上にレバレッジをかけるという発想と手法を理解する		
準備学習	資料を事前に配布しますので、事前に資料を熟読することを求めます		

受講者への要望

●遅刻、途中退席は不可。授業中の私語と SNS 使用の禁止を求めます。
●授業中の積極的な発言や質問により、授業にコントリビューション(貢献)を期待します。
●一回でも授業が欠けるとその後の理解に支障が出ますので連続的に出席してください。

講義の順序とポイント

1. 広告コミュニケーションとは　広告の種類と機能
2. 広告ビジネスの流れ　オリエンから媒体計画まで
3. 市場調査
4. 広告戦略の構築　コンセプトと広告表現
5. 時代のトレンド
6. 広告の変遷　新聞広告からテレビ広告へ
7. テレビ広告のトレンド１　1980 年代の広告　ポストモダン手法
8. テレビ広告のトレンド２　1990 年代の広告　ＩＭＣ
9. テレビ広告のトレンド３　2000 年代の広告　ポストモダン手法
10. 広告の記号論　テレビＣＭを読み解く
11. インターネット時代の広告　オムニチャネル化
12. ビッグデータの時代
13. マス広告か PR かイベントか
14. 社会の流行をつかむポストモダン調査法
15. 広告ビジネスの課題　　広告はモノを売れるか／広告は夢をつくれるか

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J30220001
科目名	事業構想概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Business Design		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	経営に必要な要件は大きく変化してきている。経済社会の変化を素早く察知できる感受性、新しいニーズを具体化する技術力、市場に的確にアピールできるマーケティング力、自由な発想と柔軟な行動をシステム化できるマネジメント力、そしてリスクに敢然と挑戦する企業家(起業家）精神が求められるようになった。 新たな事業構想が求められるが、事業構想の全体像を把握しようといった講義科目はみられなかった。そこで、事業構想の基本的な理念から具体的な実践活動のあり方まで幅広く取り上げていきたい。革新的な事業構想を策定しても、現実には実際の経営活動に結び付かない場合も少なくない。それぞれの企業が置かれている環境は異なり、活動領域や提供する財・サービスも個別化しているからである。「いかに」ではなく「何を、何のために」事業構想を策定するのか、企業をめぐる環境の根底にある本質を見抜くことが必要なのである。激しく変化する経営環境のなかで、的確な事業構想をどのように考えていけば良いのか、基本的な問題を明らかにしていきたい。		
教材（テキスト）	梅木晃、井形浩治編著　『事業構想と経営』嵯峨野書院		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	随時プリントを配付する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	経営においてその質が問われる時代を迎え、あらゆる分野で事業構想の立案力が求められている。その根底には、イノベーション力とその源泉となる起業家精神の涵養があると考える。 この講座を通じて構想力、革新力、創造力についての基本と原則に関する知識を身に付けることを目標としたい。		
準備学習	事業構想には知識はもとより感性が必要とされることが多い。感性を磨くためには,単に大学における学習のみならず幅広い日常生活における体験が求められる。このため身の回りにおいて起こるすべてのことに対し、関心と問題意識を持って授業に望まれたい。 また教科書、配布資料などについては事前に熟読するとともに、適宜実施するレポート作成のため、復習にも心がけられたい。		
受講者への要望			
受講者数が多いため、受講マナーを守り、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　経営をめぐる環境の変化 3　事業構想の視点 4　事業構想と経営構想・システム構想・業務管理構想 5　リストラクチュアリングとリエンジニアリング 6　起業活動の出発点と経営基盤の確立 7　構想策定の視点 8　事業構想におけるダイナミズム 9　事業構想における現状認識 10　事業構想策定に関する要件 11　事業構想とアントレプレナー　① 12　事業構想とアントレプレナー　② 13　事業構想（起業）プロセスの基本 14　アントレプレナーの役割・起業機会に対する認識・経営資源の調達 15　構想策定と経営とのインターフェイス 16　質の時代の経営課題 17　新たなビジネスモデルとビジネスモデル特許 18　事業構想策定のプロセス 19　構想と経営認識（創造力・効率性・リスクの回避・リーダーシップ） 20　戦略的コスト・リスク・市場への対応　①			

21　戦略的コスト・リスク・市場への対応　②
23　戦略的コスト・リスク・市場への対応　③
24　具体的な事業構想の手順
25　事業構想の評価
26　日本の公的創業支援制度①
27　日本の公的創業支援制度②
28　日本の公的創業支援制度③
29　これからの事業構想へ向けて①
30　これからの事業構想へ向けて②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J30225001
科目名	女性経営者論	単位数	4
科目名（英語表記）	Women Own's Businesses		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	日本の美容業界は、明治から昭和に至る経済発展の原動力となり、またいち早く国際化に対応してきた。とくに化粧品産業は、その時代の文化や経済と密接にかかわり、高度な販売システムを形成した独特の市場を持っている。消費者が、最も海外製品を身近に感じることができる市場であるともいえるであろう。シャネル、クリスチャン・ディオール、ジバンシィ、イヴ・サンローランといったトップ・ブランドはもちろん、M.A.C、ボビィブラウン、ナーズ、メイクアップフォーエバーなどのアーティスト系ブランドも数千円で手に入るのである。それに対抗する国産メーカーの動きも目が離せない。このように、対象とする顧客が明確で、新製品（新色）の発売周期も安定した業界は他にはない魅力がある。 この講義では、美容業界、とくに化粧品市場に焦点をあて、その歴史や独特の流通システム、メーカーの組織、ブランドのプロフィールなどを解説し、企業研究にも取り組む。また、状況に応じて、フロア・プラン研究のためのフィールドワークを企画する予定である。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じてプリントを配布する。		
評価方法	平常点 50％　授業内確認テスト 50％ 平常点は、授業中の発表や、課題、提出物を総合的に評価する。		
到達目標	日米欧における化粧品市場の変遷、ブランディングの歴史、化粧品の流行やその販売の現場など、美容産業の国際的発展過程について理解する。さらに、個別企業の動向についても理解を深める。		
準備学習	各講義中に、次回講義のための準備学習（資料収集やレポート作成等）を指示する。		
受講者への要望			
講義の他、グループワーク、発表などの活動もあるので、積極的な参加を求める。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　イントロダクション　美容業界におけるブランドを学ぶ 第 2 回　化粧品とブランド 第 3 回　化粧品産業の流通システム 第 4 回　美容の歴史―明治の文明開化から大正デモクラシー 第 5 回　美容の歴史―昭和・日本経済の発展と化粧品産業の隆盛 第 6 回　美容の歴史―平成・流通の構造改革 第 7 回　インターネットをめぐる化粧品業界の動き 第 8 回　規制緩和―再販制度と薬事法 第 9 回　メーカーの製造・販売・情報発信 第 10 回　主要ブランド・プロフィール 第 11 回　小売の現状―販売店のフロア・プラン 1　百貨店 第 12 回　小売の現状―販売店のフロア・プラン 2　ドラッグストア 第 13 回　化粧品市場の今後 第 14 回　化粧品企業の社会的責任 第 15 回　美容とブランド			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J30226001
科目名	女性経営者論	単位数	2
科目名（英語表記）	Women Own's Businesses		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	近年、新規開業率が低下している中、女性が経営する企業は増加し、従来の男性経営者とは違った発想や支店を持つ女性経営者の活躍が注目されている。女性経営者の増加の背景、社会的役割、その経営の特徴を知り、企業経営の多様性を理解する。 女性経営者の特徴として、①生活に密着した視点、属性にとらわれない豊かな人脈、③地域や教育機関等との連携、④ＩＴ化や国際化によるビジネスチャンスの獲得、等が挙げられる。それぞれの事例を基に学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	毎回レジュメプリントと資料を配布する。		
教材（その他）	必要に応じてビデオ・ＤＶＤ教材を活用する。		
評価方法	各回小レポート（50%）・授業内テスト（50%）。		
到達目標	女性経営者の増加の背景とその経営の特徴を知り、企業経営に必要な幅広い視点を持つ重要性を学ぶ。 また、属性にとらわれない人材活用の意味と効果について理解する。		
準備学習	・マスコミに登場する女性経営者や、身近な女性経営者についての情報を収集しておくこと。 ・授業終了時に課したレポートテーマについて、配布資料に基づき次回までに書けるようにしておくこと。		
受講者への要望			
他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。 積極的に授業に参加してもらいたい。 女子学生だけでなく、男子学生の受講を期待する。			
講義の順序とポイント			
1 .女性経営者の社会的役割と現状 2. 女性経営者増加の背景と女性の働き方 3. 女性経営者の競争優位性 4. 新規開業者に見る女性経営者の特徴と課題 5. ケーススタディ　事業機会の認識 6. 〃　起業プロセス 7. 〃　資金調達 8. 〃　マーケティング 9. 〃　人材活用 10. 女性が中心となるＮＰＯ 11. ＳＯＨＯと在宅ワーク 12. アメリカの女性経営者 13. ヨーロッパの女性経営者 14. アジアの女性経営者 15. 女性経営者に関わる課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★		★	★★

年度	2015	授業コード	J30230001
科目名	商学	単位数	2
科目名（英語表記）	Business and Commerce		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本講義は、商学を理解するための基礎理論を解説する。より具体的には、①商業の機能および②商業と消費者、小売、卸売の関係を解説する。その主たる問いは、①なぜ社会で商業が必要となるのかであり、②商業は社会でどのように展開されているのかである。 商学は、生産を伴わず販売のみに従事する商業者に注目した学問である。なぜ彼らが利益を得るのか。このような疑問を解くためには自分の頭で考えることが必要となる。このために、本講義は主として板書形式をとる。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	石原武政・池尾恭一・佐藤善信（2000）『新版 商業学』,有斐閣　2,100 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	講義内小試験（40%）、講義内中試験（20%）、講義内大試験（40%）		
到達目標	受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 ①商業の機能を説明することができる。 ②実際の商業者に興味を抱く。		
準備学習	講義終了時に、参考文献における次回の講義範囲を示す。指示のあった範囲を次回までに熟読しておくこと。なお、講義内では前回の講義範囲に関連する小試験を課す。復習をしておくこと。		
受講者への要望			
私語は厳禁。			
講義の順序とポイント			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2.「分析視座」：簡単なゲームから、商学を理解するための視座を解説する 3.「商業の機能 1」：品揃え概念 1；取引費用を解説する 4.「商業の機能 2」：品揃え概念 2；取引総数最小化の原理を解説する 5.「商業の機能 3」：品揃え形成過程 1；垂直的市場メカニズムを解説する 6.「商業の機能 4」：品揃え形成過程 2；投機と延期の原理を解説する 7.「中間総括」：これまでの理解度を問う記述式試験を行う 8.「消費者の買い物行動 1」：消費者の店舗間選択を解説する 9.「消費者の買い物行動 2」：小売の輪の理論と真空地帯理論を解説する 10.「小売業 1」：小売の機能とその業態を解説する 11.「小売業 2」：マーケティングとの関係を理解するため系列小売店を解説する 12.「卸売業 1」：卸売の機能とその業態を解説する 13.「卸売業 2」：国際貿易との関係を理解するため総合商社を解説する 14.「商業論の今後」：これまでの講義を総括し、最新の展開を解説する 15.「講義の限界」：講義の限界を示し、今後の展望を解説する			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J30240001
科目名	消費者行動論	単位数	2
科目名（英語表記）	Consumer Behavior		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	消費は人生の活動の一面であると共に、人生の目的でもある最も重要な活動です。 消費はライフスタイルやライフステージ、また時代によってその意味合いが変わります。消費することがあたりまえの時代が終わり、消費が低迷している今日では「人がなぜ消費をするのか」に取り組むことはマーケティングにとって最大の課題になっています。 というのは「里山資本主義」や「専業主婦 2.0」など従来の消費社会から距離を置く生き方に魅力を感じる人も増えているからで、アメリカの経済学者ガルブレイスは著書『ゆたかな社会』の中で「人々が商品に対して欲望を抱かなくなることが資本主義最大の危機である」と述べています。 このような時代に消費の未来を見通し、消費や消費者の活動を通して、人間に対する理解を深めます。		
教材（テキスト）	青木幸弘『消費者行動の知識　（日経文庫）』日本経済新聞社 992 円(大きさは新書版です)		
教材（参考文献）	パワーポイントおよびプリントを適宜配布		
教材（その他）			
評価方法	小レポート(20%)、定期テスト(60%)、授業時の発言の積極性(20%)		
到達目標	消費者の行動を通して、人間の活動の目的や達成感を学び、消費とは何かを深く理解する。		
準備学習	消費者心理に関係する心理学の実験について、事前に回答するように求めます。回答内容を元に授業を進めますので、必ず回答結果を持ち寄るように求めます。		

受講者への要望

●遅刻、途中退席は不可。授業中の私語と SNS 使用の禁止を求めます。
●授業中の積極的な発言や質問により、授業にコントリビューション(貢献)を期待します。
●一回でも授業が欠けるとその後の理解に支障が出ますので連続的に出席してください。

講義の順序とポイント

1. 消費者とは誰か
2. 消費に至るプロセス　AIDMA から AISAS へ
3. 関与のレベル
4. 欲求と欲望
5. 動機付け
6. 知覚
7. 態度
8. 消費のための情報探索行動　情報の収集と処理のメカニズム
9. 選択の科学　買う瞬間の意識、良い選択肢の作り方とは
10. モノからコトへ　消費の満足感を与えるものは何か
11. 自分へのご褒美と利他的な消費
12. 消費の主人公の変化　世帯から個人へ　生活ニーズから瞬間へ
13. 消費社会からの離脱者　里山資本主義、専業主婦 2.0
14. これから人々は何を買うのか
15. 消費は経済社会を救うか（人口減少を克服する需要創造への挑戦）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J30248001
科目名	情報と職業	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Occupation		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報通信技術は社会と職に大きな変化をもたらし、社会に影響を及ぼしている。このような情報化社会において、若者を取り巻く現状を多角的に捕え、現状を把握し、情報化社会での職業の意義と役割、自己のあり方、生き方と職業を論じる。大量の情報が交換蓄積され、利用される高度情報通信社会の中で、職業と自己のあり方、生き方と職業を考え、望ましい勤労観と職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択し、将来職業人として活躍するための情報に関する知識や技術、さらに情報通信をどのように活用していくか言及する。		
教材（テキスト）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況等と各回課題による。(30%）,e-learning により課す課題評価（70%）		
到達目標	職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、白書や今週の指標等の Web ページは週 1 回以上閲覧し、短く説明できるように整理する。		

受講者への要望

本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、任意の時間にｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室で受講のこと。学期の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意志がないものとみなす場合がある。能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1．白書等から、若者を取り巻く現状
　職業の意義と役割
　職業とキャリア
1-1．職業指導とは何か
　学習指導要領の規定
2．情報産業の現状
　これからの情報化社会で求められる人材
　人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル
3．厚生労働省等統計データから、現状分析
3-1．高等学校における進路指導の現状
4．高校生の就職に関わる法・制度・仕組み
　職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法
　公共職業安定所と学校との職業紹介の分担
　新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等
　統一応募書類
5．高等学校卒業者・大卒の就職の推移と現状
　高卒者と大奏者の評価、採用問題
　雇用情勢・経済成長
6．職業意識
　自分が望むあるいは目標とする職業
　何のために働くか
6-1．生徒の職業意識の希薄化
7．インターンシップの実施
8．キャリアデザイン
　職種に必要な能力、何が必要か
8-1．ホームルーム等での進路指導
9．職業と職業生活について

職業及び職業生活
勤労・職業の意義と役割
職業生活と法令
１０．情報化と社会の変化について
情報化に伴う産業と社会生活の変化
情報関連産業の発達と資源・環境問題
情報社会のモラル
１１．職業と自己実現
職業適性の理解
自己のあり方生き方と職業
進路選択と自己実現
１２．求められる進路指導の改善
キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策
１３．インターネットの進路指導への活用
１４．若年失業者問題と対策
１５．職業とキャリアの形成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J30250001
科目名	情報セキュリティ論	単位数	2
科目名（英語表記）	Privacy Protection		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	コンピュータを単体で利用する時代が終わりを告げ、コンピュータが相互にネットワーク接続された状態が日常となっている昨今、私たちは常にコンピュータウイルス、不正アクセス、機密漏洩、物理的破損といった危険と常に向き合っている。このような情報環境下では、セキュリティを従来のように一部の人に任せておけば良いというわけにはならず、一人一人が最低限のセキュリティ知識を身につけておかなければ本人が知らないうちに情報面で被害者になったり、加害者になったりする可能性がある。本講義では、セキュリティの概念を整理するとともに、情報社会を生きていく我々が知っておきたいセキュリティ知識の理解を深める。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	情報セキュリティ標準テキスト編集委員会『情報セキュリティ標準テキスト』オーム社		
教材（参考文献）	情報処理推進機構『情報セキュリティ読本―IT 時代の危機管理入門』実教出版 相戸浩志『情報セキュリティの基本と仕組み第 3 版　基礎から学ぶセキュリティリテラシー』秀和システム 新藤茂・加藤直樹『教師のための情報セキュリティ入門』日本標準 その他は適宜紹介する。		
教材（その他）	プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 Twitter が利用できるスマートフォン･ケータイ等の準備が望ましい。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。		
評価方法	授業内提出物及び小テストほか(45%)、レポート(25%)、定期試験(30%)で評価する。		
到達目標	情報システム、中でもネットワークシステムにおけるセキュリティについて理解を深め、実際に適用行動をとることが出来る知識を身につける。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 授業終了時に次回のテーマや範囲について告知するので、事前にテキストを読んで、専門用語の確認などを行っておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。		
受講者への要望			
講義と講義に基づいた実践のための考察を多く取り入れているため、遅刻、欠席すると理解が困難になるので、注意されたい。			
講義の順序とポイント			
講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。 1．受講ガイダンス、IT(情報技術)に潜む危険 2．企業における情報セキュリティの対象 3．情報セキュリティを取り巻く状況 4．情報漏えいの防止 5．インターネットの安全を図る(1) 6．インターネットの安全を図る(2) 7．電子メールの安全を図る技術 8．暗号化とデジタル署名 9．情報資産のライフサイクルマネジメント 10. 情報セキュリティマネジメントシステム 11. 個人情報保護 12. 事業継続管理 13. リスクマネジメントシステム 14. 情報セキュリティリテラシの強化 15. 情報セキュリティの展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J30252A01
科目名	情報ネットワーク論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Information Network Communi ty I		
担当者名	天野　秀治	旧科目名称	
講義概要	インターネットや携帯端末の技術革新、並びに急速な普及により大量の情報を多様な媒体で自由に得ることができる社会が形成されたため、人々の生活様式にも変化がもたらされている。そのため企業活動や様々な分野でさらなる応用が期待されている。反面ネット犯罪は多様化を極め、犯罪に巻き込まれないための法令遵守や情報倫理に関する知識が必要な社会環境となっている。本講義では社会におけるネットワークの利便性や重要性を認識し、その役割、安全性、危機管理などに活かすことができるスキルを身につけることを目的としている。「I」ではネットワークに係る基本的な知識の習得に重点をおいている。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。PowerPoint を活用する。		
教材（参考文献）	岸川典昭, 中村雅章, 『現代経営とネットワーク』, 同文舘出版, 2009 村嶋修一, 『ベテランが丁寧に教えてくれるネットワークの知識と実務』, 翔泳社, 2007 Gene, 『ネットワーク構築の基礎』, 毎日コミュニケーションズ, 2009 福崎稔,守屋政平他, 『情報化時代の基礎知識』, 弓箭書院, 2014		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（受講態度、授業への貢献度、取組姿勢・30%）、講義内レポート（20%）、最終レポート（50%）		
到達目標	・ネットワークの仕組みや活用方法に関する基本的な知識を体系的に修得する。 ・情報化の光と影について理解し、危険に対する抑止力を身につける。 ・通信トラブルへの対応に関するノウハウを身につける。 ・実社会の職場における情報ネットワークスキルの重要性、有意性を理解する。 ・今後のネットワーク活用の方向性を理解する。		
準備学習	講義終了時に次回のテーマを示すので予習しておくこと。		

受講者への要望

ほぼ全ての学生が日頃からインターネットを使用していると思われるが、ビジネスで使うとなると相応のスキルが求められる。また、利便性の反面、危険性や注意すべき事項が多数存在することも常に認識しておく必要がある。本講義を通じ、社会で役立つネットワークスキルを修得すると同時に、ネット犯罪に巻き込まれないための情報倫理を体得することを目指してもらいたい。企業および政治・地方自治における現場経験者として講義を行うので、実社会で役立つ知識を身につけることを期待する。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス、情報ネットワークとは
2. ネットワーク技術の歴史
3. ネットワーク機器、身近なネットワーク
4. インターネット通信の基礎
5. WWW（ホームページ閲覧)、DNS（アドレス解決)、メールの仕組み
6. 企業内ネットワーク
7. 無線 LAN、VLAN（仮想 LAN）の仕組みと事例
8. ネットワークのトラブルシューティング
9. ネットワークセキュリティ
10. ネット犯罪に巻き込まれないための法令遵守と情報倫理
11. コンピューターウイルス
12. 知的所有権、著作権
13. ネットビジネス
14. 企業活動現場で必要な情報ネットワークに関するスキル
15. これからの情報ネットワーク

最終レポート

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	

年度	2015	授業コード	J30252B01
科目名	情報ネットワーク論II	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Information Network Communi ty II		
担当者名	天野　秀治	旧科目名称	
講義概要	情報技術の急激な進歩により社会全体の情報化やネットワーク化が進み、仕事の仕組みや人々の生活様式にも劇的な変革が生じている。情報ネットワークのもたらす恩恵は企業のみならず行政サイドにも生じており、その仕組みや技術革新の状況を知ることにより、私たちの生活にもたらす利便性を最高の水準に高めることができる。反面、こうした技術革新には光と影の部分があり、近年発生しているネット犯罪から身を守る抑止力を体得することも肝要である。本講義では、情報ネットワークの応用編として社会の中でネットワークがどのように活用され寄与しているのかについて理解を深め、現実社会における変革の動向や可能性、さらに問題点を考えることによりネット社会への対応力を高めることに重点をおいている。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。PowerPoint を活用する。		
教材（参考文献）	蒲生毅, 『第 4 次情報革命と新しいネット社会』, コモンズ, 2014 村嶋修一, 『ベテランが丁寧に教えてくれるネットワークの知識と実務』, 翔泳社, 2007 Gene, 『ネットワーク構築の基礎』, 毎日コミュニケーションズ, 2009 福崎稔,守屋政平他, 『情報化時代の基礎知識』, 弓箭書院, 2014		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（受講態度、授業への貢献度、取組姿勢・30%）、講義内レポート（20%）、最終レポート（50%）		
到達目標	・国内外の情報化やネットワーク事情について理解を深める。 ・企業活動や行政における情報化についての知識を高める。 ・情報化の光と影について理解し、危険に対する抑止力を身につける。 ・実社会の職場における情報ネットワークスキルの重要性、有意性を理解する。 ・今後のネットワーク活用の方向性を理解する。		
準備学習	講義終了時に次回のテーマを示すので予習しておくこと。		

受講者への要望

インターネットの本質や将来性を理解しておくことは今後の社会生活において有用であることは間違いない。既にインターネットを日常的に利活用している学生においても表面的な使用法だけでなく仕組みや将来展望を理解することにより、より有用性を増すことができる。よって積極的に情報ネットワークに興味をもって学習に取り組むことを希望する。また情報化には光と影があるので、自ら犯罪抑止力を身につけてもらいたい。企業および政治・地方自治における現場経験者として講義を行うので、実社会で役立つ知識を身につけることを期待する。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス、現代の情報ネットワーク
2. コンピューターとネットワークの技術的進歩
3. ネットワーク社会の推移
4. ネットワークとビジネス
5. ネットワークと政治
6. 行政分野における情報ネットワークの歴史と発展
7. ネットワークの進化とグローバル経済への影響
8. 諸外国の IT 事情
9. 日本の IT 戦略と地域の情報化
10. グループ研究 I（調査）
11. グループ研究II（企画・立案）
12. グループ研究III（計画）
13. グループ発表
14. 企業活動現場で必要な情報ネットワークに関するスキル
15. これからの情報ネットワーク

最終レポート

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	J30256A01
科目名	情報科学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Science I		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	コンピュータを使って問題を解くときには、具体的なものを抽象化した上で、論理を追って考え、それを明確な形で表さなければならない。この問題の解法をアルゴリズムという。アルゴリズムは、すべてのプログラミング言語の中心的な概念を取り扱っている流れ図言語で表現される。流れ図言語を理解すれば、ＦＯＲＴＲＡＮ、C、Ｊａｖａ、Ruby などの言語を容易に学ぶことができる。この講義では、まず流れ図言語について学び、続いてこの流れ図言語を用いて、種々の問題に対してのアルゴリズムの作成法について考察する。また、それぞれの問題に対して、パソコンを用いて Ruby のプログラムを作成し、実行を行ってもらう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	A.I.フォーサイス他著、浦昭二訳『改訂コンピュータサイエンス入門Ⅰ』培風館		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内レポート（60%）　定期試験（40%）		
到達目標	情報処理の知識についての理解を深め、アルゴリズムを学ぶことにより論理的思考を身につけることを目標とする。		
準備学習	講義終了後、次回の講義の資料を京学なびにアップロードするので、復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
授業内において、適宜、練習問題を説いて、レポートとして提出する事が要求される。			
講義の順序とポイント			
1．アルゴリズムとは何か 2．アルゴリズムと流れ図 3．数のアルゴリズム 4．変数 5．入力と出力 6．浮動小数点表示 7．基本的な流れ図 8．カウンタと見張り役 9．部分文字列の探索 10．算術式 11．まるめ 12．最大値を求めるアルゴリズム 1 13．最大値を求めるアルゴリズム 2 14．集計のアルゴリズム 15．総括（アルゴリズムとプログラム） 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		★★

年度	2015	授業コード	J30256B01
科目名	情報科学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Science II		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	コンピュータを使って問題を解くときには、具体的なものを抽象化した上で、論理を追って考え、それを明確な形で表さなければならない。この問題の解法をアルゴリズムという。アルゴリズムは、すべてのプログラミング言語の中心的な概念を取り扱っている流れ図言語で表現される。流れ図言語を理解すれば、ＦＯＲＴＲＡＮ、C、Ｊａｖａ、Ruby などの言語を容易に学ぶことができる。この講義では、まず流れ図言語について学び、続いてこの流れ図言語を用いて、種々の問題に対してのアルゴリズムの作成法について考察する。また、それぞれの問題に対して、パソコンを用いて Ruby のプログラムを作成し、実行を行ってもらう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	A.I.フォーサイス他著、浦昭二訳『改訂コンピュータサイエンス入門Ｉ』培風館		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内レポート（60%）　定期試験（40%）		
到達目標	情報処理の知識についての理解を深め、アルゴリズムを学ぶことにより論理的思考を身につけることを目標とする。		
準備学習	講義終了後、次回の講義資料を京学なびにアップロードするので、復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

授業内において、適宜、練習問題を説いて、レポートとして提出する事が要求される。

講義の順序とポイント

1．ユークリッドのアルゴリズム１
2．ユークリッドのアルゴリズム２
3．平方根のアルゴリズム
4．多重判断の簡潔な表現
5．一次元配列１
6．一次元配列２
7．整列のアルゴリズム１
8．整列のアルゴリズム２
9．整列のアルゴリズム３
10．ループ構造
11．探索のアルゴリズム
12．二次元配列１
13．二次元配列２
14．段階的分解
15．総括（アルゴリズムとプログラム）
定期試験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		★★

年度	2015	授業コード	J30260A01
科目名	情報管理論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management I		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。 Twitter が利用できるケータイ・スマホ等を用意することが望ましい。(無線 LAN 環境は大学が用意)		
評価方法	授業内提出物及び小テストほか(45%)、レポート(20%)、定期試験(35%)で評価する。		
到達目標	今日の企業における情報管理の重要性について理解し、経営体における科学的な意思決定について理解し、みずから考察できるようになる。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 授業終了時に次回のテーマや範囲について告知するので、事前にテキストを読んで、専門用語の確認などを行っておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。		

受講者への要望

経営、情報に関する諸科目をより多く受講しておいていただきたい。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．受講ガイダンス
2．情報化技術の理解
3．経営戦略の理解
4．情報化戦略の立案
5．反転学習
6．情報の収集
7．情報の整理 I
8. 情報の整理 II
9. 情報の加工
10. 情報の表現
11. 反転学習
12. パソコンソフトの活用 I
13. パソコンソフトの活用 II
14. 関連法規の理解
15. 理論的側面の課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J30260A02
科目名	情報管理論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management I		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。 Twitter が利用できるケータイ・スマホ等を用意することが望ましい。(無線 LAN 環境は大学が用意)		
評価方法	授業内提出物及び小テストほか(45%)、レポート(20%)、定期試験(35%)で評価する。		
到達目標	今日の企業における情報管理の重要性について理解し、経営体における科学的な意思決定について理解し、みずから考察できるようになる。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 授業終了時に次回のテーマや範囲について告知するので、事前にテキストを読んで、専門用語の確認などを行っておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。		
受講者への要望			
経営、情報に関する諸科目をより多く受講しておいていただきたい。			
講義の順序とポイント			

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．受講ガイダンス
2．情報化技術の理解
3．経営戦略の理解
4．情報化戦略の立案
5．反転学習
6．情報の収集
7．情報の整理 I
8. 情報の整理 II
9. 情報の加工
10. 情報の表現
11. 反転学習
12. パソコンソフトの活用 I
13. パソコンソフトの活用 II
14. 関連法規の理解
15. 理論的側面の課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J30260B01
科目名	情報管理論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management II		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。 Twitter が利用できるケータイ・スマホ等の準備が望ましい。(無線 LAN 環境は大学が用意)		
評価方法	授業内提出物及びテストほか(45%)、レポート(20%)、定期試験(35%)で評価する。		
到達目標	今日の企業における情報管理の重要性について理解し、経営体における科学的な意思決定について理解し、みずから考察できるようになる。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。		

受講者への要望

経営、情報に関する諸科目をより多く受講しておいていただきたい。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．受講ガイダンス
2．情報システムの種類
3．IT ソリューションの調達方法
4．IT ソリューションの活用
5．反転学習
6．システム化計画の立案
7．システム要求の分析と要件定義 I
8．システム要求の分析と要件定義 II
9．システム開発におけるその他の業務
10．システムの運用
11．反転学習
12．情報セキュリティ I
13．情報セキュリティ II
14．情報システム導入の失敗の原因
15．システム面からの課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J30260B02
科目名	情報管理論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management II		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。 Twitter が利用できるケータイ・スマホ等の準備が望ましい。(無線 LAN 環境は大学が用意)		
評価方法	授業内提出物及びテストほか(45%)、レポート(20%)、定期試験(35%)で評価する。		
到達目標	今日の企業における情報管理の重要性について理解し、経営体における科学的な意思決定について理解し、みずから考察できるようになる。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。		

受講者への要望

経営、情報に関する諸科目をより多く受講しておいていただきたい。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．受講ガイダンス
2．情報システムの種類
3．IT ソリューションの調達方法
4．IT ソリューションの活用
5．反転学習
6．システム化計画の立案
7．システム要求の分析と要件定義 I
8．システム要求の分析と要件定義 II
9．システム開発におけるその他の業務
10．システムの運用
11．反転学習
12．情報セキュリティ I
13．情報セキュリティ II
14．情報システム導入の失敗の原因
15．システム面からの課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J30270001
科目名	人的資源管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Resources Management		
担当者名	楠奥　繁則	旧科目名称	
講義概要	企業の労働力を他の経営資源と同じく価値を創造するという見方に立った人材マネジメントのことを「人的資源管理」という。 ところで、今日、わが国ではメンタルヘルスに問題を抱えている労働者が増加傾向にあることが大きな問題となっています。言い換えますと、多くの組織が、人的資源管理をうまく行えていないということになるのではないでしょうか。では、なぜ、その管理がうまく行えていないのでしょうか？そこで、本講義では組織と個人の視点から、組織や、マネジメントに関する理論などを基に、その原因を考えていきます。そして、その問題を解決するための仮説についても考えていきます。 卒業後、君たちのほとんどがどこかの組織に所属することになるでしょう。その組織で君たちが充実したキャリアを歩むためにも、是非、この講義を受講してもらいたいと思います。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	労働政策研究・研修機構(2012)職場におけるメンタルヘルス対策に関する調査 <http://www.jil.go.jp/institute/research/2012/documents/0100.pdf>.		
教材（その他）	配布資料などに基づいて授業を行います。		
評価方法	試験(100%) ※出席回数が 9 回以下の場合、試験を受けることはできません。		
到達目標	理論などの高度専門知識を用いて、仮説を導けるようになることを到達目標とします。そんなに難しいことではございません。しっかりと、説明しますので、御心配なく！		
準備学習	授業で学んだ理論などの高度専門知識と、みなさん自身の経験(例えば、サークルやアルバイトの経験)や、身の周りの出来事、あるいは、社会問題などとを関連させて考えるようにしてほしいです。なお、講義でもその指導はいたします。		

受講者への要望

最高の授業というのは，残念ながら授業者 1 人で作り上げることはできません。それを作るには，受講学生のみなさんの協働が必要です。授業者である私は，全ての受講学生が経営学に夢中になれるよう，懸命に努力します。ですから，受講学生の皆さんにお願いしたい。“経営学を楽しむ努力をしてほしい”（経営学を楽しむコツについては，みなさんに毎授業，語っていくつもりです）。君たちの協働が得られたとき，私たちは経営学の世界に夢中になるであろう。

講義の順序とポイント

1. 科学するとは？:大学での学びを楽しむ方法について
2. 問題:わが国の職場におけるメンタルヘルスの問題について
3. 職務ストレスとストレスマネジメントについて①:ストレスとは？ストレスマネジメントとは？
4. 職務ストレスとストレスマネジメントについて②:セルフ・エフィカシーと SOC の視点からみたストレスマネジメントについて
5. 組織とは？:Barnard 組織論からみた組織について
6. 組織の病理について①:ブラック企業やブラック NPO などについて
7. 組織の病理について②:わが国の自殺研究から組織の病理について考える
8. 労働者のワーク・モチベーションについて①:モチベーション理論の紹介
9. 労働者のワーク・モチベーションについて②:賃金管理、人事評価からのアプローチ
10. 労働者のキャリアと権利について
11. 組織文化とリーダーシップ
12. 事例分析:サウスウエスト航空を分析する
13. 仮説①:個人の視点から、職場におけるメンタルヘルスの対策・解決方法について考える
14. 仮説②:組織の視点から、職場におけるメンタルヘルスの対策・解決方法について考える
15. 今後の課題:仮説を検証する方法について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2015	授業コード	J30282001
科目名	税務会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）本講義における税務会計としては、個人企業所得に課される税金(所得税)と法人企業所得に課される税金 (法人税)の双方の計算分野を対象とする。すなわち、所得税法会計と法人税法会計を内容とし、両者の基 礎を学ぶのが本講義の主目的である。そこでは、課税所得を確定したうえで税額が算定されることになる。 （2）このような観点から、本講義においては、所得税法及び法人税法に従って課税所得がどのように計算され るのか、また、それに基づく税額の計算及び申告がどのように行われるのかといった論点を中心に、その 要点を平易に講述する。そこでの内容としては、後述のように、租税制度の概要を確認したうえで、所得 税法・法人税法会計の順に課税所得及び税額の計算システムの概観を解説することにしたい。 （3）なお、所得税に関するケース・スタディとして、架空の家族構成と収入状況を想定し、実際の納税申告書の 作成演習を行い、提出してもらう予定である。その際には、受講生の様子を勘案しながら、税務職員の応援 を要請し、講演および実務面の補助指導をして頂くことも計画している。 （4）また、科目内容の実践的重要性をも考慮して、実務検定として定評のある全国経理学校協会主催の税務 会計能力検定試験の内容に関連するプリント演習も活用したい。		
教材（テキスト）	経理教育研究会 編 『基本税法【平成 27 年版】』 英光社、￥1,000		
教材（参考文献）	中田 信正 著 『税務会計要論【13 訂版】』 同文舘出版 ￥3,600		
教材（その他）	適宜、必要に応じてプリント配布を行う。		
評価方法	原則として、平素の受講状況等(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）税法の概要および税務会計の基礎を理解している。 （2）所得税会計と法人税会計における「課税所得と税額」の計算構造を理解している。 （3）基本的な所得税の確定申告書が作成できる。 （4）法人税申告書「別表４」の構造を理解している。		
準備学習	（1）講義時に指示された次回講義に関連するテキスト部分について、事前に解読し、予習すること。 （2）毎回配布する私製アンケート「Minute Paper」に質問・疑問を記入できるように、予習の段階で疑問点が あればメモをし、講義後に疑問が解けなければアンケートに明記すること。質問内容には、可能な限り 次回の講義時に説明する予定であるので、積極的に質問されたい。 （3）所得税確定申告書の作成演習に際しては、講義者の方で納税者家族のケース設定を行うが、自主的なケース設定も歓迎するので、積極的に講義に参加するように準備すること。 （4）税務職員の講演がある場合は、積極的に質疑応答に参加するように事前準備をすること。 （5）国税庁のホームページへのアクセスを積極的に試み、租税制度の仕組みや申告書の作成など、身近な事例を想定しながら平素より税務への関心を高めるように学習すること。		
受講者への要望			
(1)企業所得の算定に関しては簿記・会計的知識が基礎となるが、そうした基礎知識が充分に無い場合も想定して講義を進める。 (2)実務上は税法無視の経理実践はあり得ず、特に中小企業経理では税務会計が極めて重視されている点に注意して頂きたい。 (3)実学としての税務に興味ある諸君の積極的な履修を希望している。 (4)遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎる場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。			

講義の順序とポイント
講義の主要な論点は以下の通りであるが、必要に応じて変更することもある。 【税務会計の基礎】 （1）講義展開のガイダンスと租税制度の概要 （2）企業会計と税務会計 【所得税会計分野】 （3）所得税の概要 （4）所得の種類とその計算方法 （5）課税標準と所得控除の内容 （6）課税総所得金額と所得税額の計算方法 （7）納税申告書の作成演習 【法人税会計分野】 （8）法人税の概要 （9）所得金額の計算 （10）「益金の額」の計算 （11）「損金の額」の計算① （12）「損金の額」の計算② （13）「損金の額」の計算③ （14）法人税額の計算と申告・納税 （15）事業所得および法人所得の計算演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J30401A01
科目名	中小企業経営論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Small & Medium Business Management Ⅰ		
担当者名	大田　住吉	旧科目名称	
講義概要	・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 ① 実際のビジネス現場で起きるケーススタディ（事例研究）について学ぶ「ビジネス・スクール形式」。 ② グループ討議、プレゼン、質疑応答などを繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学ぶ。 ③ 定員 30 名程度の少人数グループ討議形式。 ・学習テーマは、以下のとおりです。 (a) 中小企業のビジネス現場において、小売業、卸売業、製造業、それぞれのビジネスに必要なマーケティン グ戦略とは何か？ (b) なぜ、中小企業のマーケティング戦略を学ぶことが必要なのか？ (c) 中小企業のマーケティング戦略とは、大企業の戦略と具体的に何が違うのか？ (d) 中小企業経営におけるマーケティング戦略が、企業業績にどう結び付くのか？		
教材（テキスト）	・すべて担当教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用します。		
教材（参考文献）	・必要に応じ、参考文献などを紹介します。		
教材（その他）	・必要に応じ、解答例、参考資料などを配布します。 ・なお、授業には、計算問題があります。電卓（一般的なもので可）を必ず持参下さい。		
評価方法	①グループ討議への参加意欲・発言内容（40%）、 ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力（30%）、 ③プレゼン力および質疑応答対応力（30%） による総合評価		
到達目標	・実社会で「戦力」として通用するビジネス・リーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・中小企業におけるビジネス・マーケティング戦略について分析し、判断し、表現する、実践的な能力を身につけ ることを期待します。		
準備学習	＜予習＞ ・授業で配布するオリジナルテキストは、事前に熟読しておいて下さい。 ・業界事情、専門用語などについては、自分で調べ、理解して下さい。 ＜復習＞ ・授業の最後には、必ず 5～10 分の「本日のポイント」の講義があります。その内容について、しっかり復習し、 自分の「武器」として使えるようにしておいて下さい。 ・授業の中で、他のグループメンバーの意見等で参考になると感じたものは、その内容をしっかり復習して下さ い。		

受講者への要望

・29 年間の民間企業でのビジネス経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！
・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　～この授業で何を学ぶのか？、中小企業のためのマーケティング戦略とは、何か？～

2～5　【ビジネス事例Ⅰ】　「老舗酒店は生き残れるのか？」（酒小売業Ｈ社の事例）
＜テーマ＞　全国大手のライバル店進出に対抗し、生き残るための小売業のマーケティング戦略とは戦略とは？
＜ポイント＞　ＳＷＯＴ分析、クロスＳＷＯＴ戦略、商圏強度分析ほか

6～9　【ビジネス事例Ⅱ】　「流れに棹差す」（食品卸売商社Ｊ社の事例）
＜テーマ＞　大企業との競合の中で、市場を勝ち抜くための卸売業のマーケティング戦略とは？
＜ポイント＞　卸売業の存在意義、品揃え、店舗レイアウト、客動線、貢献度分析ほか

１０～１５　【ビジネス事例Ⅲ】「マーケティング戦略って、何だろう？」（水産加工食品製造業Ｋ社の事例）

＜テーマ＞　下請けから脱却し、奮闘し、成長する製造業のマーケティング戦略とは？

＜ポイント＞　法人販売と個人販売、流通チャネル戦略、卸小売業と製造業とのマーケティング戦略の違いほか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J30410A01
科目名	日本経営史Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Business History I		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	江戸時代より明治時代に至る企業経営の近代化過程について概説する。 江戸時代商家経営の特質を指摘し、明治時代の会社制度の導入定着と実業家層の成長を講義する。		
教材（テキスト）	なし。毎回資料を配付する。		
教材（参考文献）	講義の中でその都度紹介し、必要な文献は配付資料に記載する。		
教材（その他）	次の書籍を薦める。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実『日本経営史』新版、有斐閣 宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』有斐閣		
評価方法	定期試験を中心とするが、レポートなどを加味して、総合的に評価する。		
到達目標	経営学・経営史の基礎的知識を習得し、現代の問題を長期的・歴史的な視点から考えることができる。		
準備学習	講義終了時に次回講義のテーマをお知らせするので予習をしておくこと。これに関連した小レポート実施する。		
受講者への要望			
おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をとること。 日本の経済・経営発展に対する興味をもつことを勧め、歴史の連続と断絶を問いかけたい。			
講義の順序とポイント			
1.日本経営史の課題 2.江戸時代の経済発展 3.豪商の企業者活動 4.商家の企業形態(上方商人・三井家) 5.近江商人の企業者活動 6.明治維新改革と近代経営の形成 7.三菱の創立と多角化(岩崎弥太郎・弥之助) 8.渋沢栄一の合本主義と産業化の促進 9.銀行業の生成と発展（国立銀行の発足と普通銀行への過程） 10.会社制度の導入と発展(多角的出資と重役兼任) 11.近江商人の企業者活動と滋賀県企業家 12.明治維新と三井家の家政改革 13.財閥の形成過程 14.経済団体の形成 15.現代の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J30410B01
科目名	日本経営史Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Business History Ⅱ		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	大正期より昭和戦後期に至る企業経営の発展過程を概説する。 第一次大戦期の企業成長と戦後不況期の企業経営の困難、さらに第二次大戦後の日本型企業経営の構築について講義する。		
教材（テキスト）	なし。毎回資料を配付する。		
教材（参考文献）	講義の中でその都度紹介し、必要なものは配付資料に記載する。		
教材（その他）	次の書籍を薦める。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実『日本経営史』新版、有斐閣 宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』有斐閣		
評価方法	定期試験を中心とするが、レポートなどを加味して、総合的に評価する。		
到達目標	経営学・経営史の基礎的知識を習得し、現代の問題を長期的・歴史的な視点から考えることができる。		
準備学習	講義終了時に次回講義のテーマをお知らせするので予習をしておくこと。これに関連した小レポートを実施する。		
受講者への要望			
おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をとること。 日本の経済・経営発展に対する興味をもつことを勧め、歴史の連続と断絶を問いかけたい。			
講義の順序とポイント			
1.日本経営史の課題 2.近代産業企業の誕生と専門経営者の成長 3.大企業時代の到来と企業間関係の変化 4.財閥の巨大化 5.企業金融の構造と展開(間接金融制と株式・社債発行) 6.日本的労務管理の形成（第一次大戦・戦後期の労働問題） 7.大企業の流通政策 8.「商業革命」と流通 9.重化学工業化とコンツェルンの発展 10.戦前から戦後へ、「財界追放」と新経営者の登場 11.企業集団の成立とその機能 12.家電量産・量販体制の形成 13.自動車産業の発展 14.流通の革新と流通企業 15.中間組織と日本型企業			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J30420001
科目名	入門ＮＰＯ論　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to NPO		
担当者名	鈴木　康久	旧科目名称	
講義概要	京町家キャンパス周辺で京町家等を事務所や店舗として活用し、「京町家の保全」、「着物文化の普及」、「街づくり」、「環境教育」などの事業を展開している NPO 法人の活動実態を学ぶことで、「NPO 法人が必要となった社会的背景」、「NPO 法人が市民社会に果たしている役割と特性」、「NPO 法人の運営手法」などの市民活動に関する基本的な知識を身につける。 併せて、市民が主体的に行っている活動内容の特徴を互いに伝え合う講義を受講することで、卒業後に京都市以外で生活する際に、学生時代を過ごした京都の市民力や文化力について伝えることができる知識と手法を身につける。		
教材（テキスト）	各講義で、適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	高嶋 加代子（監修）, NPO 法人遊プロジェクト京都編著『京都クロスポイント―はじめの一歩の物語』宮帯出版社 京都まちづくり情報発信局, NPO 法人遊プロジェクト京都編著『KYOTO　まちなび』宮帯出版社（無料で配布） 山本隆編著『社会的企業論』法律文化社 太田達男『非営利法人設立・運営ガイドブック』公益法人協会		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。		
評価方法	出席状況等による平常点（５０％）、レポート（５０％）。但し、受講生数によって、その割合が変更することもありうる。		
到達目標	○　NPO 法人に関する基本的な知識を理解し、話ができる知識を身につける。 ○　京都で活動する３つ以上の NPO 法人の目標（目的）、運営状況、活動の成果について知る。 ○　京都の文化・風土の特性である「市民力」の高さについて、NPO 法人の活動から理解を高める。 ○　NPO 法人の活動を通じて、京都の特性について話ができる知識・技能を身につける。		
準備学習	講義終了時に次回の授業のレジメを配布、同様のレジメを京学なびの「事業資料」に授業の５日前（月曜日）までにアップロードするので、そのレジメに記載のある NPO 法人、又はキイワードについてインターネット等で情報を入手し、理解しておくこと。		

受講者への要望

受講生自らが、NPO 法人に関心を持つだけでなく、できれば受講生が住んでいるところの NPO 法人の活動（フォーラム・講座等）に参加することを期待したい。

講義の順序とポイント

１　はじめに（講座の概要）。公益的な事業を行う団体（ＮＰＯ法人、任意団体、社団財　　団などの活動を新聞からピックアップ。
２　新聞記事の整理し、活動内容を理解するためのグループワーク
３　ＮＰＯ、企業、行政などの社会セクターの中での、ＮＰＯの役割を理解
４　ＮＰＯ法人の成り立ち、活動分野、義務、活動内容など、基本的な事項を理解
５　ＮＰＯ法人の成り立ち、活動分野、義務、活動内容など、基本的な事項を理解
６　京都で活躍するＮＰＯ法人等から活動内容等の説明
７　京都で活躍するＮＰＯ法人等から活動内容等の説明
８　京都で活躍するＮＰＯ法人等から活動内容等の説明
　　※ ６日目～８日目の３講義は、一日で実施する可能性あり
９　説明のあったＮＰＯ法人の活動内容の強みや社会性について議論するグループワーク
１０　グループで話あった内容の報告（中間レポート）
１１　ＮＰＯ法人の各種の運営方法等について理解
１２　運営方法のひとつである寄附による助け合い社会をつくる財団（自分ならどの団体に寄附をするかゲームプログラム）
１３　社会的起業（ソーシャルビジネス）についての講義

１４　大学生がＮＰＯ活動に参加する方法
１５　まとめとして、ＮＰＯの活動から見た「京都の特性」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J3042200C
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	本間　憲	旧科目名称	
講義概要	（1）簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 （2）この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 （3）簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 （4）この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 （5）この講義は、秋学期の「簿記原理」（日商簿記検定 3 級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。		
教材（テキスト）	渡部　裕亘　『ファーストステップ　簿記を学ぶ 第 2 版』 中央経済社　￥1,260		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントを配布します。		
評価方法	原則として、 小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。		
到達目標	（1） 複式簿記の基本原理を理解している。 （2） 基本的な取引の仕訳と転記ができる。 （3）個人企業における決算の意義と手続きを理解している。 （4） 簿記一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している。		
準備学習	（1） 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 （2） 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。 （3） 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、毎回配布する「Minutes paper」の質問欄に明記してください。次回の講義で説明します。毎回、そのような心構えで講義に臨むよう、準備をしてください。		

受講者への要望

（1） 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング･アップを行ってください。この講義を理解せずに、秋学期の「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。
（2） 科目の性格上、出席を重視します。学習時には「頭と手」の活用を意識してください。
（3）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

この講義は、原則、次の順序で展開します。

1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的･種類
2. 資産･負債･純資産（資本）と貸借対照表
3. 収益･費用と損益計算書
4. 取引と取引要素の結合関係
5. 取引と勘定記入
6. 仕訳① [資産･負債･純資産（資本)]
7. 仕訳② [収益・費用]
8. 仕訳と転記
9. 仕訳帳と総勘定元帳
10. 試算表の原理
11. 6 桁精算表
12. 決算手続き
13. 貸借対照表と損益計算書の作成
14. 決算演習
15. 簿記一巡の取引に関するプリント演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J3042200D
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	本間　憲	旧科目名称	
講義概要	（1）簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 （2）この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 （3）簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 （4）この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 （5）この講義は、秋学期の「簿記原理」（日商簿記検定 3 級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。		
教材（テキスト）	渡部　裕亘　『ファーストステップ　簿記を学ぶ 第 2 版』 中央経済社　￥1,260		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントを配布します。		
評価方法	原則として、 小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。		
到達目標	（1） 複式簿記の基本原理を理解している。 （2） 基本的な取引の仕訳と転記ができる。 （3）個人企業における決算の意義と手続きを理解している。 （4） 簿記一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している。		
準備学習	（1） 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 （2） 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。 （3） 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、毎回配布する「Minutes paper」の質問欄に明記してください。次回の講義で説明します。毎回、そのような心構えで講義に臨むよう、準備をしてください。		

受講者への要望

（1） 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング･アップを行ってください。この講義を理解せずに、秋学期の「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。
（2） 科目の性格上、出席を重視します。学習時には「頭と手」の活用を意識してください。
（3）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

この講義は、原則、次の順序で展開します。

1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的･種類
2. 資産･負債･純資産（資本）と貸借対照表
3. 収益･費用と損益計算書
4. 取引と取引要素の結合関係
5. 取引と勘定記入
6. 仕訳① [資産･負債･純資産（資本)]
7. 仕訳② [収益・費用]
8. 仕訳と転記
9. 仕訳帳と総勘定元帳
10. 試算表の原理
11. 6 桁精算表
12. 決算手続き
13. 貸借対照表と損益計算書の作成
14. 決算演習
15. 簿記一巡の取引に関するプリント演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J30435001
科目名	簿記原理	単位数	4
科目名（英語表記）	Theory of Bookkeeping		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	企業の経営活動の記録は複式簿記の技法により行われ、その結果として企業の成績表ともいえる決算書が作成される。企業が日常的にどのような活動を行っているのかを簡潔な事例で知ることは経営学全般の基礎知識となるし、簿記の技法とその背景にある理論を知ることは、会計領域科目のを理解するための基礎として必要不可欠になる。 実務的には、ほとんどの会計事務はコンピュータ処理されているであろうが、インプットするのは人間の手であり、アウトプットされた会計資料を読み解くのは人間の頭によらざるを得ない。複式簿記に関する技法と理論を理解しておくことが求められるのである。 このような観点から、本講義では、簿記をはじめて学ぶ者を対象として分かり易い解説を行い、複式簿記の基礎的知識と記帳技法の効率的な修得を図ることにその目的がおかれている。 なお、簿記検定に挑戦しようと思う学生は 2 月に実施される日商簿記検定を目標にしてほしいが、授業では対応できないいくつかの応用問題を各自で挑戦し、解法を理解しておく必要がある。また 11 月の検定に挑戦しようと思うものは、キャリアサポートセンターが提供している課外講座の活用も有効である。		
教材（テキスト）	渡部 裕亘・片山 覚・北村 敬子編著『新検定簿記講義／３級商業簿記』中央経済社		
教材（参考文献）	渡部 裕亘・片山 覚・北村 敬子編著『新検定簿記ワークブック／３級商業簿記』中央経済社		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する予定です		
評価方法	定期試験(70%)、授業内小テスト(30%)		
到達目標	商業簿記における各種取引の内容を理解し、仕訳と転記ができる 決算の意義を理解し、適切に決算整理事項の処理ができる 簿記の一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している		
準備学習	講義で指示された教科書のページに事前に目を通しておくこと 講義で指示された課題を解いてきて，次回の講義の開始時に提出すること 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は，講義終了後、あるいは次回の講義までに担当教員に質問すること		

受講者への要望

簿記の習得には日々の積み重ねが最善の方法であり、毎回の講義に積極的に参加し、その日のうちに理解しておくことが何よりも大事である。自分の理解度を確認するためにも日商簿記検定にも挑戦してほしい。

講義の順序とポイント

1 簿記の基本原理(1)：貸借対照表と損益計算書
2 簿記の基本原理(2)：取引と仕訳
3 簿記の基本原理(3)：勘定転記
4 簿記の基本原理(4)：試算表と精算表
5 簿記の基本原理(5)：決算処理
6 現金処理の記帳(1)：現金と当座預金
7 現金処理の記帳(2)：現金過不足、インプレスト・システム
8 商品売買の記帳(1)：分記法と三分法
9 商品売買の記帳(2)：三分法による決算整理
10 商品売買の記帳(3)：仕入帳、売上帳、商品有高帳
11 商品売買の記帳(4)：売掛金、買掛金と貸倒れ
12 手形の記帳(1)：約束手形と為替手形
13 手形の記帳(2)：裏書と割引
14 有価証券の取得と売却
15 その他の債権債務(1)：前受金と前払金
16 その他の債権債務(2)：未収金と未払金
17 その他の債権債務(3)：借入金、貸付金、立替金、預り金
18 その他の債権債務(4)：仮払金と仮受金
19 固定資産の取得と減価償却

20 固定資産の売却
21 営業費の記帳
22 資本金の処理
23 税金の処理
24 決算整理(1)：商品売買益、減価償却、貸倒の見積もり
25 決算整理(2)：費用の見越し･繰り延べ(1)
26 決算整理(3)：費用の見越し･繰り延べ(2)
27 決算整理(4)：8 桁精算表
28 決算整理(5)：8 桁精算表(2)
29 財務諸表の作成
30 総合復習：簿記の機能と学習する意義

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	J30452001
科目名	コーチング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Theory of Sport Coaching		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	スポーツコーチングは、運動学、スポーツ社会学、心理学、運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ医学、栄養学などの科学や歴史、経験に裏づけられた技術指導に加え、選手との信頼関係を確立するためのコミュニケーションスキルや環境を整備するためのマネジメントスキルなど様々な要素が必要とされる。 そこで、コーチング論ではサッカーを中心に、指導者及び選手からの観点を理解し、すべてのスポーツに共通するメンタル、テクニック、フィジカルの知識を学び、トレーニングに活用する能力を身につける。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業内で専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	必要時にプリントを用意。「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）		
評価方法	試験、レポートを総合して成績評価を行う。		
到達目標	さまざまな世代にスポーツを指導するためのコーチングの基礎を学ぶ。		
準備学習	毎回の授業で指示する。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション ２．コーチングとは ３．コーチングとスポーツ界の歴史 ４．競技スポーツと生涯スポーツのコーチング ５．各年代の発育発達によるコーチング ６．トレーニングの原理・原則 ７．トレーニング処方 ８．動機づけとその工夫 ９．各種目のトレーニング計画、発表 １０．各種目のトレーニング計画、発表 １１．コーチングの実践 １２．コーチングの実践 １３．コーチングの実践 １４．理想のコーチ像 １５．コーチングの講義を通して学んだことの総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J30454001
科目名	生産管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Production Management		
担当者名	下左近　多喜男	旧科目名称	
講義概要	生産活動は、材料等をインプットして、加工・組立を行い、製品をアウトプットする活動である。この過程には、企画・設計・生産・諸管理・改善などがある。本生産管理論は、これら一連の諸活動を効果的に行うことを目的としている。実際には、工程管理（モノの作り方）、品質管理（予定の品質を確保）、原価管理（正しい原価を見つける）を中心としている。それらについて、具体例を述べて理解しやすく講義する。		
教材（テキスト）	使用する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	演習問題を課題にする		
評価方法	平常点と出席点（10%）、レポート提出（30%）、定期試験（60%）で評価する。		
到達目標	１．実際の生産管理がイメージできるように具体例を用いて体得させる ２．生産管理のためのに主な手法を説明し、理解できるようにする ３．実際の生産活動に興味を持ち、それらの概要をある程度説明できるように指導する。		
準備学習	１．生産管理に関する予備知識を、ネット検索で調べて理解すること ２．生産方法や生産現場の動画を探して見ておくこと ３．インターネットを通じてバーチャル工場見学を行うこと		
受講者への要望			
学生らしく真面目に受講し、覚えるのではなくて正しく理解すること			
講義の順序とポイント			
１．生産管理の概要 ２．生産計画と工程管理 ３．品質管理 ４．設備管理の基礎 ５．安全管理 ６．資材・購買管理 ７．新製品企画開発、研究開発、製品設計 ８．原価管理とコストダウン ９．生産の合理化 １０．生産情報の活用と見える化 １１．人材開発 １２．環境配慮 １３．ロボットと生産管理 １４．バーチャル工場の生産管理 １５．生産管理と経営自動化システムの将来展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J30459001
科目名	財務管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Management		
担当者名	中園　宏幸	旧科目名称	
講義概要	本講義では、①個人投資家が投資にかかわる意思決定をどのように行うのか、②企業は資金調達をどのように行うのか、③企業は資金をどのように活用するのかにかかわる諸問題を取り扱う。本講義では、基礎的な考え方や理論を理解してもらうために、多様なケース教材を用いる。		
教材（テキスト）	砂川伸幸（2004）『コーポレート・ファイナンス入門（日経文庫）』日本経済新聞社		
教材（参考文献）	講義中に適宜紹介します。		
教材（その他）	講義はスライド資料を活用します。		
評価方法	講義内小レポート等による平常点（20%）。レポート（80%）。		
到達目標	財務管理論にかかわる基礎的な考え方と理論を理解すること。企業経営に財務管理がどのような意味を持つのか理解する。経営戦略を財務管理の視点から評価できるようになること。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲を指定するので、テキストを活用して予習すること。また、講義で解説した内容を踏まえたうえで、適当な事例を探しておくこと。		
受講者への要望			
テキストを用意すること。飲料の持ち込みは許可するが、食事は厳禁とする。遅刻や私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退室を求める可能性がある。数学の基礎的な知識があることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション: 講義の進め方、財務管理とは何か、数学の復習 2. 金融市場における企業と投資家: 投資家の意思決定 3. 行動ファイナンスの基礎 4. 投資家のポートフォリオ 5. 企業の資金調達と負債の意義 6. 資本コストと資本構成 7. 内部事業投資プロジェクトの評価① 8. 内部事業投資プロジェクトの評価② 9. 外部投資プロジェクトの評価 10. 企業の買収と合併 11. 企業価値の評価①: 財務分析 12. 企業価値の評価②: 無形資産の評価 13. 企業価値の評価③: 経営戦略と利益モデル 14. 経営戦略と財務管理 15. 企業の利益還元と配当政策			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J30460001
科目名	財務諸表論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Accounting		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	現在ほど、企業経営における会計の役割と影響が注目されている時代はない。さまざまな利害関係者と関わりながら活動している企業は、ある時点の財政状態と一定期間の経営成績を財務諸表にまとめ、報告することが要請されている。本講義は、財務諸表の作成が要請される背景や作成原理、表示方法を理解することを目標にする。 企業を取り巻く経済環境の変化に伴う会計の最新の潮流を紹介しながら、種々の企業活動がどのように会計情報に反映されているか紹介していく。 また時に、簿記１、２級レベルの練習問題にも取り組んでいく予定である。		
教材（テキスト）	桜井久勝・須田一幸著　『財務会計･入門　改訂中（3 月上旬出来予定)』　有斐閣		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する予定です		
評価方法	授業内レポート(40 点)、授業内テスト(60 点)		
到達目標	財務会計の意義と機能について理解している。 会計情報の開示制度を理解している。 財務諸表の意義･特徴を理解している。 会計が企業経営に与える影響について理解している。		
準備学習	講義終了時に次回の内容を明示するので、教科書の指定された部分を熟読しておくこと。		
受講者への要望			
簿記原理を履修済みか、日商簿記３級の合格者であることが望ましい。 受講生は積極的に講義に参加すること			
講義の順序とポイント			
1.会計を学ぶ意義 2.会計と企業経営の関わり 3.日本の会計制度 4.財務会計のシステムと複式簿記 5.会計基準と会計原則 6.貸借対照表の内容 7.損益計算書の内容 8.キャッシュ･フロー計算書の内容 9.その他のディスクロージャー 10.企業集団と連結会計 11.企業の設立・資金調達と会計 12.仕入・生産活動と会計 13.販売活動と会計 14.会計の国際化 15.総括：改めて会計とは何か			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J30461001
科目名	国際会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	International Accounting		
担当者名	山下　知晃	旧科目名称	
講義概要	近年，企業のビジネスも財務活動も，国際化が進んでいます。それに伴い，会計にもグローバル化が求められるようになってきました。本講義では，国際会計基準の形成過程や背景，具体的な規程内容について，現在も議論の渦中にあるさまざまな論点を踏まえつつ解説します。 国際会計基準の利用者は，企業だけではありません。金融機関や監査法人，投資家や行政当局など，会計にかかわるすべての者が利用者であり当事者です。そのため，本講義においては国際会計基準の体系的な理解を進めるとともに，利用者としての立場から国際会計基準の各個別基準内容や及ぼす影響について学習します。また，直近の議論や日本の対応についても適宜紹介する予定です。		
教材（テキスト）	本講義ではテキストを使用しません。配布資料に基づいて講義を行います。		
教材（参考文献）	橋本尚・山田善隆『IFRS 会計学基本テキスト〈第 3 版〉』 中央経済社　3,570 円 田中弘・藤田明子・戸田龍介・向伊知郎・篠原淳・田口聡志『国際会計基準を学ぶ』税務経理協会、1,995 円 桜井久勝編著『テキスト 国際会計基準　第 6 版』中央経済社、3,456 円 ※参考文献は購入の必要はありません。本講義を聴いてさらに勉強したいという意欲をもった方向けに参考までに挙げております。		
教材（その他）	講義レジュメを配布します。		
評価方法	国際会計基準を巡る現状と日本の状況について理解すること。 国際会計基準と関連した新聞記事やニュースを理解できるようになること。		
到達目標	国際会計基準を巡る現状と日本の状況について理解すること。 国際会計基準と関連した新聞記事やニュースを理解できるようになること。		
準備学習	重要と思われるトピックについては予めテキストの該当箇所を示すので、余裕があれば目を通して講義に参加すること。		

受講者への要望

簿記・会計に関する基礎的な知識があり，関連科目を履修済みか同時に履修していることが望ましいです。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.国際会計基準（IFRS）とは
3.IFRS をめぐる組織と日本
4.IFRS の特徴
5.概念フレームワーク(1)
6.概念フレームワーク(2)
7.IFRS 各論：(1)包括利益
8.IFRS 各論：(2)固定資産
9.IFRS 各論：(3)組織再編・持分投資
10.IFRS 各論：(4)金融商品
11.IFRS 各論：(5)その他
12.日本企業へ及ぼす影響
13.IFRS の導入
14.IFRS 最新動向
15.総括と復習

定期試験期間中に筆記試験を行う。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J30462001
科目名	スポーツファイナンス	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Finance		
担当者名	幸田　圭一朗	旧科目名称	
講義概要	企業において欠かせない経営資源として「ヒト・モノ・カネ」が重要であると言われています。それは、スポーツビジネスでも同様で、これら諸要素をうまく活用していくことがスポーツ組織の発展には不可欠です。 本講義では、そのなかでも「カネ」の部分に焦点を当て、スポーツビジネスに関わる資金の流れ等について概観します。また、スポーツ組織の事例などを取り上げたうえで、資金面にまつわる個別の現状や特徴および問題点などについて整理し、把握していくことも課題とします。 なお本講義では、一般的なファイナンス理論に留まるのではなく、予算計画やパブリック・ファイナンスなど、幅広くスポーツビジネスを行う際の資金面のマネジメントを取り扱っていきます。		
教材（テキスト）	テキストの指定は行わず、下記参考文献に従って作成したレジュメを配布します。		
教材（参考文献）	武藤泰明（2008）『スポーツファイナンス』大修館書店		
教材（その他）	適宜、資料を配布します。		
評価方法	平常点（50%）小テスト（不定期）、学習態度などによる。2 回実施のレポート試験（50%） その他提出物など踏まえ、総合して成績評価を行います。 なお、以下の場合は、成績評価の対象とせず、自動的に不可とします。 ・講義中の環境を守ることができず（私語、講義中のゲームなど）、注意に従わない場合 ・レポートにおける剽窃などが行われていた場合 ・出席調査において、虚偽のデータが含まれていた場合		
到達目標	次の 3 点の修得を目指します。(1)スポーツ組織の財務的な特徴について、一般的な企業組織と比較して説明することができる　(2)経営者の視点に立った、キャッシュフローの概念を説明できる　(3)スポーツ組織を事例として、大まかな資金計画を立案することができる		
準備学習	レポート作成に向けて、毎週各自データを調べてもらいます。 具体的な調査内容については講義ごとに指示しますが、みなさんが指定したスポーツ種目に関わる収益・費用などを考えてきて頂きます。 レポートを含め、剽窃は厳禁です。 なお、その各自の調査内容を使って講義を進めていきますので、必ず忘れずに行うようにしてください。 また、スポーツファイナンスに関係があると思う新聞やニュースなどに目を通してください。		

受講者への要望

・私語や飲食などの受講態度・マナーについては、他の学生の学ぶ権利を侵害します。したがって、評価の自動不可を含め、教室からの退出や以後の出席を認めないなど、厳しく対処いたします。
・遅刻（定刻開始時）や途中退室は、やむを得ない理由を除き、厳禁とします。
・やむを得ない場合の欠席（公欠）時は、できる限りのフォローをいたしますので、必ず事前に相談するようにしてください。しかし、小テストは不定期に実施するので、注意するようにしてください。
・レポート課題などの指示は、原則、講義内で行いますので、それを踏まえて出席するようにしてください。したがって、無断欠席に伴う不利益は、受講生自身の責任によるものとします。
・一部電卓を使用しますが、必要な際にその都度指示します。
・講義についての要望は随時受け付けますので、遠慮なく申し出るようにしてください。

講義の順序とポイント

1. イントロダクション・財務諸表
2. スポーツ組織の収入・事業計画と予算
3. 資金調達
4. キャッシュフロー・マネジメント
5. ケースによる分析　-収入を考える-　（演習）
6. ケースによる分析　-費用を考える-　（演習）
7. 資金計画とこれまでの復習　（演習）
8. 財務管理
9. ケースによる分析　-財務諸表を組み立てる-①　（演習）
10. 資本と資本政策

11. 決算と情報開示・ケースによる分析　-財務諸表を組み立てる-②　（演習）
12. 財務リスクのマネジメント・ケースによる分析　-財務諸表を組み立てる-③　（演習）
13. 中長期ファイナンス計画・ケースによる分析　-実際のスポーツ組織を検討する-
14. これまでのまとめと事業計画を考える
15 .パブリック・ファイナンス・無体財産とファイナンス

※ただし、受講者数や取り上げるスポーツ種目により臨機応変に変更対応いたします。
　その際は、必ず講義内で説明しますので、その旨ご了承ください。
　ちなみに、例年、サッカーと野球の 2 種目を取り上げておりますが、希望によっては変更いたします。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J30463001
科目名	スポーツ指導者論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Sports Leader		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	スポーツ行動は、本質的には社会特性を持つ現象であり、それ故、単純な自然現象だけでなく、文化的、社会的な側面を持つ。このような人間の営みとしてのスポーツの重要性を学習し、併せて社会生活にどのような意味をもたらすかを考えていく。学校や社会において、また行政においても、スポーツの振興は重要な課題であり、その基盤となるスポーツ指導者の育成と資質の向上、活動環境の整備が行われつつある。本授業では、スポーツの指導について、その目的、方法、計画、安全対策等を学習する。また、レクリエーション・インストラクター資格取得のコンテンツとして、レクリエーション支援に必要なスキルについても学習を深める。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」　（健康・体力づくり事業財団）		
教材（参考文献）	レクリエーション支援の基礎　(財)日本レクリエーション協会 2008		
教材（その他）	印刷資料、ＤＶＤ、参考図書などを随時提示します。		
評価方法	課題解決レポートの評価を 30%、学習態度、テストなどを 70%とする。		
到達目標	スポーツ指導について、正しい知識と効果的な指導法を理解すること。		
準備学習	スポーツ指導者になるためには、スポーツを幅広く学ぶことが大事である。スポーツの歴史やルール、指導者の自伝など、本をできるだけ読んでください。前回授業の復習をしておくこと。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の活動範囲及び少子高齢社会に対応した新たな役割は、より高度なレベルの実技能力と、多様な対象に対する指導スキルの知識を修得することである。望ましいスポーツ指導者やリーダーを目指し、真剣に学ぶこと。 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに、文化としてのスポーツ・レクリエーション 2　指導者の役割①－人を支える「支援者」にとってのスポーツ・レクリエーション－ 3　指導者の役割②－スポーツ・レクリエーション支援の考え方－ 4　トレーニング論① 5　トレーニング論② 6　成長・発育のスキルの発達 7　スポーツ指導の方法と運動の学習理論 8　スポーツ指導の方法と運動の学習理論 9　指導計画のたて方 １０　性，年齢に応じたスポーツ指導計画 １１　スポーツ・レクリエーション活動と安全管理 １２　スポーツと栄養 １３　スポーツと心理的な要因 １４　スポーツと法 １５　スポーツ・レクリエーション支援者の資格と期待される役割			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J30464001
科目名	野球ビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Baseball Business Theory		
担当者名	堀込　孝二	旧科目名称	
講義概要	机上の空論ではなく実際に起こったことをテキストを中心に講義を進める。 さらに四国アイランドリーグ plus という独立リーグでの現場も知ってもらい実際に役立つ知識やスキルを身に付けることを目標とする。 正解を求めるというよりも論理的に物事を考え、自分の意思を伝えるというコミュニケーション能力の向上も求める。		
教材（テキスト）	藤井純一著「監督・選手が変わってもなぜ強い？北海道日本ハムファイターズのチーム戦略」光文社新書		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	受講態度と取組姿勢、授業内レポートにより評価を行なう。		
到達目標	プロスポーツビジネスの現場を知る。 問題解決能力を身に付ける。 自分の考えを論理的に伝える能力を身に付ける。 企画書作成ノウハウを学習する。		
準備学習	プロ野球(NPB）における基礎知識（システムや成り立ちなど）を最低限学習しておくこと。 教材は一通り目を通しておくこと。疑問点があれば講義内で質問し解決すること。		

受講者への要望

自主的、積極的に講義に出席、レポートを提出するよう心掛けてください。
講義内で私語が過ぎれば他者への迷惑を勘案し退出を求める。
様々な情報を集めることを推進、その中で自らのアイデアをねん出することを求める。
ビジネススキルを身に付けるため、根気よく作業に取り組むよう期待する。

講義の順序とポイント

1.はじめに（ガイダンス）
2.スポーツビジネスとは何か
3.フロントはファンを見よ
4.試合収入
5.ホスピタリティ
6.放映権収入
7.スポンサー収入
8.グループワーク①（球団編成）
9.グループワーク②（球団編成）
10.マーチャンダインジング収入
11.スポーツビジネスのための IT 戦略
12.地域密着がスポーツビジネスを成功に導く
13.グループワーク③（球団づくり）
14.グループワーク④（球団づくり）
15.まとめ（レポート）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J30465001
科目名	サッカービジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Soccer Business Theory		
担当者名	柳　久恒	旧科目名称	
講義概要	本講義は、スポーツビジネスの中でも特に世界中で人気のあるサッカーに関わるビジネスを題材として授業を展開する。サッカービジネスは、サッカー協会やリーグ、クラブなどの組織だけでなく、それらを取り巻く様々なステークホルダーによって成立している。本講義では、それらの組織や事業の事例を用いて説明する。 本講義の受講生は、それら組織や事業の内容について認識し、課題を発見するとともに、解決するための方法論について思考する。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	エステベ・カルサーダ「SHOW ME THE MPNEY! ビジネスを勝利に導く FC バルセロナのマーケティング実践講座」ソル・メディア、2013、1800 円 広瀬一郎「サッカービジネスの基礎知識」東邦出版、2012、1500 円 ステファン・シマンスキー、アンドリュー・ジンバリスト「サッカーで燃える国　野球で儲ける国―スポーツ文化の経済史」ダイヤモンド社、2006、1,800 円 武藤泰明「プロスポーツクラブのマネジメント　第 2 版」東洋経済新報社、2013、3,800 円		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業内レポート（50%）、小テスト（50%）		
到達目標	・サッカービジネスの内容を説明することができる。 ・サッカービジネスに興味を抱く。		
準備学習	サッカーを「する」「みる」「ささえる」などして消費する。 例）サッカーの「試合（ゲーム）」をスタジアムに足を運んで観戦する。 例）サッカーの「試合（ゲーム）」をテレビ等で観戦する。 例）サッカーの「試合（ゲーム）」でボランティア活動をする。		

受講者への要望

授業の進行や他の受講生の妨げになる言動は慎みましょう。
例えば、正当な理由のない遅刻や途中退室は認めません。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション：講義の目標や進め方について説明し、評価方法を理解する
2. サッカービジネスの諸相：サッカーのビジネスにかかわるリーグやクラブ、イベントなどについて紹介する
3. サッカーイベントのビジネス①：サッカーイベントのビジネスについて解説する
4. サッカーイベントのビジネス②：サッカーイベントのビジネスについて解説する
5. サッカーイベントのビジネス③：サッカーイベントのビジネスについて解説する
6. サッカーリーグのビジネス①：サッカーリーグのビジネスについて解説する
7. サッカーリーグのビジネス②：サッカーリーグのビジネスについて解説する
8. サッカーリーグのビジネス③：サッカーリーグのビジネスについて解説する
9. サッカークラブのビジネス①：サッカークラブのビジネスについて解説する
10. サッカークラブのビジネス②：サッカークラブのビジネスについて解説する
11. サッカークラブのビジネス③：サッカークラブのビジネスについて解説する
12. サッカークラブのビジネス④：サッカークラブのビジネスについて解説する
13. サッカークラブのビジネス⑤：サッカークラブのビジネスについて解説する
14. サッカービジネスの現状と課題①：サッカービジネスの現状と課題について
15. サッカービジネスの現状と課題②：サッカービジネスの現状と課題について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J30466001
科目名	競技スポーツ論（野球）	単位数	2
科目名（英語表記）	Competitive Sports(Baseball)		
担当者名	原田　冨士雄	旧科目名称	
講義概要	野球の基本を理論的に技術的に学び、団体スポーツという観点から人間関係も 重視し、野球を通してスポーツの楽しさを感じる授業を目指すとともに、将来指導者としての資質を高めることを目的とする授業としたい。		
教材（テキスト）	必要時にプリントを用意		
教材（参考文献）	授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	要時にプリントを用意		
評価方法	授業内試験（60 点以上）およびレポート、学習への参加や取組みにより総合的に評価する。		
到達目標	プロスポーツとしての野球から、アマチュアスポーツの野球まで、選手・監督・組織の理解を深める。野球の楽しさを知り、人に伝え、文化としての野球の発展についてのポリシーを持つことができる。 準備学習 他のスポーツと野球はどこが違うのか、グローバルな考え方と地域での野球人口拡大のための定期的で継続的な活動について知るために現場を知る、本を読むなど興味の幅を広げること。		
準備学習	他のスポーツと野球はどこが違うのか、グローバルな考え方と地域での野球人口拡大のための定期的で継続的な活動について知るために現場を知る、本を読むなど興味の幅を広げる。毎回、次の学習のために課題を指示する。		

受講者への要望

遅刻早退はしないこと。礼に始まり、礼に終わるという態度で臨んでください。

講義の順序とポイント

1. " はじめに（オリエンテーション）
　授業概要、方法の説明と同時にどのような授業を目指すのかを、野球を通じて スポーツの楽しさを説明する。（試合観戦）"
2. "野球の組織（野球とは）
　日本の野球界には大別してアマとプロの組織がある。アマの中には社会人・大学・高校の組織があり、更には少年野球もある。これらを判り易く説明し理解してもらう。"
3. 日本の野球と世界の野球
4. "野球のマネージメント 監督の役割　（指導者の行動範囲）
　コーチのあるべき姿を指導者という名のもとに、どのような 形で勝利に結びつけて行くのかを、説明すると共に一緒に学んでいく。"
5. "技能向上コーチング（指導方法）
　育てるというスポーツの中で一番重要なことを、基本論議から指導者に必要なセンス（能力とは）を説明していく。"
6. 野球における指導者のリーダーシップ
7. "一流選手への道
　一流選手になるには一流選手を育てるには 何が必要なのか、その指導方法や巧くなっていく過程を代表選手を例に挙げて説明していく。（イチロー、王、長島、ダルビッシュ）"
8. "育てて勝った名将達
　野球界の名将といわれる方達（数人）の指導理論や共通性を探っていき、 類稀なる能力を考察できるよう説明を行う。"
9. "育てて勝った名将達
　野球界の名将といわれる方達（数人）の指導理論や共通性を探っていき、 類稀なる能力を考察できるよう説明を行う。"
10. "必勝法と必敗法
　どうすれば勝てるのか？なぜ負けるのか？ を 具体的事例を挙げて説明する。"
11. "ミーティングとサイン
　スポーツについて、ミーティングの必要性とサインの重要性を説明する。"
12. "ワンプレーの重さ
　一ツ一ツ のプレーには重みがある。 事例を挙げ、プレーの組合わせが勝利に直結もするし、敗因になることも説明する。"
13. 戦術を説明し、それに対するディスカッションを行う
14. "データの活用と感ピューター
　データ に基づく 第六感の活用はどのようなものか、プレーの確率を例に挙げ説明する。"
15. 硬式野球というジャンルの全体像について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★			★	

年度	2015	授業コード	J30471001
科目名	トレーニング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Training Theory		
担当者名	渡邊　裕也	旧科目名称	
講義概要	体力トレーニングとは，運動負荷に対する身体的・精神的適応能力の開発過程である。実際のスポーツ現場では，さらに狭義的な行動体力の開発を目的とした，数多くのトレーニングが行われている。最近ではスポーツ現場を越え，一般人にまで，体力トレーニングについての情報はあふれており，さらに新しい理論が加わってきている。 本講義では一般的体力の向上を目指した，体力トレーニングの基礎を学ぶ。体力トレーニングの目的を理解し，体力を総括的にとらえた上で,目的とするパフォーマンス向上のためには、動作様式の特異性などを考慮して、どのような方法をどのように取り入れるかをテーマに，具体例を提示しながら進めていく。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）		
教材（参考文献）	・使える筋肉・使えない筋肉 理論編―筋トレでつけた筋肉は本当に「使えない」のか? 谷本 道哉(著), 石井 直方（監修）ベースボールマガジン社 ・スポーツ科学の教科書――強くなる・うまくなる近道 谷本 道哉（著, 編集), 石井 直方（監修）岩波ジュニア新書 ・究極のトレーニング 最新スポーツ生理学と効率的カラダづくり 石井 直方 講談社		
教材（その他）	必要時にプリントを用意		
評価方法	定期試験（60 点以上）およびレポート、学習態度により総合的に評価する。		
到達目標	身体の機能や特徴に関する知識を踏まえて、トレーニング科学の理解を深めること、さらに、実際のトレーニング状況を想定し、トレーニングメニューを作成する際に必要な基礎的能力を養うことを目的としている。		
準備学習	身体の機能や特徴に関する知識を踏まえて、トレーニング科学の理解を深めて欲しい。 事前に解剖学や運動生理学の基礎的な知識を得ておくこと。		
受講者への要望			
講義と実際の実技を取り入れて行う。指示された日はトレーニングウェアとトレーニングシューズを準備すること。 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに 2　アスリートにとっての体力 3　体力テスト 4　健康と体力 5　体力要素による分類 6　トレーニングの種類 7　トレーニングの進め方 8　健康づくりと運動プログラム 9　パフォーマンスを上げる運動プログラム 10　トレーニング計画とその実際 1 11　トレーニング計画とその実際 2 12　体脂肪量・筋肉量の測定 13　体力テスト 14　試験 15　体力の前後比較			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J30472001
科目名	競技スポーツ実技（サッカー）	単位数	1
科目名（英語表記）	Competitive Sports Practice(Soccer)		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	競技スポーツとしてのサッカーで重要なことは、何よりも試合に勝つことであり、そのためには得点をしなければなりませんが、それがサッカーの楽しさです。選手には、パーフェクトスキルを獲得し、状況に応じたプレーを行うことが求められ、ゴールを奪うために攻撃を継続的に行うことが求められます。守備については、ボールを取られたらすばやく奪い返すことや、相手チームのボールをどのように奪い、効果的に攻撃につなげることが出来るかの視点で考えなければなりません。 そこで、この授業では、競技スポーツ論（サッカー）と連携し、サッカー競技における理論の理解（技術・戦術）とスキルの向上を目指します。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技６０％　レポート２０％ 学習態度２０％		
到達目標	この授業では、受講者一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、スキルの向上をはかり、クリエイティブでたくましい選手として、友情や人間関係を深め、アスリートとしての資質向上をはかる。		
準備学習	スポーツを安全に実施できる知識（ウォーム・アップ・クーリングダウン、ケガに対する応急処置）を事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

競技スポーツの目的は、最高のパホーマンスを達成することであり、そのためにはコンディションをよい状態に保つことが必要であり、自己の健康管理を行え、生活することが必要である。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＡ
２．.ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＢ、安全対策（ウォームアップ、クーリングダウン、応急処置）
３．技術と戦術を結ぶ重要な要素（ボールによる・パスしたら動く・周りを観る・ボールを奪いに行く）ミニゲーム①
- ボールリフティング、ドリブル、ボールコントロール、スクリーン&ターン
- インターセプト、ボディーコンタクト、タックル

４．技術と戦術を結ぶ重要な要素（ボールによる・パスしたら動く・周りを観る・ボールを奪いに行く）を理解する。ミニゲーム②
５．技術と戦術を結ぶ重要な要素（ボールによる・パスしたら動く・周りを観る・ボールを奪いに行く）を理解する。ミニゲーム③
６．個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム
- パス、ドリブル、シュート
- スルーパス、壁パス、クロスオーバー、
- ポジショニング、アプローチ、チャレンジ&カバー

７．個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム①
８．個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム②
９．個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム③
１０．個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム④
１１．個人、グループ、チームが、より高度な技術・戦術をゲームで発揮出来るようになる。
- ＭＴＭ、ホーメイション、ゲーム分析

１２．個人、グループ、チームが、より高度な技術・戦術をゲームで発揮出来るようになる。フルコートゲーム①
１３．個人、グループ、チームが、より高度な技術・戦術をゲームで発揮出来るようになる。フルコートゲーム②
１４．個人、グループ、チームが、より高度な技術・戦術をゲームで発揮出来るようになる。フルコートゲーム③
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★			

年度	2015	授業コード	J30473001
科目名	競技スポーツ実技（野球）	単位数	1
科目名（英語表記）	Competitive Sports Practice(Baseball)		
担当者名	原田　冨士雄	旧科目名称	
講義概要	野球の基本を理論的に技術的に学び、団体スポーツという観点から人間関係も 重視し、野球を通してスポーツの楽しさを感じる授業を目指すとともに、将来指導者としての資質を高めることを目的とする授業としたい。		
教材（テキスト）	必要時にプリントを用意		
教材（参考文献）	授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	必要時にプリントを用意		
評価方法	実技試験（60 点以上）およびレポート、学習態度により総合的に評価する。		
到達目標	野球はライセンスを取得すればマネージャー(監督)やコーチに就けるというものではありません。野球の指導は多種多様な戦術と攻、守に分かれて複雑なゲームを制していく力が求められます。選手の体力、技術、心理が大きくゲームを動かします。授業では、これらをいかにコントロールしていくか、また、これらに俊敏に対応できるプレーヤーをどう育てるかを、自身が様々な経験をし、学ぶ事で指導者への入口が見えるようにします。		
準備学習	野球ルールを徹底的に学習する。そのために、毎回次の授業のために課題を指示します。		

受講者への要望

準備・片づけはグループ単位で輪番制で行います。当番の学生は責務をこなすこと。
遅刻早退はしないこと。礼で始まり、礼で終わる授業を心掛けてください。

講義の順序とポイント

. " はじめに（オリエンテーション）
　授業の概要説明と野球 投・攻・守 の練習方法を理解させる。"
2. "硬式野球実技（基本） * 準備運動　　* キャッチボール　　* トスバッティング　　* 守備練習
　（投・打・捕の体験）　* 打撃練習　（野球を体験して難しさ、楽しさを感じてもらう）"
3. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は守備練習
　グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。"
4. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は守備練習
　グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。"
5. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は打撃練習
　グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。"
6. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は打撃練習
　グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。"
7. "実技 （ゲーム形式）
　遠投、走力等を計測し、自己の能力の分析を自身が行う事が出来るようにする。"
8. "実技 （ゲーム形式）
　遠投、走力等を計測し、自己の能力の分析を自身が行う事が出来るようにする。"
9. "実技 （ゲーム形式）
　遠投、走力等を計測し、自己の能力の分析を自身が行う事が出来るようにする。"
10. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
11. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
12. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
13. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
14. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
15. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J3047400A
科目名	スポーツ実技（水泳・水中運動）	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice (Swim and Exercise in Wa ter)		
担当者名	奥田　千代	旧科目名称	
講義概要	水泳・水中運動については、水の特性・環境を理解し、陸上運動との違いや水中における身体の動かし方を体験しながら生理学的な変化を体感する。 　水中運動を構成する各種運動・動作を実習し、運動プログラムの作成方法を理解し運動プログラムを作成し適切な動きの選択や運動強度変換と指導上の留意点を理解する。また、水と体の衛生及び環境、救急法などの安全対策を理解する。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者養成用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）		
教材（参考文献）	アクアエクササイズ指導理論（公益社団法人　日本フィットネス協会）		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	試験：実技試験２回（評価割合５０％）、授業内筆記試験１回（評価割合２０％）、指導案（評価割合２０％）授業態度（評価割合１０％）これらを総合して評価を行う		
到達目標	健康維持・増進のための運動を実践する必要性を理解し、自ら見本を示す実技能力と、グループ指導に対する知識及び指導技術を習得する。		
準備学習	毎回授業内で指示する。		

受講者への要望

健康運動実践指導者の受験資格認定科目です。原則的に遅刻・早退は認められません。
外部施設を利用するため、他の利用者の方の迷惑にならないように、服装・マナーには気を付けましょう。
授業は講義の場合は教室、実技の場合は現地集合、現地解散になります。
実技では必ず水着、キャップ、ゴーグルが必要です。なお、水着は水泳用の水着を着用すること。

講義の順序とポイント

1.　オリエンテーション
２．水の特性と水中運動の効果
３．水中運動（水中歩行、水泳体験）
４．水中におけるレジスタンス運動と水中ストレッチについて（体験）
５．水中エアロビックダンス（体験）
６．水中における有酸素運動のプログラミング方法
７．水中歩行のプログラミング、水中動作の習得
８．水中歩行のプログラミング、運動強度の変換方法
９．実技テスト（水中歩行指導法）
１０．水中レジスタンスの種類と効果、動作習得
１１．水中レジスタンスのプログラミング、強度変換と指導
１２．水中レジスタンスプログラム指導（器具を利用したプログラム含む）
１３．実技テスト
１４．水中運動およびプールにおける安全管理
１５．水中運動プログラム指導案の作成と提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	J3047500A
科目名	スポーツ実技(エアロビックスポーツ)	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice(Aerobic Sports)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	スポーツ実技（エアロビックスポーツ）では QOL の向上、健康づくり、介護予防を目的に有酸素運動を楽しさの中で効果的に指導する方法を学び、自らが指導できるように実践力を獲得する。健康運動実践指導者やレクリエーション・インストラクター資格の取得を目指して、運動プログラムと簡単なゲームのノウ・ハウを習得しよう。また、イベントや集会などの「みんなで楽しむ」場面を盛り上げ、演出する能力も磨く。 　将来は地域・非営利組織・企業での活動や業務の一環として、さまざまな場で健康運動実践指導者やレクリエーションで学んだことを実践に生かし、生涯自由時間を創造的にデザインするプログラムの開発・提供、調査・提案を行なえるようキャリアアップしていこう。 先ずは自分の身体を動かすところから始め、自分の身体の変化に気付く事を実習を通じて行って行こう。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団） 資格取得者のみ購入すること。授業内で希望をとる。		
教材（参考文献）	レクリエーション支援の基礎・スポーツと健康の科学		
教材（その他）	体操祭やレクリエーションフェスティバルの記録映像 チラシやパンフレット		
評価方法	試験は、実技試験を 2 回実施する（評価割合 60%）。また、授業内筆記テスト（評価割合 25%）、振り返りメモ（評価割合 20%）、学習態度（評価割合 5%）など、これらの結果を総合して成績評価を行う。		
到達目標	健康運動実践指導者独自の活動範囲及び少子高齢社会に対応した新たな役割は、自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者となるよう知識及び指導スキルを習得することである。 準備学習 事前に有酸素運動についての理論を学習しておくこと。		
準備学習	事前に有酸素運動についての理論を学習しておくこと。毎回、授業で実施したプログラムについて、次の時間は運動の目的や注意点を含め、説明し、キューイングが上手にできるように練習しておいてください。 実技のコーチングができるまでしっかり予習してください。		

受講者への要望

健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。この授業は、実践を通して学ぶことが目的である。心拍数を測定し、主観的な運動強度などを実感しながら進めていく。正しい食生活と睡眠に注意して参加すること。

講義の順序とポイント

1．ホスピタリティトレーニングの内容と方法・エアロビックスポーツを楽しむために
2．コミュニケーションゲームの体験とエアロビックスポーツ
3．エアロビックダンス初級
4．エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導）
5．エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導）と
　対象を想定したレクリエーション支援の実際①
6．中高年者のための健康体操
7．エアロビックダンス中級と対象に合わせたアクティビティの
　選択方法とその視点
8．ウォーミングアップの方法と ニュースポーツの展開①
9．ニュースポーツ体験とクーリングダウン
10．アイスブレーキングの実習とスポーツ
11．アイスブレーキングの実習とスポーツ
12．対象者間の相互作用の引き出し方・活用方法
13. アクティビティの指導案の作成
14. 指導実習・プログラム作成と指導案の提出
15. 指導実習・プログラム作成と指導案の提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★		

年度	2015	授業コード	J3047600A
科目名	スポーツ実技（ジョギング・ウォーキング）	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice (Jog Walking)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	健康・体力づくりの運動であるジョギング・ウォーキングを理解し、年齢・体力・健康状態などの個人差を配慮して、安全で効果的なジョギング・ウォーキングの運動プログラムを習得する。また、対象者に応じた運動プログラム・指導法・指導上の留意点などについて学習する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	必要時にプリントを用意。		
評価方法	試験は、実技試験を実施する（評価割合 60%）。また、授業内筆記テスト（評価割合 25%）、ウォーキングカレンダーの記入（評価割合 20%）、学習態度（評価割合 5%）。これらの結果を総合して成績評価を行う。		
到達目標	安全で効果的なジョギング・ウォーキングの運動プログラムを習得する。 対象者に応じた運動プログラム・指導法・指導上の留意点などについて理解する。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。毎回筆記具を持参してください。晴天時は人工芝のグランド、雨天時は体育館ランニングコースを使用する。服装とシューズを各自が用意してください。心拍数の測定などもするので前日は十分な睡眠をとっておくこと。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション ２．ストレッチングとウォーキング ３．ジョギング ４．ジョギング ５．ジョギング ６．ウォーキング ７．ウォーキング ８．ウォーキング ９．ウォーキング １０．基本プログラム １１．基本プログラム １２．実技テスト １３．基本プログラム １４．実技テスト １５．実技テストの確認と今後の課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J30477001
科目名	メンタルトレーニング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Mental Training Theory		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
講義概要	この講義は、運動習慣の確立を含む、生活習慣病予防の望ましい行動変容について理解するとともに、メンタルヘルスのためのストレスマネジメントについて、ストレスアセスメントとその対処方法を理解する。 またスポーツ選手・指導者に必要な心理的スキルを獲得し、実際に活用できるようになることを目的としたメンタルトレーニングの知識・技法をスポーツ心理学の学問的成果に基づいて理解する。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」(健康・体力づくり事業財団)、授業時のスライドを配布資料として用意。		
教材（参考文献）	健康スポーツの心理学　竹中晃二編　大修館書店 スポーツメンタルトレーニング教本　日本スポーツ心理学会編		
教材（その他）			
評価方法	授業時に取り組む課題を 30%、課題に取り組む授業態度を 20%、ポストテストを 50%とする。		
到達目標	運動・スポーツを心理的側面から捉え、健康づくりの運動における行動変容と競技スポーツにおける心理的スキルをさまざまな場面で応用できるように取り組むこと。		
準備学習	毎回の講義で指示する。		

受講者への要望

健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は厳禁。5 分前には着席すること。授業時に示す課題に対し積極的に取組む姿勢(発言・行動)を期待します。

講義の順序とポイント

1 はじめに　オリエンテーション
2 ヘルスプロモーションの現状と課題～運動のベネフィット・疫学研究の成果
3 健康スポーツの心理学：生活習慣病予防と運動の習慣化
4 運動指導の心理的基礎：身体活動を決定する心理的要因
5 行動変容の理論～健康に関する行動変容モデル
6 健康に関する行動変容～ケーススタディ
7 運動と心の健康～運動・スポーツのストレス低減効果とストレスマネジメントの方法
8 運動と心の健康～他者との関わり・コミュニケーション
9 メンタルトレーニング①ピークパフォーマンス
10 メンタルトレーニング②バイフィードバック
11 メンタルトレーニング③リラクセイションとイメージトレーニング
12 メンタルトレーニング④さまざまな技法
13 メンタルトレーニング⑤目標設定の理論と実際
14 あがりとパフォーマンス～情動のコントロール
15 健康と運動心理の応用～自らの実践活動に活かすには

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J3047800A
科目名	トレーニング実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Training Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	補強運動の必要性とプログラムへの取り入れ方を理解させる。目的に応じたトレーニングの重要性とその方法、実施上の注意点を実習を通して説明し、指導方法を学ばせる。特に上体起こし、腕立て伏せなどの筋力系と柔軟性、調整力などのトレーニングの実施法を習得させる。アイソメトリックやウェイト、サーキットなどのさまざまなトレーニングの原則・効果・組み立て方などを学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	必要時にプリントを用意。		
評価方法	試験は、実技試験を実施する（評価割合 60%）。また、授業内筆記テスト（評価割合 25%）、トレーニングメニューの作成（評価割合 20%）、学習態度（評価割合 5%）。これらの結果を総合して成績評価を行う。		
到達目標	補強運動の必要性とプログラムへの取り入れ方を理解する。目的に応じたトレーニングの重要性とその方法、実施上の注意点について実習を通して学び、応用できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

トレーニングルームを使用するので、トレーニングウェアとトレーニングシューズを準備してください。また、トレーニング器具の正しい使用法を守り、安全に、大切に扱うこと。
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。

講義の順序とポイント

1．はじめに
2．補強運動の必要性
3．目的に応じた体操
4．トレーニングの特徴
5．ウェイト・トレーニングの原則、効果
6．ウェイト・トレーニングの原則、効果
7．サーキット・トレーニングの原則・効果
8．サーキット・トレーニングの原則・効果
9．トレーニングの期分け
10．ハイパワートレーニング
11．ミドルパワートレーニング
12．ローパワートレーニング
13．実技試験
14．実技試験
15.実技試験の確認と今後の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J30481001
科目名	コーチング実習（生涯スポーツ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Sport Coaching Practice(Lifelong Sports)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	コーチング実習（生涯スポーツ）の学習目的は各種スポーツの指導者としての指導実践を磨くことと、レクリエーション・インストラクターの資格取得にも役立てることです。特に、「対人関係」のトレーニングとしてレクリエーション理論に基づき学びます。 特に、「ホスピタリティトレーニング」等、相手を思いやるコミュニケーション力、レクリエーション事業を考えていく場合の「企画力」なども授業で身につけたい力です。 次の段階として、希望者は実際の授業に TA(ティーチングアシスタント）として入り、授業をサポートする体験もできます。また、学外での事業参加も資格取得希望者にはたくさんの選択肢があります。 本来のスポーツ・レクリエーション教育は、「楽しさを通して社会が抱える課題に対してアプローチする」という基本コンセプトがあります。例えば、クーベルタンはオリンピックを戦争のない平和な世界の構築のために始め、100 年が経過しました。 まずは、ジェントルマインドを身につけて、挨拶、言葉遣い、時間や約束を守るという、当たり前のことを当たり前にできる社会人としてのキャリアアップをしましょう。(実習や事業参加の交通費などは各自の実費負担です)		
教材（テキスト）	レクリエーション支援の基礎　(財)日本レクリエーション協会 2008		
教材（参考文献）	印刷資料、ＤＶＤ、参考図書などを随時提示します。		
教材（その他）	適宜指示する。		
評価方法	指導案、指導レポート、事業の企画書の作成（５０％） 模擬授業・事業参加(５０％)		
到達目標	自分の得意なスポーツ種目の指導ができるようになる。 レクリエーション・インストラクターとして、さまざまなイベントのサポートができる。		
準備学習	ＴＡをする種目について、歴史、ルール、技術など徹底的に学習する。 レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は、教科書内の知識を事前学習する。 毎回、課題を指示します。事前に指示した課題の準備は確実にこなしてください。わかりやすい説明をするためには、自分で書いて、読んで、修正し、できるだけシンプルな表現を使えるように取り組む。		

受講者への要望

挨拶、言葉遣い、時間や約束を守るという社会的なルールを守り、向上心を持って、常に積極的に取り組むこと。
ＴＡに参加した場合は担当教員と事前に綿密な打ち合わせをした後に指導サポートをすること。学生に対し、次の行動を予測したり、安全配慮をするなど、常によい授業となるように働きかけること。

講義の順序とポイント

授業以外の現場実習だけでなく、授業内での TA 実習なども取り入れます。

1．コーチング実習（生涯スポーツ）オリエンテーション・
　さまざまな対象とアクティビティ・生涯スポーツのＴＡ及びレクリエーションインストラクターの資格についての説明
　ホスピタリティトレーニング①
2．ホスピタリティトレーニング②
3．ニュースポーツ体験（対象を規定したスポーツ・レク支援の体験）
4．アイスブレーキング①
5．　アイスブレーキング②
6．生涯スポーツ指導実習・希望者は事業参加（対象を規定したスポーツ・レク支援の体験）
7．生涯スポーツ指導実習・希望者は事業参加（対象を規定したスポーツ・レク支援の体験）
8．生涯スポーツ指導実習・希望者は事業参加（対象に合わせたアレンジ法）
9．生涯スポーツ指導実習・希望者は事業参加（対象に合わせたアレンジ法）
10．イベントの企画と運営
11．イベントの企画と運営
12．事業参加①（レク楽園・ワークショップの出席）
13．事業参加②（レク楽園の出席）
14．事業参加③（レク楽園の出席）
15．事業参加体験報告会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J30482A01
科目名	スポーツ生理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Physiology of Physical Exercise I		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	人間の身体構造（解剖学）と機能（生理学）の基礎を講義する。健康運動実践指導者養成講座のうちの１つ。 なお個々のスポーツ実技に関する実践的な内容は含まない。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示または配布する		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０%）、期末試験（５０%）。		
到達目標	生理学と解剖学の基礎を修得する。		
準備学習	常に健康や運動について関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

１.暗記する項目が多いので、自ら積極的に学習に取り組む意欲が必要である。
２.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
３.教室内は飲食禁止。
４.健康運動実践指導者の受験資格認定科目であるため、遅刻・早退は認めない。

講義の順序とポイント

１.授業ガイダンス
２.骨・骨格について（その１）
３.骨・骨格について（その２）
４.関節、靱帯、腱について
５.筋肉について
６.骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構
７.筋線維タイプと収縮特性
８.筋収縮の様式と筋力、トレーニングと骨格筋
９.身体運動に関係する骨（その１）
１０.身体運動に関係する骨（その２）
１１.身体運動に関係する骨（その３）
１２.身体運動に関係する筋（その１）
１３.身体運動に関係する筋（その２）
１４.身体運動に関係する筋（その３）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J30482B01
科目名	スポーツ生理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Physiology of Physical Exercise Ⅱ		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	人間の身体構造（解剖学）と機能（生理学）の基礎を講義する。健康運動実践指導者養成講座のうちの１つ。 なお個々のスポーツ実技に関する実践的な内容は含まない。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示または配布する		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０%）、期末試験（５０%）。		
到達目標	生理学と解剖学の基礎を修得する。		
準備学習	常に健康や運動について関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

１.暗記する項目が多いので、自ら積極的に学習に取り組む意欲が必要である。
２.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
３.教室内は飲食禁止。
４.健康運動実践指導者の受験資格認定科目であるため、遅刻・早退は認めない。

講義の順序とポイント

１.授業ガイダンス
２.呼吸について
３.呼吸器系の解剖学（その１）
４.呼吸器系の解剖学（その２）
５.呼吸のメカニズム（その１）
６.呼吸のメカニズム（その２）
７.運動と呼吸について（その１）
８.運動と呼吸について（その２）
９.血液循環について
１０.循環器系の解剖学（その１）
１１.循環器系の解剖学（その２）
１２.循環器系の生理学（その１）
１３.循環器系の生理学（その２）
１４.運動と血液循環について
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J30483001
科目名	スポーツマーケティング	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Marketing		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本講義は、販売と消費というマーケティング論の基本概念を用いてスポーツマーケティングを解説する。より具体的には、①スポーツマーケティングという概念および②マーケティング論を通じて見たスポーツを解説する。その主たる問いは、①なぜスポーツ界にはマーケティング論が必要となったのかであり、②マーケティング論からスポーツを見れば何が説明できるのかである。 現実のスポーツとマーケティングはきわめて複雑に絡み合っている。この複雑な問題を解きほぐすためには、自分の頭で考えることが必要となる。このために、本講義は主として板書形式をとる。		
教材（テキスト）	菊幸一・齋藤健司・真山達志・横山勝彦［編］『スポーツ政策論』成文堂 2011　3,500 円		
教材（参考文献）	ジョン・スポールストラ『エスキモーに氷を売る』きこ書房 2000　1,680 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	講義内小試験（40%）、講義内中試験（20%）、講義内大試験（40%）		
到達目標	受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 ①スポーツマーケティングとは何かを理解することができる。 ②現実のスポーツ界で生じる問題をマーケティング論の視点で説明することができる。		
準備学習	講義終了時に、参考文献における次回の講義範囲を示す。指示のあった範囲を次回までに熟読しておくこと。なお、講義内では前回の講義範囲に関連する小試験を課す。復習をしておくこと。		

受講者への要望

私語は厳禁。
テキストは講義内中試験の試験問題とするので準備するように。

講義の順序とポイント

1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2.「スポーツマーケティングの前提」：スポーツの市場を解説する
3.「スポーツマーケティングの対象」：本講義で学ぶべき対象を解説する
4.「チケット販売と四つの特徴」：プロスポーツチームの製品対応を解説する
5.「中間総括」：これまでの講義内容を復習する
6.「スポーツ市場における流通対応」：チームの行った閉鎖的流通チャネルを解説する
7.「クロスセリング 1」：テレビ放映の抑制効果と促進効果を解説する
8.「クロスセリング 2」：テレビ放映権の高騰現象を解説する
9.「クロスセリング 3」：ライセンス契約とは何かを解説する
10.「クロスセリング 4」：ロイヤルティとライセンス契約の関係を解説する
11.「クロスセリング 5」：スポンサーシップとは何かを解説する
12.「クロスセリング 6」：スポンサーシップの効果をもたらす原因を解説する
13.「興奮の探求」：閉鎖的流通チャネルがなぜ成功要因となったのかを討議する
14.「スポーツマーケティングの最新成果」：これまでの講義を総括し、最新の研究成果を解説する
15.「講義の限界」：講義の限界を示し、今後の展望を解説する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J30484001
科目名	スポーツビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Business Theory		
担当者名	柳　久恒	旧科目名称	
講義概要	本講義は、スポーツビジネスをテーマとしてその諸相について事例を紹介しながら解説する。スポーツビジネスは、スポーツ組織や選手のみならず、多くのステークホルダー（利害関係者）によって成り立っている。本講義の受講生は、さまざまなスポーツビジネスの内容について認識し、課題を解決するための方法論について思考する。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	「スポーツマネジメント」（スポーツビジネス叢書)原田宗彦, 小笠原悦子(編著）、大修館書店（2008 年)、1900 円。 「スポーツマーケティング」(スポーツビジネス叢書）原田宗彦 編著　藤本淳也、松岡宏高 著、大修館書店（2008 年)、2000 円。 「スポーツ・ヘルスツーリズム」原田宗彦、木村和彦(編著）、大修館書店、2000 円。		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業内レポート（50%)、小テスト（50%）		
到達目標	・スポーツビジネスの内容を説明することができる。 ・スポーツビジネスに興味を抱く。		
準備学習	スポーツを「する」「みる」「ささえる」などして消費する。 例）スポーツをスタジアムに足を運んで観戦する。 例）スポーツをテレビ等で観戦する。 例）スポーツイベントなどでボランティア活動をする。		
受講者への要望			
授業の進行や他の受講生の妨げになる言動は慎みましょう。 特に、正当の理由のない遅刻や途中退室は認めません。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション：講義の目標や進め方について説明し、評価方法を理解する 2. スポーツビジネスの諸相：スポーツのビジネスにかかわるリーグやクラブ、イベントなどについて紹介する 3. スポーツイベントのビジネス①：スポーツイベントのビジネスについて解説する 4. スポーツイベントのビジネス②：スポーツイベントのビジネスについて解説する 5. スポーツイベントのビジネス③：スポーツイベントのビジネスについて解説する 6. スポーツリーグのビジネス①：スポーツリーグのビジネスについて解説する 7. スポーツリーグのビジネス②：スポーツリーグのビジネスについて解説する 8. スポーツリーグのビジネス③：スポーツリーグのビジネスについて解説する 9. スポーツクラブのビジネス①：スポーツクラブのビジネスについて解説する 10. スポーツクラブのビジネス②：スポーツクラブのビジネスについて解説する 11. スポーツクラブのビジネス③：スポーツクラブのビジネスについて解説する 12. スポーツ用品メーカーのビジネス①：スポーツ用品メーカーのビジネスについて解説する 13. スポーツ用品メーカーのビジネス②：スポーツ用品メーカーのビジネスについて解説する 14. スポーツ用品メーカーのビジネス③：スポーツ用品メーカーのビジネスについて解説する 15. スポーツビジネスの現状と課題：スポーツビジネスの現状と課題について思考する			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J30485A01
科目名	スポーツ医学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Medicine I		
担当者名	丸中　良典	旧科目名称	
講義概要	本講義は病気のなりたちとその予防・治療をはじめ、環境や生活様式を含む社会と健康とのかかわり等から構成され、個人および集団の健康を守るために必要となる知識、実践活動について概説する。健康の基礎が日々の暮しの中にあり、食生活、運動、勉学、労働等を中心とした生活習慣と環境との長年にわたる相互作用が健康状態に大きな影響を及ぼすことを理解し、各人が積極的な実践活動を通じて、自分に適した健康を獲得するだけでなく，学んだ知識及び指導スキルを、健康増進や介護予防にも十分に生かせるよう課題研究レポートも課す。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）、必要時にプリントを用意。		
教材（参考文献）	授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）			
評価方法	課題解決レポートの評価を 50%、学習態度、ポストテストなどを 50%とする。		
到達目標	健康管理・生活習慣病・救急処置など、生活に密接した医学の知識を子どもたちの発達段階をふまえた健康教育、中高年のメタボリックシンドロームや介護予防にも十分に生かせるよう学ぶことが到達目標である。		
準備学習	毎回の講義で指示する。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は厳禁。5 分前には着席しておいてください。座席指定とします。			
講義の順序とポイント			
1　健康管理と運動の役割（1） 2　健康管理と運動の役割（2） 3　健康管理と運動の役割（3） 4　健康管理と運動の役割（4） 5　健康管理と運動の役割（5） 6　救急処置（一部実技も行なう）（1） 7　救急処置（一部実技も行なう）（2） 8　感染症とその他の疾患 9　スポーツ生理学（1） 10　スポーツ生理学（2） 11　スポーツ生理学（3） 12　生活習慣病（1） 13　生活習慣病（2） 14　生活習慣病（3） 15　生活習慣病（4）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J30485B01
科目名	スポーツ医学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Medicine II		
担当者名	丸中　良典	旧科目名称	
講義概要	スポーツの医学的な意義を理解する。運動処方の基礎や慢性疾患における運動療法の理論と実際なども取り上げることによって疾病予防、治療の一環としてのスポーツ医学の意義についても言及する。運動環境、運動と疾病の関係を医学的に考察する。スポーツに伴う身体環境の変化と疾病への影響、さらにスポーツ外傷・障害の概要等について学習する。また、運動場面で遭遇する、熱中症（熱疲労、熱痙攣、熱射病）過換気症候群、突き指、骨折、捻挫、頭部外傷などの応急処置やテーピングの方法を習得させる。スポーツ傷害の予防等を題材として取り上げるなかで課題研究レポートも課す。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）、必要時にプリントを用意。		
教材（参考文献）	授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）			
評価方法	課題解決レポートの評価を 50%、学習態度、ポストテストなどを 50%とする。		
到達目標	運動開始前・中・後の症状、徴候から運動中止を判定する方法を理解する。スポーツ医学的障害として熱中症、過換気症候群、高山病、整形外科的外傷などでの症状と徴候および予防法を理解する。学校や各種スポーツ活動で教育者、指導者として必要なスポーツ医学の知識を体得することが到達目標である。		
準備学習	毎回の講義で指示する		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は厳禁。5 分前には着席しておいてください。座席指定とします。			
講義の順序とポイント			
1 スポーツ選手の健康管理 2 健康管理のシステム 3 トレーニングの生理学的適応現象 4 トレーニング中の注意事項 5 トレーニングによる病的現象 6 運動障害と予防（1） 7 運動障害と予防（2） 8 運動障害と予防（3） 9 運動障害と予防（4） 10 運動障害と予防（5） 11 運動障害と予防（6） 12 スポーツによる内科的障害とその対策 13 スポーツ選手におこりやすい病気とその予防 14 スポーツによる外科的傷害とその対策 15 発育期に多いケガ・成人で多いケガ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J30502001
科目名	事業承継論	単位数	2
科目名（英語表記）	Study for Business Succession		
担当者名	伊藤　久人	旧科目名称	
講義概要	日本経済を支える中小企業では、近年、経営者の高齢化が進行する一方で、後継者の確保がますます困難になっています。　対策をせずに放置していると、いざ事業承継という時に、相続を巡ってもめ事が起きる、後継者が経営ノウハウを知らない、取引先・従業員の信頼を得られない、といった問題が生じ、最悪の場合、廃業に至ってしまいます。 こうした現状を踏まえ、事業承継の背景、承継すべきもの、特に財産の承継以外に重要なその精神、人材といったものまで検討し、現状の問題点や課題の認識その対応策を、学習としてだけではなく実務面を考慮した面からも検討を行いたい。		
教材（テキスト）	事業承継の実務　中野公認会計士事務所　編（中央経済社 2009）を予定しているが、第 1 回目の講義において指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点(取組姿勢)30 点、期末レポート 70 点		
到達目標	1. 事業承継が問題となる状況を把握し、何が問題となっているのかを認識する。 2. 税制を踏まえたその対策について理解する。 3. 円滑な事業承継のために必要なことを自身で検討する。		
準備学習	講義での配賦資料等の復習を中心にしてください。		

受講者への要望

日本経済を支える中小企業の事業承継という財産面、経営面及びそのたの問題について興味がある者が望ましい。

講義の順序とポイント

1. 事業承継とはなにか
2. 老舗の事業承継の特徴
3. 公開会社の事業承継の特徴
4. 事業承継の手順
5. 事業承継計画とは
6. 事業承継の方法
7. 事業承継の精神
8. 後継者等人材の育成の重要性
9. 財産移転方法（1）
10. 財産移転方法（2）
11. 財産移転方法（3）
12. 相続（1）
13. 相続（2）
14. 遺留分
15. 金融支援策

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J30503001
科目名	商業史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	植田　知子	旧科目名称	
講義概要	商行為とは売買を通じてモノを「商品」として扱う行為です。私たちの社会、日々の生活は商行為と密接な関係をもっています。こうした商行為、すなわちモノを「商う」ことは、いつ頃からはじまり、私たちの生活や社会、そして文化とどのようにかかわってきたのでしょうか。 本講義では、商業と商人の成り立ち、その発展の歴史を学びます。		
教材（テキスト）	使用しません。毎回プリントを配布します。		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示します。		
教材（その他）	授業は、パワーポイントを使用しておこないます。		
評価方法	２回目以降、授業中におこなう復習の小テスト３０％、定期試験７０％。		
到達目標	商業と商人の成り立ち、その発展の歴史を学びます。		
準備学習	各回の講義内容は、次の週に復習の小テストを行います。疑問点は放置せず、整理・確認しておきましょう。		
受講者への要望			
講義の終了前に「質問タイム」を設けます。疑問点や不明の部分があれば質問して下さい。			
講義の順序とポイント			
１、古代の商業 ２、「市」の思想 ３、中世の商業 ４、銭の流通 ５、旅する商人 ６、中世の生活と商い ７、戦国大名と商業 ８、幕藩制と商業 ９、株仲間とは １０、商家の雇用制度 １１、近世の生活と商い １２、商いの倫理ー商家の家訓ー １３、江戸時代の広告・宣伝 １４、幕末開港 １５、明治維新と商業			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J30504A01
科目名	京都商業特別講義Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Lecture on Commerce in Kyoto A		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	本講義は、基本的には過去に大学コンソーシアム京都で開講された「学生ベンチャー・スタートアップスクール」「アントレプレナーシップ養成講座」「京都起業家実践講座」「京都社会起業家養成講座」の各講座の成果をも踏まえ、新たに開講されるものである。 　このため京都商業特別講義Ａは、「理論編」としてベーシックの位置付けで、京都商業特別講義Ｂは「実践編」としてアドバンスの位置付けで開講する。 　京都は伝統と革新のはざまに生き抜いてきたブランド都市である。その強みについてのキーワードは「文化力」であり「夢・誇り・もてなし力」である。特に内外からの年間約５千万人に上る観光客を「もてなす」京都における総合的パワーは、１次産業から３次産業と幅広い産業によって支えられている。取り分けて３次産業、特に商業が京都の都市機能を果たす上で,内向け、外向けを問わず、担ってきた役割には多大なものがある。そこで本講座においては、京都を構成する様々な産業分野の中において、商業分野に焦点を定め考察を進めたい。 　考察は京都における商業を中心とした歴史的側面、京都ビジネスの特質（老舗からベンチャービジネス）、京都地域資源の活用、農工商連携、商業集積を活用した地域の活性化などについて、流通論・商学・マーケティング論の観点からの知見を踏まえ、京都商業における現状と課題と将来像に接近したい。 　また京都学園大学は、1925 年辻本光楠先生により京都上京区において開校された、京都商業学校をルーツとしており、大学の存する亀岡市は、石門心学で商業の社会的地位を高めた、石田梅岩先生の生家の存するところでもあり、従来より、商業に関する研究については、深く取り組んできたところでもある。 　なお講義に当たっては、中小企業診断士・税理士など実際の商業経営に造詣の深いコンサルタントの知見を踏まえた講義も、織り込んでおり、また講義においては、課題を設定したグループワーク、質疑応答などを適宜に踏まえて、双方向性のある授業により、京都商業におけるリアルで、有意義な知見を得ることができる講座を目指す。		
教材（テキスト）	必要の都度プリントなど資料配布を行う。		
教材（参考文献）	必要の都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	受講態度（２０点）、レポート（３０点）、定期試験（５０点）		
到達目標	商業及び周辺学問領域における基本的な知識の習得（流通・商業・マーケティング）を図るとともに、習得した知識などを活用して、今後の京都における商業の方向性や在り方についての教養を身につける。また商業領域におけるマネジメント能力の涵養を図る。		
準備学習	自分自身を取り巻く商業環境に興味を持ち、商業に関する知識や情報については,積極的に新聞、雑誌、インターネットなどのメディアを通じて収集行うとともに、今後京都における、商業のより一層の活性化及び発展方向を見定めるという、問題意識を持って受講されたい。		
受講者への要望			
積極的に授業に参加することを希望いたします。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（講義概要、到達目標など） 2　商業の学問領域における基礎知識の概要（流通論・商学・マーケティング論） 3　商業における基本理念①～商業の存立基盤 4　商業における基本理念②～石門心学（石田梅岩）に学ぶ商業 5　京都の歴史・文化・産業～商業との関連において 6　京都ビジネスにおける現状と課題①（老舗編） 7　京都ビジネスにおける現状と課題②（ベンチャービジネス編） 8　京都地域産業資源と商業 9　地域商業ガイドラインと商業活性化アクションプラン（京都を中心として） 10　特別講義①			

11　特別講義②
12　特別講義③
13　特別講義④
14　特別講義⑤
15　京都商業の展望

（注）特別講義においては、京都における商業振興策・支援制度、商業に関する簿記・会計及び税法、事例研究など予定している。
本講義はキャンパスプラザ京都　4 講時(14 時 30 分～16 時 00 分)で行う。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J30504B01
科目名	京都商業特別講義Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Lecture on Commerce in Kyoto B		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	本講座は、基本的には、京都商業特別講義Ａにおいて習得した知識などを活かして行う、少人数制の演習講座となっている。このため講義については、オリエンテーション的なものを除き最小限にとどめ、京都における商業を担うべく、起業家精神を持ち、ブランド都市京都における、商業の果たす機能の重要性を踏まえたうえで、実際に商業にどのような形で関わりを持っていくかについての事業構想及び事業計画を考察する講座である。 国際観光都市を目指す京都商業の方向性には、内向け（地域住民向け）と外向け（観光客向けなど）、日用品・身の回り品（食料・衣料など）と専門品（伝統工芸品、土産物など）、京都地域資源を活用した商業モデル、農工商連携による商業モデル、商店街など商業集積の促進による地域活性化モデルなど、幅広い観点からさまざまに、商業への接近が可能である。 このように幅広い観点から京都における新たな商業モデルを構想し、事業計画、提言を策定することが、本講座の主眼とするところである。 具体的には、新たな商業モデルのデザイン、新たな商店街のデザイン、地域資源の活用による商業のデザイン、農商工連携による商業のデザインなどなどを、実現可能性を踏まえた構想を行う講座である。 なお研究を進めるにあったっては、担当教員はもとより、複数のコンサルタントが各受講生およびグループに対して個別具体的な指導を行う。 よって当該講座における研究方法は、グループを中心とした、文献研究、事例研究、フィールドワークなどを各グループごとに計画し、実践し、進捗管理を行い、最終的には成果として商業にかかるデザインおよびプランニングを練り上げていくものである。このため本講座は、単なる知識、実践力の修得に留まらず、その過程を通じて研究における自主的な進捗管理、リーダーシップ、コミュニケーション、プレゼンテーションなどに関する能力やスキルを修得することも視野に入れている。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜提供を行う。		
評価方法	取組姿勢（２０点）、プレゼンテーション　（３０点）、研究成果（５０点）		
到達目標	商業に必要とされるマネジメントにかかる基本と原則を修得するとともに、グループ研究の過程を通じてリーダーシップ力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力などの涵養を図るとともに、京都商業におけるイノベーションを踏まえた、構想、計画を通じて、革新力、創造力などの修得も行いたい。		
準備学習	京都商業特別講義Ａに同じ。		

受講者への要望

積極的なグループワークへの参加はもとより、京都商業への興味を持ち、京都商業における,イノベーション、活性化、商業機会などを見据えて、問題意識を持って、参加されたい。

なお可能な受講生は、ノート型パソコンを受講時持参されたい。

講義の順序とポイント

第一日目　8/11(火)　キャンパスプラザ京都　1～5 講時(9 時 00 分～17 時 50 分)

1　講座についてのガイダンス

2　グループ分けおよび事業構想、事業計画への組織作り、役割分担など

3　グループ討議による商業領域におけるビジネスチャンス、活性化策の発見およびそのための計画策定への進め方についての検討

4　各受講者、グループからの質疑応答（以下質疑応答という）、コンサルタントの個別指導①（以下個別指導という）

5　各グループからの進捗状況についての報告、質疑応答、個別指導②

第二日目　8/12(水)　キャンパスプラザ京都　1～5 講時(9 時 00 分～17 時 50 分)

6　研究の進め方についての打ち合わせ

7　情報収集、文献研究、フィールドワーク、討議など、質疑応答、個別指導③

8　情報収集、文献研究、フィールドワーク、討議など、質疑応答、個別指導④

9　　情報収集、文献研究、フィールドワーク、討議など、質疑応答、個別指導⑤ １０　各グループからの進捗状況についての報告、質疑応答、個別指導⑥ 第三日目　8/13(木)　キャンパスプラザ京都　1～5 講時(9 時 00 分～17 時 50 分) １１　各グループ研究結果のまとめおよびプレゼンテーションの準備 １２　各グループ研究成果のまとめおよびプレゼンテーションの準備 １３　研究成果発表会① １４　研究成果発表会② 15　まとめ（コンサルタントからの講評など）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J30506001
科目名	スポーツチームマネジメント論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	講義では、スポーツチームマネジメントの基礎的な考え方と共に、スポーツチームマネジメントに必要な知識と技術について学ぶ。また、プロスポーツ組織のマネジメントとアマチュア組織のマネジメントの差異を考察し、「人財」「資材」「財源」を生み出すチーム運営について学ぶ。		
教材（テキスト）	適宜プリント配布する。		
教材（参考文献）	授業内で専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	適宜プリント配布する。		
評価方法	平常点（参加態度等）５０％　レポート２５％　発表２５％		
到達目標	スポーツチームマネジメントを題材に、社会組織でも応用できる基礎を学ぶ。		
準備学習	講義で学んだ内容を復習し、次回の講義予習を毎回指示する。		

受講者への要望

授業に積極的に参加し、遅刻等しないこと。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、
２．スポーツチームマネジメントとは
３．学生スポーツをめぐる社会的背景
４．プロスポーツをめぐる社会的背景
５．スポーツ組織のマネジメント概要
６．スポーツクラブマネジメント
７．総合型地域スポーツクラブ
８．中間まとめ
９．スポーツチームマネジメント
１０．スポーツチームマネジメント
１１．研究作成
１２．研究作成
１３．研究発表
１４．研究発表
１５．スポーツチームマネジメントの講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J30507001
科目名	ＣＳＲ会計論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大田　住吉	旧科目名称	
講義概要	・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 ① 実際のビジネス現場で起きるケーススタディ（事例研究）について学ぶ「ビジネス・スクール形式」。 ② グループ討議、プレゼン、質疑応答などを繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学ぶ。 ③ 定員 30 名程度の少人数グループ討議形式。 ・学習テーマは、以下のとおりです。 (a)「 ＣＳＲ（企業の社会的責任)」とは、何か？　リスクマネジメントとは何が違うのか？そして「ＣＳＲ会計」 とは、何か？ (b) なぜ、ＣＳＲ会計を学ぶことが必要なのか？　ＣＳＲを定量的に測定・開示することに、どんな意味がある のか？ (c) ＣＳＲ会計と財務会計（貸借対照表、損益計算書など）とは、何が違うのか？ (d) 実際に、ＣＳＲ会計報告書（ＣＳＲ活動計算書）を、どのように作成すれば良いのか？ (e) ＣＳＲ会計を、ビジネス戦略にどう活かせば良いのか？		
教材（テキスト）	・すべて担当教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用します。		
教材（参考文献）	・必要に応じ、参考文献などを紹介します。		
教材（その他）	・必要に応じ、関連資料、解答例などを配布します。 ・なお、授業には、計算問題があります。電卓（一般的なもので可）を必ず持参下さい。		
評価方法	①グループ討議への参加意欲・発言内容（40%)、 ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力（30%)、 ③プレゼン力および質疑応答対応力（30%） による総合評価		
到達目標	・実社会で「戦力」として通用するビジネス・リーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・ＣＳＲ会計報告書を実際に作成するとともに、ビジネス戦略にどう活かせば良いのかについて分析し、判断 し、表現する、実践的な能力を身につけることを期待します。		
準備学習	＜予習＞ ・授業で配布するオリジナルテキストは、事前に熟読しておいて下さい。 ・業界事情、専門用語などについては、自分で調べ、理解して下さい。 ＜復習＞ ・授業の最後には、必ず 5〜10 分の「本日のポイント」の講義があります。その内容について、しっかり復習し、 自分の「武器」として使えるようにしておいて下さい。 ・授業の中で、他のグループメンバーの意見等で参考になると感じたものは、その内容をしっかり復習して下さ い。		
受講者への要望			
・29 年間の民間企業でのビジネス経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！ ・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス　〜この授業で何を学ぶのか？、ＣＳＲ会計とは、何か？〜 2〜4　【ビジネス事例Ｉ】「失敗の美学」（水産加工食品製造業Ｐ社） ＜テーマ＞　必ず起きる「失敗」をビジネスにどう活かすのか、 ＣＳＲ経営の前提となるリスクマネジメントとは？ ＜ポイント＞　ＣＳＲ経営、企業におけるリスクの種類とダメージ、原因究明と再発防止、リスクマネジメントほか			

5～8　【ビジネス事例Ⅱ】　「目指せ！「匠」のマネジメント」（食品調味料製造業Ｒ社）
＜テーマ＞　ＣＳＲ経営とは？　ＣＳＲ会計を、具体的にビジネス戦略にどう活用するのか？
＜ポイント＞　力量評価・判定表、労働安全作業標準マニュアル、アレルギー物質の食品コンタミ表示ほか

9～１２　【ビジネス事例Ⅲ】　「もしも？のためのＢＣＰ（事業継続計画）」（金属加工業Ａ社と食品スーパーＢ社）
＜テーマ＞　ＢＣＰとは？　自然災害時における企業の社会的責任とは？
＜ポイント＞ ダメージ判定、中核事業の早期復旧、業種によるＢＣＰの違い、ＢＣＰ作成演習ほか

１３～１５　【ビジネス事例Ⅳ】　「創る！　ＣＳＲ会計」（大企業と中小企業の事例）
＜テーマ＞　ＣＳＲ会計報告書を実際に作成せよ、そこから何が分かるのか？　大企業と中小企業で何が違うのか？
＜ポイント＞　環境配慮活動計算書、労働・人権配慮活動計算書、製品・サービス責任活動計算書ほか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J30508001
科目名	知財管理論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大田　住吉	旧科目名称	
講義概要	・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 ① 実際のビジネス現場で起きるケーススタディ（事例研究）について学ぶ「ビジネス・スクール形式」。 ② グループ討議、プレゼン、質疑応答などを繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学ぶ。 ③ 定員 30 名程度の少人数グループ討議形式。 ・学習テーマは、以下のとおりです。 (a) 「知的財産」とは何か？ 「持つ」と「持たない」では何が違うのか？ (b) 経営学部の学生にとって、なぜ「知的財産」のマネジメントを学ぶことが必要なのか？ (c) 技術戦略と市場戦略は、具体的にどのように結び付くのか？ (d) 知的財産を、ビジネス戦略にどう活かせば良いのか？		
教材（テキスト）	・すべて担当教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用します。		
教材（参考文献）	・必要に応じ、参考文献などを紹介します。		
教材（その他）	・必要に応じ、関連資料、解答例などを配布します。 ・なお、授業には、計算問題があります。電卓（一般的なもので可）を必ず持参下さい。		
評価方法	①グループ討議への参加意欲・発言内容（40%）、 ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力（30%）、 ③プレゼン力および質疑応答対応力（30%） による総合評価		
到達目標	・実社会で「戦力」として通用するビジネス・リーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・知的財産をビジネス戦略にどう活かせば良いのかについて分析し、判断し、表現する、実践的な能力を身に つけることを期待します。		
準備学習	＜予習＞ ・授業で配布するオリジナルテキストは、事前に熟読しておいて下さい。 ・業界事情、専門用語などについては、自分で調べ、理解して下さい。 ＜復習＞ ・授業の最後には、必ず 5～10 分の「本日のポイント」の講義があります。その内容について、しっかり復習し、 自分の「武器」として使えるようにしておいて下さい。 ・授業の中で、他のグループメンバーの意見等で参考になると感じたものは、その内容をしっかり復習して下さ い。		
受講者への要望			
・29 年間の民間企業でのビジネス経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！ ・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス　～この授業で何を学ぶのか？、知的財産経営とは、何か？～ 2～5　【ビジネス事例Ⅰ】「シャッターガード物語」（防災・防犯機器技術開発Ｘ社） ＜テーマ＞　特許は、どうやって生まれるのか？　ビジネス戦略において、特許権などの知的財産権を取得すると、 どんなメリットがあるのか？　なぜ、経営学部の学生にとって知的財産戦略が必要なのか？ ＜ポイント＞　知的財産権（特許権、意匠権、商標権ほか）、国内特許と国際特許（ＰＣＴ）、創業・ベンチャー企業、 技術開発とビジネス戦略ほか 6～9　【ビジネス事例Ⅱ】「シャッターガード物語 Episode Ⅱ」（防災・防犯機器技術開発Ｘ社）			

＜テーマ＞　中小・ベンチャー企業にとって、技術品質と市場品質をどうバランスさせるのか？

＜ポイント＞　大企業・大学との共同研究のメリット、デメリット、ＱＦＤ（品質機能展開)、技術ロードマップほか

１０～１５　【ビジネス事例Ⅲ】「目指せ！独創型企業」（電子モーター部品製造業Ｚ社）

＜テーマ＞　市場・競合環境や取引先ニーズに合わせた知的財産経営や新製品開発戦略をどう進めるのか？

＜ポイント＞ 特許出願と営業秘密、秘密保持契約、先行技術調査、特許公報、特許マップ作成、優先権主張、ＩＰＤＬ（特許電子図書館)、ライセンス供与戦略ほか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J30509A01
科目名	フィールドワークゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork Seminar A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	太秦キャンパスでのチャレンジショップに参加し、後輩への指導を含めたリーダー的な役割を担う。 平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い知識の習得・適応を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。
1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J30509B01
科目名	フィールドワークゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork Seminar B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	太秦キャンパスでのチャレンジショップに参加し、後輩への指導を含めたリーダー的な役割を担う。 平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い知識の習得・適応を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J4000300A
科目名	スタートアップゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar C		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	基礎演習C
講義概要	『法学の扉』に掲載されている判例を素材にして、法学の基本的な考え方を学ぶ。１回生のスタートアップゼミＡ・Ｂで学んだノウハウを活かした報告と討論の形式により進める。また、受講生のコース選択を踏まえて、進路に関する情報提供（学習相談を含む）を行う。		
教材（テキスト）	京都学園大学法学会編『法学の扉〔第３版〕』（成文堂、2007 年）		
教材（参考文献）	適宜プリントを配布する。		
教材（その他）			
評価方法	ゼミへの参加状況、課題の提出物（作文、レジュメ、口頭発表等）によって評価する。無断欠席は厳禁とし、出席状況が不良の場合には単位を認定しないこともある。		
到達目標	１）レジュメの作成や報告を通じて今後の判例学習の基礎固めをする。 ２）基本判例を読み、内容を理解する。		
準備学習	各回の最後に次回のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
この演習により、今後の演習で必要とされる、レジュメ作成や報告についての技術を身につけて欲しい。また、各回の演習において、何か一つは新しいことを理解して欲しい。			
講義の順序とポイント			
『法学の扉』第４章を扱う。取り上げるテーマの例は以下のとおりである。 １．　オリエンテーション（自己紹介、ゼミの進め方）など ２．　レジュメ作成や判例報告の方法について ３．　公法①モデル小説によるプライバシー侵害と出版差止め―「石に泳ぐ魚」事件 ４．　公法②住基ネットとプライバシーの権利 ５．　公法③消費税の負担者は誰か ６．　民法①エホバの証人・輸血拒否事件 ７．　民法②抵当権妨害 ８．　民法③有責配偶者からの離婚請求事件 ９．　商法①社内で不祥事が起こったら―ダスキン事件 １０．商法②１００円手形事件 １１．刑法①マジックホン事件 １２．刑法②東海大学付属病院事件 １３．社会法　職場環境を害するセクシュアル・ハラスメント―福岡セクハラ事件 １４．国際法　少数者としてのアイヌ民族の人権と国際法―二風谷ダム事件 １５．進路に関する情報提供・学習相談			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J4000300D
科目名	スタートアップゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar C		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	テキスト第４章に掲載されている各分野の判例に触れながら、実際の事件の中で法律がどのように用いられ、事件の解決にどのような役割を果たしているかを学ぶ。法学の学修において、判例について報告し、討論を通じて判例の検討を行うことは必要不可欠である。		
教材（テキスト）	京都学園大学法学会編『法学の扉［第３版］』（成文堂、２００７年）		
教材（参考文献）	テキスト第４章で紹介されている参考文献。 その他の文献については、授業で適宜紹介する。		
教材（その他）	六法を必ず持参すること（出版社は問わない）。		
評価方法	平常点（５０％）、報告（３０％）、レポート（２０％）。 ただし、報告を無断で怠った場合は単位認定をしない。		
到達目標	１．実際の事件の司法的な解決において、法律がどのように解釈適用されているかを理解できるようになる。 ２．判決を読んで、事実や判旨をレジュメにまとめ報告できるようになる。		
準備学習	１．受講生は次回の授業で取り上げる判例の要旨を読んでくること。 ２．報告者はレジュメを事前に担当者に見せてチェックを受けること。		
受講者への要望			
１．積極的な参加を希望する。 ２．無断欠席はしないこと。			
講義の順序とポイント			
『法学の扉』第４章を扱う。取り上げるテーマの例は以下の通りである。 １．受講ガイダンス ２．判例の学び方についての講義 ３・公法系（１）：モデル小説によるプライバシー侵害と出版差止め ― 「石に泳ぐ魚」事件 ４．公法系（２）：税法上の「住所」の認定と租税回避行為 ― 武富士事件 ５．公法系（３）：工場誘致政策の変更と信頼の保護 ６．民事法系（１）：エホバの証人・輸血拒否事件 ７．民事法系（２）：有責配偶者からの離婚請求事件 ８．民事法系（３）：敷金の返還請求と消費者契約法 10 条 ９．商事法系（１）：社内で不祥事が起こったら ― ダスキン事件 １０．商事法系（２）：１００円手形事件 １１．商事法系（３）：前泊までして並んだのに ― 四国電力事件 １２．刑事法系（１）：東海大学付属病院事件 １３．刑事法系（２）：犯罪現場の写真撮影の適法性 ― 京都府学連事件 １４．労働法：職場環境を害するセクシュアル・ハラスメント ― 福岡セクハラ事件 １５．国際法：少数者としてのアイヌ民族の人権と国際法 ― 二風谷ダム事件			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★	★	★

年度	2015	授業コード	J4000300E
科目名	スタートアップゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar C		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	基礎演習C
講義概要	テキストに掲載されている判例を素材にして、法学の基本的な考え方を学ぶ。演習は、１回生のスタートアップゼミＡ・Ｂで学んだノウハウを活かしたレジュメを使用した報告および議論の形式により進める。 期中５回程度、ＳＰＩ演習を実施する。		
教材（テキスト）	京都学園大学法学会編『法学の扉』(成文堂、第３版、2007 年)、同ポケット版(2012 年)。		
教材（参考文献）	教科書中に明示されたもののほか、適宜指摘する。		
教材（その他）	六法（セレクト、デイリー、ポケットなど)。		
評価方法	レポート　50% 課題報告　20% 授業への参加(発言・ディベートの参加)　30%		
到達目標	レジュメ作成や報告方法について今後の判例学習の基礎固めをする中で、基本判例を読み、内容を理解する。		
準備学習	各担当教員が、各回の最後に次回のための準備学習を指示する。		

受講者への要望

この演習により、今後の演習で必要とされる、レジュメ作成や報告についての技術を身につけて欲しい。また、各回の演習において、何か一つは新しいことを理解して欲しい。

講義の順序とポイント

１．ゼミの進め方．分担
２．公法系　①モデル小説によるプライバシー侵害と出版差止め?「石に泳ぐ魚」事件
３．　②住基ネットとプライバシーの権利
４．　③消費税の負担者は誰か
ＳＰＩ演習(1)
５．民事法系　④エホバの証人・輸血拒否事件
６．　⑤抵当権妨害
７．　⑥有責配偶者からの離婚請求事件
８．商事法系　⑦社内で不祥事が起こったら?ダスキン事件
９．　⑧１００円手形事件
ＳＰＩ演習(2)
１０．刑事法系　⑨マジックホン事件
１１．　⑩東海大学付属病院事件
ＳＰＩ演習(3)
１２．労働法　⑪職場環境を害するセクシュアル・ハラスメント?福岡セクハラ事件
１３．国際法　⑫少数者としてのアイヌ民族の人権と国際法?二風谷ダム事件
１４．ＳＰＩ演習(4)
１５．ＳＰＩ演習(5)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★			★	

年度	2015	授業コード	J4000300G
科目名	スタートアップゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar C		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	基礎演習C
講義概要	テキストに掲載されている判例を素材にして、法学の基本的な考え方を学ぶ。演習は、１回生のスタートアップＡ・Ｂで学んだノウハウを活かした報告と討論の形式により進める。		
教材（テキスト）	京都学園大学法学会編『法学の扉』(成文堂、第 3 版、2007 年)。		
教材（参考文献）	教科書中に明示されたもののほか、適宜指摘する。		
教材（その他）	六法（セレクト、デイリー、ポケットなど)。		
評価方法	出席状況、演習における質問等の発言（４０％)。課題への取り組み、報告の内容等（６０％)。		
到達目標	レジュメ作成や報告方法について今後の判例学習の基礎固めをする中で、基本判例を読み、内容を理解できるようになることが目標である。		
準備学習	授業で取り扱う部分については、設問を振り分けるので、各自事前に該当箇所を読んで、設問の答えを考えてくること。報告を担当する際には、事前に参考文献を収集したうえで、レジュメを作成しその内容を理解し、準備するなどの予習が必要である。また、報告後は、その報告について指摘があったところに関して調べ直すなどの復習も必要になる。		

受講者への要望

この演習により、今後の演習で必要とされる、レジュメ作成や報告についての技術を身につけて欲しい。また、各回の演習において、何か一つは新しいことを理解して欲しい。

講義の順序とポイント

『法学の扉』第 4 章を扱う。取り上げるテーマの例は以下の通りである。
なお、取り扱うテーマは、受講者の理解度や希望などを考慮にいれたうえで、内容や順序を若干変更することがある。

1.　序　開講に当たって
2　　発表の担当及び日程の決定
3　　判例・文献の調べ方
4　　警察官と法律
5　　レジュメの作り方
6　　川崎いじめ事件（発表）
7　　犯罪現場の写真撮影の適法性(発表)
8　　マジックホン事件（発表）
9　　東海大学付属病院事件（発表）
10　モデル小説によるプライバシー侵害と出版差止め―「石に泳ぐ魚」事件（発表）
11　エホバの証人・輸血拒否事件（発表）
12　有責配偶者からの離婚請求事件（発表）
13　社内で不祥事が起こったら―ダスキン事件（発表）
14　職場環境を害するセクシュアル・ハラスメント―福岡セクハラ事件（発表）
15　警察官および消防士採用試験について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★				★★

年度	2015	授業コード	J4000400A
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	専門演習Ⅰ
講義概要	行政法の基本判例を素材に、判決文の読み方、法令の適用、裁判制度、判例解説、判例批評の読み方など基礎的な学習をする。		
教材（テキスト）	教科書は使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 70％　報告・発表 30％		
到達目標	行政法の講義で学んだ基礎知識の復習と、判例を読むことにより、行政書士試験や公務員試験の試験対策を目指す。		
準備学習	事前に配布した判例百選の該当頁を読んでくること。 講義終了時に次回の判例、参考文献を指定するので読んでおくこと。		
受講者への要望			
憲法、行政法の関連科目は事前に履修すること、あるいは専門演習と同時に履修すること。 公務員・行政書士をめざしている者歓迎するが、必ずしもその者に限定しない。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション ２．裁判制度、判例の調べ方、レジュメの作成方法 ３．行政権の濫用 ４．委任立法の範囲 ５．公衆浴場の営業許可 ６．行政行為の効力 ７．行政裁量 ８．行政行為の撤回 ９．行政契約 10.行政指導 11．行政計画 12．行政強制 13．行政調査 14．行政罰 15.行政手続			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	J4000400B
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	家族法の判例を素材に、ゼミ生が主体となり共同研究および個別研究を行う。具体的な進め方についてはゼミ生と相談のうえ決める予定である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 家族法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣、2008 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） その他、適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	出席状況および参加態度（50%）、研究への取り組み状況（50%）による。やむを得ず欠席する場合にはメール等により事前に連絡することを要する。		
到達目標	１．民法の家族法分野について自律的に研究を進めることができる。 ２．研究成果を報告し、他人の考えを聞いたうえで自身の考えを深めることができる。		
準備学習	報告担当者は十分に準備をし、当日は必ず出席すること。担当者以外の出席者も報告予定の判例およびこれに関連する基本的文献に目を通しておくこと。		
受講者への要望			
ゼミ生ひとりひとりの積極的な参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
各自が関心のあるテーマについて報告と質疑応答を行う。テーマの選択にあたってはゼミ生の意向を尊重するが、テーマの例としては以下のようなものがある。 １．　婚姻外の男女関係の解消 ２．　近親婚と遺族年金受給権 ３．　夫婦相互の日常家事代理権 ４．　不貞行為の相手方に対する慰謝料請求権 ５．　有責配偶者の離婚請求 ６．　財産分与と慰謝料請求権との関係 ７．　推定の及ばない子 ８．　親子関係不存在確認請求と権利濫用 ９．　代理出産と母子関係 １０．子の命名権 １１．面会交流権 １２．成年に達した子に対する扶養義務 １３．熟慮期間の起算点 １４．生命保険金請求権の相続財産性 １５．高齢者の遺言能力		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J4000400C
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法総論における問題について重要判例を取り上げて検討する。演習においては、判例の論点についてまとめたレジュメを報告者が作成し、参加者全員がその論点について議論することを原則とする。 また、参加者との相談の上、事例問題を解く回を設ける予定である。このことから、資格試験受験予定者、ロースクルール進学志望者、警察官・消防官をはじめとする公務員志望者の参加も歓迎する。		
教材（テキスト）	大谷實編『判例講義刑法Ⅰ総論〔第２版〕』（悠々社・２０１４年）		
教材（参考文献）	授業において適宜指示する。		
教材（その他）	各自所有の六法を必ず持参すること。		
評価方法	報告の内容（４０％）、報告された問題に対する議論への参加状況（６０％）を評価の対象とする。		
到達目標	刑法総論上の争点について理解を深めると同時に、議論や討論を通じて、問題を整理・分析し、判断する能力を身につけることを目標とする。また、報告・レジュメ作成を通じて、何が問題となっているのか、それに対して自身がどのように考えているかを他者にわかりやすく説明するプレゼンテーション能力を身につけることも目標とする。		
準備学習	報告担当者は、報告当日までにレジュメを作成すること。 報告担当者以外は、事前に指定された判例について、テキストもしくは授業中に指示された教材を読み、判例の内容について理解すること。		

受講者への要望

判例についての報告とそれに基づく議論を中心に行っていく予定のため、演習に積極的に参加し、発言することが望まれる。
また、無断欠席は厳禁である。

講義の順序とポイント

おおよそ以下の通りに進める予定であるが、受講生の希望によっては、内容、順序については変更の場合がある。

１．ガイダンス（判例と文献の調査方法、レジュメの作成及び文献引用の仕方など）
２．罪刑法定主義（刑罰法規の解釈、刑罰法規の明確性など）
３．構成要件該当性（１）（実行行為論ー不作為による殺人、不作為による放火など）
４．構成要件該当性（２）（因果関係論－被害者の行為の介在、第三者の行為の介在など）
５．構成要件該当性（３）（錯誤論－方法の錯誤、因果関係の錯誤など）
６．構成要件該当性（４）（過失論－危険の引き受け、管理・監督過失など）
７．違法性（１）（正当行為、緊急行為）
８．違法性（２）（被害者の同意）
９．違法性（３）（安楽死、治療行為の中止）
１０．有責性（１）（実行行為と責任能力、原因において自由な行為など）
１１．有責性（２）（違法性の錯誤、期待可能性など）
１２．未遂犯論（１）（実行の着手の時期、不能犯など）
１３．未遂犯論（２）（中止未遂）
１４．共犯論（１）（共謀共同正犯、承継的共同正犯など）
１５．共犯論（２）（共犯からの離脱、共犯と中止未遂）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J4000400D
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	専門演習Ⅰ
講義概要	教科書で取り上げられている各章の課題を分担して、あらかじめ指示された報告者が報告を行い、その報告に基づいて議論をするという形式をとる。議論を通して、人間の営みの中で、「民法」がどのような機能と役割を果たしているかについて、お互いに考えてみることとする。(取り上げられている素材は、講義･ゼミ等でひととおりは学んだものが多いと思う。これを改めて深く考えてみることに本ゼミの主眼がある。) 以上の活動を続けていくことで、民法の基礎知識を再確認するとともに、口頭で説明し、それを聞いて質問し、さらに議論を進めていき、問題解決を図っていくという共同作業のノウハウを習得し、併せて、4 回生の専門演習３・４・卒業研究に至るまでの基礎固めを行うこととする。		
教材（テキスト）	河上正二「民法学入門[第２版]－民法総則講義・序論」（日本評論社）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表の内容・方法(２０%)、出席・発言の状況(２０%)のほか、具体的なテーマに関するレポート(６０%)で評価する。		
到達目標	１　民法の基本となる考え方について、その活用レベルに達する段階まで、習得すること。 ２　「就活」において、大学・ゼミで「何を、どう学んだか。」について、いきいきと話せるようにすること。		
準備学習	○1･2 回生で学んだ民法の知識をいつでも使えるように整理する。 ○指定教科書について、授業で取り上げる箇所を事前に読んでおく。		
受講者への要望			
積極的に参加し、発言すること。とりわけ、ゼミへの積極的な参加意欲を重視したい。なお、理由の如何を問わず、無断欠席は認めない。			
講義の順序とポイント			
１　ゼミの進め方 ２　民法の意義と機能－隣人訴訟判決（津地裁昭和５８年２月２５日判決） ３　民法における「権利」の意味－宇奈月温泉事件判決（大審院昭和１０年１０月５日判決） ４　「人の法」としての民法－阪神電鉄事件判決（大審院昭和７年１０月６日判決） ５　民法における権利の実現と「公序良俗」－酌婦前借金事件判決（最高裁昭和３０年１０月７日判決） ６　民法を支配する「信義則」－マンション分譲契約交渉破棄事件（最高裁昭和５９年９月１８日判決） ７　ローマ法の継受と「日本民法典」－条件付き奴隷解放遺言事件（年代不詳・古代ローマ時代） ８　民法規範の費用・便益（法の経済分析）－立退料「正当事由」補強判決（最高裁昭和３８年３月１日判決） ９　民法における一般法・特別法および法の解釈－制限超過利息返還請求事件判決（最高裁昭和４３年１１月１３日判決） １０　民法によって体現される憲法的価値－自衛官合祀事件判決（最高裁昭和６３年６月１日判決） １１　現代社会における民法－高齢化 １２　現代社会における民法－高度情報 １３　予備日程 1(報告または理解が不十分であった回のやり直し) １４　予備日程２(同上) １５　専門演習１の成果発表(ミニプレゼン)と専門演習２の進め方			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	J4000400E
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法の専門演習では、通常の国際法の講義では詳しく触れることのできない日本に関わる国際法の諸問題を検討する。そのことを通じて、国際法の基本的な考え方やはたらきを理解し、そして、知識として知っている歴史的事実や時事問題を国際法の観点から考えてみよう。国際法の視点から捉え直さないと正確に理解できない現象もあるはずであり、新たな発見や見方ができる問題もあるのではないだろうか。 専門演習１では、担当教員は取り上げるテーマについて毎回講義を行うが、受講生は毎回与えられる課題について簡単な報告を行い、授業で興味を持ったテーマについてレポートを作成する。		
教材（テキスト）	レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考文献）	授業で適宜指示する。		
教材（その他）	条約集（出版社は問わない）を準備すること。		
評価方法	毎回行う小テスト・発言状況（５０％）、レポート（３０％）、報告（２０％）。 ただし、報告を無断で怠った場合は単位認定をしない。		
到達目標	１．日本に関わる国際法の諸問題を通じて、国際法の基本的な性質や特徴を理解し、私たちの日常生活に国際法がどのように関わっているのか理解する。 ２．レジュメを作成し、報告の仕方を身につける。 ３．国際法の問題について集団で討論できるようになる。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、予習課題を事前に必ず熟読してくること。		

受講者への要望

国際法に関連する問題は公務員試験などで必ず出題されるし、国際法の知識は社会の様々な場面で必要となる。国際問題を勉強しながら自らのキャリア形成に向けて準備をしたい学生を歓迎する。国際法Ⅰ、Ⅱの双方またはいずれかを履修していることが望ましい。

講義の順序とポイント

＊取り上げるテーマについては、受講生の要望などにより変更することがある。
１．受講ガイダンス
２．伝統的国際法と明治政府の欧化政策
３．伝統的国際法における戦争と近代日本
４．東京裁判、靖国神社参拝問題
５．国連の集団安全保障体制と平和憲法
６．在日米軍基地問題
７．日本の領土（１）－領土の変遷
８．日本の領土（２）－北方領土問題
９．日本の領土（３）－竹島問題
１０．日本の領土（４）－尖閣諸島問題
１１．海洋法と日本（１）－日本の海域
１２．海洋法と日本（２）－日中韓での海域の境界確定問題
１３．WTO の自由貿易体制と日本
１４．国際環境法と日本の地球温暖化防止対策
１５．日本における外国人の処遇

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J4000400H
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	専門演習Ⅰ
講義概要	専門演習１では、労働法の領域のうち,個別的労働関係法を主たる対象とする。必要に応じて集団的労働関係法も対象とする。 近年、労働法の領域も種々新たな立法や改正がなされてるが、この演習では労働法上の基本的な問題を取り上げて、ゼミ生全員で調べ、考え、議論しながら、各テーマについて検討していくこととする。 専門演習２以降では、内容的により難しい課題へとステップアップしていくが、この演習１では、労働基準法や労働契約法および判例法理等を踏まえつつ、検討していく。 まずは、学生諸君が将来社会人として企業等に勤務した際も、最低限知っておいてほしいと思われる基本事項を取り扱う予定である。演習で取り上げる各テーマにつき、大学の講義で使用するテキストのほか、雑誌に掲載されている論文や裁判例等を素材として、単なる知識の習得というだけではなく、企業等実務においても役立つことができる活きた知識の修得を目的に、考察を加えていく。		
教材（テキスト）	開講時に指示するもののほか、村中孝史ほか「労働法判例百選〔第８版〕」（有斐閣、2009 年）2476 円＋税、および、水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第２版〕』（有斐閣、2011 年）2700 円＋税を必携のこと。		
教材（参考文献）	土田道夫=山川隆一編「労働法の争点」（有斐閣、2014 年）2600 円＋税		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 10 版〕』（弘文堂、2012 年）5300 円＋税		
評価方法	出席を前提にゼミ内での発言内容や判例報告など（50％）と期末レポート試験（50％）とで評価する予定である。		
到達目標	将来社会人として必要とされる労働法の基本的な知識の取得を目標とする。		
準備学習	次回の項目について、報告者以外のゼミ生も判例評釈および論文を最低１つは入手しておくこと。		
受講者への要望			
講義開始までに労働法のテキストを通読しておくことが望ましい。ゼミ中には積極的な発言態度で臨む等、意欲ある学生を希望する。遅刻および無断欠席は厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
おおむね以下の内容で進める予定であるが、ゼミ生と相談して内容を多少組み替える場合がある。 第１回　演習の進め方・その他諸注意・報告の仕方の説明 第２回　労働法の概観（歴史・労働法とは） 第３回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合） 第４回　労働契約と権利・義務 第５回　就業規則 第６回　労働協約 第７回　募集・採用内定 第８回　男女雇用平等 第９回　解雇・労働契約の終了 第 10 回　賃金・退職金 第 11 回　労働時間 第 12 回　労働組合の結成 第 13 回　労働組合の運営 第 14 回　団体交渉 第 15 回　最近の重要判例			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J4000400K
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	・判例を通じて民法を学びながら、最新の法状況を知る。取り扱う判例は、比較的新しいものとしたい。 ・ある問題について、判例に学説が対峙し、または学説が多岐にわたることがある。判例の考え方や学説の考え方を深く勉強することで、ものの見方・考え方を学び取ることを目的とする。 ・本演習は、受講生が担当判例を報告することにより進める。		
教材（テキスト）	京都学園大学法学会編『法学の扉』（誠文堂）。		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）		
教材（その他）	・報告担当者がレジュメを配布する。 ・小型の六法 ・各自がこれまで履修してきた民法科目の教科書。		
評価方法	取り扱うテーマに向かう真摯な態度を、報告内容、他人の報告に対する質問内容等を考慮要素として評価する。 １５回出席することを前提として（もちろんやむを得ない場合を除く）、報告関連（レジュメ・報告態度・内容）35%、質疑・議論への参加 35%、レポート 15%、宿題の実施状況 15%。		
到達目標	・法学部生として求められる最低限度の内容でレジュメが作成できるようになる。 ・他人に対して自分の意見を正しく伝えることができるようになる。 ・自らのスケジュールをしっかり管理し、事前連絡・事後報告ができるようになる。 ・民法がおもしろいと思えるようになる。		
準備学習	・報告者は事前に報告内容レジュメにした上で、研究室に報告に来ること。― もちろん修正を求める。 ・報告担当でないときも、判例百選やデータベース等で事前に判例には目を通し、事実関係について図を書いてくること。― 目を通してきたかは、ゼミの際に確認する。 ・判例を読んでいて分からない法律用語等は、参考書を用いて意味を調べておくこと。― 調べられているかは、ゼミの際に確認する。		

受講者への要望

・携帯を忘れても、六法は持参すること。
・民法関連の単位は積極的に取得してください。ゼミと平行していても構いません。
・ゼミはコミュニケーションの場です。恥ずかしがらずに、色々質問しましょう。
・教室移動に関わる遅刻（5 分程度）ややむを得ない欠席を除き、大幅な遅刻や欠席は厳禁です。
・やむを得ず欠席する場合には、事前に連絡をしなさい。事前に連絡がない欠席を無断欠席と言い、成績評価にマイナスに作用します。

講義の順序とポイント

基本的な判例を扱うことで、民法の基礎を学ぶ。
今後の状況によりテーマが変わる可能性があるが、現時点においては、次のことを考えている。また、受講者の提案も受け付ける。

初回　ゼミでの心構え、ゼミの運営方法等の確認、参加者の自己紹介、報告テーマの決定を行う。
《課題》
・自分の報告日を確認し、その 1 週間前に事前確認をするとして、いつまでにレジュメを仕上げなければならないか、いつまでに文献を収集し、読まなければならないか、計画しよう。
・生活の乱れを防止するために、まず時間割を基本にして 1 週間の生活を考えよう。
《テーマ》
・94 条 2 項・110 条の類推適用（最判平 18・2・23 判時 1925-92（判例百選１ 22 事件）
・無権代理人の本人相続（最判平 5・1・21 判時 1478-107）（百選１ 36 事件）
・分筆後の残余地の特定承継と袋地所有者の通行権（最判平 2・11・20 判時 1398-60）（百選１ 68 事件）
・抵当権の及ぶ範囲―従物（最判昭 44・3・28 判時 555-43）（百選１ 82 事件）

第 2 回　判例解説を読んでみよう。報告の仕方、レジュメの作成方法及び判例・文献検索方法の確認。
（宿題）　次の箇所を読んでおくこと。

渡邊博己「判例の調べ方とゼミでの報告」『法学の扉』110 頁～114 頁
新井京・西片聡哉「法情報の調べ方」『法学の扉』87 頁～109 頁

第 3 回　実際にやってみよう ― 判例・文献の検索
図書館で、自分の調べる判例を入手し、文献の検索及び収集を行う。
（宿題）
自分の担当する判例の解説を、少なくとも 1 つは一読しておく。
事実関係の図を作成しておく。解説の重要だと思われる箇所にマークを入れる。
不明な用語等の下調べ。

第 4 回　実際にやってみよう 2 ― レジュメの作成
ワープロソフトを使って、ゼミで使うレジュメ用のひな形を作り、今期のレジュメ作成を開始（事実の概要と判旨）。
参考文献の書き方　参考ウェブサイト<{http://www.law.kobe-u.ac.jp/citation/mokuji.htm}>
追加で必要な資料がある場合には、その収集。
（宿題）　解説に出てきた重要な文献を読む。著者の見解とその理由に注目。その著者による学説の分類等にも注意。

第 5 回　実際にやってみよう 3 ― レジュメの作成 2
レジュメ作成を継続（これまでの判例・学説の状況について）
（宿題）　発表までにレジュメを完成させ、チェックを受ける。

第 6 回　4 年生の発表を聞き、議論に参加する。
第 7 回　4 年生の発表を聞き、議論に参加する。
第 8 回　3 年生が発表して、議論する。
第 9 回　3 年生が発表して、議論する。
第 10 回　4 年生の発表を聞き、議論に参加する。
第 11 回　4 年生の発表を聞き、議論に参加する。
第 12 回　3 年生が発表して、議論する。
第 13 回　3 年生が発表して、議論する。
第 14 回　ゼミレポートを書く 1
脚注の付け方の確認、参考文献の書き方の再確認
今まで読んできた文献の形をまねしながら、発表した判例についてレポートにしましょう。
第 15 回　ゼミレポートを書く 2 ・専門演習 2 のテーマと報告順序の決定
書いたもののチェックを受けて、修正。
（宿題）　レポートを提出期限までに完成させる。
（夏休みの課題）　決定した報告テーマのレジュメを作成する。

《専門演習 2 のテーマ》
・買主の引取義務（最判昭 46・12・17 民集 25 巻 9 号 1472 頁）
・債権譲渡禁止特約付債権の譲渡と債務者の事後承諾（最判平 8・6・5 判時 1615 号 39 頁）（百選 2　26 事件）
・詐称代理人と債権の準占有者（最判昭 37・8・21 判時 321 号 4 頁）（百選 2　35 事件）
・信頼関係破壊の法理（最判平 8・10・14 判時 1586 号 73 頁）（百選 2　58 事件）
・債務不履行による賃貸借契約の解除と承諾がある転貸借の帰趨（最判平 9・2・25 判時 1599 号 69 頁）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★★		★	★

年度	2015	授業コード	J4000400L
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	この専門演習では、会社法に関する基本的判例を検討しながら、報告や討論の仕方を身につける。判例を分担して、あらかじめ指示された報告者が報告を行い、その報告に基づいてゼミ生全員で質問や討論を行うという形式をとる。現実の事件と判例の検討を通じて、株式会社についての理解を深めていく。発表者以外の受講者にも、積極的な発言とコメントカードの提出を求めるので、十分な予習が必要である。なお、会社法の隣接分野である金融商品取引法については、必要な範囲で、教員が適宜解説する。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。 江頭憲治郎ほか編『会社法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト、有斐閣、2011 年）		
教材（参考文献）	なし。プリントを配布する。		
教材（その他）	六法必携。		
評価方法	平常点（70%）出席状況、報告への取り組み、討論での発言等。レポート等（30%）。		
到達目標	会社法に関わる基本的知識を修得する中で、課題について問題点を整理し、適切な解決方法を考える力を養う。他人の考えを理解し、自らの考えを口頭及び文章で他人に伝える力を向上させる。		
準備学習	各回の演習終了時に教科書の次回関連範囲を指定するので、予習しておくこと。また、演習終了時に課題を指定するので、次回演習開始時に提出すること。特に報告者は、十分に資料を収集し、報告に備えること。		
受講者への要望			
会社法を履修しているか、専門演習と並行して履修していくこと。民間企業への就職を希望している学生や、株式会社について様々な興味関心のある学生を歓迎する。また、卒業研究（1 万 2 千字程度）に積極的に挑戦してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．議決権行使阻止工作と利益供与 ３．失念株と不当利得 ４．譲渡制限株式の評価 ５．募集新株予約権の有利発行 ６．取締役選任決議の不存在とその後の取締役選任決議の効力 ７．取締役の責任と法令違反 ８．銀行の取締役の善管注意義務 ９．検査役選任請求と持株要件 10．違法行為の差止請求権 11．取締役の報酬の変更 12．取締役会決議が必要な重要な財産の処分 13．株主代表訴訟の対象となる取締役の責任 14．株主代表訴訟の被告側への会社の補助参加の可否 15．帳簿閲覧請求の要件			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J4000400M
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	日本における経済法の中心は、独占禁止法です。この法律は、市場経済における経済活動の基本ルール「公正かつ自由な競争」を定めています。独占禁止法の基礎理論は、「経済法 I」及び「経済法 II」で学びます。この専門演習では、２年間かけて経済法の勉強を掘り下げ、４回生で、自分で選んだテーマについて卒業研究を執筆することを目標とします。 まず、３回生春の専門演習１では、経済法の前提知識として、経済学の基本概念を中心に学びます。このような経済知識は、実際の企業行動や私たち消費者の行動の理解に役立つツールであり、たとえ法学部生といえども身につけて欲しいものです。 演習では、担当を決め報告をしたり、議論をしたり、レポートを作成するという作業が中心になるので、積極的な参加が不可欠です。このようなことを通じて、人前で分かりやすく説明するプレゼンテーション力や文章力を鍛えます。		
教材（テキスト）	吉本佳生『出社が楽しい経済学』（ＮＨＫ出版、２００９年）		
教材（参考文献）	授業の進行に応じて適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポートを中心とし、発言・受講態度を加味する）　３０％ 報告（２回）　　４０％ 学期末レポート　３０％ 欠席は、事前連絡の有無、理由に応じて減点します。		
到達目標	経済の基本概念を理解し、報告やレポートの基本を修得する。		
準備学習	各回の授業において、次回までにすべき予習・復習のための課題を指示するので、 それを次回に提出すること。 報告担当者は、教科書や資料をよく読み、図や表などを用いたレジュメを作成し、分かりやすく説明できるように準備しておくこと。		

受講者への要望

1　「経済法」を受講すること
2　毎回出席し、課題に積極的に取り組むこと
3　ビジネスや企業に興味を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　サンクコスト
3　機会費用　・インセンティブ
4　比較優位・モラルハザード
5　逆選択・価格差別
6　裁定・囚人のジレンマ
7　ネットワーク外部性・ロックイン
8　規模の経済・復習
9　　経済法１（４回生のテーマ）
１０　経済法２（４回生のテーマ）
１１　経済法３（４回生のテーマ）
１２　経済学の基礎知識１
１３　経済学の基礎知識２
１４　経済学の基礎知識３
１５　まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	J4000400N
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	専門演習では、主に、刑事手続の重要な判例を取り上げて検討する。それぞれ受講者が報告者となって、どのような事例か、どのような問題かということについて、レジュメにまとめ、報告してもらい、それに基づいて討論をしていく形式である。必要に応じて、少年法や犯罪被害者などの刑事政策や最近の法改正なども検討の対象とする。学期ごとにゼミ論文として刑事法に関連するテーマでレポート作成する。なお、受講者の意向を聞いたうえで、裁判所見学などの課外授業や模擬裁判も行う予定である。		
教材（テキスト）	井上正仁・大澤裕・川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（参考文献）	授業の中でそのつど個別のものを指示する。		
教材（その他）	必要に応じて、レジュメおよび資料などを配布する。		
評価方法	原則、欠席は認めない（特に無断欠席）。ただし、やむを得ない理由で欠席する場合には、例外的にレポート提出で代替することもある。また、学期ごとに、ゼミ論文としてレポートを作成し提出してもらう。 ゼミ論文の提出およびゼミ報告の内容（６０％）、出席、ゼミでの発言、授業への取り組み態度などの平常点（４０％）によって評価する。		
到達目標	刑事手続の流れを正確に理解し、刑事訴訟法の基礎的な知識をもとに、刑事訴訟法における法的問題についての報告・討論を重ねることで、迅速かつ的確に事案を処理するための 判断力、思考力等を基礎から身につけることができる。最終的にはゼミ論文の集大成として４年次には「卒業研究」を完成させる。		
準備学習	報告を担当する際には、事前に参考文献を収集したうえで、レジュメを作成しその内容を理解し、準備するなどの予習が必要である。また、報告後は、その報告について指摘があったところに関して調べ直すなどの復習も必要になる。		

受講者への要望

このゼミでは、担当者を決め、報告・討論等を主に行っていくので、積極性のある受講生が望まれる。できれば、刑法、刑事訴訟法等の講義を受講していることが望ましい。刑事事件や刑事訴訟法、刑事政策等に興味をもって、日々のニュースや新聞等を見てほしい。

講義の順序とポイント

取り扱うテーマは、受講者の理解度や希望などを考慮にいれたうえで、内容や順序を若干変更することがある。

１．演習の進め方等についてのガイダンス
２．文献検索・引用の仕方
３．裁判所見学について
４．刑事手続きの流れについて
５．発表、報告の仕方について
６．　レジュメ作成とその確認
７．裁判所見学の発表
８．判例研究報告（１）
９．　判例研究報告（２）
１０．判例研究報告（３）
１１．判例研究報告（４）
１２．　ゼミ論文のテーマ探し
１３．少年法における問題点とディベート（１）
１４．少年法における問題点とディベート（２）
１５．進路に関してー夏休みにしておくべきことー

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★		★	★★

年度	2015	授業コード	J4000500A
科目名	専門演習 2	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar II		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	専門演習 II
講義概要	行政法の基本判例を素材に、判決文の読み方、法令の適用、裁判制度、判例解説、判例批評の読み方などの基礎的な学習をする。		
教材（テキスト）	教科書は使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 70%　報告・発表 30%		
到達目標	行政法の講義で学んだ基礎知識の復習と、判例を読むことにより、行政書士試験や公務員試験の試験対策を目指す。		
準備学習	事前に配布した行政判例百選の該当頁を読んでくるここと。 講義終了時に次週の判例の参考文献を指定するので読んでくること。		
受講者への要望			
憲法、行政法の関連科目は事前に履修すること、あるいは専門演習と同時に履修すること。 公務員・行政書士をめざしている者歓迎するが、必ずしもその者に限定しない。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 2．行政不服申立て① 3．行政不服申立て② 4．司法審査とその限界 5．行政訴訟と民事訴訟 6．取消訴訟の対象① 7．取消訴訟の対象② 8．原告適格① 9．原告適格② 10．訴えの利益 11．国家賠償法 1 条責任① 12．国家賠償法 1 条責任② 13．国家賠償法 2 条責任① 14.国家賠償法 2 条責任② 15.損失補償			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	J4000500B
科目名	専門演習 2	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar II		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	家族法の判例を素材に、ゼミ生が主体となり共同研究および個別研究を行う。具体的成果として、3,000 字程度の判例研究（判例批評）を執筆することを目標とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 家族法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣、2008 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） その他、適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	出席状況および参加態度（50%）、判例研究の内容（50%）による。やむを得ず欠席する場合にはメール等により事前に連絡することを要する。		
到達目標	１．民法の家族法分野について自律的に研究を進めることができる。 ２．研究成果を報告し、他人の考えを聞いたうえで自身の考えを深めることができる。 ３．3,000 字程度の判例研究を執筆する。		
準備学習	報告担当者は十分に準備をし、当日は必ず出席すること。担当者以外の出席者も報告予定の判例およびこれに関連する基本的文献に目を通しておくこと。		
受講者への要望			
ゼミ生ひとりひとりの積極的な参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
各自が関心のあるテーマについて報告と質疑応答を行う。テーマの選択にあたってはゼミ生の意向を尊重するが、テーマの例としては以下のようなものがある。 １．　婚姻外の男女関係の解消 ２．　近親婚と遺族年金受給権 ３．　夫婦相互の日常家事代理権 ４．　不貞行為の相手方に対する慰謝料請求権 ５．　有責配偶者の離婚請求 ６．　財産分与と慰謝料請求権との関係 ７．　推定の及ばない子 ８．　親子関係不存在確認請求と権利濫用 ９．　代理出産と母子関係 １０．子の命名権 １１．面会交流権 １２．成年に達した子に対する扶養義務 １３．熟慮期間の起算点 １４．生命保険金請求権の相続財産性 １５．高齢者の遺言能力		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J4000500C
科目名	専門演習２	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅱ		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法各論における問題について重要判例を取り上げて検討する。演習においては、判例の論点についてまとめたレジュメを報告者が作成し、参加者全員がその論点について議論することを原則とする。 また、参加者との相談の上、事例問題を解く回を設ける予定である。このことから、資格試験受験予定者、ロースクルール進学志望者、警察官・消防官をはじめとする公務員志望者の参加も歓迎する。		
教材（テキスト）	大谷實編『判例講義刑法Ⅱ各論（第２版）』（悠々社・２０１１）		
教材（参考文献）	授業において適宜指示する。		
教材（その他）	各自所有の六法を必ず持参すること。		
評価方法	報告の内容（４０％）、報告された問題に対する議論への参加状況（６０％）を評価の対象とする。		
到達目標	刑法各論上の争点について理解を深めると同時に、議論や討論を通じて、問題を整理・分析し、判断する能力を身につけることを目標とする。また、報告・レジュメ作成を通じて、何が問題となっているのか、それに対して自身がどのように考えているかを他者にわかりやすく説明するプレゼンテーション能力を身につけることも目標とする。		
準備学習	報告担当者は、報告当日までにレジュメを作成すること。 報告担当者以外は、事前に指定された判例について、テキストもしくは授業中に指示された教材を読み、判例の内容について理解すること。		

受講者への要望

判例についての報告とそれに基づく議論を中心に行っていく予定のため、演習に積極的に参加し、発言することが望まれる。
また、無断欠席は厳禁である。

講義の順序とポイント

おおよそ以下の通りに進める予定であるが、受講生の希望によっては、内容、順序については変更の場合がある。

１．ガイダンス（判例と文献の調査方法、レジュメの作成及び文献引用の仕方など）
２．生命および身体に対する罪（１）（自殺関与罪と殺人罪の限界、偽装心中と殺人罪など）
３．生命および身体に対する罪（２）（暴行によらない傷害、PTSD と傷害の成否など）
４．生命および身体に対する罪（３）（自動車運転に関する犯罪）
５．生命および身体に対する罪（４）（遺棄の概念、胎児と人の限界など）
６．自由および私生活の平穏に対する罪（親権者による未成年者略取、ビラ配布行為と邸宅侵入罪など）
７．名誉および信用に対する罪（名誉毀損罪における公然性の意義、名誉毀損罪における事実の真実性に関する錯誤）
８．財産に対する罪（１）（窃盗罪の保護法益、刑法上の占有、死者の占有など）
９．財産に対する罪（２）（暴行後の領得意思、二項強盗と処分意思、事後強盗罪における窃盗機会の継続性など）
１０．財産に対する罪（３）（無銭飲食と二項詐欺、クレジットカードの不正使用と詐欺、誤振込、権利行使と恐喝罪など）
１１．財産に対する罪（４）（不動産の二重売買と横領罪、背任罪における（「図利加害目的」、背任と横領の区別など）
１２．公衆の平穏および安全に対する罪（難燃性建造物における放火罪の既遂時期など）
１３．公共の信用に対する罪（写真コピーの文書性、ファックスの文書性など）
１４．国家作用に対する罪（１）（職務行為の適法性、公務執行妨害罪における暴行、犯人の死亡と犯人隠避罪の成否など）
１５．国家作用に対する罪（２）（社交儀礼と賄賂罪、賄賂罪における「職務に関し」の意義、あっせん収賄罪の成否など）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J4000500D
科目名	専門演習２	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅱ		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	専門演習Ⅱ
講義概要	市民社会･企業社会における紛争事例を中心に、ゼミ生の関心のあるテーマを設定し、紛争の発生原因とその解決方法について議論をしながら、民法の理解を深めていく。 具体的には、数名で班を構成し、各自がすでに身につけた民商法の知識を活かしながら基調報告を行ってもらい、これを踏まえて参加者全員で議論を進めるという方式をとる。 以上の活動を続けていくことで、民法の基礎知識を再確認するとともに、口頭で説明し、それを聞いて質問し、さらに議論を進めていき、問題解決を図っていくという共同作業のノウハウを習得し、併せて、4 回生の専門演習３・４・卒業研究に至るまでの基礎固めを行うこととする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表の内容・方法(２０％)、出席・発言の状況(２０％)のほか、具体的なテーマに関するレポート(６０％)で評価する。		
到達目標	民法の基本となる考え方について、その活用レベルに達する段階まで、習得する。 併せて、「就活」において、大学・ゼミで「何を、どう学んだか。」について、いきいきと話せるようにすること。		
準備学習	○専門演習１／３で使用した河上正二「民法学入門」を改めて読み直しておく。 ○今まで受講した講義科目で学んだ民法の知識をいつでも使えるように整理しておく。 （なお、民法科目で未履修のある学生は、可能な限り早期に履修しておくこと。） ○新聞等の報道に触れ、民事法務に関する情報に関心を持ち、本ゼミで取り扱う課題として提案すること。 （「講義の順序とポイント」で示した課題は、あくまで現時点での予定であるが、適切か課題の提案があれば、これを取り上げてもよい。）		
受講者への要望			
積極的に参加し、発言すること。とりわけ、ゼミへの積極的な参加意欲を重視したい。なお、理由の如何を問わず、無断欠席は認めない。			
講義の順序とポイント			
1.　名誉･プライバシー等の侵害と民法 2.　消費者破産 3.　多重債務者の救済をめぐる法の対応 4.　豊田商事事件 5.　マンションでのペットの飼育 6.　代理母 7.　欠陥製品による被害と製造物責任法の役割 8.　欠陥建物と施工業者の責任 9.　敷金返還をめぐるトラブル 10.　更新料条項等と消費者契約法 11.　契約交渉の相手方に契約締結を期待させた者の責任 12.　有責配偶者からの離婚請求の是非 13.　いじめ自殺と学校の責任 14.　電子マネー・インターネットショッピング 15.　ネットオークション・ネットショッピングと民法			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	J4000500E
科目名	専門演習２	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅱ		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	専門演習２では、春学期に作成したレポートを基にして受講生が報告を行い、各テーマについてさらに掘り下げた検討を行う。そのことにより、受講生が卒業研究の執筆に向けて足がかりをつかもう。		
教材（テキスト）	資料を授業で適宜配布する。		
教材（参考文献）	授業で適宜指示する。		
教材（その他）	条約集を準備すること（出版社は問わない）。		
評価方法	出席・発言状況（５０％）、レポート（３０％）、報告（２０％）。 ただし、報告を無断で怠った場合は単位認定をしない。		
到達目標	１．日本に関わる国際法の諸問題を通じて、国際法の基本的な性質や特徴を理解し、私たちの日常生活に国際法がどのように関わっているのか理解する。 ２．レジュメを作成し、報告の仕方を身につける。 ３．国際法の問題について集団で討論できるようになる。		
準備学習	授業が終了する際に次回の授業内容と予習範囲を指定するので、予習課題を事前に必ず熟読してくること。		

受講者への要望

１．国際問題に関心をもつこと。
２．国際法Ⅰ、Ⅱの双方またはいずれかを履修していることが望ましい。
２．無断欠席はしないこと。

講義の順序とポイント

１．受講ガイダンス
２．受講生の報告
３．受講生の報告
４．受講生の報告
５．受講生の報告
６．受講生の報告
７．受講生の報告
８．受講生の報告
９．受講生の報告
１０．受講生の報告
１１．残された課題の検討
１２．残された課題の検討
１３．残された課題の検討
１４．残された課題の検討
１５．残された課題の検討

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J4000500H
科目名	専門演習２	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅱ		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	専門演習Ⅱ
講義概要	専門演習２では、専門演習１で学んだ労働法の基礎知識をもとに、個別的労働関係法および集団的労働係法の領域における裁判例を正確に読み込んでいく力を養う。 個人又は一定人数のグループ単位で裁判例の報告を行って、ゼミ生全員で考え、議論しながら、当該裁判例に含まれている各テーマ（争点）について検討していく。テーマとしては専門演習１で取り扱った項目も対象とする場合があるが、その場合でも内容的にはより深く掘り下げて、レベルアップしたものとする。 学生諸君が将来社会人として企業等に勤務した際にも、最低限必要な法律知識のみならず、裁判例（判例法理）をも踏まえた、より実務に即した形での基礎知識を身につけられるように展開していくこととする。授業で取り上げる各テーマについては、大学の講義で使用するテキストや裁判例のほか、雑誌に掲載されている論文等も素材としながら、考察を加えていく。		
教材（テキスト）	開講時に指示するもののほか、村中孝史ほか編「労働判例百選〔第８版〕」（有斐閣、2009 年）2476 円＋税、および、水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第２版〕』（有斐閣、2011 年）2700 円＋税を必携のこと。		
教材（参考文献）	土田道夫=山川隆一編「労働法の争点」（有斐閣、20１４年）2600 円＋税		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 10 版〕』（弘文堂、2012 年）5300 円＋税		
評価方法	出席を前提に授業内での発言内容や判例報告など（50％）と期末レポート試験（50％）とで評価する予定である。		
到達目標	将来社会人として必要とされる労働法の基本的な知識に加え、裁判例をも踏まえたより高いレベルの知識の把握および理解を目標とする。		
準備学習	次回の項目について、報告者以外のゼミ生も判例評釈および論文を最低１つは入手しておくこと。		

受講者への要望

講義開始までに労働法のテキストを通読しておくことが望ましい。ゼミ中には積極的な発言態度で臨む等、意欲ある学生を希望する。遅刻および無断欠席は厳禁とする。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、ゼミ生と相談して内容を多少組み替える場合がある。

第１回　配置転換・出向
第２回　時間外労働・休日労働
第３回　年次有給休暇
第４回　派遣労働
第５回　パートタイム労働
第６回　女性労働・年少労働
第７回　外国人労働
第８回　職場規律・懲戒
第９回　災害補償
第 10 回　組合活動
第 11 回　争議行為・使用者の争議行為（ロック・アウト）
第 12 回　不当労働行為
第 13 回　不当労働行為の救済
第 14 回　労働関係紛争の解決手続
第 15 回　最近の重要判例

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J4000500K
科目名	専門演習２	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar II		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	・判例を通じて民法を学びながら、最新の法状況を知る。取り扱う判例は、比較的新しいものとしたい。 ・ある問題について、判例に学説が対峙し、または学説が多岐にわたることがある。判例の考え方や学説の考え方を深く勉強することで、ものの見方・考え方を学び取ることを目的とする。 ・本演習は、受講生が担当判例を報告することにより進める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）		
教材（その他）	・報告担当者がレジュメを配布する。 ・小型の六法 ・各自がこれまで履修してきた民法科目の教科書。		
評価方法	取り扱うテーマに向かう真摯な態度を、報告内容、他人の報告に対する質問内容等を考慮要素として評価する。 １５回出席することを前提として（もちろんやむを得ない場合を除く）、報告関連（レジュメ・報告態度・内容）35%、質疑・議論への参加 35%、レポート 15%、宿題の実施状況 15%。		
到達目標	・自ら調べた内容を人前でしっかりと報告できるようになる。 ・他人に対して自分の意見を正しく伝えることができるようになる。 ・自らのスケジュールをしっかり管理し、事前連絡・事後報告ができるようになる。 ・民法がおもしろいと思えるようになる。		
準備学習	・報告者は事前に報告内容レジュメにした上で、研究室に報告に来ること。― もちろん修正を求める。 ・報告担当でないときも、判例百選やデータベース等で事前に判例には目を通し、事実関係について図を書いてくること。― 目を通してきたかは、ゼミの際に確認する。 ・判例を読んでいて分からない法律用語等は、参考書を用いて意味を調べておくこと。― 調べられているかは、ゼミの際に確認する。 ・この学期はキャリアゼミがないので、SPI のテキストからテーマごとの宿題を出す。		

受講者への要望

・携帯を忘れても、六法は持参すること。
・民法関連の単位は積極的に取得してください。ゼミと平行していても構いません。
・ゼミはコミュニケーションの場です。恥ずかしがらずに、色々質問しましょう。
・教室移動に関わる遅刻（5 分程度）ややむを得ない欠席を除き、大幅な遅刻や欠席は厳禁です。
・やむを得ず欠席する場合には、事前に連絡をしなさい。事前に連絡がない欠席を無断欠席と言い、成績評価にマイナスに作用します。

講義の順序とポイント

基本的な判例を扱うことで、民法を復習しながら法状況を学ぶ。
なお、途中でキャリア関係のガイダンスが入ることが予想される。

今後の状況によりテーマが変わる可能性があるが、現時点においては、次のことを考えている。

第 1 回　専門演習 1 提出レポートの講評、卒業論文作成に向けて、第 2 回以降の担当者確認（専門演習 1 の最終回に決定しておく）、1 回目の報告用レジュメ（夏休みの課題）のチェック

《テーマ》
・債権譲渡禁止特約付債権の譲渡と債務者の事後承諾（最判平 8・6・5 判時 1615 号 39 頁）（百選２ 26 事件）
・詐称代理人と債権の準占有者（最判昭 37・8・21 判時 321 号 4 頁）（百選２ 35 事件）
・信頼関係破壊の法理（最判平 8・10・14 判時 1586 号 73 頁）（百選２ 58 事件）
・債務不履行による賃貸借契約の解除と承諾がある転貸借の帰趨（最判平 9・2・25 判時 1599 号 69 頁）（百選２ 62）

第 2 回　3 年生の報告に基づき論点 1 につき基礎知識を得る。
第 3 回　3 年生の報告に基づき論点 1 を検討し、議論する。

第 4 回　3 年生の報告に基づき論点 2 につき基礎知識を得る。
第 5 回　3 年生の報告に基づき論点 2 を検討し、議論する。
第 6 回　キャリアガイダンス
第 7 回　自己ＰＲ文、履歴書作成と 4 年生からのアドバイス
第 8 回　4 年生の報告を聞いて議論する。
第 9 回　4 年生の報告を聞いて議論する。
第 10 回　3 年生の報告に基づき論点 3 につき議論する。
第 11 回　3 年生の報告に基づき論点 4 につき議論する。
第 12 回　4 年生の卒業論文中間報告を聞く。
第 13 回　志望動機、エントリーシートの書き方と就職支援サイトへの登録について。4 年生からのアドバイス。
（冬休みの課題）
自分が報告したテーマの中から１つを選んで、レポートにする。
第 14 回　ゼミレポート（冬休みの課題）のチェックとその修正。文献の追加収集。
第 15 回　ゼミレポートの仕上げ。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★★		★	★

年度	2015	授業コード	J4000500L
科目名	専門演習 2	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar II		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社法あるいは金融商品取引法に関わる主要判例をテーマに設定し、議論を行いながら、理解を深めていく。具体的には、報告担当者に修得済の知識を活かしながら報告を行ってもらい、これを踏まえて受講者全員で議論を進めていく。このような活動を続けていくことで、口頭で説明し、それを対して質問し、さらに議論を進めて問題解決を図るという共同作業のノウハウを習得する。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。 江頭憲治郎ほか編『会社法判例百選〔第 2 版〕』（別冊ジュリスト、有斐閣、2011 年）		
教材（参考文献）	なし。プリントを配布する。		
教材（その他）	六法必携。		
評価方法	平常点（70%）出席状況、報告への取り組み、討論での発言等。レポート等（30%）。		
到達目標	会社法に関わる基本的知識を修得・応用する中で、課題について問題点を整理し、適切な解決方法を考える力を養う。他人の考えを理解し、自らの考えを口頭及び文章で他人に伝える力を向上させる。		
準備学習	各回の演習終了時に教科書の次回関連範囲を指定するので、予習しておくこと。また、演習終了時に課題を指定するので、次回演習開始時に提出すること。特に報告者は、十分に資料を収集し、報告に備えること。		

受講者への要望

会社法、金融商品取引法については、履修しているか、履修していくこと。また、卒業研究（1 万 2 千字程度）には積極的に挑戦してもらいたい。

講義の順序とポイント

1. イントロダクション
【会社法分野】
2. 会社の設立
3. 株主平等の原則
4. 自己株式の取得
5. 募集株式の発行の差止め
6. 株主提案権
7. 取締役の利益相反取引
8. 会計帳簿閲覧謄写請求
9. 合併と差止め
10. 会社分割における債権者保護
【金融商品取引法分野】
11. 公開買付規制
12. 説明義務
13. 不公正取引（1）
14. 不公正取引（2）
15. 不公正取引（3）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J4000500M
科目名	専門演習２	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅱ		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	専門演習では、主に、刑事手続の重要な判例を取り上げて検討する。それぞれ受講者が報告者となって、どのような事例か、どのような問題かということについて、レジュメにまとめ、報告してもらい、それに基づいて討論をしていく形式である。また、必要に応じて、少年法や犯罪被害者などの刑事政策や最近の法改正なども検討の対象とする。また、学期ごとにゼミ論文として刑事法に関連するテーマでレポート作成する。なお、受講者の意向を聞いたうえで、裁判所見学などの課外授業や模擬裁判も行う予定である。		
教材（テキスト）	井上正仁・大澤裕・川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（参考文献）	授業の中でそのつど個別のものを指示する。		
教材（その他）	必要に応じて、レジュメおよび資料などを配布する。		
評価方法	原則、欠席は認めない（特に無断欠席）。ただし、やむを得ない理由で欠席する場合には、例外的にレポート提出で代替することもある。また、学期ごとに、ゼミ論文としてレポートを作成し提出してもらう。 ゼミ論文の提出およびゼミ報告の内容（６０％）、出席、ゼミでの発言、授業への取り組み態度などの平常点（４０％）によって評価する。		
到達目標	刑事手続の流れを正確に理解し、刑事訴訟法の基礎的な知識をもとに、刑事訴訟法における法的問題についての報告・討論を重ねることで、迅速かつ的確に事案を処理するための 判断力、思考力等を基礎から身につけることができる。最終的にはゼミ論文の集大成として４年次には「卒業研究」を完成させる。		
準備学習	報告を担当する際には、事前に参考文献を収集したうえで、レジュメを作成しその内容を理解し、準備するなどの予習が必要である。また、報告後は、その報告について指摘があったところに関して調べ直すなどの復習も必要になる。		

受講者への要望

このゼミでは、担当者を決め、報告・討論等を主に行っていくので、積極性のある受講生が望まれる。できれば、刑法、刑事訴訟法等の講義を受講していることが望ましい。刑事事件や刑事訴訟法、刑事政策等に興味をもって、日々のニュースや新聞等を見てほしい。

講義の順序とポイント

取り扱うテーマは、受講者の理解度や希望などを考慮にいれたうえで、内容や順序を若干変更することがある。

1　はじめに
2　裁判所見学について
3　文献の検索について
4　判例の調べ方
5　ゼミ論文の書き方（引用の仕方）
6　ゼミ論文のテーマ報告
7　ゼミ論文の中間発表（１）
8　ゼミ論文の中間発表（２）
9　判例研究のテーマ選び
１０　判例研究報告（１）
１１　判例研究報告（２）
１２　判例研究報告（３）
１３　判例研究報告（４）
１４　ゼミ論文提出と総評
１５　ゼミの総まとめと進路に向けての取り組みについて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★		★	★★

年度	2015	授業コード	J4000500N
科目名	専門演習２	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar II		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	日本における経済法の中心は、独占禁止法です。独占禁止法の基礎理論は、「経済法 I」及び「経済法 II」で学びます。この専門演習では、２年間かけて経済法の勉強を掘り下げ、４回生で、自分で選んだテーマについて卒業研究を執筆することを目標とします。 　まず、３回生秋の専門演習２では、専門演習１で学んだ経済学の知識と報告・レポートの書き方の力を土台として、講義で学ぶ独占禁止法の内容を掘り下げます。　演習では、担当を決め報告をしたり、議論をしたり、レポートを作成するという作業が中心になるので、積極的な参加が不可欠です。このようなことを通じて、人前で分かりやすく説明するプレゼンテーション力や文章力を鍛えます。		
教材（テキスト）	経済法の講義と同じ。		
教材（参考文献）	進度に応じて適宜指示します。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（授業内レポートを中心とし、発言・受講態度を加味する）　３０％ 報告（２回）　　４０％ 学期末レポート　３０％ 欠席は、事前連絡の有無、理由に応じて減点します。		
到達目標	独占禁止法の理解を深める。比較的シンプルな事例について、独禁法上のどの行為類型が問題になるのか、その違法性判断の方法を理解できるようになる。そして、報告やレポートの作成の基礎を習得する。		
準備学習	各回の授業において、次回までにすべき予習・復習のための課題を指示するので、 それを次回に提出すること。 報告担当者は、教科書や資料をよく読み、図式を使ったレジュメを作成し、分かりやすく説明できるように準備しておくこと。		

受講者への要望

１　「経済法」を受講すること
２　毎回出席し、課題に積極的に取り組むこと
３　ビジネスや企業に興味を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること

講義の順序とポイント

講義の順序の目安

１　オリエンテーション
２　独占禁止法の目的と全体像
３　入札談合
４　入札談合
５　カルテル
６　カルテル
７　私的独占
８　私的独占
９　企業結合
１０　企業結合
１１　不当な取引制限（取引拒絶）
１２　不当な取引制限（拘束条件付き取引）
１３　不当な取引制限（抱き合わせ）
１４　不当な取引制限（優越的地位の濫用）
１５　総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J4000600B
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	専門演習Ⅰ
講義概要	行政法の基本判例を素材に、判決文の読み方、法令の適用、裁判制度、判例解説、判例批評の読み方など基礎的な学習をする。		
教材（テキスト）	教科書は使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 70%　報告・発表 30%		
到達目標	行政法の講義で学んだ基礎知識の復習と、判例を読むことにより、行政書士試験や公務員試験の試験対策を目指す。		
準備学習	事前に配布した判例百選の該当頁を読んでくること。 講義終了時に次回の判例、参考文献を指定するので読んでおくこと。		
受講者への要望			
憲法、行政法の関連科目は事前に履修すること、あるいは専門演習と同時に履修すること。 公務員・行政書士をめざしている者歓迎するが、必ずしもその者に限定しない。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション ２．裁判制度、判例の調べ方、レジュメの作成方法 ３．行政権の濫用 ４．委任立法の範囲 ５．公衆浴場の営業許可 ６．行政行為の効力 ７．行政裁量 ８．行政行為の撤回 ９．行政契約 10.行政指導 11．行政計画 12．行政強制 13．行政調査 14．行政罰 15.行政手続			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	J4000600C
科目名	専門演習 3	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	専門演習 2 までの学修を踏まえ、家族法分野を素材に、ゼミ生が主体となり共同研究および個別研究を行う。具体的成果として、5,000 字程度の小論文を執筆するとともに、卒業研究の執筆に向けた準備を行うことを目標とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 家族法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣、2008 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） その他、適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	出席状況および参加態度（50%）、小論文の内容（50%）による。やむを得ず欠席する場合にはメール等により事前に連絡することを要する。		
到達目標	１．民法の家族法分野について自律的に研究を進めることができる。 ２．研究成果を報告し、他人の考えを聞いたうえで自身の考えを深めることができる。 ３．5,000 字程度の小論文を執筆する。		
準備学習	報告担当者は十分に準備をし、当日は必ず出席すること。担当者以外の出席者も検討予定の判例または文献に目を通しておくこと。		
受講者への要望			
ゼミ生ひとりひとりの積極的な参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
各自が関心のあるテーマについて報告と質疑応答を行う。テーマの選択にあたってはゼミ生の意向を尊重するが、テーマの例としては以下のようなものがある。 １．　婚姻外の男女関係の解消 ２．　近親婚と遺族年金受給権 ３．　夫婦相互の日常家事代理権 ４．　不貞行為の相手方に対する慰謝料請求権 ５．　有責配偶者の離婚請求 ６．　財産分与と慰謝料請求権との関係 ７．　推定の及ばない子 ８．　親子関係不存在確認請求と権利濫用 ９．　代理出産と母子関係 １０．子の命名権 １１．面会交流権 １２．成年に達した子に対する扶養義務 １３．熟慮期間の起算点 １４．生命保険金請求権の相続財産性 １５．高齢者の遺言能力		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J4000600D
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法総論における問題について重要判例を取り上げて検討する。演習においては、判例の論点についてまとめたレジュメを報告者が作成し、参加者全員がその論点について議論することを原則とする。 また、参加者との相談の上、事例問題を解く回を設ける予定である。このことから、資格試験受験予定者、ロースクルール進学志望者、警察官・消防官をはじめとする公務員志望者の参加も歓迎する。		
教材（テキスト）	大谷實編『判例講義刑法Ⅰ総論〔第２版〕』（悠々社・２０１４年）		
教材（参考文献）	授業において適宜指示する。		
教材（その他）	各自所有の六法を必ず持参すること。		
評価方法	報告の内容（４０％）、報告された問題に対する議論への参加状況（６０％）を評価の対象とする。		
到達目標	刑法総論上の争点について理解を深めると同時に、議論や討論を通じて、問題を整理・分析し、判断する能力を身につけることを目標とする。また、報告・レジュメ作成を通じて、何が問題となっているのか、それに対して自身がどのように考えているかを他者にわかりやすく説明するプレゼンテーション能力を身につけることも目標とする。		
準備学習	報告担当者は、報告当日までにレジュメを作成すること。 報告担当者以外は、事前に指定された判例について、テキストもしくは授業中に指示された教材を読み、判例の内容について理解すること。		

受講者への要望

判例についての報告とそれに基づく議論を中心に行っていく予定のため、演習に積極的に参加し、発言することが望まれる。
また、無断欠席は厳禁である。

講義の順序とポイント

おおよそ以下の通りに進める予定であるが、受講生の希望によっては、内容、順序については変更の場合がある。

１．ガイダンス（判例と文献の調査方法、レジュメの作成及び文献引用の仕方など）
２．罪刑法定主義（刑罰法規の解釈、刑罰法規の明確性など）
３．構成要件該当性（１）（実行行為論ー不作為による殺人、不作為による放火など）
４．構成要件該当性（２）（因果関係論－被害者の行為の介在、第三者の行為の介在など）
５．構成要件該当性（３）（錯誤論－方法の錯誤、因果関係の錯誤など）
６．構成要件該当性（４）（過失論－危険の引き受け、管理・監督過失など）
７．違法性（１）（正当行為、緊急行為）
８．違法性（２）（被害者の同意）
９．違法性（３）（安楽死、治療行為の中止）
１０．有責性（１）（実行行為と責任能力、原因において自由な行為など）
１１．有責性（２）（違法性の錯誤、期待可能性など）
１２．未遂犯論（１）（実行の着手の時期、不能犯など）
１３．未遂犯論（２）（中止未遂）
１４．共犯論（１）（共謀共同正犯、承継的共同正犯など）
１５．共犯論（２）（共犯からの離脱、共犯と中止未遂）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J4000600G
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	専門演習３は、専門演習１と合同で行う。この演習では、日本に関わる国際法の諸問題を検討する。 演習での報告は、専門演習１の受講生である３回生が中心になって行う。専門演習３の受講生は ３回生の報告に対して、質問や助言などを行うことが求められる。		
教材（テキスト）	講義レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考文献）	授業で適宜紹介する。		
教材（その他）	杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、２００９年）		
評価方法	平常点（７０％）、レポート（３０％）。		
到達目標	１．日本に関わる国際法の諸問題を通じて、国際法の基本的な性質や特徴を理解し、国際法が私たちの日常生活をどのように関わっているのかを理解する。 ２．国際法の問題について集団で討論することができるようになる。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、予習課題を事前に必ず熟読してくること。		

受講者への要望

１．専門演習１の受講生に報告の仕方や内容について適宜助言を行うこと。
２．就活等で忙しいとは思うが、無断欠席はしないこと。

講義の順序とポイント

＊取り上げるテーマについては、受講生の要望などにより変更することがある。
１．受講ガイダンス
２．伝統的国際法と明治政府の欧化政策
３．伝統的国際法における戦争と近代日本
４．東京裁判、靖国神社参拝問題
５．国連の集団安全保障体制と平和憲法
６．在日米軍基地問題
７．日本の領土（１）－領土の変遷
８．日本の領土（２）－北方領土問題
９．日本の領土（３）－竹島問題
１０．日本の領土（４）－尖閣諸島問題
１１．海洋法と日本（１）－日本の海域
１２．海洋法と日本（２）－日中韓での海域の境界確定問題
１３．日本の TPP 参加
１４．国際環境法と日本の地球温暖化防止対策
１５．外国への犯罪人引渡し

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J4000600H
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	専門演習３では、労働判例百選および水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第２版〕』掲載されている重要判例の報告を中心に演習を進めていく予定である。 　個別的労働関係法の領域における判例を主たる対象としつつも、集団的労働関係法の領域における判例も対象とする。毎回ゼミ生に一事案を報告してもらい、その事案に含まれている法律上の争点などに関してゼミ生全員で考え、議論しながら検討していく。 　報告者には必ず判決原文に当たったうえで、争点や当該判決等についての考え方などを発表してもらう。判例を素材に現実社会での事例を通じて、単なる知識の習得というだけではなく、企業等実務においても役立つことができる活きた知識の習得を目的に、考察を加えていく。		
教材（テキスト）	開講時に指示するもののほか、村中孝史ほか編「労働判例百選〔第８版〕」（有斐閣、2009 年）2476 円＋税、および、水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第２版〕』（有斐閣、2011 年）2700 円＋税を必携のこと。		
教材（参考文献）	土田道夫=山川隆一編「労働法の争点」（有斐閣、2014 年）2600 円＋税		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 10 版〕』（弘文堂、2012 年）5300 円＋税		
評価方法	出席・報告・授業内レポートなど（５０％）と期末レポート（５０％）とで評価する予定である。		
到達目標	労働法の基本的な構成並びに各論点および判例法理を理解することを目標とする。		
準備学習	次回の項目について、報告者以外のゼミ生も判例評釈および論文を最低１つは入手しておくこと。		
受講者への要望			
演習開始までに再度労働法のテキストを通読しておくことが望ましい。ゼミ中には積極的な発言態度で臨む等、意欲ある学生を希望する。遅刻および無断欠席は厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
おおむね以下の内容で進める予定であるが、春学期にゼミ生と相談のうえテーマ等を組み替える場合がある。 ただし、判例百選および事例演習労働法掲載のものに限定する。 第１回　横浜南労基署長（旭紙業）事件 第２回　朝日放送事件 第３回　全農林警職法事件 第４回　ルフトハンザドイツ航空事件 第５回　三菱樹脂事件 第６回　大日本印刷事件 第７回　三菱樹脂事件 第８回　東京電力（千葉）事件 第９回　岩手銀行事件 第 10 回　野村證券事件 第 11 回　丸子警報機事件 第 12 回　福岡セクシュアル・ハラスメント事件 第 13 回　秋北バス事件 第 14 回　オリンパス光学工業事件 第 15 回　松下電器産業（年金減額）事件			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J4000600J
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	専門演習３は、専門演習１と合同で行われる。専門演習３の受講者は、会社法に関わる自らの研究テーマを設定し、判例等の報告を行う。研究テーマに基づき卒業研究（1 万 2 千字程度）には積極的にチャレンジしてもらいたい。また、専門演習１の受講者が会社法の基本判例の報告を行うので、ゼミの先輩として積極的に質疑・応答・助言を行うことが求められる。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。 江頭憲治郎ほか編『会社法判例百選〔第 2 版〕』（別冊ジュリスト、有斐閣、2011 年）		
教材（参考文献）	なし。プリントを配布する。		
教材（その他）	六法必携。		
評価方法	平常点（70%）出席状況、報告への取り組み、討論での発言等。レポート等（30%）。		
到達目標	会社法あるいは金融商品取引法に関わる知識を応用する中で、課題について問題点を整理し、適切な解決方法を考える力を養う。他人の考えを理解し、自らの考えを口頭及び文章で他人に伝える力を向上させる。卒業研究に取り組む。		
準備学習	各回の演習終了時に教科書の次回関連範囲を指定するので、予習しておくこと。また、演習終了時に課題を指定するので、次回演習開始時に提出すること。特に報告者は、十分に資料を収集し、報告に備えること。		

受講者への要望

専門演習１の受講生に報告の仕方や内容について適宜助言を行うこと。自分の興味に応じて、研究テーマを設定すること。

講義の順序とポイント

１．イントロダクション
２．議決権行使阻止工作と利益供与
３．失念株と不当利得
４．譲渡制限株式の評価
５．募集新株予約権の有利発行
６．取締役選任決議の不存在とその後の取締役選任決議の効力
７．取締役の責任と法令違反
８．銀行の取締役の善管注意義務
９．検査役選任請求と持株要件
10．違法行為の差止請求権
11．取締役の報酬の変更
12．取締役会決議が必要な重要な財産の処分
13．株主代表訴訟の対象となる取締役の責任
14．株主代表訴訟の被告側への会社の補助参加の可否
15．帳簿閲覧請求の要件

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J4000600K
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	専門演習では、主に、刑事手続の重要な判例を取り上げて検討する。それぞれ受講者が報告者となって、どのような事例か、どのような問題かということについて、レジュメにまとめ、報告してもらい、それに基づいて討論をしていく形式である。必要に応じて、少年法や犯罪被害者などの刑事政策や最近の法改正なども検討の対象とする。学期ごとにゼミ論文として刑事法に関連するテーマでレポート作成する。なお、受講者の意向を聞いたうえで、裁判所見学などの課外授業や模擬裁判も行う予定である。		
教材（テキスト）	井上正仁・大澤裕・川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（参考文献）	授業の中でそのつど個別のものを指示する。		
教材（その他）	必要に応じて、レジュメおよび資料などを配布する。		
評価方法	原則、欠席は認めない（特に無断欠席）。ただし、やむを得ない理由で欠席する場合には、例外的にレポート提出で代替することもある。また、学期ごとに、ゼミ論文としてレポートを作成し提出してもらう。 ゼミ論文の提出およびゼミ報告の内容（６０％）、出席、ゼミでの発言、授業への取り組み態度などの平常点（４０％）によって評価する。		
到達目標	刑事手続の流れを正確に理解し、刑事訴訟法の基礎的な知識をもとに、刑事訴訟法における法的問題についての報告・討論を重ねることで、迅速かつ的確に事案を処理するための 判断力、思考力等を基礎から身につけることができる。最終的にはゼミ論文の集大成として４年次には「卒業研究」を完成させる。		
準備学習	報告を担当する際には、事前に参考文献を収集したうえで、レジュメを作成しその内容を理解し、準備するなどの予習が必要である。また、報告後は、その報告について指摘があったところに関して調べ直すなどの復習も必要になる。		

受講者への要望

このゼミでは、担当者を決め、報告・討論等を主に行っていくので、積極性のある受講生が望まれる。できれば、刑法、刑事訴訟法等の講義を受講していることが望ましい。刑事事件や刑事訴訟法、刑事政策等に興味をもって、日々のニュースや新聞等を見てほしい。

講義の順序とポイント

取り扱うテーマは、受講者の理解度や希望などを考慮にいれたうえで、内容や順序を若干変更することがある。

１．演習の進め方等についてのガイダンス
２．文献検索・引用の仕方
３．裁判所見学について
４．刑事手続きの流れについて
５．発表、報告の仕方について
６．　レジュメ作成とその確認
７．裁判所見学の発表
８．判例研究報告（１）
９．　判例研究報告（２）
１０．判例研究報告（３）
１１．判例研究報告（４）
１２．　ゼミ論文のテーマ探し
１３．少年法における問題点とディベート（１）
１４．少年法における問題点とディベート（２）
１５．進路に関してー夏休みにしておくべきことー

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★		★	★★

年度	2015	授業コード	J4000600L
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	この専門演習では、２年間かけて経済法の勉強を掘り下げ、４回生で、自分の選んだテーマについて卒業研究を執筆することを目標とします。 ４回生の春学期では、秋学期に卒業研究またはゼミ論を執筆することを念頭に置き、各受講生が関心のある経済法に関する分野を中心に、内容を掘り下げて学ぶ。経済法の内容に関する学びだけでなく、論文作成に向けて、文章力を鍛えることを目的とします。 さらに、春学期の専門演習で取り上げた、経済の概念について確認し理解を深めます。 ３回生との合同ゼミとなるので、先輩として、見本となる報告や議論をすることを通じて、より一層、人前で分かりやすく説明する能力を鍛えることも目指します。		
教材（テキスト）	専門演習１及び経済法Ⅰと同じ		
教材（参考文献）	適宜プリントなどを配布します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポートを中心とし、発言・受講態度を加味する）　３０％ 報告（２回）　　４０％ 学期末レポート　３０％ 欠席は、事前連絡の有無、理由に応じて減点する。		
到達目標	経済法全般および経済の重要概念についての理解をより確実なものとし、自分の選んだテーマについての理解を深める。		
準備学習	各回の授業において、次回までにすべき予習・復習のための課題を指示するので、 それを次回に提出すること。 報告担当者は、教科書や資料をよく読み、図式を使ったレジュメを作成し、分かりやすく説明できるように準備しておくこと。授業で指示する内容の予習や報告の準備を行うこと。		

受講者への要望

１　「経済法」を受講すること
２　毎回出席し、課題に積極的に取り組むこと
３　ビジネスや企業に興味を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること

講義の順序とポイント

講義の順序の目安

１　オリエンテーション
２　サンクコスト
３　機会費用・インセンティブ
４　比較優位・モラルハザード
５　逆選択・価格差別
６　裁定・囚人のジレンマ
７　ネットワーク外部性・ロックイン
８　規模の経済・まとめ
９　経済法１（各自のテーマで報告）
１０　経済法２（各自のテーマで報告）
１１　経済法３（各自のテーマで報告）
１２　経済学の基礎知識１
１３　経済学の基礎知識２
１４　経済学の基礎知識３
１５　まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J4000600M
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	・判例を通じて民法を学びながら、最新の法状況を知る。取り扱う判例は、比較的新しいものとしたい。 ・ある問題について、判例に学説が対峙し、または学説が多岐にわたることがある。判例の考え方や学説の考え方を深く勉強することで、ものの見方・考え方を学び取ることを目的とする。 ・本演習は、受講生が担当判例を報告することにより進める。		
教材（テキスト）	京都学園大学法学会編『法学の扉』（誠文堂）。		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）		
教材（その他）	・報告担当者がレジュメを配布する。 ・小型の六法 ・各自がこれまで履修してきた民法科目の教科書。		
評価方法	後輩への指導及び取り扱うテーマに向かう真摯な態度を、報告内容、他人の報告に対する質問内容等を考慮要素として評価する。 １５回出席することを前提として（もちろんやむを得ない場合を除く）、後輩の指導 20%、報告関連（レジュメ・報告態度・内容）35%、質疑・議論への参加 40%、レポート 15%。		
到達目標	・後輩に判例・文献検索、レジュメ作成についてのアドバイスができるようになる。 ・より多くの情報を収集して報告でき、質疑に対して的確に回答できるようになる。 ・議論を誘導したり、盛り上げたりできるようになる。		
準備学習	・報告者は事前に報告内容レジュメにした上で、研究室に報告に来ること。― もちろん修正を求める。 ・報告担当でないときも、判例百選やデータベース等で事前に判例には目を通し、事実関係について図を書いてくること。― 目を通してきたかは、ゼミの際に確認する。 ・判例を読んでいて分からない法律用語等は、参考書を用いて意味を調べておくこと。― 調べられているかは、ゼミの際に確認する。 ・事件の論点を明確に押さえてくること。		

受講者への要望

・携帯を忘れても、六法は持参すること。
・民法関連の単位は積極的に取得してください。ゼミと平行していても構いません。
・ゼミはコミュニケーションの場です。恥ずかしがらずに、色々質問しましょう。
・教室移動に関わる遅刻（5 分程度）ややむを得ない欠席を除き、大幅な遅刻や欠席は厳禁です。
・やむを得ず欠席する場合には、事前に連絡をしなさい。事前に連絡がない欠席を無断欠席と言い、成績評価にマイナスに作用します。
・就職活動によりやむを得ず欠席する場合にも、事前に連絡しなければ、怠慢による欠席と扱うので、心得ておくこと。

講義の順序とポイント

3 年生と合同で行う。

初回　　ゼミでの心構え、ゼミの運営方法等の確認、参加者の自己紹介、報告テーマの決定を行う。

《課題》

・自分の報告日を確認し、その 1 週間前に事前確認をするとして、いつまでにレジュメを仕上げなければならないか、いつまでに文献を収集し、読まなければならないか、計画しよう。

・生活の乱れを防止するために、まず時間割を基本にして 1 週間の生活を考えよう。

《テーマ》

・明示的一部請求の訴えの提起と残部についての裁判上の催告としての消滅時効の中断（最判平 25・6・6 判時 2190-22）（重判 25 民法 2）

・主たる債務を相続した保証人による保証債務の弁済と主たる債務の消滅時効の中断（最判平 25・9・13 判時 2209-102）（重判 25 民法 3）

・承役地の担保不動産競売における買受人に対する通行地役権の主張（最判平 25・2・26 判時 2192-27）（重判 25 民法 4）

・壁面にアスベストが吹き付けられた建物の所有者の土地工作物責任（最判平 26・7・12 判時 2200-63）（重判 25 民法 11）

第 2 回　判例解説を読んでみよう。報告の仕方、レジュメの作成方法及び判例・文献検索方法の再確認。
（宿題）　3 年生の手本となれるように、次の文献を読んで、忘れていることがないか確認しておこう。
渡邊博己「判例の調べ方とゼミでの報告」『法学の扉』110 頁～114 頁
新井京・西片聡哉「法情報の調べ方」『法学の扉』87 頁～109 頁

第 3 回　実際にやってみよう ― 判例・文献の検索（前半は 3 年生のサポート、後半は自分のことを）
図書館で、自分の調べる判例を入手し、文献の検索及び収集を行う。
（宿題）
自分の担当する判例の解説を、少なくとも 1 つは一読しておく。
事実関係の図を作成しておく。解説の重要だと思われる箇所にマークを入れる。
不明な用語等の下調べ。

第 4 回　実際にやってみよう 2 ― レジュメの作成（3 年生のサポートも）
ワープロソフトを使って、ゼミで使うレジュメ用のひな形を作り、今期のレジュメ作成を開始（事実の概要と判旨）。
参考文献の書き方　⇒　参考ウェブサイト<{http://www.law.kobe-u.ac.jp/citation/mokuji.htm}>
追加で必要な資料がある場合には、その収集。
（宿題）　解説に出てきた重要な文献を読む。著者の見解とその理由に注目。その著者による学説の分類等にも注意。

第 5 回　実際にやってみよう 3 ― レジュメの作成 2
レジュメ作成を継続（これまでの判例・学説の状況について）
（宿題）　発表までにレジュメを完成させ、チェックを受ける。

第 6 回　4 年生が発表して、議論する。
第 7 回　4 年生が発表して、議論する。
第 8 回　3 年生を聞き、議論を盛り上げる。
第 9 回　3 年生を聞き、議論を盛り上げる。
第 10 回　4 年生が発表して、議論する。
第 11 回　4 年生が発表して、議論する。
第 12 回　3 年生を聞き、議論を盛り上げる。
第 13 回　3 年生を聞き、議論を盛り上げる。
第 14 回　ゼミレポートを書く 1 ― 卒業論文を念頭に
脚注の付け方の確認、参考文献の書き方の再確認
今まで読んできた文献の形をまねしながら、発表した判例についてレポートにしましょう。
第 15 回　ゼミレポートを書く 2 ― 卒業論文を念頭に
書いたもののチェックを受けて、修正。
（宿題）　レポートを提出期限までに完成させる。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★★		★	★

年度	2015	授業コード	J4000700A
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	専門演習Ⅳ
講義概要	専門演習４では、大学４年間の総括として労働法全般の中から重要テーマにつき総合的検討を加えていく。取り扱うテーマについては、秋学期開講時にゼミ生の希望等も聞いたうえで決定する。卒業研究を履修するゼミ生には各自の希望テーマに応じて論文指導等していく。		
教材（テキスト）	開講時に指示するもののほか、村中孝史ほか編「労働判例百選〔第８版〕」（有斐閣、2009 年）2476 円＋税、および、水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第２版〕』（有斐閣、2011 年）2700 円＋税を必携のこと。		
教材（参考文献）	土田道夫=山川隆一編「労働法の争点」（有斐閣、2014 年）2600 円＋税		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 10 版〕』（弘文堂、2012 年）5300 円＋税		
評価方法	出席・報告・授業内レポートなど（５０％）と期末レポート試験（５０％）とで評価する予定である。		
到達目標	労働法の基本的な構成並びに各論点および判例法理を、多角的に、しかも高度に理解することを目標とする。		
準備学習	次回の項目について、報告者以外のゼミ生も判例評釈および論文を最低１つは入手しておくこと。		
受講者への要望			
演習開始までに再度労働法のテキストを通読しておくことが望ましい。ゼミ中には積極的な発言態度で臨む等、意欲ある学生を希望する。遅刻および無断欠席は厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
おおむね以下の内容で進める予定であるが、秋学期開講時にゼミ生と相談のうえテーマ等を組み替える場合がある。ただし、判例百選掲載のものに限定する。 第１回　日立製作所武蔵工場事件 第２回　白石営林署事件 第３回　時事通信社事件 第４回　陸上自衛隊八戸車両整備工場事件 第５回　電通事件 第６回　炭研精工事件 第７回　東亜ペイント事件 第８回　高知放送事件 第９回　国労広島地本事件 第 10 回　国鉄札幌運転区事件 第 11 回　都南自動車教習所事件 第 12 回　弘南バス事件 第 13 回　丸島水門事件 第 14 回　中労委（オリエンタルモーター）事件 第 15 回　国鉄事件			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J4000700B
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法各論における問題について重要判例を取り上げて検討する。演習においては、判例の論点についてまとめたレジュメを報告者が作成し、参加者全員がその論点について議論することを原則とする。 また、参加者との相談の上、事例問題を解く回を設ける予定である。このことから、資格試験受験予定者、ロースクルール進学志望者、警察官・消防官をはじめとする公務員志望者の参加も歓迎する。		
教材（テキスト）	大谷實編『判例講義刑法Ⅱ各論（第２版）』（悠々社・２０１１）		
教材（参考文献）	授業において適宜指示する。		
教材（その他）	各自所有の六法を必ず持参すること。		
評価方法	報告の内容（４０％）、報告された問題に対する議論への参加状況（６０％）を評価の対象とする。		
到達目標	刑法各論上の争点について理解を深めると同時に、議論や討論を通じて、問題を整理・分析し、判断する能力を身につけることを目標とする。また、報告・レジュメ作成を通じて、何が問題となっているのか、それに対して自身がどのように考えているかを他者にわかりやすく説明するプレゼンテーション能力を身につけることも目標とする。		
準備学習	報告担当者は、報告当日までにレジュメを作成すること。 報告担当者以外は、事前に指定された判例について、テキストもしくは授業中に指示された教材を読み、判例の内容について理解すること。		

受講者への要望

判例についての報告とそれに基づく議論を中心に行っていく予定のため、演習に積極的に参加し、発言することが望まれる。
また、無断欠席は厳禁である。

講義の順序とポイント

おおよそ以下の通りに進める予定であるが、受講生の希望によっては、内容、順序については変更の場合がある。

１．ガイダンス（判例と文献の調査方法、レジュメの作成及び文献引用の仕方など）
２．生命および身体に対する罪（１）（自殺関与罪と殺人罪の限界、偽装心中と殺人罪など）
３．生命および身体に対する罪（２）（暴行によらない傷害、PTSD と傷害の成否など）
４．生命および身体に対する罪（３）（自動車運転に関する犯罪）
５．生命および身体に対する罪（４）（遺棄の概念、胎児と人の限界など）
６．自由および私生活の平穏に対する罪（親権者による未成年者略取、ビラ配布行為と邸宅侵入罪など）
７．名誉および信用に対する罪（名誉毀損罪における公然性の意義、名誉毀損罪における事実の真実性に関する錯誤）
８．財産に対する罪（１）（窃盗罪の保護法益、刑法上の占有、死者の占有など）
９．財産に対する罪（２）（暴行後の領得意思、二項強盗と処分意思、事後強盗罪における窃盗機会の継続性など）
１０．財産に対する罪（３）（無銭飲食と二項詐欺、クレジットカードの不正使用と詐欺、誤振込、権利行使と恐喝罪など）
１１．財産に対する罪（４）（不動産の二重売買と横領罪、背任罪における（「図利加害目的」、背任と横領の区別など）
１２．公衆の平穏および安全に対する罪（難燃性建造物における放火罪の既遂時期など）
１３．公共の信用に対する罪（写真コピーの文書性、ファックスの文書性など）
１４．国家作用に対する罪（１）（職務行為の適法性、公務執行妨害罪における暴行、犯人の死亡と犯人隠避罪の成否など）
１５．国家作用に対する罪（２）（社交儀礼と賄賂罪、賄賂罪における「職務に関し」の意義、あっせん収賄罪の成否など）罪の成否など）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J4000700C
科目名	専門演習 4	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	専門演習 II
講義概要	行政法の基本判例を素材に、判決文の読み方、法令の適用、裁判制度、判例解説、判例批評の読み方などの基礎的な学習をする。		
教材（テキスト）	教科書は使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 70％　報告・発表 30％		
到達目標	行政法の講義で学んだ基礎知識の復習と、判例を読むことにより、行政書士試験や公務員試験の試験対策を目指す。		
準備学習	事前に配布した行政判例百選の該当頁を読んでくるここと。 講義終了時に次週の判例の参考文献を指定するので読んでくること。		
受講者への要望			
憲法、行政法の関連科目は事前に履修すること、あるいは専門演習と同時に履修すること。 公務員・行政書士をめざしている者歓迎するが、必ずしもその者に限定しない。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 2．行政不服申立て① 3．行政不服申立て② 4．司法審査とその限界 5．行政訴訟と民事訴訟 6．取消訴訟の対象① 7．取消訴訟の対象② 8．原告適格① 9．原告適格② 10．訴えの利益 11．国家賠償法 1 条責任① 12．国家賠償法 1 条責任② 13．国家賠償法 2 条責任① 14.国家賠償法 2 条責任② 15.損失補償			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	J4000700D
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	家族法分野を素材に、ゼミ生が主体となり共同研究および個別研究の総仕上げを行う。具体的成果として、卒業研究の執筆を進め、これを完成させることを目標とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 家族法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣、2008 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） その他、適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	出席状況および参加態度（50%）、研究成果（50%）による。やむを得ず欠席する場合にはメール等により事前に連絡することを要する。		
到達目標	１．民法の家族法分野について自律的に研究を進めることができる。 ２．研究成果を報告し、他人の考えを聞いたうえで自身の考えを深めることができる。 ３．卒業研究を執筆する。		
準備学習	報告担当者は十分に準備をし、当日は必ず出席すること。担当者以外の出席者も報告予定の判例およびこれに関連する基本的文献に目を通しておくこと。		
受講者への要望			
ゼミ生ひとりひとりの積極的な参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
各自が関心のあるテーマについて報告と質疑応答を行う。テーマの選択にあたってはゼミ生の意向を尊重するが、テーマの例としては以下のようなものがある。 １．　婚姻外の男女関係の解消 ２．　近親婚と遺族年金受給権 ３．　夫婦相互の日常家事代理権 ４．　不貞行為の相手方に対する慰謝料請求権 ５．　有責配偶者の離婚請求 ６．　財産分与と慰謝料請求権との関係 ７．　推定の及ばない子 ８．　親子関係不存在確認請求と権利濫用 ９．　代理出産と母子関係 １０．子の命名権 １１．面会交流権 １２．成年に達した子に対する扶養義務 １３．熟慮期間の起算点 １４．生命保険金請求権の相続財産性 １５．高齢者の遺言能力		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J4000700H
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	専門演習２と合同で行う。専門演習２の受講生による報告に対して、質問や助言を行うことが求められる。		
教材（テキスト）	資料を毎回配布する。		
教材（参考文献）	授業で適宜紹介する。		
教材（その他）	杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、２００９年）		
評価方法	平常点（７０％）、レポート（３０％）。		
到達目標	１．日本に関わる国際法の諸問題を通じて、国際法の基本的な性質やはたらきを理解し、私たちの日常生活に国際法がどのように関わっているのかを理解する。 ２．国際法の問題について集団で討論することができるようになる。		
準備学習	授業が終了する際に次回の授業内容と予習範囲を指定するので、予習課題を事前に必ず熟読してくること。		

受講者への要望

１．専門演習２の受講生による報告に対して、適宜助言を行うこと。
２．無断欠席はしないこと。

講義の順序とポイント

１．受講ガイダンス
２．専門演習２の受講生の報告
３．専門演習２の受講生の報告
４．専門演習２の受講生の報告
５．専門演習２の受講生の報告
６．専門演習２の受講生の報告
７．専門演習２の受講生の報告
８．専門演習２の受講生の報告
９．専門演習２の受講生の報告
１０．専門演習２の受講生の報告
１１．専門演習２の受講生の報告
１２．残された課題の検討
１３．残された課題の検討
１４．残された課題の検討
１５．残された課題の検討

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J4000700J
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	・判例を通じて民法・消費者法に関わる生きた方を学ぶ。 ・ある問題について、判例に学説が対峙し、または学説が多岐にわたることがある。判例の考え方や学説の考え方を深く勉強することで、ものの見方・考え方を学び取ることを目的とする。 ・本演習は、受講生が担当判例を報告することにより進める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）		
教材（その他）	・報告担当者がレジュメを配布する。 ・小型の六法 ・各自がこれまで履修してきた民法科目の教科書。		
評価方法	後輩への指導及び取り扱うテーマに向かう真摯な態度を、報告内容、他人の報告に対する質問内容等を考慮要素として評価する。 １５回出席することを前提として（もちろんやむを得ない場合を除く）、後輩の指導 20%、報告関連（レジュメ・報告態度・内容）35%、質疑・議論への参加 40%、レポート 15%。		
到達目標	・後輩に判例・文献検索、レジュメ作成についてのアドバイスができるようになる。 ・より多くの情報を収集して報告でき、質疑に対して的確に回答できるようになる。 ・議論を誘導したり、盛り上げたりできるようになる。		
準備学習	・報告者は事前に報告内容レジュメにした上で、研究室に報告に来ること。― もちろん修正を求める。 ・報告担当でないときも、判例百選やデータベース等で事前に判例には目を通し、事実関係について図を書いてくること。― 目を通してきたかは、ゼミの際に確認する。 ・判例を読んでいて分からない法律用語等は、参考書を用いて意味を調べておくこと。― 調べられているかは、ゼミの際に確認する。 ・事件の論点を明確に押さえてくること。		

受講者への要望

・あわせて「卒業研究」も登録すること。
・携帯を忘れても、六法は持参すること。
・民法関連の単位は積極的に取得してください。ゼミと平行していても構いません。
・ゼミはコミュニケーションの場です。恥ずかしがらずに、色々質問しましょう。
・教室移動に関わる遅刻（5 分程度）ややむを得ない欠席を除き、大幅な遅刻や欠席は厳禁です。
・やむを得ず欠席する場合には、事前に連絡をしなさい。事前に連絡がない欠席を無断欠席と言い、成績評価にマイナスに作用します。
・就職活動によりやむを得ず欠席する場合にも、事前に連絡しなければ、怠慢による欠席と扱うので、心得ておくこと。

講義の順序とポイント

本演習の受講生には、次のようなテーマを考えている。今後の状況によりテーマが変わる可能性がある。

1. デート商法の公序良俗違反性とクレジットの既払い金返還請求（名古屋高判平 21・2・19 判時 2047-122）（消費者百選 35）
2. モニター商法に対するクレジット契約と抗弁の対抗（大阪高判平 16・4・16 消費者法ニュース 60-137）（消費者百選 42）
3. 未成年子によるキャバクラでのクレジットカードの不正使用（京都地判平 25・5・23 判時 2199-52）（現代消費者 25 号 75 頁）
4. 預金担保貸付と民法 478 条の類推適用（最判昭 59・2・23 判時 1108-82）（百選２ 37 事件）

第１回　卒業論文作成に向けて。
第２回　３年生の報告に基づき論点１につき基礎知識を得る。
第３回　３年生の報告に基づき論点１を検討し、議論する。
第４回　３年生の報告に基づき論点２につき基礎知識を得る。
第５回　３年生の報告に基づき論点２を検討し、議論する。
第６回　（就職活動状況報告）卒論の報告会（別講義の「卒業研究」とともに実施）
第７回　自己ＰＲ文、履歴書作成について３年生へのアドバイス。体験報告。

第 8 回　4 年生の報告を聞いて議論する。
第 9 回　4 年生の報告を聞いて議論する。
第 10 回　3 年生の報告に基づき論点 3 につき議論する。
第 11 回　3 年生の報告に基づき論点 4 につき議論する。
第 12 回　4 年生の卒業論文中間報告を聞く。
第 13 回　志望動機、エントリーシートの書き方と就職支援サイトへの登録について、3 年生にアドバイス。
（冬休みの課題）
「卒業研究」の執筆にいそしむこと。
第 14 回　「卒業研究」の最終チェック（別講義の「卒業研究」とともに実施）
第 15 回　ゼミレポートの仕上げ。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★★		★	★

年度	2015	授業コード	J4000700K
科目名	専門演習 4	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar IV		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	専門演習 4 は、専門演習 2 と合同で行われる。専門演習 4 の受講者は、会社法あるいは金融商品取引法に関わる自らの研究テーマを深く学習し、判例等の報告を行う。研究テーマに基づき卒業研究（1 万 2 千字程度）を積極的に進めてもらいたい。また、専門演習 2 の受講者が会社法あるいは金融商品取引法に関わる主要判例の報告を行うので、ゼミの先輩として積極的に質疑・応答・助言を行うことが求められる。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。 江頭憲治郎ほか編『会社法判例百選〔第 2 版〕』（別冊ジュリスト、有斐閣、2011 年）		
教材（参考文献）	なし。プリントを配布する。		
教材（その他）	六法必携。		
評価方法	平常点（70%）出席状況、報告への取り組み、討論での発言等。レポート等（30%）。		
到達目標	会社法あるいは金融商品取引法に関わる知識を応用する中で、課題について問題点を整理し、適切な解決方法を考える力を養う。他人の考えを理解し、自らの考えを口頭及び文章で他人に伝える力を向上させる。卒業研究の完成に取り組む。		
準備学習	各回の演習終了時に教科書の次回関連範囲を指定するので、予習しておくこと。また、演習終了時に課題を指定するので、次回演習開始時に提出すること。特に報告者は、十分に資料を収集し、報告に備えること。		

受講者への要望

専門演習 2 の受講生に報告の仕方や内容について適宜助言を行うこと。自分の研究テーマについて意欲的に文献を読破すること。

講義の順序とポイント

1. イントロダクション
【会社法分野】
2. 会社の設立
3. 株主平等の原則
4. 自己株式の取得
5. 募集株式の発行の差止め
6. 株主提案権
7. 取締役の利益相反取引
8. 会計帳簿閲覧謄写請求
9. 合併と差止め
10. 会社分割における債権者保護
【金融商品取引法分野】
11. 公開買付規制
12. 説明義務
13. 不公正取引（1）
14. 不公正取引（2）
15. 不公正取引（3）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J4000700L
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	専門演習では、主に、刑事手続の重要な判例を取り上げて検討する。それぞれ受講者が報告者となって、どのような事例か、どのような問題かということについて、レジュメにまとめ、報告してもらい、それに基づいて討論をしていく形式である。また、必要に応じて、少年法や犯罪被害者などの刑事政策や最近の法改正なども検討の対象とする。また、学期ごとにゼミ論文として刑事法に関連するテーマでレポート作成する。なお、受講者の意向を聞いたうえで、裁判所見学などの課外授業や模擬裁判も行う予定である。		
教材（テキスト）	井上正仁・大澤裕・川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（参考文献）	授業の中でそのつど個別のものを指示する。		
教材（その他）	必要に応じて、レジュメおよび資料などを配布する。		
評価方法	原則、欠席は認めない（特に無断欠席）。ただし、やむを得ない理由で欠席する場合には、例外的にレポート提出で代替することもある。また、学期ごとに、ゼミ論文としてレポートを作成し提出してもらう。 ゼミ論文の提出およびゼミ報告の内容（６０％）、出席、ゼミでの発言、授業への取り組み態度などの平常点（４０％）によって評価する。		
到達目標	刑事手続の流れを正確に理解し、刑事訴訟法の基礎的な知識をもとに、刑事訴訟法における法的問題についての報告・討論を重ねることで、迅速かつ的確に事案を処理するための 判断力、思考力等を基礎から身につけることができる。最終的にはゼミ論文の集大成として４年次には「卒業研究」を完成させる。		
準備学習	報告を担当する際には、事前に参考文献を収集したうえで、レジュメを作成しその内容を理解し、準備するなどの予習が必要である。また、報告後は、その報告について指摘があったところに関して調べ直すなどの復習も必要になる。		

受講者への要望

このゼミでは、担当者を決め、報告・討論等を主に行っていくので、積極性のある受講生が望まれる。できれば、刑法、刑事訴訟法等の講義を受講していることが望ましい。刑事事件や刑事訴訟法、刑事政策等に興味をもって、日々のニュースや新聞等を見てほしい。

講義の順序とポイント

取り扱うテーマは、受講者の理解度や希望などを考慮にいれたうえで、内容や順序を若干変更することがある。

1　はじめに
2　裁判所見学について
3　文献の検索について
4　判例の調べ方
5　ゼミ論文の書き方（引用の仕方）
6　ゼミ論文のテーマ報告
7　ゼミ論文の中間発表（１）
8　ゼミ論文の中間発表（２）
9　判例研究のテーマ選び
１０　判例研究報告（１）
１１　判例研究報告（２）
１２　判例研究報告（３）
１３　判例研究報告（４）
１４　ゼミ論文提出と総評
１５　ゼミの総まとめと進路に向けての取り組みについて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★		★	★★

年度	2015	授業コード	J4000700M
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	この専門演習では、２年間かけて経済法の勉強を掘り下げ、４回生で、自分の選んだテーマについて卒業研究を執筆することを目標とします。 ４回生の秋学期は、卒業研究またはゼミ論を執筆が中心となる。それと並行して、経済法の講義で取り上げる内容をさらに掘り下げて学びます。論文作成のための、資料収集なども行います。 ３回生との合同ゼミとなるので、先輩として、見本となる報告や議論をすることを通じて、より一層、人前で分かりやすく説明する能力を鍛えることも目指します。		
教材（テキスト）	第１回目の講義で指示します。		
教材（参考文献）	第１回目の授業で指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業への積極的な参加と貢献（報告及び受講態度）　５０％ 課題（学期末レポートを含む）　５０％ 欠席は、事前連絡の有無、理由に応じて減点します。		
到達目標	経済法全般および経済の重要概念についての理解をより確実なものとし、自分の選んだテーマについての理解を深める。		
準備学習	授業で指示する内容の予習や報告の準備を行うこと。		

受講者への要望

１　「経済法」を受講すること
２　課題に積極的に取り組むこと
３　ビジネスや企業に興味を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること

講義の順序とポイント

講義の順序の目安

１　オリエンテーション
２　独占禁止法の目的と全体像
３　入札談合
４　入札談合
５　カルテル
６　カルテル
７　私的独占
８　私的独占
９　企業結合
１０　企業結合
１１　不当な取引制限（取引拒絶）
１２　不当な取引制限（拘束条件付き取引）
１３　不当な取引制限（抱き合わせ）
１４　不当な取引制限（優越的地位の濫用）
１５　総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J40009000
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	卒業研究は、大学における学業の総まとめである。これまでに講義およびゼミで学んだ知識を用いて、「労働法」の卒業論文を執筆する。ただし、執筆を希望するゼミ生に限られる。 論文を執筆する場合には、(3 回生の秋学期もしくは)4 回生の春学期から準備が必要となる。希望者は、できる限り早い時期に執筆の意思を示すこと。		
教材（テキスト）	テーマに合わせたものを指示する。		
教材（参考文献）	テーマに合わせたものを指示する。		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 10 版〕』（弘文堂、2012 年）5300 円＋税		
評価方法	卒業論文の形式および内容の基準を満たした論文を提出した場合に単位を認定する。		
到達目標	労働法のテーマを設定し、関係する資料を収集して、読解し、自分の見解を展開できること。		
準備学習	春学期から研究テーマについて考え、文献資料を収集しておくこと。報告者は、事前に文献を熟読して、適切なレヴェルのレジュメを作成すること。 報告者以外の者も、事前に判例を熟読して、議論に参加できるレヴェルになっておくこと。		
受講者への要望			
テーマを決定し、できる限り文献を収集して、論文を執筆すること。			
講義の順序とポイント			
おおむね以下のとおりであるが、各自の論文執筆状況に応じて、適宜指導する。中間報告では、文章化したものを報告すること。 第１回　卒業研究の進め方・方法 第２回　テーマ設定・資料収集 第３回　テーマ設定・資料収集 第４回　目次作成　その１ 第５回　目次作成　その２ 第６回　中間報告　その１ 第７回　指導　（校正） 第８回　指導　（校正） 第９回　指導　（校正） 第１０回　指導（校正） 第１１回　中間報告　その２ 第１２回　個人指導（校正） 第１３回　個人指導（校正） 第１４回　個人指導（校正） 第１５回　報告			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J40009001
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	専門演習で取り扱ったテーマあるいは大学 4 年間のまとめとしたいテーマを使って、卒業研究論文の執筆に取り組む。 刑事法分野から各自取り扱いたいテーマを設定し、問題点の整理、資料の調査、論文執筆の指導を行う。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜紹介する。		
評価方法	卒業研究論文によって評価する。		
到達目標	論文執筆を通じて、問題の取り上げ方、整理・分析の方法、また、他者にわかりやすく表現する能力を身につけることを目標とする。		
準備学習	春学期からテーマを設定し、これに沿った文献資料を用意し、問題を整理すること。 また、報告時に指摘された疑問に次回までに答えられる準備をすること。		

受講者への要望

卒業研究論文の執筆は大変労力の必要な作業である。地道な作業も多く要求され、生半可な気持ちでは完成させることは難しい。しかし、その達成感には大きなものがある。大学生活の総まとめとして、積極的に取り組んで欲しい。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス
2．テーマ設定・資料収集
3．テーマ設定・資料収集
4．目次作成　その１
5．目次作成　その２
6．中間報告　その１
7．論文執筆指導
8．論文執筆指導
9．論文執筆指導
１０．論文執筆指導
１１．中間報告　その２
１２。論文執筆指導
１３。論文執筆指導
１４．論文執筆指導
１５．最終報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	J40009002
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	専門演習での研究の最終仕上げと大学生活のまとめとして卒業研究に取り組む。 行政法の現代的課題の中からテーマを設定して、文献や資料を収集して研究をまとめる。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 20％　卒業研究の提出 80％		
到達目標	各人でテーマを設定して、文献、資料をまとめて論文を完成できるようになることを目標にする。		
準備学習	原稿執筆計画に基づいて、事前に課題を与えるので、次回までにレジュメや原稿にして、毎回提出すること。		
受講者への要望			
大学生活最後の仕上げの機会なので、ぜひ登録して卒業研究を完成させること。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 2．研究テーマの設定 3．研究テーマに関する先行業績と学会動向 4．研究の計画・方法 5．文献収集・資料収集 6．初稿の執筆① 7．初稿の執筆② 8．中間報告 9．指摘された部分の修正 10．原稿修正と参考文献の追加 11．最終報告準備 12．最終報告 13．指摘された部分の修正 14．推敲と最終チェック 15.原稿の完成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J40009003
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	専門演習での研究の進展を踏まえ、受講者自身が主に家族法分野から選択したテーマについて研究し、卒業研究（卒業論文）にまとめる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業研究（卒業論文）の提出および内容		
到達目標	１．主に家族法分野について自律的に研究を進めることができる。 ２．研究成果を卒業研究（卒業論文）というかたちにまとめることができる。		
準備学習	卒業研究（卒業論文）のテーマを設定し、文献を収集、整理する。		
受講者への要望			
ゼミ生ひとりひとりの積極的な参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
１．卒業研究の進め方についてガイダンス ２．研究テーマ設定のためのガイダンス ３．研究テーマ設定のための準備作業 ４．参加者からの研究テーマ設定に関する説明と質疑 ５．研究テーマの最終決定 ６．文献収集のガイダンス ７．文献収集の実践 ８．文献の整理 ９．中間報告に向けた準備作業 １０．中間報告 １１．中間報告を踏まえた討議 １２．目次作成 １３．最終報告 １４．最終報告を踏まえた討議 １５．卒業研究の提出			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J40009008
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	受講生が専門演習で作成したレポートを基にして卒業研究論文を執筆し、担当教員が論文指導を行う。受講生は進捗状況に応じて中間報告を行い、集団での討論を通じて、完成までの課題を発見する。		
教材（テキスト）	適宜資料等を配布する。		
教材（参考文献）	授業で適宜紹介する。		
教材（その他）	杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、２００９年）		
評価方法	平常点、中間報告および卒業研究の提出を総合して評価を行う。		
到達目標	１．国際法に関する論文執筆を通じて、筋道だった論文構成および論理展開を身ににつける。 ２．書き言葉の正しい日本語を身につける。		
準備学習	中間報告を行うにあたり、事前に出される課題を調べてくること。		

受講者への要望

１．卒業研究の完成には忍耐力が求められるが、途中で投げ出さないこと。
２．無断欠席はしないこと（とくに報告があたっている場合）　。

講義の順序とポイント

１．受講ガイダンス
２．受講生の中間報告
３．受講生の中間報告
４．受講生の中間報告
５．受講生の中間報告
６．受講生の中間報告
７．受講生の中間報告
８．受講生の中間報告
９．受講生の中間報告
１０．受講生の中間報告
１１．受講生の中間報告
１２．受講生の中間報告
１３．受講生の中間報告
１４．残された課題の検討
１５．残された課題の検討

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J40009009
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の執筆に向け、論文執筆の基礎知識を教授し、執筆状況報告を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	図書館の請求記号 816.5 あたりが論文の書き方に関する文献である。 少し難解ではあるが、大村敦志ほか『民法研究ハンドブック』（有斐閣、2000）がある（請求記号 324.07/O64m）。その 258 頁から 285 頁を参照のこと。		
教材（その他）			
評価方法	執筆に対する熱意(30%)と執筆された卒業論文の内容(70%)とを評価する。		
到達目標	卒業論文を完成させ、文章を書くという能力の他、文章の理解をする能力をさらに高める。		
準備学習	他の講義においても、民法及びその周辺領域においてどのような問題があるのか、気に掛けておくこと。		
受講者への要望			
専門演習 4 の受講生は登録すること。就職活動の状況によっては、すぐに取り組めないこともあると思われるが、資料収集はしておくこと。			
講義の順序とポイント			
1. 論文執筆のための基礎知識 ― データベースの使い方（再確認） 2. 論文執筆のための基礎知識 ― 引用文献の記載方法と資料収集に際しての注意 3. 各自のテーマと問題点についての発表 4. 論文執筆のための基礎知識 ― 脚注の付け方（ワープロソフトの使い方も含む）及び脚注の諸注意 5. 論文執筆のための基礎知識 ― 引用と盗作 6. 中間報告会 1 （取り扱う論点の説明） 7. 進度確認 8. 進度確認 9. 文章の書き方・章立ての確認 10. 文章の書き方・章立ての確認 11. 文章の書き方・章立ての確認 12. 中間報告会 2 ・締め切りに向けて― 冬休みの過ごし方 13. 提出前最終チェック ― 誤字脱字、形式、引用文献・参考文献の記載 14. 論集への提出後の校正の仕方 15. 4 年間を振り返って ― 卒論の出来具合も含めて 4 年を振り返る			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★★	★		★

年度	2015	授業コード	J40009010
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	専門演習 1-4 の集大成として、商法・会社法・金融商品取引法に関わるテーマを選択して卒業論文（1 万 2 千字程度）を執筆する者に対する個別的指導を行なう。なお、受講生は進捗状況に応じて中間報告を行うことになる。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	特に定めない。		
評価方法	卒業論文(80%)、平常点（20%）中間報告内容等による。		
到達目標	論理的な文章構成力を身につけ、卒業論文を完成させる。		
準備学習	専門演習を生かして、卒業論文テーマを考え、文献・判例等を十分に収集すること。		
受講者への要望			
卒業論文の執筆は、将来の社会生活において必要な能力を養うこともできる。大学生活の総仕上げとして、意欲的に取組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
①　イントロダクション ②　テーマ設定・資料収集 ③　テーマ設定・資料収集 ④　目次作成 ⑤　目次作成 ⑥　中間報告（その 1） ⑦　個別指導 ⑧　個別指導 ⑨　中間報告（その 2） ⑩　個別指導 ⑪　個別指導 ⑫　個別指導 ⑬　個別指導 ⑭　最終報告（その 1） ⑮　最終報告（その 2）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J40009011
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	専門演習での研究あるいは大学生活のまとめとして、卒業研究に取り組む。 テーマについては各自が関心のあるテーマを刑事法分野から設定し、資料を調べ、問題点を明らかにするとともにそれらにつき考察し、論文という形にする。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	テーマに応じて指示する		
教材（その他）	テーマに応じて指示する		
評価方法	卒業研究によって評価する		
到達目標	自ら設定したテーマについて、問題点を明らかにし、文献および資料等を精査し、まとめる能力を養う。学術論文の書き方だけでなく、文章の読み方書き方を修得することができる。		
準備学習	自らのテーマについて、事前に資料を捜し、卒業研究の材料を探し、読むなどの予習をしておく必要がある。また、教員から指導、修正の指摘があった部分については、さらに資料を収集し、復習を積み重ねる必要がある。		

受講者への要望

卒業研究は大学生活の総まとめである。自らが書いた文章が、１つの論文として形づけるということは大変労力を要するが、その分、達成感もある。専門演習での学習の総まとめとして是非積極的に取り組んでほしい。

講義の順序とポイント

１．　オリエンテーション
２．　研究テーマの題材を探す
３．　研究テーマにおける問題点を考える
４．　研究テーマの設定
５．　研究計画の策定
６．　文献収集方法について
７．　引用の仕方
８．　目次作成
９．　中間報告①
１０．　中間報告②
１１．　論文作成①（随時提出してチェック）
１２．　論文作成②（随時提出してチェック）
１３．　論文作成③（随時提出してチェック）
１４．　最終報告
１５．　論文完成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★	★★	★	★★

年度	2015	授業コード	J40009012
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	大学での４年間の学び、そして２年間の経済法の学びの集大成として、１万２千字程度の卒業研究を執筆します。各自のテーマと進度にあわせた個別指導が主となります。まず最初に、過去の先輩たちが執筆した卒業研究を参考に執筆する論文のイメージをつかみます。そのうえで、論文のテーマの選定、資料収集、アウトラインの作成、資料の読み込み、執筆と、段階的に論文の作成方法を学びます。この過程を通じて、論理的な文章とはどのようなものか理解し、論理的な文章が書くための課題をこなしていきます。		
教材（テキスト）	初回の講義で指示します。		
教材（参考文献）	初回の授業で指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	平常点（論文執筆過程での努力）　３０％ 卒業研究　　７０％		
到達目標	自分が選んだテーマについて研究し、論理的な構成の卒業論文を完成させる。		
準備学習	その都度指示される課題を行うこと		
受講者への要望			
自分の選んだテーマに粘り強く取り組むこと 論理的で、読みやすい文章を書く努力を続けること			
講義の順序とポイント			
講義の順序の目安 １　　オリエンテーション ２～５　　論文の書き方 テーマの絞り込み 資料収集の仕方 ６～１０　　論文のアウトラインの作成 １１～１５　　論文の執筆			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J40012001
科目名	法哲学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal Philosophy I		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	法哲学
講義概要	本講義の受講対象になる者は、実定法の基礎的な部分は既に履修した者であることが、予想される。その履修の過程において、「そもそも法律とは何か」という疑問を抱いた者もいるのではないであろうか。本講義は、その問をめぐって共に思考を深めるために展開される。 本講義では、法の目的とされる「正義」についての議論を中心に展開する。法哲学における「正義論」の位置づけ、正義概念の歴史的展開を確認しつつ、これらの正義論と法体系の相互関係（例えば立法精神）、正義論と実定法解釈のあり方にも言及する予定である。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に合わせてその都度紹介する。		
教材（その他）	講義のレジュメを用意する。京学なびに登録するので、事前に各自プリントアウトしておくこと。		
評価方法	授業中に小論文を書いていただく。実施日は事前に講義並びに京学なびで告知する。 この小論文の素点の合計が成績となる。 それぞれの小論文の素点が 6 割未満だった場合には、再レポートを課す。		
到達目標	法学に関わる問題を媒介として哲学的思考を身につける。 正義論から法律を批判的に考察できるようになる。		
準備学習	講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
安易に結論に飛びつくことなく、あるいは自明性に逃げ込むことなく、じっくり腰を据えて思考するよう心がけてください。			
講義の順序とポイント			

（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。事前連絡（講義時と京学なび）で確認すること。）

1．　初めに
2．　序論　§１　法哲学とは？（法を哲学するとは？）
3．　　§２　法の目的とは？（法が目的とするとされている諸々の事柄と正義の関係）
4．（第１回授業内レポート）
　第１章　古典的正義論　　§３　ソクラテス
5．　　同上
6．　　§４　アリストテレス
7．　　同上
8．　　同上
9．　（第２回授業内レポート）
　第２章　近代的正義論　　§６　カント
10．　　同上
11．　　同上
12．（第３回授業内レポート）
　　§７　Ｊ．Ｓ．ミル
13．　　同上
14．（第４回授業内レポート）
　第３章　現代の正義論　　§８　近代的正義論の限界
15．　　§９　ロールズ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J40014001
科目名	法社会学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Law Ⅰ		
担当者名	沼口　智則	旧科目名称	法社会学
講義概要	春学期は、まず序論として日本・欧米の法社会学の歴史をたどる中から、「法社会学とは何か」という問いへの基礎知識の獲得を行う。次に、各論として裁判をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅳ）・生命をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）・宗教をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）のテーマの下で「法社会学とは何か」と言う問いへの各自の総論的視座の形成をめざす。		
教材（テキスト）	竹下賢・角田猛之編著『改訂版マルチ・リーガル・カルチャー』晃洋書房		
教材（参考文献）	講義の都度紹介していく。		
教材（その他）			
評価方法	学期末試験（80%）、講義の際の小レポート（20%）による総合評価。		
到達目標	裁判・生命・宗教と法との関係をしっかり把握させ、法社会学の学問的意義を自覚させる。		
準備学習	法にかかわる記事は新聞の切り抜きを行い、講義ノートにはりつけていくこと。		
受講者への要望			
現代社会の様々な事件や問題に積極的関心を持って望むこと。			
講義の順序とポイント			
１．開講にあたって　―春・秋の講義全体のアウトライン― ２．法社会学とは何か　Ⅰ　日本の法社会学（１） ３．法社会学とは何か　Ⅱ　欧米の法社会学（１） ４．裁判をめぐる法社会学　Ⅰ　民事裁判・行政裁判・刑事裁判 ５．裁判をめぐる法社会学　Ⅱ　冤罪 ６．裁判をめぐる法社会学　Ⅲ　死刑制度（１） ７．裁判をめぐる法社会学　Ⅳ 死刑制度（２） ８．裁判をめぐる法社会学　Ⅴ　裁判員制度（１） ９．裁判をめぐる法社会学　Ⅵ　裁判員制度（２） １０．生命をめぐる法社会学　Ⅰ　生殖技術と法 １１．生命をめぐる法社会学　Ⅱ　脳死・臓器移植と法 １２．宗教をめぐる法社会学　Ⅲ　安楽死・尊厳死と法 １３．宗教をめぐる法社会学　Ⅰ　政治と宗教と法 １４．宗教をめぐる法社会学　Ⅱ　政教分離 １５．宗教をめぐる法社会学　Ⅲ　愛媛玉串料訴訟最高裁判決の分析			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★		★★	★★

年度	2015	授業コード	J40017001
科目名	税法	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	受講生が、租税法の体系と基本原理を理解したうえで、主要な税目（所得税、法人税等）についての課税要件を習得できるように、基礎的知識を中心に講義を進める。 内容は、租税法総論及び租税実体法を中心とする。 できる限り、実務上の問題や現実の租税事件等にも言及し、また、税に関連する最近のニュースや話題を解説するなど、税実務の現状や税制についての興味がもてるような内容とする。		
教材（テキスト）	清永敬次『税法(新装版)』(ミネルヴァ書房)　3,360 円		
教材（参考文献）	岡村忠生ほか『ベーシック税法(第 7 版)』(有斐閣アルマ)　2,205 円(改訂の可能性あり) その他は、初回の講義時に説明する。　また、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要なレジュメはその都度(概ね毎回)配布する。		
評価方法	定期テストの成績で評価する。 平常点(出席状況等による)及びレポート・小テスト(2~3 回)の評価を加味する。 具体的な評価基準は、初回の講義時に説明する。		
到達目標	1　税が自分の生活と如何に関わり合いをもつ問題であるかを理解する。 2　税法の基本原則と憲法との関係を理解する。 3　主要税目についての基本的な仕組や理論を理解し、そこでの問題の所在を知ることを目標とする。		
準備学習	日常生活をはじめ、さまざまな経済活動には「税」が密接に関連していることを意識し、普段から、マスコミ報道等の税に関する情報には、関心を持っておくこと。 講義初回に詳細な授業計画(各回のテキストの該当頁を記載したもの)を配布するので、次回履修予定部分のテキスト該当頁を予習しておくこと。 授業中に配布したプリント(毎回配布)の重要項目については、テキスト、参考文献で確認(復習)しておくこと。復習のための小テストを実施予定。		

受講者への要望

税法が記載された六法、法規集を持参することが望ましい。またはｗｅｂ上から税法条文をダウンロードして持参してもよい(初回の講義時に指示する)。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス　導入、租税と税法
2. 総論１　租税の意義と根拠
3. 総論２　租税法律主義・租税平等主義
4. 総論３　租税法の解釈と適用
5. 所得税１　所得税の概要、納税義務者
6. 所得税２　所得概念、帰属
7. 所得税３　所得税の計算の仕組み、課税標準
8. 所得税４　収入金額
9. 所得税５　必要経費
10. 所得税６　所得控除、税率、確定申告、確定申告書作成演習
11. 法人税１　法人税の概要
12. 法人税２　納税義務者、課税所得
13. 法人税３　益金及び損金の原則
14. 法人税４　益金及び損金の別段の定め(その 1)
15. 法人税５　益金及び損金の別段の定め(その 2)、税額計算

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J40020001
科目名	都市開発関係法実務	単位数	2
科目名（英語表記）	Law and Practice on Urban Planning		
担当者名	上林　研二	旧科目名称	
講義概要	都市計画行政は，無秩序な開発行為を規制し，地域全体のつり合いのとれた土地利用計画を立て，都市生活（働く・住む・育てる・学ぶ・憩う・遊ぶ）を快適にするための施設を配置することに努めるものである。その場合，都市計画法と建築基準法を基本法とし，規制・誘導事項ごとに制定された関連法をもとに進められる。しかし，法はその数を増加させ複雑化し，日々改正される。従って，当初に全体を概観した後は，身近に起こる市民の開発行為・土地利用を規制・誘導する法律とその運用を中心に講義を進める。安心・安全な住宅や快適な都市環境は市民自らが意識的に求めることが重要と考えられることから、建築確認制度とボトムアップ型都市計画である「地区計画」制度についても講義する。また，理系の知識ではあるが地震発生の仕組みと予測、被害軽減法についても図解的に講義する。		
教材（テキスト）	毎回テキストを配布		
教材（参考文献）	三村浩史著『地域共生の都市計画』学芸出版社		
教材（その他）			
評価方法	平常点（２０％）出席状況等による、各回学習確認レポート（４０％）　定期試験（４０％）		
到達目標	都市基盤整備の基礎となる土地整備や土地利用規制・誘導方策についての法定の仕組みが理解でき、あわせて今日的課題が発見できるなど総合的に理解できること。また、行政実務のイメージが湧くこと。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。なお、毎回、授業の終わりに、授業内容の理解度を確認する小レポートの提出を求める。そこで、予習は資料の読了に加えて、土地整備や都市施設、町並みの実態を見て,「何故こうなっているのか」と興味をもって市街地や郊外地についての街歩を意識的に行ってほしい。こうした準備学習は行政実務の深い理解に結びつくものである。		
受講者への要望			
問題意識をもって授業に臨んで欲しい。多岐にわたる講義内容をすべて暗記する必要はないが，法定都市計画の基本の仕組みについては納得のいくまで考えること。毎講義終了時点で学習確認レポートを課すが，疑問点の表明もおおいに歓迎である。			
講義の順序とポイント			
１．講義ガイダンス／京都府の近代史概説 ２．近代期の都市計画における後藤新平の偉業 ３．関係法制定の社会的背景・・・第２次大戦の敗戦から復興と法整備 ４．建築基準法・・・市街地建築物法（大正法）との比較、新法の目的 ５．土地区画整理事業のしくみと今日的課題 ６．都市計画法の全体像・・・旧法（大正法）との比較をまじえ ７．都市計画の実務１・・・土地利用規制、地域地区など　開発行為の制限 ８．都市計画の実務２・・・土地の売買、農地転用　　（付録：地価乱高下のしくみ） ９．市街地再開発事業（法によるもの、国交省制度によるもの） １０．歴史的市街地の構造 １１．市街地の再生事業・・・京都における路地型共同住宅団地の整備 １２．安心安全な生活・・・地震発生の仕組みと予測など １３．大規模災害と復興事業 １４．市街地景観整備事業 １５．市街地整備の今日的な課題の再確認と新たな法整備の展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J40027001
科目名	消費者法	単位数	2
科目名（英語表記）	Consumer Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	世の中ではさまざまな消費者問題が起こっている。まずは、どのような被害があるのか。それに対して法律はどのような対処を行ってきたのか。現在どのような問題が指摘されているのか。そういったことについて触れていきたい。消費者法というのは、非常に捉えにくい分野であると思われるので、適宜裁判例等を取り上げ、具体例を示しながら講義する予定である。		
教材（テキスト）	長尾治助・中田邦博・鹿野菜穂子『レクチャー消費者法』（法律文化社）		
教材（参考文献）	日本弁護士連合会編『消費者法講義』（日本評論社） 坂東 俊矢、細川 幸一『18 歳から考える消費者と法 』（法律文化社）		
教材（その他）	資料を京学なびにて配付する。各自講義までにプリントしておいて頂きたい。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	消費者とはどのような存在か、消費者問題とは何か、消費者問題にいかに対応するかを理解する。		
準備学習	・日々新聞やテレビにおいて報道される消費者問題を常に意識しておくこと。 Evernote 等のシステムを使って、スクラップしていくのも良い。 ・レジュメを事前にプリントして一読しておくこと。 ・レジュメ中の不明な法律用語を調べておくこと。		

受講者への要望

・平行して民法の講義も受講しておくこと。
・六法を必ず持参すること。

講義の順序とポイント

1. 消費者法の原理
2. 消費者・消費者団体・事業者・事業者団体
3. 製品の種類ごとにみる安全確保の現状と課題
4. 消費者契約と民事法１
   契約法の一般原則と消費者契約
   民法の契約ルールとその限界１
5. 消費者契約と民事法２
   民法の契約ルールとその限界２
6. 消費者契約と民事法３
   約款による取引
7. 消費者契約と民事法４
   消費者契約法の内容１
8. 消費者契約と民事法５
   消費者契約法の内容２
9. 消費者契約と民事法６
   事業者の責任
10. 特定商取引法１
   特定商取引法とは何か
   訪問販売１
11. 特定商取引法２
   訪問販売２―クーリング・オフ
12. 割賦販売法１
   個別信用購入あっせんとクーリングオフ
13. 割賦販売法２
   個別信用購入あっせんと抗弁の対抗
14. 事例演習１― 習ったことを立体的に理解しよう
15. 事例演習２― 習ったことを立体的に理解しよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J40027002
科目名	消費者法	単位数	2
科目名（英語表記）	Consumer Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	世の中ではさまざまな消費者問題が起こっている。まずは、どのような被害があるのか。それに対して法律はどのような対処を行ってきたのか。現在どのような問題が指摘されているのか。そういったことについて触れていきたい。消費者法というのは、非常に捉えにくい分野であると思われるので、適宜裁判例等を取り上げ、具体例を示しながら講義する予定である。		
教材（テキスト）	長尾治助・中田邦博・鹿野菜穂子『レクチャー消費者法』（法律文化社）		
教材（参考文献）	日本弁護士連合会編『消費者法講義』（日本評論社） 坂東 俊矢、細川 幸一『18 歳から考える消費者と法 』（法律文化社）		
教材（その他）	資料を京学なびにて配付する。各自講義までにプリントしておいて頂きたい。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	消費者とはどのような存在か、消費者問題とは何か、消費者問題にいかに対応するかを理解する。		
準備学習	・日々新聞やテレビにおいて報道される消費者問題を常に意識しておくこと。 Evernote 等のシステムを使って、スクラップしていくのも良い。 ・レジュメを事前にプリントして一読しておくこと。 ・レジュメ中の不明な法律用語を調べておくこと。		

受講者への要望

・平行して民法の講義も受講しておくこと。
・六法を必ず持参すること。

講義の順序とポイント

1. 消費者法の原理
2. 消費者・消費者団体・事業者・事業者団体
3. 製品の種類ごとにみる安全確保の現状と課題
4. 消費者契約と民事法１
   契約法の一般原則と消費者契約
   民法の契約ルールとその限界１
5. 消費者契約と民事法２
   民法の契約ルールとその限界２
6. 消費者契約と民事法３
   約款による取引
7. 消費者契約と民事法４
   消費者契約法の内容１
8. 消費者契約と民事法５
   消費者契約法の内容２
9. 消費者契約と民事法６
   事業者の責任
10. 特定商取引法１
   特定商取引法とは何か
   訪問販売１
11. 特定商取引法２
   訪問販売２―クーリング・オフ
12. 割賦販売法１
   個別信用購入あっせんとクーリングオフ
13. 割賦販売法２
   個別信用購入あっせんと抗弁の対抗
14. 事例演習１― 習ったことを立体的に理解しよう
15. 事例演習２― 習ったことを立体的に理解しよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J40038A01
科目名	会社法 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law I		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社法は、現代資本主義社会に不可欠な存在である、企業形態のひとつである会社に関する法律である。 会社法 I では、企業・会社の諸形態、設立、資金調達(コーポレート・ファイナンス)の一場面としての株式・社債に関する規制などを扱う。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.205・会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年）。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、総論・会社の設立・資金調達等に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		

受講者への要望

新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。

講義の順序とポイント

1. イントロダクション
2. 会社の法的性質
3. 会社の種類
4. 会社法の総則規定
5. 株主の有限責任と資本制度
6. 株式会社の設立
7. 株式の意義、株主の権利
8. 株式の内容と種類
9. 株主名簿、株式の譲渡
10. 株式の消却・併合・分割等
11. 株式会社の資金調達
12. 募集株式の発行
13. 株式発行の瑕疵
14. 新株予約権
15. 社債

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J40038A02
科目名	会社法 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law I		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社法は、現代資本主義社会に不可欠な存在である、企業形態のひとつである会社に関する法律である。 会社法 I では、企業・会社の諸形態、設立、資金調達(コーポレート・ファイナンス)の一場面としての株式・社債に関する規制などを扱う。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.205・会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年）。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、総論・会社の設立・資金調達等に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 会社の法的性質 3. 会社の種類 4. 会社法の総則規定 5. 株主の有限責任と資本制度 6. 株式会社の設立 7. 株式の意義、株主の権利 8. 株式の内容と種類 9. 株主名簿、株式の譲渡 10. 株式の消却・併合・分割等 11. 株式会社の資金調達 12. 募集株式の発行 13. 株式発行の瑕疵 14. 新株予約権 15. 社債			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J40038B01
科目名	会社法Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law Ⅱ		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	現代社会において、一定規模以上の重要な取引を担うのは個人ではなく、共同企業形態としての会社であり、特に株式会社が重要なのは言うまでもない。この講義では、株主総会・取締役・取締役会・代表取締役・監査役会・会計監査人など、会社の機関（コーポレート・ガバナンス）について、大規模株式会社を念頭に、基本的な枠組みを講義する。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.205・会社法判例百選　第２版』（有斐閣、2011 年）。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。期末定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、株式会社の機関（コーポレート・ガバナンス）に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．株式会社の機関設計 ３．株主総会の権限・招集 ４．株主総会の議事・決議 ５．取締役 ６．取締役の義務 ７．取締役会 ８．代表取締役 ９．監査役・監査役会 １０．会計監査人 １１．委員会設置会社 １２．役員等の責任 １３．株主代表訴訟 １４．計算 １５．合併・会社分割			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J40038B02
科目名	会社法 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law II		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	現代社会において、一定規模以上の重要な取引を担うのは個人ではなく、共同企業形態としての会社であり、特に株式会社が重要なのは言うまでもない。この講義では、株主総会・取締役・取締役会・代表取締役・監査役会・会計監査人など、会社の機関（コーポレート・ガバナンス）について、大規模株式会社を念頭に、基本的な枠組みを講義する。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.205・会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年）。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。期末定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、株式会社の機関（コーポレート・ガバナンス）に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．株式会社の機関設計 ３．株主総会の権限・招集 ４．株主総会の議事・決議 ５．取締役 ６．取締役の義務 ７．取締役会 ８．代表取締役 ９．監査役・監査役会 １０．会計監査人 １１．委員会設置会社 １２．役員等の責任 １３．株主代表訴訟 １４．計算 １５．合併・会社分割			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J40043001
科目名	金融商品取引法	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Instruments and Exchange Law		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	たとえある企業が優秀な人材に恵まれ、優れた技術を持っていたとしても、資金を必要なタイミングで必要な量だけ調達できなければ、ビジネスで成功することはできません。企業がビジネスに必要な資金を銀行から借りる場合、たとえ赤字でも借りた資金は利子をつけて返さなければなりません。しかし、株式を発行して集めた資金は、その企業が存続する限り返す必要はなく、黒字の時だけ株主に利益の分け前である配当を渡せばよいのです。リスクがつきもののビジネスにとっては、株式による資金調達が非常に適していることは明らかです。 　しかし、投資が安心して株式を買うためには、様々なルールが整っていることが必要です。金融商品取引法は、そのようなルールを整え、投資家が安心して株式等に投資し、企業がスムーズに資金調達をし、円滑な企業活動を行い、ひいては経済が発達することを目的にしています。 　この講義では金融商品取引法の基本的な仕組みを中心に学びます。		
教材（テキスト）	近藤光男ほか『基礎から学べる金融商品取引法 第３版　』（弘文堂，２０１５年）		
教材（参考文献）	黒沼悦郎『金融商品取引法入門　第６版』（日経文庫、２０１５年）		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布する。		
評価方法	平常点（授業内レポート等 40%）　　小テスト２回（60%）		
到達目標	金融商品取引法の基本概念を理解し、企業の資金調達に関係するニュースに関心を持ち、何が問題になっているのか、理解できるようになる。		
準備学習	次回の内容を予告するので、教科書の該当部分を読んでおくこと。		
受講者への要望			
企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること			
講義の順序とポイント			
１　金融商品市場の基本的な仕組み ２　金融商品取引法の目的と全体像 ３　有価証券の取引方法 ４　企業内容の開示規制①（発行開示制度） ５　企業内容の開示規制①（継続開示制度） ７．金融商品取引業者の規制と小テスト１ ８　企業支配に関する開示制度①（公開買い付け） ９　企業支配に関する開示制度②（株券等の大量保有状況の開示） １０　投資信託および集団投資スキーム １１　不公正な取引方法の規制①（インサイダー取引） １２　不公正な取引方法の規制②（相場操縦） １３　不公正な取引方法の規制③（金融商品取引業者による不公正取引） １４　罰則と課徴金 １５．金融商品取引法の課題と小テスト２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J40048001
科目名	刑法Ⅰ（刑法総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law I (General Part)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法Ⅰ（刑法総論）では、犯罪論の基本構造（全ての犯罪に共通する犯罪成立要件）を主に解説する。このことから、刑法総論は抽象的な議論が多く、初学者には難解に感じられるかもしれないが、具体的な事例を通じてわかりやすく解説する。		
教材（テキスト）	佐久間修『刑法総論』（成文堂・２００９年）		
教材（参考文献）	指定教科書が難しいと感じられる学生には、具体例を豊富に用い、わかりやすく説明したものとして、佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） 判例教材として、 ・大谷實編『判例講義刑法Ⅰ総論〔第２版〕』（悠々社・２０１４年） ・山口厚＝佐伯仁志『刑法判例百選Ⅰ総論（第７版）』（有斐閣・２０１４年） ・井田良＝城下裕二編『刑法総論判例インデックス』（商事法務・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅰ総論』（信山社・２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（８０％）と、適宜実施する確認テスト（２０％）によって評価する。		
到達目標	刑法総論をめぐる様々な争点について理解を深めることにより、学んだ知識を具体的な事例にあてはめ、分析、解決する能力を身につけることを目標とする。		
準備学習	刑法総論は、各論点が体系的に関連づけられているため、前回までの講義内容を理解できていないと、次の講義内容の理解が難しくなる。そのため、必ず、各講義の終了後は、該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として、判例教材の該当箇所を読むこと。		
受講者への要望			
刑法総論は体系的に構成されており、一度の欠席が理解を困難にする可能性があるため、毎回講義に出席することが大切である。 また、準備学習でも触れた通り、講義後の復習をしっかりすることが必要である。			
講義の順序とポイント			
１．刑法の意義と機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、犯罪論の体系 ２．構成要件該当性（１）実行行為 ３．構成要件該当性（２）因果関係 ４．構成要件該当性（３）構成要件的故意と事実の錯誤 ５．構成要件該当性（４）構成要件的過失 ６．構成要件該当性（５）未遂犯と中止未遂 ７．違法性（１）違法性の基本問題 ８．違法性（２）正当行為と緊急行為 ９．違法性（３）被害者の同意 １０．有責性（１）責任の本質、責任能力 １１．有責性（２）違法性の意識、期待可能性 １２．共犯論（１）正犯と共犯 １３．共犯論（２）共同正犯 １４．共犯論（３）教唆犯と従犯 １５．共犯論（４）共犯論の諸問題 補．罪数			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J40048002
科目名	刑法Ⅰ（刑法総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law I (General Part)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法Ⅰ（刑法総論）では、犯罪論の基本構造（全ての犯罪に共通する犯罪成立要件）を主に解説する。このことから、刑法総論は抽象的な議論が多く、初学者には難解に感じられるかもしれないが、具体的な事例を通じてわかりやすく解説する。		
教材（テキスト）	佐久間修『刑法総論』（成文堂・２００９年）		
教材（参考文献）	指定教科書が難しいと感じられる学生には、具体例を豊富に用い、わかりやすく説明したものとして、佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） 判例教材として、 ・大谷實編『判例講義刑法Ⅰ総論〔第２版〕』（悠々社・２０１４年） ・山口厚＝佐伯仁志『刑法判例百選Ⅰ総論（第７版）』（有斐閣・２０１４年） ・井田良＝城下裕二編『刑法総論判例インデックス』（商事法務・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅰ総論』（信山社・２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（８０％）と、適宜実施する確認テスト（２０％）によって評価する。		
到達目標	刑法総論をめぐる様々な争点について理解を深めることにより、学んだ知識を具体的な事例にあてはめ、分析、解決する能力を身につけることを目標とする。		
準備学習	刑法総論は、各論点が体系的に関連づけられているため、前回までの講義内容を理解できていないと、次の講義内容の理解が難しくなる。そのため、必ず、各講義の終了後は、該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として、判例教材の該当箇所を読むこと。		
受講者への要望			
刑法総論は体系的に構成されており、一度の欠席が理解を困難にする可能性があるため、毎回講義に出席することが大切である。 また、準備学習でも触れた通り、講義後の復習をしっかりすることが必要である。			
講義の順序とポイント			
１．刑法の意義と機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、犯罪論の体系 ２．構成要件該当性（１）実行行為 ３．構成要件該当性（２）因果関係 ４．構成要件該当性（３）構成要件的故意と事実の錯誤 ５．構成要件該当性（４）構成要件的過失 ６．構成要件該当性（５）未遂犯と中止未遂 ７．違法性（１）違法性の基本問題 ８．違法性（２）正当行為と緊急行為 ９．違法性（３）被害者の同意 １０．有責性（１）責任の本質、責任能力 １１．有責性（２）違法性の意識、期待可能性 １２．共犯論（１）正犯と共犯 １３．共犯論（２）共同正犯 １４．共犯論（３）教唆犯と従犯 １５．共犯論（４）共犯論の諸問題 補．罪数			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J40050001
科目名	刑法Ⅱ（刑法各論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law Ⅱ (Specific Offences)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法各論では、殺人罪、窃盗罪、放火罪等、個別の犯罪における固有の保護法益と成立要件を明らかにし、解釈論上の問題点を検討する。総論が、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件の検討という点で、体系的かつ抽象的であるのに対して、各論は、個別の犯罪成立要件の検討という点で、断片的かつ具体的である。総論の方がパズル的で面白いという側面があるが、各論は私たちの身近にある問題と直結しているので、より理解しやすい。 本講義では、刑法典に記載された犯罪のうち特に重要な犯罪を取り上げ、その問題点を考える。		
教材（テキスト）	佐久間修『刑法各論（第２版）』（成文堂・２０１２年）		
教材（参考文献）	指定教科書が難しいと感じられる学生には、具体例を豊富に用い、わかりやすく説明したものとして、 佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） また、判例教材として、 ・山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選Ⅱ各論〔第７版〕』（有斐閣・２０１４年） ・大谷實編『判例講義刑法Ⅱ各論（第２版）』（悠々社・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅱ各論』（信山社・２０１２年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（８０％）と、適宜実施する確認テスト（２０％）によって評価する。		
到達目標	個々の犯罪の保護法益と成立要件を理解し、主要な争点を考察する基礎を身につける。		
準備学習	各講義の該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として、判例教材の該当箇所を読むこと。		

受講者への要望

刑法各論の分野では、具体的な、個別の犯罪を取り扱うことから、身近に感じやすく、テレビ、新聞などのメディアでも事件としてよく見かける。このことから、講義で得た知識で、ニュースなどで取り扱われている事件にはどの犯罪が成立するか、しないか、自分なりに考える姿勢を身につけて欲しい。

講義の順序とポイント

１．刑法各論の考察対象、保護法益論と刑法の解釈
第Ⅰ部　個人的法益に対する罪
２．殺人の罪
３．傷害の罪、過失傷害の罪、堕胎の罪
４．遺棄の罪
５．脅迫の罪、逮捕・監禁の罪、略取・誘拐及び人身売買の罪
６．強制わいせつの罪（風俗に対する罪を含む）、住居を侵す罪
７．名誉に対する罪、秘密を冒す罪、信用・業務に対する罪
８．財産犯総論
９．窃盗の罪、強盗の罪
１０．詐欺・恐喝の罪
１１．横領の罪、背任の罪
１２．盗品等に関する罪、毀棄隠匿の罪
第Ⅱ部　社会的法益に対する罪
１３．公共危険罪
１４．取引の安全に対する罪
第Ⅲ部　国家的法益に対する罪
１５．公務の執行を妨害する罪、司法の作用に対する罪、汚職の罪

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J40050002
科目名	刑法Ⅱ（刑法各論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law Ⅱ (Specific Offences)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法各論では、殺人罪、窃盗罪、放火罪等、個別の犯罪における固有の保護法益と成立要件を明らかにし、解釈論上の問題点を検討する。総論が、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件の検討という点で、体系的かつ抽象的であるのに対して、各論は、個別の犯罪成立要件の検討という点で、断片的かつ具体的である。総論の方がパズル的で面白いという側面があるが、各論は私たちの身近にある問題と直結しているので、より理解しやすい。 本講義では、刑法典に記載された犯罪のうち特に重要な犯罪を取り上げ、その問題点を考える。		
教材（テキスト）	佐久間修『刑法各論（第２版）』（成文堂・２０１２年）		
教材（参考文献）	指定教科書が難しいと感じられる学生には、具体例を豊富に用い、わかりやすく説明したものとして、 佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） また、判例教材として、 ・山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選Ⅱ各論〔第７版〕』（有斐閣・２０１４年） ・大谷實編『判例講義刑法Ⅱ各論（第２版）』（悠々社・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅱ各論』（信山社・２０１２年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（８０％）と、適宜実施する確認テスト（２０％）によって評価する。		
到達目標	個々の犯罪の保護法益と成立要件を理解し、主要な争点を考察する基礎を身につける。		
準備学習	各講義の該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として、判例教材の該当箇所を読むこと。		

受講者への要望

刑法各論の分野では、具体的な、個別の犯罪を取り扱うことから、身近に感じやすく、テレビ、新聞などのメディアでも事件としてよく見かける。このことから、講義で得た知識で、ニュースなどで取り扱われている事件にはどの犯罪が成立するか、しないか、自分なりに考える姿勢を身につけて欲しい。

講義の順序とポイント

１．刑法各論の考察対象、保護法益論と刑法の解釈
第Ⅰ部　個人的法益に対する罪
２．殺人の罪
３．傷害の罪、過失傷害の罪、堕胎の罪
４．遺棄の罪
５．脅迫の罪、逮捕・監禁の罪、略取・誘拐及び人身売買の罪
６．強制わいせつの罪（風俗に対する罪を含む）、住居を侵す罪
７．名誉に対する罪、秘密を冒す罪、信用・業務に対する罪
８．財産犯総論
９．窃盗の罪、強盗の罪
１０．詐欺・恐喝の罪
１１．横領の罪、背任の罪
１２．盗品等に関する罪、毀棄隠匿の罪
第Ⅱ部　社会的法益に対する罪
１３．公共危険罪
１４．取引の安全に対する罪
第Ⅲ部　国家的法益に対する罪
１５．公務の執行を妨害する罪、司法の作用に対する罪、汚職の罪

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J40052001
科目名	犯罪学	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminology		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	毎日ニュースをながめていると、殺人、交通事故、少年非行、犯罪被害者など、日々世の中では犯罪が起こり、それに伴い、日本における刑事事件に関する政策がさまざまに変わってきている。特に、２０００年以降は、刑事立法の改正が進み、新たな法律、新たな制度など刑事司法が動いている時代である。そのような状況において、改めて「人はなぜ犯罪を犯すのか」、「どうすれば犯罪が発生しない社会がつくれるのか」、「そのための対策としてはどのようなものがあるのか」、「犯罪を犯した人は、どのように処遇されているのか」、「犯罪の被害者はどのような立場に置かれているのだろうか」ということについて理解する必要がある。これらのことを考察するのがこの講義で扱う「犯罪学」、「刑事政策」、「被害者学」である。この講義では、まず、わが国の犯罪情勢や刑事司法制度などについて検討したうえで、近年改正がなされた犯罪被害者、児童虐待、交通犯罪関連の特別法における犯罪対策についての理解を深めていく予定である。		
教材（テキスト）	大谷實『新版刑事政策講義』（弘文堂、2009）		
教材（参考文献）	授業の中で必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。		
評価方法	学期末の論述式試験の結果（８０％）、そのほか、出席や授業の中で行う感想文等（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事司法制度の現状を正しく理解し、各種の犯罪対策の現状と問題点を考察することができるようになる。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、単元ごとに、それまでの授業の感想文や小テストを求めるので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。特に、理由のない欠席・遅刻、そして私語は厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
１　犯罪学、刑事政策とは ２　犯罪情勢 ３　治安状況 ４　犯罪の原因 ５　犯罪化と非犯罪化 ６　日本の警察制度 ７　刑罰制度 ８　犯罪者の施設内処遇 ９　犯罪者の社会内処遇 １０　犯罪者処遇の新しい動き １１　少年非行対策 １２　犯罪被害者対策 １３　交通犯罪 １４　薬物犯罪 １５　精神障害者の犯罪			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	J40052002
科目名	犯罪学	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminology		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	毎日ニュースをながめていると、殺人、交通事故、少年非行、犯罪被害者など、日々世の中では犯罪が起こり、それに伴い、日本における刑事事件に関する政策がさまざまに変わってきている。特に、２０００年以降は、刑事立法の改正が進み、新たな法律、新たな制度など刑事司法が動いている時代である。そのような状況において、改めて「人はなぜ犯罪を犯すのか」、「どうすれば犯罪が発生しない社会がつくれるのか」、「そのための対策としてはどのようなものがあるのか」、「犯罪を犯した人は、どのように処遇されているのか」、「犯罪の被害者はどのような立場に置かれているのだろうか」ということについて理解する必要がある。これらのことを考察するのがこの講義で扱う「犯罪学」、「刑事政策」、「被害者学」である。この講義では、まず、わが国の犯罪情勢や刑事司法制度などについて検討したうえで、近年改正がなされた犯罪被害者、児童虐待、交通犯罪関連の特別法における犯罪対策についての理解を深めていく予定である。		
教材（テキスト）	大谷實『新版刑事政策講義』（弘文堂、2009）		
教材（参考文献）	授業の中で必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。		
評価方法	学期末の論述式試験の結果（８０％）、そのほか、出席や授業の中で行う感想文等（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事司法制度の現状を正しく理解し、各種の犯罪対策の現状と問題点を考察することができるようになる。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、単元ごとに、それまでの授業の感想文や小テストを求めるので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。特に、理由のない欠席・遅刻、そして私語は厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
１　犯罪学、刑事政策とは ２　犯罪情勢 ３　治安状況 ４　犯罪の原因 ５　犯罪化と非犯罪化 ６　日本の警察制度 ７　刑罰制度 ８　犯罪者の施設内処遇 ９　犯罪者の社会内処遇 １０　犯罪者処遇の新しい動き １１　少年非行対策 １２　犯罪被害者対策 １３　交通犯罪 １４　薬物犯罪 １５　精神障害者の犯罪			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	J40054001
科目名	刑事訴訟法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure I		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	刑事訴訟法
講義概要	テレビの刑事ドラマをみていると、事件が発生し、それを刑事が捜査し、だんだんと真相に迫っていき、最終的に犯人が逮捕される。 では、実際の刑事手続はどのような流れか知っているだろうか。事件の捜査はいつから始まり、捜査するうえでのルールとしてはどのようなものが存在しているのか。このルールとして刑事手続を定める法律の代表格が「刑事訴訟法」である。 この講義では、刑事手続の流れと刑事訴訟法のさまざまな基本ルールを概観したうえで、主として公訴が提起される前の段階について解説する。		
教材（テキスト）	渡辺咲子『刑事訴訟法講義』（信山社、第７版、2014）		
教材（参考文献）	井上正仁編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。六法を毎回持参すること。		
評価方法	学期末試験の結果（８０％）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事手続の全体の流れや捜査に関して定めた条文について理解し、刑事手続に関する体系的な基礎知識を身につけることができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、授業の最初に前回の授業内容に係るおさらいテストをするので、復習しておくこと。さらに、それとともに、新聞やニュースを見て、報道された刑事事件の内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
刑事訴訟法はその流れ全体を理解する必要があるので、学期末試験や小テストのためにも、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。			
講義の順序とポイント			
１　刑事訴訟法とは ２　強制捜査 ３　任意捜査 ４　捜査の端緒 ５　逮捕・勾留 ６　検証・捜索・差押え① ７　捜索・差押え② ８　被疑者の身体に関する検査 ９　中間テスト １０　起訴状 １１　訴因変更 １２　証拠開示 １３　違法収集証拠排除法則 １４　自白 １５　伝聞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						★

年度	2015	授業コード	J40054002
科目名	刑事訴訟法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure I		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	刑事訴訟法
講義概要	テレビの刑事ドラマをみていると、事件が発生し、それを刑事が捜査し、だんだんと真相に迫っていき、最終的に犯人が逮捕される。 では、実際の刑事手続はどのような流れか知っているだろうか。事件の捜査はいつから始まり、捜査するうえでのルールとしてはどのようなものが存在しているのか。このルールとして刑事手続を定める法律の代表格が「刑事訴訟法」である。 この講義では、刑事手続の流れと刑事訴訟法のさまざまな基本ルールを概観したうえで、主として公訴が提起される前の段階について解説する。		
教材（テキスト）	渡辺咲子『刑事訴訟法講義』（信山社、第７版、2014）		
教材（参考文献）	井上正仁編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。六法を毎回持参すること。		
評価方法	学期末試験の結果（８０％）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事手続の全体の流れや捜査に関して定めた条文について理解し、刑事手続に関する体系的な基礎知識を身につけることができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、授業の最初に前回の授業内容に係るおさらいテストをするので、復習しておくこと。さらに、それとともに、新聞やニュースを見て、報道された刑事事件の内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
刑事訴訟法はその流れ全体を理解する必要があるので、学期末試験や小テストのためにも、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。			
講義の順序とポイント			
１　刑事訴訟法とは ２　強制捜査 ３　任意捜査 ４　捜査の端緒 ５　逮捕・勾留 ６　検証・捜索・差押え① ７　捜索・差押え② ８　被疑者の身体に関する検査 ９　中間テスト １０　起訴状 １１　訴因変更 １２　証拠開示 １３　違法収集証拠排除法則 １４　自白 １５　伝聞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						★

年度	2015	授業コード	J40056001
科目名	国際法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law I		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法Ⅰでは、国際法の総論、国際法における国家、ならびに国際社会の空間秩序について講義する。導入部では、国際社会と国際法の独自の基本的な性格や国際法の法主体について概観する。第１部では、国際法の中心的な法主体である国家について講義する。国家がどのようにして成立するのか、国家は国際法に基づいて何をすることができ、何をしなければならないのかなどについて検討する。第２部では、国家領域や海洋法などを中心にして、地球上の空間が国際法上どのように構成されているのかについて講義する。 講義では、メディアで取り上げられる国際問題や北方領土など日本に関わる問題にも随時言及しながら、国際法が私たちの日常生活とどのように関わっているのかイメージできるように話を進めていきたい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門～逆から学ぶ～』（法律文化社、２０１４年） 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第２版］』（東信堂、２０１３年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、２００９年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。 詳細は、初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．国際社会ならびに国際法の独自の基本的性格を理解する。 ２．国際法の中心的な主体である国家について理解する。 ３．世界の空間秩序（陸・海・空）が国際法上どのように構成されているのか理解する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．六法を必ず持参すること。
２．講義中は私語をつつしむこと。
３．講義では、休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

導入部　総論
１．受講ガイダンス、国際社会の性質と国際法
２．国際社会の性質と国際法（つづき）
３．国際法の主体

第１部　国際法における国家
４．国家の成立と変動（１）ー国家承認
５．国家の成立と変動（２）ー国家承継
６．国家の機関

７．国家の基本的権利義務
８．国家管轄権の規律
９．主権免除

第２部　国際社会の空間秩序
１０．国家領域（１）ー国家領域の構造
１１．国家領域（２）ー日本の領土問題
１２．海の国際法（１）ー現代の海洋秩序の構造
１３．海の国際法（２）ー航行利用制度
１４．海の国際法（３）ー海域の境界画定など
１５．空の国際法

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J40056002
科目名	国際法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law I		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法Ⅰでは、国際法の総論、国際法における国家、ならびに国際社会の空間秩序について講義する。導入部では、国際社会と国際法の独自の基本的な性格や国際法の法主体について概観する。第１部では、国際法の中心的な法主体である国家について講義する。国家がどのようにして成立するのか、国家は国際法に基づいて何をすることができ、何をしなければならないのかなどについて検討する。第２部では、国家領域や海洋法などを中心にして、地球上の空間が国際法上どのように構成されているのかについて講義する。 講義では、メディアで取り上げられる国際問題や北方領土など日本に関わる問題にも随時言及しながら、国際法が私たちの日常生活とどのように関わっているのかイメージできるように話を進めていきたい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門～逆から学ぶ～』（法律文化社、２０１４年） 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第２版］』（東信堂、２０１３年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、２００９年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。 詳細は、初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．国際社会ならびに国際法の独自の基本的性格を理解する。 ２．国際法の中心的な主体である国家について理解する。 ３．世界の空間秩序（陸・海・空）が国際法上どのように構成されているのか理解する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．六法を必ず持参すること。
２．講義中は私語をつつしむこと。
３．講義では、休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

導入部　総論
１．受講ガイダンス、国際社会の性質と国際法
２．国際社会の性質と国際法（つづき）
３．国際法の主体

第１部　国際法における国家
４．国家の成立と変動（１）ー国家承認
５．国家の成立と変動（２）ー国家承継
６．国家の機関

７．国家の基本的権利義務
８．国家管轄権の規律
９．主権免除

第２部　国際社会の空間秩序
１０．国家領域（１）ー国家領域の構造
１１．国家領域（２）ー日本の領土問題
１２．海の国際法（１）ー現代の海洋秩序の構造
１３．海の国際法（２）ー航行利用制度
１４．海の国際法（３）ー海域の境界画定など
１５．空の国際法

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J40058001
科目名	国際法 II	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law II		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法 II では、分権的な国際社会における国際法の形成ならびに適用・実施について講義する。第１部では、国際法の法源である慣習法や条約がどのように作られるのかなどについて説明する。第２部では、国内社会と国際社会における国際法の適用・実施について講義し、国際違法行為に対する国家責任の成立・追及や国際裁判所などによる紛争の平和的処理などについて説明する。また、国際司法裁判所についての DVD 鑑賞も行う予定である。 講義では、国際社会と国内社会の相違を踏まえ、日本などの具体的事例なども頻繁に取り上げながら国際法の形成や適用・実施のプロセスを通じて国際法秩序の独自の性格を分かりやすく説明するようにしたい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門〜逆から学ぶ〜』（法律文化社、２０１４年） 毎回講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第２版］』（東信堂、２０１３年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、２００９年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）	国際司法裁判所の活動に関するビデオ教材を用いる。		
評価方法	毎回行う小テスト（４０％）、定期試験（６０％） 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．分権的な国際社会で国際法（条約や慣習法）がどのように形成されるのか理解する。 ２．国際紛争の平和的処理の全体像を把握する。 ３．分権的な国際社会における国際裁判の役割、手続ならびに課題について把握する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．六法を必ず持参すること。
２．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。
３．講義では、適宜休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

第１部　国際法の成立
１．受講ガイダンス、国際法の法源
２．国際法の法源（つづき）
３．条約法（１）ー条約の成立
４．条約法（２）ー留保
５．条約法（３）ー条約の無効など

第２部　国際法の適用・実施
６．国際法の国内的適用ー日本の場合を中心に

7．国家責任（1）ー国家責任の成立
8．国家責任（2）ー国家責任の追及
9．紛争の平和的処理
１０．紛争の司法的解決（1）－国際司法裁判所の手続
１１．紛争の司法的解決（2）ー国際司法裁判所の活動
１２．国際司法裁判所についての DVD 鑑賞
１３．紛争の司法的解決（3）ー紛争処理の「司法化」
１４．日本と国際裁判
１５．国連の政治的機関による紛争処理

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J40058002
科目名	国際法 II	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law II		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法 II では、分権的な国際社会における国際法の形成ならびに適用・実施について講義する。第１部では、国際法の法源である慣習法や条約がどのように作られるのかなどについて説明する。第２部では、国内社会と国際社会における国際法の適用・実施について講義し、国際違法行為に対する国家責任の成立・追及や国際裁判所などによる紛争の平和的処理などについて説明する。また、国際司法裁判所についての DVD 鑑賞も行う予定である。 講義では、国際社会と国内社会の相違を踏まえ、日本などの具体的事例なども頻繁に取り上げながら国際法の形成や適用・実施のプロセスを通じて国際法秩序の独自の性格を分かりやすく説明するようにしたい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門〜逆から学ぶ〜』（法律文化社、２０１４年） 毎回講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第２版］』（東信堂、２０１３年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、２００９年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）	国際司法裁判所の活動に関するビデオ教材を用いる。		
評価方法	毎回行う小テスト（４０％）、定期試験（６０％） 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．分権的な国際社会で国際法（条約や慣習法）がどのように形成されるのか理解する。 ２．国際紛争の平和的処理の全体像を把握する。 ３．分権的な国際社会における国際裁判の役割、手続ならびに課題について把握する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		
受講者への要望			
１．六法を必ず持参すること。 ２．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。 ３．講義では、適宜休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。			
講義の順序とポイント			
第１部　国際法の成立 １．受講ガイダンス、国際法の法源 ２．国際法の法源（つづき） ３．条約法（１）ー条約の成立 ４．条約法（２）ー留保 ５．条約法（３）ー条約の無効など 第２部　国際法の適用・実施 ６．国際法の国内的適用ー日本の場合を中心に			

7．国家責任（1）ー国家責任の成立
8．国家責任（2）ー国家責任の追及
9．紛争の平和的処理
１０．紛争の司法的解決（1）－国際司法裁判所の手続
１１．紛争の司法的解決（2）ー国際司法裁判所の活動
１２．国際司法裁判所についての DVD 鑑賞
１３．紛争の司法的解決（3）ー紛争処理の「司法化」
１４．日本と国際裁判
１５．国連の政治的機関による紛争処理

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J40060001
科目名	国際法Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law Ⅲ		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法Ⅲでは、国連などの国際機構を中心にして国際社会の公益を保護するための協力の国際法について講義する。国家間の相互依存が深まる現在の国際社会では、平和の維持などの国際社会の共通・一般の利益を保護するために、諸国家が場合によっては国益を犠牲にしてまで連帯し協力しあうことが求められる。そこで重要な役割を担うのが国際機構である。本講義では、まず国連を中心として国際機構の役割について説明し（第１部）、次に平和の維持、貿易および環境保全などの分野における国際法について講義する（第２部）。また、国連の活動に関する DVD 鑑賞も予定している。 講義では、各分野における具体例や実態にもできるだけ触れながら、諸国家の国際協力がいかに重要でかつ困難であるのか分かりやすく理解できるように心がけたい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門～逆から学ぶ～』（法律文化社、２０１４年） 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第２版］』（東信堂、２０１３年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 山形英郎編『国際法入門（仮題）』（法律文化社、２０１４年４月刊行予定） 【条約集】 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、２００９年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）	国連の活動に関するビデオ教材を用いる。		
評価方法	毎回行う小テスト（４０％）、定期試験（６０％） 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．相互依存が深まる国際社会の中での国際機構の意義や組織構造を理解する。 ２．国連の集団安全保障体制の仕組みと展開を把握する。 ３．条約などを通じた環境保全の仕組みと国際協力の意義を把握する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		
受講者への要望			
１．六法を必ず持参すること。 ２．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。 ３．講義では、休憩を取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。			
講義の順序とポイント			
第１部　国際社会の組織化と国際機構 １．受講ガイダンス、国際機構の展開（１）ー第二次大戦まで ２．国際機構の展開（２）ー第二次大戦以降 ３．国際機構の設立および組織構造－国連を中心に ４．国際機構の表決手続 ５．国連の活動に関する DVD 鑑賞			

６．地域的国際機構の活動

第２部　国際公益のための国際協力
７．平和の維持（１）ー国際連盟における戦争の禁止と集団安全保障
８．平和の維持（２）ー国連における武力行使の禁止との集団安全保障
９．平和の維持（３）ー自衛権、国連の平和維持活動
１０．平和の維持（４）ー軍縮、国際人道法
１１．国際公域における国際協力
１２．経済的国際協力
１３．環境保全（１）ー展開・基本原則
１４．環境保全（２）ー地球温暖化の防止
１５．環境保全（３）－生物多様性の保全

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J40065001
科目名	国際経済法	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economic Law		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、国際貿易・海外投資・国際金融を中心にして国際経済に関わる国際法について講義する。現代では、経済分野の国内法や政策、さらには私たちの日常生活も国際経済と密接に関わっている。また、貿易や海外投資に関する紛争が国際法に依拠して司法的に解決される事例が急増しており、国際経済法の知識や考え方の習得はますます重要になっている。 講義では、日本に関わる具体的な事例や TPP などの時事問題にも触れながら、WTO 体制、海外投資、国際金融・通貨を中心しながら国際経済についての法的枠組みについて分かりやすく説明していきたい。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。講義レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考文献）	【教科書】 中川淳司ほか『国際経済法［第２版］』（有斐閣、２０１２年） 小室程夫『新版　国際経済法』（東信堂、２００７年） 滝川敏明『WTO 法［第２版］』（三省堂、２０１０年） 中川淳司『WTO－貿易自由化を超えて』（岩波新書、２０１３年） 【判例集】 松下満雄ほか編『ケースブック WTO 法』（有斐閣、２００９年） 【条約集】 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、２００９年） 小原喜雄ほか編『国際経済条約・法令集［第２版］』（東信堂、２００２年）		
教材（その他）			
評価方法	講義の最後に毎回行う小テスト（６０％）。レポート（４０％）。 詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．国際経済法が私たちの日常生活とどのように関わっているのか理解する。 ２．WTO 体制を中心にした国際貿易の法的枠組みを理解する。 ３．海外投資や国際金融についての法的枠組みを理解する。		
準備学習	講義を終了する際に、次回の講義内容を指定し、レジュメを配布するので、事前に目を通してくること。		

受講者への要望

１．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。
２．講義では、休憩も取ることもあるので集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

導入部
１．受講ガイダンス、国際経済秩序と国際法

第１部　国際貿易と国際法
２．貿易に関する国際法の展開
３．GATT の成立と展開
４．WTO 体制の成立と概要
５．WTO の紛争解決手続
６．WTO におけるサービス貿易
７．WTO における知的財産権
８．WTO における農業貿易
９．WTO と地域経済統合
１０．WTO と途上国
１１．WTO と非貿易的価値

第２部　海外投資および国際金融と国際法

１２．海外投資に関する国際法の展開
１３．投資紛争解決
１４．国際金融に関する国際法の展開
１５．ＩＭＦ・世界銀行の組織構造と活動

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J40068A01
科目名	労働法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law I		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	労働法の領域には、個別的労働関係法と集団的労働関係法という２つの主要な領域がある。いずれの分野も重要であるが、近年における労働立法の動向（パートタイム労働法および育児・介護休業法、労働契約法の成立、並びに、労働基準法および男女雇用機会均等法等の改正など）や、労働法を初めて学ぶ人にとっての必要性等から、本講義は「個人としての労働者」に焦点をあてて前者に比重を置きながら基礎的な展開する。 まず、労働基準法および労働契約法を中心に、採用内定、労働契約の内容、賃金・退職金、労働時間法制、および解雇など、労働契約の成立から終了に至るまでの過程で生じる様々な法律問題および集団的労働関係法のうち「労働法Ⅰ」を理解するために必要な基礎的事項を検討する。		
教材（テキスト）	水町勇一郎『労働法〔第５版〕』（有斐閣、2014 年）3400 円＋税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第８版〕」（有斐閣、2009 年）2476 円＋税		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第１０版〕』（有斐閣、2012 年）　5300 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則１回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	職場において必要とされる法律知識のうち、本講義では個別的労働法に比重をおいてて講義を進めていく。最低限知っておいた方がよいと思われる労働法の基礎的な知識や判例理論等を身に着けてもらうことが本講義の到達目標である。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。

また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第１回　講義の進め方・その他諸注意
第２回　労働法の概観（歴史・労働法とは）
第３回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合）
第４回　労働契約と権利・義務
第５回　就業規則
第６回　労働協約
第７回　募集・採用内定
第８回　男女雇用平等
第９回　解雇・労働契約の終了（１）
第 10 回　解雇・労働関係の終了（２）
第 11 回　賃金・退職金（１）
第 12 回　賃金・退職金（２）
第 13 回　労働時間（１）
第 14 回　労働時間（２）
第 15 回　最近の個別的労働法をめぐる諸問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待					★	

年度	2015	授業コード	J40068A02
科目名	労働法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law I		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	労働法の領域には、個別的労働関係法と集団的労働関係法という２つの主要な領域がある。いずれの分野も重要であるが、近年における労働立法の動向（パートタイム労働法および育児・介護休業法、労働契約法の成立、並びに、労働基準法および男女雇用機会均等法等の改正など）や、労働法を初めて学ぶ人にとっての必要性等から、本講義は「個人としての労働者」に焦点をあてて前者に比重を置きながら基礎的な展開する。 まず、労働基準法および労働契約法を中心に、採用内定、労働契約の内容、賃金・退職金、労働時間法制、および解雇など、労働契約の成立から終了に至るまでの過程で生じる様々な法律問題および集団的労働関係法のうち「労働法Ⅰ」を理解するために必要な基礎的事項を検討する。		
教材（テキスト）	水町勇一郎『労働法〔第５版〕』（有斐閣、2014 年）3400 円＋税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第８版〕」（有斐閣、2009 年）2476 円＋税		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第１０版〕』（有斐閣、2012 年）　5300 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則１回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	職場において必要とされる法律知識のうち、本講義では個別的労働法に比重をおいてて講義を進めていく。最低限知っておいた方がよいと思われる労働法の基礎的な知識や判例理論等を身に着けてもらうことが本講義の到達目標である。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。

また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第１回　講義の進め方・その他諸注意
第２回　労働法の概観（歴史・労働法とは）
第３回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合）
第４回　労働契約と権利・義務
第５回　就業規則
第６回　労働協約
第７回　募集・採用内定
第８回　男女雇用平等
第９回　解雇・労働契約の終了（１）
第 10 回　解雇・労働関係の終了（２）
第 11 回　賃金・退職金（１）
第 12 回　賃金・退職金（２）
第 13 回　労働時間（１）
第 14 回　労働時間（２）
第 15 回　最近の個別的労働法をめぐる諸問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待					★	

年度	2015	授業コード	J40068B01
科目名	労働法Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law Ⅱ		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	本講義では、労働法の領域のうち、個別的労働関係法のなかの応用的な事項につき、講義科目「労働法Ⅰ」を履修していることを前提に、学説・判例等も踏まえたうえでより深く学んでいく。 法理論的には少し難しい問題もあるが、上記の事項における基本的な知識を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	水町勇一郎『労働法〔第5版〕』（有斐閣、2014年）3400円＋税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第8版〕」（有斐閣、2009年）2476円＋税		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第10版〕』（弘文堂、2012年）5300円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則1回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）およびレポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	社会人として求められる労働法の基礎知識を判例等も踏まえたうえで理解すること。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。できれば講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持っていただきたい。
　また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第1回　講義の進め方・その他諸注意
第2回　配置転換・出向
第3回　時間外労働・休日労働（1）
第4回　時間外労働・休日労働（2）
第5回　年次有給休暇
第6回　派遣労働（1）
第7回　派遣労働（2）
第8回　パートタイム労働
第9回　女性労働・年少労働
第10回　外国人労働
第11回　職場規律・懲戒
第12回　災害補償（1）
第13回　災害補償（2）
第14回　労働関係紛争の解決手続
第15回　最近の個別的労働法をめぐる諸問題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J40068B02
科目名	労働法Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law Ⅱ		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	本講義では、労働法の領域のうち、個別的労働関係法のなかの応用的な事項につき、講義科目「労働法Ⅰ」を履修していることを前提に、学説・判例等も踏まえたうえでより深く学んでいく。 法理論的には少し難しい問題もあるが、上記の事項における基本的な知識を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	水町勇一郎『労働法〔第5版〕』（有斐閣、2014年）3400円＋税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第8版〕」（有斐閣、2009年）2476円＋税		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第10版〕』（弘文堂、2012年）5300円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則1回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）およびレポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	社会人として求められる労働法の基礎知識を判例等も踏まえたうえで理解すること。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。できれば講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持っていただきたい。
　また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第1回　講義の進め方・その他諸注意
第2回　配置転換・出向
第3回　時間外労働・休日労働（1）
第4回　時間外労働・休日労働（2）
第5回　年次有給休暇
第6回　派遣労働（1）
第7回　派遣労働（2）
第8回　パートタイム労働
第9回　女性労働・年少労働
第10回　外国人労働
第11回　職場規律・懲戒
第12回　災害補償（1）
第13回　災害補償（2）
第14回　労働関係紛争の解決手続
第15回　最近の個別的労働法をめぐる諸問題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J40070001
科目名	社会保障法	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Security Law		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	伝統的な市民法では、老齢・障がい・貧困などは個人の責任で対処すべきものとされていた。憲法に規定される生存権（25 条）を、労働法とは異なり、私的契約関係を媒介とせずに、直接的に実現しようとする法分野が社会保障法である。 それには大きく（１）社会保険（医療・介護・労災・雇用・年金)、（２）社会福祉（老人・児童・障がい者)、（３）生活扶助の法が含まれる。このように、その範囲はきわめて広く多様である。		
教材（テキスト）	西村健一郎『社会保障法入門〔第 2 版〕』（有斐閣、2014 年）2100 円＋税 西村健一郎ほか編「社会保障判例百選〔第 4 版〕」（有斐閣、2008 年）2600 円＋税		
教材（参考文献）	小西國友『社会保障法』（有斐閣、2001 年）3200 円＋税 西村健一郎『社会保障法』（有斐閣、2003 年）3500 円＋税		
教材（その他）	その他の参考文献等については開講時に指示する。		
評価方法	出席を前提に、期末試験（80%）および授業内小テスト等（20%）で評価する予定である。		
到達目標	社会保障法全体像の基本的な枠組みと各論点を理解することを目標とする。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持ち、また、次回の授業項目について、関連する新聞記事を最低１つは入手しておくこと。		
受講者への要望			
教科書および百選は必ず持参すること。また、社会保障に関する制度は非常に複雑になっているため、教科書以外の参考書や厚生白書等を参照し、さらにＴＶニュースや新聞記事等にも大いに関心をもつこと。 また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。			
講義の順序とポイント			
第１回　講義の進め方・その他諸注意 第２回　社会保障法とは　社会保障法の体系 第３回　医療保険法（１）　健康保険法 第４回　医療保険法（２）　国民健康保険法 第５回　年金保険法（１）　国民年金法 第６回　年金保険法（２）　厚生年金保険法 第７回　介護保険法 第８回　授業内小テスト 第９回　労災保険法 第 10 回　雇用保険法 第 11 回　児童手当　児童福祉　母子福祉　障がい者福祉 第 12 回　高齢者福祉　生活保護法 第 13 回　社会保障法総論　社会保障法の共通事項　憲法と条約 第 14 回　社会保障法総論　権利救済 第 15 回　最近の社会保障法をめぐる諸問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J40070002
科目名	社会保障法	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Security Law		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	伝統的な市民法では、老齢・障がい・貧困などは個人の責任で対処すべきものとされていた。憲法に規定される生存権（25 条）を、労働法とは異なり、私的契約関係を媒介とせずに、直接的に実現しようとする法分野が社会保障法である。 それには大きく（１）社会保険（医療・介護・労災・雇用・年金)、（２）社会福祉（老人・児童・障がい者)、（３）生活扶助の法が含まれる。このように、その範囲はきわめて広く多様である。		
教材（テキスト）	西村健一郎『社会保障法入門〔第 2 版〕』（有斐閣、2014 年）2100 円＋税 西村健一郎ほか編「社会保障判例百選〔第 4 版〕」（有斐閣、2008 年）2600 円＋税		
教材（参考文献）	小西國友『社会保障法』（有斐閣、2001 年）3200 円＋税 西村健一郎『社会保障法』（有斐閣、2003 年）3500 円＋税		
教材（その他）	その他の参考文献等については開講時に指示する。		
評価方法	出席を前提に、期末試験（80%）および授業内小テスト等（20%）で評価する予定である。		
到達目標	社会保障法全体像の基本的な枠組みと各論点を理解することを目標とする。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持ち、また、次回の授業項目について、関連する新聞記事を最低１つは入手しておくこと。		
受講者への要望			
教科書および百選は必ず持参すること。また、社会保障に関する制度は非常に複雑になっているため、教科書以外の参考書や厚生白書等を参照し、さらにＴＶニュースや新聞記事等にも大いに関心をもつこと。 また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。			
講義の順序とポイント			
第１回　講義の進め方・その他諸注意 第２回　社会保障法とは　社会保障法の体系 第３回　医療保険法（１）　健康保険法 第４回　医療保険法（２）　国民健康保険法 第５回　年金保険法（１）　国民年金法 第６回　年金保険法（２）　厚生年金保険法 第７回　介護保険法 第８回　授業内小テスト 第９回　労災保険法 第 10 回　雇用保険法 第 11 回　児童手当　児童福祉　母子福祉　障がい者福祉 第 12 回　高齢者福祉　生活保護法 第 13 回　社会保障法総論　社会保障法の共通事項　憲法と条約 第 14 回　社会保障法総論　権利救済 第 15 回　最近の社会保障法をめぐる諸問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J40071001
科目名	経済法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Competition Law Ⅰ		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	経済法
講義概要	スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。そして、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。 　この授業では、市場経済をうまく機能させるために不可欠な「競争」を守る「独占禁止法」の基本的な仕組み及び、競争への悪影響が大きな「入札談合」などの「カルテル」と「私的独占」を中心に学びます。		
教材（テキスト）	・川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法 第４版』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）	・船田正之・金井貴嗣・泉水文雄編 『経済法判例・審決百選』（有斐閣、２０１０年） ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法』（有斐閣、２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポート等 40%） 小テスト２回（60%）		
到達目標	入札談合などのカルテルの仕組みと独占禁止法上の基本概念を理解し、基本的な事例について、独占禁止法を適用して判断することができるようになる。		
準備学習	企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること。 各回の講義で指示する教科書の該当箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席すること。			
講義の順序とポイント			
１．市場経済と競争 ２．独占禁止法の目的と企業結合 ３．独占禁止法の全体像と不公正な取引方法 ４．不当な取引制限①（入札談合） ５．不当な取引制限②（規制の概要） ６．不当な取引制限③（行為要件） ７．不当な取引制限④(弊害要件) ８． 前半のまとめと小テスト１ ９．事業者団体に対する規制 １０．私的独占①（規制の概要） １１．私的独占②（排除型私的独占） １２・私的独占③（支配型私的独占） １３．エンフォースメント①（全体像・公正取引委員会） １４．エンフォースメント②（民事救済・刑事罰） １５．独占禁止法の課題と小テスト２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J40071002
科目名	経済法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Competition Law I		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	経済法
講義概要	スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。そして、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。 　この授業では、市場経済をうまく機能させるために不可欠な「競争」を守る「独占禁止法」の基本的な仕組み及び、競争への悪影響が大きな「入札談合」などの「カルテル」と「私的独占」を中心に学びます。		
教材（テキスト）	・川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法 第４版』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）	・船田正之・金井貴嗣・泉水文雄編 『経済法判例・審決百選』（有斐閣、２０１０年） ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法』（有斐閣、２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポート等 40%） 小テスト２回（60%）		
到達目標	入札談合などのカルテルの仕組みと独占禁止法上の基本概念を理解し、基本的な事例について、独占禁止法を適用して判断することができるようになる。		
準備学習	企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること。 各回の講義で指示する教科書の該当箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席すること。			
講義の順序とポイント			
１．市場経済と競争 ２．独占禁止法の目的と企業結合 ３．独占禁止法の全体像と不公正な取引方法 ４．不当な取引制限①（入札談合） ５．不当な取引制限②（規制の概要） ６．不当な取引制限③（行為要件） ７．不当な取引制限④(弊害要件) ８． 前半のまとめと小テスト１ ９．事業者団体に対する規制 １０．私的独占①（規制の概要） １１．私的独占②（排除型私的独占） １２・私的独占③（支配型私的独占） １３．エンフォースメント①（全体像・公正取引委員会） １４．エンフォースメント②（民事救済・刑事罰） １５．独占禁止法の課題と小テスト２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J40076001
科目名	地方自治論	単位数	2
科目名（英語表記）	Local Autonomy		
担当者名	長澤　高明	旧科目名称	
講義概要	本講義は現代日本の自治体が抱えている問題点を理解し、解決の方途を探るために、基礎的知識を提供することを目的としています。テキストは使用しません。毎回レジュメを配付します。話が抽象的にならないように常に具体的な問題を提示しながら説明します。まだ社会人としての生活を送っていない学生諸君にとって地方自治はピンとこない分野かもしれませんが、今の諸君の生活にも密接にかかわる分野であるということをきちんと理解できる講義にしたいと思っています。新聞記事も題材に取り上げます。		
教材（テキスト）	使用しません。		
教材（参考文献）	そのつど指示しますが、さしあたり、今井照『図解　よくわかる地方自治のしくみ　第３次改訂版』学陽書房、２００８。		
教材（その他）			
評価方法	定期試験５０％、レポート５０％。 定期試験は、基礎用語の理解と論述問題をくみあわせたもの。 レポートは、２０００字程度。テーマは各自が設定する。最終講義時までに担当者に直接手渡すこと。 もちろん講義への積極的な姿勢も加味して評価する。		
到達目標	自分の住んでいる自治体の出している議会報告や広報を読んで理解できるようになること。また新聞の地方版を読んで理解できるようになること。		
準備学習	毎日、新聞に目を通す習慣をつけ、疑問を感じた事柄を自分で調べておくこと。		

受講者への要望

諸君とともに問題を考えながら講義し、時には諸君にマイクを向けることもあるので常に頭をフル回転の状態にしておくこと。また、受講者の人数にもよるが、諸君を複数のグループに分けて討論してもらうこともあるので、積極的に発言すること。

講義の順序とポイント

1　地方自治についての私たちの知識と意識の確認。
2　地方自治体についての基礎知識。住民自治と団体自治。
3　自治体の権力とサービス。自治体の仕事について考える。
4　自治体の成立過程とその必然性について考える。
5　明治期以降の自治体について。版籍奉還や廃藩置県の意味を再確認する。
6　第二次世界大戦後の自治体について。戦後改革の意味を考える。
7　政策と手段①：都市型社会の到来とそれへの対応。少子高齢化問題を考える。
8　政策と手段②：公共事業と政策評価システム。ダム問題や空港問題についても考える。
9　自治体の地域経営と条例。さまざまな条例について紹介する。
１０　財務と運営：国税と地方税。直接税と間接税。補助金。
１１　直接請求権と常設型住民投票について考える。
１２　市民活動とＮＰＯについて考える。
１３　地方議会と地方公務員の役割について考える。
１４　首長のリーダーシップとは何かについて考える。
１５　全般をまとめ、今後何を考えなければならないか、皆で議論する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	

年度	2015	授業コード	J40077001
科目名	地方自治法	単位数	2
科目名（英語表記）	Local Autonomy Law		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	これまで、数次にわたる「地方分権改革」及び「地域主権改革」が検討・実施されてきた。 他方、地方自治体をめぐる個別的課題は、観光の振興、議会改革、市民参加、さらには地域公共交通の維持確保、公立病院における医師確保の問題など山積している。 この講義では、地方自治法に関する基礎的理解を深めるとともに、亀岡市を中心とした個別・具体的な事例を参考に地方自治の課題を考えていきたい。 亀岡市の職員の方に講義の大部分を担当していただき、行政実務を学ぶ。		
教材（テキスト）	テキストは使用せず、講義の際、レジュメ、資料を配付する。		
教材（参考文献）	必要に応じ、講義の際に紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（70%）出席状況等による。　授業内レポート（30%） 定期試験は予定していないので必ず出席すること。授業内レポートは全 15 回のうち 11 回分の講義で課す予定。		
到達目標	地方自治のしくみを理解するとともに、その現代的課題について認識を深める。		
準備学習	講義終了時に、毎回、感想レポートを提出する。 次回のテーマについて参考文献を指定するので予習すること。		
受講者への要望			
憲法の各科目は履修すること。行政法の各科目も履修済みか同時に履修していること。六法は必ず持参のこと。 遅刻や私語を厳禁とする。私語が過ぎれば他者への迷惑を勘案し退出を求める。 携帯の電源は授業中ＯＦＦにしておくこと。			
講義の順序とポイント			
※　おおよそ以下のような内容を予定しているが、亀岡市役所との協議の結果等に応じて、テーマを変更する可能性がある。 1　　オリエンテーション、地方自治制度（1） 2　　地方自治制度（2） 3　　地方自治制度（3） 4　　議会のしくみと活動について 5　　上下水道事業の推進について 6　　観光行政について 7　　市民協働のまちづくりについて 8　　少子化対策・子育て支援について 9　　小中学校教育の現状と特色について １０　地域防災について １１　資源循環型まちづくりの推進について １２　地域公共交通について １３　病院経営について １４　亀岡市のまちづくりについて １５　亀岡市の今後の課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	J40079001
科目名	憲法Ⅰ（憲法総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law I (General Part)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	日本国憲法について、基本原理と全体像を入門的な位置づけで学ぶ。 憲法の意味、基本的人権、統治機構の概略を学ぶとともに、現在の改憲の動きを見据える。、		
教材（テキスト）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』(法律文化社、2014 年)		
教材（参考文献）	市川正人・倉田原志編『憲法入門』(法律文化社、2012 年)		
教材（その他）			
評価方法	定期試験(80%)　平常点(20%)出席状況等による。		
到達目標	憲法の意味、日本国憲法の成立、基本的人権、統治機構について学説と判例の基本的な知識を習得する。 2 回生以降、憲法Ⅱ(基本的人権)、憲法Ⅲ(統治機構)を学ぶための基礎学力を養成する。		
準備学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、該当する憲法の条文、教科書の該当頁を読んで予習する。		

受講者への要望

講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。
それ以外に、テレビや新聞で取り上げられている憲法問題にも注目してほしい。憲法についてはさまざまな立場があるが、一方的な情報に基づいて判断するのではなく、講義で取り上げる憲法の基本原理、学説・判例を習得したうえで現在の諸問題について多角的に検討する力をつけてほしい。

講義の順序とポイント

1．憲法とは何か
2．平和主義①
3．平和主義②
4．基本的人権とは
5．信教の自由と政教分離
6．表現の自由
7．家族
8．生存権
9．教育を受ける権利
10．内閣・国会
11．選挙制度と政党
12．地方自治
13．天皇制
14．改憲手続
15．改憲の動き

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J40079002
科目名	憲法Ⅰ（憲法総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law I (General Part)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	日本国憲法について、基本原理と全体像を入門的な位置づけで学ぶ。 憲法の意味、基本的人権、統治機構の概略を学ぶとともに、現在の改憲の動きを見据える。、		
教材（テキスト）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』(法律文化社、2014 年)		
教材（参考文献）	市川正人・倉田原志編『憲法入門』(法律文化社、2012 年)		
教材（その他）			
評価方法	定期試験(80%)　平常点(20%)出席状況等による。		
到達目標	憲法の意味、日本国憲法の成立、基本的人権、統治機構について学説と判例の基本的な知識を習得する。 2 回生以降、憲法Ⅱ(基本的人権)、憲法Ⅲ(統治機構)を学ぶための基礎学力を養成する。		
準備学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、該当する憲法の条文、教科書の該当頁を読んで予習する。		

受講者への要望

講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。
それ以外に、テレビや新聞で取り上げられている憲法問題にも注目してほしい。憲法についてはさまざまな立場があるが、一方的な情報に基づいて判断するのではなく、講義で取り上げる憲法の基本原理、学説・判例を習得したうえで現在の諸問題について多角的に検討する力をつけてほしい。

講義の順序とポイント

1．憲法とは何か
2．平和主義①
3．平和主義②
4．基本的人権とは
5．信教の自由と政教分離
6．表現の自由
7．家族
8．生存権
9．教育を受ける権利
10．内閣・国会
11．選挙制度と政党
12．地方自治
13．天皇制
14．改憲手続
15．改憲の動き

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J40081001
科目名	憲法Ⅱ（基本的人権）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law Ⅱ (Fundamental Human Rights)		
担当者名	大西　貴之	旧科目名称	
講義概要	本講義では、憲法学における基本的人権に関する部分を取り扱います。 まず基本的人権一般に関わる総論部分（基本的人権の歴史、分類とその享有主体、限界）について学び、それを踏まえて個別の人権規定についての理解を深めていきます。 憲法の条文や関連する専門的概念には抽象的で曖昧なものが数多くありますが、その意味は各々の時代や社会を生きる人々によって具体的な現実の中でどのように解釈されてきたかを理解することでより一層明らかになるものです。そこで本講義では、具体的な事例を出発点として、また可能な限り多くの判例を取り上げることによって、具体的局面における各々の人権の内容やその限界について検討していきます。 さらに基本的人権に関する論述問題を授業外の課題として数回設定します（提出は任意）。具体的な状況において自らが拠って立つ見解を説得的に論じるための訓練としてこの機会を活かしてください。		
教材（テキスト）	渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法１　人権［第５版］』（有斐閣） 野中俊彦・江橋崇『憲法判例集［第 10 版］』（有斐閣）		
教材（参考文献）	各回の個別分野に関連する文献については、講義の中でその都度指示します。		
教材（その他）	講義用のレジュメを配布します。		
評価方法	定期試験 70%、平常点 30%（講義中に確認テストを 1、2 回程度実施します。）		
到達目標	（１）憲法学における基本的人権および関連する学説や判例についての基本的理解を深めること （２）基本的人権をめぐる諸問題について、自らの意見を（１）を踏まえて説得的に論じること		
準備学習	各回の講義終了時に教科書の次回該当部分を指示するので、予習として必ず一読しておいてください。また各回のレジュメには内容確認のための問題を付しているので、復習に利用してください。さらに記憶の定着や定期試験の準備のために、毎回の講義内容やレジュメをまとめた自分専用のノートを作成することをお勧めします。		

受講者への要望

受講に際しては積極的な態度で臨んでください。また日々の生活でもニュースや新聞に目を通す時など、憲法との関わりを意識して下さい。
私語など講義を妨害する行為については厳正な対応をします。
講義で配布する資料を集めてテスト前に勉強するだけでは、単位の取得は難しいと考えてください。

講義の順序とポイント

1. 人身の自由
居住・移転の自由、奴隷的拘束からの自由
2. 適正手続の保障、国務請求権
被疑者・被告人の権利、裁判を受ける権利
3. 生存権
生存権を具体化する様々な法律、生存権の法的性格
4. 教育を受ける権利、労働基本権
学習権、教育権の所在、労働基本権の保障内容
5. 職業選択の自由
営業の自由、規制の諸類型、規制目的二分論
6. 財産権の保障
私有財産制と所有権、「正当な補償」
7. 思想・良心の自由、学問の自由
思想・良心の自由の意義と保障内容、先端科学技術と研究の自由、大学の自治
8. 表現の自由
表現の自由の価値、表現の自由の保障内容、表現の自由規制の諸法理
9. 信教の自由
信教の自由の保障内容とその限界、政教分離原則
10. 集会・結社の自由
保障内容とその限界、公安条例や道路交通法による諸規制
11. 包括的基本権

幸福追求権、新しい人権
12. 法の下の平等
何を平等とするのか、平等保障の具体的制度、差別をめぐる諸問題
13. 基本的人権の歴史
人権思想はどのような歴史をたどってきたのか、人権の社会化・国際化
14. 基本的人権の分類とその享有主体
人権の観念とその内容、人権は誰に帰属するのか―外国人や法人の場合
15. 基本的人権の限界
人権を制約するための根拠、特別権力関係、人権の私人間効力

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J40081002
科目名	憲法Ⅱ（基本的人権）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law Ⅱ (Fundamental Human Rights)		
担当者名	大西　貴之	旧科目名称	
講義概要	本講義では、憲法学における基本的人権に関する部分を取り扱います。 まず基本的人権一般に関わる総論部分（基本的人権の歴史、分類とその享有主体、限界）について学び、それを踏まえて個別の人権規定についての理解を深めていきます。 憲法の条文や関連する専門的概念には抽象的で曖昧なものが数多くありますが、その意味は各々の時代や社会を生きる人々によって具体的な現実の中でどのように解釈されてきたかを理解することでより一層明らかになるものです。そこで本講義では、具体的な事例を出発点として、また可能な限り多くの判例を取り上げることによって、具体的局面における各々の人権の内容やその限界について検討していきます。 さらに基本的人権に関する論述問題を授業外の課題として数回設定します（提出は任意）。具体的な状況において自らが拠って立つ見解を説得的に論じるための訓練としてこの機会を活かしてください。		
教材（テキスト）	渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法１　人権［第５版］』（有斐閣） 野中俊彦・江橋崇『憲法判例集［第 10 版］』（有斐閣）		
教材（参考文献）	各回の個別分野に関連する文献については、講義の中でその都度指示します。		
教材（その他）	講義用のレジュメを配布します。		
評価方法	定期試験 70%、平常点 30%（講義中に確認テストを 1、2 回程度実施します。）		
到達目標	（１）憲法学における基本的人権および関連する学説や判例についての基本的理解を深めること （２）基本的人権をめぐる諸問題について、自らの意見を（１）を踏まえて説得的に論じること		
準備学習	各回の講義終了時に教科書の次回該当部分を指示するので、予習として必ず一読しておいてください。また各回のレジュメには内容確認のための問題を付しているので、復習に利用してください。さらに記憶の定着や定期試験の準備のために、毎回の講義内容やレジュメをまとめた自分専用のノートを作成することをお勧めします。		

受講者への要望

受講に際しては積極的な態度で臨んでください。また日々の生活でもニュースや新聞に目を通す時など、憲法との関わりを意識して下さい。
私語など講義を妨害する行為については厳正な対応をします。
講義で配布する資料を集めてテスト前に勉強するだけでは、単位の取得は難しいと考えてください。

講義の順序とポイント

1. 人身の自由
居住・移転の自由、奴隷的拘束からの自由
2. 適正手続の保障、国務請求権
被疑者・被告人の権利、裁判を受ける権利
3. 生存権
生存権を具体化する様々な法律、生存権の法的性格
4. 教育を受ける権利、労働基本権
学習権、教育権の所在、労働基本権の保障内容
5. 職業選択の自由
営業の自由、規制の諸類型、規制目的二分論
6. 財産権の保障
私有財産制と所有権、「正当な補償」
7. 思想・良心の自由、学問の自由
思想・良心の自由の意義と保障内容、先端科学技術と研究の自由、大学の自治
8. 表現の自由
表現の自由の価値、表現の自由の保障内容、表現の自由規制の諸法理
9. 信教の自由
信教の自由の保障内容とその限界、政教分離原則
10. 集会・結社の自由
保障内容とその限界、公安条例や道路交通法による諸規制
11. 包括的基本権

幸福追求権、新しい人権
12. 法の下の平等
何を平等とするのか、平等保障の具体的制度、差別をめぐる諸問題
13. 基本的人権の歴史
人権思想はどのような歴史をたどってきたのか、人権の社会化・国際化
14. 基本的人権の分類とその享有主体
人権の観念とその内容、人権は誰に帰属するのか―外国人や法人の場合
15. 基本的人権の限界
人権を制約するための根拠、特別権力関係、人権の私人間効力

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J40082001
科目名	憲法Ⅲ（統治機構）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law Ⅲ (Frame of Governm ent)		
担当者名	大西　貴之	旧科目名称	
講義概要	本講義では、憲法学における統治機構に関する部分を取り扱います。本講義は、憲法Ⅱ（基本的人権）の履修を前提として進められます。統治機構はそもそも基本的人権の保障に資することにその存在理由を有しているため、学習においても基本的人権との関連を念頭に置きながら体系的・統合的に理解をすることが重要です。 まず統治機構を含めた憲法全体に関わる基本的な考え方（立憲主義）やその構成原理（国民主権、権力分立、法の支配）を概観してから、次いで具体的な機関や制度（国会、内閣、裁判所、財政、地方自治）のあり方について検討していきます。その際、現行規定の内容を覚えることに終始するのではなく、判例や学説を通してその機関や制度のどのような点が問題とされてきたのかを学びます。 さらに統治機構に関する論述問題を授業外の課題として数回設定します（提出は任意）。具体的な状況において自らが拠って立つ見解を説得的に論じるための訓練としてこの機会を活かしてください。		
教材（テキスト）	渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法２ 統治［第５版］』（有斐閣） 野中俊彦・江橋崇『憲法判例集［第 10 版］』（有斐閣）		
教材（参考文献）	各回の個別分野に関連する文献については、講義の中でその都度指示します。		
教材（その他）	講義用のレジュメを配布します。		
評価方法	定期試験 70％、平常点 30％（講義中に確認テストを 1、2 回程度実施します。）		
到達目標	（１）憲法学における統治機構および関連する学説や判例についての基本的理解を深めること （２）統治機構をめぐる諸問題について、自らの意見を（１）を踏まえて説得的に論じること		
準備学習	各回の講義終了時に教科書の次回該当部分を指示するので、予習として必ず一読しておいてください。また各回のレジュメには内容確認のための問題を付しているので、復習に利用してください。さらに記憶の定着や定期試験の準備のために、毎回の講義内容やレジュメをまとめた自分専用のノートを作成することをお勧めします。		

受講者への要望

受講に際しては積極的な態度で臨んでください。また日々の生活でもニュースや新聞に目を通す時など、憲法との関わりを意識して下さい。
私語など講義を妨害する行為については厳正な対応をします。
講義で配布する資料を集めてテスト前に勉強するだけでは、単位の取得は難しいと考えてください。

講義の順序とポイント

1. 議院内閣制
議会と行政部の関係、内閣総辞職と衆議院の解散
2. 国会
立法の概念、国の唯一の立法機関、法律制定過程
3. 内閣
行政の概念、独立行政委員会の仕組み、内閣の権限
4. 両院制
議院の権限、議員の地位と権限、内閣の組織、内閣総理大臣の地位と権限
5. 裁判所（１）
司法権の意義、法律上の争訟、司法権の限界
6. 裁判所（２）
司法権の独立、裁判所の組織と構成
7. 裁判所（３）
違憲審査制の意義と性格、司法積極主義と消極主義
8. 裁判所（４）
憲法訴訟、文面審査と適用審査、合憲性審査基準
9. 地方自治（１）
地方自治の本旨、地方公共団体の機関
10. 地方自治（２）
地方公共団体の権能、条例制定権の範囲

11．統治機構の構成原理（1）
法の支配、立憲主義の歴史的展開
12．統治機構の構成原理（2）
権力分立
13．統治機構の構成原理（3）
国民主権
14．選挙と政党
選挙制度、政党の地位と自律性
15．立憲主義
憲法規範の特質

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J40082002
科目名	憲法Ⅲ（統治機構）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law Ⅲ (Frame of Governm ent)		
担当者名	大西　貴之	旧科目名称	
講義概要	本講義では、憲法学における統治機構に関する部分を取り扱います。本講義は、憲法Ⅱ（基本的人権）の履修を前提として進められます。統治機構はそもそも基本的人権の保障に資することにその存在理由を有しているため、学習においても基本的人権との関連を念頭に置きながら体系的・統合的に理解をすることが重要です。 まず統治機構を含めた憲法全体に関わる基本的な考え方（立憲主義）やその構成原理（国民主権、権力分立、法の支配）を概観してから、次いで具体的な機関や制度（国会、内閣、裁判所、財政、地方自治）のあり方について検討していきます。その際、現行規定の内容を覚えることに終始するのではなく、判例や学説を通してその機関や制度のどのような点が問題とされてきたのかを学びます。 さらに統治機構に関する論述問題を授業外の課題として数回設定します（提出は任意）。具体的な状況において自らが拠って立つ見解を説得的に論じるための訓練としてこの機会を活かしてください。		
教材（テキスト）	渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法２ 統治［第５版］』（有斐閣） 野中俊彦・江橋崇『憲法判例集［第 10 版］』（有斐閣）		
教材（参考文献）	各回の個別分野に関連する文献については、講義の中でその都度指示します。		
教材（その他）	講義用のレジュメを配布します。		
評価方法	定期試験 70％、平常点 30％（講義中に確認テストを 1、2 回程度実施します。）		
到達目標	（１）憲法学における統治機構および関連する学説や判例についての基本的理解を深めること （２）統治機構をめぐる諸問題について、自らの意見を（１）を踏まえて説得的に論じること		
準備学習	各回の講義終了時に教科書の次回該当部分を指示するので、予習として必ず一読しておいてください。また各回のレジュメには内容確認のための問題を付しているので、復習に利用してください。さらに記憶の定着や定期試験の準備のために、毎回の講義内容やレジュメをまとめた自分専用のノートを作成することをお勧めします。		

受講者への要望

受講に際しては積極的な態度で臨んでください。また日々の生活でもニュースや新聞に目を通す時など、憲法との関わりを意識して下さい。
私語など講義を妨害する行為については厳正な対応をします。
講義で配布する資料を集めてテスト前に勉強するだけでは、単位の取得は難しいと考えてください。

講義の順序とポイント

1. 議院内閣制
議会と行政部の関係、内閣総辞職と衆議院の解散
2. 国会
立法の概念、国の唯一の立法機関、法律制定過程
3. 内閣
行政の概念、独立行政委員会の仕組み、内閣の権限
4. 両院制
議院の権限、議員の地位と権限、内閣の組織、内閣総理大臣の地位と権限
5. 裁判所（１）
司法権の意義、法律上の争訟、司法権の限界
6. 裁判所（２）
司法権の独立、裁判所の組織と構成
7. 裁判所（３）
違憲審査制の意義と性格、司法積極主義と消極主義
8. 裁判所（４）
憲法訴訟、文面審査と適用審査、合憲性審査基準
9. 地方自治（１）
地方自治の本旨、地方公共団体の機関
10. 地方自治（２）
地方公共団体の権能、条例制定権の範囲

11．統治機構の構成原理（1）
法の支配、立憲主義の歴史的展開
12．統治機構の構成原理（2）
権力分立
13．統治機構の構成原理（3）
国民主権
14．選挙と政党
選挙制度、政党の地位と自律性
15．立憲主義
憲法規範の特質

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J40083001
科目名	憲法Ⅳ（憲法訴訟）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law Ⅳ (Constitutional Li tigations)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	憲法講義のうち統治機構の部分に属する司法権、違憲立法審査権の箇所をさらに詳しく憲法訴訟として講義する。		
教材（テキスト）	特に使用しない。		
教材（参考文献）	講義の際に紹介するが、戸松秀典『憲法訴訟［第２版］』は有用である。		
教材（その他）			
評価方法	定期試験（60%）　授業内テスト（20%）　平常点（20%）		
到達目標	憲法訴訟の基本的な論点を学習し、現代における憲法訴訟の意味と役割を理解することを目標にする。		
準備学習	講義の進行に合わせて確認テストをおこなう。講義の復習と次回の範囲に関連する憲法判例を紹介するので、予習してくること。		
受講者への要望			
憲法科目は必ず履修すること。行政法の科目、特に行政法Ⅲは履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．司法権とは何か ２．裁判所の構成 ３．裁判手続 ４．違憲審査制の意義 ５．違憲審査制の性格・主体・対象① ６．違憲審査制の性格・主体・対象② ７．憲法訴訟とは ８．訴えの要件 ９．憲法判断の方法 １０．憲法判断回避 １１．合憲限定解釈 １２．合憲性の判断基準① １３．合憲性の判断基準② １４．裁判の方法・判例変更 １５．憲法訴訟の効果・役割			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J40085001
科目名	行政法Ⅰ（総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law I (Introduction)		
担当者名	石塚　武志	旧科目名称	
講義概要	行政活動と法の関係に関する重要な原理について学習する。国や自治体の行政活動がどのような組織によって成り立っているかについて、法律を参照しつつ学習する。行政保有情報の管理について、法律・条例を参照して学習する。		
教材（テキスト）	櫻井敬子・橋本博之『行政法［第 4 版］』（弘文堂、2013 年）		
教材（参考文献）	宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅰ［第 6 版］』（有斐閣、2012 年） 高橋滋編著『行政法 Visual Materials』（有斐閣、2014 年）		
教材（その他）			
評価方法	時おり課題を提出してもらい、それを平常点として 30 点分として評価します。 定期試験ないしレポート課題を学期末に実施し、70 点分として評価します。		
到達目標	「行政法」は、公務員試験等の試験科目となっている場合があります。そのような試験の受験勉強を進める基礎となる学力を習得することを目標とします。		
準備学習	授業予定を示しますので、テキストの該当箇所を通読してから授業に臨むよう心がけてください。		
受講者への要望			
テキストに指定するものに限りませんが、『行政法』に関する教科書・体系書を何か一つ手にして、学習を進めるようにしてください。授業中に法律の条文を参照することがありますので、六法を持参する等してください。			
講義の順序とポイント			
1. 行政活動と法、具体的な行政活動の例（食品衛生法） 2. 具体的な行政活動の例②（社会保障行政と条例） 3. 具体的な行政活動の例③（まちづくり行政と法律・条例） 4. 行政活動の主体と組織① 5. 行政活動の主体と組織②、地方自治法① 6. 地方自治法② 7. 法律による行政の原理① 8. 法律による行政の原理② 9. 行政活動の手続法的統制 10. 行政救済制度の概要 11. 行政活動に対する信頼の保護 12. 公法と私法 13. 情報公開法 14. 個人情報保護法 15. まとめと復習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J40088001
科目名	行政法Ⅲ（救済法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law Ⅲ (Remedies)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	本学部の行政法は、総論、作用法、救済法の３つの講義で構成される。本講義では、行政救済法の部分を扱う。		
教材（テキスト）	高橋　滋編著『行政法　Visual Materials』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験 60%　授業内テスト 20%　平常点 20%（出席状況等）		
到達目標	国民の権利・利益が行政過程において侵害された場合の救済手段の内容を理解し、それら救済手段の果たす役割についての認識を深める。		
準備学習	教科書はあらかじめ全部を通読し、次週の講義部分は必ず読んでおくこと。		

受講者への要望

公務員試験や行政書士などの資格試験を目指している人は必ず受講すること。
行政法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは必ずすべて履修すること。当然、憲法の科目も必修である。
地方自治法も履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

１．　オリエンテーション－行政法の学び方、行政救済法の体系
２．　行政不服申立て①
３．　行政不服申立て②
４．　行政事件訴訟の概観、種類
５．　取消訴訟の訴訟要件①
６．　取消訴訟の訴訟要件②
７．　取消訴訟の訴訟要件③
８．　取消訴訟の審理、判決、教示
９．　行政事件訴訟法のその他の論点
１０．国家賠償制度
１１．国家賠償法１条
１２．国家賠償法２条
１３．損失補償制度①
１４．損失補償制度②
１５．行政救済法の改正課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J40088002
科目名	行政法Ⅲ（救済法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law Ⅲ (Remedies)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	本学部の行政法は、総論、作用法、救済法の３つの講義で構成される。本講義では、行政救済法の部分を扱う。		
教材（テキスト）	高橋　滋編著『行政法　Visual Materials』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験 60%　授業内テスト 20%　平常点 20%（出席状況等）		
到達目標	国民の権利・利益が行政過程において侵害された場合の救済手段の内容を理解し、それら救済手段の果たす役割についての認識を深める。		
準備学習	教科書はあらかじめ全部を通読し、次週の講義部分は必ず読んでおくこと。		

受講者への要望

公務員試験や行政書士などの資格試験を目指している人は必ず受講すること。
行政法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは必ずすべて履修すること。当然、憲法の科目も必修である。
地方自治法も履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

１．　オリエンテーション－行政法の学び方、行政救済法の体系
２．　行政不服申立て①
３．　行政不服申立て②
４．　行政事件訴訟の概観、種類
５．　取消訴訟の訴訟要件①
６．　取消訴訟の訴訟要件②
７．　取消訴訟の訴訟要件③
８．　取消訴訟の審理、判決、教示
９．　行政事件訴訟法のその他の論点
１０．国家賠償制度
１１．国家賠償法１条
１２．国家賠償法２条
１３．損失補償制度①
１４．損失補償制度②
１５．行政救済法の改正課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J40090001
科目名	民法Ⅰ（総則）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law I (General Provisions)		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法全体に共通するルールである民法第１編「総則」の内容をおおむね条文配列の順序で学習する。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン民法総論〔第２版〕』（日本評論社、2011 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。出席状況、講義中の質問への応答、小テストの結果等を補充的に考慮する。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．民法総則の主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 ２．民法総則の主要論点に関する学説・判例を理解する。 ３．民法全体を体系的に理解するための基礎を形成する。		
準備学習	１．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 ３．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		

受講者への要望

民法総則は民法以外の法分野においても思考方法や制度の基礎となっており、最重要科目のひとつですが、内容が極めて抽象的であるため、難解、退屈といった印象を受ける受講者も多いと思います。最初のうちは我慢も必要です。粘り強く学習を進めてゆきましょう。当然のことですが、受講に際しては必ず「六法」を持参すること。

講義の順序とポイント

１．　受講にあたっての注意／民法とは／民法の法体系における位置／民法の構造
２．　権利の主体（１）　権利能力／意思能力
３．　権利の主体（２）　行為能力／未成年者／成年後見制度
４．　権利の主体（３）　法人
５．　法律行為　法律行為とは何か／強行法規違反・公序良俗違反
６．　不完全な意思表示（１）　心裡留保／虚偽表示／錯誤
７．　不完全な意思表示（２）　詐欺／強迫
８．　無効と取消し
９．　代理（１）　代理権
１０．代理（２）　無権代理
１１．代理（３）　表見代理
１２．時効（１）　時効の意義・存在理由／取得時効
１３．時効（２）　消滅時効／時効の中断・停止
１４．時効（３）　時効の効力／時効と除斥期間
１５．練習問題を通じた総復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J40090002
科目名	民法Ⅰ（総則）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law I (General Provisions)		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法全体に共通するルールである民法第１編「総則」の内容をおおむね条文配列の順序で学習する。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン民法総論〔第２版〕』（日本評論社、2011 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。出席状況、講義中の質問への応答、小テストの結果等を補充的に考慮する。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．民法総則の主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 ２．民法総則の主要論点に関する学説・判例を理解する。 ３．民法全体を体系的に理解するための基礎を形成する。		
準備学習	１．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 ３．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		
受講者への要望			
民法総則は民法以外の法分野においても思考方法や制度の基礎となっており、最重要科目のひとつですが、内容が極めて抽象的であるため、難解、退屈といった印象を受ける受講者も多いと思います。最初のうちは我慢も必要です。粘り強く学習を進めてゆきましょう。当然のことですが、受講に際しては必ず「六法」を持参すること。			
講義の順序とポイント			
１．　受講にあたっての注意／民法とは／民法の法体系における位置／民法の構造 ２．　権利の主体（１）　権利能力／意思能力 ３．　権利の主体（２）　行為能力／未成年者／成年後見制度 ４．　権利の主体（３）　法人 ５．　法律行為　法律行為とは何か／強行法規違反・公序良俗違反 ６．　不完全な意思表示（１）　心裡留保／虚偽表示／錯誤 ７．　不完全な意思表示（２）　詐欺／強迫 ８．　無効と取消し ９．　代理（１）　代理権 １０．代理（２）　無権代理 １１．代理（３）　表見代理 １２．時効（１）　時効の意義・存在理由／取得時効 １３．時効（２）　消滅時効／時効の中断・停止 １４．時効（３）　時効の効力／時効と除斥期間 １５．練習問題を通じた総復習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J40091001
科目名	民法Ⅱ（物権法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Ⅱ (Law of Real Estates)		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	民法典の第 2 編物権について、その前半部分（第 1 章総則～第 6 章地役権）を扱う（175 条から 294 条）。 内容としては物権変動、占有権、所有権、用益物権を扱うことになる。		
教材（テキスト）	千葉恵美子・藤原正則・七戸克彦『民法 2（物権）』有斐閣アルマ		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276 その他は授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	講義中に用いるプレゼン資料を事前に京学なびを通じて提供するし、それを講義までに各自でプリントしてもらうことになる予定。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	債権に対して物権がどのような特徴を持つのかを理解する。 動産及び不動産に対する権利に関する知識を習得する。 後半は土地に対する権利について言及する。どうして土地だけが問題となっているのかを理解する。		
準備学習	・講義用レジュメを事前に（5 日前をめどに）京学なびにアップロードするので、事前にプリントアウトし、不明な法律用語を調べておくこと（調べられているかは講義中に確認する）。 ・講義で説明した箇所について、もう一度教科書その他の基本書を読んで、知識として身につけること。		

受講者への要望

・講義中の出入りは周りの迷惑になる。トイレは休み時間中に済ませること。
・六法は必ず持参すること。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

おおよその目安であるが、次の通りに進める。

1. ガイダンス； 所有権の内容 ― 所有権絶対の原則
2. 所有権に基づく請求権 ― 請求権の意義・根拠・性質・要件・効果
3. 所有権の原始取得 ― 付合・混和・加工；無主物・遺失物
4. 共同所有 1 ― 意義・発生・内容
5. 共同所有 2 ― 消滅・準共有・建物の区分所有
6. 占有の保護 ― 占有訴権
7. 占有と本権 ― 本権の推定・占有による本権の取得（取得時効）
8. 物権変動 ― 物権変動とは何か；契約による不動産物権変動
9. 不動産物権変動 1 ― 不動産物権変動と対抗要件
10. 不動産物権変動 2 ― 登記を要する物権変動・177 条の第三者
11. 不動産物権変動 3 ― 不動産登記制度・登記の推定力と公信力
12. 動産物権変動 ― 対抗要件・立木の物権変動と対抗要件
13. 公信の原則 ― 動産取引の場合・不動産上の物権
14. 物権の性質と効力
15. 物権法定主義の意義

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J40091002
科目名	民法Ⅱ（物権法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Ⅱ (Law of Real Estates)		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	民法典の第 2 編物権について、その前半部分（第 1 章総則～第 6 章地役権）を扱う（175 条から 294 条）。 内容としては物権変動、占有権、所有権、用益物権を扱うことになる。		
教材（テキスト）	千葉恵美子・藤原正則・七戸克彦『民法 2（物権）』有斐閣アルマ		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276 その他は授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	講義中に用いるプレゼン資料を事前に京学なびを通じて提供するし、それを講義までに各自でプリントしてもらうことになる予定。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	債権に対して物権がどのような特徴を持つのかを理解する。 動産及び不動産に対する権利に関する知識を習得する。 後半は土地に対する権利について言及する。どうして土地だけが問題となっているのかを理解する。		
準備学習	・講義用レジュメを事前に（5 日前をめどに）京学なびにアップロードするので、事前にプリントアウトし、不明な法律用語を調べておくこと（調べられているかは講義中に確認する）。 ・講義で説明した箇所について、もう一度教科書その他の基本書を読んで、知識として身につけること。		

受講者への要望

・講義中の出入りは周りの迷惑になる。トイレは休み時間中に済ませること。
・六法は必ず持参すること。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

おおよその目安であるが、次の通りに進める。

1. ガイダンス； 所有権の内容 ― 所有権絶対の原則
2. 所有権に基づく請求権 ― 請求権の意義・根拠・性質・要件・効果
3. 所有権の原始取得 ― 付合・混和・加工；無主物・遺失物
4. 共同所有 1 ― 意義・発生・内容
5. 共同所有 2 ― 消滅・準共有・建物の区分所有
6. 占有の保護 ― 占有訴権
7. 占有と本権 ― 本権の推定・占有による本権の取得（取得時効）
8. 物権変動 ― 物権変動とは何か；契約による不動産物権変動
9. 不動産物権変動 1 ― 不動産物権変動と対抗要件
10. 不動産物権変動 2 ― 登記を要する物権変動・177 条の第三者
11. 不動産物権変動 3 ― 不動産登記制度・登記の推定力と公信力
12. 動産物権変動 ― 対抗要件・立木の物権変動と対抗要件
13. 公信の原則 ― 動産取引の場合・不動産上の物権
14. 物権の性質と効力
15. 物権法定主義の意義

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J40094A01
科目名	法制史Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal History I		
担当者名	小宮山　直子	旧科目名称	法制史ｓ
講義概要	この授業では、主に中世から近代にいたるヨーロッパ法の歴史について学びます。特にフランス・ドイツの近代法の成立と発展について重点を置きます。ヨーロッパ法が明治以降の日本近代法の形成に大きな影響を与えたことを念頭におきつつ、日本とは異なる文化をもつヨーロッパにおける法の発展過程を、当時の社会とのかかわりを含めて考察します。また最後に、明治維新以降の日本における近代法の成立過程を、憲法・民法を中心に考察します。図版や映像などの資料も活用しつつ、授業を進めていきます。		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	岩村等、三成賢次、三成美保著『法制史入門』（ナカニシヤ出版） その他は、講義の中で適宜紹介します。		
教材（その他）	毎回レジュメや資料を配布します。必要に応じて映像資料を活用します。		
評価方法	期末試験７０％ 、平常点（小テスト・レポートなどの課題）３０％		
到達目標	ヨーロッパ法の歴史について基礎的な知識を習得し、さらに日本における近代法成立の過程を学ぶことを目的とします。		
準備学習	毎回の授業で、前回授業内容にかかわる小テスト（もしくは小レポート）を実施するので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回、レジュメを配布しますが、教員の口述内容もしっかりとノートにまとめてください。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス（近代日本における西洋文化の受容） 第２回　中世の社会と法①（中世におけるローマ法の復活） 第３回　中世の社会と法②（中世ヨーロッパ社会の市民と農民） 第４回　近世の社会と法（自然法思想の成立） 第５回　啓蒙期の社会と法 第６回　フランス革命①（旧制度の解体） 第７回　フランス革命②（民法典の成立） 第８回　１９世紀フランスの社会と近代法① 第９回　１９世紀フランスの社会と近代法② 第１０回　１９世紀ドイツの社会と近代法①（法典論争） 第１１回　１９世紀ドイツの社会と近代法②（民法典の成立） 第１２回　フランス・ドイツの戦間期の法 第１３回　明治維新と西洋近代法の受容①（憲法典の成立） 第１４回　明治維新と西洋近代法の受容②（民法典の成立） 第１５回　戦後、社会の変化と法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J40094B01
科目名	法制史Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal History Ⅱ		
担当者名	小宮山　直子	旧科目名称	法制史ｆ
講義概要	この授業では、ヨーロッパそして近代日本の裁判制度の歴史を学びます。ヨーロッパ法は、明治以降の日本における近代法形成に大きな影響を与えましたが、裁判制度も同様です。ヨーロッパについては、ギリシア・ローマ時代、そしてヨーロッパ中世から現代までの裁判を、具体的事件を取りあげながら説明し、最後に明治以降の日本の裁判の展開について考察します。図版や映像資料などを活用しつつ、授業を進めていきます。		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	岩村等・三成賢次・三成美保著『法制史入門』（ナカニシヤ出版） その他は、講義の中で随時紹介します。		
教材（その他）	毎回、レジュメや資料を配布します。必要に応じて映像資料を活用します。		
評価方法	期末試験７０％、平常点（授業内の小テスト・レポートなど）３０％		
到達目標	ヨーロッパにおける裁判の歴史および日本近代における裁判制度の特徴について基礎的な知識を習得することを目標とします。		
準備学習	毎回の授業で、前回授業内容にかかわる小テスト（もしくは小レポート）を実施するので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回、レジュメを配布しますが、教員の口述内容もしっかりとノートにまとめてください。 春学期の続編ですが、秋学期のみの受講も可能です。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス（日本と西洋の裁判の比較） 第２回　ギリシア・ローマの裁判 第３回　古代ゲルマン社会の裁判 第４回　イングランドの裁判（陪審制度の成立） 第５回　近世の裁判①（教会裁判の発展、魔女裁判） 第６回　近世の裁判②（フランス・アンシャンレジーム期） 第７回　フランス革命期 第８回　１９世紀における裁判①（１９世紀、フランス・ドイツの概観） 第９回　１９世紀におけるる裁判②（フランス、ドレフェス事件） 第１０回　２０世紀の裁判①（戦前・戦中） 第１１回　２０世紀の裁判②（戦後） 第１２回　日本・明治維新と西洋近代法の受容 第１３回　明治以降の日本における裁判制度①（刑事裁判） 第１４回　明治以降の日本における裁判制度②（民事裁判） 第１５回　裁判への市民参加制度の国際比較			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J4010100A
科目名	ケーススタディ	単位数	2
科目名（英語表記）	Case Study Seminar		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	独占禁止法に関する判例を取り上げる。独占禁止法の内容は基本的に経済法 I 及び II で学ぶ。この演習では、独占禁止法の内容と手続きを確認するした上で、個々の判例について検討する。		
教材（テキスト）	川濵昇・施療新語・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法　第４版』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）	船田正之・金井貴嗣・泉水文雄編『経済法判例・審決百選』（有斐閣、２０１０年） 金井貴嗣・川濵昇・泉水文雄編『ケースブック独占禁止法　第３版』（弘文堂、２０１３年） その他の参考文献は最初の授業で連絡する。		
教材（その他）	経済法 I を必ず同時に受講すること		
評価方法	平常点（授業内レポート・授業への積極的な参加）３０％ 報告４０％ 学期末レポート３０％		
到達目標	事実関係を正確に読み取り、分かりやすくまとめることができる。 独占禁止法についての理解を深める。		
準備学習	毎回の授業で指示する。		
受講者への要望			
経済法 I を同時に受講すること 十分な予習の時間を確保すること			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション・独占禁止法の基礎知識① 2　独占禁止法の基礎知識② 3　東芝ケミカル事件 4　シール談合事件 5　安藤造園土木事件 6　石油価格カルテル刑事事件 7　日本遊技銃協同組合事件（エアガン事件） 8　独占禁止法の基礎知識③ 9　東洋製缶事件 １０　インテル事件 １１　有線ブロードネットワーク事件 １２　パチンコ機製造特許プール事件 １３　日本音楽著作権協会事件（JASRAC 事件） １４　パラマウントベット事件 １５　総括			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★		★	★

年度	2015	授業コード	J4010100B
科目名	ケーススタディ	単位数	2
科目名（英語表記）	Case Study Seminar		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	ケーススタディでは、講義（「刑法Ⅰ」や「刑法Ⅱ」）で主に学んだ学説や判例の理論につき、具体的事例にどう活用していくかを学習する。 授業は、担当教員の提示する教材を読み、各自担当する判例をまとめ、報告する。		
教材（テキスト）	・山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選Ⅰ総論［第７版］』（有斐閣・２０１４年） ・山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選Ⅱ各論〔第７版〕』（有斐閣・２０１４年）		
教材（参考文献）	・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅰ総論』（信山社・２０１０年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅱ各論』（信山社・２０１２年） ・井田良＝城下裕二編『刑法総論判例インデックス』（商事法務・２０１１年） ・大谷實編『判例講義刑法Ⅰ総論（第２版）』（悠々社・２０１４年） ・大谷實編『判例講義刑法Ⅱ各論（第２版）』（悠々社・２０１１年）		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	授業への参加状況（７０％）、期末レポート（３０％）を評価の対象とする。		
到達目標	１．具体的事例を通じて、法的問題解決の方法について理解を高める。 ２．資料を読みこなし、問題整理力をつける。 ３．自分の考えを他人に伝える力をつける。 ４．文章表現力を向上させる。		
準備学習	各講義の該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 次回のテーマとして選ばれた事例を読み、判例教材の類似の事例を読むこと。		
受講者への要望			
本ケーススタディでは刑法を素材とする。 刑事法に関心のある学生の参加を歓迎する。			
講義の順序とポイント			
・以下は一応の目安であり、受講生と相談の上、取り上げるテーマを最終的に決定する。 １．ガイダンス ２．不作為犯 ３．因果関係 ４．事実の錯誤 ５．管理・監督過失 ６．緊急行為 ７．危険の引き受けと被害者の同意 ８．原因において自由な行為 ９．中止未遂 １０．共謀共同正犯と承継的共同正犯 １１．PTSD と傷害罪の成否 １２．財産犯 １３．性犯罪 １４．放火犯 １５．賄賂罪			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J4010100C
科目名	ケーススタディ	単位数	2
科目名（英語表記）	Case Study Seminar		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	このケーススタディでは、職場のハラスメントの判例を検討する。具体的なハラスメントの態様はセクシュアル・ハラスメントおよびパワー・ハラスメントとする。判決文の読み方・法令の適用・判例批評の基礎を学び、身に着けることである。 　進め方は、指定した判例について報告者が報告を行ない、裁判所の事実認定結果、なぜそのような結論となったを全員で議論していくというものである。さらに、ハラスメントの紛争解決手続についても検討を行なう。		
教材（テキスト）	指定しない。		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第 10 版〕』（弘文堂、2012 年）5300 円+税 柏﨑洋美『労働者へのセクシュアル・ハラスメントに関する紛争解決手続』（信山社、2014 年）4800 円＋税 水谷英夫『職場のいじめ――パワハラと法』（信山社出版、2006 年）2800 円+税		
教材（その他）	資料を配布する。最新の六法必携。		
評価方法	報告（35%）・議論への参加など（30%）・レポート（35%）で評価する。		
到達目標	資料を読むことができ、判例研究の方法を習得するとともに、口頭で説明・質問・議論する能力を身に着ける。		
準備学習	報告者は、事前に判例を熟読して、適切なレヴェルのレジュメを作成すること。 報告者以外の者も、事前に判例を熟読して、議論に参加できるレヴェルになっておくこと。		
受講者への要望			
図書館を利用し、わからないことは事前に調べておき、積極的に議論すること。			
講義の順序とポイント			
第１回　ゼミの進め方・その他諸注意 第２回　ハラスメントとは何か 第３回　ハラスメントの実態および法規制 第４回　ハラスメント指針の検討 第５回　沼津セクシュアル・ハラスメント事件 第６回　福岡セクシュアル・ハラスメント事件 第７回 京都セクシュアル・ハラスメント事件 第８回　兵庫セクシュアル・ハラスメント事件 第９回　三重セクシュアル・ハラスメント事件 第１０回　大阪セクシュアル・ハラスメント事件 第１１回　コンピューター・メンテナンス事件 第１２回　川崎水道局事件 第１３回　トナミ運輸事件 第１４回　行政救済：労働災害手続 第１５回　司法救済			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J4010100D
科目名	ケーススタディ	単位数	2
科目名（英語表記）	Case Study Seminar		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	民法を学んだというためには、必ず読んでおかなければならない基本判例、また現代的な判例を読む。これによって、民法が、実際にどのように活用されているか、どのような役割を果たしているかなどを考えていくこととする。 進め方としては、指定した判例を分担してゼミで報告を行い、その報告に基づいて、当該事件の事実関係のもとで、なぜそのような結論がとられたかを検討しながら、その判決の実際的な意義を議論をしていくという形式をとる。		
教材（テキスト）	指定しない。		
教材（参考文献）	河上正二「民法学入門[第２版・増補版]－民法総則講義・序論」（日本評論社・2014 年）		
教材（その他）	図書館ＨＰからＬＥＸ／ＤＢが利用可能であるので、各判例の書誌情報から、必要な資料を各自準備する。		
評価方法	・平常点(40％) 発表の内容・方法、出席・発言の状況により評価する。 ・レポート(60％)		
到達目標	民法の知識を再確認しつつ、判例研究の方法を習得すると共に、併せて、口頭で説明し、それを聞いて質問し、さらに議論を進めていき、問題解決を図っていくという共同作業のノウハウを習得することとしたい。		
準備学習	報告担当以外も、事前に判例を読むなど、予習をしておくこと。		

受講者への要望

十分な準備学習を経た上で、授業には積極的に参加し、発言すること。とりわけ、ゼミへの積極的な参加意欲を重視したい。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス(判例に基づくゼミ発表の方法)
２．隣人訴訟事件判決（津地裁昭和 58 年 2 月 25 日判決）
３．殉職自衛官損害賠償請求事件判決（最高裁昭和 50 年 2 月 25 日判決）
４．宇奈月温泉事件判決（大審院昭和 10 年 10 月 5 日判決）
５．酌婦前借金事件判決（最高裁昭和 30 年 10 月 7 日判決）
６．デート商法事件判決（最高裁平成 23 年 10 月 25 日判決）
７．抵当権の妨害排除請求事件判決（最高裁平成 11 年 11 月 24 日判決）
８．更新料返還請求事件判決（最高裁平成 23 年 7 月 15 日判決）
９．建築基準法違反の建築物の請負代金請求事件（最高裁平成 23 年 12 月 23 日判決）
１０．ＡＴＭからの預金不正払出し事件判決（最高裁平成 15 年 4 月 8 日判決）
１１．貸金業者に対する取引履歴開示請求事件判決（最高裁平成 17 年 7 月 19 日判決）
１２．殉職自衛官合祀事件判決（最高裁昭和 63 年 6 月 1 日判決）
１３．非嫡出子相続分格差事件（最高裁平成 25 年 9 月 4 日判決）
１４．DNAt 鑑定に基づく親子関係不存在確認請求事件最高裁判決(最高裁平成 26 年 7 月 17 日決定)
１５．次のステップに到達するために
本ゼミでお互いに学び得た成果等について意見交換します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	J4010100E
科目名	ケーススタディ	単位数	2
科目名（英語表記）	Case Study Seminar		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	判例の事案をもとに民法の定めを再確認したうえで、判示事項を解読し、また、それに対する学会の反応を概観して、民法の理解を深める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	遠藤浩・川井健編『民法基本判例集』（勁草書房） 民法判例百選Ⅰ・Ⅱ		
教材（その他）			
評価方法	各自の発表内容（40%）、本演習に臨む平素の態度（報告者への質問内容、報告者ないし教員からの質問に対する回答内容など；30%）及びレポート（30%）を評価する。		
到達目標	・スタートアップゼミ B で身につけた論理的な文章を読む能力を用いて、自らが判例を読み理解できるようになる。 ・自らの考えを人に伝えることができるようになる。		
準備学習	当日までに全員が、その日の判例を一読し、事案については一応の理解をしておくこと。		

受講者への要望

出席することが大前提であるが、ただ座っていることに意味はないので、毎回必ず一度は質問するようにしよう。評価方法の欄にあるように、一度も発表せず、出席するだけでは、単位が取れないことを認識しておいてください。六法は必携。事前に事案程度は一読しておくこと。

講義の順序とポイント

民法の勉強がある程度進んでいることを前提とし、下記のテーマを扱う。

【進め方】
担当者（班）は担当判例の理解に必要な民法上の制度についてまず 1 度報告し、参加者が判例を確実に理解できる前提を整えた上で、2 日目に最高裁判決そのものについて発表し、参加者で議論する。

【各回の内容】
1. ガイダンス 1 ―自己紹介、報告者（ないし報告班）の決定、ゼミでの報告について
　　渡邊博己「判例の調べ方とゼミでの報告」『法学の扉』110 頁～114 頁
2. ガイダンス 2 ―情報の調べ方、レジュメの作り方、
　　新井京・西片聡哉「法情報の調べ方」『法学の扉』87 頁～109 頁
　　判決文には何が書かれているのかの確認
3. 遺留分減殺の意思表示（最判平 10・6・11 民集 52-4-1034）（百選 1 -25 事件）
　　事件に関する事実の概要
　　民法の制度の確認―遺留分減殺の意思表示；　意思表示の到達時点
4. 同上
　　事件に関する事実の概要（再）、論点の確認、判決要旨
　　論点に関する学説の状況等
5. 東京地裁「厚生部」事件（最判昭 35・10・21 民集 14-12-2661）（百選 1 -28 事件）
　　事件に関する事実の概要
　　民法の制度の確認―代理権授与の表見代理；　名板貸
6.　同上
　　事件に関する事実の概要（再）、論点の確認、判決要旨
　　論点に関する学説の状況等
7. 無権代理人が本人を共同相続する場合（最判平 5・1・21 民集 47-1-265）（百選 1 -36 事件）
　　事件に関する事実の概要
　　民法の制度の確認―代理；　無権代理；　相続制度
8 . 同上
　　事件に関する事実の概要（再）、論点の確認、判決要旨
　　論点に関する学説の状況等

9. 民法１６０条の法意による民法７２４条後段の効果の制限（最判平 21・4・28 民集 63-4-853）
　　事件に関する事実の概要
　　民法の制度の確認―時効期間と除斥期間；　時効の停止
10. 同上
　　事件に関する事実の概要（再）、論点の確認、判決要旨
　　論点に関する学説の状況等
11. 不倫な関係にある女性に対する包括遺贈（最判昭 61・11・20 民集 40-7-1167）（百選１-12 事件）
　　事件に関する事実の概要
　　民法の制度の確認―遺贈；　包括遺贈；　公序良俗
12. 同上
　　事件に関する事実の概要（再）、論点の確認、判決要旨
　　論点に関する学説の状況等
13. 指名債権譲渡の二重譲渡における通知の同時到達（最判昭 55・1・11 民集 34-1-42）
　　事件に関する事実の概要
　　民法の制度の確認―指名債権譲渡とその対抗要件；　二重譲渡の際の優劣の決定方法
14. 同上
　　事件に関する事実の概要（再）、論点の確認、判決要旨
　　論点に関する学説の状況等
15. レポートについて（引用方法、参考文献の書き方）

※（百選１-〇事件）は、民法判例百選第７版の取扱判例である。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★		★	★

年度	2015	授業コード	J40103001
科目名	民法Ⅴ（家族法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Ⅴ (Family and Inheritance)		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	民法Ⅶ（家族法）
講義概要	一般に「家族法」と呼ばれる民法第 4 編および第 5 編の内容を学習する。家族法の現行規定を正確に理解した上で、その問題点や解決の方向を考える。講義にあたっては「財産法」の諸制度との関係を意識しつつ、民法の全体像の理解を深めることができるように努める。		
教材（テキスト）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） 家族法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣、2008 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。出席状況、講義中の質問への応答、小テストの結果等を補充的に考慮する。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．家族法の主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 ２．家族法の主要論点に関する学説・判例を理解する。 ３．家族法の問題を把握し、その解決の方向を考える。		
準備学習	１．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分および関連する財産法の部分について自習をする。 ２．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 ３．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		
受講者への要望			
家族に関しては個人的な経験や常識から判断しがちですが、多様な考え方や家族があることに留意しつつ受講してください。民法は全体として密接に関連しているので、民法Ⅰ（総則）などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。			
講義の順序とポイント			
１．　受講にあたっての注意／家族法序説 ２．　婚姻の成立・効果 ３．　離婚の成立 ４．　離婚の効果 ５．　親子（１）嫡出推定・嫡出否認制度（１） ６．　親子（２）嫡出推定・嫡出否認制度（１） ７．　親子（３）認知／現代的な問題 ８．　親権・扶養 ９．　相続法序説／相続人 １０．相続資格の剥奪／相続の選択 １１．相続財産 １２．具体的相続分（１）特別受益・寄与分 １３．具体的相続分（２）計算問題 １４．遺産分割 １５．遺言			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J40103002
科目名	民法Ⅴ（家族法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Ⅴ (Family and Inheritance)		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	民法Ⅴ（家族法），家族法
講義概要	夫婦や親子の法律関係（民法第 4 編親族）、相続や死後の財産処分（第 5 編相続）について学ぶ。		
教材（テキスト）	高橋 朋子、床谷 文雄、棚村 政行 『民法 7 親族・相続』（有斐閣）		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276		
教材（その他）	講義中にプロジェクターで表示するものを京学なびにて配付します。事前にプリントして持参して下さい。		
評価方法	期末試験のみに基づき評価する。		
到達目標	親族相続法上の制度とその背後にある民法の考え方を知識として得る。		
準備学習	提供する資料を事前にプリントし 1 度目を通しておくこと。必ず復習すること。		

受講者への要望

評価は期末テストの結果に従いますが、期末テストの結果は、受講生の出席と受講態度に左右されることが明白です。履修登録をしても出席しなければ、単位は取れません。 主に一年生が受講する講義ですので、メモをとり易く話すよう心がけますから、とる練習もしましょう。

講義の順序とポイント

民法の第 4 編及び第 5 編を扱う。他の民法科目は、最大でも 1 編で 1 科目となっているところ、本講義は 2 編を扱わなければならないため、最初の 7 回を親族法に当て、後半の 8 回を相続法に当てる。

第 1 回 導入、婚姻の成立、婚姻意思、婚姻障害事由
第 2 回 婚姻の効果、日常家事債務、婚姻の解消
第 3 回 有責配偶者からの離婚請求、離婚の効果
第 4 回 実親子関係（父性推定、認知、準正）
第 5 回 養親子関係（普通養子縁組、特別養子縁組）
第 6 回 親権（親権者、身上監護、財産管理）
第 7 回 後見（未成年後見、成年後見制度）
第 8 回 相続（相続人、代襲相続、同時死亡の推定）
第 9 回 相続権の剥奪（相続欠格、相続人の廃除）、相続の承認と放棄
第 10 回 相続財産、債権・債務の相続、遺産共有、
第 11 回 相続分（法定相続分・指定相続分）
第 12 回 相続人間の平等（特別受益の持ち戻し、寄与分） 、遺産分割
第 13 回 遺言（遺言の種類、自筆証書遺言の方式、遺言の撤回）
第 14 回 遺留分（遺留分の範囲、基礎財産）
第 15 回 遺留分額、遺留分減殺請求権、減殺の方法

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J40104001
科目名	民法Ⅳ（債権総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Obligations		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	民法Ⅲ（債権総論）
講義概要	民法典の第３編「債権」中、第１章「総則」の内容を取り上げる。		
教材（テキスト）	野村 豊弘ほか『民法（3）債権総論』（有斐閣）　《有斐閣Ｓシリーズ》		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276		
教材（その他）	講義中にプロジェクターで表示するものを「京学なび」にて配付します。事前にプリントして持参して下さい。		
評価方法	期末試験の評価に従う。		
到達目標	契約法の基本を押さえる。		
準備学習	・事前に配付資料を一読すること ・講義の前後に教科書の該当部分に目を通すこと。 ・不明な法律用語は、参考文献に掲げた用語辞典で意味を調べ、レジュメ等にメモしておくこと。 以上のことが行われているかは、講義の要所要所に確認する。		

受講者への要望

・内容が抽象的で非常に難解であるため、主体的な学習が求められ、自らも理解しようと必死で努めることが必要である。
・成績評価は期末試験の評価に従うが、講義への出席なしには理解が難しいと思われる。出席しない者は、登録しないこと。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

第１回　債権総論を学ぶにあたって; 債権の目的と種類１（特定物債権）
第２回　債権の目的と種類２（特定物債権種類債権～利率・利息制限・選択債権）
第３回　債務不履行１（債務の本旨に従わざる履行、債務者の帰責事由）
第４回　債務不履行２（履行の強制、416 条の理解）
第５回　損害賠償
第６回　債権の対外的効力１（債権者代位権）
第７回　債権の対外的効力２（債権者代位権）
第８回　債権の対外的効力３（詐害行為取消権）
第９回　債権の消滅１（消滅の意義・弁済）
第 10 回　債権の消滅２（相殺・その他の消滅原因）
第 11 回　多数当事者の債権関係１（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務）
第 12 回　多数当事者の債権関係２（連帯債務）
第 13 回　多数当事者の債権関係３（連帯債務２）
第 14 回　多数当事者の債権関係４（保証債務、連帯保証債務）
第 15 回　当事者の交替１（債権譲渡、債務引受）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J40104002
科目名	民法Ⅳ（債権総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Obligations		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	民法Ⅲ（債権総論）2014 年度生科目名称
講義概要	民法典の第 3 編「債権」中、第 1 章「総則」の内容を取り上げる。		
教材（テキスト）	野村 豊弘ほか『民法（3）債権総論』（有斐閣）　《有斐閣 S シリーズ》		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276		
教材（その他）	講義中にプロジェクターで表示するものを「京学なび」にて配付します。事前にプリントして持参して下さい。		
評価方法	期末試験の評価に従う。		
到達目標	契約法の基本を押さえる。		
準備学習	・事前に配付資料を一読すること ・講義の前後に教科書の該当部分に目を通すこと。 ・不明な法律用語は、参考文献に掲げた用語辞典で意味を調べ、レジュメ等にメモしておくこと。 以上のことが行われているかは、講義の要所要所に確認する。		

受講者への要望

・内容が抽象的で非常に難解であるため、主体的な学習が求められ、自らも理解しようと必死で努めることが必要である。
・成績評価は期末試験の評価に従うが、講義への出席なしには理解が難しいと思われる。出席しない者は、登録しないこと。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

第 1 回　債権総論を学ぶにあたって; 債権の目的と種類 1（特定物債権）
第 2 回　債権の目的と種類 2（特定物債権種類債権～利率・利息制限・選択債権）
第 3 回　債務不履行 1（債務の本旨に従わざる履行、債務者の帰責事由）
第 4 回　債務不履行 2（履行の強制、416 条の理解）
第 5 回　損害賠償
第 6 回　債権の対外的効力 1（債権者代位権）
第 7 回　債権の対外的効力 2（債権者代位権）
第 8 回　債権の対外的効力 3（詐害行為取消権）
第 9 回　債権の消滅 1（消滅の意義・弁済）
第 10 回　債権の消滅 2（相殺・その他の消滅原因）
第 11 回　多数当事者の債権関係 1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務）
第 12 回　多数当事者の債権関係 2（連帯債務）
第 13 回　多数当事者の債権関係 3（連帯債務 2 ）
第 14 回　多数当事者の債権関係 4（保証債務、連帯保証債務）
第 15 回　当事者の交替 1（債権譲渡、債務引受）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J40110001
科目名	民法VI（不法行為法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law VI (Torts)		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	民法第三編第五章(709～724 条)に規定の不法行為法の基本的な構造について、判例の考え方に基づき講義する。基本的な事項について、具体例に基づき、ていねいに説明するという方法で進めていくこととする。これによって、一般的な資格試験に対応できるだけの情報を提供するようにしたい。		
教材（テキスト）	潮見佳男「基本講義 債権各論〈2〉不法行為法」（新世社･ライブラリ法学基本講義）		
教材（参考文献）	・内田貴「民法Ⅱ[第 2 版]債権各論」(東大出版会、2007 年) ・窪田充見「不法行為法―民法を学ぶ」(有斐閣、2007 年) ・野澤正充「事務管理・不当利得・不法行為　セカンドステージ債権法 III(法セミ LAW　CLASS シリーズ）」(日本評論社、2011 年)		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	・小テスト(5 回程度実施、60%) ・レポート(2 回程度実施、40%) 定期試験は実施しないので、注意のこと。		
到達目標	1　「不法行為法」の中の主要な制度について、その制度趣旨や条文･判例を立体的に理解する。 2　不法行為法の中の各制度が、実際界においてどのような使われ方をしているかを知る。 3　各種資格試験において、どのような問題が出題されているかを確認する。		
準備学習	講義用レジュメは 15 回分をまとめて配布するので、各回の講義の概要程度は予習しておくこと。		

受講者への要望

講義には必ず出席し、少なくとも講義中はなるべく前方の席に座り、真剣に講義に集中して欲しい。最新版の六法や教科書を持参せずに授業に出席するのは論外である。

教室の後ろの方でケータイをいじり続けながら、それでもある種のテクニックで単位を取れるような科目ではないことは、心得ておいてほしい。

講義の順序とポイント

1．不法行為制度とは
2．不法行為の要件（故意・過失）
3．不法行為の要件（権利・利益侵害）
4．不法行為の要件（損害の発生）
5．不法行為の要件（因果関係）
6．責任能力・監督者の責任
7．不法行為の効果（賠償額の算定・物損の金銭的評価）
8．不法行為の効果（身体・生命の侵害による損害の金銭的評価、精神的損害）
9．不法行為の効果（損害賠償の範囲、賠償額の減額）
10．損害賠償請求権者
11．使用者責任
12．物の支配管理から生じる責任、共同不法行為
13．消滅時効、原状回復・差止請求
14．ケース・スタディ(1)－交通事故
15．ケース・スタディ(2)－プライバシー・名誉の侵害

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J40111001
科目名	民事訴訟法	単位数	2
科目名（英語表記）	Code of Civil Procedure		
担当者名	原　弘明	旧科目名称	民事手続法
講義概要	民事実体法上の権利の存否・範囲を、法規を適用して裁判所が判断する一連の手続が、民事訴訟手続であり、これを規律するのが民事訴訟法である。 本講義では、コマ数の制約上、民事訴訟法のうち、訴えの提起から第一審判決が確定するまでの手続を中心に講義する。複雑訴訟・上訴・再審については、可能な限り扱うこととする。		
教材（テキスト）	中野貞一郎『民事裁判入門〔第 3 版補訂版〕』（有斐閣、2012 年） ※改訂の場合は、改訂版の購入を薦めるが、講義に影響しないよう旧版使用者にも配慮する。		
教材（参考文献）	高橋宏志=高田裕成=畑瑞穂編『民事訴訟法判例百選〔第 4 版〕』（有斐閣、2010 年）		
教材（その他）	毎回、教員作成のレジュメを配布する。 必ず、講義時点で最新の六法を持参すること。		
評価方法	1. 平常点（20%）出席状況・授業内コメントカード等で評価する。 2. 期末試験（80%）		
到達目標	1. 民事法上の権利実現制度としての民事訴訟制度の重要性を認識し、その骨格を理解し説明できる。 2. 民事訴訟法上の規定や判例が、実際の手続に与える影響を理解し、基礎的な問題を解ける。		
準備学習	1. 講義前に、「講義の順序とポイント」で示した部分のテキストを一読しておくこと。 2. 余裕がある受講生は、事前に百選の関連判例を一読しておくこと。 3. 講義後は、配布レジュメを中心に、理解できるまで復習すること。		

受講者への要望

1. 一定程度民商法の履修が終わっているか、履修中であることが望ましい。
2. 遅刻・欠席の場合は、正当な理由がなければ平常点に反映させる。
3. 講義の妨げとなる、携帯電話等での通話、私語などの行為は、場合によっては退室させ、平常点に反映させる。
4. 実務が採用する旧訴訟物理論を中心に講義するので、興味のある受講生は、新訴訟物理論の教科書にも取り組んで欲しい。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス--講義内容の全体像
2. 訴訟と非訟・民事訴訟法の一般原則
3. 訴えの 3 類型・訴えの提起
4. 裁判所・管轄・民事裁判権
5. 訴訟当事者(当事者の確定・当事者能力・訴訟能力)・訴訟代理
6. 訴えの利益・訴え提起の効果
7. 当事者主義・口頭弁論
8. 弁論準備・争点整理
9. 証拠(1)証明のレベル・証拠方法
10. 証拠(2)自由心証主義・証明責任
11. 当事者の行為による訴訟の終了
12. 判決(1)判決の形式
13. 判決(2)判決の効力
14. 複雑訴訟・上訴・再審の概要
15. 全体を通した総復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	J40113001
科目名	経済法Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Competition Law Ⅱ		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	経済法
講義概要	スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。そして、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。 　この授業では、独占禁止法の全体像と、合併などの「企業結合」と「不公正な取引方法」を中心に学びます。		
教材（テキスト）	・川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）	・船田正之・金井貴嗣・泉水文雄編　『経済法判例・審決百選』（有斐閣、２０１０年） ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法』（有斐閣、２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポート等 40%） 小テスト２回（60%）		
到達目標	合併の理由およびメリット・デメリットを理解し、独占禁止法上の立場から分析できるようになる。 さまざまな種類の不公正な取引方法について、どのような行為か理解し、独占禁止法の視点から考えることができるようになる。		
準備学習	企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること。 各回の講義で指示する教科書の該当箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席すること。			
講義の順序とポイント			
１．市場経済と競争 ２．独占禁止法の目的と全体像 ３．企業結合規制①（企業結合の目的と形態） ４．企業結合規制②（市場画定） ５．企業結合規制③（競争の実質的制限） ６．企業結合規制④（企業結合の規制手続と一般集中規制） ７．前半のまとめ金と小テスト１ ８．不公正な取引方法 ９．取引拒絶 １０．不当廉売 １１．抱き合わせ販売 １２．排他条件付取引 １３．再販売価格維持 １４．優越的地位の濫用 １５．公正取引委員会・エンフォースメントと小テスト２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J40115001
科目名	法哲学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal Philosophy Ⅱ		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	法哲学特別講義
講義概要	本講義の受講対象になる者は、実定法の基礎的な部分は既に履修した者であることが、予想される。その履修の過程において、「そもそも法律とは何か」という疑問を抱いた者もいるのではないであろうか。本講義は、その問をめぐって共に思考を深めるために展開される。 本講義では、「法哲学」と同様、法の目的とされる「正義」についての議論を中心に展開する。「法哲学」に確認した課題、すなわち法哲学における「正義論」の位置づけ、正義概念の歴史的展開を前提にしつつ、いくつかの法領域にいて正義論の展開の具体層を概観すると同時に、正義論と法体系の相互関係（例えば立法精神）、正義論と実定法解釈のあり方、正義論と国家論、正義論と人権論にも言及する。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に合わせその都度紹介する。		
教材（その他）	講義のレジュメは京学なびに登録するので、事前にプリントアウトしておくこと。		
評価方法	授業内で書いてもらう、４回の小論文の素点の合計が成績となる。 その都度評価して返却するので、合格点に至らなかった者は再レポートを提出すること。		
到達目標	法学に関わる問題を媒介として哲学的思考を身につける。 正義論から法律を批判的に考察できるようになる。		
準備学習	講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
安易に結論に飛びつくことなく、あるいは自明性に逃げ込むことなく、じっくり腰を据えて思考するよう心がけてください。			
講義の順序とポイント			
（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。事前連絡（講義時と京学ナビ）で確認すること。） １．初めに ２．序論　「法哲学Ｉ」で学習したことの確認 ３．　同上 ４．（第１回授業内レポート） 第１章　生命倫理と法 §１　臓器移植法と正義 ５．　同上 ６．　同上 ７．（第２回授業内レポート） §２　安楽死・尊厳死と法規制 ８．　同上 ９．　同上 １０．（第３回授業内レポート） 第２章　環境倫理と法 §３　水俣公害事件から考える ①水俣公害事件とは １１．　同上 １２．　②認定問題と訴訟 １３．　同上 １４．　（第４回授業内レポート） 第３章　法哲学の課題再考 §４　正義論の諸相			

１５．　　同上

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J40116001
科目名	法社会学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Law II		
担当者名	沼口　智則	旧科目名称	法社会学特別講義
講義概要	秋学期は、これまでの春学期の成果の上に日本・欧米の法社会学の現状を概観し、さらに各論的テーマとしてフェミニズムをめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅳ）・天皇制をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）・正義をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅱ）を取り上げる。最後に講義全体の総括として、法社会学の役割と任務に及び、二十一世紀前半を法社会学の視座から展望する。		
教材（テキスト）	竹下賢・角田猛之編著『改訂版マルチ・リーガル・カルチャー』晃洋書房		
教材（参考文献）	講義の都度紹介していく。		
教材（その他）			
評価方法	学期末試験（80%）・講義の際の小レポート（20%）による総合評価。		
到達目標	フェミニズム・天皇制・正義と法との関係をしっかり把握させ、法社会学の学問的意義と課題を自覚させる。		
準備学習	法にかかわる記事は新聞の切抜きを行い、講義ノートにはりつけていくこと。		
受講者への要望			
現代社会の様々な事件や問題に積極的関心を持って臨むこと。			
講義の順序とポイント			
１．法社会学の現状　Ⅰ　日本の法社会学（２） ２．　〃　Ⅱ　欧米の法社会学（２） ３．フェミニズムをめぐる法社会学　Ⅰ　女性の権利の歴史（１） ４．　〃　Ⅱ　〃　（２） ５．　〃　Ⅲ　〃　（３） ６．　〃　Ⅳ　男女平等－特に憲法１４条と第２４条－ ７．　〃　Ⅴ　男女平等－夫婦別氏（姓）論議－ ８．天皇制をめぐる法社会学　Ⅰ　天皇制とは？ ９．　〃　Ⅱ　近代神権的天皇制 １０．　〃　Ⅲ　象徴天皇制 １１．　〃　Ⅳ　ビデオ学習「日本国憲法の誕生」（ＮＨＫ） １２．正義をめぐる法社会学　Ⅰ法哲学と法社会学 １３．　〃　Ⅱ　正義と法 １４．法社会学の役割と任務　Ⅰ　－全体の総括－ １５．　〃　Ⅱ　〃			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★		★★	★★

年度	2015	授業コード	J40118001
科目名	会社法Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law Ⅲ		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	現代社会において、一定規模以上の重要な取引を担うのは個人ではなく、共同企業形態としての会社であり、特に株式会社が重要なのは言うまでもない。この講義では、事業譲渡・合併・会社分割など、会社の組織再編について、基本的な枠組みを講義する。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.205・会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年）。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、組織再編に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．組織再編手続 ３．事業譲渡 ４．合併の意義 ５．合併の手続 ６．合併の無効 ７．会社分割の意義 ８．会社分割の手続 ９．会社分割の無効 １０．株式交換・株式移転の意義 １１．株式交換の手続 １２．株式移転の手続 １３．株式交換・株式移転の無効 １４．企業グループ・結合企業 １５．会社法における先端的な論点			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J40121001
科目名	刑事訴訟法Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure Ⅱ		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	刑事訴訟法特別講義
講義概要	２００９年５月から裁判員制度が始まり、刑事手続に関しての国民の感心が高まってきているなかで、刑事裁判はどのような流れで進んでいくのか、どのようなルールがあるのか、誰もが裁判員になり、刑事裁判に参加する可能性がある今、知っておくべきである。また、刑事手続における問題解決のためには、判例やそれに対する学説の対立などによって、どのような相違が生じるのかといった発展的な議論についての知識も重要となる。そこで、この講義では、捜査から公判までの刑事手続の全体の流れを把握したうえで、刑事訴訟法のさまざまな基本ルールを概観しながら、憲法や刑事訴訟法の条文解釈、重要判例、学説の対立などの重要論点を解説する。主として公訴提起後の段階について解説する。		
教材（テキスト）	井上正仁編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。六法を毎回持参すること。		
評価方法	学期末試験の結果（８０％）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事手続に関する基礎知識を身につけ、刑事手続上の問題について具体例事例を素材に、条文に即し、主要な判例・学説の基本的な考え方を踏まえて説明することができるようになること、また、重要判例および学説の意義を深く正確に理解したうえで、それを前提に事例について妥当な解決策を導き出すことができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回取り扱う判例百選の関係箇所をを指定するので、読んで予習しておくこと。また、授業の最初に、前回の授業内容に係る小テストをするので、復習しておくこと。		

受講者への要望

「刑事訴訟法Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。
捜査に関する基本知識を理解していることを前提に授業を進めるので、より刑事訴訟法について理解を深めたいと考えている意欲的な受講生を望む。

講義の順序とポイント

1　　刑事手続の流れ
2　　任意捜査と強制捜査の区別
3　　任意捜査
4　　令状呈示前の立入り・電話検証
5　　強制採尿
6　　違法収集証拠排除法則①
7　違法収集証拠排除法則②
8　　接見交通
9　　起訴状
１０　　訴因変更
１１　証拠開示
１２　自白法則
１３　伝聞法則①
１４　伝聞法則②
１５　裁判員制度

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	J40122001
科目名	国際人権法	単位数	2
科目名（英語表記）	International Human Rights Law		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	人権は伝統的に個人対国家の脈絡で語られ、国家による保障が基本である。他方で、国際人権保障は国連の基本目的の１つとなり、国連の７０年に及ぶ活動の中で大きな成果をあげた分野であるといっても過言ではない。それでは、国際人権保障の意義やはたらき、限界は何なのであろうか。また、国際人権保障から見て日本おける人権保障はどのように捉えられるであろうか。この授業では、このような問題意識を念頭に置きながら、第１部で国際人権保障の意義や特徴さらには仕組みなどについて講義する。第２部では、日本における具体的な人権問題を取り上げ、人権条約規定の日本の裁判所と条約機関の解釈を比較検討しながら、国際人権法の観点から日本の人権問題についてともに考えていきたい。 ＊国際人権保障は、教員採用試験では頻出分野なので、教職志望の学生には学部を問わず受講を勧める。		
教材（テキスト）	芹田健太郎・薬師寺公夫・坂元茂樹『ブリッジブック国際人権法』（信山社、２００８年） 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書・概説書】 田畑茂二郎『国際化時代の人権問題』（岩波書店、１９８８年） 阿部浩己ほか『テキストブック国際人権法〔第３版〕』（日本評論社、２００９年） 畑　博行・水上千之編『国際人権法概論〔第４版〕』（有信堂、２００６年） 薬師寺公夫ほか『法科大学院ケースブック　国際人権法』（日本評論社、２００６年） 【条約集】 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、２００９年） 松井芳郎ほか編『国際人権条約・宣言集〔第３版〕』（東信堂、２００６年）		
教材（その他）	世界人権宣言に関するビデオ教材を用いる。		
評価方法	講義の最後に毎回行う小テスト（６０％）、レポート（４０％）。 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．国際人権保障の意義と限界を理解する。 ２．人権条約や国連における国際人権保障の仕組みを理解する。 ３．日本の人権問題に対して国際人権法がどのような役割を果たすことができるのか考える。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．六法を必ず持参すること。
２．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。
３．講義では、休憩も取るので、集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

第１部　国際人権保障の仕組み
１．受講ガイダンス、国際人権保障の意義と展開
２．国際人権保障の理念と特徴
３．国連による人権保護活動（世界人権宣言に関するＤＶＤ鑑賞も行う）
４．国連による人権保護活動（つづき）
５．人権条約の実施措置（１）－普遍的人権条約
６．人権条約の実施措置（２）－地域的人権条約
７．個人の国際刑事責任（１）－国際犯罪の成立と展開
８．個人の国際刑事責任（２）－国際刑事裁判所の活動

第２部　日本における国際人権法の実施
９．総論、国籍
１０．外国人の出入国管理と人権

１１．難民の保護
１２．非嫡出子の人権
１３．刑事施設における被拘禁者の処遇
１４．少数者の権利
１５．社会権、男女平等

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J40123001
科目名	労働法Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law Ⅲ		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	労働法特別講義
講義概要	本講義では、労働法の領域のうち、集団的労働法を学んでいく。労使関係における制度および法的枠組み、並びに、法的問題について考察する。労働組合の結成から、その組織を維持・運営していくための様々の活動、使用者との労働条件をめぐる団体交渉、場合によっては争議行為をへて、労働協約の締結にいたるまでの過程を考察対象とする。 　本講義は科目名「労働法」または「労働法Ⅰ」および「労働法Ⅱ」の履修が前提となる。履修していない場合は、理解することにかなりの努力を必要とするので注意すること。		
教材（テキスト）	西谷　敏『労働組合法〔第 3 版〕』（有斐閣、2012 年）4100 円＋税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第 8 版〕（有斐閣、2009 年）2476 円＋税		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第１０版〕』（弘文堂、2012 年）5300 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則 1 回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト(70%)およびレポート等（３０％）などで評価する予定である。		
到達目標	社会人として求められる労働法の基礎知識（とくに労働組合法）を判例等も踏まえたうえで理解すること。		
準備学習	各講義の最後に、参考文献等を指摘したうえで、次回講義のための準備学習を指示する。毎回講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、復習しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		
受講者への要望			
教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 また、講義時のマナーが守れない場合には、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。			
講義の順序とポイント			
第１回　講義の進め方・その他諸注意 第２回　労働法とは　集団的労働法の概観 第３回　労働基本権 第４回　労働組合の結成および運営（１） 第５回　労働組合の結成および運営（２） 第６回　組合活動 第７回　団体交渉 第８回　労働協約（１） 第９回　労働協約（２） 第 10 回　争議行為 第 11 回　使用者の争議行為（ロック・アウト） 第１２回　不当労働行為およびその救済（１） 第１３回　不当労働行為およびその救済（２） 第１４回　最近の集団的労働法をめぐる諸問題(1) 第 15 回　最近の集団的労働法をめぐる諸問題(2)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J40127001
科目名	不動産法	単位数	2
科目名（英語表記）	Real estate Law		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	不動産法特別講義
講義概要	土地や建物に関する法律について、売買・賃貸借等の取引で、どのようなルールが適用されるかについて解説する。このほか、今日の不動産法の理解にとって不可欠のマンションの法律関係についても取り上げる。 受講人数によっては、ゼミ形式で運営することも考えている。		
教材（テキスト）	レジュメ資料を配付する。		
教材（参考文献）	秋山靖浩「不動産法入門」（日本評論社） 鎌野邦樹「不動産の法律知識」（日経文庫）		
教材（その他）			
評価方法	レポート(70%) 授業中課題(30%)		
到達目標	１．民法(不動産の所有・売買・賃貸借等に関係する範囲)の原則・概念・ルールについて、その概要の説明ができる。 ２．各条文の要件・効果を正確に理解し、各種試験に必要な基礎知識を習得する。		
準備学習	民法の教科書・参考書等で、不動産の所有・売買・賃貸借等に関係する部分を読んでおくこと。		

受講者への要望

講義には必ず出席し、講義で取り上げた個所について、民法等の参考書で内容確認を行うことが重要。なお、最新版の六法は必ず持参すること。

講義の順序とポイント

Ⅰ　はじめに
　１　不動産法とは、本講義の課題
Ⅱ　不動産の売買
　２　契約の成立と内容
　３　手付、危険負担
　４　売買目的物の瑕疵
　５　不動産物権の変動と登記
Ⅲ　不動産の賃貸借
　６　契約の内容と成立
　７　賃貸人・賃借人の義務
　８　敷引き・更新料特約の有効性
　９　地代・家賃等の増減請求権
　１０　不動産賃借権の譲渡・転貸
　１１　定期借家権と住宅政策
Ⅳ　マンションの保有と管理
　１２　区分所有建物の所有と団体
　１３　区分所有建物の建替え
Ⅴ　最近の訴訟事件から(以下の項目については予定)
　１４　汚染土壌等が存在していた場合の売主の責任(最判平成 22･6･1)
　１５　欠陥住宅－施工業者の責任(最判平成 23･7･21)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J40133001
科目名	有価証券法	単位数	2
科目名（英語表記）	Negotiable Instruments Law		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	有価証券の典型である手形・小切手は、商取引における支払又は信用供与の手段である。この講義では、手形・小切手の基礎的な知識を身につけるとともに、現実のビジネス社会において手形・小切手がどのように利用されているのかを学ぶ。手形・小切手を扱うのは人（自然人・法人）であるため、民法Ⅰ（民法総則）の内容を理解していることが、手形法・小切手法を学ぶうえでも助けとなる。		
教材（テキスト）	早川徹『基本講義 手形・小切手法』（新世社、2007 年）。		
教材（参考文献）	小塚荘一郎・森田果『支払決済法』（商事法務、2010 年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	手形・小切手に関わる基礎知識を身につけ、ビジネス社会における手形・小切手の利用方法をイメージできるようになる。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
民法Ⅰ（民法総則）を履修済みであること。また、会社法Ⅰ・Ⅱの履修も望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．手形・小切手の意義 ３．手形小切手の経済的機能 ４．手形行為の意義と特性 ５．手形行為の成立要件、有効要件 ６．無権代理と偽造 ７．振出、白地手形 ８．裏書 ９．手形取得者の保護 １０．手形の支払 １１．遡求 １２．手形保証・手形訴訟 １３．為替手形 １４．小切手 １５．電子記録債権			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J40136001
科目名	現代日本政治	単位数	2
科目名（英語表記）	Modern Japanese Politics		
担当者名	服部　聡	旧科目名称	
講義概要	日本政治に関するニュースや新聞の記事がわかるような知識の習得を目指す。そのために、日本政治の仕組みと現状についての基礎知識を確認しつつ、解説を進めてゆく。そして、最終的に、日本政治の課題と政治とは何かということを見通す力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	北山・久米・真淵編『初めて出会う政治学』（有斐閣　２００３年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	筆記試験による。		
到達目標	日本を取り巻く政治問題について、自分なりの理性と価値観に基づいて理解し判断する力をつける。		
準備学習	可能な限り、テキストを読んでから出席することが望ましい。		

受講者への要望

現代日本の政治問題を論じるので、常に政治問題に関心を持って欲しい。具体的には、教科書とともに、常に新聞の社会面、政治面を読んだり、テレビのニュースを見たりしておくこと。授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止します。

講義の順序とポイント

1	明治憲法体制	戦前日本政治と官僚主導体制の成立について
2	新憲法体制	戦後日本政治の特徴について
3	国会と立法過程	立法過程の特徴とその問題について
4	国会と予算成立過程	予算成立過程とその問題について
5	官僚制	日本における官僚制の特徴について
6	政治家・官僚・財界	日本政治における癒着の問題について
7	日本の政党１	各政党の特徴について
8	日本の政党２	
9	選挙１	選挙制度とその特徴について
１０	選挙２	
１２	地方自治１	日本における地方自治の歴史とその現状について
１２	地方自治２	
１３	政治とマス・メディア	政治とマス・メディアの関係について
１４	日本と国際政治	戦後日本の外交政策とその課題について
１５	福祉政策	福祉政策の現状とその問題点について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J40136002
科目名	現代日本政治	単位数	2
科目名（英語表記）	Modern Japanese Politics		
担当者名	服部　聡	旧科目名称	
講義概要	日本政治に関するニュースや新聞の記事がわかるような知識の習得を目指す。そのために、日本政治の仕組みと現状についての基礎知識を確認しつつ、解説を進めてゆく。そして、最終的に、日本政治の課題と政治とは何かということを見通す力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	北山・久米・真淵編『初めて出会う政治学』（有斐閣　２００３年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	筆記試験による。		
到達目標	日本を取り巻く政治問題について、自分なりの理性と価値観に基づいて理解し判断する力をつける。		
準備学習	可能な限り、テキストを読んでから出席することが望ましい。		

受講者への要望

現代日本の政治問題を論じるので、常に政治問題に関心を持って欲しい。具体的には、教科書とともに、常に新聞の社会面、政治面を読んだり、テレビのニュースを見たりしておくこと。授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止します。

講義の順序とポイント

1	明治憲法体制	戦前日本政治と官僚主導体制の成立について
2	新憲法体制	戦後日本政治の特徴について
3	国会と立法過程	立法過程の特徴とその問題について
4	国会と予算成立過程	予算成立過程とその問題について
5	官僚制	日本における官僚制の特徴について
6	政治家・官僚・財界	日本政治における癒着の問題について
7	日本の政党１	各政党の特徴について
8	日本の政党２	
9	選挙１	選挙制度とその特徴について
１０	選挙２	
１２	地方自治１	日本における地方自治の歴史とその現状について
１２	地方自治２	
１３	政治とマス・メディア	政治とマス・メディアの関係について
１４	日本と国際政治	戦後日本の外交政策とその課題について
１５	福祉政策	福祉政策の現状とその問題点について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J40137001
科目名	外交史	単位数	2
科目名（英語表記）	Diplomatic History		
担当者名	服部　聡	旧科目名称	
講義概要	外交の基本的な仕組みと日本外交の歴史に関する基本的な知識の習得を目指す。具体的には、鎖国によって国際社会との関わりを制限していた日本が、いかにして国際社会に参入していったのか、その歴史的展開を論 じる。それを踏まえたうえで、今、日本外交について考える力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	入江昭『日本の外交』（中公新書）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布する		
評価方法	筆記試験による。		
到達目標	日本外交史に関する基礎知識を習得する。同時に、ヨーロッパ外交史にも留意する。		
準備学習	テキストをよく読んでおくこと。		
受講者への要望			
本講義は「史」という名前がついているように、基本的に歴史の話が中心となるので、明治維新以降の日本史について、高校で学習した程度の知識をつけておいて欲しい。 授業中に携帯電話やスマートフォンを使用することは禁止する。			
講義の順序とポイント			
1　外交とは　外交の歴史と基本的な仕組みについて 2　様々な国際秩序　国際秩序について 3　開国と近代化　江戸時代の特徴と開国以後の日本について 4　日清戦争とその意味　日清戦争の意味について 5　日露戦争とその意味　日露戦争の意味について 6　欧米との対等化の達成　日露戦争後の日本外交と条約改正について 7　第一次世界大戦　第一次世界大戦と日本の対応 8　ベルサイユ体制の成立　ベルサイユ体制の成立とその実態について 9　ワシントン体制の成立　ワシントン体制の成立とその実態について １０　満州事変と満州国建国　満州事変の原因とその結果について １１　華北分離工作と日中戦争　日中戦争の原因とその展開 １２　太平洋戦争　太平洋戦争の原因とその展開について １３　敗戦と占領　アメリカの対日占領政策について １４　戦後日本の再出発　戦後日本外交の展開について １５　冷戦と日本外交			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J40138A01
科目名	行政書士特別研究Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Administrative Scriven er Examinations I		
担当者名	西田　敦史	旧科目名称	
講義概要	本特別研究は行政書士試験合格への基礎編です。具体的には法令科目の憲法、行政法、民法の主要 3 法及び商法、会社法等の主に過去問を中心とした問題演習(アウトプット）を行い、本試験に対応できる基礎力を養う。試験範囲が広範なため、必ず、予習及び復習が必要になる。なお、上記主要 3 法は履修済みか並行履修中の受講者が望ましい。		
教材（テキスト）	問題プリントを配布する。		
教材（参考文献）	特に指定はないが、受講者自身が良いと判断できる行政書士試験に関する参考書及び問題集。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。		
評価方法	定期試験(100%)		
到達目標	行政書士試験合格を目標とする。		
準備学習	配布する問題プリントの予習及び復習が必要になる。根拠条文や判例等、必ず調べておくこと。		

受講者への要望

行政書士試験合格を目指す科目であるため、目的意識を持った学生の受講を望む。単位取得のみを目的とする受講者は遠慮願いたい。
ポイント等の説明を重視するので、必ず予習及び復習の上、本特別研究に臨むこと。特に復習の際には、条文や判例の丸暗記という学習ではなく、理解力や思考力を養うように心がけること。また日々の学習(インプット・アウトプット）の反復継続も心がけること。
無断欠席は以後、受講不可とする。
受講時には六法持参のこと。

講義の順序とポイント

1. 憲　法(1)
2. 憲　法(2)
3. 憲　法(3)
4. 民　法(1)
5. 民　法(2)
6. 民　法(3)
7. 民　法(4)
8. 民　法(5)
9. 行政法(1)
10. 行政法(2)
11. 行政法(3)
12. 行政法(4)
13. 行政法(5)
14. 商法・会社法等
15. 個人情報保護法

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★	★	★★

年度	2015	授業コード	J40138B01
科目名	行政書士特別研究 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Administrative Scriven er Examinations II		
担当者名	西田　敦史	旧科目名称	
講義概要	本特別研究は行政書士試験合格への発展編です。行政書士特別研究 I を履修した上で、具体的には法令科目の憲法、民法、行政法の主要 3 法及び商法、会社法等の問題演習（アウトプット）を中心に試験対策、弱点補強を行い、行政書士試験に合格できる力を養う。合格のための全面的なサポートは惜しまない。試験範囲が広範なため、必ず、予習及び復習が必要となる。法的知識の基礎力を養った上での受講と判断するので、基礎からの講義は行わない。なお、上記主要 3 法は履修済みか並行履修中の受講者が望ましい。		
教材（テキスト）	問題プリントを配布する。		
教材（参考文献）	特に指定はないが、受講者自身が良いと判断できる行政書士試験に関する参考書及び問題集。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。		
評価方法	定期試験(100%)		
到達目標	行政書士試験合格を目標とする。		
準備学習	配布する問題プリントの予習及び復習が必要になる。根拠条文や判例等、必ず調べておくこと。		

受講者への要望

行政書士試験合格を目指す科目であるため、目的意識を持った学生の受講を望む。単位取得のみを目的とする受講者は遠慮願いたい。
ポイント等の説明を重視するので、必ず予習及び復習の上、本特別研究に臨むこと。特に復習の際には、条文や判例の丸暗記という学習方法ではなく、理解力や思考力を養うように心がけること。また日々の学習（インプット・アウトプット）の反復継続も心がけること。
無断欠席は以後、受講不可とする。
受講時には六法持参のこと。

講義の順序とポイント

1. 憲　法(1)
2. 憲　法(2)
3. 憲　法(3)
4. 民　法(1)
5. 民　法(2)
6. 民　法(3)
7. 民　法(4)
8. 民　法(5)
9. 行政法(1)
10. 行政法(2)
11. 行政法(3)
12. 行政法(4)
13. 行政法(5)
14. 商法・会社法等
15. 個人情報保護法

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★	★	★★

年度	2015	授業コード	J4014500A
科目名	キャリアゼミ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになる。社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、不断の努力を惜しまないことが必要になる。キャリア・ゼミでは、希望する進路を実現するために必要となる基本的な準備作業を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。		
教材（テキスト）	キャリアサポートセンター編『就職ガイド 2015』		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	原則的には、出席が良好で、かつ、以下の要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己ＰＲ文の作成。 ③自己分析シートの作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。		
到達目標	就職することの意味、就職活動の流れを理解する。 自己分析シート、自己ＰＲ文を作成し、就職時に提出する履歴書を完成させる。		
準備学習	就職ガイドの該当頁を指定するので、講義前までに読んでおくこと。 毎回、課題を提出させる。		
受講者への要望			
大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
担当教員それぞれが、工夫をこらした教材を用いてゼミを進めていく。下記の予定とは若干異なる場合もありうるが、その場合には初回のゼミで連絡する。 1．　ガイダンス－今何をすべきか 2．　就職登録票の作成 3．　自己分析がなぜ必要なのか 4．　自分探しの手法を考える 5．　過去の自分を知る 6．　他人から見た自分を知る 7．　自己分析シートの作成（1） 8．　自己分析シートの作成（2） 9．　自己分析シートの作成（3） 10.　自己 PR の方法を学ぶ 11.　自己ＰＲ文の作成　（1） 12.　自己ＰＲ文の作成（2） 13.　自己ＰＲ文の作成（3） 14.　人前での自己 PR（プレゼン学習） 15.　履歴書の作成			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J4014500B
科目名	キャリアゼミ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになる。社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、どのような部分が自分のアピールポイントとなるのかを理解する必要がある。そこで、キャリアゼミでは、警察・消防を希望する学生が、進路を実現するために必要となる基本的な準備作業として自己 PR の作成を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。		
教材（テキスト）	キャリアサポートセンター編『就職ガイド２０１５』		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	原則的には、出席が良好で、かつ、以下の要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己ＰＲ文の作成。 ③自己分析シート作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。		
到達目標	１）就職活動の流れを理解する。 ２）自己分析シートを作成する。 ３）自己ＰＲ文を作成する。		
準備学習	常に自分の進路を意識し、その進路に就くためには何が必要かを考えておくこと。		

受講者への要望

大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。

講義の順序とポイント

担当教員それぞれが、工夫をこらした教材を用いてゼミを進めていく。下記の予定とは若干異なる場合もありうるが、その場合には初回のゼミで連絡する。

１．　ガイダンス―今何をすべきか
２．　就職登録票の作成
３．　警察・消防の採用試験において自己分析・自己 PR がなぜ必要なのか
４．　過去の自分を知る
５．　自己分析シートの作成（１）
６．　自己分析シートの作成（２）
７．　自己分析シートの作成（３）
８．　自己 PR の方法を学ぶ
９．　自己ＰＲ文の作成　（１）
１０．　自己ＰＲ文の作成（２）
１１．　自己ＰＲ文の作成（３）
１２．　人前での自己 PR（プレゼン学習）
１３．　志望理由と自己 PR
１４．　面接で聞かれること
１５．　今後の就職活動・採用試験の流れ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J4014500I
科目名	キャリアゼミ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになるが、本ゼミでは、企業へ就職する学生を対象とする。 社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、不断の努力を惜しまないことが必要になる。キャリア・ゼミでは、希望する進路を実現するために必要となる基本的な準備作業を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。		
教材（テキスト）	キャリアサポートセンター編『就職ガイド 2016』		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	原則的には、出席が良好で、かつ、以下の 3 要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己ＰＲ文の作成。 ③自己分析シート作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。		
到達目標	１）就職活動の流れを理解する。 ２）自己分析シートを作成する。 ３）自己ＰＲ文を作成する。		
準備学習	民間企業に就職するためには何が必要かを常に考え、次回の項目について、キャリアサポートセンター編『就職ガイド 2016』を各自読んでおくこと。		
受講者への要望			
大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
民間企業への就職をめざし、採用の実態を知り、求められるビジネスマナーを身に着けることを中心に行なう。 第 1 回　ガイダンス――今何をすべきか（民間企業の就活の実態を知る） 第 2 回　就職登録票の作成 第 3 回　自己紹介：自己分析がなぜ必要なのか 第 4 回　他己紹介：他人からみた自分を知る 第 5 回　自己分析シートの作成 第 6 回　ビジネスマナー（1）：ビジネスメールの作成 第 7 回　ビジネスマナー（2）：電話のかけ方 第 8 回　自己 PR 文の作成 第 9 回　ビジネスマナー（3）:スーツ着こなしチェック 第 10 回　ビジネスマナー（4）：入室・退室／名刺の受け取り方 第 11 回　ビジネスマナー（5）：３種の礼の仕方 第 12 回　人前での自己 PR(プレゼン学習)（1） 第 13 回　模擬面接（1） 第 14 回　人前での自己 PR（プレゼン学習）　（2） 第 15 回　模擬面接（2）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J4014500K
科目名	キャリアゼミ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	自動登録科目である。生活と法コース及び法職コースに属する者のクラスである。 大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、不断の努力を惜しまないことが必要になる。キャリア・ゼミでは、希望する進路を実現するために必要となる基本的な準備作業を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。		
教材（テキスト）	キャリアサポートセンター編『就職ガイド 2015』 ※ 初回に配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	原則的には、出席が良好で、かつ、以下の３要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己ＰＲ文の作成。 ③自己分析シート作成時のキャリアサポートセンターによる個別面談。		
到達目標	１）就職活動の流れを理解する。 ２）自己分析シートを作成する。 ３）自己ＰＲ文を作成する。		
準備学習	・常に自分の進路を意識し、その進路に進むためには何が必要で、自分には何が足りていないかを考えておくこと。 ・キャリアサポートセンターにより開催される各種就職行事（特に業界研究、内定獲得講座）には積極的に参加し、自らの進路について模索すること。 ・必要な面談を受けること。 ・自己分析、自己ＰＲ文に関し、授業中および面談において指摘された点について授業までに修正しておくこと。 ・その他就職試験に関連して、適宜宿題を出す。		

受講者への要望

・大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。
・どのような進路に進もうとどこかの時点で就職活動をする可能性が高いので、大学院への進学希望者も一度は経験していただきたい。
・課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。

講義の順序とポイント

1．　ガイダンス ― 今何をすべきか； 就職登録票の作成
2．　自己分析がなぜ必要なのか・自己分析シートを埋めてみよう
　　宿題： 身近な親類に自分がどんな人間かを聞いてみよう。
3．　自己分析シートの作成（1） ― インタビュー結果も反映させてみよう
　　宿題： クラブの先輩や後輩、バイト先の店長や先輩後輩に自分がどんな人間を聞いてみよう。
　　いったん自己分析シートを完成させて面談を受けるためにどれくらいかけるかを考えて、面談予約をしておこう。
4．　自己分析シートの作成（2） ― インタビュー結果も反映させてみよう
　　宿題： 時間中に指摘した点を修正ないし補完すること。
5．　自己分析シートの作成（3） ― 講義中に添削します。
　　宿題： この頃までには面談を済ませ、自己分析シートをひとまず完成させること。
6．　自己分析シートに基づく自己紹介
7．　自己 PR の方法を学ぶ
8．　自己ＰＲ文の作成 （1）― 自己分析シートを見ながらＰＲポイントを探す
9．　自己ＰＲ文の作成 （2）
　　宿題： 自己ＰＲ文をもってキャリアサポートセンターで面談してもらうこと。

10.　自己ＰＲ文の作成　（3）― 講義中に添削します。
11.　人前での自己 PR（プレゼン学習）
12.　人前での自己 PR（プレゼン学習）
　　宿題： 履歴書作成に向け、自分の持っている資格の正式名称を確認しておくこと。
13.　履歴書の作成
　　宿題： 埋められなかった項目を埋めて履歴書を完成させること。
14.　エントリーシートについて
15.　就職活動について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	J4014500M
科目名	キャリアゼミ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになる。社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、どのような部分が自分にとってアピールできるところなのかを理解する必要がある。そこで、キャリア・ゼミでは、警察・消防を希望する学生が、進路を実現するために必要となる基本的な準備作業として自己 PR の作成を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。		
教材（テキスト）	キャリアサポートセンター編『就職ガイド 2014』		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	原則的には、出席が良好で、かつ、以下の３要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己ＰＲ文の作成。 ③自己分析シート作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。		
到達目標	１）就職活動の流れを理解する。 ２）自己分析シートを作成する。 ３）自己ＰＲ文を作成する。		
準備学習	講義終了時に、毎回、次回の授業で必要なことを事前に宿題として提示するので、指定期日までに予習・復習してくること。内容は、自分の希望進路について調べたり、自己分析シートや自己 PR 文の作成であり、方法等については、随時授業の中で指示していく。		
受講者への要望			
大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
担当教員それぞれが、工夫をこらした教材を用いてゼミを進めていく。下記の予定とは若干異なる場合もありうるが、その場合には初回のゼミで連絡する。 1．　ガイダンス―今何をすべきか 2．　就職登録票の作成 3．　警察・消防の採用試験において自己分析・自己 PR がなぜ必要なのか 4．　過去の自分を知る 5．　自己分析シートの作成（1） 6．　自己分析シートの作成（2） 7．　自己分析シートの作成（3） 8．　自己 PR の方法を学ぶ 9．　自己ＰＲ文の作成　（1） 10．　自己ＰＲ文の作成（2） 11．　自己ＰＲ文の作成（3） 12．　人前での自己 PR（プレゼン学習） 13．　志望理由と自己 PR 14．　面接で聞かれること 15．　今後の就職活動・採用試験の流れ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J40146001
科目名	憲法特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study of Constitutional Law		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	公務員研究Ａ（憲法），公務員研究Ａ
講義概要	憲法の基礎知識を前提に、公務員試験と行政書士試験の受験のため、憲法全体の範囲を対象に、過去問を解きながら実践的な学習を行う。		
教材（テキスト）	公務員Ｖテキスト　３　憲法　第 10 版（ＴＡＣ出版）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（70%）　講義内での課題に対する評価（30%）		
到達目標	憲法の講義の復習と過去問を解くことにより、公務員試験や行政書士試験に合格するための基礎力を養成する。		
準備学習	講義終了時に、毎回、公務員試験の過去問を解く。 次回の範囲を指定するので、憲法の教科書の該当頁を読んでおくこと。		
受講者への要望			
公務員試験と行政書士試験の合格をめざす科目なので、はっきり目的意識をもった学生の受講をのぞむ。憲法の復習は適宜行っていくが、できれば憲法をすでに履修したか、履修中であることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．　憲法の概念・歴史・基本原理 ２．　日本国憲法の基本原理 ３．　基本的人権の歴史・人権の主体・人権の効力・限界 ４．　包括的人権と法の下の平等 ５．　思想・良心・信教の自由 ６．　表現の自由 ７．　経済的自由 ８．　社会権（生存権・教育を受ける権利・労働基本権） ９．　刑事手続と人身の自由 １０．国会 １１．内閣 １２．司法 １３．地方自治 １４．天皇 １５．憲法改正			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	5	5	9	9	5	5
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2015	授業コード	J40146002
科目名	憲法特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study of Constitutional Law		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	公務員研究Ａ（憲法），公務員研究Ａ
講義概要	憲法の基礎知識を前提に、公務員試験と行政書士試験の受験のため、憲法全体の範囲を対象に、過去問を解きながら実践的な学習を行う。		
教材（テキスト）	公務員Ｖテキスト　３　憲法　第 10 版（ＴＡＣ出版）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（70%）　講義内での課題に対する評価（30%）		
到達目標	憲法の講義の復習と過去問を解くことにより、公務員試験や行政書士試験に合格するための基礎力を養成する。		
準備学習	講義終了時に、毎回、公務員試験の過去問を解く。 次回の範囲を指定するので、憲法の教科書の該当頁を読んでおくこと。		
受講者への要望			
公務員試験と行政書士試験の合格をめざす科目なので、はっきり目的意識をもった学生の受講をのぞむ。憲法の復習は適宜行っていくが、できれば憲法をすでに履修したか、履修中であることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．　憲法の概念・歴史・基本原理 ２．　日本国憲法の基本原理 ３．　基本的人権の歴史・人権の主体・人権の効力・限界 ４．　包括的人権と法の下の平等 ５．　思想・良心・信教の自由 ６．　表現の自由 ７．　経済的自由 ８．　社会権（生存権・教育を受ける権利・労働基本権） ９．　刑事手続と人身の自由 １０．国会 １１．内閣 １２．司法 １３．地方自治 １４．天皇 １５．憲法改正			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J40147001
科目名	行政法特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study of Administrative Law		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	公務員試験や行政書士試験のための行政法の基礎知識を習得し、試験問題を解くことによって実力養成をしていく。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（70%）出席状況等による。　授業内課題による評価（30%）		
到達目標	公務員試験、行政書士試験の合格のための力を養成する。		
準備学習	次週のテーマについて、行政法の教科書を読んで予習する。		

受講者への要望

行政法の科目、地方自治法、憲法の科目などの履修が望ましい。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション
2．行政と法
3．行政立法
4．行政行為①
5．行政行為②
6．行政計画・行政契約・行政指導
7．実効性確保
8．行政手続
9．行政事件訴訟法の類型
10．取消訴訟の訴訟要件
11．取消訴訟の審理と判決
12．行政不服申立て
13．国家賠償法
14．損失補償
15．まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J40148A01
科目名	民法特別研究 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study of Civil Law A		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	公務員試験対策の講義である。A では、民法の中から総則、物権法および担保物権を取り上げ、よく出題されているテーマについての講義と過去問の演習を行う。		
教材（テキスト）	TAC 公務員講座編『民法（上）《公務員 V テキスト 1》』（TAC 出版）		
教材（参考文献）	遠藤浩・川井健編『民法基本判例集』（勁草書房、第 3 版、2010）978-4326450930 中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276 永田眞三郎ほか『民法入門・総則《エッセンシャル民法 1》』（有斐閣、第 4 版、2008）978-4641183636 永田眞三郎ほか『物権《エッセンシャル民法 2》』（有斐閣、2005）978-4641183278		
教材（その他）	過去問題集を各自 1 冊は手に入れておくこと。		
評価方法	4 回実施予定の小テストの結果を成績評価の基準とする。		
到達目標	公務員試験（行政職）合格に必要な基本的知識を、民法総則から担保物権に関して身につけること。		
準備学習	本講義では、できるだけ過去問を扱っていきたい。そこで、次の予習と復習を求める。 ・【予習】　事前に教科書の該当箇所を一読し、習っている箇所を復習し、またまだ習っていない箇所については、一応の制度を理解して講義に出席すること。 ・【復習】　各自で準備した過去問題集の該当箇所を解くこと。 ※解けなかった問題には繰り返して挑戦すること（これが重要）。 予習・復習には、参考書・問題集もある自習室（徳志館 1 階）を利用するのが望ましい。		

受講者への要望

・公務員試験受験希望者（警察・消防を除く）を受け入れる。その他の資格取得を目指す者の受講も歓迎する。
・ただ何となくではなく、絶対に公務員試験に合格するんだという意識を持って、予習復習に努めること。
・本特別研究を自らの知識の再確認の場とするつもりで挑んで欲しい。
・自習室をフル活用すること。
・模擬試験も随時受験すること。
・講義中の出入りは周りの迷惑になるので、原則として禁止する。トイレは休み時間中に済ませること。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

第 1 回　ガイダンス・心構え・講義の進め方について
第 2 回　権利の主体（権利能力、意思能力、行為能力）
第 3 回　第 2 回の確認テスト；　法律行為（法律行為と意思表示）
第 4 回　第 3 回の確認テスト；　代理
第 5 回　小テスト 1（第 2 回、第 3 回）；　第 4 回の確認テスト；　法律行為の付款
第 6 回　第 5 回の確認テスト；　法人
第 7 回　第 6 回の確認テスト；　時効
第 8 回　小テスト 2（第 4 回、第 5 回、第 6 回）；　第 7 回の確認テスト；　所有権・共有
第 9 回　第 8 回の確認テスト；　占有・用益物権
第 10 回　第 9 回の確認テスト；　不動産物権変動・即時取得（動産物権変動）
第 11 回　第 10 回の確認テスト；　担保物権の性質・留置権・先取特権・質権
第 12 回　小テスト 3（第 7 回～第 10 回）；　第 11 回の確認テスト；　抵当権 1（法定地上権）
第 13 回　第 12 回の確認テスト；　抵当権 2（第三取得者、処分）
第 14 回　第 13 回の確認テスト；　抵当権 3（根抵当権）・非典型担保
※第 14 回の確認テストは宿題とし、第 15 回の小テストの試験範囲とする。
第 15 回　小テスト 4（第 11 回～第 14 回）；　リベンジテスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J40149B01
科目名	民法特別研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study of Civil Law B		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	公務員試験や法律系資格の試験科目である民法のうち、債権総論および債権各論について講義と問題演習を行う。講義はよく出題される分野に絞って行い、これを踏まえて過去問の演習を繰り返す。		
教材（テキスト）	適宜、レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン債権法〔第５版〕』（日本評論社、2010 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	数回実施する小テストの結果による。出席状況、講義中の質問への応答等を補充的に考慮する。		
到達目標	公務員試験等の合格に必要な民法（債権総論および債権各論）の知識を習得する。		
準備学習	講義時間の多くを問題の解説に費やすため、受講者は前回の講義までに配布された問題をあらかじめ解いておくこと。予習・復習のために自習室等を積極的に活用すること。		

受講者への要望

本講義は公務員試験等を受験する明確な意思がある者を対象としている。単位の数合わせや空き時間を埋めるために本講義を登録することはご遠慮願いたい。受講者には、漫然と出席することなく、自主的に受験勉強に取り組むことが求められる。なるべく民法関連科目を履修済み、または並行して履修することが望ましい。なお、同じ担当者による「宅建特別研究」と内容的に重複する部分がある。

講義の順序とポイント

１．　オリエンテーション
２．　債務不履行（１）
３．　債務不履行（２）
４．　債権者代位権・債権者取消権
５．　多数当事者の債権債務関係
６．　債権譲渡・債務引受
７．　債権の消滅
８．　契約総則（１）
９．　契約総則（２）
１０．移転型契約
１１．賃貸型契約
１２．役務型契約
１３．不法行為（１）
１４．不法行為（２）
１５．事務管理・不当利得

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★		★

年度	2015	授業コード	J40151B01
科目名	警察・消防特別研究II	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Police Officer and Fir e Fighter Examinations II		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	この講義では、警察官・消防官の採用試験に必要な文章理解の能力を向上させるために、毎時間、過去の試験問題とその類題を自ら解くこととその解説に当てられる。解説にあったては、文章理解の方法だけでなく、採用試験の科目である文系の一般教養の一部（国語、歴史、思想）も身に付くよう心がけるつもりである。 演習・説明の内容は、刑務官の採用試験や公務員採用試験にもある程度まで役立つものなので、これを目指す人も受講することができる。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	講義の進行にあわせ適宜紹介する。		
教材（その他）	教材は担当者が作成し配布する。		
評価方法	毎回の課題（宿題を含む）の成績が 30％　3 回の復習確認テストの成績が７０％		
到達目標	１．論理的に文章を分析できるようになる。 ２．語彙力が向上する。 ３．合格に向けての自習方法が身に付く。		
準備学習	日頃から、新聞をはじめ、様々なジャンルの本を読むように心がけて下さい。 毎回「実戦テスト」を配布しますので、１週間後に提出すること。 ４回講義が終了した時点で、復習確認テストを行うので、しっかり復習しておくこと。		

受講者への要望

途中で投げ出さず講義には毎回出席して下さい。
復習をしっかり行ってください。
初心を忘れずに頑張ってください。

講義の順序とポイント

１．はじめに(警察官・消防官採用試験について)
　第１回授業内試験と解説、第１回実戦テスト配布
２．第１回実戦テストから文章理解問題の解説、第２回授業内試験と解説、第２回実戦テスト配布
３．第２回実戦テストから文章理解問題の解説、第３回授業内試験と解説、第３回実戦テスト配布
４．第３回実戦テストから文章理解問題の解説、第４回授業内試験と解説、
５．第１回復習確認テスト（実戦テスト第１回～第３回、授業内試験第１回～第４回）と解説、第４回実戦テスト配布
６．第４回実戦テストから文章理解問題の解説、第５回授業内試験と解説、第５回実戦テスト配布
７．第５回実戦テストから文章理解問題の解説、第６回授業内試験と解説、第６回実戦テスト配布
８．第６回実戦テストから文章理解問題の解説、第７回授業内試験と解説、第７回実戦テスト配布
９．第７回実戦テストから文章理解問題の解説、第８回授業内試験と解説、
１０．第２回復習確認テスト（実戦テスト第４回～第７回、授業内試験第５回～第８回）と解説、第８回実戦テスト配布
１１．第８回実戦テストから文章理解問題の解説、第９回授業内試験と解説、第９回実戦テスト配布
１２．第９回実戦テストから文章理解問題の解説、第１０回授業内試験と解説、第１０回実戦テスト配布
１３．第１０回実戦テストから文章理解問題の解説、第１１回授業内試験と解説、第１１回実戦テスト配布
１４．第１１回実戦テストから文章理解問題の解説、第１２回授業内試験と解説、
１５．第３回復習確認テスト（実戦テスト第８回～第１１回、授業内試験第９回～第１２回）と解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J40151B02
科目名	警察・消防特別研究II	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Police Officer and Fir e Fighter Examinations II		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	この講義では、警察官・消防官の採用試験に必要な文章理解の能力を向上させるために、毎時間、過去の試験問題とその類題を自ら解くこととその解説に当てられる。解説にあったては、文章理解の方法だけでなく、採用試験の科目である文系の一般教養の一部（国語、歴史、思想）も身に付くよう心がけるつもりである。 演習・説明の内容は、刑務官の採用試験や公務員採用試験にもある程度まで役立つものなので、これを目指す人も受講することができる。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	講義の進行にあわせ適宜紹介する。		
教材（その他）	教材は担当者が作成し配布する。		
評価方法	毎回の課題（宿題を含む）の成績が 30％　3 回の復習確認テストの成績が７０％		
到達目標	１．論理的に文章を分析できるようになる。 ２．語彙力が向上する。 ３．合格に向けての自習方法が身に付く。		
準備学習	日頃から、新聞をはじめ、様々なジャンルの本を読むように心がけて下さい。 毎回「実戦テスト」を配布しますので、１週間後に提出すること。 ４回講義が終了した時点で、復習確認テストを行うので、しっかり復習しておくこと。		

受講者への要望

途中で投げ出さず講義には毎回出席して下さい。
復習をしっかり行ってください。
初心を忘れずに頑張ってください。

講義の順序とポイント

１．はじめに(警察官・消防官採用試験について)
　第１回授業内試験と解説、第１回実戦テスト配布
２．第１回実戦テストから文章理解問題の解説、第２回授業内試験と解説、第２回実戦テスト配布
３．第２回実戦テストから文章理解問題の解説、第３回授業内試験と解説、第３回実戦テスト配布
４．第３回実戦テストから文章理解問題の解説、第４回授業内試験と解説、
５．第１回復習確認テスト（実戦テスト第１回～第３回、授業内試験第１回～第４回）と解説、第４回実戦テスト配布
６．第４回実戦テストから文章理解問題の解説、第５回授業内試験と解説、第５回実戦テスト配布
７．第５回実戦テストから文章理解問題の解説、第６回授業内試験と解説、第６回実戦テスト配布
８．第６回実戦テストから文章理解問題の解説、第７回授業内試験と解説、第７回実戦テスト配布
９．第７回実戦テストから文章理解問題の解説、第８回授業内試験と解説、
１０．第２回復習確認テスト（実戦テスト第４回～第７回、授業内試験第５回～第８回）と解説、第８回実戦テスト配布
１１．第８回実戦テストから文章理解問題の解説、第９回授業内試験と解説、第９回実戦テスト配布
１２．第９回実戦テストから文章理解問題の解説、第１０回授業内試験と解説、第１０回実戦テスト配布
１３．第１０回実戦テストから文章理解問題の解説、第１１回授業内試験と解説、第１１回実戦テスト配布
１４．第１１回実戦テストから文章理解問題の解説、第１２回授業内試験と解説、
１５．第３回復習確認テスト（実戦テスト第８回～第１１回、授業内試験第９回～第１２回）と解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J40153A01
科目名	警察・消防特別研究Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Police Officer and Fir e Fighter Examinations I		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	警察官、消防官の仕事はどのようなものか、警察官、消防官になるためにはどのような準備が必要かを明らかにし、警察官、消防官になるための準備を助けることを内容とする。 警察官、消防官採用試験の教養試験は一般知識と一般知能からなる。本講義では一般知能のうち判断推理と数的推理の実力を向上させることを目標とする。この分野を苦手とする人が多いようであるが、一度要領をつかむと、確実に得点がとれるようになるので、努力のしがいがあると思われる。講義は、問題のパターンごとに解き方を示して、いくつかの例題を解いてみるという形で進行する予定である。 なお、刑務官採用試験などもほぼ同様の出題傾向であるから、これらを志望する人にとっても役立つだろう。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	講義内で紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	授業内テスト 70%、期末テスト 30%		
到達目標	警察や消防の仕事に理解を深めるとともに、採用試験に臨む心構えをつくり、学生の採用試験の筆記試験(択一式)の準備を促すことを目標とする。		
準備学習	講義時に配付した、練習問題を次回までに復習として取り組み、次回講義開始時に、その解答を提出させる。また、５回の小テスト、中間テスト、後半テストとして単元の区切りごとに授業内テストを課すので、練習問題を使って復習をしっかりやっておくこと。		
受講者への要望			
本講義は３回生以下の学生のバックアップを目的としている。就職活動で出席できそうにない４回生の登録は、歓迎しない。			
講義の順序とポイント			
1　論理的問題 2　集合・うそつき問題 3　暗号解読 4　対応表を使いこなす 5　位置・順序を決める 6　図形を読み取る 7　整数の性質 8　さまざまな文章問題 9　文章題に強くなる　その１ １０　文章題に強くなる　その２ １１　順列・組合せ １２　確率 １３　平面図形に慣れる １４　立体図形に慣れる １５　警察官・消防官の仕事			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			★

年度	2015	授業コード	J40153A02
科目名	警察・消防特別研究Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Police Officer and Fir e Fighter Examinations I		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	警察官、消防官の仕事はどのようなものか、警察官、消防官になるためにはどのような準備が必要かを明らかにし、警察官、消防官になるための準備を助けることを内容とする。 警察官、消防官採用試験の教養試験は一般知識と一般知能からなる。本講義では一般知能のうち判断推理と数的推理の実力を向上させることを目標とする。この分野を苦手とする人が多いようであるが、一度要領をつかむと、確実に得点がとれるようになるので、努力のしがいがあると思われる。講義は、問題のパターンごとに解き方を示して、いくつかの例題を解いてみるという形で進行する予定である。 なお、刑務官採用試験などもほぼ同様の出題傾向であるから、これらを志望する人にとっても役立つだろう。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	講義内で紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	授業内テスト 70%、期末テスト 30%		
到達目標	警察や消防の仕事に理解を深めるとともに、採用試験に臨む心構えをつくり、学生の採用試験の筆記試験(択一式)の準備を促すことを目標とする。		
準備学習	講義時に配付した、練習問題を次回までに復習として取り組み、次回講義開始時に、その解答を提出させる。また、５回の小テスト、中間テスト、後半テストとして単元の区切りごとに授業内テストを課すので、練習問題を使って復習をしっかりやっておくこと。		
受講者への要望			
本講義は３回生以下の学生のバックアップを目的としている。就職活動で出席できそうにない４回生の登録は、歓迎しない。			
講義の順序とポイント			
1　論理的問題 2　集合・うそつき問題 3　暗号解読 4　対応表を使いこなす 5　位置・順序を決める 6　図形を読み取る 7　整数の性質 8　さまざまな文章問題 9　文章題に強くなる　その１ １０　文章題に強くなる　その２ １１　順列・組合せ １２　確率 １３　平面図形に慣れる １４　立体図形に慣れる １５　警察官・消防官の仕事			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			★

年度	2015	授業コード	J40166A01
科目名	消防と法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Fire Fighting and Law I		
担当者名	廣瀬　仁久	旧科目名称	
講義概要	公務員の中でも、住民の生命と財産を守るために、時には我が身の危険を顧みず消火活動や人名救助に当たる消防職員は、一般の事務職員とは異なり阪神淡路大震災以降、大きな注目を浴び、男女を問わずこの職業を目指す若者が増加しています。 一方、消防職員の日常業務、災害現場における活動等、その真の姿を理解している方は多くはないと思います。 この講義では、消防の仕事を知り、理解することで、将来消防職員に就こうとする学生諸君の目的意識の向上を図ると共に、身近な防火・防災に関心を持ってもらうこと。併せて消防職員になるためには何をなすべきか、なしたなら如何にあるべきかを伝えていきます。 講義の内容は、机上学習の他に、訓練参加、実技、事例研究などを取り入れ多彩なものとします。		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	その都度、紹介します。		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布します。		
評価方法	平常点（20%)出席状況等による。　　授業中のプリント問題等（30%）　　期末レポート(50%)		
到達目標	地方公務員である消防職員の仕事と多様化する災害を知り、防災に関する知識を高めると共に、目的とする進路へのモチベーションを高め、維持する。		
準備学習	・消防職員を目指そうとする学生は、日常の体力作りが大切であり、大学のジムを利用しての体づくりに努めること。なお、一定の基準があるので、その基準をクリアーできること。 ・現在、地球上では前例のない災害が毎年のように発生しています。このような災害の発生メカニズムから被災者の自立支援にまで関心を持ち、その防災の一端に携わっている消防の活動をテレビや新聞、雑誌等で常に注視して、関係する記事等をファイリングすること。 ・講義で扱った表示等を生活の中で見つけた時は、写真に撮って、上記ファイルとともに保存しておくこと。		

受講者への要望

消防は、どのような法律を根拠に活動しており、起こりうる災害に対してどのように備えているのか? 住民の生命・財産を守る消防職員に興味を持ち、進路を考える上での一助にしてほしい。同時に現在の公務員の姿、倫理に関心を持ち、厳しく見つめてほしい。

なお、「消防と法Ⅰ」は、法令等に基づき消防の業務や今日の災害を知り、その対処の方法などを学び、「消防と法Ⅱ」では、訓練や講習などを体験する実技を含めた講義とします。

「消防と法Ⅰ」「消防と法Ⅱ」はどちらか一方、または双方の受講が可能です。

講義の順序とポイント

1　講時　公務員と消防職員
2　講時　日本における災害の現状
3　講時　消防業務の概要
4　講時　消防の日常業務と現場活動
5　講時　消防組織法
6　講時　消防法
7　講時　その他の消防関係法令
8　講時　消防財政
9　講時　警防業務（火災）
10　講時　警防業務（火災原因調査）
11　講時　警防業務（救助）
12　講時　警防業務（救急）
13　講時　予防業務（防火査察）
14　講時　予防業務（危険物の知識と防火査察）
15　講時　地域防災の実践（自主防災組織）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J40166B01
科目名	消防と法II	単位数	2
科目名（英語表記）	Fire Fighting and Law II		
担当者名	廣瀬　仁久	旧科目名称	
講義概要	「消防と法II」は、実技訓練や実災害の検証等の他、各種講習などを体験する消防実技を含めた講義とします。		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	その都度、紹介します。		
教材（その他）	必要に応じプリント等を配布します。		
評価方法	平常点(20%)出席状況等による。　授業中のプリント問題等(30%)　　期末レポート(50%)		
到達目標	消防職員の仕事と災害を知り、防災に関する知識を高めると共に、目的とする進路へのモチベーションを高め、維持する。		
準備学習	・消防職員を目指そうとする学生は、日常の体力作りが大切であり、大学のジムを利用しての体力作りに努めること。なお、一定の規準があるのでその基準をクリアーできること。 ・消防の活動に絶えず関心を持ち、テレビや新聞、雑誌等から消防に対する知識を吸収するとともに、関係する記事等をファイリングすること。 ・講義で扱った表示等を生活の中で見つけた時は、写真に撮って、上記ファイルとともに保存しておくこと。		

受講者への要望

消防の実践的活動を目にし、また自ら体験し、住民の生命・財産を守る消防職員が実際にどんなことをしているのかを知るなどして、進路を考える上での一助にしてほしい。同時に、現在の公務員の姿、倫理に関心を持ち、厳しく見つめてほしい。

講義の順序とポイント

1　講時　消防活動の概要
2　講時　危機管理と安全管理
3　講時　救急講習（普通救命講習）
4　講時　救急講習（普通救命講習）
5　講時　緊急消防援助隊の活動
6　講時　消火訓練及び地震体験
7　講時　災害事例
8　講時　原子力防災
9　講時　危険予知訓練（ＫＹＴ）と災害対策（ＤＩＧ）
10　講時　消防防災ヘリ
11　講時　防災の基礎知識を学ぶ（東日本大震災から）
12　講時　災害の基礎知識
13　講時　災害への備え
14　講時　いざというとき役立つ知識
15　講時　災害ボランティア活動

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J40167001
科目名	少年法	単位数	2
科目名（英語表記）	Juvenile Law		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	過去数十年の間だけでも、神戸の児童連続殺傷事件、佐世保小６女自殺害事件、山口県光市母子殺害事件、そして裁判員裁判で死刑が問題となった石巻男女殺傷事件などの少年事件が報道で大きく取り上げられている。しかし、事件を犯した少年が、どのような手続を経て、どのような処分を受けるのかということを正確に理解しているだろうか。「少年法」という言葉は知っていてもその法律の理念・全体像を理解しているだろうか。 警察官や法曹など、犯罪に関わっていく職業はもちろん、裁判員制度が施行された今では、少年法に関する基本的知識は不可欠になってくるだろう。そこで、この講義では、少年法の意義や少年法による手続の流れなどを概観したうえで、警察や家庭裁判所等の役割および少年法をめぐる問題について理解を深めてもらう。		
教材（テキスト）	レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業の中で必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。毎回六法を持参すること。		
評価方法	学期末試験の結果（８０％）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	少年事件や少年審判の流れについて理解し、少年法に関する体系的な基礎知識を身につけることができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、授業の最初に前回の授業内容に係るおさらいテストをするので、復習しておくこと。		

受講者への要望

この講義では、少年事件の手続を中心に解説するので、少年非行の実態やその原因などについて学びたいという学生はこの講義ではなく「犯罪学」を受講すること。

学期末試験や小テストのためにも、少年事件の手続全体および少年法の意義を理解する必要がある。したがって、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。

講義の順序とポイント

１　少年法とは
２　少年法制の沿革
３　少年法の目的と対象
４　少年保護事件の対象と手続
５　警察による捜査・予防活動（１）
６　警察による捜査・予防活動（２）
７　警察による捜査・予防活動（３）
８　警察における非行防止活動
９　家庭裁判所における事件受理
１０　観護措置
１１　調査
１２　少年審判
１３　試験観察・終局決定①
１４　終局決定②
１５　検察官送致（逆送）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	J40183001
科目名	現代社会と法３	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Contemporary Legal Issues 3		
担当者名	松田　哲	旧科目名称	
講義概要	本ゼミの目的は、日本を取り巻く国際関係について学びながら、現代国際関係を理解するために必要とされる基礎的な視角と知識を習得することにある。具体的に扱うトピックは、下記の「講義の順序とポイント」に掲げてあるものであるが、それらを一言で表すとすれば、日本とアジア諸国、日本とアメリカとの国際関係となろう。ゼミの運営方法としては、報告と、その報告に対する質疑応答というオーソドックスなものを予定している。		
教材（テキスト）	初瀬龍平・野田岳人編著『日本で学ぶ国際関係論』（法律文化社、2007 年）、2500 円＋税		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜紹介する。		
評価方法	報告への取り組みと内容（５０％）、調べ学習の成果（２０％）、質問等の発言（３０％）		
到達目標	１、国際関係に関する基礎的な用語の意味内容を理解すること。 ２、アジアにおける日本の国際関係について、歴史的経緯を踏まえた説明ができるようになること。 ３、レジメを作成するノウハウと人前で報告をするノウハウを、身につけ活用できるようになること。		
準備学習	１、報告を聞く人：　①報告対象である章を事前に読んでくること、②その章に関する質問事項を最低ひとつ考えてくること。 ２、報告をする人：　①教科書には書かれていない部分（前提知識）について自分で調べて補ってくること（調べ学習）、②報告時に配布するレジメを作成してくること。		

受講者への要望

１、教科書を必ず購入すること。
２、以下の章から、報告したい章を選んでおくこと。
３、受講生の人数が少ないことが予想されるので、3 回程度の報告を覚悟しておくこと。
４、欠席せずに継続して出席すること。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス
２．政治学と国際関係論の交差（第１章）
３．日本の国家・国民・領土（第２章）
４．日本の国際化と外国人（第３章）
５．日米関係と日本外交（第５章）
６．日本の戦争責任と東アジアの国際関係論（第６章）
７．日本の ODA と開発援助の国際関係論（第７章）
８．日本のＮＧＯと国際平和協力（第８章）
９．民族紛争と予防外交の国際関係論（第１０章）
１０．エネルギー資源をめぐる国際関係論（第１１章）
１１．国境を越える人の移動と国際関係（第１３章）
１２．外国人法と市民社会（第１４章）
１３．アメリカニズムと近代文明（第１５章）
１４．紛争後の平和構築と国際関係論（第１７章）
１５．総括と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★		★★	★★

年度	2015	授業コード	J40184001
科目名	現代社会と法４	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Contemporary Legal Issues 4		
担当者名	松田　哲	旧科目名称	
講義概要	本ゼミの目的は、現代国際社会を取り巻く様々な問題について学びながら、現代国際関係を理解するために必要とされる基礎的な視角と知識を習得することにある。具体的に扱うトピックは、下記の「講義の順序とポイント」に掲げてあるので、そちらを参照していただきたい。ゼミの運営方法としては、報告と、その報告に対する質疑応答というオーソドックスなものを予定している。		
教材（テキスト）	佐渡友哲・信夫隆司編『国際関係論』（弘文堂、2013 年）、2200 円＋税		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜紹介する。		
評価方法	報告への取り組みと内容（５０％）、調べ学習の成果（２０％）、質問等の発言（３０％）		
到達目標	１、国際関係に関する基礎的な用語の意味内容を理解すること。 ２、現代国際社会が抱える多様な問題について、国際関係論という学問的な視点にもとづいた説明ができるようになること。 ３、レジメを作成するノウハウと人前で報告をするノウハウを、身につけ活用できるようになること。		
準備学習	１、報告を聞く人：　①報告対象である章を事前に読んでくること、②その章に関する質問事項を最低ひとつ考えてくること。 ２、報告をする人：　①教科書には書かれていない部分（前提知識）について自分で調べて補ってくること（調べ学習）、②報告時に配布するレジメを作成してくること。		

受講者への要望

１、教科書を必ず購入すること。
２、以下の章から、報告したい章を選んでおくこと。
３、受講生の人数が少ないことが予想されるので、3 回程度の報告を覚悟しておくこと。
４、欠席せずに継続して出席すること。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス
２．20 世紀の国際関係をどう理解するのか（第 2 章）
３．今日の国際関係をどう読むのか（第 3 章）
４．グローバリゼーションの時代をどう読むのか（第 4 章）
５．現代の安全保障をどう読むのか（第 5 章）
６．北東アジアの政治と国際関係をどう読むのか（第 6 章）
７．国際社会における日本の位置づけをどう読むのか（第 7 章）
８．国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論（第 9 章）
９．リージョナリズムと欧州統合（第 10 章）
１０．南北問題をどう解決するのか（第 11 章）
１１．地球環境問題をどう解決するのか（第 12 章）
１２．非国家アクターの台頭をどう見るのか（第 13 章）
１３．市民社会は世界を動かすことができるのか（第 14 章）
１４．国際紛争・国内紛争をどう解決するのか（第 15 章）
１５．総括と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★		★★	★★

年度	2015	授業コード	J40211001
科目名	行政法Ⅱ（作用法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law Ⅱ (Actions)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	本学部の行政法は、総論、作用法、救済法の３つの講義で構成される。本講義では、行政作用法の部分と行政の義務履行確保の部分、行政手続、情報公開、個人情報保護を扱う。		
教材（テキスト）	高橋　滋『行政法　Visual Materials』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）	宇賀克也・交告尚史『行政判例百選Ⅰ[第６版]』、『行政判例百選Ⅱ[第６版]』（有斐閣、2012 年）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験（60%）　授業内テスト（20%）　平常点（20%）		
到達目標	行政作用のそれぞれの特色を理解するとともに、行政救済法との関係も学ぶ。		
準備学習	毎回、講義終了時に確認テストとして公務員試験の過去問を解く。 次回の範囲の教科書該当頁と関連判例を予習する。		
受講者への要望			
公務員試験や行政書士などの資格試験を目指している人は必ず受講すること。 憲法科目は履修すること。行政法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは必ずセットで履修すること。 地方自治法も履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．　行政法の学び方と講義の概要 ２．　行政作用の種類 ３．　行政立法 ４．　行政行為の概念と種類 ５．　行政裁量 ６．　行政行為の効力 ７．　行政行為の瑕疵 ８．　行政行為の取消しと撤回 ９．　行政行為の附款 １０．行政計画 １１．行政契約 １２．行政指導 １３．行政上の強制執行 １４．行政上の即時強制 １５．行政罰			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J40211002
科目名	行政法 II （作用法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law II (Actions)		
担当者名	石塚　武志	旧科目名称	
講義概要	国や自治体の行政機関が、私たち市民や私企業に対して行う活動を、その法的な性格によって、行政処分・行政指導などに分類し、それぞれがどのような法的ルールに従って行われるのかを検討します。		
教材（テキスト）	櫻井敬子・橋本博之『行政法［第 4 版］』（弘文堂、2013 年）		
教材（参考文献）	宇賀克也ほか編『行政判例百選 I［第 6 版］』（有斐閣、2012 年） 高橋滋編著『行政法 Visual Materials』（有斐閣、2014 年）		
教材（その他）			
評価方法	時おり課題を提出してもらい、それを平常点として 30 点分として評価します。 定期試験ないしレポート課題を学期末に実施し、70 点分として評価します。		
到達目標	「行政法」は、公務員試験等の試験科目となっている場合があります。そのような試験の受験勉強を進める基礎となる学力を習得することを目標とします。		
準備学習	授業予定を示しますので、テキストの該当箇所を通読してから授業に臨むよう心がけてください。		
受講者への要望			
テキストに指定するものに限りませんが、『行政法』に関する教科書・体系書を何か一つ手にして、学習を進めるようにしてください。授業中に法律の条文を参照することがありますので、六法を持参する等してください。			
講義の順序とポイント			
1. 行政活動と法、行政立法① 2. 行政立法② 3. 行政行為の概念と分類 4. 行政行為の効力 5. 行政行為の職権取消し・撤回 6. 行政手続法の具体的内容 7. 行政裁量① 8. 行政裁量② 9. 行政上の義務履行確保 10. 行政罰 11. 行政指導① 12. 行政指導② 13. 行政計画 14. 行政契約 15. 行政調査			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J40216A01
科目名	公務員特別研究Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Civil Servant Examinat ions I		
担当者名	山下　功	旧科目名称	
講義概要	本講義では、公務員試験において最重要科目と言える経済原論（ミクロ経済学、マクロ経済学）の対策を通年で行います。 対象は、公務員試験受験を考えている方、経済学研究科、MBA などの大学院試験受験を考えている方、経済学に興味がある方等です。入門的な内容から行いますので、事前の知識は問いません。 前期は個別経済主体の経済活動の集計としての「国」の活動を分析対象とするマクロ経済学です。 テキストとして指定しているのは公務員試験勉強の定番と言える問題集です。 各トピックについて講義をした後、テキストの主要な問題を解説します。 パワーポイントの使用を最低限にし、板書を中心に行います。また、演習時間を設けることがあるので筆記用具は必携です。 皆さんがテキストの各問題を自力で解けるようになることを本講義の目標にしたいと思います。 なお、経済学を勉強するにあたって数学を回避することは出来ません。 初回の講義において、本講義において最低限必要な数学について説明しますが、適宜参考文献などを利用し、復習を行って理解を深めましょう。		
教材（テキスト）	資格試験研究会編『公務員試験新スーパー過去問ゼミ 4　マクロ経済学』実務教育出版，2014 年 ISBN-10:4788948621		
教材（参考文献）	石川秀樹『試験攻略　新・経済学入門塾Ⅴ　計算マスター編』中央経済社 福田慎一，照山博司『マクロ経済学・入門』有斐閣アルマ		
教材（その他）	適宜講義中にプリントを配布		
評価方法	定期テスト（50%）　授業内小テスト等による平常点（20%）　二度のレポート（30%）		
到達目標	マクロ経済学の基本的な考え方を身につけ、それを問題へ応用する力をつける。		
準備学習	講義の最後に復習として問題（テキストおよび配布プリント）を指示します。 次回の講義までに解いてください。 また、テキストの各チャプターの最初にある「POINT」のページを読み、講義前の予習をしておいてください。		

受講者への要望

熱意をもって取り組むこと。
話を聞くことも大切ですが、自ら手を動かして考えてみることが理解への一番の近道です。
また、講義中の質問を歓迎します。

講義の順序とポイント

1．講義ガイダンス
2．45 度線分析
3．45 度線分析
4．IS 曲線 1
5．IS 曲線 2
6．LM 曲線 1
7．LM 曲線 2
8．IS-LM 分析 1
9．IS-LM 分析 2
１０．乗数理論の基本 1
１１．乗数理論の基本 2
１２．IS-LM 型の計算問題 1
１３．IS-LM 型の計算問題 2
１４．総需要・総供給分析 1
１５．総需要・総供給分析 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	★

年度	2015	授業コード	J40216A02
科目名	公務員特別研究Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Civil Servant Examinat ions I		
担当者名	山下　功	旧科目名称	
講義概要	本講義では、公務員試験において最重要科目と言える経済原論（ミクロ経済学、マクロ経済学）の対策を通年で行います。 対象は、公務員試験受験を考えている方、経済学研究科、MBA などの大学院試験受験を考えている方、経済学に興味がある方等です。入門的な内容から行いますので、事前の知識は問いません。 前期は個別経済主体の経済活動の集計としての「国」の活動を分析対象とするマクロ経済学です。 テキストとして指定しているのは公務員試験勉強の定番と言える問題集です。 各トピックについて講義をした後、テキストの主要な問題を解説します。 パワーポイントの使用を最低限にし、板書を中心に行います。また、演習時間を設けることがあるので筆記用具は必携です。 皆さんがテキストの各問題を自力で解けるようになることを本講義の目標にしたいと思います。 なお、経済学を勉強するにあたって数学を回避することは出来ません。 初回の講義において、本講義において最低限必要な数学について説明しますが、適宜参考文献などを利用し、復習を行って理解を深めましょう。		
教材（テキスト）	資格試験研究会編『公務員試験新スーパー過去問ゼミ 4　マクロ経済学』実務教育出版，2014 年 ISBN-10:4788948621		
教材（参考文献）	石川秀樹『試験攻略　新・経済学入門塾Ⅴ　計算マスター編』中央経済社 福田慎一，照山博司『マクロ経済学・入門』有斐閣アルマ		
教材（その他）	適宜講義中にプリントを配布		
評価方法	定期テスト（50%）　授業内小テスト等による平常点（20%）　二度のレポート（30%）		
到達目標	マクロ経済学の基本的な考え方を身につけ、それを問題へ応用する力をつける。		
準備学習	講義の最後に復習として問題（テキストおよび配布プリント）を指示します。 次回の講義までに解いてください。 また、テキストの各チャプターの最初にある「POINT」のページを読み、講義前の予習をしておいてください。		

受講者への要望

熱意をもって取り組むこと。
話を聞くことも大切ですが、自ら手を動かして考えてみることが理解への一番の近道です。
また、講義中の質問を歓迎します。

講義の順序とポイント

1．講義ガイダンス
2．45 度線分析
3．45 度線分析
4．IS 曲線 1
5．IS 曲線 2
6．LM 曲線 1
7．LM 曲線 2
8．IS-LM 分析 1
9．IS-LM 分析 2
１０．乗数理論の基本 1
１１．乗数理論の基本 2
１２．IS-LM 型の計算問題 1
１３．IS-LM 型の計算問題 2
１４．総需要・総供給分析 1
１５．総需要・総供給分析 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	★

年度	2015	授業コード	J40216B01
科目名	公務員特別研究Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Civil Servant Examinat ions Ⅱ		
担当者名	山下　功	旧科目名称	
講義概要	本講義では、公務員試験において最重要科目と言える経済原論（ミクロ経済学、マクロ経済学）の対策を通年で行います。 対象は、公務員試験受験を考えている方、経済学研究科、MBA などの大学院試験受験を考えている方、経済学に興味がある方等です。入門的な内容から行いますので、事前の知識は問いません。 後期は個別経済主体の意思決定と取引を主な分析対象とするミクロ経済学です。 テキストとして指定しているのは公務員試験勉強の定番と言える問題集です。 各トピックについて講義をした後、テキストの主要な問題を解説します。 パワーポイントの使用を最低限にし、板書を中心に行います。また、演習時間を設けることがあるので筆記用具は必携です。 皆さんがテキストの各問題を自力で解けるようになることを本講義の目標にしたいと思います。 なお、経済学を勉強するにあたって数学を回避することは出来ません。 初回及び第２回の講義において、本講義で最低限必要な数学について説明しますが、適宜参考文献などを利用し、復習を行って理解を深めましょう。		
教材（テキスト）	資格試験研究会編『公務員試験新スーパー過去問ゼミ４　ミクロ経済学』実務教育出版，2014 年 ISBN-10:4788948613		
教材（参考文献）	N.G.マンキュー『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社 石川秀樹『試験攻略　新・経済学入門塾Ｖ　計算マスター編』中央経済社 成生達彦『ミクロ経済学入門―需要、供給、市場』有斐閣アルマ		
教材（その他）	適宜講義中にプリントを配布		
評価方法	定期テスト（50%）　授業内小テスト等による平常点（20%）レポート（30%）		
到達目標	ミクロ経済学の基本的な考え方を身につけ、それを問題へ応用する力をつける。		
準備学習	講義の最後に復習として問題（テキストおよび配布プリント）を指示します。 次回の講義までに解いてください。 また、テキストの各チャプターの最初にある「POINT」のページを読み、講義前の予習をしておいてください。		
受講者への要望			
熱意をもって取り組むこと。 話を聞くことも大切ですが、自ら手を動かして考えてみることが理解への一番の近道です。 また、講義中の質問を歓迎します。			
講義の順序とポイント			
１．講義ガイダンス ２．数学準備 ３．消費者理論１ ４．消費者理論２ ５．消費者理論３ ６．消費者理論４ ７．生産者理論１ ８．生産者理論２ ９．生産者理論３ １０．不完全競争１			

１１．不完全競争２
１２．不完全競争３
１３．市場の理論１
１４．市場の理論２
１５．市場の理論３

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						★

年度	2015	授業コード	J40216B02
科目名	公務員特別研究Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Civil Servant Examinat ions Ⅱ		
担当者名	山下　功	旧科目名称	
講義概要	本講義では、公務員試験において最重要科目と言える経済原論（ミクロ経済学、マクロ経済学）の対策を通年で行います。 対象は、公務員試験受験を考えている方、経済学研究科、MBA などの大学院試験受験を考えている方、経済学に興味がある方等です。入門的な内容から行いますので、事前の知識は問いません。 後期は個別経済主体の意思決定と取引を主な分析対象とするミクロ経済学です。 テキストとして指定しているのは公務員試験勉強の定番と言える問題集です。 各トピックについて講義をした後、テキストの主要な問題を解説します。 パワーポイントの使用を最低限にし、板書を中心に行います。また、演習時間を設けることがあるので筆記用具は必携です。 皆さんがテキストの各問題を自力で解けるようになることを本講義の目標にしたいと思います。 なお、経済学を勉強するにあたって数学を回避することは出来ません。 初回及び第２回の講義において、本講義で最低限必要な数学について説明しますが、適宜参考文献などを利用し、復習を行って理解を深めましょう。		
教材（テキスト）	資格試験研究会編『公務員試験新スーパー過去問ゼミ４　ミクロ経済学』実務教育出版，2014 年 ISBN-10:4788948613		
教材（参考文献）	N.G.マンキュー『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社 石川秀樹『試験攻略　新・経済学入門塾Ｖ　計算マスター編』中央経済社 成生達彦『ミクロ経済学入門―需要、供給、市場』有斐閣アルマ		
教材（その他）	適宜講義中にプリントを配布		
評価方法	定期テスト（50%）　授業内小テスト等による平常点（20%）レポート（30%）		
到達目標	ミクロ経済学の基本的な考え方を身につけ、それを問題へ応用する力をつける。		
準備学習	講義の最後に復習として問題（テキストおよび配布プリント）を指示します。 次回の講義までに解いてください。 また、テキストの各チャプターの最初にある「POINT」のページを読み、講義前の予習をしておいてください。		
受講者への要望			
熱意をもって取り組むこと。 話を聞くことも大切ですが、自ら手を動かして考えてみることが理解への一番の近道です。 また、講義中の質問を歓迎します。			
講義の順序とポイント			
１．講義ガイダンス ２．数学準備 ３．消費者理論１ ４．消費者理論２ ５．消費者理論３ ６．消費者理論４ ７．生産者理論１ ８．生産者理論２ ９．生産者理論３ １０．不完全競争１			

１１．不完全競争２
１２．不完全競争３
１３．市場の理論１
１４．市場の理論２
１５．市場の理論３

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						★

年度	2015	授業コード	J40221001
科目名	商法総則・商行為法	単位数	2
科目名（英語表記）	Commercial Code (General Provisions and Commercial　Transaction)		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	商法総則と、商行為について講義する。民法上の契約は、商人でない者同士のものを想定しているが、商法総則・商行為法では、商人同士のもの及び商人と消費者のものが想定されている。これらについてモデル・ケースなどを提示しつつ、講義する。		
教材（テキスト）	落合誠一=大塚龍児=山下友信『商法Ⅰ総則・商行為[第 5 版]』（有斐閣、2013 年）		
教材（参考文献）	江頭憲治郎=山下友信『商法（総則・商行為）判例百選[第 5 版]』（有斐閣、2008 年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期期末試験（60%）。		
到達目標	1.社会において商法がどのように役立っているか、法的に理解できる。 2.商法総則・商行為法について、簡単な説明問題・事例問題を文章で説明できる。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
民法総則・契約法を履修済であるか、並行して履修すること。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．商法の法源、商人の意義 3．商人資格の得喪 4．営業 5．商号規制 6．商業帳簿、資産の評価 7．商業使用人、代理商 8．商業登記 9．商行為概念とその効果 10.商行為の代理・商事契約の成立 11.商事担保 12.企業取引の補助者 13.商事売買 14.問屋営業・運送営業 15.場屋営業・倉庫営業			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J40221002
科目名	商法総則・商行為法	単位数	2
科目名（英語表記）	Commercial Code (General Provisions and Commercial　Transaction)		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	商法総則と、商行為について講義する。民法上の契約は、商人でない者同士のものを想定しているが、商法総則・商行為法では、商人同士のもの及び商人と消費者のものが想定されている。これらについてモデル・ケースなどを提示しつつ、講義する。		
教材（テキスト）	落合誠一=大塚龍児=山下友信『商法Ⅰ総則・商行為[第5版]』（有斐閣、2013年）		
教材（参考文献）	江頭憲治郎=山下友信『商法（総則・商行為）判例百選[第5版]』（有斐閣、2008年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期期末試験（60%）。		
到達目標	1.社会において商法がどのように役立っているか、法的に理解できる。 2.商法総則・商行為法について、簡単な説明問題・事例問題を文章で説明できる。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
民法総則・契約法を履修済であるか、並行して履修すること。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．商法の法源、商人の意義 3．商人資格の得喪 4．営業 5．商号規制 6．商業帳簿、資産の評価 7．商業使用人、代理商 8．商業登記 9．商行為概念とその効果 10.商行為の代理・商事契約の成立 11.商事担保 12.企業取引の補助者 13.商事売買 14.問屋営業・運送営業 15.場屋営業・倉庫営業			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J40222001
科目名	執行・保全法	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Execution and Provisional Remedies Act		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	民法が定める権利は、執行手続を経てはじめて現実のものになる。そして、これを円滑に進めるために不可欠な制度が執行･保全法である。 本講義では、担保物権法(民法Ⅲ)で学んだ担保権者の権利について、これが具体化されるまでの手続きを、担保権者の側から見ていくことを目的とする。(その意味で、執行･保全法の一部を取り扱うに過ぎない。) 受講にあたっては担保物権法の知識が必要である。		
教材（テキスト）	指定しない。		
教材（参考文献）	上原敏夫･長谷部由起子･山本和彦『民事執行･保全法[第 4 版]』(2014 年、有斐閣アルマ) 中野貞一郎『民事執行･保全入門[補訂版]』(2013 年、有斐閣)		
教材（その他）	講義用レジュメおよび資料を配布する。		
評価方法	レポート(70%) 授業中課題(30%)		
到達目標	1.民法上の権利と民事執行法・民事保全法の機能･役割を知る。 2.担保権実行手続等の概要について説明できる。		
準備学習	民法の教科書・参考書等で、担保物権法に関係する部分を読んでおくこと。		

受講者への要望

講義には必ず出席し、講義で取り上げた個所について、参考書等で内容確認を行うこと。なお、最新版の六法は必ず持参すること。

講義の順序とポイント

1 執行・保全法とは

2 民事執行手続の基本
2-1 概要
2-2 執行機関

3 法定担保権とその実行ー取引先破綻時の対応(1)
3-1 法定担保権の活用
3-2 留置権の実行
3-3 先取特権の実行

(課題演習)

4 約定担保権とその実行ー取引先破綻時の対応(2)
4-1 約定担保権の活用(1)－抵当権(不動産)
4-2 約定担保権の活用(2)－質権･譲渡担保権(動産・債権)

4-3 抵当権の実行
4-3-1 担保不動産競売
4-3-2 担保不動産収益執行

4-4 質権・譲渡担保権の実行
4-4-1 動産競売
4-4-2 債権執行

(課題演習)

6 民事保全手続き
6-1 概要
6-2 金銭債権の保全(具体例)

7 まとめ－講義を通じて明らかにされたこと

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J40225001
科目名	医療と法	単位数	2
科目名（英語表記）	Medical Treatment and Law		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	医療技術の高度化・多様化、医療情報へのアクセスの容易化、ライフスタイルの多様化等は、医療従事者と患者の関係にも変化をもたらしている。 従来は、医療の専門家である医療従事者がその専門的知識と技術、および専門家としての経験に照らして、治療方針を決定し、患者はそれに従うというのが、一般的であったが、そのような関係性に不審の念を持ち医療従事者への不信感を抱いたり治療方針にも納得できない患者が増えてる。このような状況のもとで、一般市民が医療サービスの賢い消費者であるために必要な法の基本を学ぶこと、医療領域において法というシステムがどのように働いているのかを明らかすることが、本講義の目的である。 なお、本年度は、第 1 回から第 5 回を佐別当（倫理学）、第 6 回から第 10 回を渡邊（民事）、第 11 回から第 15 回を小野（刑事）が担当する。		
教材（テキスト）	使用しない.		
教材（参考文献）	担当者がそれぞれ講義の進行に合わせて紹介する。		
教材（その他）	講義資料は配付する。		
評価方法	各単元ごとに担当者が課題を提示するので、その評価点の合計を成績とする。 第１回～第５回　　この期間に行う２回の小論文試験 第６回～第１０回　　授業理解を確認するエグジッションペーパーおよびレポート各５０パーセント 第１１回～第１５回　　平常点と１５回目に行う小テスト		
到達目標	医療問題に関する法の役割を理解する。		
準備学習	医療にかかわる社会問題を報ずる新聞記事等には、常日頃から目を通しておくこと。 事前に講義資料には目を通して、自分なりの問題意識を形成しておくこと。		
受講者への要望			
軽率に結論に飛びつくのではなく、沈思熟考すること。 私語は他者危害行為であるので、厳禁。			
講義の順序とポイント			
１．開講に当たって ２．医療行為と倫理（１）：ヒポクラテスの誓い・パターナリズム・ＳＯＬ ３．医療行為と倫理（２）：ニュルンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言、自己決定、ＱＯＬ ４．医療行為と法（１）：医療行為の侵襲性、医療行為と民・刑法 ５．医療行為と法（２）：医業と医業類似行為 ６．民事　課題の設定－不法行為法と家族法から「医療」を考える ７．民事　医療と自己決定－不法行為法の課題(1)　①エホバの証人輸血拒否事件 ８．民事　同上(2)　②乳房温存療法事件 ９．民事　生殖補助医療とその規制－親子法の課題(1)　①代理母 １０．民事　同上(2)　②性別変更した夫の妻が出生した子と嫡出推定 １１．刑事　医療行為と構成要件該当性（１）柔道整復師事件（最決昭和 63 年 5 月 11 日） １２．刑事　医療行為と構成要件該当性（２）患者取違え事件（最決平成 16 年 7 月 13 日） １３．刑事　医療行為と違法性阻却（１）性転換手術事件（東高判昭和 45 年 11 月 11 日） １４．刑事　医療行為と違法性阻却（２）豊胸手術事件（東高判平成 9 年 8 月 4 日） １５．刑事　精神医学と有責性　責任能力の判断基準（最決昭和 59 年 7 月 3 日ほか）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J40226001
科目名	市民社会論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松田　哲	旧科目名称	
講義概要	１９９０年前後から世界的な市民社会論ブームが続いている。日本においても市民社会について活発に論じられるようになっている。しかしながら現在の市民社会論は、時に「新しい市民社会論」とも呼ばれ、１７・１８世紀のヨーロッパを念頭において議論される「古い市民社会論」とは異なる特徴をもつものとなっている。では、「新しい市民社会論」では、現代における市民や市民社会あるいは政治に対して、何を求めているのであろうか。日本の市民や市民社会は、どの様な状況にあるのであろうか。本講義では、以上の点を理論的に考察することを通じて、現代民主政治が有する限界を乗り越える方法を模索することとしたい。		
教材（テキスト）	レジメを配布する。		
教材（参考文献）	山口定『市民社会論』（有斐閣、２００４年） 篠原一『市民の政治学－討議デモクラシーとは何か－』（岩波新書、２００４年） 石川真澄『戦後政治史　新版』（岩波新書、２００４年）		
教材（その他）	必要に応じて紹介する		
評価方法	授業内コメントカード（２０％）、レポート①（３０％）、レポート②（３０％）、質疑応答への参加度（２０％）。		
到達目標	１）代議制民主政治の制度的な欠点について、市民社会論の観点から批判できるようになること。 ２）公共の問題についてどのように考えていけばよいかを説明できるようになること。 ３）戦後日本における市民社会と市民運動の展開について、説明できるようになること。		
準備学習	１）配布するレジメを熟読してくること。 ２）各回の講義内容に関連する出来事を、新聞やテレビのニュースをもとに探してくること。		
受講者への要望			
１）まじめに講義に出席し、こまめにノートを取るよう努力すること。 ２）講義中に受講生同士の討議の時間を設けるので、自由に発言すること。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに－現代政治の制度的特徴－ ２．現代市民社会論の特徴（１） ３．現代市民社会論の特徴（２） ４．現代市民社会論の特徴（３） ５．現代市民社会論における「市民」（１） ６．現代市民社会論における「市民」（２） ７．現代市民社会論における「市民」（３） ８．政策決定プロセスと市民社会（１） ９．政策決定プロセスと市民社会（２） １０．政策決定プロセスと市民社会（３） １１．公共性とは何か（１） １２．公共性とは何か（２） １３．戦後日本の政治経済の展開と日本の市民運動・市民社会（１） １４．戦後日本の政治経済の展開と日本の市民運動・市民社会（２） １５．戦後日本の政治経済の展開と日本の市民運動・市民社会（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J40227001
科目名	民法Ⅳ（契約・不法行為法）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法第 3 編のうち、債権発生原因である契約および不法行為を中心に学習する。順序としては、契約一般に共通するルール（契約総則）をみた後に、各種の契約の中でもとくに重要なもの（売買・賃貸借など）を扱い、最後に不法行為法を概観する。講義にあたっては具体的な事例を適宜紹介して理解を助けるように努める。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン債権法〔第 5 版〕』（日本評論社、2010 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。出席状況、講義中の質問への応答、小テストの結果等を補充的に考慮する。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．契約および不法行為に関する主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 ２．主要論点に関する判例・学説を理解する。 ３．具体的な事例に条文を当てはめ、解決することができる。		
準備学習	１．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 ３．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		
受講者への要望			
民法は全体として密接に関連しているので、民法 I（総則）、民法 III（債権総論）などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。また、受講に際しては必ず「六法」を持参すること。			
講義の順序とポイント			
１．　受講にあたっての注意／契約・不法行為法序説 ２．　契約の成立 ３．　契約の効力（１）同時履行の抗弁権 ４．　契約の効力（２）危険負担 ５．　契約の解除 ６．　契約総則の復習（練習問題） ７．　売買（１） ８．　売買（２）売主の担保責任 ９．　贈与 １０．賃貸借（１） １１．賃貸借（２） １２．不動産賃貸借～借地借家法 １３．その他の典型契約 １４．不法行為（１） １５．不法行為（２）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J40227002
科目名	民法Ⅳ（契約・不法行為法）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	民法のうち契約や不法行為の重要テーマについて具体的事例を用いながら入門的な講義を行います。これらは、皆さんがどんな職業につくにせよ、市民社会・企業社会の中で生きていくための不可欠のルールですので、確実の自分のものにする必要があります。 毎回の講義では、具体的な事例を使って、そこへの参加者が円滑の利害調整を図るためには、どのようにルールを使うかを考えていくことにしたいと思います。		
教材（テキスト）	レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	道垣内弘人『リーガルベイシス民法入門』(2014 年、日本経済新聞社)		
教材（その他）			
評価方法	70％　試験 30％　授業内課題または小テスト		
到達目標	市民社会に直結した法律である民法のうち、消費者としての私たちに関連する契約や不法行為について学習し、日常生活で発生する法的諸問題の解決のために、民法ルールをどのように適用していけばよいか、その方法を体得する。		
準備学習	次回のテーマは、事前に通知するので、予習して、自分なりの答をもって授業に臨んでいただきたい。 なお、「受講者への要望」の箇所も参照。		

受講者への要望

取り上げる素材は、私たちの日常生活およびその延長線である。
学びのレベルにかかわらず、少し考えれば、それなりの答があるはずである。
こういった受講生の問題意識を大事にしながら、これに基づき、教員との間で「対話」を試み、合理的な紛争解決方法は何なのかについて考えていくこととしたいので、予習して、自分なりの答をもって授業に臨んでいただきたい。

講義の順序とポイント

1 民法とはどういうものか。民法の組み立て。
　契約法・不法行為法の基本を中心にして
2 不法行為による損害賠償(1)
　不法行為とは
　不法行為の成立要件
3 不法行為による損害賠償(2)
　不法行為責任の内容
　その他不法行為制度をめぐるいくつかの問題
　　損害賠償請求権の時効・共同不法行為など
4 特殊な不法行為
　使用者責任、土地工作物責任など
5 不法行為制度のまとめ
具体的な紛争事例の検討を行うと共に、授業内課題に取り組んでいただきます。

6 契約の成立
　申込みと承諾、隔地者間の契約成立、電子契約
7 契約の効力
　同時履行の抗弁権、危険負担
8 契約の履行・不履行と履行の強制
　決済
　債務不履行
9 売買(1)
　売買契約の成立
　売主・買主の義務
10 売買(2)

売主の担保責任など
11 賃貸借(1)
貸主・借主の権利義務など
12 賃貸借(2)
不動産賃借権の対抗力
賃貸借の譲渡と転貸
13 その他の契約
消費貸借・請負など
14 消費者契約の取消・無効
消費者契約法の概要
不当な勧誘行為の取消し
不当な契約条項の無効
15 まとめにかえて－事例研究
契約にかかる具体的な紛争事例を検討を行うと共に、授業内課題に取り組んでいただきます

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J40228001
科目名	宅建特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Real Estate Agent Exam inations		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	公正な不動産取引のための国家資格である宅地建物取引士（旧・宅地建物取引主任者）試験に合格するために必要な知識を学習する。同試験の出題範囲は広範であるため、本講義では、独学では理解が困難な「権利関係（民法、借地借家法、区分所有法など）」を中心に講義と問題演習を行う。		
教材（テキスト）	市販のテキストと過去問題集を指定する。本講義はテキストと過去問題集に沿って展開するため、テキストおよび過去問題集の購入が必須となる（すべて定価で購入すると 1 万円～1 万 2 千円くらいかかる。）。受講者の経済的負担を軽減するため、キャリアサポートセンターの課外講座と同じテキストを用いる予定である。詳細は初回の講義で指示するので、テキスト等をあらかじめ購入しておく必要はない。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、レジュメを配布する。		
評価方法	数回実施する小テストおよび期末試験の成績による。期末試験では、実際の試験の過去問を中心に出題する予定である。成績評価において出席状況、受講態度は考慮されない。		
到達目標	宅地建物取引主任者試験に合格するために必要な知識を取得する。		
準備学習	講義時間の多くを問題の解説に費やすため、受講者はテキストの指定箇所を一読した上で、前回の講義で配布された問題をあらかじめ解いておくこと。予習・復習のために自習室等を積極的に活用すること。		

受講者への要望

本講義は 2015 年 10 月に実施される本試験を受験する明確な意思がある者を対象としている。単位の数合わせや空き時間を埋めるために本講義を登録することはくれぐれもご遠慮願いたい。一般に、宅建合格のためには 250-300 時間の学習が必要であるといわれているが、本講義の 1 回 90 分、15 回を合計してもわずか 22.5 時間でしかない。受講者には、大学の内外で自主的に受験勉強に取り組むことが求められる。受験勉強の経験がない、意思が弱いなどの理由で独学に自信がない場合、キャリアサポートセンターの課外講座や民間の資格試験講座をあわせて受講することを勧める。

問題演習が中心となるため、なるべく多くの民法科目を履修済みであるか、同時に履修していることが望ましい。なお、同じ担当者による「民法特別研究 B」と内容的に重複する部分がある。

講義の順序とポイント

出題範囲のうち、いわゆる「権利関係」が中心となるが、学習の進捗状況を確認するために他の分野（「宅建業法」など）を扱うこともある。

1．　オリエンテーション
2．　権利主体
3．　意思表示
4．　代理
5．　債務不履行・解除
6．　危険負担・売主の担保責任
7．　売買
8．　物権変動
9．　宅建業法（1）
10．抵当権
11．保証・連帯債務
12．不法行為
13．賃貸借
14．借地借家法
15．宅建業法（2）、法令上の制限・税・その他

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★		★

年度	2015	授業コード	J40228002
科目名	宅建特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Real Estate Agent Exam inations		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	公正な不動産取引のための国家資格である宅地建物取引士（旧・宅地建物取引主任者）試験に合格するために必要な知識を学習する。同試験の出題範囲は広範であるため、本講義では、独学では理解が困難な「権利関係（民法、借地借家法、区分所有法など）」を中心に講義と問題演習を行う。		
教材（テキスト）	市販のテキストと過去問題集を指定する。本講義はテキストと過去問題集に沿って展開するため、テキストおよび過去問題集の購入が必須となる（すべて定価で購入すると 1 万円～1 万 2 千円くらいかかる。）。受講者の経済的負担を軽減するため、キャリアサポートセンターの課外講座と同じテキストを用いる予定である。詳細は初回の講義で指示するので、テキスト等をあらかじめ購入しておく必要はない。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、レジュメを配布する。		
評価方法	数回実施する小テストおよび期末試験の成績による。期末試験では、実際の試験の過去問を中心に出題する予定である。成績評価において出席状況、受講態度は考慮されない。		
到達目標	宅地建物取引主任者試験に合格するために必要な知識を取得する。		
準備学習	講義時間の多くを問題の解説に費やすため、受講者はテキストの指定箇所を一読した上で、前回の講義で配布された問題をあらかじめ解いておくこと。予習・復習のために自習室等を積極的に活用すること。		

受講者への要望

本講義は 2015 年 10 月に実施される本試験を受験する明確な意思がある者を対象としている。単位の数合わせや空き時間を埋めるために本講義を登録することはくれぐれもご遠慮願いたい。一般に、宅建合格のためには 250-300 時間の学習が必要であるといわれているが、本講義の 1 回 90 分、15 回を合計してもわずか 22.5 時間でしかない。受講者には、大学の内外で自主的に受験勉強に取り組むことが求められる。受験勉強の経験がない、意思が弱いなどの理由で独学に自信がない場合、キャリアサポートセンターの課外講座や民間の資格試験講座をあわせて受講することを勧める。

問題演習が中心となるため、なるべく多くの民法科目を履修済みであるか、同時に履修していることが望ましい。なお、同じ担当者による「民法特別研究 B」と内容的に重複する部分がある。

講義の順序とポイント

出題範囲のうち、いわゆる「権利関係」が中心となるが、学習の進捗状況を確認するために他の分野（「宅建業法」など）を扱うこともある。

1．　オリエンテーション
2．　権利主体
3．　意思表示
4．　代理
5．　債務不履行・解除
6．　危険負担・売主の担保責任
7．　売買
8．　物権変動
9．　宅建業法（1）
10．抵当権
11．保証・連帯債務
12．不法行為
13．賃貸借
14．借地借家法
15．宅建業法（2）、法令上の制限・税・その他

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★		★

年度	2015	授業コード	J40229001
科目名	法曹特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Legal Profession Exami nations		
担当者名	原　弘明	旧科目名称	法曹研究Ａ
講義概要	2011 年度より、法曹となるための最終試験は、司法試験に一本化されている。司法試験の受験資格を得るためには、予備試験に合格しない限り、法科大学院を修了する必要がある。法科大学院入学試験に際して課される共通試験が、いわゆる適性試験である。 本講義は、適性試験に必要な論理・分析・読解力を養い、実際に問題に解答できる能力を養成することを目的とする、演習時間を含む講義科目である。		
教材（テキスト）	適性試験委員会編『2010 年法科大学院統一適性試験ガイドブック』(商事法務、2010 年) ※現時点ではこの書籍が最新版であるが、改訂の場合は最新版を使用する。絶版の場合は適宜対応する。		
教材（参考文献）	講義中に随時指示する。		
教材（その他）	随時、プリント等を配布する。		
評価方法	1. 3 回行う試験の成績(各 25%・計 75%) 2. 平常点(25%)出席状況・授業参加度などから判断する。		
到達目標	法科大学院適性試験を、独力で時間内に高成績をとれる基礎能力を得る。		
準備学習	1. 事前に、テキスト及び日弁連法務研究財団ウェブサイト{http://www.jlf.or.jp/index.php}で、試験問題などを確認すること。可能な限り、事前に時間を測って解いておくこと。 2. 講義中正解できなかった問題について、講義後解き直しておくこと。		
受講者への要望			
1.【必読・重要】本講義は、法科大学院適性試験向けの演習講義であり、進学希望者以外の受講を想定していない。就職試験の SPI・公務員試験の数的処理とも問題傾向が異なるので、履修しても意味がない。毎年度、シラバスをよく確認しなかったため履修取り消しせざるを得ず、この時間帯を空きコマとせざるを得ない学生が発生しているので、特に注意すること。 2. 特に論理・分析力問題の解答に際しては、メモ用紙が大量に必要となるので、ルーズリーフなどを毎回持参すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス・ 論理的思考方法(講義)--逆・裏・対偶、論理式 2. 論理的判断力(1)問題演習・講義 3. 論理的判断力(2)問題演習・講義 4. 論理的判断力(3)問題演習・講義 5. 試験(論理的判断力パート) 6. 分析的把握の思考方法(講義)--表・樹形図による分析 7. 分析的判断力(1)問題演習・講義 8. 分析的判断力(2)問題演習・講義 9. 分析的判断力(3)問題演習・講義 10. 試験(分析的判断力パート) 11. 長文読解力(1)問題演習・講義 12. 長文読解力(2)問題演習・講義 13. 長文読解力(3)問題演習・講義 14. 試験(長文読解力パート) 15. 小論文パート問題演習・講義			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J40230001
科目名	税務会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Accounting		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	法人税法は、課税所得の計算原理を税法だけで完結的、網羅的に規定することはせず、その相当部分を適正な企業の会計慣行に委ねている。すなわち、税法の課税所得計算原理は独立に存在しているのではなく、公正な会計慣行をベースとして、税法固有の目的を実現するために必要な調整を加えているのである。　したがって、「税務会計」を理解するには会計学と法人税法の両方の知識が不可欠となる。税法は強行法規であり、とくにわが国の法人税法は確定決算主義をとっているため、税法の諸規定は企業会計の実務に強い影響を与えている。 講義では、法人の課税所得算定の基礎となる企業会計の基準、会社法の計算規定などを説明しながら、法人税法及び租税特別措置法における法人税の規定及びこれらに係る政令、省令、通達による法人の所得計算の算定プロセスについて、基本的事項に絞って平易に説明する。課税所得の調整計算や法人税申告書の記載方法にも時間を割く。		
教材（テキスト）	毎回、講義用レジュメや参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	渡辺淑夫著『法人税法　平成 26 年版』（中央経済社） その他講義でその都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業中の報告や議論内容（30%）、レポート（70%）		
到達目標	法人税の課税所得計算のしくみを理解し、法人税申告書（とくに別表 4、別表 5）を作成することができる。		
準備学習	事前に配布するレジュメ等を読んで予習しておくこと。		
受講者への要望			
税制に関連する新聞報道等に関心を持つこと。			
講義の順序とポイント			
1.　法人の区分と課税の範囲、法人税の体系 2.　課税所得の計算構造 3.　損益の期間帰属、受取配当等 4.　外貨建取引、減価償却資産、繰延資産 5.　給与、寄附金、交際費、その他の損金 6.　引当金・準備金制度、圧縮記帳制度 7.　税額の計算 8.　税効果会計（1） 9.　税効果会計（2） 10.　新会計基準と法人税（1） 11.　新会計基準と法人税（2） 12.　新会計基準と法人税（3） 13　中小企業の会計 14.　グループ法人税制 15.　法人税申告書			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J40231001
科目名	ＳＰＩ特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	多くの企業が採用試験で、適性試験を実施し、特にこのＳＰＩは多くの企業で採用され、現在では、市役所や消防などの公務員試験にも同様の試験がなされている。ＳＰＩ対策がきちんとできていないと、面接で自分自身を見てもらう機会すら与えられず、就職活動でも厳しい状況になる。そこで、本講義では、ＳＰＩ対策として、言語分野、非言語分野を中心に、講義で扱うことによって、今後の自身での対策を促進する。		
教材（テキスト）	就職対策研究会編『最頻出！　ＳＰＩパーフェクト問題集』（2015、高橋書店）		
教材（参考文献）	授業の中で必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内での小テスト（２０％）　中間テスト（３０％）　学期末テスト（５０％）		
到達目標	就職活動への準備に対する理解を深めるとともに、就職の採用試験の筆記試験に臨む心構えをつくり、学生の自主的な勉強を促すことを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回のテキストの範囲指定するので、各項目について予習しておくこと。同じく、講義終了時に宿題を指定するので、次回講義開始時に提出すること。		
受講者への要望			
この講義では、就職活動を念頭においている学生はもちろん、警察・消防などの公務員試験を考えている学生にも対応できるような講義内容を組んでいるので、できるだけ多くの学生に受講してほしい。			
講義の順序とポイント			
1　SPI とは、計算練習、鶴亀算 2　割合・比、同意語 3　損益算、反意語 4　濃度算、用途・行為 5　仕事算・水槽算、包含・原料 6　中間確認テスト 7　不等式 8　速度算、ことわざ・慣用句・敬語 9　流水算、語句の意味 10　順列・組み合わせ、複数の意味 11　確率、空欄補充 12　虫食い算、n 進法、文章整序 13　後半確認テスト、集合 14　図形（幾何）の証明、長文読解 １５　数列、一般常識、時事問題への取り組み方			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★	★	

年度	2015	授業コード	J40231002
科目名	ＳＰＩ特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	多くの企業が採用試験で、適性試験を実施し、特にこのＳＰＩは多くの企業で採用され、現在では、市役所や消防などの公務員試験にも同様の試験がなされている。ＳＰＩ対策がきちんとできていないと、面接で自分自身を見てもらう機会すら与えられず、就職活動でも厳しい状況になる。そこで、本講義では、ＳＰＩ対策として、言語分野、非言語分野を中心に、講義で扱うことによって、今後の自身での対策を促進する。		
教材（テキスト）	就職対策研究会編『最頻出！　ＳＰＩパーフェクト問題集』（2015、高橋書店）		
教材（参考文献）	授業の中で必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内での小テスト（２０％）　中間テスト（３０％）　学期末テスト（５０％）		
到達目標	就職活動への準備に対する理解を深めるとともに、就職の採用試験の筆記試験に臨む心構えをつくり、学生の自主的な勉強を促すことを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回のテキストの範囲指定するので、各項目について予習しておくこと。同じく、講義終了時に宿題を指定するので、次回講義開始時に提出すること。		
受講者への要望			
この講義では、就職活動を念頭においている学生はもちろん、警察・消防などの公務員試験を考えている学生にも対応できるような講義内容を組んでいるので、できるだけ多くの学生に受講してほしい。			
講義の順序とポイント			
1　SPI とは、計算練習、鶴亀算 2　割合・比、同意語 3　損益算、反意語 4　濃度算、用途・行為 5　仕事算・水槽算、包含・原料 6　中間確認テスト 7　不等式 8　速度算、ことわざ・慣用句・敬語 9　流水算、語句の意味 10　順列・組み合わせ、複数の意味 11　確率、空欄補充 12　虫食い算、n 進法、文章整序 13　後半確認テスト、集合 14　図形（幾何）の証明、長文読解 １５　数列、一般常識、時事問題への取り組み方			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★	★	

年度	2015	授業コード	J40232001
科目名	民法特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study of Civil Law		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	公務員試験や法律系資格の試験科目である民法のうち、債権総論および債権各論について講義と問題演習を行う。講義はよく出題される分野に絞って行い、これを踏まえて過去問の演習を繰り返す。		
教材（テキスト）	適宜、レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン債権法〔第 5 版〕』（日本評論社、2010 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	数回実施する小テストの結果による。出席状況、講義中の質問への応答等を補充的に考慮する。		
到達目標	公務員試験等の合格に必要な民法（債権総論および債権各論）の知識を習得する。		
準備学習	講義時間の多くを問題の解説に費やすため、受講者は前回の講義までに配布された問題をあらかじめ解いておくこと。予習・復習のために自習室等を積極的に活用すること。		

受講者への要望

本講義は公務員試験等を受験する明確な意思がある者を対象としている。単位の数合わせや空き時間を埋めるために本講義を登録することはご遠慮願いたい。受講者には、漫然と出席することなく、自主的に受験勉強に取り組むことが求められる。なるべく民法関連科目を履修済み、または並行して履修することが望ましい。なお、同じ担当者による「宅建特別研究」と内容的に重複する部分がある。

講義の順序とポイント

1．　オリエンテーション
2．　債務不履行（1）
3．　債務不履行（2）
4．　債権者代位権・債権者取消権
5．　多数当事者の債権債務関係
6．　債権譲渡・債務引受
7．　債権の消滅
8．　契約総則（1）
9．　契約総則（2）
10．移転型契約
11．賃貸型契約
12．役務型契約
13．不法行為（1）
14．不法行為（2）
15．事務管理・不当利得

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★		★

年度	2015	授業コード	J50001001
科目名	ＣＭ表現論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Commercial Expression		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	この科目は、教員による講義と、それをふまえ、受講者による広告や CM 表現の制作実習（学生がじっさいに広告表現案を作成し、発表する）を組み合わせて行う参加型の授業である。 日本は世界第二の広告大国であり、半世紀の歴史をもつ CM は、時代変化の波にさらされつつ成熟した表現文化を作っている。 限られたスペース・時間の枠内で視聴者に強い印象やインパクトを残す広告や CM 作品には必ず、マーケティングやコミュニケーション活動における何らかの課題解決に向けた送り手（企業、行政、団体、個人……）の強い意思とメッセージ（「誰に何を伝えたいのか！？」）が込められている。 マーケティング計画やコミュニケーション戦略の中での広告・CM 表現の制作の実際や、送り手の課題解決に適したさまざまな表現手法があることを知り、「戦略と表現」「メッセージとそのプレゼンテーション技法」のあり方について考え、受講生が自分なりの方法でそれらをデザインしていく手がかりを探す。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 中山幸雄・丸山顕・杉本健二・渡部秀人『CM プランナー入門』、電通、2007 年 山田奨治編『文化としてのテレビ・コマーシャル』世界思想社、2007 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内での広告制作課題（２回程度）、期末レポートないし広告作品の制作（60%）		
到達目標	広告・CM の制作プロセスと表現手法について知り、マーケティングや PR 活動における課題解決に向けたさまざまな戦略をどのようにメディア表現に落とし込むかを、実際の制作実習を通じて体験し、考える。		
準備学習	１）授業内で出される広告・CM 表現の制作課題を持ち帰り、各自がじっさいに広告や CM の企画や作品を作成し、授業で発表すること（＝授業時間外の作業が必要となる）。このため、前年度までに（あるいは並行して）「メディア表現実習」「映像制作実習」「デジタル映像編集実習」「デジタル出版編集実習」などの制作実習科目を履修しておくことが必要である。 2）日頃、テレビやインターネット、印刷媒体などでさまざまな広告表現に意図的に接しておくこと。 3）さまざまな広告表現を受け手の立場で漫然と眺めるのではなく、作り手の立場に立って分析的にとらえる発想転換のトレーニングをしておくこと。		

受講者への要望

受講生は人間文化学部配当の「メディア表現実習」「映像制作実習」「デジタル映像編集実習」「デジタル出版編集実習」などで、映像制作、グラフィック制作などの基礎技術を習得しておくことが望ましい。コマーシャル、広告表現や、その制作や奥深さに好奇心を抱き、広告作品の制作に強い意欲を持つ人の受講を求めます。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　広告・コマーシャルの基礎知識：さまざまな広告・CM 表現を見て、考える
第 3 回　広告・コマーシャルの制作プロセス（1）：広告クリエイターの制作の実際を見る
第 4 回　広告・コマーシャルの制作プロセス（2）：広告事例にもとづき、制作プロセスを学ぶ
第 5 回　マーケティング戦略と広告表現：特定製品分野の CM 表現戦略（シャンプーなど）
第 6 回　CM 表現のイメージ構成手法（「反復」と「比較」など）
第 7 回　広告・CM 制作課題の発表（1）
第 8 回　CM クリエイターの手法研究（1）：佐藤雅彦
第 9 回　CM クリエイターの手法研究（2）：佐藤可士和
第 10 回　CM クリエイターの手法研究（3）：箭内道彦
第 11 回　CM クリエイターの手法研究（4）：堀井組と市川準
第 12 回　広告・CM 制作課題の発表（2）
第 13 回　CM 音楽の役割と効果：近年の秀作 CM 音楽
第 14 回　日本と世界の CM 作品
第 15 回　最終制作作品・レポートの発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	J50002001
科目名	デジタル出版編集実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Publication Edit Practice		
担当者名	中本　真由美	旧科目名称	
講義概要	?雑誌や書籍などの出版物ができるまでには多くの過程があり、さまざまな人が関わっています。 この講座ではそれぞれの過程を解説し、なかでも『制作』過程を集中的に実習していきます。 プロの制作の現場でも使用されているグラフィックソフトを実際に使いながら、 ソフトウエアの種類やその特長、そして使い方を習得していきます。 また、実習を通して出版物を中心としたレイアウトデザインの基礎も学んでいきます。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリントを配布		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	必要に応じてプリントを配布		
評価方法	課題提出		
到達目標	グラフィックソフトを使い分け、自力でレイアウトを仕上げる		
準備学習	好きな雑誌の気に入ったページやカッコいいと思ったページなどを集めて下さい。		

受講者への要望

積極的に練習や制作に取り組んでください。
また、基本的なパソコンの使い方はマスターしておくことが望ましいです。
初めてのソフトウエアの場合、たくさん触って慣れれば慣れるほど
制作実習がラクにこなせるようになり、
いろいろと試してみるのが楽しくなってきます。

講義の順序とポイント

?1.オリエンテーション
　雑誌ができるまで
　デジタルデータとグラフィックソフトの特性を知る

2.インデザインを使ってみよう
　自由に文字を扱う

3.レイアウトの基本
　編集で使われている用語とレイアウトの基本的な考え方

4.レイアウトレッスン/文字だけでレイアウトを仕上げる
　タイトルを工夫する

5.写真を組み合わせる
　インデザインで写真を扱う方法

6〜7.写真を加工する
　6-1　フォトショップの使い方
　6-2　フォトショップを使って写真データを加工する

8〜9.図やイラストを追加する
　7-1　イラストレーターの使い方
　7-2　レイアウトに必要なパーツを作ってみる

10.インデザインの便利な使い方/自動化して作業効率を上げる
　10-1　複数ページの扱い方
　10-2　マスターページやスタイル設定など

11～15.製作実習/上記のソフトウエアを使って雑誌の紙面作りを行う

1.指示どうりに仕上げる

2.アレンジしてみる

3.レイアウトを自分で組み立てる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50002002
科目名	デジタル出版編集実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Publication Edit Practice		
担当者名	中本　真由美	旧科目名称	
講義概要	?雑誌や書籍などの出版物ができるまでには多くの過程があり、さまざまな人が関わっています。 この講座ではそれぞれの過程を解説し、なかでも『制作』過程を集中的に実習していきます。 プロの制作の現場でも使用されているグラフィックソフトを実際に使いながら、 ソフトウエアの種類やその特長、そして使い方を習得していきます。 また、実習を通して出版物を中心としたレイアウトデザインの基礎も学んでいきます。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリントを配布		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	必要に応じてプリントを配布		
評価方法	課題提出		
到達目標	グラフィックソフトを使い分け、自力でレイアウトを仕上げる		
準備学習	好きな雑誌の気に入ったページやカッコいいと思ったページなどを集めて下さい。		

受講者への要望

積極的に練習や制作に取り組んでください。
また、基本的なパソコンの使い方はマスターしておくことが望ましいです。
初めてのソフトウエアの場合、たくさん触って慣れれば慣れるほど
制作実習がラクにこなせるようになり、
いろいろと試してみるのが楽しくなってきます。

講義の順序とポイント

?1.オリエンテーション
　雑誌ができるまで
　デジタルデータとグラフィックソフトの特性を知る

2.インデザインを使ってみよう
　自由に文字を扱う

3.レイアウトの基本
　編集で使われている用語とレイアウトの基本的な考え方

4.レイアウトレッスン/文字だけでレイアウトを仕上げる
　タイトルを工夫する

5.写真を組み合わせる
　インデザインで写真を扱う方法

6〜7.写真を加工する
　6-1　フォトショップの使い方
　6-2　フォトショップを使って写真データを加工する

8〜9.図やイラストを追加する
　7-1　イラストレーターの使い方
　7-2　レイアウトに必要なパーツを作ってみる

10.インデザインの便利な使い方/自動化して作業効率を上げる
　10-1　複数ページの扱い方
　10-2　マスターページやスタイル設定など

11～15.製作実習/上記のソフトウエアを使って雑誌の紙面作りを行う

1.指示どうりに仕上げる

2.アレンジしてみる

3.レイアウトを自分で組み立てる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50003A01
科目名	アートギャラリー実習 I	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Art Gallery I		
担当者名	藤阪　新吾	旧科目名称	
講義概要	この授業は、共同のプロジェクトとして展覧会を自分たちで企画・制作・運営し、この経験をつうじて社会性と感性を育むことを目標としています。この取り組みは、コンヴィヴィアリティ(自律共生･共愉)を探究する社会美学の実践です。今年度は、これまで 5 年(回)にわたっておこなわれてきた「亀岡プロジェクト」(2010〜14 年度）を検証・継承しながら新たな展開を探求します。 アートがたんなるモノではなく、社会との関わりの中で生まれる出来事であることを体験的に理解することが重要です。アートとは、作品とその制作を通じて社会的な場や状況それ自体を美的・感性的（aesthetic）に問いかけるものです。 J.ボイスは、「人はそれぞれ芸術家である」という言葉を遺しました。このメッセージが意味するのは、だれもが美的・感性的な協働・共働によって「美しい=よい」社会を共につくっていくことができるということであり、その実践をボイスは「社会彫塑」とよびました。こうして造形(形成)される「社会」とは、国や地域といった大きなものだけでなく、家族や友人、ゼミやサークルといった身近な人間関係としての「小さな社会」を含みます。 授業では、個人の作品制作だけでなく、人びとの交わりとしての「小さな社会」としての授業への関わりを重視します。授業に関係するさまざまな人たち（教員・アーティスト・ゲスト・地域の人びと・各種関係者）との関わり合いを通じて、展覧会を共につくりあげることを自覚し、「生きた社会」としての展覧会を制作し、一連の取り組みを報告書にまとめます。 その準備として、画像・映像を用いたレクチャー、ワークショップ、開催場所へのフィールドワーク、作品制作や展覧会企画（プランニングとプレゼンテーション)、広報などをおこないます。展覧会の開催はその総仕上げとなります。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	学習に必要な資料は授業内にプリントにて配布します		
評価方法	平常点（60%）：出席状況・学外実習参加・展覧会協力等を含む。 作品（30%）。レポート（10%）。		
到達目標	「生きた社会」としての展覧会を、共に企画、運営することを通じて、社会性と感性を育むこと。日常における美的・感性的（aesthetic）なものごとのあじわい（taste）とその社会的意義への理解を深めること。		
準備学習	準備学習は授業ごとに提示します：下調べや資料収集、作品制作のための用具や材料の準備など		

受講者への要望

＊「アートギャラリー実習 II」(5 講時)とセット（4 ・ 5 講時 連続）で履修すること。

＊この授業は、特殊なスケジュールでおこなわれることをよくふまえたうえで受講してください。
＊第 6 回となる今年度の展覧会は、2015 年 12 月 5 日（土）「One Day Exhibition」を予定しています。展覧会中の会場運営は授業の一環ですので、必ず参加してください。
＊通常授業は金曜日ですが、展覧会場と周辺のフィールドワーク、会場の準備・現場での作品制作・展示、会場運営、作品の搬入・搬出等の授業は、土曜日／日曜日などに振り替えておこなわれます。
＊この授業は受講者が協力して「展覧会」を制作することをめざしています。連絡なしに無断欠席したり、授業への自主的・協働的　な参加態度がない場合は、展覧会へ出品・参加が認められません。
＊学外実習にかかる交通費、作品の制作費等は自己負担となります。

講義の順序とポイント

1．イントロダクション

2．プロジェクト･レクチャー

3．ワークショップ

4．フィールドワーク〈学外学習〉

5．作品構想／ディスカッション

6．プレゼンテーション／ディスカッション〈学外学習〉

7．プロジェクト･ミーティング

8．会場の整備と作品の準備・制作〈学外学習〉

9．作品の制作・展示〈学外学習〉

１０．内覧会（プレオープン）【12/4（金)】〈学外学習〉

１１・１２．展覧会【12/5（土)】〈学外学習〉

１３．作品の搬出と会場の清掃〈学外学習〉

１４．報告書のためのレポート作成

１５．報告書制作と振り返りのプレゼンテーション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	

年度	2015	授業コード	J50003B01
科目名	アートギャラリー実習II	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Art Gallery II		
担当者名	藤阪　新吾	旧科目名称	
講義概要	この授業は、共同のプロジェクトとして展覧会を自分たちで企画・制作・運営し、この経験をつうじて社会性と感性を育むことを目標としています。この取り組みは、コンヴィヴィアリティ(自律共生･共愉)を探究する社会美学の実践です。今年度は、これまで 5 年(回)にわたっておこなわれてきた「亀岡プロジェクト」(2010〜14 年度）を検証・継承しながら新たな展開を探求します。 アートがたんなるモノではなく、社会との関わりの中で生まれる出来事であることを体験的に理解することが重要です。アートとは、作品とその制作を通じて社会的な場や状況それ自体を美的・感性的（aesthetic）に問いかけるものです。 J.ボイスは、「人はそれぞれ芸術家である」という言葉を遺しました。このメッセージが意味するのは、だれもが美的・感性的な協働・共働によって「美しい=よい」社会を共につくっていくことができるということであり、その実践をボイスは「社会彫塑」とよびました。こうして造形(形成)される「社会」とは、国や地域といった大きなものだけでなく、家族や友人、ゼミやサークルといった身近な人間関係としての「小さな社会」を含みます。 授業では、個人の作品制作だけでなく、人びとの交わりとしての「小さな社会」としての授業への関わりを重視します。授業に関係するさまざまな人たち（教員・アーティスト・ゲスト・地域の人びと・各種関係者）との関わり合いを通じて、展覧会を共につくりあげることを自覚し、「生きた社会」としての展覧会を制作し、一連の取り組みを報告書にまとめます。 その準備として、画像・映像を用いたレクチャー、ワークショップ、開催場所へのフィールドワーク、作品制作や展覧会企画（プランニングとプレゼンテーション)、広報などをおこないます。展覧会の開催はその総仕上げとなります。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	学習に必要な資料は授業内にプリントにて配布します		
評価方法	平常点（60%）：出席状況・学外実習参加・展覧会協力等を含む。 作品（30%）。レポート（10%）。		
到達目標	「生きた社会」としての展覧会を、共に企画、運営することを通じて、社会性と感性を育むこと。日常における美的・感性的（aesthetic）なものごとのあじわい（taste）とその社会的意義への理解を深めること。		
準備学習	準備学習は授業ごとに提示します：下調べや資料収集、作品制作のための用具や材料の準備など		

受講者への要望

＊「アートギャラリー実習Ⅰ」(4 講時)とセット（4 ・ 5 講時 連続）で履修すること。

＊この授業は、特殊なスケジュールでおこなわれることをよくふまえたうえで受講してください。
＊第 6 回となる今年度の展覧会は、2015 年 12 月 5 日（土）「One Day Exhibition」を予定しています。展覧会中の会場運営は授業の一環ですので、必ず参加してください。
＊通常授業は金曜日ですが、展覧会場と周辺のフィールドワーク、会場の準備・現場での作品制作・展示、会場運営、作品の搬入・搬出等の授業は、土曜日／日曜日などに振り替えておこなわれます。
＊この授業は受講者が協力して「展覧会」を制作することをめざしています。連絡なしに無断欠席したり、授業への自主的・協働的　な参加態度がない場合は、展覧会へ出品・参加が認められません。
＊学外実習にかかる交通費、作品の制作費等は自己負担となります。

講義の順序とポイント

1．イントロダクション

2．プロジェクト･レクチャー

3．ワークショップ

4．フィールドワーク〈学外学習〉

5．作品構想／ディスカッション

6．プレゼンテーション／ディスカッション〈学外学習〉

7．プロジェクト･ミーティング

8．会場の整備と作品の準備・制作〈学外学習〉

9．作品の制作・展示〈学外学習〉

１０．内覧会（プレオープン）【12/4（金)】〈学外学習〉

１１・１２．展覧会【12/5（土)】〈学外学習〉

１３．作品の搬出と会場の清掃〈学外学習〉

１４．報告書のためのレポート作成

１５．報告書制作と振り返りのプレゼンテーション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	

年度	2015	授業コード	J50009001
科目名	アニメ・イングリッシュ	単位数	2
科目名（英語表記）	Anime English		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	This course is intended to be an introductory study of Hayao Miyazaki and a selection of his animated films as well as an opportunity to practice English. We will be watching the films in class and examining some of the themes and issues which reoccur in his films.		
教材（テキスト）	Selected movies and texts to be provided during the lesson.		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Classroom activities 30% Final report and presentation 50% Participation and attitude 20% Students will be required to do several written assignments.		
到達目標	Upon successful completion of this course, students should be able to demonstrate knowledge of Hayao Miyazaki and a selection of his works in both spoken and written English.		
準備学習	Students will be required to do several written assignments.		

受講者への要望

Students are expected to attend all classes. Written assignments must be completed regularly.

講義の順序とポイント

1. Introduction to the course
2. My Neighbor Totoro (となりのトトロ) (part 1)
3. My Neighbor Totoro (part 2)
4. Reading and study of a text about My Neighbor Totoro
5. Nausicaa of the Valley of the Wind (風の谷のナウシカ) (part 1)
6. Nausicaa of the Valley of the Wind (part 2)
7. Reading and study of a text about Nausicaa
8. Castle in the Sky (天空の城ラピュタ) (part 1)
9. Castle in the Sky (part 2)
10. Reading and study of a text about Castle in the Sky
11. The Wind Rises (風立ちぬ) (part 1)
12. The Wind Rises (part 2)
13. Reading and study of a text about The Wind Rises
14. Review
15. Reports and presentations ? (movie of choice)

Lesson plan and content may be subject to change

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50009002
科目名	アニメ・イングリッシュ	単位数	2
科目名（英語表記）	Anime English		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	This course is intended to be an introductory study of Hayao Miyazaki and a selection of his animated films as well as an opportunity to practice English. We will be watching the films in class and examining some of the themes and issues which reoccur in his films.		
教材（テキスト）	Selected movies and texts to be provided during the lesson.		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Classroom activities 30% Final report and presentation 50% Participation and attitude 20% Students will be required to do several written assignments.		
到達目標	Upon successful completion of this course, students should be able to demonstrate knowledge of Hayao Miyazaki and a selection of his works in both spoken and written English.		
準備学習	Students will be required to do several written assignments.		

受講者への要望

Students are expected to attend all classes. Written assignments must be completed regularly.

講義の順序とポイント

1. Introduction to the course
2. My Neighbor Totoro (となりのトトロ) (part 1)
3. My Neighbor Totoro (part 2)
4. Reading and study of a text about My Neighbor Totoro
5. Nausicaa of the Valley of the Wind (風の谷のナウシカ) (part 1)
6. Nausicaa of the Valley of the Wind (part 2)
7. Reading and study of a text about Nausicaa
8. Castle in the Sky (天空の城ラピュタ) (part 1)
9. Castle in the Sky (part 2)
10. Reading and study of a text about Castle in the Sky
11. The Wind Rises (風立ちぬ) (part 1)
12. The Wind Rises (part 2)
13. Reading and study of a text about The Wind Rises
14. Review
15. Reports and presentations ? (movie of choice)

Lesson plan and content may be subject to change

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50010001
科目名	アニメ制作実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Making Animations		
担当者名	有吉　末充	旧科目名称	
講義概要	本実習では、まず「なぜアニメは動くのか」の基本原理を理解することから始める。それに基づいて「動き」分解する練習を行い、動画用紙を使って各自動画を描き、その動画を撮影して、動きを描くコツをつかむ。基本的なアニメートの技術が習得できたところで、授業後半では、受講者の希望に応じて、絵(ドローイングアニメ)、立体物（粘土、人形など）を動かして短編アニメーションを制作する。機材の操作法、撮影のためのセッティングも学習する。テレビアニメのようなセル・アニメについては技法は紹介するが課題としての制作はしない。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使用しない。授業で必要なことはレジュメで配布する。		
教材（参考文献）	『アニメーターズ・サバイバルキット』徳間書店、マール社、『アニメーションベーシックス』BNN、ほか必要に応じて授業内で紹介する。		
教材（その他）	過去の受講生の作品など参考作品を上映する。		
評価方法	練習参加度５０%、課題作品 40%、授業への参加態度など 10%		
到達目標	基本的なアニメーションが自分で作れるようになる。		
準備学習	人物やものの動き方について興味を持って観察する習慣を身につけること。いわゆる「アニメ風」の絵の描き方は練習する必要はない。		
受講者への要望			
自由な発想で「動き」を作り出していけるような想像力を身につけること。細かい作業に集中して取り組むので体調管理に気をつけること。			
講義の順序とポイント			
1 日目 1、オリエンテーション 2、アニメーションの原理 3、「動き」を分解する 4、ドローイングアニメーションの制作法 5、動画制作練習と撮影テスト 2 日目 1、ドローイングアニメーションの制作法（続き） 2、立体アニメーションの制作法(受講生の希望に応じてドローイングアニメを継続する場合もある） 3、立体物（粘土、人形）の制作 4、撮影機材の操作法 5、撮影のためのセッティング 6、立体アニメーションの制作練習 3 日目 自主作品（短編アニメ）制作			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50011002
科目名	アニメ文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Anime Cultures		
担当者名	有吉　末充	旧科目名称	
講義概要	アニメーションとマンガは今や世界的な日本の文化となっている。本講座では、まずアニメーションの歴史と様々な技法を俯瞰した上で、日本のアニメーションの黎明期から現在までの発達史をたどりながら、日本のアニメーションの特徴を分析し、なぜアニメーションがここまで発達したのか、その文化的背景や、表現としての将来の可能性について検討する。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使用しない。授業概要はプリントで配布。ビデオなどの副教材を使用		
教材（参考文献）	五味洋子『アニメーションの宝箱』ふゅーじょんぷろだくと。その他必要に応じて授業内で紹介する。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	平常点（40%）（質問、意見等授業参加度による）、レポート（60%）		
到達目標	アニメに関する視野をひろげ、文化としてのアニメについて様々な角度から考察できる視点を獲得することを目的とする。		
準備学習	授業のレジュメはよく読んで内容を理解しておくこと。できれば授業中で紹介した作品のうち何本かは通しで観ておくこと。疑問があれば質問できるようにしておくこと。		
受講者への要望			
映像をたくさん見ることになるが、比較検討の材料とするので漫然と見ないように。私語は禁止。課題レポートは必ず提出すること。			
講義の順序とポイント			
1、アニメーションとは何か 2、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（1） 3、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（2） 4、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（3） 5、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（4） 6、アニメーションの様々な技法（1）（平面的な技法） 7、アニメーションの様々な技法（2）（立体的な技法） 8、アニメーションの様々な技法（3）（ＣＧ、その他の技法） 9、日本のアニメーションの歴史（1）黎明期から政岡憲三へ 10、日本のアニメーションの歴史（2）東映動画の誕生とそのスタイルの成立 11、日本のアニメーションの歴史（3）テレビアニメの誕生と発展 12、日本のアニメーションの歴史（4）テレビアニメの発展・メカと戦闘 13、日本のアニメーションの歴史（5）テレビアニメの発展・アニメとヒロイン 14、日本のアニメーションの歴史（6）東映動画からジブリへ 15、日本アニメの現在から未来へ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50021001
科目名	エコロジー入門 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introductory Ecology		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	近年、地球温暖化問題に関連して、「エコ」あるいは「エコロジー」という言葉が盛んに使われるようになってきました。これらは「環境に配慮した」という意味で使用されていますが、本来「エコロジー」というのは、日本語では「生態学」と翻訳される生物学の一学問分野を意味しています。この名称は、1986 年にドイツの生物学者、エルンスト・ヘッケルによって初めて使用され、「生物と環境の間の相互作用を解明する科学」と定義されています。したがって、地球温暖化のような地球エコシステムに関わる環境問題を考える際には、エコロジーの考え方についての理解がとても重要になります。 本授業では、エコロジーの基本的な考え方を理解するために、特に「エコシステム」（「生態系」と翻訳され、多様な生物とその環境の要素からなるシステムとして定義される）の理解に重点を置きます。まずは、様々なエコシステムの形態を紹介していきます。また、エコシステムを理解するための基礎用語についても解説します。次にエコシステムを構成する生物と環境の要素との様々な機能や仕組みなども紹介します。最後に、人間活動がエコシステムに及ぼす影響についても考えていきます。 なお、毎回、実際の生態系（森林、草原、砂漠、生態系、海洋、河川、湖沼の生態系）をビデオで紹介していきます。		
教材（テキスト）	鷲谷いづみ著『絵でわかる生態系のしくみ』講談社（2008 年）		
教材（参考文献）	①M．ベーゴン、J．L．ハーパー、C．R．タウンセンド著・堀道雄監訳『生態学 － 個体・個体群・群集の科学』 京都大学学術出版、原著第 3 版（1996 年） ② 日本生態学会編集『生態学入門』東京化学同人（2004 年）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートと資料等を各授業で配布する。		
評価方法	出席状況と毎回のレポート提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	エコシステム（生態系）の構成、動態、機能、仕組みなどを概観しながら、エコロジー（生態学）の基本的な考え方を理解すること。その上で、地球のエコシステムは我々の生存にいかに重要であるか、またその保全や再生の必要性を理解すること。		
準備学習	教科書リーディング： PP.10-19 PP.20-43, PP.46-61, PP.66-85, PP.92-95, pp.98-119, PP.122-129, pp.132-159		

受講者への要望

講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。

講義の順序とポイント

1. シラバスの説明・エコロジー（生態学）とは
2. エコシステム（生態系）とバイオーム（生物群系）
3. 窒素・炭素循環とエコシステム
4. 食物網と生態ピラミッド
5. 生態系サービスと生態系評価
6. 環境・資源・条件・ニッチ
7. 生物個体・個体群・群集
8. 遷移説とシフティングモザイク
9. 生物の順化と動物の適応
10. 共生関係とエコシステム
11. エコシステムをつなぐ生物
12. ヒトの出現とエコシステム
13. 近代農業・林業とエコシステムの危機
14. 生物多様性の減少
15. エコシステムの修復・再生

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50022001
科目名	カウンセリング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories and Methods of Counseling		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	カウンセリングとは「相談」という意味であり、歴史的には職業指導のためのガイダンス（助言指導）から発展してきた。1940 年代のカール・ロジャーズによる非指示的心理療法・来談者中心療法はカウンセリングの土台を作ったと言える。フロイトによる精神分析に端を発する心理療法は「患者を治療する」という枠組みであったのに対して、カウンセリングは一定以上健康な人が「対話を通して自らよりよい状態へと変化していく」プロセスを援助する営みだと考えられる。しかし対象者が広がるにつれて心理療法とカウンセリングの境界は曖昧なものとなり、カウンセリングにおいても様々な技法が利用されるようになってきた。 本講義ではカウンセリングで用いられる様々な技法を学ぶと共に、実際のカウンセリング場面のＶＴＲを視聴してそのあり方についてグループディスカッションを行い、カウンセラーのあり方と治療の流れの関連について考えを深める。またロールプレイを通して、カウンセラーとクライエントのやりとり・感情体験を具体的に学ぶ。		
教材（テキスト）	佐々木正宏・大貫敬一共著　『適応と援助の心理学／援助編』　培風館		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点(出席および課題)　５０％　及び　レポート提出　５０％。		
到達目標	カウンセリングで用いられる治療技法とその理論的基礎の概略を学ぶと共に、初歩的なカウンセリング的応答の技法を経験する。		
準備学習	第一回授業までに「臨床心理学Ⅱ」の教科書を再読し、カウンセリングの基本となるロジャーズの理論について復習しておくこと。また、講義終了時に、来週までに実施すべき課題を出すので、それをきちんとこなして次週授業開始時に提出すること。		

受講者への要望

遅刻・早退せず主体的に参加すること。臨床心理学Ⅰ・Ⅱの単位を取得済みであることが必要。カウンセリングのロールプレイをやるため、学期に 1、2 回土曜ないし休日に授業を実施するので、予定しておくこと。初回の授業時に日程の決定をするため、必ず出席のこと。

講義の順序とポイント

1～2．カウンセリングとは
3～4．カウンセリングの基本的技法－－マイクロ・カウンセリング
5．カウンセリングの実際－－　a．ロジャーズの来談者中心療法
6．　b．パールズのゲシュタルト療法
7．　c．エリスの論理療法
8～10．紙上応答練習
11～14．ロールプレイ－－－（ロールの設定・ロールプレイの実施・話し合い）
15．各グループ毎の発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	J50026A01
科目名	コミュニケーション社会学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Communication A		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。 コミュニケーション社会学 A では、記号を扱う理論とこれに基づいた社会の分析、現代社会の様々な領域におけるコミュニケーションの特徴などについて述べる。ポップなものからシリアスなものまで、できるだけ多様な事例を交えて論じる。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を使用する。		
評価方法	授業内レポート（50%）、定期試験（50%）。		
到達目標	日々体験しているさまざまなコミュニケーションを社会学的に分析するという方法を理解すること。		
準備学習	1 週間前までに、京学なびに資料を掲示するので、よく読んでおくこと。		

受講者への要望

ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。また、ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。

講義の順序とポイント

《イントロダクション》
1. 講義概要、予備知識

《記号論》
2. 記号
3. デノテーションとコノテーション
4. ファッション
5. ワーディング
6. ラベリング
7. コンテクスト
8. 二元論(1)
9. 二元論(2)
10. 復習と補足(1)

《現代社会のコミュニケーション》
11. コミュニティのなかのコミュニケーション
12. つながり・共感
13. 観光(1)
14. 観光(2)
15. 復習と補足(2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50026A02
科目名	コミュニケーション社会学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Communication A		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。 コミュニケーション社会学 A では、記号を扱う理論とこれに基づいた社会の分析、現代社会の様々な領域におけるコミュニケーションの特徴などについて述べる。ポップなものからシリアスなものまで、できるだけ多様な事例を交えて論じる。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を使用する。		
評価方法	授業内レポート（50%）、定期試験（50%）。		
到達目標	日々体験しているさまざまなコミュニケーションを社会学的に分析するという方法を理解すること。		
準備学習	1 週間前までに、京学なびに資料を掲示するので、よく読んでおくこと。		
受講者への要望			
ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。また、ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。			
講義の順序とポイント			
《イントロダクション》 1. 講義概要、予備知識 《記号論》 2. 記号 3. デノテーションとコノテーション 4. ファッション 5. ワーディング 6. ラベリング 7. コンテクスト 8. 二元論(1) 9. 二元論(2) 10. 復習と補足(1) 《現代社会のコミュニケーション》 11. コミュニティのなかのコミュニケーション 12. つながり・共感 13. 観光(1) 14. 観光(2) 15. 復習と補足(2)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50026B01
科目名	コミュニケーション社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Communication B		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。 コミュニケーション社会学 B のサブテーマは「現代社会のコミュニケーション」。現代の、特に若者のコミュニケーションが希薄なったという説がある。確かに、社会学の研究の中にも希薄化を示すものがある。しかし、そうした研究もよく読めば、希薄化している一面もある一方で濃密化している面もあることを示している。また、一般にコミュニケーションが希薄化することは悪いことと思われているが、社会学の諸研究が示しているのは、希薄化・濃密化ともに、良い面もあれば悪い面もあるということである。講義では、この希薄化説という観点から、現代社会のコミュニケーションを考える。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を使用する。		
評価方法	授業内レポート（50%）、定期試験（50%）。		
到達目標	日々体験しているさまざまなコミュニケーションを社会学的に分析するという方法を理解すること。		
準備学習	1 週間前までに、京学なびに資料を掲示するので、よく読んでおくこと。		

受講者への要望

ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。また、ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。

講義の順序とポイント

《イントロダクション》
1. 講義概要、予備知識

《現代人の相互行為》
2. 都市のストレンジャー(1)
3. 都市のストレンジャー(2)
4. 相互行為儀礼
5. ぼかし表現

《大衆社会のコミュニケーション》
6. 大衆と中間集団
7. 大衆の社会心理
8. 「盗撮ソング」論

《応用問題――郊外とメディア》
9. 郊外(1)
10. 郊外(2)
11. ネット社会
12. 大衆社会とソーシャルメディア
13. 流言

《復習と補足》
14. 復習と補足（1）
15. 復習と補足（2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待						

年度	2015	授業コード	J50026B02
科目名	コミュニケーション社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Communication B		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。 コミュニケーション社会学 B のサブテーマは「現代社会のコミュニケーション」。現代の、特に若者のコミュニケーションが希薄なったという説がある。確かに、社会学の研究の中にも希薄化を示すものがある。しかし、そうした研究もよく読めば、希薄化している一面もある一方で濃密化している面もあることを示している。また、一般にコミュニケーションが希薄化することは悪いことと思われているが、社会学の諸研究が示しているのは、希薄化・濃密化ともに、良い面もあれば悪い面もあるということである。講義では、この希薄化説という観点から、現代社会のコミュニケーションを考える。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を使用する。		
評価方法	授業内レポート（50%）、定期試験（50%）。		
到達目標	日々体験しているさまざまなコミュニケーションを社会学的に分析するという方法を理解すること。		
準備学習	1 週間前までに、京学なびに資料を掲示するので、よく読んでおくこと。		

受講者への要望

ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。また、ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。

講義の順序とポイント

《イントロダクション》
1. 講義概要、予備知識

《現代人の相互行為》
2. 都市のストレンジャー(1)
3. 都市のストレンジャー(2)
4. 相互行為儀礼
5. ぼかし表現

《大衆社会のコミュニケーション》
6. 大衆と中間集団
7. 大衆の社会心理
8. 「盗撮ソング」論

《応用問題――郊外とメディア》
9. 郊外(1)
10. 郊外(2)
11. ネット社会
12. 大衆社会とソーシャルメディア
13. 流言

《復習と補足》
14. 復習と補足（1）
15. 復習と補足（2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待						

年度	2015	授業コード	J50036A01
科目名	ジャーナリズム論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Journalism A		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	ジャーナリズム論を学ぶ目的は現代社会の仕組みを知り、それらに対する健全な批判精神を養う点にあります。そのために日々、私たちの周りで起きている様々な出来事や社会事象を正確に理解し、その本質を見抜くことが不可欠で、そのような観点から新聞やテレビ、雑誌などの報道を仔細に検証します。そのことによって、より高度な社会常識が醸成されると同時に、マスコミに就職したい学生諸君にとっては入社試験対策の一助になると思います。それと併せて、メディアに限らず、一般企業に就職する際にも培われた社会常識は役立つと思います。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー一岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々の授業で取り上げる「ニュース」について、各種新聞記事やデータ、さらに国内・海外のテレビ映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	プロのジャーナリストでもある私のニュース解説や分析を聴いてもらいたいので、是非とも積極的、能動的に授業に出席して講義に耳を傾けてください。就職の際にもきっと役立つと思います。評価は出席状況などを含む平常点（30%）、授業内レポート（10%）、授業内に実施する行う「小テスト」2 回(計 60%)です。		
到達目標	ジャーナリストになることを希望する学生にとって、この授業がその基礎知識になることは言うに及ばず、社会人としての最低限の常識を養うという点において、就職する際にかなり役立つと思います。つまり、いま問題になっている社会事象を正確に理解し、それに対する的確な批判力を身に付けることが目標なわけで、是非ともそのような感度の高い情報人になってほしいと思います		
準備学習	授業では新聞やテレビで報道されているその時々のニュースを具体的に教材として取り上げ、そのことを通してジャーナリズム原論に迫るのが第一の目標です。そのために次の授業のために教科書や事前配布の資料を読み込んで予習をすることが肝要です。それに加えて、その時々のニュースを新聞や新聞社のウェブサイト、さらにテレビのニュースなどを通じてよく把握、理解しておいてほしいと思います。また、授業終了時に課題を出してその日の授業の復習をしてもらい、次回の授業で提出してもらいます。 1.「ジャーナリズムの社会的存在意義」については、教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）と「ネット時代のジャーナリズム」「知と情報の公共圏との論壇ジャーナリズム」の項を読んで概要を把握しておきてください。 2.「民主主義と国民の知る権利、報道の自由」については、教科書の「疑わしきは報道すべき」「知る権利を阻害する警察権力の匿名発表」「社会の道標としてのジャーナリズム」の項を中心に予習しておいてください。 3.「マス・メディアにおけるニュースの定義」については、事前に配布した各種資料を熟読して理解を含めておくことと、教科書の第３章「ニュースの大衆化」「視聴者本位のニュース」（49 ページ～69 ページ）などを読んでおくこと。 4.「発表ジャーナリズムとメディア・スクラムの功罪」につては、配布した新聞記事と併せて、教科書の第８章「発表ジャーナリズムとメディア・スクラム」全体に目を通しておいてください。 5.「松本サリン事件と誤報」については、教科書の「松本サリン事件における集団誤報道」（170 ページ～174 ページ）と、そのうちの「犯人と疑われた河野義行」の項に関する新聞記事資料をよく読んでおいてください。 6.「坂本弁護士一家拉致殺害事件とオウム」については、教科書の「坂本事件と TBS の責任」（174 ページ～179 ページ）を読んで理解しておいてください。 7.「所沢ダイオキシン報道」にｔついては、教科書の「所沢ダイオキシン報道による風評被害と裁判」（185 ページ～196 ページ）をよく読んで、事実関係と専門用語の理解に努めてください。 8.「雑誌ジャーナリズムとプライバシー侵害報道」については、事前配布の名誉棄損裁判の判決資料と教科書「第９章」に掲載したプライバシー侵害判決例をチェックすると同時に、国民の知る権利と個人情報保護の法的な関係を予習しておいてください。 9.「週刊文春の出版禁止仮処分」については、教科書の「週刊文春をめぐる報道の自由とプライバシーの侵害」（202 ページ～221 ページ）を事前に読んで事実関係と法的意味をよく理解しておくこと。 １０.「東電女性社員殺人事件報道」については、配布資料に加えて教科書の「死者の尊厳を冒す東電女性社員殺人事件の暴露報道」（197 ページ～202 ページ）をよく読んで理解しておくこと。		

	１１.「実名、匿名報道」については、参考に事前配布した新聞記事と教科書の第１０章「メディアによる実名・匿名報道と個人情報」全体に目を通しておいてください。 １２.「週刊誌の実名報道と少年法」については、教科書の「神戸小学生連続殺傷事件」「週刊新潮の顔写真掲載」「インターネットによる少年の個人情報」などの項（222 ページ～229 ページ）を読んで事実関係を理解しておくこと。 １３.「個人情報保護法と取材報道の自由」については、事前配布の各種資料と教科書の「個人情報保護法によって大きな制約を受ける報道」（232 ページ～238 ページ）に記載されている実例について理解を深めておくこと。 １４.「警察権力による匿名発表」については、事前配布データと同時に教科書の「国民の知る権利を阻害する警察権力の匿名発表」（229 ページ～232 ページ）をよく読んで、警察発表になぜメディアが反発ｓｊひたのか予習しておいてください。 １５「ジャーナリストを目指すためには」については、教科書全体をもう一度目を通すとともに、第１２章「ジャーナリズムとアカデミズムは連携できるか」、その中でも「ジャーナリスト志望学生のニーズに合わない教育内容」や「大学院におけるプロフェッショナル研修」の項をよく読んで予習しておいてください。

受講者への要望

マスコミ特有の専門用語を理解するためにも「学習準備」の項に記した予習と復習を確実に行ってください。講義者は３２年間のジャーナリスト経験のあるプロなので、ともかく授業に積極的に出席して、そのニュース分析や解説などに熱心に耳を傾けてほしい。それは、いわば新聞社におけるデスク会の再現のようなもので、そのような体験の積み重ねがジャーナリストとしての感性を養うことに繋がると思います。遅刻や私語は厳禁とします。私語が過ぎれば退出を求めることもあります。ともかく、常識や偏見にとらわれない自由な発想を育成したいと思っています。このジャーナリズム論を受講する学生諸君には、教科書が同一で全学共通の関連科目「マスコミ論 A・B」（福永担当）を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

1　ジャーナリズム、メディア、ジャーナリストの社会的存在意義
2　民主主義の根幹としての「国民の知る権利」と取材・報道の自由
3　新聞・テレビなどマス・メディアにおける「ニュースの定義」とその時代的変容
4　発表ジャーナリズムとメディア・スクラム（集団的過熱取材）の罪
5　「松本サリン事件」におけるメディアの集団的「誤」報道
6　坂本弁護士一家を死に追いやった「TBS」の責任
7　「所沢ダイオキシン報道」に象徴される風評被害と司法の判断
8　社会を鋭くえぐる雑誌ジャーナリズムとそのプライバシー侵害報道
9　「週刊文春」のプライバシー報道とそれに対する出版禁止仮処分
１０　全国紙も報じた死者の尊厳を冒涜する「東電女性社員殺人事件」報道
１１　メディアによる「実名」「匿名」報道の意義と個人情報の保護
１２　週刊誌などの実名報道によって形骸化する「少年法」と人権侵害
１３　「個人情報保護法」によって制約を受ける取材の自由と報道の自由
１４　「国民の知る権利」を阻害する警察権力による匿名発表
１５　ジャーナリストを志す学生諸君のために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50036A02
科目名	ジャーナリズム論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Journalism A		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	ジャーナリズム論を学ぶ目的は現代社会の仕組みを知り、それらに対する健全な批判精神を養う点にあります。そのために日々、私たちの周りで起きている様々な出来事や社会事象を正確に理解し、その本質を見抜くことが不可欠で、そのような観点から新聞やテレビ、雑誌などの報道を仔細に検証します。そのことによって、より高度な社会常識が醸成されると同時に、マスコミに就職したい学生諸君にとっては入社試験対策の一助になると思います。それと併せて、メディアに限らず、一般企業に就職する際にも培われた社会常識は役立つと思います。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー一岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々の授業で取り上げる「ニュース」について、各種新聞記事やデータ、さらに国内・海外のテレビ映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	プロのジャーナリストでもある私のニュース解説や分析を聴いてもらいたいので、是非とも積極的、能動的に授業に出席して講義に耳を傾けてください。就職の際にもきっと役立つと思います。評価は出席状況などを含む平常点（30%）、授業内レポート（10%）、授業内に実施する行う「小テスト」2 回(計 60%)です。		
到達目標	ジャーナリストになることを希望する学生にとって、この授業がその基礎知識になることは言うに及ばず、社会人としての最低限の常識を養うという点において、就職する際にかなり役立つと思います。つまり、いま問題になっている社会事象を正確に理解し、それに対する的確な批判力を身に付けることが目標なわけで、是非ともそのような感度の高い情報人になってほしいと思います		
準備学習	授業では新聞やテレビで報道されているその時々のニュースを具体的に教材として取り上げ、そのことを通してジャーナリズム原論に迫るのが第一の目標です。そのために次の授業のために教科書や事前配布の資料を読み込んで予習をすることが肝要です。それに加えて、その時々のニュースを新聞や新聞社のウェブサイト、さらにテレビのニュースなどを通じてよく把握、理解しておいてほしいと思います。また、授業終了時に課題を出してその日の授業の復習をしてもらい、次回の授業で提出してもらいます。 1.「ジャーナリズムの社会的存在意義」については、教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）と「ネット時代のジャーナリズム」「知と情報の公共圏との論壇ジャーナリズム」の項を読んで概要を把握しておきてください。 2.「民主主義と国民の知る権利、報道の自由」については、教科書の「疑わしきは報道すべき」「知る権利を阻害する警察権力の匿名発表」「社会の道標としてのジャーナリズム」の項を中心に予習しておいてください。 3.「マス・メディアにおけるニュースの定義」については、事前に配布した各種資料を熟読して理解を含めておくことと、教科書の第３章「ニュースの大衆化」「視聴者本位のニュース」（49 ページ～69 ページ）などを読んでおくこと。 4.「発表ジャーナリズムとメディア・スクラムの功罪」につては、配布した新聞記事と併せて、教科書の第８章「発表ジャーナリズムとメディア・スクラム」全体に目を通しておいてください。 5.「松本サリン事件と誤報」については、教科書の「松本サリン事件における集団誤報道」（170 ページ～174 ページ）と、そのうちの「犯人と疑われた河野義行」の項に関する新聞記事資料をよく読んでおいてください。 6.「坂本弁護士一家拉致殺害事件とオウム」については、教科書の「坂本事件と TBS の責任」（174 ページ～179 ページ）を読んで理解しておいてください。 7.「所沢ダイオキシン報道」にｔついては、教科書の「所沢ダイオキシン報道による風評被害と裁判」（185 ページ～196 ページ）をよく読んで、事実関係と専門用語の理解に努めてください。 8.「雑誌ジャーナリズムとプライバシー侵害報道」については、事前配布の名誉棄損裁判の判決資料と教科書「第９章」に掲載したプライバシー侵害判決例をチェックすると同時に、国民の知る権利と個人情報保護の法的な関係を予習しておいてください。 9.「週刊文春の出版禁止仮処分」については、教科書の「週刊文春をめぐる報道の自由とプライバシーの侵害」（202 ページ～221 ページ）を事前に読んで事実関係と法的意味をよく理解しておくこと。 １０.「東電女性社員殺人事件報道」については、配布資料に加えて教科書の「死者の尊厳を冒す東電女性社員殺人事件の暴露報道」（197 ページ～202 ページ）をよく読んで理解しておくこと。		

	１１.「実名、匿名報道」については、参考に事前配布した新聞記事と教科書の第１０章「メディアによる実名・匿名報道と個人情報」全体に目を通しておいてください。 １２.「週刊誌の実名報道と少年法」については、教科書の「神戸小学生連続殺傷事件」「週刊新潮の顔写真掲載」「インターネットによる少年の個人情報」などの項（222 ページ～229 ページ）を読んで事実関係を理解しておくこと。 １３.「個人情報保護法と取材報道の自由」については、事前配布の各種資料と教科書の「個人情報保護法によって大きな制約を受ける報道」（232 ページ～238 ページ）に記載されている実例について理解を深めておくこと。 １４.「警察権力による匿名発表」については、事前配布データと同時に教科書の「国民の知る権利を阻害する警察権力の匿名発表」（229 ページ～232 ページ）をよく読んで、警察発表になぜメディアが反発ｓｊひたのか予習しておいてください。 １５「ジャーナリストを目指すためには」については、教科書全体をもう一度目を通すとともに、第１２章「ジャーナリズムとアカデミズムは連携できるか」、その中でも「ジャーナリスト志望学生のニーズに合わない教育内容」や「大学院におけるプロフェッショナル研修」の項をよく読んで予習しておいてください。

受講者への要望

マスコミ特有の専門用語を理解するためにも「学習準備」の項に記した予習と復習を確実に行ってください。講義者は３２年間のジャーナリスト経験のあるプロなので、ともかく授業に積極的に出席して、そのニュース分析や解説などに熱心に耳を傾けてほしい。それは、いわば新聞社におけるデスク会の再現のようなもので、そのような体験の積み重ねがジャーナリストとしての感性を養うことに繋がると思います。遅刻や私語は厳禁とします。私語が過ぎれば退出を求めることもあります。ともかく、常識や偏見にとらわれない自由な発想を育成したいと思っています。このジャーナリズム論を受講する学生諸君には、教科書が同一で全学共通の関連科目「マスコミ論 A・B」（福永担当）を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

1　ジャーナリズム、メディア、ジャーナリストの社会的存在意義
2　民主主義の根幹としての「国民の知る権利」と取材・報道の自由
3　新聞・テレビなどマス・メディアにおける「ニュースの定義」とその時代的変容
4　発表ジャーナリズムとメディア・スクラム（集団的過熱取材）の罪
5　「松本サリン事件」におけるメディアの集団的「誤」報道
6　坂本弁護士一家を死に追いやった「TBS」の責任
7　「所沢ダイオキシン報道」に象徴される風評被害と司法の判断
8　社会を鋭くえぐる雑誌ジャーナリズムとそのプライバシー侵害報道
9　「週刊文春」のプライバシー報道とそれに対する出版禁止仮処分
１０　全国紙も報じた死者の尊厳を冒涜する「東電女性社員殺人事件」報道
１１　メディアによる「実名」「匿名」報道の意義と個人情報の保護
１２　週刊誌などの実名報道によって形骸化する「少年法」と人権侵害
１３　「個人情報保護法」によって制約を受ける取材の自由と報道の自由
１４　「国民の知る権利」を阻害する警察権力による匿名発表
１５　ジャーナリストを志す学生諸君のために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50036B01
科目名	ジャーナリズム論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Journalism B		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、「情報化社会」において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらには報道されたニュース解析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを“教材”として取り上げるので、一般企業の入社試験で出される「社会常識」対策としても大いに役立つかと思います。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー一岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々、話題になっている「ニュース」に関する新聞記事や各種データの配布、さらに国内・海外のニューズ映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	授業に積極的、能動的に出席して、プロのジャーナリストである私のニュース解説や分析を是非とも聴いて下さい。それは、必ずや就職の際に役立つと思います。評価は出席状況などを含む平常点(30%)、授業内レポート(10%)、授業内で実施する「小テスト」2 回（計 60％）です。		
到達目標	現代社会において問題化している事象を正確に理解し、それに対する客観的な判断力の養成を目標とする。つまり、一般常識や情報感覚を養うことになるが、マスコミ志望者にとっては、その希望がかなうようになってもらいたい。そのような目的意識を持ってメディアリテラシー力も醸成してもらいたいと思います。		
準備学習	授業ではジャーナリズム理論を学ぶのが第一の目標なので、教科書や事前配布資料の読み込みなどによる専門用語や事実関係の理解のための予習が欠かせません。それに加えて、この授業ではその時々のニュース報道を分析することも大事で、そのために新聞やテレビのニュース、さらにはメディアのウェブサイトへのアクセスによって、いま、世の中で何が起き、何が問題になっているのか、情報に敏感になっておいてください。また、講義終了時に宿題を出しますので、次回の授業時に復習の課題文を提出してもらいます。 １.「ジャーナリズムと商業主義」については、教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）と「新聞ジャーナリズムの存在価値」「利益追求と公益性」の項などを読んで予備知識を得ておいてください。 ２.「放送の自律性の危機」については、事前に配布した資料に加えて、教科書の「朝日新聞による NHK 番組改変報道」（129 ページ～139 ページ）をよく読んで予習しておいてください。 ３.「「政治報道とメディア」ついては、事前配布した椿報道局長発言問題の資料と教科書の「政治報道における不偏不党性と公平性」（139 ページ～152 ページ）の項を読んで事実関係を把握しておくこと。 ４.「メディアと戦争」については、教科書の第Ⅳ部「社会の道標としてのジャーナリズムに求められる課題」全体を読み、戦争報道においてメディアに何が課されているのかを理解しておいてください。 ５.「大本営発表」とイラク戦争」については、双方に関する新聞記事資料に加えて、教科書の「正義の戦争に仕立てる国際世論操作」の項（241 ページ～244 ページ）を予習しておいてください。 ６.「「見せる戦争と見せない戦争」については、軍当局による取材報道規制について言及している教科書の「見せる戦争、見せない戦争と発表ジャーナリズム」（244 ページ～247 ページ）を読んで理解しておくこと。 ７.「アル・ジャジーラの戦争」については、かつて「ＣＮＮの戦争」と形容された湾岸戦争との報道比較をした教科書の「アル・ジャジーラの戦争としてのイラク戦争報道」（254 ページ～262 ページ）を読んで、両者の相違を予習しておくこと。 ８.「ナショナリズムとアメリカ・メディア」については、事前配布資料と教科書の「ナショナリズムの鼓舞に利用された米国メディア」（262 ページ～264 ページ）を読んで予習しておいてください。 ９.「戦争の真実に肉薄するフリージャーナリスト」については、各種フリージャーナリストの関係資料と教科書の「パレスチナホテルで記者が死傷」「従軍記者」「フリーランス」の項を読んで予備知識を得ておいてください。 １０.「日本マス・メディアとイラク戦争」については、教科書の「戦場から撤退した日本マス・メディアの“軟弱ジャーナリズム”」（264 ページ～267 ページ）をよく読んで事実関係を把握しておくこと。 １１.「ジャーナリズムと知識人」については、事前配布の資料とともに教科書の「情報化社会における知の		

	大衆化と知識人の役割」（274 ページ～276 ページ）を読んで予習しておいてください。 １２.「「朝まで生テレビと知識人」については、同番組の常連出演者の名前や経歴に加えて、教科書の「朝まで生テレビに常連出演する知性の人々」（283 ページ～288 ページ）、その中でも「衆愚的なマスを意識した論点の単純化」の項をよく読んで理解しておいてください。 １３.「知と情報」の公共圏」については、中身がかなり難しいので、教科書の「論壇知識人」「論壇ジャーナリズム」「知のトライアングル」の項をよく読んで理解しておくこと。 １４.「ウォルター・リップマン」については、これも難解な理論が展開されているので教科書の「論議を呼ぶウォルター・リップマンの大衆論」、中でも彼が主張する「世論」「疑似環境」「軟弱な大衆」の項を重点的に読んで理解を深めておくこと。 15.「大学におけるジャーナリズム研究」については、教科書全体の主題であると同時に第１２章に集約されているので、のとりわけ同章後半の「ジャーナリスト養成教育」「大学院の在り方」「インターンシップ」「プロフェショナル研修」「米国大学との比較」の項をよく読んで予習しておいてください。

受講者への要望

マスコミ特有の専門用語を理解するためにも「学習準備」に記した予習や復習を確実に行ってください。私はプロのジャーナリストなので、ともかく能動的に出席して、日々のニュースをどのように分析するのかを体験して勉強してもらいたい。ジャーナリズムは社会事象に対する認識力と批判力が根本といえます。その意味で、世の中で一体、何が起きているのか、出来るだけ日々のニュース報道を自身の頭で考え、友人たちと議論するなど“情報感度”を磨いておいてください。授業中の私語、遅刻、早退などはほかの受講生の迷惑になるので退出を求めることもあります。ともかく、問題意識をもって社会に対する見識を磨いてください。それから、この科目を受講する学生諸君には、教科書が一緒で全学共通の関連科目「マスコミ論 A・B」を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

1　「衰退するジャーナリズム」を取り巻く商業主義的な諸現象
2　放送の自律性の危機ーー「NHK 番組改変」において政治権力の介入はあったのか
3　「政治報道」におけるメディアの不偏不党性と公正・公平性
4　メディアは本当に「戦争の真実」を伝えているのか
5　「大本営発表」とイラク戦争を「正義の戦争」に仕立てた国際世論操作
6　「見せる戦争」「見せない戦争」と当局による取材規制・発表ジャーナリズム
7　欧米メディア中心の「CNN の戦争」から「アル・ジャジーラの戦争」報道へ
8　当局によってナショナリズムの高揚に利用されたアメリカ・メディアの失態
9　戦争の真実に肉薄するフリージャーナリストたちの活躍と悲劇
１０　戦場から総撤退した日本マス・メディアの“軟弱ジャーナリズム”
１１　情報化社会におけるジャーナリズムと知識人の連携は可能か
１２　「朝まで生テレビ」（テレビ朝日）に常連出演する“知性の人々”
１３　「知と情報」の公共圏としての論壇ジャーナリズムの存在意義
１４　論議を呼ぶウォルター・リップマンの「大衆論」とジャーナリズム
１５　大学におけるジャーナリズム研究と不十分なジャーナリスト養成教育

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50036B02
科目名	ジャーナリズム論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Journalism B		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、「情報化社会」において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらには報道されたニュース解析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを“教材”として取り上げるので、一般企業の入社試験で出される「社会常識」対策としても大いに役立つかと思います。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー一岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々、話題になっている「ニュース」に関する新聞記事や各種データの配布、さらに国内・海外のニューズ映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	授業に積極的、能動的に出席して、プロのジャーナリストである私のニュース解説や分析を是非とも聴いて下さい。それは、必ずや就職の際に役立つと思います。評価は出席状況などを含む平常点(30%)、授業内レポート(10%)、授業内で実施する「小テスト」2 回（計 60％）です。		
到達目標	現代社会において問題化している事象を正確に理解し、それに対する客観的な判断力の養成を目標とする。つまり、一般常識や情報感覚を養うことになるが、マスコミ志望者にとっては、その希望がかなうようになってもらいたい。そのような目的意識を持ってメディアリテラシー力も醸成してもらいたいと思います。		
準備学習	授業ではジャーナリズム理論を学ぶのが第一の目標なので、教科書や事前配布資料の読み込みなどによる専門用語や事実関係の理解のための予習が欠かせません。それに加えて、この授業ではその時々のニュース報道を分析することも大事で、そのために新聞やテレビのニュース、さらにはメディアのウェブサイトへのアクセスによって、いま、世の中で何が起き、何が問題になっているのか、情報に敏感になっておいてください。また、講義終了時に宿題を出しますので、次回の授業時に復習の課題文を提出してもらいます。 １.「ジャーナリズムと商業主義」については、教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）と「新聞ジャーナリズムの存在価値」「利益追求と公益性」の項などを読んで予備知識を得ておいてください。 ２.「放送の自律性の危機」については、事前に配布した資料に加えて、教科書の「朝日新聞による NHK 番組改変報道」（129 ページ～139 ページ）をよく読んで予習しておいてください。 ３.「「政治報道とメディア」ついては、事前配布した椿報道局長発言問題の資料と教科書の「政治報道における不偏不党性と公平性」（139 ページ～152 ページ）の項を読んで事実関係を把握しておくこと。 ４.「メディアと戦争」については、教科書の第Ⅳ部「社会の道標としてのジャーナリズムに求められる課題」全体を読み、戦争報道においてメディアに何が課されているのかを理解しておいてください。 ５.「大本営発表」とイラク戦争」については、双方に関する新聞記事資料に加えて、教科書の「正義の戦争に仕立てる国際世論操作」の項（241 ページ～244 ページ）を予習しておいてください。 ６.「「見せる戦争と見せない戦争」については、軍当局による取材報道規制について言及している教科書の「見せる戦争、見せない戦争と発表ジャーナリズム」（244 ページ～247 ページ）を読んで理解しておくこと。 ７.「アル・ジャジーラの戦争」については、かつて「ＣＮＮの戦争」と形容された湾岸戦争との報道比較をした教科書の「アル・ジャジーラの戦争としてのイラク戦争報道」（254 ページ～262 ページ）を読んで、両者の相違を予習しておくこと。 ８.「ナショナリズムとアメリカ・メディア」については、事前配布資料と教科書の「ナショナリズムの鼓舞に利用された米国メディア」（262 ページ～264 ページ）を読んで予習しておいてください。 ９.「戦争の真実に肉薄するフリージャーナリスト」については、各種フリージャーナリストの関係資料と教科書の「パレスチナホテルで記者が死傷」「従軍記者」「フリーランス」の項を読んで予備知識を得ておいてください。 １０.「日本マス・メディアとイラク戦争」については、教科書の「戦場から撤退した日本マス・メディアの“軟弱ジャーナリズム”」（264 ページ～267 ページ）をよく読んで事実関係を把握しておくこと。 １１.「ジャーナリズムと知識人」については、事前配布の資料とともに教科書の「情報化社会における知の		

	大衆化と知識人の役割」（274 ページ～276 ページ）を読んで予習しておいてください。 １２.「「朝まで生テレビと知識人」については、同番組の常連出演者の名前や経歴に加えて、教科書の「朝まで生テレビに常連出演する知性の人々」（283 ページ～288 ページ）、その中でも「衆愚的なマスを意識した論点の単純化」の項をよく読んで理解しておいてください。 １３.「知と情報」の公共圏」については、中身がかなり難しいので、教科書の「論壇知識人」「論壇ジャーナリズム」「知のトライアングル」の項をよく読んで理解しておくこと。 １４.「ウォルター・リップマン」については、これも難解な理論が展開されているので教科書の「論議を呼ぶウォルター・リップマンの大衆論」、中でも彼が主張する「世論」「疑似環境」「軟弱な大衆」の項を重点的に読んで理解を深めておくこと。 15.「大学におけるジャーナリズム研究」については、教科書全体の主題であると同時に第１２章に集約されているので、のとりわけ同章後半の「ジャーナリスト養成教育」「大学院の在り方」「インターンシップ」「プロフェショナル研修」「米国大学との比較」の項をよく読んで予習しておいてください。

受講者への要望

マスコミ特有の専門用語を理解するためにも「学習準備」に記した予習や復習を確実に行ってください。私はプロのジャーナリストなので、ともかく能動的に出席して、日々のニュースをどのように分析するのかを体験して勉強してもらいたい。ジャーナリズムは社会事象に対する認識力と批判力が根本といえます。その意味で、世の中で一体、何が起きているのか、出来るだけ日々のニュース報道を自身の頭で考え、友人たちと議論するなど“情報感度”を磨いておいてください。授業中の私語、遅刻、早退などはほかの受講生の迷惑になるので退出を求めることもあります。ともかく、問題意識をもって社会に対する見識を磨いてください。それから、この科目を受講する学生諸君には、教科書が一緒で全学共通の関連科目「マスコミ論 A・B」を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

1　「衰退するジャーナリズム」を取り巻く商業主義的な諸現象
2　放送の自律性の危機ーー「NHK 番組改変」において政治権力の介入はあったのか
3　「政治報道」におけるメディアの不偏不党性と公正・公平性
4　メディアは本当に「戦争の真実」を伝えているのか
5　「大本営発表」とイラク戦争を「正義の戦争」に仕立てた国際世論操作
6　「見せる戦争」「見せない戦争」と当局による取材規制・発表ジャーナリズム
7　欧米メディア中心の「CNN の戦争」から「アル・ジャジーラの戦争」報道へ
8　当局によってナショナリズムの高揚に利用されたアメリカ・メディアの失態
9　戦争の真実に肉薄するフリージャーナリストたちの活躍と悲劇
１０　戦場から総撤退した日本マス・メディアの“軟弱ジャーナリズム”
１１　情報化社会におけるジャーナリズムと知識人の連携は可能か
１２　「朝まで生テレビ」（テレビ朝日）に常連出演する“知性の人々”
１３　「知と情報」の公共圏としての論壇ジャーナリズムの存在意義
１４　論議を呼ぶウォルター・リップマンの「大衆論」とジャーナリズム
１５　大学におけるジャーナリズム研究と不十分なジャーナリスト養成教育

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50044001
科目名	スタジオ放送実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Studio Broadcasting		
担当者名	近藤　晴夫	旧科目名称	
講義概要	「放送」は情報伝達手段、娯楽提供手段として、デジタル時代に益々その重要性を高めている。デジタル放送で多チャンネル、双方向、高画質、データ放送などのサービスが期待されるが、そこでは何より重要視されるのが”コンテンツ”の中身である。本実習では受講生で担当スタッフを編成し、メッセージ性のあるラジオ番組とニュースショー形式のテレビ番組の企画・構成、取材・撮影、編集などを行い、最終的に放送実施することで、「スタジオ放送」の技術と知識を習得する。 なお本実習は地域貢献のために、学生と地域とが協働し、まちづくりに役立つ発信を行うことをめざす授業でもある。		
教材（テキスト）	プリントを随時配付する。		
教材（参考文献）	放送機材を活用して直接指導し、プリントも随時配付する。		
教材（その他）	学生作成のビデオや指導ビデオを活用する		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等による。実習及び作品評価点（７０％）		
到達目標	本学マルチスタジオを使って、「ラジオ」と「テレビ」放送の基礎的な知識と技術を習得する。		
準備学習	日常的にラジオ、テレビ番組を制作者の視点で視聴すること。		

受講者への要望

放送（ラジオ、テレビ）と映像制作に関心があり、チーム作業ができること。実習時間外も使って行うこともある。少人数参加型の実習のため希望者多数の場合は選考を行うことがある。編集面でほかの授業「デジタル映像編集実習」を同時に受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

秋学期
①ラジオスタジオの構造と機能について、放送スタッフ編成
②ラジオ副調整室の音響機器操作
③ラジオ番組の企画・構成、選曲
④　　同
⑤ラジオ番組放送・リハーサル
⑥ラジオ番組放送・本番(校内放送ほか）実習ラジオ作品の審査と合評
⑦テレビスタジオの構造と機能について、放送スタッフ編成
⑧テレビスタジオの映像・音声機器操作
⑨「ニュースワイド」番組の企画・構成
⑩　　同
⑪～⑬「ニュースワイド」のニュース映像取材ニュース映像編集作業
⑭テレビスタジオ「ニュースワイド」放送・リハーサル
⑮テレビスタジオ「ニュースワイド」放送・本番　（校内放送ほか)、実習テレビ作品の審査と合評

協働概要
・学生と市民との共同企画会議
・学生・市民による共同取材、制作

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	J50045001
科目名	テレビ局番組制作実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical TV Broadcasting		
担当者名	近藤　晴夫	旧科目名称	
講義概要	本実習は、ＫＢＳ京都（京都放送）テレビが毎週月～金,午後 5 時 45 分～6 時に放送しているニュース情報番組「news フェイス」の学生スタッフとしてアシスタント、テロッパー、カメラマン助手など実際のニュース情報番組の制作などに携わりながら、テレビ番組の制作ノウハウを体験的に学ぶものである。 「news フェイス」は京都で起きた出来事や歳時記を中心に伝えるニュースと暮らしや生活に役立つ情報を届ける番組で、速報はもちろん、わかりやすく、的確に、伝えることをモットーにしている。 主な実習内容は 毎週１曜日午後 4 時～6 時半までの番組のスタッフとして参加。報道局のデスク、番組ディレクターの指示に従う。（お茶汲みやコピー、タクシーの手配など雑用も多く、社会体験を学ぶことにもなる） 準備等を含める時間としてテレビ局での実習時間は毎週１曜日午後 4 時から 6 時半までとなるが,場合によっては時間を超えることもある。（デスク・ディレクターの判断に委ねる） よって本実習は、上記内容に合わせて行うもので、拘束時間は通常の講義時間に合わせることは不可能であることを認識しておくことが必要。		
教材（テキスト）	報道で体験実習で学ぶ		
教材（参考文献）	現場の指示に従い、体験実習を得る。		
教材（その他）	現場責任者から指導等も受ける。		
評価方法	定期レポート及びテレビ局報道責任者の報告などによって評価する。		
到達目標	報道と番組制作の現場を知ることによって、見る側と作る側の視点から、メディアリテラシーを学ぶとともに時間の大切さ、番組作りにおけるチームワークの必要性などを体得する。		
準備学習	日頃から新聞、ニュース番組などメディアを通して、社会の出来事に高い関心を持つこと。		
受講者への要望			
定員は１名（面談で選考する） テレビ放送、報道・制作に強い意欲と関心を持っていること。 期間は４月から７月で、実習日は週１曜日(調整）のみとなる。 テレビ局の実習において迷惑行為はもちろん遅刻・欠席（余程の事情がない限り）をしてはならない。 交通費など諸費用は各自が持つこと。 保険等は大学と交わすこと。			
講義の順序とポイント			
春学期 ①　　実習ガイダンス（ＫＢＳ京都テレビ局見学兼） ②～⑭　　ＫＢＳ京都「news フェイス」ニュース情報番組実習 ⑮　　まとめ（実習成果発表）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	J50047001
科目名	テレビ放送論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of TV-Broadcasting		
担当者名	近藤　晴夫	旧科目名称	
講義概要	テレビ放送のデジタル化は、視聴者に多種多用な番組の選択のチャンスを与えることを期待されているが、現実にはチャンネルの急激な増加に番組ソフトが追いつかず、視聴率競争激化の中で過去の人気映画と過激な報道、バラエティ番組が主流を占めるのではないかと危惧されている。現に、感動的なドキュメンタリーがある一方で、悲惨な戦争映像に胸を痛めている隣で不倫、離婚と大騒ぎする情報系番組、やらせ演出や集団的過熱取材の問題と今やテレビ放送は厳しい批判と選択の目にさらされている。本講義ではテレビ放送の特性と機能から、特に「報道番組」と「娯楽番組」が社会や人々に与えている様々な影響について、ＮＨＫと民間放送の番組から実証的に検証し、報道の娯楽化と娯楽の過激化がもたらす重大な危険性とその対応について学ぶ。m また現役のメディア関係者も招き、業界の動き、取り組みなどを探っていく。 尚、近年その社会的影響力の大きさから注目を浴びているテレビコマーシャル映像についても、毎年 12 月頃に開催される「全日本ＣＭ大賞入賞作品」の鑑賞を通じて学ぶ。		
教材（テキスト）	教材プリントを随時配付する。		
教材（参考文献）	北川泰三著『新版・テレビ映像論』(2000 年版）比叡書房　２５００円 ビデオ教材を使用する		
教材（その他）	適宜プリントを配付する		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等による。定期テスト（７０％）		
到達目標	多チャンネル化するテレビ放送の課題（視聴率の激化、報道の娯楽化、娯楽の過激化）とその対応について理解を深める。		
準備学習	日常的にテレビ放送に関心をもち、問題意識をもって視聴すること。		

受講者への要望

「ＡＣＣ全日本ＣＭ大賞入賞作品発表会」見学実習（12 月頃、於ＫＢＳホール）の入場料（300 円）が必要。ただし受け入れ態勢や参加人数によって判断する。

講義の順序とポイント

秋学期

1.テレビ放送の歴史とデジタル化の課題
2. テレビ放送の定義　　人間の拡張－マクルーハンの世界　媒体特性からみた優位性、映像化される放送の使命
3. テレビ放送の機能　　マスメディアの顕在的機能－報道から娯楽まで－
4. 報道番組の役割①　　情報伝達－真実の報道　その 1－
5. 報道番組の役割②　　情報伝達－真実の報道　その 2－
6. 報道番組の役割③　　情報伝達－真実の報道　その 3－
7. 報道番組の役割④　　環境監視－権力監視－
8. 報道番組の役割⑤　　世論形成－民意の代弁－
9. テレビ放送の潜在的機能①　　印象化－イメージ付け－
10.学外学習　全日本ＣＭフェスティバル入賞作品鑑賞会(但し開催状況による）
11. テレビ放送の潜在的機能②　　慢性化－感覚の麻痺－
12.テレビ放送の潜在的機能③　　娯楽化－衝撃の期待－
13.テレビ放送の潜在的機能④　　画一化－模倣と流行－
14.テレビ放送の潜在的機能⑤　　行動化－感性と理性の二極化－
15.今後の課題（ゲスト講演、ただし状況による）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待						

年度	2015	授業コード	J50050001
科目名	デジタル出版論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Digital Publication		
担当者名	筑瀬　重喜	旧科目名称	
講義概要	出版の世界は激変しつつあります。その大きな要因はデジタル出版や電子出版です。「やがて滅びる」とされた紙の本との関係を探ることで、デジタル出版の将来を探求します。担当者が体験したさまざまな現場も踏まえて講義します。		
教材（テキスト）	湯浅俊彦著『電子出版学入門－出版メディアのデジタル化と紙の本のゆくえ〈改訂 3 版〉』出版メディアパル、2013 年		
教材（参考文献）	レジメ、講義資料を配布する		
教材（その他）			
評価方法	授業でのミニレポートを加え、試験または最終レポートを総合的に評価する。		
到達目標	デジタル環境下の出版コンテンツの生産、流通、利用、保存知識を習得し、将来を見据えてもらう。大学での研究や卒業後の社会活動で役立ててもらう。		
準備学習	教材や参考文献を読むとともに、テーマに取り上げる現実のデジタル出版を、負担のかからない範囲内で実体験しておいてもらいたい。		

受講者への要望

「デジタル出版は将来どうなるか」という本講義のテーマを探る際に決定的な要因となるのが、将来の世界を支える若い世代の感じ方や考え方だ。新聞社で記者、新聞編集、出版編集の体験だけでなくデジタル新聞編集も経験してきた担当者は、受講者の感じ方や考え方を進展させる手助けをしたい。

講義の順序とポイント

1．メディアとは　：記者として体験してきたメディアの現場も参考に論じる。
2．出版の歴史　：太古の時代から現状まで。
3．デジタルコンテンツとその特性　：デジタルに関する基礎情報を。
4．出版業界と電子出版(1)　：２回に分けて電子出版を詳しく述べる
5．出版業界と電子出版(2)：
6．携帯電話と電子書籍　：巨大市場となった携帯電話を使った電子書籍。
7．電子書籍をめぐるプラットフォーム争い：
8．米国の電子書籍ビジネス　：「電子書籍大国」とされる米国を訪問した体験を基に。
9．日本の電子出版の現状(1)　：これまでの講義から日本の電子出版の現状を見る。
10．日本の電子出版の現状(2)：
11．電子出版の技術的側面　：読書端末が決定的に普及しなかった背景にある技術的課題。。
12．電子出版と著作権　：法律的な側面も重大な要因
13．電子出版と図書館・長期保存問題：社会的な貢献度がきわめて高い長期保存。
14．電子書籍と読書　：分かったつもりの「読書」とは、そもそも何なのか。
15．電子出版の未来　：講義の全体を振り返ることで将来を考える

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50050002
科目名	デジタル出版論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Digital Publication		
担当者名	筑瀬　重喜	旧科目名称	
講義概要	出版の世界は激変しつつあります。その大きな要因はデジタル出版や電子出版です。「やがて滅びる」とされた紙の本との関係を探ることで、デジタル出版の将来を探求します。担当者が体験したさまざまな現場も踏まえて講義します。		
教材（テキスト）	湯浅俊彦著『電子出版学入門－出版メディアのデジタル化と紙の本のゆくえ〈改訂 3 版〉』出版メディアパル、2013 年		
教材（参考文献）	レジメ、講義資料を配布する		
教材（その他）			
評価方法	授業でのミニレポートを加え、試験または最終レポートを総合的に評価する。		
到達目標	デジタル環境下の出版コンテンツの生産、流通、利用、保存知識を習得し、将来を見据えてもらう。大学での研究や卒業後の社会活動で役立ててもらう。		
準備学習	教材や参考文献を読むとともに、テーマに取り上げる現実のデジタル出版を、負担のかからない範囲内で実体験しておいてもらいたい。		

受講者への要望

「デジタル出版は将来どうなるか」という本講義のテーマを探る際に決定的な要因となるのが、将来の世界を支える若い世代の感じ方や考え方だ。新聞社で記者、新聞編集、出版編集の体験だけでなくデジタル新聞編集も経験してきた担当者は、受講者の感じ方や考え方を進展させる手助けをしたい。

講義の順序とポイント

1．メディアとは　：記者として体験してきたメディアの現場も参考に論じる。
2．出版の歴史　：太古の時代から現状まで。
3．デジタルコンテンツとその特性　：デジタルに関する基礎情報を。
4．出版業界と電子出版(1)　：２回に分けて電子出版を詳しく述べる
5．出版業界と電子出版(2)：
6．携帯電話と電子書籍　：巨大市場となった携帯電話を使った電子書籍。
7．電子書籍をめぐるプラットフォーム争い：
8．米国の電子書籍ビジネス　：「電子書籍大国」とされる米国を訪問した体験を基に。
9．日本の電子出版の現状(1)　：これまでの講義から日本の電子出版の現状を見る。
10．日本の電子出版の現状(2)：
11．電子出版の技術的側面　：読書端末が決定的に普及しなかった背景にある技術的課題。。
12．電子出版と著作権　：法律的な側面も重大な要因
13．電子出版と図書館・長期保存問題：社会的な貢献度がきわめて高い長期保存。
14．電子書籍と読書　：分かったつもりの「読書」とは、そもそも何なのか。
15．電子出版の未来　：講義の全体を振り返ることで将来を考える

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50051A01
科目名	デジタル映像編集実習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Image Edit Practice I		
担当者名	畠中　隆好	旧科目名称	デジタル編集実習Ⅰ
講義概要	ノンリニア映像編集ソフト（Finalcut Express HD）を使った映像編集の実習です。 映像ディレクター入門用のレッスンプログラム（米国製）を使いながら、 カット編集を中心にした映像編集者に必要な基本スキルを身につけていきます。 編集ソフト（Finalcut Express HD）の基本操作を確実にマスターし、 映像制作（クリエイター）に必要不可欠である「映像構成力」を学び、 編集への理解を深めるといった実践的映像ディレクションを経験する内容です。 受講生には、個別の受講用アップルコンピュータが提供されます。 （imac OS X 10.6.6 Snow Leopard） このＰＣは講義時間以外でも自由に使えますので、 課題制作以外にも、より深く映像編集を探求したい人は、 独自の研究課題を進めることも可能です。是非、積極的に活用してください。 ※注）；実習「Ⅱ」は、「Ⅰ」を履修済み程度の操作スキルがあることを前提とした内容です。まったく編集が初めての場合は、必ず「Ⅰ」を先に受講してください。		
教材（テキスト）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（参考文献）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（その他）	必要な映像素材は、随時提供します。		
評価方法	・課題制作の映像ファイルの提出を以て、評価対象とします(60%)。 ・作品内容の優劣は問いませんが講義済みの技術力をチェックします（20%)。 ・出席状況などの平常点を加算します（20%)。 ※最終課題作品の提出がない場合は一切評価しません。		
到達目標	・ノンリニア映像編集ソフトの基本的な操作能力を身につける。 ・映像クリエイターとしての編集点の見極め方、カット編集のテクニックをマスターする。 ・「映像」「音」「時間」という映像編集における３つのエレメントを認識する。 ・モンタージュ理論など制作意図を持った映像構成を理解する。		
準備学習	TV 番組、WEB 動画、映画作品など、日頃から接する映像メディアへの目線をただ眺めているのではなく、映像制作者がどのような意図でその映像をこの場面で提示しているのか、それは効果的か否か。 そういったことを常に意識することにより「視聴者」から「制作者（クリエイター)」への意識変革が目覚めます。本講義の参考教材は日常生活の中に溢れています。 なお著しく作業進捗に遅延がある受講者は、次の講義までに終了させておくことを課する場合があります。		
受講者への要望			
本講義はパソコン教室ではありません。アップルコンピュータ（Mac／OSＸ）を使用しますが、Windows などでＰＣの基本操作（マウス、キーボード、ファイルの扱いなど）を理解していることが必須です。			
講義の順序とポイント			
（１）使用教室(H21)のシステムオリエンテーション （２）映像制作基礎（編集のための基本知識） （３）アップルコンピュータ（Mac／OSＸ）の基本操作 （４）ＤＶビデオと Quicktime ファイルについて （５）ファイナルカットの基本と編集プロジェクトの作成 （６）タイムライン／キャンバスの操作 （７）ビューアでの操作 （８）上書き編集と挿入編集			

（9）タイムラインでのクリップ操作
(10) プレゼンテーション映像制作①（編集作業／絵コンテ・ナレーション作成）
(11) プレゼンテーション映像制作②（仮ナレーション収録／映像ファイル化）
(12) ３ポイント編集とは
(13) 課題映像制作①（出題）
(14) 課題映像制作②（編集）
(15) 課題映像制作③（編集）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50051B01
科目名	デジタル映像編集実習Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Image Edit Practice Ⅱ		
担当者名	畠中　隆好	旧科目名称	デジタル編集実習Ⅱ
講義概要	ノンリニア映像編集ソフト（Finalcut Express HD）を使った映像編集の実習の応用編です。 デジタル映像編集実習「Ｉ」（春開講）を履修済みの操作スキルがあることを前提とした内容です。 まったく編集が初めての場合は、必ず「Ｉ」を先に受講してください。 映像ディレクター入門用のレッスンプログラム（米国製）を使いながら、デジタルエフェクトを中心に、より高度な映像編集スキルを身につけていきます。 編集ソフト（Finalcut Express HD）の応用操作を確実にマスターし、映像クリエイターに必要不可欠である「映像構成力」を学び、編集への理解を深めるといった実践的映像ディレクションを経験する内容です。 受講生には、個別の受講用アップルコンピュータが提供されます。 （imac OS X 10.6.6 Snow Leopard） このＰＣは講義時間以外でも自由に使えますので、課題制作以外にも、より深く映像編集を探求したい人は、独自の研究課題を進めることも可能です。是非、積極的に活用してください。		
教材（テキスト）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（参考文献）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（その他）	必要な映像素材は、随時提供します。		
評価方法	・課題制作の映像ファイル提出を以て、評価対象とします(60%)。 ・作品内容の優劣は問いませんが講義済みの技術力をチェックします（20%)。 ・出席状況などの平常点を加算します（20%)。 ※課題作品の提出がない場合は一切評価しません。		
到達目標	・ノンリニア映像編集ソフトの総合的な操作能力を身につける。 ・映像構成上でのエフェクトの使い方やポイントをマスターする。 ・複数トラックを使った映像合成や音声ミックスのコツを理解する。 ・カラーバーや安全フレームなどの放送基礎技術を把握する		
準備学習	TV 番組、WEB 動画、映画作品など、日頃から接する映像メディアへの目線をただ眺めているのではなく、映像制作者がどのような意図で、その映像をこの場面で提示しているのか、それは効果的か否か。 そういったことを常に意識することにより「視聴者」から「制作者（クリエイター)」への意識変革が目覚めます。本講義の教材は日常生活の中に溢れています。 なお著しく作業進捗に遅延がある受講者は、次の講義までに終了させておくことを課する場合があります。		
受講者への要望			
講師よりのプレゼンテーションで講義は進みますが、自らオリジナル制作に取り組む映像ワークショップ実施も可能です。積極的に自由研究課題を提言してください。			
講義の順序とポイント			
（1）編集点微調整ツールの使用方法 （2）ビデオ・オーディオトランジションの適用 （3）ビデオトランジションの応用 （4）オーディオトラックでの作業 （5）ビデオフィルターの利用 （6）複数トラックを使った作業（映像合成の基本） （7）マルチオーディオでの調整（ＭＡ作業） （8）モーションエフェクト①（ダイナミックモーション） （9）モーションエフェクト②（ワイヤーフレーム①） （10）モーションエフェクト③（ワイヤーフレーム②）			

（11）タイトルの挿入（カラーバー、テロップの知識）
（12）ＤＶカメラからの取り込み
（13）課題映像制作①（出題）
（14）課題映像制作②（編集）
（15）課題映像制作③（編集）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50056001
科目名	ファッション文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture Fashion Theory		
担当者名	横越谷　勝雄	旧科目名称	
講義概要	消費者のファッション商品の購入動機には、ファッション美的感性による動機付けが最も重要視される。ファッション美的感性は、ファッションデザインマーケティングのトレンド感性分析で明らかにされる。 ファッションビジネスは、ファッションデザインマーケティングを知ることで、より理解が深まる。 ファッションビジネスとは、ファッション商品を通して新しいライフスタイルを提案するビジネスである。 ファッションビジネスの変遷と輪郭。産業構造と、マーチャンダイジングシステム、さらにファッションIMC(インテグレーテッド マーケティング コミュニケーション)によるファッションブランド構築のプロセスを学ぶ。ファッション IMC の体系化を学習する事により、ファッションビジネスがファッション消費者に対し、ファッション美的感性を文化として位置づけ、夢と憧れを提供するビジネスであることを実証する。		
教材（テキスト）	テキストは使用せず、毎時間その週のテーマをプリント配付にて行う。随時ビデオまたは DVD による 2015 年度の最新のファッショントレンドの解説も行う		
教材（参考文献）	使用せず		
教材（その他）	使用せず		
評価方法	授業に対する意欲を出席点として評価 30%　授業内レポート 20%　定期試験または最終レポート提出 50%		
到達目標	ファッションビジネスの変遷と輪郭。産業構造と、マーチャンダイジングシステム、さらにファッション IMC によるファッションブランド構築のプロセス、ファッションブランディングのノウハウを将来のビジネスの現場で実際に役立つ事を切望する。 特に、ファッション業界へ就職、さらには、ビジネスを起業することを望む学生は、ファッションブランディングの成功例を参考に、より深く理解することが必須である。		
準備学習	毎日の生活のなかで、なにが変化しているか。政治、経済、社会、文化など幅広く、見届けるため、毎日、必ず新聞を読むこと。		

受講者への要望

常に現在注目されている、トレンドを意識し、それが時間とともに、どのように変化し、それが消費者の目には、どのように映っているのか、観察眼を鍛える訓練を日常的におこなうこと。

講義の順序とポイント

第 1 回　　ファッション概説　パリ オートクチュールとプレタポルテの成立と概要
第 2 回　　ファッションビジネス基礎知識
第 3 回　　日本におけるファッションビジネスの変遷
第 4 回　　ファッション産業の機能と業務内容
第 5 回　　ファッショントレンド情報(パリ・ミラノ・ニューヨーク)
第 6 回　　ファッションビジネスにおけるマーケティングの重要性と戦略
第 7 回　　マーケティング環境の分析（ミクロ環境とマクロ環境）
第 8 回　　ファッション美的感性分析
第 9 回　　マーケットセグメンテーションとブランドポジショニング
第 10 回　ファッション消費と消費者ニーズ
第 11 回　消費者意識と消費者行動の変化
第 12 回　ファッションマーチャンダイジングシステムのフロー
第 13 回　ファッションブランド事例
第 14 回　ファッションブランド戦略（ファッション IMC ロケーション企画　検証）
第 15 回　ファッションブランド戦略（ファッション IMC コミュニケーション企画　検証）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J50068001
科目名	ポップ・ミュージック論	単位数	2
科目名（英語表記）	Study of Popular Music		
担当者名	鍵本　優	旧科目名称	
講義概要	本講義では、「ポピュラー音楽」という文化をミュージシャンとそれをとりまく社会や歴史やテクノロジーから考察する。現代のポピュラー音楽は、たんに歌手・作曲家・演奏家などの「ミュージシャン」たちの集合で成り立っているとはいえないほど、オーディエンスの社会や文化やエスニシティ、テクノロジーのもつ複雑な歴史、および人間の関係性などによって展開されてきた。 もちろん、すでに J-POP や歌謡曲や日本のロック、そして英米のロックやポップスの有名ミュージシャン、K-POP などは日本でもよく知られている。だが逆に、ラテン世界やヨーロッパ各地の大衆音楽のみならず、アフリカやアラブ・中東の世界や東南アジアの各地からクラブ・カルチャーの電子音楽まで、現代世界には他にも多くのすぐれたミュージシャンや音楽文化が音楽の新しい息吹との混合を続けながら根づいているのだが、一般にこのことはあまり知られていない。 本講義はこうしたポピュラー音楽・大衆音楽の世界的な広がりやその文化・歴史・テクノロジーの問題を「ワールド・ミュージック」という視点をとおして考察する。本講義では、ひろく「ワールド・ミュージック」として捉えうる音楽や映像資料や楽器、および世界地図などを手がかりにしながら、20 世紀以来の現代社会におけるミュージシャンのパフォーマンスや社会的コンテクストを「新しく知っていく」ことをつうじて、多様で新しい世界の大衆音楽文化の雰囲気にふれ、それを理解するための「聴く耳」を自分なりに育成することを眼目としたい。		
教材（テキスト）	配布するレジュメに従って、授業を進める。		
教材（参考文献）	授業の中で、適宜指示する。		
教材（その他）	資料などにかんしては、授業中に適宜配布する。		
評価方法	平常点（80%）出席状況等による。　授業内レポート（20%）。		
到達目標	多様で新しい世界の大衆音楽文化の雰囲気にふれ、それを理解するための「聴く耳」を自分なりに育成すること。		
準備学習	毎回の授業後に、授業でふれた音楽や映像を思い出しながら、手持ちやインターネット上の世界地図によって、その音楽が親しまれている国や地域の場所を確認すること。できれば、気候などの風土や政治体制、飲食文化などを詳しく知ることが望ましい。		

受講者への要望

「音」を集中的に聴き、「音」について考える授業ですので、私語はしないこと。また、授業外の行動（スマートホンをさわるなど）をしないこと。厳しく注意します。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（授業全体の注意・概要・予定）
2. 世界のリズム
3. 音楽世界都市・イスタンブール（トルコ）
4. 多様なアフリカ・アラブ世界の音楽①
5. 多様なアフリカ・アラブ世界の音楽②
6. ジプシー（ロマ）音楽の軌跡
7. 南アメリカ音楽の魅力（アルゼンチン、ブラジル）
8. 黒人音楽としてのブルースの誕生
9. ジャズの変遷
10. カリブ世界・キューバ音楽の魅力
11. パンク・ロックとヘヴィ・メタル－音楽における暴力的表現について
12. ポップ音楽の新しい展開―1980 年代の電子音・ヒップホップ・ラップ
13. クラブ・カルチャーと電子音楽
14. アジア世界のポピュラー音楽（東南アジアを中心に）
15. これまでのまとめおよび他の音楽の紹介

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待					★	

年度	2015	授業コード	J50072001
科目名	マスコミ文章講座	単位数	1
科目名（英語表記）	Journalism Writing		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	文章は人間の感情や思想を言語化したもので、私たちはそれを通してコミュニケーションを図っております。どんなに堅固な思想や美しい感性をもっていても、文章表現が貧困であれば、そのことを伝達することはできません。新聞やテレビ、雑誌などマスコミ世界の文章は一種独特の特徴があります。それは読みやすく、分かりやすく、親しみやすいということに尽きますが、それを如何に実現していくかが、この授業の目的です。そのためには学生が書いた文章を個別にチェックして、本人の前で添削作業するしかありません。どれほど文章論の講義を聴いてもけっして文章はうまくならないもので、その難点をこ授業では個別指導で克服するつもりです。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	朝日新聞「天声人語」など。		
評価方法	文章作法を一から学ぶ授業ですので、文章の上手、下手は評価に関係ありません。どれだけ出席して、どれだけ添削用文章を書いたかが重要になります。評価基準は授業中に提出した文章の添削本数８０～９０％、平常点（授業への参加の度合い）２０～１０％とします。		
到達目標	昨今、雑誌のライター希望者が増えております。もちろん、メディア業界への就職は難しいのですが、できればその世界でもっとも重視される文章力でもって夢をかなえてほしいと思います。その意味で、この授業は学習と就職がもっとも関連していると言えるかもしれてません。		
準備学習	入門編として朝日新聞の天声人語、読売の編集手帳、毎日の余禄など１面下の記事を読むと勉強になると思います。もちろん、授業でもそれらの記事を教材にして文章作法を学びます。また、文章入門などの参考書も興味があれば読んでおいてください。		
受講者への要望			
とにかく、何でも書いてやろうという意欲が大事です。文章が上手くないからこそ、この授業を受けるわけで、恥ずかしがらずに挑戦してください。			
講義の順序とポイント			
１　　マスコミ文章の基本について ２　　新聞における文章学 ３　　使ってはいけない言葉・良い言葉と表現方法 ４～１３　各自が書いてきた文章の個別添削 １４　それぞれの文章についての講評 １５　総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★				★

年度	2015	授業コード	J50086001
科目名	マルチメディア論	単位数	4
科目名（英語表記）	The Study of Multi-Media Society		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	「メディア（media)」ということばは、一般に「人間がコミュニケーションするための手段」「人間の意思表現ならびに情報伝達を助け、助長する媒体」として用いられている。その歴史をさかのぼれば「声」や「文字」、いわゆる“技術”を介することによって「電信」「電話」「蓄音機」等を経て、今日の「デジタル」な時代に至る。デジタル技術は、原理的にあらゆるデータを「0/1」というビットに変換し、さまざまなメディアを統一的に扱うことを可能にした。そして、そのようなデジタル技術は社会の至る場面に登場しはじめ、私たちの社会生活をより豊かに、より便利にしてくれる。しかし、同時に、これまで想定されなかった新たな問題も生じてきている。 本講義では、まず、「文字」「映像」「電話」そして「コンピュータ」といった基本的なメディアの特徴をその歴史に焦点をあて概観し、新たなメディアの登場によって人間および社会のコミュニケーションがどのように変容していったかを、その可能性を含めながら考えていく。そして、表現の世界や教育の現場等でのメディアの活用例をみるとともに、さまざまなメディアが錯綜することが予測される今後のメディア社会においての新たな問題等を具体的な事例をもとに検討し、「メディアでなにができるのか？（＝メディア・リテラシー)」を考えていく。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）	水越伸『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005 関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	最終レポート（100％)。		
到達目標	「メディアでなにができるのか？（＝メディア・リテラシー)」を考える。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講者への要望			
主体的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
01　オリエンテーション 02　メディアとは《その 1》 03　文字メディア《その 1》 04　文字メディア《その 2》 05　映像メディア《その 1》 06　映像メディア《その 2》 07　音メディア《その 1》 08　音メディア《その 2》 09　コンピュータというメディア《その 1》 10　コンピュータというメディア《その 2》 11　コンピュータというメディア《その 3》 12　ラジオとテレビ《その 1》 13　ラジオとテレビ《その 2》 14　ゲームというメディア 15　電話というメディア 16　メディアとは《その 2》 17　intermission　メディア関連作品の上映他 18　社会とコンピュータ《その 1》			

19　メディアと表現《その 1》
20　メディアと表現《その 2》
21　社会とコンピュータ《その 2》
22　社会とコンピュータ《その 3》
23　社会とメディア《その 1》
24　メディアと表現《その 3》
25　メディアと表現《その 4》
26　メディアと表現《その 5》
27　社会とメディア《その 2》
28　メディアと教育《その 1》
29　メディアと教育《その 2》
30　メディアとは《その 3》

※毎回配布するレジュメ等はあくまでも講義の補助メディアであり、定期試験前にそれらを付け焼き刃的に頭につめこんだだけでは、容易に単位を取得することはできない授業（＝メディア）を展開する予定です。ただし、単に出席しさえすればなんとかなるというものでもありませんので、十分ご注意下さい。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50093001
科目名	マンガ・イングリッシュ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Manga English		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	世界的に有名になった日本の漫画を英語で読む・書く・訳す・話す総合的英語講座。 Manga is becoming more and famous around the world, and many titles have been translated into English. We will start in from the manga that many Japanese people know, reading them in English and learning in the process. Useful prases, vocabulary, and slang will be covered.		
教材（テキスト）	教材を配付します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	25%-発表・宿題　　50%プロジェクト　　25%試験・クイズ		
到達目標	1.Read several English Manga, and understand the story 2.Pick up useful and interesting vocabulary and phrases		
準備学習	Come to class on time and be prepared to learn! Do the prescribed assignments, and have fun while learning from manga!		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary. (Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class. ※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント

1.Introduction/ Dragonball (1)
2.Dragonball (2)
3. Death Note (1)
4. Death Note (2)
5.One Piece (1)
6. One Piece (2)
7.Ranma 1/2 (1)
8.Ranma 1/2 (2)
9.Blackjack (1)
10.Blackjack (2)
11.Vagabond (1)
12.Vagabond (2)
13.Buddha (1)
14. Buddha (2)
15. Review and Comprehension Check

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★		

年度	2015	授業コード	J50095001
科目名	マンガ文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Manga Culture		
担当者名	二階堂　茂	旧科目名称	
講義概要	国際的に「MANGA(+ANIME)」として認知されている日本の「マンガ（+アニメ)」を、「現代美術」の歴史的側面から、さらに 20 世紀半ばに発生した「サブカルチャー」とのかかわり、などからも考察し「文化表現」として語ります。「マンガ（+アニメ)」の意味を「メディアを介した記号によるコミュニケーション」として考えていく内容です。		
教材（テキスト）	指定なし		
教材（参考文献）	夏目房之介「マンガの力」晶文社 布施英利「マンガを解剖する」ちくま新書 Hector Garcia「A GEEK IN JAPAN」Tuttle Publishing		
教材（その他）	適宜プリント配付		
評価方法	平常点（50%）：出席状況等による。レポート提出：50% レポートのテーマは講義内で発表する。		
到達目標	マンガ・アニメを中心にした、現代日本文化への深い理解。		
準備学習	マンガ・アニメを中心にした、現代日本文化（ネットも含む）へ強い興味をもち、日々積極的に接すること。		

受講者への要望

現代の日本文化に関して強い興味をもっていること。講義中の私語、飲食は厳禁。

講義の順序とポイント

01)「はじめに」
　〜講義オリエンテーション〜
02)「日本の現代文化」
　〜マンガ影響下にある現代日本文化〜
03)「記号化されたマンガ表現」
　〜巨大な眼をもつ少女たち〜
04)「マンガのさまざまな記号表現（1)」
　〜絵とことば〜
05)「マンガのさまざまな記号表現（2)」
　〜二次（平面）という認識〜
06)「マンガからアニメ、アニメからマンガ」
　〜二次元空間の論理〜
07)「オリジナルと複製」
　〜ポップアート（印刷物）としてのマンガ〜
08)「ポップアートとメディア」
　〜大量生産、大量消費のシステム〜
09)「海外のマンガと日本」
　〜COMICS(米)、B.D.(仏)、MANGA(日)〜
10)「日本のアニメ／アニメーション？」
　〜リアリズムからの逸脱〜
11)「サブカルチャー／ポップカルチャー」
　〜偉大なるアマチュア（素人）文化〜
12)「巨大化したマンガ文化」
　〜マンガ文化と経済〜
13)「オタク文化」
　〜熱狂的趣味人、ホビーの概念〜
14)「マンガ産業」
　〜コンテンツビジネスとしてのマンガ〜
15)「マンガ文化」
　〜現代日本文化としてのマンガ文化〜

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J50095002
科目名	マンガ文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Manga Culture		
担当者名	二階堂　茂	旧科目名称	
講義概要	国際的に「MANGA(+ANIME)」として認知されている日本の「マンガ（+アニメ)」を、「現代美術」の歴史的側面から、さらに 20 世紀半ばに発生した「サブカルチャー」とのかかわり、などからも考察し「文化表現」として語ります。「マンガ（+アニメ)」の意味を「メディアを介した記号によるコミュニケーション」として考えていく内容です。		
教材（テキスト）	指定なし		
教材（参考文献）	夏目房之介「マンガの力」晶文社 布施英利「マンガを解剖する」ちくま新書 Hector Garcia「A GEEK IN JAPAN」Tuttle Publishing		
教材（その他）	適宜プリント配付		
評価方法	平常点（50%）：出席状況等による。レポート提出：50% レポートのテーマは講義内で発表する。		
到達目標	マンガ・アニメを中心にした、現代日本文化への深い理解。		
準備学習	マンガ・アニメを中心にした、現代日本文化（ネットも含む）へ強い興味をもち、日々積極的に接すること。		

受講者への要望

現代の日本文化に関して強い興味をもっていること。講義中の私語、飲食は厳禁。

講義の順序とポイント

01)「はじめに」
　～講義オリエンテーション～
02)「日本の現代文化」
　～マンガ影響下にある現代日本文化～
03)「記号化されたマンガ表現」
　～巨大な眼をもつ少女たち～
04)「マンガのさまざまな記号表現（1)」
　～絵とことば～
05)「マンガのさまざまな記号表現（2)」
　～二次（平面）という認識～
06)「マンガからアニメ、アニメからマンガ」
　～二次元空間の論理～
07)「オリジナルと複製」
　～ポップアート（印刷物）としてのマンガ～
08)「ポップアートとメディア」
　～大量生産、大量消費のシステム～
09)「海外のマンガと日本」
　～COMICS(米)、B.D.(仏)、MANGA(日)～
10)「日本のアニメ／アニメーション？」
　～リアリズムからの逸脱～
11)「サブカルチャー／ポップカルチャー」
　～偉大なるアマチュア（素人）文化～
12)「巨大化したマンガ文化」
　～マンガ文化と経済～
13)「オタク文化」
　～熱狂的趣味人、ホビーの概念～
14)「マンガ産業」
　～コンテンツビジネスとしてのマンガ～
15)「マンガ文化」
　～現代日本文化としてのマンガ文化～

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J50096001
科目名	メディア・リテラシー	単位数	2
科目名（英語表記）	Media Literacy		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	時間や空間の制約を越えて、より多くの人たちと、コミュニケーションをするために、私たちは、声や身振り、絵や文字からはじまり、いわゆる技術を介することによって、電信、電話、録音、印刷、放送等のさまざまなメディアを活用してきた。そして、デジタルに代表される新たなメディアの登場によって人間および社会のコミュニケーションは変化を続けている。本講義は、さまざまなメディアが錯綜することが予測される今後のメディア社会について、映像資料を中心に検討し、「メディア・リテラシー（＝メディアでなにができるのか？）」を考察していく。 今年度は、2003 年に放送されたテレビドラマ『ビギナー』を通して、メディアと社会を考える。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	毎回の小レポート及び最終レポートで総合的に評価。		
到達目標	映像資料を通じて、メディア・リテラシーを考察する。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回の映像や配布するレジュメ等に記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む。

講義の順序とポイント

01　オリエンテーション：
02　メディア・リテラシーとは（1）
03　『ビギナー』第 1 話
04　『ビギナー』第 2 話
05　『ビギナー』第 3 話
06　『ビギナー』第 4 話
07　『ビギナー』第 5 話
08　『ビギナー』第 6 話
09　『ビギナー』第 7 話
10　『ビギナー』第 8 話
11　『ビギナー』第 9 話
12　『ビギナー』第１０話
13　『ビギナー』第１１話
14　メディア・リテラシーとは（2）
15　メディア・リテラシーとは（3）

※『ビギナー』フジテレビ系列：全 11 話（2003 年 10 月 6 日～12 月 15 日）／脚本：水橋文美江
　番組サイト（フジテレビ）　http://www.fujitv.co.jp/b_hp/beginner/

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50096002
科目名	メディア・リテラシー	単位数	2
科目名（英語表記）	Media Literacy		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	時間や空間の制約を越えて、より多くの人たちと、コミュニケーションをするために、私たちは、声や身振り、絵や文字からはじまり、いわゆる技術を介することによって、電信、電話、録音、印刷、放送等のさまざまなメディアを活用してきた。そして、デジタルに代表される新たなメディアの登場によって人間および社会のコミュニケーションは変化を続けている。本講義は、さまざまなメディアが錯綜することが予測される今後のメディア社会について、映像資料を中心に検討し、「メディア・リテラシー（＝メディアでなにができるのか？）」を考察していく。 今年度は、2003 年に放送されたテレビドラマ『ビギナー』を通して、メディアと社会を考える。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	毎回の小レポート及び最終レポートで総合的に評価。		
到達目標	映像資料を通じて、メディア・リテラシーを考察する。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回の映像や配布するレジュメ等に記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む。

講義の順序とポイント

01　オリエンテーション：
02　メディア・リテラシーとは（1）
03　『ビギナー』第 1 話
04　『ビギナー』第 2 話
05　『ビギナー』第 3 話
06　『ビギナー』第 4 話
07　『ビギナー』第 5 話
08　『ビギナー』第 6 話
09　『ビギナー』第 7 話
10　『ビギナー』第 8 話
11　『ビギナー』第 9 話
12　『ビギナー』第１０話
13　『ビギナー』第１１話
14　メディア・リテラシーとは（2）
15　メディア・リテラシーとは（3）

※『ビギナー』フジテレビ系列：全 11 話（2003 年 10 月 6 日～12 月 15 日）／脚本：水橋文美江
　番組サイト（フジテレビ）　http://www.fujitv.co.jp/b_hp/beginner/

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50100A01
科目名	メディア学入門 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Media Studies I		
担当者名	長澤　彰彦	旧科目名称	
講義概要	メディアとは何か、メディアによって私たちはどのような影響を受けているか、メディアをどう読み解くかなどを、日本のメディア史を紐解きながら説明していく。 そのための手段として、本講義では、自らのことを小説家兼ジャーナリストと呼んだ芥川龍之介の作品を読み事を中心に、ジャーナリズムという言葉が社会的に知られていない時代に、なぜ芥川は自分のことをジャーナリストと呼んだかを考えることにより、ジャーナリズムとマス・コミュニケーション、そしてマス・メディアについて学んでいく。		
教材（テキスト）	各講義ごとにプリントで資料を配布する。		
教材（参考文献）	希望者には長澤彰彦著『ジャーナリズムの基礎知識』を配布する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小リポート等による平常点（29%）　中間リポート（30%）　到達度テスト（41%）		
到達目標	学士を取得するに相応しい論理的な「読み」「書き」「話す」のコミュニケーション能力を身に着ける。		
準備学習	出来るだけ毎日、新聞を読む、ニュースを見ることで、現在世の中で何が起こっているか、最低限のことは知るよう心掛ける事。		

受講者への要望

大学は教員が教えたことを丸暗記すれば良いという高校までの教育とは異なります。受講者が教員の研究に対し、どのように考え、その考えをどのように論理的に発表することが出来るかが問われます。私は研究者ですので、講義は、私が研究の結果考えついたことを中心に話します。何を言っているか難しすぎて分からないというのではなく、なにが分からないかを私に伝える努力をしてみてください。それだけでも、コミュニケーション能力は格段に進歩します。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス、メディアとは何か概略の説明
2.文化の違いと言葉
3.宗教に関する基礎知識
4.哲学についての基礎知識
5.芥川龍之介『桃太郎』とジャーナリズム
6.日本で新聞が発行され始めた時代
7.尾崎紅葉『金色夜叉』の欧米的な「愛」とジャーナリズム
8.幸田露伴『五重塔』に見られる近代日本の予見能力
9.芥川龍之介『西郷隆盛』に見られる歴史に対する懐疑性
10.日清戦争時の小説家の取材活動
11.ジャーナリズムの語源から探るジャーナリズム
12.森鴎外『高瀬舟』に見られる「知足」とジャーナリズム
13.徳富蘇峰『吉田松陰』に見られる扇動性
14.芥川龍之介のジャーナリズムとは
15.総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50100A02
科目名	メディア学入門 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Media Studies I		
担当者名	長澤　彰彦	旧科目名称	
講義概要	メディアとは何か、メディアによって私たちはどのような影響を受けているか、メディアをどう読み解くかなどを、日本のメディア史を紐解きながら説明していく。 そのための手段として、本講義では、自らのことを小説家兼ジャーナリストと呼んだ芥川龍之介の作品を読み事を中心に、ジャーナリズムという言葉が社会的に知られていない時代に、なぜ芥川は自分のことをジャーナリストと呼んだかを考えることにより、ジャーナリズムとマス・コミュニケーション、そしてマス・メディアについて学んでいく。		
教材（テキスト）	各講義ごとにプリントで資料を配布する。		
教材（参考文献）	希望者には長澤彰彦著『ジャーナリズムの基礎知識』を配布する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小リポート等による平常点（29%）　中間リポート（30%）　到達度テスト（41%）		
到達目標	学士を取得するに相応しい論理的な「読み」「書き」「話す」のコミュニケーション能力を身に着ける。		
準備学習	出来るだけ毎日、新聞を読む、ニュースを見ることで、現在世の中で何が起こっているか、最低限のことは知るよう心掛ける事。		

受講者への要望

大学は教員が教えたことを丸暗記すれば良いという高校までの教育とは異なります。受講者が教員の研究に対し、どのように考え、その考えをどのように論理的に発表することが出来るかが問われます。私は研究者ですので、講義は、私が研究の結果考えついたことを中心に話します。何を言っているか難しすぎて分からないというのではなく、なにが分からないかを私に伝える努力をしてみてください。それだけでも、コミュニケーション能力は格段に進歩します。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス、メディアとは何か概略の説明
2.文化の違いと言葉
3.宗教に関する基礎知識
4.哲学についての基礎知識
5.芥川龍之介『桃太郎』とジャーナリズム
6.日本で新聞が発行され始めた時代
7.尾崎紅葉『金色夜叉』の欧米的な「愛」とジャーナリズム
8.幸田露伴『五重塔』に見られる近代日本の予見能力
9.芥川龍之介『西郷隆盛』に見られる歴史に対する懐疑性
10.日清戦争時の小説家の取材活動
11.ジャーナリズムの語源から探るジャーナリズム
12.森鴎外『高瀬舟』に見られる「知足」とジャーナリズム
13.徳富蘇峰『吉田松陰』に見られる扇動性
14.芥川龍之介のジャーナリズムとは
15.総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50100B01
科目名	メディア学入門II	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Media Studies II		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	本講義は、メディアと社会の関わりを考察するメディア学の入門的講義である。 私たちの生活はさまざまなメディアによって浸透されている。本講義では日常生活において「あたりまえ」のものとして受け入れられている多様なメディアとそれに関係する社会現象にあらためて目をむけることで、普段わたしたちが意識しないようなメディアと社会の関わりについての理解を深めることをめざす。 前半の講義では、活字の誕生から現代のインターネットに至るまでのメディアの歴史と、そこにおける人間の知覚・意識の変容や、日常生活におけるわれわれとメディアとの関わりについて学ぶ。後半の講義では、テレビ CM、アニメ、ドキュメンタリー映画といった具体的な映像資料を見ながら分析を行う。 ＊ 本講義は、春学期開講の「メディア学入門 I」に続いて履修することが望ましい。 ＊ 本講義はメディア社会学科１回生の時間割指定科目である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に適宜レジュメ・プリントを配布する。		
評価方法	平常点（30%）：出席状況等によって評価 期末試験（70%）		
到達目標	現代社会における多様なメディアのあり方を分析するための基礎的な知識・感性を養うこと。		
準備学習	現代社会におけるメディアの重要性について日常生活の中で意識的に考えてみることによって、普段とは異なる視点からメディアを見ることに慣れておいてください。		
受講者への要望			
私語は厳禁。あまりにひどい場合は退室を命じます。また、具体的なメディアの分析などもあるので、主体的かつ能動的な姿勢で授業に臨んでください。			
講義の順序とポイント			
01：(ガイダンス）メディアをどう見るか？（1）：マクルーハンのメディア理論 02：文字の誕生・活字の誕生 03：電話からケータイへ 04：インターネットと社会（1） 05：インターネットと社会（2） 06：映像と近代（1） 07：映像と近代（2） 08：メディアをどう見るか（2）メディア・リテラシーとメディアの分析 09：テレビ CM の分析（1） 10：テレビ CM の分析（2） 11：テレビアニメの分析（1） 12：テレビアニメの分析（2） 13：ドキュメンタリー映像の分析（1） 14：ドキュメンタリー映像の分析（2） 15：メディアを読み解くということ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50100B02
科目名	メディア学入門II	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Media Studies II		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	本講義は、メディアと社会の関わりを考察するメディア学の入門的講義である。 私たちの生活はさまざまなメディアによって浸透されている。本講義では日常生活において「あたりまえ」のものとして受け入れられている多様なメディアとそれに関係する社会現象にあらためて目をむけることで、普段わたしたちが意識しないようなメディアと社会の関わりについての理解を深めることをめざす。 前半の講義では、活字の誕生から現代のインターネットに至るまでのメディアの歴史と、そこにおける人間の知覚・意識の変容や、日常生活におけるわれわれとメディアとの関わりについて学ぶ。後半の講義では、テレビ CM、アニメ、ドキュメンタリー映画といった具体的な映像資料を見ながら分析を行う。 ＊ 本講義は、春学期開講の「メディア学入門 I」に続いて履修することが望ましい。 ＊ 本講義はメディア社会学科１回生の時間割指定科目である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に適宜レジュメ・プリントを配布する。		
評価方法	平常点（30%）：出席状況等によって評価 期末試験（70%）		
到達目標	現代社会における多様なメディアのあり方を分析するための基礎的な知識・感性を養うこと。		
準備学習	現代社会におけるメディアの重要性について日常生活の中で意識的に考えてみることによって、普段とは異なる視点からメディアを見ることに慣れておいてください。		
受講者への要望			
私語は厳禁。あまりにひどい場合は退室を命じます。また、具体的なメディアの分析などもあるので、主体的かつ能動的な姿勢で授業に臨んでください。			
講義の順序とポイント			
01：（ガイダンス）メディアをどう見るか？（1）：マクルーハンのメディア理論 02：文字の誕生・活字の誕生 03：電話からケータイへ 04：インターネットと社会（1） 05：インターネットと社会（2） 06：映像と近代（1） 07：映像と近代（2） 08：メディアをどう見るか（2）メディア・リテラシーとメディアの分析 09：テレビ CM の分析（1） 10：テレビ CM の分析（2） 11：テレビアニメの分析（1） 12：テレビアニメの分析（2） 13：ドキュメンタリー映像の分析（1） 14：ドキュメンタリー映像の分析（2） 15：メディアを読み解くということ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50112001
科目名	映像制作実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Media-Product Making		
担当者名	近藤　晴夫	旧科目名称	メディア上級実習
講義概要	デジタル時代を迎えたテレビ放送では、高画質、データサービス、ネット配信などの技術革新が進んでいる一方で、コンテンツの質の向上も重要なテーマとなっている。「感動を伝える映像」とはどのようなものか。ニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、スポーツ中継などあらゆるジャンルの番組の課題である。本実習では、映像作品制作を通じて企画・撮影・編集・ナレーション・効果音・音楽など様々な表現手法を学ぶ。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）	放送機材を活用して直接指導し、プリントも随時配付する。		
教材（その他）	学生作成のビデオや指導ビデオを活用する		
評価方法	平常点(３０％）出席状況等による。実習及び作品評価点（７０％）		
到達目標	「感動を伝える映像作品」とはどのようなものか。撮影、編集などの映像表現手法を実体験で学ぶ。		
準備学習	日常的に優れた映像作品を制作者の視点で見ること。		

受講者への要望

放送、映像作品の制作に関心があり、チームプレーができること。編集面でほかの授業「デジタル映像編集実習」を同時に受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

春学期
1. 映像制作ガイダンス①　企画－何が魅力の企画か－
2. 同　②　撮影－何をどのように撮影するか－ 編集－編集で表現が変わる－
3. 絵コンテを作ろう－　教習編－
4. 同　－　実習編－
5. 同
6. 同　作品選出
7. 撮影取材
8. 同
9. 同
10. 同
11 撮影映像を編集
12 同
13.ミックスダウン－ナレーション、ＢＧＭ音楽、テロップ－
14 同
15.実習番組の審査と合評

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	J50119001
科目名	メディア表現実習	単位数	2
科目名（英語表記）	The Practicum of Media Expression		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションの手段・道具としての「メディア」を、だれもが自由にさまざまなスタイルで活用するための基礎を学ぶ実習授業という形式の“メディア（＝コミュニケーションの場）”。 アナログからデジタルまでさまざまなメディアを活用し、“手を使って、からだを使って、そして、アタマを使って”、いろいろなものを制作。 ・文字／画像を“平面”に並べる、印刷する、製本をする →名刺をつくる／T シャツをつくる／写真集をつくる ・静止画／動画を“時間軸”で並べる、音楽を加える、CD/DVD に保存する →動くフォトアルバムをつくる／ムービーをつくる ／ライブビデオをつくる		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	必要に応じて、プリント・映像教材他。		
評価方法	課題提出（100%）。		
到達目標	コミュニケーションの手段・道具としての「メディア」を活用する。		
準備学習	各回の実習はすべて連関している。次回以降の予習として、授業後に各回の内容を自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む（面倒な課題かなり多し）。

※機材等の関係で履修者が限られています（定員 10 名） 。

講義の順序とポイント

01　オリエンテーション
02　名刺をつくる（1）
03　名刺をつくる（2）
04　T シャツをつくる（1）
05　T シャツをつくる（2）
06　T シャツをつくる（3）
07　T シャツをつくる（4）
08　動くフォトアルバムをつくる（1）
09　動くフォトアルバムをつくる（2）
10　動くフォトアルバムをつくる（3）
11　動くフォトアルバムをつくる（4）
12　写真集をつくる（1）
13　写真集をつくる（2）
14　写真集をつくる（3）
15　写真集をつくる（4）
16　ムービーつくる（1）
17　ムービーつくる（2）
18　ムービーつくる（3）
19　ムービーつくる（4）
20　ライブビデオをつくる（1）

21　ライブビデオをつくる（2）
22　ライブビデオをつくる（3）
23　個人作品制作（1）
24　個人作品制作（2）
25　個人作品制作（3）
26　個人作品制作（4）
27　個人作品制作（5）
28　個人作品制作（6）
29　DVD 制作（1）
30　DVD 制作（2）

※「集中して何かをつくる／考える（＝試行錯誤する)」という作業が苦手な人にとっては、苦痛な時間になるかもしれません

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50124001
科目名	ヨーロッパ文化	単位数	2
科目名（英語表記）	European Culture		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	ヨーロッパには、多くの国々があり、それぞれの文化を持っています。それら多くの国々を一緒に発見しましょう。毎回、違う国について学びます。少しの歴史と色々な文化や社会面、興味深く面白い特徴、また、役立つ言葉や街の探索をします。そして、現代の日本文化や社会との共通点・相違点を話します。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント配布やビデオ		
評価方法	授業出席・態度：２０％ 小テスト：４０％ 口頭プレゼンテーション１回（各学生は５～１０分程の短いスピーチを準備し、ヨーロッパの国の１つをテーマを絞って講義中に紹介する）：４０％		
到達目標	基礎的な知識を習得し多くのヨーロッパの文化を理解する。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
講義出席に加え、各学生は、自分の意見も含めた５～１０分程の短いプレゼンテーションを学期中に１回準備し、ヨーロッパの国の１つをテーマを絞って、グループまたは個人で紹介する。			
講義の順序とポイント			
01　講義についての説明 I 02　フランス 03　イタリア 04　スペイン 05　ギリシャ 06　ドイツ 07　スカンジナビア（デンマーク、スウェーデン、フィンランド） 08　ポルトガル 09　イギリス 10　ポーランド 11　スイス 12　ベルギー 13　オランダ 14　小さな国々：ヴァチカン、モナコ、ルクセンブルグ 15　プレゼンテーション（スピーチのやり直し） 講義計画及び内容は変更する可能性があります。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50124002
科目名	ヨーロッパ文化	単位数	2
科目名（英語表記）	European Culture		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	ヨーロッパには、多くの国々があり、それぞれの文化を持っています。それら多くの国々を一緒に発見しましょう。毎回、違う国について学びます。少しの歴史と色々な文化や社会面、興味深く面白い特徴、また、役立つ言葉や街の探索をします。そして、現代の日本文化や社会との共通点・相違点を話します。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント配布やビデオ		
評価方法	授業出席・態度：２０％ 小テスト：４０％ 口頭プレゼンテーション１回（各学生は５～１０分程の短いスピーチを準備し、ヨーロッパの国の１つをテーマを絞って講義中に紹介する）：４０％		
到達目標	基礎的な知識を習得し多くのヨーロッパの文化を理解する。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
講義出席に加え、各学生は、自分の意見も含めた５～１０分程の短いプレゼンテーションを学期中に１回準備し、ヨーロッパの国の１つをテーマを絞って、グループまたは個人で紹介する。			
講義の順序とポイント			
01　講義についての説明 I 02　フランス 03　イタリア 04　スペイン 05　ギリシャ 06　ドイツ 07　スカンジナビア（デンマーク、スウェーデン、フィンランド） 08　ポルトガル 09　イギリス 10　ポーランド 11　スイス 12　ベルギー 13　オランダ 14　小さな国々：ヴァチカン、モナコ、ルクセンブルグ 15　プレゼンテーション（スピーチのやり直し） 講義計画及び内容は変更する可能性があります。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50131002
科目名	情報サービス実習Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	作野　誠	旧科目名称	
講義概要	情報サービスの設計から、評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サービスの演習・実習を通して、実践的な能力を養成する。		
教材（テキスト）	原田智子編『情報サービス演習』樹村房、2012 今まど子編『図書館学基礎資料　第 12 版』樹村房、2015		
教材（参考文献）	大串夏身・齊藤誠一編『情報サービス論』理想社、2010 中西裕・金沢みどり・伊藤民雄『情報サービス論及び演習』学文社、2012 山本順一編『レファレンスサービス演習』理想社、1999 長澤雅男、石黒祐子『課題解決のためのレファレンスサービス』日本図書館協会、2007 長澤雅男、石黒祐子『レファレンスブック選び方使い方』日本図書館協会、2013 市古みどり編著『資料検索入門』慶應義塾出版会、2014 健康情報サービス研修マーキンググループ『やってみよう図書館での医療・健康情報サービス』日本医学図書館協会、2012 諏訪部直子・平紀子『解かりやすい医中誌Ｗｅｂ検索ガイド』日本医学図書館協会、2013		
教材（その他）	京都学園学図書館のレファレンスコーナー等の資料を使って実習を行います。		
評価方法	予習・復習と授業への積極的な参加を条件に、授業への参加状況 50 点、レポート・課題 50 点を目安にし、総合的に評価します。		
到達目標	司書資格を取得するために、大学において履修する「図書館に関する科目」の規定を参考に、図書館における情報サービスの演習・実習をとおして、以下の 3 項目を達成することをこの授業の目標とする。 1.情報サービスの設計から、評価に至る各種業務の実践的な能力を養成する。 2.利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービスの実践的な能力を養成する。 3.積極的な発信型情報サービスの実践的な能力を養成する。		
準備学習	授業は、テキストに従って講義・演習形式で行ない、適宜、実施集をします。テキストは、必ず全員求めてください。予習・復習に役立つように、『講義ノート』を配付します。ディスカッション等、授業参加の機会を創り、コミュニケーションを密にする工夫をします。授業中には、積極的な発言を求めます。参考文献は適宜、図書館で閲覧する等して、予習・復習に必要なもの、興味のあるものは購入してください。授業で学修したことを復習し、次回の授業範囲を予習しておいてください。その際、身近な図書館で、学修したことを実際に確認しておくようにしてもらいたい。		

受講者への要望

なるべく授業時間内に質問してください。
なにごとにも、積極的にはっきりと意思表示をしてください。

講義の順序とポイント

１，ガイダンス・授業の進め方とこの科目の省令上の位置づけ
－生涯学び続け、主体的に考えることが出来る社会と公共図書館を考える－
２、情報サービスの設計と評価
３，情報サービス演習の準備
４，情報資源の探し方
５，Ｗｅｂページ、Ｗｅｂサイトの探し方
６，図書情報の探し方
７，雑誌および雑誌記事の探し方
８，新聞記事の探し方
９，言葉・事柄・統計の探し方
１０，歴史・日時の探し方
１１，地理・地名・地図の探し方
１２，人物・企業・団体の探し方
１３，法律・判例・特許の探し方
１４，レファレンスコレクションの整備
１５，まとめ　情報発信型サービスの構築と維持管理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J5013100A
科目名	情報サービス実習 II	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	レファレンス資料実習
講義概要	この実習では主に印刷媒体である冊子体の資料について解説し、検索・調査できる技術を身につける。実際の図書館現場でのレファレンスワークにおいて要求されるであろうあらゆる分野の質問を想定しながら、各種の演習課題に回答を与え解決していく。毎回授業ではレファレンス資料を「課題」により実際に使いこなしてみる。個々の課題だけでなく論文や評論の一部を読みながら「文脈のなかで検索・調査する」態度を養う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（50%）レポート（50%）		
到達目標	利用者の質問に対する情報検索サービスの技術を身につける。 I を主に情報検索サービスとし、 II を主にレファレンスサービスの演習と位置付ける。情報サービスの設計から評価の実務、積極的な発信型情報サービスについても触れていく。		
準備学習	図書館にある辞書、参考図書の類を引くことに習熟するためには、予復習の時間をとらなければならない。		

受講者への要望

さまざまな事象に興味を抱き、調べてみようという意欲を持ちたい。

講義の順序とポイント

1、レファレンスコレクションの整備、資料評価表
2、レファレンスインタビューの技法と実際
3、レファレンス資料の概要とその種類
4、辞書・事典の種類と評価
5、便覧・年鑑の種類と評価
6、書誌・目録の種類と評価
7、地名・人名情報の種類と評価
8、歴史関係文献の種類と評価
9、統計関係資料の種類と評価
10、レファレンス質問と回答作成
11、二次資料作成の必要性と効用
12、二次資料作成の実際
13、レファレンス資料評価表の作成
14、「書誌の書誌」と当館所蔵資料
15、文脈の中で検索・調査すること

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	J50134001
科目名	おいしいフランス語 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Delicious French Language and Culture		
担当者名	MESNIL Evelyne	旧科目名称	
講義概要	日常生活において基本的に大切なのは、コミュニケーションとしての言葉の使い方と食事です。この講義の目的は、フランス語のやさしい会話をしながら、家庭料理、宮廷料理のレシピを紹介することです。これは、他では聞けない京都学園限定の講義です。		
教材（テキスト）	Tarte Tatin タルト .タタン Yuji Fujita, Maiko Tokai 藤田裕二、東海麻衣子 Surugadai-shuppansha 駿河台出版社 ISBN978-4-411-01120-6 C1085 2,300 円（税別）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント		
評価方法	平常点（50%）出席状況等による。授業内小テスト（数回）（50%）		
到達目標	異文化の理解。そのために必要なフランス語の知識と学び方およびフランス文化を身につけ、現代社会に必要なフランス語力とヨーロッパ文化の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
毎回出席することが必要である。			
講義の順序とポイント			
1. 講義の説明 2. あいさつ 3. フランスの「いただきます」と「ごちそうさま」 4. 好き嫌いが言えるように 5. 朝のお食事(1) 6. 朝のお食事(2) 7. お昼のお食事(1) 8. お昼のお食事(2) 9. フランスのお弁当 10. 夜のお食事(1) 11. 夜のお食事(2) 12. お菓子－一般家庭と宮殿 13. お食事のときの飾り 14. お客さんを招くとき 15. 講義のまとめ(会話・文法・語彙の重要点の復習)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★			

年度	2015	授業コード	J50135A01
科目名	かな文字基礎講読Ａ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Seminar on Japanese-Kana Character A		
担当者名	関本　真乃	旧科目名称	
講義概要	仮名文字を発明して以来、日本人はそれによって文字を記して来た。古典文学は写本の形で現代まで継承されてきたので、日本古典専攻者にとって、仮名文字に関する知識は必須のものである。 現代では、仮名一音に対して一つの文字（字形）しか存在しない。「あ」という音を、「あ（安）」という文字で表すのは当然である。しかし、かつて、一つの音は多くの字形によって書かれた（変体仮名）。「阿・愛・亜・悪」も、「あ」を表す文字として使用されたのである。昔の写本には、幾つもの変体仮名が用いられている。さらに、早く書写する際には、英語の筆記体に相当する連綿体（くずし字）が用いられ、現代の我々にとって、解読するためには一定の努力が必要である。 つまり、写本を読むためには、①変体仮名を覚える、②文字のくずし方を覚える、という二つの作業が前提条件となる。とはいっても、所詮は慣れの程度問題であり、修養次第で誰でも写本を読むことは可能である。この授業では、初歩のくずし字解読から開始し、やがては長い文章も理解することを目標とする。授業は教材（テキスト）に沿って行い、その都度参考資料を補い、できる限り多くのくずし字に触れる環境を整えたい。春学期は『伊勢物語』を中心に講読する。		
教材（テキスト）	兼築信行『一週間で読めるくずし字　伊勢物語』（淡交社・2006 年）		
教材（参考文献）	児玉幸多編『くずし字解読辞典』（東京堂出版・1993 年）		
教材（その他）			
評価方法	平常点 75%（授業への参加態度及びミニッツペーパーによる）、期末試験 25%		
到達目標	くずし字で書かれた文章を解読し、意味を理解することができる。		
準備学習	教材（テキスト）を、第一回の授業までに購入しておくこと。書店、アマゾン等で入手可能である。そのほかは、授業中に指示する。		
受講者への要望			
秋学期開講の「かな文字基礎購読 B」を引き続いて受講することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション／遠州本第一〇六段 2　遠州本第四九段 3　遠州本初段前半 4　遠州本初段後半 5　遠州本第四段前半 6　遠州本第四段後半 7　嵯峨本第九段前半 8　嵯峨本第九段後半 9　嵯峨本第二三段前半 10　嵯峨本第二三段後半 11　真界本第六九段 12　真界本第八二段 13　真界本第八四段 14　真界本第一二三段・一二五段 15　塗籠本第二四段 16　試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	J50135B01
科目名	かな文字基礎講読Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Seminar on Japanese-Kana Character B		
担当者名	関本　真乃	旧科目名称	
講義概要	仮名文字を発明して以来現代に至るまで、日本人はそれによって文字を記して来た。ゆえに日本古典専攻者にとって、仮名文字に関する知識は必須のものである。 現代では、一つの音に対して一つの字体しか存在しない。たとえば、「ア」という音は、「あ（字源は安）」という仮名で表される。しかし、かつて、「ア」という音は、「阿・愛・亜・悪」という字源をもつ仮名でも表された（変体仮名）。つまり、一つの音は多くの字体によって書かれていたのである。昔の写本には、幾つもの変体仮名が用いられている。 さらに、早く書写する際には、英語の筆記体に相当する連綿体（くずし字）が用いられた。くずし方には一定のルールがあるが、現代の我々にとって、解読するためには一定の努力が必要である。 つまり、写本を読むためには、①変体仮名を覚える、②文字のくずし方を覚える、という二つの作業が前提条件となる。とはいっても、所詮は慣れの程度問題であり、修養次第で誰でも写本を読むことは可能である。 この授業では、初歩のくずし字解読から開始し、やがては長い文章も理解することを目標とする。授業は教材（テキスト）に沿って行い、その都度参考資料を補い、できる限り多くのくずし字に触れる環境を整えたい。秋学期は和歌を中心に講読する。		
教材（テキスト）	兼築信行『一週間で読めるくずし字　古今集・新古今集』（淡交社・2006 年）		
教材（参考文献）	児玉幸多編『くずし字解読辞典』（東京堂出版・1993 年）		
教材（その他）			
評価方法	平常点 75%（授業への参加態度及びミニッツペーパーによる）、期末試験 25%		
到達目標	くずし字で書かれた文章を解読し、意味を理解することができる。		
準備学習	教材（テキスト）を、第一回の授業までに購入しておくこと。書店、アマゾン等で入手可能である。そのほかは、授業中に指示する。		

受講者への要望

春学期開講の「かな文字基礎購読 A」から引き続いて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション／八代集抄　古今集夏歌
2　八代集抄　古今集恋歌二
3　八代集抄　古今集仮名序
4　八代集抄　春歌上
5　二十一代集　古今集恋歌二
6　二十一代集　古今集雑歌下
7　二十一代集　古今集秋歌上
8　二十一代集　古今集羈旅歌
9　二十一代集　新古今集春歌上
10　二十一代集　新古今集秋歌上
11　新古今集（伝為相筆）　哀傷歌
12　新古今集（伝為相筆）　恋歌五
13　新古今集（伝為相筆）　雑歌下
14　新古今集（伝為相筆）　神祇歌
15　新古今集　哀傷歌
16　試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★			

年度	2015	授業コード	J50137001
科目名	はじめての国際文化	単位数	2
科目名（英語表記）	The First International Culture		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	人間文化学部・国際ヒューマン・コミュニケーション学科の専任教員を中心に、様々な国や分野における文化学入門のリレー講義を行なう。個別の国として、イギリス、オーストラリア、アメリカ、韓国について、それぞれの国の文化の概要を紹介する。また、イスラム文化、京都文化、スポーツ文化、異文化コミュニケーションといった角度からも、国際的な文化について紹介する。最後に、私たちの現代の日本文化（案外知らないことが多い）や外国から見た日本文化についても議論する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	特に指定しない。		
教材（その他）	毎回授業レジュメや資料を配布する。		
評価方法	毎回の授業での小レポート提出（100％）		
到達目標	国際ヒューマン・コミュニケーション学科の学生として、これから国際文化について学んでいくための入り口として、幅広い国際文化の基礎知識を身につけること。		
準備学習	毎回の講義でテーマとなる国の文化について、インターネットなどを利用して大まかなことを調べておくこと。		
受講者への要望			
毎回講師が変わるリレー形式の講義なので、1 冊の教科書ですべてを理解することはできない。したがって、講義に出席して内容を理解することが中心になる。			
講義の順序とポイント			
1. シラバスの説明・国際文化について 2. イギリス文化入門 I 3. イギリス文化入門II 4. オーストラリア文化入門 I 5. オーストラリア文化入門II 6. アメリカ文化入門 I 7. アメリカ文化入門II 8. 韓国文化入門 9. イスラム文化入門 10. 京都文化入門 11. スポーツ文化入門 12. 異文化コミュニケーション入門 13. 現代の日本文化 14. 外国からみた日本文化 15. 東南アジア文化入門・国際文化総論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	J50137002
科目名	はじめての国際文化	単位数	2
科目名（英語表記）	The First International Culture		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	人間文化学部・国際ヒューマン・コミュニケーション学科の専任教員を中心に、様々な国や分野における文化学入門のリレー講義を行なう。個別の国として、イギリス、オーストラリア、アメリカ、韓国について、それぞれの国の文化の概要を紹介する。また、イスラム文化、京都文化、スポーツ文化、異文化コミュニケーションといった角度からも、国際的な文化について紹介する。最後に、私たちの現代の日本文化（案外知らないことが多い）や外国から見た日本文化についても議論する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	特に指定しない。		
教材（その他）	毎回授業レジュメや資料を配布する。		
評価方法	毎回の授業での小レポート提出（100％）		
到達目標	国際ヒューマン・コミュニケーション学科の学生として、これから国際文化について学んでいくための入り口として、幅広い国際文化の基礎知識を身につけること。		
準備学習	毎回の講義でテーマとなる国の文化について、インターネットなどを利用して大まかなことを調べておくこと。		
受講者への要望			
毎回講師が変わるリレー形式の講義なので、1 冊の教科書ですべてを理解することはできない。したがって、講義に出席して内容を理解することが中心になる。			
講義の順序とポイント			
1. シラバスの説明・国際文化について 2. イギリス文化入門 I 3. イギリス文化入門II 4. オーストラリア文化入門 I 5. オーストラリア文化入門II 6. アメリカ文化入門 I 7. アメリカ文化入門II 8. 韓国文化入門 9. イスラム文化入門 10. 京都文化入門 11. スポーツ文化入門 12. 異文化コミュニケーション入門 13. 現代の日本文化 14. 外国からみた日本文化 15. 東南アジア文化入門・国際文化総論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	J50138001
科目名	安全と安心の心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	The Psychology of Safety and Security		
担当者名	森田　敬信	旧科目名称	
講義概要	震災などの災害や事故、いわゆるオレオレ詐欺、振り込めサギ、食品偽装や欠陥商品問題など、私たちの安全や安心を脅かす出来事が後を絶たない。また外国に出かけると驚くような出来事に出合う。リスクを知り、正しく見積もる力をどのようにつけるのか。うっかり事故、ヒューマンエラーがなぜ生じるのか。 　その心理的背景について、Ｌewin の行動の法則　Ｂ＝ｆ(Ｐ・E)　(「人間行動」は欲求や感情を持った「人」と「環境」の相互作用である）を視座としたヒューマンファクターの分析を通して明らかにしていきたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	沼崎　誠著「誤りから探る心理学」北樹出版 2,300 円 中谷内一也著「安全でも安心できない」ちくま新書 700 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業参加状況等による平常点（30%）、レポート（20%）、定期テスト（50%）		
到達目標	日常生活のヒューマンエラー発生のメカニズムを多角的にとらえる視座を持つ。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回授業の最初に前回授業内容に係る復習小テストをするので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回いくつか質問をしますので出席票に回答してください。			
講義の順序とポイント			
１．授業の進め方、事故・災害の傾向 ２．知覚世界の錯誤と適応 ３．事故の心理的背景とヒューマンファクター ４．ヒューマンエラーと自己モニタリング（メタ認知） ５．感情と意思決定（ヒューリスティックス・アルゴリズム） ６．人の行動と確率の錯誤 ７．リスクテイキングとリスクマネジメント ８．災害とパニックの心理・群集心理 ９．緊急事態と援助行動 １０．事故・災害時のチームエフィカシー １１．諸外国における安全・安心の文化的背景 １２．文化と安全態度・価値感・態度変容・説得 １３．Ｊ．リーズンの安全文化（報告・正義・柔軟・学習の文化） １４．安全と安心のための対策 １５．安全教育			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50138002
科目名	安全と安心の心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	The Psychology of Safety and Security		
担当者名	森田　敬信	旧科目名称	
講義概要	震災などの災害や事故、いわゆるオレオレ詐欺、振り込めサギ、食品偽装や欠陥商品問題など、私たちの安全や安心を脅かす出来事が後を絶たない。また外国に出かけると驚くような出来事に出合う。リスクを知り、正しく見積もる力をどのようにつけるのか。うっかり事故、ヒューマンエラーがなぜ生じるのか。 　その心理的背景について、Ｌewin の行動の法則　Ｂ＝ｆ(Ｐ・E)　(「人間行動」は欲求や感情を持った「人」と「環境」の相互作用である）を視座としたヒューマンファクターの分析を通して明らかにしていきたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	沼崎　誠著「誤りから探る心理学」北樹出版 2,300 円 中谷内一也著「安全でも安心できない」ちくま新書 700 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業参加状況等による平常点（30%）、レポート（20%）、定期テスト（50%）		
到達目標	日常生活のヒューマンエラー発生のメカニズムを多角的にとらえる視座を持つ。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回授業の最初に前回授業内容に係る復習小テストをするので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回いくつか質問をしますので出席票に回答してください。			
講義の順序とポイント			
１．授業の進め方、事故・災害の傾向 ２．知覚世界の錯誤と適応 ３．事故の心理的背景とヒューマンファクター ４．ヒューマンエラーと自己モニタリング（メタ認知） ５．感情と意思決定（ヒューリスティックス・アルゴリズム） ６．人の行動と確率の錯誤 ７．リスクテイキングとリスクマネジメント ８．災害とパニックの心理・群集心理 ９．緊急事態と援助行動 １０．事故・災害時のチームエフィカシー １１．諸外国における安全・安心の文化的背景 １２．文化と安全態度・価値感・態度変容・説得 １３．Ｊ．リーズンの安全文化（報告・正義・柔軟・学習の文化） １４．安全と安心のための対策 １５．安全教育			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50139001
科目名	異文化コミュニケーション 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Cross-Cultural Communication		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	発表・自己紹介・質疑応答・会話ドリルを通じて、英語で会話をするときのよくある間違いを直しながら、表現力や回答力など習って、コミュニケーションの基本を学ぶ入門レベル講座		
教材（テキスト）	無し、各講義でプリントを配付する		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）			
評価方法	20%-発表・宿題　　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1.To further advance the students' understanding of English terms and usage 2.To become more familiar with description 3.Construct several different patterns for communicating in English 4.Becoming more confident in spoken and written English through practice		
準備学習	Make sure to come to class, listen and participate, and check the NAVI for information concerning class.		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary. (Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class. ※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント

中高学で学んだ英語、単語も文法も忘れてきていますか。リラックスして話す機会があまりありませんか。発音をマスターしたり、ＴＯＥＩＣの勉強したりすることは重要ですが、自身を持って練習した英語を話したい方のための授業です。沢山話して、沢山聞いてという講座です。前半では自己紹介をはじめ、好きなものも苦手とする物を話したりする練習をします。後半は発表などして頂きます。

1. Self introduction
2. Introducing others
3. Differing Questions
4. Likes and Dislikes
5. “Be” verbs
6. “Do” verb
7. Common Question Patterns
8. Conversation styles
9. Using the phone
10. Being Polite
11. Communication around the city
12. Dialogue Practice
13. Test preparation
14. Presentation Preparation
15. Presentations

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★		★	★	★	

年度	2015	授業コード	J50140001
科目名	医療心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychology of Medical Care		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	近年、医療心理臨床の領域は、総合病院精神科や単科精神科病院に限らず、小児科、心療内科、内科、外科、リハビリテーション科、産婦人科など、多方面に拡大している。そこでは、心の病気への援助を目指す臨床心理学だけではなく、身体の病気やそれに苦しむ患者を理解し援助していく医療心理学が求められている。本講では、様々な病気に苦しむ患者やその家族に対して、医療心理学の観点からどのような援助ができるか考察したい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	菅佐和子編　「医療現場に生かす臨床心理学」　朱鷺書房		
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	定期試験（７０％）、平常点（３０％）出席状況等による。		
到達目標	医療現場で心理的援助を行う際に求められる医療心理学の基礎的な理論や治療技法の理解を深めることを目指す。		
準備学習	授業１週間前までに、授業資料を京学ナビにアップロードするので、事前に読んで予習しておくこと。わからない専門用語は、調べておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
私語や遅刻、教室の出入りを厳禁とする。私語が過ぎる場合、他者への迷惑を考慮して退室を求める。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　患者の心理Ⅰ ３　患者の心理Ⅱ ４　患者の心理Ⅲ ５　精神科（入院）領域 ６　精神科（外来）領域 ７　心療内科領域 ８　小児科領域（乳児期・幼児期） ９　小児科領域（児童期・思春期） １０　小児科領域（ダウン症児とその家族への心理的援助） １１　内科領域（糖尿病患者への心理的援助） １２　外科領域 １３　ターミナルケア領域 １４　ＨＩＶ感染症領域 １５　医療スタッフのストレスと対応			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	J5014100A
科目名	医療心理実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Training in Medical Care Psychology		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学において心理アセスメントは、心理療法とともに車の両輪をなすものである。臨床心理学や医療心理学を実践する領域において、パーソナリティをどのように査定し理解するかということを抜きにして、心理療法やカウンセリングを行うことはまず考えられない。そこで本講では、医療心理臨床の現場で必要とされる心理アセスメント技術の習得を目指し、各種の心理検査を通じての事例分析も行う。 また、単に技術面のことのみにとどまらず、臨床現場で出会う様々な問題についても考察する。		
教材（テキスト）	教科書は特に使用しない。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、レポート（３０％）、発表（３０％）。		
到達目標	様々な心理検査の実習を通じて、医療心理臨床の現場で求められる心理アセスメント技術の習得を目指す。		
準備学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。実習した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
実習での発表や議論には積極的・主体的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　ロールシャッハテスト　施行法 ３　ロールシャッハテスト　スコアリング（反応領域） ４　ロールシャッハテスト　スコアリング（決定因） ５　ロールシャッハテスト　スコアリング（反応内容、Ｐ反応） ６　ロールシャッハテスト　サイコグラム、 ７　ロールシャッハテスト　解釈法Ⅰ ８　ロールシャッハテスト　解釈法Ⅱ ９　ロールシャッハテスト　事例分析 １０　ロールシャッハテスト　事例分析 １１　ＴＡＴ　事例分析 １２　ＴＡＴ　事例分析 １３　Ｐ－Ｆスタディ　事例分析 １４　Ｐ－Ｆスタディ　事例分析 １５　Ｐ－Ｆスタディ　事例分析			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J50142001
科目名	映画撮影所実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Movie Studio Internship		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	撮影所の現場における実習（インターンシップ）科目である。実習参加者は、6 月に行う面接によって選抜される。選抜を通過した受講者は太秦の東映京都映画撮影所においてテレビ映画等の撮影・制作にスタッフとして参加し実習する。実習期間は 8 月、9 月の 4 週間前後が予定されている。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実習への参加度（40%）、実習状況評価等（40%）、修了後のレポート,面接（20%）		
到達目標	映画の制作現場にスタッフとして参加し、映画がどのように制作されているのか知識と経験を得る。		
準備学習	「映画撮影論」（担当：春岡）を受講しておくこと。映画撮影とはどのようなものかを書籍などを読んで把握しておくこと。選考後キャリアサポート・センターによるビジネス実習講義・体験ディスカッションに参加し、実習のための基本知識と技能を身につける。		
受講者への要望			
プロたちが働く現場は厳しく真剣そのものであり、自分のやるべきことを主体的に考えて行動することが求められる。ハードな実習をやりぬく覚悟、映画への情熱が求められる。 夜の撮影がある場合は各自で帰宅の足を確保する必要がある。体調管理には特に注意すること。			
講義の順序とポイント			
撮影所での映画・テレビ制作現場の一員として制作作業の一部を担う。スケジュールと内容については撮影所からの指示に従うこと。 実習前にオリエンテーションと実習後にまとめの授業、面接を行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50143002
科目名	映画撮影論	単位数	2
科目名（英語表記）	Movie Making		
担当者名	春岡　勇二	旧科目名称	
講義概要	京都は日本映画発祥の地であり、本校新校舎の置かれた太秦は、昭和の初め、複数の映画会社及び独立プロダクションの撮影所が林立し、「日本のハリウッド」と呼ぶにふさわしい様相を呈していた。幾多の変遷を経て整理統合されたが、現在でも現存映画会社の撮影所が稼働し、地域全体に「映画都市」の雰囲気を残している。また、本校では、映画会社・東映の協力のもと、学生が撮影所で働き、実際の撮影現場を体験できるインターンシップを実施している。そこで、インターンシップを希望する学生を始め、日本映画に興味を持つ学生に太秦の歴史、撮影所の歴史について、すでに消滅したものを含めた各映画会社の歴史、個性、代表的監督・俳優等を通して知ってもらい、日本映画全般の教養を深める。さらに、講師本人の撮影現場取材等の経験をもとに、撮影そのものの基礎知識を教え、現場でとまどうことのないインターンシップ生を育てると共に、日本映画への深い見識が、就職活動時やその他の時に自己アピールのポイントとなるような学生を育てたい。		
教材（テキスト）	使用しない。適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（60%）、出席状況等による。期末レポート（40%）。		
到達目標	日本映画発達の歴史を、発祥の地であり、「映画の都」であった京都を通して深く理解する。また、映画製作会社ごとの特徴や歴史、活躍した人々の仕事を理解し、日本映画の教養を深めることを目標とする。		
準備学習	映画への興味を常に持ち、現時点で映画館で上映されている作品についても、できる限り多くの情報を入手しておくこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に臨み、質問等も積極的に行ってほしい。

講義の順序とポイント

01. 京都における日本映画誕生の背景
02. 日本の映画会社①、東宝の歴史・作品の特徴・監督・俳優
03. 日本の映画会社②、松竹の歴史・作品の特徴・監督・俳優
04. 日本の映画会社③、日活の歴史・作品の特徴・監督・俳優
05. 日本の映画会社④、大映の歴史・作品の特徴・監督・俳優
06. 日本の映画会社⑤、東映の歴史・作品の特徴・監督・俳優
07.「日本のハリウッド」太秦撮影所の歴史①
08.「日本のハリウッド」太秦撮影所の歴史②
09. 京都で活躍した日本映画の巨匠たち①
10. 京都で活躍した日本映画の巨匠たち②
11. 京都で活躍した日本映画の巨匠たち③
12. 京都を舞台にした映画、京都で撮影された映画①
13. 京都を舞台にした映画、京都で撮影された映画②
14. 撮影現場の基礎知識
15. 講義のまとめとレポート執筆

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J50148001
科目名	映像文化論	単位数	4
科目名（英語表記）	Theory of Video Culture		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	文字であれ、音であれ、記録メディアの登場によって、メッセージは今だけのものではなくなった、過去を参照し、未来に思いを馳せることが可能となった。それとともに、映像メディアの出現で、自分の思いを他者に伝える、が、より具体的なことになった。そして、歴史を経ることによって、さまざまな表現手法が登場し、より高度なものに／より身近なものに、進化を続け、それらに伴い、新たな文化が生まれ、発展を続けている。また、かつて黎明期のスチルカメラマンが化学的知識を必要としたように、現代の映像に携わる者たちは、いわゆる映像の常識だけではなく、デジタルの作法も必須になってきた。 本講義では、映像メディアの歴史における代表的な作品等を鑑賞することによって、映像文化の歴史を概観し、その可能性や問題点等を考察していく。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	各回の小レポートおよび最終レポートで総合的に評価する。		
到達目標	映像文化を代表する映像作品等を鑑賞し、検証することによって、映像文化についての理解を深める。		
準備学習	各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む。
本講義は通常の講義と異なり２講義連続である（作品等の上映により、休み時間が時間通りでない場合もある）。

講義の順序とポイント

01：オリエンテーション
02：映像文化の過去１
03-04：映像文化の過去２
05-06：映像文化の過去３
07-08：映像文化の過去４
09-10：映像文化の過去５
11-12：映像文化の現在１
13-14：映像文化の現在２
15-16：映像文化の現在３
17-18：映像文化の現在４
19-20：映像文化の現在５
21-22：映像文化の未来１
23-24：映像文化の未来２
25-26：映像文化の未来３
27-28：映像文化の未来４
29-30：映像文化の未来５

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2015	授業コード	J50150A0C
科目名	社会学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IA in Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究成果を発表する。それに関して全員で議論を行い、理解を深める。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースについても研究する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業時に指示する。		
教材（その他）	関連資料を配付する。		
評価方法	平常点と、発表とレポートに依る。		
到達目標	共通テーマを理解する。		
準備学習	常日頃から書物や新聞・テレビに接して、現代社会の諸側面に関心をもつようにする。		
受講者への要望			
積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
1，ガイダンス 2・3，家族 4・5，地域社会 6・7，教育 8・9，企業 10・11，労働 12・13，政治 14・15，メディア			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J50150A0D
科目名	社会学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IA in Sociology		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	本演習では、様々な社会問題をジェンダーの視点で読み解く社会学です。次年度の卒業研究にむけて自分だけの「問い」を発見するために、ジェンダー社会学の問題を取り上げます。たとえば、ジェンダーとセックス、セクシュアリティ、日本の雇用環境、男性問題、生殖医療、少子高齢化。メディアとジェンダーなど、教科書や指定教材をもとに、学生発表と講義、ディスカッションなどを行うなかで、自分の「問い」を探し、期末レポートを作成します。この期末レポートが 4 年生の卒業研究の出発点になります。また本演習では、就職活動にむけて、OB や OG との情報交換を予定しています。		
教材（テキスト）	『ジェンダー論をつかむ』　有斐閣　　2013		
教材（参考文献）	よくわかるジェンダー・スタディーズ』ミネルヴァ書房　2013,　『女性学事典』岩波書店　2002		
教材（その他）	適宜配布		
評価方法	平常点（50%)出席状況などによる、、期末レポート(50%)		
到達目標	2016 年 1 月提出の期末レポートと卒業研究の序論にむけて、自分だけの「問い」を発見する、		
準備学習	ゼミでのディスカッションに参加できるよう、指定された教科書や資料などをを読んでくること。		
受講者への要望			
識や偏見にとらわれない柔軟な発送や想像力を求める			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション 2　ゼミ基礎知識 3　「私の問い(２年ゼミ　期末レポートの発表とコメント） 4, 「私の問い(２年ゼミ　期末レポートの発表とコメント） 5, 「私の問い(２年ゼミ　期末レポートの発表とコメント） 7.　社会学の「問い」とリサーチ 8. 社会学の「問い」とリサーチ 9. 社会学の「問い」とリサーチ 10. 教材,各章の発表とコメン 11. 教材,各章の発表とコメン 12.教材,各章の発表とコメン 13. 教材,各章の発表とコメン 14　就職ガイダンス 15　「問い」の発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	J50150B0C
科目名	社会学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IB in Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究成果を発表する。それに関して全員で議論を行い、理解を深める。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースについても研究する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業時に指示する。		
教材（その他）	関連資料を配付する。		
評価方法	平常点と、発表とレポートに依る。		
到達目標	自らの研究テーマを見つける。		
準備学習	常日頃から書物や新聞・テレビに接して、現代社会の諸側面に関心をもつようにする。		
受講者への要望			
積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
１・２，高齢化社会 ３・４，情報化社会 ５・６，国際化 ７・８，近代社会 ９・10，宗教と社会 11・12，文明と社会 13・14，レポートの書き方 15，レポートの発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J50150B0D
科目名	社会学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IB in Sociology		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	本演習では、様々な社会問題をジェンダーの視点で読み解く社会学です。次年度の卒業研究にむけて自分だけの「問い」を発見するために、ジェンダー社会学の問題を取り上げます。たとえば、ジェンダーとセックス、セクシュアリティ、日本の雇用環境、男性問題、生殖医療、少子高齢化。メディアとジェンダーなど、教科書や指定教材をもとに、学生発表と講義、ディスカッションなどを行うなかで、自分の「問い」を探し、期末レポートを作成します。この期末レポートが 4 年生の卒業研究の出発点になります。また本演習では、就職活動にむけて、OB や OG との情報交換を予定しています。		
教材（テキスト）	『ジェンダー論をつかむ』　有斐閣　　2013		
教材（参考文献）	『よくわかるジェンダー・スタディーズ』ミネルヴァ書房　2013,　『女性学事典』岩波書店　2002		
教材（その他）	適宜配布する		
評価方法	常点（50%)出席状況などによる、、期末レポート(50%)		
到達目標	ジェンダー社会学の基礎的な理解を通して、卒業研究を視野においた期末レポートの執筆を行う		
準備学習	ゼミでのディスカッションに参加できるよう、指定された教科書や資料などをを読んでくること。		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発送や想像力を求める			
講義の順序とポイント			
1, イントロダクション 2〜4, 夏休み宿題の発表とコメント 5, リサーチ方法とレポートの書き方 6〜10, , 期末レポートにむけてリサーチの進捗状況を発表 11〜15, 学生間で期末レポートの添削を行い、コメント発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	J50152A0C
科目名	社会学専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡA in Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究の成果を発表する。それに関して全員で議論を行い、理解を深める。研究の総まとめとしての卒業論文を執筆する準備をする。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースについても研究する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業時に指示する。		
教材（その他）	関連資料を配付する。		
評価方法	平常点と、発表とレポートに依る。		
到達目標	卒業論文を執筆できる準備をする。		
準備学習	日頃から書物や新聞・テレビに接して、現代社会の諸側面に関心をもつようにする。		
受講者への要望			
積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
1，ガイダンス 2・3，家族 4・5，地域社会 6・7，教育 8・9，企業 10・11，労働 12・13，政治 14・15，メディア			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J50152A0D
科目名	社会学専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡA in Sociology		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究の問題提起を複眼的視野でとらえ、データ（一次 or 二次）で証明する。その経過をゼミで発表し、教員と学生からのフィードバックを経て卒業研究を完成する。		
教材（テキスト）	適宜配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%)出席状況などによる、卒業研究の取り組み(70%)		
到達目標	卒業研究の「問い」の発見と卒業研究の構成を行う。		
準備学習	ゼミでのディスカッションに参加できるよう、指定された資料を読んでくること。		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発送や想像力を求める			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2〜3. 春の宿題発表 4〜6. 各自卒業研究計画書の発表 7.〜9.　卒論のデータとリサーチについて 10〜14.卒業研究の「問い」とリサーチ進捗状況の発表 15. 卒業研究の構成について			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50152B0C
科目名	社会学専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡB in Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究の成果を発表する。それに関して全員で議論を行い、理解を深める。研究の総まとめとして卒業論文を執筆する。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースについても研究する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業時に指示する。		
教材（その他）	関連資料を配付する。		
評価方法	平常点と、発表とレポートに依る。		
到達目標	卒業論文を執筆する。		
準備学習	日頃から書物や新聞・テレビに接して、現代社会の諸側面に関心をもつようにする。 論文執筆のトレーニングをする。		
受講者への要望			
積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
1・2，高齢化社会 3・4，情報化社会 5・6，国際化 7・8，近代社会 9・10，宗教と社会 11・12，文明と社会 13・14，卒業論文について 15，卒業論文発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J50152B0D
科目名	社会学専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡB in Sociology		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究の問題提起を複眼的視野でとらえ、データ（一次 or 二次）で証明する。その経過をゼミで発表し、教員と学生からのフィードバックを経て卒業研究を完成する。卒		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%)出席状況などによる、卒業研究の取り組み(70%)		
到達目標	卒研のリサーチと執筆を繰り返し、ゼミ発表とゼミでのフィード・バックを経て、12 月末までに教員の承認を得る		
準備学習	ゼミでのディスカッションに参加できるよう、指定された資料を読んでくること。		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発送や想像力を求める			
講義の順序とポイント			
講義の順序とポイント 1, 後期イントロダクション 2,　卒論リサーチの進捗状況の報告 3, 卒論リサーチの進捗状況の報告 4. 卒論下書き原稿の相互添削と発表 5..卒論下書き原稿の相互添削と発表 6.卒論下書き原稿の相互添削と発表 7.卒論下書き原稿の相互添削と発表 8.卒論下書き原稿の相互添削と発表 9.卒論下書き原稿の相互添削と発表 10.卒論下書き原稿の相互添削と発表 14. 完成原稿の発表とコメント 15. 完成原稿の発表とコメント			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50155A01
科目名	英語特別講義 A 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	English Special Lecture A (Intensive Eng lish Studies)		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	This class will focus on speaking, writing, and listening. The students will be challenged to practice different parts of English in a relaxed and fun way. There will tests, quizzes, presentations, and other assignments to help students learn and become familiar with the 3 English skills mentioned above!		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表・宿題 20% スピーキングテスト 20% クイズやテスト 40% 期末試験 20%		
到達目標	1. Learn how to use current, "Living" English in many daily situations 2. Become more prepared to interact with people who do not speak Japanese language 3. Pick up the necessary basics to speak to and understand English speakers basic way of thinking 4. Think about some of the funny and challenging differences among different cultures		
準備学習	Be prepared for class. Bring your homework, and all the materials that you need every time. This will be a fun and energetic class. Please work hard.		

受講者への要望

Do your best and definitely, 授業に毎回出席すること。
Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary.
(Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class. ※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)
(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント

1. Asking and asking questions
2 Self-Introduction
3 Introduction
4 Affirmative negative
5 How much/amount
6. Writing basic sentences
7 Using Nouns
8 Using Adjectives
9 Using Verbs
10 Using Kinds of Verbs
11. Listening practice
12 Can you catch?
13 Getting the jist...
14 Dictation
15 Playing Telephone

※There will be plenty of practice along with mini-tests and quizzes during the semester.
※The topics for dictation and "Playing Telephone" will be discussed in class.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★	★	

年度	2015	授業コード	J50155B01
科目名	英語特別講義Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	English Special Lecture B (Intensive Eng lish Studies)		
担当者名	John Gatewood Ⅱ	旧科目名称	
講義概要	This is a continuation of the skills class from the spring semester. This class will continue to focus on speaking, writing, and listening, but in addition, there will be a section on debating. The students will be further challenged to practice different parts of English. There will be tests, quizzes, presentations, and other assignments to help students learn and become confident in their English.		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表・宿題 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1.continue using "Living" English 2. Become even more prepared to interact with people who do not speak Japanese language 3. Start working on convincing others and debate tactics when speaking		
準備学習	Come to class ready to learn. This class will be slightly more difficult than the first semester, but work hard and you can do well!		

受講者への要望

You must come to class to get a good grade, so...授業に毎回出席すること。
Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary.
(Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class. ※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)
(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント

1. Asking and asking questions
2 T1
3 T2
4 T3
5. Writing basic sentences
6 T1
7 T2
8 T3
9. Listening practice
10 T1
11 T2
12　T3
13 Debate section
14 How to prepare debates
15 Group work and Brainstorming & Small debates
※There will be plenty of practice along with mini-tests and quizzes during the semester

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	J50178001
科目名	家族社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Family Sociology		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	
講義概要	「家族」とは何なのだろう。通常、「家族」は、家族愛や家族の絆、というような言葉で表現されるように、一般に流通するイメージがあって、理想像が共有されているように思われる。そして、その理想像からの距離を測りながら、家族の問題を憂えたり、危ぶんだりするという状況にあるようだ。 しかし、私たちが現在、「家族」イメージとしてとらえているものは、マスメディア等が流布させる極めて限定的なイメージであり、実態を概観するだけで、これら流通しているイメージが現代の日本社会に遍くいきわたっているライフスタイルとは言い難いということがわかる。家族のスタンダードとされてきた、夫と妻と子どもから成る核家族の形態はもはや多数派ではないのである。 授業では、イメージ家族を脱却して、制度としての「家族」の歴史的な変化や、「家族」概念の変化及び様々な側面から家族の実態を見て行きたい。さらに、「家族」における現代の諸問題をトピックとして取り上げ、人権の問題やジェンダーの視点に沿って、「家族」を読み解いていく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する		
教材（その他）	パワーポイントや映像資料を活用する。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝５０％ 定期試験＝５０％		
到達目標	固定的な「家族」イメージを検証し、自分と家族の関わりを見つめ直し、社会における家族の位置を相対的に捉え、人が幸福に生きるためには何が大切なのかを模索する視点を養う。		
準備学習	授業内レポート、ミニテストを行うに当たって、予め課題や範囲を提示するので、準備をして臨むこと。		
受講者への要望			
普段の授業を大切にすること。授業内レポート等の作成にあたっては、丁寧な文字と文章を心がけ、真面目に取り組んでください。常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考を望みます。			
講義の順序とポイント			
１　導入：授業ガイダンス　「家族」とは何か ２　社会とともに変化する家族（１） ３　社会とともに変化する家族（２） ４　性別役割分業（１） ５　性別役割分業（２） ６　子どもと家族（１） ７　子どもと家族（２） ８　家族と暴力（１） ９　家族と暴力（２） １０　現代家族のかかえる問題（１） １１　現代家族のかかえる問題（２） １２　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（１） １３　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（２） １４　多様化する家族（１） １５　多様化する家族（２） 上記テーマの配列は、授業の進度、その時々の社会情勢などにからめて、調整します。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J50178002
科目名	家族社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Family Sociology		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	
講義概要	「家族」とは何なのだろう。通常、「家族」は、家族愛や家族の絆、というような言葉で表現されるように、一般に流通するイメージがあって、理想像が共有されているように思われる。そして、その理想像からの距離を測りながら、家族の問題を憂えたり、危ぶんだりするという状況にあるようだ。 しかし、私たちが現在、「家族」イメージとしてとらえているものは、マスメディア等が流布させる極めて限定的なイメージであり、実態を概観するだけで、これら流通しているイメージが現代の日本社会に遍くいきわたっているライフスタイルとは言い難いということがわかる。家族のスタンダードとされてきた、夫と妻と子どもから成る核家族の形態はもはや多数派ではないのである。 授業では、イメージ家族を脱却して、制度としての「家族」の歴史的な変化や、「家族」概念の変化及び様々な側面から家族の実態を見て行きたい。さらに、「家族」における現代の諸問題をトピックとして取り上げ、人権の問題やジェンダーの視点に沿って、「家族」を読み解いていく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する		
教材（その他）	パワーポイントや映像資料を活用する。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝５０％ 定期試験＝５０％		
到達目標	固定的な「家族」イメージを検証し、自分と家族の関わりを見つめ直し、社会における家族の位置を相対的に捉え、人が幸福に生きるためには何が大切なのかを模索する視点を養う。		
準備学習	授業内レポート、ミニテストを行うに当たって、予め課題や範囲を提示するので、準備をして臨むこと。		
受講者への要望			
普段の授業を大切にすること。授業内レポート等の作成にあたっては、丁寧な文字と文章を心がけ、真面目に取り組んでください。常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考を望みます。			
講義の順序とポイント			
１　導入：授業ガイダンス　「家族」とは何か ２　社会とともに変化する家族（１） ３　社会とともに変化する家族（２） ４　性別役割分業（１） ５　性別役割分業（２） ６　子どもと家族（１） ７　子どもと家族（２） ８　家族と暴力（１） ９　家族と暴力（２） １０　現代家族のかかえる問題（１） １１　現代家族のかかえる問題（２） １２　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（１） １３　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（２） １４　多様化する家族（１） １５　多様化する家族（２） 上記テーマの配列は、授業の進度、その時々の社会情勢などにからめて、調整します。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J50182001
科目名	学校臨床心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical School Psychology		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	学校臨床心理学とは、「学校における臨床心理学」および「学校と臨床心理学」の二つの視点を併せ持つ、実践的な研究領域である。第一の観点を理解するためには、学校という場を知った上で、そこにおいて必要とされる臨床心理学的実践は如何なるものであるかを理解し、スクールカウンセラーの活動の実際を知ることが必要である。第二の観点では、学校教育と臨床心理学が互いに補い合って児童生徒を援助していくことを可能にするための、それぞれの方法論や観点の異同を理解することが重要である。 本講義においてはまず、学校現場で発生している様々な臨床心理学的課題について、受講生が書籍・報道などを用いて実情をまとめ、発表し、その諸課題に対して、上述の二つの観点から分析・解説するものとする。 最終的にはこれらを総合的に考察することで、現代社会における子供の問題への対処方法を包括的に論じる。		
教材（テキスト）	毎回、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	横湯園子　教育臨床心理学　東京大学出版会 倉光修編　学校臨床心理学　誠信書房		
教材（その他）	必要に応じて、プリント類を配布する。		
評価方法	授業内レポート　３０％　課題提出　40% 授業内小テスト　30%		
到達目標	１．学校現場においてどのような問題が発生しているかを理解する。 2. 学校における諸課題のうちに、臨床心理学的問題がどのように含まれているかを理解する。 ３．問題解決に向けていかに臨床心理学が応用されているか、またその過程でどのような課題が存在しているかを、具体的に理解する。 ４．学校現場で必要とされる、基本的な臨床心理学的知識を習得する。		
準備学習	講義の最後に、次回取り扱う学校臨床心理学的課題を指定するので、それについての新聞やインターネットにおける報道や、そういった学校の課題を分析した書籍等を調べ、各人がレポートにまとめる。次週にはそれに基づくグループ発表を行うため、事前学習が必須である。		
受講者への要望			
授業中は私語厳禁です。社会的にも関心の高い領域であるので、積極的に勉強すること。			
講義の順序とポイント			
１．学校とはどのようなところか ２．学校教育と心理臨床の考え方の違いと相補性 ３．学校臨床心理学とは ４．児童期・思春期の心理的発達 ５．学校現場での問題　①不登校 6.　②不登校児童生徒の実態 7.　③いじめ 1 8.　④いじめ 2 9.　⑤非行 10.　⑥発達障害 11.　家族の問題　①子供を取り巻く環境 12.　②虐待 13～14.　スクールカウンセラーの仕事 15.　コミュニティ心理学の視点・まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J50186001
科目名	学習の動機づけ	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Motivation		
担当者名	王　松	旧科目名称	
講義概要	学習の動機づけとは、一般にいうやる気や意欲に近い概念にあたる。動機づけに関する概念は非常に多く、これは人間の活動のほとんどがやる気とかかわりがあることを反映しているといえる。 動機づけを理解することで、日常生活などにおいてどのような実践が可能か、また動機づけにまつわる学習の心理についても説明していき、自分自身の動機づけに関して改めて考え直していく手がかりとなるような理論や視点について学んでいく。		
教材（テキスト）	伊藤崇達編著『やる気を育む心理学（改訂版）』北樹出版　1,800 円		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内課題、理解度の確認による平常点（45%）、最終試験（55%）。		
到達目標	１．動機づけ概念を用いて、日常の行動を説明することができるようになる。 ２．さまざまな動機づけ概念を理解し、動機づけを高めるための方法や工夫について深く考えられるようになる。		
準備学習	特別なことは要求しないが、毎回の授業内容はのちの講義内容の理解にもかかわるため、各講義の内容を理解した上で次の講義に臨むよう心がけてほしい。		
受講者への要望			
１．毎回の講義から何かを学ぶ、得る、という形で、目標を持って参加してください。 ２．日常的に心理学に関係することに関心を持ち、疑問点や知りたいことを明確にし、積極的に学習を進めてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．　講義概要　動機づけとは何か ２．　動機づけを捉える方法論 ３．　マズローの欲求５段階説 ４．　乳幼児期におけるやる気 ５．　達成動機づけと期待価値理論 ６．　自己効力感 ７．　原因帰属理論 ８．　達成目標理論 ９．　自己決定理論と基本的欲求 １０．　興味とフローの理論 １１．　テスト不安・学習性無力感 １２．　自己調整学習の理論 １３．　教師と動機づけ １４．　友人と動機づけ １５．　さまざまな動機づけ概念の統合的理解			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J50187A01
科目名	漢文学講読Ａ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Writing Study Reading A		
担当者名	野口　隆	旧科目名称	
講義概要	漢文学が日本文学史の中で占める割合は大きい。かつての日本人は漢籍の読解に心血をそそぎ、また李白や杜甫や白楽天の漢詩を愛唱した。近年では漢文を読む機会もめっきり減ってしまったが、しかしそれでも以下に挙げるような理由で、漢文を読むことの意義はなお少なくないと思われる。 その一。漢文を読む機会は減ったがしかし漢字・漢語となれば、これはいまも誰でも日常的に使うものである。漢文を学ぶことで、漢字・漢語に対する理解が深まるのは確実である。 その二。日本文化が中国古典から大きな影響を受けていることは無論だがそれだけでなく、日本古典そのものが漢文で書かれている場合がたいへん多い。したがって日本文学史を知るためにも漢文訓読は必修なのである。 その三。漢文を朗読することで、文章のリズムを身につけ自分でもよい文章が書けるようになると俗に言われている。 春学期は『論語』『史記』その他の散文作品を講読する。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	タイトルは指定しないが、漢和辞典は必携である。		
評価方法	毎回実際に訓読を実施し、その内容を課題として提出したものを平常点（50%）とする。期末試験（50%）も行う。		
到達目標	漢和辞典の引き方に習熟すること。そして返り点と送り仮名のある漢文であれば、漢和辞典を引いた上で訓読できるようになること。		
準備学習	中国の歴史や地理について簡単にまとめた資料等を入手しておくことが望ましい。提出された課題には朱を入れて返却するので、問題のある個所については自力で再考すること。		

受講者への要望

漢文講読の要諦は、ひたすら漢和辞典を引き続けることである。しかし漢和辞典というものは、国語辞典と異なり引くだけでも頭を使うので、その心がまえをしておいてもらいたい。またせっかく古風な教室を使うのだから、古風な漢文の読み方も復活したいと考えている。

講義の順序とポイント

1　漢文訓読の基礎
2　漢和辞典の使い方
3　『論語』
4　『孟子』
5　『韓非子』
6　『老子』『荘子』
7　『史記』孟嘗君列伝(1)
8　『史記』孟嘗君列伝(2)
9　『史記』秦始皇本紀
10　『史記』鴻門之会(1)
11　『史記』鴻門之会(2)
12　『史記』鴻門之会(3)
13　『日本外史』(1)
14　『日本外史』(2)
15　『日本外史』(3)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★			

年度	2015	授業コード	J50187B01
科目名	漢文学講読Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Writing Study Reading B		
担当者名	野口　隆	旧科目名称	
講義概要	漢文学が日本文学史の中で占める割合は大きい。かつての日本人は漢籍の読解に心血をそそぎ、また李白や杜甫や白楽天の漢詩を愛唱した。近年では漢文を読む機会もめっきり減ってしまったが、しかしそれでも以下に挙げるような理由で、漢文を読むことの意義はなお少なくないと思われる。 その一。漢文を読む機会は減ったがしかし漢字・漢語となれば、これはいまも誰でも日常的に使うものである。漢文を学ぶことで、漢字・漢語に対する理解が深まるのは確実である。 その二。日本文化が中国古典から大きな影響を受けていることは無論だがそれだけでなく、日本古典そのものが漢文で書かれている場合がたいへん多い。したがって日本文学史を知るためにも漢文訓読は必修なのである。 その三。漢文を朗読することで、文章のリズムを身につけ自分でもよい文章が書けるようになると俗に言われている。 秋学期は、漢文学の中でも特異な位置を占める漢詩を講読する。日本人の作品も採り上げる予定である。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	タイトルは指定しないが、漢和辞典は必携である。		
評価方法	毎回実際に訓読を実施し、その内容を課題として提出したものを平常点（50%）とする。期末試験（50%）も行う。		
到達目標	漢詩についての基本的な素養を身につけること。そしてその味わいのようなものを現代の日本語で再現できるようになること。		
準備学習	中国の歴史や地理について簡単にまとめた資料等を入手しておくことが望ましい。提出された課題には朱を入れて返却するので、問題のある個所については自力で再考すること。		

受講者への要望

漢詩を読むためには漢和辞典を引くことの他に、いわば「詩心」のようなものが求められる。担当者は、詩を訳す時には訳したあとも詩らしくなければならないというのが持論なので、それにつきあってもらいたい。またせっかく古風な教室を使うのだから、漢詩の暗唱のような古風な読み方も復活したいと考えている。

講義の順序とポイント

1　漢詩概論
2　『詩経』
3　『文選』古詩
4　阮籍・陶淵明
5　王維・孟浩然
6　李白
7　杜甫(1)
8　杜甫(2)
9　白居易
10　中唐・晩唐の詩人たち
11　蘇軾
12　宋代の詩人たち
13　日本の漢詩人(1)
14　日本の漢詩人(2)
15　日本の漢詩人(3)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	J50190A01
科目名	環境社会学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Sociology A		
担当者名	寺田　憲弘	旧科目名称	
講義概要	環境問題は自然科学的問題であるばかりではなく、人間の営みを反映させた社会的問題です。そして、現代社会において環境への関心はますます大きなものとなっています。 　環境社会学の対象は、大きくは二つにわけられます。すなわち、産業化、近代化の過程で生態環境、生活環境が劣悪化していく過程である社会問題としての環境問題（イッシュー型）と人々が日常生活を築く過程における環境とのかかわりに関する環境問題（コンテキスト型）です。 前者は、公害問題あるいは環境問題など社会問題化した環境と社会の関係を扱います。後者は普段の生活と周囲の自然環境との関わりを扱います。本講座にでは前者を中心に扱います。 社会学として環境問題をどのように捉えられるかを、具体的な事例と理論の両面から考えるために、境問題を歴史的に概観しながら、具体的事例と社会学の理論の両方を学んでもらいます。		
教材（テキスト）	『よくわかる環境社会学』鳥越皓之・帯谷博明 ミネルバ書房。授業においては、レジュメを配付します。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	授業第度、出席状況等を含む平常点(４０％)と、レポート(２０％)、そして、テスト(40%)の３点から総合的に判断する。		
到達目標	社会学およびその近隣社会科学の概念・理論によって、環境問題を理解できるようになる。		
準備学習	授業は、社会学を中心とした理論と具体的事例からなります。次回の授業内容について、その授業で扱う理論と事例を紹介しますので、理論については、概論書、社会学事典等で調べて下さい。事例については、webなどで調べてください。		
受講者への要望			
環境問題に対する関心を少しくらいはもっていること。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　「自然」とは何か 2.人間社会と環境(1)　「環境問題」の発見と近代社会 3.人間社会と環境(2)　環境社会学の成立と展開 4.公害・差別・リスク(1)　公害問題・水俣病の被害と差別 5.公害・差別・リスク(2)　被害構造論 6.公害・差別・リスク(3)　受益圏・受苦圏 7.公害・差別・リスク(4)　新潟水俣病と阿賀野川 8.開発と資源(1)　開発と地域社会 9.開発と資源(2)　原発と住民投票 10.地球環境問題(1)　地球環境問題と地域 11.地球環境問題(2)　社会問題としての地球温暖化 12.地球環境問題(3)　開発と環境正義 13.地域づくりと環境(1)　まちづくりの系譜 14.地域づくりと環境(2)　自治体の環境政策とコミュニティ 15.まとめ　　現代社会と環境			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	J50190A02
科目名	環境社会学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Sociology A		
担当者名	寺田　憲弘	旧科目名称	
講義概要	環境問題は自然科学的問題であるばかりではなく、人間の営みを反映させた社会的問題です。そして、現代社会において環境への関心はますます大きなものとなっています。 　環境社会学の対象は、大きくは二つにわけられます。すなわち、産業化、近代化の過程で生態環境、生活環境が劣悪化していく過程である社会問題としての環境問題（イッシュー型）と人々が日常生活を築く過程における環境とのかかわりに関する環境問題（コンテキスト型）です。 前者は、公害問題あるいは環境問題など社会問題化した環境と社会の関係を扱います。後者は普段の生活と周囲の自然環境との関わりを扱います。本講座にでは前者を中心に扱います。 社会学として環境問題をどのように捉えられるかを、具体的な事例と理論の両面から考えるために、境問題を歴史的に概観しながら、具体的事例と社会学の理論の両方を学んでもらいます。		
教材（テキスト）	『よくわかる環境社会学』鳥越皓之・帯谷博明 ミネルバ書房。授業においては、レジュメを配付します。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	授業第度、出席状況等を含む平常点(４０％)と、レポート(２０％)、そして、テスト(40%)の３点から総合的に判断する。		
到達目標	社会学およびその近隣社会科学の概念・理論によって、環境問題を理解できるようになる。		
準備学習	授業は、社会学を中心とした理論と具体的事例からなります。次回の授業内容について、その授業で扱う理論と事例を紹介しますので、理論については、概論書、社会学事典等で調べて下さい。事例については、webなどで調べてください。		

受講者への要望

環境問題に対する関心を少しくらいはもっていること。

講義の順序とポイント

1 イントロダクション　「自然」とは何か
2.人間社会と環境(1)　「環境問題」の発見と近代社会
3.人間社会と環境(2)　環境社会学の成立と展開
4.公害・差別・リスク(1)　公害問題・水俣病の被害と差別
5.公害・差別・リスク(2)　被害構造論
6.公害・差別・リスク(3)　受益圏・受苦圏
7.公害・差別・リスク(4)　新潟水俣病と阿賀野川
8.開発と資源(1)　開発と地域社会
9.開発と資源(2)　原発と住民投票
10.地球環境問題(1)　地球環境問題と地域
11.地球環境問題(2)　社会問題としての地球温暖化
12.地球環境問題(3)　開発と環境正義
13.地域づくりと環境(1)　まちづくりの系譜
14.地域づくりと環境(2)　自治体の環境政策とコミュニティ
15.まとめ　　現代社会と環境

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	J50190B01
科目名	環境社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Sociology B		
担当者名	寺田　憲弘	旧科目名称	
講義概要	環境問題は自然科学的問題であるばかりではなく、人間の営みを反映させた社会的問題でもあります。そして、現代社会において「環境」の問題はますます大きく、身近なものとなっています。 環境社会学の対象は、大きくは二つにわけられます。すなわち、産業化、近代化の過程で生態環境、生活環境が劣悪化していく過程である社会問題としての環境問題（イッシュー型）と人々が日常生活を築く過程における環境とのかかわりに関する環境問題（コンテキスト型）です。 前者は、公害問題あるいは環境問題など社会問題化した環境と社会の関係を扱います。後者は普段の生活と周囲の自然環境との関わりを扱います。本講座にでは後者を中心に扱います。 人間社会にとっての脅威となる「環境」ではなく、人間に日々の糧や安らぎを与える存在としての自然環境との関係を事例を紹介しながら、社会学の理論も学んでもらいます。		
教材（テキスト）	『よくわかる環境社会学』鳥越皓之・帯谷博明 ミネルバ書房。授業においては、レジュメを配付します。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	授業態度、出席状況等を含む平常点(40%)と、レポート(20%)、そして、テスト(40%)の 3 点から総合的に判断する。		
到達目標	社会学およびその近隣社会科学の概念・理論によって、環境問題を理解できるようになる。		
準備学習	授業は、社会学を中心とした理論と具体的事例からなります。次回の授業内容について、その授業で扱う理論と事例を紹介しますので、理論については、概論書、社会学事典等で調べて下さい。事例については、web などで調べてください。		

受講者への要望

環境問題に対する関心を少しくらいはもっていること。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション　身近な自然、日本の森林
2.自然保護を考える(1)　自然保護制度
3.自然保護を考える(2)　エコ・ツーリズム
4.身近な自然を考える(1)　自然観
5.身近な自然を考える(2)　コモンズ
6.生活と水を考える(1)　生活環境主義
7.生活と水を考える(2)　近代と河川
8.農と食を考える(1)　「農」と「食」の変化
9.農と食を考える(2)　有機農業運動
10 ゴミ問題を考える(1)　コモンズの悲劇と社会的ジレンマ
11 ゴミ問題を考える(2)　リサイクルの取り組みとその課題
12.環境 NPO/市民活動を考える　社会運動として NPO
13.歴史的環境と景観を考える(1)　歴史的環境とは何か
14.歴史的環境と景観を考える(2)　観光まちづくり
15.まとめ　現代社会と環境

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	

年度	2015	授業コード	J50190B02
科目名	環境社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Sociology B		
担当者名	寺田　憲弘	旧科目名称	
講義概要	環境問題は自然科学的問題であるばかりではなく、人間の営みを反映させた社会的問題でもあります。そして、現代社会において「環境」の問題はますます大きく、身近なものとなっています。 環境社会学の対象は、大きくは二つにわけられます。すなわち、産業化、近代化の過程で生態環境、生活環境が劣悪化していく過程である社会問題としての環境問題（イッシュー型）と人々が日常生活を築く過程における環境とのかかわりに関する環境問題（コンテキスト型）です。 前者は、公害問題あるいは環境問題など社会問題化した環境と社会の関係を扱います。後者は普段の生活と周囲の自然環境との関わりを扱います。本講座にでは後者を中心に扱います。 人間社会にとっての脅威となる「環境」ではなく、人間に日々の糧や安らぎを与える存在としての自然環境との関係を事例を紹介しながら、社会学の理論も学んでもらいます。		
教材（テキスト）	『よくわかる環境社会学』鳥越皓之・帯谷博明 ミネルバ書房。授業においては、レジュメを配付します。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	授業態度、出席状況等を含む平常点(40%)と、レポート(20%)、そして、テスト(40%)の 3 点から総合的に判断する。		
到達目標	社会学およびその近隣社会科学の概念・理論によって、環境問題を理解できるようになる。		
準備学習	授業は、社会学を中心とした理論と具体的事例からなります。次回の授業内容について、その授業で扱う理論と事例を紹介しますので、理論については、概論書、社会学事典等で調べて下さい。事例については、web などで調べてください。		

受講者への要望

環境問題に対する関心を少しくらいはもっていること。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション　身近な自然、日本の森林
2.自然保護を考える(1)　自然保護制度
3.自然保護を考える(2)　エコ・ツーリズム
4.身近な自然を考える(1)　自然観
5.身近な自然を考える(2)　コモンズ
6.生活と水を考える(1)　生活環境主義
7.生活と水を考える(2)　近代と河川
8.農と食を考える(1)　「農」と「食」の変化
9.農と食を考える(2)　有機農業運動
10 ゴミ問題を考える(1)　コモンズの悲劇と社会的ジレンマ
11 ゴミ問題を考える(2)　リサイクルの取り組みとその課題
12.環境 NPO/市民活動を考える　社会運動として NPO
13.歴史的環境と景観を考える(1)　歴史的環境とは何か
14.歴史的環境と景観を考える(2)　観光まちづくり
15.まとめ　現代社会と環境

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	

年度	2015	授業コード	J50202001
科目名	京都観光を英語で	単位数	2
科目名（英語表記）	Kyoto Tourism in English		
担当者名	Sean Bell	旧科目名称	
講義概要	In this class we will do research on sightseeing spots in Kyoto and learn how to talk about these places as well as present them in English. Some classes will involve going to temples/shrines or places to do research.		
教材（テキスト）	Kyoto―29 Walks in Japan's Ancient Capital?　ペーパーバック: 376 pages ?　Publisher: チャールズ・イ・タトル出版; Pap/Map edition (April 27, 2011) ?　Language: 英語, 英語, 英語 ?　ISBN-10: 4805309180 ?　ISBN-13: 978-4805309186 ?　Release Date: April 27, 2011		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	60% Report. (30% as oral report / 30% as written) 20% Class work. Working in pairs, homework, role-plays, participation, etc. (Please come to class) 20% Effort. Raising hand, asking questions, pair work, and so on.		
到達目標	To build intermediate conversation skills. Be able to use English skills at a level good enough for intermediate everyday conversation as well as work in the future. Vocabulary, listening, and reading skills will also improve.		
準備学習	Finish homework before class. Attendance is important to cover all units and understand them. Ask questions when you don’t understand.		

受講者への要望

Please buy the textbook. We will be using it a lot.
A dictionary would be useful for unknown words.
Ask questions if you don't understand.
Make notes in your book or keep a notebook.

講義の順序とポイント

1. Introductions / Target of class / Scoring / How was Spring break?
Find out what interests the class has so we can tailor topics to fit everyone.

2. Book ? Introduction and Chapter 1. Begin teaching presentation skills. Introduction and physical aspects. Practice these skills in class.

3. Use and present the skills from the Introduction section. Walking tour 1 Kiyomizu area.

4. Walking tour 3 Higashiyama area.

5. Body of a presentation.　Choose an area to slowly make a presentation for.

6. More on the body of a presentation. Work on and present a mini topic practicing body. Students will evaluate and give

feedback. Walking tour 5 Gion area.

7. Review areas discussed and possibly a video on Japan.

8. Presentation skills visuals. There are many ways to use visuals and we will look at this in detail. Walking tour 6 Heian Shrine area.

9. Presentation skills conclusion. Practice and review visuals from the previous week.

10. Talk about handling questions. Walking tour 7 Nanzen-ji area.

11. Walking tour 9 Nijo Castle area.

12. Walking tour 10 TO-Ji and or 11 Tofuku-Ji area.

13. Start putting the final presentation together.

14. Full presentations in class. Students will evaluate each presentation with a chance for feedback after each presentation.

15. Review what was taught throughout the year

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★			★	

年度	2015	授業コード	J50202002
科目名	京都観光を英語で	単位数	2
科目名（英語表記）	Kyoto Tourism in English		
担当者名	Sean Bell	旧科目名称	
講義概要	In this class we will do research on sightseeing spots in Kyoto and learn how to talk about these places as well as present them in English. Some classes will involve going to temples/shrines or places to do research.		
教材（テキスト）	Kyoto―29 Walks in Japan's Ancient Capital?　ペーパーバック: 376 pages ?　Publisher: チャールズ・イ・タトル出版; Pap/Map edition (April 27, 2011) ?　Language: 英語, 英語, 英語 ?　ISBN-10: 4805309180 ?　ISBN-13: 978-4805309186 ?　Release Date: April 27, 2011		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	60% Report. (30% as oral report / 30% as written) 20% Class work. Working in pairs, homework, role-plays, participation, etc. (Please come to class) 20% Effort. Raising hand, asking questions, pair work, and so on.		
到達目標	To build intermediate conversation skills. Be able to use English skills at a level good enough for intermediate everyday conversation as well as work in the future. Vocabulary, listening, and reading skills will also improve.		
準備学習	Finish homework before class. Attendance is important to cover all units and understand them. Ask questions when you don’t understand.		

受講者への要望

Please buy the textbook. We will be using it a lot.
A dictionary would be useful for unknown words.
Ask questions if you don't understand.
Make notes in your book or keep a notebook.

講義の順序とポイント

1. Introductions / Target of class / Scoring / How was Spring break?
Find out what interests the class has so we can tailor topics to fit everyone.

2. Book ? Introduction and Chapter 1. Begin teaching presentation skills. Introduction and physical aspects. Practice these skills in class.

3. Use and present the skills from the Introduction section. Walking tour 1 Kiyomizu area.

4. Walking tour 3 Higashiyama area.

5. Body of a presentation.　Choose an area to slowly make a presentation for.

6. More on the body of a presentation. Work on and present a mini topic practicing body. Students will evaluate and give

feedback. Walking tour 5 Gion area.

7. Review areas discussed and possibly a video on Japan.

8. Presentation skills visuals. There are many ways to use visuals and we will look at this in detail. Walking tour 6 Heian Shrine area.

9. Presentation skills conclusion. Practice and review visuals from the previous week.

10. Talk about handling questions. Walking tour 7 Nanzen-ji area.

11. Walking tour 9 Nijo Castle area.

12. Walking tour 10 TO-Ji and or 11 Tofuku-Ji area.

13. Start putting the final presentation together.

14. Full presentations in class. Students will evaluate each presentation with a chance for feedback after each presentation.

15. Review what was taught throughout the year

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★			★	

年度	2015	授業コード	J50204A01
科目名	教育心理学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Psychology I		
担当者名	池田　賢司	旧科目名称	
講義概要	教育心理学は学校教育を対象とする心理学です。教育心理学では，学習効果をいかに高めるかということや，生徒間の関係や生徒と教師の関係、いじめや不登校などの問題、学校環境などを研究対象としています。よりよい教育を提供するために，各成長段階における子どもについての理解が不可欠となります。この講義では，まず学習者である生徒・児童について理解することを目指し，学習に関わる人間の基本的な機能や子どもの発達を中心に説明していきます。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する		
教材（その他）	講義中に適宜配布する		
評価方法	授業中の理解度チェックと小レポート（40%） 定期テスト（60%）		
到達目標	学習を行う際に関係する人間の機能について，どのような機能か，どのように学習に関係しているのかを説明することができるようになる		
準備学習	特に事前準備が必要となる場合には，講義の際に適宜指示します。		

受講者への要望

1. 講義中の私語、携帯電話の使用は他の受講者の迷惑になるため，厳禁です。場合によっては退室を求めることがあります。
2. 質問や要望は講義中に配布する用紙に記入し，講義後に提出してください。
3. 講師へ直接質問したい場合は原則講義後にお願いします。
4. 講義中に調査，実験を実施することがあります。積極的に参加してください。
5. 秋学期開講科目の教育心理学IIも受講することが望ましいです。教育心理学についてより理解が深まると思います。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. 学習のメカニズム①
3. 学習のメカニズム②
4. 動機づけ①
5. 動機づけ②
6. 記憶①
7. 記憶②
8. 記憶③
9. 読解力の発達と教育①
10. 読解力の発達と教育②
11. メタ認知①
12. メタ認知②
13. メタ認知③
14. 学習方略
15. 学習に影響を及ぼす諸要因

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J50204A02
科目名	教育心理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Psychology I		
担当者名	池田　賢司	旧科目名称	
講義概要	教育心理学は学校教育を対象とする心理学です。教育心理学では，学習効果をいかに高めるかということや，生徒間の関係や生徒と教師の関係、いじめや不登校などの問題、学校環境などを研究対象としています。よりよい教育を提供するために，各成長段階における子どもについての理解が不可欠となります。この講義では，まず学習者である生徒・児童について理解することを目指し，学習に関わる人間の基本的な機能や子どもの発達を中心に説明していきます。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する		
教材（その他）	講義中に適宜配布する		
評価方法	授業中の理解度チェックと小レポート（40%） 定期テスト（60%）		
到達目標	学習を行う際に関係する人間の機能について，どのような機能か，どのように学習に関係しているのかを説明することができるようになる		
準備学習	特に事前準備が必要となる場合には，講義の際に適宜指示します。		

受講者への要望

1. 講義中の私語、携帯電話の使用は他の受講者の迷惑になるため，厳禁です。場合によっては退室を求めることがあります。
2. 質問や要望は講義中に配布する用紙に記入し，講義後に提出してください。
3. 講師へ直接質問したい場合は原則講義後にお願いします。
4. 講義中に調査，実験を実施することがあります。積極的に参加してください。
5. 秋学期開講科目の教育心理学Ⅱも受講することが望ましいです。教育心理学についてより理解が深まると思います。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. 学習のメカニズム①
3. 学習のメカニズム②
4. 動機づけ①
5. 動機づけ②
6. 記憶①
7. 記憶②
8. 記憶③
9. 読解力の発達と教育①
10. 読解力の発達と教育②
11. メタ認知①
12. メタ認知②
13. メタ認知③
14. 学習方略
15. 学習に影響を及ぼす諸要因

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J50204B01
科目名	教育心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Psychology Ⅱ		
担当者名	池田　賢司	旧科目名称	
講義概要	教育心理学は学校教育を対象とする心理学です。教育心理学では，学習効果をいかに高めるかということや，生徒間の関係や生徒と教師の関係、いじめや不登校などの問題、学校環境などを研究対象としています。よりよい教育を提供するために，各成長段階における子どもについての理解が不可欠となります。この講義では，まず学習者である生徒・児童について理解することを目指し，学習に関わる人間の基本的な機能や子どもの発達を中心に説明していきます。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する		
教材（その他）	講義中に適宜配布する		
評価方法	授業中の理解度チェックと小レポート（40%） 定期テスト（60%）		
到達目標	子どもの発達に伴う変化や子どものさまざまな支援とその効果について説明できるようになる		
準備学習	特に事前準備が必要となる場合には，講義の際に適宜指示します。		

受講者への要望

1. 講義中の私語、携帯電話の使用は他の受講者の迷惑になるため，厳禁です。場合によっては退室を求めることがあります。
2. 質問や要望は講義中に配布する用紙に記入し，講義後に提出してください。
3. 講師へ直接質問したい場合は原則講義後にお願いします。
4. 講義中に調査，実験を実施することがあります。積極的に参加してください。
5. 春学期開講科目の教育心理学Ⅰも受講していることが望ましいです。教育心理学についてより理解が深まると思います。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. 発達の理論①
3. 発達の理論②
4. 乳・幼児期
5. 社会性と道徳性の発達①
6. 社会性と道徳性の発達②
7. 青年期
8. 適応の理解と支援①
9. 適応の理解と支援②
10. 学習への支援①
11. 学習への支援②
12. 教育における測定と評価
13. 学習における障害
14. 教師の成長
15. 発達と学校における問題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J50204B02
科目名	教育心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Psychology Ⅱ		
担当者名	池田　賢司	旧科目名称	
講義概要	教育心理学は学校教育を対象とする心理学です。教育心理学では，学習効果をいかに高めるかということや，生徒間の関係や生徒と教師の関係、いじめや不登校などの問題、学校環境などを研究対象としています。よりよい教育を提供するために，各成長段階における子どもについての理解が不可欠となります。この講義では，まず学習者である生徒・児童について理解することを目指し，学習に関わる人間の基本的な機能や子どもの発達を中心に説明していきます。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する		
教材（その他）	講義中に適宜配布する		
評価方法	授業中の理解度チェックと小レポート（40%） 定期テスト（60%）		
到達目標	子どもの発達に伴う変化や子どものさまざまな支援とその効果について説明できるようになる		
準備学習	特に事前準備が必要となる場合には，講義の際に適宜指示します。		

受講者への要望

1. 講義中の私語、携帯電話の使用は他の受講者の迷惑になるため，厳禁です。場合によっては退室を求めることがあります。
2. 質問や要望は講義中に配布する用紙に記入し，講義後に提出してください。
3. 講師へ直接質問したい場合は原則講義後にお願いします。
4. 講義中に調査，実験を実施することがあります。積極的に参加してください。
5. 春学期開講科目の教育心理学Ⅰも受講していることが望ましいです。教育心理学についてより理解が深まると思います。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. 発達の理論①
3. 発達の理論②
4. 乳・幼児期
5. 社会性と道徳性の発達①
6. 社会性と道徳性の発達②
7. 青年期
8. 適応の理解と支援①
9. 適応の理解と支援②
10. 学習への支援①
11. 学習への支援②
12. 教育における測定と評価
13. 学習における障害
14. 教師の成長
15. 発達と学校における問題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J50213A01
科目名	教育学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Pedagogy A		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	教育の思想 A，教育の思想 s
講義概要	現代社会には、「学校は（親は）ダメになった」、「教育とはかくあるべきだ」といった語りが数多く氾濫している。しかしながら、こうした「教育言説」の数々が、物事の本質を見失わせ、時に一部の人々を深く傷つける可能性をはらんでいることを見過ごしてはならない。 本講義では、教育社会学という視点を通して、「学校」という装置、また、これと社会との関係性について多角的に検討していく。このことを通して、教育についての理解と深い洞察力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	苅谷剛彦『学校って何だろう―教育の社会学入門』ちくま文庫、2005 年。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介します		
教材（その他）	授業中プリントを配布します		
評価方法	成績評価は平常点とレポートにより行います。 平常点（出席状況、授業態度等）７０％　レポート３０％。 ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	①「学校」という装置の性質、その社会的機能について深く考察する。 ②今日の「教育言説」について批判的に検討する視点を身につける。		
準備学習	新聞やニュースで報じられる教育の諸問題に関心を持っておいてください。		

受講者への要望

・受講者数に応じて、部分的に演習形式を導入します。発表や議論への積極的な参加を求めます。
・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は平常点の減点対象とします。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス
２．教育をめぐる言説
３．教育社会学という学問
４．学校とは何か①―なぜ勉強するのか
５．学校とは何か②―試験
６．学校とは何か③―校則
７．学校とは何か④―教科書
８．学校とは何か⑤―隠れたカリキュラム
９．学校とは何か⑥―教師
１０．学校とは何か⑦―生徒
１１．いじめ問題を考える①
１２．いじめ問題を考える②
１３．学校と社会のつながり①―学歴
１４．学校と社会のつながり②―学校と家庭
１５．総括―学問的視点から「学校」を考える

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★			★	

年度	2015	授業コード	J50213A02
科目名	教育学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Pedagogy A		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	教育の思想 A，教育の思想 s
講義概要	現代社会には、「学校は（親は）ダメになった」、「教育とはかくあるべきだ」といった語りが数多く氾濫している。しかしながら、こうした「教育言説」の数々が、物事の本質を見失わせ、時に一部の人々を深く傷つける可能性をはらんでいることを見過ごしてはならない。 本講義では、教育社会学という視点を通して、「学校」という装置、また、これと社会との関係性について多角的に検討していく。このことを通して、教育についての理解と深い洞察力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	苅谷剛彦『学校って何だろう―教育の社会学入門』ちくま文庫、2005 年。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介します		
教材（その他）	授業中プリントを配布します		
評価方法	成績評価は平常点とレポートにより行います。 平常点（出席状況、授業態度等）７０％　レポート３０％。 ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	①「学校」という装置の性質、その社会的機能について深く考察する。 ②今日の「教育言説」について批判的に検討する視点を身につける。		
準備学習	新聞やニュースで報じられる教育の諸問題に関心を持っておいてください。		

受講者への要望

・受講者数に応じて、部分的に演習形式を導入します。発表や議論への積極的な参加を求めます。
・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は平常点の減点対象とします。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス
２．教育をめぐる言説
３．教育社会学という学問
４．学校とは何か①―なぜ勉強するのか
５．学校とは何か②―試験
６．学校とは何か③―校則
７．学校とは何か④―教科書
８．学校とは何か⑤―隠れたカリキュラム
９．学校とは何か⑥―教師
１０．学校とは何か⑦―生徒
１１．いじめ問題を考える①
１２．いじめ問題を考える②
１３．学校と社会のつながり①―学歴
１４．学校と社会のつながり②―学校と家庭
１５．総括―学問的視点から「学校」を考える

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★			★	

年度	2015	授業コード	J50213B01
科目名	教育学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Pedagogy B		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	教育の思想Ｂ，教育の思想ｆ
講義概要	現代に生きる私たちは、子どもが学校や家庭で人間形成されることが当然であり、かつ重要であると考えている。しかしながら、学校教育も家庭教育も超歴史的に存在していたわけでは決してない。近代的な学校教育システムが登場したのも、両親が当たり前のように我が子を教育するようになったのも、ここ 100 年余りのことである。学校教育や家庭教育が多くの人々にとって身近なものとなったのは、どのような経緯からか。教育対象としての子どもはどのように眼差されるようになったのか。本講義では、18 世紀から 19 世紀にかけてのフランスを中心に検討する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します		
教材（その他）	授業中プリントを配布します		
評価方法	成績評価は平常点と試験により行います。 平常点（出席状況、授業態度等）６０％　レポート４０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	①近代フランスの学校教育、家庭教育の歴史を理解する。 ②教育の今日的課題について、歴史的に考察する視点を身につける。		
準備学習	新聞やニュースで報じられる教育の諸問題に関心を持っておいてください。		
受講者への要望			
・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は平常点の減点対象とします。 ・授業中に私語を２回注意された人は退室してもらいます。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス ２．歴史のなかの子ども① ３．歴史のなかの子ども② ４．現代フランスの家族 ５．家族と教育の歴史①―「子ども」の発見者、ルソー ６．家族と教育の歴史②―多産多死から少産少死へ ７．家族と教育の歴史③―厳しくしつけられる子どもたち ８．家族と教育の歴史④―娘はどのように育てられたのか ９．映画『パリ 20 区、僕たちのクラス』にみる現代フランスの教育問題① １０．映画『パリ 20 区、僕たちのクラス』にみる現代フランスの教育問題② １１．フランスの学校、日本の学校 １２．学校教育の歴史①―すべての子どもを学校へ １３．学校教育の歴史②―近代教育思想の展開 １４．学校教育の歴史③―公教育制度の成立 １５．学校教育の歴史④―女子教育の公教育化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50213B02
科目名	教育学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Pedagogy B		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	教育の思想Ｂ，教育の思想ｆ
講義概要	現代に生きる私たちは、子どもが学校や家庭で人間形成されることが当然であり、かつ重要であると考えている。しかしながら、学校教育も家庭教育も超歴史的に存在していたわけでは決してない。近代的な学校教育システムが登場したのも、両親が当たり前のように我が子を教育するようになったのも、ここ 100 年余りのことである。学校教育や家庭教育が多くの人々にとって身近なものとなったのは、どのような経緯からか。教育対象としての子どもはどのように眼差されるようになったのか。本講義では、18 世紀から 19 世紀にかけてのフランスを中心に検討する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します		
教材（その他）	授業中プリントを配布します		
評価方法	成績評価は平常点と試験により行います。 平常点（出席状況、授業態度等）６０％　レポート４０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	①近代フランスの学校教育、家庭教育の歴史を理解する。 ②教育の今日的課題について、歴史的に考察する視点を身につける。		
準備学習	新聞やニュースで報じられる教育の諸問題に関心を持っておいてください。		
受講者への要望			
・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は平常点の減点対象とします。 ・授業中に私語を２回注意された人は退室してもらいます。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス ２．歴史のなかの子ども① ３．歴史のなかの子ども② ４．現代フランスの家族 ５．家族と教育の歴史①―「子ども」の発見者、ルソー ６．家族と教育の歴史②―多産多死から少産少死へ ７．家族と教育の歴史③―厳しくしつけられる子どもたち ８．家族と教育の歴史④―娘はどのように育てられたのか ９．映画『パリ 20 区、僕たちのクラス』にみる現代フランスの教育問題① １０．映画『パリ 20 区、僕たちのクラス』にみる現代フランスの教育問題② １１．フランスの学校、日本の学校 １２．学校教育の歴史①―すべての子どもを学校へ １３．学校教育の歴史②―近代教育思想の展開 １４．学校教育の歴史③―公教育制度の成立 １５．学校教育の歴史④―女子教育の公教育化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50220A01
科目名	教育社会学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Sociology A		
担当者名	新堂　粧子	旧科目名称	教育社会学 s
講義概要	教育の機能は、国民社会にとって有用でありかつそれの要請に適応する人間を形成することに限られない、という論点を明示するために、「社会化」とは区別される「超社会化」という用語を呈示する。人間の欲望と能力はたしかに社会によって変容され補完されるが、この社会化により人間の潜在性がすべて開発されるわけではない。逆にその潜在性を損ない歪めて現実化することもある。はたして人間の独創性や創造力はどこからやってくるのだろうか。このような問いを発する時、我々は社会化には還元できない人間形成のもうひとつの側面＝超社会化について論じざるをえないだろう。 本講義では超社会化概念の成立根拠となる、生成の思想にもとづく人間学の一端を紹介する。H.ベルクソンの「閉じたもの」と「開いたもの」、作田啓一の「拡大体験」と「溶解体験」など。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	作田啓一『三次元の人間 ― 生成の思想を語る』行路社、1998 年再版 亀山佳明・麻生武・矢野智司編『野性の教育をめざして ― 子どもの社会化から超社会化へ』新曜社、2000 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中に適宜課するレポート、または学期末の試験。 受講者の人数や理解度により変更し、配点その他の詳細については授業の中で示す。		
到達目標	今日の社会における教育を論じるさいに「社会化」とは区別される「超社会化」概念を用いることの意味を理解し、この概念により検討されうる人間形成の根源的側面への各自の関心、直観力を引き出すことを目標とする。		
準備学習	各自が最も生き生きとした実感をもつのはどんな時か、そのような実感と教育との関係について考えてみること。		

受講者への要望

出席した以上は、私語を慎んでほしい。

講義の順序とポイント

1. 社会化と超社会化(1)
2. 社会化と超社会化(2)
3. 自己境界の拡大と溶解(1)
4. 自己境界の拡大と溶解(2)
5. 自己境界の拡大と溶解(3)
6. 主体－客体関係の三類型(1)
7. 主体－客体関係の三類型(2)
8. 主体－客体関係の三類型(3)
9. 生命感について(1)
10. 生命感について(2)
11. 定着と生成(1)
12. 定着と生成(2)
13. 自己意識論(1)
14. 自己意識論(2)
15. 現代社会における教育の諸課題
16.定期試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50220A02
科目名	教育社会学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Sociology A		
担当者名	新堂　粧子	旧科目名称	教育社会学 s
講義概要	教育の機能は、国民社会にとって有用でありかつそれの要請に適応する人間を形成することに限られない、という論点を明示するために、「社会化」とは区別される「超社会化」という用語を呈示する。人間の欲望と能力はたしかに社会によって変容され補完されるが、この社会化により人間の潜在性がすべて開発されるわけではない。逆にその潜在性を損ない歪めて現実化することもある。はたして人間の独創性や創造力はどこからやってくるのだろうか。このような問いを発する時、我々は社会化には還元できない人間形成のもうひとつの側面＝超社会化について論じざるをえないだろう。 本講義では超社会化概念の成立根拠となる、生成の思想にもとづく人間学の一端を紹介する。H.ベルクソンの「閉じたもの」と「開いたもの」、作田啓一の「拡大体験」と「溶解体験」など。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	作田啓一『三次元の人間 ― 生成の思想を語る』行路社、1998 年再版 亀山佳明・麻生武・矢野智司編『野性の教育をめざして ― 子どもの社会化から超社会化へ』新曜社、2000 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中に適宜課するレポート、または学期末の試験。 受講者の人数や理解度により変更し、配点その他の詳細については授業の中で示す。		
到達目標	今日の社会における教育を論じるさいに「社会化」とは区別される「超社会化」概念を用いることの意味を理解し、この概念により検討されうる人間形成の根源的側面への各自の関心、直観力を引き出すことを目標とする。		
準備学習	各自が最も生き生きとした実感をもつのはどんな時か、そのような実感と教育との関係について考えてみること。		

受講者への要望

出席した以上は、私語を慎んでほしい。

講義の順序とポイント

1. 社会化と超社会化(1)
2. 社会化と超社会化(2)
3. 自己境界の拡大と溶解(1)
4. 自己境界の拡大と溶解(2)
5. 自己境界の拡大と溶解(3)
6. 主体－客体関係の三類型(1)
7. 主体－客体関係の三類型(2)
8. 主体－客体関係の三類型(3)
9. 生命感について(1)
10. 生命感について(2)
11. 定着と生成(1)
12. 定着と生成(2)
13. 自己意識論(1)
14. 自己意識論(2)
15. 現代社会における教育の諸課題
16.定期試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50227001
科目名	現代アートへの招待	単位数	2
科目名（英語表記）	Invitation to Contemporary Art		
担当者名	藤阪　新吾	旧科目名称	現代アートへの招待
講義概要	アート art は本来、生の技法 art であり、私たちに活力を与え、生活をより良くする力を持っています。アートは道徳の善悪や科学の真偽の枠に収まらず、「感じること」と「考えること」を同時に作動させます。この授業では、「感じること」と「考えること」をともに大切にしつつ、現代アートの魅力とその力の源を探っていきます。 現代アートは「わからない」「難しい」という言い方がよくなされます。他方、現代アートは自由に「感じればいい」という言い方もなされます。この「わかるようなわからないような」、「難しいようなそうでないような」、「自由に感じられるようなそうでないような」ところに、現代アートの独特なあじわいがあります。 授業では、現代アートの基礎を解説する講義に加えてフィールドワークやワークショップなどを行い、現代アートを多様な角度から学びます。この総合的な学びによって、何気ない日常のなかに新たな喜びや豊かさを発見できる知性と感性を養うこと、これがこの授業の目標です。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	学習に必要な資料は授業内にプリントにて配布します		
評価方法	平常点（60%）：講義・フィールドワークへの参加を含む レポート（40%）		
到達目標	現代のさまざまなアート作品と表現方法、アートをめぐる社会的状況を、感じ考えることをとおして、現代アートへの感受性と理解力を身につける。		
準備学習	本や雑誌、テレビやインターネットをはじめ、アートをめぐるビジュアルとテキストに意識的に触れること。さまざまなギャラリーや美術館にできるだけ足を運ぶこと。		

受講者への要望

＊8月4日(火)・5日(水)・6日(木)・7日(金)の4日間の「集中講義」を予定しています。
＊授業は「京町家キャンパス」にて行う予定です。
＊フィールドワークにかかる交通費および施設入場料等は自己負担となります。
＊展覧会の会期や現場の事情等によって日時・内容が調整される場合があります。
＊本講義の受講者には、秋学期の「アートギャラリー実習Ⅰ・Ⅱ」を受講することを期待します。

現代アートをより深く感じ、理解するには、受け身で授業を受ける（消費する）だけでは不十分です。情報による固定観念をわきに置いて、アートを積極的かつ意欲的に味わう姿勢によって、あじわいもより深いものとなります。このことがわかれば、感覚的にキモチいいこととも観念的に楽しいこととともまた別の「快感・喜び」の体験世界が広がることでしょう。

講義の順序とポイント

1．はじめに：アートをあじわうために
2．レクチャー①：多様な表現とさまざまな作品
3．レクチャー②：自然美／芸術美／社会美
4．レクチャー③： 感じるアート／考えるアート
5．フィールドワーク①（美術館／ギャラリー）
6．フィールドワーク②（美術館／ギャラリー）
7．ディスカッション①／レポート作成①
8．レクチャー④：芸術／アート／デザイン
9．レクチャー⑤：亀岡プロジェクト
10．ワークショップ①
11．ワークショップ②
12．レクチャー⑥：生の技法 art
13．レクチャー⑦：アートと社会美学
14．レポート作成②／ディスカッション②
15．アートのあじわい

＊8月4日(火)・5日(水)・6日(木)・7日(金)の4日間の「集中講義」を予定しています。
＊授業は「京町家キャンパス」で行う予定です。
＊京町家キャンパスの授業時間は大学と異なるので確認してください　［例］京町家の2時間目は10時40分開始

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★★		

年度	2015	授業コード	J50228001
科目名	現代イギリス・アイルランド事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Contemporary English and Irish Society		
担当者名	今西　薫	旧科目名称	
講義概要	言葉と文化とは密接な関係がある。言葉を理解しつつ文化を理解する方式で授業をすすめる。通常の英語授業では、英語のスキルの向上を主眼としているが、この授業では、「英語」は、あくまで文化理解のためのツールとして考え、様々なテーマに関して、テキストを読み、文化背景を考え、日本との比較を行なう。また、各自で関連事項などをインターネットで調べて、それを翻訳するか、そのことに関して、できれば英語で、できなければ日本語で「考え、自分の意見を書ける」ような授業にしていく。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内テスト(50%) 授業内レポート(50%)		
到達目標	地の国の成り立ちや文化を知るだけでなく、それによって日本のことも相対的に比較できる多角的な価値判断能力の基礎を養う。		
準備学習	常々、海外のニュースなどを興味を持って見たり、読んだりするように努めてください。		
受講者への要望			
なにか、自分の興味のある事柄に関して、他の国と日本と比較するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.History and People 1 2 History and People 2 3.Lodon 1 4.London 2 5.Language 6.Fables 7.Young and Old 8.Customs 9.Population 10. Shakespeare and His Plays 11. Culture and Manner 12.Whalingy 13.Smoking 14. Sherlock Holmes 15. Ireland and England			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★		★		★	★★

年度	2015	授業コード	J50233A02
科目名	現代映画論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Movie Theory of Present Age A		
担当者名	春岡　勇二	旧科目名称	現代映画論 s
講義概要	核とメディア、そして映像の世紀であった 20 世紀を越え、さらにコンピューターによる映像関連技術の驚異的な発達も加わり、まさに映像表現は新世紀、新時代に入ったと言える。そういう時代だからこそ、映画芸術に関する知識や本質的な意味を探る試みはますます重要な意味を持つ。また、時代の傾向に敏感であること、優れた表現を鋭い感性で受け止めることは、豊かな人格形成や社会人としての能力向上に役立つものであり、時事性と芸術性を併せて内包する映画を意識しておくことは、その訓練としても有効である。本講義では、批評という方法を通して映画の題材や表現を分析し、芸術表現に対する批評眼・鑑賞眼を養っていく。さらに主に新作映画を対象に、監督・脚本・主題といった点に注目し、現代映画の傾向、作家（表現者）の意向を把握し、映画を通して見えてくる時代性を認識する。映画に対する感性と教養の双方に豊かな人材の育成を目指したい。		
教材（テキスト）	なし。講義内容に応じて適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（60%）、出席状況等による。各期末提出のレポート（40%）。		
到達目標	映画という芸術表現に関して深い知識を有し、豊かな感性で表現に接して、作品の意味、表現方法、時事を主とした製作背景など様々な観点から分析、批評することができるようにしたい。そして、就職活動時等にそれを自己分析の一つとしてアピールできるよう図りたい。		
準備学習	映画を常に意識してもらいたい。例えば、映画館において上映中、もしくは上映予定の作品についても、物語や内容ばかりでなく、監督、原作、脚本、撮影、音楽といったスタッフの陣容にまで注意を払う興味を持って講義に臨むこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席すること。質問等は積極的に行ってほしい。			
講義の順序とポイント			
01. 映画批評とはなにか。映画をどう観るか。 02. 現代米映画の傾向（昨年度のアカデミー賞から見えてくるもの①） 03. 現代米映画の傾向（昨年度のアカデミー賞から見えてくるもの②） 04. 現代日本映画の傾向（昨年度のベストテン作品から見えてくるもの①） 05. 現代日本映画の傾向（昨年度のベストテン作品から見えてくるもの②） 06. 現代日本映画の傾向（昨年度公開作品から見えてくるもの） 07. 本年公開の外国映画の特徴（欧米の作品を中心に①） 08. 本年公開の外国映画の特徴（欧米の作品を中心に②） 09. 本年公開の日本映画の特徴① 10. 本年公開の日本映画の特徴② 11. 本年公開の外国映画の特徴（アジアの作品を中心に①） 12. 本年公開の外国映画の特徴（アジアの作品を中心に②） 13. 本年公開の日本映画の特徴③ 14. 上半期公開の日本映画・外国映画の総括 15. 前期講義のまとめとしてのレポート執筆			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J50233B02
科目名	現代映画論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Movie Theory of Present Age B		
担当者名	春岡　勇二	旧科目名称	現代映画論ｆ
講義概要	前期の「現代映画論Ａ」の講義をさらに進めていく。誕生から百年ほどしか経っていないなか、常に大衆文化をリードし、流行を生み出す強力なメディアとして存在し続ける“映画”。文学作品や戯曲、オリジナル・ストーリーなどを映像で表現する芸術である一方で、映像による時事の記録という側面まで持つ“映画”というものに迫る目的で、講義を行う時点での近々の公開作品を題材にしつつ、その作品へと連なる過去の作品も取り上げ、表現者たち、製作者たち、作品内容の変遷など歴史的考察を加えて、より深い理解と分析を促していく。		
教材（テキスト）	なし。講義内容に応じて適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義中、適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（60%）、出席状況等による。期末レポート（40%）。		
到達目標	映画の歴史的背景を理解し、映画をより深く分析、批評することを目標とする。		
準備学習	講義を行う時点での、近々の劇場公開作品を題材とするので、常に関心を抱いておくこと。講義終了時に次回題材とする作品を告知した場合には、その作品について監督名、内容等の下調べをしておくこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に臨むこと。質問等あれば積極的に尋ねてほしい。

講義の順序とポイント

01. 近々公開の米映画を題材にして、作品の内容やスタッフの歴史的系譜を考察する①
02. 近々公開の米映画を題材にして、作品の内容やスタッフの歴史的系譜を考察する②
03. 近々公開の米映画を題材にして、作品の内容やスタッフの歴史的系譜を考察する③
04. 近々公開の日本映画を題材にして、作品の内容やスタッフの歴史的系譜を考察する①
05. 近々公開の日本映画を題材にして、作品の内容やスタッフの歴史的系譜を考察する②
06. 近々公開の日本映画を題材にして、作品の内容やスタッフの歴史的系譜を考察する③
07. 近々公開の欧州映画を題材にして、作品の内容やスタッフの歴史的系譜を考察する①
08. 近々公開の欧州映画を題材にして、作品の内容やスタッフの歴史的系譜を考察する②
09. 近々公開のアジア映画を題材にして、作品の内容やスタッフの歴史的系譜を考察する①
10. 近々公開のアジア映画を題材にして、作品の内容やスタッフの歴史的系譜を考察する②
11. 本年公開の日本映画の傾向、特徴を考察する①
12. 本年公開の日本映画の傾向、特徴を考察する②
13. 本年公開の外国映画の傾向、特徴を考察する
14. レポート課題用作品鑑賞
15. 講義のまとめとレポート執筆

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J50234001
科目名	現代経済の読み方	単位数	2
科目名（英語表記）	Analysis of Contemporary Economics		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	まず，今日どのような経済現象が問題なのかを考える。 今日日本では都市部の大企業，投資家などを中心に景気が回復しつつあるが，地方，中小，自営，労働者などへどこまで広がっているのだろうか。 次に経済現象の実体を分析する。景気については，ＧＤＰ，企業の利益率，失業率などでとらえることができる。これを通して，そこにどの様な法則があるのかを考える。機械設備の更新投資の時期が各企業で重なり，新産業の登場もあたらしい波を作る。1930 年代以降，財政支出政策によって景気が下支えされる。さらには金融規制緩和が金融市場でのブームを作る。最近では企業，国家ぐるみのグローバル化が資本主義に活路を与えている。 原理的には次のように考えられる。 今日は，商品経済の社会であり，人々は生活に必要なものをほとんど市場から入手している。その商品の価格はどの様にして決まるのだろうか。 また，今日では様々な企業の競争と協調の下にある。大企業と中小企業の存在は我々にどの様な影響を与えているのだろうか。 さらに、国家の経済活動なしに経済は成り立たなくなっている。我々は租税、年金、保険などを納め、国家は公共事業や、金利政策によって経済を支えている。国民所得はどう循環しているのか，税率や利子はどう決まるのだろうか。 そして、国際的な金融資産の市場での取引が，経済の他の分野に重大な影響を与える資本主義の渦中にもある。為替レートや株価は何によって動いているのだろうか。 　以上のような現実の経済問題を法則的に捉えることを目的にする。		
教材（テキスト）	なし。 新聞記事，統計データなどを紹介する。		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	毎回の授業の感想などレポート 15 回。　1 回 2 点。出席点ではない。 試験に代わるレポート８０点。		
到達目標	経済現象の奥底には法則があること，堂々巡りにならない必然関係があることをつかむ。 また，富は，生産活動からしか生まれない。うまい話はない。働く以外に富を手に入れる方法はないことを理解する。		
準備学習	新聞やテレビや週刊誌で経済ニュースを見ておくこと。		
受講者への要望			
経済の現実に関心を持つために、自立した経済生活を送ってほしい。アルバイトをしなくてもよいが，家計簿をつけるとよい。			
講義の順序とポイント			
1　経済学とは何か？　　何が問題か，好況の実態 2　価格はどう決まるか 3　企業の業績 4　不況、好況 5　大企業の製品 6　談合 7　国内総生産 8　予算、国債、消費税 9　貨幣，利子率 10　株価，バブル 11　インフレーション，デフレーション			

12　為替レート、原油価格
13　国際収支，貿易
14　グローバリズム
15　経済の段階と重層的構造

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50234002
科目名	現代経済の読み方	単位数	2
科目名（英語表記）	Analysis of Contemporary Economics		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	まず，今日どのような経済現象が問題なのかを考える。 今日日本では都市部の大企業，投資家などを中心に景気が回復しつつあるが，地方，中小，自営，労働者などへどこまで広がっているのだろうか。 次に経済現象の実体を分析する。景気については，ＧＤＰ，企業の利益率，失業率などでとらえることができる。これを通して，そこにどの様な法則があるのかを考える。機械設備の更新投資の時期が各企業で重なり，新産業の登場もあたらしい波を作る。1930 年代以降，財政支出政策によって景気が下支えされる。さらには金融規制緩和が金融市場でのブームを作る。最近では企業，国家ぐるみのグローバル化が資本主義に活路を与えている。 原理的には次のように考えられる。 今日は，商品経済の社会であり，人々は生活に必要なものをほとんど市場から入手している。その商品の価格はどの様にして決まるのだろうか。 また，今日では様々な企業の競争と協調の下にある。大企業と中小企業の存在は我々にどの様な影響を与えているのだろうか。 さらに、国家の経済活動なしに経済は成り立たなくなっている。我々は租税、年金、保険などを納め、国家は公共事業や、金利政策によって経済を支えている。国民所得はどう循環しているのか，税率や利子はどう決まるのだろうか。 そして、国際的な金融資産の市場での取引が，経済の他の分野に重大な影響を与える資本主義の渦中にもある。為替レートや株価は何によって動いているのだろうか。 　以上のような現実の経済問題を法則的に捉えることを目的にする。		
教材（テキスト）	なし。 新聞記事，統計データなどを紹介する。		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	毎回の授業の感想などレポート 15 回。　1 回 2 点。出席点ではない。 試験に代わるレポート８０点。		
到達目標	経済現象の奥底には法則があること，堂々巡りにならない必然関係があることをつかむ。 また，富は，生産活動からしか生まれない。うまい話はない。働く以外に富を手に入れる方法はないことを理解する。		
準備学習	新聞やテレビや週刊誌で経済ニュースを見ておくこと。		
受講者への要望			
経済の現実に関心を持つために、自立した経済生活を送ってほしい。アルバイトをしなくてもよいが，家計簿をつけるとよい。			
講義の順序とポイント			
1　経済学とは何か？　　何が問題か，好況の実態 2　価格はどう決まるか 3　企業の業績 4　不況、好況 5　大企業の製品 6　談合 7　国内総生産 8　予算、国債、消費税 9　貨幣，利子率 10　株価，バブル 11　インフレーション，デフレーション			

12　為替レート、原油価格
13　国際収支，貿易
14　グローバリズム
15　経済の段階と重層的構造

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50238A01
科目名	現代雑誌論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Magazine Theory of Present Age A		
担当者名	石原　基久	旧科目名称	現代雑誌論 s
講義概要	書店またコンビニに並ぶ、さまざまな雑誌。いまや紙に印刷されたものではないデジタル・マガジンも登場して注目を集めている。その種類も、ファッション、エンタテインメント、グルメ etc.日常的な生活レベルから、人文・社会、自然科学、芸術 etc.専門的な分野まで多種多様。若者の雑誌離れが声高に叫ばれる昨今だが、時代とともに柔軟に対応、次々とカタチを変えてきたパワーは健在だ。意識しないうちに、パソコンやスマホ、タブレット端末で雑誌ソースの情報に触れていることも数多い。それら歴史や背景を知ることにより、多角的な視点から、今後の雑誌の果たすべき役割、可能性を考察していく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイント等を活用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点 60%。課題提出 40%。		
到達目標	いまに至る日本の雑誌の歴史を理解。雑誌の可能性を知る。		
準備学習	日々雑誌等メディアに関心を持ち親しんでおくこと。		

受講者への要望

愛読誌を必ず作ろう！

講義の順序とポイント

1. 雑誌とは？
2. ネットには雑誌が取材編集した情報がいっぱい！
3. 出版産業の構造と規模／雑誌の形式・各部名称
4. 雑誌の歴史 1　近代雑誌の始まり　MAGAZINE を「雑誌」と翻訳
5. 雑誌の歴史 2　講談社、小学館など、大手出版社は人気雑誌を発行することで成長した
6. 雑誌の歴史 3　雑誌ジャーナリズムと戦争
7. 雑誌の歴史 4　テレビの登場が雑誌を活性化
8. 雑誌の歴史 5　成熟する社会、多様化する価値観へ対応
9. 雑誌の歴史 6　創刊ラッシュ
10. 雑誌の歴史 7　読む雑誌→見る雑誌→行動を喚起する雑誌
11. 雑誌は細分化する　総合誌→専門誌
12. 雑誌はビジュアル化する
13. 雑誌には広告がいっぱい！
14 .フリーペーパー、デジタルマガジン…雑誌の進化は続く
15. 総括と復習（雑誌の歴史と特性）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50238A02
科目名	現代雑誌論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Magazine Theory of Present Age A		
担当者名	石原　基久	旧科目名称	現代雑誌論 s
講義概要	書店またコンビニに並ぶ、さまざまな雑誌。いまや紙に印刷されたものではないデジタル・マガジンも登場して注目を集めている。その種類も、ファッション、エンタテインメント、グルメ etc.日常的な生活レベルから、人文・社会、自然科学、芸術 etc.専門的な分野まで多種多様。若者の雑誌離れが声高に叫ばれる昨今だが、時代とともに柔軟に対応、次々とカタチを変えてきたパワーは健在だ。意識しないうちに、パソコンやスマホ、タブレット端末で雑誌ソースの情報に触れていることも数多い。それら歴史や背景を知ることにより、多角的な視点から、今後の雑誌の果たすべき役割、可能性を考察していく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイント等を活用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点 60%。課題提出 40%。		
到達目標	いまに至る日本の雑誌の歴史を理解。雑誌の可能性を知る。		
準備学習	日々雑誌等メディアに関心を持ち親しんでおくこと。		

受講者への要望

愛読誌を必ず作ろう！

講義の順序とポイント

1. 雑誌とは？
2. ネットには雑誌が取材編集した情報がいっぱい！
3. 出版産業の構造と規模／雑誌の形式・各部名称
4. 雑誌の歴史 1　近代雑誌の始まり　MAGAZINE を「雑誌」と翻訳
5. 雑誌の歴史 2　講談社、小学館など、大手出版社は人気雑誌を発行することで成長した
6. 雑誌の歴史 3　雑誌ジャーナリズムと戦争
7. 雑誌の歴史 4　テレビの登場が雑誌を活性化
8. 雑誌の歴史 5　成熟する社会、多様化する価値観へ対応
9. 雑誌の歴史 6　創刊ラッシュ
10. 雑誌の歴史 7　読む雑誌→見る雑誌→行動を喚起する雑誌
11. 雑誌は細分化する　総合誌→専門誌
12. 雑誌はビジュアル化する
13. 雑誌には広告がいっぱい！
14 .フリーペーパー、デジタルマガジン…雑誌の進化は続く
15. 総括と復習（雑誌の歴史と特性）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50238B01
科目名	現代雑誌論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Magazine Theory of Present Age B		
担当者名	石原　基久	旧科目名称	現代雑誌論 f
講義概要	雑誌が、いかに作られているのか、他メディアと比較してどんな点で優れているのか、どう進化しようとしているのか……などを学ぶ。その種類も、ファッション、エンタテインメント、グルメ etc.日常的な生活レベルから、人文・社会、自然科学、芸術 etc.専門的な分野まで多種多様。若者の雑誌離れが声高に叫ばれる昨今だが、時代とともに柔軟に対応、次々とカタチを変えてきたパワーは健在だ。意識しないうちに、パソコンやスマホ、タブレット端末で雑誌ソースの情報に触れていることも数多い。作る現場、売る現場…関わるさまざまな人たちの創意工夫を知ることにより、多角的な視点から、今後の雑誌の果たすべき役割、可能性を考察していく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイント等を活用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点 60%。課題提出 40%。		
到達目標	これからの雑誌の可能性/未来像を見出す。		
準備学習	日々雑誌等メディアに関心を持ち親しんでおくこと。		
受講者への要望			
愛読誌を必ず作ろう！			
講義の順序とポイント			
1. 雑誌と出版界の現在 2. 雑誌づくりの現場１　企画が命〜インパクトのある見出し！／どんな時代か？／誰に届ける？ 3. 雑誌づくりの現場２　編集作業の流れ 4. 雑誌づくりの現場３　デザイン／印刷 5. 雑誌のメディア特性１　他メディアとの比較 6. 雑誌のメディア特性２　セグメンテーション 7. 雑誌のメディア特性３　東京と地方 8. 販売収入と広告収入 9. エディトリアル・デザインの冒険 10. メディア規制との闘い 11. ゲリラ・ジャーナリズムこそ雑誌の使命！ 12. 雑誌の未来１　読者との絆 13. 雑誌の未来２　紙か？デジタルか？ 14. 雑誌の未来３　大きな変化とその可能性 15. 総括と復習（雑誌の未来と可能性）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50238B02
科目名	現代雑誌論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Magazine Theory of Present Age B		
担当者名	石原　基久	旧科目名称	現代雑誌論 f
講義概要	雑誌が、いかに作られているのか、他メディアと比較してどんな点で優れているのか、どう進化しようとしているのか……などを学ぶ。その種類も、ファッション、エンタテインメント、グルメ etc.日常的な生活レベルから、人文・社会、自然科学、芸術 etc.専門的な分野まで多種多様。若者の雑誌離れが声高に叫ばれる昨今だが、時代とともに柔軟に対応、次々とカタチを変えてきたパワーは健在だ。意識しないうちに、パソコンやスマホ、タブレット端末で雑誌ソースの情報に触れていることも数多い。作る現場、売る現場…関わるさまざまな人たちの創意工夫を知ることにより、多角的な視点から、今後の雑誌の果たすべき役割、可能性を考察していく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイント等を活用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点 60%。課題提出 40%。		
到達目標	これからの雑誌の可能性/未来像を見出す。		
準備学習	日々雑誌等メディアに関心を持ち親しんでおくこと。		
受講者への要望			
愛読誌を必ず作ろう！			
講義の順序とポイント			
1. 雑誌と出版界の現在 2. 雑誌づくりの現場１　企画が命〜インパクトのある見出し！／どんな時代か？／誰に届ける？ 3. 雑誌づくりの現場２　編集作業の流れ 4. 雑誌づくりの現場３　デザイン／印刷 5. 雑誌のメディア特性１　他メディアとの比較 6. 雑誌のメディア特性２　セグメンテーション 7. 雑誌のメディア特性３　東京と地方 8. 販売収入と広告収入 9. エディトリアル・デザインの冒険 10. メディア規制との闘い 11. ゲリラ・ジャーナリズムこそ雑誌の使命！ 12. 雑誌の未来１　読者との絆 13. 雑誌の未来２　紙か？デジタルか？ 14. 雑誌の未来３　大きな変化とその可能性 15. 総括と復習（雑誌の未来と可能性）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50240001
科目名	現代社会論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories on Modern Society		
担当者名	古川　直子	旧科目名称	
講義概要	本講義は、「ジェンダー／セクシュアリティと現代社会」というテーマとし、まず、「ジェンダー（社会的性別）」や「セクシュアリティ（性的志向、性欲）」等に関する基本的な用語や概念について解説する。さらに同性愛やトランスジェンダーといった「性的マイノリティ」の人々をめぐる社会制度の問題を中心に考察してゆくことによって、現代社会を文化的・社会的に読み解く視点を提示したい。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を配付する。映像資料等も利用する。		
評価方法	出席状況・小テスト等による平常点 40%、筆記試験 60%。		
到達目標	現代社会の問題をジェンダー／セクシュアリティという観点から分析することができるようになる。		
準備学習	日頃から新聞やニュースをつうじて現代社会の動きに関心をもつように心がけてほしい。		

受講者への要望

積極的に学びたいという姿勢を評価する。なお私語等の他の受講者への迷惑となる行為については退室を求める場合がある。

講義の順序とポイント

1．　ガイダンス
2．ジェンダー／セクシュアリティ論の基礎
3．「性的マイノリティ」と現代社会　1
4．「性的マイノリティ」と現代社会　2
5．「性的マイノリティ」の経験――当事者の声を聞く　1
6．「性的マイノリティ」の経験――当事者の声を聞く　2
7．ジェンダー／セクシュアリティとメディア
8．格差社会におけるジェンダーと労働
9．社会保障と家族制度
１０．同性カップルとパートナーシップ法１
１１．同姓カップルとパートナーシップ法２
１２．生殖医療と現代社会１
１３．生殖医療と現代社会２
１４．新優生学の登場１
１５．新優生学の登場２

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	J50240002
科目名	現代社会論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories on Modern Society		
担当者名	古川　直子	旧科目名称	
講義概要	本講義は、「ジェンダー／セクシュアリティと現代社会」というテーマとし、まず、「ジェンダー（社会的性別）」や「セクシュアリティ（性的志向、性欲）」等に関する基本的な用語や概念について解説する。さらに同性愛やトランスジェンダーといった「性的マイノリティ」の人々をめぐる社会制度の問題を中心に考察してゆくことによって、現代社会を文化的・社会的に読み解く視点を提示したい。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を配付する。映像資料等も利用する。		
評価方法	出席状況・小テスト等による平常点 40%、筆記試験 60%。		
到達目標	現代社会の問題をジェンダー／セクシュアリティという観点から分析することができるようになる。		
準備学習	日頃から新聞やニュースをつうじて現代社会の動きに関心をもつように心がけてほしい。		

受講者への要望

積極的に学びたいという姿勢を評価する。なお私語等の他の受講者への迷惑となる行為については退室を求める場合がある。

講義の順序とポイント

1．　ガイダンス
2．ジェンダー／セクシュアリティ論の基礎
3．「性的マイノリティ」と現代社会　1
4．「性的マイノリティ」と現代社会　2
5．「性的マイノリティ」の経験――当事者の声を聞く　1
6．「性的マイノリティ」の経験――当事者の声を聞く　2
7．ジェンダー／セクシュアリティとメディア
8．格差社会におけるジェンダーと労働
9．社会保障と家族制度
１０．同性カップルとパートナーシップ法１
１１．同姓カップルとパートナーシップ法２
１２．生殖医療と現代社会１
１３．生殖医療と現代社会２
１４．新優生学の登場１
１５．新優生学の登場２

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	J50243A01
科目名	言語学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Linguistics l		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	言語学ｓ
講義概要	「最近の日本語は乱れている」などと言語学では言わない。また「二ヶ国語放送」ではなく「二言語放送」と言う。それはなぜなのかということを考えることから始め、人間の言葉について考察する。現代言語学の父であるソシュールの考えを学び、科学として言語学が成り立つ基礎になった音声学から始め、音韻論、形態論では日本語の方言を含めて学んでいく。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適時指示する。		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	言葉が記号から成り立っていることを理解する。言語記号の２側面のうち音を担う部分の音声学・音韻論について理解を深め、音声と音素の違いを認識する。形態論を学ぶ時点で言語学で最も重要な概念である形態素を理解する。		
準備学習	身近にある言葉、テレビや他のメディアで見たり聞いたりする言葉を意識して観察する態度を持つ。		
受講者への要望			
身近な言葉に対して「面白いな～！」と感動する心を持って欲しい。毎回の授業で教師に提出する学習内容確認シートに自分の疑問や発見をしっかり記入して、自分の学習に役立てるようにすることを望む。席は固定しないのでできるだけ前に座って欲しい。			
講義の順序とポイント			
１．言語学の学習対象　植物の「言葉」　動物の言葉　人間の言葉　言霊　バベルの塔 ２．ソシュールの紹介 ３．言語学の専門用語導入１ ４．言語学の専門用語導入２ ５．音声と音素 ６．訓令式ローマ字表記とヘボン式ローマ字表記 ７．アメリカ英語の母音とイギリス英語の母音。確認小テスト ８．国際音声字母表の見方と調音…破裂音と摩擦音 ９．国際音声字母表の見方と調音…鼻音、流音、接近音 １０．国際音声字母表の見方と調音…母音 １１．音韻論…日本語 １２．音韻論…英語 １３．日本語の方言…北海道、東北、関東 １４．日本語の方言…中部、近畿、中国、四国 １５．日本語の方言…九州、沖縄			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★★	★★

年度	2015	授業コード	J50243A02
科目名	言語学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Linguistics l		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	言語学ｓ
講義概要	「最近の日本語は乱れている」などと言語学では言わない。また「二ヶ国語放送」ではなく「二言語放送」と言う。それはなぜなのかということを考えることから始め、人間の言葉について考察する。現代言語学の父であるソシュールの考えを学び、科学として言語学が成り立つ基礎になった音声学から始め、音韻論、形態論では日本語の方言を含めて学んでいく。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適時指示する。		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	言葉が記号から成り立っていることを理解する。言語記号の２側面のうち音を担う部分の音声学・音韻論について理解を深め、音声と音素の違いを認識する。形態論を学ぶ時点で言語学で最も重要な概念である形態素を理解する。		
準備学習	身近にある言葉、テレビや他のメディアで見たり聞いたりする言葉を意識して観察する態度を持つ。		

受講者への要望

身近な言葉に対して「面白いな～！」と感動する心を持って欲しい。毎回の授業で教師に提出する学習内容確認シートに自分の疑問や発見をしっかり記入して、自分の学習に役立てるようにすることを望む。席は固定しないのでできるだけ前に座って欲しい。

講義の順序とポイント

１．言語学の学習対象　植物の「言葉」　動物の言葉　人間の言葉　言霊　バベルの塔
２．ソシュールの紹介
３．言語学の専門用語導入１
４．言語学の専門用語導入２
５．音声と音素
６．訓令式ローマ字表記とヘボン式ローマ字表記
７．アメリカ英語の母音とイギリス英語の母音。確認小テスト
８．国際音声字母表の見方と調音…破裂音と摩擦音
９．国際音声字母表の見方と調音…鼻音、流音、接近音
１０．国際音声字母表の見方と調音…母音
１１．音韻論…日本語
１２．音韻論…英語
１３．日本語の方言…北海道、東北、関東
１４．日本語の方言…中部、近畿、中国、四国
１５．日本語の方言…九州、沖縄

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★★	★★

年度	2015	授業コード	J50243B01
科目名	言語学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Linguistics Ⅱ		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	言語学ｆ
講義概要	言語学は音素と形態素を抜きにしては説明ができないので、言語学Ⅰの概要を説明することから始める。その時点で分節と音素・形態素の関係を明らかにする。また、日本語の方言をアクセントの視点から捉えなおす。次に、形態論の説明の時に漢字を含め日本語の形態素について解説する。更に文節と品詞の関係など日本語文法の復習をする。統語論については英語と日本語の例を使って説明する。意味論、語用論、類型論といった言語学の興味深い分野を説明する。最後に英語や日本語とは全く成り立ちが異なるセム語の説明をする。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適時指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	音素と形態素の概念の定着。音素を特定する装置としてのミニマルペアや相補分布という概念を把握する。形態素を特定することによって形態論の内容を深く理解する。英語における語順、日本語における助詞の役割と統語論の関係を理解する。人間の作る文の無限性に基づく生成文法の有効性を理解する。語用論や類型論やセム語では世界の言語がいかに多様な姿を示すかを理解する。		
準備学習	言語学Ⅰを履修しておくことが望ましい。		

受講者への要望

身近な言葉に対して「面白いな～！」と感動する心を持って欲しい。毎回の授業で講師に提出する学習内容確認シートに自分の疑問や発見をしっかり記入して、自分の学習に役立てるようにすることを望む。席は指定しないので、できるだけ前に座って欲しい。

講義の順序とポイント

１．春学期学習内容の概要
２．方言と音韻論…関東と関西のアクセントの違い
３．方言と音韻論…日本全国におけるアクセントの特徴
４．素性表示と音韻論
５．連濁と日本語の形態論
６．動詞の連用形と日本語の形態論
７．複合語の構成と確認小テスト
８．直接構成素分析と句構造文法
９．句構造文法と統語論…名詞句
１０．句構造文法と統語論…動詞句
１１．生成文法…「生成」の考え方
１２．生成文法…成果と限界
１３．意味論・語用論
１４．類型論
１５．セム語紹介

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★★	★★

年度	2015	授業コード	J50243B02
科目名	言語学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Linguistics Ⅱ		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	言語学ｆ
講義概要	言語学は音素と形態素を抜きにしては説明ができないので、言語学Ⅰの概要を説明することから始める。その時点で分節と音素・形態素の関係を明らかにする。また、日本語の方言をアクセントの視点から捉えなおす。次に、形態論の説明の時に漢字を含め日本語の形態素について解説する。更に文節と品詞の関係など日本語文法の復習をする。統語論については英語と日本語の例を使って説明する。意味論、語用論、類型論といった言語学の興味深い分野を説明する。最後に英語や日本語とは全く成り立ちが異なるセム語の説明をする。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適時指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	音素と形態素の概念の定着。音素を特定する装置としてのミニマルペアや相補分布という概念を把握する。形態素を特定することによって形態論の内容を深く理解する。英語における語順、日本語における助詞の役割と統語論の関係を理解する。人間の作る文の無限性に基づく生成文法の有効性を理解する。語用論や類型論やセム語では世界の言語がいかに多様な姿を示すかを理解する。		
準備学習	言語学Ⅰを履修しておくことが望ましい。		

受講者への要望

身近な言葉に対して「面白いな～！」と感動する心を持って欲しい。毎回の授業で講師に提出する学習内容確認シートに自分の疑問や発見をしっかり記入して、自分の学習に役立てるようにすることを望む。席は指定しないので、できるだけ前に座って欲しい。

講義の順序とポイント

１．春学期学習内容の概要
２．方言と音韻論…関東と関西のアクセントの違い
３．方言と音韻論…日本全国におけるアクセントの特徴
４．素性表示と音韻論
５．連濁と日本語の形態論
６．動詞の連用形と日本語の形態論
７．複合語の構成と確認小テスト
８．直接構成素分析と句構造文法
９．句構造文法と統語論…名詞句
１０．句構造文法と統語論…動詞句
１１．生成文法…「生成」の考え方
１２．生成文法…成果と限界
１３．意味論・語用論
１４．類型論
１５．セム語紹介

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★★	★★

年度	2015	授業コード	J50250A01
科目名	言語表現論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Language Expression A		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	言語表現論ｓ
講義概要	日常生活において、手紙やメール、レポートなど、文章を書く機会は多い。これらの文章による表現や伝達は、情報についての誤解や勘違いを生じやすく、また、言葉遣いによっては相手に不快感をあたえてしまう。このような問題を克服し、読む人の立場に立った、より正確でわかりやすい文章表現が求められる。 本講義では、様々な場面に応じた適切な文章表現の方法を学ぶ。講義は、①課題についての説明②文章例を読み、問題点を考える。③実際に文章を作成する④添削⑤残された問題点についての説明、の順に行う。 　春学期は、文章表現の面白さと難しさ、実際に文章を作成する際に必要な心がけについて考え、その後、私的、個人的な文章表現について学ぶ。		
教材（テキスト）	随時プリントを配布する		
教材（参考文献）	講義時間中に適宜指示する		
教材（その他）	国語辞典などの持参を勧める		
評価方法	学期末レポートと出席状況、小テスト、提出物等による平常点から総合的に評価する		
到達目標	さまざまな場面での文章表現について、実践を通じて学ぶ		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
基本的に、課題は講義時間内に提出すること。講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む。			
講義の順序とポイント			
言語表現論Ａ《春学期》 １．ガイダンス ２．メールを送る ３．わかりやすく説明する ４．専門用語を文章で説明する ５．経験から事実を述べる ６．与えられたテーマについて意見を書く ７．要約文を書く ８．身近な言葉に興味を持つ① ９．身近な言葉に興味を持つ② １０．アンケート調査を行う １１．文献調査を行う １２．方言調査① １３．方言調査② １４．研究テーマをみつける。 １５．　レポートの基本的な構成 ※講義の内容は、受講生の要望に応じて変更する場合がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50250A02
科目名	言語表現論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Language Expression A		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	言語表現論ｓ
講義概要	日常生活において、手紙やメール、レポートなど、文章を書く機会は多い。これらの文章による表現や伝達は、情報についての誤解や勘違いを生じやすく、また、言葉遣いによっては相手に不快感をあたえてしまう。このような問題を克服し、読む人の立場に立った、より正確でわかりやすい文章表現が求められる。 本講義では、様々な場面に応じた適切な文章表現の方法を学ぶ。講義は、①課題についての説明②文章例を読み、問題点を考える。③実際に文章を作成する④添削⑤残された問題点についての説明、の順に行う。 　春学期は、文章表現の面白さと難しさ、実際に文章を作成する際に必要な心がけについて考え、その後、私的、個人的な文章表現について学ぶ。		
教材（テキスト）	随時プリントを配布する		
教材（参考文献）	講義時間中に適宜指示する		
教材（その他）	国語辞典などの持参を勧める		
評価方法	学期末レポートと出席状況、小テスト、提出物等による平常点から総合的に評価する		
到達目標	さまざまな場面での文章表現について、実践を通じて学ぶ		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
基本的に、課題は講義時間内に提出すること。講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む。			
講義の順序とポイント			
言語表現論Ａ《春学期》 １．ガイダンス ２．メールを送る ３．わかりやすく説明する ４．専門用語を文章で説明する ５．経験から事実を述べる ６．与えられたテーマについて意見を書く ７．要約文を書く ８．身近な言葉に興味を持つ① ９．身近な言葉に興味を持つ② １０．アンケート調査を行う １１．文献調査を行う １２．方言調査① １３．方言調査② １４．研究テーマをみつける。 １５．　レポートの基本的な構成 ※講義の内容は、受講生の要望に応じて変更する場合がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50250B01
科目名	言語表現論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Language Expression B		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	言語表現論ｆ
講義概要	日常生活において、手紙やメール、レポートなど、文章を書く機会は多い。これらの文章による表現や伝達は、情報についての誤解や勘違いを生じやすく、また、言葉遣いによっては相手に不快感をあたえてしまう。このような問題を克服し、読む人の立場に立った、より正確でわかりやすい文章表現が求められる。 本講義では、様々な場面に応じた適切な文章表現の方法を学ぶ。講義は、①課題についての説明②文章例を読み、問題点を考える。③実際に文章を作成する④添削⑤残された問題点についての説明、の順に行う。 　秋学期は、大学生・社会人として必要な、より公的、社会的な文章表現の技法について学んでいく。		
教材（テキスト）	随時プリントを配布する		
教材（参考文献）	米田明美・蔵中さやか・山上登志美（2005）『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房		
教材（その他）	国語辞典などの持参を勧める		
評価方法	学期末レポートと出席状況、小テスト、提出物等による平常点から総合的に評価する		
到達目標	さまざまな場面での文章表現について、実践を通じて学ぶ		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
基本的に、課題は講義時間内に提出すること。講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む。			
講義の順序とポイント			
言語表現論Ｂ《秋学期》 １．敬語① ２．敬語② ３．季節のはがきを書く ４．手紙の基本 ５．依頼の手紙を書く ６．断りの手紙を書く ７．就職活動の準備をする ８．社会問題について、意見文を書く① ９．社会問題について、意見文を書く② １０．レポートで用いる表現① １１．レポートで用いる表現② １２．レポートで用いる表現③ １３．日本語の多様性 １４．社会と言葉① １５．社会と言葉② ※講義の内容は、受講生の要望に応じて変更する場合がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50250B02
科目名	言語表現論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Language Expression B		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	言語表現論ｆ
講義概要	日常生活において、手紙やメール、レポートなど、文章を書く機会は多い。これらの文章による表現や伝達は、情報についての誤解や勘違いを生じやすく、また、言葉遣いによっては相手に不快感をあたえてしまう。このような問題を克服し、読む人の立場に立った、より正確でわかりやすい文章表現が求められる。 本講義では、様々な場面に応じた適切な文章表現の方法を学ぶ。講義は、①課題についての説明②文章例を読み、問題点を考える。③実際に文章を作成する④添削⑤残された問題点についての説明、の順に行う。 　秋学期は、大学生・社会人として必要な、より公的、社会的な文章表現の技法について学んでいく。		
教材（テキスト）	随時プリントを配布する		
教材（参考文献）	米田明美・蔵中さやか・山上登志美（2005）『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房		
教材（その他）	国語辞典などの持参を勧める		
評価方法	学期末レポートと出席状況、小テスト、提出物等による平常点から総合的に評価する		
到達目標	さまざまな場面での文章表現について、実践を通じて学ぶ		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
基本的に、課題は講義時間内に提出すること。講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む。			
講義の順序とポイント			
言語表現論Ｂ《秋学期》 １．敬語① ２．敬語② ３．季節のはがきを書く ４．手紙の基本 ５．依頼の手紙を書く ６．断りの手紙を書く ７．就職活動の準備をする ８．社会問題について、意見文を書く① ９．社会問題について、意見文を書く② １０．レポートで用いる表現① １１．レポートで用いる表現② １２．レポートで用いる表現③ １３．日本語の多様性 １４．社会と言葉① １５．社会と言葉② ※講義の内容は、受講生の要望に応じて変更する場合がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50256101
科目名	古文書学　Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Paleography Ⅰ		
担当者名	中森　洋	旧科目名称	
講義概要	近世の村方文書を原文で読み、その様式、読み方、内容の調べ方等を学ぶ。日本史研究の基礎となる歴史史料（古文書）を、原文で読めるようになるための講義と演習。とくに、近世史の研究を希望する人は、ぜひ受講してほしい。近世史の史料は、その大半が活字化されていないため、原文が読めないと研究が進まないからである。授業は演習形式とする。当初数回は、講師が解読と解説を行い、次回に受講者が解読の復習をするというかたちをとるが、その後は、受講者を指名した輪読形式とし、講師がそれを補足するという授業形式とする。なお、古文書学Ⅱとあわせて履修することが望ましい。それは、古文書の解読は、継続的な学習によりはじめて身に付くものなので、最低一年間は学習期間がほしいからである。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	「くずし字解読辞典」。各種ある。最初の講義でいくつか紹介するので、ぜひ一冊購入して活用してほしい。本気で古文書が読めるようになりたい人の自学自習のためには、必須の手引きです。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	近世の村方文書の原文を読み、その内容が理解できるようになることをめざす。		
準備学習	各単元の最後に、次回のプリントを配布するので、「くずし字解読辞典」などを参照しながら、各自で解読の予習をしておくこと。解読を指名された者はいうまでもない。		

受講者への要望

歴史学を研究するためには、その基礎となる歴史史料（古文書）を原文で読み、その内容を理解できるようになることが必須である。他の語学と同様に最初は難しいが、継続的な努力により上達は可能です。パズルを解くように一文字、一フレーズが読めるようになると、学ぶ楽しみは増すはずです。

講義の順序とポイント

１．講義概要と参考図書
２．古文書の概要と調査方法
３．近世村方文書の分類例
４．くずし字の基礎知識（数字・日付・単位・人名・かな文字）
５～６．村明細帳
７～９．五人組帳前書
１０．触書
１１．村定
１２．村入用帳
１３．質地証文
１４．借用証文
１５．近世村方文書の整理と解読の要点①

＊以上の授業計画は、受講者の習熟度等により、変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50256102
科目名	古文書学　Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Paleography Ⅰ		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	私たちは資料をもとにしながら、歴史像を構築している。とはいえ、資料それ自体は客観的なものではなく、さまざまな偏見に塗り固められている。私たちの世界には客観的なデータなど存在しない。資料を取り扱うには、そうしたバイアスを取り除く作業が不可欠である。そのうえで資料を丹念に読みといてゆけば、過去の時代の生活や臭いが浮かび上がってくる。古文書をはじめとするさまざまな資料に触れながら、そこから何が読み取れるのか、一緒に考えてゆきたい。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業での発言や貢献度（50%）、小テストおよび課題に対する発表（50%）		
到達目標	・古代中世の多様な資料に触れることによって、過去の社会への認識を深めるとともに、読み取る力、調べる力、考える力を養う。		
準備学習	・史料は事前に配付しておくので、それぞれ十分な予習が必要である。 ・適宜指名して、いくつかのテーマについて報告してもらう。準備のうえレジュメを作成して発表する。		

受講者への要望

・授業では、文献史料や絵画資料など、日本の古代・中世のさまざまな資料をとりあげる。資料を読み込み、そこから何が読み取れるのか、自由に意見交換をすすめるなかで、社会の成り立ちや心性について一緒に考えたい。好奇心と探求心にみちた学生を歓迎したい。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス
2.絵画資料の読解
3.『今昔物語集』の世界
4.『今昔物語集』の読解
5.『今昔物語集』の読解
6.人身売買文書
7.『法華験記』の世界
8.『沙石集』の世界
9.『沙石集』の読解
10.『風土記』の世界
11.戦国法の世界
12.『信長公記』の世界
13.『頓医抄』の世界
14.貴族の日記
15.『吾妻鏡』を読む

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	J50256201
科目名	古文書学　II	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Paleography II		
担当者名	中森　洋	旧科目名称	
講義概要	近世の村方文書を原文で読み、その様式、読み方、内容の調べ方等を学ぶ。日本史研究の基礎となる歴史史料（古文書）を、原文で読めるようになるための講義と演習。とくに、近世史の研究を希望する人は、ぜひ受講してほしい。近世史の史料は、その大半が活字化されていないため、原文が読めないと研究が進まないからである。授業は演習形式とする。当初数回は、講師が解読と解説を行い、次回に受講者が解読の復習をするというかたちをとるが、その後は、受講者を指名した輪読形式とし、講師がそれを補足するという授業形式とする。なお、古文書学Ｉとあわせて履修することが望ましい。それは、古文書の解読は、継続的な学習によりはじめて身に付くものなので、最低一年間は学習期間がほしいからである。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	「くずし字解読辞典」。各種ある。最初の講義でいくつか紹介するので、ぜひ一冊購入して活用してほしい。本気で古文書が読めるようになりたい人の自学自習のためには、必須の手引きです。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	近世の村方文書の原文を読み、その内容が理解できるようになることをめざす。		
準備学習	各単元の最後に、次回のプリントを配布するので、「くずし字解読辞典」などを参照しながら、各自で解読の予習をしておくこと。解読を指名された者はいうまでもない。		

受講者への要望

歴史学を研究するためには、その基礎となる歴史史料（古文書）を原文で読み、その内容を理解できるようになることが必須である。他の語学と同様に最初は難しいが、継続的な努力により上達は可能です。パズルを解くように一文字、一フレーズが読めるようになると、学ぶ楽しみは増すはずです。

講義の順序とポイント

１．講義概要と参考図書
２．近世村方文書の分類例、ほか
３～４．検地帳
４．年貢割付状
５．年貢皆済目録
６．宗門改帳
７．寺請証文・村送り証文・請込証文
８～９．奉公人請状
１０．往来手形
１１．願書
１２．裁許状
１３．請書
１４．詫状
１５．近世村方文書の整理と解読の要点②

＊以上の授業計画は、受講者の習熟度等により、変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50256202
科目名	古文書学　II	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Paleography II		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	古代中世の古文書の全体像を概観するとともに、活字史料や古文書の写真コピーを使いながら、その読解を行う。古代中世古文書の多様な形態に触れる中で、古文書学の基礎をマスターすることを目ざす。文書を読むということは、内容を把握することである以上、文字を読むだけではなく、それぞれの史料の性格や歴史的意義を考えてゆく。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）	・東京大学史料編纂所 HP のデータベース検索画面〈http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller〉に入ると「電子くずし字字典データベース」がある。これはくずし字の用例が非常に多いので、図書館架蔵の『くずし字事典』とともに、これを参考にして予習してくること。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（50%）、定期テスト（50%）		
到達目標	古代中世の古文書学の基礎を学び、古文書の読解とそれぞれの史料の歴史的背景や、史料批判の方法を学ぶ。		
準備学習	・教材となる史料は事前に配付しておくので、十分に予習してほしい。		

受講者への要望

・古文書学の基礎をじっくり学ぶ機会にしたい。
・分からないことは恥ではない。何でも積極的に質問してほしい。分からないこと、疑問に思ったこと、これがすべての始まりだ。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス
2.古文書習得の基礎
3.鶴岡八幡宮文書の読解
4.鶴岡八幡宮文書の読解
5.鶴岡八幡宮文書の読解
6.東寺百合文書の読解
7.東寺百合文書の読解
8.東寺百合文書の読解
9.東寺百合文書の読解
10.東寺百合文書の読解
11.東寺百合文書の読解
12.東寺百合文書の読解
13.東寺百合文書の読解
14.東寺百合文書の読解
15.東寺百合文書の読解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50259A01
科目名	口承文芸論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Oral Literature A		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本講義は口承文芸の作品を紹介すると共に口承文芸に関する先行研究を検討するものです。口承文芸とは、語られたもの、歌われたもののことを言います。例えば昔話、神話、語り物、歌、うわさ話、諺、ジョークが、これに該当します。一見するとこれらは、たいへん古くさく（実際たいへん長い歴史をもっています、文字が発明される前から、世界各地で話され歌われてきました）みえますが、コンピュータゲームやポップミュージックなどの現代文化とも密接に結びついています。口承文芸は何時の時代でも、古くてかつ斬新なものなのです。 Ａでは口承文芸の作品に親しむことからはじめ、作品分析の主要な方法論を理解することを目標にします。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	レポート（７０％）　授業内提出物（３０％）		
到達目標	作品分析の主要な方法論を理解すること。		
準備学習	次週に取り上げる作品は予め配布しておくので、熟読してくること。また授業で取り上げた分析方法をよりよく理解するために、関連文献を授業中に示すので、読んでおくこと。		
受講者への要望			
講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。			
講義の順序とポイント			
1.口承文芸的発想とはなにか。　（書くことと語ること・歌うことは果たして同じ次元なのか考えてみましょう） 2.神話学の系譜　（神話をどのように読むのか、これまでの様々なアプローチを概括します） 3.民族学的アプローチ１　（まずは『金枝篇』から取り組んでみましょう） 4.民族学的アプローチ２ 5.民族学的アプローチ３ 6.心理学的アプローチ１　（ユング派の物語の読み方について考えてみましょう） 7.心理学的アプローチ２ 8.心理学的アプローチ３ 9.構造分析１　（レヴィ＝ストロースの分析する神話に触れてみましょう） 10.構造分析２ 11.構造分析３ 12.昔話の構造分析１　（プロップの分析手法について検討してみましょう） 13.昔話の構造分析２　（ダンダスの分析手法について検討してみましょう） 14.日本神話の研究 15.日本の昔話研究			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50259B01
科目名	口承文芸論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Oral Literature B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本講義は口承文芸の作品を紹介すると共に口承文芸に関する先行研究を検討するものです。口承文芸とは、語られたもの、歌われたもののことを言います。例えば昔話、神話、語り物、歌、うわさ話、諺、ジョークが、これに該当します。一見するとこれらは、たいへん古くさく（実際たいへん長い歴史をもっています、文字が発明される前から、これらは世界各地で話され歌われてきました）みえますが、コンピュータゲームやポップミュージックなどの現代文化とも密接に結びついています。口承文芸は何時の時代でも、古くてかつ斬新なものなのです。 Ｂでは口承文芸が、カミとヒトの、人と人のコミュニケーションであることに焦点をあて、関連する先行研究を通じてその分析方法を理解し、学生自身で作品分析することを、目標とします。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	レポート（７０％）　授業内提出物（３０％）		
到達目標	口承文芸に関する先行研究を通じてその分析方法を理解し、学生自身で作品分析すること。		
準備学習	口承文芸の作品は長大なものが多いので、授業の前に熟読し、自分なりに筋立てを整理しておくこと。次週取り上げる作品は予め配布するか、文献を示します。		
受講者への要望			
講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。			
講義の順序とポイント			
１イントロダクション ２ヒトとヒトを超えるもの ３シャーマニズムと口承文芸１　（シャーマニズムと歌や語りは深い関係を持っています。） ４シャーマニズムと口承文芸２　（ユーラシア大陸のいくつかのシャーマニズム文化をとりあげます。） ５儀礼から語り物へ ６語り物 ７ヒトとヒトのコミュニケーション ８詩の始まりを民俗学的に考える ９うたはひとつでいい １０変なコミュニケーション １１英雄叙事詩 １２ナラティブ構成法１　（長大な英雄叙事詩はどのように伝承されてきたのか、そのメカニズムについて考えます。） １３ナラティブ構成法２ １４口承文芸とポップカルチャー１　（「古くて新しい」について考えます。） １５口承文芸とポップカルチャー２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50262A01
科目名	広告広報論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Advertising and Public Relat ions I		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	企業や行政、団体や NPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPO の広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008 年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート（２回程度)、定期テスト（６０%）		
到達目標	基礎編：日常生活でふれているさまざまな広告・広報について、メディア・リテラシーの見方で批判的にとらえられるようになること。		
準備学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		

受講者への要望

１)「広告広報論 I 」(基礎編)、「広告広報論 II」(応用編）はできれば双方を履修することが望ましい。
２)「CM 表現論」の履修を希望する学生は、少なくとも「広告広報論 I 」、できれば「広告広報論 II」を履修した上で登録を行うこと。
３）CM や広告を眺めることに労力はいらないが、送り手の立場に立ち、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦労のいることである。授業ではその双方の立場に立ち、さまざまな広告表現を読み解き、批評し、自ら構想する努力が求められよう。

講義の順序とポイント

第 1 回　開講にあたって
第 2 回　広告広報とは何か？　マス・コミュニケーションのさまざまな発信主体
第 3 回　広告の定義／その類似概念（宣伝／広告／PR／パブリシティ）
第 4 回　宣伝（プロパガンダ）と広告
第 5 回　宣伝とメディア・リテラシー／授業内レポート
第 6 回　宣伝・広報の媒体（１）：人にふれるもの、すべてがメディアになる
第 7 回　宣伝・広報の媒体（２）：放送メディア／印刷メディア
第 8 回　宣伝・広報の媒体（３）：インターネットほか
第 9 回　ブランド商品の誕生と広告
第 10 回　市場情報システムとしての広告：市場情報のコストは誰が負担するか？
第 11 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（１）コカ・コーラ CM 等
第 12 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（２）ビール類 CM 等
第 13 回　広告広報のキャンペーンはこんなふうに展開される：日清食品・カップヌードル CM 等
第 14 回　授業内レポート
第 15 回　今後の課題と展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50262A02
科目名	広告広報論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Advertising and Public Relat ions I		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	企業や行政、団体やNPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPOの広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書6　広告』プチグラパブリッシング、2006年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート（２回程度)、定期テスト（６０%）		
到達目標	基礎編：日常生活でふれているさまざまな広告・広報について、メディア・リテラシーの見方で批判的にとらえられるようになること。		
準備学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		

受講者への要望

１)「広告広報論Ⅰ」(基礎編)、「広告広報論Ⅱ」(応用編）はできれば双方を履修することが望ましい。
２)「CM表現論」の履修を希望する学生は、少なくとも「広告広報論Ⅰ」、できれば「広告広報論Ⅱ」を履修した上で登録を行うこと。
３）CMや広告を眺めることに労力はいらないが、送り手の立場に立ち、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦労のいることである。授業ではその双方の立場に立ち、さまざまな広告表現を読み解き、批評し、自ら構想する努力が求められよう。

講義の順序とポイント

第1回　開講にあたって
第2回　広告広報とは何か？　マス・コミュニケーションのさまざまな発信主体
第3回　広告の定義／その類似概念（宣伝／広告／PR／パブリシティ）
第4回　宣伝（プロパガンダ）と広告
第5回　宣伝とメディア・リテラシー／授業内レポート
第6回　宣伝・広報の媒体（１)：人にふれるもの、すべてがメディアになる
第7回　宣伝・広報の媒体（２)：放送メディア／印刷メディア
第8回　宣伝・広報の媒体（３)：インターネットほか
第9回　ブランド商品の誕生と広告
第10回　市場情報システムとしての広告：市場情報のコストは誰が負担するか？
第11回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（１）コカ・コーラCM等
第12回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（２）ビール類CM等
第13回　広告広報のキャンペーンはこんなふうに展開される：日清食品・カップヌードルCM等
第14回　授業内レポート
第15回　今後の課題と展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50262B01
科目名	広告広報論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Advertising and Public Relat ions II		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	企業や行政、団体や NPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPO の広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008 年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート（２回程度)、定期テスト（６０%）		
到達目標	応用編：広告広報の実務と産業のあらましについて知り、広告業界やマーケティングや PR 活動の仕事について具体的なイメージを持てるようにする。		
準備学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		

受講者への要望

１)「広告広報論Ｉ」(基礎編)、「広告広報論II」(応用編）はできれば双方を履修することが望ましい。
２)「CM 表現論」の履修を希望する学生は、少なくとも「広告広報論Ｉ」、できれば「広告広報論II」を履修した上で登録を行うこと。
３）CM や広告を眺めることに労力はいらないが、広告産業や広告取引の実態について理解し、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦労のいることである。授業では広告主や広告会社の立場から、さまざまな広告計画や広告表現を構想する仕事に具体的なイメージを持てるようになってほしい。

講義の順序とポイント

第１回　イントロダクション
第２回　広告産業と広告取引
第３回　広告会社の組織と業務（１）
第４回　広告会社の組織と業務（２)：CM ディレクターの仕事等
第５回　広告計画の策定と実施（１）市場競争と広告表現（ビール類）
第６回　広告計画の策定と実施（２）ブランドと広告表現・その１（コカ・コーラ）
第７回　広告計画の策定と実施（３）ブランドと広告表現・その２（ナイキ 1）
第８回　広告計画の策定と実施（４）ブランドと広告表現・その３（ナイキ 2）
第９回　広告計画の策定と実施（５）ブランドと広告表現・その４（ユニクロ）
第 10 回 広報・PR の基本概念と歴史（アメリカ・日本における PR の発展）
第 11 回 広報・PR の実務を知る
第 12 回 企業の社会的責任と広報・PR（1）
第 13 回 企業の社会的責任と広報・PR（2）映画鑑賞
第 14 回 授業内レポート
第 15 回 今後の課題と展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50262B02
科目名	広告広報論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Advertising and Public Relat ions II		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	企業や行政、団体や NPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPO の広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008 年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート（２回程度)、定期テスト（６０%）		
到達目標	応用編：広告広報の実務と産業のあらましについて知り、広告業界やマーケティングや PR 活動の仕事について具体的なイメージを持てるようにする。		
準備学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		

受講者への要望

１)「広告広報論Ｉ」(基礎編)、「広告広報論II」(応用編）はできれば双方を履修することが望ましい。
２)「CM 表現論」の履修を希望する学生は、少なくとも「広告広報論Ｉ」、できれば「広告広報論II」を履修した上で登録を行うこと。
３）CM や広告を眺めることに労力はいらないが、広告産業や広告取引の実態について理解し、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦労のいることである。授業では広告主や広告会社の立場から、さまざまな広告計画や広告表現を構想する仕事に具体的なイメージを持てるようになってほしい。

講義の順序とポイント

第１回　イントロダクション
第２回　広告産業と広告取引
第３回　広告会社の組織と業務（１）
第４回　広告会社の組織と業務（２)：CM ディレクターの仕事等
第５回　広告計画の策定と実施（１）市場競争と広告表現（ビール類）
第６回　広告計画の策定と実施（２）ブランドと広告表現・その１（コカ・コーラ）
第７回　広告計画の策定と実施（３）ブランドと広告表現・その２（ナイキ 1）
第８回　広告計画の策定と実施（４）ブランドと広告表現・その３（ナイキ 2）
第９回　広告計画の策定と実施（５）ブランドと広告表現・その４（ユニクロ）
第 10 回 広報・PR の基本概念と歴史（アメリカ・日本における PR の発展）
第 11 回 広報・PR の実務を知る
第 12 回 企業の社会的責任と広報・PR（1）
第 13 回 企業の社会的責任と広報・PR（2）映画鑑賞
第 14 回 授業内レポート
第 15 回 今後の課題と展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50270001
科目名	表現文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Culture Expression		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	広告文化論
講義概要	社会において「対話の相手」をつくり出す作品表現の役割、作品表現をはぐくむ社会のしくみや人と人との相互作用、新たな時代に求められる社会運営やまちづくりの場に活用される新たな作品表現のあり方――メディア論や芸術社会学の視点からこれらを解き明かしつつ、新たな社会をつくり、そこで生き残っていくために、「作品表現」のこれまで・これからをとらえ直していく。 音楽・映画・美術・写真・広告などさまざまな表現分野を扱い、映像や音楽、図版などなるべく多くの作品素材をもとに進めていく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	徳丸吉彦、青山昌文著『芸術・文化・社会』放送大学教育振興会、2003 年 渡辺潤『アイデンティティの音楽』世界思想社、2000 年 若林直樹・白尾隆太郎編『イメージ編集』武蔵野美術大学出版局、2003 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート 2 回程度。授業で提示した課題を持ち帰って作成し、受講生全員で発表を行う。 最終課題提出（60%）：最終レポートないし作品制作（作品の形式は自由。ただしオリジナル作品であること）		
到達目標	さまざまな表現文化をメディア論、芸術社会学の視点でとらえ、社会の中でのコミュニケーション（対話）の重要な手だてとなり、人と人との相互行為がはぐくむ作品表現の特性やメカニズムについて学ぶ。		
準備学習	良質な作品を多数鑑賞することは、人生を豊かにしてくれるとともに、制作者として作品表現そのものやそれらを活用した事業を行う上で、不可欠のことである。授業で扱う作例は、オリジナルや複製にあたって自分の目で確認しておくこと。		
受講者への要望			
メディアやアートで表現をしたい人、人がなぜ作品表現に惹かれるのかを考えてみたい人、自分の好きな作品やアーティストへの思いを他人と共有したいと考えている人の受講を待っています。			
講義の順序とポイント			
第１回　イントロダクション 第２回　メディアとしての芸術・デザイン 第３回　メディア表現が現実をつくる-1：メディア・記号と現実、芸術社会学の考え方 第４回　メディア表現が現実をつくる-2：メディアの中の文化：メディア表現への記号論 第５回　メディア表現の技法とメカニズム：イメージ編集の技法 第６回　課題の発表とコメント 第７回　社会集団と作品表現：表現をつくる社会の力、文化の編成 第８回　作品表現をつくる社会の力：儀礼としての音楽（宗教音楽、ゴスペルと R & B） 第９回　文化の伝播と人的交流による作品表現の創造と変容：ボサノヴァ、ヒップホップ 第１０回　ノスタルジーと作品表現：メディア体験がノスタルジーをつくる 第１１回　課題の発表とコメント 第１２回　ポストモダンと作品表現 第１３回　流動する社会における作品表現の役割 第１４回　まとめ 第１５回　最終課題の発表とコメント			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	J50270002
科目名	表現文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Culture Expression		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	広告文化論
講義概要	社会において「対話の相手」をつくり出す作品表現の役割、作品表現をはぐくむ社会のしくみや人と人との相互作用、新たな時代に求められる社会運営やまちづくりの場に活用される新たな作品表現のあり方――メディア論や芸術社会学の視点からこれらを解き明かしつつ、新たな社会をつくり、そこで生き残っていくために、「作品表現」のこれまで・これからをとらえ直していく。 音楽・映画・美術・写真・広告などさまざまな表現分野を扱い、映像や音楽、図版などなるべく多くの作品素材をもとに進めていく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	徳丸吉彦、青山昌文著『芸術・文化・社会』放送大学教育振興会、2003 年 渡辺潤『アイデンティティの音楽』世界思想社、2000 年 若林直樹・白尾隆太郎編『イメージ編集』武蔵野美術大学出版局、2003 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート 2 回程度。授業で提示した課題を持ち帰って作成し、受講生全員で発表を行う。 最終課題提出（60%）：最終レポートないし作品制作（作品の形式は自由。ただしオリジナル作品であること）		
到達目標	さまざまな表現文化をメディア論、芸術社会学の視点でとらえ、社会の中でのコミュニケーション（対話）の重要な手だてとなり、人と人との相互行為がはぐくむ作品表現の特性やメカニズムについて学ぶ。		
準備学習	良質な作品を多数鑑賞することは、人生を豊かにしてくれるとともに、制作者として作品表現そのものやそれらを活用した事業を行う上で、不可欠のことである。授業で扱う作例は、オリジナルや複製にあたって自分の目で確認しておくこと。		
受講者への要望			
メディアやアートで表現をしたい人、人がなぜ作品表現に惹かれるのかを考えてみたい人、自分の好きな作品やアーティストへの思いを他人と共有したいと考えている人の受講を待っています。			
講義の順序とポイント			
第１回　イントロダクション 第２回　メディアとしての芸術・デザイン 第３回　メディア表現が現実をつくる-1：メディア・記号と現実、芸術社会学の考え方 第４回　メディア表現が現実をつくる-2：メディアの中の文化：メディア表現への記号論 第５回　メディア表現の技法とメカニズム：イメージ編集の技法 第６回　課題の発表とコメント 第７回　社会集団と作品表現：表現をつくる社会の力、文化の編成 第８回　作品表現をつくる社会の力：儀礼としての音楽（宗教音楽、ゴスペルと R & B） 第９回　文化の伝播と人的交流による作品表現の創造と変容：ボサノヴァ、ヒップホップ 第１０回　ノスタルジーと作品表現：メディア体験がノスタルジーをつくる 第１１回　課題の発表とコメント 第１２回　ポストモダンと作品表現 第１３回　流動する社会における作品表現の役割 第１４回　まとめ 第１５回　最終課題の発表とコメント			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	J50275001
科目名	ベーシック・マナー講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Manners		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	国際マナー講座
講義概要	「ベーシック・マナー講座」は、国際ヒューマン・コミュニケーション学科１回生対象の科目です（時間割指定科目）。この授業は、国際社会で活躍する人になるための基礎能力を習得することを目標としています。そのために特に重要なのが、文化や習慣、価値観の異なる人とのあいだでも良好な人間関係を築く「基本マナー」の習得です。また、自分の考えを伝える能力を高めることも重要ですから、プレゼンテーションの能力を高めるための実践的学習もおこないます。また、和の文化や国際マナーに関する知識・技能を伝達し、国際人としての基礎力を育成することをめざします。		
教材（テキスト）	必要な教材はプリントにて授業内で配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び授業内パフォーマンス（70%）・レポート・テスト（30%）		
到達目標	①国際人として通用する基本マナーを習得する ②積極的な自己表現の能力を高める ③和の礼儀作法と国際マナーに対する理解を深める		
準備学習	国内外の動きに関心を持ち、新聞で毎日チェックすること		
受講者への要望			
講座を担当するのはウィズネス社の女性講師です（内藤はコーディネーターを担当します）。 受講者には、講座で学んだことを日常でも活かして生活することを要望します。			
講義の順序とポイント			
1．ガイダンス：講義のねらい、国際人として必要なことは？　マナーとは何か？　第一印象の重要性 2．マナー力①笑顔での挨拶法トレーニング：身だしなみのマナー、TPO に合わせたガイドライン 3．マナー力②敬語の理解：日常で使っている今どき言葉の払拭 4．マナー力③ 日常生活での習慣づけるべきマナー：公衆マナー 5．プレゼン力開発 ：印象に残る自己紹介の方法、自己紹介の実践とフィードバック力を高める 6．アサーション① ：自他尊重のコミュニケーション、アサーション分析による自己の気づきと助言 7．アサーション② ：アサーティブな話し方、アサーティブ実践のためのロールプレイング 8．傾聴力：自己の聞き方のスタイル、積極的傾聴法の理解と実践 9．国際人として輝く①和のマナーを学ぶ：和室での立ち居振る舞い、お箸やお椀の扱い 10．国際人として輝く②和のマナーを学ぶ：おつきあいの心得 11．国際人として輝く② 国際マナーを学ぶ：出会い時、食事の場面 12．プレゼン力① プレゼンテーションの定義：多数の人に自分の考えを伝える手法 13．プレゼン力② 新聞記事を題材としたプレゼン実習の準備 14．プレゼン力③プレゼン発表（評価対象）：フィードバックと自己開示、経験から学ことの大切さ 15．経験から学ぶことの大切さを知る（体験学習）、全体の振り返りと確認		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★			

年度	2015	授業コード	J50276001
科目名	雑誌編集実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Magazine Edit Practice		
担当者名	石原　基久	旧科目名称	
講義概要	受講者全員参加の雑誌「京都学園大学マガジン（仮称）」を、企画、取材、原稿作成、レイアウトといった手順を踏みつつ、期末に完成させる。受講者＝編集部員。それぞれの興味や関心をまとめあげ、文章や写真、イラストなどで誌面に表現していく。編集作業には、責任を持って必ずやらなければならない課題や、シビアな〆切、チームワークなど、煩雑なことがいっぱいつきまとうが、それだけに完成したときの喜びは格別なもの。その喜びを共に味わいたい。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイント等を活用する。		
評価方法	平常点 40%。課題提出 60%。		
到達目標	雑誌づくりの基礎を理解する。		
準備学習	日々雑誌に関心を持ち親しんでおくこと。		
受講者への要望			
自分の得意なモノ・コトを雑誌づくりのなかで存分に発揮してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. 雑誌編集とは？ 2. 雑誌編集の流れ 3. 企画が命！　自分は何がしたい？ 4. 編集会議（企画決定！） 5. 情報収集と取材 6. レイアウトの基礎 7. 取材１　その方法 8. 取材２　取材体験 9. 原稿１　作成 10. 原稿２　タイトルなどを決定 11. 素材（原稿・写真 etc）整理 12. レイアウト作業 13. 校正 14. 製本→完成 15. 編集会議（反省と次への展望）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50276002
科目名	雑誌編集実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Magazine Edit Practice		
担当者名	石原　基久	旧科目名称	
講義概要	受講者全員参加の雑誌「京都学園大学マガジン（仮称）」を、企画、取材、原稿作成、レイアウトといった手順を踏みつつ、期末に完成させる。受講者＝編集部員。それぞれの興味や関心をまとめあげ、文章や写真、イラストなどで誌面に表現していく。編集作業には、責任を持って必ずやらなければならない課題や、シビアな〆切、チームワークなど、煩雑なことがいっぱいつきまとうが、それだけに完成したときの喜びは格別なもの。その喜びを共に味わいたい。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイント等を活用する。		
評価方法	平常点 40%。課題提出 60%。		
到達目標	雑誌づくりの基礎を理解する。		
準備学習	日々雑誌に関心を持ち親しんでおくこと。		
受講者への要望			
自分の得意なモノ・コトを雑誌づくりのなかで存分に発揮してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. 雑誌編集とは？ 2. 雑誌編集の流れ 3. 企画が命！　自分は何がしたい？ 4. 編集会議（企画決定！） 5. 情報収集と取材 6. レイアウトの基礎 7. 取材１　その方法 8. 取材２　取材体験 9. 原稿１　作成 10. 原稿２　タイトルなどを決定 11. 素材（原稿・写真 etc）整理 12. レイアウト作業 13. 校正 14. 製本→完成 15. 編集会議（反省と次への展望）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50281001
科目名	子どもの社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Child's Sociology		
担当者名	野村　洋平	旧科目名称	
講義概要	子どもは、とても不思議な存在だ。元気で明るい姿に輝きを感じることもあれば、大人から見て非常に残酷な行動を平気でおこなったりする。私たち自身が「子ども」であったときも、おそらく不思議な存在であっただろう。 子ども時代というのは、人間の一生のなかで非常に特殊な時期である。私たちは子ども時代を通して社会の仕組みを学ぶだけでなく、その「社会の外」にあるものを直観的・身体的に学んでいく。接するもの何もかもが新鮮に感じられ、自分が生き生きとしている感覚を強く得られるのが、子ども時代の特徴であろう。 しかし、子どもたちは、楽しかった経験だけでなく、「苦悩」の経験にもたくさん触れ、子ども時代の感覚が鋭いだけに、その「苦悩」は子どもたちにとって切実なものとならざるをえない。その「苦悩」は、時に子どもたちの生命の感覚を奪ってしまう。例えば、学校において経験する「いじめ」はその一つであるといえる。 子ども（あるいは子ども時代）に貫いて流れているものはいったい何なのか。「子ども」について考えることは、子どもの本質を探ることにつながるとともに、私たちの内に引き継いできている子ども時代の感覚を呼び起こして、人間と社会との関係性を知る手がかりにもなる。		
教材（テキスト）	使用しない。講義状況に応じて、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義時に適宜紹介していく。		
教材（その他）	講義時に数回、DVD やビデオを使用する。また、文学作品も積極的に使用していく。		
評価方法	平常点（10%）：出席状況等による 小レポート（30%）：全３回。講義時に数回、DVD やビデオ視聴を行う。その際、課するテーマに基づいて、小レポートを作成してもらう。 試験（60%）：試験は、講義内容を踏まえた上で自身の意見を論じる論述形式の試験とする。 ※小レポートを２回以上提出していない場合、試験を受けても採点の対象としない。		
到達目標	「子どもとはいかなる存在であるのか」をまず社会学的な観点から理解する。社会学的な観点から子どもをとらえるようになると、子どもとは社会には完全におさまりきらない部分があることが分かる。「社会におさまらない部分とは何か」を次に考えていくことにより、そこには私たちの「生命」に関する現象が待ち受けている。子どもを通して「社会」と「生命」との間にある視点を得ること、これが当授業の最終目標となる。		
準備学習	日常生活において、「子ども」に関する現象、社会問題、行動などに対して、常に興味関心を持つようにする。また、対照的に「大人」というものについて考えることによって、「子ども」と「大人」の差異について敏感になるようにしておく。授業では子どもについての DVD、ビデオ、文学作品などを見てレポートを作成していくことになるが、その他授業内で適宜紹介する、子どもに関するの社会問題を取り扱った新聞記事、文学や映画等を準備学習として学び、レポートに反映させられるようにしておくこと。		
受講者への要望			
自分自身の子ども時代の感覚や経験を振り返りながら、講義に臨むこと。講義時に生じた疑問等については、講義終了後質問を受け付けるので、積極的に尋ねてほしい。質問された内容は、必ず講義内容に反映させていく。また、この授業は講義形式である。授業に関する学生への連絡、学生からの質問の受け付け・返答などは、教室の対面の場で行う。（一部は大学での掲示として連絡。）メール、インターネット等でのやり取りは原則行わないものとする。積極的に授業に参加し、生のコミュニケーションを取ってほしい。			
講義の順序とポイント			
【講義の順序】 1．導入（この授業について） 2．子どもとは何か、子どもと大人 3．子どもと社会（1）映像資料鑑賞→小レポート提出 4．子どもと社会（2） 5．子どもと社会（3） 6．子どもと社会（4） 7．子どもの「苦悩」の経験（1）映像資料鑑賞→小レポート提出 8．子どもの「苦悩」の経験（2）			

9．子どもの「苦悩」の経験（3）
10．子どもの「苦悩」の経験（4）
11．子どもの生命感について（1）映像資料鑑賞①（12 回目と連続）
12．子どもの生命感について（2）映像資料鑑賞②（11 回目と連続）→小レポート提出
13．子どもの生命感について（3）
14．子どもの生命感について（4）
15．まとめ

※映像資料を鑑賞した回には、小レポートの提出を求める（授業時にコメントを書いてもらう場合もあるので、注意してほしい）。
※授業の進捗状況により、内容を変更する際は、講義時に学生に対して説明を行う。

【講義のポイント：上記講義の順序に沿って】
1～2 については、「子どもの社会学」という授業の持つ意義を説明していく。また、わたしたちが普段「子ども」と「大人」をどのようにとらえているかを説明する。
3～6 については、子どもを通して社会というものを学ぶとともに、社会学の基本的な考え方に触れられるようにする。
7～10 については、子どもの「苦悩」の経験、特に学校において子どもたちが経験するいじめの現象を取り上げることにより、「苦悩」の経験が子どもたちになにをもたらしているのかを考える。
11～14 については、子どもが感じる生命感というのは、どこから生まれてくるのかを考える。社会学的な視点の限界を乗り越えて、子どもについて考える。
15 において、これまでの講義の総括を行う。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J50281002
科目名	子どもの社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Child's Sociology		
担当者名	野村　洋平	旧科目名称	
講義概要	子どもは、とても不思議な存在だ。元気で明るい姿に輝きを感じることもあれば、大人から見て非常に残酷な行動を平気でおこなったりする。私たち自身が「子ども」であったときも、おそらく不思議な存在であっただろう。 子ども時代というのは、人間の一生のなかで非常に特殊な時期である。私たちは子ども時代を通して社会の仕組みを学ぶだけでなく、その「社会の外」にあるものを直観的・身体的に学んでいく。接するもの何もかもが新鮮に感じられ、自分が生き生きとしている感覚を強く得られるのが、子ども時代の特徴であろう。 しかし、子どもたちは、楽しかった経験だけでなく、「苦悩」の経験にもたくさん触れ、子ども時代の感覚が鋭いだけに、その「苦悩」は子どもたちにとって切実なものとならざるをえない。その「苦悩」は、時に子どもたちの生命の感覚を奪ってしまう。例えば、学校において経験する「いじめ」はその一つであるといえる。 子ども（あるいは子ども時代）に貫いて流れているものはいったい何なのか。「子ども」について考えることは、子どもの本質を探ることにつながるとともに、私たちの内に引き継いできている子ども時代の感覚を呼び起こして、人間と社会との関係性を知る手がかりにもなる。		
教材（テキスト）	使用しない。講義状況に応じて、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義時に適宜紹介していく。		
教材（その他）	講義時に数回、DVD やビデオを使用する。また、文学作品も積極的に使用していく。		
評価方法	平常点（10%）：出席状況等による 小レポート（30%）：全３回。講義時に数回、DVD やビデオ視聴を行う。その際、課するテーマに基づいて、小レポートを作成してもらう。 試験（60%）：試験は、講義内容を踏まえた上で自身の意見を論じる論述形式の試験とする。 ※小レポートを２回以上提出していない場合、試験を受けても採点の対象としない。		
到達目標	「子どもとはいかなる存在であるのか」をまず社会学的な観点から理解する。社会学的な観点から子どもをとらえるようになると、子どもとは社会には完全におさまりきらない部分があることが分かる。「社会におさまらない部分とは何か」を次に考えていくことにより、そこには私たちの「生命」に関する現象が待ち受けている。子どもを通して「社会」と「生命」との間にある視点を得ること、これが当授業の最終目標となる。		
準備学習	日常生活において、「子ども」に関する現象、社会問題、行動などに対して、常に興味関心を持つようにする。また、対照的に「大人」というものについて考えることによって、「子ども」と「大人」の差異について敏感になるようにしておく。授業では子どもについての DVD、ビデオ、文学作品などを見てレポートを作成していくことになるが、その他授業内で適宜紹介する、子どもに関するの社会問題を取り扱った新聞記事、文学や映画等を準備学習として学び、レポートに反映させられるようにしておくこと。		
受講者への要望			
自分自身の子ども時代の感覚や経験を振り返りながら、講義に臨むこと。講義時に生じた疑問等については、講義終了後質問を受け付けるので、積極的に尋ねてほしい。質問された内容は、必ず講義内容に反映させていく。また、この授業は講義形式である。授業に関する学生への連絡、学生からの質問の受け付け・返答などは、教室の対面の場で行う。（一部は大学での掲示として連絡。）メール、インターネット等でのやり取りは原則行わないものとする。積極的に授業に参加し、生のコミュニケーションを取ってほしい。			
講義の順序とポイント			
【講義の順序】 1．導入（この授業について） 2．子どもとは何か、子どもと大人 3．子どもと社会（1）映像資料鑑賞→小レポート提出 4．子どもと社会（2） 5．子どもと社会（3） 6．子どもと社会（4） 7．子どもの「苦悩」の経験（1）映像資料鑑賞→小レポート提出 8．子どもの「苦悩」の経験（2）			

9．子どもの「苦悩」の経験（3）
10．子どもの「苦悩」の経験（4）
11．子どもの生命感について（1）映像資料鑑賞①（12 回目と連続）
12．子どもの生命感について（2）映像資料鑑賞②（11 回目と連続）→小レポート提出
13．子どもの生命感について（3）
14．子どもの生命感について（4）
15．まとめ

※映像資料を鑑賞した回には、小レポートの提出を求める（授業時にコメントを書いてもらう場合もあるので、注意してほしい）。
※授業の進捗状況により、内容を変更する際は、講義時に学生に対して説明を行う。

【講義のポイント：上記講義の順序に沿って】
1～2 については、「子どもの社会学」という授業の持つ意義を説明していく。また、わたしたちが普段「子ども」と「大人」をどのようにとらえているかを説明する。
3～6 については、子どもを通して社会というものを学ぶとともに、社会学の基本的な考え方に触れられるようにする。
7～10 については、子どもの「苦悩」の経験、特に学校において子どもたちが経験するいじめの現象を取り上げることにより、「苦悩」の経験が子どもたちになにをもたらしているのかを考える。
11～14 については、子どもが感じる生命感というのは、どこから生まれてくるのかを考える。社会学的な視点の限界を乗り越えて、子どもについて考える。
15 において、これまでの講義の総括を行う。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J50282001
科目名	思考心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychology of Thinking		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考のメカニズムに対する，認知心理学的研究に関する講義を行う。推論、判断、意思決定などの分野を取り上げ、その認知過程に関する心理学理論と、関連する心理学実験を紹介する。また人間の思考のさまざまな性質を踏まえて、批判的思考を行うためのポイントやトレーニング方法なども取り上げる。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布		
評価方法	授業時間内小テスト(20%)，毎週の小レポート(40%)，学期末試験(40%)を総合して評価する。		
到達目標	人間の思考の性質，日常場面での推論・意思決定などの仕組みについての心理学理論を理解する。 批判的思考をするためのポイントを理解し，批判的思考の態度を身につける。		
準備学習	毎回の授業で，学習した内容の理解を確認するとともに，それをより深めるため，小レポートを出題する。必ず解答して，指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

授業では，学習内容を考えるための思考問題を皆で解き，それをもとに人間の思考の性質についての検討を進める。問題に積極的に取り組むとともに，各自の意見を授業中に活発に表明して欲しい。
毎回授業の最後に，学習内容の要点を確認するため小テストを実施する。また，各回の学習を深めるための小レポートを出題する。これらへの積極的な取り組みを期待する。

講義の順序とポイント

1. 思考の仕組みを考える視点
2. 日常的推論と論理的推論
3. 日常的推論を支える思考の仕組み，思考の 2 重過程理論
4. 思考のバイアスとヒューリスティックス(1)
5. 思考のバイアスとヒューリスティックス(2)
6. 思考のバイアスとヒューリスティックス(3)
7. 思考のバイアスとヒューリスティックス(4)
8. 判断と意思決定(1)
9. 判断と意思決定(2)
10. 因果関係の推論(1)
11. 因果関係の推論(2)
12. 批判的思考(1)
13. 批判的思考(2)
14. 批判的思考(3)
15. 全体の復習と思考研究の視点の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J5028300A
科目名	思考心理学上級実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Psychology of Thinking		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考メカニズムを解明するための，心理学実験の実習を行う。授業では 3 個程度の実験の実施を予定している。各実験について，実験材料の準備，実験実施によるデータ収集，データの分析をおこない，報告書を作成する。これらを通して，認知心理学的な実験手法の基礎を身につけて欲しい。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業中に文献を紹介する。		
評価方法	授業への参加状況に基づく日常点（60%），実験レポート（40%）を総合して評価する。		
到達目標	思考の実験心理学的研究に対する理解を深めるとともに，実験法の基礎と実験報告書の作成方法を習得する。		
準備学習	毎回の授業で，次回までの課題を指示するので，確実に行って次回の授業に参加すること。 課題の内容は，関連文献を読む，実験材料の作成，データ収集，実験レポートの作成等であり，実験課題の進行に応じて指示する。		
受講者への要望			
授業に積極的に参加し，実験によって人間の思考の性質を探る楽しさを感じて欲しい。 授業時間は実験の立案や準備，結果の分析等が中心となるので，授業外の時間にも実験を行う必要がある。			
講義の順序とポイント			
1. 思考の実験心理学的研究の概観 2. 実験計画立案のポイント，実験報告書の作成の仕方 3. 意思決定の実験(1) 4. 意思決定の実験(2) 5. 意思決定の実験(3) 6. 意思決定の実験(4) 7.PC を用いた実験制御(1) 8. PC を用いた実験制御(2) 9. PC を用いた実験制御(3) 10. PC を用いた実験制御(4) 11. 確率判断に関する実験(1) 12. 確率判断に関する実験(2) 13. 確率判断に関する実験(3) 14. 確率判断に関する実験(4) 15. 研究報告会			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50290001
科目名	質的社会調査法	単位数	2
科目名（英語表記）	Qualitative Social Research Methods		
担当者名	永田　貴聖	旧科目名称	
講義概要	この講義では、社会調査、特に、参与観察、当事者関係者へのインタビューなどのフィールドワーク、視聴覚資料などのデータを解釈分析する質的社会調査法の基礎を学習する。質的社会調査を実施するに際して、調査者はある問題や関心に関連する人びとと関係を構築するスキルを求められる。受講生が人びととのコミュニケーションを重視して行われる社会学・文化人類学における社会調査の意義、調査倫理を理解するようにすすめる予定である。本講義では社会科学としての質的社会調査の基礎知識を講義すると共に、受講生の皆さんが質的調査（インタビュー調査、フィールドワーク）を実施し、その成果を提出することを求める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況等（５０％）レポート提出と内容への評価（５０％)、授業運営への貢献度		
到達目標	授業内で指示した課題を完成させ、提出する。 習得を目指すスキルは次の２つである。 ①参与観察、当事者関係者へのインタビューなどのフィールドワーク、視聴覚資料などのデータを解釈分析する質的社会調査法の基礎スキル ②調査を実施する際、調査される側の人びとと関係を構築するスキル		
準備学習	・授業において、特にフィールドワーク法、インタビュー法に関連する予習文献・資料を課題として準備するので、着実に行うこと ・社会学関連科目（社会学入門、家族社会学、コミュニケーション社会学、文化社会学など)、文化人類学関連科目を同時履修するほうがのぞましい		

受講者への要望

・課題に真剣に取り組むこと
・自身の身近な人間関係内にある出来事と社会でおこっている出来事両方に関心を持つこと

講義の順序とポイント

1 講義概要説明、課題、進め方などについて。
2 近年の社会調査の動向、社会学における質的社会調査、文化人類学におけるフィールド調査
3 社会学における質的社会調査の概要説明
4 これまでの質的社会調査による研究の紹介（社会学）
5 ある個人の社会経験についての調査（ライフヒストリー)、 ある個人（クラスメートなど関係者）の特定の経験をインタビューする。
6 ある個人の社会経験についての調査（ライフヒストリー)、 ある個人（クラスメートなど関係者）の特定の経験を文章にまとめる。
7 ライフヒストリーの方法論にそって作品を検討する。
8 文化人類学フィールドワークとは？
9 これまでの文化人類学フィールドワーク調査による研究の紹介
10 現代の文化人類学フィールドの変化と研究の変化
11 フィールドワークの企画　個々あるいはグループ別にフィールドワークを企画し実施する。
12 調査する側と調査される側の権力関係と調査倫理
13 フィールドワークで得た資料を記述分析する。
14 前回授業で記述分析したものを民族誌としてまとめる。
15 インタビュー調査、フィールドワークのおさらい、提出物の再検討、受講生同士で疑問点問題点を共有する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		★

年度	2015	授業コード	J50290002
科目名	質的社会調査法	単位数	2
科目名（英語表記）	Qualitative Social Research Methods		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	質的調査は他者理解の優れた方法のひとつです。調査者が調査される人々とコミュニケーションを取りながら、その内側に入って行き、その豊かな世界を共に味わうことができるからです。とはいうものの、質的調査の作品は文学作品ではありませんから、どこかで客観性が担保されなければなりません。本講義では社会科学の方法論としての質的調査のあり方を講義すると共に、受講生の皆さんが質的調査を実施しそれを作品に仕上げるまでの具体的な方法についても教授します。受講生の皆さんは実際に調査を行い、その成果を作品として提出しなければなりません。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	提出物（７０％）　授業への貢献度（３０％）		
到達目標	質的調査を実施し,それを作品に仕上げる。		
準備学習	他者への感受性をあげておく。毎回課題が課されるので、それを次回までにしておくこと。		

受講者への要望

提出された作品の評価は、全講義出席の前提のもとに行います。講義を欠席する場合は、その講義の内容を、自分自身でフォローしておくことが必要です。

講義の順序とポイント

１質的調査　質的調査の特徴と代表的な質的調査の方法について概括する
２ライフヒストリー　クラスメイトのライフヒストリーを聞き取り、それを記述する。
３ライフヒストリー　方法論としてのライフヒストリーを考える。
４ライフヒストリー　代表的なライフヒストリーの作品を読む。
５ライフヒストリー　前回の作品をグループ毎に検討し、次の作品へのインタビュー計画を個々に立てる。
６フィールドワーク　人類学的なフィールドワーク方法について概括する。
７フィールドワーク　人類学的手法によるモノグラフを読む。
８フィールドワーク　民俗学的なフィールドワークについて概括する。
９フィールドワーク　民俗学的手法による民族誌を読む。
１０フィールドワークの企画　個々あるいはグループ別にフィールドワークを企画する。
１１聞き手と語り手　インタビュー調査やフィールドワークにおける聞き手と語り手の権力関係について考える。
１２ライフヒストリー作品の作成　インタビュー済みの資料をライフヒストリー作品にまとめる。
１３モノグラフの作成　フィールドで得た資料をモノグラフに記述する。
１４日本におけるフィールドワークの歴史
１５作品合評会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50292101
科目名	社会意識論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Social Consciousness A		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	みなさんは、これまできっと、漫画や映画などを通じていろいろな「お話」を楽しんできたと思います。お話は、自分とは何の関係もない作り事なのに、なぜ面白いと感じられるのでしょうか。そこにはどんな夢や現実が隠されているのでしょうか。 この授業では、みなさんに自分の好きなお話を紹介してもらいます。そして、そのお話のどんなところが面白いのか、なぜ魅力的なのか、などについて一緒に考えていきます。さらに、そのお話のなかに、どんな個人的な願望や社会的・集合的な現実・価値観・世界観などが織り込まれているのか、探って行きます。 ところで、この授業の名称である「社会意識」とは、一つの社会のなかで広く共有される価値観・偏見・美意識・ものの感じ方などの総称です。授業では、こうした物語の分析を通して、この社会意識を読みとる視点と方法を身につけて行きます。そのさい、この作業に必要な、社会学や心理学をはじめとする人文的研究の諸成果を幅広く紹介していき、そのことで、みなさんが社会のなかで生きる人間をより深く多面的に理解できるように導きたいと思います。 この「社会意識論 A」では、とくに夢や神話や昔話といった古典的な物語の分析を中心とし、続く「社会意識論 B」では、小説や漫画あるいは映画、ゲームなど、より現代的な物語を中心とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回、プリントを配ります。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（40%）＋授業内小テスト（20 点）＋授業内での発表（40%）		
到達目標	神話・昔話・小説・映画・漫画などの物語のなかに込められた、社会的・心理的な要素・意味を洞察する視点と方法を、人文研究の世界を学びながら、身につけること。		
準備学習	毎回の授業で、前回の授業で伝えたテーマについて、小レポートないしプレゼンをおこなってもらうので、そのための準備をする。		

受講者への要望

授業の主役は、あなたです。授業に積極的に関与して、いろいろしゃべって、よい発表をしてくれることを大いに期待しています。なお、できれば「社会意識論 A」をとったうえで、さらに「社会意識論 B」も受講するつもりでいてください。ただし、必須ではなく、どちらか一方だけの履修でも結構です。

講義の順序とポイント

1・社会意識とは何か
2・意識と無意識について
3・無意識とその表現について
4・夢と願望
5・願望と物語、その 1
6・願望と物語、その 2
7・神話・昔話の心理学的解釈、その 1
8・神話・昔話の心理学的解釈、その 2
9・個人発表、その 1
10・個人発表、その 2
11・個人発表、その 3
12・個人発表、その 4
13・願望・欲望について、再考
14・物語のなかの社会
15・物語のなかの人間と社会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★★	★

年度	2015	授業コード	J50292102
科目名	社会意識論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Social Consciousness A		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	みなさんは、これまできっと、漫画や映画などを通じていろいろな「お話」を楽しんできたと思います。お話は、自分とは何の関係もない作り事なのに、なぜ面白いと感じられるのでしょうか。そこにはどんな夢や現実が隠されているのでしょうか。 この授業では、みなさんに自分の好きなお話を紹介してもらいます。そして、そのお話のどんなところが面白いのか、なぜ魅力的なのか、などについて一緒に考えていきます。さらに、そのお話のなかに、どんな個人的な願望や社会的・集合的な現実・価値観・世界観などが織り込まれているのか、探って行きます。 ところで、この授業の名称である「社会意識」とは、一つの社会のなかで広く共有される価値観・偏見・美意識・ものの感じ方などの総称です。授業では、こうした物語の分析を通して、この社会意識を読みとる視点と方法を身につけて行きます。そのさい、この作業に必要な、社会学や心理学をはじめとする人文的研究の諸成果を幅広く紹介していき、そのことで、みなさんが社会のなかで生きる人間をより深く多面的に理解できるように導きたいと思います。 この「社会意識論 A」では、とくに夢や神話や昔話といった古典的な物語の分析を中心とし、続く「社会意識論 B」では、小説や漫画あるいは映画、ゲームなど、より現代的な物語を中心とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回、プリントを配ります。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（40%）＋授業内小テスト（20 点）＋授業内での発表（40%）		
到達目標	神話・昔話・小説・映画・漫画などの物語のなかに込められた、社会的・心理的な要素・意味を洞察する視点と方法を、人文研究の世界を学びながら、身につけること。		
準備学習	毎回の授業で、前回の授業で伝えたテーマについて、小レポートないしプレゼンをおこなってもらうので、そのための準備をする。		

受講者への要望

授業の主役は、あなたです。授業に積極的に関与して、いろいろしゃべって、よい発表をしてくれることを大いに期待しています。なお、できれば「社会意識論 A」をとったうえで、さらに「社会意識論 B」も受講するつもりでいてください。ただし、必須ではなく、どちらか一方だけの履修でも結構です。

講義の順序とポイント

1・社会意識とは何か
2・意識と無意識について
3・無意識とその表現について
4・夢と願望
5・願望と物語、その 1
6・願望と物語、その 2
7・神話・昔話の心理学的解釈、その 1
8・神話・昔話の心理学的解釈、その 2
9・個人発表、その 1
10・個人発表、その 2
11・個人発表、その 3
12・個人発表、その 4
13・願望・欲望について、再考
14・物語のなかの社会
15・物語のなかの人間と社会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★★	★

年度	2015	授業コード	J50292201
科目名	社会意識論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Social Consciousness B		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	みなさんは、これまできっと、漫画や映画などを通じていろいろな「お話」を楽しんできたと思います。お話は、自分とは何の関係もない作り事なのに、なぜ面白いと感じられるのでしょうか。そこにはどんな夢や現実が隠されているのでしょうか。 この授業では、みなさんに自分の好きなお話を紹介してもらいます。そして、そのお話のどんなところが面白いのか、なぜ魅力的なのか、などについて一緒に考えていきます。さらに、そのお話のなかに、どんな個人的な願望や社会的・集合的な現実・価値観・世界観などが織り込まれているのか、探って行きます。 ところで、この授業の名称である「社会意識」とは、一つの社会のなかで広く共有される価値観・偏見・美意識・ものの感じ方などの総称です。授業では、こうした物語の分析を通して、この社会意識を読みとる視点と方法を身につけて行きます。そのさい、この作業に必要な、社会学や心理学をはじめとする人文的研究の諸成果を幅広く紹介していき、そのことで、みなさんが社会のなかで生きる人間をより深く多面的に理解できるように導きたいと思います。 「社会意識論 A」では、とくに夢や神話や昔話といった古典的な物語の分析を中心とし、この「社会意識論 B」では、小説や漫画あるいは映画、ゲームなど、より現代的な物語を中心とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回プリントを配ります。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（40%）＋授業内小テスト（20 点）＋授業内での発表（40%）		
到達目標	神話・昔話・小説・映画・漫画などの物語のなかに込められた、社会的・心理的な要素・意味を洞察する視点と方法を、人文研究の世界を学びながら、身につけること。		
準備学習	毎回の授業で、前回の授業で伝えたテーマについて、小レポートないしプレゼンをおこなってもらうので、そのための準備をする。		

受講者への要望

授業の主役はあなたです。授業に積極的に関与して、いろいろしゃべって、よい発表をしてくれることを大いに期待しています。なお、「社会意識論 A」をとったうえで、この「社会意識論 B」を受講してください。ただし、必須ではなく、この「社会意識論 B」だけの受講でも結構です。

講義の順序とポイント

1・社会意識とは何か
2・社会構造と社会意識
3・物語のなかの社会意識
4・物語のなかの無意識的願望
5・社会構造と無意識的願望
6・願望・欲望とその表現、再考
7・物語の分析の方法と実例、その 1
8・物語の分析の方法と実例、その 2
9・個人発表、その 1
10・個人発表、その 2
11・個人発表、その 3
12・個人発表、その 4
13・改めて物語のなかの社会を考える
14・物語のなかの人間と社会、その 1
15・物語のなかの人間と社会、その 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★★	★

年度	2015	授業コード	J50292202
科目名	社会意識論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Social Consciousness B		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	みなさんは、これまできっと、漫画や映画などを通じていろいろな「お話」を楽しんできたと思います。お話は、自分とは何の関係もない作り事なのに、なぜ面白いと感じられるのでしょうか。そこにはどんな夢や現実が隠されているのでしょうか。 この授業では、みなさんに自分の好きなお話を紹介してもらいます。そして、そのお話のどんなところが面白いのか、なぜ魅力的なのか、などについて一緒に考えていきます。さらに、そのお話のなかに、どんな個人的な願望や社会的・集合的な現実・価値観・世界観などが織り込まれているのか、探って行きます。 ところで、この授業の名称である「社会意識」とは、一つの社会のなかで広く共有される価値観・偏見・美意識・ものの感じ方などの総称です。授業では、こうした物語の分析を通して、この社会意識を読みとる視点と方法を身につけて行きます。そのさい、この作業に必要な、社会学や心理学をはじめとする人文的研究の諸成果を幅広く紹介していき、そのことで、みなさんが社会のなかで生きる人間をより深く多面的に理解できるように導きたいと思います。 「社会意識論 A」では、とくに夢や神話や昔話といった古典的な物語の分析を中心とし、この「社会意識論 B」では、小説や漫画あるいは映画、ゲームなど、より現代的な物語を中心とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回プリントを配ります。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（40%）＋授業内小テスト（20 点）＋授業内での発表（40%）		
到達目標	神話・昔話・小説・映画・漫画などの物語のなかに込められた、社会的・心理的な要素・意味を洞察する視点と方法を、人文研究の世界を学びながら、身につけること。		
準備学習	毎回の授業で、前回の授業で伝えたテーマについて、小レポートないしプレゼンをおこなってもらうので、そのための準備をする。		

受講者への要望

授業の主役はあなたです。授業に積極的に関与して、いろいろしゃべって、よい発表をしてくれることを大いに期待しています。なお、「社会意識論 A」をとったうえで、この「社会意識論 B」を受講してください。ただし、必須ではなく、この「社会意識論 B」だけの受講でも結構です。

講義の順序とポイント

1・社会意識とは何か
2・社会構造と社会意識
3・物語のなかの社会意識
4・物語のなかの無意識的願望
5・社会構造と無意識的願望
6・願望・欲望とその表現、再考
7・物語の分析の方法と実例、その 1
8・物語の分析の方法と実例、その 2
9・個人発表、その 1
10・個人発表、その 2
11・個人発表、その 3
12・個人発表、その 4
13・改めて物語のなかの社会を考える
14・物語のなかの人間と社会、その 1
15・物語のなかの人間と社会、その 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★★	★

年度	2015	授業コード	J50299A0A
科目名	社会学調査演習 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Social Research Methods (s)		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	社会調査は、社会学的研究のための重要な手段である。社会調査には、調査を企画して実施し、収集したデータを所定の手続きに従って分析し、社会について考察し、まとめたものを報告して社会に還元するまでの一連の過程が含まれる。「社会学調査演習」では、これらすべての過程を体験することを通して、社会調査に必要な知識を学習する。 社会調査士資格の「【G】社会調査の実習を中心とする科目」に該当する。詳しくは、一般社団法人社会調査協会の「社会調査士のカリキュラム」（{http://jasr.or.jp/participation/curriculum_sr.html}）を参照。 この演習では、主としてドキュメント分析の方法を学ぶ。ドキュメントとは記録のことであり、ドキュメント分析とは自伝、手紙、新聞記事などの記録されたものを分析することを通して、社会について考える手法である。 2015 年度演習では、主に雑誌を取り上げる。テレビ番組など、他のメディアも適宜参照しながら、こうしたメディアで、対象となるものがどのように描かれているか、それぞれのメディアの傾向、暗黙のメッセージなどを分析する。 春学期は、調査の基礎の学習から、資料収集までを行なう。		
教材（テキスト）	プリント教材（授業中に配付する）。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	分析資料（授業中に指示する）。		
評価方法	平常点（発表 50%、その他の貢献 50%）による。		
到達目標	ドキュメント分析の方法を使う社会調査を体験し、どのような過程で行なわれるかを理解すること。		
準備学習	調査の進行に応じて、調査対象および調査方法に関するテキストを指示するので、よく読んでおくこと。		
受講者への要望			
調査は根気が必要な作業の連続である。集中力を絶やさないようにすること。また、雑誌メディアに常に関心をもっておくこと。			
講義の順序とポイント			
1. 社会調査概論　社会調査の目的、内容、種類などについて 2. 社会調査の方法概論　聞き取り調査、観察法、質問紙調査法の適用対象 3. 質的調査分析法概論　フィールドワーク・内容分析などの質的調査の種類と方法 4. 資料収集１　文献・新聞記事などによる資料収集実習 5. 資料収集２　ウェブ公開データ・データベースなどを用いた資料収集実習 6. 資料収集３　紙文献・文献データベース・オンラインジャーナルからの引用実習 7. テーマ設定のための資料発表とディスカッション１ 8. テーマ設定のための資料発表とディスカッション２ 9. 方法論決定のための文献発表とディスカッション１ 10. 方法論決定のための文献発表とディスカッション２ 11. 研究計画１　研究グループの役割分担など 12. 研究計画２　調査対象者の選定など 13. 分析項目の設計１ 14. 分析項目の設計２ 15. 資料収集			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★		★★	★	★

年度	2015	授業コード	J50299A0B
科目名	社会学調査演習 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Social Research Methods (s)		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	社会学の調査方法の概要とそのなかの聞き取り調査方法を学ぶ。夏休みの聞き取り調査にむけて、「先輩に聞く私の仕事・働き方」について、各学生は夏休み前に調査計画書を作成する。		
教材（テキスト）	教材（テキスト） 『新版 はじめての社会調査』自治体研究社 2009		
教材（参考文献）	教材（参考文献） 『数字にだまされない生活統計』　北樹出版 2013		
教材（その他）			
評価方法	平常点(40&)出席などによる。期末提出の調査計画書（60%）		
到達目標	社会学調査演習とは何かを理解し、各学生は夏休み実施する聞き取り調査の計画書を作成する		
準備学習	次回のゼミまでに指定された教科書の範囲を読んでくること		
受講者への要望			
ゼミの発表やディスカッションに参加できるように、指定された教材を読んでくること			
講義の順序とポイント			
講義の順序とポイント 1, イントロダクション 2, 社会調査への招待 3,　就職や仕事について基礎資料で証明する 4. 文献調査と各自の発表 5.文献調査と各自の発表 6.文献調査と各自の発表 7.文献調査と各自の発表 8　発想を整理しよう 9. 調査目的と仮説の設定 10.調査目的と仮説の設定 11.調査目的と仮説の設定 12. 聞き取り調査と質問項目について 13. 「私の聞き取り調査」発表 14.「私の聞き取り調査」発表 15. 「私の聞き取り調査」発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	J50299B0A
科目名	社会学調査演習 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Social Research Methods (f)		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	社会調査は、社会学的研究のための重要な手段である。社会調査には、調査を企画して実施し、収集したデータを所定の手続きに従って分析し、社会について考察し、まとめたものを報告して社会に還元するまでの一連の過程が含まれる。「社会学調査演習」では、これらすべての過程を体験することを通して、社会調査に必要な知識を学習する。 社会調査士資格の「【G】社会調査の実習を中心とする科目」に該当する。詳しくは、一般社団法人社会調査協会の「社会調査士のカリキュラム」（{http://jasr.or.jp/participation/curriculum_sr.html}）を参照。 この演習では、主としてドキュメント分析の方法を学ぶ。ドキュメントとは記録のことであり、ドキュメント分析とは自伝、手紙、新聞記事などの記録されたものを分析することを通して、社会について考える手法である。 2015 年度演習では、主に雑誌を取り上げる。テレビ番組など、他のメディアも適宜参照しながら、こうしたメディアで、対象となるものがどのように描かれているか、それぞれのメディアの傾向、暗黙のメッセージなどを分析する。 秋学期は、資料の分析から、報告書の作成までを行なう。		
教材（テキスト）	プリント教材（授業中に配付する）。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	分析資料（授業中に指示する）。		
評価方法	平常点（調査への貢献）50%、レポート 50%。		
到達目標	ドキュメント分析の手法を使う社会調査を体験し、どのような過程で行なわれるかを理解すること。		
準備学習	調査の進行に応じて、調査対象および調査方法に関するテキストを指示するので、よく読んでおくこと。		
受講者への要望			
調査は根気が必要な作業の連続である。集中力を絶やさないようにすること。また、雑誌メディアに常に関心をもっておくこと。			
講義の順序とポイント			
1. エディティング 1　コーディング・カテゴリー化など 2. エディティング 2 3. 内容分析 1　ドキュメントの分析 4. 内容分析 2 5. 内容分析 3 6. 内容分析 4 7. データ整理 1　データの視覚化・簡単な数量化など 8. データ整理 2 9. 仮説検証 1　データのプレゼンテーションとディスカッション 10. 仮説検証 2　データのプレゼンテーションとディスカッション 11. 報告書の作成 1　調査報告書の書き方・互いに添削 12. 報告書の作成 2 13. 報告書の作成 3 14. キャリアサポートセンターのゼミ訪問等（予備日 1） 15. キャリアサポートセンターのゼミ訪問等（予備日 2）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★		★★	★	★

年度	2015	授業コード	J50299B0B
科目名	社会学調査演習 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Social Research Methods (f)		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	社会学の調査方法の概要とそのなかの聞き取り調査方法を学ぶ。各学生は夏休みに行った聞き取り調査「先輩に聞く私の仕事・働き方」の報告を行い、テープ起こしから一次原稿から三次原稿にまで仕上げて、報告書を作成する。		
教材（テキスト）	新版 はじめての社会調査』自治体研究社 2009		
教材（参考文献）	『数字にだまされない生活統計』　北樹出版 2013		
教材（その他）			
評価方法	平常点(40&)出席などによる。期末提出の調査計画書（60%）		
到達目標	社会学調査演習とは何かを理解し、各学生は夏休み実施した聞き取り調査の報告書原稿を作成する		
準備学習	次回のゼミまでに指定された教科書の範囲を読んでくること		
受講者への要望			
ゼミの発表やディスカッションに参加できるように、指定された教材を読んでくること			
講義の順序とポイント			
講義の順序とポイント 1, 後期イントロダクション 2 夏休み聞き取り調査の中間報告 3. 夏休み聞き取り調査の中間報告 4.夏休み聞き取り調査の中間報告 5.KJ 法と実習 6..KJ 法と実習 7. .KJ 法と実習 8,観察調査について 10. 各自（グループ）の観察調査報告 11, 3 次原稿の学生相互添削と発表 12. 3 次原稿の学生相互添削と発表 13、最終レポートの発表 14, 最終レポートの発表 15.最終レポートの発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	J50304A01
科目名	社会心理学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Psychology I		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学は非常に幅の広い分野です。認知心理学と密接に関連する社会的認知の分野では、厳密な実験手法を使って記憶の構造や人間の判断の誤りなどの研究が行われています。一方、社会心理学ならではの現実社会の諸問題に取り組む分野も活発に行われており、会社組織や政治からインターネットに至るまで研究対象とされています。この講義ではこのような諸分野を総花的に概観するために、１テーマ１時間を原則として順次解説します。社会心理 I では主に個人過程をとりあげ、社会的認知・対人関係・コミュニケーションなどについて学びます。		
教材（テキスト）	よくわかる社会心理学　山田・北村・結城編著　ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する		
評価方法	レポート（60%）と小テストによる平常点（40%）により評価する。		
到達目標	周辺諸科学の幅広い知識を得ながら、人間と社会を理解することを目指す。その中ではじめて社会心理学の基本的概念は生きるものとなる。		
準備学習	パワーポイントを京学なびから配布しますので、事前にプリントアウトをして、授業に持参してください。 パワーポイント内に教科書の関連する単元のページが示されています。事前に読んでわからない語句など確認しておいてください。 授業の最後にはできるだけ毎回、ミニレポートを書いていただく予定です。		

受講者への要望

基本的概念を理解するために、教科書は各自で読んでおいてください。

講義の順序とポイント

講義の順序とポイント
数字は、教科書の章番号を示しています。

第 1 回 概論
第 2 回 感情と記憶
第 3 回 認知心理学の基礎
第 4 回 対人認知
第 5 回 推論
第 6 回 自己概念
第 7 回 自己評価
第 8 回 動機
第 9 回 表情判断
第 10 回 非言語的コミュニケーション
第 11 回 説得的コミュニケーション
第 12 回 態度
第 13 回 マインドコントロール
第 14 回 対人関係
第 15 回 レポート指導

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50304A02
科目名	社会心理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Psychology I		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学は非常に幅の広い分野です。認知心理学と密接に関連する社会的認知の分野では、厳密な実験手法を使って記憶の構造や人間の判断の誤りなどの研究が行われています。一方、社会心理学ならではの現実社会の諸問題に取り組む分野も活発に行われており、会社組織や政治からインターネットに至るまで研究対象とされています。この講義ではこのような諸分野を総花的に概観するために、１テーマ１時間を原則として順次解説します。社会心理Ⅰでは主に個人過程をとりあげ、社会的認知・対人関係・コミュニケーションなどについて学びます。		
教材（テキスト）	よくわかる社会心理学　山田・北村・結城編著　ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する		
評価方法	レポート（60%）と小テストによる平常点（40%）により評価する。		
到達目標	周辺諸科学の幅広い知識を得ながら、人間と社会を理解することを目指す。その中ではじめて社会心理学の基本的概念は生きるものとなる。		
準備学習	パワーポイントを京学なびから配布しますので、事前にプリントアウトをして、授業に持参してください。 パワーポイント内に教科書の関連する単元のページが示されています。事前に読んでわからない語句など確認しておいてください。 授業の最後にはできるだけ毎回、ミニレポートを書いていただく予定です。		

受講者への要望

基本的概念を理解するために、教科書は各自で読んでおいてください。

講義の順序とポイント

講義の順序とポイント
数字は、教科書の章番号を示しています。

第１回 概論
第２回 感情と記憶
第３回 認知心理学の基礎
第４回 対人認知
第５回 推論
第６回 自己概念
第７回 自己評価
第８回 動機
第９回 表情判断
第10回 非言語的コミュニケーション
第11回 説得的コミュニケーション
第12回 態度
第13回 マインドコントロール
第14回 対人関係
第15回 レポート指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50304B01
科目名	社会心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Psychology Ⅱ		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理Ⅱでは主に集団過程を取りあげ、集団の影響力や集合現象について学びます。これらの講義を通じて、我々の相互作用によって生まれた価値観や規範が社会を作り上げ、社会が我々の自己を形作っていくという循環する過程を理解して頂くことがねらいとなります。		
教材（テキスト）	よくわかる社会心理学　山田・北村・結城編著　ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）			
教材（その他）	ビデオ教材・パワーポイントを用いた授業を行う。		
評価方法	レポート（60%）と小テストによる平常点（40%）により評価する。		
到達目標	周辺諸科学の幅広い知識を得ながら、人間と社会を理解することを目指す。その中ではじめて社会心理学の基本的概念は生きるものとなる。		
準備学習	パワーポイントを京学なびから配布しますので、事前にプリントアウトをして、授業に持参してください。 パワーポイント内に教科書の関連する単元のページが示されています。事前に読んでわからない語句など確認しておいてください。 授業の最後にはできるだけ毎回、ミニレポートを書いていただく予定です。		
受講者への要望			
基本的概念を理解するために、教科書は各自で読んでおいてください。			
講義の順序とポイント			
第１回　状況の力 第２回　攻撃性と援助行動 第３回　　社会的影響 第４回　　集団の意思決定 第５回　　集団過程 第６回　　リーダーシップ 第７回　　社会的アイデンティティ 第８回　社会的共有認知 第９回　　ジレンマ状況 第 10 回 集合現象 第 11 回 メディア 第 12 回 ネットワーク 第 13 回 インターネット 第 14 回 文化と進化 第 15 回 レポート指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50304B02
科目名	社会心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Psychology Ⅱ		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理Ⅱでは主に集団過程を取りあげ、集団の影響力や集合現象について学びます。これらの講義を通じて、我々の相互作用によって生まれた価値観や規範が社会を作り上げ、社会が我々の自己を形作っていくという循環する過程を理解して頂くことがねらいとなります。		
教材（テキスト）	よくわかる社会心理学　山田・北村・結城編著　ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）			
教材（その他）	ビデオ教材・パワーポイントを用いた授業を行う。		
評価方法	レポート（60%）と小テストによる平常点（40%）により評価する。		
到達目標	周辺諸科学の幅広い知識を得ながら、人間と社会を理解することを目指す。その中ではじめて社会心理学の基本的概念は生きるものとなる。		
準備学習	パワーポイントを京学なびから配布しますので、事前にプリントアウトをして、授業に持参してください。 パワーポイント内に教科書の関連する単元のページが示されています。事前に読んでわからない語句など確認しておいてください。 授業の最後にはできるだけ毎回、ミニレポートを書いていただく予定です。		
受講者への要望			
基本的概念を理解するために、教科書は各自で読んでおいてください。			
講義の順序とポイント			
第１回　状況の力 第２回　攻撃性と援助行動 第３回　　社会的影響 第４回　　集団の意思決定 第５回　　集団過程 第６回　　リーダーシップ 第７回　　社会的アイデンティティ 第８回　社会的共有認知 第９回　　ジレンマ状況 第 10 回 集合現象 第 11 回 メディア 第 12 回 ネットワーク 第 13 回 インターネット 第 14 回 文化と進化 第 15 回 レポート指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J5030700A
科目名	社会心理学上級実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Social Psychology		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学の実験・調査研究をグループまたは個人で行う。具体的には実験者として実験を実施する以外に、実験機材のセッティング、被験者の手配（時間の設定）、結果の分析までの一連の作業が含まれる。実験結果はＳＰＳＳにより統計的に分析する。実験はグループで行った場合も仮説は各自で異なる仮説を立てて、個人レポートを作成する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	必要な文献、教材は授業中に適宜指示する		
教材（その他）	実験や調査に必要な教材は授業中に供与する		
評価方法	平常点により評価する。作業過程は Google Apps に随時アップしていただく予定。		
到達目標	実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。加えて、実験参加者に負担を強いるだけの価値を信じる、ある種の「蛮勇」も必要となります。これらのさまざまな力を身につけることが目標となります。		
準備学習	授業時間中に実験を計画し質問紙の作成などを行う。実験や調査、質問紙は授業時間内に実施できない場合が多い。適宜、調査対象者が得られる機会に実験調査を行うことになる。それに要した時間も評価に加える。		

受講者への要望

実験実施に成功するか失敗するかではなく、その過程を評価対象とする。
失敗を恐れずに実験に挑戦していただきたい。

講義の順序とポイント

１．　概論
２．　研究テーマディスカッション
３．　研究テーマ発表
４．　文献検索
５．　方法論ディスカッション
６．　実験計画ディスカッション
７．　実験計画発表
８．　実験準備
９．　実験準備
１０．実験実施
１１．実験実施
１２．分析
１３．分析
１４．発表
１５．発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50310001
科目名	社会調査法	単位数	4
科目名（英語表記）	Social Research Methods		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	社会調査を行なうための基礎知識を学習する。社会調査の意義、種類、調査倫理といった基本事項のほか、調査設計、具体的な調査方法、調査データの整理といった、実践的知識を学習する。 社会調査士資格の【A】 社会調査の基本的事項に関する科目、【B】 調査設計と実施方法に関する科目に該当するが、資格取得を目指す（だけの）科目ではない。人文学のため調査の考え方、方法の基礎を学ぶ。 社会調査士資格について、詳しくは、一般社団法人社会調査協会のウェブページ「社会調査士とは」（{http://jasr.or.jp/participation/what_sr.html}）を、カリキュラムについては「社会調査士のカリキュラム」（{http://jasr.or.jp/participation/curriculum_sr.html}）を参照。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を利用する。		
評価方法	授業内レポート（40%）、レポート（30%）、定期試験（30%）		
到達目標	社会調査の基本的事項、調査設計と実施方法を理解すること。		
準備学習	3 日前までに、京学なびに資料を掲示するので、よく読んでおくこと。		

受講者への要望

講義中に配付したプリント教材は、以降の講義でも持参すること。
「統計分析の基礎」または「心理統計学 I」・「同 II」を、予めあるいは並行して、履修してほしい。

講義の順序とポイント

《I イントロダクション》
1. イントロダクション：講義の概要、事前知識など

《II 社会調査の基本的事項》
2. 社会調査の目的
3. 社会調査の歴史：チャールズ・ブース、横山源之助
4. 社会調査実施時の注意点：倫理、アナウンスメント効果
5. 社会調査のための情報収集
6. 既存の統計データへのアクセス：国勢調査と官庁統計
7. 既存の調査研究へのアクセス：世論調査、市場調査
8. 復習と練習問題(1)

《III 調査の種類》
9. 調査の種類
10. 調査票調査
11. 聞き取り調査
12. 参与観察
13. 非参与観察
14. ドキュメント分析
15. 復習と練習問題(2)

《IV 量的調査の設計と実施》
16. 調査票調査のための事前知識など
17. 調査票調査の概要
18. 問題・概念・仮説
19. 調査票の作り方(1)：ワーディング
20. 調査票の作り方(2)：選択肢、その他
21. サンプリング(1)：サンプリングの重要性、諸技法
22. サンプリング(2)：サンプリングの論理を理解するための統計指標

23. サンプリング(3)：標本と母集団の関係
24. サンプリング(4)：標本数の決め方、サンプリング台帳
25. 調査票の配付と回収：自記式・他記式各方法、回収率
26. 調査データの整理：エディティング、コーディング
27. 統計パッケージ：種類、使用の注意点
28. 報告書の書き方：必須項目、公開することの意義、記述と説明
29. 復習と練習問題(3)

《V 質的調査の設計と実施》
30. 質的調査の設計と実施、量的調査との相違

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50310002
科目名	社会調査法	単位数	4
科目名（英語表記）	Social Research Methods		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	社会調査を行なうための基礎知識を学習する。社会調査の意義、種類、調査倫理といった基本事項のほか、調査設計、具体的な調査方法、調査データの整理といった、実践的知識を学習する。 社会調査士資格の【A】 社会調査の基本的事項に関する科目、【B】 調査設計と実施方法に関する科目に該当するが、資格取得を目指す（だけの）科目ではない。人文学のため調査の考え方、方法の基礎を学ぶ。 社会調査士資格について、詳しくは、一般社団法人社会調査協会のウェブページ「社会調査士とは」（{http://jasr.or.jp/participation/what_sr.html}）を、カリキュラムについては「社会調査士のカリキュラム」（{http://jasr.or.jp/participation/curriculum_sr.html}）を参照。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を利用する。		
評価方法	授業内レポート（40%）、レポート（30%）、定期試験（30%）		
到達目標	社会調査の基本的事項、調査設計と実施方法を理解すること。		
準備学習	3 日前までに、京学なびに資料を掲示するので、よく読んでおくこと。		

受講者への要望

講義中に配付したプリント教材は、以降の講義でも持参すること。
「統計分析の基礎」または「心理統計学 I」・「同 II」を、予めあるいは並行して、履修してほしい。

講義の順序とポイント

《I イントロダクション》
1. イントロダクション：講義の概要、事前知識など

《II 社会調査の基本的事項》
2. 社会調査の目的
3. 社会調査の歴史：チャールズ・ブース、横山源之助
4. 社会調査実施時の注意点：倫理、アナウンスメント効果
5. 社会調査のための情報収集
6. 既存の統計データへのアクセス：国勢調査と官庁統計
7. 既存の調査研究へのアクセス：世論調査、市場調査
8. 復習と練習問題(1)

《III 調査の種類》
9. 調査の種類
10. 調査票調査
11. 聞き取り調査
12. 参与観察
13. 非参与観察
14. ドキュメント分析
15. 復習と練習問題(2)

《IV 量的調査の設計と実施》
16. 調査票調査のための事前知識など
17. 調査票調査の概要
18. 問題・概念・仮説
19. 調査票の作り方(1)：ワーディング
20. 調査票の作り方(2)：選択肢、その他
21. サンプリング(1)：サンプリングの重要性、諸技法
22. サンプリング(2)：サンプリングの論理を理解するための統計指標

23. サンプリング(3)：標本と母集団の関係
24. サンプリング(4)：標本数の決め方、サンプリング台帳
25. 調査票の配付と回収：自記式・他記式各方法、回収率
26. 調査データの整理：エディティング、コーディング
27. 統計パッケージ：種類、使用の注意点
28. 報告書の書き方：必須項目、公開することの意義、記述と説明
29. 復習と練習問題(3)

《V 質的調査の設計と実施》
30. 質的調査の設計と実施、量的調査との相違

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50311001
科目名	社会病理学	単位数	4
科目名（英語表記）	Social Pathology		
担当者名	高橋　裕子	旧科目名称	
講義概要	現代社会において、私たちは「自分らしさ」や「その人らしさ」、「個性」といったものに価値を置く。 「個々人が尊重されることは大切だ」と私たちは思うし、逆に言うと、このような考え方に異を唱えることは容易ではない。「人格の尊重」は良いことだと一般には信じられているのだ。 しかし、「不登校」や「ひきこもり」問題の深刻化、児童虐待や家庭内暴力の増加、頻発するデート DV やセクハラ問題といった社会問題は「人格の尊重」に源を発しているし、善きにつけ悪しきにつけ、異なった次元にある様々な社会現象の多くは「人格の尊重」を絶対視する傾向を抜きにして語ることができない。 だとするならば、私たちは「人格の尊重」をいかに捉え、それとどのように付き合っていけば良いのだろうか。 閉塞感の漂う、不安定な現状況にあればなおのこと、「自由」や「自立」、「個性」、「私らしさ」、「自尊心」など、「私が私らしくあること」と「他者と共にあること」のかねあい、「他者と繋がること」の意味を今一度立ち止まって、ゆっくりと、考えてみる時間が必要なのではないだろうか。 「社会病理学」の授業が、みなさんにとって、そのような機会のひとつとなれば幸いである。 本講義では、まず、社会学の知見を借りながら、社会病理が生成されるメカニズムを学習する。 その上で事例研究を行ない、最終的には、「社会に鋳型取られた個人がいかにしてアクションを起こすことのできる主体たりえるのか」というテーマへとみなさんを誘って行きたい。 授業を通して、論理的に考えたり、互いの意見を交換したり、参考文献をもとにレポートを書いたりする経験を積んでいただきたいと思う。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	レジュメを配布する		
評価方法	基本的には課題レポート（50%）と試験（50%）による総合評価によって成績を判定するが、授業中にミニテストを行ない加算することも考えている。		
到達目標	1）社会病理が生成されるメカニズムを理論的に理解できるようになること。 2）社会学の用語を用いてレポートを書けるようになること。 3）自分自身の問題関心に即して「社会病理」とは何かを考え自らの見解を述べることができるようになること。		
準備学習	グループワークやディスカッションの前にはワークシートを配布するので、参考文献の指定されたページを読み、ワークシートを完成させてから講義に臨むこと。 講義形式の授業においてはミニテストを課すので講義後の復習をすること。		

受講者への要望

社会学系科目の既習が望ましいが、未履修の学生はとりわけ継続的に講義に出席することが不可欠である。
参考文献を適宜紹介するので自分で学習を進めていく姿勢をもってほしい。
その上で、学習の進め方や講義内容に関する質問はいつでも歓迎するので遠慮なく尋ねてくること。
授業中、学生の発言や参加、作業を求めるので、そのつもりでいて欲しい。

当然のことながら、講義時間内の飲食、携帯電話やスマートフォンの使用、私語は、禁止する。
退室は特段の事情がない限り認めない。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション　（自己紹介・授業の進め方・約束事の確認など）
2.イデオロギーの磁場としての社会
3.社会病理学の方法論
4.『愛を乞う人』鑑賞
5.事例研究：児童虐待①
6.事例研究：児童虐待②
7.「家族愛」の発見
8.「近代家族」の形成

9.「近代家族」の崩壊
10.グループワーク：リスク化する家族
11.【レポート課題指導】①
12.【レポート課題指導】②
13.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）①
14.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）②
15.事例研究：「まなざしの地獄」①
16.事例研究：「まなざしの地獄」②
17.ラベリング論
18.グループワーク：いじめ問題
19.狂気①
20.狂気②
21.『17 歳のカルテ』鑑賞
22.【レポート課題指導】③
23.事例研究：自殺①
24.事例研究：自殺②
25.デュルケイム『自殺論』
26.自殺データから見る現代日本
27.若者の「労働」問題
28.若者の「貧困」問題
29.ディスカッション（『貧困のなかでおとなになる』より）
30.社会病理学から学べること、学べないこと

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★			★★	

年度	2015	授業コード	J50311002
科目名	社会病理学	単位数	4
科目名（英語表記）	Social Pathology		
担当者名	高橋　裕子	旧科目名称	
講義概要	現代社会において、私たちは「自分らしさ」や「その人らしさ」、「個性」といったものに価値を置く。 「個々人が尊重されることは大切だ」と私たちは思うし、逆に言うと、このような考え方に異を唱えることは容易ではない。「人格の尊重」は良いことだと一般には信じられているのだ。 しかし、「不登校」や「ひきこもり」問題の深刻化、児童虐待や家庭内暴力の増加、頻発するデート DV やセクハラ問題といった社会問題は「人格の尊重」に源を発しているし、善きにつけ悪しきにつけ、異なった次元にある様々な社会現象の多くは「人格の尊重」を絶対視する傾向を抜きにして語ることができない。 だとするならば、私たちは「人格の尊重」をいかに捉え、それとどのように付き合っていけば良いのだろうか。 閉塞感の漂う、不安定な現状況にあればなおのこと、「自由」や「自立」、「個性」、「私らしさ」、「自尊心」など、「私が私らしくあること」と「他者と共にあること」のかねあい、「他者と繋がること」の意味を今一度立ち止まって、ゆっくりと、考えてみる時間が必要なのではないだろうか。 「社会病理学」の授業が、みなさんにとって、そのような機会のひとつとなれば幸いである。 本講義では、まず、社会学の知見を借りながら、社会病理が生成されるメカニズムを学習する。 その上で事例研究を行ない、最終的には、「社会に鋳型取られた個人がいかにしてアクションを起こすことのできる主体たりえるのか」というテーマへとみなさんを誘って行きたい。 授業を通して、論理的に考えたり、互いの意見を交換したり、参考文献をもとにレポートを書いたりする経験を積んでいただきたいと思う。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	レジュメを配布する		
評価方法	基本的には課題レポート（50%）と試験（50%）による総合評価によって成績を判定するが、授業中にミニテストを行ない加算することも考えている。		
到達目標	1）社会病理が生成されるメカニズムを理論的に理解できるようになること。 2）社会学の用語を用いてレポートを書けるようになること。 3）自分自身の問題関心に即して「社会病理」とは何かを考え自らの見解を述べることができるようになること。		
準備学習	グループワークやディスカッションの前にはワークシートを配布するので、参考文献の指定されたページを読み、ワークシートを完成させてから講義に臨むこと。 講義形式の授業においてはミニテストを課すので講義後の復習をすること。		

受講者への要望

社会学系科目の既習が望ましいが、未履修の学生はとりわけ継続的に講義に出席することが不可欠である。
参考文献を適宜紹介するので自分で学習を進めていく姿勢をもってほしい。
その上で、学習の進め方や講義内容に関する質問はいつでも歓迎するので遠慮なく尋ねてくること。
授業中、学生の発言や参加、作業を求めるので、そのつもりでいて欲しい。

当然のことながら、講義時間内の飲食、携帯電話やスマートフォンの使用、私語は、禁止する。
退室は特段の事情がない限り認めない。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション　（自己紹介・授業の進め方・約束事の確認など）
2.イデオロギーの磁場としての社会
3.社会病理学の方法論
4.『愛を乞う人』鑑賞
5.事例研究：児童虐待①
6.事例研究：児童虐待②
7.「家族愛」の発見
8.「近代家族」の形成

9.「近代家族」の崩壊
10.グループワーク：リスク化する家族
11.【レポート課題指導】①
12.【レポート課題指導】②
13.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）①
14.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）②
15.事例研究：「まなざしの地獄」①
16.事例研究：「まなざしの地獄」②
17.ラベリング論
18.グループワーク：いじめ問題
19.狂気①
20.狂気②
21.『17 歳のカルテ』鑑賞
22.【レポート課題指導】③
23.事例研究：自殺①
24.事例研究：自殺②
25.デュルケイム『自殺論』
26.自殺データから見る現代日本
27.若者の「労働」問題
28.若者の「貧困」問題
29.ディスカッション（『貧困のなかでおとなになる』より）
30.社会病理学から学べること、学べないこと

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★			★★	

年度	2015	授業コード	J50318A01
科目名	社会福祉論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Welfare Theory I		
担当者名	竹中　祐二	旧科目名称	社会福祉論ｓ
講義概要	社会福祉の基本的知識を理解して、社会福祉の考え方を学ぶ。 社会福祉は、人間の基本的、社会的ニーズを充足し、多様な社会問題を解決するための社会的努力であると考えられる。社会福祉論Ⅰ・Ⅱでは、社会福祉の理論分野（社会福祉の考え方、基礎概念、しくみ、専門職）と実践分野（社会福祉の実践とこれからの社会福祉の課題）を学ぶことにより、社会福祉に対する正しい理解と専門性が求められることについて理解する。 また、専門職の福祉だけでなく、一人の市民として参加する福祉、例えば、学生生活をとおして、進んでボランティア活動を実践し、その実践をとおして社会福祉を理解してもらえる体験をしてみることなど、社会福祉が生活上の問題を解決するための単なるサービスではなく、人としての生き方にも深く関わるものであることを実感できることを願っている。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	『よくわかる社会福祉（第 9 版)』山縣文治・岡田忠克編、ミネルヴァ書房（2011） 各回の講義項目やその順番は基本的に上記教材に沿って構成する。 ただし、その内容は必ずしも準拠するものではない。 その他の教材であっても、社会福祉学や社会福祉の諸制度の概要を広く学習することができるものを準備することを薦めるほか、小事典の活用も好ましい。		
教材（その他）	各回レジュメを配付し、必要に応じてその他の資料も配付する。 基本的には紙媒体での配付は行わない予定である。		
評価方法	平常点（20%）出席状況等、ミニレポート（30%）と定期テスト（50%）により総合的に評価する。		
到達目標	社会福祉論Ⅰでは、 ①社会福祉の歴史的展開を理解できる ②社会福祉を取り巻く状況と社会的背景を理解できる ③社会福祉の根本原理を理解できる ④社会福祉に関わる人々の役割と基本姿勢を理解できる という 4 点をクリアし、 「社会福祉の全体像をイメージし、自分なりの言葉で説明できるようになる」 ことを到達目標とする。		
準備学習	具体的な準備学習の指示は行わないが、新聞記事その他より日頃から具体的事例に接し、学習内容に結び付けて理解する習慣を持つことが望ましい。		
受講者への要望			
自分自身の生活にひきつけて、社会福祉を考えていただきたい。 社会福祉論Ⅱも合わせて受講することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
社会福祉論Ⅰ（総論・理論分野） 1. イントロダクション 2. 社会福祉の基礎概念① 3. 社会福祉の基礎概念② 4. 社会福祉をとりまく状況 5. 社会福祉の歴史と展開① 6. 社会福祉の歴史と展開② 7. 社会福祉の仕組みと運営① 8. 社会福祉の仕組みと運営②			

9. 社会福祉の機関と施設①
10. 社会福祉の機関と施設②
11. 社会福祉の援助と方法①
12. 社会福祉の援助と方法②
13. 社会福祉の援助と方法③
14. 社会福祉専門職とマンパワー
15. 総括と復習（社会福祉の全体像）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J50318A02
科目名	社会福祉論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Welfare Theory I		
担当者名	竹中　祐二	旧科目名称	社会福祉論ｓ
講義概要	社会福祉の基本的知識を理解して、社会福祉の考え方を学ぶ。 社会福祉は、人間の基本的、社会的ニーズを充足し、多様な社会問題を解決するための社会的努力であると考えられる。社会福祉論Ⅰ・Ⅱでは、社会福祉の理論分野（社会福祉の考え方、基礎概念、しくみ、専門職）と実践分野（社会福祉の実践とこれからの社会福祉の課題）を学ぶことにより、社会福祉に対する正しい理解と専門性が求められることについて理解する。 また、専門職の福祉だけでなく、一人の市民として参加する福祉、例えば、学生生活をとおして、進んでボランティア活動を実践し、その実践をとおして社会福祉を理解してもらえる体験をしてみることなど、社会福祉が生活上の問題を解決するための単なるサービスではなく、人としての生き方にも深く関わるものであることを実感できることを願っている。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	『よくわかる社会福祉（第 9 版)』山縣文治・岡田忠克編、ミネルヴァ書房（2011） 各回の講義項目やその順番は基本的に上記教材に沿って構成する。 ただし、その内容は必ずしも準拠するものではない。 その他の教材であっても、社会福祉学や社会福祉の諸制度の概要を広く学習することができるものを準備することを薦めるほか、小事典の活用も好ましい。		
教材（その他）	各回レジュメを配付し、必要に応じてその他の資料も配付する。 基本的には紙媒体での配付は行わない予定である。		
評価方法	平常点（20%）出席状況等、ミニレポート（30%）と定期テスト（50%）により総合的に評価する。		
到達目標	社会福祉論Ⅰでは、 ①社会福祉の歴史的展開を理解できる ②社会福祉を取り巻く状況と社会的背景を理解できる ③社会福祉の根本原理を理解できる ④社会福祉に関わる人々の役割と基本姿勢を理解できる という 4 点をクリアし、 「社会福祉の全体像をイメージし、自分なりの言葉で説明できるようになる」 ことを到達目標とする。		
準備学習	具体的な準備学習の指示は行わないが、新聞記事その他より日頃から具体的事例に接し、学習内容に結び付けて理解する習慣を持つことが望ましい。		
受講者への要望			
自分自身の生活にひきつけて、社会福祉を考えていただきたい。 社会福祉論Ⅱも合わせて受講することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
社会福祉論Ⅰ（総論・理論分野） 1. イントロダクション 2. 社会福祉の基礎概念① 3. 社会福祉の基礎概念② 4. 社会福祉をとりまく状況 5. 社会福祉の歴史と展開① 6. 社会福祉の歴史と展開② 7. 社会福祉の仕組みと運営① 8. 社会福祉の仕組みと運営②			

9. 社会福祉の機関と施設①
10. 社会福祉の機関と施設②
11. 社会福祉の援助と方法①
12. 社会福祉の援助と方法②
13. 社会福祉の援助と方法③
14. 社会福祉専門職とマンパワー
15. 総括と復習（社会福祉の全体像）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J50318B01
科目名	社会福祉論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Welfare Theory Ⅱ		
担当者名	竹中　祐二	旧科目名称	社会福祉論ｆ
講義概要	社会福祉の基本的知識を理解して、社会福祉の考え方を学ぶ。 社会福祉は、人間の基本的、社会的ニーズを充足し、多様な社会問題を解決するための社会的努力であると考えられる。社会福祉論Ⅰ・Ⅱでは、社会福祉の理論分野（社会福祉の考え方、基礎概念、しくみ、専門職）と実践分野（社会福祉の実践とこれからの社会福祉の課題）を学ぶことにより、社会福祉に対する正しい理解と専門性が求められることについて理解する。 また、専門職の福祉だけでなく、一人の市民として参加する福祉、例えば、学生生活をとおして、進んでボランティア活動を実践し、その実践をとおして社会福祉を理解してもらえる体験をしてみることなど、社会福祉が生活上の問題を解決するための単なるサービスではなく、人としての生き方にも深く関わるものであることを実感できることを願っている。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	『よくわかる社会福祉（第 9 版)』山縣文治・岡田忠克編、ミネルヴァ書房（2011） 各回の講義項目やその順番は基本的に上記教材に沿って構成する。 ただし、その内容は必ずしも準拠するものではない。 その他の教材であっても、社会福祉学や社会福祉の諸制度の概要を広く学習することができるものを準備することを薦めるほか、小事典の活用も好ましい。		
教材（その他）	各回レジュメを配付し、必要に応じてその他の資料も配付する。 基本的には紙媒体での配付は行わない予定である。		
評価方法	平常点（20%）出席状況等、ミニレポート（30%）と定期テスト（50%）により総合的に評価する。		
到達目標	社会福祉論Ⅱでは、 ①社会福祉に関わる法令と諸制度を理解できる ②社会福祉に関わる諸制度の社会資源を理解できる ③社会福祉に関わる利用者と支援者の諸問題を理解できる という 3 点をクリアし、 「社会福祉に関する全体的イメージを基に、様々な論点に対する自分なりの意見を言語化できるようになる」 ことを到達目標とする。		
準備学習	具体的な準備学習の指示は行わないが、新聞記事その他より日頃から具体的事例に接し、学習内容に結び付けて理解する習慣を持つことが望ましい。		
受講者への要望			
自分自身の生活にひきつけて、社会福祉を考えていただきたい。 社会福祉論Ⅰを受講していることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
社会福祉論Ⅱ（各論・実践分野） 1. イントロダクション 2. 社会保障① 3. 社会保障② 4. 社会保障③ 5. 子ども家庭福祉① 6. 子ども家庭福祉② 7. 高齢者福祉① 8. 高齢者福祉②			

9. 障害者福祉①
10. 障害者福祉②
11. 地域福祉①
12. 地域福祉②
13. 司法福祉①
14. 司法福祉②
15. 総括と復習（社会福祉の全体像と論点整理・これからの社会福祉の課題）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J50318B02
科目名	社会福祉論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Welfare Theory Ⅱ		
担当者名	竹中　祐二	旧科目名称	社会福祉論ｆ
講義概要	社会福祉の基本的知識を理解して、社会福祉の考え方を学ぶ。 社会福祉は、人間の基本的、社会的ニーズを充足し、多様な社会問題を解決するための社会的努力であると考えられる。社会福祉論Ⅰ・Ⅱでは、社会福祉の理論分野（社会福祉の考え方、基礎概念、しくみ、専門職）と実践分野（社会福祉の実践とこれからの社会福祉の課題）を学ぶことにより、社会福祉に対する正しい理解と専門性が求められることについて理解する。 また、専門職の福祉だけでなく、一人の市民として参加する福祉、例えば、学生生活をとおして、進んでボランティア活動を実践し、その実践をとおして社会福祉を理解してもらえる体験をしてみることなど、社会福祉が生活上の問題を解決するための単なるサービスではなく、人としての生き方にも深く関わるものであることを実感できることを願っている。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	『よくわかる社会福祉（第 9 版)』山縣文治・岡田忠克編、ミネルヴァ書房（2011） 各回の講義項目やその順番は基本的に上記教材に沿って構成する。 ただし、その内容は必ずしも準拠するものではない。 その他の教材であっても、社会福祉学や社会福祉の諸制度の概要を広く学習することができるものを準備することを薦めるほか、小事典の活用も好ましい。		
教材（その他）	各回レジュメを配付し、必要に応じてその他の資料も配付する。 基本的には紙媒体での配付は行わない予定である。		
評価方法	平常点（20%）出席状況等、ミニレポート（30%）と定期テスト（50%）により総合的に評価する。		
到達目標	社会福祉論Ⅱでは、 ①社会福祉に関わる法令と諸制度を理解できる ②社会福祉に関わる諸制度の社会資源を理解できる ③社会福祉に関わる利用者と支援者の諸問題を理解できる という 3 点をクリアし、 「社会福祉に関する全体的イメージを基に、様々な論点に対する自分なりの意見を言語化できるようになる」 ことを到達目標とする。		
準備学習	具体的な準備学習の指示は行わないが、新聞記事その他より日頃から具体的事例に接し、学習内容に結び付けて理解する習慣を持つことが望ましい。		
受講者への要望			
自分自身の生活にひきつけて、社会福祉を考えていただきたい。 社会福祉論Ⅰを受講していることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
社会福祉論Ⅱ（各論・実践分野） 1. イントロダクション 2. 社会保障① 3. 社会保障② 4. 社会保障③ 5. 子ども家庭福祉① 6. 子ども家庭福祉② 7. 高齢者福祉① 8. 高齢者福祉②			

9. 障害者福祉①
10. 障害者福祉②
11. 地域福祉①
12. 地域福祉②
13. 司法福祉①
14. 司法福祉②
15. 総括と復習（社会福祉の全体像と論点整理・これからの社会福祉の課題）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J50321001
科目名	社会問題論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Problems		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現在の日本社会には、格差の拡大や派遣労働者の解雇など、人々が安定した社会生活を営むことを妨げるような問題が多数存在する。この講義では、いくつかの社会問題について、実態を説明し、それらを解決するために提案されている方法について紹介する。 なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースの解説をおこなう。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	現代の日本社会がかかえる社会問題の基本を理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，貧困：格差、ホームレス、生活保護。
3，労働１：派遣労働。
4，労働２：過労死、失業、ニート。
5，外国人：不法入国と国内定住。
6，女性：パート労働、母子家庭。
7，子ども：学童保育、子どもの権利条約。
8，高齢者：介護保険、高齢者医療。
9，年金：年金財政、年金負担と給付。
10，医療：一部に見られる医師不足。
11，健康保険：国民医療費。
12，税金：税制、税負担、国家財政、国債残高。
13，食料：自給率、地産地消、フェア・トレード、食品添加物。
14，政治の責任と「自己責任」
15，社会問題の見方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	J50321002
科目名	社会問題論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Problems		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現在の日本社会には、格差の拡大や派遣労働者の解雇など、人々が安定した社会生活を営むことを妨げるような問題が多数存在する。この講義では、いくつかの社会問題について、実態を説明し、それらを解決するために提案されている方法について紹介する。 なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースの解説をおこなう。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	現代の日本社会がかかえる社会問題の基本を理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，貧困：格差、ホームレス、生活保護。
3，労働１：派遣労働。
4，労働２：過労死、失業、ニート。
5，外国人：不法入国と国内定住。
6，女性：パート労働、母子家庭。
7，子ども：学童保育、子どもの権利条約。
8，高齢者：介護保険、高齢者医療。
9，年金：年金財政、年金負担と給付。
10，医療：一部に見られる医師不足。
11，健康保険：国民医療費。
12，税金：税制、税負担、国家財政、国債残高。
13，食料：自給率、地産地消、フェア・トレード、食品添加物。
14，政治の責任と「自己責任」
15，社会問題の見方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	J50330A01
科目名	宗教社会学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Religion A		
担当者名	岡尾　将秀	旧科目名称	
講義概要	本講義では、宗教社会学における宗教の基本的な捉え方である「世俗化」と近年重要となっている「宗教復興」について、主に近代以前の日本で形成された宗教伝統の政治的な勢力の盛衰と復興運動を事例に再考する。日本の伝統宗教と認識される神道や仏教が、どのような政治的役割を担い、制度化されたのか？　またそれらの伝統宗教が形骸化され始めると、どのような復興運動が試みられたのか？　さらにそれらの復興運動も軍事政権に統制されるようになると、どのように民衆の日常生活のなかに取り込まれていったのか？などを説明する予定である。折に触れ、キリスト教をはじめとする他の世界宗教の事例とも比べながら、現代社会における伝統宗教の役割について考える。		
教材（テキスト）	櫻井義秀・三木英編『よくわかる宗教社会学』ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	期末レポートもしくは期末テストに（５割)、講義中の小レポートもしくは小テスト（３割)、出席率（２割）を加えて評価する。		
到達目標	日本の伝統宗教が日本人の社会において、どのように受け入れられたかを理解することによって、現在どのような役割を担いうるかを考える。		
準備学習	日本史や世界史における宗教についての記述や現在の宗教に関わるニュースに目を通しておく。		
受講者への要望			
生活に溶け込んでいる宗教の教えや習慣に気づき、一般的に考え、言葉にする習慣をつけて欲しい。			
講義の順序とポイント			
１　春学期の目標と計画 ２　「私」の宗教への関心 ３　社会学による宗教理解 ４　「世俗化」と「宗教復興」、「宗教進化」 ５　宗教による社会の支配 ６　原始日本における神道 ７　宗教と政治の相互依存 ８　古代日本における仏教政治 ９　社会変動を促進する宗教 １０　中世日本における新仏教の勃興 １１　伝統宗教と民俗宗教 １２　近世以降の軍事政権による寺院支配 １３　葬式仏教と祖先祭祀の定着 １４　現世利益の要請と流行神 １５　春学期のまとめと補足			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2015	授業コード	J50330A02
科目名	宗教社会学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Religion A		
担当者名	岡尾　将秀	旧科目名称	
講義概要	本講義では、宗教社会学における宗教の基本的な捉え方である「世俗化」と近年重要となっている「宗教復興」について、主に近代以前の日本で形成された宗教伝統の政治的な勢力の盛衰と復興運動を事例に再考する。日本の伝統宗教と認識される神道や仏教が、どのような政治的役割を担い、制度化されたのか？　またそれらの伝統宗教が形骸化され始めると、どのような復興運動が試みられたのか？　さらにそれらの復興運動も軍事政権に統制されるようになると、どのように民衆の日常生活のなかに取り込まれていったのか？などを説明する予定である。折に触れ、キリスト教をはじめとする他の世界宗教の事例とも比べながら、現代社会における伝統宗教の役割について考える。		
教材（テキスト）	櫻井義秀・三木英編『よくわかる宗教社会学』ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	期末レポートもしくは期末テストに（５割)、講義中の小レポートもしくは小テスト（３割)、出席率（２割）を加えて評価する。		
到達目標	日本の伝統宗教が日本人の社会において、どのように受け入れられたかを理解することによって、現在どのような役割を担いうるかを考える。		
準備学習	日本史や世界史における宗教についての記述や現在の宗教に関わるニュースに目を通しておく。		
受講者への要望			
生活に溶け込んでいる宗教の教えや習慣に気づき、一般的に考え、言葉にする習慣をつけて欲しい。			
講義の順序とポイント			
１　春学期の目標と計画 ２　「私」の宗教への関心 ３　社会学による宗教理解 ４　「世俗化」と「宗教復興」、「宗教進化」 ５　宗教による社会の支配 ６　原始日本における神道 ７　宗教と政治の相互依存 ８　古代日本における仏教政治 ９　社会変動を促進する宗教 １０　中世日本における新仏教の勃興 １１　伝統宗教と民俗宗教 １２　近世以降の軍事政権による寺院支配 １３　葬式仏教と祖先祭祀の定着 １４　現世利益の要請と流行神 １５　春学期のまとめと補足			

人間力（６つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2015	授業コード	J50330B01
科目名	宗教社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Religion B		
担当者名	岡尾　将秀	旧科目名称	
講義概要	本講義では、いわゆる近代化と呼ばれる文明の進歩による世俗化にもかかわらず、新しい宗教が社会構造の変動に応じた運動としてその都度発生してきたことを明らかにする。まずは日本の近代化の初期に「新宗教」の原型とみなされるような「教派神道」が、幕藩体制から立憲君主制への転換期に、どのように成立したのかを明らかにする。続いて、資本主義経済が民衆層にまで浸透する時期に、教派神道をモデルとしつつも、よりラディカルな社会変革を予言した新宗教がどのように成立したかも明らかにする。その上で、現代社会において、反社会的な行為に踏み切る「カルト」の問題を明らかにしながら、どのような宗教運動が期待されているかも考える。		
教材（テキスト）	高橋典史・塚田穂高・岡本亮輔編著『宗教と社会のフロンティア――宗教社会学からみる現代日本』勁草書房		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	期末レポートもしくは期末テストに（５割)、講義中の小レポートもしくは小テスト（３割)、出席率（２割）を加えて評価する。		
到達目標	世俗化した現代社会において、小さくなった多様な宗教がどのように存立しているかを理解し、それらに私たちがどのように関わったらよいかを考える。		
準備学習	噂や新聞やテレビ、インターネットにおいて、新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームがどのような社会現象としてとりあげられているかを見聞しておく。		
受講者への要望			
身の周りの新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームに偏りのない関心をもち、事実に即して考え、言葉にする習慣をつけて欲しい。			
講義の順序とポイント			
１　秋学期の目標と計画 ２　日本の近代における「世俗化」と「宗教革新」 ３　幕末維新期における宗教革新 ４　「民衆宗教」から「新宗教」へ ５　流行神としての「生き神」 ６　新宗教の教義形成と儀礼化 ７　新宗教の集団形成と組織化 ８　「カリスマ」としての教祖 ９　明治大正期における宗教革新 １０　出口なおの「神がかり」と予言 １１　出口王仁三郎による教義形成と集団形成 １２　「大本事件」と「オウム真理教事件」 １３　「カルト」の多様性 １４　新しい霊性（スピリチュアリティ）の追求 １５　秋学期のまとめと補足			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2015	授業コード	J50330B02
科目名	宗教社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Religion B		
担当者名	岡尾　将秀	旧科目名称	
講義概要	本講義では、いわゆる近代化と呼ばれる文明の進歩による世俗化にもかかわらず、新しい宗教が社会構造の変動に応じた運動としてその都度発生してきたことを明らかにする。まずは日本の近代化の初期に「新宗教」の原型とみなされるような「教派神道」が、幕藩体制から立憲君主制への転換期に、どのように成立したのかを明らかにする。続いて、資本主義経済が民衆層にまで浸透する時期に、教派神道をモデルとしつつも、よりラディカルな社会変革を予言した新宗教がどのように成立したかも明らかにする。その上で、現代社会において、反社会的な行為に踏み切る「カルト」の問題を明らかにしながら、どのような宗教運動が期待されているかも考える。		
教材（テキスト）	高橋典史・塚田穂高・岡本亮輔編著『宗教と社会のフロンティア――宗教社会学からみる現代日本』勁草書房		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	期末レポートもしくは期末テストに（５割)、講義中の小レポートもしくは小テスト（３割)、出席率（２割）を加えて評価する。		
到達目標	世俗化した現代社会において、小さくなった多様な宗教がどのように存立しているかを理解し、それらに私たちがどのように関わったらよいかを考える。		
準備学習	噂や新聞やテレビ、インターネットにおいて、新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームがどのような社会現象としてとりあげられているかを見聞しておく。		
受講者への要望			
身の周りの新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームに偏りのない関心をもち、事実に即して考え、言葉にする習慣をつけて欲しい。			
講義の順序とポイント			
１　秋学期の目標と計画 ２　日本の近代における「世俗化」と「宗教革新」 ３　幕末維新期における宗教革新 ４　「民衆宗教」から「新宗教」へ ５　流行神としての「生き神」 ６　新宗教の教義形成と儀礼化 ７　新宗教の集団形成と組織化 ８　「カリスマ」としての教祖 ９　明治大正期における宗教革新 １０　出口なおの「神がかり」と予言 １１　出口王仁三郎による教義形成と集団形成 １２　「大本事件」と「オウム真理教事件」 １３　「カルト」の多様性 １４　新しい霊性（スピリチュアリティ）の追求 １５　秋学期のまとめと補足			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2015	授業コード	J50333A01
科目名	宗教民俗学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religious folklore I		
担当者名	佐々木　聖佳	旧科目名称	
講義概要	現代の日本社会では、宗教を強く意識することはあまりありません。しかし、お正月には近所の神社に初詣に行き、節分には豆まきをし、受験の時はお守りを身につけ、大安や仏滅を気にするというように、無意識のうちに信仰に基づいた様々な行事や慣習にしたがって生活をしています。この講義では、そうした身の回りの様々な民俗事象の中に、脈々と伝承されてきた宗教世界をとらえ、その文化的、歴史的な意味を考察していきます。それは日本人のアイデンティティーを探ることにもなるでしょう。その為の「切り口」はいろいろ考えられますが、ここでは「ことば」と「うた」を取りあげます。古来日本人は、言葉を唱え、「うた」を歌うことによって、魂を揺り動かし、神仏に祈り、恋を語ってきました。人々が口ずさんできた「うた」、今私たちが歌う歌の表現の中に、豊穣な宗教世界を発見していきましょう。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	講義で適宜指示します。		
教材（その他）	ビデオ教材、音楽、パワーポイントを活用します。		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点（50%）、期末レポート（30%）、授業内容に関する小レポート（20%）		
到達目標	宗教民俗学が対象とする信仰世界を把握し、身の回りの何気ない民俗事象と信仰との関わりについて、各自の視点から宗教民俗学の課題を発見し追究することを目標とします。		
準備学習	単元の区切りごとに小レポート(4 回)を課します。シラバスに課題を記してありますので、指定期日までに、京学なびの「課題提出」に提出してください。また、予習は、各講義の最後に、次回のための課題を指示しますので、次回の授業までに調べてきてください。		

受講者への要望

常識や偏見にとらわれない、独自の発想を求めます。積極的に授業に参加して、いろいろな視点から考えてください。

講義の順序とポイント

1,　授業ガイダンス、宗教民俗学概説
2,　「千と千尋の神隠し」と宗教民俗の課題
　　※小レポート「「千と千尋の神隠し」にみる宗教民俗」
3,　言霊の宗教民俗①　名を呼ぶ
4,　言霊の宗教民俗②　閉じられた言葉
5,　言霊の宗教民俗③　謎を解く
6,　言霊の宗教民俗④　修辞
　　※小レポート「言霊の宗教民俗を探求する」
7,　歌の宗教民俗①　　童謡（わざうた）
8,　歌の宗教民俗②　　囃す
9,　歌の宗教民俗③　　子ども歌
　　※小レポート「歌の宗教民俗における課題」
10,恋と死の宗教民俗①　恋と死の所作
11,恋と死の宗教民俗②　中国・韓国・日本の葬送儀礼
　　※小レポート「恋と死をめぐる宗教民俗」
12,陰陽道と民俗宗教　　大将軍信仰と託宣
13,修験道と民俗宗教　　まじない
14,仏教と民俗宗教　　念仏芸能
15,まとめ―現代社会における宗教民俗

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	J50333A02
科目名	宗教民俗学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religious folklore I		
担当者名	新木　直安	旧科目名称	
講義概要	本講義では、暮しの中にとけこみ、私達の生活習慣や思想の基盤となっている民間信仰について学んでいきます。 民間信仰とは、神職や僧侶などの宗教者から離れ、民間のみで行われている宗教現象を指すといわれています。この民間信仰は、祭礼・年中行事、人生儀礼を主とし、生活の基盤となる生業や衣食住にも反映されています。 また、この民間信仰は、あらゆる宗教を吸収し、各地域の伝統文化に影響を与えながら独特な展開をみせます。その基礎となる組織として宮座や講が挙げら、これらの祭祀組織の動向をみることにより該当地域の信仰形態の一端を知ることができます。しかし、そのためには各地域の歴史も知る必要性があります。この講義では民間信仰の歴史も踏まえながら、日本人の宗教観、すなわち日本の民俗宗教について一緒に探っていければと思います。		
教材（テキスト）	特に指定はしません。プリント類は各回の講義のみで配布します。		
教材（参考文献）	宮家準『宗教民俗学への招待』（丸善ライブラリー）		
教材（その他）	『日本民俗大辞典』（吉川弘文館）、『神道事典』（弘文堂）		
評価方法	平常点（出席率、授業中の態度含む）を重視します。また、小テストも行います。 そして、最終講義にレポートを提出してもらいます。		
到達目標	受講者のゆかりのある地域の信仰、歴史、伝統文化に興味を持ち、自らの手で調査・研究する意欲を有するところまで進んでください。これらを知ることは人生の糧となります。		
準備学習	今までで聞いたことのない用語や難解な事例が出てきます。分からない場合は記録し、自ら調べるという姿勢を望みます。また、各自が今まで見てきた、体験してきた事例は貴重な資料となりますので、まとめておくと役に立つでしょう。		
受講者への要望			
京都という町にある大学ですから、各神社や寺院に参拝、様々なお祭りをみる機会があります。また、古文書などの史料や文化財と触れることができる貴重な時です。積極的に京都という地域を体験してください。			
講義の順序とポイント			
1，宗教民俗学とは何か 2，宗教の種類と民間宗教の研究方法 3，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅰ（古代） 4，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅱ（中世） 5，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅲ（近世） 6，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅳ（近代） 7，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅴ（現代） 8，神道と民俗宗教 9，仏教と民俗宗教 10，山岳信仰－修験道 11，シャーマニズムの世界 12，俗信の世界 13，京都の民間信仰と研究者 14，日本人の原風景－風土論 15，まとめ－日本人と宗教			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50333B01
科目名	宗教民俗学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religious folklore Ⅱ		
担当者名	矢野　裕巳	旧科目名称	
講義概要	宗教は世界の人々の生活にどのような影響を与えているのでしょうか？ 世界人口のおよそ半数の信者を持つキリスト教とイスラム教（キリスト教徒２４億人、イスラム教徒１７億人）。これらの宗教へつながるユダヤ教について学んでいきます。 特に、旧約聖書の内容について、解りやすく学んでいきます。旧約聖書と言えば、難しく、堅苦しく思えるかもしれませんが、その内容は多くの映画、絵画、演劇の題材として取り上げられています。親しみのあるストーリーもたくさん登場します。 「天地創造」から始まり、「ノアの方舟」、「出エジプト」、「野獣サムソン」、「ダビデ王」、「ソロモン王」などのストーリーを１５回に分けて学んでいきましょう。 なお、旧約という言い方はキリスト教からの呼び名で、ユダヤ教では旧約聖書が「聖書」です。		
教材（テキスト）	毎回プリント教材を配布		
教材（参考文献）	毎回プリント教材を配布		
教材（その他）			
評価方法	毎講義の後半 25 分～35 分で、その日の講義内容に関するレポートを書いてもらい、ABC3 段階で評価。全講義における得点で成績をつけます。 10 講義の出席が絶対条件です。		
到達目標	神道、仏教などの日本の代表的宗教とは違ったユダヤ教を学ぶことによって、日本人との思考の違いを検証する。		
準備学習	講義は１回１回が勝負で、講師もその気持ちで望むつもりです。その日の講義は講義中に理解する事を基本に考えます。出席を重視します。		
受講者への要望			
世界で起こる事柄に日ごろから関心を持ってもらいたいと思います。			
講義の順序とポイント			
ユダヤ教１　ユダヤ教の開祖は？　そしてその始まりは？ ユダヤ教２　何が労働なのか？ ユダヤ教３　ノアの箱船 ユダヤ教４　アラブ人の祖先として ユダヤ教５　レアとラケル ユダヤ教６　モーセ ユダヤ教７　モーセの後継者はユシュア ユダヤ教８　ヨシュアの遺言 ユダヤ教９　サウル ユダヤ教１０　アブサロムの裏切り ユダヤ教１１　「ソロモンの栄華」その光と陰 ユダヤ教１２　ダビデ家の継承は ユダヤ教１３　預言者　エリヤ ユダヤ教１４　レアル・ポリティークか？　神への信仰か？ ユダヤ教１５　ユダヤ教とキリスト教			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	

年度	2015	授業コード	J50333B02
科目名	宗教民俗学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religious folklore Ⅱ		
担当者名	新木　直安	旧科目名称	
講義概要	この講義では、日本固有の宗教である神道について学びます。「神道とは？」と尋ねられ、明快な回答はできるでしょうか。これは研究者の中でも難解な問題の一つです。神道は自然崇拝から派生したといわれ、日本人の生活の中の宗教として捉えられています。しかし、神道をどう捉えるのかと考えは、時代によって大きく変化しています。また、どの部分に焦点をあてるのかによってみえてくる姿も違い、場合によっては全く捉えどころのない宗教となります。そこで、本講義では、あらゆる学問がみる「神道とは何か？」ということを時間をかけてみていきます。		
教材（テキスト）	特に指定はしません。プリント類は各回の講義のみで配布します。		
教材（参考文献）	阪本是丸・石井研士『プレステップ神道学』（弘文堂）		
教材（その他）	『神道事典』（弘文堂）、『神道要語集』全五巻（國學院大學日本文化研究所）		
評価方法	平常点（出席率、授業中の態度含む）を重視します。また、小テストを行います。 そして、最終講義にレポートを提出してもらいます。		
到達目標	宗教民俗学Ⅰと同様に、自らの手で神社や祭礼を調査・研究する意欲を有するところまで進んでください。 そして、私達の遠祖の思いがこもった神道について考えてください。		
準備学習	できるだけ、神社をみる、お祭りをみるということをしてください。今では「観光」という目的で様々なメディアで「神道」、「神社」が伝えられることが多くなりましたので、目を通してください。		
受講者への要望			
京都には、朝廷とつながりのある神社、民衆が支える神社、神仏習合色の濃い神社、摩訶不思議な神社など色々あります。目の前に貴重な資料があります。直接、見て体験してください。			
講義の順序とポイント			
1，　神道とは何か 2，　神社とは何か 3，　神道と歴史Ⅰ（古代） 4，　神道と歴史Ⅱ（中世１） 5，　神道と歴史Ⅲ（中世２） 6，　神道と歴史Ⅳ（近世） 7，　神道と歴史Ⅴ（近代） 8，　神道と歴史Ⅵ（現代） 9，　神道と祭礼（春） 10，神道と祭礼（夏） 11，神道と祭礼（秋） 12，神道と祭礼（冬） 13，式年遷宮－継承のこころ 14，神道と自然 15，まとめ－日本人の宗教・神道			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50337001
科目名	出版文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Publication and Culture		
担当者名	古川　保彦	旧科目名称	
講義概要	出版メディアの歴史を把握した上で、現代の出版文化を考察します。出版社・取次・書店という各プレイヤーの関係性、再販制・委託販売制といった取引上のしくみ、コンビニエンスストア・新古書店・オンライン書店・電子書籍の登場など読書を取り巻く環境の変化等、出版メディアの生産・流通・消費におけるさまざまな動向を紹介します。そして電子出版など新たな動向がこれからの社会をどのように変革していくのかをみなさんと共に考えます。		
教材（テキスト）	特に指定しない。そのつど、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	川井良介編『出版メディア入門(第２版)』（日本評論社）、 ISBN:978-4535586161		
教材（その他）	レジメ、講義資料を配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。　レポート(70%)。 以上を総合的に評価する。		
到達目標	出版文化の歴史に関する基礎知識を習得し、出版コンテンツの未来を考える力を育成する。		
準備学習	受講者各自が関心を持って授業に臨むため、シラバスで各回のテーマを確認し、関連する資料について事前に図書館等で参照し、そのアウトラインをつかんでおくこと。 授業で紹介する文献すべてを学期中に読破すること。		
受講者への要望			
新聞、雑誌、インターネットなどのメディアに目を通し、出版メディアの動向を意識的に把握してほしい。 遅刻・私語は厳に慎むこと。			
講義の順序とポイント			
1.メディアとは 2.出版メディアの概念と特性 3.出版メディアの歴史（１） 4.出版メディアの歴史（２） 5.書籍 6.雑誌 7.出版の電子化と電子書籍（１） 8.出版の電子化と電子書籍（２） 9.図書館と電子書籍 10.出版社 11.出版流通と販売 12.電子書籍と個人出版 13.表現自由と出版倫理 14.著作権と出版 15.読書と読者 （備考）授業計画は、進度等の都合により変更することがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50340A01
科目名	書道（書写を含む）A 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Calligraphy A (The Transcript is Include d)		
担当者名	西尾　利香	旧科目名称	
講義概要	楷書の基礎・基本およびそれに調和する仮名を重視した技法習得を中心とする。 書写の学習では、正しく整えて読みやすく書くことが重要である。本講では、毛筆を中心に用い、半紙や画仙紙等に書写することで技法を習得し、その学習の成果を日常生活のさまざな書写場面で生かしていくとともに、創作や作品鑑賞を加えることにより、創造的な理解力の基礎を育成することを目的とする。また、楷書から他の書体へ段階的に移行できるよう、書写力の定着と応用をはかる。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点(30%)、授業内小テスト等による。授業中に課すプリント問題と作品(45%)、期末に課すレポート課題(25%)により評価する。		
到達目標	1. 現代社会における手書き文字の重要性を理解する。 2. 用具・用材の扱い、基本点画・用筆について理解し、実際に書ける能力を獲得する。 3. 書写の基本的な学習法を身につけ、意欲的に取り組む態度を養う。 4. 書写における実用性と芸術性を高めるために、創作を通し創造する喜びを体得する。 5. 書作品の鑑賞を通し、異文化の理解・交流を深める。		
準備学習	各講義終了時に次の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また毎回講義の最初に前回授業内容に係る復習小テストまたは代表者による作品についての発表を課するので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
1.書道は言語表記であると同時に芸術表現の学習活動である。伝統を重視するとともに、創造意欲を持って講義に臨むこと。 2.墨を使用する実技科目である。汚れても支障のない服装で出席すること。 3.遅刻及び講義内容に関連しない私語は厳禁とする。 4.各講義で制作した作品およびプリントの提出を求める。			
講義の順序とポイント			
1.はじめに一書写・書道の概要 A一 2.楷書の特徴(硬筆) 3.楷書の基本点画 1 4.楷書の基本点画 2 5.実用書 6.楷書に調和する仮名 1（ひらがな） 7.楷書に調和する仮名 2（カタカナ） 8.瓦当文字の刻字 1 9.瓦当文字の刻字 2 10.漢字仮名交じりの書・創作手紙文 1 11.漢字仮名交じりの書・創作手紙文 2 12.作品鑑賞法 A 13.季節の書・短冊 14.まとめ 1 15.まとめ 2			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★★	★★	★	

年度	2015	授業コード	J50340B01
科目名	書道（書写を含む）B 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Calligraphy B (The Transcript is Include d)		
担当者名	西尾　利香	旧科目名称	
講義概要	行書の基礎・基本およびそれに調和する細字仮名を重視した技法習得を中心とする。 行書は楷書よりも速く書けるため、記録や伝達に活用できる優れた書体である。また仮名は今日の日常使用文字の過半を占める。しかしそのような実用的な面だけではなく、芸術表現のための要素が多く含まれている。本講では、毛筆を用い半紙やハガキ等に書写することで技法を習得し、その培った表現力を基礎に日本古来の装丁様式である和装本創作へと学習を拡大する。また書写・書道学習に広がりを持たせる上で、板書及び篆刻を加え、毛筆で書く表現とは別の実習を通してその効果を理解する。		
教材（テキスト）	なし、各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点(30%)、授業内小テスト等による。授業中に課すプリント問題と作品(45%)、期末に課すレポート課題(25%)により評価する。		
到達目標	1. 書体の特徴について理解を深め、鑑賞力の向上に努める。 2. 書写・書道の技法を習得し、積極的に活用して表現する態度・能力を養う。 3. 漢字・仮名の成立過程および字源について理解を深める。 4. 漢字と仮名の調和の方法について習熟し、日常生活の書表現の中に積極的に取り入れる態度を確立する。 5. 現代社会の目的・場面等に応じ、情報機器とは異なる手書きの必要性について考察する。		
準備学習	各講義終了時に次の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また毎回講義の最初に前回授業内容に係る復習小テストまたは代表者による作品についての発表を課するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1.書道は言語表記であると同時に芸術表現の学習活動である。伝統を重視するとともに、創造意欲を持って講義に臨むこと。
2.墨を使用する実技科目である。汚れても支障のない服装で出席すること。
3.遅刻及び講義内容に関連しない私語は厳禁とする。
4.各講義で制作した作品およびプリントの提出を求める。

講義の順序とポイント

1.はじめにー書写・書道の概要 Bー
2.行書の特徴(硬筆)
3.行書の基本点画 1
4.行書の基本点画 2
5.行書の創作
6.篆刻
7.板書技法
8.仮名の基本 1（平仮名）
9.仮名の基本 2（連綿）
10.季節の書・年賀状
11.漢字仮名交じりの書・和装本創作 1
12.漢字仮名交じりの書・和装本創作 2
13.漢字仮名交じりの書・和装本創作 3
14.作品鑑賞法 B
15.まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★★	★★	★	

年度	2015	授業コード	J50342A01
科目名	社会調査実習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Social Research Practice I		
担当者名	谷岡　謙	旧科目名称	
講義概要	社会調査の企画から報告書の作成までの全過程を一通り体験的に学習する。社会調査とはなにかという点を踏まえた上で、本演習では質的調査の方法について学習し、実際にインタビュー調査を行う。学生は自身にとって身近なテーマや関心のある事柄を選択し、インタビュー・データの収集、整理、分析、レポートの作成、レポートの報告、討論を行う。 なお、この授業は、秋学期の「社会調査実習Ⅱ（担当・谷岡）」とあわせて単位取得することで、「社会調査士」資格取得のための【G：社会調査の実習を中心とする科目】の認定要件になる。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況および小課題の提出による。学期末レポート（50%）		
到達目標	質的調査の特徴を理解し、技法を身につけることを目標とする。先行研究を調べ自分自身で問題設定を行った上で、質的調査（本学期は、若者へのインタビュー調査を予定）を行い、収集したデータを分析して明らかになったことをレポートとしてまとめる。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。データ収集に関しては、一部授業時間外に課題として行ってもらう。		

受講者への要望

1. 毎回授業に出席し、問題設定や質的調査のデータ収集・分析についての議論に積極的に質問や発言をすること。
2. 自分が本実習で明らかにしたい問題について、先行研究を調べる努力を惜しまないこと。

講義の順序とポイント

1、質的調査の概説
2、質的調査の方法・企画
3、質的調査の先行理論、仮説構成
4、質的調査の問い・対象者・トピックの設定
5、インタビュー調査の方法
6、フィールドワークの方法
7、参与観察の方法
8、会話分析・ライフヒストリー分析の方法
9、インタビュー調査・フィールドワークの実施
10、データの整理
11、収集した質的データの分析（1）
12、収集した質的データの分析（2）
13、質的データの読み方・解釈
14、分析結果報告の作成
15、研究成果の報告と討論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50342B01
科目名	社会調査実習 II	単位数	1
科目名（英語表記）	Social Research Practice II		
担当者名	谷岡　謙	旧科目名称	
講義概要	社会調査の企画から報告書の作成までの全過程を一通り体験的に学習する。社会調査のなかでも質的調査と呼ばれる方法を中心に学習した上で、実際に雑誌や新聞記事を材料としたドキュメント分析を経験してもらう。学生は自身にとって身近なテーマや関心のある事柄を選択し、ドキュメント・データの収集、整理、分析、レポートの作成、レポートの報告、討論を行う。 なお、この授業は、春学期の「社会調査実習 I （担当・谷岡)」とあわせて単位取得することで、「社会調査士」資格取得のための【G：社会調査の実習を中心とする科目】の認定要件になる。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況および小課題の提出による。学期末レポート（50%）		
到達目標	質的調査の特徴を理解し、技法を身につけることを目標とする。先行研究を調べ自分自身で問題設定を行った上で、質的調査（本学期は、新聞記事を材料にしたドキュメント分析を予定）を行い、収集したデータを分析して明らかになったことをレポートとしてまとめる。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。データ収集に関しては、一部授業時間外に課題として行ってもらう。		
受講者への要望			
1. 毎回授業に出席し、問題設定や質的調査のデータ収集・分析についての議論に積極的に質問や発言をすること。 2. 自分が本実習で明らかにしたい問題について、先行研究を調べる努力を惜しまないこと。			
講義の順序とポイント			
1、質的調査と量的調査の違い、それぞれの長所と短所 2、内容分析の方法 3、ドキュメント分析の方法 4、新聞・雑誌の読み方 5、映像メディアの読み方 6、新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析法 7、コンピューターを用いた質的データの整理・分析法 8、収集した新聞記事データのコーディング 9、自由回答データのコーディング 10、新聞記事・自由回答データの度数分布、クロス集計 11、新聞記事・自由回答データの分析（1） 12、新聞記事・自由回答データの分析（2） 13、質的データを用いた研究論文の紹介 14、分析結果報告の作成 15、研究成果の報告と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50345001
科目名	情報ネットワーク論	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Information Network Communi ty		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	かつては人間がコミュニケーションをするための手段（媒体）である“メディア”という存在を考える際には、「新聞」「TV」のようなマスメディアを想定し〈送り手―媒介―受け手〉という図式で、その関係をみてきた。しかし、現在そういった発想そのものが無意味となりつつある。メディアとは単なるコミュニケーションの「通路」ではなく、むしろコミュニケーションそのものを成立させる「場」として機能しているからである。言うまでもなく、その代表的な存在がデジタルという技術の発展とともに成長し続ける「インターネット」のような新たな“場＝ネットワーク社会”である。 本講義では、コンピュータ等を介してネットワーク上で行われる人間同士のコミュニケーションが一般的なものとなりつつある現代社会を、「情報」「コミュニケーション」「ネットワーク」をキーワードにアプローチする。つまり、「インターネット（＝メディアとしてのコンピュータ）」によるコミュニケーションと、既存のメディアによるコミュニケーションとの相違を整理し、ネットワーク上での人々のアクティビティや新しい流れ、そして、それらに伴う現実社会での“変革”の動きを、その可能性／問題点等を含め考えていく。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント、映像教材他		
評価方法	最終レポート（100%）。		
到達目標	今日のネットワーク社会の可能性／問題点を考える。		
準備学習	各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む　（事前に「マルチメディア論」を受講していることが望ましい）　。

講義の順序とポイント

01　オリエンテーション
02　インターネットの基本 その 1
03　インターネットの基本 その 2
04　インターネットの基本 その 3
05　インターネットの基本 その 4
06　インターネットの基本 その 5
07　インターネットの基本 その 6
08　インターネットの基本 その 7
09　情報と社会 その 1
10　情報と社会 その 2
11　情報と社会 その 3
12　情報と社会 その 4
13　情報と社会 その 5
14　情報と社会 その 6
15　情報と社会 その 7

※毎回配布するレジュメ等はあくまでも講義の補助メディアであり、定期試験前にそれらを付け焼き刃的に頭につめこんだだけでは、容易に単位を取得することはできない授業（＝メディア）を展開する予定です。ただし、単に出席しさえすればなんとかなるというものでもありませんので、十分ご注意下さい。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50346001
科目名	情報サービス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Services		
担当者名	古川　保彦	旧科目名称	情報サービス概説
講義概要	図書館の情報提供機能を具体化する「情報サービス」について、基礎的な概念、代表的な情報サービス、情報源など、インターネット等のデジタル情報の活用にも着目して概説する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。そのつど、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	小田光広編著　『情報サービス論』　（日本図書館協会）　ISBN978-4-8204-1211-3		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。　レポート(70%)。 以上を総合的に評価する。		
到達目標	図書館司書を目指す学生については、職員採用試験において求められる情報サービスに関する専門知識の獲得、また、広く図書館情報学としての知識を身につけたい学生については、社会人として主体的に情報収集を行い、各人のキャリアアップに寄与することとなるような情報リテラシーの重要性を認識してもらうことほ目指す。		
準備学習	受講者各自が関心を持って授業に臨むため、シラバスで各回のテーマを確認し、関連する資料について事前に図書館等で参照し、そのアウトラインをつかんでおくこと。 授業で紹介する文献すべてを学期中に読破すること。		

受講者への要望

授業での各テーマに関心を持ち、積極的に図書館を利用して、自ら体験することに努めること。
遅刻・私語は厳に慎むこと。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
　情報社会と図書館
2.情報サービスとはなにか
　意義、機関、法的根拠
3.情報サービスの種類・機能①レファレンスサービス
　レファレンスサービスの基本的な概念
4.情報サービスの種類・機能②レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス
　図書館の能動的なサービスであるレフェラル・カレントウェアネスサービスの基本的な概念
5.情報サービスの種類・機能③オンライン,オンディスク検索サービス
　電子メディアを使った検索サービスの基本的な概念
6.情報サービスの種類・機能④その他のサービス
　児童サービスなど利用対象別、図書館のイベント、研修など
7.情報源の種類とコレクション構築
　図書館で提供する情報源の種類やその特徴提供方法について
8.情報ニーズへの対応：レファレンスプロセス、レファレンス質問
　図書館員が利用者からのレファレンスを受け、処理する過程について
　図書館員が利用者の質問に的確に答えるための手法や基本ルールなど
9.情報源:①書誌データ探索
　二次資料や参考図書のレファレンスツールの種類と特徴など
10.情報源:②事実データ探索
　二次資料や参考図書のレファレンスツールの種類と特徴など
11.インターネットを活用した情報サービス
　データベース・WEB 情報と検索
12.発信型情報サービスと課題解決型図書館
13.レファレンスの実際： レファレンスインタビュー
14.図書館利用教育（情報リテラシーの育成）
15.主な公共図書館の情報サービスの実情と展望

（備考）授業計画は、進度等の都合により変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50348003
科目名	情報サービス実習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	高橋　和子	旧科目名称	
講義概要	調査･研究や個々の問題解決にとってまず必要なことは、レファレンス資料に習熟していること、データベースの内容を熟知していることである。そのことは、司書やサーチャーが、それまでに、どれだけ自分のモチーフに添って検索した経験があるか、ということにかかっている。 本講義では、文献情報の検索を、「調査･研究の補助ではあるが必要不可欠な手段」として位置付け、自身のモチーフに添って各種データベースに触れつつ、各自の設定したテーマに沿って検索しその習熟を目指す。その際大切なことは、検索すべき情報源の「構築経緯」や内容を熟知していること、そのうえで検索する能力を高めること、それら情報源を正しく評価できること、そして入手した情報を整理し利用･応用できること、である。 そうしたことを念頭に、本演習では、まず自分の専攻分野や関心領域についてテーマを設定し、各講時ごと情報の性格や情報源の特色を説明し理解を深めながら、その文献リストの完成を目指していく。結果として「図書館の情報サービス」を有効に展開していける技術を身につけていく。		
教材（テキスト）	USB メモリーで各講義資料を提供する。		
教材（参考文献）	（社）情報科学技術協会編　情報検索の基礎知識　新訂 2 版		
教材（その他）			
評価方法	出席状況等平常点（20%）および毎回のレポート（80%）により評価する。、（社）情報科学技術協会主催「検索技術者検定 3 級」に合格した者は合格点を付与する。		
到達目標	利用者からの質問を正確に把握し、的確な検索方法の選択・検索キーワードへの想像力・検索式組立方法を学び、利用者ニーズに応えられる手段を学ぶ。その一部としてインターネット検索技術を中心に習得する。		
準備学習	パソコンの基本的な操作能力は前提なので、自ら習熟しておくこと。特にエクセルの基本能力が必要です。		
受講者への要望			
自分の関心領域を持つこと。日々の出席は単位取得の必須条件である。パソコンの習熟特にエクセルに慣れておくこと。			
講義の順序とポイント			
1、図書館員としての情報検索とは 2、消えたサイト検索、検索結果の見方 3、Google 検索オプション活用 1 4、Google 検索オプション活用 2 5、and 検索、or 検索、 not 検索活用 6、インターネット活用、情報提供の方法 7、国会図書館検索実習 1 8、国会図書館検索実習 2 9、国会図書館検索実習 3 10、国立情報学研究所検索実習 1 11、国立情報学研究所検索実習 2 12、官邸、政府情報検索 13、政府統計、法律情報検索実習 14、有料データベース実習 1 15、情報検索基礎能力試験問題を解く			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	

年度	2015	授業コード	J50363A01
科目名	心理学基礎 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Psychology I		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	わたしたちは，日常生活の中で，様々なことを感じ，考え，行動しています。このような「人のこころ」について理解するための学問が心理学です。 さて，みなさんは，「心理学」について，どのようなイメージをもっているでしょうか。 おそらく，多くの人がイメージしている「心理学」と，実際の心理学の間にはギャップがあります。 この講義では，様々な心理学の研究領域を取りあげ，日常の様々な問題が心理学でどのように取り扱われているのかを説明しながら，そのギャップを埋めていきたいと思います。 日常生活にある様々な「なぜ？」について，心理学の立場からどのように考えられるのか，授業を通して一緒に考えていきましょう。		
教材（テキスト）	指定しません。適宜，資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に適宜，紹介します。		
教材（その他）	講義中に適宜，紹介します。		
評価方法	授業中に実施する理解度チェックや小レポートなどの課題（50%） 筆記試験（50%）		
到達目標	①日常場面で直面する様々な現象を，心理学の専門用語を用いて説明できる。 ②自分の持つ興味を具体化し，それが心理学とどのように関連しているかを説明できる。		
準備学習	各講義で学んだことを日常場面の問題に関連づけて考え，理解を深めてください。 また，講義の冒頭に復習のための小テストを実施する場合があるので，前回分の講義の内容を理解したうえで，次の講義に臨んでください。		

受講者への要望

①講義中の私語や携帯電話による通話は，他の受講者の迷惑になるため，厳禁とします。どうしても，誰かと話したい，話さなければならない，という場合は，一度退室してください。また，場合により，講師から退室を求めることがあります。
②質問や要望を記入する用紙を講義中に配布します。何かあれば，用紙に記入し，講義後に提出してください。
③また，講師に直接の質問したい場合は，原則として講義後にお願いします。
④講義期間中に，様々な心理学実験や調査のデモを行う予定です。是非，積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション・心理学ってなに？①
2　心理学ってなに？②

第 3 回～第 14 回までの講義内容は，受講者全員の興味に合わせて，以下のテーマから選出します。
1 つのテーマにつき，2 回の講義を行う予定です。

テーマ
・ あなたの記憶，正しいですか？
・「心理テスト」にだまされる
・ ググると忘れやすいのか？
・ 「 見える」ものが事実とは限らない
・　第一印象って大事？
・　血液型のうそ，ほんと
・ みんなの意見は本当に正しい？
・ 傍観者は冷酷か？
・ 浮気心を読み解く
・ ぐるぐるまわるネガティブ思考
・ こころの「不調」ってなんだろう
・ こころの「不調」が起こるわけ
・ いろいろな心理学

15　改めて，心理学ってなに？

受講者の希望を取り入れながら，講義の内容・順序・ボリュームを調整していく予定です。
また，講義中に受講者に課題を課すことがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50363A02
科目名	心理学基礎 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Psychology I		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	わたしたちは，日常生活の中で，様々なことを感じ，考え，行動しています。このような「人のこころ」について理解するための学問が心理学です。 さて，みなさんは，「心理学」について，どのようなイメージをもっているでしょうか。 おそらく，多くの人がイメージしている「心理学」と，実際の心理学の間にはギャップがあります。 この講義では，様々な心理学の研究領域を取りあげ，日常の様々な問題が心理学でどのように取り扱われているのかを説明しながら，そのギャップを埋めていきたいと思います。 日常生活にある様々な「なぜ？」について，心理学の立場からどのように考えられるのか，授業を通して一緒に考えていきましょう。		
教材（テキスト）	指定しません。適宜，資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に適宜，紹介します。		
教材（その他）	講義中に適宜，紹介します。		
評価方法	授業中に実施する理解度チェックや小レポートなどの課題（50%） 筆記試験（50%）		
到達目標	①日常場面で直面する様々な現象を，心理学の専門用語を用いて説明できる。 ②自分の持つ興味を具体化し，それが心理学とどのように関連しているかを説明できる。		
準備学習	各講義で学んだことを日常場面の問題に関連づけて考え，理解を深めてください。 また，講義の冒頭に復習のための小テストを実施する場合があるので，前回分の講義の内容を理解したうえで，次の講義に臨んでください。		

受講者への要望

①講義中の私語や携帯電話による通話は，他の受講者の迷惑になるため，厳禁とします。どうしても，誰かと話したい，話さなければならない，という場合は，一度退室してください。また，場合により，講師から退室を求めることがあります。
②質問や要望を記入する用紙を講義中に配布します。何かあれば，用紙に記入し，講義後に提出してください。
③また，講師に直接の質問したい場合は，原則として講義後にお願いします。
④講義期間中に，様々な心理学実験や調査のデモを行う予定です。是非，積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション・心理学ってなに？①
2　心理学ってなに？②

第 3 回～第 14 回までの講義内容は，受講者全員の興味に合わせて，以下のテーマから選出します。
1 つのテーマにつき，2 回の講義を行う予定です。

テーマ
・ あなたの記憶，正しいですか？
・「心理テスト」にだまされる
・ ググると忘れやすいのか？
・ 「 見える」ものが事実とは限らない
・　第一印象って大事？
・　血液型のうそ，ほんと
・ みんなの意見は本当に正しい？
・ 傍観者は冷酷か？
・ 浮気心を読み解く
・ ぐるぐるまわるネガティブ思考
・ こころの「不調」ってなんだろう
・ こころの「不調」が起こるわけ
・ いろいろな心理学

15　改めて，心理学ってなに？

受講者の希望を取り入れながら，講義の内容・順序・ボリュームを調整していく予定です。
また，講義中に受講者に課題を課すことがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50363B01
科目名	心理学基礎Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Psychology Ⅱ		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	ひとは，日常生活の中で，様々に感じ，考え，行動しています。心理学は，このような「人のこころ」の知るための学問です。心理学者たちは，「人のこころ」の謎に迫るために，長年にわたって様々な研究を行ってきました。 この講義では，私たちが日常生活で直面する様々な問題や疑問を取りあげながら，心理学によって明らかにされてきた「人のこころ」について紹介していきます。講義を通して，一般的にイメージされる「心理学」とは違う，学問としての心理学を知ってもらいたいと思います。 心理学入門Ⅰ Ⅰでは，日常で出会う問題を取り上げながら，様々な心理学の研究領域について講義します。具体的な研究の内容を紹介し，心理学で使用されている実験，調査などの方法についても説明します。 講義で得た知識を使いながら，日常で出会う「人のこころ」に関する疑問について考えていきましょう。		
教材（テキスト）	指定しません。適宜，資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に適宜，紹介します。		
教材（その他）	講義中に適宜，紹介します。		
評価方法	授業中に実施する理解度チェックや小レポートなどの課題（50%） 筆記試験（50%）		
到達目標	①心理学の諸領域に関する幅広い知識を身につける。 ②日常で出会う様々な問題を，心理学の視点から理解できるようになる。		
準備学習	各講義で学んだことを日常場面の問題に関連づけて考え，理解を深めてください。 また，講義の冒頭に復習のための小テストを実施する場合があるので，前回分の講義の内容を理解したうえで，次の講義に臨んでください。		

受講者への要望

①講義中の私語や携帯電話による通話は，他の受講者の迷惑になるため，厳禁とします。どうしても，誰かと話したい，話さなければならない，という場合は，一度退室してください。また，場合により，講師から退室を求めることもありますので，注意してください。
②質問や要望を記入する用紙を講義中に配布します。何かあれば，用紙に記入し，講義後に提出してください。
③また，講師に直接の質問したい場合は，原則として講義後にお願いします。
④講義期間中に，様々な心理学実験や調査のデモを行う予定です。是非，積極的に参加してください。
⑤春学期開講科目の心理学入門Ⅰを受講しておくことで，講義内容を理解しやすくなると思います。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション・心理学とは？①
2　オリエンテーション・心理学とは？②

第 3 回～第 14 回までの講義内容は，受講者全員の興味に合わせて，以下のテーマから選出します。
1 つのテーマにつき，2 回の講義を行う予定です。

テーマ
・ からだとこころの意外な関係
・ イメージのもつ影響力
・ しっかりと覚えるためには？
・ 自分をうまくコントロールする方法
・ 忘れたいことがあるとき
・ シロクマについて考えるな
・ 「○○したい！」とうまく付き合う
・ ストレスに対処する
・ 面倒なことは後回し
・ 心の健康と基礎心理学
・ 感情ってなんだろう

15　改めて，心理学ってなに？

受講者の希望を取り入れながら，講義の内容・順序・ボリュームを調整していく予定です。
また，講義中に受講者に課題を課すことがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50363B02
科目名	心理学基礎Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Psychology Ⅱ		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	ひとは，日常生活の中で，様々に感じ，考え，行動しています。心理学は，このような「人のこころ」の知るための学問です。心理学者たちは，「人のこころ」の謎に迫るために，長年にわたって様々な研究を行ってきました。 この講義では，私たちが日常生活で直面する様々な問題や疑問を取りあげながら，心理学によって明らかにされてきた「人のこころ」について紹介していきます。講義を通して，一般的にイメージされる「心理学」とは違う，学問としての心理学を知ってもらいたいと思います。 心理学入門Ⅰ1では，日常で出会う問題を取り上げながら，様々な心理学の研究領域について講義します。具体的な研究の内容を紹介し，心理学で使用されている実験，調査などの方法についても説明します。 講義で得た知識を使いながら，日常で出会う「人のこころ」に関する疑問について考えていきましょう。		
教材（テキスト）	指定しません。適宜，資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に適宜，紹介します。		
教材（その他）	講義中に適宜，紹介します。		
評価方法	授業中に実施する理解度チェックや小レポートなどの課題（50%） 筆記試験（50%）		
到達目標	①心理学の諸領域に関する幅広い知識を身につける。 ②日常で出会う様々な問題を，心理学の視点から理解できるようになる。		
準備学習	各講義で学んだことを日常場面の問題に関連づけて考え，理解を深めてください。 また，講義の冒頭に復習のための小テストを実施する場合があるので，前回分の講義の内容を理解したうえで，次の講義に臨んでください。		

受講者への要望

①講義中の私語や携帯電話による通話は，他の受講者の迷惑になるため，厳禁とします。どうしても，誰かと話したい，話さなければならない，という場合は，一度退室してください。また，場合により，講師から退室を求めることもありますので，注意してください。
②質問や要望を記入する用紙を講義中に配布します。何かあれば，用紙に記入し，講義後に提出してください。
③また，講師に直接の質問したい場合は，原則として講義後にお願いします。
④講義期間中に，様々な心理学実験や調査のデモを行う予定です。是非，積極的に参加してください。
⑤春学期開講科目の心理学入門Ⅰを受講しておくことで，講義内容を理解しやすくなると思います。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション・心理学とは？①
2　オリエンテーション・心理学とは？②

第 3 回～第 14 回までの講義内容は，受講者全員の興味に合わせて，以下のテーマから選出します。
1 つのテーマにつき，2 回の講義を行う予定です。

テーマ
・ からだとこころの意外な関係
・ イメージのもつ影響力
・ しっかりと覚えるためには？
・ 自分をうまくコントロールする方法
・ 忘れたいことがあるとき
・ シロクマについて考えるな
・ 「○○したい！」とうまく付き合う
・ ストレスに対処する
・ 面倒なことは後回し
・ 心の健康と基礎心理学
・ 感情ってなんだろう

15　改めて，心理学ってなに？

受講者の希望を取り入れながら，講義の内容・順序・ボリュームを調整していく予定です。
また，講義中に受講者に課題を課すことがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50364001
科目名	心理アセスメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychological Assessment		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	心理臨床活動において心理アセスメント（査定）はひとつの重要な柱であり、それをとおして援助の方向を定め、修正していく。そして、アセスメント（査定）の意味のなかには、その人の健康なところ、強いところなど、ポジティブな側面を見出すことも含まれている。心理アセスメントは決して心理検査法だけのことを指すのではないが、授業の前半では、心理検査法の解説や簡単な実習に費やす時間が比較的多い。心理検査をそれ以上でも以下でもなく受け入れることのできる最初の機会になればと思う。心理検査は用い方や読み方を誤れば非常に危険である。しかし、対象者の援助に役立てる方向で慎重に用いることによって有益な情報が得られる。これらの検査の限界と効用の両方をバランスよく学んでほしい。また、心理検査データ以外の情報によるアセスメント、家族アセスメントなどにもふれる。さらに授業の後半では、心理的異常についてもＤＳＭ（精神障害の診断と統計の手引き）にそって概要を解説しておきたい。		
教材（テキスト）	とくに指定しない。		
教材（参考文献）	下山晴彦編「よくわかる臨床心理学　改訂新版」 2009　ミネルヴァ書房 皆藤章編「よくわかる心理臨床」 2007 ミネルヴァ書房 下山晴彦著「臨床心理アセスメント入門」 2008 金剛出版 その他、授業のなかで随時紹介する。		
教材（その他）	プリント類を使用する。		
評価方法	出席や受講態度による平常点（５０％）。「授業内容の理解」に関する確認作業の成果の提出（５０％）		
到達目標	心理アセスメントに関する基本的な考え方を身につけ、代表的な心理検査についてその概要を把握する。また、心理的異常についてもその概要を把握する。		
準備学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながるし、第８回と第１５回授業で行なう「授業内容の理解」に関する確認作業にも大いに役立つ。		

受講者への要望

各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。また、配布した資料にはよく目を通してほしい。

講義の順序とポイント

1.はじめに～アセスメントとは何か
2.初回面接を中心に
3.面接法や観察法
4.検査法（１）質問紙法や投影法、作業検査法
5.　同　（２）知能・発達検査法
6.　同　（３）家族に関する検査法
7.　同　（４）その他のアセスメントに関すること
8.残されたテーマと前半授業の補足
9.精神障害と臨床心理学
10.診断名（１）統合失調症や気分障害
11.　同　（２）不安障害や身体表現性障害、解離性障害
12.　同　（３）摂食障害や性同一性障害、性障害
13　同　（４）パーソナリティ障害と認知症、発達障害
14.その他の障害や事象
15.残されたテーマと後半授業の補足
※講義の内容や順序は変更されることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50366001
科目名	心理学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Psychology		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	ヒトの心は，きわめて優れた環境適応力と文化・文明を創り出すすばらしい力をもっている。この力を脳に求める立場もあるが，脳を機能させているのは，やはり「心」であろう。この「心」を研究する学問は，心理学である。しかし，「心」を直接観察したり，分析することはできないので，実験や行動観察などの間接的な手段を用いて探究している。現代心理学は，人間の顕在的行動と心的過程を実験や行動観察などを通じて科学的に解明することを目指している。 本講では，心理学の歴史的展開を眺めながら，心理学の各領域についてある程度を深く論述する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（20%）は出席状況等による。定期試験結果（80%）		
到達目標	日常生活における心理学的事象を、ある程度正しく理解できるようになる。		
準備学習	授業のテキスト（レジュメ）を京学なびの「授業資料」に，授業の 1 週間前までにアップロードするので，プリントアウトして，必ず事前に読んで理解しておくこと。 復習の課題は，京学なびの「課題提出」に提示するので，指定期日までに京学なびの「課題提出」に提出すること。		

受講者への要望

①授業には必ず出席してください。
②授業内容は，心理学の入門よりもかなり高い専門的レベルです。
③授業のテキスト（レジュメ）をしっかり勉強しなければ，簡単に単位が取れる訳ではありません。

講義の順序とポイント

1. 心理学とは何か：「心理学」という用語
2. 心理学の課題と方法
3. 心理学の領域と課題
4. 心理学の歴史的展開：①連合主義，②感覚・知覚研究
5. 心理学の歴史的展開：③精神物理学，④心理学の独立
6. 心理学の歴史的展開：⑤19 世紀末の心理学，⑥比較心理学
7. 心理学の歴史的展開：⑦個人差の心理学，⑧精神分析学
8. 心理学の歴史的展開：⑨ゲシュタルト心理学
9. 心理学の歴史的展開：⑩行動主義，⑪新行動主義
10. 心理学の歴史的展開：⑫認知心理学，⑬発達心理学
11. 心理学の歴史的展開：⑭社会心理学，⑮臨床心理学
12. 脳と心：①脳と心をどう考えるか
13. 脳と心：②脳と神経
14. 脳と心：③生理心理学
15. 知覚：①感覚・知覚の生理学的基礎
16. 知覚：②知覚範囲
17. 知覚：③あるがままの世界と知覚する世界
18. 知覚：④働きかけによって形作られた世界
19. 知覚：⑤意味づけられた世界
20. 知覚：⑥注意
21. 学習：①学習とは何か

22. 学習：②行動主義と学習理論
23. 学習：③媒介理論
24. 学習：④オペラント条件づけ
25. 記憶：①記憶のしくみ
26. 記憶：②記銘のメカニズム
27. 記憶：③情報の保持・検索・忘却
28. 記憶：④ワーキングメモリー
29. 記憶の情報処理過程
30. 日常性の記憶

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	

年度	2015	授業コード	J50366002
科目名	心理学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Psychology		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	ヒトの心は，きわめて優れた環境適応力と文化・文明を創り出すすばらしい力をもっている。この力を脳に求める立場もあるが，脳を機能させているのは，やはり「心」であろう。この「心」を研究する学問は，心理学である。しかし，「心」を直接観察したり，分析することはできないので，実験や行動観察などの間接的な手段を用いて探究している。現代心理学は，人間の顕在的行動と心的過程を実験や行動観察などを通じて科学的に解明することを目指している。 本講では，心理学の歴史的展開を眺めながら，心理学の各領域についてある程度を深く論述する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（20%）は出席状況等による。定期試験結果（80%）		
到達目標	日常生活における心理学的事象を、ある程度正しく理解できるようになる。		
準備学習	授業のテキスト（レジュメ）を京学なびの「授業資料」に，授業の 1 週間前までにアップロードするので，プリントアウトして，必ず事前に読んで理解しておくこと。 復習の課題は，京学なびの「課題提出」に提示するので，指定期日までに京学なびの「課題提出」に提出すること。		

受講者への要望

①授業には必ず出席してください。
②授業内容は，心理学の入門よりもかなり高い専門的レベルです。
③授業のテキスト（レジュメ）をしっかり勉強しなければ，簡単に単位が取れる訳ではありません。

講義の順序とポイント

1. 心理学とは何か：「心理学」という用語
2. 心理学の課題と方法
3. 心理学の領域と課題
4. 心理学の歴史的展開：①連合主義，②感覚・知覚研究
5. 心理学の歴史的展開：③精神物理学，④心理学の独立
6. 心理学の歴史的展開：⑤19 世紀末の心理学，⑥比較心理学
7. 心理学の歴史的展開：⑦個人差の心理学，⑧精神分析学
8. 心理学の歴史的展開：⑨ゲシュタルト心理学
9. 心理学の歴史的展開：⑩行動主義，⑪新行動主義
10. 心理学の歴史的展開：⑫認知心理学，⑬発達心理学
11. 心理学の歴史的展開：⑭社会心理学，⑮臨床心理学
12. 脳と心：①脳と心をどう考えるか
13. 脳と心：②脳と神経
14. 脳と心：③生理心理学
15. 知覚：①感覚・知覚の生理学的基礎
16. 知覚：②知覚範囲
17. 知覚：③あるがままの世界と知覚する世界
18. 知覚：④働きかけによって形作られた世界
19. 知覚：⑤意味づけられた世界
20. 知覚：⑥注意
21. 学習：①学習とは何か

22. 学習：②行動主義と学習理論
23. 学習：③媒介理論
24. 学習：④オペラント条件づけ
25. 記憶：①記憶のしくみ
26. 記憶：②記銘のメカニズム
27. 記憶：③情報の保持・検索・忘却
28. 記憶：④ワーキングメモリー
29. 記憶の情報処理過程
30. 日常性の記憶

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	

年度	2015	授業コード	J50367A0A
科目名	心理学基礎実験 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Experiments in Psychology A		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	実験の概要 　心理学基礎実験 A では，心理学の代表的な実験をできるだけ多く実習することによって，心理学の基本的な実験方法，データの分析法，レポートの作成法などを学修することを目的とする。 　この授業は，小川の他、有馬先生，行廣先生，服部先生が担当し、各授業時間に実験課題について説明する。それらの実験課題について，グループごとに実験計画に従って実験を実施し，データを収集する。なお，授業時間内に十分なデータを収集できない場合には，授業時間外にも実験を行いデータを収集する。各グループで得られたデータを全員が共有して各自がデータを分析し，可能な解釈や説明などを加えて実験のレポートを提出する，という方法で授業を進める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	小川嗣夫『卒論・修論のための心理学実験こうすればおもしろい』ブレーン出版，2004 小川嗣夫『卒論・修論のための心理学実験こうすればおもしろい２』ブレーン出版，2005 小川嗣夫『卒論・修論のための心理学実験こうすればおもしろい３』ブレーン出版，2008		
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%）は出席状況等による。実験レポート（60%）		
到達目標	実験を実施し，得られたデータを分析し，レポートに仕上げることが，授業の狭義の目標であるが，広義には、 心理学実験によって，人間の心や行動をより正確に理解する方法を身につけることを目標とする。		
準備学習	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の心理学基礎実験 A の担当教員フォルダに「実験課題」のレジュメを，授業の 1 週間前までに提示するので，プリントアウトして授業までに必ず読んでおくこと。 復習課題は，各実験課題について指定期日までにレポート領域のレポート提出フォルダに必ずレポートを提出すること。		

受講者への要望

この授業は，実験実習です。授業に出席して実験に参加し，データを分析して，レポートを提出しなければなりません。

講義の順序とポイント

最初の授業では，実験プログラムの使い方などのオリエンテーションを行う。

＜実験課題の例＞

（1）社会心理学
- ①集団知
- ②集団記憶
- ③錯誤帰属
- ④囚人ジレンマゲーム
- ⑤複雑適応系シミュレーション

（2）感覚・知覚
- ⑥錯視
- ⑦動きの知覚
- ⑧瞬間情報処理
- ⑨時間順序
- ⑩ヒューマン・エラー

（3）記憶
- ⑪形態処理と音韻処理
- ⑫記憶検索

（4）思考・推論

⑬帰納推論
⑭確率推論
⑮意思決定

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50367A0B
科目名	心理学基礎実験 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Experiments in Psychology A		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	実験の概要 　心理学基礎実験 A では，心理学の代表的な実験をできるだけ多く実習することによって，心理学の基本的な実験方法，データの分析法，レポートの作成法などを学修することを目的とする。 　この授業は，小川の他、有馬先生，行廣先生，服部先生が担当し、各授業時間に実験課題について説明する。それらの実験課題について，グループごとに実験計画に従って実験を実施し，データを収集する。なお，授業時間内に十分なデータを収集できない場合には，授業時間外にも実験を行いデータを収集する。各グループで得られたデータを全員が共有して各自がデータを分析し，可能な解釈や説明などを加えて実験のレポートを提出する，という方法で授業を進める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	小川嗣夫『卒論・修論のための心理学実験こうすればおもしろい』ブレーン出版，2004 小川嗣夫『卒論・修論のための心理学実験こうすればおもしろい２』ブレーン出版，2005 小川嗣夫『卒論・修論のための心理学実験こうすればおもしろい３』ブレーン出版，2008		
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%）は出席状況等による。実験レポート（60%）		
到達目標	実験を実施し，得られたデータを分析し，レポートに仕上げることが，授業の狭義の目標であるが，広義には、 心理学実験によって，人間の心や行動をより正確に理解する方法を身につけることを目標とする。		
準備学習	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の心理学基礎実験 A の担当教員フォルダに「実験課題」のレジュメを，授業の 1 週間前までに提示するので，プリントアウトして授業までに必ず読んでおくこと。 復習課題は，各実験課題について指定期日までにレポート領域のレポート提出フォルダに必ずレポートを提出すること。		
受講者への要望			
この授業は，実験実習です。授業に出席して実験に参加し，データを分析して，レポートを提出しなければなりません。			
講義の順序とポイント			
最初の授業では，実験プログラムの使い方などのオリエンテーションを行う。 ＜実験課題の例＞ （1）社会心理学 ①集団知 ②集団記憶 ③錯誤帰属 ④囚人ジレンマゲーム ⑤複雑適応系シミュレーション （2）感覚・知覚 ⑥錯視 ⑦動きの知覚 ⑧瞬間情報処理 ⑨時間順序 ⑩ヒューマン・エラー （3）記憶 ⑪形態処理と音韻処理 ⑫記憶検索 （4）思考・推論			

⑬帰納推論
⑭確率推論
⑮意思決定

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50367B0A
科目名	心理学基礎実験Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Experiments in Psychology B		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	人間を理解するための心理学的方法には、観察法、実験法、面接法、調査法、心理検査法などがある。人間の行動を観察して、行動の法則性を明らかにすることは可能だが、感情や欲求、動機づけといった人間の心の中で生起する主観的なものの解明には、面接法、質問紙法、心理検査法といった研究法が必要である。それぞれの研究法には長所と短所があるが、心理学の研究を行う際には、その特徴を理解した上で、自らのテーマに沿った研究法を選ぶことが必要である。 本実験では、これらの研究法についてその概要を学ぶと共に、それを用いたデータの収集・分析、報告書の作成の仕方などについて学習する。		
教材（テキスト）	中澤潤、他　『心理学マニュアル　観察法』　北大路書房 鎌原雅彦、他　『心理学マニュアル　質問紙法』　北大路書房 保坂亨、他　『心理学マニュアル　面接法』　北大路書房		
教材（参考文献）	B.フィンドレイ著　細江達郎訳　『心理学実験・研究レポートの書き方』　北大路書房		
教材（その他）	実施する具体的内容について記載したプリントを配布する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。片方だけでは評価の対象とならないので、注意すること。		
到達目標	心理学の基本的な研究法である観察法、面接法、質問紙法、心理検査法を習得する。		
準備学習	各回後に課されるレポート執筆が次回の実験の準備に大きくつながるので、真剣に取り組むこと。		

受講者への要望

積極的な態度で参加すること。一斉に作業を開始するので、遅刻は厳禁である。
授業への出席とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

1　心理学実験の方法論／基礎実習
2　心理検査法１（YG 性格検査）
3　観察法１（実験的観察法 ）
4　観察法２（フィールドワーク）
5　面接法
6　質問紙法１
7　質問紙法２
8　質問紙法３
9　データベース検索
10　観察法４ ２
11　質問紙法５
12　質問紙法６
13　心理検査法２（WAIS）
14　心理検査法３（内田クレペリン検査）
15　心理検査法４（バウムテスト
※講義の内容と順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50367B0B
科目名	心理学基礎実験Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Experiments in Psychology B		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	人間を理解するための心理学的方法には、観察法、実験法、面接法、調査法、心理検査法などがある。人間の行動を観察して、行動の法則性を明らかにすることは可能だが、感情や欲求、動機づけといった人間の心の中で生起する主観的なものの解明には、面接法、質問紙法、心理検査法といった研究法が必要である。それぞれの研究法には長所と短所があるが、心理学の研究を行う際には、その特徴を理解した上で、自らのテーマに沿った研究法を選ぶことが必要である。 本実験では、これらの研究法についてその概要を学ぶと共に、それを用いたデータの収集・分析、報告書の作成の仕方などについて学習する。		
教材（テキスト）	中澤潤、他　『心理学マニュアル　観察法』　北大路書房 鎌原雅彦、他　『心理学マニュアル　質問紙法』　北大路書房 保坂亨、他　『心理学マニュアル　面接法』　北大路書房		
教材（参考文献）	B.フィンドレイ著　細江達郎訳　『心理学実験・研究レポートの書き方』　北大路書房		
教材（その他）	実施する具体的内容について記載したプリントを配布する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。片方だけでは評価の対象とならないので、注意すること。		
到達目標	心理学の基本的な研究法である観察法、面接法、質問紙法、心理検査法を習得する。		
準備学習	各回後に課されるレポート執筆が次回の実験の準備に大きくつながるので、真剣に取り組むこと。		
受講者への要望			
積極的な態度で参加すること。一斉に作業を開始するので、遅刻は厳禁である。 授業への出席とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。			
講義の順序とポイント			
1　心理学実験の方法論／基礎実習 2　心理検査法１（YG 性格検査） 3　観察法１（実験的観察法 ） 4　観察法２（フィールドワーク） 5　面接法 6　質問紙法１ 7　質問紙法２ 8　質問紙法３ 9　データベース検索 10　観察法４ ２ 11　質問紙法５ 12　質問紙法６ 13　心理検査法２（WAIS） 14　心理検査法３（内田クレペリン検査） 15　心理検査法４（バウムテスト ※講義の内容と順序は変更されることがある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50369001
科目名	心理学研究法	単位数	2
科目名（英語表記）	Research Methods in Psychology		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	「○○について知りたい」と思った時，あなたはどうするだろうか。この講義では，心理学的なテーマについて「知りたい」と思ったことを，データから明らかにしていくための研究方法について説明する。特にここでは，実験法と調査法を中心として，研究計画の立案，データ収集，データの処理などの一連の過程について，演習を交えながら解説を行う。		
教材（テキスト）	設定しない。授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜，紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業中に設定する課題（50%）期末試験（50%）		
到達目標	①実験法，観察法，調査法の特徴を理解し，それらを用いる際の注意点を説明できる。 ②学術論文から研究計画を読み取ることができる。 ③心理学研究を計画するうえでの注意点を理解し，独力で研究計画を立てることができる。		
準備学習	授業内容の確認のための課題を設定することがあるが，設定された課題には必ず取り組み，期限までに提出すること。また，授業ごとに欠かさず復習をし，次の授業までに内容をしっかりと理解しておくこと。理解度を確認するための小テストを設定することがある。		

受講者への要望

データに基づく心理学研究を実施するための知識を獲得することを目標とする学生の受講を望む。また，事前に心理学基礎実験 A, B，心理統計学，心理測定法など授業を履修済みであることが望ましい。
講義内容は平易とはいい難いため，授業ごとに復習を欠かさず行うことを求める。また，演習としてグループを構成し，研究法に関するディスカッションや発表を課す場合があるため，各課題への積極的な参加を求める。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション・研究とは
2. 研究テーマを探そう
3. 研究を始める前に①：考慮しなければならない点
4. 研究を始める前に②：様々な研究方法
5. 実験法①：実験でわかること
6. 実験法②：独立変数と従属変数
7. 実験法③：実験の注意点
8. 実験法④：よい実験をするためには
9. 調査法①：調査で分かること
10. 調査法②：横断調査と縦断調査
11. 調査法③：調査の注意点
12. 調査法④：よい調査をするためには
13. 実験法と調査法の違い
14. 研究計画を考えてみよう①
15. 研究計画を考えてみよう②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50372A0A
科目名	心理学専門演習Ｉ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Psychology		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生の春学期は主に文献探索を行い、秋学期で各自の研究計画をたてて社会心理学上級実験で実験・調査を実施し、その研究成果を発展させて４回生の演習Ⅱで卒業研究を行うことになる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	極端化する社会　有馬著　北大路書房 参考文献は無料で配布する		
教材（その他）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
評価方法	平常点（40%)と、Google Apps 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Google Apps にアップ、発表要旨に互いにコメントをつける。 Google Apps の書き込み内容すべてを評価対象とする。		
到達目標	ベースとなる背景知識なしには独自の考えも出てこない。 この授業は、文献を読みこなした上で、新たな観点から研究を企画する力を養うことを目的とする。		
準備学習	社会心理学Ⅰ・Ⅱ、社会心理学上級実験を履修のこと 授業終了後、読むべき文献を指示するので、発表の日までにレジュメを作成しておくこと		
受講者への要望			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
講義の順序とポイント			
1. 概論　各自の興味関心分野についてディスカッション　文献の分担を決める 2. 方法論概論　指定された参考文献の背景知識を概論として伝える 3. 文献報告　序章 4. 文献報告　第１章 5. 文献報告　第２章 6. 文献報告　第３章 7. 文献報告　第４章 8. 文献報告　第５章 9. 文献報告　第６章 10. 文献報告　第７章 11.　文献報告　終章 12. ディスカッション１ 13. ディスカッション２ 14. ディスカッション３ 15. 夏休みの課題決定			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J50372A0B
科目名	心理学専門演習Ｉ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Psychology		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	本演習では，主として下記の領域に関する内外の文献を収集し，レジュメを作成して発表し，解明すべき問題などについて討論を行う。そのような文献研究が卒業研究のテーマ設定や，論文作成に際して序論や考察の論述に役立つよう配慮する。 （1）視覚認知に関する研究 （2）記憶認知に関する研究 （3）人間の情動および認知活動の生理的指標による研究		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%）は出席状況等による。研究発表（50%）		
到達目標	人間の情動と認知活動を探究できる能力を身につけさせる。		
準備学習	授業のレジュメを京学なびの「授業資料」に，授業の 1 週間前までにアップロードするので，プリントアウトして，必ず事前に読んで理解しておくこと。 復習の課題は，京学なびの「課題提出」に提示するので，指定期日までに京学なびの「課題提出」に提出すること。		
受講者への要望			
心理学概論および認知心理学を履修しておくこと。			
講義の順序とポイント			
第 1〜5 回　研究テーマを設定する。 第 6〜10 回　文献収集を行う。 第 11〜15 回　レジュメを作成して発表する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★	★★	★★	★★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2015	授業コード	J50372A0C
科目名	心理学専門演習Ｉ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Psychology		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて，認知心理学的な視点から考えていく。取り上げるテーマは受講生からの希望を勘案して決定するが，次のようなものが考えられる。 (1)人間の思考の特性とそのモデル (2)認知の中での記憶の役割 3 回生春学期では，演習を進めるための基本的知識の共有をはかる。そのために，認知心理学の基本的な枠組みや，取り上げうるトピックに関する基本的な文献の購読を中心に演習を進める。 また，将来のキャリアを見据えた専門分野の学習について考える機会を設ける。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業中に文献を紹介する		
評価方法	演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と期末レポート(30%)によって評価する。		
到達目標	認知心理学に関する基礎的知識を修得する。 演習での発表と討論の仕方を修得する。 批判的に考える習慣を身につける。		
準備学習	各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。各回の発表担当の学生は，十分な発表準備を行うこと。 その他の学生も，テーマとなる文献等に目を通して授業に出席すること。		
受講者への要望			
演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので，積極的な参加を希望する。			
講義の順序とポイント			
1. 受講生各自の興味の確認とテーマ設定 2. 心理学の学習と進路について 3. 文献購読 4. 文献購読 5. 文献購読 6. 文献購読 7. 文献購読 8. 心理学の学習と進路について 9. 文献購読 10. 文献購読 11. 文献購読 12. 心理学の学習と進路について 13. 文献購読 14. 文献購読 15. 学期の学習内容の整理			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50372B0A
科目名	心理学専門演習Ｉ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Psychology		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生の春学期は主に文献探索を行い、秋学期で各自の研究計画をたてる。社会心理学上級実験で実験・調査を実施し、その研究成果を発展させて４回生の演習 II で卒業研究を行うことになる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
評価方法	平常点（40%)と、Google Apps 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Google Apps にアップ、発表要旨に互いにコメントをつける。 Google Apps の書き込み内容すべてを評価対象とする。		
到達目標	実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。上級実験と併せてこれらの力を養うことを目標とします。		
準備学習	社会心理学 I・II、社会心理学上級実験を履修のこと 授業終了後、読むべき文献を指示するので、発表の日までにレジュメを作成しておくこと		
受講者への要望			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
講義の順序とポイント			
1. ディスカッション１　各自の研究テーマについてディスカッション 2. ディスカッション２ 3. 文献探索方法　文献探索および文献データベースの作り方 4. 文献探索　1 5. 文献探索　2 6. 文献報告　1 7. 文献報告　2 8. 文献報告　3 9. 文献報告　4 10. 文献報告　5 11.　研究方法ディスカッション　1 12.　研究方法ディスカッション　2 13.　予備実験結果報告１ 14.　予備実験結果報告２ 15.　春休みの課題決定			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50372B0B
科目名	心理学専門演習Ｉ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Psychology		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	本演習では，主として下記の領域に関する内外の文献を収集し，レジュメを作成して発表し，解明すべき問題などについて討論を行う。そのような文献研究が卒業研究のテーマ設定や，論文作成に際して序論や考察の論述に役立つよう配慮する。 （１）視覚認知に関する研究 （２）記憶認知に関する研究 （３）人間の情動および認知活動の生理的指標による研究		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%）は出席状況等による。研究発表（50%）		
到達目標	人間の情動と認知活動を探究できる能力を身につけさせる。		
準備学習	レジュメ作成		
受講者への要望			
心理学概論および認知心理学を履修しておくこと。			
講義の順序とポイント			
第 1～5 回　研究テーマを設定する。 第 6～10 回　文献収集を行う。 第 11～15 回　レジュメを作成して発表する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★	★★	★★	★★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2015	授業コード	J50372B0C
科目名	心理学専門演習Ｉ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Psychology		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて，認知心理学的な視点から考えていく。取り上げるテーマは受講生からの希望を勘案して決定するが，次のようなものが考えられる。 (1)人間の思考の特性とそのモデル (2)認知の中での記憶の役割 3 回生秋学期では，受講生自らの興味をもとに，関連する研究文献を収集し，その購読と発表を行うことを中心とする。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業中に文献を紹介する		
評価方法	演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と期末レポート(30%)によって評価する。		
到達目標	心理学論文の読み方を修得する。 文献検索等による文献の探し方を身につける。 批判的に考える習慣を身につける。 卒業研究に向けた方向付けを決定する。		
準備学習	各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。各回の発表担当の学生は，十分な発表準備を行うこと。 その他の学生も，テーマとなる文献等に目を通して授業に出席すること。		
受講者への要望			
演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので，積極的な参加を希望する。 思考心理学上級実験を併せて履修すること。			
講義の順序とポイント			
1. 研究テーマの設定 2. 文献検索の方法 3. 文献購読および発表 4. 文献購読および発表 5. 文献購読および発表 6. 文献購読および発表 7. 文献購読および発表 8. 文献購読および発表 9. 文献購読および発表 10. 文献購読および発表 11. 文献購読および発表 12. 文献購読および発表 13. 卒業研究にむけた研究計画検討 14. 卒業研究にむけた研究計画検討 15. 3 回生での学習の整理と，卒業研究に向けた方針の確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50374A0A
科目名	心理学専門演習 II A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Psychology		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生ゼミでの研究成果を発展させて卒業研究を行い、各自で卒業研究レポートまたは卒業論文にまとめる。卒業研究レポートは卒業論文の半分（6000 字）程度の分量を目安としている。		
教材（テキスト）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%)と、Google Apps 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Google Apps にアップ、発表要旨に互いにコメントをつける。 Google Apps の書き込み内容すべてを評価対象とする。		
到達目標	実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。３回生ゼミから引き続き、これらの力を養うことを目標とします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する 各自の研究テーマに沿う雑誌論文を文献検索により複数読み、１本を選んで発表の日までにレジュメを用意すること		
受講者への要望			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
講義の順序とポイント			
1. 研究報告１　心理学専門演習 IB でまとめたレポートの発表 2. 研究報告２ 3. 研究報告３ 4. 研究報告４ 5. 研究報告５ 6. 文献報告１ 7. 文献報告２ 8. 文献報告３ 9. 文献報告４ 10. 文献報告５ 11.　研究結果ディスカッション　1 12.　研究結果ディスカッション　2 13.　研究結果ディスカッション　3 14.　研究結果ディスカッション　4 15.　夏休みの課題決定			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50374A0C
科目名	心理学専門演習ＩＩ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Psychology		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて，認知心理学的な視点から考えていく。心理学専門演習ＩＡ・Ｂで行った学習をもとに，各自の研究テーマにしたがって実験や調査等の実証研究を行い，卒業研究を進める。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と期末レポート(30%)によって評価する。		
到達目標	文献の批判的な読み方を身につける。 卒業研究の研究計画を完成する。		
準備学習	各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。各回の発表担当の学生は，十分な発表準備を行うこと。 その他の学生も，卒業研究の進行状況について，週の成果を簡潔に毎回報告すること。		

受講者への要望

演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので，積極的な参加を希望する。

講義の順序とポイント

1. 年間の研究進行計画の立案
2. 卒業研究のテーマ検討
3. 卒業研究のテーマ検討
4. 研究計画の発表と検討
5. 研究計画の発表と検討
6. 研究計画の発表と検討
7. 研究計画の発表と検討
8. 研究計画の発表と検討
9. 実験・調査の実施
10. 実験・調査の実施
11. 実験・調査の実施
12. 実験・調査の実施
13. 実験・調査の実施
14. 実験・調査の実施
15. 学期の学習内容と卒業研究の今後の進め方の整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50374B0A
科目名	心理学専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Psychology		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生ゼミでの研究成果を発展させて卒業研究を行い、各自で卒業研究レポートまたは卒業論文にまとめる。卒業研究レポートは卒業論文の半分（6000 字）程度の分量を目安としている。		
教材（テキスト）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%)と、Google Apps 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Google Apps にアップ、発表要旨に互いにコメントをつける。 Google Apps の書き込み内容すべてを評価対象とする。		
到達目標	実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。３回生ゼミから引き続き、これらの力を養うことを目標とします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する データ分析や論文執筆などを、各自で行う		
受講者への要望			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
講義の順序とポイント			
1. 研究報告１　心理学専門演習 IIA で進めた研究結果報告 2. 研究報告２ 3. 研究報告３ 4. 研究報告４ 5. 研究報告５ 6. 分析１　データ分析指導 7. 分析２ 8. 分析３ 9. 分析４ 10. 分析５ 11.　研究結果ディスカッション　1 12.　研究結果ディスカッション　2 13.　研究結果ディスカッション　3 14.　研究結果ディスカッション　4 15.　研究結果ディスカッション　5			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J50374B0C
科目名	心理学専門演習ＩＩ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Psychology		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて，認知心理学的な視点から考えていく。心理学専門演習ＩＡ・Ｂ，ＩＩＡで行った学習をもとに，各自の研究テーマにしたがって実験や調査等の実証研究を行い，卒業研究を完成させる。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と，卒業研究に関する研究発表(30%)によって評価する。		
到達目標	卒業研究を進め，論文を完成させる。 研究発表の技術を修得する。		
準備学習	各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。各回の発表担当の学生は，十分な発表準備を行うこと。 その他の学生も，卒業研究の進行状況について，週の成果を簡潔に毎回報告すること。		

受講者への要望

演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので，積極的な参加を希望する。

講義の順序とポイント

1. 研究の進行状況に関する発表と討論
2. 実験・調査の実施
3. 実験・調査の実施
4. 実験・調査の実施
5. 実験・調査の実施
6. 実験・調査の結果分析
7. 実験・調査の結果分析
8. 実験・調査の結果分析
9. 実験・調査の結果分析
10. 論文作成
11. 論文作成
12. 論文作成
13. 研究発表の準備と練習
14. 研究発表の準備と練習
15. 研究発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50378001
科目名	心理測定法	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychological Measurement		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	心理測定尺度の作成や使用に重要な統計的手法に関して，「心理統計学 I・II」よりもやや進んだ講義を行う。心理測定尺度を用いてよいデータを収集するための方法として，尺度構成に重要な信頼性と妥当性の概念とその評価方法を紹介する。また，心理尺度の構成や，尺度間の関係を分析するために役立つ多変量解析の利用法に関する入門的な講義を行う。質問紙法や能力評価尺度などを用いて研究を行おうとする場合に必須の内容である。実際のデータ例を使った実習を含める。		
教材（テキスト）	小塩真司　(2011)『SPSS と Amos による心理・調査データ解析－因子分析・共分散構造分析まで[第 2 版]』東京図書　2,940 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配付する。		
評価方法	レポート課題（ほぼ毎回出題）30%，授業中に行う確認テスト 30%，期末試験 40%。		
到達目標	質問紙尺度や心理テストの開発，尺度間の相関関係の分析等で必要になる，測定理論や多変量解析の基礎を習得する。各手法について，以下の 4 点を目標とする。 (1)どんな手法を使用するかを研究計画やデータから見分けることができる。 (2)コンピュータソフトウェアを用いて自らデータ分析を行うことができる。 (3)分析結果を解釈し報告書等に記述することができる。 (4)論文等に書かれた解析結果の説明を理解することができる。		
準備学習	毎回，課題を出題する。課題の内容は，授業内容の確認や，学習した分析手法を PC の統計解析ソフトを使って実践することなどを含む。必ず毎回課題に取り組み，指定期日までに提出すること。 また，毎回の授業の始めに前回までの内容の確認テストを行うので，授業の復習を欠かさないこと。		

受講者への要望

基礎的な統計学の知識を前提とする。「心理統計学 I・II」を履修済であること（あるいは，同等の内容を既に習得していること）。授業内容は易しくないので，毎回授業に積極的に参加し，さらに毎回の課題を確実にこなしていく覚悟で履修すること。安易な態度では単位修得は難しい。
学習内容の積み上げが重要な科目であるので，遅刻や欠席をしないこと。

講義の順序とポイント

1. 授業の目的と方針，量的変数の記述統計手法に関する基礎知識
2. 回帰分析(1)：散布図，相関係数と回帰直線
3. 回帰分析(2)：分析例による回帰分析と重回帰分析の概説
4. 回帰分析(3)：回帰分析モデルの詳説
5. 回帰分析(4)：回帰係数の意味と解釈，研究例に見る分析の実際
6. パス解析：パス解析の概要と，研究例による分析の実際
7. 尺度の信頼性と妥当性(1)：信頼性と妥当性の概念，古典的テスト理論の基本モデル
8. 尺度の信頼性と妥当性(2)：信頼性係数の推定の諸方法
9. 尺度の信頼性と妥当性(3)：信頼性の高い尺度構成のための指針
10. 尺度の信頼性と妥当性(4)：妥当性の評価の視点と方法
11. 因子分析(1)：因子分析の基本的な発想
12. 因子分析(2)：因子分析の基本モデル
13. 因子分析(3)：因子回転，分析結果の解釈の仕方，質問紙尺度の例を用いた因子分析の実際
14. 因子分析(4)：因子数の決定，回転方法の選択基準，因子抽出法の選択基準
15. 授業内容の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J50380A01
科目名	心理統計学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Statistical Methods in Psychology I		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	心理統計学入門
講義概要	心理学研究では，データに基づいて判断を下すために統計的な方法が不可欠である。心理統計学 I では，質的変数と量的変数のそれぞれについて，分析の視点，データの収集と整理の方法，分析結果の解釈の仕方について，記述統計学の手法を中心に学習する。 これらの学習を通して，自ら収集したデータを解析できる能力，また公刊されている論文や資料等の統計分析結果を読むことができる能力を養成する。		
教材（テキスト）	山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房　2,940 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布		
評価方法	レポート課題（授業ごとに毎回出題，50%）および学期末試験（50%）を総合して評価する。		
到達目標	心理学研究に必要な統計手法のうち，表やグラフの作成，要約指標（平均，標準偏差，相関係数，等）の算出とについて，以下を達成する。 (1)研究計画と収集されるデータの種類に応じて適切な手法を選択することができる。 (2)各手法を用いて計算や作表等の実際の分析を行うことができる。 (3)分析結果を適切に判断することができる。		
準備学習	毎回の授業で復習課題を出題する。各回の授業内容をよく復習したうえで，出題された課題に必ず解答して指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

学習内容の積み重ねが重要な科目であるので，遅刻や欠席は厳禁である。
授業には電卓を準備すること。
講義内容をただ聞いているのではなく，演習問題への取り組みを含め積極的な授業への参加を期待する。
毎回，学習内容を確認するための課題を出題する。

講義の順序とポイント

1. 統計データの役割，種類，収集の方法
2. 変数のタイプ分類（量的変数と質的変数）とその分析の視点
3. 質的変数（カテゴリカル変数）の分析(1)：　クロス集計表を用いた記述，比率の比較
4. 質的変数（カテゴリカル変数）の分析(2)：　連関と連関係数
5. 量的変数の分析(1)：　度数分布とヒストグラム，代表値
6. 量的変数の分析(2)：　代表値と散布度，グラフによる記述
7. 量的変数の分析(3)：　変数の標準化と集団内での相対的位置の評価，正規分布
8. 量的変数の条件間比較(1)：　条件間比較のポイント，グラフを用いた比較，散布度の重要性，効果量
9. 量的変数の条件間比較(2)：　t 検定の概説
10. 量的変数の条件間比較(3)：　対応のあるデータ（反復測定データ）の性質とその分析方法
11. 量的変数の条件間比較(4)：　分布の偏りに関する留意点，平均と中央値の違い
12. 二つの量的変数間の関係の分析(1)：　散布図と相関係数
13. 二つの量的変数間の関係の分析(2)：　相関係数の算出方法と特性
14. 二つの量的変数間の関係の分析(3)：　相関の解釈における留意点，相関関係と因果関係
15.学習した手法についての整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50380A02
科目名	心理統計学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Statistical Methods in Psychology I		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	心理統計学入門
講義概要	心理学研究では，データに基づいて判断を下すために統計的な方法が不可欠である。心理統計学 I では，質的変数と量的変数のそれぞれについて，分析の視点，データの収集と整理の方法，分析結果の解釈の仕方について，記述統計学の手法を中心に学習する。 これらの学習を通して，自ら収集したデータを解析できる能力，また公刊されている論文や資料等の統計分析結果を読むことができる能力を養成する。		
教材（テキスト）	山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房　2,940 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布		
評価方法	レポート課題（授業ごとに毎回出題，50%）および学期末試験（50%）を総合して評価する。		
到達目標	心理学研究に必要な統計手法のうち，表やグラフの作成，要約指標（平均，標準偏差，相関係数，等）の算出とについて，以下を達成する。 (1)研究計画と収集されるデータの種類に応じて適切な手法を選択することができる。 (2)各手法を用いて計算や作表等の実際の分析を行うことができる。 (3)分析結果を適切に判断することができる。		
準備学習	毎回の授業で復習課題を出題する。各回の授業内容をよく復習したうえで，出題された課題に必ず解答して指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

学習内容の積み重ねが重要な科目であるので，遅刻や欠席は厳禁である。
授業には電卓を準備すること。
講義内容をただ聞いているのではなく，演習問題への取り組みを含め積極的な授業への参加を期待する。
毎回，学習内容を確認するための課題を出題する。

講義の順序とポイント

1. 統計データの役割，種類，収集の方法
2. 変数のタイプ分類（量的変数と質的変数）とその分析の視点
3. 質的変数（カテゴリカル変数）の分析(1)：　クロス集計表を用いた記述，比率の比較
4. 質的変数（カテゴリカル変数）の分析(2)：　連関と連関係数
5. 量的変数の分析(1)：　度数分布とヒストグラム，代表値
6. 量的変数の分析(2)：　代表値と散布度，グラフによる記述
7. 量的変数の分析(3)：　変数の標準化と集団内での相対的位置の評価，正規分布
8. 量的変数の条件間比較(1)：　条件間比較のポイント，グラフを用いた比較，散布度の重要性，効果量
9. 量的変数の条件間比較(2)：　t 検定の概説
10. 量的変数の条件間比較(3)：　対応のあるデータ（反復測定データ）の性質とその分析方法
11. 量的変数の条件間比較(4)：　分布の偏りに関する留意点，平均と中央値の違い
12. 二つの量的変数間の関係の分析(1)：　散布図と相関係数
13. 二つの量的変数間の関係の分析(2)：　相関係数の算出方法と特性
14. 二つの量的変数間の関係の分析(3)：　相関の解釈における留意点，相関関係と因果関係
15.学習した手法についての整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50380B01
科目名	心理統計学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Statistical Methods in Psychology II		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	心理統計学
講義概要	心理学を学ぶ学生が，研究に必要な統計的手法を理解し，自らデータに手法を適用できるようになることを目標とする。心理統計学 II では，心理学研究で利用されることの多い代表的な統計的手法について，推測統計の手法（検定など）を中心にその原理と使用方法を学習する。 どのような研究デザインにどのような手法が適用できるのかという枠組みから整理した上で，各手法を用いて実際に分析を行うために必要な手続きと，分析結果の解釈のしかたの学習を進める。また，分析を正しく使用するために必要な，分析手法の原理の解説を行う。		
教材（テキスト）	山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房　2,940 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布		
評価方法	レポート課題（授業ごとに毎回出題，50%）および学期末試験（50%）を総合して評価する。		
到達目標	心理時計学 I での学習内容を基礎として，以下の事項を理解・習得する。 (1) 推測統計の原理を理解し，統計的検定を正しく用いることができる。 (2) 各種の統計的検定の目的を理解し，研究計画に合わせて適切な手法を選択できる。 (3) 各手法を正しく使用できる。 (4) 特に，分散分析の原理と使用方法，結果の意味を理解し，実験計画に合わせて適切に使用できる。		
準備学習	毎回の授業で復習課題を出題する。各回の授業内容をよく復習したうえで，出題された課題に必ず解答して指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

心理統計学 I を先に履修しておくこと。
学習内容の積み重ねが重要な科目であるので，遅刻や欠席は厳禁である。
授業には電卓を準備すること。
講義内容をただ聞いているのではなく，演習問題への取り組みを含め積極的な授業への参加を期待する。
毎回，学習内容を確認するための課題を出題する。

講義の順序とポイント

1. 授業の目的と方針，統計的手法の役割（記述統計と推測統計），研究デザインを整理する視点
2. 統計的検定の原理(1)：　t 検定（平均の群間比較）の使い方と考え方の概説，母集団と標本の概念
3. 統計的検定の原理(2)：　確率変数と確率分布，母数と統計量，統計量の分布（標本分布）
4. 統計的検定の原理(3)：　帰無仮説と対立仮説，第 1 種の誤りと第 2 種の誤り，検定力
5. 相関係数に関する検定
6. クロス集計表の独立性：　連関係数，χ2 乗検定
7. 検定手法の選択基準と手法間の関係
8. 分散分析の導入，一要因分散分析(1)
9. 一要因分散分析(2)，多重比較
10. 二要因分散分析(1)：　要因と水準，各要因の主効果
11. 二要因分散分析(2)：　交互作用効果
12. 二要因分散分析(3)：　主効果と交互作用の意味と解釈，単純効果の検定
13. 被験者内要因の分散分析
14. ノンパラメトリック検定
15. 学習した手法についての整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J50380B02
科目名	心理統計学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Statistical Methods in Psychology II		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	心理統計学
講義概要	心理学を学ぶ学生が，研究に必要な統計的手法を理解し，自らデータに手法を適用できるようになることを目標とする。心理統計学 II では，心理学研究で利用されることの多い代表的な統計的手法について，推測統計の手法（検定など）を中心にその原理と使用方法を学習する。 どのような研究デザインにどのような手法が適用できるのかという枠組みから整理した上で，各手法を用いて実際に分析を行うために必要な手続きと，分析結果の解釈のしかたの学習を進める。また，分析を正しく使用するために必要な，分析手法の原理の解説を行う。		
教材（テキスト）	山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房　2,940 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布		
評価方法	レポート課題（授業ごとに毎回出題，50%）および学期末試験（50%）を総合して評価する。		
到達目標	心理時計学 I での学習内容を基礎として，以下の事項を理解・習得する。 (1) 推測統計の原理を理解し，統計的検定を正しく用いることができる。 (2) 各種の統計的検定の目的を理解し，研究計画に合わせて適切な手法を選択できる。 (3) 各手法を正しく使用できる。 (4) 特に，分散分析の原理と使用方法，結果の意味を理解し，実験計画に合わせて適切に使用できる。		
準備学習	毎回の授業で復習課題を出題する。各回の授業内容をよく復習したうえで，出題された課題に必ず解答して指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

心理統計学 I を先に履修しておくこと。
学習内容の積み重ねが重要な科目であるので，遅刻や欠席は厳禁である。
授業には電卓を準備すること。
講義内容をただ聞いているのではなく，演習問題への取り組みを含め積極的な授業への参加を期待する。
毎回，学習内容を確認するための課題を出題する。

講義の順序とポイント

1. 授業の目的と方針，統計的手法の役割（記述統計と推測統計），研究デザインを整理する視点
2. 統計的検定の原理(1)：　t 検定（平均の群間比較）の使い方と考え方の概説，母集団と標本の概念
3. 統計的検定の原理(2)：　確率変数と確率分布，母数と統計量，統計量の分布（標本分布）
4. 統計的検定の原理(3)：　帰無仮説と対立仮説，第 1 種の誤りと第 2 種の誤り，検定力
5. 相関係数に関する検定
6. クロス集計表の独立性：　連関係数，χ2 乗検定
7. 検定手法の選択基準と手法間の関係
8. 分散分析の導入，一要因分散分析(1)
9. 一要因分散分析(2)，多重比較
10. 二要因分散分析(1)：　要因と水準，各要因の主効果
11. 二要因分散分析(2)：　交互作用効果
12. 二要因分散分析(3)：　主効果と交互作用の意味と解釈，単純効果の検定
13. 被験者内要因の分散分析
14. ノンパラメトリック検定
15. 学習した手法についての整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J5038300A
科目名	心理面接実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Training in Counseling		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	カウンセリングの技法は厳密にはカウンセリングの理論の数だけあると言えるし、またその修得には長い年月とエネルギーを要する。従って一人前のカウンセラーとして活動できるようになるためには相当の訓練が必要であり、それにともなう知識も重要になってくる。 ただ、あらゆるカウンセリング・心理療法の技法の基礎となるのは、ロジャーズの三原則に基づいた応答技法であると考えられるので、本実習においては、ロールプレイやその逐語録の分析を通して、カウンセリング的応答の基礎的訓練を行なう。 また、その時にはカウンセラー自身の応答パターンの分析も必要であり、受講者の心の動きにも注意を向けながら実習を行なう。		
教材（テキスト）	実習内容については、適宜プリントを配布する。但し、臨床心理学Ⅱおよびカウンセリング論で使用しているテキストは、各自準備しておくこと。		
教材（参考文献）	必要な図書は、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要な図書は、授業中に適宜指示する。		
評価方法	授業中の発表・平常点　５０％　及び　レポート　５０％		
到達目標	心理面接の基本を学習し、カウンセリング的応答ができるようになることを目標とする。		
準備学習	臨床心理学Ⅱの教科書を再読し、ロジャーズのカウンセリング理論を復習すること。 ロールプレイの実施とその検討が中心となるので、その実施が可能であるように、ロール設定・応答練習などを実習すること。		
受講者への要望			
各人に科せられた課題について、積極的に取り組むこと。臨床心理学Ⅰ・Ⅱ、心理学基礎実験Ｂ、カウンセリング論の単位取得済みであることが必要。			
講義の順序とポイント			
１～３　カウンセリングの基礎 ４～６　ロールプレイ　　1 ７～8　結果の検討および討論 ９～12　ロールプレイ　2 13～14　結果の検討及び討論 15　総合的検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	J50384001
科目名	心理療法	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychotherapy		
担当者名	畑中　千紘	旧科目名称	
講義概要	心理療法とは何かという基本的なテーマを考えつつ、従来の心理療法についての考え方をふまえ、現代の心理療法まで考えていく。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	河合隼雄　心理療法序説、　河合隼雄　心理療法論考、河合俊雄　大人の発達障害の見立てと心理療法、ユング派心理療法		
教材（その他）			
評価方法	授業での発言や受講態度などの平常点（40%）、レポート（60%）で評価する。		
到達目標	心理療法について学び、理解する。またオーソドックスな心理療法とともに、現代の心理療法についても学び、理解すること。		
準備学習	次回授業のために配布する資料や、指定するテキストを読んでおくこと。		
受講者への要望			
授業態度の悪い場合は、単位を出しません。熱心な参加を希望します。			
講義の順序とポイント			
１．心理療法とは何か ２．心理療法の基本①枠組みについて ３．心理療法の基本②治療機序について ４．心理療法と歴史―自己意識との関連 ５．心理療法における話の聴き方① ６．心理療法における話の聴き方② ７．心理療法とイメージ① ８．心理療法とイメージ② ９．心理療法と日本文化 １０．心理療法と学派 １１．心理療法と見立て １２．心理療法の諸問題―転移・逆転移、行動化 １３．発達障害と心理療法 １４．大人の発達障害 １５．心理療法と現代社会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	J50391001
科目名	深層心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Depth Psychology		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	深層心理学においては、心の中に無意識の領域の存在を仮定する。つまり、心のなかには自分自身が意識できない部分があることを前提として考えるのである。本講義ではまず、深層心理学の創始者であると考えられるフロイトの理論とユングの無意識についての基本的な考え方を理解する。その上で、ユング心理学を基盤とした視点に立ち、昔話、児童文学、芸術作品などを素材にして深く人間の心について洞察することを試みる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	河合隼雄著　ユング心理学入門　培風館 山中康裕編　知の教科書　ユング　講談社選書メチエ 山　愛美著　言葉の深みへ　誠信書房 河合隼雄著　昔話と日本人の心　岩波書店 河合隼雄著　神話と日本人の心　岩波書店　など ＊他の文献についても適宜紹介するので興味、関心のあるものを自発的に読み進めてもらいたい。		
教材（その他）			
評価方法	授業内に課す課題　（70%） 読書レポート課題　　（30%）		
到達目標	深層心理学的な見方の基礎を理解する。		
準備学習	参考文献の中から自らの興味、関心に合わせて読むこと。 注)読書レポート課題を出す。		

受講者への要望

１遅刻・私語は厳禁。場合によっては退出を求める。
２課題図書として、文学（小説)、児童文学、古典文学，神話、などを挙げて、読むことを課すので、読書をする習慣のない者は本講義の受講を機会に活字に親しむこと。そのつもりで登録して欲しい。
３能動的に講義に出席をし、自らの興味、関心の方向性を探りながら勉強して欲しい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション（講義の進め方など）　読書課題についての説明・・・受講希望者は必ず出席すること。
2　深層心理学の考え方（意識/無意識、日常/非日常、境界）
3　現代社会と心の問題について
4　フロイトとその生涯―無意識の発見
5　フロイトの理論
6　ユング―その生涯
7　ユング心理学（1）
8　ユング心理学（2）
9　ユング心理学（3）
10　ユング心理学（4）
11　心の深層と表現（1）
12 心の深層と表現（2）
13 心の深層と表現（3）
14 昔話の深層心理学的アプローチ
14 昔話の比較文化的アプローチ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J50395001
科目名	人格心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Personality Psychology		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	人間のパーソナリティをどのように捉え、どのように理解するのかは人格心理学ないしは心理学における中核的な課題である。本講義では、まず人格心理学における基本的な内容―パーソナリティの認知、理論、構造、発達、理解など―を一通りおさえる。その上で、人間の心についてテーマを定めて、映画などをマテリアルとして深層心理学的、臨床心理学的な視点から考察を深める。		
教材（テキスト）	講義中配布		
教材（参考文献）	講義中紹介		
教材（その他）			
評価方法	授業内に課す課題 50% 定期試験 50%		
到達目標	人間のパーソナリティについて理解する上で基本的な理論を理解し、 現代社会に生きる人間の心に纏わるさまざまな問題の深い理解につなげること。		
準備学習	心理学に限らず読書の幅を拡げる事。毎回の講義に際しては前回講義のノートに目を通して臨むこと。		

受講者への要望

私語は一切厳禁。授業の妨げになる場合には、退室を求める場合もある。
能動的に授業に出席すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション―どのように学ぶか
　　「私」の歴史について考える
2　パーソナリティの認知
3　パーソナリティの理論
4　パーソナリティの構造
5　パーソナリティの発達（1）
6　パーソナリティの発達（2）
7　パーソナリティの理解　心理テスト実習
8　子どもの心の世界について考える（1）　テーマ：目に見えないものを見る
9　 解説　授業内レポート
10　心について理解を深める(1)　テーマ：心の変容について
11　心について理解を深める(2)
12　解説　授業内レポート
13 適応とは？まとめ
14　子どもの心の世界について考える（2）テーマ：子どもの遊びに見る宗教性
15　解説　授業内レポート

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50410A0A
科目名	歴史民俗学資料講読（歴史地理） A	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading: Historical Folklore Materials (Historical Geography) A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	歴史民俗学講読（歴史地理学）A では、John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 を講読します。本書は分かりやすい英文で書かれており、初心者には最適のテキストです。 本講読では、本書第１章の「The Origins of the Vikings」を読みます。受講者には、事前にコピーを配付し、訳してきてもらいます。英語の授業ではないので、主に書かれている内容について解説します。また、英語に自信のない学生も、ゆっくり訳していきますので、受講して下さい。英語で専門書を読んでみたいという学生ももちろん歓迎します。特に大学院進学を考えている学生は、英語が必要なので、受講することを勧めます。		
教材（テキスト）	John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 の講読部分をコピーして配布する。		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）、発表（６０％）、レポート（２０％）		
到達目標	歴史地理学の基本的な英文を読めるようになること。		
準備学習	配布資料の予習		
受講者への要望			
ノートパソコンで電子辞書を引き、訳文を作成していくことを望む。			
講義の順序とポイント			
１　教科書の選定と解説 ２～１４　受講者による講読 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★			★	

年度	2015	授業コード	J50410B0A
科目名	歴史民俗学資料講読（歴史地理） B	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading: Historical Folklore Materials (Historical Geography) A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	歴史民俗学講読Ｂでは、John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 のテーマ別に分かれたパートを受講生一人ずつに担当してもらい、レジュメを作成して発表する。 したがって、この歴史民俗学講読Ｂでは、ある程度の分量を訳してもらい、レジュメを作成した上での発表形式で行います。特に大学院進学を考えている学生は、専門的な英語が必要なので、受講することを勧めます。		
教材（テキスト）	John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 の担当部分をコピーして配布する。		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）、発表（６０％）、レポート（２０％）		
到達目標	歴史地理学の専門的な英文を読めるようになること。		
準備学習	教科書の予習と関連文献の把握		
受講者への要望			
直訳ではなく日本語として理解できる翻訳文を作成する努力を要望			
講義の順序とポイント			
1　教科書の選定と解説 2～14　受講者による講読 15　総合討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★			★	

年度	2015	授業コード	J50411001
科目名	図書館概論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Library Science		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	近年、情報技術の飛躍的発展とともに、資料は多様化を見せ、無定形の情報まで扱う時代が到来した。それとともに、図書館の館種も、大学図書館、企業などの専門図書館、小中学校、高校の学校図書館、自治体のサービス機関としての公共図書館など、各種多様になり、その相互の協力やネットワークが課題となってきた。さらにまた各個人のライフスタイルに合わせた種々の生涯学習機会を保証する機関としての意義も問われるに至った。つまり、サービス対象も、子どもから高齢者まで大きな広がりを持つとともに、生活圏の形成にも重要な役割を果たすことが期待されているのである。また、我が国のＮＧＯが東南アジアで活動している国際教育援助のメニューとして、図書館サービスが加えられていることに見られるように、「人間らしさ」の基盤としての図書館という視点も浮上している。 　本講義では、これらを念頭に置き、社会の急激な変化に対応する図書館像をさぐりたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（40%）レポート（60%）		
到達目標	図書館の基本についての理解をし、司書という資格取得のための学識を得る。その学識には図書館の社会における位置、意義、歴史と現状、館種別図書館、利用者ニーズ、類縁機関との連携、図書館職員の役割と資格、社会的状況と展望等が含まれる。		
準備学習	図書館および公共図書館の経営者たる地方公共団体への関心を常に必要とする。各回毎に情報収集を示すので地方公共団体等から情報を得る予備学習を必要とする。		
受講者への要望			
図書館司書の資格を取る第一歩であるから、覚悟をしっかりとして受講するように。			
講義の順序とポイント			
１．身近な図書館 ２．身近な図書館からさまざまな図書館へ ３．図書館間ネットワーク ４．図書館活動 ５．国際的な図書館活動 ６．読書の推進 ７．書誌コントロール ８．情報の社会基盤整備 ９．資源の共有 １０．地域の資料 １１．図書館の自由と歴史 １２．図書館の経営 １３．図書館法をめぐって １４．都市と図書館 １５．図書館の可能性			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50416001
科目名	政治社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代の社会では個人の自由は大きいように思われる。結婚相手の選択や、身につける衣装の好み、自分の意見を発表することも、自由であるように見える。しかし、少し深く考えてみると、本当に自由なのかどうかは確かではない。何についても全く自由に発言できるとは誰も思っていないし、メディアにおいて触れられないタブーの問題もある。また、近年では街のあちこちに監視カメラが増えていて、プライヴァシー侵害の問題が指摘されている。この講義では、現代社会のこのような問題について考える手がかりを提供する。 なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースの解説を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	政治社会学の基本事項を知り、現代日本社会の監視社会的な特徴について理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、現代社会の諸側面に関心をもっていてほしい。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて
2，監視カメラの増加とプライヴァシー
3，国民総背番号制と個人情報の保護
4，信教の自由と国家の強制力
5，政教分離
6，国旗の問題
7，国歌の問題
8，教科書検定
9，愛国心とは何か
10，民主主義の意味
11，自由主義の意味
12，国家の概念
13，現在の天皇制の特色
14，天皇制と民主主義の関わり
15，政治と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	J50416002
科目名	政治社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代の社会では個人の自由は大きいように思われる。結婚相手の選択や、身につける衣装の好み、自分の意見を発表することも、自由であるように見える。しかし、少し深く考えてみると、本当に自由なのかどうかは確かではない。何についても全く自由に発言できるとは誰も思っていないし、メディアにおいて触れられないタブーの問題もある。また、近年では街のあちこちに監視カメラが増えていて、プライヴァシー侵害の問題が指摘されている。この講義では、現代社会のこのような問題について考える手がかりを提供する。 なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースの解説を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	政治社会学の基本事項を知り、現代日本社会の監視社会的な特徴について理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、現代社会の諸側面に関心をもっていてほしい。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて
2，監視カメラの増加とプライヴァシー
3，国民総背番号制と個人情報の保護
4，信教の自由と国家の強制力
5，政教分離
6，国旗の問題
7，国歌の問題
8，教科書検定
9，愛国心とは何か
10，民主主義の意味
11，自由主義の意味
12，国家の概念
13，現在の天皇制の特色
14，天皇制と民主主義の関わり
15，政治と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	J50420A01
科目名	生涯学習概論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning I		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	生涯学習概論ｓ
講義概要	２００６（平成１８）年１２月に改正された教育基本法には、「生涯学習の理念」を規定した条文が新設されている。同条では、「生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習すること」ができる社会の実現が提唱されているが、今なぜ、そのような社会が目指されなければならないのだろうか。そもそも、それはどのような社会なのだろうか。これらの問題を考えるために、本講義では、代表的な理論や日本における政策の展開、社会教育の歴史などから生涯学習の基本的原理について学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中適宜プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は、平常点と小テスト、レポートにより行います。 平常点（出席状況・授業態度等）４０％　小テスト２０％　レポート４０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	生涯学習の基本原理を理論的観点、歴史的観点から理解できる。		
準備学習	周囲にある生涯学習関連施設（センター、図書館、博物館、美術館等）に目を向け、その活動内容に関心を持っておいてください。小テストを実施するので、復習を怠らないこと。		

受講者への要望

・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は、平常点の減点対象とします。
・１時間の授業中で私語を２回注意された人は退室してもらいます。

講義の順序とポイント

１．　授業の概要、成績評価方法
２．　イントロダクション―生涯学習という概念
３．　生涯学習の理論①―ユネスコにおける生涯教育理論
４．　生涯学習の理論②―　　〃
５．　生涯学習の理論③―OECD におけるリカレント教育
６．　生涯学習の理論④―アメリカにおける学習社会論
７．　日本社会と生涯学習政策①―日本における生涯学習政策の展開
８．　日本社会と生涯学習政策②―地方自治体における生涯学習行政
９．　日本社会と生涯学習政策③―学校教育と生涯学習
１０．　日本社会と生涯学習政策④―まとめ、小テスト
１１．　社会教育とは何か①―社会教育の歴史
１２．　社会教育とは何か②―公民館
１３．　社会教育とは何か③―図書館
１４．　社会教育とは何か④―博物館
１５．　総括―生涯学習社会の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50420A02
科目名	生涯学習概論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning I		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	生涯学習概論ｓ
講義概要	２００６（平成１８）年１２月に改正された教育基本法には、「生涯学習の理念」を規定した条文が新設されている。同条では、「生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習すること」ができる社会の実現が提唱されているが、今なぜ、そのような社会が目指されなければならないのだろうか。そもそも、それはどのような社会なのだろうか。これらの問題を考えるために、本講義では、代表的な理論や日本における政策の展開、社会教育の歴史などから生涯学習の基本的原理について学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中適宜プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は、平常点と小テスト、レポートにより行います。 平常点（出席状況・授業態度等）４０％　小テスト２０％　レポート４０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	生涯学習の基本原理を理論的観点、歴史的観点から理解できる。		
準備学習	周囲にある生涯学習関連施設（センター、図書館、博物館、美術館等）に目を向け、その活動内容に関心を持っておいてください。小テストを実施するので、復習を怠らないこと。		

受講者への要望

・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は、平常点の減点対象とします。
・１時間の授業中で私語を２回注意された人は退室してもらいます。

講義の順序とポイント

１．　授業の概要、成績評価方法
２．　イントロダクション―生涯学習という概念
３．　生涯学習の理論①―ユネスコにおける生涯教育理論
４．　生涯学習の理論②―　　〃
５．　生涯学習の理論③―OECD におけるリカレント教育
６．　生涯学習の理論④―アメリカにおける学習社会論
７．　日本社会と生涯学習政策①―日本における生涯学習政策の展開
８．　日本社会と生涯学習政策②―地方自治体における生涯学習行政
９．　日本社会と生涯学習政策③―学校教育と生涯学習
１０．　日本社会と生涯学習政策④―まとめ、小テスト
１１．　社会教育とは何か①―社会教育の歴史
１２．　社会教育とは何か②―公民館
１３．　社会教育とは何か③―図書館
１４．　社会教育とは何か④―博物館
１５．　総括―生涯学習社会の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50420B01
科目名	生涯学習概論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning Ⅱ		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	生涯学習概論ｆ
講義概要	子どもの貧困や性差別、格差の拡大等、現代に生きる私たちは多くの困難に直面している。こうした問題を地域社会の中で考え、その解決に向けて市民や住民が主体的に社会教育を担っている例は数多くある。本講義では、子どもの教育、ジェンダーと性役割、社会的排除の三テーマをとりあげ、これらの問題に対して地域社会教育が果たす役割について学ぶ。このことを通して、自身が今後どのように地域社会と関わっていくかを考えるきっかけとしてほしい。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中適宜プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は、平常点と小テスト、レポートにより行います。 平常点（出席状況・授業態度等）４０％　小テスト２０％　レポート４０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	地域社会教育の現状と課題を理解し、今後の方向性を考える力を身につける。		
準備学習	自身が生活する地域社会の教育活動に目を向け、その内容に関心を持っておいてください。小テストを実施するので、復習を怠らないこと。		
受講者への要望			
・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は、平常点の減点対象とします。 ・１時間の授業中で私語を２回注意された人は退室してもらいます。			
講義の順序とポイント			
１．　授業の概要、成績評価方法 ２．　生涯学習と社会教育―前期の復習 ３．　地域社会と子ども①―教育格差の拡大と子どもの貧困 ４．　地域社会と子ども②―子育ち／子育てと地域社会 ５．　地域社会と子ども③―学校と地域社会との連携・協同の取組み ６．　映画『誰も知らない』にみる子どもの貧困問題 ７．　〃 ８．　ジェンダー問題と学習課題①―ジェンダーと性役割 ９．　ジェンダー問題と学習課題②―女性の労働問題 １０．　ジェンダー問題と学習課題③―ジェンダー問題学習の現状と課題 １１．　小括、小テスト １２．　社会的排除と社会教育①―社会的排除と社会的包摂 １３．　社会的排除と社会教育②―ホームレスの問題を考える １４．　社会的排除と社会教育③―　〃 １５．　総括―地域社会教育の現状と課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50420B02
科目名	生涯学習概論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning Ⅱ		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	生涯学習概論ｆ
講義概要	子どもの貧困や性差別、格差の拡大等、現代に生きる私たちは多くの困難に直面している。こうした問題を地域社会の中で考え、その解決に向けて市民や住民が主体的に社会教育を担っている例は数多くある。本講義では、子どもの教育、ジェンダーと性役割、社会的排除の三テーマをとりあげ、これらの問題に対して地域社会教育が果たす役割について学ぶ。このことを通して、自身が今後どのように地域社会と関わっていくかを考えるきっかけとしてほしい。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中適宜プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は、平常点と小テスト、レポートにより行います。 平常点（出席状況・授業態度等）４０％　小テスト２０％　レポート４０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	地域社会教育の現状と課題を理解し、今後の方向性を考える力を身につける。		
準備学習	自身が生活する地域社会の教育活動に目を向け、その内容に関心を持っておいてください。小テストを実施するので、復習を怠らないこと。		
受講者への要望			
・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は、平常点の減点対象とします。 ・１時間の授業中で私語を２回注意された人は退室してもらいます。			
講義の順序とポイント			
１．　授業の概要、成績評価方法 ２．　生涯学習と社会教育―前期の復習 ３．　地域社会と子ども①―教育格差の拡大と子どもの貧困 ４．　地域社会と子ども②―子育ち／子育てと地域社会 ５．　地域社会と子ども③―学校と地域社会との連携・協同の取組み ６．　映画『誰も知らない』にみる子どもの貧困問題 ７．　〃 ８．　ジェンダー問題と学習課題①―ジェンダーと性役割 ９．　ジェンダー問題と学習課題②―女性の労働問題 １０．　ジェンダー問題と学習課題③―ジェンダー問題学習の現状と課題 １１．　小括、小テスト １２．　社会的排除と社会教育①―社会的排除と社会的包摂 １３．　社会的排除と社会教育②―ホームレスの問題を考える １４．　社会的排除と社会教育③―　〃 １５．　総括―地域社会教育の現状と課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50425A01
科目名	生物学概論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology A		
担当者名	藤井　恒	旧科目名称	
講義概要	生物学概論 A では、遺伝子組換え生物や再生医療、生態系と環境問題などの諸問題について平易に解説すると共に、質疑・応答も交えながら、生命現象の基本を理解し、生物学的な諸問題を正しく理解し、それらに対して適 切な判断を行えるようにする。		
教材（テキスト）	使用しない（プリントを配布する）		
教材（参考文献）	授業の時に、適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内で復習テストを数回行い、その点数で評価する。		
到達目標	最近目にすることが多い生物学関連の用語の意味を正しく理解し、適切に使えるようになること。		
準備学習	高校で生物、化学などを履修していた人は復習をしておく。 教科書その他を持っていない場合は、以下の本などを利用するとよい。 新しい高校生物の教科書（ブルーバックス）　栃内 新・左巻 健男編 講談社　1260 円 高校の生物が根本からわかる本　細胞・代謝・発生・遺伝編 （社会人・大学生のための理数系再入門テキスト）　藤井 恒著 中経出版　1680 円 三訂版　スクエア最新図説生物 neo 第一学習社		

受講者への要望

授業に遅刻したり欠席すると、理解が難しくなるので、遅刻・欠席は極力しないようにすること。

講義の順序とポイント

1　生物と無生物／生体物質
2　細胞 1
3　細胞 2
4　細胞分裂
5　生殖
6　遺伝子と形質発現
7　発生と分化
8　遺伝子工学
9　ヒトのからだ 1
１０　ヒトのからだ 2
１１　生態系と物質生産
１２　生物の相互作用
１３　バイオームと遷移
１４　生物多様性
１５　環境問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J50425A02
科目名	生物学概論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology A		
担当者名	藤井　恒	旧科目名称	
講義概要	生物学概論 A では、遺伝子組換え生物や再生医療、生態系と環境問題などの諸問題について平易に解説すると共に、質疑・応答も交えながら、生命現象の基本を理解し、生物学的な諸問題を正しく理解し、それらに対して適 切な判断を行えるようにする。		
教材（テキスト）	使用しない（プリントを配布する）		
教材（参考文献）	授業の時に、適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内で復習テストを数回行い、その点数で評価する。		
到達目標	最近目にすることが多い生物学関連の用語の意味を正しく理解し、適切に使えるようになること。		
準備学習	高校で生物、化学などを履修していた人は復習をしておく。 教科書その他を持っていない場合は、以下の本などを利用するとよい。 新しい高校生物の教科書（ブルーバックス）　栃内 新・左巻 健男編 講談社　1260 円 高校の生物が根本からわかる本　細胞・代謝・発生・遺伝編 （社会人・大学生のための理数系再入門テキスト）　藤井 恒著 中経出版　1680 円 三訂版　スクエア最新図説生物 neo 第一学習社		

受講者への要望

授業に遅刻したり欠席すると、理解が難しくなるので、遅刻・欠席は極力しないようにすること。

講義の順序とポイント

1　生物と無生物／生体物質
2　細胞 1
3　細胞 2
4　細胞分裂
5　生殖
6　遺伝子と形質発現
7　発生と分化
8　遺伝子工学
9　ヒトのからだ 1
１０　ヒトのからだ 2
１１　生態系と物質生産
１２　生物の相互作用
１３　バイオームと遷移
１４　生物多様性
１５　環境問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J50425B01
科目名	生物学概論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology B		
担当者名	藤井　恒	旧科目名称	
講義概要	生物学概論 B では、生物の代謝と分子遺伝とその応用分野について、概説する。		
教材（テキスト）	使用しない（プリントを配布する）		
教材（参考文献）	授業の際に、適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	理解度確認テストを行って、評価する。		
到達目標	最近目にすることが多い生物学関連の用語の意味を正しく理解し、適切に使えるようになること。		
準備学習	高校で生物、化学などを履修していた人は復習をしておく。 教科書その他を持っていない場合は、以下の本などを利用するとよい。 新しい高校生物の教科書（ブルーバックス）　栃内 新・左巻 健男編 講談社　1260 円 高校の生物が根本からわかる本　細胞・代謝・発生・遺伝編 （社会人・大学生のための理数系再入門テキスト）　藤井 恒著 中経出版　1680 円 三訂版　スクエア最新図説生物 neo 第一学習社		

受講者への要望

遅刻、欠席をすると講義の内容を理解できなくなりますので、遅刻などをしないように。

講義の順序とポイント

1　代謝とエネルギー代謝／酵素と ATP
2　酵素の働き
3　化学合成と光合成
4　光合成のしくみ
5　C4 植物、CAM 植物、窒素同化
6　発酵と呼吸
7　呼吸のしくみ
8　遺伝学の歴史
9　セントラルドグマ
１０　RNA 合成と DNA 合成
１１　遺伝暗号とタンパク質合成
１２　突然変異
１３　バイオテクノロジー
１４　遺伝子工学
１５　iPS 細胞とその応用

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J50425B02
科目名	生物学概論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology B		
担当者名	藤井　恒	旧科目名称	
講義概要	生物学概論 B では、生物の代謝と分子遺伝とその応用分野について、概説する。		
教材（テキスト）	使用しない（プリントを配布する）		
教材（参考文献）	授業の際に、適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	理解度確認テストを行って、評価する。		
到達目標	最近目にすることが多い生物学関連の用語の意味を正しく理解し、適切に使えるようになること。		
準備学習	高校で生物、化学などを履修していた人は復習をしておく。 教科書その他を持っていない場合は、以下の本などを利用するとよい。 新しい高校生物の教科書（ブルーバックス）　栃内 新・左巻 健男編 講談社　1260 円 高校の生物が根本からわかる本　細胞・代謝・発生・遺伝編 （社会人・大学生のための理数系再入門テキスト）　藤井 恒著 中経出版　1680 円 三訂版　スクエア最新図説生物 neo 第一学習社		

受講者への要望

遅刻、欠席をすると講義の内容を理解できなくなりますので、遅刻などをしないように。

講義の順序とポイント

1　代謝とエネルギー代謝／酵素と ATP
2　酵素の働き
3　化学合成と光合成
4　光合成のしくみ
5　C4 植物、CAM 植物、窒素同化
6　発酵と呼吸
7　呼吸のしくみ
8　遺伝学の歴史
9　セントラルドグマ
１０　RNA 合成と DNA 合成
１１　遺伝暗号とタンパク質合成
１２　突然変異
１３　バイオテクノロジー
１４　遺伝子工学
１５　iPS 細胞とその応用

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J50429001
科目名	西洋のゲームとスポーツ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Western Games and Sports		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	日本で広く知られていないスポーツとゲームを英語で習ったり練習したりする体験型異文化講座。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表・宿題 20% スピーキングテスト 20% クイズやテスト 40% 期末試験 20%		
到達目標	1.To become more familiar with different sports/games from around the world 2.Learn how to describe sports/games related ideas while having fun		
準備学習	You have to do your homework and take active part in the classwork and assignments, in other words; come to class, be prepared to learn, and do the prescribed assignments!		
受講者への要望			
授業に毎回出席すること。			
講義の順序とポイント			
スポーツ編 1. cricket ? theory 2. cricket ? practice （運動靴・ウエア必要） 3. cricket ? practice （運動靴・ウエア必要） 4. Australian rules football ? theory 5. Australian rules football ? practice （運動靴・ウエア必要） 6. Australian rules football ? practice （運動靴・ウエア必要） 7. netball ? theory 8. netball ? practice （運動靴・ウエア必要） 9. petanque ? theory 10. petanque ? practice （運動靴必要） ゲーム編 11. schoolyard games （運動靴必要） 12. board games 13. card games 14. other games 15. Discussion/Ending reflections and comprehension check			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期 待	★	★		★	★	

年度	2015	授業コード	J50430001
科目名	西洋の礼儀とマナー	単位数	2
科目名（英語表記）	Western Etiquette and Manners		
担当者名	荒木　利枝	旧科目名称	
講義概要	国際化が進む中で、世界に出て活躍する日本人は増加の一途をたどっている。大学卒業後の就職先がたとえ日本国内の企業であったとしても、今や世界中の企業が取引先となり、海外赴任も当然とされ、語学力のみならず一定の国際的な礼儀やマナーを身に付けていることが求められる時代になった。 この講義では、社会人として、また国際人として、必要とされる基本的な礼儀とマナーについて学ぶ。マナーの歴史（日本と西洋）、国際人としての儀礼の場でのルールやコミュニケーションの方法、食事のマナー、社会人に必要な身だしなみや言葉遣い、電子メールのマナーなど、順次解説する。		
教材（テキスト）	プリントを配布		
教材（参考文献）	講義中に指示する		
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席、積極性、提出物などを総合的に評価）50% 授業内確認テスト 50%		
到達目標	国際的な礼儀やマナーの基本を学び、社会人として儀礼上正しく行動するための知識と実践力を身に付けることを目標とする。		
準備学習	各講義中に、次回講義のための準備学習（資料読解、下調べ等）を指示する。		
受講者への要望			
授業は、講義の他、グループワークや発表などの活動もあるので、受講者には積極的な参加を求める。			
講義の順序とポイント			
第１回　イントロダクション　礼儀とマナーを学ぶ 第２回　マナーとは何か 第３回　マナーの歴史 第４回　国際人としてのプロトコール１ 原則 第５回　国際人としてのプロトコール２ 社交の場 第６回　国際人としてのプロトコール３ コミュニケーション 第７回　和食のマナー 第８回　レストランのマナー（英国式）1 予約～オーダー 第９回　レストランのマナー（英国式）2 食事 第１０回　お酒のマナー 第１１回　服装（身だしなみ）のマナー 第１２回　贈答のルール 第１３回　社会人の言葉遣い 第１４回　ビジネスマナーの概要とインターネットのマナー 第１５回　国際人の礼儀とマナー			

人間力（６つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	J50447A01
科目名	地域文化論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture Regional Theory A		
担当者名	鈴木　和正	旧科目名称	
講義概要	近代において、地域文化を牽引する役割を果たしたのは学校や教師であった。そのため、地域文化を理解するためには、「地域」と「教育」の関わりについて知る必要がある。学校教育という営みは、地域における社会構造や文化状況との関わりにおいて展開されており、そもそも地域とのつながりなくしては存在し得なかった。 この講義では、特に地域社会における学校や教師、子どもについて考えたい。具体的には教育史や歴史学、児童文化に関する研究成果をベースとして、近代における地域社会について考察していく。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使用しない。 授業で使用する資料は、その都度プリントで配付する。		
教材（参考文献）	高橋敏『近代史のなかの教育』岩波書店、1999 年。 大門正克『民衆の教育経験 ―農村と都市の子ども』青木書店、2000 年。		
教材（その他）	視聴覚教材などを適宜使用する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況による。レポート（50%）		
到達目標	「地域」と「教育」の関わりについて理解する。 地域社会において、学校や教師が果たした役割について理解する。		
準備学習	講義終了後に、次回の講義予定を指示するので予習しておくこと。また講義開始時に前回の要点を口頭発表してもらうので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

他の教育学・民俗学関連の講義と併せて受講することが望ましい。
不明な点があれば積極的に質問すること。

講義の順序とポイント

１，ガイダンス；「地域」と「教育」について考える
２，地域と教育１―「学制」発布と学校の誕生
３，地域と教育２―学校と習俗の葛藤
４，地域と教育３―教育勅語と御真影
５，地域と教育４―戦争と学校
６，地域のなかの集団１―青年団の誕生
７，地域のなかの集団２―青年団の活動
８，地域社会の子ども１―村の子ども像
９，地域社会の子ども２―都市の子ども像
１０，地域文化の発生１―阪神間モダニズムの形成
１１，地域文化の発生２―児童の村小学校の誕生
１２，地域文化の発生３―地域経済の衰退と私立小学校の閉鎖
１３，地域綴方教育史１―綴方教育の展開
１４，地域綴方教育史２―綴方教師の活動
１５，まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50447B01
科目名	地域文化論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture Regional Theory B		
担当者名	鈴木　和正	旧科目名称	
講義概要	近年の日本では、地域社会および地域に根差した文化、すなわち地域文化への関心が高まっている。戦前においても、大正新教育運動や郷土教育運動の影響を受けた学校では、地域への関心を高め、地域教材が活用された。1930 年代の地域社会は深刻な不況に見舞われ、学校教育は地域社会の経済更生運動の中に組み込まれていった。こうした社会状況の中で、大正新教育における児童中心主義も変質していったとされる。 この講義では、地域社会を中心として学校教育がどのように展開されたのかを考えたい。また、愛郷心の養成をねらいとする郷土教育や民俗学運動についても考えたい。その手段として、主に教育史や歴史学、民俗学の成果を参考にしたい。最終的には受講者が、教育史や歴史学、民俗学の成果を学びながら自身が生活する地域及び文化をより深く理解することを目的とする。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使用しない。 授業で使用する資料は、その都度プリントで配付する。		
教材（参考文献）	中野光『大正自由教育の研究』黎明書房、1968 年。 鹿野政直『大正デモクラシーの底流』NHK ブックス、1973 年。 中野光『改訂増補 大正デモクラシーと教育』新評論、1990 年。 小国喜弘『民俗学運動と学校教育』東京大学出版会、2001 年。 外池智『昭和初期における郷土教育の施策と実践に関する研究』NSK 出版、2004 年。 伊藤純郎『増補　郷土教育運動の研究』思文閣出版、2008 年。 中野光『学校改革の史的原像』黎明書房、2008 年。		
教材（その他）	視聴覚教材などを適宜使用する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況による。レポート（50%）		
到達目標	地域社会と教育運動の関わりについて理解する。 「大正新教育運動」や「郷土教育運動」について理解する。 地域や地域文化を読む力を養う。		
準備学習	最初の講義までに、上記で紹介した教材（参考文献）を読んで予習しておくこと。また講義開始時に前回の要点を口頭発表してもらうので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
前期の地域文化論Ａと併せて受講することが望ましい。 不明な点があれば積極的に質問すること。			
講義の順序とポイント			
１、ガイダンス―地域社会と教育運動について考える ２、大正デモクラシー期の地域社会１ ３、大正デモクラシー期の地域社会２ ４、近畿地方の大正新教育１―及川平治と分団式教育 ５、近畿地方の大正新教育２―木下竹次と合科学習 ６、中国地方の大正新教育１―岡山県倉敷町の新教育 ７、中国地方の大正新教育２―広島県西条町の新教育 ８、中国地方の大正新教育３―山口県山口市の新教育 ９、恐慌期の地域社会と学校―新教育運動の衰退と郷土教育 １０、郷土教育運動の展開１ １１、郷土教育運動の展開２ １２、郷土教育運動の展開３ １３、郷土教育運動の展開４ １４、民俗学運動と学校教育１			

１５、民俗学運動と学校教育２

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50458A01
科目名	中国文学概論Ａ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Chinese Literature A		
担当者名	森　雅子	旧科目名称	
講義概要	中国文学の発展を理解するため、各時代の代表的な作家および作品を取り上げ概説する。		
教材（テキスト）	なし。適宜プリント等を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	映像資料を適宜使用する。		
評価方法	平常点（出席や課題・授業への取り組み）30%、期末レポート 70%		
到達目標	外国の言語・芸術・文学に興味を持ち、それらを学ぶことで異文化理解を深める。		
準備学習	中国の社会・文学・文化などに興味を持って臨むこと。		
受講者への要望			
積極的に授業に参加すること。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに ２．詩経① ３．詩経② ４．楚辞 ５．陶淵明 ６．杜甫 ７．李白 ８．白居易 ９．韓愈 １０．蘇軾・黄山谷 １１．元曲 １２．小説① １３．小説② １４．現代文学 １５．総括と復習 ＊以上の内容は受講者数・進度によって変更の可能性がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	J50458B01
科目名	中国文学概論Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Chinese Literature A		
担当者名	森　雅子	旧科目名称	
講義概要	この授業ではとくに中華民国期（1912～49 年）の文学について理解するため、代表的な作家をとりあげる。それぞれ２回目の授業では実際に作品に触れながら講述する。それぞれの作家の担当者を決め、バイオグラフィーを調べてまとめ、発表してもらう。		
教材（テキスト）	なし。適宜プリント等を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	映像資料を適宜使用する。		
評価方法	平常点（出席や課題・授業への取り組み）30%、期末レポート 70%		
到達目標	外国の言語・芸術・文学に興味を持ち、それらを学ぶことで異文化理解を深める。		
準備学習	中国の社会・文学・文化などに興味を持って臨むこと。		
受講者への要望			
積極的に授業に参加すること。発表担当者以外も事前準備をしてくること。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに～中国現代文学のなりたち ２．魯迅① ３．魯迅② ４．周作人① ５．周作人② ６．謝冰心① ７．謝冰心② ８．郁達夫① ９．郁達夫② １０．巴金① １１．巴金② １２．老舎① １３．老舎② １４．現在の中国文学～80 後 １５．総括と復習 ＊以上の内容は受講者数・進度によって変更の可能性がある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	J50463A01
科目名	伝統文化実習 A （茶道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Traditional Culture A		
担当者名	飯島　照仁	旧科目名称	
講義概要	日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎をビデオ・プリント等交えて概観し、茶の湯の実技を中心に行う。また茶の湯の菓子をデザインし、抹茶を点てる、頂くという、もてなしも体験していただきます。 また日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化の茶との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違にも言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、伝統文化の茶の湯を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考える。最終講義は、世界の茶の文化交流を行なう予定。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席率と出席状況等による平常点で評価する。		
到達目標	茶の湯の実践を通じて日本の伝統文化を理解する。		
準備学習	実技の復習とプリントの確認をする。		
受講者への要望			
日本の伝統文化である「茶の湯」に興味のある方。			
講義の順序とポイント			
１．　実習のための総論 ２．　茶の湯の基礎・割稽古 ３．　同上 ４．　同上 ５．　茶の湯の基礎・盆略点前 ６．　同上 ７．　同上 ８．　同上 ９．　同上独自のお菓子をデザインして創作する １０．　実践茶の湯のもてなし １１．　同上 １２．　同上 １３．　同上 １４．　伝統的なお菓子と濃茶を体験する １５．　世界のお茶でもてなす			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50463B01
科目名	伝統文化実習Ｂ（能楽）	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Traditional Culture B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	仕舞は、扇を持って、舞台で着物・紋付き、袴（はかま）の姿で能の一部分を舞うものです。 謡は能の台本を、登場人物のせりふと、ナレーターの部分をみんなで一緒に謡って練習します。 どちらも能を演じる上での、修業の基本の部分ですが、仕舞では身体を動かし足拍子のリズムを楽しみ、謡では少し慣れたら、鬼や姫君や殿様などいろんな登場人物のせりふ回しを学んでみましょう。 着付けも練習します。		
教材（テキスト）	プリント・ＣＤなどを配布		
教材（参考文献）	能・狂言図典　　小林保治・森田拾四郎編　　小学館　　2003 刊		
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点。授業への参加度。		
到達目標	仕舞が一番（一曲）舞えるようになること 海外で日本の伝統文化を紹介出来るようになること 姿勢が正しくなり、大きな声が出るようになること		
準備学習	配布したＣＤを、繰り返し聞いておくこと 牛若丸（源義経）の話を読んでおくこと		

受講者への要望

初心者歓迎。伝統文化論Ｂの講義をあらかじめ受講する必要はありません。
不安な場合は担当者に相談してください。
授業時間内に他の人の練習を見学する時間もありますが、
「芸は盗むもの」
といいます。
伝統芸能は熱心に見ることで上達しますから、
そのつもりで意欲的に授業に取り組んでください。

講義の順序とポイント

1　仕舞の基本　　扇の持ち方と構え方　運歩　足拍子のリズム
2　入門の曲　鶴亀　　仕舞「鶴亀」（前半）
3　復習
4　入門の曲　鶴亀　　仕舞「鶴亀」（後半）
5　復習
6　謡「鶴亀」・仕舞の復習
7　謡　復習・仕舞の復習
8　謡「橋弁慶」弁慶と家来のやりとり　　仕舞「鶴亀」
9　謡「橋弁慶」牛若丸登場　　仕舞「鶴亀」
１０　謡「橋弁慶」五条の橋の対決　　仕舞「鶴亀」
１１　練習
１２　リハーサル
１３　着物や袴を身につけて仕舞を舞う　発表会　第一グループ
14　　同上　第二グループ
１５　同上　第三グループ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★★		★		

年度	2015	授業コード	J50465001
科目名	伝統文化実習Ｃ（やきもの）	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Traditional Culture C		
担当者名	佐々木　大和	旧科目名称	
講義概要	陶磁工芸には文字通り陶器と磁器がある。陶器工芸の作陶には、ろくろ成形と手びねり成形の二つがあるが、本講義では手びねり成形の楽茶碗の成形を行う。 なお、実習費の実費徴収（3,000 円程度）を授業内で行うので注意のこと。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	各種出版物		
教材（その他）			
評価方法	作品の出来の良し悪しではなく、製作過程の努力を評価対象とする。		
到達目標	鑑賞するだけでなく、実際に製作にたずさわることで、楽茶碗の理解に少しでも近づくこと		
準備学習	陶器と磁器の区別・茶道における茶碗の役割、位置付け・楽茶碗の歴史、特色などについて、基本的な知識を得ておくこと		
受講者への要望			
自分で積極的に書籍や美術館などで陶磁器、特に陶器についての知識を深めるように			
講義の順序とポイント			
1.陶磁器の歴史 2.粘土とは 3.粘土の準備 1 4.粘土の準備 2 5.土こね作業 1 6.土こね作業 2 7.成形の方法 8.回転台の使い方 9.成形作業 1 10.成形作業 2 11.釉の意味の役割 12.施釉作業 13.焼成の基本 14.焼成作業 15.評価			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	J50475001
科目名	伝統文化論Ｃ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Traditional Culture C		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	陶芸の歴史を認識し、残された名品を鑑賞しながら、陶芸の奥深さを理解したい。ビデオと写真資料を多く紹介する予定。 伝統文化実習Ｃ（担当・佐々木）を合わせて履修して、陶芸の実技も体験することを薦めたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	矢部良明「日本やきもの史」（美術出版社、１９９８年）		
教材（その他）	毎回プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等による平常点（２５点満点）と期末のレポート（７５点満点）の合計で評価する。		
到達目標	工芸が持つ「用の美」を理解することを目標とする。 その基礎となる製作技法の特色を理解することが前提となる。		
準備学習	毎回、授業終了時に、次回講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 必ず調べておくこと。		
受講者への要望			
日本美術、特に陶芸に興味を持ち、実技(伝統文化実習Ｃ)も併せて受講する意欲のある学生を求める。			
講義の順序とポイント			
１．土器作りとは ２．世界の焼き物 ３．陶器と磁器 ４．縄文・弥生・須恵 ５．中国ー陶芸の発展ー ６．青磁の展開 ７．天目茶碗 ８．景徳鎮窯 ９．日本の六古窯 １０．備前焼 １１．桃山の茶陶 １２．　織部焼 １３．　京焼の歴史 １４．伊万里焼１ １５．伊万里焼２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50476A01
科目名	伝統文化論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Traditional Culture A		
担当者名	飯島　照仁	旧科目名称	
講義概要	日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎や歴史を教科書・ビデオ・プリント等交えて概観し、茶の湯の舞台ともいえる茶の湯の庭(露地)と茶の湯の建築(茶室)の成り立ち、茶人のこだわり、そしてそこから窺える精神性をも解説したい。 更に、日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違に言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、自国の伝統文化を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考える。		
教材（テキスト）	『ここから学ぶ茶室と露地』飯島照仁著　淡交社(1,900 円＋税) 必要に応じてプリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による出席率と試験(教科書持込可)による総合評価		
到達目標	茶の湯という伝統文化を通して、異文化の更に深い理解へと繋げる。		
準備学習	テキスト、プリントの予習・復習。		
受講者への要望			
日本の伝統文化、「茶の湯」に興味のある学生。			
講義の順序とポイント			
１．　伝統文化総論 ２．　日本の伝統文化(茶の湯)と衣・食・住の基礎知識 ３．　同上 ４．　茶の湯入門 ５．　同上 ６．　同上 ７．　同上 ８．　茶の湯の建築入門 ９．　　同上 １０．　同上 １１．　同上 １２．　茶の湯の庭入門 １３．　同上 １４．　同上 １５．　茶の湯と異文化交流			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50476B01
科目名	伝統文化論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Traditional Culture B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	日本の伝統文化は、中世に源流があると言われる。伝統文化論Ａは茶道を取りあげ、 この伝統文化論Ｂは能楽を取りあげるがいずれも中世に確立し、今日まで発展している 日本の伝統文化である。とくに京都は、その本場であるから、しっかり知識を身につけて欲しい。 茶道は静寂を旨とするから、音楽であり、劇である能楽は、茶道が持っていない面を補い、茶道と能楽は深く関わりつつ互いに補完する関係である。 講義では、伝統芸能の歴史から、能楽の内容、つまり文学（謡曲）・音楽（囃子）・工芸（能衣装）・彫刻（能面）・演技（型と舞）・能舞台（建築）の諸要素を、実際にシテ方能楽師（＝能面をかけて主役を担当する）として長年活動している山﨑が演技者の立場から解説する。 　百聞は一見にしかず、というが、演劇に関してはまさにその通りなので、京都市の平安神宮で毎年行われる 薪能（たきぎのう）を見学する。		
教材（テキスト）	プリントを作成して配布する。		
教材（参考文献）	『能楽と崑曲』（赤松紀彦他編　汲古書院　２５００円）		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト 薪能見学レポート		
到達目標	日本の伝統芸能の基本的な知識の修得。 舞台を見て能楽・文楽・歌舞伎の区別がつくこと。 芸能の素地となっている物語を理解していること。 実技がどんなものか、体験をしていること。 実際の生の舞台を見る経験をすること。		
準備学習	前回の授業内容の復習をすること。 興味をもって専門用語などを調べてみること。 古典芸能のテレビ放送などを見ておくこと。		

受講者への要望

毎回の講義を簡単にノートにまとめてみること。きちんと授業に出席すること。
大学からの補助がありますが、平安神宮の薪能見学のチケット代が千円程度必要です。

講義の順序とポイント

１　古典芸能史……能楽・文楽・歌舞伎のちがい
２　いちばん面白い能・「道成寺」…ＤＶＤで見る
3　「道成寺」後半を見る
4　能面のいろいろ
5　能「鉄輪」と『陰陽師』
6 能の五番立て　　神・男（武将）・女（姫君）・現在物（ドラマ）・鬼
7　能の台本・謡の見方と能舞台の工夫
8　平安神宮の薪能の見学（６月はじめの夕方～夜）
　　（都合がつかない人は別の公演を代用します）
9　「橋弁慶」牛若丸・弁慶の出会いと間狂言の寸劇
１０　能楽の楽器のいろいろ　大鼓・小鼓・笛・太鼓
１１「葵上」源氏物語と能
１２　「海士」玉取り伝説と能
１３「邯鄲」中国の伝説と能
１４　「靱猿（うつぼざる）」の狂言

１５　能装束の工芸品としての要素

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J50478B01
科目名	都市文化史B	単位数	2
科目名（英語表記）	Urban Culture History B		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	都市伝説というコトバが学術用語ではなく一般の日常会話のなかに現れるようになったのは、それほど古い話ではない。村落共同体での口頭伝承である昔話の研究が進められる中で、都市においてもかつての昔話や伝説のような口頭伝承が生成されつつあることが明らかになり、「学校の怪談」などポピュラーな切り口がされるに至って、一般の人気を得たものと思われる。近代都市が生み出した様々な文化のあり処に思いを致す時、都市伝説の語感による都市と、文化史を結びつけた都市文化史は、その複雑怪奇性といい、百鬼夜行性といい申し分のない括り方ではないだろうか。都市文化史 B では大衆と死の共同体という観点から都市文化史を考える。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（30%）レポート（70%）		
到達目標	現代文明への批評的観点の養成と、歴史的事実との接続への関心。		
準備学習	各自関連文献を読んでおくのは重要である。毎回関連文献を提示するので、適時それに時間を割くように。		
受講者への要望			
一見合理的に成立しているような事象でも、歴史的に検証するとまったく違う理由から成立していることがわかったりする。そういうことへの関心を育てるように。			
講義の順序とポイント			
（1）大衆と都市 （2）秋葉原と夢野久作 （3）バタイユ『青空』 （4）死の共同体 （5）神話としてのドン・ジュアン （6）ファウスト （7）死の時代 （8）虐殺・神話 （9）図像学の誕生 （10）アビ・ヴァールブルグ （11）ゴーレム （12）絵引 （13）街をあるく （14）異形異類 （15）再び江戸の大衆社会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50496001
科目名	日本の文化と観光地を英語で	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Culture and Tourism in English		
担当者名	Sean Bell	旧科目名称	
講義概要	In this class we will discuss various aspects of Japanese culture from past and present. There will be discussions in class and some presentation skills.		
教材（テキスト）	日本文化を世界に!―Let's Introduce Japanese Culture! ? 単行本: 120 pages ? Publisher: 英宝社（January 1, 2014） ? ISBN-10: 4269170212 ? ISBN-13: 978-4269170216 ? Release Date: January 1, 2014		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	60% Report. (30% as oral report / 30% as written) 20% Class work. Working in pairs, homework, role-plays, participation, etc. (Please come to class) 20% Effort. Raising hand, asking questions, pair work, and so on.		
到達目標	To build intermediate conversation skills and discuss about Japanese culture. Be able to use English skills at a level good enough for intermediate everyday conversation as well as work in the future. Vocabulary, listening, and reading skills will also improve.		
準備学習	Finish homework before class. Attendance is important to cover all units and understand them. Ask questions when you don't understand.		

受講者への要望

Please buy the textbook. We will be using it a lot.
A dictionary would be useful for unknown words.
Ask questions if you don't understand.
Make notes in your book or keep a notebook.

講義の順序とポイント

1. Introductions / Target of class / Scoring / How was Spring break?
Find out what interests the class has so we can tailor topics to fit everyone.

2. The spirit of Japanese hospitality

3. Tokyo Skytree!

4. Japanese seasonal charms

5. Japanese high-quality technology

6. Healthy and colorful Japanese cuisine

7. Destruction and creation

8. Samurai spirit

9. Anime

10. Hot springs

11. Video games for everyone

12. Kawaii going global

13. Start putting the final presentation together.

14. Full presentations in class. Students will evaluate each presentation with a chance for feedback after each presentation.

15. Review what was taught throughout the year

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★			★	

年度	2015	授業コード	J50496002
科目名	日本の文化と観光地を英語で	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Culture and Tourism in English		
担当者名	Sean Bell	旧科目名称	
講義概要	In this class we will discuss various aspects of Japanese culture from past and present. There will be discussions in class and some presentation skills.		
教材（テキスト）	日本文化を世界に!―Let's Introduce Japanese Culture! ? 単行本: 120 pages ? Publisher: 英宝社（January 1, 2014） ? ISBN-10: 4269170212 ? ISBN-13: 978-4269170216 ? Release Date: January 1, 2014		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	60% Report. (30% as oral report / 30% as written) 20% Class work. Working in pairs, homework, role-plays, participation, etc. (Please come to class) 20% Effort. Raising hand, asking questions, pair work, and so on.		
到達目標	To build intermediate conversation skills and discuss about Japanese culture. Be able to use English skills at a level good enough for intermediate everyday conversation as well as work in the future. Vocabulary, listening, and reading skills will also improve.		
準備学習	Finish homework before class. Attendance is important to cover all units and understand them. Ask questions when you don't understand.		

受講者への要望

Please buy the textbook. We will be using it a lot.
A dictionary would be useful for unknown words.
Ask questions if you don't understand.
Make notes in your book or keep a notebook.

講義の順序とポイント

1. Introductions / Target of class / Scoring / How was Spring break?
Find out what interests the class has so we can tailor topics to fit everyone.

2. The spirit of Japanese hospitality

3. Tokyo Skytree!

4. Japanese seasonal charms

5. Japanese high-quality technology

6. Healthy and colorful Japanese cuisine

7. Destruction and creation

8. Samurai spirit

9. Anime

10. Hot springs

11. Video games for everyone

12. Kawaii going global

13. Start putting the final presentation together.

14. Full presentations in class. Students will evaluate each presentation with a chance for feedback after each presentation.

15. Review what was taught throughout the year

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★			★	

年度	2015	授業コード	J50501A01
科目名	歴史学特殊講義（日本近現代史） I	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Modern J apanese History) I		
担当者名	橋本　章彦	旧科目名称	
講義概要	近現代にかかわるいくつかのエピソードを取り上げ、その考察を通して日本人の精神構造を描き出してみたい。その際、前近代から受け継いでいるもの、あるいはそうでないものを腑分けしつつ分析をくわえ、日本人の思考や行動の特性について考えを深めていきたい。そのための材料として、今年度は怪獣と都市伝説を中心に据える。		
教材（テキスト）	なし。プリントやパワーポイント、そして映像などを使って論じていく。		
教材（参考文献）	授業内で適宜提示する。		
教材（その他）	授業内で適宜指示する		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点 50%、期末レポート 30%、授業中課題 20%		
到達目標	日本人と日本文化について考えを深め、それを通じて自分自身が文化的にどのような立場に立っているのかについて一定の理解を得る。		
準備学習	準備は取り立てて必要ない。		

受講者への要望

毎回の授業を振り返って、「考えること」を怠らないで欲しい。

講義の順序とポイント

1．はじめに―授業の概要と取り扱うテーマ、到達目標など。
2．民俗学的怪獣論（1）―映画『ゴジラ』を鑑賞する
3．民俗学的怪獣論（2）―民俗における祓いの構造とゴジラ・構成概念としての「民俗」
4．民俗学的怪獣論（3）―ゴジラ処理の日米比較・自然観とそれを支える宗教観について
5．民俗学的怪獣論（4）―ゴジラはなぜ品川から上陸するのか・境界を越えるゴジラ
6．民俗学的怪獣論（4）―怪獣観の変遷・現代人の怪獣観は如何にして形成されたか
7．都市伝説の生成、伝播、変容―テポドンが降ってくる・都市伝説とノストラダムスの大予言
8．　戦時下の噂話―近現代の戦争史概説
9．　戦時下の噂話―噂話の中の神々とその活動・戦争末期における民衆の心にせまる
10．西郷隆盛生存説と大津事件―明治期日本を揺るがした大事件と都市伝説
11．不思議な事件―都市伝説と犯罪
12．君が知っている都市伝説を語り合おう
13．漫才の歴史(1)―言祝ぎの芸能から玉子家円辰へ
14．漫才の歴史(2)―漫才の革新・しゃべくり漫才の登場と展開
15．結語―日本人の心のあり方と行動の特性について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50505A01
科目名	歴史学特殊講義（日本近世史） I	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (History at the Early Modern Age of Japan) I		
担当者名	谷　徹也	旧科目名称	
講義概要	本講義では、近世（織豊・江戸・幕末維新）の政治史を扱います。織田信長や豊臣秀吉、江戸幕府の歴代将軍など、その時々の権力者についての概説を最新の学説を踏まえながら時代順に行い、人物や事件についての理解を深めていくことで、実態に即して歴史を読み解く楽しさを学んでもらいたいと思います。		
教材（テキスト）	テキストは使用しません		
教材（参考文献）	授業中に紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配布します		
評価方法	平常点 50％（出席・参加状況）、期末レポート 50％		
到達目標	人物や事件を多面的な視角から捉える力を身につけることを目標とします。		
準備学習	高校で学習した基本的な知識が前提となるので、各自で復習をしてください。		

受講者への要望

歴史学特殊講義（日本近世史）IIとあわせて近世の時代像を掴むため、両方を受講することが望ましい。また、授業における積極的な参加・発言を求めます。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　織田信長は革命児か ―「第六天魔王」の素顔
3　豊臣秀吉の天下一統 ―「公儀」国家の創出
4　徳川家康の江戸開府 ―関ヶ原合戦と大坂の陣
5　徳川秀忠の政治手腕 ―二代目という役回り
6　徳川家光と島原の乱 ―キリシタン禁令の裏側
7　徳川家綱の「三大美事」 ―殉死は美徳か不義か
8　「犬公方」徳川綱吉 ―生類憐みの令は悪法か
9　間部詮房と新井白石 ―とある儒者の理念
10　徳川吉宗と徳川宗春 ―倹約と緩和のせめぎ合い
11　田沼意次は悪徳政治家か ―賄賂の構造
12　松平定信と北方の脅威 ―海防の時代
13　徳川家斉と水野忠邦 ―傾きゆく幕府
14　井伊直弼と徳川慶喜 ―開国佐幕か尊皇攘夷か
15　まとめ ―近世政治史の展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★			★

年度	2015	授業コード	J50505B01
科目名	歴史学特殊講義（日本近世史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (History at the early modern age of Japan) II		
担当者名	谷　徹也	旧科目名称	
講義概要	本講義では、近世（織豊・江戸・幕末維新）の社会史を扱います。人々と信仰・経済・権力との関わりなど、その時々の民衆の生活についての概説を最新の学説を踏まえながら行い、近世の習俗についての理解を深めていくことで、実態に即して歴史を読み解く楽しさを学んでもらいたいと思います。		
教材（テキスト）	テキストは使用しません		
教材（参考文献）	授業中に紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配布します		
評価方法	平常点 50％（出席・参加状況)、期末レポート 50％		
到達目標	人々の生活を多面的な視角から捉える力を身につけることを目標とします。		
準備学習	高校で学習した基本的な知識が前提となるので、各自で復習をしてください。		

受講者への要望

歴史学特殊講義（日本近世史）Ｉとあわせて近世の時代像を掴むため、両方を受講することが望ましい。また、授業における積極的な参加・発言を求めます。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　二つの「亀山城」 ―勘違いで壊された天守閣
3　神は死んだのか ―神判と起請返し
4　秀吉は綺麗好き？ ―京の都の衛生環境
5　民衆といくさ ―禁制合戦
6　豊国祭礼と大坂の陣 ―豊臣びいきの民衆たち
7　近世のご法度―慶安の御触書と軍役令は幕府法か
8　飛神魔法奇異妖怪 ―所司代ＶＳ怪異・偽書・傾奇者
9　目安箱は誰がために ―出訴と世論
10　猫証文 ―近世のペット事情
11　早起きは三文のトク ―近世の物価
12　為せば成る ―明君たちの藩政改革
13　地域リーダーと「義民」 ―地域社会の成熟
14　幕末日本への「旅」 ―青い目とレンズを通して
15　まとめ ―近世社会の習俗

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★			★

年度	2015	授業コード	J50510A01
科目名	日本文学特殊講義Ａ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature A		
担当者名	白方　佳果	旧科目名称	
講義概要	前期は、芥川龍之介・菊池寛・森鴎外の歴史小説を読んでいく。典拠の検討や他作品との比較など、様々な視点から作品を読み解くことを通して、作品への理解を深め、文学作品を自分なりの視点から読み解けるようになることを目標とする。また歴史小説についての評論を読むことを通して、（歴史）小説とは何か、文学とは何かという問題についても考えたい。		
教材（テキスト）	芥川龍之介『地獄変・邪宗門・好色・藪の中 他七篇』（岩波文庫、緑 70-2)、ほか授業中に配付・指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	DVD 教材、パワーポイントを使用する。また、適宜プリントを配付する。		
評価方法	授業内に実施する小テスト(40%)。授業中に指示するレポートと出席状況等による平常点（60%)。		
到達目標	芥川龍之介・菊池寛・森鴎外についての知識を深め、近代文学作品を自分なりの視点から読み解けるようになることを目標とする。		
準備学習	授業中に指示する。　次回の授業で使用するテキストは予め読んだ上で授業に臨むこと。		

受講者への要望

事前学習を指示したテキストは、授業までに必ず目を通しておくこと。授業後のミニッツペーパー、レポート、小テストにおいては、自分なりの考えや感想を文章にすることが求められる。他者に分かりやすく伝えられるよう、自分の考えを整理しながら主体的に授業に取り組んでほしい。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス
2.「地獄門」鑑賞―「袈裟の良人」「袈裟と盛遠」 1
3.「袈裟の良人」「袈裟と盛遠」 2
4.「袈裟の良人」「袈裟と盛遠」 3
5.菊地寛の歴史小説 1
6.菊地寛の歴史小説 2
7.「羅生門」鑑賞―芥川の歴史小説 1
8.芥川の歴史小説 2
9.芥川の歴史小説 3
10.芥川の歴史小説 4
11.森鴎外の史小説 1
12.森鴎外の歴史小説 2
13.森鴎外の歴史小説 3
14.森鴎外の歴史小説 4
15 後期授業についてのガイダンス

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50510B01
科目名	日本文学特殊講義Ｂ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature B		
担当者名	白方　佳果	旧科目名称	
講義概要	後期は、大正～昭和初頭の文学作品を読んでいく。大正・昭和期の文学史を学びつつ、この時代の代表的な作品や評論を読み解くことを通して、日本の近代文学に対する理解を深め、様々な視点から文学作品を読み解く力を身に付けることを目標とする。		
教材（テキスト）	授業中に指示する。ほか、プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	DVD 教材、パワーポイントを使用する。また、適宜プリントを配付する。		
評価方法	授業内に実施する小テスト(40%)。平常点（60%）は授業中に指示するレポートと出席状況等による。		
到達目標	近代文学に対する理解を深め、また様々な視点から文学作品を読み解く力を身に付けることを目標とする。		
準備学習	授業中に指示する。　授業で扱うテキストは、事前に読んでおくこと。		

受講者への要望

事前学習を指示したテキストは、授業までに必ず目を通しておくこと。授業後のミニッツペーパー、レポート、小テストにおいては、自分なりの考えや感想を文章にすることが求められる。他者に分かりやすく伝えられるよう、自分の考えを整理しながら主体的に授業に取り組んでほしい。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス
2.大正・昭和期の文学について
3.夏目漱石 1
4.夏目漱石 2
5.夏目漱石 3
6.夏目漱石 4
7.永井荷風
8.谷崎潤一郎 1
9.谷崎潤一郎 2
10.谷崎潤一郎 3
11.白樺派の文学
12.芥川龍之介
13.モダニズム文学
14.プロレタリア文学
15.総括・補足
＊参加者の理解状況等に応じて、授業の順序・内容は変更する場合がある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50510E01
科目名	日本文学特殊講義Ｅ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature E		
担当者名	白方　佳果	旧科目名称	
講義概要	この授業では、明治時代の日本の文学作品を読んでいく。明治時代の文学史を学びつつ、この時代の代表的な作品や評論を読み解くことを通して、日本の近代文学、そして明治という時代についての理解を深め、様々な視点から文学作品を読み解く力を身に付けることを目標とする。特に重点を置くのは、反/非自然主義の作家とされる、泉鏡花と夏目漱石である。また、近代文学を読む上で知っておくべき基礎的知識やツールについても学習する。		
教材（テキスト）	授業中に指示する。ほか、プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	DVD 教材、パワーポイントを使用する。また、適宜プリントを配付する。		
評価方法	授業内に実施する小テスト(40%)。授業中に指示するレポートと出席状況等による平常点（60%)。		
到達目標	日本の近代文学に対する理解を深め、また様々な視点から文学作品を読み解く力を身に付けることを目標とする。		
準備学習	授業中に指示する。　授業で扱うテキストは、事前に読んでおくこと。		
受講者への要望			
事前学習を指示したテキストは、授業までに必ず目を通しておくこと。授業後のミニッツペーパー、レポート、小テストにおいては、自分なりの考えや感想を文章にすることが求められる。他者に分かりやすく伝えられるよう、自分の考えを整理しながら主体的に授業に取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1.ガイダンス 2.明治初期の文学１ 3.明治初期の文学２ 4.樋口一葉の文学 5.硯友社の文学 6.泉鏡花の文学１ 7.泉鏡花の文学２ 8.泉鏡花の文学３ 9.泉鏡花の文学４ 10.自然主義の文学 11.夏目漱石の文学１ 12.夏目漱石の文学２ 13.夏目漱石の文学３ 14.夏目漱石の文学４ 15.夏目漱石の文学５ ＊参加者の理解状況等に応じて、授業の順序・内容は変更する場合がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50510G01
科目名	日本文学特殊講義Ｇ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature G		
担当者名	濵中　祐子	旧科目名称	
講義概要	授業は講義形式で行う。 鴨長明著『方丈記』を読む。「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」で知られる『方丈記』は、源平争乱期を生きた作者が、人生の晩年に著した作品である。 そこに描かれているのは、震災・火事などの災害体験、それらを通して作者がたどりついた生き方である。 現代の我々が抱えるテーマと通ずる内容をはらんだ『方丈記』全体を通読する。 テキストを精読し、各自作品について思考し、教員の設定する問題について考察してみよう。 また、著者鴨長明の他の作品も併せ読み、『方丈記』を読む上で必要な周辺知識について学ぼう。		
教材（テキスト）	授業中に適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業内で適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	最終回授業で行う到達度テスト　40%　授業内レポート 40%　平常点（出席などによる）　20%		
到達目標	・鴨長明著『方丈記』を通読する。 ・『方丈記』の読解を中心に、古典文学作品の研究に必要な基礎的知識を身につける。		
準備学習	次回授業までに読んでおくべきテキストを提示するので授業前までに必読のこと。 また、到達度テスト前に授業の内容を復習すること。		
受講者への要望			
能動的な態度で授業に出席するよう心がけてもらいたい。私語は厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
1　授業のすすめ方　はじめに　『方丈記』概説 2　鴨長明概説 3　『方丈記』を読む（1） 4　『方丈記』を読む（2） 5　『方丈記』を読む（3） 6　『方丈記』を読む（4） 7　『方丈記』を読む（5） 8　『方丈記』を読む（6） 9　『方丈記』を読む（7） 10　『方丈記』を読む（8） 11　『方丈記』と『発心集』（1） 12　『方丈記』と『発心集』（2） 13　『方丈記』と『無名抄』（1） 14　『方丈記』と『無名抄』（2） 15　授業のまとめ　到達度テスト			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★★

年度	2015	授業コード	J50513A01
科目名	歴史学特殊講義（日本古代史）Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese Ancient History) I		
担当者名	小林　昌代	旧科目名称	
講義概要	現在の世界情勢において、日本と他国との外交問題を考える際、必要なのは歴史に関する正しい理解を持つことと他国のアイデンティティーを理解することである。歴史に関する正しい理解とは、悠久の歴史の中で培われた、日本と諸外国との交渉の実態を理解し、現在起こってる外交問題の淵源がどこにあるかを明らかにすることで生まれる。そして、過去の事実を振り返り、考証して、自分自身の見解を持つことは歴史を学ぶ者として必要な態度である。 本講では、日本古代の外交や渡来儀式関係の文書を取り上げ、当時の国際秩序と外交の意味、外交によってもたらされたもの、それが日本の社会に及ぼした影響など、古代日本と東アジア諸国との関係を見ていく。また、渡来儀式次第に見られる、日本と中国との相違を通じて、日本独自の社会通念についても言及する。		
教材（テキスト）	テキストはない。授業時にプリントなどを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	写真などを利用する。		
評価方法	授業内レポートなどによる平常点（５０％）。定期テスト（５０％）。		
到達目標	古代の日本が、外交によって東アジア諸国の影響を受けながら、自国の秩序に基づき制度や文化を導入していたことを理解する。辞書や事典などを使って史料が読める。		
準備学習	日本史や世界史の教科書や資料集や地図帳に目を通しておくこと。また、授業中に史料を読むので、高校の漢文でレ点や一二点などの訓点を、古文の教科書で旧仮名づかいを復習しておくこと。		
受講者への要望			
理由のない遅刻・早退は認めない。私語は厳禁。間違ってもいいので質問には積極的に回答すること。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに：東アジアの国際秩序について ２、中国史書が語る「倭」 ３、日本と唐Ⅰ ４、日本と唐Ⅱ ５、日本と朝鮮半島 ６、遣唐使 ７、平安時代の国際情勢 ８、入唐留学僧の記録 ９、日宋貿易 １０、平安時代の学問 １１、年中行事 １２、雅楽の受容 １３、釈奠儀式 １４、「大唐開元礼」と「延喜式」 １５、古代日本と東アジアーむすびにかえて			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J50513B01
科目名	歴史学特殊講義（日本古代史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese Ancient History) II		
担当者名	小林　昌代	旧科目名称	
講義概要	平安時代、令外官である左右近衛府が成立し、古代の衛府制度は大きく転換する。左右近衛府は左右兵衛府、左右衛門府とともに六衛府と称され、宮中警護を任務とし年中行事に参列し威儀を整えた。近衛府の下級官人の中には、能力によって官人の職を継承していく一方で、摂関家に重用され、荘園や散所の管理権を得るなど、摂関家家産機構の一員に組み込まれる特定の家が現れた。これは、公的業務を通じて特定の個人（家）と主従関係を築き、一人でいくつもの立場を兼任するという現象である。本講では、近衛府下級官人であった下毛野氏と秦氏の存在形態通して、官職世襲や摂関家との結びつきを容易にした当時の政治・社会制度を考える。また、史料講読を行い、古代史料の読み方や語句の調べ方などを学ぶ。		
教材（テキスト）	テキストはない。授業中にプリントなどを配布する。		
教材（参考文献）	参考文献は適宜指示する。		
教材（その他）	画像なども使用する。		
評価方法	授業内レポートなどを平常点とする（５０％）。定期テスト（５０％）		
到達目標	平安時代の政治・社会制度の中で、特定の家との間に生まれたつながりによって、下級官人が特定の家の家産機構に組み込まれていくことを理解する。辞書や事典などを使って古代史料の解読ができる。		
準備学習	高校の日本史の教科書や資料集などを読んでおくこと。また、授業中に史料を読むので、高校の漢文でレ点や一二点などの訓点を、古文の教科書で旧仮名づかいを復習しておくこと。		
受講者への要望			
理由のない遅刻・早退は認めない。私語は厳禁。間違ってもいいので質問には積極的に回答すること。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに：地下官人とは ２、奈良時代の衛府制度 ３、平安時代の衛府制度 ４、平安時代官司制の変化Ⅰ ５、平安時代官司制の変化II ６、四衛府日次御贄 ７、摂関家家産機構の展開（荘園） ８、摂関家家産機構の展開（散所） ９、随身とは １０、下毛野氏について １１、摂関家と下毛野氏 12、下野野氏と摂関家所領 13、院と秦氏 １４、説話・絵巻に見える随身像 １５、随身家の成立ー調子荘と調子氏			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50523A01
科目名	日本語史Ａ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Language A		
担当者名	山中　延之	旧科目名称	
講義概要	日本史で習ったあの文字は当時どう読まれていたのか？　あの人はどのような言葉を話していたのか？ 日本史で著名な文書・人物・事件等を取り上げ、言葉の問題として解明してゆきます。 例えば次のような問題を扱います。時代で言えば、原始時代から室町時代までです。 問題例） １,「西暦 57 年に日本にもたらされた金印の文字「漢委奴国王」は、当時どう読まれたか？」 「カンノワノナノコクオウ」と習ったと思いますが、もらった側はそう読まなかったはずです。 「漢委奴国王」を「カンノワノナノコクオウ」と読むのは漢文訓読ですが、 当時漢文の訓読が存在した証拠はないのです。詳しくは授業の初回でお話しします。 ２,「清少納言が『枕草子』を音読したらどうなるか？」 「春はあけぼの」は、「ファルゥファアケンボノ」のように発音したでしょう。 録音が残っているわけでもないのに、なぜ分かるのか？　詳しくは授業でお話しします。 秋学期の「日本語史 B」では、その続きを扱います。江戸時代から現代までです。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	出席状況・授業参加状況などによる平常点 15%、期末テスト 85%		
到達目標	日本語の歴史の基本的な知識を身に付ける。 日本の歴史を多面的に考えることができるようになる。		
準備学習	いつでも日本史の基礎知識を確認できるよう、高校の教科書・図録を手元に置いておくこと。		
受講者への要望			
積極的な質問・意見を期待します。 私語・飲食・内職・居眠り等、授業の雰囲気を乱す行為は厳禁とします。			
講義の順序とポイント			
＊1 回の授業の中で複数の時代を扱うこともある。 第 1 回　授業の進め方 第 2～3 回　原始・古代 1（石器・縄文・弥生・古墳・飛鳥）の日本語……（テーマ例）卑弥呼・聖徳太子等 第 4～7 回　古代 2（奈良・平安）の日本語……『万葉集』・『土佐日記』・『枕草子』・『源氏物語』 第 8～11 回　中世 1（鎌倉）の日本語……仏教の言葉・『平家物語』・『徒然草』 第 12～15 回　中世 2（室町）……戦国時代のなぞなぞ・能狂言の言葉・キリスト教宣教師の言葉 期末テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★★

年度	2015	授業コード	J50523B01
科目名	日本語史Ｂ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Language B		
担当者名	山中　延之	旧科目名称	
講義概要	日本史で習ったあの文字は当時どう読まれていたのか？　あの人はどのような言葉を話していたのか？ 日本史で著名な文書・人物・事件等を取り上げ、言葉の問題として解明してゆきます。 例えば次のような問題を扱います。時代で言えば、江戸時代から現代までです。 問題例） １,「時代劇の言葉はその時代の言葉なのか？」 時代劇の言葉は、舞台が江戸時代初期でも幕末でも同じような言葉です。 しかし、江戸時代の始まり（1603 年）から終わり（1868 年）までは 300 年近くあります。 10 世代ほどにも及ぶ期間に言葉が変わらないはずはありませんし、 実際少なからず変化しています。「時代劇言葉」は架空の言葉なのです。 どのように変化したのか？　なぜそれが分かるのか？ なぜ「時代劇言葉」が生まれたのか？　そのルーツは？ ２,「江戸時代に生まれた人の声がインターネットで聞ける？」 聞けます。興味のある人は、次のサイトで探してみて下さい。 「国立国会図書館デジタルコレクション」の「歴史的音源」 {http://dl.ndl.go.jp/#music} 秋学期の「日本語史 A」では、その前の時代を扱います。原始時代から室町時代までです。 両方受講すると理解が深まりますが、どちらか一方の受講でも問題ありません。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加・貢献度等による平常点 15%、期末テスト 85%		
到達目標	日本語の歴史の基本的な知識を身に付ける。 日本の歴史を多面的に考えることができるようになる。		
準備学習	いつでも日本史の基礎知識を確認できるよう、高校の教科書・図録を手元に置いておくこと。		
受講者への要望			
積極的な質問・意見を期待します。 私語・飲食・内職・居眠り等、授業の雰囲気を乱す行為は厳禁とします。			
講義の順序とポイント			
＊1 回の授業の中で複数の時代を扱うこともある。 第 1 回　授業の進め方 第 2～6 回　江戸時代の日本語……（テーマ例）時代劇の言葉等 第 7～11 回　近代（明治・大正・昭和戦前）の日本語……放送の言葉等 第 12～15 回　現代（昭和戦後・平成）の日本語……曾祖父母・祖父母世代の言葉等 期末テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2015	授業コード	J50527A0A
科目名	日本語学講読Ａ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading on Japanese Language Study A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	２回生の「購読」は、卒業論文作成の最初のステップである。購読→演習→卒論の流れを念頭におき、授業に参加されたい。発表用レジュメを作成できる能力を育成する。		
教材（テキスト）	天草版イソポ物語―大英図書館本影印（勉誠出版）		
教材（参考文献）	重要なものは、国語学研究辞典などを参照すること。 それ以外のものについては、自力で見つけることが重要であり、あえて紹介しない。相談には応じる。		
教材（その他）	『邦訳　日葡辞書』。　引けるようにすること。		
評価方法	授業中の発表（５０％）、レポート（５０％）で採点する。		
到達目標	専門演習の前段階として、資料の探索方法を会得する。		
準備学習	その週に授業で取り上げる範囲にあらかじめ目を通しておくこと。		

受講者への要望

私語は厳禁。遅刻もしないように。
予習をしないで他人の発表だけを聞いていても実力が付かないので必ず予習してくること。

講義の順序とポイント

1　授業の概要説明
2　ポルトガル式アルファベットの読み方
3　個人発表・レジュメの書き方検討
4　個人発表・合評
5　個人発表・合評
6　個人発表・合評
7　個人発表・合評
8　個人発表・合評
9　個人発表・合評
10　個人発表・合評
11　個人発表・合評
12　個人発表・合評
13　個人発表・合評
14　個人発表・合評
15　個人発表・合評

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50527B0A
科目名	日本語学講読Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading on Japanese Language Study B		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	２回生の「購読」は、卒業論文作成の最初のステップである。購読→演習→卒論の流れを念頭におき、授業に参加されたい。発表用レジュメを作成できる能力を育成する。		
教材（テキスト）	天草版イソポ物語―大英図書館本影印（勉誠出版）		
教材（参考文献）	重要なものは、国語学研究辞典などを参照すること。 それ以外のものについては、自力で見つけることが重要であり、あえて紹介しない。相談には応じる。		
教材（その他）	『邦訳　日葡辞書』。　引けるようにすること。		
評価方法	授業中の発表（５０％）、レポート（５０％）で採点する。		
到達目標	専門演習の前段階として、資料の探索方法を会得する。		
準備学習	その週に授業で取り上げる範囲にあらかじめ目を通しておくこと。		

受講者への要望

私語は厳禁。遅刻もしないように。
予習をしないで他人の発表だけを聞いていても実力が付かないので必ず予習してくること。

講義の順序とポイント

1　授業の概要説明
2　個人発表・合評
3　個人発表・合評
4　個人発表・合評
5　個人発表・合評
6　個人発表・合評
7　個人発表・合評
8　個人発表・合評
9　個人発表・合評
10　個人発表・合評
11　個人発表・合評
12　個人発表・合評
13　個人発表・合評
14　個人発表・合評
15　個人発表・合評

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50529A01
科目名	日本語学特殊講義Ａ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Language Study A		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	私たちにとって言葉はあまりにも身近すぎて意識されることが少ない。しかし、さまざまな地域、世代の人とのふれあいをきっかけに言葉について関心を持つ経験は誰にでもある。このような経験を出発点として言語について客観的に考える方法を身につける。方言を中心に、若者言葉、日本語の歴史などについても述べ、日本語の特徴を考える。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席点、授業内の課題 50%、学期末課題 50%		
到達目標	現代日本語についての知識を得る。		
準備学習	普段から身近な言葉に注目し、どのような問題があるのかについて整理しておくこと。		
受講者への要望			
講義形式ですが、ほぼ毎回テーマに関する課題やアンケートを出題します。受講者自身の経験が貴重な資料となります。積極的に参加してください。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス、方言とは①方言と共通語 2　方言とは②調査方法 3　方言のしくみ①音韻、アクセント、イントネーション 4　方言のしくみ②語彙、文法 5　方言のしくみ③待遇表現 6　方言の分類 7　方言の歴史 8　現代の方言①方言をアレンジする 9　現代の方言②言語接触 １０　現代の方言③方言のイメージ １１　日本語のバラエティ １２　ら抜きことばの背景 １３　方言と外来語 １４　関西方言① １５　関西方言②、授業の総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50529C01
科目名	日本語学特殊講義Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Language Study C		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	キリシタン資料を教材にして、実際の論文を輪読する。基本教材は、『天草版　エソポ物語』のなかで「購読」では触れることの出来なかった部分を精読する。２回生以上の履修が望ましい。		
教材（テキスト）	勉誠出版『天草版　イソポ物語』　２回生の購読と同じ教科書。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内の評価５０％　期末試験５０％　但し、試験で６０点以上を取ることが必要条件。		
到達目標	中世京都語の全般的知識を養う。卒業論文に直結する調査力を高める。		
準備学習	１回生で履修した「日本語学概論」の内容を復習しておくこと。		
受講者への要望			
注釈書、参考書、インターネットのどれを使ってでも構わないから、とにかく予習をしてくること。			
講義の順序とポイント			
１　教科書の「エソポの生涯」の購読 ２　同上 ３　同上 ４　同上 ５　同上 ６　関係する論文の検索 ７　自分で見つけた論文の解説 ８　同上 ９　同上 １０　同上 １１　同上 １２　同上 １３　同上 １４　同上 １５　同上			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50539101
科目名	日本史研究入門　Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Study of Japanese Histor y Ⅰ		
担当者名	中森　洋	旧科目名称	
講義概要	日本史研究の基礎となる、史料の読み方、調べ方を学ぶ。研究入門Ⅰでは、史料を読み、内容を理解するために必要な基礎知識を学ぶ。その内容は、講義の順序とﾎﾟｲﾝﾄのとおり。授業形式は、講義形式とする。なお、日本史研究入門Ⅱとあわせて履修することが望ましい。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	若尾俊平編著『図録古文書入門事典(新装版)』(柏書房株式会社)、集英社版日本の歴史別巻『日本史研究事典』(集英社)、児玉幸多編『古文書調査ハンドブック』、ほか。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	日本史研究のための基礎知識を習得する。		
準備学習	各単元終了時に、次の単元の講義資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また、復習のために、適宜小テストを行う（行う場合は前回に予告する）。		

受講者への要望

過去の時代の慣習や常識を知らなければ、その時代の人々が残した史料を読んで内容を理解することはできない。内容は、主に江戸時代を扱うので、江戸時代人になったつもりで学習を進めてください。

講義の順序とポイント

１．講義概要と参考図書
２．史料集とその調べ方
３．日本史研究の基礎知識１（旧国名、年号）
４．日本史研究の基礎知識２（暦と時刻法、方角）
５～６．日本史研究の基礎知識３（度・量・衡）
７．日本史研究の基礎知識４（江戸幕府と藩の職制）
８～９．日本史研究の基礎知識５（収取制度）
１０．日本史研究の基礎知識６（貨幣制度）
１１．日本史研究の基礎知識７（宿駅制度）
１２．日本史研究の基礎知識８（古文書のかたち・種類・装丁）
１３．日本史研究の基礎知識９（近世村方文書の分類例）
１４．研究史とその調べ方
１５．日本史研究の基礎知識の要点と整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J50539201
科目名	日本史研究入門　II	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Study of Japanese Histor y II		
担当者名	中森　洋	旧科目名称	
講義概要	日本史研究の基礎となる、史料の読み方、調べ方を学ぶ。研究入門 II では、活字化された史料（古文書）を用いて、その様式と読み方を学ぶ。ただし、近世文書を主とする。それは、地域史を研究しようとするとき、最も多く伝存している史料だからである。授業は、演習形式とする。当初数回は、講師がテキスト（活字化された近世文書）の様式・用途と解読例を示し、次回に受講者が解読の復習をするというかたちをとるが、その後は、受講者を指名した輪読形式とし、講師がそれを補足するという授業形式とする。なお、日本史研究入門 I とあわせて履修することが望ましい。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	日本歴史学会編『概説古文書学・近世編』（株式会社吉川弘文館）、ほか。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	日本史研究の基礎である、活字史料（近世文書）の解読力を身に付けることをめざす。		
準備学習	各単元の最後に、次回のプリントを配布するので、各自で解読の予習をしておくこと。解読を指名された者はいうまでもない。		

受講者への要望

歴史史料が読めないと、歴史学は学べないが、現代人にとって、歴史史料は外国語に近いものである。したがって、解読力を身に付けるには、外国語を学ぶのと同様に、継続的な学習が必須です。なお、史料（古文書）の読み方を習得するには、黙読でなく、声に出して読むことが効果的です。

講義の順序とポイント

1．講義概要と参考図書、近世文書の分類例
2．近世文書の様式と解読１（判物・朱印状・黒印状）
3．近世文書の様式と解読２（法度）
4．近世文書の様式と解読３（条目・藩法）
5．近世文書の様式と解読４（触書・制札）
6．近世文書の様式と解読５（裁許状）
7．近世文書の様式と解読６（村定）
8．近世文書の様式と解読７（五人組帳前書）
9．近世文書の様式と解読８（検地帳）
１０．近世文書の様式と解読９（年貢割付状・皆済目録）
１１．近世文書の様式と解読１０（宗門人別改帳）
１２．近世文書の様式と解読１１（送り手形・請込手形）
１３．近世文書の様式と解読１２（往来手形）
１４．近世文書の様式と解読１３（奉公人請状）
１５．近世文書（活字史料）の様式と解読の要点と整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50541A0A
科目名	歴史民俗学資料講読（日本史） A	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading: Historical Folklore Materials (Japanese History) A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	歴史学は史料を読み解くことから始まる学問ですが、史料を読み解くには、当時の独特の言い回しや言葉に慣れて、当時の社会の仕組みなどの基礎知識もある程度有することが必要となります。本講義では、幕末の京都に生きた町人若山要助の日記を読んでいき、歴史史料をよみとく技術をみにつけていただきます。		
教材（テキスト）	『若山要助日記』（コピーを配布します）		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	とくになし。		
評価方法	定期試験　30%　江戸時代の史料の読解能力、基礎知識について試験します。 平常点　　70%　発表の内容・授業への取り組み方		
到達目標	・江戸時代の史料（刊本史料）の読解能力を養うこと ・史料読解に必要となる歴史的事項の調査方法を習熟すること		
準備学習	講義では、受講者全員にあたる輪読形式で史料の読みを確認しますので、毎回、テキストの予習は必須です。さらに一回につき数人、事前に担当を決めて、調べてきたことを発表してもらいます。発表者は入念な準備が必要になります。		
受講者への要望			
歴史学の魅力は、史料の中に広がる豊かな世界を、自らの手で掘り起こして読み解いていくことにあります。この講義は、みなさんがその豊かな世界へ、自らの足でアプローチできる力をつけるための授業です。発表担当者は、興味をもった事項について、貪欲に調べてみてください。卒論に繋がるようなテーマがそこから見つかるかもしれません。なお本科目はＡ・Ｂとなっておりますが、両方を受講するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　『京都町触集成』の概説 3　歴史史料の読み方の基礎知識 4～15　『京都町触集成』の輪読と発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J50541B0A
科目名	歴史民俗学資料講読（日本史）B	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading: Historical Folklore Materials (Japanese History) B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	歴史学は史料を読み解くことから始まる学問ですが、史料を読み解くには、当時の独特の言い回しや言葉に慣れて、当時の社会の仕組みなどの基礎知識もある程度有することが必要となります。本講義では、江戸時代の京都の町に発布された町触（法令）を集めた史料集『京都町触集成』を読んでいき、歴史史料をよみとく技術をみにつけていただきます。		
教材（テキスト）	『京都町触集成』（コピーを配布します）		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	とくになし。		
評価方法	レポート　30%　発表内容を発展させたレポートを書いて貰います 平常点　　70%　発表の内容・授業への取り組み方		
到達目標	・江戸時代の史料（刊本史料）の読解能力を養うこと ・史料読解に必要となる歴史的事項の調査方法を習熟すること		
準備学習	講義では、受講者全員にあたる輪読形式で史料の読みを確認しますので、毎回、テキストの予習は必須です。さらに一回につき数人、事前に担当を決めて、調べてきたことを発表してもらいます。発表者は入念な準備が必要になります。		
受講者への要望			
歴史学の魅力は、史料の中に広がる豊かな世界を、自らの手で掘り起こして読み解いていくことにあります。この講義は、みなさんがその豊かな世界へ、自らの足でアプローチできる力をつけるための授業です。発表担当者は、興味をもった事項について、貪欲に調べてみてください。卒論に繋がるようなテーマがそこから見つかるかもしれません。なお本科目はＡ・Ｂとなっておりますが、両方を受講するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　『京都町触集成』の概説 3～15　『京都町触集成』の輪読と発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J50544A01
科目名	歴史学特殊講義（日本中世史） I	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese History in the Middle Ages) I		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	本講では、仏教・寺院を中心的素材としながら、日本の古代社会から中世社会への転換過程を検討する。王朝国家体制における政策体系の変化を契機として、古代仏教が中世仏教に自己変革してゆく道程を具体的に明らかにする。また、その歴史過程がはらむ矛盾がどのような新たな歴史展開をもたらしたのかを考えたい。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを適宜配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（20%）、レポート（30%）、定期テスト（50%）		
到達目標	・日本の古代中世史についての最新の学説を理解する。 ・柔軟で批判的な思考様式を体得する。		
準備学習	・高校日本史の教科書の古代・中世の項を復習しておく。		

受講者への要望

・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。
・レポートの課題は授業中に指示する。

講義の順序とポイント

1.「鎌倉新仏教」概念の破綻
2.宗教における合理性と非合理性
3.呪詛と祈祷
4.律令体制から王朝国家体制へ
5.宗教政策の転換
6.中世寺院への転換
7.寺院による文書偽造
8.末法思想の流布
9.民衆にとっての強訴とは？
10.顕密仏教の民衆的基盤
11.鎌倉初期の仏教改革
12.禅律僧の時代
13.非人救済活動の二面性
14. 禅宗と朝廷・幕府
15.法然・親鸞の登場

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50544B01
科目名	歴史学特殊講義（日本中世史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese History in the Middle Ages) II		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	浄土教と女性差別観、そして暴力という三つのテーマについて取りあげ、その特徴、およびそれが日本の古代・中世社会でどのような影響を及ぼしたかについて検討する。仏教はインド・中国から伝来したが、いずれのテーマについても、日本仏教は特殊な発展を遂げた。中世の僧侶や中世人は、これらの問題について、どう向き合ったのか、考えてゆきたい。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期テスト（70%）		
到達目標	・日本中世のさまざまな文化的特徴について、最新の研究動向を理解する。 ・柔軟で批判的な思考を涵養する。		
準備学習	・高校日本史の教科書の古代・中世の項を復習しておく。		
受講者への要望			
・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。			
講義の順序とポイント			
1.井上光貞の研究 2.古代の浄土教 3.中世の在俗出家 4.在俗出家の類型 5.朝廷と出家 6.幕府と出家 7.出家習俗と民衆的世界 8.在俗出家はなぜ広まったのか？ 9.女性差別観と古代社会 10.差別的救済論の展開 11.女性差別観と民衆的世界 12.宗教が暴力であった時代 13.寺院の武装と朝廷 14.寺社への軍勢催促 15.暴力をめぐる言説			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50551A01
科目名	日本美術史Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Arts A		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	日本の絵画史の概説を行う。日本の絵画の歴史は、大陸からもたらされる外来美術の摂取と、それを吸収したうえでの独自の様式の確立を繰り返すという著しい特色がある。その具体的内容は、時代によってさまざまながら、技法や様式を摂取しつつ日本独自の繊細な感性的世界の表出に用いるありさまには、共通点が認められる。 その特色を、各時代の絵画作品の具体例を紹介しつつ解説する。講義の性格上、プリントとＯＨＣ・ビデオを併用して、画像を多く見てもらう方法を取りたい。		
教材（テキスト）	特に用いない		
教材（参考文献）	守屋正彦「すぐわかる日本の絵画」（東京美術、２００２年）		
教材（その他）	毎回、図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート(７５点）と出席状況等による平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了後に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。		
到達目標	日本の文化・芸術の特質を,絵画を通じて理解できるようになることを目標とする。 各時代の絵画の特色を理解することが前提となる。		
準備学習	毎回。授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 必ず調べておくこと。		
受講者への要望			
授業中の私語を慎むこと。注意しても従わないものには、退席を求める。			
講義の順序とポイント			
１．奈良時代以前 ２．平安時代の仏画 ３．平安時代の絵巻物 ４．鎌倉時代の肖像画と縁起絵巻 ５．室町時代の水墨画 ６．安土桃山時代の障屏画（狩野派ほか） ７．　　同　　上　　（長谷川派） ８．狩野派・土佐派 ９．琳派 １０．浮世絵 １１．文人画 １２．円山・四条派 １３．洋風画 １４．奇想の画家たち １５．絵画の材料と絵の具			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50551A02
科目名	日本美術史Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Arts A		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	日本の絵画史の概説を行う。日本の絵画の歴史は、大陸からもたらされる外来美術の摂取と、それを吸収したうえでの独自の様式の確立を繰り返すという著しい特色がある。その具体的内容は、時代によってさまざまながら、技法や様式を摂取しつつ日本独自の繊細な感性的世界の表出に用いるありさまには、共通点が認められる。 その特色を、各時代の絵画作品の具体例を紹介しつつ解説する。講義の性格上、プリントとＯＨＣ・ビデオを併用して、画像を多く見てもらう方法を取りたい。		
教材（テキスト）	特に用いない		
教材（参考文献）	守屋正彦「すぐわかる日本の絵画」（東京美術、２００２年）		
教材（その他）	毎回、図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート(７５点）と出席状況等による平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了後に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。		
到達目標	日本の文化・芸術の特質を,絵画を通じて理解できるようになることを目標とする。 各時代の絵画の特色を理解することが前提となる。		
準備学習	毎回。授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 必ず調べておくこと。		
受講者への要望			
授業中の私語を慎むこと。注意しても従わないものには、退席を求める。			
講義の順序とポイント			
１．奈良時代以前 ２．平安時代の仏画 ３．平安時代の絵巻物 ４．鎌倉時代の肖像画と縁起絵巻 ５．室町時代の水墨画 ６．安土桃山時代の障屏画（狩野派ほか） ７．　　同　　上　　（長谷川派） ８．狩野派・土佐派 ９．琳派 １０．浮世絵 １１．文人画 １２．円山・四条派 １３．洋風画 １４．奇想の画家たち １５．絵画の材料と絵の具			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2015	授業コード	J50551B01
科目名	日本美術史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Arts B		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	日本の陶磁史の概説を行う。日本は古くは中国文化圏の周辺に位置した島国であり、その陶磁発展の歴史的過程では、たびたび大陸の先進的な陶磁製作技術が導入されるとともに、それを意欲的かつ柔軟に吸収しながらも日本独自の感性に根ざした様式美を発展させてきた。また、日本には歴代にわたって大量の中国陶磁が輸入されており、その存在を抜きにしては日本における陶磁の使用状況を語ることができない。 以上のような日本の陶磁の特色に留意しつつ、現代にいたる日本の陶磁の歴史を、ＯＨＣとビデオを多用しながら概観したい。		
教材（テキスト）	特には用いない		
教材（参考文献）	矢部良明「日本やきもの史」（美術出版社、１９９８年）		
教材（その他）	毎回図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート（７５点）と出席状況等による平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。		
到達目標	日本の文化・芸術の特色を、陶磁を通じて理解できるようになることを目標とする。 各時代の陶磁の特色を理解することが前提となる。		
準備学習	毎回、授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 必ず調べておくこと。		
受講者への要望			
私語を慎むこと。注意しても従わないものには退席を求める。			
講義の順序とポイント			
１．縄文土器・弥生土器 ２．土師器・須恵器・奈良三彩 ３．初期貿易陶磁（三彩ほか） ４．初期貿易陶磁（青磁・白磁） ５．灰釉・緑釉 ６．荘園貿易の時代 ７．六古窯 ８．鎌倉・室町時代の輸入陶磁 ９．新安海底遺物 １０．安土桃山時代の茶陶 １１．安土桃山・江戸の輸入陶磁 １２．伊万里焼 １３．後期伊万里・鍋島 １４．京焼 １５．明治以降の陶磁			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50554B0A
科目名	伝統文化専門演習ＩＢ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Culture IB		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	日本の伝統文化の中から、各自が興味を抱いたテーマを１つ選ぶ。そのテーマについての、現在までの研究状況、問題点の把握、自分なりの取りまとめを行って、卒業研究の完成に至るまでの実際の過程を具体的に認識する作業を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点５０点・発表５０点		
到達目標	卒業研究を滞りなく進められるような力をつけることを目標とする。		
準備学習	あらかじめ、掘り下げてみたいテーマを各自考えておくこと。 発表内容に基づいて、研究を進める方向、進め方などについて 具体的に提示するので、レポート提出の準備を進めること。		
受講者への要望			
他の学生の発表を聞いて、討論に加わり、意見・感想を述べることも平常点に含まれているので、積極的に加わってほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　講義の進め方、発表の手順の説明 2.　各自のテーマの持ち寄り、図書館で参考図書を選定 3.　発表と討論、 4.　発表と討論、前回発表者の報告 5.　発表と討論、前回発表者の報告 6.　発表と討論、前回発表者の報告 7.　発表と討論、前回発表者の報告 8.　発表と討論、前回発表者の報告 9.　発表と討論、前回発表者の報告 10.　発表と討論、前回発表者の報告 11.　発表と討論、前回発表者の報告 12.　発表と討論、前回発表者の報告 13.　発表と討論、前回発表者の報告 14.　発表と討論、前回発表者の報告 15.　合評会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50556A0A
科目名	伝統文化専門演習 II A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Culture II A		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	伝統文化に関する卒業論文の指導を目標とする。受講生が卒業研究の候補に選んでいる題材を順次取り上げて発表してもらい、研究テーマの論点が整理できるようにする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	各自のテーマに沿ったものを用意する		
教材（その他）			
評価方法	授業中の発表またはレポート		
到達目標	選んだテーマを詳しく調査してゆくための方法を身につけ、テーマに関する知識を深め、現状での論点となりうるような問題が何処にあるかを的確に認識する能力を養うことを目標とする		
準備学習	卒業論文のテーマの候補を２～３考えておくこと		

受講者への要望

他の発表者の研究方法・発表方法を大いに参考にして自己の研究に生かしてほしい

講義の順序とポイント

1. 各自のテーマの選定
2. 先行する研究書・論文の調査１
3. 先行する研究書・論文の調査２
4. 先行する研究書・論文の調査３
5. 先行研究の読み込み１
6. 先行研究の読み込み２
7. 先行研究の読み込み３
8 調査のまとめを発表１
9. 調査のまとめを発表２
10. 調査のまとめを発表３
11. まとめに対する指導１
12. まとめに対する指導２
13. まとめに対する指導３
14. 指導に基ずく改善作業
15. 改善発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50556B0A
科目名	伝統文化専門演習ＩＩ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Culture Ⅱ Ｂ		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	卒業研究の指導		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要なものを適宜用意する		
教材（その他）			
評価方法	発表の仕方と準備資料		
到達目標	各自のテーマに沿って、卒業研究のための十分な準備と、文章表現力の向上のための添削を繰り返すことを目標とする。		
準備学習	あらかじめ、春学期の演習の具体的成果に基づいて、卒業研究の概要を用意すること。		
受講者への要望			
授業時間だけでなく随時質問・指導の時間を自発的に取るようにしてください			
講義の順序とポイント			
１.卒業研究の完成に向けたロードマップを協議のの上作成 ２～５　　各週の進捗分についての検討 ６　中間報告（完成度５０％以上の内容のものを作成する） １１～１５　各章ごとに完成させたものを順番に検討、個別の問題点の指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50561A01
科目名	日本文化史Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural History of Japan A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	江戸時代は書物の時代ともいわれています。色鮮やかな錦絵や、小説や教科書、辞書、儒学書、まじないの本など、多種多様な本が出版され、日本各地の村々にいたるまで書物が行き渡った時代です。本講義では、そのような江戸時代の多様な出版物を紹介し、さらにそれらがどのように作られ、広まっていたのかを検討しながら、書物を史料として、江戸時代という時代の特色を読み解いていきます。		
教材（テキスト）	使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　50% 試験　50% ※試験は授業内容に関連する論述問題をだします		
到達目標	・江戸時代の書物文化の特色を学ぶこと ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を学ぶこと		
準備学習	毎回のレジュメを熟読して復習をしてください。また講義を休んだ人は、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくようにしてください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。なお日本文化史Ｂの受講を予定している人は必ずこの講義を先に受講してください。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス 第２回　江戸時代の地震となまず絵 第３回　古典が古典になる時代　―『源氏物語』の江戸時代における広まり― 第４回　江戸時代の本の作り方 第５回　江戸時代前期の出版関係法令 第６回　江戸時代後期の出版統制とその対応 第７回　奇想の画家国芳と風刺浮世絵 第８回　幕末期諷刺錦絵と武鑑 第９回　幕末期商人・農民の情報収集活動 第 10 回　江戸時代の流行病とはしか絵 第 11 回　江戸時代の七夕文化 第 12 回　音読から黙読へ 第 13 回　民俗学と文字文化 第 14 回　浮世絵の生産と流通 第 15 回　江戸時代の出版文化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J50561A02
科目名	日本文化史Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural History of Japan A		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	古代・中世の日本文化に関して、２つのテーマをとりあげる。第１は、宗教における合理性と非合理性の問題、第２は神と仏との関係について。①宗教は一般に合理性を超越したものであるが、しかし科学や技術が進歩してくると、それに対応して宗教の内部にも合理性を取り入れなければ社会的信頼を維持することができなくなる。中世仏教がもつ合理と非合理の関係について考える。②仏教はもともと外来文化であるが、それが日本社会に定着するようになると、仏教は日本的なものとみなされ、仏教の繁栄が日本の卓越性を示すものとされた。外来文化がナショナルな感情（自尊的国家観）と結びついた理由について考えたい。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期テスト（70%）		
到達目標	・日本の古代中世の文化について、最新の研究動向を理解する。 ・柔軟で批判的な思考を涵養する。		
準備学習	・高校の日本史教科書の古代・中世の文化の項を復習しておく。		

受講者への要望

・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。

講義の順序とポイント

1.中世は呪術からの解放の時代か？
2.肖像画と呪詛
3.護持僧
4.顕密仏教の合理性
5.治病と祈祷
6.万能でない神仏
7.古代・中世における神と仏
8.神仏同体論
9.賀茂社と神仏習合
10.伊勢神宮と仏教
11.神々と三国世界
12.辺土小国観の克服
13.中世神道と顕密仏教
14.神国思想と仏国思想
15.仏教の時代の終焉と世界地図

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50561B01
科目名	日本文化史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural History of Japan B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	江戸時代は書物の時代ともいわれています。今でも、日本各地の旧家には、江戸時代の書物が残っている家が多くあります。書物文化の隆盛の背景には、出版文化の隆盛、手習い教育の浸透といった動向が背景にありました。本講義では、そのような江戸時代の書物文化の特色を、出版物自体やそれを作る板元や作者、それを取り締まる幕府の法律などにも注目しながらみていき、書物を通して江戸時代という時代への理解を深めてもらいます。		
教材（テキスト）	使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　50% 試験　50% ※試験は授業内容に関連する論述問題をだします		
到達目標	・江戸時代の書物文化の特色を学ぶこと ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を学ぶこと		
準備学習	毎回のレジュメを熟読して復習をしてください。また講義を休んだ人は、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくようにしてください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。なお日本文化史Ａの受講を前提として授業を進めます。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス 第２回　判じ絵を読み解く 第３回　歌麿と幕府の出版統制 第４回　出版文化と日用教養書 第５回　江戸時代教養文化のなかの天皇・公家像 第６回　双六から読み解く歴史 第７回　江戸時代、書物文化の広がりと常識の形成　―近江八景を素材として― 第８回　隠岐の長者村上家と京都 第９回　番付からみる江戸時代 第 10 回　江戸時代における文字の役割 第 11 回　江戸時代の教育 第 12 回　〈子供〉の誕生 第 13 回　出産の歴史 第 14 回　江戸時代の識字率は世界一！？ 第 15 回　江戸時代の文字文化と手習教育			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J50561B02
科目名	日本文化史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural History of Japan B		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	インド・中国から伝来した仏教は、日本で特殊な発展を遂げた。特に中世では、浄土信仰をもとに膨大な数の在俗出家が存在している。藤原道長、白河・鳥羽院、平清盛、北条時頼、足利義満・義持らは、いずれも在俗出家の権力者である。このように中世では、朝廷・幕府はもとより村や町にいたるまで、組織の宿老の多くが出家姿であった。これは古代や近世・近代と異なる日本中世独自の特徴であり、世界史的にみても、日本中世のみに登場する習俗である。また中世は仏教の女性差別観が社会に定着する時代であったし、宗教が暴力でもあった時代である。こうした差別や暴力を中世仏教の主流派は正当化したが、それに反対する仏教も存在した。これらの仏教文化が日本社会に与えた影響について考えたい。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期テスト（70%）		
到達目標	・日本の古代中世文化について、最新の研究動向を理解する。 ・柔軟で批判的な思考を涵養する。		
準備学習	・高校の日本史教科書の古代・中世の文化の項を復習しておく。		
受講者への要望			
・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。			
講義の順序とポイント			
1.焼け跡闇市派と浄土教研究 2.臨終出家から在俗出家 3.多様な出家（１） 4.多様な出家（２） 5.貴族社会の出家 6.武士社会の出家 7.民衆と出家 8.中世ではなぜ殉死が少ないのか？ 9.仏教と女性差別 10.顕密仏教と女性 11.善光寺と女性 12.前近代における暴力とは？ 13.兵杖禁止令と僧兵 14.南北朝内乱と寺社 15.仏教は暴力をどのように正当化したか？			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50564A01
科目名	日本文化論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan I		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	『源氏物語』にみる日本文化の諸相		
教材（テキスト）	プリントを用意する		
教材（参考文献）	授業時に適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	期末レポート点 50％と出席状況等の平常点 50％で評価する。 期末レポートは、次の内容とする。 ①授業内容のまとめ ②大覚寺文献調査 ③大覚寺フィールドワーク報告		
到達目標	『源氏物語』n 描かれている平安期の貴族や庶民の生活文化を知り、その思想や美意識について考える。		
準備学習	高校で学習した古代（平安時代まで）の文学史または文化史について、復習しておくこと		

受講者への要望

本時のレポートは大覚寺のフィールドワークを伴うため、作成に時間と手間と経費が掛かる。
それを了承の上で積極的に授業に参加し、意欲的なレポートを提出してほしい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方
2　「桐壷」巻――和と漢・権力奪取の方法（摂関制と易姓革命）
3　「桐壷」巻――平安京と帝の住まい
4　「桐壷」巻――和歌と仮名文字
5　「桐壷」巻――占いのいろいろ
6　番外編　陰陽師・僧・医師・武士
7　「夕顔」巻――平安京の庶民の暮らし
8　「夕顔」巻――愛の空間・アウトドアからインドアへ
9　「夕顔」巻――廃院の怪異
10　「夕顔」巻――死霊と生霊
11 番外編　ケガレの思想
12　「少女」巻――能力か血統か
13　「少女」巻――「大和魂」の意味
14　「少女」巻――寝殿造の生活
15　番外編　初恋のかなえ方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★		

年度	2015	授業コード	J50564A02
科目名	日本文化論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan I		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	『源氏物語』にみる日本文化の諸相		
教材（テキスト）	プリントを用意する		
教材（参考文献）	授業時に適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	期末レポート点 50％と出席状況等の平常点 50％で評価する。 期末レポートは、次の内容とする。 ①授業内容のまとめ ②大覚寺文献調査 ③大覚寺フィールドワーク報告		
到達目標	『源氏物語』n 描かれている平安期の貴族や庶民の生活文化を知り、その思想や美意識について考える。		
準備学習	高校で学習した古代（平安時代まで）の文学史または文化史について、復習しておくこと		

受講者への要望

本時のレポートは大覚寺のフィールドワークを伴うため、作成に時間と手間と経費が掛かる。
それを了承の上で積極的に授業に参加し、意欲的なレポートを提出してほしい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方
2　「桐壷」巻――和と漢・権力奪取の方法（摂関制と易姓革命）
3　「桐壷」巻――平安京と帝の住まい
4　「桐壷」巻――和歌と仮名文字
5　「桐壷」巻――占いのいろいろ
6　番外編　陰陽師・僧・医師・武士
7　「夕顔」巻――平安京の庶民の暮らし
8　「夕顔」巻――愛の空間・アウトドアからインドアへ
9　「夕顔」巻――廃院の怪異
10　「夕顔」巻――死霊と生霊
11 番外編　ケガレの思想
12　「少女」巻――能力か血統か
13　「少女」巻――「大和魂」の意味
14　「少女」巻――寝殿造の生活
15　番外編　初恋のかなえ方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★		

年度	2015	授業コード	J50564B01
科目名	日本文化論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan II		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	日本文化論Ｉで平安時代までの文化を扱うので、この授業では中世以降の日本の文化を取り上げたい。 今日の日本の文化は、中世にその源流があるものがたくさんある。茶道・華道・香道・能楽など多くの分野に関わる芸術が中世を源流としている。 この講義では、世界から見て大変魅力的な日本独自の文化を、いろいろな角度から眺めてみたい。各回に一つのテーマを設定し、取り上げていく。 この講義はそれぞれの分野の紹介であり、いわば入り口に過ぎないので、各自興味を持った分野の追及をしていってもらいたい。しかし、将来どんな分野に進む人も、日本の文化について最低限の知識が身に付くような講義を展開する予定である。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中の確認テストや課題レポートなどを総合して判断する		
到達目標	日本の文化について総括的な知識の習得を目標とする。各種の文化的事象の理解は必要であるがそれぞれの事象を有機的に関連付けて理解できるようにするのこの授業の目標である。		
準備学習	文化的な事象に触れる機会を増やすため積極的に京都やその他の観光地に出かけてほしい.。 シラバスにテーマが書いてあるので、関連の分野の事物に触れておいてほしい。		
受講者への要望			
授業中の私語はほかの人の迷惑になるのでしないこと。			
講義の順序とポイント			
中世からの文化 １、茶道と文化 ２、華道 ３、能楽と狂言４３、庭園 ４、建築 ５、水墨画 ７、琳派の芸術 近世からの文化 ８、出版 ９、文楽 １０、歌舞伎 １１、浮世絵 １２、旅行 １３、食文化 １４、年中行事 １５、上方と江戸			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50564B02
科目名	日本文化論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan II		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	日本文化論Ｉで平安時代までの文化を扱うので、この授業では中世以降の日本の文化を取り上げたい。 今日の日本の文化は、中世にその源流があるものがたくさんある。茶道・華道・香道・能楽など多くの分野に関わる芸術が中世を源流としている。 この講義では、世界から見て大変魅力的な日本独自の文化を、いろいろな角度から眺めてみたい。各回に一つのテーマを設定し、取り上げていく。 この講義はそれぞれの分野の紹介であり、いわば入り口に過ぎないので、各自興味を持った分野の追及をしていってもらいたい。しかし、将来どんな分野に進む人も、日本の文化について最低限の知識が身に付くような講義を展開する予定である。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中の確認テストや課題レポートなどを総合して判断する		
到達目標	日本の文化について総括的な知識の習得を目標とする。各種の文化的事象の理解は必要であるがそれぞれの事象を有機的に関連付けて理解できるようにするのこの授業の目標である。		
準備学習	文化的な事象に触れる機会を増やすため積極的に京都やその他の観光地に出かけてほしい.。 シラバスにテーマが書いてあるので、関連の分野の事物に触れておいてほしい。		
受講者への要望			
授業中の私語はほかの人の迷惑になるのでしないこと。			
講義の順序とポイント			
中世からの文化 １、茶道と文化 ２、華道 ３、能楽と狂言４３、庭園 ４、建築 ５、水墨画 ７、琳派の芸術 近世からの文化 ８、出版 ９、文楽 １０、歌舞伎 １１、浮世絵 １２、旅行 １３、食文化 １４、年中行事 １５、上方と江戸			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50568A0A
科目名	日本文学専門演習ＩＡ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Literature IA		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	『雨月物語』は、江戸時代中期に京や大坂に住んだ上田秋成によって著された怪異小説である。９編の短編小説で構成されている。作品を読みながら、用語の問題点や、歴史的背景、中国の怪奇小説との関連など、問題点を解説する。また、各自がテーマを決めて授業中に発表を行い、疑問点を出し合いながら、意見を交換する。		
教材（テキスト）	『改訂版　雨月物語』鵜月洋訳注　角川ソフィア文庫　７８１円（税別）		
教材（参考文献）	鵜月洋『雨月物語評釈』（角川書店） 新編日本古典文学全集『英草紙・西山物語・雨月物語・春雨物語』（小学館）		
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点 50% 発表またはレポート５０％		
到達目標	一つのテーマをいろいろな視点から考え、掘り下げていく力を養うこと 発表を通じて、他の人に理解してもらえるように上手に説明することが できるようになること		
準備学習	マンガや子供向きの本でもよいから、 雨月物語全体を読んでおくことが望ましい。		

受講者への要望

テーマを決め、授業中に発表してもらう。
期末のレポートは、発表をしておくと書きやすいので、
なるべく早く発表すること。

講義の順序とポイント

１、雨月物語の解説　（山崎）
２、上田秋成の生涯　（山崎）
３、「白峯」の背景　保元の乱（以下受講生による発表、テーマは仮題）
４、西行法師と崇徳院の怨霊
５、「菊花の約」
６、映画「雨月物語」
７、「夢応の鯉魚」と三井寺
８、鯉を描いた画家～主人公のモデル～
９、「仏法僧」の豊臣秀次
１０、吉備津神社の釜占い
１１、中国の「牡丹燈記」と講談「牡丹燈籠」
１２、中国の「魚服記」
１３、「浅茅が宿」
１４、「蛇性の婬」と「白蛇伝」
１５、「源氏物語」と「雨月物語」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J50568B0A
科目名	日本文学専門演習ＩＢ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Literature IB		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究を作成するための力をつける。卒業研究のテーマの決め方・論文の書き方などを指導する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	担当外の授業での質問・発言・議論等（40%） 担当時の発表（60&）		
到達目標	卒業研究に向けて、各自の扱う作品・テーマを絞り込む。		
準備学習	古典文学史について、高校の副読本程度の知識は身につけておくこと。		
受講者への要望			
しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。			
講義の順序とポイント			
講義日程は、受講生の数により柔軟に対応する。 1 卒業研究について　３回生秋学期にすべきこと 2　さまざまな進路 3　資料の集め方 4　卒業研究の実際（過去の例・他大学の卒業論文・参考論文などを読む） 5～14　同　この間に個々の卒業研究テーマ聞き取り・発表 15　今後の計画作成 なお、毎回小テストを実施する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★★	★★		

年度	2015	授業コード	J50570A0A
科目名	日本文学専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Literature IIA		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	受講生の卒業研究のテーマに合わせて展開する。 受講生には4月~6月にテーマについて発表を試み、 １０月の中間発表を目標に準備する。		
教材（テキスト）	受講生のテーマに共通するものがあれば用いる		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点、授業への参加度、調査などの実績		
到達目標	テーマを詳しく調べる力を養うこと 誰にでもわかるように話し、説得力があるようになること 卒業研究を完成させること		
準備学習	自分の興味のあるテーマを考えること		

受講者への要望

授業に出席するだけでなく、積極的に自分のテーマを発見し
卒業研究にむけて調査をしていくこと

講義の順序とポイント

1　各自テーマの選定
2　図書館で調査～カードの取り方
3　小発表と討論
4　小発表と討論
5　書誌学的調査の方法
6　調査
7　参考文献の紹介
8　参考資料の紹介
9　先行研究を考える
１０　先行研究の紹介
１１　発表
１２　発表
１３　課題を考える
１４　課題を考える
１５　まとめ(試験対策)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	J50570A0B
科目名	日本文学専門演習ＩＩ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Literature IIA		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究の指導を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	学期開始時の発表（40％） 卒業研究の制作に向けての通常の進行状況（60％）		
到達目標	各自の卒業研究制作を機会に、より思考を深めるとともに、論述・創作能力の実質的な伸長を図る。		
準備学習	前年度の専門演習Ｉを土台とする。		
受講者への要望			
卒業研究は大学での学習の総まとめである。生涯の記念とする気構えで制作に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
受講者の人数・状況に応じて柔軟に対応する。 １　卒業研究・創作第一次合同発表会 ２～１５　卒業研究制作作業の報告と確認、今後の作業の見通し、問題点等について、個別に綿密な指導を行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★★		

年度	2015	授業コード	J50570B0A
科目名	日本文学専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Literature IIB		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究を実際に書いていきながら、派生する諸問題を考察していく 中間発表を 10 月下旬に行う		
教材（テキスト）	適宜紹介する		
教材（参考文献）	適宜、紹介する		
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点　発表など		
到達目標	他人が読んでわかるような文章を書けるようになること 論理的な思考ができるようになること		
準備学習	発表の機会に発表するよう 準備してくること		
受講者への要望			
自分の研究だけでなく他の人の研究にも関心をもち 授業中積極的に発言してください。			
講義の順序とポイント			
1　卒業研究に向けて自分のテーマを決める 2　先行研究を調べる 3　資料を集める 4　実際に序文を書いてみる 5　序文を書くためには、何が必要か、資料を集める 6　調査研究 7　調査研究 8　論文の構成を考える 9　第一章を書いてみる １０　第二章を書いてみる １１　第三章を書いてみる １２　第四章を書いてみる １３　まとめを書いてみる １４　注をつけてみる １５　清書			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J50570B0B
科目名	日本文学専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Literature IIB		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究の指導を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	学期開始時の発表（40%） 卒業研究の制作進行（60%）		
到達目標	各自の卒業研究制作を通じて、独創的発想・論理的思考・粘り強い調査・魅力的な文章作成能力の、実質的な伸長を図る。		
準備学習	日本文学専門演習ⅡAの受講を前提とする。		
受講者への要望			
卒業研究は大学での学習の総まとめである。生涯の記念とする気構えで制作に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
受講者の人数・状況に応じて柔軟に対応する。 １　卒業研究・創作　合同中間発表会 ２～１５　卒業研究の執筆分を報告。その問題点の指導、書き直し、今後の執筆作業の見通し、調査上の問題点などについて、個別に綿密な指導を行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★★	★★		

年度	2015	授業コード	J50575B0A
科目名	日本文学講読Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading: Japanese Literature B		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	百人一首を読む・調べる		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業内で提示する		
教材（その他）			
評価方法	非担当時間の質問・発言・議論等（40%） 担当発表（60%）		
到達目標	文学作品について、自分で調べ・まとめ・発表する力を養う。また、他者の発表を聞き評価する態度を養う。		
準備学習	発表に関しては、担当の和歌をしっかり調査・鑑賞した上、充実した発表資料を作成して持参すること。 フロアにおいても、教科書を熟読し、発表に対してきちんとした評価ができるよう準備してくること。		

受講者への要望

自分の発表時以外にも、積極的に意見や質問を行うこと。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方
 担当歌決定
 参考図書紹介

2 レジュメ・パワーポイント・プレゼンテーション模擬発表　（山本）

 本授業での発表は、対戦形式でおこなう。

①当日の発表担当者が各々20 分程度発表する。
内容：担当の和歌および歌人についての解説と、その和歌の素晴らしさについて
（これについて、レジュメ・パワーポイント・プレゼンテーションの各要素を評価する）

②次に、左方と右方のどちらの和歌・歌人が素晴らしいかについて、フロアが質問や意見を述べ、発表者が対応する。
（フロアからの発言者について「フロア・発言点」を、担当者について「担当者・応答点」を評価する）

③双方の主張を受けて、「どちらの和歌・歌人に魅力を感じたか」をフロアが判定する。
（発表担当者に「発表者・判定点」を加味する）

3～15　各回２首（２名）ずつ発表の予定。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★★		

年度	2015	授業コード	J5057700A
科目名	日本文学講読Ｃ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading: Japanese Literature C		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	滝沢馬琴の読本『南総里見八犬伝』を取り上げて読んでいく。 戦国時代初期、安房（千葉県）の国主・里見家にまつわる物語。 江戸後期、滝沢馬琴が文章を、北斎の弟子柳川重信が挿絵を担当して出版され、 半世紀にわたってベストセラーになった歴史小説。古文に自信のない人も歓迎。伏姫と愛犬・八房。一つの原型は中国の『水滸伝』。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点 30%と授業への参加度２０％　およびレポート 50%		
到達目標	江戸時代の小説・滝沢馬琴著『南総里見八犬伝』を読む。物語を楽しみつつ、江戸の風俗や生活の仕組みを理解する。		
準備学習	滝沢馬琴や、中国の白話小説の水滸伝・三国志について、 少し調べておくとわかりやすい。		
受講者への要望			
長編小説なので、欠席すると話がわかりにくくなります。 できるだけ欠席しないで下さい。			
講義の順序とポイント			
１　『南総里見八犬伝』と作者・滝沢馬琴について ２　発端の物語　里見義美と結城合戦 ３　玉梓の呪い ４　伏姫と犬の八房の誕生 ５　富山の洞窟 ６　『水滸伝』のさわりを読む ７　『三国志』のさわりを読む ８　本編の物語　大塚番作と宝刀・村雨丸 ９　手束の懐妊と犬の与四郎 １０　信乃と浜路 １１　番作の死と信の玉の出現 １２　蟇六・亀笹のたくらみ １３　額蔵の生い立ち １４　糠助の頼み～芳流閣の決闘 １５　浜路の運命			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J50594001
科目名	認知心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Cognitive Psychology		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	認知心理学は，広義には哲学，言語学，人類学，神経科学，人工知能研究との結びつきが強く，学際的な学問であるが，狭義には，人間の認知活動を研究する学問である。すなわち，「意識」が外界をどのように認知するかに関する学問である。 本講では，下記の項目を中心に人間の認知活動に関する重要な研究を紹介しながら，理論的および実験的認知心理学について論述する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（20%）は出席状況等による。定期試験結果（80%）		
到達目標	人間の心と行動を認知的アプローチによって理解できるようにすること。		
準備学習	授業のテキスト（レジュメ）を京学なびの「授業資料」に，授業の 1 週間前までにアップロードするので，プリントアウトして，必ず事前に読んで理解しておくこと。 復習の課題は，京学なびの「課題提出」に提示するので，指定期日までに京学なびの「課題提出」に提出すること。		

受講者への要望

①心理学概論を履修しているものとして、授業を進めます。
②授業内容は，かなりレベルが高く，簡単に単位が取れる訳ではありません。
③授業内容を努力して理解すれば，どこにでも通用する人間の認知機能を理解できるようになります。

講義の順序とポイント

1. 認知心理学とは何か：①認知とは何か
2. 認知心理学とは何か：②心理学における認知の扱い
3. 認知心理学とは何か：③認知心理学の誕生
4. 認知的アプローチとは何か
5. 認知心理学の方法
6. これからの認知心理学
7. 初期認知：①子どもに対する大人のイメージ
8. 初期認知：②新生児と乳児の能力
9. 初期認知：③自己認識の発達
10. 視覚認知：①知覚の成立過程
11. 視覚認知：②視覚の基本的特性
12. 視覚認知：③形の知覚
13. 視覚認知：④知覚の情報処理過程
14. 記憶認知：①情報処理過程
15. 記憶認知：②記憶の諸相

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	J5059500A
科目名	認知心理学上級実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Cognitive Psychology		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	心理学上級実験では，心理学基礎実験をさらに発展させ，視覚認知・記憶認知を中心として実験を実施し，実験レポートの提出を求める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%）は出席状況等による。実験レポート（50%）		
到達目標	人間の認知機能について，ある程度専門的に探求できる能力を身につけさせる。		
準備学習	授業のテキスト（レジュメ）を京学なびの「授業資料」に，授業の１週間前までにアップロードするので，プリントアウトして，必ず事前に読んで実験計画を考えておくこと。 復習の課題は，京学なびの「課題提出」に提示するので，指定期日までに京学なびの「課題提出」に提出すること。		

受講者への要望

授業には必ず出席すること。

講義の順序とポイント

＜実験課題の例示＞

（1）視覚認知に関する実験

1．錯視の研究①
2．錯視の研究②
3．錯視の研究③
4．知覚の恒常性①
5．知覚の恒常性②
6．知覚の恒常性③
7．動体認知①
8．動体認知②
9．動体認知③

（2）記憶認知に関する実験

1．系列位置効果①
2．系列位置効果②
3．系列位置効果③
4．記憶の選択作用①
5．記憶の選択作用②
6．記憶の選択作用③

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50596001
科目名	博物館概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Museology		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
講義概要	近年、博物館・資料館等を取り巻く環境は、経済状況の厳しさからその社会的役割・機能についての見直しが 厳しく行われており、決して好調で順調に推移しているとはいえない。 講義では、博物館・資料館等が社会の発展とともにどのように進歩してきたのか、その歴史と現状・課題について概説する。 また現在求められている基本的な目的と機能、さらに関連法律等にも言及し、学芸員や社会教育主事などの職種に従事しようとする者への博物館・資料館等に関する全般的かつ基本的な知識の習得を図る。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等の発達・発展の歴史的背景の理解と、現代社会におけるその基本的目的・役割・機能に関する認識に、さらに関連法律に関する知識の習得を目標とする。		
準備学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。		
受講者への要望			
学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
1　博物館・資料館等の歴史と現状について＜概説１＞ 2　博物館等の歴史的変遷（各論１） 3　博物館等の現状について（各論２） 4　博物館等の現状について（各論３） 5　博物館・資料館等の基本的な目的・機能について＜概説２＞ 6　博物館等の目的について（各論１） 7　博物館等の機能について（各論２） 8　博物館・資料館等の関連法律について＜概説３＞ 9　博物館等の関連法律・博物館法（各論１） 10　博物館等の関連法律・博物館法（各論２） 11　博物館等の関連法律・その他（各論３） 12　博物館・資料館等の今後の課題と展望について＜概説４＞ 13　博物館等の今後の課題について（各論１） 14　博物館等の展望について（各論２） 15　博物館・資料館等と生涯学習について＜概説５＞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50596002
科目名	博物館概論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museology		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	社会教育の一環を担う博物館相当施設には、博物館・美術館から水族館・植物園まで大変幅広いものが含まれている。それらの施設が社会の発展とともにどのように進化してきたのか、その歴史と現在求められている基本的な役割・機能や現状・課題について概説する。学芸員や社会教育主事などの職種に従事しようとする者への博物館・資料館等に関する全般的かつ基本的知識の習得を図りたい。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する		
教材（その他）	毎回資料コピーを配布する		
評価方法	平常点（５０％）は、ノートなど毎回の授業における努力で評価する。残りの５０％は２・３回提出を求める簡単な課題レポートで評価する。		
到達目標	博物館・資料館などの発展の歴史的背景の理解と、現代社会におけるその基本的目的・機能に関する認識に、さらに関連する法律に関する知識の習得を目標とする。		
準備学習	身近な博物館相当施設で行われる各種事業に注意し、新聞等のメディアでの広報に注意を払っておくこと。		

受講者への要望

学芸員資格・社会教育主事資格の取得を目指すもの向けの講義である点を認識して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。

講義の順序とポイント

1・　博物館とは
2・　博物館の歴史
3・　博物館関連の法律
4・　日本の博物館
5・　これからの博物館
6・　博物館の運営（施設）
7・　博物館の運営（陳列）
8・　博物館の運営（展示・平常展）
9・　博物館の運営（展示・特別展）
10・　博物館の運営（資料収集）
11・　博物館の運営（研究と調査）
12・　文化財の保護とその歴史
13・　文化財保護行政
14・　指定文化財１
15・　指定文化財２

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50597001
科目名	博物館情報・メディア論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Information & Media		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	博物館情報論
講義概要	博物館や資料館を取り巻く環境の中で、日進月歩で発展しているのが情報技術であり、その進化のシステムをどのように博物館や資料館で活用利用するのかが大きな課題となっている。 講義では博物館や資料館にとっての情報とは何を意味するのか、各分野の資料に関する情報の収集とその処理と活用について、具体的な実例を紹介しながら、学芸員としての情報の基本的理念・処理・活用・公開の理解と方法論の習得を図る。 あわせて、博物館や資料館とマスメディアとの関係を考えるとともに、その展望と課題について言及したい。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等よる。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館や資料館における情報に関する基本的理念・処理・活用・公開の理解とその方法論の習得を目標とする。		
準備学習	博物館や資料館の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、いろいろなメディアに注意を払っておくこと。		
受講者への要望			
学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
1　博物館・資料館における情報全般について＜概説＞ 2　博物館情報論について　民俗資料 3　博物館情報論について　歴史資料 4　博物館情報論について　その他 5　博物館・資料館の情報技術の活用について＜概説＞ 6　博物館と情報技術について　デジタル技術 7　博物館と情報技術について　マルチメディア 8　博物館と情報技術について　情報システム 9　博物館と情報技術について　文化財システム１ １０　博物館と情報技術について　　文化財システム２ １１　博物館と情報技術について　　文化財システム３ １２　博物館と情報技術について　　展示公開 １３　博物館と情報技術について　　調査研究 １４　博物館と情報技術について　　著作権 １５　博物館情報の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J50597002
科目名	博物館情報・メディア論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Information & Media		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	博物館情報論
講義概要	博物館や資料館を取り巻く環境の中で、日進月歩で発展しているのが情報技術であり、その進化のシステムをどのように博物館や資料館で活用利用するのかが大きな課題となっている。 講義では博物館や資料館にとっての情報とは何を意味するのか、各分野の資料に関する情報の収集とその処理と活用について、具体的な実例を紹介しながら、学芸員としての情報の基本的理念・処理・活用・公開の理解と方法論の習得を図る。 あわせて、博物館や資料館とマスメディアとの関係を考えるとともに、その展望と課題について言及したい。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等よる。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館や資料館における情報に関する基本的理念・処理・活用・公開の理解とその方法論の習得を目標とする。		
準備学習	博物館や資料館の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、いろいろなメディアに注意を払っておくこと。		
受講者への要望			
学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
1　博物館・資料館における情報全般について＜概説＞ 2　博物館情報論について　民俗資料 3　博物館情報論について　歴史資料 4　博物館情報論について　その他 5　博物館・資料館の情報技術の活用について＜概説＞ 6　博物館と情報技術について　デジタル技術 7　博物館と情報技術について　マルチメディア 8　博物館と情報技術について　情報システム 9　博物館と情報技術について　文化財システム１ １０　博物館と情報技術について　　文化財システム２ １１　博物館と情報技術について　　文化財システム３ １２　博物館と情報技術について　　展示公開 １３　博物館と情報技術について　　調査研究 １４　博物館と情報技術について　　著作権 １５　博物館情報の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J50600A01
科目名	発達心理学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Developmental psychology I		
担当者名	畑中　千紘	旧科目名称	
講義概要	胎児期からの発達について，理論および事例を通して学ぶ。母子関係・父子関係・家族を始めとして，社会との関係のなかで，情動・コミュニケーション・言語・社会性などがどのように発達するのかについて学ぶ。また，心理的な発達課題についても触れ，そこから見えてくるものについて考えを深める。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	乳幼児精神医学への招待　小此木啓吾・渡辺久子編（ミネルヴァ書房）		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（授業への参加度，課題提出等を含む授業態度）50%，試験 50%		
到達目標	子どもの心理学的な発達について理解し，自分なりに考えることを目標とする。		
準備学習	近年の母子関係をめぐる出来事や教育における問題など，社会的視点をもち，自分でも考えてみることをしてください。		

受講者への要望

授業への積極的な参加を求めます。グループでの討論などにも積極的に参加して下さい。私語は厳禁です。遅刻・早退なども理由を申し出てください。これらは，皆が落ち着いて授業を聴くために必要なマナーです。授業を落ち着いて聴くことは学生の権利ですので，こうした環境を作るためにご協力をお願いします。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.心理学における「発達」
3.新生児期・乳児期の世界
4.周産期のこころと臨床
5.乳児期のこころ①ものの世界からこころの世界へ
6.乳児期のこころ② 自我の誕生をめぐって
7.乳児期から幼児期まで①わたしの世界/外の世界
8.乳児期から幼児期まで②ことばの発達
9.乳児期から幼児期まで③情動の発達
10.乳児期から幼児期まで④アンビバレントなこころの動き
11.乳児期から幼児期まで⑤ファンタジーと現実
12.認知発達論
13.精神分析的発達理論
14.発達の障害
15.子どもの心理療法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	J50600B01
科目名	発達心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Developmental psychology Ⅱ		
担当者名	畑中　千紘	旧科目名称	
講義概要	人間の発達について，主に児童期以降に焦点をあてて学んでいく。児童期・思春期・青年期・成人期・老年期についてそれぞれどのような人生の課題があると考えられているのかを理解する。また各時期に生じやすい心理的問題についても取り扱う。これらの学習を通して，人間についてより深く豊かに理解することを目指す。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配布する。		
教材（参考文献）	発達の理論をきずく　村井潤一編（ミネルヴァ書房） 子どもの宇宙　河合隼雄（岩波新書）		
教材（その他）	公刊の臨床事例を読む，絵を見ること，映画作品の分析などを通して，多角的に発達に関する課題を考える。		
評価方法	平常点 50％（授業への出席，課題提出などの授業態度）試験 50%		
到達目標	児童期から老年期までの発達について理解し，考えを深めることを目標とする。		
準備学習	自分自身や社会における出来事などに目を向けて，自分なりに発達について考えてみることをしてください。		
受講者への要望			
授業への積極的な参加を求めます。グループでの討論などにも積極的に参加してください。私語は厳禁です。遅刻・早退なども理由を申し出てください。これらは，皆が落ち着いて授業を聴くためのマナーです。授業を落ち着いて聴くことは学生の権利ですので，この環境を作るためにご協力をお願いします。			
講義の順序とポイント			
1.ライフサイクルとは何か 2.児童期の発達課題 3.児童期における自己意識の芽生え 4.児童期に生じやすい心理的問題 5.思春期の発達課題 6.思春期の心性 7.思春期に生じやすい心理的問題 8.成人前期の発達課題 9.成人前期におけるアイデンティティの問題 10.成人期の発達課題 11.成人期における家族関係 12.中年期の発達課題 13.中年期の危機 14.老年期の課題 15.ライフサイクル総論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	J5060300A
科目名	発達臨床実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Training in Clinical Developmental Psych ology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	「臨床心理学専門演習ＩＢ」を補完する授業として位置づけるので、講義概要は「臨床心理学専門演習ＩＢ」と同様である。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業で紹介する。		
教材（その他）	適宜、プリント類を配布する。		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての評価が少しでも上がること。		
準備学習	前回行なった実習について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。そのノートを点検することがある。また、とくに「人間模様」」に関する事柄について読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。		
受講者への要望			
受講者の新しい自分の発見を促す要因を含んだ場を提供したいと思っているので、積極的に取り組んでほしい。受け身だけでは身につくものも身につかない。			
講義の順序とポイント			
１．面接等実習① ２．同　② ３．同　③ ４．同　④ ５．見学事前学習 ６．対人援助現場見学実習① ７．同　② ８．同　③ ９．同　④ １０．体験学習ほか １１．対人援助現場見学実習⑤ １２．同　⑥ １３．同　⑦ １４．検査や家族等についての発達臨床心理学実習① １５．同　② ※これらの内容や順序は変更されることがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50604001
科目名	発達臨床心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Developmental Clinical Psychology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	乳幼児期から中年期・老年期にわたって、具体的なエピソードなどをとおして複雑な社会的諸要因も描出しつつ、援助職の動きの実際やあるべき姿、発達臨床心理学の課題について述べたい。発達臨床心理学を実践し支える現場は多岐にわたるが、担当者は児童相談所勤務を経てきたので、その経験をベースに児童福祉臨床（調査、アセスメント、指導、治療、協働く（コラボレーション）の実際）について多くを語ることになる。そこには、子どもの発達、子どもを育てる場としての家族の発達やその他の重要な要因が含まれる。発達臨床は検査室や治療室のなかだけのものではないし、心理職しか携わらないものでもない。様々な場所、様々な職種の人たちが、対象者の幸せに一歩でも近づくためのひとつの拠り所としている。相談された症状や問題行動を“治す”ためには“育てる”視点も同時にもたなければ、子どもたちの今より少しでもの幸せにはたどりつかない。協働が求められる所以である。広く対人援助業務を紹介することによって、受講生が自分の進路を考える機会にもなればと考えている。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	川畑　隆「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント」 2009　明石書店 麻生・浜田編「よくわかる臨床発達心理学・第２版」 2006 ミネルヴァ書房 その他、授業のなかで随時紹介する。		
教材（その他）	プリント類を使用する。		
評価方法	出席や受講態度による平常点（５０％）。「授業内容の理解」の確認作業の成果の提出（５０％）。		
到達目標	発達臨床、対人援助に関する基本的な考え方を学び、子どもを健全に育成するための視点を自らの内にもてるようになる。		
準備学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながるし、第８回と第１５回授業で行なう「授業内容の理解」に関する確認作業にも大いに役立つ。また、子どもから高齢者に至るまでの生活、発達に関する事象や社会の動きは様々に報道されている。それらに日々接して思考することも発達臨床心理学を学習するために重要なので、ぜひ勧めたい。		

受講者への要望

各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。また、配布した資料にはよく目を通してほしい。

講義の順序とポイント

1.はじめに～発達臨床心理学とは何か
2.あらわれる課題①乳幼児期
3.　同　②児童期・思春期
4.　同　③青年期
5.　同　④中年期・老年期
6.家族とその機能①円環論を中心に
7.　同　②家族の発達
8.残されたテーマと前半授業の補足
9.課題にどう取り組むか
10.知的障害や発達障害①
11.　同　②
12.　同　③
13.不登校や社会的ひきこもり
14.その他の子どもたちが示す現象
15.残されたテーマと後半授業の補足
※授業の内容や順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50605A01
科目名	比較社会論A	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Comparative Societies A		
担当者名	山本　耕平	旧科目名称	
講義概要	「比較社会論」というと、日本という「社会」と海外の「社会」との比較をイメージするひとが多いでしょう。しかし、「日本」を簡単に一つの「社会」といってよいのでしょうか。むしろ、日本といってもそのなかではさまざまなグループが分かれていて、その一つ一つが小さな社会といえるのではないでしょうか。たとえば、お金持ちの社会もあれば明日の生活にも困っているひとたちの社会もあります。芸術家の社会もあればビジネスパーソンの社会もあります。そういった日本のなかの複数の「社会」を「比較」することで日本社会のあり方を学ぶことも、社会について学ぶうえで重要なことです。 この講義ではとくに、近年よく話題にあがる「格差」や「不平等」という問題に注目して、日本のなかの小さな社会について考えます。たとえば、世間ではよく「学歴社会」といいますが、いわゆる高学歴層と低学歴層の間にはどのような・どれくらいの格差があるのでしょうか。また、低学歴層出身の子どもも高学歴層に入るなどして格差が解消されることは、どのくらいあるのでしょうか。さらに、格差や不平等を解決する道はあるのでしょうか。 「格差」や「貧困」といった言葉がメディアをにぎわせるようになったのはごく最近ですが、「社会階層論」という学問分野では、何十年も前からこれらの問題に取り組んできました。この講義では、社会階層論の成果を振り返りながら、日本のなかの格差や不平等について学んでいきます。		
教材（テキスト）	テキストとして指定はしませんが、講義はおおむね参考文献の(1)に沿って進めるので、自身の関心や理解度に応じて予習や復習のために参照することをおすすめします。		
教材（参考文献）	(1) 竹ノ下弘久『仕事と不平等の社会学』弘文堂、(2)太郎丸博『若年非正規雇用の社会学』大阪大学出版会、(3)大竹文雄『日本の不平等』日本経済新聞社、(4)飯田泰之・雨宮処凛『脱貧困の経済学』ちくま文庫		
教材（その他）	特にありません。		
評価方法	平常点（コメント含む）･･･ 30% 期末レポート ･･･････････ 70%		
到達目標	1. 日本の格差について、格差の測り方とともに理解し、説明できるようになること。 2. 格差のあり方や要因にかんする学説を理解し、説明できるようになること。		
準備学習	「格差」や「不平等」と聞くと何の（あるいはどんな）格差や不平等を思い浮かべるか、考えておいてください。また、自身が生活していて「格差」や「不平等」を感じた経験はあるか、思い出しておいてください。		

受講者への要望

板書を使って講義を進めるので、ノート類を用意することをおすすめします（ノートのとり方については授業中に説明します）。また、毎回の授業終了時にリフレクション・シートを書いてもらいます。講義内容は受講生の関心や理解度を考慮しながら調整していきたいと思いますので、質問や感想を積極的に・気楽に書いてください。

講義の順序とポイント

01. イントロダクション（到達目標などの説明）、格差社会という問題の捉えかた
02. いくつかの「格差」から日本の格差を見る
03. 格差を捉える視点(1)：階級構造
04. 格差を捉える視点(2)：アメリカの階層研究
05. 格差を捉える視点(3)：日本の階層研究の展開
06. 歴史から見る日本の格差
07. 日本の階層研究(1)：社会移動と機会の不平等
08. 日本の階層研究(2)：地位達成モデル
09. 日本の階層研究(3)：機会の不平等ふたたび
10. 教育機会の不平等
11. 学校から労働市場への移行
12. グローバル化と労働市場
13. 国際移民と社会階層
14. 格差と不平等の是正策
15. まとめ：社会階層論で分かること・分からないこと

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待						

年度	2015	授業コード	J50605A02
科目名	比較社会論A	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Comparative Societies A		
担当者名	山本　耕平	旧科目名称	
講義概要	「比較社会論」というと、日本という「社会」と海外の「社会」との比較をイメージするひとが多いでしょう。しかし、「日本」を簡単に一つの「社会」といってよいのでしょうか。むしろ、日本といってもそのなかではさまざまなグループが分かれていて、その一つ一つが小さな社会といえるのではないでしょうか。たとえば、お金持ちの社会もあれば明日の生活にも困っているひとたちの社会もあります。芸術家の社会もあればビジネスパーソンの社会もあります。そういった日本のなかの複数の「社会」を「比較」することで日本社会のあり方を学ぶことも、社会について学ぶうえで重要なことです。 この講義ではとくに、近年よく話題にあがる「格差」や「不平等」という問題に注目して、日本のなかの小さな社会について考えます。たとえば、世間ではよく「学歴社会」といいますが、いわゆる高学歴層と低学歴層の間にはどのような・どれくらいの格差があるのでしょうか。また、低学歴層出身の子どもも高学歴層に入るなどして格差が解消されることは、どのくらいあるのでしょうか。さらに、格差や不平等を解決する道はあるのでしょうか。 「格差」や「貧困」といった言葉がメディアをにぎわせるようになったのはごく最近ですが、「社会階層論」という学問分野では、何十年も前からこれらの問題に取り組んできました。この講義では、社会階層論の成果を振り返りながら、日本のなかの格差や不平等について学んでいきます。		
教材（テキスト）	テキストとして指定はしませんが、講義はおおむね参考文献の(1)に沿って進めるので、自身の関心や理解度に応じて予習や復習のために参照することをおすすめします。		
教材（参考文献）	(1) 竹ノ下弘久『仕事と不平等の社会学』弘文堂、(2)太郎丸博『若年非正規雇用の社会学』大阪大学出版会、(3)大竹文雄『日本の不平等』日本経済新聞社、(4)飯田泰之・雨宮処凛『脱貧困の経済学』ちくま文庫		
教材（その他）	特にありません。		
評価方法	平常点（コメント含む）･･･ 30% 期末レポート ･･･････････ 70%		
到達目標	1. 日本の格差について、格差の測り方とともに理解し、説明できるようになること。 2. 格差のあり方や要因にかんする学説を理解し、説明できるようになること。		
準備学習	「格差」や「不平等」と聞くと何の（あるいはどんな）格差や不平等を思い浮かべるか、考えておいてください。また、自身が生活していて「格差」や「不平等」を感じた経験はあるか、思い出しておいてください。		

受講者への要望

板書を使って講義を進めるので、ノート類を用意することをおすすめします（ノートのとり方については授業中に説明します）。また、毎回の授業終了時にリフレクション・シートを書いてもらいます。講義内容は受講生の関心や理解度を考慮しながら調整していきたいと思いますので、質問や感想を積極的に・気楽に書いてください。

講義の順序とポイント

01. イントロダクション（到達目標などの説明）、格差社会という問題の捉えかた
02. いくつかの「格差」から日本の格差を見る
03. 格差を捉える視点(1)：階級構造
04. 格差を捉える視点(2)：アメリカの階層研究
05. 格差を捉える視点(3)：日本の階層研究の展開
06. 歴史から見る日本の格差
07. 日本の階層研究(1)：社会移動と機会の不平等
08. 日本の階層研究(2)：地位達成モデル
09. 日本の階層研究(3)：機会の不平等ふたたび
10. 教育機会の不平等
11. 学校から労働市場への移行
12. グローバル化と労働市場
13. 国際移民と社会階層
14. 格差と不平等の是正策
15. まとめ：社会階層論で分かること・分からないこと

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待						

年度	2015	授業コード	J50605B01
科目名	比較社会論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Comparative Societies B		
担当者名	矢野　裕巳	旧科目名称	比較社会論 B
講義概要	人はなぜ争うのか？　人類の歴史は、戦争の歴史であると言われています。　現在の世界にも、さまざまな紛争、争いが存在します。 毎回、新聞に登場する現在進行中の紛争を題材に、解りやすく学んでいきます。 今回は特に、イスラエル・パレスチナ問題、イスラム原理主義、表現の自由か？宗教への冒涜か？等の 問題を取上げます。 講義が進むにつれて、それぞれの紛争の背後にある共通の問題点を受講者に考えてもらいたいと思います。		
教材（テキスト）	プリント教材を毎回配布		
教材（参考文献）	プリント教材を毎回配布		
教材（その他）			
評価方法	毎講義のなかで２５分～３５分で、その日の講義内容に関するレポートを書いてもらい、ABC ３段階で評価。全講義における得点で成績をつけます。10 講義への出席が絶対条件です。		
到達目標	世界の紛争を考える習慣をつける。何が問題なのかを把握できる力をつける事を目標とします。		
準備学習	毎日、新聞に目を通し、世界の動きに関心を持つように努める。		
受講者への要望			
講義は１回１回が勝負で、講師もその気持ちで望むつもりです。その日の講義は講義中に理解する事を基本に考えます。出席を重視します。			
講義の順序とポイント			
講義１～　講義３　　イスラエル・パレスチナ問題 講義４～　講義１０　　イスラム教について基礎からわかりやすく解説する 講義１１～講義１４　　表現の自由はどこまで許されるのか？ 講義　１５　　日本の役割			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	

年度	2015	授業コード	J50605B02
科目名	比較社会論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Comparative Societies B		
担当者名	矢野　裕巳	旧科目名称	比較社会論 B
講義概要	人はなぜ争うのか？　人類の歴史は、戦争の歴史であると言われています。　現在の世界にも、さまざまな紛争、争いが存在します。 毎回、新聞に登場する現在進行中の紛争を題材に、解りやすく学んでいきます。 今回は特に、イスラエル・パレスチナ問題、イスラム原理主義、表現の自由か？宗教への冒涜か？等の 問題を取上げます。 講義が進むにつれて、それぞれの紛争の背後にある共通の問題点を受講者に考えてもらいたいと思います。		
教材（テキスト）	プリント教材を毎回配布		
教材（参考文献）	プリント教材を毎回配布		
教材（その他）			
評価方法	毎講義のなかで２５分～３５分で、その日の講義内容に関するレポートを書いてもらい、ABC　３段階で評価。全講義における得点で成績をつけます。10 講義への出席が絶対条件です。		
到達目標	世界の紛争を考える習慣をつける。何が問題なのかを把握できる力をつける事を目標とします。		
準備学習	毎日、新聞に目を通し、世界の動きに関心を持つように努める。		
受講者への要望			
講義は１回１回が勝負で、講師もその気持ちで望むつもりです。その日の講義は講義中に理解する事を基本に考えます。出席を重視します。			
講義の順序とポイント			
講義１～　講義３　　イスラエル・パレスチナ問題 講義４～　講義１０　　イスラム教について基礎からわかりやすく解説する 講義１１～講義１４　　表現の自由はどこまで許されるのか？ 講義　１５　　日本の役割			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	

年度	2015	授業コード	J5061200A
科目名	表現療法実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Psychotherapy and Expression		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	描画や箱庭を実際に体験することを通して、イメージを介した心理療法について学ぶ。		
教材（テキスト）	配布資料あり。		
教材（参考文献）	実習の中で紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%） レポート（50%）		
到達目標	「表現」をキーワードとする心理療法の基礎を正しく理解する。		
準備学習	積極的に参考文献などに目を通しておくこと。		

受講者への要望

実習は専門的に高度な内容であるため、心して受講すること。

講義の順序とポイント

実習の具体的な運営方法は、受講生の人数によって変わるので、受講生と相談の上で決定する。

1　オリエンテーション
2　連想実験―実習
3　描画法―バウム、風景構成法―実習
5．6．描画法の理解
7．箱庭療法とは
8～12．箱庭―実習
13．14　箱庭療法の理解
15　表現療法のまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J50613A01
科目名	文化遺産論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Heritage A		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	世界文化遺産は人類が共有すべき優れた普遍的価値を持つ建造物や遺跡などを指している。１９７２年にユネスコにおいて採択された世界遺産条約に基づいて登録される。条約は本来はかけがえのない遺産（文化・自然）の国際的な保護・維持を目的とするものであったが、同時にその地域の観光資源の目玉ともなり、活用・利用されている。 その世界遺産の中から、我が国の文化遺産を取り上げて、その魅力と歴史と価値を解説してゆきたい。日本の文化誌の重要な部分を学習する内容ともなろう。ＯＨＣとビデオ映像を多用して、現地の状況を最大限見ていただきたい。		
教材（テキスト）	特に用いない		
教材（参考文献）	世界遺産に関しては、数多くの書籍が出版されているのであえて指定はしない。		
教材（その他）	毎回、図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート(７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。		
到達目標	日本の文化・芸術の粋を、時代を追って概観することで、日本の歴史・文化に対する理解を深めることを目標とする。また、各文化遺産の重要性・普遍的価値を明確に認識したい。		
準備学習	毎回の授業終了後に、次回の世界遺産に関する参考文献をいくつか提示するので、その特色についてあらかじめ調べておくこと。		
受講者への要望			
授業中の私語を慎むこと。注意しても従わないものには、退席を求める。			
講義の順序とポイント			
１．　世界遺産とは、古都奈良の文化財 ２．　法隆寺 ３．　東大寺 ４．　正倉院 ５．　平城宮 ６．　薬師寺・唐招提寺 ７．　興福寺・春日大社 ８．　延暦寺 ９．　高野山・吉野山 １０．　東寺・西本願寺 １１．　平等院 １２．　平泉 １３．　熊野三山 １４．　厳島神社 １５．　高山寺・仁和寺			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	J50613A02
科目名	文化遺産論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Heritage A		
担当者名	向井　佑介	旧科目名称	
講義概要	文化遺産は、過去の人びとによって生みだされ、現在まで継承されてきた有形・無形の遺産である。そのなかで、人類が共有すべき優れた普遍的価値を持つ建造物や遺跡などが、ユネスコの世界遺産リストに登録されている。この授業では、ユネスコの世界遺産や日本の文化財保護制度についての基礎的な知識を身につけるとともに、文化遺産の調査・保護・修理・復元・活用などの諸問題について、具体例を参照しながら考えていく。日本を代表する文化遺産をとりあげ、写真や映像を参照しながら、その魅力と歴史的価値を解説していく。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布する		
評価方法	期末のレポート（７０点）と出席状況や授業態度等による平常点（３０点）の合計で評価する。		
到達目標	日本を代表する文化遺産を概観することで、日本の歴史と文化に対する理解を深めるとともに、それぞれの文化遺産がもつ重要性と普遍的価値を認識し、それらがかかえる現代的課題を理解することを目標とする。		
準備学習	毎回の授業終了後に、次回あつかう文化遺産に関する参考文献を指示するので、あらかじめ予習しておくこと。		

受講者への要望

授業中の私語を慎むこと。注意しても従わないものには、退席を求める。

講義の順序とポイント

１．　文化遺産とは何か
２．　飛鳥寺と法隆寺
３．　五重塔の謎
４．　飛鳥・藤原宮の発掘
５．　平城宮の発掘と復原
６．　大仏はどこからきたか
７．　正倉院とシルクロード
８．　鑑真と唐招提寺
９．　空海の文化遺産
１０．　平等院と六勝寺
１１．　平泉の文化遺産
１２．　紀伊山地の霊場と参詣道
１３．　祇園祭の山鉾
１４．　宇治茶のある景観
１５．　文化遺産をめぐる諸問題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50613B01
科目名	文化遺産論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Heritage B		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	文化遺産論Ａに引き続き、日本の世界文化遺産の残りを解説する。その後引き続いて、暫定遺産を解説する。暫定遺産は、国内での選定手続きを経て、ユネスコにおける正規の登録を目指す候補地である。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	文化遺産論Ｂに同じ		
教材（その他）	毎回図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。		
到達目標	文化遺産論Ａに同じ		
準備学習	文化遺産論あＡに同じ		
受講者への要望			
私語を慎むこと。注意しても従わないものには退席を求める。			
講義の順序とポイント			
１．　京都の庭園（天龍寺、龍安寺、西芳寺など） ２．　醍醐寺・清水寺 ３．　金閣寺・銀閣寺 ４．　二条城・賀茂神社 ５．　琉球王国 ６．　石見銀山 ７．　原爆ドーム・白川郷 ８．　日光 ９．姫路城・彦根城 １０．　百舌鳥・古市古墳群、沖ノ島 １１．　飛鳥・藤原京跡 １２．　鎌倉 １３．　富士山 １４．　佐渡金山 １５．　近代産業遺跡（富岡・九州）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	J50613B02
科目名	文化遺産論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Heritage B		
担当者名	向井　佑介	旧科目名称	
講義概要	文化遺産は、過去の人びとによって生みだされ、現在まで継承されてきた有形・無形の遺産である。そのなかで、人類が共有すべき優れた普遍的価値を持つ建造物や遺跡などが、ユネスコの世界遺産リストに登録されている。この授業では、ユネスコの世界遺産や日本の文化財保護制度についての基礎的な知識を身につけるとともに、文化遺産の調査・保護・修理・復元・活用などの諸問題について、具体例を参照しながら考えていく。日本だけでなく、アジアやヨーロッパなどの代表的な文化遺産を比較対象としてとりあげ、写真や映像を参照しながら、その魅力と歴史的価値を解説していく。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布する		
評価方法	期末のレポート（７０点）と出席状況や授業態度等による平常点（３０点）の合計で評価する。		
到達目標	日本および世界の代表的な文化遺産についての基礎知識を身につけるとともに、それぞれの文化遺産がもつ重要性と普遍的価値を認識し、それらがかかえる現代的課題を理解することを目標とする。		
準備学習	毎回の授業終了後に、次回あつかう文化遺産に関する参考文献を指示するので、あらかじめ予習しておくこと。		

受講者への要望

私語を慎むこと。注意しても従わないものには退席を求める。

講義の順序とポイント

１．　文化遺産を発掘する
２．　古代の食文化をさぐる
３．　古代のトイレ事情
４．　天皇陵をめぐる問題
５．　エジプト文明の遺産（１）
６．　エジプト文明の遺産（２）
７．　インダス文明の遺産
８．　ギリシアとローマの都市遺産
９．　殷墟と甲骨文字
１０．　始皇帝陵と兵馬俑坑
１１．　アンコール・ワット
１２．　バーミヤーン
１３．　壁画古墳の保存
１４．　盗難・流出文化財の返還
１５．　文化遺産と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50619A01
科目名	文化社会学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Culture A		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	私たちはたとえ自分自身が移動しなくても、同じ肌の色、同じ言葉、同じ価値観や行動様式の人たちだけに囲まれて一生を送る事ができない時代になりました。少子高齢化による人口減少によって、身近かな家庭、学校、地域、会社などで「違い」をもつ人たちとの共生が不可欠になったからです。本講義でとりあげる文化の「違い」とは、人種や民族だけではなく、地域や年齢、職業、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教などです。それらが、どのような場面でどのように問題になるのか、世界の多文化状況と比較しながら日本のあり方、グローバル時代のサバイバルを考えていきます。		
教材（テキスト）	『改訂版 異文化論への招待ーー違いとどう向き合うか』黒木雅子　朱鷺書房　2014		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回の授業内容はにてレジメとしてを配布		
評価方法	平常点（30%)出席状況等による。テストと提出物など（70%）		
到達目標	グローバル時代のサバイバルを考える		
準備学習	授業最後に次回の準備学習を指定する		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や想像力で異文化とらえてください			
講義の順序とポイント			
1.イントロダクションーー「バベルの塔」から 2, 自文化に気づくとき 3. 文化を身につけるー社会化 4,社会化とステレオタイプ 5,アイデンティティという見えない文化 6, 日系アメリカ人のアイデンティティ 7.ミクロ社会学でみる「本当の私」 8 「違い」がもたらす自文化変容 9, 「違い」とコミュニケートする 10,言語的コミュニケーション 11, 非言語コミュニケーション 12,コミュニケーションにおけるコンテクスト 13, カルチャーショックによる文化変容 14, 逆カルチャーショックと W カーブ仮説 15.「国際的」コミュニケーションとは？			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50619A02
科目名	文化社会学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Culture A		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	私たちはたとえ自分自身が移動しなくても、同じ肌の色、同じ言葉、同じ価値観や行動様式の人たちだけに囲まれて一生を送る事ができない時代になりました。少子高齢化による人口減少によって、身近かな家庭、学校、地域、会社などで「違い」をもつ人たちとの共生が不可欠になったからです。本講義でとりあげる文化の「違い」とは、人種や民族だけではなく、地域や年齢、職業、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教などです。それらが、どのような場面でどのように問題になるのか、世界の多文化状況と比較しながら日本のあり方、グローバル時代のサバイバルを考えていきます。		
教材（テキスト）	『改訂版 異文化論への招待ーー違いとどう向き合うか』黒木雅子　朱鷺書房　2014		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回の授業内容はにてレジメとしてを配布		
評価方法	平常点（30%)出席状況等による。テストと提出物など（70%）		
到達目標	グローバル時代のサバイバルを考える		
準備学習	授業最後に次回の準備学習を指定する		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や想像力で異文化とらえてください			
講義の順序とポイント			
1.イントロダクションーー「バベルの塔」から 2, 自文化に気づくとき 3. 文化を身につけるー社会化 4,社会化とステレオタイプ 5,アイデンティティという見えない文化 6, 日系アメリカ人のアイデンティティ 7.ミクロ社会学でみる「本当の私」 8 「違い」がもたらす自文化変容 9, 「違い」とコミュニケートする 10,言語的コミュニケーション 11, 非言語コミュニケーション 12,コミュニケーションにおけるコンテクスト 13, カルチャーショックによる文化変容 14, 逆カルチャーショックと W カーブ仮説 15.「国際的」コミュニケーションとは？			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50619B01
科目名	文化社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Culture B		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	私たちはたとえ自分自身が移動しなくても、同じ肌の色、同じ言葉、同じ価値観や行動様式の人たちだけに囲まれて一生を送る事ができない時代になりました。少子高齢化による人口減少によって、身近かな家庭、学校、地域、会社などで「違い」をもつ人たちとの共生が不可欠になったからです。本講義でとりあげる文化の「違い」とは、人種や民族だけではなく、地域や年齢、職業、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教などです。それらが、どのような場面でどのように問題になるのか、世界の多文化状況と比較しながら日本のあり方、グローバル時代のサバイバルを考えていきます。		
教材（テキスト）	『改訂版 異文化論への招待ーー違いとどう向き合うか』黒木雅子　朱鷺書房　2014		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回の授業内容はレジメとして授業で配布。		
評価方法	平常点（30%)出席状況等による。テストと提出物など（70%）		
到達目標	グローバル時代のサバイバルを考える		
準備学習	授業最後に次回の準備学習を指示する		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や想像力で異文化の問題をとらえてください			
講義の順序とポイント			
講義の順序とポイント 1,後期イントロダクション 2, 所属集団と準拠集団の不一致 3, 格差社会と社会資源 4, 誰もがマイノリティになる時代 5, 人種とエスニシティ 6.日本のなかのマイノリティ 7. 大学生のサブカルチャー・ショック 8, 単一民族神話と日本人論 9, 黄禍論とは 10, ビデオで見る日本の多文化 １１,.「違い」と暴力 12. 二つの「違い」 13.異文化から多文化へ 14, 多文化社会とは 15. 「違い」とどう向き合うか			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50619B02
科目名	文化社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Culture B		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	私たちはたとえ自分自身が移動しなくても、同じ肌の色、同じ言葉、同じ価値観や行動様式の人たちだけに囲まれて一生を送る事ができない時代になりました。少子高齢化による人口減少によって、身近かな家庭、学校、地域、会社などで「違い」をもつ人たちとの共生が不可欠になったからです。本講義でとりあげる文化の「違い」とは、人種や民族だけではなく、地域や年齢、職業、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教などです。それらが、どのような場面でどのように問題になるのか、世界の多文化状況と比較しながら日本のあり方、グローバル時代のサバイバルを考えていきます。		
教材（テキスト）	『改訂版 異文化論への招待ーー違いとどう向き合うか』黒木雅子　朱鷺書房　2014		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回の授業内容はレジメとして授業で配布。		
評価方法	平常点（30%)出席状況等による。テストと提出物など（70%）		
到達目標	グローバル時代のサバイバルを考える		
準備学習	授業最後に次回の準備学習を指示する		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や想像力で異文化の問題をとらえてください			
講義の順序とポイント			
講義の順序とポイント 1,後期イントロダクション 2, 所属集団と準拠集団の不一致 3, 格差社会と社会資源 4, 誰もがマイノリティになる時代 5, 人種とエスニシティ 6.日本のなかのマイノリティ 7. 大学生のサブカルチャー・ショック 8, 単一民族神話と日本人論 9, 黄禍論とは 10, ビデオで見る日本の多文化 １１,.「違い」と暴力 12. 二つの「違い」 13.異文化から多文化へ 14, 多文化社会とは 15. 「違い」とどう向き合うか			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50629A0A
科目名	歴史民俗学資料講読（口頭伝承） A	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading: Historical Folklore Materials (Oral Cultural Tradition) A		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	神話研究の第一人者であるレヴィ＝ストロースの論文を読みます。語られている内容は難解なものですが、神話や物語を 学術的に分析してみたいと考えている人なら、取り組む価値があると思います。		
教材（テキスト）	レヴィ＝ストロース　『神話論理』 I		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表（７０％）授業への貢献度（３０％）		
到達目標	レヴィ＝ストロースを怖がらないで読めるようになること。		
準備学習	毎回前もって『神話論理』の指定された箇所を読んでくること。		
受講者への要望			
自分の担当する箇所は、せめて一ヶ月前から読み始めること。			
講義の順序とポイント			
１講読の進め方について ２レヴィ＝ストロース ３神話論理１の輪読１ ４神話論理１の輪読２ ５神話論理１の輪読３ ６神話論理１の輪読４ ７神話論理１の輪読５ ８神話論理１の輪読６ ９神話論理１の輪読７ １０神話論理１の輪読８ １１神話論理１の輪読９ １２神話論理１の輪読１０ １３神話論理１の輪読１１ １４神話論理１の輪読１２ １５神話論理を振り返って			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50629B0A
科目名	歴史民俗学資料講読（口頭伝承） B	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading: Historical Folklore Materials (Oral Cultural Tradition) B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	（1）昔話の分析理論の代表的なものを輪読する。 （2）自分の愛する研究者をひとり発見しましょう。		
教材（テキスト）	ウラジミール　プロップ『昔話の形態学』		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表（７０％）　授業への貢献度（３０％）		
到達目標	昔話の分析方法について理解する。 自分の愛する研究者をひとり発見する。		
準備学習	必ず事前にテキストの指定された箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
自分の愛する研究者を発見するためには、たくさんの書物を読まなければなりません。			
講義の順序とポイント			
1『昔話の形態学』輪読 2『昔話の形態学』輪読 3『昔話の形態学』輪読 4『昔話の形態学』輪読 5『昔話の形態学』輪読 6『昔話の形態学』輪読 7『昔話の形態学』輪読 8『昔話の形態学』輪読 9『昔話の形態学』輪読 10『昔話の形態学』輪読 11　私の愛する研究者 1 12　私の愛する研究者 2 13　私の愛する研究者 3 14　私の愛する研究者 4 15　私の愛する研究者 5			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50639A02
科目名	民俗学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Folklore Studies A		
担当者名	橘　弘文	旧科目名称	
講義概要	わたしたちは、みな、だれもが生活を実践しています。それらの生活は、長い時間の人間の営みのうえにきずかれてきました。民俗学は、生活というあたりまえの現実のうちにひそむ豊かな人間の文化に焦点をあわせます。人間の生活は、ふだんはあまり意識されることはない世界観によってささえられています。そうした世界観は、神話、伝説、昔話などの口承文芸や、祭りなどの儀礼などのうちに垣間見ることができます。この授業では、柳田国男の『遠野物語』を読みながら、生活とその世界観について考えます。		
教材（テキスト）	柳田国男『新版　遠野物語　付・遠野物語拾遺』角川ソフィア文庫		
教材（参考文献）	授業中に、適宜、紹介します。		
教材（その他）			
評価方法	授業内の小テスト等による平常点（40%）。レポートの作成と発表（60%）。		
到達目標	生活というあたりまえの実践について内省する視点を獲得し、柳田国男著『遠野物語』を多様な視座から読み解くことを目標とします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示します。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席してください。私語を厳禁とします。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案して、退出を求めます。学外授業をおこなうこともあります。

講義の順序とポイント

1　はじめに
2　民俗学のはじまり
3　『遠野物語』に語られる多元的な生活世界
4　『遠野物語』に語られる神話的伝承と生活とのつながり
5　民間信仰と生活
6　『遠野物語』に語られる「道」、「集落」、「家屋」
7　家の盛衰
8　人の一生　1　出産と誕生
9　人の一生　2　成人と結婚
10　人の一生　3　死と葬送
11　一年の行事　1　新年の行事
12　一年の行事　2　盆行事
13　『遠野物語』に語られる山人をめぐる伝承
14　事件と伝説
15　民俗社会と近代化

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J50639B01
科目名	民俗学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Folklore Studies B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	受講生の皆さんが、何気なく行っている日常の習慣や節目の行事に注目し、その由来や意味を考えることによって、日本文化とは何かを相対的に考えていきたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	学期末考査および授業内提出物		
到達目標	日本文化を相対的にとらえる視点を持つ。		
準備学習	授業中に紹介された文献をあらかじめ読んでおくこと。		
受講者への要望			
生活の中の季節の行事や人生の節目の儀礼などにできるだけ参加してみましょう。			
講義の順序とポイント			
１民俗文化についてⅠ ２日本神話とその広がりⅠ ３日本神話とその広がりⅡ ４米と芋 ５発酵食品 ６相互唱の伝統 ７相互唱行為の広がり ８日本の葬式 ９アジアの葬式 １０修験の行事とその背景Ⅰ １１修験の行事とその背景Ⅱ １２御田植え行事 １３日本の昔話とその広がりⅠ １４日本の昔話とその広がりⅡ １５民俗文化についてⅡ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50655A01
科目名	妖怪文化論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture and Conceptions of the Strange A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	古来、日本人は、身近に、妖怪なる存在を認識してきました。人が病気になったり、日照りが続いたり、洪水が起こったりした時、人々は、その原因を妖怪に求めてきたのです。その正体は、最初は誰も見たことのない、形のない、存在として、気配や音、あるいは匂いや肌で認識していました。つまりそれは、語りの世界でのみ存在していたわけです。後に、日本人はそれを図像化するようになります。それが妖怪画として知られるようになり、現代の私たちにとっては、妖怪を漫画や映画等によって、具体的な姿形と共に、想像するようになっています。このように、妖怪なる存在は、語り、文学、絵画、漫画、映画等で描かれ続けてきた、一つの日本文化の姿なのです。 妖怪文化論 A では、そのうち特に、語られた妖怪と、妖怪が出没する場所、風景について論じます。		
教材（テキスト）	佐々木高弘著『怪異の風景学―妖怪文化の民俗地理』古今書院、2014 年		
教材（参考文献）	小松和彦著『妖怪文化入門』せりか書房、2006 年		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 20%、学期末レポート 80%		
到達目標	妖怪文化が様々な学問分野にまたがっている点、妖怪文化の多様な見方がある点を理解することを目標とする。		
準備学習	講義ごとに提示する教科書の指定箇所を予習・復習した上で受講すること。		

受講者への要望

受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。

講義の順序とポイント

1　妖怪文化とは：語りから造形化へ（百鬼夜行絵巻、画図百鬼夜行、水木しげる）
2　妖怪文化研究の歴史：井上円了・柳田国男から小松和彦まで
3　妖怪の見える風景：『今昔物語集』『源氏物語』『宇治拾遺物語』
4　妖怪体験とことば：風景認識の三角形
5　妖怪の走る風景：柳田国男の『妖怪談義』、「クビナシウマ」と「首切れ馬」
6　集団の見た妖怪：妖怪の出没場所を選ぶ伝承集団
7　頭の中の妖怪地図：伝説の構造分析とメンタルマップ
8　妖怪の二つの場所：妖怪の聞き取り調査
9　『千と千尋の神隠し』に描かれた怪異世界の風景：少女の引っ越し
10　怪異世界と心のなかの景観：見えない風景の知覚
11　現代日本人の怪異世界イメージ：『リング』『ワンダフル・ライフ』『呪怨』
12　廃墟と幽霊・怪異世界：18 世紀後半の妖怪画革命とピクチャレスクの流行
13　現代の廃墟と近代化遺産：18 世紀後半と現代の比較
14　妖怪の出没する場所と時代：妖怪のメッセージ
15　世界に進出する妖怪文化：求められる日本人の世界観

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J50655B01
科目名	妖怪文化論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture and Conceptions of the Strange B		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	古来、日本人は、身近に、妖怪なる存在を認識してきました。人が病気になったり、日照りが続いたり、洪水が起こったりした時、人々は、その原因を妖怪に求めてきたのです。その正体は、最初は誰も見たことのない、形のない、存在として、気配や音、あるいは匂いや肌で認識していました。つまりそれは、語りの世界でのみ存在していたわけです。後に、日本人はそれを図像化するようになります。それが妖怪画として知られるようになり、現代の私たちにとっては、妖怪を漫画や映画等によって、具体的な姿形と共に、想像するようになっています。このように、妖怪なる存在は、語り、文学、絵画、マンガ、映画等で描かれ続けてきた、一つの日本文化の姿なのです。 　妖怪文化論Ｂでは、そのうち特に、描かれた妖怪と、妖怪が跳梁するメディア、表現について論じます。		
教材（テキスト）	小松和彦『妖怪文化論入門』角川ソフィア文庫		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%）出席状況等による。レポート（70%）		
到達目標	妖怪文化論という視点、位置を理解する。		
準備学習	テキストは事前に読んでおくこと。また各講義で参考文献を提示するので、読んで理解を深めるための学習に時間を割く必要がある。		
受講者への要望			
自ら本を読み、現場を歩いて下さい。			
講義の順序とポイント			
（1）イントロダクション I.絵を解読する （2）絵を読む方法 （3）図像学 （4）絵引き （5）絵解き （6）アニメ『平成狸合戦ぽんぽこ』 （7）狸のイメージ II. 妖怪の造形 （8）狸という妖怪存在 （9）八百八狸 （10）八百八狸続 （11）絵巻物の表現 （12）絵巻物と芸能 （13）浮世絵の表現 （14）仏教美術の表現 （15）神経にもぐりこんだ妖怪			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50658001
科目名	理論社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Theoretical Sociology		
担当者名	新堂　粧子	旧科目名称	
講義概要	理論とは諸概念を相互連関的に組み合わせたセットである。社会学もまた他の学問と同様、理論は命題のかたちを取る。命題はすべて「AはBである」という単純なかたちに還元できる。たとえば「社会は個人の総和以上のものである」というようなかたち。この例が示すように、社会学の命題には万人が満場一致で異論なく受け入れているようなものはない。しかし時の流れの中で今日まで論議されてきた命題は、万人の認める真理を表してはいないにせよ、それに相対的に近い円周の上にあると見てよかろう。このような観点から本講義ではいくつかの社会学的命題を選んで解説を試みる。これらの中には一般理論のほかに社会学の特定領域にかかわる理論や特定の歴史段階あるいは特定の文化にかかわる理論も含まれている。しかしこれらは一般理論につうじるものである限りにおいて選ばれた。なお、取り上げる命題の中には社会学からだけではなく、哲学、精神分析、心理学などの他の分野からも、社会学的命題への重要なかかわりがある限りにおいて選ばれている。解説を予定している命題は【講義の順序とポイント】に示す通りである。		
教材（テキスト）	作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』ちくま学芸文庫		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中に行う命題ごとの小テスト		
到達目標	社会学的思考方法に接し、理論のおもしろさとは何かをつかむことをめざす。		
準備学習	上記のテキストを手掛かりに、みずから興味のある社会学的命題をさがしてみること。		
受講者への要望			
出席した以上は、私語を慎んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1. 社会学的思考について 2. 預言の自己成就（R.K.マートン）① 3. 預言の自己成就（R.K.マートン）② 4. 欲望の模倣とモデル＝ライバル論（R.ジラール）① 5. 欲望の模倣とモデル＝ライバル論（R.ジラール）② 6. 志向のくいちがいと羞恥（M.シェーラー）① 7. 志向のくいちがいと羞恥（M.シェーラー）② 8. 閉じた社会と開いた社会（H.ベルクソン）① 9. 閉じた社会と開いた社会（H.ベルクソン）② 10. 人格崇拝の成立（E.デュルケム）① 11. 人格崇拝の成立（E.デュルケム）② 12. プロテスタンティズムの倫理と資本主義（M.ウェーバー）① 13 プロテスタンティズムの倫理と資本主義（M.ウェーバー）②. 14. 自由からの逃走（E.フロム）① 15. 自由からの逃走（E.フロム）②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			★★

年度	2015	授業コード	J50658002
科目名	理論社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Theoretical Sociology		
担当者名	新堂　粧子	旧科目名称	
講義概要	理論とは諸概念を相互連関的に組み合わせたセットである。社会学もまた他の学問と同様、理論は命題のかたちを取る。命題はすべて「AはBである」という単純なかたちに還元できる。たとえば「社会は個人の総和以上のものである」というようなかたち。この例が示すように、社会学の命題には万人が満場一致で異論なく受け入れているようなものはない。しかし時の流れの中で今日まで論議されてきた命題は、万人の認める真理を表してはいないにせよ、それに相対的に近い円周の上にあると見てよかろう。このような観点から本講義ではいくつかの社会学的命題を選んで解説を試みる。これらの中には一般理論のほかに社会学の特定領域にかかわる理論や特定の歴史段階あるいは特定の文化にかかわる理論も含まれている。しかしこれらは一般理論につうじるものである限りにおいて選ばれた。なお、取り上げる命題の中には社会学からだけではなく、哲学、精神分析、心理学などの他の分野からも、社会学的命題への重要なかかわりがある限りにおいて選ばれている。解説を予定している命題は【講義の順序とポイント】に示す通りである。		
教材（テキスト）	作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』ちくま学芸文庫		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中に行う命題ごとの小テスト		
到達目標	社会学的思考方法に接し、理論のおもしろさとは何かをつかむことをめざす。		
準備学習	上記のテキストを手掛かりに、みずから興味のある社会学的命題をさがしてみること。		
受講者への要望			
出席した以上は、私語を慎んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1. 社会学的思考について 2. 預言の自己成就（R.K.マートン）① 3. 預言の自己成就（R.K.マートン）② 4. 欲望の模倣とモデル＝ライバル論（R.ジラール）① 5. 欲望の模倣とモデル＝ライバル論（R.ジラール）② 6. 志向のくいちがいと羞恥（M.シェーラー）① 7. 志向のくいちがいと羞恥（M.シェーラー）② 8. 閉じた社会と開いた社会（H.ベルクソン）① 9. 閉じた社会と開いた社会（H.ベルクソン）② 10. 人格崇拝の成立（E.デュルケム）① 11. 人格崇拝の成立（E.デュルケム）② 12. プロテスタンティズムの倫理と資本主義（M.ウェーバー）① 13 プロテスタンティズムの倫理と資本主義（M.ウェーバー）②. 14. 自由からの逃走（E.フロム）① 15. 自由からの逃走（E.フロム）②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			★★

年度	2015	授業コード	J50662A01
科目名	臨床心理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Psychology I		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	臨床心理学ｓ
講義概要	臨床心理学とは、病気や障害あるいは不幸な出来事などによってひき起こされる心の悩みや苦しみを軽減するために、心理的援助を行い、それを通して問題の解決や改善を目指す学問である。本講では、臨床心理学の成り立ちや、その理論や治療技法に関する主要な考え方について解説する。		
教材（テキスト）	教科書は特に使用しない。		
教材（参考文献）	菅佐和子、他著　「臨床心理学の世界」　有斐閣		
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	定期試験（７０％）、平常点（３０％）出席状況等による。		
到達目標	こころの問題への心理的援助に求められる基本的な理論や治療技法の理解を目指す。		
準備学習	授業１週間前までに、授業資料を京学ナビにアップロードするので、事前に読んで予習しておくこと。わからない専門用語は、調べておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
私語や遅刻、教室の出入りを厳禁とする。私語が過ぎる場合、他者への迷惑を考慮して退室を求める。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　臨床心理学とは何か・臨床心理学の研究法 ３　臨床心理学の歴史 ４　心理アセスメント　知能検査（ビネー式） ５　心理アセスメント　知能検査（ウェクスラー式） ６　心理アセスメント　人格検査（質問紙法） ７　心理アセスメント　人格検査（投影法） ８　異常心理学　正常と異常 ９　異常心理学　精神障害の分類 １０　異常心理学　精神障害の症状 １１　カウンセリングの基本的問題 １２　カウンセリングの基本的技術 １３　カウンセリングの理論（フロイト・ユング） １４　カウンセリングの理論（ロジャース・行動療法） １５　臨床心理士の活動領域			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						★

年度	2015	授業コード	J50662B01
科目名	臨床心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Psychology Ⅱ		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	臨床心理学ｆ
講義概要	臨床心理学Ⅰでの学習内容を踏まえて、心理的問題に対する援助に必要な基礎的理論・治療技法の概略を学ぶ。 臨床心理学とは、心理学を中心とした知識や理論を用いて、心の問題を抱えた人やその家族を理解し、それらの人々を援助するための方法を研究・実践する、心理学の一分野である。しかし「心の問題」の内容は多岐にわたる上に、その原因や対処方法は複雑である。クライエント(来談者)の訴えは日常的な悩みや心理的ストレスによる身体的・精神的症状のこともあれば、幻覚・妄想などの病理体験を伴うものであることもある。また、発達障害を持つ子供を養育・援助する上での問題、慢性身体疾患に罹患したり身体的障害を被ったりした際の心理的負担なども援助の対象となる。従ってそれらの問題への対処方法の理解・実践には、まず人格構造やその形成過程についての様々な理論を学び、それに基づいて心の問題を分析・理解した上で、心理検査や観察によって見立てを行い、実際に様々な援助技法を用いて援助していくという過程が必要である。 本講義では、臨床心理学Ⅰでの学習内容を踏まえた上で、人生の様々な年代においてどのような臨床心理学的課題が存在しているのかを、発達心理学的な分析も加えながら学ぶと共に、人格構造や援助技法に関する基礎的理論を学習する。		
教材（テキスト）	平木典子・袰岩秀章　編著　カウンセリングの基礎　臨床の心理学を学ぶ　北樹出版		
教材（参考文献）	川瀬・松本・松本　　心とかかわる臨床心理－基礎・実際・方法　ナカニシヤ出版		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	学期末試験　７０％　レポート及び平常点　３０％		
到達目標	臨床心理学の基礎的理論を習得するとともに、様々な心理的問題・精神的障害についての理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に、次回の講義内容にかんする資料を配布するか、該当する教科書の箇所を指示するので、それを熟読しておくこと。		
受講者への要望			
授業中は当然私語厳禁です。それに加えて、関連図書を読むなど、自らの関心に従って積極的に学ぶ姿勢が必要です。			
講義の順序とポイント			
1～5．臨床心理学における基礎理論－－人格・発達理論 （フロイト、エリクソン、ロジャーズなど） 6～10．臨床心理学的治療論及び具体的治療技法 （精神分析、来談者中心療法、行動療法など） 11．各発達段階にみられる様々な問題－－乳幼児期 12．各発達段階にみられる様々な問題－－児童期 13．各発達段階にみられる様々な問題－－青年期 14．各発達段階にみられる様々な問題－－成人期・老年期 15．心理臨床の実際 但し、1～5 と 6～10 は適宜順序を入れ換えて、組み合わせて講義する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50665A0A
科目名	臨床心理学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Clinical Psychology		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	１．臨床心理学に関する基礎的な知識を身につけ、論文が読めるようになること。 ２．卒業研究を視野に入れ、論文の形式やテーマの設定方法、心理学研究法の応用の仕方、先行研究の調査方法などを理解すること。 　これらの課題を実行するために、ａ．臨床心理学の文献講読を実施し、論文を読みこなしてまとめ、発表すると共に、それに関連した研究を検索・発表する、ｂ．自分の関心あるテーマに関する成書・論文を手にいれて、その領域に関する先行研究を調査すると共に、どういったアプローチが必要かを理解する、といった内容を１年を通して実施する。 　また心理面接実習との関連で、自発的な動きがあれば、グループ・ワーク的活動も実施する。		
教材（テキスト）	市橋秀雄　『心の地図　こころの障害を理解する　上・下』星和書店		
教材（参考文献）	必要な図書は、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中の発表(50%)及びレポート(50%)を総合して評価する。		
到達目標	臨床心理学に関する基礎的な知識や技法を身につけると共に、自分の興味関心を研究へと結びつける枠組みを作り上げる。		
準備学習	毎回、次回の演習に対する準備学習を指示する。		
受講者への要望			
心理学基礎実験Ａ・Ｂ両方の単位及び臨床心理学Ⅰ・Ⅱの単位を修得済みであること。積極的な姿勢で努力すること。			
講義の順序とポイント			
1．臨床心理学専門演習ＩＡの運営方針について－－オリエンテーション 2．就職ガイダンス 3～7．こころの地図　上巻講読・発表　乳幼児期～児童期 8．学習と進路について 9～11．こころの地図　上巻講読・発表　青年期　1 12．学習と進路について 13～14．こころの地図　上巻講読・発表　青年期　2 15．総合的検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50665A0B
科目名	臨床心理学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Clinical Psychology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学はその専門家になる人にだけでなく、広く対人援助を志したい人、職業生活や日常生活での対人関係をより豊かなものにしていきたい人にとって、役に立つ学である。そしてその学の実践は「自分」が行なっていくのであり、そのためには自分自身の成長が重要である。この演習ではゼミ生の精神的力量の向上に焦点を当てる。扱うテーマや教材は臨床心理学と直接は関連が薄いように思われるものも多いかもしれないが、必要な時に援助を求める人の横に居て、その人から信頼を得られる人に少しずつでも近づけるための工夫であり、それは臨床心理学的目的をもったものである。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業で紹介する。		
教材（その他）	適宜、プリント等を配布する。		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての評価が少しでも上がること。		
準備学習	前回行なった内容について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。そのノートを点検することがある。また、とくに「人間模様」」に関する事柄について読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。		

受講者への要望

受講者の新しい自分の発見を促す要因を含んだ場を提供したいと思っているので、積極的に取り組んでほしい。受け身だけでは身につくものも身につかない。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、個別面談①ほか
２．知り合うセッション①
３．同　②
４．テーマディスカッション①
５．同　②
６．文献講読・英文読解・体験学習のいずれか①
７．同　②
８．同　③
９．同　④
１０．同　⑤
１１．同　⑥
１２．同　⑦
１３．テーマディスカッション③
１４．同　④
１５．個別面談②ほか
※以上については、内容や順序の変更があり得る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50665A0C
科目名	臨床心理学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Clinical Psychology		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学や医療心理学の基礎文献の講読および発表を通して、臨床心理学や医療心理学の基礎概念や主題などの理解を深める。さらに、将来の卒業論文作成を視野において、各自の問題意識や素朴な疑問を専門分野における課題に練り上げていく作業を推し進めていきたい。また、医療心理臨床の現場で出会う様々な疾患や、それに対する援助技術についても学習する。 春学期は、様々な文献を全員で講読および発表して、臨床心理学や医療心理学についての理解を深める。		
教材（テキスト）	教科書は特に使用しない。		
教材（参考文献）	乾　吉佑、他編　「医療心理臨床」　星和書店		
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（２０％）。		
到達目標	臨床心理学や医療心理学の基礎概念や主題などの理解を深めることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習での発表や議論には、積極的・主体的に取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　学習と進路 Ⅰ ３　文献講読（医療心理臨床） ４　文献講読（医療における臨床心理士の役割） ５　文献講読（総合病院における心理臨床） ６　文献講読（単科精神病院における心理臨床） ７　文献講読（精神科クリニックにおける心理臨床） ８　学習と進路　Ⅱ ９　文献講読（心療内科領域における心理臨床） １０　文献講読（小児科領域における心理臨床） １１　学習と進路　Ⅲ １２　文献講読（リハビリテーション領域における心理臨床） １３　文献講読（歯科口腔外科領域における心理臨床） １４　文献講読（産婦人科領域における心理臨床） １５　文献講読（開業クリニック領域における心理臨床）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★		★	

年度	2015	授業コード	J50665A0D
科目名	臨床心理学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Clinical Psychology		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学、深層心理学の文献購読及び発表を通して、文献を精読してまとめて発表する方法を習得するとともに、臨床心理学、深層心理学の基礎的な知識を学ぶ。特にＩＡでは、『子どもの宇宙』で取り上げられている児童文学を通して、人間の深い理解を試みる。登録者の人数にもよるが、心理療法についての文献以外にも物語、神話、昔話、小説、映画なども取り上げながら、人間の理解を深める。		
教材（テキスト）	河合隼雄著　子どもの宇宙　岩波新書		
教材（参考文献）	河合隼雄著　ユング心理学入門　培風館 他にも必要に応じて随時紹介をする。		
教材（その他）			
評価方法	平常点：出席及び討論への参加状況など（５０％） 発表及びその内容をまとめたレポート　（50%）		
到達目標	到達目標 専門演習ＩＡ、Ｂを通して １）興味・関心ある文献を選び、精読し、内容をまとめて発表できるようにする。 ２）口頭で発表した内容をレポートとしてまとめる。 上記１）２）を通して研究の方法の基礎を身に付ける。 自分の考えを人に伝えたり、人の意見に耳を傾け、討論ができるようにする。 ＊　大学院進学を志望する者は、そのための基礎学力、語学力をつける―個別に対応―。		
準備学習	討論に積極的に参加できるように、次の発表内容に関する文献には目を通す。		

受講者への要望

読書重視のゼミである。
教材としては『子どもの宇宙』で取り扱われている児童文学と臨床事例が中心となるが、内容的には心理臨床に対しての基本的な姿勢、見方について学ぶため、その覚悟を持って受講すること。

講義の順序とポイント

注）履修者の人数によって内容は変わりうる。
1　オリエンテーション：演習の運営方法について話し合いの上決定。各人の興味や関心について、発表の順番決定など。
2　『子どもの宇宙』　第１章　子どもと家族　発表および討論
３　　家族とは？
4　『子どもの宇宙』　第２章　子どもと秘密　発表および討論
5　秘密を持つことの心理学的意味
6　『子どもの宇宙』　第３章　子どもと動物　発表および討論
7　動物のもつ象徴的意味・心理学的意味
8　『子どもの宇宙』　第４章　子どもと時空　発表および討論
9　心理臨床学的視点から見た時間と空間
10　『子どもの宇宙』　第５章　子どもと老人　発表および討論
11 子どもと老人の関わりをテーマにした児童文学を読む
12　『子どもの宇宙』　第６章　子どもと死　　発表および討論
１３　児童文学とビデオを通して、「死」について考える
14　　『子どもの宇宙』　第７章　子どもと異性　発表および討論
１５　『子どもの宇宙』全７章全てを通しての討論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50665B0A
科目名	臨床心理学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Clinical Psychology		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	１．臨床心理学に関する基礎的な知識を身につけ、論文が読めるようになること。 ２．卒業研究を視野に入れ、論文の形式やテーマの設定方法、心理学研究法の応用の仕方、先行研究の調査方法などを理解すること。 　これらの課題を実行するために、ａ．臨床心理学の文献講読を実施し、論文を読みこなしてまとめ、発表すると共に、それに関連した研究を検索・発表する、ｂ．自分の関心あるテーマに関する成書・論文を手にいれて、その領域に関する先行研究を調査すると共に、どういったアプローチが必要かを理解する、といった内容を実施する。 　また心理面接実習との関連で、自発的な動きがあれば、グループ・ワーク的活動も実施する。		
教材（テキスト）	市橋秀雄　『心の地図　こころの障害を理解する　上・下』星和書店		
教材（参考文献）	必要な図書は、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中の発表(50%)及びレポート(50%)を総合して評価する。		
到達目標	臨床心理学に関する基礎的な知識や技法を身につけると共に、自分の興味関心を研究へと結びつける枠組みを作り上げる。		
準備学習	臨床心理学専門演習ＩＡの内容を、再度よく理解しておくこと。 各講義ごとに、次週のための課題を提示する。		
受講者への要望			
心理学基礎実験Ａ・Ｂ両方の単位及び臨床心理学Ⅰ・Ⅱの単位を修得済みであること。積極的な姿勢で努力すること。			
講義の順序とポイント			
1．春学期のまとめ 2～5.　　こころの地図　下巻講読・発表　人格障害 6～9.　　こころの地図　下巻講読・発表　躁うつ病 10～13.　こころの地図　下巻講読・発表　統合失調症 14．病院見学 15．総合的検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50665B0B
科目名	臨床心理学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Clinical Psychology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学はその専門家になる人にだけでなく、広く対人援助を志したい人、職業生活や日常生活での対人関係をより豊かなものにしていきたい人にとって、役に立つ学である。そしてその学の実践は「自分」が行なっていくのであり、そのためには自分自身の成長が重要である。この演習ではゼミ生の精神的力量の向上に焦点を当てる。扱うテーマや教材は臨床心理学と直接は関連が薄いように思われるものも多いかもしれないが、必要な時に援助を求める人の横に居て、その人から信頼を得られる人に少しずつでも近づけるための工夫であり、それは臨床心理学的目的をもったものである。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業で紹介する。		
教材（その他）	適宜、プリント等を配布する。		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての評価が少しでも上がること。		
準備学習	前回行なった内容について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。そのノートを点検することがある。また、とくに「人間模様」に関する事柄について読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。		

受講者への要望

受講者の新しい自分の発見を促す要因を含んだ場を提供したいと思っているので、積極的に取り組んでほしい。受け身だけでは身につくものも身につかない。

講義の順序とポイント

１．進路と卒業研究①
２．個別面談①ほか
３．文献講読・英文読解・体験学習のいずれか①
４．同　②
５．見学事前学習
６．対人援助現場見学実習①
７．同　②
８．同　③
９．同　④
１０．見学実習のふりかえり等
１１．対人援助現場見学実習⑤
１２．同　⑥
１３．同　⑦
１４．進路と卒業研究②
１５．個別面談②ほか
※以上については、内容や順序の変更があり得る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50665B0C
科目名	臨床心理学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Clinical Psychology		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学や医療心理学の基礎文献の講読および発表を通して、臨床心理学や医療心理学の基礎概念や主題などの理解を深める。さらに、将来の卒業論文作成を視野において、各自の問題意識や素朴な疑問を専門分野における課題に練り上げていく作業を推し進めていきたい。また、医療心理臨床の現場で出会う様々な疾患や、それに対する援助技術についても学習する。 秋学期は、臨床心理学や医療心理学に関する論文を、全員で講読および発表を行う。また、秋学期の後半は、各自の問題意識や疑問に関する文献を収集し、それをまとめたものを発表し、卒業研究で取り組むテーマの決定につなげていく。		
教材（テキスト）	教科書は特に使用しない。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（２０％）。		
到達目標	臨床心理学や医療心理学の基礎概念や主題などの理解を深めることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習での発表や議論には積極的・主体的に取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション・個人面談 ２　個人面談 ３　論文講読 ４　論文講読 ５　論文講読 ６　論文講読 ７　論文講読 ８　論文講読 ９　個人テーマ発表 １０　個人テーマ発表 １１　個人テーマ発表 １２　個人テーマ発表 １３　個人テーマ発表 １４　個人テーマ発表 １５　個人テーマ発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★		★	

年度	2015	授業コード	J50665B0D
科目名	臨床心理学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Clinical Psychology		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	専門演習ⅡA・B においての卒業研究を視野に入れ、自分の関心ある研究テーマを模索し、関連する研究の文献を探して、読みこなし、発表をする。発表の際には、討論を積極的に行い、幅広い専門的知識を身に付ける。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点:出席及び討論への参加状況など(50%) 発表及びその内容をまとめたレポート　（50%）		
到達目標	各自関心ある研究テーマを絞る。 専門演習ＩＡでも挙げているが、文献を読みこなしその内容を、自分の言葉を用いて人に説明をする、 さらに自分の考えをまとめて発表したり、討論したりする能力を身につける。		
準備学習	研究発表の際には討論に参加できるように次回の発表の関連文献を読んで準備をしておくこと。		

受講者への要望

積極的に論文を読み、読書を進めること。
読書を重視するので、その自覚を持って登録すること。

講義の順序とポイント

1　　オリエンテーション
2　　文献発表・討論--読む文献については、履修者と話し合いの上で決めます（心理臨床、物語、文学、神話、ユング心理学に関わるもの)。
3　　文献発表・討論
4　　文献発表・討論
5　　文献発表・討論
6　　文献発表・討論
7　　文研発表・討論
8　　研究発表・討論
9　　研究発表・討論
10　研究発表・討論
11　　研究発表・討論
12　研究発表・討論
13　　研究発表・討論
14　　研究発表・討論
15　研究発表・討論
具体的な運営方法については登録者の人数によっても異なるので、相談のうえ決定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50667A0A
科目名	臨床心理学専門演習 II A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Clinical Psychology		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち、重点的に取り組もうとする個別テーマを絞り込む。そのテーマに即して、先行研究を展望し、具体的な研究方法を検討し、決定する。 その過程において、臨床心理学についての、より専門的な探求を推し進める。		
教材（テキスト）	その都度指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	発表 50%、討論 50%として、総合的に判断する。		
到達目標	専門演習 IB で学んだ知識を元に、研究テーマを絞り込み、卒業論文の準備や作成を進める。先行研究に基づいた研究計画を立てる。		
準備学習	毎回次週までの課題が出るので、着実にこなすことが求められる。		
受講者への要望			
卒業研究は自らが作成するものであるから、自分の問題意識を纏めると共に、主体的に授業にかかわること。			
講義の順序とポイント			
1.　オリエンテーション・個人面談 2.　卒業研究について 3.　関連文献講読 4.　関連文献講読 5.　テーマ選定 6.　テーマ選定・討議 7.　テーマ決定 8.　先行研究展望の発表 9.　先行研究展望の発表 10.　先行研究展望の発表 11.　実施方法検討 12.　実施方法検討 13.　実施方法検討 14.　実施準備 15.　実施準備			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50667A0B
科目名	臨床心理学専門演習ⅡＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Clinical Psychology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	演習ＩＡ・Ｂの延長としての発達臨床心理学演習、各自の卒業研究指導、進路に関する相談などを目的として、大学生活最後の１年間であることを意識しながら、各時間を構成する。		
教材（テキスト）	川畑隆「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント－」 2009　明石書店 ※１回目の授業で割引販売を行なうので事前に購入する必要はない。		
教材（参考文献）	都筑学著「心理学論文の書き方～おいしい論文のレシピ～」2006 有斐閣アルマ		
教材（その他）	必要に応じてプリント類を配布する		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自のテーマにそった卒業研究の実施に向けた準備ができること。		
準備学習	前回行なった内容について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。そのノートや、自分の卒業研究のテーマについて学習した内容について点検することがある。また、とくに「人間模様」に関する事柄について読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。についての学習を行なうこと。		

受講者への要望

就職活動を行ないながらの出席、卒業研究の準備となるが、大学での学習の締めくくりなので頑張ってほしい。

講義の順序とポイント

１．進路・卒業研究に関して①
２．　〃　②
３．過去の卒業研究の講読①
４．　〃　②
５．グループ別テーマ研究①
６．　〃　②
７．　〃　③
８．　〃　④
９．　〃　⑤
１０．文献（教科書）講読。各自の卒業研究個別指導①
１１．　〃　②
１２．　〃　③
１３．　〃　④
１４．　〃　⑤
１５．　〃　⑥
※上記の内容や順序は変更があり得る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50667A0C
科目名	臨床心理学専門演習ＩＩ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Clinical Psychology		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち、重点的に取り組もうとする個別テーマを絞り込む。そのテーマに即して、先行研究を展望し、卒業研究を行い、論文にまとめる。これらを通じて、臨床心理学や医療心理学のより専門的な探求を推し進める。 春学期は、卒業論文の作成に向けて、下記のテキストを全員で講読する。		
教材（テキスト）	都筑学著　「心理学論文の書き方」　有斐閣		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（２０％）。		
到達目標	各自が取り組むテーマに即して、卒業論文の準備や作成を目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		

受講者への要望

演習での発表や議論には積極的・主体的に参加してほしい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション・個人面談
2　個人面談
3　文献講読
4　文献講読
5　文献講読
6　文献講読
7　文献講読
8　文献講読
9　先行研究展望の発表
１０　先行研究展望の発表
１１　先行研究展望の発表
１２　先行研究展望の発表
１３　先行研究展望の発表
１４　先行研究展望の発表
１５　先行研究展望の発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★		★	

年度	2015	授業コード	J50667A0D
科目名	臨床心理学専門演習 II A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Clinical Psychology		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の作成を念頭に置きながら、各人の興味関心合わせて研究を進めることを通して、臨床心理学・深層心理学について学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点：出席及び討論への参加状況など（５０％） 発表及びその内容をまとめたレポート（50%）		
到達目標	専門演習 IB で絞り込んだ研究テーマに関する先行文献を探して、自らの研究の位置づけを明らかにしながら、卒業研究の計画を進める。		
準備学習	討論に積極的に参加できるように、関連のある文献に目を通しておく。		

受講者への要望

自ら能動的に学ぶ姿勢を身につけてほしい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　文献購読
3　文献購読
4　先行研究に関する発表
5　先行研究に関する発表
6　先行研究に関する発表
7　先行研究に関する発表
8　先行研究に関する発表
9　卒業研究計画発表
10　卒業研究計画発表
11　卒業研究計画発表
12　卒業研究計画発表
13　卒業研究計画発表
14　予備（計画発表）
15　予備（計画発表）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50667A0E
科目名	臨床心理学専門演習 II A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Clinical Psychology		
担当者名	畑中　千紘	旧科目名称	
講義概要	各自の興味あるテーマを絞って文献を読み、発表する。 ゼミ生が中心の授業です。しっかりと参加して下さい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への積極的な参加		
到達目標	各自の興味あるテーマを選び、調べ、まとめること。 他者の発表を聞き、自分の意見も言えること。		
準備学習	心理療法に関する文献を読むこと		
受講者への要望			
積極的に参加して下さい。			
講義の順序とポイント			
1 オリエンテーション 2 文献講読（こちらが指定します） 3 文献講読（こちらが指定します） 4 文献講読（こちらが指定します） 5 文献講読（こちらが指定します） 6 各自のテーマに沿って発表 7 各自のテーマに沿って発表 8 各自のテーマに沿って発表 9 各自のテーマに沿って発表 10 各自のテーマに沿って発表 11 各自のテーマに沿って発表 12 各自のテーマに沿って発表 13 各自のテーマに沿って発表 14 各自のテーマに沿って発表 15 各自のテーマに沿って発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50667B0A
科目名	臨床心理学専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Clinical Psychology		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	専門演習 II A での検討を元に、各自が関心を持つテーマについて研究を行う。 研究結果については、適宜中間報告を行い、軌道修正をしながら、最終的な論文に纏め上げていく。		
教材（テキスト）	必要に応じて指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	発表および討議(50%)、卒業論文の提出(50%)。		
到達目標	卒業論文作成のための調査や分析を実施し、論文を纏め上げることを目標とする。		
準備学習	毎時間、研究および論文作成の進行状況に応じた課題を指示する。		
受講者への要望			
自分の論文を作成するために、主体的・積極的に参加することが求められる。			
講義の順序とポイント			
1.　オリエンテーション・個人面談 2.　論文構想の中間報告 3.　論文構想の中間報告 4.　研究実施の中間報告 5.　研究実施の中間報告 6.　研究実施の中間報告 7.　結果・考察の検討 8.　結果・考察の検討 9.　結果・考察の検討 10.卒業論文作成 11.卒業論文作成 12.卒業論文作成 13.卒業論文作成 14.卒業論文発表 15.卒業論文発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50667B0B
科目名	臨床心理学専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Clinical Psychology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	各自の卒業研究指導、進路に関する相談などを目的として、大学生活最後の１年間であることを意識しながら、各時間を構成する。		
教材（テキスト）	とくに指定しない。		
教材（参考文献）	都筑学著「心理学論文の書き方～おいしい論文のレシピ～」2006 有斐閣アルマ		
教材（その他）	必要に応じてプリント類を配布する		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自のテーマにそった卒業研究の実施と完成。		
準備学習	自分の卒業研究の完成に向けたあらゆる準備を行なうこと。その進行具合や内容について随時チェックを行なう。		

受講者への要望

就職活動を行ないながらの出席、卒業研究の実施、完成となるが、大学での学習の締めくくりなので頑張ってほしい。

講義の順序とポイント

１．卒業研究と進路について
２．卒業研究等に関する個別相談指導①
３．　〃　②
４．文献講読あるいはテーマ・ディスカッション①
５．　〃　②
６．　〃　③
７．卒業研究中間発表会①
８．　〃　②
９．文献講読あるいはテーマ・ディスカッション④
１０．　〃　⑤
１１．卒業研究等に関する個別相談指導③
１２．　〃　④
１３．文献講読あるいはテーマ・ディスカッション⑥
１４．　〃　⑦
１５．　〃　⑧
※上記の内容や順序は変更があり得る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50667B0C
科目名	臨床心理学専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Clinical Psychology		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち、重点的に取り組もうとする個別テーマを絞り込む。そのテーマに即して、先行研究を展望し、卒業研究を行い、論文にまとめる。これらを通じて、臨床心理学や医療心理学のより専門的な探求を推し進める。 秋学期は、各自のテーマに即して、研究計画を立て、卒業研究を行い、論文に仕上げていくが、途中経過の中間発表や個別指導を行う。		
教材（テキスト）	教科書は特に使用しない。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（２０％）。		
到達目標	各自が取り組むテーマに即して、卒業論文の準備や作成を行うことを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習での発表や議論には積極的・主体的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション・個人面談 ２　個人面談 ３　卒業研究の中間発表 ４　卒業研究の中間発表 ５　卒業研究の中間発表 ６　卒業研究の中間発表 ７　卒業研究の中間発表 ８　卒業研究の中間発表 ９　卒業研究の個人指導 １０　卒業研究の個人指導 １１　卒業研究の個人指導 １２　卒業研究の個人指導 １３　卒業研究の個人指導 １４　卒業研究の個人指導 １５　卒業研究の個人指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★		★	

年度	2015	授業コード	J50667B0D
科目名	臨床心理学専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Clinical Psychology		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	卒業研究を進め、論文作成の指導を中心に行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点：出席及び討論への参加状況など（５０％） 発表及びその内容をまとめたレポート（50%）		
到達目標	卒業論文の作成。		
準備学習	発表の関連文献を読んでおくこと。		

受講者への要望

能動的に、積極的に研究に取り組むこと。

講義の順序とポイント

1　　オリエンテーション
2　　卒業研究の中間発表
3　　卒業研究の中間発表
4　　卒業研究の中間発表
5　　卒業研究の中間発表
6　　卒業研究の中間発表
7　　卒論指導
8　　卒論指導
9　　卒論指導
10　卒論指導
11　卒論指導
12　卒論指導
13　卒論指導
14　卒論指導
15　発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50667B0E
科目名	臨床心理学専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Clinical Psychology		
担当者名	畑中　千紘	旧科目名称	
講義概要	ゼミ生が中心になって学んでいく授業です。責任をもってしっかり参加して下さい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への積極的な参加		
到達目標	テーマを絞り、それについて調べ、まとめること。		
準備学習	自分の興味あるテーマに沿って文献を読むこと.読むべき文献については個別で相談の上検討します。		

受講者への要望

自分で興味をもって学んで下さい。

講義の順序とポイント

1 文献講読（こちらが指定します）
2 文献講読（こちらが指定します）
3 文献講読（こちらが指定します）
4 文献講読（こちらが指定します）
5 文献講読（こちらが指定します）
6 各自のテーマに沿って発表
7 各自のテーマに沿って発表
8 各自のテーマに沿って発表
9 各自のテーマに沿って発表
10 各自のテーマに沿って発表
11 各自のテーマに沿って発表
12 各自のテーマに沿って発表
13 各自のテーマに沿って発表
14 各自のテーマに沿って発表
15 各自のテーマに沿って発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50670001
科目名	歴史学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Historical Science		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	第二次世界大戦後の日本では、大塚史学をはじめ、近代と近代化を問う学問の一つとして、歴史学が盛んに研究された。そうした戦後歴史学は、フランスのアナール学派による社会史の試みなどによって大きな変貌を遂げ、現代では様々な歴史学が群生している観がある。この講義では、戦後歴史学を再考し、そうした現代歴史学の諸相を概観したい。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験６０％、授業内レポート４０％		
到達目標	戦後歴史学と現代歴史学の概要を理解することを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。			
講義の順序とポイント			
１．戦後歴史学再考 ２．大塚史学（１） ３．大塚史学（２） ４．現代歴史学の展開 ５．アリエス　―　心性の歴史家（１） ６．アリエス　―　心性の歴史家（２） ７．アリエス　―　心性の歴史家（３） ８．フーコー　―　権力の系譜学（１） ９．フーコー　―　権力の系譜学（２） １０．フーコー　―　権力の系譜学（３） １１．ウォーラーステイン　―　世界システム論（１） １２．ウォーラーステイン　―　世界システム論（２） １３．ノースとトマス　―　ニュー・エコノミック・ヒストリー（１） １４．ノースとトマス　―　ニュー・エコノミック・ヒストリー（２） １５．史料読解入門			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50670002
科目名	歴史学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Historical Science		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	第二次世界大戦後の日本では、大塚史学をはじめ、近代と近代化を問う学問の一つとして、歴史学が盛んに研究された。そうした戦後歴史学は、フランスのアナール学派による社会史の試みなどによって大きな変貌を遂げ、現代では様々な歴史学が群生している観がある。この講義では、戦後歴史学を再考し、そうした現代歴史学の諸相を概観したい。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験６０％、授業内レポート４０％		
到達目標	戦後歴史学と現代歴史学の概要を理解することを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。			
講義の順序とポイント			
１．戦後歴史学再考 ２．大塚史学（１） ３．大塚史学（２） ４．現代歴史学の展開 ５．アリエス　―　心性の歴史家（１） ６．アリエス　―　心性の歴史家（２） ７．アリエス　―　心性の歴史家（３） ８．フーコー　―　権力の系譜学（１） ９．フーコー　―　権力の系譜学（２） １０．フーコー　―　権力の系譜学（３） １１．ウォーラーステイン　―　世界システム論（１） １２．ウォーラーステイン　―　世界システム論（２） １３．ノースとトマス　―　ニュー・エコノミック・ヒストリー（１） １４．ノースとトマス　―　ニュー・エコノミック・ヒストリー（２） １５．史料読解入門			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50679A01
科目名	歴史人類学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Historical Anthropology A		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	歴史と構造について考える。また、書承で伝えられたもの、口承で伝えられたものの間にある共通点と差異について考える。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	レポート（７０％）　授業内提出物（３０％）		
到達目標	歴史と構造について基本的な考え方を理解する。 書承で伝えられたもの、口承で伝えられたものの間にある共通点と差異について、理解する。		
準備学習	毎回資料を配付するので、次の講義までに指定された箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。			
講義の順序とポイント			
１歴史学と人類学 ２文字社会と無文字社会 ３循環的な時間意識を持つ社会において伝えるということ ４出自という考え方１ ５出自という考え方２ ６母系社会 ７父系社会 ８口承による王の系譜１ ９口承による王の系譜２ １０非循環的な時間意識を持つ社会において伝えるということ １１書承による一族の系譜 １２口承の痕跡を残す書承伝承と書くことを内在化した書承伝承 １３西洋近代の時間意識 １４構造と歴史１ １５構造と歴史２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50681A01
科目名	歴史地理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Historical Geography A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	私たちの歴史時代の地理的行動と、その結果としての地理的空間を研究するのが、歴史地理学である。歴史地理学 A では、まず歴史地理学の学説史と方法論を概観する。学説史と方法論においては、特に空間認知の歴史地理に焦点を当てる。この方法論が歴史地理学において発展したのは、歴史時代の人間集団の地理的行動が、現代の私たちの価値体系では、理解できないからである。したがって、特定の時代の人間集団の空間認知を研究する必要性がある。また歴史地理学における野外調査の方法についても触れる。 特に歴史地理学 A では、古代の村落・都市・交通・政治に関する地理的行動、地理的空間に焦点を当て、具体的な事例に則して講義していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	藤岡謙二郎編『新訂歴史地理』大明堂。		
教材（その他）	プリント配布、ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（20%）講義内レポート（80%）		
到達目標	歴史民俗学における歴史地理学の方法論、テーマの独自性の理解を目標とする。		
準備学習	受講生は講義中に配布する文献、古地図を熟読の上、講義中に出された課題を達成した上で講義に出席すること。		

受講者への要望

講義内で 3 回出されるレポートを、現地調査や図書館での資料調査をした上で作成すること。

講義の順序とポイント

1　歴史地理学とは－資料・時代・研究領域
2　口頭伝承を地図化する、地籍図、条里地割
3　抽象的世界の歴史地理学的研究
4　江戸時代の文献を現代語訳し、一覧表を作成する
5　城下町絵図で江戸期の文献に登場する場所を探す
6　城下町絵図を現代地図に復原する
7　城下町の現状、観光資源、
8　文献と古地図を利用する
9　『旅と伝説』『亀岡市史』等の伝承の一覧表作成
10　２万５千、小字図で分布図を作成する
11　現代地図に小字を復原する、小字、条里と伝承の関係を考える
12　伝説の歴史地理学的フィールドワーク
13　平安京を地形図に復原する、御土居を復原する
14　古典に描かれた怪異を平安京に探る
15　平安京の怪異空間と神話

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50681B01
科目名	歴史地理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Historical Geography B		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	私たちの歴史時代の地理的行動と、その結果としての地理的空間を研究するのが、歴史地理学である。歴史地理学Ｂでは、心理学や文化人類学の研究成果を積極的に取り入れた、人文主義地理学の観点からの歴史地理学の研究史、方法論を紹介、検討する。また、この方法論にもとづく野外調査（特に聞き取り調査）の方法についても講義する。 特に歴史地理学Ｂでは、文化・民俗・環境に焦点を当てる。私たちの祖先の地理的行動は、彼らの時代の文化や民俗を知ることなしには説明できない。彼らがどのように環境を知覚し、行動を起こし、環境と共存してきたのかを知ることは、歴史時代の地理的行動の知識を得るだけでなく、これからの私たちの環境思想にとっても重要なことである。以上のような観点から、古代文化、異文化から現在に伝承される民俗までを見据え、過去の人間集団の環境への接し方から、これからの環境問題についても講義する。		
教材（テキスト）	佐々木高弘『神話の風景』古今書院、2014。		
教材（参考文献）	菊池利夫『歴史地理学方法論』大明堂。佐々木高弘『民話の地理学』古今書院。		
教材（その他）	プリントの配布、パワーポイント、ビデオを使用		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）学期末レポート（８０％）		
到達目標	歴史地理学の方法論とフィールドワークの融合の重要性の理解を目標とする。		
準備学習	受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、配布されたプリントの予習と復習をしておくこと。		

受講者への要望

現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。

講義の順序とポイント

1　歴史地理学の三つの分野と領域、歴史地理学の時代区分
2　北欧神話の歴史地理－オーディンの供儀
3　象徴化される生き物－オシリスの冥界：
4　土蜘蛛と蛇－オホクニヌシの苦悩
5　星座の神話の風景―世界を守護する北極星
6　星座の伝承と古代都市－天と地を結ぶ物語
7　旧約聖書の原初的風景、世界軸、信濃の国造り神話―神話世界の風景①
8　上田市の口頭伝承群、開拓神話の原点―神話世界の風景②
9　北欧神話の風景－ウプサラの樹と排水
10　中つ国（中間世界）へ語りかける神々―深層心理学的解釈
11　洪水神話の環境知覚－災害知覚の歴史地理
12　洪水神話の構造と変容－伝承から神話へ
13　日本の洪水神話－失われた伝承
14　平安京の神話空間－疫病の神の登場
15　永遠回帰の神話風景－想像された欠損と充足

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2015	授業コード	J50687A0A
科目名	歴史民俗学資料講読（都市文化史） A	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading: Historical Folklore Materials (History of Urban Culture) A		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	『共同幻想論』は画期的な国家論として有名だが、実は柳田国男『遠野物語』と日本の神話『古事記』を大きな対象としている。その「角川文庫版のための序」には「この本の主題は国家が成立する以前のことをとり扱っているから、もともとは民俗学とか文化人類学とかが対象にする領域になっている。だが民俗学とか人類学とかが普通扱っているような主題の扱い方をとろうとはおもわなかった。(中略) ただ個人の幻想とは異なった次元に想定される共同の幻想のさまざまな形態としてだけ、対象をとりあげようとおもったのである。」とあるように、日本神話と日本民俗学の聖典をまったく違う視点から読もうとしている。受講生はテキストを読み解いていくが、自分の理解を他の受講生に示し、質疑応答、検討を繰り返していく。		
教材（テキスト）	『共同幻想論』吉本隆明著、角川ソフィア文庫		
教材（参考文献）	『遠野物語』柳田国男、角川ソフィア文庫		
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（50%）レポート（50%）		
到達目標	専門的研究にとりかかるための文献読解力、調査力、構想力を身につける。		
準備学習	担当の部分の読解のため、特に引用されている文章の原典に当たり、全体の文意を把握、理解しておくこと。		
受講者への要望			
大学（高等教育）の場では、むしろ、制度的に保障された学習時間以外のいわゆる自由な時間こそが重要なのだということを、そろそろ理解しなくては、この後の発展は期待できない。			
講義の順序とポイント			
テキストの前半『遠野物語』の読解部分を、順番に読んで、どのように理解しているかを発表する。 １～１５　受講生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50687B0A
科目名	歴史民俗学資料講読（都市文化史）B	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading: Historical Folklore Materials (History of Urban Culture) B		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	『共同幻想論』は画期的な国家論として有名だが、実は柳田国男『遠野物語』と日本の神話『古事記』を大きな対象としている。後半は特に日本の古代史を『古事記』を読み解くことで解析して行く。古代史研究も考古学上の発見により大きく飛躍して来ている。邪馬台国の位置の確定などもあと一歩のところまでのようだが、国家とは何かという点での理論的な枠組みが問題になってくる。エンゲルス『家族・私有財産・国家の起源』は古代国家の成立論に大きな影響を与えたが、『共同幻想論』はそれを批判的に読み込むことで新しい地平を切り拓いたのだった。古代国家の成立についての問題意識を持つことが必要になる。受講生はテキストを読み解いていくが、自分の理解を他の受講生に示し、質疑応答、検討を繰り返していく。		
教材（テキスト）	『共同幻想論』吉本隆明著、角川ソフィア文庫		
教材（参考文献）	『口語訳　古事記　神代篇』三浦佑之・訳・注釈、文春文庫		
教材（その他）			
評価方法	平常点（100%）出席してシラバスを作成し発表しなければ評価されない。		
到達目標	専門的研究にとりかかるための文献読解力、調査力、構想力を身につける。		
準備学習	担当の部分の読解のため、特に引用されている文章の原典に当たり、全体の文意を把握、理解しておくこと。		
受講者への要望			
大学（高等教育）の場では、むしろ、制度的に保障された学習時間以外のいわゆる自由な時間こそが重要なのだということを、そろそろ理解しなくては、この後の発展は期待できない。			
講義の順序とポイント			
テキストの後半『古事記』の読解部分を、順番に読んで、どのように理解しているかを発表する。 １～１５　受講生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50697A0B
科目名	歴史民俗学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore IA		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	３回生の春学期に開講される歴史民俗学専攻の演習のＩＡは、４つのゼミの全体演習とし、全担当教員、全３回生が参加する前で、受講生各自が卒業研究のテーマ設定、あるいは採用する方法論を発表し、その適切性について討論します。その上で、歴史民俗学を構成する各分野の方法論やテーマ設定のあり方等を学び、適切な卒業論文への問題設定の立て方を学びます。したがって発表後に専門演習の変更、あるいは方法論やテーマの変更を求めることがあります。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生の作成したレジュメ、パワーポイント		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
準備学習	研究計画書の作成と提出。テーマ設定のために指定された学術論文を読んで、まとめておくこと。発表に関するフィールドワークと他のゼミ生の発表に対する討論の心構えと準備。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と積極的な討論を望む。			
講義の順序とポイント			
１　スケジュールの発表 ２～14　歴史民俗学専攻３回生の発表と討論、 15　卒業研究の文献調査とフィールドワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50697A0C
科目名	歴史民俗学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore IA		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	３回生の春学期に開講される歴史民俗学専攻の演習のＩＡは、４つのゼミの全体演習とし、全担当教員、全３回生が参加する前で、受講生各自が卒業研究のテーマ設定、あるいは採用する方法論を発表し、その適切性について討論します。その上で、歴史民俗学を構成する各分野の方法論やテーマ設定のあり方等を学び、適切な卒業論文への問題設定の立て方を学びます。したがって発表後に専門演習の変更、あるいは方法論やテーマの変更を求めることがあります。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生の作成したレジュメ、パワーポイント		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
準備学習	演習前の研究計画書の作成と提出。テーマ設定のための読書、フィールドワークと討論の心構えと準備。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と積極的な討論を望む。			
講義の順序とポイント			
１　　スケジュールの発表 ２～１４歴史民俗学専攻３回生の発表と討論、 １５　　卒業研究の文献調査とフィールドワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50697A0D
科目名	歴史民俗学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore IA		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	３回生の春学期に開講される歴史民俗学専攻の演習のＩＡは、４つのゼミの全体演習とし、全担当教員、全３回生が参加する前で、受講生各自が卒業研究のテーマ設定、あるいは採用する方法論を発表し、その適切性について討論します。その上で、歴史民俗学を構成する各分野の方法論やテーマ設定のあり方等を学び、適切な卒業論文への問題設定の立て方を学びます。したがって発表後に専門演習の変更、あるいは方法論やテーマの変更を求めることがあります。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生作成のレジュメ、パワーポイント		
評価方法	発表（60%） 討論（40%）		
到達目標	論文を読み、内容を理解し、まとめる技術をみにつける プレゼンテーションの技術を学ぶ 討論を通じて問題意識を深めることを目標とする。		
準備学習	演習前の研究計画書の作成と提出。テーマ設定のための学習、発表の準備。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と積極的な討論を望む。			
講義の順序とポイント			
1　スケジュールの発表 ２～14　受講生の発表と討論、 15　卒業研究の文献調査とフィールドワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J50697A0E
科目名	歴史民俗学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore IA		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	３回生の春学期に開講される歴史民俗学専攻の演習のＩＡは、４つのゼミの全体演習とし、全担当教員、全３回生が参加する前で、受講生各自が卒業研究のテーマ設定、あるいは採用する方法論を発表し、その適切性について討論します。その上で、歴史民俗学を構成する各分野の方法論やテーマ設定のあり方等を学び、適切な卒業論文への問題設定の立て方を学びます。したがって発表後に専門演習の変更、あるいは方法論やテーマの変更を求めることがあります。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生の作成したレジュメ、パワーポイント		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
準備学習	演習前の研究計画書の作成と提出。テーマ設定のための読書、フィールドワークと討論の心構えと準備。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と積極的な討論を望む。			
講義の順序とポイント			
1　スケジュールの発表 ２～14　歴史民俗学専攻３回生の発表と討論、 15　卒業研究の文献調査とフィールドワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50698B0B
科目名	歴史民俗学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore IB		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	本演習では、歴史民俗の空間的側面に焦点を当てるため、歴史民俗の人文地理学的研究を特に重視します。 人文地理学は、文化の空間的側面を研究する学問です。あらゆる文化は、人間と環境との相互関係から生まれます。したがって、あらゆる文化が空間的特性を持つことになります。このように、人文地理学は様々な文化を研究対象にすることができます。 受講生は、どのような歴史民俗に関するテーマを持って本演習に臨んでもかまいません。従来の受講生の多くは、神話、伝説、昔話、都市伝説、妖怪、地域、映画、食文化、祭り、異文化などをテーマとしてきました。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。そのことを踏まえて、最終的にはレポート作成、あるはフィールドワークを行い、４回生での卒論の準備とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生の作成したレジュメ、パワーポイント		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
準備学習	研究テーマに則した学術論文、学術書を読んで、レジュメを作成しておくこと。発表に関するフィールドワークと、他のゼミ生の発表に対する討論の心構えと準備。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論を望む。			
講義の順序とポイント			
１　スケジュール ２　テーマの発表、資料検索、文献目録、図書館 ３～１５　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50698B0C
科目名	歴史民俗学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore IB		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	この演習は ①異文化研究を行うことを目標においています。自分の生まれ育った文化とは違う形を持つ文化を、観察したり分析したりするには、天与の才能の他に知識や技術が必要です。このクラスではその知識や技術の習得に努めます。 参与観察の方法、インタビューの方法、資料の整理の仕方、旅行の技術、民族誌の書き方などなど。お手本になるのは、昔と現在の人類学者や民俗学者の著作です。 ②口承文芸を研究したいと考えている学生さんも歓迎です。口承文芸研究も異文化研究と同様なトレーニングが必要です。そのほかに口承文芸に関する教養やテキスト分析の知識も必要になるでしょう。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。そのことを踏まえて、最終的にはレポート作成、あるはフィールドワークを行い、４回生での卒論の準備とします。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	学生の作成したレジュメ、パワーポイント		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
準備学習	テーマを設定し、方法論を見いだすために、多くの文献を読むこと。フィールドワークの計画し、それを実施すること。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論を望む。			
講義の順序とポイント			
1　　スケジュールの作成 2　　テーマの探し方、資料検索、文献目録、図書館の活用法 ３～１５　担当者の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50698B0D
科目名	歴史民俗学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore IB		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	各種講義や資料講読など、２回生までに基礎的な学習をしてきたみなさんは、卒業論文にむけての次の段階として、自らが興味を抱いたテーマについて、専門的な研究を開始することになります。そこで必要とされてくるのが、それぞれのテーマに関して、先行研究をしらべ、研究の素材となる史料の所在を知ることです。この演習では、それを段階に応じて各人が報告や発表を行い、他の受講生もまじえた質疑応答を行います。さらに担当教員のコメントと指導を受けることで、研究を深めていきます。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生作成のレジュメ、パワーポイント		
評価方法	平常点　50% 発表内容 50%		
到達目標	卒論のテーマ設定を行い、その先行研究の読み込みを深めること。		
準備学習	自らの研究発表準備。および各回の発表者の課題論文を読んでくること。		
受講者への要望			
各自の興味に沿った研究テーマの設定と確立に努力して欲しい。真摯な姿勢での受講を望みます。			
講義の順序とポイント			
1　　ガイダンスと発表順番の設定 ２～15　受講生による発表と質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★			

年度	2015	授業コード	J50698B0E
科目名	歴史民俗学専門演習Ｉ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore IB		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	都市文化史 A,B・都市文化史講読など、2 回生まで基礎的な学習をしてきた学生諸君が、その中から興味を抱いたテーマに関して、専門的な研究を開始させることになる。提出した研究計画書をまず検討し、それに沿って、テーマをめぐる資料、論文を探し出し、これまでの研究史を知るという順序になることだろう。段階に応じて各人が報告や発表を行い、質疑応答を経て担当教員のコメントと指導を受ける。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（50%）レポート（50%）		
到達目標	最初は思いつきにすぎなかった研究テーマをどれだけ客観的なものに仕立てられるか。それが卒業研究の成果につながっていく。		
準備学習	論文や図書の収集、解読。フィールドワーク。		
受講者への要望			
関連の論文を読んでいくことで、文献目録を作ったり、研究史を意識していくようにする。			
講義の順序とポイント			
（1）研究テーマの再プレゼンテーション （2）同上 （3）同上 （4）同上 （5）同上 （6）研究テーマに関する研究史発表 （7）同上 （8）同上 （9）同上 （10）同上 （11）研究計画書の検討 （12）同上 （13）同上 （14）文献目録作成について （15）卒業研究に向けて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50701A0B
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡA		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	本演習は、歴史民俗学専門演習ⅠA・Bの受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	発表者のレジュメ、パワーポイント		
評価方法	ゼミ生の発表と毎回の討論		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
準備学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論、及び卒業論文の作成を望みます。			
講義の順序とポイント			
1　卒論の書き方 2　各自のテーマ設定 3～15　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50701A0C
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡA		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本演習は、歴史民俗学演習ＩＡ・Ｂの受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表（５０％）毎回の討論（５０％）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
準備学習	文献調査をし、それを読み込み、フィールドワークをしたうえで、、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講者への要望			
フィールドワークと資料読解については、各自計画を立て、自主的に行っておくこと。			
講義の順序とポイント			
1　卒論の書き方 2　各自のテーマ設定 ３～15　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50701A0D
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡA		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	いよいよ4年間の大学生活の集大成である卒業論文作成に取りかかります。論文の構成を考えながら、先行研究や史料を集めて読み込んでいく作業を進めていきます。夏休みまでには論文のおおまかな構成を考えて、章立てができるようになるまで作業を進めましょう。この授業では、段階に応じて各人が報告を行い、他の受講生もまじえた質疑応答を行います。さらに担当教員のコメントと指導を受けることで、研究を深めていきます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生作成のレジュメ		
評価方法	発表（60%） 討論（40%）		
到達目標	・卒論の構成を考えながら、先行研究を読み込み、その到達点と課題を把握すること ・史料を読み込み、オリジナルな分析を行うこと		
準備学習	自らの研究発表準備。および各回の発表者の課題論文を読んでくること。		
受講者への要望			
卒業論文は、あなたがどのような学生生活を送り、何を学んだのかを表現する手段です。 自らの課題に関して、どこまでも貪欲に、調べて調べて調べつくしてください。			
講義の順序とポイント			
1　　ガイダンスと発表順番の設定 2～15　受講生による発表と質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50701A0E
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡA		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	本演習は、歴史民俗学演習ＩＡ・Ｂ の受講生が引き続き受講することを原則とします。演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 　受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 　演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表（５０％）毎回の討論（５０％）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
準備学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講者への要望			
先行研究論文を早く発見し、出来るだけ多く読んでおくこと。もちろん、具体的な現場を出来るだけ訪ねておくことも重要です。			
講義の順序とポイント			
1　卒論の書き方 2　各自のテーマ設定 3～15　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50701B0B
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡB		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	本演習は、歴史民俗専門学演習ⅡＢの受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	発表者のレジュメ、パワーポイント		
評価方法	ゼミ生の発表（70%）と毎回の討論（20%）、11 月に行われる卒業研究の中間発表会での発表（10%）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
準備学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論、及び卒業論文の作成を望みます。			
講義の順序とポイント			
１　卒論の準備状況の発表 ２～９　ゼミ生の発表と討論 １０　卒論中間発表会（歴史民俗学専攻全体） １１～１５　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50701B0C
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡB		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本演習は、歴史民俗学演習ⅡA の受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	ゼミ生の発表（70%）と毎回の討論（20%）、11 月に行われる卒業研究の中間発表会での発表（10%）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
準備学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論、及び卒業論文の作成を望みます。			
講義の順序とポイント			
１　卒論の準備状況の発表 ２～９　ゼミ生の発表と討論 １０　卒論中間発表会（歴史民俗学専攻全体） １１～１５　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50701B0D
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡB		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	いよいよ4年間の大学生活の集大成である卒業論文執筆に取りかかります。分析を、一章ごとに、一歩ずつ進めていき、最終的に論文を書き上げることになります。年内に、論文を一度書き上げることを目標として、逆算して作業を計画的に進めていきましょう。この授業では、段階に応じて各人が報告を行い、他の受講生もまじえた質疑応答を行います。さらに担当教員のコメントと指導を受けることで、研究を深めていきます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生作成のレジュメ		
評価方法	発表（60%） 討論（40%）		
到達目標	・卒論の構成を考えながら、先行研究を読み込み、その到達点と課題を把握すること ・史料を読み込み、オリジナルな分析を行うこと		
準備学習	自らの研究発表準備。および各回の発表者の課題論文を読んでくること。		
受講者への要望			
卒業論文は、あなたがどのような学生生活を送り、何を学んだのかを表現する手段です。 自らの課題に関して、どこまでも貪欲に、調べて調べて調べつくしてください。			
講義の順序とポイント			
1　　ガイダンスと発表順番の設定 2～15　受講生による発表と質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50701B0E
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡB		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	本演習は、歴史民俗学演習ⅡA の受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 　受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 　演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	ゼミ生の発表（70%）と毎回の討論（20%）、11 月に行われる卒業研究の中間発表会での発表（10%）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
準備学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講者への要望			
最後の最後まで推敲を重ね、粘り強く思考と執筆をつづけること。			
講義の順序とポイント			
１　卒論の準備状況の発表 ２～９　ゼミ生の発表と討論 １０　卒論中間発表会（歴史民俗学専攻全体） １１～１５　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50703A01
科目名	歴史民俗学特殊講義ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore IA		
担当者名	浅野　久枝	旧科目名称	
講義概要	本講義では，「人の一生」「人生儀礼」に関わる民俗を取り上げつつ，民俗学の基礎的問題を考えていく。 「一人前」などについて取り上げるが，例えば「大人になる」とはどういうことか，「子供」とは何かを学生諸君自身の問題として考えて頂く。それらは，社会によって，時代によって異なるものであることに気づくであろう。つまり，「人の一生」「一人前」などを取り上げつつ，人間が生きていくために作り出している社会の枠組み，規範，常識，といったものを考えたい。これらの社会的問題だけでなく，女性の初潮・月経との関連でケガレ観にもふれたり，人の一生に関わる祭礼や芸能，あるいは霊魂観についても考えていきたい。 これらの話題は、過去の習俗を知ることに主眼があるのではなく、自らの問題として、自分に引きつけて内省し、足下をみつめ直す視点を養うことを目標とする。民俗学は過去を知るための学問ではなく、現在を考えるための学問である。あまりにもあたりまえ、常識化しているが故に気がついていない枠組みに縛られている自分に目を向ける視点を獲得できることを達成目標の第一とする。 本講義は、とくに「大人」の仲間入りをしつつある諸君には身近な問題として考える機会になるものと思う。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	『女の眼でみる民俗学』中村ひろ子他著（高文研） 『人生の装飾法』　松崎憲三編（筑摩新書） 『現代民俗学入門』佐野賢治他編(吉川弘文館)		
教材（その他）			
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点 20%　コメントカード 10%　期末レポート 70% レポートは、自らの民俗調査によるものを提出していただき、講義時に示した民俗学的見地達成目標を、自分の問題としてとらえられているかどうかを評価する。 欠席は、５回までは認めるが、それ以上の欠席はレポート提出の資格がないものとする。		
到達目標	(1)社会に存在する枠組み、規範は、極めて文化的なものであることに気がつくことができる。 (2)既存の枠組みに縛られている自分に目を向け、内省する視点を獲得できる。 (3)自分の生きている社会を相対化することができるようになる。 (4)死後の世界と少しだけ向き合うことで、現在に生きる知恵を働かせることができるようになる。 (5)人の一生に関わる民俗事例の知識を獲得できる。		
準備学習	民俗学の中で、「人の一生」「人生儀礼」というジャンルではどのような調査項目が設定できるか、あらかじめ考えておいて頂きたい。そのためには、自分の身近な人、あるいは事柄を観察し、講義で議論となる際に具体的な事例を思い浮かべられるよう、普段から心がけておくことが望ましい。		
受講者への要望			
身近な日常生活や身近な人々、あたりまえとされる事柄に、普段から新たな目を向けるよう、心がけていただきたい。とくに、毎回の講義で提起する問題は、諸君自身が生きていく上で対峙していくべき問題であるので、驚いたりするだけでなく、あるいはその時だけの聞き流しにせず、時間をかけてじっくり考え、次週の講義に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
第　１週．ガイダンス：講義の進め方と 第　２週．文化を見る視点：「常識を疑う」ことについて 第　３週．民俗学の対象とは：民俗学が対象とするものの多重性について			

第　４週．人生における儀礼について：「儀礼」というものが持つ意味
第　５週．「一人前」とは（その１）：何をもって、人は一人前と認められるのか。…年齢と成人儀礼
第　６週．「一人前」とは（その２）：仕事量そして身体的成長、月経などと「大人」について
第　７週．「一人前」とは（その３）：ケガレ観について（女人禁制についてもふれる）
第　８週．「一人前」とは（その４）：結婚と「おとな」について
第　９週．「○○らしさ」を作る躾（教育）について
第１０週．「らしさ」と衣服：生育段階あるいは社会的位置と衣服との関係について
第１１週．人の成長を確認する場面：祭礼のビデオなど上映
第１２週．成長儀礼と葬送儀礼：霊魂観について
第１３週．死後の世界に投影される現世社会の期待
第１４週．二つの世界を媒介する人について
第１５週．まとめ・解説（ビデオ上映）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	J50703B01
科目名	歴史民俗学特殊講義ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore IB		
担当者名	浅野　久枝	旧科目名称	
講義概要	宮本常一『忘れられた日本人』を読む 生涯、フィールドワークを続けた宮本常一の著した民俗誌を綿密に読み解くことで、民俗学から継承すべき点あるいは批判すべき点、地域調査の視点や問題点などを考えていく。 講義の形式としては学生諸君の発表をもとに討論をする演習形式で進めていく。 宮本の目指した民俗学は柳田民俗学とはまた別の側面を持っている。地域調査を進める上でも、民俗誌から何を読み取れるのかについてはじっくり考えておく必要がある。読書というものは論旨をつかむことも重要であるが、一文一文を細かに読むことから、著者の考えの深みにふれることもできる。宮本常一の文章は詳細な観察を、綿密な構成によって記している。そのため、精緻に読むに絶えうる文章である。 本講義は『忘れられた日本人』の中で語られる地域的な民俗事例を知ることに止まらず、その記述の中からその地域社会の特性、問題点、あるいは日本文化の特性などを発見する読書をして頂きたい。それと同時にそこに描かれている著者宮本の考えを読み解くことも目指している。		
教材（テキスト）	宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫 この他、宮本常一著作集などもある。どれを使っても良いが、発表、討論のときに同じテキストの方が混乱はないので、できるだけ文庫版を用意されることをお薦めする。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	担当箇所の発表内容と取り組み方（５０％）及び、最終レポートの総合内容（５０％）によって成績を評価する。 最終レポートは、講義終了後、他の学生との討論やその後の見地を交えて、担当箇所及び本書全体について書いて頂くものである。		
到達目標	一冊の本をフィールドとして、あらゆる方向から様々なことを読み込む、という読書の手法、それすなわち地域調査にも通じる手法を獲得することを到達目標としている。		
準備学習	民俗誌を読むという性格上、講義の中で概論的な話をすることは難しい。そのため、民俗学の概論的な内容については各自で復習し、民俗学の基本的知識を知った上で本講を受講すれば、より理解が深まると思われる。 また、宮本常一のその他の著作や、他の研究者の民俗誌を読んで、民俗誌、調査報告書の内容や書き方等についてもふれておくことが望ましい。		
受講者への要望			
これまでに大学の講義で身につけてきた民俗学的知識はもちろんだが、それ以上に自分自身の経験、身近な問題、日常のくらしで自分が日々行っていること、などに引きつけて民俗誌を読み込む努力をして頂きたい。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス　…　講義の進め方と発表者選定 第２回　宮本常一の業績と『忘れられた日本人』について　１　（講義） 第３回　宮本常一の業績と『忘れられた日本人』について　２　（講義） 第４回　「対馬にて　一　寄り合い」　（発表） 第５回　「対馬にて　一　寄り合い」　（発表） 第６回　「対馬にて　一　寄り合い」　（発表） 第７回　「対馬にて　一　寄り合い」　（発表） 第８回　「対馬にて　二　民謡」　（発表） 第９回　「対馬にて　二　民謡」　（発表） 第10回　「対馬にて　二　民謡」　（発表）			

第 11 回　「対馬にて　二　民謡」　(発表)
第 12 回　「村の寄り合い　一」　(発表)
第 13 回　「村の寄り合い　一」　(発表)
第 14 回　「村の寄り合い　一」　(発表)
第 15 回　総括

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50705A01
科目名	歴史民俗学特殊講義ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore ⅡA		
担当者名	堤　邦彦	旧科目名称	
講義概要	江戸怪談の成立と展開 　日本人の怪異観を古典文学、芸能、民俗文化、仏教民俗などの諸領域から分析し、風土的感性に根ざした怪談の歴史をひもといてみる。本年度は、とくに江戸時代にはじまる怪異文芸の誕生を怪談文化の出発点に位置づけ、さらに<累ヶ淵怪談>の成立と構成への影響をとりあげる。あわせて近現代の講談、映画などとの比較を通して、日本怪談の特性にスポットをあてて行きたい。 　私たちの先祖は何を恐れ、どのようにして恐怖物語を娯楽の対象に創りかえたのか。そして現代の作者たちは何を継承し、何を継承しなかったのか？各々の作品を読みこむことによって、現代の表現文化に立ちあらわれる日本文化の古層を発見し、その連続性を言葉にして説明できるようにする。この講義の到達目標はまさにその点にある。		
教材（テキスト）	堤邦彦『現代語で読む江戸怪談傑作選』（祥伝社新書）		
教材（参考文献）	横山泰子『四谷怪談は面白い』（平凡社） 同『江戸歌舞伎の怪談と化け物』（講談社）		
教材（その他）			
評価方法	1. 小レポート 3 回：45%、　出席状況や授業態度等による平常点：30%、　期末レポート 25% 2..受講態度によっては、評価の対象としない場合がある。		
到達目標	（1）江戸怪談の流れを理解する。 （2）日本文化の古層を理解する。 （3）現代文化と古典の連続性を理解する。 （4）上記をことばにして説明できる能力を身につける。		
準備学習	講義中に使用する専門用語やキーワードを予習し、小レポートにまとめて事前に提出してもらう（月に 1 回程度）。こうした予習をふまえて授業にのぞむことにより、皆さんの理解度は倍増するはずである。		
受講者への要望			
説話・伝承史が対象とする分野は、文芸を中心として民俗、宗教、出版メディア、芸能、映画などの多領域におよぶ。ひとつの作品をいろいろな角度から見て行くので、途中欠席すると全体像がつかみにくくなる。休まず遅刻せず授業に集中して欲しい。また、指定された小レポートの提出期限を厳守するようにしていただきたい。			
講義の順序とポイント			
江戸怪談の歴史を概観することからはじめ、<累ヶ淵怪談>の成立と展開をてがかりに、今日の大衆文化に見え隠れする古典的な流れのかたちを検証して行く。取り扱うテーマ、作品は次のとおりである。 ①イントロダクション・身近なハナシのルーツ ・『墓場の鬼太郎』の誕生 ・京都の幽霊アメ伝説 ・寺と葬送民俗 ②江戸怪談とは何か ・３種のながれ ・『奇異雑談集』にはじまるもの ・墓中出生の高僧伝 ③幽婚説話の源流 ・一休伝説 ・子を産む幽霊 ・中国奇談の影響力と『夷堅志』 ・『諸国百物語』より ④幽婚の民俗 ・東アジア、東南アジアの民間信仰 ・タイ映画『ナーン・ナーク』の場合 ・ムカサリ絵馬			

・TV『幽婚』
⑤都市伝説への通路
・江戸の巷説『耳嚢』（みみぶくろ）
・現代民話『新耳袋』を読む
・怪異妖怪データベースにみる子育て幽霊
⑥女人蛇体の系譜
・『奇異雑談集』の<蛇になる女>
・道成寺縁起のゆくえ
・情愛・嫉妬の心と「蛇」のイメージ
・地獄絵、六道絵に画かれた蛇体図
⑦仏教説話が怪談に変わるとき・その（１）
・女と蛇と黒髪と
・杉浦日向子『百物語』の表現
・蛇と化す『四谷怪談』お岩の帯
⑧仏教説話が怪談に変わるとき・その（２）
・僧院の怪談〜永平寺の七不思議
・浮世草子の時代
・『新御伽婢子』生首と旅する男
・南北劇への展開
⑨仏教系怪談のルーツ
・因果応報、因縁を語るということ
・鈴木正三『因果物語』
・奥方の呪いと家・血筋の断絶
⑩怪談・累ヶ淵の原風景
・浄土僧・裕天の法力（『死霊解脱物語聞書』）
・下総国羽生（はにゅう）村の風土
・累まんだらにみる因果ばなしの構造
⑪累ヶ淵を脚色した江戸戯作者たち
・京伝と馬琴
・怪談芝居
・講談「累ヶ淵」
⑫「語り」で体感する累ヶ淵
・三遊亭円朝『真景累ヶ淵』
・一龍斎貞水「豊志賀の死」
⑬中田秀夫『怪談』の世界・その（１）
・リングホラーとの共通点
・古典復活
・雪の降る日の因縁
⑭中田秀夫『怪談』の世界・その（２）
・血筋に祟る女という設定
・執念の蛇
・我が子に生まれかわる怨霊
⑮まとめ
・恐怖のものがたりをつらぬく人間観
・人知をこえる怪談美の伝統

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★			★★	★★

年度	2015	授業コード	J50705B01
科目名	歴史民俗学特殊講義ⅡＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore ⅡＢ		
担当者名	伊藤　悟	旧科目名称	
講義概要	本講義は、身の回りの生活、風景、民俗を＜撮り、編集し、仕上げる＞一連の映像制作プロセスを通して、思考ツールとしての映像を学ぶものである。 今、私たちの生活は映像の利用なしでは成り立たなくなっている。氾濫する映像のなかでは受け身になりがちである。しかし、いざ自分が発信者、記録者となったとき、どのようにビデオカメラを回したらいいのか、またどのように編集し、人に見せるものとして完成させたらいいのか、戸惑うことがある。 今回の集中講義は映像制作の基礎編である。身の回りから学生自身がテーマを決め、企画案を書き、さらに自ら撮影、編集、仕上げまでを手がけられるようにする。その経験のなかで映像の様々な可能性について考えたい。必要に応じて、参考映像を見せながら映像民俗学、映像人類学という専門分野について論ずる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内提出物（１００％）		
到達目標	撮影、編集、仕上げまで		
準備学習	あらかじめ撮影したいもの、素材、テーマを考えておいて欲しい。		
受講者への要望			
映像に関して、経験、未経験を問わない。 ただ、何を映像にしたいか、それだけは考えてきて欲しい。 周辺の自然（木、岩でも）、風景、感覚、あるいは友人、おもしろい出来事、生活、信仰、民俗行事でもいい。			
講義の順序とポイント			
●１日目 1.撮影テーマ提出 2.検討 3.グループ分け 4.ロケハン 5.撮影撮影 6.撮影 ●２日目 7.撮影（小型ビデオカメラ使用） 8.編集（現在の編集基本ツールであるマックのファイナルカットプロを使用） 9.編集手直し（指導） ●３日目 10.編集 11.仕上げ（字幕） 12.音,音楽入れ） 13.完成 14.試写 15.討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★		★	

年度	2015	授業コード	J50707001
科目名	話しことば表現講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Speaking Word Expression Course		
担当者名	伏見　昌子	旧科目名称	
講義概要	私達は一人で生きていくことはできません。社会の中で多くの人と常にコミュニケーションを保って生きています。人と人とが理解し合い、良い人間関係を作っていくためには「ことば」という道具が必要です。ビジネスの場面はもちろん、社会生活の様々な場面で「ことば」は重要な役割を果たしています。 情報技術の発達により、私達は自分の声や表情をツールとせずにコミュニケーションする機会が増えています。そしてそんな時代だからこそ、自分の声や表情を添えた「話しことば」によるコミュニケーションの重要性が増しているのです。 しかし話しことばに対して自分の持っている知識や経験は、無意識のうちに培われたものであるため、誰もが内心不安を持っています。きちんと伝わっているのか？良い印象を与えているのか？ 話し方は人に与える印象を大きく左右し、初対面の相手やビジネスシーンではなおさらです。 学生が自分の話しことばを強く意識させられるのが就職活動です。会話はできても改まった話し方になると自信がない。その時になって慌てないよう話す力を磨きたいものです。 自分の話し方の特徴や欠点を知り、改善しわかりやすく魅力的な話し方を習得できるようアドバイスします。 もちろん「話す力」は「書く力」「聞く力」「読む力」と密接な関係を持っています。コミュニケーションの原点である「ことば」の重要性をを認識し、「読む・書く・話す・聞く」の四つの言語活動についてその特徴を学び、「バランスのとれたことばの使い手」になることを目的とします。特にこれまで家庭での躾に委ねられ、学校の国語教育で取り上げられることの比較的少なかった音声言語＝話す・聞くを中心に授業を進め、魅力的な声とことばを身に付けることを目標とします。		
教材（テキスト）	なし。各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	話しことば検定３級テキスト・２級テキスト（日本話しことば協会）		
教材（その他）	音声教材を活用 適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（５０％）　出席状況などによる。 授業中に課すプリント問題や実技問題により評価（５０％）する。		
到達目標	コミュニケーション能力を話しことばを中心にスキルアップすることを目標とする。		
準備学習	家族との会話・友人との会話・教師との会話や教師の話し方・アルバイト先での会話・ＴＶ・インターネット上で使われることばなど、自分の周囲で使われているｋ「ことば」に留意し、普段から「ことば」への感性や意識を高めておく。 授業終了時に、次回の内容を伝えて必要な準備を指示します。		
受講者への要望			
授業中に発言することも「話しことば」を使う重要なシーンですから、積極的に発言して話しことばを磨いて下さい。 就職活動のためにも、できれば「話し言葉検定試験」にもトライして下さい。			
講義の順序とポイント			
１．概論(なぜ話し言葉を学ぶのか、コミュニケーションツールとしての話し言葉） ２．話し言葉の実際（自己紹介により自分の話し方の欠点を知る） ３．日本語の音 ４．話しことば検定模擬問題（筆記・リスニング） ５．情報を収集・整理して話す（他己紹介をするためのインタビュー項目を考え質問。他己紹介文を構成する） ６．情報を収集・整理して話す（他己紹介する。された本人は各他己紹介を評価する） ７．音声表現の技術Ⅰ ８．音声表現の技術Ⅱ ９．敬語Ⅰ １０．自己ＰＲ（特に就職活動を意識して自己ＰＲを考える） １１．自己ＰＲ（考えた自己ＰＲを効果的に話す） １２．聞く技術（傾聴力・質問力まど） １３．わかりやすく話す（イラストの説明・地図の説明・図形の説明） １４．効果的に話す			

１５．プレゼンテーション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★				★

年度	2015	授業コード	J50707002
科目名	話しことば表現講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Speaking Word Expression Course		
担当者名	平尾　和子	旧科目名称	
講義概要	私達は一人で生きていくことはできません。社会の中で多くの人と常にコミュニケーションを保って生きています。人と人とが理解し合い、良い人間関係を作っていくためには「ことば」という道具が必要です。ビジネスの場面はもちろん、社会生活の様々な場面で「ことば」は重要な役割を果たしています。 情報技術の発達により、私達は自分の声や表情をツールとせずにコミュニケーションする機会が増えています。そしてそんな時代だからこそ、自分の声や表情を添えた「話しことば」によるコミュニケーションの重要性が増しているのです。 しかし話しことばに対して自分の持っている知識や経験は、無意識のうちに培われたものであるため、誰もが内心不安を持っています。きちんと伝わっているのか？良い印象を与えているのか？ 話し方は人に与える印象を大きく左右し、初対面の相手やビジネスシーンではなおさらです。 学生が自分の話しことばを強く意識させられるのが就職活動です。会話はできても改まった話し方になると自信がない。その時になって慌てないよう話す力を磨きたいものです。 自分の話し方の特徴や欠点を知り、改善しわかりやすく魅力的な話し方を習得できるようアドバイスします。 もちろん「話す力」は「書く力」「聞く力」「読む力」と密接な関係を持っています。コミュニケーションの原点である「ことば」の重要性をを認識し、「読む・書く・話す・聞く」の四つの言語活動についてその特徴を学び、「バランスのとれたことばの使い手」になることを目的とします。特にこれまで家庭での躾に委ねられ、学校の国語教育で取り上げられることの比較的少なかった音声言語＝話す・聞くを中心に授業を進め、魅力的な声とことばを身に付けることを目標とします。		
教材（テキスト）	なし。各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	話しことば検定３級テキスト・２級テキスト（日本話しことば協会）		
教材（その他）	音声教材を活用 適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（５０％）　出席状況などによる。 授業中に課すプリント問題や実技問題により評価（５０％）する。		
到達目標	コミュニケーション能力を話しことばを中心にスキルアップすることを目標とする。		
準備学習	家族との会話・友人との会話・教師との会話や教師の話し方・アルバイト先での会話・ＴＶ・インターネット上で使われることばなど、自分の周囲で使われているｋ「ことば」に留意し、普段から「ことば」への感性や意識を高めておく。 授業終了時に、次回の内容を伝えて必要な準備を指示します。		
受講者への要望			
授業中に発言することも「話しことば」を使う重要なシーンですから、積極的に発言して話しことばを磨いて下さい。 就職活動のためにも、できれば「話し言葉検定試験」にもトライして下さい。			
講義の順序とポイント			
１．概論(なぜ話し言葉を学ぶのか、コミュニケーションツールとしての話し言葉） ２．話し言葉の実際（自己紹介により自分の話し方の欠点を知る） ３．日本語の音 ４．話しことば検定模擬問題（筆記・リスニング） ５．情報を収集・整理して話す（他己紹介をするためのインタビュー項目を考え質問。他己紹介文を構成する） ６．情報を収集・整理して話す（他己紹介する。された本人は各他己紹介を評価する） ７．音声表現の技術Ⅰ ８．音声表現の技術Ⅱ ９．敬語Ⅰ １０．自己ＰＲ（特に就職活動を意識して自己ＰＲを考える） １１．自己ＰＲ（考えた自己ＰＲを効果的に話す） １２．聞く技術（傾聴力・質問力まど） １３．わかりやすく話す（イラストの説明・地図の説明・図形の説明） １４．効果的に話す			

１５．プレゼンテーション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★		★

年度	2015	授業コード	J50716A0A
科目名	メディア専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IA: Media		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	受講生の関心をふまえ、まず、4 回生時の卒論執筆ないし制作に必要な基本的レクチャー（内容、方法）を教員が行う（2〜3 回を予定)。その後、上記の共通テキストや、各自の興味・問題意識に即した基本文献や資料の講読・発表を行い、全員でディスカッションを行う。春学期は、各受講生が、卒論・制作につながる自分の「関心の軸」の探索を行うことを主眼とする。 CM 映像や広告図版、マーケティング事例など、なるべく具体的な素材を使いながら授業を進める。 なお、春学期の演習では、その３回を使って就職活動支援を実施する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	若林直樹・及部克人監修『コミュニケーション研究Ｉ』武蔵野美術大学出版局、2002 年 佐藤章『ヒットを生み出す最強チーム術 キリンビール・マーケティング部の挑戦』 平凡社新書、2009 年他		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：テキストの講読、特定テーマでの発表、広告表現などの制作 定期試験（60%）：レポート		
到達目標	広告広報、マーケティング、メディア、表現文化などについて学び、卒業論文・制作のための基礎知識、方法を身につける。各自のテーマ設定とそのすすめ方を固めることを年間の目標とする。		
準備学習	１）自己のテーマに役立つ文献やウェブサイトを自ら閲読し、また参考・目標とする広告表現（CM、印刷広告、インターネット広告等）は日頃から収集しておくこと。 ２）他の受講生の学習素材についても、事前に目を通しておき、ゼミ内で質問や意見を出せるようにすること。		
受講者への要望			
テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。			
講義の順序とポイント			
＜演習で扱うトピック例＞ 1.　ヒット商品、人気 CM、ブランドをつくる企業や広告会社の戦略はどうなっているか。 2.　特定の広告表現に消費者が惹きつけられるのは、どんな表現や手法が使われているからか。 3.　音楽配信などデジタル・メディアの普及により、音楽産業はどうなっていくのか。　　等 ＜研究テーマの例＞ 1.　特定商品分野のマーケティングの具体的プランニングないし研究 2.　特定商品の広告計画、広告表現の作成（ポスターや CM の制作） 3.　企業のブランド研究 4.　広告クリエイター研究、コマーシャル・アート論 5.　広告表現などマス・メディアの内容分析 6.　広告産業の研究 7.　流行・消費トレンド分析、商品文化研究 8.　音楽作品や音楽産業など、メディア文化・文化産業研究 ＜講義予定＞ 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：進路指導（1）　就職（進路）登録票の作成、E-Testing の登録など 第 3 回：研究テーマと方法について 第 4 回：進路指導（2）　自己分析・自己 PR など 第 5 回：ゼミ生発表（共通課題） 第 6 回：ゼミ生発表（同） 第 7 回：ゼミ生発表（同） 第 8 回：ゼミ生発表（同）			

第 9 回：広告表現等の制作（チーム別）
第 10 回：広告表現等の作品制作（同）
第 11 回：広告表現等の作品制作（同）
第 12 回：広告表現等の作品制作（同）
第 13 回：広告表現等の作品制作（プレゼンテーション）
第 14 回：進路指導（3）　自己 PR 文の作成・添削など
第 15 回：春学期のふりかえり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50716A0B
科目名	メディア専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IA: Media		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションの手段・道具としての「メディア（media)」とは、言いかえれば、人間を拡張し、人間を社会的に枠づける役割を果たす“媒（なかだち）”である。古いものから新しいものまでメディアは社会の至るところに存在している。人間の身体からはじまり私たちを取り巻くあらゆるものがメディアとなる可能性をもつ。そしてメディアは歴史・社会的に生成されてきたものであり、現在のメディアの姿は絶対的、固定的ではなく、絶えず変容していくのである。 本演習では、メディアについてのワークショップをおこなう。 ※「ワークショップ（workshop)」とは、参加する人たちがお互いに刺激し合い、助け合い、学び合う“共育”を実践する“場”		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	水越伸『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005 関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	総合的に評価。		
到達目標	メディアで遊び、メディアについて考え、メディアをつくる。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の演習はすべて連関している。次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

自ら体験し、多面的に考え、主体的に行動することを望む（面倒なこと多し)。

講義の順序とポイント

この「ワークショップ」は、今日のさまざまなメディアをまず主体的に体験することからはじまる。

たとえば、テレビ番組を見る、雑誌やマンガを読む、CD を聴く、ビデオ／DVD を鑑賞する、各種ゲームに興じる、ウェブにアクセスする、チャットでおしゃべりする、映画館に行く、美術館／博物館を訪れる、ライブに参加する、お洒落な店で美味しい料理を食べる、流行のファッションを着こなす、時には空を眺めたり、できればお堅い本とも対峙して欲しい…。体験した後に考える。「なぜ楽しかったのだろうか（なぜつまらなかったのだろうか)」、同ジャンル／他ジャンルのものとの比較もしてみる。また「あのやり方は問題だ」「こうすればもっとよくなるはず」等々“自分ならばどうするか”をさまざまな視点から考えてみる。

つまり、自分たちのまわりにあるさまざまな「メディア」について、マジに遊び、考え、そして、表現する“学びの場”を共同運営する。

※上記文章および以下の項目を熟読し、そして“メディア《つくる》工房”のホームページを閲覧し、理解および納得できる人のみ参加して下さい（不用意に受講登録した場合にも、単位・成績等について一切フォローはしないので、その点はご留意下さい)。

・“学ぶ”と“教わる”の違いを理解している
・自ら課題を設定し、その課題と“日夜葛藤する”ことができる
・自分がやりたいこと／やりたくないことをきちんと主張できる
・口先だけの「私は好奇心旺盛で…」ではなく、自分が好きでないこと（得意でないこと）にでも積極的にチャレンジできる
・無駄に群れる必要性はまったくないが、共同作業をおこなう際の最低限の協調性とコミュニケーション能力を持っている
・「綿密な計画」と「無謀な無計画」をどちらも享受できる

★メディア《つくる》工房　{http://media-tukuru.jp}

01　オリエンテーション

02　ワークショップ 01
03　ワークショップ 02
04　ワークショップ 03
05　ワークショップ 04
06　ワークショップ 05
07　ワークショップ 06
08　ワークショップ 07
09　ワークショップ 08
10　ワークショップ 09
11　ワークショップ 10
12　ワークショップ 11
13　ワークショップ 12
14　ワークショップ 13
15　ワークショップ 14

★作品をつくる場合には、基本的に制作費等は自己負担になります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50716A0D
科目名	メディア専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IA: Media		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	まず、新聞やテレビ、雑誌、書物、インターネットなど各種メディアによって報じられた事象の意味について理解を深めることから始める。これら基礎的知識を習得した後、その情報を大衆に伝達するマスコミの社会的存在意義や影響力、その方法の妥当性などについて議論を深める。演習日の直近に報道された出来事について、当該学生がその要約発表や意見発表などのプレゼンテーションを行い、それに対して全員が質問するという形式で自由討議を展開する。ここでは、社会人にとって不可欠な社会常識に加えて、相手を説得するプレゼンテーション能力やディベート能力、さらに社会に対する批判能力を高めるのが狙い。高学年においては、その要約筆記能力、さらにジャーナリスト志望者には実践的な文章力を養成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	日々のニュースを扱った新聞記事の配布やテレビニュースのビデオ視聴、さらに当日の新聞各紙を配布して、同じニュースがそれぞれどのように異なって報道されているかを検証します。		
教材（その他）			
評価方法	評価はそれぞれの専門研究の進捗度５０％、さらに各種レポートやプレゼンテーション２０～３０％、そして平常点（授業への参加の度合い）３０～２０％です。		
到達目標	少人数での課題探究と自主的な学習成果を討論という形で明確化します。研究の各自の専門研究を進めることが一番重要ですが、同時にそれを通じて学習と将来の進路への融合、つまり就職に研究を役立てることを目標とします。		
準備学習	大学で自身が独自に研究するわけですから、自分が何に興味を抱いて研究したいのか、あるいは自身の将来にそれがどのように役立つのかをよく考えて、ふさわしい主題を考えておいてください。事前に配布した資料や課題について予習をしておくこと。また、授業終了時には課題を出すので、それを次回の授業時に提出してもらいます。		

受講者への要望

高度情報化社会の中心的存在であるジャーナリズム、マスコミ、メディアを主題にしているため、学生諸君は新聞やテレビで報じられる日々のニュースに関心を持ってほしい。報道の内容を知らずして、ジャーナリズムの仕組みを勉強してもあまり意味がない。やはり、刻々と変化する社会事象を報道時系列で追いかけ、その展開に興味を持ち、その結末について共に考えるところに意義がある。また、他人の意見に耳を傾けるのも大切なことで、全員参加の形で活発に討議する演習にしたい。

実際、演習は学生が主役であるべきもの。そして、そこは自己主張を基本とした知的社会人要請の修練場でもある。個性が埋没した旧来の最大公約数的一般論ではなく、個人個人が独自の意見や批判を披露し、白熱した議論によってより説得力と客観性のある社会観を醸成できるような創造的演習にしたい。

できるだけ「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「マスコミ文章講座」の授業を受けて欲しいと思います。

講義の順序とポイント

1　イントロダクション
2　進路と研究分野について討議
3　進路と研究分野について討議
4　ウェッブを使った情報検索
5　新聞や書籍による情報収集の方法
6　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
7　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
8　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
9　テーマ設定と研究方法の検証
１０　卒業研究の中間発表と討議
１１　卒業研究の中間発表と討議

１２　卒業研究の中間発表と討議
１３　各種文献のチェック
１４　夏季休暇における研究計画の発表
１５　受講生各人の研究成果に対する討論と批評

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50716B0A
科目名	メディア専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IB: Media		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	受講者は春学期の作業をふまえ、さらに関連文献や先行・類似研究などを閲読することで、自己の「テーマ設定」を行い、テーマに即した資料収集・整理分析や参考文献の活用にもとづき発表を行う。その際、調査・制作をすすめるための方法（文献調査、統計データ分析、アンケート調査、インタビュー、事例研究等）などについて、教員のアドバイスを受けつつ学ぶ。 CM 映像や広告図版、マーケティング事例など、なるべく具体的な素材を使いながら授業を進める。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	受講生のテーマに応じ、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：テキストの講読、特定テーマでの発表、広告表現などの制作 定期試験（60%）：レポートないし作品制作		
到達目標	学年末に自己のテーマ設定と年間の講読・発表にもとづき、レポートないし制作計画を提出する。これが 4 回生時における卒業研究の「序論」ないし制作計画となることが望ましい。		
準備学習	1）自己のテーマに役立つ文献やウェブサイトを自ら閲読し、また参考・目標とする広告表現（CM、印刷広告、インターネット広告等）は日頃から収集しておくこと。 2）他の受講生の学習素材についても、事前に目を通しておき、ゼミ内で質問や意見を出せるようにすること。		

受講者への要望

テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。

講義の順序とポイント

＜演習で扱うトピック例＞

1. ヒット商品、人気 CM、ブランドをつくる企業や広告会社の戦略はどうなっているか。
2. 特定の広告表現に消費者が惹きつけられるのは、どんな表現や手法が使われているからか。
3. 音楽配信などデジタル・メディアの普及により、音楽産業はどうなっていくのか。　　等

＜研究テーマの例＞

1. 特定商品分野のマーケティングの具体的プランニングないし研究
2. 特定商品の広告計画、広告表現の作成（ポスターや CM の制作）
3. 企業のブランド研究
4. 広告クリエイター研究、コマーシャル・アート論
5. 広告表現などマス・メディアの内容分析
6. 広告産業の研究
7. 流行・消費トレンド分析、商品文化研究
8. 音楽作品や音楽産業など、メディア文化・文化産業研究

＜講義予定＞

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：各自の専攻（卒業研究）テーマの発表（1）
第 3 回：各自の専攻（卒業研究）テーマの発表（2）
第 4 回：ゼミ生発表（リサーチ課題）
第 5 回：ゼミ生発表（同）
第 6 回：ゼミ生発表（同）
第 7 回：ゼミ生発表（同）
第 8 回：ゼミ生発表（同）
第 9 回：リサーチにもとづく広告表現等の制作（チームないし個別）

第 10 回：広告表現等の作品制作（同）
第 11 回：広告表現等の作品制作（同）
第 12 回：広告表現等の作品制作（同）
第 13 回：広告表現等の作品制作（同）
第 14 回：広告表現等の作品制作（プレゼンテーション）
第 15 回：秋学期のふりかえり　・卒業研究テーマの決定

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50716B0B
科目名	メディア専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IB: Media		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションの手段・道具としての「メディア（media)」とは、言いかえれば、人間を拡張し、人間を社会的に枠づける役割を果たす“媒（なかだち）”である。古いものから新しいものまでメディアは社会の至るところに存在している。人間の身体からはじまり私たちを取り巻くあらゆるものがメディアとなる可能性をもつ。そしてメディアは歴史・社会的に生成されてきたものであり、現在のメディアの姿は絶対的、固定的ではなく、絶えず変容していくのである。 本演習では、メディアについてのワークショップをおこなう。 ※「ワークショップ（workshop)」とは、参加する人たちがお互いに刺激し合い、助け合い、学び合う“共育”を実践する“場”		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	水越伸『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005 関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	総合的に評価。		
到達目標	メディアで遊び、メディアについて考え、メディアをつくる。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の演習はすべて連関している。次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

自ら体験し、多面的に考え、主体的に行動することを望む（面倒なこと多し)。

講義の順序とポイント

この「ワークショップ」は、今日のさまざまなメディアをまず主体的に体験することからはじまる。

たとえば、テレビ番組を見る、雑誌やマンガを読む、CD を聴く、ビデオ／DVD を鑑賞する、各種ゲームに興じる、ウェブにアクセスする、チャットでおしゃべりする、映画館に行く、美術館／博物館を訪れる、ライブに参加する、お洒落な店で美味しい料理を食べる、流行のファッションを着こなす、時には空を眺めたり、できればお堅い本とも対峙して欲しい…。体験した後に考える。「なぜ楽しかったのだろうか（なぜつまらなかったのだろうか)」、同ジャンル／他ジャンルのものとの比較もしてみる。また「あのやり方は問題だ」「こうすればもっとよくなるはず」等々“自分ならばどうするか”をさまざまな視点から考えてみる。

つまり、自分たちのまわりにあるさまざまな「メディア」について、マジに遊び、考え、そして、表現する“学びの場”を共同運営する。

※上記文章および以下の項目を熟読し、そして“メディア《つくる》工房”のホームページを閲覧し、理解および納得できる人のみ参加して下さい（不用意に受講登録した場合にも、単位・成績等について一切フォローはしないので、その点はご留意下さい)。

・“学ぶ”と“教わる”の違いを理解している
・自ら課題を設定し、その課題と“日夜葛藤する”ことができる
・自分がやりたいこと／やりたくないことをきちんと主張できる
・口先だけの「私は好奇心旺盛で…」ではなく、自分が好きでないこと（得意でないこと）にでも積極的にチャレンジできる
・無駄に群れる必要性はまったくないが、共同作業をおこなう際の最低限の協調性とコミュニケーション能力を持っている
・「綿密な計画」と「無謀な無計画」をどちらも享受できる

★メディア《つくる》工房　{http://media-tukuru.jp}

01　オリエンテーション
02　ワークショップ 15
03　ワークショップ 16
04　ワークショップ 17
05　ワークショップ 18
06　ワークショップ 19
07　ワークショップ 20
08　ワークショップ 21
09　ワークショップ 22
10　ワークショップ 23
11　ワークショップ 24
12　ワークショップ 25
13　ワークショップ 26
14　ワークショップ 27
15　ワークショップ 28

★作品をつくる場合には、基本的に制作費等は自己負担になります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50716B0D
科目名	メディア専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IB: Media		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	まず、新聞やテレビ、雑誌、書物、インターネットなど各種メディアによって報じられた事象の意味について理解を深めることから始める。これら基礎的知識を習得した後、その情報を大衆に伝達するマスコミの社会的存在意義や影響力、その方法の妥当性などについて議論を深める。演習日の直近に報道された出来事について、当該学生がその要約発表や意見発表などのプレゼンテーションを行い、それに対して全員が質問するという形式で自由討議を展開する。ここでは、社会人にとって不可欠な社会常識に加えて、相手を説得するプレゼンテーション能力やディベート能力、さらに社会に対する批判能力を高めるのが狙い。高学年においては、その要約筆記能力、さらにジャーナリスト志望者には実践的な文章力を養成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	全員に当日の新聞各紙を配布して、それぞれのニュース報道がどのように異なっているかを検証します。また、同様にテレビ各局のニュースを見比べてその相異について学習します。		
教材（その他）			
評価方法	授業内レポートやプレゼンテーション５０％、積極的な議論の有無２０～３０％、平常点（授業への参加度）３０～２０％。		
到達目標	少人数での課題追求型の学習と個人個人が自主的に研究した内容を討論形式で確固たるものに鍛錬していくのが目標です。専門研究を通じてきちんとした形で卒業論文を完成させることは言うまでもないが、その過程で活発な議論、卓越したプレゼンテーション能力を養う。それはマスメディアへの就職に限らず、どんな企業への修飾に役立つと思われる。		
準備学習	ジャーナリズムについて勉強するわけですから、出来ればジャーナリズム論の教科書『衰退するジャーナリズム』をよく読んで予習しておいてください。授業は新聞各紙を配布したり、テレビ各局のニュース報道を見比べて意見交換するなどして理解を深めるのを目標とするので、事前配布の資料を読んだり、その週のニュースについて新聞やテレビで知識を得ておくなど、予習は必ずしておいてください。また、授業ではそれぞれのニュース報道について議論するので、その結果をまとめて復習するようにしておいてください。		

受講者への要望

高度情報化社会の中心的存在であるジャーナリズム、マスコミ、メディアを主題にしているため、学生諸君は新聞やテレビで報じられる日々のニュースに関心を持ってほしい。報道の内容を知らずして、ジャーナリズムの仕組みを勉強してもあまり意味がない。やはり、刻々と変化する社会事象を報道時系列で追いかけ、その展開に興味を持ち、その結末について共に考えるところに意義がある。また、他人の意見に耳を傾けるのも大切なことで、全員参加の形で活発に討議する演習にしたい。

　実際、演習は学生が主役であるべきもの。そして、そこは自己主張を基本とした知的社会人要請の修練場でもある。個性が埋没した旧来の最大公約数的一般論ではなく、個人個人が独自の意見や批判を披露し、白熱した議論によってより説得力と客観性のある社会観を醸成できるような創造的演習にしたい。

　できるだけ「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「マスコミ文章講座」の授業を受けてほしいと思います。

講義の順序とポイント

１　　オリエンテーション
２　　研究の進捗状況の発表
３　　研究の進捗状況の発表
４　　ゼミ生によるディスカッション
５　　リサーチ方法についての検討会
６　　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
７　　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
８　　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
９　　参考文献や最新データについての報告
１０　論点の整理
１１　卒業研究の中間発表と討議

１２　卒業研究の中間発表と討議
１３　卒業研究の中間発表と討議
１４　問題点について指導
１５　ゼミ全員による討論と総括的な指摘

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50726A0A
科目名	メディア専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡA: Media		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	広告広報、マーケティング、メディア、表現文化などをテーマとする卒業論文の執筆、作品制作を行う。3回生時提出の章立てと草稿をもとに、必要な調査や分析、制作を行い、最終稿・作品を仕上げる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	受講生のテーマに応じ、適時指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布。		
評価方法	平常点（40%）：テキストの講読、特定テーマでの発表、広告表現などの制作 定期試験（60%）：レポート		
到達目標	自己のテーマをきわめ、卒業研究ないし作品としてまとめあげるとともに、就職活動や卒業後に学部での自分の専攻はこれだと明言できるように各自が努力を行う。		
準備学習	1）自己のテーマに役立つ文献やウェブサイトを自ら閲読し、また参考・目標とする広告表現（CM、印刷広告、インターネット広告等）は日頃から収集しておくこと。 2）他の受講生の学習素材についても、事前に目を通しておき、ゼミ内で質問や意見を出せるようにすること。		

受講者への要望

テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。

講義の順序とポイント

各受講生の卒業研究の個別発表を進めるとともに、ゼミ生全員で共通のテーマについて発表・ディスカッションを行う。

＜講義予定＞
第1回：オリエンテーション
第2回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（1）
第3回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（2）
第4回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第5回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第6回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第7回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第8回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第9回：卒業研究の発表・指導
第10回：卒業研究の発表・指導
第11回：卒業研究の発表・指導
第12回：卒業研究の発表・指導
第13回：卒業研究の発表・指導
第14回：卒業研究の発表・指導
第15回：春学期のふりかえり

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50726A0B
科目名	メディア専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡA: Media		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	メディア専門演習ＩＡ・Ｂに引き続き、メディアについてのワークショップをおこなう。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	水越伸『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005 関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	総合的に評価。		
到達目標	メディアで遊び、メディアについて考え、メディアをつくる。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。		

受講者への要望

自ら体験し、多面的に考え、主体的に行動することを望む（面倒なこと多し）。

講義の順序とポイント

各人で、卒業研究（論文／制作）を完成させる。

01　オリエンテーション
02　卒業研究演習 01
03　卒業研究演習 02
04　卒業研究演習 03
05　卒業研究演習 04
06　卒業研究演習 05
07　卒業研究演習 06
08　卒業研究演習 07
09　卒業研究演習 08
10　卒業研究演習 09
11　卒業研究演習 10
12　卒業研究演習 11
13　卒業研究演習 12
14　卒業研究演習 13
15　卒業研究演習 14

★メディア《つくる》工房　{http://media-tukuru.jp}

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50726A0D
科目名	メディア専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡA: Media		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	まず、新聞やテレビ、雑誌、書物、インターネットなど各種メディアによって報じられた事象の意味について理解を深めることから始める。これら基礎的知識を習得した後、その情報を大衆に伝達するマスコミの社会的存在意義や影響力、その方法の妥当性などについて議論を深める。演習日の直近に報道された出来事について、当該学生がその要約発表や意見発表などのプレゼンテーションを行い、それに対して全員が質問するという形式で自由討議を展開する。ここでは、社会人にとって不可欠な社会常識に加えて、相手を説得するプレゼンテーション能力やディベート能力、さらに社会に対する批判能力を高めるのが狙い。高学年においては、その要約筆記能力、さらにジャーナリスト志望者には実践的な文章力を養成する。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズム』（福永勝也著、ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	新聞各紙やテレビニュースのビデオ、さらに関連する資料を配布します。		
評価方法	各種レポートやプレゼンテーション５０％、積極的な議論の有無２０～３０％、平常点(授業への参加の度合い）３０～２０％。		
到達目標	少人数の課題追求型の学習と個々の自主的な研究を融合させ、それらを討論という形で客観化するのが目標です。独りよがりの私見が多い今日、誰もが納得し啓発されるような見解を醸成するよう専門研究を進め、さらに社会常識を高めて就職など進路に反映させるのだ最大の目標です。		
準備学習	新聞やテレビ、雑誌、映画などでいま、世間で何が関心を呼んでいるのか、好奇心をもって豊かな情報を身につけておいてください。また、事前に配布した資料やテキストなどで予習しておくことに加え、授業終了時に復習用の課題を出すので、それを次回の授業で必ず提出するようにしてください。		

受講者への要望

高度情報化社会の中心的存在であるジャーナリズム、マスコミ、メディアを主題にしているため、学生諸君は新聞やテレビで報じられる日々のニュースに関心を持ってほしい。報道の内容を知らずして、ジャーナリズムの仕組みを勉強してもあまり意味がない。やはり、刻々と変化する社会事象を報道時系列で追いかけ、その展開に興味を持ち、その結末について共に考えるところに意義がある。また、他人の意見に耳を傾けるのも大切なことで、全員参加の形で活発に討議する演習にしたい。

実際、演習は学生が主役であるべきもの。そして、そこは自己主張を基本とした知的社会人要請の修練場でもある。個性が埋没した旧来の最大公約数的一般論ではなく、個人個人が独自の意見や批判を披露し、白熱した議論によってより説得力と客観性のある社会観を醸成できるような創造的演習にしたい。

できるだけ「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「マスコミ文章講座」の授業を受講して下さい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　卒業研究と進路についてのガイダンス
3　卒業論文の作成方法
4　卒業研究のテーマと内容発表
5　卒業研究のテーマと内容発表
6　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
7　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
8　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
9　テーマについてのグループ・ディスカッション
１０　テーマについてのグループ・ディスカッション
１１　研究の進捗動向発表と討議
１２　研究の進捗動向発表と討議
１３　卒論に必要な情報・データの補足指導

１４　ゼミ全体に対する研究状況の分析と評価

１５　ゼミ生全員による討議と総括的指摘

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50726B0A
科目名	メディア専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡB: Media		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	広告広報、マーケティング、メディア、表現文化などをテーマとする卒業論文の執筆、作品制作を行う。4回生春学期時提出の最新の章立てと草稿を深め、必要な調査や分析、制作を行い、最終稿・作品を仕上げる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	受講生のテーマに応じ、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布。		
評価方法	平常点（40%）：自己のテーマでの発表、広告表現などの制作 卒業研究（60%）：論文ないし作品		
到達目標	自己のテーマをきわめ、卒業研究ないし作品としてまとめあげるとともに、就職活動や卒業後に学部での自分の専攻はこれだと明言できるように各自が努力を行う。		
準備学習	1）自己のテーマに役立つ文献やウェブサイトを自ら閲読し、また参考・目標とする広告表現（CM、印刷広告、インターネット広告等）は日頃から収集しておくこと。 2）他の受講生の卒業研究・制作についても、ゼミ内で質問や意見を出せるようにすること。		

受講者への要望

テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。

講義の順序とポイント

各受講生の卒業研究の個別発表を進めるとともに、ゼミ生全員で共通のテーマについて発表・ディスカッションを行う。

＜講義予定＞
第1回：オリエンテーション
第2回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（1）
第3回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（2）
第4回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第5回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第6回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第7回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第8回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第9回：卒業研究の発表・指導
第10回：卒業研究の発表・指導
第11回：卒業研究の発表・指導
第12回：卒業研究の発表・指導
第13回：卒業研究の発表・指導
第14回：卒業研究の発表・指導
第15回：秋学期のふりかえり　・「ゼミ論集」編集打合せ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50726B0B
科目名	メディア専門演習ＩＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡB: Media		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	メディア専門演習ＩＡ・Ｂに引き続き、メディアについてのワークショップをおこなう。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	水越伸『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005 関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	総合的に評価。		
到達目標	メディアで遊び、メディアについて考え、メディアをつくる。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。		

受講者への要望

自ら体験し、多面的に考え、主体的に行動することを望む（面倒なこと多し）。

講義の順序とポイント

各人で、卒業研究（論文／制作）を完成させる。

01　オリエンテーション
02　卒業研究演習 15
03　卒業研究演習 16
04　卒業研究演習 17
05　卒業研究演習 18
06　卒業研究演習 19
07　卒業研究演習 20
08　卒業研究演習 21
09　卒業研究演習 22
10　卒業研究演習 23
11　卒業研究演習 24
12　卒業研究演習 25
13　卒業研究演習 26
14　卒業研究演習 27
15　卒業研究演習 28

★メディア《つくる》工房　{http://media-tukuru.jp}

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50726B0D
科目名	メディア専門演習ＩＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡB: Media		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	まず、新聞やテレビ、雑誌、書物、インターネットなど各種メディアによって報じられた事象の意味について理解を深めることから始める。これら基礎的知識を習得した後、その情報を大衆に伝達するマスコミの社会的存在意義や影響力、その方法の妥当性などについて議論を深める。演習日の直近に報道された出来事について、当該学生がその要約発表や意見発表などのプレゼンテーションを行い、それに対して全員が質問するという形式で自由討議を展開する。ここでは、社会人にとって不可欠な社会常識に加えて、相手を説得するプレゼンテーション能力やディベート能力、さらに社会に対する批判能力を高めるのが狙い。高学年においては、その要約筆記能力、さらにジャーナリスト志望者には実践的な文章力を養成する。 〈		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズム』（福永勝也著、ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	新聞各紙やテレビのニュースビデオ、関連する資料を配布します。		
評価方法	各種レポートやプレゼンテーション５０％、積極的な議論の有無２０～３０％、平常点（授業への参加度合い）３０～２０％。		
到達目標	専門研究を通じて将来の進路、つまり就職に反映させることを最大の目標とする。		
準備学習	ジャーナリズム演習なので、ネットやテレビ、新聞などで、いまどんな社会事象がニュースになっているのかを勉強しておいてください。また、事前配布の資料をよく読んで専門用語などを理解しておくことに加え、授業終了時に復習用の課題を出すので、それを次回の授業時に提出してください。		

受講者への要望

高度情報化社会の中心的存在であるジャーナリズム、マスコミ、メディアを主題にしているため、学生諸君は新聞やテレビで報じられる日々のニュースに関心を持ってほしい。報道の内容を知らずして、ジャーナリズムの仕組みを勉強してもあまり意味がない。やはり、刻々と変化する社会事象を報道時系列で追いかけ、その展開に興味を持ち、その結末について共に考えるところに意義がある。また、他人の意見に耳を傾けるのも大切なことで、全員参加の形で活発に討議する演習にしたい。

実際、演習は学生が主役であるべきもの。そして、そこは自己主張を基本とした知的社会人要請の修練場でもある。個性が埋没した旧来の最大公約数的一般論ではなく、個人個人が独自の意見や批判を披露し、白熱した議論によってより説得力と客観性のある社会観を醸成できるような創造的演習にしたい。

できるだけ「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「マスコミ文章講座」を受講することを望みます。

講義の順序とポイント

1　卒業論文の完成に向けたスケジュール作成
2　卒業研究のテーマ確認と指導
3　研究に必要な資料やデータ収集指導
4　個々の卒業研究に関する個別指導
5　個々の卒業研究に関する個別指導
6　個々の卒業研究に関する個別指導
7　卒業研究の中間発表とゼミ生による討議
8　卒業研究の中間発表とゼミ生による討議
9　卒業研究の中間発表とゼミ生による討議
１０　個々の卒論に対する評価とデータ補充の指導
１１　各自の卒業論文の最終発表とディスカッション
１２　各自の卒業論文の最終発表とディスカッション
１３　各自の卒業論文の最終発表とディスカッション
１４　ゼミ全体のテーマ・ディスカッションとそれに対する評価

１５　卒業論文の講評と総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50736A0A
科目名	メディア基礎演習 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Seminar: Media (s)		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	広告コミュニケーション、マーケティングについての基本文献を講読し、たとえば「講義の順序とポイント」に示すような問題を考え、ディスカッションを行う。 テキストの講読を中心に、CM 映像や広告図版、マーケティング事例など、なるべく具体的な素材を使いながら授業を進める。		
教材（テキスト）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6 広告』プチグラ・パブリッシング、2006 年 谷村智康『CM 化するニッポン――なぜテレビが面白くなくなったのか』WAVE 出版、2005 年		
教材（参考文献）	スタジオジブリ『ナウシカの新聞広告って見たことありますか』徳間書店、2002 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：テキストの講読、自己のテーマでの発表、広告表現などの制作 定期テスト（60%）：期末レポート		
到達目標	広告、広報・PR（パブリック・リレーションズ）などを主題として書かれた、しっかりとした基本文献を精読・味読し、それらにかかわる基本となる概念・事象について学ぶ。		
準備学習	関心を持つ広告主のマーケティング、PR、広告表現について、日頃から注意し、資料収集を行っておくこと。		

受講者への要望

テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。

講義の順序とポイント

1. 企業が市場にアプローチする戦略としてのマーケティングはどのように発展し、どんな方法を持っているか。
2. マーケティングの主要な手段としての広告はどのように発達し、どんな特徴を持っているか。
3. メディア企業の事業と、それを支える広告ビジネスはどのようなしくみになっているか。

＜講義予定＞
第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：テキスト講読・発表（1）
第 3 回：テキスト講読・発表（2）
第 4 回：テキスト講読・発表（3）
第 5 回：テキスト講読・発表（4）
第 6 回：テキスト講読・発表（5）
第 7 回：テキスト講読・発表（6）
第 8 回：テキスト講読・発表（7）
第 9 回：テキスト講読・発表（8）
第 10 回：テキスト講読・発表（9）
第 11 回：広告表現等の作品制作（チーム別）
第 12 回：広告表現等の作品制作（同）
第 13 回：広告表現等の作品制作（同）
第 14 回：広告表現等の作品制作（プレゼンテーション）
第 15 回：春学期のふりかえり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50736A0B
科目名	メディア基礎演習 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Seminar: Media (s)		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	「メディアでなにができるのか？（＝メディア・リテラシー）」を考え、実践するための基礎演習。 春学期は、メディア環境を“生態系”としてとらえ、今日のメディア社会が抱えるさまざまな問題を実践的に考える『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』を講読し、内容について、個人発表をする。		
教材（テキスト）	水越伸『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005		
教材（参考文献）	関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	個人発表（レジュメ作成／プレゼンテーション）＋最終レポートを総合的に評価。		
到達目標	メディアと社会について考える／実践する。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む。

講義の順序とポイント

受講者は、各人、最低 1 回の個人発表（レジュメ作成／プレゼンテーション）と最終レポートを必修とする。

01　オリエンテーション
02　文献講読 01
03　文献講読 02
04　文献講読 03
05　文献講読 04
06　文献講読 05
07　文献講読 06
08　文献講読 07
09　文献講読 08
10　文献講読 09
11　文献講読 10
12　文献講読 11
13　文献講読 12
14　文献講読 13
15　文献講読 14

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50736A0D
科目名	メディア基礎演習 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Seminar: Media (s)		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	まず、新聞やテレビ、雑誌、書物、インターネットなど各種メディアによって報じられた事象の意味について理解を深めることから始める。これら基礎的知識を習得した後、その情報を大衆に伝達するマスコミの社会的存在意義や影響力、その方法の妥当性などについて議論を深める。演習日の直近に報道された出来事について、当該学生がその要約発表や意見発表などのプレゼンテーションを行い、それに対して全員が質問するという形式で自由討議を展開する。ここでは、社会人にとって不可欠な社会常識に加えて、相手を説得するプレゼンテーション能力やディベート能力、さらに社会に対する批判能力を高めるのが狙い。高学年においては、その要約筆記能力、さらにジャーナリスト志望者には実践的な文章力を養成する。 〈		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	全国紙や地方紙など新聞各紙とテレビ各局のニュースビデオ、さらに雑誌や書籍の中から授業の課題に関連する資料を配布します。		
評価方法	授業内の各種レポートやプレゼンテーション５０％、積極的な議論の有無３０～２０％、平常点（授業への参加の度合い）２０～３０％。		
到達目標	少人数の課題追求型の学習と個々の自主的な研究を融合させ、それを討論という形で客観化していくのを目標とします。一般的にニュースを教材にして社会常識を養うことになりますが、最終的には個々の研究が将来の進路、就職にに結びつかせてほしいと思います。		
準備学習	議論を活発にするために、いま世の中で起きていること、つまりニュースをテレビや新聞などで勉強しておいてください。事前配布の資料などで予習して、専門用語などをよく理解しておくことに加え、授業終了時には復習用の課題を出すので、それを次回の授業時に提出してもらいます。		

受講者への要望

高度情報化社会の中心的存在であるジャーナリズム、マスコミ、メディアを主題にしているため、学生諸君は新聞やテレビで報じられる日々のニュースに関心を持ってほしい。報道の内容を知らずして、ジャーナリズムの仕組みを勉強してもあまり意味がない。やはり、刻々と変化する社会事象を報道時系列で追いかけ、その展開に興味を持ち、その結末について共に考えるところに意義がある。また、他人の意見に耳を傾けるのも大切なことで、全員参加の形で活発に討議する演習にしたい。

実際、演習は学生が主役であるべきもの。そして、そこは自己主張を基本とした知的社会人要請の修練場でもある。個性が埋没した旧来の最大公約数的一般論ではなく、個人個人が独自の意見や批判を披露し、白熱した議論によってより説得力と客観性のある社会観を醸成できるような創造的演習にしたい。

できれば「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「マスコミ文章講座」を受講することを望みます。

講義の順序とポイント

1　演習の意味とその意義の説明
2　基礎演習から専門演習への過程について
3　それぞれの進路希望聴取
4　研究テーマの選択と指導
5　卒業研究に関する個別相談と指導
6　卒業研究に関する個別相談と指導
7　卒業研究に関する個別相談と指導
8　図書館における資料蒐集
9　テーマについてディスカッション
１０　卒業研究の中間発表と討議
１１　卒業研究の中間発表と討議

１２　卒業研究の中間発表と討議
１３　メディア研究書の輪読
１４　秋学期に向けての研究課題の提示
１５　ゼミ生全員による討議と総括的指摘

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50736B0A
科目名	メディア基礎演習 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Seminar: Media (f)		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	企業や広告会社は、どんな方法で、またどんなプロセスで商品や広告をつくっているのだろうか。基本文献を講読しながら、たとえば「講義の順序とポイント」に示すようないくつかの問題についてディスカッションを行う。また、広告などのメディア表現を実際に作るための情報整理の基礎を学ぶ。		
教材（テキスト）	ジェームズ・ヤング『アイデアの作り方』阪急コミュニケーションズ、1988 年 高柳ヤヨイ『レイアウトのデザインを読む。―情報デザインのロジックを学ぶ』ソシム、2005 年		
教材（参考文献）	真木準編『一つ上のアイディア。』インプレス、2005 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：テキストの講読、自己のテーマでの発表、広告表現などの制作 定期テスト（60%）：期末レポート		
到達目標	広告、広報・PR（パブリック・リレーションズ）などを主題として書かれた、しっかりとした基本文献を精読・味読し、それらにかかわる基本となる概念・事象について学ぶ。広告クリエイティブの基本的な発想法、デザインの基本を身につける。		
準備学習	関心を持つ広告主のマーケティング、PR、広告表現について、日頃から注意し、資料収集を行っておくこと。		

受講者への要望

テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。

講義の順序とポイント

1. スポンサー企業の宣伝部は、どんなプロセスで広告をつくっているか。
2. 広告クリエイターはどんな発想と方法で消費者に注目される広告表現をつくるのか。
3. 読みやすく魅力的な広告表現のデザインをつくるために、どのような情報の整理と配置の作業が必要か。

＜講義予定＞
第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：テキスト講読・発表（1）
第 3 回：テキスト講読・発表（2）
第 4 回：テキスト講読・発表（3）
第 5 回：テキスト講読・発表（4）
第 6 回：テキスト講読・発表（5）
第 7 回：テキスト講読・発表（6）
第 8 回：広告表現等の作品制作（チーム別）
第 9 回：広告表現等の作品制作（同）
第 10 回：広告表現等の作品制作（同）
第 11 回：広告表現等の作品制作（同）
第 12 回：広告表現等の作品制作（同）
第 13 回：広告表現等の作品制作（同）
第 14 回：広告表現等の作品制作（プレゼンテーション）
第 15 回：秋学期のふりかえり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50736B0B
科目名	メディア基礎演習 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Seminar: Media (f)		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	メディアでなにができるのか？（＝メディア・リテラシー）」を考え、実践するための基礎演習。 秋学期は、春学期の展開として、文章を読む／音楽を聴く／映像を見る…そして、個人発表をする。		
教材（テキスト）	受講者の関心領域に応じて、相談の上、指定する。		
教材（参考文献）	水越伸『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005 関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	個人発表（レジュメ作成／プレゼンテーション）＋最終レポートを総合的に評価。		
到達目標	メディアと社会について考える／実践する。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む。

講義の順序とポイント

受講者は、各人、最低 1 回の個人発表（レジュメ作成／プレゼンテーション）と最終レポートを必修とする。

01　オリエンテーション
02　メディア体験実習 01
03　メディア体験実習 02
04　メディア体験実習 03
05　メディア体験実習 04
06　メディア体験実習 05
07　メディア体験実習 06
08　メディア体験実習 07
09　個人発表 01
10　個人発表 02
11　個人発表 03
12　個人発表 04
13　個人発表 05
14　個人発表 06
15　個人発表 07

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50736B0D
科目名	メディア基礎演習 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Seminar: Media (f)		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	日々の新聞、テレビ、雑誌などの報道を教材にしながら、いま世の中で何が話題になっているのか、その問題点は何かを正確に理解し、私たちの周りで起きている種々の社会事象を自主的かつ客観的に考察する。その際に需要なのは、社会を批判的に読み解く鋭い洞察力である。これら各種報道を実習的に解析することによって、マスコミとジャーナリズム、そして情報社会の実態に迫る。 まず、新聞やテレビ、雑誌、書物、インターネットなど各種メディアによって報じられた事象の意味について理解を深めることから始める。これら基礎的知識を習得した後、その情報を大衆に伝達するマスコミの社会的存在意義や影響力、その方法の妥当性などについて議論を深める。演習日の直近に報道された出来事について、当該学生がその要約発表や意見発表などのプレゼンテーションを行い、それに対して全員が質問するという形式で自由討議を展開する。ここでは、社会人にとって不可欠な社会常識に加えて、相手を説得するプレゼンテーション能力やディベート能力、さらに社会に対する批判能力を高めるのが狙い。高学年においては、その要約筆記能力、さらにジャーナリスト志望者には実践的な文章力を養成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	新聞各紙やテレビニュースのビデオ、さらに授業で必要な関連資料を配布します。		
評価方法	各種レポートやプレゼンテーション５０％、積極的な議論の有無３０～２０％、平常点（授業への参加の度合い）２０～３０％。		
到達目標	少人数の課題設定型学習に加えて、個々の自主的な研究を討論という形で深めるのが目標です。主に新聞やテレビニュース学習教材として行いますが、それを通じて社会常識を醸成したい。そして、そのような学習を通じて将来の進路、つまり就職に反映させてほしいと思います。		
準備学習	議論を活発にするためにテレビや新聞でニュース報道に親しんでおいてほしいと思います。また、事前配布の資料をよく読んで予習しておくと同時に、授業終了時には復習用の課題を出すので、それを次回の授業時に提出してもらいます。		

受講者への要望

高度情報化社会の中心的存在であるジャーナリズム、マスコミ、メディアを主題にしているため、学生諸君は新聞やテレビで報じられる日々のニュースに関心を持ってほしい。報道の内容を知らずして、ジャーナリズムの仕組みを勉強してもあまり意味がない。やはり、刻々と変化する社会事象を報道時系列で追いかけ、その展開に興味を持ち、その結末について共に考えるところに意義がある。また、他人の意見に耳を傾けるのも大切なことで、全員参加の形で活発に討議する演習にしたい。

実際、演習は学生が主役であるべきもの。そして、そこは自己主張を基本とした知的社会人要請の修練場でもある。個性が埋没した旧来の最大公約数的一般論ではなく、個人個人が独自の意見や批判を披露し、白熱した議論によってより説得力と客観性のある社会観を醸成できるような創造的演習にしたい。

できれば「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「マスコミ文章講座」を受講することを望みます。

講義の順序とポイント

1　夏休み期間中の研究進捗状況の発表
2　夏休み期間中の研究進捗状況の発表
3　テーマ・ディスカッション
4　卒業研究に関する個別相談と指導
5　卒業研究に関する個別相談と指導
6　卒業研究に関する個別相談と指導
7　図書館における文献探索
8　メディアに対する基礎知識の確認

9　　ジャーナリズムに関する基礎知識の確認
１０　卒業研究の中間発表と討議
１１　卒業研究の中間発表と討議
１２　卒業研究の中間発表と討議
１３　補足研究の指摘
１４　各個人の研究に対する問題点の提示
１５　ゼミ生全員による討論と総括的指摘

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50737A01
科目名	国語科教育法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Japanese I		
担当者名	寺田　守	旧科目名称	
講義概要	国語教育に関わる話題をできるだけ広く取り上げながら，国語教育実践を行っていくための基礎的な知識の習得をめざす。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	試験(70%)によって評価を行う。ただし，講義中にミニレポート(30%)の提出を求めることがある。また，講義への全出席が前提となる。		
到達目標	1.国語教育についての理論的理解 2.国語教育を構想する力量の習得 3.国語教育の内容についての知識の獲得		
準備学習	講義の中で課題を指示する。		

受講者への要望

本講義は，国語教育に関する「概論」である。わずかな時間に国語教育の全体にふれることになるので，広く，浅くなるのを免れない。参考書を読み，課題レポートなどには，真剣に取り組むことが必要である。

講義の順序とポイント

第 1 回　国語教育／国語科教育とは何か―学習指導要領
第 2 回　国語科の構造―三領域一事項
第 3 回　文学を読むということはどういう行為か―〈意味〉
第 4 回　なぜ登場人物の気持ちを考えるのか―ブッククラブ
第 5 回　論理的な話し合い 1 ―三角ロジック
第 6 回　論理的は話し合い 2 ―討論ゲーム
第 7 回　評論文・論説文の読み方 1 ―茂木健一郎「最初のペンギン」
第 8 回　評論文・論説文の読み方 2 ―村上陽一郎「科学と世界観」
第 9 回　書くことにおける論理と対話
第 10 回　古典に親しむ 1 ―「枕草子」
第 11 回　古典に親しむ 2 ―漢詩
第 12 回　詩の鑑賞
第 13 回　短歌・俳句の鑑賞
第 14 回　学習を推し進める教師の発言とは何か―発問
第 15 回　国語科教育の成果と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★					★

年度	2015	授業コード	J50737B01
科目名	国語科教育法II	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Japanese II		
担当者名	寺田　守	旧科目名称	
講義概要	学習者の発達段階に応じた国語科授業を構想する力量を形成するために，先行文献を手がかりとして，国語科授業の方法に関する理解を深める。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	学期末レポート(50%)によって評価を行う。また演習発表(50%)も評価する。講義への全出席が前提となる。		
到達目標	1.国語科授業の方法を理解する。 2.先行文献を活用できる。 3.指導案を作成し，模擬授業を行うことができる。		
準備学習	講義の中で指示される課題に取り組むこと。		

受講者への要望

わずかな時間に国語教育の全体にふれることになるので，広く，浅くなるのを免れない。参考書を読み，課題レポートなどには，真剣に取り組むことが必要である。

講義の順序とポイント

第 2 回　教材分析の方法
第 3 回　類似性に基づいた推論の果たす役割
第 4 回　授業形態のバリエーションとその特徴
第 5 回　教材分析および模擬授業の検討（演習）I
第 6 回　教材分析および模擬授業の検討（演習）II
第 7 回　教材分析および模擬授業の検討（演習）III
第 8 回　教材分析および模擬授業の検討（演習）IV
第 9 回　教材分析および模擬授業の検討（演習）V
第 10 回　教材分析および模擬授業の検討（演習）VI
第 11 回　教材分析および模擬授業の検討（演習）VII
第 12 回　教材分析および模擬授業の検討（演習）VIII
第 13 回　学習意欲に培う指導目標と評価規準
第 14 回　国語学力の発達
第 15 回　学習者の交流を促す原理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★					★

年度	2015	授業コード	J50737C01
科目名	国語科教育法Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Japanese Ⅲ		
担当者名	寺田　守	旧科目名称	
講義概要	中学校・高等学校における国語科教育の目標，内容，方法のすべてにわたって，国語科の授業を担当するための基礎となる知識，理解，技能を修得することをめざす。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	学期末レポート(50%)によって評価を行う。また演習発表(50%)も評価する。講義への全出席が前提となる。		
到達目標	1.中等国語科の構造と内容についての知識の獲得。 2.中等国語科指導法についての理論的理解。 3.中等国語科授業を構想する力量の習得。		
準備学習	講義の中で指示される課題に取り組むこと。		

受講者への要望

わずかな時間に国語教育の全体にふれることになるので，広く，浅くなるのを免れない。参考書を読み，課題レポートなどには，真剣に取り組むことが必要である。

講義の順序とポイント

第 1 回　学習活動の構想
第 2 回　文学教材解釈の実際 1 ―小集団で一文を読む
第 3 回　文学教材解釈の実際 2
第 4 回　文学教材解釈の実際 3
第 5 回　創作指導の方法 1 ―リレー小説を書こう
第 6 回　創作指導の方法 2
第 7 回　随筆を書く
第 8 回　文学教材の構造 1
第 9 回　文学教材の構造 2
第 10 回　文学教材の構造 3
第 11 回　コミュニケーションとは何か
第 12 回　コミュニケーションの学習活動の開発
第 13 回　演劇
第 14 回　メディアリテラシー
第 15 回　国語学力―習得・活用・学習意欲

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★					★

年度	2015	授業コード	J50737D01
科目名	国語科教育法Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Japanese IV		
担当者名	寺田　守	旧科目名称	
講義概要	国語科教科書に収載されてきた文学教材を取り上げ，教材研究の基本的な考え方や方法について明らかにする。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	学期末レポート(50%)によって評価を行う。また演習発表(50%)も評価する。講義への全出席が前提となる。		
到達目標	1.教材研究の基本的な考え方や方法が理解できる。 2.学習指導を構想することができる。 3.通史的な観点から，それぞれの教材の扱われ方の変遷を，理解することができる。		
準備学習	講義の中で指示する課題に取り組むこと。		

受講者への要望

わずかな時間に国語教育の全体にふれることになるので，広く，浅くなるのを免れない。参考書を読み，課題レポートなどには，真剣に取り組むことが必要である。

講義の順序とポイント

第 1 回　教材研究の方法
第 2 回　なぜ登場人物の気持ちを読むのか
第 3 回　文学の授業の見方
第 4 回　教材研究 1
第 5 回　教材研究 2
第 6 回　教材研究 3
第 7 回　教材研究 4
第 8 回　教材研究 5
第 9 回　教材価値の探究
第 10 回　授業評価の方法
第 11 回　伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導
第 12 回　読書指導
第 13 回　マイクロティーチング
第 14 回　アナロジー
第 15 回　国語の授業作り

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★					★

年度	2015	授業コード	J50741A01
科目名	キャリア研究ｓ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Research (s)		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	(1)広く人生について、いかに生きるべきか、なにをなすべきかについて考えます。 (2)就業に必要な課題を明らかにし，それを実現する作業を、一つ一つ，時期を失わず進めます。 (3)具体的な取り組みとして「エントリーシート・履歴書」などの書き方，自己ＰＲの仕方，面接方法，グループ討論の方法などを学びます。 (4)自分を振り返り、自己ＰＲの準備をします。 (5)古今東西の名著に触れ，職業観，人生観，世界観を考えます。 (6)社会に出ますので，協力し合える能力を高めねばなりません。授業で話し合いをしたいと思います。 (7)就職活動に限りますと，専門的な就職活動の知識，経験が必要です。キャリア・サポート・センターの援助を得て、専門スタッフから指導を受けることが重要です。		
教材（テキスト）	なし　プリント，新聞記事，小説のコピーなどを配付する。		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	毎回の授業への参加で評価します。定期試験なし		
到達目標	①自己分析シート作成　②自己ＰＲ文作成　③キャリサポ面談　④ＳＰＩ取り組み		
準備学習	毎日，ニュースに興味を持っておくこと。 就活ノートを作り，予定と反省を書いておくこと。		

受講者への要望

(1)キャリア形成に向けた取り組みの中で、就職活動は、時期を遅らせるとチャンスを失いますので、各段階の課題を、各時間に確実にやりこなしていく必要があります。
(2)キャリア形成の準備には、豊かな教養が必要です。教養科目をしっかりと取り組んでおいてください。紹介した小説も読んで欲しい。
(3)社会人になれば他人との共同作業が多くなります。ゼミ、クラブ、アルバイト，家庭，近所などでも他人と交流しておいてください。

講義の順序とポイント

第１回：　キャリア形成と準備のために、どの様な目標を持つのか考えます。
第２回：　就職登録票、就職実践模試確認
第３回：　これまでのキャリア‥‥過去の自分を振り返る。自分史１
第４回：　自分史２
第５回：　自分史３
第６回：　自分史４
第７回：　インターンシップ，アルバイト体験のまとめ
第８回：　自分の長所‥‥セールス・ポイントを整理する。自己分析シート１
第９回：　自己分析シート２
第 10 回：　自己分析シート３
第 11 回：　就職サイトへの登録
第 12 回：　自己分析シートの完成‥‥過去から現在までの自分の成長を整理する。
第 13 回：　自己ＰＲ‥‥自分の長所を相手に伝える。自己ＰＲ文１
第 14 回：　自己ＰＲ文２
第 15 回：　自己ＰＲ文３

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★					

年度	2015	授業コード	J50741B01
科目名	キャリア研究ｆ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Research (f)		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	(1)広く人生について、いかに生きるべきか、なにをなすべきかについて考えます。 (2)就業に必要な課題を明らかにし，それを実現する作業を、一つ一つ，時期を失わず進めます。 (3)具体的な取り組みとして「エントリーシート・履歴書」などの書き方，自己ＰＲの仕方，面接方法，グループ討論の方法などを学びます。 (4)自分を振り返り、自己ＰＲの準備をします。 (5)古今東西の名著に触れ，職業観，人生観，世界観を考えます。 (6)社会に出ますので，協力し合える能力を高めねばなりません。授業で話し合いをしたいと思います。 (7)就職活動に限りますと，専門的な就職活動の知識，経験が必要です。キャリア・サポート・センターの援助を得て、専門スタッフから指導を受けることが重要です。		
教材（テキスト）	なし　プリント，新聞記事，小説のコピーなどを配付する。		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回授業でレジュメ，キャリサポ資料を配付する		
評価方法	毎回の授業への参加で評価します。定期試験なし		
到達目標	①履歴書作成　②エントリーシート作成　③キャリサポ講座受講　④業界研究講座出席		
準備学習	毎日，ニュースに興味を持っておくこと。 就活ノートを作り，予定と反省を書いておくこと。		

受講者への要望

(1)キャリア形成に向けた取り組みの中で、就職活動は、時期を遅らせるとチャンスを失いますので、各段階の課題を、各時間に確実にやりこなしていく必要があります。
(2)キャリア形成の準備には、豊かな教養が必要です。教養科目をしっかりと取り組んでおいてください。紹介した小説も読んで欲しい。

講義の順序とポイント

第１回：　履歴書を書く　履歴書の要件を考える。
第２回：　履歴書を書く
第３回：　履歴書の完成
第４回：　企業研究　どのような仕事がしたいのか　適職検索
第５回：　どのような企業があるのか　企業検索
第６回：　就職ナビによる企業検索
第７回：　業界研究セミナーまとめ
第８回：　エントリーシートを書く　エントリーシートの目標を考える
第９回：　エントリーシート１：企業・業界共通編
第 10 回：　エントリーシート２：企業・業界独自編
第 11 回：　実践練習‥‥面接
第 12 回：　４回生による「就職活動体験セミナー」：就職活動の体験をまなぶ(予定)
第 13 回：　面接対策：面接の実践とグループ討論
第 14 回：　マナー：社会人としての常識を確認します。
第 15 回：　この時期なにをしなければならないか確認，持ち物。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★					

年度	2015	授業コード	J50742001
科目名	脳と心	単位数	2
科目名（英語表記）	Brain and Mind		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	脳と心との関係は如何にというのは，長年論争されてきたいわゆる「心身問題」である。 本講では，心はどのようにして生まれるのか，脳と心の関係をどう考えるのか，心が脳をコントロールできる側面などを検討し，脳にとって悪い「クセ」を直して脳を活性化させる方法について論述する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（20%）は出席状況等による。定期試験結果（80%）		
到達目標	脳と心の関係を正しく理解できるようになること。		
準備学習	授業のテキスト（レジュメ）を京学なびの「授業資料」に，授業の 1 週間前までにアップロードするので，プリントアウトして，必ず事前に読んで理解しておくこと。 復習の課題は，京学なびの「課題提出」に提示するので，指定期日までに京学なびの「課題提出」に提出すること。		

受講者への要望

心理学入門，心理学概論を履修したものとして，講義を進めます。授業には必ず出席すること。

講義の順序とポイント

1．意識は科学で解明できるか
（1）意識と脳科学
2．脳と心をどう考えるか
（1）意識と心の起源
（2）脳と心の関係について
3．脳と心をどう考えるか
（3）脳と心の諸説
（4）脳から心へ
（5）心は脳を超える
4．意識を作る脳
（1）意識と体をつなぐ
5．意識を作る脳
（2）心をみる
（3）意識の構図
6．意識する心
（1）意識と認知
7．心が脳を変える
（1）量子力学と心
（2）心の力
8．心が脳を変える
（3）心が脳をコントロールする
9．脳と神経
（1）脳の諸相
10．利きにまつわる問題
（1）利き手
11．生理心理学
（1）脳波と事象関連電位
12．脳に悪い習慣をどのように直すか

13. 脳を活性化させる方法
14. ブレイン・ルール
15. 頭にいいことをやろう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	J50743A01
科目名	歴史民俗学上級講読（歴史） I	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced class of Reading: Historical Fo lklore Materials (Japanese History) I		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	歴史学は、当時の人々が残した史料を読み解きながら、考察を深める学問です。しかし現代に残る古文書のうち翻刻（現代の文字に直すこと）されて史料集として出版されているものは 1%にもみたず、ほとんどの史料はくずし字のまま残されています。つまりくずし字の読解能力を持てば、より広い歴史世界を自分で足で歩き回ることが可能になります。本講義では往来物や古文書の写真をテキストとして、実際のくずし字をみなさんに読んでもらいます。		
教材（テキスト）	古文書のコピーをその都度、配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	『くずし字用例辞典　普及版』（東京堂出版）。購入方法はガイダンスにて指示します。		
評価方法	平常点　　70%　授業への取り組み方 定期試験　30%　江戸時代の史料の読解能力について試験します。		
到達目標	・くずし字で書かれた史料の読解能力を習熟すること ・史料読解に必要となる歴史的事項の調査方法を習得すること		
準備学習	毎回、次回の課題プリント（古文書のコピー）を配布します。講義では受講者全員に、黒板に読みを板書してもらい、口頭で読み上げてもらいます。当然、授業でいきなり古文書に目を通しても読めないので、課題プリントを図書館や家で、くずし字辞典や国語辞典などを参照しながら、読んでくる作業が必要になります。		
受講者への要望			
古文書の多くはくずし字（草書体）で書かれています。初めてみた方は同じ日本語とは思えない、アラビア語をみるような感覚になるかもしれません。購入を指定した『くずし字用例辞典』はもちろん、国語辞典、漢和辞典、さらには歴史事典なども駆使して、読解に挑戦してみてください。くずし字読解能力というパスポートを手に入れて、ぜひ一緒に歴史世界に旅立ちましょう。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2〜15　古文書の解読と講評			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★				

年度	2015	授業コード	J50743B01
科目名	歴史民俗学上級講読（歴史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced class of Reading: Historical Fo lklore Materials (Japanese History) II		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	歴史学は、当時の人々が残した史料を読み解きながら、考察を深める学問です。しかし現代に残る古文書のうち翻刻（現代の文字に直すこと）されて史料集として出版されているものは 1%にもみたず、ほとんどの史料はくずし字のまま残されています。つまりくずし字の読解能力を持てば、より広い歴史世界を自分で足で歩き回ることが可能になります。本講義では往来物や古文書の写真をテキストとして、実際のくずし字をみなさんに読んでもらいます。		
教材（テキスト）	古文書のコピーをその都度、配布します。 後期は特に受講生の研究テーマに関する古文書を読むこともあります。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	『くずし字用例辞典　普及版』（東京堂出版）。購入方法はガイダンスにて指示します。		
評価方法	平常点　　100%　授業への取り組み方		
到達目標	・くずし字で書かれた史料の読解能力を習熟すること ・史料読解に必要となる歴史的事項の調査方法を習得すること		
準備学習	毎回、次回の課題プリント（古文書のコピー）を配布します。講義では受講者全員に、黒板に読みを板書してもらい、口頭で読み上げてもらいます。当然、授業でいきなり古文書に目を通しても読めないので、課題プリントを図書館や家で、くずし字辞典や国語辞典などを参照しながら、読んでくる作業が必要になります。		
受講者への要望			
古文書の多くはくずし字（草書体）で書かれています。初めてみた方は同じ日本語とは思えない、アラビア語をみるような感覚になるかもしれません。購入を指定した『くずし字用例辞典』はもちろん、国語辞典、漢和辞典、さらには歴史事典なども駆使して、読解に挑戦してみてください。くずし字読解能力というパスポートを手に入れて、ぜひ一緒に歴史世界に旅立ちましょう。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2〜15　古文書の解読と講評			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★				

年度	2015	授業コード	J50744A01
科目名	歴史民俗学上級講読（民俗） Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced class of Reading: Historical Fo lklore Materials (Folklore) Ⅰ		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	歴史民俗学上級講読では、高度に専門的な内容の英文講読を行います。内容は３人の担当者の専門に従って、民俗地理学・都市文化史・文化人類学の英文講読となります。主に、大学院進学者を対象とします。教科書は受講者の要望する専門にあった文献を相談しながら決めます。		
教材（テキスト）	受講者と相談して適宜決める		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	プリントの配布		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）発表（６０％）レポート（２０％）		
到達目標	各分野の専門的な英文が読めるようになること。		
準備学習	配布プリントの予習		
受講者への要望			
参考文献にも目を配ること。			
講義の順序とポイント			
１　教科書の選定と解説 ２～15　受講者による講読			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50744B01
科目名	歴史民俗学上級講読（民俗） II	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced class of Reading: Historical Fo lklore Materials (Folklore) II		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	歴史民俗学上級講読 II では、 I と同様に高度に専門的な内容の英文講読を行います。内容は３人の担当者の専門に従って、民俗地理学・都市文化史・文化人類学の英文講読となります。主に、大学院進学者を対象とします。教科書は受講者の要望する専門にあった文献を相談しながら決めます。		
教材（テキスト）	受講者と相談して適宜決める		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	プリントの配布		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）発表（６０％）レポート（２０％）		
到達目標	各分野の専門的な英文が読めるようになること。		
準備学習	配布プリントの予習		
受講者への要望			
参考文献にも目を配ること。			
講義の順序とポイント			
1　教科書の選定と解説 2～15　受講者による講読			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50745A01
科目名	中国文学特殊講義Ａ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Chinese Literature A		
担当者名	森　雅子	旧科目名称	
講義概要	この授業ではとくに中華民国期（1912～49 年）の文学を中心にとりあげる。近代の中国の知識人たちが外国との接触のなかでなにを感じ、なにが変わり、そしてそれをどのように文学に昇華していき現代に繋がっているのか。いくつかのテーマに分けて、現代の中国事情を絡めながら、およそ 100 年前からの中国の知識人や作家による作品について述べ、考察する。		
教材（テキスト）	なし。適宜プリント等を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	ドキュメンタリーなどの映像資料を適宜使用する。		
評価方法	平常点（出席や課題・授業への取り組み）30%、期末レポート 70%		
到達目標	外国の言語・芸術・文学に興味を持ち、それらを学ぶことで異文化理解を深める。		
準備学習	中国の社会・文学・文化などに興味を持って臨むこと。		
受講者への要望			
積極的に授業に参加すること。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに～中国について ２．中国現代文学のなりたち～表現と思想の改革 ３．恋愛と結婚 ４．「髪」と「足」にまつわる話 ５．現代中国を知る① ６．「家」について ７．ふるさと ８．北京と上海 ９．現代中国を知る② １０．「留学する」ということ① １１．「留学する」ということ② １２．日本文学と中国文学① １３．日本文学と中国文学② １４．日本文学と中国文学③ １５．総括と復習 ＊以上の内容は受講者数・進度によって変更の可能性がある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	J50745B01
科目名	中国文学特殊講義Ｂ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Chinese Literature B		
担当者名	森　雅子	旧科目名称	
講義概要	この授業ではとくに中華民国期（1912～49 年）の文学を中心にとりあげる。近代の中国の知識人たちが外国との接触のなかでなにを感じ、そしてそれをどのように文学に昇華していき現代に繋がっているのか。テキストとして巴金「家」、郁達夫「沈淪」「わが夢わが青春」を取り上げ、通読し講述する。＊テキストは日本語訳を使用。初回授業で毎回の発表担当者を決める。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	映像資料を適宜使用する。		
評価方法	平常点（出席や課題・授業への取り組み）30%、期末レポート 70%		
到達目標	外国の言語・芸術・文学に興味を持ち、それらを学ぶことで異文化理解を深める。		
準備学習	中国の社会・文学・文化などに興味を持って臨むこと。		
受講者への要望			
積極的に授業に参加すること。発表担当者以外も事前準備をして授業に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに ２．「家」について ３．「家」を読む① ４．「家」を読む② ５．「家」を読む③ ６．「家」を読む④ ７．「家」を読む⑤ ８．現代中国を知る① ９．現代中国を知る② １０．「沈淪」「わが夢わが青春」について １１．「沈淪」「わが夢わが青春」を読む① １２．「沈淪」「わが夢わが青春」を読む② １３．「沈淪」「わが夢わが青春」を読む③ １４．「沈淪」「わが夢わが青春」を読む④ １５．総括と復習 ＊以上の内容は受講者数・進度によって変更の可能性がある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	J50747001
科目名	現代フランス事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Contemporary French Society		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	歴史・伝統文化・現代社会や文化の観点からフランスを発見しましょう。現代のフランス事情を理解する手助けとなる、多くの興味深い事実を見つけ、現代の日本事情と比較して、世界をより広く理解します。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント配布やビデオ		
評価方法	授業出席・積極的参加：３０％ 小テスト：３０％ 口頭プレゼンテーション１回（各学生は、勉強した主題の１つを５～１０分程スピーチする）：４０％		
到達目標	フランスの現代事情に精通し、日本の現代事情との共通点・相違点を理解できるようになる。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。		

受講者への要望

毎回の講義出席に加え、グループまたは個人で、勉強した主題の１つを短いプレゼンテーション（５～１０分程）をする。

講義の順序とポイント

01 講義についての説明
02 歴史・地理・気候
03 経済・産業・雇用
04 女性の境遇
05 フランスの教育システム
06 社会的不平等：映画を通して学ぶ（パート１）
07 社会的不平等：映画を通して学ぶ（パート２）
08 １年を通したフランスの生活スタイル
09 パリ
10 芸術（造形芸術、音楽、映画、ファッション）：過去　パート１
11 芸術（造形芸術、音楽、映画、ファッション）：現在　パート２
12 フランスの食文化
13 高級料理：映画を通して学ぶ（パート１）
14 高級料理：映画を通して学ぶ（パート２）
15 フランスにおける日本人と日本文化

講義計画及び内容は変更する可能性があります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J50747002
科目名	現代フランス事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Contemporary French Society		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	歴史・伝統文化・現代社会や文化の観点からフランスを発見しましょう。現代のフランス事情を理解する手助けとなる、多くの興味深い事実を見つけ、現代の日本事情と比較して、世界をより広く理解します。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント配布やビデオ		
評価方法	授業出席・積極的参加：３０％ 小テスト：３０％ 口頭プレゼンテーション１回（各学生は、勉強した主題の１つを５～１０分程スピーチする）：４０％		
到達目標	フランスの現代事情に精通し、日本の現代事情との共通点・相違点を理解できるようになる。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
毎回の講義出席に加え、グループまたは個人で、勉強した主題の１つを短いプレゼンテーション（５～１０分程）をする。			
講義の順序とポイント			
01 講義についての説明 02 歴史・地理・気候 03 経済・産業・雇用 04 女性の境遇 05 フランスの教育システム 06 社会的不平等：映画を通して学ぶ（パート１） 07 社会的不平等：映画を通して学ぶ（パート２） 08 １年を通したフランスの生活スタイル 09 パリ 10 芸術（造形芸術、音楽、映画、ファッション）：過去　パート１ 11 芸術（造形芸術、音楽、映画、ファッション）：現在　パート２ 12 フランスの食文化 13 高級料理：映画を通して学ぶ（パート１） 14 高級料理：映画を通して学ぶ（パート２） 15 フランスにおける日本人と日本文化 講義計画及び内容は変更する可能性があります。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J50748001
科目名	現代中国事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Contemporary Chinese Society		
担当者名	劉　暁嵐	旧科目名称	
講義概要	本講義は、専門的知識の授業ではなく、担当者も専門家ではないけれど、中国に対して関心・興味をもつ受講生達が一緒になって、この授業ならではの雰囲気の中気軽に話し合い、によって隣国、そしてそこの人々への理解を深めることができたらなんと素晴らしいことでしょう。 授業の内容は、すこし日中関係の歴史を遡ってから、現代中国の社会事情や日中関係についてみんなで一緒に考えてみよう。特に中国の今抱えている難問、即ち一人っ子政策や出稼ぎ労働者、大学生の就職難など、いずれも現代中国を理解する鍵となる要素であり、そればかりではなく、たぶんどの国にも類似の側面があるでしょう。そのような問題は社会にどのような悪影響をもたらしているのか、とりわけ、現代の中国はそれらに対してどのように対処しようとしているのか、みんなでちょっと意見を交わしてみませんか。できればこの講義で得た知識を生かしてわが大学の「グローバル・インターンシップ･プログラム（GIP)」への参画をも試してみたらどうですか。　さあ、留学生の皆さん、日本人の学生さん、ぜひこの「触れ合い場」へ積極的に寄って下さいませ。		
教材（テキスト）	プリント配布		
教材（参考文献）	適宜指示		
教材（その他）	随時にプリントを配布します		
評価方法	平常点（30%）出席状況等により、自ら問題提出 40%、レポート（30%）学期末に提出を求める。5 回以上欠席は単位が取れない。		
到達目標	現代中国の諸事情につき基礎的な知識と理解をもつ。他国の諸問題について多面的かつ柔軟な視点で考察できるようになる。		
準備学習	現代中国の諸問題に対して関心をもち、メディア等で伝えられる情報を手に入れるようにする。 毎度の授業の前に、日本人の学生は、中国人留学生に聞きたいこと、中国人留学生は日本人あるいは他の国の学生に聞きたいことを準備しておき、授業中楽しく話し合いますように。		

受講者への要望

主体的になぜ自分はこの講義をとるのか、中国の諸事情について理解をもつことが自分にとってどんな意味をもつのかを考えて授業に出てほしい。主体的な関心があってはじめて勉強は有意義なものとなるだから、積極的に問題を提出、自分の意見を率直に話す姿勢が望ましい。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス：授業の進み方･成績評価基準
2. 中国の概況：行政･地理
3. 中国の歴史を遡る
4. 古・近代史の日中関係
5. 中国の近代史の内戦(台湾問題も)
6. 新中国の一連政治運動
7. 改革開放
8. 現在中国の社会問題---人口、民工・流民など
9. 中国庶民の娯楽
10. 大学生の就活と若者の恋愛観
11. 古典文学・現代文学の簡介
12. 戦後の日中関係
13. ビデオ鑑賞（NHK）
14. 学期末レポート準備
15. レポート発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50748002
科目名	現代中国事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Contemporary Chinese Society		
担当者名	劉　暁嵐	旧科目名称	
講義概要	本講義は、専門的知識の授業ではなく、担当者も専門家ではないけれど、中国に対して関心・興味をもつ受講生達が一緒になって、この授業ならではの雰囲気の中気軽に話し合い、によって隣国、そしてそこの人々への理解を深めることができたらなんと素晴らしいことでしょう。 授業の内容は、すこし日中関係の歴史を遡ってから、現代中国の社会事情や日中関係についてみんなで一緒に考えてみよう。特に中国の今抱えている難問、即ち一人っ子政策や出稼ぎ労働者、大学生の就職難など、いずれも現代中国を理解する鍵となる要素であり、そればかりではなく、たぶんどの国にも類似の側面があるでしょう。そのような問題は社会にどのような悪影響をもたらしているのか、とりわけ、現代の中国はそれらに対してどのように対処しようとしているのか、みんなでちょっと意見を交わしてみませんか。できればこの講義で得た知識を生かしてわが大学の「グローバル・インターンシップ･プログラム（GIP)」への参画をも試してみたらどうですか。　さあ、留学生の皆さん、日本人の学生さん、ぜひこの「触れ合い場」へ積極的に寄って下さいませ。		
教材（テキスト）	プリント配布		
教材（参考文献）	適宜指示		
教材（その他）	随時にプリントを配布します		
評価方法	平常点（30%）出席状況等により、自ら問題提出 40%、レポート（30%）学期末に提出を求める。5 回以上欠席は単位が取れない。		
到達目標	現代中国の諸事情につき基礎的な知識と理解をもつ。他国の諸問題について多面的かつ柔軟な視点で考察できるようになる。		
準備学習	現代中国の諸問題に対して関心をもち、メディア等で伝えられる情報を手に入れるようにする。 毎度の授業の前に、日本人の学生は、中国人留学生に聞きたいこと、中国人留学生は日本人あるいは他の国の学生に聞きたいことを準備しておき、授業中楽しく話し合いますように。		

受講者への要望

主体的になぜ自分はこの講義をとるのか、中国の諸事情について理解をもつことが自分にとってどんな意味をもつのかを考えて授業に出てほしい。主体的な関心があってはじめて勉強は有意義なものとなるだから、積極的に問題を提出、自分の意見を率直に話す姿勢が望ましい。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス：授業の進み方･成績評価基準
2. 中国の概況：行政･地理
3. 中国の歴史を遡る
4. 古・近代史の日中関係
5. 中国の近代史の内戦(台湾問題も)
6. 新中国の一連政治運動
7. 改革開放
8. 現在中国の社会問題---人口、民工・流民など
9. 中国庶民の娯楽
10. 大学生の就活と若者の恋愛観
11. 古典文学・現代文学の簡介
12. 戦後の日中関係
13. ビデオ鑑賞（NHK）
14. 学期末レポート準備
15. レポート発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50751002
科目名	美意識の比較文化	単位数	2
科目名（英語表記）	Comparison Culture of Sense of Beauty		
担当者名	荒木　利枝	旧科目名称	
講義概要	美意識は、人によって、また状況によって、異なるものである。そして、時代や他の文化的要素、社会的環境などさまざまな要因によって変化する。もちろん、外見だけでなく、内面の情報も、美意識の形成過程に影響を与えるのである。このような美意識を生み出す背景や原理は複雑で、その要素を知ることは「美しく」生きるために不可欠といえる。 この講義では、美意識の国際比較、自己表現としての化粧、コミュニケーションにおける化粧行動の役割など多様なトピックスを取り上げ、化粧の効用やその行為自体の意義について解説する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じてプリントを配布する。		
評価方法	平常点 50%　授業内確認テスト 50% 平常点は、授業中の発表や、宿題、レポートなどの課題、提出物を総合的に評価する。		
到達目標	美意識の形成についてのアウトラインを学び、化粧行動の基本的意義を踏まえた上で、社会的、文化的効果を理解する。単に知識を得るだけでなく、調査や討論、発表などを通して、各自、美しい社会人として行動するためのヒントを得ることを目標とする。		
準備学習	各講義中に、次回講義のための準備学習（資料収集やレポート作成、発表準備等）を指示する。		

受講者への要望

授業は、講義の他、グループワーク、小レポート作成、発表などの活動もあるので、受講者には積極的な参加を求める。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション　美意識の形成について学ぶ
第 2 回　「美しさ」とは
第 3 回　化粧と美意識
第 4 回　顔のコミュニケーション
第 5 回　「美しさ」と社会性
第 6 回　化粧の歴史
第 7 回　世界の化粧
第 8 回　日本と西洋、ヘアスタイルの文化
第 9 回　美意識の国際比較 1
第 10 回　美意識の国際比較 2
第 11 回　美意識の国際比較 3
第 12 回　女性とキャリア
第 13 回　美の創造
第 14 回　高齢者と美意識
第 15 回　美意識の比較文化

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J50752001
科目名	国際社会と環境	単位数	2
科目名（英語表記）	International Society and Environment		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	環境問題の中には、地球温暖化のような国境を越える国際的な環境問題が多く存在する。こうした問題は、各国の国内政策だけで解決することは難しく、国際社会が共同して解決を図ることが必要である。また、温暖化問題が示すように、近年、先進国と開発途上国との間の政治的・経済的問題はますます重要な問題になってきている。したがって、国際的な観点から環境問題を検討することは非常に重要である。 本授業では、いくつかの重要な国際的な環境問題（地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、黄砂、砂漠化、海洋汚染など）を取り上げ、その現状や原因について明らかにする。また、問題解決のための国際的な環境条約や環境制度について検討する。さらに、日本社会が国際社会の一員として、これらの環境問題を解決するためには、どのような貢献をしていくべきかについて考察する。なお、授業では新聞記事などを紹介しながら、それぞれの環境問題についての最新の世界情勢についても解説する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。各講義で書き込み式授業ノートや資料を配布する。		
教材（参考文献）	① 地球環境研究会編集『地球環境キーワード事典』中央法規出版 （2008 年）（五訂版） ② 九里徳泰、平山明彦、左巻健男著『新訂 地球環境の教科書 10 講』東京書籍; 新訂版 （2014 年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する		
評価方法	出席状況及び授業内パフォーマンス（25%）、レポートの提出（25%）、学期末試験（50%）		
到達目標	地球規模での環境問題の現状や原因を把握し、その解決のための国際社会の取り組みについて理解すること。また地球環境問題の解決のために、日本社会が国際社会の一員として、どのような貢献をなすべきかについて主張できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング （できれば、あらかじめ①の参考書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。）		
受講者への要望			
講義の前に参考書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. 地球環境問題とは 2. 地球温暖化 I 3. 地球温暖化 II 4. 地球温暖化III 5. オゾン層の破壊 6. 越境大気汚染問題（酸性雨） 7. 越境大気汚染問題（黄砂） I 8. 越境大気汚染問題（黄砂） II 9. 砂漠化問題 I 10. 砂漠化問題II 11. 海洋汚染問題 I 12. 海洋汚染問題II 13. 有害廃棄物の越境問題 14. 開発途上国等における環境問題 15. 地球環境問題の課題と展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50752002
科目名	国際社会と環境	単位数	2
科目名（英語表記）	International Society and Environment		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	環境問題の中には、地球温暖化のような国境を越える国際的な環境問題が多く存在する。こうした問題は、各国の国内政策だけで解決することは難しく、国際社会が共同して解決を図ることが必要である。また、温暖化問題が示すように、近年、先進国と開発途上国との間の政治的・経済的問題はますます重要な問題になってきている。したがって、国際的な観点から環境問題を検討することは非常に重要である。 本授業では、いくつかの重要な国際的な環境問題（地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、黄砂、砂漠化、海洋汚染など）を取り上げ、その現状や原因について明らかにする。また、問題解決のための国際的な環境条約や環境制度について検討する。さらに、日本社会が国際社会の一員として、これらの環境問題を解決するためには、どのような貢献をしていくべきかについて考察する。なお、授業では新聞記事などを紹介しながら、それぞれの環境問題についての最新の世界情勢についても解説する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。各講義で書き込み式授業ノートや資料を配布する。		
教材（参考文献）	① 地球環境研究会編集『地球環境キーワード事典』中央法規出版 （2008 年）（五訂版） ② 九里徳泰、平山明彦、左巻健男著『新訂 地球環境の教科書 10 講』東京書籍; 新訂版 （2014 年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する		
評価方法	出席状況及び授業内パフォーマンス（25%）、レポートの提出（25%）、学期末試験（50%）		
到達目標	地球規模での環境問題の現状や原因を把握し、その解決のための国際社会の取り組みについて理解すること。また地球環境問題の解決のために、日本社会が国際社会の一員として、どのような貢献をなすべきかについて主張できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング （できれば、あらかじめ①の参考書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。）		
受講者への要望			
講義の前に参考書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. 地球環境問題とは 2. 地球温暖化 I 3. 地球温暖化 II 4. 地球温暖化III 5. オゾン層の破壊 6. 越境大気汚染問題（酸性雨） 7. 越境大気汚染問題（黄砂） I 8. 越境大気汚染問題（黄砂） II 9. 砂漠化問題 I 10. 砂漠化問題II 11. 海洋汚染問題 I 12. 海洋汚染問題II 13. 有害廃棄物の越境問題 14. 開発途上国等における環境問題 15. 地球環境問題の課題と展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50753001
科目名	国際社会と資源	単位数	2
科目名（英語表記）	International Society and Natural Resour ces		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	環境問題と同様に、資源問題の中にも、海洋資源の減少のような国境を越える国際的な資源問題が多く存在する。こうした問題は、各国の国内政策だけで解決することは難しく、国際社会が共同して解決を図ることが必要である。また、資源問題においても、先進国と開発途上国との間の政治的・経済的問題はますます重要な問題になってきている。したがって、国際的な観点から資源問題を検討することは非常に重要である。 本授業では、いくつかの重要な国際的な資源問題（海洋資源の減少、森林の減少、生物多様性の減少、人口問題、食糧問題、水資源問題、化石資源問題）を取り上げ、その現状や原因について明らかにする。また、問題解決のための国際的な資源条約や資源制度について検討する。さらに、日本社会が国際社会の一員として、これらの資源問題を解決するためには、どのような貢献をしていくべきかについて考察する。なお、授業では新聞記事などを紹介しながら、それぞれの資源問題についての最新の世界情勢についても解説する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。各講義で書き込み式授業ノートや資料を配布する。		
教材（参考文献）	① 地球環境研究会編集『地球環境キーワード事典』中央法規出版 （2008 年）（五訂版） ② 石 弘之著『地球環境「危機」報告』有斐閣（2008 年）		
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び授業内パフォーマンス（25%）、レポートの提出（25%）、学期末試験（50%）		
到達目標	地球規模での資源問題の現状や原因を把握し、その解決のための国際社会の取り組みについて理解すること。また地球資源問題の解決のために、日本社会が国際社会の一員として、どのような貢献をなすべきかについて主張できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング （授業の前に、次に取り上げる資源問題について、『地球環境キーワード事典』やインターネット等で大まかなことを予習しておくこと。）		
受講者への要望			
教科書を指定していないので、講義への出席が大切です。講義には必ず出席して、配布資料を参照しながら内容を理解してください。私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求めます。			
講義の順序とポイント			
1. シラバスの説明・地球資源問題とは 2. 海洋資源の減少問題Ⅰ（概況） 3. 海洋資源の減少問題Ⅱ（タラ類） 4. 海洋資源の減少問題Ⅲ（マグロ） 5. 海洋資源の減少問題Ⅳ（クジラ） 6. 森林の減少問題Ⅰ 7. 森林の減少問題Ⅱ 8. 生物多様性の減少問題Ⅰ 9. 生物多様性の減少問題Ⅱ 10. 人口問題 11. 食糧問題 12. 水資源問題 13. 化石資源問題Ⅰ 14. 化石資源問題Ⅱ 15. 地球資源問題の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50753002
科目名	国際社会と資源	単位数	2
科目名（英語表記）	International Society and Natural Resour ces		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	環境問題と同様に、資源問題の中にも、海洋資源の減少のような国境を越える国際的な資源問題が多く存在する。こうした問題は、各国の国内政策だけで解決することは難しく、国際社会が共同して解決を図ることが必要である。また、資源問題においても、先進国と開発途上国との間の政治的・経済的問題はますます重要な問題になってきている。したがって、国際的な観点から資源問題を検討することは非常に重要である。 本授業では、いくつかの重要な国際的な資源問題（海洋資源の減少、森林の減少、生物多様性の減少、人口問題、食糧問題、水資源問題、化石資源問題）を取り上げ、その現状や原因について明らかにする。また、問題解決のための国際的な資源条約や資源制度について検討する。さらに、日本社会が国際社会の一員として、これらの資源問題を解決するためには、どのような貢献をしていくべきかについて考察する。なお、授業では新聞記事などを紹介しながら、それぞれの資源問題についての最新の世界情勢についても解説する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。各講義で書き込み式授業ノートや資料を配布する。		
教材（参考文献）	① 地球環境研究会編集『地球環境キーワード事典』中央法規出版 （2008 年）（五訂版） ② 石 弘之著『地球環境「危機」報告』有斐閣（2008 年）		
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び授業内パフォーマンス（25%）、レポートの提出（25%）、学期末試験（50%）		
到達目標	地球規模での資源問題の現状や原因を把握し、その解決のための国際社会の取り組みについて理解すること。また地球資源問題の解決のために、日本社会が国際社会の一員として、どのような貢献をなすべきかについて主張できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング （授業の前に、次に取り上げる資源問題について、『地球環境キーワード事典』やインターネット等で大まかなことを予習しておくこと。）		
受講者への要望			
教科書を指定していないので、講義への出席が大切です。講義には必ず出席して、配布資料を参照しながら内容を理解してください。私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求めます。			
講義の順序とポイント			
1. シラバスの説明・地球資源問題とは 2. 海洋資源の減少問題Ⅰ（概況） 3. 海洋資源の減少問題Ⅱ（タラ類） 4. 海洋資源の減少問題Ⅲ（マグロ） 5. 海洋資源の減少問題Ⅳ（クジラ） 6. 森林の減少問題Ⅰ 7. 森林の減少問題Ⅱ 8. 生物多様性の減少問題Ⅰ 9. 生物多様性の減少問題Ⅱ 10. 人口問題 11. 食糧問題 12. 水資源問題 13. 化石資源問題Ⅰ 14. 化石資源問題Ⅱ 15. 地球資源問題の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50754001
科目名	経済開発と環境 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Development and Environment		
担当者名	上須　道徳	旧科目名称	
講義概要	発展途上国にとって貧困克服や生活向上のために経済成長は人々の生活を向上させるために不可欠と考えられます。また、先進国においても日々の豊かな生活を支える経済活動が汚染問題や資源枯渇問題を引き起こし、人々の生活を脅かしています。この授業では、環境汚染問題や資源問題などをとりあげ、経済学的な視点からどうして公害などの環境問題がおこるのかどのような方法で解決できるのかに焦点をあて、経済発展と環境の関係を明らかにします。また授業の初めに、経済専門誌（日本経済新聞など）を使って経済と環境に関する時事問題について解説することも試みます。		
教材（テキスト）	テキストブック環境と公害　泉 留維, 室田 武, 和田 喜彦, 三俣 学著　評論社		
教材（参考文献）	授業中に提示します。		
教材（その他）	講義資料など配布します。		
評価方法	平常点 30%出席状況等、期末試験 70%から総合的に評価します。		
到達目標	社会や経済と環境の関係について理解し、例えば日本の環境政策（エコカー減税など）が環境にとって良いものなのか自身で考えられる、知的体力の獲得を目標にします。		
準備学習	毎回授業の終わりに教科書の範囲を指定するので、予習すること。また、日ごろから、新聞に目を通し、自分で考える習慣を身に付けましょう。		

受講者への要望

いろいろなことに興味を持ってください。

講義の順序とポイント

1 日目　経済開発と環境
1 限　暮らしと環境
2 限　経済活動と公害
3 限　環境と経済学（マーケットって何？　経済学からみた自然環境とは？公害はどうしておこる?）
4 限　環境政策：理論と実践
5 限　経済開発と環境：レビューとディスカッション
2 日目　グローバル経済と環境
1 限　環境と経済学その 2（環境の価値って測れる？公共事業と環境の関係は？）
2 限　環境と経済・金融
3 限　経済のグローバル化と環境問題
4 限　持続可能な観点からみた消費者・生活者としての私達の役割
5 限　グローバル経済と環境：レビューとディスカッション
3 日目　地球環境問題
1 限　資源と廃棄物のお話
2 限　球温暖化問題入門
3 限　エネルギーのお話
4 限　生物多様性のお話
5 限　ちきゅ環境問題：レビューとディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★		★★	★★

年度	2015	授業コード	J50755001
科目名	グローバル・サステイナビリティ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Global Sustainability		
担当者名	上須　道徳	旧科目名称	
講義概要	サステイナビリティとは社会の持続可能性を意味します。21 世紀になり地球温暖化や生物多様性の損失、エネルギー資源の枯渇など地球社会の存続を脅かす問題への取り組みが大きな課題となっています。この授業では、１）地球社会の存続を脅かす問題や課題について大きな視点で理解する、２）いろいろな問題や課題を包括的に取り扱うための考え方や取り組みに触れる、３）足元で起こっていることまた私たちが出来ることを見ていきます。このような作業を通じて皆さんがこれからの社会にどう関わっていくのかについて考えるきっかけを提供します。		
教材（テキスト）	授業資料（レジュメ）を配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜提示します。		
教材（その他）	プリントを配布する		
評価方法	平常点 20%出席状況等、グループワーク・発表等 20%、試験 60%から総合的に評価します。		
到達目標	身の回りのことと世界のつながり、それが環境や社会・経済とどう関わりあっているか自分で考えることが出来るようになることが到達目標です。また、講義だけでなくグループワークや発表を通じて、課題発見能力とコミュニケーション能力を身に付けます。		
準備学習	授業のテキストを、京学なびの「授業資料」に、授業開講 1 週間前までにアップロードするので、プリントアウトをし、事前に読み、専門用語や考え方などを自分なりに理解しておいてください。また日ごろから、新聞やインターネットなどでいろいろな分野のニュースや記事に目を通しておきましょう。		
受講者への要望			
地元や日本のこと外国のこと、環境のこと社会・経済のこと、いろいろなことに目を向け、関心を持ってください。			
講義の順序とポイント			
第 1 日目 第 1 回　20 世紀を振り返る 第 2 回　持続可能な発展と地球社会 第 3 回　地球温暖化①：気候変動と地球温暖化の科学 第 4 回　地球温暖化②：気候変動の影響 第 5 回　地球温暖化③：気候変動への取り組み 第 2 日目 第 6 回　生物多様性の問題①：生物多様性と生態系サービス 第 7 回　生物多様性の問題②：ミレニアム開発報告について 第 8 回　生物多様性の問題③：生態系保全の様々な取り組み 第 9 回　エネルギーの持続可能性①：エネルギーについての基礎知識 第 10 回　エネルギーの持続可能性②：エネルギーの持続可能性について考える 第 3 日目 第 11 回　資源とサステイナビリティ－レアアースとアフリカの問題について 第 12 回　発展途上国とサステイナビリティ①：貧困と格差について考える 第 13 回　発展途上国とサステイナビリティ②：健康、食糧、水の問題 第 14 回　持続可能な発展についてみんなで考える：その 1 第 15 回　持続可能な発展についてみんなで考える：その 2			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50756001
科目名	京都の音 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Sounds of Kyoto		
担当者名	小松　正史	旧科目名称	
講義概要	本授業では、音を切り口にして、京都の自然・文化・都市空間の特徴を理解することを目的としています。授業スタイルは、講義だけでなく音の存在を体感するために、ワークショップも行います。最終的には、京都をはじめとした身の回りの空間や音環境をデザインするノウハウを学びます。音や音楽に興味をもつ人であれば、誰もが具体的なアクションを起こすことができる分野です。物を作るとき、部屋を改良するとき、イベントをするとき、商品を企画するとき、まちづくりを考えるとき…。それぞれの分野で応用が可能です。京都という身近な環境や京都学園大学のキャンパスを題材にしながら、耳の楽しみを増やすための実習作業を、ともに行いましょう。		
教材（テキスト）	・小松正史『みんなでできる音のデザイン』ナカニシヤ出版、2010 年（2,376 円）		
教材（参考文献）	・小松正史『京の音 -音で体感、京の風景-』淡交社、2006 年（1,944 円）		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	平常点（60%）出席状況等による。レポート（40%）。		
到達目標	(1) 自分の制作（創作）活動に、音の発想を応用することができる。 (2) 音環境デザインの 3 軸「マイナス」「ハコ」「プラス」が理解できる。 (3) 音育のワークショップを通して、「聴く力」が養える。 (4) 身近な空間で音環境デザインの実践ができる。 (5) 音の切り口から京都の特徴を体感的に理解できる。		
準備学習	予習に関しては、各授業終了時に次回の講義に関連した教科書の範囲を伝えるので、事前に読んでおくこと。復習と関連課題に関しては、各授業終了時に本授業で補足追加すべき内容の課題を伝えるので、各自で復習を行うこと。また、参考文献に挙げた『京の音』を用いて、京都の音環境についての観察や考察を学期中を通して行うこと。		

受講者への要望

テキスト『みんなでできる音のデザイン』をもとに授業を進行するので、必ず購入するようにして下さい。音の分野は自分の感覚を使い、集中してイメージをつくりあげることが重要です。それゆえ、授業内容を積極的に吸収したいという意志がないと、京都の音や音のデザインの内容を理解し、創造力を深めることは困難です。真摯さと積極性のある方の受講を、強く望みます。
参考 URL:{http://www.nekomatsu.net}

講義の順序とポイント

1 回目 授業内容ガイダンス（代表的な京都の音の紹介）
2 回目「音を感じよう 1」（音のひびきを確かめるワークショップ）
3 回目「音を感じよう 2」（音の感覚を深めるワークショップ）
4 回目「京都の音 1」（共同体の音に関する講義）
5 回目「京都の音 2」（庭園の音に関する講義）
6 回目「音を描こう 1」（音を描くワークショップ）
7 回目「音を描こう 2」（描かれた音の分析ワークショップ）
8 回目「京都と音の観光に関する講義」
9 回目「京都の音 3」（京都の音デザイン事例に関する講義 1」
10 回目「京都の音 4」（京都の音デザイン事例に関する講義 2」
11 回目「私空間の音デザイン 1 」（音デザインの計画）
12 回目「私空間の音デザイン 2 」（音デザインの設計と実施）
13 回目「京都と音楽に関する講義 1」
14 回目「京都と音楽に関する講義 2」
15 回目まとめ（ワークショップ成果と具体的デザインの提案の共有）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50757001
科目名	美容とブランド	単位数	2
科目名（英語表記）	Beauty and Brand		
担当者名	荒木　利枝	旧科目名称	
講義概要	日本の美容業界は、明治から昭和に至る経済発展の原動力となり、またいち早く国際化に対応してきた。とくに化粧品産業は、その時代の文化や経済と密接にかかわり、高度な販売システムを形成した独特の市場を持っている。消費者が、最も海外製品を身近に感じることができる市場であるともいえるであろう。シャネル、クリスチャン・ディオール、ジバンシィ、イヴ・サンローランといったトップ・ブランドはもちろん、M.A.C、ボビィブラウン、ナーズ、メイクアップフォーエバーなどのアーティスト系ブランドも数千円で手に入るのである。それに対抗する国産メーカーの動きも目が離せない。このように、対象とする顧客が明確で、新製品（新色）の発売周期も安定した業界は他にはない魅力がある。 この講義では、美容業界、とくに化粧品市場に焦点をあて、その歴史や独特の流通システム、メーカーの組織、ブランドのプロフィールなどを解説し、企業研究にも取り組む。また、状況に応じて、フロア・プラン研究のためのフィールドワークを企画する予定である。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じてプリントを配布する。		
評価方法	平常点 50％　授業内確認テスト 50％ 平常点は、授業中の発表や、課題、提出物を総合的に評価する。		
到達目標	日米欧における化粧品市場の変遷、ブランディングの歴史、化粧品の流行やその販売の現場など、美容産業の国際的発展過程について理解する。さらに、個別企業の動向についても理解を深める。		
準備学習	各講義中に、次回講義のための準備学習（資料収集やレポート作成等）を指示する。		
受講者への要望			
講義の他、グループワーク、発表などの活動もあるので、積極的な参加を求める。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　イントロダクション　美容業界におけるブランドを学ぶ 第 2 回　化粧品とブランド 第 3 回　化粧品産業の流通システム 第 4 回　美容の歴史―明治の文明開化から大正デモクラシー 第 5 回　美容の歴史―昭和・日本経済の発展と化粧品産業の隆盛 第 6 回　美容の歴史―平成・流通の構造改革 第 7 回　インターネットをめぐる化粧品業界の動き 第 8 回　規制緩和―再販制度と薬事法 第 9 回　メーカーの製造・販売・情報発信 第 10 回　主要ブランド・プロフィール 第 11 回　小売の現状―販売店のフロア・プラン 1　百貨店 第 12 回　小売の現状―販売店のフロア・プラン 2　ドラッグストア 第 13 回　化粧品市場の今後 第 14 回　化粧品企業の社会的責任 第 15 回　美容とブランド			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50758001
科目名	英語フィールドワーク京都 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Kyoto Fieldwork in English		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	「京都の観光地を英語」で学んだ内容をふまえた実習授業。「京町家キャンパス」を拠点に京都の観光地に出かけて、英語で実際にガイドブック作りや観光案内などを行い、生きた英語を学びます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表・宿題 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1.Give the students vocabulary and grammar to design a basic guidebook 2.Help the students to become more familiar with giving directions 3.Construct different patterns for communicating in spoken/written English		
準備学習	Come to class ready to learn. This class will be slightly more difficult than the first semester, but work hard!		
受講者への要望			
授業に毎回出席すること。受講生各自の辞書、単語帳を持ってくることを勧めます。			
講義の順序とポイント			
近年、欧米を中心とした「日本ブーム」で京都を訪ねる外国人観光客が増加した。この講座では、外国人が見る京都を英語で探検し、「京町家キャンパス」を拠点に京都の観光地に出かけて、意識調査やガイドブック作りなどで英語運用能力をたかめる。 1.Introduction / What is fieldwork? 2.Getting to know Kyoto in English 3.Kyoto ? City of Temples (1) 4.Kyoto ? City of Temples (2) 5.Kyoto ? City of Tea (1) 6.Kyoto ? City of Tea (2) 7.Kyoto ? City of Arts (1) 8.Kyoto ? City of Arts (2) 9.Guidebook writing (1) 10.Guidebook writing (2) 11.Kyoto in English Literature (1) 12.Kyoto in English Literature (2) 13.Survey writing 14.Conducting Surveys 15.Final reports/discussion			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★		

年度	2015	授業コード	J50759001
科目名	海外ニュースと時事問題 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	English through Foreign Media		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	イギリス国営放送「BBC」 のニュースを見ながら、英語の聴解力・読解力を高める講座。		
教材（テキスト）	小野田榮& Lucy Cooker, BBC Understanding the News in English 7, Kinseido Publishing		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	25％－発表・宿題 50％－課題(テストやクイズ等) 25％プロジェクト・発表・宿題		
到達目標	1.Become more familiar with intermediate to slightly advanced English 2.Gain a basic body of useful vocabulary for communicating about newsworthy themes		
準備学習	Come to class, be prepared to learn, do the prescribed assignments, and have fun!		

受講者への要望

Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary. (Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class. ※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント

1.Ninety Years of Remembrance ［90 年目の戦没者記念日］
2.Edinburgh‘s World Heritage Status ［エジンバラ世界遺産登録を悩ます問題］
3.Animal Research vs. Rights ［動物実験か動物保護か？］
4.Sex Education in Schools ［性教育、学校で必修に］
5.Drugs in Afghanistan and Thailand ［アフガニスタンとタイの麻薬対策］
6.Frozen Clones ［凍結したマウスから生まれたクローン］
7.Tales from the Credit Crunch ［銀行の破綻が影を落とす人間模様］
8.Too Noisy for Polar Bears? ［ホッキョクグマを悩ます騒音とは？］
9.Illegal Immigrants ［不法移民の実態］
10.Texting and Driving ［運転中のメールの危険性］
11.Fast Track to Teaching ［教師の短期養成計画］
12.Cholera in Zimbabwe ［コレラ発生に苦しむジンバブエ］
13.Cookery for 11-year-olds ［11 才から料理の授業必修化へ］
14. A Modern Slave Trade? ［売春は現代の奴隷売買か？］
15.Understanding the Big Bang ［ビッグバンの謎解明へ］

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期 待	★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	J50760001
科目名	海外ＴＶドラマ論 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	English through Foreign TV Drama		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	人気テレビドラマ「LOST」を通して、現代の英語を学びます。番組を英語で理解することだけでなく、その背景にある現代社会やポピュラー文化についても考察を深めます。		
教材（テキスト）	プリント教材を配付します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	25％－宿題　　50％－課題(テストやクイズ等)　25％プロジェクト・発表		
到達目標	1.To further advance the students' understanding popular culture through TV 2.Becoming more confident in spoken and written English		
準備学習	Come to class, be prepared to learn, and do your best!		

受講者への要望

Come to class ready to work, and don't be afraid to ask questions and talk to others!

講義の順序とポイント

1.Introduction to the class / Episode 1
2.Episode 1 / Discussion: What would you do?
3.Episode 2
4.Episode 2 / Discussion: narrative
5.Episode 3
6.Episode 3 / Discussion: genre
7.Episode 4
8.Episode 4 / Discussion: plot
9.Episode 5
10.Episode 5 / Discussion: character/personality
11.Episode 6
12.Episode 6/Discussion: What do you think will happen next?
13.Episode 7
14.Episode 7 /Discussion: Sayings and phrases
15.Test and Comprehension Check

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50761A01
科目名	エアライン講座Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Airline Course I		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本講座では、エアライン業界で羽ばたきたいと願う学生、サービス業や一般企業に就職したいと望む学生たちに、実践的な知識・技能が習得できるように講義を展開します。本講座のねらいは、お客様をもてなすホスピタリティ、洗練されたしぐさやマナーを習得し、エアライン他の業界に就職をするための方法を理解し、受講生のキャリア形成を支援することにあります		
教材（テキスト）	必要な教材はプリントにて授業内で配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び授業内パフォーマンス（70%）、テスト（30%）		
到達目標	①航空業界の仕事に関する理解を深める ②ホスピタリティの意義を理解し、その表現力を高める ③キャリア形成に役立つコミュニケーション能力を高める		
準備学習	授業で学んだマナーや美しいしぐさを日常生活で実践し、反復の中で習得していくこと		

受講者への要望

授業を担当するのは複数の女性講師（ウィズネス社）です。内藤は全体のコーディネーターを担当します。

航空会社の採用試験は、客室乗務員、グランドスタッフ、総合職など合わせて年間 300 回近い募集がありますが、人気の高い業界のため、その倍率は 50～100 倍ともいわれています。高倍率の試験を勝ち抜くためには、高水準の知識・技能・マナーを習得しなければなりません。
一方、エアライン業界が要求する高水準の知識・技能・マナーを習得すれば、一般企業でもかならず通用することでしょう。それゆえ、本講座は、航空業界の志望者だけでなく、サービス業をはじめ、広く一般就職をめざす学生を対象としています。対象学年は就職活動前の３回生ですが、２回生以上であれば受講することができます。
マナーは実践によって学ぶものですので、出席と積極的な参加・学習を要望します。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス：オリエンション／航空業界の仕事について／航空業界で求められる人材とは？
２．自己表現力①接遇の５原則（Ⅰ）トレーニング　〔挨拶・キビキビした動作・笑顔づくり〕
３．自己表現力②接遇の５原則（Ⅱ）トレーニング　〔節度ある話し方・接客話法〕
４．自己表現力③好感を持ってもらうためのスピーチ法と学んだことのチェックと強化
５．接遇応対法①待機～出迎え～案内～飲み物サービス～お見送りのシーンに必要な知識と実践ワーク
６．接遇応対法②待機～出迎え～案内～飲み物サービス～お見送りのシーンで必要な知識と実践ワーク
７．接遇応対法③待機～出迎え～案内～飲み物サービス～お見送りのシーンで必要な知識と実践ワーク
８．接遇応対法④電話の受け方・かけ方のポイントと実践訓練
９．接遇応対法⑤ロールプレイングの課題提出、グループワークとワークチック
１０．自己分析：交流分析チェックと行動パターンの把握
１１．ES・履歴書の理解：エントリーシート、航空業界やその他の企業で書かせられるテーマとは？
１２．ES・履歴書の理解：今から準備しておくべき、文字で自分を伝えるための常識
１３．面接対策実践①面接では何が見られるのか？　入退出の動きのトレーニング
１４．面接対策実践②模擬面接体験、質疑応答のポイント
１５．全体のまとめ：夢を実現するために、体験学習から学ぶ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★			

年度	2015	授業コード	J50761B01
科目名	エアライン講座Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Airline Course Ⅱ		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本講座は、高水準のホスピタリティ、マナー、コミュニケーション力を習得することを目的とした講座である。この講座では、最高度のホスピタリティとマナーが要求されるエアライン業界に就職する場合に必要なものを広く学ぶことを通じて、あらゆる業界で通用する実践的な社会力を身につけることをめざす。エアライン講座Ⅱでは、エアライン講座Ⅰで学んだ基礎力をさらに向上させ、実践的な場ですぐに活用できるよう、各自のパフォーマンスを確認しつつ修練を積んでゆく。		
教材（テキスト）	必要な教材はプリントにて授業内で配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び授業内パフォーマンス（70%）、テスト（30%）		
到達目標	①エアライン業界や高度なサービス業において必要とされる知識・技能を習得する ②ホスピタリティの意義を理解し、多様な場面においてこれを実践する能力を身につける ③職場や公の場において主体的に考え、行動するために必要なコミュニケーション能力を習得する。		
準備学習	前回の授業で学んだ内容を、繰り返し訓練し、日常生活で活用すること。ホスピタリティに関連する課題（詳細は授業内で伝える）を調べ、発表の準備をしてくること。		

受講者への要望

授業を担当するのは複数の女性講師（ウィズネス社）です。内藤は全体のコーディネーターを担当します。
エアライン業界が要求する高水準の知識・技能・マナーを習得すれば、一般企業でもかならず通用します。それゆえ、本講座は、航空業界の志望者だけでなく、サービス業をはじめ、広く一般就職をめざす学生を対象としています。対象学年は就職活動前の３回生ですが、２回生以上であれば受講することができます。
マナーは実践によって学ぶものですので、出席と積極的な参加・学習を要望します。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス：オリエンション　エアライン業界のしくみと、業界で求められる知識
２．ホスピタリティの原則
３．ホスピタリティの実践：公的な場におけるふるまい①
４．ホスピタリティの実践：公的な場におけるふるまい②
５．自己表現としてのスピーチ：方法論
６．公的な場におけるスピーチの実践①：準備
７．公的な場におけるスピーチの実践②：プレゼンテーション
８．公的な場におけるスピーチの実践③：振り返りと自己確認
９．社会的な場におけるマナーと会話の方法
１０．対面的な場における会話・接遇の方法
１１．対面的な場における会話・接遇の実践
１２．高度な自己分析：交流分析チェックと行動パターンの把握
１３．グループワーク①
１４．グループワーク②
１５．復習：ホスピタリティに関する知識と総合的な実践力の確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★			

年度	2015	授業コード	J50762A0A
科目名	ヒューマン・コミュニケーション基礎演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Communication Studies Seminar A		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本演習では、地球環境問題や資源問題をテーマに演習形式の学習を進める。教科書や参考文献や資料を読んで調べる力、発表する力、議論する力を養う。特に本演習では、地球規模での環境・資源問題について、幅広く学ぶことを目的としている。具体的には、教科書の中の 11 のテーマを受講者に割り当て、割り当てられた受講者はそのテーマについてレジュメを作成し、内容について報告する。他の受講者はその内容について質問を行い、全員で議論をすることで理解を深める。受講者は今回のテーマの中から最も興味のある問題を研究テーマとして選択し、3 回生の専門演習でさらに深く研究を行う。		
教材（テキスト）	地球環境研究会編集『地球環境キーワード事典』中央法規出版（2008 年）（五訂版）		
教材（参考文献）	九里徳泰, 平山明彦, 左巻健男著 『新訂 地球環境の教科書 10 講』 東京書籍 新訂版 （2014 年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する。		
評価方法	演習での発表、議論（50%）・課題達成度（50%）		
到達目標	地球的規模での国際的な環境問題や資源問題について幅広い知識を身につけること。		
準備学習	割り当てられたテーマについては教科書を読んでレジュメを作成し、発表の準備をすること。それ以外のテーマについても、教科書を読んで質問の準備をすること。		
受講者への要望			
演習の前に教科書・参考書の指定されたところを読んで準備し、演習に出席して発表したり、質問したりすること。提出物の締め切りを厳守すること。			
講義の順序とポイント			
1. 地球環境問題とは 2. 地球環境問題の見取り図 3. 地球の温暖化 I 4. 地球の温暖化 II 5. オゾン層の破壊 6. 酸性雨 7. 海洋汚染 8. 有害破棄物の越境移動 9. 生物の多様性の減少 10. 森林の減少 11. 砂漠化 12. 開発途上国等における環境問題 13. その他（南極、世界遺産、地球環境研究、貿易） 14. 原発事故による放射能汚染問題 15. 地球環境問題の展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★		★	★

年度	2015	授業コード	J50762B0A
科目名	ヒューマン・コミュニケーション基礎演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Communication Studies Seminar B		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	ヒューマン・コミュニケーション基礎演習Ａでは、地球環境問題や資源問題の現状について幅広く学んだが、本演習では、それらの問題への対策（レスター・ブラウンの提唱するプランＢ）の面に焦点をあて、演習形式の学習を進める。本演習でも教科書や参考文献や資料を読んで調べる力、発表する力、議論する力を養う。具体的には、教科書の 13 章を受講者に割り当て、割り当てられた受講者はそのテーマについてレジュメを作成し、内容について報告する。他の受講者はその内容について質問を行い、全員で議論をすることで理解を深めていく。		
教材（テキスト）	レスター・ブラウン著 枝廣淳子他訳『地球に残された時間 ― 80 億人を希望に導く最終処方箋』ダイヤモンド社（2012 年）		
教材（参考文献）	① レスター・ブラウン著 織田創樹監訳『プラン B4.0 人類文明を救うために』 ワールドウォッチジャパン（2010 年） ② レスター・ブラウン著 福岡 克也・北濃 秋子訳『エコ・エコノミー』 家の光協会（2002 年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する。		
評価方法	演習での発表、議論（50%）・課題達成度（50%）		
到達目標	レスター・ブラウン氏の提唱する、地球的規模での国際的な環境問題や資源問題への対策、プランＢについて理解すること。		
準備学習	割り当てられたテーマについては教科書を読んでレジュメを作成し、発表の準備をすること。それ以外のテーマについても、教科書を読んで質問の準備をすること。		

受講者への要望

演習の前に教科書・参考書の指定されたところを読んで準備し、演習に出席して発表したり、質問したりすること。

講義の順序とポイント

1.「エコ・エコノミー」及び「プランＢ」とは
2. レスター・ブラウンとアースポリシー研究所（ビデオ：環境教室）
3. 崖っぷち
4. 地下水位の低下と収穫量の減少
5. 土壌の侵食と砂漠の拡大
6. 上昇する気温、溶ける氷、脅かされる食料安全保障
7. 食料不足という政治問題の出現
8. 環境難民の出現
9. 破綻しつつある国家
10. エネルギー効率の良い世界経済を構築する
11. 風、太陽、地熱のエネルギーを利用する
12. 経済を支える自然のシステムを修復する
13. 貧困を根絶し、人口を安定させ、破綻しつつある国家を救済する
14. 80 億人を養う
15. 文明を救う

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★		★	★

年度	2015	授業コード	J50763A0A
科目名	英語コミュニケーション基礎演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	English Communication Seminar A		
担当者名	Sean Bell	旧科目名称	
講義概要	More and more companies and institutions are seeking individuals with some English ability. The goal of this class is to teach some skills that will be useful not only now but also in the future. We will work on presentation skills, email skills, practical functions, and discussion skills. If there are enough individuals interested in the world of business we can tailor some topics to that. Skills learned in this class would also be helpful for students taking the TOEIC exam and wanting to raise their score.		
教材（テキスト）	No text. Hand-outs will be used.		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	60% Report. (30% as oral report / 30% as written) 20% Class work. Working in pairs, homework, role-plays, participation, etc. (Please come to class) 20% Effort. Raising hand, asking questions, pair work, and so		
到達目標	To build basic conversation skills. Be able to use English skills at a level good enough for basic everyday conversation as well as work in the future. Vocabulary, listening, and reading skills will also improve.		
準備学習	Finish homework before class. Attendance is important to cover all the skills throughout the year. Ask questions when you don’t understand.		

受講者への要望

Please bring material handed out to each class.
A dictionary would be useful for unknown words.
Ask questions if you don't understand.
Keep a notebook for notes.

講義の順序とポイント

1. Introductions / Target of class / Scoring / How was Spring break?
Find out what interests the class has so we can tailor topics to fit everyone.

2. Begin teaching presentation skills. Introduction and physical aspects. Practice these skills in class.

3. Use and present the skills from the Introduction section. Hand out some material related to practical language functions.

4. Discussion skills and discussion cycle. Using a business or topic interesting for the class have a mini discussion using the skills taught.

5. Body of a presentation.

6. More on the body of a presentation. Work on and present a mini topic practicing body. Students will evaluate and give feedback.

7. Video or movie. Discuss on issues related to it to practice discussion skills.

8. Presentation skills visuals. There are many ways to use visuals and we will look at this in detail.

9. Presentation skills conclusion. Practice and review visuals from the previous week.

10. Talk about handling questions. Hand out some material related to practical language functions.

11. More on discussion skills. Using a topic given as homework we will have discussion to practice these skills.

12. Video or movie. Discuss issues related to it.

13. Start putting the final presentation together.

14. Full presentations in class. Students will evaluate each presentation with a chance for feedback after each presentation.

15. Review what was taught throughout the year

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★			★	

年度	2015	授業コード	J50763A0B
科目名	英語コミュニケーション基礎演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	English Communication Seminar A		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	“Be”動詞の使い方を徹底して勉強する講座。質疑応答・会話ドリルなど通じて、よくある問題点を直しながら、便利な発言を覚えていく。“Be”動詞と名詞を合わせたときをはじめ、形容詞や現在進行形も過去形も勉強する。		
教材（テキスト）	無し、各講義でプリントを配付する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	宿題・発表 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1.To further advance the students’ understanding of various terms and their usage 2.To become more familiar with describing things/situations 3.Construct different patterns for communicating in spoken/written English through		
準備学習	Come to class, be prepared to learn, do the prescribed assignments, and have fun!		

受講者への要望

And don't be afraid to try!
授業に毎回出席すること。
Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary. (Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class. ※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)
(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント

Be 動詞の使い方は難しいと思いませんか。丁寧に説明して、自身を持って様々な場面で使えるように訓練する講座です。
1. Be verb basics
2. Review and sentence building
3. Noun focus and Be Verbs type 1
4. Type 1 practice and review
5. Adjective focus and Be verbs type 2
6. Type 2 practice and review
7. Present Continuous focus and Be verbs type 3
8. Type 3 practice and review
9. Past tense
10. Practice and Usage
11. Negatives
12. Practice and Usage
13. Test preparation
14. Review
15. Speaking test

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★		★	★	★

年度	2015	授業コード	J50764B0A
科目名	英語コミュニケーション基礎演習B	単位数	2
科目名（英語表記）	English Communication Seminar B		
担当者名	Sean Bell	旧科目名称	
講義概要	More and more companies and institutions are seeking individuals with some English ability. The goal of this class is to teach some skills that will be useful not only now but also in the future. We will work on presentation skills, email skills, practical functions, and discussion skills. If there are enough individuals interested in the world of business we can tailor some topics to that. Skills learned in this class would also be helpful for students taking the TOEIC exam and wanting to raise their score. **Note** We may review presentation skills from the previous semester and if we do it will be more advanced material. This semester will focus more on email skills, functions, and discussion skills.		
教材（テキスト）	No text. Own hand-outs.		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	60% Report. (30% as oral report / 30% as written) 20% Class work. Working in pairs, homework, role-plays, participation, etc. (Please come to class) 20% Effort. Raising hand, asking questions, pair work, and so on.		
到達目標	To build basic conversation skills. Be able to use English skills at a level good enough for basic everyday conversation as well as work in the future. Vocabulary, listening, and reading skills will also improve.		
準備学習	Finish homework before class. Attendance is important to cover all the skills throughout the year. Ask questions when you don’t understand.		

受講者への要望

Please bring material handed out to each class.
A dictionary would be useful for unknown words.
Ask questions if you don't understand.
Keep a notebook for notes.

講義の順序とポイント

1. Introductions / Target of class / Scoring / How was summer vacation?
Discuss any requests students may have for this semester.

2. Begin teaching email skills. Giving and receiving email addresses. Basic email layout.

3. Hand out some material related to practical language functions. Use these functions in class to practice and role-play.

4. Advanced discussion skills and discussion cycle. Using a business or topic interesting for the class have a mini discussion using the skills taught.

5. Email salutations and closing. Header, body, signature/position, contact information.

6. Email correction activity related to homework assignment. Hand out some material related to practical language functions. Use these functions in class to practice and role-play.

7. Video or movie. Discuss or write an email on issues related to it to practice skills.

8. Email useful expressions. Email style comparisons. Situations for writing email. Use the internet to find some examples of

email to share with class the next week.

9. Go over the homework assignment from the previous week and give advice and work on evaluation. Hand out some material related to practical language functions.

10. More on advanced discussion skills and focus on some topics that interest the class.

11. Begin talking about a mini presentation or discussion to put together what we have learned throughout the year. For homework have students prepare material needed to start putting all together.

12. Go over homework and in group start putting together material for the final presentation or discussion topic.

13. Advice and a chance to go over the final project.

14. Full presentations in class. Students will evaluate each presentation with a chance for feedback after each presentation.

15. Review what was taught throughout the year.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★			★	

年度	2015	授業コード	J50764B0B
科目名	英語コミュニケーション基礎演習 B	単位数	2
科目名（英語表記）	English Communication Seminar B		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	英語コミュニケーション基礎演習 B is a continuation of the spring semester class. In this class we will begin by reviewing basic English grammar usage. Then we will cover intermediate English, by working on Simple Present tense and past Tense verb conjugation, frequency, and more.		
教材（テキスト）	教材としてプリントなど使用します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	宿題・発表 20%　　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1. Use Simple Present Tense Verbs and Past Tense verbs to explain different situations 2. To become more adept at describing things/situations with verbs		
準備学習	Come to class, be prepared to learn, do the prescribed assignments, and try your best.		

受講者への要望

Be ready to learn! This class will be more challenging than first semester.
授業に毎回出席すること。
Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary. (Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class. ※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)
(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント

We will cover SPT (Simple Present Tense), Past Tense, and Verb changes.

1. Review of 'Be' verbs
2. Review of Adjectives
3. Review of Verbs
4. Using Verbs
5. Past tense Verbs
6. Using Past Tense Verbs
7. Hobbies (Pairing with Verbs)
8. Frequency Introduction
9. Frequency Focus and Work
10. Frequency and Hobby work
11. SPT introduction
12. SPT Usage
13. Making Frequency Conversations
14. Making hobby Conversations
15. Making SPT CONVERSATIONS

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	J50765A0A
科目名	日本語学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar : Japanese Language Study IA		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	中世語の文献を原典で読む。授業は、各自に担当範囲を示し、それについて調査・研究した結果を順次発表してもらう。		
教材（テキスト）	『大蔵虎明本狂言集の研究』　（北原保雄） 『大蔵虎明本狂言集』（大塚光信）		
教材（参考文献）	授業内で逐次紹介する。ただし、参考文献そのものを探すことが重要な学習であるので、最低限にとどめる。		
教材（その他）	図書館の指定図書。他に『時代別国語辞典　室町時代編』		
評価方法	発表５０点と期末レポート５０点の総合評価。		
到達目標	卒業論文作成への礎をしっかり築くこと。特に問題点の発掘、ならびに参考資料の探し方を修得する。		
準備学習	２回生時の購読のレジュメを見直しておいて欲しい。 「日本古典文学大系　狂言集」を参照のこと。		
受講者への要望			
すでに活字化されているものに頼らず、原典に直接当たり、他資料を駆使しながら、独力で読み解く姿勢で臨んで欲しい。			
講義の順序とポイント			
1　授業の概要説明、対象資料の紹介 2　これまでの研究史概説 3　各自発表 4　発表 5　発表 6　発表 7　発表 8　発表 9　発表 10　発表 11　発表 12　発表 13　発表 14　発表 15　発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50766001
科目名	生活と文化の世界史 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of World Lifestyles and Cultures		
担当者名	朴　沙羅	旧科目名称	
講義概要	お茶の生産と流通、国際的な貿易の流れを通じて世界史を概観し、国際社会への深い理解を養う。		
教材（テキスト）	使用しない。各講義でプリントを配布し、受講者が必要に応じて参考図書をコピーする		
教材（参考文献）	川北稔著『砂糖の世界史』（岩波ジュニア新書）、角川栄著『茶の世界史：緑茶の文化と紅茶の社会』（中公新書）、ヴィクター・H・メア&アーリン・ホー著、忠平美幸訳『お茶の歴史』（河出書房新社）		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（60%）；出席状況等により評価する。 発表（40%）：授業中に課す課題の提出・発表状況により評価する。		
到達目標	（科目にかかわる内容）衣食住および知識・貨幣といった文化要素の発生と伝播の具体例を学び、文化理解の基礎を養う。 (基礎学力にかかわる内容)課題に基づいた文献探索、わかりやすいレポート作成、伝わりやすい口頭発表を目標とした実社会に出て役に立つ能力を身につける。		
準備学習	毎回、学生が担当箇所の内容をまとめて発表し、その発表の相互評価によって出席と発表の点数をつける。そのため、自分の発表までに担当箇所の内容をまとめ、理解の難しい事柄に関しては参考文献を読んで調べておくこと。		
受講者への要望			
私語は厳禁とし、私語が過ぎれば他の受講者への迷惑を勘案し退出を求める。 自らの担当する回に発表しない者は、診断書等の提出がなければ点数を与えない。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス（講義概要・評価方法・担当箇所の割り当て） 2. 嗜好品と世界史：お茶以外の様々な飲み物 3. お茶の起源：原産地から中国・漢の時代まで 4. お茶の生産：唐・宋代のお茶 5. お茶の拡大：元・明・清代のお茶 6. お茶の伝播 1：日本への茶の伝来 7. お茶の伝播 2：茶道の成立 8. お茶の伝播 3：茶道と日本茶の展開 9. お茶の伝播 4：チベットとモンゴルのお茶 10. お茶の伝播 5：ロシア・中央アジアのお茶 11. お茶の伝播 6：イスラーム世界のお茶 12. お茶の貿易：ポルトガルとオランダ 13. お茶の貿易：イギリスとアメリカ合衆国 14. お茶の貿易：イギリスとインド 15. お茶の貿易：現代世界におけるお茶の生産			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★				★	★

年度	2015	授業コード	J50767A0A
科目名	日本語学専門演習ＩＩ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar : Japanese Language Study ⅡA		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	卒業論文作成のための基礎体力を養う。おおまかでもよいので、受講生は自らが卒業論文で扱うであろうテーマについての既存研究を調査し、その結果を何度かにわたって授業内で報告する。この作業を通じて、受講生は、論文の何たるかを知り、また自らの卒論テーマがどの程度研究されているものか、自分の入り込む余地は残されているのか、などを直截に知ることにより、卒論テーマの設定の難しさを体験する。秋学期の演習Ｂへの礎とする。		
教材（テキスト）	特定のものはない。		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内で行われる「報告」によって評価する。		
到達目標	卒業論文のテーマ設定の端緒を掴むこと。		
準備学習	３回生までの演習レジメに目を通しておくこと。		
受講者への要望			
とにかく自分に厳しく、コツコツと地道に作業を進めること。			
講義の順序とポイント			
１．卒論テーマ設定に関するディスカッション ２．資料検索方法の実際 ３．図書館の利用法 ４．卒論テーマの外枠 ５．調査報告 ６．調査報告 ７．調査報告 ８．調査報告 ９．調査報告 １０．調査報告 １１．調査報告 １２．調査報告 １３．調査報告 １４．調査報告 １５．夏休みに取り組むべき課題の確認			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50767B0A
科目名	日本語学専門演習ＩＩ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar : Japanese Language Study ⅡＢ		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	卒論作成の具体的な作業を行う。春学期演習ＩＩ Ａの成果を踏まえ、大まかなテーマから徐々にテーマを絞って行き、少なくとも１０月中期段階で明確なテーマを見つけ出すことを目標とする。その後、先行研究の調査を十分に行った上で、さらにテーマにふるいをかけて、実際に書き進める作業に入る。		
教材（テキスト）	特定のものはなし。		
教材（参考文献）	適宜紹介はするが、最小限に留める。		
教材（その他）			
評価方法	論文がすべて。		
到達目標	学部レベルの卒論を書き上げることが最低限の目標だが、実際には「論文」として一般に通用するものを目指す。		
準備学習	春学期の成果を夏休み中に忘れてしまわないように。		
受講者への要望			
焦らず、念入りに調査すること。卒論の完成ばかりを気にしないで執筆までの準備期間を大切にすること。			
講義の順序とポイント			
１．先行研究の研究（１） ２．先行研究の研究（２） ３．先行研究の研究（３） ４．論文テーマの吟味（１） ５．論文テーマの吟味（２） ６．進捗状況の発表 ７．進捗状況の発表 ８．進捗状況の発表 ９．進捗状況の発表 １０．専攻主催の卒論中間発表 １１．論文検討 １２．論文検討 １３．論文検討 １４．論文検討 １５．論文検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J50768001
科目名	司法・矯正・福祉心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychology for Justice, Remedy and Welfa re		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	前半は非行や犯罪に関する心理学、後半では福祉に関する心理学の講義を行なう。司法は裁判を指すが、ここでは警察の捜査業務なども含み、矯正は少年院や刑務所などでの加害者教育を示している。また非行や犯罪には福祉や医療もかかわるようにシステムが整えられており、それらも含めた非行や犯罪にかかわる現場の業務と、そこに心理学がどのように貢献しているかについて述べる。福祉とは“しあわせ”のことだと考えてよいが、講義では児童福祉、とくに虐待を中心に述べ、虐待防止と人間のしあわせとの関連性について心理学的に解説する。なお、非行や犯罪にかかわる業務に携わるのは国家・地方公務員が主であり、福祉業務は公務員・民間にまたがる。各職場や職種の紹介も授業のなかで行ないたい。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	藤岡淳子「犯罪・非行の心理学」2007 有斐閣ブックス K．ブル他著／仲真紀子監訳「犯罪心理学～ビギナーズガイド：世界の捜査、裁判、矯正の現場から」2010 有斐閣 川崎二三彦「児童虐待～現場からの提言」2006 岩波新書 川畑　隆「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント」2009 明石書店		
教材（その他）	プリント類を使用する。		
評価方法	出席や授業態度による平常点（５０％）と、「授業内容の理解」に関する確認作業の成果の提出（５０％）		
到達目標	非行や犯罪に関することに心理学がどのように貢献しているか、心理学をとおして人間の福祉をどうはかるかについて学ぶことで、人間や社会についての理解を深める。		
準備学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながるし、第８回と第１５回授業で行なう「授業内容の理解」に関する確認作業にも大いに役立つ。また、非行や犯罪、そして福祉に関する事象や社会の動き、論評は様々に報道されている。授業で学習したことがらを背景に思い浮かべながら、自分なりに報道内容についてどういうことが起きている可能性があるのか、検討してみてほしい。		
受講者への要望			
各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。配布した資料にはよく目を通してほしい。			
講義の順序とポイント			
01.はじめに～犯罪や非行の現状と課題、各機関の業務と法律 02.犯罪や非行の心理学①警察・検察における実践 03.　同　②自白や目撃証言等と裁判 04.　同　③矯正教育や管理、治療 05.　同　④少年事件 06.　同　⑤児童相談所の非行相談 07.障害との関係や被害者支援、その他の問題 08.残されたテーマと前半授業の補足 09.各福祉分野の臨床心理学的問題 10.児童虐待① 11.児童虐待② 12.児童虐待③、高齢者、配偶者、障害者への虐待 13.児童福祉現場における心理臨床 14.福祉現場での労働 15.残されたテーマと後半授業の補足 ※講義の内容と順序は変更があり得る。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50769001
科目名	エコの知恵 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Wisdom of Ecology		
担当者名	小島　富佐江	旧科目名称	
講義概要	講義概要 伝統的な暮らしや文化には、自然や他者との調和を可能にする知恵がたくさんふくまれています。この科目は京町家キャンパスで行い、京都の中心の中京区で実際に暮らしと文化を見直す視点から木造建築の「京町家」を保存し、エコに取り組み地域の環境を守ろうとする実例を学びます。『京の町家　丁寧な暮らし』の著者・小島冨佐江氏の指導で実際に京町家キャンパスの奥の住まいで行われている「京町家の暮らし」の数々が体験できます。また、京町家作事組（建築専門家集団）の役割や、地域の町づくりや祇園祭の山鉾巡行を支えている町の住人の人々の動きなど、まちづくりに欠かせない知識をフィールドワークや体験を伴いつつ学びます。江戸時代からの伝統を、本学人間文化学部教授の山崎芙紗子が解説します。		
教材（テキスト）	その都度プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点５０％　レポート５０％		
到達目標	見学や体験を通して、環境や暮らしの問題を自身のことと 実感できるようになる		
準備学習	テレビや新聞で報道される環境や暮らしについての問題に 関心を持ってほしい。とくに京都の地域的取り組みの報道に注目してほしい。		

受講者への要望

積極的に質問するなど授業に自分から参加してください。
外部講師の場合もあります。個人のお宅を訪問することもあり、マナーに気をつけましょう。

講義の順序とポイント

講義の順序とポイント
1,京都という都市～町のなりたち（山崎）
2．体験　町家のしつらえ替え（小島）
3．京町家のなりたち～京町家の特徴（小島）
4．江戸時代の商いと町家　（山﨑）
5．世界から見た京町家
　　釜座町町家（ちょういえ）の見学とワールド・モニュメント・ファンド（小島）
6．コンクリート建築の特徴（山﨑）
7．町家の暮らし　その１　「衣」　実習付　ぞうきん縫い　（小島）
　　糸一本も大切に……安物買いの銭失いにならないように
8．　町家の暮らし　その２　「食」　実習付　季節とおばんざい　（小島）
　　大切にいただく……もったいないことをしない
9．　町家の暮らし　その３　「住」（小島）
　　座の文化を大切にする……柔軟な考え方　暮し方
１０．京町家の見学(フィールドワーク)
１１．木造建築の今昔　畳について　（山崎）
１２．木造建築の今昔　柱について　（山﨑）
１３．町家の知恵を現代に活かすには（小島）
１４．京都の食文化　～七草かゆ～　実習付　　（小島）
１５．京都の食文化　～小正月の小豆ご飯～　実習付　（小島）
（季節や講師の都合により、順番が変わることがあります。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	★★		★★	★

年度	2015	授業コード	J50770002
科目名	表現力講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Training for Verbal Expressions		
担当者名	山田　裕	旧科目名称	
講義概要	本講座は、主として演劇的ワークショップの手法を用いた体験型の講座になります。 講義は基本的には教室内で行いますが、受講者の皆さんには座学ではなく、ある程度は頭と体を動かして頂くことになります。 但し、俳優を養成する講座ではありませんので、「本格的な演技」をする必要はありません（もちろんして頂いても構いませんが)。 本講座の目的は、受講した皆さんが講義中に様々な演劇的手法を体感し、それを日常生活の中で、各自の「表現」のヒントにして頂くことです。 「演劇」と聞いて、皆さんは何を想像するでしょうか？ 「大きな声でセリフを言う」？ 「舞台上でパフォーマンスをする」？ 間違いではありませんが、それが演劇の全てではありません。演劇の面白さは、架空の世界に身を置き、その中で様々なシチュエーションや、他の人の人生、ドラマを体験、想像できることにあります。 その中には、実は日常生活で役立つヒントが沢山転がっています。 また、１つのシーンを作り上げる中でのディスカッションは、皆さんのコミュニケーション能力の向上にも大いに役立つでしょう。 本講座の「演劇的体験」経る前と後で、皆さんの「表現力」がどの様に変化したかを考察して頂きたいと思います。		
教材（テキスト）	授業中に適宜配布する。		
教材（参考文献）	授業の内容に応じて、適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて、プリント、参考資料等を配布する。		
評価方法	平常点（40%）出席状況等による。授業内での課題への取り組み方等（40%）。レポート等、提出課題（20%）。		
到達目標	表現の多様性を知る。各々に合ったそれぞれの「表現」に気づく。コミュニケーションの難しさと楽しさを知る。		
準備学習	講義中、または講義終了時に次回の課題を伝える。各自で次回までに必要な下調べ、準備をして授業に臨むこと。必須ではないが演劇等芸術分野に日常から積極的に触れる機会を作ることが望ましい。		
受講者への要望			
演劇的ワークショップに「間違い」はありません。失敗を恐れず、能動的かつ積極的に各課題に取り組んでください。可能であれば、演劇に限らず、音楽、美術などの芸術鑑賞をおすすめします。			
講義の順序とポイント			
1.はじめに　表現と演劇の関係 2.詩の表現① 3.詩の表現② 4.セリフを言ってみる 5.物語を創造する①～絵からイメージする物語～ 6.物語を創造する②～物語の創作～ 7.様々なイメージを表現してみる。プレゼンテーションのイメージ力 8.台本を読んでみる① 9.台本を読んでみる②～台本に無いシーンを創造してみる～ 10.観劇実習（劇場での観劇、フィールドワーク） 11.テーマを元に考える。想像と創造			

12 小作品創作①
13.小作品創作②
14.小作品創作③
15.小作品発表会・まとめ

※授業の進行具合等によって、内容が前後、または変更になる場合があります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	J50771001
科目名	実践キャリア英語	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical English for Business		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	This course will provide English instruction within job related situations. Students hoping to use English at work will benefit from this course in particular. This course will also assist students who are interested in studying for the TOEIC test.		
教材（テキスト）	Grant, D, Hughes, J & Turner, R, Business Result Elementary Student Book Pack and DVD-ROM, Oxford University Press, 2012.		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Practices 60% Attitude and participation 40%		
到達目標	Upon the successful completion of this course, students will be able to demonstrate good use of both spoken and written English in typical working situations.		
準備学習	It is recommended that students familiarize themselves with the textbook before the class begins.		

受講者への要望

Students are expected to attend all classes. Homework activities must be completed regularly.

講義の順序とポイント

01 Introduction /Jobs I
02 Jobs II
03 Products and Services I
04 Products and Services II
05 Practice
06 Location I
07 Location II
08 Technology I
09 Technology II
10 Practice
11 Communication I
12 Communication II
13 Contacts I
14 Contacts II
15 Practice

Lesson plan and content may be subject to change.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50771002
科目名	実践キャリア英語	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical English for Business		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	This course will provide English instruction within job related situations. Students hoping to use English at work will benefit from this course in particular. This course will also assist students who are interested in studying for the TOEIC test.		
教材（テキスト）	Grant, D, Hughes, J & Turner, R, Business Result Elementary Student Book Pack and DVD-ROM, Oxford University Press, 2012.		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Practices 60% Attitude and participation 40%		
到達目標	Upon the successful completion of this course, students will be able to demonstrate good use of both spoken and written English in typical working situations.		
準備学習	It is recommended that students familiarize themselves with the textbook before the class begins.		

受講者への要望

Students are expected to attend all classes. Homework activities must be completed regularly.

講義の順序とポイント

01 Introduction /Jobs I
02 Jobs II
03 Products and Services I
04 Products and Services II
05 Practice
06 Location I
07 Location II
08 Technology I
09 Technology II
10 Practice
11 Communication I
12 Communication II
13 Contacts I
14 Contacts II
15 Practice

Lesson plan and content may be subject to change.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J50772001
科目名	サムライ文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	History of　Samurai culture		
担当者名	中西　裕樹	旧科目名称	
講義概要	近年、映画やアニメ、スポーツなど、さまざまな場面で「サムライ」という言葉が使用され、その歴史・文化は海外からも注目されています。この「サムライ」と、歴史的存在である「侍」「士」には、共通する部分とそうではない部分があります。 本講義では、平安時代に生まれた戦士＝武士がどのように変遷し、鎌倉・室町・戦国・江戸時代を経て明治維新に至ったのかという点について、歴史上の人物や事件を通じて確認し、多義的なサムライを通史として把握します。また、サムライの精神とされる「武士道」に注目しつつ、生み出した文化である城郭や武具甲冑なども取り上げます。そして歴史学以外の教員も参加し、「サムライ」への理解を深め、現代におけるサムライの意味や側面をとらえていきます。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	適宜紹介します。		
教材（その他）	パワーポイントや映像、プリントなどを使用。		
評価方法	平常点 20%(出席状況による)、学期末レポート 80%として評価します。		
到達目標	歴史学など様々な分野の研究成果をふまえ、現代をとらえる視点を養う。		
準備学習	少なからず日本史の知識が必要になるので、不明な点は講義での質問や自主学習で補ってほしい。		
受講者への要望			
「サムライ」をキーワードとする文化や事象に目を配り、講義との対比を行った上でレポート作成に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
1　イントロダクション　サムライ文化論のフィールド(中西裕樹) 2　現代のサムライ文化(佐々木高弘) 3　民俗とサムライ文化論(堀田穣) 4　平安時代　武士の誕生 源氏と平氏(中西裕樹) 5　鎌倉時代　「兵の道」と武家政権の誕生(中西裕樹) 6　室町時代　バサラと室町の将軍(中西裕樹) 7　戦国時代　下剋上の「侍」と信長・秀吉(中西裕樹) 8　サムライ文化を考える①　城郭の歴史(中西裕樹) 9　サムライ文化を考える②　武具甲冑の歴史(中西裕樹) 10　江戸時代　カブキと「士道」　忠臣蔵を考える(中西裕樹) 11　江戸時代のサラリーマンの日常(鍛治宏介) 12　幕末のサムライ　「新選組」誕生の背景(中西裕樹) 13　近代のサムライと「武士道」(中西裕樹) 14　現代のサムライブームを考えましょう(中西裕樹) 15　まとめ サムライの歴史とサムライ文化論(中西裕樹)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J50772002
科目名	サムライ文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	History of　Samurai culture		
担当者名	中西　裕樹	旧科目名称	
講義概要	近年、映画やアニメ、スポーツなど、さまざまな場面で「サムライ」という言葉が使用され、その歴史・文化は海外からも注目されています。この「サムライ」と、歴史的存在である「侍」「士」には、共通する部分とそうではない部分があります。 本講義では、平安時代に生まれた戦士＝武士がどのように変遷し、鎌倉・室町・戦国・江戸時代を経て明治維新に至ったのかという点について、歴史上の人物や事件を通じて確認し、多義的なサムライを通史として把握します。また、サムライの精神とされる「武士道」に注目しつつ、生み出した文化である城郭や武具甲冑なども取り上げます。そして歴史学以外の教員も参加し、「サムライ」への理解を深め、現代におけるサムライの意味や側面をとらえていきます。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	適宜紹介します。		
教材（その他）	パワーポイントや映像、プリントなどを使用。		
評価方法	平常点 20%(出席状況による)、学期末レポート 80%として評価します。		
到達目標	歴史学など様々な分野の研究成果をふまえ、現代をとらえる視点を養う。		
準備学習	少なからず日本史の知識が必要になるので、不明な点は講義での質問や自主学習で補ってほしい。		
受講者への要望			
「サムライ」をキーワードとする文化や事象に目を配り、講義との対比を行った上でレポート作成に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
1　イントロダクション　サムライ文化論のフィールド(中西裕樹) 2　現代のサムライ文化(佐々木高弘) 3　民俗とサムライ文化論(堀田穣) 4　平安時代　武士の誕生 源氏と平氏(中西裕樹) 5　鎌倉時代　「兵の道」と武家政権の誕生(中西裕樹) 6　室町時代　バサラと室町の将軍(中西裕樹) 7　戦国時代　下剋上の「侍」と信長・秀吉(中西裕樹) 8　サムライ文化を考える①　城郭の歴史(中西裕樹) 9　サムライ文化を考える②　武具甲冑の歴史(中西裕樹) 10　江戸時代　カブキと「士道」　忠臣蔵を考える(中西裕樹) 11　江戸時代のサラリーマンの日常(鍛治宏介) 12　幕末のサムライ　「新選組」誕生の背景(中西裕樹) 13　近代のサムライと「武士道」(中西裕樹) 14　現代のサムライブームを考えましょう(中西裕樹) 15　まとめ サムライの歴史とサムライ文化論(中西裕樹)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J50773001
科目名	音楽とコミュニケーション 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Music and Communication		
担当者名	小松　正史	旧科目名称	
講義概要	本授業では、サウンドスケープの発想を元に、音楽や音の社会的機能について、さらには音を介したコミュニケーションのしくみを学びます。本授業の目的は、音に気づくよろこびを原点にしながら、受講生が興味を持つそれぞれの分野の中で、音の感覚を応用した活動に資することです。まず、「サウンドスケープ（音風景を知覚すること）」についての理論や歴史の説明を行い、続いて、「サウンドスケーピング（音風景を使った具体的な行為）」の解説と方法論を学びます。その具体的な領域には、「《音育》音の教育」「《音学》音の研究／分析／解釈」「《音創》音デザイン」の３つがあります。この授業では、一般に流通している音楽だけではなく、環境音も対象としています。サウンドスケープの発想を身につけると、私たちの知覚や行動は大きく変わり、表現／創作活動の幅を広げることができるでしょう。		
教材（テキスト）	小松正史『サウンドスケープのトビラ -音育・音学・音創のすすめ-』昭和堂、2013 年 （3,024 円）		
教材（参考文献）	小松正史『みんなでできる音のデザイン』ナカニシヤ出版、2010 年（2,376 円）		
教材（その他）	特になし		
評価方法	平常点（60%）出席状況等による。レポート（40%）。		
到達目標	(1) サウンドスケープの定義と歴史が理解できる。 (2) 自分の制作（創作）活動に、音の発想を応用することができる。 (3) サウンドスケーピングの３分野「音育」「音学」「音創」が理解できる。 (4) 現代社会の音環境の問題点を批判的／具体的に分析できる。 (5) 背景音楽の成り立ちと仕組みが理解できる。		
準備学習	予習に関しては、各授業終了時に次回の講義に関連した教科書の範囲を伝えるので、事前に読んでおくこと。復習と関連課題に関しては、各授業終了時に本授業で補足追加すべき内容の課題を伝えるので、各自で復習を行うこと。また、参考文献に挙げた『みんなでできる音のデザイン』を用いて、身近な音環境についての観察や考察を学期中を通して行うこと。		

受講者への要望

テキスト『サウンドスケープのトビラ』をもとに授業を進行するので、必ず購入するようにして下さい。音の分野は自分の感覚を使い、集中してイメージをつくりあげることが重要です。それゆえ、授業内容を積極的に吸収したいという意志がないと、サウンドスケープの内容を理解し、創造力を深めることは困難です。真摯さと積極性のある方の受講を、強く望みます。
参考 URL:{http://www.nekomatsu.net}

講義の順序とポイント

1 回目 ガイダンス（授業の流れの説明と、簡単な音のワークショップ）
2 回目 「サウンドスケープ」とは何か?（定義と歴史）
3 回目 「サウンドスケープ」と「サウンドスケーピング」
4 回目 サウンドスケープが影響を与えた分野
5 回目 《音育（１）》人はどのように音を知覚するのか?
6 回目 《音育（２）》音育メニューの紹介と問題点
7 回目 《音学（１）》方法論と音の記録法
8 回目 《音学（２）》フィールドワーク（現地調査）のプロセス
9 回目 《音創（１）》音デザインの考え方
10 回目 《音創（２）》音デザインの対象と方向性
11 回目 《音創（３）》音デザインの手順と空間別アイデア
12 回目 背景音楽とは何か?（定義と歴史）
13 回目 背景音楽の実演（小松正史による、授業内ピアノ生演奏）
14 回目 サウンドスケープの活かし方（「音育」と「音創」を融合させる）
15 回目 まとめ（日常生活で、サウンドスケープの発想を活かす／使う）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待		★	★		★★	★

年度	2015	授業コード	J5077400A
科目名	ディベート演習 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Debate Seminar		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	ディベートとは、与えられた論題について肯定側と否定側とに分かれてそれぞれの主張を行い、その優劣を競い合うものである。ディベートには多くの種類があるが、本演習では、その中でも特に「競技ディベート」の方式に則してディベートを学んでいく。 はじめにディベートの基礎について、ディベートとは何か、またディベートを通してどのような技術が身に付くのか等を理解する。次に、立論、反対尋問、第一反駁、第二反駁の４つのステージで肯定・否定の主張を組み立てることを学ぶ。さらに、肯定・否定の主張（論点）を組み立てるために、それをサポートする客観的な事実や証拠資料を収集し整理する。町家一階のパソコンを利用しながら、幅広く情報を収集し、その中から論点をサポートするのに役立つものや、相手側の論点を崩すために役立つものを取捨選択する。集めた情報や資料から論点を客観的証拠に基づいて説得的に主張するための文書「立論シート」を作成する。また、相手側論点を予想し、その弱点を指摘する「反駁」の準備を行う。 最後には実際にディベートの試合を肯定と否定の立場でそれぞれ２試合行う。チームとしての準備段階でもそうであるが、試合ではメンバーどうしが協力し、話し合いながら作戦を立てることが必要で、こうしたことによってチームワークも培われる。また、客観的なものの見方、考え方など、社会人にとって必要な能力を身に付けることも目標である。さらに重要なことは、このディベート実践を通して、その根本に流れる西洋文化を理解することができることである。こうした理解は国際文化を学ぶ学生には特に重要である。		
教材（テキスト）	テキスト「ディベートすべし！」（経済学部版）を配布する。		
教材（参考文献）	松本茂著『頭を鍛えるディベート入門 ― 発想と表現の技法』 講談社（1996 年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する。		
評価方法	平常点（50%）、ディベート試合（50%） 平常点は、授業中の課題取り組みへの積極性、グループワークへの貢献、提出物などを総合的に評価する。		
到達目標	ディベートの実践を通じて、情報を収集し活用する能力、プレゼンテーション能力、説得力ある議論を展開するための技術を修得すること。また、ディベートを通して、その根本に流れる西洋文化（相対的なものの見方や考え方、論理的な思考方法など）を理解すること。		
準備学習	教科書リーディング、プレゼンテーションのための文書作成など		
受講者への要望			
演習の前に教科書・参考書の指定されたところを読んで準備し、演習に出席して内容を理解すること。提出物の締め切りを厳守すること。私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション　ディベートとは 2. なぜディベートを学ぶのか 3. 論理的な話し方とは 4. ディベートの基礎Ⅰ（立論・反対尋問） 5. ディベートの基礎Ⅱ（第一反駁・第二反駁） 6. 情報収集Ⅰ 7. 情報収集Ⅱ 8. 情報収集Ⅲ 9. 立論の作成Ⅰ 10. 立論の作成Ⅱ 11. 反対尋問の作成 12. 反駁の準備 13. ディベート試合Ⅰ 14. ディベート試合Ⅱ 15. キャリア形成とディベート			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J50775A0A
科目名	ネイティブ英語専門演習Ｉ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Native English Seminar IA		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	(Clear thought through writing and debate) I グループで様々の話題をディベートし、その内容を通じて、エッセイを書く講座です。 発表力を向上させる目的のスピーキング・ライティング講座であるが、文書の書き方を磨き、単語も断言力も付けるクラスです。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	宿題・発表 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1.Become more skilled at writing, planning, and arguing with basic to intermediate English grammar 2.Gain a basic body of useful vocabulary for communicating ideas of agreement or disagreement		
準備学習	There will be challenging tasks, but come to class, do your assignments on time, and do your best!		

受講者への要望

原則としてこの講座は主に英語で行われますが、必要に応じて説明、質問、討論などは日本語使用します。
Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary. (Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class. ※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント

グループで BRAIN STORMING して、物事をしっかり考えてもらえます。その考えを文書にして伝える力を鍛えたい学生のための講座です。馴染みのあるある話題を使用し、より多くの意見の交わせるようにする。英語力というより考える力や発想が重要のクラスです。

1.Level check test
2.Writing Instructions 1
3.Writing Practice / Brainstorming Activity
4.Debating rules & Procedures
5.Topic 1 introduction
6.Brain storming and Writing focus
7.Small debate
8.Topic 2 introduction
9.Brain storming and Writing focus
10.Small debate
11.Topic 3 introduction
12.Brain storming and Writing focus
13.Small debate
14.Writing Review
15. Free small debate and written papers

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★				

年度	2015	授業コード	J50775B0A
科目名	ネイティブ英語専門演習Ｉ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Native English Seminar IB		
担当者名	John Gatewood Ⅱ	旧科目名称	
講義概要	(Clear thought through writing and debate) II We will continue to work on conveying ideas clearly using group work, brainstorming activities, and debate like process. This class will have writing and speaking assignments along with small writing and reading tests. This class is aimed at preparing students to answer questions about things with which they hold opinions. Their presentation power, confidence, and presentation skill will advance. ?		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	宿題・発表 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1. Become more confident presenting information in English 2. Further strengthen presentation quality 3. Make concise arguments concerning agreement and disagreement 4. Increase critical thinking skills		
準備学習	There will be homework, projects, and short reading assignments.		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary. (Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class. ※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント

Review Quiz (Small writing assignment)
2.Review of Writing Basics
3.　Writing Practice / Brainstorming Activity (Simple In-class)
4. Debating rules recap
5.New Topic 1
6.Brain storming and writing focus
7.Small debate & Presentation
8.New Topic 2
9.Brain storming and writing focus
10.Small debate
11.New Topic 3
12.Brain storming and writing focus
13.Small debate
14.Writing Review
15. Free small debate and written papers

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	★★	★	

年度	2015	授業コード	J50776001
科目名	エコ検定講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Ecology Certificate Exam. Course		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	東京商工会議所が中心となって、2006 年 10 月から「環境社会検定試験（eco 検定）」が実施されています。毎年 2 回の実施で、2012 年 12 月には 13 回目の検定試験が行われました。2012 年度の試験には、約 3.3 万人の受験者があり、そのうちの 53.8%の人が合格しています。eco 検定には、専門家に限らず、学生から社会人まで幅広い人が受験しています。この検定試験の目的は、幅広い知識をもって社会で率先して環境問題に取り組む“人づくり”と、環境と経済を両立させた「持続可能な社会」を促進することにあります。実際に、東京商工会議所では、この検定試験の合格者に対して、「幅広い環境問題の基礎的な知識をもち、そこから生まれるさまざまな問題意識を日常の行動に移そうとしている人」との敬意を込めて「エコピープル」との呼称を用いています。　2006 年の試験開始以来、これまでに約 30 万人が受験し、すでに 18 万人を超えるエコピープルが誕生しています（2013 年 3 月現在）。ビジネスシーンにおけるキャリアアップはもちろん、生活者として健康で安全な暮らしを送るために、eco 検定は社会の様々な場面で役立つ検定試験です。 本講座では、この検定試験に合格することを目標に、公式テキストを使用して、環境問題の基礎的な知識について、整理しながら学んでいきます。また、後半では、実際に過去の検定試験問題（第 1 回～第 13 回）や模擬問題を解くことによって、さらに内容の理解を深めていく予定です。最終的には、12 月に実施される第 17 回環境社会検定試験（eco 検定）、あるいは、次年度 7 月の第 18 回検定試験を受験してもらいたいと考えています。		
教材（テキスト）	東京商工会議所編『環境社会検定試 eco 検定公式テキスト 改訂 5 版』日本能率協会マネジメントセンター（2014 年）		
教材（参考文献）	① 株式会社ユニバース『パーフェクト図解！ eco 検定 合格ブック』日本実業出版社（2008 年） ② サスティナビリティ 21『eco 検定ポイント集中レッスン 改訂第 6 版』技術評論社（2012 年）		
教材（その他）	東京商工会議所監修『2014 年度版 環境社会検定試験 eco 検定公式過去・模擬問題集』日本能率協会マネジメントセンター（2014 年）		
評価方法	授業内小テスト（50%）、学期末試験（50%）		
到達目標	「環境社会検定試験（eco 検定）」に合格して、「エコピープル」になること。		
準備学習	教科書リーディング （あらかじめ教科書を読んで、大まかな内容を把握しておくこと。）		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。宿題として課された問題を必ずやってくること。私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. シラバスの説明（環境社会検定試験（eco 検定）とは） 2. 持続可能な社会に向けて・わたしたちの地球と自然環境 3. 環境問題の実態 I 4. 環境問題の実態 II 5. 環境をめぐる世界の動き・環境と社会 6. 環境と経営・環境と商品 7. 個人の暮らしと環境問題・豊かな食事と環境の関係・自然と共生した住環境 8. 生活と環境・環境と共生するために 9. 第 1 回・第 2 回検定試験問題 10. 第 3 回・第 4 回検定試験問題 11. 第 5 回・第 6 回検定試験問題 12. 第 7 回・第 8 回検定試験問題 13. 第 9 回・第 10 回検定試験問題 14. 第 11 回・第 12 回・第 13 回検定試験問題 15. 模擬問題 1 ・2			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	J50777A0A
科目名	キャリアゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar A		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本講義は、３回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。 そのために、まず第一に、就職活動の全体のスケジュールを把握することが肝心である。次に、自分の特性を知るための「自己分析」を行い、続いて自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」について考える。 こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるた め、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。		
教材（テキスト）	2015 就職ガイド （京都学園大学　キャリアサポートセンター）		
教材（参考文献）	『2015 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社 『絶対内定　2015』 杉村太郎　ダイヤモンド社　等		
教材（その他）	京都学園大学キャリアサポートセンター配布資料		
評価方法	単位認定の必要条件： （１） 就職（進路）登録票の完成とキャリサポへの提出 （２） 「自己分析シート」の完成と提出 （３） キャリサポでの個人面談 （４） 「自己 PR 文」２本の完成と提出 （５） 「内定獲得基礎講座①と②の受講		
到達目標	文字通り、「自らのキャリア」について考える。 自分の「夢」と、現在の「自分」との距離を「どのような手段で」埋めるのかについて考えるため、様々な分析 法を指導する。		
準備学習	（１） 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 （２） 自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		
受講者への要望			
（１） 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。 （２） 各時間ごとの課題を、時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返す。 （３） スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。			
講義の順序とポイント			
第 １回： スタートガイダンス、「就職登録票」の下書き、インターンシップの説明 第 ２回： 「就職登録票」の完成と提出、京学なび確認 第 ３回： 就職ガイダンス（キャリアサポートセンター職員から説明） 第 ４回： 「自分探しシート」作成： 過去の自分を振り返る 第 ５回： 「自分史シート」作成： 自分の歴史を整理する 第 ６回： 「自分のウリシート」: 自分のセールス・ポイントを整理する 第 ７回： 「自己分析シート」下書き（１） 第 ８回： 「自己分析シート」下書き（２） 第 ９回： 「自己分析シート」清書 第 10 回： 「自己分析シート」の完成と提出 第 11 回： 自己ＰＲのポイント整理 第 12 回： 「自己ＰＲ文１」の作成 第 13 回： 「自己ＰＲ文１」の完成 第 14 回： 「自己ＰＲ文２」の作成			

第 15 回：「自己ＰＲ文２」の完成

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★		

年度	2015	授業コード	J50777B0A
科目名	キャリアゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar B		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本講義は、３回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。 秋学期は、春学期のキャリアゼミ A での準備、特に自己分析に基づいて、自らの職業観・人生観に基づく「企 業・業界の選択」を行う。さらには、就職活動で必ず求められる「エントリーシート・履歴書」などの書き方を 指導する中で、いかに他人と「意思の共有・コミュニケーション」ができているかを考える。 こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるた め、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。また、キャリア・ サポートセンター提供の就職対策講座の受講も義務付ける。		
教材（テキスト）	2015 就職ガイド （京都学園大学　キャリアサポートセンター）		
教材（参考文献）	『2015 年度版・就職四季報』　東洋経済新報社 『絶対内定　2015』　杉村太郎　ダイヤモンド社　等		
教材（その他）	京都学園大学キャリアサポート・センター配布資料		
評価方法	単位認定の必要条件： （１） 履歴書完成と提出 （２） キャリサポでの個人面談 （３） エントリーシートの完成と提出 （４） 面接対策講座 STEP1（基礎）の受講 （５） 内定獲得基礎講座③～⑥の受講		
到達目標	自らのキャリア形成プランに基づき、次の一歩としての就職活動に向けた具体的な準備を進める。履歴書・エントリーシートの作成、あるいは面接対策など実践的な取り組みを通じて、自分を表現する技術を磨き上げる。		
準備学習	（１） 自分のこれからを見通して、いますべきことを確実に行う。 （２） 提出するシートは、いまの自分として「完成」と納得できる水準まで磨き上げる。 （３） 日常生活の中で、企業・業界関連情報に対して注意を払うと同時に、様々な社会時事問題に関する理解を広め、両者の間での直接・間接の結び付きを考える。		
受講者への要望			
（１） 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。 （２） 各時間ごとの課題を時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を繰り返して、自分を表現する技術を高めよ。 （３） スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。			
講義の順序とポイント			
第 １回： キャリアゼミ B の概要説明、口頭で自己 PR をする 第 ２回： 「履歴書」を書く（１） 第 ３回： 「履歴書」を書く（２） 第 ４回： キャリサポによるゼミ訪問 第 ５回： 仕事研究・企業研究（１） 第 ６回： 仕事研究・企業研究（２） 第 ７回： 仕事研究・企業研究（３）			

第 8回： 仕事研究・企業研究（4）
第 9回： 「エントリーシート」を書く（1）
第 10 回： 「エントリーシート」を書く（2）
第 11 回： 「エントリーシート」を書く（3）
第 12 回： 「エントリーシート」を書く（4）
第 13 回： 「エントリーシート」について話す
第 14 回： 実践練習： グループ面接、個別面接の練習
第 15 回： Web エントリー

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★		

年度	2015	授業コード	J50778A0A
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門 演習Ⅰ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar IA		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本演習の目標は、卒業論文の書き方を学び、研究テーマを設定し、論文の全体構成をデザインする事である。卒業論文は、まずその書き方を学ばなければ、書くことはできない。本演習では、教科書を使用して、論文の定義からはじめ、どのようにして論文を書くのかを学ぶ。次に、論文のテーマを設定する方法を学び、実際に論文テーマを設定していく。さらに、論文を書き始める前に、論文の全体の構成を考えていく方法を学び、実際に全体構成を作成していく。こうして、15 週間で、卒業論文の基礎の基礎を積み上げていく予定である。		
教材（テキスト）	吉田 健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』ナカニシヤ出版、第 2 版（2004 年）		
教材（参考文献）	川﨑 剛著『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房（2010 年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する。		
評価方法	演習での発表、議論（50%）・課題達成度（50%）		
到達目標	卒業論文の書き方の基礎を学ぶこと。		
準備学習	教科書や参考書を事前に予習すること。		
受講者への要望			
出席して、積極的に議論すること。			
講義の順序とポイント			
1. 卒業論文の書き方Ⅰ 2. 〃 Ⅱ 3. 〃 Ⅲ 4. 〃 Ⅳ 5. 〃 Ⅴ 6. 〃 Ⅵ 7. 論文のテーマ設定Ⅰ 8. 〃 Ⅱ 9. 〃 Ⅲ 10. 〃 Ⅳ 11. 論文の全体構成Ⅰ 12. 〃 Ⅱ 13. 〃 Ⅲ 14. 〃 Ⅳ 15. 〃 Ⅴ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J50778A0D
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門 演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar IA		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。ゼミ生は、この主題にそったテーマを各自で選び、5 人程度のグループ・ディスカッションを通して、内容を吟味しあう。定期的に研究発表を行ない、レポートを提出する。		
教材（テキスト）	必要に応じて、授業中にプリント教材を配付する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を利用する。		
評価方法	平常点（出席状況等 50%、発表 50%）による。		
到達目標	簡単な調査、文献講読を通じて、《コミュニケーションの社会学》に関する基本事項を理解すること。		
準備学習	演習の進行に応じて講読文献等を指示するので、読んでおくこと。また、指示があった場合は、発表の準備をすること。		
受講者への要望			
演習への積極的な参加を求める。また、講義、各種メディア、日常生活を通して、常に自分の研究テーマを探っておくこと。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. グループ・インタビュー準備 3. グループ・インタビューのテーマ解説 4. データの整理と考察 5. 発表会 6. その他の社会調査法概説 7. コミュニケーション社会学研究のための基礎文献概説 8. 文献講読のテクニックおよび使用メディアの概説 9. 文献講読(1) 10. 文献講読(2) 11. 文献講読(3) 12. 文献講読(4) 13. レポート執筆について 14. まとめ 15. キャリアサポートセンターのゼミ訪問等（予備日）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★		★★		★

年度	2015	授業コード	J50778B0A
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar IB		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	春学期の専門演習ＩＡでは、卒業論文の書き方、研究テーマの設定、論文の全体構成のデザインといった卒業論文の基礎の基礎を学んだ。本演習では、それらの基礎を理解した上で、社会科学論文における「型」について体系的に学んでいく。特に、論文における中心命題や、「問題と解決」の枠組みについて理解していく。その上で、研究計画書を作成する。その後、先行文献についてサーベイを行い、演習の中で報告を行う。さらに、資料やデータの収集方法についても学んでいく予定である。		
教材（テキスト）	川﨑 剛著『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房（2010 年）		
教材（参考文献）	吉田 健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』ナカニシヤ出版、第 2 版（2004 年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する。		
評価方法	演習での発表、議論（50%）・課題達成度（50%）		
到達目標	卒業論文の「型」について体系的に学ぶこと。		
準備学習	教科書や参考書を事前に予習すること。		

受講者への要望

出席して、積極的に議論すること。

講義の順序とポイント

1. 社会科学論文の「型」
2. 論文の目的とは
3. 中心命題とは
4. 「問題と解決」の枠組み
5. 中心命題が持つ含意
6. 中心命題の説得力を最大限に
7. 表現法で説得力を増強する
8. 研究計画書の作成 I
9. 〃 II
10. 先行文献についての報告 I
11. 〃 II
12. 〃 III
13. 〃 IV
14. 資料・データ収集方法 I
15. 〃 II

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J50778B0D
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar IB		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。ゼミ生は、この主題にそったテーマを各自で選び、5 人程度のグループ・ディスカッションを通して、内容を吟味しあう。定期的に研究発表を行ない、レポートを提出する。		
教材（テキスト）	必要に応じて、授業中にプリント教材を配付する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を利用する。		
評価方法	平常点（出席状況等）50%、レポート 50%。		
到達目標	自分の研究テーマ、研究の方法を明確にすること。		
準備学習	演習の進行に応じて講読文献等を指示するので、読んでおくこと。また、指示があった場合は、発表の準備をすること。		
受講者への要望			
演習への積極的な参加を求める。また、講義、各種メディア、日常生活を通して、常に自分の研究テーマを探っておくこと。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 4 回生による就職活動報告会 3. 夏休みレポートの発表とグループ・ディスカッション(1) 4. 夏休みレポートの発表とグループ・ディスカッション(2) 5. 夏休みレポートの発表とグループ・ディスカッション(3) 6. 夏休みレポートの発表とグループ・ディスカッション(4) 7. 夏休みレポートの発表とグループ・ディスカッション(5) 8. 文献講読(1) 9. 文献講読(2) 10. 文献講読(3) 11. 文献講読(4) 12. 文献講読(5) 13. 研究計画書執筆について 14. まとめ 15. キャリアサポートセンターのゼミ訪問等（予備日）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★		★★		★

年度	2015	授業コード	J50779A0A
科目名	英語コミュニケーション専門演習Ｉ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced English Communication Seminar I A		
担当者名	Sean Bell	旧科目名称	
講義概要	More and more companies and institutions are seeking individuals with some English ability. The goal of this class is to teach some skills that will be useful not only now but also in the future. We will work on presentation skills, email skills, practical functions, and discussion skills. If there are enough individuals interested in the world of business we can tailor some topics to that. Skills learned in this class would also be helpful for students taking the TOEIC exam and wanting to raise their score.		
教材（テキスト）	No text. Will use hand-outs		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	60% Report. (30% as oral report / 30% as written) 20% Class work. Working in pairs, homework, role-plays, participation, etc. (Please come to class) 20% Effort. Raising hand, asking questions, pair work, and so on.		
到達目標	To build basic conversation skills. Be able to use English skills at a level good enough for basic everyday conversation as well as work in the future. Vocabulary, listening, and reading skills will also improve.		
準備学習	Finish homework before class. Attendance is important to cover all the skills throughout the year. Ask questions when you don’t understand.		

受講者への要望

Please bring material handed out to each class.
A dictionary would be useful for unknown words.
Ask questions if you don't understand.
Keep a notebook for notes.

講義の順序とポイント

1. Introductions / Target of class / Scoring / How was Spring break?
Find out what interests the class has so we can tailor topics to fit everyone.

2. Begin teaching presentation skills. Introduction and physical aspects. Practice these skills in class.

3. Use and present the skills from the Introduction section. Hand out some material related to practical language functions.

4. Discussion skills and discussion cycle. Using a business or topic interesting for the class have a mini discussion using the skills taught.

5. Body of a presentation.

6. More on the body of a presentation. Work on and present a mini topic practicing body. Students will evaluate and give feedback.

7. Video or movie. Discuss on issues related to it to practice discussion skills.

8. Presentation skills visuals. There are many ways to use visuals and we will look at this in detail.

9. Presentation skills conclusion. Practice and review visuals from the previous week.

10. Talk about handling questions. Hand out some material related to practical language functions.

11. More on discussion skills. Using a topic given as homework we will have discussion to practice these skills.

12. Video or movie. Discuss issues related to it.

13. Start putting the final presentation together.

14. Full presentations in class. Students will evaluate each presentation with a chance for feedback after each presentation.

15. Review what was taught throughout the year

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★			★	

年度	2015	授業コード	J50779B0A
科目名	英語コミュニケーション専門演習Ｉ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced English Communication Seminar I B		
担当者名	Sean Bell	旧科目名称	
講義概要	More and more companies and institutions are seeking individuals with some English ability. The goal of this class is to teach some skills that will be useful not only now but also in the future. We will work on presentation skills, email skills, practical functions, and discussion skills. If there are enough individuals interested in the world of business we can tailor some topics to that. Skills learned in this class would also be helpful for students taking the TOEIC exam and wanting to raise their score. **Note** We may review presentation skills from the previous semester and if we do it will be more advanced material. This semester will focus more on email skills, functions, and discussion skills.		
教材（テキスト）	No text. Will use hand-outs		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	60% Report. (30% as oral report / 30% as written) 20% Class work. Working in pairs, homework, role-plays, participation, etc. (Please come to class) 20% Effort. Raising hand, asking questions, pair work, and so on.		
到達目標	To build basic conversation skills. Be able to use English skills at a level good enough for basic everyday conversation as well as work in the future. Vocabulary, listening, and reading skills will also improve.		
準備学習	Finish homework before class. Attendance is important to cover all the skills throughout the year. Ask questions when you don’t understand.		

受講者への要望

Please bring material handed out to each class.
A dictionary would be useful for unknown words.
Ask questions if you don't understand.
Keep a notebook for notes.

講義の順序とポイント

1. Introductions / Target of class / Scoring / How was summer vacation?
Discuss any requests students may have for this semester.

2. Begin teaching email skills. Giving and receiving email addresses. Basic email layout.

3. Hand out some material related to practical language functions. Use these functions in class to practice and role-play.

4. Advanced discussion skills and discussion cycle. Using a business or topic interesting for the class have a mini discussion using the skills taught.

5. Email salutations and closing. Header, body, signature/position, contact information.

6. Email correction activity related to homework assignment. Hand out some material related to practical language functions. Use these functions in class to practice and role-play.

7. Video or movie. Discuss or write an email on issues related to it to practice skills.

8. Email useful expressions. Email style comparisons. Situations for writing email. Use the internet to find some examples of email to share with class the next week.

9. Go over the homework assignment from the previous week and give advice and work on evaluation. Hand out some material related to practical language functions.

10. More on advanced discussion skills and focus on some topics that interest the class.

11. Begin talking about a mini presentation or discussion to put together what we have learned throughout the year. For homework have students prepare material needed to start putting all together.

12. Go over homework and in group start putting together material for the final presentation or discussion topic.

13. Advice and a chance to go over the final project.

14. Full presentations in class. Students will evaluate each presentation with a chance for feedback after each presentation.

15. Review what was taught throughout the year.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★			★	

年度	2015	授業コード	J50780A01
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門 演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar ⅡA		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本演習では、これまでに収集した先行文献の整理を行う。また、資料やデータの収集も行っていく。整理した先行文献や資料・データについては、演習内で報告を行う。また、収集した資料やデータを基に分析を進めていく。分析の結果についても、演習内で報告を行い、その報告に対して質問やコメントを出し合い、さらに内容をステップアップさせていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	① 吉田 健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』ナカニシヤ出版、第 2 版（2004 年） ② 川﨑 剛著『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房（2010 年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する。		
評価方法	演習での発表、議論（50%）・課題達成度（50%）		
到達目標	先行文献の整理を行い、資料・データによる分析を進めること。		
準備学習	毎回の演習で与えられた課題を完成させること。		

受講者への要望

出席して、積極的に議論すること。

講義の順序とポイント

1. 先行文献の整理Ⅰ
2. 〃 Ⅱ
3. 〃 Ⅲ
4. 〃 Ⅳ
5. 〃 Ⅴ
6. 資料・データ収集Ⅰ
7. 〃 Ⅱ
8. 〃 Ⅲ
9. 〃 Ⅳ
10. 資料・データによる分析Ⅰ
11. 〃 Ⅱ
12. 〃 Ⅲ
13. 〃 Ⅳ
14. 〃 Ⅴ
15. 〃 Ⅵ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★	★	

年度	2015	授業コード	J50780A04
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar ⅡA		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。ゼミ生は、この主題にそったテーマを各自で選び、5 人程度のグループ・ディスカッションを通して、内容を吟味しあう。ヒューマン・コミュニケーション専門演習Ⅰまでで進めてきた研究をさらに発展させる。		
教材（テキスト）	必要に応じて、授業中にプリント教材を配付する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	各自の研究テーマに応じて指示する。		
評価方法	平常点（出席状況等 50%、発表 50%）による。		
到達目標	卒業研究の方向性を決め、必要なデータを集めること。		
準備学習	演習の進行に応じて講読文献等を指示するので、読んでおくこと。また、指示があった場合は、発表の準備をすること。		

受講者への要望

卒業研究を念頭におき、演習に積極的に参加すること。また、講義、各種メディア、日常生活を通して、常に自分の研究テーマに必要な情報を探っておくこと。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの研究の報告とディスカッション(1)
3. これまでの研究の報告とディスカッション(2)
4. これまでの研究の報告とディスカッション(3)
5. これまでの研究の報告とディスカッション(4)
6. これまでの研究の報告とディスカッション(5)
7. アカデミック・ライティング解説
8. アカデミック・ライティング実習
9. 追加資料の報告とディスカッション(1)
10. 追加資料の報告とディスカッション(2)
11. 追加資料の報告とディスカッション(3)
12. 追加資料の報告とディスカッション(4)
13. 追加資料の報告とディスカッション(5)
14. 中間報告資料作成についてのガイダンス
15. まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★		★★		★

年度	2015	授業コード	J50780B01
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar ⅡB		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本演習では、各章について完成した内容を演習で報告し、質問やコメントや議論によって、さらに内容を発展させていく。最終的には、卒業論文を完成させて、最後の演習で発表を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	① 吉田 健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』ナカニシヤ出版、第2版（2004年） ② 川﨑 剛著『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房（2010年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する。		
評価方法	演習での発表、議論（50%）・課題達成度（50%）		
到達目標	論文の各章を発展させ、最終的に卒業論文を完成させて、発表を行うこと。		
準備学習	毎回の演習で与えられた課題を完成させること。		
受講者への要望			
出席して、積極的に議論すること。			
講義の順序とポイント			
1. 各章について報告・議論Ⅰ 2. 〃 Ⅱ 3. 〃 Ⅲ 4. 〃 Ⅳ 5. 〃 Ⅴ 6. 〃 Ⅵ 7. 〃 Ⅶ 8. 〃 Ⅷ 9. 〃 Ⅸ 10. 〃 Ⅹ 11. 卒論発表の練習Ⅰ 12. 〃 Ⅱ 13. 〃 Ⅲ 14. 〃 Ⅳ 15. 卒業論文発表会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★	★	

年度	2015	授業コード	J50780B02
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門演習ⅡＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar ⅡＢ		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。ゼミ生は、この主題にそったテーマを各自で選び、5 人程度のグループ・ディスカッションを通して、内容を吟味しあう。ヒューマン・コミュニケーション専門演習Ⅰまでで進めてきた研究をさらに発展させる。		
教材（テキスト）	必要に応じて、授業中にプリント教材を配付する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	各自の研究テーマに応じて指示する。		
評価方法	平常点（出席状況等 50%、発表 50%）による。		
到達目標	卒業研究の方向性を決め、必要なデータを集めること。		
準備学習	演習の進行に応じて講読文献等を指示するので、読んでおくこと。また、指示があった場合は、発表の準備をすること。		
受講者への要望			
卒業研究を念頭におき、演習に積極的に参加すること。また、講義、各種メディア、日常生活を通して、常に自分の研究テーマに必要な情報を探っておくこと。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. これまでの研究の報告とディスカッション(1) 3. これまでの研究の報告とディスカッション(2) 4. これまでの研究の報告とディスカッション(3) 5. これまでの研究の報告とディスカッション(4) 6. これまでの研究の報告とディスカッション(5) 7. アカデミック・ライティング解説 8. アカデミック・ライティング実習 9. 追加資料の報告とディスカッション(1) 10. 追加資料の報告とディスカッション(2) 11. 追加資料の報告とディスカッション(3) 12. 追加資料の報告とディスカッション(4) 13. 追加資料の報告とディスカッション(5) 14. 中間報告資料作成についてのガイダンス 15. まとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★		★★		★

年度	2015	授業コード	J50780B04
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門演習ⅡＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar ⅡＢ		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。ゼミでは、この主題にそったテーマを各自で選び、5 人程度のグループ・ディスカッションを通して、内容を吟味しあう。社会学専門演習 IIA までで進めてきた研究をまとめる。		
教材（テキスト）	必要に応じて、授業中にプリント教材を配付する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	各自の研究テーマに応じて指示する。		
評価方法	平常点（出席状況等 50%、発表 50%）による。		
到達目標	卒業研究を完成させること。		
準備学習	演習の進行に応じて講読文献等を指示するので、読んでおくこと。また、指示があった場合は、発表の準備をすること。		

受講者への要望

卒業研究を念頭におき、演習に積極的に参加すること。また、講義、各種メディア、日常生活を通して、常に自分の研究テーマに必要な情報をを探っておくこと。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 中間報告会(1)
3. 中間報告会(2)
4. 中間報告会(3)
5. 中間報告会(4)
6. 中間報告会(5)
7. 長文ライティングのコツ(1)
8. 長文ライティングのコツ(2)
9. 卒業研究の作成と相互添削(1)
10. 卒業研究の作成と相互添削(2)
11. 卒業研究の作成と相互添削(3)
12. 卒業研究の作成と相互添削(4)
13. 卒業研究の作成と相互添削(5)
14. 卒業研究の最終確認
15. まとめと卒業論文集作成についての解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★		★★		★

年度	2015	授業コード	J50781A01
科目名	英語コミュニケーション専門演習 II A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced English Communication Seminar II A		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	In this seminar, students will develop the four main learning skills: reading, writing, listening and speaking. Given the generalist nature of this course, students should expect to achieve improvement in all of their English skills. However, it is expected that students be willing to use the skills they have learnt in classes and participate in homework and in class activities. The materials on this course are slightly more challenging, and students are expected to achieve more than in the 英語コミュニケーション専門演習 I A lessons.		
教材（テキスト）	Cunningham S. & Moor, P. New Cutting Edge Pre-Intermediate, (Harlow, U.K., Pearson Longman, 2005)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Coursework 100%		
到達目標	Upon completion, students should be more confident with their communication skills. Students will be able to use English in more advanced written and social situations, and communicate with each other using key vocabulary items in both conversation and written situations. Students will demonstrate some ability to communicate with native speakers effectively.		
準備学習	Students are encouraged to utilise their course book thoroughly. Students are asked to make and commit to a study schedule, remembering that work done outside of class is essential to their English language development.		

受講者への要望

1) Students are to bring their course book and dictionaries to each class.
2) Students should regularly complete writing and speaking homework activities.
3) Students are expected to be motivated and prepared to learn.

講義の順序とポイント

1. Leisure & Lifestyle I
2. Leisure & Lifestyle II
3. Important Firsts I
4. Important Firsts II
5. At Rest, At Work I
6. At Rest, At Work II
7. Scrabble
8. Special Occasions I
9. Special Occasions II
10. Appearances I
11. Appearances II
12. Time Off I
13. Time Off II
14. Scrabble
15. Review

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★		★	★

年度	2015	授業コード	J50781B01
科目名	英語コミュニケーション専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced English Communication Seminar II B		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	In this seminar, students will develop the four main learning skills: reading, writing, listening and speaking. Given the generalist nature of this course, students should expect to achieve improvement in all of their English skills. However, it is expected that students be willing to use the skills they have learnt in classes and participate in homework and in class activities. The materials on this course are slightly more challenging, and students are expected to achieve more than in the 英語コミュニケーション専門演習 IB lessons.		
教材（テキスト）	Cunningham S. & Moor, P. New Cutting Edge Pre-Intermediate, (Harlow, U.K., Pearson Longman, 2005)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Coursework 100%		
到達目標	Upon completion, students should be more confident with their communication skills. Students will be able to use English in more advanced written and social situations, and communicate with each other using key vocabulary items in both conversation and written situations. Students will demonstrate some ability to communicate with native speakers effectively.		
準備学習	Students are encouraged to utilize their course book thoroughly. Students are asked to make and commit to a study schedule, remembering that work done outside of class is essential to their English language development.		

受講者への要望

1) Students are to bring their course book and dictionaries to each class.
2) Students should regularly complete writing and speaking homework activities.
3) Students are expected to be motivated and prepared to learn.

講義の順序とポイント

1) Ambitions & Dreams I
2) Ambitions & Dreams II
3) Countries & Cultures I
4) Countries & Cultures II
5) Old & New I
6) Old & New II
7) Scrabble
8) Take Care I
9) Take Care II
10) The Best Things in Life I
11) The Best Things in Life II
12) Got to Have It! I
13) Got to Have It! II
14) Scrabble
15) Review

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★		★	★

年度	2015	授業コード	J50782A01
科目名	ネイティブ英語専門演習 II A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Native English Seminar II A		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	(Super Convenient English) とても使いやすくて便利な日常的に使える英語の基礎を習う講座です。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	宿題・発表 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1. Learn many simple and convenient English patterns for effective communication 2. Use learned phrases in class 3. Prepare situations where learned patterns can be used in combination to make conversations		
準備学習	Come to class. Finish the required assignments to passing level and complete the requisites for class to passing level.		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。
原則としてこの講座は主に英語で行われますが、必要に応じて説明、質問、討論などは日本語使用します。
Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary.
(Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class.
※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)
(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。
※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント

1.Here's…
2.Go ahead…
3.Almost Every
4. review Quiz & Next intro
5.We don't …
6.Would you…
7.Can you…
8. review Quiz & Next intro
9.Be… with…
10.Please don't…
11.We'll see whether…
12.review Quiz & Next intro
13. Is it ok if …
14.Quiz review Prep for Comprehension
15. Comprehension Test

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★		★

年度	2015	授業コード	J50782B01
科目名	ネイティブ英語専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Native English Seminar ⅡB		
担当者名	John Gatewood Ⅱ	旧科目名称	
講義概要	(Deep English & Funny Vocabulary Practice) 生きた英単語の練習する講座です。 ?		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	宿題・発表 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20% ?		
到達目標	1. Learn how the differences in English vocabulary has different meaning 2. See the roots of strange English spelling 3. Understand the differences in simple English vocabulary		
準備学習	Come to class. Finish the required assignments to passing level and complete the requisites for class to passing level.		

受講者への要望
授業に毎回出席すること。Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary. (Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class. ※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.) (必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。 ※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント
このクラスの目的は聞いたことある単語も聞いたことない単語も恐れずに使っていくための講座です。このクラスを取ることによって、英単語の共通しているところ、歴史と面白さに触れる。 1.Consonant Changes 2.Greek Roots 1 3.Latin Roots 1 4.Medicine 5.Ecology 6.Public Transportation 7.Words and Names 8.Homophones 9.Absorbed Prefixes 10.Greek Roots 2 11.Latin Prefixes 2 12.Words from Spanish 13.Science 14.Archaeology 15.Physical Education

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★★	★★		

年度	2015	授業コード	J50784001
科目名	実践ビジネス英会話	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	This is a class to cover many parts of basic business English. There will be vocaulary, speaking, and some writing practice. Homework, quizzes, speaking and written tests, along with other activities will make up the bulk of classroom participation.		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	宿題・発表 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1. Learn new business related words and　phrases 2. Practice interacting in business settings 3. Understand some cultural differences that exist in business settings		
準備学習	Do your homework and come to class on time.　Understanding vocabulary and asking questions will be important for this class.		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary. (Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class. ※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント

1. On the Airplane, Immigration, Customs
2. Quiz-Vocabulary Practice
3. Interview Practice and creating dialogues
4. Asking Directions, Taking a taxi
5. Quiz-Vocabulary Practice
6. Interview Practice and creating dialogues
7. Making/Receiving phone calls
8. Quiz-Vocabulary Practice
9. Interview Practice and creating dialogues
10. Making appointments
11. Banking (Making an account, a withdrawal)
12. Post office
13. Quiz-Vocabulary Practice
14. Interview Practice and creating dialogues
15. Recap, review, and comprehension check

These topics will be covered in depth, and there will be vocabulary, grammar, and usage quizzes, tests, and dialogue practice during each class.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★			★	★★	

年度	2015	授業コード	J50788001
科目名	自然地理学総論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、第四紀（おおむね人類の時代で約 200 万年前から現在まで）の自然環境に関する自然地理学の研究を基礎から解説する。 自然地理学は地理学の主要な分野であり、多岐にわたる自然環境を研究対象としている。本講義では、その中でも代表的な気候、海洋、ならびに地形に焦点をあて、気候については第四紀の大きな環境変化にあたる氷河期と氷河期終了後の気候変化、海洋に関しては気候変化に伴って発生した海面変化（海水準変動）、地形については人類の主要な生活舞台となってきた平野（沖積平野）を取り上げる。講義では、自然地理学の基本から専門的な内容までを幅広く扱い、研究成果だけでなく調査方法や考察方法にもできる限り触れる。また各講義は、授業への積極的な参加を促すため、自然環境の基礎知識、以前の講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	評価は基本的に定期試験 90％と平常点（講義中の問題正解・レポート）10％で行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	次の 3 つを到達目標とする。 (1) 自然地理学で多用する用語の意味を説明することができる。 (2) 自然環境の基本的内容を習得できる。 (3) 自然地理学の基本概念にもとづく考察方法を知識として身につけることができる。		
準備学習	各講義の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解するように。講義は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が次回の講義を理解する上での予習にもなる。また、各講義では以前の講義内容から復習問題を出題し、授業内レポートには教員が指示するテーマについて復習した内容を記述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。
(3) 講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1. 講義の概要と導入 ― 講義の進め方と計画、成績評価方法、受講上の注意事項などについて
2. 氷河期(1) ― 丘（ターミナルモレーン）とその堆積物の特色について
3. 氷河期(2) ― 氷河の性質と丘の堆積物から分析された氷河期の発見について
4. 気候変化 ― 氷河期の終了後に訪れた温暖期における寒冷化について
5. 氷河性海水準変動(1) ― 氷河性海水準変動の理論について
6. 氷河性海水準変動(2) ― 貝化石と土壌から解明される過去の海水準（旧海水準）について
7. 氷河性海水準変動(3) ― 旧海水準の年代を決める方法について
8. 氷河性海水準変動(4) ― 過去およそ 2 万年間における海水準変動の実態について
9. 平野(1) ― 沖積平野の定義と扇状地の地形的特色について
10. 平野(2) ― 沖積平野に分布する自然堤防帯と三角州の地形的特色について
11. 平野(3) ― 三角州における沖積層の特色と環境復原への考察について
12. 平野(4) ― 日本の河川下流部における沖積平野の形成過程と環境変化について
13. 授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の授業内容は順次繰り下がる。
14. 授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の授業内容は順次繰り下がる。
15. 総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の出題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50788A01
科目名	日本の美術 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	日本の絵画史の概説を行う。日本の絵画の歴史は、大陸からもたらされる外来美術の摂取と、それを吸収したうえでの独自の様式の確立を繰り返すという著しい特色がある。その具体的内容は、時代によってさまざまながら、技法や様式を摂取しつつ日本独自の繊細な感性的世界の表出に用いるありさまには、共通点が認められる。 その特色を、各時代の絵画作品の具体例を紹介しつつ解説する。講義の性格上、プリントとＯＨＣ・ビデオを併用して、画像を多く見てもらう方法を取りたい。		
教材（テキスト）	特に用いない		
教材（参考文献）	守屋正彦「すぐわかる日本の絵画」（東京美術、２００２年）		
教材（その他）	毎回、図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート(７５点）と出席状況等による平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了後に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。		
到達目標	日本の文化・芸術の特質を,絵画を通じて理解できるようになることを目標とする。 各時代の絵画の特色を理解することが前提となる。		
準備学習	毎回。授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 必ず調べておくこと。		
受講者への要望			
授業中の私語を慎むこと。注意しても従わないものには、退席を求める。			
講義の順序とポイント			
１．奈良時代以前 ２．平安時代の仏画 ３．平安時代の絵巻物 ４．鎌倉時代の肖像画と縁起絵巻 ５．室町時代の水墨画 ６．安土桃山時代の障屏画（狩野派ほか） ７．　　同　　上　　（長谷川派） ８．狩野派・土佐派 ９．琳派 １０．浮世絵 １１．文人画 １２．円山・四条派 １３．洋風画 １４．奇想の画家たち １５．絵画の材料と絵の具			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50788B01
科目名	日本の美術 B	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	日本の陶磁史の概説を行う。日本は古くは中国文化圏の周辺に位置した島国であり、その陶磁発展の歴史的過程では、たびたび大陸の先進的な陶磁製作技術が導入されるとともに、それを意欲的かつ柔軟に吸収しながらも日本独自の感性に根ざした様式美を発展させてきた。また、日本には歴代にわたって大量の中国陶磁が輸入されており、その存在を抜きにしては日本における陶磁の使用状況を語ることができない。 以上のような日本の陶磁の特色に留意しつつ、現代にいたる日本の陶磁の歴史を、ＯＨＣとビデオを多用しながら概観したい。		
教材（テキスト）	特には用いない		
教材（参考文献）	矢部良明「日本やきもの史」（美術出版社、１９９８年）		
教材（その他）	毎回図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート（７５点）と出席状況等による平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。		
到達目標	日本の文化・芸術の特色を、陶磁を通じて理解できるようになることを目標とする。 各時代の陶磁の特色を理解することが前提となる。		
準備学習	毎回、授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 必ず調べておくこと。		
受講者への要望			
私語を慎むこと。注意しても従わないものには退席を求める。			
講義の順序とポイント			
１．縄文土器・弥生土器 ２．土師器・須恵器・奈良三彩 ３．初期貿易陶磁（三彩ほか） ４．初期貿易陶磁（青磁・白磁） ５．灰釉・緑釉 ６．荘園貿易の時代 ７．六古窯 ８．鎌倉・室町時代の輸入陶磁 ９．新安海底遺物 １０．安土桃山時代の茶陶 １１．安土桃山・江戸の輸入陶磁 １２．伊万里焼 １３．後期伊万里・鍋島 １４．京焼 １５．明治以降の陶磁			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50789001
科目名	自然地理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Geography		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、第四紀（おおむね人類の時代で約 200 万年前から現在まで）の自然環境に関する自然地理学の研究を基礎から解説する。 自然地理学は地理学の主要な分野であり、多岐にわたる自然環境を研究対象としている。本講義では、その中でも代表的な気候、海洋、ならびに地形に焦点をあて、気候については第四紀の大きな環境変化にあたる氷河期と氷河期終了後の気候変化、海洋に関しては気候変化に伴って発生した海面変化（海水準変動）、地形については人類の主要な生活舞台となってきた平野（沖積平野）を取り上げる。講義では、自然地理学の基本から専門的な内容までを幅広く扱い、研究成果だけでなく調査方法や考察方法にもできる限り触れる。また各講義は、授業への積極的な参加を促すため、自然環境の基礎知識、以前の講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	評価は基本的に定期試験 90％と平常点（講義中の問題正解・レポート）10％で行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	次の 3 つを到達目標とする。 (1) 自然地理学で多用する用語の意味を説明することができる。 (2) 自然環境の基本的内容を習得できる。 (3) 自然地理学の基本概念にもとづく考察方法を知識として身につけることができる。		
準備学習	各講義の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解するように。講義は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が次回の講義を理解する上での予習にもなる。また、各講義では以前の講義内容から復習問題を出題し、授業内レポートには教員が指示するテーマについて復習した内容を記述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。
(3) 講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1. 講義の概要と導入 ― 講義の進め方と計画、成績評価方法、受講上の注意事項などについて
2. 氷河期(1) ― 丘（ターミナルモレーン）とその堆積物の特色について
3. 氷河期(2) ― 氷河の性質と丘の堆積物から分析された氷河期の発見について
4. 気候変化 ― 氷河期の終了後に訪れた温暖期における寒冷化について
5. 氷河性海水準変動(1) ― 氷河性海水準変動の理論について
6. 氷河性海水準変動(2) ― 貝化石と土壌から解明される過去の海水準（旧海水準）について
7. 氷河性海水準変動(3) ― 旧海水準の年代を決める方法について
8. 氷河性海水準変動(4) ― 過去およそ 2 万年間における海水準変動の実態について
9. 平野(1) ― 沖積平野の定義と扇状地の地形的特色について
10. 平野(2) ― 沖積平野に分布する自然堤防帯と三角州の地形的特色について
11. 平野(3) ― 三角州における沖積層の特色と環境復原への考察について
12. 平野(4) ― 日本の河川下流部における沖積平野の形成過程と環境変化について
13. 授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の授業内容は順次繰り下がる。
14. 授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の授業内容は順次繰り下がる。
15. 総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の出題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J50790001
科目名	哲学総論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	哲学は、紀元前６世紀のギリシアに誕生し現代にいたるまで欧米において独自の発展を遂げてきた学問であるが、同じ時期にインドや中国でも誕生し異なった発展をしてきた。この授業では、これら哲学の三つの伝統をとりあげ、その発展の道筋を比較しながらたどっていく。このことによってそれぞれの伝統の大きな特徴を学び、現代の我々が生きる西洋技術文明についての理解をも深めることができる。また、古代においてインド、中国から影響を受け、また近代の明治維新以降欧米から影響を受けた日本が、諸外国の哲学思想をどのように受容し独自の文化に変容させていったかについても学んでいく。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	野田又夫著『哲学の三つの伝統』岩波書店　平成２５年。そのほか、各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、出席状況ならびに、授業内で四回実施予定の小テストによる。		
到達目標	将来、国際社会に生きる者として他国・自国の文化についての理解を深めるために、諸外国や日本の哲学思想について基本的な知識を習得する。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、参考書にあげた野田又夫著『哲学の三つの伝統』にも目を通しておくこと。		

受講者への要望

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

講義の順序とポイント

１．哲学とは？--哲学の問い・哲学の特徴
２．哲学の始まり１―ギリシア・インド・中国における神話の世界
３．哲学の始まり２―ギリシア・インド・中国における哲学の登場
４．インドにおける哲学の始まり―仏陀の思想
５．中国における哲学の始まり１―孔子の思想
６．中国における哲学の始まり２―道家・諸子百家の思想
７．ギリシアにおける哲学の始まり１―ソクラテス・プラトン
８．ギリシアにおける哲学の始まり２―ディアレクティケとレトリケの区別
９．古代哲学の継承―ギリシア・インド・中国におけるその後
１０．西洋近代のスタート―ルネサンス・大航海時代
１１．世界像の変遷１--世界認識
１２．世界像の変遷２--人生の目標
１３．世界像の変遷３―ロマン主義
１４．日本の哲学思想１--古代におけるインド・中国哲学の受容
１５．日本の哲学思想２--近代における西洋哲学の受容

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50791001
科目名	哲学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy		
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	哲学は、紀元前６世紀のギリシアに誕生し現代にいたるまで欧米において独自の発展を遂げてきた学問であるが、同じ時期にインドや中国でも誕生し異なった発展をしてきた。この授業では、これら哲学の三つの伝統をとりあげ、その発展の道筋を比較しながらたどっていく。このことによってそれぞれの伝統の大きな特徴を学び、現代の我々が生きる西洋技術文明についての理解をも深めることができる。また、古代においてインド、中国から影響を受け、また近代の明治維新以降欧米から影響を受けた日本が、諸外国の哲学思想をどのように受容し独自の文化に変容させていったかについても学んでいく。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	野田又夫著『哲学の三つの伝統』岩波書店　平成２５年。そのほか、各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、出席状況ならびに、授業内で四回実施予定の小テストによる。		
到達目標	将来、国際社会に生きる者として他国・自国の文化についての理解を深めるために、諸外国や日本の哲学思想について基本的な知識を習得する。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、参考書にあげた野田又夫著『哲学の三つの伝統』にも目を通しておくこと。		

受講者への要望

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

講義の順序とポイント

１．哲学とは？--哲学の問い・哲学の特徴
２．哲学の始まり１―ギリシア・インド・中国における神話の世界
３．哲学の始まり２―ギリシア・インド・中国における哲学の登場
４．インドにおける哲学の始まり―仏陀の思想
５．中国における哲学の始まり１―孔子の思想
６．中国における哲学の始まり２―道家・諸子百家の思想
７．ギリシアにおける哲学の始まり１―ソクラテス・プラトン
８．ギリシアにおける哲学の始まり２―ディアレクティケとレトリケの区別
９．古代哲学の継承―ギリシア・インド・中国におけるその後
１０．西洋近代のスタート―ルネサンス・大航海時代
１１．世界像の変遷１--世界認識
１２．世界像の変遷２--人生の目標
１３．世界像の変遷３―ロマン主義
１４．日本の哲学思想１--古代におけるインド・中国哲学の受容
１５．日本の哲学思想２--近代における西洋哲学の受容

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J50792001
科目名	社会コミュニケーション基礎	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	社会コミュニケーションコースの学習の基礎として、社会学やメディア学、コミュニケーション論の分野の基礎を学ぶ。人と人との間のコミュニケーションを成り立たせる社会の特質は何か。人は社会の中で、どのように行動し役割を果たすのか、また、他人との間でどのような相互作用をおこない、どのような集団をつくるのか、そして、その時、集団の側からはどのような影響を受けるのか、などについて考える。さらに、コミュニケーションの手段となるメディアも取り上げる。メディアが発達することによって社会の特徴が変化する点も重要である。メディアの発達による現代の情報社会としての側面についても学ぶ。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配付する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材も活用する。		
評価方法	（出席を前提として）授業中に課すレポート（100％）		
到達目標	社会やコミュニケーション、メディアについて、基礎的な知識を得ることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までによく読んでおくこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席してほしい。
常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考を求める。

講義の順序とポイント

1，イントロダクション（コミュニケーションと社会）
2，学校の生徒集団での「いじめ」
3，家族の役割と行動（父と子、母と子、など）
4，企業の仕組み（官僚制）とリーダーシップの特徴
5，企業での人間相互の関係とお互いの影響（上司と部下など）
6，集団によるマインドコントロール
7，情報社会１（管理社会・監視社会）
8，情報社会２（ネット社会）
9．異文化コミュニケーション
10，言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
11，情報環境、メディア環境、コミュニティ
12，表現文化
13，社会調査
14，つながり
15，社会とコミュニケーション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	

年度	2015	授業コード	J60001001
科目名	自然保護思想	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy of nature conservation		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	自然環境や動植物を直接利用する役立つ資源としてのみならず、神としてあがめたり、あるいは我々の存在の基盤として尊重する思想は太古より存在した。自然保護思想は、原生的な自然環境の保護のみならず、都市環境デザインやランドスケープデザインにも歴史的に反映されてきたところである。しかし、人類の自然に対するインパクトは、農耕革命、産業革命を経て、ここ半世紀の間に急激に拡大し、人類の生存基盤の持続可能性が危ぶまれている現在、自然保護概念にもまた、新たな展開がみられる。そのひとつは、「生物多様性」という自然保護概念の革命であり、もうひとつは、里山・里海のありかたに見られる自然共生の概念である。 この講義では、自然保護思想の歴史的に重要な展開イベントを踏まえ、いくつかの基本的なコンセプトの紹介と検討を行い、学生自らが豊かな自然観を形成する基盤の獲得を目標とする。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	鬼頭秀一著『自然保護を問いなおす』ちくま新書 守山弘著『自然を守るとはどういうことか』農文協、1988 年 守山 弘著『水田を守るとはどういうことか―生物相の視点から』（人間選書（204） 加藤尚武著『環境倫理学のすすめ』（丸善ライブラリー）		
教材（その他）			
評価方法	復習テスト、ミニ・レポート、期末課題レポートを総合して評価する。		
到達目標	自然保護に関する重要な概念を理解し、現代における自然保護の意義と方向性を認識できるようになる。		
準備学習	新聞、テレビ等の自然環境関連のニュースに気をつける。前回の講義内容を復習し、修得しておくこと。		

受講者への要望

受講だけでなくフィールドを忘れずに。昆虫採集、魚釣り、植物採集は自然保護の原点です。農作物をつくるときも「ただの虫」を忘れずに。

講義の順序とポイント

1. 導入:ゴキブリ、クジラ、エボラ、オオカミ・・・・
　　第Ⅰ部：歴史的な自然保護・自然共生概念
2. 最古の森林への賛歌とエデンの園
3. 西洋庭園に見る自然の「征服」ルネサンス庭園、フランス庭園
4. 西洋庭園に見る「自然に帰れ」イギリス自然風景式庭園
5. 鎮守の森：南方熊楠と自然保護の先駆け
　　第Ⅱ部：現代の自然保護・自然共生概念
6. 現代自然保護の幕開け：国立公園とウィルダネス
7. 保護と保全の対立：ディープエコロジー、ソーシャルエコロジー
8. 樹木の当事者適格、自然の生存権
9. 世代間倫理・地球全体主義
10. 将来世代からの警告：レーチェル・カーソン、ローマクラブ
11. ベジタリアンと動物保護
　　第Ⅲ部：地球環境危機と自然保護
12. 生物多様性という革命
13. Ｓａｔｏｙａｍａというソルーション
14. 国際政治のなかの自然保護（１）
15. 国際政治のなかの自然保護（２）

（※進行に応じて適宜変更することがある）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待					★	

年度	2015	授業コード	J60006001
科目名	環境教育・富良野自然塾	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Education/ Furano Field		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	大学コンソーシアム京都の単位互換科目として開講するもの。「北の国から」などで著名な脚本家の倉本聰氏が主宰する「富良野自然塾」（講座協賛 三井住友銀行）の全面的協力で、北海道での現地実習を行う。京都における事前学習および事後学習も実施する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	・「愚者の質問」　倉本聰、林原博光 著　（日本経済新聞出版社　2010 年） ・「ヒトに問う」　倉本聰 著　（双葉社　2013 年）		
教材（その他）			
評価方法	事前学習、現地実習、事後学習の出席状況や実習への取り組み状況等による（７０％） レポート（３０％）		
到達目標	森林フィールドでの環境教育についての深い理解と体験（遊学）		
準備学習	参考文献欄に挙げた文献を読んでおいてください。		

受講者への要望

自然のなかで無心に遊んでみてください。鈍感になった感性が生き返ってきます。楽しい協力的な集いになるように、各人それぞれが心がけてください。
「富良野自然塾・倉本聰対談集　愚者の質問」日本経済新聞出版社を読んでおくと参考になります。

講義の順序とポイント

環境問題に対する特定の解決策を導き出すことを目的としているのではなく、自然体験活動と学生間の交流を通して、環境問題や自然環境に関する豊かな見かたや価値観が醸成されてくることをめざす。 富良野自然塾は、人間が自らの五感を使って自然から学ぶことをデザインした環境教育・五感プログラムを、そしてそれらのすぐれたインストラクターを用意している。

富良野自然塾からのメッセージ（エクアドルの民話「ハチドリの一滴」）：　山火事のおこった森林で、/小さなハチドリが一滴ずつ/水を運んで火を消そうとします。/ そんなことして山火事が消せるかと、/ 動物たちが笑います。/でもハチドリは真剣に云います。/ 「ジブンニデキルコトハコレクライダカラ」と。/ 我々の仕事はハチドリの一滴に過ぎません。/ でも、全ては一滴からしか始まりません。

事前学習（キャンパスプラザ京都）：７月２４日（金）５講時　１８：２０～（3時間）

現地実習（北海道・富良野自然塾）：８月２９日（土）～３１日（月）

事後学習（キャンパスプラザ京都）：９月４日（金）５講時　１８：２０～（3時間）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★			

年度	2015	授業コード	J60007001
科目名	科学技術史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science and Technology		
担当者名	但馬　亨	旧科目名称	
講義概要	現在の科学技術の発展の鍵は制度化・巨大化・精密化という三語に要約されよう．この講義では，その発展の過程が必ずしも単線的・直線的になされてきたわけではないことを明らかにし，科学的知識のもつ本質的性質と呼べるものを浮き彫りにすることを目的としている．また，この性質の理解から科学者の在るべき姿について考察するという科学技術倫理の要素も講義には含まれる．実際に扱うトピックとしては，数学や物理学，情報工学，環境についての諸問題が含まれる．		
教材（テキスト）	特になし．プリント配布します．		
教材（参考文献）	野家 啓一（著）『パラダイムとは何か クーンの科学史革命』講談社学術文庫，2008 年		
教材（その他）	上記以外にも適切な参考書を複数紹介します．パワーポイントや映像資料も用います．		
評価方法	平常点(30%)出席状況・小テスト等による．定期試験(70%)． 有意義な意見の発表等がある場合等は加点します． また授業参加者の状況を考慮して，ディベート課題を出す場合があります．		
到達目標	１．各時代ごとの科学的技術的知識の形態を正しく把握すること． ２．科学理論の変遷についての理論的把握を行うこと． ３．現代科学に内在する問題点について批判的検討を加える視点をもつこと．		
準備学習	授業内で紹介する文献や資料等を授業開始前までに調べて，次週の講義開始以前に知識を得ていること． そして授業終了前に出される問題に取り組むこと．次回授業開始時に小テスト等を行い考察の成果を確認します．		
受講者への要望			
１．自然科学だけでなく文理問わない幅広い知的好奇心をもって積極的に講義に臨んでください． ２．私語や携帯電話の使用等には、減点や期末試験の受験を認めないなど厳しく対処します．			
講義の順序とポイント			
１．　ガイダンス ２．　古代の科学：ギリシャにおける科学の曙 ３．　中世の科学：精密科学としての天文学 ４．　アラビア科学の成立 ５．　初期近代(1)：万能人と人文主義的科学 ６．　初期近代(2)：近代解剖学の成立，印刷技術の発展 ７．　前半内容の確認 ８．　17 世紀(1)：二つの科学革命論 ９．　17 世紀(2)：科学方法論の成立，ガリレオ，デカルト １０．18 世紀：ニュートンと啓蒙主義 １１．19 世紀(1)：フランス革命後の社会と科学の制度化 １２．19 世紀(2)：ダーウィニズムと自然誌 １３．20 世紀(1)：巨大科学の誕生と戦争 １４．20 世紀(2)：情報科学の発展 １５．21 世紀の諸問題：環境と科学技術の関係			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2015	授業コード	J60008001
科目名	日本の農業	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Agriculture		
担当者名	矢澤　進	旧科目名称	
講義概要	日本農業と日本の食料問題について理解し、今後のわが国の農業のあり方について論述する。 日本農業を通して世界の食料問題を理解する。		
教材（テキスト）	特に指定しないが、講義の中で順次紹介する。		
教材（参考文献）	祖田　修・杉村　和彦　編 「食と農を学ぶ人のために」　世界思想社		
教材（その他）	資料を配布する。		
評価方法	平常点（１０％）および小テスト（９０％）で評価する。		
到達目標	将来の農業と食の姿について、おのずから考えられるようになること。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。４回の小テストを行うので毎回の講義内容を復習しておくこと。		
受講者への要望			
４回の小テストを行うので毎回講義内容を復習しておくこと。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに ２．日本の農業を取り巻く諸問題。（植物生産を中心として） ３．日本の農業を取り巻く諸問題。（動物生産を中心として） ４．日本人は農業をいつ始めたか。日本農業の発達史。【小テスト①】 ５．日本農業の発達史。 ６．農業と食糧問題。（穀物の生産） ７．農業と食糧問題。（野菜・果樹の生産） ８．農業と食糧問題。（畜産物の生産）【小テスト②】 ９．農業生産を取り巻く環境。（生産の役割を中心として） １０．農業生産を取り巻く環境。（物質の流れを中心として） １１．農業と科学技術、品種改良。 １２．農業と科学技術‐特に畜産を中心として。【小テスト③】 １３．ヒトの健康と作物。 １４．日本農業の抱える問題点。【小テスト④】 １５．日本農業の今後の展開。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J60009001
科目名	食の安全安心	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	植野　洋志	旧科目名称	
講義概要	「食」は衣食住という私たちの生活における基本要素のなかでは，ヒトの生命（いのち）そのものに直接関与する重要な要素である．どのように「食」が生命とかかわるかを理解しないと，安全安心の概念は生じない． 本講義では，「食」を１）食素材から食品という製品として，２）食物として体内に取り込み，代謝されるとき，３）外部環境要因がいかに１）や２）に関与するか，という点を中心に理解を深めることになる． 一般に知られている食の安全安心という言葉の意味をより正確にとらえるためには，「食」のもつ性質を知る必要がある．食の性質とは，もちろん，物質としての概念であろう．食素材は化学物質としてとらえないとだめで，その本質は，食素材が物質変換（化学反応）することに他ならない．一般教養として，食素材がどのように変化するのかを理解し，いわゆる発酵や腐敗という言葉が何を意味するのかを本質的に判ることを目標とする． 近年，「食」と安全で話題になっている鳥インフルエンザ，遺伝子組み換え食品，バイオ燃料といった内容にも触れる予定でいる．		
教材（テキスト）	別に用いない		
教材（参考文献）	補足プリントと e-ラーニング		
教材（その他）			
評価方法	定期試験の成績（80%），小テスト（10%），と平常点（10%）に総計して評価する．		
到達目標	生命現象，そのなかで「食」については，化学というツールで眺めることが大切である．化学というツールで地球上で生息する生物を眺めると，共通する基本概念が見えてくる．生命の大原則と「食」が密接につながっていること，また，その関連性に影響をあたえるようが現象が安全安心という側面から理解することができる．このような自然のなかの関連性に気づくことが本講義の目標である．		
準備学習	予習については，事前に講義についての概要を説明するので，ネット検索をして予備知識をもつこと．当日は，簡単な小テストにて学習度のチェックを行う．復讐に関しては，不定期に小テストを実施する．また，ネットを利用して，教材（配布プリントと授業でのパワポ）を閲覧できるようにする．		
受講者への要望			
一般教養的内容なのと，生活と密接に関係するので，講義中の話題がいろんな方向に飛ぶことがある．きちんとノートやメモをとること．質問はできるだけその場でするように心がけよう．積極的な授業への参加が望ましい．			
講義の順序とポイント			
1〜2. ヒトと微生物を例にとり細胞の構造と役割について理解する 3〜4. 細胞がどのように生きるか，増殖について学び，ヒトと微生物で共通な概念を習得する 5〜6. 生命体の栄養源である食素材について，加工を含めて性質を学ぶ 7〜8. 食素材がもたらす効果（たとえば，食中毒）について，安全安心の観点と分子生物学の観点から眺める 9〜10. 食品の保存・保蔵の基礎と原理 11〜12. 食品が生体内でどのようになるか（代謝），その仕組みが環境因子により影響をうけることを理解する 13〜15. 食にまつわる制約（法律や規則），輸入食品の安全性，農薬とはなど広く生活に関係する話題を共有する			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J60009002
科目名	食の安全安心	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	瀧井　幸男	旧科目名称	
講義概要	この数年、我が国の「食の安全安心」を根底から揺るがし、消費者の信頼を失うような事態が相次いで発生した。それは有名な食品製造業、ホテル、レストランが起こした「食品素材偽装」や「消費期限」の意図的な改変である。現代の大都市で生活する消費者は基本的には「食べる人」であり、手のかかる食品を「作る人」ではないので、消費者は、食品の包装表示を信用するか、レストランのメニューで判断して食事をするしかない。つまり「食品偽装」はいわば、生産者と消費者の間の適正なコミュニケーションが失われた結果にほかならない。 　農水産物の生産地と消費者の居住地は、時間的にも距離的にも離れていることが多く（フード・マイレージ)、消費者が食品を口にするまでに、食品は適正に保蔵管理されていることが必須である。これができなければ「食の安全・安心」を脅かす原因となることを理解しょう。 　放射性物質による食品汚染や残留農薬については、食品衛生法などの法的規制を受けるとともに、公的な機関が測定・提供するデータによって、初めて正確な事実認定と議論がなされうることを学習する。 　病原性微生物による食中毒症の原因とその対処法を正しく学び、身の周りに生息する微生物との共生という良い関係を保てば、いたずらに食の不安を煽る必要はないと考えられる。それ以上に注意すべきことは、いつまで置いてもカビが生えず腐らない食品に、どのような殺菌剤や保存剤がどれだけ含まれているかに留意しょう。微生物は人間と同じ生き方をするので（到達目標参照)、微生物が生えない食材は別の意味で危険であることを知っておく。 　身の回りで実際におきている現象についてできるだけわかりやすく、化学記号や化学式を使わないで講義していきたい。		
教材（テキスト）	食の安全と健康　改訂版　（わかくさ印刷　出版）		
教材（参考文献）	補足プリント、授業中に適宜配布する。		
教材（その他）			
評価方法	定期試験の成績（８０％)、小テスト（１０％）に平常点（１０％）を総計して評価する。		
到達目標	食の「安全」はデーターとして数値化され公正に評価できるが、「安心」は個人の考え方で左右され、一定の尺度がないことを学んでほしい。地球上に生息する生物は、人間とほとんど同じ生き方、すなわち生命の大原則（セントラル・ドグマ）に従うので、人間と微生物は共に生きる良い「共生」関係か、あるいは相手をライバルとして捉える「拮抗関係」のいずれかをとる事実を学習する。		
準備学習	授業開始前に、教員が予告している範囲を中心に読み、できればキーワードを基に内容をまとめるようにする。理解しにくい所があれば、箇条書きで整理する（５０％)。さらに、図書館等でキーワードを手がかりとして検索し、テキストの内容の把握に努める（３０％)。授業中、もしくは授業後に教員に質問して学習するよう努める（３０点)。授業仲間と討論して、お互いの理解度を把握する（２０％)。		

受講者への要望

テキストは常に講義に携行することが望ましい。板書のほか、講義中に補足プリントを配布して説明する。
定期試験及び小テストでは、テキストおよびプリントの持ち込みを許可します。

講義の順序とポイント

1~2．人間と微生物の細胞の構造と役割（特に仲間を増やすシステムの違いを理解しょう)。
3~4．両者は同じ生き方をする。言い換えれば、人間の食べ物は微生物にとっても栄養豊富な生育できる培地である。いわば人間と微生物はその食材をめぐって常に生命をかけて闘うライバルである（腐敗と発酵の違いを生む)。
5~6．微生物にとって水は人間と同じ最も大切な成分であり、この供給を断てば病原性微生物は生き残れない。
　　（ﾃｲ-バッグ、漬けもの、砂糖漬けなど、水分をできるだけ除いた食品が室温で保存できることを知る)。
7~8．病原性微生物は人間のごく身近に存在し、人間と同じ生き方をとるのでこれらを体内に入れてはいけない。
　　（摂取した微生物が善玉腸内細菌の活動を抑制し、腸内環境悪化の原因となりうることを理解する)。
9~10．滅菌、殺菌、消毒、除菌の定義と用途についてしっかり把握する。(適正に使い分ければ食の安全が守られることを理解する)。
11~12．食品の安全に関する法律や規則を学ぶ（食の安全を公平に数値データで評価できることを知る)。
13~15．生命の生き方の原則は、親から子、子から孫へと伝えられる遺伝子 DNA の設計図に存在する。これを崩すような行動（発

がん物質との恒常的接触、喫煙、紫外線照射を浴び続ける等）は大切な設計図を傷つけ次の世代に引き継がれうるので、できる限り避けることが肝要である。

結論として、人間は微生物とともに生きるよい関係を構築して初めて、安全で健康な生命活動を営めることを学んでほしい。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J60010001
科目名	シリーズ特別講義 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Lecture Series A		
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	現代社会が直面している環境問題は人間社会が解決すべき緊急の課題である。本シリーズでは、自然環境、生産環境、消費環境の現場で発生している諸問題に取り組んでいる先達の豊かな活動経験を聴くことによって、環境問題への関心を高め、それに取り組む視点と方向性を各人が思考し、バイオ環境学部での学習のおもしろさと重要性を認識するきっかけとなることを期待する。		
教材（テキスト）	とくに定めないが、各講師の方から、講義中に参考書を推薦してもらう。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	受講態度、講義後に提出する感想・意見の文章内容による平常点(70%) レポート(30%)		
到達目標	環境問題への関心を高め、それに取り組む視点と方向性、そしてバイオ環境学部での学習の重要性を認識する。		
準備学習	種々の環境問題に視野をできるだけ広くとって、日常生活を送ること。講義内容に関連する話題がニュースとして取り扱われることも多いので、新聞などで情報収集に努めること。復習として、各講師が執筆している著作を含め関連分野の書籍の読書を求める。		

受講者への要望

各講師が活動の経験を聞き、大学で学習する意義をつかんで欲しい。

講義の順序とポイント

1)　はじめに。この講義の意義とねらいを説明する。
2)〜5)　農業、漁業、林業の現場で働いている人たちからメッセージ。
6)〜8)　農協、漁協、林業組合で働いている人たちからのメッセージ。
9)〜11)　工業、商業の現場で環境問題に取り組んでいる人たちからのメッセージ。
12)〜14)　廃棄物問題、開発問題に関わっている専門家や市民運動関係者からのメッセージ。
15)　おわりに。14 回目の講義までに学んだ内容について復習するとともに、得たことについて考察する。
　以上の諸課題に関して、学外の先達に 1 コマずつの講義をお願いする。なお、講師の方々との日程調整上、 順序は未定である。
　2014 年度の講義タイトルは以下の通りであり、概ね同じ内容になる予定である。
「亀岡の歴史と文化について」、「保障なき時代を生きる〜“自立農力”探求のすすめ」、「川とダム：特別天然記念物オオサンショウウオから考える」、「三里四方の旬」、「農と暮らしと」、「琵琶湖の漁業」、「菜の花プロジェクト」、「今日は森林のこと考えてみよう」、「半農半 X という生き方〜小さな農と天職と大好きなまちと」、「小さな工場の醤油づくり」、「環境学生ベンチャーNPO 法人木野環境」、「クボタアスベスト禍と胆管がん事件」、「低炭素地域づくりに向けた取り組み」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J60011001
科目名	シリーズ特別講義Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Lecture Series B		
担当者名	清水　昌	旧科目名称	
講義概要	日本のバイオサイエンスとその応用技術は現在、明治以来の先人のたゆまぬ努力と研鑽の結果、世界でも最先端のレベルにある。そうした企業などの第一線で活躍されている研究者・技術者の方々を講師として招き、バイオテクノロジーおよびバイオインダストリーの現状・将来について講義をしていただく。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席状況など）１０％ 指定した課題に対するレポート９０％		
到達目標	産業界におけるバイオ技術の活用について理解を深める。 現役の企業人から直接話を聴くことで、自らのキャリア形成に関するイメージを描き、バイオ環境学部での勉学の動機付けや勉学意欲の向上につなげる。		
準備学習	本講義はオムニバス方式で進行する。具体的な講義タイトルは別途開示される。関連分野の教科書やニュースなどを調べサイエンス・テクノロジー・社会的インパクトなどの側面からの理解を深めておくこと。		
受講者への要望			
関心のある分野について、最低でも新書などの関連文献を熟読し、レポートを書く際の参考にすること。 レポートの書き方についても、各自解説書等を読んで自学すること。			
講義の順序とポイント			
１）科学技術とバイオテクノロジー ２）バイオ基盤技術産業（１） ３）バイオ基盤技術産業（２） ４）創薬産業（１） ５）創薬産業（２） ６）生化学産業（１） ７）生化学産業（２） ８）食品産業（１） ９）食品産業（２） １０）醸造産業（１） １１）醸造産業（２） １２）植物関連産業（１） １３）植物関連産業（２） １４）バイオ基盤産業（１） １５）バイオ基盤産業（２） 講義の順序は開講時に決定するが、各講師の都合により変更する場合がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★

年度	2015	授業コード	J60012001
科目名	社会と環境問題	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Problems and Society		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	2011 年に、福島第一原子力発電所の事故により、大量の放射性物質が環境中へ撒き散らされ、現在も、放射性物質の排出は、一時よりは減ったとはいえ、まだ続いている。排出された放射性物質からは、放射線が長期にわたって出る。そしてやがて健康被害が顕在化してくるものと思われる。このような放射能汚染という環境問題に、私たちは、どう対処すべきなのかについては、過去に起こった環境問題において加害者がどう行動し、被害者や一般市民がどう考えて、どう対処したのかということが、私たちに多くの重要な知恵を与えてくれる。 明治期には、工業や鉱業の発展によって、有毒な排ガスや廃水が放出されて、作物が育たないという事態や健康被害が起こった。戦後には、工業のめざましい発達に伴い、空気、水、および食べ物の汚染が急激に進行して、水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくなど、大きな健康被害が出た。しかし、このような健康被害について、被害者全員が十分に補償を受けたわけではない。多くの被害者は悲惨な状況下に置かれた。加害者の責任逃れの行為が目立ち、また、一般市民が被害者をさらに悲惨な状況に追いやってしまう事態も発生した。この講義では、過去の環境問題とその時の社会情勢を説明し、現在の環境問題への対処を考える。		
教材（テキスト）	小田康徳編「公害･環境問題史を学ぶ人のために」世界思想社、2000 円＋消費税		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	期末試験（60%）、随時行うテスト（40%）		
到達目標	現在の環境問題を自分なりに考えられるようにする		
準備学習	教科書の該当部分を事前に読んで、理解しておくこと。		

受講者への要望

「環境化学」を受講しておくことが望ましい。
わからないことがあれば、授業の途中でもよいから質問をすること。
放射能に関連するニュースなど、現在の環境問題の関する情報をを把握して、自分なりに解決策を考えること。

講義の順序とポイント

1．汚染による被害と損害賠償についての一般論
2．明治期の富国強兵政策と足尾鉱毒事件の発生（教科書 p.22-24）
3．足尾鉱毒事件への政府の対応と田中正造の直訴（p.24-26）
4．足尾鉱毒事件のその後（p.93-94）、今も続く鉱山排水問題
5．別子銅山煙害事件（p.95-99）、煙害防止技術（p.31-34）
6．戦前の大阪の工業化と大気汚染（p.101-106）
7．戦前の石炭鉱業被害（p.112-118）
8．戦後の高度成長と公害の発生（p.45-52）
9．水俣病の発生（p.119-125）
10．水俣病の補償問題（p.125-126）
11．公害被害者への差別と住民間の対立（p.227-232）
12．イタイイタイ病（p.127-133）、四日市公害（p.133-139）
13．四日市の水質汚濁、公害法規（p.198-204）
14．公益・公共性の思想と公害（p.221-226）
15．歴史から学ぶ教訓

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J60014001
科目名	環境問題と公共政策	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	現在、顕在化している環境問題は、その原因の多くが人為活動に起因している。一方、公共政策とは公共的問題を解決するための、解決の方向性と具体的手段である。そのため、環境問題の解決にむけて公共政策の果たす役割は大きい。環境問題と公共政策の基礎を学んだ上で、さまざまな事例から、環境問題の要因や公共政策が果たした役割を学び、環境政策のあり方について考察する。また、必要に応じて環境政策の実務に携わる者を外部講師として招聘する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	特に指定しないが、講義中に文献を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）、授業中に課すレポート（60%）		
到達目標	さまざまな事例から環境問題と公共政策の基礎的な知識を習得し、これからの環境問題と公共政策のあり方について考える基礎を養う。		
準備学習	新聞や文献などをもとに身近な環境政策について概要を調べる（5 例程度）。		
受講者への要望			
環境問題に関心を持つ。解決に向け何ができるか考える。			
講義の順序とポイント			
1 はじめに 2 公共政策とは 3 公共政策とは 4 環境問題とは 5 環境問題とは 6 地球環境問題 7 地球環境問題 8 環境政策とは 9 環境政策の体系 10 生物多様性に関する環境政策 11 生物多様性に関する環境政策 12 環境政策の事例 13 環境政策の事例 14 環境政策の事例 15 これまでの内容をまとめて環境政策を立案 （進行状況により適宜変更することがある）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★	★★	★

年度	2015	授業コード	J60015001
科目名	経済活動と環境問題	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Problems and Economic Grow th		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
講義概要	環境問題とは地球規模での環境破壊だけでなく、身近な生活環境に至るまで様々なレベルの問題を含んでいる。この講義では特に「農」「食」に関わる生産者と消費者双方の立場からの活動に着目して環境問題を考える。 講義前半では、農業・食料の生産環境そのものに着目し、食料の生産・流通・消費（フードシステム）について食料経済学や農業経済学の基礎を学ぶ。近年は自給率の低下により輸入品が大量に出回っており、グローバリゼーションの下での食料貿易とその問題についても取り上げる。 経済活動は環境問題の最大の原因ではあるが、逆に経済活動を通じて問題を解決していく取り組みも見られる。後半では具体例を取り上げながら、農業生産の変化や家庭での消費活動と環境問題との関係を考えていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて、講義中に提示する。その回のメインの参考文献は講義資料にも掲載する。		
教材（その他）	毎回（初回も含む）「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので、各自印刷・持参のこと（原則月曜日にアップ）。 これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。 またその中に講義中行うミニレポートの課題を掲載しているので、きちんと確認、調査しておくこと。		
評価方法	講義中に毎回行うミニレポート（30%）と定期テスト（70%）から総合的に評価する。		
到達目標	この講義では、環境問題を経済面から読み解く際に必要な経済学の基礎と事例の提示が中心となる。講義中に事例に対する見解も示すが、それも含めて受講者が「批判的に思考する」ことが最終目標である。		
準備学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 ◆講義資料掲載時にミニレポート課題も発表するので、調査などして回答を準備しておくこと。 明らかに準備不足の回答は減点対象とする。		
受講者への要望			
食･農・環境問題についての新聞記事･テレビ番組等、メディアに関心を持っておくこと。また自分自身の経済活動について意識しておいてほしい。 質問は随時受け付けるが、私語厳禁。配付資料から定期テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。			
講義の順序とポイント			
①ガイダンス～フードシステムと食生活の変化 ②食品工業（１）～日本の食品工業 ③食品工業（２）～海外進出・原料輸入と安全性確保の取組 ④食品流通と小売業～卸売市場と小売業 ⑤世界の食料生産と消費～人口問題と需給バランス ⑥日本の食料生産～農業構造問題 ⑦食料の輸入と自給率 ⑧輸入自由化～食のグローバリゼーション ⑨食料安全保障～農業保護と農業の多面的機能・国際分業論 ⑩世界の食料貿易とフェアトレード～食の南北問題 ⑪農業生産と環境問題～農業の外部性 ⑫有機農業の制度化と食の安全性 ⑬日本の有機農業運動～マンガ「夏子の酒」から ⑭家庭と環境問題（１）～主婦達の運動、ゴミ・エネルギー問題 ⑮家庭と環境問題（２）～ライフスタイルと環境			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J60016001
科目名	生物の分類	単位数	2
科目名（英語表記）	Taxonomy		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	私たちは、さまざまな生き物を種として認識することができる。また、生物種は、命名規約に従って、種名がつけられ類別されている。では、種とはいったい何を表しているのだろうか。個体と種の関係はどうなっているのだろうか。こうした生き物を種に分類することについて、さまざまな事例を通して学ぶ。また、種はさらに上位の分類群にまとめられて、種と種の関係が示されている。このような系統関係を論理的に構築する方法について概説し、生物の系統関係についても考える。さらに、現在、地球上に暮らしているといわれている数千万種の生物を概観してみたい。数千万種を見渡すのはあまりに無謀なので、様々な分類群を紹介し、地球にどんな生き物がいるのかを「知る」努力を試みる。		
教材（テキスト）	池内・伊藤・箸本（訳）、キャンベル生物学　原書９版、丸善出版（¥16,200）		
教材（参考文献）	馬渡峻輔「動物分類学の論理」東京大学出版会 E.O.ワイリー他「系統分類学入門」 根井正利、S.クマー「分子進化と分子系統学」培風館 ジョン・C・エイビス「生物系等地理学」東京大学出版会		
教材（その他）	適宜紹介する		
評価方法	講義中の提出物等によって評価する		
到達目標	生物には種名がつけられているが、種といったときに、何が想定されているのかについて考えを深める。また、この地球にはどのような生き物がいて、どのような関係にあると考えられているのかについても概観し、地球にいる様々な生物を知る。		
準備学習	これまでに生物学を学んだかどうかは、不問。　講義内容に関する資料を京学ナビを通じて配布するので、事前に目を通し、わからない専門用語等を調べておくこと。単元の区切りごとにレポートを課す。		
受講者への要望			
地球上には数千万種の生物が暮らしていると言われています。こうした自然界の驚異を楽しんでください。			
講義の順序とポイント			
1　類別と分類 2　種概念、基準標本システム、命名規約 3　種とはなにかを考える１　種とはなんぞや？ 4　種とはなにかを考える２　交配可能性とは？ 5　種とはなにかを考える３　種分化 6　生物地理と分類１　系譜 7　生物地理と分類２　分布と種分化過程 8　分類体系１　生物を分類体系にまとめる 9　分類体系２　分子系統 10 分類体系３　分岐分類法 11 生物の分類　地球にはどんな生き物がいるのか１　分類群を知る 12 生物の分類　地球にはどんな生き物がいるのか２　ヒトの系統 13 生物の分類　地球にはどんな生き物がいるのか３　生物地理学的アプローチ 14 生物の分類　地球にはどんな生き物がいたのか１　絶滅の歴史 15 生物の分類　地球にはどんな生き物がいたのか２　過去の多様性を学ぶ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J60018001
科目名	昆虫の科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Entomology		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	昆虫種の数は、地球上に存在する生物種の半数以上、未知種が加わると 80%にも達すると推定されるほど多様性に富み、海中以外のあらゆる場所に生息している。本講義では、昆虫の初歩的分類学や体の構造と機能から、同種並びに他種生物との相互作用から生態学的理解、さらに農業害虫防除へと昆虫学の基礎を縦断的に学ぶ。		
教材（テキスト）	特に定めない		
教材（参考文献）	適宜推薦する		
教材（その他）			
評価方法	期間中のレポート(小論文数回)と期末試験を基本とし、これに平常点を加味して評価する。		
到達目標	人々の生活を豊かにするものもあり、危険にさらすものもある。あるものはヒトの生活とは無縁な存在でもある。そのような昆虫という多様な生き物の多様な生活についての関心と理解を深め、基本的知識を養う。		
準備学習	昆虫に関する書物を 1 冊以上読破してほしい。また、配布した資料は、授業までに読み込んでおくこと。		
受講者への要望			
昆虫をはじめとした生き物の生活への関心を深め、たとえ「昆虫嫌い」の人でも、生き物をいつくしむ心を育ててほしい。できるなら、生き物をいつくしむ心をほかの誰かに伝えられるようにしてほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　昆虫とは　－　昆虫学事始め 2.　昆虫の形態学　－　ヒトとの体構造との違い 3.　昆虫の分類学　－　多様性に富む生物群 4.　昆虫の成長　－　生活様式を一変させる変態・時空間を旅する休眠 5.　昆虫の栄養　－　意外と似ているヒトと昆虫 6.　昆虫の呼吸　－　まったく異質なヒトと昆虫 7.　昆虫の感覚　－　昆虫には第六感がある！ 8.　昆虫の行動　－　昆虫行動研究でノーベル賞 9.　昆虫の生殖　－　不思議な雌雄のめぐり逢い 10.　昆虫の移動　－　海を渡る昆虫たち 11.　捕食と寄生　－　エレガントにして残酷な関係 12.　役に立つ昆虫　－　日本の近代化を支えた昆虫とは？ 13.　個体群動態　－　昆虫の大発生が予言する未来とは 14.　農作物害虫の管理　－　環境保全型農業をめざして 15.　昆虫の学名　－　”芸者”という名の昆虫			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60019001
科目名	土壌の科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Soil Science		
担当者名	關谷　次郎	旧科目名称	
講義概要	土壌は陸上の生物にとって必須の環境である。特に植物は土壌に依存して生存しており、農業について土壌抜きには語れない。また土壌に対する基礎的な認識を深めることは、バイオ環境を理解するうえでも欠かせない要素である。土壌とは何か、土壌の特性などについての理解を深め、土壌と植物、畑や水田の土壌、土壌と地球環境などについて考える。全講義期間を通じて数回ワークシートを配布し、理解度を確認する。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	「土壌サイエンス入門」三枝正彦・木村眞人編、文永堂出版 「土壌学の基礎－生成・機能・比沃土・環境」松中照夫著、農文協 「土の科学」PHP 新書、久馬一剛著、PHP 出版		
教材（その他）	その他の参考書は最初の授業で紹介する。		
評価方法	平常点（20%）出席状況やワークシート等による。定期試験（80%）。		
到達目標	陸上生物－特に植物－の生存の場としての土壌についての基礎的理解を深める。		
準備学習	土壌について学ぶ機会はこれまでほとんどなかったと思うので、事前学習というよりは、毎回の講義の後に、プリントとノートで復習し、不明な点などは提示した参考書の該当する部分を読み理解を確実にして欲しい。		

受講者への要望

農業を営む上で土壌はきわめて重要な働きをしている。また農業を主要な産業とする地域の環境を考える場合に土壌は重要な要素のひとつである。本講義では主として農耕地土壌を対象とするが、多くの学生に土壌についての基礎的な知識と現代的課題を学んでほしい。

講義の順序とポイント

1．土壌とは
2．土壌の成り立ち（1）土壌の構成、土壌の生成
3．土壌の成り立ち（2）土壌粘土、土壌の老化
4．植物にとって良い土壌の構造とは（1）土壌の物理性
5．植物にとって良い土壌の構造とは（2）土壌の化学性
6．植物にとって良い土壌の構造とは（3）土壌の化学性
7．植物にとって良い土壌の構造とは（4）土壌にすむ生物
8．土壌の動的平衡状態
9．畑土壌の特徴（1）日本の幡土壌の分布、褐色森林土・褐色低地土
10．畑土壌の特徴（2）黒ボク土
11．水田土壌の特徴（1）土壌特性
12．水田土壌の特徴（2）栄養分の動態
13．土壌はそれぞれの顔を持つ：土壌の分類
14．土壌と地球環境（1）温暖化ガスの発生
15．土壌と地球環境（2）問題土壌

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J60020001
科目名	微生物の世界	単位数	2
科目名（英語表記）	The World of Microorganisms		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	地球上には、きわめて多数のまた多種類の微生物が存在し、動物、植物とともに人間生活に影響を与えている。これらの微生物は、健康へ負の影響を与えたり、発酵食品、工業製品などの有用物質の生産にかかわり、また、自然界の物質循環に関与することにより地球環境の保全さらには環境浄化に役立っている。 本講義では、人間生活において微生物の果たしている役割を、生物学的、産業的、環境的視点から解説し、暮らしの中の微生物について理解させる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第2版　（２００８）　清水昌、堀之内末治　編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（２００８）熊谷英彦ら　編　朝倉書店		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	以下の項目に基づいて評価する。 ・平常点（出席状況などによる）（４０％） ・期末試験　（６０％）		
到達目標	1）生物界における微生物の位置を理解する。 2）生態系における微生物の存在形態を理解する。 3）人間生活と微生物との関わりについて具体的に理解する。		
準備学習	人間生活と微生物との関わりについて関心をもつこと。講義終了時に予習の内容を課すので授業までに調べておくこと。講義中に取ったノートを整理しておくこと，また単元の区切りごとのレポートを課す。		
受講者への要望			
ノートに基づいて講義の内容を要約できるようにしておくこと。 興味を持った内容について関連する書籍を読んで、理解を深めておくこと。			
講義の順序とポイント			
1）　緒論 2）　生物界における微生物の位置 3）　有用微生物：食品の製造 4）　有害微生物：病原微生物、腐敗 5）　文化と微生物 6）　健康と微生物 7）　家庭環境と微生物 8）　環境浄化と微生物 9）　共生と微生物 １０）　生物の進化と微生物 １１）　農林水畜産業と微生物 １２）　鉱業と微生物 １３）　石油と微生物 １４）　食糧と微生物 １５）　エネルギー問題と微生物 （上記内容は目安であり、講師の方の都合などによって変更する場合がある。）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	★

年度	2015	授業コード	J60021001
科目名	生物の多様性	単位数	2
科目名（英語表記）	Biodiversity		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	生態系を理解し、生物との共存を考える上で欠くことのできない生物多様性について、さまざまな階層での生物の多様性のあり方を理解し、生物多様性を保全することで、人間の生活を改善して持続的発展を実現する視点を養う。		
教材（テキスト）	池内・伊藤・箸本（訳）、キャンベル生物学　原書９版、丸善出版（¥16,200）		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	適宜紹介する		
評価方法	試験・課題を勘案する		
到達目標	多様性の意味、多様性が生み出される仕組み、人間活動の持続性に多様性が果たす役割を理解すること。		
準備学習	身近に生物の多様性はたくさんみられます。これらについて調べ、自分の身の回りの生物多様性を理解できる知識を持って講義に臨むこと。		
受講者への要望			
日頃から、自分の身の回りの生物多様性を理解するようにつとめ、講義内容を自分の身近な問題として関連付け、理解を深めること。事前に生物学的な知識は問わないが、事実を柔軟な視点で理解する力が必要。			
講義の順序とポイント			
１）様々な多様性と多様性の必要性 ２）遺伝的変異と進化 ３）植物の多様性 ４）動物の多様性 ５）地球環境の地域差、季節性、歴史的変化 ６）気候による生物の分布の多様性 ７）撹乱による生物の分布の多様性 ８）水界の多様性の区分 ９）生物の分散と分布 １０）生物の分布に影響する生物的要因 １１）生物の分布に影響する非生物的要因 １２）生活史の多様性 １３）群集の多様性と栄養構造 １４）群集の多様性と撹乱 １５）群集の多様性と地理的要因			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J60021002
科目名	生物の多様性	単位数	2
科目名（英語表記）	Biodiversity		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	今日、「生物多様性」は環境問題において頻繁に語られるキーワードとなり、その保全は環境保全に関わるあらゆる活動の錦の御旗のごとく扱われているが、「生物多様性」の概念を正確に理解している人は意外に少なく、その保全の意義に対する議論も十分とは言い難い。本科目では、種の多様性に加え、遺伝的多様性や生態系の多様性など、「生物多様性」という言葉に含まれる多面的側面の理解を目指す。また、多様性の喪失を生む諸要因や、生物多様性保全に関わる国際社会の動向を理解すると共に、その保全の意義について、様々な視点から議論を行う。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	「生物の種多様性」　岩槻邦男, 馬渡峻輔　編　（裳華房　1996 年） 「生物の多様性って何だろう？」　京大博物館, 京大生態学センター 編　（京都大学学術出版会　2007 年）		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	小テスト等による平常点（50 点）と、期末試験（50 点）により評価する。		
到達目標	生物多様性の概念を理解し、その保全の意義について議論する力を磨く。また、生物多様性保全に関わる国際社会の動向への理解を深める。		
準備学習	講義のレジメを事前に京学なびにアップロードしておくので、各自で打ち出して予習をしておくこと。 また、毎回の講義で、前回講義の復習のための小テスト（ノート持込み可）を行うので、しっかりと復習をしておくこと。		
受講者への要望			
教員と受講者の対話を重視した講義を行いたいので、皆さんの積極的な発言を期待します。			
講義の順序とポイント			
1　曖昧な種の定義：オオカミとコヨーテの関係 2　生物多様性の概念Ⅰ：種の多様性 3　生物多様性の概念Ⅱ：遺伝的多様性 4　生態系の指標となる種：キーストーン種とアンブレラ種 5　種の機能と生物多様性保全 6　生物多様性の概念Ⅲ：生態系の多様性 7　自然の価値の評価法の変遷：自然度から生物多様性へ 8　競争排他 vs 多種共存：生物の多様性を支えるしくみ 9　進化と生物多様性：植物と動物の共進化 10　生物間相互作用と生物多様性保全 11　生物多様性の危機：絶滅する種・蔓延する種 12　都市に生きる野生動物 13　地球温暖化と生物多様性 14　生物資源をめぐる南北問題と生物多様性条約 15　人々の生活と生物多様性保全			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	J60023001
科目名	化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Chemistry		
担当者名	一丸　直哉	旧科目名称	
講義概要	原子と分子、無機化学および有機化学の各項目について概要を説明し、我々を取り巻く世界が物質の集合体であり、物質の構成と物質の反応を取扱う学問が化学であることを理解させる。更に、我々の周囲で起きる科学や技術に関する問題、特に環境問題に関連する事項について化学的知識を元に考察できる習慣をつけてもらう。		
教材（テキスト）	教科書： サイエンスビュー化学総合資料（実教出版、800 円）		
教材（参考文献）	サブテキスト：環境マインド養成講座第 1 部（環境教育センター発行、無料配布）		
教材（その他）	ビデオ「ホフマンの化学の世界」など		
評価方法	期末試験の成績(60%)、ほぼ毎回行う小テストと 2 回のレポート(20%)、および出席状況、受講態度(20%)を考慮に入れ評価する。		
到達目標	本学部での専門科目履修に必要な基礎学力として、化学物質の構造および反応に関わる基礎を学び、物質の基本概念を身につける。		
準備学習	シラバスに基づき次の講義の範囲を示したうえで、教科書の該当部分を予習するよう指導する。更に、高校での化学の履修が不十分な学生にも学習し易いように、高校化学の内容を学習して講義に臨んでもらう。		

受講者への要望

講義内容や配布資料についての理解を深めるために小テストやレポートを課すことがある。受講者は毎講時出席した上で講義内容の復習も頑張って、化学の基礎知識を習得して下さい。

講義の順序とポイント

1．物質の基本概念と化学
2．原子と分子、元素と化合物
3．原子と電子の軌道
4．モルの概念 、分子模型
5．元素の周期律
6．化学結合
7．化学式・組成式・分子式・構造式
8．化学反応と化学熱力学
9．反応速度
10．酸と塩基
11．酸化と還元
12．無機化合物の性質
13．環境と化学 1
14．有機化合物の性質
15．環境と化学 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60023002
科目名	化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Chemistry		
担当者名	湊　和也	旧科目名称	
講義概要	原子と分子、無機化学および有機化学の各項目について概要を説明し、我々を取り巻く世界が物質の集合体であり、物質の構成と物質の反応を取扱う学問が化学であることを理解させる。更に、我々の周囲で起きる科学や技術に関する問題、特に環境問題に関連する事項について化学的知識を元に考察できる習慣をつけてもらう。		
教材（テキスト）	教科書： サイエンスビュー化学総合資料（実教出版、800 円）		
教材（参考文献）	サブテキスト：環境マインド養成講座第 1 部（環境教育センター発行、無料配布）		
教材（その他）	ビデオ「ホフマンの化学の世界」など		
評価方法	期末試験の成績(60%)、ほぼ毎回行う小テストと 2 回のレポート(20%)、および出席状況、受講態度(20%)を考慮に入れ評価する。		
到達目標	本学部での専門科目履修に必要な基礎学力として、化学物質の構造および反応に関わる基礎を学び、物質の基本概念を身につける。		
準備学習	シラバスに基づき次の講義の範囲を示したうえで、教科書の該当部分を予習するよう指導する。更に、高校での化学の履修が不十分な学生にも学習し易いように、高校化学の内容を学習して講義に臨んでもらう。		

受講者への要望

講義内容や配布資料についての理解を深めるために小テストやレポートを課すことがある。受講者は毎講時出席した上で講義内容の復習も頑張って、化学の基礎知識を習得して下さい。

講義の順序とポイント

1．物質の基本概念と化学
2．原子と分子、元素と化合物
3．原子と電子の軌道
4．モルの概念 、分子模型
5．元素の周期律
6．化学結合
7．化学式・組成式・分子式・構造式
8．化学反応と化学熱力学
9．反応速度
10．酸と塩基
11．酸化と還元
12．無機化合物の性質
13．環境と化学 1
14．有機化合物の性質
15．環境と化学 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60023003
科目名	化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Chemistry		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境を理解するには物質の基本概念を身につけることが必要である。地球上の物質は様々な元素から構成されていることを学び、さらに物質の性質を元素や原子の構造から理解できるようにする。		
教材（テキスト）	中川徹夫著　化学の基礎―元素記号からおさらいする化学の基本　1500 円＋税		
教材（参考文献）	A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円（＋税）J.E.Brady, G.E.Humiston 著　『一般化学』（上）（下）　　東京化学同人　各 2980 円＋税		
教材（その他）	A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－　問題と解答』　東京化学同人　1700 円（＋税）		
評価方法	小テスト等講義中の課題（50%）、宿題（10%）、定期テスト（40%）		
到達目標	単位の変換や有効数字を理解し、計算することができる。 物質の成り立ちを理解し、原子の構造が説明できる。 物質量の概念を理解し、説明や計算ができる。 様々な濃度計算の式をたてることができる。 物質変換を化学反応として認識し、反応式を作成することができる。		
準備学習	次回の講義内容に相当する部分のテキストを読んでおく。毎回講義後に講義内容を復習し、該当する部分の例題や演習問題を自習する。		

受講者への要望

これまでの化学の履修経験は問わない。授業と並行して例題や教材（その他）の問題集などの演習に積極的に取り組むことが望ましい。あわせて講義で学んだ部分を参考文献などで自習し、理解を深めてもらいたい。評価とは関係のない確認テストも行うことがあるので、1 週間で学んだことを身に付けておく。

講義の順序とポイント

授業の進度によってはずれることもある

1. 化学とはどのような学問か（テキスト 0 章）
2. 測定の体系（テキスト付録）
3. 有効数字（テキスト付録）
4. 原子の構造（テキスト 1 章 1.1）
5. 同位体と原子量（テキスト 1 章 1.2－1.4）
6. 電子配置（テキスト 2 章 2.1－2.4）
7. 化学結合 1：共有結合（テキスト 2 章 2.5－2.6）
8. 化学結合 2：イオン結合（テキスト 3 章）
9. 分子間結合（テキスト 4 章）
10. 物質量（テキスト 5 章）
11. 物質量とその他の物理量（テキスト 6 章）
12. 溶液の濃度 1：百分率濃度（テキスト 7 章 7.1－7.2）
13. 溶液の濃度 2：モル濃度（テキスト 7 章 7.3－7.4）
14. 化学反応式（テキスト 8 章）
15. 化学反応式の量的関係（テキスト 9 章）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★		

年度	2015	授業コード	J60025001
科目名	地球科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Earth Science		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	地球科学は自然科学，特に物理・化学などの分野を基礎として自然体系を構成する総合科学である。したがって，自然の総合的体系の精確な理解のためにはまず最初に物理・化学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では自然科学の体系の中で地球科学の基礎となる宇宙空間，太陽系，惑星運動，固体地球，地球回転などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学，物理学を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．宇宙空間（1）：膨張宇宙
2．宇宙空間（2）：銀河
3．宇宙空間（3）：恒星
4．太陽系（1）：銀河系
5．太陽系（2）：惑星
6．太陽系（3）：衛星
7．惑星運動（1）：万有引力
8．惑星運動（2）：惑星軌道
9．惑星運動（3）：公転周期
10．固体地球（1）：地球測定
11．固体地球（2）：経緯度
12．固体地球（3）：地球楕円体
13．地球回転（1）：重力
14．地球回転（2）：ジオイド
15．地球回転（3）：転向力

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J60026002
科目名	数学	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	数学は自然科学のすべての分野を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の理解のためにはまず最初に数学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では数学の体系の中で解析学の基礎となる行列，行列式，微分，積分，複素関数などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	数学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
物理学，地球科学を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．行列（１）：ベクトル ２．行列（２）：スカラー積 ３．行列（３）：行列演算 ４．行列式（１）：逆行列 ５．行列式（２）：ベクトル積 ６．行列式（３）：関数行列式 ７．微分（１）：スカラー場 ８．微分（２）：ベクトル場 ９．微分（３）：直交曲線座標 10．積分（１）：線積分 11．積分（２）：面積分 12．積分（３）：体積積分 13．複素関数（１）：複素微分 14．複素関数（２）：複素積分 15．複素関数（３）：級数展開			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J60027001
科目名	生物学実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Field Biology		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	生物を扱うときに、まず、自分が扱っている生き物が、なんという生き物なのかを知ることが必要となる。近年、さまざまな分類群について検索図鑑が出版され、より正確に生物を同定できるようになった。そこで、前半で、魚類標本を材料に、検索図鑑を用いて生物の同定、計測方法を学ぶ。 後半は、土壌動物相の比較、野外での動物観察を行い、野外での生物観察の基本を習得する。得られたデータは、コンピュータを用いて統計処理を行い、比較の方法について学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	中坊徹次編「日本産魚類検索」東海大学出版会 青木淳一編「日本産土壌動物」東海大学出版会 市原清志「バイオサイエンスの統計学」南江堂		
教材（その他）	適宜配布する		
評価方法	レポートによる		
到達目標	科学的な手順で「同じ」と「違う」をどのように考えるかについての基本を習得する。		
準備学習	これまでに生物学を学んだかどうかは問わない。身近な生物について、日々、観察の目を向けてください。実験が終了した日にデータ整理を行い、次回に集中すべき内容を整理しておくこと。単元の区切りごとにレポートを課す。		
受講者への要望			
観測事実に基づいて、論理的な思考を展開し、生命現象を理解するという訓練をしてもらいたい。また、事実を観測するにあたって、丁寧に根気よく観察する力を養ってもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1　魚類の分類と同定　検索図鑑の使い方（同定） 2　魚類の分類と同定　標本の記載（計測） 3　魚類の分類と同定　標本の記載（スケッチ） 4　土壌動物の採集と固定　サンプル採取（１） 5　土壌動物の採集と固定　サンプル採取（２） 6　土壌動物の採集と固定　サンプル同定 7　土壌動物の採集と固定　統計を使ったデータ処理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J60027002
科目名	生物学実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Field Biology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	講義の概要： 生物学で学んだ知識を習得・錬成するために、様々な微生物、植物、動物を材料として実験・観察を行う。これから学ぶバイオサイエンス系の実験の基礎をこの生物学実験をとおして体得する。また、レポートの書き方、生物データーの扱い方も学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	『キャンベル生物学　原書 9 版』丸善　16,200 円 『フローチャート標準生物学実験』　実教出版　2,300 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	実験レポート(80%)　実験ノートと実験への取り組み方（20%）		
到達目標	実験に臨む心構えや態度を身につける。 実験に必要な器具の使用法を習熟する。 実験結果の扱い方とレポートの書き方を習得する。 実験をとおした生物学の実践的知識を習得する。 生物データーの統計学的計算法を習得する。		
準備学習	事前に配られたテキストで実験内容を予習し、実験ノートを作成しておくこと。 実験終了後は、理解できなかったところを調べて、次の実験までに解決しておくこと。		

受講者への要望

バイオサイエンス学科の学生は積極的にこの実験を受けること。春学期の生物学とセットでとると良い。
レポート提出が重要な評価対象となるので、実験終了後は実験結果をしっかりと整理してレポートを作成すること。
実験結果に基づいて、論理的な思考を持ち、生命現象を理解する訓練をして欲しい。また根気よく観察する力を養ってもらいたい。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. ピペット操作と統計処理
3. 花の構造の観察
4. 微生物の観察
5. 唾腺染色体の観察
6. 体細胞分裂の観察
7. 動物組織と細胞の観察
8. クロロフィルの分析

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J60027003
科目名	生物学実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Field Biology		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	生物を扱うときに、まず、自分が扱っている生き物が、なんという生き物なのかを知ることが必要となる。近年、さまざまな分類群について検索図鑑が出版され、より正確に生物を同定できるようになった。そこで、前半で、魚類標本を材料に、検索図鑑を用いて生物の同定、計測方法を学ぶ。 後半は、土壌動物相の比較、野外での動物観察を行い、野外での生物観察の基本を習得する。得られたデータは、コンピュータを用いて統計処理を行い、比較の方法について学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	中坊徹次編「日本産魚類検索」東海大学出版会 青木淳一編「日本産土壌動物」東海大学出版会 市原清志「バイオサイエンスの統計学」南江堂		
教材（その他）	適宜配布する		
評価方法	レポートによる		
到達目標	科学的な手順で「同じ」と「違う」をどのように考えるかについての基本を習得する。		
準備学習	これまでに生物学を学んだかどうかは問わない。身近な生物について、日々、観察の目を向けてください。実験が終了した日にデータ整理を行い、次回に集中すべき内容を整理しておくこと。単元の区切りごとにレポートを課す。		
受講者への要望			
観測事実に基づいて、論理的な思考を展開し、生命現象を理解するという訓練をしてもらいたい。また、事実を観測するにあたって、丁寧に根気よく観察する力を養ってもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1　魚類の分類と同定　検索図鑑の使い方（同定） 2　魚類の分類と同定　標本の記載（計測） 3　魚類の分類と同定　標本の記載（スケッチ） 4　土壌動物の採集と固定　サンプル採取（１） 5　土壌動物の採集と固定　サンプル採取（２） 6　土壌動物の採集と固定　サンプル同定 7　土壌動物の採集と固定　統計を使ったデータ処理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J60028001
科目名	化学実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Chemistry		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	化学実験を行うにあたって、最も重要である化学物質を取扱うための基礎知識と技術および化学実験で用いる器具や機器についての正しい使用法、実験結果のまとめ方を習得する。更に、実験を安全に行うために、危険物の取扱方法等の教育訓練も行う。		
教材（テキスト）	実験指示書（生物有機化学研究室編集・化学実験指示書）		
教材（参考文献）	安全の手引き（京都学園大学バイオ環境学部編）		
教材（その他）	ビデオ「安全な化学実験のために」 各種データ処理に使用する関数電卓（1500 円程度）		
評価方法	実験レポートの成績(70%)、出席状況・受講態度(30%)等を考慮に入れ総合的に評価する。		
到達目標	化学関連の実験に共通の実験操作を経験させるとともに、化学の研究を進めるうえで要求される観察力、論理的思考力、想像力を養う。		
準備学習	配布資料の実験指示書を予め読み、実施内容の概要を把握しておく。　その上で、実験ノートに当日行う実験の目的と方法を事前に記載して実験を行う。		
受講者への要望			
専門課程の実験や卒業研究の際の基本になる実験態度、化学物質の取扱方法、器具や機器の使用法を習得する良い機会なので、受講者は毎講時出席した上で実験に慣れて欲しい。			
講義の順序とポイント			
1．実験器具の説明、安全講習 2．ガラス細工と実験器具の取り扱い 3．秤量操作と滴定操作の習得 4．各種試薬・溶液の調製 5．弱酸の電離平衡と電離定数 6．緩衝液（バッファー）の pH 7．反応速度と濃度・温度の関係 8．植物から精油の抽出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★★

年度	2015	授業コード	J60028002
科目名	化学実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Chemistry		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	化学で学んだ理論を定性および定量実験を通して理解すると共に、実験の基本的な技術を習得する。実験の基本的な考え方を身につける。		
教材（テキスト）	初日に配布する実験書		
教材（参考文献）	飯田隆ら　編　『イラストで見る化学実験の基礎知識』　丸善　3000 円＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円（＋税）		
教材（その他）	高等学校の化学の教科書 化学の図録		
評価方法	レポート（60%）、小テスト（30%）、平常点（10%）		
到達目標	基本的な実験操作を習得し、説明することができる。 基本的な実験器具の名称と特徴を理解できる。 化学実験のレポートの基本的な書き方が理解し、適切に記述することができる。		
準備学習	必ず実験手順の予習をし、実験ノートを作成する。また、実験と関連する理論を予習する。次週までに実験のデータの整理をしながら理論の復習をし、レポートを作成する。		
受講者への要望			
実験用のノート（ルーズリーフは不可）を用意すること。実験中は白衣を着用すること。 化学の理論を勉強しておくこと。 環境化学実験と合わせて受講することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、化学実験基礎操作１（ガラス器具の名称） 2.　化学実験基礎操作２ーフェーリング反応－（はかり、バーナーの使い方） 3.　化学実験基礎操作３ー残留塩素測定ー（定量ガラス器具の扱い方） 4.　クロマトグラフィーによる混合物の分離 5.　溶解度の測定 6.　無機定性実験１（金属イオンの分離と確認） 7.　無機定性実験２（未知イオンの同定） 8.　小テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★	★★

年度	2015	授業コード	J60029001
科目名	物理学実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Physics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	実験や観測における仮説の検証は自然科学において最も重要な要素であり，これらの測定データは信頼性の高さが求められる。この実験では物理量の測定原理にもとづいて，長さ，質量，時間，単振子，ばね振子，衝突，電気，磁気などあらゆる測定の基本となる物理量について具体的な現象の観察を通して求め，さらに，得られたデータの信頼性については，コンピュータを活用した処理をとおして考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集・処理 およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当する参考文献の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当する参考文献の問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習，地球科学・演習，環境物理学・実験，環境地球科学を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．長さ：面積・体積 ２．質量：天秤・密度 ３．時間：速度・加速度 ４．単振子：振幅・周期 ５．ばね振子：力・振動数 ６．衝突：運動量・力学的エネルギー ７．電気：電流・ジュール熱 ８．磁気：電磁石・磁力			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J60030001
科目名	地球科学実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Earth Science		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	実験や観測における仮説の検証は自然科学において最も重要な要素であり，これらの測定データは信頼性の高さが求められる。この実験では物理量の測定原理にもとづいて，年周視差，恒星，惑星，重力，自転，太陽，気象，海洋などあらゆる測定の基本となる観測量について具体的な現象の観察を通して求め，さらに，得られたデータの信頼性については，コンピュータを活用した処理をとおして考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集・処理 およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当する参考文献の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当する参考文献の問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・演習・実験を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．年周視差：天文単位・パーセク ２．恒星：光度・絶対等級 ３．惑星：平均距離・公転周期 ４．重力：万有引力・重力加速度 ５．自転：遠心力・転向力 ６．太陽：視直径・太陽定数 ７．気象：気温・気圧 ８．海洋：塩分・組成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6003300A
科目名	科学英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English I		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。科学英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、科学英語 I ～IVとして段階的に展開される。「科学英語 I 」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～11.　英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。 12.　　中間テストをする。 13～23.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。 24～30.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J6003300B
科目名	科学英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English I		
担当者名	瀧井　幸男	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。科学英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、科学英語 I ～IVとして段階的に展開される。「科学英語 I 」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。

講義の順序とポイント

1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。

2～11.　英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。

12.　　中間テストをする。

13～23.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。

24～30.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J6003300C
科目名	科学英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English I		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。科学英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、科学英語 I ～IVとして段階的に展開される。「科学英語 I 」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～11.　英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。 12.　　中間テストをする。 13～23.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。 24～30.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J6003300E
科目名	科学英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English I		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第４版　大修館書店（３，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．英文・和文基礎
2．英文・和文基礎演習
3．可算名詞・不可算名詞
4．可算名詞・不可算名詞演習
5．自動詞・他動詞・人称代名詞
6．自動詞・他動詞・人称代名詞演習
7．第１文型・第３文型
8．第１文型・第３文型演習
9．形容詞
10．形容詞演習
11．第２文型
12．第２文型演習
13．第４文型・第５文型
14．第４文型・第５文型演習
15．総合演習（１）
16．総合演習（２）
17．副詞
18．副詞演習
19．形容詞・副詞の比較級・最上級
20．形容詞・副詞の比較級・最上級演習
21．前置詞
22．前置詞演習
23．助動詞
24．助動詞演習
25．動詞の時制
26．動詞の時制演習
27．受動態
28．受動態演習
29．総合演習（３）
30．総合演習（４）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待				★		

年度	2015	授業コード	J6003300F
科目名	科学英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English I		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。科学英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、科学英語Ⅰ～Ⅳとして段階的に展開される。「科学英語Ⅰ」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～11.　英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。 12.　中間テストをする。 13～23.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。 24～30.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J6003400A
科目名	科学英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English II		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	科学英語Ｉ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語II」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。

2〜16.　「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に「The Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の文章を読解する。

17.　中間テストをする。

18〜30.　「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、図表などについて学習する。同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J6003400B
科目名	科学英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English II		
担当者名	瀧井　幸男	旧科目名称	
講義概要	科学英語Ｉ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語II」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。

2〜16.　「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に「The Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の文章を読解する。

17.　中間テストをする。

18〜30.　「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、図表などについて学習する。同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J6003400C
科目名	科学英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English II		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	科学英語Ｉ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語II」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜16.　「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に「The Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の文章を読解する。 17.　中間テストをする。 18〜30.　「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、図表などについて学習する。同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J6003400E
科目名	科学英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English II		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ｉ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第４版　大修館書店（３，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．基本英語
2．基本英語演習
3．疑問詞・特殊疑問文
4．疑問詞・特殊疑問文演習
5．一般・選択・付加疑問文
6．一般・選択・付加疑問文演習
7．命令文・特殊な文
8．命令文・特殊な文演習
9．否定文
10．否定文演習
11．動名詞・不定詞
12．動名詞・不定詞演習
13．分詞・不定詞基本
14．分詞・不定詞基本演習
15．総合演習（1）
16．総合演習（2）
17．品詞・句・節
18．品詞・句・節演習
19．目的語をとる分詞句
20．目的語をとる分詞句演習
21．目的語をとる不定詞句
22．目的語をとる不定詞句演習
23．使役動詞と原型不定詞
24．使役動詞と原型不定詞演習
25．知覚動詞
26．知覚動詞演習
27．等位接続詞
28．等位接続詞演習
29．総合演習（3）
30．総合演習（4）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	J6003400F
科目名	科学英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English II		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	科学英語Ｉ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語II」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。

2〜16.　「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に「The Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の文章を読解する。

17.　中間テストをする。

18〜30.　「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、図表などについて学習する。同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J6003500A
科目名	科学英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	科学英語Ⅰ、Ⅱで学習した基礎的な英語力をさらにレベルアップするため、サイエンスを題材としたテキストを用い、文法訳読法での精読などを行う。英文法についての理解を深め、語彙を増やして、英文読解力を向上させる。		
教材（テキスト）	”The Earth and Our Health"（小林　敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版（文英堂編集部　文英堂）（萩下先生のクラスの学生のみ）		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第 3 版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社） "Road to Scientific English"（科学英語への道）（Prieto Rafael 京都学園大学）		
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席、小テスト、課題の提出など） 中間試験 期末試験		
到達目標	2 回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、 各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。		
準備学習	事前に指定された範囲を熟読してくること。また，毎回授業の最初に前回の授業内容に係る復習テストをするので，復習しておくこと。		

受講者への要望

講義外での自学を必須とする。
各講義で確認小テストを実施する。

講義の順序とポイント

1）　Guidance
2, 3）　Unit 5　Hahhhhhch! Allergies
4, 5）　Unit 6　Preventing Cancer: Knowing the Warning Signs
6, 7）　Unit 7　Is a Little Alcohol Healthy?
8, 9）　Unit 8　Playing Mother Nature: Genetically Engineering Crops
10, 11）　Unit 9　What's Really in My Food? Organic Food Labeling
12, 13）　Unit 10 Getting an Extra Boost: Sports Supplement
14, 15）　Unit 11 Better than Chicken Soup? A New Cold Medicine
16）　Midterm Exam
17, 18）　Unit 12 Drug-resistant Superbugs
19, 20）　Unit 13 Global Warming: A Global Warming
21, 22）　Unit 14 Solar Energy: A Gift from the Sun
23, 24）　Unit 15 A Drop in the Bucket: Storing Drinking Water
25, 26）　Unit 16 A Brown Cloud over Asia
27, 28）　Unit 17 Cleaning up the Mess: Oil Spills
29, 30）　Unit 18 Building a Nuclear Mountain
（ただし、各クラスによって進捗は前後する。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	J6003500B
科目名	科学英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第４版　大修館書店（３，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．時・場所・原因・結果を表す従属接続詞
2．読解問題
3．譲歩・条件を表す従属接続詞
4．読解問題
5．名詞節を導く接続詞
6．読解問題
7．指示代名詞と不定代名詞
8．読解問題
9．関係代名詞：主格 that／which
10．関係代名詞：主格 who
11．関係代名詞：目的格 that／which
12．関係代名詞:目的格 who／whom
13．関係代名詞:所有格
14．関係代名詞:前置詞句中
15．総合演習（1）
16．関係代名詞:what
17．関係代名詞:as／but／than
18．関係副詞:when／where
19．関係副詞:how／why
20．複合関係詞
21．読解問題
22．分詞構文（1）
23．分詞構文（2）:完了形・受動態
24．独立分詞構文・独立不定詞
25．読解問題
26．仮定法
27．準否定と部分否定
28．二重否定
29．読解問題
30．総合演習（2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	J6003500C
科目名	科学英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	瀧井　幸男	旧科目名称	
講義概要	科学英語Ⅰ、Ⅱで学習した基礎的な英語力をさらにレベルアップするため、サイエンスを題材としたテキストを用い、文法訳読法での精読などを行う。英文法についての理解を深め、語彙を増やして、英文読解力を向上させる。		
教材（テキスト）	"The Earth and Our Health"（小林　敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版（文英堂編集部　文英堂）（萩下先生のクラスの学生のみ）		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第 3 版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社） "Road to Scientific English"（科学英語への道）（Prieto Rafael 京都学園大学）		
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席、小テスト、課題の提出など） 中間試験 期末試験		
到達目標	2 回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、 各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。		
準備学習	事前に指定された範囲を熟読してくること。また，毎回授業の最初に前回の授業内容に係る復習テストをするので，復習しておくこと。		

受講者への要望

講義外での自学を必須とする。
各講義で確認小テストを実施する。

講義の順序とポイント

1）　Guidance
2, 3）　Unit 5　Hahhhhhch! Allergies
4, 5）　Unit 6　Preventing Cancer: Knowing the Warning Signs
6, 7）　Unit 7　Is a Little Alcohol Healthy?
8, 9）　Unit 8　Playing Mother Nature: Genetically Engineering Crops
10, 11）　Unit 9　What's Really in My Food? Organic Food Labeling
12, 13）　Unit 10 Getting an Extra Boost: Sports Supplement
14, 15）　Unit 11 Better than Chicken Soup? A New Cold Medicine
16）　Midterm Exam
17, 18）　Unit 12 Drug-resistant Superbugs
19, 20）　Unit 13 Global Warming: A Global Warming
21, 22）　Unit 14 Solar Energy: A Gift from the Sun
23, 24）　Unit 15 A Drop in the Bucket: Storing Drinking Water
25, 26）　Unit 16 A Brown Cloud over Asia
27, 28）　Unit 17 Cleaning up the Mess: Oil Spills
29, 30）　Unit 18 Building a Nuclear Mountain
（ただし、各クラスによって進捗は前後する。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	J6003500D
科目名	科学英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第４版　大修館書店（３，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．時・場所・原因・結果を表す従属接続詞
2．読解問題
3．譲歩・条件を表す従属接続詞
4．読解問題
5．名詞節を導く接続詞
6．読解問題
7．指示代名詞と不定代名詞
8．読解問題
9．関係代名詞：主格 that／which
10．関係代名詞：主格 who
11．関係代名詞：目的格 that／which
12．関係代名詞:目的格 who／whom
13．関係代名詞:所有格
14．関係代名詞:前置詞句中
15．総合演習（1）
16．関係代名詞:what
17．関係代名詞:as／but／than
18．関係副詞:when／where
19．関係副詞:how／why
20．複合関係詞
21．読解問題
22．分詞構文（1）
23．分詞構文（2）:完了形・受動態
24．独立分詞構文・独立不定詞
25．読解問題
26．仮定法
27．準否定と部分否定
28．二重否定
29．読解問題
30．総合演習（2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	J6003500E
科目名	科学英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	科学英語Ⅰ、Ⅱで学習した基礎的な英語力をさらにレベルアップするため、サイエンスを題材としたテキストを用い、文法訳読法での精読などを行う。英文法についての理解を深め、語彙を増やして、英文読解力を向上させる。		
教材（テキスト）	”The Earth and Our Health"（小林　敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版（文英堂編集部　文英堂）（萩下先生のクラスの学生のみ）		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第 3 版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社） "Road to Scientific English"（科学英語への道）（Prieto Rafael 京都学園大学）		
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席、小テスト、課題の提出など） 中間試験 期末試験		
到達目標	2 回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、 各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。		
準備学習	事前に指定された範囲を熟読してくること。また，毎回授業の最初に前回の授業内容に係る復習テストをするので，復習しておくこと。		

受講者への要望

講義外での自学を必須とする。
各講義で確認小テストを実施する。

講義の順序とポイント

1）　Guidance
2, 3）　Unit 5　Hahhhhhch! Allergies
4, 5）　Unit 6　Preventing Cancer: Knowing the Warning Signs
6, 7）　Unit 7　Is a Little Alcohol Healthy?
8, 9）　Unit 8　Playing Mother Nature: Genetically Engineering Crops
10, 11）　Unit 9　What's Really in My Food? Organic Food Labeling
12, 13）　Unit 10 Getting an Extra Boost: Sports Supplement
14, 15）　Unit 11 Better than Chicken Soup? A New Cold Medicine
16）　Midterm Exam
17, 18）　Unit 12 Drug-resistant Superbugs
19, 20）　Unit 13 Global Warming: A Global Warming
21, 22）　Unit 14 Solar Energy: A Gift from the Sun
23, 24）　Unit 15 A Drop in the Bucket: Storing Drinking Water
25, 26）　Unit 16 A Brown Cloud over Asia
27, 28）　Unit 17 Cleaning up the Mess: Oil Spills
29, 30）　Unit 18 Building a Nuclear Mountain
（ただし、各クラスによって進捗は前後する。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	J6003600A
科目名	科学英語B	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	科学英語 I, II, III に続く科目として、自然科学分野のテキストである「明日を見つめて: Imaging Tomorrow」の各 Unit を読み、専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。更に講義では、学生の理解度に応じて担当教員のほうで教材を準備し、フォローアップできるようにする。		
教材（テキスト）	『明日を見つめて：Imaging Tomorrow』　（成美堂）1,800 円		
教材（参考文献）	『科学英語への道（Road to Scientific English)』（本学オリジナルプリント） 『ライフサイエンス必須英和辞典 改訂第 3 版』　（羊土社）		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	期末試験(60%)、小テスト(20%)、受講態度、講義での発表、出席状況など(20%)の結果を総合的に評価する。		
到達目標	・英語のパラグラフ構成を理解する。 ・専門用語、語彙力の定着を図る。 ・　英文をできるだけ早く、大量に読みこなす能力を身につける ・科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。		
準備学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・予習時には、英文のヒアリングを行って音声を確認し、更に音読も行うこと。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

講義には必ず出席し、予習・復習を積極的に行うようにしてください。具体的には、テキストに書かれている単語の意味や発音、アクセントを調べ、内容をしっかりと訳してきてください。
TOEIC や英語検定試験を受験することにより自分の英語力を確認してください。

講義の順序とポイント

1.　　ガイダンス（講義の心構え、勉強の方法など）
2~4.　Lesson1　The March of the Microbes: Evolution of Germ and Disease
5~7.　Lesson2　Genetic Doping: The Latest Challenge to Spots
8~10.　Lesson3　Ethics in Science: Facing the Pressures for Research Success
11~13.　Lesson4　Stem Cell Research: Promises and Problems
14.　　中間テスト
15~17.　Lesson5　Tsunami, Hurricanes, and Global Warming
18~20.　Lesson6　World Population: Too many ?or Too Few?
21~23.　Lesson7　After the Peak Oil Crash: Visions of a Post-Petroleum Future
24~26.　Lesson8　Starvation, Famine, and Hunger: Getting to the Roots
27~30.　Lesson9　Nanotechnology: Miniature Machines to the Rescue?

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	J6003600B
科目名	科学英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第４版　大修館書店（３，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（1）
2．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（2）
3．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（3）
4．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（4）
5．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（5）
6．総合演習（1）
7．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（1）
8．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（2）
9．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（3）
10．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（4）
11．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（5）
12．総合演習（2）
13．長文読解：欧米の科学教科書：化学（1）
14．長文読解：欧米の科学教科書：化学（2）
15．長文読解：欧米の科学教科書：化学（3）
16．長文読解：欧米の科学教科書：化学（4）
17．長文読解：欧米の科学教科書：化学（5）
18．総合演習（3）
19．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（1）
20．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（2）
21．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（3）
22．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（4）
23．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（5）
24．総合演習（4）
25．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（1）
26．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（2）
27．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（3）
28．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（4）
29．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（5）
30．総合演習（5）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	J6003600C
科目名	科学英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	瀧井　幸男	旧科目名称	
講義概要	科学英語 I, II, III に続く科目として、自然科学分野のテキストである「明日を見つめて: Imaging Tomorrow」の各 Unit を読み、専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。更に講義では、学生の理解度に応じて担当教員のほうで教材を準備し、フォローアップできるようにする。		
教材（テキスト）	『明日を見つめて：Imaging Tomorrow』　（成美堂）1,800 円		
教材（参考文献）	『科学英語への道（Road to Scientific English)』（本学オリジナルプリント） 『ライフサイエンス必須英和辞典 改訂第 3 版』　（羊土社）		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	期末試験(60%)、小テスト(20%)、受講態度、講義での発表、出席状況など(20%)の結果を総合的に評価する。		
到達目標	・英語のパラグラフ構成を理解する。 ・専門用語、語彙力の定着を図る。 ・ 英文をできるだけ早く、大量に読みこなす能力を身につける ・科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。		
準備学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・予習時には、英文のヒアリングを行って音声を確認し、更に音読も行うこと。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

講義には必ず出席し、予習・復習を積極的に行うようにしてください。具体的には、テキストに書かれている単語の意味や発音、アクセントを調べ、内容をしっかりと訳してきてください。
TOEIC や英語検定試験を受験することにより自分の英語力を確認してください。

講義の順序とポイント

1.　　ガイダンス（講義の心構え、勉強の方法など）
2~4.　Lesson1　The March of the Microbes: Evolution of Germ and Disease
5~7.　Lesson2　Genetic Doping: The Latest Challenge to Spots
8~10.　Lesson3　Ethics in Science: Facing the Pressures for Research Success
11~13.　Lesson4　Stem Cell Research: Promises and Problems
14.　　中間テスト
15~17.　Lesson5　Tsunami, Hurricanes, and Global Warming
18~20.　Lesson6　World Population: Too many ?or Too Few?
21~23.　Lesson7　After the Peak Oil Crash: Visions of a Post-Petroleum Future
24~26.　Lesson8　Starvation, Famine, and Hunger: Getting to the Roots
27~30.　Lesson9　Nanotechnology: Miniature Machines to the Rescue?

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	J6003600D
科目名	科学英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第４版　大修館書店（３，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（1）
2．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（2）
3．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（3）
4．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（4）
5．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（5）
6．総合演習（1）
7．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（1）
8．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（2）
9．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（3）
10．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（4）
11．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（5）
12．総合演習（2）
13．長文読解：欧米の科学教科書：化学（1）
14．長文読解：欧米の科学教科書：化学（2）
15．長文読解：欧米の科学教科書：化学（3）
16．長文読解：欧米の科学教科書：化学（4）
17．長文読解：欧米の科学教科書：化学（5）
18．総合演習（3）
19．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（1）
20．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（2）
21．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（3）
22．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（4）
23．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（5）
24．総合演習（4）
25．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（1）
26．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（2）
27．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（3）
28．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（4）
29．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（5）
30．総合演習（5）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	J6003600E
科目名	科学英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	科学英語 I, II, III に続く科目として、自然科学分野のテキストである「明日を見つめて: Imaging Tomorrow」の各 Unit を読み、専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。更に講義では、学生の理解度に応じて担当教員のほうで教材を準備し、フォローアップできるようにする。		
教材（テキスト）	『明日を見つめて：Imaging Tomorrow』　（成美堂）1,800 円		
教材（参考文献）	『科学英語への道（Road to Scientific English)』（本学オリジナルプリント） 『ライフサイエンス必須英和辞典 改訂第 3 版』　（羊土社）		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	期末試験(60%)、小テスト(20%)、受講態度、講義での発表、出席状況など(20%)の結果を総合的に評価する。		
到達目標	・英語のパラグラフ構成を理解する。 ・専門用語、語彙力の定着を図る。 ・ 英文をできるだけ早く、大量に読みこなす能力を身につける ・科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。		
準備学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・予習時には、英文のヒアリングを行って音声を確認し、更に音読も行うこと。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

講義には必ず出席し、予習・復習を積極的に行うようにしてください。具体的には、テキストに書かれている単語の意味や発音、アクセントを調べ、内容をしっかりと訳してきてください。
TOEIC や英語検定試験を受験することにより自分の英語力を確認してください。

講義の順序とポイント

1.　　ガイダンス（講義の心構え、勉強の方法など）
2~4.　Lesson1　The March of the Microbes: Evolution of Germ and Disease
5~7.　Lesson2　Genetic Doping: The Latest Challenge to Spots
8~10.　Lesson3　Ethics in Science: Facing the Pressures for Research Success
11~13.　Lesson4　Stem Cell Research: Promises and Problems
14.　　中間テスト
15~17.　Lesson5　Tsunami, Hurricanes, and Global Warming
18~20.　Lesson6　World Population: Too many ?or Too Few?
21~23.　Lesson7　After the Peak Oil Crash: Visions of a Post-Petroleum Future
24~26.　Lesson8　Starvation, Famine, and Hunger: Getting to the Roots
27~30.　Lesson9　Nanotechnology: Miniature Machines to the Rescue?

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						★

年度	2015	授業コード	J60037001
科目名	英会話	単位数	2
科目名（英語表記）	English Conversation		
担当者名	Jacoba Akazawa	旧科目名称	
講義概要	In this course, the emphasis is on speaking and listening, although there are short reading and writing components too. The course aims to provide ample practice in the essential skills required for communicating in English. You will be given plenty of opportunities to communicate in English with your classmates and your teacher, working mostly in pairs or groups. （Jacoba） We will cover units from the first half of the textbook in this class. （Kim） We will cover units from the second half of the textbook in this class.		
教材（テキスト）	Communication Spotlight (High Beginner), 2nd Edition, Alastair Graham-Marr, ABAX Publishing, 2012. [978-1-896942-66-7]		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Tests 30% Final speaking exam 10% Presentations 20% In-class participation, homework, and written work 40%		
到達目標	You will enjoy such activities as role-playing, giving short presentations, filling in questionnaires, interviewing your partner, collaborating on projects, and giving feedback to the class.		
準備学習	Attendance at classes is mandatory. Please note that class participation (doing your best to speak in English) constitutes an important element of your final grade.		

受講者への要望

This will be a very interactive course.
Bring a dictionary to every class.
Attendance is necessary.
You need to participate actively in each class. Take every opportunity to speak in English.

講義の順序とポイント

(Jacoba)

1. Unit 0 … "What's your major?"
2. Unit 1 … "I like action movies" (Part 1)
3. Unit 1 … "I like action movies" (Part 2) and test
4. Unit 2 … "How much is that?" (Part 1)
5. Unit 2 … "How much is that?" (Part 2) and test
6. Unit 3 … "Is that your cousin?" (Part 1)
7. Unit 3 … "Is that your cousin?" (Part 2) and test
8. Unit 4 … "How was your weekend?" (Part 1)
9. Unit 4 … "How was your weekend?" (Part 2) and test
10. Unit 5 … "What do you do?" (Part 1)
11. Unit 5 … "What do you do?" (Part 2) and test
12. Unit 6 … "I get to work at eight" (Part 1)
13. Unit 6 … "I get to work at eight" (Part 2) and test
14. Unit 7 … "It's in front of the lamp" (Part 1)
15. Unit 7 … "It's in front of the lamp" (Part 2) and test

（Kim）

1. Unit 8… "I liked science in school" (Part 1)
2. Unit 8…"I liked science in school" (Part 2) and test
3. Unit 9… " It's easy to make " (Part 1)

4. Unit 9… " It’s easy to make” (Part 2) and test
5. Unit 10… "What are you doing?” (Part 1)
6. Unit 10 … " What are you doing?” (Part 2) and test
7. Unit 11 … "What are you going to do?" (Part 1)
8. Unit 11… " What are you going to do?" (Part 2) and test
9. Unit 12… "It’s red in the middle" (Part 1)
10. Unit 12 … " It’s red in the middle " (Part 2) and test
11. Unit 13 … " How long is it?" (Part 1)
12. Unit 13 … "How long is it?” (Part 2) and test
13. Unit 14 … "Turn right at the lights" (Part 1)
14. Unit 14 … " Turn right at the lights " (Part 2) and test
15. Unit 15 … "What time does class start?" (Part 1)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6004300A
科目名	バイオサイエンス概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bioscience Research		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	バイオ環境概論Ⅰ
講義概要	バイオサイエンス学科の全専任教員が担当する。各自が関わってきたそれぞれの研究や学問分野のトピックスを講義し、環境問題に配慮したバイオサイエンスの諸科学やその展開過程での考え方、哲学、面白さなどを伝授するオムニバス形式の講義である。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	OHP やパワーポイントでの講義となる。		
評価方法	興味をもった教官の講義 2 件について、期末に内容を 1000 字程度のリポートとして提出してもらい、当該教員がその内容を評価する。		
到達目標	バイオサイエンスのカバーする広い分野について、全般的な理解をして貰うことが狙いである		
準備学習	オムニバス形式の講義で、予習を指示するのが難しいが第 1 回目のイントロダクションで 15 回の講義の概要を解説し、準備学習がし易いようにする。		

受講者への要望

バイオサイエンス学科の専任教員全員の専門分野の紹介であるので、将来の卒論を始め、この学科での学びのバックグラウンドとして真剣に受講して欲しい。

講義の順序とポイント

1　イントロダクション（バイオサイエンス概論とは）オムニバス形式の講義内容の紹介。
2　植物環境連関学（不良環境に対する植物の適応戦略）不良土壌に対する植物の適応と遺伝子工学による耐性獲得。
3　植物細胞工学（植物バイオの現状と展望）持続可能な社会における「植物」の役割と植物バイオ技術の現状と展望。
4　分子植物生理学（植物の形つくりの秘密）植物を形づくる細胞生長過程ー細胞伸長の制御タンパク質を中心に。
5　食品化学（機能性食品の開発）食品及び食品成分の栄養性、健康機能性の解説。
6　生体栄養科学（がん発生にからむ健康と食品）がん発生のメカニズム、食品中の発がん性物質および発がん抑制物質の紹介。
7　化学生態学（化学生態学とは何か）生物学と有機化学の境界領域である化学生態学の概要紹介。
8　生物有機化学（生理活性物質の化学）生物活性物質を生合成、機能からとらえ、理論と具体例について解説する。
9　天然物化学（さまざまな機能性分子）有機化学の基礎の解説、多様な生理活性物質の紹介。
１０　遺伝子工学（遺伝子からみた生物の環境適応）環境ストレスに応答する遺伝子について、基礎的な話題や研究の展望の紹介。
１１　分子生物学（遺伝子、タンパク質研究の最前線）生命活動や病気との関わりなども含め、遺伝子やタンパク質研究の最前線について概説。
１２　一般微生物学（微生物の生物学）微生物学とはどういう学問か。その歴史と最新の話題。
１３　応用微生物学（役に立つ微生物）微生物はどのように人間の役に立ってきたか。発酵・醸造や物質生産への応用について。
１４　産業微生物学（微生物と環境問題）環境問題、地球温暖化問題に対して微生物に何ができるか。産業微生物学からの解答。
１５　（総合討論）　バイオサイエンス概論を学んで。このオムニバス講義で得た新しい知見や視点についての討議とエッセイ。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J6004400A
科目名	バイオ環境概論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bioenvironmental Science II		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	再履修者のみ履修可。 バイオ環境について実際に大学周辺の地域資源を調査する。 集中講義方式で行う。		
教材（テキスト）	調査のための地図や資料などを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）	調査のための道具類はその都度貸与する		
評価方法	レポート（80%）、平常点（20%）		
到達目標	バイオサイエンス学科とバイオ環境デザイン学科の学問研究の有機的関係について理解を深める。		
準備学習	環境に関するニュースなどを見ておくこと		
受講者への要望			
フィールドに出ることが多くなるので、外でじっくり歩きながら調べることができる服装をしておくこと また、カメラ（携帯のカメラ OK）などの道具を使うので、自分のものがあれば準備しておくこと			
講義の順序とポイント			
集中講義方式で行う。 実施日時と内容は追って掲示する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★				★	★

年度	2015	授業コード	J6004500A
科目名	作物栽培実習（実践プロジェクトA）	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Crop Cultivation (Career Field Experience A)		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	実習農園で各自に一定面積の受持ちの区画を配分する。夏野菜を中心に栽培し、苗作りからその収穫までの栽培法や栽培環境管理方法などを体験する。単に栽培技術の重要性の認識だけでなく、この作物栽培実習を通して、土壌、温度などの物理的環境、肥料、農薬などの化学的環境、病害虫や益虫などの生物的環境など生物と環境について広く考えるきっかけを作る。「キャンパスの横に農場がある」、「農場の中に教室がある」地の利を活かし、実習時間以外の観察・体験も大切にし、作物を育て、収穫し、食する喜びを体験する。		
教材（テキスト）	なし、適宜講義プリントを配布する。		
教材（参考文献）	「新版野菜栽培の基礎」池田英男・川城英男編著、農山漁村文化協会 「おいしい野菜づくり」加藤義松監修、成美堂出版など		
教材（その他）	野菜や作物の栽培に関する図書が図書館バイオ環境分室にあるので適宜参考にすること。		
評価方法	平常点（栽培作業状況など）　50% レポート　50%		
到達目標	作物栽培を通じて植物の生育や環境に対する観察力、生物と環境のかかわりについて考える基礎力を養う。		
準備学習	毎回の実習で観察したこと、疑問に思ったこと、興味を持ったことなどを調べて、次回の実習に活かすように心がける。　次回実習に向けた調べ学習を指示するので、書籍やインターネットなどで調べておくこと。また作業中に超面した疑問などを持ち帰り、書籍やインターネットで調べ直し、疑問を持ち越さないように務めること。		

受講者への要望

トレーナーなど作業ができる服装、長靴、軍手などは受講者が用意する。
野帳（持ち運びできるハンディーな観察記録ノート）に栽培中に観察したことなどを必ず記録する。
実習中の観察などからある項目をとりあげ、これについて調べ、レポートにまとめる積極的な取組みを望む。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション、種まき、作物資料調査
2．実習講義および区割り，耕起・畝立て・整地、種まき
3．実習講義および耕起・畝立て・整地
4．実習講義および移植、支柱の準備などの栽培管理と記録
5．実習講義および除草，施肥、支柱やネットの設置などの栽培管理と記録
6．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録
7．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録
8．中間検討会
9．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録
10．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録
11．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録、収穫
12．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録、収穫
13．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録、収穫
14．収穫、後片付けと整理、品評会および検討会
15．収穫、後片付けと整理、栽培記録の取りまとめ、レポート作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	J6004500B
科目名	作物栽培実習（実践プロジェクトA）	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Crop Cultivation (Career Field Experience A)		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	作物栽培管理実習
講義概要	畑（夏野菜・黒豆）と水田（イネ）での栽培体験を通じて作物の栽培の大筋をつかむ。同時に栽培にかかわる準備調整についても手順や内容について理解をする。畑水田のあぜなどの周辺部の管理を確認する。栽培技術については敷藁などの生物素材の有効性について理解を深める。		
教材（テキスト）	作物リスト、その栽培法など必要に応じて準備します。		
教材（参考文献）	京野菜を楽しむ　淡交社 現代農業など		
教材（その他）	農業資材・肥料などについては実物を用意しますので各自判断をして使用してください。		
評価方法	管理作業状況７０％、レポート 30%		
到達目標	栽培体験を通じて作物の成長変化をまなぶ。また栽培技術の初歩を習得する。イネおよび黒豆の収穫は秋期になりますので夏休みの対策を考えておくこと。		
準備学習	農業関係の書籍を読んで置くこと。例えば現代農業、最新園芸技術６野菜の生態と作型の該当する作物について読んで理解を深めておくこと。さらにキャンパス周辺の農地などを観察し,どのような作業をしているかをつかんでおく。最終的にまとめのレポートを提出数ｒことも考慮し、毎回終了後の作業日誌などの記録を必ず取っておくこと。		
受講者への要望			
多くの学生にとって作物の栽培は初めてのことと思われます。毎週自分の管理する作物と農地（畑と水田）の変化を記録するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.実習のガイダンス 2.資材の調達（支柱、敷き藁、ネット、肥料の調整） 3.畑作業と記録１（整地、区割り、ネット） 4.畑作業２（播種） 5.水田作業と記録１（区割りなど田植え準備） 6.水田作業と記録２（田植え） 7.畑作業と記録３（敷き藁調整、畦除草） 8.畑作業と記録４（除草） 9.畑作業と記録５（除草） 10.水田管理と記録３（施肥と除草） 11.水田管理と記録４（水田生物観察と除草効果観察） 12.畑作業と記録６（黒豆播種、除草と記録） 13.水田管理と記録５（病害虫の観察、除草） 14.畑作業と記録７（収穫、重量測定記録） 15.農作物の加工と利用			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★		

年度	2015	授業コード	J6004500C
科目名	作物栽培実習（実践プロジェクトA）	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Crop Cultivation (Career Field Experience A)		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	畑圃場（夏野菜・黒豆）と水田（イネ）での栽培体験を通じて作物の栽培の大筋をつかむ．同時に栽培にかかわる準備調整についても手順や内容について理解をす る．畑圃場・水田のあぜなどの周辺部の管理を確認する．栽培技術については敷きわらなどの生物素材の有効性についての理解をも深める．		
教材（テキスト）	作物リスト，その栽培法などを必要に応じて準備する．		
教材（参考文献）	「京野菜を楽しむ」　上田耕司・星川真一　著　（淡交社） 月刊 「現代農業」 （農文教）　など		
教材（その他）	農業資材・肥料などについては実物を用意するので，各自判断をして使用する．不明の場合は教員に質問すること．		
評価方法	管理作業状況７０％、レポート 30%		
到達目標	栽培体験を通じて作物の成長変化を学ぶ．また複数の作物を栽培することにより，その栽培技術の初歩を習得する．		
準備学習	農業関係の書籍を読んで置くこと．例えば月刊誌である「現代農業」,「最新園芸技術　6　野菜の生態と作型」の該当する作物について読んで理解を深めておくこと．さらにキャンパス 周辺の農地などを観察し，どのような作業をしているかをつかんでおく．最終的にまとめのレポートを提出することも考慮し，毎回終了後の作業日誌などの記録 を必ず取っておくこと．		

受講者への要望

多くの学生にとって作物の栽培は初めてのことと思われる．どのよう作業を行い，それが収穫物にどのような影響を与えたかを理解するために，毎週自分の管理する作物と農地（畑と水田）の変化を記録するのが望ましい．

講義の順序とポイント

1．実習のガイダンス
2．資材の調達（支柱，ポリマルチ，肥料の調整）
3．畑作業と記録１（整地，区割り，マルチ敷設）
4．畑作業２（播種・定植）
5．水田作業と記録１（区割りなど田植え準備）
6．水田作業と記録２（田植え）
7．畑作業と記録３（畑圃場除草・畦除草）
8．畑作業と記録４（除草）
9．畑作業と記録５（除草）
10．水田管理と記録３（施肥と除草）
11．水田管理と記録４（水田生物観察と除草効果観察）
12．畑作業と記録６（黒豆播種，除草と記録）
13．水田管理と記録５（病害虫の観察，除草）
14．畑作業と記録７（収穫，重量測定記録）
15．農作物の加工と利用

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J60047001
科目名	バイオ環境技術動向	単位数	2
科目名（英語表記）	Trends in Bioenvironmental Techniques		
担当者名	田﨑　雅晴	旧科目名称	
講義概要	地球環境が危惧されている現代、バイオテクノロジーを利用した技術が注目されている。しかし我々はそれ以前より、環境に生物を取り入れた技術の恩恵を受けている。 本講義では、生物と環境との基本的な繋がりを確認して、それを利用してきた技術の流れを理解してもらうことから始める。それを理解した上で、大きく「環境の利用/浄化」と「環境の創造」に分けて、普遍的な環境バイオ技術から、近年注目されている新しい環境バイオの話題までを紹介する。 この講義により環境バイオテクノロジーを学ぶ研究者としての最低限の知識と考え方を身につけて頂きたい。		
教材（テキスト）	使用せず		
教材（参考文献）	必要に応じて随時指示		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布		
評価方法	前半及び後半での筆記試験と平常点（出席状況等）。なお平常点の評価の割合は最大 30%とする。		
到達目標	・環境とバイオテクノロジーの歴史を理解する。 ・身の回りの生活にバイオテクノロジーが密着に関与していることを認識する。 ・現社会における問題とバイオテクノロジーとの関連を理解する。 ・生態系、生物多様性の意味と重要性を理解する。		
準備学習	・報道されている現代社会の問題を「バイオテクノロジー」を研究する者の目で考えておく。		

受講者への要望

・常識的な態度で受講すること。
・試験は前半と l 後半の 2 回に分けて実施する予定である。
・就職活動等、正当な理由での欠席の場合は、必ず申し出て、所定の手続きを行うこと。

講義の順序とポイント

1．環境とは何か？
2．バイオテクノロジーを利用した環境の利用/浄化
●バイオテクノロジーと環境
●バイオマスの利用技術について
●生物を利用した水質浄化（水処理）について
●バイオテクノロジーを利用した土壌汚染浄化について
●環境に関するトピックス
3．自然環境の保全・修復・創造
●生物多様性保全と企業の役割
●生態系のプランニング（生態計画技術）
●環境アセスメントとミティゲーション（生態系保全技術）
●参加型の環境創造に向けて（住民や学生の参加によるビオトープ計画）
●これからの環境計画

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J6004900A
科目名	基礎バイオサイエンス実験	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Bioscience		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	バイオサイエンス学科の全ての専任教員による各分野の基本的な実験をオムニバス方式で体験する。 バイオサイエンス各分野の特徴的な基礎実験を体験することで、専門分野で必要となる機器操作や基本技術、実験に関する規範を修得する。バイオ環境学部バイオサイエンス学科の共通教育過程で重要な専門基礎科目である。		
教材（テキスト）	分野毎に、各研究室から配布される実験の手順書や指南書を用いる。		
教材（参考文献）	『アット・ザ・ベンチ』（メディカル・サイエンス・インターナショナル） 『イラストで見る超基本バイオ実験ノート』（羊土社）		
教材（その他）	必要に応じて実験時間中に、教材を紹介する。		
評価方法	すべての実験レポート提出が必須であり、レポートの成績（70%)と教員各位からのレポート課題の内容を評価（30%)し、これらを全ての実験について、総合的に評価する。		
到達目標	バイオサイエンス分野の基礎的な実験を理解し、技法を習得し、結果を整理し、まとめて発表できるレポートを毎回期日内に作成する。 基本的な技量を身につけ、各課題を探求し学修することで理解を深めることを達成目標にする。		
準備学習	各実験の実験書に前もって必ず目を通し、実験前に自分で実験の概要を実験ノートに記載し、準備すること。実験課題について把握に努め理解できる部分と不明な部分、理解できない部分、疑問点などを区別できるように準備して実験実習に臨むこと。		

受講者への要望

バイオサイエンス分野で必要となる専門実験実習の正しい基本を習得するものであり、レポート作成も含めて基礎教育訓練であるから、事前にしっかり準備して、実験開始の 10 分前までに白衣に着替えて大実験室に入室すること。

講義の順序とポイント

1. 実験全体の説明・実験室の機器利用説明・実験準備・レポートの書き方など　（中村）　〔2015 年 9 月 24 日〕
2. グリニャール反応を利用したトリフェニルカルビノールの合成　（若村・坂本後任・清水伸）　〔2015 年 10 月 1 日〕
3. クロマトグラフィーによる物質の分離　（若村・坂本後任・清水伸）　〔2015 年 10 月 8 日〕
4. 定性分析実験と機器分析の基礎実習　（若村・坂本後任・清水伸）　〔2014 年 10 月 15 日〕
5. 生体試料の扱いと DNA の抽出と定量　（中村・松原）　〔2015 年 10 月 29 日〕
6. 生体試料からのタンパク質の調製と分画の基礎　（中村・松原）　〔2015 年 11 月 5 日〕
7. 微生物学実験法：顕微鏡観察法　（清水昌・萩下・篠田）　〔2015 年 11 月 12 日〕
8. 微生物学実験法：染色法　（清水昌・萩下・篠田）　〔2015 年 11 月 19 日〕
9. 微生物学実験法：バクテリアの培養　（清水昌・萩下・篠田）　〔2015 年 11 月 26 日〕
10. 澱粉の加水分解と生成グルコースの定量　（深見・矢野）　〔2015 年 12 月 3 日〕
11. 食品中に含まれるビタミンＣの定量分析　（深見・矢野）　〔2015 年 12 月 10 日〕
12. 植物の生体成分の定量　（髙瀬・プリエト）　〔2015 年 12 月 17 日〕
13. 植物のタンパク質含量の定量　（髙瀬・プリエト）　〔2016 年 1 月 14 日〕
14. “基礎バイオサイエンス実験”の基本ポイントから、“専門実験への道”
    グループ討論　（中村）　〔2016 年 1 月 21 日〕
15. 機器器具のメンテナンス、廃棄物の処理法と注意事項、清掃と片付けについて　〔2015 年 1 月 28 日〕

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★					

年度	2015	授業コード	J6005000A
科目名	バイオ環境事業見学実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Trips for Learning Bioenvironmental Scie nce		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境の事業体・事業地ないしは工場の現地見学。		
教材（テキスト）	見学先事業所から配布される資料。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	見学先事業所のホームページ、類似する事業所のウエブサイト、バイオ環境に関わる事業に関する一般書籍。		
評価方法	実習レポート評価（100％）		
到達目標	百聞は一見に如かず。　バイオ環境事業所の現場の取り組みを知る。		
準備学習	訪問する事業所の情報をインターネット等で収集し、事業内容、取り組み、社会的背景、歴史的背景などを事前学習すること。また、調べたことをレポート作成に生かすこと。		
受講者への要望			
事前学習で生じた疑問、事業所を訪れて生じた疑問、提案などを積極的に質問してください。			
講義の順序とポイント			
複数のコース中の１コースを選択し、バイオ関連企業の工場、ないしは環境保全事業体などを訪れ、実地に現場技術と現場・経営環境を見学し、説明案内を受ける。実習後、レポートを提出する。なお、予備知識を得るため、事前説明（集中）を実施する。見学実習は９月中旬を予定している。実施詳細は７月に公示する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★★	★★	★

年度	2015	授業コード	J60051001
科目名	環境生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Biology		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	地球温暖化、森林破壊、食糧危機など、21 世紀に深刻化することが危惧される諸問題の理解には、地球環境や地域環境に対する学際的・分野横断的なアプローチが不可欠である。本科目では、大気、地形、土壌などの非生物的環境と、その中で生きる主体としての生物との相互作用を理解すると共に、その相互作用の中での人間活動の関わりを総合的な視点で捉えることを目指す。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	分野が多岐にわたるため、毎回の授業の中で紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	小テスト等による平常点（50 点）と、期末試験（50 点）により評価する。		
到達目標	非生物的環境と生物の相互作用に関わる基礎知識の習得と、その相互作用の中での人間活動の関わりを理解する。また、これまでの人間活動の功罪と、今後の暮らしのあり方を論ずる視点を身につける。		
準備学習	講義のレジメを事前に京学なびにアップロードしておくので、各自で打ち出して予習をしておくこと。 また、毎回の講義で、前回講義の復習のための小テスト（ノート持込み可）を行うので、しっかりと復習をしておくこと。		

受講者への要望

教員と受講者の対話を重視した講義を行いたいので、皆さんの積極的な発言を期待します。

講義の順序とポイント

1　環境生物学とは？
2　土壌は一日にしてならず：岩石が土に変わるまで
3　土壌と生物の相互作用：いのちを育む土の役割
4　大気と生物の相互作用：炭素循環を考える
5　世界を変えた窒素固定：ハーバー・ボッシュ法の功罪
6　地形が生み出す植生の多様性
7　自然条件下の植生遷移：極相林と動的平衡
8　人為作用下の植生遷移：草地や林地の持続的管理
9　人為が生み出す生物多様性：里山の今と昔
10　農地と林地の複合利用：アグロフォレストリーの展望
11　森を畑に、畑を森に：焼畑に受け継がれる在来知
12　焼畑を活かした日本の森づくり：焼畑の現代的意義
13　熱帯林問題を考える：生態系保全と地域住民の生活
14　生態資源の持続的利用Ⅰ：生物生産と環境保全の調和
15　生態資源の持続的利用Ⅱ：これからの暮らしに求められるもの

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J60052001
科目名	環境化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Chemistry		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	私たちの身の回りには、私たちの健康に直接の害作用がある物質がいくつかある。これらの物質は、空気を通じて、また飲み水や食べ物を通じて体内に入り込み、害作用を示す。このような直接的に害作用を及ぼす物質が、どこで発生して、どんな害をもたらすのかを化学的な視点から講義する。前半では、ダイオキシンや農薬などの問題などを取り上げる。またそれに加え、放射性物質についても取り上げる。後半では、地球環境問題として二酸化炭素の発生、アスベスト問題、シックハウス症候群、重金属汚染問題などを取り上げる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	新版生活と環境三共出版 わかる環境科学三共出版 「放射線･アイソトープを取り扱う前に－教育訓練テキスト－」、日本アイソトープ協会、丸善、2005		
教材（その他）	講義に必要な教材は適宜指示あるいは配布する		
評価方法	前半はレポートと事前学習などの平常点(30 点)と中間小テスト(20 点)で 50 点、後半の無機分野分野は小テスト(20 点)期末テス(30 点)で 50 点、合計 100 点満点で評価する。		
到達目標	各種の環境化学物質について正当な評価ができ、害がある物質で被害を受けないように、基礎知識を身に付ける。		
準備学習	身近にある食品、洗剤、化粧品、スプレーなどに書いてある「成分」の表示を普段から見るように心がけること。また、ＴＶや新聞に見かける化学物質についてインターネットなどで化学構造や性質について調べる習慣をつけること。講義に必要な資料は事前配布する。予習して内容や質問点をまとめておくこと。		
受講者への要望			
本講義を通して、環境問題の本質を理解して貰いたい。また、秋学期に「社会と環境問題」履修する人は、この講義を必ず履修して欲しい。			
講義の順序とポイント			
1.　ダイオキシン問題　－　その後ん十年、今も続くリスク 2.　ダイオキシンと環境ホルモン　－　おそれるな、あなどるな 3.　放射性物質とは　－　核爆弾と原子炉で作られる人工放射性物質 4.　放射線の生物への影響　－　放射線で誘発される突然変異 5.　放射線の人体への影響　－　原爆被爆者と原子炉事故の被曝者の健康状態から推定するしかない 6.　農薬の基礎知識　－　農薬取締法 7.　「農薬」をめぐる様々な問題　－　功罪を冷静に見きわめよう 8.　化学物質の名称（化学式の書き方、有機物と無機物）　－　同じ物質にいくつも名前がある！ ☆ 中間小テスト☆ 9.　燃焼の化学　－　一酸化炭素と二酸化炭素の発生 10.　石油石炭の燃焼　－　硫黄酸化物と窒素酸化物の発生、光化学オキシダントの生成 11.　アスベスト（石綿）問題 12.　シックハウス症候群　－　ホルムアルデヒドや有機溶剤の害 13.　混ぜるな危険　－　塩素ガスの発生 14.　鉱工業からの廃水　－　重金属による公害病 15.　食中毒			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	J60053001
科目名	環境物理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Physics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	物理学は自然科学のすべての分野の中で，精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の精確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では物理学の体系の中で環境物理学の基礎となる質点系，連続体，振動，波動，光などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習，環境物理学実験，環境地球科学を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．質点系（1）：並進運動 2．質点系（2）：回転運動 3．質点系（3）：角運動量保存則 4．連続体（1）：剛体 5．連続体（2）：弾性体 6．連続体（3）：流体 7．振動（1）：円運動 8．振動（2）：単振動 9．振動（3）：弾性ポテンシャル 10．波動（1）：波動方程式 11．波動（2）：音波 12．波動（3）：光波 13．光（1）：干渉 14．光（2）：回折 15．光（3）：偏光			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J60054001
科目名	環境地球科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Earth Science		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	地球科学は自然科学，特に物理・化学などの分野を基礎として自然体系を構成する総合科学である。したがって，自然の総合的体系の精確な理解のためにはまず最初に物理・化学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では自然科学の体系の中で地球科学の基礎となる地殻，地震，火山，地球内部，地球磁場などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習，環境物理学・実験を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．地殻（1）：大陸地殻 2．地殻（2）：海洋地殻 3．地殻（3）：アイソスタシー 4．地震（1）：プレートテクトニクス 5．地震（2）：地震波 6．地震（3）：マグニチュード 7．火山（1）：火山活動 8．火山（2）：マグマ 9．火山（3）：火山地形 10．地球内部（1）：マントル 11．地球内部（2）：外核 12．地球内部（3）：内核 13．地球磁場（1）：磁極 14．地球磁場（2）：地磁気 15．地球磁場（3）：極性変化			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J60055001
科目名	環境生物学実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Bio logy		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	本科目では、里山などの身近な自然の植生調査や検索図鑑を用いた植物の同定、土の簡易分析など、植生と土壌に関するフィールド調査法の基礎を習得すると共に、身近な自然の中での体験を通じ、立地や土地利用の違いが植生や土壌に与える影響について理解を深めることを目指す。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	「森林立地調査法 -森の環境を測る」 森林立地調査法編集委員会 「土壌調査ハンドブック」 日本ペドロジー学会		
教材（その他）	資料を配布する。		
評価方法	実習への参加状況等による平常点（50 点）と、最終レポート（50 点）により評価する。		
到達目標	植物標本の作成方法と、樹木同定のための識別ポイントを理解する。また、視覚・触覚による土壌の簡易診断法を体得する。		
準備学習	参考資料に挙げた文献を読み、実験内容の予習・復習をしておくこと。 事前に関連資料を配布するので、必ず目を通しておくこと。		
受講者への要望			
フィールドでの体験を通じ、身近な自然を読み解く目を養ってください。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　里山の環境を調査するⅠ：植生調査・標本採取 3　里山の環境を調査するII：毎木調査 4　身近な樹木の名前を知ろうⅠ：植物標本の作製・同定 5　身近な樹木の名前を知ろうII：植物標本の同定・スケッチ 6　農地・林地の土壌の違いⅠ：土を観て、触って比較する 7　農地・林地の土壌の違いII：土の簡易分析 8　レポートのまとめ方			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★		

年度	2015	授業コード	J60055002
科目名	環境生物学実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Bio logy		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	本科目では、里山などの身近な自然の植生調査や検索図鑑を用いた植物の同定、土の簡易分析など、植生と土壌に関するフィールド調査法の基礎を習得すると共に、身近な自然の中での体験を通じ、立地や土地利用の違いが植生や土壌に与える影響について理解を深めることを目指す。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	「森林立地調査法 -森の環境を測る」 森林立地調査法編集委員会 「土壌調査ハンドブック」 日本ペドロジー学会		
教材（その他）	資料を配布する。		
評価方法	実習への参加状況等による平常点（50 点）と、最終レポート（50 点）により評価する。		
到達目標	植物標本の作成方法と、樹木同定のための識別ポイントを理解する。また、視覚・触覚による土壌の簡易診断法を体得する。		
準備学習	参考資料に挙げた文献を読み、実験内容の予習・復習をしておくこと。 事前に関連資料を配布するので、必ず目を通しておくこと。		
受講者への要望			
フィールドでの体験を通じ、身近な自然を読み解く目を養ってください。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　里山の環境を調査するⅠ：植生調査・標本採取 3　里山の環境を調査するII：毎木調査 4　身近な樹木の名前を知ろうⅠ：植物標本の作製・同定 5　身近な樹木の名前を知ろうII：植物標本の同定・スケッチ 6　農地・林地の土壌の違いⅠ：土を観て、触って比較する 7　農地・林地の土壌の違いII：土の簡易分析 8　レポートのまとめ方			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★		

年度	2015	授業コード	J60056001
科目名	環境化学実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Chemistry		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	環境分析法の初歩的な実習として無機環境化学実験（3 回分）と有機環境化学実験（4 回分）を秋学期の後半に実施する。		
教材（テキスト）	特に定めない		
教材（参考文献）	特に定めない		
教材（その他）	必要な教材・器具は教官が配布あるいは準備するが、一部の材料は実験者自身で準備する。		
評価方法	実験ごとのレポート(7 回分)と実験ノートの内容で 80%、これに準備学習や受講態度などの平常点 20%を加味して評価する。		
到達目標	生活に欠かせない水。生活や産業活動により、様々な物質が水に含まれてくる。水の浄化や水質検査の基本的な手法に触れ、分析法の基本的技術を学んでほしい。生活の中で廃棄せざるを得ないプラスチックや食用油の再利用法を実際に行ってみて、分別や再利用の大切さや問題点についての認識を深めてほしい。		
準備学習	実験の１週間前には、実験指示書を配布して概要を説明する。実験当日までに指示書を熟読し、手順や質問事項を実験ノートにまとめておくこと。また、それぞれの実験の基礎的知見に関する課題を出題する。実験当日までに、書籍やインターネットを活用して調べておくこと。		

受講者への要望

本実験は、これに先立つ化学実験に続いて化学の基本操作を習熟し、２回生配分の基礎バイオ実験に橋渡しする意味でも重要でもある。化学と化学実験を受講して基本的な知識と操作について習熟しておいてほしい。
実験には、危険性が高い操作が含まれる。取り扱い方を間違えると取扱者自身だけでなく、近くにいる人にも危害が及ぶ。実験開始前の教員の説明と指示を注意深く聴き、役割分担について同じ班のメンバーと十分に意思疎通をはかって進めること。
実験には、背綴じのノートを持参すること。ページの差し替え可能なルーズリーフタイプは不可。
実験ノートは、実験の最初から最後まですべての記録であると心得てほしい。

講義の順序とポイント

有機環境化学実験
1 プラスチック製品の科学的識別　－　身近なプラスチックの素材を見分ける
2 発泡ポリスチレンのリサイクル　－　かさばるポリスチレンをコンパクトに回収
3 廃食用油からバイオジーゼル燃料油の調製　－　エステル交換反応
4 廃食用油からセッケンを作る　－　油脂のけん化
実験２～４にはそれぞれ１週間放置する操作が含まれるため、２～３回にわたって実施する。
操作は２～３回にわたっても、レポートはそれぞれの実験テーマごとに提出する。
無機環境化学実験
1 環境水水質と浄化　－　汚濁水の浄化とは
2 環境水中のチッソ成分の測定　－　アンモニア態チッソと硝酸態チッソを別々に測定
3 水道水中の残留塩素の測定　－　水道水を安全に飲めるのは？

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★★	★	★★

年度	2015	授業コード	J60056003
科目名	環境化学実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Chemistry		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	環境を評価は化学的な分析による数値を元に行う場合が多い。そこで、滴定を中心とした実験をおこない、、定量実験の手法、データー解析を理解する。また、考察内容を決めて、実際に実験計画を立てて実行する。		
教材（テキスト）	初日に配布する実験書		
教材（参考文献）	飯田隆ら　編　『イラストで見る化学実験の基礎知識』　丸善　3000 円＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円（＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	レポート（90%）、平常点（10%）		
到達目標	基本的な実験の操作を習得する。 化学反応式から定量的な解析ができる。 検量線を用いた定量分析の解析ができる。 考察内容を考えながら実験計画を立てることができる。		
準備学習	必ず実験手順の予習をし、実験ノートを作成する。また、実験と関連する理論を予習する。次週までに実験のデータの整理をしながら理論の復習をし、レポートを作成する。		
受講者への要望			
実験用のノート（ルーズリーフは不可）を用意すること。実験中は白衣を着用すること。 実験で得られたデータをしっかりと解析した上でレポートを作成すること。 化学実験とあわせて受講することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス－注意事項－　実験の基礎操作の復習 2.　pH の測定と緩衝液 3.　酸解離定数の測定 4.　中和滴定 5.　反応速度測定 6.　酸化還元滴定 7.　アボガドロ数の測定 8.　窒素酸化物の定量			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★	★★

年度	2015	授業コード	J60057001
科目名	環境物理学実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Phy sics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	実験や観測における仮説の検証は自然科学において最も重要な要素であり，これらの測定データは信頼性の高さが求められる。この実験では物理量の測定原理にもとづいて，連成系，回転系，流体，音波，光波，固体，熱，気体などあらゆる測定の基本となる物理量について具体的な現象の観察を通して求め，さらに，得られたデータの信頼性については，コンピュータを活用した処理をとおして考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集・処理 およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当する参考文献の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当する参考文献の問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習，環境物理学，環境地球科学を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．連成系：重心・安定平衡 ２．回転系：角速度・遠心力 ３．流体：浮力・密度 ４．音波：振動数・音階 ５．光波：反射・屈折 ６．固体：原子半径・モル体積 ７．熱：温度・比熱 ８．気体：ボイル・シャルル			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J60058001
科目名	環境地球科学実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Ear th Science		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	実験や観測における仮説の検証は自然科学において最も重要な要素であり，これらの測定データは信頼性の高さが求められる。この実験では物理量の測定原理にもとづいて，アイソスタシー，地震，地磁気，岩石，鉱物，結晶，地質，化石などあらゆる測定の基本となる観測量について具体的な現象の観察を通して求め，さらに，得られたデータの信頼性については，コンピュータを活用した処理をとおして考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集・処理 およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当する参考文献の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当する参考文献の問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・演習を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．アイソスタシー：大陸地殻・海洋地殻 2．地震：走時・震央距離 3．地磁気：偏角・伏角 4．岩石：色指数・造岩鉱物 5．鉱物：硬度・密度 6．結晶：結晶格子・対称性 7．地質：地形図・地質図 8．化石：示準化石・示相化石			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J60063001
科目名	バイオ環境デザイン原論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of sustainable design		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	生命とその環境は宇宙の歴史を背負っている。生命は 46 億年の地球の歴史の中で発生し、育まれ、進化するとともに、生命圏の環境形成にも大きな役割を果たしてきた。そうした悠久の流れのなかで、人間は大きく環境に作用し、とりわけ、ここ数十年という極めて短期間に地球環境危機を招くに至った。同時にそうした世界の課題と対応に関する、科学的な認識も深まってきている。 この講義では、生命とその環境の最新の科学に基づく、確かな自然観、世界観を確立し、これからの人間と自然の持続的な望ましい関係をデザインしていく手掛かりを得ることを目的とする。そのために、生命と環境に関するいくつかの重要な「概念」「理論」「デザイン事例」と「評価」を取り上げて紹介する。		
教材（テキスト）	適宜、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	森本幸裕・白幡洋三郎編著『環境デザイン学 - ランドスケープの保全と創造』　（「比較流域景観論」と共用） J.ラブロック著『ガイアの時代―地球生命圏の進化』工作舎 J.ダイアモンド著『文明崩壊 滅亡と存続の命運を分けるもの 』(上)、(下) R.ドーキンス著『利己的遺伝子』		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内容復習レポート（20%）、課題レポート（80%）		
到達目標	生命と環境問題に関連する重要な「考え方」「対応事例」「評価手法」について理解を深め、地球環境危機に対応する、自らの「環境観」を確立する。		
準備学習	バイオ環境とそのあり方について考える習慣をつけてください。たとえば、以下の TED Talk などは有意義です。 １）TED 日本語 - パム・ワーハースト: 食べられる景色がある町づくり {http://digitalcast.jp/v/14954/} ２）TED 日本語 - ジャレド・ダイアモンド: よりよく老いる社会とは？ {http://digitalcast.jp/v/18840/} ３）ジャレド・ダイアモンド　文明崩壊は何故起こるのか {http://www.ted.com/talks/lang/ja/jared_diamond_on_why_societies_collapse.html}		

受講者への要望

レポートのネット情報まる写しは厳禁。引用する場合は信憑性に注意。どこが引用か、わかるような書き方をすること。

講義の順序とポイント

１）生命と環境の科学に基づく「世界観」
１．　ガイア仮説：生命が環境をつくる
２．　文明崩壊：イースター島、マヤの悲劇、江戸時代
３．　文明崩壊：存続と崩壊を分けるものは何か？
４．　利己的遺伝子：人間は遺伝子の乗り物でしかないのか？
５．　ゲーム理論：人間はどこまで合理的に振舞うのか？
６．　コモンズの悲劇：自然環境という資源の恵みとコストは公平にシェアできるのか？
２）生命と環境重視の「デザイン論」
７．　田園都市：生命と環境重視の都市計画の原点
８．　Eco-city Berkeley：「賢い縮小」の原点
９．　日本庭園：「植治」の縮景と借景デザインと生物多様性
１０．　持続可能社会のデザイン：「農」と「コミュニティ」
１１．　風力発電：環境の矛盾とトレードオフ
１２．　生物親和都市を考える
３）生命と環境重視の「評価論」
１３．　市場のない価値の測り方：Green GDP、GNH、GPI、、、
１４．　生きている地球指数、バーチャル・ウォーター
１５．　まとめ：豊かで幸せな社会とは？

（※進度に応じて適宜変更することがある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J60064001
科目名	環境汚染物質動態論	単位数	2
科目名（英語表記）	Evolution of Contaminants in the Environ ment		
担当者名	古武家　善成	旧科目名称	
講義概要	現代社会は多くの合成化学物質の恩恵を受け私たちの生活は化学物質で溢れている。しかし，合成化学物質の多くは何らかの有害性を有するため，その健康影響や環境影響が強く懸念されている。また，重金属類は日本の公害病の主要な原因の一つとなり，今なお環境と健康に影響を及ぼしている。 本講義では，これら環境汚染物質について，汚染状況・環境動態・毒性・リスク等に関する基礎を学ぶ。本年度から新たな環境汚染化学物質の講義を加える。また，東日本大震災が引き金となった福島第一原発事故を理解するために，原発の原理と環境リスクについて環境科学特論として学ぶ。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	「環境科学入門：地球と人類の未来のために」川合真一郎，張野宏也　山本義和，化学同人（2011）		
教材（その他）	資料プリントを毎回配布する。講義はパワーポイントと板書で行う。		
評価方法	出席：10%（10 回以上の出席が必須） 課題レポート：90%（まとめ小テスト（資料持込可）が 60 点以上でないと，課題レポート提出を認めない）		
到達目標	日本の環境問題の歴史や現状を把握するとともに，重金属や合成化学物質の汚染状況・環境動態・毒性・リスクに関する基礎知識を習得する。 環境ディベートを通して，自分の意見をまとめ発表するスキルを磨く。		
準備学習	授業前 1 週間の環境関連ニュースをそれぞれ短い文章でまとめ，授業時に結果を発表する。発表者はランダムに指名する。発表できなかった場合は評価に影響する。 復習小テスト（資料持込可）を随時実施する。いずれも 60 点以上が必要。		

受講者への要望

環境問題の解決には，暗記的知識による対応ではなく自分の発想法で対処することが重要である。しかし，発想法を高めるためには基礎的知識の十分な習得が必要である。小テストとレポート作成を通して両方の重要性を学んでほしい。

講義の順序とポイント

1) ガイダンスおよび「環境科学序論 1」日本の環境問題の歴史
2) 「環境科学序論 2」地域環境問題の概要
3) 「環境科学序論 3」地球環境問題のいま
4) 「環境科学特論」原子力発電の原理と原発事故の機序
5) 「重金属汚染とその動態」イタイイタイ病・ヒ素中毒・水俣病
6) 「化学物質汚染とその動態 1」化学物質汚染の現状と健康リスク
7) 「化学物質汚染とその動態 2」有害化学物質の典型 ダイオキシン・PCB
8) 環境ディベート 1
9) 環境ディベート 2
10) 環境ディベート 3（選抜対抗）・環境ビデオ鑑賞
11) 「化学物質汚染とその動態 3」種の存続を脅かす環境ホルモン
12) 「化学物質汚染とその動態 4」これまでの汚染物質と新たな汚染物質
13) 「身近な環境問題 1」食と化学物質 食品添加物と食材偽装問題
14) 「身近な環境問題 3」廃棄物問題とアスベスト
15) 「小テスト」授業全体を振り返る

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★				★	

年度	2015	授業コード	J60065001
科目名	保全生態学	単位数	2
科目名（英語表記）	Conservation Ecology		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	保全生態学は、病んだ地球の生物多様性の診断と治療を担うことを目的とする学問であり、その研究対象、手段、実践の方策などは、生態学の領域に留まらず、社会科学をも含めた学際的な学問分野である。本科目では、生態系保全を考える上で必要な、種や個体群に関する生態学的な基礎知識を習得すると共に、生態系の破壊や生物多様性の喪失を生む諸要因に対する理解を深める。また、生態系保全に向けた取り組みの現状と課題について学び、生態系保全の意義について、学際的・分野横断的な視点からの議論を試みる。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	「保全生態学入門」　鷲谷いづみ、矢原徹一 著　（文一総合出版　1996 年） 「保全生物学のすすめ」　改訂版　リチャード B プリマック、 小堀洋美　著（文一総合出版　2008 年） 「生態系を蘇らせる」　鷲谷いづみ 著　（ＮＨＫブックス、2001 年）		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	小テスト等による平常点（50 点）と、期末試験（50 点）により評価する。		
到達目標	何のため、誰のために生態系を保全するのか、受講生一人一人が自分自身の問題として捉える視点を磨き、自分なりの考えに基づき生態系保全の意義を論ずる力を習得する。		
準備学習	講義のレジメを事前に京学なびにアップロードしておくので、各自で打ち出して予習をしておくこと。 また、毎回の講義で、前回講義の復習のための小テスト（ノート持込み可）を行うので、しっかりと復習をしておくこと。		

受講者への要望

教員と受講者の対話を重視した講義を行いたいので、皆さんの積極的な発言を期待します。

講義の順序とポイント

1　保全生態学の目指すもの
2　生態系における種の機能
3　個体群生態学とメタ個体群
4　個体群維持に必要な「数」と「面積」
5　環境改変の影響：生息場所の分断と孤立化
6　動物と植物の相互作用１：送粉
7　動物と植物の相互作用２：種子散布
8　植生復元：土壌シードバンクの機能
9　生物学的侵入とその影響：猛威を振るう外来種
10 アユモドキの保全と水田農業
11 個体群の復元と野生復帰：蘇るコウノトリ
12 里山の再生：管理のための管理を超えて
13 人と自然は対立する存在か：「もののけ姫」と「となりのトトロ」の自然観１
14 人と自然は対立する存在か：「もののけ姫」と「となりのトトロ」の自然観２
15 生態系の保全：誰のため、何のため？

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J60066001
科目名	食品安全学	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety II		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	食品は人の生命を維持するために必要不可欠であり、その安全性について考慮することが非常に重要である。 本講義では残留農薬、環境汚染物質、食品添加物等の作用と安全性についての解説を行い、これらの化学物質による健康への影響についての理解を深める。また、食糧の確保や安全の面から注目されている遺伝子組換え食品や BSE について解説し、食品の安全性を確保するための法的規制や方策についても触れる。 さらに、従来のように食品成分だけに注目した安全性を考えるのではなく、自然環境、社会制度、経済構造、国際的な食糧需給など，幅広い視野から食の安全性を考察する。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	菅家祐輔編『食安全の科学』三共出版　2,940 円 山口 英昌著『食環境科学入門』ミネルヴァ書房　3,675 円		
教材（その他）	授業中にプリント配布する。 京学なびおよびＲドライブによりファイルを提供する。		
評価方法	レポート(100％)		
到達目標	食品の安全性について，科学的根拠に基づき幅広い観点から評価出来るように，安全評価法や社会制度などの食品安全に関連する基本的知識を習得する。		
準備学習	講義終了時に，次回の講義のアウトラインを示すので，関連分野について調べておくこと。 日頃から食の安全性を意識し，新聞等のメディアや自分自身が摂取している食品成分に関心を持っておくこと。		

受講者への要望

講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。
感情やイメージではなく科学的根拠に基づいて食品の安全性を考える視野を養ってほしい。

講義の順序とポイント

1.はじめに　－食品の安全性とは何か－
2.食品安全の基準　－わが国の食品安全行政の構図と関連法規－
3.食品の安全評価法　－食品成分の分析法とその安全評価システム－
4.生体異物の体内動態　－農薬や環境汚染物質等の毒性と代謝－
5.食品添加物の用途　－食品添加物の定義，種類，構造ならびに効能－
6.食品添加物の安全性　－食品添加物の安全基準と使用規制の現状－
7.農薬の種類と安全性　－農薬の種類，構造，効能，安全基準および使用リスク－
8.環境汚染物質のよる食品汚染　－PCB，ダイオキシン等による食品汚染の現状とそのリスク－
9.遺伝子組換え作物の安全性　－遺伝子組換え作物の導入効果とそのリスク－
10.食中毒とその対策　－食中毒の発生メカニズムと予防のための衛生管理システム－
11.BSE 汚染とその対策　－BSE 対策の歴史と現状におけるリスク－
12.放射線照射食品の安全性　－放射線照射食品の長所とリスク－
13.健康食品の安全性　－健康食品の効能とリスクおよび法的規制－
14.食品成分表示の現状と問題点　－食品の規格，表示規制とトレーサビリティーシステム－
15.食のグローバリゼーションとハーモニゼーション　－国際化時代における食の安全確保のための課題と方向性－

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J60067A01
科目名	測量学	単位数	2
科目名（英語表記）	Surveying		
担当者名	鈴木　真理子	旧科目名称	測量学Ⅰ
講義概要	測量学は３次元空間を体系的に理解し構成するための概念的基礎となるものである。この講義では３次元空間における基本的な測量を，測量学の構成原理にもとづいて具体的な地形の測定方法を考察する。		
教材（テキスト）	堤　隆　著『測量学Ⅰ』コロナ社　２，４１５円		
教材（参考文献）	細川　吉晴　他　著『よくわかる測量実習』コロナ社　２，９４０円　：　測量学実習のテキストとして使用		
教材（その他）			
評価方法	小テスト１４回（１００％）		
到達目標	測量学の基本的原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	１次方程式、三平方の定理、三角比、三角関数の基本的公式と度数法を理解しておくこと。 テキストの次回範囲を通読しておくこと。		

受講者への要望

数学を履修しておくこと。測量学実習を並行履修することが望ましい。テキストを必ず持参すること。

講義の順序とポイント

1．測量器械、測量図の概説・測量で使う数学
2．測量学概説・面積の計算
3．距離測量
4．平板測量
5．平板測量
6．平板測量
7．水準測量
8．水準測量
9．水準測量
10．角測量
11．角測量
12．トラバース測量
13．トラバース測量
14．トラバース測量
15．トラバース測量・スタジア測量

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J60068A01
科目名	測量学実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Surveying		
担当者名	鈴木　真理子	旧科目名称	測量学実習Ⅰ
講義概要	測量学は３次元空間を体系的に理解し構成するための概念的基礎となるものである。測量学実習では定量的に測定されたデータから３次元の空間概念を具体的に認識することができる。したがって，この実習では３次元空間における基本的な測量を，測量学の構成原理にもとづいて具体的な地形の測定を通して行い，得られたデータの信頼性についても考察する。		
教材（テキスト）	細川　吉晴　他　著『よくわかる測量実習』コロナ社　２，９４０円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	製図課題およびレポート（１００％）		
到達目標	測量学の基本的原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	１次方程式、三平方の定理、三角比、三角関数の基本的公式と度数法を理解しておくこと。 テキストの次回範囲を通読しておくこと。		
受講者への要望			
数学、製図実習を履修しておくことと，測量学を並行履修することが望ましい。テキストおよび筆記用具を必ず持参すること。			
講義の順序とポイント			
1. 測量実習の基礎（1）　［P．１　実習１　演習シート］ 2. 測量実習の基礎（2）　［P．１　実習１　データシート１］ 3. 距離測量　［P．７　実習２　データシート２］ 4. 平板測量（1）　［P．１７実習４　大実験室の製図］ 5. 平板測量（2）　［P．２４実習６　バイオ環境館敷地の製図］ 6. 平板測量（3）　〃 7. 平板測量（4）　〃 8. 平板測量（5）　〃 9. 平板測量（6）　〃 10. 水準測量（1）　［P．２７実習７　データシート４］ 11. 水準測量（2）　［P．３４実習８　データシート５～８］ 12. 水準測量（3）　〃 13. トラバース測量（1）　［P．３９実習９　データシート１０］ 14. トラバース測量（2）　［P．３９実習９　データシート１１］ 15. スタジア測量　［P．５１実習１２　データシート１５］			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J60069001
科目名	製図実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Drafting		
担当者名	鈴木　真理子	旧科目名称	
講義概要	図学は３次元空間を体系的に理解し構成するための概念的基礎となるものである。製図実習では定量的に作図された図面から３次元の空間概念を具体的に認識することができる。したがって，この実習では３次元空間における基本的な製図を，図学の構成原理にもとづいて具体的な立体の作図を通して行い，得られた図面の３次元的イメージについても考察する。		
教材（テキスト）	磯田　浩／鈴木　賢次郎　共著『工学基礎　図学と製図』サイエンス社　１，５５４円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎次の製図課題および立体模型（１００％）		
到達目標	図学の基本的原理にもとづいた製図の具体的な構成力，目的に応じた適切な作図およびそれらの３次元的空間把握イメージについて考察する能力、集中力を修得する。		
準備学習	テキストの次回範囲を通読しておくこと。		

受講者への要望

図学を並行履修することが望ましい。テキストおよび筆記用具を必ず持参すること。

講義の順序とポイント

1．製図実習の基礎・平面図形
2．主投影図
3．立体模型の制作
4．副投影図
5．立体模型の製作
6．直線実長視図・直線点視図
7．平面直線視図
8．平面実形視図
9．平面実形視図の応用問題
10．切断面
11．相貫
12．相貫
13．等測投影図
14．等測投影図
15．透視投影図

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60072001
科目名	生態学	単位数	2
科目名（英語表記）	Ecology		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	水圏の生態系は一次生産者がプランクトン中心であったり、食物連鎖が多くの段階をへるなど、特徴的な性質がみられる。魚類を中心に、その生態の特徴を紹介していく。 　後半では、人為的な環境である水田が独自の生態系を生み出している例や、水産資源を巡る人の活動も紹介していく。これらの事例から、水圏の生態系と周辺の生態系の関連についても理解を深めていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	ベゴン・ハーパー・タウンゼント「生態学　個体・個体群・群集の科学」京都大学学術出版会		
教材（その他）	適宜紹介する		
評価方法	講義中の提出物等によって評価する		
到達目標	魚類を中心に水生生物の生態を紹介し、水圏の生態の特徴を概観することを目的とする。		
準備学習	これまでに生物学を学んだかどうかは、不問。　講義内容に関する資料を京学ナビを通じて配布するので、事前に目を通し、わからない専門用語等を調べておくこと。単元の区切りごとにレポートを課す。		
受講者への要望			
観測事実に基づいて、論理的な思考を柔軟に展開して生命現象を理解することを訓練してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1　水圏の特徴 2　魚類の生態調査方法 3　魚類の生態１ 4　魚類の生態２ 5　魚類の生態３ 6　魚類の生態４ 7　魚類の配偶システム 8　亀岡の水生生物 9　生物の人為的な移動の問題 10　サンゴ礁 11　水産資源量の変動 12　水圏の一次生産 13　水圏の生食食物連鎖と有機物の動態 14　水産資源と人間活動１ 15　水産資源と人間活動２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J60073001
科目名	水環境化学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	河川・湖沼・内海域における水質汚濁メカニズムや物質循環について理解を深めるために、水質を評価するための様々な指標について講述する。琵琶湖・淀川・大阪湾など身近な水環境を事例として多く取り上げ、水圏における今後のバイオ環境のあり方について考察する。		
教材（テキスト）	テキストは使用せず、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	浦瀬太郎著　「明解水質環境学」　プレアデス出版 武田育郎著　「よくわかる水環境と水質」　オーム社 その他、講義の中で適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	出席状況、受講態度等による平常点(30%) 定期テスト(70%)		
到達目標	水圏における今後のバイオ環境のあり方について深く考察できる実力をつける。		
準備学習	翌週の講義内容に関わる資料を、京学なびの「授業資料」にアップロードするので、プリントアウトして事前に読み、専門用語などを理解しておくこと。また、単元の区切りごとに復習のための小テストを実施するので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
講義内容に関するいろんな角度からのテーマについて、ミニレポートを作成し、提出していただくので、気を抜くことなく取り組んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
１．水環境と水質指標 ２．物理学的指標 ３．物理学的指標 ４．生物学的指標：赤潮・アオコ問題 ５．富栄養化関連指標１ ６．富栄養化関連指標２ ７．有機物関連指標 ８．有機物関連指標２ ９．生活排水対策と排水処理 １０．水質の法的規制 １１．河川の水環境 １２．湖沼の水環境１ １３．湖沼の水環境２ １４．内海域の水環境 １５．これからの水環境問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60074001
科目名	水環境化学実験	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	対象とするフィールド（河川、湖沼、海域）の環境要素（物質系、生態系を含めて）の現状を定量的に把握するための高度な分析技術の習得をめざす。		
教材（テキスト）	教科書： 実験指導書（環境水質実験ノート）を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実験への取組態度、各実験レポートを総合的に評価する。		
到達目標	水環境の種々な環境要素（物質系、生態系を含めて）の現状を、定量的に把握するための高度な分析技術の習得する。		
準備学習	原則的には「環境水質学」の単位を修得していることが望ましい。 毎回の実験を受講するまでに、実験指導書の当該範囲を熟読し、わからない専門用語などを調べ、実験内容をよく理解しておくこと。また、毎回の実験終了後には、次回講義時までに実験レポートの提出を求める。		

受講者への要望

すべての実験に積極的に取り組むこと。
班のメンバーで取り組む実験では、意思疎通を図り、協力して行うこと。

講義の順序とポイント

1)　実験オリエンテーションと化学実験の基礎講習
2)　廃水処理に使われる活性汚泥の沈降性の測定と顕微鏡観察
3)　池での淡水プランクトンの採集と顕微鏡観察
4)　クロロフィル a の定量
5)　COD（化学的酸素要求量）の定量
6)　河川での流量測定
7)　一般環境項目の水質測定と採水
8)　溶存酸素濃度の定量
9)　アンモニア態窒素の定量
10)　リン酸態リンの定量
11)　凝集沈殿と浮遊物質の測定
12)　キレート滴定によるカルシウムイオン、マグネシウムイオンの濃度分析、硬度の計算
13)　原子吸光分析によるカルシウムイオンの濃度分析、残留塩素の分析
14)　陰イオン界面活性剤の分析
15)　環境水質実験のまとめ。それまでの実験内容について復習するとともに、効果的な水質調査方法について検討

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★		

年度	2015	授業コード	J60075001
科目名	都市水概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Urban Water		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	水系管理計画学
講義概要	本講義では私たちに最も身近な水について考える。水とはどのような特性があるのか、よく知っているようで知らない水についてまず学習する。その後、流域全体を対象にして、上流から下流に向けて、森林、里山・水田、河川、湖沼、都市、沿岸域、地下水における水管理の現状、課題について学ぶ。河川などの自然の水の流れ以外に、人工的なダム、堰や下水道などの役割が近年注目されていることから、自然と人為との双方の視点を取りいれて学ぶ。その後、流域における健全な水循環を形成していくための課題や施策、その効果の判定方法など総合的な水の管理計画に発展させる。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントの配布、ビデオの鑑賞による		
教材（参考文献）	嘉田由紀子編「水をめぐる人と自然　日本と世界の現場から」有斐閣 山崎農業研究所編「21 世紀水危機　農からの発想」農文協 土木学会関西支部編「川のなんでも小事典」講談社 BlueBacks		
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	講義中に複数回、確認テストを実施する。確認テストの実施時期は未定である。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストの合計点と平常点の総合的な評価とする		
到達目標	都市を中心とした流域全体の水管理の現状と課題、今後の方策について理解する		
準備学習	水の問題に関しては新聞やテレビその他のメディアに登場する頻度が高いので、関心を高めておくこと。 確認テストはそれまでの講義内容の理解度を確認するものであり、理解が不十分な箇所に関して、翌週フィードバックにより復習を行うこととする。		

受講者への要望

2 年次春学期の都市環境論をあわせて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

1. 水の特性 1
2. 水の特性 2
3. 森林の水文特性
4. 水田・里山の水文特性
5. 河川の水管理 1
6. 河川の水管理 2
7. 湖沼の水管理 1
8. 湖沼の水管理 2
9. 都市の水管理 1
10. 都市の水管理 2
11. 沿岸域の水管理
12.地下水の水管理
13.洪水対策
14.水辺環境の再生
15.総合的な流域管理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J60076001
科目名	流域環境デザイン論	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Watershed Design		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	亀岡市で使用した水の大部分は保津川（正式名称は桂川）に入り、淀川を経て大阪湾に流れ込んでいる。淀川の水は大阪府民の水道資源として利用されており、亀岡市においては、生活廃水などを適切に処理して、保津川へ流れ込む水の質を良好に保つことが求められている。生活廃水の処理については、下水処理場で処理するという考え方だけでなく、水路や河川での浄化作用も利用することが重要である。なぜなら、現在の多くの河川の水質は、下水処理場から放流される処理水よりも格段に良好であり、下水処理場に廃水を流し込むことだけを考えるよりは、自然の浄化能力を利用することも考えた方が、水質が良くなると考えられるからである。従来からの考え方では、家庭下水は人工的に処理を行うということだけであったが、今後は、これに自然の浄化能力を利用するという考え方を加えて、全体として、よりよい水質を実現することが重要である。そこで、家庭下水と工場廃水について、BOD 成分の除去だけではなく、窒素とリンの除去も含めて人工的に処理を行うことと、家庭下水を河川へそのまま流した場合の河川での自然の浄化について解説し、地域の特性に応じた方法による河川の水質を改善するための方策を考える。		
教材（テキスト）	金川貴博著『ありがとう、微生物たち』東洋書店、2,200 円＋消費税		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	期末試験（60 点）、適宜行う小テスト（40 点）		
到達目標	流域全体の環境が良くなるようにするには、家庭下水と工場廃水をどのように処理するのが適切なのかを理解する		
準備学習	教科書の該当部分を事前に読んで、理解しておくこと。また、教科書に記述されていない内容を講義するに当たっては、プリントの配布などを行って事前に勉強をするための材料を与えるので、読んで、理解しておくこと。		
受講者への要望			
黒板やスライドの文字を書き写すだけでなく、話を聞きながらメモをとること			
講義の順序とポイント			
１．水質汚濁をもたらす物質：毒物、有機物、栄養塩類 ２．なぜ下水処理が必要なのか？ ３．有機物の生物学的除去技術の概要（教科書 p.23-66） ４．窒素化合物の生物学的除去技術（１）（p.139） ５．窒素化合物の生物学的除去技術（２） ６．リンの除去技術 ７．下水処理場での処理技術と処理水の水質 ８．環境省が定めた環境基準 ９．自然環境中での水質の浄化（p.99-109） １０．環境微生物の働き（p.14-22） １１．環境中の微生物を理解する（１）（p.146-154） １２．環境中の微生物を理解する（２）（p.155-171） １３．環境中の微生物を有効に利用する（１）（p.115-128） １４．環境中の微生物を有効に利用する（２）（p.128-144） １５．自然界の生物の作用を活かした家庭下水の処理政策（p.110-114）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J60077001
科目名	ランドスケープエコロジー	単位数	2
科目名（英語表記）	Landscape Ecology and Planning		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープ＝地域の景観は人と自然の共同作品である。地球４６億年の歴史とともに、人間によるごくわずかな期間の間になされた、大きな働きかけ＝土地利用と資源利用、およびその結果発生したさまざまなインパクトが、景観を作ってきた。それゆえ、景観を丁寧に分析すれば、自然環境の論理と、それに対応してきた人間の文化の論理を浮かび上がらせることができる。 一方、地球環境危機の現在、自然との共生や低炭素、循環型社会への転換が求められる中、自然立地的な土地利用への転換が不可欠であって、流域は重要な景観単位となる。この講義では、そのプランニングとデザインの手がかりとして、流域景観＝ランドスケープを中心に、その原理を追求する景観生態学の基礎とともに、具体的なプランニング、デザイン、マネージメントの提案を行うランドスケープ・アーキテクチャーの世界を紹介する。		
教材（テキスト）	森本幸裕・編著『景観の生態史観－攪乱が再生する豊かな大地』京都通信社（2100 円）		
教材（参考文献）	森本幸裕･白幡洋三郎編著『環境デザイン学 - ランドスケープの保全と創造』　（「比較流域景観論」と共用） 樋口忠彦著『景観の構造』技報堂出版、 中村良夫著『風景学入門』中公新書、 モニカ　G．ターナー（中越・原、監訳）『景観生態学　生態学からの新しい景観理論とその応用』文一総合出版		
教材（その他）	日本景観生態学会のブログ{http://jale.sblo.jp/index-11.html} 日本造園学会の HP{http://www.jila-zouen.org/} を参考にしてください。		
評価方法	出席状況等による平常点（２０％）　授業中のミニレポート（20%）　期末課題レポート（60%）		
到達目標	身の回りから国土レベルまで、景観をその生成要因とともにとらえられるようになり、新たな望ましい景観がイメージできるようになること		
準備学習	いいな、と思った景観の成り立ちについて、調べる習慣をつけてください。 休日などを利用して「名勝」「文化的景観」や良好な緑地を訪れてください。		
受講者への要望			
わかりにくいところ、疑問点があれば、遠慮なく質問をしてください。			
講義の順序とポイント			
１．導入：ランドスケープの世界：フィジオトープとバイオトープと文化：京都の景観 第一部　ランドスケープ・アーキテクチャー（森本） ２．ランドスケープ・アーキテクト、その専門職能：大阪花博を例に ３．歴史・原論：庭から公園へ、都市公園の原点 ４．緑化からハビタット再生へ：大阪万博記念公園を例に ５．造園計画：庭、都市公園、自然公園：デザインとプランニング：代表的作品のいろいろ ６．都市・地方計画，国土計画におけるランドスケープ：京都の景観デザイン政策 ７．アートとランドスケープ：イサム・ノグチ、ガウディ、越後妻有 ８．現代ランドスケープデザインのコンセプト（生物多様性と生態系サービス） 第二部　ランドスケープ・エコロジーと生態系マネジメント（丹羽） ９．景観生態学とは １０．景観生態学とは １１．実践事例 １２．実践事例 １３．実践事例 １４．空間分析 １５．空間分析			

（※担当者が進行状況に応じて適宜変更することがある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J60078001
科目名	治山治水論	単位数	2
科目名（英語表記）	Ecosystem approach to disaster risk reduction		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	我が国は世界的に見ても、最も災害の多い国である。しかし、一方でその災害をもたらす地盤、水、大気の動きは自然の恵みの源泉でもある。したがって、如何に豊かな自然の恵みを損なわずに、災害による人命財産の損失を少なくするか、という課題が重要である。明治以降の「治山治水」と「はげ山緑化」の流れを踏まえつつ、特に「緑化」に関する理論と技術を解説するとともに、「防災」から「減災」へ、「緑化」から「自然再生」へ、「ハード偏重」の防災から流域の「エコシステム・マネジメント」へのパラダイムシフトを検討する。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	森本幸裕・小林達明編著『最新・環境緑化工学』朝倉書店、吉川勝秀著『河川流域環境学-21 世紀の環境学』技報堂出版、大熊孝著『[増補] 洪水と治水の河川史』平凡社、太田猛彦著『森林飽和：国土の変貌を考える』ＮＨＫブックス		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等による平常点（20%）　授業中のミニレポート（20%）　最終レポート（60%）		
到達目標	生態系サービスのトレードオフの考え方を身につけ、エコシステム・マネジメントの発想を獲得すること		
準備学習	環境白書のなかの「環境保全の観点からみた地域の捉え方」を読んでおいてください。 {http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/honbun.php3?kid=210&bflg=1&serial=10628}		

受講者への要望

災害はマイナス面ばかりでないこと、防災がもたらすマイナス面も理解してください。

講義の順序とポイント

1．　導入：治山治水からエコシステム・マネジメントへ
2．　・天災/人災？　日本の三大災害？
　　・地盤災害、気象災害、地震、津波、
3．　・日本における土砂・水災害と対策の歴史
4－7．治山砂防と緑化
　　・地すべり、崩壊と侵食の理論と地盤災害対策
　　・流域の土砂移動とその制御対策
　　・植生による水土保全機能
　　・地盤安定の基礎工
　　・植生工と植生管理
8－10．河川と治水・利水＋環境
　　・河川の科学：形態、洪水と渇水
　　・河川構造物の種類・機能・設計
　　・ダムの役割と構造
　　・多自然川づくりと自然再生
　　・都市における雨水管理と雨庭
11－14．「流域圏・共生」の時代の治山治水
　　・「河川環境」と治水・利水
　　・海岸砂防、海岸浸食と流域土砂管理
　　・流域管理と合意形成
15．　まとめにかえて：防災から減災へ
　　・震災復興と自然再生（東日本大震災のケーススタディ）

＊）進度に応じて適宜変更することもある

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	J60079001
科目名	エコミュージアム構想学	単位数	2
科目名（英語表記）	Ecomuseum Design		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	エコミュージアムは、地域の暮らしの知恵が地域の環境の中で息づく博物館です。従来型の博物館や知識に対する評価では、地域の暮らしの知恵には価値を見いだせませんでしたが、エコミュージアムが大切にするのは、こうした日常的な暮らしの知恵です。また、日常的な出来事を建物の中に保存することは難しいので、必然的に人が暮らしている日常そのものを活用して、住民が主体となる生活空間そのものが従来の博物館と同等の価値を持つという考え方です。 　この視点は、バイオ環境デザインにおいて欠くことができません。なぜなら、地域の人の暮らしを抜きにしたバイオ環境のデザインはあり得ないからです。 　本講義では、実際の国内でのエコミュージアム活動を紹介し、関連する農村開発やエコツーリズムなどと比較することで、エコミュージアムの特徴をさぐり、どのような状況でエコミュージアム活動が生きるのかを探ります。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	星山幸男「自然との共生とまちづくり」北樹出版 大原一興「エコミュージアムへの旅」鹿島出版会 小松光一編「エコミュージアム」家の光協会		
教材（その他）	適宜紹介する		
評価方法	講義内でのレポート発表、レポート提出の双方を勘案する		
到達目標	人の暮らしについて、さまざまな視点から見つめ直して、人の暮らしを重視した地域おこしに必要な視点を理解すること。		
準備学習	農業など、人の生業（なりわい）に関連する講義を受講しておくことが望ましい。参考文献を読み講義に臨むこと講単元の区切りごとにレポートを課す。		

受講者への要望

地域の人の暮らしに関心のある学生の参加を待っています。既存の議論や価値観にとらわれずに、人の暮らしについて何が大事なことなのかをよく考えて、自由な発想で各自のエコミュージアム構想を展開してください。

講義の順序とポイント

1　エコミュージアムとはなにか
2　日本におけるエコミュージアムの現状
3　国内の事例紹介　山形県朝日町
4　国内の事例紹介　兵庫県豊岡市
5　国内の事例紹介　岡山県賞田町
6　国内の事例紹介　高知県柏島
7　農村開発との比較
8　エコツーリズムとの比較
9　ナショナルトラスト運動との比較
10　環境保全活動との比較
11　エコミュージアム構想１　調査結果の発表会
12　エコミュージアム構想２　調査結果の発表会
13　エコミュージアム構想３　調査結果の発表会
14　エコミュージアム構想４　調査結果の発表会
15　エコミュージアムのゆくさき　これから何を目指すのか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★		★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J60080001
科目名	流域環境デザイン演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Environmental Waters hed Design		
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	琵琶湖・淀川水系は、近畿 1700 万人の飲み水の水源である。この水系を水質環境および生態系保全の面から流域環境をリ・デザインするモデルとして取り上げ、新たなるあり方を検討する。 まず、この水系の地理学的特徴、これまでの治水・利水・環境への取り組みを学ぶ。そして、多項目にわたる水質環境の指標物質の実測データを用いて、水質環境の現状および流下特性を把握し、今後の琵琶湖・淀川水系の流域環境の保全のあり方を検討する。		
教材（テキスト）	テキストは使用せず、プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況、ミニレポート、演習課題、講義終了時の小テストなどの結果を総合的に評価する。		
到達目標	自然と共生した流域圏・都市の再生を実現に関して、また琵琶湖・淀川水系の流域環境の保全のあり方について認識を深める。		
準備学習	翌週の講義内容に関わる資料を、京学なびの「授業資料」にアップロードするので、プリントアウトして事前に読み、専門用語などを理解しておくこと。また、単元の区切りごとに復習のための小テストを実施するので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
琵琶湖淀川流域の治水・利水・環境に関わる話題は新聞紙上などで頻繁に出てくるので、常に情報収集に努めるくこと。			
講義の順序とポイント			
1)　琵琶湖淀川流域の気象・気候 2)　琵琶湖淀川流域における治水対策の変遷 1 3)　琵琶湖淀川流域における治水対策の変遷 2 4)　利水対策と琵琶湖総合開発事業 5)　琵琶湖総合開発事業から琵琶湖総合保全整備計画へ 6)　現在の琵琶湖の水環境 7)　地球気候変動の影響 8)　淀川水系三川（桂川水系、宇治川水系、木津川水系）での、水質環境の指標物質類の実測データをグラフ化 1 9)　淀川水系三川（桂川水系、宇治川水系、木津川水系）での、水質環境の指標物質類の実測データをグラフ化 2 10)　淀川への汚染指標物質の負荷量計算と各指標物質間の関係性の検討 1 11)　淀川への汚染指標物質の負荷量計算と各指標物質間の関係性の検討 2 12)　琵琶湖への栄養塩類負荷量の実測データをグラフ化 1 13)　琵琶湖への栄養塩類負荷量の実測データをグラフ化 2 14)　各栄養塩類の負荷量計算と琵琶湖水質の関係性の検討 15)　多様な水環境データのグラフ化とデータ読み取り手法			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	J60081001
科目名	農環境論	単位数	2
科目名（英語表記）	Agricultural Environments		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	農業は人間が生きていく上で不可欠な，食糧供給という重要な役割を担っている．その農業の発達過程と実態を理解するとともに，我々が生活している様々な環境との関連について考えてみる．さらに食料生産のための制御された環境での栽培，つまり施設栽培や植物工場についても講じる．		
教材（テキスト）	特に指定しない．		
教材（参考文献）	藤本文弘　著　「生物多様性と農業」　農文協		
教材（その他）	必要に応じて資料を配付する．		
評価方法	平常点（30 %）およびレポートと小テスト（70 %）で評価する．		
到達目標	日々の生活環境と農業との関わりを理解する．		
準備学習	農業に関する書物を１冊で良いから読んでおくこと．		

受講者への要望

日常生活の中で出会う「生き物」に関心を持ち，観察眼を養うように心がけて欲しい．

講義の順序とポイント

１．農業が環境におよぼす影響　(1) 農業の成立と歴史　その１
２．農業が環境におよぼす影響　(2) 農業の成立と歴史　その２
３．農業が環境におよぼす影響　(3) 我が国の農業生産の実態　その１
４．農業が環境におよぼす影響　(4) 我が国の農業生産の実態　その２
５．農業が環境におよぼす影響　(5) 栽培植物の成立と自然環境
６．農業が環境におよぼす影響　(6) 農業生産が与える環境への負荷
７．農業が環境におよぼす影響　(7) 農業の持つ多面的機能　／　課題レポート作成
８．環境が農業におよぼす影響　(1) 作物の成育におよぼす環境の影響～日長と花芽分化
９．環境が農業におよぼす影響　(2) 作物の成育におよぼす環境の影響～低温と花芽分化
10．環境が農業におよぼす影響　(3) 地球温暖化の影響
11．環境が農業におよぼす影響　(4) 汚染物質の影響
12．農業と生物多様性　(1) 農地の生態
13．農業と生物多様性　(2) 農耕地における生物多様性
14．農業の多様性　～ 施設栽培と植物工場 ～
15．わが国の環境と農業生産の今後　／課題レポート作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J60082001
科目名	野生動物保全学	単位数	2
科目名（英語表記）	Wildlife Management		
担当者名	高柳　敦	旧科目名称	
講義概要	野生動物の保全には、絶滅しないようにして生物の多様性を保つことと、人間に大きな被害をもたらさないようにすることの 2 つの目標があり、その 2 つの目標をいかにバランスよく実現しながら、野生動物のもたらす価値を享受するかが重要な課題である。本講義では、カモシカやシカ、クマなどの大型野生動物による農林業被害の問題を中心に、この課題の背景、解決のための科学的なアプローチについて解説する。特に、被害問題の現状について理解を深めると共に、被害問題の解決には、野生動物の生態や被害の発生プロセス、人間社会の対応の在り方など、さまざまな要素が関係していることについて理解する。また、自分の関心のあるテーマを見つけて、それについて自分の意見を文章化する技能についても学ぶ。		
教材（テキスト）	適切な教材がないので、特に指定していません。以下に、参考図書の中でも特に講義内容に近いものを上げておきます。 「森林の再発見」（p285-316：第 8 章「人間と野生動物との新たな関係」） 大田誠一編、京都大学学術出版会、2007　（4,410 円） 「ワイルドライフ・マネジメント入門」三浦慎吾、岩波書店、2008　（1,260 円） 「野生動物管理―理論と技術」　羽山伸一，三浦慎悟　文永堂出版 2012 (7,350 円)		
教材（参考文献）	被害問題に関する文献として 「動物たちの反乱」河合 雅雄・ 林 良博編著　PHP サイエンスワールド新書　2009 「森林環境〈2007〉動物反乱と森の崩壊」森林環境研究会、森林文化協会　2007 「動物による農作物被害の総合対策」江口祐輔　監修　誠文堂新光社　2013		
教材（その他）	生物の保全に関する文献として 「生物保全の生態学」鷲谷いづみ　共立出版　1999 「保全生物学のすすめ 改訂版」リチャード B プリマック　文一総合出版 2008 「野生生物保全事典」野生生物保全論研究会 2008		
評価方法	期末の試験と 1 回のレポート提出の成績で評価する。試験とレポートの評価の比率は 8 対 2 から 6 対 4 で、試験結果などを基に決定する。評価に当たっては出席状況も考慮する。		
到達目標	生物多様性の保全において重要な事項を理解すること。ニホンカモシカ、ニホンジカ、ツキノワグマの生態とその被害について理解すること。野生動物の保護管理を総合的に行うとはどういうことかを理解すること。		
準備学習	学習準備として、講義テーマについて事前に自分の意見を考えたり、そのために情報を集めたりすることが望ましい。レポート作成の準備として、身近にいるないしは興味のある野生動物について、その生態や保全についての疑問点を列記し、野生動物の保全において、何が問題なのかについて自分なりのイメージや疑問点をもっておく。		

受講者への要望

野生動物の保全の問題は、テレビ番組や新聞記事で触れるだけでなく、必ず身近なところにも見られる問題である。知識として何かを学ぶというより、自分の身近な問題を解決するという能動的な姿勢で講義に臨んで欲しい。講義では、指名して知識や意見などを尋ねるので、必ず答えるように心がけて欲しい。

講義の順序とポイント

第　1回　野生動物を保全するとはどういうことか。野生動物保全学へのイントロダクション。
第　2回　生物多様性とは何か、なぜ生物多様性の保全が重要か。生物多様性を理解する。
第　3回　日本の野生動物相はどういう特徴があるのか。日本の野生動物についての基礎。
第　4回　外来生物とはどんな生物でなぜ問題か。外来生物問題の解説。
第　5回　レポート計画発表会
第　6回　カモシカなど希少生物の保全の抱える課題について解説。
第　7回　カモシカによる農林業被害問題とは何か。被害問題の背景などについて解説。
第　8回　保護地域による野生動物の保全。保護地域による保全の課題について解説。
第　9回　ニホンジカの生態とその被害について解説。
第１０回　ニホンジカ被害問題をの背景、解決のための個体数の捕殺や被害防除について解説。
第１１回　京都府南丹市芦生地域における野生動物保護管理について解説。

第１２回　クマ類の生態と保全。ツキノワグマを中心にクマ類の生態と保全について解説。 第１３回　ツキノワグマによる被害と防除。林業被害や出没被害について解説。 第１４回　野生動物のもたらす被害とその防除、および総合的管理と野生動物が組み込まれた社会について解説。 第１５回　全体の復習 以上は進行の目安であり、受講者の理解や興味などによって変更することもある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	J60083001
科目名	農・森林環境デザイン論	単位数	2
科目名（英語表記）	Design of Regional Ecosystem and Land Us e		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	かつての日本の農業は後背地の森林や河川と有機的なつながりのもとで営まれていた。しかし、近代化の過程で森林・農地・河川は分断され、個別の場での効率が追い求められてきた結果、多くの環境問題を引き起こし、良好な生産や環境の維持が困難な状況に至った。そこで、森林から海までの物質の移動、水の流れを基にして、望ましい森林環境、望ましい農業環境やそのつながりを再生する方法について、国内外の学術的・実践的事例に学び、日本の将来の森林像・農業像を考察する。また、これらの内容に関連するテーマを各自が設定して文献調査や聞き取り調査等を行い、その成果をレポートにとりまとめ、口頭発表を行う。		
教材（テキスト）	講義時に随時配布する		
教材（参考文献）	「森林生態学」 岩坪 五郎　編　（文永堂出版　2003 年） 「栽培植物と農耕の起源」 中尾 佐助 著　（岩波新書　1966 年） 「焼畑の環境学」 佐藤 洋一郎　監　（思文閣出版　2011 年） 「森と田んぼの危機」 佐藤 洋一郎　著　（朝日選書　1999 年）		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	講義への参加状況等による平常点、口頭発表、最終レポートの内容を総合的に評価する。		
到達目標	望ましい森林環境、望ましい農業環境を再生する方法について考え、その考えに実践や先行事例を元に裏付けを与える。また、テーマ設定・レポート作成に必要な論理的思考力、分かりやすい口頭発表に必要なプレゼンテーション能力を習得する。		
準備学習	講義のレジメや講義で使用する学術論文を事前に京学なびにアップロードしておくので、各自で打ち出して予習をしておくこと。 各自の口頭発表・レポート作成に活かせるよう、講義で使用した学術論文の背景・目的・方法・結果・考察・まとめの流れを復習しておくこと。		
受講者への要望			
専門書を読むに堪える能力をみにつけること。 「現場」の出来事と日々向き合い、学ぶこと。			
講義の順序とポイント			
1　農・森林環境デザインとは？ 2　森と水田の日本史 3　「農」と「森林」のつながりⅠ：水田の生態系 4　「農」と「森林」のつながりⅡ：里山の生態系 5　「農」と「森林」のつながりⅢ：焼畑の生態系 6　中山間地域の農業と森林：日本の現状と課題Ⅰ 7　中山間地域の農業と森林：日本の現状と課題Ⅱ 8　日本の水田と里山：亀岡市西別院町大槻並の事例 9　日本の焼畑：長浜市余呉町中河内の事例 10　望ましい「農」と「森林」のつながりとは？ 11　「農」と「森林」のつながりの再構築に向けてⅠ 12　「農」と「森林」のつながりの再構築に向けてⅡ 13　「農」と「森林」のつながりの再構築に向けてⅢ 14　「農」と「森林」のつながりの再構築に向けてⅣ 15　「農」と「森林」のつながりの再構築に向けてⅤ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	J60084001
科目名	森林環境・林業論	単位数	2
科目名（英語表記）	Forest Environment and Forestry		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	森林は林業資源としての性質を持っているだけでなく、森林生態系として環境を形成し、人間社会からみて、多面的機能と呼ばれるさまざまな恵みも提供している。 その豊かな恵みを持続的に享受していくことを目的として、森林生態系の現状と傾向、課題と対応について概説し、これからのありかたを展望する。 前半は丹羽准教授が主に森林生態系としての特徴について講義し、後半は森本教授が林業だけでなく、森の多様な利用法と課題を取り扱い、アクティブ・ラーニング手法を取り入れる。		
教材（テキスト）	日本生態学会編『森の不思議を解き明かす』文一総合出版		
教材（参考文献）	国連ミレニアムアセスメント著『生態系サービスと人類の将来』文一総合出版、 森林・林業白書（林野庁）{http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/index.html} 森林環境２００４～森林環境２０１４（森林環境研究会編）{http://www.shinrinbunka.com/report/index.html}		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等による平常点（４０％）　定期テスト（期末課題レポート）６０％		
到達目標	森林・林業をめぐる循環と共生、ストック（生態系、林木蓄積）とフロー（生態系サービス、林木成長の収穫）、伐採と更新、時間と空間の秩序づけ等々における深さと豊かさについての理解をめざす。 木を見て森を見ないという諺がありますが、森をみて森の多様な構成者や環境や履歴や人との関わりも見えるようになってください。		
準備学習	里山・里海アセスメントの概要版をダウンロードして、目を通しておいてください。 {http://isp.unu.edu/jp/publications/files/16853108_JSSA_SDM_Japanese.pdf}		
受講者への要望			
わからないところや質問はできるだけ授業中にその場で遠慮なくしてください。			
講義の順序とポイント			
第一部　森林環境（丹羽） １．森を読む ２．森を読む ３．森を読む ４．日本の森林 ５．日本の森林 ６．日本の森林 ７．植生の判読 ８．植生の判読 第二部　林業論（森本） ＜現状の認識と可能性＞ ９．森林に対する期待と現実 １０．森林計画・造林・育林・収穫・更新 １１．森林認証と REDD、オフセット １２．コモンズとしての森林、京都モデルフォレスト運動など ＜アクティブ・ラーニング＞ １３．「これからの森林マネジメント」（１）すてき・課題発見ワークショップ １４．　同上（２）新たな試みワークショップ １５．　同上（３）グループ発表と討論 （※進行状況等により適宜変更することがある）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J60085001
科目名	里山学	単位数	2
科目名（英語表記）	SATOYAMA Studies		
担当者名	中川　重年	旧科目名称	
講義概要	里山とは何か、生態学、文化、環境など様々な視点から論理的かつ科学的に考察する。言説に惑わされず、里地里山の本質と現実に即して講ずる。		
教材（テキスト）	武内和彦他：里地里山の環境学. 東京大学出版会		
教材（参考文献）	「里山学のすすめ」		
教材（その他）	資料を配布する。		
評価方法	小テスト、最終レポート点を総合評価する。		
到達目標	様々な視点から今後の里山生態系のあるべき姿をとらえ、実践に結び付けよう務める。		
準備学習	里山の定義を下調べしておくこと。何となくイメージしている里山と講義で学ぶ内容が大きく違うことを「里山の環境学」を通読して理解しておいてください。		
受講者への要望			
農環境論、農・森林環境デザイン論、森林環境デザイン論を並行履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1.里山の歴史 ２.市民参加の里山保全 3.環境教育のフィールドとしての里山 ４.里山の利活用 ５.地域資源を生かす ６.植物生態学から見た里山の変遷 ７.里山の植生遷移 ８.里山の生物多様性 ９.里山保全に向けた取り組み １０.森林資源の持続的利用、里山と焼畑 １１.日本の原風景としての里山 １２.地域活性化と里山 １３.森林政策・資源政策における里山 １４.里山保全と森林デザイン １５.雑木林林業の復権			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	

年度	2015	授業コード	J60086001
科目名	里山学実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Vocational Guidance I		
担当者名	太田　明	旧科目名称	里山学Ｂ、里山学Ⅱ
講義概要	人家に近い森林である里山は長い間人手が加わることで維持され、そこから燃料、肥料、山菜やきのこ類などが採取されてきた。しかし、近年、里山の環境は大きく変化し、健全な里山を維持するための作業が急務となっている。京都の里山アカマツ林では、市場価値の高い「丹波マツタケ」が採れる。その増産は地元の人々の大きな期待でもあることから、実際にアカマツ林の再生とマツタケ増産のための作業を行い、これをとおして里山の理解を図る。なお、この実習は、亀岡市寺生産森林組合の全面的な協力のもとに実施する。		
教材（テキスト）	なし、必要に応じプリントを配付する。		
教材（参考文献）	丸山徳次・宮浦富安編『里山学のすすめ』昭和堂、2007 マツタケ研究懇話会編『マツタケ山のつくり方』創文、1983 吉村文彦著『ここまで来た！まつたけ栽培』トロント、2004 黒田慶子編著『ナラ枯れと里山の健康』全国林業改良普及協会、2008　など		
教材（その他）	適宜資料を配付する。 講義時はパワーポイント等を使用する。		
評価方法	授業中の小テスト等による平常点（５０％）。授業中に課すレポート（５０％）。		
到達目標	里山の再生・管理作業をとおし、里山の生態系の見方や人にとっての里山の大切さを体験に基づいて理解する。		
準備学習	・春学期の早い段階に、上記参考書などを読んで、地域の人々が里山（特にマツタケ山）とどのようにかかわってきたかを理解しておく。 ・実習内容に合わせてレポートを課すので、翌週提出すること。 ・普段から森林生態や環境保全に関する新聞記事等に注意し、批判力をもって読む習慣を身につける。		

受講者への要望

次項に講義と書かれた日以外は、実際にアカマツ林に入って作業を行うので、それに適した服装（引っかかりにくいもの、汚れてもかまわないもの）、作業手袋（軍手など）、タオル、山歩きのできる運動靴か長靴、飲み物、急な雨の可能性があるときは雨具を準備してください。
大学から現地へは大学バスで移動するので（所用時間はバス 30 分＋徒歩 10 分）、乗り物に弱い人は対策をすること。
雨などで作業不能のときは、講義に変更します。どちらになるか判断が難しいときは、野外実習と室内講義の両方の準備をしてください。

講義の順序とポイント

１．里山の現状と問題、本実習に関する基礎知識（講義）
２．アカマツ林の再生―広葉樹の整理
３．　同上
４．アカマツの播種
５．　同上
６．アカマツ林の植生調査
７．樹木と菌類の関わり、マツタケ山づくりの考え方（講義）
８．優良マツタケ山施業地見学
９．マツタケ山づくり―適地判定、作業方針の決定
１０．不要広葉樹の伐採と搬出
１１．残存広葉樹の整理
１２．地かき、腐植の搬出
１３．作業による植生変化の調査
１４．施業地のきのこ相調査
１５．実習のまとめ、より人工的な栽培のための考察（講義）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J60087001
科目名	有機農業論	単位数	2
科目名（英語表記）	Organic Agriculture		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	わが国における有機農業および世界の有機農業の現状を把握する． 有機農業の今後の展望について理解する．		
教材（テキスト）	特に指定しないが，講義の中で順次紹介・指示する．		
教材（参考文献）	講義の中で適宜紹介・指示する．		
教材（その他）	資料を配付する．		
評価方法	平常点（１０％）および課題レポート（９０％）で評価する．		
到達目標	有機農法を科学的な観点から理解することを目標とする．		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので，次回までに読んでおくこと．４回の小テストを行うので，毎回の講義内容を復習しておくこと．		
受講者への要望			
有機農業についてはマスコミなどで取り上げられることが多く，耳にする機会も多いが誤った情報も多い．科学的な視点から有機農業の本来の意味を理解できるよう努力してほしい．			
講義の順序とポイント			
１．はじめに ２．有機農業とは ３．作物と肥料 ４．施肥と作物の生育　【小テスト①】 ５．作物と土壌　（土壌の生成と作物生産） ６．作物と土壌　（土壌における物質の流れと作物生産） ７．作物の生育と環境　（土壌成分、土壌特性） ８．作物の生育と環境　（環境の複合要因と作物生産）　【小テスト②】 ９．作物の生育と環境　（アレロパシーについて） １０．有機農業に対する科学的裏付け １１．日本と世界の有機農業について １２．有機農業の実践（水稲）　【小テスト③】 １３．有機農業の実践（野菜） １４．有機農業の実践（果樹） １５．日本の有機農業の展望について　【小テスト④】			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J60089001
科目名	都市林概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Urban Forests		
担当者名	中川　重年	旧科目名称	
講義概要	都市域に存在する森林の多面的な機能及び評価について述べる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	「雑木林の植生管理」　ソフトサイエンス社 「まちの森生活」　全国林業改良普及協会		
教材（その他）			
評価方法	理解度 70% 、レポート 30%。		
到達目標	都市林の持つさまざまな機能、価値について理解する。		
準備学習	都市林に関わる分野は多岐にわたります。これについて例えば森林文化協会の「森林文化研究」などを読み、講義に望んでください。「森をつくる人びと」を講義期間中に読了しておくこと。毎回の講義について必ずノートを整理しておくこと。期間中に理解を確認するために３回の小テストを行う。		
受講者への要望			
新聞やほかの情報から新しい森林の持つ価値について興味を持って情報収集をしておいてください。			
講義の順序とポイント			
１．森林のデータ ２．世界の大都市と森林 ３．都市林の特性 ４．都市林の再生の事例 ５．放置した森林の再生１ ６．放置した森林の再生２ ７．放置した森林の再生３ ８．放置した森林の再生４ ９．市民参加の森作り １０．森林レクレーション１ １１．森林レクレーション２ １２．森林レクレーション３ １３．森林レクレーション４ １４．森林文化 １５．新しい都市林のあり方			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★	★★	★

年度	2015	授業コード	J60090001
科目名	都市環境論	単位数	2
科目名（英語表記）	Urban Environments		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	都市水辺環境論
講義概要	都市がどのように成立し拡大してきたか、国土開発という大きな流れの中で理解し、都市の環境と生活について学ぶ。とりわけ、発展する都市と周辺の農村との関わりについて、人口、交通、暮らしの面から考察し、近年注目されている地域の再生の動きを事例として捉える。さらに、都市における自然としての水辺空間に焦点をあて、水辺歩きなどの観光や余暇との関わり、動植物の生息空間、ヒートアイランド、都市排水と廃棄物の処理、資源の循環利用、都市型災害について学ぶ。最後に、水文化を通じた都市の個性の捉え方や、水を利用した地区の生業や産業に関して学ぶ。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントを配布する		
教材（参考文献）	21 世紀水危機　農からの発想　農文協 地域再生の条件　岩波新書 地元学をはじめよう　岩波ジュニア新書		
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	講義中に複数回、確認テストを実施する。確認テストの実施時期は未定である。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストの合計点と平常点の総合的な評価とする		
到達目標	都市が国土の中でどのように発展してきたかを理解し、現在の都市の生じている生活と環境から地域の再生、都市の再生に繋げる		
準備学習	都市環境に関しては新聞やテレビその他のメディアに登場する頻度が高いので、アンテナを立て関心を高めておくこと)。		
受講者への要望			
講義以外の時間にフィールドワーク、ビデオ学習、PDF 学習、映画上映などがあるので積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
1.都市の成立と発展の経緯 2.日本の国土開発の特徴 3.都市への人口・交通の集中と地域の再生 4.都市における自然、環境と生活の状況 5.都市における排水と廃棄物の状況 6.現代の資源の再利用 7.江戸時代における資源の再利用 8.日本の代表的な水辺環境 9.都市の水辺散策と観光 10.余暇活動の面からの水辺環境 11.都市での災害とヒートアイランド 12.都市の水辺環境の再生 13.都市と水辺の交通（舟運)、水文化 14.水辺環境と食文化、生業と産業、水辺の遊び 15.動植物の生息空間としての水辺環境			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J60091001
科目名	環境教育・ビオトープ学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Education/ Biotope Studies		
担当者名	中川　重年	旧科目名称	
講義概要	環境教育の場としてのビオトープのうち、森林と水田を中心に学習を行います。森林ビオトープ学習は管理の違いによる林床植生の質と量の違いが測定も容易で、さまざまな形のビオトープを比較しやすい長所があります。また森林の基礎的な環境を反映した樹木の成長、萌芽性といった樹木個体の生理、森林の光環境や微気象といった環境条件について講義・観察・実習を６回にわたって行います。後半では水田の生き物について５回にわたり観察及び実習を行い、経時変化を把握したうえでその変化を理解し、これらを教育手法に生かします。		
教材（テキスト）	必要に応じてその都度用意します。		
教材（参考文献）	[新しい環境教育の実践]　朝岡幸彦　編著　高文堂 [環境教育のすすめ]　沼田真監修　東海大学出版会 [ビオトープの管理・活用　]杉山恵一・重松敏則編　朝倉書店		
教材（その他）	必要に応じてその都度用意します。		
評価方法	授業および実習(60%)とレポート(40%）で評価します。		
到達目標	ビオトープに対する評価の仕方および造成などの面での理解を高める。		
準備学習	本学キャンパスに設置してあるバイオ環境園（農業公園）は水田、畑、ヤギ牧場、土手、果樹園、日本ミツバチ飼育箱、ビオトープ池、堆肥場などが設置してあります。これらをあらかじめ見ておき、講義でノベル内容について事前に実物を見て確認しておいてください。「里地里山文化論」の上については必ず読んでおくこと。講義後のノートのまとめを毎回しておくこと。途中で３回理解力を確認する試験を行います。		

受講者への要望

森林や水田などでさまざまなシーンを思い浮かべ、環境を理解するための事象の整理、推察、および手法をイメージする習慣がつくよう自己訓練をしてください。

講義の順序とポイント

１概論　ビオトープとは、学校教育とビオトープ
２ビオトープつくりの素材
３学校におけるビオトープの事例
４ビオトープと指標植物
５森林ビオトープの設計１現地確認　森林断面図の作成
６森林ビオトープの設計２現地確認　森林断面図の作成（レポート）
７水田の生物観察　種の同定作業
８水田ビオトープ生物相の経時変化１（レポート）
９森林ビオトープの設計３
１０森林ビオトープの実習１測定ポイントの設定
１１水田ビオトープ生物相の経時変化２
１２森林ビオトープの実習４温度環境の測定と指標植物（レポート）
１３森林ビオトープの実習５成長の測定
１４水田ビオトープ生物相の経時変化３
１５ビオトープ展開の可能性

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J60092001
科目名	地域再生・まちづくり論	単位数	2
科目名（英語表記）	Community Development		
担当者名	寺川　政司	旧科目名称	
講義概要	わが国の都市や町の成り立ちを振り返りながら現在のまちが抱える多様な問題について学び、都市のマイノリティに関わる居住問題と実践事例をもとに市民参画型のまちづくりと今後の専門家のあり方について考察する。とくに、亀岡市内のフィールドワークを通じて、現在のまちづくりの手法を学びながら、現代的なテーマ型まちづくりの課題と展望を考察する。		
教材（テキスト）	プリントを配布		
教材（参考文献）	「これからの住まいとまち―住む力をいかす地域生活空間の創造」朝倉書店 「現代集合住宅のリ・デザイン―事例で読む[ひと・時間・空間]の計画」彰国社 内田雄造編著「まちづくりとコミュニティワーク」解放出版社 寺川政司監修「北芝まんだら物語」		
教材（その他）	資料を授業時に配布する。		
評価方法	授業時提出のレポート　20% 授業に対する熱意　30% フィールドワーク等への参画と成果　50%		
到達目標	・日本のまちの成り立ち、制度を学びながら、歴史的経緯から現在をとらえる感覚を学ぶ。 ・多様なテーマで実践されているまちづくりのダイナミズム、面白さ、課題等について理解する。 ・大学が位置する亀岡市のまちづくりを体感するとともに、今後の自分自身とまちとの積極的な関わり方を意識する。		
準備学習	・様々なメディア（新聞・冊子・ＴＶ・Ｗｅｂ・現場　等）を用いて、「テーマ型まちづくり」に関する情報を得ておくこと。		

受講者への要望

フィールドワーク等への参画と授業に対する意欲を重視します。

講義の順序とポイント

1. まちづくり概論
2. わが国の都市とまちの変遷
3. 住宅政策の変遷とまちづくり
4. 共同住宅団地の変遷＜軍艦アパート＞
5. 戦前長屋地域の再生　＜関西の戦前長屋と空堀地区の挑戦＞
6. まちの再生と多様な住まい＜コーポラティブ住宅・コレクティブ住宅＞
7. マイノリティコミュニティにおける地域再生とまちづくり

8.~14　亀岡市フィールドワーク・ワークショップ

15.コミュニティマネジメントとコレクティブタウン
　（市民主体のまちづくりと専門家）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★			

年度	2015	授業コード	J60093001
科目名	都市自然化デザイン論	単位数	2
科目名（英語表記）	Design of Urban Naturalization		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	本講義ではフィールドワークという方法論を学ぶ。地域の問題を発見し、課題解決の提案をしていくためには、実際に現場に入り課題をすくい取ってくることができる訓練が必要である。そのためには、地域の生活や社会、自然についての文献、地図、写真、衛星データなどを読み解き、また、地元の方々などへのヒアリングやアンケートなどの情報も総合的に活用できる力が必要となる。本講義では、グループ単位でフィールドワークの実践と企画を行い、フィールドワークの果たす役割を理解し、将来的には地域調査士として社会で活躍できる基礎を固める。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	フィールドワーク　新曜社 地域診断法　新評論 学びの旅　地域の見方・とらえ方・楽しみ方 ワークショップ　学芸出版 コミュニティデザインの時代　中公新書		
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオ上映など。		
評価方法	講義中に複数回、確認テストを実施する。確認テストの実施時期は未定である。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストの合計点と平常点の総合的な評価とする		
到達目標	フィールドワークを実際に自分で企画運営できること		
準備学習	自分でも各地に自主的なフィールドワークに参加し、現場から問題点を発見することになれておくこと 確認テストはそれまでの講義内容の理解度を確認するものであり、理解が不十分な箇所に関して、翌週フィードバックにより復習を行うこととする。		
受講者への要望			
この講義はフィールドワークの方法論がテーマであるので、フィールドワーカーとして将来活躍していきたい学生に積極的に受講してもらいたい			
講義の順序とポイント			
1.フィールドワークとは何か 2.フィールドワークの企画 3.文献・地図・史資料の収集整理の仕方 4.調査項目の絞込み 5.25000 分の 1 の地図の読み方と地形判読 6..空中写真の見方と利用の仕方 7..聞き取り調査、アンケート調査の手法 8.フィールドワークの実施にあたって 9.フィールドワークの実施 10.入手データの分析（人口、社会） 11 入手データの分析（経済、地域構造） 12.フィールドワークのまとめ 13.GIS による地図化、可視化 14.フィールドワークの結果発表 15.フィールドワークの結果発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★		★	★

年度	2015	授業コード	J60094001
科目名	都市緑化材料学	単位数	2
科目名（英語表記）	Materials for Urban Tree-Planting		
担当者名	中川　重年	旧科目名称	
講義概要	都市緑化に用いる樹木などについて形態的な特徴、生態的特性、成長の概説を行い、理解を深める。また緑化樹木の増殖や管理方法を学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	日本の樹木　小学館 庭木と緑化樹　誠文堂新光社 緑化・植栽マニュアル　経済調査会 自然林の復元　文一総合出版		
教材（その他）	必要に応じてその都度準備します。		
評価方法	学ぶ意欲（30%）、指定レポート（50%）、自由レポート（20%）による総合評価		
到達目標	都市で見られる４０種の樹木についてその名称、形態的特徴、生態的特徴、増殖について理解できるようにする。		
準備学習	造園樹木、野生樹木の図鑑を見て形態的な特徴で各種を区別できるようにしてください。具体的にはキャンパス内の樹木を 20 種採取し、その特徴を調べ名前を同定してください（11 月末まで）このほか庭園を見学し、樹木などの緑化材料のその使われ方を理解する。これについては自由レポートとしまとめた段階で提出すること。		

受講者への要望

２年次に学習した桑田寺（キャンパス近く）の樹木を十分見ておいてください

講義の順序とポイント

1 都市における実際例
2 緑化樹木　針葉樹 （種類・特性）
3 緑化樹木　広葉樹１（種類・特性）
4 緑化樹木　広葉樹２（種類・特性）
5 緑化樹木　広葉樹３（種類・特性） 1 都市における実際例
2 緑化樹木　針葉樹 （種類・特性）
3 緑化樹木　広葉樹１（種類・特性）
4 緑化樹木　広葉樹２（種類・特性）
5 緑化樹木　広葉樹３（種類・特性）
6 緑化樹木　低木１（種類・特性）
7 緑化樹木　低木２（種類・特性）
8 緑化樹木　低木３（種類・特性）
9 緑化植物（草本類・地被植物）
10 緑化樹木生産の実際
11 維持管理技術・樹木の病虫害
12 増殖技術
13 移植技術
14 剪定枝などの有効利用
15 都市緑化の可能性
6 緑化樹木　低木１（種類・特性）
7 緑化樹木　低木２（種類・特性）
8 緑化樹木　低木３（種類・特性）
9 緑化植物（草本類・地被植物）
10 緑化樹木生産の実際
11 維持管理技術・樹木の病虫害
12 増殖技術
13 移植技術
14 剪定枝などの有効利用
15 都市緑化の可能性

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J60096001
科目名	都市排水廃棄物論	単位数	2
科目名（英語表記）	Urban Drain Water		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	普段私たちが使っている水はどこからきてどこに行くのか。また、ゴミはどこからきてどこに行くのか。このような普段の生活の中で、無意識のうちに当たり前のように使っている水と物質に着眼し、その流れを追跡しながら、都市での排水、廃棄物の問題を掘り下げ、どこに問題が潜んでいるのかを探る。亀岡市の水と廃棄物に関する施設を実際に訪問することなどを通じて課題を認識し、KJ 法などのグループ間でのディスカッションによりさらに掘り下げる。さらに、20 世紀末に進んだ大量生産、大量消費、大量廃棄の時代からこれからの私たちの社会のあり方を学ぶ。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、演習用のプリントを配布する		
教材（参考文献）	下水道バランスシート　北斗出版 発想法　創造性開発のために　中公新書 PCM 手法に基づくモニタリング・評価　財団法人　国際開発高等教育機関		
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、ビデオ上映など		
評価方法	講義中に複数回、確認テストを実施する。確認テストの実施時期は未定である。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストの合計点と平常点の総合的な評価とする		
到達目標	都市の排水廃棄物に関する問題抽出手法について理解すること		
準備学習	都市の中の排水や廃棄物は身近な問題でもあるので、家庭や地域において関心を高めるようにすること 確認テストはそれまでの講義内容の理解度を確認するものであり、理解が不十分な箇所に関して、翌週フィードバックにより復習を行うこととする。		
受講者への要望			
毎週授業内容の確認小テストを実施するので、授業には毎回出席すること			
講義の順序とポイント			
1. 都市排水廃棄物論の概要 2. 都市における排水の状況 3. 都市排水の処理 4. 都市における廃棄物の状況 5. 都市廃棄物の処理 6. フィールドワーク 1 7. フィールドワーク 2 8.フィールドワーク 3 9. 江戸時代のリサイクル社会 10. 現代の資源の再利用 11. 自然の力を生かした排水処理 12. 下水汚泥の再利用 13. PCM 手法の解析 14. PCM 手法の実施 15. PCM 手法の発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J60097001
科目名	都市環境解析学	単位数	2
科目名（英語表記）	Analysis of Urban Environments		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	都市環境診断学
講義概要	本講義では、都市環境を診断する上でのツールとして地域統計学を学ぶ。最初に、統計の基礎的な理論から始まり、グラフ表現、重要な統計解析手法の概念と応用例を学習する。解析結果に関しては地理情報システム（GIS）と連携させた表現方法を習得する。その後、実際の地域をケーススタディとして取り上げて、統計的な手法により地域特性分析を行う。また、集落診断として、亀岡のいくつかの集落をフィールドサイトとして、質問表の作成方法などを学びながら、集落の総合的な診断へとつなげる。春学期の都市自然化デザイン論（フィールドワーク）とも関連が深いので合わせて受講することが望ましい。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントを配布する		
教材（参考文献）	環境統計学入門　オーム社 多変量解析の実践　上下　現代数学社 統計解析の話　東京図書 分散分析の話　東京図書		
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	講義中に複数回、確認テストを実施する。確認テストの実施時期は未定である。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストの合計点と平常点の総合的な評価とする		
到達目標	都市環境や持続可能な社会に関する指標について理解し、グループ単位でのフィールドワークと発表が行うことができることを目標とする		
準備学習	都市の問題に関しては新聞やテレビその他のメディアに登場する頻度が高いので、アンテナを立てて関心を高めておくこと。確認テストはそれまでの講義内容の理解度を確認するものであり、理解が不十分な箇所に関して、翌週フィードバックにより復習を行うこととする。		
受講者への要望			
フィールドワークはグループ単位で実施する。グループリーダーはその後パワーポイントで教室にて発表をする。			
講義の順序とポイント			
1.統計の基礎理論その 1 2.統計の基礎理論その 2 3.地域における統計データの種類 1 4.地域における統計データの種類 2 5.統計データの表現手法（可視化）その 1 6.統計データの表現手法（可視化）その 2 7.可視化されたデータから地域特性分析手法その 1 8.可視化されたデータから地域特性分析手法その 2 9.サンプリングによる調査手法 10.アンケート調査の設計 1 11.アンケート調査の設計 2 12.多変量解析その 1 実習 13.多変量解析その 2 実習 14.数量化理論その 1 実習 15.数量化理論その 2 実習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J60098001
科目名	ランドスケープデザイン実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental design studio: Urban landscapes		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	都市自然化デザイン演習
講義概要	都市域から里地、山地にわたる、自然と文化のおりなす美しいランドスケープの保全／再生／創造の「計画」「設計」「施工」「マネジメント」がランドスケープ・アーキテクトの仕事です。この授業では、そのなかでもデザインの領域について、実際の空間を対象に行うデザイン・スタジオです。 初めて空間のデザインを行う学生を対象とし、設計のための基礎知識や技術の習得のほか、空間デザインの役割や意義、よい空間のデザインとは何なのかを学習します。 そのために、デザイン・サーベイを行って空間の把握と評価の方法、自分の考えを表現します。さらに、優れた作品や風景のクイックスケッチをいくつか行いつつ、具体的な空間を対象に、敷地計画の分析・評価し、そこをデザインします。まず、デザインコンセプトを検討し、その具体化の方法を検討し、その表現方法を検討し、作品に仕上げ、合評会で各自が自分の作品のプレゼンテーションと他の作品の批評を行います。模型も表現手法としてのみならず、重要なデザイン検討手段としても取り組みます。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	森本幸裕・白幡洋三郎編著『環境デザイン学：ランドスケープの保全と創造』朝倉書店（比較流域景観論と共通） RLA ガイドブック出版の会『ランドスケープアーキテクトになる本』 都田徹・中瀬勲著『アメリカンランドスケープの思想―ランドスケープ・デザインを志す若人へのメッセージ』鹿島出版会 八木健一『はじめてのランドスケープデザイン』学芸出版		
教材（その他）			
評価方法	皆勤出席が前提（無届欠席の場合は成績評価しない）。課題提出作品とプレゼンテーションで評価。		
到達目標	身近なランドスケープ・デザインが提案できるようになること。		
準備学習	１）Youtube のリンク　I want to be a Landscape Architect {http://www.youtube.com/watch?v=zbx3FDDNeQM} をじっくり見て、モチベーションを高めておく。 ２）スケッチブック（A3 サイズが挟めるように、F６号）を購入し、気に入った風景や空間のスケッチと特徴の記述の練習をする。（授業でも使います） ３）樹木や草に親しみ、名前や性質を勉強し、育ててみる。		
受講者への要望			
「比較流域景観論」とあわせて受講することが望ましい。ランドスケープ関係への進学・就職、およびランドスケープデザイン研究室への分属を考えている学生は、ぜひ受講してください。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス、ランドスケープ入門、クイックスケッチ、製図の方法 ２．クイックスケッチ１, desk crit ３．デザイン・サーベイ（１：穴太寺） ４・デザイン・サーベイ（２：京都駅ビル） ５．デザイン・サーベイ・レポート作成 ６．クイックスケッチ２, desk crit、デザイン敷地調査、敷地分析結果の空間的表現 ７．クイックスケッチ３, desk crit、コンセプトづくり ８．エスキース：コンセプトの具体化 ９．平面図とスタディ模型を用いた発表、改善点の洗い出し １０．クイックスケッチ４, desk crit、デザインの精製 １１．クイックスケッチ５, desk crit、デザインの精製 １２．プレゼン資料作成			

１３．プレゼン資料作成
１４．合評会
１５．ポートフォリオ作成・提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J60099001
科目名	環境地球科学演習	単位数	2
科目名（英語表記）	環境地球科学演習		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	地球科学は自然科学，特に物理・化学などの分野を基礎として自然体系を構成する総合科学である。したがって，自然の総合的体系の精確な理解のためにはまず最初に物理・化学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では自然科学の体系の中で地球科学の基礎となる岩石，鉱物，結晶，地質，地史などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・実験を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．岩石（1）：火成岩
2．岩石（2）：堆積岩
3．岩石（3）：深成岩
4．鉱物（1）：造岩鉱物
5．鉱物（2）：偏光顕微鏡
6．鉱物（3）：ケイ酸塩鉱物
7．結晶（1）：結晶格子
8．結晶（2）：結晶系
9．結晶（3）：結晶光学
10．地質（1）：地形
11．地質（2）：地層
12．地質（3）：地質構造
13．地史（1）：化石
14．地史（2）：地質年代
15．地史（3）：放射年代

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J60105001
科目名	バイオマス概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Biomass		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	今日の私たちの生活は、再生不可能な資源である化石資源（石油、石炭、天然ガスなど）に大きく依存しており、このことが、地球の温暖化や大気汚染、水質汚染など、様々な環境問題を引き起こしている。さらには、私たちの生活を支える基盤であるこのような資源が、近い将来に枯渇することが確実視されており、現在のような大量生産、大量消費の生活様式はやがて破綻する。また、原子力で生産する電気に頼るのも、災害の危険性や使用済み核燃料の処分の困難さなど、多くの問題を抱えている。一方、古来より人類は、樹木や草木（イネ、麦、野菜など）を、食料、原材料、エネルギー源として利用してきた。これらは、太陽エネルギーを利用して育った生物であり、持続的に再生可能な資源である。この講義では、人類の生存を支えてきた生物システムの全体像を、地球規模での物質循環という視点から説明し、生物由来の再生可能な資源（バイオマス）の利用のあり方や、環境問題およびエネルギー問題を考えるための基礎的な事項を講義する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	金川貴博著『ありがとう、微生物たち』東洋書店、2,200 円＋消費税		
教材（その他）	プリントを配布する		
評価方法	期末試験（70 点）、適宜行う小テスト（30 点）		
到達目標	人類の生存を支える生物システムを理解し、そこから環境問題およびエネルギー問題を自らの視点で考えられるようにする。		
準備学習	講義の終了時に次回の講義の資料を配布するので、読んでおくこと。復習をしっかりと行うこと。		

受講者への要望

黒板やスライドの文字を書き写すだけでなく、話を聞きながらメモをとること

講義の順序とポイント

1．バイオマスを有効利用していた昔の生活と、ナウル共和国（資源枯渇の 10 年前から対策を打ち始めたが失敗した）の事例
2．自然界での食物連鎖と物質の循環。生物の生育に必須である水の循環。
3．地球規模での酸素と炭素の循環。有機物の生産と消費。
4．地球規模でのリンの循環：リンの循環での生物の大きな役割
5．地球規模での窒素の循環（1）：窒素循環の全体像
6．地球規模での窒素の循環（2）：窒素循環の個別の解説
7．地球規模での窒素の循環（3）：過剰な窒素化合物の害と窒素化合物の処理
8．地球規模での物質循環のまとめ
9．バイオマス利用の長所と欠点
10．バイオマスの利用技術の概要（1）：炭化、化学的ガス化、メタン発酵
11．バイオマスの利用技術の概要（2）：エタノール発酵の方法
12．バイオマスの利用技術の概要（2）：バイオエタノール・バイオディーゼルの製造
13．バイオマスの利用技術の概要（3）：堆肥化の方法
14．バイオマスの利用技術の概要（4）：堆肥の効能。堆肥化の利点と欠点。
15．バイオマス利用の将来性

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J60106001
科目名	環境化学演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	バイオマス材料プロセス工学Ⅰ
講義概要	バイオマスの利用に伴って生じる廃水の処理について講義する。バイオマスの利用技術については、そこから生み出されるプラス面だけが強調されて、廃水処理まで含めた全体像が語られていないケースが多くあり、実際に利用しようとすると、かえって資源の無駄使いになるようなことが起こる。利用技術を考えるには、利用によって生じる廃水や廃棄物の後始末まで含めた総合的な考察が必要である。この講義では、廃水処理についての基本的な技術を講義することによって、人類の生存を持続可能ならしめる資源利用のあり方や、環境問題を考えるための基礎的な知識を習得させる。		
教材（テキスト）	金川貴博著『ありがとう、微生物たち』東洋書店、2,200 円＋消費税		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを必要に応じて配布する		
評価方法	期末試験（60 点）、適宜行う小テスト（40 点）		
到達目標	廃水処理の方法を理解する		
準備学習	教科書の該当部分を事前に読んで、理解しておくこと。また、教科書に記述されていない内容については、プリントの配布などに行って、事前に勉強をするための材料を与える。		
受講者への要望			
黒板やスライドの文字を書き写すだけでなく、話を聞きながらメモをとること			
講義の順序とポイント			
１．バイオマスの利用に伴う廃水や廃棄物の後始末と環境基準 ２．BOD の定義と測定方法（教科書 p.14-22 および p.31-32） ３．希釈と濃度計算の基本。BOD の算出方法。 ４．COD の定義と測定方法 ５．廃水の処理方法の概要：物理化学的方法、生物学的方法 ６．生物学的廃水処理方法の基本（p.23-31） ７．活性汚泥法（p.32-36） ８．活性汚泥を構成する微生物（p.36-39 および p.146-148） ９．微生物の生態（p.148-171） １０．活性汚泥装置の設計の基本：滞留時間、負荷、BOD 除去率 １１．その他の廃水処理方法（p.49-52） １２．メタン発酵（バイオガス生産）法の概要（p.54-66） １３．メタン発酵装置の設計の基本 １４．バイオマス利用プロジェクト事例 １５．バイオマス利用の課題：コストの問題、技術の問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60107001
科目名	バイオマスプロセス工学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomass Processing Technology		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	環境への関心の高まりと共にバイオマスの資源としての価値が再評価されてきている。この講義では、バイオマスとは何なのかという基本的なことを理解したうえで、今までどのように使われてきたのか、どのように変換されるのかということを説明する。特に、農業への利用という点を重視し、生物学的変換の代表的な例である堆肥化を中心に講義を行う。さらに、バイオマスタウンに代表されるバイオマス利用の事例を挙げながら、そこで用いられている技術について触れる。そのうえで、バイオマス利用の問題点を認識し、将来の利用について考える。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	アルバート・ハワード著　『農業聖典』　日本有機農業研究会 藤田賢二著　『コンポスト化技術』　技報堂出版		
教材（その他）	なし		
評価方法	講義内の課題等（60%）、定期テスト（40% ）		
到達目標	バイオマスがどのようなものか、なぜ注目されているのかを理解する。 バイオマスの生物化学的変換技術（特に堆肥化）について理解を深める。 現在行われているバイオマス利用の問題点を整理した上で、新しい提案をできる力を身に付ける。		
準備学習	毎回講義ののちに講義内容を自分なりにまとめておく。提出を求めることもある。 講義終了時に課題を課されたときは、資料を探して読むなどの予習を行う。		

受講者への要望

バイオマスの利用に関する新聞記事やニュースなどを探して読み、自分が特に関心を持つバイオマス利用を見つける。

講義の順序とポイント

1. バイオマスとは何か、環境問題とバイオマス
2. 里山のバイオマスの特徴（気候・分布・材料特性）
3. バイオマス利用の歴史（食品・材料・エネルギー）
4. バイオマスの変換方法１　熱化学的変換
5. バイオマスの変換方法２　生物学的変換
6. 微生物・酵素の働き
7. 農業におけるバイオマス利用
8. 堆肥化１　堆肥化の原料と生成過程
9. 堆肥化２　製品化と施用効果
10. バイオマスの農業利用の事例１　亀岡カーボンマイナスプロジェクト
11. バイオマスの農業利用の事例２　生ごみ堆肥化
12. バイオマスタウンの事例　エネルギー生産
13. 海外でのバイオマス利用の事例（北欧・欧州）
14. バイオマス利用の問題点と今後
15. バイオマス利用の提案

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J60109001
科目名	バイオマス科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomass Science		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	バイオマス資源材料学
講義概要	バイオマスの中で木質系のバイオマスの占める割合は高い。特に樹木は重要なバイオマスである。樹木の組織のほとんどは細胞壁である。木材の一般的な性質は細胞壁の構造や成分によるところ多い。樹木には大きく分けると針葉樹と広葉樹が存在するが、両者には概観のみならず細胞組織に大きな違いがあり、木材の性質に影響を与えている。本講義では針葉樹材、広葉樹材の比較をしながら、木材の理解に必要な生物学的・物理学的・化学的性質を解説する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	古野毅・澤辺攻編　『木材科学講座 2 組織と材質』 海青社 高橋徹・中山義雄編　『木材科学講座 3 物理』　海青社 城代進・鮫島一彦編　『木材科学講座 4 化学』　海青社		
教材（その他）	なし		
評価方法	小テスト（50%）、定期テスト（50% ）		
到達目標	木本植物の特徴を理解する。 針葉樹および広葉樹の構造の違いを理解する。 細胞壁の成分を理解する。 構造や成分がどのような特性と関係するかが説明できる。		
準備学習	初日の講義が始まるまでに、針葉樹材や広葉樹材がどこに利用されているかを考えて、特徴を推測しておく。平時の講義の際は、予習よりも復習を行う。具体的には、講義のテーマごとに、針葉樹の特徴と広葉樹の特徴、木材として共通の特徴を分類してまとめておく。最終的に組織、化学成分、物理特性の横の関係がつながるようにする。		
受講者への要望			
受講中に、常に「針葉樹」「広葉樹」の類似点や相違点を整理しておくこと。 ３回生秋学期配当のバイオマス実験の受講を希望する人は受講すること。			
講義の順序とポイント			
1.　樹木の概観構造 2.　木本植物の植物学上の分類 3.　針葉樹の細胞 4.　広葉樹の細胞 5.　その他の木化植物の細胞 6.　伸長生長と二次肥大生長 7.　細胞壁の構造　（一次壁と二次壁） 8.　特殊な細胞壁（あて材） 9.　糖科学の基礎（多糖と単糖） 10.　細胞壁の主要 3 成分 1　セルロース 1（分子構造・立体配座・立体配置） 11.　細胞壁の主要 3 成分 1　セルロース 2　（水素結合） 12.　細胞壁の主要 3 成分 2　ヘミセルロース　（化学構造） 13.　細胞壁の主要 3 成分 3　リグニン　（前駆体物質・合成過程） 14.　木材の三大欠点－燃える・狂う・腐る－　（水分と物理的性質） 15.　木材の物理特性　（力学的特性）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60110001
科目名	バイオマスエネルギー工学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomass Energy Technology		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	バイオマスエネルギー学
講義概要	現在のエネルギー事情から、バイオマスエネルギーが注目される理由を理解する。過去にすでに利用されているバイオマスエネルギーから現在研究途上のバイオマスのエネルギー変換までその原理を解説する。特に、発電についてはバイオマスに限らず、自然エネルギーや原子力などについても触れ、これからのエネルギーのあり方について考える。さらに環境問題を考えるうえで、物質変換やエネルギーの原理を知ることは重要であるので、基本的となる熱力学の法則について講義を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	横山 伸也・芋生 憲司　著　『バイオマスエネルギー』　森北出版　2730 円		
教材（その他）	なし		
評価方法	定期テスト（100% ）		
到達目標	エネルギーは形が変化するだけで、量が変化しないこと（熱力学の法則）を理解する。 同じ量のエネルギーであっても質のよいものと悪いものがあること（熱力学の法則）を理解する。 バイオマスのエネルギー利用において、水の存在の重要性を理解する。 基本的な変換である熱化学的変換と生物学的変換の特徴を理解する。		
準備学習	講義が始まる前に、物理学や化学で使用する単位について予習をしておく。 毎回の講義については、予習ではなく復習を中心としノートの整理を行う。 秋学期を通して、参考文献や他のバイオマスに関する書籍あるいは新聞や雑誌を読み、どのような利用法があるのかの情報を集める。また、熱力学（特にエントロピー）に関する読み物（例えばエントロピーの科学コロナ社）などを読む。		

受講者への要望

バイオマス料学を受講していることが望ましい。

講義の順序とポイント

1. エネルギーとは何か、一次エネルギーと二次エネルギー
2. 現在のエネルギー事情（エネルギー白書から）
3. 新エネルギー政策とバイオマスの種類
4. バイオマスの性質と発熱量（HHV）（LHV）
5. バイオマス変換法、燃焼木質資源
6. 熱化学的変換１　基本性質、熱分解・ガス化
7. 熱化学的変換２　物質の状態図と超臨界分解
8. 生物学的変換１　メタン発酵・水素発酵
9. 生物学的変換２　バイオエタノール（SSF、SHF、CBP）
10. その他の変換　脂質の化学とバイオディーゼル
11. 発電原理とバイオマス発電
12. 太陽光発電（半導体の利用例）
13. エネルギー科学の基礎 1　エネルギー保存則
14. エネルギー科学の基礎 2　熱効率
15. エネルギー科学の基礎 3　エネルギーの質

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J60112001
科目名	バイオマス実験	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Biomass		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	バイオマス実験B、バイオマスエネルギー実験
講義概要	木質バイオマスの一般的な成分分析を通して、木質バイオマス、特に針葉樹と広葉樹の相違点を理解する。バイオマス科学の講義内容を実験を通じて、理解を深めていく。また、バイオマスエネルギー工学の講義で紹介するバイオマスの生物学的変換過程において、重要な役割をする酵素について実験を通して理解をする。具体的には全体を三部に分けそれぞれ、一部:酵素活性測定、二部:木材の成分分析、三部:木材の組織観察を行う。		
教材（テキスト）	実験書（実験初日に配布）		
教材（参考文献）	古野毅・澤辺攻編　　『木材科学講座 2 組織と材質』 海青社 城代進・鮫島一彦編　『木材科学講座 4 化学』　海青社		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	木材の分析法を学び、木材の成分に対する理解を深める。酵素反応実験を通して、実験操作を習得するとともに酵素の性質を理解する。 永久プレパラートの作り方や顕微鏡の扱い方を習得する。 実験の方法を順序立てて説明することができる。 得られた実験結果を適切に処理し、得られた内容を考察することができる。		
準備学習	必ず実験の予習をし、手順を実験ノートに簡単にまとめる。次週までに実験のデータの整理をしながら理論の復習をし、レポートを作成する。		

受講者への要望

バイオマス科学を受講していることが望ましい。
実験用のノート（ルーズリーフは不可）を用意すること。実験中は白衣を着用すること。
実験に積極的に参加すること。
実験で得られたデータをしっかりと解析した上でレポートを作成すること。「提出さえすればいい」わけではないことを理解しておく。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス　注意事項
2. 酵素反応実験 1　示適条件測定 1
3. 酵素反応実験 2　標準溶液の調整
4. 酵素反応実験 3　示適条件測定 2
5. 酵素反応実験 4　複数のセルラーゼ活性の比較
6. 酵素反応実験 5　ろ紙崩壊活性測定
7. 一般木材分析 1　含水量、灰分量の測定
8. 一般木材分析 2　有機溶媒抽出物の定量
9. 一般木材分析 3　リグニンの定量
10. 一般木材分析 4　ヘミセルロースの定量
11. 一般木材分析 5　セルロースの定量
12. プレパラートの作製
13. 組織の観察 1　針葉樹
14. 組織の観察 2　広葉樹
15. 組織の観察 3　草本類

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J60113001
科目名	環境アセスメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Assessment		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	環境アセスメントは大規模な開発事業が周辺の環境に及ぼす影響について事前に調査・予測・評価し、影響を未然に防止するための仕組みである。最初に環境問題の歴史的な経緯を含めて環境アセスメント制度がどのように発展してきたかその概要と課題を学ぶ。次に、環境アセスメントを進めるに際して必要となる、地形、気候、陸水と海洋などに関する基本事項を理解するとともに、環境保全計画、環境モニタリングの手法について学ぶ。最後に、近年多発する自然災害の状況とその防止策への環境配慮に関しても学ぶ。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントを配布する		
教材（参考文献）	環境アセスメント学の基礎　恒星社厚生閣 環境アセスメント（改訂版）　財団法人　放送大学教育振興会		
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	講義中に複数回、確認テストを実施する。確認テストの実施時期は未定である。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストの合計点と平常点の総合的な評価とする		
到達目標	環境アセスメントの概念と調査に必要となる自然と環境の基礎について理解する		
準備学習	環境アセスメントはダムや道路などの公共事業のあり方と密接に関連づいているので、政治や経済の動向にも関心を寄せること。		
受講者への要望			
講義以外の時間にビデオ学習などがあるので積極的に参加すること			
講義の順序とポイント			
1 .環境境問題の変遷 2 .環境アセスメントの概要 3. 環境アセスメントの手法・課題 5. 地域の概況の項目と調査手法 6. 地形・地質・地盤の調査手法 7. 25000 分の 1 地形図の読み方 8. 気象・気候の調査手法 9. 河川・湖沼などの陸水と海洋の調査手法 10. 植生図の読み方と植生調査の手法 11. 動物の調査方法 12. 環境保全計画の立て方 13. 環境モニタリングの手法 14. 近年の自然災害の状況 15. 自然災害の対策への環境配慮			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J60114001
科目名	環境アセスメント演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Environmental Assess ment		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	本講義では、地理情報システム(GIS:Geographical Information System)の理論と実際の使い方を学ぶ。GIS は環境アセスメントの実践の中でも広く使われてきているが、防災、教育、マーケティングなど、その他の分野でも幅広く利活用が進んでいる汎用的な意思決定のためのツールである。最初に GIS の理論を講義形式で学び、次に GIS のソフトウェアを 3Ｆ のパソコンルームで実際に起動させることによって、基礎から応用まで体感的に理解し、自由に操作できるレベルを目指す。その際、日本国土の生活、社会、自然などに関する空間データの利用方法、表現の仕方についても習得する。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、演習用のプリントを配布する		
教材（参考文献）	ARCGIS　Desktop 逆引きガイド　ＥＳＲＩジャパン株式会社　著 ARCGIS10　PART1　身近な事例で学ぼう　古今書院		
教材（その他）	GIS 演習データ、適宜プリントを配布、パワーポイントなど		
評価方法	講義中に複数回、レポートの提出を実施する。レポートの合計点と平常点の総合的な評価とする		
到達目標	環境アセスメントにおける GIS など空間情報の解析ツールの操作方法を習得する		
準備学習	R ドライブや U ドライブなど、コンピュータの基礎的な事項を十分に理解しておくこと。レポートはそれまでの講義内容の理解度を確認するものであり、理解が不十分な箇所に関して、翌週フィードバックにより復習を行うこととする。		

受講者への要望

授業の後半は 3 階の PC ルームにて実施するので PC 操作に慣れておくこと。
なお、春学期の環境アセスメントの単位を取得していることと、スマートフォンを講義で使うので、スマートフォンを所有することを履修登録の条件とする。また、この演習は ARCGIS のライセンスの関係から 50 名を限度とする。50 名を超える場合は、上回生を優先し、２回生に関しては抽選とする

講義の順序とポイント

1. GIS とはどのような概念か（講義）
2.GIS の発展経緯と活用事例（講義）
3. 25000 分の 1 の地図の読み方 1（講義）
4.25000 分の 1 の地図の読み方 2（実習）
5.カシミールと地形図・空中写真の操作方法 1（講義）
6.カシミールと地形図・空中写真の操作方法 2（実習）
7. カシミールと地形図・空中写真の操作方法 3（実習）
8.GIS の基本的な操作方法 1（実習）
9. GIS の基本的な操作方法 2（実習）
10. GIS の基本的な操作方法 3（実習）
11. Collector による地域調査手法 1（講義）
12. Collector による地域調査手法 2（実習）
13. Collector による地域調査手法 3（実習）
14. Collector による地域調査手法 4（実習）
15. Collector による地域調査手法 5（実習）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J60115001
科目名	環境リスクマネジメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Risk Management		
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	環境リスクマネージメント
講義概要	現実に直面している環境、あるいは健康に対するリスクをまちがいなく認識し、いかに定量的に評価し、いかに削減し、あるいは回避できるかを検討するため、いくつかの毒性リスク、発ガンリスク、あるいは生態系へのリスクを具体的事例として取り上げ、環境リスクの評価の手法、およびリスクマネジメントの手法について検討する。		
教材（テキスト）	テキストは使用せず、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	化学物質評価研究機構著　「化学物質のリスク評価がわかる本」　丸善出版 吉田喜久雄，中西準子著　「環境リスク解析入門」　東京図書 浦野紘平，松田裕之共編　「生態環境リスクマネジメントの基礎」　オーム社 松田裕之著　「生態リスク学入門：予防的順応的管理」　共立出版 その他、講義の中で適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	出席状況、受講態度等による平常点(30%) 定期テスト(70%)		
到達目標	現実に直面している環境、あるいは健康に対するリスクをまちがいなく認識し、定量的に評価した上で、いかに削減し、あるいは回避するかを実現する力をつける。		
準備学習	翌週の講義内容に関わる資料を、京学なびの「授業資料」にアップロードするので、プリントアウトして事前に読み、専門用語などを理解しておくこと。また、復習課題を京学なびの「課題提出」に提示するので、指定期日までに京学なびの「課題提出」に提出すること。		
受講者への要望			
環境問題に関するさまざまの現象について、日常的に幅広くアンテナをひろげておくこと。 科学的根拠に基づくリスクの評価・管理方法について深く考えること。			
講義の順序とポイント			
1）　環境リスクマネジメントの意義 2）　環境リスク評価の基本的考え方 3）　環境リスクの評価方法：閾値がある場合 1 4）　環境リスクの評価方法：閾値がある場合 2 5）　環境リスクの評価方法：閾値がない場合 6）　リスクのトレードオフ：水道水の塩素消毒による感染症防止 7）　リスクのトレードオフ：水道水の塩素消毒による発ガン性物質の生成 8）　水銀のリスク評価 9）　生態リスクの評価方法 1 １０）　生態リスクの評価方法 2 １１）　外来生物のリスク評価 １２）　生物多様性の喪失と絶滅危惧種 １３）　野生動物の保護と獣害 １４）　リスク管理と生物多様性 １５）　リスクコミュニケーション			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J60116001
科目名	環境リスクマネジメント演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Environmental Risk M anagement		
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	環境リスクマネージメント演習
講義概要	環境リスク評価を定量的、かつ論理的に行うために、具体的事例のいくつかに関して、環境リスクを計算する演習を行い、自分で計算できる能力を習得させる。ついで、学生それぞれに具体的なフィールド（もしくは仮想フィールド）を設定させ、リスク計算を行わせたうえで、リスク削減、リスク回避のためのリスクマネジメントの方策を提案させる。		
教材（テキスト）	テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	講義課題のミニレポート(30%)、課題発表(30%)、課題レポート(40%)により総合的に評価する。		
到達目標	環境リスク評価を定量的、かつ論理的に行えること、また、それらのリスクを削減、あるいは回避するためのリスクマネージメントの方策を提案できる力をつけること。		
準備学習	翌週の講義内容に関わる資料を、京学なびの「授業資料」にアップロードするので、プリントアウトして事前に読み、専門用語などを理解しておくこと。各回の演習で取り組んだ課題については、講義後に京学なびを通じての提出を求める。また、単元の区切りごとに復習のための演習課題を課すので、しっかり復習をしておくこと。		
受講者への要望			
原則として、「環境リスクマネジメント」の単位を修得していることが望ましい。 さまざまな環境問題について幅広く視界をめぐらせ、日常の中で、感覚を鋭敏に研ぎ澄ませておくこと。			
講義の順序とポイント			
1)　環境リスクマネジメントの意義とリスク評価の基本的考え方 2)　現実に起こっている環境リスクを実際に評価してみる（1）二酸化硫黄 3)　現実に起こっている環境リスクを実際に評価してみる（2）ベンゼン 4)　現実に起こっている環境リスクを実際に評価してみる（3）光化学オキシダント 5)　現実に起こっている環境リスクを実際に評価してみる（4）野生生物 6)　それまでに学んだデータ処理方法を応用して、環境リスクを比較する 7)　自分の身近に起こっている具体的な環境リスクの事例を見つけ、演習のテーマとして設定する 8)　設定したテーマに関する現状調査（フィールド調査、聞き取り調査、資料収集など）を実施する 1 9)　設定したテーマに関する現状調査（フィールド調査、聞き取り調査、資料収集など）を実施する 2 10)　調査データについてのリスク評価を行い、問題解決のためのリスクマネジメントの方策を考える 1 11)　調査データについてのリスク評価を行い、問題解決のためのリスクマネジメントの方策を考える 2 12)　調査、研究の成果にもとづいて、レポートを作成する 13)　レポート内容を、パワーポイントを用いて発表する 1 14)　レポート内容を、パワーポイントを用いて発表する 2 15)　レポート内容を、パワーポイントを用いて発表する 3			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J60117001
科目名	環境マネジメント演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篭橋　一輝	旧科目名称	
講義概要	持続可能な発展を実現するためには、人間の経済活動の結果として生じる様々な環境負荷を正しく把握・制御するシステムを、市民・企業・政府が協働して構築する必要があります。本講義では、持続可能性の経済学の知見を活用しながら、持続可能な環境マネジメントシステムを構築するために必要な基礎知識や概念、手法について学びます。また、企業・行政が行っている環境マネジメントの実際についても理解を深めます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回の授業でプリントを配付します。		
評価方法	レポート（70%）と平常点（30%）によって評価します。なお、平常点は各回の授業で受講者に書いてもらうコメントシートの内容に基づいて評価します。		
到達目標	環境マネジメントの基本的な知識を習得し、環境問題を多面的に考える力をつけます。		
準備学習	毎回の授業で配付するプリントの内容を、次回の授業を受ける前に復習すること。		

受講者への要望

原発や再生可能エネルギー、地球温暖化など、私たちの暮らしとエネルギー・環境問題は密接に関連しています。受講者の皆さんには、ぜひ自分の将来に関わる問題の一つとして環境問題を考えて欲しいと思います。日頃から、インターネットや新聞を活用して、自分の興味のある環境問題をフォローしておくようにして下さい。

講義の順序とポイント

講義の計画は以下の通りです。

1．オリエンテーション
2．持続可能な発展の基礎知識（1）
3．持続可能な発展の基礎知識（2）
4．持続可能な発展の基礎知識（3）
5．持続可能な発展と環境倫理
6．自然資本の代替可能性
7．代替不可能な自然資本を考える
8．生物多様性と予防原則（1）
9．生物多様性と予防原則（2）
10．漁業資源と順応的管理
11．環境アセスメント
12．企業の環境マネジメント
13．企業の社会的責任
14．地域住民による環境マネジメント
15．授業のまとめ、レポート提出

なお、受講者の数や問題関心、授業の進捗状況に応じて、講義の内容を変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★★	★

年度	2015	授業コード	J60118001
科目名	化学生態学	単位数	2
科目名（英語表記）	Chemical Ecology		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	本講義では、「生物間で取り交わされる情報化学物質を読み解いて生き物の生態を解き明かす生物学」という見地にたって、生物間相互作用について学ぶ。すべての生物は他の生物との相互作用の中で生活している。ヒトもその例外ではない。相互作用の基本は、食う－食われるという栄養関係にあるが、本講義の中心は、たとえば食物探索に利用される匂いや味といった情報を運ぶ化学物質とその役割について学ぶことにある。すなわち、同種、異種の生物間でやりとりされる生物情報について、情報化学物質とその機能を中心に知識と理解を深める。		
教材（テキスト）	特に定めない		
教材（参考文献）	ハルボーン化学生態文永堂 化学生態学への招待三共出版		
教材（その他）	講義に必要な教材は、１回前の授業終了時に配布する。		
評価方法	期間中および期末のレポート(小論文、4～5 回)に平常点を加味して評価する。 本科目では知識の多寡だけを問わない。知見の整理と情報発信力を中心に小論文形式のレポートで評価し、試験は実施しない。したがって、レポート提出が１回でも滞ると単位認定が危うくなること、認定されてもごく低い評価点にとどまることに留意すること。		
到達目標	自然界における化学物質による生物間の相互作用についての関心を高め、理解を深める。		
準備学習	生物学と有機化学の境界領域である。授業内容の理解に有機化学の知識が不可欠というわけではない。化学の専門知識がなくても、十分楽しめる内容であるが、より深い理解には、有機化学の基本的知識が必要になるであろう。受講中に興味がわき化学的知識の不足を感じることがあれば、化学を学びなおすきっかけにすれば良いではないか。事前に配布した資料をよく読み込んで、興味や質問を整理しておくこと。		

受講者への要望

対象となる生物や現象が非常に多様である。多くの知識を得ることも大切であるが、それ以上に、それぞれの生き物が多様で巧みな生き方をしていることを、だれか他の人にも面白く楽しく語って伝えてほしい。
生物有機化学研究室分属希望の学生は、必ず受講してほしい。

講義の順序とポイント

1. 化学生態学とは
2. 昆虫と寄主植物摂食刺激物質－カイコはなぜクワしか食べないか?－
3. 昆虫と寄主植物植物の有毒物質－カイコはなぜクワを食べられるのか？－
4. アレロパシー植物間の化学的交渉
5. 動物による送粉－ 動物と植物の共進化
6. フェロモン－ 化学物質で交わす言葉
7. 昆虫のフェロモン－ 配偶者探索におけるフェロモンの役割
8. 合成性フェロモンの農作物害虫防除への利用
9. 性フェロモンの化学的解明－ 超微量分析化学
10. 社会性昆虫の化学交信－ アリは化学物質で周りを「見て」いる！
11. 社会性昆虫の化学交信－ ミツバチの不思議
12. 天敵の寄主探索－ 寄主の化学交信に付け込む天敵たち
13. 病原菌から身を守る植物－ 抗菌物質で森林浴
14. 昆虫が誘導する植物の病原菌抵抗性 －ウンカに吸汁されるといもち病に強くなる？
15. 脊椎動物のフェロモン － 哺乳類の複雑さ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	J60119001
科目名	応用微生物学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Microbiology B		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	産業微生物学
講義概要	産業微生物学を取り扱う。 微生物機能を活用するバイオプロセスを使った医薬品･精密化学品･食品の製造について、産業上有用な微生物の探索・機能開発と微生物利用による工業生産の背景･特徴など具体例を提示しながら説明する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	１）応用微生物学　第２版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 ２）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	以下の項目に基づいて評価する。 ・平常点（出席状況などによる）（40%） ・期末試験（60%）		
到達目標	１）微生物利用による工業的生産方法の特徴･利点を理解する。 ２）個々の事例について、産業として成立した時代的背景、社会的要請、技術の優秀性などの観点から理解する。		
準備学習	受講者は「微生物学Ⅰ」、「微生物学Ⅱ」を受講しておくことが望ましい。 講義終了時に次回の範囲のミニレポート課題を指定するので，次回の授業開始時に提出すること。講義中に取ったノートを整理しておくこと，また単元の区切りごとのレポートを課す。		
受講者への要望			
ノートに基づいて講義の内容を要約できるようにしておくこと。 微生物産業についての理解を深めるため、「応用微生物学 A」とあわせて受講することを推奨する。			
講義の順序とポイント			
１） 身近なバイオとものづくり ２） 生命の仕組みの本質的理解とその応用 ３） アルコール発酵 ４） 有機酸発酵 ５） アミノ酸発酵（１） ６） アミノ酸発酵（２） ７） 核酸関連物質（1） ８） 核酸関連物質（２） ９） 抗生物質の発見 １０） 抗生物質の特徴 １１） 抗生物質生産 １２） 生理活性物質 １３） 酵素の発見と酵素産業 １４） 微生物を利用した環境浄化 １５） 世の中に役に立つ微生物			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J6012100A
科目名	専門外書講読 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English A		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	一般化学、有機化学及び生化学の基礎を解説した専門外書（英文）を精読する。外書を講読することによって科学英語に慣れ、科学英語に対する読解力をつけること及び、当該外書に記載されている内容を理解し、将来さらに高度な専門書や論文を講読するために必要な科学的基礎知識を系統的に養うことである。このために秋学期の専門外書講読 B と同じ教科書を使い、両講義の連続性を保ち、科学の基礎に対する系統的な理解と知識の蓄積を図る。		
教材（テキスト）	“General, Organic, and Biochemistry" , Eighth Edition, K.J. Denniston, J.J. Topping and R.L. Caret (McGraw-Hill)		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典　改訂第 3 版（羊土社） 英和辞書		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間試験(20%)、期末試験(40%)、毎回の理解度テスト(20%)、出席状況・受講態度(20%)		
到達目標	科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容を理解できるように、基礎学力をつける。最終的に原著論文を通読できる英語理解力を身につける。		
準備学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

必ず予習をしてくること。 使用する教科書は英語を学ぶために書かれた書ではなく、内容を理解させるために書かれた書である。従って英文読解ばかりでなく記述内容を理解することにも、相当の力を割くことが肝要である。学業は自ら学ぶ意思を持ち、それを実行しなければ身につかない。従って自学自習の意思を持って受講すること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（受講の心構えと勉強法）
2. Protein Building Blocks: The α Amino Acids
3. The Peptide Bond
4. The Primary Structure of Proteins
5. The Secondary Structure of Proteins
6. The Ternary Structure of Proteins
7. The Quaternary Structure of Proteins
8. 中間試験
9. An Overview of Protein Structure and Function
10. Myoglobin and Hemoglobin
11. Denaturation of Proteins
12. Dietary Protein and Protein Digestion
13. Medical Perspective: Collagen, Cosmetic Procedures, and Clinical Applications
14. Medical Perspective: Immunoglobulins: Proteins That Defend the Body
15. Nature Topics

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J6012100B
科目名	専門外書講読 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English A		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	教養レベルの有機化学と生化学の専門外書を精読する。科学論文で汎用される専門用語を学習し、英文読解力を高める。		
教材（テキスト）	『General, Organic, and Biochemistry』 7th edition,　MacGraw Hill		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）、英和辞書		
教材（その他）			
評価方法	以下で評価する。 中間テスト（45%） 定期試験（45%） 訳文の提出と出席率（10%）		
到達目標	英文教科書を読むことによって、専門用語を理解し、内容を把握する。科学論文が辞書を引きながら読んで理解できるようになる。		
準備学習	予習として、テキストの英文とその訳文を並列して、ワード文書で書き、その日の終了時にレポートとして提出する。		
受講者への要望			
予習は必ず行うこととする。必ず予習したこと（和訳）をワードで書き、授業時間に間違った箇所を修正して、終了時に提出することになる。提出しない場合は平常点は 0 である。			
講義の順序とポイント			
第 1 週　ガイダンス（講義の進め方、勉強の方法など） 第 2 週～第 15 週「General, Organic, and Biochemistry」を通して、科学英語の読解力を高める。第 8 週に中間テストを実施する。期末試験は試験期間（定期試験）に実施する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J6012100C
科目名	専門外書講読 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English A		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	科学英語Ⅰ～Ⅳで学習した基礎的な英語力を運用し、バイオサイエンス分野の教科書の英文テキストを精読する。英文法についての理解をさらに深めると共に、分野の専門用語、科学論文の表現法を学習する。		
教材（テキスト）	・プリントを配布する。		
教材（参考文献）	・General, organic and biochemistry, 7th ed. （McGraw-Hill） Denniston, Topping, Caret 共著 ・ライフサイエンス文例で身につける英単語・熟語（河本健，大武博／著　ライフサイエンス辞書プロジェクト／監　Dan Savage／英文校閲・ナレーター　羊土社　2009） ・シグマ基本問題集英文法 新課程版（文英堂編集部　文英堂　2013） （一部の人は科学英語 III で使用したもの）		
教材（その他）	・上記の「ライフサイエンス文例で身につける英単語・熟語」を単語テストの教材とするが、英単語・熟語のリストは配布するので、必ずしも購入する必要はない。 ・英語が苦手な者（自己判断）については、上記の「シグマ基本問題集英文法」を使って課題を与えるので、購入しておくこと。		
評価方法	平常点（毎回の単語テストの成績・宿題の英文和訳の提出）（50%） 期末試験（50%）		
到達目標	3 回生修了時にバイオサイエンス分野の原著論文を通読するだけの英語力を身につけるという目標に向かって、各自の英語力をレベルアップする。		
準備学習	・事前に配布されたプリントについて、単語帳作成、構文解析を行い、翻訳をつけてくること。これを毎回の授業でテストする。 ・次回の授業時の単語テストの範囲の単語を覚えてくること。		
受講者への要望			
英文和訳、単語の暗記を毎回の宿題とする。 英語が苦手な学生は、課題のノートを毎回提出すること。			
講義の順序とポイント			
1) Chemistry (1) 2) Chemistry (2) 3) Chemistry (3) 4) Biochemistry (1) 5) Biochemistry (2) 6) Biochemistry (3) 7) Molecular biology (1) 8) Molecular biology (2) 9) Molecular biology (3) 10) Microbiology (1) 11) Microbiology (2) 12) Microbiology (3) 13) Plant physiology (1) 14) Plant physiology (2) 15) Plant physiology (3)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J60121A0A
科目名	専門演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Scientific Reading A		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためには、まず最初に英語の文章構造の理解と 文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体 例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	萩野　敏　他　著『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法　』改訂版　文英堂　１，６８０円 その他　英和・和英・英英辞典等の英語辞書		
教材（その他）			
評価方法	演習課題（100%）		
到達目標	英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得するとともに，記述された内容に関する問題解決能力向上のための演習を行う。		
準備学習	講義で扱う課題を、京学ナビに授業資料にアップロードするので、事前に読んで、語句等を調べておくこと。講義後に、課題の訳と課題の解法をレポートとして、京学ナビを通じて提出すること。		
受講者への要望			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
講義の順序とポイント			
1．What are the ages? 2．Prove that! 3．Where do you live? 4．Find the positive value! 5．What is the relationship? 6．What is the minimum number? 7．Which lockers? 8．Into how many regions? 9．Can you deduce? 10．Is it possible to tile? 11．What is the speed? 12．When was sunrise? 13．How many steps? 14．What is the length? 15．What is the winning strategy? （進行状況により適宜変更することがある）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J60121A0B
科目名	専門演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Scientific Reading A		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためには、まず最初に英語の文章構造の理解と 文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体 例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	萩野　敏　他　著『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法　』改訂版　文英堂　１，６８０円 その他　英和・和英・英英辞典等の英語辞書		
教材（その他）			
評価方法	演習課題（100%）		
到達目標	英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得するとともに，記述された内容に関する問題解決能力向上のための演習を行う。		
準備学習	講義で扱う課題を、京学ナビに授業資料にアップロードするので、事前に読んで、語句等を調べておくこと。講義後に、課題の訳と課題の解法をレポートとして、京学ナビを通じて提出すること。		
受講者への要望			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
講義の順序とポイント			
1．What are the ages? 2．Prove that! 3．Where do you live? 4．Find the positive value! 5．What is the relationship? 6．What is the minimum number? 7．Which lockers? 8．Into how many regions? 9．Can you deduce? 10．Is it possible to tile? 11．What is the speed? 12．When was sunrise? 13．How many steps? 14．What is the length? 15．What is the winning strategy? （進行状況により適宜変更することがある）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J60121B0A
科目名	専門演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Scientific Reading B		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	萩野　敏　他　著『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法　』改訂版　文英堂　１，６８０円		
教材（その他）	英和・和英・英英辞典等の英語辞書		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得するとともに，記述された内容に関する問題解決能力向上のための演習を行う。		
準備学習	参考文献『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』を熟読しておくこと。講義で扱う課題を、京学ナビに授業資料にアップロードするので、事前に読んで、語句等を調べておくこと。講義後に、課題の訳と課題の解法をレポートとして、京学ナビを通じて提出すること。		
受講者への要望			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
講義の順序とポイント			
1．How many people? 2．How do you do it? 3．What is the smallest possible value? 4．What happened? 5．Can they do it? 6．How many faces? 7．Prove this by induction! 8．What is the largest integer n? 9．Complete the proof! 10．What can you say? 11．Can you do it with a picture? 12．Solve it in a few seconds! 13．What is the length? 14．Determine the minimum perimeter! 15．How high above the floor?			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J60121B0B
科目名	専門演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Scientific Reading B		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	萩野　敏　他　著『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法　』改訂版　文英堂　１，６８０円		
教材（その他）	英和・和英・英英辞典等の英語辞書		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得するとともに，記述された内容に関する問題解決能力向上のための演習を行う。		
準備学習	参考文献『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』を熟読しておくこと。講義で扱う課題を、京学ナビに授業資料にアップロードするので、事前に読んで、語句等を調べておくこと。講義後に、課題の訳と課題の解法をレポートとして、京学ナビを通じて提出すること。		
受講者への要望			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
講義の順序とポイント			
1．How many people? 2．How do you do it? 3．What is the smallest possible value? 4．What happened? 5．Can they do it? 6．How many faces? 7．Prove this by induction! 8．What is the largest integer n? 9．Complete the proof! 10．What can you say? 11．Can you do it with a picture? 12．Solve it in a few seconds! 13．What is the length? 14．Determine the minimum perimeter! 15．How high above the floor?			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J6012200A
科目名	専門外書講読B	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English B		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	春学期の専門外書講読 A に続く科目である。一般化学、有機化学及び生化学の基礎を解説した専門外書（英文）を精読する。外書を講読することによって科学英語に慣れ、科学英語に対する読解力をつけること及び、当該外書に記載されている内容を理解し、将来さらに高度な専門書や論文を講読するために必要な科学的基礎知識を系統的に養うことである。このために秋学期の専門外書講読 A と同じ教科書を使い、両講義の連続性を保ち、科学の基礎に対する系統的な理解と知識の蓄積を図る。		
教材（テキスト）	“General, Organic, and Biochemistry" , Eighth Edition, K.J. Denniston, J.J. Topping and R.L. Caret (McGraw-Hill)		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典　改訂第 3 版（羊土社） 英和辞書		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間試験(20%)、期末試験(40%)、毎回の理解度テスト(20%)、出席状況・受講態度(20%)		
到達目標	科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容を理解できるように、基礎学力をつける。最終的に原著論文を通読できる英語理解力を身につける。		
準備学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

必ず予習をしてくること。 使用する教科書は英語を学ぶために書かれた書ではなく、内容を理解させるために書かれた書である。従って英文読解ばかりでなく記述内容を理解することにも、相当の力を割くことが肝要である。学業は自ら学ぶ意思を持ち、それを実行しなければ身につかない。従って自学自習の意思を持って受講すること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（受講の心構えと勉強法）
2. The Structure of the Nucleotide
3. The Structure of DNA and RNA
4. DNA Replication
5. Information Flow in Biological Systems
6. The Genetic Code
7. Protein Synthesis
8. 中間試験
9. Mutation, Ultraviolet Light, and DNA Repair
10. Recombinant DNA
11. Polymerase Chain Reaction
12. The Human Genome Project
13. Medical Perspective: Molecular Genetics and Detection of Human Genetic Disorders
14. Medical Perspective: Carcinogens
15. Nature Topics

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J6012200B
科目名	専門外書講読Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English B		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	教養レベルの有機化学と生化学の専門外書を精読する。科学論文で汎用される専門用語を学習し、英文読解力を高める。		
教材（テキスト）	『General, Organic, and Biochemistry』 7th edition,　MacGraw Hill		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）、英和辞書		
教材（その他）			
評価方法	以下で評価する。 中間テスト（45%） 定期試験（45%） 訳文の提出と出席率（10%）		
到達目標	英文教科書を読むことによって、専門用語を理解し、内容を把握する。科学論文が辞書を引きながら読んで理解できるようになる。		
準備学習	予習として、テキストの英文とその訳文を並列して、ワード文書で書き、その日の終了時にレポートとして提出する。		
受講者への要望			
予習は必ず行うこととする。必ず予習したこと（和訳）をワードで書き、授業時間に間違った箇所を修正して、終了時に提出することになる。提出しない場合は平常点は 0 である。			
講義の順序とポイント			
第 1 週　ガイダンス（講義の進め方、勉強の方法など） 第 2 週～第 15 週「General, Organic, and Biochemistry」を通して、科学英語の読解力を高める。第 8 週に中間テストを実施する。期末試験は試験期間（定期試験）に実施する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J6012200C
科目名	専門外書講読Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English B		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	科学英語 I～IVを総括する科目として、有機化学と生化学の基礎を解説した専門外書（英文）を講読する。科学論文独特の用語や英語表現、関連する文法について学習する。テキストはバイオサイエンス分野の科学的基礎知識を英語で養うのに最適なものである。また当講義は、関連する講義（生化学、有機化学など）と内容の系統的理解を深めることができるため、次学年で取り組む卒業研究および専攻演習の事前学習と位置付ける。		
教材（テキスト）	General, organic and biochemistry （McGraw-Hill）, 8th edition Denniston, Topping, Caret 共著		
教材（参考文献）	英和辞書		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間試験（３０％）、定期試験（３０％）、理解度テスト（３０％）、出席状況・受講態度（１０％）		
到達目標	科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容が理解できるように基礎学力をつける。最終的に卒業研究で必要となる科学原著論文の読解力を身につける。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最初に前回授業内容に係る復習小テスト（単語と和訳）を行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
授業後には復習を行い英文読解の基礎力を確実に身につける。 併せて授業内容と合致する単元を、他の関連する講義（生化学、有機化学など）で使用した教科書等を参考にして内容をより深く理解する。			
講義の順序とポイント			
1. 講義の進め方を説明する。"Lipids and Their Functions in Biochemical Systems"のコラムを読む。 2. Introduction 3. Biological functions of lipids 4. Fatty acids I 5. Fatty acids II 6. Glycerides I 7. Glycerides II 8. 中間試験 9. Nonglyceride lipids I 10. Nonglyceride lipids II 11. Complex lipids I 12. Complex lipids II 13. The structure of biological membranes I 14. The structure of biological membranes II 15. Summary			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J6012300A
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	研究遂行に資する分析技術（原理、用途、操作法など）の紹介や解析技術の習得、自身のテーマに付随した文献情報の紹介を行う。また実験の進捗状況を発表する。また関係する文献の輪読を行う		
教材（テキスト）	教員からの配布資料、および各自が用意する資料。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	演習への出席、受講態度を含め、卒業研究論文及び口頭発表で評価する。		
到達目標	各自が発表することによって、内容の理解が深くなり、実験の進捗報告と相まって、問題点の整理が深まることを期待している。各自の発表と相互の討論を重視する。		
準備学習	各自が資料を読み込み、聞き手が発表内容を理解しやすいように工夫する。		
受講者への要望			
積極的に質問やコメントを行うこと。			
講義の順序とポイント			
春学期（第１回～第１５回） 共通する化学情報や文献情報を共有するために、各自のテーマに関連した文献の輪読、調査内容の発表を行う。 秋学期（第１６回～第３０回） 生物有機化学研究室の基本スキルである有機機器分析に関するデータ解析、テーマに関連した項目の調査および内容発表を持ち回りで順次行う。また、各自が卒業研究の進捗状況の発表を２回程度行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6012300B
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	生体の内外環境変化に応じて遺伝子とその産物である mRNA やタンパク質の発現調節とその制御機構を (1) ゲノムの構造レベル (2) 細胞の分化・発生の時空間的レベル・組織特異的なレベル (3) 情報伝達の経路レベル (4) シグナル伝達に関わる分子レベル (5) その他，関連の生体高分子の複合体構成分子レベルについて， 基本的な専門技法の習熟，専門知識の習得と理解を各自のレベルに応じて，専門課題に取り組む． 研究テーマの理解，課題の設定，実行，解決する能力を育成する． それらとともに、ゼミ参加学生間のコミュニケーションと連帯的な作業環境の構築を築き，社会性を強化する．		
教材（テキスト）	最新の学術雑誌の発表論文や総説を題材として扱う． 春学期は専門分野の概要を把握できる題材を，秋学期は専門分野の優れた英文の論文を題材にする．		
教材（参考文献）	各専門分野の教科書，参考書，辞典など．		
教材（その他）	専門分野の公共データーベースを活用する．		
評価方法	選択課題の理解度，課題の整理，解決手段や技法の理解，成果の理解と分析，結果とその評価について，全体を要約し理解できる能力（50%）と表現力（30%），事後調査や整理（20%）を総合的に判断する。		
到達目標	ライフサイエンス分野の研究の理解と成果を評価できることとさらに応用や発案できる力量を習熟すること． また，学習の終えた領域については，キーワードを整理し，正しく内容を説明できるようにする．		
準備学習	講義概要の（1）から（5）の内容に合わせて，3 回生までに修学したことを整理し，各人の卒業研究に必要な重点項目を理解できていることと，不十分な理解を区別して把握することを事前に準備して，専攻演習に臨むこと．		
受講者への要望			
勤勉に取り組むことと失敗の内容を認識し、同じ失敗を繰り返さないように努力し，常に課題解決に意欲的に研究課題に取り組むこと。　時間の自己管理をしっかりすること。 （具体的には，研究室レベルでの共同時間．卒業研究に向けての自己管理の時間．完全なプラベーとな時間．この 3 種を区別つけて過ごすこと．）			
講義の順序とポイント			
1-2.　ゲノム構造の理解 3-4.　ゲノム構造に関わるタンパク質と複合体 5-6.　ゲノム構造のエピジェネティック変化とは何か 7-8.　初期胚発生の理解と ES 細胞とは 9-10.　細胞分化の制御と組織特異性 11-12. 組織特異的な制御とそれらの維持と破綻 13-14. 細胞外シグナルの種類と受容体 15-16. シグナル伝達経路と関連因子 17-18. シグナルの分子形態 19-20. シグナルの発生と消失と細胞周期 21-22. 新規解析手法の理解 23-24. 地域･個体･組織･細胞･分子レベルでの生物多様性の解析手法 25-26. 病因関連因子の動態と解析法 27-28. 生体の恒常性維持と破綻 29-30. 科学リテラシーと文献･特許などの調査とプレンゼンテーション技法について			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J6012300C
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	清水　昌	旧科目名称	
講義概要	バイオサイエンスの知識と技術で社会に貢献するためには、当該分野に関する幅広い文献・資料を読み解くことが出来るだけの基礎的な読解力、背景知識、及び英語力が必要である。本演習では、各受講生の課題研究のテーマ、および微生物学・応用微生物学分野一般についての文献・資料を題材に、科学的思考や学術論文の様式について学び、科学英語の読解力を養成することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock 微生物学（2003）Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳　オーム社		
教材（その他）	微生物学に関する文献・資料（適宜配布する／自ら収集する）		
評価方法	・ゼミへの取り組み（50%） ・文献・資料の理解度（25%） ・科学英語の読解力（25%）		
到達目標	1）化学、生化学などの基礎知識、ならびに応用微生物学の専門知識が、創造的な研究活動にどのように応用されるのかを理解する。 2）科学英語の読解力を身につける。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
受講生は教員の指導の下、それぞれの課題研究のテーマに関する文献・資料に基づいてグループでディスカッションを行う。主体的な取り組みを要求する。			
講義の順序とポイント			
1）　担当教員による文献・資料の読み方についての講述（1） 2）　担当教員による文献・資料の読み方についての講述（2） 3）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料1） 4）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料2） 5）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料3） 6）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料4） 7）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料5） 8）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料6） 9）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料7） １０）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料1） １１）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料2） １２）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料3） １３）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料4） １４）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料5） １５）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料6）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6012300D
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	各自が分析技術・機能性評価技術（原理、用途、操作法など）の紹介およびテーマおよびテーマに付随した文献情報の紹介を行う。また、実験の進捗の報告を行なう。		
教材（テキスト）	各自資料を準備する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下で評価する。 発表のための準備状況（20%） プレゼンテーション力（20%） 質疑に対する的確な応答（20%） 質疑への参加度（20%） 平常点（20%）：出席状況、受講態度		
到達目標	各自が発表することによって、内容を深く理解する。実験の進捗報告によって、問題点等を理解する。プレゼンテーションにも慣れる。		
準備学習	各自、発表内容を準備し、発表資料とする。		
受講者への要望			
必ず出席すること。発表内容のポイントを理解すること。			
講義の順序とポイント			
春学期（週 1 回） テーマに関連した項目の調査内容の発表を行なう（質疑応答を含めて 45 分程度、各自 2 回。）。 秋学期（週 2 回） テーマに関連した項目の調査内容の発表を行なう（質疑応答を含めて 45 分程度、各自 2 回。）。 各自の実験進捗（10 分、各自隔週に発表）。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J6012300E
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	テーマを決めて、適切な原著論文(できれば英語を母国語とする著者の英語論文)を検索・精選し、それを精読してその内容を理解する。これを取りまとめて研究の背景と目的、実験方法、実験結果の解釈などを要約してレジメを作成し、パワーポイント等も使用しながら紹介する。また紹介した論文をもとに、その分野の研究の展望などについてグループ討論する。これらを通して、問題抽出能力や問題解決能力を養う。また卒業研究をそざいにして研究の取りまとめとプレゼンテーション能力の修得を行う。		
教材（テキスト）	学術雑誌などを適宜指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	演習用教材の理解度・発表・討論への参加状況などから評価する。		
到達目標	植物バイオテクノロジーを支える知識と理論の理解を深め、問題解決能力、取りまとめ能力、プレゼンテーション能力を涵養し、植物バイオテクノロジーの情報を理解、考察、情報発信、評価する力を身に付ける。		
準備学習	事前に参考資料などを提示するので、理解を深めておくこと。また、理解が不足していた点は、再度参考資料などで補足すること。		

受講者への要望

これまで履修してきた講義や実験・実習の内容を、相互の関連性などを意識しながら復習する。英語の教材を使用することが望ましいことから、英語論文に慣れ親しむこと、英語力をつけることに努める。
４年間の総集編として、積極的かつ自発的に取り組むことを望む。

講義の順序とポイント

１．ガイダンスと原著論文の検索法等の実習
２．演習用教材の準備
３．原著論文の構成や論理構成等についての説明
４～３０．原著論文や研究結果等の取りまとめ、紹介、発表、討論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6012300F
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	基本的には、卒業研究として取り組む研究課題に関して、必要となる文献・資料を学ぶことと、各自の研究活動での進捗状況を検討し、卒業研究を立派に完成させるための基礎力を充実させる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	この演習で、如何に積極的に意見を述べ、論を展開できるかを基本に評価する。		
到達目標	卒業研究を立派に完成させるための基礎力を充実させる。		
準備学習	自分が希望する研究テーマに関して、事前に十分な勉強を済ませておく。具体的には、文献・資料について十分な検索を行い、先行研究についてできる限り多くの知見を習得しておくことを求める。		
受講者への要望			
演習、研究に気力を充実させて臨むこと。			
講義の順序とポイント			
1)～30)　卒論研究の各テーマに関連する文献・資料の検討と、研究の進捗状況の検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J6012300G
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	「卒業研究」と一体化させて、都市の自然環境とランドスケープの保全と復元に関する、さまざまな現代的な課題への取組みについて、演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	「卒論研究」と一体的に評価する。平常点（１００％）		
到達目標	課題発見能力を向上させ、取組みの枠組みを構築する能力を高め、自分で新たな課題に取り組む方法が身につく。		
準備学習	ランドスケープとその科学・計画・デザイン・マネジメントに関する参考図書や雑誌、論文などたくさん読むとともに、環境関連の各種報道もチェックし、基礎能力を高めること。		
受講者への要望			
卒業研究の課題設定と遂行にあたっては自主性・自立性を尊重しますが、ゼミの仲間と緊密に協力して進めてください。お互いの効率と向上に貢献するのみならず、幅広いランドスケープ分野の豊かな理解に役立ちます。			
講義の順序とポイント			
１～３回　卒業研究の課題設定について ＜参考＞ ・京都のエコロジカルネットワーク「和の花」プロジェクト ・大阪万博記念公園の森づくりモニタリング ・ビオトープいのちの森のモニタリング ・雨庭（レインガーデン）の計画とデザイン ・樹木医や自然再生士のサポートツール ・宝ヶ池「里山公園」のマネジメント ・癒しのランドスケープデザイン ・UAV を利用した生態系モニタリング ４～７．調査研究方法についての基礎演習 ８～１１．各課題の進捗状況に応じた演習 １２．中間発表 １３～１５．分析評価の手法と取りまとめの指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J6012300H
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	卒業研究をすすめるにあたって必要な、英語文献の読解や、方法論の検討などについて、演習を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	適宜紹介する		
評価方法	卒業研究への取り組みの過程と成果で総合的に判断する。		
到達目標	各自の卒業研究を専門分野の中で位置付け、バイオ環境の実現の上でのどのような意義があるのかを提示すること。		
準備学習	生物学、環境生物学、水圏生態学、生物の生態、生物の多様性、生物の分類、生物学実験、環境生物学実験、流域環境デザイン論、流域環境デザイン演習などの習得が必要。卒業研究に関連する論文紹介、レビューを課すので、日頃から、卒業研究に関連する文献の検索、精読を行い、研究の関連分野に関して幅広い知見を深めること。		
受講者への要望			
課題設定の過程で大いに迷い、勉強してください。選んだ課題を、じっくりとねばり強く追究してください。			
講義の順序とポイント			
客観的な視点で、文献や資料を読解し、議論の妥当性や方法論の妥当性などについて検討する中で、観測事実と向き合い、理解を深める過程について深く検討する。これらの経験をもとに、各自の卒業研究の進め方などについても議論を重ねたい。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6012300I
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	各自が卒業研究で取り組む研究課題を題材に、先行研究の検索と読解、研究課題設定のポイント、フィールド調査やデータ解析の方法論、データの解釈とディスカッション、論文骨子の作成、効果的なプレゼンテーションの手法等に関する基礎知識と応用力を身につけるための演習を行う。		
教材（テキスト）	授業時に配布する。		
教材（参考文献）	「これからレポート・卒論を書く若者のために」　酒井聡樹 著　（2007 年　共立出版） 「これから学会発表する若者のために」　酒井聡樹 著　（2008 年　共立出版） 「論文の教室　レポート作成から卒論まで」　戸田山和久 著　（2012 年　NHK 出版）		
教材（その他）	授業時に配布する。		
評価方法	演習への出席状況、中間発表・最終発表の内容、ディスカッションへの参加状況により総合的に評価する。		
到達目標	先行研究の効率的な検索・収集方法の習得。 関連分野の論文読解力と、未解決の課題を発見する能力の涵養。 データ解析や論文骨子作成に必要な論理的思考力の習得。 効果的なプレゼンテーション技術の習得。		
準備学習	参考文献に挙げた文献を、学期中に熟読しておくこと。		
受講者への要望			
文献紹介、中間発表、最終発表等は、決められた期日に必ず行ってください（締切厳守）。また、他人の発表をよく聴き、積極的にディスカッションに参加してください。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに ２－３．関連分野の論文検索・読解 ４－６．文献紹介 ７－９．研究テーマの設定 １０－１２．フィールド調査手法の検討 １３－１５．中間発表 １６－２０．データ解析手法の検討 ２１－２３．データの解釈とディスカッション ２４－２５．論文骨子の作成 ２６．プレゼンテーションの方法論 ２７－３０．最終発表・総括			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6012300K
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	中川　重年	旧科目名称	
講義概要	1.都市自然化手法 2.里山の管理手法 3.植物の増殖手法 4.ビオトープの評価法 5.林産物の利用実態		
教材（テキスト）	とくに事前準備はしませんが、必要に応じて準備します。		
教材（参考文献）	研究目的に沿った教科書を使います。		
教材（その他）	とくに準備はしません. その 都度必要に応じて用意します。		
評価方法	講義内容の習得・理解度合で評価します。		
到達目標	物事を総合的に分析理解できるようにする。		
準備学習	少なくとも一つの項目について興味を持って主体的に取り組めるようにしてください。毎週順番に発表してもらいますから。発表のための準備をしてください。関連の文献についてはいづれも研究室にありますから。教員の指示で指定された図書を読み込み発表の準備をしてください。		
受講者への要望			
文献などの資料を十分利用できるようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.都市自然化手法　講義と現地調査 3 回 2.里山の管理手法　講義と現地調査 3 回 3.植物の増殖手法　講義と実験 3 回 4.農地と森林の評価法　講義と現地調査 3 回 5.林産物の利用実態　講義と現地調査　3 回			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J6012300L
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の取りまとめに必要となる、文章の書き方、論文のまとめ方に関して書籍の PDF 学習を通じて基本を理解する。また、論文中に使用する地図などの自由に取り扱うことができるよう、地理情報視システム（GIS）の操作方法に関して学ぶ。また、ビデオ学習、書籍の PDF 学習、月 1 回程度のフィールドワークなどを通じて、幅広く知識と経験を積み上げる。現場での調査に必要となるフィールドワークのための、基本的な野外での測定道具の使い方、2 万 5 千分の 1 の地形図の読み方を深める。		
教材（テキスト）	・逆引き ARCGIS　ESRI 社		
教材（参考文献）	フィールドワークは各地の地図と 25000 分の 1 の地形図などを利用する		
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	出席状況・学ぶ意欲・フィールドワーク参加・関連ビデオ学習による総合評価		
到達目標	GIS に関連するデータベースの包括的な理解と現場での環境課題の抽出		
準備学習	環境アセスメント演習などの GIS 学習やこれまでの講義で学んだことをよく理解しておくこと		
受講者への要望			
フィールドワークは、普段歩きなれていない学生には最初体力面でついていけないかもしれないが、徐々にペースアップして慣れるようになってほしい			
講義の順序とポイント			
週に 1 回程度の割合で、ビデオ学習を実施する。ビデオの見て（大学、自宅の双方でみれるように配慮する）概要 200 字、感想 200 字にまとめて、翌週提出する。ビデオの内容は、就活や卒業研究に関連するものを中心に選定し、各人の希望も取り入れる			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J6012300O
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	この演習では，無機系環境材料の開発と応用および資源の有効利用に関する研究に必要な，物質の合成，解析，分析，評価の基礎を理論と実験の両面から学修する。この演習では，結晶合成装置，Ｘ線解析装置，Ｘ線分析装置などを利用した無機系物質に関する研究の基礎を，理論的な面からの系統的な取り扱いについて修得する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　理論・応用　量子力学演習』　共立出版（４，２００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税） 近藤　寛　他　編　『ベーシックマスター　物理化学』　オーム社（４，３００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	量子物理学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・演習・実験，物理化学を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．結晶構造（１） ２．結晶構造（２） ３．結晶構造（３） ４．Ｘ線回折（１） ５．Ｘ線回折（２） ６．Ｘ線回折（３） ７．結晶解析（１） ８．結晶解析（２） ９．結晶解析（３） 10．分子結合（１） 11．分子結合（２） 12．分子結合（３） 13．結晶結合（１） 14．結晶結合（２） 15．結晶結合（３） 16．エネルギーバンド（１） 17．エネルギーバンド（２） 18．エネルギーバンド（３） 19．共有結晶（１） 20．共有結晶（２） 21．共有結晶（３） 22．金属結晶（１） 23．金属結晶（２） 24．金属結晶（３） 25．半導体（１） 26．半導体（２） 27．半導体（３） 28．光学物性（１）			

29. 光学物性（2）
30. 光学物性（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6012300P
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	研究とは何をすることをいうのか、科学的な思考とはどういうものか、最新の研究はどのような形で発表されるのか、どのようにして自分の研究を外部に発表するかを講義する。また、論理的な思考の訓練として、英語で記述された文章を受講者が音読し、日本語に訳す。さらに、受講生が各自の研究テーマの紹介、研究の中間報告、研究の最終段階の報告を行い、その内容について受講者全員で討議する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業のはじめに教材を配布する		
評価方法	受講態度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	自分の研究について、実験結果から論理的に結論を導き出す思考方法と、結果を論文としてまとめる技術を身に付ける。		
準備学習	配布した教材の該当部分を事前に読んで、理解しておくこと。		

受講者への要望

疑問に思うことは、その都度、積極的に発言して、理解を深めるように努めること

講義の順序とポイント

１．研究の基本的なことがら
２．研究論文の書き方の紹介と研究論文の実例紹介
３．配布した英語教材の音読と翻訳　p.1-10
４．配布した英語教材の音読と翻訳　p.11-20
５．配布した英語教材の音読と翻訳　p.21-30
６．配布した英語教材の音読と翻訳　p.31-40
７．配布した英語教材の音読と翻訳　p.41-50
８．配布した英語教材の音読と翻訳　p.51-60
９．各自の卒業研究の研究テーマと進捗状況の紹介（１）
１０．配布した英語教材の音読と翻訳　p.61-70
１１．配布した英語教材の音読と翻訳　p.71-80
１２．配布した英語教材の音読と翻訳　p.81-90
１３．配布した英語教材の音読と翻訳　p.91-100
１４．各自の卒業研究の研究テーマと進捗状況の紹介（２）
１５．配布した英語教材の音読と翻訳　p.101-110
１６．配布した英語教材の音読と翻訳　p.111-120
１７．配布した英語教材の音読と翻訳　p.121-130
１８．配布した英語教材の音読と翻訳　p.131-140
１９．各自の研究の中間報告（１）
２０．各自の研究の中間報告（２）
２１．研究のまとめ方について
２２．配布した英語教材の音読と翻訳　p.141-150
２３．配布した英語教材の音読と翻訳　p.151-160
２４．卒業論文の実例を使った演習（１）
２５．卒業論文の実例を使った演習（２）
２６．配布した英語教材の音読と翻訳　p.161-170
２７．配布した英語教材の音読と翻訳　p.171-180
２８．配布した英語教材の音読と翻訳　p.181-190
２９．各自の研究発表（１）
３０．各自の研究発表（２）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J6012300Q
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	野菜の育種と生産について，まず基礎的な部分を学ぶ．次いで，専門誌等に掲載された新しい知見について自ら学び，理解した点について発表する．後半では各自の卒業論文のためのテーマに関する文献を精読し，発表を行う．		
教材（テキスト）	特に定めない．		
教材（参考文献）	授業時に配布する．		
教材（その他）	授業時に配布する．		
評価方法	日常の達成度により評価する．		
到達目標	野菜の育種と生産技術に関する知見をよく理解する．この知識に基づき，卒業研究を進めてもらいたい．		
準備学習	卒業研究のために実際に野菜を育てているので，その成育等について常に目を配っていることが大切である．		
受講者への要望			
最初は教員が提示する資料に基づき発表を行うが，それに頼ることなく，自ら必要な文献を探す努力をし，それを習慣としてほしい．また，自分が理解したことを他の人に説明するための努力，つまりコミュニケーション力もつけてほしい．			
講義の順序とポイント			
1．野菜の育種に関する問題を検討する／発表 2．野菜の育種に関する問題を検討する／発表 3．野菜の育種に関する問題を検討する／発表 4．野菜の栽培に関する問題を検討する／発表 5．野菜の栽培に関する問題を検討する／発表 6．野菜の栽培に関する問題を検討する／発表 7．野菜の栽培に関する問題を検討する／発表 8．プレゼンテーション技術について 9．論文の取りまとめ方法について 10．卒業論文のテーマに関する論文の内容要約と発表 11．卒業論文のテーマに関する論文の内容要約と発表 12．卒業論文のテーマに関する論文の内容要約と発表 13．卒業論文のテーマに関する論文の内容要約と発表 14．卒業論文のテーマに関する論文の内容要約と発表 15．卒業論文のテーマに関する論文の内容要約と発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6012300R
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	關谷　次郎	旧科目名称	
講義概要	テーマを決めて、適切な原著論文(できれば英語を母国語とする著者の英語論文)を検索・精選し、それを精読してその内容を理解する。これを取りまとめて研究の背景と目的、実験方法、実験結果の解釈などを要約してレジメを作成し、パワーポイント等も使用しながら紹介する。また紹介した論文をもとに、その分野の研究の展望などについてグループ討論する。これらを通して、問題抽出能力や問題解決能力を養う。また卒業研究をそざいにして研究の取りまとめとプレゼンテーション能力の修得を行う。		
教材（テキスト）	学術雑誌などを適宜指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び演習用教材の理解度・発表・討論への参加状況などから評価する。		
到達目標	農業生産をを支える土つくりや病害虫の防除などに関する知識と理論の理解を深め、問題解決能力、取りまとめ能力、プレゼンテーション能力を涵養する。		
準備学習	これまで履修してきた講義や実験・実習の内容を、相互の関連性などを意識しながら復習しておくことが望ましい。また英語の教材も使用することが望ましいので、英語力をつけるよう努めること。		
受講者への要望			
４年間の総集編として、積極的かつ自発的に取り組むことを望む。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンスと原著論文の検索法等の実習 ２．参考にした資料などの適切な引用方法、著作権などについての理解 ３．演習用教材の準備 ４．原著論文の構成や論理構成等についての説明 ５～３０．原著論文や研究結果等の取りまとめ、紹介、発表、討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★★

年度	2015	授業コード	J6012300S
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	科学論文を読むための訓練と、論理的な思考の訓練として、英語で記述された文章を音読し日本語に訳す。また、英語あるいは日本語の論文を深く読み込み、他者への紹介説明を通して、論理的思考力を高め、科学的なものの見方を学び、表現力を高める。 各自の研究テーマの紹介、研究の中間報告、研究の最終段階の報告を行い、その内容についてディスカッションを行い、批判的なものの見方を身に付ける。		
教材（テキスト）	授業のはじめに指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて配布する。		
評価方法	受講態度（５０％）、発表内容（５０％）		
到達目標	日本語および英語の読解力を身につけるとともに、自分の研究を論理的に組立て、考察して卒業論文としてまとめる技術を身に付ける。		
準備学習	中間報告や論文紹介、輪読などの発表の準備を十分に行う。		
受講者への要望			
失敗を恐れずに、積極的に発表や質問をすること。受講態度のみならず生活態度においても、社会人になるという自覚を持って自ら考え行動すること。			
講義の順序とポイント			
１．研究の基本 ２．研究論文の書き方の紹介と研究論文の実例紹介 ３－１０．英語教材の輪読と翻訳と研究の進捗状況報告 １１－１５．日本語あるいは英語論文の紹介 １６－１７．各自の研究テーマの中間報告 １８－２０．英語教材の輪読と翻訳と研究の進捗状況報告 ２１－２５．日本語あるいは英語論文の紹介 ２６－２７．各自の研究テーマの中間報告 ２８－３０．英語教材の輪読と翻訳と研究の進捗状況報告			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★		★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6012400A
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	生物有機化学研究室の卒業研究では、生理活性天然有機化合物の単離構造決定、合成実験及びフェロモン等による化学生態学的研究や行動科学的研究を主として行う。材料としてはハチ類等の昆虫、ダニ、その他節足動物である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業研究論文及び口頭発表で評価するが、日常的な研究態度も評価対象とする。		
到達目標	卒業論文を「緒論、材料及び方法、結果、考察」を含む科学論文として完成させる。		
準備学習	指導者との意思疎通を十分に図った上で、実験前に実施内容を理解し、実験器具、実験材料の準備を行う。安全面に留意して実験を行えるように準備する。また実際のポイントを整理しておく。		
受講者への要望			
毎日決められた時間に登校し、周囲の教員や学生とも協調して実験を進める。就活や欠席などの届けはきちんと行い、社会人になるための訓練と認識して節度ある言動をする。			
講義の順序とポイント			
１－５週　実験テーマの設定 ６－１５週　テーマに関する文献情報や Web 情報の取得、理解 １６－５０週　テーマの取り組み ５１－５８週　卒業論文の作成 ５９－６０週　卒業研究の発表練習および発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6012400B
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	卒業研究の課題はバイオサイエンス分野の中でも (1)　生体内・生体外の環境変化に伴う遺伝子の発現・抑制機構に関して，その分子的な基盤を解明すること。 (2)　ゲノミクス・プロテオミクスによる環境ストレス応答シグナル伝達機構を解明すること。 (3)　遺伝子やタンパク質の構造機能解析のための新たな技法の開発を対象にした課題に取り組む。 (4)　病気の原因解明や健康の維持に関する課題に分子レベルで取り組む。		
教材（テキスト）	最新の学術雑誌の発表論文や総説などの文献や特許申請書類などを有効に利用する。		
教材（参考文献）	ライフサイエンス分野の学術雑誌，技術書，総説，単行書，バイオ関連公共データーベースなどを利用する。		
教材（その他）	関連分野の第一人者の講演やセミナーのほか、関連学会や研究会、セミナーなどからも重要な情報を把握すること。		
評価方法	卒業研究の課題の把握と理解　(20%), 実験計画の策定　(20%), 実験の遂行と結果　(20%) およびその評価　(20%), 他者からの評価を議論できる能力　(10%), 発表表現能力　(10%) などを総合的に評価する。		
到達目標	新規性を追求して、課題に真摯に向かい、オリジナルな卒業論文として完成させること。		
準備学習	研究進行中に遭遇した失敗を一つ一つ反省し，同じミスをくり返さないように事前に心がけ、準備と対策を整えることを習得すること。		

受講者への要望

研究室で求められることは，社会に出ても求められることになります.
大学生活の集大成として与えられた研究テーマに意欲的に取り組むこと.
研究室構成員の一員として，各自が研究活動の遂行と維持に協力し合うこと.
大学院進学希望者は，いつからでも随時個別指導をおこなうので申し出ること.
　各自の進行状況は，随時教員に報告し，事前事後の対策などを議論することで
　各自の課題解決能力を育成することを目指しています。

講義の順序とポイント

主に以下の内容の研究活動をおこなうので，分担以外の他の研究課題にも相互に理解すること.

1-5.　神経疾患（パーキンソン病など）に関与するシグナル伝達因子の機能解析
6-10.　ガン疾患に関与するシグナル因子の機能解析
11-15.　機能性食品成分の機能解析と生体内応答反応因子の探索
16-20.　環境変化に応答する微生物の機能タンパク質の探索
21-25.　特定環境の生態系および生物の多様性（バイオーム）を解析するための環境プロテオミクス
26-30.　脂肪細胞,筋細胞、骨細胞、色素細胞などの分化制御機構の解析
31-35.　脂肪細胞,筋細胞、骨細胞、色素細胞などの分化制御機構におけるエピジェネティクスな変化の解析
36-40.　胚発生時のヌクレオソーム結合タンパク質および複合体の機能解析
41-45.　DNA 修飾パターンと関連タンパク質の修飾反応に関与するタンパク質の機能解析
46-50.　環境因子による発現変化（環境エピゲノム）の解析
51-55.　改変タンパク質の機能変化の評価と構造解析
56-60.　エピゲノムおよび環境プロテオーム解析のための技術評価と開発

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J6012400C
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	清水　昌	旧科目名称	
講義概要	微生物機能開発学領域における課題研究を通して、バイオサイエンスの知識と技術を実践的に修得する。環境と調和した物質生産、未利用資源の有効利用、発酵・醸造における微生物の役割と有用微生物の探索といった問題に関して、（1）微生物相の解析、（2）微生物のスクリーニング、（3）微生物機能の代謝／酵素／遺伝子レベルでの解析、といった実験を行う。これらの研究の成果を卒業論文としてまとめる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock 微生物学（2003）Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳　オーム社		
教材（その他）	先行研究に関する文献（原著論文・総説）など		
評価方法	課題研究と卒業論文について、 次の点で評価する。 ・研究への取り組み（50%） ・バイオサイエンスの知識と技術の修得度（25%） ・卒業論文の論理性（25%）		
到達目標	1）バイオサイエンスの知識と技術の実践を通じた修得。 2）一定の様式に則り論理的に完結した応用微生物学分野の卒業論文（和文）の完成。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
・微生物機能の開発をテーマとした課題研究に受講者一人一人が取り組む。 ・担当教員の指示に従って実験を行い、その成果を卒業論文としてまとめる。 ・1 年間、全力で努力することを求める。			
講義の順序とポイント			
担当教員が個別的な研究指導を随時行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6012400D
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	卒業研究では野菜・作物から低分子成分を抽出・単離し、分析技術を駆使して、それらの成分を同定する。機能性評価技術を通して、機能性のプロファイリングを行う。また、新しい機能性評価方法を確立する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業研究論文およびその口頭発表で評価する。		
到達目標	卒業論文を「緒論、実験方法、結果、考察」を含む科学論文として完成させる。		
準備学習	実験前に実施内容を理解し、実験器具、実験材料の準備を行なう。また、実験のポイントを整理しておく。		
受講者への要望			
毎日 9 時半に研究室にくること。			
講義の順序とポイント			
1．実験テーマの設定 2．テーマに関する文献情報や web 情報の取得、理解 3．テーマの取り組み 4．卒業論文の作成 5．卒業研究の発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J6012400E
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	特定の課題について、その課題に関する研究のレビュー、目的の設定、実験方法の策定、実験の実施、結果のとりまとめと解析・考察し、ついで論文としての取りまとめ、中間検討会や卒業研究発表会で発表を行う。これら一連の卒業研究を行うことを通して課題解決能力を涵養する		
教材（テキスト）	研究の遂行に必要な学術論文や資料などを適宜指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	特定の課題の理解度、実験・研究の実施および取りまとめ･発表などから評価する。		
到達目標	特定の課題について実験的研究を行うことによって、問題点の抽出、課題の設定、実験技法、取りまとめ方などを学びながら、論文として取りまとめ、発表する能力を修得し、理解の深化を図る。		
準備学習	これまで履修してきた講義や実験・実習の内容を、相互の関連性などを意識しながら復習しておくことが望ましい。事前打ち合わせを通じ、参考資料などで課題、実験手法などの確認と理解の深化させること。実験ノートには、事前に実験計画と手順、事後には結果の整理と今後の予定をまとめること。また、課題・実験手順・結果をプレゼン資料とそしてまとめる。		
受講者への要望			
４年間の総集編として、積極的かつ自発的に卒業研究に取り組むことを望む。これまでの学習が不十分であったと思われる場合は、卒業研究を実施する中で実践的に補って欲しい。			
講義の順序とポイント			
特定の課題を設定し、課題に関する研究のレビュー、目的の設定、実験方法の策定、実験の実施、結果のとりまとめと解析、考察、論文作成を行う。この間、中間発表会を３回程度行う。また取りまとめた卒業研究を卒業研究発表会で各自発表する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6012400F
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	流域環境デザインは多様・多元的なアプローチを要請している。このことと関連して、卒論ではケース・スタディおよび野外調査を重視する。選んだテーマと地域に即し、現地実態調査とその分析を指導する。主として、琵琶湖・淀川水系から大阪湾を対象とする。河川では、桂川の最上流域、るり渓、大学周辺の曽我谷川や犬飼川など、湖沼では、通天湖（るり渓上流）や天若湖（日吉ダム）などのダム湖、大学周辺のため池、琵琶湖など、海域では神戸港～大阪湾が対象地域となる。それぞれの水域において、人間活動がその水域に及ぼしている影響や、水質と生物の関わり、物質循環について研究テーマを設定し、研究を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒論への取り組みの過程と成果で総合的に判断する。		
到達目標	各自が取り組んだテーマに関して、得られた研究成果を科学論文にふさわしい内容で卒業論文として完成させる		
準備学習	自分が希望する研究テーマに関して、事前に十分な勉強を済ませておく。具体的には、文献・資料について十分な検索を行い、先行研究についてできる限り多くの知見を習得しておくことを求める。　また、卒業論文の書き方についても検討しておくこと。		
受講者への要望			
卒業研究に全力で専念できるだけの単位数はすでに取得していること。			
講義の順序とポイント			
担当教員が個別的な研究指導を随時行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J6012400G
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	各自が主体的に取組むテーマを定めて、実験、フィールド調査、文献購読、計画・デザイン、分析評価、取りまとめなど、完結した一連の研究課程を経験する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業論文やプレゼンテーションなどの最終成果とともに、取組みの課程とその熱心さもふくめて評価する。		
到達目標	ランドスケープに関する現代的課題背景を理解し、限られたリソースを有効に活用して、自分なりにオリジナルな知見や課題解決への道筋などを見つけて取りまとめ、プレゼンテーションができるようになる。		
準備学習	ランドスケープの科学・計画・デザインに関する基礎知識の修得		

受講者への要望

世の中には、ランドスケープに関して、いっぱいテーマが転がっています。目と耳を開いて、本質に迫ってみろう。

講義の順序とポイント

以下の順で行う。
1）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む）
2）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討
3）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする)
4）とりまとめ
＊過去の研究テーマ例：
1）淀川－鶴見緑地のエコロジカルネットワークの提案とその評価
2）大阪万博記念公園のパッチダイナミクスを応用した森づくりモニタリング
3）ビオトープいのちの森のモニタリング
4）雨庭（レインガーデン）の計画とデザイン
5）団地に自生する草本植物の実態とその生育要因
6）旧巨椋池氾濫原植生の散布体バンクを利用した再生
◆これから検討しているテーマ例
緑地モニタリングへの UAV の利用、樹木医や自然再生士養成サポート、京都のエコロジカルネットワーク計画の推進、「和の花」プロジェクト推進、癒しのランドスケープデザインなど

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J6012400H
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	フィールドワークを通じた観察から、課題（研究テーマ）を定め、その課題を探求・解決・実践する。 主な対象は以下の通り。 １）水田生態系・農地生態系の動物の生態・行動・保全に関わる課題 ２）上記と関連して、エコ ミュージアム、国立公園、ナショナルトラスト運動、保全活動、自然保護区などの周辺住民との関係についての課題		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	適宜紹介する		
評価方法	卒業研究への取り組みの過程と成果で総合的に判断する。		
到達目標	各自の卒業研究を専門分野の中で位置付け、バイオ環境の実現の上でのどのような意義があるのかを提示すること。		
準備学習	生物学、環境生物学、水圏生態学、生物の生態、生物の多様性、生物の分類、生物学実験、環境生物学実験などの習得が必要。　研究のプログレスレポートを課すので、日頃からデータの整理を心がけ、ゼミ発表などで受けたアドバイスを反映させつつ、研究を進めること。		
受講者への要望			
課題設定の過程で大いに迷い、勉強してください。選んだ課題を、じっくりとねばり強く追究してください。			
講義の順序とポイント			
実際にフィールドで観測された現象をもとに、自分で課題を設定して、その普遍的な意義について深く検討する。そして、その成果が、バイオ環境を実現するにあたって、どのような意味を持つのかについて議論する過程で、柔軟かつ論理的な思考能力を培う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6012400I
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	各自が主体的に設定した研究課題に基づき、フィールド調査や化学分析などを行い、「専攻演習」と一体的な指導の下、卒業論文をとりまとめる。卒業論文の研究課題の例としては、以下のようなものが挙げられる。 １）二次的自然の生物多様性やその保全に関する調査研究 ２）里山林や放棄里山林における森林動態に関する調査研究 ３）地形や土壌などの自然環境条件が森林植生に及ぼす影響に関する調査研究 ４）焼畑の火入れが土壌肥沃度や休閑期の植生回復に与える影響に関する調査研究 ５）焼畑の技術と知恵を活かした里山再生と中山間地域の活性化に向けた実践的研究 ６）東南アジアにおける焼畑休閑地の植生回復や生物多様性に関する研究		
教材（テキスト）	授業時に配布する。		
教材（参考文献）	授業時に紹介する。		
教材（その他）	授業時に配布する。		
評価方法	卒業論文と口頭発表の完成度をもとに評価する。		
到達目標	各自が興味を持った専門分野に関する知識を深める。 各自が取り組んだ研究課題の専門分野における位置づけを理解し、その学術的意義を論理的に説明できる能力を身につける。 「専攻演習」で学んだ内容を踏まえ、科学論文にふさわしい内容の卒業論文を完成させる。		
準備学習	各自の研究課題に関連する論文や文献を紹介するので、必ず読んでおくこと。また、主体的に関連論文の検索・収集を行い、最低でも 3−5 本の論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
卒業研究を完成させるのに必要な論理的思考力、課題発見力、行動力などは、社会にでてからも必ず役立つ能力です。各自が興味を持って１年間取り組み続けられるテーマをみつけ、主体的に卒業研究に取り組んでください。			
講義の順序とポイント			
１．　はじめに ２－９．　先行研究の読解と研究課題の設定 １０－２４．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証 ２５－２８．データ解析・論文のとりまとめ ２９－３０．口頭発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6012400K
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	中川　重年	旧科目名称	
講義概要	各自のテーマに沿った講義を行います。たとえば、 1.都市自然化手法 2.里山の管理手法 3.植物の増殖手法 4.ビオトープの評価法 5.林産物の利用実態 などです。		
教材（テキスト）	研究目的に沿った教材、参考書を使います。		
教材（参考文献）	研究目的に沿った教科書を使います。		
教材（その他）	研究目的に沿った資料を渡します。		
評価方法	卒業研究については目標に達した場合合格。及び達さなかった場合不合格。		
到達目標	十分な物事の分析と組みたて、表現ができるようにします。		
準備学習	卒業研究を始めるに際し、テーマあるいはそれに関連する文献資料や卒業生の卒業研究をよく読んでおいてください。また研究を開始した際必要な図書や文献を指定しますから、これらについては読み込みその都度短い要点メモを作ってください。		
受講者への要望			
卒業研究の目的・構成などについて筋道を立てておいてください。 文献などの資料を十分利用できるようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.都市自然化手法　講義と現地調査 2.里山の管理手法　講義と現地調査 3.植物の増殖手法　講義と実験 4.ビオトープの評価法　講義と現地調査 5.林産物の利用実態　講義と現地調査			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J6012400L
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	卒業研究では、「地域の再生」、「暮らしの中の水」、「身近な生き物の里」、「マップづくり」、「フィールドワーク」などをキーワードとして、ゼミ生のほうから主体的に自分のやりたいテーマに関して提案をすること。マップとフィールドワークはどのような研究テーマでも必須となるので、縦横に活用できる準備が必要となる。具体的な卒業論文の絞込みや進め方は、教員との協議やゼミでの発表などを通じて具体化していく。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントや GIS データを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	出席状況・学ぶ意欲・卒業研究の成果による総合評価		
到達目標	ゼミへの出席と研究発表を通じて卒業研究として所定の水準を超えること		
準備学習	並行する専攻演習や3回生までの講義で学んだことをよく理解しておくこと		
受講者への要望			
就職活動と同時進行となるが、しっかりとゼミに出席してほしい。結果的にはその緊張感が就職にも結びつく。			
講義の順序とポイント			
毎週、春学期と秋学期で通算約 30 回の卒論ゼミを行う。発表は、 1 回につき 3 名程度とし、順に発表を行うので、おおむね 3 週間に 1 回の発表となる。発表は、パワポイントで行い、事前にレジュメを学生の人数分用意しておくこと。発表の学生は事前にパワポとレジュメを準備する。発表のあと、他の学生は質問や感想を一人一人必ず述べること。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J6012400O
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	この研究では，無機系環境材料の開発と応用および資源の有効利用に関する研究に必要な，物質の合成，解析，分析，評価の基礎を理論と実験の両面から学修する。この研究では，結晶合成装置，Ｘ線解析装置，Ｘ線分析装置などを利用した無機系物質に関する研究の基礎を，実験的な面からの系統的な取り扱いについて修得する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　理論・応用　量子力学演習』　共立出版（４，２００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税） 近藤　寛　他　編　『ベーシックマスター　物理化学』　オーム社（４，３００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	卒業論文（１００％）		
到達目標	量子物理学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・演習・実験，物理化学を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．結晶合成法（1）
2．結晶合成法（2）
3．結晶合成法（3）
4．結晶合成実験（1）
5．結晶合成実験（2）
6．結晶合成実験（3）
7．結晶解析法（1）
8．結晶解析法（2）
9．結晶解析法（3）
10．結晶解析実験（1）
11．結晶解析実験（2）
12．結晶解析実験（3）
13．成分分析法（1）
14．成分分析法（2）
15．成分分析法（3）
16．成分分析実験（1）
17．成分分析実験（2）
18．成分分析実験（3）
19．結晶評価法（1）
20．結晶評価法（2）
21．結晶評価法（3）
22．結晶評価実験（1）
23．結晶評価実験（2）
24．結晶評価実験（3）
25．固体物性測定法（1）
26．固体物性測定法（2）
27．固体物性測定法（3）
28．固体物性測定実験（1）

29. 固体物性測定実験（２）
30. 固体物性測定実験（３）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6012400P
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	河川の自然浄化能力の調査、新しい廃水処理技術の開発、廃水処理などに関与する微生物集団の研究、その微生物集団を研究するための DNA 解析法、さらには DNA 解析法の応用などの中からテーマを選び、調査や研究を行ない、卒業論文としてまとめる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	研究テーマに則した教材を選んで貸与する		
教材（その他）	研究テーマに即した文献を自分で検索してコピーする。		
評価方法	平常点（50%）、卒業論文（50%）		
到達目標	テーマに沿って調査や実験を実施し、その内容を口頭で発表する能力と論文としてまとめる能力を身に付ける。		
準備学習	配布した教材を読んで内容を理解すること。多くの文章を読んで、文章によって表現する能力を高めるように心がけること。		
受講者への要望			
研究室は勉学の場であることを常に念頭において行動すること。使用した器具類の後片付けや整理整頓をしっかりと行うこと。疑問点は積極的に質問して理解を深めるように努めること。			
講義の順序とポイント			
１～５．研究テーマの選定と関連資料の探索、および資料の内容の理解 ６～１０．調査や実験計画の立案 １１～２５．調査や実験の実施 ２６～３０．調査や実験の結果の中間段階でのまとめ ３１～４４．調査や実験の実施 ４５～４９．調査や実験結果のまとめ ５０～５４．論文の作成 ５５～５８．研究内容の口頭発表の準備 ５９．研究内容の口頭発表の予行演習 ６０．口頭発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6012400Q
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	各自が興味を持つ課題解決のために実験を行い、研究論文の完成をめざす。		
教材（テキスト）	特に指定しない.		
教材（参考文献）	授業時に配布する.		
教材（その他）	授業時に配布する.		
評価方法	研究に対する取り組み方と論文の完成度で評価する.		
到達目標	実験・研究の方法を身につけ，結果の解析能力をつける.		
準備学習	新しい実験手法を使うことが多いので，自ら勉強しておくこと.		

受講者への要望

ほぼ1年近くをかけて実験を行うので，規則的な生活を送るように努めること．特に栽培に関わることが多いので，夏休み中も植物の面倒を見る必要が出てくることを理解してほしい.

講義の順序とポイント

1． はじめに
2．問題点の設定について
3．問題点の設定について
4．問題点の解決法について
5．問題点の解決法へのアプローチ
6．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
7．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
8．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
9．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
10．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
11．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
12．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
13．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
14．論文の構成
15．論文の発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6012400R
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	關谷　次郎	旧科目名称	
講義概要	特定の課題について、その課題に関する研究のレビュー、目的の設定、実験方法の策定、実験の実施、結果のとりまとめと解析・考察し、ついで論文としての取りまとめ、中間検討会や卒業研究発表会で発表を行う。これら一連の卒業研究を行うことを通して課題解決能力を涵養する。		
教材（テキスト）	研究の遂行に必要な学術論文や資料などを適宜指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	特定の課題の理解度、実験・研究の実施および取りまとめ･発表などから評価する。		
到達目標	特定の課題について実験的研究を行うことによって、問題点の抽出、課題の設定、実験技法、取りまとめ方などを学びながら、論文として取りまとめ、発表する能力を修得する。		
準備学習	これまで履修してきた講義や実験・実習の内容を、相互の関連性などを意識しながら復習しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
４年間の総集編として、積極的かつ自発的に卒業研究に取り組むことを望む。これまでの学習が不十分であったと思われる場合は、卒業研究を実施する中で実践的に補って欲しい。			
講義の順序とポイント			
特定の課題を設定し、課題に関する研究のレビュー、目的の設定、実験方法の策定、実験の実施、結果のとりまとめと解析、考察、論文作成を行う。この間、中間発表会を３回程度行う。また取りまとめた卒業研究を卒業研究発表会で各自発表する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6012400S
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	バイオマス特に木質系バイオマスはエネルギーや物質の材料として有効な資源であり、かつ里山に豊富に存在する資源である。バイオマスの農業利用や地域循環型の資源利用に関する調査や研究を行ない、卒業論文としてまとめる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	研究テーマに即した書籍や文献を適宜指示する。 研究テーマに即した文献を自ら検索する。		
教材（その他）	なし		
評価方法	卒業論文（100%）		
到達目標	問題点を見出す力や解決への道筋を策定する力を身に付ける。調査や実験を実施する力を身に付ける。研究内容を口頭で発表し、かつ論文としてまとめる能力を身に付ける。		
準備学習	実験テーマやその背景を理解するために、関連する文献等を読む。また、実験の成果を文章によって表現する。		
受講者への要望			
自発的かつ積極的に卒業研究に取り組んでもらいたい。 実験室は共同で使用するので、片付けや整理整頓をきちんとし、研究室の維持を協力して自主的に行ってもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１－４．研究テーマの選定と関連資料の探索、および資料の内容の理解 ５－１０．実験計画の立案 １１－２６．実験の実施 ２７－３０．実験の結果の中間まとめ ３１－５０．実験の実施 ５１－５４．卒業論文の作成 ５５－５９．研究内容の口頭発表の準備 ６０．研究内容の口頭発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J60125001
科目名	有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Organic Chemistry		
担当者名	一丸　直哉	旧科目名称	有機化学概論
講義概要	日常生活や将来の職業生活において、有機化学が重要な役割を果たしていることを理解してもらうこと、日常発生している科学や技術に関する問題について良識ある判断ができる基礎知識を習得してもらうことを目標とする。有機化学の概念や一般的な知識を講義するだけではなく、環境、食品、医薬品等の分野で有機化学と密接に関係する話題を取り上げ、有機化学の眼で理解できるような基礎的な専門知識を講義する。		
教材（テキスト）	サイエンスビュー化学総合資料（実教出版、800 円） 配布資料		
教材（参考文献）	環境マインド養成講座第 1 部（環境教育センター発行、無料配布）		
教材（その他）	ＨＧＳ分子構造模型Ｃ型セット（丸善、4000 円） ビデオ「ホフマンの化学の世界」		
評価方法	期末試験の成績(60%)、ほぼ毎回行う小テストと 2 回のレポート(20%)、および出席状況、受講態度(20%)を考慮に入れ評価する。		
到達目標	専門科目履修に必要な基礎学力として、有機化合物の構造、命名法および反応について基本的な内容を修得する。		
準備学習	シラバスに従い、次の授業の内容を提示するので、教科書の該当部分を予習するように指導する。		

受講者への要望

講義内容や配布資料についての理解を深めるためにレポートや小テストを課す。受講者は毎講時出席した上で講義外での学習もいとわずに有機化学の基礎知識を習得して下さい。

講義の順序とポイント

1．有機化合物の特徴と分類
2．アルカン、アルケン、アルキン
3．有機化合物の分類と IUPAC 命名法 1
4．有機化合物の分類と IUPAC 命名法 2
5．有機化合物の構造と官能基 1
6．有機化合物の構造と官能基 2
7．異性体・光学異性
8．油脂、セッケンと合成洗剤、酸性・塩基性
9．構造決定 、機器分析
10．脂肪族化合物の反応、立体選択性
11．芳香族化合物の化学 1
12．芳香族化合物の化学 2 、配向性
13．身のまわりの有機化学
14．環境と有機化学
15．生命と有機化学

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60126001
科目名	有機機器分析学	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Organic Spectroscopy		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	低分子の有機化合物の構造決定を目的として、分離技術、核磁気共鳴分光法（NMR)、質量分析法（MS)、赤外分光法（IR)、紫外・可視分光法（UV-VIS）について解説する。講義の後半では、各種スペクトルデータを組み合わせた有機化合物の構造決定に関する演習を重点的に行う。		
教材（テキスト）	『基礎から学ぶ有機化合物のスペクトル解析』　小川桂一郎ら 著　（東京化学同人）		
教材（参考文献）	『入門機器分析化学』　庄野利之、脇田久伸 編著　（三共出版） 『入門クロマトグラフィー第 2 版』　Roy J. Gritter ほか 著/原昭二 翻訳　（東京化学同人） 『第 2 版　機器分析のてびき―IR、NMR、MS、UV データ集』　泉美治ら監修　（化学同人）		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	試験（７０％)、理解度テスト（３０％）		
到達目標	各種スペクトルより主要な情報を的確に抽出できる。また、自分が必要とする情報を得るには、どのようなスペクトルを測定すればよいかが判断できる。最終的には、分離法から分析法まで一連の構造決定スキームを立案できる。		
準備学習	有機化学の基礎（有機化合物の構造とその特徴、命名法）をよく理解しておく。 講義終了時に、次回の講義の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、講義終了時に宿題を課すので、次回の講義までに解答しておくこと。		

受講者への要望

単に有機化合物の分離法、分析機器の操作、方法を覚えるのではなく、原理や構造を十分理解して、応用能力を養ってもらいたい。本講義で学んだ内容は、バイオサイエンス分野の卒業研究で十分活かしていただきたい。

講義の順序とポイント

1. クロマトグラフィーⅠ（ガスクロマトグラフィー、液体クロマトグラフィー）
2. クロマトグラフィーⅡ（薄層クロマトグラフィー、カラムクロマトグラフィー）
3. 紫外・可視分光法（UV-VIS）
4. 赤外分光法（IR）Ⅰ
5. 赤外分光法（IR）Ⅱ（IR スペクトルの解析）
6. 核磁気共鳴分光法（NMR）Ⅰ（基本原理、1H NMR）
7. 核磁気共鳴分光法Ⅱ（1H NMR の応用）
8. 核磁気共鳴分光法Ⅲ（13C NMR）
9. 核磁気共鳴分光法Ⅳ（NMR スペクトルの解析）
10. 質量分析法（MS）Ⅰ（基本原理、測定装置）
11. 質量分析法Ⅱ（イオン化法、開裂パターン、フラグメンテーション）
12. 質量分析法Ⅲ（マススペクトルの解析）
13. 総合演習Ⅰ（各種スペクトルを組み合わせた有機化合物の構造解析）
14. 総合演習Ⅱ（各種スペクトルを組み合わせた有機化合物の構造解析）
15. 総合演習Ⅲ（各種スペクトルを組み合わせた有機化合物の構造解析）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J60127001
科目名	有機反応機構論	単位数	2
科目名（英語表記）	Organic Reaction Mechanisms		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	代表的な有機反応の機構を、共鳴理論に基づく有機電子論の立場から平易に解説していく。授業内容はできるだけ精選し、網羅的ではなく、本質的で重要な事項に限定する。基礎的な概念を十分理解できるように演習問題を多く解き、知識を整理して概念の応用力を身につける。		
教材（テキスト）	講義プリント 『キーノート有機化学』 Andrew F. Parsons 著、村田 滋 訳（東京化学同人）		
教材（参考文献）	『ブルース有機化学概説』Paula Y. Bruce 著/大船ら 監訳（化学同人） 『マクマリー有機化学 上・中 第６版』John McMurry 著/伊東ら 訳（東京化学同人）		
教材（その他）	ＨＧＳ分子構造模型Ｃ型セット		
評価方法	試験（７０％）、理解度テスト（３０％）		
到達目標	有機化合物の反応形式がどのようであり、またなぜそうなるかを体系的に理解する。		
準備学習	有機化学の基礎（有機化合物の構造とその特徴、命名法）をよく理解しておく。 講義終了時に、次回の講義の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、講義終了時に宿題を課すので、次回の講義までに解答しておくこと。		
受講者への要望			
有機化学反応のメカニズムはただ暗記するのではなく、有機化学の基礎を踏まえた上で考察することが重要である。独自の反応機構を提案し、議論できることを期待している。			
講義の順序とポイント			
1. 化学結合と分子構造Ⅰ 2. 化学結合と分子構造Ⅱ 3. 酸と塩基 4. アルケンとアルキンⅠ 5. アルケンとアルキンⅡ 6. 芳香族化合物Ⅰ 7. 芳香族化合物Ⅱ 8. 求核置換反応 9. 脱離反応 10. カルボン酸誘導体 11. カルボニル化合物Ⅰ 12. カルボニル化合物Ⅱ 13. カルボニル化合物Ⅲ 14. 演習Ⅰ 15. 演習Ⅱ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J60128001
科目名	生物有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Bioorganic Chemistry		
担当者名	一丸　直哉	旧科目名称	生物機能有機化学
講義概要	生物有機化学は生物体を形成し、含まれる種々の有機化合物の性質や機能について追求する学問分野である。有機化合物の多様な性質と機能は、それぞれの構造と官能基の違いによる。それらの複雑な有機化合物を生体で作り出す生合成の過程もまた重要である。生体、環境との関わりに焦点をあててこれらの有機化学を学習する。		
教材（テキスト）	生物有機化学（長澤寛道著、東京化学同人）　2600 円＋税 配布資料		
教材（参考文献）			
教材（その他）	ＨＧＳ分子構造模型Ｃ型セット（丸善、4000 円） ビデオ		
評価方法	期末試験の成績（７０％）を中心に、小テスト・レポートの評価、出席状況・受講態度（３０％）等を考慮に入れ総合的に評価する。		
到達目標	生命化学および環境科学の基礎学問としての有機化学を、有機化合物と生体、環境との関わりに焦点をあてて学習する。我々の周囲に存在する生体分子の多様性、有用性ならびにそれらの由来についての知識を得る。		
準備学習	毎回、次の講義の予定を提示するので、配布資料やテキストの概要を把握しておく。		

受講者への要望

講義内容や配布資料についての理解を深めるためにレポートや小テストを課すことがある。受講者は毎講時出席した上で講義外での学習もいとわずに生物有機化学の知識を習得して下さい。

講義の順序とポイント

１．生物活性物質とは
２．生合成
３．脂肪酸
４．ポリケチド
５．テルペノイド
６．アルカロイド
７．ペプチド類
８．ホルモン
９．フェロモン
１０．植物と生物活性物質
１１．昆虫と生物活性物質
１２．ビタミン
１３．抗生物質
１４．酵素阻害物質
１５．生物毒

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60130001
科目名	生化学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Biochemistry I		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	生きている細胞を構成している物質を理解することに重点をおき、生体高分子であるタンパク質・核酸・多糖類・脂質とその構成単位であるアミノ酸,ヌクレオチド,糖,脂肪酸などについて化学的な分子基盤を理解し,生体物質の特性を理解することから,生化学 II での生命体の維持にかかわる分子機能を学習するための基礎力の習得をめざす.		
教材（テキスト）	教科書：『ヴォート基礎生化学（第 4 版)』　2014 年 9 月発行，東京化学同人		
教材（参考文献）	『ヴォート生化学 上、下』（第 4 版），東京化学同人 『Essential 細胞生物学』（原書第 3 版），南江堂 『生化学事典』（第 4 版），東京化学同人 その他、バイオ図書室で紹介している推薦指定図書を参考にする。		
教材（その他）	"Molecular Biology of The Cell" (fifth edition), Garland Science 『レーヴン/ジョンソン　生物学 〔上・下〕』培風館 アメリカ版大学生物学の教科書　第 1 巻細胞生物学，第 2 巻分子遺伝学，第 3 巻分子生物学　講談社 その他、講義などで紹介する教育動画サイト。		
評価方法	各講義の理解度・配布資料の整理・ノートの整理・講義後の把握度確認(ミニッツﾍﾞｰﾊﾟｰ)などの平素の受講評価（30%）と期末テスト(70%）について，その結果とまとめ方，理解度，応用力，表現力などを総合的に評価する。		
到達目標	生化学 II の代謝を中心にした学習に必要な基礎的な概念とその応用を習得.		
準備学習	高校生物の範囲を復習しながら、講義を受けて下さい. 教科書の各章巻頭の学習のポイント、目標の内容を把握し、序論部分を通読しておくこと.		

受講者への要望

授業毎に理解度を確認し,必ず資料やノートを整理し，教科書や参考書を利用した復習をして欲しい。
各自の My Notebook を作り上げて欲しい。
授業後の課題について、ミニッツペーパーで答えられなかった場合には、授業配布のプリントや教科書などを参考に復習して下さい。
不明な点や疑問は積極的にミニッツペーパーに記載し，質問するかオフィスアワーなどを活用して研究室を訪ねて，質問してください　（質問受付：随時、B10-3 研究室)。

講義の順序とポイント

1. 地球と生命：地球の歴史と生命の進化，水と生体分子，細胞の構造，同化と異化
2. 生命科学の概要：生命の不思議，右向きと左向き，右巻きと左巻き，右回りと左回り
3. 核酸と染色体,遺伝子の構造的特徴とはなんだろう
4. アミノ酸は何種類あるのだろうか
5. アミノ酸の機能、機能性ポリペプチドとは
6. タンパク質の種類と機能
7. タンパク質の基本構造とドメインの種類
8. 単糖と多糖、その種類と機能
9. 複合糖質とその特徴
10. 脂質と生体膜の表と裏　；なぜ表と裏は違うのか
11. 機能性分子が活躍するときの振る舞い
12. 驚く酵素のスーパー機能と特徴
13. 目で見えない生体分子を取り扱うには
14. 生命科学の課題（情報）と科学リテラシー
15. これからの生化学の魅力

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J60131001
科目名	生化学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Biochemistry II		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	生命体ではどのような酵素化学反応が調節され，効率的におこなわれているかを理解し，調和のとれた生物の個体を維持するエネルギーの産生と貯蔵のシステム，個々の生体構成物質の動的な変化過程や調節機能や再利用機構がどのように働いているかを把握する．生物がもっている巧みな機構を認識し，生命の基本システムを学習することを目標とし，広く生命科学の発展学習に必要な基礎学力の習熟をめざす.		
教材（テキスト）	教科書：『ヴォート基礎生化学（第 4 版)』　2014 年 9 月発行，東京化学同人		
教材（参考文献）	『ヴォート生化学 上、下』（第 4 版），東京化学同人 『Essential 細胞生物学』（原書第 3 版），南江堂 『生化学事典』（第 4 版），東京化学同人 その他、バイオ図書室で紹介している推薦指定図書を参考にする。		
教材（その他）	"Molecular Biology of The Cell" (fifth edition), Garland Science 『レーヴン/ジョンソン　生物学 〔上・下〕』培風館 アメリカ版大学生物学の教科書　第 1 巻細胞生物学，第 2 巻分子遺伝学，第 3 巻分子生物学　講談社 その他、講義などで紹介する教育動画サイト。		
評価方法	各講義の理解度・配布資料の整理・ノートの整理・講義後の把握度確認(ミニッツﾍﾟｰﾊﾟｰ)などの平素の受講評価（30%）と期末テスト(70%）について，その結果とまとめ方，理解度，応用力，表現力などを総合的に評価する。		
到達目標	生命科学全般の学習に必要な基礎的な概念とその応用を習得.		
準備学習	高校生物の範囲を復習しながら、生化学 I の講義を復習して下さい。 教科書の各章巻頭の学習のポイント、目標の内容を把握し、序論部分を通読しておくこと。		

受講者への要望

授業毎に理解度を確認し,必ず資料やノートを整理し，教科書や参考書を利用した復習をして欲しい。
各自の My Notebook を作ってください。
授業後の課題について、ミニッツペーパーで答えられなかった場合には、授業配布のプリントや教科書などを参考に復習して下さい。
不明な点や疑問は積極的にミニッツペーパーに記載し，質問するかオフィスアワーなどを活用して研究室を訪ねて，質問してください　（質問受付：随時、B10-3 研究室)。

講義の順序とポイント

1.　生化学 I の復習と"代謝"とは何か
2.　細胞と組織の機能分担と生体膜の役割
3.　生体エネルギーの産生と貯蔵形態
4.　グルコースを利用する反応
5.　解糖の調節機構と破綻
6.　貯蔵多糖とアスリート
7.　TCA サイクル・エンジンとは
8.　ミトコンドリアのパワーと呼吸
9.　葉緑体のパワーと光合成
10. 生物多様性から見る生物間の物質循環
11.　貴重な脂肪と余分な脂肪　その違いは何か
12.. 生活習慣病と生体物質の代謝能
13.. アミノ酸の供給分解と窒素代謝の特徴
14.　臓器と器官の相互役割分担と制御
15.　ヒトの特徴を決める高次機能と脳の代謝

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待						

年度	2015	授業コード	J60132001
科目名	生理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physiology		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	生体は多種多様な外部環境の変化に曝されているにもかかわらず，その内部環境は常にある一定の状態に維持されている。この恒常性の維持には生体を構成している組織，器官，臓器などの連携と調和が必要不可欠である。本講義では人体の恒常性の維持機構を理解するために神経系，内分泌系および免疫系を中心に講義し，個体全体がどのようにして生体反応を統合的に制御し，生体システムを維持しているのかについて学ぶ。さらに，生体システムの破綻が引き起こす疾病についても触れる。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	森本武利 編『やさしい生理学』南江堂 高津聖志 監訳『免疫学イラストレイテッド』南江堂		
教材（その他）	授業中にプリント配布する。 京学なびおよびＲドライブにより授業資料およびレポートを提供する。		
評価方法	授業内確認テスト（40%），　期末テスト(40%)，　レポート(20%)		
到達目標	ヒトの生体システム全体がどのようなメカニズムで統合的に制御されているかを理解する。		
準備学習	生化学ⅠおよびⅡの内容を復習しておくこと。 毎回，京学なびにて予習・復習レポートを提供する。 レポートの内容だけに留まらず，関連分野についても発展的に調べておくこと。		
受講者への要望			
講義には毎回出席すると共に，毎回提供する発展的課題についても意欲的に取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1.はじめに　ー生理学とはー 2.血液成分，体液成分とその機能 3.血液循環とその調節 4.肺による体液成分の調節 5.腎による体液成分の調節 6.情報伝達物質とその受容体 7.ホルモンの作用 8.ニューロンとシナプス 9.中枢神経と末梢神経 10.自律神経 11.代謝の統合的調節 12.免疫担当細胞の種類と働き 13.体液性免疫と細胞性免疫 14.免疫疾患 15.生体システムの総合的な維持機構			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J60133001
科目名	生体高分子学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomacromolecular Science		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	生命機能に関わる種々のタンパク質，核酸に重点をおき，これらの生体高分子がどのようにして，どのような機能発現を示すのかを理解し，生体高分子の相互作用の把握から生命体が進化の過程で獲得してきた特異な機能とその多様性および巧みな調節機能を理解し，生命科学で注目されている主要な課題について，個々のテーマを生化学・分子生物学・細胞生物学・生理学・バイオインフォマティクス・遺伝子工学で学んだことを相互に関連づけ，体系的に理解し，要約説明できることをめざす.		
教材（テキスト）	特定の教科書は指定しない. 配布プリント・パワーポイント・ＤＶＤ等を利用する．また，課題追求のための教材は随時紹介する.		
教材（参考文献）	1．2 回生で用いた分子生物学・細胞生物学・生化学などの参考図書と最新の文献を参考にする.		
教材（その他）	”Molecular Biology of The Cell”(Fifth Ed.) B.Alberts et.al. ”Developmental Biology” (Eighth Ed) S.C. Gilbert ”Biochemistry”　(4th Ed) D. Voet & J. Voet		
評価方法	課題レポート（20%），課題研究と発表（50%），講義の要約（15%），講義中の質疑（15%）について総合的に評価する.		
到達目標	生命科学分野の進歩は目覚ましく、日夜新たな発見が報告され、新たな成果を目にすることが多い分野である。 本講義の受講によって、多くのバイオ関連新情報をもとに、的確な理解と判断ができるように、公的なバイオ関連情報データーベースにアクセスして、真偽を把握し、理解するとともに、今後の関連分野を一般的に易しく説明できる自己の能力を身につけ、基本的な能力を修得していただきたい。		
準備学習	検討課題毎に，既に修学した生化学・分子生物学・細胞生物学・生理学・バイオインフォマティクス・遺伝子工学などで学んだことを把握して講義に望むこと. 毎回の講義での達成目標は、実際にバイオインフォマティクスをデーターベースにアクセスし、予定の結果を得ることができたかどうかを確認し、次のステップに進むに必要な技量を身に着けるトレーニングを各自実行すること.		

受講者への要望

講義内容を十分に理解するよう復習と実習して欲しい.

課題を追求し，調査する能力を身につけること.
情報処理能力を鍛えるために，Database 検索力を磨いて欲しい。
従って，講義時間以外に Database にアクセスし，情報の価値を知って欲しい.
不明な点，疑問などは積極的にオフィスアワーなどを活用して質問してください（随時受付）.
遅刻厳禁.

講義の順序とポイント

1. 細胞分裂と細胞周期
2. クロマチンの構造と細胞機能
3. 遺伝子の活性化機構と転写制御機構
4. 転写 snRNA と新機能
5. 転写の開始と転写の終止
6. 発ガンとガン抑制
7. 核膜孔と細胞内輸送システム
8. 細胞骨格と細胞外マトリックス
9. トランスポーターと多彩なシグナル伝達機構
10. 発生を制御する細胞機能
11. ウイルス感染の分子機構と免疫系の相互認識機構
12. 免疫系の細胞間相互認識機構
13. エピジェネティックな制御

14. タンパク質の高次複合体構造解析の現状
15. 課題研究の Databese の利用とまとめ方
（タンパク質のすべての構造ドメインリストを利用して，各自が一つずつ今まで学習してきたことをまとめて、バイオインフォマティクスのレベルで発表内容をまとめることができるように PC 室にて指導する）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60136001
科目名	分子生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Molecular Biology		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	分子生物学では，生命現象の基本である遺伝とタンパク質合成を中心に，生体高分子合成反応を理解することを目標とする。本講義では，DNA の二重らせん構造と染色体構造，DNA の複製と DNA からタンパク質へ遺伝情報が伝達される仕組み（転写，翻訳）及びその調節機構を分子レベルで解説する。さらに，遺伝子の組換え，DNA の突然変異，修復及び環境適応等についても分子レベルで講義する。遺伝子の構造と機能に関する重要な知見は実際どのような実験によって明らかになったかをふまえた講義とする。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	Donald Voet 他著『ヴォート基礎生化学、第 2 版』（東京化学同人）。 田村隆明、村松正實著『基礎分子生物学、第 2 版』（東京化学同人）。 Bruce Alberts 他著『Essential 細胞生物学、第 2 版』（南江堂）。		
教材（その他）	和田勝著　『基礎から学ぶ生物学．細胞生物学』（羊土社）。 福岡伸一『生物と無生物のあいだ』（講談社）。 プリント（配布する）、DVD など。		
評価方法	期末試験（50%）、出席状況、小テスト、実力問題、課題など（50%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	分子生物学の全体像を理解することを目標としている。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　講義終了時に、小テストを行って、次回の授業の最初にその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。資料の実力問題と課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。			
講義の順序とポイント			
1. シラバスの説明、ガイダンス、分子生物学とは？ 2. 生物と遺伝とは。メンデルの遺伝法則 3. 情報高分子：DNA と RNA の化学的構造とその立体構造。核酸の物理的性質 4. 情報物質としての遺伝子、染色体、染色質（クロマチン）の性質 5. 生体高分子集合体：原核生物と真核生物のゲノム構造 6. 遺伝子が組換わる：相同組変えと非相同組変え 7. 遺伝子地図 8. 遺伝情報の保存：DNA ポリメラーゼ、DNA の二方向複製メカニズム、DNA の修復 9. 遺伝情報の転写：RNA ポリメラーゼによる RNA 合成メカニズム 10. 真核生物 RNA の転写後修飾とスプライシング 11. 真核生物における発現制御機構 12. 原核生物の転写制御：トリプトファンオペロンの調節、ラクトースオペロンの調節 13. 遺伝暗号の翻訳：mRNA の読み枠、tRNA の合成とアミノ酸選択機構 14. タンパク質の合成機構の流れ：リボゾームの構造、ペプチド鎖伸長の分子機構 15. DNA の変異：突然変異の種類、変異と適応			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	J60137001
科目名	細胞生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Cell Biology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	生化学 I,II および分子生物学を充分に理解したことを前提に、生命現象の基本単位である細胞の構造と機能について分子レベルで解説する。 具体的には生命現象における様々な物質の挙動を各細胞内小器官との関連で説明するとともに、その解析法についても解説する。また、細胞輸送、細胞骨格、細胞間コミュニケーションなど、多細胞生物に必要な仕組み、更に細胞内情報伝達、細胞周期、細胞分裂、細胞死の制御機構やこれらの異常と各種疾患との関連についても概説する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	Bruce Alberts 他　著（中村桂子他　監訳）『Essential 細胞生物学　原書第 3 版』（南江堂）8,000 円 和田勝著　『基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第 2 版』（羊土社）3,000 円 尾張部克志、神谷律　著『ベーシックマスター細胞生物学』（オーム社）3,600 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	期末試験(60%)、レポート(10%)、講義での発表、受講態度、出席状況などの平常点(30%)の結果を総合的に評価する。		
到達目標	・生物を構成する基本単位「細胞」の構成要素および細胞内小器官の構造と機能を理解する。 ・細胞内区画と物質の輸送、細胞内シグナル伝達機構のしくみを理解する。 ・細胞骨格や細胞接着、細胞内マトリックスに関わるタンパク質の種類と役割について概説できる。 ・正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。 ・この講義で学んだことを、専門実験や卒業演習で適用できる能力を身につける。		
準備学習	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の教員個人フォルダ内の資料提供フォルダに、次回のレジメを入れておくので、授業までに読んでおくこと。復習の演習問題は、同じファルダに入れておくので、自分で解けるようにしておくこと。疑問点があれば次回の授業までにまとめておくこと。		

受講者への要望

講義には必ず出席し、復習を積極的に行うようにしてください。
疑問点があれば積極的に聞くようにしてください。
細胞生物学で学んだ用語について、自分の言葉で表現できる能力を身につけること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 細胞とは何か
3. 細胞の膜構造と細胞小器官
4. 細胞内区画と細胞内輸送
5. 細胞骨格と細胞運動
6. 細胞外マトリックスと細胞間コミュニケーション
7. 細胞内情報伝達
8. 細胞周期、時間の細胞生物学
9. がんの細胞生物学①
10. がんの細胞生物学②
11. 生殖と発生・細胞分化
12. 細胞の再生、老化と細胞死
13. 脳神経系の細胞生物学
14. 免疫系の細胞生物学
15. 細胞生物学に関する最新技術動向

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J60138001
科目名	遺伝子工学	単位数	2
科目名（英語表記）	Genetics Engineering		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	ゲノム解析がもたらす多大なゲノム配列情報と種々の技術との融合で新たに可能となる学問領域について，その分子生物学的な基礎から具体的な応用例までを原理と技法の理解と応用演習を通じて習熟を深め，多様な遺伝子産物の応用と有用性を学習し，生命科学が現代社会にどのように貢献できるかを考察しながら理解する．		
教材（テキスト）	特定の教科書は指定しない．配布プリント等を利用して，授業内容を整理し，My Textbook を各自で作る．		
教材（参考文献）	1，2 回生で用いた分子生物学，細胞生物学，生化学などの参考図書を参考にする．		
教材（その他）	"Current Protocols in Molecular Biology", "Molecular Cloning -A Laboratory Manual" などに 掲載されている基本的な技法を教材にする．		
評価方法	期末試験 （70%） ・課題レポート，小テスト，講義中の評価(30%） として，総合的に評価する．		
到達目標	生物の遺伝子情報を整理し，正しく読み取り，緻密に理解できる力量の習熟をめざし，種々の遺伝情報に対応できることを目標にする． バイオインフォティクスの技能上達には、色々なデータベースから種々のソフトを利用して、2 次情報整理した形で取得できるようにすることと、その内容をしっかり読み取る能力を身につけることである。 繰り返し、反復練習をして、いおろい応用力を独習すること．		
準備学習	分子生物学の基本事項を正確に把握して，遺伝子工学の個々の課題を理解できる準備学習が必要である． 配布プリントで示されている課題に挑み、理解できた部分と不十分なところを各自が自己判定しておくこと．		

受講者への要望

遅刻厳禁．講義には欠かさず出席し，各回の講義内容を十分に理解するよう復習をして欲しい．専門実験でおこなう種々の実験と連動して、より理解を深めることを望む．実験レポート作成においては，本講義の内容を十分に生かすことを望む．不明な点や疑問は積極的にオフィスアワーや専門実験などの時間を活用して質問してください（随時受付：B10-3 研究室).

講義の順序とポイント

1. 遺伝子工学開発の歴史と染色体について
2. 遺伝子工学の原理と基礎技術について
3. タンパク質工学
4. ゲノム解析と遺伝子診断
5. 細胞工学
6. モノクローナル抗体・人工染色体
7. 遺伝子改変動物と遺伝子改変植物
8. 人工臓器・再生臓器・組織培養
9. 胚と生殖工学・クローン動物
10. 単為発生とゲノムインプリンティング
11. ES 細胞と iPS 細胞
12. RNA 工学
13. 遺伝子治療と遺伝子工学の新展開
14. 遺伝子操作技法の応用演習
15. バイオインフォマチクスについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	J60141001
科目名	微生物学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Microbiology II		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	微生物生産学
講義概要	微生物学Ｉに引き続き、微生物のマクロな生物学的性質としての多様性、生態学を扱う。さらに、遺伝学、分子生物学、ウィルス学の基礎を取り扱う。		
教材（テキスト）	テキスト（ワークブック）を配布する。		
教材（参考文献）	１）Brock 微生物学（2003）Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳　オーム社 世界各国で高い評価を受けている教科書の第 9 版の翻訳。原著は 2014 年の 14th ed.が最新版。 ２）IFO 微生物学概論（2010）発酵研究所 大島泰治 監修　培風館 日本語で読める一般微生物学の教科書のうち、最も詳しいもの。		
教材（その他）			
評価方法	・確認テスト（40%） ・期末試験（60%） いずれも 4 択のマーク式で、毎回 80 問程度。期末試験は確認テストの問題から出題する。		
到達目標	１）微生物の系統分類と多様性について理解する。 ２）微生物の生態学と地球環境における役割について理解する。 ３）ウィルス学の基礎を理解する。 ４）微生物の分子生物学、遺伝学の基礎を理解する。		
準備学習	・前回までのテキストについて、空欄の抜けをなくしておくこと。 ・理解できなかった部分については上記の参考文献などを参照し、テキストを増補して自分オリジナルの「微生物学」のテキストを作っていくこと。		
受講者への要望			
「応用微生物学 A」、「応用微生物学 B」の基礎となる学問であるので、これらを受講する場合は「微生物学 I、II」を受講しておくことを推奨する。			
講義の順序とポイント			
１）　微生物の進化と系統学１ ２）　微生物の進化と系統学２ ３）　微生物の進化と系統学３ ４）　微生物生態学と共生、生態系 ５）　第 1～4 回の確認テストと解説 ６）　元素循環と微生物生態学の手法 ７）　微生物遺伝学 ８）　ウィルスとウィルス学１ ９）　ウィルスとウィルス学２ １０）　第 6～9 回の確認テストと解説 １１）　微生物の分子生物学１ １２）　微生物の分子生物学２ １３）　遺伝子発現の制御 １４）　ゲノミクス １５）　第 10～14 回の確認テストと解説			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60142001
科目名	応用微生物学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Microbiology A		
担当者名	清水　昌	旧科目名称	発酵・醸造学
講義概要	明治時代にヨーロッパから導入された近代微生物学の最初の研究対象のひとつは、長い伝統を持ち、世界的にもきわめて優れた技術でつくられていた日本の発酵・醸造物であった。本講義では、微生物を使って製造される各種の食品・飲料・調味料について、製法とその微生物学、生化学、化学を解説し、さらに産業としての歴史と、現在のありようについて触れる。加えて、京都、亀岡の発酵・醸造関連企業で働いておられる方々から実際のお話を伺う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	醸造・発酵食品の事典　吉沢 淑 他編（2002）朝倉書店		
教材（その他）			
評価方法	・小テスト（30%） ・定期試験（20%） ・レポート（50%）		
到達目標	1）発酵・醸造学の基本的な事項を知識として身につける。 2）日本には特に様々な発酵・醸造製品が発達していることを理解する。 3）日常生活の中で発酵・醸造製品に関心を持てるようになる。		
準備学習	「微生物学Ⅰ」、「微生物学Ⅱ」を受講しておくことが望ましい。各講義の内容は、発酵・醸造食品の製造法とマーケットへの展開法のコンセプトが中心となるので、日常の生活とのかかわりを予め調べて理解しておくことが望ましい。		

受講者への要望

・発酵・醸造学の基本的な事項に関する小テストを数回行い、そこから定期試験を出題する。
・各種の食品・飲料・調味料の中から一つを選び、自分の関心のあるテーマについて詳しく調査したレポートを提出する。
・レポートについては、解説書を参照して調査の仕方、論述の仕方、様式について自学すること。

講義の順序とポイント

1）　発酵・醸造学とは何か：その微生物学・生化学・化学
2）　酒類総論：ワイン・ビール・清酒・蒸留酒
3）　酒類各論：ワイン
4）　酒類各論：ビール
5）　酒類各論：清酒（1）
6）　酒類各論：清酒（2）
7）　発酵調味料総論：醤油・味噌・食酢・味醂
8）　発酵調味料各論：醤油
9）　発酵調味料各論：味噌
10）　発酵食品総論：野菜・畜産物・水産物・パン
11）　発酵食品各論：漬物（1）
12）　発酵食品各論：漬物（2）
13）　発酵食品各論：なっとう
14）　発酵食品各論：乳製品
15）　発酵食品各論：パン
（順番、内容は講師の方の都合によって変更する場合がある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★				★★	

年度	2015	授業コード	J60143001
科目名	バイオインダストリー論	単位数	2
科目名（英語表記）	Bioindustry		
担当者名	清水　昌	旧科目名称	
講義概要	今世紀の社会の様々な問題は、バイオサイエンスを基盤とした産業を抜きに考えることは出来ない。本講義ではまず、20 世紀に展開されたバイオインダストリーについて、日本の産業の動向と共に概括する。ついで、21 世紀の食品・化学工業、環境問題、エネルギー・資源問題、食糧問題へのバイオテクノロジーのアプローチについて、その可能性と展望を日本の科学技術政策及び世界の動向を紹介しながら考える。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	応用微生物学 第 2 版　清水 昌、堀之内末治 編（2008）文永堂出版		
教材（その他）	ビデオ教材やプレゼンテーションソフト等を用い、適宜プリントを配布する。		
評価方法	・平常点（出席状況などによる）（20%） ・レポート（30%） ・定期テスト（50%）		
到達目標	微生物の多様な機能（能力）について科学的に理解するとともに、産業利用の観点から考察し、理解する。		
準備学習	「微生物学Ⅰ」「微生物学Ⅱ」「応用微生物学 A」「応用微生物学 B」を受講しておくことが望ましい。各講義内容について、新聞などの情報にも気を配って調査することが望ましい。		

受講者への要望

・能動的な姿勢で講義に出席すること。
・遅刻や私語は厳禁である。遅刻の場合は理由を申告すること。
・常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。

講義の順序とポイント

1） 科学技術とバイオ
2） 日本の産業の動向とバイオインダストリーの展望
3） 日本の科学技術政策
4） エネルギー／資源問題とバイオ －1
5） エネルギー／資源問題とバイオ －2
6） 食糧問題の展望
7） 環境問題の現状
8） 環境問題解決へのバイオのアプローチ －1
9） 環境問題解決へのバイオのアプローチ －2
10） 医薬品工業の現状と展望
11） 食品工業の現状と展望 －1
12） 食品工業の現状と展望 －2
13） 化学工業とバイオ －1
14） 化学工業とバイオ －2
15） 最近のトピックス
順序・内容は状況によって変更することがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★				★★	★

年度	2015	授業コード	J60144001
科目名	食品化学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Chemistry I		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	食品は栄養性（一次機能）、嗜好性（二次機能）の他に三次機能として、健康機能性が現在注目されている。おもな食品成分を上記機能に関連付けて化学的側面から理解する。蛋白質、脂肪、炭水化物の分解・吸収およびエネルギーを含む栄養としての体内での変化について、わかりやすく概説する。これらはすべて化学変化であり、食品・栄養に必要な有機化学（加水分解、脱水、酸化・還元反応など）を復習し、さらにそれらを触媒する酵素についても簡単に取り上げる。さらに、嗜好性に影響を持つ食品の物性（コロイド、レオロジー、テクスチャー）についても説明する。これらを理解することによって、食品に関して知識を深め、さらに深い食品成分あるいは食品製造への理解の基礎とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	早瀬文孝・佐藤隆一郎編著『わかりやすい食品化学』（三共出版）（ISBN978-4-7827-0549-0）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験の成績（70%） キーワードの事前調査レポート（10%） 各章ごとの練習問題（10%） 出席率、受講態度（10%）		
到達目標	食品の機能性や成分を理解するための基礎知識を得る。		
準備学習	①各章の講義の事前学習として、キーワードを提示するのでそれについて調査してくる。これをレポートとして講義前に提出する。場合によっては指名された学生はレポート内容を発表する。 ②各章の講義の終了後に練習問題（3 問程度）を課すので次回までに解いておく。それらの問題の解答を次回に示す。問題の解答用紙は提出する。		
受講者への要望			
事前調査と練習問題は必ずやっておくこと。期末試験の一部はその問題を少し改変して問題とする。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに（食品化学で学ぶことおよび食品化学の講義とは） ２．食品成分の概要と機能性 ３．食品・栄養を理解するための化学１（化学構造、加水分解反応および関与する酵素） ４．食品・栄養を理解するための化学２（脱水反応および関与する酵素） ５．食品・栄養を理解するための化学３（酸化・還元反応および関与する酵素） ６．水（水と食品の関わり） ７．炭水化物１（炭水化物の種類とその化学的性質） ８．炭水化物２（炭水化物の利用） ９．脂肪（脂肪の種類とその化学的性質、およびその利用） １０．蛋白質（アミノ酸、蛋白質の構造と化学的性質） １１．蛋白質（アミノ酸、蛋白質の利用） １２．ビタミン・ミネラル（種類と生体での分布・作用） １３．食品の物性（コロイド・テクスチャー） １４．食品の安全（食品安全の用語、GMO や BSE などについて解説する） １５．各項目のポイントレビュー			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60145001
科目名	食品化学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Chemistry II		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	植物性食品や動物性食品の成分と機能性について詳しく説明する。また、加工や食品の工業的な製造法についても説明する。いくつかの機能性成分や色素については化学構造と機能性を理解する。貯蔵・加工・調理における食品成分の変化を化学的な側面から理解する。		
教材（テキスト）	資料を提供する。		
教材（参考文献）	川岸舜朗・中村良編著『新しい食品化学』（三共出版）（ISBN4-7827-0425-9 C3061） 安井勉・桐山修八編著『食品科学』（三共出版）（ISBN4-7827-0285-X）		
教材（その他）	各章ごとに資料は提供する。		
評価方法	定期試験の成績（70%） 課題調査と発表（20%） 出席率、受講態度（10%）		
到達目標	農産物由来および動物由来食品の機能性や成分を理解する。また、食品の製造過程における化学変化を理解する。		
準備学習	準備学習として、各章ごとにキーワードを提示するので担当キーワードは必ず調査する。そのレポートは発表形式でまとめる。その章の講義前に提出し、指名した学生は発表する。		
受講者への要望			
席は指定席とする。課題を与えるので必ず、それを調査し、発表形式でまとめる。発表時間を設けている。また、講義はしっかり聴き、積極的に質問をすること。			
講義の順序とポイント			
１．　植物性食品１（米、麦の成分と機能性） ２．　植物性食品２（大豆、芋、野菜および果実の成分と機能性） ３．　植物性食品３（植物性食品の製造） ４．　動物性食品１（食肉の成分と機能性） ５．　動物性食品２（牛乳、卵および乳製品の成分と機能性および製造） ６．　油脂食品（油脂および油脂製品の成分と機能性および製造） ７．　嗜好品と調味料（飲料、甘味料、調味料、香辛料の成分と機能性および製造） ８．　機能性成分１（植物成分のポリフェノール、リグニン構造と機能性） ９．　機能性成分２（その他の植物成分および動物成分の構造と機能性、機能性食品） １０．　食品色素の化学（食品成分としての色素の構造と機能性） １１．　貯蔵・加工・調理に伴う食品成分の化学変化１（糖、アミノ酸、脂肪酸） １２．　貯蔵・加工・調理に伴う食品成分の化学変化２（核酸、ポリフェノールなど） １３．　食品の安全性（有害微生物その他による食品の汚染と防止） １４．　特定保健用食品（その制度、トクホ食品および実例の紹介） １５．　各項目のポイントレビュー			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60147001
科目名	生体栄養科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Nutritional Science		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	何をどのくらい食べたらどうなるか？について生化学的なアプローチで解説を行う。すなわち，個体の栄養成分である糖、タンパク質、脂質、ビタミンなどの機能や代謝系、これらを摂取した時の生体反応や調節機構について解説を行い、全ての栄養素が相互に関連しあって生体が維持されていることについて理解を深める。さらに、動脈硬化や糖尿病といった生活習慣病と食品成分との関係など、栄養と疾病との関わりについて、その研究方法などを含め概説を行い、知識を深める。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	薗田勝 編『栄養科学イラストレイテッド生化学』羊土社　2,800 円 垣沼淳司 著『分子栄養学―栄養素と生活習慣病の分子生物学 』光生館　2,520 円		
教材（その他）	授業中にプリント配布する。 京学なびおよびRドライブにより授業資料およびレポートを提供する		
評価方法	授業内確認テスト（40%），　期末テスト(40%)，　レポート(20%)		
到達目標	生体の維持機構を理解するために，栄養成分の生理機能や代謝系とその調節機構についての知識を習得する。		
準備学習	生化学ⅠおよびⅡの内容を復習しておくこと。 毎回，京学なびにて予習・復習レポートを提供する。 レポートによる授業の予復習に留まらず，関連分野についても発展的に調べておくこと。		
受講者への要望			
講義には毎回出席すると共に，毎回提供する課題についても意欲的に取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1.はじめに　ー生体栄養科学とはー 2.栄養成分の消化吸収 3.糖質の化学 4.糖質の機能と代謝 5.アミノ酸とタンパク質の化学 6.アミノ酸とタンパク質の機能と代謝 7.脂質の化学 8.脂質の機能と代謝 9.三大栄養素の相互変換 10.代謝の調節と疾病 11.ビタミンの生理作用 12.ミネラルの生理作用 13.食品成分の生体調節機能（１）ー抗酸化作用ー 14.食品成分の生体調節機能（２）ー代謝調節作用ー 15.機能性食品の現状と今後			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★★		★★	★

年度	2015	授業コード	J60148001
科目名	食品衛生学	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Hygiene		
担当者名	山﨑　裕康	旧科目名称	
講義概要	生活の基本である「食」は、我々の健康ひいては生命に直接影響を及ぼすきわめて重要な因子であることから、食品の安全性確保に関する知識と理解を深めることを目標とする。 食品の安全確保は、我々の生活の質（QOL）に直接影響するものであるが、近年における我が国の食生活多様化と輸入食品の増大に伴い、その重要性がますます高まってきている。本講義では、我が国における食品の安全確保のための法的規制と体制ならびに手法について概説すると共に、食品に起因する健康障害について原因別に解説し、同時に健康障害防止策についても述べる。		
教材（テキスト）	教科書：食品衛生学－「食の安全」の科学－ 改訂第２版（那須正夫、和田啓爾編）南江堂		
教材（参考文献）	国民衛生の動向 2015/2016（厚生労働統計協会）		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（60%）、到達度確認中間試験（40%）により評価する。ただし、受講出席状況が２／３未満の場合は定期試験受験資格を与えない。		
到達目標	１．我が国における食品の安全確保政策について説明できる。 ２．食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。 ３．腐敗、変敗の機構および食品保存法について説明できる。 ４．代表的な食中毒原因（微生物や自然毒）について説明できる。 ５．調理等による食品成分の有害化について説明できる。 ６．食品添加物の法的規制および代表的な食品添加物について、用途、働きを説明できる。		
準備学習	講義のはじめに前回の簡単な復習を、また最後に次回の講義内容を予告するので、教科書該当ページに目を通しておくこと。		

受講者への要望

食品衛生に関するニュース等に常日頃から関心を持つように心がけること。
私語は厳禁とする。私語が過ぎる場合には、他の受講者への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

第１回　わが国の食品衛生行政と法的規制
第２回　わが国の食品衛生行政と法的規制（その 2）
第３回　食品の安全確保（HACCP 他）
第４回　食品に起因する健康障害、食中毒発生状況
第５回　微生物による食中毒(1)
第６回　微生物による食中毒(2)
第７回　第６回までのまとめ及び到達度確認試験
第８回　自然毒(1)
第９回　自然毒(2)
第 10 回　化学物質による食品汚染(1) 環境汚染重金属
第 11 回　化学物質による食品汚染(2)有害有機化合物
第 12 回　食品の変質、食品保存法
第 13 回　食品成分の有害化、遺伝子組み換え食品
第 14 回　食品添加物総論
第 15 回　食品添加物各論
第 16 回　定期試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60149001
科目名	植物生理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Plant Physiology		
担当者名	關谷　次郎	旧科目名称	分子植物生理学Ⅰ
講義概要	本講義では、植物の構造や機能を理解するのに必要な基本的事項を個体、細胞、分子のレベルで理解し、将来の応用的展開を計る際の基礎力をつけることを目標とする。具体的には、植物や細胞の構造と機能、水・重力・光などの環境要因と植物、植物ホルモン、光合成、植物の栄養などについて学ぶ。全講義期間を通じて数回、小試験やワークシートを配布して講義の理解度を確認する。		
教材（テキスト）	なし、毎回プリントを配布する。		
教材（参考文献）	「テイツ・ザイガー植物生理学（第３版）」J.L.テイツ/E.ザイガー著、西谷和彦/島崎健一郎監訳、培風館。その他の参考書については最初の講義で紹介する。		
教材（その他）	パワーポイントを活用して講義を進める。		
評価方法	平常点（出席状況、ワークシート、レポート、数回の小試験等）（30%）と期末試験（70%）によって評価する。		
到達目標	これから農資源やバイオテクノロジーについて学ぼうとする人が、植物の構造や機能についての基礎的事項を個体、細胞、分子のレベルで理解することを目標とする。		
準備学習	講義終了時に次回の講義プリントを配布するので、講義で学ぶことの概要をつかみ、わからない語句などを調べておくこと。これらの予習には参考書として挙げてある「テイツ・ザイガー植物生理学」の本文および巻末の語句解説を活用すると良い。また数回の講義内容に関する小試験を行うのでよく復習をしておくこと。		

受講者への要望

植物個体あるいは細胞のレベルでの植物の構造や機能、生理反応の基礎的理解をめざしている。これまで植物についてあまり興味がなかった人も積極的に学んで欲しい。本講義とともに生物分類、生態学、細胞生物学に関する講義もあわせて学ぶことを勧めます。なお高校で生物を履修しなかった人も積極的に受講して欲しい。

講義の順序とポイント

１．植物の進化、命名法、３つの役割
２．細胞の構造
３．食鬱の構造
４．細胞小器官
５．植物と環境（光、重力など）
６．植物と環境（土壌、温度など）
７．植物の成長と分化
８．植物ホルモンとその作用（１）オーキシン
９．植物ホルモンとその作用（２）サイトカイニン
１０．植物ホルモンとその作用（３）エチレン
１１．植物ホルモンとその作用（４） ジベレリン
１２．植物ホルモンとその作用（５） アブシジン酸他
１３．光合成（１）明反応
１４．光合成（２）暗反応
１５．植物の栄養

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J60150001
科目名	植物生化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Plant Biochemistry		
担当者名	關谷　次郎	旧科目名称	分子植物生理学 II
講義概要	植物の機能の中でとりわけ重要なものが光合成である。本講義では光合成の概要を述べ、光合成の場である葉緑体の構造を説明した後、C3 光合成のそれぞれの要素過程（明反応、暗反応、光呼吸など）について述べる。その後 C4 光合成などについても述べる。さらにショ糖やデンプン合成について理解し、光合成の全体像についてその重要性を認識する。窒素代謝も植物特有であり、窒素同化は光合成過程の明反応とリンクしている。植物の窒素代謝の全体像についても理解を深める。全講義期間を通じて数回のワークシートによって理解度の確認を行う。		
教材（テキスト）	なし、毎回講義の際にプリントを配布する。		
教材（参考文献）	(1)「テイツ・ザイガー植物生理学（第 3 版）」J.L.テイツ/E.ザイガー著、西谷和彦/島崎健一郎監訳、培風館 (2)「植物の生化学・分子生物学」　B.B.Buchanan ら著、岡田清隆ら監訳、学会出版センター		
教材（その他）	パワーポイントを活用しながら講義を進める。		
評価方法	平常点（40%）出席状況やワークシート等による。定期試験（60%）。		
到達目標	生物圏において太陽の光エネルギーの補足という重要な機能を有する植物の光合成および窒素同化について理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義プリントを配布するので、講義で学ぶことの概要をつかみ、わからない語句などを調べておくこと。また数回分の講義内容に関する小試験を行うのでよく復習をしておくこと。		
受講者への要望			
植物生化学では光合成と窒素代謝に重点をおいて講義するので、生物に共通する代謝・機能などについては取り扱わない。そのため生化学 I 及び II は必ず履修すること。また植物生化学からさらに植物細胞工学、植物代謝工学へと発展させることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．　光合成とは、葉緑体の構造 ２．　光合成（１）明反応 ３．　光合成（２）明反応 ４．　光合成（３）暗反応 ５．　光合成（４）暗反応 ６．　光合成（５）光呼吸と C4 光合成 ７．　ショ糖の合成 ８．　デンプンの合成、セルロースの合成 ９．光合成と転流 １０．窒素の代謝（１）窒素同化 １１．窒素の代謝（２）窒素同化とその調節 １２．窒素の代謝（３）アミノ酸の生合成、 １３．窒素の代謝（４）窒素固定 １４．窒素の代謝（５）窒素固定 １５．植物のエネルギー代謝の特徴			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J60151001
科目名	植物細胞工学	単位数	2
科目名（英語表記）	Plant Cell Engineering		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	植物細胞工学の基礎となる個体の成り立ち、細胞の構造と機能、遺伝子の構造と機能発現、組織培養の要素技術、遺伝子組換えの要素技術を概説する。また、組織培養と遺伝子組換え技術の具体的な事例と課題、今後の可能性について紹介する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	植物バイテクの実際（農山漁村文化協会)、植物バイオテクノロジー（理工図書)、レクチャーバイオテクノロジー（培風館)、植物バイオテクノロジー（幸書房)。 細胞の分子生物学（ニュートンプレス)、ヴォート基礎生化学 第 2 版（東京化学同人)、植物の生化学・分子生物学（学会出版センター)。		
教材（その他）	毎回、講義資料を配布し、パワーポイントを活用する。適宜、ビデオ教材などを活用する。		
評価方法	平常点（提出課題など）　30% 定期試験　70%		
到達目標	植物細胞の基本構造とその働きを分子レベルで理解する。 植物遺伝子の構造と機能発現を分子レベルで理解する。 組織培養の基礎と意義を理解する。 遺伝子組換え技術の基礎と意義を理解する。		
準備学習	次回講義の内容を紹介するので、配布プリントに目を通し、該当する植物生理学、植物生化学、生化学、分子生物学の分野の振り返りをした上で講義に望むこと。毎回、課題をだすので、次回の講義までに提出すること。		

受講者への要望

講義内容は連続性があり、理解には積み重ねが不可欠となる。生活や産業と植物バイオテクノロジーの関わりに興味を持ち続けて欲しい。より高度な内容を学びたい学生には、個別に参考図書等を紹介する。

講義の順序とポイント

1．植物細胞工学の歴史と概要
2．植物個体の成り立ち
3．植物細胞の構造
4．植物細胞の機能発現（1）
5．植物細胞の機能発現（2）
6．植物組織培養の基礎（1）
7．植物組織培養の基礎（2）
8．植物組織培養の産業への応用植物
9．植物遺伝子の構造と機能
10．植物遺伝子の機能発現（1）
11．遺伝子の機能発現（2）
12．植物遺伝子組換え技術の基礎（1）
13．植物遺伝子組換え技術の基礎（2）
14．植物遺伝子組換え技術の産業への応用
15．植物遺伝子組換え技術の展開

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J60152001
科目名	植物代謝工学	単位数	2
科目名（英語表記）	Plant Metabolic Engineering		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	植物における基本的な一次代謝物と二次代謝物とその生合成経路を概説する。また、植物代謝工学の基礎となる代謝調節の仕組みと代謝工学の原理、遺伝子組換え技術を用いた代謝工学研究の具体的事例、今後の課題と可能性について紹介する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	植物の生化学・分子生物学（学会出版センター）、テイツ・ザイガー植物生理学（第３版）（培風館）、植物生化学（シュプリンガー・フェアラーク東京）、植物生理学（シュプリンガー・フェアラーク東京）など		
教材（その他）	講義資料を配布する。パワーポイントを活用する。		
評価方法	平常点（提出課題など）　30% 定期試験　70%		
到達目標	植物固有の代謝物とその生合成について理解する。植物における代謝物の高次機能について理解する。代謝調節とその多段階的な制御機構を通じて、代謝工学の基礎・原理を分子レベルで理解する。代謝工学の意義と課題を理解する。		
準備学習	次回講義の内容を紹介するので、配布プリントに目を通し、該当する植物生理学、植物生化学、生化学、分子生物学の分野の振り返りをした上で講義に望むこと。毎回、課題をだすので、次回の講義までに提出すること。		
受講者への要望			
講義内容は連続性があり、理解には積み重ねが不可欠となる。生活や産業と植物バイオテクノロジーの関わりに興味を持ち続けて欲しい。より高度な内容を学びたい学生には、個別に参考図書等を紹介する。			
講義の順序とポイント			
１．植物代謝工学とは ２．代謝調節とその仕組み ３．窒素代謝１ ４．窒素代謝２ ５．脂肪酸代謝１ ６．脂肪酸代謝２ ７．一次代謝と環境応答１ ８．一次代謝と環境応答　２ ９．二次代謝とは 10．テルペン類 11．フェノール性化合物 12．アルカロイド１ 13．アルカロイド２ 14．二次代謝と環境応答１ 15．二次代謝と環境応答２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J60153001
科目名	有用産業植物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Plants of Industrial Interest		
担当者名	秋田　徹	旧科目名称	
講義概要	植物は、古くから香辛料あるいは医薬品や食品添加物の素材として人類に利用されてきたが、２１世紀の今日、人類は植物に対して産業素材として大きな期待を寄せている。新たなバイオアッセイ法との組み合わせで新規な生理活性を示す植物成分の発見、あるいはメタボリックエンジニアリングによって有用成分の生産性の向上が計られるなど産業的にも植物が再評価されている。これら産業的に有用な植物を医薬品に関連する植物、食品産業に有用な植物に分けて、その特性などについて理解を深めることを目標とする。		
教材（テキスト）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義の最初に紹介する。		
教材（その他）	パワーポイントを用いる。		
評価方法	平常点（10%）は出席状況等による。各講義日の最後に行う試験によって評価（90%）する。		
到達目標	医薬品、食品添加物などの産業で重要な役割を果たしている植物について理解する。		
準備学習	これまでに履修した本講義に関連する植物の分類や植物生理生化学、有機化学、食品化学などについて事前によく復習（予習）しておくこと。また教材の講義プリントを事前に配布するので予習しておくこと。		
受講者への要望			
講義中に疑問に思った点があれば積極的に質問などをしてほしい。 講義プリントとパワーポイントを用いて講義を進めるが、重要な点はメモを取ること。			
講義の順序とポイント			
１．医薬品と植物（１）薬用植物の定義（ハーブから最新医薬品まで） ２．医薬品と植物（２）医薬品の歴史 ３．医薬品と植物（３）生薬としての利用 ４．医薬品と植物（４）植物からの医薬品創製（成分としての利用） ５．医薬品と植物（５）現在と将来、そして課題 ６．食品と植物（１）食品添加物概説 ７．食品と植物（２）食品添加物と植物 ８．食品と植物（３）多糖類の利用１ ９．食品と植物（４）多糖類の利用２ １０．食品と植物（５）色素成分の利用１ １１．食品と植物（６）色素成分の利用２ １２．食品と植物（７）香料成分の利用１ １３．食品と植物（８）香料成分の利用２ １４．食品と植物（９）機能性食品への応用 １５．食品と植物（１０）まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60162001
科目名	化学演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Chemistry		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	春学期の化学に引き続き環境科学を学ぶ上で必要な化学を基礎知識を演習を行いながら講義する。 毎回、前回の内容やそれまでの復習を兼ねた確認問題を解答する。単元がまとまったところで、小テストを3回程度行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	中川徹夫著　化学の基礎―元素記号からおさらいする化学の基本　1500円＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850円（＋税） J.E.Brady, G.E.Humiston 著　『一般化学』（上）（下）　東京化学同人　各2980円＋税		
教材（その他）	A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－　問題と解答』　東京化学同人　1700円（＋税）		
評価方法	定期テスト（40%）、講義中の小テスト（60%）		
到達目標	化学量論の計算を一般式を使って表記することができる。 酸と塩基を説明し、pHとの関係を明らかにすることができる。 酸化、還元の意味を説明できる。 化学平衡の概念を説明できる。 中和反応や酸化還元反応などの反応式を作り、量的関係やエネルギーの出入りを理解できる。。		
準備学習	「化学」の受講者はテキストであった中川徹夫著「化学の基礎―元素記号からおさらいする化学の基本」を熟読しておくこと。また、未受講者は、同本の内容を確認し、苦手な部分があれば、自習しておくこと。 毎回の次回講義時に確認テストをするので、毎回講義内容をしっかりと復習し次回の確認テストに臨むこと。また、確認テストの正答率が低い場合は、その部分の復習を必ず行い、苦手な部分を克服する。		
受講者への要望			
授業と並行して例題や教材（その他）の問題集などの演習に積極的に取り組み、さらに、講義で学んだ部分を参考文献などで自習すること。疑問点や苦手な点は質問をするなどして次回の講義までには解決するように努力すること。			
講義の順序とポイント			
1. 化学反応式・濃度の復習 2. 物質の三態 3. 化学式の種類（示性式・組成式・構造式） 4. 酸と塩基1－アレニウス定義 5. 酸と塩基2－ブレンステッドの定義 6. 酸と塩基3－ルイスの定義 7. 化学平衡 8. 酸塩基の強さ（酸解離定数と塩基解離定数） 9. 中和反応と塩 10. 水素イオン濃度とpH 11. 緩衝液 12. 酸化数 13. 酸化と還元 14. 酸化還元反応 15. 熱化学反応式			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★		

年度	2015	授業コード	J60163001
科目名	数学演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Mathematics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	数学は自然科学のすべての分野を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の理解のためにはまず最初に数学的概念とその手法の修得が必要となる。この演習では数学の体系の中で解析学の基礎となる直交関数系，積分変換，常微分方程式，偏微分方程式，変分法などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	数学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学，物理学・演習，地球科学・演習を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．直交関数系（1）：内積
2．直交関数系（2）：直交多項式
3．直交関数系（3）：フーリエ級数
4．積分変換（1）：フーリエ変換
5．積分変換（2）：ラプラス変換
6．積分変換（3）：δ 関数
7．常微分方程式（1）：変数分離形
8．常微分方程式（2）：線形同次方程式
9．常微分方程式（3）：線形非同次方程式
10．偏微分方程式（1）：ラプラス方程式
11．偏微分方程式（2）：熱伝導方程式
12．偏微分方程式（3）：波動方程式
13．変分法（1）：変分原理
14．変分法（2）：最速降下線
15．変分法（3）：懸垂線

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J60164001
科目名	物理学演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Physics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	物理学は自然科学のすべての分野の中で，精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の精確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この演習では物理学の体系の中で古典物理学の基礎となる電場，電流，磁場，電磁誘導，電磁波などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学，地球科学・演習を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．電場（1）：静電場 2．電場（2）：静電ポテンシャル 3．電場（3）：誘電体 4．電流（1）：電荷保存 5．電流（2）：定常電流 6．電流（3）：電力 7．磁場（1）：静磁場 8．磁場（2）：磁気ポテンシャル 9．磁場（3）：磁性体 10．電磁誘導（1）：変動電場 11．電磁誘導（2）：変動磁場 12．電磁誘導（3）：電磁誘導 13．電磁波（1）：電磁ポテンシャル 14．電磁波（2）：電磁方程式 15．電磁波（3）：波動方程式			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J60166001
科目名	樹木学実習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中川　重年	旧科目名称	
講義概要	物質生産や生物の多様性の場である森林を構成する樹木について、その形態や生態を中心に実物を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実習での理解 70%、表現力 30%		
到達目標	実際の樹木を正確に観察しスケッチすることや立木を観察することで生物の多様性の理解を深める。		
準備学習	キャンパスをはじめとする身近にある樹木を問題意識を持って観察するようにしてください。具体的には植物図鑑を常時見て種の確認、「木の大百科」平井信二の該当項目を読み確認をすること。実習であることから、特に内容の整理作業は必要はないが。スケッチの仕上げなど時間内に終わらない場合には自分で全体で進んだレベルまでは頑張って作業をし、遅れないように務めること。		
受講者への要望			
生物に対する漠然とした見方を変え、生き物を突き詰めて観察することを勧めます。初めてと思われる木炭画で表現する手法を学びます。			
講義の順序とポイント			
1 種子の観察 1　樹木の源である種子の観察を行い種子発芽につなげる 2 種子の観察 2 3 挿木実験 1　無性繁殖できる樹木を学ぶ 4 挿木実験 2 5 花の観察 1　普段見ないさまざまな樹木の花の構造を観察する 6 花の観察 2 7 根の観察 1　普段見ない根について観察する 8 根の観察 2 9 樹形の観察 1　樹形の特徴を学ぶ 10 樹形の観察 2 11 樹皮の観察 1　樹種による樹皮の違い及び樹齢による差異を理解する 12 樹皮の観察 2 13 木材の観察　木材の組織を観察する 14 森林の観察 1 15 森林の観察 2			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★★	★			

年度	2015	授業コード	J60167001
科目名	図学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　真理子	旧科目名称	
講義概要	図学は３次元空間を体系的に理解し構成するための概念的基礎となるものである。この講義では３次元空間における基本的な図形を，図学の構成原理にもとづいて具体的な立体の作図方法を考察する。		
教材（テキスト）	磯田　浩／鈴木　賢次郎　共著『工学基礎　図学と製図』サイエンス社　１，５５４円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎次の製図課題（１００％）		
到達目標	図学の基本的原理にもとづいた図形の具体的な構成力，目的に応じた適切な作図およびそれらの３次元的イメージについて考察する能力を修得する。		
準備学習	テキストの次回範囲を通読しておくこと。		
受講者への要望			
製図実習を並行履修することが望ましい。テキストおよび筆記用具を必ず持参すること。			
講義の順序とポイント			
１．製図実習の基礎・平面図形 ２．主投影図 ３．主投影図 ４．副投影図 ５．直線実長視図 ６．直線点視図 ７．平面直線視図 ８．平面実形視図 ９．平面実形視図の応用問題 10．切断 11．相貫 12．相貫 13．等測投影図 14．斜軸投影図 15．透視投影図			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60168001
科目名	環境物理学演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	物理学は自然科学のすべての分野の中で，精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の精確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この演習では物理学の体系の中で環境物理学の基礎となる熱，熱力学，相対論，量子論，物性論などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・実験，環境地球科学・演習・実験を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．熱（1）：温度
2．熱（2）：熱伝導方程式
3．熱（3）：状態方程式
4．熱力学（1）：第１法則
5．熱力学（2）：第２法則
6．熱力学（3）：第３法則
7．相対論（1）：相対運動
8．相対論（2）：特殊相対性原理
9．相対論（3）：一般相対性原理
10．量子論（1）：量子仮説
11．量子論（2）：波動方程式
12．量子論（3）：原子構造
13．物性論（1）：共有結合
14．物性論（2）：イオン結合
15．物性論（3）：金属結合

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J60169001
科目名	樹木医学	単位数	2
科目名（英語表記）	Woody Plant Health		
担当者名	本位田　有恒	旧科目名称	
講義概要	全国各地の巨樹、古木等は緑豊かで、快適な環境をつくる貴重な資源であり、地域の人々から「緑の文化財」として長い間親しまれ、また、ふるさとのシンボルとして、保護・保存が行われている。しかし、これらの樹木の中には、病害虫や環境悪化などにより、樹勢の著しく衰えたものも認められ、適切な保護対策が緊急の課題となっている。(引用：財団法人日本緑化センター「樹木医とは」より) これら樹木における樹勢回復や保護、保存などを行う樹木医に関する知識について学ぶ。		
教材（テキスト）	堀大才・岩谷美苗「図解　樹木の診断と手当て」農文協　１，５００円		
教材（参考文献）	財団法人日本緑化センター「最新・樹木医の手引き」改訂４版(Ｈ２６発刊予定)　８，５００円＋消費税 もしくは、なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	平常点(５０％)学習に対する興味と取り組み状況、レポート(５０％)により評価する。		
到達目標	樹木医に関する知識と技術を理解し、樹木医補としての自覚をもつ。		
準備学習	教材(テキスト)を講義開始までに、読んで予習をしておくこと。 講義開催日毎の最終講義において、復習のレポートを提出すること。 なお身近な樹木についても、日々関心を持って見ること。		
受講者への要望			
遅刻や私語は厳禁。各講義で小テストを行う可能性あり。			
講義の順序とポイント			
①樹木医概論その１ ②樹木医概論その２ ③樹木の保護と保存 ④樹木の文化 ⑤都市における樹木(公園、街路) ⑥診断の方法と手順 ⑦病害の診断と防除 ⑧腐朽病害基礎 ⑨虫害の診断と防除 ⑩樹木の危険度診断(街路樹) ⑪樹木の剪定技術 ⑫樹木の外科的対策 ⑬樹木の移植法 ⑭植栽基盤 ⑮土壌改良と発根促進			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60172001
科目名	森林立地・土壌学	単位数	2
科目名（英語表記）	Forest Stand and Soil Science		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	本講義では、森林の成立に関与する土壌・気象・地形等の立地環境因子とその相互作用に焦点をあて、これらの因子が森林の種組成・構造・遷移などの諸特性にどのような影響を与えているかを考える。樹木－土壌－大気－水はひとつにつながった生態系であり、相互に影響を及ぼしながら物質のやりとりをしている。本講義では、森林における物質循環を取り上げ、森林生態系の機能や役割について考える。日本の森林の多くは人為の影響を受けた二次林や人工林であり、原生林とは異なる生態系が形成されている。二次林や人工林の成り立ちや特徴を学びながら、持続可能な森林管理のあり方を検討する。また、熱帯林を取り巻く立地環境と熱帯の林業の特徴についても学び、温帯と熱帯おける立地環境の違いと樹木の生理生態的特性を踏まえながら、各々の地域の森林の造成・保全上の問題点を解決する方法を検討する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	「森のスケッチ」　中静 透 著　（東海大学出版会　2004 年） 「森林生態学」　岩坪 五郎 編　（文永堂出版　2003 年） 「最新土壌学」　九馬 一剛 編　（朝倉書店　1997 年）		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	小テスト等による平常点（50 点）と、期末試験（50 点）により評価する。		
到達目標	森林の物質循環や遷移と撹乱、樹木の生活史戦略など、森林生態学・森林土壌学分野の基本的な知識を習得すると共に、人と森との関わり方の変遷や問題点を学び、森林生態系や森林資源利用に関する多角的視点を習得する。		
準備学習	講義のレジメを事前に京学なびにアップロードしておくので、各自で打ち出して予習をしておくこと。 また、毎回の講義で、前回講義の復習のための小テスト（ノート持込み可）を行うので、しっかりと復習をしておくこと。		
受講者への要望			
教員と受講者の対話を重視した講義を行いたいので、皆さんの積極的な発言を期待します。			
講義の順序とポイント			
1　森林立地とは？ 2　立地環境と森林土壌 3　森林の組成と環境要因 4　森林土壌と植生のつながりⅠ：森林の炭素循環 5　森林土壌と植生のつながりⅡ：森林の養分循環 6　森林生態系における分解者の役割 7　森林の遷移と攪乱 8　樹木の生活史戦略 9　二次林の成り立ちと土地利用の履歴 10　日本の人工林と林業の変遷 11　人工林の林相転換：育成複層林施業 12　熱帯の森林と土壌 13　熱帯の林業Ⅰ：択伐林業 14　熱帯の林業Ⅱ：タウンヤ林業 15　持続的な森林資源利用に向けて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	J60173001
科目名	樹木医学実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Course in Woody Plant Health		
担当者名	本位田　有恒	旧科目名称	
講義概要	全国各地の巨樹、古木等は緑豊かで、快適な環境をつくる貴重な資源であり、地域の人々から「緑の文化財」として長い間親しまれ、また、ふるさとのシンボルとして、保護・保存が行われている。しかし、これらの樹木の中には、病害虫や環境悪化などにより、樹勢の著しく衰えたものも認められ、適切な保護対策が緊急の課題となっている。(引用：財団法人日本緑化センター「樹木医とは」より) これら樹木における樹勢回復や保護、保存などを行う樹木医に関する技術について学ぶ。		
教材（テキスト）	堀大才・岩谷美苗「図解　樹木の診断と手当て」農文協　１，５００円		
教材（参考文献）	財団法人日本緑化センター「最新・樹木医の手引き」改訂４版(Ｈ２６発刊予定)　８，５００円＋消費税		
教材（その他）	プリントやビデオ、パワーポイントを使う。		
評価方法	平常点(５０％)学習に対する興味と取り組み状況、レポート(５０％)により評価する。		
到達目標	樹木医に関する知識と技術を理解し、樹木医補としての自覚をもつ。		
準備学習	樹木医学で配布した教材(プリント)を実習開始までに、読んで予習をしておくこと。 講義開催日毎の最終講義において、復習のレポートを提出すること。 なお身近な樹木についても、日々関心を持って見ること。		
受講者への要望			
遅刻や私語は厳禁。			
講義の順序とポイント			
①樹木の病虫害観察実習Ⅰ ②樹木の病虫害観察実習Ⅱ ③樹木の病虫害観察実習Ⅲ ④樹木の腐朽病害観察実習Ⅰ ⑤樹木の腐朽病害観察実習Ⅱ ⑥周辺環境調査 ⑦樹木の地上部調査Ⅰ ⑧樹木の地上部調査Ⅱ ⑨樹木の地下部調査 ⑩危険度診断 ⑪剪定実習 ⑫剪定実習 ⑬剪定実習 ⑭土壌改良実習 ⑮土壌改良実習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60177001
科目名	生物化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biological Chemistry		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	私たちは、毎日、食べ物を食べて、これを消化して吸収し、分解してエネルギーを得るとともに、体を構成している細胞を新しく作り直して、古い細胞と入れ替えている。その細胞の中では、化学反応が常に行われており、私たちの日々の活動を可能にしている。生物の体内はどんな反応が起こり、どのようにして生命が維持されるのかは、私たちの健康や、生物の生態を考える上での基本となる事柄であり、その概要を講義する。		
教材（テキスト）	池北雅彦、榎並　勲、辻　勉著「生物を知るための生化学」　丸善　2500 円＋消費税		
教材（参考文献）			
教材（その他）	ＤＶＤやパワーポイントを活用する。		
評価方法	期末試験（50%）、レポート（10%）と小テスト（40%）		
到達目標	生物の体内での物質変換と遺伝を理解する。		
準備学習	シラバスに毎回の講義の範囲を書いているので、予習をしておくこと。なお、授業の進行によって、シラバスの記載とのズレを生じたときには、講義終了時に次回の講義範囲を指定する。		
受講者への要望			
復習をしっかりと行い、基本となる用語を、その日のうちに理解しておくこと。			
講義の順序とポイント			
１．生体をつくる物質（１）：タンパク質の構造、いろいろなタンパク質 ２．生体をつくる物質（２）：糖、脂質 ３．生体をつくる物質（３）：核酸 ４．生命の基本単位（細胞） ５．生命のエネルギー（酵素の働き、ATP） ６．光合成 ７．食物の代謝：糖、タンパク質、脂質の分解 ８．　遺伝子の基礎 ９．DNA の複製 １０．遺伝子の発現 １１．遺伝子の変異と修復 １２．遺伝子の増幅（ＰＣＲ法）と塩基配列解明（サンガー法） １３．遺伝子工学（遺伝子組換え技術） １４．遺伝子発現の調整 １５．代謝の調整			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60178001
科目名	微生物学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Microbiology I		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	環境微生物学
講義概要	微生物はわれわれの身体の内外をとりまくあらゆる環境中に存在している。これについての基礎的な学問である一般微生物学から、主に生化学、生理学、および病原体としての微生物を取り扱う。		
教材（テキスト）	テキスト（ワークブック）を配布する。		
教材（参考文献）	1）Brock 微生物学（2003）Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳　オーム社 世界各国で高い評価を受けている教科書の第 9 版の翻訳。原著は 2014 年の 14th ed.が最新版。 2）IFO 微生物学概論（2010）発酵研究所 大島泰治 監修　培風館 日本語で読める一般微生物学の教科書のうち、最も詳しいもの。		
教材（その他）			
評価方法	・確認テスト（40%） ・期末試験（60%） いずれも 4 択のマーク式で、毎回 80 問程度。期末試験は確認テストの問題から出題する。		
到達目標	1）微生物学の歴史的展開と諸分野を理解する。 2）微生物細胞の構造上の特徴とその化学的・生化学的基盤を理解する。 3）微生物の基礎的な代謝と、増殖を数学的に取り扱う方法を理解する。 4）微生物による感染症とそれに対するヒトの防御機構の基礎を理解する。		
準備学習	・前回までのテキストについて、空欄の抜けをなくしておくこと。 ・理解できなかった部分については上記の参考文献などを参照し、テキストを増補して自分オリジナルの「微生物学」のテキストを作っていくこと。		
受講者への要望			
「微生物学 II」とあわせて受講すること。 「応用微生物学 A」、「応用微生物学 B」の基礎となる学問であるので、これらを受講する場合は「微生物学 I、II」を受講しておくことを推奨する。			
講義の順序とポイント			
1）　微生物と微生物学 2）　微生物の構成成分の化学 3）　微生物の細胞構造と機能 4）　栄養、培養と微生物の代謝 5）　第 1～4 回の確認テストと解説 6）　栄養、培養と微生物の代謝 2 7）　微生物の生育 8）　微生物代謝の多様性 1 9）　微生物代謝の多様性 2 １０）　第 6～9 回の確認テストと解説 １１）　ヒト間感染症 １２）　媒介物/土壌感染症 １３）　水感染症 １４）　食物保蔵と食中毒 １５）　第 10～14 回の確認テストと解説			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J6017900A
科目名	環境科学基礎実験	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Sci ence		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	環境科学はバイオ環境を体系的に理解し構成するための概念的基礎となるものである。環境科学実験では定性および定量的に測定されたデータから環境科学的概念を具体的に認識することができる。したがって，この実験ではバイオ環境に密接に関係する物理・化学・生物・地学の各分野の基本的な測定を，測定原理にもとづいて具体的な現象の観察を通して行い，得られたデータの信頼性についても考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	レポート（１００%）		
到達目標	環境科学の基本的原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	各実験の開始前と終了後に関連資料の配布と関連文献の紹介を行うので、必ず目を通して予習・復習をしておくこと。		

受講者への要望

数学・演習，物理学・演習，化学・演習，生物学・実験，環境生物学実験，地球科学・実験，環境地球科学・実験を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．物理環境基礎実験（1）
2．物理環境基礎実験（2）
3．物理環境基礎実験（3）
4．物質環境基礎実験（1）
5．物質環境基礎実験（2）
6．物質環境基礎実験（3）
7．生物環境基礎実験（1）
8．生物環境基礎実験（2）
9．生物環境基礎実験（3）
10．地球環境基礎実験（1）
11．地球環境基礎実験（2）
12．地球環境基礎実験（3）
13．環境科学総合実験（1）
14．環境科学総合実験（2）
15．環境科学総合実験（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★		

年度	2015	授業コード	J60180001
科目名	京野菜栽培加工実習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中川　重年	旧科目名称	
講義概要	京都に在来する野菜を栽培しつつ京都文化を理解する．京都野菜の栽培と加工を通じて生き物を育てることの意義と食生産の重要性を理解する．さらに収穫物を加工し口にすることの意義をフィールドで理解させる．		
教材（テキスト）	特に指定しない．		
教材（参考文献）	「図説　野菜新書」　朝倉書店　　「京野菜を楽しむ」　淡交社		
教材（その他）			
評価方法	管理作業状況　70%,　レポート　30%		
到達目標	栽培体験を通じて作物の成長変化を学ぶ．また栽培技術の初歩を習得する．さらに共食の重要性を気づかせる．		
準備学習	農業関係，食関係の書籍を読んでおくこと．特に京野菜の文献「京野菜を楽しむ」,「地方野菜大全」は必ず目を通し関連の作物についてメモをとること．		
受講者への要望			
多くの学生にとって作物の栽培は初めてであると思うので，努めて畑に通い，その変化を観察することが重要である．また様々な食文化について情報を得るようにする．特に和食については社会が注目しているので，新聞や他のメディアを通じ情報収集するように努力すること．			
講義の順序とポイント			
1．京野菜のガイダンス 2．土づくりと播種準備，栽培に向けての注意事項 3．うね立てと整地 4．播種 5．畑作業と記録 6．除草中耕 7．間引きと記録 8．追肥・除草と地中温度の測定 9．除草・中耕と土壌中の生き物観察 10，間引き菜の料理と生体内硝酸態窒素の測定 11．ミズナの試食と生体内硝酸態窒素の測定 12．畑作業の記録（畑作物の病虫害の観察） 13．加工実習（1）　漬物 14．加工実習（2）　千枚漬 15．加工実習（3）　野菜の料理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J60180002
科目名	京野菜栽培加工実習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	京都に在来する野菜を栽培しつつ京都文化を理解する．京都野菜の栽培と加工を通じて生き物を育てることの意義と食生産の重要性を理解する．さらに収穫物を加工し口にすることの意義をフィールドで理解させる．		
教材（テキスト）	特に指定しない．		
教材（参考文献）	「図説　野菜新書」　朝倉書店　　「京野菜を楽しむ」　淡交社		
教材（その他）			
評価方法	管理作業状況　70%,　レポート　30%		
到達目標	栽培体験を通じて作物の成長変化を学ぶ．また栽培技術の初歩を習得する．さらに共食の重要性を気づかせる．		
準備学習	農業関係，食関係の書籍を読んでおくこと．特に京野菜の文献「京野菜を楽しむ」,「地方野菜大全」は必ず目を通し関連の作物についてメモをとること．		
受講者への要望			
多くの学生にとって作物の栽培は初めてであると思うので，努めて畑に通い，その変化を観察することが重要である．また様々な食文化について情報を得るようにする．特に和食については社会が注目しているので，新聞や他のメディアを通じ情報収集するように努力すること．			
講義の順序とポイント			
1．京野菜のガイダンス 2．土づくりと播種準備，栽培に向けての注意事項 3．うね立てと整地 4．播種 5．畑作業と記録 6．除草中耕 7．間引きと記録 8．追肥・除草と地中温度の測定 9．除草・中耕と土壌中の生き物観察 10，間引き菜の料理と生体内硝酸態窒素の測定 11．ミズナの試食と生体内硝酸態窒素の測定 12．畑作業の記録（畑作物の病虫害の観察） 13．加工実習（1）　漬物 14．加工実習（2）　千枚漬 15．加工実習（3）　野菜の料理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J60181001
科目名	作物栄養学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	關谷　次郎	旧科目名称	
講義概要	高等植物は一般的に光独立栄養生物であり、光、水、空気があれば土壌中から水に溶解したミネラル栄養を吸収することによってその生活環を完了することができる。本講義では主に作物に関して、土壌から吸収されるミネラル栄養の吸収や機能についての理解を深めることを目的絽する。土壌とそこに蓄えられているミネラル栄養成分の関係、土壌中の有機栄養成分と植物の生育、施肥などについても理解する。		
教材（テキスト）	毎回講義プリントを配布する。		
教材（参考文献）	「植物栄養学」間藤徹・馬建鋒・藤原徹編、文永堂出版 「土と施肥の新知識」渡辺和彦・小川吉雄・六本木和夫・後藤逸男編著、農文協 「土壌学の基礎-生成・機能・肥沃度・環境」松中輝夫著、農文協		
教材（その他）	「肥料の来た道帰る道」高橋英一著、研成社		
評価方法	出席、小試験、ワークシートなどの平常点（20%)と期末試験（80%）で評価する。		
到達目標	作物を栽培するに当たり、基本的に必要な栄養素やその機能,、施肥などについて理解をする。		
準備学習	講義終了時に次回の講義プリントを配布するので、講義で学ぶことの概要をつかみ、わからない語句などを調べておくこと。また前回の講義内容に関する小試験を行うので復習をしておくこと。「肥料の来た道帰る道」（研成社）は読むと日本の施肥史の概要がつかめるので、読むと参考になる。		

受講者への要望

土壌の科学、植物生理学、有機農業論などを履修しておくことが望ましい。

講義の順序とポイント

1．作物栄養学を理解するために
2．土壌と植物の栄養素
3．植物栄養素の輸送
4．水の吸収と輸送
5．光合成
6．多量必須元素の吸収と機能（1）窒素、カリウム
7．多量必須元素の吸収と機能（2）リン
8．多量必須元素の吸収と機能（3）カルシウム、イオウ、マグネシウム
9．微量必須元素（1）鉄、銅、マンガン、モリブデン
10．微量必須元素（2）亜鉛、ホウ素、ニッケル、塩素
11．有用元素
12．有機物質と土壌
13．肥料と肥料資源
14．不良土壌と植物の応答
15．未来の施肥

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J60182001
科目名	分子生物学演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	バイオサイエンス分野では日々新たなバイオ技術が使われ，今日のバイオ産業に発展を担ってきました．本講義では，それぞれの技法の基本的なコンセプトを理解することで，技法を習得することで，将来の応用力の基礎を身につけることを目指しています． 生体高分子であるタンパク質と核酸の分子性状と特性を把握し，種々の応用実験の原理と活する展開を理解できる課題に取り組み，種々のタンパク質に対応できる技術基盤とあらゆる生物の遺伝子資源を活用できる基盤技術の理解と習得をめざします．		
教材（テキスト）	特定の教科書は指定しない． 必要に応じて，専門実験の分子生物学実験の実験指導書を利用し，適宜プリントも配布する．		
教材（参考文献）	分子生物学分野の最新技法の理解を深めるのに必要な参考図書や実験技法のビデオライブラリーなどは，バイオ環境館・図書室内に推薦参考図書・ビデオなどを，閲覧活用できるような利便を図っている．		
教材（その他）	毎回の演習資料などパワーポイントやビデオなどを活用して，演習時間内に提示する．		
評価方法	必修の演習であり，全回出席しなければならない． 成績の評価は，以下に示す内容を考慮し，総合的に評価する． ・演習課題の達成度(70%) ・演習中の評価・実験ノートやレポートの課題の評価(15%) ・実験課題の発表会の発表(15%)		
到達目標	以下の 5 項目を重点的な達成目標とする． ・演習課題の理解・解決の達成 ・実験に必要な試薬濃度などの計算演習の習得と実験結果の整理法の把握 ・実験機器の操作手順と注意事項の把握 ・実験成果のプレゼン・スキルの習得 ・研究グループ内のコミュニケーションによる意思疎通の徹底		
準備学習	事前に演習内容を把握しておくこと． 履修する前に配布してある実験手引書の指定日時の実験前に、実験を理解するうえで重要な原理・原則の項目をしっかり精読し、自分の実験ノートに実験の目的と実験目標となる技能をしかっり認識して実験講義に臨むこと．		
受講者への要望			
遅刻は安全な実験を行う上であってはならないことである．開始前の注意事項や連絡事項をメモする機会であるから，しっかりメモする習慣も身につけること．午後の始めにある演習であることから，自己の体調管理をしっかりして臨むこと． 理解が十分でない点は，積み残さないで，演習担当者から早めに演習を受けること			
講義の順序とポイント			
1.　分子生物学演習のガイド 2.　実験結果の精度と誤差および統計処理について 3.　緩衝液の原理と pH の理解 4.　タンパク質の等電点とアミノ酸組成について			

5. イオン交換クロマトグラフィーの原理
6. ゲルろ過クロマトグラフィーの理解
7. アクリルアミドゲル・アガロースゲルの理解
8. 電気泳動・遠心力による生体高分子の分離原理の理解
9. 検量線作成の基本と理解
10. 分子量の求め方について
11. PCR 反応や酵素反応の反応特性の理解
12. 遺伝子組換え操作と制限酵素や修飾酵素の理解
13. 遺伝子選別の原理と遺伝子発現制御機構の理解
14. 測定機器の操作と原理の理解
15. 測定器具の操作と原理の理解

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J60183001
科目名	有機化学演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	有機化学実験を実施するにあたり、必須事項である有機化合物の性質、安全な取扱い方法、実験器具や機器についての正しい使用法等を演習形式で習得する。また、有機機器分析法の基本概念や、生物試験の特徴を習得する。合わせて、実験ノートや報告書の作成についての演習を行う。		
教材（テキスト）	有機化学実験指示書、配布資料		
教材（参考文献）			
教材（その他）	関数電卓、分子模型		
評価方法	レポート、小テストの成績(70%)、出席状況・受講態度(30%)等を考慮に入れ総合的に評価する。		
到達目標	有機化学実験の目的と内容、手順を理解すること。実験結果の整理、解釈、考察が適切に出来ることを目標とする。		
準備学習	指示書、配布資料を熟読して、有機合成化学実験にかかわる知識、手順を整理しておく。		

受講者への要望

本演習は有機合成化学実験をスムーズかつ効果的に実施するために必要な知識や手順を体得するためのものである。本演習を受講しない学生や遅刻した学生には安全対策の観点から実験の履修を認めない。

講義の順序とポイント

1）　有機合成化学、安全教育
2）　酸化反応、甘味料
3）　実験ノート、実験報告書の作成
4）　バイオアッセイ　（甘味試験他）
5）　光学異性体の旋光度測定
6）　光学分割
7）　光学異性体と天然物
8）　光学異性体と不斉合成
9）　置換反応、植物生長調節剤の用途、農薬
10）　有機反応機構
11）　バイオアッセイ　（植物試験他）
12）　クロマトグラフィー
13）　Ｗｉｔｔｉｇ反応と炭素－炭素結合形成反応
14）　有機機器分析Ⅰ
15）　有機機器分析Ⅱ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J60184001
科目名	食品・栄養科学演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	食品・栄養科学実験の各課題に対して、その実験の背景、必要な試薬の濃度計算や調製法、実験機器の使用法、測定法の原理等の基礎知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。 演習書をプリントにして配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（20%）、レポート（40%）、試験（40%）。		
到達目標	実験の背景を理解する。正確な実験を遂行するための基礎知識を習得する。結果発表会はチーム（4 人）が協力し合い、プレゼンテーションを意識した資料の作成・発表ができる。		
準備学習	必ず実験前までにプリントを読み、内容を理解する。また、実験の実施のポイントを整理しておく（フローチャートを作る）。		

受講者への要望

この演習は食品・栄養科学実験の内容説明も兼ねている。この演習に出席しないものは食品・栄養科学実験の履修を認めない。

講義の順序とポイント

1．食品・栄養科学実験オリエンテーション（食品実験のための心得など）
2．濃度計算
3．食品からのタンパク質分離精製法
4．タンパク質の定量法
5．脂肪のケン化と GC 分析による脂肪酸定量法
6．原子吸光によるカルシウム定量法
7．麹酵素の精製と力価測定法
8．食品の微生物検査法
9．実験動物の取扱方
10．アントシアニンの吸着樹脂による単離・精製法
11．結果発表会（中間時期および終了時期の計２回）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60185001
科目名	応用微生物学演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	清水　昌	旧科目名称	
講義概要	応用微生物学実験に伴い、実験の背景となる学問内容の講義と問題演習を行う。		
教材（テキスト）	応用微生物学実験と共通		
教材（参考文献）	Laboratory Experiments in Microbiology. 8th ed. T.R. Johnson and C. L. Case (2007) Pearson Benjamin Cummings 農芸化学実験書 第 2 巻、第 3 巻 京都大学農学部農芸化学教室編（1965）産業図書 生物工学実験書 日本生物工学会編（2002）培風館 微生物学実験法 杉山純多 他編（1999）講談社 微生物実験マニュアル 協和発酵東京研究所編（1986）講談社		
教材（その他）			
評価方法	応用微生物学実験と共通		
到達目標	基礎的な項目について繰り返し操作することで、「技術」をしっかりと習得する。 講義で学んだ「知識」を復習し、実際に実物を目の前にしながら理解する。 実験ノートの書き方を学ぶ。		
準備学習	「微生物学Ⅰ」、「微生物学Ⅱ」を受講しておくこと。 「応用微生物学 A」、「応用微生物学 B」を受講すると、より理解が深まる。各講義項目に関する学術論文を予め調査することで理解を深めておくことが望ましい。 また、応用微生物学実験とリンクして進行するので実験法との関連を把握しておくこと。		
受講者への要望			
全回の出席を要求する。遅刻・早退をしないこと。科学実験に対する態度、実験室でのマナーを修得すること。これらをいずれも「実験態度」として評価の対象とする。			
講義の順序とポイント			
１） 培地の調製 ２） 微生物の染色 ３） 微生物の増殖 ４） 微生物の代謝１ ５） 微生物の代謝２ ６） 微生物の代謝３ ７） 有用微生物のスクリーニング１ ８） 有用微生物のスクリーニング２ ９） 有用微生物のスクリーニング３ １０） 微生物による物質生産１ １１） 微生物による物質生産２ １２） 微生物による物質生産３ １３） 発酵・醸造１ １４） 発酵・醸造２ １５） 発酵・醸造３ 実際にはそれぞれの課題を並行して実施する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★	★★

年度	2015	授業コード	J60186001
科目名	植物バイオ演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	植物の生長解析や細胞工学の基礎となる、① 植物の細胞・組織培養、 ② 光合成活性、 ③ 窒素代謝などを取りあげて、その背景を理解するとともに、実験法や解析法などについての演習を行う。		
教材（テキスト）	なし、最初に植物バイオ実験と共通のプリントを配布する。		
教材（参考文献）	最初の時間に紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	出席状況や受講態度、演習解答などの平常点（50%）および小試験（50%）から評価する。		
到達目標	植物の基本的な機能の実験法や解析法に対する理解を深める。		
準備学習	植物バイオ実験と共通のテキストを配布するので、掲載の実験法、解析法について事前に理解を深めておくことが望ましい。		
受講者への要望			
植物生理学、植物生化学、植物細胞工学、植物代謝工学、分子生物学などを復習し、理解を深めておくこと。			
講義の順序とポイント			
1. 植物の組織培養実験法および解析法（１） 2. 植物の組織培養実験法および解析法（２） 3. 植物の組織培養実験法および解析法（３） 4. 植物の組織培養実験法および解析法（４） 5. 植物の組織培養実験法および解析法（５） 6. 光合成実験法および解析法（１） 7. 光合成実験法および解析法（２） 8. 光合成実験法および解析法（３） 9. 光合成実験法および解析法（４） 10. 光合成実験法および解析法（５） 11. 植物栄養代謝実験法および解析法（１） 12. 植物栄養代謝実験法および解析法（２） 13. 植物栄養代謝実験法および解析法（３） 14. 植物栄養代謝実験法および解析法（４） 15. 植物栄養代謝実験法および解析法（５）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6018700A
科目名	有機化学実験	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	有機合成化学実験を中心に、最も重要である化学物質を取扱うための知識と技術および合成化学実験で用いる器具や機器についての正しい使用法を習得する。更に、有機機器分析実験を通して、最新の分析技術、生物試験を通して生物への反応の特徴を習得する。実験結果のまとめ方や報告書の作成についても習熟する。実験を安全に行うために、危険物の取扱方法等の教育訓練も行う。		
教材（テキスト）	配布資料（生物有機化学研究室編・実験指示書　有機化学実験） 安全の手引き（京都学園大学バイオ環境学部編）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	関数電卓		
評価方法	実験レポートの成績(70%)、出席状況・受講態度(30%)等を考慮に入れ総合的に評価する。		
到達目標	実験の目的と内容、手順を理解することと、実験操作の習熟と実験結果の整理、解釈、考察が出来ることを目標とする。		
準備学習	指示書を熟読して、器具、薬品等の取扱いを含め、実験手順を整理しておく。		

受講者への要望

有機化学演習での解説や実験開始前に指示書に従い説明する実験内容を十分に理解すること。演習および実験説明に遅刻した学生には安全対策の観点から実験の履修を認めない。

講義の順序とポイント

1）　オリエンテーション、安全講習、ガラス細工
2）　酸化反応による甘味料サッカリンの合成　1
3）　酸化反応による甘味料サッカリンの合成　2
4）　酸化反応による甘味料サッカリンの合成　3、甘味試験
5）　（±）－１－フェニルエチルアミンの光学分割　1
6）　（±）－１－フェニルエチルアミンの光学分割　2
7）　（±）－１－フェニルエチルアミンの光学分割　3
8）　（±）－１－フェニルエチルアミンの光学分割　4
9）　置換反応による植物生長調節剤２，４－Ｄの合成　1
10）　置換反応による植物生長調節剤２，４－Ｄの合成　2
11）　置換反応による植物生長調節剤２，４－Ｄの合成　3、植物試験
12）　Ｗｉｔｔｉｇ反応によるＥ-およびＺ-スチルベンの合成　1
13）　Ｗｉｔｔｉｇ反応によるＥ-およびＺ-スチルベンの合成　2
14）　Ｗｉｔｔｉｇ反応によるＥ-およびＺ-スチルベンの合成　3、機器分析
15）　Ｗｉｔｔｉｇ反応によるＥ-およびＺ-スチルベンの合成　4、機器分析

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6018900A
科目名	食品・栄養科学実験	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Food Science		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	食品・栄養科学実験を通じて、食品成分、食品の機能性、動物の扱い、食品における微生物管理など食品分野で重要かつ基礎的な実験技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	実験指導書をプリントにして配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（80%）：実験ノートおよびチェックシートの記入、結果発表会での資料作成と発表、出席状況、実験への取り組みなど。 試験（20%）。		
到達目標	実験技術、実験内容を理解する。実験結果の解析を行なうことができる。チーム 4 人が意志の疎通をはかり、協力し合って実験をスムースに進めることができる。結果発表会はプレゼンテーションを意識した資料の作成・発表ができる。		
準備学習	必ず実験前までにプリントを読み、内容を理解する。また、実験の実施のポイントを整理しておく（フローチャートを作る）。		
受講者への要望			
実験の心得に従うこと。遅刻厳禁（遅刻者は記録し、ペナルティを与える）。			
講義の順序とポイント			
1．食品成分の分離（牛乳からカゼインの分離）とアミノ酸、タンパク質の定性・定量実験（呈色反応）、脂肪のケン化と GC 分析による定量およびカルシウムの定量（原子吸光分析）。 2．麹の酵素（アミラーゼ）力価を測定。 3．食品の微生物検査。 4．高脂肪食ラットの血清脂質および肝臓脂質の測定。 5．アントシアニンの吸着樹脂による単離・精製。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J6019100A
科目名	応用微生物学実験	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Applied Microbiology		
担当者名	清水　昌	旧科目名称	
講義概要	2 回生秋学期の「基礎バイオサイエンス実験」での微生物学実習に引き続き、一般微生物学の基礎的な技法について学ぶ。さらに、それらの技法を使って応用微生物学に関する実験を行う。		
教材（テキスト）	テキスト（ワークブック＋実験ノート）を配布する。		
教材（参考文献）	Laboratory Experiments in Microbiology. 8th ed. T.R. Johnson and C. L. Case (2007) Pearson Benjamin Cummings 農芸化学実験書 第 2 巻、第 3 巻 京都大学農学部農芸化学教室編（1965）産業図書 生物工学実験書 日本生物工学会編（2002）培風館 微生物学実験法 杉山純多 他編（1999）講談社 微生物実験マニュアル 協和発酵東京研究所編（1986）講談社		
教材（その他）			
評価方法	・実験態度、実験台の整理整頓（20%） ・実験ノートへの適切な記述（40%） ・ワークブックの問題への解答（40%） 「ノートチェック」として実習中にワークブック、実験ノートを 3 回評価し、その評点の合計を元に総合的に評価する。		
到達目標	基礎的な項目について繰り返し操作することで、「技術」をしっかりと習得する。 講義で学んだ「知識」を復習し、実際に実物を目の前にしながら理解する。 実験ノートの書き方を学ぶ。		
準備学習	「微生物学Ⅰ」、「微生物学Ⅱ」を受講しておくこと。 「応用微生物学 A」、「応用微生物学 B」を受講すると、より理解が深まる。応用微生物学演習とリンクして進行するので、予め実験法の原理を理解しておくこと。		
受講者への要望			
全回の出席を要求する。遅刻・早退をしないこと。科学実験に対する態度、実験室でのマナーを修得すること。これらをいずれも「実験態度」として評価の対象とする。			
講義の順序とポイント			
1） 培地の調製 2） 微生物の染色 3） 微生物の増殖 4） 微生物の代謝 1 5） 微生物の代謝 2 6） 微生物の代謝 3 7） 有用微生物のスクリーニング 1 8） 有用微生物のスクリーニング 2 9） 有用微生物のスクリーニング 3 １０） 微生物による物質生産 1 １１） 微生物による物質生産 2 １２） 微生物による物質生産 3 １３） 発酵・醸造 1 １４） 発酵・醸造 2 １５） 発酵・醸造 3 実際にはそれぞれの課題を並行して実施する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★	★★

年度	2015	授業コード	J6019200A
科目名	植物バイオ実験	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Plant Science		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	植物の生長解析や細胞工学の基礎となるいくつかのテーマを取りあげ、その背景を理解しつつ実験技術とその解析法を修得することを目的とする。 第 1 に、植物細胞工学の基礎となる植物組織・細胞培養を取りあげ、、無菌操作・無菌培養などの基礎技術の修得や植物ホルモンとの関連などについて理解する。 第 2 に、光合成を取りあげ、細胞分画の基礎、光合成活性測定とその解析法などを修得する。 第 3 に、窒素栄養代謝を取りあげ、その生化学的実験技術や解析法、成分分析法などについて修得する。		
教材（テキスト）	実験の最初にプリント（テキスト）を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実験レポートで評価する。		
到達目標	植物の基本的細胞機能の解析に必要な実験法・実験技術を取得し、実験データを適切に解釈し、表現できること。		
準備学習	実験テキストについて、当日までに研究背景、目的、実験手順の要点を実験ノートにまとめておくこと。実験終了時には、実験データを整理し、データの解釈を行い、実験ノートにまとめること。事前学習で不十分な点を、実験テキストと一緒に配布済の参考資料などで、補足し、レポート作成、発表の準備に繋げること。また、「安全の手引き」の内容は常に確認しておくこと。		

受講者への要望

関連する講義課目（植物生理学、植物生化学、植物細胞工学、植物代謝工学、分子生物学）を受講しておくことが望ましい。
実験を安全に行うために、服装や受講態度に留意し、教員や実験助手の指示を守ること。
関連する講義課目と専門実験の総仕上げに当たることを意識し、主体的に取り組む。

講義の順序とポイント

1. 植物の組織培養実験法および解析法（1）
2. 植物の組織培養実験法および解析法（2）
3. 植物の組織培養実験法および解析法（3）
4. 植物の組織培養実験法および解析法（4）
5. 植物の組織培養実験法および解析法（5）
6. 光合成実験法および解析法（1）
7. 光合成実験法および解析法（2）
8. 光合成実験法および解析法（3）
9. 光合成実験法および解析法（4）
10. 光合成実験法および解析法（5）
11. 植物栄養代謝実験法および解析法（1）
12. 植物栄養代謝実験法および解析法（2）
13. 植物栄養代謝実験法および解析法（3）
14. 植物栄養代謝実験法および解析法（4）
15. 植物栄養代謝実験法および解析法（5）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J6019300A
科目名	分子生物学実験	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	バイオサイエンス分野の基本的な実験である生化学実験や遺伝子化学実験をおこなう．生体物質であるタンパク質の基本的な実験と酵素反応を解析する実験，および遺伝子である DNA の扱いと塩基配列解析実験と組み換え遺伝子の発現実験を通じて，種々の実験機器を扱う基本的な技術基盤を理解し，操作も習得し，基本技法の原理の理解を深め，タンパク質の性状，機能などの理解と DNA の性状，遺伝子の調節機能などの理解を深化させる実験実習をめざす．		
教材（テキスト）	特定の教科書は指定しない． 実験指導書はプリントにして，開講時に配布する． 実験レポートの課題や発表会の課題は，実験進行に合わせて，案内する．		
教材（参考文献）	実験の理解を深める参考図書などは，実験実習時間内に案内するほか，バイオ環境館・図書室内に推薦参考図書を指定し，活用の利便性も図っている．		
教材（その他）	必要に応じて，毎回の実験開始前にパワーポイントやビデオ教材などを活用して，提示する．		
評価方法	必修の専門実験であり，全回出席しなければならない． 成績の評価は，以下に示す内容を考慮し，総合的に評価する． ・実験レポート(70%) ・実験中の評価・実験ノートの評価(15%) ・実験成果の発表(15%)		
到達目標	以下の 5 項目を重点的な到達目標とする． ・実験の事前準備と実験計画を指導書をもとに実験ノートに整理できること． ・個々の実験の目的と内容やコンセプトを理解すること． ・種々の実験操作を習熟すること． ・実験結果の計算・整理・解釈・評価を実験班内で協力して，達成すること． ・成果の発表や課題の発表で，クラスメート面前でのプレゼンスキルを身につけること．		
準備学習	配布された実験手順書を事前に読み，実験手順の概要などを実験ノートに整理して，実験当日の手順の操作や時間経過の計画をまとめること． さらに手順書に書かれている内容や課題を十分理解できない場合は，事前に下調べをしておくこと． なお、事前準備の後でも，疑問や不明なことがあれば，必ず実験開始前の質問タイムを利用して，質問内容を整理して教員に質問すること．		

受講者への要望

バイオサイエンス分野で必要な専門実験実習について正しい基本を習得するものである．比較的長時間集中しなければ実験の進行が滞るので，過密なスケジュールにならないように，各自のタイムマネージメント（実験期間の体調自己管理も大切）も大切である．
実験レポート・課題演習・実験結果報告会も含めて，グループ内でメンバー間の円滑なコミュニケーションを図り，自己のスキルを磨いてほしい．
専門実験で身につけたスキルは，卒業研究や就活にも必要な基本的な能力を高めるものであることを確信して下さい．

講義の順序とポイント

1-2.　実験概要の全体説明と実験試薬などの準備、緩衝溶液の作成や濃度計算と滅菌方法
3-4.　　実験試料の取扱い・抽出操作・分離・分画の操作
5-6.　　タンパク質の抽出と可溶化とタンパク質の定量
7-8.　　タンパク質の分離・分別と精製，タンパク質の電気泳動ゲルの作成
9-10.　タンパク質の SDS-PAGE と膜への転写・ウエスターンブロット

11-12. 酵素反応の解析(反応条件の解析)
13-14. 酵素反応の解析(基質濃度と阻害剤濃度による反応解析)
15-16. コンピテント細胞の作製と形質転換
17-18. プラスミド DNA の抽出と調製と精製
19-20. 遺伝子断片の増幅とサブクローニング
21-22. PCR の理解と活用
23-24. 組換えタンパク質の発現誘導と可溶化精製
25-26. 発現タンパク質の機能解析と純度検定
27-28. 実験成果の整理とグループ内検討
29-30. 実験結果の評価と相互に検討課題の発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60194001
科目名	地球科学演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	地球科学は自然科学，特に物理・化学などの分野を基礎として自然体系を構成する総合科学である。したがって，自然の総合的体系の精確な理解のためにはまず最初に物理・化学的概念とその手法の修得が必要となる。この演習では自然科学の体系の中で地球科学の基礎となる太陽放射，超高層，大気，気象，海洋などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習，地球科学を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．太陽放射（１）：核融合 ２．太陽放射（２）：黒体放射 ３．太陽放射（３）：太陽定数 ４．超高層（１）：磁気圏 ５．超高層（２）：電離圏 ６．超高層（３）：熱圏 ７．大気（１）：成層圏 ８．大気（２）：対流圏 ９．大気（３）：大循環 10．気象（１）：気象現象 11．気象（２）：天気図 12．気象（３）：季節変化 13．海洋（１）：海水 14．海洋（２）：潮汐 15．海洋（３）：海流			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J60195001
科目名	健康食品学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	高齢化社会を迎え，健康食品の効果，安全性，医薬品との関係など，健康食品をめぐる問題は多く，摂取の仕方によっては，人の健康に深刻な影響を与える。本講義では，食品学および栄養学などの基礎にたって，健康食品がもつ問題を多角的に論じ，正しい健康食品のあり方，適用法について学ぶ。また健康食品を中心とした食のリスクコミュニケーターとしての役割についても論じる。なお，この科目は健康食品管理士認定試験の受験資格に必須であり，この講義中に認定試験のための事前準備も行う。		
教材（テキスト）	「新版 健康食品学」および「新版 問題解説集」一般社団法人日本食品安全協会　5,142 円/セット 上記教材は一般の書店で取り扱っていないため、下記のホームページを参考に、各自で購入するか、担当教員に相談して購入すること。特に健康食品管理士認定試験の受験を予定しているものは必ず購入すること。 http://www.ffcci.jp/publication/index1_2.html		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	小テスト(40%)，レポート(30%)，平常点(30%)出席状況・授業態度等を総合的に評価する。		
到達目標	健康食品管理士の資格取得を目標とする。更に，健康食品について現状を正確に把握し，科学的知見に基づいて判断できる食のリスクコミュニケーターの素養も身につける。更に興味ある学生は，健康食品管理士の資格取得を目標としても良い。		
準備学習	講義終了時に，次回の範囲を指定するので，テキストを熟読しておくこと。その範囲内の問題解説集も読んでおくこと。毎回の授業で行った小テストの復習を行うこと。		

受講者への要望

健康食品管理士認定試験に合格することを目指して欲しい。そのためには，講義には必ず出席し，予習，復習を積極的に行い，疑問点があれば積極的に聞くようにすること。また，健康食品学で学んだ用語について，自分の言葉で表現できる能力を身につけること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 食のリスクコミュニケーターの役割
3. 健康食品総論（１）
4　健康食品総論（２）
5. 医薬品と健康食品の相互作用
6. 疾患と病態解析
7. 健康食品の関係法規
8. 中間試験
9. 健康食品各論（１）
10. 健康食品各論（２）
11. 健康食品をめぐる問題点
12. 食品の安全性
13. 食品の表示
14. 健康食品の品質管理
15. 健康食品学の講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		★

年度	2015	授業コード	J60196031
科目名	科学英語基礎Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「科学英語基礎Ⅰ」は、高校英語から科学英語への橋渡しの時期であるから、高校までの英語力を基礎に、自然科学論文を中心によく使われる英語表現、専門用語及び関連する文法について学習することにより、科学に関する英文の読解力．表現力を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～7.　名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学修し、文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Were have all the forest gone?」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 8.　中間テストをする。 9～15.　動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習し、 文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Dust in the wind」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J60196032
科目名	科学英語基礎Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	瀧井　幸男	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「科学英語基礎Ⅰ」は、高校英語から科学英語への橋渡しの時期であるから、高校までの英語力を基礎に、自然科学論文を中心によく使われる英語表現、専門用語及び関連する文法について学習することにより、科学に関する英文の読解力．表現力を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。

講義の順序とポイント

1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。

2～7.　　名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学修し、文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Were have all the forest gone?」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

8.　　中間テストをする。

9～15.　動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習し、 文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Dust in the wind」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J60196033
科目名	科学英語基礎Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「科学英語基礎Ⅰ」は、高校英語から科学英語への橋渡しの時期であるから、高校までの英語力を基礎に、自然科学論文を中心によく使われる英語表現、専門用語及び関連する文法について学習することにより、科学に関する英文の読解力．表現力を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～7.　名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学修し、文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Were have all the forest gone?」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 8.　中間テストをする。 9～15.　動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習し、 文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Dust in the wind」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J60196034
科目名	科学英語基礎Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第４版　大修館書店（３，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．英文・和文基礎演習
2．可算名詞・不可算名詞演習
3．自動詞・他動詞・人称代名詞演習
4．第１文型・第３文型演習
5．形容詞演習
6．第２文型演習
7．第４文型・第５文型演習
8．総合演習（１）
9．副詞演習
10．形容詞・副詞の比較級・最上級演習
11．前置詞演習
12．助動詞演習
13．動詞の時制演習
14．受動態演習
15．総合演習（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	J60196035
科目名	科学英語基礎Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第４版　大修館書店（３，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．英文・和文基礎演習
2．可算名詞・不可算名詞演習
3．自動詞・他動詞・人称代名詞演習
4．第１文型・第３文型演習
5．形容詞演習
6．第２文型演習
7．第４文型・第５文型演習
8．総合演習（１）
9．副詞演習
10．形容詞・副詞の比較級・最上級演習
11．前置詞演習
12．助動詞演習
13．動詞の時制演習
14．受動態演習
15．総合演習（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	J60196036
科目名	科学英語基礎Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「科学英語基礎Ⅰ」は、高校英語から科学英語への橋渡しの時期であるから、高校までの英語力を基礎に、自然科学論文を中心によく使われる英語表現、専門用語及び関連する文法について学習することにより、科学に関する英文の読解力．表現力を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。

講義の順序とポイント

1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。

2～7.　　名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学修し、文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Were have all the forest gone?」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

8.　　中間テストをする。

9～15.　動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習し、 文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Dust in the wind」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J60197031
科目名	科学英語基礎II	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	「科学英語基礎Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語基礎II」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～8.　動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習するとともに、「The Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 9.　中間テストをする。 10～15.　「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J60197032
科目名	科学英語基礎II	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	瀧井　幸男	旧科目名称	
講義概要	「科学英語基礎Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語基礎II」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。

講義の順序とポイント

1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。

2～8.　　動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習するとともに、「The Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

9.　　中間テストをする。

10～15.　「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J60197033
科目名	科学英語基礎II	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	「科学英語基礎Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語基礎II」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜8.　動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習するとともに、「The Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 9.　中間テストをする。 10〜15.　「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J60197034
科目名	科学英語基礎II	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語 Ⅰ・科学英語基礎 Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第４版　大修館書店（３，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．基本英語演習
2．疑問詞・特殊疑問文演習
3．一般・選択・付加疑問文演習
4．命令文・特殊な文演習
5．否定文演習
6．動名詞・不定詞演習
7．分詞・不定詞基本演習
8．総合演習（1）
9．品詞・句・節演習
10．目的語をとる分詞句演習
11．目的語をとる不定詞句演習
12．使役動詞と原型不定詞演習
13．知覚動詞演習
14．等位接続詞演習
15．総合演習（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	J60197035
科目名	科学英語基礎II	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語　Ｉ・科学英語基礎　Ｉ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第４版　大修館書店（３，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		
受講者への要望			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
講義の順序とポイント			
１．基本英語演習 ２．疑問詞・特殊疑問文演習 ３．一般・選択・付加疑問文演習 ４．命令文・特殊な文演習 ５．否定文演習 ６．動名詞・不定詞演習 ７．分詞・不定詞基本演習 ８．総合演習（１） ９．品詞・句・節演習 10．目的語をとる分詞句演習 11．目的語をとる不定詞句演習 12．使役動詞と原型不定詞演習 13．知覚動詞演習 14．等位接続詞演習 15．総合演習（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	J72026A01
科目名	【院】理論経済学演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Theoretical Economics A		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	【院】理論経済学演習 I
講義概要	学術論文を「読む」訓練を行う。理論経済学分野の学術論文は，文章に加えて数学記号による表現が用いられる。慣れていない読者は，内容を理解するために多くの時間を要することがある。本講義では，比較的理解しやすい論文から読み始め，内容を理解する訓練を行う。		
教材（テキスト）	受講者の関心に合わせて学術論文を決定し，それをテキストとする。		
教材（参考文献）	随時指定する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	講義中の発表等で評価する。		
到達目標	専門分野の学術論文をある程度の速さで読めるようになる。		
準備学習	毎回論文に登場する概念の紹介をしてもらうので、その準備が必要となる		

受講者への要望

修士課程の 2 年間は，体感的には短いので，計画的に過ごすことを念頭に置いて受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　論文の選定
2　比較的理解しやすい論文の輪読①
3　比較的理解しやすい論文の輪読②
4　比較的理解しやすい論文の輪読③
5　若干の数学的展開が含まれる論文の輪読①
6　若干の数学的展開が含まれる論文の輪読②
7　若干の数学的展開が含まれる論文の輪読③
8　統計的検証を行っている論文の輪読①
9　統計的検証を行っている論文の輪読②
１０　統計的検証を行っている論文の輪読③
１１　数学的展開のフォロー①
１２　数学的展開のフォロー②
１３　数学的展開のフォロー③
１４　目的に応じた論文の読み方を整理する
１５　研究に対する議論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72026B01
科目名	【院】理論経済学演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Theoretical Economics B		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	
講義概要	自ら経済モデルを設定して比較静学などの検証作業を行う準備として，既存研究のモデル展開をフォローする訓練が有効である。本講義では，受講者が理論経済学分野の論文を選定し，こうした訓練を行う。そして，後半には，既存研究を応用・発展させる作業も行う。		
教材（テキスト）	受講者の関心に合わせて学術論文を決定し，それをテキストとする。		
教材（参考文献）	随時指定する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	講義中の発表等で評価する。		
到達目標	簡単な経済モデルを自ら設定して検証を行えるようになる。		
準備学習	テキストとなる論文を熟読して、概念を紹介する準備を行う。特に，計算過程のフォローに時間がかかる場合もある。		
受講者への要望			
メジャーなジャーナルに掲載された論文であっても，計算ミスを含んでいる場合がある。ただ，簡単にテキストの間違いと断定せずに，よく計算過程をフォローする気力をもって講義に臨んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１　ガイダンス　論文の選定　発表順の決定 ２～８　受講者が自分の選定した論文の内容を解説する ９～１４　受講者が選定した論文を応用・発展させて，その内容を発表する １５　批判的研究			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J72057001
科目名	【院】計量経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Methods of Econometrics		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	統計分析には多くのアプローチが考えられるが、この講義では基礎的な「計量モデル分析」を中心とした講義を行う。 モデルの対象はマクロ経済、企業経営、都市経営、等様々考えられる。モデルに含まれる要素間の関係を構造方程式の体系として表現する基礎的訓練と、構造パラメータの推定をいかに行うか種々考察する。安定したモデル構造を 推定し、これを通じて各種シュミレーション分析をする。ただし、いきなり高度なモデルを扱うより、初学者を意識したレ ベルから始める。 パラメータの推定と評価に必要となる統計知識を授業の各所で必要に応じ講義する。ただし、確率論は最小限の知 識にとどめ、実際的な統計分析に重点を置く。この分析にはアメリカでは標準的なツールとなっている EViews を利用 する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点(100%)		
到達目標	計量経済学の入門知識の習得		
準備学習	適宜参考文献や資料調査を指示するので、授業時間外で準備しておくこと。 これ以外に適宜レポート等の宿題を課すのでその準備をすること		
受講者への要望			
基礎的知識だけでなく、実証分析への関心を高めて欲しい			
講義の順序とポイント			
1 単回帰モデル 2 単回帰の実際 3 重回帰 4 分散の不均一性 5 分散の不均一性その 2 6 系列相関 7 ＤＷとその実際 8 トレンドとモデルの工夫 9 多重共線性 １０ 多重共線性の例と工夫 １１ ダミー変数の扱い １２ ダミー変数の扱いその 2 １３ 同時方程式モデル １４ 同時方程式の簡単な例 １５ 同時方程式の例			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72058001
科目名	【院】経済統計学	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Statistics		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済統計学では、ＳＮＡ統計を中心に、各種統計の内容理解を前提に、これの実証分析への応用を主な課題とする。すなわち、統計データの数量的分析手法については、単一方程式による各種回帰分析手法、及び、同時方程式体系の解法を系統的に解説する。また、既に実用化されているいくつかの計量モデルの分析を通じて、計量モデルの構造や作成のプロセスを理解させると共に、自ら簡単なモデル作成とシミュレーション分析を行えるような訓練を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点(100%)		
到達目標	経済データを背景の理論に関連づけて理解すること		
準備学習	適宜参考文献や資料調査を指示するので、授業時間外で準備しておくこと。 これ以外に適宜レポート等の宿題を課すのでその準備をすること		
受講者への要望			
特にありませんが、日経データなどはいつも利用できるようにしてもらいます。			
講義の順序とポイント			
１　時系列データの処理 ２　トレンドと季節調整 ３　指数 ４　物価指数の実際 ５　労働力 ６　賃金と労働市場 ７　労働市場の動向 ８　労働時間と生産性 ９　賃金と失業 １０　家計－所得と貯蓄・消費 １１　家計調査 １２　消費構造 １３　消費構造と国際比較 １４　景気変動 １５　景気変動と経済政策			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72059001
科目名	【院】時系列データ分析	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Analysis		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	マクロ金融システムの時系列データを分析する。マネー、GDP、短期・長期の金利、物価などの経済指標の時系列データの特性を統計学の観点から分析する。定常、非定常、トレンド、AIC、VAR モデルなどの基礎概念を修得する。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料配布		
教材（参考文献）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、２００９		
教材（その他）			
評価方法	毎回の小課題(50%)と２回のレポート(50%)を評価		
到達目標	経済時系列を統計学的に分析できること。		
準備学習	統計分析に必要な数学やコンピュータの知識は分析ソフトを使いながら慣れればよいので、はじめから高いレベルを要求しないが、経済現象の理解は必須である。ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論などの基礎知識をもとに、インフレ、デフレ、金融政策、財政政策などを理解していることが望ましい。 事前学習：マクロ経済学、金融論などの基本を理解しておくこと。 事後学習：参考文献「EViews による計量経済分析入門」を、春学期の終わりまでに読み終えておくこと。		

受講者への要望

統計学やパソコンは使っているうちにだんだん慣れてくる。はじめは難しく感じるかもしれないが、苦手意識から拒絶反応を持たないようにしてほしい。

講義の順序とポイント

1.データの取得と加工・修正
　日次、週次、月次、四半期、などのデータ特性と季節調整の概念
2.同上
　散布図、回帰直線、トレンドの検出
3.定常・非定常の検定
　　経済・金融データの多くが非定常変数であるので、単位根検定の方法を知る。
4.　同上
　日本のデータを分析
5.同上
　ヨーロッパ・アメリカのデータを分析
6.パラメータ推定の方法
　最小自乗法、ｔ－値、
7.同上
　最尤法、GMM 法
8.AIC の考え方
　データ・フィッティングの基礎となる AIC 評価規範の考え方
9.同上
　各種の具体例
10.金融分析
　Marshall のｋ、マネー、GDP、金利の相互関係
11.同上
　貨幣需要関数
12.VAR モデルの考え方
　相互依存する変数の時間遅れを伴う相関の強さ
13.同上
　成長率モデルとレベル変数の扱い
14.VEC モデルの考え方
　非定常変数の長期均衡関係と、定常な成長率モデルとの関係

15.同上

長期均衡の観点から見た貨幣需要関数

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72060001
科目名	【院】時系列モデル	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Models		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	マネー、GDP、短期・長期の金利、物価などから時系列マクロ金融モデルを作成し、モデルを用いた経済現象の分析を行う。金融問題として扱われるデフレ、流動性の罠、金融不安の定量分析、貨幣需要関数の安定性などを考察する。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料配布		
教材（参考文献）	Hamilton,J.D.　"Time Series Analysis"		
教材（その他）			
評価方法	毎回の課題(50%)と 2 回のレポート(50%)		
到達目標	マクロの時系列モデルを、各国のデータで作成すること。		
準備学習	経済現象の理解が不可欠である。ミクロ、マクロ、金融論などを基本知識として、インフレ、デフレなどの現象を理解しておくこと。 事前学習：マクロ経済学、金融論などの基本を理解しておくこと。 事後学習：参考文献「Time Series Analysis」において、授業で学んだ箇所と対応する章を読んでおくこと。		

受講者への要望

経済データ専用の分析ソフトを使うので、操作方法などよりも、何を分析し、その分析結果が経済学的に何を意味しているのかという理解がもっとも大事である。長い道のりではあるが、がんばってほしい。

講義の順序とポイント

1.VAR モデル作成
　Vector Auto Regressive モデルの作成方法を学ぶ。
2.同上
　遅れ次数、変数の増減（取捨選択）などの確認
3.インパルス応答
　VAR モデルにおけるインパルス応答とその解釈
4.同上
　成長率とレベル変数におけるインパルス応答の意味
5.VEC モデル作成
　Vector Error Correction モデルの作成方法を学ぶ。
6.同上
　共和分と、非定常変数間の長期均衡関係
7.同上
　VEC モデルにおけるインパルス応答
8.不均一分散モデル（GARCH モデル）の作成
　GARCH モデルの成り立ちとその意味
9.TARCH モデル、EGARCH モデルの作成
　各種の不均一分散モデルの比較検討
10.投資リスクと金融資産のリスク管理
　株式収益率のボラティリティ変動モデル（ARCH モデル）
11.同上
　株式収益率のボラティリティ変動モデル（確率ボラティティモデル）
12.不均一分散モデルの応用
　金融不安の導出（日銀 DI による資金繰り判断と貸出金利）
13.共和分手法による金融問題の解析
　流動性の罠
14.同上
　貨幣需要関数
15.同上

長短金利が貨幣需要関数に及ぼす影響

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72062001
科目名	【院】金融経済論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	まず、金融システムの概要を理解し、株式、債券市場の分析を通じて、株価決定の理論、債券利回りの構造など、資産運用において欠くことのできない、ファイナンスの知識を教授する。　具体的には、受講者の基礎知識、関心度に基づき、テキストを選定するが、できれば、本年度は英書をテキストとしたい。出席が重視されので、休まないようにしてほしい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	Frederic Mishkin, The Economics of money, Banking and Financial Markets, Addison Wesley、2008 Laurence Ball, Moeny, Banking, and Financial Markets, Worth Publishers, 2009		
教材（その他）			
評価方法	授業参加の熱意(宿題の完成度 40%、ゼミでの発言 20%、報告内容 40%)		
到達目標	ファイナンスの基本知識の習得につとめ、経済および景気に関する日々生ずる現実の問題に自分なり考えが持てるようにする。また、将来金融機関に就職する場合の基本的知識を習得する。		
準備学習	毎回次の講義の資料提供をおこなうので、しっかり事前の予習をすること。		

受講者への要望

欠席は講義の進行を妨げ、他の受講者の迷惑になるので、よほどの事以外、認めない。日々の経済状況を新聞、テレビニュースで把握しておくこと。

講義の順序とポイント

1．金融の仕組み
2．銀行とその役割
3．証券会社とその役割
4．保険会社とその役割
5．経済情報の見方
6．　短期金融市場
7．　長期金融市場
8．　株式市場
9．　外国為替市場
10．証券投資のリスクとリターン
11．　金利の期間構造
12．　オプションとディリバティブ
13.　金融規制
14.　金融危機
15.　ライフプランと資産運用

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72066001
科目名	【院】公共経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	公共経済学の主たる判断基準のひとつは「社会的厚生」に置かれる。そして、この社会的厚生の定義は、基本的には社会の構成員の効用の集計として設定される。したがって、個人の効用を規定し影響を与える諸要因と効用との関係を明確に理解することが公共経済学の分析にとっての第一歩となる。 本講義では、個人の生涯設計に関連する各ステージにおける主体的選択問題を、ミクロ経済学の制約付き最適化問題および費用＝便益分析を用いて理解する。		
教材（テキスト）	麻生良文『公共経済学』有斐閣 小崎・牧野・吉田『キャリアと労働の経済学』日本評論社 仁科一彦・倉澤資成『ポートフォリオ理論－基礎と応用』中央経済社		
教材（参考文献）	Auerbach&Feldstein, Handbook of Public Economics, North-Holland. 根岸康夫『現代ポートフォリオ理論講義』金融財政事情研究会		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内報告 50%　レポート 50%		
到達目標	社会的厚生を規定する個人の効用の性質について理解する。その上で、個人の主体的選択問題とその応用としての各種の公共政策の導入・変更が個人の効用に与える影響について理解すると同時に、市場および社会的厚生への影響を確認する。		
準備学習	ミクロ経済学の基礎理論は復習しておくこと。特に、制約付き最適化問題および社会的厚生についての理解は不可欠である。		

受講者への要望

（1）丁寧な理解を心がけ、曖昧な点は質問し、確実な理解に到達するまで取り組む。
（2）理論分析の前提条件の妥当性、およびその修正がもたらす結論への影響について考える。
（3）現実社会を前提に、経済理論が提示する結論の有効性とその限界について考える。

講義の順序とポイント

1．効用の性質：基数的効用と序数的効用、各種の効用関数の特徴
2．ライフサイクル理論の基本：貯蓄の決定、利子率の変化の貯蓄への影響
3．ライフサイクル理論の応用：不労所得の変化の貯蓄への影響、ダクラス＝有沢の法則
4．労働供給の経済学１：余暇と労働の選択、ベドニック賃金関数、ワークライフ・バランス
5．労働供給の経済学２：公的年金の労働供給への影響、退職促進効果
6．キャリアの経済学１：人的資本理論、シグナリング理論
7．キャリアの経済学２：サーチ理論、昇進のトーナメント理論
8．貯蓄の経済学１：モダン・ポートフォリオ理論、２ファンド分離定理
9．貯蓄の経済学２：資本資産価格モデル、裁定価格付け理論
１０．リスクの経済学：期待効用理論、リスク選好、標準偏差と期待収益の選択
１１．保険の経済学１：モラルハザード、情報の非対象性、レモンの原理
１２．結婚の経済学：ベッカー・モデル、ヴェイス・モデル、最適停止問題
１３．出生の経済学：ライベンシュタイン・モデル、ベッカー・モデル、イースタリン・モデル
１４．社会保障の経済学１：公的年金、私的年金
１５．社会保障の経済学２：失業保険、労災保険、医療保険、介護保険

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J72068001
科目名	【院】経済社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Sociology		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本講義では、まず近代という時代がいかなる歴史的背景の下に誕生し、そしてどのような特質を持つのかを概観する。次に、そこへ登場する社会構想である自由主義の特徴と限界について考察し、近代のもう一つの体制構想である社会主義についても検討を行う。また、近代民主主義の理念とその変質にも目を向ける。 さらに、戦後西側諸国で指導像とされた福祉国家について、その理想と現実とはどのようなものであったかを考察した上で、近代の転換の方位と新たな社会の原理について展望する。 なお、受講者には毎回事前に配布する資料等を熟読しておくことが求められ、授業の中でその内容等について報告を行ってもらうこともある。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	野尻武敏『第三の道』晃洋書房 野尻武敏『転換期の政治経済倫理序説』ミネルヴァ書房		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する。		
評価方法	授業内（平常）の課題（小レポート等）(50%)、期末レポート（50%)。		
到達目標	近代社会の特質と近代の体制構想、および経済社会体制の転換の方向について理解する。		
準備学習	予め指示する文献等を熟読し、指定する範囲をレジュメにまとめて毎回の授業時に提出すること。		

受講者への要望

受講者には授業の中でテキスト等の文献の内容について報告を行ってもらうことがあるので、十分な準備（予習）の上で授業に臨むことが求められる。

講義の順序とポイント

1．近代の誕生
2．近代の特性
3．自由主義社会思想
4．自由資本主義の展開
5．体制混合化
6．自由市場経済の諸機能
7．新自由主義の思潮
8．社会主義の新展開
9．近代民主主義社会
10．利益団体と多元社会化
11．福祉国家の形成と挫折
12．高齢化の進行
13．少子化問題
14．近代の原理と社会保障の困難
15．福祉社会の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72073001
科目名	【院】経済政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	政策主体を巡る議論を整理したのち，マクロ経済政策の基本的な事項の理解に努めるとともに，政策形成過程の問題を取りあげ，経済社会の「三重秩序構想」を紹介する．		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題報告(50%)と学期末レポート（50%）		
到達目標	経済政策論基礎理論についての理解を深める		
準備学習	配付資料に目を通し，関連する経済動向と政策的対応について，新聞報道や雑誌記事等を通じて事前に確認する．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解し，課題発見力と問題解決能力を向上させる			
講義の順序とポイント			
１．日本経済の現況と課題 ２．日本経済の現況と課題 ３．経済社会の多元化と政策主体の多様化 ４．成長政策 ５．分配政策 ６．経済安定化政策 ７．経済安定化政策 ８．経済安定化政策 ９．経済安定化政策 １０．経済安定化政策 １１．政策形成過程 １２．政策形成の担い手 １３．政策形成のパラダイム １４．協調的政策形成 １５．経済社会の三重秩序論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J72074001
科目名	【院】比較経済政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Comparative Analysis of Economic Policy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	共通する政策課題でも，その対応策は多様である．それぞれの国の歴史的・社会的・経済的な背景が異なるからである．とはいえ，諸外国の政策的取組が参考にならないことはないし，政策にも流行がある．例えば，先進各国で今日広く強調されているのが積極的労働市場政策であり，ワーク・ライフ・バランスである．そのことを通じて労働市場での人間の主権回復が目指されていると言ってもよい．我が国の政策課題を EU の経済社会政策を中心に比較検討する．		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題報告(50%)と学期末レポート(50%)		
到達目標	EU の政策実践と我が国のそれを比較検討し，日本の政策課題と政策提言をまとめる．		
準備学習	欧州統合の拡大と深化が進む中，EU の政策は創意工夫に富んでいる．新聞や雑誌記事等を通じて，欧州委員会の取組を事前に確認する．		
受講者への要望			
政策課題をできるだけ具体的に絞り込み，EU と日本のそれぞれの政策的対応を注視しよう．			
講義の順序とポイント			
１．我が国の経済社会の変容と政策課題 ２．我が国の経済社会の変容と政策課題 ３．我が国の経済社会の変容と政策課題 ４．欧州社会モデル ５．欧州統合の拡大 ６．欧州統合の拡大 ７．欧州統合の深化 ８．欧州統合の深化 ９．欧州統合の深化 １０．リスボン戦略の展開 １１．欧州雇用政策の展開 １２．欧州雇用政策の展開 １３．フレキシキュリティ政策 １４．欧州 2020 １５．福祉国家からワークフェアー国家へ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J72075001
科目名	【院】公共政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Policy		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	「公共性」とは何か、さらに公共の利益をどのような概念で捉え、それを測定可能な具体的指標として何に注目すべきであるのか。これらの問題は、価値判断を伴う規範的アプローチによって捉えていくしかない。すなわち、公共性の問題は公共の哲学から独立には論じ得ない。 また、公共の利益の実現およびその拡大を図る役割の一部は政府が担うが、その政府は不完全であり、政府が公共の利益を損なう場合も生じうる。民主主義社会における政府の意思決定メカニズムに内在する欠陥について、経済学的視点から分析するのが「公共選択論」である。 さらに、現日本社会や国際社会が現実の社会問題を解決するために法的規制や予算編成、あるいは公共サービスの供給を行っているが、それらの背景にある具体的な政策目標や政策理論についても検討していく。		
教材（テキスト）	（1）Muller,D.C., Public Choice Ⅱ, Cambridge University Press. （2）宮本憲一『公共政策のすすめ：現代的公共性とは何か』有斐閣。		
教材（参考文献）	（1）ミューラー,D.C.,『ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ・公共選択の展望』Ⅰ－Ⅲ　関谷・大岩訳　多賀出版。 （2）新藤宗幸『概説日本の公共政策』東京大学出版会。		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内報告 50%　レポート課題 50%		
到達目標	公共性とは何か、公共の利益を実現すべき政府の意思決定における欠陥は何か、現代の日本および国際社会が目指す公共の利益とその政策手段は何か、について効率性を主要な判断基準として理解する。		
準備学習	（1）ミクロ経済学の基礎を復習しておくこと。 （2）配布資料の指定箇所を予習しておくこと。		
受講者への要望			
（1）「公共経済学」と合わせての履修が望ましい。 （2）現代日本の公共政策に関する具体的な課題について、日頃から関心を持って能動的に情報に接する。			
講義の順序とポイント			
第１回：公共性の概念と哲学 第２回：政府とは何か 第３回：政府の失敗とそのメカニズム 第４回：公共選択論（１）投票のルール 第５回：公共選択論（２）投票のパラドックスと中位投票者モデル 第６回：公共選択論（３）選挙制度と政治家の行動 第７回：公共選択論（４）官僚 第８回：公共政策（１）年金・医療・介護 第９回：公共政策（２）労働政策 第１０回：公共政策（３）社会資本整備 第１１回：公共政策（４）公債管理政策 第１２回：国際公共政策（１）国際公共財とは何か 第１３回：国際公共政策（２）地球環境政策 第１４回：国際公共政策（３）途上国の開発援助 第１５回：国際公共政策（４）安全保障			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72076001
科目名	【院】社会政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Policy		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本講義では、まず社会政策実践およびドイツ語圏における社会政策論の展開を概観することを通じて、社会保障の原理的・思想的基盤について考察を行う。 次に、今日の社会保障制度の中から医療・年金・介護に関する各分野を取り上げ、それらの方法、目的および意義を考察するとともに、少子高齢社会においてそれらが直面する課題について検討を行うことにより、わが国の社会保険制度への理解を深めることを目指す。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて指示する。		
評価方法	授業内（平常）の課題（小レポート等）(50%)、期末レポート（50%)。		
到達目標	社会保障の意義と社会保険の各制度について理解する。		
準備学習	予め指示する文献等を熟読し、指定する範囲をレジュメにまとめて毎回の授業時に提出すること。		
受講者への要望			
・受講者には指示する文献の内容について授業の中で報告を行ってもらうことがあるので、十分な準備（予習）の上で授業に臨むことが求められる。 ・学部在学中に「社会政策」（または「社会保障論」等の社会保障をテーマにした科目）を受講し単位取得済みであることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1. 社会保障の制度と定型 2. 社会政策から社会保障へ 3. 社会政策の構造機能 4. 社会保障と補完性原則 5. 社会保険の概要 6. 医療保険の概念と制度体系 7. 健康保険 8. 国民健康保険 9. 公的年金制度の体系と意義 10. 国民年金 11. 厚生年金 12. 公的年金制度と高齢化 13. 介護と社会保険 14. 介護保険の基礎知識 15. 介護保険制度の課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72079001
科目名	【院】金融政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Monetary Policy		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	金融政策の具体的手法について学び、マクロ経済の動向、金融政策と景気変動、マネーストックと実体経済の関係についての理解を深める。本年度はいま注目されている、アベノミクスについて学び、日本経済の長期デフレと金融政策の関係を中心に講義するが、これまで世界で起きたさまざまな金融危機についても学ぶ。講義は出席を重視するので、休まないでほしい。		
教材（テキスト）	Frederic Mishkin, The Economics of money, Banking and Financial Markets, Addison Wesley、 2008		
教材（参考文献）	P.Howels and K. Bain, The Economics of Money, Banking and Finance, Second. Ed. Prentice Hall, 2002. L. Jonung, J. Kiander, and P. Varita, The Great Financial Crisis in Finland and Sweden, Edward Elger, 2009.		
教材（その他）			
評価方法	授業参加の熱意(宿題の完成度 40%、ゼミでの発言 20%、報告内容 40%)		
到達目標	金融政策全般の知識を習得し、金融危機などの現実問題に自分なりの意見を持てるようにする。		
準備学習	毎回つぎの時間の講義資料を提供するので、事前に予習をよくしておくこと。		
受講者への要望			
日々新聞の経済記事をよく読み、経済の現状を把握していること。宿題を多くだすので、その提出を怠らないこと。			
講義の順序とポイント			
１．　金融政策とは何か ２．　日本銀行の金融調節 ３．　高度成長と金融① ４．　高度成長と金融② ５．　バブル経済と金融① ６．　バブル経済と金融② ７．　金融自由化と金融危機① ８．　金融自由化と金融危機② ９．　アメリカの S&L 金融危機 １０．　メキシコの金融危機 １１．　北欧の金融危機① １２．　北欧の金融危機② １３．　東アジア金融危機 １４．　サブプライムローンと金融危機 １５．　1930 年代の世界大恐慌			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72089001
科目名	【院】技術移転論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	２１世紀の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。21 世紀におけるわが国の企業にはいまや我々の前に進むべき用意された道はなく自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。その実現の手段として大学等の「知」を活用した国の産業競争力の強化という観点から産学官連携における技術移転は重要な位置付けであると考えられている。 本講義では「技術移転」についての知識を習得し、産学官連携や企業の技術経営の事例、地域との連携等を学習していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義で適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	レポート(60%)＋平常点(40%)		
到達目標	技術移転に関する知識の習得。		
準備学習	技術移転、産学官連携活動の興味ある事例を予習しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
１）講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること ２）講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める			
講義の順序とポイント			
1　技術移転論の内容と進め方 2　技術移転とは？ 3　産学官連携とは？ 4　産学官連携支援体制づくり 5　大学の「知」の発掘・発信 6　産業界のニーズ把握 7　大学発ベンチャーの育成 8　産学官連携事例(1) 9　産学官連携事例(2) 10 産学官連携事例(3) 11 地域資源とは(1) 12 地域資源とは(2) 13 地域との連携事例(1) 14 地域との連携事例(2) 15 これからの技術移転について			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72091A01
科目名	【院】技術移転論演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	２１世紀の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。21 世紀におけるわが国の企業にはいまや我々の前に進むべき用意された道はなく自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。その実現の手段として大学等の「知」を活用した国の産業競争力の強化という観点から産学官連携における技術移転は重要な位置付けであると考えられている。 　本演習にて「業界別のニーズ事例調査」、「大学発ベンチャーの事例調査」などの「技術移転」についての事例を調査演習をおこなう。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	演習時に適宜指示		
教材（その他）			
評価方法	レポート(60%)＋平常点(40%)		
到達目標	技術移転に関する知識の習得。		
準備学習	技術移転、産学官連携活動の興味ある事例を予習しておくこと。		
受講者への要望			
１）講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること ２）講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める			
講義の順序とポイント			
1　演習の内容と進め方 2　業界別のニーズ事例調査演習(1) 3　業界別のニーズ事例調査演習(2) 4　業界別のニーズ事例調査演習(3) 5　大学発ベンチャーの事例調査演習(1) 6　大学発ベンチャーの事例調査演習(2) 7　大学発ベンチャーの事例調査演習(3) 8　日本の技術移転の事例調査演習(1) 9　日本の技術移転の事例調査演習(2) 10 日本の技術移転の事例調査演習(3) 11 日本の技術移転の事例調査演習(4) 12 演習レポート作成(1) 13 演習レポート作成(2) 14 演習レポート作成(3) 15　演習レポート発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72091B01
科目名	【院】技術移転論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	現代の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。21 世紀におけるわが国の企業にはいまや我々の前に進むべき用意された道はなく自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。その実現の手段として大学等の「知」を活用した国の産業競争力の強化という観点から産学官連携における技術移転は重要な位置付けであると考えられている。 本演習にて「地域資源」についての事例を調査研究し、地域資源に関する産学官連携事例、地域との連携事例等に関し演習していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	演習時に適宜指示		
教材（その他）			
評価方法	レポート(60%)＋平常点(40%)		
到達目標	技術移転に関する知識の習得。		
準備学習	技術移転、産学官連携活動の興味ある事例を予習しておくこと。		
受講者への要望			
１）講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること ２）講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める			
講義の順序とポイント			
1　演習の内藤と進め方 2　地域資源について事例調査演習(1) 3　地域資源について事例調査演習(2) 4　地域資源について事例調査演習(3) 5　地域資源について事例調査演習(4) 6　地域と大学の連携事例調査演習(1) 7　地域と大学の連携事例調査演習(2) 8　地域と大学の連携事例調査演習(3) 9　地域社会への技術移転の事例調査演習(1) 10 地域社会への技術移転の事例調査演習(2) 11 地域社会への技術移転の事例調査演習(3) 12 演習レポート作成(1) 13 演習レポート作成(2) 14 演習レポート作成(3) 15 演習レポート発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72122A01
科目名	【院】金融経済論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Finanial Economics A		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	演習では、受講者と相談の上、研究タイトルを決め、それに従って論文指導を実施する。ただし、金融危機に関するものでなくてはならない。1 年目は論文の基礎として、1985 年のプラザ合意以降、わが国でどのようにバブルが発生し、その後日本経済が長期のデフレ不況に陥っていったかを研究する。また、それと関連して、1930 年代に生じたアメリカ大恐慌についても研究をする。		
教材（テキスト）	田中隆之『現代日本経済：バブルとポストバブルの奇跡』日本評論社		
教材（参考文献）	若田部　『危機の経済政策』　日本評論社 小川一夫　『失われた 10 年の真実』　東洋経済新報社 藤井真理子　『金融革新と市場危機』　日本経済新聞社 伊藤隆敏他　『ポスト平成不況の日本経済』　日本経済新聞社 村松・奥野　『平成バブルの研究上,下』　東洋経済新報社 浜田・原田　『長期不況の理論と実証』　東洋経済新報社 深尾　『マクロ経済と産業構造』　慶応大学出版会 池尾　『不良債権と金融危機』　慶応大学出版会 吉川　『バブル・デフレ期の日本経済と金融政策』　慶応大学出版会 星・カシャップ　『日本金融システム進化論』　日本経済新聞社		
教材（その他）			
評価方法	授業参加の熱意(宿題の完成度 40%、ゼミでの発言 20%、報告内容 40%)		
到達目標	金融危機についての基本的理解ができること。		
準備学習	毎時間与えられるアドバイスに従い、次回の講義までに論文の修正をすること。		
受講者への要望			
論文作成に専念すること。			
講義の順序とポイント			
論文完成を目指して、その準備をおこなう。 1.日本のマクロ経済構造 2.日米経済摩擦の展開とプラザ合意 3.政策協調と財政金融政策 4.円高の役割 5.金融自由化のインパクト 6.金融監視と規律の欠如 7.バブルと金融機関行動 8.バブルと資産価格高騰とそのメカニズム 9.バブルと実体経済 10.バブルの崩壊過程 11.その理念 12.経済主体の行動 13.不良債権問題の発生と展開 14.金融機関の破綻処理 15.量的金融緩和政策とその効果について			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72123B01
科目名	【院】金融経済論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Finanial Economics B		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	演習Ａに準ずる。　演習では、受講者と相談の上、研究タイトルを決め、それに従って論文指導を実施する。ただし、金融危機に関するものでなくてはならない。1 年目は論文の基礎として、1985 年のプラザ合意以降、わが国でどのようにバブルが発生し、その後日本経済が長期のデフレ不況に陥っていったかを研究する。また、それと関連して、1930 年代に生じたアメリカ大恐慌について研究をする。		
教材（テキスト）	ミルトン・フリ-ドマンとアンナ・シュウォ－ツ『大収縮 1929-1933』日経ＢＰクラシックス		
教材（参考文献）	Ben Bernanke, Essays on the Great Depression, Prenceton University, 2000. Edward Chancellor,　Devil Take the Hindmost:: A History of Financial Speculation（山岡訳『バブルの歴史』日経ＢＰ社） Ｆ. Allen, Only Yesterday--A Informal History of the Nineteen Twenties, New York, Harper and Brothers. Peter Temin, Did Monetry forces Cause the Great Depression ?, W.Norton, 1976. Peter Temin, Lessons From the Great Depresion, Cambridge, 1989. C. Kindleberger, Maniacs, Panics and Crashes, Basic books Inc., NY.1989. パ-カ-『大恐慌を見た経済学者 11 人はどう生きたか』中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	授業参加の熱意(宿題の完成度 40%、ゼミでの発言 20%、報告内容 40%)		
到達目標	金融危機について自分の意見が語れること。		
準備学習	毎日かなり多くの資料、文献を読むことが要求される。		
受講者への要望			
金融危機の解明に情熱が持てること。英語の文献を読む機会が多いので、英語の読解力があること。			
講義の順序とポイント			
論文完成を目指して、その準備をおこなう。 １．　１９２０年代のアメリカ ２．　金本位制の問題 ３．　金融仮説とフリードマン① ４．　金融仮説とフリードマン② ５．　バーナンキの貸付仮説① ６．　バーナンキの貸付仮説② ７．　B.ストロングの死と金融政策 ８．　金融政策指標と大恐慌 ９．　真正手形ドクトリン １０．　ケインズと大恐慌 １１．　ルーズベルトの金融改革① １２．　ルーズベルトの金融改革② １３．　37 年の出口問題 １４．　第二次世界大戦は恐慌を終了させたか。 １５．　来年度の研究方針			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72154A01
科目名	【院】租税論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Tax Policy A		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	本演習では租税論および租税法の基礎的・体系的理解を深めることを目的とする。わが国の税制は国税だけでも法人税、所得税、相続税、消費税等々その範囲が膨大でその全体を理解するのは容易ではない。それぞれの税目を概観しながら、わが国税制の現状と問題点を考察する。		
教材（テキスト）	林正寿著『租税論』有斐閣		
教材（参考文献）	住澤整編『図説日本の税制（平成 26 年度版)』　財経詳報社 金子宏著『租税法（最新版)』　弘文堂		
教材（その他）			
評価方法	授業内報告（50%）　課題レポート（50%）		
到達目標	わが国の税制を体系的に理解し、現状と問題点を把握する。		
準備学習	税制に関する基礎的な文献や、新聞報道などを関心をもって読むこと。		
受講者への要望			
授業中の活発な議論を期待する。			
講義の順序とポイント			
1．わが国の税制の概要 2．租税制度の変遷（1） 3．租税制度の変遷（2） 4．租税制度の変遷（3） 5．租税制度の現状（所得税 1） 6．租税制度の現状（所得税 2） 7．租税制度の現状（法人税 1） 8．租税制度の現状（法人税 2） 9．租税制度の現状（法人税 3） 10.租税制度の現状（法人税 4） 11.租税制度の現状（消費税 1） 12.租税制度の現状（消費税 2） 13.租税制度の現状（消費税 3） 14.国際課税制度 15.最近の税制改正			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72154C01
科目名	【院】租税論演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Tax policy C		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	租税論に関する受講者各自の研究テーマに基づき、個別論点を掘り下げ、修士論文にまとめ完成させることを目的とする。論文とレポートとの違いは問題意識の有無にある。常に社会・経済の動きを注視し、高い問題意識を持って、現行税制の現状と問題点を洞察し、あるべき税制の姿まで踏み込んだ論文作成が望まれる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	受講者の研究テーマに応じて適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内報告（50%）　課題レポート（50%）		
到達目標	現行税制の問題点を掘り下げ、あるべき税制の姿を探求する修士論文を完成する。		
準備学習	研究テーマに関する広範な文献、租税判例、資料を読破する。		
受講者への要望			
社会変化を見据え、高い問題意識を持って研究テーマを探求すること。			
講義の順序とポイント			
1.　研究テーマと研究計画の検討（1） 2.　研究テーマと研究計画の検討（2） 3.　研究テーマと研究計画の検討（3） 4.　研究テーマに関する先行研究の報告と議論（1） 5.　研究テーマに関する先行研究の報告と議論（2） 6.　研究テーマに関する先行研究の報告と議論（3） 7.　修士論文の進捗状況の報告と議論（1） 8.　修士論文の進捗状況の報告と議論（2） 9.　修士論文の進捗状況の報告と議論（3） 10.　修士論文の各章の報告と議論（1） 11.　修士論文の各章の報告と議論（2） 12.　修士論文の各章の報告と議論（3） 13.　修士論文の章構成の報告と議論（1） 14.　修士論文の章構成の報告と議論（2） 15.　夏季休暇中の研究計画の確認			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J72154D01
科目名	【院】租税論演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Tax policy D		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	租税論に関する受講者各自の研究テーマに基づき、個別論点を掘り下げ、修士論文にまとめ完成させることを目標とする。社会・経済の動きを注視し、高い問題意識を持って、現行税制の現状と問題点を洞察し、あるべき税制の姿まで踏み込んだ論文作成が望まれる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	受講者の研究テーマに応じて適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内報告（30%）　修士論文の内容（70%）		
到達目標	わが国の現行税制の問題点を掘り下げ、あるべき税制の姿を探求する修士論文を完成する。		
準備学習	研究テーマに関する広範な文献、租税判例、資料を読破する。		

受講者への要望

修士論文作成にあたっては、数多くの文献等にあたり、先行研究を読み込むことが必要なことはいうまでもないが、研究テーマを広げすぎると論文としてまとまらない。極力テーマを絞込み、掘り下げることが肝要である。また、思考とともに、常に手を動かし文章化作業を進めていくことが重要である。

講義の順序とポイント

1. 夏季休暇中の修士論文進捗状況の報告
2. 修士論文の全体構想の報告と議論（1）
3. 修士論文の全体構想の報告と議論（2）
4. 修士論文の全体構想の報告と議論（3）
5. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（1）
6. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（2）
7. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（3）
8. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（4）
9. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（5）
10. 修士論文全体の草稿の報告と議論（1）
11. 修士論文全体の草稿の報告と議論（2）
12. 修士論文全体の草稿の報告と議論（3）
13. 修士論文全体の草稿の報告と議論（4）
14. 修士論文全体の草稿の報告と議論（5）
15. 参考文献目録等を含めた修士論文の最終検討

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72155B01
科目名	【院】租税論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Tax Policy B		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	本演習では、租税論演習Ａで学んだ知識のうえに立ち、受講者の関心のある税目につき、より掘り下げた個別問題を研究する。基本書や研究論文等の講読や、判例研究を地道に行うことを第一歩として、その上で高い問題意識を持って、個別論点の検討を行うことによって、修士論文にふさわしいテーマを見出すことが望まれる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	三木義一ほか編著『租税判例分析ファイル１（所得税編）』　税務経理協会 三木義一ほか編著『租税判例分析ファイル２（法人税編）』　税務経理協会 三木義一ほか編著『租税判例分析ファイル３（相続税・消費税編）』　税務経理協会		
教材（その他）			
評価方法	授業内報告（50%）　課題レポート（50%）		
到達目標	わが国の税制を体系的に理解し、現状と問題点を把握する。		
準備学習	税制に関する基礎的な文献や、新聞報道などを関心をもって読むこと。		
受講者への要望			
授業中の活発な議論を期待する。			
講義の順序とポイント			
１．所得税の現状と問題点（１） ２．所得税の現状と問題点（２） ３．所得税の現状と問題点（３） ４．法人税の現状と問題点（１） ５．法人税の現状と問題点（２） ６．法人税の現状と問題点（３） ７．法人税の現状と問題点（４） ８．法人税の現状と問題点（５） ９．法人税の現状と問題点（６） 10.消費税の現状と問題点（１） 11.消費税の現状と問題点（２） 12.消費税の現状と問題点（３） 13.資産税の現状と問題点（１） １４.資産税の現状と問題点（２） １５.資産税の現状と問題点（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72159001
科目名	【院】マクロ経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	
講義概要	大学院のマクロ経済学であるが，受講者の知識にバラつきがあることも踏まえて，ある程度基礎的な内容にも触れて講義する。マクロ経済学やミクロ経済学を専攻しない院生でも，経済学研究科としてふさわしい修士論文の完成に役立つ内容の講義にしたい。		
教材（テキスト）	浅子和美，加納悟，倉澤資成共著　『新経済学ライブラリ－３　マクロ経済学　第２版』　新世社		
教材（参考文献）	テキスト，論文等，随時指示する。		
教材（その他）	事前に準備する教材は特にない。		
評価方法	レポートにより評価する。		
到達目標	マクロ経済学を専攻する院生は，研究の基礎知識を漏れなく身につける。 その他の専攻の院生は，修士論文作成に必要な参考文献を読みこなせる知識を身につける。		
準備学習	経済モデルを解説する際，途中の展開を省略することもあるので，すぐに理解できない場合には自分で計算を確認することが必要になる。		

受講者への要望

より良い修士論文に仕上げることを常に考えて受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

1　経済活動水準の決定①　ＧＤＰについて（ガイダンスも含む）
2　経済活動水準の決定②　市場と経済主体
3　ＧＤＰの決定①　ケインズ経済学の考え方
4　ＧＤＰの決定②　古典派経済学の考え方
5　労働市場と完全雇用
6　不完全雇用経済と有効需要原理
7　家計の消費・貯蓄行動①　ライフサイクル仮説など
8　家計の消費・貯蓄行動②　消費と貯蓄
9　企業の投資行動①　投資の調整コスト
１０　企業の投資行動②　トービンのｑ理論
１１　貨幣需要①　貨幣の三機能
１２　貨幣需要②　貨幣の機能に基づく需要
１３　貨幣供給①　マネーサプライからマネーストックへ
１４　貨幣供給②　信用創造
１５　まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J72160001
科目名	【院】マクロ経済分析	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomic Analysis		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	
講義概要	「マクロ経済学」に引き続いて，基礎知識の確認も行いながら講義する。マクロ経済学やミクロ経済学を専攻しない院生でも，経済学研究科としてふさわしい修士論文の完成に役立つ内容の講義にしたい。		
教材（テキスト）	浅子和美，加納悟，倉澤資成共著　『新経済学ライブラリ－３　マクロ経済学　第２版』　新世社		
教材（参考文献）	テキスト，論文等，随時指示する。		
教材（その他）	事前に準備する教材は特にない。		
評価方法	レポートにより評価する。		
到達目標	マクロ経済学を専攻する院生は，研究の基礎知識を漏れなく身につける。 その他の専攻の院生は，修士論文作成に必要な参考文献を読みこなせる知識を身につける。		
準備学習	経済モデルを解説する際，途中の展開を省略することもあるので，すぐに理解できない場合には自分で計算を確認することが必要になる。計算のフォローは授業の初めにやってもらう。		
受講者への要望			
より良い修士論文に仕上げることを常に考えて受講してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１　マクロ経済の一般均衡　フロー市場とストック市場 ２　各種市場　労働市場，生産物市場，資産市場 ３　古典派経済学の体系①　完全雇用均衡 ４　古典派経済学の体系②　数量方程式と貨幣の中立性 ５　ケインズ経済学の体系①　不完全雇用均衡 ６　ケインズ経済学の体系②　総需要・総供給分析 ７　ケインズ経済学の体系③　ＩＳ－ＬＭ分析 ８　価格調整と数量調整　モデルの前提 ９　インフレーション　インフレ期待とＩＳ－ＬＭ分析 １０　失業　フィリップス曲線 １１　景気循環　各種サイクル １２　広義政府の経済活動①　財政政策 １３　広義政府の経済活動②　金融政策 １４　マクロ安定化政策　合理的期待と政策の有効性 １５　政策評価の問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J72161001
科目名	【院】情報科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Science		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	現在のネットワーク社会の安全を守る基本的な技術として暗号があります。この講義では暗号の理論的な基礎であ る初等整数論の話を表計算ソフト Excel を使って学びます。それを踏まえて公開鍵暗号方式の仕組みと安全性を考 察します。また、実際のネットワーク環境での利用方法を実習します。		
教材（テキスト）	靍浩二著「Excel で学ぶ暗号技術入門」オーム社 2808 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点すなわち授業姿勢(40%)と、授業内レポートとレポート(60%)で評価します。		
到達目標	暗号技術について、実社会での意味と、具体的技術的な内容を把握することです。		
準備学習	現代社会におけるセキュリティ技術やネットワークにおける脅威・事件を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心 を持つようにしてください。		
受講者への要望			
数学の計算を厭わないことと、コンピュータの操作が一通り出来ることです。懇切丁寧なテキストを採用していますので毎回予習して おいてください。?			
講義の順序とポイント			
講義の順序は 1. 暗号入門 2. 初等整数論 1 3. 初等整数論 2 4. 初等整数論 3 5. 暗号技術(1)共通鍵暗号 6. 暗号技術(2)公開鍵暗号 7. 暗号技術(3)ハッシュ関数とデジタル署名 8. 暗号攻撃方法 9. 情報セキュリティ技術(1)電子認証技術 10. 情報セキュリティ技術(2)SSL 11. 情報セキュリティ技術(3)SSH 12. 情報セキュリティ技術(4)IPSec 13. ネットワーク社会と暗号 14. 量子暗号 15. 暗号技術の課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	J72162001
科目名	【院】経済学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economics		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	アダム・スミスに始まるイギリス古典派経済学を中心に講義をおこなう。「現代経済学」の源流はスミスの『国富論』(1776 年)に求められ、このスミスからリカードウとマルサスをへて、Ｊ．Ｓ．ミルにいたる系譜をイギリス古典派経済学と呼んでいる。 この講義では、サミュエル・ホランダー著『古典派経済学』をテキストにして、イギリス古典派経済学の系譜をスミスからミル、そしてマルクスまでたどり、(i)「価値と分配の理論」、(ii)「資本・雇用・成長理論」、(iii)「経済学方法論」という三つの視点から講義を行う予定である。		
教材（テキスト）	サミュエル・ホランダー著（千賀重義他訳）『古典派経済学』（多賀出版）1991 年		
教材（参考文献）	日本経済新聞社編『経済学をつくった巨人たち―先駆者の理論・時代・思想』（日経ビジネス人文庫：2001 年）、同『経済学の巨人たち―危機と闘う』（同上：2012 年）		
教材（その他）	毎回講義資料を配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による＋レポート（５０％）		
到達目標	現代経済学の理解に決定的な意味を持つイギリス古典派経済学の成立・発展・解体の学説史的流れを探求する。これによって、現代経済学が抱えている問題をより一層深く理解するとともに、今日の経済問題について新たな知見を得ることを目標とする。		
準備学習	教科書を予習してくることは当然のこととして、教科書に出てくるスミス、マルサス、リカードウ、Ｊ．Ｓ．ミル、マルクスといった人物の経済学上の古典については、翻訳でもよいので、直接原典にあたって学習する習慣を身につけてもらいたい。		
受講者への要望			
講義でとりあげるイギリス古典経済学の著作であれば翻訳でもいいので、少なくとも 1 冊は通読するすることも求めたい。			
講義の順序とポイント			
１．経済学史におけるイギリス古典派経済学の位置 ２．アダム・スミスの先行者たち ３．重農主義者たち ４．価値と分配の理論(1)： スミス ５．価値と分配の理論(2)： リカードウ ６．価値と分配の理論(3)： Ｊ・S・ミル ７．資本・雇用・成長理論(1)： スミス ８．資本・雇用・成長理論(2)： リカードウ ９．資本・雇用・成長理論(3)： Ｊ・S・ミル １０．貨幣と銀行 １１．経済学方法論(1) １２．経済学方法論(2) １３．経済学方法論(3) １４．マルクス経済学の古典的特徴 １５．古典派経済学から近代経済学へ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72163001
科目名	【院】近代経済学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Modern Economics		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	1870 年代は古典派経済学が解体し、それを契機としてマルクス経済学と近代経済学が成立した時代である。限界革命をもって始まった近代経済学は、1930 年代にケインズ経済学が登場することよって危機の時代を乗り切り、さらに今日では「環境」「教育」「医療」「政治」といった社会のあらゆる分野にまで考察領域を拡大し、進化を続けている。こうした近代経済学の成立と発展の過程を、現代まで紹介することが、本講義の課題である。		
教材（テキスト）	テキストは使用せず、配布する講義資料によって授業を進める。		
教材（参考文献）	菱山泉『近代経済学の歴史―マーシャルからケインズまで』（講談社学術文庫：1997 年） 馬渡尚憲『経済学史』（有斐閣：1997 年）		
教材（その他）	講義資料やプリントを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況など＋レポート（５０％）		
到達目標	この講義では、「限界革命」に始まる近代経済学の発展を現代までたどり、時代的制約を免れえない経済学の科学としての問題性を解明するとともに、現代社会の諸問題を解決しうる新しい経済学とはどうあるべきかについて探求することを、あわせて目標とする。		
準備学習	テキストは使用しないので、教材として指示した参考文献、さらには事前に配布する講義資料に必ず目を通しておくこと。		
受講者への要望			
授業や参考文献に出てくる経済学の古典的文献のなかで、とくに翻訳があるものについては、可能なかぎり原典に直接あたることを求める。			
講義の順序とポイント			
１．「限界革命」と近代経済学の成立 ２．ジェヴォンズ ３．メンガー ４．ワルラス ５．ケンブリッジ学派――マーシャルとピグー ６．シュンペーターの経済学 ７．ヴェブレンと制度派経済学 ８．ケインズ革命(1) ９．ケインズ革命(2) １０．ケインズ革命(3) １１．新古典派的総合――サミュエルソン １２．新古典派経済学の諸潮流(1) １３．新古典派経済学の諸潮流(2) １４．新古典派経済学の諸潮流(3) １５．新古典派経済学批判の新潮流			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72164001
科目名	【院】社会経済史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Social Economy		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	自動車産業の歴史と現状について考えます。		
教材（テキスト）	（1）エリック・エッカーマン著・松本廉平訳［1996］『自動車の世界史』グランプリ出版。 （2）土屋勉男・大鹿隆・井上隆一郎［2010］『世界自動車メーカー　どこが生き残るのか』ダイヤモンド社。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	参考文献（テキスト）の要約報告（50%）、授業時の討論（50%）		
到達目標	経済学を応用しつつ自動車産業の歴史を理解する。		
準備学習	上記の教材（テキスト）を前もって精読しておく。		
受講者への要望			
一つの問題を様々な角度から考えるようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1　自動車の歴史の整理 2　アメリカ自動車市場の激変 3　米国メーカーの経営破綻と業界再編 4　中国自動車市場の動向 5　米国メーカーの動向 6　ドイツ・メーカーの動向 7　フランス・メーカーの動向 8　イタリア・メーカーの動向 9　韓国メーカーの動向 10　中国メーカーの動向 11　トヨタ自動車の動向 12　本田技研工業の動向 13　日産自動車の動向 14　スズキの動向 15　環境問題と新興国市場			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72165001
科目名	【院】西洋経済史	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic History of Western Countries		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	1970 年代から 1980 年代にかけて不振に陥ったアメリカ自動車産業が復活した理由について考察します。		
教材（テキスト）	総合研究開発機構[1995]『米国製造業の復活に関する調査研究』（本学の図書館が所蔵しています）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	参考文献（テキスト）の要約報告（50%）、授業時の討論（50%）		
到達目標	日本とアメリカの企業風土の違いについて理解を深める。		
準備学習	上記の教材（テキスト）を前もって精読しておく。		

受講者への要望

文化の違いが企業経営にも反映されていることについて理解を深める。

講義の順序とポイント

1　1980 年代の米国自動車産業の衰退
2　米国自動車メーカーの国際提携
3　米国自動車メーカーの生産性と品質の向上
4　米国自動車メーカーの製品開発力の向上
5　部品供給業者との関係の変化
6　競争力指標から見た米国自動車メーカーの復活
7　米国自動車メーカーの世界戦略
8　米国工作機械産業の衰退
9　米国工作機械産業の復活
10　米国部品産業の概要
11　日本の部品産業の米国進出
12　日本が米国部品産業に与えた影響
13　米国自動車産業復活の要因
14　日本へのインプリケーション
15　米国進出企業が見たアメリカの製造現場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J72171A01
科目名	【院】計量経済学演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Econometrics A		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	日本経済の計量モデルや国際モデルなどできるだけ多くの現実のモデルを例題として、その構造を理論面、実証面から解析する。また、それに基づいて、実際に自分で類似のモデルを構築してみる。それらの作業を通じて、モデルビルダーとしての力量を高める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点(100%)		
到達目標	計量経済モデルに対する理解と実践		
準備学習	統計学の入門テキスト、EViews の解説書を読んでおくこと。 適宜課題を与えるので、それを詳細に調べてくること		
受講者への要望			
特に無い			
講義の順序とポイント			
受講者と共にモデリングに取り組む 第１回　ガイダンス 第２回　回帰分析入門(EViews 入門) 第３回　EViews その２ 第４回　EViews その３ 第５回　重回帰分析 第６回　重回帰分析その２ 第７回　重回帰分析とその解釈 第８回　社会データを用いた事例分析 第９回　事例分析その２ 第１０回　論文様式の発表とチェック 第１２回　重回帰分析の応用 第１３回　応用その２ 第１４回　分析の発表 第１５回　分析の発表と討議			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72171B01
科目名	【院】計量経済学演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Econometrics B		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	日本経済の計量モデルや国際モデルなどできるだけ多くの現実のモデルを例題として、その構造を理論面、実証面から解析する。また、それに基づいて、実際に自分で類似のモデルを構築してみる。それらの作業を通じて、モデルビルダーとしての力量を高める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点(100%)		
到達目標	計量経済モデルに対する理解と実践		
準備学習	統計学の入門テキスト、EViews の解説書を読んでおくこと。 適宜課題を与えるので、それを詳細に調べてくること		
受講者への要望			
特に無い			
講義の順序とポイント			
受講者と共にモデリングに取り組む 第１回　ガイダンス 第２回　回帰分析入門(EViews 入門) 第３回　EViews その２ 第４回　EViews その３ 第５回　重回帰分析 第６回　重回帰分析その２ 第７回　重回帰分析とその解釈 第８回　社会データを用いた事例分析 第９回　事例分析その２ 第１０回　論文様式の発表とチェック 第１２回　重回帰分析の応用 第１３回　応用その２ 第１４回　分析の発表 第１５回　分析の発表と討議			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J72172A01
科目名	【院】時系列解析演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Time Series Analysis A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	経済時系列データの解析手順を修得する。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料配布		
教材（参考文献）	縄田和満、「EViews による計量経済分析入門」、朝倉書店、２００９		
教材（その他）			
評価方法	複数回のレポート		
到達目標	経済時系列データの解析手順を修得する。VAR モデルの理解。		
準備学習	数学やコンピュータの理解は慣れてくれば出来る。経済学の基礎勉強が欠かせない。 事前学習：金融論、マクロ経済学を理解しておくこと。 事後学習：参考文献を１年次演習終了までに読み終えておくこと。		
受講者への要望			
経済学の基礎をよく勉強しておいてほしい。			
講義の順序とポイント			
1.VAR モデルの作成 2.同上 3.同上 4.同上 5.日本のマクロデータへの応用 6.同上 7.同上 8.同上 9.ヨーロッパのマクロデータへの応用 10.同上 11.同上 12.同上 13.株式データへの応用 14.同上 15.同上			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J72172B01
科目名	【院】時系列解析演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Time Series Analysis B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	VEC モデルの理解と作成方法の習得		
教材（テキスト）	必要に応じて資料配布		
教材（参考文献）	Hamilton,J.D., ''Time Series Analysis''		
教材（その他）			
評価方法	レポート（複数回）		
到達目標	VEC モデルの作成		
準備学習	経済学の勉強 事前学習：縄田和満「EViews による計量経済学分析入門」を読んでおくこと。 事後学習：Hamilton の''Time Series Analysis''の該当箇所（指示する）を読んで理解しておくこと。		
受講者への要望			
数学は気にせず、経済学的な意味合いを理解することが重要。			
講義の順序とポイント			
1.VEC モデルの作成 2.同上 3.同上 4.日本のマクロデータへの応用 5.同上 6.同上 7.ヨーロッパのマクロデータへの応用 8.同上 9.同上 10.株式データへの応用 11.同上 12.同上 13.不況時のマクロマネー系（金融不安要因の導入） 14.同上 15.同上			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72173A01
科目名	【院】経済学史演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Economic Thought A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	「経済学の父」とよばれるアダム・スミスが 1776 年に刊行した『国富論』は、理論・歴史・政策・国家財政の諸領域を包含する、壮大な経済学体系であり、全部で 5 編からなっている。本演習 A では第 1・第 2 編の経済理論をとりあげ、その内容を現在の経済理論と比較しながら検討することにしたい。		
教材（テキスト）	アダム・スミス『国富論』（水田洋監訳、岩波文庫・前 4 分冊）[第 1・第 2 分冊]		
教材（参考文献）	授業前に適宜指示する。		
教材（その他）	必要な資料については適宜プリントして配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による＋レポート（５０％）		
到達目標	演習での古典文献の読解を通じて、修士論文作成に必要な基本的な学習能力と学習方法の習得を目標とする。		
準備学習	受講生は、テキストと指示された参考う文献をしっかり予習して授業に臨むこと。また報告を指示された受講生については、指定された当該範囲のレジュメを準備して演習に参加すること。		

受講者への要望

テキストは、水田洋監訳『国富論』（岩波文庫）を使用するが、受講生はつねに『国富論』の原文に直接あたる習慣を身につけるように求める。

講義の順序とポイント

１．『国富論』体系について
２．分業論(1)
３．分業論(2)
４．貨幣論
５．価値論(1)
６．価値論(2)
７．価格と市場理論(1)
８．価格と市場理論(2)
９．賃金論
１０．利潤論
１１．地代論
１２．資本の理論(1)
１３．資本の理論(2)
１４．資本蓄積論
１５．資本投下順位論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72173B01
科目名	【院】経済学史演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Economic Thought B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	『国富論』は、理論・歴史・政策・国家財政の諸領域を包括する、全５篇からなる壮大な経済学の体系である。本演習Ｂでは、第５編の国家財政論を、」経費論・収入論・公債論の順序で集中的に検討する。		
教材（テキスト）	アダム・スミス『国富論』（水田洋監訳、岩波文庫・前４分冊）［第４分冊］		
教材（参考文献）	授業前に適宜指示する。		
教材（その他）	資料を適宜プリントして配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による＋レポート（５０％）		
到達目標	古典文献の読破を通して、修士論文の作成に必要な基本的な学習の能力と学習方法を鍛錬する。修士論文の大まかな構想を固めることが、演習Ｂの到達目標である。		
準備学習	受講生は、テキストとともに指示された参考文献をしっかり予習してゼミに臨むこと。また報告を指名された受講生は、指定された当該範囲のレジュメを作成して出席すること。		
受講者への要望			
テキストについては、水田洋監訳『国富論』（岩波文庫）を使用するが、受講生には、つねに『国富論』の原文にあたって学習する習慣を身につけるように求める。			
講義の順序とポイント			
１．スミスの国家財政論について ２．経費論と政府の役割(1) ３．経費論と政府の役割(2) ４．経費論と政府の役割(3) ５．経費論と政府の役割(4) ６．経費論と政府の役割(5) ７．租税論(1) ８．租税論(2) ９．租税論(3) １０．租税論(4) １１．租税論(5) １２．公債論(1) １３．公債論(2) １４．公債論(3) １５．スミス国家財政論の総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72174A01
科目名	【院】社会経済史演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Social Economy A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	19 世紀後半から 20 世紀前半の中国における蚕糸業と製糸業の歴史をたどります。		
教材（テキスト）	陳慈玉［1989］『近代中国的機械繰糸工業』中央研究院近代史研究所を精読してもらいます。受講生には本書のコピーを配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	参考文献（テキスト）の要約報告（50%）、授業時の討論（50%）		
到達目標	経済学を応用しつつ蚕糸業の歴史に対する理解を深める。		
準備学習	玉川寛治［2003］『富国強兵と工女の時代』新日本出版社は、蚕糸業の技術的側面をわかりやすく解説しているので、予め読んでおくことが望ましい。本書は本学の図書館が所蔵しています。		

受講者への要望

技術と経済の連関について理解を深める。

講義の順序とポイント

1　緒論
2　上海における器械製糸業の興隆
3　繭行の勃興
4　上海製糸業の経営実態
5　無錫の栽桑業
6　草創期の無錫製糸業
7　転換期の無錫製糸業
8　成熟期の無錫製糸業
9　世界恐慌下の無錫製糸業
10　広東省の栽桑業
11　広東省における器械製糸業の発展
12　広東省の製糸場の経営実態
13　四川省の栽桑業
14　四川省における器械製糸業の発展
15　四川省の製糸場の経営実態

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72174B01
科目名	【院】社会経済史演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Social Economy B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	19 世紀後半から 20 世紀前半の中国の蚕糸業の歴史をたどります。		
教材（テキスト）	曽同春［1933］『中国糸業』商務印書館を精読してもらいます。受講生には、本書のコピーを配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	参考文献（テキスト）の要約報告（50%）、授業時の討論（50%）		
到達目標	経済学を応用しつつ蚕糸業の歴史に対する理解を深める。		
準備学習	玉川寛治［2003］『富国強兵と工女の時代』新日本出版社は、蚕糸業の技術的側面をわかりやすく解説しているので、予め読んでおくことが望ましい。本書は本学の図書館が所蔵しています。		

受講者への要望

技術と経済の連関について理解を深める。

講義の順序とポイント

1　緒論
2　中国の生糸産地
3　生糸産地に対する河川の影響
4　生糸産地に対する気候の影響
5　生糸産地に対する人口の影響
6　生糸産地に対する交通の影響
7　栽桑業
8　蚕種製造業
9　養蚕業
10　繭の売買
11　製糸業
12　生糸貿易の概況
13　生糸の銘柄
14　中国市場における生糸価格の動向
15　ニューヨーク市場とリヨン市場における生糸価格の動向

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J72175A01
科目名	【院】経済政策論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Economic Policy A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	修士論文テーマに関連する文献リサーチ		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題報告(50%)と学期末レポート(50%)		
到達目標	修士論文のテーマ設定		
準備学習	関連文献の収集と研究		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解し，課題発見力と問題解決能力を向上させよう.			
講義の順序とポイント			
1　基礎データの整理① 2　基礎データの整理② 3　基礎データの整理③ 4　基礎データの整理④ 5　基礎データの整理⑤ 6　問題の所在の確認① 7　問題の所在の確認② 8　問題の所在の確認③ 9　問題の所在の確認④ １０　問題の所在の確認⑤ １１　基本文献の講読　① １２　基本文献の講読　② １３　基本文献の講読　③ １４　基本文献の講読　④ １５　基本文献の講読　⑤			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J72175B01
科目名	【院】経済政策論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Economic Policy B		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	修士論文テーマに関連する文献リサーチ		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題報告(50%)と学期末レポート(50%)		
到達目標	修士論文の骨子の確定		
準備学習	関連文献の収集と研究		

受講者への要望

経済社会のメガトレンドを理解し，課題発見力と問題解決能力を向上させよう．

講義の順序とポイント

1　基本文献の講読①
2　基本文献の講読②
3　基本文献の講読③
4　基本文献の講読④
5　基本文献の講読⑤
6　基本文献の講読⑥
7　基本文献の講読⑦
8　基本文献の講読⑧
9　論文の概要と章節構成の作成①
１０　論文の概要と章節構成の作成②
１１　論文の概要と章節構成の作成③
１２　論文の概要と章節構成の作成④
１３　論文の概要と章節構成の作成⑤
１４　論文の概要と章節構成の作成⑥
１５　論文の概要と章節構成の作成⑦

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J72176A01
科目名	【院】公共経済学演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Public Economics A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	公共経済学の理論研究の基礎を固めながら、現実の政策課題への応用分析例を概観していく。		
教材（テキスト）	井堀利宏『公共経済の理論』有斐閣		
教材（参考文献）	IHORI, H., Public Finance in an Overlapping Generations Economy, Macmillan 1996.		
教材（その他）	適宜、案内・配布する。		
評価方法	授業内報告５０％　　レポート課題５０％		
到達目標	公共経済学の応用研究について概観し、経済学の技術および手法の使用について基礎を固める。		
準備学習	（1）テキストの指定箇所を読み、ノートを作成する。 （2）関連資料を集めて整理し、それに基づく報告資料を作成すること。		
受講者への要望			
（1）現代日本の政策課題への関心を持ち、日頃から雑誌や新聞、web で情報収集を心がける。 （2）「記憶」よりも「理解」を優先して欲しい。また、理解には妥協無く正確に納得できる水準まで取り組むことが重要である。			
講義の順序とポイント			
第１回：講義の概要とテキストの紹介 第２回：市場機構と公的介入 第３回：自然独占産業と公的規制 第４回：最適課税の理論 第５回：公共財の理論 第６回：公共選択の理論 第７回：政党と官僚の経済分析 第８回：公債の負担 第９回：公債発行と財政運営 第１０回：高齢化と年金改革 第１１回：政府支出政策のマクロ効果 第１２回：公共投資 第１３回：開放経済での公共政策 第１４回：国と地方の分担システム 第１５回：現代日本の公共経済学的課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72176B01
科目名	【院】公共経済学演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Public Economics B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	公共経済学の理論研究の基礎を固めながら、現実の政策課題への応用分析例を概観していく。		
教材（テキスト）	Presson & Tabellini, Political Economics, MIT Press.		
教材（参考文献）	（１）Presson & Tabellini, Monetary and Fiscal Policy, MIT Press. （２）クリスタル＆ペナンリー著・黒川監訳『経済政策の公共選択分析』　勁草書房		
教材（その他）	適宜、案内・配布する。		
評価方法	授業内報告５０％　　課題レポート５０％		
到達目標	政策決定の政治過程に焦点を当てた経済分析を学び、伝統的経済学の分析で不足する部分を確認する。		
準備学習	（１）テキストの指定した箇所を読み、ノートを作成する。 （２）理論および英語で理解が曖昧な箇所を事前に明確にしておく。 （３）関連資料を集め整理し、その内容についての報告資料を作成する。		
受講者への要望			
英文のテキストを利用するが、受講者の英語力に応じて進度は調整する。経済学で使用される英語は「慣れ」で克服できるので、辛抱強く取り組んで欲しい。			
講義の順序とポイント			
第１回：講義の概要とテキストの紹介 第２回：General Introduction 第３回：Preference and Institutions 第４回：Electoral Competition 第５回：Agency 第６回：Partisan Politicians 第７回：General-Interest Politics 第８回：Special-Interest Politics(1) 第９回：Special-Interest Politics(2) 第１０回：Electoral Rules and Electoral Competition 第１１回：Institutions and Accountability 第１２回：Political Regimes 第１３回：Dynamic Policy Problems 第１４回：Public Debt 第１５回：Intergenerational Transfers through Social Security Programs			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72189001
科目名	【院】ミクロ経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomics		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	
講義概要	「マクロ経済学」に引き続いて，基礎知識の確認も行いながら講義する。マクロ経済学やミクロ経済学を専攻しない院生でも，経済学研究科としてふさわしい修士論文の完成に役立つ内容の講義にしたい。		
教材（テキスト）	浅子和美，加納悟，倉澤資成共著　『新経済学ライブラリ－３　マクロ経済学　第２版』　新世社		
教材（参考文献）	テキスト，論文等，随時指示する。		
教材（その他）	事前に準備する教材は特にない。		
評価方法	レポートにより評価する。		
到達目標	マクロ経済学を専攻する院生は，研究の基礎知識を漏れなく身につける。 その他の専攻の院生は，修士論文作成に必要な参考文献を読みこなせる知識を身につける。		
準備学習	経済モデルを解説する際，途中の展開を省略することもあるので，すぐに理解できない場合には自分で計算を確認することが必要になる。計算のフォローは授業の初めにやってもらう。		
受講者への要望			
より良い修士論文に仕上げることを常に考えて受講してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１　マクロ経済の一般均衡　フロー市場とストック市場 ２　各種市場　労働市場，生産物市場，資産市場 ３　古典派経済学の体系①　完全雇用均衡 ４　古典派経済学の体系②　数量方程式と貨幣の中立性 ５　ケインズ経済学の体系①　不完全雇用均衡 ６　ケインズ経済学の体系②　総需要・総供給分析 ７　ケインズ経済学の体系③　ＩＳ－ＬＭ分析 ８　価格調整と数量調整　モデルの前提 ９　インフレーション　インフレ期待とＩＳ－ＬＭ分析 １０　失業　フィリップス曲線 １１　景気循環　各種サイクル １２　広義政府の経済活動①　財政政策 １３　広義政府の経済活動②　金融政策 １４　マクロ安定化政策　合理的期待と政策の有効性 １５　政策評価の問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J72190001
科目名	【院】ミクロ経済分析	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomic Analysis		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	
講義概要	経済分析のための有用なツールであるゲーム理論の基礎を学び、種々の問題に応用する。		
教材（テキスト）	受講者と相談の上決める。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜指示する。		
評価方法	授業中の報告（５０％）　レポート（５０％）		
到達目標	経済の理論分析を行うための基礎を身につけること。		
準備学習	学部のミクロ経済学、経済数学を復習しておくこと。小項目の確認は毎回行う。		

受講者への要望

学部レベルのミクロ経済学・経済数学の知識を前提とする。
受講者は毎回報告が求められ、そのための相当な量の予習・復習が必要である。

講義の順序とポイント

１．イントロダクション
２．期待効用理論１
３．期待効用理論２
４．戦略型ゲーム１
５．戦略型ゲーム２
６．戦略型ゲーム３
７．展開型ゲーム１
８．展開型ゲーム２
９．展開型ゲーム３
１０．寡占市場１
１１．寡占市場２
１２．情報の非対称性１
１３．情報の非対称性２
１４．オークション１
１５．オークション２

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J72191001
科目名	【院】国際金融論	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	為替レートの決定理論，および為替レート変動が及ぼすマクロ経済効果について主に身につけることを目的とする．		
教材（テキスト）	未定.		
教材（参考文献）	○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣 ○藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 ○河合正弘(1994)『国際金融論』　東京大学出版会 ○藤田誠一・小川英治(2006)『国際金融理論』　有斐閣		
教材（その他）	○Mark(2001), “International Macroeconomics and Finance: Theory and Econometric Methods” Wiley-Blackwell. ○Sarno and Taylor(2003), “The economics of exchange rates”　Cambridge University Press. ○Obstfeld and Rogoff(1996), “Foundations of international Macroeconomics”　The MIT Press.		
評価方法	授業中の報告を評価の中心とする． 適宜，レポート，テストなどを課し，理解度の判断・評価材料にすることもある．		
到達目標	学部上級から大学院中級レベルの内容を理解することによって，修士論文が書けるまで学力を引き上げることを目標とする．		
準備学習	学部初級レベルの国際金融，また大学院の国際金融を学ぶ上で必要なマクロ経済学，金融論の知識を授業外で整理しておいてください．また，（必要に応じて講義も行う予定をしていますが）授業は教材・資料の輪読を中心に進める予定ですので，事前に指示した教材・資料の予習をしておいて下さい．		
受講者への要望			
数学的な内容の授業ですが，徐々に慣れてきますので，途中で投げ出さず頑張って下さい．			
講義の順序とポイント			
第 1 回：為替レートの基礎概念 第 2 回：国際収支の基礎概念 第 3 回：為替レートの決定理論 1 第 4 回：為替レートの決定理論 2 第 5 回：為替レートの決定理論 3 第 6 回：為替レートの決定理論 4 第 7 回：為替レートの決定理論 5 第 8 回：為替レートの決定理論 6 第 9 回：開放経済における政策効果 1 第 10 回：開放経済における政策効果 2 第 11 回：開放経済における政策効果 3 第 12 回：開放経済における政策効果 4 第 13 回：開放経済における政策効果 5 第 14 回：開放経済における政策効果 6 第 15 回：開放経済における政策効果 7			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72192001
科目名	【院】国際経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年の国際経済学・国際マクロ経済学の理論モデルを身につけることを目的とする.		
教材（テキスト）	未定.		
教材（参考文献）	○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣 ○大川昌幸(2006)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○藤田誠一・小川英治(2006)『国際金融理論』　有斐閣		
教材（その他）	○Obstfeld and Rogoff(1996), “Foundations of International Macroeconomics”, The MIT Press. ○授業に関連した学術雑誌掲載論文		
評価方法	授業中の報告を評価の中心とする. 適宜，レポート，テストなどを課し，理解度の判断・評価材料にすることもある.		
到達目標	学部上級から大学院中級レベルの内容を理解することによって，修士論文が書けるまで学力を引き上げることを目標とする.		
準備学習	学部初級レベルの国際経済学，また国際経済学を学ぶ上で必要なミクロ経済学，マクロ経済学を授業外で整理しておいて下さい．また，（必要に応じて講義も行う予定をしていますが）授業は教材・資料の輪読を中心に進める予定ですので，事前に指示した教材・資料の予習をしておいて下さい.		
受講者への要望			
数学的な内容の授業ですが，徐々に慣れてきますので，途中で投げ出さず頑張って下さい.			
講義の順序とポイント			
第１回：リカード・モデル１ 第２回：リカード・モデル２ 第３回：ヘクシャー・オーリンモデル１ 第４回：ヘクシャー・オーリンモデル２ 第５回：ヘクシャー・オーリンモデル３ 第６回：ヘクシャー・オーリンモデル４ 第７回：マンデル・フレミングモデル１ 第８回：マンデル・フレミングモデル２ 第９回：マンデル・フレミングモデル３ 第１０回：マンデル・フレミングモデル４ 第１１回：New Open Economy Macroeconomics　1 第１２回：New Open Economy Macroeconomics　2 第１３回：New Open Economy Macroeconomics　3 第１４回：New Open Economy Macroeconomics　4 第１５回：New Open Economy Macroeconomics　5			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72195001
科目名	【院】パーソナルファイナンス	単位数	2
科目名（英語表記）	Personal Finance		
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	ライフプランニング・リタイヤメントプランニングに関して、個人が誕生→結婚→住宅取得→退職→老後の生活というライフ・デザインの理論と応用を講義する。具体的にはＦＰの上級資格であるＣＦＰ資格審査試験・ＣＦＰ認定者の「パーソナルファイナンス」分野を意識し、そこで要求されている知識を習得し、応用できる水準を目指す。なお、提案書の作成も併せて行い、実際の応用も確認する。受講するにあたってはすべての項目において税金に関連するため、AFP レベルの知識の他、所得税等の知識を有していることが望ましい。また、AFP 資格取得を目指す者は、提案書の審査の観点から、春学期の【院】リスクの経済学、秋学期の【院】リスク・マネジメント」の受講を必須とする。		
教材（テキスト）	講義の中で指示を行なう。		
教材（参考文献）	貝塚啓明『パーソナルファイナンス』日本ＦＰ協会　２１００円 宮口定雄『税務ハンドブック　平成 27 年度版』パーソナル社　１９５０円		
教材（その他）			
評価方法	レポート（５０%)・講義の中での発表(５０%)		
到達目標	ライフ・デザインの理論、それに伴う税金等の知識を学習して、ＦＰとしてアドバイスができるようになることを目指す。		
準備学習	春学期に履修をする「リスクの経済学」で学ぶ税金・社会保障の問題を基に「リスク・マネジメント」「パーソナルファイナンス」で学ぶ知識を加えてレポート(提案書)の作成を行う。受講者は順番に指示する内容についての発表を行うこととなるが、発表者以外の者は必ずその内容を事前に調べ、質問事項の準備をしておくこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席して、疑問点をその講義内に解決できるようする。そのためには予習をきっちりとしてくること。

講義の順序とポイント

１．　パーソナルファイナンスの基礎知識
２．　FP とコンプライアンス
３．　教育資金設計
４．　住宅資金設計
５．　社会保険の基礎知識
６．　医療保険制度
７．　労働保険制度
８．　独立起業と資金計画
９．　リタイヤメントプランニングの全体像と提案書の作成(１)
１０．公的年金制度(１)
１１．公的年金制度(２)
１２．退職後の医療・介護保険制度
１３．企業年金・退職金の基礎知識
１４．提案書の作成(１)
１５．提案書の作成(２)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72196001
科目名	【院】リスクの経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Economics on Risk Management		
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	社会保障は、個人が生活を営むうえで直面するリスクを社会的にプールする仕組みである。今日、社会保障費の増大により消費税の増税は避けられないのが現状である。しかしながら現役世代と高齢世代との世代間格差を考えると、消費税の税率を上げ社会保障の原資とするのか、あるいは他の税金で賄うのかには一考の余地がある。本講義では増税の是非を議論されている消費税を基軸に据え、社会全体が直面するリスク→税体系→個人のリスクについての考察も行うこととする。		
教材（テキスト）	土居丈朗　　『日本の税をどう見直すのか』　日本経済新聞社		
教材（参考文献）	伊多波良雄　　『現代社会の財政学』　晃洋書房 三木義一　『日本の税金』　岩波新書		
教材（その他）	日本ＦＰ協会　『リスク・マネジメント』、『タックスプランニング』		
評価方法	レポート（５０%）・講義の中での発表(５０%)		
到達目標	社会保障と税制改革についての根拠のある意見を述べてほしい。		
準備学習	世代間格差と税制との問題について、新聞報道等で如何に論じられているかを掌握をしておくこと。		
受講者への要望			
ＦＰ資格の取得を考えている場合には必ず本講義と秋学期の「パーソナルファイナンス」「リスク・マネジメント」を併せて受講すること。			
講義の順序とポイント			
１．財政悪化の現状 ２．日本の税制 ３．　社会保障財源の負担 ４．　租税原則と税の役割 ５．　消費税導入の歴史的背景 ６．　消費税の仕組み ７．　消費税をめぐる課題① ８．　消費税をめぐる課題② ９．　社会保障制度と税① １０．社会保障制度と税② １１．所得課税と社会保険料 １２．介護保険制度と消費税 １３．個人所得課税 １４．税額控除の妥当性 １５．税制が個人生活に及ぼす影響			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72197001
科目名	【院】リスク・マネジメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Risk Management		
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	企業経営に関わるリスクを中心に個人の関わるリスク、その防衛策・対処方法について講義する．財務リスクにも言及し、保険でカバーすることができるリスクについて、回避・移転等する方法を指導する。具体的には FP の上級資格である CFP 資格審査試験・CFP 認定者の「リスクと保険」分野を意識し，そこで要求されている知識を習得し、応用できる水準を目指す．受講するにあたっては多岐にわたり税金に関連するため、AFP レベルの知識の他、所得税・法人税等の知識を有していることが望ましい。AFP の資格取得には、春学期に【院】リスクの経済学で基本を習得したうえで秋学期の【院】パーソナルファイナンスを受講して提案書提出が必須となる。		
教材（テキスト）	講義の中で指示を行なう。		
教材（参考文献）	宇野典明『リスクマネジメント』日本ＦＰ協会　２１００円 宮口定雄『税務ハンドブック平成 27 年度版』パーソナル社　１９５０円		
教材（その他）	必要においてプリントを配布する。		
評価方法	レポート（５０%）・講義の中での発表(５０%)		
到達目標	企業経営におけるリスクの抽出、対処方法など本質的なことを理解できるようにしたい。		
準備学習	春学期に履修をする「リスクの経済学」で学ぶ税金・社会保障の問題を基に「リスク・マネジメント」「パーソナルファイナンス」で学ぶ知識を加えてレポート(提案書)の作成を行う。受講者は順番に指示する内容についての発表を行うこととなるが、発表者以外の者は必ずその内容を事前に調べ、質問事項の準備をしておくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席して、疑問点をその講義内に解決できるようする。そのためには予習をきっちりとしてくること。			
講義の順序とポイント			
１．　危機管理とリスクマネジメント ２．　企業のリスクマネジメント ３．　リスクファイナンスの活用 ４．　財務リスク ５．　個人生活におけるリスク ６．　損害保険業界の動向 ７．　損害保険の仕組み(１) ８．　損害保険の仕組み(２) ９．　損害保険の税務 １０．法人のリスクマネジメントと保険設計 １１．個人のリスクマネジメントと保険設計 １２．法人生命保険契約の税務(１) １３．法人生命保険契約の税務(２) １４．保険業法 １５．おわりに・保険約款・手続きについて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72198001
科目名	【院】税務会計実務	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Accounting Practice		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	法人税法は、課税所得の計算原理を税法だけで完結的、網羅的に規定することはせず、その相当部分を適正な企業の会計慣行に委ねている。すなわち、税法の課税所得計算原理は独立に存在しているのではなく、公正な会計慣行をベースとして、税法固有の目的を実現するために必要な調整を加えているのである。税法は強行法規であり、とくにわが国の法人税法は確定決算主義をとっているため、税法の諸規定は企業会計の実務に強い影響を与えている。 　講義では、法人の課税所得算定の基礎となる企業会計の基準、会社法の計算規定などを説明しながら、法人税法及び租税特別措置法における法人税の規定及びこれらに係る政令、省令、通達による法人の所得計算の算定と税額計算の基本的事項を説明する。課税所得の調整計算や法人税申告書の記載方法にも時間を割く。また、税効果会計、金融商品会計、退職給付会計等の新会計基準と、これらの申告調整方法や、企業組織再編税制、グループ法人税制などについても説明する。		
教材（テキスト）	毎回、講義用レジュメや参考資料を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中の報告や議論内容（70%）、レポート（30%）		
到達目標	法人税の課税所得計算のしくみを理解し、法人税申告書（とくに別表 4、別表 5）を作成することができる。		
準備学習	法人税法の基礎知識がない受講生は法人税法の入門書を読んでおくこと。		
受講者への要望			
授業中の活発な議論を期待する。			
講義の順序とポイント			
1.法人の区分と課税の範囲、法人税の体系 2.課税所得の計算構造 3. 損益の期間帰属、受取配当等 4.外貨建取引、減価償却資産、繰延資産 5.給与、寄附金、交際費、その他の損金 6.引当金・準備金制度、圧縮記帳制度 7.税額の計算 8.移転価格税制等の国際課税 9.税効果会計と法人税 10.新会計基準と法人税（1） 11.新会計基準と法人税（2） 12.新会計基準と法人税（3） 13.企業組織再編税制 14.グループ法人税制 15.総合演習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72199001
科目名	【院】新会計基準と法人税	単位数	2
科目名（英語表記）	New Accounting Standards and Corporation Taxes		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	金融ビッグバンの一環として、会計分野においてもグローバル化に対処するため、2000 年以降わが国の会計制度・会計基準に大変革がもたらされた。現在までに、新連結制度、金融商品の時価会計、退職給付会計、税効果会計、減損会計、企業結合会計、棚卸資産会計、リース会計、工事契約、資産除去債務、過年度遡及処理等々の新たな会計制度・会計基準が導入された。 　しかし一方、法人税の課税所得計算は、公正な会計慣行をベースとしつつも、税法固有の目的を実現するために必要な調整（税法独自の規定）を加えている。税法が上述の新会計基準に歩み寄る場合は問題はないが、そうでない場合には、新会計基準に基づく企業利益額と法人税法に基づく課税所得金額の間には大きな乖離　が生ずることになる。 　本講義では、新会計制度・基準の内容を理解し、これらに対する法人税の取扱いを学ぶ。また、法人税申告書における課税所得金額を計算するための調整方法を学ぶ。		
教材（テキスト）	毎回、講義用レジュメや参考資料を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中の報告や議論内容（70%）、レポート（30%）		
到達目標	税効果会計などの新会計基準の内容を理解し、法人税の課税所得計算との調整ができる。		
準備学習	会計学及び法人税法の基礎知識がない受講生は、それぞれの入門書を読んでおくこと。		

受講者への要望

授業中の活発な議論を期待する。

講義の順序とポイント

1.会計ビッグバンの概要
2.課税所得の計算構造（1）
3.課税所得の計算構造（2）
4.税効果会計の概要（1）
5.税効果会計の概要（2）
6.金融商品会計と法人税（1）
7.金融商品会計と法人税（2）
8.退職給付会計と法人税（1）
9.退職給付会計と法人税（2）
10.減損会計と法人税（1）
11.減損会計と法人税（2）
12.その他の新会計基準と法人税（1）
13.その他の新会計基準と法人税（2）
14.中小企業の会計指針
15.総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72200A01
科目名	【院】社会政策論演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	修士論文作成のための準備の第一歩として、社会政策および関連分野から各受講者が選択したテーマについて、受講者に文献の要約報告を行ってもらう。		
教材（テキスト）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
教材（参考文献）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
教材（その他）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
評価方法	平常点（報告内容等）（50%）、レポート（50%）		
到達目標	修士論文作成に向けて研究の方向性を明らかにすること。		
準備学習	参考文献を収集して熟読し、報告用のレジュメを毎回作成しておくこと。		
受講者への要望			
十分な準備の上で授業に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス　―受講者の関心の確認と授業の方針の説明― ２．基礎的・概論的文献の購読① ３．基礎的・概論的文献の購読② ４．基礎的・概論的文献の購読③ ５．基礎的・概論的文献の購読④ ６．研究テーマの絞り込みと方向性の確認 ７．研究テーマに関する現状の確認① ８．研究テーマに関する現状の確認② ９．研究テーマに関する現状の確認③ １０．研究テーマに関する現状の確認④ １１．研究テーマに関する政策的課題の確認① １２．研究テーマに関する政策的課題の確認② １３．研究テーマに関する政策的課題の確認③ １４．研究テーマに関する政策的課題の確認④ １５．論点の整理と今後の研究の方向についての検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J72200B01
科目名	【院】社会政策論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	修士論文作成に向けて、「社会政策論演習Ａ」で得た知識を元にさらに理解を深め、テーマの絞り込みを行う。そのために、受講者に文献の要約報告等を行ってもらう。		
教材（テキスト）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
教材（参考文献）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
教材（その他）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
評価方法	平常点（報告内容等）（50%）、レポート（50％）		
到達目標	修士論文のテーマを明確にすること。		
準備学習	参考文献を収集して熟読し、報告用のレジュメを毎回作成しておくこと。		
受講者への要望			
十分な準備の上で授業に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
１．研究の進捗状況の確認 ２．政策的課題の要因分析① ３．政策的課題の要因分析② ４．政策的課題の要因分析③ ５、政策的課題の要因分析④ ６．政策的課題の要因分析⑤ ７．政策的課題の要因についての考察① ８．政策的課題の要因についての考察② ９．政策的課題の要因についての考察③ １０．政策的課題の要因についての考察④ １１．政策的課題の要因についての考察⑤ １２．修士論文のテーマの検討① １３．修士論文のテーマの検討② １４．修士論文の構成の検討① １５．修士論文の構成の検討②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73020A01
科目名	【院】会計学演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Accounting A		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）本「演習 A」担当者が予定している内容展開に先立って、まずは、受講者が入学段階で申請していた「研究 計画書」の内容について本人に改めて報告させ、当該内容の再確認を行う。そうした再確認作業の中で、 当初予定していた当該研究計画内容の延長線上での修士論文作成に取り組むのか否かを再検討させる。 （2）本「演習 A」は、後期の「演習 B」と併せて、「財務会計分野における諸問題の研究」との主題のもとで展開さ れ、次年度の演習 C・D で完成すべき修士論文の作成に向けての「序章」と位置づける。 （3）そこで、初年度前期の「演習 A」としては、財務会計分野において展開されている諸問題を整理して明確に すべく、現行会計制度の内容確認を行う。 （4）そのうえで、後期の「演習 B」では、IFRS(国際財務報告基準）の動向やそれに対する我が国の対応などを 中心に取り上げる。IFRS の各国会計制度へ及ぼす影響は大きく、我が国においても上場企業の連結決算 への強制適用の有無が未定になっている現状で、今後の動向が注目されているところであるが故である。 （5）以上のような現行会計制度における会計基準に関する現状分析の中で、既述の主題に関する幅広い研究 素材を提供することとしたい。こうした広範な考察を通じて、財務会計分野における諸問題を整理・確認した うえで、受講者が修士論文のテーマ決定を行い、後期開始までに問題整理や資料収集に努め、次年度の論文完成に向けて余裕をもって展開できるよう指導する。 （6）なお、税理士志望の院生には、特に将来の専門職業人としての活躍の場をも意識した論文テーマの選定と その課題内容の更なる深化に努めていただきたい。		
教材（テキスト）	（1）中田信正 著『財務会計・法人税法論文の書き方・考え方―論文作法と文献調査―』同文舘出版 ￥2,000 （2）履修者と相談のうえ、各々の研究テーマに応じて、適宜指示する。		
教材（参考文献）	研究テーマの展開に応じて、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、プリント配布等を行う。		
評価方法	原則として、授業への取組姿勢（20%）、授業内報告（30%）、期末リポート（50%）に基づき総合評価を行う。		
到達目標	（1）修士論文作成の基本に関して、論文作法と文献調査法を理解している。 （2）自己の将来方向を踏まえた適切な修士論文のテーマ選定ができる。 （3）わが国の制度会計の現状に関する知識を有している。 （4）わが国の会計制度へ及ぼす IFRS(国際財務報告基準）の影響等について理解している。		
準備学習	（1）毎回の講義時に自らの問題意識のもとで課題や疑問を提示できるよう、準備を行って講義に臨む。 （2）報告担当課題などについて、事前に周到な準備を行い、レジュメなども作成して、報告に臨むこと。		
受講者への要望			
（1）自主性と双方向性を意識し、毎回、自らの課題や疑問をもって演習に臨むこと。 （2）輪番制で報告させるのを常とするので、自主的問題意識をもった積極的な取り組みを期待する。			
講義の順序とポイント			
上記の講義概要を遂行するため、次のような展開を予定している。 1．本演習のガイダンス 2．修士論文の作成に関する基礎指導 3．会計分野に関する修士論文の作成指導			

4．わが国の制度会計の現状
5．わが国の会計制度を取り巻く諸問題
6．論題の選定に関する指導
7．論題の選定に関する報告と討議
8．選定論題に関する問題点の報告(1)
9．選定論題に関する問題点の報告(2)
10．資料一覧の作成指導
11．資料一覧の作成報告
12．論文構成に関する指導(1)
13．論文構成に関する指導(2)
14．論文構成に関する指導(3)
15．総括および質疑応答

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73020B01
科目名	【院】会計学演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Accounting B		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（１）本「演習 B」は、前期「演習 A」に続いて「財務会計分野における諸問題の研究」との主題のもとで展開され、 次年度の演習Ｃ・Ｄで完成予定の修士論文の作成に向けての「序章」と位置づけられるべきものである。 （２）そこで、初年度後期の「演習 B」としては、前期において収集整理した財務会計分野に関する諸問題を吟味 するなかで、修士論文として取り上げるテーマを絞り込んでいく作業を行う。 （３）特に後期の本演習では、まずは IFRS(国際財務報告基準）の動向やそれに対する我が国の対応などを中 心に取り上げる。IFRS の各国会計制度へ及ぼす影響は大きく、我が国においても、上場企業の連結決算 への強制適用の有無が未定になっている現状で、今後の動向が注目されているが故である。 IFRS に関 する議論の方向性が、わが国の会計基準に関する議論にも非常に大きな影響を及ぼすようになってきて いるのである。 （４）以上のような現行会計制度における会計基準の現状分析の中での広範な考察を通じて、財務会計分野の 諸問題を整理・確認したうえで、前期終了時期に焦点を絞ったテーマを中心に、いよいよ修士論文の論題 決定と当該論題に関する論点整理、そして更なる資料収集と十分な読込みと整理に努めていただき、次年 度の論文完成に向けて指導していくことになる。 （５）なお、税理士志望の院生には、特に将来の専門職業人としての活躍の場をも意識して、当該論文テーマの 選定には慎重に進めていただきたい。		
教材（テキスト）	履修者と相談のうえ、各々の研究テーマに応じて、適宜指示する。		
教材（参考文献）	研究テーマの展開に応じて、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、プリント配布を行う。		
評価方法	原則として、授業への取組姿勢（20%）、授業内報告（30%）、期末リポート（50%）に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（１）修士論文の作成の基本に関して、論文作法と文献調査法を理解している。 （２）自己の将来方向を踏まえた適切な修士論文のテーマ選定ができる。 （３）わが国の制度会計の現状に関する知識を有している。 （４）わが国の会計制度へ及ぼす IFRS(国際財務報告基準）の影響について理解している。		
準備学習	（１）毎回の講義時に自らの問題意識のもとで課題や疑問を提示できるよう、準備を行って講義に臨む。 （２）報告担当課題などについて、事前に周到な準備を行い、レジュメなども作成して、報告に臨むこと。		
受講者への要望			
自主的な問題意識をもった積極的な取り組みを期待する。			
講義の順序とポイント			
初年度後期の所期の目的を達成し、次年度へ引き継ぐために、次の予定で展開することにしたい。 １．秋セメスターのガイダンス ２．論文構成に関する報告と討議(1) ３．論文構成に関する報告と討議(2) ４．論文構成に関する報告と討議(3) ５．論文構成に関する報告と討議(4) ６．論文構成に関する報告と討議(5)			

7．論文構成に関する報告と討議(6)
8．資料収集状況の確認
9．下書きの部分的報告と指導(1)
10．下書きの部分的報告と指導(2)
11．下書きの部分的報告と指導(3)
12．下書きの部分的報告と指導(4)
13．下書きの部分的報告と指導(5)
14．下書きの部分的報告と指導(6)
15．総括および質疑応答

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73020C01
科目名	【院】会計学演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Accounting C		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（１）本研究科における最終年となる２年目の演習では、１年間を通じて、修士論文の作成指導をその主内容として展開する。 （２）そこで、前期の「演習 C」では、前年度での指導を通じて具体化してきた修士論文のテーマ・構成内容、さらには資料収集を再確認したうえで、下書内容について部分的報告を受けつつ、指導を重ねることになる。		
教材（テキスト）	修士論文の研究テーマの展開に応じて、適宜指示する。		
教材（参考文献）	修士論文の研究テーマの展開に応じて、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、必要なプリント配布を行う。		
評価方法	授業への平素の取組状況（50%）と授業内報告（50%）を総合して評価する。		
到達目標	（１）税理士試験科目の会計科目免除申請を志望する院生は、別途定める論文要件の枚数は勿論、論題や内容についても当該申請に合格するような修士論文を作成すること。 （２）上記志望以外の目的で入学した院生の修士論文についても、枚数以外の論文要件は同様であり、あくまで「修士論文」としての要件を満たす形式と内容に到達した論文作成を心がけること。		
準備学習	毎回の講義時の報告に間に合うように、論文作成作業の進展に努めること。		

受講者への要望

（１）原則的に、税理士試験科目の会計科目免除申請などの場合のように、大学院修了後に第三者評価を受けることを念頭に、論文要件としての枚数は勿論、論題や内容についても当該申請に合格するような修士論文を作成するよう、心がけて頂きたい。
（２）税理士試験の会計科目免除申請を志望される場合、申請に際しての Q&A でも指摘されている次の２点に特に注意されたい。
①認定対象となる「会計学に属する科目等」とは、簿記論・財務諸表論・原価計算論・会計監査論などの科目であり、原則的には、こうした科目内容に関する研究論文が認定の対象となる。
②提出を求められる学位論文のコピーについては、「学位論文の写し（概要ではなく全部の写し。また、学位論文の目次（ページ数が記入されているもの）及び参考（引用）文献目録を必ず添付。）」となっている。
（３）以上の点も踏まえて、修士論文としての実質用件はもちろん、形式要件（ページ数を明示した目次と参考（引用）文献目録の付記）についても十分注意されたい。

講義の順序とポイント

最終年度における修士論文作成の前半部として、次の予定で展開することにしたい。

１．本演習のガイダンス
２．論文構成及び資料収集等に関する再確認（1）
３．論文構成及び資料収集等に関する再確認（2）
４．下書きの部分的報告と指導(1)
５．下書きの部分的報告と指導(2)
６．下書きの部分的報告と指導(3)
７．下書きの部分的報告と指導(4)
８．下書きの部分的報告と指導(5)
９．下書きの部分的報告と指導(6)
10．下書きの部分的報告と指導(7)
11．下書きの部分的報告と指導(8)
12．下書きの部分的報告と指導(9)
13．下書きの部分的報告と指導(10)
14．下書きの部分的報告と指導(11)
15．総括および質疑応答

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73020D01
科目名	【院】会計学演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Accounting D		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（１）本研究科における最終年となる２年目の演習では、１年間を通じて、修士論文の作成指導をその主内容として展開する。 （２）そこで、後期の「演習 D」では、前期に引き続き、論文の推敲を重ねて、10 月頃には一応の完成を予定に指導する。その後は、微修正などを通じてより充実したものへと仕上げる努力をして頂くように指導する。		
教材（テキスト）	特に使用しない。		
教材（参考文献）	必要に合わせて、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、プリント配布を行う。		
評価方法	授業への平素の取組状況（50%）と授業内報告（50%）を総合して評価する。		
到達目標	（１）税理士試験科目の会計科目免除申請を志望する院生は、別途定める論文要件の枚数は勿論、論題や内容についても当該申請に合格するような修士論文を作成すること。 （２）上記志望以外の目的で入学した院生の修士論文についても、枚数以外の論文要件は同様であり、あくまで「修士論文」としての要件を満たす形式と内容に到達した論文作成を心がけること。		
準備学習	毎回の講義時の報告に間に合うように、論文作成作業の進展に努めること。		

受講者への要望

（１）原則的に、税理士試験科目の会計科目免除申請などの場合のように、大学院修了後に第三者評価を受けることを念頭に、論文要件としての枚数は勿論、論題や内容についても当該申請に合格するような修士論文を作成するよう、心がけて頂きたい。
（２）税理士試験の会計科目免除申請を志望される場合、次の２点に注意されたい。
①認定対象となる「会計学に属する科目等」とは、簿記論・財務諸表論・原価計算論・会計監査論などの科目であり、原則的には、こうした科目内容に関する研究論文が認定の対象となる。
②提出を求められる学位論文のコピーについては、「学位論文の写し（概要ではなく全部の写し。また、学位論文の目次（ページ数が記入されているもの）及び参考（引用）文献目録を必ず添付。）」となっている。
（３）以上の点も踏まえて、論文の形式としてページ数を記載した目次と参考（引用）文献目録を明示するよう注意されたい。

講義の順序とポイント

最終年度における修士論文完成に向けて、次の予定で展開することにしたい。

1．秋セメスターのガイダンス
2．論文構成に関する再確認（1）
3．論文構成に関する再確認（2）
4．論文内容の討議と推敲(1)
5．論文内容の討議と推敲(2)
6．論文内容の討議と推敲(3)
7．論文内容の討議と推敲(4)
8．論文内容の討議と推敲(5)
9．論文内容の討議と推敲(6)
10．論文内容の討議と推敲(7)
11．論文内容の討議と推敲(8)
12．論文内容の討議と推敲(9)
13．論文内容の討議と推敲(10)
14．論文内容の討議と推敲(11)
15．総括および質疑応答

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73024A01
科目名	【院】会計学研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Accounting Research A		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（１）本講義では、第一に経営学研究科において会計学を専攻し、将来的には税理士等の専門職を志向される 院生を強く意識し、修士論文のテーマ選定に際しての有益な基礎知識を得ようとする目的にも資するよう に、わが国における現行会計制度の展開内容に関する諸問題を整理し、考察する。 （２）第二に、他研究科の院生、特に会計専門職志望生の受講も意識し、わが国の制度会計の現状を整理・考 察し、更には最近の国際会計基準の影響と展開をも加味して、今後の展望も含めた会計基準の内容を研究する。 （３）以上の観点から、まずは、会計学及び税法に関する修士論文の作成に資するよう、第一のテキストを活用 して論文作法の再確認を行う。そのうえで、制度会計としての会社法会計及び金融商品取引法会計の内容 について、第二のテキストを資料に輪番制で受講生の報告を求め、質疑応答を行う。		
教材（テキスト）	（１）中田信正 著『財務会計・法人税法論文の書き方・考え方―論文作法と文献調査―』同文舘出版、￥2,000 （２）山地範明 著　『会計制度(新訂版)』　同文舘出版、￥2,000		
教材（参考文献）	（１）川崎 照行・万代 勝信 編著 『詳解 中小会社の会計要領』 中央経済社、￥2,800 （２）講義時に、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、プリント配布を行う。		
評価方法	原則として、授業への取組姿勢（20%）、授業内報告（30%）、期末リポート（50%）に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（１）修士論文作成の基本に関して、論文作法と文献調査法を理解している。 （２）修士論文としての適切なテーマ選定ができる。 （３）わが国の制度会計の現状に関する知識を有している。 （４）わが国の会計制度へ及ぼす国際会計基準の影響について理解している。		
準備学習	（１）毎回の講義時に、自らの問題意識のもとで課題を提示する準備をする。 （２）毎回の講義における質疑応答などの機会には積極的に発言するよう、事前準備を行っておく。 （３）報告担当箇所などについては、事前に準備し、レジュメなども作成して報告に臨むこと。		
受講者への要望			
財務会計に関する基礎知識と積極的な目的意識をもち、意欲的に受講されることを期待している。			
講義の順序とポイント			
原則的に、次のような内容を展開する。 １．本講義の意義と内容等のガイダンス ２．修士論文の作成に関する基本指導 ３．会計及び税法に関する修士論文の作成指導 ４．わが国における企業会計制度の動向 ５．会計制度の国際動向とわが国の対応 ６．企業会計原則と概念フレームワーク ７．会社法会計の内容 ８．会社法に基づく開示制度 ９．会社法における計算書類 10．金融商品取引法会計の内容 11．金融商品取引法に基づく開示制度 12．有価証券報告書の意義と内容 13．新会計基準 14．タックスプランニング 15．総括および質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73024B01
科目名	【院】会計学研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Accounting Research B		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（１）研究Ａの考察を受けて、課題及び自主テーマに基づく報告と討議を重ねることにより、わが国の会計制度 に関する理解を深めることにしたい。 （２）現行の会計基準などの動向に関しては、その都度の最新情報を提供して、考察する。		
教材（テキスト）	山地 範明 著　『会計制度(新訂版)』 同文舘出版、￥2,000		
教材（参考文献）	講義時に、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、プリント配布を行う。		
評価方法	原則として、授業への取組姿勢（20%）、授業内報告（30%）、期末リポート（50%）に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（１）わが国の制度会計としての会社法会計と金融商品取引法会計の現状と問題点について理解しており、説 明できる。 （２）国際会計基準の影響に関する最新情報について理解しており、説明できる。 （３）わが国の制度会計に関する課題を選定し、報告できる。		
準備学習	（１）わが国の制度会計について、事前にテキスト内容を再確認して、知識を整理しておく。 （２）課題を付与された場合には、報告までに事前にまとめ、レジュメを作成して準備しておく。 （３）後半部分では、自主テーマを選定し、まとめ、レジュメ作成を含めて報告準備をしておく。		
受講者への要望			
財務会計に関する基礎知識と積極的な目的意識をもち、意欲的に受講されることを期待している。			
講義の順序とポイント			
課題および自主テーマに基づく報告と討議を中心に展開する。 1．本講義の展開内容等のガイダンス 2．わが国における制度会計の現状と国際会計基準 3．わが国の制度会計における諸問題の確認 4．課題設定に関する概要説明と討議 5．課題に基づく報告と討議(1) 6．課題に基づく報告と討議(2) 7．課題に基づく報告と討議(3) 8．課題に基づく報告と討議(4) 9．課題に基づく報告と討議(5) 10．自主テーマに基づく報告と討議(1) 11．自主テーマに基づく報告と討議(2) 12．自主テーマに基づく報告と討議(3) 13．自主テーマに基づく報告と討議(4) 14．自主テーマに基づく報告と討議(5) 15．総括および質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73024C01
科目名	【院】会計学研究C	単位数	2
科目名（英語表記）	Accounting Research C		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）本講義では、将来的には税理士等の専門職を志向される院生を強く意識し、将来の職業人として問われる会計知識の累積を目的として、改めてわが国の現行会計制度の内容に関する理論的再吟味を行う。 （2）上記の内容として、2年目の本研究CおよびDでは、最近の国際会計基準の影響と展開をも加味するが、特に中小企業経営に必要な会計知識の再確認を心がけた講義内容としたい。 （3）以上の観点から、前期では、現行会計制度の裏付けとなる基礎的会計理論の内容を再検討し、後期は、中小企業経営を意識した会計理論の内容を再確認することにより、会計専門職への道程での効果的な学習としたい。		
教材（テキスト）	橋本 尚 著　『財務会計理論（新訂増補版)』　同文舘出版　￥2,000		
教材（参考文献）	（1）川崎 照行・万代 勝信 編著 『詳解 中小会社の会計要領』 中央経済社　￥2,800 （2）講義時に、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、プリント配布を行う。		
評価方法	原則として、授業への取組姿勢（20%)、授業内報告（30%)、期末リポート（50%）に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	(1) わが国の制度会計の現状に関する知識を有している。 （2）わが国で展開されている「中小企業会計」に関する知識を有している。 （3）わが国の会計制度へ及ぼす国際会計基準の影響について理解している。		
準備学習	（1）毎回の講義時に、自らの問題意識のもとで課題を提示する準備をする。 （2）毎回の講義における質疑応答などの機会には積極的に発言するよう、事前準備を行っておく。 （3）報告担当箇所などについては、事前に準備し、レジュメなども作成して報告に臨むこと。		
受講者への要望			
財務会計に関する基礎知識と積極的な目的意識をもち、意欲的に受講されることを期待している。			
講義の順序とポイント			
原則的に、次のような内容を展開する。 1．本講義の意義と内容等のガイダンス 2．財務会計の基礎の確認 3．わが国の会計規範の体系 4．会計規範の理論構造 5．一般原則と重要性の原則 6．貸借対照表の基礎概念 7．資産会計（1） 8．資産会計（2） 9．資産会計（3） 10．負債会計 11．純資産会計 12．損益計算書の基礎概念 13．収益・費用会計（1） 14．収益・費用会計（2） 15．総括および質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73024D01
科目名	【院】会計学研究D	単位数	2
科目名（英語表記）	Accounting Research D		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）研究 C において展開された研究内容を受けて、本講義では、特に中小企業会計を前提とした研究内容に取り組むことにしたい。そこにおいては、将来の会計専門職として特に税理士を志す院生にとって必須事項となる内容を、本講義において再確認することが目的である。 （2）上記内容を展開するため、具体的には、いわゆる「中小企業会計指針」と「中小企業会計要領」を考察対象として取り上げることにしたい。		
教材（テキスト）	（1）日本税理士会連合会 監修、近畿税理士会調査研究部 編著 『最新版 「中小企業の会計に関する指針」ガイドブック』　清文社、￥2,500 （2）その他、適宜、必要な資料を配布する。		
教材（参考文献）	（1）川崎 照行・万代 勝信 編著 『詳解 中小会社の会計要領』　中央経済社、￥2,800 （2）武田隆二 編著 『中小会社の会計指針』　中央経済社、￥2,800 （3）その他、講義時に、適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	原則として、授業への取組姿勢（20%）、授業内報告（30%）、期末リポート（50%）に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）わが国の制度会計の現状について理解している。 （2）国際会計基準の影響に関する最新情報について理解している。 （3）わが国の「中小企業会計」の内容について、十分理解している。		
準備学習	（1）わが国の制度会計について、事前に関連書籍を精読して、知識を整理しておく。 （2）課題を付与された場合には、報告までに事前にまとめ、レジュメを作成して準備しておく。		
受講者への要望			
財務会計に関する基礎知識と積極的な目的意識をもち、意欲的に受講されることを期待している。			
講義の順序とポイント			
課題および自主テーマに基づく報告と討議を中心に展開する。 1．本講義の展開内容等のガイダンス 2．わが国の制度会計の現状 3．中小企業に関する会計基準の現状 4．中小企業会計に関する概要説明 5．課題に基づく報告と討議(1) 6．課題に基づく報告と討議(2) 7．課題に基づく報告と討議(3) 8．課題に基づく報告と討議(4) 9．課題に基づく報告と討議(5) 10．自主テーマに基づく報告と討議(1) 11．自主テーマに基づく報告と討議(2) 12．自主テーマに基づく報告と討議(3) 13．自主テーマに基づく報告と討議(4) 14．自主テーマに基づく報告と討議(5) 15．総括および質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73036A01
科目名	【院】管理会計論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Accounting Research A		
担当者名	島　吉伸	旧科目名称	
講義概要	この講義では、経営管理上の意思決定問題に対して、会計情報がどのように利用されるのかについて学びます。会計情報は企業の様々な意思決定の場面で利用されます。例えば、経営戦略や計画・投資の決定、製品価格の決定、セールス・ミックスの決定、アウトソーシングの決定などがあります。管理会計は、実務の中で広く実践されており、今日の環境変化に対する実務の革新や研究者の新たな知見を加えながら、その内容を豊かにしてきています。この講義では、最新の管理会計実務の全体像を理解することを目的とし、まず、意思決定会計における管理会計の基本的概念や諸技法について学習します。その上で、最新の管理会計実務を紹介したいと思います。		
教材（テキスト）	上埜　進他著　「管理会計の基礎 第４版」　税務経理協会		
教材（参考文献）	加登豊編著　「インサイト管理会計」　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	プレゼンテーション 40%　レポート課題 40%　ディスカションへの貢献 20%		
到達目標	伝統的な管理会計の分析手法の習得と、今日の企業で実践されている最新の管理会計手法の理解		
準備学習	毎講義終了時に指示する。		
受講者への要望			
意思決定における会計的分析視点を養うために、学習した内容の演習問題を解いておくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回　　イントロダクション　意思決定と会計の役割 第２回　　財務諸表の読み方（１） 第３回　　財務諸表の読み方（２） 第４回　　原価計算の基礎 第５回　　経営戦略と経営計画の策定（１） 第６回　　経営戦略と経営計画の策定（２） 第７回　　短期利益計画と CVP 分析（１） 第８回　　短期利益計画と CVP 分析（２） 第９回　　意思決定のための関連収益・関連原価の分析（１） 第 10 回　　意思決定のための関連収益・関連原価の分析（２） 第 11 回　　意思決定のための関連収益・関連原価の分析（３） 第 12 回　　設備投資の意思決定（１） 第 13 回　　設備投資の意思決定?（２） 第 14 回　　設備投資の意思決定?（３） 第 15 回　　講義全体のまとめ 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73036B01
科目名	【院】管理会計論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Accounting Research B		
担当者名	島　吉伸	旧科目名称	
講義概要	この講義では、経営管理に役立つ会計情報の利用方法について学びます。特に、経営管理者の多様な意思決定や分権化された組織活動が、全社的にどのように調整・統合されるのか、組織活動の成果がどのように測定され、評価されるのかについて学びます。 管理会計は、実務の中で広く実践されており、今日の環境変化に対する実務の革新や研究者の新たな知見を加えながら、その内容を豊かにしてきています。この講義では、最新の管理会計実務の全体像を理解することを目的とし、まず、管理会計の基本的概念や諸技法について学習します。その上で、最新の管理会計実務を紹介したいと思います。		
教材（テキスト）	上埜　進他著　「管理会計の基礎　第４版」　税務経理協会		
教材（参考文献）	加登豊編　「インサイト管理会計」　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	プレゼンテーション 40%　レポート課題 40%　ディスカッションへの貢献 20%		
到達目標	伝統的な管理会計の業績管理手法の習得と、今日の企業で実践されている最新の管理会計手法の理解		
準備学習	毎講義終了時に指示する。		
受講者への要望			
講義前に、教科書をじっくり読んで疑問点を明らかにしておくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回　イントロダクション　企業経営と業績管理 第２回　予算管理（１） 第３回　予算管理（２） 第４回　分権制組織の会計管理（１） 第５回　分権制組織の会計管理（２） 第６回　分権制組織の会計管理（３） 第７回　原価管理（１） 第８回　原価管理（２） 第９回　ABC・ABM（１） 第 10 回　ABC・ABM（２） 第 11 回　戦略的コストマネジメント（１） 第 12 回　戦略的コストマネジメント（２） 第 13 回　戦略的コストマネジメント（３） 第 14 回　価値創出経営 第 15 回　講義全体のまとめ 定期試験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J73044A01
科目名	【院】起業論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Entrepreneurship Research A		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	本講義は、起業についての基礎理論の修得とともに、わが国における起業に関わる課題について考察する。起業についての研究はここ数年で増加してきた。新しい商品やサービスの開発，新しいマーケットの創造，そして経済の競争力を高める上で，起業家が占める役割は大きい。全体像を把握するためのデータや、日本およびアメリカ等のケースとともに、ビジネス・プランの立て方，ビジネス機会発見の方法，マーケット分析，そしてファイナンシアル・リソースや人材の獲得等について、講義および議論により整理していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	高橋徳行『起業学の基礎』勁草書房		
教材（その他）	関連論文・専門誌掲載記事等、必要に応じてコピー配布		
評価方法	授業内発表（60%）・レポート（40%）。		
到達目標	起業に関わる理論やデータの概観を把握すること。		
準備学習	・授業終了時に配布する資料を次回までに読んでおくこと。 ・起業に関心を持ち、関連する新聞や雑誌等の記事から情報収集しておくこと。		
受講者への要望			
授業への積極的参加・発表、問題提起を期待する。			
講義の順序とポイント			
1.　起業についての社会的意義の整理 2.　起業に関わる内外データから見る現状把握① 3.　〃　② 4.　先行研究から見る起業論① 5.　〃　② 6.　起業活動と経済活動 7.　起業活動と経営戦略 8.　〃　ケーススタディ 9.　起業家の資質 10.　〃　ケーススタディ 11.　事業機会の認識と評価 12.　〃　ケーススタディ 13.　起業活動とビジネスモデルの構築 14.　〃 15.　今後の課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J73044B01
科目名	【院】起業論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Entrepreneurship Research B		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	本講義は、起業論研究Ａに引き続き、起業についての基礎理論の修得とともに、わが国における起業に関わる課題について考察する 起業についての研究はここ数年で増加してきた。新しい商品やサービスの開発，新しいマーケットの創造，そして経済の競争力を高める上で，起業家が占める役割は大きい。全体像を把握するためのデータや、日本およびアメリカ等のケースとともに、ビジネス・プランの立て方，ビジネス機会発見の方法，マーケット分析，そしてファイナンシアル・リソースや人材の獲得等について、講義および議論により整理していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	高橋徳行『起業学の基礎』勁草書房		
教材（その他）	関連論文・専門誌掲載記事		
評価方法	授業内発表（60%）・レポート（40%）		
到達目標	起業家のケースをステップ毎に学ぶことにより、起業の基礎理論を修得する。		
準備学習	・授業終了時に配布する資料を次回までに読んでおくこと。 ・日常的に起業に関心を持ち、関連する新聞や雑誌等の記事から情報収集しておくこと。		
受講者への要望			
授業への積極的参加・発表を期待します。			
講義の順序とポイント			
1.　起業のステップ 2.　創業期のマーケティング 3.　〃　ケーススタディ 4.　人材の確保と活用 5.　〃　ケーススタディ 6.　資金調達 7.　〃　ケーススタディ 8.　競争戦略・成長戦略 9.　〃　ケーススタディ 10.　女性起業家の特質 11.　〃　ケーススタディ 12.　起業支援体制の変化 13.　〃 14.　起業家人材の育成 15.　起業家創出の課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J73069A01
科目名	【院】経営史演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Management History A		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	ケーススタディは経営史研究の生命である。したがって、演習ＡＢにおいては、研究テーマを決定し、その基礎となる質と量を備えた一次史料の発掘・収集とその整理に努め、これを順次報告しなければならない。基本的史料の発掘・収集は、夏季・春季の長期休暇に集中的に行う必要がある。同時に、研究テーマに不可欠の文献・論文をリストアップ・探索・収集し、問題意識の深化に努めねばならない。		
教材（テキスト）	受講者と相談の上で決める。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	総合的に評価する。		
到達目標	経営史の基礎的知識を習得し、企業・経営発展研究への視座を獲得する。		
準備学習	修士論文の完成に向け最大限の努力を傾注しなければならない。 毎回各自の作業・文献研究の進捗状況を報告し、報告レジュメの作成を求める。		
受講者への要望			
２年間は短い。演習においては、このわずかな時間のうちに文献研究と史料収集を通じて修士論文の完成に努めねばならない。			
講義の順序とポイント			
1.本演習についての概説 2.修士論文作成に関する基礎的説明 3.本学図書館利用に関する説明（所蔵文献・情報検索法の説明） 4.研究テーマの選定に関する指導 5.研究テーマの選定に関する報告 6.研究課題に関する文献研究(1) 7.研究課題に関する文献研究(2) 8.研究テーマに関する問題点の整理 9.基本文献の研究報告(1) 10.基本文献の研究報告(2) 11.基本文献の研究報告(3) 12.論文構成に関する指導(1) 13.論文構成に関する指導(2) 14.関係史料への一次的接近のための情報収集(1) 15.関係史料への一次的接近のための情報収集(2)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73069B01
科目名	【院】経営史演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Management History B		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	ケーススタディは経営史研究の生命である。したがって、演習ＡＢにおいては、研究テーマを決定し、その基礎となる質と量を備えた一次史料の発掘・収集とその整理に努め、これを順次報告しなければならない。基本的史料の発掘・収集は、夏季・春季の長期休暇に集中的に行う必要がある。同時に、研究テーマに不可欠の文献・論文をリストアップ・探索・収集し、問題意識の深化に努めねばならない。		
教材（テキスト）	受講者と相談の上で決める。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	総合的に評価する。		
到達目標	経営史の基礎的知識を習得し、企業・経営発展研究への視座を獲得する。		
準備学習	修士論文の完成に向け最大限の努力を傾注しなければならない。 毎回各自の作業・文献研究の進捗状況を報告し、報告レジュメの作成を求める。		
受講者への要望			
２年間は短い。演習においては、このわずかな時間のうちに文献研究と史料収集を通じて修士論文の完成に努めねばならない。			
講義の順序とポイント			
16.収集史料を基にした研究報告(1) 17.収集史料を基にした研究報告(2) 18.収集史料を基にした研究報告(3) 19.先行研究の整理(1) 20.先行研究の整理(2) 21.研究テーマに関する問題点の整理(1) 22.研究テーマに関する問題点の整理(2) 23.基本文献の研究報告(1) 24.基本文献の研究報告(2) 27.追加的史料の情報収集(1) 28.追加的史料の情報収集(2) 29.追加的史料の情報収集(3) 30.追加的史料の情報収集(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73101A01
科目名	【院】情報科学研究A	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Technology A		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	コンピュータ技術の進展により、コンピュータによる情報処理は、ビジネスの世界ではいまや不可欠なものになってきている。コンピュータはハードウェアとソフトウェアから構成されているが、ソフトウェアはその使途により、オペレーティングシステムやアプリケーションソフトなどに分類される。ソフトウェアは、プログラムによって構成されており、プログラミングを行うための考え方はアルゴリズムと呼ばれている。本講義では、種々の問題に対してのアルゴリズムについて講義する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内課題・報告等による平常点（60%）　レポート（40%）		
到達目標	コンピュータを取り巻く情報処理知識についての理解を深め、論理的思考を身につけることを目指す。		
準備学習	講義終了後に提示する次回の学習項目について予習しておくこと。		
受講者への要望			
授業内において、適宜、練習問題を解いて、課題として提出する事が要求される。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．アルゴリズムとは 3．アルゴリズムとフローチャート 4．基本的なフローチャート 5．アルゴリズムの構造 6．データ型と算術式 7．変数と代入文 8．順次構造を用いたアルゴリズム 9．条件式 10．選択構造の基本 11．選択構造を用いたアルゴリズム 12．反復構造の基本 13．反復構造を用いたプログラム1 14．反復構造を用いたプログラム2 15．レポートの作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J73101B01
科目名	【院】情報科学研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Technology B		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	コンピュータ技術の進展により、コンピュータによる情報処理は、ビジネスの世界ではいまや不可欠なものになってきている。コンピュータはハードウェアとソフトウェアから構成されているが、ソフトウェアはその使途により、オペレーティングシステムやアプリケーションソフトなどに分類される。ソフトウェアは、プログラムによって構成されており、プログラミングを行うための考え方はアルゴリズムと呼ばれている。本講義では、種々の問題に対してのアルゴリズムについて講義する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内課題・報告等による平常点（60%）　レポート（40%）		
到達目標	コンピュータを取り巻く情報処理知識についての理解を深め、論理的思考を身につけることを目指す。		
準備学習	講義終了後に提示する次回の学習項目について予習しておくこと。		
受講者への要望			
授業内において、適宜、練習問題を解いて、課題として提出する事が要求される。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．一次元配列の基本 3．一次元配列のアルゴリズム 4．二次元配列の基本 5．二次元配列のアルゴリズム 6．データ検索の基本 7．データ検索のアルゴリズム 8．整列の基本 9．整列のアルゴリズム１ 10．整列のアルゴリズム２ 11．整列のアルゴリズム３ 12．応用アルゴリズム１ 13．応用アルゴリズム２ 14．応用アルゴリズム３ 15．レポートの作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73105A01
科目名	【院】情報管理論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Management A		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	プリント配布。		
評価方法	レポート(40%)、受講・発表など授業での取り組み(60%)で評価する。		
到達目標	経営情報システム及び企業経営における情報の適切な利活用と管理について考察していく。そして、ホワイトカラー職務能力評価試験の筆記試験合格レベルの知識習得を目標とする。		
準備学習	経営学及び経営情報の基本部分はキッチリおさえていて欲しい。 ビジネス・キャリア試験レベルまでの事前学習をすすめて欲しい。		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。			
講義の順序とポイント			
授業は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。 1．受講ガイダンス ワードプロセッシング演習 スプレッドシート演習 Gmail、One Drive、Thinkfree、Evernote、Twitter、Dropbox アカウント取得 2．プレゼンテーション基礎演習 3．プレゼンテーション応用演習 4．情報化技術の理解 5．経営戦略の理解 6．情報化戦略の立案 7．情報の収集 1 8．情報の収集 2 9．情報の整理 1 10．情報の整理 2 11．情報の加工 12．情報の表現 13．パソコンソフトの活用 14．関連法規の理解 15．理論的側面の課題と展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73105B01
科目名	【院】情報管理論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Management B		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	プリント配布。		
評価方法	レポート(40%)、受講・発表など授業での取り組み(60%)で評価する。		
到達目標	経営情報システム及び企業経営における情報の適切な利活用と管理について考察していく。そして、ビジネス･キャリア検定試験の筆記試験合格レベルの知識習得を目標とする。		
準備学習	経営学及び経営情報の基本部分はキッチリおさえていて欲しい。 ビジネス・キャリア試験レベルまでの事前学習をすすめて欲しい。		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。			
講義の順序とポイント			
授業は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。 1．受講ガイダンス 2. アイデアプロセシング演習基礎 1 3. アイデアプロセシング演習基礎 2 4. アイデアプロセシング演習応用 1 5. アイデアプロセシング演習応用 2 6. 情報システムの種類 7. IT ソリューションの調達方法 8. IT ソリューションの活用 9. システム化計画の立案 10. システム要求の分析と要件定義 11. システム開発におけるその他の業務 12. システムの運用 13. 情報セキュリティ 14. 情報システム導入の失敗の原因 15. システム面からの課題と展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73115A01
科目名	【院】人的資源管理論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Resources Management A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	人的資源管理[HRM(Human Resources Management)]というコンセプトはアメリカで生まれた。人事管理[PM（Personnel Management）]と HRM の相違については未だ同意は築かれてはいないが、広範囲にわたる論点を含みつつ、もはや PM という用語を見ることはできないほど HRM という用語は浸透している。 　経営戦略と人材管理･開発の制度や実践との適合性が考察される場合もあれば、能力や知識とは何か,それらをどのように測定し,育むか,等の観点からの論文もある。はたまた、外部労働市場の動向に焦点を合わせる研究もある。これらをできるだけ分かり易く解説することを通して、また受講者のキャリア設計に役立つように進めていくことによって、人財という財宝に向けて指導していきたい。		
教材（テキスト）	第１回目に学部時代の学習状況を聞き、テキストを決定する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	毎回の発表内容（70%）および発表・取組姿勢（30%）により評価する。		
到達目標	以下の修得を目指す。 企業をはじめとする「組織」の仕組みを人的資源と関連付けて理解できる。		
準備学習	＊テキストの担当箇所を要約し、レジュメに仕立てること。誰が何ページまでをいつまでに,ついては毎回、指示する。 ＊小テストやレポートなどを通して学習したことの確認を行う場合もあるので、授業で使用した資料やテキストを必ず熟読しておくこと。		
受講者への要望			
学部時代に人事・労務管理論やＨＲＭを学んだことのある方を望む。			
講義の順序とポイント			
1.人事・労務管理と HRM の相違は？① 2.人事・労務管理と HRM の相違は？② 3.人事・労務管理と HRM の相違は？③ 4.経営戦略と HRM の関係① 5.経営戦略と HRM の関係② 6.経営戦略と HRM の関係③ 7.行動科学と HRM の関係① 8.行動科学と HRM の関係② 9.行動科学と HRM の関係③ 10.日本における人事・労務管理論および HRM 研究の展開について① 11.日本における人事・労務管理論および HRM 研究の展開について② 12.日本における人事・労務管理論および HRM 研究の展開について③ 13.日本企業の人事・労務管理部とアメリカ企業の HR 部の違いは？① 14.日本企業の人事・労務管理部とアメリカ企業の HR 部の違いは？② 15.日本企業の人事・労務管理部とアメリカ企業の HR 部の違いは？③			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73115B01
科目名	【院】人的資源管理論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Resources Management B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	人的資源管理[HRM(Human Resources Management)]というコンセプトはアメリカで生まれた。人事管理[PM（Personnel Management）]と HRM の相違については未だ同意は築かれてはいないが、広範囲にわたる論点を含みつつ、もはや PM という用語を見ることはできないほど HRM という用語は浸透している。 　経営戦略と人材管理･開発の制度や実践との適合性が考察される場合もあれば、能力や知識とは何か,それらをどのように測定し,育むか,等の観点からの論文もある。はたまた、外部労働市場の動向に焦点を合わせる研究もある。これらをできるだけ分かり易く解説することを通して、また受講者のキャリア設計に役立つように進めていくことによって、人財という財宝に向けて指導していきたい。		
教材（テキスト）	第１回目に学部時代の学習状況を聞き、テキストを決定する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	毎回の発表内容（70%）および発表・取組姿勢（30%）により評価する。		
到達目標	以下の修得を目指す。 企業をはじめとする「組織」の仕組みを人的資源と関連付けて理解できる。		
準備学習	＊テキストの担当箇所を要約し、レジュメに仕立てること。誰が何ページまでをいつまでに,ついては毎回、指示する。 ＊小テストやレポートなどを通して学習したことの確認を行う場合もあるので、授業で使用した資料やテキストを必ず熟読しておくこと。		
受講者への要望			
学部時代に人事・労務管理論やＨＲＭを学んだことのある方を望む。			
講義の順序とポイント			
1.日本企業の人事・労務管理部とアメリカ企業の HR 部の違いは？② 2.日本企業の人事・労務管理部とアメリカ企業の HR 部の違いは？③ 3.日本企業におけるコース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、等について① 4.日本企業におけるコース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、等について② 5.日本企業におけるコース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、等について③ 6.アメリカ企業における先任権、職務給、報奨、MBA の待遇、等について① 7.アメリカ企業における先任権、職務給、報奨、MBA の待遇、等について② 8.IR(労使関係)と HRM の関係は？① 9.IR と HRM の関係は？② 10.IR と HRM の関係は？③ 11.HRM の｢システム｣とは？①　ベストプラクティス、コンティンジェンシー、コンフィギュレーション、等の観点から 12.HRM の｢システム｣とは？②　ベストプラクティス、コンティンジェンシー、コンフィギュレーション、等の観点から、および一般システム論と自己組織化研究、等の観点から 13.所得と格差社会について 14.修士論文のテーマ発表① 15.修士論文のテーマ発表②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73125A01
科目名	【院】中小企業経営論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Small Business Management A		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	中小企業経営の研究に必要とされる、基本的な研究書、論文などの先行研究を中心に、中小企業経営の本質を理解する。そのうえで「研究計画書」との適合性や修正などを視野に入れ、研究テーマのスキームを探る。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	取組姿勢（研究への取組姿勢など）（50%）レポートなど報告内容（50%）		
到達目標	中小企業経営論は、学問領域が多岐にわたっているため、文献研究などを通して、中小企業経営全般にわたる基礎的概念を整理、理解したうえで、研究領域への絞り込みを行い、研究テーマを設定する。		
準備学習	研究テーマを念頭に、研究書、論文、資料など一次文献の幅広い収集を心掛けるとともに、文献に基づき研究テーマに関する整理を行う。		

受講者への要望

到達点を念頭においた、積極的な演習への取組を期待します。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　論文作成に関する基礎指導①
3　論文作成に関する基礎指導②
4　中小企業経営に関する総論①
5　中小企業経営に関する総論②
6　論題選定に関する指導、報告①
7　論題選定に関する指導、報告②
8　論題に関する文献研究についての報告と討議①
9　論題に関する文献研究についての報告と討議②
10　論題に関する文献研究についての報告と討議③
11　論題に関する問題点、課題の整理①
12　論題に関する問題点、課題の整理②
13　論文構成に関する指導①
14　論文構成に関する指導②
15　論文構成に関する指導③

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J73125B01
科目名	【院】中小企業経営論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Small Business Management B		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	収集した研究書、論文、資料などの研究分析を進め、論題の方向性を見定める。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	取組姿勢（研究への取組姿勢など）（５０％）レポートなど報告内容（５０％）		
到達目標	研究テーマを選定するとともに、テーマに沿った論文作成を可能たらしめる幅広い知識の習得		
準備学習	論文作成のため必要とする、研究所、論文、資料など収集には、問題意識を持つとともにそれらの理解に努め、自身の論文作成に活用することを、心掛けて演習に臨む。		

受講者への要望

到達点を念頭におき、積極的に論文作成に取組む

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　論文にかかる情報の整理①
3　論文にかかる情報の整理②
4　論題によるフィールドワークの実施①
5　論題によるフィールドワークの実施②
6　論題によるフィールドワークの実施③
7　論題によるフィールドワークの実施④
8　論文構成に関する報告と討議①
9　論文構成に関する報告と討議②
10　論文構成に関する報告と討議③
11　論文構成に関する報告と討議④
12　論文構成に関する報告と討議⑤
13　追加的資料の収集①
14　追加的資料の収集②
15　追加的資料の収集③

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J73125C01
科目名	【院】中小企業経営論演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Small Business Management C		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	演習 A 及び演習 B により得た知見に基づき、論文作成についての具体的な取り組みを行う。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）			
評価方法	取組姿勢（研究への取組姿勢など）（40%）研究成果（論文作成状況、内容）（60%）		
到達目標	中間発表を見据えた論文作成		
準備学習	演習 A 及び演習 B において得た知見の整理統合及び論文への活用 no 準備、検討 必要な追加資料、文献などの取得		
受講者への要望			
論文作成への計画的取り組みおよび時間管理の徹底			
講義の順序とポイント			
1　基本的な取り組みについて 2　論文完成までのロードマップの作成 3　～15　論文の下書きに関する報告と指導			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73125D01
科目名	【院】中小企業経営論演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Small Business Management D		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	中間発表に向けての論文の作成および完成を目指す		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）			
評価方法	取組姿勢（研究などへの取り組み姿勢）（40%）研究成果（論文作成状況、内容）（60%）		
到達目標	論文の完成		
準備学習	論文完成に向けての資料の収集および整備 指導内容及び指示に対する対応および報告		
受講者への要望			
論文全体の構成、論旨の整合性などに常に配意したうえで、論文完成に向かっての時間管理に十分注力する。			
講義の順序とポイント			
1~15　論文完成に向けての報告および指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73129A01
科目名	【院】中小企業経営論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Small Business Management A		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	戦後日本の中小企業は、高度成長、バブル期を経て、現在失われた 20 年と揶揄される時代を迎えているが、中小企業ではその独自性を活かし、自助努力により活力を持って日本経済を支えている存在である。 この間事業所数ベースで約 99 パーセントの割合を占める中小企業が、日本経済の発展成長に果たした役割には多大なものがあるといえる。 このため中小企業経営論の研究に当たり、本講座では、戦後の中小企業の歩みについてその実態の理解を進めるとともに、国の中小企業政策面からの考察も行い、中小企業経営に国の政策面から何が求められ、それに対して、中小企業がどのように対応したか、そして現状における課題およびそれをどのように解決していくのかについて、中小企業論を踏まえた中小企業経営論の解明を行いたい。 このため研究の中心は、中小企業基本法、中小企業白書、国の中小企業政策の推移等を中心に据えての講義となる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要の都度紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	取組姿勢 50％、レポート 50％		
到達目標	日本における中小企業の戦後の軌跡、現状と課題を中小企業論の観点を踏まえ理解習得する事によって、実際の中小企業経営に資する、能力の涵養を図る。 当該講座により習得した知識およびスキルは、起業はもとよりありとあらゆる組織の一員としても、活用できるものである。		
準備学習	日常から中小企業に対する興味を持つとともに現状や動向についての情報入手に努める。 特に最近は中小企業研究の著書が減少傾向にあることから、政府機関など公的機関がが発行する中小企業関連冊子、ネット情報などの取得にも留意されたい。		

受講者への要望

中小企業への関心を常にもって、中小企業の課題などの解決に必要とされるマネジメントを念頭に、双方向の授業となりますので、積極的な参加をお願いします。

講義の順序とポイント

1　はじめに（本講座の概要）
2　戦後中小企業の軌跡～戦後復興期
3　～高度成長期
4　～バブル期から現在
5　中小企業基本法と中小企業経営～改正前基本法
6　～改正後基本法
7　～経営革新、創業、連携を中心とした経営
8　中小企業白書に見る中小企業経営の現状と課題①
9　②
10　③
11　中小企業政策と中小企業経営①
12　②
13　③
14　これからの中小企業経営①
15　②

適宜講義内容を踏まえた課題に基づき、グループワークを行う。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J73129B01
科目名	【院】中小企業経営論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Small Business Management B		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	中小企業経営は、中小がゆえの特色と独自性を持って行われてきた。しかしながら総じてその経営は、大企業経営と比較して、生産性が低い、賃金が低い、設備が前近代的である、家計と企業が未分離で経営実体が把握できないなどさまざまな経営上の問題を抱えて行われてきたことは周知のことである。 　この事に加え企業のライフサイクル面からの考察を加えれば、スタートアップ期、発展成長期、安定期、衰退期（事業承継期）それぞれのステージにおいて求められるマネジメントの方法は、おのずと差異が生じると考えられる。 　以上から中小企業の特色を踏まえた、各ライフステージにおける中小企業経営論について考察を進めたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要の都度紹介する。		
教材（その他）	必要の都度プリントを配布		
評価方法	取組姿勢　50%　　レポート点　　50%		
到達目標	本講座受講により得た知識は、実際の中小企業経営に資する知識とスキルの習得を行う。 　なお中小企業経営に限らず、どのような進路を選択肢を選ぼうとも、活用できるよう研究を進める。		
準備学習	日常においても中小企業経営に関心を持ち、関連する情報について、専門書、専門雑誌、ネットなどにより、収集に努める。		

受講者への要望

双方向の講座を目指していますので、積極的な授業への参加をお願いいたします。

講義の順序とポイント

1　はじめに（本講座の概要）
2　中小企業経営における特質
3　スタートアップ（起業）時における中小企業経営）～ビジネスチャンスの発見
4　～経営資源の調達
5　～ビジネスシステムの構築
6　発展・成長期における中小企業経営～組織化戦略
7　～成長戦略
8　～財務戦略
9　安定期における中小企業経営～イノベーションと多角化戦略①
10　②
11　③
12　衰退期（事業承継期）における中小企業経営～事業承継における留意点
13　～事業承継構想
14　～事業承継計画
15　本論の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J73141A01
科目名	【院】経営管理論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Management Research A		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	経営管理の代表的な学説を学ぶとともに、現代企業を取り巻くさまざまな活動を経営管理という視点から考察します。経営管理は、日常何らかの組織にかかわりをもっている私たちにとって、最も関連の深い学問です。経営を構成体としてみれば組織であり、組織が成立するところには組織を形成・維持するための管理機能が生じます。 　この講義では、まず、管理論が生成した背景を学びます。次に、経営管理の理論的な発展過程を体系的に理解します。今日の経営管理論の基礎は、テイラーの科学的管法やファヨールの管理論の出現によって 20 世紀初頭に築かれました。その後、近代管理論、人間関係論などさまざまな理論が発展しています。これらの理論を踏まえて、組織をどう統制し、戦略はどう策定するのかという課題を、実例を通して考察します。講義を通じて、いま企業がどのような課題に直面し、それをどのように解決しようとしているのかを、経営管理論という立場から説明できるようになることをめざします。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。新聞記事やビデオ教材を使用することもあります。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（60%）。授業中に課すレポート（40%）。		
到達目標	経営管理の代表的な学説を体系的に把握できること。 現代企業を取り巻くさまざまな活動を、経営管理の視点から考えられるようになること。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義で使用するテキストの範囲を指示するので、熟読しておいてください。報告者はレジュメを作成します。		

受講者への要望

この講義は事前学習を必要とします。テキストを事前に読んでまとめ、講義時に報告します。それを踏まえて、意見交換もします。また、事例分析では、新聞記事を読んだりビデオを鑑賞したりして、考えをまとめる作業などもします。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　（授業の進め方や目的の説明等）
2　企業の形態と株式会社について
3　経営管理の生成①　（所有と経営の分離など）
4　経営管理の生成②　（所有と経営の分離の事例分析）
5　経営管理の生成③　（持株会社の事例分析）
6　経営管理の発展①　（経営管理の諸理論）
7　経営管理の発展②　（経営管理の諸理論）
8　組織のデザイン①　（組織構造の種類、利点と問題点）
9　組織のデザイン②　（組織構造の事例分析）
10　経営戦略①　（代表的な理論）
11　経営戦略②　（事例分析）
12　資源の管理①　（代表的な理論）
13　資源の管理②　（事例分析）
14　企業の社会的責任と CSR
15　経営管理論研究 A を通して学んだことの総括

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新の話題を取り上げていきたいと考えています。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73141B01
科目名	【院】経営管理論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Management Research B		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	経営管理の代表的な学説を学ぶとともに、現代企業を取り巻くさまざまな活動を経営管理という視点から考察します。経営管理は、日常何らかの組織にかかわりをもっている私たちにとって、最も関連の深い学問です。経営を構成体としてみれば組織であり、組織が成立するところには組織を形成・維持するための管理機能が生じます。今日の経営管理論の基礎は、テイラーの科学的管法やファヨールの管理論の出現によって 20 世紀初頭に築かれました。その後、近代管理論や人間関係論などの理論が発展してきました。 　この講義では、経営管理の基本的な理論を踏まえて、企業の活性化や変革、情報通信技術を利用した組織デザインなど、現代企業が直面するさまざまな課題について検討します。 　講義を通じて、いま企業がどのような課題に直面し、それをどのように解決しようとしているのかという実践的なプロセスを理論的に説明できるようになることをめざしています。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男著『経営管理論 新版』有斐閣アルマ,2009 年,1995 円。 その他、授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。新聞記事やビデオ教材を使用することもあります。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（60%）。授業中に課すレポート（40%）。		
到達目標	経営管理の代表的な学説を体系的に把握できること。 現代企業を取り巻くさまざまな活動を、経営管理の視点から考えられるようになること。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義で使用するテキストの範囲を指示するので、熟読しておいてください。報告者はレジュメを作成します。		

受講者への要望

この講義は事前学習を必要とします。テキストを事前に読んでまとめ、講義時に報告します。それを踏まえて、意見交換もします。また、事例分析では、新聞記事を読んだりビデオを鑑賞したりして、考えをまとめる作業などもします。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　（授業の進め方や目的の説明等）
2　モチベーションと組織活性化①　（人間関係論、動機づけ理論など）
3　モチベーションと組織活性化②　（事例分析）
4　経営のリーダーシップ①　（代表的な理論）
5　経営のリーダーシップ②　（事例分析）
6　企業文化の創造と変革
7　日本の経営管理　（日本的経営について）
8　組織間関係の管理①　（戦略的提携に向けての基礎）
9　組織間関係の管理②　（事例分析）
10　グローバル戦略①　（日本企業の国際化の論理）
11　グローバル戦略②　（事例分析）
12　情報管理①　（代表的な理論）
13　情報管理②　（事例分析、インターネットビジネス）
14　情報管理③　（事例分析、テレワーク）
15　経営管理論研究 B を通して学んだことの総括

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新の話題を取り上げていきたいと考えています。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J73146A01
科目名	【院】財務諸表論研究A	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statements Research A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	財務諸表論は、企業が投資家等の利害関係者に対する報告書として作成する貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の根底にある理論と、具体的な作成方法・手続を学ぶ学問である。 周知のとおり、現在日本の会計は、国際会計基準とのコンバージェンスという大きな課題に直面しており、従来の会計基準、会計規則、会計処理は大きく変貌しようとしている過渡期にある。財務諸表論研究 A では、従来の日本の会計制度の根底にある理論と、国際会計基準の理論的な背景を対比しつつ、財務会計の総論的な問題を取り扱う。財務諸表論研究 B では、個別の会計処理において問題となる理論的背景を比較しつつ、日本の会計基準と国際会計基準の相違について考察する。		
教材（テキスト）	受講生と相談の上決定する		
教材（参考文献）	必要に応じて随時指示する		
教材（その他）	その都度指示する		
評価方法	日常の受講姿勢(40%)およびレポート(60%)		
到達目標	税理士試験の「財務諸表論」で出題される問題に対応できるレベルの実力を身につける。 財務会計の機能、意義、必要性について説明できる。 国際会計基準の日本への導入が持つ意義と課題について説明できる。		
準備学習	報告者だけでなく他の受講生も教科書の指定ページを熟読してくること。 講義で取り上げられる予定のテーマに関するニュース記事等を検索してくること。		
受講者への要望			
報告者だけでなく、他の出席者も報告内容についてきちんと予習し、積極的に議論に参加すること。 やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス：講義の目的と視点 2. 企業経営における会計の基本的な機能 3. 会計の本質と概念フレームワーク 4. 日本の会計制度 5. 会計の国際化とコンバージェンス 6. 財務会計のシステムと複式簿記 7. 会計公準と会計原則 8. 一般原則 9. 損益計算書原則 10. 貸借対照表原則 11. 貸借対照表の様式と見方 12. 損益計算書の様式と見方 13. キャッシュ･フロー計算書の様式と見方 14. その他のディスクロージャー 15. 総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73146B01
科目名	【院】財務諸表論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statements Research B		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	財務諸表論は、企業が投資家等の利害関係者に対する報告書として作成する貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の根底にある理論と、具体的な作成方法・手続を学ぶ学問である。 周知のとおり、現在日本の会計は、国際会計基準とのコンバージェンスという大きな課題に直面しており、従来の会計基準、会計規則、会計処理は大きく変貌しようとしている過渡期にある。財務諸表論研究 A では、従来の日本の会計制度の根底にある理論と、国際会計基準の理論的な背景を対比しつつ、財務会計の総論的な問題を取り扱う。財務諸表論研究 B では、個別の会計処理において問題となる理論的背景を比較しつつ、日本の会計基準と国際会計基準の相違について考察する。		
教材（テキスト）	受講生と相談の上決定する		
教材（参考文献）	必要に応じて随時指示する		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加および報告などの平常点 50%、最終レポート 50%		
到達目標	税理士試験の「財務諸表論」で出題される問題に対応できるレベルの実力を身につける。 財務会計の機能、意義、必要性について説明できる。 国際会計基準の日本への導入が持つ意義と課題について説明できる。		
準備学習	報告者だけでなく他の受講生も教科書の指定ページを熟読してくること。 講義で取り上げられる予定のテーマに関するニュース記事等を検索してくること。		
受講者への要望			
報告者だけでなく、他の出席者も報告内容についてきちんと予習し、積極的に議論に参加すること。 やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。			
講義の順序とポイント			
1. 資産の会計 1：金融商品 2. 資産の会計 2：棚卸商品 3. 資産の会計 3：有形固定資産 4. 資産の会計 4：無形固定資産 5. 資産の会計 5：減損 6. 負債の会計 1：引当金 7. 負債の会計 2：退職給付 8. 負債の会計 3：資産除去債務 9. 純資産の会計 10. 収益の認識と測定 11. 費用の認識と測定 12. 企業集団と連結会計 13. 企業結合の会計 14. 税効果会計 15. 総括：改めて会計とは何か			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73146C01
科目名	【院】財務諸表論研究C	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statements Research C		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	財務諸表論は、企業が投資家等の利害関係者に対する報告書として作成する貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の根底にある理論と、具体的な作成方法・手続を学ぶ学問である。 周知のとおり、現在日本の会計は、国際会計基準とのコンバージェンスという大きな課題に直面しており、従来の会計基準、会計規則、会計処理は大きく変貌しようとしている過渡期にある。財務諸表論研究 C では、国際会計基準の概念フレームワークを中心に扱いながら、会計基準の根底にある理論的な基礎を学んで行く。		
教材（テキスト）	受講生と相談の上決定する		
教材（参考文献）	齊藤静樹『詳解　討議資料・財務会計の概念フレームワーク』中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	日常の受講姿勢(40%)およびレポート(60%)		
到達目標	税理士試験の「財務諸表論」で出題される問題に対応できるレベルの実力を身につける。 財務会計の機能、意義、必要性について説明できる。 国際会計基準の日本への導入が持つ意義と課題について説明できる。		
準備学習	報告者だけでなく他の受講生も教科書の指定ページを熟読してくること。 講義で取り上げられる予定のテーマに関するニュース記事等を検索してくること。		
受講者への要望			
報告者だけでなく、他の出席者も報告内容についてきちんと予習し、積極的に議論に参加すること。 やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス：講義の目的と視点 2. 会計と環境 3. 国際会計基準設定の経緯 4. 国際会計基準と日本基準 5. 会計基準の国際的調和の動向 6. 会計の本質と概念フレームワーク 7. 概念フレームワークの役割 8. 財務報告の目的 9. 会計情報の質的特性(1) 10. 会計情報の質的特性(2) 11. 財務諸表の構成要素(1) 12. 財務諸表の構成要素(2) 13. 財務報告の表示プロジェクト 14. 国際会計基準をめぐる最新の動向 15. 総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73146D01
科目名	【院】財務諸表論研究D	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statements Research D		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	財務諸表論は、企業が投資家等の利害関係者に対する報告書として作成する貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の根底にある理論と、具体的な作成方法・手続を学ぶ学問である。 周知のとおり、現在日本の会計は、国際会計基準とのコンバージェンスという大きな課題に直面しており、従来の会計基準、会計規則、会計処理は大きく変貌しようとしている過渡期にある。財務諸表論研究 D では、個別の会計処理を規定する会計基準を順次検討し、コンバージェンスを進める際の課題となる日本の会計基準と国際会計基準の差異についても考察する。		
教材（テキスト）	受講生と相談の上決定する		
教材（参考文献）	必要に応じて随時指示する		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加および報告などの平常点 50%、最終レポート 50%		
到達目標	税理士試験の「財務諸表論」で出題される問題に対応できるレベルの実力を身につける。 財務会計の機能、意義、必要性について説明できる。 国際会計基準の日本への導入が持つ意義と課題について説明できる。		
準備学習	報告者だけでなく他の受講生も教科書の指定ページを熟読してくること。 講義で取り上げられる予定のテーマに関するニュース記事等を検索してくること。		
受講者への要望			
報告者だけでなく、他の出席者も報告内容についてきちんと予習し、積極的に議論に参加すること。 やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。			
講義の順序とポイント			
1. 資産の会計 1：金融商品(1) 2. 資産の会計 2：金融商品(2) 3. 資産の会計 3：棚卸商品 4. 資産の会計 4：有形固定資産(1) 5. 資産の会計 5：有形固定資産(2) 6. 資産の会計 6：無形資産 7. 資産の会計 7：リース 8. 負債の会計 1：退職給付 9. 負債の会計 2：資産除去債務 10. 負債の会計 3：引当金 11. 収益 12. ストック・オプション 13. 企業結合の会計(1) 14. 企業結合の会計(2) 15. 総括：コンバージェンスをめぐる諸問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73150A01
科目名	【院】起業論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Entrepreneurship Seminar A		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	本演習では、起業論として展開されている国内外の理論をケーススタディの手法によって知識を深めるとともに、自らの課題設定ができるように指導する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	『アントレプレナーシップ』（ウィリアム・バイグレイブ、アンドリュー・ザカラキス著、日経ＢＰ社） 『アントレプレナーシップ入門』（Ｄ・Ｊ・ストーリー著、有斐閣） 『アントレプレナー創造』（高木晴夫著、生産性出版）		
教材（その他）	関連論文、専門誌掲載記事等		
評価方法	授業内発表（50%）・レポート（50%）		
到達目標	起業に関わる理論やデータの概観を把握し、事例を研究分析する基礎力をつける。		
準備学習	事前に配布する資料を読み、理解しておくこと。		
受講者への要望			
授業への積極的参加・発表、問題提起を期待する。			
講義の順序とポイント			
1. 起業についての総論 2. 起業と経済成長① 3. 〃 ② 4. 起業論の分類 5. 起業論の評価 6. ケーススタディの方法 7. ケースライティングについて 8. 〃 9. ケースの設定 10. ケーススタディ① 11. 〃 ② 12. 〃 ③ 13. 〃 ④ 14. ケース分析① 15. 〃 ②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J73150B01
科目名	【院】起業論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Entrepreneurship Seminar B		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	起業についての基礎理論と習得とともに、わが国における起業に関わる課題について考察する。 演習Ａで学んだことを基に、起業家や起業支援機関の調査やヒアリングを行い、自分自身の研究テーマを見つける。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	『アントレプレナーシップ』（ウィリアム・バイグレイブ、アンドリュー・ザカラキス著、日経ＢＰ社） 『アントレプレナーシップ入門』（Ｄ・Ｊ・ストーリー著、有斐閣） 『アントレプレナー創造』（高木晴夫著、生産性出版）		
教材（その他）	関連論文、専門誌掲載記事等		
評価方法	授業内発表（50%）・レポート（50%）		
到達目標	起業に関わる理論やデータの概観を把握し、研究分析力をつける。		
準備学習	事前に与えられた課題を実行すること。		

受講者への要望

授業への積極的参加・発表、問題提起を期待する。

講義の順序とポイント

1. 演習Ａの振り返りとガイダンス
2. 研究テーマ設定の考え方
3. テーマ設定と周辺情報収集の方法
4. 情報収集と整理①
5. 〃　②
6. 調査及びヒアリングの方法
7. 起業家・支援機関のヒアリング計画
8. 〃
9. ヒアリング
10. ヒアリング
11. ヒアリング結果の整理
12. 論文作成の基本
13. 〃
14. 論文構成について
15. 〃

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J73151A01
科目名	【院】財務諸表論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Financial Statements A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	本演習は、A,B,C,D4 つの演習が 1 セットであり、2 年間かけて最終的に財務会計領域の中から、各自が特定のテーマを選択し、修士論文にまとめることを目標としている。一つの課題に対して、基本文献や先行研究の精読、ケーススタディ等を通して研究論文としてふさわしい修士論文を完成することが要求される。 まず最初のセメスターでは、論文テーマの選択を見据えながら、会計の基礎的概念を理解することを中心に研究の基礎を固めていきたい。		
教材（テキスト）	開講後、受講者と相談しながら決定する		
教材（参考文献）	斎藤静樹編著『詳解　討議資料　財務会計の概念フレームワーク』第 2 版　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加姿勢 40%、課題の報告内容 60%		
到達目標	(1) 会計の基礎概念を正しく理解すること (2) 会計上の諸問題に対して適切な課題設定ができること (3) 論文の意義と書き方を理解すること		
準備学習	ほぼ毎回次回への課題を用意するので報告レジュメにまとめてくること		
受講者への要望			
問題意識をもって課題に取り組み、受講すること			
講義の順序とポイント			
1.オリエンテーション 2.修士論文の方向性に関する指導(1) 3.修士論文の方向性に関する指導(2) 4.図書館を中心とする資料検索の方法に関する指導 5.会計上の諸概念の検討(1) 6.会計上の諸概念の検討(2) 7.会計上の諸概念の検討(3) 8.会計上の諸概念の検討(4) 9.会計基準を巡る諸問題の検討(1) 10.会計基準を巡る諸問題の検討(2) 11.会計基準を巡る諸問題の検討(3) 12.会計基準を巡る諸問題の検討(4) 13.会計基準を巡る諸問題の検討(5) 14.会計基準を巡る諸問題の検討(6) 15.演習 B に向けての課題設定			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73151B01
科目名	【院】財務諸表論演習 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Financial Statements B		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	本演習は、A,B,C,D4 つの演習が 1 セットであり、2 年間かけてっ最終的に財務会計領域の中から、各自特定のテーマを選択し、修士論文にまとめることを目標としている。一つの課題に対して、基本文献や先行研究の精読、ケーススタディ等を通して研究論文としてふさわしい修士論文を完成することが要求される。 演習 B では、テーマもしくは題材を決定し、先行研究をリファーしながら本人の方向性を決定していくことにする。このセメスターのうちにある程度論文のフローチャートが完成することが望ましい。		
教材（テキスト）	開講後、受講生と相談しながら決定する。		
教材（参考文献）	斎藤静樹編著　『詳解　討議資料　財務会計の概念フレームワーク』第 2 版　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加姿勢 40%、課題の報告内容 60%		
到達目標	(1) 会計の基礎概念を正しく理解すること (2) 会計上の諸問題に対して適切な課題設定ができること (3) 論文の意義と書き方を理解すること		
準備学習	ほぼ毎回次回への課題を与えるので報告レジュメにまとめてくること		
受講者への要望			
問題意識を持って課題に取り組み受講すること			
講義の順序とポイント			
1.論題の設定に関する報告と指導(1) 2.論題の設定に関する報告と指導(2) 3.論題に関する論点整理(1) 4.論題に関する論点整理(2) 5.論文構成に関する報告と指導(1) 6.論文構成に関する報告と指導(2) 7.テーマに沿った基本文献の精読(1) 8.テーマに沿った基本文献の精読(2) 9.テーマに沿った基本文献の精読(3) 10.先行研究の調査と報告(1) 11.先行研究の調査と報告(2) 12.先行研究の調査と報告(3) 13.論文構成に関する報告と指導(3) 14.論文構成に関する報告と指導(4) 15.演習 C に向けての課題整理			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73151C01
科目名	【院】財務諸表論演習C	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Financial Statements C		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	本演習は、A,B,C,D4 つの演習が 1 セットであり、2 年間かけて最終的に財務会計領域の中から、各自特定のテーマを選択し、修士論文にまとめることを目標としている。一つの課題に対して、基本文献や先行研究の精読、ケーススタディ等を通して研究論文としてふさわしい修士論文を完成することが要求される。 演習 C では、履修生各自が設定したテーマに基づいて、論文のフローチャートを完成し、論文の骨格づくりをめざす。		
教材（テキスト）	開講後、受講生と相談しながら決定する。		
教材（参考文献）	各自のテーマに沿って指示する。		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加姿勢 40%、課題の報告内容 60%		
到達目標	(1) 会計の基礎概念を正しく理解すること (2) 会計上の諸問題に対して適切な課題設定ができること (3) 論文の意義と書き方を理解すること		
準備学習	ほぼ毎回次回への課題を与えるので報告レジュメにまとめてくること		
受講者への要望			
問題意識を持って課題に取り組み受講すること			
講義の順序とポイント			
1.論題の設定に関する報告と指導(1) 2.論題の設定に関する報告と指導(2) 3.論題に関する論点整理(1) 4.論題に関する論点整理(2) 5.論文構成に関する報告と指導(1) 6.論文構成に関する報告と指導(2) 7.テーマに沿った基本文献の精読(1) 8.テーマに沿った基本文献の精読(2) 9.テーマに沿った基本文献の精読(3) 10.先行研究の調査と報告(1) 11.先行研究の調査と報告(2) 12.先行研究の調査と報告(3) 13.論文構成に関する報告と指導(3) 14.論文構成に関する報告と指導(4) 15.演習 D に向けての課題整理			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73151D01
科目名	【院】財務諸表論演習D	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Financial Statements D		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	本演習は、A,B,C,D4 つの演習が 1 セットであり、2 年間かけて最終的に財務会計領域の中から、各自特定のテーマを選択し、修士論文にまとめることを目標としている。一つの課題に対して、基本文献や先行研究の精読、ケーススタディ等を通して研究論文としてふさわしい修士論文を完成することが要求される。 演習 D では、1 月中旬に予定されている修士論文提出に向けての最終段階として、中間報告会。		
教材（テキスト）	開講後、受講生と相談しながら決定する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	修士論文中間報告 30%　最終提出論文 70%		
到達目標	(1) 会計の基礎概念を正しく理解すること (2) 会計上の諸問題に対して適切な課題設定ができること (3) 論文の意義と書き方を理解すること		
準備学習	ほぼ毎回次回への課題を与えるので報告レジュメにまとめてくること		
受講者への要望			
問題意識を持って課題に取り組み受講すること			
講義の順序とポイント			
1.論文内容の報告と指導(1) 2.論文内容の報告と指導(2) 3.論文内容の報告と指導(3) 4.論文内容の報告と指導(4) 5.中間報告に向けての準備指導 6.中間報告の予行演習 7.中間報告における指摘内容の確認 8.論文内容の報告と指導(5) 9.論文内容の報告と指導(6) 10.論文内容の報告と指導(7) 11.論文内容の報告と指導(8) 12.論文内容の調査と報告(9) 13.提出論文の最終確認 14.口頭試問に向けての指導(1) 15.口頭試問に向けての指導(2)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73157A01
科目名	【院】アジア情報研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Situation Analysis in Asia A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	インドを中心とする南アジア圏の歴史・宗教・文化を 学びつつ、今後様々な形で世界経済に大きな影響を与えるであろうこの地域の将来を総合的に展望する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０%）、レポート（５０%）。		
到達目標	インドを中心とする南アジア圏の歴史と文化について学び、 現在の政治・経済の背景にある問題について理解する。		
準備学習	英語の新聞やインターネット上の英語のページなどを通じて、日本以外の国々の情報も得るようにこころがけること。毎回授業終了時に次回の内容と次回までに予習・復習すべき点を指示する。		
受講者への要望			
履修登録の前に、担当者（山下）に必ず相談に来ること。 受講者による自主的な報告やディスカッションを中心として授業を進めるので、 特に南アジア圏の文化や現状に関心のある受講者の参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
１．授業ガイダンス ２．インドの歴史１ ３．学生による報告・ディスカッション ４．インドの歴史２ ５．学生による報告・ディスカッション ６．インドの文化１ ７．学生による報告・ディスカッション ８．インドの文化２ ９．学生による報告・ディスカッション １０．インドの宗教１ １１．学生による報告・ディスカッション １２．インドの宗教２ １３．学生による報告・ディスカッション １４．南アジアと東アジアについて １５．今後の学習の展望について （なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73157B01
科目名	【院】アジア情報研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Situation Analysis in Asia B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	インドを中心とする南アジア圏の歴史・宗教・文化を 学びつつ、今後様々な形で世界経済に大きな影響を与えるであろうこの地域の将来を総合的に展望する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０%）、レポート（５０%）。		
到達目標	インドを中心とする南アジア圏の歴史と文化について学び、 現在の政治・経済の背景にある問題について理解する。		
準備学習	英語の新聞やインターネット上の英語のページなどを通じて、日本以外の国々の情報も得るようにこころがけること。　毎回授業終了時に次回の内容と次回までに予習・復習すべき点を指示する。		
受講者への要望			
履修登録の前に、担当者（山下）に必ず相談に来ること。 受講者による自主的な報告やディスカッションを中心として授業を進めるので、 特に南アジア圏の文化や現状に関心のある受講者の参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
１．授業ガイダンス ２．インドの政治１ ３．学生による報告・ディスカッション ４．インドの政治２ ５．学生による報告・ディスカッション ６．インドの経済１ ７．学生による報告・ディスカッション ８．インドの経済２ ９．学生による報告・ディスカッション １０．インドの企業１ １１．学生による報告・ディスカッション １２．インドの企業２ １３．学生による報告・ディスカッション １４．インドの将来について １５．今後の学習の展望について （なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73158A01
科目名	【院】経営史研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management History A		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	人間社会は変化して留まるところを知らないが、刻々と変化を遂げる表層の下に、容易に変化することのない基層を見いだすことが出来る。歴史学は、変化の様相を探索し、変化の動力を見い出し、変化の極点として現代を把え、変化の向こうの核に接近しようとする。経営史学は、技術や市場の変化のなかで、企業家がどのように事業機会を見出し、どのように組織・経営を革新したかを追求するもの、と言うことも出来よう。		
教材（テキスト）	受講者と相談の上で決める。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	総合的に評価する。		
到達目標	経営史の研究状況を把握し、長期的・歴史的観点からの分析手法を理解する。		
準備学習	輪読形式であるので、全員テキストの次回部分に目を通し、報告者はレジメを作成する。		

受講者への要望

経営史的研究を通じて、各自の研究にどう生かせるかを考えること。

講義の順序とポイント

Ⅰ
1.日本経営史の課題、
2.江戸時代の経済発展、
3.江戸時代の商家経営、
4.江戸期商家の経営システム、
5.商家の経営管理システム
Ⅱ
6.明治前・中期の日本経済、
7.近代的経営組織の形成、
8.近代的経営管理の形成、
9.明治国家と企業
Ⅱ
10.日露戦後から昭和初年に至る日本経済、
11.大企業時代の到来、
12.新興産業の勃興と産業開拓活動、
13.企業活動の国際化、
14.経営管理の進展、
15.現代的課題と展望
＊受講者の顔触れにより、講義の順序や重点を変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73158B01
科目名	【院】経営史研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management History B		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	人間社会は変化して留まるところを知らないが、刻々と変化を遂げる表層の下に、容易に変化することのない基層を見いだすことが出来る。歴史学は、変化の様相を探索し、変化の動力を見い出し、変化の極点として現代を把え、変化の向こうの核に接近しようとする。経営史学は、技術や市場の変化のなかで、企業家がどのように事業機会を見出し、どのように組織・経営を革新したかを追求するもの、と言うことも出来よう。		
教材（テキスト）	受講者と相談の上で決める。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	総合的に評価する。		
到達目標	経営史の研究状況を把握し、長期的・歴史的観点からの分析手法を理解する。		
準備学習	輪読形式であるので、全員テキストの次回部分に目を通し、報告者はレジュメを作成する。		
受講者への要望			
経営史的研究を通じて、各自の研究にどう生かせるかを考えること。			
講義の順序とポイント			
Ⅲ 1.日本経営史の課題、 2.戦前から戦後へ--経済政策の展開と経営環境の変化、 3.大企業体制の変遷、 4.労使関係の変化、 5.技術開発の推進、 6.経営管理の展開 Ⅳ 7.高度成長とその後の日本経済の変転、 8.成長を実現したメカニズム--中間組織の成長促進機能、 9.日本的経営と協調的労使関係、 10.資本家企業の急成長、 11.中小企業の役割と第三次産業の動向、 12.技術革新と技術開発、 13.多品種少量生産体制の構築、 14.日本的経営の光と影、 15.現代的課題と展望 ＊受講者の顔触れにより講義の順序や重点を変更することがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73161A01
科目名	【院】マーケティング論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Studies A on Marketing		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本講義では、マーケティング分野の先行研究で行われた実証方法を、追試（Replication Study）が行える水準まで精緻に学ぶ。具体的には、①『流通研究』や『消費者行動学研究』あるいは Journal of Marketing などといった査読付き論文を精読する。②①で読み取った方法とまったく同じ方法を使ってデータを収集し分析する。		
教材（テキスト）	適宜、指示する。		
教材（参考文献）	なし。		
教材（その他）	適宜、指示する。		
評価方法	演習内調査（50%）、演習内報告（50%）		
到達目標	マーケティング分野の先行研究の追試（Replication Study）ができる。		
準備学習	Word や EXCEL および SPSS の新しい使い方を、講義ごとに追加して教えていくので、その使い方を復習しておくこと。		
受講者への要望			
テキスト選定（第 2 回）までに修士論文の大まかなテーマを伝えられるようにしておくこと。また、復習のためにも、パソコンを多用するので、扱い方に慣れておくこと。			
講義の順序とポイント			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2.「レジュメの作り方」：報告書の作り方を解説する 3.「テキスト輪読 1」：担当者がレジュメで内容を報告する 4.「テキスト輪読 2」：担当者がレジュメで内容を報告する 5.「テキスト輪読 3」：担当者がレジュメで内容を報告する 6.「テキスト輪読 4」：担当者がレジュメで内容を報告する 7.「リサーチ 1」：全員がテキストと同じ方法でデータを収集する 8.「リサーチ 2」：全員がテキストと同じ方法でデータを収集する 9.「リサーチ 3」：全員がテキストと同じ方法でデータを収集する 10.「リサーチ 4」：全員がテキストと同じ方法でデータを収集する 11.「リサーチ結果の報告」：全員で収集したデータを確認する 12.「追試結果の報告 1」：レジュメで追試結果を報告する 13.「追試結果の報告 2」：レジュメで追試結果を報告する 14.「追試結果の報告 3」：レジュメで追試結果を報告する 15.「最終討議」：これまでの結果をもとに討議する			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73161B01
科目名	【院】マーケティング論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Studies B on Marketing		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本講義では、マーケティング分野の先行研究で行われた実証方法を、修士論文で扱える水準まで精緻に学ぶ。具体的には、①『流通研究』や『消費者行動学研究』あるいは Journal of Marketing などといった査読付き論文を精読する。②①で読み取った方法を使って、修士論文のテーマで扱う対象を分析する。		
教材（テキスト）	適宜、指示する。		
教材（参考文献）	なし。		
教材（その他）	適宜、指示する。		
評価方法	演習内調査（50%）、演習内報告（50%）		
到達目標	マーケティング分野の先行研究の実証方法を他分野に応用できる。		
準備学習	Word や EXCEL および SPSS の新しい使い方を、講義ごとに追加して教えていくので、その使い方を復習しておくこと。		

受講者への要望

テキスト選定（第 2 回）までに修士論文のテーマを伝えられるようにしておくこと。また、復習のためにも、パソコンを多用するので、扱い方に慣れておくこと。

講義の順序とポイント

1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2.「レジュメの作り方」：報告書の作り方を解説する
3.「テキスト輪読 1」：担当者がレジュメで内容を報告する
4.「テキスト輪読 2」：担当者がレジュメで内容を報告する
5.「テキスト輪読 3」：担当者がレジュメで内容を報告する
6.「テキスト輪読 4」：担当者がレジュメで内容を報告する
7.「リサーチ 1」：全員がテキストと同じ方法でデータを収集する
8.「リサーチ 2」：全員がテキストの方法を応用してデータを収集する
9.「リサーチ 3」：全員がテキストの方法を応用してデータを収集する
10.「リサーチ 4」：全員がテキストの方法を応用してデータを収集する
11.「リサーチ結果の報告」：全員で収集したデータを確認する
12.「分析結果の報告 1」：自分で応用した結果をレジュメで報告する
13.「分析結果の報告 2」：自分で応用した結果をレジュメで報告する
14.「分析結果の報告 3」：自分で応用した結果をレジュメで報告する
15.「最終討議」：これまでの結果をもとに討議する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73164A01
科目名	【院】経営組織論研究 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Organization Theory A		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	現代社会においては、企業をはじめとして、組織というものがさまざまな形で存在しており、社会にとって不可欠な存在となっているが、われわれが生活を営んでいく上でもこれらの組織との関係を避けて通ることはできないものとなっている。したがって、われわれにとっても組織というものを理解することが非常に重要となるのである。このような組織はなんらかの目的を達成するために形成されるものであるため、組織の立場からするとその目的を合理的・効率的に達成する必要がある。しかし組織の立場を重視するあまり、その構成員である個人の人間性を無視して活動すれば、その組織の存続が危うくなるのは明白である。また組織は、その組織を取り巻く社会を考慮することなく活動する場合にも同様に社会的に存続することができなくなる。このように、経営組織論においては、効率性、人間性および社会性というものが非常に重要になってくる。したがって、本講義では、このような観点のもと、「個人とはなにか」、「組織とは何か」、「個人と組織との関係はどのようなものか」および「組織と組織との関係とはどのようなものか」などといった根本的な問題について経営組織論の中でどのように検討されているのかを理解することが目的である。		
教材（テキスト）	稲村毅・百田義治『経営組織の論理と変革』ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	原則として、平常点（講義の中での議論、コメントの内容および理解度などから総合的に判断）40%、毎回の報告内容 30%、レポート 30%の割合で評価する。		
到達目標	経営組織論の基本問題である「個人」、「組織」、「個人と組織との関係」および「組織と組織との関係」について経営組織論の中でどのように検討されているのかを理解する。		
準備学習	講義は経営組織論に関するテキストを輪読し、主として学生による報告、質疑および議論によって行う。したがって、受講者全員がテキストの該当部分を予習し、報告担当者はその該当部分のレジュメを作成することが必要となる。		

受講者への要望

学部時代に経営学の基本的な部分を学習し、経営組織論や経営管理論の単位を修得している方を望む。講義への積極的な参加を期待する。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス：講義の目的と視点
2. 組織の概念
3. 経営組織と効率性①
4. 経営組織と効率性②
5. 経営組織と効率性③
6. 経営組織と人間性①
7. 経営組織と人間性②
8. 経営組織と人間性③
9. 経営組織と社会性①
10. 経営組織と社会性②
11. 経営組織と社会性③
12. 現代経営組織の基本問題①
13. 現代経営組織の基本問題②
14. 現代経営組織の基本問題③
15. 経営組織論研究 A を通して学んだことの総括

※　学生の興味や理解度に応じて、講義の順序や重点を変更することがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73164B01
科目名	【院】経営組織論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Organization Theory B		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	現代社会においては、企業をはじめとして、組織というものがさまざまな形で存在しており、社会にとって不可欠な存在となっているが、われわれが生活を営んでいく上でもこれらの組織との関係を避けて通ることはできないものとなっている。したがって、われわれにとっても組織というものを理解することが非常に重要となるのである。このような組織はなんらかの目的を達成するために形成されるものであるため、組織の立場からするとその目的を合理的・効率的に達成する必要がある。しかし組織の立場を重視するあまり、その構成員である個人の人間性を無視して活動すれば、その組織の存続が危うくなるのは明白である。また組織は、その組織を取り巻く社会を考慮することなく活動する場合にも同様に社会的に存続することができなくなる。このように、経営組織論においては、効率性、人間性および社会性というものが非常に重要になってくる。したがって、本講義では、このような観点のもと、「個人とはなにか」、「組織とは何か」、「個人と組織との関係はどのようなものか」および「組織と組織との関係とはどのようなものか」などといった根本的な問題について、経営組織論研究が盛んに行われているアメリカとドイツの諸学説を検討することによって理解を深めることが目的である。		
教材（テキスト）	第１回目の講義でテキストを指示する。		
教材（参考文献）	水原潔『西ドイツ経営組織論（改訂増補版）』森山書店 エーリッヒ・フレーゼ著、清水敏允監訳『組織デザインの原理』文眞堂		
教材（その他）	適宜指示する。		
評価方法	原則として、平常点（講義の中での議論、コメントの内容および理解度などから総合的に判断）40%、毎回の報告内容 30%、レポート 30%の割合で評価する。		
到達目標	経営組織論の基本問題である「個人」、「組織」、「個人と組織との関係」および「組織と組織との関係」について経営組織論の中でどのように検討されているのかを理解する。		
準備学習	講義は経営組織論に関するテキストを輪読し、主として学生による報告、質疑および議論によって行う。したがって、受講者全員がテキストの該当部分を予習し、報告担当者はその該当部分のレジュメを作成することが必要となる。		

受講者への要望

学部時代に経営学の基本的な部分を学習し、経営組織論や経営管理論の単位を修得している方を望む。講義への積極的な参加を期待する。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス：講義の目的と視点
2. アメリカにおける古典的経営組織論①
3. アメリカにおける古典的経営組織論②
4. アメリカにおける伝統的経営組織論①
5. アメリカにおける伝統的経営組織論②
6. アメリカにおける近代的経営組織論①
7. アメリカにおける近代的経営組織論②
8. ドイツにおける古典的経営組織論①
9. ドイツにおける古典的経営組織論②
10. ドイツにおける伝統的経営組織論①
11. ドイツにおける伝統的経営組織論②
12. ドイツにおける経営経済学的組織論①
13. ドイツにおける経営経済学的組織論②
14. その他の組織論の動向
15. 組織論研究Ｂを通して学んだことの総括

※　学生の興味や理解度に応じて、講義の順序や重点を変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73165A01
科目名	【院】経営戦略論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	代表的な経営戦略策定手法を紹介し、それをケーススタディで実際に活用することで、修得する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配付します		
評価方法	授業への参加度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	経営戦略策定の手法を修得する。		
準備学習	毎回課題を与え、それについての発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。		
受講者への要望			
授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション 2. 財務分析 3. 〃 ケーススタディ 4. SWOT 分析 5. 〃 ケーススタディ 6. PPM 7. 〃 ケーススタディ 8. 競争戦略 9. 〃 ケーススタディ 10. 成長戦略 11. 〃 ケーススタディ 12. BPR 13. 〃 ケーススタディ 14. 戦略マップ 15. 〃 ケーススタディ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J73165B01
科目名	【院】経営戦略論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	企業の経営戦略についてのケーススタディを行う。 個人ごとに日本の企業の中から１社を選んで、文献、雑誌記事、新聞記事、企業のホームページなどを基に、その企業の経営戦略について調査・分析・考察を行う。それをパワーポイントを使って発表し、全体で討議を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配付します		
評価方法	授業への参加度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	企業分析の方法を修得する。 自分が研究対象として選んだ企業の経営戦略についてプレゼンテーションできる。		
準備学習	各自の研究成果の発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。		
受講者への要望			
授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. 研究対象企業の選択 2. 関連文献、資料の調査① 3. 関連文献、資料の調査② 4. 研究概要の発表、討議① 5. 研究概要の発表、討議② 6. 分析、発表資料作成① 7. 分析、発表資料作成② 8. 中間発表、討議① 9. 中間発表、討議① 10. 追加調査・分析、発表資料作成① 11. 追加調査・分析、発表資料作成② 12. 発表、討議① 13. 発表、討議② 14. 発表、討議③ 15. 発表、討議④			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73166A01
科目名	【院】経営戦略論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略に関する文献を何冊か読みながら、修士論文のテーマ探しを行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配付します		
評価方法	授業への参加度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	修士論文のテーマ選定に向けての準備。		
準備学習	毎回課題を与え、それについての発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。		
受講者への要望			
授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 2～14．文献、資料の調査と発表（テーマ等適宜指導） 15．まとめと秋学期への準備			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J73166B01
科目名	【院】経営戦略論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	春学期の成果に基づき、修士論文のテーマを仮決定し、それに関する文献や資料の調査を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配付します		
評価方法	授業への参加度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	修士論文のテーマを決定。		
準備学習	毎回課題を与え、それについての発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。		
受講者への要望			
授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1．修士論文テーマ仮決定 2～14．テーマに関連する文献、資料の調査と発表（テーマは必要に応じて適宜見直し） 15．修士論文テーマ決定			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74001A01
科目名	【院】労働法 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Labor Law A		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	【院】労働法 I
講義概要	本講義では、労働法上の重要なテーマを取り上げ検討していく。労働法の領域のうち個別的労働関係法を中心に、労働契約の成立から終了に至るまでの過程で生じる様々な問題、就業規則の不利益変更、わが国の解雇法制、時間外労働に対する規制、配転・出向、および、セクシュアル・ハラスメントなどの問題につき、判例や論文等を素材に受講者全員で考察していく。 各テーマを受講生に割り当てたうえ発表・報告してもらう。報告者以外の受講生にもそのテーマについての予習を前提に授業を進めていく。特に報告者は相当の時間と労力を注ぎ込む覚悟が必要である。熱意のある受講生を希望する。		
教材（テキスト）	教科書（テキスト）は特に指定しない。		
教材（参考文献）	参考文献等については開講時に説明する。		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 10 版〕』（弘文堂、2012 年）5300 円＋税		
評価方法	出席を前提に、授業時の報告およびレポート（70％）と期末の面接試験（30％）とで行なう予定である。		
到達目標	労働法上の重要テーマを通じて、労働法の基礎知識をはじめ、労働法の考え方や労働法の判例の読解力を身につけること。		
準備学習	授業で取り上げる各テーマについて、菅野和夫『労働法〔第１０版〕』（有斐閣、201２年）　5300 円＋税を事前に必ず読んでおくこと。		
受講者への要望			
授業で取り上げた各テーマについて法的な問題点を探し、それに関して自分で調べ、考えて授業に臨むこと。報告の際は相当時間をかけて取り組む姿勢を求める。			
講義の順序とポイント			
第１回　講義の進め方・その他諸注意　－－最近の労働法上の問題点について 第２回　労働条件の不利益変更　その１ 第３回　労働条件の不利益変更　その２ 第４回　労働条件の不利益変更　その３ 第５回　解雇制約法理について　その１ 第６回　解雇制約法理について　その２ 第７回　解雇制約法理について　その３ 第８回　時間外労働の問題について　その１ 第９回　時間外労働の問題について　その２ 第 10 回　配転・出向問題について　その１ 第 11 回　配転・出向問題について　その２ 第 12 回　配転・出向問題について　その３ 第 13 回　セクシュアル・ハラスメント問題について　その１ 第 14 回　セクシュアル・ハラスメント問題について　その２ 第 15 回　パワー・ハラスメント問題について			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74001B01
科目名	【院】労働法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Labor Law B		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	【院】労働法Ⅱ
講義概要	本講義では、労働法上の重要なテーマを取り上げ検討していく。労働法の領域のうち個別的労働関係法および集団的労働関係法を中心に、テーマについては受講生とも相談しながら決めていく。基本的には労働法Ａを受講・履修していることが望ましい。 重要な裁判例や論文等を素材に、各テーマにつき受講生に割り当て、発表・報告したうえで、受講者全員で考察していく。報告者以外の受講生にもそのテーマにつき十分な予習を要求する。学問に対して熱意ある受講生を希望する。		
教材（テキスト）	教科書（テキスト） は特に指定しない。		
教材（参考文献）	参考文献等については開講時に説明する。		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 10 版〕』（弘文堂、2012 年）5300 円＋税		
評価方法	出席を前提に、 授業時における積極的な姿勢・発言内容等を重視したうえで（60%）、報告内容や期末のレポート（40%）をもとに行なう予定である。		
到達目標	労働法上の重要テーマを通じて、各争点における学説や裁判例における見解を法理論的に分析したうえで、当該争点につき各自の意見を明確に提示できるようにすること。		
準備学習	授業で取り上げる各テーマについて、菅野和夫『労働法〔第１０版〕』（有斐閣、201２年） 5300 円＋税を事前に必ず読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回取り上げた各テーマについて積極的に調べ、考察し、そのうえで授業に臨むこと。報告の際は相当時間をかけて取り組むことを求める。			
講義の順序とポイント			
本講義で取り扱うテーマについては、受講生とも相談しながら決定するので、講義の順序に沿った形では記載できないが、参考までに取り扱う可能性のあるテーマを下記に掲げておく（各テーマにつき授業回数としては３回程度である）。 第１回　労働条件の個別化に伴う問題について その１ 第２回　労働条件の個別化に伴う問題について その２ 第３回　労働条件の個別化に伴う問題について　その３ 第４回　雇用形態の多様化に伴う新たな問題について　その１ 第５回　雇用形態の多様化に伴う新たな問題について　その２ 第６回　雇用形態の多様化に伴う新たな問題について　その３ 第７回　労働法の規制緩和について　その１ 第８回　労働法の規制緩和について　その２ 第９回　雇用の平等に関連する問題について　その１ 第 10 回　雇用の平等に関連する問題について　その２ 第 11 回　雇用の平等に関連する問題について　その３ 第 12 回　職場におけるプライバシー問題について　その１ 第 13 回　職場におけるプライバシー問題について　その２ 第 14 回　労働組合法制の再検討について　その１ 第 15 回　労働組合法制の再検討について　その２			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74029A01
科目名	【院】行政法演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law Seminar A		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	行政法総論のうち、基礎理論、行政組織、行政作用の部分を判例を素材に学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（100%）出席状況等による。		
到達目標	行政法の基礎知識をもとに、判例を素材により学習することにより理論・学説の実際の具体化状況を学ぶ。		
準備学習	次週のテーマについて、教科書の該当頁、法令、判例の予習をすること。		

受講者への要望

行政法の講義科目を履修すること。

講義の順序とポイント

1　公法と私法
2　法律による行政の原理
3　行政主体と行政庁
4　権限の委任と代理
5　行政立法
6　行政裁量
7　行政行為の瑕疵
8　行政契約
9　行政指導
１０　行政計画
１１　行政上の義務履行確保
１２　行政罰
１３　行政手続
１４　情報公開
１５　個人情報保護

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J74029B01
科目名	【院】行政法演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law Seminar B		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	行政法総論のうち、行政救済法の部分を判例を素材に学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（100%）出席状況等による。		
到達目標	行政法の基礎知識をもとに、判例を素材により学習することにより、理論・学説の具体化の状況を学ぶ。		
準備学習	次週のテーマについて、教科書の該当頁、法令、判例の予習をすること。		

受講者への要望

行政法の講義科目を履修すること。

講義の順序とポイント

1　損失補償
2　国家賠償１条
3　国家賠償２条
4　賠償と補償の谷間
5　行政上の不服申し立て
6　行政事件訴訟法
7　取消訴訟の対象
8　取消訴訟の原告適格
9　訴えの利益
１０　取消訴訟の審理
１１　執行停止制度
１２　取消訴訟以外の抗告訴訟
１３　当事者訴訟・争点訴訟
１４　機関訴訟
１５　民衆訴訟

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J74047001
科目名	【院】企業取引法	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporate Dealings Law		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	企業取引の総則に該当する商法総則について、個別判例などを素材にして、双方向的授業として検討を行う。受講者には重要テーマについて報告してもらい、それへの質問・討論という形で進めていく。受講者は基本書を十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。		
教材（テキスト）	1. 森本滋編『商法総則講義〔第 3 版〕』（成文堂、2007 年） 2. 江頭憲治郎=山下友信編『商法（総則・商行為）判例百選〔第 5 版〕』（有斐閣、2008 年）		
教材（参考文献）	個別具体的な文献は、講義時にその都度紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	報告内容・議論への参加度合 による平常点（60%）。学期末レポート（40%）。		
到達目標	商法総則の規定と基本的な判例法理について理解でき、それを説明できる。また、応用的な問題に遭遇した場合に、自力で調査して妥当な解を発見できる。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
民法を履修済みか並行して履修していること。			
講義の順序とポイント			
1. 商法と民事一般法の規制区分 2. 商法総則と会社法総則 3. 絶対的商行為 4. 営業的商行為 5. 営業概念 6. 営業譲渡 7. 商業登記 8. 商号・商号登記 9. 商号権 10. 支配人・商業使用人 11. 支配人の代理権 12. 代理商 13. 外観主義」 14. 名板貸法理 15. 商業登記と外観主義			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74061001
科目名	【院】租税法総論	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Introduction		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	租税法理論の基本的部分に当たる、租税の意義、租税法の基本原則、解釈と適用、課税要件(総論及び基礎的な各論)に関する事項を中心に研究を行う。そこで、実定法である租税法がいかなる原理に基づいて構築され、その解釈はどうあるべきかを考えるための、ベースとなる知識や考え方を整理し深めてゆく。 授業は、基礎的な事項についての講義を行った後、重要判例について演習形式で行い、受講生からの報告に基づき、議論･検討をする中で、問題点を明らかにし理解を深める。 なお、演習の事例は予定であり、変更の場合がある。		
教材（テキスト）	金子宏『租税法(第 20 版)』(弘文堂)		
教材（参考文献）	別冊ジュリスト『租税判例百選(第 5 版)』 その他は講義中に指示する。		
教材（その他）	講義内容に沿ったレジュメを毎回配布する予定		
評価方法	報告内容 30%、レポート 30%及び平常点 40%(授業への積極的な参加の程度等による) 具体的な評価基準は、初回の講義時に説明する。		
到達目標	1　租税法の基本原則と憲法との関係を理解し、問題点を把握する。 2　租税法の具体的な適用に当たっての問題点を理解し、その解釈はどうあるべきかを理論的に追求できることを目標とする。		
準備学習	租税実体法(法人税、所得税等)の基礎的な理解を深めておくこと。		

受講者への要望

憲法、民法、会社法、行政法の履修が望ましい。
税法が記載された六法、法規集を持参する。またはｗｅｂ上から税法条文をダウンロードして持参してもよい。

講義の順序とポイント

1. 租税と租税法　税制の概要
2. 租税法の基本原則　租税法律主義と租税公平主義 1
3. 租税法の基本原則　租税法律主義と租税公平主義 2
4. 事例演習　大島訴訟 最高裁昭 60.3.27
5. 事例演習　旭川市国民健康保険条例事件 最高裁平 18.3.1 他
6. 租税法の法源と効力　租税法の法源と効力
7. 租税法の解釈と適用　租税法と私法
8. 租税法の解釈と適用　租税回避
9. 事例演習　錯誤による財産分与契約事件　最高裁平元.9.14 他
10. 事例演習　相互売買事件　東京高裁平 11.6.21
11. 課税要件総論　課税要件、要件事実論
12. 課税要件各論　個人所得課税の基礎(所得税の仕組みと概要)
13. 課税要件各論　法人所得課税の基礎(法人税の仕組みと概要)
14. 課税要件各論　消費税及び国際課税の基礎
15. タックス・プランニングの基礎

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74062001
科目名	【院】所得税法	単位数	2
科目名（英語表記）	Income Tax Law		
担当者名	橋本　清治	旧科目名称	
講義概要	受講者に各テーマを分担していただき、各回、報告していただきます。 その後、全員でその報告に係る問題点について検討を加えます。 本講義は、教科書の「所得税」の部分を学習し、その事項の判例等の検討を 行います。また、税務事例や税理士実務について触れていく予定です。		
教材（テキスト）	金子宏『租税法（最新版)』弘文堂		
教材（参考文献）	『租税判例百選』有斐閣、『租税判例六法』有斐閣 酒井克彦『所得税法の論点研究』財経詳報社 酒井克彦『ブラッシュアップ租税法』財経詳報社 谷口勢津夫『税法基本講義』弘文堂 佐藤英明『スタンダード所得税法』弘文堂 佐藤英明編『租税法演習ノート２１問』弘文堂		
教材（その他）			
評価方法	報告内容、毎回の議論への参加度合（50%)、レポート（レジュメ）(50%)		
到達目標	所得税法の基本を理解する。 所得税に係る判例を検討できる。		
準備学習	木山泰『弁護士が教える分かりやすい「所得税法」の授業』(光文社）を 講義開始時までに読んでできてください。		
受講者への要望			
税務六法等の法規集持参またはＷｅｂによる法令利用			
講義の順序とポイント			
１．　所得税・所得の意義 ２．所得税の類型・課税単位 ３．納税義務者・課税標準と税額算出 ４．各種所得の意義と範囲（利子・配当・不動産） ５．各種所得の意義と範囲（事業・給与） ６．各種所得の意義と範囲（退職・山林・雑） ７．各種所得の意義と範囲（譲渡・一時） ８．収入金額 ９．収入金額 １０．必要経費 １１．必要経費 １２．税額計算等 １３．事例研究 １４．事例研究 １５．事例研究			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74063001
科目名	【院】法人税法	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Tax Law		
担当者名	橋本　清治	旧科目名称	
講義概要	受講者に各テーマを分担していただき、各回、報告していただきます。 その後、全員でその報告に係る問題点について検討を加えます。 本講義は、教科書の「法人税」の部分を学習し、その事項の判例等の検討を 行います。また、税務事例や税理士実務について触れていく予定です。		
教材（テキスト）	金子　宏『租税法』		
教材（参考文献）	租税判例百選（有斐閣)、租税判例六法（有斐閣） 酒井克彦『裁判例からみる法人税法』大蔵財務協会 酒井克彦『ブラシュアップ租税法』財経詳報社 谷口勢津夫『税法基本講座』弘文堂		
教材（その他）			
評価方法	報告内容、毎回の議論への参加度合い（５０％)、レポート（レジュメ）（５０％）		
到達目標	法人税法の基本を理解する。 法人税に係る判例を検討できる。		
準備学習	税大講本（法人税）を開講時までに目をとをしておく。		
受講者への要望			
税務六法等の法規集を持参またはＷｅｂによる法令利用			
講義の順序とポイント			
１．法人税の意義・性質等 ２．納税義務者と課税所得の範囲 ３．法人所得計算の総説（法人税法２２条） ４．益金の額の計算 ５．益金の額の計算 ６．益金の額の計算 ７．損金の額の計算 ８．損金の額の計算 ９．損金の額の計算 １０．法人税額の計算 １１．同族会社と所得課税 １２．租税回避行為 １３．事例研究 １４．事例研究 １５．事例研究			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74068A01
科目名	【院】租税法演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Seminar A		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	受講者が、租税法の基本原理を理解し、主要税目の基本的仕組みや理論を習得できるよう、講義及び受講者による報告を行う。 修士論文の作成に向けて、テーマの選択及び問題点探究のための個別指導を行う。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点で評価する。		
到達目標	租税法の基本原理、主要税目の仕組みや理論、及びそれらの問題点について、理解することを目標とする。 研究テーマの選択、及びテーマに合わせた知識の蓄積と問題点の把握を目標とする。		
準備学習	各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。		

受講者への要望

税法の理解のために必須となる、簿記・会計学の基礎的知識を習得すること。
数多くの論文を読むこと。

講義の順序とポイント

1 ガイダンス 税法の学び方について 個人面談
2 研究計画について 今後の研究計画に関しての「研究・指導スケジュール」の説明、研究計画書の作成について
3 判例研究の方法等 論文の読み方、判例研究の方法、基本書・参考文献等について
4、5 基本文献講読 講義形式による基本文献の講読
6 修士論文テーマ報告会 院生(２回生)による修士論文のテーマ報告とそれに対する質疑応答を行う。
7～13 基本文献講読 基本書(未定)を指定し、その章ごとに、院生の報告とそれに対する議論を行う。
14,15 判例研究 基本的な判例を指定し、院生による判例研究の報告と、それに対する議論を行う。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74068B01
科目名	【院】租税法演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Seminar B		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成に向けて、テーマの選択及び問題点探究のための個別指導を行う。 併せて、税目横断的な事例研究、タックス・プランニング事例の検討等により、実務における税務問題に対しても理論的に解明し対応できる能力を養う。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点で評価する。		
到達目標	各院生の選択するテーマに合わせた、知識の蓄積と問題点の把握を目標とする。 実務上の税務問題に対する理論的な解明のための能力の涵養を図る。		
準備学習	各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。		
受講者への要望			
数多くの論文を読むこと。			
講義の順序とポイント			
1　研究計画について 研究計画について、その方向性と今後の研究方法に関して(個人面談等) ２～５　基本文献講読 基本書(未定)を指定し、その章ごとに、院生の報告とそれに対する議論を行う。 6　修士論文中間報告会 院生(２回生)による修士論文の中間報告とそれに対する質疑応答を行う。 7～13　研究報告(判例研究等) 各院生が、自分の研究テーマ(又は興味のある分野)に関する判例研究等の報告を行い、それを基にして議論を行う。 14,15　事例研究 実務的な事例(実務で発生しやすい、税目横断的な税務問題)を設定し、その問題に対する対応方法や解決策を検討する(院生による報告と議論による。)。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J74068C01
科目名	【院】租税法演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Seminar C		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	各院生の選択するテーマに合わせ、修士論文の完成に向けて、個別指導を行う。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点で評価する。		
到達目標	各院生の選択するテーマに合わせた、問題点の理論的な解明を目標とする。		
準備学習	各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。		
受講者への要望			
自らのテーマにとらわれず、税法、税実務に対する幅広い興味を持ち続けること。			
講義の順序とポイント			
1　研究計画について　「研究計画の概要」に基づいて、今後の研究方法に関しての検討(個人面談等) ２～５　研究報告 各院生が、自分の研究テーマに即して、研究の進捗度合に応じて研究報告(論文の各論等)を行い、それを基にして議論を行う。 6　修士論文テーマ報告会 修士論文のテーマ報告とそれに対する質疑応答を行う。 7～15　研究報告 各院生が、自分の研究テーマに即して、研究の進捗度合に応じて研究報告(論文の各論等)を行い、それを基にして議論を行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74068D01
科目名	【院】租税法演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Seminar D		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	各院生の選択するテーマに合わせ、修士論文の完成に向けて、個別指導を行う。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点で評価する。		
到達目標	各院生の選択するテーマに合わせた、問題点の理論的な解明を目標とする。		
準備学習	各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。		
受講者への要望			
自らのテーマにとらわれず、税法、税実務に対する幅広い興味を持ち続けること。			
講義の順序とポイント			
1　研究計画について 今後の研究方法に関しての検討(個人面談等) ２～５　研究報告 各院生が、自分の研究テーマに即して、研究の進捗度合に応じて研究報告(論文の各論等)を行い、それを基にして議論を行う。 6　修士論文中間報告会 修士論文の中間報告とそれに対する質疑応答を行う。 7～15　研究報告 各院生が、修士論文に沿った研究報告を行い、それを基にして議論を行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74074A01
科目名	【院】国際関係論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Relations A		
担当者名	松田　哲	旧科目名称	
講義概要	本講義では、国際関係論の最重要基本文献の１つであるヘドリー・ブルの著作『国際社会論　（原題は、The Anarchical Society: A Study of Order in World Politics)』を読む。この著作においてブルは、世界政治における秩序の性質、現代国際社会における秩序の維持のされ方、主権国家システム変容期における新たな秩序の模索、という３つの問題について論考を加えている。いずれも、グローバル化の進む今日の国際社会においてこそ、真剣に考えられなければならない重要な論点ばかりだといえる。 そこで本講義では、この著作を精読することを通じて、21 世紀国際社会のあり方について考える際の出発点を確認することとしたい。講義では、報告担当者の報告をもとにして参加者全員で討論を行い、内容についての理解を深める。その際に報告者には、レジメの作成と３０分程度の報告が求められる。報告者以外には、該当部分を熟読し、講義で質問・議論ができる程度に理解してくることが求められる。報告の分担等については、初回の講義で決定する。なお、講義終了時に、５０００字程度のレポートを提出していただく。		
教材（テキスト）	ヘドリー・ブル『国際社会論　アナーキカル・ソサイエティ』臼杵英一訳（岩波書店、２０００年）		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	報告（５０％）、討論への参加（２０％）、レポート提出（３０％）。		
到達目標	１）テキストの内容を十分に理解したうえで、ブルの主張を説明できるようになること。 ２）テキストの内容をもとに、21 世紀における国際社会のあるべき姿について、自己の見解を説得的に提示できるようになること。		
準備学習	テキストを熟読しておくこと。		
受講者への要望			
学部時代に、国際政治学（国際関係論）の講義を受けてきた者が望ましい。国際政治を深く理解したいという学生の受講を歓迎する。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス（講義の進め方に関する相談など） ２．世界政治秩序の概念 ３．世界政治秩序は存在するか ４．世界政治秩序はどのようにして維持されているのか ５．世界政治「秩序」対「正義」 ６．勢力均衡と国際秩序 ７．国際法と国際秩序 ８．外交と国際秩序 ９．戦争と国際秩序 １０．大国と国際秩序 １１．現代主権国家システムにかわる選択肢 １２．主権国家システムの衰退？ １３．主権国家システムは時代錯誤か？ １４．主権国家システムの改革？ １５．結論－総括と展望－			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74074B01
科目名	【院】国際関係論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Relations B		
担当者名	松田　哲	旧科目名称	
講義概要	本講義では、アマルティア・センの著作『自由と経済開発（原題は Development as Freedom)』を読む。この著作は、開発経済学分野におけるセンの論考の集大成とでもいえるものであり、その根底を貫いているのは、「善き生とは何か」という極めて倫理的な問題意識である。この著作から数章を選んで精読することとするが、講義に参加する諸君には、その作業を通じてを通じて社会の在り方を根底から考え直すきっかけを手に入れていただきたい。 講義では、報告担当者の報告をもとにして参加者全員で討論を行い、内容についての理解を深める。その際に報告者には、レジメの作成と３０分程度の報告が求められる。報告者以外には、該当部分を熟読し、講義で質問・議論ができる程度に理解してくることが求められる。報告の分担等については、初回の講義で決定する。なお、講義終了時に、５０００字程度のレポートを提出していただく。		
教材（テキスト）	アマルティア・セン『自由と経済開発』石塚雅彦訳（日本経済新聞社、２０００年）		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	報告（５０％）、討論への参加（２０％）、レポート提出（３０％）。		
到達目標	１）アマルティア・センの思想を十分に理解し、説明できるようになること。 ２）テキストの内容をもとに、「善き生とは何か」という質問に対して自説を交えながら一定の見解を述べることができるようになること。		
準備学習	テキストを熟読しておくこと。		
受講者への要望			
アマルティア・センの思想に関心があり、それについて深く学びたいという学生の受講を希望する。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス ２．自由としての開発（序章） ３．自由についての見解（第１章） ４．開発の目的と手段（第２章） ５．自由と正義の基礎（第３章） ６．潜在能力の欠如としての貧困（第４章） ７．市場、国家、社会的機会（第５章） ８．民主主義の重要性（第６章） ９．飢饉、その他の危機（第７章） １０．女性の能動的な力と社会変化（第８章） １１．人口、食料、自由（第９章） １２．文化と人権（第１０章） １３．社会的選択と個人の行動（第１１章） １４．社会的目標としての個人の自由（第１２章） １５．総括と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J74075001
科目名	【院】有価証券法	単位数	2
科目名（英語表記）	Negotiable Instruments Law		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	手形法について、個別判例などを素材にして、双方向的授業として検討を行う。受講者には重要テーマについて報告してもらい、それへの質問・討論という形で進めていく。受講者は基本書を十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。また、手形法は、企業の道具として考案されたという経緯から、強度の論理一貫性に彩られた極めて技術的な法制度であり、理解のポイントは、「民法の原則をいかに修正（あるいは維持）するか」という点にある。このため民法（とくに総則）についても十分復習しておいてもらいたい。		
教材（テキスト）	『別冊ジュリスト 222 号・手形小切手判例百選[第 7 版]』（有斐閣・2014 年）。		
教材（参考文献）	個別具体的な文献は、講義時にその都度紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	報告内容 ・議論への参加度合による平常点（60%）。学期末レポート（40%）。		
到達目標	手形法について、その基本理論をもとに、理論がどのように判例に現われているかを理解し、実際問題を処理できる能力を身につける。		
準備学習	民法（とくに総則）については十分復習しておくこと。		
受講者への要望			
どんな些細な点でも、間違いを恐れず発言しようとする能動的な姿勢が大事である。			
講義の順序とポイント			
１．手形行為の方式と解釈 ２．手形行為の成否 ３．手形行為の代理 ４．手形の偽造と変造 ５．手形の善意取得 ６．人的抗弁の制限 ７．手形の振出し ８．手形の裏書 ９．手形保証 １０．手形の支払・遡求 １１．手形交換 １２．手形の時効 １３．除権判決 １４．利得償還請求権 １５．手形割引			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74076A01
科目名	【院】英語文献研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	English Document Research A		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、下記の英語で書かれた国際法の標準的な教科書の第１章「国際社会の主要な法的特徴」(3-21頁）を講読し、法律英語を学びながら、国際社会や国際法の基本的性質を理解する。テキストの著者であるA.Cassese 教授は世界を代表する国際法学者の１人であり、旧ユーゴスラヴィア国際刑事裁判所所長なども務めた。 受講生は担当部分の訳文を作成し、それをチェックしながら内容を理解し検討する。なお、受講生の要望によって、テキストの他の章を読むことも可能である。		
教材（テキスト）	Antonio Cassese, International Law, 2nd ed. (Oxford University Press, 2005) ．初回の講義で、該当章のコピーを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（７０％)、翻訳のレポート（３０％）		
到達目標	１．国際社会や国際法の独自の基本的性質を理解する。 ２．法律英語になじみ、基本的な専門用語を理解する。 ３．翻訳を通じて、法学分野における日本語能力を向上させる。		
準備学習	１．講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、教科書を事前に必ず講読してくること。 ２．割り当てられた翻訳の担当範囲は事前に必ず訳してくること。		
受講者への要望			
１．途中で投げ出さずに、忍耐強く取り組むこと。 ２．無断欠席はしないこと。			
講義の順序とポイント			
１．履修ガイダンス ２．「1.1 はじめに」、「1.2 国際法主体の性質」 ３．「1.2 国際法主体の性質」 ４．「1.3 中央当局の欠如および法的『機能』の分権化」 ５．「1.3 中央当局の欠如および法的『機能』の分権化」 ６．「1.4 集団的責任」 ７．「1.4 集団的責任」 ８．「1.5 多くの国際法規則が国内法に移される必要性」 ９．「1.6 国家の行動の自由の範囲」 １０．「1.6 国家の行動の自由の範囲」 １１．「1.6 国家の行動の自由の範囲」 １２．「1.7 実効性の最も重要な役割」 １３．「1.8 伝統的な個別的傾向と共同体的な権利義務の生成」 １４．「1.8 伝統的な個別的傾向と共同体的な権利義務の生成」 １５．「1.8 伝統的な個別的傾向と共同体的な権利義務の生成」			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J74076B01
科目名	【院】英語文献研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	English Document Research B		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、自由権規約委員会(*)が日本政府の第６回定期報告書を審査し、２０１４年７月に採択した総括所見（Concluding Observations）を講読することを通じて、国際人権法に照らした日本の人権問題について検討を行う。具体的には、男女平等、死刑廃止等の刑事法関連問題、在日コリアンやアイヌなどの少数者の権利などを扱う。 本講義では、国際法だけでなく、憲法、刑事法、家族法、労働法、社会保障法などの専門用語についても英語で学ぶことができるはずである。 ＊国際人権規約の自由権規約に基づいて設置された条約機関で、締約国による規約の履行を監視する。		
教材（テキスト）	国際人権規約の自由権規約委員会が日本政府による第６回国家報告書を審査して 2014 年に採択した総括所見（Concluding Observations, UN Doc., CCPR/C/JPN/CO/6, 23 July 2014）。初回の講義でテキストのコピーを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	最新版の六法および英和辞書を持参すること。		
評価方法	平常点（７０点）および翻訳のレポート（３０点）		
到達目標	１．法律英語になじみ、基本的な専門用語を理解する。 ２．国際人権保障の意義や仕組みを理解する。 ３．国際人権法から見て、日本にはどのような人権問題が存在するのか把握し、国際基準に照らして考える。		
準備学習	１．講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、テキストを事前に必ず熟読してくること。 ２．割り当てられた翻訳の担当範囲は事前に必ず和訳してくること。		
受講者への要望			
１．途中で投げ出さずに、忍耐強く取り組むこと。 ２．無断欠席はしないこと。			
講義の順序とポイント			
１．履修ガイダンス ２．国際人権保障についての講義 ３．「序論」、「肯定的側面」（男女共同参画社会第３次基本計画の策定など） ４．「主要な懸念事項および勧告」（人権条約の国内実施など） ５．「主要な懸念事項および勧告」（男女差別） ６．「主要な懸念事項および勧告」（ヘイトスピーチに関わる問題） ７．「主要な懸念事項および勧告」（死刑に関わる問題） ８．「主要な懸念事項および勧告」（「従軍慰安婦」問題） ９．「主要な懸念事項および勧告」（代用監獄に関わる問題など） １０．「主要な懸念事項および勧告」（庇護申請者の扱いなど） １１．「主要な懸念事項および勧告」（「公共の福祉」に基づく人権の制限など） １２．「主要な懸念事項および勧告」（特定秘密保護法に関わる問題など） １３．「主要な懸念事項および勧告」（福島原発事故に関わる問題など） １４．「主要な懸念事項および勧告」（アイヌや沖縄・琉球人の人権、フォローアップ手続など） １５．国際基準から見た日本の人権問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J74080A01
科目名	【院】刑法Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law A		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法総論の代表的な概説書、研究書及び重要論文を読み進めることにより、刑法総論の重要争点を検討し、問題解決のための方法を身につけることを目標とする。 修士論文作成に向けたアドバイスを適宜行う。 時間割に指定された時間帯にとらわれず、受講生と相談の上、演習日時を柔軟に設定する。		
教材（テキスト）	受講生と相談の上決定する。 なお、刑事法専攻の院生が参加する場合には、外国語（独または英）の文献講読を別途行う。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて紹介する。		
評価方法	演習への取り組み姿勢、発表内容により評価する。		
到達目標	学部で学んだ刑法学の基礎をより確実なものとする。 刑法総論の重要問題について、学説を踏まえて自らの見解を示すことができる力を身につける。		
準備学習	指定した文献を読み、その概要をまとめて授業に臨むこと。 概説書のみならず研究論文等を適宜参照することが望ましい。		
受講者への要望			
受講にあたっては予習等大きな負担がかかるが、成果は大きいので頑張ってほしい。			
講義の順序とポイント			
おおむね以下のテーマを候補とするが、受講生の関心に応じて柔軟に対応する。 １．開講にあたって ２．刑法学の歴史・あゆみ ３．罪刑法定主義の沿革 ４．刑罰論 ５．刑法の適用範囲をめぐる諸問題 ６．実行行為性をめぐる諸問題 ７．因果関係をめぐる諸問題 ８．事実の錯誤をめぐる諸問題 ９．構成要件的過失をめぐる諸問題 １０．緊急行為をめぐる諸問題 １１．被害者の同意をめぐる諸問題 １２．違法性の錯誤をめぐる諸問題 １３．期待可能性をめぐる諸問題 １４．未遂犯をめぐる諸問題 １５．中止未遂をめぐる諸問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J74080B01
科目名	【院】刑法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law B		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法Ａに引き続き、刑法総論の代表的な概説書、研究書、及び重要論文を読み進めることにより、刑法総論の重要争点を検討し、問題解決のための方法を身につけることを目標とする。 修士論文作成に向けたアドバイスを適宜行う。 時間割に指定された時間帯にとらわれず、受講生と相談の上、演習日時を柔軟に設定する。		
教材（テキスト）	受講生と相談の上決定する。 なお、刑事法専攻の院生が参加する場合には、外国語（独または英）の文献講読を別途行う。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて紹介する。		
評価方法	演習への取り組み姿勢、発表内容により評価する。		
到達目標	学部で学んだ刑法学の基礎をより確実なものとする。 刑法総論の重要問題について、学説を踏まえて自らの見解を示すことができる力を身につける。		
準備学習	指定した文献を読み、その概要をまとめて授業に臨むこと。 概説書のみならず研究論文等を適宜参照することが望ましい。		
受講者への要望			
受講にあたっては予習等大きな負担がかかるが、成果は大きいので頑張ってほしい。			
講義の順序とポイント			
おおむね以下のテーマを候補とするが、受講生の関心に応じて柔軟に対応する。 １．開講にあたって ２．間接正犯をめぐる諸問題 ３．正犯と共犯をめぐる諸問題 ４．実行共同正犯をめぐる諸問題 ５．共謀共同正犯をめぐる諸問題 ６．承継的共同正犯をめぐる諸問題 ７．過失の共同正犯をめぐる諸問題 ８．狭義の共犯をめぐる諸問題 ９．共犯の離脱をめぐる諸問題 １０．共犯の錯誤をめぐる諸問題 １１．共同正犯と正当防衛をめぐる諸問題 １２．身分犯の共犯をめぐる諸問題 １３．包括一罪をめぐる諸問題 １４．観念的競合をめぐる諸問題 １５．かすがい現象をめぐる諸問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J74082A01
科目名	【院】民事法演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Seminar A		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	民事法に関する修士論文作成のための民事法の基礎知識につき、また、実務知識として、民事法が社会においていかにして適用されているのかにつき解説する。学習から研究へ、既存知識の整理だけでなく新たな知見を引き出すことが論文作成方法であり研究であることを教授する。論文を書く能力、解釈方法の多様性につき解説し、各人が選定した修士論文テーマに合わせ、質疑に応じつつ、講義する。		
教材（テキスト）	なし（選定テーマに応じて指定することがある）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	近江幸治「学術論文の作法」(2011 年、成文堂)		
評価方法	演習における出欠、質疑と発言内容、各自が作成した論文下書きの内容等による（100%）		
到達目標	民事法に関する修士論文を完成させることを目標とする。		
準備学習	選定テーマに関する判例・学説にあたって十分に予習をしておくこと。		

受講者への要望

受講者の予習・論文下書きの作成など積極的な受講態度を望む。
民事法に関する論文の着想、構想、表現力につき自問自答すること。

講義の順序とポイント

・各人の能力、修士論文の準備、進行状況に左右されるので詳細を記さない。
・個別に修士論文につき指導をする。
・民事法を掘り下げて勉強をするには、多分時間が足らないので修士論文テーマの選択を早めにすること。

学習配分例
1.取引主体（人、権利能力なき社団財団、法人）
2.法律行為、意思表示の到達
3.代理取引の実態
4.不動産物権変動
5.動産物権変動、集合動産
6.所有権、占有権、地上権
7.賃貸借（土地）－契約書を中心に
8.賃貸借（建物）－契約書を中心に
9.請負取引の実務
10.委任取引の実務
11.銀行取引実務　融資（1）
12.　　〃　　融資（2）
13.　　〃　　預金
14.　　〃　　振込、貸金庫
15.民事法文献の活用、論文中間指導、まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J74082B01
科目名	【院】民事法演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Seminar B		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	民事法に関する修士論文作成のための民事法の基礎知識につき、また、実務知識として、民事法が社会においていかにして適用されているのかにつき解説する。学習から研究へ、既存知識の整理だけでなく新たな知見を引き出すことが論文作成方法であり研究であることを教授する。論文を書く能力、解釈方法の多様性につき解説し、各人が選定した修士論文テーマに合わせ、質疑に応じつつ、講義する。		
教材（テキスト）	なし（選定テーマに応じて指定することがある）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	近江幸治「学術論文の作法」(2011 年、成文堂)		
評価方法	演習における出欠、質疑と発言内容、各自が作成した論文下書きの内容等による（100%）		
到達目標	民事法に関する修士論文を完成させることを目標とする。		
準備学習	選定テーマに関する判例・学説にあたって十分に予習をしておくこと。		

受講者への要望

受講者の予習・論文下書きの作成など積極的な受講態度を望む。
民事法に関する論文の着想、構想、表現力につき自問自答すること。

講義の順序とポイント

・各人の能力、修士論文の準備、進行状況に左右されるので詳細を記さない。
・個別に修士論文につき指導をする。

学習配分例
1.債権の効力と実務
2.責任財産の保全
3.保証の実務
4.債権譲渡･債務引受
5.債権の消滅－相殺を中心に
6.担保物権の総合知識
7.留置権と実務
8.先取特権
9.抵当権の効力
10.抵当権と物上代位
11.抵当権と法定地上権
12.抵当権侵害、抵当物件の競売
13.質権の実務
14.譲渡担保実務
15.民事法文献の活用、論文指導、まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74088001
科目名	【院】民法総則	単位数	2
科目名（英語表記）	General Principles of Civil Law		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	【院】民法Ⅰ（総則）
講義概要	重要判例を素材にして、関連判例や学説のほか、実務動向も視野に入れ、種々の角度から議論をして、各論点の理解を深めていく。 ロースクールにおける講義方法をイメージしながら、個別判例を素材にして、双方向的に検討を進める。		
教材（テキスト）	民法判例百選Ⅱ債権［第６版］		
教材（参考文献）	佐久間毅「民法の基礎１　総則[第３版]」（有斐閣） 佐久間毅･石田剛･山下純司･原田昌和「民法Ⅰ　総則」（有斐閣 Legal Quest）		
教材（その他）			
評価方法	個別報告（50%）・レポート（50%）によって評価する。		
到達目標	「民法総則」の中の主要な制度について、判例に基づいて説明することができる。また、紛争当事者の立場から、具体的問題について議論することができる。		
準備学習	参考文献欄に示した基本書を十分に読み込み、問題の所在とその実際的な解決法をあらかじめ考えてくること		

受講者への要望

個別判例を素材にして、双方向的に検討を進めることとするので、授業で検討を予定している判例については、テキスト等に基づき、予習を十分しておいてほしい。

講義の順序とポイント

１　権利の濫用――宇奈月温泉事件
２　胎児の権利能力――阪神電鉄事件
３　意思能力のない者の行為
４　法人の目的の範囲（2）――会社の政治献金
５　公序良俗違反（2）――証券取引における損失保証契約
６　いわゆる取締法規違反の法律行為の効力
７　民法 94 条 2 項・110 条の類推適用
８　詐欺における善意の第三者の登記の必要性
９　錯誤――法律行為の要素
１０　利益相反行為と代理権濫用
１１　民法 110 条の正当理由の判断
１２　無権代理人の本人相続
１３　時効援用の効果
１４　時効完成後の債務承認
１５　消滅時効の起算点――じん肺罹患による損害賠償請求権

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J74094A01
科目名	【院】会社法Ａ（コーポレート・ファイナンス）	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law (Corporate Finance)		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社法におけるコーポレート・ファイナンス分野を中心に扱う。個別判例などを素材にして、双方向的授業として検討を行う。受講者に関連テーマを報告してもらい、それへの質問・討論という形で進めていく。なお、必要に応じ、金融商品取引法との交錯分野を扱う場合もある。受講者は、基本書等を十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。		
教材（テキスト）	江頭憲治郎『株式会社法　第 5 版』（有斐閣、2014 年）、『別冊ジュリスト No.205・会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年）。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	報告内容・議論への参加度合による平常点　（60％）。学期末レポート（40％）。		
到達目標	会社法（コーポレート・ファイナンス分野）について、法の具体的な適用の形である判例を研究し、実務上の問題を処理する能力を身につける。		
準備学習	毎回の講義終了時に次回講義の関連文献を指定するので、これらを読了し検討を行っておくこと。		

受講者への要望

会社法Ｂ（コーポレート・ガバナンス）と併せて履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

１．株主平等の原則
２．名義書換
３．株式の譲渡
４．譲渡制限株式
５．従業員持株制度
６．略式質
７．自己株式
８．第三者に対する新株の有利発行
９．買取引受と不公正発行価額
１０．第三者割当増資による企業買収
１１．防衛策としての第三者割当増資
１２．著しく不公正な方法による第三者割当増資
１３．新株発行無効事由
１４．新株予約権発行の差止め
１５．社債権者

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74094B01
科目名	【院】会社法Ｂ（コーポレート・ガバナンス）	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law (Cooperate Governance)		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社法におけるコーポレート・ガバナンス分野を中心に扱う。個別判例などを素材にして、双方向的授業として検討を行う。受講者に関連テーマを報告してもらい、それへの質問・討論という形で進めていく。なお、必要に応じ、金融商品取引法との交錯分野を扱う場合もある。受講者は、基本書等を十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。		
教材（テキスト）	江頭憲治郎『株式会社法　第 5 版』（有斐閣、2014 年)、『別冊ジュリスト No205・会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年)。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	報告内容・議論への参加度合による平常点　(60%)。学期末レポート（40%)。		
到達目標	会社法（コーポレート・ガバナンス分野）について、法の具体的な適用の形である判例を研究し、実務上の問題を処理する能力を身につける。		
準備学習	毎回の講義終了時に次回講義の関連文献を指定するので、これらを読了し検討を行っておくこと。		
受講者への要望			
会社法 A（コーポレート・ファイナンス）と併せて履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．株主総会の招集・議事進行 2．株主総会決議の瑕疵 3．代表機関の代表行為と取引の安全 4．競業取引・利益相反取引 5．取締役の報酬規制 6．取締役の会社に対する責任 7．取締役の第三者に対する責任 8．責任追及の訴え（株主代表訴訟） 9．監査役・会計監査人 10.委員会設置会社 11.持分会社 12.合併 13.会社分割 14.事業譲渡 15.企業買収			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74100A01
科目名	【院】経済法演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Law Seminar A		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	経済法 A 及び経済法 B で学んだことを前提として、独占禁止法の重要な基本判例および審決を取り上げ、独占禁止法の概念について理解を深める。受講生が、担当する判例について調べ、レジュメを作成して報告し、それに基づき検討を進めてゆく。企業結合を除く独占禁止法の重要な事件、具体的には、不当な取引制限の禁止、事業者団体の活動規制、不公正な取引方法に関する事件を主に取り上げる。なお、具体的な授業の進め方、講義の順序とポイントに書かれている事件は、取り上げる事件の目安である。受講生と相談の上、変更がありうる。		
教材（テキスト）	受講生の独占禁止法の学習歴等を勘案したうえで決定する。		
教材（参考文献）	最初の授業で紹介する。		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	平常点（発言・授業内レポート）２０％ 報告４０％ 期末レポート４０％		
到達目標	判例の研究を通じて、独占禁止法の重要概念についての理解を深め、主にカルテルの事案につき、独占禁止法に基づいた判断ができるようになる。		
準備学習	第１回の準備学習　　経済法 A の内容の復習　　重要なキーワードについて説明できるようにしておくこと。 第２～１５回の準備学習 全員　各回で取り上げる事件について、次の２点を行う。 （１）判例百選または重要判例解説の該当部分を読む。 （２）事実関係を図式化する。 報告予定者は、（１）（２）に加えて、次のことを行う。 （３）報告用レジュメを作成する。		
受講者への要望			
十分な学習時間を確保した上で、担当する事例について責任を持って準備すること。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２．東芝ケミカル事件 ３．シール談合事件 ４．協和エクシオ事件 ５．郵便番号自動読取機事件 ６．広島県石商広島市連合会事件 ７．石油カルテル刑事事件 ８．日本遊戯銃協会事件 ９．日本医療食協会事件 １０．北海道新聞事件 １１．都営芝浦と畜場事件 １２・東芝エレベーター事件 １３．資生堂東京販売事件 １４．ローソン事件 １５．総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J74100B01
科目名	【院】経済法演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Law Seminar B		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	経済法 A および経済法 B で学んだことを前提として、独占禁止法の企業結合等に関する実際の事例を取り上げて検討する。受講生が、担当する事案について調べ、レジュメを作成して報告し、それに基づき検討を進めてゆく。前半は、企業結合に関する事例を取り上げる。後半は、受講生の興味関心を尊重して、とりあげる分野及び事例を決定するので、講義の順序に掲載されている後半部分の事例は目安である。具体的な講義の形式や内容の比重については、受講生と相談の上、変更する場合がある。		
教材（テキスト）	受講生の独占禁止法の学習歴等を勘案して最初の授業で決定する。		
教材（参考文献）	最初の授業で紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（発言・授業内レポート）２０％ 報告４０％ 期末レポート４０％		
到達目標	独占禁止法の企業結合規制における分析方法を理解し、独占禁止法の重要概念についての理解を深める。		
準備学習	第１回の準備学習　　経済法 B の内容の復習　　重要なキーワードについて説明できるようにしておくこと。 第２～１５回の準備学習 全員　各回で取り上げる事件について、次の２点を行うこと。 （１）判例百選または重要判例解説の該当部分を読む。 （２）事実関係を図式化する。 報告予定者は、（１）（２）に加えて、次のことを行うこと。 （３）報告用レジュメを作成する。		
受講者への要望			
十分な学習時間を確保し、担当する事例について責任を持って準備すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション 2　広島電鉄事件 3　東宝・スバル事件 4　新日鉄合併事件 5　JAL・JAS 事業統合事例 6　ポリオレフィン事業統合事例 7　UFJ ホールディングスの事例 8　企業結合規制のまとめ 9　ロックマン工法事件 １０　LP ガス販売差別対価差止請求事件 １１　有線ブロードネットワークス事件 １２　野村証券事件 １３　鶴岡灯油事件 １４　奈良県入札談合住民代位損害賠償請求事件 １５　総括			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J74101A01
科目名	【院】法哲学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal Philosophy A		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	いわゆる司法改革の名の下で、さまざまなことが提案され実施されている（或いは実施されようとしている）が、その向かうところはどこなのであろうか。この現代的な課題を廻って、本講義は、そもそも正義とは何かという原理的な問い（この問いのうちには当然法と倫理との関係といった問いも含まれてくる）を中心に、その正義を実現するにふさわしい法体制のありようを考察する。 上記のテキストの著者ハワード・ゼアは、近代以降の法体制が国家権力が支配してきた「応報的」正義を中心に構築されたとし、これに対して、「参加と対話」が奨励され「コミュニティが重要な役割を演ずる」「関係修復的」正義を中核とする法体制の可能性を提示する。 本講義の展開は、強制としての正義・法から合意による正義・法へというパラダイムの変更という今日的な問題に通底するものがある。		
教材（テキスト）	ハワード・ゼア　『修復的司法とは何か』　新泉社		
教材（参考文献）	随時指示		
教材（その他）			
評価方法	講義時の発言内容 30 点と学期末レポート 70 点		
到達目標	1．法に関わる哲学的思考様式が身に付く。 2．正義論を展開する際の諸課題が理解できる。 3．正義論の諸原則を具体的文脈の中で展開できる。		
準備学習	輪読の当番の有無にかかわらず、事前に指定された、テキストの範囲を精読し、自分なりの問題意識を深めておくこと。		

受講者への要望

テキストを丹念に読み多角的に考える姿勢で受講してください。

講義の順序とポイント

1．序論　正義論の意味
2．　　同上
3．第１章　問題整理：ケーススタディ①
4．　　問題整理：ケーススタディ②
5．第２章　応報的正義①
6．　　応報的正義②
7．　　補遺：法と強制
8．第３章　パラダイムとしての正義①
9．　　パラダイムとしての正義②
１０．　　補遺：法的な思考の構成
１１．第４章　コミュニティ的正義①
１２．　　コミュニティ的正義②
１３．　　補遺：法と実践的知恵
１４．終章　　応報的正義からコミュニティ的正義へ①
１５．　　応報的正義からコミュニティ的正義へ②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J74101B01
科目名	【院】法哲学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal Philosophy B		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	いわゆる司法改革の名の下で、さまざまなことが提案され実施されている（或いは実施されようとしている）が、その向かうところはどこなのであろうか。この現代的な課題を廻って、本講義は、そもそも正義とは何かという原理的な問い（この問いのうちには当然法と倫理との関係といった問いも含まれてくる）を中心に、その正義を実現するにふさわしい法体制のありようを考察する。 上記のテキストの著者ハワード・ゼアは、近代以降の法体制が国家権力が支配してきた「応報的」正義を中心に構築されたとし、これに対して、「参加と対話」が奨励され「コミュニティが重要な役割を演ずる」「関係修復的」正義を中核とする法体制の可能性を提示する。 本講義の展開は、強制としての正義・法から合意による正義・法へというパラダイムの変更という今日的な問題に通底するものがある。		
教材（テキスト）	ハワード・ゼア　『修復的司法とは何か』　新泉社		
教材（参考文献）	随時指示		
教材（その他）			
評価方法	講義時の発言内容 30 点と学期末レポート 70 点		
到達目標	１．法に関わる哲学的思考様式が身に付く。 ２．正義論を展開する際の諸課題が理解できる。 ３．正義論の諸原則を具体的文脈の中で展開できる。		
準備学習	輪読の当番の有無にかかわらず、事前に指定された、テキストの範囲や参考資料を精読し、自分なりの問題意識を深めておくこと。		
受講者への要望			
テキストを丹念に読み多角的に考える姿勢で受講してください。			
講義の順序とポイント			
１．序論　正義論の意味 ２．　同上 ３．第１章　問題整理：ケーススタディ① ４．　問題整理：ケーススタディ② ５．第１章　契約の正義① ６．　契約の正義② ７．　補遺：宗教と法 ８．第２章　被害者と加害者の和解プログラム① ９　被害者と加害者の和解プログラム② １０．　補遺：実践と理論 １１．第３章　関係修復的正義のパラダイム① １２．　関係修復的正義のパラダイム② １３．第４章　変革的正義としての関係修復的正義① １４．　変革的正義としての関係修復的正義② １５．終章　我々はどこにいるのか？			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J74102C01
科目名	【院】憲法Ｃ（ヨーロッパ人権論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law C (Human Rights in Eu rope)		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、「ヨーロッパ公序の憲法的文書」とも称されるヨーロッパ人権条約について学び、ヨーロッパ人権裁判所の判例を検討する。この条約は 1950 年に採択され、現在の締約国数は 47 カ国に及び、トルコやロシアも含まれる。人権裁判所などの実施機関の半世紀を超える実行を通じて、条約はヨーロッパ諸国における人権保障に対して大きな影響を与えてきた。人権裁判所の代表的な判例を検討することで、第二次大戦後から今日までのヨーロッパでの人権保障の発展における条約の意義についてともに考えてみたい。		
教材（テキスト）	戸波江二ほか編『ヨーロッパ人権裁判所の判例』（信山社、２００８年）		
教材（参考文献）	【邦文による概説書】 フレデリック・スュードゥル（著）・建石真公子（訳）『ヨーロッパ人権条約』（有信堂、１９９７年） 阿部浩己ほか『テキストブック国際人権法［第３版］』（日本評論社、２００９年） 【条約集】 松井芳郎編『ベーシック条約集』（東信堂） 奥脇直也編『国際条約集』（有斐閣） その他の専門書等については適宜紹介する。		
教材（その他）	ヨーロッパ人権条約の条文（翻訳）のコピーを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）、報告（３０％）、レポート（２０％）		
到達目標	１．ヨーロッパ人権条約による人権保障の意義と仕組みを理解する。 ２．判決の事案や判旨などを適切に紹介したレジュメを作成し、効率的に報告する。 ３．判決の意義や問題点について自ら考えることができるようになる。		
準備学習	受講生は次回の授業で取り上げる判例の要旨を読んでくること。		

受講者への要望
１．積極的な参加を希望する。 ２．無断欠席はしないこと。
講義の順序とポイント
１．受講ガイダンス ２．ヨーロッパ人権条約の概説（担当教員による講義） ３．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 ４．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 ５．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 ６．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 ７．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 ８．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 ９．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 １０．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 １１．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 １２．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 １３．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 １４．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 １５．ヨーロッパ人権条約による人権保障の意義の検討

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J74103A01
科目名	【院】刑事訴訟法Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure A		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	刑事手続の各段階で生じる法解釈上の重要な問題を取り上げて検討する。検討の内容は、問題について包括的に研究した諸文献による理論研究、重要判例の判例研究および外国文献の講読を通じた比較研究である。また、必要に応じて、少年事件といった各種の手続や刑事手続をめぐる最近の法改正なども検討の対象とする。 ゼミの進め方は、受講者が報告者となって、毎回、指定されたテーマについて報告するというものである。		
教材（テキスト）	古江頼隆『事例演習刑事訴訟法』（2011、有斐閣）		
教材（参考文献）	授業の中で必要に応じてそのつど紹介する。		
教材（その他）	資料などを掲載したプリントを配布する。		
評価方法	出席状況、報告の内容および報告をふまえて作成されたレポートが主な評価の材料である。		
到達目標	特定のテーマについて体系的に検討したレポートを作成する。		
準備学習	テキスト欄に挙げた文献を学期中に読破する。		

受講者への要望

学部において刑法および刑事訴訟法の両分野を良好な成績で学修していなければ、授業の内容を理解することは不可能である。これに十分留意したうえで受講すること。

講義の順序とポイント

1　はじめに
2　任意捜査と強制捜査
3　職務質問・所持品検査
4　任意取調べ
5　身柄拘束の諸問題（1）
6　身柄拘束の諸問題（2）
7　身柄拘束の諸問題（3）
8　令状による捜索・差押え（1）
9　令状による捜索・差押え（2）
10　逮捕に伴う無令状捜索・差押え（1）
11　逮捕に伴う無令状捜索・差押え（2）
12　おとり捜査
13　接見交通
14　被疑者取調べ
15　被疑者の権利

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J74103B01
科目名	【院】刑事訴訟法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure B		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	刑事手続の各段階で生じる法解釈上の重要な問題を取り上げて検討する。検討の内容は、問題について包括的に研究した諸文献による理論研究、重要判例の判例研究および外国文献の講読を通じた比較研究である。また、必要に応じて、少年事件といった各種の手続や刑事手続をめぐる最近の法改正なども検討の対象とする。 ゼミの進め方は、受講者が報告者となって、毎回、指定されたテーマについて報告するというものである。		
教材（テキスト）	古江頼隆『事例演習刑事訴訟法』（2011、有斐閣）		
教材（参考文献）	授業の中で必要に応じてそのつど紹介する。		
教材（その他）	資料などを掲載したプリントを配布する。		
評価方法	出席状況、報告の内容および報告をふまえて作成されたレポートが主な評価の材料である。		
到達目標	特定のテーマについて体系的に検討したレポートを作成する。		
準備学習	テキスト欄に挙げた文献を学期中に読破する。		
受講者への要望			
学部において刑法および刑事訴訟法の両分野を良好な成績で学修していなければ、授業の内容を理解することは不可能である。これに十分留意したうえで受講すること。			
講義の順序とポイント			
１　はじめに ２　訴因の特定 ３　訴因変更の要否 ４　訴因変更の可否 ５　科学的証拠 ６　法律上の推定 ７　類似事実証拠排除法則 ８　自白の証拠能力（１） ９　自白の証拠能力（２） １０　公訴の提起（３） １１　伝聞法則（１） １２　伝聞法則（２） １３　伝聞法則（３） １４　違法収集証拠排除法則（１） １５　違法収集証拠排除法則（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J74104001
科目名	【院】行政作用法	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Action Law		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	行政法総論の部分のうち、基本原理、行政組織、行政作用法を扱う。		
教材（テキスト）	高橋　滋『行政法　Visual Materials』（有斐閣、2014 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点(100%)出席状況等による。		
到達目標	行政法の基本原理を習得し、組織法、作用法の全体像の理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、該当部項目を読み、基本用語、法令、判例をチェックすること。		
受講者への要望			
行政法の学説に関する基礎知識と基本判例を習得することを目標にするので、参考文献の熟読と判例百選などを使った予習、復習が必要である。			
講義の順序とポイント			
１．　行政と法 ２．　行政活動の規制原理 ３．　行政組織 ４．　行政立法 ５．　行政行為－概念・種類 ６．　行政行為－裁量 ７．　行政行為－効力・瑕疵・取消しと撤回 ８．　行政行為－瑕疵・取消しと撤回・附款 ９．　行政計画 １０．行政契約・行政指導 １１．行政上の強制執行 １２．行政上の即時強制・行政罰 １３．行政手続法 １４．情報公開 １５．個人情報保護			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J74105001
科目名	【院】行政救済法	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Remedies Law		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	行政法総論は、行政組織法、作用法、救済法の３つの柱で構成される。本講義では、行政救済法の部分を扱う。		
教材（テキスト）	高橋　滋『行政法　Visual Materials』（有斐閣、2014 年）		
教材（参考文献）	宇賀克也・交告尚史『行政判例百選Ⅰ[第６版]』、『行政判例百選Ⅱ[第６版]』（有斐閣、2012 年）		
教材（その他）			
評価方法	平常点（１００％）で評価する。		
到達目標	国民の権利・利益が行政過程において侵害された場合の救済手段の内容を理解し、それら救済手段の果たす役割についての認識を深める。		
準備学習	次回の講義の項目と関連判例を予習すること。		
受講者への要望			
行政作用法も履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．　オリエンテーション－行政法の学び方、行政救済法の体系 ２．　行政不服申立て① ３．　行政不服申立て② ４．　行政事件訴訟の概観、種類 ５．　取消訴訟の訴訟要件① ６．　取消訴訟の訴訟要件② ７．　取消訴訟の訴訟要件③ ８．　取消訴訟の審理、判決、教示 ９．　行政事件訴訟法のその他の論点 １０．国家賠償制度 １１．国家賠償法１条 １２．国家賠償法２条 １３．損失補償制度① １４．損失補償制度② １５．行政救済法の改正動向			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74106001
科目名	【院】家族法	単位数	2
科目名（英語表記）	Family Law		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法の家族法分野について判例研究を行う。具体的な進め方については受講生と相談のうえ決める予定である。		
教材（テキスト）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年）		
教材（参考文献）	二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） 家族法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣、2008 年） その他、適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	出席状況および参加態度（50%）、研究への取り組み状況（50%）による。やむを得ず欠席する場合にはメール等により事前に連絡することを要する。		
到達目標	１．民法の家族法分野について自律的に研究を進めることができる。 ２．研究成果を報告し、他者の考えを聞いたうえで自身の考えを深めることができる。		
準備学習	報告担当者は十分に準備をし、当日は必ず出席すること。担当者以外の出席者もあらかじめ指示された判例・文献に目を通しておくこと。		
受講者への要望			
家族法を履修したことがない者については、家族法の教科書・概説書を 1 冊通読しておくことが望ましい。			
講義の順序とポイント			
各自が関心のあるテーマについて報告と質疑応答を行う。テーマの選択にあたってはゼミ生の意向を尊重するが、テーマの例としては以下のようなものがある。 １．　婚姻外の男女関係の解消 ２．　近親婚と遺族年金受給権 ３．　夫婦相互の日常家事代理権 ４．　不貞行為の相手方に対する慰謝料請求権 ５．　有責配偶者の離婚請求 ６．　財産分与と慰謝料請求権との関係 ７．　推定の及ばない子 ８．　親子関係不存在確認請求と権利濫用 ９．　代理出産と母子関係 １０．子の命名権 １１．面会交流権 １２．成年に達した子に対する扶養義務 １３．熟慮期間の起算点 １４．生命保険金請求権の相続財産性 １５．高齢者の遺言能力			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74107A01
科目名	【院】経済法 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Law A		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	市場経済が期待される機能を適切に発揮するには、市場における企業間の「公正かつ自由な競争」が前提となる。そのために、独占禁止法が、市場における競争を制限するカルテルなどを禁止している。競争に悪影響を及ぼす行為には様々なものがあるが、カルテルがその典型である。 本講義では、カルテルの様々な形態を理解し、なぜカルテルが行われるのか、カルテルを規制するにはどのようにすればよいのか、カルテルが独占禁止法違反かどうかを判断する際に必要な、基本概念について学ぶ。 具体的な講義の形式や内容の比重については、受講生と相談の上、変更する場合がある。		
教材（テキスト）	受講生の独占禁止法の学習歴等を勘案して、最初の授業で決定する。		
教材（参考文献）	最初の授業で紹介する。		
教材（その他）	毎回レジュメ等を配布する		
評価方法	平常点（発言、授業内レポート、出席状況など）４０％ 学期末レポート６０％		
到達目標	カルテルの形態や仕組みについて理解し、独占禁止法の観点から分析できるようになる。		
準備学習	各回の最後に、次回までに読むべき教科書等の範囲を指示するので、事前に読んでおくこと。		
受講者への要望			
企業活動一般への関心と基礎知識を持っていること。 授業以外の予復習に十分な時間を確保すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション　　独占禁止法の概要 2　カルテル規制の全体像 3　カルテルの仕組みと形態 4　意思の連絡（東芝ケミカル事件） 5　競争の実質的制限 6　入札談合（安藤造園事件） 7　行政指導とカルテル（石油カルテル事件） 8　事業者団体とカルテル（大阪バス協会事件） 9　医師会とカルテル（観音寺市医師会事件） １０　カルテルに対する措置の概要と手続き １１　課徴金 １２　刑事責任 １３　民事責任 １４　米国・EU におけるカルテル規制 １５　総括			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74107B01
科目名	【院】経済法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Law B		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	グローバル経済においては、企業結合が活発に行われている。経済活動のルールを定める独占禁止法は、「公正かつ自由な競争」を維持・促進するため、カルテルなど、市場における競争に悪影響を及ぼす行為を禁止するだけでなく、市場構造に影響を与える企業結合も規制している。しかし、企業結合規制の場合、企業結合が競争を促進する可能性と競争を制限する可能生徒を慎重に判断する必要がある。 本講義では、企業結合の目的及び態様を理解したうえで、独占禁止法の企業結合規制について検討する。		
教材（テキスト）	受講生の独占禁止法の学習歴等に応じて、最初の授業で決定する。		
教材（参考文献）	最初の授業で紹介する。		
教材（その他）	毎回レジュメ等を配布する。		
評価方法	平常点（発言、授業内レポート、出席状況）４０％ 学期末レポート６０％		
到達目標	企業結合が市場における競争に及ぼす影響を理解し、独占禁止法の視点から、企業結合を分析できるようになる。		
準備学習	各回の最後に、次回までに読むべき教科書等の範囲を指示するので、事前に読んでおくこと。		
受講者への要望			
企業活動全般への関心と基礎知識を持っていること。 授業以外の予復習に十分な時間を確保すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション　　企業結合規制の全体像 2　企業結合の態様と目的① 3　企業結合の態様と目的② 4　一般集中規制①概要と歴史 5　一般集中規制② 6　市場集中規制の概要 7　市場画定の方法 8　水平型企業結合 9　垂直型企業結合 １０　混合型企業結合 １１　総合事例問題① １２　総合事例問題② １３　米国の企業結合規制 １４　EU の企業結合規制 １５　総括			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74108A01
科目名	【院】国際法Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law A		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、下記の国際法の標準的な教科書を精読し、国際法の基本的性質や機能を理解することを主な目的とする。受講生は、担当教員から出された論点を中心に担当部分のレジュメを作成し、報告を行う。そして、受講生の報告を踏まえて、全員で内容を検討する。可能であれば他の教科書との比較検討も行いたい。		
教材（テキスト）	杉原高嶺ほか『現代国際法講義［第５版］』（有斐閣、２０１２年）		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第２版］』（東信堂、２０１３年） 杉原高嶺『国際法学講義［第２版］』（有斐閣、２０１３年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 松井芳郎編『ベーシック条約集』（東信堂） 奥脇直也編『国際条約集』（有斐閣） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	平常点（７０％）、レポート（３０％）		
到達目標	１．国際社会や国際法の独自の基本的性質を理解する。 ２．国際法の基本的な専門用語を理解する。 ３．詳細なレジュメを作成し、効率的に報告する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、教科書を事前に必ず熟読してくること。		

受講者への要望

１．積極的な参加を希望する。
２．無断欠席はしないこと。

講義の順序とポイント

１．履修ガイダンス
２．「第１章　国際法の基本構造」
３．「第２章　国家の成立と変動」
４．「第３章　国家の基本的権利義務と管轄権」
５．「第４章　国家領域」
６．「第５章　海洋法」
７．「第６章　国際化地域と空域の利用」
８．「第７章　国際関係における国家機関」
９．「第８章　国際法における個人」
１０．「第９章　国際機構」
１１．「第１０章　条約法」
１２．「第１１章　国家責任」
１３．「第１２章　環境の国際的保護」
１４．「第１３章　紛争の平和的解決」
１５．「第１４章　武力行使の規制」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J74108B01
科目名	【院】国際法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law B		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、国際法の各分野の代表的な判例検討を通じて、国際法が実際の紛争においてどのように適用され、どのように機能しているかをともに学ぶ。受講生は、担当判例について適切に紹介したレジュメを作成し、報告を行う。受講生の報告を踏まえ、判決の意義や問題点などについて全員で検討する。国際法の判例検討を通じて、国内法とは異なる国際法の世界を見てみよう。		
教材（テキスト）	小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年）		
教材（参考文献）	【教科書】 杉原高嶺『国際法学講義［第２版］』（有斐閣、２０１３年） 杉原高嶺ほか編『現代国際法講義［第５版］』（有斐閣、２０１２年） 浅田正彦編『国際法』（東信堂、２０１１年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 松井芳郎編『ベーシック条約集』（東信堂） 奥脇直也・小寺彰編集代表『国際条約集』（有斐閣） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、２００９年） 【判例集】 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	平常点（７０％）、レポート（３０％）		
到達目標	１．判決の事案や判旨などを適切に紹介したレジュメを作成し、効率的に報告する。 ２．判決の意義や問題点について自ら考えることができるようになる。 ３．国内裁判とは異なる国際裁判について理解する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、予習判例は事前に必ず熟読してくること。		

受講者への要望

１．積極的に参加すること。
２．無断欠席はしないこと。

講義の順序とポイント

１．履修ガイダンス
２．国際法における国家
３．国家管轄権（１）
４．国家管轄権（２）
５．国家領域（１）
６．国家領域（２）
７．国際機構
８．国際法における個人（１）
９．国際法における個人（２）
１０．国際法における個人（３）
１１．条約
１２．平和と安全の維持（１）
１３．平和と安全の維持（２）
１４．国際経済活動

１５．環境の国際的保護

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J74109A01
科目名	【院】独語文献研究A	単位数	2
科目名（英語表記）	German Document Research A		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読み、ドイツ民法を少し覗く。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	山田晟『ドイツ法律用語辞典』（大学書林） ベルンド・ゲッツェ『独和法律用語辞典』（成文堂）		
教材（その他）	中島 悠爾、朝倉 巧、平尾 浩三『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）		
評価方法	講義における取組み具合により評価する。		
到達目標	ドイツ語に親しみながら、ドイツ民法の内容についての知識を得る。		
準備学習	・他の受講生の担当部分についても、一読する。		

受講者への要望

・担当部分については、責任を持って訳出してくること。
・自らの担当部分は翻訳をプリントして持参すること。

講義の順序とポイント

Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読む。

受講者のドイツ語能力に大きく作用されるため、進度は不明であるが、第 2 章法律行為から読み進めることにする。
各回 1 頁程度進めるのが理想である。それを前提にすれば、各回の内容は以下の通りである。

(1) ガイダンス・担当順の確定等
(2) "§4 Vertrag, Willenserklaerung und Rechtsgeschaeft"中の "Faelle"及び"I. Vertrag 1. Bedeutung "
(3) 同 "2. Vertragsfreiheit"
(4) 同 "3. Begriff"
(5) 同 "II. Willenserklaerung 1. Begriff"
(6) 同上
(7) 同上
(8) 同上
(9) 同 "2. Arten"
(10) 同 "3. Abgrenzung"
(11) 同 "III. Rechtsgeschaeft 1. Begriff"
(12) 同 "2. Arten"
(13) "§5 Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte, kausale und abstrakte Geschaefte" 中の"Faelle"
(14) 同 "I. Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte 1. Verpflichtungsgeschaefte"
(15) 同 ”2. Verfuegungsgeschaefte”

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J74109B01
科目名	【院】独語文献研究B	単位数	2
科目名（英語表記）	German Document Research B		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読み、ドイツ民法をもう少し覗く。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	山田晟『ドイツ法律用語辞典』（大学書林） ベルンド・ゲッツェ『独和法律用語辞典』（成文堂）		
教材（その他）	中島 悠爾、朝倉 巧、平尾 浩三『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）		
評価方法	講義中における取組み具合を評価する。		
到達目標	ドイツ語に親しみながら、ドイツ民法の内容についての知識を得る。		
準備学習	・他の受講生の担当部分についても、一読する。		

受講者への要望

・担当部分については、責任を持って訳出してくること。
・自らの担当部分は翻訳をプリントして持参すること。

講義の順序とポイント

Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読む。

本講義では「独語文献研究A」の続きを読むことにする。当然受講者の習得具合にあわせるが、できる限り各回1頁ずつ読み進めることを目標とする。それを前提として各回の内容は主に次の通りである。

(1) ガイダンス／報告順の決定等
(2)"§5 Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte, kausale und abstrakte Geschaefte"中の
"I. Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte 3. Unterschiede"
(3) 同 "II. Kausale und abstrakte Geschaefte 1. Einfuehrung"
(4) 同 "2. Kausale Geschaefte"
(5) 同 "3. Abstrakte Geschaefte"
(6) 同 "III. Abstraktionsgrundsatz 1. Bedeutung"
(7) 同 "2. Auswirkungen"
(8) 同 "3. Gesezgeberischer Grund"
(9) 同 "4. Nachteile des Abstraktionsprinyips"
(10) 同上
(11)"§6 Die Auslegung des Rechtsgeschaefts" Faelle
(12) 同 "I. Einfache Auslegung 1. Ziel, Weg und Bedeutung"
(13) 同上
(14) 同 "2. Auslegungsmethode"
(15) 同上

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J74110001
科目名	【院】物権総論	単位数	2
科目名（英語表記）	Real Right Introduction		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	物権法の基礎的な論点を把握するために必要な事項について講義する。 受講者は、教科書を十分に読み込み、問題の所在とその実際的な解決法をあらかじめ考えてくることを前提とする。 また、受講者数にもよるが、重要判例等について報告を求めることがある。		
教材（テキスト）	内田貴『民法 I 総則・物権総論』（東京大学出版会, 第 4 版, 2008）		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276 その他は授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	なし		
評価方法	平常点（20%)出席、発言状況等による。 個別報告兼レポート内容（80%）によって評価する。		
到達目標	・　物権法の基礎的な論点につき理解することを目標とする。 ・　現代社会における物権法の動向と課題につき理解することを目標とする。		
準備学習	教科書を各講義前に一読して疑問点を明らかにしておくこと。		

受講者への要望

物権法に関する民法条文の構成と配列につき何度も参照して理解するように努めること。
予習は十分に行われていることが望ましい。

講義の順序とポイント

おおよその目安であるが、次の通りに進める。

1. 所有権の内容 ― 所有権絶対の原則
2. 所有権に基づく請求権 ― 請求権の意義・根拠・性質・要件・効果
3. 所有権の原始取得 ― 付合・混和・加工；無主物・遺失物
4. 共同所有 1 ― 意義・発生・内容
5. 共同所有 2 ― 消滅・準共有・建物の区分所有
6. 占有の保護 ― 占有訴権
7. 占有と本権 ― 本権の推定・占有による本権の取得（取得時効）
8. 物権変動 ― 物権変動とは何か；契約による不動産物権変動
9. 不動産物権変動 1 ― 不動産物権変動と対抗要件
10. 不動産物権変動 2 ― 登記を要する物権変動・177 条の第三者
11. 不動産物権変動 3 ― 不動産登記制度・登記の推定力と公信力
12. 動産物権変動 ― 対抗要件・立木の物権変動と対抗要件
13. 公信の原則 ― 動産取引の場合・不動産上の物権
14. 物権の性質と効力
15. 物権法定主義の意義；まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74112001
科目名	【院】債権総論	単位数	2
科目名（英語表記）	Claim Introduction		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	民法第三編第一章の内容を扱う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	初めて債権総論を学ぶ者 野村 豊弘、池田 真朗、栗田 哲男、 永田 真三郎『民法（3）債権総論 （有斐閣 S シリーズ）』（有斐閣、第 3 版、2005）978-4641159136 一度勉強したことのある者 中田裕康『債権総論』（岩波書店、2008） 川井健『債権総論』（有斐閣、第 2 版補訂版、2009）		
教材（その他）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276		
評価方法	講義を行う場合には期末試験を行い、希望テーマに基づき報告を行う場合には、その内容、参加の度合いなどを評価の対象とする。		
到達目標	債権法の内容を理解し、理解を深める。		
準備学習	参考文献欄に掲げた文献の 1 冊を選び、各回のテーマにつき、事前に内容を確認しておくこと。		
受講者への要望			
主体的に参加し、報告する場合には責任を持って行うこと。			
講義の順序とポイント			
受講者の要望に従うが、講義を行う場合には、次の順序で行う。 第 1 回　債権総論を学ぶにあたって; 債権の目的と種類 1（特定物債権） 第 2 回　債権の目的と種類 2（特定物債権種類債権～利率） 第 3 回　債権の目的と種類 3（利息制限）; 債務不履行 1（債務の本旨に従わざる履行 ） 第 4 回　債務不履行 2（債務者の帰責事由） 第 5 回　債務不履行 3（履行の強制） 第 6 回　債務不履行 4（416 条の理解） 第 7 回　債権の対外的効力 1（債権者代位権 ） 第 8 回　債権の対外的効力 2（詐害行為取消権 ） 第 9 回　多数当事者の債権関係 1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務；連帯債務） 第 10 回　多数当事者の債権関係 2（連帯債務；保証債務 ） 第 11 回　当事者の交替 1（債権譲渡） 第 12 回　当事者の交替 2（債務引き受け ） 第 13 回　債権の消滅 1（消滅の意義・弁済 ） 第 14 回　債権の消滅 2（代物弁済・供託・相殺 ） 第 15 回　債権の消滅 3（更改・免除・混同 ）		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74114001
科目名	【院】不法行為法	単位数	2
科目名（英語表記）	Tort Law		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	重要判例を素材にして、関連判例や学説のほか、実務動向も視野に入れ、種々の角度から議論をして、各論点の理解を深めていく。 ロースクールにおける講義方法をイメージしながら、個別判例を素材にして、双方向的に検討を進める。		
教材（テキスト）	民法判例百選Ⅱ債権［第６版］		
教材（参考文献）	・潮見佳男「基本講義 債権各論〈2〉不法行為法」（新世社･ライブラリ法学基本講義、2009 年） ・藤岡康宏・磯村保・浦川道太郎・松本恒雄「民法Ⅳ－債権各論[第３版補訂]」(有斐閣Ｓシリーズ、2009 年) ・内田貴「民法Ⅱ[第２版]債権各論」(東大出版会、2007 年) ・窪田充見「不法行為法―民法を学ぶ」(有斐閣、2007 年)		
教材（その他）	民法判例百選Ⅱ債権［第６版］ に参考文献として指示されている資料。		
評価方法	個別報告（50%）・レポート（50%）		
到達目標	不法行為法の制度・目的、または基本概念について判例に基づいて説明することができる。また、紛争当事者の立場から、具体的問題について議論することができる。		
準備学習	参考文献欄に示した基本書を十分に読み込み、問題の所在とその実際的な解決法をあらかじめ考えてくること		

受講者への要望

個別判例を素材にして、双方向的に検討を進めることとするので、授業で検討を予定している判例については、テキスト等に基づき、予習を十分しておいてほしい。

講義の順序とポイント

1　景観利益
2　意見ないし論評の表明と名誉毀損
3　過失の意義
4　因果関係の立証
5　未成年者と監督義務者の責任
6　暴力団組長の使用者責任
7　共同不法行為の要件
8　共同不法行為と使用者責任の競合と求償
9　年少女子の逸失利益と家事労働分の加算
１０　名誉毀損と慰謝料
１１　過失相殺の要件
１２　過失相殺と身体的特徴の斟酌
１３　慰謝料請求権の相続性
１４　民法 724 条後段の除斥期間の起算点
１５　差止請求

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J74115001
科目名	【院】法情報処理	単位数	2
科目名（英語表記）	Law Information Processing		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	法学部以外学部の出身者が、法学の修士論文を作成するに際し必要となるスキルの習得を目指す。 具体的には、法律の基礎知識を確認するとともに論文の構成や引用方法を身につける必要がある。まず、法律の仕組みを学び、関連する法律を探し出し、法律を読む練習を重ねる。次に、裁判の仕組み及び判例の構造を学ぶ。 　論文の執筆に必要な力は、実際に小論文を作成し、推敲するという実践を経なければ身につくものではない。半年間の講義の中で２回レポート（小論文）を実際に執筆し、その添削を受け、それを推敲するという作業を 繰り返す。そのような実践と並行して、学術論文の構造を理解し、学術論文を探し、読み解く作業を行う。 レポートのテーマについては、受講生の関心のあるテーマを尊重しながら、担当者と受講生とが相談の上、決定する。		
教材（テキスト）	初回の授業で指示する。		
教材（参考文献）	法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣） その他は初回の授業で紹介する。		
教材（その他）	適宜レジュメや資料を配布する。		
評価方法	平常点（課題・出席状況など）２０％ レポート（２つ）８０％		
到達目標	必要な法律分野の資料を収集し、論理的な文章構成について理解し、資料に基づく法学分野のレポートを作成するための方法を理解できるようになる。		
準備学習	各講義の最後に指示する次の講義のための準備学習に取り組むこと。		

受講者への要望

十分な予習復習、小論文執筆のための時間の確保すること。
大学院生としての自覚。

講義の順序とポイント

以下は取り上げる内容の順番の目安である。受講生の人数及び学習歴に応じて変更がありうる。

1　オリエンテーション
2　論文の構成・図書館ガイダンス
3　法律の読み方
4　裁判制度
5　レポートの推敲
6　判例の探し方・読み方①
7　判例の読み方②
8　報告１
9　報告２
１０　報告３
１１　論文の読み方①・引用方法
１２　論文の読み方②
１３　レポートの推敲①
１４　レポートの推敲②
１５　総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J74116001
科目名	【院】租税争訟法	単位数	2
科目名（英語表記）	Taxes Lawsuit Law		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	租税争訟法について、重要な論点を中心に理解を深める。併せて租税処罰法についても触れる。 授業は、基礎的な事項についての講義を行った後、重要判例等について演習形式で行い、受講生からの報告に基づき、議論･検討をする中で、論点を整理し理解を深める。 また、事例演習においては、租税争訟法に関連する事案はもとより、近年の重要租税事件も併せて判例研究を行う。更に、税目横断的な事例に基づき実践的なケーススタディを行う予定		
教材（テキスト）	金子宏『租税法(第 20 版)』(弘文堂)		
教材（参考文献）	別冊ジュリスト『租税判例百選(第 5 版)』その他は講義中に指示する。		
教材（その他）	講義内容に沿ったレジュメを毎回配布する予定		
評価方法	報告内容 30%、レポート 30%及び平常点 40%(出席状況等による) 具体的な評価基準は、初回の講義時に説明する。		
到達目標	租税争訟法及び租税処罰法の重要な論点について理解すること。		
準備学習	租税実体法(法人税、所得税等)の基礎的な理解を深めておくこと。		

受講者への要望

租税実体法及び租税手続法についての基礎的な知識があること。行政法の履修が望ましい。
税法が記載された六法、法規集を持参する。またはｗｅｂ上から税法条文をダウンロードして持参してもよい。

講義の順序とポイント

1. 導入　租税争訟法総説
2. 租税不服申立　租税不服申立総説
3. 租税不服申立　異議申立
4. 租税不服申立　審査請求
5. 租税訴訟　租税訴訟総説
6. 租税訴訟　租税訴訟各論 1
7. 租税訴訟　租税訴訟各論 2
8. 租税処罰法　租税処罰法概論
9. 事例演習（重要租税事件の検討）
10. 事例演習（実戦的ケーススタディ）
11. 事例演習（実戦的ケーススタディ）
12. 相続の概要及び相続・事業承継の考え方
13. 相続税の仕組みと計算
14. 贈与税、財産評価
15. 事業承継の考え方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74172A01
科目名	【院】商事法演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Commercial Law Seminar A		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	修士論文を完成させる能力を身につけるため、会社法関係を中心とした文献の講読や近時の判例の検討を行う。おおむね会社法 A の範囲を取り扱う。		
教材（テキスト）	特に指定しない。必要に応じ、判例・文献などを指示する。		
教材（参考文献）	江頭憲治郎『株式会社法　第 5 版』（有斐閣、2014 年）。		
教材（その他）	必要に応じて指示する。		
評価方法	報告内容・議論への参加度合による平常点（70%）。レポート（30%）。		
到達目標	修士論文を完成させるために必要な知識、能力を身につける。		
準備学習	授業中に、関連する文献や判例を指定するので、次回までに読了し検討しておくこと。		

受講者への要望

関係する文献を十分消化すること。

講義の順序とポイント

1．イントロダクション
2．名義書換
3．株主平等の原則
4．株式譲渡
5．譲渡制限株式
6．略式質
7．自己株式
8．第三者に対する新株の有利発行
9．不公正発行価額
10.第三者割当増資による企業買収
11.防衛策としての第三者割当増資
12.著しく不公正な方法による第三者割当増資
13.新株発行無効事由
14.新株予約権発行の差止め
15.社債権者

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J74172B01
科目名	【院】商事法演習 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Commercial Law Seminar B		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	修士論文を完成させる能力を身につけるため、会社法関係を中心とした文献の講読や近時の判例の検討を行う。おおむね会社法 B の範囲を取り扱う。		
教材（テキスト）	特に指定しない。必要に応じ、判例・文献などを指示する。		
教材（参考文献）	江頭憲治郎『株式会社法　第 5 版』（有斐閣、2014 年）。		
教材（その他）	必要に応じて指示する。		
評価方法	報告内容・議論への参加度合による平常点（70%）。レポート（30%）。		
到達目標	修士論文を完成させるために必要な知識、能力を身につける。		
準備学習	授業中に、関連する文献や判例を指定するので、次回までに読了し検討しておくこと。		

受講者への要望

関係する文献を十分消化すること。

講義の順序とポイント

1．イントロダクション
2．株主総会に関する諸問題
3．経営判断の原則
4．競業取引
5．利益相反取引
6．取締役の会社に対する責任
7．取締役の第三者に対する責任
8．責任追及の訴え（株主代表訴訟）
9．監査役・会計監査人
10.委員会設置会社
11.持分会社に関する諸問題
12.合併
13.会社分割
14.事業譲渡
15.企業買収

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75007B01
科目名	【院】コミュニケーション社会学特論 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Sociology of Communi cation B		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要な理論を紹介し、これを適用しながら現代社会の理解に努める。 「コミュニケーション社会学特論 B」では、儀礼論、自我論、大衆社会論、メディア論を渉猟しながら、広く現代社会のコミュニケーション状況を考える。「コミュニケーション」は特にさいきんになってよく使われるようになった言葉で、新聞記事を検索してカウントしてもはっきり 1990 年代に急増している。それだけ注目されてもいるが、同時に「コミュニケーション」をめぐる真偽の不確かな紋切型も増えた。この講義では、社会学の諸理論をふまえ、現代社会のコミュニケーション状況をどのように考えればよいかを探る。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を使用する。		
評価方法	発言、発表等、授業での貢献度（50%）とレポート（50%）。		
到達目標	現代社会のコミュニケーション状況を分析できるようになること。できれば、自らの研究対象を講義で解説した諸理論を使って分析すること。		
準備学習	講義と並行して、自分の研究テーマを明確にする作業を進めること。		
受講者への要望			
講義形式の授業ではあるが、受講生には毎回意見を求める。積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 儀礼 3. 相互行為儀礼 4. ポライトネス 5. 集まりの構造(1) 6. 集まりの構造(2) 7. 大衆社会 8. 中間集団 9. 大衆文化 10. 都市と郊外 11. 自我論 12. ネットとケータイ 13. ソーシャルメディア 14. 流言 15. 全体の復習と総合的な議論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75012A01
科目名	【院】ジェンダー社会学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar in Sociology of Gender A		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	ジェンダーが人間の社会経験を理解する上で不可欠な変数であると認識されはじめて４０年余り。ジェンダー社会学の対象は女性だけでなく、男性の問題、そしてセクシュアリティと幅広い。現在のジェンダー社会学では、様々な社会問題を理解するにはジェンダー抜きでは不可能であるが、またジェンダーだけでも不十分だという認識がなされている。ジェンダーという概念をめぐる系譜をたどりながら、コアとなる先行研究を読み、複合的に女性と男性の経験をとらえる視点をさぐり、独自の研究課題を追求する。		
教材（テキスト）	最初の授業で文献リスト配布し、使用する資料と範囲を指定する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席など）40%,期末レポート 60%		
到達目標	ジェンダー概念の基礎的理解と先行研究の把握		
準備学習	指定文献と資料を読んでくる		
受講者への要望			
先行研究には英語文献を含むので、英語の読解力が求められる			
講義の順序とポイント			
講義の順序とポイント 1, イントロダクション 2, 研究計画書とスケジュールについて 3.ジェンダー社会学の系譜 4. ジェンダー社会学の基礎文献購読 5.〜13.　ジェンダー社会学の基礎文献購読 14. ジェンダー社会学の文献の注釈目録（annotated bibliography）の作成 15, ジェンダー社会学の基礎の概観			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J75012B01
科目名	【院】ジェンダー社会学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar in Sociology of Gender B		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	ジェンダーが人間の社会経験を理解する上で不可欠な変数であると認識されはじめて４０年余り。ジェンダー社会学の対象は女性だけでなく、男性の問題、そしてセクシュアリティと幅広い。現在のジェンダー社会学では、様々な社会問題を理解するにはジェンダー抜きでは不可能であるが、またジェンダーだけでも不十分だという認識がなされている。ジェンダーという概念をめぐる系譜をたどりながら、コアとなる先行研究を読み、複合的に女性と男性の経験をとらえる視点をさぐり、独自の研究課題を追求する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席など）40%,期末レポート 60%		
到達目標	ジェンダー概念の基礎理解と先行研究の把握を行い、修士論文と関連づける		
準備学習	指定資料を読んでくる		
受講者への要望			
各自の研究の先行研究を把握すること			
講義の順序とポイント			
1, イントロダクション 2, ～3. ジェンダー社会学文献リストより注釈目録のフィードバック 4.～13, 各自研究の先行研究の文献購読 14.～15　ジェンダー社会学の概観と調査計画書について			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J75012C01
科目名	【院】ジェンダー社会学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar in Sociology of Gender C		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	ジェンダーが人間の社会経験を理解する上で不可欠な変数であると認識されはじめて４０年余り。ジェンダー社会学の対象は女性だけでなく、男性の問題、そしてセクシュアリティと幅広い。現在のジェンダー社会学では、様々な社会問題を理解するにはジェンダー抜きでは不可能であるが、またジェンダーだけでも不十分だという認識がなされている。ジェンダーという概念をめぐる系譜をたどりながら、コアとなる先行研究を読み、複合的に女性と男性の経験をとらえる視点をさぐり、独自の研究課題を追求する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席など）40%,期末レポート 60%		
到達目標	ジェンダー概念の基礎理解と先行研究の把握を行い、修士論文と関連づける		
準備学習	指定資料を読んでくる		
受講者への要望			
指定された演習予習をしてくること			
講義の順序とポイント			
1, イントロダクション 2, ～3. 各研究の方法論について 4.～13, 各自研究のリサーチ進捗状況の報告とフィードバック 14.～15 、各自研究の構成と執筆について			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J75012D01
科目名	【院】ジェンダー社会学研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar in Sociology of Gender D		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	ジェンダーが人間の社会経験を理解する上で不可欠な変数であると認識されはじめて４０年余り。ジェンダー社会学の対象は女性だけでなく、男性の問題、そしてセクシュアリティと幅広い。現在のジェンダー社会学では、様々な社会問題を理解するにはジェンダー抜きでは不可能であるが、またジェンダーだけでも不十分だという認識がなされている。ジェンダーという概念をめぐる系譜をたどりながら、コアとなる先行研究を読み、複合的に女性と男性の経験をとらえる視点をさぐり、独自の研究課題を追求する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席など）40%,期末レポート 60%		
到達目標	ジェンダー概念の基礎理解と先行研究の把握を行い、修士論文と関連づける		
準備学習	指定された演習予習をしてくること		
受講者への要望			
各自の研究の先行研究を把握すること			
講義の順序とポイント			
1, イントロダクション 2, ～3. 各研究のリサーチ進捗状況の報告 4.～13, 論文執筆の報告とフィードバック 14.～15 、論文サマリー報告とフィードバック			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J75015B01
科目名	【院】ジェンダー社会学特論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Sociology of Gender B		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	社会学ではマイノリティを統計的概念ではなく政治的概念として扱ってきた。女性はマイノリティ集団の一つだが、2 つあるいは 3 つ以上のマイノリティ集団に属する複合的マイノリティは少なくない。彼／彼女たちの経験を理解するにはジェンダーだけでは不十分であり、エスニシティ、セクシュアリティ、階級など他の「差異」を分析に含める必要がある。では「差異」をどのようとらえればいいのだろうか、本講義ではジェンダーに加えて、エスニシティ、セクシュアリティ、階級、宗教など他の社会的カテゴリーを関係的に考察する。期末レポートは、ジェンダーと他の社会的カテゴリーを交錯させた複眼的アプローチで各自のテーマに取り組む。		
教材（テキスト）	『よくわかるジェンダー・スタディーズ』ミネルヴァ書房 2013(図書館所蔵) 適宜配布あるいは指定，文献購読は日本語だけでなく英語教材を含む		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席や発表など）40%、 期末レポート 70%		
到達目標	複合的マイノリティとは何かの基礎的理解		
準備学習	指定資料は読んでくること		
受講者への要望			
常識にとらわれない想像力を期待します			
講義の順序とポイント			
1, イントロダクション 2.〜7. ジェンダー社会学基礎 8.〜12. さまざまな複合的マイノリティ 13.〜15. 複合差別とトラウマ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J75024A01
科目名	【院】ジャーナリズム研究演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Journalism A		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	【院】ジャーナリズム研究演習Ⅰ
講義概要	演習では高度情報化社会とマス・メディア、情報消費者の相互関係を考察する過程において、ジャーナリズムが抱える課題を浮き彫りにする。つまり、演習の核心は「批判性」である。実際的には、受講生のテーマ研究が中心になるが、まず第１に研究テーマの設定、第２にそのテーマに関する実態把握のための情報収集、第３に関連文献の蒐集と読解、第４にメディアなどの現場取材、第５に総合把握と問題点の集約、第６に研究発表（プレゼンテーション）、最後の第７が修士論文の作成である。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムーー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	研究テーマに関連する新聞各紙やテレビニュース映像、さらに雑誌や書籍の関連資料を配布します。		
評価方法	授業内レポート５０％、各自が設定したテーマ研究のプレゼンテーション３０％、平常点（授業への参加度合い）２０％。		
到達目標	少人数の課題追求型学習であることは当然だが、修士論文作成を目的とする院生のために、その専門研究とあわせてその周辺研究も課する。つまり、狭い領域の研究にこだわっていると普遍性という点で研究の意味が減退するためで、そのような指導を通じて院生の専門研究が修士号レベルに達するまで高めることに全力を挙げる。それと併せて、その研究が将来の就職に反映されるよう現実的な配慮もする。		
準備学習	ジャーナリズム研究はいわば実証学でもあるので、テレビや新聞、雑誌などで研究テーマがどのように報じられているのか、事前に検証しておいてほしいと思います。また、毎回の研究授業を円滑に進めるために、前回の授業でしてきされた予習を確実に行うことと、授業終了時には復習用の課題を出すので、それを次回の授業時に必ず提出してもらいます。		

受講者への要望

マス・メディアが対象とする社会事象は、政治、経済、社会、国際、文化分野など、高度情報化社会を反映して多岐にわたっている。それだけに、修士論文にまとめるための「研究テーマ」の設定は重要で、出来るだけ具体的な文献研究やリサーチ、フィールドワークが可能な主題を選択することが望まれる。もちろん、独創的かつ客観性のあるジャーナリズム批判は大歓迎である。

講義の順序とポイント

１　大学院における研究計画とそのスケジュール
２　研究テーマ設定に関する討議
３　研究テーマ設定に対する評価と指導
４　方法論決定に関する協議
５　方法論策定のための資料選択
６　具体的な研究計画の決定
７　研究計画の具体化としての文献・調査対象の選定
８　研究結果報告と指導
９　研究結果報告と指導
１０　研究結果報告と指導
１１　研究・調査結果の報告と指導
１２　文献目録の作成
１３　経過発表と討論
１４　研究領域に関する研究書の講読

１５　研究全体を総括して討議

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J75024B01
科目名	【院】ジャーナリズム研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Journalism B		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	【院】ジャーナリズム研究演習Ⅱ
講義概要	演習では高度情報化社会とマス・メディア、情報消費者の相互関係を考察する過程において、ジャーナリズムが抱える課題を浮き彫りにする。つまり、演習の核心は「批判性」である。実際的には、受講生のテーマ研究が中心になるが、まず第１に研究テーマの設定、第２にそのテーマに関する実態把握のための情報収集、第３に関連文献の蒐集と読解、第４にメディアなどの現場取材、第５に総合把握と問題点の集約、第６に研究発表（プレゼンテーション）、最後の第７が修士論文の作成である。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムーー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	演習に対する取り組み姿勢やレポート 50%、各自が設定したテーマ研究のプレゼンテーション３０％、平常点（授業への参加の度合い）２０％。		
到達目標	研究論文を修士号レベルに高めるのは当然であるが、それと同時に、その研究成果を将来の進路、つまり就職に結びつけることが最終的な目標である。		
準備学習	ジャーナリズム研究はテレビや新聞、雑誌など様々なメディア研究を抜きにしては語れず、その意味に於いて幅広い情報収集が求められる。このジャンルは幅が広いため、できるだけ早く研究テーマを絞っておくことが肝要と思われる。		

受講者への要望

マス・メディアが対象とする社会事象は、政治、経済、社会、国際、文化分野など、高度情報化社会を反映して多岐にわたっている。それだけに、修士論文にまとめるための「研究テーマ」の設定は重要で、出来るだけ具体的な文献研究やリサーチ、フィールドワークが可能な主題を選択することが望まれる。もちろん、独創的かつ客観性のあるジャーナリズム批判は大歓迎である。

講義の順序とポイント

1　研究論文の進行状況発表
2　調査結果報告
3　資料蒐集（新聞・文献）
4　資料検索と蒐集（ウェッブ）
5　研究と論文作成の方法について
6　研究の中間発表と討議
7　研究の中間発表と討議
8　研究課題に関する実際的検証
9　既存（類似・参考）論文の蒐集結果の発表
１０　専門研究書の輪読
１１　各種データの蒐集と整理（客観化）
１２　各種データの蒐集と整理（客観化）
１３　研究結果の報告とそれに対する指導
１４　研究結果の報告とそれに対する指導
１５　演習全体を総括して最終討議

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J75032B01
科目名	【院】ジャーナリズム特論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Journalism B		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	今日の高度情報化社会において、新聞やテレビによる報道、さらにインターネット上を玉石混交の様々な情報が流れているが、それらを「賢い情報人」としていかに正確に、そして批判的に読み解くかが問われている。そうしないと、人々は本当に必要な情報とは何かを特定できないまま、圧倒的なメディアの力による情報洪水に流されてしまうことになりかねない。この授業ではそのような観点から、教科書によってジャーナリズムの根幹を学ぶとともに、日々発生している様々な社会事象について、共に考え検証していく。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズム』（福永勝也著、ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	新聞各紙や各局のテレビニュースのビデオ、さらに専門雑誌や書籍の関連資料を配布します。		
評価方法	講義途中や終了時におけるレポート（70%）、小テスト（１０%）、さらに授業参加の度合い（２０%）などを総合して判断する。		
到達目標	少人数の課題追求型学習によってメディアに取り上げられる様々な社会事象を正確に分析し、客観化された見解の醸成を目標とする。今日の高度情報化社会を左右している各種メディアの現況やメカニズムの理解、その上に立ってニュースを正確に分析することによって社会事象に対する客観的認識を深める。		
準備学習	教科書を中心に授業を行うので、以下に記したように予習と復習をきちんとすることが大事です。教科書や事前に配布した資料をよく読んでおくこと、さらにテレビ報道など日々のニュースに対する感度を上げておくこととも大事です。また、授業終了時に復習用の課題を出しますので、それを次回の授業時に提出してもらいます。 1　「 ジャーナリズム概説入門」については事前に教科書の「はしがき」をよく読んで予習をしておいてください。 2　「日本の新聞、テレビ、インターネット概況」については、事前配布した各種資料に目を通して理解を深めておくこと。 3　「戦国時代を迎えた米国のメディア状況」については、教科書の第 1 章と第 2 章の全体に目を通しておいてください。 4　「世界に影響を与える巨大メディア複合企業の出現」については第 2 章の 21 ページ～27 ページ、38 ページ以降を読んで予習しておくこと。 5　「新旧メディアの葛藤と協調を含めた現状と課題」については事前配布の資料で予習しておいてください。 6　「マルチメディア時代にジャーナリズムは社会的使命を果たせるか」については教科書の「はしがき」と 27 ページ～38 ページを予習しておくこと。 7　「IT 革命と新情報時代の到来によって様変わりする「情報人」については、教科書の第 1 章全体を読んでおいてください。 8　「新旧メディア企業による M&A（合併・吸収）戦争」について j は、教科書の「仁義なきメディア・ウォーズ」を読んで理解を深めておいてください。 9　「各種メディアにおけるメディア産業論」については、事前配布の資料を読んで参考にしておいてください。 10　「新聞はオールドメディアで消えゆく運命か」については、教科書の「ネット時代に新聞の未来はあるか」の項を予習しておくこと。 11　「圧倒的影響力を誇るテレビメディの功罪」については、教科書の第 3 章、4 章を読んでおくこと。 12　「ジャーナリズムとポピュリズムの問題」については、教科書の第 5 章「ポピュリズムに翻弄されるメディア」を予習しておくこと。 13　「政治によるジャーナリズムへの圧力や密接な関係」については、教科書の第 6 章（129 ページ～153 ページ）をよく読んで理解しておいてください。 14　「コマーシャリズムによってジャーナリズムは衰退するのか」については、教科書の第 2 章 2 項、5 項、そして第 7 章をよく読んでおいてください。 15　「ジャーナリズムとアカデミズムの相克と協調」については、教科書の第 12 章「ジャーナリズムとアカデミズム」をよく予習しておいてください。		

受講者への要望
出来るだけ最新のニュースについて、学生とともに分析しながらリテラシー能力を高めたいと思っているが、大学院である限り、やはりジャーナリズムのアカデミックな原理（原論）を学ぶ必要があると思います。そのために、ジャーナリズムをより深く考察するために教科書利用は欠かせません。教科書必携です。
講義の順序とポイント
1　ジャーナリズム概説入門 2　日本の新聞、テレビ、インターネット概況 3　戦国時代を迎えた米国のメディア状況 4　世界に影響を与える巨大メディア複合企業の出現 5　新旧メディアの葛藤と協調を含めた現状と課題 6　マルチメディア時代にジャーナリズムは社会的使命を果たせるか 7　IT 革命と新情報時代の到来によって様変わりする「情報人」 8　新旧メディア企業による M&A（合併・吸収）戦争 9　各種メディアにおけるメディア産業論 10　新聞はオールドメディアで消えゆく運命か 11　圧倒的影響力を誇るテレビメディの功罪 12　ジャーナリズムとポピュリズムの問題 13　政治によるジャーナリズムへの圧力や密接な関係 14　コマーシャリズムによってジャーナリズムは衰退するのか 15　ジャーナリズムとアカデミズムの相克と協調

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J75037B01
科目名	【院】マルチメディア特論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Multi-Media Society B		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	人間を拡張すると同時に人間を社会的に枠づける役割を果たす「メディア（media）」に関しての基礎的な文献購読を基に、メディアと社会の関係を歴史的に省察し、今日のメディアと社会の関係について考えていく。		
教材（テキスト）	授業内に相談の上、指示。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	総合的に評価。		
到達目標	メディアと社会を自分の視点で考える。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む。

講義の順序とポイント

基礎文献購読／個人発表。

01　オリエンテーション
02　文献講読 01
03　文献講読 02
04　文献講読 03
05　文献講読 04
06　文献講読 05
07　文献講読 06
08　文献講読 07
09　文献講読 08
10　文献講読 09
11　文献講読 10
12　文献講読 11
13　文献講読 12
14　個人発表 01
15　個人発表 02

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75045001
科目名	【院】学校臨床心理学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Clinical School Psyc hology		
担当者名	畑中　千紘	旧科目名称	
講義概要	スクールカウンセリング等に必要な知識を学ぶ。 思春期の心性、発達障害、いじめなど、学校現場で生じやすい問題、保護者の問題などを事例を通して学んでいく。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への積極的参加、自分で学ぼうとする姿勢		
到達目標	学校現場で生じやすい問題について、知識と理解、対応のあり方についての考えを深める。		
準備学習	学校現場で生じる問題について、自分なりに文献を読んでください。		
受講者への要望			
日ごろから、学校現場で生じている問題に意識を向け、どのように考えたらよいのかなど、自分の今までの経験や、理論もあわせて考えるようにして下さい。			
講義の順序とポイント			
1.学校という場所について 2.思春期の心性 3.子どもとの関係 4.発達障害など 5.現代に特有の問題について 6.保護者との関係 7.教員との関係 8.摂食障害など 9.事例から学ぶ 10.事例から学ぶ 11.事例から学ぶ 12.事例から学ぶ 13.事例から学ぶ 14.事例検討（各自の興味あるテーマから発表） 15.事例検討（各自の興味あるテーマから発表）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75051B01
科目名	【院】広告広報特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Advertising and Publ ic Relations B		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	社会における言説の作用としての広告広報とその表現について、消費社会論、記号学、モダン・デザイン史、メディア・リテラシーなどの視点から、文献講読、歴史研究、事例・作品分析にもとづき考察する。		
教材（テキスト）	受講生の関心などもふまえ、講義中に指示する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜紹介する。		
教材（その他）	同上		
評価方法	平常点（40%）：授業での発表 試験：期末レポート（６０%）		
到達目標	消費社会における記号の作用としての広告広報について、記号やメディアのメカニズムの視点から分析できるようにする。また、19 世紀後半からの消費社会形成の動きやモダン・デザイン成立の歴史において、企業やデザイン産業、クリエイター、そしてこれらと消費者との相互作用によってそのようなメカニズムがどのように開発され、普及していったかを俯瞰する。		
準備学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		
受講者への要望			
広告や広報は、どのような個人や組織も自らの活動への支持を形成し、その成就を果たすために不可欠な発想や行動である。どんな進路を考える者も幅広い視野でこのテーマをとらえ、参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
＜講義予定＞ 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：テキスト講読・発表（1） 第 3 回：テキスト講読・発表（2） 第 4 回：テキスト講読・発表（3） 第 5 回：テキスト講読・発表（4） 第 6 回：テキスト講読・発表（5） 第 7 回：テキスト講読・発表（6） 第 8 回：テキスト講読・発表（7） 第 9 回：テキスト講読・発表（8） 第 10 回：テキスト講読・発表（9） 第 11 回：テキスト講読・発表（10） 第 12 回：テキスト講読・発表（11） 第 13 回：テキスト講読・発表（12） 第 14 回：テキスト講読・発表（13） 第 15 回：ふりかえり			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J75058001
科目名	【院】実験心理学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Experimental Psychol ogy		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の記憶，注意，思考などの認知機能に関するトピックについて，行動指標を用いた実験的方法による研究を中心に,学習を行う。 このような分野の研究論文の購読を中心として授業を進め，心理学論文の読解力を養成するとともに，そこで検討されている心理学的知見や，実験心理学的手法による心理学研究の進め方，論文の書き方について検討する。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	授業中に紹介する		
教材（その他）			
評価方法	授業での討論への参加状況等の平常点(50%)，および発表(50%)によって評価する。		
到達目標	心理学論文の読解力を身につける。 実験心理学的な研究手法についての理解を深める。		
準備学習	毎回の授業教材となる文献について，事前に目を通して授業に参加すること。		
受講者への要望			
自発的，積極的な討論への参加を期待します。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション 2. 人間の記憶システム(1) 3. 人間の記憶システム(2) 4. 人間の記憶システム(3) 5. 人間の記憶システム(4) 6. 注意の機能と構造(1) 7. 注意の機能と構造(2) 8. 注意の機能と構造(3) 9. 注意とワーキングメモリ(1) 10. 注意とワーキングメモリ(2) 11. 注意とワーキングメモリ(3) 12. 発達障害に関する認知心理学的研究(1) 13. 発達障害に関する認知心理学的研究(2) 14. 発達障害に関する認知心理学的研究(3) 15. 発達障害に関する認知心理学的研究(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75059A01
科目名	【院】社会学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar in Sociology A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	【院】社会学研究演習 I
講義概要	「社会学研究演習」A・B・C・D を通じて、社会学の諸理論を研究し、それを基にして修士論文を執筆する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業時に指示する。		
教材（その他）	関係資料を配付する。		
評価方法	研究発表とレポート・論文に依る。		
到達目標	修士論文を執筆する。		
準備学習	授業終了時に次回の授業の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、授業の初めに、前回の授業内容に関する復習・確認をおこなうので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
積極的に研究に取り組むことを望む。			
講義の順序とポイント			
1 -10, 文献研究 11-15, レポート・論文執筆			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75059B01
科目名	【院】社会学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar in Sociology B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	【院】社会学研究演習Ⅱ
講義概要	「社会学研究演習」Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄを通じて、社会学の諸理論を研究し、それを基にして修士論文を執筆する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	研究発表とレポート・論文に依る。		
到達目標	修士論文を執筆する。		
準備学習	個人的にも社会学の文献の研究を進めておく。		
受講者への要望			
積極的に研究に取り組むことを望む。			
講義の順序とポイント			
1－10，文献研究 11-15，レポート・論文執筆			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75068A01
科目名	【院】社会心理学特論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Social Psychology A		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	【院】社会心理学特論Ⅰ
講義概要	集合知および、群の行動、集団の意思決定についての理解を深める。 集団と群集行動の研究は、社会心理学の中では古いテーマとなるが、近年のインターネット技術の発展に伴い、昆虫などに見られる群の知性（集合知）が注目を浴びている。このテーマは社会心理だけでなく複数の領域に関連するため、各領域における基本概念について、参考文献から知識を得たのち、最近の関連文献に基づいた近年の研究の展開について検討する。英語文献についても時間があれば購読する予定。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	群はなぜ同じ方向を目指すのか？　群知能と意思決定の科学 レン・フィッシャー著　白楊社		
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%）と、発表(30%)と最終レポート(30%)により評価する。		
到達目標	文献を読みこなして論考する力を養う。		
準備学習	指示された文献をあらかじめ読んでおいてください。		
受講者への要望			
授業を中断させてもかまいませんので、積極的に疑問点や思いついたことを述べてください。			
講義の順序とポイント			
1. 集団過程概論 2. 集合現象概論 3. 昆虫の群知能 4. 自己組織化 5. 渋滞学 6. 群集の心理 7. 集団の意思決定 8. 投票制度 9. ネットワーク 10. ネットワーク2 11. インターネット 12. インターネット2 13. 集合知 14. リーダーシップ 15. 世論変動			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75077001
科目名	【院】心身医学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychosomatic Medici ne		
担当者名	岸本　寛史	旧科目名称	
講義概要	心理療法の基本(治療構造論・病態水準論・見立て)などを踏まえた上で、心身症･がんを中心とする身体疾患患者への心理療法的なアプローチの実際について学ぶ。具体的な事例も示す。 また、心理療法的接近に際しては、治療につながるアセスメントの方法にも習熟していることが必要であり、バウムテスト、MSSM を例に論じる。各論として、疼痛と夢について、科学的基礎を踏まえた上で心理療法の可能性について示す。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	Koch バウムテスト第 3 版　誠信書房 山中康裕・岸本寛史　コッホのバウムテスト第三版を読む　創元社 岸本寛史　癌と心理療法　誠信書房 岸本寛史　緩和のこころ　誠信書房 斎藤清二・岸本寛史　ナラティブ・ベイスト・メディスンの実践　金剛出版		
教材（その他）			
評価方法	平常点（３０％）出席状況等による。授業中に課すプリント問題により評価（７０％）する		
到達目標	心身症・身体疾患を持つ患者への心理療法の実際の事例を通して知る バウムテスト、MSSM、絵画などをとおして、心身症への多角的なアプローチを学ぶ 夢や疼痛などの科学的な基礎を踏まえて心理療法的アプローチについて考察を深める		
準備学習	参考文献の『癌と心理療法』の中の事例をどれでもいいのでひとつ読んでおいてください		
受講者への要望			
事例を示しますので、積極的に意見を述べてください。			
講義の順序とポイント			
1　治療構造論 2　病態水準論 3　見立てと診断 4　心理療法の実際１　摂食障害の事例 5　心理良能の実際２　癌患者への心理援助 6　バウムテストの基本 7　心身症患者のバウムテスト 8　MSSM（相互スクリブル物語作成法） 9　絵画療法１　がん患者 10　絵画療法２　白血病・肺がん･てんかんなど 11 疼痛の多面性 12 疼痛への心理療法的アプローチ 13 夢の科学的基礎 14 夢分析の事例（心身症） 15 夢分析の事例（がん）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75078A01
科目名	【院】心理学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Psychology A		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	本演習では，各自の興味や将来の進路に合わせて，人間の認知活動に関する内外の文献や資料を収集し，レジュメを作成して発表し，解明すべき問題などについて討論を行う。また，授業時間外に実験を実施し，得られたデータを分析して発表する。そのような文献研究および実験の実施によって修士論文を作成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%）は出席状況等による。研究発表（50%）		
到達目標	人間の認知と情動を深く理解できる能力を身につけさせる。		
準備学習	レジュメの作成		

受講者への要望

いつでも研究発表できるよう準備しておくこと。

講義の順序とポイント

1－①研究テーマを設定する。
2－②研究テーマを設定する。
3－③研究テーマを設定する。
4－①修士論文作成計画を立てる。
5－②修士論文作成計画を立てる。
6－③修士論文作成計画を立てる。
7. ①修士論文作成計画に基づいて修士論文の指導計画を立てる。
8. ②修士論文作成計画に基づいて修士論文の指導計画を立てる。
9. ③修士論文作成計画に基づいて修士論文の指導計画を立てる。
10. ①研究テーマに関する内外の文献収集を行い発表する。
11. ②研究テーマに関する内外の文献収集を行い発表する。
12. ③研究テーマに関する内外の文献収集を行い発表する。
13. 解明すべき問題点を明らかにする。
14. 実験計画に沿って，予備調査あるいは予備実験を行う。
15. 調査データあるいは実験データを分析し，発表する。

－－－－－－－－－－－－－－－

●修士論文作成のための指導計画

1. 1回生の春学期に文献検索等をしながら修士論文のテーマを設定し，予備調査あるいは予備実験を行う。
2. 1回生の秋学期に修士論文のテーマに関する引用・参考文献一覧を作成しながら，本調査（実験）を行う。
3. さらに，本調査（実験）の結果と考察を作成し，第3調査あるいは第3実験を行う。
4. 2回生では，全調査（実験）の結果と考察を作成し，序論と方法を作成して，修士論文を完成させる。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75078A02
科目名	【院】心理学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Psychology A		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学における発展的課題に各自で取り組む。将来のために、少しずつ英語の文献を輪読し、CMC を用いたサイト構築の実習を行う予定。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要な教材は適宜授業中に配布する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%)と、Google Apps 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Google Apps にアップする。		
到達目標	実験計画的な思考と複雑系システムである人間社会を理解する視点を備えることが目的となる。		
準備学習	学部時代の研究結果および、指示された文献を発表の日までに読んでレジュメを作成しておくこと		

受講者への要望

簡単なところからでよいので、英語と IT 関連技術にリテラシーを持っておいてください

講義の順序とポイント

1. 卒業論文報告 1
2. 卒業論文報告 2
3. 卒業論文報告 3
4. 研究テーマディスカッション 1
5. 研究テーマディスカッション 2
6. 研究テーマディスカッション 3
7. 文献探索 1
8. 文献探索 2
9. 文献探索 3
10. 文献報告 1
11. 文献報告 2
12. 文献報告 3
13. ディスカッション 1
14. ディスカッション 2
15. 夏休みの課題決定

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75078B01
科目名	【院】心理学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Psychology B		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	本演習では，各自の興味や将来の進路に合わせて，人間の認知活動に関する内外の文献や資料を収集し，レジュメを作成して発表し，解明すべき問題などについて討論を行う。また，授業時間外に実験を実施し，得られたデータを分析して発表する。そのような文献研究および実験の実施によって修士論文を作成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%）は出席状況等による。研究発表（50%）		
到達目標	人間の認知と情動を深く理解できる能力を身につけさせる。		
準備学習	レジュメの作成		

受講者への要望

いつでも研究発表できるよう準備しておくこと。

講義の順序とポイント

1. 研究テーマを設定し，修士論文作成計画を提出させる。
2. 修士論文作成計画に基づいて修士論文の指導計画を立てる。
3. 設定されたテーマに関する内外の文献収集を行う。
4. 収集した文献のレジュメを作成して発表し，解明すべき問題点を明らかにする。
5. 研究テーマを再調整する。
6. 実験計画を立て，授業時間外に実験を実施する。
7. 実験データを分析し，発表する。
8. 研究レポートを作成する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75078B02
科目名	【院】心理学研究演習 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Psychology B		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学における発展的課題に各自で取り組む。将来のために、少しずつ英語の文献を輪読し、データ解析、アクセス解析の実習をおこなう予定。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要な教材は適宜授業中に配布する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%)と、Google Apps 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Google Apps にアップする。		
到達目標	将来に向けて必要なスキルと思考力を備えること		
準備学習	実験に必要なスキルは、授業中にも指導しますが、できるだけ自己学習も継続させてください。		
受講者への要望			
簡単なところからでよいので、英語と IT 関連技術にリテラシーを持っておいてください			
講義の順序とポイント			
1. 研究報告 1　心理学専門演習 I・II でまとめたレポートの発表 2. 研究報告 2 3. 研究報告 3 4. 研究報告 4 5. 研究報告 5 6. 分析 1　データ分析指導 7. 分析 2 8. 分析 3 9. 分析 4 10. 分析 5 11.　研究結果ディスカッション　1 12.　研究結果ディスカッション　2 13.　研究結果ディスカッション　3 14.　研究結果ディスカッション　4 15.　春休みの課題決定			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75086101
科目名	【院】心理学研究法特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychology Research Method B		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	心理学研究のデザインについて，実験法や調査法等のデータ収集方法，独立変数と従属変数の設定，因果関係の検証可能性，などの視点から整理する。また，そうした研究を進めるために必要な，各種の統計手法を学習する。 受講者各自のこれまでに行ってきた研究や現在進めている研究（学部卒業研究や修士研究など），興味を持っている研究などを可能な限り具体例として取り上げながら，実際の研究場面でのデザイン設定のポイント，適切な統計分析手法の選択と，データ解析結果の解釈の仕方，などを検討する。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）	題材とする心理学論文は受講者と相談の上で授業の中で指定する。		
評価方法	授業への出席および討論への参加状況等の平常点(50%)，および発表(50%)によって評価する。		
到達目標	心理学の研究計画を立てるために必要な基本事項を修得する。 量的研究を行うための，統計的方法の基礎を修得する。 どのような研究計画にどのような統計方法が適切なのかを判断できるようになる。		
準備学習	実際の研究論文を題材として授業を進めるので，各回の授業の材料となる論文に目を通してから授業に出席すること。さらに，発表担当の学生は十分な発表の準備をして授業に望むこと。		

受講者への要望

各自がこれまでに行った研究や現在興味をもっている先行研究などの具体例を積極的に提供し，主体的に学習を行うことを希望する。
統計学の初歩的な内容について理解していることを前提として授業を進める。学部段階で統計学の学習をしていない者は，この授業と平行して統計学の入門的な内容を自習をすること。

講義の順序とポイント

1. 心理学研究法にかかわる基本的事項の整理
2. 研究例による，研究計画と統計的手法の選択の視点整理(1)
3. 研究例による，研究計画と統計的手法の選択の視点整理(2)
4. 推測統計の原理と必要性
5. 検定力と，サンプルサイズの決定
6. 実験研究と相関研究
7. 実験操作を用いた研究デザインとその分析方法
8. 相関研究とその分析方法
9. カテゴリカルデータの分析方法
10. 測定の信頼性と妥当性
11. 信頼区間の利用
12. 研究例による統計分析の実際(1)
13. 研究例による統計分析の実際(2)
14. 研究例による統計分析の実際(3)
15. 研究例による統計分析の実際(4)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75087A01
科目名	【院】心理療法特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychotherapy A		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	【院】心理療法特論Ⅰ
講義概要	システム論的家族療法に関して、まず担当者のスタンスや経験、家族療法の基礎的事項について紹介し、次には実習と文献購読を行ないたい。実習では家族合同面接の実施、家族の特徴の見立てに関するものを多く取り入れたい。 家族療法は、とくに児童臨床の場合、子どもと子どもが育つ場の育成を考えるときに有用な視点であり方法である。またシステム論的家族療法の視点は、家族員間だけでなくセラピストとクライエントの関係等のシステムにも目を配らせてくれるので、他の療法を行なう場合にも役に立ち、さらに家族だけでなく、その上位システム（様々な社会的集団等）を扱う場合にも力を貸してくれるので、コミュニティ・アプローチの際にも有用である。		
教材（テキスト）	川畑　隆著「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント」2009 明石書店…初回の授業で割引販売するので事前購入する必要はない。		
教材（参考文献）	川畑隆編著「子ども・家族支援に役立つアセスメントの技とコツ～よりよい臨床のための４つの視点、８つの流儀」2015 明石書店 宮井研治編著「子ども・家族支援に役立つ面接の技とコツ～＜仕掛ける・さぐる・引き出す・支える・紡ぐ＞児童福祉臨床」2012 明石書店 団士郎著「対人援助職のための家族理解入門～家族の構造理論を活かす」2013 中央法規出版 亀口憲治編著「心理療法プリマーズ 家族療法」2006 ミネルヴァ書房 中釜洋子著「家族のための心理援助」2008 金剛出版 その他については、授業で随時紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	家族とのジョイニング（親しくなるための働きかけ）や、一定の家族アセスメントを可能とする家族合同初回面接を初級レベルで行なえるようになること。		
準備学習	教科書や紹介する参考書を読み込む。		
受講者への要望			
実際の臨床場面に役立つ内容なので、より熱心に取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
１．　担当者と家族療法 ２．　家族療法の基礎① ３．　同　② ４．　文献講読① ５．　同　② ６．　同　③ ７．　同　④ ８．　同　⑤ ９．　同　⑥ １０．　面接実習① １１．　同　② １２．　同　③ １３．　同　④ １４．　同　⑤ １５．　同　⑥ （上記の内容や順序については変更があり得る）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75087B01
科目名	【院】心理療法特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychotherapy B		
担当者名	根本　眞弓	旧科目名称	
講義概要	心理療法やプレイセラピーの基礎理論となるフロイトの精神分析、パーソナリティ理解に役立つ早期乳幼児期の情緒発達理論（ウィニコット、マーラー、スターンなど)、精神病理の理解を深める対象関係論（クライン、ビオンなど）について、事例を通して実践的に学び、理論と実践の融合を図る。		
教材（テキスト）	対象関係論を学ぶ　松木邦裕著　岩崎学術出版 保育に生かす心理臨床　馬場禮子・青木紀久代編　ミネルヴァ書房 私説対象関係論的心理療法入門　松木邦裕　金剛出版		
教材（参考文献）	図説　臨床精神分析学　前田重治　誠信書房 集中講義・精神分析（上・下）　藤山直樹　岩崎学術出版 精神分析的人格理論の基礎　馬場禮子　岩崎学術出版		
教材（その他）	乳幼児の心の発達に関するビデオ、パワーポイントを使用する。		
評価方法	平常点（出席状況及び受講態度など)・文献まとめ・発表・ディスカッションへの参加度（70%)、レポートの評価(30%)		
到達目標	パーソナリティ構造や精神病理への理解を深めるとともに、実践的臨床感覚を身につける。		
準備学習	課題①　「保育に生かす心理臨床」馬場禮子・青木紀久代編　ミネルヴァ書房ｐ１－５４（1章①～⑤まで）を、分 担してレジュメを作成すること。各章Ａ４、１枚程度。(2)～(4)の授業で発表する。 課題②　防衛機制について、各自２つずつ調べレジュメにまとめること。Ａ４、１枚程度。 課題③　フロイトの事例：アンナ・O、ハンス、ねずみ男、狼男、シュレーバーの中から１つを選び、レジュメにまと める。各自Ａ４，１枚程度。 課題④　「対象関係論を学ぶ」松木邦裕著　岩崎学術出版の、第Ⅰ部、１～６を分担してレジュメを作成すること。 各項A4、1枚程度。 課題⑤　「私説対象関係論的心理療法入門」松木邦裕　金剛出版　Ｐ８９～ｐ１４８を分担してレジュメを作成す ること。各章Ｂ４　１枚程度。(11)～(13)の授業で発表する。		
受講者への要望			
主体的に学ぶ姿勢をもって出席し、自分の考えや感じたことをできるだけ言語化するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1，導入・精神分析とは 2，乳幼児のこころ（愛着の発達・関わりの発達） 3，乳幼児のこころ（身体と心の結びつき・分離－個体化の発達） 4，乳幼児のこころ（自我と自己の初期発達－ウィニコット・スターン） 5，まとめと振り返り 6，フロイトの精神分析理論（構造論・防衛機制） 7，フロイトの代表事例（アンナ・0、ハンス、ねずみ男、狼男、シュレーバー） 8，対象関係論（内的世界） 9，対象関係論（妄想分裂ポジション・抑うつポジション） 10，まとめと振り返り 11，対象関係論的心理療法の実際（耳の傾け方・口のはさみ方） 12，対象関係論的心理療法の実際（分析空間でのできごと・解釈という関わり） 13，対象関係論的心理療法の実際（解釈の伝え方） 14，対象関係論的心理療法の実際（事例から学ぶ） 15，全体のまとめと振り返り			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75087C01
科目名	【院】心理療法特論Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychotherapy C		
担当者名	片山　知子	旧科目名称	
講義概要	心理療法特論 C では、遊戯療法についての講義と実習を行う。遊戯療法は、心理療法全般に通じる様々なエッセンスを含んでいる。そこで遊戯療法を理論的な側面だけではなく、体験実習、事例解釈の 3 つの側面からの講義を行う。実習で体験してから、理論や事例を理解できるように授業を行う。遊戯療法を知らない人には実習によって関係の中で何かをつくりだす体験を、経験者には自分や遊戯療法の理解を深めてほしい。		
教材（テキスト）	授業でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示、紹介する。		
教材（その他）	スライドや写真など、教材は準備、指示する。		
評価方法	平常点（４０％）は、出席状況及び授業態度による。レポート（３０％）。授業中の積極的参加（３０％）		
到達目標	遊戯療法の理論に加え、体験実習や事例検討のディスカッションによって、遊戯療法に必要な基礎知識を習得する。		
準備学習	自分で１つ遊戯療法の事例を選び、コピーし、最初の授業に持参して下さい。		

受講者への要望

ディスカッションや実習へ積極的に参加してください。また実習での体験を大切にし、それをもとに、事例研究の検討に望んで下さい。授業中は自分の意見や疑問を自由に発言する事が望ましい。

講義の順序とポイント

1. 講義１　オリエンテーション・遊戯療法の基礎
2. 講義２　様々な子供たちとの遊戯療法（情緒障害・発達障害・被虐待児童など）
3. 講義３　大人にも可能な遊戯療法：箱庭療法
4. 実習１　箱庭療法の実習と理論１
5. 実習２　箱庭療法の実習と理論２
6. 実習３　コラージュの実習と理論
7. 実習４　スクイグルの実習と理論
8. 実習５　グループで一つのものを作る体験
9. 実習６　実習のまとめ
10. 事例検討１　事例研究におけるグループディスカッション１
11. 事例検討２　事例研究におけるグループディスカッション２
12. 事例検討３　事例研究におけるグループディスカッション３
13. 事例検討４　事例研究におけるグループディスカッション４
14. 事例検討５　事例研究におけるグループディスカッション５
15. 講義４　総括

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75094001
科目名	【院】人間文化基礎特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Introduction to Humanities and Social Sciences		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	人文学と社会科学を交差させることによって、歴史、文化、社会システム、心の相互関連を理解し、受講生各自の研究テーマをその中に位置づける複眼的視野の形成を狙う。心理・社会情報・文化を専門とする教員より各分野の基礎概念と方法論を学びながら、各自の研究テーマを深化させる。各担当教員よりそれぞれのレポート課題を課す予定。なお、心理学分野・川畑の講義では、５回とも映像を材料に、受講者とそれぞれのテーマについて人間・文化と関連させ話し合う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	教材は授業時間中に指示する		
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%）、授業での課題・発表、レポート（50%） なお、レポートは３分野それぞれについて提出。		
到達目標	１．受講生の研究テーマ・問題関心を、幅広い視野から位置づけなおす。 ２．修士論文執筆に必要な方法的基礎を知る。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。 やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
講義の順序とポイント			
第１回　障害をどうとらえるか（川畑） 第２回　犯罪と犯罪者（川畑） 第３回　社会的ひきこもりとは何か（川畑） 第４回　貧困がもたらすもの（川畑） 第５回　高齢者の視線（川畑） 第６回　コミュニケーションとは何か？（君塚） 第７回　コミュニケーションとメディア（君塚） 第８回　コミュニケーションと社会――社会が「現実」をつくる（君塚） 第９回　社会と研究――研究者の立ち位置（君塚） 第 10 回　コミュニケーションと調査・研究――まとめ・ふりかえり（君塚） 第 11 回　人間・文化そして場所（佐々木） 第 12 回　民俗文化と大衆文化の場所（佐々木） 第 13 回　身体・記憶・景観（佐々木） 第 14 回　景観への審美観の変遷（佐々木） 第 15 回　世界が求める日本的一元論の世界（佐々木）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75097B01
科目名	【院】政治社会学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Political Sociology B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	2015 年は第二次世界大戦が終結してから 70 年目の年であるが、今なお「戦後」という言葉が使われている。第二次世界大戦後の日本社会について、あらためて考えてみる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	白井聡『永続敗戦論』 孫崎享『戦後史の正体』		
教材（その他）			
評価方法	発表とレポートによる。		
到達目標	第二次大戦後の日本社会の特質について理解する。		
準備学習	授業終了時に次回の授業で読む範囲を指示するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、授業の初めに、前回の授業内容に関する復習・確認をおこなうので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
積極的に取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1，イントロダクション 2，ポスト３・１１の経験 3，「戦後」の終わり 4，永続敗戦 5，領土問題の本質 6，アメリカの影 7，何が勝利したのか 8，中間総括 9，「終戦」から占領へ 10，冷戦の始まり 11，講和条約と日米安保条約 12，保守合同と安保改定 13，自民党と経済成長の時代 14，冷戦終結と米国の変容 15，９・１１とイラク戦争後の世界			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75102001
科目名	【院】精神医学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychiatric Medicine		
担当者名	佐々木　徹	旧科目名称	
講義概要	今日、クリニックを訪れるクライアントは多彩であり、彼らの訴えや問題とするところもまた多岐にわたる。その中で個々の訴えや症状に目を奪われることなく彼らの状態像を正しく見極め、適切に評価してゆくことが心理臨床にも期待されるだろう。さらには、医学的検査・治療が必要となる状況や可能性に対しても常に目が開かれていなければならない。そのためには個々のケースに際し、評価や判断の前提となる医学的知見もまた必要とされるであろう。 本講義はクリニックにおける心理臨床を円滑に行ってゆくためにも、精神医学の基本的な理解に基づいて個々のケースが一層多面的に捉えられるよう進められる。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリント等を配布する。		
評価方法	ディスカッションならびにプレゼンテーション（60%）。　レポート（40%）。		
到達目標	疾病や障害についての理解を深め、そこにおいて得られた知見を心理臨床の現場へとつなげる。 また、適宜実習やボディワークを行い、より実践的なスキルを身につける。		
準備学習	前回の講義を振り返り、まとめて把握しておくこと。		
受講者への要望			
心理臨床の個々のケースを念頭において、講義がより実践的に活用されるよう期待する。			
講義の順序とポイント			
01.　こころとはなにか 02.　日常生活の中に見出されるこころとからだ 03.　こころとからだの関係 04.　こころとからだの失調状態としての疾病 05.　「全体」と「部分」という視点 06.　いのちの諸相Ⅰ（動物的ということ） 07.　いのちの諸相Ⅱ（植物的ということ） 08.　精神 mind と心情 soul 09.　からだについてⅠ（病理的次元） 10.　からだについてⅡ（文化社会的表現） 11.　からだについてⅢ（間身体的あり方） 12.　行為と環境 13.　生態学的観点 14.　からだへのアプローチの方法についてⅠ 15.　からだへのアプローチの方法についてⅡ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75115A01
科目名	【院】都市文化史特論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in History of Urban Cul ture A		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	都市そのものが既知のものであるとは見なさない。例えば都市伝説というようなコトバに使われている「都市」は、これまでの都市論の範疇からは大きく外れている。1988 年に敢えて世間話という学術用語を捨てて都市伝説という用語を世に問うた民俗学者大月隆寛はこう述べている。 「フォークロアを見つめる眼にとって最も近い距離で問題になってくるのは、限られた地理的空間としての都市でもなく、具体的な人間関係の複合体としての都市でもなく、まして記号の集積としての都市でもない。都市として設定される大きさそのものを何らかのことばによって(中略)操作可能なものとしてあらかじめ囲い込もうとするところから始めるのではなく、そのような『とほうもないもの』がそれぞれの生きている場にとってどのような効果を与えるものかについて考えるための補助線として、僕たちの民俗学は初めて『都市』を設定し得るはずだ。」(『消えるヒッチハイカー』解説) 必要に応じて民俗学、文化人類学などの成果も活用しながら文化史の立場から都市を見渡していく。		
教材（テキスト）	Ikumi Kaminishi "Explaining Pictures ; Buddhist Propaganda and Etoki Storytelling in Japan" University of Hawai'i Press, ISBN 978-0-8248-2697-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（50%）レポート（50%）		
到達目標	自立的な研究活動を行うための方法を学んでいく。		
準備学習	時には英語文献などの読解も行うので、あらかじめ訳しておくこと。		
受講者への要望			
方法を理解し、自らの課題解決に応用できるようにしてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
(1)イントロダクション (2)英文による文献読解～（8) (9)文化的背景を学ぶ～(15)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75124A01
科目名	【院】日本言語文化研究演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Language A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	【院】日本言語文化研究演習Ⅰ
講義概要	研究テーマとして個々人が考えている内容を発表してもらい、その中で、中心に論ずるべき事柄を絞っていく。論文の作成は、その論題が確定した時点でひとつの山を越えたことになる。学修者は「何を研究したらよいのか」「何をどのように調べればよいのか」について十分に時間をとって考える。テーマが確定後は、先行研究について綿密な調査を行い、積極的な資料の収集を行った上で、中間発表に臨む。以後、修士論文へ繋げていく。		
教材（テキスト）	授業中に指示する。		
教材（参考文献）	個々の院生に対し、その研究テーマに則した参考書を紹介する。		
教材（その他）	国語学・日本語学上、重要な論文を輪読する。		
評価方法	授業中の発表（５０点）と期末レポート（５０点）とで総合的に評価する。		
到達目標	個々の院生が研究テーマを見つけ、それを修士論文に結実できる態勢を整える。		
準備学習	卒業論文の推敲。		

受講者への要望

院生としての自覚を持った、主体的な態度で授業に臨んで欲しい。

講義の順序とポイント

1　半年間の授業の概要説明
2　卒業論文の要約発表
3　卒業論文の要約発表
4　卒業論文の要約発表
5　各自の研究項目に関する発表
6　発表
7　発表
8　発表
9　合評会
10　発表
11　発表
12　発表
13　発表
14　発表
15　発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75124B01
科目名	【院】日本言語文化研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Language B		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	【院】日本言語文化研究演習Ⅰ
講義概要	研究テーマとして個々人が考えている内容を発表してもらい、その中で、中心に論ずるべき事柄を絞っていく。論文の作成は、その論題が確定した時点でひとつの山を越えたことになる。学修者は「何を研究したらよいのか」「何をどのように調べればよいのか」について十分に時間をとって考える。テーマが確定後は、先行研究について綿密な調査を行い、積極的な資料の収集を行った上で、中間発表に臨む。以後、修士論文へ繋げていく。		
教材（テキスト）	授業中に指示する。		
教材（参考文献）	個々の院生に対し、その研究テーマに則した参考書を紹介する。		
教材（その他）	国語学・日本語学上、重要な論文を輪読する。		
評価方法	授業中の発表（５０点）と期末レポート（５０点）とで総合的に評価する。		
到達目標	個々の院生が研究テーマを見つけ、それを修士論文に結実できる態勢を整える。		
準備学習	卒業論文の推敲。		

受講者への要望

院生としての自覚を持った、主体的な態度で授業に臨んで欲しい。

講義の順序とポイント

1　半年間の授業の概要説明
2　卒業論文の要約発表
3　卒業論文の要約発表
4　卒業論文の要約発表
5　各自の研究項目に関する発表
6　発表
7　発表
8　発表
9　合評会
10　発表
11　発表
12　発表
13　発表
14　発表
15　発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75131B01
科目名	【院】日本言語文化特論Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Japanese Language B		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	中世の日本語資料を読む。 大学院の場合、各院生ごとに研究テーマは決まっているが、求められる研究姿勢は同じである。中世の日本語資料をたたき台にして、研究に必要な能力を養っていく。取り扱う時代が中世であっても、その前後の時代、また現代の事象も常々念頭に置いておかねばならない。該博な知識が得られるような授業にしたいと思っている。		
教材（テキスト）	『土佐日記』　変体仮名を読む。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	予習の度合い等、ならびに出席状況等の平常点のみ。		
到達目標	原書に親しむ習慣をつける。		
準備学習	変体仮名の読み方を練習すること。		
受講者への要望			
しっかりと予習をしてほしい。			
講義の順序とポイント			
1　中世資料の概要 2　中世資料の購読 3　同上 4　同上 5　同上 6　同上 7　同上 8　同上 9　同上 １０　同上 １１　同上 １２　同上 １３　同上 １４　同上 １５　同上			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75134A01
科目名	【院】日本古典文学研究演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Classic Lit erature A		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	江戸後期の上田秋成の読本『春雨物語』を題材とする。 雨月物語の姉妹編であるが、江戸時代に刊行されることはなかった。 怪奇小説として高い評価を得ている。 各自のテーマにそって問題点を採り上げ、自分で調べてきて、時間中に報告してもらう。		
教材（テキスト）	春雨物語・書初機嫌海（新潮社）		
教材（参考文献）	その都度適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点１０％　レポート９０％		
到達目標	江戸時代の様々の風俗、歴史や先行文学作品の影響 など、調べる方法を身に付けること		
準備学習	春雨物語の現代語訳を読んでおくと良い		
受講者への要望			
授業中、積極的に発言すること 受講生の要望やレベルに沿った内容にしたいと考えている。			
講義の順序とポイント			
１　春雨物語の概説 ２　発表　血かたびら（取り上げる話は授業中に相談） ３　同じ ４　同じ ５　発表　　一つ目の神 ６　同じ ７　同じ ８　発表　宮木が塚 ９　同じ １０　同じ １１　先行作品との比較 １２　関係論文 １３　諸本の話 １４　雨月物語との比較 １５　現在の研究の課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J75134A02
科目名	【院】日本古典文学研究演習 A 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Classic Lit erature A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	日本の仏教文学を読む		
教材（テキスト）	プリントを用意する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の発表内容で評価する。		
到達目標	日本の古代仏教文学を、東アジア仏教圏における他文化と比較し その相違点と共通点を指摘できること。		
準備学習	仏教説話を読み、その内容を把握するとともに 仏教的見地からのコメントを用意してくること。		
受講者への要望			
修士論文の作成につながるよう、計画的に履修すること。 そのためには受講者と教員が相談し、授業計画や方法を 柔軟に考えてゆく。			
講義の順序とポイント			
第一回　講義の進め方 第二回～第一五回　受講者の発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75134C01
科目名	【院】日本古典文学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	江戸時代の文学、および文学史の分野のなかで、 次のジャンルのいずれかを受講生と相談の上取りあげ論じていく。 国学、漢学、浮世草子、読本、人情本、滑稽本、和歌、和歌史、 古典注釈(上代文学・中古文学に関わるもの)。		
教材（テキスト）	受講生と相談して選択する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点１０％、発表とレポート９０％		
到達目標	授業に積極的に関わること 受講生の要望やレベルに沿った内容にしたいと考えている。		
準備学習	取りあげることになった作品、作家などについて、 基本的な知識は自分で勉強すること		
受講者への要望			
問題点を採り上げ、自分で調べてきて、時間中に報告してもらう。 講義の内容については、受講生の興味に合わせて臨機応変に対応していく			
講義の順序とポイント			
１　取りあげる作品や作家の選定 ２　予備基本知識 ３　先行研究の調査 ４　先行研究の読解 ５　作品の読み進め ６　問題点の視点の種類を考える ７～１２　読み進めながら、問題点を考える １３　問題点の調査の方法 １４　発表 １５　まとめと展望を考える（試験対策）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J75139B01
科目名	【院】日本古典文学研究演習Ｂ【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Classic Lit erature B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	受講生各自のテーマに沿った内容を取りあげることとする		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	その都度必要に応じて紹介する		
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点１０％　授業中の発表とレポート９０％		
到達目標	修士論文を執筆する科学的態度、 資料の正しい読解と客観的処理 などが身に付くこと		
準備学習	各自のテーマに即した先行研究に目を通しておくこと		
受講者への要望			
自分で自分のテーマに沿って研究を進めつつ、 教員や院生同士を相手に、発表してみて まわりの意見を採り入れること			
講義の順序とポイント			
１～５　各自の先行研究を自分でどういう意味があると考えているか紹介する ６～８　各自の研究の小さい部分を発表する ９，１０　教員のアドバイスを受けつつ各自で章立てを考える １１～１５　執筆した部分を発表し討論しつつ、論文を修正していく			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J75139B02
科目名	【院】日本古典文学研究演習Ｂ【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Classic Lit erature B		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	日本の仏教文学を読む		
教材（テキスト）	プリントを用意する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の発表内容で評価する。		
到達目標	日本の古代仏教文学を、東アジア仏教圏における他文化と比較し その相違点と共通点を指摘できるようにすること。		
準備学習	仏教説話を読み、その内容を把握するとともに 仏教的見地からのコメントを用意すること。		
受講者への要望			
修士論文の作成につながるよう、計画的に履修すること。 そのためには、受講者と教員が相談し、授業計画や方法を 柔軟に考えてゆく。			
講義の順序とポイント			
第一回　今期の授業の進め方と目標設定 第二回～第一五回　受講者の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★★	★★		★

年度	2015	授業コード	J75139D01
科目名	【院】日本古典文学研究演習Ｄ【町家】 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	本居宣長著『紫文要領』を読む。 本居宣長が２８歳の時に書いたこの本は、源氏物語の総論であり、 源氏物語の核心として有名な宣長の「もののあはれ論」が展開されている。		
教材（テキスト）	新潮日本古典集成『本居宣長集』　新潮社　２６００円		
教材（参考文献）	本居宣長全集（筑摩書房） 『仁斎・徂徠・宣長』（吉川幸次郎著・岩波書店）		
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点とレポート		
到達目標	江戸時代における源氏物語受容を理解する。思想史の中で「もののあわれ」論を考察する。		
準備学習	源氏物語のあらすじを知っておくこと		
受講者への要望			
源氏物語について基礎知識を自習してください。			
講義の順序とポイント			
１，本居宣長の生い立ちと京都遊学 ２，本居宣長の学問の変遷 ３，源氏物語の研究史 ４，源氏物語の研究史 ５，近世の源氏物語受容 ６～１４，『紫文要領』 １５，本居宣長の研究			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J75151B01
科目名	【院】日本古典文学特論Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Japanese classic lit erature B		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	源氏物語の思想		
教材（テキスト）	プリントを用意する。		
教材（参考文献）	授業時に提示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末レポートで評価する。		
到達目標	『源氏物語』の内容を知り、その思想について、特に東アジア文化のなかで考える。		
準備学習	『源氏物語』のあらすじを学習しておくこと。		

受講者への要望

しばしば質問するので、積極的に発言してほしい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方
2　桐壷１
3　桐壷２
4　帚木１
5　帚木２
6　空蝉１
7　空蝉２
8　夕顔１
9　夕顔２
10　若紫１
11　若紫２
12　若紫３
13　末摘花
14　紅葉賀
15　花宴

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J75157C01
科目名	【院】日本古典文学特論Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Japanese classic lit erature C		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	江戸時代の国学者、本居宣長の学問を検証していく 今回は『古事記伝』を取りあげてみる予定。 受講生の要望に合わせ内容の変更も可能である。		
教材（テキスト）	『古事記伝』（本居宣長全集）をコピーして用いる		
教材（参考文献）	『古事記』小学館刊　新日本古典文学全集		
教材（その他）			
評価方法	レポートによる		
到達目標	『古事記伝』を読むことを通じて、日本語をより深く理解すること。 文献を、その時代の人が読んだように読み解くことを知ること。 受容史を考えること。明治維新に到る歴史や思想的背景を知り、現代の日本社会を考えること。		
準備学習	口語訳でよいので、『古事記』を読んでおくこと		
受講者への要望			
きちんと出席し、受け身の受講だけでなく 積極的に担当をしてください			
講義の順序とポイント			
1 江戸時代の国学史 ２　国学の風潮のおこり ３　本居宣長と『古事記伝』 ４～１４　『古事記伝』を参照しつつ、『古事記』を読む １５　本居宣長記念館（三重県松阪市）を見学する（日時未定）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★		★	★

年度	2015	授業コード	J75166A01
科目名	【院】日本歴史文化特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Japanese Culture His tory A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	本講義では、受講者の発表により、最先端の歴史学の論文を読み解いていきます。論文を批判的に読み解きながら、最先端の学問成果を学び、自らの修士論文作成の刺激としてください。		
教材（テキスト）	論文のコピーをその都度、配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点　　50%　授業への取り組み方 レポート　50%　レポート内容については、講義内で指示します。		
到達目標	・論文を批判的に読み解けるようになること ・最新の歴史学の動向を押さえること		
準備学習	毎回一本の論文を読んでいきます。担当となった受講者は、論文の要約を行った上で、論文に対する疑問点や、史学史上の位置付けなどを発表してもらいます。		
受講者への要望			
一本の論文の背後には、連々とした研究史の流れがあり、膨大な史料の正確な読解の蓄積が存在しています。つまり一本の論文を正確に読み取るには、何十本もの文献を読み解き、史料を正確に読み解く力が必要になります。担当者は論文の注にあがっている文献は全て読むくらいの熱意で発表に取り組んでみて下さい。			
講義の順序とポイント			
1　　ガイダンス 2～15　担当論文の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J75166B01
科目名	【院】日本歴史文化特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Japanese Culture His tory B		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	主要な論文を選んで報告・討論を行う。論文を批判的に読み解きながら、最先端の研究成果を学び、自らの論文作成の基礎とする。報告担当者はレジュメを配布したうえで、３０分程度の報告を行い、以後、全員で討論を行う。他の出席者も発表者と同様、論文の内容要約と批評を行ったノートを提出すること。授業ではまずノートのとりかたや、レジュメの作成の仕方をチェックする。次いで論旨を的確に把握しているか、論旨の判りにくい箇所はどこか、その原因はなにか、等を考えながら、その論文の意義を考える。		
教材（テキスト）	とりあげる論文については、コピーまたは PDF ファイルを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	報告や討論など平常の授業での貢献度（50%）、レポート（50%）		
到達目標	・論文を批判的に読み解いて、最新の歴史学の動向を理解すること。 ・適切なレジュメの作成と報告（プレゼン）の仕方を身につける。		
準備学習	・報告担当者は当該論文の他に関係論文を１本以上読んだ上で、当該論文の論旨を的確にまとめ、論文の長所と問題点・疑問点を指摘したレジュメを全員に配付する。 ・授業の参加者は全員ノートをとりながら論文を読んでくること。授業の最初に、当該論文の要旨および論文の長所と疑問点を記したノートのコピー１部を提出する。		

受講者への要望

・十分な準備が必要であるのはもちろんであるが、授業では積極的な発言が求められる。分からないこと、疑問に思ったこと、それがすべての始まりである。
・レポートの内容については、講義内で指示する。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　担当論文の発表と討論
3　担当論文の発表と討論
4　担当論文の発表と討論
5　担当論文の発表と討論
6　担当論文の発表と討論
7　担当論文の発表と討論
8　担当論文の発表と討論
9　担当論文の発表と討論
10　担当論文の発表と討論
11　担当論文の発表と討論
12　担当論文の発表と討論
13　担当論文の発表と討論
14　担当論文の発表と討論
15　担当論文の発表と討論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75174B01
科目名	【院】認知心理学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Congnitive Psycholog y B		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	人間の脳は外界をどのように認知し，心は外界の情報をどのように処理するのかに関して，ある程度深く論述する。そして、一般的に言われている脳と心を活性化させる様々な方法の有効性を検討する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%）は出席状況等による。発表 50%。		
到達目標	人間の認知機能と心の働きを深く理解できるようになる。		
準備学習	授業のテキスト（レジュメ）を京学なびの「授業資料」に，授業の１週間前までにアップロードするので，プリントアウトして，必ず事前に読んで理解しておくこと。 復習の課題は，京学なびの「課題提出」に提示するので，指定期日までに京学なびの「課題提出」に提出すること。		

受講者への要望

脳と心の働きについて実践的に学びたい大学院生の受講を望みます。

講義の順序とポイント

1.人間は外界をどのように認知するか
①視覚認知
②聴覚認知
③その他の認知機能
2.脳の構造と機能
④脳の構造
⑤大脳半球機能差
⑥脳機能を高める運動
⑦脳機能を高める食生活
⑧短期記憶と長期記憶の増進法
⑨脳の性差
3.心とは何か
⑩どのようにして心が生み出されるか
⑪脳の神経伝達物質
⑫脳からストレスを撃退する方法
⑬脳の働きを高める，感じる脳の鍛え方
⑭脳に悪い習慣
⑮人間として如何に生きるか

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75184A01
科目名	【院】発達心理学特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Developmental Psycho logy A		
担当者名	柴田　長生	旧科目名称	
講義概要	発達的な存在である子どもを「心理学的にアセスメントする」ということは、単に発達テストを実施し、結果を数値化するといった単線的なことではない。その際に重要なのが、「子どもを診る側」の発達的観点の多面性とその質であり、いかに個別の子どもの実際像に接近できるかという臨床的なセンスである。本講義では「発達診断」という臨床行為を通して見えてくる、様々な子どもを捉える際の「発達的視点」について、多面的・多義的に考察を深めたい。		
教材（テキスト）	特に使用しない。資料をその都度配付する。		
教材（参考文献）	麻生武・浜田寿美男編「よくわかる臨床発達心理学（第４版）」（ミネルヴァ書房）、嶋津峯眞監修「新版Ｋ式発達検査法」（ナカニシヤ出版）。各論に関する参考文献は、その都度講義中に紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	出席状況および受講への積極性（50%）、終了時のレポート（50%）		
到達目標	１　子どものアセスメントを通して、子どもを理解する際の「発達的視点」の重要性を学ぶ ２　子どものアセスメントを、「からだ」「こころ」「社会」の３つの観点から、多義的に行うことの重要性を学ぶ ３　アセスメントにおいて、発達的視点をどのように援用するのかについて、事例や研究成果から学ぶ ４　発達理論と、日々の臨床との接点について考える		
準備学習	何らかの発達理論に関心を持ち、体系的に事前学習しておくことが望ましい。また発達をアセスメントするということの具体的理解として、「新版Ｋ式発達検査」に関するある程度の習熟が望まれる。		
受講者への要望			
講師がこれまでの児童臨床で扱った事例と、心理臨床専門職の立場で行った臨床発達心理学的研究を中心に講義を進めます。配付する資料の中にはケースに関するものも含みますので、それらから真摯に学び、資料の取り扱いには十分留意してください。			
講義の順序とポイント			
１　序論　子どもの心理アセスメントにおける発達的視点の重要性 ２　乳幼児の発達を診る１　ＶＴＲセッション ３　乳幼児の発達を診る２　ＶＴＲセッション ４　発達を支える重要なな基盤としての身体・運動の発達的評価１ ５　発達を支える重要なな基盤としての身体・運動の発達的評価２ ６　乳幼児健康診査では何を見るべきか１ ７　乳幼児健康診査では何を見るべきか２ ８　新版Ｋ式発達検査を通して見えるもの ９　発達診断の事例検討１ １０　発達診断の事例検討２ １１　子どもの社会生活能力を評価する１ １２　子どもの社会生活能力を評価する２ １３　障がい児の発達を評価する　自閉症の場合１ １４　障がい児の発達を評価する　自閉症の場合２ １５　まとめ　発達診断における発達的視点の重要性　臨床発達心理学へのかけ橋			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75196A01
科目名	【院】文化人類学特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Cultural Geography A		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	人類学的なセンスを持つために、あるいは修士論文を作成するために、必要な文献をよむ。論文は、日本語のものの他、英語、中国語のものも取り上げる予定。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点		
到達目標	必要な論文を探しだし、読解する能力を身につける。		
準備学習	必ず予習すること。		
受講者への要望			
,			
講義の順序とポイント			
1 取り上げる論文を選択する。 2～15　論文を輪読する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75199A01
科目名	【院】文化地理研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Cultural Geography A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	文化地理学では、あるゆる文化は、土地に根ざしていると考えている。しがたって、文化地理学の研究テーマは、簡単にいえば、人と土地そして文化との相互関係を探ることだと考えてよい。文化地理学には、そのような関係を分析する、様々な方法論や考え方がある。まずはそういった点を基本的な文献を解読することで学ぶ。		
教材（テキスト）	演習生と相談の上決定		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	受講生のレジュメ		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）発表（６０％）論文の提出（２０％）		
到達目標	文化地理学の基礎的文献を理解することを目標とする。		
準備学習	出来るだけ多くの学術論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
自身のテーマと文化地理学の関係を念頭に置くこと。			
講義の順序とポイント			
講義の順序とポイント １　演習生のテーマ設定と基本文献の選定 ２～１４　演習生の発表、討論 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J75199B01
科目名	【院】文化地理研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Cultural Geography B		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	文化地理学では、あるゆる文化は、土地に根ざしていると考えている。しがたって、文化地理学の研究テーマは、簡単にいえば、人と土地そして文化との相互関係を探ることだと考えてよい。文化地理学には、そのような関係を分析する、様々な方法論や考え方がある。演習ＢではＡで発表した内容と自身のフィールドワークの成果との関係を発表。		
教材（テキスト）	演習生と相談の上、決定		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	受講生のレジュメとパワーポイント		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）発表（６０％）論文の提出（２０％）		
到達目標	文化地理学の理論・方法論と自身のテーマの合致点を探り理解すること。		
準備学習	フィールドワークをしておくこと。		
受講者への要望			
自身のテーマと文化地理学の関係を説明出来るようにしておくこと。			
講義の順序とポイント			
１　演習生のテーマ設定とフィールドの報告 ２～１４　演習生の発表、討論 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J75199C01
科目名	【院】文化地理研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Cultural Geography C		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	文化地理学は様々な人文・社会科学系の理論や方法論の成果と共に発展してきた。したがって広く人文・社会科学系にも目を配っておく必要がある。そのためには欧米で発表されている最新の成果に注目しなければならない。その上で演習生のフィールドの成果にどのように最新の成果が応用できるかを考えていく。		
教材（テキスト）	演習生と相談の上決定		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	受講生のレジュメとパワーポイント		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）発表（６０％）論文の提出（２０％）		
到達目標	文化地理学の理論・方法論を自身のテーマに応用して修士論文の基礎を構築。		
準備学習	修士論文の研究計画書と構成を作成しておくこと。		
受講者への要望			
広く人文・社会科学系の理論・方法論も視野に入れること。			
講義の順序とポイント			
１　演習生のフィールドと採用する理論・方法論の報告 ２～１４　演習生の発表、討論 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J75199D01
科目名	【院】文化地理研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Cultural Geography D		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	ここまで行ってきた研究成果のまとめに入る。演習生はそれぞれの修士論文の途中経過を発表する。１１月に開催される歴史民俗学専攻の卒業論文・修士論文の中間発表では、最終的な成果を発表してもらう。		
教材（テキスト）	演習生と相談の上決定		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	受講生のレジュメとパワーポイント		
評価方法	発表（５０％）論文の提出（５０％）		
到達目標	修士論文の作成。		
準備学習	修士論文の下書きを作成しておくこと。		
受講者への要望			
修士論文の進展状況の報告を常に求める。			
講義の順序とポイント			
１　演習生の修士論文の進捗状況の報告 ２～１４　演習生の発表、討論 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J75206B01
科目名	【院】文化地理特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Cultural Geography B		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	本講義では、民話＝民間説話に描かれる場所表現に注目する。今まで文化地理学の環境知覚研究では、様々な資料に基づいて、人々がどのように環境を知覚し、地理的行動をとってきたかを考察してきた。ところが民間説話はあまり研究対象とはなっていなかった。本講義では、特に神話・伝説に焦点を当て、従来の民俗学の研究史をも見通しながら、文化地理学的な視点から、環境知覚研究の資料としての民間説話の可能性を追求する。		
教材（テキスト）	佐々木高弘『民話の地理学』古今書院、2014 年。		
教材（参考文献）	講義中適宜紹介		
教材（その他）	配布資料等		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点４０％、レポート６０％		
到達目標	民話世界を文化地理学的に捉えること。		
準備学習	教科書を前もって熟読しておくこと。		
受講者への要望			
文献とフィールドワークに基づくレポートを提出してもらう。			
講義の順序とポイント			
１　文化地理学における環境知覚研究 ２　神話の研究史１ ３　神話の研究史２ ４　伝説の研究史１ ５　伝説の研究史２ ６　神話のフィールドワーク１ ７　神話のフィールドワーク２ ８　伝説のフィールドワーク１ ９　伝説のフィールドワーク２ １０　神話の文化地理学的研究１ １１　神話の文化地理学的研究２ １２　伝説の文化地理学的研究１ １３　伝説の文化地理学的研究２ １４　民話の文化地理学の成果１ １５　民話の文化地理学の成果２			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75212A01
科目名	【院】理論社会学特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Theoretical Sociolog y A		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	なぜ理論社会学を学ぶべきなのか。 　人間が社会的動物だからである。人間は二人以上集まれば必ず社会をつくる（一人だけのときもおそらく社会は存在するだろう）。「社会」とは、大は国際社会・国家から小は家族・友人関係まで、すべて社会であり、人間はいつでもこうした大小の社会・集団・共同体をせっせとつくり、その盛衰とともに生きていく。出生、結婚、死といった最も私的にみえることすらも実は社会的なルールや社会的な状況に大きく規定されながら行われる。19 世紀の終りごろから発展しはじめた社会学はそうした「社会」（とくに近代的な社会）というものの力の大きさを発見していった。そして、社会のなかで生起する様々な現象のなかに法則や傾向を見出しながら、隣接領域の成果も取り込んで、理論として発展してきた。 　この授業では、こうして発展してきた理論社会学を学んでいく。具体的に学ぶ内容と方法は、履修者の知識水準と修学の方針をふまえて話合いのうえで決めるが、履修者が確定していない現段階ではつぎのような内容を想定している。様々な社会にかかわる諸理論のなかでもとくに、社会のなかで人々の価値観や欲望や希望のありようが形成され変化していく社会的・心理的なダイナミクスについての諸理論に焦点をあてて学びながら、身近な社会的・人間的現象（とくに映画や漫画などのポピュラーな物語）をとりあげて、その学説・理論を応用して分析をしてみる。そのような学習と分析の作業を繰り返していくことで、諸理論と諸現象についての洞察と理解を深める。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介していく。		
教材（その他）	適宜プリントを配る。		
評価方法	授業での発表をはじめとする授業での取り組みを総合的に評価（100%）		
到達目標	社会学の諸理論を理解し分析に適切に使えるようになること。		
準備学習	授業での発表をはじめとして授業内での取り組みができるように準備する。		
受講者への要望			
受講者の学習状況や取り組んでいる課題に応じて授業の内容と方法を修正するつもりである。社会学の理論だけではなく、必要に応じて、心理学的な研究をはじめ人文系の学問の様々な理論も紹介するだろう。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　　はじめに（学習方針の決定） 第 2 、 3 回　社会学的な理論の学習、その 1 第 4 、 5 回　社会的現象の分析、その 1 第 6 、 7 回　社会学的な理論の学習、その 2 第 8 、 9 回　社会的現象の分析、その 2 第 10、11 回　社会学的な理論の学習、その 3 第 12、13、14 回　社会的現象の分析、その 3 第 15 回　　全体のふりかえり			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75218A01
科目名	【院】臨床心理学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology A		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	文献の購読、発表を通して研究テーマを縛り込み修士論文作成の準備を行う。各自の研究内容に即して、研究の目的、その研究領域における位置づけ、意義を明らかにし研究内容の幅が拡げられるように指導をする。また研究指導とともに心理臨床の実践的指導も行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	評価方法 発表、出席、討論への参加などを総合的に評価する。		
到達目標	心理臨床の基礎的な理解。修士研究の方向性を見極める。		
準備学習	次回発表の内容と関わる文献を読んで授業に望むこと。		
受講者への要望			
研究に対して積極的・能動的に取り組むこと。心理臨床に携わることに関しての自覚を持つこと。			
講義の順序とポイント			
1　文献講読・発表・討論 2　文献購読・発表・討論 3　文献講読・発表・討論 4　文献講読・発表・討論 5　文献講読・発表・討論 6　文献講読・発表・討論 7　研究発表・討論 8　研究発表・討論 9　研究発表・討論 10 研究発表・討論 11 研究発表・討論 12 研究発表・討論 13 研究発表・討論 14 研究発表・討論 １５　研究発表・討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75218A02
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology A		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込む。その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめる。こうした各自の取り組みに対して、臨床心理学のより専門的な探求を推し進められるように指導を行う。 臨床心理学研究演習Ａ・Ｂでは、修士論文の作成に向けて、各自が研究テーマを絞り込み、そのテーマに即して先行研究を展望し、発表を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（３０％）。		
到達目標	臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めるとともに、各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備や作成を行うことを目標とする。		
準備学習	各演習の最後に次の演習の課題を指定するので、準備学習をしておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　学部卒業研究の振り返り ３　学部卒業研究の振り返り ４　学部卒業研究の振り返り ５　学部卒業研究の振り返り ６　合同演習 ７　自由研究発表 ８　自由研究発表 ９　合同演習 １０　自由研究発表 １１　合同演習 １２　先行研究の総括の発表 １３　先行研究の総括の発表 １４　先行研究の総括の発表 １５　先行研究の総括の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75218A03
科目名	【院】臨床心理学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology A		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	各自の研究テーマにそくした文献講読、討議ほかを行なう。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	その都度、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自の研究テーマが十分に検討され、絞られる。		
準備学習	自らの研究テーマに関する学習を地道に行なうこと。		

受講者への要望

最初の授業で企画された内容にしたがって、各回の検討資料の準備をぬかりなくお願いしたい。

講義の順序とポイント

1.研究演習の企画及び諸研究論文の検討について
2.諸研究論文の検討（1）
3.　〃　（2）
4.　〃　（3）
5.　〃　（4）
6.　〃　（5）
7.研究演習（1）
8.　〃　（2）
9.　〃　（3）
10.　〃　（4）
11.　〃　（5）
12.　〃　（6）
13.　〃　（7）
14.　〃　（8）
15.　〃　（9）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75218B01
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology B		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	文献の購読、発表を通して研究テーマを縛り込み修士論文作成の準備を行う。各自の研究内容に即して、研究の目的、その研究領域における位置づけ、意義を明らかにし研究内容の幅が拡げられるように指導をする。また研究指導とともに心理臨床の実践的指導も行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表、出席、討論への参加などを総合的に評価する。		
到達目標	修士研究の方向性を定める。 心理臨床の実践の理解を深める。		
準備学習	次回の発表に関する文献を積極的に読んでおくこと。		
受講者への要望			
主体的・積極的に研究を広め、深めること。			
講義の順序とポイント			
1　研究発表・討論／文献紹介 2　研究発表・討論／文献紹介 3　研究発表・討論／文献紹介 4　研究発表・討論／文献紹介 5　研究発表・討論／文献紹介 6　研究発表・討論／文献紹介 7　研究発表・討論／文献紹介 8　研究発表・討論／文献紹介 9　研究発表・討論／文献紹介 10 研究発表・討論／文献紹介 11　研究発表・討論／文献紹介 12　研究発表・討論／文献紹介 13　研究発表・討論／文献紹介 14　研究発表・討論／文献紹介 15 研究発表・討論／文献紹介			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75218B02
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology B		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込む。その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめる。こうした各自の取り組みに対して、臨床心理学のより専門的な探求を推し進められるように指導を行う。 臨床心理学研究演習Ａ・Ｂでは、修士論文の作成に向けて、各自が研究テーマを絞り込み、そのテーマに即して先行研究を展望し、発表を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（３０％）。		
到達目標	臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めるとともに、各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備や作成を行うことを目標とする。		
準備学習	各演習の最後に次の演習の課題を指定するので、準備学習をしておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　学部卒業研究の振り返り ３　学部卒業研究の振り返り ４　学部卒業研究の振り返り ５　学部卒業研究の振り返り ６　合同演習 ７　自由研究発表 ８　自由研究発表 ９　合同演習 １０　自由研究発表 １１　合同演習 １２　先行研究の総括の発表 １３　先行研究の総括の発表 １４　先行研究の総括の発表 １５　先行研究の総括の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75218B03
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology B		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	各自の研究テーマにそくした文献講読、討議ほかを行なう。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	その都度、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自の研究テーマが十分に検討され、絞られる。		
準備学習	自らの研究テーマに関する学習を地道に行なうこと。		

受講者への要望

各回の検討資料の準備をぬかりなくお願いしたい。

講義の順序とポイント

1.研究演習（１）
2.　〃　（２）
3.　〃　（３）
4.　〃　（４）
5.　〃　（５）
6.　〃　（６）
7.修士論文の計画に関して（１）
8.　〃　（２）
9.　〃　（３）
10.　〃　（４）
11.　〃　（５）
12.　〃　（６）
13.　〃　（７）
14.　〃　（８）
15.　〃　（９）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75221C01
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology C		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	各自の研究テーマに即して修士論文作成を行う。また、心理臨床の実践の理解を深める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表、出席、討論への参加などを総合的に評価する。		
到達目標	修士論文作成の計画を立て、実施。心理臨床の基本的な理解を身につけて実践力を習得すること。		
準備学習	次回の発表に関わる文献を読んでおくこと。		

受講者への要望

積極的、計画的に研究を進めること。

講義の順序とポイント

【院】臨床心理学研究演習 A と同時開講であるため、受講生の実情に併せて発表内容を調整する。修論中間発表を 2 回行う（他の教員の演習と合同で実施）。時期は受講生の人数などの状況に合わせて設定する。

1　修士論文の先行研究に関する発表・討論
2　修士論文の先行研究に関する発表・討論
3　修士論文の先行研究に関する発表・討論
4　修士論文の先行研究に関する発表・討論
5　修士論文の計画発表・討論
6　修士論文の計画発表・討論
7　修士論文の計画発表・討論
8　修士論文の計画発表・討論
9　文献講読・討論
10　文献講読・討論
11　文献講読・討論
12　修士論文計画指導
13　修士論文計画指導
14　修士論文計画指導
15　修士論文計画指導

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75221C02
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology C		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込む。その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめる。こうした各自の取り組みに対して、臨床心理学のより専門的な探求を推し進められるように指導を行う。 臨床心理学研究演習Ｃ・Ｄでは、各自の研究テーマに即して、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文に仕上げる。また、研究の進行に合わせて、中間発表を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（３０％）。		
到達目標	臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めるとともに、各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備や作成を行うことを目標とする。		
準備学習	各演習の最後に次の演習の課題を指定するので、準備学習をしておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　研究計画の発表 ３　研究計画の発表 ４　研究計画の発表 ５　研究計画の発表 ６　合同演習 ７　修士論文作成中間発表 ８　修士論文作成中間発表 ９　合同演習 １０　修士論文作成中間発表 １１　合同演習 １２　修士論文作成中間発表 １３　修士論文作成中間発表 １４　修士論文作成中間発表 １５　修士論文作成中間発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75221D01
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology D		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成を行う。また心理臨床の実践の理解を深める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表、出席、討論への参加状況などを総合的に評価する。		
到達目標	修士論文の完成。心理臨床の基本的な理解を身につけて実践力を習得。		
準備学習	次回の発表に関する文献を読んでおくこと。		

受講者への要望

積極的・計画的に研究を進めること。

講義の順序とポイント

【院】臨床心理学研究演習 B と同時開講であるため、受講生の実情に併せて発表内容を調整する。修論中間発表を 2 回行う（他の教員の演習と合同で実施）。時期は受講生の人数などの状況に合わせて設定する。

1　修士研究の進捗状況発表
2　修士研究の進捗状況発表
3　修士研究の進捗状況発表
4　文献講読
5　文献講読
6　文献講読
7　修士論文中間発表
8　修士論文中間発表
9　修士論文中間発表
10　修士論文作成指導
11　修士論文作成指導
12　修士論文作成指導
13　修士論文作成指導
14　修士論文作成指導
15 修士論文内容発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75221D02
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology D		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込む。その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめる。こうした各自の取り組みに対して、臨床心理学のより専門的な探求を推し進められるように指導を行う。 臨床心理学研究演習Ｃ・Ｄでは、各自の研究テーマに即して、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文に仕上げる。また、研究の進行に合わせて、中間発表を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（３０％）。		
到達目標	臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めるとともに、各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備や作成を行うことを目標とする。		
準備学習	各演習の最後に次の演習の課題を指定するので、準備学習をしておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　修士論文作成個別指導 ３　修士論文作成個別指導 ４　修士論文作成個別指導 ５　修士論文作成個別指導 ６　合同演習 ７　修士論文作成個別指導 ８　修士論文作成個別指導 ９　合同演習 １０　修士論文作成個別指導 １１　合同演習 １２　修士論文作成個別指導 １３　修士論文作成個別指導 １４　修士論文作成個別指導 １５　修士論文作成個別指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75226A01
科目名	【院】臨床心理学特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Clinical Psychology A		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	【院】臨床心理学特論Ⅰ
講義概要	本特論では、まず前半に、臨床心理学の学問体系や臨床心理士を養成する大学院教育について概観し、その上で、臨床心理学に関わる各学派（精神分析学派、ユング派、ロジャース派、行動療法学派など）の鍵となる概念を比較検討することによって、臨床心理学の総合的な観点の習得を目指す。さらに、各学派の人格理論、精神病理論、治療論などの理解を深める。また、そうした理解が単に知的な理解に留まることなく、心理臨床実践に活かされるものになるように配慮して指導を行う。後半は、精神分析理論や対象関係論の立場から転移や逆転移などの概念を用いて、クライエントと治療者の関係性に着目する形で、見立てや面接経過の理解が深まることを目標にした指導を行う。 講義と演習形式を併用するが、必要に応じて実習も取り入れて、授業を進める予定である。		
教材（テキスト）	大塚義孝編　「臨床心理学原論」　誠信書房 東山紘久編　「臨床心理面接学」　誠信書房 丸田俊彦著　「サイコセラピー練習帳」　岩崎学術出版社		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、レポート（３０％）、発表（３０％）。		
到達目標	心理臨床を実践していく上で必要とされる臨床心理学の理論や技法の習得を目指す。		
準備学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習形式での発表や議論には積極的・主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　臨床心理学の理念と方法 ３　臨床心理学の歴史 ４　臨床心理士の養成 ５　臨床心理学の倫理問題 ６　心理アセスメントの実際問題 ７　精神分析的アプローチ ８　クライエント中心療法的アプローチ ９　認知行動療法的アプローチ １０　診断面接 １１　治療契約と治療同盟 １２　転移と逆転移 １３　ワーキングスルー（徹底操作） １４　対象関係論的アプローチ １５　臨床実習やスーパーヴィジョンの心構え			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75226B01
科目名	【院】臨床心理学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Clinical Psychology B		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	【院】臨床心理学特論Ⅱ
講義概要	心理臨床を実践するためには、理論および技法を単に知識として勉強するだけではなく、自らの具体的な経験と関連付けながら身につけることが必要不可欠である。 本講義においては、臨床心理学特論 A で学んだことを前提に、より詳細に各学派の理論や技法について学習すると同時に、実際の心理臨床において、如何にそれを応用していくかを学ぶ。		
教材（テキスト）	北山修著「精神分析理論と臨床」　誠信書房		
教材（参考文献）	主として扱う文献に関連した図書を、適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて、適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業での発表、レポートなどを総合して評価する。		
到達目標	心理臨床を実践していく上で必要不可欠な理論および技法を、実践に役立つ形で身につける。		
準備学習	臨床心理学に関する基礎的な理論について、復習しておくこと。毎時間発表となるので、担当箇所について次回までにレジュメを作成すること。		
受講者への要望			
積極的な参加を望みます。			
講義の順序とポイント			
1.精神分析の理論 2.対象関係論の展望 3～4.フロイトの症例「ドラ」から学ぶ 5～6 フロイトと鼠男について 7.言葉と夢の関係 8～9 神経症 10～11.「性格的困難」のための覚書 12～13.思春期の危機 14.精神療法の実際 15.まとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75230001
科目名	【院】臨床心理関連行政論	単位数	2
科目名（英語表記）	Administration and Management of Clinica l Cases		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	現在、心理臨床家は、教育、医療、福祉、司法、産業などのさまざまな領域や職場で働いている。そこでは心理アセスメントや心理療法の技法を駆使して業務を遂行していくわけだが、そのためには社会のなかで実務を行なうための規範（ルール）を修得し、遵守することが重要となってくる。それは心理臨床家としての倫理に関するものだけでなく、それぞれの領域や職場、職種の立脚基盤となる法律や関連のある各種の法律、そしてそれらにもとづいた行政目的、業務システムを理解することでもある。本科目では、心理臨床家が社会で実務を行なう場合にその法的、行政的な側面の裏付けを知り、つきあっていくそのあり様を伝え、また、とくに児童福祉領域での心理臨床と法律の関係については、具体的な事例もまじえながら紹介することを目的とする。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	佐藤監修／津川・元永編「心の専門家が出会う法律 第３版～臨床実践のために～」2009 誠信書房 金沢吉展著「カウンセラー～専門家としての条件～」1998 誠信書房 関西人間学会編「解説 社会福祉六法・関係法事典 改訂版」2004 晃洋書房 ＜心理臨床と法＞研究会編「カウンセラーのための法律相談～心理援助をささえる実践的Ｑ＆Ａ～」2009 新曜社		
教材（その他）	必要に応じてプリント類を配布する。		
評価方法	出席や受講態度による平常点（３０％）、学習の到達度、学習や議論への参加姿勢等の評価点（７０％）。		
到達目標	心理臨床家としての倫理の理解、心理臨床家が働く領域、関連する職種についての理解が得られ、各領域と関連する法律や行政目標等の知識の習得がなされること。		
準備学習	新聞やテレビ、インターネット等で、医療、保健、福祉、教育、司法等々に関する様々な社会的事象に触れ、その行政的、法的側面について思いを巡らせる練習をしておくとよい。		
受講者への要望			
準備学習の項に記したことと同じ。			
講義の順序とポイント			
01.心理臨床と職業、関連法規 02.児童福祉法・児童虐待防止法・子どもの権利条約 03.児童相談所の心理臨床と関連法規 04.児童福祉施設の心理臨床と関連法規 05.児童虐待 06.母子保健領域の心理臨床と関連法規 07.社会福祉領域の心理臨床と関連法規（ＤＶ関係を含む） 08.障害者福祉領域の心理臨床と関連法規 09.医療・精神保健領域の心理臨床と関連法規 10.教育領域の心理臨床と関連法規 11.司法領域の心理臨床と関連法規 12.心理臨床家としての倫理 13.臨床心理士倫理綱領・守秘義務・資格と専門性 14.守秘義務の実務上の限界性ほか 15.その他の現代的重要事項 ※講義の内容や順序は変更されることがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75232A01
科目名	【院】臨床心理基礎実習 A	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Basic A		
担当者名	飯野　秀子	旧科目名称	【院】臨床心理基礎実習 I
講義概要	カウンセリング・心理療法の基本構造を知識として理解することと並行して、ロール・プレイによる応答練習を丁寧に行ない、相手の感情の動きを実際に擬似体験し、その気持ちを言語化・意識化する訓練を実施する。また箱庭制作なども経験し、自らの心の動きを感じる。 同時に、グループ・ディスカッションなどを通して自己理解を深めるとともに、実習先での対応についても検討する。 実習の十分な効果を得るため、授業時間を適宜変更し、集中して実施することもある。		
教材（テキスト）	必要に応じて講義途中で指定する場合がある。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法	受講態度、発表、およびレポートなどを総合して評価する。		
到達目標	受講生自身の自己理解を深めながら、臨床事例を担当するための基本的な態度や方法を身につける。		
準備学習	臨床心理学の基礎理論について復習すること。また毎週実習課題を指示するので、翌週までに実施すること。		
受講者への要望			
臨床家になるために、自分の能力をブラッシュアップするための努力と工夫を、自主的に行なってほしい。			
講義の順序とポイント			
（流れによって以下の計画に変更があり得る） 1 オリエンテーション 2〜3 面接の流れについて 4〜7 応答練習 8〜10 箱庭制作 11〜13 箱庭制作の振り返り・検討 14〜15 実習先での訓練について			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75232B01
科目名	【院】臨床心理基礎実習Ｂ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Basic B		
担当者名	飯野　秀子	旧科目名称	【院】臨床心理基礎実習Ⅱ
講義概要	実習先での訓練が中心となる。 心理職をめざそうとする自分に目を向けるため、ロールプレイなどを実施し、自らの心理的な構えや課題について検討する。 同時に、グループ・ディスカッションや様々な体験学習を通して自己理解を深める。 十分な効果を得るために、授業時間を変更し、集中的な検討会を実施することがある。		
教材（テキスト）	必要に応じて講義途中で指定する場合がある。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法	平常点、発表、およびレポートなどを総合して評価する。		
到達目標	実践の現場での経験を通して、受講生自身の自己理解を深めながら、臨床事例を担当するための基本的な態度や方法を身につける。		
準備学習	臨床心理基礎実習Ａで学習した内容について振り返りを実施し、自らの課題について考察しておくこと。次回までの課題については、講義の最後に指示する。		
受講者への要望			
自分の能力をブラッシュアップするための努力と工夫を、自主的に行なってほしい。			
講義の順序とポイント			
（流れによって以下の計画に変更があり得る） 1　春学期のふりかえり 2～4　臨床心理職をめざそうとする自分 5～7　マイクロ・カウンセリング 8～11　対応のバリエーション（ロール・プレイ） 12～14　実習先での経験について 15　心理臨床とは			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75236A01
科目名	【院】臨床心理査定演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Practicum on psychological Assessment A		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	【院】臨床心理査定演習Ⅰ
講義概要	子どもの臨床においてだけではないのだが、指導的、治療的アプローチを行なう前提として、子どもの状態の査定、仮説の構成を行なうことが必要である。査定の道具としての検査の実施においては、発達指数（ＤＱ）や知能指数（ＩＱ）を算出すればすむものでは決してない。具体的データから子どもの目からは世の中がどう見え、耳からはどう聞こえているのかを、その子の身になって思い浮かべられるようになりたい。そのためにも、検査者と被検査者との関係のなかでの子どもの行動を観察して読む作業が要る。そして、それらの検査者のなかでのみたての統合をとおして次の援助に移すことができる。 個人のアセスメントにおける重要点を解説したあと、現場の児童臨床で不可欠な新版Ｋ式発達検査 2001 を実施し役立てることができるようになるための入門演習を行ない、ＷＩＳＣその他の知能・発達検査の概要についても確認しておく。さらに、ロールシャッハ・テストは、おとなだけでなく子どもにとっても有力な検査なので、学習を進めるための基礎を確認しておきたい。		
教材（テキスト）	高石浩一・大島剛・川畑隆共編「心理学実習 応用編１ 知能・発達検査実習～新版Ｋ式を中心に」2011 培風館 ・・・初回の授業で割引販売するので事前購入する必要はない。		
教材（参考文献）	川畑隆編著「子ども・家族支援に役立つアセスメントの技とコツ～よりよい臨床のための４つの視点、８つの流儀」2015 明石書店 大島剛・川畑隆・伏見真里子ほか著「発達相談と新版式発達検査～子ども・家族支援に役立つ知恵と工夫～」2013 明石書店 新版Ｋ式発達検査 2001、ＷＩＳＣ－Ⅲの実施マニュアル、片口法によるロールシャッハ・テスト関連図書など…　備品図書を利用するので購入する必要はない。 川畑隆・菅野道英・大島剛ほか著「発達相談と援助～新版Ｋ式発達検査 2001 を用いた心理臨床～」 2005 ミネルヴァ書房		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	実習した検査を実際に用いることができるようになる、あるいはその基礎が得られる。		
準備学習	演習時間内にできることには限りがあるので、時間外にも自主的に学習を行なってもらいたい。		
受講者への要望			
教科書をよく読み、演習時間外においても実際に検査用具を手にし、検査の施行法を身につけていってほしい。			
講義の順序とポイント			
１．発達・発達障害・発達検査・発達診断・発達援助・家族援助などについて ２．アセスメントにおける重要なことがら ３．Ｋ式発達検査の概要と試行法① ４．　② ５．Ｋ式発達検査の結果の整理法① ６．　② ７．Ｋ式発達検査の読み取りの基本① ８．　② ９．　③ １０．　④ １１．ウェクスラー法その他の知能・発達検査 １２．ロールシャッハテストの基本～施行法とスコアリング① １３．同　② １４．同　～スコアリング演習① １５．同　② ※上記の順序等については変更があり得る。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待						

年度	2015	授業コード	J75236B01
科目名	【院】臨床心理査定演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Practicum on psychological Assessment B		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	【院】臨床心理査定演習Ⅱ
講義概要	心理臨床の現場で必要とされる心理アセスメント技術の習得を目指す。特に、投影法、質問紙法、作業法などのパーソナリティ検査を用いて、様々な事例の分析を行う。また、技術面のことのみにとどまらず、臨床現場で出会う様々な問題についても考察する。		
教材（テキスト）	教科書は特に使用しない。		
教材（参考文献）	片口安史著　「新・心理診断法」　金子書房		
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、レポート（３０％）、発表（３０％）。		
到達目標	心理臨床場面で必要とされる心理アセスメント技術の習得を目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。実習した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		

受講者への要望

演習での発表や議論には積極的・主体的な参加を望む。

講義の順序とポイント

１　オリエンテーション
２　心理アセスメントと精神医学的診断
３　ウェクスラー式知能検査による事例分析
４　内田－クレペリン作業検査による事例分析
５　ＭＭＰＩ による事例分析
６　ロールシャッハテストによる事例分析　A
７　ロールシャッハテストによる事例分析　B
８　ロールシャッハテストによる事例分析　C
９　ロールシャッハテストによる事例分析　D
１０　ロールシャッハテストによる事例分析　E
１１　ロールシャッハテストによる事例分析　F
１２　ＴＡＴ による事例分析
１３　Ｐ－Ｆスタディ による事例分析　A
１４　Ｐ－Ｆスタディ による事例分析　B
１５　Ｐ－Ｆスタディ による事例分析　C

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75242A01
科目名	【院】臨床心理実習Ａ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Advance d A		
担当者名	飯野　秀子	旧科目名称	
講義概要	本実習は、基本的には学内で行うケースカンファレンスと学外実習期間での実習からなる。さらに授業においては心理教育相談室のインテークカンファランス及びスタッフミーティングも含まれる。		
教材（テキスト）	河合隼雄著　心理療法序説　岩波書店		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表及び平常点（出席状況、討論への参加など）を基にして総合的に評価。		
到達目標	事例の検討を通して心理臨床の実践力を養う。 事例の発表の仕方を学ぶ。		
準備学習	教材のテキストを読んでおくこと。 参考文献及び心理臨床学についての文献（その都度授業内で紹介）を読む。　発表の事例や自分の担当する事例についての文献を読むこと。		

受講者への要望

心理教育相談室のスタッフとして毎回出席が義務である。
事例を扱う実習なので、各自守秘義務は徹底すること。

講義の順序とポイント

Ⅰ　ケースカンファレンスなど
1　オリエンテーション　発表の順番など実習の進め方を決定。インテークカンファレンス。スタッフミーティング。
2　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
4　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
5　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
6　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
7　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
10　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
１１　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
12　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
13　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
14　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
15　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

[授業の行われない時期にも下記の予定でカンファレンス・ミーティングを行う]
7 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

Ⅱ　学外及び学内実習
学外実習の時期などについては先方との話し合いの上で決定される。
学外及び本学心理教育相談室において、各機関の担当者のもとで実習を行う。
なお、この授業に参加する院生は各人が個人的にスーパーヴィジョンを受けていることが必要である。
実習に先立ってガイダンスを行うので、実習の目的、進め方、実習中の留意事項などについて十分に理解すること。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75242B01
科目名	【院】臨床心理実習Ｂ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Advance d B		
担当者名	飯野　秀子	旧科目名称	
講義概要	本実習は、基本的には学内で行うケースカンファレンスと学外実習期間での実習からなる。さらに授業においては心理教育相談室のインテークカンファランス及びスタッフミーティングも含まれる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	河合隼雄著　心理療法序説　岩波書店		
教材（その他）			
評価方法	発表及び平常点（出席状況、討論への参加など）を基にして総合的に評価。		
到達目標	事例の検討を通して心理臨床の実践力を養う。 事例の発表の仕方を学ぶ。		
準備学習	参考文献及び心理臨床学についての文献（その都度授業内で紹介）を読む。発表の事例や自分の担当する事例についての文献を読むこと。		

受講者への要望

毎回の出席を義務とする。
守秘義務の徹底。

講義の順序とポイント

Ⅰ　　カンファレンスなど
1　オリエンテーション　発表の順番など実習の進め方を決定。インテークカンファレンス。スタッフミーティング。
2　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
4　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
5　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
6　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
7　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
10　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
１１　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
12　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
13　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
14　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
15　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

[授業の行われない時期にも下記の予定でカンファレンス・ミーティングを行う]
1 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
2 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

Ⅱ　学外及び学内実習
学外実習の時期などについては先方との話し合いの上で決定される。
学外及び本学心理教育相談室において、各機関の担当者のもとで実習を行う。
なお、この授業に参加する院生は各人が個人的にスーパーヴィジョンを受けていることが必要である。
実習に先立ってガイダンスを行うので、実習の目的、進め方、実習中の留意事項などについて十分に理解すること。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75246B01
科目名	【院】臨床心理面接特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Methods of Clinical Interview B		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	【院】臨床心理面接特論Ⅱ
講義概要	心理療法における理論と技法について学ぶ		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表及び平常点		
到達目標	心理臨床の多様な実践力を養う		
準備学習	参考文献（適宜講義内で挙げる物だけではなく自分自身で関連文献を探すこと）などを積極的に読んでおくこと。		
受講者への要望			
事例を扱うので守秘義務を徹底すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション 2　事例研究（１） 3　事例研究（２） 4　事例研究（３） 5　事例研究（４） 6　事例研究（５） 7　心理療法の理論と実践　描画（１） 8　心理療法の理論と実践　描画（２） 9　心理療法の理論と実践　箱庭（１） 10 心理療法の理論と実践　箱庭（２） 11 心理療法の理論と実践　箱庭（３） 12 心理療法の理論と実践　箱庭（４） 13　言葉とイメージ（１） 14　言葉とイメージ（２） 15 言葉とイメージ（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75251A01
科目名	【院】日本歴史文化研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Culture His tory A		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	鎌倉後期の藤原兼仲の日記である『勘仲記』の輪読と、各人の研究発表を織り交ぜながら進める。史料読解では、国立歴史民俗博物館が所蔵する写本の写真版と『増補史料大成　勘仲記』の翻刻とを対照させながら読み進める。それぞれの記事の歴史的背景を考察しながら、厳密な読解につとめたい。この演習を通して、問題の所在についての認識を深めるとともに、漢文史料の読解能力や史料操作の方法を鍛える。		
教材（テキスト）	史料のコピーを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	報告や討論など平常の授業での貢献度（60%）、レポート（40%）		
到達目標	・貴族の日記史料の正確な読解力と分析力をつける。 ・日本史学の課題と研究方法を理解し、論文執筆の実力を涵養する。		
準備学習	・担当する史料については事前に割り振っておくので、十分な準備が必要である。		

受講者への要望

・輪読では何をどのようにして調べるかを、あらかじめ指示するので、それに従って徹底した調査が望まれる。
・レポートの内容については、講義内で指示する。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　『勘仲記』の輪読
3　『勘仲記』の輪読
4　『勘仲記』の輪読
5　『勘仲記』の輪読
6　『勘仲記』の輪読
7　研究発表と討論
8　研究発表と討論
9　『勘仲記』の輪読
10　『勘仲記』の輪読
11　『勘仲記』の輪読
12　『勘仲記』の輪読
13　『勘仲記』の輪読
14　『勘仲記』の輪読
15　『勘仲記』の輪読

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75251B01
科目名	【院】日本歴史文化研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Culture His tory B		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	鎌倉幕府の正史である『吾妻鏡』の輪読と、論文講読を交えながら授業を進める。輪読ではそれぞれの記事の史的背景を考察しながら、漢文史料の厳密な読解を進め史料操作の方法を鍛える。論文講読では、問題の所在についての認識を深めるとともに、日本史学の課題を理解する。		
教材（テキスト）	史料のコピーを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	報告や討論など平常の授業での貢献度（60%）、レポート（40%）		
到達目標	・漢文史料の正確な読解力と分析力をつける。 ・日本史学の課題と研究方法を理解し、論文執筆の実力を涵養する。		
準備学習	・担当する史料については事前に割り振っておくので、きちんとした準備が必要である。 ・論文講読では、報告者は当該論文の他に関係論文を１本以上読んだ上で、当該論文の論旨を的確にまとめ、論文の長所と問題点・疑問点を指摘したレジュメを全員に配付する。報告者以外の授業参加者は全員ノートをとりながら論文を読んでくる。授業の最初に、当該論文の要旨および論文の長所と疑問点を記したノートのコピー１部を提出する。		

受講者への要望

・輪読では何をどのようにして調べるかは、あらかじめ指示しておくので、きちんと調べてくることが必要である。
・レポートの内容については、講義内で指示する。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　『吾妻鏡』の輪読
3　『吾妻鏡』の輪読
4　『吾妻鏡』の輪読
5　論文の講読
6　『吾妻鏡』の輪読
7　『吾妻鏡』の輪読
8　『吾妻鏡』の輪読
9　『吾妻鏡』の輪読
10　論文の講読
11　『吾妻鏡』の輪読
12　『吾妻鏡』の輪読
13　『吾妻鏡』の輪読
14　『吾妻鏡』の輪読
15　論文の講読

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J75253B01
科目名	【院】環境社会特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本講義では、環境経済学の研究に経済理論や計量的手法を応用する。また、環境経済学の分野における諸問題及び分析手法を学ぶために、多くの主題を幅広く概観する。前半は、外部効果の問題や、外部効果の存在する市場の機能を改善するための方法について学ぶ。後半は、環境の改善によって得られる利益の評価の問題を考察し、特に非市場財の価値評価の方法における問題を紹介する。講義では特に以下の点に重点を置いて進めていく。 １）環境計画や環境経済学の歴史・発展過程を簡潔に概観すること。 ２）環境汚染を引き起こす社会制度や経済的理由を理解し、汚染を制御するためのメカニズムについて学ぶこと。 ３）環境資産や環境の損失を価値評価するための経済理論や方法について理解すること。 ４）環境政策における不確実性の影響や持続的環境管理の可能性について考察すること。		
教材（テキスト）	James R. Kahn 1998. The Economic Approach to Environmental and Natural Resources, Dryden Press, 2nd Ed. （ジェームズ・R. カーン著・内藤 登世一訳［1998］『環境と資源への経済学的アプローチ』 未出版）		
教材（参考文献）	① David W. Pearce and R. Kerry Turner. [1990] Economics of Natural Resources and Environment., Johns Hopkins Press. （アメリカの大学で幅広く使われている中級者用テキストブック。環境・資源経済学の幅広い分野にわたって、コンパクトにまとめられている。） ② A. Myrick Freeman, III. [1993] The Measurement of Environmental and Resource Values: Theory and Methods, Resources for the Future Inc., 2nd Ed. （環境・資源の経済価値評価方法に力点の置かれた実践者向け教科書。）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する。		
評価方法	出席状況及び授業内パフォーマンス（50%）　期末レポート（50%）		
到達目標	環境汚染を引き起こす社会制度や経済的理由を理解し、汚染を制御するためのメカニズムについて学ぶこと。また、環境資産や環境の損失を価値評価するための経済理論や方法についても理解すること。		
準備学習	教科書リーディング （あらかじめ教科書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。）		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。初級程度のミクロ経済学の予備知識が最低限必要であるので、事前に修得していることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1. 序論・歴史 2. 環境管理及び環境経済学の進化発展 3. 環境政策から生じる便益や費用についての分析 4. 厚生変化の測定についての基本的概念 5. 外部効果・財産所有権 6. 環境政策・政策手段 － 概観 7. 環境税・環境基準・排出権取引制度 8. 環境政策から生じる便益や費用の配分 9. 間接的便益評価・非使用価値 10. 価値評価のための仮説的手法 11. 生産要素投入としての環境の質 12. 財産価値・レクリェーションからの便益 13. 環境管理における不確実性の役割 14. 持続的環境管理 15. 環境経済学の最近の流れ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75254A01
科目名	【院】文化人類学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	文化人類学は、これまで文化をフィールドワークし、それを分析する方法論を積み上げてきた。本演習では、これらの基本的な文献を学ぶとともに、その方法論を生かして、フィールドワークを行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点　50％ フィールドワーク　25％ レポート・民俗誌提出　25％		
到達目標	文化人類学の基礎的な文献を理解する。 短期のフィールドワークの行うことができる。		
準備学習	予習をしてくること。		
受講者への要望			
フィールドワーク地を見つけるために、日頃から各地を歩いておくこと。			
講義の順序とポイント			
1 基本文献の選定 2～7　文献の講読 7～10 フィールドワークの計画と実施 11～15　文献の講読と民俗誌の作成			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75254B01
科目名	【院】文化人類学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	文化人類学は、これまで文化をフィールドワークし、それを分析する方法論を積み上げてきた。本演習では、これらの基本的な文献を学ぶとともに、その方法論を生かして、フィールドワークを行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点　50％ フィールドワーク　25％ レポート・民俗誌提出　25％		
到達目標	文化人類学の基礎的な文献を理解する。 短期のフィールドワークの行うことができる。		
準備学習	予習をしてくること。		
受講者への要望			
フィールドワーク地を見つけるために、日頃から各地を歩いておくこと。			
講義の順序とポイント			
1 基本文献の選定 2～7　文献の講読 7～10 フィールドワークの計画と実施 11～15　文献の講読と民俗誌の作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75255A01
科目名	【院】コミュニケーション社会学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。受講生は、この主題にそったテーマを各自で選び、内容を吟味する。		
教材（テキスト）	最初の演習で、講読文献リストを配付して指定する。		
教材（参考文献）	適宜指定する。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	発言、発表等、授業での貢献度（50%）とレポート（50%）。		
到達目標	コミュニケーション社会学の諸理論の基本的な理解。		
準備学習	テキストおよびその背景知識の予習。		
受講者への要望			
自分の研究と社会とのかかわりを常に意識すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 研究計画に関する議論 3.〜14. 講読 15. 総合的な議論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75255B01
科目名	【院】コミュニケーション社会学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。受講生は、この主題にそったテーマを各自で選び、内容を吟味する。		
教材（テキスト）	最初の演習で、講読文献リストを配付して指定する。		
教材（参考文献）	適宜指定する。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	発言、発表等、授業での貢献度（50%）とレポート（50%）。		
到達目標	コミュニケーション社会学の諸理論の専門的な理解。		
準備学習	テキストおよびその背景知識の予習。		
受講者への要望			
自分の研究と社会とのかかわりを常に意識すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 研究計画に関する議論 3.〜14. 講読 15. 総合的な議論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75255C01
科目名	【院】コミュニケーション社会学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。受講生は、この主題にそったテーマを各自で選び、内容を吟味する。		
教材（テキスト）	最初の演習で、講読文献リストを配付して指定する。		
教材（参考文献）	適宜指定する。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	発言、発表等、授業での貢献度（50%）とレポート（50%）。		
到達目標	研究内容の具体化。		
準備学習	テキストおよびその背景知識の予習。研究内容の吟味。		
受講者への要望			
自分の研究と社会とのかかわりを常に意識すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 研究計画に関する議論 3.〜14. 講読と研究内容の吟味 15. 総合的な議論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75255D01
科目名	【院】コミュニケーション社会学研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。受講生は、この主題にそったテーマを各自で選び、内容を吟味する。		
教材（テキスト）	適宜指定する。		
教材（参考文献）	適宜指定する。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	発言、発表等、授業での貢献度（50%）と修士論文（50%）。		
到達目標	修士論文の完成。		
準備学習	研究内容の吟味。		
受講者への要望			
自分の研究と社会とのかかわりを常に意識すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 研究計画に関する議論 3.〜14. 研究内容の吟味 15. 総合的な議論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J75256A01
科目名	【院】広告広報研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	広告広報、消費財マーケティング、地域広報、表現文化などをテーマとする修士論文の執筆、作品の研究・制作を行う。		
教材（テキスト）	受講生の関心をふまえ、講義中に指示する。		
教材（参考文献）	同上		
教材（その他）	同上		
評価方法	出席、および修士論文の構成、論文のための調査、草稿執筆などの進捗を総合的に評価する。		
到達目標	広告広報、消費財マーケティング、地域広報、表現文化などの研究に必要な理論や方法を十分に修得する。広告論・メディア論・マーケティング論などの理論や、消費者調査、広告などの作品分析、広告キャンペーンなどの事例研究、広告産業やクリエイターの研究などの方法について学び、修士論文のテーマに最適なアプローチができるよう努める。		
準備学習	到達目標に掲げたさまざまな理論や方法について、自主的に理解を深めること。		

受講者への要望

広告広報の研究は、実践の成就に資する政策科学であると同時に、メディアや社会・文化の分析・批評でもある。自らの研究の目的と立ち位置について十分にきわめてほしい。

講義の順序とポイント

<講義予定>
第 1 回:オリエンテーション
第 2 回:修士論文のテーマとすすめ方の相談(1)
第 3 回:修士論文のテーマとすすめ方の相談(2)
第 4 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 5 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 6 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 7 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 8 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 9 回:修士論文の発表・指導
第 10 回:修士論文の発表・指導
第 11 回:修士論文の発表・指導
第 12 回:修士論文の発表・指導
第 13 回:修士論文の発表・指導
第 14 回:修士論文の発表・指導
第 15 回:ふりかえり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J75256B01
科目名	【院】広告広報研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	広告広報、消費財マーケティング、地域広報、表現文化などをテーマとする修士論文の執筆、作品の研究・制作を行う。		
教材（テキスト）	受講生の関心をふまえ、講義中に指示する。		
教材（参考文献）	同上		
教材（その他）	同上		
評価方法	出席、および修士論文の構成、論文のための調査、最終稿を総合的に評価する。		
到達目標	広告広報、消費財マーケティング、地域広報、表現文化などの研究に必要な理論や方法を十分に修得する。広告論・メディア論・マーケティング論などの理論や、消費者調査、広告などの作品分析、広告キャンペーンなどの事例研究、広告産業やクリエイターの研究などの方法について学び、修士論文のテーマに最適なアプローチができる		
準備学習	到達目標に掲げたさまざまな理論や方法について、自主的に理解を深めること。		

受講者への要望

広告広報の研究は、実践の成就に資する政策科学であると同時に、メディアや社会・文化の分析・批評でもある。自らの研究の目的と立ち位置について十分にきわめてほしい。

講義の順序とポイント

<講義予定>
第 1 回:オリエンテーション
第 2 回:修士論文のテーマとすすめ方の相談(1)
第 3 回:修士論文のテーマとすすめ方の相談(2)
第 4 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 5 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 6 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 7 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 8 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 9 回:修士論文の発表・指導
第 10 回:修士論文の発表・指導
第 11 回:修士論文の発表・指導
第 12 回:修士論文の発表・指導
第 13 回:修士論文の発表・指導
第 14 回:修士論文の発表・指導
第 15 回:ふりかえり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J75258B01
科目名	【院】集団心理学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	この授業では、シミュレーション・ゲーミングの手法を使って、人間の相互作用がどのように社会を作り出すのかを考える。複数の要素が相互作用することで作る構造は、初期条件や時間の経過によって様々な様態を見せる。　これは複雑系の過程とよばれ、通常の実験法や調査法で研究することができないため、シミュレーションによる研究が行われている。　授業では、簡単なコンピュータ・シミュレーションの作成と、コンピュータ・ゲームにおける体験を組み合わせて、複雑系現象としての社会の理解を目指す。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	人工社会構築指南　山影進著　出版：書籍工房早川		
教材（その他）	Google Apps から教材・データ配布を行う。 受講生の観察記録・レポート提出も同じ場所にブログ形式でアップしていただく予定。		
評価方法	平常点（５０％）とレポート（５０％）により評価する。		
到達目標	ゲームを用いた実験を開発し、その結果を分析できるようになること。		
準備学習	心理学の基礎的スキルに欠ける場合は、学部の授業への出席を求める。		

受講者への要望

出席重視なので、遅刻、欠席のないように。
やむを得ず欠席する場合は、必ず事前にメールで連絡をしてください。

講義の順序とポイント

春学期土曜午前から学部授業「シミュレーションゲーム」終了後の時間を用いて、集中講義形式で実施する。

下記の順序は、受講人数などによって変更する。

１．　概論
２．　Google Apps に個人ページ作成
３．　囚人のジレンマゲーム
４．　ジレンマゲームのシミュレーション
５．　進化ゲームのシミュレーション
６．　複雑系シミュレーション
７．　StarLogo を用いたシミュレーション
８．　シムシティ
９．　グループ工学
１０．模擬陪審員実験
１１．仮想空間の制作
１２．コンピュータを用いた協同作業
１３．　ゲーミニフィケーション
１４．　e-learning におけるゲーミニフィケーション
１５．　集合知

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76001A01
科目名	【院】生物有機化学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioorganic Chemistry I		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	科学的発見や新規技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのためには、文献や関連原著論文に対する十分な読解力を要する。現在はその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須の用件である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、様々な研究に接し、客観的な評価力を養うことを目的とする。		
教材（テキスト）	解説資料プリントおよび化学生態学、天然物化学に関する原著論文（各回ごとに受講生に配布する）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	化学生態学および天然物化学に関連する文献の読解力を強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。		
準備学習	予め配布された文献や資料の概要を把握しておく。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントやプリントを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

１．担当教員による各種文献の探索方法、入手方法についての解説
２．担当教員による文献の読解法についての解説
３．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献１）
４．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献２）
５．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献３）
６．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献４）
７．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献５）
８．受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献１）
９．受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献２）
１０．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献１）
１１．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献２）
１２．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献３）
１３．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献４）
１４．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献５）
１５．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献６）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76001B01
科目名	【院】生物有機化学特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioorganic Chemistry II		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	科学的発見や新規技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのためには、様々な文献や関連原著論文に対する高度な読解力を要する。原著論文には一定の記述様式があり、これに精通することが、論文の内容を理解する上で必須の要件となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、研究に対する客観的な批判力を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	解説資料プリントおよび化学生態学、天然物化学に関する原著論文（各回ごとに受講生に配布する）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。 ・原書論文選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	生物有機化学特別演習 I で修得した内容を基盤として、化学生態学、天然物化学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。		
準備学習	配布される文献や資料の概要を把握しておく。発表に際しては計画的に準備をして、発表のスキルを向上させるよう努力する。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントやプリントを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

１．担当教員による生物有機化学特別演習 I の習熟度評価
２．担当教員による文献の収集・整理についての解説
３．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献１）
４．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献２）
５．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献３）
６．受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献１）
７．受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献２）
８．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献１）
９．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献２）
１０．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献３）
１１．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献４）
１２．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献５）
１３．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献６）
１４．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献７）
１５．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献８）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76001C01
科目名	【院】生物有機化学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioorganic Chemistry Ⅲ		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. 研究手法の統合的な整理　（3）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76001D01
科目名	【院】生物有機化学特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioorganic Chemistry IV		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案に基づく研究活動の成果を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、問題解決に使われる新規の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 バイオ環境に関わる専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得する。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表素るので、その詳細を知ることには学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について　総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構成の理解　(40%) ・課題解決に用いられた研究手法の理解　(30%) ・新規の研究手法の利用法と評価力　(30%)		
到達目標	博士論文の研究課題に関する研究を進める上で重要な研究手法を理解し、習得するために必要な学識の取得を目標とする。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
研究課題と関連のある研究手法を習得し、絶えず関連学術文献に注目すること。			
講義の順序とポイント			
1.　高度な学術論文の選別 2.　高度な学術論文の論理構造の解析　(1) 3.　高度な問題解決の手法の理解と活用法　(1) 4.　未解決の課題の発見と解決法の想定　(1) 5.　高度な学術論文の論理構造の解析　(2) 6.　高度な問題解決の手法の理解と活用法　(2) ７.　未解決の課題の発見と解決法の想定　(2) 8.　高度な学術論文の論理構造の解析　(3) 9.　高度な問題解決の手法の理解と活用法　(3) 10. 未解決の課題の発見と解決法の想定　(3) 11. 高度な学術論文の論理構造の解析　(4) 12. 高度な問題解決の手法の理解と活用法　(4) 13. 未解決の課題の発見と解決法の想定　(4) 14. 研究領域の新たな潮流のまとめと社会的背景（1) 15. 研究領域の新たな潮流のまとめと社会的背景（2)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76002005
科目名	【院】生物有機化学特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Bioorganic Chemistry		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	よりよいバイオ環境を目指して、化学生態学に焦点を当て、コナダニ類や昆虫類を材料として研究を行なう。受講生に担当させる具体的な研究テーマは秘密情報であり、また当教室の状況や当該分野の外部情報によって変化する。研究分野の概要としては、新規ダニ種のフェロモンの同定、フェロモンの作用機構、昆虫の産卵・摂食阻害物質の探索、ニホンミツバチのフェロモンの同定、ニホンミツバチとスズメバチの化学生態学、行動科学、昆虫-植物-寄生蜂間のいわゆる”３者関係”の化学生態学があげられる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	担当するテーマの関連論文、Web での検索情報		
教材（その他）			
評価方法	修士論文および口頭発表（８０％）で主に評価し、日常の研究態度、教室運営への協力度（２０％）を合わせて総合的に評価する。		
到達目標	修士論文の完成とともに生物有機化学分野で何らかの新しい知見を得る。研究成果を学会発表、論文投稿などで公表する。		
準備学習	研究を推進するに当たり、文献を的確に収集し、関連情報を把握する。その情報を元に具体的な目標設定や実験計画を立案する。		
受講者への要望			
原著論文や関連速報論文の読解が研究の初期には特に重要であり、科学英語の理解力を向上させる。また、その分野での新しい発見には新しい視点や広い視野、そして深い洞察が必須であり、これらを獲得するためにどうすれば良いかを常に考えて行動して欲しい。			
講義の順序とポイント			
１．テーマの企画 ２．テーマに関する文献情報の収集、内容の理解 ３．実験計画の立案 ４．実験、考察、実験計画の変更、再実験、考察の繰り返し ５．論文の作成 ６．研究発表 上記の 1.～4.項目を順番に、あるいは適宜組み合わせて繰り返す。論文の作成が可能なものについては論文作成して学会などで発表する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76003A01
科目名	【院】分子生物学特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Molecular Biology I		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	生命科学研究に関連する文献の探索と理解力を強化するとともに，研究課題の発見力を養成する． 　今日の生命科学の飛躍的な発展は，多様な生物の遺伝子情報の蓄積と多くの先端技術が基盤となっている．生命科学研究には膨大な専門用語の習熟と関連文献の読解力と理解力を必要としている．本演習では，各受講者の研究課題に即した関連分野の文献検索と主要な研究論文の読解力と手技手法の理解力を育成し，研究課題関連領域の最新の全容を把握することと課題の発見と評価する力量の育成を目的とする．		
教材（テキスト）	毎回，必要に応じた教材資料を配布する．		
教材（参考文献）	Molecular Biology of The Cell (Fifth Edition) by Bruce Alberts, Alexander Johnson, Jurian Lewis, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter		
教材（その他）	必要に応じて，個別に教材を推薦する． 最先端の研究内容を理解し，学術的な価値観を共有できるようにする．		
評価方法	評価方法 論文発表者と討論参加者それぞれについて、以下の評価をおこなう． ・文献概要の理解度（10%） ・研究分野の背景理解と研究目的の理解度（20%） ・研究手法の原理と手技手法の理解度（20%） ・研究成果の理解度（20%） ・研究の課題点の発見力と価値評価力（10%） ・質疑・討論の貢献度（20%）		
到達目標	発表論文の概要の理解・研究分野の背景と目的を理解・研究手法の原理と手技手法の理解・課題点の発見と評価・キーワードの理解と要約作成ができることを目標にする．		
準備学習	事前に配布された資料を把握しておくこと．遅刻厳禁．		
受講者への要望			
講義ごとに受講者１名を順次割り当てる．当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで文献を選び，精読し，発表準備の指導も受け，発表資料を作成し，その内容を発表する．その他の受講者は，質疑に積極的に参加する．また，紹介された論文のキーワードを選び出し，説明文を作成する．			
講義の順序とポイント			
1.　担当教員より研究領域の総説と文献検索、課題文献の読み方について 2.　担当教員より課題文献のデータの読み方と関連データの検索法について 3.　受講者の発表と質疑（遺伝子発現制御に関する基本的な文献１） 4.　受講者の発表と質疑（遺伝子発現制御に関する基本的な文献２） 5.　受講者の発表と質疑（遺伝子発現制御に関する基本的な文献３） 6.　受講者の発表と質疑（遺伝子発現制御に関する基本的な文献４） 7.　受講者の発表と質疑（発現タンパク質の機能に関する基本的な文献１） 8.　受講者の発表と質疑（発現タンパク質の機能に関する基本的な文献２） 9.　受講者の発表と質疑（発現タンパク質の機能に関する基本的な文献３） 10.　受講者の発表と質疑（発現タンパク質の機能に関する基本的な文献４）			

11. 受講者の発表と質疑（高等動物細胞の機能に関する基本的な文献１）
12. 受講者の発表と質疑（高等動物細胞の機能に関する基本的な文献２）
13. 受講者の発表と質疑（高等動物細胞の機能に関する基本的な文献３）
14. 受講者の発表と質疑（高等動物細胞の機能に関する基本的な文献４）
15. 応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ⅰの総括と課題の整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76003B01
科目名	【院】分子生物学特別演習II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Molecular Biology II		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ｉで修得した内容を基盤に，生命科学研究の原著論文の読解力を養成し，科学的課題の理解力を鍛える． 　最新の生命科学研究の知見の習得には，先端技術の理解力と多様な専門文献や原著論文に対する読解力と膨大な生命科学情報データバンクの調査能力を必要としている。本演習では，各受講者の研究課題に即した関連分野の文献解析と関連データ検索とデータ解析処理の演習を通じて，主要な原著論文の読解力と成果の解析能力の習熟を目的とし，研究成果の客観的な評価力を醸成し，新たな課題の発見や追求できる能力の育成を目的とする．		
教材（テキスト）	毎回，必要に応じた教材資料を配布する． 最新の学術論文に対して，デジタル機器を使って，アクセス可能なものを選択する．		
教材（参考文献）	Molecular Biology of The Cell (Fifth Edition) by Bruce Alberts, Alexander Johnson, Jurian Lewis, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter		
教材（その他）	必要に応じて，個別に教材を推薦する．		
評価方法	論文発表者と討論参加者それぞれについて、以下の評価をおこなう． ・文献概要の理解度（10%） ・研究分野の背景理解と研究目的の理解度（20%） ・研究手法の原理と手技手法の理解度（20%） ・研究成果の理解度（20%） ・研究の課題点の発見力と価値評価力（10%） ・質疑・討論の貢献度（20%）		
到達目標	発表論文の概要の理解・研究分野の背景と目的を理解・研究手法の原理と手技手法の理解・課題点の発見と評価・キーワードの理解と要約作成ができることを目標にする．		
準備学習	事前に配布された資料を把握しておくこと．遅刻厳禁．		

受講者への要望

講義ごとに受講者１名を順次割り当てる．当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで文献を選び，精読し，発表準備の指導も受け，発表資料を作成し，その内容を発表する．その他の受講者は，質疑に積極的に参加する．また，紹介された論文のキーワードを選び出し，説明文を作成する．

講義の順序とポイント

1. 担当教員による応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ｉの習熟度の評価と本演習の課題目標について
2. 担当教員による課題設定と目標についての具体例の紹介
3. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献１）
4. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献２）
5. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献３）
6. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献４）
7. 受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献１）
8. 受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献２）

9.　受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献３）
10. 受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献４）
11. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献１）
12. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献２）
13. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献３）
14. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献４）
15. 応用生化学・遺伝子機能学特別演習 II の総括と課題の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76003C01
科目名	【院】分子生物学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Molecular Biology III		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ⅱまでに習熟した内容を基盤として，生命科学研究の原著論文の読解力をさらに強化し，科学的課題の解決力を養成する。 最新の生命科学研究遂行には多様な関連研究成果の探索¥と理解に基づいて、新たな研究課題の設定と研究課題の妥当な解決方法の計画と手技手法のスキルの習熟が必要である。応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ⅰ・Ⅱまでの習得内容を基盤として、主要関連論文の高度な読解力と関連分野の解析力と理解力を基軸に、各受講者の研究課題分野の現状認識と課題解決法の客観的な設定と企画力の力量の養成を目的とする。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		

受講者への要望

講義ごとに受講者１名を順次割り当てる。当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで文献と複数の関連文献を選び、精読し、発表準備の指導も受け、発表資料を作成し、その抄読内容を整理して発表する。その他の受講者は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 担当教員による応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ⅱの習熟度の評価と本演習の課題目標について
2. 担当教員による国際的な主要な原著論文と関連分野の論述動向と内容について
3. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文１）
4. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文２）
5. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文３）
6. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文４）
7. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文１）
8. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文２）
9. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文３）
10. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文４）
11. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文１）
12. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文２）
13. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文３）
14. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文４）
15. 応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ⅲの総括と課題の整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76003D01
科目名	【院】分子生物学特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Molecular Biology IV		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ⅲまでに習熟した内容を基盤として、具体的な科学的課題の解決に必要な企画力と研究力を養成する。 膨大な研究成果が発表される生命科学研究分野では、研究成果を公表する場合には常に最新の成果の理解と有効性を判断し、学問領域の最新の現状を把握する必要がある。本演習では、各受講者の研究課題に関連した研究領域の客観的な最新の現状認識力とともに、生命科学領域の学術誌への論文投稿のための研究背景説明や研究成果の解析、整理、表現の検討と論述展開や引用文献の扱いなどスキルの養成を目標とする。		
教材（テキスト）	受講者自身が関連分野の原著論文や総説のリストを作成し配布する。		
教材（参考文献）	その都度、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	論文発表者と討論参加者それぞれについて、以下の評価をおこなう。 ・課題に対する関連文献選択の適正度（10%） ・研究分野の背景理解と研究目的の価値評価力（20%） ・研究の手技手法の理解度と新規性の評価力（20%） ・研究結果の理解度と解析評価力（20%） ・新規課題の提案企画力と論述力（10%） ・質疑・討論の貢献度（20%）		
到達目標	論文発表者と討論参加者それぞれについて、以下の評価をおこなう。 ・課題に対する関連文献選択の適正度（10%） ・研究分野の背景理解と研究目的の価値評価力（20%） ・研究の手技手法の理解度と新規性の評価力（20%） ・研究結果の理解度と解析評価力（20%） ・新規課題の提案企画力と論述力（10%） ・質疑・討論の貢献度（20%）		
準備学習	事前に配布された資料で予習しておくこと。		

受講者への要望

講義ごとに受講者１名を順次割り当てる。当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで関連分野の文献を複数選び、精読し、発表準備の指導も受け、発表資料を論述形式でレジメを作成し、その内容を発表する。生命科学領域に関わる論文作成のスキルを養成する。その他の受講者も、論文作成のスキル習得に参加する。

講義の順序とポイント

1. 担当教員による応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ⅲの習熟度の評価と本演習の課題目標について
2. 担当教員による国際的な主要論文の論述形式と整理ポイントについて
3. 著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文１）
4. 著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文２）
5. 著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文３）
6. 著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文４）
7. 著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文５）
8. 担当教員による論文構成と論述形式とデータ整理と DataBank 登録について

9.　担当教員による論文投稿規定と論文作成のスキルについて
10. 受講者の研究課題の背景整理とデータ整理について（1）
11. 受講者の研究課題の背景整理とデータ整理について（2）
12. 受講生作成の研究論文発表に対しての討論（1）
13. 受講生作成の研究論文発表に対しての討論（2）
14. 受講生作成の研究論文発表についての評価と問題点の指摘
15. 受講生作成の研究論文発表についての改善案の検討と討議

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76004005
科目名	【院】分子生物学特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Molecular Biology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	生体や細胞内外の環境変化に対し機能維持に遺伝子やその産物がどのような制御機構を用いているのかを (1) ゲノムの構造レベル (2) 細胞の分化・発生の時空間レベル (3) 情報の伝達レベル (4) シグナル分子レベル (5) 多分子の複合体レベルでの機能解析に取り組む研究課題を選択し， 課題の把握と理解に努め，必要な手技技法にも熟達し，研究に励み，妥当な結論から研究成果の学問上の意義や社会的な活用法にも考察して修士論文としてまとめ上げる.		
教材（テキスト）	研究課題に応じ，研究の進展に伴い，個別に教材や文献を提供する.		
教材（参考文献）	必要に応じて，Databank などの資料を指示する.		
教材（その他）			
評価方法	修士論文の研究課題の把握と理解（20%), 実験計画の策定（20%), 実験の遂行と結果（20%） およびその評価（20%), 他者からの評価を議論できる能力（10%), 発表表現能力（10%)などを 総合的に評価する.		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする。		
準備学習	事前準備については，指導教員が個々に必要に応じた最適な指導をする.		

受講者への要望

社会が求めている人材を各自イメージしながら，グリーンバイオ技術者や研究者に必要なスキルと知識を身につけること.
目標とする研究テーマに真剣に意欲的に忍耐強く立ち向かって取り組むこと.
研究室構成員の一員として，院生は研究活動の遂行と維持にリーダー的な立場で行動すること.
研究科内で実施される大学院生専門情報交換会へ積極的に参加し，特別研究のスキル上達に研鑽すること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-3.　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
4-6.　研究計画の策定と研究方法の検討
7-9.　ゲノムレベルでの研究課題の検討
10-13. 細胞レベルでの研究課題の検討
14-17. 修飾分子レベルでの研究課題の検討
18-21. 生体高分子複合体・細胞内オルガネラ等での検討
22-30. 予備実験の実施と結果の検討

(2 年次)
31-34. 実験計画の吟味と改善

35-40. 実験の実施と再現性及び信頼性の確立
41-50. 発展的な実験の実施と結果の検討
51-54. 関連分野の実験成果と比較し，新規性の確認と検討
55-58. 成果の整理と検討及び発表形式の検討
59-60. 発表形式の検討と確認

尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある．

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76005A01
科目名	【院】微生物機能開発学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Microbial Biotechnology I		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通していなくてはならず、そのためには様々な文献に対する高度な読解力が必要になる。現在はその多くが英文で書かれており、専門用語に習熟することも必須である。本演習では、各受講生の特別研究のテーマについて文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　谷 吉樹 著（1992）コロナ社 2）応用微生物学 第2版　清水 昌、堀之内末治 編（2008）文永堂出版 3）遺伝子から見た応用微生物学　熊谷英彦 他 編（2008）朝倉書店 4）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.　Madigan, M.T. et al.（2010）　Pearson　Education		
教材（その他）	微生物学に関する文献（総説・原著論文）（適宜配布する／自ら収集する）		
評価方法	文献の選択と演習について、 次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	微生物機能開発学に関連する文献の読解力を強化し、科学的な問題解決力を養成する。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		

受講者への要望

当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、資料を作成してその内容を紹介する。その他の受講生は文献の学術的内容に関する討論に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1） 担当教員による文献の読み方についての講述（1）
2） 担当教員による文献の読み方についての講述（2）
3） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献1）
4） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献2）
5） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献3）
6） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献4）
7） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献5）
8） 受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献1）
9） 受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献2）
10） 受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献3）
11） 受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献1）
12） 受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献2）
13） 受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献3）
14） 受講生の発表と質疑（微生物代謝に関する文献1）
15） 受講生の発表と質疑（微生物代謝に関する文献2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76005B01
科目名	【院】微生物機能開発学特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Microbial Biotechnology II		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通していなくてはならず、そのためには様々な文献に対する高度な読解力が必要になる。原著論文には一定の記述様式があり、そのことに精通することが論文の内容を理解する上で必須の要件である。本演習では、各受講生の特別研究のテーマについて文献の探索および読解の能力を養うとともに、研究に対する客観的な批判力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	微生物学に関する文献（総説・原著論文）（適宜配布する／自ら収集する）		
評価方法	文献の選択と演習について、 次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	微生物機能開発学特別演習 I で修得した内容を基盤として、微生物機能開発学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を身につける。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生 1 名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、資料を作成してプレゼンテーションソフト等でその内容を紹介する。その他の受講生は文献の学術的内容に関する討論に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1） 担当教員による微生物機能開発学特別演習 I の習熟度評価
2） 担当教員による文献の収集・整理法についての講述
3） 受講生の発表と質疑（微生物分子細胞生物学に関する原著論文 1）
4） 受講生の発表と質疑（微生物分子細胞生物学に関する原著論文 2）
5） 受講生の発表と質疑（微生物分子細胞生物学に関する原著論文 3）
6） 受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文 1）
7） 受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文 2）
8） 受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文 3）
9） 受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文 4）
10） 受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 1）
11） 受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 2）
12） 受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 3）
13） 受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 4）
14） 受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 5）
15） 総合討論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76005C01
科目名	【院】微生物機能開発学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Microbial Biotechnology Ⅲ		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのためには、微生物機能開発学特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連する研究の現状と問題点を、第三者が理解できるようにまとめ上げる能力を養成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第2版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	微生物学に関する文献・原著論文を受講生がまとめた資料（各回ごとに配布する）		
評価方法	文献・原著論文の選択と演習について、次の点で評価する。 ・問題設定の適性度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・科学的・技術的観点からの現状の把握度（30%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	微生物機能開発学特別演習ⅠおよびⅡで修得した文献・原著論文の読解力を基盤として、各問題の現状認識と技術の将来予測をするための能力を身につける。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
講義時間ごとに受講生1名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って課題を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。さらに発表のための資料を作成し、その内容を紹介する。その他の受講生は総説の学術的内容に関する質疑に積極的に参加する。			
講義の順序とポイント			
1）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述（1） 2）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述（2） 3）　受講生の発表と質疑（1） 4）　受講生の発表と質疑（2） 5）　受講生の発表と質疑（3） 6）　受講生の発表と質疑（4） 7）　受講生の発表と質疑（5） 8）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（1） 9）　受講生の発表と質疑（6） 10）　受講生の発表と質疑（7） 11）　受講生の発表と質疑（8） 12）　受講生の発表と質疑（9） 13）　受講生の発表と質疑（10） 14）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（2） 15）　総合討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76005D01
科目名	【院】微生物機能開発学特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Microbial Biotechnology IV		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのために、微生物機能開発学特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連する研究の現状を認識する能力と、微生物機能開発学領域における論文作成のためのスキルを養成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第2版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	受講生が作成したレジュメなど。		
評価方法	選択した各文献・原著論文と執筆した論文について、次の点で評価する。 ・問題設定の適性度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・論文作成能力（50%）		
到達目標	英文誌に投稿可能な様式で論文を執筆する力を身につける。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
前半は微生物機能開発学特別演習Ⅲと同様に進める。後半は受講生各自で作成した論文をもとに、質疑応答を行う。			
講義の順序とポイント			
1）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述 2）　受講生の発表と質疑（1） 3）　受講生の発表と質疑（2） 4）　受講生の発表と質疑（3） 5）　受講生の発表と質疑（4） 6）　受講生の発表と質疑（5） 7）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘 8）　担当教員による論文作成のスキルの解説 9）　受講生が作成した論文に対する質疑（1） １０）　受講生が作成した論文に対する質疑（2） １１）　受講生が作成した論文に対する質疑（3） １２）　受講生が作成した論文に対する質疑（4） １３）　受講生が作成した論文に対する質疑（5） １４）　担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘 １５）　総合討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76006005
科目名	【院】微生物機能開発学特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Microbial Biotechnology		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	微生物機能開発学領域における学術研究を通して、応用微生物学分野の専門知識と技術を高いレベルで修得する。環境と調和した物質生産、未利用資源の有効利用、発酵・醸造における微生物の役割と有用微生物の探索といった問題に関して、目的とする機能を最高レベルで保持する菌株を探索し、（1）当該機能の微生物学的・生化学的意義の解明、（2）遺伝子レベルでの機能解明、（3）遺伝子工学的手法による機能増強、（4）物質生産の場合はその生物工学的諸条件の確立、といった過程を通じた機能開発を行う。これらの研究の成果を修士論文としてまとめる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	先行研究に関する文献（原著論文・総説）など		
評価方法	学術研究と修士論文について、 次の点で評価する。 ・研究への取り組み（50%） ・修士論文の論理性（25%） ・修士論文の学問的到達度（25%）		
到達目標	1）応用微生物学分野の専門知識と技術の高いレベルでの修得。 2）応用微生物学分野の学問的意義のある修士論文（英文）の完成。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
・微生物機能の開発をテーマとした学術研究に受講者一人一人が取り組む。 ・担当教員の助言に従って研究を展開し、その成果を修士論文としてまとめる。 ・学術研究への 2 年間の徹底的な没頭を求める。			
講義の順序とポイント			
担当教員が個別的な研究指導を随時行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76007A01
科目名	【院】食品機能学特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Food Science I		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76007B01
科目名	【院】食品機能学特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Food Science II		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	食品科学で修得した内容を基盤として、食品科学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。 　各受講生の研究テーマに関連した原著論文の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する批判力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）	食品科学に関する原著論文（各回ごとに配布する）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。 ・原書論文選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	英語原著論文の内容をさらに迅速に理解し、その論文の成果や問題点を科学的･技術的観点から把握できる。また、その論文の結果から新しい仮説や予測ができる。さらに明確で的確なプレゼンテーションができる。		
準備学習	常日頃、発表すべき論文を入手しておき、読んでおく。		
受講者への要望			
講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。			
講義の順序とポイント			
１．担当教員による食品科学特別演習Ｉの習熟度評価。 ２．担当教員より文献の収集・整理について講述する（１）。 ３．担当教員より文献の収集・整理について講述する（２）。 ４．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文１） ５．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文２） ６．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文３） ７．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文１） ８．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文２） ９．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文３） １０．受講生の発表と質疑（食品成分生理学に関する原著論文１） １１．受講生の発表と質疑（食品成分生理学に関する原著論文２） １２．受講生の発表と質疑（食品成分生理学に関する原著論文３） １３．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文１） １４．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文２） １５．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76007C01
科目名	【院】食品機能学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Food Science Ⅲ		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	食品機能・健康科学演習ⅠおよびⅡで修得した文献・原著論文の読解力を基盤として、研究テーマに関する文献・原著論文からその分野の問題の現状認識と技術の将来予測を議論し、それらの能力を養成する。		
教材（テキスト）	取りまとめられた文献・原著論文をまとめた冊子（各回ごとに配布）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・科学的・技術的観点からの現状の把握度（30%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	受講生は取りまとめられた文献・原著論文から総説を作成し、当該分野の現状認識と将来予測をするための能力を習得する。		
準備学習	受講生は関連する文献・原著論文を収集し、発表のための資料を作成する。		

受講者への要望

受講生に複数時間の講義時間を割り当てる。受講生は担当教員の助言に従って課題を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料も作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1．文献・原著論文の収集・整理法の講述
2．受講生の発表と質疑（1）
3．受講生の発表と質疑（2）
4．受講生の発表と質疑（3）
5．受講生の発表と質疑（4）
6．受講生の発表と質疑（5）
7．受講生の発表と質疑（6）
8．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（1）
9．受講生の発表と質疑（7）
10．受講生の発表と質疑（8）
11．受講生の発表と質疑（9）
12．受講生の発表と質疑（10）
13．受講生の発表と質疑（11）
14．受講生の発表と質疑（12）
15．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76007D01
科目名	【院】食品機能学特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Food Science IV		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	食品機能・健康科学演習Ⅲと同様に、各問題の現状認識と技術の将来を予測するための能力を養成するとともに、論文作成の能力を養成する。。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメなど。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・論文作成能力（50%）		
到達目標	受講生は取りまとめられた文献・原著論文から総説を作成し、当該分野の現状認識と将来予測をするための能力を習得するとともに論文作成のスキルを習得する。		
準備学習	受講生は関連する文献・原著論文を収集し、発表のための資料を作成するとともに、論文作成のためのデータを整理する。		

受講者への要望

前半は食品機能・健康科学演習Ⅲと同様に進める。後半は、受講生各自で作成した論文をもとに、質疑応答を行う。

講義の順序とポイント

1．受講生の発表と質疑（1）
2．受講生の発表と質疑（2）
3．受講生の発表と質疑（3）
4．受講生の発表と質疑（4）
5．受講生の発表と質疑（5）
6．受講生の発表と質疑（6）
7．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘
8．論文作成のスキルを解説
9．受講生が作成した論文に対する質疑（1）
10．受講生が作成した論文に対する質疑（2）
11．受講生が作成した論文に対する質疑（3）
12．受講生が作成した論文に対する質疑（4）
13．受講生が作成した論文に対する質疑（5）
14．受講生が作成した論文に対する質疑（6）
15．受講生の作成論文の評価と問題点の指摘

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76008005
科目名	【院】食品機能学特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Food Science		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	野菜・作物の機能性成分の化学および生理機能に関する研究を行い、食品科学の分野で新しい知見を得る。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	修士論文および口頭発表で評価する。		
到達目標	修士論文の完成とともに食品科学分野で何らかの新しい知見を得る。場合によっては、学会などで発表する機会を持つ。		
準備学習	研究を推進するにあたって、関連文献を収集する。それらを読んで、目標設定や実験計画を立案する。		
受講者への要望			
原著論文の読み込みは必須であり、科学英語の読解力を向上させる。常に何をすべきかを考えて生活する（考動する）ことを心掛ける。			
講義の順序とポイント			
1．テーマの企画・設定 2．テーマに関する文献情報や web 情報の取得、理解 3．実験計画の立案 4．テーマの取り組み 5．修士論文の作成 6．研究の発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76009A01
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Plant Biotechnology I		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要があり、さまざまな原著論文や参考資料に対する高度な読解力が必要となる。またその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、積極的に討論に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成する事を目的とする。このため、各受講生がまとめた研究テーマに関する資料を、パワーポイント等を用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）文献選択の適正度（20%)、（２）研究目的の理解度（20%)、（３）研究手法の理解度（20%)、（４）科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%)、（５）質疑への参加度（20%）		
到達目標	植物バイオテクノロジー分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行っておくこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 担当教員より文献の読み方について講述する（１）
2. 担当教員より文献の読み方について講述する（２）
3. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
4. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
5. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
6. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
7. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
8. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
9. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
10. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
11. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
12. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
13. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
14. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
15. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76009B01
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Plant Biotechnology II		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要があり、さまざまな原著論文や参考資料に対する高度な読解力が必要となる。またその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、積極的に討論に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成する事を目的とする。このため、各受講生がまとめた研究テーマに関する資料を、パワーポイント等を用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）文献選択の適正度（20%)、（２）研究目的の理解度（20%)、（３）研究手法の理解度（20%)、（４）科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%)、（５）質疑への参加度（20%）		
到達目標	植物バイオテクノロジー分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行っておくこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 植物バイオテクノロジー特別演習Ｉの習熟度評価
2. 文献の検索、収集、整理などに講述し、パソコンを用いての検索演習を行う
3. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
4. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
5. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
6. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
7. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
8. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
9. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
10. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
11. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
12. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
13. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
14. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
15. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76009C01
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Plant Biotechnology Ⅲ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。そのために、植物バイオテクノロジー特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関する現状認識と問題点を第三者に理解できるようにまとめ上げ、パワーポイントなどを用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	受講者が作成したレジュメなどを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）問題設定の適正度（30%）、（２）文献・原著論文選択の適正度（20%）、（３）科学的・技術的寒天からの現状の把握度（30%）、（４）質疑への参加度（20%）		
到達目標	植物バイオテクノロジー分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うため、原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力、取りまとめて発表する能力などを修得し、あわせ問題点解決に活用する能力も修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行うこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する（１）
2. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する（２）
3. 受講生の発表と質疑（１）
4. 受講生の発表と質疑（２）
5. 受講生の発表と質疑（３）
6. 受講生の発表と質疑（４）
7. 受講生の発表と質疑（５）
8. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（１）
9. 受講生の発表と質疑（６）
10. 受講生の発表と質疑（７）
11. 受講生の発表と質疑（８）
12. 受講生の発表と質疑（９）
13. 受講生の発表と質疑（１０）
14. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（２）
15. まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76009D01
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Plant Biotechnology IV		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。そのために、植物バイオテクノロジー特別演習 I および II で修得するさ文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関する現状認識と問題点を第三者に理解できるようにまとめ上げる。　またパワーポイントなどを用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメなどを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）問題設定の適正度（30%)、（２）文献・原著論文選択の適正度（20%)、（３）論文作成および発表能力（50%）		
到達目標	ある分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行うこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生 1～２名を割り当てる。前半では、当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。後半は、受講生各自で作成した論文をもとに発表資料を作成して発表し、参加者を含めて質疑応答を行う。このための準備を常に行っておくこと。

講義の順序とポイント

1. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する。
2. 受講生の発表と質疑（１）
3. 受講生の発表と質疑（２）
4. 受講生の発表と質疑（３）
5. 受講生の発表と質疑（４）
6. 受講生の発表と質疑（５）
7. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘
8. 担当教員による論文作成のスキルを解説する。
9. 受講生が作成して論文に対する質疑（１）
10. 受講生が作成して論文に対する質疑（２）
11. 受講生が作成して論文に対する質疑（３）
12. 受講生が作成して論文に対する質疑（４）
13. 受講生が作成して論文に対する質疑（５）
14. 担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘
15. まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76010005
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Plant Biotechnology		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76011B01
科目名	【院】流域環境デザイン特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Design of Watershed-Scale-Env ironment II		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。 現代的な課題や受講生各自の興味にあわせて具体的な内容を定める。 特別演習 II ではランドスケープ・デザインを取り扱う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	「ランドスケープ・デザイン」		
教材（その他）	雑誌「ビオ・シティ」「ランドスケープ・デザイン」 日本景観生態学会誌 日本造園学会誌「ランドスケープ研究」		
評価方法	総合的に行う。		
到達目標	事前には設定しない。		
準備学習	よいと思ったランドスケープについて写真やスケッチで記録をとるのを習慣にしてください。		

受講者への要望

しっかり勉学して下さい。

講義の順序とポイント

特別研究と連動し、特別演習 I ～iv を以下の順で行う。
I エコロジー
II プランニング
III デザイン
iv マネジメント
1）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む）（1～4回）
2）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討（5～6回）
3）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする)（7～12回）
4）各自の活動の取りまとめとプレゼンテーション（13～15回）

課題設定については、各自の興味と実践的なプロジェクト、各種条件を勘案するプロセスも演習の重要な要素とする。
具体的にはエコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76011C01
科目名	【院】流域環境デザイン特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Design of Watershed-Scale-Env ironment III		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。 現代的な課題や受講生各自の興味にあわせて具体的な内容を定める。 特別演習 III ではランドスケープ・エコロジーを取り扱う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	「日本景観生態学会誌」「日本造園学会・ランドスケープ研究」「日本緑化工学会誌」		
教材（その他）			
評価方法	総合的に判断する。		
到達目標	事前には設定しない。		
準備学習	記載した参考文献のなかで興味ある記事を複数読み込んでおくこと。		

受講者への要望

しっかり勉学して下さい。

講義の順序とポイント

特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～iv を以下の順で行う。
Ⅰ エコロジー
II プランニング
III デザイン
iv マネジメント
１）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む）（１～４回）
２）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討（５～６回）
３）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする）（７～１２回）
４）各自の活動の取りまとめとプレゼンテーション（１３～１５回）

課題設定については、各自の興味と実践的なプロジェクト、各種条件を勘案するプロセスも演習の重要な要素とする。
具体的にはエコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76011D01
科目名	【院】流域環境デザイン特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Design of Watershed-Scale-Env ironment IV		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。 現代的な課題や受講生各自の興味にあわせて具体的な内容を定める。 特別演習 IV ではランドスケープマネジメントを取り扱う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	「日本景観生態学会誌」「日本造園学会・ランドスケープ研究」「日本緑化工学会誌」		
教材（その他）			
評価方法	総合的に判断する。		
到達目標	事前には設定しない。		
準備学習	日本景観生態学会誌、日本造園学会・ランドスケープ研究など関連学会誌やビオシティなど関連雑誌バックナンバーの目次と特集記事などに目を通し、特に最近の傾向を把握しておいてください。		
受講者への要望			
調べものなどは受講生相互に助け合ってください。			
講義の順序とポイント			
特別研究と連動し、特別演習Ｉ～iv を以下の順で行う。 Ｉ エコロジー II プランニング III デザイン iv マネジメント １）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む）（１～４回） ２）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討（５～６回） ３）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする)（７～１２回） ４）各自の活動の取りまとめとプレゼンテーション（１３～１５回） 課題設定については、各自の興味と実践的なプロジェクト、各種条件を勘案するプロセスも演習の重要な要素とする。 具体的にはエコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76013D01
科目名	【院】農・森林環境デザイン特別演習 IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Design of Regional Ecosystem and Land Use IV		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	これまでに学んだ農・森林環境デザイン特別演習を基本として、各受講生の研究テーマに関連した課題に関する現状認識の能力に加えて、農・森林環境デザインに関わる論文作成のためのスキルを養成する。		
教材（テキスト）	教員と相談して選んだ英語論文の文献		
教材（参考文献）	その都度与える.		
教材（その他）	特になし.		
評価方法	第６回までにつて、英語文献の選択の適切さ（１０%)、内容の理解度（４０%)、発表の取りまとめや表現の適切さ（１０%）の割合で評価する。第７回以降は、作成論文の内容の適切さ（３０%)、発表方法（１０%）で評価する。		
到達目標	農・森林環境デザインに関する論文の読破と論文の書き方を修得する。		
準備学習	本演習に関する和文の論文をできるだけ多く読んでおくこと。		
受講者への要望			
自然の観察を日々行っておくこと。			
講義の順序とポイント			
1) 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する。 2) 関連英語論文を解読し、発表と質疑（１） 3) 関連英語論文を解読し、発表と質疑（２） 4) 関連英語論文を解読し、発表と質疑（３） 5) 関連英語論文を解読し、発表と質疑（４） 6) 関連英語論文を解読し、発表と質疑（５） 7) 担当教員による発表内容の評価と問題点の指摘 8) 担当教員による論文作成のスキルを解説する。 9) 受講生が作成した論文に対する質疑（１） 10) 受講生が作成した論文に対する質疑 11) 受講生が作成した論文に対する質疑 12) 受講生が作成した論文に対する質疑 13) 受講生が作成した論文に対する質疑 14) 各人の論文内容の概要発表。 15) 担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76015B01
科目名	【院】都市自然化デザイン特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Urban Design for Naturalizati on II		
担当者名	中川　重年	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76015C01
科目名	【院】都市自然化デザイン特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Urban Design for Naturalizati on III		
担当者名	中川　重年	旧科目名称	
講義概要	都市及びそれを含む流域全体における水と環境分野を中心とした解析・評価手法について学ぶ。特に GIS とリモートセンシングに係る比較的高度な手法を用いることで、水系解析、土地利用分類、動植物の生息空間評価、流域診断などの基本的な手法を習得する。使用するソフトウエアは ArcGIS、TNTmips など比較的この分野で幅広く使用されているものを対象とする。都市・地域・流域などの空間的広がりのある範囲において GIS とリモートセンシングを縦横に利活用できる技術を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	図解 Ar c GIS　GIS 実践に向けてのステップアップ（川崎昭如他）古今書院 自然環境解析のためのリモートセンシング・GIS ハンドブック（長澤良太他）古今書院		
教材（その他）			
評価方法	流域解析（30%）、指標解析（30%）、生物生息空間評価（40%）		
到達目標	都市・地域空間の解析ツールとしての GIS 技術の習得		
準備学習	都市地域空間の解析すべき内容について各自で整理しておいてください。		
受講者への要望			
自然環境解析に用いる情報解析技術については社会でよく取り上げられるので注意して情報を収集してください。			
講義の順序とポイント			
1 . ArcGIS の基本操作 2 .ArcGIS と GoogleEarth 3 .ArcGIS の ToolBox の使い方 4 .ArcGIS のエクステンションの使い方（Spatial Analyst） 5 .ArcGIS のエクステンションの使い方(3D Analyst) 6 .ArcGIS のエクステンションの使い方(その他のエクステンション） 7 .ArcGIS のエクステンション（バランスツールボックスの使い方） 8 .ArcGIS による流域解析 1 9 .ArcGIS による流域解析 2 10 .ArcGIS による指標解析 1 11 .ArcGIS による指標解析 2 12 .ArcGIS による指標解析 3 13 .ArcGIS による生物生息空間評価 1 14 .ArcGIS による生物生息空間評価 2 15 .ArcGIS による生物生息空間評価 3			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76015D01
科目名	【院】都市自然化デザイン特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Urban Design for Naturalizati on IV		
担当者名	中川　重年	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案に基づく研究活動の成果を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、問題解決に使われる新規の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 バイオ環境に関わる専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得する。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表素るので、その詳細を知ることには学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について　総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構成の理解　(40%) ・課題解決に用いられた研究手法の理解　(30%) ・新規の研究手法の利用法と評価力　(30%)		
到達目標	博士論文の研究課題に関する研究を進める上で重要な研究手法を理解し、習得するために必要な学識の取得を目標とする。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
研究課題と関連のある研究手法を習得し、絶えず関連学術文献に注目すること。			
講義の順序とポイント			
1.　高度な学術論文の選別 2.　高度な学術論文の論理構造の解析　(1) 3.　高度な問題解決の手法の理解と活用法　(1) 4.　未解決の課題の発見と解決法の想定　(1) 5.　高度な学術論文の論理構造の解析　(2) 6.　高度な問題解決の手法の理解と活用法　(2) ７.　未解決の課題の発見と解決法の想定　(2) 8.　高度な学術論文の論理構造の解析　(3) 9.　高度な問題解決の手法の理解と活用法　(3) 10. 未解決の課題の発見と解決法の想定　(3) 11. 高度な学術論文の論理構造の解析　(4) 12. 高度な問題解決の手法の理解と活用法　(4) 13. 未解決の課題の発見と解決法の想定　(4) 14. 研究領域の新たな潮流のまとめと社会的背景 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76021A01
科目名	【院】科学英語演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Scientific English I		
担当者名	Judith Anne Tabohashi	旧科目名称	
講義概要	This is an academic oral presentation skills course conducted entirely in English. The development of group discussion and academic oral presentation skills will be emphasized.		
教材（テキスト）	No text book is assigned. Prints and relevant materials to be provided by the teacher.		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Students will be evaluated on the following criteria: 1/ Discussion leadership skills 20% 2/ Discussion participant skills 20% 3/ Oral Presentation skills 50% 4/ Review Quizzes 10%		
到達目標	On completion of this intensive course, students will feel confident to conduct academic discussions and make formal oral presentations in English.		
準備学習	Although there is no textbook, students will be expected to bring and maintain an A4 size file for the prints and notes that will be given in each lesson. Homework will be assigned as preparation for the following day's classes. It is essential that students do the homework as a prerequisite to attending the class. Students will be expected to conduct individual research to prepare for their presentation.		

受講者への要望

Very active class participation and complete attendance is required to pass this class.

講義の順序とポイント

1/ Introduction to the course and introduction to academic discussion
2/ General discussion skills development
3/ Audience analysis
4/ Question formation 1
5/ Question formation 2
6/ Developing listening skills
7/ Oral summary skill development
8/ Small group discussion presentation
9/ Presentation skills development 1
10/ Presentation skills development 2
11/ Presentation skills development 3
12/ Presentation Practice and Peer Feedback session
13/ Presentations 1
14/ Presentations 2
15/ Presentation Review and Feedback

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76021B01
科目名	【院】科学英語演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Scientific English I I		
担当者名	Amundrud Thomas Martin	旧科目名称	
講義概要	ライティングの練習や論文執筆を通じて、英語の科学論文のライティングの構成、文法、語彙、文体上の要素、編集などを学ぶ。また。クラスでの演習を通じて、英語によるコミュニケーションやプレゼンテーションのスキルを磨く。		
教材（テキスト）	理系研究者のためのアカデミックライティング（Science research writing for non-native speakers of English).		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	評価は以下のようにして行う ・授業中に行なう演習とプレゼンテーション（30%） ・ライティングの課題や宿題の遂行能力と正確さ（50%） ・授業への参加と授業中の態度（20%）		
到達目標	学術雑誌および会議のための出版可能なレベルの英語文書を作成するために必要な基礎的スキルを身につける。		
準備学習	修士論文研究を題材にして、英語要旨や英語論文を作成しておくことが望ましい。また修士論文研究に関連した論文やパソコンに取り込んだ資料を準備することが望ましい。		
受講者への要望			
英語の科学論文全体を作成する十分な時間がないため、修士論文研究の要旨を上手に書き上げることができるようになることを目指す。受講生は修士論文研究について英語で説明したりすることを求められる。			
講義の順序とポイント			
1. Introduction to the course & basics of paragraph writing 2. What makes scientific writing in English difficult?: The passive voice 3. Introduction to the structure of scientific articles: Overview 4. Introduction to the structure of scientific articles: The introduction 5. Review: Scientific article introductions and passive voice 6. Introduction to the structure of scientific articles: The methodology section 7. What makes scientific writing in English difficult?: Using prefixes, roots, and suffixes 8. How to summarize 9. Review: The methodology section 10. Introduction to the structure of scientific articles: The results section 11. How to write an abstract in English (1) 12. How to write an abstract in English (2) 13. Review: The results section 14. Introduction to the structure of scientific articles: The discussion and conclusion 15. Using citations and references			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76022001
科目名	【院】生物有機化学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Bioorganic Chemistry		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	本講義では、化学生態学および天然物化学の観点から、昆虫類を材料とした最近の研究の進歩を紹介する。具体的には、近年著しく進歩した機器分析手法の解説、それらの進歩により可能となった少量の材料による実験法、それに伴う微量天然物のハンドリングの具体例を示しながら解説する。次に、本研究室に蓄積されたダニ類のフェロモン、ミツバチ等の昆虫フェロモンや行動科学の研究成果を中心にした知見を示すことによって現行技術を理解し、それを基にして関連分野の技術革新のための素養を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	各項目に関連する資料をパワーポイントやプリントなどで提供する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各項目に対してレポート提出を課し、次の 3 項目の理解度および習熟度で評価する。 ・化学生態学の応用と社会的基盤（20%） ・各知見・手法・技術の有機化学および生物学的学問基盤（50%） ・各知見・手法・技術の一般的および特異的要素解析（30%）		
到達目標	化学生態学および天然物化学の観点から植物や昆虫を材料とした最近の研究の進歩を理解し、それを基にして関連分野の技術革新のための学問基盤を身につける。		
準備学習	事前に配布する参考文献や資料の概要を把握しておく。		
受講者への要望			
上記の評価基準に照らして、各項目のレポートを作成し、期限までに提出すること。			
講義の順序とポイント			
1．序論 2．微量天然物の機器分析　（GC/MS、NMR、IR 等） 3．天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱い 4．コガネムシの化学生態学　（警報、集合、性フェロモン） 5．コガネムシの化学生態学　（警報、集合、性フェロモン） 6．カミキリムシの化学生態学　（警報、集合、性フェロモン） 7．蛾の化学生態学　（警報、集合、性フェロモン） 8．ミツバチの化学生態学　（集合フェロモン、植物-昆虫の共進化） 9．ミツバチの化学生態学　（警報、性フェロモン） １０．スズメバチの化学生態学、行動科学 １１．土壌動物のフェロモンの化学 １２．土壌動物のフェロモンの有機合成Ⅰ １３．土壌動物のフェロモンの有機合成Ⅱ １４．土壌動物のフェロモンの生合成Ⅰ １５．土壌動物のフェロモンの生合成Ⅱ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76023001
科目名	【院】分子生物学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Molecular Biology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	進展めざましい生命科学の基盤は，分子や細胞レベルで種々の機能を理解できる分子生物学にあります． 最新の生命科学の発見を理解できる素養を身につけることを本講義の目的にします． とりわけ，クロマチンの動的構造と機能，転写調節や転写抑制の機構，タンパク質構造と機能調節，細胞の応答シグナル，細胞や細胞小器官同士のクロストーク，発生分化の調節遺伝子システム，疾患関連遺伝子群とエピジェネティクスなどに注目します。		
教材（テキスト）	教科書は特定しないが，学習履歴に応じて個々に講義時間内で推薦する．		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	提供した教材に関する課題レポートを講義ごとに課し、講義時間内や時間外レポートによって、 以下の内容で評価します。 ・課題の理解度と概要要約の評価　(40%) ・キーワードの理解度から科学リテラシーの評価　(30%) ・関連課題の調査と整理の評価　(30%)		
到達目標	生命科学全体に関して、とりわけ最新の話題を中心に種々の現象を理解し、分子的な基盤に基づき説明できること。		
準備学習	配布テキストとして、最新の専門的な英文論文を使用するので、事前に通読して、概要を把握し、予備知識を整理しておくこと。		

受講者への要望

講義ノートを整理し，課題レポートを作成し，期限を守って提出すること．
レポートに追加課題や添削がある場合は，指示に従ったレポートを完成させること．

講義の順序とポイント

1. クロマチン構成タンパク質の構造変化と機能調節　(中村)
2. クロマチン構成タンパク質を化学修飾するタンパク質（中村）
3. クロマチン構造の変化を引き起こすエネルギー依存タンパク質　(中村)
4. 転写調節因子の複合体タンパク質の動的変化と転写活性の調節（中村）
5. ヘテロクロマチン構造維持と核骨格タンパク質の動態（中村）
6. 組織特異性と多様な転写抑制因子群　(中村)
7. 細胞分化を誘導する転写調節因子（中村）
8. 細胞内外の環境を感知する細胞膜タンパク質と細胞マトリックスタンパク質（松原）
9. 細胞外シグナルの伝達経路を調節するタンパク質と細胞骨格タンパク質の構造変化　(松原)
10. シグナル伝達と核内応答機構で機能するタンパク質（松原）
11. 細胞社会を調節するタンパク質と応答システムで機能する因子　(松原)
12. 生体の恒常性を維持し、監視するシステムに関わる生体分子（松原）
13. 細胞分裂と発生や老化に関わる調節するタンパク質の機能（松原）
14. 細胞社会の破綻と病因関連タンパク質とガン化（松原）
15. 課題レポートの発表と討論会（中村）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76024001
科目名	【院】応用微生物学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Applied Microbiology		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	微生物を用いる産業技術、すなわち微生物バイオテクノロジーは、伝統的な食品製造技術を基盤として発展し、過去 100 年の間に化学工業、環境改善技術、医薬品製造などへとその領域を拡大してきた。今後は低炭素社会を支える中心的技術に発展すると考えられているが、この分野の日本の技術レベルは世界の最先端にあり、人類社会への貢献が強く期待される。本講義では、伝統的な醸造工業の技術基盤、化成品製造における微生物酵素の活用、抗生物質等の医薬品製造、汚染環境の改善技術等に関連する具体例を示すことによって現行技術を理解し、それを基にして技術革新のための素養を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	各項目に関連する資料をプリント等で提供する。		
評価方法	各項目に対してレポートを課し、以下の 3 点の理解度および習熟度に基づいて評価する。 ・微生物産業の社会的基盤（30%） ・各技術の基盤となる微生物学および生化学的学問基盤（40%） ・各技術開発要素解析（30%）		
到達目標	微生物を用いる食品製造、物質生産、環境改善、医薬品製造等に関する技術開発の学問基盤に習熟する。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
上記の評価基準に照らして各項目のレポートを作成し、期限までに提出する。			
講義の順序とポイント			
1）　序論 2）　伝統的な醸造工業の技術基盤（酒類１） 3）　伝統的な醸造工業の技術基盤（酒類２） 4）　伝統的な醸造工業の技術基盤（食酢、その他） 5）　化成品製造における微生物酵素の活用（微生物酵素の特徴） 6）　化成品製造における微生物酵素の活用（キラル化合物１） 7）　化成品製造における微生物酵素の活用（キラル化合物２） 8）　抗生物質等の医薬品製造（抗生物質１） 9）　抗生物質等の医薬品製造（抗生物質２） １０）　抗生物質等の医薬品製造（代謝阻害剤１） １１）　抗生物質等の医薬品製造（代謝阻害剤２） １２）　環境改善技術（廃水処理技術の微生物基盤） １３）　環境改善技術（微生物を用いる環境改善技術） １４）　環境改善技術（酵素を用いる環境改善技術） １５）　エネルギー生産と微生物			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76025001
科目名	【院】食品科学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Food Science		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	拙著の総説「Functional Foods and Biotechnology in Japan」を紹介するとともにその中に掲載されているトピックスの原著論文を読むことによって、機能性食品の開発や製造におけるバイオテクノロジーを理解する。		
教材（テキスト）	必要に応じて、プリント配布		
教材（参考文献）	「Biotechnology in Functional Foods and Nutraceuticals 」　CRC Press （2010 年 4 月）		
教材（その他）			
評価方法	各自にトピックスの論文の紹介を担当させ(50%)、発表力および受講者の質疑(25%)、その応答の仕方(25%)で評価する。		
到達目標	英語論文の読解力および理解力に基づいて、食品バイオの技術基盤を理解する。		
準備学習	担当する論文は発表できるようにまとめておく。		

受講者への要望

受講者は英語論文の内容を読むことで理解することを心掛ける。発表は理解させることを目的とする。

講義の順序とポイント

1．総論
2．Bioactive Peptides Processed by Proteases or Microbes
3．論文紹介
4．Oligosaccharides
5．論文紹介
6．Dietary Fibers and Other Bioactive Saccharides
7．論文紹介
8．Glucosylation of Flavonoids
9．論文紹介
10．Other Glycosylated Products
11．論文紹介
12．Functional Lipids or Acylated Products Processed by Lipase
13．論文紹介
14．Functional Foods Fermented by Microbes
15．展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76026001
科目名	【院】植物生理生化学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Plant Biochemistry an d Physiology		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	植物の機能開発やその有効活用を行うために、植物の構造、機能の基盤となる遺伝子について理解を深め、さらに光合成・一次代謝・二次代謝などを含む植物の代謝、環境応答などについて理解を深める。さらにこれらの分子生物学的な背景についても最新の報告を含めて講述する。		
教材（テキスト）	なし、適宜プリントなどを配布する。		
教材（参考文献）	「植物の生化学・分子生物学」　B.B.Buchanan ら著、杉山監修（学会出版センター） 「テイツ・ザイガー植物生理学（第３版）」J.L.テイツ/E.ザイガー著、西谷/島崎監訳（培風館）		
教材（その他）			
評価方法	講義の基礎的理解と応用的課題に対するレポート作成を課し、講義の基礎的理解度と応用課題に対する取組み内容で評価する。レポート対象となる講義の範囲は以下のとおりであり、それぞれに対して 25%の配分とする。、　１．欲物の構造と機能および植物細胞工学、２．植物の代謝：光合成と一次代謝、３．植物の代謝：二次代謝と植物の環境応答、４．応用技術		
到達目標	植物の機能開発の基盤とするため植物機能を生理生化学的に理解し、分子生物学的な背景の理解と細胞工学的手法に習熟する。		
準備学習	植物生理学や生化学に関する基礎的事項について予習をしておくこと。また毎回の講義の復習もすること。		

受講者への要望

講義内容の理解を深めるために応用的課題をレポートに課すので、参考書等の活用すること。

講義の順序とポイント

1. 植物の構造と機能：１．細胞と細胞内小器官
2. 植物の構造と機能：２．器官と組織
3. 植物の遺伝子：１．遺伝子の機能と遺伝子工学
4. 植物の遺伝子：２．植物組織培養などの細胞工学
5. 植物の代謝：光合成
6. 植物の代謝：光合成
7. 植物の代謝：一次代謝
8. 植物の代謝：一次代謝
9. 植物の代謝：二次代謝
10. 植物の代謝：二次代謝
11. 植物の環境応答
12. 植物の環境応答
13. 応用技術：植物による環境汚染除去技術
14. 応用技術：食糧問題と植物バイオテクノロジー
15. 応用技術：食糧問題と植物バイオテクノロジー

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76027001
科目名	【院】流域環境学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Watershed-Scale-Envir onment		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	流域環境に関する理論、課題、これからのマネジメントのありかたに関する重要なトピックを設定し、森本幸裕、丹羽秀之、大西信弘、辻村茂男が、生態学、景観生態学、環境水質学、環境デザイン学、環境情報処理等の専門的立場から講義する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	森本幸裕編著『景観の生態史観：攪乱が再生する豊かな大地』（京都通信社）		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等に配慮しつつ、期末課題レポートを主に採点対象とする、		
到達目標	流域環境を水質、生物、景観など様々な観点の情報を整理し、可視化し、全体像の把握に迫ることができる。		
準備学習	前回の講義内容を復習し、修得しておくこと。		
受講者への要望			
自分の専門だけでなく、流域環境を様々な視点から見ることを心がけてください。			
講義の順序とポイント			
１～３．　（森本） 京都のランドスケープ ランドスケープデザインの世界 ４～７．　（丹羽） 環境情報を集める 環境情報を分析・評価し地図化する ８～１１．　（辻村） 琵琶湖淀川水系の流域環境 南丹地域の流域環境 １２～１５．（大西） 流域に暮らす住民の生業活動 流域環境開発と水産資源の変動 （※担当者が適宜変更することがある）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76028001
科目名	【院】農地生態学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Agricultural Ecosyste ms		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	日本の食料生産の実態を理解した上で、日本の農地にみられる水田、畑地、果樹園、農用林、農業用水を「農地生態系」としてとらえ、わが国と諸外国との農地生態系の違いを生産的および文化的側面から考察を加える。		
教材（テキスト）	適宜資料を配布し、教材を指示する。		
教材（参考文献）	適宜資料を配布し、教材を指示する。		
教材（その他）	適宜資料を配布し、教材を指示する。		
評価方法	レポート（５０％）と発表（５０％）で評価する。		
到達目標	食料生産と環境保全を理解する。		
準備学習	日頃から植物・動物を観察する。		
受講者への要望			
食料生産の実態を把握しつつ、生産の場である農地を生態学を基本としてみる眼を養うこと。このことを基に自ら仮説を模索し、設定し、先行研究をレビューし、検証の目処を立てる努力をすること。			
講義の順序とポイント			
１．概論 ２．日本の食料生産の実態。 ３．世界における日本の食料生産。 ４．作物の発達の歴史。 ５．作物の発達の歴史と生産の場。 ６．日本と西洋の食文化。 ７．日本と西洋の食文化と農業生産。 ８．農地生態学から見た日本と西洋の違い（１）。 ９．農地生態学から見た日本と西洋の違い（２）。 １０．農地生態学から見た日本と熱帯地域の違い。 １１．栽培技術と農地生態（１）。 １２．栽培技術と農地生態（２）。 １３．テーマ別発表(１)。 １４．テーマ別発表(２)。 １５．各人のテーマについての検討会。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76029001
科目名	【院】都市環境デザイン特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Urban Environmental D esign		
担当者名	中川　重年	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76031001
科目名	【院】生物資源特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Biological Resources		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	石油、石炭、天然ガスなどの化石燃料の大量消費が環境悪化や資源枯渇の問題を引き起こしている。生物資源をうまく活用すれば、化石燃料の消費を減らすことができる。 　生物は、一般には、動物、植物、微生物の３つに分類される。微生物は、物質の分解という機能を通じて、地球規模での物質循環に大きな役割を果たしている。この微生物の働きが健全でなければ、植物が育たず、動物も育たない。しかしながら、微生物集団が自然界で果たしている役割を解析するのに必要な手段が乏しく、あまり解明されていない。微生物集団の役割に対する理解も乏しく、うまく使えていないのが現状である。環境改善と省エネルギーのために、自然界の微生物集団を有効に利用するための方法を講義する。		
教材（テキスト）	金川貴博著『ありがとう、微生物たち』東洋書店、2,200 円＋消費税		
教材（参考文献）			
教材（その他）	必要に応じてプリントを配布する		
評価方法	授業での平常点（30%）、授業中に行う小テスト（30%）、レポート（40%）により評価する。		
到達目標	自然界に生息する微生物集団の力を有効に利用するための基本的な考え方を身に付ける。		
準備学習	専門用語がたくさん出てくるので、講義の復習をしっかり行って、用語の意味を理解しておくこと.。理解度を授業の冒頭の小テストでチェックする。		
受講者への要望			
授業の内容をしっかりとノートにとること。			
講義の順序とポイント			
１．地球規模での資源の循環と、環境微生物が果たす役割(教科書 p.14-22) ２．微生物集団の産業利用（p.23-98） ３．微生物集団を理解するための手法：過去の方法と問題点(p.173-177) ４．微生物の培養に依存せずに微生物集団を解析する新しい方法の概要(p.178-179) ５．DNA に着目した解析のための基礎知識 ６．FISH 法(p.178-182) ７．定量 PCR 法(p.187) ８．DGGE 法、T-RFLP 法、クローン法(p.182-186) ９．次世代シーケンサーを利用する方法(p.187) １０．解析結果を記載した論文を読む（１） １１．解析結果を記載した論文を読む（２） １２．微生物集団の有効利用：廃水処理 １３．微生物集団の有効利用：バイオガスの生産 １４．無殺菌での有用物の生産と、雑菌の制御(p.99-144) １５．生物資源の利用の展望(p.207-212)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76032001
科目名	【院】グリーンバイオ最先端技術特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Green Biotechnology		
担当者名	柴野　裕次	旧科目名称	
講義概要	バイオ技術、とりわけ遺伝子組換え技術について、背景となった分子生物学の発展から遺伝子組み換え技術の確立に至る過程を説明する中で、バイオ技術に対する基本的な理解を深める。医薬、農業、食品・醸造、環境、エレクトロニクス等の様々な産業分野での利用形態を説明して、バイオ技術の有用性について理解させる。バイオ技術のリスク評価についても、科学的な根拠に基づく安全性評価を中心に説明する。担当者が経験したバイオテクノロジーの研究・開発における実例を紹介し、さらなる理解を深める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の項目に関するレポートを課し、その理解度および習熟度によって評価する。 遺伝子組換え技術の歴史と進歩（20%）、バイオ技術の利用形態（30%）、バイオ技術の利用分野（30%）、バイオ技術のリスク評価（20%）		
到達目標	様々な産業分野での遺伝子組換えを中心とする最先端技術と関連するリスク評価などについて理解を深める。		
準備学習	クローニング、塩基配列決定法、PCR 法等の遺伝子組換え技術の要素技術について、基礎理論を理解しておくこと。		

受講者への要望

上記に項目に対して講義内容に加えて参考資料等をも参照して、レポートを作成・提出すること。

講義の順序とポイント

1.　　バイオ技術の成り立ち１；生物学の発展
2. バイオ技術の成り立ち２；分子生物学から遺伝子組み換え技術へ
3. バイオ技術の要素技術
4. オールドバイオとニューバイオ
5. バイオ技術の利用形態１；異種タンパク質生産
6. バイオ技術の利用形態２；分子育種
7. バイオ技術の利用形態３；発酵生産
8. バイオ技術の利用形態４；タンパク質工学・酵素工学
9. バイオ技術の利用分野１；医薬
10. バイオ技術の利用分野２；農業
11. バイオ技術の利用分野３；食品・醸造
12. バイオ技術の利用分野４；エレクトロニクス、環境
13. バイオ技術の安全性確保とＰＡ
14. バイオ技術研究開発の実例１：殺虫性タンパク質、メタノール酵母発現系
15. バイオ技術研究開発の実例２：醸造酵母の分子育種、糖質分解酵素のタンパク質工学

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76036001
科目名	【院】環境倫理学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Environmental Ethics		
担当者名	神崎　宣次	旧科目名称	
講義概要	環境倫理学は、環境問題を自然や生態系の観点ではなく、それらと関わりを持つ人間とその生活の観点からも検討する学問です。本講義では、1）環境倫理学の歴史的な展開について概説した上で、2）現在における環境倫理学の課題を明らかにするとともに、3）日本での環境倫理学の方向性について論じます。		
教材（テキスト）	近畿化学協会 化学教育教育研究会 編著『環境倫理入門 地球環境と科学技術の未来を考えるために』（化学同人、2012 年)、2200 円		
教材（参考文献）	鬼頭秀一『自然保護を問いなおす―環境倫理とネットワーク』(筑摩書房、1996 年)、798 円 宮内泰介編『なぜ環境保全はうまくいかないのか―現場から考える「順応的ガバナンス」の可能性』(新泉社、2013 年)、2520 円		
教材（その他）	ビデオなどを用いる場合もある。		
評価方法	平常点（30%）：出席状況等による。　テスト（70%）		
到達目標	環境倫理学の意義と可能性と必要性について理解し、倫理学的な思考を身につけることを目標とする。		
準備学習	積極的に講義に参加し、次の項目について事前にテキストを見ておく。日頃から新聞などを通して、環境関連の出来事に注目していく。		
受講者への要望			
講義に積極的に参加する、つまり、まじめに出席するとともに、疑問点などについては、積極的に質問するようにしてほしい。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2-3. 保全主義について 4-5. 環境危機の時代の思想 6-7. 歴史的観点からの環境倫理学の位置付けと評価 8-10. 持続可能性、生物多様性、予防、順応的管理等の概念についての検討 11-12. 資源管理等の事例の検討 13-14. その他の環境関連領域との連携のあり方 15. まとめ（講義全般に関する総合的な講評）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76038001
科目名	【院】インターンシップ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	関連企業および研究機関で、生産及び開発研究を体験し、大学の研究室で学んだことが実社会でどのように生かされているかを知ることを目的とする。 研究指導教員から、各大学院生の研究テーマを勘案してインターンシップ先を選定し、必要事項を調整する。 終了後にレポートを提出させるとともに、インターンシップ先での状況を把握して、専門的な職業人になるための指導をおこなう。		
教材（テキスト）	インターンシップ先に応じて、適切で必要なものがあれば紹介する。 基本的な研究マナーを把握できるように、テキストを事前に進める。		
教材（参考文献）	参考図書として、以下のものを事前に読むことを薦める。 『アット・ザ・ベンチ』　バイオ研究完全指南　Kathy　Barker　中村敏一監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル　(ISBN　4-89592-258-8)		
教材（その他）			
評価方法	以下の評価をおこなう。 ・インターンシップのための事前学習　　(20%) ・インターンシップ先での評価　　(60%) ・インターンシップ参加後の自主学習と自己評価　(20%)		
到達目標	社会人として必要な専門的な技能を身につけ、自己の目標設定を把握できること。		
準備学習	社会的な話題や業界の現状を事前に研究しておくこと。		
受講者への要望			
多様なインターンシップ先で職場の規律を遵守できること。			
講義の順序とポイント			
1-2.　事前準備学習 3-12.　インターンシップ先に応じて、相互に事前打ち合わせ元で、種々のプログラムを提案する。 13.　インターンシップの報告発表会 14.　業界研究と職業研究と科学リテラシー 15.　自己の人生設計とスキル			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76041A01
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。 現代的な課題や受講生各自の興味にあわせて具体的な内容を定める。 特別演習Ⅰではランドスケーププランニングを取り扱う。		
教材（テキスト）	「景観の生態史観－攪乱が再生する豊かな大地」森本幸裕編著		
教材（参考文献）	雑誌「ビオ・シティ」「ランドスケープ・デザイン」 日本景観生態学会誌 日本造園学会誌「ランドスケープ研究」		
教材（その他）			
評価方法	総合的に判断する。		
到達目標	特に設けない。状況に応じて設定する。		
準備学習	「景観の生態史観：攪乱が再生する豊かな大地（森本編）」の興味をもったところから読み進め、１ヶ月以内に読破すること。		
受講者への要望			
文献をしっかり読んで下さい。			
講義の順序とポイント			
特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～ⅳを以下の順で行う。 Ⅰ エコロジー II プランニング III デザイン ⅳ マネジメント １）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む）（１～４回） ２）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討（５～６回） ３）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする）（７～１２回） ４）各自の活動の取りまとめとプレゼンテーション（１３～１５回） 課題設定については、各自の興味と実践的なプロジェクト、各種条件を勘案するプロセスも演習の重要な要素とする。 具体的にはエコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76041B01
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。 現代的な課題や受講生各自の興味にあわせて具体的な内容を定める。 特別演習 II ではランドスケープ・デザインを取り扱う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	「ランドスケープ・デザイン」		
教材（その他）	雑誌「ビオ・シティ」「ランドスケープ・デザイン」 日本景観生態学会誌 日本造園学会誌「ランドスケープ研究」		
評価方法	総合的に行う。		
到達目標	事前には設定しない。		
準備学習	よいと思ったランドスケープについて写真やスケッチで記録をとるのを習慣にしてください。		

受講者への要望

しっかり勉学して下さい。

講義の順序とポイント

特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～ivを以下の順で行う。
Ⅰ エコロジー
II プランニング
III デザイン
iv マネジメント
1）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む）（1～4回）
2）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討（5～6回）
3）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする)（7～12回）
4）各自の活動の取りまとめとプレゼンテーション（13～15回）

課題設定については、各自の興味と実践的なプロジェクト、各種条件を勘案するプロセスも演習の重要な要素とする。
具体的にはエコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76041C01
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	総合的に判断する。		
到達目標	事前には設定しない。		
準備学習	日本景観生態学会誌、日本造園学会・ランドスケープ研究など関連学会誌やビオシティなど関連雑誌バックナンバーの目次と特集記事などに目を通し、特に最近の傾向を把握しておいてください。		
受講者への要望			
しっかり勉学して下さい。			
講義の順序とポイント			
特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～ⅳを以下の順で行う。 1）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む） 2）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討 3）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする) 4）とりまとめ 課題については、各自の興味と能力を第一に尊重する。 エコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76041D01
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。 現代的な課題や受講生各自の興味にあわせて具体的な内容を定める。 特別演習 IV ではランドスケープマネジメントを取り扱う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	「日本景観生態学会誌」「日本造園学会・ランドスケープ研究」「日本緑化工学会誌」		
教材（その他）			
評価方法	総合的に判断する。		
到達目標	事前には設定しない。		
準備学習	日本景観生態学会誌、日本造園学会・ランドスケープ研究など関連学会誌やビオシティなど関連雑誌バックナンバーの目次と特集記事などに目を通し、特に最近の傾向を把握しておいてください。		
受講者への要望			
調べものなどは受講生相互に助け合ってください。			
講義の順序とポイント			
特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～iv を以下の順で行う。 Ⅰ エコロジー II プランニング III デザイン iv マネジメント １）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む）（１～４回） ２）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討（５～６回） ３）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする）（７～１２回） ４）各自の活動の取りまとめとプレゼンテーション（１３～１５回） 課題設定については、各自の興味と実践的なプロジェクト、各種条件を勘案するプロセスも演習の重要な要素とする。 具体的にはエコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76042005
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまな課題の発見、問題設定、研究計画策定、実施、取りまとめを指導する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	総合的に判断する。		
到達目標	適宜目標を設定する。		
準備学習	日本景観生態学会誌、日本造園学会・ランドスケープ研究など関連学会誌やビオシティなど関連雑誌バックナンバーの目次と特集記事などに目を通し、特に探求したいテーマについて考えておいてください。		
受講者への要望			
しっかり研究に励んで下さい。			
講義の順序とポイント			
特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～ⅳを以下の順で行う。 1）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む） 2）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討 3）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする) 4）とりまとめ 課題については、各自の興味と能力を第一に尊重する。 エコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76043A01
科目名	【院】水環境特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	水環境保全技術の最新情報を得るには、国内外の情報を読み解くことが必要である。そこで、適当なキーワードを選んで、水環境保全技術に関する学術論文を検索し、得られた学術論文を読んで理解する技術を習得させる。最初は国内で発行されている日本語の原著論文を受講生が検索し、その中から適当な原著論文を選んで読み、内容を理解した上で、その内容を他の受講生に紹介する。原著論文を読むことで、原著論文のスタイルに慣れさせるとともに、原著論文をどのように読み解くのかを習得させる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	受講生の発表内容（６０％）、質疑応答内容（４０％）		
到達目標	水環境保全技術に関する国内の情報を収集する方法を習得し、その内容を読解する力を付ける		
準備学習	選んだ論文を事前に十分に読んでおくこと。		
受講者への要望			
論文の内容について、理解できない部分を教員にくり返し質問して、理解に努めること			
講義の順序とポイント			
1. 原著論文とは何か、研究とは何かの基本的な事項を講義する。 2. イネターネットなどを使用して文献検索を行って、適当な原著論文を選ぶ。 3. 学術論文を読むに当たって必要な基本的な点を講義する。 4. 受講生による発表と質疑応答（1） 5. 受講生による発表と質疑応答（2） 6. 受講生による発表と質疑応答（3） 7. 受講生による発表と質疑応答（4） 8. 受講生による発表と質疑応答（5） 9. 受講生による発表に対する総合的な講評（1） 10. 受講生による発表と質疑応答（6） 11. 受講生による発表と質疑応答（7） 12. 受講生による発表と質疑応答（8） 13. 受講生による発表と質疑応答（9） 14. 受講生による発表と質疑応答（１０） 15. 受講生による発表に対する総合的な講評（2）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76043B01
科目名	【院】水環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	水環境保全技術の最新情報を得るには、国内からの情報だけでなく、海外からの情報も読んで理解することが必要である。そこで、水環境保全技術に関する英文の情報を検索し、得られた英文の学術論文を読んで理解する技術を習得させる。まず、英語の原著論文を受講生が検索し、その中から適切なものを選んで読み、内容を理解した上で、その内容を他の受講生に紹介する。英文の原著論文を読むことで、独特のスタイルや、専門的な英単語に慣れるようにする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	受講生の発表内容（６０％）、質疑応答内容（４０％）		
到達目標	水環境保全技術に関する英文の情報を読解する力をつける		
準備学習	選んだ英語の論文を事前に読んで、理解に努めること。		
受講者への要望			
英文を翻訳しただけでは、理解したことにはならず、その内容を把握することが論文を理解するということであり、わからないところは、教員に質問して理解に努めること。			
講義の順序とポイント			
1. 文献検索を行って、適当な英文の原著論文を選ぶ 2. 英文の原著論文を読むに当たっての基本を講義する 3. 学術論文を読むに当たって必要な基本的な点を講義する。 4. 受講生による発表と質疑応答（１） 5. 受講生による発表と質疑応答（２） 6. 受講生による発表と質疑応答（３） 7. 受講生による発表と質疑応答（４） 8. 受講生による発表と質疑応答（５） 9. 受講生による発表に対する総合的な講評（１） 10. 受講生による発表と質疑応答（６） 11. 受講生による発表と質疑応答（７） 12. 受講生による発表と質疑応答（８） 13. 受講生による発表と質疑応答（９） 14. 受講生による発表と質疑応答（１０） 15. 受講生による発表に対する総合的な講評（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76043C01
科目名	【院】水環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	水環境保全技術についての海外からの情報を読み解くだけでなく、自らの研究を海外へ向けて発表する技術を習得させる。最初は、すでに学術誌に掲載されている英文の論文をまねることが必要であり、前半では、英文の学術論文を読んで、使えそうな表現を抜書きして他の受講生に紹介する。そして、後半では自らの研究の内容を英文にする練習を行う。英文での学術論文の記述にあたって一番簡単に記述できる部分は、実験や調査の方法の記述であるから、この部分の記述のパターンを習得させる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	作成した論文の内容（60%）、発表と質疑応答の内容（40%）		
到達目標	水環境保全技術に関する論文の作成技術を身に付ける		
準備学習	英語の論文を事前によく読んでおくこと。		

受講者への要望

わからないところを放置せずに、教員に質問して理解に努めること。

講義の順序とポイント

1. 原著論文を英文で書くための基本を講義
2. インターネットなどを使用して文献検索を行って、適当な英文の原著論文を選ぶ
3. 受講生による発表と質疑応答（1）
4. 受講生による発表と質疑応答（2）
5. 受講生による発表と質疑応答（3）
6. 受講生による発表と質疑応答（4）
7. 受講生による発表と質疑応答（5）
8. 受講生による発表と質疑応答（6）
9. 受講生による発表に対する総合的な講評
10. 受講生による英文の論文の作成：実験方法の記述（1）
11. 受講生による英文の論文の作成：実験方法の記述（2）
12. 受講生による英文の論文の作成：実験方法の記述（3）
13. 受講生による英文の論文の作成：実験方法の記述（4）
14. 受講生による英文の論文の作成：実験方法の記述（5）
15. 受講生による論文作成に対する総合的な講評

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76043D01
科目名	【院】水環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	水環境保全技術について、自分が行った研究を英文で記述して、原著論文として仕上げる技術を習得させる。演習Ⅲでは、実験方法を記述する訓練をしており、演習Ⅳでは、残りの部分、つまり、実験結果や調査結果の記述方法と、緒論と考察の記述を訓練する。そして、自分の行った実験の結果を学術論文の形式で書いてみる。学術論文にまとめる練習を通じて、「研究とは何か」を体得できるようにする。論文作製には、ワードを用いる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	作成した英文の内容（40%）　作成した論文の内容（60%）		
到達目標	水環境保全技術に関する論文を完成させる力を身に付ける		
準備学習	英文の論文を事前によく読んでおくこと。自分の実験について、内容をまとめておくこと。		
受講者への要望			
疑問に思うことが出てきたら、積極的に教員に質問すること			
講義の順序とポイント			
1. 原著論文を英文で書くための基本を講義 2. 受講生による英文の論文の作成：実験結果の記述（１） 3. 受講生による英文の論文の作成：実験結果の記述（２） 4. 受講生による英文の論文の作成：実験結果の記述（３） 5. 受講生による英文の論文の作成：実験結果の記述（４） 6. 受講生による英文の論文の作成：緒論と考察の記述（１） 7. 受講生による英文の論文の作成：緒論と考察の記述（２） 8. 受講生による英文の論文の作成：緒論と考察の記述（３） 9. 受講生による英文の論文の作成：緒論と考察の記述（４） 10. 受講生自身の実験について、実験方法を論文形式にまとめる。 11. 受講生自身の実験について、結果を論文形式にまとめる。 12. 受講生自身の実験について、考察を論文形式で書く。 13. 受講生自身の実験について、緒論を記載する。 14. 受講生自身の実験について、参考文献と要約を記述する。 15. まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76044005
科目名	【院】水環境特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	廃水の処理技術や廃水処理に関与する微生物集団の研究、その微生物を研究するための DNA 解析技術、さらに DNA 解析技術を応用した研究、河川や湖沼の水質保全に関する研究、その他環境保全に関する研究などの中からテーマを設定して調査または研究を行ない、論文にまとめる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントなどを必要に応じて配布する		
評価方法	論文の内容（100%）		
到達目標	選んだテーマに沿って自ら調査や実験の計画を立て、これを実施し、その内容を口頭で発表する能力と論文としてまとめる高度な能力を身に付ける。		
準備学習	配布した教材を十分に読んで理解すること		
受講者への要望			
日々の実験や調査の蓄積が重要であり、こつこつとムラなく行うこと			
講義の順序とポイント			
１～５．研究テーマの選定と関連資料のインターネット利用による探索、および資料の内容の理解 ６～１０．調査や実験計画の立案、実験資材の調達 １１～２５．調査や実験の実施 ２６～３０．調査や実験の結果の中間段階でのまとめ ３１～４４．調査や実験の実施 ４５～４９．調査や実験結果のまとめ、エクセルの利用 ５０～５４．論文の作成、ワードの利用 ５５～５８．研究内容の口頭発表の準備、パワーポイントの利用 ５９．口頭発表の練習 ６０．研究内容の口頭発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76045A01
科目名	【院】都市自然化特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	修士論文の研究課題を選定し、研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する。各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。		
教材（テキスト）	研究課題に即した国際学術文献を選定する		
教材（参考文献）	必要に応じて、各自に紹介する		
教材（その他）			
評価方法	・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	修士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である。		
準備学習	都市環境の中で水や緑に関する情報はメディアに取り上げられることが多いので、注意して情報を収集しておいてください。「里地里山文化論」は通読しておくこと。		

受講者への要望

社会とのつながりを軸に持てるよう視野を広く持ち、専門について知見を深めていってほしい。

講義の順序とポイント

1. 研究課題の選定
2. 文献検索法
3. 文献整理術
4. 関連分野の学術論文の理解と整理（1）
5. 研究計画と研究方法論　(1)
6. 研究手法の理解と検討　(1)
7. 関連分野の学術論文の理解と整理（2）
8. 研究計画と研究方法論　(2)
9. 研究手法の理解と検討　(2)
10. 関連分野の学術論文の理解と整理（3）
11. 研究計画と研究方法論　(3)
12. 研究手法の理解と検討　(3)
13. 関連分野の学術論文の理解と整理（4）
14. 研究計画と研究方法論　(4)
15. 研究手法の理解と検討　(4)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76045B01
科目名	【院】都市自然化特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	都市及びそれを含む流域全体における水と環境分野を中心とした解析・評価手法について学ぶ。特に GIS とリモートセンシングに係る比較的高度な手法を用いることで、水系解析、土地利用分類、動植物の生息空間評価、流域診断などの基本的な手法を習得する。使用するソフトウエアは ArcGIS、TNTmips など比較的この分野で幅広く使用されているものを対象とする。都市・地域・流域などの空間的広がりのある範囲において GIS とリモートセンシングを縦横に利活用できる技術を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	図解 Ar c GIS　GIS 実践に向けてのステップアップ（川崎昭如他）古今書院 自然環境解析のためのリモートセンシング・GIS ハンドブック（長澤良太他）古今書院		
教材（その他）			
評価方法	流域解析（30%）、指標解析（30%）、生物生息空間評価（40%）		
到達目標	都市・地域空間の解析ツールとしての GIS 技術の習得		
準備学習	都市地域空間の解析すべき内容について各自で整理しておいてください。		
受講者への要望			
自然環境解析に用いる情報解析技術については社会でよく取り上げられるので注意して情報を収集してください。			
講義の順序とポイント			
1 . ArcGIS の基本操作 2 .ArcGIS と GoogleEarth 3 .ArcGIS の ToolBox の使い方 4 .ArcGIS のエクステンションの使い方（Spatial Analyst） 5 .ArcGIS のエクステンションの使い方(3D Analyst) 6 .ArcGIS のエクステンションの使い方(その他のエクステンション） 7 .ArcGIS のエクステンション（バランスツールボックスの使い方） 8 .ArcGIS による流域解析 1 9 .ArcGIS による流域解析 2 10 .ArcGIS による指標解析 1 11 .ArcGIS による指標解析 2 12 .ArcGIS による指標解析 3 13 .ArcGIS による生物生息空間評価 1 14 .ArcGIS による生物生息空間評価 2 15 .ArcGIS による生物生息空間評価 3			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76045C01
科目名	【院】都市自然化特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	日本列島を中心に、人間と森林のかかわりを日本各地の事例を通じて学ぶ。過度な自然からの草木収奪から生まれた特異な植生や景観を学ぶ。薪炭の過度の収奪から生じたせき悪地、鉱山開発によるはげ山、農業生産を増大させるための原野の新田開発、窯業用燃料に伐採されたアカマツ林、ブナ林を伐採した木地屋、森林を計画的に経営し利用した焼畑農業、その歴史的意義と現代的意義を考える。		
教材（テキスト）	開発の歴史地理（田村勝正）		
教材（参考文献）	里山と人の履歴（犬井正）、古代・中世の耕地と村落（高重進）、池の文化（末永雅雄）、木ごころを知る（中川重年）、ろくろ（橋本鉄男）		
教材（その他）			
評価方法	レポート（50%）（内容の理解 40%、この内容を踏まえた論理的な組み立てが構築できているか 10%） ・試験（50%）（内容の理解 30%、この内容を踏まえた論理的な組み立ての構築 20%）		
到達目標	せき悪地改良及び新田開発に伴う森林造成史が理解できるようになる		
準備学習	森林を生産、利用、歴史、文化の諸面でとらえるように関連文献を読み込んでおいてください。森林の荒廃と文明の盛衰」、「はげ山の文化」、「森林と人間の歴史」、「人と森の環境学」を読み込み講義に臨んでください。		
受講者への要望			
普段接する機会の少ない山間地の林業地帯での歴史文化について各自でフィールドを定め、ヒアリングなどを行うよう務めてください。			
講義の順序とポイント			
1．里山の諸要素の基本概念整理 2．古代文献から見る里山の発生 1 3．古代都市と窯業 4 理解度測定小発表 5．新田開発の発生と展開、背景 6．鉱山開発と森林 7．木地屋の森林利用 8．理解度測定小発表 9．焼畑と森林 10．せき悪地の発生と歴史 2 近代 11．理解度測定小発表 12．せき悪地緑化事業現地研修　神戸市六甲山 13．せき悪地緑化事業現地研修　大谷鉱山 14．せき悪地緑化事業現地研修 大谷鉱山 2 15．理解度確認発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76045D01
科目名	【院】都市自然化特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	都市空間における新しい環境指標及び生物指標の開発を行う。既存の環境指標及び生物指標についての整理したのち、都市空間において今後必要とされる新しい指標について考察を加える。複数の新しい指標の概念を明らかにし、これらの指標を用いて実際に複数の都市を対象とした空間評価を行う。新しい指標としては、水循環、持続可能性、エコロジカルフットプリント、地産地消、ヒートアイランド、幸せの指標など、これからの新しい都市の在り方を検討する上で重要と考えられる概念を掘り下げることとする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	環境指標　その考え方と作成手法（内藤正明他）学陽書房 環境指標の展開（内藤正明他）学陽書房 エコロジカルフットプリント（和田喜彦監訳）合同出版		
教材（その他）			
評価方法	既存の指標のレビュー（30%）、新しい指標の概念（30%）、都市環境の評価（40%）		
到達目標	新しい環境指標及び生物指標の構築		
準備学習	2 箇所以上都市で起きている特徴的なエコロジカルな活動を探し、その情報を収集し現地確認をしてショートレポートを作成しておいてください		
受講者への要望			
参考図書の 1，2 について読み込んでおいてください。			
講義の順序とポイント			
1 .環境指標と生物指標について（イントロダクション） 2 .既存の環境指標・生物指標の整理 1 3 .既存の環境指標・生物指標の整理 2 4 .既存の環境指標・生物指標の整理 3 5 .新しい環境指標の概念づくり 1 6 .新しい環境指標の概念づくり 2 7 .新しい環境指標の概念づくり 3 8 .新しい環境指標の概念づくり 4 9 .新しい環境指標の概念づくり 5 10 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 1 11 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 2 12 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 3 13 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 4 14 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 5 15 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 6			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76046005
科目名	【院】都市自然化特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	都市自然化デザイン研究室での修士論文作成のために必要となる研究スキルを磨くことと、研究テーマの絞り込みのための文献調査を中心に行う。人数も限定されることから学部までの大勢の講義形式ではなく、学生と教員とで適宜定期的にとれる時間をみて行うこととする。研究スキルとしては、論文の書き方、英語論文の読み方、現場での調査手法の取得、GIS やリモセンデータの使い方、空間的な解析手法などについて学生が主体として行い、教員が適宜アドバイスを取る形とする。研究テーマの絞り込みに関しては、幅広い文献を継続的に読むことと、現地での調査を繰り返すことによって進めていくものとする。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した学術文献を選定する		
教材（参考文献）	必要に応じて、紹介する		
教材（その他）			
評価方法	・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること		
準備学習	これまでの研究・学習を整理しておくこと。		
受講者への要望			
幅広い情報収集と進化させる研究を進展させるよう努めてください。			
講義の順序とポイント			
研究の進展に基づいて適宜指導する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76047A01
科目名	【院】環境教育特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	生物の行動、生態を通じて、自然現象を理解する基本的な理論、手法などを豊富な研究例から学び、フィールドサイエンスとしての行動学、生態学の研究を遂行する基礎的な素養を修得する		
教材（テキスト）	適宜、資料を配布、紹介する		
教材（参考文献）	適宜、資料を配布、紹介する		
教材（その他）	適宜、資料を配布、紹介する		
評価方法	講義中の演習課題、レポートなどを勘案して評価する		
到達目標	生物の行動や生態について、観測事実を論理的に理解する視点を涵養し、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について議論する能力の修得		
準備学習	配布資料を精読した上で、講義に臨むこと。また、日常から、自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学一般、生物一般を自学自習することが望ましい			
講義の順序とポイント			
1）野外調査の基礎1 2）野外調査の基礎2 3）野外調査の基礎3 4）野外調査の基礎4 5）野外調査の基礎5 6）野外研究調査事例1 7）野外研究調査事例2 8）野外研究調査事例3 9）野外研究調査事例4 １０）野外研究調査事例5 １１）野外実験方法1 １２）野外実験方法2 １３）野外実験方法3 １４）野外実験方法4 １５）野外実験方法5			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76047B01
科目名	【院】環境教育特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	物質の合成，解析，分析，評価の基礎を理論と実験の両面から研究する。この演習では，結晶合成装置，Ｘ線解析装置，Ｘ線分析装置などを利用した無機系物質に関する研究の基礎を，理論的な面からの系統的な取り扱いについて議論する。		
教材（テキスト）	宇野　良清　他　訳　『キッテル　固体物理学入門』　丸善（7，０００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　理論・応用　量子力学演習』　共立出版（4，２００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	固体物理学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について議論する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学一般，物理学一般，量子物理学，固体物理学を自学自習することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．結晶構造総論（1） 2．結晶構造総論（2） 3．結晶構造総論（3） 4．Ｘ線回折総論（1） 5．Ｘ線回折総論（2） 6．Ｘ線回折総論（3） 7．結晶解析総論（1） 8．結晶解析総論（2） 9．結晶解析総論（3） 10．分子結合総論（1） 11．分子結合総論（2） 12．分子結合総論（3） 13．結晶結合総論（1） 14．結晶結合総論（2） 15．結晶結合総論（3）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76047C01
科目名	【院】環境教育特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	生物の行動、生態を通じて、自然現象を理解する基本的な理論、手法などを豊富な研究例から学び、フィールドサイエンスとしての行動学、生態学の研究を遂行する基礎的な素養を修得する		
教材（テキスト）	適宜、資料を配布、紹介する		
教材（参考文献）	適宜、資料を配布、紹介する		
教材（その他）	適宜、資料を配布、紹介する		
評価方法	講義中の演習課題、レポートなどを勘案して評価する		
到達目標	生物の行動や生態について、観測事実を論理的に理解する視点を涵養し、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について議論する能力の修得		
準備学習	配布資料を精読した上で、講義に臨むこと。また、日常から、自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学一般、生物一般を自学自習することが望ましい			
講義の順序とポイント			
１）統計解析方法１ ２）統計解析方法２ ３）統計解析方法３ ４）統計解析方法４ ５）統計解析方法５ ６）データの可視化１ ７）データの可視化２ ８）データの可視化３ ９）データの可視化４ １０）データの可視化５ １１）プレゼンテーションの技法１ １２）プレゼンテーションの技法２ １３）プレゼンテーションの技法３ １４）プレゼンテーションの技法４ １５）プレゼンテーションの技法５			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76047D01
科目名	【院】環境教育特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	物質の合成，解析，分析，評価の基礎を理論と実験の両面から研究する。この演習では，結晶合成装置，Ｘ線解析装置，Ｘ線分析装置などを利用した無機系物質に関する研究の基礎を，理論的な面からの系統的な取り扱いについて議論する。		
教材（テキスト）	宇野　良清　他　訳　『キッテル　固体物理学入門』　丸善（７，０００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　理論・応用　量子力学演習』　共立出版（４，２００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	固体物理学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について議論する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学一般，物理学一般，量子物理学，固体物理学を自学自習することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．エネルギーバンド総論（１） ２．エネルギーバンド総論（２） ３．エネルギーバンド総論（３） ４．共有結晶総論（１） ５．共有結晶総論（２） ６．共有結晶総論（３） ７．金属結晶総論（１） ８．金属結晶総論（２） ９．金属結晶総論（３） 10．半導体総論（１） 11．半導体総論（２） 12．半導体総論（３） 13．光学物性総論（１） 14．光学物性総論（２） 15．光学物性総論（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76048005
科目名	【院】環境教育特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み、修士論文を完成させるために必須の講義。各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら、研究テーマを設定し、文献調査などを行って、その分野の現状を把握したあと、実験や調査を行い、その研究の成果を修士論文としてまとめる。		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の独創性、新規性、研究遂行能力、研究成果、他者からの意見や評価に対する議論する能力、発表表現能力などを総合的に勘案して評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し、バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする。		
準備学習	日々、研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法について、様々な視点からこれを検討する技能をみにつけること。		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76049A01
科目名	【院】里山環境特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	里山の環境について、生理・生態的側面も含めて、いくつかの文献を精読・理解して、研究の背景、研究方法、結果と考察などについて報告する。さらに、その内容についての議論を行い、研究論文の評価能力を涵養する。また、課題を課し、それについて検討し発表する。		
教材（テキスト）	適宜資料を配付する。		
教材（参考文献）	講義の中で紹介する。		
教材（その他）	基本的な文献資料を配付する。		
評価方法	論文などの読解力（５０％）、フィールドでの観察力と考察力（２０％）、発表内容の構想力（３０％）で評価する。		
到達目標	食料生産と環境とのかかわりを理解する。		
準備学習	日頃から食料生産と環境についての論文に目を通しておく。		
受講者への要望			
植物を見る眼を十分に養うことを望む。			
講義の順序とポイント			
1）概要と意図説明 2）文献輪読〔１〕（学生の発表と質疑） 3）文献輪読〔２〕（学生の発表と質疑） 4）文献輪読〔３〕（学生の発表と質疑） 5）〔１〕、〔２〕、〔３〕のまとめの討論および補則解説 6）文献輪読〔４〕（学生の発表と質疑） 7）文献輪読〔５〕（学生の発表と質疑） 8）文献輪読〔６〕（学生の発表と質疑） 9）〔４〕、〔５〕、〔６〕のまとめの討論および補則解説 10）フィールドでの実習討論〔１〕 11）フィールドでの実習討論〔２〕 12）課題についての発表〔１〕 13）課題についての発表〔２〕 14）課題についての発表〔３〕 15）各課題の総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76049B01
科目名	【院】里山環境特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	里山や農・森林環境に関係する文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用するための能力を涵養する。		
教材（テキスト）	教員と相談して選んだ英語文献を使用。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	英語文献の選択の適切さ（２０％）、内容の理解度（７０％）、発表の取りまとめや表現の適切さ（１０％）の割合で評価する。		
到達目標	文献の読解力の育成		
準備学習	英語文献に関連した日本語の本を読んでおくこと。		
受講者への要望			
生産を基本とした環境デザインの構築を理解した新しい考え方を展開してほしい。			
講義の順序とポイント			
1）概要と意図説明 2）英語の基礎的な論文を読解する（1） 3）英語の基礎的な論文を読解する（2） 4）英語の基礎的な論文を読解する（3） 5）英語の基礎的な論文を読解する（4） 6）英語の基礎的な論文を読解する（5） 7）（1）　～　（5）　の内容などについての討論 8）フィールドでの実証・実体験（1） 9）英語の基礎的な論文を読解する（6） 10）英語の基礎的な論文を読解する（7） 11）英語の基礎的な論文を読解する（8） 12）英語の基礎的な論文を読解する（9） 13）（6）～（9）の内容などについての討論 14）フィールドでの実証・実体験（2） 15）フィールドでの各人の実証内容発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76049C01
科目名	【院】里山環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	里山や農・森林環境に関する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として整理して問題点解決に活用するための能力を涵養する。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	教員と相談して選んだ英文文献		
教材（その他）	特になし		
評価方法	英語文献の選択の適切さ（２０%）．内容の理解度（７０%）．発表の取りまとめや表現の適切さ（１０%）の割合で評価する。		
到達目標	論文の読み方と発表のスキルを修得する。		
準備学習	日々興味のある論文に目を通しておくこと。		
受講者への要望			
関連論文を事前によく読んでおくこと。			
講義の順序とポイント			
1）概要と意図説明 2）英語論文を読解する（1） 3）英語論文を読解する（2） 4）英語論文を読解する（3） 5)英語論文を読解する（4） 6）英語論文を読解する（5） 7）（1）～（5）内容をもとに討論 8）フィールドでの実証・実体験（1） 9）英語論文を読解する（6） 10）英語論文を読解する（7） 11)英語論文を読解する（8） 12)英語論文を読解する（9） 13）（6）～（9）の内容をもとに討論 14）フィールドでの実証・実体験（2） 15）フィールドでの各人の実証内容発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76049D01
科目名	【院】里山環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	これまでに学んだ里山環境デザイン特別演習を基本として、各受講生の研究テーマに関連した課題に関する現状認識の能力に加えて、農・森林環境デザインに関わる論文作成のためのスキルを養成する。		
教材（テキスト）	教員と相談して選んだ英語論文の文献		
教材（参考文献）	その都度与える。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	第６回までにつて、英語文献の選択の適切さ（１０%)、内容の理解度（４０%)、発表の取りまとめや表現の適切さ（１０%）の割合で評価する。第７回以降は、作成論文の内容の適切さ（３０%)、発表方法（１０%）で評価する。		
到達目標	農・森林環境デザインに関する論文の読破と論文の書き方を修得する。		
準備学習	本演習に関する和文の論文をできるだけ多く読んでおくこと。		
受講者への要望			
自然の観察を日々行っておくこと。			
講義の順序とポイント			
1）担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する。 2）関連英語論文を解読し、発表と質疑（１） 3）関連英語論文を解読し、発表と質疑（２） 4）関連英語論文を解読し、発表と質疑（３） 5）関連英語論文を解読し、発表と質疑（４） 6）関連英語論文を解読し、発表と質疑（５） 7）担当教員による発表内容の評価と問題点の指摘 8）担当教員による論文作成のスキルを解説する。 9）受講生が作成した論文に対する質疑（１） 10）受講生が作成した論文に対する質疑 11）受講生が作成した論文に対する質疑 12）受講生が作成した論文に対する質疑 13）受講生が作成した論文に対する質疑 14）各人の論文内容の概要発表。 15）担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76050005
科目名	【院】里山環境特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	研究論文の構成力・書き方について論述し、論文を作成する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	適宜資料を配付し、教材などを指示する。		
教材（その他）	基本的な文献・資料を配付する。		
評価方法	論文の完成度・発表力について評価する。		
到達目標	論文の完成。		
準備学習	これまでの学習課題のまとめ。		

受講者への要望

常に新しい発見があるように努める。

講義の順序とポイント

1）はじめに
2）論文作成に向けての課題についての検討
3）論文作成に向けての課題についての検討
4）論文の構成について
5）論文の構成について
6）研究論文作成に向けての実験・実習
7）研究論文作成に向けての実験・実習
8）研究論文作成に向けての実験・実習
9）研究論文作成に向けての実験・実習
10）研究論文作成に向けての実験・実習
11）研究論文作成に向けての実験・実習
12）研究論文作成に向けての実験・実習
13）研究論文作成に向けての実験・実習
14）論文のまとめについての検討
15）完成論文についての検討

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76051A01
科目名	【院】農業生産学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	生産と環境について，生理・生態的側面も含めて，いくつかの文献を精読・理解して研究の背景，研究方法，結果と考察などについて報告する．さらに，その内容についての議論を行い研究論文の評価能力を涵養する．また，課題を課しそれについて検討し発表する．		
教材（テキスト）	適宜資料を配付する．		
教材（参考文献）	講義の中で紹介する．		
教材（その他）	基本的な文献資料を配付する．		
評価方法	論文などの読解力（５０％），フィールドや実験室での観察力と考察力（２０％），発表内容の構想力（３０％）で評価する．		
到達目標	食料生産技術の基礎を理解する．		
準備学習	日頃から食料生産についての論文に目を通しておく．		
受講者への要望			
常日頃から植物を見る目を養うよう心がけること．			
講義の順序とポイント			
1）概要と意図説明 2）文献輪読〔１〕（学生の発表と質疑） 3）文献輪読〔２〕（学生の発表と質疑） 4）文献輪読〔３〕（学生の発表と質疑） 5）〔１〕、〔２〕、〔３〕のまとめの討論および補則解説 6）文献輪読〔４〕（学生の発表と質疑） 7）文献輪読〔５〕（学生の発表と質疑） 8）文献輪読〔６〕（学生の発表と質疑） 9）〔４〕、〔５〕、〔６〕のまとめの討論および補則解説 10）フィールドでの実習討論〔１〕 11）フィールドでの実習討論〔２〕 12）課題についての発表〔１〕 13）課題についての発表〔２〕 14）課題についての発表〔３〕 15）各課題の総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76051B01
科目名	【院】農業生産学特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	農業生産に関係する文献・原著論文等を的確に収集し，整理してまとまった情報として理解し，これを問題点解決に活用するための能力を涵養する.		
教材（テキスト）	教員と相談して選んだ英語文献を使用。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	英語文献の選択の適切さ（２０％），内容の理解度（７０％），発表の取りまとめや表現の適切さ（１０％）の割合で評価する.		
到達目標	文献の読解力の育成.		
準備学習	英語文献に関連した日本語の本を読んでおくこと.		
受講者への要望			
文献から得られる新しい知見を元にして，農業生産に関わる新しい考え方を展開してほしい.			
講義の順序とポイント			
1) 概要と意図説明 2) 英語の基礎的な論文を読解する（1） 3) 英語の基礎的な論文を読解する（2） 4) 英語の基礎的な論文を読解する（3） 5) 英語の基礎的な論文を読解する（4） 6) 英語の基礎的な論文を読解する（5） 7) （1） ～ （5） の内容などについての討論 8) 圃場･実験室での実証・実体験（1） 9) 英語の基礎的な論文を読解する（6） 10) 英語の基礎的な論文を読解する（7） 11) 英語の基礎的な論文を読解する（8） 12) 英語の基礎的な論文を読解する（9） 13) （6）～（9）の内容などについての討論 14) 圃場･実験室での実証・実体験（2） 15) 圃場･実験室での各人の実証内容発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76051C01
科目名	【院】農業生産学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	農業生産と環境に関する文献・原著論文の読解力に加えて，関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し，整理してまとまった情報として整理して問題点解決に活用するための能力を涵養する.		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	教員と相談して選んだ英文文献.		
教材（その他）	特になし		
評価方法	英語文献の選択の適切さ（２０%）. 内容の理解度（７０%）. 発表の取りまとめや表現の適切さ（１０%）の割合で評価する.		
到達目標	論文の読み方と発表のスキルを修得する.		
準備学習	関連論文を事前によく読んでおくこと.		
受講者への要望			
関連論文を事前によく読んでおくこと.			
講義の順序とポイント			
1) 概要と意図説明 2) 英語論文を読解する（1） 3) 英語論文を読解する（2） 4) 英語論文を読解する（3） 5)英語論文を読解する（4） 6) 英語論文を読解する（5） 7) （1）～（5）内容をもとに討論 8) 圃場･実験室での実証・実体験（1） 9) 英語論文を読解する（6） 10) 英語論文を読解する（7） 11)英語論文を読解する（8） 12)英語論文を読解する（9） 13) （6）～（9）の内容をもとに討論 14) 圃場･実験室での実証・実体験（2） 15) 圃場･実験室での各人の実証内容発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76051D01
科目名	【院】農業生産学特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	これまでに学んだ農業生産学特別演習を基本として，各受講生の研究テーマに関連した課題に関する現状認識の能力に加えて，農業生産に関わる論文作成のためのスキルを養成する.		
教材（テキスト）	教員と相談して選んだ英語論文の文献.		
教材（参考文献）	その都度配布する.		
教材（その他）	特になし		
評価方法	第６回までにつては英語文献の選択の適切さ（１０%），内容の理解度（４０%），発表の取りまとめや表現の適切さ（１０%）の割合で評価する．第７回以降は作成論文の内容の適切さ（３０%），発表方法（１０%）で評価する.		
到達目標	農業生産に関する論文の読破と論文の書き方を修得する.		
準備学習	本演習に関する和文の論文をできるだけ多く読んでおくこと.		
受講者への要望			
自然における植物の観察を日々行っておくこと.			
講義の順序とポイント			
）担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する. 2）関連英語論文を解読し，発表と質疑（１） 3）関連英語論文を解読し，発表と質疑（２） 4）関連英語論文を解読し，発表と質疑（３） 5）関連英語論文を解読し，発表と質疑（４） 6）関連英語論文を解読し，発表と質疑（５） 7）担当教員による発表内容の評価と問題点の指摘 8）担当教員による論文作成のスキルを解説する. 9）受講生が作成した論文に対する質疑（１） 10）受講生が作成した論文に対する質疑 11）受講生が作成した論文に対する質疑 12）受講生が作成した論文に対する質疑 13）受講生が作成した論文に対する質疑 14）各人の論文内容の概要発表。 15）担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76052005
科目名	【院】農業生産学特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	研究論文の構成力・書き方について論述し，論文を作成する.		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	適宜資料を配付し，教材などを指示する.		
教材（その他）	基本的な文献・資料を配付する.		
評価方法	論文の完成度・発表力について評価する.		
到達目標	論文の完成.		
準備学習	これまでの学習課題のまとめ.		
受講者への要望			
常に新しい発見があるように努める.			
講義の順序とポイント			
1）はじめに 2）論文作成に向けての課題についての検討 3）論文作成に向けての課題についての検討 4）論文の構成について 5）論文の構成について 6）研究論文作成に向けての実験・実習 7）研究論文作成に向けての実験・実習 8）研究論文作成に向けての実験・実習 9）研究論文作成に向けての実験・実習 10）研究論文作成に向けての実験・実習 11）研究論文作成に向けての実験・実習 12）研究論文作成に向けての実験・実習 13）研究論文作成に向けての実験・実習 14）論文のまとめについての検討 15）完成論文についての検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76053A01
科目名	【院】農地環境特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要があり、さまざまな原著論文や参考資料に対する高度な読解力が必要となる。またその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須である。本演習では、研究者の倫理や研究に関する倫理について学び、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、積極的に討論に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成する事を目的とする。このため、各受講生がまとめた研究テーマに関する資料を、パワーポイント等を用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	講義資料あるいは受講生が作成したレジュメなどを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）文献選択の適正度（20%）、（２）研究目的の理解度（20%）、（３）研究手法の理解度（20%）、（４）科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%）、（５）質疑への参加度（20%）		
到達目標	研究者や研究に対する倫理について理解を深め、次いで農地環境に対する技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行っておくこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 研究者の倫理や研究に対する倫理について後述し、受講者と意見交換
2. 担当教員より文献の読み方について講述する（１）
3. 担当教員より文献の読み方について講述する（２）
4. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
5. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
6. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
7. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
8. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
9. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
10. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
11. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
12. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
13. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
14. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
15. 受講生による演習に関する意見発表と改善点の提案

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76053B01
科目名	【院】農地環境特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要があり、さまざまな原著論文や参考資料に対する高度な読解力が必要となる。またその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、積極的に討論に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成する事を目的とする。このため、各受講生がまとめた研究テーマに関する資料を、パワーポイント等を用いて発表し、参加者間で議論する。また農地環境に関連する事業所やプロジェクト先を訪問・見学し、現場での研究者や技術者との意見交換好感を行う。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメなどを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）文献選択の適正度（20%)、（２）研究目的の理解度（20%)、（３）研究手法の理解度（20%)、（４）科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%)、（５）質疑への参加度（20%）		
到達目標	農地環境に関連した分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。またこの分野の研究や技術の現況の一端を理解する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行っておくこと。事業所やプロジェクト訪問は、事前にその事業所やプロジェクト内容を調べておくこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 農地環境分野の特別演習Ⅰの習熟度評価
2. 文献の検索、収集、整理などに講述し、パソコンを用いての検索演習を行う
3. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
4. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
5. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
6. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
7. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
8. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
9. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
10. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
11. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
12. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
13. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
14. 農地環境に関連する事業所やプロジェクトを訪問・見学・意見交換（適宜）
15. 農地環境に関連する事業所やプロジェクトを訪問・見学・意見交換（適宜）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76053C01
科目名	【院】農地環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。そのために、農地環境特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関する現状認識と問題点を第三者に理解できるようにまとめ上げ、パワーポイントなどを用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	受講者が作成したレジュメなどを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）問題設定の適正度（30%)、（２）文献・原著論文選択の適正度（20%)、（３）科学的・技術的寒天からの現状の把握度（30%)、（４）質疑への参加度（20%）		
到達目標	農地環境及び関連する分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うため、原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力、取りまとめて発表する能力などを修得し、あわせ問題点解決に活用する能力も修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行うこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する（１）
2. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する（２）
3. 受講生の発表と質疑（１）
4. 受講生の発表と質疑（２）
5. 受講生の発表と質疑（３）
6. 受講生の発表と質疑（４）
7. 受講生の発表と質疑（５）
8. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（１）
9. 受講生の発表と質疑（６）
10. 受講生の発表と質疑（７）
11. 受講生の発表と質疑（８）
12. 受講生の発表と質疑（９）
13. 受講生の発表と質疑（１０）
14. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（２）
15. まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76053D01
科目名	【院】農地環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。そのために、植物バイオテクノロジー特別演習ⅠおよびⅡで修得するさ文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関する現状認識と問題点を第三者に理解できるようにまとめ上げる。　またパワーポイントなどを用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメなどを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）問題設定の適正度（30%)、（２）文献・原著論文選択の適正度（20%)、（３）論文作成および発表能力（50%）		
到達目標	ある分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行うこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生 1～２名を割り当てる。前半では、当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。後半は、受講生各自で作成した論文をもとに発表資料を作成して発表し、参加者を含めて質疑応答を行う。このための準備を常に行っておくこと。

講義の順序とポイント

1. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する。
2. 受講生の発表と質疑（１）
3. 受講生の発表と質疑（２）
4. 受講生の発表と質疑（３）
5. 受講生の発表と質疑（４）
6. 受講生の発表と質疑（５）
7. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘
8. 担当教員による論文作成のスキルを解説する。
9. 受講生が作成した論文に対する質疑（１）
10. 受講生が作成した論文に対する質疑（２）
11. 受講生が作成した論文に対する質疑（３）
12. 受講生が作成した論文に対する質疑（４）
13. 受講生が作成した論文に対する質疑（５）
14. 担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘
15. まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76054005
科目名	【院】農地環境特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	研究テーマの設定、研究テーマの背景認識、実験計画の設定、実験の実施、実験結果の解析・取りまとめ、考察、論文作成などについての必要な能力、すなわち研究を自立的に実施できる能力を涵養する。		
教材（テキスト）	適宜、原著論文、実験マニュアル、機器取扱い書などを提示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	研究立案、実施、取りまとめ、発表・論文作成などの能力の修得状況から評価する。		
到達目標	自立して技術開発あるいは研究を行える能力の修得を目標とする。		
準備学習	日常的に関連した原著論文や参考資料を読解するとともに、他の研究発表などを聞くこと。		
受講者への要望			
①日常的に関連した原著論文や参考資料を読解するとともに、他者の研究発表などを聞き、自分の研究課題実施に役立てること。 ②幅広く科学的思考能力の向上に努めること。			
講義の順序とポイント			
修士論文研究の進展と関連させながら、研究テーマの設定、研究テーマの背景や意義の認識の深化、実験計画の設定や実験方法の検討、実験の実施、結果の解析・取りまとめ、考察、取りまとめ資料の作成・論文作成について議論あるいは指導する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76055A01
科目名	【院】発酵醸造学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	科学研究・技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要があり、それには、様々な文献や原著論文に対する高度な読解力が必要になる。現在はその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須の用件である。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	１）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 ２）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	微生物学に関する文献（総説・原著論文）（適宜配布する／自ら収集する）		
評価方法	文献の選択と演習について、 次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	発酵醸造学に関連する文献の読解力を強化し、科学的な問題解決力を養成する。		
準備学習	発酵醸造学について、常に理解を深めるよう努める。		

受講者への要望

当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、資料を作成してその内容を紹介する。その他の受講生は文献の学術的内容に関する討論に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

１） 担当教員による文献の読み方についての講述（１）
２） 担当教員による文献の読み方についての講述（２）
３） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献１）
４） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献２）
５） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献３）
６） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献４）
７） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献５）
８） 受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献１）
９） 受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献２）
１０） 受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献３）
１１） 受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献１）
１２） 受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献２）
１３） 受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献３）
１４） 受講生の発表と質疑（微生物代謝に関する文献１）
１５） 受講生の発表と質疑（微生物代謝に関する文献２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J76055B01
科目名	【院】発酵醸造学特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	科学研究・技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要があり、それには、様々な文献や原著論文に対する高度な読解力が必要になる。原著論文には一定の記述様式があり、そのことに精通することが、論文の内容を理解する上で必須の要件となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連した原著論文の探索および読解の能力を養うとともに、研究に対する客観的な批判力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	１）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 ２）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	微生物学に関する文献（総説・原著論文）（適宜配布する／自ら収集する）		
評価方法	文献・原著論文の選択と演習について、次の点で評価する。 ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献・原著論文の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	発酵醸造学特別演習 I で修得した内容を基盤として、発酵醸造学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を身につける。		
準備学習	発酵醸造学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、資料を作成してその内容を紹介する。その他の受講生は文献の学術的内容に関する討論に積極的に参加する。			
講義の順序とポイント			
１）　担当教員による発酵醸造学特別演習 I の習熟度評価 ２）　担当教員による文献の収集・整理についての講述 ３）　受講生の発表と質疑（微生物分子細胞学に関する原著論文１） ４）　受講生の発表と質疑（微生物分子細胞学に関する原著論文２） ５）　受講生の発表と質疑（微生物分子細胞学に関する原著論文３） ６）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文１） ７）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文２） ８）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文３） ９）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文４） １０）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文１） １１）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文２） １２）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文３） １３）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文４） １４）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文５） １５）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J76055C01
科目名	【院】発酵醸造学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	科学研究・技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのために、発酵醸造学特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連する研究の現状と問題点を、第三者が理解できるようにまとめ上げる能力を養成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 2）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	微生物学に関する文献・原著論文を受講生がまとめた資料（各回ごとに配布する）		
評価方法	文献・原著論文の選択と演習について、次の点で評価する。 ・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・科学的・技術的観点からの現状の把握度（30%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	発酵醸造学特別演習ⅠおよびⅡで修得した文献・原著論文の読解力を基盤として、各問題の現状認識と技術の将来予測をするための能力を身につける。		
準備学習	発酵醸造学について、常に理解を深めるよう努める。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って課題を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。さらに発表のための資料を作成し、その内容を紹介する。その他の受講生は総説の学術的内容に関する質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述（1）
2）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述（2）
3）　受講生の発表と質疑（1）
4）　受講生の発表と質疑（2）
5）　受講生の発表と質疑（3）
6）　受講生の発表と質疑（4）
7）　受講生の発表と質疑（5）
8）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（1）
9）　受講生の発表と質疑（6）
１０）　受講生の発表と質疑（7）
１１）　受講生の発表と質疑（8）
１２）　受講生の発表と質疑（9）
１３）　受講生の発表と質疑（１０）
１４）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（2）
１５）　まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J76055D01
科目名	【院】発酵醸造学特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	科学研究・技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのために、発酵醸造学特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連する研究の現状を認識する能力と、発酵醸造学領域における論文作成のためのスキルを養成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	１）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 ２）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	受講生が作成したレジュメなど。		
評価方法	選択した各文献・原著論文と執筆した論文について、次の点で評価する。 ・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・論文作成能力（50%）		
到達目標	査読誌に投稿可能な様式で論文を執筆する力を身につける。		
準備学習	発酵醸造学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
前半は発酵醸造学特別演習Ⅲと同様に進める。後半は受講生が作成した論文をもとに、質疑応答を行う。			
講義の順序とポイント			
１）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述 ２）　受講生の発表と質疑（１） ３）　受講生の発表と質疑（２） ４）　受講生の発表と質疑（３） ５）　受講生の発表と質疑（４） ６）　受講生の発表と質疑（５） ７）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘 ８）　担当教員による論文作成のスキルの解説 ９）　受講生が作成した論文に対する質疑（１） １０）　受講生が作成した論文に対する質疑（２） １１）　受講生が作成した論文に対する質疑（３） １２）　受講生が作成した論文に対する質疑（４） １３）　受講生が作成した論文に対する質疑（５） １４）　担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘 １５）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J76056005
科目名	【院】発酵醸造学特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	発酵醸造学領域における学術研究を通して、その専門知識と技術を高いレベルで修得する。発酵醸造物の生産プロセスの開発と改善、そこで微生物の果たす役割の解明、発酵醸造物の付加価値向上に資する科学的知見の集積といった課題に関して研究開発を行い、その成果を修士論文としてまとめる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 2）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	先行研究に関する文献（原著論文・総説）など		
評価方法	学術研究と修士論文について、 次の点で評価する。 ・研究への取り組み（50%） ・修士論文の論理性（25%） ・修士論文の学問的到達度（25%）		
到達目標	1）発酵醸造学分野の専門知識と技術の高いレベルでの修得。 2）発酵醸造分野の学問的意義のある修士論文の完成。		
準備学習	「発酵醸造学会誌」などの関連学会誌を精読する。		
受講者への要望			
・担当教員の助言に従って研究を展開し、その成果を修士論文としてまとめる。 ・発酵醸造をテーマとした学術研究への 2 年間の徹底的な没頭を求める。			
講義の順序とポイント			
担当教員が個別的な研究指導を随時行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J76057A01
科目名	【院】食品加工学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	食品科学および食品加工学に関連する文献の読解力を強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。 　各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する批判力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）	食品科学あるいは食品加工学に関する文献（各回ごとに配布する）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	英語原著論文の内容を迅速に理解し、その論文の成果や問題点を科学的・技術的観点から把握できる。明確で的確なプレゼンテーションができる。		
準備学習	常日頃、発表すべき論文を入手しておき、読んでおく。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

１．担当教員より文献の検索法について講述する。
２．担当教員より文献の読み方について講述する（１）。
３．担当教員より文献の読み方について講述する（２）。
４．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する文献１）
５．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する文献２）
６．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する文献３）
７．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する文献１）
８．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する文献２）
９．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する文献３）
１０．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する文献１）
１１．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する文献２）
１２．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する文献３）
１３．受講生の発表と質疑（食品物性評価に関する文献１）
１４．受講生の発表と質疑（食品物性評価に関する文献２）
１５．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する文献１）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76057B01
科目名	【院】食品加工学特別演習II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	食品科学および食品加工学で修得した内容を基盤として、食品科学および食品加工学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。 　各受講生の研究テーマに関連した原著論文の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する批判力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）	食品科学あるいは食品加工学に関する原著論文（各回ごとに配布する）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。 ・原書論文選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	英語原著論文の内容をさらに迅速に理解し、その論文の成果や問題点を科学的･技術的観点から把握できる。また、その論文の結果から新しい仮説や予測ができる。さらに明確で的確なプレゼンテーションができる。		
準備学習	常日頃、発表すべき論文を入手しておき、読んでおく。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

１．担当教員による食品加工学特別演習Ｉの習熟度評価。
２．担当教員より文献の収集・整理について講述する（１）。
３．担当教員より文献の収集・整理について講述する（２）。
４．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文１）
５．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文２）
６．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文３）
７．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文１）
８．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文２）
９．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文３）
１０．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する原著論文１）
１１．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する原著論文２）
１２．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する原著論文３）
１３．受講生の発表と質疑（食品の物性に関する原著論文１）
１４．受講生の発表と質疑（食品の物性に関する原著論文２）
１５．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76057C01
科目名	【院】食品加工学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	食品加工学演習Ⅰおよび Ⅱ で修得した文献・原著論文の読解力を基盤として、研究テーマに関する文献・原著論文からその分野の問題の現状認識と技術の将来予測を議論し、それらの能力を養成する。		
教材（テキスト）	取りまとめられた文献・原著論文をまとめた冊子（各回ごとに配布）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・科学的・技術的観点からの現状の把握度（30%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	受講生は取りまとめられた文献・原著論文から総説を作成し、当該分野の現状認識と将来予測をするための能力を習得する。		
準備学習	受講生は関連する文献・原著論文を収集し、発表のための資料を作成する。		

受講者への要望

受講生に複数時間の講義時間を割り当てる。受講生は担当教員の助言に従って課題を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料も作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1．文献・原著論文の収集・整理法の講述
2．受講生の発表と質疑（1）
3．受講生の発表と質疑（2）
4．受講生の発表と質疑（3）
5．受講生の発表と質疑（4）
6．受講生の発表と質疑（5）
7．受講生の発表と質疑（6）
8．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（1）
9．受講生の発表と質疑（7）
１０．受講生の発表と質疑（8）
１１．受講生の発表と質疑（9）
１２．受講生の発表と質疑（１０）
１３．受講生の発表と質疑（１１）
１４．受講生の発表と質疑（１２）
１５．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76057D01
科目名	【院】食品加工学特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	食品加工学演習Ⅲと同様に、各問題の現状認識と技術の将来を予測するための能力を養成するとともに、論文作成の能力を養成する。。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメなど。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・論文作成能力（50%）		
到達目標	受講生は取りまとめられた文献・原著論文から総説を作成し、当該分野の現状認識と将来予測をするための能力を習得するとともに論文作成のスキルを習得する。		
準備学習	受講生は関連する文献・原著論文を収集し、発表のための資料を作成するとともに、論文作成のためのデータを整理する。		

受講者への要望

前半は食品加工学演習Ⅲと同様に進める。後半は、受講生各自で作成した論文をもとに、質疑応答を行う。

講義の順序とポイント

1．受講生の発表と質疑（1）
2．受講生の発表と質疑（2）
3．受講生の発表と質疑（3）
4．受講生の発表と質疑（4）
5．受講生の発表と質疑（5）
6．受講生の発表と質疑（6）
7．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘
8．論文作成のスキルを解説
9．受講生が作成した論文に対する質疑（1）
10．受講生が作成した論文に対する質疑（2）
11．受講生が作成した論文に対する質疑（3）
12．受講生が作成した論文に対する質疑（4）
13．受講生が作成した論文に対する質疑（5）
14．受講生が作成した論文に対する質疑（6）
15．受講生の作成論文の評価と問題点の指摘

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76058005
科目名	【院】食品加工学特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	野菜・作物の食品加工および加工物の応用あるいは食品加工に伴う食品成分の化学的変化や食品の物性に関する研究を行い、食品科学の分野で新しい知見を得る。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	修士論文および口頭発表で評価する。		
到達目標	修士論文の完成とともに食品科学分野で何らかの新しい知見を得る。場合によっては、学会などで発表する機会を持つ。		
準備学習	研究を推進するにあたって、関連文献を収集する。それらを読んで、目標設定や実験計画を立案する。		
受講者への要望			
原著論文の読み込みは必須であり、科学英語の読解力を向上させる。常に何をすべきかを考えて生活する（考動する）ことを心掛ける。			
講義の順序とポイント			
1．テーマの企画・設定 2．テーマに関する文献情報や web 情報の取得、理解 3．実験計画の立案 4．テーマの取り組み 5．修士論文の作成 6．研究の発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76059001
科目名	【院】分子生命科学特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	本講義では、化学生態学および天然物化学分野と分子生物学分野から講義を行う。化学生態学分野からは、昆虫類を対象とした最近の研究の進歩を紹介する。具体的には、近年著しく進歩した機器分析手法の解説やそれらの進歩により可能となった少量の材料による実験法、それに伴う微量天然物の取扱い手法について、生物有機化学研究室に蓄積されたダニ類のフェロモン、ガ類や甲虫類のフェロモンや行動科学の研究成果を中心にした知見を事例に紹介する。分子生物学分野からは、最新の生命科学の発見を理解できる素養を身につけるため、まず、細胞の内外からの多様なシグナル伝達因子とその作用経路について、聴いて学び、読んで学び、さらに説明するという実践的なスタイルで理解度を深め、疾患関連タンパク質の機能解析やプロテオーム解析を理解し、創薬や細胞イメージング・ダイナミクス研究の現状と展望についての理解を深める。これによって現行技術を理解し、それを基にして関連分野の技術革新のための素養を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	各項目に関連する資料をパワーポイントやプリントなどで提供する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各項目に対してレポート提出を課し、次の 3 項目の理解度および習熟度で評価する。 ・化学生態学および分子生物学の応用と社会的基盤（30%） ・各知見・手法・技術の有機化学および分子生物学的基盤（40%） ・関連課題の調査と整理（30%）		
到達目標	生物有機化学および分子生物学の観点から生命科学全体について、とりわけ最新の知見を中心に種々の現象を理解し、有機化学的および分子生物学的基盤に基づき、説明できる学問基盤を身につける。		
準備学習	事前に配布する参考文献や資料の概要を把握しておく。		

受講者への要望

上記の評価基準に照らして、各項目のレポートを作成し、期限までに提出すること。

講義の順序とポイント

1．序論
2．天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱い
3．コガネムシ類のフェロモンと機能
4．カミキリムシフェロモンと植物との関わり
5．ガ類の性フェロモンとその利用
6．土壌動物のフェロモンの化学
7．土壌動物のフェロモンの有機合成
8．土壌動物のフェロモンの生合成

細胞の内外からの多様なシグナル伝達因子とその作用経路について
9．“聴いて、学ぶ”スタイルで、講演会や学会の Video を理解する.
10．事前に“読んで、学ぶ”スタイルで、最新文献などを探求する.
11．各自に与えられた課題を“説明する”スタイルで、各自の理解度を深める.

12．疾患関連タンパク質の機能解析：神経変性疾患、がんなどに関連するタンパク質
13．プロテオーム解析の基本とその応用
14．構造生物学とケミカルバイオロジー、創薬の現状と展望
15．細胞イメージング・ダイナミクス研究の現状と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76060001
科目名	【院】生物機能開発特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	微生物を用いる産業技術、すなわち微生物バイオテクノロジーは、伝統的な食品製造技術を基盤として発展し、過去 100 年の間に化学工業、環境改善技術、医薬品製造などへとその領域を拡大してきた。今後は低炭素社会を支える中心的技術に発展すると考えられているが、この分野の日本の技術レベルは世界の最先端にあり、人類社会への貢献が強く期待される。本講義では、伝統的な醸造工業の技術基盤、化成品製造における微生物酵素の活用、抗生物質等の医薬品製造、汚染環境の改善技術等に関連する具体例を示すことによって現行技術を理解し、それを基にして技術革新のための素養を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	各項目に関連する資料をプリント等で提供する。		
評価方法	各項目に対してレポートを課し、以下の 3 点の理解度および習熟度に基づいて評価する。 ・微生物産業の社会的基盤（30%） ・各技術の基盤となる微生物学および生化学的学問基盤（40%） ・各技術開発要素解析（30%）		
到達目標	微生物を用いる食品製造、物質生産、環境改善、医薬品製造等に関する技術開発の学問基盤に習熟する。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
上記の評価基準に照らして各項目のレポートを作成し、期限までに提出する。			
講義の順序とポイント			
1）　序論 2）　伝統的な醸造工業の技術基盤（酒類１） 3）　伝統的な醸造工業の技術基盤（酒類２） 4）　伝統的な醸造工業の技術基盤（食酢、その他） 5）　化成品製造における微生物酵素の活用（微生物酵素の特徴） 6）　化成品製造における微生物酵素の活用（キラル化合物１） 7）　化成品製造における微生物酵素の活用（キラル化合物２） 8）　抗生物質等の医薬品製造（抗生物質１） 9）　抗生物質等の医薬品製造（抗生物質２） １０）　抗生物質等の医薬品製造（代謝阻害剤１） １１）　抗生物質等の医薬品製造（代謝阻害剤２） １２）　環境改善技術（廃水処理技術の微生物基盤） １３）　環境改善技術（微生物を用いる環境改善技術） １４）　環境改善技術（酵素を用いる環境改善技術） １５）　エネルギー生産と微生物			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76061001
科目名	【院】環境再生特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	地球環境問題の深刻化を背景とした様々な環境課題への対応のありかたについて講義する。個々の現場や個別の技術のみならず、全体像の把握や新たな提案とその無理のない進め方、つまり環境に関する科学、技術、デザイン、マネジメントの観点から環境再生のありかたについて５人の専門家が担当するオムニバス講義である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	森本幸裕編著『 景観の生態史観：攪乱が再生する豊かな大地』京都通信社 金川貴博著『ありがとう、微生物たち』東洋書店		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等に配慮しつつ、５つのテーマごとに評価し、総合する。		
到達目標	時間的かつ空間的に階層的なランドスケープという見方を身につける。 微生物集団の力を環境の浄化に有効に利用するための基本的な考え方を身に付ける。 環境情報の地図化という手法を理解する。 地元の水環境再生の取り組みを理解する。		
準備学習	関連分野、情報処理に関する基礎的能力の向上にこころがけてください。 また、環境問題とその対応に関するマスコミ報道などにはこまめに目を通すとともに、これからの対応のありかたを自分で考える習慣を身につけてください。		
受講者への要望			
自分の専門とする領域にとらわれずに、さまざまな手法や課題に取り組んでください。			
講義の順序とポイント			
１．京都のランドスケープ：その重層的構造（森本） ２．ランドスケープデザインが開いた世界（森本） ３．これからのランドスケープデザイン（森本） ４．環境情報を集める（丹羽）（丹羽） ５．環境情報を分析・評価し地図化する①（丹羽） ６．環境情報を分析・評価し地図化する②（丹羽） ７．微生物集団を利用した環境関連技術の概要（金川） ８．DNA に着目した微生物集団解析方法（金川） ９．微生物集団の有効利用方法（金川） １０．水域の環境再生：琵琶湖（辻村） １１．水域の環境再生：るり渓（辻村） １２．水域の環境再生：曽我谷川（辻村） １３．都市の水辺空間探訪（原） １４．身近な水の不思議探訪（原） １５．流域と街の健康診断（原） （※担当者が適宜変更することがある）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76062001
科目名	【院】生物・環境特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	環境について議論するための礎となる地球科学と生態学の両方の視点からバイオ環境の実現へのアプローチを探る。		
教材（テキスト）	適宜、資料を配布、紹介する		
教材（参考文献）	適宜、資料を配布、紹介する		
教材（その他）	適宜、資料を配布、紹介する		
評価方法	講義中の演習課題、レポートなどを勘案して評価する		
到達目標	研究課題となる環境問題に直面した時に、地球科学的な発想と生態学的な発想の二つの視点から、事象を理解することを修得すること		
準備学習	配布資料などを精読した上で、講義に臨むこと		
受講者への要望			
数学一般、物理一般、地球科学一般、生物学一般を自学自習することが望ましい			
講義の順序とポイント			
1）地球科学から見た環境へのアプローチ１ 2）地球科学から見た環境へのアプローチ２ 3）地球科学から見た環境へのアプローチ３ 4）地球科学から見た環境へのアプローチ４ 5）地球科学から見た環境へのアプローチ５ 6）生態学から見た環境へのアプローチ１ 7）生態学から見た環境へのアプローチ２ 8）生態学から見た環境へのアプローチ３ 9）土壌と植生から見た環境１ １０）土壌と植生から見た環境２ １１）土壌と植生から見た環境３ １２）環境に暮らす人１ １３）環境に暮らす人２ １４）環境に暮らす人３ １５）環境に暮らす人４			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76063001
科目名	【院】食資源特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	人間が生きていくのに不可欠な物が食資源である．本講義においては植物由来の食資源を中心に，生産に関わる様々な土壌条件，環境要因，社会的要因について講じる．また，より優良な食資源を得るための園芸作物の育種についても述べる．さらに，食資源としての動物を含めた野生生物の利用についても講じる．		
教材（テキスト）	プリントで授業時に配布する．		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	5 人の担当教員がそれぞれ課すレポートによって評価する．		
到達目標	食資源のあり方について，多面的に考えることができるための知識を身につける．		
準備学習	本講義は，今まで学んできた里山，土壌，栽培，育種などに関する基礎的知識の発展型として位置づけている．これらの知識をあらかじめ整理して講義に臨んでほしい．		
受講者への要望			
日常生活においても食のあり方について考えていてほしい．マスコミでも報道される機会が多いテーマなので，常に関心を持っていてもらいたい．			
講義の順序とポイント			
1．食資源の成立（大城） 2．野菜を中心とした食資源の現状（大城） 3．野菜を中心とした食資源の今後（大城） 4．農地土壌の特性（關谷） 5．土壌改良資材（關谷） 6．民間の土壌改良資材（關谷） 7．野生生物の利用　植物とくに山菜（中川） 8．野生生物の利用　野生鳥獣とジビエ（中川） 9．自然食の動向と食産業　雑穀，山菜，大豆を中心として（中川） 10．里山資源の特徴（藤井） 11．農業とバイオマス（藤井） 12．農地土壌の在り方（藤井） 13．未定（河田） 14．未定（河田） 15．未定（河田）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76064001
科目名	【院】食品開発特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	21 世紀の先進国社会において人々が食品に求める価値は、従来の「栄養」「安全」「美味しさ」にとどまらず、「健康の増進」「環境への配慮」「安心」「物語性」などといった、より高度かつ抽象的なものへと拡大している。そうした社会における食品の開発は、栄養学、食品衛生学、食品加工学といった伝統的な食品科学だけでなく、より幅広い視点からの検討を必要とする。 本講義では、本学で開発しようとする具体的な食品ないし醸造物について、市場調査から研究開発、生産、販売までの各プロセスを構築あるいは改善することを題材として、さまざまな専門家とともに講義やディスカッションを展開する。そのなかで、そうした高い付加価値を持つ食品を生み出すために必要な視点と考え方を体得することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）On Food and Cooking: The Science and Lore of the Kitchen（2004）Harold McGee（著）Scribner 2）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢　淑・他(編)　朝倉書店 3）ビール醸造技術（1999）　宮地秀夫（著）食品産業新聞社		
教材（その他）	各項目に関連する資料をプリント等で提供する。		
評価方法	適宜レポートを課し、以下の 3 点の理解度および考察量を評価する。 ・食品開発の社会的側面（30%） ・食品開発の学問的・技術的側面（40%） ・ディスカッションへの寄与（30%）		
到達目標	実際の食品・醸造物の開発を通じて、食品開発に必要な諸要素を理解しながら、それに貢献できる総合的な力を身につける。		
準備学習	食品加工学や発酵醸造学といった食品開発の学問基盤に習熟するほか、社会の出来事や風潮といった時代性への感度を高めておく。		
受講者への要望			
上記の評価基準に照らしてレポートを作成し、期限までに提出する。			
講義の順序とポイント			
1）　序論 2）　機能性食品の開発事例 3）　加工食品の実際 4）　最新の粉末化技術 5）　食品加工と調理の科学 1 6）　食品加工と調理の科学 2 7）　食品加工と調理の科学 3 8）　村おこしのための農産物加工の事例 9）　地域産醸造物の開発：原料の農産 1 １０）　地域産醸造物の開発：原料の農産 2 １１）　地域産醸造物の開発：原料処理 １２）　地域産醸造物の開発：醸造 1 １３）　地域産醸造物の開発：醸造 2 １４）　地域産醸造物の開発：販売 １５）　総合討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★		★	★

年度	2015	授業コード	J76D01AAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01ABB
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01ACC
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01ADD
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01AEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01AFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01AGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01AHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01AII
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		

受講者への要望

視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．

講義の順序とポイント

1. 研究課題の選定
2. 文献検索法
3. 文献整理術
4. 関連分野の学術論文の理解と整理（1）
5. 研究計画と研究方法論　(1)
6. 研究手法の理解と検討　(1)
7. 関連分野の学術論文の理解と整理（2）
8. 研究計画と研究方法論　(2)
9. 研究手法の理解と検討　(2)
10. 関連分野の学術論文の理解と整理（3）
11. 研究計画と研究方法論　(3)
12. 研究手法の理解と検討　(3)
13. 関連分野の学術論文の理解と整理（4）
14. 研究計画と研究方法論　(4)
15. 研究手法の理解と検討　(4)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01AJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01AKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01ALL
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01AMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01ANN
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		

受講者への要望

視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．

講義の順序とポイント

1. 研究課題の選定
2. 文献検索法
3. 文献整理術
4. 関連分野の学術論文の理解と整理（1）
5. 研究計画と研究方法論　(1)
6. 研究手法の理解と検討　(1)
7. 関連分野の学術論文の理解と整理（2）
8. 研究計画と研究方法論　(2)
9. 研究手法の理解と検討　(2)
10. 関連分野の学術論文の理解と整理（3）
11. 研究計画と研究方法論　(3)
12. 研究手法の理解と検討　(3)
13. 関連分野の学術論文の理解と整理（4）
14. 研究計画と研究方法論　(4)
15. 研究手法の理解と検討　(4)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01BAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01BBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01BCC
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01BDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01BEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01BFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01BGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01BHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01BII
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01BJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01BKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01BLL
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01BMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01BNN
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01CAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01CBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01CCC
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01CDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01CEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01CFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01CGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01CHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01CII
科目名	【院】バイオ環境特別演習III	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science III		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01CJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01CKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01CLL
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01CMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01CNN
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01DAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01DBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01DCC
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01DDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01DEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01DFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01DGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01DHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01DII
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01DJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01DKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01DLL
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01DMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01DNN
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01EAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとずく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01EBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとずく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01ECC
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとずく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01EDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとずく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01EEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとずく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01EFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとずく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01EGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとずく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01EHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとずく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01EII
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとずく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01EJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとずく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01EKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとずく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01ELL
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとずく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01EMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとずく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01ENN
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとずく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J76D01FAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01FBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01FCC
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01FDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01FEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01FFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01FGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01FHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01FII
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01FJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01FKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01FLL
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01FMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D01FNN
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D020A5
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D020B5
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D020C5
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義． 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる．		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する．		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書．		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%）， 実験計画の策定と独創性（20%）， 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%）， 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%）， 成果の発表表現能力（10%）　などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする．		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること．		
受講者への要望			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること．			
講義の順序とポイント			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある．			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D020D5
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D020E5
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講者への要望			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
講義の順序とポイント			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D020F5
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D020G5
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D020H5
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講者への要望			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
講義の順序とポイント			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D020I5
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D020J5
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D020K5
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D020L5
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D020M5
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J76D020N5
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J80000101
科目名	日本経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	2012 年に発足した安倍内閣のもとで，「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な取り組みが実施されてきたことにより，我が国経済も今年こそ内需主導の本格的な経済成長を実現するとの期待が高まっている．2014 年度の予算編成の基礎となる「2014 年度経済見通し」によると，消費税率引き上げの影響を除いてもプラスの消費者物価上昇率(1.2%)が見込まれ，我が国経済はデフレから脱却し，名実逆転が解消し，プラスの経済成長が見込まれているからである．とくに注目すべきは，円安にもかかわらず輸出が伸び悩み，個人消費などの国内需要が確実に伸びている． とはいえ，本年 4 月の消費税引き上げは，実際には景気動向にどのように影響するのだろうか．国際的には，TPP への参加問題も大きな課題となっているし，アジア諸国との外交関係も景気に微妙な影響を及ぼすことになるかも知れない． 本講義では，その時々のトピックスにも注意を向けながら，日本経済の特徴を理解できるように平易に解説する．		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版		
教材（その他）			
評価方法	授業内レポートと学期末試験		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を理解する		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		
受講者への要望			
「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける．			
講義の順序とポイント			
1．序　章　日本経済の現況 2．第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長 3．第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長 4．第 2 章　バブル景気と失われた 20 年 5．第 2 章　バブル景気と失われた 20 年 6．第 2 章　バブル景気と失われた 20 年 7．第 3 章　金融システムの動揺 8．第 3 章　金融システムの動揺 9．第 4 章　財政赤字の急増 10．第 4 章　財政赤字の急増 11．第 5 章　産業構造の変化と労働市場の変容 12．第 5 章　産業構造の変化と労働市場の変容 13．第 6 章　生活不安とセイフティネット 14．第 6 章　生活不安とセイフティネット 15．終　章　日本経済の課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J80000102
科目名	日本経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	2012 年に発足した安倍内閣のもとで,「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な取り組みが実施される中, 我が国経済も今年こそは内需主導の本格的な経済成長を実現するとの期待が高まっている．2014 年には消費税率が引き上げられ, 財政健全化に向けての取組がなされたものの, その後の経済成長の低迷を受け, 2015 年に予定されていた消費税率の引き上げを見送るべく，総選挙が実施された. この間とくに注目すべきは，経済のグローバル化の進展により，円安にもかかわらず輸出が伸び悩んでいる．我が国経済の本格的な回復には,「第 3 の矢」を放ち，内需主導の経済成長を実現することが喫緊の課題である．第 3 の矢がいつ放たれるのか，国際的には，TPP への参加問題も大きな課題となっているし，アジア諸国との外交関係も景気に微妙な影響を及ぼすことになるかも知れない. 本講義では，その時々のトピックスにも注意を向けながら，日本経済の特徴を理解できるように平易に解説する.		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版		
教材（その他）	講義用レジュメを配付する		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を理解する		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		

受講者への要望

「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける.

講義の順序とポイント

1. 序　章　日本経済の現況
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
4. 第 2 章　バブル景気と失われた 20 年
5. 第 2 章　バブル景気と失われた 20 年
6. 第 2 章　バブル景気と失われた 20 年
7. 第 3 章　金融システムの動揺
8. 第 3 章　金融システムの動揺
9. 第 4 章　財政赤字の急増
10. 第 4 章　財政赤字の急増
11. 第 5 章　産業構造の変化と労働市場の変容
12. 第 5 章　産業構造の変化と労働市場の変容
13. 第 6 章　生活不安とセイフティネット
14. 第 6 章　生活不安とセイフティネット
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J80000201
科目名	経営学総論	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Business Administration		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	欧米では「経営学」という名称は一般的には使われていない。わが国でいう「経営学」とは、欧米の経営経済学・経営社会学・経営心理学・経営工学の総体をさす。そしてそれぞれが別個の研究者によって研究が進められている。またそれぞれが独自の研究対象・研究方法・学問体系を持つ。したがって、わが国でも、「経営学」という名称よりも「経営諸学」という名称の方が正確なのである。「経営学」という名称は便宜的に使われているに過ぎない。 本講義では、この「経営諸学」の基本的な内容をできるだけ分かりやすく説明したい。これによって、経営学とはどのようなことを研究するのか、またどのような応用ができそうなのか、分かってもらえればよい。もともと経営学は難しいところがある。時には論者の主張が対立し、矛盾さえ感じることもある。このようなことも分かってもらえればよい。こうした中で、より重要で本質的なことを考える手立てとしてもらいたい。 より詳しく、より専門的には、これから経営学部が提供する諸講義・ゼミで深めていってもらいたい。		
教材（テキスト）	・教科書は使いませんが、毎回の講義用の資料は、ホームページ「http://hasegawa02.nukimi.com/」上にア　ップロードしておきます。 ・トップページの中の「講義用資料」→「経営学総論」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリン　トアウトし、目を通してから講義を聞いて下さい。 ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第１回目の講義で言います。 ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかり聴いて穴埋めをして下さい。 ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくと便利です。		
教材（参考文献）	一般的な「経営学総論」の参考書は第１回目の講義で言います。本によっては、「経営学原理」とか「経営学概論」とか「経営学入門」とか単に「経営学」という書名になっています。書店で買い求めて、大学４年間で、最低２冊は頭に叩き込むようにして下さい。 各回の講義の参考書は、上記参考書にも載っていますが、それ以外はそのつど指示します。		
教材（その他）	パワーポイントを使って、虫食い状態でない講義用資料に基づいて講義を進めます。 ビデオや新聞の切抜き等も使います。		
評価方法	原則として、 平常点　　20％ 期末試験　　80％		
到達目標	経営学とはどういう学問かを理解し、そして経営学を深めていき、それを応用できるための基礎的な知識を習得すること。 経営学は、経営学部生に限らず現代人すべてにとって必須の学問である。		
準備学習	事前に講義用のプリントに目を通しておくこと。		
受講者への要望			
私語は禁止とする。時々小テストをするので、熱心に聞いておくこと。			
講義の順序とポイント			
０１．豊かさの時代と企業 ０２．大企業の誕生 ０３．大企業の行きづまり ０４．日本の企業 ０５．企業の新たな歩み			

０６．経営･企業･管理
０７．アメリカの経営学
０８．ドイツの経営学
０９．経営組織のいろいろ
１０．「選択と集中」と組織能力の戦略
１１．企業統治（コーポレート･ガバナンス）とは
１２．企業の国際化と比較優位の理論
１３．未来を見据えて　②技術の未来
１４．未来を見据えて　③経営の未来
１５．経営学とその周辺分野

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J80000301
科目名	ビジネスデータの見方	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済の動き、企業を取り巻く環境を理解するためには、現実のデータ（経済統計、企業統計など）から現状を見る必要がある。経済の主要なデータ、たとえば、国全体の経済の動きは SNA というシステムにまとめられている。GDP など経済の基本中の基本となっている用語を理解するとともに、その動きがどうなっているか、他のどのような要因と関連しているかなど、主にデータ面から理解を深める。 　また、企業活動から見たデータもビジネスをとらえるために重要である。事業所や、売り上げ、利益など経済だけにとどまらないデータを紹介し、理解を深める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	何回か授業内テストを実施する。その成績が 70%、期末試験が残りの 30%とする。 授業への出席は当然であるので、欠席（病気などを除く）が 3 回以上になったら不合格とする。		
到達目標	マクロ経済の基本用語とその現実の動きを理解する 経済の要素間の関連（理論的バックグラウンド）を理解する 企業関連データの実際を知る		
準備学習	時々、宿題を出すので、授業外の時間にそれをまとめ、次回の授業で提出する。 予習復習、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		
受講者への要望			
①授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、入退室などマナー違反は許されない ②実際に手を動かして文章を作ったり、計算したりすることが重要			
講義の順序とポイント			
1　講義の全体構成 2　付加価値とＧＤＰ 3　ＧＤＰと需要項目 4　１人あたりＧＤＰ、日本は豊かな国か 5　経済成長と需要の寄与度 6　景気変動と景気動向 7　物価指数 8　物価指数の実際 9　人口 、労働人口、失業 １０　マネー １１　為替と貿易 １２　産業構造、事業所 １３　利益の構造 １４　企業の世界展開 １５　ブラック企業 資料はプリントを配布する。授業の進捗に合わせて、内容を変更することがある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J80000401
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
講義概要	簿記とは、企業の経営活動の結果を帳簿に記録する手法であり、技術です。簿記の原理を知り、財務諸表から企業の財政状態や経営成績を読み取る能力は、現在の企業人に強く求められる必須の教養であるといってよいでしょう。 日本商工会議所が主催する日商簿記検定試験は、簿記検定試験の中でも最も規模が大きく、知名度の高い検定試験であり、一般的には３級の資格から履歴書に書ける資格であると言われています。 この授業では、はじめて簿記を学ぶ人を対象に、日商簿記検定試験３級合格レベルの知識を身につけるとともに、練習問題を多く取り入れることでその技術を高めることを目指します。		
教材（テキスト）	『解いて覚える！日商簿記３級合格ブック』（成美堂出版）		
教材（参考文献）	必要に応じて指示します。		
教材（その他）	授業内でプリント等を配布します。		
評価方法	平常点 50%、授業内提出物（小テストを含む）50%から総合的に評価します。		
到達目標	日商簿記検定試験３級の出題範囲の知識の習得を目指します。		
準備学習	次の授業までに必ず前回の授業内容の復習と練習問題の解答を心掛けるようにしてください。		
受講者への要望			
この授業は複式簿記の基礎的な知識と技術の習得を目的としています。授業には積極的に参加し、簿記に対する関心を深め、しっかりとした知識と技術を身に付けるよう心掛けて下さい。			
講義の順序とポイント			
１．　簿記って何！簿記の目的と種類 ２．　簿記の５要素 ３．　損益計算書 ４．　貸借対照表 ５．　仕訳①と練習問題 ６．　仕訳②と練習問題 ７．　仕訳③と練習問題 ８．　決算処理①１と練習問題 ９．　決算処理②と練習問題 １０．決算処理③と練習問題 １１．主要簿と補助簿 １２．試算表と練習問題 １３．精算表と練習問題 １４．伝票会計 １５．日商簿記検定試験３級対策実践練習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J80000402
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 （2）この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 （3）簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 （4）この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 （5）この講義は、秋学期の「簿記原理」（日商簿記検定 3 級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。		
教材（テキスト）	渡部　裕亘　『ファーストステップ　簿記を学ぶ 第 2 版』 中央経済社　￥1,260		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントを配布します。		
評価方法	原則として、 小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。		
到達目標	（1） 複式簿記の基本原理を理解している。 （2） 基本的な取引の仕訳と転記ができる。 （3）個人企業における決算の意義と手続きを理解している。 （4） 簿記一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している。		
準備学習	（1） 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 （2） 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。 （3） 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、毎回配布する「Minutes paper」の質問欄に明記してください。次回の講義で説明します。毎回、そのような心構えで講義に臨むよう、準備をしてください。		

受講者への要望

（1） 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング･アップを行ってください。この講義を理解せずに、秋学期の「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。
（2） 科目の性格上、出席を重視します。学習時には「頭と手」の活用を意識してください。
（3）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

この講義は、原則、次の順序で展開します。

1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的･種類
2. 資産･負債･純資産（資本）と貸借対照表
3. 収益･費用と損益計算書
4. 取引と取引要素の結合関係
5. 取引と勘定記入
6. 仕訳① [資産･負債･純資産（資本)]
7. 仕訳② [収益・費用]
8. 仕訳と転記
9. 仕訳帳と総勘定元帳
10. 試算表の原理
11. ６桁精算表
12. 決算手続き
13. 貸借対照表と損益計算書の作成
14. 決算演習
15. 簿記一巡の取引に関するプリント演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J80000403
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	中園　宏幸	旧科目名称	
講義概要	（1）簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 （2）この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 （3）簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 （4）この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 （5）この講義は、秋学期の「簿記原理」（日商簿記検定 3 級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。		
教材（テキスト）	渡部　裕亘　『ファーストステップ　簿記を学ぶ 第 2 版』 中央経済社　￥1,260		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントを配布します。		
評価方法	原則として、 小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。		
到達目標	（1） 複式簿記の基本原理を理解している。 （2） 基本的な取引の仕訳と転記ができる。 （3）個人企業における決算の意義と手続きを理解している。 （4） 簿記一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している。		
準備学習	（1） 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 （2） 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。 （3） 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、毎回配布する「Minutes paper」の質問欄に明記してください。次回の講義で説明します。毎回、そのような心構えで講義に臨むよう、準備をしてください。		

受講者への要望

（1） 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング･アップを行ってください。この講義を理解せずに、秋学期の「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。
（2） 科目の性格上、出席を重視します。学習時には「頭と手」の活用を意識してください。
（3）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

この講義は、原則、次の順序で展開します。

1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的･種類
2. 資産･負債･純資産（資本）と貸借対照表
3. 収益･費用と損益計算書
4. 取引と取引要素の結合関係
5. 取引と勘定記入
6. 仕訳① [資産･負債･純資産（資本)]
7. 仕訳② [収益・費用]
8. 仕訳と転記
9. 仕訳帳と総勘定元帳
10. 試算表の原理
11. 6 桁精算表
12. 決算手続き
13. 貸借対照表と損益計算書の作成
14. 決算演習
15. 簿記一巡の取引に関するプリント演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J80000501
科目名	ビジネスのための数学入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、高校で既習の 1 次関数・2 次関数からはじめて、微分・偏微分や行列などより高度な抽象的な内容（B で取り上げる）に発展させていく。ただ、従来の数学のように定理・証明の積み重ねではなく、定理の直感的な意味の把握とその実践としての問題演習を中心に進めていく予定である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントと Web のホームページ		
評価方法	授業レポート（52%），その理解度を確認する演習・試験（48%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 特に数列の計算・関数のグラフ・微分の計算と応用などの能力を獲得すること。		
準備学習	高校の数学の教科書や図書館の参考書などで復習すること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで自習するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，その演習として簡単な問題を課し提出してもらう予定である。
高校数学の復習から始めるので事前に高校教科書の該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1. 数と集合
2. 集合と命題
3. 整式の計算・方程式・不等式
４．２次関数・２次不等式・２次不等式・
5. 数列
6. 数列の極限
7. 関数
8. 集合・関数・方程式・不等式・数列について総合演習
9. 指数関数
１０．対数関数
11. 関数の極限と微分
12. 微分の公式
13. 微分の計算
14. 微分の応用
15. 指数・対数関数・関数の極限・微分法について総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J80000601
科目名	民事法入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Civil Law		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	民法の総則、債権などの財産法についての入門的な講義を行います。 民法は、私たちが市民社会・企業社会の中で生きていくための不可欠のルールですので、確実の自分のものにする必要があります。 毎回の講義では、指定教科書に基づき、市民社会や企業社会で起こっている具体的な事例を使って、そこへの参加者が円滑の利害調整を図るためには、どのようにルール（民法）の使って問題解決を図っていくかを考えていくことにしたいと思います。		
教材（テキスト）	●野村豊弘「民事法入門」(有斐閣アルマ、2014)		
教材（参考文献）	●道垣内弘人「リーガルベイシス民法入門」(日本経済新聞社、2014) ●「ポケット六法」などの小型六法		
教材（その他）			
評価方法	定期試験（７０％）と授業終了時に簡単な質問用紙を配布し、その記入によって講義がしっかり聴けているかを評価し（３０％)、その合計点による。		
到達目標	(1) 民法の財産法ルールがどのような内容のものであるか、概要を把握する。 (2) 市民社会･企業社会で実際に起こっている紛争事例において、その解決のために、財産法ルールをどのように適用していけばよいか、その方法を体得する。		
準備学習	各回の授業範囲について、テキストをひととおり読んでおくこと。		

受講者への要望

最新版の六法を持参のうえ、毎回必ず出席し、そして何よりも能動的に授業に参加するようにすること。

講義の順序とポイント

1　民事法
　　民事法の意義
　　民事法の構造
　　法源
2　民法と民法典
　　民法の意義（一般法としての民法と特別法としての商法）
　　民法の構造
　　民法の歴史
　　平成２７年民法（債権法）改正の意義
3　権利と義務
　　意義
　　物権と債権
　　権利の濫用
4　契約・法律行為(1)
　　意思表示・契約・法律行為
　　公序良俗
5　契約・法律行為(2)
　　意思表示の瑕疵
　　無効と取消し
6　課題演習（小テスト）と解説
7　権利能力・意思能力・行為能力
　　権利能力

意思能力・行為能力
課題演習
8　代理(1)
代理とはどういう制度か
代理権に関する諸問題
代理人および代理行為に関する問題
9　代理(2)
無権代理
表見代理
課題演習
10　契約(1)
契約の成立
契約の効果
双務契約における２つの債務の関係
11　契約(2)
契約の履行（債務の履行）
契約の不履行（債務不履行）
12　課題演習（小テスト）と解説
13　不法行為(1)
不法行為制度の意義と機能
不法行為の要件
14　不法行為(2)
不法行為責任の内容
その他の問題
特殊的不法行為
15　課題演習（小テスト）と解説

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J80000701
科目名	刑事法入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Criminal Law		
担当者名	小野　晃正	旧科目名称	
講義概要	・経済経営学部の専門科目には、「刑法」、「刑事訴訟法」、「少年法」、「刑事政策」がある。これらの科目で学習する内容をまとめて「刑事法」と呼ぶことができる。 ・本講義は、この「刑事法」を広い視点から概観したのち、刑罰の正当化根拠や効果を考察する刑罰論の学習を経て、主として全犯罪に共通する「犯罪の成立要件」を対象とする刑法総論を取り扱う。 ・この講義では、刑事法学上の諸問題を具体的に検討し、刑事法への関心を高めることを通じて、刑法総論の見取り図を得ることを目的とする。 ・教員側からの一方通行的な講義にならないよう、学生と教員の双方向理解を目指すべく、予習を前提とした質疑応答を講義中に行う。		
教材（テキスト）	・佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義（第 2 版）』（有斐閣・2013 年・ISBN 978-4-641-04293-3）を教科書として指定するので、書籍部その他を通じて必ず入手すること。 ・なお、近時において刑事法は相次いで法改正がなされていることから、最新の六法を持参すること。 たとえば、平成 27 年版『ポケット六法（有斐閣）』、『平成 27 年版判例六法（有斐閣）』、『平成 27 年版デイリー六法』（三省堂）、および、『平成 27 年版模範小六法』（三省堂）などが望ましい。		
教材（参考文献）	学習の便宜上、刑法総論の判例集を参照することが望ましい。 たとえば、 ・山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選 I 総論（第 7 版）』（有斐閣・2014・ISBN 978-4-64111520-0） ・井田良＝城下裕二編『刑法総論判例インデックス』（商事法務・2011・ISBN 978-4-78571907-4） などがある。		
教材（その他）	必要に応じて紙媒体の配布物（講義の要旨を記した資料など）を交付する。		
評価方法	原則として期末試験の成績による。ただし、質疑応答や理解度を試す小テストを実施した場合には、その評価内容も成績評価に加味することがある。		
到達目標	１．刑事法の全体像をできるだけ具体的に把握するとともに、刑法総論と刑法各論の異同を理解する。 ２．刑罰制度の問題点について、基本的な知識を身につける。 ３．刑法総論の基本的な考え方に触れ、犯罪成立要件の概要を理解する。		
準備学習	・教科書を入手したうえで、各回に予定されている講義内容をふまえた予習をすること。 ・新聞（朝刊や夕刊）の社会面、あるいは、インターネット上のニュースなどに掲載されている記事を読みましょう。この科目に限らず多方面で良い効果を発揮するはずです。		
受講者への要望			
・講義の順序は、教科書の見出しにほぼ対応していますので、講義前に教科書の該当箇所を一読して予習をしてください。 ・法学を体得するには、自らの手を動かして教科書に掲載された問題を解く、あるいは講義内容をまとめてみるなどの復習がもっとも効果的です。教科書を漫然と読むだけでは身につきません。とにかく手を動かしましょう。			
講義の順序とポイント			
第 1 回：刑事法とは何か　－刑法、刑事手続法、刑事学の概要、刑罰の正当化根拠 第 2 回：刑法の解釈と運用（刑法の機能、罪刑法定主義、犯罪論の体系） 第 3 回：構成要件該行為（構成要件の機能と要素、実行行為、作為犯と不作為犯、因果関係） 第 4 回：未遂犯（実行の着手、不能犯、中止未遂） 第 5 回：故意犯と事実の錯誤（故意犯の原則、故意の内容、事実の錯誤） 第 6 回：過失犯と危険の分配（例外としての過失犯、過失の内容、管理・監督過失） 第 7 回：違法性阻却（違法性の実質、被害者の同意、正当行為） 第 8 回：緊急行為（正当防衛と緊急避難） 第 9 回：責任（責任の本質、責任能力） 第 10 回：責任能力をめぐる諸問題（原因において自由な行為、実行途中の責任能力低下） 第 11 回：故意犯と違法性の錯誤（違法性の錯誤、違法性に関する錯誤、期待可能性） 第 12 回：正犯と共犯（間接正犯と共同正犯、教唆犯、幇助犯） 第 13 回：共犯の諸問題①（承継的共犯、過失犯の共同正犯、共犯関係の消滅と解消） 第 14 回：共犯の諸問題②（身分犯と共犯、共犯と錯誤、共同正犯と正当防衛）			

第 15 回：罪数

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J80000801
科目名	ビジネス法入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Business Law		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	ビジネスを行うには、ビジネスに関係の深い法律を理解し、それらの法律に違反しなだけでなく、法律が用意している制度を上手く活用することが求められます。例えば、会社を作ってビジネスをするには、どのような種類の会社があるのか、ビジネスに必要な資金の集め方にはどのような種類があるのか、もしもビジネスに失敗して会社をたたむ場合にはどのような方法があるのか、といったことが重要です。これらすべて法律が関係してきます。具体的には、「商法」「会社法」「金融商品取引法」など、様々な法律が関係してきます。この授業では、これらの法律の中から、非常に重要な基本的な仕組みについて学びます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	龍田節・杉浦市郎『企業法入門（第四版)』（悠々社）		
教材（その他）	毎回レジュメ（プリント）を配布する。		
評価方法	平常点（授業内レポートを基本とし、出席状況・受講態度を加味する）（３０％） 中間試験（２０％） 期末試験（５０％）		
到達目標	企業に関する基本的な仕組みについて理解し、説明できるようになる。		
準備学習	毎回の授業内容について、キーワードを中心を復習し、次の回の冒頭に行う確認クイズに備える。		
受講者への要望			
１　普段から経済や企業関係のニュースに関心を持って、新聞を読んだり、ニュースを見ること ２　 毎回の授業には、最新版の六法をもち、体調を整えて出席すること			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション・企業法とは何か・民法と商法の違い ２．わが国の事業所・会社の実態 ３．「日本型資本主義」の成立と変遷 ４．商品の流通 ５．金の流れと決済　１（銀行振込み・クレジットカード） ６．金の流れと決済　２（手形・小切手） ７．企業の組織１（企業活動を支える人たち） ８．企業の組織２（企業運営の仕組み）と中間試験 ９．企業のグループ １０．企業の資金 １１．投資と利殖 １２．企業の失敗 １３．企業と責任 １４．権利の乗物－紙からネットへ １５．会社法の沿革と総復習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J80000901
科目名	京都のビジネス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	京都は伝統と進取の気質に富む街であり、観光などのサービス産業だけでなく、中小・中堅企業を中心とした「ものづくり産業」が地域経済を支えている。この講義では、観光業、農林業、繊維業、製造業などの専門家や各分野で京都経済界を担う経営者などをゲストスピーカーとして招き、京都のビジネスの特徴と魅力を検討する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。		
評価方法	授業中に毎回課すレポート（100%）。		
到達目標	１．各業界のビジネスシーンの理解を深めるとともに、企業を見る眼を養う。 ２．企業が、さまざまな状況の中で、どのような問題をどのように解決しようとし、どのような人材を求めているのかということを把握する。		
準備学習	授業のレジュメを京学なびの「授業資料」に授業１週間前までにアップロードするので、事前に読んで予習しておくこと。毎回の授業において前回授業内容を含む課題を課すので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
各業界の動向について、新聞などのニュースソースから自分なりに把握するよう心掛けること。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．京都産業の概観 ３．観光業界１ ４．観光業界２ ５．観光業界３ ６．農林業界１ ７．農林業界２ ８．農林業界３ ９．繊維業界１ 10.繊維業界２ 11.繊維業界３ 12.製造業界１ 13.製造業界２ 14.製造業界３ 15.京都におけるビジネスの課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J80001001
科目名	株式投資入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	日根野　健	旧科目名称	
講義概要	株式投資学習ゲームを活用し、各学生に 1000 万円の仮想資金を割り当て、その運用を通して、株式投資を学んでいきます。 株式投資は、様々な学問のエッセンスを活用する、まさに実践の場、学際的領域です。 ファイナンス論で学ぶ企業価値評価。 財務諸表論で学ぶ財務諸表の読み方。 マクロ経済学で学ぶ経済に対する見通し。 ミクロ経済学で学ぶ市場の仕組み。 経営学で学ぶバリューチェーンや 5force 分析。 これらの学問が株式投資という実践にどのように活用されるかを知ることで、それぞれの学問の意義を学習していきます。企業を事例として取り上げながら、様々な企業が存在することを知ることにもつながります。 この授業では、各学問の知見を株式投資にいかに実践するかにとどまらず、学生が就職する企業を選ぶ際のポイントを学ぶことにもつながります。 就職は、学生がどの企業に自らの大切な時間を投資するか？という投資意思決定だといえます。自らの就職先を選ぶ際にも、この授業で学んだ内容が役立つはずです。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配付する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜プリントを配付する。		
評価方法	レポート（50%）、定期テスト（50%） (1) レポートの内容は、企業分析レポートの作成とする。 (2) 定期テストの内容は、授業中に実施するワークの内容と類似したものを出題する。		
到達目標	企業を「株式投資の投資対象」として見ることを前提として、企業を「財務・業績」「企業価値」「業種・業界」「マクロ経済」など多面的に、企業を理解・分析できるようになることを目標とします。		
準備学習	毎授業の最初に、前回の授業内容に関するワークと解説を実施します。 そのため、前回の授業内容のポイントの復習を、毎回の授業の準備学習として行ってください。		

受講者への要望

「株式投資」と「就職活動における企業選び」には、いずれも「投資」という共通点があります。株式投資は「お金の投資」であり、就職は「あなたの時間の投資」です。

企業を理解・分析する眼を養い、結果として、就職活動にも活きる授業内容にしたいと思いますので、積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

1.はじめに　～上場会社から 1 社を選ぶ～
　いくつかの上場企業を紹介し、そのなかから 40 年後に株価が上昇してそうな 1 社を選択してもらいます。
　40 年後とは、学生のみんなが定年退職をする頃です。将来を見通しましょう。
　「株式投資学習ゲーム」という教材を通して、仮想資金 1000 万円を各生徒に割り当て、それを運用してもらいます。

2.株主価値評価 1
　企業価値、株主価値、負債価値の概念を理解します。

3.株主価値評価 2
　実際の企業について、株主価値を算定し、現在の株価が割安か、適正か、割高か、を判断する練習をします。

DCF 法（ディスカウント・キャッシュ・フロー法）により、株主価値を算定します。

4.財務諸表分析
実際の企業の財務諸表を読み解き、財務内容の特徴を理解します。（製造業、サービス業、銀行業、保険業）
特に、非事業性資産とはなにか、について理解し、実際の財務諸表から非事業性資産を特定し、金額を算定できるようにします。

5.株主価値評価 3
DCF 法を取り上げます。
FCF（フリー・キャッシュ・フロー）、WACC（ワック）について、実際の企業を例に算定します。

6.株主価値評価 4
ソフトバンク、ファーストリテイリング等、実在の企業について中期経営計画等をもとに、DCF 法による株主価値を算定する演習を行います。

7.業界分析 1
マーケットを、「ディフェンシブ、景気循環」×「成長、成熟、衰退」の 6 つに分類して理解します。
ディフェンシブ、景気循環、成長、成熟、衰退の意味を説明するとともに、実際のマーケットがどこに分類されるかを考えます。

8.業界分析 2
上場企業は 33 の業種に分類されています。
どのような分類があり、どのような企業が各業種に分類されているかを確認します。
特に、サービス業等のディフェンシブな業種・業界を取り上げます。

9.業界分析 3
特に製造業等の景気循環の影響を受ける業種・業界を取り上げます。

10.株主価値評価×業界分析
業界の特性を反映した株主価値評価方法を取り上げます。

11.マクロ経済 1
景気循環を深く理解するために、GDP を取り上げます。
GDP とは何か、どのようにして GDP を知ることができるか。
景気循環と GDP を理解していきます。

12.マクロ経済 2
景気の先行指標として、景気動向指数を学習します。
景気動向指数に含まれる、重要なマクロ経済指標と株式投資の関係について、取り上げます。

13.経営学
5force 分析、SWOT 分析により上場企業を分析します。

14. .コーポレートガバナンス
取締役、監査役による企業統治がどうあるべきか？　上場企業は現実にどのようなコーポレートガバナンス体制を構築しているかを学びます。上場企業が会社法に違反し、株主価値が大きく損なわれた事例を学びます。
その前提として、株式会社の機関としての株主、取締役、監査役の意義を取り上げます。また、株主にどのような権利があるかを確認します。
その他、株式市場のルール（インサイダー取引等）を取り上げます。

15.企業の社会的責任
上場企業が社会的責任をどのように果たしているかを取りあげます。障がい者雇用、環境に優しい技術の開発など、社会的責任を率先して果たしている上場企業を取りあげます。
さわかみ投信、鎌倉投信など、独立系投資信託の哲学とスチュワードシップ・コードを知ることを通して、株式投資の意義を考えます。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J80100101
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	京都の伝統工芸品の中から京友禅を取り上げ、工房で製作を体験してもらいます。京友禅の商品価値が決まる過程を体験することによって経済に関する論理的思考力と行動力を養います。次いで今日の京友禅が直面している課題を整理することによって問題発見力を養います。最後に、京友禅の魅力を第三者に伝えるにはどのようにすればよいか考えることによってコミュニケーション能力を涵養します。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	藤田綾子（2014）『京都の染め職人たち　「ほんまもん」を生み出す技』現代書館。		
教材（その他）			
評価方法	学外で行う調査研究への参加（50%）、授業内レポート（50%）		
到達目標	本学が京都に立地している利点を活かして京都の伝統産業の価値を再認識する。		
準備学習	上記の教材（参考文献）を本学の図書館に備え付けてもらうので、前もってよんでおくこと。		

受講者への要望

大学の外で調査研究を行う際にはマナーやルールに気をつけ、社会的に成長していくことを望みます。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション（概要の説明）
2．オリエンテーション（マナー等を学ぶ）
3．事前学習①　京友禅とは何か
4．事前学習②　京友禅の歴史と現状
5．中間学習①　京友禅の見学
6．中間学習②　京友禅の制作体験
7．中間学習③　京友禅の制作体験
8．事後学習Ⅰ　京友禅の魅力の整理
9．中間学習④　京友禅に関する聞き取り調査・アンケート調査
10．中間学習⑤　京友禅に関する聞き取り調査・アンケート調査
11．事後学習Ⅱ　京友禅が直面している課題の整理
12．中間学習⑥　京友禅の魅力再発信に関する企画・提案の作成
13．中間学習⑦　京友禅の魅力再発信に関する企画・提案の作成
14．中間学習⑧　京友禅の魅力再発信に関する企画・提案の作成
15．事後学習Ⅲ　いかにして京友禅をアピールするか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J80100102
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	近年、特に経済学や政策科学分野で注目される「幸福度指標」について学び、地域政策への活用を視野に、特に若年層を対象の中心としその指標作りと調査を実践する。		
教材（テキスト）	スティグリッツ，フィトシ，セン『暮らしの質を測る－経済成長率を超える幸福度指標の提案』金融財政事情研究会		
教材（参考文献）	・フライ＆スタッツァー『幸福の政治経済学』ダイヤモンド社 ・デレック・ボック『幸福の研究』東洋経済新報社 ・厚生労働省『平成２６年度厚生労働白書』 ・OECD『OECD 幸福度白書』明石書店 ・大竹・白石・筒井『日本人の幸福度　格差・労働・家族』日本評論社		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内課題 50％　　報告レポート 50％		
到達目標	（1）幸福度指標について理解・整理する。 （2）京都市の地域政策への活用を前提に、幸福度指標をデザインする。 （3）京都市をフィールドに幸福度調査を行う。		
準備学習	（1）テキストの指定箇所を精読し、理解しておくこと。 （2）毎回の配布資料を精読し、プロジェクト全体の中での位置づけを確認しておくこと。		

受講者への要望

（1）フィールド調査とその結果の活用を視野に、能動的に行動すること
（2）Excel の基本的な操作方法を確認しておくこと
（3）チームで取り組むプロジェクトであるため、休まずに自分の責任を果たすこと

講義の順序とポイント

【Ⅰ】幸福度指標と調査事例の研究
1．講義の目的と概要：幸福度指標とは何か、フィールド調査とは何か
2．幸福度指標の事例１：OECD 調査による国際比較
3．幸福度指標の事例２：内閣府による幸福度調査
4．幸福度指標の事例３：荒川区の幸福度調査
5．幸福度調査の事例４：京都府の幸福度調査

【Ⅱ】調査票と実施プランの作成
6．調査票作成１：健康・福祉領域、子育て・教育領域
7．調査票作成２：産業領域、文化領域
8．調査票作成３：環境領域、安心・安全領域
9．調査票作成４：その他の領域
１０．調査実施プラン：フィールド調査の実施プランと担当

【Ⅲ】調査票と実施プランの見直し
１１．外部意見聴取１
１２．外部意見聴取２
１３．調査票の見直し１
１４．調査票の見直し２
１５．調査実施プランの見直し

夏季休暇中のフィールド調査の実施

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	J80100103
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	(1)　1年以内に、ファイナンシャル・プランナー3級合格をめざす。 (2)　ケーススタディとして、自分の属する家庭の現状を題材として、将来設計を行う提案書を作成する。 (3)　フィールドワークは、金融資産形成の一環として証券会社のディーリングルームで何回かの研修を受ける。		
教材（テキスト）	授業のたびに資料配布 （よい教科書があれば指示する）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（毎回の確認テストを含む）100％		
到達目標	年度内にファイナンシャルプランナー3級合格		
準備学習	（1）毎回のシラバスに沿って講義するので、事前に教科書の該当する章を読んでおくこと。予習の範囲は、前の授業時に指示する。 （2）毎回の授業終了前に確認テストをする。授業終了後に、できなかったところを復習しておくこと。テストは次回の授業開始時に返還する。		

受講者への要望

金融の基礎知識は、将来に金融関係への就職を希望するしないにかかわらず各自のライフプランの将来設計をするという意味で重要である。がんばって授業についてきてほしい。

講義の順序とポイント

1．ファイナンシャル・プラニング入門1
2．ファイナンシャル・プラニング入門2
3．ファイナンシャル・プラニング入門3
4．金融資産運用設計1
5．金融資産運用設計2
6．金融資産運用設計3
7．金融資産運用設計4
8．証券会社ディーリングルーム研修1
9．証券会社ディーリングルーム研修2
10．リスクマネージメント1
11．リスクマネージメント2
12．リスクマネージメント3
13．リスクマネージメント4
14．パーソナルファイナンス1
15．パーソナルファイナンス2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★				★★	★★

年度	2015	授業コード	J80100104
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	（テーマ）「経済団体の情報を活用し、ユニークな地元企業を調査する」 京都には、京都の地場企業を束ねる「京都商工会議所」「京都経営者協会」「京都工業会」「京都中小企業家同友会」などの経済団体がある。こうした京都の各種経済団体の企業情報を収集し、地元のユニークな企業について実地調査することが、この実践プロジェクト（A・B）の目的である。 実践プロジェクトA（春学期）の課題は、まず調査チームをつくり、経済団体から得た紹介情報を参考にして、訪問先企業２～３社を決定することである。各調査チームは、訪問予定の企業情報を十分に分析し、調査項目を確定したのち、夏休み期間中を利用して、選定した企業を実際に訪問し、事前にまとめた調査項目についてリサーチする。その結果を「調査報告書」にまとめて秋学期にプレゼンテーションを行うものとする。		
教材（テキスト）	テキストは使用しないが、必要な資料は適宜配布する。		
教材（参考文献）	・日本経済新聞社（編集）『京都の躍進企業―「ベンチャーの都」の 103 社』（日本経済新聞社：2002 年） ・徳賀芳弘（監修）『京都企業の分析』（中央経済社：2011 年）		
教材（その他）	関係資料は適宜配布し、必要とされる情報はその都度提供する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等＋「活動計画書」・実地調査（３０％）＋個人評価（２０％）		
到達目標	グループワークでの協調性とコミュニケーション能力の向上、企業人と直接接触する体験を通じて社会的マナーを身につけること、また企業や仕事内容を実際に調査するなかで、近い将来の自分の就活に役立つ情報を得ることを目標とする。		
準備学習	調査チームができたら、「活動計画書」で決定されたチーム・メンバーとしての各自の役割を誠実に遂行すること。そのためには常にチーム内での連絡を密にし、次週までに実現しなければならない自分の課題を、自宅学習においてしっかりと果たして、授業に臨むことが必要とされる。		

受講者への要望

① 経済団体や企業の方と接触する機会が多いので、挨拶・言葉づかい・衣服・態度など、本学学生として求められる基本マナーに注意する。
② 調査グループ内での意思疎通をしっかり図り、キャップのリーダーシップのもとチームメンバー同士が積極的に協力すること。
③ 各調査グループは教員との連絡を密にするとともに、メンバー１人ひとりの身勝手な個人行動は厳に慎むこと。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション
２．京都の企業について（経済団体関係者）
３．調査チーム・ビルディング（メンバー、キャップの決定）
４．訪問先企業の選定（土曜日３コマ）
５．（同上）
６．（同上）
７．調査チームの「活動計画書」作成
８．経済団体との調整（確認連絡・訪問等）
９．（同上）
１０．訪問先企業の事前調査（土曜日３コマ）
１１．（同上）
１２．（同上）
１３．「実地調査計画書」（内容・項目）の作成
１４．訪問先企業との調整（確認連絡・事前訪問）
１５．（同上）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★		★		

年度	2015	授業コード	J80100105
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	本講義では、株式の模擬売買を通じて、株価変動の背景となっている社会・経済動向を学ぶ。春学期の実践プロジェクト A では、経済と株式投資の基本について学ぶ。また、証券の実務担当経験者を授業内講師として招き、投資の現実手法を学ぶ。		
教材（テキスト）	適宜、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	随時、指示する。		
教材（その他）	日本経済新聞記事など。		
評価方法	平常点(60%); 講義内での報告等による。 講義への参加熱意(40%)		
到達目標	本講義の目標は、日本証券業協会/東京証券取引所が主催する「株式学習ゲーム」用いて模擬売買を行うことで、株価変動の背景となっている社会・経済動向を理解することである。証券会社の協力によって、学生は証券会社に直接赴き、証券市場についての理解を一層深める。また、証券会社から投資に関するアドバイスを受けることで、より実践的な力へと発展させることを目標としている。		
準備学習	証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 自分の好きな企業の経営方針、事業内容および財務情報等を学期中に調査すること。 金融論、ファイナンスの数理を併せて受講することが望ましい。		

受講者への要望

金融や投資、資産管理に興味のある学生が望ましい。
授業中の私語厳禁・携帯電話利用禁止。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 経済の動きと株式 ①
3. 経済の動きと株式 ②
4. 証券市場の仕組み
5. 経済指標の捉え方
6. 財務諸表の見方
7. 証券投資の魅力とリスク
8. 株価の変動要因
9. 投資の基礎知識 ①
10. 投資の基礎知識 ②
11. 投資の基礎知識 ③
12. 株式投資の実際 ①（外部講師）
13. 株式投資の実際 ②（外部講師）
14. 株式学習ゲームの紹介とグループ分け
15. 資産運用について・まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J80100201
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	京都の伝統工芸品の中から西陣織を取り上げ、工房で製作を体験してもらいます。西陣織の商品価値が決まる過程を体験することによって経済に関する論理的思考力と行動力を養います。次いで今日の西陣織が直面している課題を整理することによって問題発見力を養います。最後に、西陣織の魅力を第三者に伝えるにはどのようにすればよいか考えることによってコミュニケーション能力を涵養します。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	日本の美研究会（2014）『美しい日本　四季の美景と和のこころ』ナツメ社。		
教材（その他）			
評価方法	学外で行う調査研究への参加（50%）、授業内レポート（50%）		
到達目標	本学が京都に立地している利点を活かして京都の伝統産業の価値を再認識する。		
準備学習	上記の教材（参考文献）を本学の図書館に備え付けてもらうので、前もってよんでおくこと。		

受講者への要望

大学の外で調査研究を行う際にはマナーやルールに気をつけ、社会的に成長していくことを望みます。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション（概要の説明）
2．オリエンテーション（マナー等を学ぶ）
3．事前学習①　西陣織とは何か
4．事前学習②　西陣織の歴史と現状
5．中間学習①　西陣織の見学
6．中間学習②　西陣織の制作体験
7．中間学習③　西陣織の制作体験
8．事後学習Ⅰ　西陣織の魅力の整理
9．中間学習④　西陣織に関する聞き取り調査・アンケート調査
10．中間学習⑤　西陣織に関する聞き取り調査・アンケート調査
11．事後学習Ⅱ　西陣織が直面している課題の整理
12．中間学習⑥　西陣織の魅力再発信に関する企画・提案の作成
13．中間学習⑦　西陣織の魅力再発信に関する企画・提案の作成
14．中間学習⑧　西陣織の魅力再発信に関する企画・提案の作成
15．事後学習Ⅲ　いかにして西陣織をアピールするか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J80100202
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	近年、特に経済学や政策科学分野で注目される「幸福度指標」について学び、若年者を調査対象の中心として地域政策への活用を視野に、その指標作りと調査を実践する。		
教材（テキスト）	スティグリッツ，フィトシ，セン『暮らしの質を測る－経済成長率を超える幸福度指標の提案』金融財政事情研究会		
教材（参考文献）	・フライ＆スタッツァー『幸福の政治経済学』ダイヤモンド社 ・デレック・ボック『幸福の研究』東洋経済新報社 ・厚生労働省『平成２６年度厚生労働白書』 ・OECD『OECD 幸福度白書』明石書店 ・大竹・白石・筒井『日本人の幸福度　格差・労働・家族』日本評論社		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内課題 50%　　報告レポート 50%		
到達目標	（1）フィールド調査結果の集計を分析を行う （2）調査結果をまとめた報告書を作成する （3）調査結果を発表する		
準備学習	（1）他の調査・分析の結果との比較を意識すること （2）調査結果の見せ方として、参考となるモデルを見つけておくこと		
受講者への要望			
（1）フィールド調査結果の実際の活用を視野に入れて能動的に取り組むこと （2）Excel や PowerPoint の基本的な操作方法を確認しておくこと （3）チームで取り組むプロジェクトであるため、休まずに自分の責任を果たすこと			
講義の順序とポイント			
【Ⅰ】調査結果の集計と分析 1．調査結果の集計表の作成と入力１ 2．調査結果の集計表の作成と入力２ 3．調査結果の集計表の作成と入力３ 4．回答者の属性別の分析１ 5．際当社の属性別の分析２ 【Ⅱ】調査結果のまとめ：何が分かったか 6．調査結果の報告書作成１ 7．調査結果の報告書作成２ 8．調査結果の報告書作成３ 9．調査結果の報告書作成４ １０．調査結果の報告書作成５ 【Ⅲ】調査結果の報告 １１．プレゼン資料の作成１ １２．プレゼン資料の作成２ １３．プレゼン資料の作成３ １４．外部向け報告会 １５．学内報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	J80100203
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	(1)　１年以内に、ファイナンシャル・プランナー３級合格をめざす。 (2)　ケーススタディとして、自分の属する家庭の現状を題材として、将来設計を行う提案書を作成する。 (3)　フィールドワークは､金融資産形成の一環として証券会社のディーリングルームで何回かの研修を受ける。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料配布 （よい教科書があれば指示する）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点３０％ 提案書７０％		
到達目標	年度末までにファイナンシャル・プランナー３級合格		
準備学習	シラバスに沿って講義するので、次回の予習をしておくこと。前の授業で予習範囲を示す。 毎回の授業終了前に確認テストをする。できなかった部分を復習しておくこと。テスト結果は次回の授業の始めに返還する。		
受講者への要望			
金融の基礎知識は、将来に金融関係に就職してもしなくても、各自のライフプランを将来設計する意味で重要である。がんばってついてきてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．パーソナルファイナンス３ ２．パーソナルファイナンス４ ３．相続・事業承継設計１ ４．相続・事業承継設計２ ５．証券会社ディーリングルーム研修３ ６．証券会社ディーリングルーム研修４ ７．不動産運用設計１ ８．不動産運用設計２ ９．タックスプラニング１ １０．タックスプラニング２ １１．提案書作成１ １２．提案書作成２ １３．提案書作成３ １４．提案書作成４ １５．提案書作成５			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J80100204
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	（テーマ）「経済団体の情報を活用し、ユニークな地元企業を調査する」 京都には、京都の地場企業を束ねる「京都商工会議所」「京都経営者協会」「京都工業会」「京都中小企業家同友会」など経済団体がある。こうした京都の各種経済団体の企業情報を収集し、地元京都のユニークな企業について実地調査することが、この実践プロジェクトの課題である。 実践プロジェクトA（春学期）では、各調査チームが選んだ企業の実地調査を行い、その成果を「調査報告書」としてまとめる準備が整えられた。実践プロジェクトB（秋学期）では、まず「調査報告書」のとりまとめを行うとともに、訪問した企業先から与えられた検討課題に取り組み、「提案書」を作成することを課題とする。「提案書」がまとまった段階で、課題を出された企業に対して各調査チームはプレゼンテーションを行うものとする。		
教材（テキスト）	テキストは使用しないが、必要な資料は適時配布する。		
教材（参考文献）	・日本経済新聞社（編集）『京都の躍進企業―「ベンチャーの都」の 103 社』（日本経済新聞社：2002 年） ・徳賀芳弘（監修）『京都企業の分析』（中央経済社：2011 年）		
教材（その他）	関係資料は適宜配布し、必要とされる情報はその都度提供する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等＋「実地調査報告書」・「提案書」（３０％）＋個人評価（２０％）		
到達目標	グループワークでの協調性とコミュニケーション能力の向上、企業人と直に接触する体験を通じて社会的マナーを身につけること、また企業や仕事内容を実際に調査するなかで、近い将来の自分の就活に役立つ情報を得ることを目標とする。		
準備学習	「活動計画書」で決められたチーム・メンバーとしての自分の役割を誠実に遂行すること。そのため常にチーム内の連絡を密にして、自主までに実現しなければならない自分の課題を、自宅学習においてしっかりと果たし、授業に臨むことが必要とされる。		

受講者への要望

① 経済団体や企業の方と接触する機会が多いので、挨拶・言葉づかい・衣服・態度など、本学学生として求められる基本マナーには十分注意すること。
② 調査グループ内での意思疎通をしっかり図り、キャップのリーダーシップのもとチームメンバーは相互に積極的に協力すること。
③ 各調査チームは教員との連絡を密にするとともに、メンバー１人ひとりの身勝手な個人行動は厳に慎むこと。

講義の順序とポイント

１．実地調査結果の確認（進捗状況、再調査）
２．（同上）
３．「実施調査報告書」の作成（土曜日３コマ）
４．（同上）
５．（同上）
６．中間報告会（経済団体、企業関係者来校）
７．「提案書」作成の検討会（土曜日３コマ）
８．（同上）
９．（同上）
１０．「提案書」の作成
１１．（同上）
１２．最終報告会（経済団体、企業関係者来校）
１３．（同上）
１４．最終評価（調査チーム別：面談、振り返り）
１５．（同上）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★		★		

年度	2015	授業コード	J80100205
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	本講義では、株式の模擬売買を通じて、株価変動の背景となっている社会・経済動向を学ぶ。 実践プロジェクト B では、春学期で学習した証券投資の知識を前提に、ゼミ学生を 3-4 人のチームに分割し、各チームで情報を収集しながら、模擬株式売買を行わせる。模擬売買には、日本証券業協会/東京証券取引所が主催する「株式学習ゲーム」を用いる。また、証券会社を訪れる機会を数回設けて、証券会社から投資に関するアドバイスを受け、自分たちの資産ポートフォリオを見直す。1 週間に 1 度、各グループは、投資状況をゼミで報告し、ディスカッションをする。		
教材（テキスト）	適宜、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	随時、指示する。		
教材（その他）	日本経済新聞記事など。		
評価方法	平常点(60%); 講義内での報告等による。 講義への参加熱意(40%)		
到達目標	日本証券業協会/東京証券取引所が主催する「株式学習ゲーム」用いて模擬売買を行うことで、株価変動の背景となっている社会・経済動向に学生の目を向けさせる。証券会社の協力によって、学生は証券会社に直接赴き、証券市場についての理解を一層深める。また、証券会社から投資に関するアドバイスを受けることで、より実践的な力へと発展させることを目標としている。		
準備学習	証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 自分の好きな企業の経営方針、事業内容および財務情報等を学期中に調査すること。 金融論、ファイナンスの数理を併せて受講することが望ましい。		
受講者への要望			
金融や投資、資産管理に興味のある学生が望ましい。 授業中の私語厳禁・携帯電話利用禁止。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンスおよび模擬売買の実行 2. 投資成果の報告とディスカッション 3. 以下 13 回まで投資成果の報告とディスカッション 14. 全員での結果評価（外部講師にも参加いただく） 15. 最終報告会			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★		★	★★	★

年度	2015	授業コード	J80110801
科目名	現代アジア事情 A	単位数	4
科目名（英語表記）	State and Economy in Asia A		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この科目は、アジアを中心とした海外で実施する授業科目です。「現代アジア事情 A」では、本学の提携大学である南通大学における中国語語学研修を通じて、中国の文化や歴史に触れることを目的とします。中国語入門レベルの文法、リスニング、語彙、スピーキングの基礎を習得することを目指します。研修後に予定されている中国の日系企業などで行われるインターンシップにおいて、日常会話や職場内での基本的なコミュニケーションがとれるようになることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	授業内で配布します。		
教材（参考文献）	授業で指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加・発表の状況、課題の提出状況、および研修終了後のレポートにより総合的に評価します。		
到達目標	中国語および中国語文化、社会,経済事情に対する初歩的な知識を身に着け、中国の現代社会において最低限必要なコミュニケーションをとるための語学力の基礎を習得します。		
準備学習	各講義の前に復習、予習時間の時間を設け、授業で学んだ単語とフレーズを必ず声に出して読んだ上、暗記するようにしてください。また、授業で行われる小テスト、口答試験、および定期レポートの準備をしてください。常に中国及び中国語に関する資料や情報に注目し、興味と関心を持つことを習慣化することが重要です。		

受講者への要望

1. 各授業の前に必ず予習、復習を行ってください。
2. 遅刻、欠席はしないようにしてください。
3. 本学を代表する学生として提携大学での語学研修に派遣されているという自覚を持ち、現地での授業に臨んでください。
4. 常に中国の文化、社会情勢、中国語という言語に興味と関心を持ち、資料や情報の収集に努めてください。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション、中国語による自己紹介、あいさつの方法
   授業内容の説明
2. 発音(1)　四声と母音
3. 発音(2)　母音の後半と子音
4. 発音(3)　鼻母音、名前の中国語読み・挨拶の言葉
5. 発音の復習、中国語文化(1)
6. 中国語文法：指示代名詞など
7. 中国語文法、発音の復習、中国経済事情（1）
8. 会話演習（1), 中国語文化(2), 太極拳（１）
9. 中国語文法：場所代名詞、副詞など、中国語文化（3）
10. 会話演習（2), 中国語文法：代名詞、副詞の復習、中国経済事情（2）
11. 中国語文法：　疑問詞、不定の表現、太極拳(2)
12. 会話演習（3), 中国語文法：　方位詞、数量詞と存在の表現、中国経済事情(3)
13. 中国語文法：比較、動詞の可能形、発音復習、太極拳(3)
14. 会話演習(4)
15. 会話演習(5), 中国語文化（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J80110901
科目名	現代アジア事情 B	単位数	4
科目名（英語表記）	State and Economy in Asia B		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この科目は、本学がアジアを中心とした海外で実施する授業科目です。「現代アジア事情 A」に引き続き、さらなる語学の修得を目指しつつ、中国の文化や歴史、現在の社会、経済事情、法律などを把握することを目的とします。研修後に予定されている、中国の日系企業などで行われるインターンシップにおいて、中国における文化や習慣、マナー、経済事情や社会について理解し、企業実習を行うにあたって、スムーズにコミュニケーションがとれる力をつけることを目標とします。		
教材（テキスト）	授業内で配布します。		
教材（参考文献）	授業で指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加・発表の状況、課題の提出状況、および研修終了後のレポートにより総合的に評価します。		
到達目標	中国文化と経済、社会、法律の事情に対する理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身に着け、中国の現代社会に必要なコミュニケーションをとるための語学力の基礎を習得します。		
準備学習	毎回の授業前に必ず復習・予習の時間を設け、授業で学んだ単語とフレーズは必ず声に出して練習した上、暗記するようにしてください。授業で行われる小テスト、口答試験、および定期レポートの準備をしてください。常に中国及び中国語に関する資料や情報に注目し、興味と関心を持つことを習慣化することが重要です。		

受講者への要望

1. 各授業の前に必ず予習、復習を行ってください。
2. 遅刻、欠席はしないようにしてください。
3. 本学を代表する学生として提携大学での語学研修に派遣されているという自覚を持ち、現地での授業に臨んでください。
4. 常に中国の文化、社会情勢、中国語という言語に興味と関心を持ち、資料や情報の収集に努めてください。

講義の順序とポイント

1.　オリエンテーション、授業に関する説明、中国語文化(1)
2.　読解(1)，中国語文化（2）
3.　会話演習(1)、中国ｊ経済事情（1）
4. .会話演習と作文（1)、中国語文化（3）
5.　読解(2)，太極拳(1)
6.　会話演習(2)、中国経済事情(2)
7.　会話演習と作文（2）
8.　読解(3)，太極拳（2）
9. 会話演習(3)，中国経済事情（3）
10. 会話演習と作文（3）
11. 読解(4)、中国語文化（4）
12. 会話演習(4)，太極拳（3）
13. 会話演習と作文（4）
14. 会話と作文の復習、中国経済事情(4)
15. 中国文化(5)，会話演習復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J80111001
科目名	現代アジア事情C	単位数	2
科目名（英語表記）	State and Economy in Asia C		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この科目は、本学がアジアを中心とした海外で実施する授業科目です。「現代アジア事情 A」、「現代アジア事情 B」に引き続き、「現代アジア事情 C」では、中国語という言語の学習を通じて、中国の文化や歴史、現在の中国の社会、歴史、経済事情、中国の法律などを理解することを目的とします。中国語の初級レベルの文法、リスニング、スピーキングの訓練をさらに強化します。研修後予定されている中国の日系企業などでのインターンシップにおいて、基本的なコミュニケーションができる程度の中国語の基礎力、ビジネスマナーをを身につけることを狙いとします。		
教材（テキスト）	授業内で配布します。		
教材（参考文献）	授業で指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加・発表の状況、課題の提出状況、および研修終了後のレポートにより総合的に評価します。		
到達目標	中国文化と経済事情に対する理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身に着け、中国の現代社会に必要なコミュニケ―ションをとるための語学力の基礎を習得します。また、研修終了後に予定されている企業でのインターンシップに必要なマナー、中国の経済事情、社会についての基礎知識を身につけます。		
準備学習	毎回の授業前に必ず復習・予習の時間を設け、授業で学んだ単語とフレ－ズは必ず声に出して練習した上、暗記するようにしてください。授業で行われる小テスト、口答試験、および定期レポートの準備をしてください。常に中国及び中国語に関する資料や情報に注目し、興味と関心を持つことを習慣化することが重要です。		

受講者への要望

1. 各授業の前に必ず予習、復習を行ってください。
2. 遅刻、欠席はしないようにしてください。
3. 本学を代表する学生として提携大学での語学研修に派遣されているという自覚を持ち、現地での授業に臨んでください。
4. 常に中国の文化、社会情勢、中国語という言語に興味と関心を持ち、資料や情報の収集に努めてください。

講義の順序とポイント

1. 授業に関する説明
2. 中国語文法(1)，中国の文化と社会'(1)
3. 会話演習(1)，中国経済事情(1)
4. 会話演習と作文（2)，太極拳（1）
5. 中国語文法（2)，　中国の文化と社会(2)
6. 会話演習(2)，中国経済事情（2）
7. 会話演習と作文（1)、太極拳（2）
8. 中国語文法（3)，中国の文化と社会(3)
9. 会話演習(3)、中国経済事情（3）
10. 会話演習と作文（3)、太極拳（3）
11. 中国語文法（4)，中国の文化と社会(4)
12. 会話演習(4)、中国経済事情（4）
13. 会話演習と作文（4)、太極拳（4）
14. 会話と作文の復習、中国の文化と社会(5)
15. 会話演習復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J80111101
科目名	海外企業実務Ａ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad A		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、期間最初の１ヶ月目に履修する科目です。1 ヶ月目は、実務経験を通じて感じた職業社会と大学生活の違い（ギャップ）について考え、整理していくことを目標とする。また、海外で仕事をするにあたって、必要とされる文化や習慣を考え、整理していくことを目標とする。海外企業実務の当初設定した目標を再度確認し、残りの実習にあたっての課題を明確にする。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考文献）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教材（その他）	業務の中で予想外の教材が用いられるかもしれないが、そこでの驚きが大切である		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価される。		
到達目標	実社会を経験する中で、各専門分野における理論と現実のギャップを体験し、知的好奇心を深めることが目標です。		
準備学習	学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講者への要望			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。誠実な参加を求めます。			
講義の順序とポイント			
受け入れ先企業で与えられる課題に取り組みます。日報や週報も企業の方針に従いますが、プログラムについての最終的なレポートは作成します。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J80111201
科目名	海外企業実務Ｂ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad B		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、2 ヶ月目に履修する科目です。2 ヶ月目は、実務経験における自分の業務が職場の中でどう役立っているのか、また、仕事全体を俯瞰し、仕事全体から見た自分の業務の位置づけ・重要性について考え、整理していくことを目標とする。加えて、海外で仕事をするにあたって、必要とされる知識や能力を考え、整理していくことを目標とする。また、2 か月の実習を振り返り、残りの実習にあたっての課題を明確にする。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考文献）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教材（その他）	業務の中で予想外の教材が用いられるかもしれないが、そこでの驚きが大切である		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価される。		
到達目標	実社会を経験する中で、各専門分野における理論と現実のギャップを体験し、知的好奇心を深めることが目標です。		
準備学習	本科目は海外企業実務Ａを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講者への要望			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。誠実な参加を求めます。			
講義の順序とポイント			
受け入れ先企業で与えられる課題に取り組みます。日報や週報も企業の方針に従いますが、プログラムについての最終的なレポートは作成します。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J80111301
科目名	海外企業実務Ｃ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad C		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、3 ヶ月目に履修する科目です。3 ヶ月目は、海外での実務経験の中で気になった出来事や職務内容が、大学での学問領域では、どのような現象として解説されているのかを考え、整理していくことを目標とする。また、海外での実務経験を通じた変化を確認し、今後の大学生活でできること、改めて学びたいと思うことを考え、整理する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考文献）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教材（その他）	業務の中で予想外の教材が用いられるかもしれないが、そこでの驚きが大切である		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価される。		
到達目標	実社会を経験する中で、各専門分野における理論と現実のギャップを体験し、知的好奇心を深めることが目標です。		
準備学習	本科目は海外企業実務Ｂを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講者への要望			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。誠実な参加を求めます。			
講義の順序とポイント			
受け入れ先企業で与えられる課題に取り組みます。日報や週報も企業の方針に従いますが、プログラムについての最終的なレポートは作成します。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J80111401
科目名	海外企業実務Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship Abroad D		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として履修する。3 ヶ月目の実習期間が 2 週間の場合に履修する科目です。海外での実務経験の中で気になった出来事や職務内容が、大学での学問領域では、どのような現象として解説されているのかを考え、整理していくことを目標とする。また、海外での実務経験を通じた変化を確認し、今後の大学生活でできること、改めて学びたいと思うことを考え、整理する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考文献）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教材（その他）	業務の中で予想外の教材が用いられるかもしれないが、そこでの驚きが大切である		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価される。		
到達目標	実社会を経験する中で、各専門分野における理論と現実のギャップを体験し、知的好奇心を深めることが目標です。		
準備学習	本科目は海外企業実務Ｂを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講者への要望			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。誠実な参加を求めます。			
講義の順序とポイント			
受け入れ先企業で与えられる課題に取り組みます。日報や週報も企業の方針に従いますが、プログラムについての最終的なレポートは作成します。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J80112101
科目名	警察・消防特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Police Officer and Fir e Fighter Examinations		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	警察官、消防官の仕事はどのようなものか、警察官、消防官になるためにはどのような準備が必要かを明らかにし、警察官、消防官になるための準備を助けることを内容とする。 警察官、消防官採用試験の教養試験は一般知識と一般知能からなる。本講義では一般知能のうち判断推理と数的推理の実力を向上させることを目標とする。この分野を苦手とする人が多いようであるが、一度要領をつかむと、確実に得点がとれるようになるので、努力のしがいがあると思われる。講義は、問題のパターンごとに解き方を示して、いくつかの例題を解いてみるという形で進行する予定である。 なお、刑務官採用試験などもほぼ同様の出題傾向であるから、これらを志望する人にとっても役立つだろう。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	講義内で紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	授業内テスト 70%、期末テスト 30%		
到達目標	警察や消防の仕事に理解を深めるとともに、採用試験に臨む心構えをつくり、学生の採用試験の筆記試験(択一式)の準備を促すことを目標とする。		
準備学習	講義時に配付した、練習問題を次回までに復習として取り組み、次回講義開始時に、その解答を提出させる。また、５回の小テスト、中間テスト、後半テストとして単元の区切りごとに授業内テストを課すので、練習問題を使って復習をしっかりやっておくこと。		
受講者への要望			
本講義は３回生以下の学生のバックアップを目的としている。就職活動で出席できそうにない４回生の登録は、歓迎しない。			
講義の順序とポイント			
1　論理的問題 2　集合・うそつき問題 3　暗号解読 4　対応表を使いこなす 5　位置・順序を決める 6　図形を読み取る 7　整数の性質 8　さまざまな文章問題 9　文章題に強くなる　その１ １０　文章題に強くなる　その２ １１　順列・組合せ １２　確率 １３　平面図形に慣れる １４　立体図形に慣れる １５　警察官・消防官の仕事			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			★

年度	2015	授業コード	J81000102
科目名	マクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	経済学 B
講義概要	現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学部生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる範囲は，経済成長、失業、インフレ・デフレなどマクロ経済学の基本である。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	教員が作成した講義ノート		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	（1）国民経済計算の仕組みと財政政策について、マクロ経済学の基礎となる理論を理解する。 （2）報道等で扱われる経済ニュースを理解するための基礎知識を習得する。		
準備学習	基本事項の予習と、授業内容の復習を行う。その実施は口頭による質疑応答によって確認される。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済の考え方 第 2 回 経済主体と経済行為 第 3 回 国内総生産 第 4 回 国内総生産と物価 第 5 回 物価の計算方法 第 6 回 経済成長率の計算 第 7 回 支出面と分配面の国内総生産 第 8 回 中間試験と振り返り学習 第 9 回 マクロ経済の需要と供給 第 10 回 経済成長と寄与度 第 11 回 マクロ経済学で用いる数学 第 12 回 需要の波及と乗数プロセス 第 13 回 消費関数 第 14 回 マクロ経済の均衡 第 15 回 45 度線モデルで見る財政政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★★

年度	2015	授業コード	J81000103
科目名	マクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	経済学 B
講義概要	現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学部生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる範囲は，経済成長、失業、インフレ・デフレなどマクロ経済学の基本である。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	教員が作成した講義ノート		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	（1）国民経済計算の仕組みと財政政策について、マクロ経済学の基礎となる理論を理解する。 （2）報道等で扱われる経済ニュースを理解するための基礎知識を習得する。		
準備学習	基本事項の予習と、授業内容の復習を行う。その実施は口頭による質疑応答によって確認される。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済の考え方 第 2 回 経済主体と経済行為 第 3 回 国内総生産 第 4 回 国内総生産と物価 第 5 回 物価の計算方法 第 6 回 経済成長率の計算 第 7 回 支出面と分配面の国内総生産 第 8 回 中間試験と振り返り学習 第 9 回 マクロ経済の需要と供給 第 10 回 経済成長と寄与度 第 11 回 マクロ経済学で用いる数学 第 12 回 需要の波及と乗数プロセス 第 13 回 消費関数 第 14 回 マクロ経済の均衡 第 15 回 45 度線モデルで見る財政政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★★

年度	2015	授業コード	J81000202
科目名	ミクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	経済学 A
講義概要	本講義では、経済学の最も基本となる「需要・供給分析」を学ぶ。 この講義を通じて身につく知識は以下のことである。 （1）需要曲線と供給曲線の意味 （2）均衡価格の意味 （3）余剰の意味		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	プリント、動画教材等		
教材（その他）	新聞記事などを適宜紹介する。		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	経済的な取引を需要曲線と供給曲線によって上手く表せることを理解する。 需要曲線と供給曲線を描いて余剰分析ができるようになる。		
準備学習	次に学習する内容の中で用いられる概念の予習をする。その実施は授業中の口頭による質疑応答で確認される。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．需要と供給　需要曲線と供給曲線 3．価格の決定　供給量の変化と均衡価格 4．需要と供給の応用　需要曲線のシフト 5．需要曲線と消費者行動　需要曲線の形と支出額 6．需要曲線と消費者余剰　消費を通して得られる利益 7．消費者行動のまとめと中間試験 8．費用の構造①　費用の分類 9．費用の構造②　各種費用曲線 １０．利潤最大化　供給曲線と費用 １１．生産者余剰　収入と費用 １２．完全競争市場　価格調整と均衡 １３．余剰分析　市場取引と資源配分 １４．市場競争と経済発展　競争のメリット １５．重要事項の確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★★

年度	2015	授業コード	J81000203
科目名	ミクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	経済学 A
講義概要	本講義では、経済学の最も基本となる「需要・供給分析」を学ぶ。 この講義を通じて身につく知識は以下のことである。 （1）需要曲線と供給曲線の意味 （2）均衡価格の意味 （3）余剰の意味		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	プリント、動画教材等		
教材（その他）	新聞記事などを適宜紹介する。		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	経済的な取引を需要曲線と供給曲線によって上手く表せることを理解する。 需要曲線と供給曲線を描いて余剰分析ができるようになる。		
準備学習	次に学習する内容の中で用いられる概念の予習をする。その実施は授業中の口頭による質疑応答で確認される。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．需要と供給　需要曲線と供給曲線 3．価格の決定　供給量の変化と均衡価格 4．需要と供給の応用　需要曲線のシフト 5．需要曲線と消費者行動　需要曲線の形と支出額 6．需要曲線と消費者余剰　消費を通して得られる利益 7．消費者行動のまとめと中間試験 8．費用の構造①　費用の分類 9．費用の構造②　各種費用曲線 １０．利潤最大化　供給曲線と費用 １１．生産者余剰　収入と費用 １２．完全競争市場　価格調整と均衡 １３．余剰分析　市場取引と資源配分 １４．市場競争と経済発展　競争のメリット １５．重要事項の確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★★

年度	2015	授業コード	J81000301
科目名	国際経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつかを学習するのが国際経済学です．国際経済入門では，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，基礎的な貿易モデル，例えば，部分均衡分析や２財の貿易モデルを用いて貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明します．加えて，近年，TPP の参加を通じて参加国内で関税を撤廃することが議論されていますが，関税が賦課されていると，１国の国益がどのように損なわれるかも説明します．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の初歩的な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，貿易政策の貿易効果に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	ミクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましいので，できればミクロ経済学を受講した上でのぞんでください．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに提出するようにして下さい．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とします．遅刻の場合，その理由を求めます．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求めます．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰 3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰 4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡 5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1) 6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2) 7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1) 8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2) 9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡 10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1) 11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2) 12. 貿易政策の理論：関税の効果(1) 13. 貿易政策の理論：関税の効果(2) 14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果 15. 貿易政策の理論：消費税の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J81000401
科目名	経済政策入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面しています．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きいといえます．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類することができます．こうした個別具体的な政策を 理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論を理解する必要があります． 本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げます．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	経済政策論の基礎理論の理解を目標とする．		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1. 日本経済の現況と政策課題（1） 2. 日本経済の現況と政策課題（2） 3. 経済政策論の誕生と学問的性格 4. 市場社会の変容（1） 5. 市場社会の変容（2） 6. 多元社会化と国家の変質（1） 7. 多元社会化と国家の変質（2） 8. 政策形成過程 9. 利益団体の役割とその諸問題 10. 政策目的の階層構造 11. 政策手段とその分類 12. 市場メカニズムの諸問題 13. 政治的調整メカニズムの諸問題 14. 団体交渉メカニズムの諸問題 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J81000402
科目名	経済政策入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面しています．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きいといえます．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類することができます．こうした個別具体的な政策を 理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論を理解する必要があります． 本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げます．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	経済政策論の基礎理論の理解を目標とする．		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1. 日本経済の現況と政策課題（1） 2. 日本経済の現況と政策課題（2） 3. 経済政策論の誕生と学問的性格 4. 市場社会の変容（1） 5. 市場社会の変容（2） 6. 多元社会化と国家の変質（1） 7. 多元社会化と国家の変質（2） 8. 政策形成過程 9. 利益団体の役割とその諸問題 10. 政策目的の階層構造 11. 政策手段とその分類 12. 市場メカニズムの諸問題 13. 政治的調整メカニズムの諸問題 14. 団体交渉メカニズムの諸問題 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J81000501
科目名	財政入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	景気の低迷、所得格差、少子高齢化など、今日の我が国はさまざまな問題を抱えている。そして、こうした問題を解決していくために、改めて政府の役割やあるべき姿を見直す必要がある。本講義では政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深めることを目的とする。講義の前半では、主にマクロ経済学の視点から講義を進め、後半では主にミクロ経済学の視点から講義を進める。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	「コンパクト財政学　第 2 版」　上村 敏之　新世社		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	授業態度 10%、小テスト 20%、期末試験 70%		
到達目標	政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深める。		
準備学習	・経済学に関する基礎科目を並行して受講することが望ましい。 ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
・積極的な質問を歓迎します。 ・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。			
講義の順序とポイント			
1.はじめに 2.財政の 3 機能 3.経済安定化機能(1):経済安定化の必要性 4.経済安定化機能(2):需要と景気 5.経済安定化機能(3):政府の景気対策① 6.経済安定化機能(4):政府の景気対策② 7.所得再分配(1):再分配の必要性 8.小テスト及び所得再分配(2):再分配の方法 9.所得再分配(3):ジニ係数と所得格差 10.資源の効率的配分(1):需要と供給 11.資源の効率的配分(2):市場メカニズム 12.資源の効率的配分(3):市場の失敗 13.租税(1):租税三原則 14.租税(2):所得税と消費税① 15.租税(3):所得税と消費税②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★

年度	2015	授業コード	J81000502
科目名	財政入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	景気の低迷、所得格差、少子高齢化など、今日の我が国はさまざまな問題を抱えている。そして、こうした問題を解決していくために、改めて政府の役割やあるべき姿を見直す必要がある。本講義では政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深めることを目的とする。講義の前半では、主にマクロ経済学の視点から講義を進め、後半では主にミクロ経済学の視点から講義を進める。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	「コンパクト財政学　第 2 版」　上村 敏之　新世社		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	授業態度 10%、小テスト 20%、期末試験 70%		
到達目標	政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深める。		
準備学習	・経済学に関する基礎科目を並行して受講することが望ましい。 ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
・積極的な質問を歓迎します。 ・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。			
講義の順序とポイント			
1.はじめに 2.財政の 3 機能 3.経済安定化機能(1):経済安定化の必要性 4.経済安定化機能(2):需要と景気 5.経済安定化機能(3):政府の景気対策① 6.経済安定化機能(4):政府の景気対策② 7.所得再分配(1):再分配の必要性 8.小テスト及び所得再分配(2):再分配の方法 9.所得再分配(3):ジニ係数と所得格差 10.資源の効率的配分(1):需要と供給 11.資源の効率的配分(2):市場メカニズム 12.資源の効率的配分(3):市場の失敗 13.租税(1):租税三原則 14.租税(2):所得税と消費税① 15.租税(3):所得税と消費税②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★

年度	2015	授業コード	J81000601
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	この講義は NPO 法人「エイプロシス」の協力で実施されます。毎回、現場で証券取引に実体験してこられた、実務経験者による講義となります。レジメは毎回用意され、それに沿って講義が展開されます。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説していただきます。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義されます。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。		
教材（テキスト）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	期末試験 60%、平常点：出席,小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得し、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。		
準備学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		
受講者への要望			
毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。			
講義の順序とポイント			
1．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて 2．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み 3．　マネープランの必要性と金融商品 4．　債券の基礎知識 5．　債券投資の実際 6.　株式投資の魅力とリスク 7.　株価の変動要因 8.　決算書の見方 9.　主な投資指標の見方 10.　株式投資の判断 11.　投資信託をの基礎知識 12.　投資信託を選ぶポイント 13.　資産運用の概要 14.　資産運用はどうあるべきか 15．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J81000602
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	この講義は NPO 法人「エイプロシス」の協力で実施されます。毎回、現場で証券取引に実体験してこられた、実務経験者による講義となります。レジメは毎回用意され、それに沿って講義が展開されます。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説していただきます。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義されます。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。		
教材（テキスト）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	期末試験 60%、平常点：出席,小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得し、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。		
準備学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		
受講者への要望			
毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。			
講義の順序とポイント			
1．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて 2．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み 3．　マネープランの必要性と金融商品 4．　債券の基礎知識 5．　債券投資の実際 6.　株式投資の魅力とリスク 7.　株価の変動要因 8.　決算書の見方 9.　主な投資指標の見方 10.　株式投資の判断 11.　投資信託をの基礎知識 12.　投資信託を選ぶポイント 13.　資産運用の概要 14.　資産運用はどうあるべきか 15．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J81001101
科目名	経済史入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	農耕の始まりから産業革命に至るまでの経済の歴史を通観します。まず、西アジアで始まったムギの栽培や牧畜がヨーロッパに伝わり発達していった過程を跡付けます。併せてヨーロッパの粗放的な休閑農業と日本の労働集約的な中耕農業を比較します。 　次いで大航海時代の到来に伴うヨーロッパ諸国の海外進出が産業革命へと連なっていく過程を追います。新世界（アメリカ大陸）と旧世界（ヨーロッパ）の出会いから生じた様々な変化について考えます。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	鵜飼保雄・大澤良（2010 年）『品種改良の世界史　作物編』悠書館。		
教材（その他）			
評価方法	レポート（30%）、授業内発表（5%）、定期試験（65%）		
到達目標	経済史の大きな流れを理解する。		
準備学習	上記の教材（参考文献）が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

歴史を学ぶことに興味をもってほしい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　人類、初めてパンを焼く（農耕の起源）
3　人類、初めてチーズを作る（牧畜の起源）
4　ムギとイネ（西洋の粗放農業と東洋の集約農業）
5　二圃式農法
6　三圃式農法
7　農業革命
8　食の東西比較
9　宗教と経済
１０　キリスト教世界の膨張（レコンキスタ）
１１　コロンブスとはどのような人だったのか（大航海時代の幕明け）
12　アメリカ大陸から来た栽培植物①タバコ・トマト
13　アメリカ大陸から来た栽培植物②トウモロコシ・ジャガイモ
14　砂糖と綿の世界史
15　産業革命（工業化）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★★

年度	2015	授業コード	J81001201
科目名	社会政策入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本科目では、まず雇用・労働、福祉・介護、年金といった分野において政府が対応を求められてきた代表的な「社会問題」を取り上げ、それらを引き起こしている要因について考える。その上で、それらの問題を解決するために実際にどのような手段が講じられているか、またその際にどのような課題に直面しているかについて説明する。 こうして、政府による社会問題解決に向けた政策、すなわち社会政策の実例を考察することを通じて、社会政策の意義と必要性、および今日的課題についての理解を促す。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	『社会保障入門』（中央法規）　社会保障入門編集委員会（編）		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、　学期末試験（55%）		
到達目標	社会政策の概要とそれに関する今日の社会問題について理解すること。		
準備学習	・日ごろから社会保障関係のみならず、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。

講義の順序とポイント

1．授業の進め方と概要：社会政策とは
2．少子化と人口減少：少子社会の現状と課題
3．高齢化の進行：高齢社会の現状と将来
4．労働と雇用①：労働時間をめぐる課題
5．労働と雇用②：若年者の雇用問題
6．貧困と格差①：生活保護制度
7．貧困と格差②：格差社会の現状
8．高齢者介護問題①：介護をめぐる状況
9．高齢者介護問題②：介護保険制度
10．医療問題①：国民皆保険制度
11．医療問題②：医療保障の危機
12．年金問題①：国民皆年金制度
13．年金問題②：年金の危機
14．社会保障の給付と負担：社会保障給付費の増加
15．少子高齢社会：政策的対応のあり方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J81001301
科目名	白書で学ぶ現代日本	単位数	2
科目名（英語表記）	Lectures on Contemporary Japan in White Paper		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	（１）　本講義は政府機関が発表している様々な白書および報告書を、実際にその作成に携わった政府関係者より説明して頂き、現代の日本社会の様々な側面を系統立てて理解することを目的とする。経済問題だけでなく、新聞やＴＶ等で取り上げられる様々な現代日本の社会問題の本質を理解したいと考える者にとって、必ず有益な内容となるであろう。 （２）　毎年、政府が発表する膨大な報告書類の中でも「白書」は、より正式な政府の見解として各方面から注目されている。この白書には、①法律に基いて国会に提出される白書、②閣議に報告または配布される白書、③その他の白書、の３つのタイプがある。いずれも政府の見解には違いないが、閣議了解を必要とする白書は内閣の統一見解としての性格を有するため、原案作成を担当する各省庁は他の関係省庁との協議を必要とする。本講義では、各省庁間の現場で展開される協議・調整についても一定の解説が期待できる。 （３）　白書の基本的な構成は、①現状分析、②これまでの政策の効果と今後の政策課題、③特集、というケースが多い。特に、③特集では、その時々に社会的関心の高いテーマに焦点が当てられ、そのテーマへの系統だった理解には有益な内容となっている。		
教材（テキスト）	毎回の講義で解説資料等を配布する。		
教材（参考文献）	（１）白書の要約版等を予習資料として京学なび上で配布する。 （２）各省庁発表の白書の本文は、省庁ＨＰ上で閲覧・ダウンロード可能であり、是非とも活用されたい。		
教材（その他）	適宜、指定・紹介する。		
評価方法	①毎回の受講レポート 70% ②レポートおよび授業内発表 30%		
到達目標	①　現在日本の社会経済問題の構造およびそれへの政策対応に関する基本的な考え方や分析手法を学び、時事問題への確実な理解を深める。 ②　学生各自の専門分野と直接・間接に関連する政策課題について理解を深め、卒業研究に役立てる。 ③　聞き取り力、質問力、表現力など、就職活動の実践で役立つスキルの向上を目指す。		
準備学習	①　講義で取り上げる白書の概要をまとめた資料を京学なび上に用意するので、それらに目を通しておく。 ②　省庁ＨＰ上にある白書関連サイトを閲覧し、自分の関心の焦点を明確にしておく。		

受講者への要望

１．就職活動に向けた準備の一環と位置付けて取り組むこと。
２．卒業論文のテーマ選択を意識して受講すること。
３．私語や途中退席など、問題のある受講態度には厳しく対応する。

講義の順序とポイント

１．講義の順序
第１回：講義の概要の説明、および「白書」とは何か
第２回－第７回（前半）：毎回１つの白書を取り上げていく。
第８回：前半の白書の要点整理とその確認
第９回－第１４回（後半）：毎回１つの白書を取り上げていく。
第１５回：後半の白書の要点整理とその確認

２．昨年 2014 年度の本講義で取り上げた白書は以下の通りである。
① 経済財政白書（内閣府）　② 労働経済白書（厚生労働省）　③ 環境白書（環境省）　④ 厚生労働白書（厚生労働省）　⑤ 国土交通白書（国土交通省）　⑥ 食料・農業・農村白書（農林水産省）　⑦ 防衛白書（防衛省）　⑧ 外交青書（外務省）　⑨ 観光白書（観光庁）　⑩ 犯罪白書（法務省）　⑪ 少子化社会対策白書（内閣府）　⑫ 情報通信白書（総務省）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J82010101
科目名	経済思想史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	経済学は、封建制の解体のなかから生まれてきた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するための学問である。封建制がいち早く解体したイギリスでは、早くも１６世紀の絶対王政の時代に近代社会を経済学的に把握しようとする試みが、主として当時の商人や政策担当者によって開始された。こうした「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776 年）によってその原型が完成され、その後今日に至まで２００年以上の歴史をへて発展してきた。 経済思想史では、近代国家の成立とともに始まる経済思想の歴史を、第１部「資本主義成立期の経済思想」（重商主義と重農主義）と第２部「古典派経済学の成立と解体」（スミスからＪ・Ｓ・ミルまで）にわけて概説する。		
教材（テキスト）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）		
教材（参考文献）	日本経済新聞社編『経済学をつくった巨人たち―先駆者の理論・時代・思想』（日経ビジネス人文庫）、同『経済学の巨人― 危機と闘う』（同上）		
教材（その他）	毎回の講義資料を、講義当日にプリントにて配布するとともに、「京学なび」→「授業資料」として事前にアップする。		
評価方法	平常点（１５％）出席状況など＋確認テスト１３回（３５％）＋レポート試験（５０％）		
到達目標	現代経済学の理解に決定的な意味を持つイギリス古典派経済学の成立・発展・解体の学説史的流れを探求する。これによって、現代経済学が抱えている問題をより一層深く理解するとともに、今日の経済問題について新たな知見を得ることを目標とする。		
準備学習	「講義の順序」に即して、あらかじめ指定された教科書の当該章をしっかり予習してから授業に出席すること。		

受講者への要望

授業で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問すること。また、教員から受講生に授業内容に関連して質問するので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの問いかけに対する積極的な発言については、いずれも平常点の加点対象とする。

講義の順序とポイント

１．経済思想史の課題
２．重商主義思想の定義
３．重商主義の経済政策論
４．重商主義の経済学説
５．重農主義成立の歴史的背景
６．ケネー『経済表』の分析(1)
７．ケネー『経済表』の分析(2)
８．アダム・スミスの生涯と著作
９．『国富論』の経済思想(1)
１０．『国富論』の経済思想(2)
１１．『国富論』の経済思想(3)
１２．マルサス人口論の経済思想
１３．リカードウの経済学(1)
１４．リカードウの経済学(2)
１５．Ｊ・Ｓ・ミルの思想と現代

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	J82010201
科目名	経済史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	コーヒーと絹（生糸）の２つの物産を通して経済の歴史について考えます。現在の日本では大手コーヒー・チェーン店が各地にあるため、コーヒーは欧米のものだと思い込んでいる人がいるようです。しかし、コーヒーを世界で最初に飲んだのはイスラーム世界の人びとでした。その後、ヨーロッパ諸国が植民地でコーヒーを生産するようになり、ジャワやサントスといったブランドが誕生した過程をたどります。 　絹（シルク）を世界で最初に利用したのは中国ですが、絹織物の原料になる生糸を器械的に生産する技術はヨーロッパで確立されました。日本は器械製糸の技術を富岡製糸場などを通じて知り、世界最大の生糸輸出国へと成長したのですが、その過程で様々な困難を解決しなければなりませんでした。生糸の輸出をめぐって日本がイタリアや中国を相手に展開した国際競争について考えます。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	玉川寛治（2002 年）『製糸工女と富国強兵の時代』新日本出版社。		
教材（その他）			
評価方法	レポート（30%）、授業内発表（5%）、定期試験（65%）		
到達目標	歴史を学ぶ中で経済学の基本的な考え方を身につける。		
準備学習	上記の教材（参考文献）が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
歴史を学ぶことに興味をもってほしい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　コーヒーに関する予備知識 3　イスラーム世界におけるコーヒーの発見と普及 4　ヨーロッパ諸国へのコーヒーの伝播 5　ヨーロッパ諸国の植民地におけるコーヒーの生産 6　ブラジルにおけるコーヒー産業の発展① 7　ブラジルにおけるコーヒー産業の発展② 8　絹に関する予備知識（養蚕・製糸・絹織） 9　ヨーロッパ絹産業の特徴とアメリカ絹工業の台頭 10　日本の開国と生糸輸出の始まり １１　製糸結社によるシグナリングと逆選択の解消 12　製糸結社による綛の標準化とアメリカ的生産方式 13　風土と蚕品種（ヨーロッパ・日本・中国の比較） 14　富岡製糸場の意義と限界（信州上一番格生糸の長所と短所） 15　欧米の生糸市場における国際競争の帰趨			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★★

年度	2015	授業コード	J82010401
科目名	国際経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果を持つのかを学習するのが国際経済学です．まず，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，国際経済入門で講義した初歩的な貿易モデルを念頭に置きながら，応用的な貿易モデルを用いて貿易のパターンや貿易の利益を説明します．また，別のグローバル化の要因であるヒトやカネの国際移動が経済に与える影響についても説明します．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の主要な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，生産要素移動の経済に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	ミクロ経済学と国際経済入門の授業を履修しておくことが望ましいので，できればそれらの科目を受講した上でのぞんでください．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに提出するようにして下さい．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とします．遅刻の場合，その理由を求めます．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求めます．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. リカード・モデル：絶対優位と比較優位 3. リカード・モデル：生産可能性フロンティア 4. リカード・モデル：相対価格と貿易パターン 5. リカード・モデル：世界市場での相対価格の決定 6. リカード・モデル：自由貿易均衡と貿易利益 7. ヘクシャー=オリーン・モデル：リカード・モデルとヘクシャー=オリーン・モデル 8. ヘクシャー=オリーン・モデル：固定係数モデル 9. ヘクシャー=オリーン・モデル：リプチンスキー定理 10. ヘクシャー=オリーン・モデル：ヘクシャー=オリーン定理 11. ヘクシャー=オリーン・モデル：ストルパー=サミュエルソン定理 12. ヘクシャー=オリーン・モデル：要素価格均等化定理 13. 生産要素の国際移動：国際間の資本移動とは 14. 生産要素の国際移動：リカード・モデルにおける労働移動の効果 15. 生産要素の国際移動：2 生産要素モデルでの資本移動の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J82010501
科目名	金融論	単位数	2
科目名（英語表記）	Money and Banking		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	金融の基礎について講義をする。貨幣の役割、中央銀行の役割、民間金融機関の役割を中心に、金融を学ぶことは何故必要かが分かってもらえる講義にする。短期金融市場、株式市場、債券市場、為替市場についても説明し、ファイナンシャルプランナーを目指す人、金融機関就職を希望する人はもちろんのこと、今後社会に出た時に必要な基礎教養を身に付けたい人にも十分役立つ講義にする。金融政策を中心に扱う金融論Ｂも併せて受講してほしい。		
教材（テキスト）	第１回目の講義時に紹介します。		
教材（参考文献）	講義の進展に応じて紹介していきます。		
教材（その他）			
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：出席,小テスト等を含む 20%		
到達目標	ファイナンスについての基本的知識を身に着ける。		
準備学習	講義前に新聞やニュースでその日の経済の動きを事前に把握しておくこと。少なくともその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		
受講者への要望			
「金融論Ｂ」「企業金融論」「金融入門」は併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい			
講義の順序とポイント			
1.貨幣とは何か 2.銀行の役割 3.中央銀行の役割 4.金融政策の方法 5.信用創造について 6.金融政策はどのように経済に影響するのか 7.短期金融市場の役割 8.債券についてⅠ 9.債券についてⅡ 10 株式についてⅠ 11 株式についてⅡ 12.為替レートについてⅠ 13..為替レートについてⅡ 14.物価の決定理論Ⅰ 15.物価の決定理論Ⅱ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J82010701
科目名	マクロ経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	
講義概要	本講義はマクロ経済学 A に続く講義である。財市場と貨幣市場を想定したマクロ経済モデルでは、均衡において国内所得と利子率が決定する。しかし、均衡状態は他の事情が変化することによって不均衡状態となる。また、均衡における国内所得が失業を見過ごせないほど低い場合がある。このような場合の経済の動きを解説する時に IS-LM モデルが用いられる。講義としては、労働市場を考慮し、国際間の経済取引を導入するといった方向で展開していく。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	プリント、動画教材等		
教材（その他）	適宜指定する。		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	毎日の新聞報道に登場する経済事象を、マクロ経済モデルを用いて説明できるようになることが目標である。		
準備学習	かなり複雑な経済モデルになるので、毎回練習問題を復習する必要がある。それを行ったかどうかは講義中の口頭による質疑応答で確認される。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済モデルの復習 第 2 回 IS-LM モデルの応用 第 3 回 物価の変化と IS-LM モデル 第 4 回 総需要曲線と総供給曲線 第 5 回 財政とマクロ経済 第 6 回 初期の経済成長モデル 第 7 回 新古典派の経済成長モデル 第 8 回 中間試験と振り返り学習 第 9 回 開放経済と外国為替 第 10 回 外国為替レートの変動要因 第 11 回 マンデル=フレミングの理論 第 12 回 比較優位 第 13 回 景気循環 第 14 回 景気動向指数の仕組み 第 15 回 マクロ経済学と関わる経済学の他分野			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★★

年度	2015	授業コード	J82010801
科目名	ミクロ経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomics		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	ミクロ経済学
講義概要	本講義は、ミクロ経済学基礎、ミクロ経済学 A を学んだ学生がより進んだ内容を学修するように計画されている。演習問題はより現実経済を意識したものになり、難解であるが興味深い。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	プリント、動画教材等		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	完全競争市場であれ、独占市場であれ、企業は利潤最大化を目指して行動している。いずれの市場においても利潤最大化条件を導き出せるようになることが目標の一つである。また、本講義は本学のミクロ経済学の最上級科目であるので、効用関数を定義した消費者行動も理解することが目標である。		
準備学習	連立方程式が解けるようになるまで準備をしておくことが必要である。ただし、１次までよい。効用関数を扱う箇所では微分の知識も必要になるので、経済数学しておくこと。それは毎回トレーニングしておく必要があり、その実施は講義中の質疑応答によって確認される。		
受講者への要望			
ミクロ経済学基礎、ミクロ経済学 A よりも上級の内容であることをよく理解した上で履修すること。			
講義の順序とポイント			
1 不完全競争① 企業が市場を独占している場合の利潤最大化条件を考える 2 不完全競争② 完全競争市場と独占市場の相違点を明らかにする 3 不完全競争③ 寡占市場が完全競争市場や独占市場とどのように異なるのかを理解する 4 不完全競争④ 独占的競争と呼ばれる状況を考察する 5 市場の失敗と補正① 外部性がある状況として，環境汚染などの例があることを学ぶ 6 市場の失敗と補正② 正の外部性がある場合でも，効率性という観点からは最良ではないという理由を理解する 7 市場の失敗と補正③ さまざまな理由で非効率的になっている市場を補正する手段を考える 8 総合的な問題演習 これまでに学習した内容を総合した演習問題を解いて理解を深める 9 不完全情報の経済学 新しいアプローチの例として，経済主体間で情報が非対称なケースを取り上げる 10 発展的消費者行動理論① 効用関数の定義を理解する 11 発展的消費者行動理論② 価格や所得の変化と需要量の変化との関係を理解する 12 発展的消費者行動理論③ 弾力性を数式で表し，市場均衡分析で行ったことを振り返る 13 発展的企業行動理論① 生産関数を定義して，企業の利潤最大化行動を再考する 14 発展的企業行動理論② 費用関数を定義して，企業の費用最小化問題を考察する 15 発展的企業行動理論③ 短期と長期の費用を区別した場合の各種費用曲線を考察する			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★★

年度	2015	授業コード	J82010901
科目名	経済統計学	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Statistics		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済・社会データを通じて統計的なデータ処理や数量的分析の基礎を学習する。 当初、データは教員が提供し、それを Excel 等を使って表や図、数値指標にまとめて分析する。 分析結果をレポートにして完成させる。図表の書き方、文章の書き方などもチェックし、細かく修正してもらう。 これを何回も題材を変えながら繰り返す。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料を適当な段階で提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する。 期末テストは実施しない。 出席は当然であるので、3 回以上欠席（病気等は除く）した場合不合格とする。		
到達目標	Excel を使いこなし、統計的処理の基礎を固める 高い水準のレポートが書けるようにする		
準備学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでは全く不十分なので、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 授業外の時間にその勉強をすること、次回の授業でそれを確かめること、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		

受講者への要望

ノートを必ず作り書き込むこと。これは特に重要である。
積極的に参加することが必要で、授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすることが必要。
授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、途中退室は厳禁である。

講義の順序とポイント

1　講義の全体構成
2　表を作る
3　グラフの作成と大小関係
4　円グラフと比率
5　折れ線グラフと時間の推移
6　棒グラフとその性質
7　2 軸を使った複合グラフの分析
8　ヒストグラムと分布
9　データのばらつき
１０　散布図と 2 変数の関係
１１　不平等、格差を測る
１２　経済成長を測る
１３　世界の豊かさ
１４　相関係数の話
１５　回帰分析の話

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★

年度	2015	授業コード	J82011001
科目名	計量経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Econometrics		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済・社会データを数量的に分析するための統計手法の学習、データ分析の実際を学ぶ。 当初、データは教員が提供し、それを Excel 等を使って分析する。 分析結果をレポートにして完成させる。図表の書き方、文章の書き方などもチェックし、細かく修正してもらう。 （なぜ注意されるのか、どう修正すれば社会的要求水準になるのか考えてもらう） これを何回も題材を変えながら繰り返す。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料を適当な段階で提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する。 期末テストは実施しない。 出席は当然であり、3 回以上欠席（病気等を除く）した場合は不合格とする。		
到達目標	Excel を使いこなす 回帰分析など分析手法を身につける 高い水準のレポートが書けるようにする		
準備学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでは全く不十分なので、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 授業外の時間にその勉強をすること、次回の授業でそれを確かめること、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		
受講者への要望			
ノートを必ず作り書き込むことが重要である。 積極的に参加することが必要で、授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすること。 授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、途中退席は厳禁である。			
講義の順序とポイント			
1　講義の全体構成 2　平均と分散 3　平均と分散の実例 4　課題（1）の分析 5～7　課題（1）の修正と完成 8　回帰分析その 1 9　回帰分析その 2 10　より進んだ回帰分析 11　回帰分析と評価 12　回帰分析と評価その 2 13　回帰分析と評価その 3 14　課題（2）の分析 15　課題（2）の修正と完成			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★

年度	2015	授業コード	J82011401
科目名	経済法	単位数	2
科目名（英語表記）	Competition Law		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	経済法
講義概要	スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。そして、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。 　この授業では、市場経済をうまく機能させるために不可欠な「競争」を守る「独占禁止法」の基本的な仕組み及び、競争への悪影響が大きな「入札談合」などの「カルテル」と「私的独占」を中心に学びます。		
教材（テキスト）	・川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法　第４版』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）	・船田正之・金井貴嗣・泉水文雄編　『経済法判例・審決百選』（有斐閣、２０１０年） ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法』（有斐閣、２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポート等 40%） 小テスト２回（60%）		
到達目標	入札談合などのカルテルの仕組みと独占禁止法上の基本概念を理解し、基本的な事例について、独占禁止法を適用して判断することができるようになる。		
準備学習	企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること。 各回の講義で指示する教科書の該当箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席すること。			
講義の順序とポイント			
１．市場経済と競争 ２．独占禁止法の目的と企業結合 ３．独占禁止法と不公正な取引方法（入門） ４．不当な取引制限①（入札談合） ５．不当な取引制限②（規制の概要） ６．不当な取引制限③（行為要件） ７．不当な取引制限④(弊害要件) ８．前半のまとめと小テスト１ ９．事業者団体に対する規制 １０．私的独占①（規制の概要） １１．私的独占②（排除型私的独占） １２・私的独占③（支配型私的独占） １３．不公正な取引方法 １４．エンフォースメント①（全体像・公正取引委員会による措置） １５．エンフォースメント②（損害賠償・刑罰）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	J82011701
科目名	経済政策論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	我が国は人口減少社会に移行する中，経済社会のあり方が問われています．高度経済成長の成果を踏まえ，「日本型福祉国家」の建設を目指してきましたが，経済的・社会的環境の変化により，福祉国家政策は行き詰まり，いまや政策体系の根本的な見直しを迫られています．欧州諸国でも「福祉国家の危機」が，1980 年以降急速に政治問題化し，欧州委員会を中心に「持続可能な社会保障制度の再構築」が模索されています． 本講義では，マクロ経済政策の基本的な事項の理解に努めるとともに，人口減少社会における持続可能な社会保障制度のあり方について考えます．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	人口減少社会における社会保障保を巡る諸問題の理解を目標とする		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1. 社会体制と政策思想 2.福祉国家の 2 類型 3.新しい社会問題 4.福祉国家の基本構想 5.成長と分配の総合政策（１） 6.成長と分配の総合政策（２） 7.成長と分配の総合政策（３） 8.成長と分配の総合政策（４） 9.成長と分配の総合政策（５） 10.雇用と経済安定化政策（１） 11.雇用と経済安定化政策（２） 12.雇用と経済安定化政策（３） 13.移行的労働市場論 14.フレキシキュリティ政策 15.社会的包摂のための政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J82011901
科目名	社会政策論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本科目では、社会政策実践の歴史について、その源流から今日までを振り返り、それらがいかなる事情と目的の下に展開されてきたかを説明する。さらに、その間に社会政策の対象や概念がどのように変化してきたかに着目することを通じて、社会政策の意義と必要性、そしてその体系について理解を深める。また、少子高齢化や人口減少など、わが国が直面している社会構造の変化を念頭に置きつつ、今日の社会政策に期待される役割とそこに生じている課題について検討を行う。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	『社会保障入門』（中央法規）　社会保障入門編集委員会（編）		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、　学期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の諸制度の目的と意義および必要性についてを理解すること。		
準備学習	日ごろから社会保障関係のみならず、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・「社会政策入門」を履修済みであることが望ましい。
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．授業の進め方と概要：国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度①
３．社会保障の概念と制度②
４．社会保障の体系と二定型
５．社会保障の源流
６．社会保障の登場と発展
７．わが国における社会保障の概念
８．社会保障の必要性：超歴史的視点から①
９．社会保障の必要性：超歴史的視点から②
１０．社会保障の必要性：歴史的視点から①
１１．社会保障の必要性：歴史的視点から②
１２．社会保障の必要性：歴史的視点から③
１３．福祉国家の発展
１４．福祉国家の危機
１５．わが国における社会保障の歴史的展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J82012001
科目名	国際関係論	単位数	2
科目名（英語表記）	International Accounting		
担当者名	松田　哲	旧科目名称	
講義概要	本講義の目的は、国際社会に生起する様々な出来事について、論理的かつ学際的に考える能力を身につけてもらうことにある。そのためにまず必要とされるのは、個々の出来事についての歴史的な展開を知ること、および、その出来事を解釈するための理論的な視角を身につけることである。そこで本講義では、以下の授業計画に示した論点について、主に歴史と理論という２つの観点に依拠しながら論じていくこととしたい。 なお、国際関係論ＡとＢの双方を受講するのが望ましいが、その際には国際関係論Ａを先に受講することを強く推奨する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。レジメを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	定期テスト（７５％）、講義内コメントカードの提出（２５％）により評価する。		
到達目標	１）国内社会と国際社会の違いを説明できるようになること。 ２）西欧国際体系の特徴とその変容について、説明できるようになること。 ３）国家や人々の安全を守る方法について、幅広い視点から論じることができるようになること.。		
準備学習	１）レジュメを熟読してくること。 ２）各回の講義内容に関係する出来事を、新聞やテレビのニュースをもとに探してくること。		
受講者への要望			
１）講義に出席すること。出席しない学生の単位取得は不可能である。 ２）定期テスト前にしっかりと勉強すること。			
講義の順序とポイント			
１、イントロダクション ２、国際社会を見る目（１）：　国際社会の特質 ３、国際社会を見る目（２）：　国際社会のイメージ ４、国際社会の誕生（１）：　西欧国際体系の成立 ５、国際社会の誕生（２）：　西欧国際体系の特徴 ６、国際社会の誕生（３）：　西欧国際体系から現代国際体系へ ７、国際社会の誕生（４）：　ヘゲモニーとパックス・アメリカーナその１ ８、国際社会の誕生（５）：　ヘゲモニーとパックス・アメリカーナその２ ９、安全保障とは何か（１）：　リアリズム的安全保障 １０、安全保障とは何か（２）：　戦争と戦争防止体制その１ １１、安全保障とは何か（３）：　戦争と戦争防止体制その２ １２、安全保障とは何か（４）：　核兵器と核抑止戦略その１ １３、安全保障とは何か（５）：　核兵器と核抑止戦略その２ １４、安全保障とは何か（６）：　安全保障論の転換その１ １５、安全保障とは何か（７）：　安全保障論の転換その２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J82012201
科目名	財政学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Finance		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	国内に目を向けたときに、医療・介護・教育・防犯などの日常生活に不可欠なサービスは、地方自治体が担う。また、国際的な潮流に目を向けたときに、グローバル経済社会の中で日本政府の舵取りが、国民の生活に直結していることが見て取れる。本講義では、国内の地方自治体と国際的な視点から、政府のあり方を学ぶ。そして我が国が抱えている様々な課題に対する政策のあり方について理解を深め、学生個々人が社会問題の原因を追究するための基礎力を身につけることを目的としている。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	「コンパクト財政学　第 2 版」　上村 敏之　新世社 「入門　地方財政　第 3 版」　林　宏昭・橋本　恭之著　中央経済社 「地方財政　新版」　林　宜嗣著　有斐閣ブックス		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	授業態度 10%、小テスト 20%、期末試験 70%		
到達目標	我が国が抱えている様々な課題に対する政策のあり方について理解を深め、学生個々人が社会問題の原因を追究するための基礎力を身につける。		
準備学習	・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。

講義の順序とポイント

1.はじめに
2.財政の役割
3.地方財政の役割
4.地域福祉と介護(1):少子高齢化と地域社会①
5.地域福祉と介護(2):少子高齢化と地域社会②
6.地域福祉と介護(3):我が国の介護制度
7.公的教育(1)公的教育の役割
8.小テストと公的教育(2)教育と所得格差
9.公的教育(3):教育の再分配機能
10.グローバル化と日本政府(1):底辺への競争とは
11.グローバル化と日本政府(2):底辺への競争がもたらすもの
12.グローバル化と日本政府(3):底辺への競争と対策
13.道州制(1)道州制とは
14.道州制(2)海外の事例
15.道州制(3)国と地方の行政

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★

年度	2015	授業コード	J82012501
科目名	行政法	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	行政法の全体像を学ぶ入門科目である。具体的には、行政法序論、行政組織法、行政作用法、行政救済法の概略を学ぶ。		
教材（テキスト）	高橋　滋『行政法　Visual Materials』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験（80%）　平常点（20%）		
到達目標	法学を専門にしていない学生のみなさんを対象に行政法の全体像を簡潔に理解してもらうことと、行政書士試験や公務員試験をめざす人たちの入門講義になることをめざす。		
準備学習	法学を専門に学んでいない人なので、必ず教科書の該当箇所を予習するとともに、講義で配布するレジュメを使って各テーマの復習を必ずすること。		

受講者への要望

講義に出席し、毎回の予習、復習をしなければ到底この科目は理解できない。また、行政法に関する時事的な話題を紹介するので、参考にしてほしい。

講義の順序とポイント

１．行政法とは何か
２．行政法の基本原理
３．行政組織
４．行政立法
５．行政行為①
６．行政行為②
７．行政裁量
８．行政計画・行政指導・行政契約
９．行政の実効性の確保
１０．行政手続
１１．情報公開・個人情報保護
１２．行政上の不服申立て
１３．行政訴訟①
１４．行政訴訟②
１５．国家賠償・損失補償

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J82012601
科目名	労働法	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	労働法の領域には、個別的労働関係法と集団的労働関係法という２つの主要な領域がある。いずれの分野も重要であるが、近年における労働立法の動向（パートタイム労働法および育児・介護休業法、労働契約法の成立、並びに、労働基準法および男女雇用機会均等法等の改正など）や、労働法を初めて学ぶ人にとっての必要性等から、本講義は「個人としての労働者」に焦点をあてて前者に比重を置きながら展開する。 まず、労働基準法および労働契約法を中心に、採用内定、労働契約の内容、賃金・退職金、労働時間法制、および解雇など、労働契約の成立から終了に至るまでの過程で生じる様々な法律問題および集団的労働関係法のうち労働法を理解するために必要な基礎的事項を検討する。		
教材（テキスト）	水町勇一郎『労働法〔第５版〕』（有斐閣、2014 年）3400 円＋税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第８版〕」（有斐閣、2009 年）2476 円＋税		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第１０版〕』（有斐閣、201２年）　5300 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則１回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	職場において必要とされる法律知識のうち、本講義では個別的労働法に比重をおいてて講義を進めていく。最低限知っておいた方がよいと思われる労働法の基礎的な知識や判例理論等を身に着けてもらうことが本講義の到達目標である。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。

また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第１回　講義の進め方・その他諸注意
第２回　労働法の概観（歴史・労働法とは）
第３回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合）
第４回　労働契約と権利・義務
第５回　就業規則
第６回　労働協約
第７回　募集・採用内定
第８回　男女雇用平等
第９回　解雇・労働契約の終了
第 10 回　賃金・退職金
第 11 回　労働時間
第 12 回　労働組合の結成
第 13 回　労働組合の運営
第 14 回　団体交渉
第 15 回　最近の労働法をめぐる諸問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待					★	

年度	2015	授業コード	J82012801
科目名	刑法	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law		
担当者名	小野　晃正	旧科目名称	
講義概要	・法学部、経済・経営学部の専門科目には、「刑法」、「刑事訴訟法」、「少年法」、「刑事政策」がある。これらの科目で学習する内容をまとめて「刑事法」と呼ぶことができる。 ・本講義の内容は、このうち「刑法」を対象とするが、主として、殺人、窃盗、強盗、放火などの個別犯罪の成立要件を検討する刑法各論を概観する。 ・この講義では、刑法各論上の諸問題を具体的に検討し、刑法への関心を高め、刑法学全体の見取り図を得ることを目的とする。 ・教員からの一方的な講義にならないよう、学生と教員との双方向理解をきすべく、質疑応答もできる限り行いたい。		
教材（テキスト）	・佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義（第 2 版）』（有斐閣・2013 年）を教科書として指定する。講義は、教科書の内容に沿って行うので必ず購入すること。 ・なお、刑事法は相次いで法改正がなされているので、最新の六法を持参すること。たとえば、『平成 27 年版ポケット六法（有斐閣）』や『平成 27 年版デイリー六法』（三省堂）、あるいは、『平成 27 年版判例六法』（有斐閣）などが望ましい。		
教材（参考文献）	・判例教材：山口厚＝佐伯仁志/編著『刑法判例百選Ⅱ総論』（有斐閣・2014 年）がある。		
教材（その他）	・必要に応じて紙媒体の配布物（講義内容の要旨）を交付する。		
評価方法	原則として期末試験の成績によるが、理解度を試す小テストを行うことがあり、これを実施した場合は成績評価に加味する。		
到達目標	1．刑法の全体像をできるだけ具体的に把握するとともに、刑法総論と刑法各論の異同を理解する。 2．個人的法益に対する罪の重要ポイントを整理し、理解する。 3．財産犯の体系を理解し、それぞれの罰条の適用範囲・限界をおさえる。 4．社会法益に対する罪、国家法益に対する罪のうち、重要犯罪の構造と適用範囲の限界をおさえる。		
準備学習	・新聞（朝刊や夕刊）の社会面、あるいは、インターネット上のニュースなどに掲載されている様々な記事を読みましょう。この科目に限らず多方面で良い効果を発揮するはずです。		
受講者への要望			
・授業に出席したときは、何かを得て帰るように努めてください。 ・法学を体得するには、自らの手を動かして問題を解く、あるいは講義内容をまとめてみるなどの復習がもっとも効果的です。教科書を漫然と読むだけでは身につきません。とにかく手を動かしましょう。			
講義の順序とポイント			
第 1 回：ガイダンスと文献紹介、罪刑法定主義、犯罪成立要件、保護法益と刑法各論 第 2 回：殺人の罪 第 3 回：傷害の罪 第 4 回：逮捕･監禁の罪、性犯罪 第 5 回：住居を侵す罪、信用･業務に対する罪 第 6 回：財産犯総論 第 7 回：窃盗の罪 第 8 回：強盗･恐喝の罪 第 9 回：詐欺の罪 第 10 回：横領･背任の罪 第 11 回：盗品等に関する罪、器物損壊等の罪 第 12 回：放火の罪 第 13 回：文書偽造等の罪 第 14 回：公務執行妨害の罪 第 15 回：賄賂の罪			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J82012901
科目名	刑事訴訟法	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	刑事訴訟法
講義概要	テレビの刑事ドラマをみていると、事件が発生し、それを刑事が捜査し、だんだんと真相に迫っていき、最終的に犯人が逮捕される。 では、実際の刑事手続はどのような流れか知っているだろうか。事件の捜査はいつから始まり、捜査するうえでのルールとしてはどのようなものが存在しているのか。このルールとして刑事手続を定める法律の代表格が「刑事訴訟法」である。 この講義では、刑事手続の流れと刑事訴訟法のさまざまな基本ルールを概観したうえで、主として公訴が提起される前の段階について解説する。		
教材（テキスト）	渡辺咲子『刑事訴訟法講義』（信山社、第 7 版、2014）		
教材（参考文献）	井上正仁編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第 9 版、2011）		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。六法を毎回持参すること。		
評価方法	学期末試験の結果（８０％）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事手続の全体の流れや捜査に関して定めた条文について理解し、刑事手続に関する体系的な基礎知識を身につけることができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、授業の最初に前回の授業内容に係るおさらいテストをするので、復習しておくこと。さらに、それとともに、新聞やニュースを見て、報道された刑事事件の内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
刑事訴訟法はその流れ全体を理解する必要があるので、学期末試験や小テストのためにも、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。			
講義の順序とポイント			
１　刑事訴訟法とは ２　強制捜査 ３　任意捜査 ４　捜査の端緒 ５　逮捕・勾留 ６　検証・捜索・差押え① ７　捜索・差押え② ８　被疑者の身体に関する検査 ９　中間テスト １０　起訴状 １１　訴因変更 １２　証拠開示 １３　違法収集証拠排除法則 １４　自白 １５　伝聞			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						★

年度	2015	授業コード	J82013101
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　久嗣	旧科目名称	
講義概要	本講義はＦＰの基礎である不動産運用設計、金融商品設計、保険、リタイヤメントプランニングの基礎を学習する。また、春学期の「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ資格の認定講義となっているため、本講義の位置づけはそれらの科目と同様にＦＰ資格取得を目指す講義としたい。		
教材（テキスト）	『ファイナンシャル・プランニング入門　第 3 版』(日本 FP 協会)および、「FP 基礎」学習時のテキストとして、『FP 総論』(日本 FP 協会)		
教材（参考文献）	宮口定雄『税務ハンドブック　平成 27 年度版』コントロール社、『3 級 FP テキストⅠ・Ⅱ　2015～2016 年度版』　FPK 研修センター		
教材（その他）	問題集の使用を予定		
評価方法	レポートの提出を義務づける。そのレポートの内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	難易度を高く設定はしないが、FP としての基本を理解し、AFP 資格審査試験取得チャレンジに向けた知識の習得を図る。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		
受講者への要望			
受講者への要望 春学期の「ファイナンシャルプランニングⅠ」「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ認定の講座になっているのでＦＰ資格の取得を目指す学生は全科目を受講すること。(ファイナンシャルプランニングⅠ・Ⅱ・Ⅲと金融入門の合計 4 科目)			
講義の順序とポイント			
1　ファイナンシャル・プランニングを学ぶ意味 2　FP の社会的役割 3 社会的責任とコンプライアンス 4 不動産の見方 5 不動産の動向と分析 6 金融・経済の知識 7 最近の金融動向 8 利回り計算と割引現在価値 9 株式と債券 10 投資信託 11 金融派生商品 12 生命保険 13 損害保険 14 リタイヤメントプラントと年金問題 15 ファイナンシャルプランニングⅡに向けて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J82013201
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅡ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	本講義はファイナルプランニングの中のタックス(税金)についての講義を行う。税制の仕組み及び所得税の各税目を理解したうえで「ライフサイクル(人間の一生)」の中での税金との関連を学習する。なお、教育費、住宅取得、金融商品売買、退職等のライフイベントの具体的な仕組み・内容等については春学期の「ファイナンシャルプランニングⅠ」「金融入門」の中で学習をすることになる。また、本講義を受講する学生は必ず「ファイナンシャルプランニングⅢ」も履修をすること。		
教材（テキスト）	『タックスプランニング』(日本 FP 協会)、『税務ハンドブック　平成 27 年度版』(宮口定雄著・コントロール社)他		
教材（参考文献）	国税庁 パンフレット「暮らしの税情報」(平成 27 年度版) 三木義一　『日本の税金』　岩波新書		
教材（その他）	ファイナンシャルプランニングⅠで使用する『FP3 級テキストⅠ・Ⅱ』(FPK 研修センター)		
評価方法	レポート(提案書)の提出を義務づける。その提案書の内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	社会人になるということは『納税者』になること。税を学びながら、自分の将来設計をより具体的に描けるようになってもらいたい。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		
受講者への要望			
春学期の「ファイナンシャルプランニングⅠ」「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅢ」はＡＦＰ認定の講座になっているのでＦＰ資格の取得を目指す学生は全科目を受講すること。(ファイナンシャルプランニングⅠ・Ⅱ・Ⅲと金融入門の合計 4 科目)			
講義の順序とポイント			
1　租税法律主義と税法体系 2　申告納税方式と賦課課税方式 3　利子所得 4　不動産所得 5　給与所得 6　山林所得 7　一時所得 8　非課税所得 9　相続税② 10 贈与税① 11 金融商品売買に関わる税金① 12 不動産に関わる税金① 13 不動産に関わる税金③ 14 公的年金等の税金② 15 実例の考察①			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J82013301
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅢ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	本講義はファイナルプランニングの中のタックス(税金)についての講義を行う。税制の仕組み及び所得税の各税目を理解したうえで「ライフサイクル(人間の一生)」の中での税金との関連を学習する。なお、教育費、住宅取得、金融商品売買、退職等のライフイベントの具体的な仕組み・内容等については春学期の「ファイナンシャルプランニングⅠ」「金融入門」の中で学習をすることになる。また、本講義を受講する学生は必ず「ファイナンシャルプランニングⅡ」も履修をすること。		
教材（テキスト）	『タックスプランニング』(日本 FP 協会)、『税務ハンドブック　平成 27 年度版』(宮口定雄著・コントロール社)他		
教材（参考文献）	国税庁 パンフレット「暮らしの税情報」(平成 27 年度版) 三木義一　『日本の税金』　岩波新書		
教材（その他）	ファイナンシャルプランニングⅠで使用する『FP3 級テキストⅠ・Ⅱ』(FPK 研修センター)		
評価方法	レポート(提案書)の提出を義務づける。その提案書の内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	社会人になるということは『納税者』になること。税を学びながら、自分の将来設計をより具体的に描けるようになってもらいたい。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		
受講者への要望			
春学期の「ファイナンシャルプランニングⅠ」「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ認定の講座になっているのでＦＰ資格の取得を目指す学生は全科目を受講すること。(ファイナンシャルプランニングⅠ・Ⅱ・Ⅲと金融入門の合計 4 科目)			
講義の順序とポイント			
1　直接税と間接税 2　所得税の概要と仕組み 3　配当所得 4　事業所得 5　退職所得 6　譲渡所得 7　雑所得 8　相続税① 9　相続税③ 10　贈与税② 11　金融商品売買に関わる税金② 12　不動産に関わる税金② 13　公的年金等の税金① 14　公的年金等の税金③ 15　実例の考察②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J82013401
科目名	ファイナンスの数理	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics of Finance		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	本講義では、投資理論として「どのようなポートフォリオを構築すればよいのか」について代表的な考えを述べる。 具体的には、PC 上で稼働する表計算ソフトとして幅広く利用されている Excel を活用しながら、証券投資分析手法を寛容に学んでいく。証券投資理論に関しては、株式投資分析、債券投資分析、先物とオプションについて、講義を行うつもりである。また、ファイナンスの基礎知識が全くないことを前提に、PC を使いながら出来るだけ平易に解説するつもりである。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント配布を行う。		
教材（参考文献）	藤林/岡村/矢野（2001）『Excel で学ぶファイナンス：証券投資分析』 金融財政事情研究会. 藤田康範（2013）『金融・経済のための統計学入門』 日本実業出版社. 今野浩（2000）『金融工学の挑戦』　中央新書.		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	平常点(30%)；複数回のレポート等による。 定期試験(70%)。		
到達目標	ファイナンスの基本理論を EXCEL などの演習を通じて理解度を深めてゆく 。		
準備学習	証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 複数回、小テストを行うので前回の講義内容を復習すること。 ファイナンス関連科目を多く履修していることが望ましい。		
受講者への要望			
統計学の正規分布等の基礎知識を有していることが望ましいが、とくになくても問題はない。 レポート課題を Excel で解くが、これも初めから指導する。			
講義の順序とポイント			
１．ポートフォリオのリターンとリスク ２．同上 ３．マーケット・モデル ４．同上 ５．資本資産価格モデル（CAPM） ６．同上 ７．債券の価格と利回り ８．同上 ９．イールドカーブの特性 １０．債券のリスク（価格変動リスク、信用リスク）とポートフォリオ １１．同上 １２．先物の理論価格とヘッジ １３．オプションの概要 １４．同上 １５．まとめ： 演習の復習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★

年度	2015	授業コード	J82014001
科目名	税務会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Accounting		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	法人税法は、課税所得の計算原理を税法だけで完結的、網羅的に規定することはせず、その相当部分を適正な企業の会計慣行に委ねている。すなわち、税法の課税所得計算原理は独立に存在しているのではなく、公正な会計慣行をベースとして、税法固有の目的を実現するために必要な調整を加えているのである。税法は強行法規であり、とくにわが国の法人税法は確定決算主義をとっているため、税法の諸規定は企業会計の実務に強い影響を与えている。 講義では、法人の課税所得算定の基礎となる企業会計の基準、会社法の計算規定などを説明しながら、法人税法及び租税特別措置法における法人税の規定及びこれらに係る政令、省令、通達による法人の所得計算の算定プロセスについて、基本的事項に絞って平易に説明する。課税所得の調整計算や法人税申告書の記載方法にも時間を割く。		
教材（テキスト）	毎回、講義用レジュメや参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	渡辺淑夫著『法人税法　平成 26 年版』（中央経済社） 三木義一他編著『租税判例分析ファイルⅡ（法人税編）』第 2 版（税務経理協会） その他講義でその都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業中の報告や議論内容（30%）、レポート（70%）		
到達目標	法人税の課税所得計算のしくみを理解し、法人税申告書（とくに別表 4、別表 5）を作成することができる。		
準備学習	事前に配布するレジュメ等を読んで予習しておくこと。		
受講者への要望			
税制に関連する新聞報道等に関心を持つこと。			
講義の順序とポイント			
1.　法人の区分と課税の範囲、法人税の体系 2.　課税所得の計算構造 3.　損益の期間帰属、受取配当等 4.　外貨建取引、減価償却資産、繰延資産 5.　給与、寄附金、交際費、その他の損金 6.　引当金・準備金制度、圧縮記帳制度 7.　税額の計算 8.　税効果会計（1） 9.　税効果会計（2） 10.　新会計基準と法人税（1） 11.　新会計基準と法人税（2） 12.　新会計基準と法人税（3） 13　中小企業の会計 14.　グループ法人税制 15.　法人税申告書			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J82020601
科目名	キャリアゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar A		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	就職活動の準備は 3 回生の秋から本格化します。しかしながら、それほど簡単には就職先は決まりません。 　そこで、2 回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を説明するとともに、「エントリーシート」や「SPI」や「面接」、等の採用試験について効果的な対策を講じます。それによって能力ある社会人として必要なコミュニケーション力、読解力、計数能力、論理能力、等を養うことを目的としています。		
教材（テキスト）	適時、指示する。また、適時、DVD 教材や OHC やパソコンを活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（70%）、 ならびに自己 PR やレポート,等の体裁や内容,等の評価（30%）、で判定する。		
到達目標	企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI」や「面接」といった採用試験に対応できるだけの力を付ける。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。
登録において選抜が行われることもある。

講義の順序とポイント

1　ゼミの趣旨説明、自己紹介、履修登録のチェック、キャリアアップ指導。本学の就職状況と就職支援の活動について。
2　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
3　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
4　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
5　履歴書の作成・清書（表面の上半分作成）。自己 PR の作成（作文と校正）(1)
6　自己 PR の作成（作文と校正）(2)
7　自己 PR の作成（作文と校正）(3)
8　自己 PR の作成（作文と校正）(4)
9　天職発見に向けて（1)、筆記試験対策（1)。
10　天職発見に向けて（2)、筆記試験対策（2)。
11　天職発見に向けて（3)、筆記試験対策（3)。
12　天職発見に向けて（4)、筆記試験対策（4)。
13　天職発見に向けて（5)、筆記試験対策（5)。
14　エントリーシートについて。チャレンジショップの説明と見学。
15　来季の履修について。各種アンケート（進路調査,等)。個人面談。

＊ 6 月下旬から 7 月下旬までの間に(来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊ 面談、等が随時行われる場合もある。
＊ 外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ 担当者の専門領域によって順序や内容が若干変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J82020602
科目名	キャリアゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar A		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	就職活動の準備は 3 回生の秋から本格化します。しかしながら、それほど簡単には就職先は決まりません。 　そこで、2 回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を説明するとともに、「エントリーシート」や「SPI」や「面接」、等の採用試験について効果的な対策を講じます。それによって能力ある社会人として必要なコミュニケーション力、読解力、計数能力、論理能力、等を養うことを目的としています。		
教材（テキスト）	適時、指示する。また、適時、DVD 教材や OHC やパソコンを活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（70%）、 ならびに自己 PR やレポート,等の体裁や内容,等の評価（30%）、で判定する。		
到達目標	企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI」や「面接」といった採用試験に対応できるだけの力を付ける。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。
登録において選抜が行われることもある。

講義の順序とポイント

1　ゼミの趣旨説明、自己紹介、履修登録のチェック、キャリアアップ指導。本学の就職状況と就職支援の活動について。
2　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
3　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
4　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
5　履歴書の作成・清書（表面の上半分作成）。自己 PR の作成（作文と校正）(1)
6　自己 PR の作成（作文と校正）(2)
7　自己 PR の作成（作文と校正）(3)
8　自己 PR の作成（作文と校正）(4)
9　天職発見に向けて（1)、筆記試験対策（1)。
10　天職発見に向けて（2)、筆記試験対策（2)。
11　天職発見に向けて（3)、筆記試験対策（3)。
12　天職発見に向けて（4)、筆記試験対策（4)。
13　天職発見に向けて（5)、筆記試験対策（5)。
14　エントリーシートについて。チャレンジショップの説明と見学。
15　来季の履修について。各種アンケート（進路調査,等)。個人面談。

＊ 6 月下旬から 7 月下旬までの間に(来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊ 面談、等が随時行われる場合もある。
＊ 外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ 担当者の専門領域によって順序や内容が若干変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J82020603
科目名	キャリアゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar A		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	就職活動の準備は 3 回生の秋から本格化します。しかしながら、それほど簡単には就職先は決まりません。 　そこで、2 回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を説明するとともに、「エントリーシート」や「SPI」や「面接」、等の採用試験について効果的な対策を講じます。それによって能力ある社会人として必要なコミュニケーション力、読解力、計数能力、論理能力、等を養うことを目的としています。		
教材（テキスト）	適時、指示する。また、適時、DVD 教材や OHC やパソコンを活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（70%）、 ならびに自己 PR やレポート,等の体裁や内容,等の評価（30%）、で判定する。		
到達目標	企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI」や「面接」といった採用試験に対応できるだけの力を付ける。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。
登録において選抜が行われることもある。

講義の順序とポイント

1　ゼミの趣旨説明、自己紹介、履修登録のチェック、キャリアアップ指導。本学の就職状況と就職支援の活動について。
2　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
3　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
4　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
5　履歴書の作成・清書（表面の上半分作成）。自己 PR の作成（作文と校正）(1)
6　自己 PR の作成（作文と校正）(2)
7　自己 PR の作成（作文と校正）(3)
8　自己 PR の作成（作文と校正）(4)
9　天職発見に向けて（1)、筆記試験対策（1)。
10　天職発見に向けて（2)、筆記試験対策（2)。
11　天職発見に向けて（3)、筆記試験対策（3)。
12　天職発見に向けて（4)、筆記試験対策（4)。
13　天職発見に向けて（5)、筆記試験対策（5)。
14　エントリーシートについて。チャレンジショップの説明と見学。
15　来季の履修について。各種アンケート（進路調査,等)。個人面談。

＊ 6 月下旬から 7 月下旬までの間に(来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊ 面談、等が随時行われる場合もある。
＊ 外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ 担当者の専門領域によって順序や内容が若干変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J82020604
科目名	キャリアゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	就職活動の準備は 3 回生の秋から本格化します。しかしながら、それほど簡単には就職先は決まりません。 　そこで、2 回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を説明するとともに、「エントリーシート」や「SPI」や「面接」、等の採用試験について効果的な対策を講じます。それによって能力ある社会人として必要なコミュニケーション力、読解力、計数能力、論理能力、等を養うことを目的としています。		
教材（テキスト）	適時、指示する。また、適時、DVD 教材や OHC やパソコンを活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（70%）、 ならびに自己 PR やレポート,等の体裁や内容,等の評価（30%）、で判定する。		
到達目標	企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI」や「面接」といった採用試験に対応できるだけの力を付ける。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。
登録において選抜が行われることもある。

講義の順序とポイント

1　ゼミの趣旨説明、自己紹介、履修登録のチェック、キャリアアップ指導。本学の就職状況と就職支援の活動について。
2　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
3　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
4　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
5　履歴書の作成・清書（表面の上半分作成）。自己 PR の作成（作文と校正）(1)
6　自己 PR の作成（作文と校正）(2)
7　自己 PR の作成（作文と校正）(3)
8　自己 PR の作成（作文と校正）(4)
9　天職発見に向けて（1)、筆記試験対策（1)。
10　天職発見に向けて（2)、筆記試験対策（2)。
11　天職発見に向けて（3)、筆記試験対策（3)。
12　天職発見に向けて（4)、筆記試験対策（4)。
13　天職発見に向けて（5)、筆記試験対策（5)。
14　エントリーシートについて。チャレンジショップの説明と見学。
15　来季の履修について。各種アンケート（進路調査,等)。個人面談。

＊ 6 月下旬から 7 月下旬までの間に(来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊ 面談、等が随時行われる場合もある。
＊ 外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ 担当者の専門領域によって順序や内容が若干変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J82020605
科目名	キャリアゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar A		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	就職活動の準備は 3 回生の秋から本格化します。しかしながら、それほど簡単には就職先は決まりません。 　そこで、2 回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を説明するとともに、「エントリーシート」や「SPI」や「面接」、等の採用試験について効果的な対策を講じます。それによって能力ある社会人として必要なコミュニケーション力、読解力、計数能力、論理能力、等を養うことを目的としています。		
教材（テキスト）	適時、指示する。また、適時、DVD 教材や OHC やパソコンを活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（70%）、 ならびに自己 PR やレポート,等の体裁や内容,等の評価（30%）、で判定する。		
到達目標	企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI」や「面接」といった採用試験に対応できるだけの力を付ける。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。
登録において選抜が行われることもある。

講義の順序とポイント

1　ゼミの趣旨説明、自己紹介、履修登録のチェック、キャリアアップ指導。本学の就職状況と就職支援の活動について。
2　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
3　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
4　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
5　履歴書の作成・清書（表面の上半分作成）。自己 PR の作成（作文と校正）(1)
6　自己 PR の作成（作文と校正）(2)
7　自己 PR の作成（作文と校正）(3)
8　自己 PR の作成（作文と校正）(4)
9　天職発見に向けて（1)、筆記試験対策（1)。
10　天職発見に向けて（2)、筆記試験対策（2)。
11　天職発見に向けて（3)、筆記試験対策（3)。
12　天職発見に向けて（4)、筆記試験対策（4)。
13　天職発見に向けて（5)、筆記試験対策（5)。
14　エントリーシートについて。チャレンジショップの説明と見学。
15　来季の履修について。各種アンケート（進路調査,等)。個人面談。

＊ 6 月下旬から 7 月下旬までの間に(来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊ 面談、等が随時行われる場合もある。
＊ 外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ 担当者の専門領域によって順序や内容が若干変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J82020606
科目名	キャリアゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar A		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	就職活動の準備は 3 回生の秋から本格化します。しかしながら、それほど簡単には就職先は決まりません。 　そこで、2 回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を説明するとともに、「エントリーシート」や「SPI」や「面接」、等の採用試験について効果的な対策を講じます。それによって能力ある社会人として必要なコミュニケーション力、読解力、計数能力、論理能力、等を養うことを目的としています。		
教材（テキスト）	適時、指示する。また、適時、DVD 教材や OHC やパソコンを活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（70%）、 ならびに自己 PR やレポート,等の体裁や内容,等の評価（30%）、で判定する。		
到達目標	企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI」や「面接」といった採用試験に対応できるだけの力を付ける。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。
登録において選抜が行われることもある。

講義の順序とポイント

1　ゼミの趣旨説明、自己紹介、履修登録のチェック、キャリアアップ指導。本学の就職状況と就職支援の活動について。
2　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
3　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
4　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
5　履歴書の作成・清書（表面の上半分作成）。自己 PR の作成（作文と校正）(1)
6　自己 PR の作成（作文と校正）(2)
7　自己 PR の作成（作文と校正）(3)
8　自己 PR の作成（作文と校正）(4)
9　天職発見に向けて（1)、筆記試験対策（1)。
10　天職発見に向けて（2)、筆記試験対策（2)。
11　天職発見に向けて（3)、筆記試験対策（3)。
12　天職発見に向けて（4)、筆記試験対策（4)。
13　天職発見に向けて（5)、筆記試験対策（5)。
14　エントリーシートについて。チャレンジショップの説明と見学。
15　来季の履修について。各種アンケート（進路調査,等)。個人面談。

＊ 6 月下旬から 7 月下旬までの間に(来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊ 面談、等が随時行われる場合もある。
＊ 外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ 担当者の専門領域によって順序や内容が若干変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J82020607
科目名	キャリアゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	就職活動の準備は 3 回生の秋から本格化します。しかしながら、それほど簡単には就職先は決まりません。 　そこで、2 回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を説明するとともに、「エントリーシート」や「SPI」や「面接」、等の採用試験について効果的な対策を講じます。それによって能力ある社会人として必要なコミュニケーション力、読解力、計数能力、論理能力、等を養うことを目的としています。		
教材（テキスト）	適時、指示する。また、適時、DVD 教材や OHC やパソコンを活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（70%）、 ならびに自己 PR やレポート,等の体裁や内容,等の評価（30%）、で判定する。		
到達目標	企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI」や「面接」といった採用試験に対応できるだけの力を付ける。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。
登録において選抜が行われることもある。

講義の順序とポイント

1　ゼミの趣旨説明、自己紹介、履修登録のチェック、キャリアアップ指導。本学の就職状況と就職支援の活動について。
2　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
3　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
4　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
5　履歴書の作成・清書（表面の上半分作成）。自己 PR の作成（作文と校正）(1)
6　自己 PR の作成（作文と校正）(2)
7　自己 PR の作成（作文と校正）(3)
8　自己 PR の作成（作文と校正）(4)
9　天職発見に向けて（1)、筆記試験対策（1)。
10　天職発見に向けて（2)、筆記試験対策（2)。
11　天職発見に向けて（3)、筆記試験対策（3)。
12　天職発見に向けて（4)、筆記試験対策（4)。
13　天職発見に向けて（5)、筆記試験対策（5)。
14　エントリーシートについて。チャレンジショップの説明と見学。
15　来季の履修について。各種アンケート（進路調査,等)。個人面談。

＊ 6 月下旬から 7 月下旬までの間に(来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊ 面談、等が随時行われる場合もある。
＊ 外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ 担当者の専門領域によって順序や内容が若干変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J82020608
科目名	キャリアゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar A		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	就職活動の準備は 3 回生の秋から本格化します。しかしながら、それほど簡単には就職先は決まりません。 　そこで、2 回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を説明するとともに、「エントリーシート」や「SPI」や「面接」、等の採用試験について効果的な対策を講じます。それによって能力ある社会人として必要なコミュニケーション力、読解力、計数能力、論理能力、等を養うことを目的としています。		
教材（テキスト）	適時、指示する。また、適時、DVD 教材や OHC やパソコンを活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（70%）、 ならびに自己 PR やレポート,等の体裁や内容,等の評価（30%）、で判定する。		
到達目標	企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI」や「面接」といった採用試験に対応できるだけの力を付ける。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。
登録において選抜が行われることもある。

講義の順序とポイント

1　ゼミの趣旨説明、自己紹介、履修登録のチェック、キャリアアップ指導。本学の就職状況と就職支援の活動について。
2　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
3　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
4　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
5　履歴書の作成・清書（表面の上半分作成）。自己 PR の作成（作文と校正）(1)
6　自己 PR の作成（作文と校正）(2)
7　自己 PR の作成（作文と校正）(3)
8　自己 PR の作成（作文と校正）(4)
9　天職発見に向けて（1)、筆記試験対策（1)。
10　天職発見に向けて（2)、筆記試験対策（2)。
11　天職発見に向けて（3)、筆記試験対策（3)。
12　天職発見に向けて（4)、筆記試験対策（4)。
13　天職発見に向けて（5)、筆記試験対策（5)。
14　エントリーシートについて。チャレンジショップの説明と見学。
15　来季の履修について。各種アンケート（進路調査,等)。個人面談。

＊ 6 月下旬から 7 月下旬までの間に(来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊ 面談、等が随時行われる場合もある。
＊ 外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ 担当者の専門領域によって順序や内容が若干変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J82020609
科目名	キャリアゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar A		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	就職活動の準備は 3 回生の秋から本格化します。しかしながら、それほど簡単には就職先は決まりません。 　そこで、2 回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を説明するとともに、「エントリーシート」や「SPI」や「面接」、等の採用試験について効果的な対策を講じます。それによって能力ある社会人として必要なコミュニケーション力、読解力、計数能力、論理能力、等を養うことを目的としています。		
教材（テキスト）	適時、指示する。また、適時、DVD 教材や OHC やパソコンを活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（70%）、 ならびに自己 PR やレポート,等の体裁や内容,等の評価（30%）、で判定する。		
到達目標	企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI」や「面接」といった採用試験に対応できるだけの力を付ける。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。
登録において選抜が行われることもある。

講義の順序とポイント

1　ゼミの趣旨説明、自己紹介、履修登録のチェック、キャリアアップ指導。本学の就職状況と就職支援の活動について。
2　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
3　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
4　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
5　履歴書の作成・清書（表面の上半分作成）。自己 PR の作成（作文と校正）(1)
6　自己 PR の作成（作文と校正）(2)
7　自己 PR の作成（作文と校正）(3)
8　自己 PR の作成（作文と校正）(4)
9　天職発見に向けて（1)、筆記試験対策（1)。
10　天職発見に向けて（2)、筆記試験対策（2)。
11　天職発見に向けて（3)、筆記試験対策（3)。
12　天職発見に向けて（4)、筆記試験対策（4)。
13　天職発見に向けて（5)、筆記試験対策（5)。
14　エントリーシートについて。チャレンジショップの説明と見学。
15　来季の履修について。各種アンケート（進路調査,等)。個人面談。

＊ 6 月下旬から 7 月下旬までの間に(来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊ 面談、等が随時行われる場合もある。
＊ 外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ 担当者の専門領域によって順序や内容が若干変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J82020610
科目名	キャリアゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar A		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	就職活動の準備は 3 回生の秋から本格化します。しかしながら、それほど簡単には就職先は決まりません。 　そこで、2 回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を説明するとともに、「エントリーシート」や「SPI」や「面接」、等の採用試験について効果的な対策を講じます。それによって能力ある社会人として必要なコミュニケーション力、読解力、計数能力、論理能力、等を養うことを目的としています。		
教材（テキスト）	適時、指示する。また、適時、DVD 教材や OHC やパソコンを活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（70%）、 ならびに自己 PR やレポート,等の体裁や内容,等の評価（30%）、で判定する。		
到達目標	企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI」や「面接」といった採用試験に対応できるだけの力を付ける。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。
登録において選抜が行われることもある。

講義の順序とポイント

1　ゼミの趣旨説明、自己紹介、履修登録のチェック、キャリアアップ指導。本学の就職状況と就職支援の活動について。
2　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
3　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
4　クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。
　資格について。（インターンシップや留学制度、等の）本学の制度について。
5　履歴書の作成・清書（表面の上半分作成）。自己 PR の作成（作文と校正）(1)
6　自己 PR の作成（作文と校正）(2)
7　自己 PR の作成（作文と校正）(3)
8　自己 PR の作成（作文と校正）(4)
9　天職発見に向けて（1)、筆記試験対策（1)。
10　天職発見に向けて（2)、筆記試験対策（2)。
11　天職発見に向けて（3)、筆記試験対策（3)。
12　天職発見に向けて（4)、筆記試験対策（4)。
13　天職発見に向けて（5)、筆記試験対策（5)。
14　エントリーシートについて。チャレンジショップの説明と見学。
15　来季の履修について。各種アンケート（進路調査,等)。個人面談。

＊ 6 月下旬から 7 月下旬までの間に(来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊ 面談、等が随時行われる場合もある。
＊ 外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ 担当者の専門領域によって順序や内容が若干変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J82020701
科目名	キャリアゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar B		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	江戸時代の遺産と会社制度の普及のなかで活躍した企業家・経営者について学ぶ。		
教材（テキスト）	なし。各自の希望を聞き、それぞれ教材を指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	報告・レポートなどで総合的に評価する。		
到達目標	経営史の基礎知識を習得し、歴史の連続と断絶を理解する。		
準備学習	輪番報告形式であるので、配付資料に目を通し、報告者はレジュメを作成する。		
受講者への要望			
出席は義務である。ただ出席するだけでなく、毎回必ず発言するなど、積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
1.経済発展と企業家 2.江戸時代商家の経営（三井家） 3.ビジネス・リーダーの役割（渋沢栄一･五代友厚） 4.三井財閥と専門経営者（中上川彦次郎･益田孝･団琢磨･池田成彬） 5.三菱財閥（岩崎弥之助･岩崎久弥･岩崎小弥太） 6.在来手工業の革新（波田野鶴吉） 7.都市型産業と西洋風生活（小林一三・鳥井信治郎・福原信三） 8.地方企業からの飛躍（石橋正二郎） 9.電器産業の興隆と家電ブーム（松下幸之助・小平波平） 10.自動車産業の興隆（豊田喜一郎・鮎川義介） 11.町工場から世界企業へ（本田宗一郎・井深大） 12.流通イノベーションの旗手（中内功・鈴木敏文） 13.新サービス産業の開拓者（小倉昌男） 14.京都企業の発展（稲盛和夫・山内博） 15.エネルギー産業（出光佐三）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J82020702
科目名	キャリアゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar B		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	日本の企業経営は大きく変化してきたと言われるが、なぜ変化したのか。どう変化したのか。また、個人個人は自分のキャリアをどう考えて働けばいいのか。 このゼミでは、まず現代の企業や働く人の置かれた状況を把握しすることを目的としている。 ゲームやグループワーク、ディスカッション等を通じて、コミュニケーションスキルやプレゼンテーション能力を高められる方法を取り入れる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	「キャリア支援と人材開発」（川喜多喬他、経営書院）		
教材（その他）	プリント･ビデオ他		
評価方法	授業への参加度や発表（70%）・レポート（30%）		
到達目標	企業と人材の関係を把握し、外部環境分析と内部環境分析のあらましを理解する。 また、グループワークを通し、コミュニケーション能力、企画力、プレゼンテーション能力を高める。		
準備学習	出された課題や、グループでの役割分担によって、準備する。		

受講者への要望

毎回出席するとともに、グループワークに積極的に参加してほしい。
少しでもおもしろいと感じることのできるテーマを見つけて、楽しいゼミにしましょう。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（ゼミの目的と方法）
2. ゼミで取り組むこと（ディスカッション）
3. グループワークの方法①
4. グループワークの方法②
5. ゼミの先輩との意見交換
6. 企業の変化と人材
7. 業界と企業研究
8. 企業見学企画書作り
9. 企業見学に向けての準備
10. 企業見学
11. レポート作成
12. 〃
13. レポート発表
14. 〃
15. 3 回生ゼミに向けての課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J82020703
科目名	キャリアゼミＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar B		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	初めに、パソコンを使ったビジネスゲームをチームごとに分かれて行い、企業経営の一端を体験をしながら、ゼミの雰囲気にも慣れてもらいます。 その後、実在の企業をいくつか取り上げて、その経営戦略を分析します。ケーススタディを中心に、企業の実務で役立つようパソコンを使った分析やプレゼンテーションにも慣れてもらいます。 (1) ケースを読んで、要点をパワーポイントでまとめる。 (2) (1)の内容の裏付けや補足のためのデータを図書館やインターネットで収集し、エクセルを使って分析を行う。 (3) (1)と(2)を基に自分なりの意見をまとめる。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	実際に分析する企業に応じて、参考文献を適宜紹介します。		
教材（その他）	適宜プリントを配付します。		
評価方法	平常点（受講姿勢やグループワークでの貢献度など）50%。レポートおよび発表（50%）。		
到達目標	ケースを読んで、企業の経営戦略をまとめることができる。		
準備学習	ゼミの時間は発表が中心になるので、事前に発表のための調査や資料準備をしておくこと。		

受講者への要望

キャリアゼミＢ、専門ゼミＡ～Ｄは連続して受講することを前提に授業を進めますので、連続して受講することを望みます。
資料調査、分析、グループディスカッション、パソコンでのプレゼンテーション資料作成、発表など、実習が中心となりますので、積極的な参加を求めます。
なお、経営戦略論入門、経営戦略論を事前あるいは本ゼミと併行して履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

キャリアゼミＢ、専門ゼミＡ～Ｄは連続して受講することを前提にしています。キャリアゼミＢはその入門的な位置付けです。
また、毎回の講義の中で一定の時間を割いて、社会での生活や就職活動の際に必要な基礎的な能力を伸ばすための学習も行う予定です。

1. オリエンテーション
2. ビジネスゲームの概要説明、試行
3. ビジネスゲーム実施、結果分析
4. ビジネスゲームについてのまとめ
5. ケースの要点整理
6. ケースの要点整理
7. プレゼンテーション資料作成
8. 中間発表、ディスカッション
9. 中間発表、ディスカッション
10. 情報収集と分析
11. 情報収集と分析
12. プレゼンテーション資料作成
13. 発表、ディスカッション
14. 発表、ディスカッション
15. 発表、ディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J82020704
科目名	キャリアゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar B		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	インターネットに代表される広域ネットワークの普及はわれわれの生活まで変革を迫っている。 高度情報化がすすむつれ、企業にもこれまで以上に迅速な対応を迫られている。 ちょっとした判断の遅れが取り返しのつかないことになる中で、情報システムの高度化とそれへの適応がますます重要なものになってきている。 反面、広域ネットワークの普及によって企業秘密の漏えい、不正なネットワークへの侵入、ネットワークを取り巻く倫理の欠如などの問題が噴出している。 授業概要、ゼミスケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。 その他の特記事項　時間外での相当量の学習、調査を要する。また、ゼミナールの特性上、ノート PC を必須とする。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	8GB 以上の USB メモリ		
評価方法	受講・発表など授業での取り組み 60%、演習課題及びレポート 40%で評価する。		
到達目標	経営における情報システムと情報管理の動向や問題点を整理し、今後の展望を明らかにする。中でも、 1.情報システムの基本を理解する。 2.情報管理の基本を理解する。 ことを重点目標とする。		
準備学習	授業外でのワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションの活発な利用で、コンピュータのビジネス利用のための基礎素養向上のための文字入力トレーニング(学期末に 400 字/10 分)、表作成、文書作成練習を常にしておくこと。		
受講者への要望			
経営、及び情報というものに興味を持ち、自らの積極的な参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
ゼミナールは、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。主として情報システム、情報管理に関わる文献の輪読、そしてパソコンによるプレゼンテーション作成、発表を行っていく。 1.はじめに 2.経営学部で学ぶための基礎(1) 3.経営学部で学ぶための基礎(2) 4.プレゼンテーションソフトの使い方 5.発表レジュメの作成 6.発表レジュメの作成 7.発表 8.発表の評価、修正 9.インターネットを使った情報収集の仕方 10.ノート PC の構成確認 11.アプリケーション環境の構築 12.セキュリティ・アップデート 13.情報携帯の対策 14.移動体通信と固定通信網 15.PC システムとスマートフォン			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J82020705
科目名	キャリアゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar B		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	中小企業や個人事業を対象にした財務の問題を検討する。一般的に、大企業に比較してスモール･ビジネスにおいては資金的な問題によって事業活動が制約されることが多い。事業に必要な資金の調達は、銀行などからの借り入れを中心とした、いわゆる間接金融に大きく依存し、必要なとき必要な額を調達することが困難になっている。これは新規事業に伴う長期的な資金調達にも、日々の営業活動に伴う短期的な運転資金調達においてもあてはまる。 自分で新たにビジネスを始めようとするとき、あるいは従来のビジネスを拡張しようとするときの投資計画および資金調達に生じる問題とその解決策を一緒に考えていきたい。		
教材（テキスト）	開講後、受講生と相談しながら決定する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常の講義への取り組み姿勢(40%)と最終レポート(60%)		
到達目標	企業経営において会計情報の重要性を理解する 事業計画を立案するにあたっての見積損益計算書、貸借対照表、キャッシュ･フロー計算書を作成できる 自分自身の事業計画をプレゼンできる		
準備学習	毎回課題を出すので、準備してくること		
受講者への要望			
毎回きちんと出席すること。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は必ず連絡すること。これは社会人としての常識であり、ゼミ生には、大人として、社会人としての自覚ある行動を身につけていただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 企業経営における会計の重要性 2. 事業計画の立て方 3. 報告と討論(1) 4. ビジネス･モデルとプロフィット･センター 5. ケース･スタディ(1) 6. 損益分岐点の考え方 7. 損益分岐点の応用 8. ケース・スタディ(2) 9. 報告と討論(2) 10. 事業計画の立案と資金計画(1) 11. 事業計画の立案と資金計画(2) 12. 業種による目標値の差異 13. 報告と討論(3) 14. 事業計画書の作成 15. 事業計画案の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★			★	★	★

年度	2015	授業コード	J82020706
科目名	キャリアゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar B		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	キャリアゼミ B ではスポーツマネジメントの導入学習として実施する。スポーツ行動は、本質的には社会との関係性で成立する。環境、文化、経済などの影響を受けながら、人間の営みとして行われるスポーツがこれからも発展し、多くの人の生きがいとなるよう支援をするには ①自らの力で，自主的，自発的なスポーツ活動を進めていく行動力 ②生涯を通じての継続的な活動を進めていくシステム構築力 ③みんなで楽しめるような活動を進めていくリーダーシップ力 ④良い環境を維持していく、行動力や実行力 が必要である。 スポーツを多様な角度から学び、自らが楽しんできたスポーツの素晴らしさを伝え、自身と同じようにスポーツを愛し、楽しめる仲間を増やしていくことで、地域でのスポーツの輪を少しでも広げていくことがスポーツに関わる者に求められる役割である。そのためのノウハウだけでなく、社会の位置づけとしてのスポーツのあり方と進化するスポーツ・スポーツビジネスを学んでいこう。		
教材（テキスト）	毎回プリントを用意する		
教材（参考文献）	江戸川大学スポーツビジネス研究所編著「スポビズガイドブック 08-09」プレジデント社、2008 原田宗彦・小笠原悦子編著「スポーツマネジメント」大修館書店、2008 原田宗彦編著「スポーツ産業論」杏林書院、2007		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	ゼミ内レポートの作成、発表、授業への参加度を総合して評価する		
到達目標	スポーツや健康支援を社会との関連から眺めてみよう。そして、経営的な視点から、スポーツビジネスや地域活動のマネージメントのあり方を探ろう。現実社会のビジネスの在り方とスポーツビジネスを比較し、ビジネスチャンスを模索・提案できるようになろう。		
準備学習	スポーツ関連企業の動向など、毎回事前に指示をするので、次回授業時までに調べておくこと。		
受講者への要望			
授業には積極的に参加し、報告する内容についてはしっかりとした事前準備をすること。			
講義の順序とポイント			
1．　「オリエンテーション」：ゼミ授業の目標と進め方、評価の仕方を説明する。 2．　ビジネスにおける顧客満足とは・発表・レポート作成 3．　レポートの書き方 4．　プレゼンテーションソフトの使い方・発表・レポート作成 5．　プレゼンテーションの作成と発表 6．　スポーツ関連企業の事例研究①　事例企業の選択 7．　スポーツ関連企業の事例研究②　事例を読む 8．　スポーツ以外の企業の事例研究③　事例の発表レジュメの作成 9．　スポーツ以外の企業の事例研究④　事例の発表レジュメの作成 10．スポーツ関連企業と比較研究⑤ 発表 11．スポーツ関連企業と比較研究⑤ 発表 12．企業の規模と経営理念・CSR 活動研究と発表 13．キャリアアップのためのロードマップの作成・発表・レポート作成 14．企業研究・企業が求める人材・発表・レポート作成 15．企業研究・経営規模と経営理念・発表・レポート作成			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J82020707
科目名	キャリアゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar B		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	このゼミでは、企業の事例を読むことによって、経営学の基礎的な知識を学びます。また、コンピュータを使って情報を収集したり、発表したりする知識を身につけます。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。 ビデオ教材、新聞記事等を活用します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（60%）。授業中に課すレポート（40%）。		
到達目標	経営学の基礎知識を理解することを目標とします。 コンピュータを使った情報収集、活用能力を身につけることを目標とします。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおいてください。 企業経営の動向を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持つようにしてください。		

受講者への要望

出席を重視します。欠席・遅刻をしないこと。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　経営学部で学ぶための基礎①
3　経営学部で学ぶための基礎②
4　レポートの書き方①
5　レポートの書き方②
6　企業の事例研究①
　事例企業の選択・グループ分け
7　企業の事例研究②
　事例を読む
8　企業の事例研究③
　事例の発表レジュメの作成
9　企業の事例研究④
　事例の発表レジュメの作成
10　企業の事例研究⑤
　発表
11　情報収集の仕方（新聞記事検索）
12　情報のまとめ方
13　プレゼンテーションソフトの使い方
14　プレゼンテーションソフトを使った発表
15　キャリアゼミ B を通して学んだことの総括

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J82020708
科目名	キャリアゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar B		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	現代社会においては、組織というものがさまざまな形で存在しているが、個人が生活を営んでいく上では、それらの組織との関係を避けて通ることはできないものである。そのなかでも、われわれが生活してゆくうえで、企業という組織は必要不可欠な存在となっている。経営学および経営組織論はその企業を研究の対象としている学問である。 本ゼミナールを履修する者は、3回生の研究ゼミナールⅠ、4回生の研究ゼミナールIIを履修することになるので、積極的に参加することが必要である。 本ゼミナールでは、次年度のゼミナールの基礎となる理論を学習する。まず、企業を取り巻く社会経済的な環境がどのように変化してきたのかということを概観し、その後，経営学の基礎について復習し，経営組織に関する基礎的な研究成果を学習する。これらを検討することによって，企業とはどういうものなのかということを考えることにしたい。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて指示する。		
評価方法	基本的には、平常点（受講中の積極的な発言や理解度の確認のための感想文など）30%、報告内容 40%、学期末のレポート 30%の割合で評価する。 ゼミナールに関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては、評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1.　経営学あるいは経営組織論について初歩的な文献を読むことができる。 2. 上記の文献について、内容を要約することができる。 3. 上記の文献について、2000 字程度のレポートを書くことができる。 4. 上記のレポートについて、人前で発表することができる。		
準備学習	1. 受講者は、次回の講義で扱う内容（配布資料・指定された文献）を読み、報告者に対する質問を考えておく。 2. 報告者は、自分が担当する部分をまとめて、報告用のプリントを準備しておく。 3. 受講者は、前回の内容を復習しておく。		

受講者への要望

1．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
2．ゼミナールへの積極的な参加を望む。
3．必ず出席すること。（遅刻・欠席については厳しく対処する。）
4．講義は主として学生による報告，質疑および議論によって行うため、毎回事前の学習が必要である。
5．研究ゼミナールⅠ（宮田担当）を希望する者は、キャリアゼミ B（宮田担当）を受講していることが望ましい。

講義の順序とポイント

講義は主として学生による報告，質疑および議論によって行う。具体的には，経営学および経営組織論に関する初歩的なテキストに基づき，学生の１人（あるいはグループ）がそのテキストの一定部分を担当し，資料を作成して報告する。その後，質疑や議論を行うことによって理解を深める。これを順番に行っていく。受講者全員の積極的な参加を期待する。
基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，初回の講義で報告者を割り当て，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
さらに、毎回の講義の中で一定の時間を割いて、社会での生活や就職活動の際に必要な基礎的な能力を伸ばすための学習も行う予定である。

1. オリエンテーション
2. 日本の経済発展①
3. 日本の経済発展②
4. 日本の経済発展③
5. 経営学入門①
6. 経営学入門②
7. 経営学入門③
8. 経営学入門④
9. 経営学における組織論の展開

10. 組織における個人の行動①
11. 組織における個人の行動②
12. 組織における個人の行動③
13. 各自興味のある理論についてのレポート作成
14. 各自興味のある理論についてのレポート発表
15. レポートに関する議論とキャリアゼミ B を通して学んだことの総括

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	J82020709
科目名	キャリアゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar B		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本ゼミナールでは、スポーツの市場で起きている現象をマーケティング論で理解するために、各市場の売上高と営業利益率の関係を討議する。具体的には、①マーケティング論では売上高と営業利益率がどのような関係にあると言われているのか、テキストを輪読して確認し、②本当にテキストの通りの関係になっているのかをスポーツ用品市場を例に調べ、③なぜ②の結果が生じたのか、仮説を報告しあう。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	特に定めない。		
教材（その他）	適宜指示する。		
評価方法	演習内調査（50%）、演習内報告（50%）		
到達目標	マーケティング現象を説明するための仮説を作ることができる		
準備学習	相関分析と回帰分析の行い方を復習しておくこと。 講義終了時に、相関分析および回帰分析が行えるデータを配布する。各自、指示のあった作業を次回までに予習しておくこと。なお、講義内では前回の講義範囲に関連する小試験を課す。復習をしておくこと。		

受講者への要望

担当箇所を割り振るので無断欠席は厳禁。
なお、課外の活動も予定しているので、時間に余裕のある人の受講が望ましい。

講義の順序とポイント

1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2.「レジュメの作り方」：報告書の作り方を解説する
3.「テキスト輪読 1」：担当者がレジュメで内容を報告する
4.「テキスト輪読 2」：担当者がレジュメで内容を報告する
5.「テキスト輪読 3」：担当者がレジュメで内容を報告する
6.「テキスト輪読 4」：担当者がレジュメで内容を報告する
7.「リサーチ 1」：全員が売上高と利益率を調べる
8.「リサーチ 2」：全員が売上高と利益率を調べる
9.「リサーチ 3」：全員が売上高と利益率を調べる
10.「リサーチ 4」：全員が売上高と利益率を調べる
11.「リサーチ結果の報告」：全員で売上高と利益率の関係を確認する
12.「結果を説明する仮説の報告 1」：担当者がレジュメで仮説を報告する
13.「結果を説明する仮説の報告 2」：担当者がレジュメで仮説を報告する
14.「結果を説明する仮説の報告 3」：担当者がレジュメで仮説を報告する
15.「最終討議」：これまでの結果から討議を行う

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		★★

年度	2015	授業コード	J82020710
科目名	キャリアゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar B		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	本格的な就職活動に入る前の 2 回生秋学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を説明し、「エントリーシート」や「SPI」や「面接」などの採用試験について効果的な対策を講じます。 　それによって能力ある社会人として必要なコミュニケーション力、読解力、計数能力、論理思考能力等を養うことを目的とします。		
教材（テキスト）	適時、指示する。また、適時、DVD 教材や OHC やパソコンを活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	平常点（授業態度等）70% 課題・宿題 30%により評価する。		
到達目標	「エントリーシート」や「SPI」や「面接」といった採用試験に対応できるだけの力を付ける。		
準備学習	Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。		
受講者への要望			
遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション 2　内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験や資格について。 3　本学の就職状況と就職支援の活動について 4　書の作成・清書（表面上半分の作成） 5　自己 PR の作成（作文と校正） 6　自己 PR の作成（作文と校正） 7　人材開発プログラムの説明と実施(1) 8　人材開発プログラムの説明と実施(2) 9　人材開発プログラムの説明と実施(3) １０　適職発見に向けて（1)、筆記試験対策（1） １１　適職発見に向けて（2)、筆記試験対策（2） １２　適職発見に向けて（3)、筆記試験対策（3） １３　適職発見に向けて（4)、筆記試験対策（4） 14　各種アンケート（進路調査,等)。個人面談 １５　各種アンケート（進路調査,等)。個人面談			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	J85000101
科目名	チャレンジショップ入門A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J85000102
科目名	チャレンジショップ入門A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J85000103
科目名	チャレンジショップ入門A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J85000201
科目名	チャレンジショップ入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J85000202
科目名	チャレンジショップ入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J85000203
科目名	チャレンジショップ入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J85000301
科目名	会計学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業の経営活動を数値で表そうとするとき、その記帳は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として 「企業の成績表」ともいえる「決算書」(財務諸表)が作成される。したがって、こうした簿記技法とその背景に ある会計理論は、企業経営にとっての必須事項となっている。 （2）経理事務がコンピュータ化されている今日においても、取引情報をインプットするのは人間の手であり、又、 アウトプットされた会計情報を読み解くのも人間の頭によらざるを得ない。簿記・会計の知識が組織経営に とって極めて重要である理由は、ここにある。 （3）このような観点から、本講義では、簿記・会計を初めて学ぶ者を対象として、企業経営に役立つ会計情報の 意義と決算書の内容、そして会計の応用分野について、出来るだけ分かり易く解説する。将来的なビジネス 対応を念頭に置き、積極的な関心を持って受講していただきたい。		
教材（テキスト）	明神信夫・笹倉淳史・水野一朗 編著 『アカウンティング―現代会計入門―【四訂版】』 同文舘出版、￥2,500		
教材（参考文献）	（1）弘兼憲史 著 『知識ゼロからの決算書の読み方』 幻冬舎　￥1,300 （2）大阪商工会議所編 『ビジネス会計検定試験 公式テキスト３級【第２版】』 中央経済社 ￥1,500		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	原則として、平素の受講状況等(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。 （2）組織活動の財・サービスを計数的に測定・伝達するシステムの基本が理解できる。 （3）経済的意思決定に対する会計情報の有用性が理解できる。		
準備学習	（1）講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト個所を、事前に解読して準備しておくこと。 （2）配布する私製アンケート「Minute Paper」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。		

受講者への要望

（1）まずは、会計学の専門用語に慣れることが肝心であり、関連する箇所を予習して講義に臨むように希望する。
（2）本講義内容は、経営学部での学習にとって非常に有益なものとなろう。
（3）遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎるような場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得る。

1．講義の展開予定と評価、簿記と会計
2．会計の役立ち
3．会計情報の内容
4．会計情報の開示＝制度会計におけるディスクロージャー＝
5．会計情報の読み方（1）＝経営分析と収益性分析＝
6．会計情報の読み方（2）＝安全性分析と成長性分析＝
7．会計情報の信頼性＝会計監査＝
8．会計情報の作り方（1）＝簿記及び会計の基本ルール＝
9．会計情報の作り方（2）＝連結財務諸表の作成＝
10．会計情報と原価管理＝原価計算＝
11．会計情報と利益管理＝管理会計＝
12．会計情報と税務＝税務会計＝
13．会計情報と国際化＝国際会計＝
14．会計情報と環境＝環境会計＝

１５．　会計学の展望と資格

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J85000401
科目名	商学	単位数	2
科目名（英語表記）	Business and Commerce		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	日本経済において流通・商業がになう役割は、年々その重要性を増しており、これらを研究対象とする商学も分化と進化を遂げている。このため商学の学問領域についての通説はなく、学際的に幅広く論じられているのが現状である。このような認識を踏まえ、商業において中心的役割を果たす小売機構・機関を中心として、一般的に論じられている流通・商業に関する社会経済的視点および流通・商業をになう企業における経営論に関する視点からの理解を進めるとともに、日本商工会議所・全国商工会連合会が実施する「販売士検定」にかかる基礎知識の習得にも資する講義を通して、実際の商業経営におけるマーチャンダイジング、ストアーオペレーション等についての理解も進める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	講義内容についてのプリントを配布する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、試験 50%		
到達目標	商学における総論的な知識習得はもとより、各論として、商店経営における実務に関する知識・スキルの習得をも目標とする。また将来の進路として、流通・商業を目指す受講生については、社会・企業においても活用可能な、実践的知識ス・キルの習得を目指す。		
準備学習	日頃から商業に興味を持つとともに、日経 MJ などの購読により、商業に関する情報の収集に努められたい。		
受講者への要望			
真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　商学の研究対象としての流通・商業 3　商学への接近①（流通・商業・マーケティング） 4　②（伝統的・近代的接近方法） 5　商業の発展 6　商業を担う卸売機構および小売機構 7　卸売機構の現状と課題 8　小売機構①現状と課題 9　②業態発展理論 10　業態別小売機関～百貨店・スーパーマーケット・コンビニエンスストア・専門店・中小商店など 11　商圏と商業集積の考察　①　商店街 12　②　ショッピングセンター 13　商業の実際　①　マーチャンダイジング 14　②　ストアーオペレーション 15　商業と商学の展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J85000501
科目名	事業構想概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Design		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	経営に必要な要件は大きく変化してきている。経済社会の変化を素早く察知できる感受性、新しいニーズを具体化する技術力、市場に的確にアピールできるマーケティング力、自由な発想と柔軟な行動をシステム化できるマネジメント力、そしてリスクに敢然と挑戦する企業家(起業家）精神が求められるようになった。 新たな事業構想が求められるが、事業構想の全体像を把握しようといった講義科目はみられなかった。そこで、事業構想の基本的な理念から具体的な実践活動のあり方まで幅広く取り上げていきたい。革新的な事業構想を策定しても、現実には実際の経営活動に結び付かない場合も少なくない。それぞれの企業が置かれている環境は異なり、活動領域や提供する財・サービスも個別化しているからである。「いかに」ではなく「何を、何のために」事業構想を策定するのか、企業をめぐる環境の根底にある本質を見抜くことが必要なのである。激しく変化する経営環境のなかで、的確な事業構想をどのように考えていけば良いのか、基本的な問題を明らかにしていきたい。		
教材（テキスト）	梅木晃、井形浩治編著　『事業構想と経営』嵯峨野書院		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	随時プリントを配付する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	経営においてその質が問われる時代を迎え、あらゆる分野で事業構想の立案力が求められている。その根底には、イノベーション力とその源泉となる起業家精神の涵養があると考える。 この講座を通じて構想力、革新力、創造力についての基本と原則に関する知識を身に付けることを目標としたい。		
準備学習	事業構想には知識はもとより感性が必要とされることが多い。感性を磨くためには,単に大学における学習のみならず幅広い日常生活における体験が求められる。このため身の回りにおいて起こるすべてのことに対し、関心と問題意識を持って授業に望まれたい。 また教科書、配布資料などについては事前に熟読するとともに、適宜実施するレポート作成のため、復習にも心がけられたい。		
受講者への要望			
受講マナーを守り、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　経営をめぐる環境の変化 3　事業構想の概念・構想策定の視点 3　事業構想とアントレプレナー 4　事業構想における現状認識 5　事業構想策定に関する要件 6　アントレプレナーの資質と役割 7　事業構想（起業）プロセスの基本 8　事業機会の認識・経営資源の調達・ビジネスシステムの構築 9　構想策定と経営とのインターフェイス 10　事業構想策定のプロセス 11　構想と経営認識（創造力・効率性・リスクの回避・リーダーシップ） 12　戦略的コスト・リスク・市場への対応 13　具体的な事業構想の手順 と事業構想の評価 14　日本の公的創業支援制度 15　これからの事業構想へ向けて			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J85000601
科目名	女性企業家講座	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	ビジネスの第一線で活躍する女性企業家を講師にお迎えして、今の仕事につくまでの体験やキャリア形成等についての講義を行っていただきます。どのようにして起業したのか、どのようにしてトップになったのか、管理職の仕事とは何か等を聞くこと通じて、自らのキャリアをデザインし、就職力を向上させることを目指します。		
教材（テキスト）	未定		
教材（参考文献）	未定		
教材（その他）	メモ用紙を持参し、質問したいことなどをメモしてください。		
評価方法	各回の講義内容についての感想文（100％）。		
到達目標	経営の現場の知識を学び、新しいものの見方を身につける。 自分らしいキャリアをデザインするための知識を習得する。		
準備学習	各講師の所属されている会社のホームページなどを読み、予備知識をもって受講してください。		

受講者への要望

企業等から講師をお招きするため、遅刻、私語、居眠りは厳禁。マナーを守れない学生は受講を控えてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 女性企業家を取り巻く環境
3. (4 /28) 松田 直子様 （株式会社 Hibana 代表取締役）
4. (5/12) 未定
5. (5/19) 未定
6. まとめと予習
7. (6/2) いしい 佳子様 （関西女性起業家研究会 、 Office・苑 代表）
8. (6/9) 吉川 和美様 （公認会計士、有限責任監査法人トーマツ/トーマツベンチャーサポート株式会）
9. (6/16) 未定
10. まとめと予習
11. (6/30) 未定
12. (7/7) 福本 アユ子様（星光メンテナンス株式会社 代表取締役）
13. (7/14) 浦中 順子様 （花プラス株式会社 代表取締役）
14. (7/21) 神戸 貴子様 （ビューテイスタジオ フェリス オーナー）
15. 女性企業家講座を通して学んだことの総括

講師の都合などにより変更になる可能性があります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	J85000701
科目名	経営戦略論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考文献）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
講義の順序とポイント			
1 はじめに 2 ポジショニング戦略と競争戦略 3 ポジショニング戦略と競争戦略 2 4 ポイントカード 5 価格戦略 6 価格戦略 2 7 経営と数字 8 事例研究：餃子の王将とサイゼリヤ 9 ビジネスモデル 10 顧客囲い込み 11 デファクトスタンダード 12 株式会社 13 M&A 14 日本型経営 15 日本型経営 2 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J85000901
科目名	民法総則	単位数	2
科目名（英語表記）	General Principles of Civil Law		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法全体に共通するルールである民法第 1 編「総則」の内容をおおむね条文配列の順序で学習する。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン民法総則〔第 2 版〕』（日本評論社、2011 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。出席状況、講義中の質問への応答、小テストの結果等を補充的に考慮する。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	1．民法総則の主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 2．民法総則の主要論点に関する学説・判例を理解する。 3．民法全体を体系的に理解するための基礎を形成する。		
準備学習	1．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 2．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 3．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		

受講者への要望

民法総則は民法以外の法分野においても思考方法や制度の基礎となっており、最重要科目のひとつですが、内容が極めて抽象的であるため、難解、退屈といった印象を受ける受講者も多いと思います。最初のうちは我慢も必要です。粘り強く学習を進めてゆきましょう。当然のことですが、受講に際しては必ず「六法」を持参すること。

講義の順序とポイント

1．　受講にあたっての注意／民法とは／民法の法体系における位置／民法の構造
2．　権利の主体（1）　権利能力／意思能力
3．　権利の主体（2）　行為能力／未成年者／成年後見制度
4．　権利の主体（3）　法人
5．　法律行為　法律行為とは何か／強行法規違反・公序良俗違反
6．　不完全な意思表示（1）　心裡留保／虚偽表示／錯誤
7．　不完全な意思表示（2）　詐欺／強迫
8．　無効と取消し
9．　代理（1）　代理権
10．代理（2）　無権代理
11．代理（3）　表見代理
12．時効（1）　時効の意義・存在理由／取得時効
13．時効（2）　消滅時効／時効の中断・停止
14．時効（3）　時効の効力／時効と除斥期間
15．練習問題を通じた総復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J85001001
科目名	契約・不法行為法	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法第 3 編のうち、債権発生原因である契約および不法行為を中心に学習する。順序としては、契約一般に共通するルール（契約総則）をみた後に、各種の契約の中でもとくに重要なもの（売買・賃貸借など）を扱い、最後に不法行為法を概観する。講義にあたっては具体的な事例を適宜紹介して理解を助けるように努める。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン債権法〔第 5 版〕』（日本評論社、2010 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。出席状況、講義中の質問への応答、小テストの結果等を補充的に考慮する。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	1．契約および不法行為に関する主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 2．主要論点に関する判例・学説を理解する。 3．具体的な事例に条文を当てはめ、解決することができる。		
準備学習	1．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 2．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 3．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		

受講者への要望

民法は全体として密接に関連しているので、民法 I（総則）、民法 III（債権総論）などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。また、受講に際しては必ず「六法」を持参すること。

講義の順序とポイント

1．　受講にあたっての注意／契約・不法行為法序説
2．　契約の成立
3．　契約の効力（1）同時履行の抗弁権
4．　契約の効力（2）危険負担
5．　契約の解除
6．　契約総則の復習（練習問題）
7．　売買（1）
8．　売買（2）売主の担保責任
9．　贈与
10．賃貸借（1）
11．賃貸借（2）
12．不動産賃貸借～借地借家法
13．その他の典型契約
14．不法行為（1）
15．不法行為（2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86010101
科目名	経営組織論	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Organization Theory		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	組織とは、なんらかの目的のために形成されるものであるが、個人はそのような組織を自ら形成したり、あるいはすでに形成されている組織に自らの主体的な意思決定で入ったりするものである。現代社会においては、このような組織がさまざまな形で存在しているが、個人が生活を営んでいく上では、これらの組織との関係を避けて通ることはできない。したがって、個人がより良く生きていくためには、組織というものを理解することが不可欠なのである。 経営組織論は、そのような組織の中でも、我々の日常生活に密接な関わりを持つ企業組織を研究対象としているものであるが、まず組織の特徴と組織における個人に関して基本的な点を理解し、その後、アメリカとドイツにおいて経営組織論がどのように生成し、展開されてきたのかということを検討する。そのことによって、現実の組織の諸問題を解明していきたいと考えている。また、本講義を通して、企業組織に参加する自分をイメージしてもらい、現代社会を生き抜いていくための基礎力が養われれば幸いである。		
教材（テキスト）	基本的に教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。		
教材（参考文献）	バーナード著，山本安次郎 / 田杉競 / 飯野春樹訳『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社，1968 年。 その他，必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントやレジュメをを配布する。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで 1 度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. 春学期の「経営組織論Ⅰ」で学んだことをさらに深く理解し、「個人の立場」と「組織の立場」がどのようなものであるのかを簡単に説明することができる。 2. 経営組織論の歴史的な変遷を理解する。 3. アメリカの経営組織論とドイツの経営組織論との違いを理解する。		
準備学習	1. 次の講義内容（シラバスに掲載しているとおりであるが、講義終了時にも指示する。）について図書館等で予め調べ、それに関する文献を探してその部分を熟読しておく。たとえば第 3 回目の講義がはじまるまでに、「科学的管理法」について図書館で文献をさがし、その内容が書かれている部分を熟読しておく。 2. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 3. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 4. 日常においける組織の諸問題に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講者への要望

1．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
2．講義への積極的な参加を望む。

講義の順序とポイント

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

1. オリエンテーション
2. 経営学における組織論の展開
3. アメリカにおける組織論の流れ① - 科学的管理法 -
4. アメリカにおける組織論の流れ② - 管理過程学派 -
5. アメリカにおける組織論の流れ③ - 人間関係論 -
6. アメリカにおける組織論の流れ④ - バーナードの近代組織論① -
7. アメリカにおける組織論の流れ⑤ - バーナードの近代組織論② -
8. 前半のまとめと理解度の確認 （小テストを予定）
9. アメリカにおける組織論の流れ⑥ - バーナードの近代組織論③-
10. アメリカにおける組織論の流れ⑦ - その他の動向① -
11. アメリカにおける組織論の流れ⑧ - その他の動向② -
12. ドイツにおける組織論① - ニックリッシュの組織論 -
13. ドイツにおける組織論② - グーテンベルクの組織論 -

14. ドイツにおける組織論③ - その他の動向 -
15. 経営組織論の講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	J86010201
科目名	経営戦略論	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Strategy		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考文献）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
講義の順序とポイント			
1 はじめに 2 成長マトリックス 3 多角化戦略 4 多角化戦略 2 5 選択と集中 6 ブランド戦略 7 ブランド戦略 2 8 PPM 9 PPM2 10 事例研究：アシックス 11 組織と戦略 12 組織と戦略 2 13 事例研究：デジカメ 14 ソリューションビジネス 15 経営者とは 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J86010401
科目名	マーケティング論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本講義は、マーケティングを理解するための基礎理論を、事例を紹介しながら解説する。より具体的には、①マーケティングの概念および②4P's を解説する。その主たる問いは、①なぜ世の中にマーケティングがあるのかであり、②マーケティングの仕事とは何なのかである。 マーケティングは商品を売るための万能の道具ではないけれども、複雑なビジネス社会を整理するには有用である。しかし、有用と感じるためには自分の頭で考えることが必要となる。このために、本講義は主として板書形式をとる。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略　新版』有斐閣 2008　1,995 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	講義内小試験（40%）、講義内中試験（20%）、講義内大試験（40%）		
到達目標	受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 ①マーケティングの機能を説明することができる。 ②実際のマーケティングに興味を抱く。		
準備学習	講義終了時に、参考文献における次回の講義範囲を示す。指示のあった範囲を次回までに熟読しておくこと。なお、講義内では前回の講義範囲に関連する小試験を課す。復習をしておくこと。		
受講者への要望			
私語は厳禁。			
講義の順序とポイント			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2.「分析視座」：簡単なゲームから、マーケティングを理解するための視座を解説する 3.「マーケティング概念 1」：なぜマーケティングが誕生したのかを解説する 4.「マーケティング概念 2」：なぜマーケティングが必要とされ続けるのかを解説する 5.「中間総括」：マーケティング概念を総括する 6.「4P's　1　製品の理論」：製品とマーケティングの関係を理論的に解説する 7.「4P's　2　製品の事例」：事例を用いて製品とマーケティングの関係を解説する 8.「4P's　3　価格の理論」：価格とマーケティングの関係を理論的に解説する 9.「4P's　4　価格の事例」：事例を用いて価格とマーケティングの関係を解説する 10.「4P's　5　販売促進の理論」：販売促進とマーケティングの関係を理論的に解説する 11.「4P's　6　販売促進の事例」：事例を用いて販促とマーケティングの関係を解説する 12.「4P's　7　流通の理論」：流通とマーケティングの関係を理論的に解説する 13.「4P's　8　流通の事例」：事例を用いて流通とマーケティングの関係を解説する 14.「マーケティング論の展望」：これまでの講義を総括し、今後の展望を解説する 15.「講義の限界」：講義の限界を示し、今後の展望を解説する		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J86010501
科目名	経営学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Management Theories		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	学説の流れを学ぶことを通して、いかなる経営課題に対して先人はどのように取り組んだかを理解する。経営学は課題解決に必要とされる知識を様々な学問領域から借用しており、経営課題によって、その課題の解決に向けて採択されるアプローチは異なってくる。よって、この講義においては、多角的視点の涵養と温故知新につながると捉えている。		
教材（テキスト）	なし。プリントを適時配布する。　DVD 教材や OHC を活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	中間課題・宿題（45%）と期末課題・宿題（45%）、 および講義内小テストや感想文、等により評価する（10%）。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊多角的な視点で事象を分析することができる。		
準備学習	＊毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくべきかを指示するので、熟読しておくこと。 ＊課題・宿題（問題集）を手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		

受講者への要望

＊経営学総論の単位を取得している方が望ましい。
＊遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
＊配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。

講義の順序とポイント

1.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。（テイラー、フォード、ファヨール、クーンツ、労働組合、等）
2.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。
3.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。（メイヨー、レスリスバーガー、等）
4.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。
5.近代管理論、協働システム、誘因―貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。（バーナード、サイモン、マーチ、サイアート、オルセン、等）　　中間課題 について。
6.近代管理論、協働システム、誘因―貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。
7.ドイツ経営経済学、方法論争、私経済学、規範的経営経済学、技術論的経営経済学、経営共同決定法、意思決定、等。（ワイヤーマン、シェーニッツ、ブレンターノ、シュマーレンバッハ、グーデンベルグ、ニックリッシュ、フィッシャー、等）
8.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、職務再設計、期待理論、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、等。（マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等）
9.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、職務再設計、期待理論、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、等。（マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等）
10.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。（ウッドワード、バーンズ、ストーカー、ローレンス、ローシュ、等）
11.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。
12.日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。
13.日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。　　期末課題について。
14.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。（チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーグ、BCG、ポーター、ハメル、プラハラード、等）
15.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J86010701
科目名	人的資源管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Resources Management		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	人的資源管理[HRM(Human Resources Management)]というコンセプトはアメリカで生まれた。人事管理[PM（Personnel Management）]と HRM の相違については未だ同意は築かれてはいないが、広範囲にわたる論点を含みつつ、もはや PM という用語を見ることはできないほど HRM という用語は浸透している。 　経営戦略と人材管理･開発の制度や実践との適合性が考察される場合もあれば、能力や知識とは何か,それらをどのように測定し,育むか,等の観点からの論文もある。はたまた、外部労働市場の動向に焦点を合わせる研究もある。これらをできるだけ分かり易く解説することを通して、また受講者のキャリア設計に役立つように進めていくことによって、人財という財宝に向けて講義していきたい。		
教材（テキスト）	青井 倫一,監修『通勤大学 MBA〈6〉ヒューマンリソース』総合法令出版,2002。 適時プリントを配布する。 ビデオ教材やパワーポイントまたは OHC を活用する。		
教材（参考文献）	適時,指示する。		
教材（その他）	適時,指示する。		
評価方法	中間課題・宿題（45%）と期末課題・宿題（45%）、 および講義内小テストや感想文、等により評価する（10%）。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを『人』と関連付けて理解できる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊多角的な視点で事象を分析することができる。		
準備学習	＊毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくべきかを指示するので、熟読しておくこと。 ＊課題・宿題（問題集）を手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		
受講者への要望			
遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。			
講義の順序とポイント			
1)受講・学習・評価の仕方について。人生の大半を何らかの仕事に費やす…HRM を学ぶ重要性について。Taylor の科学的管理法から人事管理論への展開について。人事管理論から HRM になるに至った理由…ドラッカーと人間関係論を用いて…。 2)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]①：コース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、勤務地限定制度、非正規社員、労働時間、従業員持株制、ストックオプション、成果主義、労働基準法と関わり、等について。 3)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]②：コース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、勤務地限定制度、非正規社員、労働時間、従業員持株制、ストックオプション、成果主義、労働基準法と関わり、等について。 4)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]③：コース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、勤務地限定制度、非正規社員、労働時間、従業員持株制、ストックオプション、成果主義、労働基準法と関わり、等について。中間課題の告知・説明。 5)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]④：国民年金、厚生年金、厚生年金基金、健康保険料、介護保険料、厚生年金保険料、児童手当拠出金、労災保険料、雇用保険料,等について。中間課題の告知・説明。 6)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]⑤：国民年金、厚生年金、厚生年金基金、健康保険料、介護保険料、厚生年金保険料、児童手当拠出金、労災保険料、雇用保険料,等について。中間課題の告知・説明。 7)若年労働市場の現状と課題①:文系と理系、大企業志向、ブラック企業、就職率,離職率,失業率、フリーター,ニート、等について。 8)若年労働市場の現状と課題②:文系と理系、大企業志向、ブラック企業、就職率,離職率,失業率、フリーター,ニート、等について。 9)上記における課題解決に向けて①…モチベーション理論、欲求階層説、X-Y 理論、動機付け―衛生理論、連結ピン、システム 4、等（研究者：マズロー、アージリス、マグレガー、ハーズバーグ、リッカート、等)を中心にして。 10)上記における課題解決に向けて②…組織開発論、マネジリアル･グリッド、ソシオ＝テクニカル・システム論、タビストック研究所、チームコンセプト、等（研究者：ブレーク、ムートン、トリスト、ライス、エメリー、等）を中心にして。 11)上記における課題解決に向けて③…期待理論(研究者：ブルーム、ポーター＆ローラーⅢ）を中心にして。 12)上記における課題解決に向けて④…人は資源か、費用か？経営戦略と HRM の関係①：戦略の定義に関する議論（研究者：アンゾフ、チャンドラー、ミンツバーグ)、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（研究機関：BCG)、等を中心にして。期末課		

題の告知・説明。
13)上記における課題解決に向けて⑤…経営戦略と HRM の関係②：ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論,等（研究者：ポーター、ハメル＆プラハラード,等）を中心にして。 期末課題の告知・説明。
14)上記における課題解決に向けて⑥…経営戦略と HRM の関係③：知識創造の理論、暗黙知と形式知、HR アーキテクチャー、コンピテンシー、ナレッジマネジメント,等（研究者：野中、竹内、Lepak & Snell 、Quinn,等）を中心にして。 期末課題の告知・説明。
15)資格と HRM, 情報戦争と就職活動, これからの HRM について。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	J86010801
科目名	広告広報論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Advertising and Public Relat		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	企業や行政、団体や NPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPO の広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008 年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート（２回程度)、定期テスト（６０%）		
到達目標	日常生活でふれるさまざまな広告・広報について、消費者としてだけでなく、企業や行政など発信主体の立場から、マーケティングやコミュニケーション戦略の一環としてとらえられるようにする。		
準備学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		

受講者への要望

CM や広告を眺めることに労力はいらないが、送り手の立場に立ち、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦労のいることである。授業ではその双方の立場に立ち、さまざまな広告表現を読み解き、批評し、ビジネスの主体の立場を想定しつつ自ら構想する努力が求められよう。

講義の順序とポイント

第 1 回　開講にあたって
第 2 回　広告広報とは何か？　マス・コミュニケーションのさまざまな発信主体
第 3 回　広告の定義／その類似概念（宣伝／広告／PR／パブリシティ）
第 4 回　宣伝（プロパガンダ）と広告
第 5 回　宣伝とメディア・リテラシー／授業内レポート
第 6 回　宣伝・広報の媒体（１）：人にふれるもの、すべてがメディアになる
第 7 回　宣伝・広報の媒体（２）：放送メディア／印刷メディア
第 8 回　宣伝・広報の媒体（３）：インターネットほか
第 9 回　ブランド商品の誕生と広告
第 10 回　市場情報システムとしての広告：市場情報のコストは誰が負担するか？
第 11 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（１）コカ・コーラ CM 等
第 12 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（２）ビール類 CM 等
第 13 回　広告広報のキャンペーンはこんなふうに展開される：日清食品・カップヌードル CM 等
第 14 回　授業内レポート
第 15 回　今後の課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J86010901
科目名	国際経営論	単位数	2
科目名（英語表記）	International Management		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	グローバリゼーション（地球規模化）という言葉が使われだして久しい。企業の活動や観光、はたまた犯罪などさまざまな側面での「国際化」も日常のことになっている。環境・地球温暖化問題・エネルギー問題など、まさに地球規模の問題である。このような中で、われわれは諸外国のことをどれだけ知っているだろうか。 なるほどわが国には明治以降、欧米のことはよく紹介されてきた。しかし、たとえばわが国に最も近い韓国について、あるいは中国について、われわれはどれだけ知っているだろうか。欧米に関しても、明治以降の変化はあるし、現象の底に何があるのかは簡単には説明しにくい。 そこで「国際経営論」ではまず、経済や企業行動を中心におきながら欧米とアジア（特に中国文化圏）との比較をしてみたい。今こうなっているというだけでなく、それぞれの文化的・歴史的・地理的背景からの因果関連の分析をしていきたい。 非常に多面的な講義になると思うが、ビデオやスライドなど、ビジュアルな教材を多用し、楽しく講義したいと思っている。		
教材（テキスト）	長谷川正著『東アジアの企業経営と歴史』（森山書店・2012 年）		
教材（参考文献）	上記教科書を補う教材としては、ホームページ「http://hasegawa02.nukimi.com/」上に資料をアップロード　しておきます。 ・トップページの中の「講義用資料」→「国際経営論」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリ　　ントアウトし、目を通しておいて下さい。 ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第 1 回目の講義で言います。 ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかり聴いて穴埋めしてください。 ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくと便利です。		
教材（その他）	そのつど、指示します。		
評価方法	ほとんど毎回行う小テスト　20% 期末試験　80%		
到達目標	世界の、および各国の状況把握力、論理的分析力、実行力、生涯学習力の達成		
準備学習	教科書の該当箇所を読んでおくことと上記ホームページ上の資料に目を通しておくこと。		

受講者への要望

・私語は禁止する。場合によっては、他の受講者の迷惑を考え退場を命じる。
・ビデオやスライド等ビジュアルな資料も効果的に使う予定なので、むやみに欠席しないこと。

講義の順序とポイント

０１．はじめに、講義のテーマと進め方
０２．資本主義の精神
０３．プロテスタンティズムの倫理
０４．欧米の経済発展　①科学技術の発展
０５．欧米の経済発展　②大衆消費社会の到来
０６．現代中国の企業経営
０７．マックス・ヴェーバーの中国論
０８．秦の始皇帝　①中央集権体制の成立
０９．秦の始皇帝　②清朝の崩壊と漢の時代
１０．儒教と道教
１１．絵で見る台湾
１２．台湾の歴史　①オランダ支配から日治時代

１３．台湾の歴史　②国民党支配以降
１４．台湾の企業
１５．香港の歴史と企業

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J86011301
科目名	会社法 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law A		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社法は、現代資本主義社会に不可欠な存在である、企業形態のひとつである会社に関する法律である。 会社法 A では、企業・会社の諸形態、設立、資金調達(コーポレート・ファイナンス)の一場面としての株式・社債に関する規制などを扱う。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.205・会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年）。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、総論・会社の設立・資金調達等に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 会社の法的性質 3. 会社の種類 4. 会社法の総則規定 5. 株主の有限責任と資本制度 6. 株式会社の設立 7. 株式の意義、株主の権利 8. 株式の内容と種類 9. 株主名簿、株式の譲渡 10. 株式の消却・併合・分割等 11. 株式会社の資金調達 12. 募集株式の発行 13. 株式発行の瑕疵 14. 新株予約権 15. 社債			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J86011401
科目名	会社法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law B		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	現代社会において、一定規模以上の重要な取引を担うのは個人ではなく、共同企業形態としての会社であり、特に株式会社が重要なのは言うまでもない。この講義では、株主総会・取締役・取締役会・代表取締役・監査役会・会計監査人など、会社の機関（コーポレート・ガバナンス）について、大規模株式会社を念頭に、基本的な枠組みを講義する。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.205・会社法判例百選　第２版』（有斐閣、2011 年）。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。期末定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、株式会社の機関（コーポレート・ガバナンス）に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．株式会社の機関設計 ３．株主総会の権限・招集 ４．株主総会の議事・決議 ５．取締役 ６．取締役の義務 ７．取締役会 ８．代表取締役 ９．監査役・監査役会 １０．会計監査人 １１．委員会設置会社 １２．役員等の責任 １３．株主代表訴訟 １４．計算 １５．合併・会社分割			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J86011501
科目名	債権法	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Obligations		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	民法Ⅲ（債権総論）
講義概要	民法典の第３編「債権」中、第１章「総則」の内容を取り上げる。		
教材（テキスト）	野村 豊弘ほか『民法（3）債権総論』（有斐閣）　《有斐閣Ｓシリーズ》		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276		
教材（その他）	講義中にプロジェクターで表示するものを「京学なび」にて配付します。事前にプリントして持参して下さい。		
評価方法	期末試験の評価に従う。		
到達目標	契約法の基本を押さえる。		
準備学習	・事前に配付資料を一読すること ・講義の前後に教科書の該当部分に目を通すこと。 ・不明な法律用語は、参考文献に掲げた用語辞典で意味を調べ、レジュメ等にメモしておくこと。 以上のことが行われているかは、講義の要所要所に確認する。		

受講者への要望

・内容が抽象的で非常に難解であるため、主体的な学習が求められ、自らも理解しようと必死で努めることが必要である。
・成績評価は期末試験の評価に従うが、講義への出席なしには理解が難しいと思われる。出席しない者は、登録しないこと。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

第１回　債権総論を学ぶにあたって; 債権の目的と種類１（特定物債権）
第２回　債権の目的と種類２（特定物債権種類債権～利率・利息制限・選択債権）
第３回　債務不履行１（債務の本旨に従わざる履行、債務者の帰責事由）
第４回　債務不履行２（履行の強制、416 条の理解）
第５回　損害賠償
第６回　債権の対外的効力１（債権者代位権）
第７回　債権の対外的効力２（債権者代位権）
第８回　債権の対外的効力３（詐害行為取消権）
第９回　債権の消滅１（消滅の意義・弁済）
第 10 回　債権の消滅２（相殺・その他の消滅原因）
第 11 回　多数当事者の債権関係１（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務）
第 12 回　多数当事者の債権関係２（連帯債務）
第 13 回　多数当事者の債権関係３（連帯債務２）
第 14 回　多数当事者の債権関係４（保証債務、連帯保証債務）
第 15 回　当事者の交替１（債権譲渡、債務引受）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J86011701
科目名	簿記原理	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Bookkeeping		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業の経営活動の記録は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として企業の成績表ともいえる決算書(財務諸表）が作成される。現在の会計事務はほとんどコンピュータ処理されているが、取引情報をインプットする場合には、人間の手と頭によらざるを得ない。その際には、「複式簿記」の技法と理論に関する理解が求められることになる。 （2）このような観点から、本講義では、「簿記の基本的原理の習得」をテーマとする。具体的には、日本商工会議所主催の簿記検定試験３級の内容の「前半部分」に関する基礎的知識と記帳技法の効率的な習得を図ることに目的が置かれ、前段階科目としての 「入門簿記」をベースとし、本講義の次のステップとなる科目「商業簿記」に至る効果的な「橋渡しの役割を担うことになる。 （3）したがって、本講義と「商業簿記」とを継続履修することにより、簿記検定試験の３級内容をマスターしてもらえるように展開する。 （4）ところで、こうした簿記学習には継続的な積み重ねの努力が不可欠であり、そのためには、ワークブック等を活用した問題演習が効果的である。そこで、本講義では、下記のテキストを活用して解り易く説明し、そのうえで、可能な限り問題演習を行うことにしたい。 （5）本講義を履修し、そのうえで、次段階の「商業簿記」を履修することにより,、簿記の基礎知識を確かなものとしたうえで、年間３回実施される日商簿記検定試験の３級にも是非挑戦して、成功体験を実感して欲しいところである。卒業後の社会人へ踏み出すための実学を身につけるためにも、積極的に受講して欲しい。		
教材（テキスト）	（1）加古宜士・穐山幹夫　監修　『段階式 日商簿記 ３級商業簿記』　（税務経理協会） （2）加古宜士・穐山幹夫　監修　『段階式 日商簿記ワークブック ３級商業簿記』　（税務経理協会）		
教材（参考文献）	必要に応じて、講義中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	（1）定期試験（筆記試験）の成績と平常成績に基づき、総合的に評価する。 （2）原則として、定期試験（筆記：80%）の成績に平常成績（受講状況・提出物・小テスト等：20%）を加味して評価する。		
到達目標	（1）商業簿記に関する基本的な期中取引の内容を理解し、それに基づく仕訳および転記ができる。 （2）現金預金取引や商品売買取引、その他の債権・債務に関する仕訳処理ができる。 （3）「簿記一巡の取引き」を理解し、期中取引のまとめとしての試算表の意義・内容を理解している。		
準備学習	（1）毎回の講義終了時に告知される次回内容について、関係するテキスト個所の予習を事前に行っておくことを要望する。 （2）このような準備学習によって、問題意識が目覚め、学習意識が高揚することが、簿記学習の効率化を促すことは確かである。是非、実行して頂きたい。		
受講者への要望			
（1）本講義では、上記テキストを活用して、複式簿記の基礎についての理論面および実践面双方の実力が身に付くように努めたい。それゆえ、毎回、必ず上記２冊のテキストを持参して、積極的に講義に臨むことを期待する。 （2）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1．①講義のガイダンス、②貸借対照表と損益計算書 2．簿記上の取引と勘定記入 3．仕訳と転記 4．仕訳帳と総勘定元帳 5．試算表と精算表 6．問題演習―仕訳・転記・試算表の作成― 7．決算手続きと財務諸表の作成			

８．現金・預金取引の処理
９．現金過不足・小口現金の処理
１０．商品売買取引の処理（１）
１１．商品売買取引の処理（２）
１２．仕入帳・売上帳と商品有高帳
１３．売掛金と買掛金
１４．その他の債権・債務
１５．総合演習―仕訳、転記、試算表と精算表の作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	J86011801
科目名	商業簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Bookkeeping for a Commercial Firm		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）本講義では、前段階の「簿記原理」における複式簿記の基本原則と記帳技法をベースとして確認した上で、日本商工会議所主催の簿記検定試験３級の内容を完成することを目的とする。 （2）特に、手形の会計処理と決算整理に関連する事項の会計処理などの諸問題を中心に説明し、既履修科目である「簿記原理」での学習事項の再確認と補充をすることによって、簿記検定３級内容の完成を目指すこととする。 （3）前段階の「簿記原理」の内容と本講義の内容に関する十分な理解により、、簿記の基礎知識を確かなものとしたうえで、年間３回実施されている日商簿記検定試験の３級にも是非挑戦して、成功体験を実感して欲しいところである。卒業後の社会人へ踏み出すための実学を身につけるためにも、積極的に受講して欲しい。		
教材（テキスト）	（1）加古宜士・穐山幹夫　監修　『段階式 日商簿記　３級商業簿記』　（税務経理協会） （2）加古宜士・穐山幹夫　監修　『段階式 日商簿記ワークブック　３級商業簿記』　（税務経理協会）		
教材（参考文献）	必要に応じて、講義中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	（1）定期試験（筆記試験）の成績と平常成績に基づき、総合的に評価する。 （2）原則として、定期試験（筆記：80%）の成績に平常成績（受講状況・提出物・小テスト等：20%）を加味して評価する。		
到達目標	（1）商業簿記に関する基本的な期中取引の内容を理解し、それに基づく会計処理ができる。 （2）手形取引の処理や決算処理、そして財務諸表の作成ができ、伝票会計の基礎を理解している。 （3）日商簿記検定試験３級の基本的内容に関して理解している。		
準備学習	（1）毎回の講義終了時に告知される次回内容について、関係するテキスト個所の予習を事前に行っておくことを要望する。 （2）このような準備学習によって、問題意識が目覚め、学習意識が高揚することが、簿記学習の効率化を促すことは確かである。是非、実行して頂きたい。		
受講者への要望			
（1）本講義では、上記テキストを活用して、複式簿記の基礎についての理論面および実践面双方の実力が身に付くように努めたい。それゆえ、毎回、必ず上記２冊のテキストを持参して、積極的に講義に臨むことを期待する。 （2）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。			
講義の順序とポイント			
１．①講義のガイダンス、②簿記一巡の手続きに関する再確認 ２．売買目的有価証券の処理 ３．手形取引の処理（１） ４．手形取引の処理（２） ５．貸倒れの処理と貸倒引当金の設定 ６．固定資産と減価償却の処理 ７．決算整理（１）　：　費用・収益の繰延べ ８．決算整理（２）　：　費用・収益の見越し ９．資本金・引出金・税金の処理 １０．試算表の作成 １１．８桁精算表の作成（１） １２．８桁精算表の作成（２） １３．元帳の締切り １４．財務諸表の作成			

１５．伝票会計

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J86012101
科目名	財務諸表論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Accounting		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	現在ほど、企業経営における会計の役割と影響が注目されている時代はない。さまざまな利害関係者と関わりながら活動している企業は、ある時点の財政状態と一定期間の経営成績を財務諸表にまとめ、報告することが要請されている。本講義は、財務諸表の作成が要請される背景や作成原理、表示方法を理解することを目標にする。 企業を取り巻く経済環境の変化に伴う会計の最新の潮流を紹介しながら、種々の企業活動がどのように会計情報に反映されているか紹介していく。 また時に、簿記１、２級レベルの練習問題にも取り組んでいく予定である。		
教材（テキスト）	桜井久勝・須田一幸著　『財務会計･入門　第９版(改訂される可能性あり)』　有斐閣		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する予定です		
評価方法	授業内レポート(40 点)、授業内テスト(60 点)		
到達目標	財務会計の意義と機能について理解している。 会計情報の開示制度を理解している。 財務諸表の意義･特徴を理解している。 会計が企業経営に与える影響について理解している。		
準備学習	講義終了時に次回の内容を明示するので、教科書の指定された部分を熟読しておくこと。		
受講者への要望			
簿記原理を履修済みか、日商簿記３級の合格者であることが望ましい。 受講生は積極的に講義に参加すること			
講義の順序とポイント			
1.会計を学ぶ意義 2.会計と企業経営の関わり 3.日本の会計制度 4.財務会計のシステムと複式簿記 5.会計基準と会計原則 6.貸借対照表の内容 7.損益計算書の内容 8.キャッシュ･フロー計算書の内容 9.その他のディスクロージャー 10.企業集団と連結会計 11.企業の設立・資金調達と会計 12.仕入・生産活動と会計 13.販売活動と会計 14.会計の国際化 15.総括：改めて会計とは何か			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J86012201
科目名	管理会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Accounting		
担当者名	大田　住吉	旧科目名称	
講義概要	・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 ① 実際のビジネス現場で起きるケーススタディ（事例研究）について学ぶ「ビジネス・スクール形式」。 ② グループ討議、プレゼン、質疑応答などを繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学ぶ。 ③ 定員 30 名程度の少人数グループ討議形式。 ・学習テーマは、以下のとおりです。 (a)　管理会計は「攻めの会計」「戦略のための会計」と言われます。それは何を意味するのか？ (b)　なぜ、管理会計を学ぶことが必要なのか？ (c) 管理会計は、財務会計や税務会計とは明らかに異なるルールがあります。それは、何か？ (d) 管理会計を、ビジネス戦略にどう活かせば良いのか？		
教材（テキスト）	・すべて担当教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布します。		
教材（参考文献）	・必要に応じ、参考文献などを紹介します。		
教材（その他）	・必要に応じ、解答例、参考資料などを配布します。 ・なお、授業には計算問題があります。電卓（一般的なもので可）を必ず持参下さい。		
評価方法	①グループ討議への参加意欲・発言内容（40%）、 ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力（30%）、 ③プレゼン力および質疑応答対応力（30%） による総合評価		
到達目標	・実社会で通用するビジネス・リーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・管理会計をビジネス戦略にどう活かせば良いのかについて分析し、判断し、表現する、実践的な能力を身に つけることを期待します。		
準備学習	＜予習＞ ・授業で配布するオリジナルテキストは、事前に熟読しておいて下さい。 ・業界事情、専門用語などについては、自分で調べ、理解して下さい。 ＜復習＞ ・授業の最後には、必ず 5～10 分の「本日のポイント」の講義があります。その内容について、しっかり復習し、 自分の「武器」として使えるようにしておいて下さい。 ・授業の中で、他のグループメンバーの意見等で参考になると感じたものは、その内容をしっかり復習して下さ い。		

受講者への要望

・29 年間の民間企業でのビジネス経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！
・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。

講義の順序とポイント

1　　ガイダンス　～この授業で何を学ぶのか？、管理会計とは、何か？～

2～5　　【ビジネス事例Ⅰ】　「空席に怯まず、満席に奢らず」（イタリアレストランA社の事例）
＜テーマ＞　　安定的な利益を計上し、創業・開業を成功させるために必要な管理会計とは？
＜ポイント＞　　開業・企業設立準備、売上・利益計画、資金繰り、損益分岐点ほか

6～9　　【ビジネス事例Ⅱ】　「犯人を探せ！」（リサイクルショップB社の事例）
＜テーマ＞　　性質の異なる複数店舗の利益をどう分析し、マネジメントするのか？
＜ポイント＞　　要因分析、影響度分析、多店舗小売業の販売戦略ほか

１０～１５　　【ビジネス事例Ⅲ】　「輝け！インストアベーカリー」（パン製造小売業C社の事例）
＜テーマ＞　　市場環境や取引先ニーズに合わせた製造小売業における新製品の価格決定戦略とは？

＜ポイント＞　　標的市場と価格設定、標的顧客別の新製品価格決定手法、ビジネス戦略の策定ポイントほか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86012301
科目名	財務管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Management		
担当者名	中園　宏幸	旧科目名称	
講義概要	本講義では、①個人投資家が投資にかかわる意思決定をどのように行うのか、②企業は資金調達をどのように行うのか、③企業は資金をどのように活用するのかにかかわる諸問題を取り扱う。本講義では、基礎的な考え方や理論を理解してもらうために、多様なケース教材を用いる。		
教材（テキスト）	砂川伸幸（2004）『コーポレート・ファイナンス入門（日経文庫）』日本経済新聞社		
教材（参考文献）	講義中に適宜紹介します。		
教材（その他）	講義はスライド資料を活用します。		
評価方法	講義内小レポート等による平常点（20%）。レポート（80%）。		
到達目標	財務管理論にかかわる基礎的な考え方と理論を理解すること。企業経営に財務管理がどのような意味を持つのか理解する。経営戦略を財務管理の視点から評価できるようになること。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲を指定するので、テキストを活用して予習すること。また、講義で解説した内容を踏まえたうえで、適当な事例を探しておくこと。		

受講者への要望

テキストを用意すること。飲料の持ち込みは許可するが、食事は厳禁とする。遅刻や私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退室を求める可能性がある。数学の基礎的な知識があることが望ましい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション: 講義の進め方、財務管理とは何か、数学の復習
2. 金融市場における企業と投資家: 投資家の意思決定
3. 行動ファイナンスの基礎
4. 投資家のポートフォリオ
5. 企業の資金調達と負債の意義
6. 資本コストと資本構成
7. 内部事業投資プロジェクトの評価①
8. 内部事業投資プロジェクトの評価②
9. 外部投資プロジェクトの評価
10. 企業の買収と合併
11. 企業価値の評価①: 財務分析
12. 企業価値の評価②: 無形資産の評価
13. 企業価値の評価③: 経営戦略と利益モデル
14. 経営戦略と財務管理
15. 企業の利益還元と配当政策

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J86012401
科目名	経営分析論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statement Analysis		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	みなさんにとって良い会社とはどのような会社を意味するのでしょうか。技術力があってユニークな製品やサービスを提供している会社、それは消費者の視点からみると確かに良い会社です。給料が高くて休みがたくさんあって福利厚生が充実している会社、就職先としては理想的かもしれません。これらは極端な例ですが、つまるところ、会社に対する視点が変わればよい会社の判断基準も変わってくるのです。 企業を評価する手法として知られる経営分析は、貸借対照表や損益計算書といった財務諸表に代表される会計情報をもとに、収益性、安全性、成長性といった観点から企業の業績や状態を見極める有力な方法です。そのような分析を進めるためにはまず、財務諸表の構造と基本的な性質を理解しておく必要があります。さらには経営学全般にわたる知識も必要になります。 本講義では、このような財務分析の特質をふまえ、経営分析を総合的に把握することから開始し、続いて財務諸表分析の手法について解説していく予定です。		
教材（テキスト）	内藤文雄　『会計学エッセンス』中央経済社　2600 円		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する予定です		
評価方法	授業内レポート(40 点)、授業内テスト(60 点)		
到達目標	会計情報の読み方を理解している。 会計情報の開示制度を理解し、利用できる。 財務諸表の分析手法を活用し、財政状態、経営成績、資金運用上の問題を発見できる。		
準備学習	毎回授業の最後に次回の内容を紹介するので、教科書の指定ページを読んでくること		
受講者への要望			
積極的な講義への参加を期待します。			
講義の順序とポイント			
1.　企業分析の意義 2.　会計の役割と株式会社 3.　ディスクロージャー制度 4.　貸借対照表の見方 5.　損益計算書の見方 6.　いくつかの業種の財務諸表 7.　収益性の分析(1) 8.　収益性の分析(2) 9.　 損益分岐点分析(1) 10. 損益分岐点分析(2) 11. 安全性分析 12. 資金繰りの分析 13. キャッシュフロー計算書の見方 14. 企業グループと連結決算 15. 企業の総合評価			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J86012501
科目名	原価計算論	単位数	2
科目名（英語表記）	Cost Accounting		
担当者名	大田　住吉	旧科目名称	
講義概要	・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 ① 実際のビジネス現場で起きるケーススタディ（事例研究）について学ぶ「ビジネス・スクール形式」。 ② グループ討議、プレゼン、質疑応答などを繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学ぶ。 ③ 定員 30 名程度の少人数グループ討議形式。 ・学習テーマは、以下のとおりです。 (a) 「原価計算」とは、何か？ 新製品開発において、「原価」や「価格」はどういう意味を持つのか？ (b) なぜ、原価計算を学ぶことが必要なのか？ (c) 業種、用途、品質、製造方法、生産量などが全く異なる様々な製品の「原価」を、具体的にどうやって計算 すれば良いのか？ (d) 原価計算を、ビジネス戦略にどう活かせば良いのか？		
教材（テキスト）	・すべてオリジナル担当教員による作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用します。		
教材（参考文献）	・必要に応じ、参考文献などを紹介します。		
教材（その他）	・必要に応じ、解答例、参考資料などを配布します。 ・なお、授業には、計算問題があります。電卓（一般的なもので可）を必ず持参下さい。		
評価方法	①グループ討議への参加意欲・発言内容（40%）、 ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力（30%）、 ③プレゼン力および質疑応答対応力（30%） による総合評価		
到達目標	・実社会で「戦力」として通用するビジネス・リーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・原価計算をビジネス戦略にどう活かせば良いのかについて分析し、判断し、表現する、実践的な能力を身に つけることを期待します。		
準備学習	＜予習＞ ・授業で配布するオリジナルテキストは、事前に熟読しておいて下さい。 ・業界事情、専門用語などについては、自分で調べ、理解して下さい。 ＜復習＞ ・授業の最後には、必ず 5～10 分の「本日のポイント」の講義があります。その内容について、しっかり復習し、 自分の「武器」として使えるようにしておいて下さい。 ・授業の中で、他のグループメンバーの意見等で参考になると感じたものは、その内容をしっかり復習して下さ い。		

受講者への要望

・29 年間の民間企業でのビジネス経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！
・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　～この授業で何を学ぶのか？、原価計算とは、何か？～

2～7　【ビジネス事例Ⅰ】「『新製品開発』を考える」（健康食品製造販売業Ｄ社の事例）
＜テーマ＞　新製品・新商品開発を成功させるために必要な原価計算とは？
＜ポイント＞　直接費と間接費、変動費と固定費、目標生産量、目標利益、赤字転落の理由ほか

8～１１　【ビジネス事例Ⅱ】「攻める原価管理」（地方銀行Ｅ社の事例）
＜テーマ＞　マンレート、マシンレート、限界利益等を用いたコストマネジメントとは？
＜ポイント＞　製品１個あたりの原価計算、マンレート、マシンレート、コスト差異分析、完成品原価と仕掛品原価、

限界利益ほか １２～１５　【ビジネス事例Ⅲ】「『新製品開発』を考える Episode Ⅱ」（健康食品製造販売業Ｄ社の事例） ＜テーマ＞　　実際のビジネス現場で使われている原価計算手法とは？ ＜ポイント＞　　全部原価計算、直接原価計算、活動基準原価計算、原価マネジメント戦略ほか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86012601
科目名	アントレプレナー論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Entrepreneurship		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	急速に変動する社会におけるアントレプレナー（起業家）の現状と課題を知り、新しく事業を起こすために必要な考え方やノウハウとスキル、そのステップを理解する。 単に自ら事業を起こすだけでなく、企業内においても企業内起業や新規事業立ち上げができるアントレプレナーシップ（起業家精神）が求められている。その社会的背景と現状、起業の意義、そして起業するためには何をしなければならないのか、どのような課題設定をし、問題解決しなければならないのかを、起業の段階ごとに事例とともに学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	『事業構想と経営』梅木晃、井形浩治、堀池敏男、大石友子著（嵯峨野書院、2004 年） 『ベンチャー型新規開業事業の新動向』梅木晃、井形浩治、村上義昭、堀池敏男、大石友子著（嵯峨野書院、2007 年） 『起業学入門』高橋徳行著（経済産業調査会）		
教材（その他）	毎回レジュメプリントを配布する。 ビデオ・ＤＶＤ教材を活用する。		
評価方法	各回小レポート（50%）・授業内テスト（50%）		
到達目標	アントレプレナーの現状と課題を知り、新しく事業を起こすことの意味を知り、そのために必要な考え方とステップを理解することを目標とする。		
準備学習	講義終了時に課題を指定するので、それに関わる新聞や雑誌等を読んでおくこと。		

受講者への要望

他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。
積極的に授業参加をしてもらいたい。
やむを得ない遅刻・欠席の場合は、必ず事前または事後に報告すること。

講義の順序とポイント

1. アントレプレナーの定義と役割
2. 産業構造の変化とアントレプレナー
3. 労働市場から見た起業の意味
4. 新規開業調査に見る起業の実態
5. さまざまな支援体制
6. 海外のアントレプレナー
7. アメリカのアントレプレナー
8. 起業のステップ
9. ケーススタディ　事業機会の認識
10. 〃　経営資源の調達
11. 〃　資金調達
12. 〃　組織の作り方
13. 〃　人材確保と育成
14. 〃　創業時のマーケティング
15. 起業に関わる動向と課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★		★	★

年度	2015	授業コード	J86012801
科目名	インターネットビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Internet Business		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	今日のビジネスはインターネットの利用を抜きに成り立たないほど、インターネットは企業にとって重要なツールになっています。そのなかで、インターネットを活用して新しいビジネスモデルの構築に成功した企業は、企業間での競争優位を獲得しています。 本講義では、インターネットがどのようにビジネスで利用・活用されているのかを、具体的な事例をまじえながら学んでいきます。その上で、インターネットを利用したビジネスの成功要因や問題点について考察します。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	片岡信弘他著『インターネットビジネス概論』共立出版、2011 年、2600 円。 中村忠之著『ネットビジネス進化論　―e ビジネスからクラウド、ソーシャルメディアへ』中央経済社、2011 年、1900 円。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。ビデオ教材やパワーポイントを活用します。		
評価方法	授業中に課すレポート等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	インターネットの普及とともに企業のビジネスモデルがどのように進化したのかを理解します。 企業がインターネットを使ってビジネスを行う上で、何が重要な要因になっているのかを理解します。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおいてください。 新聞等のメディアを活用し、インターネットを利用したビジネスの動向に関心を持つようにしてください。		
受講者への要望			
私語や遅刻を厳禁とする。私語が過ぎれば、退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス（授業の進め方、目的の説明等、インターネットビジネスとは） 2　電子商取引の動向（B to B） 3　電子商取引の動向（B to C） 4　電子商取引の動向（C to C） 5　競争優位を巡る争い（アマゾンの事例） 6　インターネットビジネスが社会に与えた影響 ① 7　インターネットビジネスが社会に与えた影響 ② 8　ビジネスモデルと特許 9　ソーシャルメディアとビジネス① 10　ソーシャルメディアとビジネス② 11　インターネット広告 12　ネットショップにおける検索戦略 13　電子商取引の安全性 14　電子決済と電子マネー 15　インターネットビジネスの展望 授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新の話題を取り上げていきたいと考えています。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	J86013001
科目名	中小企業経営論	単位数	2
科目名（英語表記）	Small Business Management		
担当者名	大田　住吉	旧科目名称	
講義概要	・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 ① 実際のビジネス現場で起きるケーススタディ（事例研究）について学ぶ「ビジネス・スクール形式」。 ② グループ討議、プレゼン、質疑応答などを繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学ぶ。 ③ 定員 30 名程度の少人数グループ討議形式。 ・学習テーマは、以下のとおりです。 (a) 中小企業のビジネス現場において、小売業、卸売業、製造業、それぞれのビジネスに必要なマーケティン グ戦略とは何か？ (b) なぜ、中小企業のマーケティング戦略を学ぶことが必要なのか？ (c) 中小企業のマーケティング戦略とは、大企業の戦略と具体的に何が違うのか？ (d) 中小企業経営におけるマーケティング戦略が、企業業績にどう結び付くのか？		
教材（テキスト）	・すべて担当教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用します。		
教材（参考文献）	・必要に応じ、参考文献などを紹介します。		
教材（その他）	・必要に応じ、解答例、参考資料などを配布します。 ・なお、授業には、計算問題があります。電卓（一般的なもので可）を必ず持参下さい。		
評価方法	①グループ討議への参加意欲・発言内容（40%）、 ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力（30%）、 ③プレゼン力および質疑応答対応力（30%） による総合評価		
到達目標	・実社会で「戦力」として通用するビジネス・リーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・中小企業におけるビジネス・マーケティング戦略について分析し、判断し、表現する、実践的な能力を身につけ ることを期待します。		
準備学習	＜予習＞ ・授業で配布するオリジナルテキストは、事前に熟読しておいて下さい。 ・業界事情、専門用語などについては、自分で調べ、理解して下さい。 ＜復習＞ ・授業の最後には、必ず 5〜10 分の「本日のポイント」の講義があります。その内容について、しっかり復習し、 自分の「武器」として使えるようにしておいて下さい。 ・授業の中で、他のグループメンバーの意見等で参考になると感じたものは、その内容をしっかり復習して下さ い。		

受講者への要望

・29 年間の民間企業でのビジネス経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！
・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　〜この授業で何を学ぶのか？、中小企業のためのマーケティング戦略とは、何か？〜

2〜5　【ビジネス事例Ⅰ】　「老舗酒店は生き残れるのか？」（酒小売業Ｈ社の事例）
＜テーマ＞　全国大手のライバル店進出に対抗し、生き残るための小売業のマーケティング戦略とは戦略とは？
＜ポイント＞　ＳＷＯＴ分析、クロスＳＷＯＴ戦略、商圏強度分析ほか

6〜9　【ビジネス事例Ⅱ】　「流れに棹差す」（食品卸売商社Ｊ社の事例）
＜テーマ＞　大企業との競合の中で、市場を勝ち抜くための卸売業のマーケティング戦略とは？
＜ポイント＞　卸売業の存在意義、品揃え、店舗レイアウト、客動線、貢献度分析ほか

１０～１５　【ビジネス事例Ⅲ】「マーケティング戦略って、何だろう？」（水産加工食品製造業Ｋ社の事例）

＜テーマ＞　下請けから脱却し、奮闘し、成長する製造業のマーケティング戦略とは？

＜ポイント＞　法人販売と個人販売、流通チャネル戦略、卸小売業と製造業とのマーケティング戦略の違いほか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86013101
科目名	リーダーシップ論	単位数	2
科目名（英語表記）	Leadership		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	組織とは，なんらかの目的のために形成されるものであるが，現代社会においては，このような組織がさまざまな形で存在している。そのような組織が目的を達成するためには，その組織の構成員の諸活動を目的達成の方向にむかって１つにまとめなければならないが，そのような働きかけの１つとして重要な役割を果たすものがリーダーシップである。 企業を取り巻く環境が非常に複雑で動態的な今日，このリーダーシップ研究の重要性はますます高くなっている。そこで本講義では，リーダーシップに関する基礎理論の学習を中心に行うことによって，リーダーシップの本質について検討してみたいと考えている。本講義を通して，将来，学生諸子が企業組織に参加したときに，主体的に行動し，活躍するための基礎力が養われれば幸いである。		
教材（テキスト）	基本的に教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントやレジュメをを配布する。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで１度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. リーダーシップとはどのようなものかということについて、簡単な説明をすることができる。 2. リーダーシップ論の歴史的な変遷を理解する。 3. 代表的なリーダーシップ論を簡単に説明することができる。		
準備学習	1. 次の講義内容（シラバスに掲載しているとおりであるが、講義終了時にも指示する。）について図書館等で予め調べ、それに関する文献を探してその部分を熟読しておく。たとえば第３回目の講義がはじまるまでに、「リーダーシップの特性論」について図書館で文献をさがし、その内容が書かれている部分を熟読しておく。 2. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 3. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 4. 日常においてリーダーシップに関する現象に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講者への要望

１．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
２．講義への積極的な参加を望む。

講義の順序とポイント

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

1. オリエンテーション
2. 組織におけるマネジメントとリーダーシップ
3. リーダーシップの特性論
4. リーダーシップの行動論①　- ミシガン・オハイオ研究 -
5. リーダーシップの行動論②　- マネジリアル・グリッド -
6. リーダーシップの行動論③　- PM 理論 -
7. 個人の動機とリーダーシップ
8. 前半のまとめと理解度の確認　（小テストを予定）
9. リーダーシップの条件適合理論①　- リーダー行動の連続線モデル、コンティンジェンシー・モデル -
10. リーダーシップの条件適合理論②　- 目標経路理論 -
11. リーダーシップの条件適合理論③　- 3 次元リーダー効果性モデル -
12. リーダーシップ論のその後の動向①　- リーダーシップ研究センターの状況対応リーダーシップ -
13. リーダーシップ論のその後の動向②　- EQ リーダーシップ、サーバント・リーダーシップ、変革のリーダーシップなど -
14. リーダーシップ論のその後の動向③　- リーダーシップとフォロワーシップ -
15. リーダーシップ論の講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	J86013201
科目名	スポーツビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Business Theory		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本講義は、市場と組織という経営学の基本概念を用いながらスポーツビジネスを解説する。より具体的には、①スポーツビジネスと呼ばれる業界の構造および②スポーツというサービスの流通の仕方を解説する。その主たる問いは、①スポーツビジネスと呼ばれる業界とは何なのかであり、②なぜそのような業界構造が生まれたのかである。 現実のスポーツビジネスはきわめて複雑である。それは、商品化された身体技能の流通に関わるからである。この複雑な問題を解きほぐすためには、自分の頭で考えることが必要となる。このために、本講義は主として板書形式をとる。		
教材（テキスト）	菊幸一・齋藤健司・真山達志・横山勝彦［編］『スポーツ政策論』成文堂 2011　3,500 円		
教材（参考文献）	松岡憲司『スポーツ・エコノミクスの発見』法律文化社 1996　1,575 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	講義内小試験（40%）、講義内中試験（20%）、講義内大試験（40%）		
到達目標	受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 ①スポーツビジネスとは何かを理解することができる。 ②現実のスポーツ界で生じる問題を市場と組織という視点で説明することができる。		
準備学習	講義終了時に、参考文献における次回の講義範囲を示す。指示のあった範囲を次回までに熟読しておくこと。なお、講義内では前回の講義範囲に関連する小試験を課す。復習をしておくこと。		

受講者への要望

私語は厳禁。
テキストは講義内中試験の試験問題とするので必ず準備するように。

講義の順序とポイント

1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2.「分析視座」：簡単なゲームから、スポーツビジネスの分析視座を解説する
3.「説明するということ」：社会科学の立場からスポーツを説明する方法を解説する
4.「市場 1」：スポーツの勝敗と販売市場を解説する
5.「市場 2」：スポーツ選手と労働市場を解説する
6.「市場 3」：スポーツの市場における利益率を解説する
7.「組織 1」：強化部と事業部の分業を解説する
8.「組織 2」：試合というサービスの性質を解説する
9.「組織 3」：リーグという市場構造を解説する
10.「中間総括」：これまでの講義を振り返り、ポイントをまとめる
11.「スポーツマネジメント論入門」：スポーツマネジメント論が答える問いを解説する
12.「スポーツマーケティング論入門」：スポーツマーケティング論が答える問いを解説する
13.「スポーツビジネス論の今後」：最新の研究成果および業界事情を解説する
14.「スポーツビジネス論の最新動向」：これまでの講義を総括し、最新の業界動向を解説する
15.「講義の限界と今後の課題」：講義内容の実社会への展開を議論する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	J86013701
科目名	スポーツチームマネジメント論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	講義では、スポーツチームマネジメントの基礎的な考え方と共に、スポーツチームマネジメントに必要な知識と技術について学ぶ。また、プロスポーツ組織のマネジメントとアマチュア組織のマネジメントの差異を考察し、「人財」「資材」「財源」を生み出すチーム運営について学ぶ。		
教材（テキスト）	適宜プリント配布する。		
教材（参考文献）	授業内で専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	適宜プリント配布する。		
評価方法	平常点（参加態度等）５０％　レポート２５％　発表２５％		
到達目標	スポーツチームマネジメントを題材に、社会組織でも応用できる基礎を学ぶ。		
準備学習	講義で学んだ内容を復習し、次回の講義予習を毎回指示する。		

受講者への要望

授業に積極的に参加し、遅刻等しないこと。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、
２．スポーツチームマネジメントとは
３．学生スポーツをめぐる社会的背景
４．プロスポーツをめぐる社会的背景
５．スポーツ組織のマネジメント概要
６．スポーツクラブマネジメント
７．総合型地域スポーツクラブ
８．中間まとめ
９．スポーツチームマネジメント
１０．スポーツチームマネジメント
１１．研究作成
１２．研究作成
１３．研究発表
１４．研究発表
１５.スポーツチームマネジメントの講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J86013801
科目名	家族法	単位数	2
科目名（英語表記）	Family Law		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	民法Ⅶ（家族法）
講義概要	一般に「家族法」と呼ばれる民法第 4 編および第 5 編の内容を学習する。家族法の現行規定を正確に理解した上で、その問題点や解決の方向を考える。講義にあたっては「財産法」の諸制度との関係を意識しつつ、民法の全体像の理解を深めることができるように努める。		
教材（テキスト）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） 家族法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣、2008 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。出席状況、講義中の質問への応答、小テストの結果等を補充的に考慮する。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．家族法の主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 ２．家族法の主要論点に関する学説・判例を理解する。 ３．家族法の問題を把握し、その解決の方向を考える。		
準備学習	１．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分および関連する財産法の部分について自習をする。 ２．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 ３．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		
受講者への要望			
家族に関しては個人的な経験や常識から判断しがちですが、多様な考え方や家族があることに留意しつつ受講してください。民法は全体として密接に関連しているので、民法Ⅰ（総則）などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。			
講義の順序とポイント			
１．　受講にあたっての注意／家族法序説 ２．　婚姻の成立・効果 ３．　離婚の成立 ４．　離婚の効果 ５．　親子（１）嫡出推定・嫡出否認制度（１） ６．　親子（２）嫡出推定・嫡出否認制度（１） ７．　親子（３）認知／現代的な問題 ８．　親権・扶養 ９．　相続法序説／相続人 １０．相続資格の剥奪／相続の選択 １１．相続財産 １２．具体的相続分（１）特別受益・寄与分 １３．具体的相続分（２）計算問題 １４．遺産分割 １５．遺言			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86013901
科目名	チャレンジショップA	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86013902
科目名	チャレンジショップA	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86013903
科目名	チャレンジショップA	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86013904
科目名	チャレンジショップA	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86013905
科目名	チャレンジショップA	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86013906
科目名	チャレンジショップA	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86013907
科目名	チャレンジショップA	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86013908
科目名	チャレンジショップA	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86014001
科目名	チャレンジショップB	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86014002
科目名	チャレンジショップB	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86014003
科目名	チャレンジショップB	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86014004
科目名	チャレンジショップB	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86014005
科目名	チャレンジショップB	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86014006
科目名	チャレンジショップB	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86014007
科目名	チャレンジショップB	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J86014401
科目名	スポーツ指導者論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Sports Leader		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	スポーツ行動は、本質的には社会特性を持つ現象であり、それ故、単純な自然現象だけでなく、文化的、社会的な側面を持つ。このような人間の営みとしてのスポーツの重要性を学習し、併せて社会生活にどのような意味をもたらすかを考えていく。学校や社会において、また行政においても、スポーツの振興は重要な課題であり、その基盤となるスポーツ指導者の育成と資質の向上、活動環境の整備が行われつつある。本授業では、スポーツの指導について、その目的、方法、計画、安全対策等を学習する。また、レクリエーション・インストラクター資格取得のコンテンツとして、レクリエーション支援に必要なスキルについても学習を深める。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」　（健康・体力づくり事業財団）		
教材（参考文献）	レクリエーション支援の基礎　(財)日本レクリエーション協会 2008		
教材（その他）	印刷資料、ＤＶＤ、参考図書などを随時提示します。		
評価方法	課題解決レポートの評価を 30%、学習態度、テストなどを 70%とする。		
到達目標	スポーツ指導について、正しい知識と効果的な指導法を理解すること。		
準備学習	スポーツ指導者になるためには、スポーツを幅広く学ぶことが大事である。スポーツの歴史やルール、指導者の自伝など、本をできるだけ読んでください。前回授業の復習をしておくこと。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の活動範囲及び少子高齢社会に対応した新たな役割は、より高度なレベルの実技能力と、多様な対象に対する指導スキルの知識を修得することである。望ましいスポーツ指導者やリーダーを目指し、真剣に学ぶこと。 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに、文化としてのスポーツ・レクリエーション 2　指導者の役割①－人を支える「支援者」にとってのスポーツ・レクリエーション－ 3　指導者の役割②－スポーツ・レクリエーション支援の考え方－ 4　トレーニング論① 5　トレーニング論② 6　成長・発育のスキルの発達 7　スポーツ指導の方法と運動の学習理論 8　スポーツ指導の方法と運動の学習理論 9　指導計画のたて方 １０　性，年齢に応じたスポーツ指導計画 １１　スポーツ・レクリエーション活動と安全管理 １２　スポーツと栄養 １３　スポーツと心理的な要因 １４　スポーツと法 １５　スポーツ・レクリエーション支援者の資格と期待される役割			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J86014501
科目名	スポーツ活動研究	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネット等のメディアを通してスポーツや生涯学習に関する報道がなされない日はない。スポーツ・レクリエーションなどの競技や生涯学習系の活動は人々の生活に活力を与えるだけでなく、さまざまな話題を提供し、人とのコミュニケーションを深めるなどのコンテンツとなりうる。また、実践活動は学び・健康・社会性を育てる・人間ドラマを作る・絆を深めるなど日常生活になくてはならないものとなっている。 フィールドワーク京都（スポーツ活動研研究）では、スポーツ・レクリエーション・スポーツビジネス・生涯学習に関する実践活動や行政施策・ビジネス・世界の動向を題材として、人間の成長に着目し、「情報」「戦略」「コミュニケーション」をキーワードに文献とフィールドワークから、学びを深め、研究活動につなげていく。 各自の学びの成果は毎回の発表とし、スポーツ・レクリエーション・生涯学習に関するビジネスがどのような要素で成立しているかを考えていこう。また、実際のフィールドワークも実施する。スポーツイベントの観察・分析で理解を深め、報告書を作成したり、課題を発見・解決するための調査の方法を学ぶことを目的とする。		
教材（テキスト）	適宜，資料配布や参考書を紹介する。		
教材（参考文献）	適宜，資料配布や参考書を紹介する。		
教材（その他）	適宜，資料配布や参考書を紹介する。		
評価方法	毎回の発表とプレゼンテーション資料、課題レポートによる総合評価		
到達目標	1．プレゼンテーション資料が作成できる。 2．みんなの前で、わかりやすく発表できるようになる。 3．報告書を作成できるようにする。		
準備学習	事前に自分が報告書作成のテーマとするスポーツについて調べておくこと。		
受講者への要望			
土曜日等にフィールドワークへの参加が求められる場合があります。また、交通費等の実費負担が発生する場合があります。 個人又はグループで視察するスポーツイベントを決定し、報告書を作成します。 また、報告書を作成するために興味のあるスポーツイベントについては事前に調べて発表してもらいます。			
講義の順序とポイント			
1. 授業ガイダンス 2. さまざまなスポーツ成立の歴史を調べよう 3.スポーツ競技者人口の動向グラフの作成 4. スポーツ組織と競技大会 5. スポーツ観戦者の動向とグラフの作成 6. スポーツで世界 1 になるために監督・選手たちがどのように取り組んだのか? 7. スポーツ活動の評価をするには? ① 8. スポーツ活動の評価をするには? ② 9. 競技スポーツの展開と視察、ビジネスとして観察しよう 10. スポーツビジネスのしくみ 11.京都スタジアムの建設計画を調べよう。 12. スポーツ観戦レポート作成 13. スポーツ観戦レポート発表 14. 都道府県のスポーツ施策を調べて発表する。 15. 2020 東京オリンピックについて－オリンピックの歴史と未来－			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	J90001001
科目名	海外研修	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
講義概要	外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J90003001
科目名	サービス・ラーニング	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	社会と個人、組織と個人等を考えながら社会貢献活動を行い、大学での学修等で身につけるべき課題を明確にすることを目的とする。約 1 週間程度の活動を通して、協働力、適応力、行動力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法)、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法)、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の 3 つを想定している。		
教材（テキスト）	必要に応じて配布		
教材（参考文献）	必要に応じて配布		
教材（その他）	なし		
評価方法	活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、自らの身につけるべき課題を意識する。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる.		
準備学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講者への要望

[実習先の選定－1]：毎年 5 月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明する。多くの大学から学生がその集会に参加し、各ボランティア団体の説明を聞いて、どの団体の活動に参加するかの判断材料としている。この講義の受講者は原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―2]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、1 週間、2 週間、1 か月の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての 1 週間、2 週間、1 か月である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

講義の順序とポイント

1． 社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
2． 地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
3． 実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
4． ビジネスマナーI
5． ビジネスマナーII

実習 1 週間
（8 時間＋日報 1 時間）/日*5 日＝45 時間

6． 事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
7． 事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲスト or ビデオ)、ワークショップ
8． 事後学習 III－レポート作成
9． 事後学習 IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J90003002
科目名	サービス・ラーニング	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	社会と個人、組織と個人等を考えながら社会貢献活動を行い、大学での学修等で身につけるべき課題を明確にすることを目的とする。約 1 週間程度の活動を通して、協働力、適応力、行動力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法)、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法)、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の 3 つを想定している。		
教材（テキスト）	必要に応じて配布		
教材（参考文献）	必要に応じて配布		
教材（その他）	なし		
評価方法	活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、自らの身につけるべき課題を意識する。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる.		
準備学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講者への要望

[実習先の選定－1]：毎年 5 月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明する。多くの大学から学生がその集会に参加し、各ボランティア団体の説明を聞いて、どの団体の活動に参加するかの判断材料としている。この講義の受講者は原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―2]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、1 週間、2 週間、1 か月の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての 1 週間、2 週間、1 か月である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

講義の順序とポイント

1． 社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
2． 地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
3． 実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
4． ビジネスマナーI
5． ビジネスマナーII

実習 1 週間
（8 時間＋日報 1 時間）/日*5 日＝45 時間

6． 事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
7． 事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲスト or ビデオ)、ワークショップ
8． 事後学習 III－レポート作成
9． 事後学習 IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	J90004001
科目名	健康医療学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	General Health and Medicine		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
講義概要	我が国の急速な高齢化に伴い、脳血管疾患、認知症、運動器疾患による要介護状態も増加している。そのため、健康管理、疾病予防、健康で自立した生活の健康寿命を伸ばすための介護予防が重要となっている。さらに、心疾患、糖尿病などの生活習慣病は慢性経過をたどり、医療費の高騰を招いている。本講義ではこれらを踏まえ、健康管理、生活習慣病の予防、運動機能の維持・向上を目指した介護予防、ならびに運動管理に必要なメディカルチェックなどの知識を解説し、医事法規にも触れる。		
教材（テキスト）	テキスト教材が入手できるまでは、配布プリントを中心に解説する。		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成講習会テキスト』（健康・体力づくり事業財団）		
教材（その他）	プリント、スライド		
評価方法	ミニテスト（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．健康の概念、日本の現在の主要な健康問題を認識する。 ２．生活習慣病とその予防、介護予防の概要を理解する。 ３．健康の維持・増進、疾病予防のための運動を安全に行うのに必要な知識を修得する。		
準備学習	毎回の講義を復習し、医学医療用語を修得する。		
受講者への要望			
新聞などを読み、現代の医療問題の認識を深めておく。			
講義の順序とポイント			
１．健康の概念 ２．現代社会の健康問題（少子高齢化時代、健康生活づくり） ３．生活習慣病（メタボリックシンドローム、生活習慣） ４．生活習慣病予防（運動予防効果の疫学調査） ５．疾病構造の変化と国民医療費 ６．わが国の高齢社会の現状 ７．加齢による機能低下と高齢者の総合機能評価 ８．介護予防 ９．健診項目（血液・尿検査） １０．健診項目（生理機能検査） １１．運動の事前メディカルチェック １２．安静時心電図の読み方 １３．医療総論（医の倫理） １４．医療総論（医事法制） １５．医療総論（医療制度）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J90005001
科目名	解剖生理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology A		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	ヒトのからだの仕組みや働きを理解するために、人体の正常な構造と機能を学ぶ。解剖学は構造を、生理学は機能を主に取り扱う学問である。細胞が集まって組織となり、組織が器官を構成する。種々の器官が共同して働き、外界とのやり取りが可能となる機構が人体にあり、動物性機能系と呼ばれる。本講義では、この動物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には細胞・組織・器官の成り立ち、運動器である骨格・筋肉系、神経系、感覚系などの構造と働きを学ぶ。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 第 9 版』 （医学書院） 坂井健雄・岡田隆夫 著 4,104 円		
教材（参考文献）	『トートラ 人体の構造と機能 第 4 版』（丸善出版） Gerard J. Tortora・Bryan Derrickson 著 10,800 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する 適宜講義用プリントを配布する		
評価方法	レポート（10%）、小テスト（20%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．人体の構造について理解する ２．人体の構成要素の機能と相互作用について理解する ３．人体の構造と機能を関連付けて理解する		
準備学習	１．予習としてシラバス（講義の順序とポイント）に記された教科書の単元を事前に読んで、講義に臨むこと ２．講義終了時に、復習の課題を指定するので、次回の講義開始時に提出すること		

受講者への要望

１．能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい
２．単元ごとに小テストを実施する
３．遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める
４．講義の最後に質問の時間を設けるが、講義中に挙手して質問しても構わない

講義の順序とポイント

１．人体を構成する細胞・組織の基礎（１）
２．人体を構成する細胞・組織の基礎（2）
３．消化管の構造と機能: 咀嚼から胃での消化（小テスト：細胞の基礎）
４．消化管の構造と機能: 腸での消化と吸収
５．消化管の構造と機能: 膵臓・肝臓・胆嚢
６．呼吸器の構造と換気　（小テスト：消化管）
７．ガス交換とガスの運搬
８．呼吸運動の調節
９．血液の組成と血液凝固系　（小テスト：呼吸）
１０．心臓の構造と拍出機能
１１．心周期
１２．末梢循環系の構造と機能（小テスト：心機能）
１３．血液の循環調節
１４．尿の生成
１５、体液調節と酸塩基平衡（小テスト：循環調節と尿の生成）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★★

年度	2015	授業コード	J90005002
科目名	解剖生理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology A		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	ヒトのからだの仕組みや働きを理解するために、人体の正常な構造と機能を学ぶ。解剖学は構造を、生理学は機能を主に取り扱う学問である。細胞が集まって組織となり、組織が器官を構成する。種々の器官が共同して働き、外界とのやり取りが可能となる機構が人体にあり、動物性機能系と呼ばれる。本講義では、この動物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には細胞・組織・器官の成り立ち、運動器である骨格・筋肉系、神経系、感覚系などの構造と働きを学ぶ。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 第 9 版』 （医学書院） 坂井健雄・岡田隆夫 著 4,104 円		
教材（参考文献）	『トートラ 人体の構造と機能 第 4 版』（丸善出版） Gerard J. Tortora・Bryan Derrickson 著 10,800 円 『スネル 臨床解剖学』（メディカルサイエンスインターナショナル） Richard S. Snell 著 15,120 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する 適宜講義用プリントを配布する		
評価方法	レポート（10%）、小テスト（20%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．人体の構造について理解する ２．人体の構成要素の機能と相互作用について理解する ３．人体の構造と機能を関連付けて理解する		
準備学習	１．予習としてシラバス（講義の順序とポイント）に記された教科書の単元を事前に読んで、講義に臨むこと ２．講義終了時に、復習の課題を指定するので、次回の講義開始時に提出すること		

受講者への要望

１．能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい
２．単元ごとに小テストを実施する
３．遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める
４．講義の最後に質問の時間を設けるが、講義中に挙手して質問しても構わない

講義の順序とポイント

１．人体を構成する細胞・組織の基礎（１）
２．人体を構成する細胞・組織の基礎（2）
３．消化管の構造と機能: 咀嚼から胃での消化（小テスト：細胞の基礎）
４．消化管の構造と機能: 腸での消化と吸収
５．消化管の構造と機能: 膵臓・肝臓・胆嚢
６．呼吸器の構造と換気　（小テスト：消化管）
７．ガス交換とガスの運搬
８．呼吸運動の調節
９．血液の組成と血液凝固系　（小テスト：呼吸）
１０．心臓の構造と拍出機能
１１．心周期
１２．末梢循環系の構造と機能（小テスト：心機能）
１３．血液の循環調節
１４．尿の生成
１５．体液調節と酸塩基平衡（小テスト：循環調節と尿の生成）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★★

年度	2015	授業コード	J90005003
科目名	解剖生理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology A		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
講義概要	ヒトのからだの仕組みや働きを理解するために、人体の正常な構造と機能を学ぶ。解剖学は構造を、生理学は機能を主に取り扱う学問である。細胞が集まって組織となり、組織が器官を構成する。種々の器官が共同して働き、外界とのやり取りが可能となる機構が人体にあり、動物性機能系と呼ばれる。本講義では、この動物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には細胞・組織・器官の成り立ち、運動器である骨格・筋肉系、神経系、感覚系などの構造と働きを学ぶ。		
教材（テキスト）	『入門人体解剖学』（南江堂） 藤田恒夫 著 5,400 円		
教材（参考文献）	『プロメテウス解剖学アトラス－解剖学総論／運動器系』（医学書院） 坂井建雄・松村譲兒 監訳 12,960 円		
教材（その他）	プリント、スライド		
評価方法	ミニテスト（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	細胞・組織・器官の成り立ち、人体における動物性機能系（骨格・筋肉系、神経系、感覚系）の働きを説明できる。		
準備学習	生物学（高等学校）の復習, 毎回の講義内容の復習		

受講者への要望

人体解剖学用語の修得に努める。

講義の順序とポイント

1．細胞から個体（生物体の基本的構成要素である細胞の構造および組織・器官・系からなる個体の形成）
2．筋の収縮（骨格筋の構造、筋収縮、収縮様式、筋電図）
3．神経系１（神経細胞、中枢神経系（脊髄、脳幹、小脳、間脳、大脳)、脳室、脳脊髄液）
4．神経系２（末梢神経系（脊髄神経、脳神経)、下行伝導路、上行伝導路）
5．感覚系（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、痛覚）
6．骨格と関節（人体を構成する骨格・関節の構造）
7．頭頸部の関節運動（頭頸部と脊柱、項靱帯、胸鎖乳突筋、僧帽筋、肩峰・肩甲棘）
8．上肢の関節運動１（肩関節、肩関節をつなぐ大筋群付着部、小筋群、回旋筋腱板）
9．上肢の関節運動２（肘関節、上腕二頭筋と上腕三頭筋、肘単関節筋、前腕回旋）
１０．上肢の関節運動３（手関節、手指の運動）
１１．脊柱と胸郭の運動１　（脊柱の構造（椎骨・椎間円板・脊髄)、肋骨、肋間筋群、呼吸運動、努力呼息運動）
１２．脊柱と胸郭の運動２（腰椎の構造、胸郭・骨盤連結、腹側部斜行筋群、脊柱姿勢維持）
１３．骨盤と下肢の運動１　（骨盤の連結構造（恥骨結合と仙腸結合)、大腿骨頭の寛骨臼陥入、股関節、股関節の靱帯群）
１４．骨盤と下肢の運動２（股関節付着の単関節筋、股関節付着の多関節筋）
１５．骨盤と下肢の運動３（膝関節の構造、膝関節筋群、足関節の構造、足部の筋腱群　（底屈・背屈と内返し・外返し運動））

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J90006001
科目名	解剖生理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology B		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	人体において営まれる生命現象は動物性機能系と植物性機能系の２つに大別される。生命の基本単位は細胞であり、生命維持にとって細胞周囲の体液組成や量を安定に保つことは必要不可欠である。この働きをする機能系、言い換えると内部環境の恒常性を保つ機能系が植物性機能と呼ばれる。解剖生理学Ｂではこの植物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には血液、循環、腎臓・体液、消化・吸収、代謝、内分泌、生殖、体温、免疫などである。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 第９版』 （医学書院） 坂井健雄・岡田隆夫 著 4,104 円		
教材（参考文献）	『トートラ 人体の構造と機能 第４版』（丸善出版） Gerard J. Tortora・Bryan Derrickson 著 10,800 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する 適宜講義用プリントを配布する		
評価方法	レポート（10%）、小テスト（20%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．人体の構造について理解する ２．人体の構成要素の機能と相互作用について理解する ３．人体の構造と機能を関連付けて理解する		
準備学習	１．予習としてシラバス（講義の順序とポイント）に記された教科書の単元を事前に読んで、講義に臨むこと ２．講義終了時に、復習の課題を指定するので、次回の講義開始時に提出すること		

受講者への要望

１．能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい
２．単元ごとに小テストを実施する
３．遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める
４．講義の最後に質問の時間を設けるが、講義中に挙手して質問しても構わない

講義の順序とポイント

１．自律神経系
２．視床下部と下垂体系
３．ホルモンによる調節
４．骨格と骨格筋
５．上肢の骨格と筋　（小テスト：自律神経・ホルモン）
６．下肢の骨格と筋
７．筋の収縮　（小テスト：骨学）
８．神経系の構造と機能　（小テスト：筋学）
９．脊髄と脳
１０．脊髄・脳神経と脳の高次機能
１１．感覚器（伝導路・視覚）　（小テスト：神経系・脊髄と脳）
１２．感覚器（聴覚・味覚・疼痛）
１３．生体防御
１４．生殖　（小テスト：感覚器）
１５．発生と老化

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★★

年度	2015	授業コード	J90006002
科目名	解剖生理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology B		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	人体において営まれる生命現象は動物性機能系と植物性機能系の２つに大別される。生命の基本単位は細胞であり、生命維持にとって細胞周囲の体液組成や量を安定に保つことは必要不可欠である。この働きをする機能系、言い換えると内部環境の恒常性を保つ機能系が植物性機能と呼ばれる。本講義では、この植物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には血液、循環、呼吸、腎臓・体液、消化・吸収、代謝、内分泌、生殖、体温、免疫などである。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 第９版』 （医学書院） 坂井健雄・岡田隆夫 著 4,104 円		
教材（参考文献）	『トートラ 人体の構造と機能 第４版』（丸善出版） Gerard J. Tortora・Bryan Derrickson 著 10,800 円 『スネル 臨床解剖学』（メディカルサイエンスインターナショナル） Richard S. Snell 著 15,120 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する 適宜講義用プリントを配布する		
評価方法	レポート（10%）、小テスト（20%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．人体の構造について理解する ２．人体の構成要素の機能と相互作用について理解する ３．人体の構造と機能を関連付けて理解する		
準備学習	１．予習としてシラバス（講義の順序とポイント）に記された教科書の単元を事前に読んで、講義に臨むこと ２．講義終了時に、復習の課題を指定するので、次回の講義開始時に提出すること		

受講者への要望

１．能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい
２．単元ごとに小テストを実施する
３．遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める
４．講義の最後に質問の時間を設けるが、講義中に挙手して質問しても構わない

講義の順序とポイント

１．自律神経系
２．視床下部と下垂体系
３．ホルモンによる調節
４．骨格と骨格筋
５．上肢の骨格と筋　（小テスト：自律神経・ホルモン）
６．下肢の骨格と筋
７．筋の収縮　（小テスト：骨学）
８．神経系の構造と機能　（小テスト：筋学）
９．脊髄と脳
１０．脊髄・脳神経と脳の高次機能
１１．感覚器（伝導路・視覚）　（小テスト：神経系・脊髄と脳）
１２．感覚器（聴覚・味覚・疼痛）
１３．生体防御
１４．生殖　（小テスト：感覚器）
１５．発生と老化

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★★

年度	2015	授業コード	J90006003
科目名	解剖生理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology B		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
講義概要	人体において営まれる生命現象は動物性機能系と植物性機能系の２つに大別される。生命の基本単位は細胞であり、生命維持にとって細胞周囲の体液組成や量を安定に保つことは必要不可欠である。この働きをする機能系、言い換えると内部環境の恒常性を保つ機能系が植物性機能と呼ばれる。本講義では、この植物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には血液、循環、呼吸、腎臓・体液、消化・吸収、代謝、内分泌、生殖、体温、免疫などである。		
教材（テキスト）	『やさしい生理学』（南江堂） 彼末一之・能勢博 編 2,592 円		
教材（参考文献）	『標準生理学』（医学書院） 小澤瀞司・福田康一郎 総編集 12,960 円		
教材（その他）	プリント、スライド		
評価方法	ミニテスト（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	人体における植物性機能系（血液、循環、呼吸、腎臓・体液、消化・吸収、代謝、内分泌、生殖、体温、免疫系）の働きが説明できる。		
準備学習	生物学（高等学校）の復習、毎回の講義内容の復習		
受講者への要望			
人体生理学ならびに医学用語の修得に努める。			
講義の順序とポイント			
１．人体の植物性機能（内部環境の恒常性、ホメオスターシス） ２．血液１（血液組成、血液型） ３．血液２（止血と血液凝固） ４．呼吸１（内呼吸、血液ガス） ５．呼吸２（外呼吸、呼吸器系の構造、呼吸運動、換気） ６．循環１（心臓の構造、心収縮、心周期、心拍出） ７．循環２（刺激伝導系や活動電位、心電図） ８．循環３（脈管系、脈波、血圧、血流） ９．消化吸収（消化器系の構造と機能、消化管運動、分泌、吸収） １０．栄養代謝（栄養素、エネルギー代謝） １１．内分泌１（生体の内部環境の調節系） １２．内分泌２（生殖、性の分化、成長と老化） １３．腎機能と体液調節１（体内老廃物の排泄、腎臓の構造と機能） １４．腎機能と体液調節２（体液量調節、酸塩基平衡） １５．生体防御（病原性生物等による感染を防ぐ免疫系、体温調節系）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J90007001
科目名	生化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biochemistry		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	生化学は、すべての生物に見られる構造、機能、化学反応を分子レベルで理解し、生物における共通の基本原理を学ぶ学問である。本講義では、多様な生命現象を物理化学的視点から理解するために、生命を構成する生体高分子としてのタンパク質、脂質、核酸、糖質の構造と機能、エネルギー代謝としての異化・同化、生命の根源を司る自己複製メカニズム、自己と非自己を識別し、細胞外環境変化を細胞内へ伝達する膜系と膜系を介する物質輸送とシグナル伝達についての基礎知識を十分に理解し、修得する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 第１３版』（医学書院） 三輪一智・中恵一 著 2,376 円		
教材（参考文献）	『イラストレイテッド生化学 原書６版』（丸善出版） Richard A. Harvey, Denise R. Ferrier 著 8,424 円 『ストライヤー生化学 第７版』（東京化学同人） JM. Berg, JL. Tymoczko, L. Stryer 著 15,012 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する 適宜講義用プリントを配布する		
評価方法	レポート（10%）、小テスト（20%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．生物を構成する生体成分について分子レベルで理解する ２．生体の機能制御を担う酵素と触媒作用について理解する ３．生体のエネルギー産生と代謝の仕組みについて理解する ４．遺伝情報とその発現メカニズムについて理解する		
準備学習	１．予習としてシラバス（講義の順序とポイント）に記された教科書の単元を事前に読んで、講義に臨むこと ２．講義終了時に、復習の課題を指定するので、次回の講義開始時に提出すること		

受講者への要望

１．能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい
２．単元ごとに小テストを実施する
３．遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める
４．講義の最後に質問の時間を設けるが、講義中に挙手して質問しても構わない

講義の順序とポイント

１．化学の基礎と細胞
２．糖類・脂質
３．リポタンパク質・タンパク質
４．核酸・水・無機質（小テスト：糖類・脂質・タンパク質）
５．血液と尿・ホルモン
６．ホルモンと生理活性物質
７．代謝・酵素
８．ビタミン・補酵素　（小テスト：ホルモンと酵素）
９．糖代謝
１０．脂質代謝
１１．タンパク質代謝
１２．核酸代謝　（小テスト：糖代謝）
１３．代謝異常　（小テスト：脂質代謝・タンパク質代謝）
１４．遺伝情報
１５．遺伝情報と先天性代謝異常（小テスト：遺伝情報）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★★

年度	2015	授業コード	J90008001
科目名	衛生学	単位数	1
科目名（英語表記）	Hygienics		
担当者名	岩永　資隆	旧科目名称	
講義概要	衛生学は自然的・社会的環境要因と健康との関連を考究し、疾病の予防・早期発見および健康の保持推進に役立てようとする学問である。種々の自然的・社会的要因を認識し、生活の場などで衛生学的な問題意識を持ち、科学的解決を目指す力を獲得することを目標とする。自然要因である、水、公害問題、食品、栄養、感染症などと、社会要因である、学校保健、産業保健、生活習慣病に関する内容を中心に、社会と健康への影響について学修する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	『国民衛生の動向』（厚生労働統計協会）　2,500 円 『衛生行政大要』（日本公衆衛生協会）　上田茂 他 編 3,996 円 『衛生法規の要点』（日本公衆衛生協会）　中原俊隆 編 3,024 円 『学校保健の世界』（杏林書院）　大澤清二 他 著 2,592 円 『学校医・学校保健ハンドブック』（文光堂）　衛藤隆、中原俊隆 編 8,208 円		
教材（その他）	配布資料		
評価方法	1．受講態度（10%） 2．授業内小テスト（10%） 3．レポート課題（30%） 4．定期試験（50%）		
到達目標	衛生学は自然的・社会的環境要因と健康との関連を考究し、疾病の予防・早期発見および健康の保持推進に役立てようとする学問である。 種々の自然的・社会的要因を認識し、生活の場などで衛生学的な問題意識を持ち、科学的解決を目指す力を獲得することを目標とする。		
準備学習	講義終了時に配布する次回の講義の資料を配布するので、次回の講義開始までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
新聞、TV、インターネット等のメディアに取り上げられる、健康、水、公害問題、食品、栄養、感染症、学校保健、産業保健、生活習慣病などの記事を興味を持って視聴・熟読し、それらの背景や関連事項についての資料を検索してよく理解し、自分なりの考えを持つこと。			
講義の順序とポイント			
1．入門（衛生学序論、歴史、研究方法） 2．環境（物理・科学的条件、室内環境衛生、公害、地球温暖化） 3．食品衛生（食中毒） 4．感染症対策１（感染症法、予防対策、疾病予防と予防接種） 5．学校保健（健診、伝染病） 6．産業保健（労働衛生法、職業病、労働災害、検診） 7．生活習慣病（メタボリックシンドローム、健診） 8．保健統計			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J90009001
科目名	公衆衛生学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Health		
担当者名	里村　一成	旧科目名称	
講義概要	公衆衛生の基本となる知識、関係法規等の理解とともに、日本における公衆衛生の現状について学修する。また、喫煙や飲酒などの嗜好品摂取、生活習慣、メタボリックシンドローム対策等、公衆衛生の分野において問題となっているトピックについて、そのアプローチ等についても実例を挙げて教授する。健康を守るためには、医療だけでなく、個人の生活、ならびに地域・社会の環境等様々な方面からのアプローチが必要であることを学ぶ。		
教材（テキスト）	『公衆衛生看護学.jp』（インターメディカル）　荒賀直子 他 著 4,752 円		
教材（参考文献）	『国民衛生の動向』（厚生労働統計協会）　2,500 円		
教材（その他）	適時、授業の際にプリントを配布する。		
評価方法	定期試験により評価する		
到達目標	個人だけでなく集団としての健康増進、疾病予防を考えるという公衆衛生的な考え方を身につける。そのために、 １．日本における保健体制、健康政策を理解する。 ２．保健・福祉・医療の連携の現状と問題点を理解する。 ３．衛生統計を理解し地域保健等にどのように役立てるかを理解する。 ４．実践活動としてのヘルスプロモーションや行動変容について理解する。		
準備学習	授業前にテキストを読んでおくことが望ましい。		
受講者への要望			
質問は授業中に行うことが望ましいが、メールで質問をすることも可能であるので疑問を残さないようにしてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．健康の概念と公衆衛生 ２．公衆衛生行政と衛生法規 ３．保険制度と介護、社会保障 ４．ヘルスプロモーションと行動変容 ５．母子保健 ６．成人・老人保健 ７．学校保健 ８．精神保健 ９．地域保健 １０．感染症対策 １１．衛生統計と健康の指標 １２．食品衛生 １３．環境衛生 １４．労働衛生 １５．危機管理、国際保健			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J90010001
科目名	栄養学	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Nutrition		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	栄養とは、生物が食物を摂取することによって、生命および健康の維持、発育・成長などの生命活動に必要な物質、すなわち栄養素を体内に取り込み、利用する営みである。本講義では、栄養素の種類とそれらの構造および生理機能、消化・吸収、エネルギー代謝などの基本的概念を正しく理解することを目的とする。さらに、健康の保持・増進、疾病予防と回復促進、体づくりのために必要な栄養と食生活など、実践的な栄養学についても紹介する。		
教材（テキスト）	特に定めない		
教材（参考文献）	『ポケットアトラス栄養学』（ガイアブックス）　ハンス・コンラート・ビーザルスキ 著 2,808 円 『基礎栄養学（健康・栄養科学シリーズ）改訂第 4 版』（南江堂）　奥恒行、柴田克己 編 3,024 円		
教材（その他）	授業中にプリントを配布する。 京学なびおよび共通ドライブによりファイルを提供する。		
評価方法	定期テスト（50%）、授業内小テスト（30%）、レポート（20%）		
到達目標	健康づくり・体づくりなどの実践の礎とするために、栄養の基礎知識を正しく理解する。		
準備学習	毎回、京学なびにて予習・復習レポートを提供する。 レポートによる授業の予復習に留まらず、関連分野についても発展的に調べておく。		
受講者への要望			
講義には毎回出席すると共に、毎回提供する課題についても意欲的に取り組んでほしい。 日頃から新聞等のメディアを意識し、自分自身が摂取している食事や食品成分に関心を持っておくこと。			
講義の順序とポイント			
1．はじめに　-栄養学とは- 2．栄養成分の消化吸収 3．糖質の機能と代謝 4．アミノ酸とタンパク質の機能と代謝 5．脂質の機能と代謝 6．エネルギー代謝 7．ビタミン、ミネラルおよび水の生理作用 8．疾病予防や健康づくり・体づくりのための食生活			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	J90015001
科目名	リハビリテーション概論	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Rehabilitation		
担当者名	奥田　良樹	旧科目名称	
講義概要	リハビリテーションは、外傷および疾病により生じた機能障害、能力低下、社会的不利に対して、訓練や指導、社会的支援により、障害の回復と自立を促し、全人的な社会復帰を目指す取り組みである。本講義では、リハビリテーションの理念と歴史について、医療的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、教育的リハビリテーション、現代の日本の医療および福祉とリハビリテーションの現状を取り上げ、その課題について解説をする。		
教材（テキスト）	『入門リハビリテーション概論　第７版』（医歯薬出版）　中村隆一・佐直信彦 編 6,264 円		
教材（参考文献）	『一目でわかるリハビリテーションチーム医療』（診断と治療社）　久保俊一 他 著 3,024 円		
教材（その他）	パワーポイント、ビデオ教材		
評価方法	レポート（50%）、定期テスト（50%）		
到達目標	１．リハビリテーション医療について、一般な知識を習得する。チーム医療における職種とその役割を学び、現在及び将来にいたる社会における重要性を理解する。 ２．主なリハビリテーションアプローチを理解できる。 ３．評価や検査について内容を理解できる。 ４．リハビリテーション医学とは 　総合的に観念がとらえられる様になる。		
準備学習	授業前に教材、参考資料に目をとおし確認しておくこと。		
受講者への要望			
リハビリテーション医学の社会における役割を理解し、自己の学ぶ意識を高める。			
講義の順序とポイント			
１．リハビリテーション総論（１）　診断学、評価 ２．リハビリテーション総論（２）　急性期・回復期・生活期のリハビリテーション ３．骨関節障害のリハビリテーション（１）　上肢・手の障害のリハビリテーション ４．骨関節障害のリハビリテーション（２）　下肢・体幹の障害のリハビリテーション ５．脳血管障害・外傷性脳損傷のリハビリテーション ６．脊髄損傷のリハビリテーション ７．義肢装具・生活支援機器、ロボットリハビリテーション ８．心臓のリハビリテーションン/呼吸器のリハビリテーション			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			★★

年度	2015	授業コード	J90017001
科目名	音声学	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	ヒトが話すことは、社会生活を送るうえで欠かせない。話すことは、言語という信号を話し手が発信することであり、聞き手が受信をすることで音声コミュニケーションは成立する。音声学は、ヒトの話し言葉（音声言語）の科学であり、音声言語の生成と知覚についての学問である。音声言語の特徴を理解することで、日常や仕事での良好なやりとりのための条件を知ることができる。本講義では、ヒト音声の基本的事項（分節と変動）と日本語音声の特徴（母音と子音、超分節）を提示する。ヒトの身体がどのように音声信号を生み出すのか、ヒトはどのようにして連続的な音信号から言葉を解読するのか、代表的な実験を紹介しながら、科学的な疑問と解決の筋道を提示する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	『実践音声学入門』（大修館） ジョン・キャットフォード著 2,700 円		
教材（その他）			
評価方法	定期試験（100%）。		
到達目標	１．ヒト音声の不思議に興味を持つ ２．日常の音声言語コミュニケーションの現象を知りそれを説明できる		
準備学習	「次回の疑問」について、調べてみる。		
受講者への要望			
毎回の講義で示される内容（背景、疑問、実験・調査、解説、説明）を整理しておくこと。			
講義の順序とポイント			
（１）音声言語の生成 １．話し言葉（発話）の最小単位　　音声の単位は何か？ ２．前後の音の影響　　標的音は音環境により変動があるのか？ ３．音声の獲得　　ヒトはどの音から身につけるのか？ ４．子音の出し分け　　調音点が異なる子音の音響情報にどんな違いがあるか？ ５．発音の難易度　　発音しやすい、発音しにくいのはどんな音か？ ６．話すスピード　　どのくらいの速さで話しているのか？ ７．言い誤りの起源　　早口言葉はなぜ噛むのか？ ８．外国人の話す日本語　　外国人の日本語は何がどうが違う？ ９．言語特有のメロディ　　世界の言語には特有のメロディがあるのか？ （２）音声の知覚と解読 １０．話者認識　　音声情報から話し手を特定することができるのか？ １１．音声の変動への適応　　いろいろな人たちが話す言葉をどうして分かるのか？ １２．音声認識　　機械による音声認識は可能か？ １３．音声情報の脱落と補完　　音声信号の一部がヒトは補完できるのか？ １４．視聴覚情報の統合　　音節聴取で視覚情報と聴覚情報のどちらが優位なのか？ １５．選択的注意による音声認識　　大勢がワイワイ話している中で誰かの会話を聴けるのか？			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J90023001
科目名	社会保障論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Security		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本講義では、社会保障の給付の負担と受益による分類、すなわち公的扶助、社会保険、社会扶助という三分類に沿って、それぞれの役割と方法について明らかにする。また、現代社会における社会保障の必要性についても多面的に考察する。さらに、社会保障の中でも今日特に重要な位置を占めている領域、つまり所得保障、医療保障、介護保障等の具体的制度と現状について詳説するとともに、今日の少子高齢化の進行とも関連付けながら、それぞれが抱える課題について検討する。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に配布する。		
教材（参考文献）	『社会保障入門 2015』（中央法規出版）　社会保障入門編集委員会（編） 『社会保障の光と陰』（高菅出版）　足立正樹・井上久子（編著）		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の理念および制度について理解し、その今日的課題について考察するための視座を得ること。		
準備学習	日ごろから各メディアで報じられる社会保障関係の情報に注意を払うこと。 配布する教材を予め熟読し、参考文献などを利用して空欄部分（重要単語等）を埋めておくこと。		

受講者への要望

・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として単位を認定しない。特別な理由により途中退室する場合には、担当者に報告し指示を受けること。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

1．国民生活と社会保障
2．社会保障の概念と制度
3．社会保障の必要性
4．少子・高齢化の進行
5．所得保障の諸制度
6．年金制度の概要
7．年金制度の現状と課題
8．医療保障の概念と方法
9．医療保険制度の概要
10．医療保険制度の現状と課題
11．高齢者介護をめぐる状況
12．介護保険制度の概要
13．介護保険制度の現状と課題
14．社会保障の誕生と歴史的展開
15．福祉国家の発展と危機

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J90024001
科目名	保健医療情報学	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Medical Informatics		
担当者名	谷村　晋	旧科目名称	
講義概要	統計処理方法を理解し、健康の維持・増進、疾病予防への応用を目的として、保健衛生等の統計・検定・データの処理の実際を学ぶ。特に健康医療学部では、人々の健康に関連した指標、健康被害の予防から、出生・人口・死亡等を数値的に見る能力を養う。医療情報の活用方法を養った後、統計的処理法の基礎的知識を修得する。保健師教育では、健康診断や健康教育活動等の集計法や、数値の読み取りができる能力を養う。		
教材（テキスト）	『国民衛生の動向　Vol.62 No.9　2015/2016』　（厚生労働統計協会）　2,500 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席（50%）、試験（50%）		
到達目標	保健指標の動向を理解し、保健師や看護師に必要な統計処理の基礎を修得する		
準備学習	中学数学「資料の整理」、高校数学・数Ⅰ　データ分析、・数Ｂ　確率分布と統計的な推測を復習しておくこと。		

受講者への要望

統計学は応用数学の一分野です。数学に苦手意識を持つ学生は、事前に十分な自己学習を重ねてから講義を受けてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 人口静態統計、率、比、割合
3. 人口動態統計（出生統計、死亡統計、母子保健統計）
4. 人口動態統計（結婚・離婚動向、死因統計、疾病分類）
5. 傷病統計とその他の主な統計調査
6. 障害統計、労働災害統計、学校保健統計、国際保健統計
7. 指標の標準化
8. 年次推移の観察
9. 統計調査法と調査票の作成
10. 記述統計とデータの視覚化
11. 確率と確率分布
12. 統計的推測（点推定、区間推定、仮説検定）
13. 統計的推測（t 検定、F 検定、分散分析、Wilcoxon 検定、X 二乗検定など）
14. 相関分析と統計モデル（交絡因子の調整）
15. 情報処理（情報管理、レコードリンケージ）、模擬試験問題の解答解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★★

年度	2015	授業コード	J90024002
科目名	保健医療情報学	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Medical Informatics		
担当者名	谷村　晋	旧科目名称	
講義概要	統計処理方法を理解し、健康の維持・増進、疾病予防への応用を目的として、保健衛生等の統計・検定・データの処理の実際を学ぶ。特に健康医療学部では、人々の健康に関連した指標、健康被害の予防から、出生・人口・死亡等を数値的に見る能力を養う。医療情報の活用方法を養った後、統計的処理法の基礎的知識を修得する。保健師教育では、健康診断や健康教育活動等の集計法や、数値の読み取りができる能力を養う。		
教材（テキスト）	『国民衛生の動向　Vol.62 No.9　2015/2016』　（厚生労働統計協会）　2,500 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席（50%）、試験（50%）		
到達目標	保健指標の動向を理解し、保健師や看護師に必要な統計処理の基礎を修得する		
準備学習	中学数学「資料の整理」、高校数学・数Ⅰ　データ分析、・数Ｂ　確率分布と統計的な推測を復習しておくこと。		
受講者への要望			
統計学は応用数学の一分野です。数学に苦手意識を持つ学生は、事前に十分な自己学習を重ねてから講義を受けてください。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス 2.　人口静態統計、率、比、割合 3.　人口動態統計（出生統計、死亡統計、母子保健統計） 4.　人口動態統計（結婚・離婚動向、死因統計、疾病分類） 5.　傷病統計とその他の主な統計調査 6.　障害統計、労働災害統計、学校保健統計、国際保健統計 7.　指標の標準化 8．年次推移の観察 9.　統計調査法と調査票の作成 10. 記述統計とデータの視覚化 11. 確率と確率分布 12. 統計的推測（点推定、区間推定、仮説検定） 13. 統計的推測（t 検定、F 検定、分散分析、Wilcoxon 検定、X 二乗検定など） 14. 相関分析と統計モデル（交絡因子の調整） 15. 情報処理（情報管理、レコードリンケージ)、模擬試験問題の解答解説			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★★

年度	2015	授業コード	J90024003
科目名	保健医療情報学	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Medical Informatics		
担当者名	橋本　京子	旧科目名称	
講義概要	統計処理方法を理解し、健康の維持・増進、疾病予防への応用を目的として、保健衛生等の統計・検定・データの処理の実際を学ぶ。特に健康医療学部では、人々の健康に関連した指標、健康被害の予防から、出生・人口・死亡等を数値的に見る能力を養う。医療情報の活用方法を養った後、コンピュータソフトを体験的に活用することを通して、統計的処理法の基礎的知識を修得する。健康診断や健康教育活動等の集計法や、数値の読み取りができる能力を養う。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリントを配布する		
教材（参考文献）	寺島拓幸，廣瀬毅士　(2015)．SPSS によるデータ分析　東京図書 石村貞夫・石村光資郎　(2013)．SPSS による統計処理の手順（第 7 版）　東京図書		
教材（その他）			
評価方法	授業内で課題の提出を複数回求める（100%）		
到達目標	1. 基本的な統計学の知識を身につける。 2. SPSS（統計解析ソフトウェア）を使いこなせるようになる。 3. 健康・医療・スポーツに関する統計資料を読んだときに，それが何を意味しているのか理解できる力を身につける 4. 健康・医療・スポーツに関する実験・調査データを自ら統計的に処理できる力を身につける		
準備学習	基本的なパソコン操作の方法を身につけておくこと。Excel の基本操作に慣れておくこと。 本授業は予習より復習が大切になる。授業で学んだことは，自主的にパソコンを使用し，しっかりと復習しておくことが望ましい。授業時間内で完成しなかった課題についても，授業以外の時間を用いて仕上げることを求める。		

受講者への要望

統計学とは，集団の傾向や性質を数量的に明らかにする学問です。この授業はパソコンを用いて実習形式で統計学の理解を深めます。したがって，遅刻や欠席があると授業内容の理解が不十分になるため，遅刻や欠席のないようにしてください。
実習形式を取り入れるため，自分から積極的に授業に参加することを期待します。授業中の飲食，講義の際の私語や他者に迷惑のかかる行為は厳禁です。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション　統計とは何か
2　データの種類　質的変数と量的変数
3　データの入力と確認　外れ値の発見
4　1 つひとつの変数についての分析その 1：図表を用いてまとめる(1)　量的変数の場合
5　1 つひとつの変数についての分析その 1：図表を用いてまとめる(2)　質的変数の場合
6　1 つひとつの変数についての分析その 2：特徴を数値で要約する(1)　代表値
7　1 つひとつの変数についての分析その 2：特徴を数値で要約する(2)　ばらつき
8　2 つの変数の関係についての分析・量的変数どうしの場合(1)　相関
9　2 つの変数の関係についての分析・量的変数どうしの場合(2)
10　2 つの変数の関係についての分析・質的変数どうしの場合(1)　クロス表
11　2 つの変数の関係についての分析・質的変数どうしの場合(2)
12　統計的検定の基本的考え方　母集団と標本
13　統計的検定を用いてみる(1)　2 群間の比較（t 検定）
14　統計的検定を用いてみる(2)　同一集団での変化をみる（t 検定）
15　保健医療に関する資料の読み取り

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★★		★★	★★	★

年度	2015	授業コード	J90024004
科目名	保健医療情報学	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Medical Informatics		
担当者名	橋本　京子	旧科目名称	
講義概要	統計処理方法を理解し、健康の維持・増進、疾病予防への応用を目的として、保健衛生等の統計・検定・データの処理の実際を学ぶ。特に健康医療学部では、人々の健康に関連した指標、健康被害の予防から、出生・人口・死亡等を数値的に見る能力を養う。医療情報の活用方法を養った後、コンピュータソフトを体験的に活用することを通して、統計的処理法の基礎的知識を修得する。健康診断や健康教育活動等の集計法や、数値の読み取りができる能力を養う。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリントを配布する		
教材（参考文献）	寺島拓幸，廣瀬毅士 (2015). SPSS によるデータ分析　東京図書 石村貞夫・石村光資郎 (2013). SPSS による統計処理の手順（第 7 版）　東京図書		
教材（その他）			
評価方法	授業内で課題の提出を複数回求める（100%）		
到達目標	1. 基本的な統計学の知識を身につける。 2. SPSS（統計解析ソフトウェア）を使いこなせるようになる。 3. 健康・医療・スポーツに関する統計資料を読んだときに，それが何を意味しているのか理解できる力を身につける 4. 健康・医療・スポーツに関する実験・調査データを自ら統計的に処理できる力を身につける		
準備学習	基本的なパソコン操作の方法を身につけておくこと。Excel の基本操作に慣れておくこと。 本授業は予習より復習が大切になる。授業で学んだことは，自主的にパソコンを使用し，しっかりと復習しておくことが望ましい。授業時間内で完成しなかった課題についても，授業以外の時間を用いて仕上げることを求める。		

受講者への要望

統計学とは，集団の傾向や性質を数量的に明らかにする学問です。この授業はパソコンを用いて実習形式で統計学の理解を深めます。したがって，遅刻や欠席があると授業内容の理解が不十分になるため，遅刻や欠席のないようにしてください。
実習形式を取り入れるため，自分から積極的に授業に参加することを期待します。授業中の飲食，講義の際の私語や他者に迷惑のかかる行為は厳禁です。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション　統計とは何か
2　データの種類　質的変数と量的変数
3　データの入力と確認　外れ値の発見
4　1 つひとつの変数についての分析その 1：図表を用いてまとめる(1)　量的変数の場合
5　1 つひとつの変数についての分析その 1：図表を用いてまとめる(2)　質的変数の場合
6　1 つひとつの変数についての分析その 2：特徴を数値で要約する(1)　代表値
7　1 つひとつの変数についての分析その 2：特徴を数値で要約する(2)　ばらつき
8　2 つの変数の関係についての分析・量的変数どうしの場合(1)　相関
9　2 つの変数の関係についての分析・量的変数どうしの場合(2)
10　2 つの変数の関係についての分析・質的変数どうしの場合(1)　クロス表
11　2 つの変数の関係についての分析・質的変数どうしの場合(2)
12　統計的検定の基本的考え方　母集団と標本
13　統計的検定を用いてみる(1)　2 群間の比較（t 検定）
14　統計的検定を用いてみる(2)　同一集団での変化をみる（t 検定）
15　保健医療に関する資料の読み取り

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★★		★★	★★	★

年度	2015	授業コード	J90025001
科目名	バイオメカニクス	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomechanics		
担当者名	鈴木　ひとみ	旧科目名称	
講義概要	地球上における人体の運動動作は物理的な作用を受ける。筋肉によって生み出された力は関節を介して骨に伝達され、重力に抗した様々な運動動作が生み出される。本講義では骨格筋の働きの仕組みから、骨の構造、巧みな関節の働きを学び、骨格筋の起始と停止を知ることで発揮される協調的な動きを理解する。これらの学びを基に、身近な運動動作を例題にして、人間の身体構造とその動きの素晴らしさを認識するとともに、身体運動発現のメカニズムを運動学および運動力学の両面から理解する。この講義は、学科関連系科目として設定されており、看護学科教員が、看護現場での問題についても触れる。		
教材（テキスト）	『スポーツバイオメカニクス』（朝倉書店） 深代千之 他 編著 3,780 円、および補足テキストとして手製の講義ノートを用いる。		
教材（参考文献）	『目で見る動きの解剖学』（大修館書店） ロルフ・ヴィルヘード 著 2,592 円、適時、講義内容に適した資料を紹介する。		
教材（その他）	手製の資料を、授業内容に合わせて適時配布する。		
評価方法	定期試験（60%）、小テスト（20%）、レポート（20%）		
到達目標	人体の骨格や筋肉の名称、関節の働きについての理解を深める。日常生活における例えば歩行やランニングにおける骨格筋の働きや、外部に発揮した力の変化を観察して、これらのメカニズムが説明できる。		
準備学習	前期開講の「健康医療学概論」や、「解剖生理学」が基礎的な講義となるので、十分理解して本講義の受講に備えること。各回の授業終わりに次回の講義内容について説明するので、テキストに目を通して、不明な点などについて確認しておく。あるいは質問の準備とすること。講義の後はあらかじめ不明に思った個所や、専門用語について覚えるように工夫すること。		

受講者への要望

物理学における力学が関係するが、理解しやすいように努めるので、しっかりと耳を傾けること。スライドを中心に授業が進むが、しっかりノートに書き留めること。必要な部分についてノートすることを指示するが、関心のある部分についてもしっかりノートすること。

講義の順序とポイント

１．スポーツバイオメカニクスの基礎１
　地上の力学的環境と身体内の力伝達機構、可動関節の特徴、四肢の関節運動、筋の付着部と関節軸との距離、長管骨末端運動範囲の増大と速度増大、複関節運動と手・足の作業能
２．スポーツバイオメカニクスの基礎２
　運動と力学の基礎：ニュートン力学
３．スポーツバイオメカニクスの基礎３
　身体構造と力学的運動要因、骨格筋の力特徴：身体と重心及び重心線、並進及び回転運動、 身体部位の質量比、肘関節屈曲と局部重心移動、姿勢変化と全身重心移動
４．スポーツバイオメカニクスの基礎４
　頭・体幹部維持と転倒動作、関節運動学と関節運動の制約因子、骨格筋腱系機能、単関節筋と 多関節筋の働き、筋の太さと筋力、筋長と短縮距離
５．スポーツバイオメカニクスの基礎５
　力の合成と分解、内力と外力、運動量と力積、運動の力学的エネルギー、関節トルクと関節パワー
６．スポーツバイオメカニクスの基礎６
　仕事、パワー、角運動量の保存、流体と摩擦力、二重振り子モデル
７．スポーツバイオメカニクスの応用
　良い動きのバイオメカニクス的原則：反動動作と振込動作、緩衝動作、運動連鎖の原則、力学的エネルギーの流れ、運動における効率、経済性と有効性
８．運動器のしくみと働き（実際の身体動作と関連させて）
９．関節・運動器の機能（実際の身体動作と関連させて）
１０．神経のコントロール（動きのコントロールと反射による動作の調整：実際の動作と関連させて）
１１．スポーツバイオメカニクスの実際１：走る・跳ぶ・投げるスポーツバイオメカニクス
１２．スポーツバイオメカニクスの実際２：泳ぐ・蹴る・滑る・押すスポーツバイオメカニクス
１３．スポーツバイオメカニクスの実際３：回る・打つスポーツバイオメカニクス

１４．レジスタンストレーニングのバイオメカニクス １５．スポーツバイオメカニクス分析結果データーから理解できる事

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	J90029001
科目名	看護学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Nursing		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
講義概要	看護とは何かを歴史的側面から概観し、看護の語源、起源、定義および看護の概念・目的を学修する。そこから看護の専門性について考察する。また、看護の対象者である人間の健康やそのライフサイクルを踏まえた健康問題、人間のニードを理解するとともに、看護の提供者の活動領域とその内容、看護の倫理、看護管理、幅広く展開する看護活動についても理解する。さらに、看護の変遷を通して、看護理論について学修し、看護学の展望を概観する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　看護学概論』（医学書院）　藤崎郁、林千冬 他 著 2,592 円 『看護の基本となるもの』（日本看護協会出版社）　ヴァージニア・ヘンダーソン 著、湯槇ます 他 訳 1,080 円 『対訳　看護覚え書』（うぶすな書院）　フローレンス・ナイチンゲール 著、小林章夫 他 訳 2,808 円		
教材（参考文献）	『看護理論集』（日本看護協会出版会）　ジュリア・Ｂ・ジョージ 編、南裕子 他 訳 4,212 円		
教材（その他）	ビデオ教材、パワーポイントを活用する。		
評価方法	レポートと発表（30%）、定期テスト（70%）		
到達目標	１．看護とは何かを歴史的側面から捉え、看護の語源、起源、定義、看護の概念を述べることができる。 ２．看護の対象者である人間の健康やライフサイクルをふまえた健康問題、人間のニードを理解する。 ３．看護の提供者の活動、看護の倫理、看護管理について理解する。 ４．看護の変遷を通して、看護理論について動向や理論的側面を理解する。 ５．看護活動の広がりと展望を理解する。		
準備学習	１．指定されたテーマに応じたレポートと発表を行えるよう準備する。 ２．「看護覚え書」についてのレポートを要約して提出する。 ３．人間のニードを理解し、自分のニードについて述べることができるよう準備する。 ４．「看護体験実習」の中で学んだ内容をフィードバックすることができる。		
受講者への要望			
看護学概論の学修は、自ら文献を読み、まとめ、自らの考えを私見として述べることが求められる。自分の看護に対する考えをまとめ、発表したり意見交換ができるようにする。			
講義の順序とポイント			
１．看護学ガイダンス： 看護とは何か、看護の概念、看護の定義 ２．人間と健康、健康の概念、健康関連行動、家族とライフサイクル ３．看護の提供者 ４．看護の倫理的活動 ５．看護の変遷：古代、中世、日本の近世 ６．看護の変遷：世界の近代 ７．看護の変遷：ナイチンゲール「看護覚え書」にみる看護 ８．看護の変遷： アメリカの看護史 ９．看護の変遷：日本の近代、現代 １０．現代看護理論家達の業績（１）ニード論：ヘンダーソン １１．現代看護理論家達の業績（２）相互作用論：ペプロウ １２．現代看護理論家達の業績（３）システム論：オレム、ロイ １３．看護の提供のしくみ １４．看護管理、医療安全 １５．看護の活動の広がりと展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J90030001
科目名	成長発達Ⅰ（小児の健康と看護）	単位数	1
科目名（英語表記）	Life Cycle Health Care Ⅰ: Pediatric Health　Nursing		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
講義概要	「子どもとその家族への看護と役割」を基本テーマに、子どもの看護についてイメージできることを目指す。小児看護の歴史的背景と展望、子どもの権利と擁護、子どもの成長発達の特徴とライフステージにおける小児期の意義と重要性、子どもと環境との関係、家族発達の基礎理論を学び、小児看護の理念・位置づけ・役割について理解する。子どもの権利と擁護についてはグループワークを中心に、成長発達の特徴についてはワークシートの作成を基本に理解を深める。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論・小児臨床看護総論』（医学書院）3,024 円 『看護のための人間発達学』（医学書院） 舟島なをみ 著 3,240 円		
教材（参考文献）	『親と子の心のカルテ』（新興医学出版社） 前川喜平監修、井原成男 著 2,160 円		
教材（その他）	1．DVD 教材やパワーポイントを活用する。 2．適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	1．子どもの成長・発達に伴う身体的・心理的・社会的特徴を述べることができる。 2．小児看護に必要な成長発達理論について理解することができる。 3．子どもを取り巻く環境について理解することができる。 4．子どもの権利・擁護について考えることができる。 5．小児看護の理念・位置づけ・役割について理解できる。		
準備学習	1．子どもの成長発達に関する基礎知識の獲得に向け、講義予定を示したシナリオを配布するので、シナリオに示されたテキストの講義予定範囲を読んで、授業参加すること。 2．子どもの食事の理解に向けて、市販の離乳食用食品・こども用おやつなどについて調べておくこと。 3．ワークシートの作成を予定しているため、ワークシートの完成のための資料収集をして授業参加すること。		

受講者への要望
子どもの成長・発達と養育支援に関わる看護の役割について講義する。 子どもと子どもの看護についてイメージできるように DVD や写真を使用するが、街中などの生活の場で見かける子どもや親子の様子を観察するよう心がけてほしい。また、 子どもに関する新聞記事等のニュースについても関心を持って情報を得てほしい。
講義の順序とポイント
1．ガイダンス　小児看護の概念と理念・歴史と展望 2．小児看護における倫理と子どもの権利尊重について 3．子どもの成長・発達の概要 4．新生児期における養育と看護 5．乳幼児期における養育と看護 6．学童期・思春期における養育と看護 7．子どもと家族を取り巻く環境・社会と看護の役割 8．子どもの健康問題と看護の機能・役割

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J90031001
科目名	成長発達Ⅱ（成人の健康と看護）	単位数	1
科目名（英語表記）	Life Cycle Health Care Ⅱ: Adult Health Nursing		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
講義概要	成人期は人のライフサイクルの中で身体的、精神的に安定し、社会・経済的に大きな役割を背負っている世代といわれている。成人看護学は、人間、環境、健康、看護を思考の枠組みとした看護理論を応用し、生活をしてゆく人を主体に考えてゆくことにある。看護者は時代の変化に関係なく行われるヒューマンケアリングと時代の変化とともに変化する健康問題に対するケアリングの両方の役割を持っていることを学ぶ。主な内容は、成人看護の概念、成人保健の動向、成人各期の特徴と健康問題、成人期の健康障害と看護、成人看護に必要な看護理論である。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔1〕 成人看護学総論』（医学書院） 2,484 円		
教材（参考文献）	『成人看護学』（医学書院） 黒田裕子 編 6,264 円 『国民衛生の動向』（厚生労働統計協会） 2,500 円		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	定期試験（80%）、課題レポート（20%）		
到達目標	1．成人の身体的・心理的・社会的特徴を理解できている。 2．現代における成人に生じやすい健康上の問題や成人看護の特性を理解している。 3．成人期の対象論について理解している。 4．成人看護学の構成を理解している。		
準備学習	・成人の発達課題について整理しておく。 ・ライフサイクルにおける、成人の位置づけと意義について整理しておく。 ・国民衛生の動向とテキストを参考にして、成人各期の特徴と健康問題について整理をしておく。 ・成人で活用できる看護理論を概観しておく。		

受講者への要望

1．事前に、テキストを読んでおき、疑問点や理解できない箇所を授業中に解決できるよう、積極的参加を求める。
2．日々、人々の健康に関して関心を持ち、新聞記事等で挙げられた健康問題などを読む習慣をつけることを要望する。
3．テキストの中での参考文献は可能なかぎり授業終了後、読んでおくこと。

講義の順序とポイント

1．成人期にある人の理解
2．生活と健康（成人の生活からとらえる健康・健康を守りはぐくむシステム）
3．成人への看護アプローチの基本
4．健康生活をはぐくむ看護
5．生活ストレスと看護
6．生活行動がもたらす健康問題とその予防
7．健康生活の急激な破綻から回復を促す看護と障害を持ちながらの生活とリハビリテーションについて
8．慢性的な揺らぎの再調整を促す看護から人生最後の時を支える看護について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J90032001
科目名	成長発達Ⅲ（高齢者の健康と看護）	単位数	1
科目名（英語表記）	Life Cycle Health CareⅢ: Geriatric Health Nursing		
担当者名	山本　裕子	旧科目名称	
講義概要	ライフサイクルからみた、高齢者の身体的・心理的・社会的な変化および発達課題を学修することにより、高齢者の多様性や持てる能力について理解する。加えて、介護保険法や成年後見人制度などの社会制度や、高齢者虐待や身体拘束・身体抑制などの社会問題、介護家族の課題、健康長寿などを学修することにより超高齢社会に突入した我が国の高齢者を取り巻く課題について理解し、老年看護学が果たす役割と機能について学修する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』（医学書院） 北川公子、井出訓他 著 2,916 円		
教材（参考文献）	『国民衛生の動向』（厚生労働統計協会） 2,500 円		
教材（その他）	1．ビデオ教材やパワーポイントを活用する。 2．適宜プリントを配付する。		
評価方法	定期試験（70%）、レポート（30%）		
到達目標	1．ライフサイクルにおける高齢者の身体的・心理的・社会的な変化について理解することが出来る 2．高齢者の尊厳とはなにかについて考えることが出来る 3．高齢者の発達課題について理解することが出来る 4．超高齢者社会になったわが国の現状と課題について考えることが出来る 5．高齢者を取り巻く医療、保健、福祉について理解することが出来る 6．高齢者看護が果たす役割と今後の課題について考えることが出来る		
準備学習	1．事前に指定されたテキストの授業範囲を熟読する。 2．授業のテキスト（レジメ）を京学なびの「授業資料」に、授業 1 週間前までにアップロードするので、プリントアウトし、事前に読んでおく。		
受講者への要望			
授業には積極的に参加し、毎回の内容に対し理解を深めること。毎回の講義で確認小テストを実施する。			
講義の順序とポイント			
1．超高齢社会における看護の役割 2．高齢者の発達と生活 3．高齢者の保健、医療、福祉 4．高齢者の生理的変化 5．老年看護に関連する理論 6．健康段階に応じた看護 7．高齢者とその家族への支援 8．高齢者の倫理的問題と今後の課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	J90035001
科目名	日常生活基盤と看護	単位数	2
科目名（英語表記）	Fundamental Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
講義概要	看護活動の基本となる看護技術の中で日常生活援助技術を取り上げ、対象となる人の基本的ニーズを充足するための看護援助の基本的な方法およびその原理を学ぶ。看護実践に共通の基盤となる対象の安全性、安楽性、自立性、倫理性を考慮しつつ、既習の形態機能・生理学的知識に基づき、科学的根拠を用いた考え方を身につける。具体的には、活動・休息の援助、療養環境や清潔を整えるための援助、排泄を整えるための援助に関わる技術の修得を目指す。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』（メジカルフレンド社、2014） 深井喜代子 編 3,348円		
教材（参考文献）	『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術』（メディカ出版、2014） 志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕 編著 3,888 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。 プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（90%）＜筆記試験（45%）および実技試験（45%）＞、演習記録の提出状況及び内容（10%）		
到達目標	１．看護技術の意義と構造を理解できる。 ２．日常生活活動を支援する意義と生活行動の特徴を理解できる。 ３．エビデンスに基づいた安全、安楽な看護技術を提供するための基本原理を理解できる。 ４．看護の対象となる人々の生活環境を整えるための基本的技術を身につけることができる。 ５．アセスメントに基づき、対象者に適した看護技術の提供について検討できる。		
準備学習	既修科目「看護学概論」で学ぶ看護の定義や理論、健康の概念を十分理解しておく。		

受講者への要望

１．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行った上で講義に参加すること。
２．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、修得度を向上させること。
３．レポート等は、必ず期限を守って提出すること。

講義の順序とポイント

１．看護技術の意義と構造（講義）
２．看護に共通する基本技術（１）コミュニケーション（講義）
３．看護に共通する基本技術（２）生活環境の調整（講義１）
４．看護に共通する基本技術（２）生活環境の調整（講義２）
５．看護に共通する基本技術（２）ベッドメーキング（演習１）
６．看護に共通する基本技術（２）ベッドメーキング（演習２）
７．看護に共通する基本技術（３）観察（バイタルサイン測定）と記録（講義１）
８．看護に共通する基本技術（３）観察（バイタルサイン測定）と記録（講義２）
９．看護に共通する基本技術（３）バイタルサイン測定（演習１）
１０．看護に共通する基本技術（３）バイタルサイン測定（演習２）
１１．看護に共通する基本技術（４）姿勢と体位（講義１）
１２．看護に共通する基本技術（４）姿勢と体位（講義２）
１３．看護に共通する基本技術（４）体位変換（演習１）
１４．看護に共通する基本技術（４）体位変換（演習２）
１５．看護に共通する基本技術（４）移動と移送（演習１）
１６．看護に共通する基本技術（４）移動と移送（演習２）
１７．日常生活の援助技術（５）清潔の援助（講義１）
１８．日常生活の援助技術（５）清潔の援助（講義２）
１９．日常生活の援助技術（５）寝衣交換（演習１）
２０．日常生活の援助技術（５）寝衣交換（演習２）
２１．日常生活の援助技術（６）全身清拭（演習１）
２２．日常生活の援助技術（６）全身清拭（演習２）
２３．日常生活の援助技術（７）洗髪（演習１）
２４．日常生活の援助技術（７）洗髪（演習２）

２５．日常生活の援助技術（６）排泄の援助（講義１）
２６．日常生活の援助技術（６）排泄の援助（講義２）
２７．日常生活の援助技術（６）排泄介助（演習１）
２８．日常生活の援助技術（６）排泄介助（演習２）
２９．日常生活の援助技術（６）排泄の援助（講義３）
３０．看護技術の対象への適用について（講義）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J90035002
科目名	日常生活基盤と看護	単位数	2
科目名（英語表記）	Fundamental Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	岡田　朱民	旧科目名称	
講義概要	看護活動の基本となる看護技術の中で日常生活援助技術を取り上げ、対象となる人の基本的ニーズを充足するための看護援助の基本的な方法およびその原理を学ぶ。看護実践に共通の基盤となる対象の安全性、安楽性、自立性、倫理性を考慮しつつ、既習の形態機能・生理学的知識に基づき、科学的根拠を用いた考え方を身につける。具体的には、活動・休息の援助、療養環境や清潔を整えるための援助、排泄を整えるための援助に関わる技術の修得を目指す。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』（メジカルフレンド社、2014） 深井喜代子 編 3,348円		
教材（参考文献）	『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術』（メディカ出版、2014） 志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕 編著 3,888 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。 プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（90%）＜筆記試験（45%）および実技試験（45%）＞、演習記録の提出状況及び内容（10%）		
到達目標	１．看護技術の意義と構造を理解できる。 ２．日常生活活動を支援する意義と生活行動の特徴を理解できる。 ３．エビデンスに基づいた安全、安楽な看護技術を提供するための基本原理を理解できる。 ４．看護の対象となる人々の生活環境を整えるための基本的技術を身につけることができる。 ５．アセスメントに基づき、対象者に適した看護技術の提供について検討できる。		
準備学習	既修科目「看護学概論」で学ぶ看護の定義や理論、健康の概念を十分理解しておく。		

受講者への要望

１．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行った上で講義に参加すること。
２．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、修得度を向上させること。
３．レポート等は、必ず期限を守って提出すること。

講義の順序とポイント

１．看護技術の意義と構造（講義）
２．看護に共通する基本技術（１）コミュニケーション（講義）
３．看護に共通する基本技術（２）生活環境の調整（講義１）
４．看護に共通する基本技術（２）生活環境の調整（講義２）
５．看護に共通する基本技術（２）ベッドメーキング（演習１）
６．看護に共通する基本技術（２）ベッドメーキング（演習２）
７．看護に共通する基本技術（３）観察（バイタルサイン測定）と記録（講義１）
８．看護に共通する基本技術（３）観察（バイタルサイン測定）と記録（講義２）
９．看護に共通する基本技術（３）バイタルサイン測定（演習１）
１０．看護に共通する基本技術（３）バイタルサイン測定（演習２）
１１．看護に共通する基本技術（４）姿勢と体位（講義１）
１２．看護に共通する基本技術（４）姿勢と体位（講義２）
１３．看護に共通する基本技術（４）体位変換（演習１）
１４．看護に共通する基本技術（４）体位変換（演習２）
１５．看護に共通する基本技術（４）移動と移送（演習１）
１６．看護に共通する基本技術（４）移動と移送（演習２）
１７．日常生活の援助技術（５）清潔の援助（講義１）
１８．日常生活の援助技術（５）清潔の援助（講義２）
１９．日常生活の援助技術（５）寝衣交換（演習１）
２０．日常生活の援助技術（５）寝衣交換（演習２）
２１．日常生活の援助技術（６）全身清拭（演習１）
２２．日常生活の援助技術（６）全身清拭（演習２）
２３．日常生活の援助技術（７）洗髪（演習１）
２４．日常生活の援助技術（７）洗髪（演習２）

２５．日常生活の援助技術（６）排泄の援助（講義１）
２６．日常生活の援助技術（６）排泄の援助（講義２）
２７．日常生活の援助技術（６）排泄介助（演習１）
２８．日常生活の援助技術（６）排泄介助（演習２）
２９．日常生活の援助技術（６）排泄の援助（講義３）
３０．看護技術の対象への適用について（講義）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J90036001
科目名	公衆衛生看護学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Health Nursing		
担当者名	畑下　博世	旧科目名称	
講義概要	公衆衛生看護活動の歴史的変遷を知った上で、公衆衛生看護と地域社会との関連を考え、公衆衛生看護活動の必要性と役割を理解する。地域で生活する人々の健康課題や、健康問題の解決に向けたヘルスケアシステムについて学び、システムが円滑に機能するための看護職の役割について学修する。また、公衆衛生看護活動の対象や活動の場所といった、個人、家族、集団、地域の特徴を知り、対象に応じた基本的な看護展開について学修する。		
教材（テキスト）	『最新公衆衛生看護学 第２版 総論』（日本看護協会出版会） 宮﨑美砂子 他 編 4,968 円		
教材（参考文献）	『国民衛生の動向』（厚生労働統計協会） 2,500 円		
教材（その他）	授業で適宜提示する。		
評価方法	中間レポート課題（50%）、最終レポート課題（50%）		
到達目標	１．公衆衛生看護の活動領域と対象の特徴について説明できる。 ２．生活者である対象への健康支援の意義について説明できる。 ３．保健活動における法律や施策の重要性について説明できる。 ４．健康の保持増進に向けた公衆衛生看護の役割について考えることができる。 ５．国際社会における保健の意義と看護の役割について考えることができる。 ６．保健活動に必要な最新の情報を調べ、自身の見解を述べることができる。		
準備学習	既修の「公衆衛生学」「社会保障論」の内容をよく復習しておくように。また、本科目は保健師課程のための学修というだけでなく、看護師として公衆衛生活動にいかに参画するかを考える科目であるので、「看護学概論」で学んだ看護の定義、看護の役割をもとに、自身の意見をのべられるよう準備しておくように。		
受講者への要望			
ライフサイクルを通して健康増進や予防対策が実施され、社会情勢などの変化に応じて、その内容も変化する。いつも環境、看護、健康増進、予防を意識しながら他の講義や本講義に臨むように。			
講義の順序とポイント			
１．公衆衛生と公衆衛生看護の役割や機能 ２．公衆衛生看護の歴史（その１国内） ３．公衆衛生看護の歴史（その２国外） ４．公衆衛生看護活動の場（保健所・市町村保健センター）とその特性 ５．プライマリーヘルスケア ６．ヘルスプロモーション ７．公衆衛生看護活動と地域 ８．公衆衛生看護活動と関連法規 ９．公衆衛生看護と母子保健活動 １０．公衆衛生看護と成人・高齢者保健活動 １１．公衆衛生看護と多文化共生 １２．障がい者対策 １３．精神保健対策 １４．感染症対策 １５．歯科保健対策・健康危機管理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J90037001
科目名	看護体験実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Fundamental Nursing: Clinical Practice Ⅰ		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
講義概要	早期体験実習として看護の実際を体験的に学ぶことを通して、看護の対象となる人やその人をめぐる環境、また看護職者の役割や機能への理解を深める。看護を実践者として必要な基本的態度を身につけるとともに、看護を学ぶ動機づけを図る。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座 看護学概論』（医学書院） 藤崎郁、林千冬 他 著 2,592 円 『看護の基本となるもの』（日本看護協会出版社） ヴァージニア・ヘンダーソン 著、湯槙ます 訳 1,080 円 『対訳 看護覚え書』（うぶすな書院） フローレンス・ナイチンゲール 著、小林章夫 他 訳 2,808 円		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	実習要項		
評価方法	実習前レポート（10%） 実習評価表に基づく評価（80%）　実習後のレポート（10%）		
到達目標	1．施設の構造と機能、理念を学び、その中で看護専門職者がどのように機能しているかを知る。 2．看護活動の実際を体験し、看護の役割と機能を知る。 3．看護の対象者をめぐる環境に身をおき、療養を受ける人の生活や思いについて知る。 4．臨地実習場面で社会人としての礼節な行動がとれ、能動的な態度で学習ができる。		
準備学習	「看護学概論」、「スタートアップゼミ A」での学習内容を復習しておく。		

受講者への要望

1．実習に対する態度として健康状態に注意を払い、感染予防行動をとる。
2．遅刻や欠席については指導教員および実習施設に必ず連絡する。
3．臨地実習では、対象者への安全な行動、守秘義務行動をとり、倫理的行動をとる。
4．実習出席日数は単位認定するには５分の４以上必要であるため、欠席しないように自己管理する。
5．臨地実習場面では社会人としての礼節ある行動をとる。
6．臨地実習では積極的行動をとり、能動的な態度で学習する。

講義の順序とポイント

【事前学習】（学内）
1．実習オリエンテーション
2．実習における自己目標の設定
3．事前学習
【施設実習】（実習施設）
実習施設：
（１日目）施設オリエンテーション
　施設の概要,看護部の理念、病棟のオリエンテーション
（２日目）患者を取り巻く環境と看護師の活動の実際の見学
　一人の看護師に付いて看護場面の見学
（３日目）患者とのコミュニケーション体験
　一人の看護師に付いて看護場面の見学
【事後学習】（学内）
1．実習で見学・体験した内容についてグループで討論・共有
2．実習で見学・体験した内容についてレポート作成
3．実習における自己評価

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★		

年度	2015	授業コード	J90101001
科目名	言語学	単位数	2
科目名（英語表記）	Linguistics		
担当者名	林　良子	旧科目名称	
講義概要	言語は、ヒトの思考や認知を支え、コミュニケーションの道具として、社会生活に欠かせない。言語学は、言葉の意味（語彙）、文の組み立て（文法）、言葉の使用（運用）、音の選択と配列（音韻）について、世界言語での普遍性と個別性を探求する学問である。本講義では、日本語を題材として、意味論、統語論、語用論、音韻論について解説をする。言語の獲得、第二学国語の学習、方言、言い誤り現象、言語の変遷について、言語学者の視点で説明を加える。世界言語を俯瞰して、特徴的な言語側面を持つ言語を取り上げ、説明をする。		
教材（テキスト）	『言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学』（医学書院） 今泉敏 編 4,104 円		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。		
評価方法	小テスト・授業中に課す課題（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	１．将来的に言語聴覚士として言語臨床現場に携わる者に必要な、言語学の基礎的な用語、考え方を理解する。 ２．言語学の諸領域を概観するとともに、自分の母語（主に日本語）や諸外国語を客観的に分析する能力を身につける。		
準備学習	単元の区切りごとに小テストまたはレポート課題を課す。小テスト・レポートの日程、範囲については授業中に予め指示するので、注意すること。言語学は、言語聴覚士にとって他の分野の学問においても基礎となる科目であるため、教科書などを十分に自習することが望ましい。		

受講者への要望

小テストを区切りとして、順序良く学習をすすめていってほしい。言語学は大変に基礎的な学問分野であるため、十分に自分なりに学習と理解をすすめること。　授業中にすすめる参考文献についても、できれば読み進めていってほしい。

講義の順序とポイント

１．言語学の基礎・人間の言語コミュニケーションの特徴
２．言語の諸単位・基本的な考え方
３．音韻論１（音素、音節構造）
４．音韻論２（音韻規則、音韻解釈）
５．まとめ１
６．文法論１（文法論の基礎）
７．文法論２（形態論）
８．文法論３（統語論）
９．意味論の基礎
１０．まとめ２・語用論と談話
１１．文字と表示
１２．言語類型論の基礎
１３．社会言語学の基礎
１４．まとめ３
１５．言語学的にみた日本語

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J90102001
科目名	言語心理学	単位数	1
科目名（英語表記）	Psycholinguistics		
担当者名	林　良子	旧科目名称	
講義概要	言語心理学は、言語の獲得、運用、理解と表出の背景にある心理学的・神経生物学的な要因を取り扱う学問である。本講義では、言語発達の基盤となる認知の発達、言語獲得の過程での語や文の処理や組み立ての正用と誤用、諸家の仮説と実験、言語獲得の正常と異常について、解説をする。言語獲得においてどんな学習がなされ、学習を支えるのにどんな経験が必要なのか、言語獲得における臨界期（適切な学習時期）はあるのか、言語獲得を阻害する認知心理学的障害はどんなものか、考えてみる。		
教材（テキスト）	授業時に適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	『言語心理学（朝倉心理学講座)』(朝倉書店)　針生悦子 編 3,888 円 『言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学』(医学書院)　今泉敏 編 4,104 円		
教材（その他）	パワーポイントとビデオ教材を適宜使用する。		
評価方法	小テスト（40%）＋定期テスト（60%）		
到達目標	１．言語学・心理学の融合分野としての言語心理学・言語心理学の基礎的な用語、考え方を理解する。 ２．ことばの獲得、消失を中心とした、言語心理学の各トピックを概観し、自分の母語（主に日本語）獲得や外国語習得に関して、観察し、考察する能力を身につける。		
準備学習	２回目以降の授業において、授業冒頭に前の回の内容についてのクイズ（小テスト）を行なう。十分な復習を求む。		
受講者への要望			
授業冒頭に前の回の内容についてのクイズ（小テスト）を行なうため、遅刻せぬよう心掛けること。授業内容に関して、十分な復習をしておくこと。			
講義の順序とポイント			
１．言語心理学と心理言語学 ２．ことばの理解とスピーチエラー ３．ことばの獲得１（生得と学習） ４．ことばの獲得２（母語と非母語の獲得と学習） ５．ことばの知覚１（音声言語の知覚と認知） ６．ことばの知覚２（文字言語の知覚と認知） ７．言語と思考・その他のトピック（心理学の関連領域） ８．その他のトピック（ジェスチャー等）・まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J90103001
科目名	音声学演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Phonetics		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	ヒト音声の基本的事項や日本語音声の特徴について、音声の加工や合成、発音時の口や舌の観察を通して、理解を深める。音声（信号）の分節と変動の問題、母音や子音の生成と知覚を学び、音声の収録と聴き取り、国際音声記号を使っての音声の記述、異常音声の表記を行なう。音の異常を理解するために、口腔調音器官の形態・運動と音声との関係について、理解を深める課題を学生に提供する。音声学演習ラボとして、音声信号の特徴（分節と変動）、音声の逆転、発音時の口の構えと舌の動き、聞き間違いの背景、発音の誤りとその原因などを行う。		
教材（テキスト）	『日本語音声学のしくみ』（研究社）　町田健 編 2,160 円 『音声の音響分析』（海文堂出版）　ケント＆リード 著 3,456 円		
教材（参考文献）	『国際音声記号ガイドブック』（大修館）　国際音声学会 編 4,644 円 『日本語音声学入門』（三省堂）　斎藤純男 著 2,160 円 『やさしい日本語指導５：音韻／音声』（凡人社）　国際日本語研修協会 編 1,296 円 『金の言いまつがい』（新潮文庫）　糸井重里 監修 637 円		
教材（その他）	ラボの説明資料を適時配布する。		
評価方法	中間試験 50%、実験（ラボ）・レポート 50%、 定期試験期間中の期末試験はない。		
到達目標	１．言語音の特徴と生成・知覚の基本を理解する ２．音声記号を適宜用いて発話を表記できる ３．知覚的分析の活用と限界を知る ４．音響分析で音声言語の観察ができる		
準備学習	教科書・参考書の該当部分をよく読む。		
受講者への要望			
ラボ（実験）を楽しみ、オンタイムでレポートを提出すること。			
講義の順序とポイント			
１．音声言語（連続音声）の特徴、国際音声記号（IPA） ２．母音と子音、母音の特徴と表記 ３．実験①：音声信号の特徴、音声の逆転 ４．子音の特徴と表記：その１ ５．子音の特徴と表記：その２ ６．モーラと特殊音素 ７．補助記号、異音の観察 ８．中間試験（音声表記） ９．実験②：発音時の口の構えと舌の動き １０．知覚分析と音響分析 １１．実験③：波形で見る音声信号の違い １２．実験④：スペクトログラムで見る言語音の違い １３．発話の表記：会話や説明（成人と幼児） １４．実験⑤：幼児の発音の表記 １５．言い間違えと聞き間違え			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	J90107001
科目名	言語聴覚障害学概論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Speech, Language, and Hearing Disorders Ⅰ		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	言語聴覚障害の全体像を理解するためには、ヒトのコミュニケーションの基本を理解し、多様な障害のラベルと特徴を知ることが、初学者にとって大切である。本講義では、コミュニケーションの基本的事項を提供し、言語聴覚障害（発声発語障害：音声障害、構音障害、吃音、言語障害：失語症、言語発達障害、聴覚障害）の基本情報（定義、疫学、特徴、生活上の困難）について示し、症例の音声や画像を解説する。うまく話せなかったら、ことばが理解できなかったら、聞こえなかったら、どうなるのか、体験する機会も学生に与える。		
教材（テキスト）	『言語聴覚療法－臨床マニュアル（第3版)』(協同医書)　平野哲雄 他 編 7,344円 『声のなんでも小事典』(講談社ブルーバックス)　和田美代子 著 950円 『顔面麻痺』(幻冬社文庫)　ビートたけし 著 494円 『恍惚の人』(新潮文庫)　有吉佐和子 著 724円		
教材（参考文献）	『言葉の誕生を科学する』(河出文庫)　小川洋子、岡ノ谷一夫 著 691円 『マンウオッチング』(小学館文庫)　デズモンド・モリス 著 926円 『言葉と脳と心～失語症とはなにか』(講談社現代新書)　山鳥重 著 799円 『驚異の小器官・耳の科学』(講談社ブルーバックス)　杉浦彩子 著 929円 『人間であること』(岩波新書)　時実利彦 著 842円		
教材（その他）	講義内容に関する資料を適宜配布する。		
評価方法	中間試験30%、期末試験40%、体験報告30%（発表とレポート）		
到達目標	1．言語聴覚障害の定義、疫学、特徴、生活・社会的困難、経過を知る 2．言語聴覚障害を体験して生活上の困難を感じることができる		
準備学習	該当する教科書をあらかじめ読んでおく。		
受講者への要望			
コミュニケーション（障がい）がどう生活に影響するかを考えてみる。			
講義の順序とポイント			
1．ことば、コミュニケーション、ヒトの生活と社会 2．ことばの異常（1）言語の遅れ 3．ことばの異常（2）言語の喪失、失語 4．きこえの異常（先天性の難聴） 5．きこえの異常（後天性の難聴） 6．中間試験、ことばときこえの不思議 7．声や発音の異常（1）音声障害 8．声や発音の異常（2）構音障害、機能性と言語性 9．声や発音の異常（3）構音障害、器質性 10．声や発音の異常（4）構音障害、感覚運動性 11．声や発音の異常（5）発語失行症 12．声や発音の異常（6）吃音 13．頭部外傷に伴う高次脳機能障害 14．認知症に伴う諸問題 15．体験報告 定期試験期間中：　期末試験		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	J90140001
科目名	健康スポーツ総論	単位数	2
科目名（英語表記）	General Health and Sports		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
講義概要	本学科は、体育・スポーツに特化した教育ではなく、医学的な知識を交えた広い視野で人間を考える人材育成を特徴としている。そこで本授業では、看護学や言語聴覚を主体とした内容に興味関心を抱き、そのうえで健康スポーツ学科での予防医学を主軸とした学修の重要性について学ぶ。それらを通して、健康スポーツ学科の専門科目（支持科目、基礎科目、展開科目、演習科目）および、4 年間の学修について解説し、自身がどういった学びの姿勢を持つべきかを考える。		
教材（テキスト）	適時、講義内容に沿った資料を配布する。		
教材（参考文献）	講義内容に適した図書や新聞記事などを紹介する。また、それらを教材の一部として活用するので印刷配布する場合がある。		
教材（その他）	講義内容の話題性を豊かにするために適した資料を配布する。		
評価方法	定期試験（60%）、レポート（40%）		
到達目標	健康医療学部の設置理念を理解し、なおかつ健康スポーツ学科の教育理念を理解して、4 年後を目指した自らの目標とその過程を設計して、社会に役立つ人材となれるように考えられるようになる。		
準備学習	保健医療や、医学、あるいは政治経済など多岐にわたるジャンルの新聞記事や雑誌に関心を寄せて、興味を持った記事などをコピーする。不明な用語などについて先ず図書館にて調べる。ネットを活用するのは最後の手段とすること。これらを授業の中で発表する時間を持つので各自準備してストックしておく。活発な意見交換を希望する。講義後においては他者の興味ある発表に関して、自分なりに調べて、ノートしてファイルし提出レポートに加える。		
受講者への要望			
新聞を読む習慣を身につけて、今おこっているさまざまな社会問題に関して、興味関心を持ってほしい。			
講義の順序とポイント			
１．この講義について概略の説明。 大学における講義の受け方について。ノートをとることの意義。話の聞き方（受講の仕方）。 ２．健康医療学部を設置した意義 ３．健康スポーツ学とはなにか？ ４．健康医療学部における 3 学科相互の関連性と連携 ５．保健体育教員養成の必要性 ６．亀岡市における住民の健康問題 ７．医療従事者から見た健康医療学部と健康スポーツ学科 ８．経済学者の立場から見た健康医療学部と健康スポーツ学科 ９．グローバルキャリア人から見た健康医療学部と健康スポーツ学科 １０．栄養学を専門とする立場から見た健康医療学部と健康スポーツ学科 １１．スポーツ科学者から見た健康医療学部と健康スポーツ学科 １２．数組のグループに分かれて、デイスカッションを行い、内容をまとめて提出する（1 回目） １３．数組に分かれてグループデイスカッションする。内容をまとめて提出する（2 回目） １４．各グループでのまとめを発表して全体で討論する １５．各グループでのまとめを発表して全体で意見を交わす			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★		★★	★★

年度	2015	授業コード	J90141001
科目名	発達段階と健康	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Promotion at Different Development Stages		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
講義概要	一人ひとりの健康生活を実現するためには、生涯を通した「健康づくり」が必要である。我が国の健康づくり施策においても、人生の各段階の健康課題や健康観等に応じた対応が求められている。本講義では人の生涯を「幼・少年期」「青・壮年期」「中・高年期」の３段階に分け、各発達段階の特徴と健康課題を理解するとともに、各発達段階において重要な健康観や健康行動を確立する健康づくり支援とその具体的な方策（ライフステージ別の保健活動を含む）について学修する。		
教材（テキスト）	適宜資料を配付する。		
教材（参考文献）	『からだの発達と加齢の科学』　（大修館書店、2012）　髙石昌弘 監修 3,024 円 『事典　発育・成熟・運動』　（大修館書店、1995）　ロバートM. マリーナ、クロード・ブシャール 著 7,560 円		
教材（その他）			
評価方法	課題レポート（30％）、試験（70％）		
到達目標	ライフステージにおける人々の心理、社会、身体的特徴と健康課題について知り、対象の健康行動に結びつく支援の在り方について考えることができる。		
準備学習	次時の内容を指示するので、授業までに予習をすること。 毎時、復習をすると同時に考察を深めること。		
受講者への要望			
既習事項を基に、知識をさらに深めようとする姿勢、態度を求める。受講にあたっては、漠然と講義を受ける態度ではなく，学生自身が考え意見交換をするなど、積極的な姿勢や発言を期待する。			
講義の順序とポイント			
１．発育発達の概観 ２．胎児期、乳児期の発育発達 ３．幼児期、児童期における発育発達 ４．幼少年期の体力特性と遊び・身体運動と健康づくり ５．現代社会における幼少年期の健康課題と具体的方策 ６．青年期から壮年期にかけての心理、社会的発達 ７．青年期から壮年期にかけての心理、社会的発達課題 ８．青年期から壮年期にかけての身体的発達 ９．青年期から壮年期にかけての身体的発達課題 １０．青年期から壮年期にかけての健康支援活動 １１．働き盛りの健康課題、特に生活習慣病を中心に １２．更年期・向老期の特徴と健康課題 １３．体力・身体機能の加齢変化 １４．介護予防・フレイル １５．老化研究から学ぶ生涯を通じた健康づくりとは			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	J90142001
科目名	救急・応急処置	単位数	2
科目名（英語表記）	First Aid and Emergency Treatments		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	運動・身体活動の際に必要な救急・応急処置の基礎理論と実践的な知識を学ぶ。全身性障害に対する救急蘇生法の概要、局所外傷に対する応急処置、さらに人工呼吸や胸骨圧迫、自動体外式除細動器(AED)の使用方法などの一次救命処置やその科学的根拠を説明する。また本講義では、理論だけではなく RICE 処置、バンテージやテーピングの巻き方、松葉杖を用いた歩行方法、負傷者を安全に担架に乗せる方法などスポーツ現場で役立つ実践的な技術、知識も修得する予定である。		
教材（テキスト）	『救急蘇生法の指針 市民用・解説編 2010』(へるす出版) 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会 監修 1,404円 『救急蘇生法の指針 市民用 2010』(へるす出版) 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会 監修 432 円		
教材（参考文献）	『新版 トレーナーズ・バイブル』(医道の日本社、2007) William E.Prentice、Daniel D.Arnheim 著 7,128円		
教材（その他）	必要資料は適宜配布する。		
評価方法	期末テスト（60%)、 実技テスト（40%）		
到達目標	健康スポーツ指導者にとって必要な救急・応急処置の理論を理解し、実践的な技術・知識を習得することを目標とする。		
準備学習	講義に参加する前に前回の学修内容を確認しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
実際の人命救助や応急処置において本講義で修得したことが活かせることを希望する。			
講義の順序とポイント			
１．健康スポーツ指導者にとって重要な救急・応急処置の考え方（井口） ２．外科的救急・応急処置を行うにあたっての守るべき一般事項（太田） ３．全身性障害についての外科的処置（井口） ４．局所外傷について応急処置(RICE)とする安静・冷却・圧迫・挙上の外科的処置（井口） ５．部位別スポーツ障害とその救急・応急処置（頭部・頸部・腰部）（太田） ６．部位別スポーツ障害とその救急・応急処置（肩・上肢・手）（太田） ７．部位別スポーツ障害とその救急・応急処置（下肢・足部）（太田） ８．救急蘇生法理論（呼吸器系、換気、ガス交換の異常、1 次と 2 次救命処置、救命の輪、心配蘇生法）（井口） ９．ＡＥＤ（半自動除細動器）の原理と使い方（井口） １０．外傷の種類別（捻挫。骨折、打撲、腱断裂、脱臼、創傷、肉離れ）のテーピングの外科的処置とリハビリ（井口） １１．応用救急処置１（血法、窒息、熱傷）（井口） １２．応用救急処置２（落雷、感電、凍傷、低体温）（井口） １３．応用救急処置３（腹痛・胃腸障害時の処置）（井口） １４．救急処置実践１（包帯、三角巾の使用方法実習）（井口） １５．救急処置実践２（心肺蘇生法と AED、レサシアンを使って実習及び実技テスト（太田）		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★	★★	★

年度	2015	授業コード	J90143001
科目名	健康スポーツトレーニング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Training for Health and Sports		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	本講義では、各トレーニングおよびエクササイズに対する身体の反応について学修することを主な目的とする。トレーニングはその目的によって無酸素系、有酸素系トレーニングなどのように選択する方法が異なる。その理由は、各トレーニングによって起こる様々な適応（トレーニング効果）が、神経系、内分泌系などでそれぞれ異なるためである。本講義では、これらの適応に着目しながら年齢、性別などに応じて選択できるトレーニング方法について幅広く学修する。		
教材（テキスト）	『ストレングストレーニング&コンディショニング ― NSCA 決定版（第 3 版)』（ブックハウス・エイチディ） Thomas R.Baechle、Roger W.Earle 著、金久博昭、 岡田純一 監修 12,960 円		
教材（参考文献）	必要な資料があれば、適宜配布する。		
教材（その他）			
評価方法	小テスト（毎講義初めに行う）(20%)、 中間テスト（30%)、 期末テスト（30%)、 レポート（20%）		
到達目標	各トレーニングの効果を理解し、目的に応じたトレーニングを様々な要求に応じながら安全なプログラムを作成できる能力を育成する。		
準備学習	各講義後、必ず復習し理解を深め次回の講義へ臨むことを期待する。		

受講者への要望

日本体育協会公認スポーツ指導者、健康運動指導士、健康運動実践指導者、GFI、CSCS 資格取得希望者の必修科目である。明確な目的意識で資格取得に目指す事。

講義の順序とポイント

1．トレーニング総論

体力概念、身体の適応能と運動・休養・栄養生活の確立（全面性について)、全身と局所運動の生理学的運動量（エネルギー仕事量と総仕事量)、トレーニングの原則（全面性・反復・個別・意識性・過負荷・負荷漸増)、トレーニングの可逆性、ウォームアップとクーリングダウンの目的方法

2．トレーニング各論 1（トレーニング条件と反応・トレーニング強度）

トレーニングの目標設定と運動効果の特異性反応、効果発現の主要因としての運動強度、運動持続時間の調和、週当たりの頻度と生活時間の対応、効果表出の目標時間（一般的 12 週間)、総運動量、物理的運動強度の指標、生理的運動強度の指標、自覚的運動強度の指標、心拍反応と運動強度

3．トレーニング各論 2（筋力と筋量増強のトレーニング条件とその効果）

静的筋力トレーニングの負荷条件と作業効果、動的筋力トレーニングの負荷条件と作業効果、等速性筋力トレーニングの負荷条件、伸張性筋力トレーニングと筋量増加、トレーニング負荷と筋繊維肥大・線維数の増加、トレーニングによる筋原線維分裂と筋肥大、トレーニングによる神経支配の改善

4．トレーニング各論 3（筋パワー・筋持久力トレーニングの条件とその効果）

筋パワートレーニングと筋持久力トレーニングの目標と負荷条件の差、筋パワートレーニングの理論的負荷条件、筋パワートレーニングの負荷強度と収縮強度の作業効率、筋パワー向上の負荷条件と筋線維タイプの反応、筋持久力トレーニングの負荷条件と作業効果、筋持久力向上と筋毛細血管床・ミトコンドリアの容量の反応

5．トレーニング各論 4（全身運動によるエアロビックトレーニング）

運動種目からみたエアロビックとアネロビック運動、各種エアロビック運動強度の共通指標、軽中強度・長時間トレーニングの負荷条件と作業効果（耐久時間と距離の改善)、ウォーキング・ジョギング速度と消費カロリーの関係、エアロビックトレーニングの生理的効果

6．障害者の運動能力の特徴とトレーニング

身体障害者に対する運動指導の基本的あり方、身体障害者の健康運動トレーニング、身体障害者の筋機能・調整能トレーニング様式、身体運動の心理的効果

7．青少年の発育発達とトレーニング

身長・体重発育と成長期の特徴、発育と生活の影響、暦年齢と生物学的年齢、運動能力の発達の特徴、急速発育期の機能と至適トレーニング刺激（スピード・筋力・持久力）

8．女性の身体的の特徴

胸囲／腰囲、体脂肪率と除脂肪体重、筋機能の性差の特徴（上体と下体の筋量と筋力)、酸素運搬系性差の特徴（呼吸・循環機能と血液組成)、体力・運動能力の性差の特徴、女性のエアロビックトレーニングの負荷とその効果

９．加齢に伴う体力の自然減退とトレーニング
　加齢に伴う身体活動の低下と体力低下、体力・運動能力のピーク年齢と加齢に伴う自然減退、加齢に伴う機能低下の特徴（形態及び機能の変化)、加齢に伴う最高心拍数の低下（２２０－年齢)、エアロビックトレーニングの生理的効果、生活行動変容と筋力・菌パワーの低下（階段昇降能力の低下)、筋活動の減少と廃用性筋萎縮、運動様式の変化と筋活動部位の不活発化、筋活動期の減少と筋線維タイプの変化、立位機能と生活歩行の為の筋機能トレーニング、高齢者の為の筋機能トレーニングの負荷条件
１０．フィットネスプログラムの実際１（フィットネスプログラムの基本的方法）
１１．フィットネスプログラムの実際２（子ども・女性のフィットネスプログラム）
１２．フィットネスプログラムの実際３（青年期のフィットネスプログラム）
１３．フィットネスプログラムの実際４（壮年・高齢者のフィットネスプログラム）
１４．フィットネスプログラムの実際５（障害者のフィットネスプログラム）
１５．まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	J90144001
科目名	健康スポーツトレーニング実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Physical Training for Health and Sports		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	本講義の目的は、一般的なトレーニングプログラムで用いられる基本的なエクササイズテクニックを実習を通して修得することである。実習は動的、静的ストレッチングや有酸素運動を含んだ適切なウォーミングアップ方法からスクワット、ベンチプレス、クリーンなどの基本的なレジスタンストレーニングテクニックの修得を目指す。さらにフィットネスレベルや性別、年齢に応じたフィットネスプログラムを様々なマシーンや機器を使って実習を行う。		
教材（テキスト）	なし（各講義パワーポイントで資料を作成するので各自ダウンロードする）。		
教材（参考文献）	『ストレングストレーニング&コンディショニング ― NSCA 決定版（第 3 版）』（ブックハウス・エイチディ） Thomas R.Baechle、Roger W.Earle 著、金久博昭、 岡田純一 監修 12,960 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	実技テスト（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	１．スクワット、ベンチプレス、クリーンなどの基本的なレジスタンストレーニングを安全に遂行できる能力を修得することを目標とする。 ２．補助者としてレジスタンストレーニングを補助する際に必要な知識、技術を身に付け、実施者を安全にサポートできる能力を修得することを目標とする。 ３．年齢、性別を考慮し、安全で効果的なフィットネスプログラムを作成できる能力を修得することを目標とする。		
準備学習	原則授業 1 週間前までに必要な文献、資料を配布するので、授業までに各自予習しておくこと。		

受講者への要望

本講義は実習の中でレジスタンストレーニングなどを行うので、普段から各自身体を動かし、基礎体力の向上を図っておくことが望ましい。
実習時は運動しやすい服装で参加すること。

講義の順序とポイント

１．健康生活及び競技スポーツでの各種運動・トレーニングの重要性と意義と実習概要
２．ストレッチングと柔軟体操の実際
　レッスン導入「柔軟体操」の実習、アライメントのチェック方法、「スタティックストレッチングとバリスティックストレッチング」、基本的ストレッチング運動座位、立位、臥位ストレッチング、2 人組によるストレッチングの実習、PNF ストレッチングの解説、レッスンのまとめと「指導上の注意」
３．ウォーミングアップとクーリングダウン
　ウォーミングアップとクーリングダウンの意義について理解させる（基本的運動実習）（レッスンのまとめ「指導上の注意」）
４．静的レジスタンストレーニング
　レッスン導入「静的筋力トレーニングによる抵抗運動」の説明、肢位別自体重エクササイズ、タオル・壁・柱の固定物利用の抵抗運動、パートナーによる抵抗運動と筋力発揮、レッスンのまとめ「指導上の注意」
５．動的レジスタンストレーニング
　レッスン導入「動的筋力トレーニング法」の説明と方法別比較、チューブやバンドを使用したトレーニング、ダンベル・バーベルの扱いと床および支持台についての注意事項、10RM の重量の決め方の実習、身体部位別動的筋力トレーニング運動の実習、マシントレーニングの説明、トレーニング頻度、回数とトレーニング部位と身体部位の組合せの説明、レッスンのまとめ「指導上の注意」、各種動的レジスタンストレーニング補助のテクニック
６．子どものフィットネスプログラム（種々器具を活用）
７．壮年のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
８．高齢者のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
９．女性のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
１０．障害者のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
１１．個別フリーウエイトトレーニング１（上半身系のトレーニングの実際）
１２．個別フリーウエイトトレーニング２（下半身のトレーニングの実際）
１３．個別フリーウエイトトレーニング３（全身挙上系のトレーニングの実際）
１４．個別マシーントレーニング１（上半身系のトレーニングの実際）

１５．個別マシーントレーニング２（下半身のトレーニング／小筋群部位系のトレーニングの実際）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★			★

年度	2015	授業コード	J90144002
科目名	健康スポーツトレーニング実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Physical Training for Health and Sports		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	本講義の目的は、一般的なトレーニングプログラムで用いられる基本的なエクササイズテクニックを実習を通して修得することである。実習は動的、静的ストレッチングや有酸素運動を含んだ適切なウォーミングアップ方法からスクワット、ベンチプレス、クリーンなどの基本的なレジスタンストレーニングテクニックの修得を目指す。さらにフィットネスレベルや性別、年齢に応じたフィットネスプログラムを様々なマシーンや機器を使って実習を行う。		
教材（テキスト）	なし（各講義パワーポイントで資料を作成するので各自ダウンロードする）。		
教材（参考文献）	『ストレングストレーニング&コンディショニング ― NSCA 決定版（第 3 版）』（ブックハウス・エイチディ） Thomas R.Baechle、Roger W.Earle 著、金久博昭、 岡田純一 監修 12,960 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	実技テスト（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	１．スクワット、ベンチプレス、クリーンなどの基本的なレジスタンストレーニングを安全に遂行できる能力を修得することを目標とする。 ２．補助者としてレジスタンストレーニングを補助する際に必要な知識、技術を身に付け、実施者を安全にサポートできる能力を修得することを目標とする。 ３．年齢、性別を考慮し、安全で効果的なフィットネスプログラムを作成できる能力を修得することを目標とする。		
準備学習	原則授業 1 週間前までに必要な文献、資料を配布するので、授業までに各自予習しておくこと。		

受講者への要望

本講義は実習の中でレジスタンストレーニングなどを行うので、普段から各自身体を動かし、基礎体力の向上を図っておくことが望ましい。
実習時は運動しやすい服装で参加すること。

講義の順序とポイント

１．健康生活及び競技スポーツでの各種運動・トレーニングの重要性と意義と実習概要
２．ストレッチングと柔軟体操の実際
　レッスン導入「柔軟体操」の実習、アライメントのチェック方法、「スタティックストレッチングとバリスティックストレッチング」、基本的ストレッチング運動座位、立位、臥位ストレッチング、2 人組によるストレッチングの実習、PNF ストレッチングの解説、レッスンのまとめと「指導上の注意」
３．ウォーミングアップとクーリングダウン
　ウォーミングアップとクーリングダウンの意義について理解させる（基本的運動実習）（レッスンのまとめ「指導上の注意」）
４．静的レジスタンストレーニング
　レッスン導入「静的筋力トレーニングによる抵抗運動」の説明、肢位別自体重エクササイズ、タオル・壁・柱の固定物利用の抵抗運動、パートナーによる抵抗運動と筋力発揮、レッスンのまとめ「指導上の注意」
５．動的レジスタンストレーニング
　レッスン導入「動的筋力トレーニング法」の説明と方法別比較、チューブやバンドを使用したトレーニング、ダンベル・バーベルの扱いと床および支持台についての注意事項、10RM の重量の決め方の実習、身体部位別動的筋力トレーニング運動の実習、マシントレーニングの説明、トレーニング頻度、回数とトレーニング部位と身体部位の組合せの説明、レッスンのまとめ「指導上の注意」、各種動的レジスタンストレーニング補助のテクニック
６．子どものフィットネスプログラム（種々器具を活用）
７．壮年のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
８．高齢者のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
９．女性のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
１０．障害者のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
１１．個別フリーウエイトトレーニング１（上半身系のトレーニングの実際）
１２．個別フリーウエイトトレーニング２（下半身のトレーニングの実際）
１３．個別フリーウエイトトレーニング３（全身挙上系のトレーニングの実際）
１４．個別マシーントレーニング１（上半身系のトレーニングの実際）

１５．個別マシーントレーニング２（下半身のトレーニング／小筋群部位系のトレーニングの実際）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★			★

年度	2015	授業コード	J90145001
科目名	スポーツ原理	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy of Sports and Physical Education		
担当者名	柴田　俊和	旧科目名称	
講義概要	体育とは何か、スポーツとは何であるかを考えるうえで必要な原理･原則について理解を深め、スポーツそのものが持つ価値や社会において果たすことのできる役割等について、自らの言葉で語ることができる力を養うことを目標とする。体育･スポーツの概念を明らかにするとともに、身体活動を通して行われる教育としての体育に焦点を当てることはもとより、我が国における体育･スポーツへの取り組みやスポーツが社会に及ぼす影響など、社会生活との関わりの中でスポーツ活動を考えることができる力を養う。		
教材（テキスト）	特に指定しないが、必要に応じて資料を配付する。		
教材（参考文献）	『教養としての体育原理』（大修館書店）　友添秀則・岡出美則 編著 1,944 円。適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	毎回の小レポート（各 4 点満点の 60 点）と最終レポート（40 点）の合計で評価する。		
到達目標	体育とは何か、スポーツとは何であるかを考える上で必要な原理･原則について理解を深め、スポーツそのものが持つ価値や社会において果たすことのできる役割等について、自らの言葉で語ることができる力を養うことを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回授業の最初に、前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
今までの経験のみに基づいた常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。			
講義の順序とポイント			
１．なぜ、スポーツ原理（体育原理）を学ぶのか ２．スポーツと体育は何が違うのか ３．体育の理念はどのように変わってきたのか ４．体育･スポーツと人間関係 ５．スポーツとフェアプレイ、スポーツマンシップ ６．体育･スポーツと身体形成 ７．子どもの発達に欠かせない体育･スポーツの役割 ８．スポーツと競争 ９．スポーツと技術学習・技能獲得 １０．スポーツ・フォア・オール １１．スポーツと勝利至上主義 １２．スポーツとメディア １３．スポーツとジェンダー １４．障害者にとってのスポーツ １５．オリンピズム、オリンピック・ムーブメントとは何か			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	J90187001
科目名	水泳	単位数	1
科目名（英語表記）	Swimming		
担当者名	森　誠護	旧科目名称	
講義概要	本演習では、①基本４泳法の泳力向上と指導のポイント修得、②カヌー・ヨット・スキンダイビング等海洋スポーツの基礎技術の修得、③野外活動の実践と安全で効果的な管理・運営の理論と実践能力の修得を通して、水泳系運動プログラムの基礎的実践能力と安全で効果的な指導法を修得するとともに、野外活動・自然体験活動指導におけるリーダーシップの育成を図る。人と人、人と自然の触れ合う機会が減少している現在、子どもたちの健全で健やかなこころとからだの発達に欠かせない身体活動と集団生活について、リーダーとして運営の資質と能力の獲得をめざす。本授業は、プールと海での集中授業として実施する。		
教材（テキスト）	実習全体の要綱を配布する。また、授業内容に応じて適時資料を配布する。		
教材（参考文献）	『水泳の指導法がわかる本』（小学館）　不破央 著 2,052 円 『ＤＶＤ完全レッスン！水泳４泳法』（日本文芸社）　奥野景介 著 1,620 円 『海洋スポーツ指導者ハンドブック』（西文社）		
教材（その他）	水着やスイミングキャップ、サンダル、タオルなど水泳系運動実習に必要な物は各自で準備すること。その他プログラム実習に必要な用具・備品は大学で用意する。		
評価方法	実技試験（60%）、水泳・海洋・野外活動プログラムの組織マネジメント・リスクマネジメントの考え方に関するレポート（40%）		
到達目標	基本４泳法の泳力向上、遠泳と海洋プログラム実習の実践力、集団の一員として活動できる社会性およびコミュニケーション能力を育み、将来の指導者としての資質を高めることを目標とする。		
準備学習	プールと海での実習なので、基本的には泳げることが望ましい。水泳の経験の少ないものは、事前に練習しておくこと。水泳は体力的にもハードなうえ、水中・水上という特殊環境での運動なので、事前の練習を行い、身体能力を高めておくことが望ましい。		
受講者への要望			
長い期間の集中授業であり、日常生活から環境が変わる実習であるから、しっかりとした自己管理能力を持ち体調を整えること。また集団生活の中での実習であるので、自己中心でなく、利他的視点を持って行動するとともに、その経験を通して社会性を獲得することを望む。			
講義の順序とポイント			
１．講義１：水泳系運動の運動学的・運動生理学的特長 ２．講義２：野外活動・自然体験活動プログラムの組織マネジメントとリスクマネジメント ３．講義３：水泳および海洋プログラムの安全と救急法 ４．プール実習１：実習全体のガイダンス：泳力別グループ編成、４泳法指導、距離泳 ５．プール実習２：クロール、平泳ぎの基本練習、距離泳 ６．プール実習３：背泳ぎ、バタフライ泳法の基本練習、距離泳 ７．プール実習４：潜水、立ち泳ぎ指導、距離泳、水中ウオーキング指導 ８．プール実習５：距離泳 ９．プール実習６：泳力検査、水中ウオーキング指導 １０．海実習１：海洋プログラム基礎実習、カヤック操法指導、講義「ヨットと風の理論」 １１．海実習２：遠泳、　磯実習、　他 １２．海実習３：ヨット操船指導、講義「水泳運動における救急処置の理論と実際」 １３．海実習４：カヌー操船指導、磯実習 １４．海実習５：カッター操船指導、野外活動実習 １５．総括：水泳・海洋実習および野外活動における組織マネジメントとリスクマネジメントに関するレポート作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★				

年度	2015	授業コード	J90188001
科目名	体つくり運動	単位数	1
科目名（英語表記）	General Gymnastics		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
講義概要	体つくり運動では、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識させ、学校の教育活動や実生活で生かすことができ、生涯にわたって運動を継続できるよう、「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動（遊び）」「体力を高める運動」について、その意義や体の構造との関連、運動の原則などの知識を獲得し、それらの知識の活用や応用にまで発展させる。		
教材（テキスト）	必要に応じて適宜資料を配布する		
教材（参考文献）	『体つくり運動 学校体育実技指導資料第７集 授業の考え方と進め方（改訂版）』（東洋館出版社） 文部科学省 著 1,404 円 『中学校学習指導要領解説保健体育編』（東山書房） 文部科学省 著 397 円 『高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編』（東山書房） 文部科学省 著 491 円		
教材（その他）			
評価方法	授業内課題レポート（40%）、実技試験（60%）		
到達目標	「体つくり運動」の学習内容である「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動・遊び」「体力を高める運動」に関して、その意義と運動方法を理解する。次にそれらを応用し「体つくり運動」の指導展開ができるようになる。		
準備学習	遊びから体力を高める運動まで、身体の使った運動の多様性について理解しておくことが望ましい。教員の資格取得を目指す人は必修となる科目である。		

受講者への要望

体を動かすことの楽しさ、心地よさを自ら感じるとともに、そのことを体育の授業を通じて児童・生徒に伝えることが大切である。本授業では、遊びから体力高める運動まで多多種多様な身体の動きを学び、それらを組み合わせた授業プログラムの作成を行っていく。そのためには自らが感じ、考え、仲間と協力し、工夫する積極的な姿勢を望む。

講義の順序とポイント

１．体つくり運動とは（その意義）
２．体ほぐしの運動（1） 心と体への気づき
３．体ほぐしの運動（2） 体の調子を整える運動
４．体ほぐしの運動（3） リズムに合わせて動く
５．多様な動きをつくる運動（遊び）（1）伝承あそびによる運動
６．多様な動きをつくる運動（遊び）（2）用具を使った遊びや運動
７．多様な動きをつくる運動（遊び）（3）バランスや筋力を使う遊びや運動
８．多様な動きをつくる運動（遊び）（4）仲間やグループで協力・協働する遊びや運動
９．体力を高める運動（1）バランス力を高める運動
１０．体力を高める運動（2）筋力を高める運動
１１．体力を高める運動（3）巧みな動きを高める運動
１２．体力を高める運動（4）柔軟性を高める運動
１３．多様な運動を組み合わせてみよう
１４．体つくり運動プログラムの作成
１５．体つくり運動プログラムの発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	★★		

年度	2015	授業コード	J90188002
科目名	体つくり運動	単位数	1
科目名（英語表記）	General Gymnastics		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
講義概要	体つくり運動では、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識させ、学校の教育活動や実生活で生かすことができ、生涯にわたって運動を継続できるよう、「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動（遊び）」「体力を高める運動」について、その意義や体の構造との関連、運動の原則などの知識を獲得し、それらの知識の活用や応用にまで発展させる。		
教材（テキスト）	必要に応じて適宜資料を配布する		
教材（参考文献）	『体つくり運動 学校体育実技指導資料第７集 授業の考え方と進め方（改訂版）』（東洋館出版社） 文部科学省 著 1,404 円 『中学校学習指導要領解説保健体育編』（東山書房） 文部科学省 著 397 円 『高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編』（東山書房） 文部科学省 著 491 円		
教材（その他）			
評価方法	授業内課題レポート（40%）、実技試験（60%）		
到達目標	「体つくり運動」の学習内容である「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動・遊び」「体力を高める運動」に関して、その意義と運動方法を理解する。次にそれらを応用し「体つくり運動」の指導展開ができるようになる。		
準備学習	遊びから体力を高める運動まで、身体の使った運動の多様性について理解しておくことが望ましい。教員の資格取得を目指す人は必修となる科目である。		

受講者への要望

体を動かすことの楽しさ、心地よさを自ら感じるとともに、そのことを体育の授業を通じて児童・生徒に伝えることが大切である。本授業では、遊びから体力高める運動まで多多種多様な身体の動きを学び、それらを組み合わせた授業プログラムの作成を行っていく。そのためには自らが感じ、考え、仲間と協力し、工夫する積極的な姿勢を望む。

講義の順序とポイント

１．体つくり運動とは（その意義）
２．体ほぐしの運動（1） 心と体への気づき
３．体ほぐしの運動（2） 体の調子を整える運動
４．体ほぐしの運動（3） リズムに合わせて動く
５．多様な動きをつくる運動（遊び）（1）伝承あそびによる運動
６．多様な動きをつくる運動（遊び）（2）用具を使った遊びや運動
７．多様な動きをつくる運動（遊び）（3）バランスや筋力を使う遊びや運動
８．多様な動きをつくる運動（遊び）（4）仲間やグループで協力・協働する遊びや運動
９．体力を高める運動（1）バランス力を高める運動
１０．体力を高める運動（2）筋力を高める運動
１１．体力を高める運動（3）巧みな動きを高める運動
１２．体力を高める運動（4）柔軟性を高める運動
１３．多様な運動を組み合わせてみよう
１４．体つくり運動プログラムの作成
１５．体つくり運動プログラムの発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	★★		

年度	2015	授業コード	J90189001
科目名	陸上競技	単位数	1
科目名（英語表記）	Track and Field		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	健康スポーツ指導者・保健体育教職者・健康運動実践指導者・障がい者スポーツ指導員向けの教授方法について実践的に学修する。生涯に亘っての健康生活実践と体育教育に必要な歩く・走る・跳ぶ・投げるの基本動作とその指導方法について修得させる。分習法から全習法へと連結した技能修得と教授方法を修得させる。各専門的指導者にとって陸上運動の個々の指導留意点や指導時の指摘や模範動作の意識ポイントについても各々動作事例を示しながら実践展開する。陸上運動の個別指導とグループ指導のノウハウについても教授し、指導実践環境を想定した授業展開を図り、指導計画案づくりから模擬授業迄の実践的授業展開とする。		
教材（テキスト）	『陸上運動の方法』（道和書院）　関岡康雄 編 1,728 円		
教材（参考文献）	『陸上競技指導教本アンダー16･19 基礎から身につく陸上競技[初級編]』(大修館書店）日本陸連 編 2,052 円 『陸上競技指導教本アンダー16･19 レベルアップの陸上競技［上級編］』(大修館書店）　日本陸連 編 2,052 円		
教材（その他）			
評価方法	１．歩・走・跳・投運動の基礎的技術の習得評価（実技評価７０％） ２．陸上運動指導計画及び指導案作成評価（レポート２０％） ３．受講時の積極的態度・自立的行動評価（授業態度１０％）		
到達目標	１．健常者及び障がい者向けの歩・走・跳・投の基礎技術と指導方法を体得する。 ２．健康ウォーキング・ジョギングの実際と運動処方の基本を理解する。 ３．陸上運動指導上の安全管理の実践的理解をする。 ４．陸上運動指導の対象別指導計画及び指導案の作成		
準備学習	受講に際して陸上競技のルールと陸上運動の特性を事前準備学習を要する。		

受講者への要望

受講に際し、服装はトレーニングウエア、靴はジョギングシューズを着用し、受講の事。

講義の順序とポイント

１．健康ウォーキングの実際と指導方法

ウォーキング実践

ａ）他人にとらわれず、各人の好みの速さで歩き、個人差があらわれることを確かめさせる。

ｂ）性・年齢・体力の違いによって歩行速度が異なることを理解させる。

ｃ）歩行の基本的な姿勢、歩幅と歩数と速さの関係を理解させる。

ｄ）３分間以上同一の速さで歩き、終了直後約１０秒以内に心拍数を数えさせる方法を修得。

ｅ）５速度（楽な速さ、やや速く、もう少し速く、あるいは隣の人と話ができるが速いスピードとその前後の速さ）の実習を行い、ウォーキングの速さと心拍数の関係を理解させる。

ｆ）異なった速さの歩行間には完全休息を置き、ウォーキング運動の特徴・効果を理解させる。

ｇ）ウォーキングと安全に関する留意点を理解させる。

ｈ）頸、肩、腰、膝、足に負担の少ない基本的なウォーキングフォームを習得させる。

２．健康ジョギングの実際と指導方法

・関節負担の少ない基本的走フォームを修得。

・異種速度ジョギングを３分行い、終了後 10 秒心拍計測し、指導。

・異種速度でのジョギングにおいて様々な条件による生体反応の個人差を実践的に修得。

・個人に適した作成プログラムを実践し、消費カロリーの推定を実践学習する。

３．短距離走の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）

・障がい者スポーツ種目として視覚障がい者 50m走の実践も含む

４．短距離走の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）

・障がい者スポーツ種目として視覚障がい者 50m走の実践も含む

５．ハードル走の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）

６．ハードル走の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）

７．走り幅跳びの基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）

８．走り幅跳びの指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）

９．走り高跳びの基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
１０．走り高飛びの指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
１１．投擲競技の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
・円盤投げ
・ 砲丸投げ（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
・ ジャベリックスロー（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
１２．投擲競技の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
・円盤投げ
・砲丸投げ（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
・ジャベリックスロー（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
１３．陸上競技の競技規則の理解と安全管理
１４．障がい者の為の陸上競技の競技規則と選手団コーチの知識・技能の理解
１５．学校教育指導（中・高）における陸上運動の指導計画立案と指導案作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	J90189002
科目名	陸上競技	単位数	1
科目名（英語表記）	Track and Field		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	健康スポーツ指導者・保健体育教職者・健康運動実践指導者・障がい者スポーツ指導員向けの教授方法について実践的に学修する。生涯に亘っての健康生活実践と体育教育に必要な歩く・走る・跳ぶ・投げるの基本動作とその指導方法について修得させる。分習法から全習法へと連結した技能修得と教授方法を修得させる。各専門的指導者にとって陸上運動の個々の指導留意点や指導時の指摘や模範動作の意識ポイントについても各々動作事例を示しながら実践展開する。陸上運動の個別指導とグループ指導のノウハウについても教授し、指導実践環境を想定した授業展開を図り、指導計画案づくりから模擬授業迄の実践的授業展開とする。		
教材（テキスト）	『陸上運動の方法』（道和書院）　関岡康雄 編 1,728 円		
教材（参考文献）	『陸上競技指導教本アンダー16･19 基礎から身につく陸上競技[初級編]』(大修館書店）日本陸連 編 2,052 円 『陸上競技指導教本アンダー16･19 レベルアップの陸上競技［上級編］』(大修館書店）　日本陸連 編 2,052 円		
教材（その他）			
評価方法	１．歩・走・跳・投運動の基礎的技術の習得評価（実技評価７０％） ２．陸上運動指導計画及び指導案作成評価（レポート２０％） ３．受講時の積極的態度・自立的行動評価（授業態度１０％）		
到達目標	１．健常者及び障がい者向けの歩・走・跳・投の基礎技術と指導方法を体得する。 ２．健康ウォーキング・ジョギングの実際と運動処方の基本を理解する。 ３．陸上運動指導上の安全管理の実践的理解をする。 ４．陸上運動指導の対象別指導計画及び指導案の作成		
準備学習	受講に際して陸上競技のルールと陸上運動の特性を事前準備学習を要する。		

受講者への要望

受講に際し、服装はトレーニングウエア、靴はジョギングシューズを着用し、受講の事。

講義の順序とポイント

１．健康ウォーキングの実際と指導方法

ウォーキング実践

ａ）他人にとらわれず、各人の好みの速さで歩き、個人差があらわれることを確かめさせる。

ｂ）性・年齢・体力の違いによって歩行速度が異なることを理解させる。

ｃ）歩行の基本的な姿勢、歩幅と歩数と速さの関係を理解させる。

ｄ）３分間以上同一の速さで歩き、終了直後約１０秒以内に心拍数を数えさせる方法を修得。

ｅ）５速度（楽な速さ、やや速く、もう少し速く、あるいは隣の人と話ができるが速いスピードとその前後の速さ）の実習を行い、ウォーキングの速さと心拍数の関係を理解させる。

ｆ）異なった速さの歩行間には完全休息を置き、ウォーキング運動の特徴・効果を理解させる。

ｇ）ウォーキングと安全に関する留意点を理解させる。

ｈ）頸、肩、腰、膝、足に負担の少ない基本的なウォーキングフォームを習得させる。

２．健康ジョギングの実際と指導方法

・関節負担の少ない基本的走フォームを修得。

・異種速度ジョギングを３分行い、終了後 10 秒心拍計測し、指導。

・異種速度でのジョギングにおいて様々な条件による生体反応の個人差を実践的に修得。

・個人に適した作成プログラムを実践し、消費カロリーの推定を実践学習する。

３．短距離走の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）

・障がい者スポーツ種目として視覚障がい者 50m走の実践も含む

４．短距離走の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）

・障がい者スポーツ種目として視覚障がい者 50m走の実践も含む

５．ハードル走の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）

６．ハードル走の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）

７．走り幅跳びの基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）

８．走り幅跳びの指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）

９．走り高跳びの基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
１０．走り高飛びの指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
１１．投擲競技の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
・円盤投げ
・ 砲丸投げ（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
・ ジャベリックスロー（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
１２．投擲競技の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
・円盤投げ
・砲丸投げ（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
・ジャベリックスロー（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
１３．陸上競技の競技規則の理解と安全管理
１４．障がい者の為の陸上競技の競技規則と選手団コーチの知識・技能の理解
１５．学校教育指導（中・高）における陸上運動の指導計画立案と指導案作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC1000101
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	人びとが社会で生きていくためには、ヒブの生活に必要な財とサービスが充足されなければななならないし、また財とサービスを購入するための貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣を循環させる経済組織の在り方を学ぶ学問であるが、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」と「政府」である。「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者にわかるように講義する。		
教材（テキスト）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編]・[マクロ編]』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕		
教材（参考文献）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教材（その他）	毎回授業資料を配布する。		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等＋宿題提出４回（２０％）＋学期末試験（５０％）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
準備学習	講義の第 1〜第 6 回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第 7 回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席すること。		

受講者への要望

(1)　日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。
(2)　なお「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって若干異なる場合がある。それゆえ各クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講していただきたい。

講義の順序とポイント

１．経済学とは何か――ミクロとマクロ
２．財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
３．労働市場と資本市場
４．完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
５．負の外部性と正の外部性
６．公共財、貧困と福祉、格差問題
７．マクロ経済と GDP
８．経済成長
９．失業率――インフレとデフレ
１０．総需要と総供給（国民所得の決定）
１１．財政政策――景気対策と赤字国債の累積
１２．金融と金融政策
１３．国際収支と貿易
１４．自由貿易と保護貿易
１５．国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1000102
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	人びとが社会で生きていくためには、ヒブの生活に必要な財とサービスが充足されなければななならないし、また財とサービスを購入するための貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣を循環させる経済組織の在り方を学ぶ学問であるが、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」と「政府」である。「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者にわかるように講義する。		
教材（テキスト）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編]・[マクロ編]』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕		
教材（参考文献）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教材（その他）	毎回授業資料を配布する。		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等＋宿題提出４回（２０％）＋学期末試験（５０％）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
準備学習	講義の第 1〜第 6 回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第 7 回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席すること。		

受講者への要望

(1)　日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。
(2)　なお「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって若干異なる場合がある。それゆえ各クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講していただきたい。

講義の順序とポイント

１．経済学とは何か――ミクロとマクロ
２．財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
３．労働市場と資本市場
４．完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
５．負の外部性と正の外部性
６．公共財、貧困と福祉、格差問題
７．マクロ経済と GDP
８．経済成長
９．失業率――インフレとデフレ
１０．総需要と総供給（国民所得の決定）
１１．財政政策――景気対策と赤字国債の累積
１２．金融と金融政策
１３．国際収支と貿易
１４．自由貿易と保護貿易
１５．国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1000103
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	人びとが社会で生きていくためには、ヒブの生活に必要な財とサービスが充足されなければななならないし、また財とサービスを購入するための貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣を循環させる経済組織の在り方を学ぶ学問であるが、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」と「政府」である。「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者にわかるように講義する。		
教材（テキスト）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編]・[マクロ編]』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕		
教材（参考文献）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教材（その他）	毎回授業資料を配布する。		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等＋宿題提出４回（２０％）＋学期末試験（５０％）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
準備学習	講義の第 1〜第 6 回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第 7 回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席すること。		

受講者への要望

(1)　日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。
(2)　なお「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって若干異なる場合がある。それゆえ各クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講していただきたい。

講義の順序とポイント

１．経済学とは何か――ミクロとマクロ
２．財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
３．労働市場と資本市場
４．完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
５．負の外部性と正の外部性
６．公共財、貧困と福祉、格差問題
７．マクロ経済と GDP
８．経済成長
９．失業率――インフレとデフレ
１０．総需要と総供給（国民所得の決定）
１１．財政政策――景気対策と赤字国債の累積
１２．金融と金融政策
１３．国際収支と貿易
１４．自由貿易と保護貿易
１５．国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1000104
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	人びとが社会で生きていくためには、ヒブの生活に必要な財とサービスが充足されなければななならないし、また財とサービスを購入するための貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣を循環させる経済組織の在り方を学ぶ学問であるが、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」と「政府」である。「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者にわかるように講義する。		
教材（テキスト）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編]・[マクロ編]』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕		
教材（参考文献）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教材（その他）	毎回授業資料を配布する。		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等＋宿題提出４回（２０％）＋学期末試験（５０％）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
準備学習	講義の第 1〜第 6 回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第 7 回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席すること。		

受講者への要望

(1)　日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。
(2)　なお「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって若干異なる場合がある。それゆえ各クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講していただきたい。

講義の順序とポイント

１．経済学とは何か――ミクロとマクロ
２．財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
３．労働市場と資本市場
４．完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
５．負の外部性と正の外部性
６．公共財、貧困と福祉、格差問題
７．マクロ経済と GDP
８．経済成長
９．失業率――インフレとデフレ
１０．総需要と総供給（国民所得の決定）
１１．財政政策――景気対策と赤字国債の累積
１２．金融と金融政策
１３．国際収支と貿易
１４．自由貿易と保護貿易
１５．国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1000201
科目名	経営学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy.		
教材（テキスト）	受講生の興味ある産業、分野を考慮し、毎回提示する		
教材（参考文献）	Case Study を提示するが、受講生の興味に応じ提示する		
教材（その他）			
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととする。		
準備学習	The preparation of each session should be expected to accomplish along the progress of case study 各セッションの予習、準備はケーススタディーの進行にそって設定されるものとする		
受講者への要望			
熱意を持って、イノベーティブに Be Passionate, Be Innovative			
講義の順序とポイント			
講義内容 第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting 第二回　ビジョンに関して、ケース：ビジョナリーカンパニー Session 2, On Vision /Case study of visionary company and setting attendee's own vision 第三回　戦略に関して、戦略、戦術の定義、ケーススタディー Session 3, On Strategy / Study on definition of strategy, tactics 第四回 競争に関して、競争の戦略、ケーススタディー Session 4, On Competition / Case study in competitive strategy 第五回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics 第六回　経営財務、基礎講座① Session 6, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1 第七回　中間報告、事業計画の中間プレゼンテーション Session 7, Midterm Review, Presentation practice on business plan 第八回　経営財務、基礎講座② Session 8, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2 第九回　ケース：ホスピタリティーマネージメント Session 9, Case Study / Best practice on hospitality management 第十回　ケース：イノベーション Session 10, Case Study / Best practice on innovation 第十一回　ケース：起業家精神 Session 11, Case Study / Best practice on entrepreneurship 第十二回　ケース：チームマネジメント		

Session 12, Case Study / Best practice on team management 第十三回　ケース：受講者から一番リクエストがあった企業 Session 13, Case Study / Most requested company 第十四回　事業計画発表① Session 14, Presentation of business plan 1 第十五回　事業計画発表② Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1000202
科目名	経営学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy.		
教材（テキスト）	受講生の興味ある産業、分野を考慮し、毎回提示する		
教材（参考文献）	Case Study を提示するが、受講生の興味に応じ提示する		
教材（その他）			
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととする。		
準備学習	The preparation of each session should be expected to accomplish along the progress of case study 各セッションの予習、準備はケーススタディーの進行にそって設定されるものとする		
受講者への要望			
熱意を持って、イノベーティブに Be Passionate, Be Innovative			
講義の順序とポイント			
講義内容 第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting 第二回　ビジョンに関して、ケース：ビジョナリーカンパニー Session 2, On Vision /Case study of visionary company and setting attendee's own vision 第三回　戦略に関して、戦略、戦術の定義、ケーススタディー Session 3, On Strategy / Study on definition of strategy, tactics 第四回 競争に関して、競争の戦略、ケーススタディー Session 4, On Competition / Case study in competitive strategy 第五回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics 第六回　経営財務、基礎講座① Session 6, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1 第七回　中間報告、事業計画の中間プレゼンテーション Session 7, Midterm Review, Presentation practice on business plan 第八回　経営財務、基礎講座② Session 8, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2 第九回　ケース：ホスピタリティーマネージメント Session 9, Case Study / Best practice on hospitality management 第十回　ケース：イノベーション Session 10, Case Study / Best practice on innovation 第十一回　ケース：起業家精神 Session 11, Case Study / Best practice on entrepreneurship 第十二回　ケース：チームマネジメント		

Session 12, Case Study / Best practice on team management 第十三回　ケース：受講者から一番リクエストがあった企業 Session 13, Case Study / Most requested company 第十四回　事業計画発表① Session 14, Presentation of business plan 1 第十五回　事業計画発表② Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1000301
科目名	国際関係論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松田　哲	旧科目名称	
講義概要	本講義の目的は、現代の国際関係を理解するために必要とされる、基礎的な視角と知識とを習得することにある。その際に本講義で中心にすえるのは、日本を取り巻く国際関係である。それはまた、日本とアメリカ・アジア諸国との国際関係でもある。具体的なトピックとしては、日本の成り立ち、日本の国際化、日本における外国人、国境を越える人の移動、日米関係、沖縄、日本と東アジア諸国との関係、日本の開発援助政策、グローバル化といった問題を扱う。		
教材（テキスト）	初瀬龍平・野田岳人編『日本で学ぶ国際関係論』（法律文化社、2009 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レジメを配布する予定。必要に応じてビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	定期テスト（４０%）、講義内コメントカードの提出（３０%）、レポート（３０%）。		
到達目標	（1）国際関係に関する基礎的な用語の意味内容を理解すること。 （2）アジアにおける日本の国際関係の現状について、歴史的経緯を踏まえた説明ができるようになること。		
準備学習	（1）講義前に教科書を熟読してくること。		

受講者への要望

（1）日本とアジア近隣諸国との関係に関わるニュースや新聞報道等に、日頃から接する様に心がけること。
（2）国際関係論に関する専門用語を覚える努力を、日頃からコツコツと積み重ねること。
（3）講義中に、講義内容に関する意見を求めることがあるので、堂々と自分の意見を述べること。

講義の順序とポイント

1、ガイダンス
2、日本の国家・国民・領土 その１　（第２章）　[初回は日本の平和研究と日本国憲法９条（第９章）も含む]
3、日本の国家・国民・領土 その２　（同上）
4、日本の国家・国民・領土 その３　（同上）
5、日本の国際化と外国人　（第３章）
6、外国人法と市民社会　（第１４章）
7、アジアの国際関係史　（該当章なし）
8、日本の戦争責任と東アジアの国際関係論　その１　（第６章）
9、日本の戦争責任と東アジアの国際関係論　その２　（同上）
１０、日米関係と日本外交　その１　（第５章）
１１、日米関係と日本外交　その２　（同上）
１２、イスラームと国際政治　その１　（該当章なし）
１３、イスラームと国際政治　その２　（該当章なし
１４、アメリカニズムと近代文明　（第１５章）
１５、グローバル化する国際社会　（第１８章）

（括弧内は、教科書の該当する章）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	JC1000302
科目名	国際関係論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松田　哲	旧科目名称	
講義概要	本講義の目的は、現代の国際関係を理解するために必要とされる、基礎的な視角と知識とを習得することにある。その際に本講義で中心にすえるのは、日本を取り巻く国際関係である。それはまた、日本とアメリカ・アジア諸国との国際関係でもある。具体的なトピックとしては、日本の成り立ち、日本の国際化、日本における外国人、国境を越える人の移動、日米関係、沖縄、日本と東アジア諸国との関係、日本の開発援助政策、グローバル化といった問題を扱う。		
教材（テキスト）	初瀬龍平・野田岳人編『日本で学ぶ国際関係論』（法律文化社、2009 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レジメを配布する予定。必要に応じてビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	定期テスト（４０%）、講義内コメントカードの提出（３０%）、レポート（３０%）。		
到達目標	（1）国際関係に関する基礎的な用語の意味内容を理解すること。 （2）アジアにおける日本の国際関係の現状について、歴史的経緯を踏まえた説明ができるようになること。		
準備学習	（1）講義前に教科書を熟読してくること。		

受講者への要望

（1）日本とアジア近隣諸国との関係に関わるニュースや新聞報道等に、日頃から接する様に心がけること。
（2）国際関係論に関する専門用語を覚える努力を、日頃からコツコツと積み重ねること。
（3）講義中に、講義内容に関する意見を求めることがあるので、堂々と自分の意見を述べること。

講義の順序とポイント

1、ガイダンス
2、日本の国家・国民・領土 その１　（第２章）　[初回は日本の平和研究と日本国憲法９条（第９章）も含む]
3、日本の国家・国民・領土 その２　（同上）
4、日本の国家・国民・領土 その３　（同上）
5、日本の国際化と外国人　（第３章）
6、外国人法と市民社会　（第１４章）
7、アジアの国際関係史　（該当章なし）
8、日本の戦争責任と東アジアの国際関係論　その１　（第６章）
9、日本の戦争責任と東アジアの国際関係論　その２　（同上）
１０、日米関係と日本外交　その１　（第５章）
１１、日米関係と日本外交　その２　（同上）
１２、イスラームと国際政治　その１　（該当章なし）
１３、イスラームと国際政治　その２　（該当章なし
１４、アメリカニズムと近代文明　（第１５章）
１５、グローバル化する国際社会　（第１８章）

（括弧内は、教科書の該当する章）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	JC1000401
科目名	知的財産	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	テクノロジーやブランド、デザイン、エンタテインメントなどの「知的財産」を対象に、「知的財産」を「知的財産権」として所有または交換すること、またこれを第三者の侵害から防衛することなどについて、紛争事例(例えば、アップル vs サムスンのスマートフォンを巡る事例など)なども交えながら、「民法」「知的財産法」の基本的な考え方を問題解決のツールとして学ぶこととする。 以上を通して、財産権一般またはとくに知的財産権の所有と利用、またその侵害に対する排除のルールである「民法」「知的財産法」の役割･機能を具体的に把握することとする。主要な項目としては、①所有権と知的財産権、②財産権・知的財産権の所有、③財産権･知的財産権の利用、④財産権･知的財産権の侵害などを考えている。 授業の方法としては、できるだけ双方向のやりとりができるよう、授業内課題・レポート等を活用していくこととする。		
教材（テキスト）	プリント教材を配布。		
教材（参考文献）	茶園成樹『知的財産法入門』(2013 年、有斐閣) 東京丸の内法律事務所著作権研究会『基礎から学べる！著作権"早わかり"講座』(2014 年、第一法規) 道垣内弘人『リーガルベイシス民法入門』(2014 年、日本経済新聞社)		
教材（その他）			
評価方法	イグジッションペーパーの記入内容に基づき、授業に積極的に参加していたかどうかを評価する(４０％)。 レポート課題　2 回出題　提出されたレポートの体裁・内容に基づき評価する(６０％)		
到達目標	テクノロジーやブランド、デザイン、エンタテインメントなどの「知的財産」について、「知的財産権」として所有または交換すること、またこれを第三者の侵害から防衛することなどについて、問題解決のツールとしての「民法」「知的財産法」の基本的な考え方を学ぶ。		
準備学習	１．授業資料である「プリント教材」は事前に配布するので、授業前に目を通し、授業で何が話題になるかをつかんだ上で、授業に出席する。 ２．授業後に「プリント教材」をもう一度読み直し、内容が十分理解できるかどうか、確認すること。 ３．知的財産を取り扱った新聞報道によく接するようにし、法的な問題点について関心を持つようにすること。(講義の中でも積極的に取り上げるようにする。) ４．各回の講義で指示する課題に取り組むこと。		
受講者への要望			
準備学習を確実に行った上、授業に参加すること。			
講義の順序とポイント			
１．プロローク－法の役割と法を学ぶこと 法の役割は何か？ 法を学ぶことは私たちにとってどんな意味があるか？　　何をどうやって学べばよいのか？ ２．財産に関する基本法・民法の基本 所有権制度にはどういった意義があるのか？ ３．知的財産と知的財産法 知的財産権とは何か？ ４．特許法で保護されている「発明」 ５．著作権法で保護されている「著作物」 ６．権利の主体(1)－発明者等 ７．権利の主体(2)－著作者等 ８．財産権の侵害(1) 財産権の侵害された場合どうするか？ －民法の規律による場合 ９．財産権の侵害(2)			

知的財産権の侵害された場合どうするか？
－知的財産法の規律による場合
10. 財産権の利用(1)
他人の財産権を利用するためどのような方法をとるか？
－賃貸借契約による場合
11. 財産権の利用(2)
他人の知的財産を利用するためどのような方法をとるか？
－ライセンス契約による場合
12. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(1)
ＡＫＢ４８の写真を無許可でポスターに使用してよいか？
－パブリシティ権の問題
13. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(2)
米国特許訴訟のリスクマネジメント－パテントロールとは？
14. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(3)
アップル vs サムスンのスマートフォン知財戦争
１５. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(4)
新しい著作権の問題
違法ダウンロードの刑事罰化
私的使用と「自炊」
許可なく画像･映像を撮られていたら－「写り込み」の扱い

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1000402
科目名	知的財産	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	テクノロジーやブランド、デザイン、エンタテインメントなどの「知的財産」を対象に、「知的財産」を「知的財産権」として所有または交換すること、またこれを第三者の侵害から防衛することなどについて、紛争事例(例えば、アップル vs サムスンのスマートフォンを巡る事例など)なども交えながら、「民法」「知的財産法」の基本的な考え方を問題解決のツールとして学ぶこととする。 以上を通して、財産権一般またはとくに知的財産権の所有と利用、またその侵害に対する排除のルールである「民法」「知的財産法」の役割･機能を具体的に把握することとする。主要な項目としては、①所有権と知的財産権、②財産権・知的財産権の所有、③財産権･知的財産権の利用、④財産権･知的財産権の侵害などを考えている。 授業の方法としては、できるだけ双方向のやりとりができるよう、授業内課題・レポート等を活用していくこととする。		
教材（テキスト）	プリント教材を配布。		
教材（参考文献）	茶園成樹『知的財産法入門』(2013 年、有斐閣) 東京丸の内法律事務所著作権研究会『基礎から学べる！著作権"早わかり"講座』(2014 年、第一法規) 道垣内弘人『リーガルベイシス民法入門』(2014 年、日本経済新聞社)		
教材（その他）			
評価方法	イグジッションペーパーの記入内容に基づき、授業に積極的に参加していたかどうかを評価する(４０％)。 レポート課題　2 回出題　提出されたレポートの体裁・内容に基づき評価する(６０％)		
到達目標	テクノロジーやブランド、デザイン、エンタテインメントなどの「知的財産」について、「知的財産権」として所有または交換すること、またこれを第三者の侵害から防衛することなどについて、問題解決のツールとしての「民法」「知的財産法」の基本的な考え方を学ぶ。		
準備学習	1．授業資料である「プリント教材」は事前に配布するので、授業前に目を通し、授業で何が話題になるかをつかんだ上で、授業に出席する。 2．授業後に「プリント教材」をもう一度読み直し、内容が十分理解できるかどうか、確認すること。 3．知的財産を取り扱った新聞報道によく接するようにし、法的な問題点について関心を持つようにすること。(講義の中でも積極的に取り上げるようにする。) 4．各回の講義で指示する課題に取り組むこと。		
受講者への要望			
準備学習を確実に行った上、授業に参加すること。			
講義の順序とポイント			
1．プロローク－法の役割と法を学ぶこと 法の役割は何か？ 法を学ぶことは私たちにとってどんな意味があるか？　　何をどうやって学べばよいのか？ 2．財産に関する基本法・民法の基本 所有権制度にはどういった意義があるのか？ 3．知的財産と知的財産法 知的財産権とは何か？ 4．特許法で保護されている「発明」 5．著作権法で保護されている「著作物」 6．権利の主体(1)－発明者等 7．権利の主体(2)－著作者等 8．財産権の侵害(1) 財産権の侵害された場合どうするか？ －民法の規律による場合 9．財産権の侵害(2)			

知的財産権の侵害された場合どうするか？
－知的財産法の規律による場合
10. 財産権の利用(1)
他人の財産権を利用するためどのような方法をとるか？
－賃貸借契約による場合
11. 財産権の利用(2)
他人の知的財産を利用するためどのような方法をとるか？
－ライセンス契約による場合
12. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(1)
ＡＫＢ４８の写真を無許可でポスターに使用してよいか？
－パブリシティ権の問題
13. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(2)
米国特許訴訟のリスクマネジメント－パテントロールとは？
14. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(3)
アップル vs サムスンのスマートフォン知財戦争
１５. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(4)
新しい著作権の問題
違法ダウンロードの刑事罰化
私的使用と「自炊」
許可なく画像･映像を撮られていたら－「写り込み」の扱い

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1000501
科目名	コーポレートガバナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	コーポレートガバナンス（企業統治）には大きく 2 つの狙いがある。第 1 は経営の適性さ、健全性の確保であり、第 2 は、会社の業績の向上である。この講義では、経済学・経営学、法学という学問分野にとらわれず、コーポレートガバナンスに関わる入門的トピックを取り上げ検討する。また、経営の適性さ、健全性はコンプライアンス（法令遵守）とも重なるので、その基礎も紹介する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	コーポレートガバナンスとコンプライアンスについての概略とその基本的理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布または指定するので、予習しておくこと。また、毎回の授業で前回授業内容に関わる復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞記事の経済面などに努めて目を通し、経済や企業経営に幅広く興味関心を持ってもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．株式会社とは 3．企業不祥事 4．欧米におけるコーポレートガバナンス 5．日本経済と日本的経営 6．雇用・労使関係とコーポレートガバナンス 7．労働組合とコーポレートガバナンス 8．会計制度の国際化とコーポレートガバナンス 9．会社法とコーポレートガバナンス 10.取締役のあり方 11.監査役のあり方 12.内部監査とコーポレートガバナンス 13.株主代表訴訟とコーポレートガバナンス 14.コーポレートガバナンスとコンプライアンス 15.日本におけるコーポレートガバナンスの展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JC1000502
科目名	コーポレートガバナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	コーポレートガバナンス（企業統治）には大きく 2 つの狙いがある。第 1 は経営の適性さ、健全性の確保であり、第 2 は、会社の業績の向上である。この講義では、経済学・経営学、法学という学問分野にとらわれず、コーポレートガバナンスに関わる入門的トピックを取り上げ検討する。また、経営の適性さ、健全性はコンプライアンス（法令遵守）とも重なるので、その基礎も紹介する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	コーポレートガバナンスとコンプライアンスについての概略とその基本的理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布または指定するので、予習しておくこと。また、毎回の授業で前回授業内容に関わる復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞記事の経済面などに努めて目を通し、経済や企業経営に幅広く興味関心を持ってもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．株式会社とは 3．企業不祥事 4．欧米におけるコーポレートガバナンス 5．日本経済と日本的経営 6．雇用・労使関係とコーポレートガバナンス 7．労働組合とコーポレートガバナンス 8．会計制度の国際化とコーポレートガバナンス 9．会社法とコーポレートガバナンス 10.取締役のあり方 11.監査役のあり方 12.内部監査とコーポレートガバナンス 13.株主代表訴訟とコーポレートガバナンス 14.コーポレートガバナンスとコンプライアンス 15.日本におけるコーポレートガバナンスの展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JC1000601
科目名	ビジネスパーソンの常識	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	日根野　健	旧科目名称	
講義概要	学生がビジネスパーソンになり、収入を得るようになったときに必要な基本知識を身につけることを目標とします。 大きく 3 部構成としています。 第 1 部　投資信託による資産運用 債券、株式、REIT に投資する投資信託を取り上げます。10 年以上の長期間をかけて資産形成していくには、どのような投資信託を活用すればよいか、具体的な投資信託を取り上げながら、事例で学びます。 第 2 部　生命保険によるリスクへの備え 死亡のリスク、重い病気や介護等のリスク、医療のリスク、老後のリスク、それぞれのリスクをヘッジするために、どのような生命保険があるか、学びます。 第 3 部　社会保険の仕組みと日本の課題 給与明細の読み方を通して、所得税・住民税や健康保険・厚生年金保険・雇用保険の制度について取り上げます。 就職活動にも役立つような形で各トピックスを学習していきます。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配付する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜プリントを配付する。		
評価方法	レポート（50%）、定期テスト（50%） (1) レポートの内容は、投資信託分析レポートの作成とする。 (2) 定期テストの内容は、授業中に実施するワークの内容と類似したものを出題する。		
到達目標	社会人としての基本的なマネーに関する知識（ファイナンシャル・リテラシー）を修得することを目標とします。		
準備学習	毎授業の最初に、前回の授業内容に関するワークを実施します。 そのため、前回の授業内容のポイントの復習を、毎回の授業の準備学習として行ってください。		
受講者への要望			
社会人になると給与により収入を得るようになります。でも、その全てが使えるわけではありません。税金を払ったり、社会保険料を払ったり、将来のために貯蓄したりしなければなりません。 そのようなときに必要となる知識（ファイナンシャル・リテラシー）を身につけることを目標にしています。 将来必要になる知識ですので、ぜひ積極的に履修してください。			
講義の順序とポイント			
1.初任給 198,000 円をどう使う？ 　就職し、大卒の平均初任給 198,000 円を得たとき、実際銀行口座にはいくら振り込まれるのでしょうか？ 　給料から様々なものが控除され、生活費に使い、それでもなお残ったお金は、貯蓄や投資にまわすはずです。 　でも、貯蓄や投資にはどのような手段があるのでしょうか？具体的な金融商品の利回りなどを確認します。 　資産運用のための投資信託、リスクヘッジのための生命保険の必要性について学びます。 【第 1 部　投資信託】 2.投資信託とは何か？			

投資の一手段である投資信託とは、どのような仕組みなのでしょうか。
委託会社、受託会社、販売会社の関係や、どのような仕組みで、投資信託から利益や損失が発生するのかを取り上げます。

3.交付目論見書の読み方
投資信託の内容を判断するためには、目論見書（もくろみしょ）を読めなくてはなりません。
実際の投資信託の交付目論見書を見ながら、どこにポイントがあるのか、事例で学んでいきます。

4.インデックス型とアクティブ型
投資信託にはインデックス型とアクティブ型があります。
それぞれの特徴や違いを学びます。

5.分配金、シャープレシオ
投資信託のパフォーマンスを評価するために、分配金とシャープレシオを学びます。
分配金については、普通分配金と特別分配金の違いに注目します。

6.資産クラス、確定拠出年金制度
投資信託の投資対象としての資産クラス（国内、国外の債券、株式、不動産）を取り上げます。
また、　確定拠出年金について、具体的にどのような制度なのかを確認します。

7.経済指標と投資信託の基準価額の関係
長期金利や株価の動向が投資信託の基準価額にどのように影響するかを学びます。

8.主な委託会社、販売会社、投資信託
主な委託会社にはどのような会社があるか、主な販売会社にはどのような会社があるかを紹介します。
また、投資信託については、純資産総額が 1 兆円を超える投資信託にはどのようなものがあるか、紹介します。

【第 2 部　生命保険】
9.生命保険の 3 類型
家計の問題を解決するひとつの手段が生命保険です。定期保険、終身保険、養老保険といった基本的な保険の特徴について学習します。

10.定期保険の比較
実際の定期保険の商品を取り上げ、定期保険の目的（活用方法）、選択する際のポイントに触れます。

11.養老保険の比較、終身保険
実際の養老保険・終身保険の商品を取り上げ、養老保険・終身保険の目的（活用方法）、選択する際のポイントに触れます。

12.年金保険の比較、団体信用生命保険
実際の年金保険の商品を取り上げ、年金保険の目的（活用方法）、選択する際のポイントに触れます。
また、団体信用生命保険を紹介します。

13.遺族年金、高額療養費制度
公的年金、公的保険としてどのような制度が用意されているかを取り上げます。

【第 3 部　社会保険】
14.給料から引かれる健康保険料、厚生年金保険料とは何なのか？
さらに給料からは、健康保険料や厚生年金保険料が差し引かれます。
健康保険料や厚生年金保険料とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
また、健康保険や厚生年金の会計がどのような状態なのか、財政問題も取り上げます。

15.給料から引かれる所得税、住民税とは何なのか？
給料からは、所得税や住民税が差し引かれます。
所得税や住民税とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
また、所得税や住民税がどのように利用されているか、日本の財政問題も取り上げます。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JC1000602
科目名	ビジネスパーソンの常識	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	日根野　健	旧科目名称	
講義概要	学生がビジネスパーソンになり、収入を得るようになったときに必要な基本知識を身につけることを目標とします。 大きく 3 部構成としています。 第 1 部　投資信託による資産運用 債券、株式、REIT に投資する投資信託を取り上げます。10 年以上の長期間をかけて資産形成していくには、どのような投資信託を活用すればよいか、具体的な投資信託を取り上げながら、事例で学びます。 第 2 部　生命保険によるリスクへの備え 死亡のリスク、重い病気や介護等のリスク、医療のリスク、老後のリスク、それぞれのリスクをヘッジするために、どのような生命保険があるか、学びます。 第 3 部　社会保険の仕組みと日本の課題 給与明細の読み方を通して、所得税・住民税や健康保険・厚生年金保険・雇用保険の制度について取り上げます。 就職活動にも役立つような形で各トピックスを学習していきます。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配付する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜プリントを配付する。		
評価方法	レポート（50%）、定期テスト（50%） (1) レポートの内容は、投資信託分析レポートの作成とする。 (2) 定期テストの内容は、授業中に実施するワークの内容と類似したものを出題する。		
到達目標	社会人としての基本的なマネーに関する知識（ファイナンシャル・リテラシー）を修得することを目標とします。		
準備学習	毎授業の最初に、前回の授業内容に関するワークを実施します。 そのため、前回の授業内容のポイントの復習を、毎回の授業の準備学習として行ってください。		
受講者への要望			
社会人になると給与により収入を得るようになります。でも、その全てが使えるわけではありません。税金を払ったり、社会保険料を払ったり、将来のために貯蓄したりしなければなりません。 そのようなときに必要となる知識（ファイナンシャル・リテラシー）を身につけることを目標にしています。 将来必要になる知識ですので、ぜひ積極的に履修してください。			
講義の順序とポイント			
1.初任給 198,000 円をどう使う？ 　就職し、大卒の平均初任給 198,000 円を得たとき、実際銀行口座にはいくら振り込まれるのでしょうか？ 　給料から様々なものが控除され、生活費に使い、それでもなお残ったお金は、貯蓄や投資にまわすはずです。 　でも、貯蓄や投資にはどのような手段があるのでしょうか？具体的な金融商品の利回りなどを確認します。 　資産運用のための投資信託、リスクヘッジのための生命保険の必要性について学びます。 【第 1 部　投資信託】 2.投資信託とは何か？			

投資の一手段である投資信託とは、どのような仕組みなのでしょうか。
委託会社、受託会社、販売会社の関係や、どのような仕組みで、投資信託から利益や損失が発生するのかを取り上げます。

3.交付目論見書の読み方
投資信託の内容を判断するためには、目論見書（もくろみしょ）を読めなくてはなりません。
実際の投資信託の交付目論見書を見ながら、どこにポイントがあるのか、事例で学んでいきます。

4.インデックス型とアクティブ型
投資信託にはインデックス型とアクティブ型があります。
それぞれの特徴や違いを学びます。

5.分配金、シャープレシオ
投資信託のパフォーマンスを評価するために、分配金とシャープレシオを学びます。
分配金については、普通分配金と特別分配金の違いに注目します。

6.資産クラス、確定拠出年金制度
投資信託の投資対象としての資産クラス（国内、国外の債券、株式、不動産）を取り上げます。
また、　確定拠出年金について、具体的にどのような制度なのかを確認します。

7.経済指標と投資信託の基準価額の関係
長期金利や株価の動向が投資信託の基準価額にどのように影響するかを学びます。

8.主な委託会社、販売会社、投資信託
主な委託会社にはどのような会社があるか、主な販売会社にはどのような会社があるかを紹介します。
また、投資信託については、純資産総額が 1 兆円を超える投資信託にはどのようなものがあるか、紹介します。

【第 2 部　生命保険】
9.生命保険の 3 類型
家計の問題を解決するひとつの手段が生命保険です。定期保険、終身保険、養老保険といった基本的な保険の特徴について学習します。

10.定期保険の比較
実際の定期保険の商品を取り上げ、定期保険の目的（活用方法）、選択する際のポイントに触れます。

11.養老保険の比較、終身保険
実際の養老保険・終身保険の商品を取り上げ、養老保険・終身保険の目的（活用方法）、選択する際のポイントに触れます。

12.年金保険の比較、団体信用生命保険
実際の年金保険の商品を取り上げ、年金保険の目的（活用方法）、選択する際のポイントに触れます。
また、団体信用生命保険を紹介します。

13.遺族年金、高額療養費制度
公的年金、公的保険としてどのような制度が用意されているかを取り上げます。

【第 3 部　社会保険】
14.給料から引かれる健康保険料、厚生年金保険料とは何なのか？
さらに給料からは、健康保険料や厚生年金保険料が差し引かれます。
健康保険料や厚生年金保険料とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
また、健康保険や厚生年金の会計がどのような状態なのか、財政問題も取り上げます。

15.給料から引かれる所得税、住民税とは何なのか？
給料からは、所得税や住民税が差し引かれます。
所得税や住民税とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
また、所得税や住民税がどのように利用されているか、日本の財政問題も取り上げます。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JC1000701
科目名	実用日本語	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山中　延之	旧科目名称	
講義概要	大学生としてまず身に付けるべき「話す」「書く」能力を学びます。高校の国語の復習から始め、大学でのレポートの書き方の基礎までを習得することを目指します。 「話す」能力を身に付けるため、毎回小テストを行います。小テストは、敬語と中心として出題されます。直後に詳しい解説を行って知識が定着しやすいようにします。小テストでは、漢字・慣用句も問われます。 「書く」能力を身に付けるため、書き言葉（文章語）の習得を重視します。高校までは書き言葉（文章語）と話し言葉（口語）の区別を教わらないことが多いため、話し言葉で文章を書いてしまうことが多いものです。初めの数回の授業では書き分けの基本を学びます。その後はより詳しく、実践的な内容へと進みます。 第 2 回以降の授業では毎回提出物があり、提出物は全て評価の対象となるので、できるだけ欠席しないこと。提出物は以下の 2 種類です。 1，課題に沿った文章を教室で書き、提出する（2 回） 2，敬語・漢字・慣用句のテスト（原則として毎回）		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	佐藤望（編著）『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』（2006 年、慶應義塾大学出版会） 下地寛也『コクヨの 1 分間プレゼンテーション』（2011 年、中経出版）		
教材（その他）	授業中に紹介します		
評価方法	課題提出等による平常点 50%、学期末テスト 50%。		
到達目標	大学生として身に付けておくべき、文章の読み書き能力のうち、基本的な部分を習得する。		
準備学習	授業開始までに国語辞典と国語便覧を自宅の勉強机の上に置いておくこと。高校までに使っていたもので構わない。持っていない、あるいは捨てた者は中古でよいから購入しておくこと。		
受講者への要望			
毎回の授業に国語辞典（電子辞書でも紙の辞書でもよい。どの出版社のものでもよい）を持参すること。 【注意事項】20 分以上の遅刻者には出席を認めません。また、授業と関係のない行為（私語・携帯電話の操作・居眠り・飲食等）は厳禁です。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　これからの授業の説明 第 2 回　レポート・論文の基本事項 第 3 回　わかりやすい文章の書き方 第 4 回　事実と意見 第 5 回　課題 1　説明文 第 6 回　構成 第 7 回　要約 第 8 回　文章を引用する 第 9 回　図表を引用する 第 10 回　意見を述べる 第 11 回　課題 2　論説文 第 12 回　レポートの体裁 第 13 回　レポート作成の注意点 第 14 回　資料収集の方法 第 15 回　手紙の書き方 学期末試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1000702
科目名	実用日本語	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山中　延之	旧科目名称	
講義概要	大学生としてまず身に付けるべき「話す」「書く」能力を学びます。高校の国語の復習から始め、大学でのレポートの書き方の基礎までを習得することを目指します。 「話す」能力を身に付けるため、毎回小テストを行います。小テストは、敬語と中心として出題されます。直後に詳しい解説を行って知識が定着しやすいようにします。小テストでは、漢字・慣用句も問われます。 「書く」能力を身に付けるため、書き言葉（文章語）の習得を重視します。高校までは書き言葉（文章語）と話し言葉（口語）の区別を教わらないことが多いため、話し言葉で文章を書いてしまうことが多いものです。初めの数回の授業では書き分けの基本を学びます。その後はより詳しく、実践的な内容へと進みます。 第 2 回以降の授業では毎回提出物があり、提出物は全て評価の対象となるので、できるだけ欠席しないこと。提出物は以下の 2 種類です。 1，課題に沿った文章を教室で書き、提出する（2 回） 2，敬語・漢字・慣用句のテスト（原則として毎回）		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	佐藤望（編著）『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』（2006 年、慶應義塾大学出版会） 下地寛也『コクヨの 1 分間プレゼンテーション』（2011 年、中経出版）		
教材（その他）	授業中に紹介します		
評価方法	課題提出等による平常点 50%、学期末テスト 50%。		
到達目標	大学生として身に付けておくべき、文章の読み書き能力のうち、基本的な部分を習得する。		
準備学習	授業開始までに国語辞典と国語便覧を自宅の勉強机の上に置いておくこと。高校までに使っていたもので構わない。持っていない、あるいは捨てた者は中古でよいから購入しておくこと。		
受講者への要望			
毎回の授業に国語辞典（電子辞書でも紙の辞書でもよい。どの出版社のものでもよい）を持参すること。 【注意事項】20 分以上の遅刻者には出席を認めません。また、授業と関係のない行為（私語・携帯電話の操作・居眠り・飲食等）は厳禁です。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　これからの授業の説明 第 2 回　レポート・論文の基本事項 第 3 回　わかりやすい文章の書き方 第 4 回　事実と意見 第 5 回　課題 1　説明文 第 6 回　構成 第 7 回　要約 第 8 回　文章を引用する 第 9 回　図表を引用する 第 10 回　意見を述べる 第 11 回　課題 2　論説文 第 12 回　レポートの体裁 第 13 回　レポート作成の注意点 第 14 回　資料収集の方法 第 15 回　手紙の書き方 学期末試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1000703
科目名	実用日本語	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山中　延之	旧科目名称	
講義概要	大学生としてまず身に付けるべき「話す」「書く」能力を学びます。高校の国語の復習から始め、大学でのレポートの書き方の基礎までを習得することを目指します。 「話す」能力を身に付けるため、毎回小テストを行います。小テストは、敬語と中心として出題されます。直後に詳しい解説を行って知識が定着しやすいようにします。小テストでは、漢字・慣用句も問われます。 「書く」能力を身に付けるため、書き言葉（文章語）の習得を重視します。高校までは書き言葉（文章語）と話し言葉（口語）の区別を教わらないことが多いため、話し言葉で文章を書いてしまうことが多いものです。初めの数回の授業では書き分けの基本を学びます。その後はより詳しく、実践的な内容へと進みます。 第 2 回以降の授業では毎回提出物があり、提出物は全て評価の対象となるので、できるだけ欠席しないこと。提出物は以下の 2 種類です。 1，課題に沿った文章を教室で書き、提出する（2 回） 2，敬語・漢字・慣用句のテスト（原則として毎回）		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	佐藤望（編著）『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』（2006 年、慶應義塾大学出版会） 下地寛也『コクヨの 1 分間プレゼンテーション』（2011 年、中経出版）		
教材（その他）	授業中に紹介します		
評価方法	課題提出等による平常点 50%、学期末テスト 50%。		
到達目標	大学生として身に付けておくべき、文章の読み書き能力のうち、基本的な部分を習得する。		
準備学習	授業開始までに国語辞典と国語便覧を自宅の勉強机の上に置いておくこと。高校までに使っていたもので構わない。持っていない、あるいは捨てた者は中古でよいから購入しておくこと。		
受講者への要望			
毎回の授業に国語辞典（電子辞書でも紙の辞書でもよい。どの出版社のものでもよい）を持参すること。 【注意事項】20 分以上の遅刻者には出席を認めません。また、授業と関係のない行為（私語・携帯電話の操作・居眠り・飲食等）は厳禁です。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　これからの授業の説明 第 2 回　レポート・論文の基本事項 第 3 回　わかりやすい文章の書き方 第 4 回　事実と意見 第 5 回　課題 1　説明文 第 6 回　構成 第 7 回　要約 第 8 回　文章を引用する 第 9 回　図表を引用する 第 10 回　意見を述べる 第 11 回　課題 2　論説文 第 12 回　レポートの体裁 第 13 回　レポート作成の注意点 第 14 回　資料収集の方法 第 15 回　手紙の書き方 学期末試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1000704
科目名	実用日本語	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山中　延之	旧科目名称	
講義概要	大学生としてまず身に付けるべき「話す」「書く」能力を学びます。高校の国語の復習から始め、大学でのレポートの書き方の基礎までを習得することを目指します。 「話す」能力を身に付けるため、毎回小テストを行います。小テストは、敬語と中心として出題されます。直後に詳しい解説を行って知識が定着しやすいようにします。小テストでは、漢字・慣用句も問われます。 「書く」能力を身に付けるため、書き言葉（文章語）の習得を重視します。高校までは書き言葉（文章語）と話し言葉（口語）の区別を教わらないことが多いため、話し言葉で文章を書いてしまうことが多いものです。初めの数回の授業では書き分けの基本を学びます。その後はより詳しく、実践的な内容へと進みます。 第 2 回以降の授業では毎回提出物があり、提出物は全て評価の対象となるので、できるだけ欠席しないこと。提出物は以下の 2 種類です。 1，課題に沿った文章を教室で書き、提出する（2 回） 2，敬語・漢字・慣用句のテスト（原則として毎回）		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	佐藤望（編著）『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』（2006 年、慶應義塾大学出版会） 下地寛也『コクヨの 1 分間プレゼンテーション』（2011 年、中経出版）		
教材（その他）	授業中に紹介します		
評価方法	課題提出等による平常点 50%、学期末テスト 50%。		
到達目標	大学生として身に付けておくべき、文章の読み書き能力のうち、基本的な部分を習得する。		
準備学習	授業開始までに国語辞典と国語便覧を自宅の勉強机の上に置いておくこと。高校までに使っていたもので構わない。持っていない、あるいは捨てた者は中古でよいから購入しておくこと。		
受講者への要望			
毎回の授業に国語辞典（電子辞書でも紙の辞書でもよい。どの出版社のものでもよい）を持参すること。 【注意事項】20 分以上の遅刻者には出席を認めません。また、授業と関係のない行為（私語・携帯電話の操作・居眠り・飲食等）は厳禁です。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　これからの授業の説明 第 2 回　レポート・論文の基本事項 第 3 回　わかりやすい文章の書き方 第 4 回　事実と意見 第 5 回　課題 1　説明文 第 6 回　構成 第 7 回　要約 第 8 回　文章を引用する 第 9 回　図表を引用する 第 10 回　意見を述べる 第 11 回　課題 2　論説文 第 12 回　レポートの体裁 第 13 回　レポート作成の注意点 第 14 回　資料収集の方法 第 15 回　手紙の書き方 学期末試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1000801
科目名	社会貢献	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原田　禎夫	旧科目名称	
講義概要	本講義では、京都を代表する観光地・嵐山を流れる桂川（保津川）をフィールドとした調査・実習を通じて社会貢献のあり方について学びます。近年、新たな環境問題として注目されている海ごみ問題は、その大半は河川を通じて陸域から流出した生活ごみが占めていることが明らかになっています。こうしたごみ問題は桂川でも深刻化していますが、その一方で NPO や企業、行政の緊密な連携による環境保全活動も活発に行われています。そこで、本講義では関係者へのヒアリング調査やフィールドワークを通じて、社会問題の解決はどのようにして実現するのか考えます。		
教材（テキスト）	海ゴミ一拡大する地球環境汚染（中公新書）新書 ? 2007/7 小島 あずさ （著), 眞 淳平 （著） http://www.amazon.co.jp/dp/4121019067		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	平常点（40%）出席状況などによる。レポート（3 回、合計 60%）		
到達目標	世界的な環境問題となりつつある海ごみ問題を事例に、問題解決に向けてどのような社会的取り組みが必要か、科学的な観点から理解することを目標とする。		
準備学習	単元の区切りごとにレポートを課す。シラバスにレポオートの課題を記しているので、課題を完成させて指定期日までに提出すること。また、フィールドワーク実習に備えてグループワークなどを通じて準備をしておくこと。		
受講者への要望			
野外での学習も実施するため、作業のできる服装・靴を用意すること。なお詳細については授業中に指示する。			
講義の順序とポイント			
1.はじめに 2.漂着ごみ問題とは① 3.漂着ごみ問題とは② 4.漂着ごみの分析手法について 5.フィールドワーク① 6.中間報告① 7.フィールドワーク② 8.フィールドワークの成果の検討② 9.海ごみ問題への取り組み①　行政機関の取り組み 10.海ごみ問題への取り組み②　NPO の取り組み 11.ヒアリング調査の手法について 12.フィールドワーク③ 13.中間報告② 14.最終報告書のとりまとめ 15.まとめ（最終報告）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JC1110101
科目名	文学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵中　祐子	旧科目名称	
講義概要	授業は講義形式で行い、適宜プリントやパワーポイントを使用する。 京都は長らく、文化・文学の中心地であった。 京都を舞台にした文学作品を通して、京都の新たな側面を知ってほしい。授業では、京都の名所にまつわる文学作品を読む。今までに訪れたことがある場所であっても、文学作品を通して新たな見方ができるのではないかと思う。 題材としては、主に日本の古典文学作品を扱う。物語、和歌、軍記物、随筆、漢詩文など様々なジャンルにふれられるようにする。高校の古文の授業では扱わないような場面も紹介し、古典文学の魅力にふれる機会を提供する。古典文学は、長く読み続けられるに耐える普遍性を持っている。先人の考え方や、登場人物の生き様にふれることは、自らの志向や体験を相対化する一助となるであろう。 京都を舞台とした文学を、この京都という地で読むという環境は、とても恵まれている。机上の学習に終始せず、文学の舞台となった地に足を運んでほしい。 また、京都近辺で開催されている展示や催し物についても授業中に告知し、積極的な参加を求める。 古典文学を読み、京都の町を実際に歩き、見聞を広げることによって、日本文化・文学についての基礎知識を身につけることができるようにする。		
教材（テキスト）	無し。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	適宜プリントを配布する。また、授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（10%）出席状況などによる。　レポート（40%）　授業中に課す小テスト（50%）		
到達目標	・日本古典文学を通して、日本人の考え方、ものの見方を知り、日本文化への理解を深める。 ・日本文化・文学に対する知識を身につけ、世代間・異文化間におけるコミュニケーション能力を高める。 ・机上の学習に終始せず実際に京都の名所を訪れることによって、自らの目で対象を確認した上で思考し、判断することの重要性を学ぶ。		
準備学習	第 8 回と第 15 回に小テストを課す。配布プリントを中心に各講義の内容を復習した上で次の授業にのぞむこと。		

受講者への要望

能動的な態度で授業に出席するよう心がけてもらいたい。私語は厳禁とする。
レポートでは、実際に授業で取りあげた場所（いずれか一箇所）に出向いた上での調査を求める。ある程度の労力と費用がかかる授業であることを予め承知しておいてほしい。
題材としては主に古典文学を扱うけれども、現代語訳を都度示すため、特に古文の知識は必要としない。京都と日本の文化・文学に関心がある者の履修を歓迎する。

講義の順序とポイント

1 授業のすすめ方　レポート・小テストについての説明　穴太寺 『今昔物語』
2 比叡山 『伊勢物語』
3　三十三間堂 『平家物語』(1)
4　三十三間堂 『平家物語』(2)
5　清水寺 『ものくさ太郎』(1)
6　清水寺 『ものくさ太郎』(2)
7 北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(1)
8 北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(2)　第一回復習小テスト
9　貴船神社 『鉄輪』　和歌
10 見稲荷 『枕草子』
11 野宮神社 『源氏物語』
12 下鴨神社『方丈記』

13 仁和寺『徒然草』
14　平等院　『古今和歌集』と『源氏物語』の享受　『更級日記』(1)
15　平等院　『古今和歌集』と『源氏物語』の享受　『更級日記』(2)　第二回復習小テスト　レポート提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1110102
科目名	文学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵中　祐子	旧科目名称	
講義概要	授業は講義形式で行い、適宜プリントやパワーポイントを使用する。 京都は長らく、文化・文学の中心地であった。 京都を舞台にした文学作品を通して、京都の新たな側面を知ってほしい。授業では、京都の名所にまつわる文学作品を読む。今までに訪れたことがある場所であっても、文学作品を通して新たな見方ができるのではないかと思う。 題材としては、主に日本の古典文学作品を扱う。物語、和歌、軍記物、随筆、漢詩文など様々なジャンルにふれられるようにする。高校の古文の授業では扱わないような場面も紹介し、古典文学の魅力にふれる機会を提供する。古典文学は、長く読み続けられるに耐える普遍性を持っている。先人の考え方や、登場人物の生き様にふれることは、自らの志向や体験を相対化する一助となるであろう。 京都を舞台とした文学を、この京都という地で読むという環境は、とても恵まれている。机上の学習に終始せず、文学の舞台となった地に足を運んでほしい。 また、京都近辺で開催されている展示や催し物についても授業中に告知し、積極的な参加を求める。 古典文学を読み、京都の町を実際に歩き、見聞を広げることによって、日本文化・文学についての基礎知識を身につけることができるようにする。		
教材（テキスト）	無し。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	適宜プリントを配布する。また、授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（10%）出席状況などによる。　レポート（40%）　授業中に課す小テスト（50%）		
到達目標	・日本古典文学を通して、日本人の考え方、ものの見方を知り、日本文化への理解を深める。 ・日本文化・文学に対する知識を身につけ、世代間・異文化間におけるコミュニケーション能力を高める。 ・机上の学習に終始せず実際に京都の名所を訪れることによって、自らの目で対象を確認した上で思考し、判断することの重要性を学ぶ。		
準備学習	第 8 回と第 15 回に小テストを課す。配布プリントを中心に各講義の内容を復習した上で次の授業にのぞむこと。		

受講者への要望

能動的な態度で授業に出席するよう心がけてもらいたい。私語は厳禁とする。
レポートでは、実際に授業で取りあげた場所（いずれか一箇所）に出向いた上での調査を求める。ある程度の労力と費用がかかる授業であることを予め承知しておいてほしい。
題材としては主に古典文学を扱うけれども、現代語訳を都度示すため、特に古文の知識は必要としない。京都と日本の文化・文学に関心がある者の履修を歓迎する。

講義の順序とポイント

1 授業のすすめ方　レポート・小テストについての説明　穴太寺 『今昔物語』
2 比叡山 『伊勢物語』
3　三十三間堂 『平家物語』(1)
4　三十三間堂 『平家物語』(2)
5　清水寺 『ものくさ太郎』(1)
6　清水寺 『ものくさ太郎』(2)
7 北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(1)
8 北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(2)　第一回復習小テスト
9　貴船神社 『鉄輪』　和歌
10 見稲荷 『枕草子』
11 野宮神社 『源氏物語』
12 下鴨神社『方丈記』

13 仁和寺『徒然草』
14　平等院　『古今和歌集』と『源氏物語』の享受　『更級日記』(1)
15　平等院　『古今和歌集』と『源氏物語』の享受　『更級日記』(2)　第二回復習小テスト　レポート提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1110201
科目名	心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　京子	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。 この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	斎藤　勇編　『図説心理学入門』　誠信書房		
教材（参考文献）	授業の中で、適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期テスト　50% 授業内小テスト　50%		
到達目標	心理学の基礎的な理論を学び，人間についての理解を深め，多面的な見方ができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講者への要望

自分なりに考えを深め，積極的に授業に参加することを期待する。他の受講生の受講の妨げになるような行動は厳禁。

講義の順序とポイント

1. 心と行動 （講義概要の説明） ① 心の科学の領域や分野の概観 ② 行動の法則
2. 知覚と認知：ものの見え方、見方の心理 ① 知覚・認知とは何か ② かたちの知覚
3. 空間・運動知覚 ① 知覚の選択性 ② 知覚情報処理 ③ 知覚のずれ（錯視の実験） ④ 社会的認知
4. 欲求と感情：欲望と喜怒哀楽の心理 ① 欲求と動機づけ ② 欲求の種類 ③ 欲求と認知の関連
   ④ フラストレーションとコンフリクト
5. ⑤ 感情とは何か ⑥ 感情の構造 ⑦ 感情に関する理論
6. 学習と思考：学ぶこと、考えることの心理 ①条件づけ
7. （鏡映描写の実験） 学習の転移
8. ② 記憶 （連想価と記憶の実験）
9. ① 概念と課題解決（創造性テスト） ② 社会的学習
10. 発達と教育：育つ心と育てる心 ① 発達とは何か ② 発達の様相 （エリクソンの自我同一性の確立）
    ③ 発達と教育に関わる問題
11. 性格と異常心理：心のやまいとパーソナリティ ① 精神病 ② 神経症
12. ③ 精神分析理論 ④ 行動理論 ⑤ 自己理論 （性格テスト）
13. 対人心理と社会心理：人間関係の心理 ① 対人認知とその過程 ② 親和と対人魅力
    ③ 社会的態度と態度変容
14. ④ 社会的相互作用 ：援助行動、攻撃行動、群集心理
15. 臨床心理：①アセスメント、② 心理検査法 ③ 心理療法：精神分析療法、クライエント中心療法
    行動療法、認知療法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JC1110202
科目名	心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。 この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	斎藤　勇編　『図説心理学入門』　誠信書房		
教材（参考文献）	授業の中で、適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期テスト　50% 授業内小テスト　50%		
到達目標	心理学の基礎的な理論を学び，人間についての理解を深め，多面的な見方ができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講者への要望

自分なりに考えを深め，積極的に授業に参加することを期待する。他の受講生の受講の妨げになるような行動は厳禁。

講義の順序とポイント

1. 心と行動 （講義概要の説明） ① 心の科学の領域や分野の概観 ② 行動の法則
2. 知覚と認知：ものの見え方、見方の心理 ① 知覚・認知とは何か ② かたちの知覚
3. 空間・運動知覚 ① 知覚の選択性 ② 知覚情報処理 ③ 知覚のずれ（錯視の実験） ④ 社会的認知
4. 欲求と感情：欲望と喜怒哀楽の心理 ① 欲求と動機づけ ② 欲求の種類 ③ 欲求と認知の関連
   ④ フラストレーションとコンフリクト
5. ⑤ 感情とは何か ⑥ 感情の構造 ⑦ 感情に関する理論
6. 学習と思考：学ぶこと、考えることの心理 ①条件づけ
7. （鏡映描写の実験） 学習の転移
8. ② 記憶 （連想価と記憶の実験）
9. ① 概念と課題解決（創造性テスト） ② 社会的学習
10. 発達と教育：育つ心と育てる心 ① 発達とは何か ② 発達の様相 （エリクソンの自我同一性の確立）
    ③ 発達と教育に関わる問題
11. 性格と異常心理：心のやまいとパーソナリティ ① 精神病 ② 神経症
12. ③ 精神分析理論 ④ 行動理論 ⑤ 自己理論 （性格テスト）
13. 対人心理と社会心理：人間関係の心理 ① 対人認知とその過程 ② 親和と対人魅力
    ③ 社会的態度と態度変容
14. ④ 社会的相互作用 ：援助行動、攻撃行動、群集心理
15. 臨床心理：①アセスメント、② 心理検査法 ③ 心理療法：精神分析療法、クライエント中心療法
    行動療法、認知療法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JC1110203
科目名	心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　京子	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。 この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	斎藤　勇編　『図説心理学入門』　誠信書房		
教材（参考文献）	授業の中で、適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期テスト　50% 授業内小テスト　50%		
到達目標	心理学の基礎的な理論を学び，人間についての理解を深め，多面的な見方ができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講者への要望

自分なりに考えを深め，積極的に授業に参加することを期待する。他の受講生の受講の妨げになるような行動は厳禁。

講義の順序とポイント

1. 心と行動 （講義概要の説明） ① 心の科学の領域や分野の概観 ② 行動の法則
2. 知覚と認知：ものの見え方、見方の心理 ① 知覚・認知とは何か ② かたちの知覚
3. 空間・運動知覚 ① 知覚の選択性 ② 知覚情報処理 ③ 知覚のずれ（錯視の実験） ④ 社会的認知
4. 欲求と感情：欲望と喜怒哀楽の心理 ① 欲求と動機づけ ② 欲求の種類 ③ 欲求と認知の関連
   ④ フラストレーションとコンフリクト
5. ⑤ 感情とは何か ⑥ 感情の構造 ⑦ 感情に関する理論
6. 学習と思考：学ぶこと、考えることの心理 ①条件づけ
7. （鏡映描写の実験） 学習の転移
8. ② 記憶 （連想価と記憶の実験）
9. ① 概念と課題解決（創造性テスト） ② 社会的学習
10. 発達と教育：育つ心と育てる心 ① 発達とは何か ② 発達の様相 （エリクソンの自我同一性の確立）
    ③ 発達と教育に関わる問題
11. 性格と異常心理：心のやまいとパーソナリティ ① 精神病 ② 神経症
12. ③ 精神分析理論 ④ 行動理論 ⑤ 自己理論 （性格テスト）
13. 対人心理と社会心理：人間関係の心理 ① 対人認知とその過程 ② 親和と対人魅力
    ③ 社会的態度と態度変容
14. ④ 社会的相互作用 ：援助行動、攻撃行動、群集心理
15. 臨床心理：①アセスメント、② 心理検査法 ③ 心理療法：精神分析療法、クライエント中心療法
    行動療法、認知療法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JC1110204
科目名	心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　京子	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。 この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	斎藤　勇編　『図説心理学入門』　誠信書房		
教材（参考文献）	授業の中で、適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期テスト　50% 授業内小テスト　50%		
到達目標	心理学の基礎的な理論を学び，人間についての理解を深め，多面的な見方ができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講者への要望

自分なりに考えを深め，積極的に授業に参加することを期待する。他の受講生の受講の妨げになるような行動は厳禁。

講義の順序とポイント

1. 心と行動 （講義概要の説明） ① 心の科学の領域や分野の概観 ② 行動の法則
2. 知覚と認知：ものの見え方、見方の心理 ① 知覚・認知とは何か ② かたちの知覚
3. 空間・運動知覚 ① 知覚の選択性 ② 知覚情報処理 ③ 知覚のずれ（錯視の実験） ④ 社会的認知
4. 欲求と感情：欲望と喜怒哀楽の心理 ① 欲求と動機づけ ② 欲求の種類 ③ 欲求と認知の関連
   ④ フラストレーションとコンフリクト
5. ⑤ 感情とは何か ⑥ 感情の構造 ⑦ 感情に関する理論
6. 学習と思考：学ぶこと、考えることの心理 ①条件づけ
7. （鏡映描写の実験） 学習の転移
8. ② 記憶 （連想価と記憶の実験）
9. ① 概念と課題解決（創造性テスト） ② 社会的学習
10. 発達と教育：育つ心と育てる心 ① 発達とは何か ② 発達の様相 （エリクソンの自我同一性の確立）
    ③ 発達と教育に関わる問題
11. 性格と異常心理：心のやまいとパーソナリティ ① 精神病 ② 神経症
12. ③ 精神分析理論 ④ 行動理論 ⑤ 自己理論 （性格テスト）
13. 対人心理と社会心理：人間関係の心理 ① 対人認知とその過程 ② 親和と対人魅力
    ③ 社会的態度と態度変容
14. ④ 社会的相互作用 ：援助行動、攻撃行動、群集心理
15. 臨床心理：①アセスメント、② 心理検査法 ③ 心理療法：精神分析療法、クライエント中心療法
    行動療法、認知療法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JC1110301
科目名	日本史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	坪井　剛	旧科目名称	
講義概要	本講義では、日本の古代から中世にかけての宗教文化史について、京都を中心に扱います。高校の日本史教科書では、各時代の文化に関する項目は独立して書かれていますが、実際には政治や社会の動向と密接に絡み合っています。京都には残っている多くの寺社を例として、それぞれの創建された時代の時代相を明らかにすることが本講義の主眼とするところです。また、項目の暗記ではなく、史料の解釈から史実を明らかにする歴史学の方法論に触れることも目的のひとつです。		
教材（テキスト）	なし、講義時間中に適宜レジュメを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（授業参加、小レポート等）50%　＋　レポート 50%		
到達目標	1、日本の歴史や伝統、文化について認識を深め、現代社会がその歴史的所産であることを正しく認識する。 2、日本史の基礎知識を習得、確認するとともに、歴史を通じて論理的な思考法や日本語への感覚を磨く。 3、授業中に取り上げた事柄、関連する事柄に対し、自分で調べる、考えるという姿勢を身に付ける。		
準備学習	各自、日本史の通説的理解を確認しておいて欲しい。また、毎回授業の最後に次回の授業で取り上げるテーマについて、資料を配布するか、または参考文献を指定するので、次回授業までにそれらを熟読してくる。		
受講者への要望			
私語厳禁、注意しても私語が止まない場合は、適宜、退出を求めます。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　平安京遷都以前の京都 3　桓武天皇の平安遷都 4　〃 5　菅原道真の左遷と怨霊化 6　浄土教の盛行 7　鎌倉新仏教の起こり 8　禅宗の盛行と天狗 9　禅宗寺院の社会的側面 10　〃 11　祇園祭と京都の祭礼秩序 12　〃 13　日蓮宗の京都進出 14　豊臣秀吉の京都改造 15　〃			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JC1110302
科目名	日本史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	坪井　剛	旧科目名称	
講義概要	本講義では、日本の古代から中世にかけての宗教文化史について、京都を中心に扱います。高校の日本史教科書では、各時代の文化に関する項目は独立して書かれていますが、実際には政治や社会の動向と密接に絡み合っています。京都には残っている多くの寺社を例として、それぞれの創建された時代の時代相を明らかにすることが本講義の主眼とするところです。また、項目の暗記ではなく、史料の解釈から史実を明らかにする歴史学の方法論に触れることも目的のひとつです。		
教材（テキスト）	なし、講義時間中に適宜レジュメを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（授業参加、小レポート等）50%　＋　レポート 50%		
到達目標	１、日本の歴史や伝統、文化について認識を深め、現代社会がその歴史的所産であることを正しく認識する。 ２、日本史の基礎知識を習得、確認するとともに、歴史を通じて論理的な思考法や日本語への感覚を磨く。 ３、授業中に取り上げた事柄、関連する事柄に対し、自分で調べる、考えるという姿勢を身に付ける。		
準備学習	各自、日本史の通説的理解を確認しておいて欲しい。また、毎回授業の最後に次回の授業で取り上げるテーマについて、資料を配布するか、または参考文献を指定するので、次回授業までにそれらを熟読してくる。		
受講者への要望			
私語厳禁、注意しても私語が止まない場合は、適宜、退出を求めます。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　平安京遷都以前の京都 3　桓武天皇の平安遷都 4　〃 5　菅原道真の左遷と怨霊化 6　浄土教の盛行 7　鎌倉新仏教の起こり 8　禅宗の盛行と天狗 9　禅宗寺院の社会的側面 10　〃 11　祇園祭と京都の祭礼秩序 12　〃 13　日蓮宗の京都進出 14　豊臣秀吉の京都改造 15　〃			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JC1110401
科目名	東洋史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　岳	旧科目名称	
講義概要	現在、私たちが生きる世界は、過去の歴史の積み重ねの上にあります。たとえば、現代社会において、異文化の共生という命題は世界的に重要視されていますが、こうした問題を考える上で、文化の単位となる民族や国家、あるいはさらに小規模なさまざまな社会集団が歩んできた歴史という要素を抜きにして語ることはできません。本科目は、アジアの歴史、とくに日本と関わりの深い東アジア・東南アジア・内陸アジアを中心とする地域の歴史を学び、私たちが置かれた歴史的状況をより深く理解するための基礎知識を身につけることを目指しています。授業では、日本の律令国家の形成期にあたる 7 世紀から、ヨーロッパの影響を受けたアジア諸国が近代化を目指すようになる 19 世紀にかけての時代を扱います。とりわけ、海という地理的空間が、異なる文化間の境界を形づくり、またそれらをつなぐ交通路として果たしてきた役割に注目し、関連する史料や文物に対する知識も深めながら、海からの視点でアジア史をとらえなおすことを試みていきます。		
教材（テキスト）	毎回の講義時に講義概要、および関連資料として紙面で配布します。		
教材（参考文献）	講義時に適宜紹介します。		
教材（その他）	講義時に適宜紹介します。		
評価方法	成績評価、および単位認定はすべて学期末の筆記試験に依拠することとします。		
到達目標	前近代の東洋、とくに海を越えた国際関係に関する基本的な知識を身につけ、日本史や西洋史などの他分野の歴史と関連づけることで、現代社会をより深く理解する視点を提供することを目指しています。		
準備学習	こちらからとくに課題として要求することはありませんが、授業に臨むにあたっては、高校で習う世界史、とくに東アジア史・東南アジア史の概要を復習しておくことを推奨します。		
受講者への要望			
受講者には、単位をとるためだけの暗記科目としてではなく、時間と空間を超えた旅に出るつもりで、ロマンをもって望んでほしいと思います。ただし、旅を楽しむにも旅先の情報が不可欠であるように、歴史のロマンを存分に享受するためには最低限の知識の習得は欠かせないものと考えてください。			
講義の順序とポイント			
01　指針説明 02　唐宋変革と中華の多元化 03　モンゴルの世界征服 04　交易網の発展 05　明朝の建国と海禁 06　鄭和の遠征と十五世紀の東南アジア。 07　中世日本と朝鮮王朝 08　中世日本と中国王朝 09　倭寇 10　南蛮・紅毛・唐人 11　文禄慶長の役・女真から満洲へ 12　日本の鎖国と清朝の互市 13　アジアとヨーロッパ 14　帝国主義の時代 15　まとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JC1110402
科目名	東洋史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　岳	旧科目名称	
講義概要	現在、私たちが生きる世界は、過去の歴史の積み重ねの上にあります。たとえば、現代社会において、異文化の共生という命題は世界的に重要視されていますが、こうした問題を考える上で、文化の単位となる民族や国家、あるいはさらに小規模なさまざまな社会集団が歩んできた歴史という要素を抜きにして語ることはできません。本科目は、アジアの歴史、とくに日本と関わりの深い東アジア・東南アジア・内陸アジアを中心とする地域の歴史を学び、私たちが置かれた歴史的状況をより深く理解するための基礎知識を身につけることを目指しています。授業では、日本の律令国家の形成期にあたる 7 世紀から、ヨーロッパの影響を受けたアジア諸国が近代化を目指すようになる 19 世紀にかけての時代を扱います。とりわけ、海という地理的空間が、異なる文化間の境界を形づくり、またそれらをつなぐ交通路として果たしてきた役割に注目し、関連する史料や文物に対する知識も深めながら、海からの視点でアジア史をとらえなおすことを試みていきます。		
教材（テキスト）	毎回の講義時に講義概要、および関連資料として紙面で配布します。		
教材（参考文献）	講義時に適宜紹介します。		
教材（その他）	講義時に適宜紹介します。		
評価方法	成績評価、および単位認定はすべて学期末の筆記試験に依拠することとします。		
到達目標	前近代の東洋、とくに海を越えた国際関係に関する基本的な知識を身につけ、日本史や西洋史などの他分野の歴史と関連づけることで、現代社会をより深く理解する視点を提供することを目指しています。		
準備学習	こちらからとくに課題として要求することはありませんが、授業に臨むにあたっては、高校で習う世界史、とくに東アジア史・東南アジア史の概要を復習しておくことを推奨します。		

受講者への要望

受講者には、単位をとるためだけの暗記科目としてではなく、時間と空間を超えた旅に出るつもりで、ロマンをもって望んでほしいと思います。ただし、旅を楽しむにも旅先の情報が不可欠であるように、歴史のロマンを存分に享受するためには最低限の知識の習得は欠かせないものと考えてください。

講義の順序とポイント

01　指針説明
02　唐宋変革と中華の多元化
03　モンゴルの世界征服
04　交易網の発展
05　明朝の建国と海禁
06　鄭和の遠征と十五世紀の東南アジア。
07　中世日本と朝鮮王朝
08　中世日本と中国王朝
09　倭寇
10　南蛮・紅毛・唐人
11　文禄慶長の役・女真から満洲へ
12　日本の鎖国と清朝の互市
13　アジアとヨーロッパ
14　帝国主義の時代
15　まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JC1110501
科目名	西洋史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（テキスト）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考文献）	授業中に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（期末レポート）（４０％）、平常点（４０％）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を繰り返し守らない場合は、減点の対象になります。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史の課題 ２．ハーメルンの笛吹き男伝説（１） ３．ハーメルンの笛吹き男伝説（２） ４．死生観の歴史（１） ５．死生観の歴史（２） ６．魔女裁判（１） ７．魔女裁判（２） ８．犯罪と刑罰の歴史（１） ９．犯罪と刑罰の歴史（２） １０．疫病の歴史（１） １１．疫病の歴史（２） １２．「流行」の歴史（１） １３．「流行」の歴史（２） １４．奴隷貿易の歴史（１） １５．奴隷貿易の歴史（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JC1110502
科目名	西洋史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（テキスト）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考文献）	授業中に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（期末レポート）（４０％）、平常点（４０％）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を繰り返し守らない場合は、減点の対象になります。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史の課題 ２．ハーメルンの笛吹き男伝説（１） ３．ハーメルンの笛吹き男伝説（２） ４．死生観の歴史（１） ５．死生観の歴史（２） ６．魔女裁判（１） ７．魔女裁判（２） ８．犯罪と刑罰の歴史（１） ９．犯罪と刑罰の歴史（２） １０．疫病の歴史（１） １１．疫病の歴史（２） １２．「流行」の歴史（１） １３．「流行」の歴史（２） １４．奴隷貿易の歴史（１） １５．奴隷貿易の歴史（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JC1110601
科目名	哲学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	「人間とは何か」とは、西洋哲学の最も根本的な問題である。講義の前半では、この問いに対する西洋の哲学や思想の代表的な解答を検討していく。後半では、別の角度からこの問題に迫る。人間はしばしば「社会的動物」と言われる。しかし、人間の中には、他者を憎んだり他者と争ったりするという反社会的な側面もある。それ故、「社会的動物」という人間の定義は不十分ということになる。講義の後半では、西洋の哲学や思想を素材にしてこれら人間の二側面（社会的・反社会的側面）について考察していくことにする。この考察を通して、人間とは何か、そして自分とは何かという哲学の最も根本的な問題に迫っていくことにしたい。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、出席状況ならびに、授業内で四回実施予定の小テストによる。		
到達目標	哲学史を手がかりにして、自分自身について考えること（自己探求）の立脚点を得る。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。		
受講者への要望			
（１）私語は厳禁である。（２）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（３）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定）。			
講義の順序とポイント			
１．導入－１哲学と「人間への問い」　２ギリシアの思想とヘブライの信仰 ２．ギリシア哲学の人間観１－１ソクラテスとプラトン　２魂の似姿　３魂の三分説　４理性的人間像 ３．『聖書』の人間観１－１『聖書』　２天地創造と人間創造の神話　３アダムとエバの神話 ４．キリスト教の人間観１－１キリスト教の成立　２アウグスティヌス　３魂の分裂 ５．近代哲学の人間観１－１科学革命と近代哲学　２デカルトの機械論的自然学　３自然支配 ６．現代思想の人間観１－１ダーウィンの進化論　２非理性的人間像　３前半のまとめ ７．「社会的動物」としての人間－１別の人間観　２性善説と性悪説　３ペルソナ ８．『聖書』の人間観２－１知恵の木の実　２カインとアベル ９．ギリシア神話－１ヒーロー　２『イリアス』　３アレテー １０.ギリシア哲学の人間観２－１気概　２魂の四徳 １１.キリスト教の人間観２－１神と人間　２七つの大罪　３認められたいという誘惑 １２.近代哲学の人間観２－１社会の変動　２中世と近代のはざま　３悪の根源 １３.近代哲学の人間観３－１ホッブズ　２自惚れる人間　３高い評価を得るために戦う人間たち １４.近代哲学の人間観４－１ヘーゲル　２「承認のための闘争」　３相互承認 １５.現代思想の人間観２－１ニーチェ　２優越願望と対等願望　３認めるということ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JC1110602
科目名	哲学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	「人間とは何か」とは、西洋哲学の最も根本的な問題である。講義の前半では、この問いに対する西洋の哲学や思想の代表的な解答を検討していく。後半では、別の角度からこの問題に迫る。人間はしばしば「社会的動物」と言われる。しかし、人間の中には、他者を憎んだり他者と争ったりするという反社会的な側面もある。それ故、「社会的動物」という人間の定義は不十分ということになる。講義の後半では、西洋の哲学や思想を素材にしてこれら人間の二側面（社会的・反社会的側面）について考察していくことにする。この考察を通して、人間とは何か、そして自分とは何かという哲学の最も根本的な問題に迫っていくことにしたい。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、出席状況ならびに、授業内で四回実施予定の小テストによる。		
到達目標	哲学史を手がかりにして、自分自身について考えること（自己探求）の立脚点を得る。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。		
受講者への要望			
（１）私語は厳禁である。（２）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（３）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定）。			
講義の順序とポイント			
１．導入－１哲学と「人間への問い」　２ギリシアの思想とヘブライの信仰 ２．ギリシア哲学の人間観１－１ソクラテスとプラトン　２魂の似姿　３魂の三分説　４理性的人間像 ３．『聖書』の人間観１－１『聖書』　２天地創造と人間創造の神話　３アダムとエバの神話 ４．キリスト教の人間観１－１キリスト教の成立　２アウグスティヌス　３魂の分裂 ５．近代哲学の人間観１－１科学革命と近代哲学　２デカルトの機械論的自然学　３自然支配 ６．現代思想の人間観１－１ダーウィンの進化論　２非理性的人間像　３前半のまとめ ７．「社会的動物」としての人間－１別の人間観　２性善説と性悪説　３ペルソナ ８．『聖書』の人間観２－１知恵の木の実　２カインとアベル ９．ギリシア神話－１ヒーロー　２『イリアス』　３アレテー １０.ギリシア哲学の人間観２－１気概　２魂の四徳 １１.キリスト教の人間観２－１神と人間　２七つの大罪　３認められたいという誘惑 １２.近代哲学の人間観２－１社会の変動　２中世と近代のはざま　３悪の根源 １３.近代哲学の人間観３－１ホッブズ　２自惚れる人間　３高い評価を得るために戦う人間たち １４.近代哲学の人間観４－１ヘーゲル　２「承認のための闘争」　３相互承認 １５.現代思想の人間観２－１ニーチェ　２優越願望と対等願望　３認めるということ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JC1110701
科目名	生命倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	棚次　正和	旧科目名称	
講義概要	本講義は、生命の尊厳について考えを深め、人間相互の違いを認め合い尊重できる自他共生の倫理観を涵養することを目標とする。具体的には、1970 年前後にアメリカ合衆国で誕生した生命倫理の基本的な考え方を紹介しながら、QOL（生命の質）と SOL（生命の尊厳）の相違、患者の自己決定権、パーソン論、尊厳死、脳死と臓器移植、人工妊娠中絶、出生前診断、緩和ケア・スピリチュアルケアなどの根本問題を取り上げ、何が重要かをともに考える。また、「いのち」の深さの次元や日本固有の生命観についても検討する。		
教材（テキスト）	小冊子『医療倫理と生命倫理』（私家版）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%）出席状況等による。定期試験（60%）		
到達目標	生命の尊厳について理解と直観を深め、自他共生の倫理観を涵養することを求める。		
準備学習	小冊子（テキスト）を予習し、事前に授業内容の概要を掴んでおくこと。		
受講者への要望			
受け身ではなく、積極的な姿勢で授業に臨んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1　「生命」概念と「倫理」概念の収縮 2　生命倫理と医療倫理 3　生命倫理の四原則 4　患者の自己決定権 5　インフォームド・コンセント 6　SOL（生命の尊厳）と QOL（生命の質） 7　人間の尊厳、自他共生 8　生と死の問題 9　死生学、尊厳死 １０　臓器移植と脳死 １１　人体実験と臨床試験 １２　出生前診断と人工妊娠中絶 １３　緩和ケア、スピリチュアルケア １４　健康とは何か １５　日本型生命倫理の可能性			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★	★★	

年度	2015	授業コード	JC1110702
科目名	生命倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	棚次　正和	旧科目名称	
講義概要	本講義は、生命の尊厳について考えを深め、人間相互の違いを認め合い尊重できる自他共生の倫理観を涵養することを目標とする。具体的には、1970 年前後にアメリカ合衆国で誕生した生命倫理の基本的な考え方を紹介しながら、QOL（生命の質）と SOL（生命の尊厳）の相違、患者の自己決定権、パーソン論、尊厳死、脳死と臓器移植、人工妊娠中絶、出生前診断、緩和ケア・スピリチュアルケアなどの根本問題を取り上げ、何が重要かをともに考える。また、「いのち」の深さの次元や日本固有の生命観についても検討する。		
教材（テキスト）	小冊子『医療倫理と生命倫理』（私家版）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%）出席状況等による。定期試験（60%）		
到達目標	生命の尊厳について理解と直観を深め、自他共生の倫理観を涵養することを求める。		
準備学習	小冊子（テキスト）を予習し、事前に授業内容の概要を掴んでおくこと。		
受講者への要望			
受け身ではなく、積極的な姿勢で授業に臨んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1　「生命」概念と「倫理」概念の収縮 2　生命倫理と医療倫理 3　生命倫理の四原則 4　患者の自己決定権 5　インフォームド・コンセント 6　SOL（生命の尊厳）と QOL（生命の質） 7　人間の尊厳、自他共生 8　生と死の問題 9　死生学、尊厳死 １０　臓器移植と脳死 １１　人体実験と臨床試験 １２　出生前診断と人工妊娠中絶 １３　緩和ケア、スピリチュアルケア １４　健康とは何か １５　日本型生命倫理の可能性			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★	★★	

年度	2015	授業コード	JC1120101
科目名	法学	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction of Law		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	本講義は、初めて法学を学ぶ大学生向けの入門講義である。 第 1 は、例えば交通事故を起こしたときなど、法が問題解決に関してどういった役割を果たしているか、身近な事例を使って考えていく。 第 2 は、法学の基礎知識や約束事を学ぶと共に、法的なものの考え方に触れる。 第 3 は、スポーツ･消費者･医療・環境などの現代的課題に関して、法がどのように係わっているか、について検討する。		
教材（テキスト）	プリント教材を配布		
教材（参考文献）	木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』(2012 年、星海社新書) 松井茂記・松宮孝明・曽野裕夫『はじめての法律学[第 4 版]』(2014 年、有斐閣アルマ)		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 60％ レポート 20％ 授業中課題 20％		
到達目標	日常生活をはじめ、社会人として活動していく中で、法が果たしている役割･機能について理解をすることができるようにする。		
準備学習	１．授業資料である「プリント教材」は事前に配布するので、授業前に目を通し、授業で何が話題になるかをつかんだ上で、授業に出席する。授業後に「プリント教材」をもう一度読み直し、内容が十分理解できるかどうか、確認すること。 ２．授業内課題・レポートについては、何をどう考え、どのように書き進めていくか具体的に指示するので、これに従って取り組むこと。 ３．参考文献については、授業の予習･復習の教材として活用すること。なお、レポートは、これらの文献の参照が必要な場合もあるので、読んでおくこと。		
受講者への要望			
準備学習を確実に行い、積極的に授業に参加すること。			
講義の順序とポイント			
１．日常の中から法的問題を見つけよう ２．私たちが法に出会うとき(1) 「赤ちゃんが生まれた」 私権の享有 権利能力・意思能力・行為能力者制度 ３．私たちが法に出会うとき(2) 「交通事故を起こした」 刑罰・損害賠償・行政処分 ４．私たちが法に出会うとき(3) 「心のうちにひそむ差別」 映画「Ｅ．Ｔ」を見て、差別と平等に関するさまざまな問題について考える。 ５．私たちが法に出会うとき(4) 「あなたをお父さんと呼んでいいの」 嫡出子			

嫡出推定制度

6．日本の法大系
公法と私法の区別
財産法・家族法
商法・会社法
経済法、労働法、消費者法・知財法ほか
7．法源のはなし
成文法・慣習法、判例、条理
8．法の解釈
類推解釈・反対解釈など
何のための解釈か
9．法の適用
民事裁判の仕組み
調停制度・ＡＤＲその他
10．法の世界の登場人物
裁判官・検事・弁護士など
日本と米国の制度の比較
法律家の数
陪審制度

11．現代社会と法の役割(1)　－スポーツと法
12．現代社会と法の役割(2)　－消費者と法
13．現代社会と法の役割(3)　－環境と法
14．現代社会と法の役割(4)　－医療と法
15．現代社会と法の役割(5)　－情報と法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1120102
科目名	法学	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction of Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	本講義は、いわゆる法律学入門である。これまで暗記の対象として認識してきた法規定や一般常識として認識してきたルールに関わる法規定に触れながら、法学という学問を垣間見る。そのために、できる限り具体的な事例を用いながら、そこに登場しうる個々の法律またはその条文と明らかにし、法律とはどのようなものなのか、法律がどのようなことを定めているのかを見ていく。		
教材（テキスト）	・プリントを配布する。		
教材（参考文献）	・池田真朗ほか『法の世界へ』（有斐閣） ・副田隆重ほか『ライフステージと法』（有斐閣） ・松井茂記ほか『はじめての法律学 -- H と J の物語』（有斐閣） ・大谷実編『エッセンシャル法学』（成文堂） ・髙橋明弘『法学への招待』（法律文化社） ・西村裕三編『リーガル・マインド入門』（有信堂）		
教材（その他）			
評価方法	3回の小テストの結果を９０％；講義中に課した課題を１０％で評価する。		
到達目標	・　身近には様々な法律が存在することを知る。 ・　法律の重要性を知る。 ・　身の回りに起こることにどのような法律が関係しているかを知る。		
準備学習	・こまめに小テストを行うので、必ず自宅での復習をしよう。 ・条文を暗記する必要はないが、条文の意味や置かれた理由を理解しよう。 ・レジュメの末尾に関連する参考文献を掲げるので、一読しよう。		
受講者への要望			
・講義中の出入りは周りの迷惑になるのでしないこと。トイレは休み時間中に済ませること。			
講義の順序とポイント			
授業計画 第１回：《講義》憲法の基本原理 第２回：《講義》犯罪と刑罰（刑法） 第３回：《講義》消費者法・消費者行政 第４回：《講義》労働法 第５回：《講義》日本の裁判システム・判例の重要性 第６回：（小テスト１）第 1〜5 回の内容（40 分程度）；《講義》法源並びに六法及び法の分類 第７回：【講評】小テスト１；《講義》交通事故 第８回：《講義》約束と契約、契約違反 第９回：《講義》土地を借りる（賃貸借契約、用益物権） 第１０回：（小テスト２）第 6〜9 回の内容（40 分程度）；《講義》法律の読み方・法律用語 第１２回：【講評】小テスト２；《講義》クレジット契約（割賦販売法・クーリング・オフ） 第１３回：《講義》結婚と離婚 第１４回：《講義》相続；（小テスト 3）第 10〜14 回の内容（40 分程度） 第１５回：【講評】小テスト３；《講義》今後の法律系科目の履修について			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1120201
科目名	社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	出生率や平均寿命の一定方向へのゆるやかな変化が示すように、私たちはみな、生まれてから死ぬまでずっと何らかのかたちで社会の大きな力のなかで生きていく。この授業では、そうした社会学の基本的な視角から、家族・学校・地域・労働をはじめとする現代社会の様相を、人間の心身の成長の段階にそくして、歴史的な視野も織り交ぜながら、体系的かつ幅広く学ぶ。そのさい、レポートを書くことなどを通じて身近な社会的体験を自省的に振り返る。		
教材（テキスト）	橋爪大三郎『面白くて眠れなくなる社会学』（PHP、2014 年）		
教材（参考文献）	アンソニー・ギデンズ『社会学（第 5 版)』（而立書房、2009 年）		
教材（その他）	毎回プリントを配ります。また、適宜パワーポイントを使用する。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（70%）＋期末試験（30%）		
到達目標	一人の人は、生まれてから死ぬまでずっと何らかの形で社会と関わりながら生きていきている。この授業では、そうした社会学的な視角から、家族・学校・労働など、社会の諸相を、人間の心身の成長にそくして、歴史的視野も織り交ぜながら、幅広く学んでいくことによって、現代社会と社会学についての幅広い知識を、より体系的・総合的に学び理解を深めていく。		
準備学習	毎回の授業で、前回授業で予告したテーマないし授業内容についての小レポートを書いてもらうので、その準備をする。		
受講者への要望			
世の中にはいろいろな社会問題がある。それらをどうとらえるのが適切か、自分ならどうするか？といった当事者意識をもって授業に望んでほしい。			
講義の順序とポイント			
１・個人と社会の関係 ２・出産をとりまく家族と社会の諸問題 ３・最初期の子どもの心身の発達 ４・家族のなかでの成長と葛藤 ５・家族の歴史 ６・現代の家族とその特徴 ７・学校の社会的機能 ８・学校のなかでの葛藤と成長 ９・青春期の様々な心的・社会的課題 １０・労働の歴史的・社会的諸問題 １１・現代日本における労働の諸問題 １２・中年期の葛藤と社会 １３・老年期と脱社会化 １４・最晩年の諸段階と死後の社会的対応 １５・現代社会のなかでの人間の成長			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1120202
科目名	社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、など、現代の日本社会全体のいろいろな側面について考えます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、現代の日本社会の社会学的な側面についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（家族１）他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。
3，（家族２）社会における家族の役割が、以前の社会とはかなり変化していること。
4，（学校）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を残している面があること。
5，（企業１）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
6，（企業２）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）
7，（格差社会）日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。
8，（政治）祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。
9，（マスメディア１）現在ではマスメディアの力は大変大きく、自分の意見も実は、マスメディアの受け売りかもしれない。
10，（マスメディア）犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライヴァシーのバランスの問題。
11，（国際化）社会は国際化しているが、国内の外国人の実態は必ずしも知られていないこと。
12，（近代化）近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。
13，（高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
14，（社会調査）世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。
15，社会学と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	JC1120301
科目名	政治学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松田　哲	旧科目名称	
講義概要	本講義は、国内政治学および国際政治学に対する導入的な役割を果たす科目である。この講義を通じて 受講生諸君には、国内・国際政治上の諸問題について考える際に必要とされる「基礎知識」の習得に励んでいただくことになる。なお本講義では、基礎知識の習得を、（１）教科書に書かれている内容を理解すること、（２）教科書の記述に用いられている政治学の専門用語を覚えること、という２つの作業を通じて実現してもらうことになる。		
教材（テキスト）	伊藤光利編『ポリティカル・サイエンス事始め［第３版］』（有斐閣、２００９年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じてビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	確認テスト（６０%）、専門用語自習シート及び講義内コメントカードの提出（４０%）により評価する。		
到達目標	（１） 政治学系科目で用いられる専門用語のうち、基礎的なものの意味内容を理解すること。 （２）それらの専門用語を用いて、政治に関する時事的な話題を説明できるようになること。 （３） 日本政治の歴史と現状について、おおまかでよいから説明できるようになること。		
準備学習	（１）講義前に教科書を熟読してくること。 （２）専門用語自習シートを、翌週までに完成させてくること。		
受講者への要望			
（１）専門用語を覚える努力を日頃からコツコツと積み重ねること。そのような習慣を身につけることが就職活動等を成功に導く。 （２）講義中に、講義内容に関する意見を求めることがあるので、堂々と自分の意見を述べること。			
講義の順序とポイント			
1、イントロダクション 2、政治と権力　（序．政治学を勉強してみませんか） 3、選挙と投票行動　（１．えっ!!投票するの？誰に投票するの？） 4、メディアと政治　（２．テレビが政治を作る？） 5、政治家の仕事　（３．政治家ってどんな人？） 6、政党と政党政治　（４．思想と利権のからみあい） 7、官僚制論　（５．官僚ってどんな人？） 8、利益集団論　（６．変わる「コネ」社会日本） 9、政策過程論　（７．政策のつくられ方） 10、首相のリーダーシップ論　（８．日本の最高権力者） 11、地方自治論　（９．自立の気概） 12、国際関係史その１　（10．世界はどこへ行く？） 13、国際関係史その２　（同上） 14、国際政治経済学　（11．グローバリゼーションと地域主義） 15、総括と展望－現代の日本政治－ （なお上記のカッコの中は、教科書の該当章である）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JC1120302
科目名	政治学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松田　哲	旧科目名称	
講義概要	本講義は、国内政治学および国際政治学に対する導入的な役割を果たす科目である。この講義を通じて 受講生諸君には、国内・国際政治上の諸問題について考える際に必要とされる「基礎知識」の習得に励んでいただくことになる。なお本講義では、基礎知識の習得を、（１）教科書に書かれている内容を理解すること、（２）教科書の記述に用いられている政治学の専門用語を覚えること、という２つの作業を通じて実現してもらうことになる。		
教材（テキスト）	伊藤光利編『ポリティカル・サイエンス事始め［第３版］』（有斐閣、２００９年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じてビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	確認テスト（６０%）、専門用語自習シート及び講義内コメントカードの提出（４０%）により評価する。		
到達目標	（１） 政治学系科目で用いられる専門用語のうち、基礎的なものの意味内容を理解すること。 （２）それらの専門用語を用いて、政治に関する時事的な話題を説明できるようになること。 （３） 日本政治の歴史と現状について、おおまかでよいから説明できるようになること。		
準備学習	（１）講義前に教科書を熟読してくること。 （２）専門用語自習シートを、翌週までに完成させてくること。		
受講者への要望			
（１）専門用語を覚える努力を日頃からコツコツと積み重ねること。そのような習慣を身につけることが就職活動等を成功に導く。 （２）講義中に、講義内容に関する意見を求めることがあるので、堂々と自分の意見を述べること。			
講義の順序とポイント			
１、イントロダクション ２、政治と権力　（序．政治学を勉強してみませんか） ３、選挙と投票行動　（１．えっ!!投票するの？誰に投票するの？） ４、メディアと政治　（２．テレビが政治を作る？） ５、政治家の仕事　（３．政治家ってどんな人？） ６、政党と政党政治　（４．思想と利権のからみあい） ７、官僚制論　（５．官僚ってどんな人？） ８、利益集団論　（６．変わる「コネ」社会日本） ９、政策過程論　（７．政策のつくられ方） 10、首相のリーダーシップ論　（８．日本の最高権力者） 11、地方自治論　（９．自立の気概） 12、国際関係史その１　（10．世界はどこへ行く？） 13、国際関係史その２　（同上） 14、国際政治経済学　（11．グローバリゼーションと地域主義） 15、総括と展望－現代の日本政治－ （なお上記のカッコの中は、教科書の該当章である）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JC1120401
科目名	日本国憲法	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Constitution		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	憲法の意味、日本国憲法の成立と歴史、基本的人権、統治機構について学ぶ。 現在の改憲動向についてもふれる。		
教材（テキスト）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』（法律文化社、2014 年）		
教材（参考文献）	市川正人・倉田原志『憲法入門』（法律文化社、2012 年）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験(80%)　平常点(20%)出席状況等による。		
到達目標	日本国憲法の全体像について基礎的な知識の習得を目指すとともに、現在、問題となっている憲法裁判や改憲動向についても理解をすすめる。		
準備学習	教科書にしたがって章ごとに講義を進めるので、次回の範囲に該当する憲法の条文と教科書の該当頁を読んで予習する。		

受講者への要望

講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。
テレビや新聞で取り上げられている憲法問題に注目すること。憲法問題については、さまざまな立場があるので、一方的な情報のみで判断するのではなく、講義で学ぶ基本原理や学説・判例を正確に習得したうえで、現在の課題について考えてほしい。

講義の順序とポイント

1．憲法とは
2．平和主義①
3．平和主義②
4．基本的人権とは
5．信教の自由と政教分離
6．表現の自由
7．家族
8．生存権
9．教育を受ける権利
10．内閣・国会
11．選挙制度と政党
12．地方自治
13．天皇制
14．改憲手続
15．改憲の動き

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JC1120402
科目名	日本国憲法	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Constitution		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	憲法の意味、日本国憲法の成立と歴史、基本的人権、統治機構について学ぶ。 現在の改憲動向についてもふれる。		
教材（テキスト）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』（法律文化社、2014 年）		
教材（参考文献）	市川正人・倉田原志『憲法入門』（法律文化社、2012 年）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験(80%)　平常点(20%)出席状況等による。		
到達目標	日本国憲法の全体像について基礎的な知識の習得を目指すとともに、現在、問題となっている憲法裁判や改憲動向についても理解をすすめる。		
準備学習	教科書にしたがって章ごとに講義を進めるので、次回の範囲に該当する憲法の条文と教科書の該当頁を読んで予習する。		

受講者への要望

講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。
テレビや新聞で取り上げられている憲法問題に注目すること。憲法問題については、さまざまな立場があるので、一方的な情報のみで判断するのではなく、講義で学ぶ基本原理や学説・判例を正確に習得したうえで、現在の課題について考えてほしい。

講義の順序とポイント

1．憲法とは
2．平和主義①
3．平和主義②
4．基本的人権とは
5．信教の自由と政教分離
6．表現の自由
7．家族
8．生存権
9．教育を受ける権利
10．内閣・国会
11．選挙制度と政党
12．地方自治
13．天皇制
14．改憲手続
15．改憲の動き

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JC1120501
科目名	人権の歴史と現代	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
講義概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教材（その他）	毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので、各自印刷・持参のこと（原則月曜日にアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。 グループワークの内容は事前に告知し、課題に即した資料の検索・収集を各自行ってもらう。		
評価方法	平常点（30%）、講義内小テスト（35%）、最終レポート（35%）から総合的に評価する。 小テスト実施日は 2 週間前までに告知するが、およそ第 10 回前後となる予定。 平常点は、講義中毎回行うミニレポートと、グループワークへの取り組みから判断する。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で､｢差別表現｣や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
準備学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 資料にはその回の参考文献も掲載するので、必要であればそちらも読むことをお勧めする。 ◆講義資料配布時にミニレポートの課題も発表するので、事前に回答を準備しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講者への要望

中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。
ミニレポートは毎回出題、次の週に講評を行います。課題は基本的にその週の講義内容と関連していますが、場合によっては前週の延長となります。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでください。
質問は随時受け付けますが、私語厳禁。配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

講義の順序とポイント

① ガイダンス～人権・差別・偏見
② 近代の人権思想（1）人権概念の基礎と 17・18 世紀の政治思想
③ 近代の人権思想（2）自然権、宗教改革と「信仰・良心の自由」から「言論・思想の自由」へ
④ 近代の人権思想（3）明治期｢臣民の権利｣から戦後「基本的人権」へ
⑤ 何が「差別表現」とされるのか（1）差別表現と規制
⑥ 何が「差別表現」とされるのか（2）ひとつの「ことば」をめぐって
⑦ メディアで見る差別（1）マンガのなかの「人種」
⑧ メディアで見る差別（2）イギリスの階級社会
⑨ メディアで見る差別（3）日本のマイノリティ
⑩ 差別と環境問題（1）公害「以前」~労働環境における人権
⑪ 差別と環境問題（2）公害「以後」・アメリカの環境正義
⑫ 差別と環境問題（3）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
⑬ 差別と環境問題（4）都市のなかの差別
⑭ 差別と環境問題（5）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス
⑮ グループワーク

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1120502
科目名	人権の歴史と現代	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
講義概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教材（その他）	毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので、各自印刷・持参のこと（原則月曜日にアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。 グループワークの内容は事前に告知し、課題に即した資料の検索・収集を各自行ってもらう。		
評価方法	平常点（30%）、講義内小テスト（35%）、最終レポート（35%）から総合的に評価する。 小テスト実施日は 2 週間前までに告知するが、およそ第 10 回前後となる予定。 平常点は、講義中毎回行うミニレポートと、グループワークへの取り組みから判断する。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で､｢差別表現｣や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
準備学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 資料にはその回の参考文献も掲載するので、必要であればそちらも読むことをお勧めする。 ◆講義資料配布時にミニレポートの課題も発表するので、事前に回答を準備しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講者への要望

中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。
ミニレポートは毎回出題、次の週に講評を行います。課題は基本的にその週の講義内容と関連していますが、場合によっては前週の延長となります。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでください。
質問は随時受け付けますが、私語厳禁。配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

講義の順序とポイント

① ガイダンス～人権・差別・偏見
② 近代の人権思想（1）人権概念の基礎と 17・18 世紀の政治思想
③ 近代の人権思想（2）自然権、宗教改革と「信仰・良心の自由」から「言論・思想の自由」へ
④ 近代の人権思想（3）明治期｢臣民の権利｣から戦後「基本的人権」へ
⑤ 何が「差別表現」とされるのか（1）差別表現と規制
⑥ 何が「差別表現」とされるのか（2）ひとつの「ことば」をめぐって
⑦ メディアで見る差別（1）マンガのなかの「人種」
⑧ メディアで見る差別（2）イギリスの階級社会
⑨ メディアで見る差別（3）日本のマイノリティ
⑩ 差別と環境問題（1）公害「以前」~労働環境における人権
⑪ 差別と環境問題（2）公害「以後」・アメリカの環境正義
⑫ 差別と環境問題（3）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
⑬ 差別と環境問題（4）都市のなかの差別
⑭ 差別と環境問題（5）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス
⑮ グループワーク

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1130101
科目名	科学の歴史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。 また自然科学と人文・社会科学の違いについても学ぶ。具体的な学習項目は、科学の定義およびその方法と限界、古代文明と科学、古代ギリシャ・古代ローマ・中世ヨーロッパの科学、非西洋圏の科学、科学革命とその影響、などである。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい）		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。		
準備学習	現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「科学の歴史 A」→「科学の歴史 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
2.科学の定義と領域について
3.科学の方法と限界について
4.古代文明と科学、技術について
5.暦、占星術と天文学について
6.古代ギリシャの科学（その１）
7.古代ギリシャの科学（その２）
8.古代ローマ帝国の科学
9.中世ヨーロッパの科学
１０.アラビアの科学
１１.宗教と科学について
１２.錬金術と化学について
１３.科学革命について（その１）
１４.科学革命について（その２）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	★

年度	2015	授業コード	JC1130102
科目名	科学の歴史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。 また自然科学と人文・社会科学の違いについても学ぶ。具体的な学習項目は、科学の定義およびその方法と限界、古代文明と科学、古代ギリシャ・古代ローマ・中世ヨーロッパの科学、非西洋圏の科学、科学革命とその影響、などである。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい）		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。		
準備学習	現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「科学の歴史 A」→「科学の歴史 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
2.科学の定義と領域について
3.科学の方法と限界について
4.古代文明と科学、技術について
5.暦、占星術と天文学について
6.古代ギリシャの科学（その１）
7.古代ギリシャの科学（その２）
8.古代ローマ帝国の科学
9.中世ヨーロッパの科学
１０.アラビアの科学
１１.宗教と科学について
１２.錬金術と化学について
１３.科学革命について（その１）
１４.科学革命について（その２）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	★

年度	2015	授業コード	JC1130201
科目名	生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	藤井　恒	旧科目名称	
講義概要	近年、遺伝子組換え生物や再生医療、生態系と環境問題など、生物学に関連する様々な事柄が、日常的な問題としてとりあげられるようになっている。本講義で は、これらの諸問題について平易に解説すると共に、質疑・応答も交えながら、生命現象の基本を理解し、生物学的な諸問題を正しく理解し、それらに対して適切な判断を行えるようにする。		
教材（テキスト）	使用しない（プリントを配布する）		
教材（参考文献）	授業の時に、適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内で復習テストを数回行い、その点数で評価する。		
到達目標	日常的に話題となっている生物学に関連する諸問題を正しく理解し、適切な判断を行えるようにする。		
準備学習	高校で生物、化学などを履修していた人は復習をしておく。 教科書その他を持っていない場合は、以下の本などを利用するとよい。 新しい高校生物の教科書（ブルーバックス）　栃内 新・左巻 健男編 講談社　1260 円 高校の生物が根本からわかる本　細胞・代謝・発生・遺伝編 （社会人・大学生のための理数系再入門テキスト）　藤井 恒著 中経出版　1680 円 三訂版　スクエア最新図説生物 neo 第一学習社		

受講者への要望

授業に遅刻したり欠席すると、理解が難しくなるので、遅刻・欠席は極力しないようにすること。

講義の順序とポイント

1　生物と無生物／生体物質
2　細胞１
3　細胞２
4　細胞分裂
5　生殖
6　遺伝子と形質発現
7　発生と分化
8　遺伝子工学
9　ヒトのからだ１
１０　ヒトのからだ２
１１　生態系と物質生産
１２　生物の相互作用
１３　バイオームと遷移
１４　生物多様性
１５　環境問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JC1130202
科目名	生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	これから多岐にわたる生物系の分野を学習する上で、基礎となり、かつ、生命現象全般に対する見通しのある視点を提供する。		
教材（テキスト）	池内・伊藤・箸本（訳）、キャンベル生物学　原書 9 版、丸善出版（¥16,200）		
教材（参考文献）	東京大学生命科学教科書編集委員会「理系総合のための生命科学 第 2 版―分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ」羊土社 日本生態学会編「生態学入門」東京化学同人		
教材（その他）	講義中に適宜紹介する		
評価方法	試験・課題を勘案する		
到達目標	生命現象について、どのようなメカニズムで生命現象が実現されているのかという視点と、どのような機能を果たしているのかという視点の双方を習得すること。また、多岐にわたる生物系の分野に対し、知見を広げるとともに、それらを個別の知識に終わらせることなく、生命現象全般を見通す力を養うこと。		
準備学習	生物学的な知識は問いませんが、常識や偏見にとらわれない柔軟な論理力と思考力で、生命現象の驚異を楽しんでください。また、講義で学ぶ様々な視点で身近な生物をよく見てください。教科書の関連箇所を事前に予習して講義に臨むこと。単元の区切りごとにレポートを課す。		
受講者への要望			
この講義では生物学の基礎を学んでもらいます。これまでに生物学を学んだ経験の有無は問いませんが、好奇心を持って講義を楽しんでください。生物学も例外なく、細分化されてしまっていますが、本講義では、細分化されてしまった分野を統合して生物を理解することを試みます。各講義で扱う現象を理解するとともに、全体を見通す視点を養ってください。さまざまなレベルの生命現象を理解して、生命のすばらしさを堪能してください。			
講義の順序とポイント			
1　イントロダクション　～身の回りの生物～　生物の分類と図鑑の使い方 2　生物の進化　多様な生物、適応放散、種分化 3　生物の進化　自然淘汰と性淘汰、至近要因と究極要因 4　生物の遺伝 5　遺伝子・核酸 6　酵素・タンパク質 7　発生生物学　細胞から個体へ 8　食物とエネルギー源 9　神経、筋肉の制御、恒常性 10　性の意味 11　生物の数の話　増えたり、減ったり　生態学 12　生物の数の話　食ったり、食われたり　生態学 13　生物の分布　生物地理学 14　生物が進化してきた道筋、生物は多様なのか、一様なのか？　系統分類学 15　人間理解　文化的進化と遺伝的進化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JC1130203
科目名	生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	これから多岐にわたる生物系の分野を学習する上で、基礎となり、かつ、生命現象全般に対する見通しのある視点を提供する。		
教材（テキスト）	池内・伊藤・箸本（訳）、キャンベル生物学　原書 9 版、丸善出版（¥16,200）		
教材（参考文献）	東京大学生命科学教科書編集委員会「理系総合のための生命科学 第 2 版―分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ」羊土社 日本生態学会編「生態学入門」東京化学同人		
教材（その他）	講義中に適宜紹介する		
評価方法	試験・課題を勘案する		
到達目標	生命現象について、どのようなメカニズムで生命現象が実現されているのかという視点と、どのような機能を果たしているのかという視点の双方を習得すること。また、多岐にわたる生物系の分野に対し、知見を広げるとともに、それらを個別の知識に終わらせることなく、生命現象全般を見通す力を養うこと。		
準備学習	生物学的な知識は問いませんが、常識や偏見にとらわれない柔軟な論理力と思考力で、生命現象の驚異を楽しんでください。また、講義で学ぶ様々な視点で身近な生物をよく見てください。教科書の関連箇所を事前に予習して講義に臨むこと。単元の区切りごとにレポートを課す。		
受講者への要望			
この講義では生物学の基礎を学んでもらいます。これまでに生物学を学んだ経験の有無は問いませんが、好奇心を持って講義を楽しんでください。生物学も例外なく、細分化されてしまっていますが、本講義では、細分化されてしまった分野を統合して生物を理解することを試みます。各講義で扱う現象を理解するとともに、全体を見通す視点を養ってください。さまざまなレベルの生命現象を理解して、生命のすばらしさを堪能してください。			
講義の順序とポイント			
1　イントロダクション　～身の回りの生物～　生物の分類と図鑑の使い方 2　生物の進化　多様な生物、適応放散、種分化 3　生物の進化　自然淘汰と性淘汰、至近要因と究極要因 4　生物の遺伝 5　遺伝子・核酸 6　酵素・タンパク質 7　発生生物学　細胞から個体へ 8　食物とエネルギー源 9　神経、筋肉の制御、恒常性 10　性の意味 11　生物の数の話　増えたり、減ったり　生態学 12　生物の数の話　食ったり、食われたり　生態学 13　生物の分布　生物地理学 14　生物が進化してきた道筋、生物は多様なのか、一様なのか？　系統分類学 15　人間理解　文化的進化と遺伝的進化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JC1130204
科目名	生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	本講義は、バイオ環境学部で行われる様々な講義の導入科目として位置づけている。従って、生物学全般についてできるだけ幅広くその概略を説明するとともに、以後の学科の講義で必要となる基礎知識、専門用語をしっかりと理解する。この講義をとおして、生命活動を物質レベルで考える力を身につける。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	Eric J. Simon 著　池内正彦監訳 『エッセンシャル　キャンベル生物学』　丸善　7,000 円 Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』丸善　16,200 円 Richard Allan 著 後藤太一郎監訳 『ワークブックで学ぶ生物学の基礎 第 2 版』オーム社　3,000 円 D.サダヴァ著　石崎泰樹・丸山敬　監訳 『大学生物学の教科書　第 1 巻細胞生物学』講談社　1,300 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	期末試験(50%)　毎回の演習およびレポート(25%)　出席・授業態度などの平常点(25%)		
到達目標	生物学の基本事項について正しく理解する。 生物学の専門用語について説明ができる。 生物学関連のマスコミや科学雑誌などの記事を理解し、説明できる。 講義後に行う演習問題をしっかりと理解し解答することができる。		
準備学習	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の教員個人フォルダ内の資料提供フォルダに、次回のレジメを入れておくので、授業までに読んでおくこと。復習の演習問題は、同じファルダに入れておくので、自分で解けるようにしておくこと。疑問点があれば次回の授業までにまとめておくこと。 講義で学んだ基本事項、専門用語については、次の講義までに説明できるようにしておくこと。		

受講者への要望

バイオサイエンス学科の学生は積極的にこの講義を受けること。
演習問題やレポート提出などが重要な評価対象となるので、講義には毎回出席すること。
日頃から生物学の分野について関心を持つように心がける。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス　（科目の概略説明。講義の心構え、勉強の方法などについて言及）
2. 生物学とは？　（生物と無生物の違い、バイオとは？）
3. 生物の進化　（進化論、生物多様性など）
4. 生態学　（生物の分布、個体群、生態系など）
5. 細胞の基本構造　（生命の基本単位である細胞とは）
6. 生命の化学 I　（生命の化学的基盤、水と環境）
7. 生命の化学 II　（生命分子の多様性、高分子の構造）
8. 確認試験とその解説
9. 遺伝のしくみ（メンデルと遺伝子の概念）
10. 遺伝子からタンパク質へ　（遺伝子の複製、転写、翻訳、セントラルドグマなど）
11. バイオテクノロジー　（バイオ研究の基本技術）
12. 動物の発生　（動物の生殖、発生など）
13. 生物の恒常性　（内分泌系とホルモンなど）
14. 植物の機能　（光合成、植物のバイオテクノロジーなど）
15. 生物学の講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JC1130301
科目名	物理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physics		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	物質の科学 s
講義概要	物理学は、精密科学として、自然科学の中でも最も基本的な分野をなしている。これは、物理学が数学を基礎としていることに因るところが大きいが、物理の概念を理解するには必ずしも数学は必要としない。 この授業では、日常生活で体験するような身近な自然現象を通して、物理学の基本概念と法則を理解し、自然現象を科学的に捉える態度を身につけることを目標としている。具体的には、音と光、物質と原子、原子核と放射線などを題材にして、講義形式で授業を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	木下紀正 他　『物理学の基礎（身近なアプローチ)』　東京教学社		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)　定期試験(70%)		
到達目標	・物理学の基本概念と法則を理解している。 ・自然現象を科学的に捉える態度を身に付けている。		
準備学習	講義終了後、次回の講義のレジメを京学なびにアップロードするので、専門用語等を調べ予習しておくこと。		
受講者への要望			
高校で物理を履修していない学生にも理解出来るように進めるつもりであるが、新しい概念が次々と出てくるので、毎回授業に出席すること。			
講義の順序とポイント			
1．物理学の講義について 2．音と光(1)　音 3．音と光(2)　波 4．音と光(3)　光 5．音と光(4)　電磁波 6．物質と原子(1)　物質 7．物質と原子(2)　原子 8．物質と原子(3)　原子と光 9．物質と原子(4)　オーロラ 10．物質と原子(5)　オーロラ 11．原子核と放射線(1)　原子と原子核 12．原子核と放射線(2)　同位体 13．原子核と放射線(3)　不安定な原子 14．原子核と放射線(4)　放射線 15．原子核と放射線(5)　放射線			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2015	授業コード	JC1130302
科目名	物理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	物理学は自然科学のすべての分野の中で，精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の精確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では物理学の体系の中で古典物理学の基礎となる物理空間，運動法則，放物運動，エネルギー，運動量などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学，地球科学を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．物理空間（1）：位置
2．物理空間（2）：速度
3．物理空間（3）：加速度
4．運動法則（1）：第１法則
5．運動法則（2）：第２法則
6．運動法則（3）：第３法則
7．放物運動（1）：等加速度運動
8．放物運動（2）：自由落下
9．放物運動（3）：斜方投射
10．エネルギー（1）：仕事
11．エネルギー（2）：ポテンシャル
12．エネルギー（3）：エネルギー保存則
13．運動量（1）：衝突
14．運動量（2）：力積
15．運動量（3）：運動量保存則

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JC1130401
科目名	統計学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、統計学の基本である　記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この２つの項目を総合して評価する。		
到達目標	データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握できること。確率分布の基本を理解すること。		
準備学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるように心がけること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。
テキストにそって講義を進めるので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.統計と情報
2.データの代表値，散らばりと四分位範囲
3.分散・標準偏差
4.データの相関
5.回帰分析
6.事象と確率・確率の法則
7.確率変数の期待値と分散
8.データの分析と確率についての総合演習
9.確率変数の和と期待値，独立な確率変数と期待値・分散
10.二項分布
11.正規分布
12.母集団と標本
13.統計的推定
14.統計的検定
15.確率分布と統計的推定検定についての総合演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	JC1130402
科目名	統計学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、統計学の基本である　記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この２つの項目を総合して評価する。		
到達目標	データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握できること。確率分布の基本を理解すること。		
準備学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるように心がけること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。
テキストにそって講義を進めるので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.統計と情報
2.データの代表値，散らばりと四分位範囲
3.分散・標準偏差
4.データの相関
5.回帰分析
6.事象と確率・確率の法則
7.確率変数の期待値と分散
8.データの分析と確率についての総合演習
9.確率変数の和と期待値，独立な確率変数と期待値・分散
10.二項分布
11.正規分布
12.母集団と標本
13.統計的推定
14.統計的検定
15.確率分布と統計的推定検定についての総合演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	JC1130501
科目名	生命有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　恒	旧科目名称	
講義概要	ヒトも含め、生命現象を正しく理解するためには、その生体物質の構造と機能の化学的理解がどうしても必要となる。本講義では、生体物質のうち、特に重要な タンパク質、核酸（DNA や RNA）の構造と働きを中心に、脂質、糖質なども含む天然有機化合物について、できるだけ平易に解説し、生命現象における有機 化合物の役割についての理解を深める。		
教材（テキスト）	使用しない（プリントを配布する）		
教材（参考文献）	必要に応じて、授業の際に紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内で復習テストを数回行い、その点数で評価する。		
到達目標	特に重要な生体物質であるタンパク質、核酸、脂質、糖質などの構造と、生命現象における有機化合物の役割を理解する。		
準備学習	高校化学の内容を復習しておく。		
受講者への要望			
遅刻や欠席をすると理解が難しくなるので、可能な限り遅刻や欠席をしないようにすること。			
講義の順序とポイント			
1　生命と物質 2　糖質（炭水化物） 3　アミノ酸 4　タンパク質の構造 5　タンパク質の機能－1 6　タンパク質の機能－2 7　ヌクレオチドと核酸 8　核酸の機能－1 9　核酸の機能－2 １０　脂質 １１　ビタミン １２　サイトカイン １３　動物のホルモン １４　フェロモン／神経伝達物質 １５　植物ホルモン			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	JC1130502
科目名	生命有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　恒	旧科目名称	
講義概要	ヒトも含め、生命現象を正しく理解するためには、その生体物質の構造と機能の化学的理解がどうしても必要となる。本講義では、生体物質のうち、特に重要な タンパク質、核酸（DNA や RNA）の構造と働きを中心に、脂質、糖質なども含む天然有機化合物について、できるだけ平易に解説し、生命現象における有機 化合物の役割についての理解を深める。		
教材（テキスト）	使用しない（プリントを配布する）		
教材（参考文献）	必要に応じて、授業の際に紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内で復習テストを数回行い、その点数で評価する。		
到達目標	特に重要な生体物質であるタンパク質、核酸、脂質、糖質などの構造と、生命現象における有機化合物の役割を理解する。		
準備学習	高校化学の内容を復習しておく。		
受講者への要望			
遅刻や欠席をすると理解が難しくなるので、可能な限り遅刻や欠席をしないようにすること。			
講義の順序とポイント			
1　生命と物質 2　糖質（炭水化物） 3　アミノ酸 4　タンパク質の構造 5　タンパク質の機能－1 6　タンパク質の機能－2 7　ヌクレオチドと核酸 8　核酸の機能－1 9　核酸の機能－2 １０　脂質 １１　ビタミン １２　サイトカイン １３　動物のホルモン １４　フェロモン／神経伝達物質 １５　植物ホルモン			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	JC1140101
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	《ゴルフ》というスポーツは、 ①国際的な種目であるゴルフは、人種、宗教、性別に無関係にいつでもどこでも共通の仲間意識で結ばれるという、真に国際的なスポーツである。 ②少年から高齢者そして、男女とも参加できる。ティショットの位置をそれなりにずらすことによって、老若男女すべてが一緒に楽しむことができる。 ③ハンディキャップ制を採用している。 ハンディキャップというシステムのおかげで、スキルの上手・下手に関係なく共通のコンペティションに参加することができ、誰にでもスポーティングチャンス（勝つ可能性）が保証されている。 ④自己の年齢、体力に応じてそれぞれがプレーを楽しめる ゴルフゲームにおいては、体力、体格などの差は大した意味を持たず、長い経験によって磨かれた知恵と技術がものをいう。 ⑤未知の人との出会いがある ゴルフは個人競技であるが、一般に行われるストロークプレーでは 3〜4 人が一組となってプレーするため、自然とそこに会話が生まれ、心の交流が生まれる。ゴルフは大自然の中でそれぞれ個性をもつ様々な男女が、各自の責任において、それぞれ個性的なやり方で共通のターゲットに向かってプレーできるのである。そこには相互理解、相互学習、公正な競い合い、協力など人間的なマナーが必用となる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	構成員一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化の生活化をはかることを目的として授業を行います。 将来ラウンドができるためのマナーや基礎的な能力・技術を体得する。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。ゴルフ用手袋（@500 円）が必要。授業内で用意できるので、持っていない学生は担当者に申し出ること。			
講義の順序とポイント			
・ゴルフ概略指導（ルール・マナー）、安全指導 ・ボールを真っ直ぐに打つための理論 ・コースラウンド（水無瀬コース）希望者（1 ラウンド 2150 円、が別途必要になります） 〔初心者〕・正しいゴルフスイングを理解する　・ショートアイアン（PW）のショット練習　・ミドルアイアン（7 番）のアプローチ練習　・10〜50 ヤードのアプローチ練習　・パターマットを使ってのパッティング練習 〔中・上級者〕・ゴルフコースラウンドを目標　・ショートアイアンを正確に　・ミドルアイアンを真っ直ぐに打つ　・ロングアイアンの練習　・ウッド（1W、3W．4W．5W）の練習　・パテイング練習　・正確なアプローチ 1.オリエンテーション、フィットネステスト A（体育館シューズを準備すること） 2.フィットネステスト B（室内練習－グリップ、アドレス、スイング理論） 3.ショートアイアン（ＰW）の振り子理論・ショートアイアンのハーフスイング 4.ショートアイアンのハーフスイング　軸を作ってのスイング 5.ショートアイアンのハーフスイング　体重移動のスイング 6.ミドルアイアン（７Ｉ）のハーフスイング 7.ヘッドスピードの加速　ホロースイング 8.アプローチ　ランニング・アプローチとロブショット 9.ヘッドスピードの加速　ホロー・スイング．ミドルアイアン			

10.テニスコートでコースラウンドの仕方とパター練習、アプローチ向上 11.グラウンドでのコースラウンド練習　方向性の向上 12.コースを仮定してのラウンド練習、ルールとマナー 13.ＰＷ，７Ｉ，アプローチ・テスト 14. 15.コースラウンド（学外実習)個別指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1140103
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	《ゴルフ》というスポーツは、 ①国際的な種目であるゴルフは、人種、宗教、性別に無関係にいつでもどこでも共通の仲間意識で結ばれるという、真に国際的なスポーツである。 ②少年から高齢者そして、男女とも参加できる。ティショットの位置をそれなりにずらすことによって、老若男女すべてが一緒に楽しむことができる。 ③ハンディキャップ制を採用している。 ハンディキャップというシステムのおかげで、スキルの上手・下手に関係なく共通のコンペティションに参加することができ、誰にでもスポーティングチャンス（勝つ可能性）が保証されている。 ④自己の年齢、体力に応じてそれぞれがプレーを楽しめる ゴルフゲームにおいては、体力、体格などの差は大した意味を持たず、長い経験によって磨かれた知恵と技術がものをいう。 ⑤未知の人との出会いがある ゴルフは個人競技であるが、一般に行われるストロークプレーでは 3〜4 人が一組となってプレーするため、自然とそこに会話が生まれ、心の交流が生まれる。ゴルフは大自然の中でそれぞれ個性をもつ様々な男女が、各自の責任において、それぞれ個性的なやり方で共通のターゲットに向かってプレーできるのである。そこには相互理解、相互学習、公正な競い合い、協力など人間的なマナーが必用となる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	構成員一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化の生活化をはかることを目的として授業を行います。 将来ラウンドができるためのマナーや基礎的な能力・技術を体得する。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。ゴルフ用手袋（@500 円）が必要。授業内で用意できるので、持っていない学生は担当者に申し出ること。			
講義の順序とポイント			
・ゴルフ概略指導（ルール・マナー）、安全指導 ・ボールを真っ直ぐに打つための理論 ・コースラウンド（水無瀬コース）希望者（1 ラウンド 2150 円、が別途必要になります） 〔初心者〕・正しいゴルフスイングを理解する　・ショートアイアン（PW）のショット練習　・ミドルアイアン（7 番）のアプローチ練習　・10〜50 ヤードのアプローチ練習　・パターマットを使ってのパッティング練習 〔中・上級者〕・ゴルフコースラウンドを目標　・ショートアイアンを正確に　・ミドルアイアンを真っ直ぐに打つ　・ロングアイアンの練習　・ウッド（1W、3W．4W．5W）の練習　・パテイング練習　・正確なアプローチ 1.オリエンテーション、フィットネステスト A（体育館シューズを準備すること） 2.フィットネステスト B（室内練習－グリップ、アドレス、スイング理論） 3.ショートアイアン（ＰW）の振り子理論・ショートアイアンのハーフスイング 4.ショートアイアンのハーフスイング　軸を作ってのスイング 5.ショートアイアンのハーフスイング　体重移動のスイング 6.ミドルアイアン（７Ｉ）のハーフスイング 7.ヘッドスピードの加速　ホロースイング 8.アプローチ　ランニング・アプローチとロブショット 9.ヘッドスピードの加速　ホロー・スイング．ミドルアイアン			

10.テニスコートでコースラウンドの仕方とパター練習、アプローチ向上 11.グラウンドでのコースラウンド練習　方向性の向上 12.コースを仮定してのラウンド練習、ルールとマナー 13.ＰＷ，７Ｉ，アプローチ・テスト 14. 15.コースラウンド（学外実習)個別指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1140105
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	ソフトボールを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレイに具体的に活かし、楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	態度３０％・レポート３０％・技術４０％		
到達目標	ソフトボールのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむことができるためのスキルを習得する。自ら試合の企画・立案・運営ができるようにする。		
準備学習	事前にソフトボールの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講者への要望

運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＡ
２．ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＢ
３．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム①
・キャッチボール（正確さ・速さ・遠投）
・バッティング（トス・フリー・バンド）
４．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム②
５．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
・投法（スタンダード・ウインドミル・エイトフィギア）
・ノック（内野・外野）
・ランニング（ベース・ランニング・盗塁）
６．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
７．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
８．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
．守備フォーメイション
・攻撃フォーメイション
９．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
１０．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
１１．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。①
１２．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。②
１３．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。③
１４．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。④
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JC1140106
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	ソフトボールを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレイに具体的に活かし、楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	態度３０％・レポート３０％・技術４０％		
到達目標	ソフトボールのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむことができるためのスキルを習得する。自ら試合の企画・立案・運営ができるようにする。		
準備学習	事前にソフトボールの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講者への要望

運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄA
２．ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄB
３．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム①
・キャッチボール（正確さ・速さ・遠投）
・バッティング（トス・フリー・バンド）
４．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム②
５．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
・投法（スタンダード・ウインドミル・エイトフィギア）
・ノック（内野・外野）
・ランニング（ベース・ランニング・盗塁）
６．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
７．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
８．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
．守備フォーメイション
・攻撃フォーメイション
９．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
１０．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
１１．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。①
１２．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。②
１３．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。③
１４．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。④
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JC1140107
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供からお年寄りまで、性別を問わず誰でも気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができるだろう。　しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに立ってプレーしてみると、なかなかおもいどおりにはいかないものである。そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達してテニスの素晴らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップやフェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリースポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	1. 少なくともダブルスのゲームが楽しめるようにする。（戦略・理論を含む） 2. 練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 3. 社会人として色々な施設を利用してテニスを楽しむことができるようにする。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。三国山オムニコートで実施するため、テニスシューズが必要。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション、フィットネステストA 2. フィットネステストB　グリップ 3. グリップと面作りストローク 4. 簡単なグランドストローク(ラケットに慣れる・ボールのバウンドに慣れる) 5. 移動によるグランドストローク(フットワークを覚える・打点の位置を覚える) 6. ボール出しによるグランドストローク 7. ボレーとストロークの打ち方を覚える 8. 簡単なサーブを覚える　　サーブからラリーを覚える 9. ローボレー、オバーハンドサービス　ラリー練習からダブルスゲーム 10. 簡単なダブルスゲーム 11. ダブルスのホーメーシヨン(雁行陣営) 12. ダブルスの簡単なスコアーを付けてのゲーム 13. ゲームの運営（5 人でのダブルス） 14. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト 15. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1140108
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供からお年寄りまで、性別を問わず誰でも気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができるだろう。　しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに立ってプレーしてみると、なかなかおもいどおりにはいかないものである。そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達してテニスの素晴らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップやフェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリースポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	1. 少なくともダブルスのゲームが楽しめるようにする。（戦略・理論を含む） 2. 練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 3. 社会人として色々な施設を利用してテニスを楽しむことができるようにする。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。三国山オムニコートで実施するため、テニスシューズが必要。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション、フィットネステストA 2. フィットネステストB　グリップ 3. グリップと面作りストローク 4. 簡単なグランドストローク(ラケットに慣れる・ボールのバウンドに慣れる) 5. 移動によるグランドストローク(フットワークを覚える・打点の位置を覚える) 6. ボール出しによるグランドストローク 7. ボレーとストロークの打ち方を覚える 8. 簡単なサーブを覚える　　サーブからラリーを覚える 9. ローボレー、オバーハンドサービス　ラリー練習からダブルスゲーム 10. 簡単なダブルスゲーム 11. ダブルスのホーメーシヨン(雁行陣営) 12. ダブルスの簡単なスコアーを付けてのゲーム 13. ゲームの運営（5 人でのダブルス） 14. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト 15. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1140111
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バスケットボールはこれまでの学校教育の中でも取り組んだことのあるスポーツと思われるが、この講義の中では、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身に付けると共に、集団技能も身に付け、バスケットボール競技経験者も未経験者も互いに協力し合い、ゲームを楽しむこと目的とする。 また、ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。 平常点(技能・態度)70%、レポート点 30%		
到達目標	毎時の練習により、個人スキルを高め、バスケットボールのゲームが楽しくできるようにする。 また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。 更にはグループワークにおいてコミュニケーション能力、協調性等様々な力を養う。		
準備学習	事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。		

受講者への要望

活動にふさわしい、スポーツウェアー・シューズを用意すること。
グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出ること。

講義の順序とポイント

＊内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。

1. オリエンテーション、フィットネステスト A
2. コーディネーション、フィットネステスト B、個人技能練習（シュート）
3. コーディネーション、スキルテスト（シュート）、個人技能練習（パス）、パッシングゲーム（ハーフコート）
4. コーディネーション、スキルテスト（パス）、個人技能練習（ドリブル）、ハーフコートゲーム
5. 技能練習（シュート・パス・ドリブル）、スキルテスト（ドリブル）、
   対人練習（1 対 0・2 対 1・3 対 2　数的優位な場面でのオフェンス及びディフェンス）、ハーフコートゲーム
6. 技能練習（シュート・ドリブル・パス）、対人練習（1 対 1・2 対 2・3 対 3　同数場面でのオフェンス及びディフェンス）、ゲーム
7. グループ編成、グループワークⅠ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

8.9.10. グループワークⅠ、リーグ戦Ⅰ～Ⅲ

11.グループ編成、グループワークⅡ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

12.13.14 グループワークⅡ、リーグ戦Ⅳ～Ⅵ

15. 最終スキルテスト、まとめのゲーム、レポートの説明、及び提出について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1140112
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バスケットボールはこれまでの学校教育の中でも取り組んだことのあるスポーツと思われるが、この講義の中では、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身に付けると共に、集団技能も身に付け、バスケットボール競技経験者も未経験者も互いに協力し合い、ゲームを楽しむこと目的とする。 また、ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。 平常点(技能・態度)70%、レポート点 30%		
到達目標	毎時の練習により、個人スキルを高め、バスケットボールのゲームが楽しくできるようにする。 また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。 更にはグループワークにおいてコミュニケーション能力、協調性等様々な力を養う。		
準備学習	事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。		

受講者への要望

活動にふさわしい、スポーツウェアー・シューズを用意すること。
グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出ること。

講義の順序とポイント

＊内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。

1. オリエンテーション、フィットネステスト A
2. コーディネーション、フィットネステスト B、個人技能練習（シュート）
3. コーディネーション、スキルテスト（シュート）、個人技能練習（パス）、パッシングゲーム（ハーフコート）
4. コーディネーション、スキルテスト（パス）、個人技能練習（ドリブル）、ハーフコートゲーム
5. 技能練習（シュート・パス・ドリブル）、スキルテスト（ドリブル）、
   対人練習（1 対 0・2 対 1・3 対 2　数的優位な場面でのオフェンス及びディフェンス）、ハーフコートゲーム
6. 技能練習（シュート・ドリブル・パス）、対人練習（1 対 1・2 対 2・3 対 3　同数場面でのオフェンス及びディフェンス）、ゲーム
7. グループ編成、グループワークⅠ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

8.9.10. グループワークⅠ、リーグ戦Ⅰ～Ⅲ

11.グループ編成、グループワークⅡ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

12.13.14 グループワークⅡ、リーグ戦Ⅳ～Ⅵ

15. 最終スキルテスト、まとめのゲーム、レポートの説明、及び提出について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1140117
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JC1140118
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JC1140119
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JC1140122
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JC1140123
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JC1140124
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JC1140125
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バレーボールには、「ボールを落とさないでラリーを続ける楽しさ」、「いろいろな攻撃を通じてボールを落としあう楽しさ」、「相手のプレイを予測して攻守を工夫していく楽しさ」というようにさまざまな楽しさがあります。 自分たちの現状を見つめ可能性を求めて、一人一人の力を結集する。共に協力しながら活動をする協同の気持ちを大切にしながら楽しい授業展開を目指します。 また、健康の保持増進を目的とした運動を導入し、技術の向上だけではなく、トータルバランスのとれた授業展開を目的とします。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	バレーボールの特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全に関する知識を習得する。また、仲間とのコミュニケーション、健康、体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		

受講者への要望

実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション、フィットネステスト A
2.フィットネステスト B 、グループ編成
3.各種ボールトレーニング、パス、サーブ、簡易ゲーム
4.基礎技術の習得とルール、試しのゲームと今後の課題
5.トス、アタック、ブロック練習、ゲーム
6.組織的な攻撃と防御　ゲーム
7.組織的な攻撃と防御　ゲーム　ゲーム分析と今後の課題
8.サーブレシーブとアタックレシーブのフォーメーション、攻撃フォーメーション、ゲーム
9.攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーション、ゲーム
10.ゲームと審判法
11.ゲームと審判法
12.ゲームと審判法
13.ゲームと審判法
14.ゲームと審判法

15.ゲーム

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JC1140126
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バレーボールには、「ボールを落とさないでラリーを続ける楽しさ」、「いろいろな攻撃を通じてボールを落としあう楽しさ」、「相手のプレイを予測して攻守を工夫していく楽しさ」というようにさまざまな楽しさがあります。 自分たちの現状を見つめ可能性を求めて、一人一人の力を結集する。共に協力しながら活動をする協同の気持ちを大切にしながら楽しい授業展開を目指します。 また、健康の保持増進を目的とした運動を導入し、技術の向上だけではなく、トータルバランスのとれた授業展開を目的とします。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	バレーボールの特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全に関する知識を習得する。また、仲間とのコミュニケーション、健康、体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		

受講者への要望

実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション、フィットネステスト A
2.フィットネステスト B 、グループ編成
3.各種ボールトレーニング、パス、サーブ、簡易ゲーム
4.基礎技術の習得とルール、試しのゲームと今後の課題
5.トス、アタック、ブロック練習、ゲーム
6.組織的な攻撃と防御　ゲーム
7.組織的な攻撃と防御　ゲーム　ゲーム分析と今後の課題
8.サーブレシーブとアタックレシーブのフォーメーション、攻撃フォーメーション、ゲーム
9.攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーション、ゲーム
10.ゲームと審判法
11.ゲームと審判法
12.ゲームと審判法
13.ゲームと審判法
14.ゲームと審判法

15.ゲーム

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JC1140127
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	人生 80 年以上の長寿社会を迎えた現代。課題とされるのは全てのライフステージで健康で活気のある時を過ごすということである。それは個人のライフステージや目的に応じたものであり、自主的に継続できる身体活動でなければならない。本授業では、生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を理論および実技を通して身につけることを目的とする。 具体的には、「心身の健康」を維持・増進するための体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を運動・スポーツの科学的根拠に基づいたエアロビクス運動（有酸素運動）・筋力アップ運動・コンディショニング運動を主軸に理解・実践する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にプリントを配布。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	平常点（50%）、トレーニング計画（20%）、レポート（30%） 評価は出席・意欲等を重視するとともに課題達成度等の総合評価とする。		
到達目標	この授業では、トレーニング科学の知見に基づく正しいフィットネストレーニングの方法を理解するとともにトレーニング機器の安全かつ効果的な利用方法も習得する。また、個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成・実践することにより、安全で適切な健康体力づくりの方法および要点を習得する。		
準備学習	実技科目であり、トレーニングルームを使用するため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理を十分に留意すること。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認められない。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション、フィットネステストA 2　フィットネステストB、トレーニングルーム利用説明 3　ストレッチングの理論と実技 4　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 5　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 6　フィットネスプロフィールの作成 7　フィットネストレーニング 8　フィットネストレーニング 9　フィットネストレーニング 10　フィットネストレーニング 11　フィットネストレーニング 12　フィットネストレーニング 13　トレーニング計画立案と実践 14　トレーニング計画立案と実践 15　トレーニング計画立案と実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1140128
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	人生 80 年以上の長寿社会を迎えた現代。課題とされるのは全てのライフステージで健康で活気のある時を過ごすということである。それは個人のライフステージや目的に応じたものであり、自主的に継続できる身体活動でなければならない。本授業では、生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を理論および実技を通して身につけることを目的とする。 具体的には、「心身の健康」を維持・増進するための体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を運動・スポーツの科学的根拠に基づいたエアロビクス運動（有酸素運動）・筋力アップ運動・コンディショニング運動を主軸に理解・実践する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にプリントを配布。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	平常点（50%）、トレーニング計画（20%）、レポート（30%） 評価は出席・意欲等を重視するとともに課題達成度等の総合評価とする。		
到達目標	この授業では、トレーニング科学の知見に基づく正しいフィットネストレーニングの方法を理解するとともにトレーニング機器の安全かつ効果的な利用方法も習得する。また、個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成・実践することにより、安全で適切な健康体力づくりの方法および要点を習得する。		
準備学習	実技科目であり、トレーニングルームを使用するため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理を十分に留意すること。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認められない。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション、フィットネステストA 2　フィットネステストB、トレーニングルーム利用説明 3　ストレッチングの理論と実技 4　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 5　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 6　フィットネスプロフィールの作成 7　フィットネストレーニング 8　フィットネストレーニング 9　フィットネストレーニング 10　フィットネストレーニング 11　フィットネストレーニング 12　フィットネストレーニング 13　トレーニング計画立案と実践 14　トレーニング計画立案と実践 15　トレーニング計画立案と実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1140129
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	フットサルとは、ポルトガル語とスペイン語のサッカーを表す言葉と、室内を表す言葉の合成語で、いつの間にか短く略され「フットサロ」→「フットサル」と変化して、全世界で定着していったものである。 　フットサルはミニチュアサッカーに近いが、タッチラインは 40 メートル、ゴールラインは 20 メートルと従来のサッカーコートの約 9 分の 1 の広さを使用する。コートからボールが出ればキックインで再開し、オフサイドがないなど、コートだけでなく競技規則がサッカーと異なる。ボールはサッカーよりひと回り小さく弾みにくいうえに、人数も少いためキック力などよりも、トラップや小さいパスなどの個人技が求められるスポーツである。 　授業では、楽しくフットサルをおこなうために必要な個人技術を身につけ、個人技術の応用であるグループ戦術を目指す。また、授業を通して仲間と積極的にコミュニケーション取り、継続して授業をおこなうことで体力の維持増進につながり、心身の健康を目指す。授業後半では、ルールを理解し審判ができるように目指し、ゲーム運営が出来るようになる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技６０％　レポート２０％　学習態度２０％		
到達目標	フットサルとサッカーのルールの違いを理解する。ゲームを円滑に行えるテクニックを身に付け、チームメイトと積極的にコミュニケーションが取れるようになる。最終的には、受講生でゲーム運営ができるようになる。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション、フィットネステストＡ ２．フィットネステストＢ ３．競技の特性及び競技規則を理解する。 ４．ボールコントロール - ボールキープ(個人、グループ) ５．パス - 対面パス（固定、動きながら、２グループ） ６．パス - スクエアパス（２タッチ、ワンツー、３人目） ７．シュート - ポストシュート、ドリブルシュート ８．シュート - パス～シュート(ワントラップ、ダイレクト） ９．対人 - １対１、２対１、２対２、３対２ １０．ウォーミングアップ - ゲーム（ドリブル） - クールダウン １１．ウォーミングアップ - ゲーム（パス） - クールダウン １２．ウォーミングアップ - ゲーム（シュート） - クールダウン １３．ウォーミングアップ - ゲーム（リーグ戦） - クールダウン １４．ウォーミングアップ - ゲーム（リーグ戦） - クールダウン １５．総合的ゲーム運営			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★			

年度	2015	授業コード	JC1140130
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	フットサルとは、ポルトガル語とスペイン語のサッカーを表す言葉と、室内を表す言葉の合成語で、いつの間にか短く略され「フットサロ」→「フットサル」と変化して、全世界で定着していったものである。 　フットサルはミニチュアサッカーに近いが、タッチラインは 40 メートル、ゴールラインは 20 メートルと従来のサッカーコートの約 9 分の 1 の広さを使用する。コートからボールが出ればキックインで再開し、オフサイドがないなど、コートだけでなく競技規則がサッカーと異なる。ボールはサッカーよりひと回り小さく弾みにくいうえに、人数も少いためキック力などよりも、トラップや小さいパスなどの個人技が求められるスポーツである。 　授業では、楽しくフットサルをおこなうために必要な個人技術を身につけ、個人技術の応用であるグループ戦術を目指す。また、授業を通して仲間と積極的にコミュニケーション取り、継続して授業をおこなうことで体力の維持増進につながり、心身の健康を目指す。授業後半では、ルールを理解し審判ができるように目指し、ゲーム運営が出来るようになる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技６０％　レポート２０％　学習態度２０％		
到達目標	フットサルとサッカーのルールの違いを理解する。ゲームを円滑に行えるテクニックを身に付け、チームメイトと積極的にコミュニケーションが取れるようになる。最終的には、受講生でゲーム運営ができるようになる。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション、フィットネステストＡ ２．フィットネステストＢ ３．競技の特性及び競技規則を理解する。 ４．ボールコントロール - ボールキープ(個人、グループ) ５．パス - 対面パス（固定、動きながら、２グループ） ６．パス - スクエアパス（２タッチ、ワンツー、３人目） ７．シュート - ポストシュート、ドリブルシュート ８．シュート - パス～シュート(ワントラップ、ダイレクト） ９．対人 - １対１、２対１、２対２、３対２ １０．ウォーミングアップ - ゲーム（ドリブル） - クールダウン １１．ウォーミングアップ - ゲーム（パス） - クールダウン １２．ウォーミングアップ - ゲーム（シュート） - クールダウン １３．ウォーミングアップ - ゲーム（リーグ戦） - クールダウン １４．ウォーミングアップ - ゲーム（リーグ戦） - クールダウン １５．総合的ゲーム運営			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★			

年度	2015	授業コード	JC1140133
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	加藤　隆司	旧科目名称	
講義概要	剣道は、先人が命をかけた真剣勝負を通して悟道した剣の理法の修練による人間形成の道である。 実習では、相手への打突という剣道における特殊な運動の理解・実践に加えて、相手との関係に基づく「技」の学習を通じて、相手を尊重する態度や自己を最大限に発揮する態度などを習得します。 特に武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を重視しており、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められます。 日常生活のなかでも、しっかりと挨拶（礼）ができることを目標とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	実技科目なので出席することが大前提です。 ・関心・意欲・態度ー安全に留意する。互いに助言したりできる。公正な態度で相手を尊重できる。(30%) ・知識・理解　　ー技術・正確に道具の着脱ができる。有効打突を理解する。(50%) ・　　レ　　ポ　　ー　　ト　　ー(20%)		
到達目標	基本動作、基本技術の習得と応用技術を用いた試合ができるようにする。		
準備学習	日本の武道に関心を持ち、剣道の技術書や武人に関する小説などを読み意欲を高め心の準備をしてください。		
受講者への要望			
体操服で出席してください。防具・竹刀・稽古着・袴は個人で準備しなくて良い。裸足で行います。相手と打突する場面が出てきます、粗暴な行動は謹んでください。 初回はオリエンテーションとフィットネステストをします。			
講義の順序とポイント			
1.　オリエンテーションとフィットネステスト（２回目にシャトルランを実施します。） 2.　基本動作１ー礼法・構え・足さばき・す振り 3ー5.　基本動作２ー打とつの基本１～４、）　日本剣道形（１～３） 6.　剣道具の着脱・手拭いの付け方，対人的技能（打とつの基本１） 7－9　対人的技能（切り返し、二・三段の技ー連続技，　日本剣道形（１～３） 10-13　対人的技能(応じ技)　かかりげいこ、互角げいこ，日本剣道形（１～３） 14　審判規則・試合規則、試合（簡易試合） 15　試合（簡易試合・互角げいこ)、まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1140134
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	加藤　隆司	旧科目名称	
講義概要	剣道は、先人が命をかけた真剣勝負を通して悟道した剣の理法の修練による人間形成の道である。 実習では、相手への打突という剣道における特殊な運動の理解・実践に加えて、相手との関係に基づく「技」の学習を通じて、相手を尊重する態度や自己を最大限に発揮する態度などを習得します。 特に武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を重視しており、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められます。 日常生活のなかでも、しっかりと挨拶（礼）ができることを目標とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	実技科目なので出席することが大前提です。 ・関心・意欲・態度ー安全に留意する。互いに助言したりできる。公正な態度で相手を尊重できる。(30%) ・知識・理解　　ー技術・正確に道具の着脱ができる。有効打突を理解する。(50%) ・　　レ　　ポ　　ー　　ト　　ー(20%)		
到達目標	基本動作、基本技術の習得と応用技術を用いた試合ができるようにする。		
準備学習	日本の武道に関心を持ち、剣道の技術書や武人に関する小説などを読み意欲を高め心の準備をしてください。		

受講者への要望

体操服で出席してください。防具・竹刀・稽古着・袴は個人で準備しなくて良い。裸足で行います。相手と打突する場面が出てきます、粗暴な行動は謹んでください。
初回はオリエンテーションとフィットネステストをします。

講義の順序とポイント

1.　　オリエンテーションとフィットネステスト（２回目にシャトルランを実施します。）
2.　　基本動作１ー礼法・構え・足さばき・す振り
3ー5.　基本動作２ー打とつの基本１～４、）　　日本剣道形（１～３）
6.　　剣道具の着脱・手拭いの付け方，対人的技能（打とつの基本１）
7－9　対人的技能（切り返し、二・三段の技ー連続技，　　日本剣道形（１～３）
10-13　対人的技能(応じ技)　かかりげいこ、互角げいこ，日本剣道形（１～３）
14　　審判規則・試合規則、試合（簡易試合）
15　　試合（簡易試合・互角げいこ)、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1140135
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	柔道は日本古来の柔術が近代化され、今日では世界で多くの人が競技している。 しかし、本学で取り組む柔道は、生涯スポーツとして位置づけるために、競技力よりも、技術の理論性を理解し、他のスポーツにも応用できるよう実施していきたい。柔道着を持参できない学生は大学より貸し与える。学期末時に必ず返却すること。 3 セメスター以上単位修得者は希望により京都府柔道連盟に初段の推薦をする。（有料）		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	相手と対応して、身体を操作する武道の技術と礼法		
準備学習	前回までの技術の把握、礼法の確認、体調管理		
受講者への要望			
柔道着を必ず着用すること。（※柔道着は大学にて貸し出す。）			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション、フィットネステストA 2. フィットネステストB　武道としての柔道(現代に生きる礼法) 3. 組み方と体捌き(自然本体と崩し、後方と側方受け身) 4. 相手が前に出てきた力を利用して倒す技(背負投と受け身) 5. 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技(大外刈と受け身) 6. 相手が右横に移動した力を利用して倒す技(送足払と受け身) 7. 相手が左横に移動した力を利用して倒す技(体落と受け身) 8. 相手に倒されないための組み方と移動方法(背負投とその防御) (大外刈とその防御) 9. 連続技の工夫　(送足払、体落とその防御) 10. 寝技の効用・袈裟固とその逃れ方　・横四方固とその逃れ方 11. 上四方固、縦四方固とその逃れ方　・安全な締め技の方法　活法の理論と実技　・力のいらない間接技 12. 相手が前に出てきた力を利用して倒す技と返し技の工夫 13. 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技と返し技の工夫 14. 相手が横に移動した力を利用して倒す技と返し技の工夫 15.レポート指導(自分の生活における精力善用・自他共栄とは) ・実技テスト 相手が前に出てきた力を利用して倒す技 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技 相手が横に移動した力を利用して倒す技（上級者同じ技で行う） ・レポート 自分の生活における精力善用・自他共栄とは 自分の生活における礼法とは		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1140136
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	柔道は日本古来の柔術が近代化され、今日では世界で多くの人が競技している。 しかし、本学で取り組む柔道は、生涯スポーツとして位置づけるために、競技力よりも、技術の理論性を理解し、他のスポーツにも応用できるよう実施していきたい。柔道着を持参できない学生は大学より貸し与える。学期末時に必ず返却すること。 3 セメスター以上単位修得者は希望により京都府柔道連盟に初段の推薦をする。（有料）		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	相手と対応して、身体を操作する武道の技術と礼法		
準備学習	前回までの技術の把握、礼法の確認、体調管理		
受講者への要望			
柔道着を必ず着用すること。（※柔道着は大学にて貸し出す。）			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション、フィットネステストA 2. フィットネステストB　武道としての柔道(現代に生きる礼法) 3. 組み方と体捌き(自然本体と崩し、後方と側方受け身) 4. 相手が前に出てきた力を利用して倒す技(背負投と受け身) 5. 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技(大外刈と受け身) 6. 相手が右横に移動した力を利用して倒す技(送足払と受け身) 7. 相手が左横に移動した力を利用して倒す技(体落と受け身) 8. 相手に倒されないための組み方と移動方法(背負投とその防御) (大外刈とその防御) 9. 連続技の工夫　(送足払、体落とその防御) 10. 寝技の効用・袈裟固とその逃れ方　・横四方固とその逃れ方 11. 上四方固、縦四方固とその逃れ方　・安全な締め技の方法　活法の理論と実技　・力のいらない間接技 12. 相手が前に出てきた力を利用して倒す技と返し技の工夫 13. 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技と返し技の工夫 14. 相手が横に移動した力を利用して倒す技と返し技の工夫 15.レポート指導(自分の生活における精力善用・自他共栄とは) ・実技テスト 相手が前に出てきた力を利用して倒す技 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技 相手が横に移動した力を利用して倒す技（上級者同じ技で行う） ・レポート 自分の生活における精力善用・自他共栄とは 自分の生活における礼法とは		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1140137
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	卓球は、安全で手軽であるため、老若男女を問わず親しまれ、生涯を通じて楽しめるスポーツとされている。　以前に「ピンポン」という名称で親しまれていたこともあり、感覚的に遊びのイメージを持たれることもあるが、本授業では、卓球の特性とルールやマナー、そして安全に楽しめるための知識等、技術向上とともに習得することを目的とする。 また、健康の維持増進を目的とした運動も導入し、技術の向上だけでなく、トータルバランスの充実した授業展開を目指します。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度 20%、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	卓球の特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全性に関する知識を習得する。 また、仲間とのコミュニケーション、健康体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		
受講者への要望			
実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーリング、フィットネステストA 2　フィットネステストB、卓球授業のためのオリエンテーション 3　卓球台の設置と準備、ラケットの選び方とグリップ、簡易試合と技術レベルの確認 4　スイングの仕方と乱打 5　サービス、シングルスのルール、シングルスの簡易ゲーム 6　クロス打ちの乱打、シングルスゲーム 7　ドライブ、バックハンド、シングルスゲーム 8　ショート、ツッツキ、シングルスゲーム 9　カット、　シングルスゲーム 10　スマッシュ、シングルスゲーム 11　シングルスリーグ戦 12　シングルスリーグ戦 13　ダブルスのルール、ダブルスゲーム 14　ダブルスリーグ戦 15　ダブルスリーグ戦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JC1140138
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	卓球は、安全で手軽であるため、老若男女を問わず親しまれ、生涯を通じて楽しめるスポーツとされている。　以前に「ピンポン」という名称で親しまれていたこともあり、感覚的に遊びのイメージを持たれることもあるが、本授業では、卓球の特性とルールやマナー、そして安全に楽しめるための知識等、技術向上とともに習得することを目的とする。 また、健康の維持増進を目的とした運動も導入し、技術の向上だけでなく、トータルバランスの充実した授業展開を目指します。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度 20%、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	卓球の特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全性に関する知識を習得する。 また、仲間とのコミュニケーション、健康体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		
受講者への要望			
実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーリング、フィットネステストA 2　フィットネステストB、卓球授業のためのオリエンテーション 3　卓球台の設置と準備、ラケットの選び方とグリップ、簡易試合と技術レベルの確認 4　スイングの仕方と乱打 5　サービス、シングルスのルール、シングルスの簡易ゲーム 6　クロス打ちの乱打、シングルスゲーム 7　ドライブ、バックハンド、シングルスゲーム 8　ショート、ツッツキ、シングルスゲーム 9　カット、　シングルスゲーム 10　スマッシュ、シングルスゲーム 11　シングルスリーグ戦 12　シングルスリーグ戦 13　ダブルスのルール、ダブルスゲーム 14　ダブルスリーグ戦 15　ダブルスリーグ戦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JC1140139
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高める。また、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を学びあい、実技指導・実践能力を高める。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力につなげる。できれば健康スポーツ理論の受講を進めます。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学ぼう。		
教材（テキスト）	教養としての身体運動・健康科学 東京大学身体運動科学研究室		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	レポート及び提出物		
到達目標	１．運動を楽しむ ２．グループで協力して、役割を果たせる。 ３．運動を計画的に実施できる。 ４．集団をまとめることができる。 ５．準備、片付け、安全管理ができる		
準備学習	各グループで計画的に練習できるよう事前準備をしてください。 運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。		
受講者への要望			
２時間（１８０分）の連続授業です。体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方、ルールについての説明。 ２．講義　グループ分けと役割分担　エアロビクスダンス ３．バドミントン ４．レクリエーション ５．バドミントン ６．レクリエーション ７．バスケットボール ８．卓球 ９．バスケットボール 10．卓球 11．バレーボール 12．ローンボウルズ 13．バレーボール 14．ローンボウルズ 15．グループワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★★	★	★★

年度	2015	授業コード	JC1140140
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高める。また、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を学びあい、実技指導・実践能力を高める。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力につなげる。できれば健康スポーツ理論の受講を進めます。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学ぼう。		
教材（テキスト）	教養としての身体運動・健康科学 東京大学身体運動科学研究室		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	レポート及び提出物		
到達目標	１．運動を楽しむ ２．グループで協力して、役割を果たせる。 ３．運動を計画的に実施できる。 ４．集団をまとめることができる。 ５．準備、片付け、安全管理ができる		
準備学習	各グループで計画的に練習できるよう事前準備をしてください。 運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。		
受講者への要望			
２時間（１８０分）の連続授業です。体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方、ルールについての説明。 ２．講義　グループ分けと役割分担　エアロビクスダンス ３．バドミントン ４．レクリエーション ５．バドミントン ６．レクリエーション ７．バスケットボール ８．卓球 ９．バスケットボール 10．卓球 11．バレーボール 12．ローンボウルズ 13．バレーボール 14．ローンボウルズ 15．グループワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★★	★	★★

年度	2015	授業コード	JC1140201
科目名	健康スポーツ理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
講義概要	生涯における健康スポーツは健康維持・増進、疾病の予防、精神疾患の予防のために重要となってきている。生活習慣病による死亡率は高い。また、ストレスによる精神疾患の発症も増加しており、これらの疾患を予防するための運動の知識や実践は重要となっている。スライド・動画・印刷物を使用した講義を通じて健康のあり方、栄養管理のあり方、生活習慣病・癌、スポーツ障害、救急医療、健康管理の考え方などの基礎知識を学修する。臨床例をケースとした講義を通じて学生自身による健康管理や指導者の育成も目指す。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『新・健康スポーツの科学』（晃洋書房）　吉中康子 他 著 2,268 円 『健康・スポーツ科学講義』（杏林書院）　出村愼一 監修 2,700 円 『スポーツ医学研修ハンドブック［基礎科目］』（文光堂）　公益財団法人日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会 監修 4,104 円 『スポーツ医学研修ハンドブック［応用科目］』（文光堂）　公益財団法人日本体育協会 指導者育成専門委員会スポーツドクター部会 監修 4,860 円		
教材（その他）			
評価方法	課題レポートの評価を 60%、学習態度、テストなどを 40%とする。		
到達目標	健康の概念を把握し、健康の維持・増進について理解する。		
準備学習	厚生労働省の健康関連情報について、チェックしておくこと。		

受講者への要望

質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。
講義中は静粛に願います。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション・健康とは何か・健康づくり施策
2．栄養摂取と運動
3．骨の病気、筋肉の病気
4．放射線の ABC・被曝の基礎知識・緊急被曝ガイド（美藤先生・水田先生）
5．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 1
6．人体の解剖・画像解剖（美藤先生・水田先生）
7．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 2
8．生活習慣病としての発癌
9．運動療法の基礎
10．解剖学とストレッチ（木下先生）
11．心臓病と高血圧・動脈硬化の運動療法
12．スポーツ障害と画像診断
13．運動負荷試験
14．運動プログラムの管理
15．健康管理、まとめ

京都府立医科大学放射線科の美藤先生、水田先生、京都メディカルクラブ 木下先生（日本体育協会公認アスレティックトレーナー）に講義をお願いしています。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JC1140202
科目名	健康スポーツ理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
講義概要	生涯における健康スポーツは健康維持・増進、疾病の予防、精神疾患の予防のために重要となってきている。生活習慣病による死亡率は高い。また、ストレスによる精神疾患の発症も増加しており、これらの疾患を予防するための運動の知識や実践は重要となっている。スライド・動画・印刷物を使用した講義を通じて健康のあり方、栄養管理のあり方、生活習慣病・癌、スポーツ障害、救急医療、健康管理の考え方などの基礎知識を学修する。臨床例をケースとした講義を通じて学生自身による健康管理や指導者の育成も目指す。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『新・健康スポーツの科学』(晃洋書房) 『健康・スポーツ科学講義』(杏林書院) 『スポーツ医学研修ハンドブック(基礎科目・応用科目)』　(文光堂)		
教材（その他）			
評価方法	課題レポートの評価を 60%、学習態度、テストなどを 40%とする。		
到達目標	健康の概念を把握し、健康の維持・増進について理解する。		
準備学習	厚生労働省の健康関連情報について、チェックしておくこと。		
受講者への要望			
質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。 講義中は静粛に願います。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション・健康とは何か・健康づくり施策 2. 栄養摂取と運動 3. 骨の病気、筋肉の病気 4. 放射線の ABC・被曝の基礎知識・緊急被曝ガイド(美藤先生・水田先生) 5. 生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 1 6. 人体の解剖・画像解剖(美藤先生・水田先生) 7. 生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 2 8. 生活習慣病としての発癌 9. 解剖学とストレッチ(木下先生) 10. 運動療法の基礎 11. 心臓病と高血圧・動脈硬化の運動療法 12. スポーツ障害と画像診断 13. 運動負荷試験 14. 運動プログラムの管理 15. 健康管理、まとめ 京都府立医科大学放射線科の美藤先生、水田先生、京都メディカルクラブ　木下先生(日本体育協会公認 アスレティックトレーナー)に講義をお願いしています。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JC1140203
科目名	健康スポーツ理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の３分の２が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約６割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで２位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。春学期にスポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学んでください。		
教材（テキスト）	『教養としての身体運動・健康科学』（東京大学出版会）　東京大学身体運動科学研究室 編 2,592 円		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ 健康運動実践指導者テキスト		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。		
受講者への要望			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを５点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
講義の順序とポイント			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労 １３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1140204
科目名	健康スポーツ理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の３分の２が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約６割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで２位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。春学期にスポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学んでください。		
教材（テキスト）	『教養としての身体運動・健康科学』（東京大学出版会）　東京大学身体運動科学研究室 編 2,592 円		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ 健康運動実践指導者テキスト		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。		
受講者への要望			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを５点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
講義の順序とポイント			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労 １３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1140301
科目名	食の安全安心	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	植野　洋志	旧科目名称	
講義概要	「食」は衣食住という私たちの生活における基本要素のなかでは，ヒトの生命（いのち）そのものに直接関与する重要な要素である．どのように「食」が生命とかかわるかを理解しないと，安全安心の概念は生じない． 本講義では，「食」を１）食素材から食品という製品として，２）食物として体内に取り込み，代謝されるとき，３）外部環境要因がいかに１）や２）に関与するか，という点を中心に理解を深めることになる． 一般に知られている食の安全安心という言葉の意味をより正確にとらえるためには，「食」のもつ性質を知る必要がある．食の性質とは，もちろん，物質としての概念であろう．食素材は化学物質としてとらえないとだめで，その本質は，食素材が物質変換（化学反応）することに他ならない．一般教養として，食素材がどのように変化するのかを理解し，いわゆる発酵や腐敗という言葉が何を意味するのかを本質的に判ることを目標とする． 近年，「食」と安全で話題になっている鳥インフルエンザ，遺伝子組み換え食品，バイオ燃料といった内容にも触れる予定でいる．		
教材（テキスト）	別に用いない		
教材（参考文献）	補足プリントと e-ラーニング		
教材（その他）			
評価方法	定期試験の成績（80%），小テスト（10%），と平常点（10%）に総計して評価する．		
到達目標	生命現象，そのなかで「食」については，化学というツールで眺めることが大切である．化学というツールで地球上で生息する生物を眺めると，共通する基本概念が見えてくる．生命の大原則と「食」が密接につながっていること，また，その関連性に影響をあたえるようが現象が安全安心という側面から理解することができる．このような自然のなかの関連性に気づくことが本講義の目標である．		
準備学習	予習については，事前に講義についての概要を説明するので，ネット検索をして予備知識をもつこと．当日は，簡単な小テストにて学習度のチェックを行う．復讐に関しては，不定期に小テストを実施する．また，ネットを利用して，教材（配布プリントと授業でのパワポ）を閲覧できるようにする．		
受講者への要望			
一般教養的内容なのと，生活と密接に関係するので，講義中の話題がいろんな方向に飛ぶことがある．きちんとノートやメモをとること．質問はできるだけその場でするように心がけよう．積極的な授業への参加が望ましい．			
講義の順序とポイント			
1〜2. ヒトと微生物を例にとり細胞の構造と役割について理解する 3〜4. 細胞がどのように生きるか，増殖について学び，ヒトと微生物で共通な概念を習得する 5〜6. 生命体の栄養源である食素材について，加工を含めて性質を学ぶ 7〜8. 食素材がもたらす効果（たとえば，食中毒）について，安全安心の観点と分子生物学の観点から眺める 9〜10. 食品の保存・保蔵の基礎と原理 11〜12. 食品が生体内でどのようになるか（代謝），その仕組みが環境因子により影響をうけることを理解する 13〜15. 食にまつわる制約（法律や規則），輸入食品の安全性，農薬とはなど広く生活に関係する話題を共有する			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JC1140302
科目名	食の安全安心	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	瀧井　幸男	旧科目名称	
講義概要	この数年、我が国の「食の安全安心」を根底から揺るがし、消費者の信頼を失うような事態が相次いで発生した。それは有名な食品製造業、ホテル、レストランが起こした「食品素材偽装」や「消費期限」の意図的な改変である。現代の大都市で生活する消費者は基本的には「食べる人」であり、手のかかる食品を「作る人」ではないので、消費者は、食品の包装表示を信用するか、レストランのメニューで判断して食事をするしかない。つまり「食品偽装」はいわば、生産者と消費者の間の適正なコミュニケーションが失われた結果にほかならない。 　農水産物の生産地と消費者の居住地は、時間的にも距離的にも離れていることが多く（フード・マイレージ)、消費者が食品を口にするまでに、食品は適正に保蔵管理されていることが必須である。これができなければ「食の安全・安心」を脅かす原因となることを理解しょう。 　放射性物質による食品汚染や残留農薬については、食品衛生法などの法的規制を受けるとともに、公的な機関が測定・提供するデータによって、初めて正確な事実認定と議論がなされうることを学習する。 　病原性微生物による食中毒症の原因とその対処法を正しく学び、身の周りに生息する微生物との共生という良い関係を保てば、いたずらに食の不安を煽る必要はないと考えられる。それ以上に注意すべきことは、いつまで置いてもカビが生えず腐らない食品に、どのような殺菌剤や保存剤がどれだけ含まれているかに留意しょう。微生物は人間と同じ生き方をするので（到達目標参照)、微生物が生えない食材は別の意味で危険であることを知っておく。 　身の回りで実際におきている現象についてできるだけわかりやすく、化学記号や化学式を使わないで講義していきたい。		
教材（テキスト）	食の安全と健康　改訂版　（わかくさ印刷　出版）		
教材（参考文献）	補足プリント、授業中に適宜配布する。		
教材（その他）			
評価方法	定期試験の成績（８０％)、小テスト（１０％）に平常点（１０％）を総計して評価する。		
到達目標	食の「安全」はデーターとして数値化され公正に評価できるが、「安心」は個人の考え方で左右され、一定の尺度がないことを学んでほしい。地球上に生息する生物は、人間とほとんど同じ生き方、すなわち生命の大原則（セントラル・ドグマ）に従うので、人間と微生物は共に生きる良い「共生」関係か、あるいは相手をライバルとして捉える「拮抗関係」のいずれかをとる事実を学習する。		
準備学習	授業開始前に、教員が予告している範囲を中心に読み、できればキーワードを基に内容をまとめるようにする。理解しにくい所があれば、箇条書きで整理する（５０％)。さらに、図書館等でキーワードを手がかりとして検索し、テキストの内容の把握に努める（３０％)。授業中、もしくは授業後に教員に質問して学習するよう努める（３０点)。授業仲間と討論して、お互いの理解度を把握する（２０％)。		

受講者への要望

テキストは常に講義に携行することが望ましい。板書のほか、講義中に補足プリントを配布して説明する。
定期試験及び小テストでは、テキストおよびプリントの持ち込みを許可します。

講義の順序とポイント

1~2．人間と微生物の細胞の構造と役割（特に仲間を増やすシステムの違いを理解しょう)。
3~4．両者は同じ生き方をする。言い換えれば、人間の食べ物は微生物にとっても栄養豊富な生育できる培地である。いわば人間と微生物はその食材をめぐって常に生命をかけて闘うライバルである（腐敗と発酵の違いを生む)。
5~6．微生物にとって水は人間と同じ最も大切な成分であり、この供給を断てば病原性微生物は生き残れない。
　　（ﾃｲｰバッグ、漬けもの、砂糖漬けなど、水分をできるだけ除いた食品が室温で保存できることを知る)。
7~8．病原性微生物は人間のごく身近に存在し、人間と同じ生き方をとるのでこれらを体内に入れてはいけない。
　　（摂取した微生物が善玉腸内細菌の活動を抑制し、腸内環境悪化の原因となりうることを理解する)。
9~10．滅菌、殺菌、消毒、除菌の定義と用途についてしっかり把握する。（適正に使い分ければ食の安全が守られることを理解する)。
11~12．食品の安全に関する法律や規則を学ぶ（食の安全を公平に数値データで評価できることを知る)。
13~15．生命の生き方の原則は、親から子、子から孫へと伝えられる遺伝子 DNA の設計図に存在する。これを崩すような行動（発

がん物質との恒常的接触、喫煙、紫外線照射を浴び続ける等）は大切な設計図を傷つけ次の世代に引き継がれうるので、できる限り避けることが肝要である。

結論として、人間は微生物とともに生きるよい関係を構築して初めて、安全で健康な生命活動を営めることを学んでほしい。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1140402
科目名	ヘルスプロモーション	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは心身の発達を健全に促す手立てとして、またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている。 しかし、国民の 2/3 は運動習慣が身についていないという報告もある。また死亡原因でも生活習慣病が約 6 割（がん 30.5%、虚血性心疾患 15.7%、脳血管疾患 13.0%、糖尿病 1.3%、高血圧性疾患 0.6%）を占め、医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。このような現状と、国の施策や地域での取り組みを紹介し、各自の生活スタイル改善を促す。		
教材（テキスト）	『健康科学―知っておきたい予防医学』（丸善出版）　津田謹輔 著 2,052 円		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成講習会テキスト（上、下)』（健康体力づくり事業財団） 『健康運動指導士養成講習会用テキスト』（健康体力づくり事業財団）		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	レポート（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解し、生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	授業のテキスト（レジュメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業 1 週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の最後に授業内容についてのミニレポート（10 分間）を記入し、提出させる。必ず復習をし、授業をしっかり聞き、健康理論を自分のものとすること。		

受講者への要望

日頃から、自分のライフスタイル（運動や食生活）に関心を持つこと。
講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。遅刻や早退はしない。
講義で得た知識を用いてより健康を増進させるためのライフスタイルを実践・確立してほしい。

講義の順序とポイント

１．健康の定義とヘルスプロモーション
２．長寿・超高齢化の現状と、現代の健康課題
３．がんと日常生活
４．動脈硬化と日常生活
５．糖尿病と日常生活
６．肥満・肥満症と日常生活
７．倹約遺伝子とメタボリックシンドローム
８．ロコモーティブシンドローム、介護予防
９．こころの健康と日常生活
１０．日本人の食生活の変遷と課題
１１．何をどのように食べるのか？　食事摂取基準について
１２．健康づくりのための人材育成と健康づくりのための身体活動基準・アクティブガイド
１３．スポーツ推進のための国の施策・地域での活動
１４．セーフティプロモーションと外傷予防
１５．まとめ:健康づくりのために若い時から気をつけたいこと

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1140403
科目名	ヘルスプロモーション	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションとは自らの力、住民組織の力、支援する行政が組み合わさって、健康的な生活習慣の実践、社会参加を通して豊かな人生を送れるようにする事である。スライド・動画・印刷物を使用した講義を通じてヘルスプロモーションの基礎知識を学修する。ヘルスプロモーションの歴史・考え方、大学生の健康のあり方、男性・女性の健康のあり方、各世代の健康のあり方を学修する。さらに、認知症予防、精神疾患予防、癌・生活習慣病の予防、アンチエイジングの考え方、健康管理の考え方についても学修する。		
教材（テキスト）	特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	『健康なくに 2011』（医療文化社） 地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター 編 2,570 円 『災害時のヘルスプロモーション』（荘道社） 山本保博 監修 2,052 円 『健康科学ヘルスプロモーションの理念』（犀書房） 和田雅史 著 2,057 円 『学生と健康』（南江堂） 国立大学法人保健管理施設協議会 監修 2,160 円		
教材（その他）			
評価方法	課題レポートの評価を 60%、学習態度、テストなどを 40%とする。		
到達目標	健康とは何か、健康のために何をすべきかを理解する。		
準備学習	厚生労働省や関連のホームページを紹介するので見ておくこと。		
受講者への要望			
健康は個人だけの課題ではなく、社会全体の問題である事を感じてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．　ヘルスプロモーションの歴史・ヘルスプロモーションとは何か ２．　食生活・栄養とヘルスプロモーション ３．　脳血管障害とヘルスプロモーション ４．　大学生の健康１ ５．　大学生の健康２ ６．　男性更年期・女性更年期のヘルスプロモーション ７．　熟年・高齢の健康 ８．　がんとヘルスプロモーション ９．　心身医学、精神衛生学とヘルスプロモーション １０．心臓疾患患者とヘルスプロモーション １１．肥満とヘルスプロモーション １２．認知症とヘルスプロモーション １３．健康診断と健康管理 １４．病気を画像で見る １５．身体活動とアンチエイジング			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2015	授業コード	JC1140404
科目名	ヘルスプロモーション	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは心身の発達を健全に促す手立てとして、またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている。 しかし、国民の 2/3 は運動習慣が身についていないという報告もある。また死亡原因でも生活習慣病が約 6 割（がん 30.5%、虚血性心疾患 15.7%、脳血管疾患 13.0%、糖尿病 1.3%、高血圧性疾患 0.6%）を占め、医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。このような現状と、国の施策や地域での取り組みを紹介し、各自の生活スタイル改善を促す。		
教材（テキスト）	『健康科学―知っておきたい予防医学』（丸善出版）　津田謹輔 著 2,052 円		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成講習会テキスト（上、下)』（健康体力づくり事業財団） 『健康運動指導士養成講習会用テキスト』（健康体力づくり事業財団）		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	レポート（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解し、生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	授業のテキスト（レジュメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業 1 週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の最後に授業内容についてのミニレポート（10 分間）を記入し、提出させる。必ず復習をし、授業をしっかり聞き、健康理論を自分のものとすること。		

受講者への要望

日頃から、自分のライフスタイル（運動や食生活）に関心を持つこと。
講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。遅刻や早退はしない。
講義で得た知識を用いてより健康を増進させるためのライフスタイルを実践・確立してほしい。

講義の順序とポイント

1．健康の定義とヘルスプロモーション
2．長寿・超高齢化の現状と、現代の健康課題
3．がんと日常生活
4．動脈硬化と日常生活
5．糖尿病と日常生活
6．肥満・肥満症と日常生活
7．倹約遺伝子とメタボリックシンドローム
8．ロコモーティブシンドローム、介護予防
9．こころの健康と日常生活
10．日本人の食生活の変遷と課題
11．何をどのように食べるのか？　食事摂取基準について
12．健康づくりのための人材育成と健康づくりのための身体活動基準・アクティブガイド
13．スポーツ推進のための国の施策・地域での活動
14．セーフティプロモーションと外傷予防
15．まとめ:健康づくりのために若い時から気をつけたいこと

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1140405
科目名	ヘルスプロモーション	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションとは自らの力、住民組織の力、支援する行政が組み合わさって、健康的な生活習慣の実践、社会参加を通して豊かな人生を送れるようにする事である。スライド・動画・印刷物を使用した講義を通じてヘルスプロモーションの基礎知識を学修する。ヘルスプロモーションの歴史・考え方、大学生の健康のあり方、男性・女性の健康のあり方、各世代の健康のあり方を学修する。さらに、認知症予防、精神疾患予防、癌・生活習慣病の予防、アンチエイジングの考え方、健康管理の考え方についても学修する。		
教材（テキスト）	特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	『健康なくに 2011』（医療文化社） 地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター 編 2,570 円 『災害時のヘルスプロモーション』（荘道社） 山本保博 監修 2,052 円 『健康科学ヘルスプロモーションの理念』（犀書房） 和田雅史 著 2,057 円 『学生と健康』（南江堂） 国立大学法人保健管理施設協議会 監修 2,160 円		
教材（その他）			
評価方法	課題レポートの評価を 60%、学習態度、テストなどを 40%とする。		
到達目標	健康とは何か、健康のために何をすべきかを理解する。		
準備学習	厚生労働省や関連のホームページを紹介するので見ておくこと。		
受講者への要望			
健康は個人だけの課題ではなく、社会全体の問題である事を感じてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．　ヘルスプロモーションの歴史・ヘルスプロモーションとは何か ２．　食生活・栄養とヘルスプロモーション ３．　脳血管障害とヘルスプロモーション ４．　大学生の健康１ ５．　大学生の健康２ ６．　男性更年期・女性更年期のヘルスプロモーション ７．　熟年・高齢の健康 ８．　がんとヘルスプロモーション ９．　心身医学、精神衛生学とヘルスプロモーション １０．心臓疾患患者とヘルスプロモーション １１．肥満とヘルスプロモーション １２．認知症とヘルスプロモーション １３．健康診断と健康管理 １４．病気を画像で見る １５．身体活動とアンチエイジング			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2015	授業コード	JC1210101
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（40%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 14．PowerPoint スライドの作成 15．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2015	授業コード	JC1210102
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（40%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
14．PowerPoint スライドの作成
15．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2015	授業コード	JC1210103
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（40%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
14．PowerPoint スライドの作成
15．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2015	授業コード	JC1210104
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（40%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
14．PowerPoint スライドの作成
15．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2015	授業コード	JC1210105
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（40%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
14．PowerPoint スライドの作成
15．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2015	授業コード	JC1210106
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（40%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 14．PowerPoint スライドの作成 15．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2015	授業コード	JC1210107
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（40%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 14．PowerPoint スライドの作成 15．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2015	授業コード	JC1210108
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（40%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 14．PowerPoint スライドの作成 15．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2015	授業コード	JC1210109
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（40%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
14．PowerPoint スライドの作成
15．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2015	授業コード	JC1210110
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（40%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 14．PowerPoint スライドの作成 15．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2015	授業コード	JC1210111
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（40%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 14．PowerPoint スライドの作成 15．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2015	授業コード	JC1210112
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（40%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 14．PowerPoint スライドの作成 15．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2015	授業コード	JC1210113
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（40%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
14．PowerPoint スライドの作成
15．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2015	授業コード	JC1210114
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（40%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 14．PowerPoint スライドの作成 15．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2015	授業コード	JC1210115
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（40%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 14．PowerPoint スライドの作成 15．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2015	授業コード	JC1210116
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（40%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
14．PowerPoint スライドの作成
15．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2015	授業コード	JC1210117
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（40%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 14．PowerPoint スライドの作成 15．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2015	授業コード	JC1210118
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（40%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 14．PowerPoint スライドの作成 15．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2015	授業コード	JC1210131
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習Ⅰ
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning(大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム)による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．情報基礎（1）：情情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2．情報基礎（2）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3．情報通信（1）：WEB ブラウザを用いたインターネットの利用
4．文書処理（1）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5．文書処理（2）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6．文書処理（3）：文書作成ソフトによる文章の構造化
7．文書処理（4）：文書作成ソフトによる文書の体裁とオブジェクトの作成
8．データ処理基礎（1）：表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存
9．データ処理基礎（2）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
10．データ処理基礎（3）：表計算ソフトでのグラフの作成
11．データ処理基礎（4）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
12．情報表現基礎（1）：プレゼンテーションの基礎（1）、プレゼンテーションソフトの基礎
13．情報表現基礎（2）：プレゼンテーションの基礎（2）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現
14．情報表現基礎（3）：プレゼンテーションの作成
15．情報表現基礎（4）：プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★★		

年度	2015	授業コード	JC1210132
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習Ⅰ
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning(大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム)による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（100％）		
到達目標	（ａ）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （ｂ）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （ｃ）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （ｄ）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．情報基礎（1）：情情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2．情報基礎（2）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3．情報通信（1）：WEB ブラウザを用いたインターネットの利用
4．文書処理（1）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5．文書処理（2）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6．文書処理（3）：文書作成ソフトによる文章の構造化
7．文書処理（4）：文書作成ソフトによる文書の体裁とオブジェクトの作成
8．データ処理基礎（1）：表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存
9．データ処理基礎（2）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
10．データ処理基礎（3）：表計算ソフトでのグラフの作成
11．データ処理基礎（4）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
12．情報表現基礎（1）：プレゼンテーションの基礎（1）、プレゼンテーションソフトの基礎
13．情報表現基礎（2）：プレゼンテーションの基礎（2）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現
14．情報表現基礎（3）：プレゼンテーションの作成
15．情報表現基礎（4）：プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★		

年度	2015	授業コード	JC1210133
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　真理子	旧科目名称	パソコンⅠ
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）	富士通エフ・オー・エム出版　『情報リテラシー』　ＦＯＭ出版　2000 円		
教材（参考文献）	嶋貫　健司　著　『実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書』カットシステム　2500 円		
教材（その他）	・「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） ・e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）によるよくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講者への要望

論理的?数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1.情報基礎（１）:情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2.情報基礎（２）:メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3.情報通信（１）:WEB ブラウザを用いたインターネットの利用
4.文書処理（１）:文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5.文書処理（２）:文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6.文書処理（３）:文書作成ソフトによる文章の構造化
7.文書処理（４）:文書作成ソフト文書の体裁とオブジェクトの作成
8.データ処理基礎（１）:表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存
9.データ処理基礎（２）:表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
10.データ処理基礎（３）:表計算ソフトでのグラフの作成
11.データ処理基礎（４）:文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
12.情報表現基礎（１）:プレゼンテーションの基礎（１）、プレゼンテーションソフトの基礎
13.情報表現基礎（２）:プレゼンテーションの基礎（２）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現
14.情報表現基礎（３）:プレゼンテーションの作成
15.情報表現基礎（４）:プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	JC1210134
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　真理子	旧科目名称	パソコンⅠ
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）	富士通エフ・オー・エム出版　『情報リテラシー』　ＦＯＭ出版　2000 円		
教材（参考文献）	嶋貫　健司　著　『実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書』カットシステム　2500 円		
教材（その他）	・「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） ・e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）によるよくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講者への要望

論理的?数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1.情報基礎（１）:情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2.情報基礎（２）:メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3.情報通信（１）:WEB ブラウザを用いたインターネットの利用
4.文書処理（１）:文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5.文書処理（２）:文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6.文書処理（３）:文書作成ソフトによる文章の構造化
7.文書処理（４）:文書作成ソフト文書の体裁とオブジェクトの作成
8.データ処理基礎（１）:表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存
9.データ処理基礎（２）:表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
10.データ処理基礎（３）:表計算ソフトでのグラフの作成
11.データ処理基礎（４）:文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
12.情報表現基礎（１）:プレゼンテーションの基礎（１)、プレゼンテーションソフトの基礎
13.情報表現基礎（２）:プレゼンテーションの基礎（２)、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現
14.情報表現基礎（３）:プレゼンテーションの作成
15.情報表現基礎（４）:プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	JC1210135
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習Ⅰ
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning(大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム)による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．情報基礎（1）：情情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2．情報基礎（2）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3．情報通信（1）：WEB ブラウザを用いたインターネットの利用
4．文書処理（1）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5．文書処理（2）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6．文書処理（3）：文書作成ソフトによる文章の構造化
7．文書処理（4）：文書作成ソフトによる文書の体裁とオブジェクトの作成
8．データ処理基礎（1）：表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存
9．データ処理基礎（2）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
10．データ処理基礎（3）：表計算ソフトでのグラフの作成
11．データ処理基礎（4）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
12．情報表現基礎（1）：プレゼンテーションの基礎（1）、プレゼンテーションソフトの基礎
13．情報表現基礎（2）：プレゼンテーションの基礎（2）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現
14．情報表現基礎（3）：プレゼンテーションの作成
15．情報表現基礎（4）：プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★★		

年度	2015	授業コード	JC1210136
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習Ⅰ
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning(大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム)による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．情報基礎（1）：情情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2．情報基礎（2）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3．情報通信（1）：WEB ブラウザを用いたインターネットの利用
4．文書処理（1）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5．文書処理（2）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6．文書処理（3）：文書作成ソフトによる文章の構造化
7．文書処理（4）：文書作成ソフトによる文書の体裁とオブジェクトの作成
8．データ処理基礎（1）：表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存
9．データ処理基礎（2）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
10．データ処理基礎（3）：表計算ソフトでのグラフの作成
11．データ処理基礎（4）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
12．情報表現基礎（1）：プレゼンテーションの基礎（1）、プレゼンテーションソフトの基礎
13．情報表現基礎（2）：プレゼンテーションの基礎（2）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現
14．情報表現基礎（3）：プレゼンテーションの作成
15．情報表現基礎（4）：プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★★		

年度	2015	授業コード	JC1210201
科目名	情報セキュリティ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	インターネットの普及とともに，ネットワークの世界も，サーバを攻撃対象とする不正アクセス，ユーザを対象とする詐欺など，現実の社会と同じような危険に直面している。脅威と対策に関するいくつかの事例をオープンソースの OS である Linux 上で実験することにより，セキュリティに対する具体的な理解を深めていく。		
教材（テキスト）	教科書： 独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　540 円		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（60%）、その理解度を確認するレポート試験（40%）、この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	ネットワークにおける脅威と対策の基本を習得すること。		
準備学習	普段から新聞・テレビ・インターネットなどで取り上げられるネットワーク上の脅威・リスク・事件に注意をはらっておくこと。		

受講者への要望

第一に実習においてキーボード入力（アルファベット）が必要なので、標準的なスピードでタイピングが出来ること。
第二に大学の電子メールのＩＤを取得し、使い方を理解していること。
簡潔に書かれたテキストを採用していますので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.今日のセキュリティリスク
2.情報セキュリティの基礎
3.マルウェア(コンピュータウィルス)
4.見えない脅威とその対策
5.組織の一員としての情報セキュリティ対策
6.実際のセキュリティ対策
7.セキュリティ技術
8.情報セキュリティの基本についてのまとめと演習
9.暗号
10.電子認証
11.暗号化通信 1
12.暗号化通信 2
13.ファイアウォール
14.情報セキュリティ関連の法規と制度
15.情報セキュリティのまとめと現在の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1210202
科目名	情報セキュリティ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	なし
講義概要	インターネットの普及とともに，ネットワークの世界も，サーバを攻撃対象とする不正アクセス，ユーザを対象とする詐欺など，現実の社会と同じような危険に直面している。脅威と対策に関するいくつかの事例をオープンソースの OS である Linux 上で実験することにより，セキュリティに対する具体的な理解を深めていく。		
教材（テキスト）	独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　500 円(税別)		
教材（参考文献）	『情報モラル＆情報セキュリティ』　ＦＯＭ出版　500 円(税別)		
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（60%）、その理解度を確認するレポート試験（40%）、この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	ネットワークにおける脅威と対策の基本を習得すること。		
準備学習	普段から新聞・テレビ・インターネットなどで取り上げられるネットワーク上の脅威・リスク・事件に注意をはらっておくこと。		

受講者への要望

授業内でキーボード入力（アルファベット）、キータッチ入力が必要なので、標準的なスピードでタイピングが出来ること。
また、大学の電子メールのＩＤを取得し、使い方を理解していること。
簡潔に書かれたテキストを採用していますので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.今日のセキュリティリスク
2.情報セキュリティの基礎
3.マルウェア(コンピュータウィルス)
4.見えない脅威とその対策
5.組織の一員としての情報セキュリティ対策
6.実際のセキュリティ対策
7.セキュリティ技術
8.Linux でのセキュリティ技術
9.暗号
10.電子認証
11.暗号化通信 1
12.暗号化通信 2
13.ファイアウォール
14.情報セキュリティ関連の法規と制度
15.情報セキュリティのまとめと現在の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1210301
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（テキスト）	情報リテラーシーと同じ教科書を使用する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。		
準備学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価
　話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術
15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1210302
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（テキスト）	情報リテラーシーと同じ教科書を使用する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。		
準備学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価
　話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術
15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1210303
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（テキスト）	情報リテラーシーと同じ教科書を使用する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。		
準備学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価
　話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術
15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1210304
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（テキスト）	情報リテラーシーと同じ教科書を使用する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。		
準備学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価
　話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術
15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1210305
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（テキスト）	情報リテラーシーと同じ教科書を使用する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。		
準備学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。			
講義の順序とポイント			
1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作 2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成 3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成 4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した 　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加 5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と 　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成 6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定 各種機器への対応 7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成 　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立） 　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成] 8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影） 9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料） 10.プレゼン資料作成：発表資料作成 　課題演習[スライドを仕様に従い修正] 11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して 　演習[プレゼン資料の作成] 12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出 　課題演習[スライドを仕様に従い修正] 13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価 　話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術 15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1210331
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習 Ⅱ
講義概要	情報処理実習Ⅰで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『Excel で学ぶ基礎物理学 ― Excel 2010/2007 対応版 ― 』 新田 英雄　監修、 山本 将史　著（オーム社）2,800 円 『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning(大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム)による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し，動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論 2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権 3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現 4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ 5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理 6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化 7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化 8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA 9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式 10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式 11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成 12．情報機器応用（3）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った数学の学習（1）数式の数表化 13．情報機器応用（4）：表計算ソフトを使った数学の学習（2）数式のグラフ化 14．情報機器応用（5）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った物理シミュレーション（1） 15．情報機器応用（6）：表計算ソフトを使った物理シミュレーション（2）結果の整理と表現		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★		★

年度	2015	授業コード	JC1210332
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習 Ⅱ
講義概要	情報処理実習Ⅰで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『Excel で学ぶ基礎物理学 ― Excel 2010/2007 対応版 ― 』 新田 英雄　監修、 山本 将史　著（オーム社）2,800 円 『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning(大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム)による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し，動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論
2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権
3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ
5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理
6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化
7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化
8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式
10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式
11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成
12．情報機器応用（3）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った数学の学習（1）数式の数表化
13．情報機器応用（4）：表計算ソフトを使った数学の学習（2）数式のグラフ化
14．情報機器応用（5）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った物理シミュレーション（1）
15．情報機器応用（6）：表計算ソフトを使った物理シミュレーション（2）結果の整理と表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★		★

年度	2015	授業コード	JC1210333
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　真理子	旧科目名称	パソコンII
講義概要	情報処理実習Ｉで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	富士通エフ・オー・エム出版　『情報リテラシー』　ＦＯＭ出版　2000 円		
教材（参考文献）	新田 英雄 監修　山本　将史　著　『Excel で学ぶ基礎物理学　Excel２０１０/２００７対応版』　オーム社　2800 円 嶋貫　健二　著　『実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書』カットシステム　2500 円		
教材（その他）	・「パソコン利用ガイドブック」(大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル) ・e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）によるよくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講者への要望

論理的?数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1.情報機器応用（１）:情報処理実習概論
2.情報機器応用（２）:ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権
3.情報表現応用（１）:表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4.データ処理応用（１）:表計算ソフトによる実験・観察データの表現（１）数表とグラフ
5.データ処理応用（２）:表計算ソフトによる実験・観察データの表現（２）多数データの統計的処理
6.データ処理応用（３）:表計算ソフトの様々な機能（１）データ処理の省力化
7.データ処理応用（４）:表計算ソフトの様々な機能（２）繰り返し作業のプログラム化
8.データ処理応用（５）:プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9.情報表現応用（２）:長文レポート作成（１）レポートの形式
10.情報表現応用（３）:長文レポート作成（２）データ表現の形式
11.情報表現応用（４）:インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成
12.情報機器応用（３）:学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用 - 表計算ソフトを使った数学の学習（１）数式の数表化
13.情報機器応用（４）:表計算ソフトを使った数学の学習（２）数式のグラフ化
14.情報機器応用（５）:学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用 - 表計算ソフトを使った物理シミュレーション（１）
15.情報機器応用（６）:表計算ソフトを使った物理シミュレーション（２）結果の整理と表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★		★

年度	2015	授業コード	JC1210334
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　真理子	旧科目名称	パソコンII
講義概要	情報処理実習Ｉで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	富士通エフ・オー・エム出版　『情報リテラシー』　ＦＯＭ出版　2000 円		
教材（参考文献）	新田 英雄 監修　山本　将史　著　『Excel で学ぶ基礎物理学　Excel２０１０/２００７対応版』　オーム社　2800 円 嶋貫　健二　著　『実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書』カットシステム　2500 円		
教材（その他）	・「パソコン利用ガイドブック」(大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル) ・e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）によるよくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講者への要望

論理的?数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1.情報機器応用（１）:情報処理実習概論
2.情報機器応用（２）:ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権
3.情報表現応用（１）:表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4.データ処理応用（１）:表計算ソフトによる実験・観察データの表現（１）数表とグラフ
5.データ処理応用（２）:表計算ソフトによる実験・観察データの表現（２）多数データの統計的処理
6.データ処理応用（３）:表計算ソフトの様々な機能（１）データ処理の省力化
7.データ処理応用（４）:表計算ソフトの様々な機能（２）繰り返し作業のプログラム化
8.データ処理応用（５）:プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9.情報表現応用（２）:長文レポート作成（１）レポートの形式
10.情報表現応用（３）:長文レポート作成（２）データ表現の形式
11.情報表現応用（４）:インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成
12.情報機器応用（３）:学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用 - 表計算ソフトを使った数学の学習（１）数式の数表化
13.情報機器応用（４）:表計算ソフトを使った数学の学習（２）数式のグラフ化
14.情報機器応用（５）:学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用 - 表計算ソフトを使った物理シミュレーション（１）
15.情報機器応用（６）:表計算ソフトを使った物理シミュレーション（２）結果の整理と表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★		★

年度	2015	授業コード	JC1210335
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習 Ⅱ
講義概要	情報処理実習Ⅰで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『Excel で学ぶ基礎物理学 ― Excel 2010/2007 対応版 ― 』 新田 英雄　監修、 山本 将史　著（オーム社）2,800 円 『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning(大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム)による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し，動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論 2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権 3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現 4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ 5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理 6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化 7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化 8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA 9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式 10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式 11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成 12．情報機器応用（3）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った数学の学習（1）数式の数表化 13．情報機器応用（4）：表計算ソフトを使った数学の学習（2）数式のグラフ化 14．情報機器応用（5）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った物理シミュレーション（1） 15．情報機器応用（6）：表計算ソフトを使った物理シミュレーション（2）結果の整理と表現		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★		★

年度	2015	授業コード	JC1210336
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習 Ⅱ
講義概要	情報処理実習Ⅰで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『Excel で学ぶ基礎物理学 ― Excel 2010/2007 対応版 ― 』 新田 英雄　監修、 山本 将史　著（オーム社）2,800 円 『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning(大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム)による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し，動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論
2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権
3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ
5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理
6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化
7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化
8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式
10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式
11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成
12．情報機器応用（3）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った数学の学習（1）数式の数表化
13．情報機器応用（4）：表計算ソフトを使った数学の学習（2）数式のグラフ化
14．情報機器応用（5）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った物理シミュレーション（1）
15．情報機器応用（6）：表計算ソフトを使った物理シミュレーション（2）結果の整理と表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★		★

年度	2015	授業コード	JC1210401
科目名	情報社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Society		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報と社会の関わりを、多様な視点から概観し、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を論じ、今後の情報化社会を展望する。情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化、情報化が社会に及ぼす影響、情報機器の発達と生活・意識の変化、ネットワーク社会を支える情報技術、知っておくべき安全・安心のための知識について講義する。現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化に対応できる知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	講義時の小課題（10%）、レポート（35%）、定期試験（55%）		
到達目標	情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。		
準備学習	新聞・Web ページ等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に講義前には、任意の情報関連の事項を一件選択し、概要を他の人に説明できるように整理する。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事を素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。

講義の順序とポイント

1.消費社会と情報社会
情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化
マスメディアの多様化と情報環境の変化、ディジタル経済
2.情報技術
情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理
3.新しい情報技術
ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題
電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点
電子署名・電子認証、電子取引
4.情報システム
集中と分散、情報産業の多様化
コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業
5.情報と産業
情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化
企業倫理
高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット
6.情報と職業
労働・職業上の問題
情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質
職業と自己実現、職業観と職業意識
7.情報と個人
日常生活と情報システム、情報モラル、ディジタル格差
個人情報の保護、個人情報の取得・利用に際してのルール
知的財産、企業等による個人情報の利用
8.情報と著作権
情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権
知的所有権
9.情報と教育
人間形成、情報社会で求められる教育

情報環境、マルチメディア
10.IT 技術者
IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用
IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法
11.情報と通信
u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消
情報アクセスへの格差、情報格差
通信・放送の融合・連携
12.情報倫理 （1）
情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護
13.情報倫理 （2）
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール
個人情報の保護
14.情報化と社会 （1）
高度情報通信社会の諸課題
情報化とグローバル化に伴う生活の変化
15.情報化と社会 （2）
産業、社会生活、モラル、人との関わり
現代社会の情報の意義役割の理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JC1210402
科目名	情報社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Society		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報と社会の関わりを、多様な視点から概観し、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を論じ、今後の情報化社会を展望する。情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化、情報化が社会に及ぼす影響、情報機器の発達と生活・意識の変化、ネットワーク社会を支える情報技術、知っておくべき安全・安心のための知識について講義する。現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化に対応できる知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	講義時の小課題（10%）、レポート（35%）、定期試験（55%）		
到達目標	情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。		
準備学習	新聞・Web ページ等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に講義前には、任意の情報関連の事項を一件選択し、概要を他の人に説明できるように整理する。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事を素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。

講義の順序とポイント

1.消費社会と情報社会
情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化
マスメディアの多様化と情報環境の変化、ディジタル経済
2.情報技術
情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理
3.新しい情報技術
ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題
電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点
電子署名・電子認証、電子取引
4.情報システム
集中と分散、情報産業の多様化
コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業
5.情報と産業
情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化
企業倫理
高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット
6.情報と職業
労働・職業上の問題
情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質
職業と自己実現、職業観と職業意識
7.情報と個人
日常生活と情報システム、情報モラル、ディジタル格差
個人情報の保護、個人情報の取得・利用に際してのルール
知的財産、企業等による個人情報の利用
8.情報と著作権
情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権
知的所有権
9.情報と教育
人間形成、情報社会で求められる教育

情報環境、マルチメディア
10.IT 技術者
IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用
IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法
11.情報と通信
u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消
情報アクセスへの格差、情報格差
通信・放送の融合・連携
12.情報倫理 （1）
情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護
13.情報倫理 （2）
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール
個人情報の保護
14.情報化と社会 （1）
高度情報通信社会の諸課題
情報化とグローバル化に伴う生活の変化
15.情報化と社会 （2）
産業、社会生活、モラル、人との関わり
現代社会の情報の意義役割の理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JC1210501
科目名	情報と職業	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Occupation		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報通信技術は社会と職に大きな変化をもたらし、社会に影響を及ぼしている。このような情報化社会において、若者を取り巻く現状を多角的に捕え、現状を把握し、情報化社会での職業の意義と役割、自己のあり方、生き方と職業を論じる。大量の情報が交換蓄積され、利用される高度情報通信社会の中で、職業と自己のあり方、生き方と職業を考え、望ましい勤労観と職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択し、将来職業人として活躍するための情報に関する知識や技術、さらに情報通信をどのように活用していくか言及する。		
教材（テキスト）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況演習等（30%）、e-learning により課す課題評価（70%）		
到達目標	職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、白書や今週の指標等の Web ページは週 1 回以上閲覧し、短く説明できるように整理する。		

受講者への要望

本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、任意の時間にｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室で受講のこと。学期 の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意志がないものとみなす場合がある。能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1．白書等から、若者を取り巻く現状
　職業の意義と役割
　職業とキャリア
1-1．職業指導とは何か
　学習指導要領の規定
2．情報産業の現状
　これからの情報化社会で求められる人材
　人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル
3．厚生労働省等統計データから、現状分析
3-1．高等学校における進路指導の現状
4．高校生の就職に関わる法・制度・仕組み
　職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法
　公共職業安定所と学校との職業紹介の分担
　新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等
　統一応募書類
5．高等学校卒業者・大卒の就職の推移と現状
　高卒者と大奏者の評価、採用問題
　雇用情勢・経済成長
6．職業意識
　自分が望むあるいは目標とする職業
　何のために働くか
6-1．生徒の職業意識の希薄化
7．インターンシップの実施
8．キャリアデザイン
　職種に必要な能力、何が必要か
8-1．ホームルーム等での進路指導
9．職業と職業生活について

職業及び職業生活
勤労・職業の意義と役割
職業生活と法令
１０．情報化と社会の変化について
情報化に伴う産業と社会生活の変化
情報関連産業の発達と資源・環境問題
情報社会のモラル
１１．職業と自己実現
職業適性の理解
自己のあり方生き方と職業
進路選択と自己実現
１２．求められる進路指導の改善
キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策
１３．インターネットの進路指導への活用
１４．若年失業者問題と対策
１５．職業とキャリアの形成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JC1210502
科目名	情報と職業	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Occupation		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報通信技術は社会と職に大きな変化をもたらし、社会に影響を及ぼしている。このような情報化社会において、若者を取り巻く現状を多角的に捕え、現状を把握し、情報化社会での職業の意義と役割、自己のあり方、生き方と職業を論じる。大量の情報が交換蓄積され、利用される高度情報通信社会の中で、職業と自己のあり方、生き方と職業を考え、望ましい勤労観と職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択し、将来職業人として活躍するための情報に関する知識や技術、さらに情報通信をどのように活用していくか言及する。		
教材（テキスト）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況演習等（30%）、e-learning により課す課題評価（70%）		
到達目標	職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、白書や今週の指標等の Web ページは週 1 回以上閲覧し、短く説明できるように整理する。		

受講者への要望

本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、任意の時間にｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室で受講のこと。学期 の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意志がないものとみなす場合がある。能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1．白書等から、若者を取り巻く現状
　職業の意義と役割
　職業とキャリア
1-1．職業指導とは何か
　学習指導要領の規定
2．情報産業の現状
　これからの情報化社会で求められる人材
　人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル
3．厚生労働省等統計データから、現状分析
3-1．高等学校における進路指導の現状
4．高校生の就職に関わる法・制度・仕組み
　職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法
　公共職業安定所と学校との職業紹介の分担
　新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等
　統一応募書類
5．高等学校卒業者・大卒の就職の推移と現状
　高卒者と大奏者の評価、採用問題
　雇用情勢・経済成長
6．職業意識
　自分が望むあるいは目標とする職業
　何のために働くか
6-1．生徒の職業意識の希薄化
7．インターンシップの実施
8．キャリアデザイン
　職種に必要な能力、何が必要か
8-1．ホームルーム等での進路指導
9．職業と職業生活について

職業及び職業生活
勤労・職業の意義と役割
職業生活と法令
１０．情報化と社会の変化について
情報化に伴う産業と社会生活の変化
情報関連産業の発達と資源・環境問題
情報社会のモラル
１１．職業と自己実現
職業適性の理解
自己のあり方生き方と職業
進路選択と自己実現
１２．求められる進路指導の改善
キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策
１３．インターネットの進路指導への活用
１４．若年失業者問題と対策
１５．職業とキャリアの形成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JC1220101
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	Toshiyuki Sakabe / Noriaki Okajima / Williams Noel 著 Touring Japan in English 『英語で学ぶ日本三選』(南雲堂)		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。日本文化の紹介を通して比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Introduction / Chapter 1: Japan’s Top Three Castles--Nagoya Castle, Osaka Castle, Kumamoto Castle
2. Chapter 1: Review Test / Chapter 2: Japan’s Top Three Festivals
--The Gion Festival, the Tenjin Festival, the KandaFestival
3. Chapter 2: Review Test / Chapter 3: Japan’s Top Three Mountains--Fujisan, Tateyama, Hakusan
4. Chapter 3: Review Test / Chapter 4: Japan’s Top Three Oldest Hot Springs
--Dogo Onsen, Arima Onsen, Shirahama Onsen
5. Chapter 4: Review Test / Chapter 5: Japan’s Top Three Gardens--Kenrokuen, Korakuen, Kairakuen
6. Chapter 5: Review Test / Chapter 6: Japan’s Top Three Pottery Styles
--Raku Ware, Hagi Ware, Karatsu Ware
7. Chapter 6: Review Test / Chapter 7: Japan’s Top Three Night Views
--Mount Hakodate, Mount Maya, Mount Inasa
8. Chapter 7: Review Test / Chapter 8 Japan’s Top Three Famous Foods--Tempura, Sushi, Sukiyaki
9. Chapter 8: Review Test / Chapter 9 Japan’s Top Three Limestone Caves--Ryusendo, Ryugado, Akiyoshido
10. Chapter 9 Review Test / Chapter 10: Japan’s Top Three Scenic Spots
--Matsushima, Amanohashidate, Miyajima
11. Chapter 10: Review Test / Chapter 11: Japan’s Top Three Waterfalls

--Fukuroda Falls, Kegon Falls, Nachi Falls 12. Chapter 11: Review Test / Chapter 12: Japan’s Top Three Disappointing Places --Sapporo Clock Tower, Harimaya Bridge, Hollander Slope 13. Chapter 12: Review Test / Chapter 13: Japan’s Top Three Ekiben --Ikameshi, Touge no Kamameshi, Masu no sushi 14. Chapter 13: Review Test / Chapter 14 Japan’s Top Three Udon --Sanuki Udon, Inaniwa Udon, Mizusawa Udon (1) 15. Chapter 14 Japan’s Top Three Udon--Sanuki Udon, Inaniwa Udon, Mizusawa Udon (2) Chapter 14 Review Test

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	JC1220102
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	Toshiyuki Sakabe / Noriaki Okajima / Williams Noel 著 Touring Japan in English 『英語で学ぶ日本三選』(南雲堂)		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。日本文化の紹介を通して比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Introduction / Chapter 1: Japan’s Top Three Castles--Nagoya Castle, Osaka Castle, Kumamoto Castle
2. Chapter 1: Review Test / Chapter 2: Japan’s Top Three Festivals
--The Gion Festival, the Tenjin Festival, the KandaFestival
3. Chapter 2: Review Test / Chapter 3: Japan’s Top Three Mountains--Fujisan, Tateyama, Hakusan
4. Chapter 3: Review Test / Chapter 4: Japan’s Top Three Oldest Hot Springs
--Dogo Onsen, Arima Onsen, Shirahama Onsen
5. Chapter 4: Review Test / Chapter 5: Japan’s Top Three Gardens--Kenrokuen, Korakuen, Kairakuen
6. Chapter 5: Review Test / Chapter 6: Japan’s Top Three Pottery Styles
--Raku Ware, Hagi Ware, Karatsu Ware
7. Chapter 6: Review Test / Chapter 7: Japan’s Top Three Night Views
--Mount Hakodate, Mount Maya, Mount Inasa
8. Chapter 7: Review Test / Chapter 8 Japan’s Top Three Famous Foods--Tempura, Sushi, Sukiyaki
9. Chapter 8: Review Test / Chapter 9 Japan’s Top Three Limestone Caves--Ryusendo, Ryugado, Akiyoshido
10. Chapter 9 Review Test / Chapter 10: Japan’s Top Three Scenic Spots
--Matsushima, Amanohashidate, Miyajima
11. Chapter 10: Review Test / Chapter 11: Japan’s Top Three Waterfalls

--Fukuroda Falls, Kegon Falls, Nachi Falls 12. Chapter 11: Review Test / Chapter 12: Japan’s Top Three Disappointing Places --Sapporo Clock Tower, Harimaya Bridge, Hollander Slope 13. Chapter 12: Review Test / Chapter 13: Japan’s Top Three Ekiben --Ikameshi, Touge no Kamameshi, Masu no sushi 14. Chapter 13: Review Test / Chapter 14 Japan’s Top Three Udon --Sanuki Udon, Inaniwa Udon, Mizusawa Udon (1) 15. Chapter 14 Japan’s Top Three Udon--Sanuki Udon, Inaniwa Udon, Mizusawa Udon (2) Chapter 14 Review Test

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	JC1220103
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	総合英語A
講義概要	様々な分野の話題に関する英文を読んで、基礎的な英文読解力を養成する。		
教材（テキスト）	宍戸真　他著　Reading Expert Ⅰ 〈リーディング　エキスパート　－基礎編ー〉		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	中間・期末テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	各課の単語、文法事項、構文を理解し、テキストの英文が正確に読めるようになる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 1　新しい語句を調べる 2　自分の訳文ノートを作成する 3　練習問題をする		
受講者への要望			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1回目　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明 2回目　Lesson 2　Payment on Date 3回目　Lesson 4　Traditional Cures 4回目　Lesson 6　Bookcrossing 5回目　Lesson 9　Bermuda Triangle 6回目　Lesson12 A Food Stylist　前半 7回目　Lesson12 A Food Stylist　後半 8回目　復習と授業内テスト 9回目　Lesson 13 Banknotes １０回目　Lesson 16 The Blue Screen Technique １１回目　Lesson 18 Soccer Ball　前半 １２回目　Lesson 18 Soccer Ball　後半 １３回目　Leeson 23 Liar　前半 １４回目　Leeson 23 Liar　後半 １５回目　Lesson 24 Colors 授業の進度・課は変わることがある。 学期中に扱わない課は課題用に回すこともある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220104
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	塩田　英子	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な英語総合教材を使用し、英語の基礎力の定着を目指します。加えて、皆さんが英語に興味を持つためのヒントを提供していきたいとも思ってます。たとえばこの授業では毎回、映画を視聴し、その中の１シーンをとりあげてセリフの聞き取りを行う機会を持つ予定です。さらに、英語で書かれた日本の風物についての記事を読み、身近な出来事について英語を通して考える取り組みも行います。皆さんからの希望があれば適宜、TOEIC や英検などの資格試験に対応した問題演習を取り入れることも可能です。英語はあまり得意ではないけれど、映画や新聞の英語には興味があるという方も大歓迎です。いっしょに英語の世界を楽しみましょう。		
教材（テキスト）	(1) Kyoko Okamoto, Benedict Rowlett, Aya Kinoshita and Sara Ellis 著 『English Challenger (リーディングに役立つ基本英文法)』 Seibido　￥1,900＋税 (2) プリント教材１：日本のニュースを英語で読もう（Japan in English #1-10） (3) プリント教材２：生きた英語で耳を鍛えよう（Movie Script I (1)-(4), Movie Script 2 (1)-(4), Songs (1) & (2)）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて、CD や DVD を使用することがあります。		
評価方法	平常点(20%)：授業態度や各授業内容の理解度などから評価します。 復習テスト 1 (40%)：授業内に実施する復習テスト 1 の結果から評価します。 復習テスト 2 (40%)：授業内に実施する復習テスト 2 の結果から評価します。 ＊なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただし、3 分の 2 以上の出席があった場合、必ず合格するという意味ではないので注意すること。		
到達目標	1.大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着をはかります。 2.さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようにします。 3.日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および伝達する力を身につけます。		
準備学習	1.高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。 2.授業で扱ってほしい映画や洋楽などの題材があればぜひ教えてください。 3.各授業中に授業参加のための準備学習を指示します。		

受講者への要望

1.英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
2.基礎英語以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修するようにしてください。
3.実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。
4.授業中の私語や睡眠、テキストを忘れる等、授業態度にはくれぐれもご注意ください。

講義の順序とポイント

第 1 回 初回オリエンテーション(授業の進め方について等)
第 2 回 Unit　1 Literacy and Education (基礎と文法) + Japan in English #1 + Movie Script I (1)
第 3 回 Unit　1 Literacy and Education (応用と読解) + Japan in English #2 + Movie Script I (2)
第 4 回 Unit　2 Sustainable City (基礎と文法) + Japan in English #3 + Movie Script I (3)
第 5 回 Unit　2 Sustainable City (応用と読解) + Japan in English #4 + Movie Script I (4)
第 6 回 Unit　3 Friendly Robots (基礎と文法) + Japan in English # 5 + Songs (1)
第 7 回 Unit　3 Friendly Robots (応用と読解) + Japan in English #1-5 の総復習
第 8 回 Unit　1 から Unit 3 の総括と総合課題(1)[第 2 回から第 7 回のまとめと応用]
第 9 回 Unit　4　Understanding Your Personality (基礎と文法) + Japan in English #6 + Movie Script II (1)
第 10 回 Unit　4 Understanding Your Personality (応用と読解) + Japan in English #7 + Movie Script II (2)
第 11 回 Unit　5 Amazing Hotels (基礎と文法) + Japan in English #8 + Movie Script II (3)
第 12 回 Unit　5 Amazing Hotels (応用と読解)+ Japan in English #9 + Movie Script II (4)
第 13 回 Unit　6 Culture and Religion (基礎と文法)+ Japan in English #10 + Songs (2)
第 14 回 Unit 6 Culture and Religion (応用と読解) + Japan in English # 6-10 の総復習

第 15 回 Unit 4 から Unit 6 の総括と総合課題(2)[第 9 回から第 15 回のまとめと応用] ＊上記はあくまでも目安であり、変更の可能性があります。詳細は授業中に指示します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1220105
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる平常点（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価、なお、全授業回数の３分の１以上の欠席で失格とします。		
到達目標	相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. ネコ派 VS. イヌ派
2. サッカー派 VS. 野球派
3. 映画館派 VS. DVD 派
4. 子どもが好き派 VS. 子どもなんて大嫌い派
5. カラオケ大好き派 VS. カラオケ大嫌い派
6. 節約家 VS. 浪費家
7. 夏が大好き派 VS. 冬が大好き派
8. 洋食派 VS. 和食派
9. 独身キャリア派 VS. 結婚したい派
10. バーゲン品購入派 VS. 高級品購入派
11. ファストフード派 VS. ファストフード敬遠派
12. 愛煙家 VS.嫌煙派
13. コーヒー派 VS. 緑茶派
14. 収入重視派 VS. 愛情重視派
15. お化粧は自然派 VS.お化粧バッチリ派

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JC1220106
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。この授業では特に、AP、ロイターなどから読みやすくて興味深い食品、健康の話題を中心とした記事を読む訓練をします。それらの文章の読解を通して、内容把握、要約、英作文の練習などを行います。また、音声 CD を利用してリスニング問題、それを基にしたペアワークなどにも取り組み、英語によるコミュニケーション力の向上を目指します。		
教材（テキスト）	Readings from Health and Nutrition News: A Basic Training for Phrase Reading and Repeating 「健康・食品ニュースを読む：フレーズリーディングとリピーティングのための基礎演習」（金星堂） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	授業中に音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語の簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、ほぼ毎回の授業で、前回の授業で学んだ内容についての小テストを、各授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Singapore’s Love Potion Heads to Markets Overseas
2. Unit 2: WHO: Bird Flu May Have Passed Between Siblings
3. Unit 3: Foreign Staff Get OK for Emergency Training
4. Unit 4: Study: Two Languages Help to Keep the Mind Young
5. Unit 5: Experts Will Feed Infected Brains to Cows
6. Unit 6: New Alcohol-flavored Biscuits Not to Everyone’s Taste
7. Unit 7: Study: Tea Drinking May Protect Against Alzheimer’s Disease
8. Unit 8: Study: Melatonin May Help Lower High Blood Pressure
9. Unit 9: Fat Kids Singled Out for Extra Exercise (AP)
10. Unit 10: Study: Air Worse in Smoky Bars than on Truck Choked Roads
11. Unit 11: Researchers: Church Candles and Incense Pose Health Risks
12. Unit 12: Fitness: How Much Water Is Enough During Exercise?
13. Unit 13: Woman Listed as World’s Oldest Person Dies in Puerto Rico at 114
14. Unit 14: Fitness: Losing the Baby Fat with Fitness Classes
15. Unit 15: Chinese May Have Been Fermenting Drinks 9,000 Years Ago

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1220107
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	総合英語Ｂ
講義概要	映画の中に出てくる食文化や食べ物を通して、映画を楽しみながら英語を学ぶ。		
教材（テキスト）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著　A Flavor of English: Cinema and Cuisine　映画で味わう食文化　￥１，７００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用してリスニング等を行うこともある。		
評価方法	中間・期末テストの平均点（６０％）　平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト〉（４０％）　全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる　（３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	基礎的な英文法を学習し、英文読解力をつけ、食文化を通して海外の文化への理解を深める。		
準備学習	準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明
２回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　前半
３回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　後半
４回目　　Chapter 3　Super Size Me　前半
５回目　　Chapter 3　Super Size Me　後半
６回目　　Chapter 7　No Reservations　前半
７回目　　Chapter 7　No Reservations　後半
８回目　　復習と授業内テスト
９回目　　Chapter 8　Dear Frankie　前半
１０回目　Chapter 8　Dear Frankie　後半
１１回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　前半
１２回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　後半
１３回目　Chapter11 Everybody’s Fine　前半
１４回目　Chapter11 Everybody’s Fine　後半
１５回目　Chapter12 The Witch of the West Is Dead
授業の進度・課は変わることがある。学期中に扱わない課は課題用に回すこともある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1220108
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」は、大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化をはかりながら、必要な語彙、文法知識をさらに多く習得して英文の読解や聴解に活用できるようにしていく科目である。平易な総合英語教材を使用し、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の4技能の基礎力を養成し、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力を身につける。 このクラスでは、世界の次世代をリードする日本の革新産業や国際的に有名な日本人を話題とした英文に学び、英語学習の基礎となる英文法を簡単に復習しながら、同時に先端科学の分野において不可欠な英語表現を学んでいく。		
教材（テキスト）	JoAnn Parochetti et. al.、Japan Innovation、南雲堂、1,900円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）および中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は59点以下の不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および口頭や文章で伝達する力が身につく。 3．バイオ環境の分野において必要な基礎的な英語の語彙が身につく。		
準備学習	1．次回授業で取り扱うChapterを確認し、そのReading Textを何十回も音読する。 2．詳細なNotesが施されているので、対象の語句を発音しながら注記内容に目を通しておく。 3．Exerciseの1と2の問題は必ず解いておく。Exercisesのいずれかを小テストとして利用する。なお、時間不足の場合は3を省略する。 4．Grammar Reviewについては、授業ではその要点の解説のみに留める。文法力が十分な場合には一瞥するだけでよいし、そうでない場合には準備学習段階で何度も読んでおく必要がある。		

受講者への要望

1．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
2．英検やTOEICなどの英語資格試験の受験に挑戦するとよい。

講義の順序とポイント

1回の授業で1 chapterを終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。
1．演習概要と評価方法に関する説明、Chapter 1: Ken Watanabe、文型
2．Chapter 2: Sakana-kun、時制
3．Chapter 3: Kohei Uchimura、助動詞
4．Chapter 4: Hiromi Miyake、名詞、代名詞
5．Chapter 5: Taiwan、形容詞
6．Chapter 6: Apples、副詞
7．中間課題、Chapter 7: B-Class Food Boom、比較
8．Chapter 8: Food Traceability、受動態
9．Chapter 9: Naming Rights、不定詞

10. Chapter 10: Smart Cities、分詞
11. Chapter 11: Geopark、動名詞
12. Chapter 12: Rare Earth、関係代名詞
13. Chapter 13: Biomass、接続詞
14. 期末課題、Chapter 14: Green Curtains、前置詞
15. Chapter 15: The Robot Industry、数詞

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	JC1220131
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「総合英語Ⅰ」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。		
教材（参考文献）	Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜5.　英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。 7.　　中間テストをする。 8〜12.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。 13〜15.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220132
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	瀧井　幸男	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「総合英語Ⅰ」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。		
教材（参考文献）	Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～5.　英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。 7.　　中間テストをする。 8～12.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。 13～15.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220133
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「総合英語Ⅰ」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。		
教材（参考文献）	Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～5.　英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。 7.　　中間テストをする。 8～12.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。 13～15.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220134
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第４版　大修館書店（３，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．英文・和文基礎
2．可算名詞・不可算名詞
3．自動詞・他動詞・人称代名詞
4．第１文型・第３文型
5．形容詞
6．第２文型
7．第４文型・第５文型
8．総合演習（１）
9．副詞
10．形容詞・副詞の比較級・最上級
11．前置詞
12．助動詞
13．動詞の時制
14．受動態
15．総合演習（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JC1220135
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第４版　大修館書店（３，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．英文・和文基礎
2．可算名詞・不可算名詞
3．自動詞・他動詞・人称代名詞
4．第１文型・第３文型
5．形容詞
6．第２文型
7．第４文型・第５文型
8．総合演習（１）
9．副詞
10．形容詞・副詞の比較級・最上級
11．前置詞
12．助動詞
13．動詞の時制
14．受動態
15．総合演習（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	JC1220136
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「総合英語Ⅰ」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。		
教材（参考文献）	Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		

受講者への要望
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。
講義の順序とポイント
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～5.　英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。 7.　　中間テストをする。 8～12.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。 13～15.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220151
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。この授業では特に、日本の名所の紹介をしている文章を通して、読解やリスニング、英作文問題に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。また、基本的な文法事項の復習も行います。		
教材（テキスト）	Toshiyuki Sakabe / Noriaki Okajima / Williams Noel 著 Touring Japan in English 『英語で学ぶ日本三選』(南雲堂)		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	授業中に音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語の簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。　さらに、日本文化の紹介を通して、比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回の授業において、前回の授業で学んだ内容についての小テストを行います。そのテストの準備として、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。毎回の授業で前回の授業の確認テストを行います。

1. Introduction / Chapter 1: Japan’s Top Three Castles--Nagoya Castle, Osaka Castle, Kumamoto Castle
2. Chapter 1: Review Test / Chapter 2: Japan’s Top Three Festivals
--The Gion Festival, the Tenjin Festival, the KandaFestival
3. Chapter 2: Review Test / Chapter 3: Japan’s Top Three Mountains--Fujisan, Tateyama, Hakusan
4. Chapter 3: Review Test / Chapter 4: Japan’s Top Three Oldest Hot Springs
--Dogo Onsen, Arima Onsen, Shirahama Onsen
5. Chapter 4: Review Test / Chapter 5: Japan’s Top Three Gardens--Kenrokuen, Korakuen, Kairakuen
6. Chapter 5: Review Test / Chapter 6: Japan’s Top Three Pottery Styles--Raku Ware, Hagi Ware, Karatsu Ware
7. Chapter 6: Review Test / Chapter 7: Japan’s Top Three Night Views--Mount Hakodate, Mount Maya, Mount Inasa
8. Chapter 7: Review Test / Chapter 8 Japan’s Top Three Famous Foods--Tempura, Sushi, Sukiyaki
9. Chapter 8: Review Test / Chapter 9 Japan’s Top Three Limestone Caves--Ryusendo, Ryugado, Akiyoshido
10. Chapter 9 Review Test / Chapter 10: Japan’s Top Three Scenic Spots--Matsushima, Amanohashidate, Miyajima
11. Chapter 10: Review Test / Chapter 11 :Japan’s Top Three Waterfalls--Fukuroda Falls, Kegon Falls, Nachi Falls
12. Chapter 11: Review Test / Chapter 12: Japan’s Top Three Disappointing Places
--Sapporo Clock Tower, Harimaya Bridge, Hollander Slope
13. Chapter 12: Review Test / Chapter 13 Japan’s Top Three Ekiben--Ikameshi, Touge no Kamameshi, Masu no sushi
14. Chapter 13: Review Test / Chapter 14 Japan’s Top Three Udon--Sanuki Udon, Inaniwa Udon, Mizusawa Udon (1)
15. Chapter 14 Japan’s Top Three Udon--Sanuki Udon, Inaniwa Udon, Mizusawa Udon (2)
Chapter 14 Review Test

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1220152
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	総合英語A
講義概要	基礎的な英文法やイディオムを理解し、様々な興味深い話題に関する英文の読解力を養成する。		
教材（テキスト）	木村正俊　他著　First Steps to Global Communication　グローバル・トピックで学ぶ大学基本英文法 ￥１，８００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	中間・期末テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	基礎的な英文法やイディオムを学習し練習問題で理解を深め、英文読解力を向上させる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・イディオムを学習し理解する ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明
２回目　　Unit 1　Everything’s Ducky!
３回目　　Unit 2　A Dearth of Cherry Trees
４回目　　Unit 3　One Hundred Billion Servings
５回目　　Unit 4　A Stellar Superstar
６回目　　Unit 6　Switch Off, Look Up, Watch Out!
７回目　　Unit 7　Disappearing Beaches
８回目　　復習と授業内テスト
９回目　　Unit 8　An Alarming Allergy
１０回目　Unit 9　Three Cheers for the Girls!
１１回目　Unit12　Cats or kiwis?
１２回目　Unit13　A New Way to “Shoot Big Game”
１３回目　Unit14　The Candy Crush Sage
１４回目　Unit15　Hardy Humans and Huskies　前半
１５回目　Unit15　Hardy Humans and Huskies　後半

授業の進度・課は変わることがある。
学期中に扱わない課は課題用に回すこともある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1220153
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	総合英語A
講義概要	基礎的な英文法やイディオムを理解し、様々な興味深い話題に関する英文の読解力を養成する。		
教材（テキスト）	木村正俊　他著　First Steps to Global Communication　グローバル・トピックで学ぶ大学基本英文法 ￥１，８００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	中間・期末テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	基礎的な英文法やイディオムを学習し練習問題で理解を深め、英文読解力を向上させる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・イディオムを学習し理解する ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明
２回目　　Unit 1　Everything’s Ducky!
３回目　　Unit 2　A Dearth of Cherry Trees
４回目　　Unit 3　One Hundred Billion Servings
５回目　　Unit 4　A Stellar Superstar
６回目　　Unit 6　Switch Off, Look Up, Watch Out!
７回目　　Unit 7　Disappearing Beaches
８回目　　復習と授業内テスト
９回目　　Unit 8　An Alarming Allergy
１０回目　Unit 9　Three Cheers for the Girls!
１１回目　Unit12　Cats or kiwis?
１２回目　Unit13　A New Way to “Shoot Big Game”
１３回目　Unit14　The Candy Crush Sage
１４回目　Unit15　Hardy Humans and Huskies　前半
１５回目　Unit15　Hardy Humans and Huskies　後半

授業の進度・課は変わることがある。
学期中に扱わない課は課題用に回すこともある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1220156
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	英語の 4 技能を総合的に学びます。授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。様々な音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	森田和子・高橋順子・北本洋子著　　Make it simple　　三修社		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	音声教材（無料ダウンロード可能）		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにする。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明。
第　2 週:　Lesson 1　家族
第　3 週:　Lesson 2　キャンパス案内
第　4 週:　Lesson 3　就職・職場
第　5 週:　Lesson 4　日課
第　6 週:　Lesson 5　交通
第　7 週:　Lesson 6　アルバイト
第　8 週:　Lesson 7　健康
第　9 週:　Lesson 8　ショッピング
第 10 週:　Lesson 9　休日
第 11 週:　Lesson 10　大学生活
第 12 週:　Lesson 11　世界の国々
第 13 週:　Lesson 12　海外旅行（１）
第 14 週:　Lesson 13　海外旅行（２）
第 15 週:　全般的な復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JC1220157
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	英語の 4 技能を総合的に学びます。授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。様々な音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	森田和子・高橋順子・北本洋子著　　Make it simple　　三修社		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	音声教材（無料ダウンロード可能）		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにする。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明。
第　2 週:　Lesson 1　家族
第　3 週:　Lesson 2　キャンパス案内
第　4 週:　Lesson 3　就職・職場
第　5 週:　Lesson 4　日課
第　6 週:　Lesson 5　交通
第　7 週:　Lesson 6　アルバイト
第　8 週:　Lesson 7　健康
第　9 週:　Lesson 8　ショッピング
第 10 週:　Lesson 9　休日
第 11 週:　Lesson 10　大学生活
第 12 週:　Lesson 11　世界の国々
第 13 週:　Lesson 12　海外旅行（１）
第 14 週:　Lesson 13　海外旅行（２）
第 15 週:　全般的な復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JC1220158
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	英語の 4 技能を総合的に学びます。授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。様々な音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	森田和子・高橋順子・北本洋子著　　Make it simple　　三修社		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	音声教材（無料ダウンロード可能）		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにする。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明。
第　2 週:　Lesson 1　家族
第　3 週:　Lesson 2　キャンパス案内
第　4 週:　Lesson 3　就職・職場
第　5 週:　Lesson 4　日課
第　6 週:　Lesson 5　交通
第　7 週:　Lesson 6　アルバイト
第　8 週:　Lesson 7　健康
第　9 週:　Lesson 8　ショッピング
第 10 週:　Lesson 9　休日
第 11 週:　Lesson 10　大学生活
第 12 週:　Lesson 11　世界の国々
第 13 週:　Lesson 12　海外旅行（１）
第 14 週:　Lesson 13　海外旅行（２）
第 15 週:　全般的な復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JC1220159
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	英語の 4 技能を総合的に学びます。授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。様々な音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	森田和子・高橋順子・北本洋子著　　Make it simple　　三修社		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	音声教材（無料ダウンロード可能）		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにする。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明。
第　2 週:　Lesson 1　家族
第　3 週:　Lesson 2　キャンパス案内
第　4 週:　Lesson 3　就職・職場
第　5 週:　Lesson 4　日課
第　6 週:　Lesson 5　交通
第　7 週:　Lesson 6　アルバイト
第　8 週:　Lesson 7　健康
第　9 週:　Lesson 8　ショッピング
第 10 週:　Lesson 9　休日
第 11 週:　Lesson 10　大学生活
第 12 週:　Lesson 11　世界の国々
第 13 週:　Lesson 12　海外旅行（１）
第 14 週:　Lesson 13　海外旅行（２）
第 15 週:　全般的な復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JC1220161
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。この授業では特に、病院で起こりうるいろいろな状況を設定し、外国人患者と病院職員との会話を中心にして、その際に必要となる英語の表現を身につけることを目指します。比較的平易な英語表現、語彙を繰り返し使用することで、医療の場で必要となる英語力の向上を目指します。また、グループワークなども取り入れる予定です。		
教材（テキスト）	Basic English for Medical Office Assistants 「医療事務スタッフをめざす人のための医療英語」　（南雲堂） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	授業中に音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを、各授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④授業外でもなるべく英語を使う機会を増やすために「セルフラーニング室」（英語学習自習室、学志館 1 階）を使用するようにして
　ください。
⑤当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑥TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Introduction / Basic Words and Phrases 「はじめの一歩」
2. Body Parts and Organs 「体と内臓」
3. Hospital Registration 「新患受付」
4. Hospital Registration Forms 「診察申込書」
5. Personal Information 「個人情報」
6. Admissions 「入院受付」
7. Reception Desk 「再審受付」
8. Review of Basic Expressions 「基本表現の復習」 (1)
9. Symtoms and Diseases 「症状と病名」
10. Medical Terminology 「医療英語（略語)」
11. Getting to the Hospital 「病院へのアクセス」
12. Finding Your Way Around 「案内」
13. At the Cashier's Window 「会計」
14. At the Pharmacy 「薬局」

15. Review of Basic Expressions 「基本表現の復習」(2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1220162
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	英語の 4 技能を総合的に学びます。授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。様々な音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	西原俊明、西原真弓、Amy Nukamuri A Healty Mind, A Healty Body,　　朝日出版社		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	音声教材（無料ダウンロード可能）		
評価方法	評価方法 出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点　合計：　100 点満点		
到達目標	到達目標 毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにします。学生は授業を通して、いかに英語を学習すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	・次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 ・毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。
・授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1：　General ideas of health
第　3 週:　Unit 2：　Cosmetic surgery
第　4 週:　Unit 3：　PTSD
第　5 週:　Unit 4：　Foreign health professionals
第　6 週:　Unit 5：　Yoga
第　7 週:　Unit 6：　Food/ Diet
第　8 週:　Unit 7：　Cancer
第　9 週:　Unit 8：　Smoking
第 10 週:　Unit 9：　Diabetes
第 11 週:　Unit 10 : Obesity / Child care
第 12 週:　Unit 11 : iPS cells
第 13 週:　Unit 12 : Nurses' working conditions
第 14 週:　Unit 13 : Elderly care
第 15 週:　Unit 14 : Stress management,　全般的な復習
（Unit 15 は家庭学習です。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★		★★			

年度	2015	授業コード	JC1220163
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	私が担当する「総合英語Ⅰ」は、健康医療学部看護学科１回生向けの必修科目です。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語を読み、書き、聞き、話す力を養成します。 この授業では、Caregiver-Reading the Current Medical World（朝日出版社） を用いて、英語の 4 技能を高めます。 このテキストでは、知っておくと便利な医療の題材や health care に関する一般的な題材をとりあつかわれています。題材は VOA ニュース、ハーバード大学新聞、サイエンス・デイリ－、タイムマガジン、ニューヨークタイムズ、ジャパンタイムズその他のインターネットソースの医療・健康に関する記事から選ばれています。看護士を将来目指す学生には知っておいて欲しい知識を英語で学ぶためにつくられたものであり、みなさんの興味や関心に適したのテキストといえます。 看護学部のみなさんが英語を学習するにあたってとてもふさわしい教材です。 授業では、Reading for Discussion などを使って、みんなで意見交換もしていくつもりです。		
教材（テキスト）	Caregiver-Reading the Current Medical World（朝日出版社）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など)。		
教材（その他）	テキストには CD がついていませんが、テキスト購入者は無料で音声をダウンロードできるようになっています。テキストを購入して、各自で出版社のホームページにアクセスして、ダウンロードしてください。		
評価方法	「総合英語Ⅰ」では、授業中の発表など授業参加（20%）、課題提出（20%）、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価とします。 なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。 必修科目であるので、卒業までに必ず単位を修得する必要があるので、ぜひ１回生のこのクラスで単位修得をめざしてください。		
到達目標	中学や高校で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようになる。EGP（English for General Purposes）から ESP（English for Specific Purposes）へと、みなさんの英語力を向上させ、日常的な話題から専門的な問題まで、読み、書き、聞き、話すことができる英語力を身につけることを目標としています。春学期修了までに英検２級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
準備学習	授業開始までに、高校卒業までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。また、各ｕｎｉｔが終了するたびに、京学なびを通じて、課題の提出を求めます。		
受講者への要望			
① 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ② 実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 ③ 英語学習には継続的な学習習慣が必要であり、自律学習に励んでください。			
講義の順序とポイント			
初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。 第１回　Introduction 第２回　Unit 1: Summer Weight Gain 第３回　Unit 2: Sugar in Danger 第４回　Unit 3: Adult Diapers Outsell Baby Daipers 第５回　Unit 4: Medical Robots 第６回　Unit 5: Coffee Drinking Tied to Lower Risk of Suicide 第７回　Unit 6: How Emergency ooms Work 第８回　前半の授業の振り返りと反転学修 第９回　Unit 7: Keep Your Heart Moving 第 10 回　Unit 8: Teens Light Up E-Cigarettes			

第 11 回　Unit 9: Curing Peanut Allergies
第 12 回　Unit 10: Cancer and Poverty
第 13 回　Unit 11: AED
第 14 回　Unit 12: Global Warming Triggers Disease
第 15 回　後半の授業の振り返りと反転学習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★		★		

年度	2015	授業コード	JC1220164
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	平易な総合英語教材を使用して、＜読む・書く・聞く・話す＞4技能の基礎力を養成する。＜読む・書く＞については、実践的な文法と句読法を学び、文やパラグラフの展開・文脈などに注目しながら、読解と作文の基礎力を養う。＜聞く・話す＞については、日本語を母語とする英語学習者向けのストレッチ式発声法を用いて、「ネイティブ発音」の技法を習得する。テキストの読解と音読を通じて、英語文化に親しみ、英語によるグローバルなコミュニケーションの基本技法を学ぶ。		
教材（テキスト）	First Steps to Global Communication 南雲堂 1,800。		
教材（参考文献）	「ネイティブ発音」科学的上達法―おどろきのストレッチ式発声術　講談社（ブルーバックス新書）980。		
教材（その他）			
評価方法	積極的な学習態度・発表・授業内小テスト・学習ノート作成など等による平常点（30%）、レポート（20%）、定期テスト（50%）。全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は5９点以下の不合格とする。（3分の2以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の4技能習得により、グローバル社会におけるコミュニケーション力の基礎を養う。		
準備学習	予習と復習の課題を完成させる。各回授業に係る復習小テストをする。参考文献の重要事項について調べ、レポートを書く。		

受講者への要望

積極的な態度で授業に参加する。テキストと学習ノート等のほか、必ず辞書を持参する。毎授業時に学習ノートを作成する。遅刻、居眠り、私語その他学習の妨げになる行為・行動は厳禁。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション
2．都会生活の利点と問題点：リスニングとスピーキングについて
3．公共の場における花木の保全：リーディングとライティングについて
4．インスタントラーメン：発音記号と辞書の使い方
5．宇宙で輝く期待の星：文法と音法
6．家庭における男女の役割分担：発音と発声、発話（1）
7．スマートフォンについて：文の音読（1）
8．地球温暖化への対策：文法と読解（1）
9．食物アレルギーへの警報：発音と発声、発話（2）
10．応援団で活躍する女子学生：文の音読（2）
11．イギリス人と標語：文法と読解（2）
12．花を主役にしたお祭り：発音と発声、発話（3）
13．ニュージーランドの特産物、先住民族：文の音読（3）
14．地球に優しい撮影術：文法と読解（3）
15．キャンディ・クラッシュ・サガ：まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	JC1220165
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	塩田　英子	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な英語総合教材を使用し、英語の基礎力の定着を目指します。加えて、皆さんが英語に興味を持つためのヒントを提供していきたいとも思ってます。たとえばこの授業では毎回、映画を視聴し、その中の１シーンをとりあげてセリフの聞き取りを行う機会を持つ予定です。さらに、英語で書かれた日本の風物についての記事を読み、身近な出来事について英語を通して考える取り組みも行います。皆さんからの希望があれば適宜、TOEIC や英検などの資格試験に対応した問題演習を取り入れることも可能です。英語はあまり得意ではないけれど、映画や新聞の英語には興味があるという方も大歓迎です。いっしょに英語の世界を楽しみましょう。		
教材（テキスト）	(1) Kyoko Okamoto, Benedict Rowlett, Aya Kinoshita and Sara Ellis 著 『English Challenger (リーディングに役立つ基本英文法)』 Seibido　￥1,900＋税 (2) プリント教材１：日本のニュースを英語で読もう（Japan in English #1-10） (3) プリント教材２：生きた英語で耳を鍛えよう（Movie Script I (1)-(4), Movie Script 2 (1)-(4), Songs (1) & (2)）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて、CD や DVD を使用することがあります。		
評価方法	平常点(20%)：授業態度や各授業内容の理解度などから評価します。 復習テスト 1 (40%)：授業内に実施する復習テスト 1 の結果から評価します。 復習テスト 2 (40%)：授業内に実施する復習テスト 2 の結果から評価します。 ＊なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただし、3 分の 2 以上の出席があった場合、必ず合格するという意味ではないので注意すること。		
到達目標	1.大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着をはかります。 2.さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようにします。 3.日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および伝達する力を身につけます。		
準備学習	1.高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。 2.授業で扱ってほしい映画や洋楽などの題材があればぜひ教えてください。 3.各授業中に授業参加のための準備学習を指示します。		

受講者への要望

1.英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
2.基礎英語以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修するようにしてください。
3.実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。
4.授業中の私語や睡眠、テキストを忘れる等、授業態度にはくれぐれもご注意ください。

講義の順序とポイント

第 1 回 初回オリエンテーション(授業の進め方について等)
第 2 回 Unit　1 Literacy and Education (基礎と文法) + Japan in English #1 + Movie Script I (1)
第 3 回 Unit　1 Literacy and Education (応用と読解) + Japan in English #2 + Movie Script I (2)
第 4 回 Unit　2 Sustainable City (基礎と文法) + Japan in English #3 + Movie Script I (3)
第 5 回 Unit　2 Sustainable City (応用と読解) + Japan in English #4 + Movie Script I (4)
第 6 回 Unit　3 Friendly Robots (基礎と文法) + Japan in English # 5 + Songs (1)
第 7 回 Unit　3 Friendly Robots (応用と読解) + Japan in English #1-5 の総復習
第 8 回 Unit　1 から Unit 3 の総括と総合課題(1)[第 2 回から第 7 回のまとめと応用]
第 9 回 Unit　4　Understanding Your Personality (基礎と文法) + Japan in English #6 + Movie Script II (1)
第 10 回 Unit　4 Understanding Your Personality (応用と読解) + Japan in English #7 + Movie Script II (2)
第 11 回 Unit　5 Amazing Hotels (基礎と文法) + Japan in English #8 + Movie Script II (3)
第 12 回 Unit　5 Amazing Hotels (応用と読解)+ Japan in English #9 + Movie Script II (4)
第 13 回 Unit　6 Culture and Religion (基礎と文法)+ Japan in English #10 + Songs (2)
第 14 回 Unit 6 Culture and Religion (応用と読解) + Japan in English # 6-10 の総復習

第 15 回 Unit 4 から Unit 6 の総括と総合課題(2)[第 9 回から第 15 回のまとめと応用] ＊上記はあくまでも目安であり、変更の可能性があります。詳細は授業中に指示します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1220166
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる平常点（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価、なお、全授業回数の３分の１以上の欠席で失格とします。		
到達目標	相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. 田舎派 VS. 都会派
2. お肉大好き派 VS. ベジタリアン
3. お酒はたしなむ程度 VS. 大酒飲み
4. ショッピング派 VS. 観光派
5. 仕事と子育て両立派 VS. 子育て専念派
6. 孤独を楽しむ派 VS. 大勢で楽しむ派
7. エンタメ派 VS. ニュース派
8. 早起き派 VS. 宵っ張り派
9. 手紙派 VS. E メール派
10. ネット購入派 VS. お店で購入派
11. ビーチ派 VS. 登山派
12. ほめてしつけ派 VS.叱ってしつけ派
13. 一戸建て派 VS. マンション派
14. 会社勤め安定派 VS. 独立企業派
15. 楽観派 VS.悲観派

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JC1220201
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 I 」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語 I」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（テキスト）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこ　れは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	JC1220202
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 I 」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語 I」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（テキスト）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこ　れは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	JC1220203
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる平常点（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価、なお、全授業回数の３分の１以上の欠席で失格とします。		
到達目標	相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. 田舎派 VS. 都会派
2. お肉大好き派 VS. ベジタリアン
3. お酒はたしなむ程度 VS. 大酒飲み
4. ショッピング派 VS. 観光派
5. 仕事と子育て両立派 VS. 子育て専念派
6. 孤独を楽しむ派 VS. 大勢で楽しむ派
7. エンタメ派 VS. ニュース派
8. 早起き派 VS. 宵っ張り派
9. 手紙派 VS. E メール派
10. ネット購入派 VS. お店で購入派
11. ビーチ派 VS. 登山派
12. ほめてしつけ派 VS.叱ってしつけ派
13. 一戸建て派 VS. マンション派
14. 会社勤め安定派 VS. 独立企業派
15. 楽観派 VS.悲観派

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JC1220204
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	塩田　英子	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な英語総合教材を使用し、英語の基礎力の定着を目指します。加えて、皆さんが英語に興味を持つためのヒントを提供していきたいとも思ってます。たとえばこの授業では毎回、映画を視聴し、その中の１シーンをとりあげてセリフの聞き取りを行う機会を持つ予定です。さらに、英語で書かれた日本の風物についての記事を読み、身近な出来事について英語を通して考える取り組みも行います。皆さんからの希望があれば適宜、TOEIC や英検などの資格試験に対応した問題演習を取り入れることも可能です。英語はあまり得意ではないけれど、映画や新聞の英語には興味があるという方も大歓迎です。いっしょに英語の世界を楽しみましょう。		
教材（テキスト）	(1) Kyoko Okamoto, Benedict Rowlett, Aya Kinoshita and Sara Ellis 著 『English Challenger (リーディングに役立つ基本英文法)』 Seibido　￥1,900＋税 (2) プリント教材１：日本のニュースを英語で読もう（Japan in English #1-10） (3) プリント教材２：生きた英語で耳を鍛えよう（Movie Script I (1)-(4), Movie Script 2 (1)-(4), Songs (1) & (2)）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて、CD や DVD を使用することがあります。		
評価方法	平常点(20%)：授業態度や各授業内容の理解度などから評価します。 復習テスト 1 (40%)：授業内に実施する復習テスト 1 の結果から評価します。 復習テスト 2 (40%)：授業内に実施する復習テスト 2 の結果から評価します。 ＊なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただし、3 分の 2 以上の出席があった場合、必ず合格するという意味ではないので注意すること。		
到達目標	1.大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着をはかります。 2.さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようにします。 3.日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および伝達する力を身につけます。		
準備学習	1.高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。 2.授業で扱ってほしい映画や洋楽などの題材があればぜひ教えてください。 3.各授業中に授業参加のための準備学習を指示します。		
受講者への要望			
1.英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 2.基礎英語以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修するようにしてください。 3.実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 4.授業中の私語や睡眠、テキストを忘れる等、授業態度にはくれぐれもご注意ください。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 初回オリエンテーション(授業の進め方について等) 第 2 回 Unit　8 Future Food (基礎と文法) + Japan in English #1 + Movie Script I (1) 第 3 回 Unit　8 Future Food (応用と読解) + Japan in English #2 + Movie Script I (2) 第 4 回 Unit　9 The Ideal Wedding (基礎と文法) + Japan in English #3 + Movie Script I (3) 第 5 回 Unit　9 The Ideal Wedding (応用と読解) + Japan in English #4 + Movie Script I (4) 第 6 回 Unit　10 How to Stay Young and Healthy (基礎と文法) + Japan in English # 5 + Songs (1) 第 7 回 Unit　10 How to Stay Young and Healthy (応用と読解) + Japan in English #1-5 の総復習 第 8 回 Unit　8 から Unit 10 の総括と総合課題(1)[第 2 回から第 7 回のまとめと応用] 第 9 回 Unit　11　Space Age (基礎と文法) + Japan in English #6 + Movie Script II (1) 第 10 回 Unit　11 Space Age (応用と読解) + Japan in English #7 + Movie Script II (2) 第 11 回 Unit　12 The Future of Medical Science (基礎と文法) + Japan in English #8 + Movie Script II (3) 第 12 回 Unit　12 The Future of Medical Science (応用と読解)+ Japan in English #9 + Movie Script II (4) 第 13 回 Unit　13 Uncontacted Tribes (基礎と文法)+ Japan in English #10 + Songs (2) 第 14 回 Unit 13 Uncontacted Tribes (応用と読解) + Japan in English # 6-10 の総復習			

第 15 回 Unit 11 から Unit 13 の総括と総合課題(2)[第 9 回から第 15 回のまとめと応用] ＊上記はあくまでも目安であり、変更の可能性があります。詳細は授業中に指示します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1220205
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる平常点（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価、なお、全授業回数の３分の１以上の欠席で失格とします。		
到達目標	相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. 田舎派 VS. 都会派
2. お肉大好き派 VS. ベジタリアン
3. お酒はたしなむ程度 VS. 大酒飲み
4. ショッピング派 VS. 観光派
5. 仕事と子育て両立派 VS. 子育て専念派
6. 孤独を楽しむ派 VS. 大勢で楽しむ派
7. エンタメ派 VS. ニュース派
8. 早起き派 VS. 宵っ張り派
9. 手紙派 VS. E メール派
10. ネット購入派 VS. お店で購入派
11. ビーチ派 VS. 登山派
12. ほめてしつけ派 VS.叱ってしつけ派
13. 一戸建て派 VS. マンション派
14. 会社勤め安定派 VS. 独立企業派
15. 楽観派 VS.悲観派

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	12	7	13	17	14	12

年度	2015	授業コード	JC1220206
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	「総合英語 I 」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。この授業では、「総合英語 I」に引き続き、比較的平易な食品、健康の話題を中心とした記事を読む訓練をします。それらの文章の読解を通して、英語の文章の内容把握、要約、英作文の練習、文法の復習問題などを行います。また、音声 CD を利用したリスニング問題、それを基にしたペアワークなどにも取り組み、英語によるコミュニケーション力の向上を目指します。		
教材（テキスト）	鶴岡 公幸／佐藤 義明　著　Hungry Planet : What the World Eats 「地球の食卓―世界の食・環境を通して知る文化」（松柏社）　その他プリント教材		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。 その他授業中に指示します。		
教材（その他）	音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Introduction / Feast of Eden: 多文化社会オーストラリアの食卓
2. Water at the Wadi: チャドでは安定した食料提供が最重要課題
3. On the Cusp: 健康ブームの中国
4. Still Afloat: 有機野菜の豊富なキューバ
5. Hypermarket Fever: 高カロリー摂取は昼食で―肥満の少ないフランス
6. Big Logic: 豊かになったドイツ人の食生活
7. Bacon at the Bees': エスニック料理も欠かせない英国の食文化
8. Indigenous Spirits: グアテマラの主食はトルティーヤ
9. Review of Chapter 1-8: 1-8 章の総復習
10. Poha Breakfast: 多彩なスパイスで健康的なインドの食事
11. Oil for Food: 欧米スタイルのスーパーで食材の買い物―クウェート
12. Wanted: Living Wage: 豪華な昼食とトルティーヤ
13. Hungry for Change: 家畜飼育を生業としてきたモンゴルの代表料理はボーズ
14. Fabulous Food: 豊かで水に恵まれているトルコは優れた食材の産地
15. Kick the Can: 低脂肪の乳製品が増加しているアメリカ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220207
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	比較的優しいテキストを使用し、英語を読む楽しさを実感していただきたいと思います。本文は 200 語から 250 語ほどですが、意味理解、音読、インテイク、プレアウトプットと、語学習得に必要なプロセスをたどりながら 英語のスキルを上げて行きます。		
教材（テキスト）	Casy Malarcher, Shinichi Harada 著　Basic Faster Reading [New Edition]，SEIBIDO		
教材（参考文献）	必要な場合は授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のた　めに授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1：　Lions
第　3 週:　Unit 2：　Ramen
第　4 週:　Unit 3：　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4：　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5：　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6：　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7：　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8：　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9：　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad，　全般的な復習

（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JC1220208
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 I 」を継承、発展させた形での授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる増強をはかり、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力をさらに発展させる。「総合英語 I 」に引き続き、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力をさらに向上させることを目指す。 このクラスでは、健康と環境を話題とした VOA（Voice of America）のニュース英文に学び、英語リスニング力の向上をはかりながら、同時にバイオ環境学の分野において不可欠な英語表現を学んでいく。		
教材（テキスト）	Richard S. Lavin et al.、For a Better Future: Health & Environment Topics from VOA、松柏社、1,800 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）および中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および口頭や文章で伝達する力を身につける。 3．「総合英語 I 」に続き、バイオ環境の分野において必要な基礎的な英語の語彙をさらに多く習得する。		
準備学習	1．教科書に記載のサイトより先ず音声ファイルをダウンロードしておく（無料）。 2．次回授業で取り扱う VOA の Article を確認し、音声ファイルでそのニュースを何度も聴き、Summary Check に解答し、さらに Text の空所を補充しておく。 3．True or False、Vocabulary Building、Useful Expressions の問題にも解答しておく。いずれか（時には全部）を小テスト問題として利用する。なお、Translations は授業内演習では省略する。 4．空所補充後の text（VOA ニュース本文）を何十回と音読する。		

受講者への要望

1．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
2．英検や TOEIC などの英語資格試験の受験に挑戦するとよい。

講義の順序とポイント

1 回の授業で 1 article を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Article 1: Don’t Forget Your Coffee!
2．Article 2: Solar Cars in South Africa
3．Article 3: Video Games and Dyslexia
4．Article 4: Let’s Go Fishing … and Farming!
5．Article 5: Scientists Get with the Beat
6．Article 6: Farmed Christmas Trees: Good for the Environment
7．中間課題、Article 7: Can Mothers’ Milk Beat HIV?
8．Article 8: The World’s Largest Solar power Plant
9．Article 9: Is Community-Based Mental health Treatment Better?
10．Article 10: How Can Farmers Use Social Media?

11. Article 11: How Can We Get Children to Eat Better?
12. Article 12: Making Agriculture Sustainable
13. Article 13: Diet at the Root of Tooth Decay?
14. 期末課題、Article 14: Concerns about Ethanol
15. Article 15: A New Way to Find Malaria Infections

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JC1220231
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「総合英語II」では、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。		
教材（参考文献）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜8.　文章構成の理解を深めるとともに、不定詞、動名詞、分詞について学習する。 9.　中間テストをする。 10〜15.　文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞などについて学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220232
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	瀧井　幸男	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「総合英語II」では、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。		
教材（参考文献）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜8.　　文章構成の理解を深めるとともに、不定詞、動名詞、分詞について学習する。 9.　　中間テストをする。 10〜15.　文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞などについて学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220233
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「総合英語II」では、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。		
教材（参考文献）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、出席状況、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜8.　　文章構成の理解を深めるとともに、不定詞、動名詞、分詞について学習する。 9.　　中間テストをする。 10〜15.　文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞などについて学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220234
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語 Ⅰ・科学英語基礎 Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第４版　大修館書店（３，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．基本英語
2．疑問詞・特殊疑問文
3．一般・選択・付加疑問文
4．命令文・特殊な文
5．否定文
6．動名詞・不定詞
7．分詞・不定詞基本
8．総合演習（1）
9．品詞・句・節
10．目的語をとる分詞句
11．目的語をとる不定詞句
12．使役動詞と原型不定詞
13．知覚動詞
14．等位接続詞
15．総合演習（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JC1220235
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語 Ⅰ・科学英語基礎 Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第４版　大修館書店（３，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．基本英語
2．疑問詞・特殊疑問文
3．一般・選択・付加疑問文
4．命令文・特殊な文
5．否定文
6．動名詞・不定詞
7．分詞・不定詞基本
8．総合演習（1）
9．品詞・句・節
10．目的語をとる分詞句
11．目的語をとる不定詞句
12．使役動詞と原型不定詞
13．知覚動詞
14．等位接続詞
15．総合演習（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JC1220251
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	「総合英語 I 」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、イギリスの文化やしきたりについて学びながら、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。		
教材（テキスト）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円. その他プリント教材.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。 その他授業中に指示します。		
教材（その他）	音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Introduction / Day 1? I Can't Wait to Explore Britain!--?「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2 ?How about Going to a Pub?--「?パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3? The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4? What Do You Suggest We Do Today?--「?雨の日には美術館へ」
5. Day 5? This Is a Multi-Ethnic Country--「?多民族社会イギリス」
6. Day 6? What's It Like Being a Student in the UK?--「?大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7? Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8? You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9. Day 9? It's Fun Listening to Different Accents--「 8 月のエディンバラ」
10. Day 10? Do You Fancy Something Sweet?--「?そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11 ?I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「?市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12? I'm Looking forward to Seeing Wales!--「?ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13? Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14 ?Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15 ?That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220252
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	総合英語Ｂ
講義概要	映画の中に出てくる食文化や食べ物を通して、映画を楽しみながら英語を学ぶ。		
教材（テキスト）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著　A Flavor of English: Cinema and Cuisine　映画で味わう食文化　￥１，７００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用してリスニング等を行うこともある。		
評価方法	中間・期末テストの平均点（６０％）　平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト〉（４０％）　全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる　（３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	基礎的な英文法を学習し、英文読解力をつけ、食文化を通して海外の文化への理解を深める。		
準備学習	準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明
２回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　前半
３回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　後半
４回目　　Chapter 3　Super Size Me　前半
５回目　　Chapter 3　Super Size Me　後半
６回目　　Chapter 7　No Reservations　前半
７回目　　Chapter 7　No Reservations　後半
８回目　　復習と授業内テスト
９回目　　Chapter 8　Dear Frankie　前半
１０回目　Chapter 8　Dear Frankie　後半
１１回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　前半
１２回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　後半
１３回目　Chapter11 Everybody’s Fine　前半
１４回目　Chapter11 Everybody’s Fine　後半
１５回目　Chapter12 The Witch of the West Is Dead
授業の進度・課は変わることがある。学期中に扱わない課は課題用に回すこともある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1220253
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	比較的優しいテキストを使用し、英語を読む楽しさを実感していただきたいと思います。本文は 200 語から 250 語ほどですが、意味理解、音読、インテイク、プレアウトプットと、語学習得に必要なプロセスをたどりながら 英語のスキルを上げて行きます。		
教材（テキスト）	Casy Malarcher, Shinichi Harada 著　Basic Faster Reading [New Edition]，SEIBIDO		
教材（参考文献）	必要な場合は授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のた　めに授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1：　Lions
第　3 週:　Unit 2：　Ramen
第　4 週:　Unit 3：　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4：　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5：　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6：　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7：　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8：　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9：　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad，　全般的な復習

（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JC1220256
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Casy Malarcher, Shinichi Harada 著　Basic Faster Reading [New Edition],　SEIBIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。
是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のために授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1 :　Lions
第　3 週:　Unit 2 :　Ramen
第　4 週:　Unit 3 :　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4 :　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5 :　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6 :　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7 :　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8 :　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9 :　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad ,　全般的な復習
（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JC1220257
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Casy Malarcher, Shinichi Harada 著　Basic Faster Reading [New Edition],　SEIBIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。
是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のために授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1 :　Lions
第　3 週:　Unit 2 :　Ramen
第　4 週:　Unit 3 :　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4 :　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5 :　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6 :　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7 :　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8 :　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9 :　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad ,　全般的な復習
（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JC1220258
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Casy Malarcher, Shinichi Harada 著　Basic Faster Reading [New Edition],　SEIBIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。
是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のために授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1 :　Lions
第　3 週:　Unit 2 :　Ramen
第　4 週:　Unit 3 :　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4 :　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5 :　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6 :　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7 :　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8 :　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9 :　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad ,　全般的な復習
（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JC1220259
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Casy Malarcher, Shinichi Harada 著　Basic Faster Reading [New Edition],　SEIBIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。
是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のために授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1 :　Lions
第　3 週:　Unit 2 :　Ramen
第　4 週:　Unit 3 :　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4 :　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5 :　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6 :　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7 :　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8 :　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9 :　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad ,　全般的な復習
（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JC1220261
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。この授業では、「総合英語 I」に引き続き、病院で起こりうるいろいろな状況下で耳にするであろう外国人患者と病院職員との英語での対話場面を想定し、その際に必要となる英語の表現を身につけることを目指します。比較的平易な英語表現、語彙を繰り返し使用することで、医療の場で必要となる英語力の向上を目指します。また、グループワークなども取り入れる予定です。		
教材（テキスト）	樋口 晶彦, John Tremarco 編著. First Aid!: English for Nursing 『看護英語への総合的アプローチ』（金星堂）， その他プリント教材		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。 その他授業中に指示します。		
教材（その他）	音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、ほぼ毎回の授業で、前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。

Unit 1: First Visit to a Hospital
Unit 2: How to Fill in a Registration Form
Unit 3: Let’s Ask about Mr. Brown’s Daily Activities
Unit 4: Mr. Brown’s Symptoms
Unit 5: Medical Check Up 1
Unit 6: Medical Check Up 2
Unit 7: Mr. Brown’s Diagnosis
Unit 8: Mr. Anderson’s Symptoms
Unit 9: Let’s Ask More about Mr. Anderson’s Symptoms
Unit 10: Explaining Blood Test Results
Unit 11: How to Take Medicine
Unit 12: Mrs. Johnson Feels Dizzy
Unit 13: An MRI Test
Unit 14: Recommending an Operation
Unit 15: Post-operative Care

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1220262
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Toshiaki Nishihara, Mayumi Nishihara, Amy Nukamuri 著 Better Health for Every Day,　　KINSEIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにします。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	・次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 ・毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨むんでください。 ・復習テストの準備をしてください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。
・授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1：　Fuel Your Body and Mind
第　3 週:　Unit 2：　What Helps Keep a Doctor Away?
第　4 週:　Unit 3：　Laughnig Will Save You from Going Crazy
第　5 週:　Unit 4：　The Fench Paradox
第　6 週:　Unit 5：　Americans' Interest in Sushi
第　7 週:　Unit 6：　Don't Stay Away from Natto
第　8 週:　Unit 7：　Acute Alcohol Intoxication Can Kill You
第　9 週:　Unit 8：　Is Snoring a Bad Sign?
第 10 週:　Unit 9：　Getting a Good Night's Sleep is a Challenge
第 11 週:　Unit 10 : Chocolate and its Magical Power
第 12 週:　Unit 11 : The Health Risks of Eating Processed Food
第 13 週:　Unit 12 : Is Genetically Modified Food Safe Enough?
第 14 週:　Unit 13 : Environmental Health Threats
第 15 週:　Unit 17：全般的な復習
Review Test 1.2 は学習の進捗状況により実施時期を判断します。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JC1220263
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅱ」は春学期開講の「総合英語Ⅰ」に引き続き、健康医療学部看護学科１回生向けの必修科目です。 この授業では、Take Care!（三修社） を用いて英語の４技能を高めます。このテキストは医療系の大学で学ぶ人を対象として作成されたものです。看護学部における英語学習にふさわしい役に立つ題材を使って、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの４技能をバランスよく学べるように構成されています。 将来の仕事に直結した英語によるコミュニケーション能力の養成を目的として、できる限り実際に使用されている教材を用い、ESP（English for Specific Purposes）の考え方を取り入れて構成されています。 ワークブックの要素も取り入れられていますので、みなさんが書き込みできるようになっており、授業中の活動でアクティブ・ラーニングを行えるようになっています。		
教材（テキスト）	Take Care!（三修社）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。		
教材（その他）	テキストには CD がついていませんが、教室では音声も使ってリスニングやリーディング能力の向上に努めます。		
評価方法	「総合英語Ⅱ」では、授業中の発表など授業参加（20%）、課題提出（20%）、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	中学や高校で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに医療現場で日常的に使用する専門用語の語彙を獲得し、活用できるようになる。イラストや写真を豊富に使ったエクササイズが用意されているので、読み、書き、聞き、話すという英語力のいっそうの向上をめざす。春学期に英検２級を取得できなかった学生諸君は秋学期修了までに英検２級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
準備学習	授業開始までに、高校や春学期の「総合英語Ⅰ」で学んだ英語の基本語彙、専門用語、文法本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、各 Chapter が終了するたびに、京学なびを通じて、課題の提出を求めます。		
受講者への要望			
①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 ③英語学習には継続的な学習習慣が必要であり、自律学習に励んでください。			
講義の順序とポイント			
初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。 第１回　Inroduction 第２回　Unit 1: What Worries Barbara? 第３回　Unit 2: That's Mama's Hair! 第４回　Unit 3: Menstrual Problems 第５回　Unit 4: Right or Left? 第６回　Unit 5: How to Give First Aid 第７回　Unit 6: A Blind Pianist 第８回　前半の授業の振り返りおよび反転学習 第９回　Unit 7: Are You Being Abused? 第 10 回　Unit 8: Giving Blood 第 11 回　Unit 9: Living　a Healthy Life 第 12 回　Unit 10: Is the Treatment Different or Not?			

第 13 回　Unit 11: Oh, Poor Elderly People! 第 14 回　Unit 12: What Is Homeopathy? 第 15 回　後半の授業の振り返りおよび反転学習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JC1220264
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」を発展させた形で授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、＜読む・書く・聞く・話す＞4技能の基礎力をさらに向上させる。テキストの読解と音読を通じて、英語文化に親しみ、英語によるグローバルなコミュニケーションの力を高める。＜読む・書く＞については、関係詞・不定詞・動名詞・分詞など等の文法項目や重要語句の意味を確認しながら、課題・発表を含む演習を実施する。＜聞く・話す＞については、「総合英語Ⅰ」の授業に引き続き、日本語を母国語とする英語学習者向けのストレッチ式発声法を用いて、「ネイティブ発音」の技法＜発展編＞を練習する。またテキストＣＤのリスニング問題を解答し、その要約文を繰り返し音読・暗記することでスピーキング力を養う。		
教材（テキスト）	Basic Faster Reading〔New Edition〕 成美堂 1,900。		
教材（参考文献）	「ネイティブ発音」科学的上達法―おどろきのストレッチ式発声術　講談社（ブルーバックス新書）980。		
教材（その他）			
評価方法	積極的な学習態度・発表・授業内小テスト・学習ノート作成など等による平常点（30%）、レポート（20%）、定期テスト（50%）。全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格とする。（3分の2以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の4技能習得により、グローバル社会におけるコミュニケーション力をさらに向上させる。		
準備学習	予習と復習の課題を完成させる。各回授業に係る復習小テストをする。参考文献の重要事項について調べ、レポートを書く。		

受講者への要望

積極的な態度で授業に参加する。テキストと学習ノート等のほか、必ず辞書を持参する。毎授業時に学習ノートを作成する。遅刻、居眠り、私語その他学習の妨げになる行為は厳禁。

講義の順序とポイント

1．　オリエンテーション
2．　ライオンの生態：リスニングとスピーキングについて
3．　日本人の国民食：リーディングとライティングについて
4．　世界遺産・ピサの斜塔：発音記号と辞書の使い方＜発展篇＞
5．　言葉を理解する犬：文法と音法
6．　タブレットで読書：発音と発声、発話（1）
7．　バレンタイン・デー：文の音読（1）
8．　世界遺産・タージマハル：文法と読解（1）
9．　デスクトップパソコンとノートパソコン：発音と発声、発話（2）
10．　メビウスの輪：文の音読（2）
11．　休日に仕事を：文法と読解（2）
12．　アメリカの朝食：発音と発声、発話（3）
13．　FIFA ワールドカップ：文の音読（3）
14．　血液型で性格判断：文法と読解（3）
15．　テレビのリアリティ番組：まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	JC1220265
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	塩田　英子	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な英語総合教材を使用し、英語の基礎力の定着を目指します。加えて、皆さんが英語に興味を持つためのヒントを提供していきたいとも思ってます。たとえばこの授業では毎回、映画を視聴し、その中の１シーンをとりあげてセリフの聞き取りを行う機会を持つ予定です。さらに、英語で書かれた日本の風物についての記事を読み、身近な出来事について英語を通して考える取り組みも行います。皆さんからの希望があれば適宜、TOEIC や英検などの資格試験に対応した問題演習を取り入れることも可能です。英語はあまり得意ではないけれど、映画や新聞の英語には興味があるという方も大歓迎です。いっしょに英語の世界を楽しみましょう。		
教材（テキスト）	(1) Kyoko Okamoto, Benedict Rowlett, Aya Kinoshita and Sara Ellis 著 『English Challenger (リーディングに役立つ基本英文法)』 Seibido　￥1,900＋税 (2) プリント教材１：日本のニュースを英語で読もう（Japan in English #1-10） (3) プリント教材２：生きた英語で耳を鍛えよう（Movie Script I (1)-(4), Movie Script 2 (1)-(4), Songs (1) & (2)）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて、CD や DVD を使用することがあります。		
評価方法	平常点(20%)：授業態度や各授業内容の理解度などから評価します。 復習テスト 1 (40%)：授業内に実施する復習テスト 1 の結果から評価します。 復習テスト 2 (40%)：授業内に実施する復習テスト 2 の結果から評価します。 ＊なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただし、3 分の 2 以上の出席があった場合、必ず合格するという意味ではないので注意すること。		
到達目標	1.大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着をはかります。 2.さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようにします。 3.日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および伝達する力を身につけます。		
準備学習	1.高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。 2.授業で扱ってほしい映画や洋楽などの題材があればぜひ教えてください。 3.各授業中に授業参加のための準備学習を指示します。		
受講者への要望			
1.英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 2.基礎英語以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修するようにしてください。 3.実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 4.授業中の私語や睡眠、テキストを忘れる等、授業態度にはくれぐれもご注意ください。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 初回オリエンテーション(授業の進め方について等) 第 2 回 Unit　8 Future Food (基礎と文法) + Japan in English #1 + Movie Script I (1) 第 3 回 Unit　8 Future Food (応用と読解) + Japan in English #2 + Movie Script I (2) 第 4 回 Unit　9 The Ideal Wedding (基礎と文法) + Japan in English #3 + Movie Script I (3) 第 5 回 Unit　9 The Ideal Wedding (応用と読解) + Japan in English #4 + Movie Script I (4) 第 6 回 Unit　10 How to Stay Young and Healthy (基礎と文法) + Japan in English # 5 + Songs (1) 第 7 回 Unit　10 How to Stay Young and Healthy (応用と読解) + Japan in English #1-5 の総復習 第 8 回 Unit　8 から Unit 10 の総括と総合課題(1)[第 2 回から第 7 回のまとめと応用] 第 9 回 Unit　11　Space Age (基礎と文法) + Japan in English #6 + Movie Script II (1) 第 10 回 Unit　11 Space Age (応用と読解) + Japan in English #7 + Movie Script II (2) 第 11 回 Unit　12 The Future of Medical Science (基礎と文法) + Japan in English #8 + Movie Script II (3) 第 12 回 Unit　12 The Future of Medical Science (応用と読解)+ Japan in English #9 + Movie Script II (4) 第 13 回 Unit　13 Uncontacted Tribes (基礎と文法)+ Japan in English #10 + Songs (2) 第 14 回 Unit 13 Uncontacted Tribes (応用と読解) + Japan in English # 6-10 の総復習			

第 15 回 Unit 11 から Unit 13 の総括と総合課題(2)[第 9 回から第 15 回のまとめと応用] ＊上記はあくまでも目安であり、変更の可能性があります。詳細は授業中に指示します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1220266
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 A」を発展させた形で授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、＜読む・書く・聞く・話す＞4 技能の基礎力をさらに向上させる。テキストの読解と音読を通じて、英語文化に親しみ、英語によるグローバルなコミュニケーションの力を高める。＜読む・書く＞については、関係詞・不定詞・動名詞・分詞など等の文法項目や重要語句の意味を確認しながら、課題・発表を含む演習を実施する。＜聞く・話す＞については、「総合英語 I 」の授業に引き続き、日本語を母国語とする英語学習者向けのストレッチ式発声法を用いて、「ネイティブ発音」の技法＜発展編＞を練習する。またテキストＣＤのリスニング問題を解答し、その要約文を繰り返し音読・暗記することでスピーキング力を養う。		
教材（テキスト）	Basic Faster Reading〔New Edition〕 成美堂 1,900。		
教材（参考文献）	「ネイティブ発音」科学的上達法―おどろきのストレッチ式発声術　講談社（ブルーバックス新書）980。		
教材（その他）			
評価方法	積極的な学習態度・発表・授業内小テスト・学習ノート作成など等による平常点（30%）、レポート（20%）、定期テスト（50%）。全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格とする。（3 分の 2 以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の 4 技能習得により、グローバル社会におけるコミュニケーション力をさらに向上させる。		
準備学習	予習と復習の課題を完成させる。各回授業に係る復習小テストをする。参考文献の重要事項について調べ、レポートを書く。		

受講者への要望

積極的な態度で授業に参加する。テキストと学習ノート等のほか、必ず辞書を持参する。毎授業時に学習ノートを作成する。遅刻、居眠り、私語その他学習の妨げになる行為は厳禁。

講義の順序とポイント

1．　オリエンテーション
2．　ライオンの生態：リスニングとスピーキングについて
3．　日本人の国民食：リーディングとライティングについて
4．　世界遺産・ピサの斜塔：発音記号と辞書の使い方＜発展篇＞
5．　言葉を理解する犬：文法と音法
6．　タブレットで読書：発音と発声、発話（1）
7．　バレンタイン・デー：文の音読（1）
8．　世界遺産・タージマハル：文法と読解（1）
9．　デスクトップパソコンとノートパソコン：発音と発声、発話（2）
10.　メビウスの輪：文の音読（2）
11.　休日に仕事を：文法と読解（2）
12.　アメリカの朝食：発音と発声、発話（3）
13.　FIFA ワールドカップ：文の音読（3）
14.　血液型で性格判断：文法と読解（3）
15.　テレビのリアリティ番組：まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	JC1220267
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 A」を発展させた形で授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、＜読む・書く・聞く・話す＞4 技能の基礎力をさらに向上させる。テキストの読解と音読を通じて、英語文化に親しみ、英語によるグローバルなコミュニケーションの力を高める。＜読む・書く＞については、関係詞・不定詞・動名詞・分詞など等の文法項目や重要語句の意味を確認しながら、課題・発表を含む演習を実施する。＜聞く・話す＞については、「総合英語 I 」の授業に引き続き、日本語を母国語とする英語学習者向けのストレッチ式発声法を用いて、「ネイティブ発音」の技法＜発展編＞を練習する。またテキストＣＤのリスニング問題を解答し、その要約文を繰り返し音読・暗記することでスピーキング力を養う。		
教材（テキスト）	Basic Faster Reading〔New Edition〕 成美堂 1,900。		
教材（参考文献）	「ネイティブ発音」科学的上達法―おどろきのストレッチ式発声術　講談社（ブルーバックス新書）980。		
教材（その他）			
評価方法	積極的な学習態度・発表・授業内小テスト・学習ノート作成など等による平常点（30%）、レポート（20%）、定期テスト（50%）。全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格とする。（3 分の 2 以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の 4 技能習得により、グローバル社会におけるコミュニケーション力をさらに向上させる。		
準備学習	予習と復習の課題を完成させる。各回授業に係る復習小テストをする。参考文献の重要事項について調べ、レポートを書く。		

受講者への要望

積極的な態度で授業に参加する。テキストと学習ノート等のほか、必ず辞書を持参する。毎授業時に学習ノートを作成する。遅刻、居眠り、私語その他学習の妨げになる行為は厳禁。

講義の順序とポイント

1．　オリエンテーション
2．　ライオンの生態：リスニングとスピーキングについて
3．　日本人の国民食：リーディングとライティングについて
4．　世界遺産・ピサの斜塔：発音記号と辞書の使い方＜発展篇＞
5．　言葉を理解する犬：文法と音法
6．　タブレットで読書：発音と発声、発話（1）
7．　バレンタイン・デー：文の音読（1）
8．　世界遺産・タージマハル：文法と読解（1）
9．　デスクトップパソコンとノートパソコン：発音と発声、発話（2）
10．　メビウスの輪：文の音読（2）
11．　休日に仕事を：文法と読解（2）
12．　アメリカの朝食：発音と発声、発話（3）
13．　FIFA ワールドカップ：文の音読（3）
14．　血液型で性格判断：文法と読解（3）
15．　テレビのリアリティ番組：まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	JC1220270
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	総合英語Ｂ
講義概要	映画の中に出てくる食文化や食べ物を通して、映画を楽しみながら英語を学ぶ。		
教材（テキスト）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著　A Flavor of English: Cinema and Cuisine　映画で味わう食文化　￥１，７００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用してリスニング等を行うこともある。		
評価方法	中間・期末テストの平均点（６０％）　平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト〉（４０％）　全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる　（３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	基礎的な英文法を学習し、英文読解力をつけ、食文化を通して海外の文化への理解を深める。		
準備学習	準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明
２回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　前半
３回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　後半
４回目　　Chapter 3　Super Size Me　前半
５回目　　Chapter 3　Super Size Me　後半
６回目　　Chapter 7　No Reservations　前半
７回目　　Chapter 7　No Reservations　後半
８回目　　復習と授業内テスト
９回目　　Chapter 8　Dear Frankie　前半
１０回目　Chapter 8　Dear Frankie　後半
１１回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　前半
１２回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　後半
１３回目　Chapter11 Everybody’s Fine　前半
１４回目　Chapter11 Everybody’s Fine　後半
１５回目　Chapter12 The Witch of the West Is Dead
授業の進度・課は変わることがある。学期中に扱わない課は課題用に回すこともある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1220271
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Toshiaki Nishihara, Mayumi Nishihara, Amy Nukamuri 著 Better Health for Every Day,　　KINSEIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにします。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	・次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 ・毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨むんでください。 ・復習テストの準備をしてください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。
・授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1：　Fuel Your Body and Mind
第　3 週:　Unit 2：　What Helps Keep a Doctor Away?
第　4 週:　Unit 3：　Laughnig Will Save You from Going Crazy
第　5 週:　Unit 4：　The Fench Paradox
第　6 週:　Unit 5：　Americans' Interest in Sushi
第　7 週:　Unit 6：　Don't Stay Away from Natto
第　8 週:　Unit 7：　Acute Alcohol Intoxication Can Kill You
第　9 週:　Unit 8：　Is Snoring a Bad Sign?
第 10 週:　Unit 9：　Getting a Good Night's Sleep is a Challenge
第 11 週:　Unit 10 : Chocolate and its Magical Power
第 12 週:　Unit 11 : The Health Risks of Eating Processed Food
第 13 週:　Unit 12 : Is Genetically Modified Food Safe Enough?
第 14 週:　Unit 13 : Environmental Health Threats
第 15 週:　Unit 17：全般的な復習
Review Test 1.2 は学習の進捗状況により実施時期を判断します。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JC1220272
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Toshiaki Nishihara, Mayumi Nishihara, Amy Nukamuri 著 Better Health for Every Day,　　KINSEIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにします。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	・次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 ・毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨むんでください。 ・復習テストの準備をしてください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。
・授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1：　Fuel Your Body and Mind
第　3 週:　Unit 2：　What Helps Keep a Doctor Away?
第　4 週:　Unit 3：　Laughnig Will Save You from Going Crazy
第　5 週:　Unit 4：　The Fench Paradox
第　6 週:　Unit 5：　Americans' Interest in Sushi
第　7 週:　Unit 6：　Don't Stay Away from Natto
第　8 週:　Unit 7：　Acute Alcohol Intoxication Can Kill You
第　9 週:　Unit 8：　Is Snoring a Bad Sign?
第 10 週:　Unit 9：　Getting a Good Night's Sleep is a Challenge
第 11 週:　Unit 10 : Chocolate and its Magical Power
第 12 週:　Unit 11 : The Health Risks of Eating Processed Food
第 13 週:　Unit 12 : Is Genetically Modified Food Safe Enough?
第 14 週:　Unit 13 : Environmental Health Threats
第 15 週:　Unit 17：全般的な復習
Review Test 1.2 は学習の進捗状況により実施時期を判断します。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JC1220273
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる平常点（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価、なお、全授業回数の３分の１以上の欠席で失格とします。		
到達目標	相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. 田舎派 VS. 都会派
2. お肉大好き派 VS. ベジタリアン
3. お酒はたしなむ程度 VS. 大酒飲み
4. ショッピング派 VS. 観光派
5. 仕事と子育て両立派 VS. 子育て専念派
6. 孤独を楽しむ派 VS. 大勢で楽しむ派
7. エンタメ派 VS. ニュース派
8. 早起き派 VS. 宵っ張り派
9. 手紙派 VS. E メール派
10. ネット購入派 VS. お店で購入派
11. ビーチ派 VS. 登山派
12. ほめてしつけ派 VS.叱ってしつけ派
13. 一戸建て派 VS. マンション派
14. 会社勤め安定派 VS. 独立企業派
15. 楽観派 VS.悲観派

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JC1220301
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220302
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1220303
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1220304
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1220305
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220351
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220352
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220353
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220401
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!
講義の順序とポイント
Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information. Lesson 2: Travelling and transportation. Lesson 3: Talking about lifestyle. Lesson 4: Talking about food. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Describing a vacation. Lesson 7: Making requests. Lesson 8: Giving suggestions. Lesson 9: Describing holidays/festivals. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about change. Lesson 12: Describing abilities. Lesson 13: Describing movies/books/games. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220402
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!
講義の順序とポイント
Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information. Lesson 2: Travelling and transportation. Lesson 3: Talking about lifestyle. Lesson 4: Talking about food. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Describing a vacation. Lesson 7: Making requests. Lesson 8: Giving suggestions. Lesson 9: Describing holidays/festivals. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about change. Lesson 12: Describing abilities. Lesson 13: Describing movies/books/games. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220403
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!
講義の順序とポイント
Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information. Lesson 2: Travelling and transportation. Lesson 3: Talking about lifestyle. Lesson 4: Talking about food. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Describing a vacation. Lesson 7: Making requests. Lesson 8: Giving suggestions. Lesson 9: Describing holidays/festivals. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about change. Lesson 12: Describing abilities. Lesson 13: Describing movies/books/games. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220404
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Presentations.
Lesson 15: Final review.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220405
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!
講義の順序とポイント
Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information. Lesson 2: Travelling and transportation. Lesson 3: Talking about lifestyle. Lesson 4: Talking about food. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Describing a vacation. Lesson 7: Making requests. Lesson 8: Giving suggestions. Lesson 9: Describing holidays/festivals. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about change. Lesson 12: Describing abilities. Lesson 13: Describing movies/books/games. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220451
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!
講義の順序とポイント
Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information. Lesson 2: Travelling and transportation. Lesson 3: Talking about lifestyle. Lesson 4: Talking about food. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Describing a vacation. Lesson 7: Making requests. Lesson 8: Giving suggestions. Lesson 9: Describing holidays/festivals. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about change. Lesson 12: Describing abilities. Lesson 13: Describing movies/books/games. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220452
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!
講義の順序とポイント
Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information. Lesson 2: Travelling and transportation. Lesson 3: Talking about lifestyle. Lesson 4: Talking about food. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Describing a vacation. Lesson 7: Making requests. Lesson 8: Giving suggestions. Lesson 9: Describing holidays/festivals. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about change. Lesson 12: Describing abilities. Lesson 13: Describing movies/books/games. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220453
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information. Lesson 2: Travelling and transportation. Lesson 3: Talking about lifestyle. Lesson 4: Talking about food. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Describing a vacation. Lesson 7: Making requests. Lesson 8: Giving suggestions. Lesson 9: Describing holidays/festivals. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about change. Lesson 12: Describing abilities. Lesson 13: Describing movies/books/games. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220551
科目名	ビジネス英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	インターネットの進展と世界のボーダレス化に伴い、高度に情報化・国際化した現代社会において、英語は今やコミュニケーションの手段として、政治、経済、文化、外交などの分野で非常に大きな役割を果たしています。　また、企業の海外進出、海外企業との合弁事業、海外での子会社の設立といった激変するビジネス・ワールドに対応して、ビジネス英語のニーズも急速に増大し、その対象範囲も飛躍的に広がってきています。 この授業では、海外との会社間の取引をストリート化したテキストを用いて、その中で使用されるビジネス英語の基本を分かりやすく学ぶことを目的にしています。内容としては、来客および電話対応、ビジネスEメールやビジネス・レターの書き方、実社会において必要不可欠なビジネス・エチケットとプロトコール、さらに多種のプレゼンテーションやレジュメの作成など、ビジネス英語の基本事項を広範囲に学ぶことができます。 授業では、各ケースを想定したロールプレイ（役割練習）なども取り入れ、ビジネス英語をより身近なものにしていこうと思っています。		
教材（テキスト）	Business English for Bogommers （三修社）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など)。		
教材（その他）			
評価方法	「ビジネス英語Ⅰ」では、授業中の発表など授業参加（20%)、課題提出（20%)、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 まお、全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	高校や大学1年間で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、日常的な話題から専門的な問題にまだ活用できる英語力を身につけることを目標としています。EGP（English for General Purposes）から ESP（English for Specific Purposes）へと、ビジネスシーンで英語を活用できるようになる。春学期修了までに TOEIC500 点・英検2級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
準備学習	授業開始までに、高校や大学1年間で学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、各ｕｎｉｔが終了するたびに、京学なびを通じて、課題の提出を求めます。		
受講者への要望			
① 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ② この授業以外にもできるだけ多くの英語科目を履修するようにしてください。 ③ 実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。			
講義の順序とポイント			
第1回　Intoroduction to the class 第2回　Uni 1:　Receiving Visitors Part 1 第3回　Unit 2: Receiving Visitors Part 2 第4回　Unit 3: Telephoning Part 1 第5回　Unit 4: Telephoning Part 2 第6回　Unit 5: Business Etiquette & Protocol Part 1 第7回　Unit 6: Business Etiquette & Protocol Part 2 第8回　Unit 7: Business Etiquette & Protocol Part 3 および前半のふり返りと反転学習 第9回　Unit 8: Presentations Part 1 第10回　Unit 9: Presentations Part 2 第11回　Uni　10:　Presentations Part 3 第12回　Unit 11: Business Email Writing Part 1 第13回　Unit 12: Business Email Writing Part 2			

第 14 回　Unit 13: Business Letters および前半のふり返りと反転学習 第 15 回　Unit 14: Job Hunting Part 1&2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★		★		

年度	2015	授業コード	JC1220552
科目名	ビジネス英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	将来のビジネス社会において活躍するために、その基礎となる初歩的なビジネス英語の演習を行う。国際化の進展により英語の重要性が高まっており、近年、TOEIC（Test of English for International Communication）のスコアが要求される場面が増えてきた。TOEIC が、国際ビジネス社会での実用英語力を測るものとして有用だからである。TOEIC 対策として基本的な語彙力、聴解力、読解力の向上を目指すが、ただ問題を解くだけではなく、問題の意図を理解し、音読を徹底しながら、総合的な英語の基礎力を養成する。 このクラスでは先ず入門レベルのビジネス英語表現を習得していく。契約書の作成などに必要な専門用語を学ぶ旧来のビジネス英語ではなく、来客や電話応対、ビジネス・レターや E メール作成など、どちらかと言えばビジネス場面の「入り口」で必要となる英語表現を習得していく。		
教材（テキスト）	芳野聡子／他、Business English for Beginners（『はじめてのビジネス・イングリッシュ』）、三修社、1,800円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）および中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。		
到達目標	１．「総合英語」の履修などで身につけた英語表現をビジネスに特化した場面で応用できるようになる。 ２．TOEIC 問題に頻出する英語使用場面や表現に習熟し、TOEIC において未履修者よりも高いスコアを取得することができる。 ３．日常的な話題や社会の身近な問題についても、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
準備学習	１．次回授業で取り扱う unit の演習範囲を確認する。概ね、１回の授業で１unit の演習を行う ２．NOTE を参照しながら、Useful Expressions をすべて何度も音読しておく。なお、Useful Expressions は同じテーマの Part 1 にのみ掲載される。 ３．Sample Dialog(s)も声を出して読んでおく。できれば友人とペアを組んで対話練習しておくとよい。 ４．Exercises の問題を解いておく。いずれかを授業内での小テスト問題とする。 ５．「インフォメーション」は、将来のビジネス場面での心得として覚えておくとよい。		

受講者への要望

１．「総合英語」において、大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力を定着化させ、大学においてさらに多くの語彙を習得して活用できるようになった学生の履修を望む。
２．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
３．TOEIC 公開テストか、または学内で実施されると思われる TOEIC-IP テストを受験すること。

講義の順序とポイント

１回の授業で１unit を終える予定であり、授業では省略する演習も生じる。
１．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 1: Receiving Visitors Part 1
２．Unit 2: Receiving Visitors Part 2
３．Unit 3: Telephoning Part 1
４．Unit 4: Telephoning Part 2
５．Unit 5: Business Etiquette & Protocol Part 1
６．Unit 6: Business Etiquette & Protocol Part 2

7．中間課題、Unit 7: Business Etiquette & Protocol Part 3
8．Unit 8: Presentations Part 1
9．Unit 9: Presentations Part 2
10．Unit 10: Presentations Part 3
11．Unit 11: Business Email Writing Part 1
12．Unit 12: Business Email Writing Part 2
13．Unit 13: Business Letters
14．期末課題、Unit 14: Job Hunting Part 1
15．Unit 15: Job Hunting Part 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★				

年度	2015	授業コード	JC1220651
科目名	ビジネス英語II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	この授業は春学期開講の「ビジネス英語Ｉ」の上級クラスです。 世界中がインターネットでつながる現代、今後ますますグローバル化が進み、英語による情報の発信力、受信力がさらに問われる時代になります。この授業では、リスニング中心の奇数章と、リーディング中心の偶数章で構成されたテキストを用いて、ビジネスで必要な情報発信力と情報収集力の両方を学ぶことになります。 実際には、リスニング中心の奇数章では、英語のコミュニケーションをよりスムーズに行うために役立つ発音のこつや、テーマにそった語彙や表現を学びます。さらに発展問題としてストーリー仕立ての素材も用意されていますので、スピーキングに活用できるアクティブなリスニング能力の養成にも役立ちます。 一方、リーディング中心の偶数章では、ビジネスレターから広告や仕様書、操作マニュアルまで多様なジャンルの特徴を学ぶことができます。ビジネス文書や技術文書の多くは、ジャンルごとに特徴的なスタイル（文体）を持っています。こうしたスタイルになれることで、効率的な情報収集が可能となります。 このテキストで学んだ英語の受信力・発進力を目の前に広がるグローバル社会で活かせるよう、授業を進めていきたいと思っています。		
教材（テキスト）	Getting Global （金星堂）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など)。		
教材（その他）	テキストにはCDがついていませんが、テキスト購入者は音声を無料でダウンロードできるようになっています。テキストを購入して、各自で出版社のホームページにアクセスして、ダウンロードしてください。		
評価方法	「ビジネス英語II」では、授業中の発表など授業参加（20%)、課題提出（20%)、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 まお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。		
到達目標	「ビジネス英語Ｉ」で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、日常的な話題から専門的な問題にまだ活用できる英語力を身につけることを目標としています。EGP(English for General Purposes)からESP(English for Specific Purposes)へと、ビジネスシーンで英語を活用できるようになる。秋学期修了までに英検２級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
準備学習	① 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ② この授業以外にもできるだけ多くの英語科目を履修するようにしてください。 ③ 実用英語検定、TOEICなどの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。		
受講者への要望			
授業開始までに、高校や大学１年間で学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、各ｕｎｉｔが終了するたびに、京学なびを通じて、課題の提出を求めます。			
講義の順序とポイント			
第１回　Intoroduction to the class 第２回　Uni 1 & Unit 2:　Telephone 1 Business Email 第３回　Unit 3 & Unit 4:Telephone 1 Business Letter 第４回　Unit 5 & Unit 6: At the Reception Desk & Corporate Websites 第５回　Unit 7 & Unit 8: Company Profile & Product Advertisements 第６回　Unit 9 & Uni　10: Your Job & Productive Specifications 第７回　Unit 11 & Unit 12: Operating Instructions 第８回　Unit 13 & Unit 14:　Taking baout News & Science News 第９回　Unit 15 & Unit 16: Tourinst Information & Safety Signs 第１０回　Unit 17 & Unit 18: Dinner Talk & Abstracts 第１１回　Unit 19 : Preparation for Meetings 第１２回　Unit 20: Data and Graphs			

第 13 回　Unit 21 & Unit 22 : Presentation 1 & Presention 2 第 14 回　Unit 23: Various Requests 第 15 回　Unit 24:　Patent Description

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★		★		

年度	2015	授業コード	JC1220652
科目名	ビジネス英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「ビジネス英語Ⅰ」を発展、継承させる形で中級ビジネス英語演習を行う。英語によるコミュニケーション能力を測る TOEIC（Test of English for International communication）の問題を解くことによって、そのスコアアップを目指す。TOEIC の模擬テストおよび予想問題集を教材として用いて英語コミュニケーションの習熟度を測定し、スコアアップをはかるための実践的な演習を行い、「ビジネス英語Ⅰ」で身につけた基本的な語彙力と聴解力、読解力のさらなる向上を目指す。TOEIC に頻出する語彙、表現、文法事項を学習しながら、問題を体系的に攻略する。 このクラスで使用するテキストはストーリー仕立てとなっており、ストーリーを楽しみながら TOEIC のスコアアップをはかることができる。		
教材（テキスト）	Thomas Koch et. al.、Enjoy Studying the TOEIC Test（『ビジネス・ストーリーで学ぶ TOEIC Test』）、三修社、1,800 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）および中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる。		
到達目標	1．TOEIC に対応した問題演習に継続的に取り組むことにより、少なくとも 100 点以上のスコアアップをはかることができる。 2．ビジネスやビジネスに関連した生活場面で使用される英語表現に習熟し、将来、同様の生活場面において活用することができる。		
準備学習	1．次回授業で取り扱う Chapter の演習範囲を確認し、先ずその範囲の「語彙力増強のヒント」と「英文法一口メモ」とを読んでおく。 2．Listening Section（Parts 1-4）の問題については、問いと選択肢の英文とを読んで、意味のよく分からない語句があれば辞書などで調べておく。 3．Reading Section（Parts 5-7）の問題については、意味のよく分からない語があれば辞書などで調べながら、すべて解いておく。 4．いずれの問題においても、英文は何度も音読しておく。 5．教科書のいずれかの演習問題が小テストとなる。		

受講者への要望

1．「総合英語」において、大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力を定着化させ、大学においてさらに多くの語彙を習得して活用できるようになった学生、あるいは「ビジネス英語Ⅰ」において、初歩的なレベルのビジネス英語表現を習得した学生の履修を望む。

2．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。

3．TOEIC 公開テストか、または学内で実施されると思われる TOEIC-IP テストを受験すること。

講義の順序とポイント

1 回の授業で 1 chapter 以上を終える予定であり、万一時間不足となった場合は、授業では省略する演習も生じる。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Chapter 1: A Presentation at a Meeting

2．TOEIC 公開テストおよび IP、Chapter 2: Net Auction

3．Chapter 3: Advent of a Rival & Chapter 4: A Party at a Club

4．Chapter 5: Business Trip

5．Chapter 6: Physical Exercise & Chapter 7: Takeover a Company

6．Chapter 8: Childbirth
7．中間課題、Chapter 9: Entertainment of a Guest & Chapter 10: Shopping with a Friend
8．中間課題の復習、Chapter 9: Entertainment of a Guest & Chapter 10: Shopping with a Friend
9．Chapter 11: Workaholics & Chapter 12: Arguments
10．Chapter 13: Success in Winning a Contest
11．Chapter 14: Wedding Party & Chapter 15: A Failure in Business
12．Chapter 16: A Traffic Accident
13．Chapter 17: Business Negotiation & Chapter 18: At a Hospital
14．期末課題、Chapter 19: Getting a Promotion & Chapter 20: Enjoying Sightseeing
15．期末課題の復習、Chapter 19: Getting a Promotion & Chapter 20: Enjoying Sightseeing

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	JC1220653
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	総合英語A
講義概要	様々な分野の話題に関する英文を読んで、基礎的な英文読解力を養成する。		
教材（テキスト）	宍戸真　他著　Reading Expert Ⅰ 〈リーディング　エキスパート　－基礎編ー〉		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	中間・期末テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	各課の単語、文法事項、構文を理解し、テキストの英文が正確に読めるようになる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 1　新しい語句を調べる 2　自分の訳文ノートを作成する 3　練習問題をする		
受講者への要望			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1回目　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明 2回目　Lesson 2　Payment on Date 3回目　Lesson 4　Traditional Cures 4回目　Lesson 6　Bookcrossing 5回目　Lesson 9　Bermuda Triangle 6回目　Lesson12 A Food Stylist　前半 7回目　Lesson12 A Food Stylist　後半 8回目　復習と授業内テスト 9回目　Lesson 13 Banknotes １０回目　Lesson 16 The Blue Screen Technique １１回目　Lesson 18 Soccer Ball　前半 １２回目　Lesson 18 Soccer Ball　後半 １３回目　Leeson 23 Liar　前半 １４回目　Leeson 23 Liar　後半 １５回目　Lesson 24 Colors 授業の進度・課は変わることがある。 学期中に扱わない課は課題用に回すこともある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1220654
科目名	ビジネス英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	基礎的な英文法やイディオムを理解し、様々な興味深い話題に関する英文の読解力を養成する。		
教材（テキスト）	木村正俊　他著　First Steps to Global Communication　グローバル・トピックで学ぶ大学基本英文法 ￥１，８００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	中間・期末テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	基礎的な英文法やイディオムを学習し練習問題で理解を深め、英文読解力を向上させる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・イディオムを学習し理解する ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明
２回目　　Unit 1　Everything’s Ducky!
３回目　　Unit 2　A Dearth of Cherry Trees
４回目　　Unit 3　One Hundred Billion Servings
５回目　　Unit 4　A Stellar Superstar
６回目　　Unit 6　Switch Off, Look Up, Watch Out!
７回目　　Unit 7　Disappearing Beaches
８回目　　復習と授業内テスト
９回目　　Unit 8　An Alarming Allergy
１０回目　Unit 9　Three Cheers for the Girls!
１１回目　Unit12　Cats or kiwis?
１２回目　Unit13　A New Way to “Shoot Big Game”
１３回目　Unit14　The Candy Crush Sage
１４回目　Unit15　Hardy Humans and Huskies　前半
１５回目　Unit15　Hardy Humans and Huskies　後半

授業の進度・課は変わることがある。
学期中に扱わない課は課題用に回すこともある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	6	6	9	10	7	8

年度	2015	授業コード	JC1220656
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる平常点（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価、なお、全授業回数の３分の１以上の欠席で失格とします。		
到達目標	相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. ネコ派 VS. イヌ派
2. サッカー派 VS. 野球派
3. 映画館派 VS. DVD 派
4. 子どもが好き派 VS. 子どもなんて大嫌い派
5. カラオケ大好き派 VS. カラオケ大嫌い派
6. 節約家 VS. 浪費家
7. 夏が大好き派 VS. 冬が大好き派
8. 洋食派 VS. 和食派
9. 独身キャリア派 VS. 結婚したい派
10. バーゲン品購入派 VS. 高級品購入派
11. ファストフード派 VS. ファストフード敬遠派
12. 愛煙家 VS.嫌煙派
13. コーヒー派 VS. 緑茶派
14. 収入重視派 VS. 愛情重視派
15. お化粧は自然派 VS.お化粧バッチリ派

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JC1220657
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる平常点（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価、なお、全授業回数の３分の１以上の欠席で失格とします。		
到達目標	相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. ネコ派 VS. イヌ派
2. サッカー派 VS. 野球派
3. 映画館派 VS. DVD 派
4. 子どもが好き派 VS. 子どもなんて大嫌い派
5. カラオケ大好き派 VS. カラオケ大嫌い派
6. 節約家 VS. 浪費家
7. 夏が大好き派 VS. 冬が大好き派
8. 洋食派 VS. 和食派
9. 独身キャリア派 VS. 結婚したい派
10. バーゲン品購入派 VS. 高級品購入派
11. ファストフード派 VS. ファストフード敬遠派
12. 愛煙家 VS.嫌煙派
13. コーヒー派 VS. 緑茶派
14. 収入重視派 VS. 愛情重視派
15. お化粧は自然派 VS.お化粧バッチリ派

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JC1220658
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる平常点（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価、なお、全授業回数の３分の１以上の欠席で失格とします。		
到達目標	相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. 田舎派 VS. 都会派
2. お肉大好き派 VS. ベジタリアン
3. お酒はたしなむ程度 VS. 大酒飲み
4. ショッピング派 VS. 観光派
5. 仕事と子育て両立派 VS. 子育て専念派
6. 孤独を楽しむ派 VS. 大勢で楽しむ派
7. エンタメ派 VS. ニュース派
8. 早起き派 VS. 宵っ張り派
9. 手紙派 VS. E メール派
10. ネット購入派 VS. お店で購入派
11. ビーチ派 VS. 登山派
12. ほめてしつけ派 VS.叱ってしつけ派
13. 一戸建て派 VS. マンション派
14. 会社勤め安定派 VS. 独立企業派
15. 楽観派 VS.悲観派

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JC1220659
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる平常点（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価、なお、全授業回数の３分の１以上の欠席で失格とします。		
到達目標	相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. 田舎派 VS. 都会派
2. お肉大好き派 VS. ベジタリアン
3. お酒はたしなむ程度 VS. 大酒飲み
4. ショッピング派 VS. 観光派
5. 仕事と子育て両立派 VS. 子育て専念派
6. 孤独を楽しむ派 VS. 大勢で楽しむ派
7. エンタメ派 VS. ニュース派
8. 早起き派 VS. 宵っ張り派
9. 手紙派 VS. E メール派
10. ネット購入派 VS. お店で購入派
11. ビーチ派 VS. 登山派
12. ほめてしつけ派 VS.叱ってしつけ派
13. 一戸建て派 VS. マンション派
14. 会社勤め安定派 VS. 独立企業派
15. 楽観派 VS.悲観派

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JC1221102
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	中国語Ⅰ
講義概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第1課　人称代名詞など 5.発音基礎、第1課「是」など 6.発音基礎、第1課「請」など 7.発音基礎、第2課否定など 8.総合練習、第2課「的」など 9.会話、第3課　形容詞述語文など 10.会話、第3課　疑問詞など 11.会話、第4課　量詞など 12.会話、第4課　数詞など 13.会話、第5課　在、想、要 14.会話、第5課　場所指示代名詞 15.総合練習、テスト			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★		

年度	2015	授業コード	JC1221103
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	中国語Ⅰ
講義概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第1課　人称代名詞など 5.発音基礎、第1課「是」など 6.発音基礎、第1課「請」など 7.発音基礎、第2課否定など 8.総合練習、第2課「的」など 9.会話、第3課　形容詞述語文など 10.会話、第3課　疑問詞など 11.会話、第4課　量詞など 12.会話、第4課　数詞など 13.会話、第5課　在、想、要 14.会話、第5課　場所指示代名詞 15.総合練習、テスト			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★		

年度	2015	授業コード	JC1221104
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	中国語Ⅰ
講義概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第1課　人称代名詞など 5.発音基礎、第1課「是」など 6.発音基礎、第1課「請」など 7.発音基礎、第2課否定など 8.総合練習、第2課「的」など 9.会話、第3課　形容詞述語文など 10.会話、第3課　疑問詞など 11.会話、第4課　量詞など 12.会話、第4課　数詞など 13.会話、第5課　在、想、要 14.会話、第5課　場所指示代名詞 15.総合練習、テスト			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★		

年度	2015	授業コード	JC1221105
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	中国語Ⅰ
講義概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第1課　人称代名詞など 5.発音基礎、第1課「是」など 6.発音基礎、第1課「請」など 7.発音基礎、第2課否定など 8.総合練習、第2課「的」など 9.会話、第3課　形容詞述語文など 10.会話、第3課　疑問詞など 11.会話、第4課　量詞など 12.会話、第4課　数詞など 13.会話、第5課　在、想、要 14.会話、第5課　場所指示代名詞 15.総合練習、テスト			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★		

年度	2015	授業コード	JC1221202
科目名	中国語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese II		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 s
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、第 6 課　有など
2.第 6 課　助数詞
3.第 7 課　時刻
4.第 7 課　時間の長さ
5.第 8 課　了など
6.第 8 課　選択疑問文
7.第 9 課　前置詞
8.総合練習、第 9 課　給など
9.会話、第 10 課　助動詞
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法
11.会話、第 11 課　量詞など
12.会話、第 11 課　去、来
13.会話、第 12 課　是～的など
14. 会話、第 12 課　質問の練習
15.総合練習、テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★		

年度	2015	授業コード	JC1221203
科目名	中国語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese II		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 s
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、第 6 課　有など 2.第 6 課　助数詞 3.第 7 課　時刻 4.第 7 課　時間の長さ 5.第 8 課　了など 6.第 8 課　選択疑問文 7.第 9 課　前置詞 8.総合練習、第 9 課　給など 9.会話、第 10 課　助動詞 10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法 11.会話、第 11 課　量詞など 12.会話、第 11 課　去、来 13.会話、第 12 課　是～的など 14. 会話、第 12 課　質問の練習 15.総合練習、テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★		

年度	2015	授業コード	JC1221204
科目名	中国語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese II		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 s
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、第 6 課　有など
2.第 6 課　助数詞
3.第 7 課　時刻
4.第 7 課　時間の長さ
5.第 8 課　了など
6.第 8 課　選択疑問文
7.第 9 課　前置詞
8.総合練習、第 9 課　給など
9.会話、第 10 課　助動詞
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法
11.会話、第 11 課　量詞など
12.会話、第 11 課　去、来
13.会話、第 12 課　是～的など
14. 会話、第 12 課　質問の練習
15.総合練習、テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★		

年度	2015	授業コード	JC1221205
科目名	中国語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese II		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 s
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、第 6 課　有など 2.第 6 課　助数詞 3.第 7 課　時刻 4.第 7 課　時間の長さ 5.第 8 課　了など 6.第 8 課　選択疑問文 7.第 9 課　前置詞 8.総合練習、第 9 課　給など 9.会話、第 10 課　助動詞 10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法 11.会話、第 11 課　量詞など 12.会話、第 11 課　去、来 13.会話、第 12 課　是～的など 14. 会話、第 12 課　質問の練習 15.総合練習、テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★		

年度	2015	授業コード	JC1222101
科目名	ハングル Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　授業の説明 ハングルについて 2.　基本母音 3~5.　基本子音 6~7.　複合母音 8~9.　パッチム 10~12.　自己紹介の表現 「私は~です/ですか」 13~14.　有・無の表現 「時間ありますか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1222102
科目名	ハングル Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　授業の説明 ハングルについて 2.　基本母音 3~5.　基本子音 6~7.　複合母音 8~9.　パッチム 10~12.　自己紹介の表現 「私は~です/ですか」 13~14.　有・無の表現 「時間ありますか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1222103
科目名	ハングル Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　授業の説明 ハングルについて 2.　基本母音 3~5.　基本子音 6~7.　複合母音 8~9.　パッチム 10~12.　自己紹介の表現 「私は~です/ですか」 13~14.　有・無の表現 「時間ありますか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1222104
科目名	ハングル Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　授業の説明 ハングルについて 2.　基本母音 3~5.　基本子音 6~7.　複合母音 8~9.　パッチム 10~12.　自己紹介の表現 「私は~です/ですか」 13~14.　有・無の表現 「時間ありますか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1222201
科目名	ハングルII	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean II		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期の復習 2~3.　職業、趣味の表現 「それは何ですか」 4~5.　尊敬形の作り方 6~7.　うちとけた「です・ます」の作り方 「日曜日は何をしますか」 8~9.　数字を楽しもう 10~12.　変則用言 「何が好きですか」 13~14.　過去形の作り方 「週末に何をしましたか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1222202
科目名	ハングルII	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean II		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期の復習 2~3.　職業、趣味の表現 「それは何ですか」 4~5.　尊敬形の作り方 6~7.　うちとけた「です・ます」の作り方 「日曜日は何をしますか」 8~9.　数字を楽しもう 10~12.　変則用言 「何が好きですか」 13~14.　過去形の作り方 「週末に何をしましたか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1222203
科目名	ハングルII	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean II		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期の復習 2~3.　職業、趣味の表現 「それは何ですか」 4~5.　尊敬形の作り方 6~7.　うちとけた「です・ます」の作り方 「日曜日は何をしますか」 8~9.　数字を楽しもう 10~12.　変則用言 「何が好きですか」 13~14.　過去形の作り方 「週末に何をしましたか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1222204
科目名	ハングルII	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean II		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期の復習 2~3.　職業、趣味の表現 「それは何ですか」 4~5.　尊敬形の作り方 6~7.　うちとけた「です・ます」の作り方 「日曜日は何をしますか」 8~9.　数字を楽しもう 10~12.　変則用言 「何が好きですか」 13~14.　過去形の作り方 「週末に何をしましたか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1223101
科目名	ドイツ語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	German Ⅰ		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｓ
講義概要	ドイツは９つの国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中核的存在として、その動向に何かと注目を集めている国です。「旅行は英語でまにあう」時代ではありますが、実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。なにより、英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもなります。この授業の目標は、ずばりコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするための文法の基礎を学びます。ドイツ語で投げかけられた質問に、正しい発音で応じられるようになることが、この授業の最終目標なのです。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		
受講者への要望			
語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。			
講義の順序とポイント			
1　発音の基礎（1） 2　発音の基礎（2） 3　出身や住まいをたずねる 4　趣味をたずねる 5　体調を説明する 6　否定する 7　時刻をたずねる 8　リフレクションテスト：正しい発音と動詞の人称変化ができるか 9　名詞の性 10　買物する 11　できるか 12　したいか 13　しなければいけないか 14　ヨーロッパへの旅行 15　リフレクションテスト：名詞の性を理解し、買物や簡単な意志が伝えられるか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1223102
科目名	ドイツ語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	German Ⅰ		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｓ
講義概要	ドイツは９つの国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中核的存在として、その動向に何かと注目を集めている国です。「旅行は英語でまにあう」時代ではありますが、実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。なにより、英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもなります。この授業の目標は、ずばりコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするための文法の基礎を学びます。ドイツ語で投げかけられた質問に、正しい発音で応じられるようになることが、この授業の最終目標なのです。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		
受講者への要望			
語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。			
講義の順序とポイント			
1　発音の基礎（1） 2　発音の基礎（2） 3　出身や住まいをたずねる 4　趣味をたずねる 5　体調を説明する 6　否定する 7　時刻をたずねる 8　リフレクションテスト：正しい発音と動詞の人称変化ができるか 9　名詞の性 10　買物する 11　できるか 12　したいか 13　しなければいけないか 14　ヨーロッパへの旅行 15　リフレクションテスト：名詞の性を理解し、買物や簡単な意志が伝えられるか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1223103
科目名	ドイツ語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	German Ⅰ		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｓ
講義概要	ドイツは９つの国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中核的存在として、その動向に何かと注目を集めている国です。「旅行は英語でまにあう」時代ではありますが、実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。なにより、英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもなります。この授業の目標は、ずばりコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするための文法の基礎を学びます。ドイツ語で投げかけられた質問に、正しい発音で応じられるようになることが、この授業の最終目標なのです。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		
受講者への要望			
語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。			
講義の順序とポイント			
1　発音の基礎（1） 2　発音の基礎（2） 3　出身や住まいをたずねる 4　趣味をたずねる 5　体調を説明する 6　否定する 7　時刻をたずねる 8　リフレクションテスト：正しい発音と動詞の人称変化ができるか 9　名詞の性 10　買物する 11　できるか 12　したいか 13　しなければいけないか 14　ヨーロッパへの旅行 15　リフレクションテスト：名詞の性を理解し、買物や簡単な意志が伝えられるか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1223201
科目名	ドイツ語II	単位数	2
科目名（英語表記）	German II		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	前期に引き続いて、ドイツ語文法の基礎を学びながら様々なシーンで使える表現や語彙をさらに増やしていきます。ゲームや音楽、ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。ドイツ語の平易な文章を組み立てて、自発的に発話できるようになるレベルが、この授業の後期の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。なお、このクラスは、「ドイツ語Ⅰ」をすでに履修している方、あるいは同等の語学力がある方を対象としているので、ご注意ください。

講義の順序とポイント

1　　前期のおさらい：動詞がこなせるか
2　　前期のおさらい：名詞がこなせるか
3　　持っているか、持っていないか
4　　簡単な感想を言えるか
5　　どこへ行くか
6　　誰と、どうやって行くか
7　　話す・食べる
8　　命令できるか
9　　リフレクションテスト：前置詞と不規則変化動詞が使いこなせるか
10　何をプレゼントするか
11　気に入ってくれたか
12　どこへ行ったか
13　どう感じたか
14　ドイツ旅行
15　リフレクションテスト：過去の体験を語ることができるか

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1223202
科目名	ドイツ語II	単位数	2
科目名（英語表記）	German II		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	前期に引き続いて、ドイツ語文法の基礎を学びながら様々なシーンで使える表現や語彙をさらに増やしていきます。ゲームや音楽、ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。ドイツ語の平易な文章を組み立てて、自発的に発話できるようになるレベルが、この授業の後期の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。なお、このクラスは、「ドイツ語Ｉ」をすでに履修している方、あるいは同等の語学力がある方を対象としているので、ご注意ください。

講義の順序とポイント

1　　前期のおさらい：動詞がこなせるか
2　　前期のおさらい：名詞がこなせるか
3　　持っているか、持っていないか
4　　簡単な感想を言えるか
5　　どこへ行くか
6　　誰と、どうやって行くか
7　　話す・食べる
8　　命令できるか
9　　リフレクションテスト：前置詞と不規則変化動詞が使いこなせるか
10　何をプレゼントするか
11　気に入ってくれたか
12　どこへ行ったか
13　どう感じたか
14　ドイツ旅行
15　リフレクションテスト：過去の体験を語ることができるか

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1223203
科目名	ドイツ語II	単位数	2
科目名（英語表記）	German II		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	前期に引き続いて、ドイツ語文法の基礎を学びながら様々なシーンで使える表現や語彙をさらに増やしていきます。ゲームや音楽、ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。ドイツ語の平易な文章を組み立てて、自発的に発話できるようになるレベルが、この授業の後期の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。なお、このクラスは、「ドイツ語Ｉ」をすでに履修している方、あるいは同等の語学力がある方を対象としているので、ご注意ください。

講義の順序とポイント

1　　前期のおさらい：動詞がこなせるか
2　　前期のおさらい：名詞がこなせるか
3　　持っているか、持っていないか
4　　簡単な感想を言えるか
5　　どこへ行くか
6　　誰と、どうやって行くか
7　　話す・食べる
8　　命令できるか
9　　リフレクションテスト：前置詞と不規則変化動詞が使いこなせるか
10　何をプレゼントするか
11　気に入ってくれたか
12　どこへ行ったか
13　どう感じたか
14　ドイツ旅行
15　リフレクションテスト：過去の体験を語ることができるか

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1224101
科目名	フランス語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅰ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	定期テスト（70%）、授業内小テスト等による平常点（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 授業への積極的な参加を期待しています。
2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに
02. Le?on 00 発音と構文-1
03. Le?on 00 発音と構文-2 （フランス文化解説）
04. Le?on 01 挨拶の表現-1
05. Le?on 01 挨拶の表現-2 （フランス文化解説）
06. Le?on 02 身分・職業・国籍について-1
07. Le?on 02 身分・職業・国籍について-2 （フランス文化解説）
08. Le?on 03 名前・住所について-1
09. Le?on 03 名前・住所について-2 （フランス文化解説）
10. Le?on 04 所有-1
11. Le?on 04 所有-2 （フランス文化解説）
12. Le?on 05 好み・嗜好について-1
13. Le?on 05 好み・嗜好について-2 （フランス文化解説）
14. Le?on 06 言語能力-1
15. Le?on 06 言語能力-2 （フランス文化解説）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★				

年度	2015	授業コード	JC1224102
科目名	フランス語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅰ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	定期テスト（70%）、授業内小テスト等による平常点（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 授業への積極的な参加を期待しています。
2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに
02. Le?on 00 発音と構文-1
03. Le?on 00 発音と構文-2 （フランス文化解説）
04. Le?on 01 挨拶の表現-1
05. Le?on 01 挨拶の表現-2 （フランス文化解説）
06. Le?on 02 身分・職業・国籍について-1
07. Le?on 02 身分・職業・国籍について-2 （フランス文化解説）
08. Le?on 03 名前・住所について-1
09. Le?on 03 名前・住所について-2 （フランス文化解説）
10. Le?on 04 所有-1
11. Le?on 04 所有-2 （フランス文化解説）
12. Le?on 05 好み・嗜好について-1
13. Le?on 05 好み・嗜好について-2 （フランス文化解説）
14. Le?on 06 言語能力-1
15. Le?on 06 言語能力-2 （フランス文化解説）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★				

年度	2015	授業コード	JC1224103
科目名	フランス語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅰ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	定期テスト（70%）、授業内小テスト等による平常点（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 授業への積極的な参加を期待しています。
2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに
02. Le?on 00 発音と構文-1
03. Le?on 00 発音と構文-2 （フランス文化解説）
04. Le?on 01 挨拶の表現-1
05. Le?on 01 挨拶の表現-2 （フランス文化解説）
06. Le?on 02 身分・職業・国籍について-1
07. Le?on 02 身分・職業・国籍について-2 （フランス文化解説）
08. Le?on 03 名前・住所について-1
09. Le?on 03 名前・住所について-2 （フランス文化解説）
10. Le?on 04 所有-1
11. Le?on 04 所有-2 （フランス文化解説）
12. Le?on 05 好み・嗜好について-1
13. Le?on 05 好み・嗜好について-2 （フランス文化解説）
14. Le?on 06 言語能力-1
15. Le?on 06 言語能力-2 （フランス文化解説）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★				

年度	2015	授業コード	JC1224201
科目名	フランス語II	単位数	2
科目名（英語表記）	French II		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人...「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	定期テスト（70%）、授業内小テスト等による平常点（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 授業への積極的な参加を期待しています。
2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに
02. Le?on 07 年齢について-1
03. Le?on 07 年齢について-2 （フランス文化解説）
04. Le?on 08 時間・天候について-1
05. Le?on 08 時間・天候について-2 （フランス文化解説）
06. Le?on 09 身長・体重について-1
07. Le?on 09 身長・体重について-2 （フランス文化解説）
08. Le?on 10 予定と確かな予定-1
09. Le?on 10 予定と確かな予定-2 （フランス文化解説）
10. Le?on 11 相手のことについて-1
11. Le?on 11 相手のことについて-2 （フランス文化解説）
12. Le?on 12 完了・経験（1）-1
13. Le?on 12 完了・経験（1）-2 （フランス文化解説）
14. Le?on 13 完了・経験（2）-1
15. Le?on 13 完了・経験（2）-2 （フランス文化解説）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★				

年度	2015	授業コード	JC1224202
科目名	フランス語II	単位数	2
科目名（英語表記）	French II		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人...「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	定期テスト（70%）、授業内小テスト等による平常点（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 授業への積極的な参加を期待しています。
2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに
02. Le?on 07 年齢について-1
03. Le?on 07 年齢について-2 （フランス文化解説）
04. Le?on 08 時間・天候について-1
05. Le?on 08 時間・天候について-2 （フランス文化解説）
06. Le?on 09 身長・体重について-1
07. Le?on 09 身長・体重について-2 （フランス文化解説）
08. Le?on 10 予定と確かな予定-1
09. Le?on 10 予定と確かな予定-2 （フランス文化解説）
10. Le?on 11 相手のことについて-1
11. Le?on 11 相手のことについて-2 （フランス文化解説）
12. Le?on 12 完了・経験（1）-1
13. Le?on 12 完了・経験（1）-2 （フランス文化解説）
14. Le?on 13 完了・経験（2）-1
15. Le?on 13 完了・経験（2）-2 （フランス文化解説）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★				

年度	2015	授業コード	JC1224203
科目名	フランス語II	単位数	2
科目名（英語表記）	French II		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人...「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	定期テスト（70%）、授業内小テスト等による平常点（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 授業への積極的な参加を期待しています。
2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに
02. Le?on 07 年齢について-1
03. Le?on 07 年齢について-2 （フランス文化解説）
04. Le?on 08 時間・天候について-1
05. Le?on 08 時間・天候について-2 （フランス文化解説）
06. Le?on 09 身長・体重について-1
07. Le?on 09 身長・体重について-2 （フランス文化解説）
08. Le?on 10 予定と確かな予定-1
09. Le?on 10 予定と確かな予定-2 （フランス文化解説）
10. Le?on 11 相手のことについて-1
11. Le?on 11 相手のことについて-2 （フランス文化解説）
12. Le?on 12 完了・経験（1）-1
13. Le?on 12 完了・経験（1）-2 （フランス文化解説）
14. Le?on 13 完了・経験（2）-1
15. Le?on 13 完了・経験（2）-2 （フランス文化解説）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★				

年度	2015	授業コード	JC1225101
科目名	日本語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1225102
科目名	日本語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1225103
科目名	日本語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1225104
科目名	日本語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1225201
科目名	日本語 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	日本語IV
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	『日本語 5 つのとびら－中上級編－』凡人社　1,995 円		
教材（参考文献）	教科書ホームページ｛http://www.apu.ac.jp/language/im2/｝		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等の平常点(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
積極的な態度で授業に参加することを求める。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、自己紹介 2.　第 1 課　ストレス社会と癒し① 3.　第 1 課　ストレス社会と癒し② 4.　第 2 課　世界に広がる一村一品運動① 5.　第 2 課　世界に広がる一村一品運動② 6.　第 3 課　かわりゆく交流都市① 7.　第 3 課　かわりゆく交流都市② 8.　第 4 課　漢字と日本人① 9.　第 4 課　漢字と日本人② 10.　第 5 課　気持ちとことば① 11.　第 5 課　気持ちとことば② 12.　第 6 課　21 世紀の「門戸開放」① 13.　第 6 課　21 世紀の「門戸開放」② 14.　第 7 課　方言と共通語① 15.　第 7 課　方言と共通語②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1225202
科目名	日本語 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大久保　加奈子	旧科目名称	日本語IV
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	『日本語 5 つのとびら－中上級編－』凡人社　1,995 円		
教材（参考文献）	教科書ホームページ｛http://www.apu.ac.jp/language/im2/｝		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等の平常点(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
積極的な態度で授業に参加することを求める。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、自己紹介 2.　第 1 課　ストレス社会と癒し① 3.　第 1 課　ストレス社会と癒し② 4.　第 2 課　世界に広がる一村一品運動① 5.　第 2 課　世界に広がる一村一品運動② 6.　第 3 課　かわりゆく交流都市① 7.　第 3 課　かわりゆく交流都市② 8.　第 4 課　漢字と日本人① 9.　第 4 課　漢字と日本人② 10.　第 5 課　気持ちとことば① 11.　第 5 課　気持ちとことば② 12.　第 6 課　21 世紀の「門戸開放」① 13.　第 6 課　21 世紀の「門戸開放」② 14.　第 7 課　方言と共通語① 15.　第 7 課　方言と共通語②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1225203
科目名	日本語 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大久保　加奈子	旧科目名称	日本語IV
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	『日本語 5 つのとびら－中上級編－』凡人社　1,995 円		
教材（参考文献）	教科書ホームページ｛http://www.apu.ac.jp/language/im2/｝		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等の平常点(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
積極的な態度で授業に参加することを求める。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、自己紹介 2.　第 1 課　ストレス社会と癒し① 3.　第 1 課　ストレス社会と癒し② 4.　第 2 課　世界に広がる一村一品運動① 5.　第 2 課　世界に広がる一村一品運動② 6.　第 3 課　かわりゆく交流都市① 7.　第 3 課　かわりゆく交流都市② 8.　第 4 課　漢字と日本人① 9.　第 4 課　漢字と日本人② 10.　第 5 課　気持ちとことば① 11.　第 5 課　気持ちとことば② 12.　第 6 課　21 世紀の「門戸開放」① 13.　第 6 課　21 世紀の「門戸開放」② 14.　第 7 課　方言と共通語① 15.　第 7 課　方言と共通語②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1225204
科目名	日本語 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	日本語IV
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	『日本語 5 つのとびら－中上級編－』凡人社　1,995 円		
教材（参考文献）	教科書ホームページ｛http://www.apu.ac.jp/language/im2/｝		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等の平常点(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
積極的な態度で授業に参加することを求める。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、自己紹介 2.　第 1 課　ストレス社会と癒し① 3.　第 1 課　ストレス社会と癒し② 4.　第 2 課　世界に広がる一村一品運動① 5.　第 2 課　世界に広がる一村一品運動② 6.　第 3 課　かわりゆく交流都市① 7.　第 3 課　かわりゆく交流都市② 8.　第 4 課　漢字と日本人① 9.　第 4 課　漢字と日本人② 10.　第 5 課　気持ちとことば① 11.　第 5 課　気持ちとことば② 12.　第 6 課　21 世紀の「門戸開放」① 13.　第 6 課　21 世紀の「門戸開放」② 14.　第 7 課　方言と共通語① 15.　第 7 課　方言と共通語②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1225601
科目名	日本語作文演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（テキスト）	友松悦子『小論文への１２のステップ』スリーエーネットワーク、またはプリント配布・		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	出席状況等による平常点３０％、課題作成３０％、最終レポート４０％。		
到達目標	レポート、論文作成のための基礎力を固める。		
準備学習	新聞や雑誌を読んで、さまざまなテーマに関心を持ち、自分の意見を伝えることができるようにすること。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　作文の基本
2　表記の仕方
3　文体１
4　文体２
5　モードチェンジ
6　正しい構造の文
7　文のつながり
8　小論文によく使われる表現
9　段落と中心文
１０　中心文と指示文
１１　要約文を書く
１２　説明文を書く
１３　意見文を書く
１４　事実を示す
１５　小論文のはじめと終わり

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1225602
科目名	日本語作文演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
講義概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（テキスト）	友松悦子『小論文への１２のステップ』スリーエーネットワーク、またはプリント配布・		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	出席状況等による平常点３０％、課題作成３０％、最終レポート４０％。		
到達目標	レポート、論文作成のための基礎力を固める。		
準備学習	新聞や雑誌を読んで、さまざまなテーマに関心を持ち、自分の意見を伝えることができるようにすること。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　作文の基本
2　表記の仕方
3　文体１
4　文体２
5　モードチェンジ
6　正しい構造の文
7　文のつながり
8　小論文によく使われる表現
9　段落と中心文
１０　中心文と指示文
１１　要約文を書く
１２　説明文を書く
１３　意見文を書く
１４　事実を示す
１５　小論文のはじめと終わり

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1225603
科目名	日本語作文演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（テキスト）	友松悦子『小論文への１２のステップ』スリーエーネットワーク、またはプリント配布・		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	出席状況等による平常点３０％、課題作成３０％、最終レポート４０％。		
到達目標	レポート、論文作成のための基礎力を固める。		
準備学習	新聞や雑誌を読んで、さまざまなテーマに関心を持ち、自分の意見を伝えることができるようにすること。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　作文の基本
2　表記の仕方
3　文体１
4　文体２
5　モードチェンジ
6　正しい構造の文
7　文のつながり
8　小論文によく使われる表現
9　段落と中心文
１０　中心文と指示文
１１　要約文を書く
１２　説明文を書く
１３　意見文を書く
１４　事実を示す
１５　小論文のはじめと終わり

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1225604
科目名	日本語作文演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
講義概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（テキスト）	友松悦子『小論文への１２のステップ』スリーエーネットワーク、またはプリント配布・		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	出席状況等による平常点３０％、課題作成３０％、最終レポート４０％。		
到達目標	レポート、論文作成のための基礎力を固める。		
準備学習	新聞や雑誌を読んで、さまざまなテーマに関心を持ち、自分の意見を伝えることができるようにすること。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　作文の基本
2　表記の仕方
3　文体１
4　文体２
5　モードチェンジ
6　正しい構造の文
7　文のつながり
8　小論文によく使われる表現
9　段落と中心文
１０　中心文と指示文
１１　要約文を書く
１２　説明文を書く
１３　意見文を書く
１４　事実を示す
１５　小論文のはじめと終わり

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC1226101
科目名	海外研修 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad A		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1226102
科目名	海外研修 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad A		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1226201
科目名	海外研修Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad B		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	「海外研修Ａ」を履修したものが、外国の大学等の教育機関で、研修を１ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1226202
科目名	海外研修Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad B		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	「海外研修Ａ」を履修したものが、外国の大学等の教育機関で、研修を１ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1230101
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230102
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230103
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230104
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230105
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230106
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	大田　住吉	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230107
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230108
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230109
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230110
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230111
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230112
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230120
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230121
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230122
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230123
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230124
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230125
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230126
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230127
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230129
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230130
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230131
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230132
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230133
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230160
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』（ナカニシヤ出版） 佐藤智明 他 編 2,052 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	必要に応じて		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	JC1230161
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』（ナカニシヤ出版） 佐藤智明 他 編 2,052 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	必要に応じて		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	JC1230162
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』（ナカニシヤ出版） 佐藤智明 他 編 2,052 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	必要に応じて		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	JC1230163
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』（ナカニシヤ出版） 佐藤智明 他 編 2,052 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	必要に応じて		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	JC1230164
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』（ナカニシヤ出版） 佐藤智明 他 編 2,052 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	必要に応じて		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	JC1230165
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』（ナカニシヤ出版） 佐藤智明 他 編 2,052 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	必要に応じて		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	JC1230166
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	鈴木　ひとみ	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』（ナカニシヤ出版） 佐藤智明 他 編 2,052 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	必要に応じて		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	JC1230167
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』（ナカニシヤ出版） 佐藤智明 他 編 2,052 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	必要に応じて		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	JC1230168
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	岡田　朱民	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』（ナカニシヤ出版） 佐藤智明 他 編 2,052 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	必要に応じて		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	JC1230169
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	松井　達也	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』（ナカニシヤ出版） 佐藤智明 他 編 2,052 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	必要に応じて		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	JC1230170
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	河田　志帆	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』（ナカニシヤ出版） 佐藤智明 他 編 2,052 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	必要に応じて		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	JC1230171
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	高尾　憲司	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』（ナカニシヤ出版） 佐藤智明 他 編 2,052 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	必要に応じて		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	JC1230172
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	矢山　壮	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』（ナカニシヤ出版） 佐藤智明 他 編 2,052 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	必要に応じて		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	JC1230173
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	杉島　優子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』（ナカニシヤ出版） 佐藤智明 他 編 2,052 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	必要に応じて		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★	★

年度	2015	授業コード	JC1230174
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
講義概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む）、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	『学びの技』（玉川大学出版部） 後藤芳文 他 著 1,728 円 『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円		
教材（参考文献）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書） 川井龍介 著 907 円 その他、資料など、ゼミで紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つの課題（30%・40%・30%）、評価は ABCD 判定、課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる ２．体裁の整ったレポートを作成できる ３．フィールドワークのための準備ができる		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
各回すべきことを適時行い、課題（１）（２）（３）をすすめる。			
講義の順序とポイント			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明）、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明）、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．見学の準備（全体説明）、見学先を決める（ゼミ別）、課題（２）提出 １２．準備する①　見学の下調べ １３．準備する②　見学の段取り １４．準備する③　期待される人物像 １５．準備する④　確認と事後報告、課題（３）提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1230175
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	久　育男	旧科目名称	
講義概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む)、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	『学びの技』（玉川大学出版部）　後藤芳文 他 著 1,728 円 『理科系の作文技術』（中公新書）　木下是雄 著 756 円		
教材（参考文献）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書）　川井龍介 著 907 円 その他、資料など、ゼミで紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つの課題（30%・40%・30%)、評価は ABCD 判定、課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる ２．体裁の整ったレポートを作成できる ３．フィールドワークのための準備ができる		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
各回すべきことを適時行い、課題（１）（２）（３）をすすめる。			
講義の順序とポイント			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明)、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明)、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．見学の準備（全体説明)、見学先を決める（ゼミ別)、課題（２）提出 １２．準備する①　見学の下調べ １３．準備する②　見学の段取り １４．準備する③　期待される人物像 １５．準備する④　確認と事後報告、課題（３）提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1230176
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む)、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	『学びの技』（玉川大学出版部） 後藤芳文 他 著 1,728 円 『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円		
教材（参考文献）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書） 川井龍介 著 907 円 その他、資料など、ゼミで紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つの課題（30%・40%・30%)、評価は ABCD 判定、課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる ２．体裁の整ったレポートを作成できる ３．フィールドワークのための準備ができる		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
各回すべきことを適時行い、課題（１）（２）（３）をすすめる。			
講義の順序とポイント			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明)、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明)、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．見学の準備（全体説明)、見学先を決める（ゼミ別)、課題（２）提出 １２．準備する①　見学の下調べ １３．準備する②　見学の段取り １４．準備する③　期待される人物像 １５．準備する④　確認と事後報告、課題（３）提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JC1230177
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	吉村　貴子	旧科目名称	
講義概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む）、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	『学びの技』（玉川大学出版部） 後藤芳文 他 著 1,728 円 『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円		
教材（参考文献）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書） 川井龍介 著 907 円 その他、資料など、ゼミで紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つの課題（30%・40%・30%）、評価は ABCD 判定、課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる ２．体裁の整ったレポートを作成できる ３．フィールドワークのための準備ができる		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
各回すべきことを適時行い、課題（１）（２）（３）をすすめる。			
講義の順序とポイント			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明）、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明）、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．見学の準備（全体説明）、見学先を決める（ゼミ別）、課題（２）提出 １２．準備する①　見学の下調べ １３．準備する②　見学の段取り １４．準備する③　期待される人物像 １５．準備する④　確認と事後報告、課題（３）提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1230178
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
講義概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む)、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	『学びの技』（玉川大学出版部） 後藤芳文 他 著 1,728 円 『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円		
教材（参考文献）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書） 川井龍介 著 907 円 その他、資料など、ゼミで紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つの課題（30%・40%・30%)、評価は ABCD 判定、課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる ２．体裁の整ったレポートを作成できる ３．フィールドワークのための準備ができる		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
各回すべきことを適時行い、課題（１）（２）（３）をすすめる。			
講義の順序とポイント			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明)、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明)、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．見学の準備（全体説明)、見学先を決める（ゼミ別)、課題（２）提出 １２．準備する①　見学の下調べ １３．準備する②　見学の段取り １４．準備する③　期待される人物像 １５．準備する④　確認と事後報告、課題（３）提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC1230179
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人として、健康を意識した実践的な生活態度を身につける。4年間の就学中からケガや病気を経験した場合においても、医学的な興味関心を持って対応し、予防医学や基礎医学に関して学ぶ姿勢を指導する。健康スポーツを学ぶ学生として、これらの基本姿勢を身につけるとともに、大学での学修における基礎的なスキルである「読み、書き、聴く、話す、調べる」を身につけさせるとともに、大学での学修における基礎的な知識である論文やレポートの書き方や必要な機器の紹介と操作方法の教育を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌・書籍などの記事を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミで発表を行い総合的に評価する		
到達目標	１．健康スポーツ分野において自分が持っている興味、関心のあるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ、説明できるようになること ２．大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする。また授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		
受講者への要望			
自分自身の考えをしっかり持つこと。周りの人たちとコミュニケーションを図り、自分の考えを述べ、他者の話しを聞き、ディスカッションを行う。ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション：大学で学ぶこと ２．話しを聴くということ ３．「活字」を読むこと ４．「言いたいこと」を書く ５．「聞いたこと」を書く～ノートの作成 ６．「調べる」ということ ７．調べるための方法１～図書館の活用 ８．調べるための方法２～データベースの活用 ９．「考え」を整理する～ブレーンストーミング １０．「考え」を整理する～KJ 法 １１．情報を集める １２．集めた情報を読み解く １３．集めた情報をまとめる １４．成果発表　まとめた情報の発表 １５．成果発表　まとめた情報の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230180
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人として、健康を意識した実践的な生活態度を身につける。4年間の就学中からケガや病気を経験した場合においても、医学的な興味関心を持って対応し、予防医学や基礎医学に関して学ぶ姿勢を指導する。健康スポーツを学ぶ学生として、これらの基本姿勢を身につけるとともに、大学での学修における基礎的なスキルである「読み、書き、聴く、話す、調べる」を身につけさせるとともに、大学での学修における基礎的な知識である論文やレポートの書き方や必要な機器の紹介と操作方法の教育を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌・書籍などの記事を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミで発表を行い総合的に評価する		
到達目標	１．健康スポーツ分野において自分が持っている興味、関心のあるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ、説明できるようになること ２．大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする。また授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		
受講者への要望			
自分自身の考えをしっかり持つこと。周りの人たちとコミュニケーションを図り、自分の考えを述べ、他者の話しを聞き、ディスカッションを行う。ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション：大学で学ぶこと ２．話しを聴くということ ３．「活字」を読むこと ４．「言いたいこと」を書く ５．「聞いたこと」を書く～ノートの作成 ６．「調べる」ということ ７．調べるための方法１～図書館の活用 ８．調べるための方法２～データベースの活用 ９．「考え」を整理する～ブレーンストーミング １０．「考え」を整理する～KJ 法 １１．情報を集める １２．集めた情報を読み解く １３．集めた情報をまとめる １４．成果発表　まとめた情報の発表 １５．成果発表　まとめた情報の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230181
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人として、健康を意識した実践的な生活態度を身につける。4年間の就学中からケガや病気を経験した場合においても、医学的な興味関心を持って対応し、予防医学や基礎医学に関して学ぶ姿勢を指導する。健康スポーツを学ぶ学生として、これらの基本姿勢を身につけるとともに、大学での学修における基礎的なスキルである「読み、書き、聴く、話す、調べる」を身につけさせるとともに、大学での学修における基礎的な知識である論文やレポートの書き方や必要な機器の紹介と操作方法の教育を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌・書籍などの記事を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミで発表を行い総合的に評価する		
到達目標	１．健康スポーツ分野において自分が持っている興味、関心のあるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ、説明できるようになること ２．大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする。また授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		
受講者への要望			
自分自身の考えをしっかり持つこと。周りの人たちとコミュニケーションを図り、自分の考えを述べ、他者の話しを聞き、ディスカッションを行う。ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション：大学で学ぶこと ２．話しを聴くということ ３．「活字」を読むこと ４．「言いたいこと」を書く ５．「聞いたこと」を書く～ノートの作成 ６．「調べる」ということ ７．調べるための方法１～図書館の活用 ８．調べるための方法２～データベースの活用 ９．「考え」を整理する～ブレーンストーミング １０．「考え」を整理する～KJ 法 １１．情報を集める １２．集めた情報を読み解く １３．集めた情報をまとめる １４．成果発表　まとめた情報の発表 １５．成果発表　まとめた情報の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230182
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人として、健康を意識した実践的な生活態度を身につける。4年間の就学中からケガや病気を経験した場合においても、医学的な興味関心を持って対応し、予防医学や基礎医学に関して学ぶ姿勢を指導する。健康スポーツを学ぶ学生として、これらの基本姿勢を身につけるとともに、大学での学修における基礎的なスキルである「読み、書き、聴く、話す、調べる」を身につけさせるとともに、大学での学修における基礎的な知識である論文やレポートの書き方や必要な機器の紹介と操作方法の教育を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌・書籍などの記事を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミで発表を行い総合的に評価する		
到達目標	１．健康スポーツ分野において自分が持っている興味、関心のあるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ、説明できるようになること ２．大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする。また授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		
受講者への要望			
自分自身の考えをしっかり持つこと。周りの人たちとコミュニケーションを図り、自分の考えを述べ、他者の話しを聞き、ディスカッションを行う。ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション：大学で学ぶこと ２．話しを聴くということ ３．「活字」を読むこと ４．「言いたいこと」を書く ５．「聞いたこと」を書く～ノートの作成 ６．「調べる」ということ ７．調べるための方法１～図書館の活用 ８．調べるための方法２～データベースの活用 ９．「考え」を整理する～ブレーンストーミング １０．「考え」を整理する～KJ 法 １１．情報を集める １２．集めた情報を読み解く １３．集めた情報をまとめる １４．成果発表　まとめた情報の発表 １５．成果発表　まとめた情報の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230183
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人として、健康を意識した実践的な生活態度を身につける。4年間の就学中からケガや病気を経験した場合においても、医学的な興味関心を持って対応し、予防医学や基礎医学に関して学ぶ姿勢を指導する。健康スポーツを学ぶ学生として、これらの基本姿勢を身につけるとともに、大学での学修における基礎的なスキルである「読み、書き、聴く、話す、調べる」を身につけさせるとともに、大学での学修における基礎的な知識である論文やレポートの書き方や必要な機器の紹介と操作方法の教育を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌・書籍などの記事を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミで発表を行い総合的に評価する		
到達目標	１．健康スポーツ分野において自分が持っている興味、関心のあるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ、説明できるようになること ２．大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする。また授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		
受講者への要望			
自分自身の考えをしっかり持つこと。周りの人たちとコミュニケーションを図り、自分の考えを述べ、他者の話しを聞き、ディスカッションを行う。ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション：大学で学ぶこと ２．話しを聴くということ ３．「活字」を読むこと ４．「言いたいこと」を書く ５．「聞いたこと」を書く～ノートの作成 ６．「調べる」ということ ７．調べるための方法１～図書館の活用 ８．調べるための方法２～データベースの活用 ９．「考え」を整理する～ブレーンストーミング １０．「考え」を整理する～KJ 法 １１．情報を集める １２．集めた情報を読み解く １３．集めた情報をまとめる １４．成果発表　まとめた情報の発表 １５．成果発表　まとめた情報の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230201
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230203
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230204
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230205
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	大田　住吉	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230206
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230207
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230208
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230209
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230210
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230211
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230221
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１３．レポートを作成する③
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230222
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１３．レポートを作成する③
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230223
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

1．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

2．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

3．資料を収集し整理する①
4．資料を収集し整理する②
5．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

6．調べたことを発表する（中間発表会）①
7．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

8．レポートの構成を考える①
9．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

10．レポートを作成する①
11．レポートを作成する②
13．レポートを作成する③
9までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

14．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
15．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230224
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１３．レポートを作成する③
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230225
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１３．レポートを作成する③
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230226
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１３．レポートを作成する③
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230227
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１３．レポートを作成する③
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230229
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１３．レポートを作成する③
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230230
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１３．レポートを作成する③
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230231
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230260
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JC1230261
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JC1230262
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JC1230263
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JC1230264
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JC1230265
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JC1230266
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	鈴木　ひとみ	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JC1230267
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JC1230268
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	岡田　朱民	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JC1230269
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	河田　志帆	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JC1230270
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	高尾　憲司	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JC1230271
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	杉島　優子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JC1230272
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	吉村　貴子	旧科目名称	
講義概要	大学生として、主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。「スタートアップゼミA」で得たスタディ・スキルを踏まえて、①「レポートを書く」：個別あるいは全体のテーマで、短いレポートを書く、②「発表をする」：レポートで取り上げた内容についての効果的なプレゼンテーションを準備・実行し、他者との質疑応答や討議をし、教員による評価を行う。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	講義時間内に配布する。		
教材（参考文献）	1．文章の作成 『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円 『新装版 日本語の作文技術』（講談社） 本多勝一 著 1,512 円 2．プレゼンテーションの技法 『流れがわかる学会発表・論文作成 HowTo』（メディカルレビュー社） 佐藤雅昭 著 3,024 円 『理系のための口頭発表術―聴衆を魅了する 20 の原則』（講談社） R.H.R. アンホルト 著 950 円		
教材（その他）	レポートやディベートに必要となる資料は、各自で収集する。		
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により判定する。課題未提出は不合格とする。 1．個別テーマによる評価 ：プレゼンテーション（20%）、レポート（30%） 2．全体テーマによる評価 ：ディベートへの取り組み（20%）、レポート（30%）		
到達目標	「スタートアップゼミ B」の目標は、「スタートアップゼミA」で学んだ「情報を集め記述する能力」を基礎として、論理的な議論を展開するための技術を身に付けることである。情報の収集と活用、客観的な事実に基づく説得力のある論理の組み立て、討論相手の主張を理解して問題点を発見・指摘する、といったコミュニケーション能力を育成する。		
準備学習	テーマに関連する資料を収集する。 論点を整理して、プレゼンテーションの方略を検討する。 チーム内で役割を決め、プレゼンテーションを練習する。		
受講者への要望			
「スタートアップゼミA」で学んだ図書館の利用方法（文献検索システムの使用、文献の取り寄せ）を復習しておくこと。 ディベート・チームのメンバーとして、プレゼンテーションの準備と実践で責任を果たすこと。			
講義の順序とポイント			
1．プレゼンテーションの基礎を学ぶ、個別テーマの設定 2．個別テーマの調査・情報収集とプレゼンテーションの準備 3．個別テーマの調査・情報収集とプレゼンテーションの準備 4．プレゼンテーションの実践：個別テーマの発表 5．プレゼンテーションの実践：個別テーマの発表 6．プレゼンテーションの実践：個別テーマの発表 7．ディベートの基礎を学ぶ、全体テーマの設定と社会的背景の理解 8．全体テーマの調査・情報収集 9．全体テーマの調査・情報収集 １０．立論の作成・反駁の準備 １１．立論の作成・反駁の準備 １２．立論の作成・反駁の準備 １３．ディベートの実践：全体テーマの討論 １４．ディベートの実践：全体テーマの討論 １５．ディベートの実践：全体テーマの討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						★

年度	2015	授業コード	JC1230273
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	外山　稔	旧科目名称	
講義概要	大学生として、主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。「スタートアップゼミA」で得たスタディ・スキルを踏まえて、①「レポートを書く」：個別あるいは全体のテーマで、短いレポートを書く、②「発表をする」：レポートで取り上げた内容についての効果的なプレゼンテーションを準備・実行し、他者との質疑応答や討議をし、教員による評価を行う。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	講義時間内に配布する。		
教材（参考文献）	1．文章の作成 『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円 『新装版 日本語の作文技術』（講談社） 本多勝一 著 1,512 円 2．プレゼンテーションの技法 『流れがわかる学会発表・論文作成 HowTo』（メディカルレビュー社） 佐藤雅昭 著 3,024 円 『理系のための口頭発表術―聴衆を魅了する 20 の原則』（講談社） R.H.R. アンホルト 著 950 円		
教材（その他）	レポートやディベートに必要となる資料は、各自で収集する。		
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により判定する。課題未提出は不合格とする。 1．個別テーマによる評価 ：プレゼンテーション（20%）、レポート（30%） 2．全体テーマによる評価 ：ディベートへの取り組み（20%）、レポート（30%）		
到達目標	「スタートアップゼミ B」の目標は、「スタートアップゼミA」で学んだ「情報を集め記述する能力」を基礎として、論理的な議論を展開するための技術を身に付けることである。情報の収集と活用、客観的な事実に基づく説得力のある論理の組み立て、討論相手の主張を理解して問題点を発見・指摘する、といったコミュニケーション能力を育成する。		
準備学習	テーマに関連する資料を収集する。 論点を整理して、プレゼンテーションの方略を検討する。 チーム内で役割を決め、プレゼンテーションを練習する。		
受講者への要望			
「スタートアップゼミA」で学んだ図書館の利用方法（文献検索システムの使用、文献の取り寄せ）を復習しておくこと。 ディベート・チームのメンバーとして、プレゼンテーションの準備と実践で責任を果たすこと。			
講義の順序とポイント			
1．プレゼンテーションの基礎を学ぶ、個別テーマの設定 2．個別テーマの調査・情報収集とプレゼンテーションの準備 3．個別テーマの調査・情報収集とプレゼンテーションの準備 4．プレゼンテーションの実践：個別テーマの発表 5．プレゼンテーションの実践：個別テーマの発表 6．プレゼンテーションの実践：個別テーマの発表 7．ディベートの基礎を学ぶ、全体テーマの設定と社会的背景の理解 8．全体テーマの調査・情報収集 9．全体テーマの調査・情報収集 １０．立論の作成・反駁の準備 １１．立論の作成・反駁の準備 １２．立論の作成・反駁の準備 １３．ディベートの実践：全体テーマの討論 １４．ディベートの実践：全体テーマの討論 １５．ディベートの実践：全体テーマの討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						★

年度	2015	授業コード	JC1230274
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	弓削　明子	旧科目名称	
講義概要	大学生として、主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。「スタートアップゼミA」で得たスタディ・スキルを踏まえて、①「レポートを書く」：個別あるいは全体のテーマで、短いレポートを書く、②「発表をする」：レポートで取り上げた内容についての効果的なプレゼンテーションを準備・実行し、他者との質疑応答や討議をし、教員による評価を行う。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	講義時間内に配布する。		
教材（参考文献）	1．文章の作成 『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円 『新装版 日本語の作文技術』（講談社） 本多勝一 著 1,512 円 2．プレゼンテーションの技法 『流れがわかる学会発表・論文作成 HowTo』（メディカルレビュー社） 佐藤雅昭 著 3,024 円 『理系のための口頭発表術―聴衆を魅了する 20 の原則』（講談社） R.H.R. アンホルト 著 950 円		
教材（その他）	レポートやディベートに必要となる資料は、各自で収集する。		
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により判定する。課題未提出は不合格とする。 1．個別テーマによる評価 ：プレゼンテーション（20%）、レポート（30%） 2．全体テーマによる評価 ：ディベートへの取り組み（20%）、レポート（30%）		
到達目標	「スタートアップゼミ B」の目標は、「スタートアップゼミA」で学んだ「情報を集め記述する能力」を基礎として、論理的な議論を展開するための技術を身に付けることである。情報の収集と活用、客観的な事実に基づく説得力のある論理の組み立て、討論相手の主張を理解して問題点を発見・指摘する、といったコミュニケーション能力を育成する。		
準備学習	テーマに関連する資料を収集する。 論点を整理して、プレゼンテーションの方略を検討する。 チーム内で役割を決め、プレゼンテーションを練習する。		
受講者への要望			
「スタートアップゼミA」で学んだ図書館の利用方法（文献検索システムの使用、文献の取り寄せ）を復習しておくこと。 ディベート・チームのメンバーとして、プレゼンテーションの準備と実践で責任を果たすこと。			
講義の順序とポイント			
1．プレゼンテーションの基礎を学ぶ、個別テーマの設定 2．個別テーマの調査・情報収集とプレゼンテーションの準備 3．個別テーマの調査・情報収集とプレゼンテーションの準備 4．プレゼンテーションの実践：個別テーマの発表 5．プレゼンテーションの実践：個別テーマの発表 6．プレゼンテーションの実践：個別テーマの発表 7．ディベートの基礎を学ぶ、全体テーマの設定と社会的背景の理解 8．全体テーマの調査・情報収集 9．全体テーマの調査・情報収集 １０．立論の作成・反駁の準備 １１．立論の作成・反駁の準備 １２．立論の作成・反駁の準備 １３．ディベートの実践：全体テーマの討論 １４．ディベートの実践：全体テーマの討論 １５．ディベートの実践：全体テーマの討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						★

年度	2015	授業コード	JC1230275
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
講義概要	「スタートアップゼミA」から引き続き、健康スポーツを学ぶ学生として必要なスタディスキルの育成を目的とする。特に自らの健康だけでなく他者への健康に配慮する姿勢を持つために、協同学修の意義を理解し、その手法・方法を学び、互いを思いやりつつ実践的な学習方法を修得する。また、論理的な思考をトレーニングするために、論文を読んでの問題点の指摘、あるいは関連文献の検索を通してレポートを作成し、プレゼンテーションする機会を持つ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌・書籍等を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミで発表を行い総合的に評価する		
到達目標	１．書籍やインターネットなどの文字媒体から得た情報や知識を、実践の場面に応用できる力を身につける ２．グループに与えられた課題をグループメンバーと協働して課題解決できる力を身につける		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、自身の考えと実践へ応用する創造力を持つ訓練をする。また授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		
受講者への要望			
周りの人たちとコミュニケーションを図り、自分の考えを述べ、他者の話しを聞き、ディスカッションを行う。グループの他のメンバーの意見を尊重しつつ、自らの意見も述べることができる態度を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション　健康・スポーツ分野の課題 ２．課題解決の基本 ３．課題解決のための情報収集 ４．課題解決のための方法と計画 ５．データを収集する ６．データを分析する ７．仮説を立てる ８．仮説を検証する ９．グループで課題発見 １０．グループで課題解決 １１．人に伝えるということ １２．人に伝える方法 １３．発表方法を考える １４．成果発表 １５．成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230276
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
講義概要	「スタートアップゼミA」から引き続き、健康スポーツを学ぶ学生として必要なスタディスキルの育成を目的とする。特に自らの健康だけでなく他者への健康に配慮する姿勢を持つために、協同学修の意義を理解し、その手法・方法を学び、互いを思いやりつつ実践的な学習方法を修得する。また、論理的な思考をトレーニングするために、論文を読んでの問題点の指摘、あるいは関連文献の検索を通してレポートを作成し、プレゼンテーションする機会を持つ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌・書籍等を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミで発表を行い総合的に評価する		
到達目標	１．書籍やインターネットなどの文字媒体から得た情報や知識を、実践の場面に応用できる力を身につける ２．グループに与えられた課題をグループメンバーと協働して課題解決できる力を身につける		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、自身の考えと実践へ応用する創造力を持つ訓練をする。また授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		
受講者への要望			
周りの人たちとコミュニケーションを図り、自分の考えを述べ、他者の話しを聞き、ディスカッションを行う。グループの他のメンバーの意見を尊重しつつ、自らの意見も述べることができる態度を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション　健康・スポーツ分野の課題 ２．課題解決の基本 ３．課題解決のための情報収集 ４．課題解決のための方法と計画 ５．データを収集する ６．データを分析する ７．仮説を立てる ８．仮説を検証する ９．グループで課題発見 １０．グループで課題解決 １１．人に伝えるということ １２．人に伝える方法 １３．発表方法を考える １４．成果発表 １５．成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230277
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
講義概要	「スタートアップゼミA」から引き続き、健康スポーツを学ぶ学生として必要なスタディスキルの育成を目的とする。特に自らの健康だけでなく他者への健康に配慮する姿勢を持つために、協同学修の意義を理解し、その手法・方法を学び、互いを思いやりつつ実践的な学習方法を修得する。また、論理的な思考をトレーニングするために、論文を読んでの問題点の指摘、あるいは関連文献の検索を通してレポートを作成し、プレゼンテーションする機会を持つ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌・書籍等を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミで発表を行い総合的に評価する		
到達目標	１．書籍やインターネットなどの文字媒体から得た情報や知識を、実践の場面に応用できる力を身につける ２．グループに与えられた課題をグループメンバーと協働して課題解決できる力を身につける		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、自身の考えと実践へ応用する創造力を持つ訓練をする。また授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		
受講者への要望			
周りの人たちとコミュニケーションを図り、自分の考えを述べ、他者の話しを聞き、ディスカッションを行う。グループの他のメンバーの意見を尊重しつつ、自らの意見も述べることができる態度を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション　健康・スポーツ分野の課題 ２．課題解決の基本 ３．課題解決のための情報収集 ４．課題解決のための方法と計画 ５．データを収集する ６．データを分析する ７．仮説を立てる ８．仮説を検証する ９．グループで課題発見 １０．グループで課題解決 １１．人に伝えるということ １２．人に伝える方法 １３．発表方法を考える １４．成果発表 １５．成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230278
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
講義概要	「スタートアップゼミA」から引き続き、健康スポーツを学ぶ学生として必要なスタディスキルの育成を目的とする。特に自らの健康だけでなく他者への健康に配慮する姿勢を持つために、協同学修の意義を理解し、その手法・方法を学び、互いを思いやりつつ実践的な学習方法を修得する。また、論理的な思考をトレーニングするために、論文を読んでの問題点の指摘、あるいは関連文献の検索を通してレポートを作成し、プレゼンテーションする機会を持つ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌・書籍等を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミで発表を行い総合的に評価する		
到達目標	１．書籍やインターネットなどの文字媒体から得た情報や知識を、実践の場面に応用できる力を身につける ２．グループに与えられた課題をグループメンバーと協働して課題解決できる力を身につける		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、自身の考えと実践へ応用する創造力を持つ訓練をする。また授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		
受講者への要望			
周りの人たちとコミュニケーションを図り、自分の考えを述べ、他者の話しを聞き、ディスカッションを行う。グループの他のメンバーの意見を尊重しつつ、自らの意見も述べることができる態度を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション　健康・スポーツ分野の課題 ２．課題解決の基本 ３．課題解決のための情報収集 ４．課題解決のための方法と計画 ５．データを収集する ６．データを分析する ７．仮説を立てる ８．仮説を検証する ９．グループで課題発見 １０．グループで課題解決 １１．人に伝えるということ １２．人に伝える方法 １３．発表方法を考える １４．成果発表 １５．成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230279
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
講義概要	「スタートアップゼミA」から引き続き、健康スポーツを学ぶ学生として必要なスタディスキルの育成を目的とする。特に自らの健康だけでなく他者への健康に配慮する姿勢を持つために、協同学修の意義を理解し、その手法・方法を学び、互いを思いやりつつ実践的な学習方法を修得する。また、論理的な思考をトレーニングするために、論文を読んでの問題点の指摘、あるいは関連文献の検索を通してレポートを作成し、プレゼンテーションする機会を持つ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌・書籍等を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミで発表を行い総合的に評価する		
到達目標	１．書籍やインターネットなどの文字媒体から得た情報や知識を、実践の場面に応用できる力を身につける ２．グループに与えられた課題をグループメンバーと協働して課題解決できる力を身につける		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、自身の考えと実践へ応用する創造力を持つ訓練をする。また授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		
受講者への要望			
周りの人たちとコミュニケーションを図り、自分の考えを述べ、他者の話しを聞き、ディスカッションを行う。グループの他のメンバーの意見を尊重しつつ、自らの意見も述べることができる態度を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション　健康・スポーツ分野の課題 ２．課題解決の基本 ３．課題解決のための情報収集 ４．課題解決のための方法と計画 ５．データを収集する ６．データを分析する ７．仮説を立てる ８．仮説を検証する ９．グループで課題発見 １０．グループで課題解決 １１．人に伝えるということ １２．人に伝える方法 １３．発表方法を考える １４．成果発表 １５．成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC1230280
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	上野　千代子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JC2000101
科目名	キャリアデザイン A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	木原　麻子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000102
科目名	キャリアデザイン A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	木原　麻子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000103
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000104
科目名	キャリアデザイン A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000105
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000106
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000107
科目名	キャリアデザイン A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000108
科目名	キャリアデザイン A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000110
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000111
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000112
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000113
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000114
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000115
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000116
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000117
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000118
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000119
科目名	キャリアデザイン A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000120
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	木原　麻子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000121
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000122
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000123
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	木原　麻子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000124
科目名	キャリアデザインA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	木原　麻子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000125
科目名	キャリアデザインA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000126
科目名	キャリアデザインA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000127
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000130
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000131
科目名	キャリアデザイン A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000132
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000133
科目名	キャリアデザイン A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000134
科目名	キャリアデザインA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2000201
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	木原　麻子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000202
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	木原　麻子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000203
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000204
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000205
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000206
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000207
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000208
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000210
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000211
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000212
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000213
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000214
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000215
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000216
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000217
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000218
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000219
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000220
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	木原　麻子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000221
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000222
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000223
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	木原　麻子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000224
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	木原　麻子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000225
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	木原　麻子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000226
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000227
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000228
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000229
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000230
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000231
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000232
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000233
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート課題：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの自分を振り返る
3. 現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4. 現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5. 現在の自分を多面的に見てみよう（3）
6. 様々な自分の形を整理しよう
7. 「働く」ことを考える（1）
8. 「働く」ことを考える（2）
9. 働く上での価値観を知ろう
10. 世の中の仕事を知ろう
11. 様々な働き方を支える仕組み
12. 社会人の「働く」姿
13. 働き方と生き方
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2000302
科目名	労働と社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Work and Society		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	社会における労働の仕組みを理解し、その仕組みの中に法を位置づけて、法の機能を講義する。その際、長期雇用システムからの雇用管理についても講義する。 具体的には、労働における当事者・規範・人事管理・企業の運営・職業キャリアの展開・引退の過程・労働組合運営・労使交渉などについて、法律および判例理論を中心に講義する。		
教材（テキスト）	菅野和夫ほか編『実践・変化する雇用社会と法』（有斐閣、2006 年）2900 円＋税 最新版六法		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第１０版〕』（有斐閣、201２年）　5300 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則１回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	労働の仕組みおよび長期雇用システムの変化について理解する。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

教科書および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴニュース等で労働に関連する問題に大いに関心を持つこと。
　また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第１回　講義の進め方・その他諸注意
第２回　労働の概観（歴史・労働法とは）
第３回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合）
第４回　労働契約と権利・義務　就業規則
第５回　労働協約
第６回　個別化する労働条件（1）　成果主義の導入
第７回　個別化する労働条件（2）　労働能力不足と解雇
第８回　多様化するワークスタイル（1）　パート店長の処遇
第９回　多様化するワークスタイル（2）　在宅勤務における労務管理
第 10 回　不安定化する雇用(1)　労働基準法の適用除外とされる管理監督者の範囲
第 11 回　不安定化する雇用（2）　引退の過程における配置転換と出向
第 12 回　男性中心社会からの脱却（1）　コース別人事管理制度と間接差別
第 13 回　男性中心社会からの脱却（2）　家庭責任とキャリア
第 14 回　脱皮を迫られる労働組合（1）　パートタイマーの増加と労働組合の運営
第 15 回　脱皮を迫られる労働組合（2）　労使協議とインサイダー情報規制への対応

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	JC2000402
科目名	仕事とキャリア形成	単位数	2
科目名（英語表記）	Work and Career Planning		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「働く」ということについて、社会・組織の視点と個人の視点との双方から考えます。社会・組織の視点として、組織が個人に求める要件の変化や多様化する雇用形態などについて概説します。個人の視点としては、自己の強みや価値観、またモチベーションの原点や人生全体における仕事の位置づけなどについて考える枠組みを提供します。社会と組織、および個人の双方の視点を取り入れることにより、職業社会へのスムーズな適応と、自己のキャリアを切りひらく力を育むことを目的としています。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題 2 回：40%		
到達目標	1. 組織と個人の関係性を踏まえ、職業社会への適応に必要な条件を理解する。 2. 自分が望む生き方や働き方を考え、その実現に向けて一歩踏み出すことができる。		
準備学習	・毎回の授業の最後に、次の授業のテーマを発表し、そのテーマに関係する情報を得てくるよう求める。次の授業の冒頭では、考えたことについて話し合う、もしくは出席票に書く時間を設けるので準備をしてくること。 ・前項とも関係するが、授業の最初と最後に各回のテーマに関する「問い」を出題する。授業開始時と終了時に出した「問い」についての答えが書いている出席票の提出を求める。		

受講者への要望

講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施する回があるので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 産業社会の変化と働く環境の変化
3. 大学から職業社会への移行の現状
4. 組織と個人の関係性 I
5. 組織と個人の関係性 II
6. 働く人のモチベーション
7. 仕事と人生と幸福感
8. 職業・ワークスタイル研究 I
9. 職業・ワークスタイル研究 II
10. 職業人生の始まり：採用する側から捉える「就職活動」
11. 自分の強みを知る
12. 自分の価値観を浮き彫りにする
13. 自分が望む働き方を思い描く I
14. 自分が望む働き方を思い描く II
15. まとめ：幸せな職業人生のために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	

年度	2015	授業コード	JC2000501
科目名	ライフプランとファイナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	大学卒業後の 60 年の人生を見通し、自らの価値観・人生観に基づき人生設計に取り組むと同時に、その実現のために必要な金融に関する知識を習得する。特に、不確実性やリスクに対する備えという視点から、生涯を通じた資金配分の在り方を、具体的事例に基づいて受講者各自が検討しデザインする。		
教材（テキスト）	滝沢ななみ『みんなが欲しかった！FP 3 級の教科書』TAC 出版		
教材（参考文献）	・FP ｱｿｼｴｲﾂ&ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ 株式会社『やさしく学ぶ FP 技能士 3 級』翔泳社 ・SBI ｸﾞﾙｰﾌﾟ『一目でわかるあなたの最適資産運用法』高橋書店 ・石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内課題 50％　　レポート 20％　　期末試験 30％		
到達目標	（1）大まかな人生設計とそこでのイベントについて整理する。 （2）FP 3 級程度の金融関連の知識を習得する。		
準備学習	翌週に扱う課題についての配布資料を予め目を通しておくこと		

受講者への要望

（1）人生 80 年の基本計画とその実現のための課題を整理すること
（2）Excel の基本的な使用方法を確認しておくこと
（3）私語等の講義の進行の妨げになる行為は慎むこと

講義の順序とポイント

【Ⅰ】ライフプランとファイナンスの基本
1．講義の目的と概要：パーソナル・ファイナンスとは何か
2．ライフプランニングの手法：ライフイベント表、キャッシュフロー表、個人バランスシート、基本係数

【Ⅱ】ライフイベントと準備
3．ライフイベントと 3 大必要資金の基本：教育資金、住宅取得資金、老後資金
4．教育資金計画の検討：教育ローン、こども保険、学資保険、奨学金
5．住宅取得資金計画の検討：財形住宅貯蓄、住宅ローンの種類、借り換えと繰上げ返済
6．老後資金計画の検討：退職金、年金、貯蓄

【Ⅲ】リスクへの備え
7．健康上のリスクへの備え：公的医療保険、私的医療保険、傷害保険、生命保険
8．失業のリスクへの備え：雇用保険、就職促進給付、教育促進給付、労災保険
9．長生きのリスクへの備え：公的年金、私的年金、企業年金、遺族年金
１０．災害・事故のリスクへの備え：火災保険、地震保険、自動車保険、賠償責任保険

【Ⅳ】資産運用
１１．貯蓄型金融商品と債券：単利と複利、金利、金融商品の種類、国債、社債
１２．株式：株式とは何か、株式取引、相場指標、投資指標、株式と税
１３．投資信託：投資信託の基本と仕組み、投資信託の分類、相場指標、投信と税

【Ⅴ】税
１４．所得と税控除：税の分類、所得控除
１５．相続：相続の基本、相続税、贈与税

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★★		

年度	2015	授業コード	JC2000502
科目名	ライフプランとファイナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	大学卒業後の 60 年の人生を見通し、自らの価値観・人生観に基づき人生設計に取り組むと同時に、その実現のために必要な金融に関する知識を習得する。特に、不確実性やリスクに対する備えという視点から、生涯を通じた資金配分の在り方を、具体的事例に基づいて受講者各自が検討しデザインする。		
教材（テキスト）	滝沢ななみ『みんなが欲しかった！FP 3 級の教科書』TAC 出版		
教材（参考文献）	・FP ｱｿｼｴｲﾂ&ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ 株式会社『やさしく学ぶ FP 技能士 3 級』翔泳社 ・SBI ｸﾞﾙｰﾌﾟ『一目でわかるあなたの最適資産運用法』高橋書店 ・石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内課題 50％　　レポート 20％　　期末試験 30％		
到達目標	（1）大まかな人生設計とそこでのイベントについて整理する。 （2）FP 3 級程度の金融関連の知識を習得する。		
準備学習	翌週に扱う課題についての配布資料を予め目を通しておくこと		

受講者への要望

（1）人生 80 年の基本計画とその実現のための課題を整理すること
（2）Excel の基本的な使用方法を確認しておくこと
（3）私語等の講義の進行の妨げになる行為は慎むこと

講義の順序とポイント

【Ⅰ】ライフプランとファイナンスの基本
1．講義の目的と概要：パーソナル・ファイナンスとは何か
2．ライフプランニングの手法：ライフイベント表、キャッシュフロー表、個人バランスシート、基本係数

【Ⅱ】ライフイベントと準備
3．ライフイベントと 3 大必要資金の基本：教育資金、住宅取得資金、老後資金
4．教育資金計画の検討：教育ローン、こども保険、学資保険、奨学金
5．住宅取得資金計画の検討：財形住宅貯蓄、住宅ローンの種類、借り換えと繰上げ返済
6．老後資金計画の検討：退職金、年金、貯蓄

【Ⅲ】リスクへの備え
7．健康上のリスクへの備え：公的医療保険、私的医療保険、傷害保険、生命保険
8．失業のリスクへの備え：雇用保険、就職促進給付、教育促進給付、労災保険
9．長生きのリスクへの備え：公的年金、私的年金、企業年金、遺族年金
１０．災害・事故のリスクへの備え：火災保険、地震保険、自動車保険、賠償責任保険

【Ⅳ】資産運用
１１．貯蓄型金融商品と債券：単利と複利、金利、金融商品の種類、国債、社債
１２．株式：株式とは何か、株式取引、相場指標、投資指標、株式と税
１３．投資信託：投資信託の基本と仕組み、投資信託の分類、相場指標、投信と税

【Ⅴ】税
１４．所得と税控除：税の分類、所得控除
１５．相続：相続の基本、相続税、贈与税

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★★		

年度	2015	授業コード	JC2100101
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	将来社会人として活躍するために、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、実際の仕事の場面でどのように対応すべきなのかを自ら考え、行動できるようになることをねらいとする。		
教材（テキスト）	・テキスト：「社会人になるためのビジネスコミュニケーション＆マナー」 ビジネス教育実践学会監修　中村克彦編著　㈱インフォテックサーブ　（600 円＋税）		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教材（その他）	別途資料配布又はパワーポイントを活用する。		
評価方法	・平常点：50 点　提出課題：50 点　　合計 100 点 ・平常点は出席状況、取り組み姿勢、遅刻早退の程度、学生の理解度を総合して配点を行う。提出課題は（９）（１５）「まとめと課題演習」の際、各 25 点配点の提出課題を課す。 ・社会人として必要な事を学ぶ科目である。取り組み姿勢を評価するため、参加態度が悪い場合（居眠り、理由なく携帯を触る、私語等）や、授業妨害と判断した場合は欠席扱いとし、退席を促す。		
到達目標	・ビジネスの基本知識を理解する。 ・ビジネスの場面で必要な基本的態度や技能を身につける。 ・①②で学んだことをふまえ、ビジネスの実践場面で応用できるようにする。		
準備学習	授業内で指示するテキスト、参考文献等について、指示された箇所を読んでくること。		

受講者への要望

実践的な内容であるため、コミュニケーションを前提とした学生主体の参加型である。
受け身では学びにならないことを意識し、自ら主体的に参加すること。
マナーとしての取り組み姿勢を評価するため、参加態度が悪い場合（居眠り、理由なく携帯を触る、私語等）や、授業妨害と判断した場合は、欠席扱いとなる。
社会への準備学習である「インターンシップ」を受講する学生は、積極的に受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、到達点、進め方等
（2）基本編①：キャリアとは（働くこと、社会人としての基本的な考え方）
（3）基本編②：働く上でのビジネス会話
（4）基本編③：ビジネス文書・メール作成等の基本
（5）基本編④：基本編の実習とまとめ
（6）応対編①：社会人としての心構えと応対の基本
（7）応対編②：社会人としての心構えと応対の基本
（8）応対編③：社会人としての心構えと応対の基本
（9）まとめと課題演習
（10）応用編①：コミュニケーション
（11）応用編②：コミュニケーション
（12）応用編③：コミュニケーション
（13）実習編①：総合実習
（14）実習編②：総合実習
（15）まとめと課題演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2100102
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	将来社会人として活躍するために、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、実際の仕事の場面でどのように対応すべきなのかを自ら考え、行動できるようになることをねらいとする。		
教材（テキスト）	・テキスト：「社会人になるためのビジネスコミュニケーション＆マナー」 ビジネス教育実践学会監修　中村克彦編著　㈱インフォテックサーブ　（600 円＋税）		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教材（その他）	別途資料配布又はパワーポイントを活用する。		
評価方法	・平常点：50 点　提出課題：50 点　　合計 100 点 ・平常点は出席状況、取り組み姿勢、遅刻早退の程度、学生の理解度を総合して配点を行う。提出課題は（９）（１５）「まとめと課題演習」の際、各 25 点配点の提出課題を課す。 ・社会人として必要な事を学ぶ科目である。取り組み姿勢を評価するため、参加態度が悪い場合（居眠り、理由なく携帯を触る、私語等）や、授業妨害と判断した場合は欠席扱いとし、退席を促す。		
到達目標	・ビジネスの基本知識を理解する。 ・ビジネスの場面で必要な基本的態度や技能を身につける。 ・①②で学んだことをふまえ、ビジネスの実践場面で応用できるようにする。		
準備学習	授業内で指示するテキスト、参考文献等について、指示された箇所を読んでくること。		

受講者への要望

実践的な内容であるため、コミュニケーションを前提とした学生主体の参加型である。
受け身では学びにならないことを意識し、自ら主体的に参加すること。
マナーとしての取り組み姿勢を評価するため、参加態度が悪い場合（居眠り、理由なく携帯を触る、私語等）や、授業妨害と判断した場合は、欠席扱いとなる。
社会への準備学習である「インターンシップ」を受講する学生は、積極的に受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、到達点、進め方等
（2）基本編①：キャリアとは（働くこと、社会人としての基本的な考え方）
（3）基本編②：働く上でのビジネス会話
（4）基本編③：ビジネス文書・メール作成等の基本
（5）基本編④：基本編の実習とまとめ
（6）応対編①：社会人としての心構えと応対の基本
（7）応対編②：社会人としての心構えと応対の基本
（8）応対編③：社会人としての心構えと応対の基本
（9）まとめと課題演習
（10）応用編①：コミュニケーション
（11）応用編②：コミュニケーション
（12）応用編③：コミュニケーション
（13）実習編①：総合実習
（14）実習編②：総合実習
（15）まとめと課題演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC2100201
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	社会に出ると、報告・伝達・記録・提案・企画など様々な場面において、事実や情報を正しく理解し、「わかりやすく、正確に、迅速に」相手に伝える力が求められます。講義では、ビジネス文書について理解を深めるとともに、敬語表現を含めた適切な日本語表現について確認します。また、個人およびグループワークを行い、文書作成の基本ノウハウを習得します。目的や課題に則した文書作成と口頭発表を通して、「書く・表現する＝伝える力」を培いましょう。		
教材（テキスト）	テキストは使用しません。		
教材（参考文献）	参考書は講義の中で紹介します。		
教材（その他）	適宜、プリントを配布します。		
評価方法	提出物･発表等による評価 30％　期末課題による評価 50％　授業内小テスト･参加意欲等による平常点 20％		
到達目標	ビジネス文書の基礎知識を学び、適切な敬語表現を用いた文書化の手順を習得します。また、企画書作成に取り組みプレゼンテーションを実践することにより、文書作成能力からプレゼンテーション力を養います。		
準備学習	特になし		

受講者への要望

ワークを中心に進める参加型の講義です。将来、社会人として活躍する力を養うことを目的としています。ぜひ、積極的にワークに取り組んでください。文書作成に苦手意識を持つ人も多いと思いますが、日頃から、様々な活字媒体に触れる機会を大切にしましょう。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション
２．ビジネス文書の基礎：表記（話し言葉と書き言葉の相違、推敲の重要性）
３．ビジネス文書の基礎：表現（文書の正確性・客観性・具体性）
４．ビジネス文書の基礎：構成（結論から書く＝わかりやすい文書構成）
５．ことばの一般教養：適切な敬語表現
６．ビジネス文書の種類と作成のポイント
７．社内文書①
８．社内文書②
９．社外文書①
１０．社外文書②
１１．社交・儀礼文書、手紙やビジネスメール等のマナー
１２．企画書作成と効果的なプレゼンテーションの基礎知識
１３．企画書作成とプレゼン準備
１４．プレゼンテーションの実践①
１５．プレゼンテーションの実践②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC2100202
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	社会に出ると、報告・伝達・記録・提案・企画など様々な場面において、事実や情報を正しく理解し、「わかりやすく、正確に、迅速に」相手に伝える力が求められます。講義では、ビジネス文書について理解を深めるとともに、敬語表現を含めた適切な日本語表現について確認します。また、個人およびグループワークを行い、文書作成の基本ノウハウを習得します。目的や課題に則した文書作成と口頭発表を通して、「書く・表現する＝伝える力」を培いましょう。		
教材（テキスト）	テキストは使用しません。		
教材（参考文献）	参考書は講義の中で紹介します。		
教材（その他）	適宜、プリントを配布します。		
評価方法	提出物･発表等による評価 30％　期末課題による評価 50％　授業内小テスト･参加意欲等による平常点 20％		
到達目標	ビジネス文書の基礎知識を学び、適切な敬語表現を用いた文書化の手順を習得します。また、企画書作成に取り組みプレゼンテーションを実践することにより、文書作成能力からプレゼンテーション力を養います。		
準備学習	特になし		

受講者への要望

ワークを中心に進める参加型の講義です。将来、社会人として活躍する力を養うことを目的としています。ぜひ、積極的にワークに取り組んでください。文書作成に苦手意識を持つ人も多いと思いますが、日頃から、様々な活字媒体に触れる機会を大切にしましょう。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション
２．ビジネス文書の基礎：表記（話し言葉と書き言葉の相違、推敲の重要性）
３．ビジネス文書の基礎：表現（文書の正確性・客観性・具体性）
４．ビジネス文書の基礎：構成（結論から書く＝わかりやすい文書構成）
５．ことばの一般教養：適切な敬語表現
６．ビジネス文書の種類と作成のポイント
７．社内文書①
８．社内文書②
９．社外文書①
１０．社外文書②
１１．社交・儀礼文書、手紙やビジネスメール等のマナー
１２．企画書作成と効果的なプレゼンテーションの基礎知識
１３．企画書作成とプレゼン準備
１４．プレゼンテーションの実践①
１５．プレゼンテーションの実践②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JC2100301
科目名	インターンシップＡＩ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship ＡＩ		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	この科目では、企業等で２週間程度の就業体験を行い、大学での学びと実社会における実践の場との違いを認識することにより、学びへの動機付けを深めることを目的とする。そのため、この科目での課題設定を職業観や勤労意識の醸成と労働に対する態度を身につけることとする。事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果を発表を行う。 インターンシップ実習については、本学インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムビジネス・パブリックコースのいずれかに参加する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の４項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」
2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」
3　一般的マナーについてのプログラム
4　ビジネスマナーについてのプログラム
5　ビジネスマナーについての実習
6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」
7　効果的なプレゼン方法の習得
8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション
9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（原則として８月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
ビジネスコース･パブリックコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション：実習参加の心綱え
2　クラスの相互理解
3　実習に向けた目栂と仮脱設定
　＜グループディスカッション＞
4　コミュニケーショントレーニング(1)
5　コミュニケーショントレーニング(2)
6　スキルアップトレーニング(1)
7　スキルアップトレーニング(2)
8　業界と社会に対する学習①
　＜ケストスピーカーの講演＞
9　業界と社会に対する学習②
　＜ディスカッション＞
10　実習に向けた目標と仮説設定①
　＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
11　実習に向けた目標と仮説設定②
　＜実習直前の相互破腿＞
12　リスクマネジメント講習
13　オリエンテーション：実習にあたって

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に担当ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによる中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
14　実習における経験交流
　<経験の共有①＞
15　実習における経験交流
　<経験の共有②＞
16　実習における経験交流
　＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
17　今後の学生生活を考える
　＜レポート作成に向けてのまとめ＞
18　全体講評・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JC2100401
科目名	インターンシップＡII	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship AII		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	この科目では、「インターンシップＡＩ」を履修した者が、再び２週間程度のインターンシップ実習を行う場合の科目である。１度目の実習を踏まえて、大学における学びと実社会における実践の関係を理解し、有機的に結び付けることにより、理論と実践の融合を図ることを目的とする。事前学習では１度目の実習を振り返り、新たに課題設定し、２週間程度の企業実習を行う。その中で課題発見力や論理的思考力を身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果発表を行う. インターンシップ実習については、本学インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムビジネス・パブリックコースのいずれかに参加する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の 4 項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	インターンシップＡＩの成果を踏まえ、新たな目標設定を行って実習することにより、次の各点について一段と高いレベルの態度を示すことができるようにする。 ・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」

2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」

3　一般的マナーについてのプログラム

4　ビジネスマナーについてのプログラム

5　ビジネスマナーについての実習

6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」

7　効果的なプレゼン方法の習得

8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション

9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
ビジネスコース･パブリックコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション：実習参加の心綱え
2　クラスの相互理解
3　実習に向けた目栂と仮脱設定
　＜グループディスカッション＞
4　コミュニケーショントレーニング(1)
5　コミュニケーショントレーニング(2)
6　スキルアップトレーニング(1)
7　スキルアップトレーニング(2)
8　業界と社会に対する学習①
　＜ケストスピーカーの講演＞
9　業界と社会に対する学習②
　＜ディスカッション＞
10　実習に向けた目標と仮説設定①
　＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
11　実習に向けた目標と仮説設定②
　＜実習直前の相互破腿＞
12　リスクマネジメント講習
13　オリエンテーション：実習にあたって

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に担当ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによる中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
14　実習における経験交流
　<経験の共有①＞
15　実習における経験交流
　<経験の共有②＞
16　実習における経験交流
　＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
17　今後の学生生活を考える
　＜レポート作成に向けてのまとめ＞
18　全体講評・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JC2100501
科目名	インターンシップB	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship B		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	この科目では、企業等で4週間程度の就業体験を行うことにより、大学における学びの理論と実社会における実践の場との関係性を深く理解し、有機的に結びつけることにより、幅広く理論と実践の融合を図ることを目的とする。長期間の企業での実習の中で、職場における協働力や適応力、行動力を身につける。事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや4週間にわたる実習の成果を発表する。 インターンシップ実習については、本学海外インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムプログレスコースのいずれかに参加する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の4項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	到達目標 ・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学海外インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」
2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」
3　一般的マナーについてのプログラム
4　ビジネスマナーについてのプログラム
5　ビジネスマナーについての実習
6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」
7　効果的なプレゼン方法の習得
8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション
9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（8月～9月の間で1か月程度実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
プログレスコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション
　(プロジェクト型インターンシップのリスクマネジメント､プロジェクトメンバーの相互理解)
2　プロジェクト･マネジメント
　(プロジェクト･マネジメントの擬要― PCM の講義)
3　企業人ならびに修了生によるプレゼンテーション
　(プロジェクトの経験談･アドバイス等)
4　コミュニケーショントレーニング
5　プロジェクト･マネジメント
　(テーマに応じて実習や事業のデザイン①)
6　プロジェクト･マネジメント
　(テーマに応じて実習や事業のデザイン②)
7　プロジェクト･マネジメント
　(テーマに応じて実習や事集のデザイン③)
8　プロジェクト･マネジメント
　(テーマに応じて実習や事案のデザイン④)
9　プロジェクト･マネジメント
　(今後の活動の確認、活動計画の発表)
10　プロジェクト･マネジメント
　(他プロジェクトとの意見交換)
11　プロジェクト･マネジメント
　(プロジェクト中間報告)

Ⅱ　実習の実施
　夏休み期間中には、受入れ先ごとにプロジェクトを行う。

Ⅲ　事後学習
12　プロジェクト･マネジメント
　(プロジェクト評価方法の概要)
13　プロジェクト･マネジメント
　(プレゼンテーショントレーニング)
14　プロジェクト･マネジメント
　(プレゼンテーション準備①)
15　プロジェクト･マネジメント
　(プレゼンテーション準働②)
16　プロジェクト･マネジメント
　(プレゼンテーション準働③)
17　プロジェクト･マネジメント
　(自己評価・プログラム受講を通しての自己の変化を振り返る)
18　成果報告会･修了式
　～21　　〃

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JC2100601
科目名	サービス・ラーニングA	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	社会と個人、組織と個人等を考えながら社会貢献活動を行い、大学での学修等で身につけるべき課題を明確にすることを目的とする。約1週間程度の活動を通して、協働力、適応力、行動力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法)、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法)、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の 3 つを想定している。		
教材（テキスト）	必要に応じて配布		
教材（参考文献）	必要に応じて配布		
教材（その他）	なし		
評価方法	活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、自らの身につけるべき課題を意識する。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる.		
準備学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講者への要望

[実習先の選定－1]：毎年5月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明する。多くの大学から学生がその集会に参加し、各ボランティア団体の説明を聞いて、どの団体の活動に参加するかの判断材料としている。この講義の受講者は原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―2]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、1週間、2週間、1か月の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての1週間、2週間、1か月である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

講義の順序とポイント

1． 社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
2． 地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
3． 実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
4． ビジネスマナーI
5． ビジネスマナーII

実習1週間
（8時間＋日報1時間）/日*5日＝45時間

6． 事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
7． 事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲスト or ビデオ)、ワークショップ
8． 事後学習 III－レポート作成
9． 事後学習 IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JC2100701
科目名	サービス・ラーニングB	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	社会貢献活動を通して、大学における学びと実社会における実践の場との関係性を理解することを目的とする。約2週間程度の活動を通して、理論と実践の融合を図るための課題発見力や論理的思考力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法)、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法)、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の3つを想定している。		
教材（テキスト）	必要に応じて配布		
教材（参考文献）	必要に応じて配布		
教材（その他）	なし		
評価方法	活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、大学で学んだ学修を社会活動の中で最大限に生かす。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる。		
準備学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講者への要望

[実習先の選定－1]：毎年5月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明する。多くの大学から学生がその集会に参加し、各ボランティア団体の説明を聞いて、どの団体の活動に参加するかの判断材料としている。この講義の受講者は原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―2]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、1週間、2週間、1か月の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての1週間、2週間、1か月である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

講義の順序とポイント

1．　社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
2．　地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
3．　実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
4．　ビジネスマナーI
5．　ビジネスマナーII

実習2週間
（8時間＋日報1時間）/日*10日＝90時間

6．　実習中に、1回/週、大学で経過報告（1回目）
7．　実習中に、1回/週、大学で経過報告（2回目）
8．　事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
9．　事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲスト or ビデオ)、ワークショップ
１０．　事後学習 III－レポート作成
１１．　事後学習 IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC2100801
科目名	サービス・ラーニングC	単位数	4
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning C		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	約1か月程度の社会貢献活動を通して、社会貢献の必要性と有効性を理解することを目的とする。また、社会の発展を目指すための、創造力や発想力、課題解決力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法）、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法）、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の3つを想定している。		
教材（テキスト）	必要に応じて配布		
教材（参考文献）	必要に応じて配布		
教材（その他）	なし		
評価方法	活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
到達目標	社会貢献活動の中で、具体的な課題解決を図る。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる。		
準備学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講者への要望

[実習先の選定－1]：毎年5月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明する。多くの大学から学生がその集会に参加し、各ボランティア団体の説明を聞いて、どの団体の活動に参加するかの判断材料としている。この講義の受講者は原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―2]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、1週間、2週間、1か月の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての1週間、2週間、1か月である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

講義の順序とポイント

1． 社会貢献と自らの社会的役割：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
2． NPO組織論：講義、ビデオ or ゲスト
3． 実習目的の明確化と目標設定：ワークショップ（個人の目標設定）
4． ビジネスマナーI
5． ビジネスマナーII

実習1か月（4週間）
（8時間＋日報1時間）/日*20日＝180時間

6． 実習中に、1回/週、大学で経過報告（1回目）
7． 実習中に、1回/週、大学で経過報告（2回目）
8． 実習中に、1回/週、大学で経過報告（3回目）
9． 実習中に、1回/週、大学で経過報告（4回目）
10． 事後学習I－何を学んだか：ワークショップ
11． 事後学習II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか：講義（ゲスト or ビデオ）、ワークショップ
12． 事後学習III－レポート作成
13． 事後学習IV－レポート作成
14． 事後学習V－報告会準備
15． 事後学習VI－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JC2200124
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	木原　麻子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2200125
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	木原　麻子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2200126
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2200128
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JC2200129
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JE0003001
科目名	ＴＯＥＦＬ研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Preparation Course for TOEFL		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	この授業では TOEFL(ITP)のスコアアップをはかるための実践的な取り組みを行います。まずはじめに、TOEFL(ITP)対策を行うための英語力判定テストを行います。その後、教科書を用いて、さまざまなタイプの問題にふれていきます。また、必要に応じて添削指導も行います。このような取り組みにより、TOEFL(ITP)に頻出する語彙、表現、文法事項を学習しながら、TOEFL(ITP)の問題を体系的に攻略していきたいと思います。授業で取り組んだ内容については小テスト等で確認していく予定です。授業時の小テストおよび授業時に測定する英語力判定テストの結果によって評価を行いますので、毎回の授業への参加はとても大切です。また、授業内容を理解するためには毎回の予習・復習が必要となります。とくに留学を考えている皆さん、真剣に TOEFL(ITP)のスコアアップに取り組みたいと思う方はぜひ参加してください。		
教材（テキスト）	Makoto Shishido, Malcolm Mann and Steve Taylor-Knowles 著 『Boost Your English 1 : Practice for TOEFL ITP』 Seibido, 2,500 円+税		
教材（参考文献）	適宜授業中に指示します。		
教材（その他）	適宜授業中に指示します。		
評価方法	平常点（20%）：授業への参加状況により評価します。 課題・テスト（50%）：授業時に課す小テストや提出物により評価します。 到達度（30%）：最初と最後に行う英語力判定テストの結果や授業内での取り組みから測ります。 ＊なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただし、3 分の 2 以上の出席があった場合、必ず合格するという意味ではないので注意すること。		
到達目標	TOEFL の出題形式を把握し、語彙、文法、読解、リスニングの力を向上させます。また、習熟度に応じた目標を設定し、達成を目指しします。		
準備学習	１．授業で扱った内容について日常的に予習・復習を繰り返すことがスコアアップへの近道となります。 ２．なるべく多くの英語の授業を受講し、日ごろから基礎力増強につとめてください。 ３．各授業中に添削課題や自宅学習についての情報を提示する予定です。		

受講者への要望

１．授業以外に学内で実施される TOEFL(ITP)を受験してください。
２．授業以外でも講義期間中に TOEFL の試験に挑戦することを願います。
３．授業中の携帯電話の使用・睡眠・私語による妨害など、授業態度にはくれぐれもご注意ください。

講義の順序とポイント

第 1 回　オリエンテーションと Placement Test
第 2 回　Module 1 Listening (Lesson 1& Lesson 2)
第 3 回　Module 1 Listening and Structure (Lesson 2 & Lesson 3)
第 4 回　Module 1 Structure (Lesson 3 & Lesson 4)
第 5 回　Module 1 Structure and Reading (Lesson 4 & Lesson 5)
第 6 回　Module 1 Reading (Lesson 5 & Lesson 6)
第 7 回　Module 1 Reading and Review (Lesson 6 & Progress Test1)
第 8 回　Module 2 Listening (Lesson 1 & Lesson 2)
第 9 回　Module 2 Listening and Structure (Lesson 2 & Lesson 3)
第 10 回　Module 2 Structure (Lesson 3 & Lesson 4)
第 11 回　Module 2 Structure and Reading (Lesson 4 & Lesson 5)
第 12 回　Module 2 Reading (Lesson 5 & Lesson 6)
第 13 回　Module 2 Reading and Reivew (Lesson 6 & Progress Test 2)
第 14 回　Module 3 Listening (Lesson 1 & Lesson 2)
第 15 回　Module 3 Listening and Review (Lesson 2 & Final Test) + 総まとめ

上記はあくまでも予定であり、変更になる可能性があります。
各授業時に指示するので情報を聞き逃さないようにしてください。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	JE0004001
科目名	ＴＯＥＩＣ研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Preparation Course for TOEIC		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
講義概要	TOEIC の練習問題、模擬テストを用いて習熟度を測定し、スコアアップをはかるための実践的な授業を行います。TOEIC に頻出する語彙、表現、文法事項を学習しながら、問題を体系的に攻略していきます。将来、仕事で英語を使う分野へ就職を希望する学生には必須の科目です。		
教材（テキスト）	安丸雅子／砂川典子／秋好礼子／十時康／渡邉晶子／Andrew Zitzmann 著　SEIZE THE CORE OF THE TOEIC? TEST 『TOEIC Test： コアをつかんで完全攻略』（金星堂） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	音声 CD を授業で使用します。		
評価方法	授業で毎回実施する小テスト（50%）、TOEIC 模擬テスト（30%）、課題の提出状況、授業への参加状況（20%）により総合的に評価します。　なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけることを目指します。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。TOEIC420 点以上を取得できる英語力の養成を目標とします。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法、リスニング、読解問題を含みます。		

受講者への要望

①教科書は、必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。教科書がないと、授業での課題を行うことができません。
教科書を持参しない場合は最終評価から減点することになります。また、英語辞書も必ず持参してください。
②欠席、遅刻をしないように努めてください。
③課題は必ず期限までに提出してください。
④授業の前までに、かならず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑤当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習する予定です。ただし、下記はあくまでも予定であり、実際の授業の進度によって変更になる可能性があります。各授業時に指示するので情報を聞き逃さないようにしてください。また、ほぼ毎回（初回は除く）の授業の初めに、前回の授業の確認テストを行います。

1. Introduction: TOEIC の形式について / Unit 1 Daily Life [基本 5 文型]
2. Unit 2: Eating Out & Leisure Activities 〔品詞]
3. Unit 3: Cooking & Purchasing 〔名詞]
4. Unit 4: Traffic & Travel [形容詞・副詞]
5. Unit 5: Advertising &ICT 「時制]
6. Unit 6: Production & Logistics [接続詞・前置詞]
7. Unit 1~6 復習
8. Unit 1~6 Review Test / Unit 7: Business & Economics [助動詞] (1)
9. Unit 7: Business & Economics [助動詞] (2) / Unit 8 Employment & Personnel [受動態] (1)
10. Unit 8 Employment & Personnel [受動態] (2)
11. Unit 9: Office Work & Correspondence [分詞・分詞構文]
12. Unit 10: Health & the Environment ［不定詞・動名詞]
13. Unit 11: Finance & Banking ［代名詞・関係詞]
14: Review Test 2 ／Unit 12: Law & Administration ［比較構文］(1)
15: Unit 12: Law & Administration ［比較構文］(2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JE0015001
科目名	英語インテンシヴリーディング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intensive Reading in English		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	インテンシヴ・リーディング（精読）とは、ラピッド・リーディング（速読）と対極をなすもので、正確に読み解く作業に重点を置いた読み方を意味します。 ラピッド・リーディング（速読）は、キーワード検索やパラグラフリーディングなどを通じて、文章を要約したりスキミングしたりするのに有効な読み方です。一方、インテンシヴ・リーディング（精読）は、正確に読み、かつ行間を読む、いわばスキャニングする読み方です。たとえば、小説などの行間にこめられた著者の意図などを読み込むことを目的とした読み方がそれにあたります。 今回は Cultural Portraits: Japan and the US というテキストを用いて、正確に読むことを通して、オールラウンドな英語力の向上をめざします。このテキストを用いて、言葉としての英語に理解を深めるとともに、英語が使われているアメリカの文化を日本文化と比較しながら、その特徴を理解し、さらに日本人が普段は分かっていると思っている自国文化についてもあらためて考える機会とします。大切なことは、「クリティカル・シンキング」という作業をすることです。これは内容に基づいて自分の考えを表したり、話し合ったりすることを想定しています。 英語のレヴェルは TOEIC400-500 程度で書かれていますので、TOEIC400-500・英検準 2 級から 2 級レヴェルです。内容を正確に読んで、自分の意見をしっかりまとめ、他の学生にその意見を伝え、ディスカッションにも参加して欲しいと考えています。		
教材（テキスト）	Cultural Portraits: Japan and the US （金星堂）		
教材（参考文献）	英語辞書(英英・英和・和英）など		
教材（その他）			
評価方法	「英語インテンシブリーディング」では、授業参加（30%）・課題提出（30%）、およびレポート（40%）です。授業参加とは、それぞれの話題に関して自分の意見を述べたり、ディスカッションに参加することを指します。また、課題提出とは、京学なびを通じた課題の提出を求めます。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。		
到達目標	「英語中級リーディング」、「英語ラピッド・リーディング」につづいて、英語で書かれた文献を精読できるようになることを目標とします。 また、この授業では自分の意見をまとめ、ディスカッションに参加して、意見交換ができるようになることも求めます。		
準備学習	授業のテーマに関して図書館の書籍を使ったり、インターネットを活用して、下調べをしてください。また、積極的にディスカッションやプレゼンテーションに参加できるよう各ユニットで用いられている基本語彙や基本表現を自宅で学習しておいてください。		

受講者への要望

① 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
② この授業以外にもできるだけ多くの英語プロジェクト科目を履修するようにしてください。
③ 実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。

講義の順序とポイント

第 1 回　Introduction to the Class
第 2 回　Unit 1:　College Life
第 3 回　Unit 2:　Family Life
第 4 回　Unit 3:　Holidays
第 5 回　Unit 4:　Individualism
第 6 回　Unit 5:　Socializing at Parties
第 7 回　Unit 6:　Dating and Romance
第 8 回　Unit 7:　Pluralistic Society
第 9 回　Unit 8:　Degree of Formality
第 10 回　Uni　9: Volunteerism

第 11 回　Unit 10: Context and Communicaion 第 12 回　Unit 11: Non-Verbal Communication 第 13 回　Unit 12: Debate 第 14 回　Unit 13: Religion 第 15 回　Unit 14: Computers and Communication

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★			★	

年度	2015	授業コード	JE0016001
科目名	英語クリエイティヴライティング	単位数	2
科目名（英語表記）	Creative Writing in English		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では英語のライティング力を伸ばすことに焦点を置いています。身近な出来事や、未来の仕事に必要な応用文型や、英文で正式にレポートを書く練習をしていきます。英語を正しく書くためには基本文型と文法知識が必要です。この授業ではやさしい短文を例示して英文を正しく書く練習をして英文構成力を身につけるようにします。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他のことは授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	応答、発表を中心とした授業内演習参加状況（20%）、課題（30%）、授業内テストと宿題（50%）よって総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	1. おおよそ 2000 語レベルの語彙で書かれた英語の文章を比較的スムーズに理解でき、それらの単語を応用して文章を書けるようにします。 2. 英語文章のパラグラフ、トピックセンテンスの構造を理解して感想文を書けるようにします。 3.　いろいろな英語の応用文型や、レポートに慣れて書くことができるようにします。		
準備学習	この授業では毎回、前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテスト準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習してください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った内容の応用文を中心としたものとなります。		

受講者への要望

①プリント教材を持参してください。
②授業には、必ず辞書を持参してください。
③欠席、遅刻をしないように努めてください。
④課題は必ず期限までに提出してください。また、課題の提出には「京学なび」を使用してください。
⑤授業の前までに、必ず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑥自習学習のためになるべく多く「セルフラーニング室」（学志館 1 階）を活用してください。
⑦当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。
⑧英検、TOEIC などの検定、資格試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

下記はあくまでも予定であり、実際の授業の進度によって変更になる可能性があります。各授業時に指示するので情報を聞き逃さないようにしてください。また、毎回（初回は除く）の授業の初めに、前回の授業の確認テストを行います。

1. Course Description
2. Daily Schedule
3. Weekly Schedule
4. Email Message
5. Classification
6. Describing People
7. Responsibility
8. Favorite Writers
9. Case Study Solution Writing
10. Memo writing
11. Report Writing <1>
12. Report Writing <2>
13. Essay <1>
14. Essay <2>
15. Essay <3>

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JE0020001
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JE0020002
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JE0020003
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JE0020004
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JE0020005
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JE0020051
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JE0020052
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JE0020053
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JE0022001
科目名	英語スピーキングII	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking II		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	We will use some base patterns and vocabulary to begin talking about many different topics! we will interview classmates, make questions, answer questions and build a list of useful questions that we can use to speak with non-Japanese and Japanese people alike.		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	宿題・発表 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1. Confidently ask and answer different types of questions in English 2. Understand and be able to give ones opinion on different subjects 3. Learn to talk to people with less tension or nervousness		
準備学習	Do all assignments and homework as assigned. Be prepared for class and complete the majority of assignment with an above passing grade.		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary.
(Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class.
※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)
(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。
※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント

1. Introduction & Interviews
2. In depth interviews (Vocab practice)
3. Introducing others
4. (Quiz) Family
5. Yes/No questions
6. Differrent types of W&H questions　(Vocab practice)
7. Can, will, did, have-has,...etc... patterns
8. (Quiz) Friends & Hobbies
9. What kind, Do you, What is your...
10. Mixed EC Questions 1
11. Mixed EC Questions 2
12. (Quiz) Review & Mixed EC Questions 3
13. Test Prep
14. Small Speaking Test
15. Review Last tests

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		★

年度	2015	授業コード	JE0022002
科目名	英語スピーキングII	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking II		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	We will use some base patterns and vocabulary to begin talking about many different topics! we will interview classmates, make questions, answer questions and build a list of useful questions that we can use to speak with non-Japanese and Japanese people alike.		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	宿題・発表 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1. Confidently ask and answer different types of questions in English 2. Understand and be able to give ones opinion on different subjects 3. Learn to talk to people with less tension or nervousness		
準備学習	Do all assignments and homework as assigned. Be prepared for class and complete the majority of assignment with an above passing grade.		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary.
(Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class.
※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)
(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。
※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント

1. Introduction & Interviews
2. In depth interviews (Vocab practice)
3. Introducing others
4. (Quiz) Family
5. Yes/No questions
6. Differrent types of W&H questions　(Vocab practice)
7. Can, will, did, have-has,...etc... patterns
8. (Quiz) Friends & Hobbies
9. What kind, Do you, What is your...
10. Mixed EC Questions 1
11. Mixed EC Questions 2
12. (Quiz) Review & Mixed EC Questions 3
13. Test Prep
14. Small Speaking Test
15. Review Last tests

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		★

年度	2015	授業コード	JE0023001
科目名	英語スピーチ＆ディベート	単位数	2
科目名（英語表記）	Speech and Debate in English		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	This class is intended to make you feel more comfortable about talking in front of a group of people. We will improve your voice, posture, writing and also computer skills during the course. If you like using computers, then this is your chance to show off your skills! If you are interested in presenting your ideas, please also consider 英語パーソナルコミュニケーション.		
教材（テキスト）	Harrington, D. & LeBeau C., Speaking of Speech New Edition, MacMillan (2009)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Report: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	After completing this course you should be more confident speaking and explaining your ideas in front of a group, and with using computers. Students who want to study abroad should take this course.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = no credit. * Read your textbook before and after the lesson. * Speaking in class, writing as homework. * Must use Microsoft Powerpoint.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

講義の順序とポイント

The course is divided into three parts: i: The Physical Message ii: The Message iii: The Story Message.

Part i:
Lesson 1: Posture & eye contact.
Lesson 2: Gestures.
Lesson 3: Voice inflection.

Part ii:
Lesson 4: Effective visuals 1 (PC work).
Lesson 5: Effective visuals 2 (PC work).
Lesson 6: Explaining visuals 1.
Lesson 7: Explaining visuals 2 / PRESENTATIONS.

Part iii:
Lesson 8: The introduction 1.
Lesson 9: The introduction 2.
Lesson 10: The body 1.
Lesson 11: The body 2.
Lesson 12: The conclusion 1.
Lesson 13: The conclusion 2.
Lesson 14: Review.

Lesson 15: Final presentations.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JE0029001
科目名	英語ゼミⅣ	単位数	2
科目名（英語表記）	English Seminar Ⅳ		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「英語ゼミⅣ」も、「英語ゼミⅢ」とともに、＜英語プロジェクト＞において集中的に英語を履修するプロジェクト登録２年目の学生のための中核ゼミ（登録必要科目）である。 ＜英語プロジェクト＞全体の概要では、「Ⅲ／Ⅳ」は「ゼミ担当者の専門に応じた演習を行う」こととなっているが、英語ポップスの歌詞を演習の教材として用いることがあるとしても、専門の 19-20 世紀イギリス文学や英詩の講読を中心に演習を進めるつもりはない。英語力の基礎が未だ不安定な受講生も含まれているため、全体演習では「Ⅰ／Ⅱ」よりは一段高いレヴェルに到達目標を置きながら引き続き英語力の底上げをはかっていく。 それとともに「Ⅳ」においても、英語プレゼンテーションの基礎を学んで、習得した英語を実際的な場面で使っていくための基礎知識習得を行う。「Ⅲ」での課題として作成した発表文を基に、「Ⅳ」ではこれにプレゼンテーション用のスライドを加える課題に取り組んでもらう。		
教材（テキスト）	「英語ゼミⅢ」の教科書（Noboru Matsuoka et al.、Presentation to Go: Building Presentation Skills for Your Future Career（『DVD で学ぶ初めての英語プレゼンテーション』）、センゲージラーニング）を継続使用		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答／発表／ディスカッションを中心とした授業内演習参加状況（約 50%）、授業内テスト（約 20%）、ゼミ課題（約 30%）などの項目で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	１．＜英語プロジェクト＞における集中的な英語履修により、英検２級／TOEIC520／TOEFL470 以上を目標とする英語力の基礎が安定化する。 ２．英語運用のために不足する技能を弱点として認識して、具体的な対策を講じることができる。 ３．英語プレゼンテーションの基本的な技能が身につく。		
準備学習	１．ハンドアウト教材については、＜京学なび＞「授業資料」から次回分をダウンロードし、解説を読んで疑問点にマークするとともに、練習問題があれば解答も試みておく。 ２．語彙問題等に対しては、次回の小テスト範囲を復習しておく。 ３．教科書については、授業時に指示された頁範囲の説明文をよく読んで疑問点にマークしておく。 ４．「ゼミ課題」については、各段階の報告文を指示された期限までに＜京学なび＞「課題」に提出する。		

受講者への要望

１．事前の指示に基づいてゼミ参加に必要な準備を十分に行い、毎回出席すること。
２．同じ学期に＜英語プロジェクト＞科目を他に少なくとも２科目は履修すること。
３．英検や TOEIC などの英語資格試験を積極的に受験すること。

講義の順序とポイント

下記の順序とポイントは、教材利用演習とゼミ課題の進捗状況に応じて変更することがある。なお、下記に記載の演習に加えて、英語の語彙や表現に関する復習小テストをほぼ毎回実施する。

１．ゼミ概要・評価方法に関する説明、「英語ゼミⅢ課題」の復習、Project 2: News Digest
２．「英語ゼミⅣ課題」の説明、続・Project 2: News Digest
３．続・Project 2: News Digest
４．Project 3: Promoting Your Vacation Plans

5．続・Project 3: Promoting Your Vacation Plans
6．続・Project 3: Promoting Your Vacation Plans
7．「英語ゼミⅣ課題」の初回報告、Project 4: Introducing Japan
8．続・Project 4: Introducing Japan
9．続・Project 4: Introducing Japan
10．Project 5: Discussing Social Issues
11．「英語ゼミⅣ課題」の修正報告、続・Project 5: Discussing Social Issue
12．続・Project 5: Discussing Social Issue
13．Project 6: Talking about Your Future Plans
14．続・Project 6: Talking about Your Future Plans
15．「英語ゼミⅣ課題」の最終報告、続・Project 6: Talking about Your Future Plans

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★		★

年度	2015	授業コード	JE0029002
科目名	英語ゼミⅣ	単位数	2
科目名（英語表記）	English Seminar Ⅳ		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「英語ゼミⅣ」も、「英語ゼミⅢ」とともに、＜英語プロジェクト＞において集中的に英語を履修するプロジェクト登録２年目の学生のための中核ゼミ（登録必要科目）である。 ＜英語プロジェクト＞全体の概要では、「Ⅲ／Ⅳ」は「ゼミ担当者の専門に応じた演習を行う」こととなっているが、英語ポップスの歌詞を演習の教材として用いることがあるとしても、専門の 19-20 世紀イギリス文学や英詩の講読を中心に演習を進めるつもりはない。英語力の基礎が未だ不安定な受講生も含まれているため、全体演習では「Ⅰ／Ⅱ」よりは一段高いレヴェルに到達目標を置きながら引き続き英語力の底上げをはかっていく。 それとともに「Ⅳ」においても、英語プレゼンテーションの基礎を学んで、習得した英語を実際的な場面で使っていくための基礎知識習得を行う。「Ⅲ」での課題として作成した発表文を基に、「Ⅳ」ではこれにプレゼンテーション用のスライドを加える課題に取り組んでもらう。		
教材（テキスト）	「英語ゼミⅢ」の教科書（Noboru Matsuoka et al.、Presentation to Go: Building Presentation Skills for Your Future Career（『DVD で学ぶ初めての英語プレゼンテーション』）、センゲージラーニング）を継続使用		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答／発表／ディスカッションを中心とした授業内演習参加状況（約 50%）、授業内テスト（約 20%）、ゼミ課題（約 30%）などの項目で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	１．＜英語プロジェクト＞における集中的な英語履修により、英検２級／TOEIC520／TOEFL470 以上を目標とする英語力の基礎が安定化する。 ２．英語運用のために不足する技能を弱点として認識して、具体的な対策を講じることができる。 ３．英語プレゼンテーションの基本的な技能が身につく。		
準備学習	１．ハンドアウト教材については、＜京学なび＞「授業資料」から次回分をダウンロードし、解説を読んで疑問点にマークするとともに、練習問題があれば解答も試みておく。 ２．語彙問題等に対しては、次回の小テスト範囲を復習しておく。 ３．教科書については、授業時に指示された頁範囲の説明文をよく読んで疑問点にマークしておく。 ４．「ゼミ課題」については、各段階の報告文を指示された期限までに＜京学なび＞「課題」に提出する。		

受講者への要望

１．事前の指示に基づいてゼミ参加に必要な準備を十分に行い、毎回出席すること。
２．同じ学期に＜英語プロジェクト＞科目を他に少なくとも２科目は履修すること。
３．英検や TOEIC などの英語資格試験を積極的に受験すること。

講義の順序とポイント

下記の順序とポイントは、教材利用演習とゼミ課題の進捗状況に応じて変更することがある。なお、下記に記載の演習に加えて、英語の語彙や表現に関する復習小テストをほぼ毎回実施する。

１．ゼミ概要・評価方法に関する説明、「英語ゼミⅢ課題」の復習、Project 2: News Digest
２．「英語ゼミⅣ課題」の説明、続・Project 2: News Digest
３．続・Project 2: News Digest
４．Project 3: Promoting Your Vacation Plans

5．続・Project 3: Promoting Your Vacation Plans
6．続・Project 3: Promoting Your Vacation Plans
7．「英語ゼミⅣ課題」の初回報告、Project 4: Introducing Japan
8．続・Project 4: Introducing Japan
9．続・Project 4: Introducing Japan
10．Project 5: Discussing Social Issues
11．「英語ゼミⅣ課題」の修正報告、続・Project 5: Discussing Social Issue
12．続・Project 5: Discussing Social Issue
13．Project 6: Talking about Your Future Plans
14．続・Project 6: Talking about Your Future Plans
15．「英語ゼミⅣ課題」の最終報告、続・Project 6: Talking about Your Future Plans

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★		★

年度	2015	授業コード	JE0030001
科目名	英語パーソナルコミュニケーション	単位数	2
科目名（英語表記）	Interpersonal Communication in English		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	This class is intended to make you feel more comfortable about talking in front of a group of people. We will improve your voice, posture, writing and also computer skills during the course. If you like using computers, then this is your chance to show off your skills! If you are interested in presenting your ideas, please also consider 英語スピーチ＆ディベート. Note: this course is a little more challenging than 英語スピーチ＆ディベート, and you will need watch different kinds of presentations and also do research and present something about Japanese culture.		
教材（テキスト）	LeBeau, C, Speaking of Speech Level 2, MacMillan (2015)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Report: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	After completing this course you should be more confident speaking and explaining your ideas in front of a group, and with using computers. Students who want to study abroad should take this course.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = no credit. * Read your textbook before and after the lesson. * Speaking in class, writing as homework. * Must use Microsoft Powerpoint.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!			
講義の順序とポイント			
We will look at six kinds of presentation on this course: i: Option, ii: Proposal, iii: Sales, iv: Technical, v: Academic, vi: Team. Lesson 1: What are the options? Lesson 2: Performance. Lesson 3: Job hunting. Lesson 4: Performance. Lesson 5: Have I got your interest? Lesson 6: Performance. Lesson 7: Technical problems; technical solutions. Lesson 8: Performance. Lesson 9: Cite your source! Lesson 10: Performance. Lesson 11: Creative innovations.			

Lesson 12: Performance. Lesson 13: Review / decide student presentation topic. Lesson 14: Practise presentations. Lesson 15: Final presentations.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JE0031001
科目名	英語プラクティカルライティング	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Writing in English		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では英語のライティング力を伸ばすことに焦点を置いています。身近な出来事や、未来の仕事に必要な応用文型練習をしていきます。英語を正しく書くためには基本文型と文法知識が必要です。この授業ではやさしい短文を例示して正確な英文を書けるようにします。		
教材（テキスト）	Tsurue Asaki, Kevin Knight 著 E-mail Communication. 鶴見書店　１６００円		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他のことは授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	応答、発表を中心とした授業内演習参加状況（20%）、課題（30%）、授業内テストと宿題（50%）よって総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	1. おおよそ１５００語レベルの語彙で書かれた英語の文章を比較的スムーズに理解できるようにします。 2. 英語文章のパラグラフ、トピックセンテンスの構造を理解できるようにします。 3.　いろいろな英語の応用文型に慣れて書くことができるようにします。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習してください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った内容の応用文を中心としたものです。		

受講者への要望

①テキストは必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内での課題を行うことができません。テキストを忘れた場合は減点とします。
②授業には、必ず辞書を持参してください。
③欠席、遅刻をしないように努めてください。
④課題は必ず期限までに提出してください。また、課題の提出には「京学なび」を使用してください。
⑤授業の前までに、必ず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑥自習学習のためになるべく多く「セルフラーニング室」（学志館１階）を活用してください。
⑦当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。
⑧英検、TOEIC などの検定、資格試験をなるべく積極的に受験してください。
講義の順序とポイント

講義の順序とポイント

下記はあくまでも予定であり、実際の授業の進度によって変更になる可能性があります。各授業時に指示するので情報を聞き逃さないようにしてください。また、毎回（初回は除く）の授業の初めに、前回の授業の確認テストを行います。

1. Invitation to an Event　招待のメール
2. Greetings　あいさつのメール
3. Announcing an Event　通知する
4. Inquiry　問い合わせる
5. Asking someone`s Favor　お願いする
6. Introducing Yourself　自己紹介する
7. Making an Appointment　人と会う約束をする
8. Expressing Thanks　お礼を述べる
9. Congratulations　お祝いを述べる
10. Making a Complaint　苦情を述べる
11. Apologizing　謝る、お詫びする
12. Making a Proposal　提案する
13. Sympathy　同情の気持ちを伝える
14. Refusal　断る、拒否する

15. Applying for a Job　仕事をさがす

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JE0033001
科目名	英語ゼミⅤ	単位数	2
科目名（英語表記）	English Seminar Ⅴ		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「英語ゼミⅣ」に続く＜英語プロジェクト＞の基幹科目（登録必要）であり、ゼミ担当者の専門に応じて演習を行うとともに、ゼミ生がこれまでに修得してきた知識や技能の実際的な応用をはかる。 過去２年間の「英語ゼミ」での成果に基づいて「修了研究」につながる課題を設定し、その「土台」をほぼ完成させるとともに、課題の成果を仕事などの実際の社会生活に応用できるようにするための演習を行う。就職活動に備えて、英文履歴書や求人に応募する英文手紙の書き方などについても演習を行う。 「英語ゼミ」ではまた、＜英語プロジェクト＞の終了時までに英検準１級、TOEIC625／TOEFL(PBT)513点を取得できる程度の英語力をつけることも目標としている。		
教材（テキスト）	Teruhiro Ishiguro et al.、A Shorter Course in Writing English Letters（『5 分間英文手紙演習』）、南雲堂、1,300 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答／発表／ディスカッションを中心とした授業内演習参加状況（約 50%）、授業内テスト（約 20%）、ゼミ課題（約 30%）などの項目で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	１．＜英語プロジェクト＞の修了要件を満たす研究課題を各自で設定して、必要な資料を収集し、それを完成に近づけることができる。 ２．就職活動を含め、英語で仕事を行うために必要な基本的英語表現が身につく。 ３．英検２級、TOEIC520／TOEFL(PBT)477 点以上の英語力を安定化させる。		
準備学習	１．これまでの「英語ゼミ」での成果に基づき、修了研究となる課題を明確に設定して、必要な情報や資料の収集を行うこと。 ２．ハンドアウト教材については、＜京学なび＞「授業資料」から次回分をダウンロードし、解説を読んで疑問点にマークするとともに、練習問題があれば解答も試みておく。 ３．語彙・表現問題については、次回の小テスト範囲を復習しておく。 ４．教科書については、授業時に指示された頁範囲の説明文を読んで疑問点にマークしておく。 ５．「ゼミ課題」については、各段階の報告文を指示された期限までに＜京学なび＞「課題」に提出する。		

受講者への要望

１．事前の指示に基づいてゼミ参加に必要な準備を十分に行い、毎回出席すること。
２．同じ学期に＜英語プロジェクト＞を含む英語科目を他に少なくとも２科目は履修すること。
３．英検や TOEIC などの英語資格試験を積極的に受験すること。

講義の順序とポイント

下記の順序とポイントは、主教材の利用とゼミ課題への取り組みを中心としたものである。
１．ゼミ概要・評価方法に関する説明、修了研究の概要説明、英検 Half-Test
２．修了研究に関する面談、英文手紙の基本形式
３．招待状の書き方と実践
４．修了研究のジャンル選択、お祝いの手紙の書き方と実践
５．お礼の手紙の書き方と実践
６．お見舞い・お悔やみの手紙の書き方と実践
７．修了研究の課題選択、依頼の手紙の書き方と実践
８．お詫びの手紙の書き方と実践
９．案内・通知の手紙の書き方と実践

10. 予約・注文の手紙の書き方と実践
11. 修了研究の課題確認、苦情・届け出の手紙の書き方と実践
12. 入学志願・就職希望の手紙の書き方と実践
13. 紹介状・推薦状の書き方と実践
14. 履歴書の書き方と実践
15. 英語プロジェクト修了研究の選択課題発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	JE0033002
科目名	英語ゼミⅤ	単位数	2
科目名（英語表記）	English Seminar Ⅴ		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「英語ゼミⅣ」に続く＜英語プロジェクト＞の基幹科目（登録必要）であり、ゼミ担当者の専門に応じて演習を行うとともに、ゼミ生がこれまでに修得してきた知識や技能の実際的な応用をはかる。 過去２年間の「英語ゼミ」での成果に基づいて「修了研究」につながる課題を設定し、その「土台」をほぼ完成させるとともに、課題の成果を仕事などの実際の社会生活に応用できるようにするための演習を行う。就職活動に備えて、英文履歴書や求人に応募する英文手紙の書き方などについても演習を行う。 「英語ゼミ」ではまた、＜英語プロジェクト＞の終了時までに英検準１級、TOEIC625／TOEFL(PBT)513点を取得できる程度の英語力をつけることも目標としている。		
教材（テキスト）	Teruhiro Ishiguro et al.、A Shorter Course in Writing English Letters（『5 分間英文手紙演習』）、南雲堂、1,300 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答／発表／ディスカッションを中心とした授業内演習参加状況（約 50%）、授業内テスト（約 20%）、ゼミ課題（約 30%）などの項目で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	１．＜英語プロジェクト＞の修了要件を満たす研究課題を各自で設定して、必要な資料を収集し、それを完成に近づけることができる。 ２．就職活動を含め、英語で仕事を行うために必要な基本的英語表現が身につく。 ３．英検２級、TOEIC520／TOEFL(PBT)477 点以上の英語力を安定化させる。		
準備学習	１．これまでの「英語ゼミ」での成果に基づき、修了研究となる課題を明確に設定して、必要な情報や資料の収集を行うこと。 ２．ハンドアウト教材については、＜京学なび＞「授業資料」から次回分をダウンロードし、解説を読んで疑問点にマークするとともに、練習問題があれば解答も試みておく。 ３．語彙・表現問題については、次回の小テスト範囲を復習しておく。 ４．教科書については、授業時に指示された頁範囲の説明文を読んで疑問点にマークしておく。 ５．「ゼミ課題」については、各段階の報告文を指示された期限までに＜京学なび＞「課題」に提出する。		

受講者への要望

１．事前の指示に基づいてゼミ参加に必要な準備を十分に行い、毎回出席すること。
２．同じ学期に＜英語プロジェクト＞を含む英語科目を他に少なくとも２科目は履修すること。
３．英検や TOEIC などの英語資格試験を積極的に受験すること。

講義の順序とポイント

下記の順序とポイントは、主教材の利用とゼミ課題への取り組みを中心としたものである。
１．ゼミ概要・評価方法に関する説明、修了研究の概要説明、英検 Half-Test
２．修了研究に関する面談、英文手紙の基本形式
３．招待状の書き方と実践
４．修了研究のジャンル選択、お祝いの手紙の書き方と実践
５．お礼の手紙の書き方と実践
６．お見舞い・お悔やみの手紙の書き方と実践
７．修了研究の課題選択、依頼の手紙の書き方と実践
８．お詫びの手紙の書き方と実践
９．案内・通知の手紙の書き方と実践

10. 予約・注文の手紙の書き方と実践
11. 修了研究の課題確認、苦情・届け出の手紙の書き方と実践
12. 入学志願・就職希望の手紙の書き方と実践
13. 紹介状・推薦状の書き方と実践
14. 履歴書の書き方と実践
15. 英語プロジェクト修了研究の選択課題発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	JE0033501
科目名	英語ゼミVI	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	英語プロジェクトでは、自分探しと友だち作りからはじめて、リサーチを通じたプレゼンテーションにつなげることを学修目標としています。経済のグローバル化や国際競争の中で企業が求める英語力と、知性や教養を磨き異文化理解を深めるという現代社会が求めている英語力の両方を高め、自らの「夢の実現」に向かってステップ・バイ・ステップですすめるように、ハードナレッジとソフトスキルの備わった人材育成を行う。 「英語ゼミVI」では、討論、交渉、裁判など世の中が国際化するにつれて重要な要素となっており、アーギュメント力と呼ばれる「明確な理由を述べて相手を説得する能力」を高めていきたいと考えています。 英語プロジェクトの最終仕上げである秋学期開講の「英語プロジェクト修了研究」では自らの意見を形成して発表できることが重要であり、その能力の獲得に向けて段階的に英語力を高めていきたいと思います。 今学期は、英語で意見交換できる力を養うため、現在国内外で最も論争となっているさまざまな分野の社会問題について、その背景知識を身につけ、英語で討論できるようなることをめざします。 各ユニットのテーマは「学校での体罰の是非」「優秀な学生に対する飛び級の是非」「能力給と年功序列の是非」「TPP の是非」「憲法第 9 条改正の是非」「死刑制度の是非」などです。 それぞれのテーマに関してグループ学習を行い、各グループでリサーチとプレゼンテーションを行います。		
教材（テキスト）	Pros and Cons （センゲージ・ラーニング）		
教材（参考文献）	それぞれのテーマに関して、図書館の書籍や情報ツールを活用して、自ら参考文献を探すことが大切です		
教材（その他）			
評価方法	グループ学習によるレポートおよびプレゼンテーション （40%）、課題、授業への参加、発表の状況など（30%）により、総合的に評価します。また、英検の過去問題（2 級）を用いて、アチーブメントテスト（30%）を実施します。まお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。		
到達目標	「英語ゼミ V」からは上級レヴェルのゼミとなり、この「英語ゼミVI」では、修了研究作品の制作を前提に、より高度なレベルのゼミとなる。 自分の意見を確立し、また他者の意見をを理解し、多くの社会問題に対する意識を高め、意見交換から始めてリサーチなどを行ってディスカッションへとつなげ、最終的には 15 分程度のプレゼンテーションができるようになることを目標としたい。		
準備学習	授業のテーマに関して下調べを行い、積極的にディスカッションやプレゼンテーションに参加できるよう各ユニットで用いられている基本語彙や基本表現を自宅学習しておくことを望みます。 また、図書館の書籍や各種情報ツールを用いて、各テーマに沿った情報を検索・理解し、それを授業内の発表につなげることができるように、各自で準備すること。		
受講者への要望			
ゼミは学生たちが作る授業なので、他人の意見に耳を傾け、また積極的に意見を述べ、グループ学習を通じてプレゼンテーションを行える力を身につけることを望みます。			
講義の順序とポイント			
初回授業時に、クラス毎に授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。 第 1 回&第 2 回　Unit 7:　Right to Die or Responsibility to Live? 第 3 回&第 4 回　Unit 8:　Punishment or Discipline? 第 5 回&第 6 回　Unit 9:　To Skip or Not to Skip? 第 7 回&第 8 回　Unit 10　Performance or Seniority? 第 9 回&第 10 回　Unit 11:　Free Trade or Protection? 第 11 回&第 12 回　Unit 12:　Animal Rights or Human Provision? 第 13 回　Unit 13:　Peace Constitution or Revision? 第 14 回　Unit 14:　Death Penalty or Human Rights? 第 15 回　Presentation			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JE0033502
科目名	英語ゼミVI	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	英語プロジェクトでは、自分探しと友だち作りからはじめて、リサーチを通じたプレゼンテーションにつなげることを学修目標としています。経済のグローバル化や国際競争の中で企業が求める英語力と、知性や教養を磨き異文化理解を深めるという現代社会が求めている英語力の両方を高め、自らの「夢の実現」に向かってステップ・バイ・ステップですすめるように、ハードナレッジとソフトスキルの備わった人材育成を行う。 「英語ゼミVI」では、討論、交渉、裁判など世の中が国際化するにつれて重要な要素となっており、アーギュメント力と呼ばれる「明確な理由を述べて相手を説得する能力」を高めていきたいと考えています。 英語プロジェクトの最終仕上げである秋学期開講の「英語プロジェクト修了研究」では自らの意見を形成して発表できることが重要であり、その能力の獲得に向けて段階的に英語力を高めていきたいと思います。 今学期は、英語で意見交換できる力を養うため、現在国内外で最も論争となっているさまざまな分野の社会問題について、その背景知識を身につけ、英語で討論できるようなることをめざします。 各ユニットのテーマは「学校での体罰の是非」「優秀な学生に対する飛び級の是非」「能力給と年功序列の是非」「TPP の是非」「憲法第 9 条改正の是非」「死刑制度の是非」などです。 それぞれのテーマに関してグループ学習を行い、各グループでリサーチとプレゼンテーションを行います。		
教材（テキスト）	Pros and Cons （センゲージ・ラーニング）		
教材（参考文献）	それぞれのテーマに関して、図書館の書籍や情報ツールを活用して、自ら参考文献を探すことが大切です		
教材（その他）			
評価方法	グループ学習によるレポートおよびプレゼンテーション （40%）、課題、授業への参加、発表の状況など（30%）により、総合的に評価します。また、英検の過去問題（2 級）を用いて、アチーブメントテスト（30%）を実施します。まお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。		
到達目標	「英語ゼミ V」からは上級レヴェルのゼミとなり、この「英語ゼミVI」では、修了研究作品の制作を前提に、より高度なレベルのゼミとなる。 自分の意見を確立し、また他者の意見をを理解し、多くの社会問題に対する意識を高め、意見交換から始めてリサーチなどを行ってディスカッションへとつなげ、最終的には 15 分程度のプレゼンテーションができるようになることを目標としたい。		
準備学習	授業のテーマに関して下調べを行い、積極的にディスカッションやプレゼンテーションに参加できるよう各ユニットで用いられている基本語彙や基本表現を自宅学習しておくことを望みます。 また、図書館の書籍や各種情報ツールを用いて、各テーマに沿った情報を検索・理解し、それを授業内の発表につなげることができるように、各自で準備すること。		
受講者への要望			
ゼミは学生たちが作る授業なので、他人の意見に耳を傾け、また積極的に意見を述べ、グループ学習を通じてプレゼンテーションを行える力を身につけることを望みます。			
講義の順序とポイント			
初回授業時に、クラス毎に授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。 第 1 回&第 2 回　Unit 7:　Right to Die or Responsibility to Live? 第 3 回&第 4 回　Unit 8:　Punishment or Discipline? 第 5 回&第 6 回　Unit 9:　To Skip or Not to Skip? 第 7 回&第 8 回　Unit 10　Performance or Seniority? 第 9 回&第 10 回　Unit 11:　Free Trade or Protection? 第 11 回&第 12 回　Unit 12:　Animal Rights or Human Provision? 第 13 回　Unit 13:　Peace Constitution or Revision? 第 14 回　Unit 14:　Death Penalty or Human Rights? 第 15 回　Presentation			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JE0034001
科目名	英語プロジェクト修了研究	単位数	2
科目名（英語表記）	English Project Completion Research		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	「英語プロジェクト修了研究」は、英語プロジェクトの最終仕上げの科目であり、これまでの「英語ゼミ」および３年間の英語プロジェクト科目で学んで身につけた英語力の集大成を行う科目です。したがって、この授業では修了要件を満たす最後の研究課題に取り組んで、その成果をいろいろな形で公開して、社会での実際の仕事に応用できるコミュニケーション力とプレゼンテーション力を身につける練習をします。 修了研究の課題としては、英語による論文の作成、スピーチ、プレゼンテーション、創作、翻訳などのうちから各自の関心や興味に応じて選択してください。 成果の公開方法は、修了研究としてどのような課題を選択したかによって異なりますが、公開の方法を検討する作業も修了研究の課題のひとつとしてとらえています。 なお、修了研究作品の公開は単位修得のための義務です。		
教材（テキスト）	プレゼンテーションの方法などに関するプリント教材を授業で配布します		
教材（参考文献）	英和辞書や英英辞書など		
教材（その他）			
評価方法	応答・発表・ディスカッションを中心とした授業内演習参加状況（50%)、完成作品（50%）により、総合的に評価します。最終的に修了研究作品を完成できなかった場合や公開できなかった場合は単位を認定しません。また、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	1. 英検準１級、TOEIC700／TOEFL-iBT78 点に到達する英語運用能力を身につけます。 2. 多くの文献にあたって情報収集を行い、自分の意見を英語で表現する練習を重ね、、英語によるディスカッションやプレゼンテーションをスムーズに行えるようにします。また、聴き手を説得させるための論理的なプレゼンテーションの方法を学びます。 3. 自分の意見を的確に表現できる文章能力を身につけます。		
準備学習	毎回の授業内でのディスカッションに備えて、課題のプリントを十分に読みこなし、準備をしておいてください。また、プレゼンテーションの準備のために、スピーチの原稿、配布資料、Power Point の資料を準備し、授業前日までに「京学なび」を通じて提出し、必要に応じて修正を行ってください。修了研究の課題作成のために、定期的に中間報告を行ってください。		

受講者への要望

①授業には、必ず辞書を持参してください。
②欠席、遅刻をしないように努めてください。
③課題は必ず期限までに提出してください。また、課題の提出には「京学なび」を使用してください。
④授業の前までに、かならず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑤当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講し、英語に触れる機会を増やしてください。
⑥英検、TOEIC などの英語検定や資格試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

第１回　Intoroduction to the class
第２回　修了研究中間報告（１）
第３回　修了研究中間報告（２）
第４回　英語による演説（１）
第５回　英語による演説（２）
第６回　英語スピーチ原稿の書き方 実践(1)
第７回　英語スピーチ原稿の書き方 実践(2)
第８回　修了研究中間報告（３）
第９回　ゼミ生による発表（１）
第 10 回　ゼミ生による発表（２）
第 11 回　ゼミ生による発表（３）
第 12 回　修了研究発表のリハーサル（１）
第 13 回　修了研究発表のリハーサル（２）
第 14 回　修了作品発表会
第 15 回　合評会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JE0034002
科目名	英語プロジェクト修了研究	単位数	2
科目名（英語表記）	English Project Completion Research		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	「英語プロジェクト修了研究」は、英語プロジェクトの最終仕上げの科目であり、これまでの「英語ゼミ」および３年間の英語プロジェクト科目で学んで身につけた英語力の集大成を行う科目です。したがって、この授業では修了要件を満たす最後の研究課題に取り組んで、その成果をいろいろな形で公開して、社会での実際の仕事に応用できるコミュニケーション力とプレゼンテーション力を身につける練習をします。 修了研究の課題としては、英語による論文の作成、スピーチ、プレゼンテーション、創作、翻訳などのうちから各自の関心や興味に応じて選択してください。 成果の公開方法は、修了研究としてどのような課題を選択したかによって異なりますが、公開の方法を検討する作業も修了研究の課題のひとつとしてとらえています。 なお、修了研究作品の公開は単位修得のための義務です。		
教材（テキスト）	プレゼンテーションの方法などに関するプリント教材を授業で配布します		
教材（参考文献）	英和辞書や英英辞書など		
教材（その他）			
評価方法	応答・発表・ディスカッションを中心とした授業内演習参加状況（50%）、完成作品（50%）により、総合的に評価します。最終的に修了研究作品を完成できなかった場合や公開できなかった場合は単位を認定しません。また、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	1. 英検準１級、TOEIC700／TOEFL-iBT78 点に到達する英語運用能力を身につけます。 2. 多くの文献にあたって情報収集を行い、自分の意見を英語で表現する練習を重ね、、英語によるディスカッションやプレゼンテーションをスムーズに行えるようにします。また、聴き手を説得させるための論理的なプレゼンテーションの方法を学びます。 3. 自分の意見を的確に表現できる文章能力を身につけます。		
準備学習	毎回の授業内でのディスカッションに備えて、課題のプリントを十分に読みこなし、準備をしておいてください。また、プレゼンテーションの準備のために、スピーチの原稿、配布資料、Power Point の資料を準備し、授業前日までに「京学なび」を通じて提出し、必要に応じて修正を行ってください。修了研究の課題作成のために、定期的に中間報告を行ってください。		

受講者への要望

①授業には、必ず辞書を持参してください。
②欠席、遅刻をしないように努めてください。
③課題は必ず期限までに提出してください。また、課題の提出には「京学なび」を使用してください。
④授業の前までに、かならず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑤当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講し、英語に触れる機会を増やしてください。
⑥英検、TOEIC などの英語検定や資格試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

第１回　Intoroduction to the class
第２回　修了研究中間報告（１）
第３回　修了研究中間報告（２）
第４回　英語による演説（１）
第５回　英語による演説（２）
第６回　英語スピーチ原稿の書き方 実践(1)
第７回　英語スピーチ原稿の書き方 実践(2)
第８回　修了研究中間報告（３）
第９回　ゼミ生による発表（１）
第 10 回　ゼミ生による発表（２）
第 11 回　ゼミ生による発表（３）
第 12 回　修了研究発表のリハーサル（１）
第 13 回　修了研究発表のリハーサル（２）
第 14 回　修了作品発表会
第 15 回　合評会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JE0036001
科目名	英語ライティング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Writing		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
講義概要	「英語ライティング」は、英語プログラムの基礎レヴェル英語表現演習科目です。基本的な英文の構造を学び、英語のライティングを中心に、コミュニケーション能力の基礎を養います。この授業では、英文を書くことに加えて、聴き、話す能力を高める訓練もします。和文英訳中心ではなく、現代語法による、口語的で平易な文章が書けるようになることを目標とします。		
教材（テキスト）	Paul McLean 著, Modern College English: Read It, Write It. 金星堂 1550 円 その他プリント教材（授業で配布します。）		
教材（参考文献）	毎回の授業に辞書を必ず持参してください。特にこの授業では辞書を使う機会が多いので、忘れないように注意してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。 その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	応答、発表を中心とした授業内演習参加状況（20%）、ライティング課題（40%）、授業内テスト（40%）により、総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	日常よく使われる英語表現を用い、身近な話題について短い英文で表現したり、平易な英語でメモや e-mail などを書いたりするための基礎力を身につけます。また、英語の文章を書く際に、辞書を効果的に活用できる方法を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回ライティングの課題を出しますので、授業内で学習したことをよく復習し、課題に取り組んでください。課題は次回の授業前日までに、なるべく「京学なび」を通じて提出し、添削を受け、修正がある場合は再提出してください。これらの作業に十分な時間を費やし、ていねいに課題に取り組んでください。さらに、復習テストを行うことがありますので、授業前に十分復習をして、テストの準備をしてください。		

受講者への要望

①テキストは必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内での課題を行うことができません。
教科書を忘れた場合は減点とします。
②授業には、必ず辞書を持参してください。
③欠席、遅刻をしないように努めてください。
④課題は必ず期限までに提出してください。また、課題の提出には「京学なび」を使用してください。
⑤授業の前までに、かならず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑥当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。
⑦英検、TOEIC などの検定、資格試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

各項目をおおよそ一回の授業で終了します。ただし、授業の震度に寄って変更になることがあります。

1. Introduction (授業に関する説明および注意事項)
   My Day (1)
2. My Day (2)
3. My Friend
4. A Letter to Friend (1)
5. A Letter to Friend (2)
6. The Weather
7. My Family
8. A Business Letter (1)
9. A Business Letter (2)
10. On Weekends
11. My Horoscope
12. A Trip

13. Directions
14. A Profile Letter (1)
15. A Profile Letter (2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	JE0036051
科目名	英語ライティング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Writing		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「英語ライティング」は、英語プログラムの初級英語表現演習科目である。書く技能の習得を中心に、基本的な英文の構造を学び、英語によるコミュニケーション能力の基礎を築いていく。 このクラスでは、英語表現という観点から英文法の基本を再確認し、日常生活でよく使われる表現の演習を通じて、英語で表現する場合に必須の発想法を身につけていく。 英語によるコミュニケーション（意思疎通）のために英会話だけが重視された時代があったが、今日ではインターネットの普及により、コミュニケーションを図る手段としては、直接出会っての会話や電話などよりもＥメールのほうが重用されてきている。会話では、限られた少数の人との間でしか意思疎通をはかることができない。しかし、インターネット、Ｅメールを英語で利用できるようになれば、はるかに多くの人たちとの間で意思疎通を試みることができる。そもそも英文を書く力がなければ、「まっとうな」会話などできはしない。		
教材（テキスト）	Hidehiko Konaka、A Shorter Course in Expressions for Everyday Action（『5 分間 日常動作を表す英語表現』）、南雲堂、700 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答・発表／受講態度などにおける授業内演習評価（約 40%）および毎回の小テストを含む授業内復習テストの成果（約 60%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	1．日常よく使われる英語表現を用い、身近な話題について短い英文で表現できるようになる。 2．平易な英語でメモや e-mail などを書いたりするための基礎力が身につく。		
準備学習	1．次回授業で取り扱う教科書の範囲を確認し、その範囲の演習問題をすべて解いておく。 2．具体的には、Let’s Learn の空所に適切な語句を補充し、Let’s Try の問題のすべてに指示に従って答えておく。 3．Let’s Warm Up については、[例]の英文を暗記しておく。 4．＜京学なび＞「授業資料」からハンドアウト（解答例）をダウンロードし、復習しておく。		

受講者への要望

初回はもちろんのこと、授業に毎回出席できる学生で、誤りを恐れず自ら進んで発表できる学生の受講を強く望む。

講義の順序とポイント

下記の順序とポイントについては、進度に応じて変更が生じる。

1．演習概要と評価方法などに関する説明、Lesson 1: Living Room & Bedroom
2．Lesson 2: Kitchen、Lesson 3: Bathroom
3．続・Lesson 3: Bathroom、Lesson 4: Housekeeping
4．Lesson 5: Jobs(1)、Lesson 6: Public Transportation
5．続・Lesson 6: Public Transportation、Lesson 7: Car
6．Lesson 8: School、Lesson 9: Hospital
7．復習テスト 1、続・Lesson 9: Hospital
8．Lesson 10: Office、Lesson 11: Sports
9．続・Lesson 11: Sports、Lesson 12: Leisure
10．Lesson 13: Shopping、Lesson 14: Restaurant
11．続・Lesson 14: Restaurant、Lesson 15: Jobs(2)

12. Lesson 16: Street、Lesson 17: Crime & Accident
13. 続・Lesson 17: Crime & Accident、Lesson 18: Party
14. 復習テスト２、Lesson 19: Airport
15. 続・Lesson 19: Airport、Lesson 20: Playground

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JE0038001
科目名	英語ライティングII	単位数	2
科目名（英語表記）	English Writing II		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	This course is intended for students who wish to further develop their English writing skills. They will learn to overcome the most common mistakes made by students, and they will train to write accurately short English compositions.		
教材（テキスト）	None		
教材（参考文献）	Selected texts to be provided during the lesson		
教材（その他）			
評価方法	Participation and attitude: 20% Written assignments: 40% Final test: 40%		
到達目標	Upon the successful completion of this course, students will have improved significantly their writing skills. Their English will be more accurate.		
準備学習	There is no special preparation for this class. However, it is essential that students do the homework as a prerequisite to attending the class.		

受講者への要望

Written assignments must be completed regularly. Students are expected to attend all classes.

講義の順序とポイント

1.Orientation & Assessments
2.Verbs
3.Tenses
4.Nouns
5.Adjectives (1)
6.Adjectives (2)
7.Adverbs and adverbial phrases
8.Pronouns
9.Prepositions
10.Sentences (1)
11.Sentences (2)
12.Confusable words
13.Time and numbers
14.Spelling and punctuation
15.General review (preparation for the final exam)

Lesson plan and content may be subject to change

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JE0039001
科目名	英語ラピッドリーディング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Rapid Reading		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	＜英語プロジェクト＞の専門科目であり、「英語中級リーディング」に続いてリーディング力の養成を目的とした演習を行う。特にこの科目では、科目名が示す通り、英文速読に必要な技能の修得を第一とした演習を行う。 英文読解には英文の種類と読み手側の目的とに応じた読み方が必要となるが、本科目では速読法の修得を第一の目的とした演習を行うため、教材には多種類の英文ではなく新聞記事を基にした英文テキストを用いる。その理由は、人びとが日常生活において特に意図せず速読している文章が何かと言えば、何よりも先ず新聞記事のはずだからである。新聞記事はまた、さまざまな分野の話題を提供してくれるので、英語の語彙修得もさまざまな分野においてそれが可能となる。 まとまりごとに意味をくみ取りながら読み進めていく Sense Group Reading という読解の基本を軸に、主要な速読法の体得を試みていく。		
教材（テキスト）	Richard Powell et al.、15 Selected Units of English through the News Media—2015 Edition—（『15 章版：ニュースメディアの英語』2015 年版）、朝日出版社、1,200 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答発表／Exercises／小テストなどにおける授業内演習評価（約 60%）ならびに中間および期末の授業内課題の成果（約 40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	1．1 分間に 100 語程度の英文を読んで大要を把握する読解力を修得する。 2．英検、TOEIC、TOEFL などの英語資格試験問題において高いスコアを取得するのに必要な英文速読の技能が身につく。		
準備学習	1．先ず次回授業で取り扱う教科書の unit を確認する。（1 回の授業で 1 unit の演習を行う。） 2．Reading のテキストを語句のまとまり（Sense Group）で区切りながら、何十回も音読する。 3．Exercises の Multiple Choices と True or False の問題に答えておく。 4．＜京学なび＞「授業資料」からハンドアウトをダウンロードし、説明を読んで疑問点があればマークしておくとともに、演習問題があれば取り組んでおく。		

受講者への要望

十分な準備学習を行って毎回の授業に出席すること。

講義の順序とポイント

下記の順序とポイントは、実際の進度と各テキストの利用方法とに応じて変更することがある。

1．演習概要・評価方法などに関する説明、Unit 1: In Taking Jobs, Women Take On a Saudi Taboo
2．Unit 2: Fortune-seeking migrants turn to Mexico
3．Unit 3: Japanese Team Dominates Competition to Create Generation of Rescue Robots
4．Unit 4: A Borderline Where Women Bear the Weight
5．Unit 5: E-Cigarettes, by Other Names, Lure Young and Worry Experts
6．Unit 7: Pakistanis ambivalent about Malala
7．中間課題、Unit 6: NYC fans of Kyary Pamyu Pamyu share ‘zest for life’
8．Unit 8: Chinese schooling wins praise—but not from nation’s parents or educators
9．Unit 9: ‘Ethnic strife unsettles a lawful frontier
10．Unit 10: Learning to speak to Brazinglish

11. Unit 11: ‘How are you?’ Don’t ask!
12. Unit 12: New generation of innovators emerges in Japan
13. Unit 15: Teen snowboarders win first medals for Japan; Kasai’ large hill jump silver ends long wait; Hanyu embraces new role as Olympic charm
14. 期末課題、Unit 14: Spain reconsiders its siestas and 10 p.m. dinners
15. Unit 13: Striding toward a national image

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	JE0041001
科目名	英語リーディング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Reading		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では英語の読解力を伸ばすことに焦点を置いています。身近な出来事や、世界の様々な話題について英語で読み解く練習をしてゆきます。英文読解には、語彙を増やすことも大切ですが、効果的な読解の方法を身につけることも大切です。この授業では効率よく内容を把握するために、トピックセンテンスとパラグラフの構造、原因と結果、分類、時系列に沿っての説明、スピーチの文体など、読む対象によって異なる読解方法を駆使できるように指導してゆきます。		
教材（テキスト）	Osamu Takeuchi, Tomoko Yabukoshi, Seijiro Sumi, Michiko Ueki 著. Reading Stream: Elementary. 金星堂, 1700 円.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	応答、発表を中心とした授業内演習参加状況（20%）、課題（30%）、授業内テスト（50%）よって総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	1. おおよそ 2000 語レベルの語彙で書かれた英語の文章を比較的スムーズに理解できるようにします。 2. 英語文章のパラグラフ、トピックセンテンスの構造を理解するようにします。 3. 時事ニュース、英字新聞、スピーチの文体に慣れるようにします。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①テキストは必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内での課題を行うことができません。テキストを忘れた場合は減点とします。
②授業には、必ず辞書を持参してください。
③欠席、遅刻をしないように努めてください。
④課題は必ず期限までに提出してください。また、課題の提出には「京学なび」を使用してください。
⑤授業の前までに、かならず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑥自習学習のためになるべく多く「セルフラーニング室」（学志館１階）を活用してください。
⑦当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。
⑧英検、TOEIC などの検定、資格試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

下記はあくまでも予定であり、実際の授業の進度によって変更になる可能性があります。各授業時に指示するので情報を聞き逃さないようにしてください。また、毎回（初回は除く）の授業の初めに、前回の授業の確認テストを行います。

1. To Drive or to Ride?--トピックセンテンスとパラグラフの構造
2. Help Yourselves--原因と結果
3. What I Learned from Fay―経験を語る(物語)
4. Ways to Help Others--分類しながら説明する
5. Can Fish Fall from the Sky?―報告する（時事ニュース）
6. How to Prepare a Presentation―手順を説明する
7. International Date Line―事実を時系列に沿って説明する
8. What is Friendship?―定義を示して例示する
9. Entering a Photo Contest―情報を効率的に伝える（e-mail）
10. Getting Money for a Big Project―比較する
11. Accepting the "Salesperson of the Year" Award―スピーチの文体に慣れる
12. Written Art―コミュニケーションのスタイルを理解する

13. Llife Advice Q & A with Dr. Joyce Green―目的をもって尋ねる（人生相談）
14. Stronger Yen Threatens Japanese Economy―経済記事を読んでグラフを完成させる
15. Not Hearing a Gorilla―報告する（科学）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★				★

年度	2015	授業コード	JE0041051
科目名	英語リーディング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Reading		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
講義概要	この授業では英語の読解力を伸ばすことに焦点を置いています。身近な出来事や、世界の様々な話題について英語で読み解く練習をしてゆきます。英文読解には、語彙を増やすことも大切ですが、効果的な読解の方法を身につけることも大切です。この授業では効率よく内容を把握するために、トピックセンテンスとパラグラフの構造、原因と結果、分類、時系列に沿っての説明、スピーチの文体など、読む対象によって異なる読解方法を駆使できるように指導してゆきます。		
教材（テキスト）	Osamu Takeuchi, Tomoko Yabukoshi, Seijiro Sumi, Michiko Ueki 著. Reading Stream: Elementary. 金星堂, 1700 円.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	応答、発表を中心とした授業内演習参加状況（20%）、課題（30%）、授業内テスト（50%）により、総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	1. おおよそ 2000 語レベルの語彙で書かれた英語の文章を比較的スムーズに理解できるようにします。 2. 英語文章のパラグラフ、トピックセンテンスの構造を理解するようにします。 3. 時事ニュース、英字新聞、スピーチの文体に慣れるようにします。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①テキストは必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内での課題を行うことができません。
テキストを忘れた場合は減点とします。
②授業には、必ず辞書を持参してください。
③欠席、遅刻をしないように努めてください。
④課題は必ず期限までに提出してください。また、課題の提出には「京学なび」を使用してください。
⑤授業の前までに、かならず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑥当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。
⑦英検、TOEIC などの検定、資格試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

下記はあくまでも予定であり、実際の授業の進度によって変更になる可能性があります。各授業時に指示するので情報を聞き逃さないようにしてください。また、毎回（初回は除く）の授業の初めに、前回の授業の確認テストを行います。

1. To Drive or to Ride?--トピックセンテンスとパラグラフの構造
2. Help Yourselves--原因と結果
3. What I Learned from Fay―経験を語る(物語)
4. Ways to Help Others--分類しながら説明する
5. Can Fish Fall from the Sky?―報告する（時事ニュース）
6. How to Prepare a Presentation―手順を説明する
7. International Date Line―事実を時系列に沿って説明する
8. What is Friendship?―定義を示して例示する
9. Entering a Photo Contest―情報を効率的に伝える（e-mail）
10. Getting Money for a Big Project―比較する
11. Accepting the "Salesperson of the Year" Award―スピーチの文体に慣れる
12. Written Art―コミュニケーションのスタイルを理解する
13. Llife Advice Q & A with Dr. Joyce Green―目的をもって尋ねる（人生相談）
14. Stronger Yen Threatens Japanese Economy―経済記事を読んでグラフを完成させる

15. Not Hearing a Gorilla―報告する（科学）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JE0043001
科目名	英語リーディングII	単位数	2
科目名（英語表記）	English Reading II		
担当者名	今西　薫	旧科目名称	
講義概要	最初は、容易な教材を用いて速読の練習を行います。徐々にそれと並行して、難易度の高い英文を、いろんなジャンルから選んできて、講読形式でも授業を行います。さまざまな方法を駆使して、読解力の養成を図ります。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平出席状況等による常点　(40%)　授業内復習テスト(60%)		
到達目標	「英語リーディング」に続いて、英語読解力をさらに高める。一般向けに書かれた論説、実用的な新聞記事、英書などを読んで、早く的確に情報を捉え、内容を把握できること。		
準備学習	英語から入ってくる情報の理解を促進するためにも、普段から社会の動向に目を向け、ニュースを見たり聴いたりし、新聞記事を読み、本を読むように心がけてください。		

受講者への要望

必ず復習をするよう習慣づけてください。

講義の順序とポイント

1. 初級読み物　音読練習　1
2. 中級読み物　音読練習　2
3. 上級読み物　音読練習　3
4. 段落ごとのまとまりを把握する　1
5. 段落ごとのまとまりを把握する　2
6. 主題を掴む　1
7. 主題を掴む　2
8. 動詞で読み解く　1
9. 動詞で読み解く　2
10. 名詞で読み解く　1
11. 名詞で読み解く　2
12. 構文で読み解く　1
13. 構文で読み解く　2
14. 速読する　1
15. 速読する　2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★		★		★	★★

年度	2015	授業コード	JE0045003
科目名	英語リスニング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Listening		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
講義概要	この科目は初級リスニング演習です。視聴覚教材を装備したオーディオ・ビジュアル教室で CD, DVD, テープなどのの教材を活用した演習を行い、英語リスニング力を上達させるための基礎力を養成します。		
教材（テキスト）	Masashi Negishi 著. Welcome to the Listening World（『楽しいリスニングツアー』）. 金星堂. 1900 円. その他プリント教材.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	リスニング教材として音声 CD（テキスト付属）を使用します。		
評価方法	授業内試験（小テスト含む、50%)、 課題（30%)、授業への参加状況(20%）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	リスニングの基礎を学び、日常の身近な話題に関する話や簡単なアナウンス、道案内、電話での会話などを英語で聴き、その内容を理解し、簡単なコミュニケーションがはかれる程度の基礎力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分時間をかけて授業に臨んでください。小テストは Dictation （書き取り）問題、語彙問題、聴解問題を含みます。		

受講者への要望

①テキストは必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内での課題を行うことができません。
　教科書を忘れた場合は減点とします。
②授業には、必ず辞書を持参してください。
③欠席、遅刻をしないように努めてください。
④課題は必ず期限までに提出してください。また、課題の提出には「京学なび」を使用してください。
⑤授業の前までに、かならず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑥当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。
⑦英検、TOEIC などの検定、資格試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を 1 回の授業で学習します。 但し、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Lesson 1 Going to London
2. Lesson 2 Staying at a hotel / Lesson 3 Going to see a musical! (1)
3.Lesson 3 Going to see a musical! (2) / Lesson 4 Going shopping!
4. Lesson 5 In trouble! / Lesson 6 Taking a summer course (1)
5. Lesson 6 Taking a summer course (2) / Lesson 7 Eating out
6. Lesson 8 Going to a post office and a bank!
7. Lesson 9 Going to the night zoo! / Lesson 10 Taking a sightseeing tour (1)
8. Lesson 10 Taking a sightseeing tour (2) / Lesson 11 In the library
9. Lesson 12 Going to the National Gallery!
10. Lesson 13 Seeing a movie! / Lesson 14 Cooking (1)
11. Lesson 14 Cooking (2) / Lesson 15 Talking on the phone
12. Lesson 16 Watching TV/ Lesson 17 Having a cold (1)
13. Lesson 17 Having a cold (2) / Lesson 18 Renting a car
14. Lesson 19 Listening to the radio news
15. Lesson 20 A farewell party

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JE0045051
科目名	英語リスニング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Listening		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	初級の英語リスニング演習科目である。DVD、ビデオ、CD、テープなどの教材を活用した演習を行い、英語リスニングの基礎力を養成する。 このクラスでは、TOEIC（Test of English for International Communication）の場面別に編纂されたリスニング問題（Parts 1-4）に取り組み、英語資格試験にも日常の英語聴き取りにも役立つ演習を行う。実際のTOEIC 問題を解きながら、リスニング力の向上に不可欠な基礎と、日常生活において役立つ英語表現とを学んでいく。		
教材（テキスト）	Tony Cripps et al.、Tune up for the TOEIC Test Listening、成美堂、900 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答発表／小テストなどにおける授業内演習評価（約 70%）および中間および期末の授業内 Review Test の成果（約 30%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	1．英語リスニングの平易な問題演習により、英語資格試験におけるリスニング部門でのスコアを基礎的なレベルにおいて伸ばすことができる。 2．日常のさまざまな場面で役立つ英語表現を学ぶことにより、英語コミュニケーションを図るための基礎力が養成される。		
準備学習	1．先ず次回授業で取り扱う教科書の unit を確認する。（1 回の授業で通常 2 units の演習を行う。） 2．その units の英語文を何十回も音読する。（別売 CD を購入した場合は、先ずそれを聴くとよい。） 3．何度音読しても意味が伝わってこない箇所があれば、その箇所に下線などを引いておく。 4．下線を引いた意味不明の箇所について辞書を引いて調べてみる。		

受講者への要望

初回はもちろんのこと、授業に毎回出席できる学生の受講を強く望む。

講義の順序とポイント

下記の順序とポイントについては、実際の進度に応じて変更が生じる。

1．演習概要と評価方法などに関する説明、Unit 1: Are you ready to order?
2．Unit 2: Is this to go?、Unit 3: May I help you?
3．Unit 4: Cash or charge?、Unit 5: Go for it!
4．Unit 6: Breathe in, breathe out、Unit 7: What seems to be the problem
5．Unit 8: Take this medicine twice a day、Unit 9: Sing along!
6．Unit 10: The acting is excellent!、Units 1-10 の復習
7．Review Test 1 & Review Test 2
8．Review Tests 1-2 の解説、Unit 11: It’s conveniently located.
9．Unit 12: How about a leather sofa?、Unit 13: Got it?
10．Unit 14: The paper is due next week、Unit 15: One way or round trip?
11．Unit 16: Enjoy your stay.、Unit 17: Please fasten your seatbelt.
12．Unit 18: It’ll take 20 minutes.、Unit 19: This is our new product.
13．Unit 20: Here’s the latest news.、Units 11-20 の復習
14．Review Test 3 & Review Test 4
15．Review Tests 3-4 の解説、TOEIC 受験方法とスコア

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JE0049001
科目名	英語資格試験パソコンワーク	単位数	2
科目名（英語表記）	CALL for English Proficiency Tests		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「英語資格試験パソコンワーク」は、パソコン利用の初級英語演習であり、「英検」（実用英語技能検定）準２級、TOEIC(Test of English for International Communication)380-470 点の資格取得を目標に英語力の養成をはかる科目である。 本学の旧セルフラーニング室に配信される TDK『英検合格コース準２級 DX』の全部および ALC『NetAcademy（初級中級コース）』の一部を活用した演習を行う。当該室が開いている時間帯であればいつでも、両教材を用いた学習を続けることができる。 ３回生からの就職活動を有利に運ぶには、英語の資格は基本的な資格として不可欠である。教科書代は不要なので、その分で必ず「英検」または TOEIC の受験に挑戦してほしい。 なお、パソコン操作に関しては初歩的な知識があれば十分であるが、本学のネットワークにログインできることが受講の条件となる。		
教材（テキスト）	ネットワーク（LAN）教材（教科書の購入不要）		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	達成量を含む授業内演習活動（約 30%）、「英検」テスト演習成果（約 25%）、授業内テスト演習成果（約 15%）、最終課題（約 30%）または「英検」準２級一次試験受験結果などで総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	旧セルフラーニング室でネットワーク教材を活用しながら、語彙、文法、読解、リスニングなどの力をさらに向上させ、英検準２級、TOEIC430 点程度の取得を目標とする。		
準備学習	１．旧セルフラーニング室を活用して「プラクティス」や「テスト」などの続きに取り組み、授業時に指示された範囲の演習目標量を達成する。 ２．＜京学なび＞の「授業資料」から次回授業用のハンドアウトをダウンロードし、教材利用のしかたを予習しておく。 本科目では、授業前の予習よりも授業後の独習による演習継続のほうが準備学習に相当する。		

受講者への要望

１．初回はもちろんのこと、授業に毎回出席できる学生の受講を強く望む。
２．「英検」準２級を受験すること。

講義の順序とポイント

進度に応じて変更するので、下記の順序は暫定に過ぎない。省略も生ずる。
１．演習概要・評価方法の説明、アカウント確認とパスワード変更、英検「語彙・文法」プラクティス
２．英検「語彙・文法」「リスニングⅠ」プラクティス、公式サイトによる「英検」・「TOEIC」の受験案内
３．英検「作文」「リスニングⅠ」プラクティス、TOEIC テスト Part-Ⅰ演習
４．英検「作文」「リスニングⅡ」プラクティス、TOEIC テスト Part-Ⅱ演習
５．英検「読解」「リスニングⅡ」プラクティス、TOEIC テスト Part-Ⅲ演習
６．英検「読解」「リスニングⅢ」プラクティス、TOEIC テスト Part-Ⅳ演習
７．英検「読解」「リスニングⅢ」プラクティス、TOEIC テスト Part-Ⅴ演習
８．英検「語彙・文法」テスト、TOEIC テスト Part-Ⅵ演習
９．英検「作文」テスト、TOEIC テスト Part-Ⅶ演習
10．英検「読解」テスト、「英検」一次試験解答解説
11．英検「リスニングⅠ」テスト、英検二次面接試験の受け方
12．英検「リスニングⅡ」テスト、英検二次面接試験（音読）

13. 英検「リスニングⅢ」テスト、英検二次面接試験（質疑応答）
14. 最終課題、英検二次面接試験演習
15. 最終課題の復習、TOEIC リスニング強化／リーディング強化コース演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★		

年度	2015	授業コード	JE0051002
科目名	英語資格試験ワーク	単位数	2
科目名（英語表記）	Studies for English Proficiency Test		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	この授業では英検準２級・TOEIC380-470 点レベルの英語資格取得演習を行い、英検対策を行います。特定のテキストは用いず、プリント教材を利用しながら授業を進める予定です。試験対策としては筆記・リスニング・スピーキングなど、幅広く扱っていきたいと思います。さらに、毎回、語彙・文法・作文はもちろん、必要に応じて個別の面接試験対策もとり入れます。 　なお、この授業はあくまでも英検準２級レベルの英語資格試験合格・スコア獲得を目指した授業です。そのため、頻繁に確認テストを行い、英語力の伸長・定着をはかります。受講生には毎回、比較的多くの課題や確認テスト対策等が課されることになると思います。慣れるまでは大変ですがぜひ挑戦してみてください。資格の取得を真剣に目指す方の受講をお待ちしています。		
教材（テキスト）	(1) 英検プリント教材：過去問演習、対策のポイントなど。 (2)英検面接対策プリント教材：過去問演習、面接のポイントなど。		
教材（参考文献）	適宜、授業中に指示します。		
教材（その他）	適宜、授業中に指示します。		
評価方法	平常点（20%）：授業への参加状況により評価します。 課題・テスト（60%）：授業時に課すテストや提出物により評価します。 到達度（20%）：期間内に実施する模試の結果により評価します。 ＊なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただし、3 分の 2 以上の出席があった場合、必ず合格するという意味ではないので注意すること。		
到達目標	英検準２級・TOEIC380-470 点レベルを想定した英語力伸長演習を行います。さらに資格試験対策を通して、語彙、文法、読解、リスニングなど総合的な英語力のアップを目指します。		
準備学習	1. 授業で扱った内容について日常的に予習・復習を繰り返すことが合格への近道となります。 2. なるべく多くの英語の授業を受講し、日ごろから基礎力増強につとめてください。 3. 各授業中に課題や自宅学習についての情報を提示する予定です。		

受講者への要望

1. 指示した課題以外にも予習・復習をするよう、心がけてください。
2. 授業以外でも日頃からなるべく多くの英語に触れることを願います。
3. 授業中の携帯電話の使用・睡眠・私語による妨害など、授業態度にはくれぐれもご注意ください。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション ＋ 英検模試(1) Listening
2. 英検模試(1) Reading
3. 英検プリント教材(1) ＋ 英検面接対策(1)
4. 英検プリント教材(2) ＋ 英検面接対策(2)
5. 英検プリント教材(3) ＋ 英検面接対策(3)
6. 英検プリント教材(4) ＋ 英検面接対策(4)
7. 英検プリント教材(5) ＋ 英検面接対策(5)
8. 英検プリント教材(1)から(5)の総まとめと英検面接模試(1)
9. 英検プリント教材(6) ＋ 英検面接対策(6)
10. 英検プリント教材(7) ＋ 英検面接対策(7)
11. 英検プリント教材(8) ＋ 英検面接対策(8)
12. 英検プリント教材(9) ＋ 英検面接対策(9)
13. 英検模試(2) Listening ＋ 英検面接模試(2)
14. 英検模試(2) Reading ＋ 英検面接模試(3)
15. 英検プリント教材(6)から(9)の総まとめと ＋ 英検面接模試(4)

上記はあくまでも予定であり、変更になる可能性があります。
各授業時に指示するので情報を聞き逃さないようにしてください。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JE0051051
科目名	英語資格試験ワーク	単位数	2
科目名（英語表記）	Studies for English Proficiency Test		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
講義概要	本講座では主に、TOEIC 受験のための準備をします。今現在まだ TOEIC 受験が難しいと考えている学生を主に対象とし、TOEIC の受験対策の基礎固めをします。TOEIC の問題形式、必要な文法、語彙、読解の方法、また TOEIC 受験のために必要なリスニングの攻略法の基礎を学びます。		
教材（テキスト）	Emiko Hirose Horton 著．Cross Over the TOEIC Bridge Test （金星堂）（2000 円） その他プリント教材		
教材（参考文献）	教材（参考文献） 毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。		
教材（その他）	リスニング問題のために音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト（小テスト含む、60%）、課題（20%）、授業への参加状況（予習、復習、授業での発表状況など）（20 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	TOEIC の学習方法を身につけ、TOEIC 対策に向けた学習を学生が自発的にできるようにします。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分時間をかけて、授業に臨んでください。小テストには語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①毎回の授業に必ずテキスト、辞書を持参してください。忘れた場合は減点の対象になります。
②英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
③当授業以外にもできるだけ多くの英語科目を履修するようにしてください。
④実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。

講義の順序とポイント

講義の順序とポイント
以下の内容をおおよそ一回の授業で行います。進度の状況によっては変更になることがあります。毎回授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Introducing Yourself―数えられる／数えられない名詞
2. Eating Out―時制と自動詞、他動詞
3. Going Shopping― 5 文型
4. Having Fun―疑問詞：WH-words
5. Holding a Party―形容詞と副詞
6. Traveling―前置詞
7. Corresponding―助動詞
8. Telephoning―受動態
9. Staying Healthy―比較の表現
10. Finding a Place to Live―不定詞の名詞的・形容詞的・副詞的用法
11. Banking―関係代名詞
12. 関係代名詞　復習
13. Getting a Job―仮定法
14. Talking about the Weather―動名詞をとる動詞と不定詞をとる動詞
15. Cooking―動詞を中心とした熟語

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JE0053001
科目名	英語資格試験ワークII	単位数	2
科目名（英語表記）	Studies for English Proficiency Test II		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	This course is intended for students who wish to improve their TOEIC scores and to develop their English proficiency in listening and reading. Students develop language skills covered in each section of the test. They also learn how to perform to the best of their ability, and how to approach each section of the test with appropriate test taking strategies.		
教材（テキスト）	None		
教材（参考文献）	Selected texts to be provided during the lesson		
教材（その他）			
評価方法	Participation and attitude: 40% Written assignments: 40% Final TOEIC practice test score (compared to first practice test): 20%		
到達目標	Upon the successful completion of this course, students will have improved their overall TOEIC score and developed their English proficiency in listening and reading.		
準備学習	There is no special preparation for this class. However, it is essential that students do the homework as a prerequisite to attending the class.		
受講者への要望			
Written assignments must be completed regularly. Students are expected to attend all classes. Students who are recorded as absent for 20% or more of classes will receive automatically a fail grade..			
講義の順序とポイント			
1.Orientation & First TOEIC practice test (Listening Section) 2.First TOEIC practice test (Reading Section) 3.Training No. 1: Reading Part 7 (1) 4.Training No. 2: Reading Part 7 (2) 5.Training No. 3: Listening Part 4 (1) 6.Training No. 4: Listening Part 4 (2) 7.Review of trainings No. 1 to 4 8.Training No. 5: Listening Part 3 (1) 9.Training No. 6: Listening Part 3 (2) 10.Training No. 7: Listening Part 2 11.Training No. 8: Listening Part 1, Part 5 and Part 6 12.Review of trainings No. 5 to 8 13.Second TOEIC practice test (Listening Section) 14.Second TOEIC practice test (Reading Section) 15.Individual guidance and support Lesson plan and content may be subject to change			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JE0054001
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!
講義の順序とポイント
Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information. Lesson 2: Travelling and transportation. Lesson 3: Talking about lifestyle. Lesson 4: Talking about food. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Describing a vacation. Lesson 7: Making requests. Lesson 8: Giving suggestions. Lesson 9: Describing holidays/festivals. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about change. Lesson 12: Describing abilities. Lesson 13: Describing movies/books/games. Lesson 14: Presentations. Lesson 15: Final review.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JE0054002
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Presentations.
Lesson 15: Final review.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JE0054003
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Presentations.
Lesson 15: Final review.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JE0054004
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Presentations.
Lesson 15: Final review.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JE0054005
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Presentations.
Lesson 15: Final review.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JE0054051
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Presentations.
Lesson 15: Final review.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JE0054052
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Presentations.
Lesson 15: Final review.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JE0054053
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% Examination: 50% ATTENDANCE MUST BE AT LEAST 67%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Presentations.
Lesson 15: Final review.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JE0055001
科目名	英語中級ライティング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Writing		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では英語のライティング力を伸ばすことに焦点を置いています。身近な出来事や、未来の仕事に必要な応用文型や、英文で正式にレポートを書く練習をしていきます。英語を正しく書くためには基本文型と文法知識が必要です。この授業ではやさしい短文を例示して英文を正しく書けるようにします。		
教材（テキスト）	Noboru Nagasaka, Gordon Robson 著 Keystone：Grammar－based English Writing.　成美堂　１９００円		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他のことは授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	応答、発表を中心とした授業内演習参加状況（20%）、課題（30%）、授業内テストと宿題（50%）よって総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	1. おおよそ 1500 語レベルの語彙で書かれた英語の文章を比較的スムーズに理解し、それらの単語を応用して文章を書けるようにします。 2. 英語文章のパラグラフ、トピックセンテンスの構造を理解して感想文を書けるようにします。 3.　いろいろな英語の応用文型や、レポートに慣れて書けるようにします。		
準備学習	この授業では毎回、前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習してください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った内容の応用文を中心としたものです。		

受講者への要望

①テキストは必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内での課題を行うことができません。テキストを忘れた場合は減点とします。
②授業には、必ず辞書を持参してください。
③欠席、遅刻をしないように努めてください。
④課題は必ず期限までに提出してください。また、課題の提出には「京学なび」を使用してください。
⑤授業の前までに、必ず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑥自習学習のためになるべく多く「セルフラーニング室」（学志館１階）を活用してください。
⑦当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。
⑧英検、TOEIC などの検定、資格試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

下記はあくまでも予定であり、実際の授業の進度によって変更になる可能性があります。各授業時に指示するので情報を聞き逃さないようにしてください。また、毎回（初回は除く）の授業の初めに、前回の授業の確認テストを行います。

1. Be 動詞：「デアル」と「ガアル」の使い分け
2. Have 動詞：「モッテイル」が基本の意味
3. 一般動詞：自動詞・他動詞と状態動詞・動作動詞の使い分け
4. 名詞と冠詞：名詞の数・冠詞の使い方
5. 代名詞：人称・不定・指示代名詞の使い方
6. 時制(1)：現在形と現在進行形―「テイル」の状態と動作の使い分け
7. 時制(2)：過去形と過去進行形―「タ」と「テイタ」の使い分け
8 時制(3)：単純未来と意志未来―「ダロウ」と「ツモリ」の使い分け
9. 時制(4)：現在完了・過去完了・未来完了―時制のちがいと使い分け
10. 疑問詞：WH-Question の使い分け
11. 助動詞(1)：can, be able to「デキル」が基本の意味
12. 助動詞(2)：may, must と need, dare の使い分け
13. 形容詞と副詞：形容詞の 2 用法と副詞の 4 用法の使い方
14. 受け身：現在・未来・過去・完了形の使い方
15. 比較：同等比較・比較級・最上級の使い分け

16. 不定詞(1)：文中での名詞・形容詞・副詞の使い分け

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JE0056001
科目名	英語中級リーディング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Reading		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	実際の英字新聞からの記事を元にした教材を読んでいく。 現代は情報過多で膨大なニュースが流れているが、本書では いくつかの分野から興味が持て、考えさせられるニュースが 選ばれている。それを的確に読んでいくことで、英語読解力を つけ、同時に今我々が生きている社会を理解し問題点を 考察する一助となることを願っている。		
教材（テキスト）	渡辺おをい編著　『Open your Eyes through News in English　ニュース英語で世界を拓く』　三修社 ￥１，８００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	英字新聞や、テレビニュース等		
評価方法	中間と期末の平均点（６０％） 平常点（授業への積極参加・小テスト・提出物） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	英字新聞に使われる語彙を学び、英字新聞のスタイルに慣れ、英語 読解力を養成する。（余裕があれば実際の英字新聞の記事を読んだり 英語ニュースでリスニングをしたりリアルタイムの英語に触れる 機会を設けたい。）		
準備学習	毎回進む部分の予習をしっかりやる。		

受講者への要望

テキストをしっかり読むのはもちろんだが、それ以外にニュース番組を見たり、日本や世界の出来事に常に興味と関心を持ってもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。（授業の進度・課は変わることがある。）
２回目　　第１章：小学３年からの英語教育
３回目　　第３章：”和食”ユネスコ無形文化遺産に
４回目　　第５章：生殖医療の進歩と前途多難な法整備　前半
５回目　　第５章：生殖医療の進歩と前途多難な法整備　後半
６回目　　第７章：純国産人工知能ロケットイプシン、未来に向けて発射！前半
７回目　　第７章：純国産人工知能ロケットイプシン、未来に向けて発射！後半
８回目　　宝塚歌劇団１００年
９回目　　第９章：謎に包まれたＪＦＫ暗殺から半世紀　前半
１０回目　第９章：謎に包まれたＪＦＫ暗殺から半世紀　後半
１１回目　第１１章：コピペにレッドカード
１２回目　第１２章：近代養殖マグロレストラン　前半
１３回目　第１２章：近代養殖マグロレストラン　後半
１４回目　第１４章：Ｊリーグ初の無観客試合　　前半
１５回目　第１４章：Ｊリーグ初の無観客試合　　後半

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JE0057001
科目名	英語文化研究 A	単位数	2
科目名（英語表記）	English Cultural Studies A		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「英語文化研究」は＜英語プロジェクト＞専門科目の 1 つであり、英語圏の文化と英語という言語への理解を深めることを目的とした科目である。日本と英米の文化や言語の比較、英語圏の文化事情を扱ったテキストの読解とテーマについてのディスカッション、英語圏の文学、映像作品の鑑賞などを通して異文化理解を深めていく。 担当者の専門はイギリス文学およびイギリス事情研究であるので、その専門知識が多少とも生かせるように、この「A」では主としてイギリスの社会文化事情を取り扱っていく。とは言え、真に研究してほしいのは受講生それぞれの母国のことであり、テキストの講読によってイギリス事情の一端を知った後は、同一主題の母国事情と比較し、最終的には母国への理解を深めてほしい。		
教材（テキスト）	Anthony Allan et al.、Insight into Britain（『イギリス探訪』）、金星堂、1,800 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答・発表・ディスカッションなどの授業内演習活動（約 40%）、Reading Passage 概要報告（約 20%）ならびに課題レポートの報告と成果（約 40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	1．イギリス事情との比較によって、母国の相対物への理解が深まる。 2．「英検」で 2 級レベルの英文から必要な情報を正確に入手するための英語力が身につく。		
準備学習	1．次回授業で取り扱う chapter を確認し、その Reading Passage を何度も何度も音読する。 2．Vocabulary Builder の問題に解答し、かつ、Notes と Background にも目を通しておく。 3．概要報告者は段落ごとの要点をまとめ、所定の用紙に記入して発表できるようにしておく。		

受講者への要望

十分な準備学習を行って毎回の授業に出席すること。

講義の順序とポイント

初回の Chapter 1 以外は、報告者が取り上げる順序によって変わってくるので、“Contents（目次）”の順序通りにはならない。また、課題レポートにも時間を割く必要があるので、いくつかの章は実際には省略することになる。リーディング科目ではないので、Passage の理解を深めるために Comprehension や Summary を利用することはあるが、Tune In! や Write Away! を授業内演習ではまったく取り扱わない。

1．演習概要・評価方法などに関する説明、Chap. 1: Animals: Fictional and Real
2．Chap. 2: Exporting Sport
3．Chap. 3: Literature: The Reading Boom、レポート課題説明
4．Chap. 4: Eating Habit: changing Tastes
5．Chap. 5: Art: Attitudes and Anonymity
6．Chap. 6: Population: Food for Thought、レポート課題調査
7．Chap. 7: Antiques: Older Is Often Better
8．Chap. 8: Smoke-free Britain
9．Chap. 9: Edinburgh: A City of Festivals、レポート課題確認
10．Chap. 10: Television: Reflecting Our Lives

11. Chap. 11: Structures of the Millennium
12. Chap. 12: Leisure: Indoor and Outdoor、レポート課題添削
13. Chap. 13: Education in the UK
14. Chap. 14: Superstition and Beliefs
15. Chap. 15: Pedal Power、課題レポート提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JE0058001
科目名	英語文化研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	English Cultural Studies B		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	英語が世界中で使われるようになった今日、世界のどこに行っても英語を使う機会が待ち受けています。また、ネイティブスピーカーと英語で話すだけでなく、ノンネイティブスピーカー同士で英語を使って話す可能性も高くなってきました。英語が世界をつなぐツールとしてますますその重要性を増してきているなか、基礎的な英語力があれば、世界は今まで以上に広がります。 　この授業では、世界を英語で巡る旅をします。オーストラリア、インドネシア、シンガポール、中国、アルゼンチン、メキシコやその他全 15 カ国の文化や歴史を紹介するテキストとＤＶＤで、各国の文化や歴史を学ぶと同時に多様な英語を聞く機会を設けます。 　毎回の授業の最初に各国の様子をビデオを見ながらイメージし、同時にそれぞれのお国なまりで国紹介が行われますので、たとえばオーストラリアン・イングリッシュやシンガポーリアン・イングリッシュを聞く機会にもなります。 　この授業ではみなさんの積極性が重要となります。内容確認作業を行うことにより、語彙力をつけ、他文化に対する考え方を学びます。そしてトピックと自分との関わりを発表したり、他人の意見を聴くことによって、スピーキングやリスニングの練習も行います。 　このテキストを活用し、みなさんが単に読んだり聴いたりするだけの英語から、一歩進んだ他文化理解のためのコミュニケーションツールとしての英語を身につけることを期待します。 　授業では各国の現状に関する話題について単に読むだけでなく、簡単なディスカッションも行う予定です。１回の授業で１ユニットを終えていきたいと考えています。		
教材（テキスト）	On Board for More World Adventures （金星堂） （続・DVD で学ぶ世界の文化と英語）		
教材（参考文献）	英語辞書（英和・和英）など その他、授業で訪れる国ぐにに関する資料を検索して、授業内で活用します。		
教材（その他）			
評価方法	ディスカッションへの参加および毎回の Comprehension など(50%)、レポート（50%）による評価とします。 毎回の授業終了後に京学なびで課題を京学なびで送付し、その解答も京学なびで提出していただきます。 なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	毎回の授業では、ＤＶＤを使って訪れる国々の情報を増やして異文化理解に努めます。Reading は 300 語程度で、First Viewing では、まず内容の大意をつかんで、写真付きの多肢選択問題で理解度をチェックします。Second Viewing でもう一度ＤＶＤをみて、より細かな内容を問う問題に答えます。大意と細部という異なる角度からＤＶＤをみることにより、文化的かつ言語的に外国の国ぐにに対する理解を深めることを目標としています。		
準備学習	毎回の授業で訪れる国ぐにについて下調べを行い、簡単なプレゼンテーションを行えるように準備しておくこと。		
受講者への要望			
このクラスはリーディングとリスニングが合わさった授業を行いますが、正確に文章を読み取ったり聞き取ったりすることを通じて内容を理解し、文化研究本来の目的である他文化理解につなげます。ディスカッションにも積極的に参加することを望みます。			
講義の順序とポイント			
１回の授業で１ユニットを終えていきたいと考えています。 主な内容は次の通りです。 第１回　Intoroduction 第２回　Australia 第３回　Indonesia 第４回　Singapore 第５回　China 第６回　Argentina			

第 7 回　　Mexico 第 8 回　　IFinland 第 9 回　　Poland 第 10 回　Spain 第 11 回　Greece 第 12 回　Kenya 第 13 回　Morocco 第 14 回　Lebanon 第 15 回　Kuwait

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★	★	

年度	2015	授業コード	JE0058C01
科目名	英語文化研究Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	English Cultural Studies C		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
講義概要	この授業では、すべての英語科目の背景となる英語圏の文化と、英語という言葉への理解を深めることを目的とします。日英の文化や言葉の比較、英語圏の文化事情を扱ったテキストの読解とテーマについてのディスカッション、英語圏の文学、映像作品の鑑賞などを通して、異文化理解をはかります。 特にこの授業では、英語による模範的なスピーチを聴解、読解することで、英語という言語とその背景にある文化についての理解を促し、同時にリスニング、リーディングの力を強化します。		
教材（テキスト）	上田伸雄、田村理香、佐久間みかよ 編著. Great American Speeches 『アメリカの名演説：リスニングテキスト』 （CD 付き）. （研究社、2484 円） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英語辞書（英和・和英）など その他授業中に指示します。		
教材（その他）	授業中に音声ＣＤを使用します。		
評価方法	レポートおよび授業内小テスト(50%)、課題の提出状況、授業への参加、発表の状況（50%）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	英語圏文化とアメリカの歴史に対する理解を深め、同時に英語の長文読解力、聴解力の向上を目指します。		
準備学習	本授業でとりあげるスピーチの話者である Martin Luther Kingg 牧師、Malcolm X, Ronald Reagan 元大統領、Bill Clinton 元大統領、Barack Obama 大統領についての基本的な情報をあらかじめ収集しておいてください。また授業の前には付属の CD を使用してスピーチを十分聴き、大まかな内容を理解しておいてください。また、復習として、授業でとりあげたスピーチを聴き返し、授業内小テストに備えてください。		

受講者への要望

①教科書は、必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。教科書がないと、授業での課題を行うことができません。
また、教科書を持参しない場合は最終評価から減点することになります。また、英語辞書も必ず持参してください。
②欠席、遅刻をしないように努めてください。
③課題は必ず期限までに提出してください。
④授業の前までに、付属の CD を使って、かならず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑤本授業では、授業内小テストを行うことがありますので、十分に復習をしてください。
⑥当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約１回の授業で学びます。なお、授業の進行によって、内容が変更になることがあります。

1　Introduction: Famous American Speeches-Introduction
Martin Luther King Jr. "I've been to the Mountain Top" (1968) (1)
2. Martin Luther King Jr. "I've been to the Mountain Top" (1968) (2)
3. Arnold Schwarzenegger, "This Country Is Truly Open to You" (2004)
4. リスニングコラム(1)Walt Disney, "Disneyland Is Your Land" (1955)
Larry Page, "Any Nation Can Be Determined by the Care and Preparation Given to Its Yourh" (2009) (1)
5. Larry Page, "Any Nation Can Be Determined by the Care and Preparation Given to Its Yourh" (2009) (2)
リスニングコラム（2) Eric Schmidt, "Every Human Being in the Planet Will Access Every Place of Information Known on　the Planet" (2009)
6. Jeff Bezos, "You Have to Make the Shopping Experience Fun and Engaging" (1998)
7. Neil Armstrong, "We've Seen Deeply into Our Universe and Looked Backward Nearly to the Beginning of Time" (2008)
8. リスニングコラム（3）　Neil Armstrong, "That's ONe Small Step for a Man, One Giant Leap for Mankind" (1969)
9. Walter Cronkite, "We Are Mired in Stalemate" (1968)
10. Marrissa Mayer, "It's Really Wonderful to Work in an Environment with a Lot of Smart People" (2006)
11. Condoleezza Rice, "We Believe That Human Imperfection Makes Democracy More Important" (2008)
12. Ronald Reagan, "They 'Slipped the Surly Broods of Eath' to Touch the Face of God" (1986)

13. リスニングコラム(5) Michael Jackson, "The Magic, the Wonder, the Mystery, and the Innocence of a Child's Heart, Are the Seeds of Creativity That Will Heal the World" (1993)
14. Bill Clinton, "I Have Sinned" (1998)
15. Barrack Obama, "A New Beginning between the United States and Muslims around the World" (2009)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★				

年度	2015	授業コード	JE0060001
科目名	英語文化事情 A	単位数	2
科目名（英語表記）	English Language and Culture A		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	英語の運用能力を高めるには、英語という言語のもつ特性とともに、その背景となっている英語圏の文化事情などを理解する必要もあり、「英語文化事情」では、英語力の向上を視野に入れながら、英語圏の国ぐにのさまざまな社会文化事情について講義を行っている。 「A」では、英語の「母国」イギリスを対象とし、日本とは特に目立って異なる事象を取り上げて比較し、その長短を考えながら、これからの時代を生きる諸君の選択にとって何らかの参考となるような講義を行う。 「英米」（近年では「米英」）と一括りにされ、イギリスもアメリカとほとんど同じような国と思われがちであるが、イギリス人と日本人との間には、大陸に隣接する島国の国民として歴史的に同じような問題を抱えたりもしており、イギリスは日本人にとってはアメリカなどよりも大いに参考となる国の１つであると言ってもよい。		
教材（テキスト）	ハンドアウト（プリント教材）		
教材（参考文献）	各回の講義テーマと関連する文献をその都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	応答発表を含む受講状況（約 60%）、復習小テスト（約 30%）および最終授業内課題の成果（約 10%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	１．英語は日本語とはさまざまな点で異なるが、その英語の「母国」であるイギリスという国の歴史的文化的社会的な背景事情が基礎知識として身につく。 ２．表面上の異同に惑わされないよう留意しながら、異文化圏の事象との相違を検証する方法が身につき、相違が生まれてくる背景事情を理解できるようになる。		
準備学習	１．＜京学なび＞「授業資料」から次回授業のハンドアウトをダウンロードする。 ２．ハンドアウトを通読し、空所が設けられていた場合は適切な語句を補充しておく。 ３．理解を深めるために、講義で紹介する参考文献の少なくとも１冊には目を通す。		

受講者への要望

１．講義に休まず出席し、講義中に積極的に発言できる学生の受講を強く望む。
２．英語力向上の努力を続けている学生の受講を望む。

講義の順序とポイント

下記の順序とポイントは資料の入手状況などに応じて若干変更することがある。

１．講義概要・評価方法などに関する説明、連合王国
２．伝説の王 King Arthur と England 小史
３．英語小史と The Common Wealth
４．牧場・公園・庭園・駐車場
５．イギリス発祥のスポーツ
６．過激な動物愛護、日常生活におけるマナー
７．王族･貴族と二院制の国会
８．週末の過ごし方、労働時間と勤務形態
９．パブという社交場とイギリス料理
10．village 愛と遺跡管理
11．鉄道発祥国の交通機関
12．学校教育制度と gap year
13．イギリスの文学と映画

14. イギリス生活事情拾遺
15. Auld Lang Syne、最終授業内課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JE0061001
科目名	英語文化事情Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	English Language and Culture B		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	英語文化を理解するにはイギリス文化とともにアメリカ文化への正しい認識が不可欠です。英語文化圏の中でも特にアメリカ合衆国の経済・社会の影響を大きく受けている現代の日本においては、アメリカの歴史と文化を正確に認識することが日本文化の本質を知る上でも重要なことです。 現代では身近な国となったアメリカ合衆国も、その歴史については学生諸君があまり理解できていないことがたくさんあります。この講義では、アメリカという国がどういう理由で成立し、どんな経過をたどって今日まで歩んできたか、また人類全体の中でどんな意味をもっているのか、そしてそのアメリカは、これからどの方向に進もうとしているのかについても考えてみたい。このように、アメリカの歴史の必然性を考察することによって、現代のアメリカ合衆国の基礎となる思想を検討する機会をもうけたいと考えています。		
教材（テキスト）	教科書は購入する必要がありません。毎回レジメを記したプリント教材を配布します。参考書については、講義中に適宜指示します。		
教材（参考文献）	『新アメリカ史叢書１巻～７巻』　南雲堂　（図書館にあります）		
教材（その他）			
評価方法	受講人数によって、評価方法を変更することがあります。現在のところ、下記のように予定しています。 毎回の授業終了時に、「課題確認クイズ」として授業内容に関する簡単なクイズを出します。これを小テストとして、授業参加と合わせて４０％の評価対象とします。それに加えて、レポート（２０％）、定期試験（４０％）の総合評価とします。全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	英語文化のひとつの背景であるアメリカ合衆国の歴史を検証することを通じて、現代のアメリカを考える基礎となる知識を養います。歴史を単なる過去の事象の羅列としてではなく、現代アメリカ社会との関係の中で捉えます。また、同時代の日本の事象にも目を配り、歴史を複眼的に見ていきます。この活動を通して、アメリカ合衆国への理解を深めます。		
準備学習	アメリカ合衆国について、毎回の授業で取り上げる内容について図書館の書籍やインターネットの情報などを活用しながら、事前に調査・研究をしておいてください。 第１回目の授業では、各自がアメリカ合衆国に関する事象で興味や関心を持っていることについて、具体的な項目について説明してください。 また、各授業の最後に次週の授業内容について説明しますので、その内容に関して事前に調べておいてください。		

受講者への要望

受講者数にもよりますが、できるだけ双方向の形（インターラクティブ）で授業を運営したいと思います。多くの学生が、出席するだけでなく、授業に参加することを望みます。
なお、出席は京学なびで把握しますが、授業に出席して終了時点での授業内クイズに対する解答の提出がない場合は欠席と見なします。
履修者みんなで意見を述べあり、実りある授業にしましょう。

講義の順序とポイント

初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。

第１回　　アメリカ社会についてのケーススタディ
　　－私の目から見たアメリカ社会
第２回　　Christpher Columbus は America 大陸を「発見」したのか
　　－なぜ、コロンブスはアメリカ大陸をめざしたのか
第３回　　Mayflower 号の Pilgrim Fathers（巡礼始祖）たち
　　－なぜ、ピルグリムファザーズはアメリカ大陸にわたったのか
第４回　　The American Revolution（アメリカ独立戦争）
　　－なぜ、イギリスから独立する必要があったのか
第５回　　The Constitution of USA 1（アメリカ憲法の制定１）
　　－なぜ、憲法が必要だったのか
第６回　　The Constitution of USA 2（アメリカ憲法の制定２）

－なぜ、二大政党ができたのか
第７回　Westward Movement（西漸運動）と Manifest Destiny（明白な運命）
－なぜ、人びとは西部をめざしたのか
第８回　The Civil War（南北戦争）－Abraham Lincoln と奴隷制度
－なぜ、南北の州で戦争が生じたのか
第９回　世界大国への道－アメリカ経済発展の再考察１
－なぜ、アメリカ合衆国は産業国家になれたのか
第１０回　世界大国への道－アメリカ経済発展の再考察２
－なぜ、アメリカ合衆国は急速な発展をを遂げられたのか
第１１回　W. W. I （第一次世界大戦）と T. W. Wilson
－なぜ、アメリカ合衆国は第１次世界大戦に参戦したのか
第１２回　１９２０年代のアメリカ－禁酒法と Jazz Age
－なぜ、アメリカ社会は発展し、また腐敗していったのか
第１３回　The Great Depression （大恐慌）と New Deal 政策
－なぜ、世界恐慌は生じたのか
第１４回　レポート合評会と反転学習
第１５回　W. W. Ⅱ（第二次世界大戦）から東西冷戦時代へ
－なぜ、アメリカ合衆国は自由主義世界のリ－ダ－になれたのかふり返り

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★			★	★

年度	2015	授業コード	JE0068A04
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	塩田　英子	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な英語総合教材を使用し、英語の基礎力の定着を目指します。加えて、皆さんが英語に興味を持つためのヒントを提供していきたいとも思ってます。たとえばこの授業では毎回、映画を視聴し、その中の１シーンをとりあげてセリフの聞き取りを行う機会を持つ予定です。さらに、英語で書かれた日本の風物についての記事を読み、身近な出来事について英語を通して考える取り組みも行います。皆さんからの希望があれば適宜、TOEIC や英検などの資格試験に対応した問題演習を取り入れることも可能です。英語はあまり得意ではないけれど、映画や新聞の英語には興味があるという方も大歓迎です。いっしょに英語の世界を楽しみましょう。		
教材（テキスト）	(1) Kyoko Okamoto, Benedict Rowlett, Aya Kinoshita and Sara Ellis 著 『English Challenger (リーディングに役立つ基本英文法)』 Seibido　￥1,900＋税 (2) プリント教材１：日本のニュースを英語で読もう（Japan in English #1-10） (3) プリント教材２：生きた英語で耳を鍛えよう（Movie Script I (1)-(4), Movie Script 2 (1)-(4), Songs (1) & (2)）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて、CD や DVD を使用することがあります。		
評価方法	平常点(20%)：授業態度や各授業内容の理解度などから評価します。 復習テスト 1 (40%)：授業内に実施する復習テスト 1 の結果から評価します。 復習テスト 2 (40%)：授業内に実施する復習テスト 2 の結果から評価します。 ＊なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただし、3 分の 2 以上の出席があった場合、必ず合格するという意味ではないので注意すること。		
到達目標	1.大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着をはかります。 2.さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようにします。 3.日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および伝達する力を身につけます。		
準備学習	1.高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。 2.授業で扱ってほしい映画や洋楽などの題材があればぜひ教えてください。 3.各授業中に授業参加のための準備学習を指示します。		

受講者への要望

1.英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
2.基礎英語以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修するようにしてください。
3.実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。
4.授業中の私語や睡眠、テキストを忘れる等、授業態度にはくれぐれもご注意ください。

講義の順序とポイント

第 1 回 初回オリエンテーション(授業の進め方について等)
第 2 回 Unit　1 Literacy and Education (基礎と文法) + Japan in English #1 + Movie Script I (1)
第 3 回 Unit　1 Literacy and Education (応用と読解) + Japan in English #2 + Movie Script I (2)
第 4 回 Unit　2 Sustainable City (基礎と文法) + Japan in English #3 + Movie Script I (3)
第 5 回 Unit　2 Sustainable City (応用と読解) + Japan in English #4 + Movie Script I (4)
第 6 回 Unit　3 Friendly Robots (基礎と文法) + Japan in English # 5 + Songs (1)
第 7 回 Unit　3 Friendly Robots (応用と読解) + Japan in English #1-5 の総復習
第 8 回 Unit　1 から Unit 3 の総括と総合課題(1)[第 2 回から第 7 回のまとめと応用]
第 9 回 Unit　4　Understanding Your Personality (基礎と文法) + Japan in English #6 + Movie Script II (1)
第 10 回 Unit　4 Understanding Your Personality (応用と読解) + Japan in English #7 + Movie Script II (2)
第 11 回 Unit　5 Amazing Hotels (基礎と文法) + Japan in English #8 + Movie Script II (3)
第 12 回 Unit　5 Amazing Hotels (応用と読解)+ Japan in English #9 + Movie Script II (4)
第 13 回 Unit　6 Culture and Religion (基礎と文法)+ Japan in English #10 + Songs (2)
第 14 回 Unit 6 Culture and Religion (応用と読解) + Japan in English # 6-10 の総復習

第 15 回 Unit 4 から Unit 6 の総括と総合課題(2)[第 9 回から第 15 回のまとめと応用] ＊上記はあくまでも目安であり、変更の可能性があります。詳細は授業中に指示します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JE0068A51
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。この授業では特に、日本の名所の紹介をしている文章を通して、読解やリスニング、英作文問題に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。また、基本的な文法事項の復習も行います。		
教材（テキスト）	Toshiyuki Sakabe / Noriaki Okajima / Williams Noel 著 Touring Japan in English 『英語で学ぶ日本三選』(南雲堂)		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	授業中に音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語の簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。　さらに、日本文化の紹介を通して、比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回の授業において、前回の授業で学んだ内容についての小テストを行います。そのテストの準備として、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。毎回の授業で前回の授業の確認テストを行います。

1. Introduction / Chapter 1: Japan’s Top Three Castles--Nagoya Castle, Osaka Castle, Kumamoto Castle
2. Chapter 1: Review Test / Chapter 2: Japan’s Top Three Festivals
--The Gion Festival, the Tenjin Festival, the KandaFestival
3. Chapter 2: Review Test / Chapter 3: Japan’s Top Three Mountains--Fujisan, Tateyama, Hakusan
4. Chapter 3: Review Test / Chapter 4: Japan’s Top Three Oldest Hot Springs
--Dogo Onsen, Arima Onsen, Shirahama Onsen
5. Chapter 4: Review Test / Chapter 5: Japan’s Top Three Gardens--Kenrokuen, Korakuen, Kairakuen
6. Chapter 5: Review Test / Chapter 6: Japan’s Top Three Pottery Styles--Raku Ware, Hagi Ware, Karatsu Ware
7. Chapter 6: Review Test / Chapter 7: Japan’s Top Three Night Views--Mount Hakodate, Mount Maya, Mount Inasa
8. Chapter 7: Review Test / Chapter 8 Japan’s Top Three Famous Foods--Tempura, Sushi, Sukiyaki
9. Chapter 8: Review Test / Chapter 9 Japan’s Top Three Limestone Caves--Ryusendo, Ryugado, Akiyoshido
10. Chapter 9 Review Test / Chapter 10: Japan’s Top Three Scenic Spots--Matsushima, Amanohashidate, Miyajima
11. Chapter 10: Review Test / Chapter 11 :Japan’s Top Three Waterfalls--Fukuroda Falls, Kegon Falls, Nachi Falls
12. Chapter 11: Review Test / Chapter 12: Japan’s Top Three Disappointing Places
--Sapporo Clock Tower, Harimaya Bridge, Hollander Slope
13. Chapter 12: Review Test / Chapter 13 Japan’s Top Three Ekiben--Ikameshi, Touge no Kamameshi, Masu no sushi
14. Chapter 13: Review Test / Chapter 14 Japan’s Top Three Udon--Sanuki Udon, Inaniwa Udon, Mizusawa Udon (1)
15. Chapter 14 Japan’s Top Three Udon--Sanuki Udon, Inaniwa Udon, Mizusawa Udon (2)
Chapter 14 Review Test

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JE0068A52
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	様々な分野の話題に関する英文を読んで、基礎的な英文読解力を養成する。		
教材（テキスト）	宍戸真　他著　Reading Expert I 〈リーディング　エキスパート　－基礎編ー〉		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	中間・期末テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	各課の単語、文法事項、構文を理解し、テキストの英文が正確に読めるようになる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 1　新しい語句を調べる 2　自分の訳文ノートを作成する 3　練習問題をする		
受講者への要望			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明 ２回目　　Lesson 2　Payment on Date ３回目　　Lesson 4　Traditional Cures ４回目　　Lesson 6　Bookcrossing ５回目　　Lesson 9　Bermuda Triangle ６回目　　Lesson12 A Food Stylist　前半 ７回目　　Lesson12 A Food Stylist　後半 ８回目　　復習と授業内テスト ９回目　　Lesson 13 Banknotes １０回目　Lesson 16 The Blue Screen Technique １１回目　Lesson 18 Soccer Ball　前半 １２回目　Lesson 18 Soccer Ball　後半 １３回目　Leeson 23 Liar　前半 １４回目　Leeson 23 Liar　後半 １５回目　Lesson 24 Colors 授業の進度・課は変わることがある。 学期中に扱わない課は課題用に回すこともある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JE0068A53
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	基礎的な英文法やイディオムを理解し、様々な興味深い話題に関する英文の読解力を養成する。		
教材（テキスト）	木村正俊　他著　First Steps to Global Communication　グローバル・トピックで学ぶ大学基本英文法 ￥１，８００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	中間・期末テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	基礎的な英文法やイディオムを学習し練習問題で理解を深め、英文読解力を向上させる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・イディオムを学習し理解する ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明
２回目　　Unit 1　Everything’s Ducky!
３回目　　Unit 2　A Dearth of Cherry Trees
４回目　　Unit 3　One Hundred Billion Servings
５回目　　Unit 4　A Stellar Superstar
６回目　　Unit 6　Switch Off, Look Up, Watch Out!
７回目　　Unit 7　Disappearing Beaches
８回目　　復習と授業内テスト
９回目　　Unit 8　An Alarming Allergy
１０回目　Unit 9　Three Cheers for the Girls!
１１回目　Unit12　Cats or kiwis?
１２回目　Unit13　A New Way to “Shoot Big Game”
１３回目　Unit14　The Candy Crush Sage
１４回目　Unit15　Hardy Humans and Huskies　前半
１５回目　Unit15　Hardy Humans and Huskies　後半

授業の進度・課は変わることがある。
学期中に扱わない課は課題用に回すこともある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JE0068A60
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	塩田　英子	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な英語総合教材を使用し、英語の基礎力の定着を目指します。加えて、皆さんが英語に興味を持つためのヒントを提供していきたいとも思ってます。たとえばこの授業では毎回、映画を視聴し、その中の１シーンをとりあげてセリフの聞き取りを行う機会を持つ予定です。さらに、英語で書かれた日本の風物についての記事を読み、身近な出来事について英語を通して考える取り組みも行います。皆さんからの希望があれば適宜、TOEIC や英検などの資格試験に対応した問題演習を取り入れることも可能です。英語はあまり得意ではないけれど、映画や新聞の英語には興味があるという方も大歓迎です。いっしょに英語の世界を楽しみましょう。		
教材（テキスト）	(1) Kyoko Okamoto, Benedict Rowlett, Aya Kinoshita and Sara Ellis 著 『English Challenger (リーディングに役立つ基本英文法)』 Seibido　￥1,900＋税 (2) プリント教材１：日本のニュースを英語で読もう（Japan in English #1-10） (3) プリント教材２：生きた英語で耳を鍛えよう（Movie Script I (1)-(4), Movie Script 2 (1)-(4), Songs (1) & (2)）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて、CD や DVD を使用することがあります。		
評価方法	平常点(20%)：授業態度や各授業内容の理解度などから評価します。 復習テスト 1 (40%)：授業内に実施する復習テスト 1 の結果から評価します。 復習テスト 2 (40%)：授業内に実施する復習テスト 2 の結果から評価します。 ＊なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただし、3 分の 2 以上の出席があった場合、必ず合格するという意味ではないので注意すること。		
到達目標	1.大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着をはかります。 2.さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようにします。 3.日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および伝達する力を身につけます。		
準備学習	1.高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。 2.授業で扱ってほしい映画や洋楽などの題材があればぜひ教えてください。 3.各授業中に授業参加のための準備学習を指示します。		

受講者への要望

1.英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
2.基礎英語以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修するようにしてください。
3.実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。
4.授業中の私語や睡眠、テキストを忘れる等、授業態度にはくれぐれもご注意ください。

講義の順序とポイント

第 1 回 初回オリエンテーション(授業の進め方について等)
第 2 回 Unit　1 Literacy and Education (基礎と文法) + Japan in English #1 + Movie Script I (1)
第 3 回 Unit　1 Literacy and Education (応用と読解) + Japan in English #2 + Movie Script I (2)
第 4 回 Unit　2 Sustainable City (基礎と文法) + Japan in English #3 + Movie Script I (3)
第 5 回 Unit　2 Sustainable City (応用と読解) + Japan in English #4 + Movie Script I (4)
第 6 回 Unit　3 Friendly Robots (基礎と文法) + Japan in English # 5 + Songs (1)
第 7 回 Unit　3 Friendly Robots (応用と読解) + Japan in English #1-5 の総復習
第 8 回 Unit　1 から Unit 3 の総括と総合課題(1)[第 2 回から第 7 回のまとめと応用]
第 9 回 Unit　4　Understanding Your Personality (基礎と文法) + Japan in English #6 + Movie Script II (1)
第 10 回 Unit　4 Understanding Your Personality (応用と読解) + Japan in English #7 + Movie Script II (2)
第 11 回 Unit　5 Amazing Hotels (基礎と文法) + Japan in English #8 + Movie Script II (3)
第 12 回 Unit　5 Amazing Hotels (応用と読解)+ Japan in English #9 + Movie Script II (4)
第 13 回 Unit　6 Culture and Religion (基礎と文法)+ Japan in English #10 + Songs (2)
第 14 回 Unit 6 Culture and Religion (応用と読解) + Japan in English # 6-10 の総復習

第 15 回 Unit 4 から Unit 6 の総括と総合課題(2)[第 9 回から第 15 回のまとめと応用] ＊上記はあくまでも目安であり、変更の可能性があります。詳細は授業中に指示します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JE0068A61
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	平易な総合英語教材を使用して、＜読む・書く・聞く・話す＞4 技能の基礎力を養成する。＜読む・書く＞については、実践的な文法と句読法を学び、文やパラグラフの展開・文脈などに注目しながら、読解と作文の基礎力を養う。＜聞く・話す＞については、日本語を母語とする英語学習者向けのストレッチ式発声法を用いて、「ネイティブ発音」の技法を習得する。テキストの読解と音読を通じて、英語文化に親しみ、英語によるグローバルなコミュニケーションの基本技法を学ぶ。		
教材（テキスト）	First Steps to Global Communication 南雲堂 1,800。		
教材（参考文献）	「ネイティブ発音」科学的上達法―おどろきのストレッチ式発声術　講談社（ブルーバックス新書）980。		
教材（その他）			
評価方法	積極的な学習態度・発表・授業内小テスト・学習ノート作成など等による平常点（30%）、レポート（20%）、定期テスト（50%）。全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格とする。（3 分の 2 以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の 4 技能習得により、グローバル社会におけるコミュニケーション力の基礎を養う。		
準備学習	予習と復習の課題を完成させる。各回授業に係る復習小テストをする。参考文献の重要事項について調べ、レポートを書く。		

受講者への要望

積極的な態度で授業に参加する。テキストと学習ノート等のほか、必ず辞書を持参する。毎授業時に学習ノートを作成する。遅刻、居眠り、私語その他学習の妨げになる行為・行動は厳禁。

講義の順序とポイント

1．　オリエンテーション
2．　都会生活の利点と問題点：リスニングとスピーキングについて
3．　公共の場における花木の保全：リーディングとライティングについて
4．　インスタントラーメン：発音記号と辞書の使い方
5．　宇宙で輝く期待の星：文法と音法
6．　家庭における男女の役割分担：発音と発声、発話（1）
7．　スマートフォンについて：文の音読（1）
8．　地球温暖化への対策：文法と読解（1）
9．　食物アレルギーへの警報：発音と発声、発話（2）
10．　応援団で活躍する女子学生：文の音読（2）
11．　イギリス人と標語：文法と読解（2）
12．　花を主役にしたお祭り：発音と発声、発話（3）
13．　ニュージーランドの特産物、先住民族：文の音読（3）
14．　地球に優しい撮影術：文法と読解（3）
15．　キャンディ・クラッシュ・サガ：まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	JE0068A62
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	平易な総合英語教材を使用して、＜読む・書く・聞く・話す＞4 技能の基礎力を養成する。＜読む・書く＞については、実践的な文法と句読法を学び、文やパラグラフの展開・文脈などに注目しながら、読解と作文の基礎力を養う。＜聞く・話す＞については、日本語を母語とする英語学習者向けのストレッチ式発声法を用いて、「ネイティブ発音」の技法を習得する。テキストの読解と音読を通じて、英語文化に親しみ、英語によるグローバルなコミュニケーションの基本技法を学ぶ。		
教材（テキスト）	First Steps to Global Communication 南雲堂 1,800。		
教材（参考文献）	「ネイティブ発音」科学的上達法―おどろきのストレッチ式発声術　講談社（ブルーバックス新書）980。		
教材（その他）			
評価方法	積極的な学習態度・発表・授業内小テスト・学習ノート作成など等による平常点（30%）、レポート（20%）、定期テスト（50%）。全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格とする。（3 分の 2 以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の 4 技能習得により、グローバル社会におけるコミュニケーション力の基礎を養う。		
準備学習	予習と復習の課題を完成させる。各回授業に係る復習小テストをする。参考文献の重要事項について調べ、レポートを書く。		

受講者への要望

積極的な態度で授業に参加する。テキストと学習ノート等のほか、必ず辞書を持参する。毎授業時に学習ノートを作成する。遅刻、居眠り、私語その他学習の妨げになる行為・行動は厳禁。

講義の順序とポイント

1．　オリエンテーション
2．　都会生活の利点と問題点：リスニングとスピーキングについて
3．　公共の場における花木の保全：リーディングとライティングについて
4．　インスタントラーメン：発音記号と辞書の使い方
5．　宇宙で輝く期待の星：文法と音法
6．　家庭における男女の役割分担：発音と発声、発話（1）
7．　スマートフォンについて：文の音読（1）
8．　地球温暖化への対策：文法と読解（1）
9．　食物アレルギーへの警報：発音と発声、発話（2）
10．　応援団で活躍する女子学生：文の音読（2）
11．　イギリス人と標語：文法と読解（2）
12．　花を主役にしたお祭り：発音と発声、発話（3）
13．　ニュージーランドの特産物、先住民族：文の音読（3）
14．　地球に優しい撮影術：文法と読解（3）
15．　キャンディ・クラッシュ・サガ：まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	JE0068A63
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	Toshiyuki Sakabe / Noriaki Okajima / Williams Noel 著 Touring Japan in English 『英語で学ぶ日本三選』(南雲堂)		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。日本文化の紹介を通して比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Introduction / Chapter 1: Japan’s Top Three Castles--Nagoya Castle, Osaka Castle, Kumamoto Castle
2. Chapter 1: Review Test / Chapter 2: Japan’s Top Three Festivals
--The Gion Festival, the Tenjin Festival, the KandaFestival
3. Chapter 2: Review Test / Chapter 3: Japan’s Top Three Mountains--Fujisan, Tateyama, Hakusan
4. Chapter 3: Review Test / Chapter 4: Japan’s Top Three Oldest Hot Springs
--Dogo Onsen, Arima Onsen, Shirahama Onsen
5. Chapter 4: Review Test / Chapter 5: Japan’s Top Three Gardens--Kenrokuen, Korakuen, Kairakuen
6. Chapter 5: Review Test / Chapter 6: Japan’s Top Three Pottery Styles
--Raku Ware, Hagi Ware, Karatsu Ware
7. Chapter 6: Review Test / Chapter 7: Japan’s Top Three Night Views
--Mount Hakodate, Mount Maya, Mount Inasa
8. Chapter 7: Review Test / Chapter 8 Japan’s Top Three Famous Foods--Tempura, Sushi, Sukiyaki
9. Chapter 8: Review Test / Chapter 9 Japan’s Top Three Limestone Caves--Ryusendo, Ryugado, Akiyoshido
10. Chapter 9 Review Test / Chapter 10: Japan’s Top Three Scenic Spots
--Matsushima, Amanohashidate, Miyajima
11. Chapter 10: Review Test / Chapter 11: Japan’s Top Three Waterfalls

--Fukuroda Falls, Kegon Falls, Nachi Falls 12. Chapter 11: Review Test / Chapter 12: Japan’s Top Three Disappointing Places --Sapporo Clock Tower, Harimaya Bridge, Hollander Slope 13. Chapter 12: Review Test / Chapter 13: Japan’s Top Three Ekiben --Ikameshi, Touge no Kamameshi, Masu no sushi 14. Chapter 13: Review Test / Chapter 14 Japan’s Top Three Udon --Sanuki Udon, Inaniwa Udon, Mizusawa Udon (1) 15. Chapter 14 Japan’s Top Three Udon--Sanuki Udon, Inaniwa Udon, Mizusawa Udon (2) Chapter 14 Review Test

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	JE0068A64
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	Toshiyuki Sakabe / Noriaki Okajima / Williams Noel 著 Touring Japan in English 『英語で学ぶ日本三選』(南雲堂)		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。日本文化の紹介を通して比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Introduction / Chapter 1: Japan’s Top Three Castles--Nagoya Castle, Osaka Castle, Kumamoto Castle
2. Chapter 1: Review Test / Chapter 2: Japan’s Top Three Festivals
--The Gion Festival, the Tenjin Festival, the KandaFestival
3. Chapter 2: Review Test / Chapter 3: Japan’s Top Three Mountains--Fujisan, Tateyama, Hakusan
4. Chapter 3: Review Test / Chapter 4: Japan’s Top Three Oldest Hot Springs
--Dogo Onsen, Arima Onsen, Shirahama Onsen
5. Chapter 4: Review Test / Chapter 5: Japan’s Top Three Gardens--Kenrokuen, Korakuen, Kairakuen
6. Chapter 5: Review Test / Chapter 6: Japan’s Top Three Pottery Styles
--Raku Ware, Hagi Ware, Karatsu Ware
7. Chapter 6: Review Test / Chapter 7: Japan’s Top Three Night Views
--Mount Hakodate, Mount Maya, Mount Inasa
8. Chapter 7: Review Test / Chapter 8 Japan’s Top Three Famous Foods--Tempura, Sushi, Sukiyaki
9. Chapter 8: Review Test / Chapter 9 Japan’s Top Three Limestone Caves--Ryusendo, Ryugado, Akiyoshido
10. Chapter 9 Review Test / Chapter 10: Japan’s Top Three Scenic Spots
--Matsushima, Amanohashidate, Miyajima
11. Chapter 10: Review Test / Chapter 11: Japan’s Top Three Waterfalls

--Fukuroda Falls, Kegon Falls, Nachi Falls 12. Chapter 11: Review Test / Chapter 12: Japan’s Top Three Disappointing Places --Sapporo Clock Tower, Harimaya Bridge, Hollander Slope 13. Chapter 12: Review Test / Chapter 13: Japan’s Top Three Ekiben --Ikameshi, Touge no Kamameshi, Masu no sushi 14. Chapter 13: Review Test / Chapter 14 Japan’s Top Three Udon --Sanuki Udon, Inaniwa Udon, Mizusawa Udon (1) 15. Chapter 14 Japan’s Top Three Udon--Sanuki Udon, Inaniwa Udon, Mizusawa Udon (2) Chapter 14 Review Test

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	JE0068A65
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	様々な分野の話題に関する英文を読んで、基礎的な英文読解力を養成する。		
教材（テキスト）	宍戸真　他著　Reading Expert I 〈リーディング　エキスパート　－基礎編ー〉		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	中間・期末テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	各課の単語、文法事項、構文を理解し、テキストの英文が正確に読めるようになる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 1　新しい語句を調べる 2　自分の訳文ノートを作成する 3　練習問題をする		
受講者への要望			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明 ２回目　　Lesson 2　Payment on Date ３回目　　Lesson 4　Traditional Cures ４回目　　Lesson 6　Bookcrossing ５回目　　Lesson 9　Bermuda Triangle ６回目　　Lesson12 A Food Stylist　前半 ７回目　　Lesson12 A Food Stylist　後半 ８回目　　復習と授業内テスト ９回目　　Lesson 13 Banknotes １０回目　Lesson 16 The Blue Screen Technique １１回目　Lesson 18 Soccer Ball　前半 １２回目　Lesson 18 Soccer Ball　後半 １３回目　Leeson 23 Liar　前半 １４回目　Leeson 23 Liar　後半 １５回目　Lesson 24 Colors 授業の進度・課は変わることがある。 学期中に扱わない課は課題用に回すこともある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JE0068A66
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	基礎的な英文法やイディオムを理解し、様々な興味深い話題に関する英文の読解力を養成する。		
教材（テキスト）	木村正俊　他著　First Steps to Global Communication　グローバル・トピックで学ぶ大学基本英文法 ￥１，８００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	中間・期末テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	基礎的な英文法やイディオムを学習し練習問題で理解を深め、英文読解力を向上させる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・イディオムを学習し理解する ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明
２回目　　Unit 1　Everything’s Ducky!
３回目　　Unit 2　A Dearth of Cherry Trees
４回目　　Unit 3　One Hundred Billion Servings
５回目　　Unit 4　A Stellar Superstar
６回目　　Unit 6　Switch Off, Look Up, Watch Out!
７回目　　Unit 7　Disappearing Beaches
８回目　　復習と授業内テスト
９回目　　Unit 8　An Alarming Allergy
１０回目　Unit 9　Three Cheers for the Girls!
１１回目　Unit12　Cats or kiwis?
１２回目　Unit13　A New Way to “Shoot Big Game”
１３回目　Unit14　The Candy Crush Sage
１４回目　Unit15　Hardy Humans and Huskies　前半
１５回目　Unit15　Hardy Humans and Huskies　後半

授業の進度・課は変わることがある。
学期中に扱わない課は課題用に回すこともある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JE0068A67
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	英語の 4 技能を総合的に学びます。授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。様々な音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	森田和子・高橋順子・北本洋子著　　Make it simple　　三修社		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	音声教材（無料ダウンロード可能）		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにする。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明。
第　2 週:　Lesson 1　家族
第　3 週:　Lesson 2　キャンパス案内
第　4 週:　Lesson 3　就職・職場
第　5 週:　Lesson 4　日課
第　6 週:　Lesson 5　交通
第　7 週:　Lesson 6　アルバイト
第　8 週:　Lesson 7　健康
第　9 週:　Lesson 8　ショッピング
第 10 週:　Lesson 9　休日
第 11 週:　Lesson 10　大学生活
第 12 週:　Lesson 11　世界の国々
第 13 週:　Lesson 12　海外旅行（１）
第 14 週:　Lesson 13　海外旅行（２）
第 15 週:　全般的な復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JE0068A68
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	英語の 4 技能を総合的に学びます。授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。様々な音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	森田和子・高橋順子・北本洋子著　　Make it simple　　三修社		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	音声教材（無料ダウンロード可能）		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにする。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明。
第　2 週:　Lesson 1　家族
第　3 週:　Lesson 2　キャンパス案内
第　4 週:　Lesson 3　就職・職場
第　5 週:　Lesson 4　日課
第　6 週:　Lesson 5　交通
第　7 週:　Lesson 6　アルバイト
第　8 週:　Lesson 7　健康
第　9 週:　Lesson 8　ショッピング
第 10 週:　Lesson 9　休日
第 11 週:　Lesson 10　大学生活
第 12 週:　Lesson 11　世界の国々
第 13 週:　Lesson 12　海外旅行（１）
第 14 週:　Lesson 13　海外旅行（２）
第 15 週:　全般的な復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JE0068A69
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	英語の 4 技能を総合的に学びます。授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。様々な音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	森田和子・高橋順子・北本洋子著　　Make it simple　　三修社		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	音声教材（無料ダウンロード可能）		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにする。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明。
第　2 週:　Lesson 1　家族
第　3 週:　Lesson 2　キャンパス案内
第　4 週:　Lesson 3　就職・職場
第　5 週:　Lesson 4　日課
第　6 週:　Lesson 5　交通
第　7 週:　Lesson 6　アルバイト
第　8 週:　Lesson 7　健康
第　9 週:　Lesson 8　ショッピング
第 10 週:　Lesson 9　休日
第 11 週:　Lesson 10　大学生活
第 12 週:　Lesson 11　世界の国々
第 13 週:　Lesson 12　海外旅行（１）
第 14 週:　Lesson 13　海外旅行（２）
第 15 週:　全般的な復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JE0068A70
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	英語の 4 技能を総合的に学びます。授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。様々な音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	森田和子・高橋順子・北本洋子著　　Make it simple　　三修社		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	音声教材（無料ダウンロード可能）		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにする。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明。
第　2 週:　Lesson 1　家族
第　3 週:　Lesson 2　キャンパス案内
第　4 週:　Lesson 3　就職・職場
第　5 週:　Lesson 4　日課
第　6 週:　Lesson 5　交通
第　7 週:　Lesson 6　アルバイト
第　8 週:　Lesson 7　健康
第　9 週:　Lesson 8　ショッピング
第 10 週:　Lesson 9　休日
第 11 週:　Lesson 10　大学生活
第 12 週:　Lesson 11　世界の国々
第 13 週:　Lesson 12　海外旅行（１）
第 14 週:　Lesson 13　海外旅行（２）
第 15 週:　全般的な復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JE0068A71
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる平常点（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価、なお、全授業回数の３分の１以上の欠席で失格とします。		
到達目標	相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. ネコ派 VS. イヌ派
2. サッカー派 VS. 野球派
3. 映画館派 VS. DVD 派
4. 子どもが好き派 VS. 子どもなんて大嫌い派
5. カラオケ大好き派 VS. カラオケ大嫌い派
6. 節約家 VS. 浪費家
7. 夏が大好き派 VS. 冬が大好き派
8. 洋食派 VS. 和食派
9. 独身キャリア派 VS. 結婚したい派
10. バーゲン品購入派 VS. 高級品購入派
11. ファストフード派 VS. ファストフード敬遠派
12. 愛煙家 VS.嫌煙派
13. コーヒー派 VS. 緑茶派
14. 収入重視派 VS. 愛情重視派
15. お化粧は自然派 VS.お化粧バッチリ派

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JE0068A73
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる平常点（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価、なお、全授業回数の３分の１以上の欠席で失格とします。		
到達目標	相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. ネコ派 VS. イヌ派
2. サッカー派 VS. 野球派
3. 映画館派 VS. DVD 派
4. 子どもが好き派 VS. 子どもなんて大嫌い派
5. カラオケ大好き派 VS. カラオケ大嫌い派
6. 節約家 VS. 浪費家
7. 夏が大好き派 VS. 冬が大好き派
8. 洋食派 VS. 和食派
9. 独身キャリア派 VS. 結婚したい派
10. バーゲン品購入派 VS. 高級品購入派
11. ファストフード派 VS. ファストフード敬遠派
12. 愛煙家 VS.嫌煙派
13. コーヒー派 VS. 緑茶派
14. 収入重視派 VS. 愛情重視派
15. お化粧は自然派 VS.お化粧バッチリ派

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JE0068A74
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる平常点（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価、なお、全授業回数の３分の１以上の欠席で失格とします。		
到達目標	相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. ネコ派 VS. イヌ派
2. サッカー派 VS. 野球派
3. 映画館派 VS. DVD 派
4. 子どもが好き派 VS. 子どもなんて大嫌い派
5. カラオケ大好き派 VS. カラオケ大嫌い派
6. 節約家 VS. 浪費家
7. 夏が大好き派 VS. 冬が大好き派
8. 洋食派 VS. 和食派
9. 独身キャリア派 VS. 結婚したい派
10. バーゲン品購入派 VS. 高級品購入派
11. ファストフード派 VS. ファストフード敬遠派
12. 愛煙家 VS.嫌煙派
13. コーヒー派 VS. 緑茶派
14. 収入重視派 VS. 愛情重視派
15. お化粧は自然派 VS.お化粧バッチリ派

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JE0068B03
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	総合英語Ｂ
講義概要	映画の中に出てくる食文化や食べ物を通して、映画を楽しみながら英語を学ぶ。		
教材（テキスト）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著　A Flavor of English: Cinema and Cuisine　映画で味わう食文化　￥１，７００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用してリスニング等を行うこともある。		
評価方法	中間・期末テストの平均点（６０％）　平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト〉（４０％）　全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる　（３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	基礎的な英文法を学習し、英文読解力をつけ、食文化を通して海外の文化への理解を深める。		
準備学習	準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明
２回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　前半
３回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　後半
４回目　　Chapter 3　Super Size Me　前半
５回目　　Chapter 3　Super Size Me　後半
６回目　　Chapter 7　No Reservations　前半
７回目　　Chapter 7　No Reservations　後半
８回目　　復習と授業内テスト
９回目　　Chapter 8　Dear Frankie　前半
１０回目　Chapter 8　Dear Frankie　後半
１１回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　前半
１２回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　後半
１３回目　Chapter11 Everybody’s Fine　前半
１４回目　Chapter11 Everybody’s Fine　後半
１５回目　Chapter12 The Witch of the West Is Dead
授業の進度・課は変わることがある。学期中に扱わない課は課題用に回すこともある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JE0068B04
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	塩田　英子	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な英語総合教材を使用し、英語の基礎力の定着を目指します。加えて、皆さんが英語に興味を持つためのヒントを提供していきたいとも思ってます。たとえばこの授業では毎回、映画を視聴し、その中の１シーンをとりあげてセリフの聞き取りを行う機会を持つ予定です。さらに、英語で書かれた日本の風物についての記事を読み、身近な出来事について英語を通して考える取り組みも行います。皆さんからの希望があれば適宜、TOEIC や英検などの資格試験に対応した問題演習を取り入れることも可能です。英語はあまり得意ではないけれど、映画や新聞の英語には興味があるという方も大歓迎です。いっしょに英語の世界を楽しみましょう。		
教材（テキスト）	(1) Kyoko Okamoto, Benedict Rowlett, Aya Kinoshita and Sara Ellis 著 『English Challenger (リーディングに役立つ基本英文法)』 Seibido　￥1,900＋税 (2) プリント教材１：日本のニュースを英語で読もう（Japan in English #1-10） (3) プリント教材２：生きた英語で耳を鍛えよう（Movie Script I (1)-(4), Movie Script 2 (1)-(4), Songs (1) & (2)）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて、CD や DVD を使用することがあります。		
評価方法	平常点(20%)：授業態度や各授業内容の理解度などから評価します。 復習テスト 1 (40%)：授業内に実施する復習テスト 1 の結果から評価します。 復習テスト 2 (40%)：授業内に実施する復習テスト 2 の結果から評価します。 ＊なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただし、3 分の 2 以上の出席があった場合、必ず合格するという意味ではないので注意すること。		
到達目標	1.大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着をはかります。 2.さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようにします。 3.日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および伝達する力を身につけます。		
準備学習	1.高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。 2.授業で扱ってほしい映画や洋楽などの題材があればぜひ教えてください。 3.各授業中に授業参加のための準備学習を指示します。		
受講者への要望			
1.英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 2.基礎英語以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修するようにしてください。 3.実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 4.授業中の私語や睡眠、テキストを忘れる等、授業態度にはくれぐれもご注意ください。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 初回オリエンテーション(授業の進め方について等) 第 2 回 Unit　8 Future Food (基礎と文法) + Japan in English #1 + Movie Script I (1) 第 3 回 Unit　8 Future Food (応用と読解) + Japan in English #2 + Movie Script I (2) 第 4 回 Unit　9 The Ideal Wedding (基礎と文法) + Japan in English #3 + Movie Script I (3) 第 5 回 Unit　9 The Ideal Wedding (応用と読解) + Japan in English #4 + Movie Script I (4) 第 6 回 Unit　10 How to Stay Young and Healthy (基礎と文法) + Japan in English # 5 + Songs (1) 第 7 回 Unit　10 How to Stay Young and Healthy (応用と読解) + Japan in English #1-5 の総復習 第 8 回 Unit　8 から Unit 10 の総括と総合課題(1)[第 2 回から第 7 回のまとめと応用] 第 9 回 Unit　11　Space Age (基礎と文法) + Japan in English #6 + Movie Script II (1) 第 10 回 Unit　11 Space Age (応用と読解) + Japan in English #7 + Movie Script II (2) 第 11 回 Unit　12 The Future of Medical Science (基礎と文法) + Japan in English #8 + Movie Script II (3) 第 12 回 Unit　12 The Future of Medical Science (応用と読解)+ Japan in English #9 + Movie Script II (4) 第 13 回 Unit　13 Uncontacted Tribes (基礎と文法)+ Japan in English #10 + Songs (2) 第 14 回 Unit 13 Uncontacted Tribes (応用と読解) + Japan in English # 6-10 の総復習			

第 15 回 Unit 11 から Unit 13 の総括と総合課題(2)[第 9 回から第 15 回のまとめと応用] ＊上記はあくまでも目安であり、変更の可能性があります。詳細は授業中に指示します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JE0068B51
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	「総合英語Ⅰ」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という４技能の活用力を養成します。本授業では特に、イギリスの文化やしきたりについて学びながら、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。		
教材（テキスト）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円. その他プリント教材.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。 その他授業中に指示します。		
教材（その他）	音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約１回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Introduction / Day 1? I Can’t Wait to Explore Britain!--?「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2 ?How about Going to a Pub?--「?パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3? The Scenery Is Breathtaking, Isn’t It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4? What Do You Suggest We Do Today?--「?雨の日には美術館へ」
5. Day 5? This Is a Multi-Ethnic Country--「?多民族社会イギリス」
6. Day 6? What’s It Like Being a Student in the UK?--「?大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7? Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8? You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9. Day 9? It’s Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10? Do You Fancy Something Sweet?--「?そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11 ?I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「?市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12? I’m Looking forward to Seeing Wales!--「?ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13? Don’t You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14 ?Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15 ?That’s the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待						

年度	2015	授業コード	JE0068B52
科目名	総合英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	比較的優しいテキストを使用し、英語を読む楽しさを実感していただきたいと思います。本文は 200 語から 250 語ほどですが、意味理解、音読、インテイク、プレアウトプットと、語学習得に必要なプロセスをたどりながら 英語のスキルを上げて行きます。		
教材（テキスト）	Casy Malarcher, Shinichi Harada 著　Basic Faster Reading [New Edition]，SEIBIDO		
教材（参考文献）	必要な場合は授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のた　めに授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1：　Lions
第　3 週:　Unit 2：　Ramen
第　4 週:　Unit 3：　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4：　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5：　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6：　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7：　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8：　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9：　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad，　全般的な復習

（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JE0068B53
科目名	総合英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	比較的優しいテキストを使用し、英語を読む楽しさを実感していただきたいと思います。本文は 200 語から 250 語ほどですが、意味理解、音読、インテイク、プレアウトプットと、語学習得に必要なプロセスをたどりながら 英語のスキルを上げて行きます。		
教材（テキスト）	Casy Malarcher, Shinichi Harada 著　Basic Faster Reading [New Edition]，SEIBIDO		
教材（参考文献）	必要な場合は授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のた　めに授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1：　Lions
第　3 週:　Unit 2：　Ramen
第　4 週:　Unit 3：　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4：　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5：　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6：　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7：　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8：　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9：　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad，　全般的な復習

（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JE0068B60
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	塩田　英子	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な英語総合教材を使用し、英語の基礎力の定着を目指します。加えて、皆さんが英語に興味を持つためのヒントを提供していきたいとも思ってます。たとえばこの授業では毎回、映画を視聴し、その中の１シーンをとりあげてセリフの聞き取りを行う機会を持つ予定です。さらに、英語で書かれた日本の風物についての記事を読み、身近な出来事について英語を通して考える取り組みも行います。皆さんからの希望があれば適宜、TOEIC や英検などの資格試験に対応した問題演習を取り入れることも可能です。英語はあまり得意ではないけれど、映画や新聞の英語には興味があるという方も大歓迎です。いっしょに英語の世界を楽しみましょう。		
教材（テキスト）	(1) Kyoko Okamoto, Benedict Rowlett, Aya Kinoshita and Sara Ellis 著 『English Challenger (リーディングに役立つ基本英文法)』 Seibido　￥1,900＋税 (2) プリント教材１：日本のニュースを英語で読もう（Japan in English #1-10） (3) プリント教材２：生きた英語で耳を鍛えよう（Movie Script I (1)-(4), Movie Script 2 (1)-(4), Songs (1) & (2)）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて、CD や DVD を使用することがあります。		
評価方法	平常点(20%)：授業態度や各授業内容の理解度などから評価します。 復習テスト 1 (40%)：授業内に実施する復習テスト 1 の結果から評価します。 復習テスト 2 (40%)：授業内に実施する復習テスト 2 の結果から評価します。 ＊なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただし、3 分の 2 以上の出席があった場合、必ず合格するという意味ではないので注意すること。		
到達目標	1.大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着をはかります。 2.さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようにします。 3.日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および伝達する力を身につけます。		
準備学習	1.高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。 2.授業で扱ってほしい映画や洋楽などの題材があればぜひ教えてください。 3.各授業中に授業参加のための準備学習を指示します。		
受講者への要望			
1.英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 2.基礎英語以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修するようにしてください。 3.実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 4.授業中の私語や睡眠、テキストを忘れる等、授業態度にはくれぐれもご注意ください。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 初回オリエンテーション(授業の進め方について等) 第 2 回 Unit　8 Future Food (基礎と文法) + Japan in English #1 + Movie Script I (1) 第 3 回 Unit　8 Future Food (応用と読解) + Japan in English #2 + Movie Script I (2) 第 4 回 Unit　9 The Ideal Wedding (基礎と文法) + Japan in English #3 + Movie Script I (3) 第 5 回 Unit　9 The Ideal Wedding (応用と読解) + Japan in English #4 + Movie Script I (4) 第 6 回 Unit　10 How to Stay Young and Healthy (基礎と文法) + Japan in English # 5 + Songs (1) 第 7 回 Unit　10 How to Stay Young and Healthy (応用と読解) + Japan in English #1-5 の総復習 第 8 回 Unit　8 から Unit 10 の総括と総合課題(1)[第 2 回から第 7 回のまとめと応用] 第 9 回 Unit　11　Space Age (基礎と文法) + Japan in English #6 + Movie Script II (1) 第 10 回 Unit　11 Space Age (応用と読解) + Japan in English #7 + Movie Script II (2) 第 11 回 Unit　12 The Future of Medical Science (基礎と文法) + Japan in English #8 + Movie Script II (3) 第 12 回 Unit　12 The Future of Medical Science (応用と読解)+ Japan in English #9 + Movie Script II (4) 第 13 回 Unit　13 Uncontacted Tribes (基礎と文法)+ Japan in English #10 + Songs (2) 第 14 回 Unit 13 Uncontacted Tribes (応用と読解) + Japan in English # 6-10 の総復習			

第 15 回 Unit 11 から Unit 13 の総括と総合課題(2)[第 9 回から第 15 回のまとめと応用] ＊上記はあくまでも目安であり、変更の可能性があります。詳細は授業中に指示します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JE0068B61
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 A」を発展させた形で授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、＜読む・書く・聞く・話す＞４技能の基礎力をさらに向上させる。テキストの読解と音読を通じて、英語文化に親しみ、英語によるグローバルなコミュニケーションの力を高める。＜読む・書く＞については、関係詞・不定詞・動名詞・分詞など等の文法項目や重要語句の意味を確認しながら、課題・発表を含む演習を実施する。＜聞く・話す＞については、「総合英語Ｉ」の授業に引き続き、日本語を母国語とする英語学習者向けのストレッチ式発声法を用いて、「ネイティブ発音」の技法＜発展編＞を練習する。またテキストＣＤのリスニング問題を解答し、その要約文を繰り返し音読・暗記することでスピーキング力を養う。		
教材（テキスト）	Basic Faster Reading〔New Edition〕 成美堂 1,900。		
教材（参考文献）	「ネイティブ発音」科学的上達法―おどろきのストレッチ式発声術　講談社（ブルーバックス新書）980。		
教材（その他）			
評価方法	積極的な学習態度・発表・授業内小テスト・学習ノート作成など等による平常点（30%）、レポート（20%）、定期テスト（50%）。全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格とする。（３分の２以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の４技能習得により、グローバル社会におけるコミュニケーション力をさらに向上させる。		
準備学習	予習と復習の課題を完成させる。各回授業に係る復習小テストをする。参考文献の重要事項について調べ、レポートを書く。		

受講者への要望

積極的な態度で授業に参加する。テキストと学習ノート等のほか、必ず辞書を持参する。毎授業時に学習ノートを作成する。遅刻、居眠り、私語その他学習の妨げになる行為は厳禁。

講義の順序とポイント

1．　オリエンテーション
2．　ライオンの生態：リスニングとスピーキングについて
3．　日本人の国民食：リーディングとライティングについて
4．　世界遺産・ピサの斜塔：発音記号と辞書の使い方＜発展篇＞
5．　言葉を理解する犬：文法と音法
6．　タブレットで読書：発音と発声、発話（１）
7．　バレンタイン・デー：文の音読（１）
8．　世界遺産・タージマハル：文法と読解（１）
9．　デスクトップパソコンとノートパソコン：発音と発声、発話（２）
10.　メビウスの輪：文の音読（２）
11.　休日に仕事を：文法と読解（２）
12.　アメリカの朝食：発音と発声、発話（３）
13.　FIFA ワールドカップ：文の音読（３）
14.　血液型で性格判断：文法と読解（３）
15.　テレビのリアリティ番組：まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	JE0068B62
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 A」を発展させた形で授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、＜読む・書く・聞く・話す＞４技能の基礎力をさらに向上させる。テキストの読解と音読を通じて、英語文化に親しみ、英語によるグローバルなコミュニケーションの力を高める。＜読む・書く＞については、関係詞・不定詞・動名詞・分詞など等の文法項目や重要語句の意味を確認しながら、課題・発表を含む演習を実施する。＜聞く・話す＞については、「総合英語Ｉ」の授業に引き続き、日本語を母国語とする英語学習者向けのストレッチ式発声法を用いて、「ネイティブ発音」の技法＜発展編＞を練習する。またテキストＣＤのリスニング問題を解答し、その要約文を繰り返し音読・暗記することでスピーキング力を養う。		
教材（テキスト）	Basic Faster Reading〔New Edition〕 成美堂 1,900。		
教材（参考文献）	「ネイティブ発音」科学的上達法―おどろきのストレッチ式発声術　講談社（ブルーバックス新書）980。		
教材（その他）			
評価方法	積極的な学習態度・発表・授業内小テスト・学習ノート作成など等による平常点（30%）、レポート（20%）、定期テスト（50%）。全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格とする。（３分の２以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の４技能習得により、グローバル社会におけるコミュニケーション力をさらに向上させる。		
準備学習	予習と復習の課題を完成させる。各回授業に係る復習小テストをする。参考文献の重要事項について調べ、レポートを書く。		

受講者への要望

積極的な態度で授業に参加する。テキストと学習ノート等のほか、必ず辞書を持参する。毎授業時に学習ノートを作成する。遅刻、居眠り、私語その他学習の妨げになる行為は厳禁。

講義の順序とポイント

1．　オリエンテーション
2．　ライオンの生態：リスニングとスピーキングについて
3．　日本人の国民食：リーディングとライティングについて
4．　世界遺産・ピサの斜塔：発音記号と辞書の使い方＜発展篇＞
5．　言葉を理解する犬：文法と音法
6．　タブレットで読書：発音と発声、発話（１）
7．　バレンタイン・デー：文の音読（１）
8．　世界遺産・タージマハル：文法と読解（１）
9．　デスクトップパソコンとノートパソコン：発音と発声、発話（２）
10．　メビウスの輪：文の音読（２）
11．　休日に仕事を：文法と読解（２）
12．　アメリカの朝食：発音と発声、発話（３）
13．　FIFA ワールドカップ：文の音読（３）
14．　血液型で性格判断：文法と読解（３）
15．　テレビのリアリティ番組：まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	JE0068B63
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という4技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語Ⅰ」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（テキスト）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る15日間の旅』金星堂. 1900円.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声CDを使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。 なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこ　れは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である1,500語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約１回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	JE0068B64
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という4技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語Ⅰ」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（テキスト）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る15日間の旅』金星堂. 1900円.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声CDを使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。 なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこ　れは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である1,500語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約１回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	

年度	2015	授業コード	JE0068B65
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる平常点（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価、なお、全授業回数の３分の１以上の欠席で失格とします。		
到達目標	相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. 田舎派 VS. 都会派
2. お肉大好き派 VS. ベジタリアン
3. お酒はたしなむ程度 VS. 大酒飲み
4. ショッピング派 VS. 観光派
5. 仕事と子育て両立派 VS. 子育て専念派
6. 孤独を楽しむ派 VS. 大勢で楽しむ派
7. エンタメ派 VS. ニュース派
8. 早起き派 VS. 宵っ張り派
9. 手紙派 VS. E メール派
10. ネット購入派 VS. お店で購入派
11. ビーチ派 VS. 登山派
12. ほめてしつけ派 VS.叱ってしつけ派
13. 一戸建て派 VS. マンション派
14. 会社勤め安定派 VS. 独立企業派
15. 楽観派 VS.悲観派

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JE0068B72
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる平常点（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価、なお、全授業回数の３分の１以上の欠席で失格とします。		
到達目標	相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. 田舎派 VS. 都会派
2. お肉大好き派 VS. ベジタリアン
3. お酒はたしなむ程度 VS. 大酒飲み
4. ショッピング派 VS. 観光派
5. 仕事と子育て両立派 VS. 子育て専念派
6. 孤独を楽しむ派 VS. 大勢で楽しむ派
7. エンタメ派 VS. ニュース派
8. 早起き派 VS. 宵っ張り派
9. 手紙派 VS. E メール派
10. ネット購入派 VS. お店で購入派
11. ビーチ派 VS. 登山派
12. ほめてしつけ派 VS.叱ってしつけ派
13. 一戸建て派 VS. マンション派
14. 会社勤め安定派 VS. 独立企業派
15. 楽観派 VS.悲観派

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JE0068B73
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Toshiaki Nishihara, Mayumi Nishihara, Amy Nukamuri 著 Better Health for Every Day,　　KINSEIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにします。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	・次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 ・毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨むんでください。 ・復習テストの準備をしてください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。
・授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1：　Fuel Your Body and Mind
第　3 週:　Unit 2：　What Helps Keep a Doctor Away?
第　4 週:　Unit 3：　Laughnig Will Save You from Going Crazy
第　5 週:　Unit 4：　The Fench Paradox
第　6 週:　Unit 5：　Americans' Interest in Sushi
第　7 週:　Unit 6：　Don't Stay Away from Natto
第　8 週:　Unit 7：　Acute Alcohol Intoxication Can Kill You
第　9 週:　Unit 8：　Is Snoring a Bad Sign?
第 10 週:　Unit 9：　Getting a Good Night's Sleep is a Challenge
第 11 週:　Unit 10 : Chocolate and its Magical Power
第 12 週:　Unit 11 : The Health Risks of Eating Processed Food
第 13 週:　Unit 12 : Is Genetically Modified Food Safe Enough?
第 14 週:　Unit 13 : Environmental Health Threats
第 15 週:　Unit 17：全般的な復習
Review Test 1.2 は学習の進捗状況により実施時期を判断します。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JE0068B74
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Toshiaki Nishihara, Mayumi Nishihara, Amy Nukamuri 著 Better Health for Every Day,　　KINSEIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにします。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	・次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 ・毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨むんでください。 ・復習テストの準備をしてください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。
・授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1：　Fuel Your Body and Mind
第　3 週:　Unit 2：　What Helps Keep a Doctor Away?
第　4 週:　Unit 3：　Laughnig Will Save You from Going Crazy
第　5 週:　Unit 4：　The Fench Paradox
第　6 週:　Unit 5：　Americans' Interest in Sushi
第　7 週:　Unit 6：　Don't Stay Away from Natto
第　8 週:　Unit 7：　Acute Alcohol Intoxication Can Kill You
第　9 週:　Unit 8：　Is Snoring a Bad Sign?
第 10 週:　Unit 9：　Getting a Good Night's Sleep is a Challenge
第 11 週:　Unit 10 : Chocolate and its Magical Power
第 12 週:　Unit 11 : The Health Risks of Eating Processed Food
第 13 週:　Unit 12 : Is Genetically Modified Food Safe Enough?
第 14 週:　Unit 13 : Environmental Health Threats
第 15 週:　Unit 17：全般的な復習
Review Test 1.2 は学習の進捗状況により実施時期を判断します。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JE0068B75
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Toshiaki Nishihara, Mayumi Nishihara, Amy Nukamuri 著 Better Health for Every Day,　　KINSEIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにします。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	・次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 ・毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨むんでください。 ・復習テストの準備をしてください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。
・授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1：　Fuel Your Body and Mind
第　3 週:　Unit 2：　What Helps Keep a Doctor Away?
第　4 週:　Unit 3：　Laughnig Will Save You from Going Crazy
第　5 週:　Unit 4：　The Fench Paradox
第　6 週:　Unit 5：　Americans' Interest in Sushi
第　7 週:　Unit 6：　Don't Stay Away from Natto
第　8 週:　Unit 7：　Acute Alcohol Intoxication Can Kill You
第　9 週:　Unit 8：　Is Snoring a Bad Sign?
第 10 週:　Unit 9：　Getting a Good Night's Sleep is a Challenge
第 11 週:　Unit 10 : Chocolate and its Magical Power
第 12 週:　Unit 11 : The Health Risks of Eating Processed Food
第 13 週:　Unit 12 : Is Genetically Modified Food Safe Enough?
第 14 週:　Unit 13 : Environmental Health Threats
第 15 週:　Unit 17：全般的な復習
Review Test 1.2 は学習の進捗状況により実施時期を判断します。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JE0068B76
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Casy Malarcher, Shinichi Harada 著　Basic Faster Reading [New Edition],　SEIBIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。
是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のために授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1 :　Lions
第　3 週:　Unit 2 :　Ramen
第　4 週:　Unit 3 :　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4 :　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5 :　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6 :　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7 :　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8 :　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9 :　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad ,　全般的な復習
（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JE0068B77
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Casy Malarcher, Shinichi Harada 著　Basic Faster Reading [New Edition],　SEIBIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。
是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のために授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1 :　Lions
第　3 週:　Unit 2 :　Ramen
第　4 週:　Unit 3 :　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4 :　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5 :　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6 :　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7 :　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8 :　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9 :　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad ,　全般的な復習
（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JE0068B78
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Casy Malarcher, Shinichi Harada 著　Basic Faster Reading [New Edition],　SEIBIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。
是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のために授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1 :　Lions
第　3 週:　Unit 2 :　Ramen
第　4 週:　Unit 3 :　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4 :　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5 :　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6 :　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7 :　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8 :　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9 :　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad ,　全般的な復習
（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★		

年度	2015	授業コード	JE0071004
科目名	基礎英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic English 1		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正確に英文を把握するためには単語力だけでなく、文法事項をしっかり理解しておくことが不可欠です。本講義では大量に実践問題やプリント教材を用いた英作問題に取り組みます。さらに、自宅学習用に課題プリントを毎回配布するので、宿題としてこなして提出して頂きます。継続して英語に触れることにより、今後の英語学習のために英文法の基礎固めを完成させ、TOEIC や英検といった資格検定突破へとつながるようにします。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	特に指定しませんが、大学入学前にしていた文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる平常点（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価、なお、全授業回数の３分の１以上の欠席で失格とします。		
到達目標	基本的な英文法を取得することで、英文を正しく理解することができるようにし、今後の英語学習の一助となるようにします。		
準備学習	常に指定した教材を持ち歩き、バスや電車を待っている間などの隙間時間を利用して英語の学習をするように心がけてください。授業で配布するプリントでどの箇所を予習、復習すべきかはその都度指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、受講者のレベルによって変更することもあります。

1. 授業の説明、英語の基本―動詞
2. 過去から未来へ―時制
3. 動詞のオシャレを演出―助動詞
4. 脇役じゃないの！―名詞
5. 豊かな表現力の持ち主―形容詞
6. どっちがお好き？最も好きなのは？―比較級
7. 愛されるよりも愛されたい―受動態
8. ここまでの復習、演習
9. バラエティーに富む会話のために―不定詞と動名詞
10. 英語にあって日本語にないもの―現在完了
11. 確認させて！―付加疑問文と間接疑問文
12. 英語の達人への道―関係代名詞
13. 形容詞のようになる！―現在分詞
14. ここまでの復習、演習
15. 定期試験に向けての復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	JE0071051
科目名	基礎英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic English 1		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正確に英文を把握するためには単語力だけでなく、文法事項をしっかり理解しておくことが不可欠です。本講義では大量に実践問題やプリント教材を用いた英作問題に取り組みます。さらに、自宅学習用に課題プリントを毎回配布するので、宿題としてこなして提出して頂きます。継続して英語に触れることにより、今後の英語学習のために英文法の基礎固めを完成させ、TOEIC や英検といった資格検定突破へとつながるようにします。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	特に指定しませんが、大学入学前にしていた文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる平常点（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価、なお、全授業回数の３分の１以上の欠席で失格とします。		
到達目標	基本的な英文法を取得することで、英文を正しく理解することができるようにし、今後の英語学習の一助となるようにします。		
準備学習	常に指定した教材を持ち歩き、バスや電車を待っている間などの隙間時間を利用して英語の学習をするように心がけてください。授業で配布するプリントでどの箇所を予習、復習すべきかはその都度指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、受講者のレベルによって変更することもあります。

1. 授業の説明、英語の基本―動詞
2. 過去から未来へ―時制
3. 動詞のオシャレを演出―助動詞
4. 脇役じゃないの！―名詞
5. 豊かな表現力の持ち主―形容詞
6. どっちがお好き？最も好きなのは？―比較級
7. 愛されるよりも愛されたい―受動態
8. ここまでの復習、演習
9. バラエティーに富む会話のために―不定詞と動名詞
10. 英語にあって日本語にないもの―現在完了
11. 確認させて！―付加疑問文と間接疑問文
12. 英語の達人への道―関係代名詞
13. 形容詞のようになる！―現在分詞
14. ここまでの復習、演習
15. 定期試験に向けての復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JE0072002
科目名	基礎英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic English 2		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正確に英文を把握するためには単語力だけでなく、文法事項をしっかり理解しておくことが不可欠です。本講義では大量に実践問題やプリント教材を用いた英作問題に取り組みます。さらに、自宅学習用に課題プリントを毎回配布するので、宿題としてこなして提出して頂きます。継続して英語に触れることにより、今後の英語学習のために英文法の基礎固めを完成させ、TOEIC や英検といった資格検定突破へとつながるようにします。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	特に指定しませんが、大学入学以前に利用していた文法書を持ち込むことを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる平常点（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価、なお、全授業回数の３分の１以上の欠席で失格とします。		
到達目標	高等学校レベルの英文法を中心に英語の基礎固めをすることを目標とします。		
準備学習	毎時間ごとにプリント教材の予習、復習の箇所を指摘し、宿題プリントを配布するのでそれらをこなすようにしてください。教材は常に持ち歩き、バスや電車を待つ間など隙間時間を見つけて英語に目を通すようにしてください。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1.まずは基本文型の把握を―第 2 文型、第 5 文型
2.十人十色―第 1 文型、第 3 文型、第 4 文型、様々な動詞
3.過去から未来に架ける橋―時制
4.ここまでの復習、演習
5.縁の下の力持ち―助動詞
6.マイペース主義者―不定詞
7.似て非なるもの―動名詞と分詞
8.比べてみない？―比較級①
9.比べてみない？―比較級②
10.バカにされてもほめられても―受動態
11.個々までの復習、演習
12.詳細は後ほど―関係詞①
13.詳細は後ほど―関係詞②
14.オバケの世界―仮定法①
15.オバケの世界―仮定法②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待				★		

年度	2015	授業コード	JE0072051
科目名	基礎英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic English 2		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正確に英文を把握するためには単語力だけでなく、文法事項をしっかり理解しておくことが不可欠です。本講義では大量に実践問題やプリント教材を用いた英作問題に取り組みます。さらに、自宅学習用に課題プリントを毎回配布するので、宿題としてこなして提出して頂きます。継続して英語に触れることにより、今後の英語学習のために英文法の基礎固めを完成させ、TOEIC や英検といった資格検定突破へとつながるようにします。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	特に指定しませんが、大学入学以前に利用していた文法書を持ち込むことを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる平常点（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価、なお、全授業回数の３分の１以上の欠席で失格とします。		
到達目標	高等学校レベルの英文法を中心に英語の基礎固めをすることを目標とします。		
準備学習	毎時間ごとにプリント教材の予習、復習の箇所を指摘し、宿題プリントを配布するのでそれらをこなすようにしてください。教材は常に持ち歩き、バスや電車を待つ間など隙間時間を見つけて英語に目を通すようにしてください。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1.まずは基本文型の把握を―第 2 文型、第 5 文型
2.十人十色―第 1 文型、第 3 文型、第 4 文型、様々な動詞
3.過去から未来に架ける橋―時制
4.ここまでの復習、演習
5.縁の下の力持ち―助動詞
6.マイペース主義者―不定詞
7.似て非なるもの―動名詞と分詞
8.比べてみない？―比較級①
9.比べてみない？―比較級②
10.バカにされてもほめられても―受動態
11.個々までの復習、演習
12.詳細は後ほど―関係詞①
13.詳細は後ほど―関係詞②
14.オバケの世界―仮定法①
15.オバケの世界―仮定法②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待				★		

年度	2015	授業コード	JH0001A01
科目名	入門スペイン語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Spanish (s)		
担当者名	村上　寿英	旧科目名称	
講義概要	スペイン語は日本語話者にとっては発音がなじみやすく、親しみやすい言語です。 世界で約 4 億人の話者人口を持ち、20 か国以上の国々で話されています。 入門スペイン語 s は初めてスペイン語を学ぶ方を対象とします。 スペイン語の発音やしくみに慣れることを目標にしていますので、内容は必要最小限のレベルに抑えています。授業はゆっくりと進めます。本授業を終える頃には挨拶や出身地を述べる等、スペイン語で簡単なコミュニケーションが取れるようになるでしょう。 また、適宜スペイン語圏の映像・音楽・映画等も紹介します。映像を通してスペイン語の背景にある様々な文化について、理解を深めます。		
教材（テキスト）	青砥清一ほか著　『Plaza Amigos －スペイン語で話そうⅠ－』　朝日出版社　2,052 円 高垣敏博ほか編　『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』　小学館　3,024 円 （スペイン語の電子辞書等を持っている方は改めて購入する必要はありません）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	文化紹介（DVD 使用）については講師作成のプリントを適宜配布します。		
評価方法	1.　毎回の授業の最初に実施する、前回授業の復習小テスト。 2.　定期テスト（60%）。平常点〈受講態度および上記小テストの平均点〉（40%）。		
到達目標	1.　スペイン語のしくみや発音に慣れる。 2.　挨拶や出身地などをスペイン語で表現できるようになる。		
準備学習	予習よりも復習を重視します。週 1 回の授業のため、学んだ文法事項は必ず復習をして次回の授業までに定着させておくこと。		

受講者への要望

初めての外国語を学ぶ場合、欠席すると次回の授業がわからなくなります。極力欠席をしないこと。
毎回の小テストは語学学習に重要な、復習を習慣にするための課題です。真摯な態度で臨むこと。

授業中の私語・飲食・スマートフォン操作は禁止。正当な理由のない遅刻は減点（1 回につきマイナス 3 点）の対象とする。

講義の順序とポイント

1.　授業の進め方、スペイン語圏についての概要、スペイン語の挨拶、アルファベット
2.　スペイン語の発音、アクセントの位置
3.　名詞の性と数
4.　定冠詞と不定冠詞
5.　形容詞の性と数
6.　指示詞
7.　主語（主格人称代名詞）、ser の直説法現在
8.　疑問文と否定文
9.　estar の直説法現在
10. ser と estar の比較
11. 所有詞前置形
12. hay の用法
13. estar と hay　の比較
14. 時刻・曜日・月日の表現
15. 入門スペイン語 s の総復習と解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待				★		

年度	2015	授業コード	JH0001A02
科目名	入門スペイン語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Spanish (s)		
担当者名	村上　寿英	旧科目名称	
講義概要	スペイン語は日本語話者にとっては発音がなじみやすく、親しみやすい言語です。 世界で約 4 億人の話者人口を持ち、20 か国以上の国々で話されています。 入門スペイン語 s は初めてスペイン語を学ぶ方を対象とします。 スペイン語の発音やしくみに慣れることを目標にしていますので、内容は必要最小限のレベルに抑えています。授業はゆっくりと進めます。本授業を終える頃には挨拶や出身地を述べる等、スペイン語で簡単なコミュニケーションが取れるようになるでしょう。 また、適宜スペイン語圏の映像・音楽・映画等も紹介します。映像を通してスペイン語の背景にある様々な文化について、理解を深めます。		
教材（テキスト）	青砥清一ほか著　『Plaza Amigos －スペイン語で話そうⅠ－』　朝日出版社　2,052 円 高垣敏博ほか編　『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』　小学館　3,024 円 （スペイン語の電子辞書等を持っている方は改めて購入する必要はありません）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	文化紹介（DVD 使用）については講師作成のプリントを適宜配布します。		
評価方法	1.　毎回の授業の最初に実施する、前回授業の復習小テスト。 2.　定期テスト（60%）。平常点〈受講態度および上記小テストの平均点〉（40%）。		
到達目標	1.　スペイン語のしくみや発音に慣れる。 2.　挨拶や出身地などをスペイン語で表現できるようになる。		
準備学習	予習よりも復習を重視します。週 1 回の授業のため、学んだ文法事項は必ず復習をして次回の授業までに定着させておくこと。		

受講者への要望

初めての外国語を学ぶ場合、欠席すると次回の授業がわからなくなります。極力欠席をしないこと。
毎回の小テストは語学学習に重要な、復習を習慣にするための課題です。真摯な態度で臨むこと。

授業中の私語・飲食・スマートフォン操作は禁止。正当な理由のない遅刻は減点（1 回につきマイナス 3 点）の対象とする。

講義の順序とポイント

1.　授業の進め方、スペイン語圏についての概要、スペイン語の挨拶、アルファベット
2.　スペイン語の発音、アクセントの位置
3.　名詞の性と数
4.　定冠詞と不定冠詞
5.　形容詞の性と数
6.　指示詞
7.　主語（主格人称代名詞）、ser の直説法現在
8.　疑問文と否定文
9.　estar の直説法現在
10. ser と estar の比較
11. 所有詞前置形
12. hay の用法
13. estar と hay　の比較
14. 時刻・曜日・月日の表現
15. 入門スペイン語 s の総復習と解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待				★		

年度	2015	授業コード	JH0001B01
科目名	入門スペイン語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Spanish (f)		
担当者名	村上　寿英	旧科目名称	
講義概要	スペイン語は日本語話者にとっては発音がなじみやすく、親しみやすい言語です。 世界で約 4 億人の話者人口を持ち、20 か国以上の国々で話されています。 本授業は入門スペイン語 s を終えた方を対象としています。 入門スペイン語 s と同様に授業はゆっくりと進めます。じっくりと学べるように、内容は必要最小限のレベルに抑えています。スペイン語の基礎文法を理解し、自分について簡単なスペイン語で表現できるようになることを目標とします。 入門スペイン語 s に引き続き、適宜スペイン語圏の映像・音楽・映画等も紹介します。映像を通してスペイン語の背景にある様々な文化について、理解を深めます。		
教材（テキスト）	青砥清一ほか著　『Plaza Amigos－スペイン語で話そうⅠ－』　朝日出版社　2,052 円 高垣敏博ほか編　『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』　小学館　3,024 円 （スペイン語の電子辞書等を持っている方は改めて購入する必要はありません）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	文化紹介（DVD 使用）については講師作成のプリントを適宜配布します。		
評価方法	1.　毎回の授業の最初に実施する、前回授業の復習小テスト。 2.　定期テスト（60%）。平常点〈受講態度および上記小テストの平均点〉（40%）。		
到達目標	簡単なスペイン語を用いて自己紹介ができるようになる。		
準備学習	予習よりも復習を重視します。週 1 回の授業のため、学んだ文法事項は必ず復習をして次回の授業までに定着させておくこと。		

受講者への要望

初めての外国語を学ぶ場合、欠席すると次回の授業がわからなくなります。極力欠席をしないこと。
毎回の小テストは語学学習に重要な、復習を習慣にするための課題です。真摯な態度で臨むこと。

授業中の私語・飲食・スマートフォン操作は禁止。正当な理由のない遅刻は減点（1 回につきマイナス 3 点）の対象とする。

講義の順序とポイント

1. 授業の進め方、入門スペイン語 s の復習
2. -ar 動詞の直説法現在、疑問詞の用法
3. 間接目的語につく前置詞 a、直接目的語が人間の場合につく前置詞 a
4. -er 動詞、-ir 動詞の直説法現在、所有詞後置形
5. querer の直説法現在
6. poder の直説法現在
7. hacer の直説法現在
8. tener の直説法現在
9. ir の直説法現在
10. venir の直説法現在
11. dar、saber の直説法現在
12. 目的格人称代名詞
13. 数字を用いた表現の復習
14. 学んだ表現を用いて自己紹介文を書く
15. 入門スペイン語 f の復習と解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JH0001B02
科目名	入門スペイン語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Spanish (f)		
担当者名	村上　寿英	旧科目名称	
講義概要	スペイン語は日本語話者にとっては発音がなじみやすく、親しみやすい言語です。 世界で約 4 億人の話者人口を持ち、20 か国以上の国々で話されています。 本授業は入門スペイン語 s を終えた方を対象としています。 入門スペイン語 s と同様に授業はゆっくりと進めます。じっくりと学べるように、内容は必要最小限のレベルに抑えています。スペイン語の基礎文法を理解し、自分について簡単なスペイン語で表現できるようになることを目標とします。 入門スペイン語 s に引き続き、適宜スペイン語圏の映像・音楽・映画等も紹介します。映像を通してスペイン語の背景にある様々な文化について、理解を深めます。		
教材（テキスト）	青砥清一ほか著　『Plaza Amigos－スペイン語で話そう Ⅰ－』　朝日出版社　2,052 円 高垣敏博ほか編　『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』　小学館　3,024 円 （スペイン語の電子辞書等を持っている方は改めて購入する必要はありません）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	文化紹介（DVD 使用）については講師作成のプリントを適宜配布します。		
評価方法	1.　毎回の授業の最初に実施する、前回授業の復習小テスト。 2.　定期テスト（60%）。平常点〈受講態度および上記小テストの平均点〉（40%）。		
到達目標	簡単なスペイン語を用いて自己紹介ができるようになる。		
準備学習	予習よりも復習を重視します。週 1 回の授業のため、学んだ文法事項は必ず復習をして次回の授業までに定着させておくこと。		

受講者への要望

初めての外国語を学ぶ場合、欠席すると次回の授業がわからなくなります。極力欠席をしないこと。
毎回の小テストは語学学習に重要な、復習を習慣にするための課題です。真摯な態度で臨むこと。

授業中の私語・飲食・スマートフォン操作は禁止。正当な理由のない遅刻は減点（1 回につきマイナス 3 点）の対象とする。

講義の順序とポイント

1. 授業の進め方、入門スペイン語 s の復習
2. -ar 動詞の直説法現在、疑問詞の用法
3. 間接目的語につく前置詞 a、直接目的語が人間の場合につく前置詞 a
4. -er 動詞、-ir 動詞の直説法現在、所有詞後置形
5. querer の直説法現在
6. poder の直説法現在
7. hacer の直説法現在
8. tener の直説法現在
9. ir の直説法現在
10. venir の直説法現在
11. dar、saber の直説法現在
12. 目的格人称代名詞
13. 数字を用いた表現の復習
14. 学んだ表現を用いて自己紹介文を書く
15. 入門スペイン語 f の復習と解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★		

年度	2015	授業コード	JH0002A01
科目名	スペイン語ｓ	単位数	2
科目名（英語表記）	Spanish (s)		
担当者名	村上　寿英	旧科目名称	
講義概要	スペイン語は日本語話者にとっては発音がなじみやすく、親しみやすい言語です。 世界で約 4 億人の話者人口を持ち、20 か国以上の国々で話されています。 本授業は入門スペイン語ｓ・ｆを終えた方を対象としています。入門スペイン語ｓ・ｆで学んだ文法事項を復習しながら、ヒアリングやディクテーション、作文に取り組みます。 入門スペイン語ｓ・ｆに引き続き、適宜スペイン語圏の映像・音楽・映画等も紹介します。映像を通してスペイン語の背景にある様々な文化について、理解を深めます。		
教材（テキスト）	青砥清一ほか著　『Plaza Amigos－スペイン語で話そうⅡ－』　朝日出版社　2,052 円 高垣敏博ほか著　『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』　小学館　3,024 円 （スペイン語の電子辞書等を持っている方は改めて購入する必要はありません）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	文化紹介（DVD 使用）については講師作成のプリントを適宜配布します。		
評価方法	1.　毎回の授業の最初に実施する、前回授業の復習小テスト。 2.　定期テスト（60%）。平常点〈受講態度および上記小テストの平均点〉（40%）。		
到達目標	1.　スペイン語の基礎文法を理解する。 2.　スペイン語の聴解、作文の力をつける		
準備学習	予習よりも復習を重視します。週 1 回の授業のため、学んだ文法事項は必ず復習をして次回の授業までに定着させておくこと。		

受講者への要望

極力欠席をしないこと。
毎回の小テストは語学学習に重要な、復習を習慣にするための課題です。真摯な態度で臨むこと。

授業中の私語・飲食・スマートフォン操作は禁止。正当な理由のない遅刻は減点（1 回につきマイナス 3 点）の対象とする。

講義の順序とポイント

1. 授業の進め方、入門スペイン語ｓ・ｆの復習
2. gustar の直説法現在、interesar の直説法現在
3. 前置詞格人称代名詞
4. pensar 型、volver 型の直説法現在
5. pedir 型の直説法現在
6. ver 、poder の直説法現在
7. decir の直説法現在とその他の動詞
8. 再帰動詞の用法 1
9. 再帰動詞の用法 2
10. 無人称文
11. 無意思表現
12. 比較表現
13. 感嘆文
14. 作文（自分についてスペイン語で表現する）
15. スペイン語ｓの総復習と解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	JH0002A02
科目名	スペイン語ｓ	単位数	2
科目名（英語表記）	Spanish (s)		
担当者名	村上　寿英	旧科目名称	
講義概要	スペイン語は日本語話者にとっては発音がなじみやすく、親しみやすい言語です。 世界で約 4 億人の話者人口を持ち、20 か国以上の国々で話されています。 本授業は入門スペイン語ｓ・ｆを終えた方を対象としています。入門スペイン語ｓ・ｆで学んだ文法事項を復習しながら、ヒアリングやディクテーション、作文に取り組みます。 入門スペイン語ｓ・ｆに引き続き、適宜スペイン語圏の映像・音楽・映画等も紹介します。映像を通してスペイン語の背景にある様々な文化について、理解を深めます。		
教材（テキスト）	青砥清一ほか著　『Plaza Amigos－スペイン語で話そうⅡ－』　朝日出版社　2,052 円 高垣敏博ほか著　『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』　小学館　3,024 円 （スペイン語の電子辞書等を持っている方は改めて購入する必要はありません）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	文化紹介（DVD 使用）については講師作成のプリントを適宜配布します。		
評価方法	1.　毎回の授業の最初に実施する、前回授業の復習小テスト。 2.　定期テスト（60%）。平常点〈受講態度および上記小テストの平均点〉（40%）。		
到達目標	1.　スペイン語の基礎文法を理解する。 2.　スペイン語の聴解、作文の力をつける		
準備学習	予習よりも復習を重視します。週 1 回の授業のため、学んだ文法事項は必ず復習をして次回の授業までに定着させておくこと。		

受講者への要望

極力欠席をしないこと。
毎回の小テストは語学学習に重要な、復習を習慣にするための課題です。真摯な態度で臨むこと。

授業中の私語・飲食・スマートフォン操作は禁止。正当な理由のない遅刻は減点（1 回につきマイナス 3 点）の対象とする。

講義の順序とポイント

1.　授業の進め方、入門スペイン語ｓ・ｆの復習
2.　gustar の直説法現在、interesar の直説法現在
3.　前置詞格人称代名詞
4.　pensar 型、volver 型の直説法現在
5.　pedir 型の直説法現在
6.　ver 、poder の直説法現在
7.　decir の直説法現在とその他の動詞
8.　再帰動詞の用法 1
9.　再帰動詞の用法 2
10. 無人称文
11. 無意思表現
12. 比較表現
13. 感嘆文
14. 作文（自分についてスペイン語で表現する）
15. スペイン語ｓの総復習と解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	JH0002B01
科目名	スペイン語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Spanish (f)		
担当者名	村上　寿英	旧科目名称	
講義概要	スペイン語は日本語話者にとっては発音がなじみやすく、親しみやすい言語です。 世界で約 4 億人の話者人口を持ち、20 か国以上の国々で話されています。 本授業はスペイン語 s を終えた方を対象としています。スペイン語の基礎文法を固め、ヒアリングやディクテーション、作文のほか、スペイン語の童話を読みます。 引き続き、適宜スペイン語圏の映像・音楽・映画等も紹介します。映像を通してスペイン語の背景にある様々な文化について、理解を深めます。		
教材（テキスト）	青砥清一ほか著　『Plaza Amigos－スペイン語で話そう II －』　朝日出版社　2,052 円 高垣敏博ほか編　『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』　小学館　3,024 円 （スペイン語の電子辞書等を持っている方は改めて購入する必要はありません）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	文化紹介（DVD 使用）については講師作成のプリントを適宜配布します。		
評価方法	1.　毎回の授業の最初に実施する、前回授業の復習小テスト。 2.　定期テスト（60%）。平常点〈受講態度および上記小テストの平均点〉（40%）。		
到達目標	1.　スペイン語の基礎文法を理解する。 2.　スペイン語の聴解、読解、作文の力をつける。		
準備学習	予習よりも復習を重視します。週 1 回の授業のため、学んだ文法事項は必ず復習をして次回の授業までに定着させておくこと。		

受講者への要望

極力欠席をしないこと。
毎回の小テストは語学学習に重要な、復習を習慣にするための課題です。真摯な態度で臨むこと。

授業中の私語・飲食・スマートフォン操作は禁止。正当な理由のない遅刻は減点（1 回につきマイナス 3 点）の対象とする。

講義の順序とポイント

1.　授業の進め方、スペイン語 s の復習
2.　過去分詞、直説法現在完了
3.　現在分詞
4.　直説法点過去（〜した：規則動詞）
5.　不定語と否定語のまとめ
6.　直説法点過去（〜した：不規則動詞）
7.　再帰動詞の点過去
8.　直説法線過去（〜していた：よく〜したものだ）
9.　再帰受身、無人称文、無意思表現
10. 直説法未来
11. 直説法過去未来
12. 命令文（肯定命令）
13. 命令文（否定命令）
14. やさしい童話を読む
15. スペイン語 f の総復習と解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	JH0002B02
科目名	スペイン語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Spanish (f)		
担当者名	村上　寿英	旧科目名称	
講義概要	スペイン語は日本語話者にとっては発音がなじみやすく、親しみやすい言語です。 世界で約 4 億人の話者人口を持ち、20 か国以上の国々で話されています。 本授業はスペイン語 s を終えた方を対象としています。スペイン語の基礎文法を固め、ヒアリングやディクテーション、作文のほか、スペイン語の童話を読みます。 引き続き、適宜スペイン語圏の映像・音楽・映画等も紹介します。映像を通してスペイン語の背景にある様々な文化について、理解を深めます。		
教材（テキスト）	青砥清一ほか著　『Plaza Amigos－スペイン語で話そう II －』　朝日出版社　2,052 円 高垣敏博ほか編　『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』　小学館　3,024 円 （スペイン語の電子辞書等を持っている方は改めて購入する必要はありません）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	文化紹介（DVD 使用）については講師作成のプリントを適宜配布します。		
評価方法	1.　毎回の授業の最初に実施する、前回授業の復習小テスト。 2.　定期テスト（60%）。平常点〈受講態度および上記小テストの平均点〉（40%）。		
到達目標	1.　スペイン語の基礎文法を理解する。 2.　スペイン語の聴解、読解、作文の力をつける。		
準備学習	予習よりも復習を重視します。週 1 回の授業のため、学んだ文法事項は必ず復習をして次回の授業までに定着させておくこと。		

受講者への要望

極力欠席をしないこと。
毎回の小テストは語学学習に重要な、復習を習慣にするための課題です。真摯な態度で臨むこと。

授業中の私語・飲食・スマートフォン操作は禁止。正当な理由のない遅刻は減点（1 回につきマイナス 3 点）の対象とする。

講義の順序とポイント

1.　授業の進め方、スペイン語 s の復習
2.　過去分詞、直説法現在完了
3.　現在分詞
4.　直説法点過去（～した：規則動詞）
5.　不定語と否定語のまとめ
6.　直説法点過去（～した：不規則動詞）
7.　再帰動詞の点過去
8.　直説法線過去（～していた：よく～したものだ）
9.　再帰受身、無人称文、無意思表現
10. 直説法未来
11. 直説法過去未来
12. 命令文（肯定命令）
13. 命令文（否定命令）
14. やさしい童話を読む
15. スペイン語 f の総復習と解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	JH0004A01
科目名	入門ドイツ語ｓ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (s)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｓ
講義概要	ドイツは９つの国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中核的存在として、その動向に何かと注目を集めている国です。「旅行は英語でまにあう」時代ではありますが、実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。なにより、英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもなります。この授業の目標は、ずばりコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするための文法の基礎を学びます。ドイツ語で投げかけられた質問に、正しい発音で応じられるようになることが、この授業の最終目標なのです。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		
受講者への要望			
語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。			
講義の順序とポイント			
1　発音の基礎（1） 2　発音の基礎（2） 3　出身や住まいをたずねる 4　趣味をたずねる 5　体調を説明する 6　否定する 7　時刻をたずねる 8　リフレクションテスト：正しい発音と動詞の人称変化ができるか 9　名詞の性 10　買物する 11　できるか 12　したいか 13　しなければいけないか 14　ヨーロッパへの旅行 15　リフレクションテスト：名詞の性を理解し、買物をしたり簡単な意志が伝えられるか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JH0004A02
科目名	入門ドイツ語ｓ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (s)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｓ
講義概要	ドイツは９つの国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中核的存在として、その動向に何かと注目を集めている国です。「旅行は英語でまにあう」時代ではありますが、実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。なにより、英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもなります。この授業の目標は、ずばりコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするための文法の基礎を学びます。ドイツ語で投げかけられた質問に、正しい発音で応じられるようになることが、この授業の最終目標なのです。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		
受講者への要望			
語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。			
講義の順序とポイント			
1　発音の基礎（1） 2　発音の基礎（2） 3　出身や住まいをたずねる 4　趣味をたずねる 5　体調を説明する 6　否定する 7　時刻をたずねる 8　リフレクションテスト：正しい発音と動詞の人称変化ができるか 9　名詞の性 10　買物する 11　できるか 12　したいか 13　しなければいけないか 14　ヨーロッパへの旅行 15　リフレクションテスト：名詞の性を理解し、買物をしたり簡単な意志が伝えられるか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JH0004A03
科目名	入門ドイツ語ｓ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (s)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｓ
講義概要	ドイツは９つの国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中核的存在として、その動向に何かと注目を集めている国です。「旅行は英語でまにあう」時代ではありますが、実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。なにより、英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもなります。この授業の目標は、ずばりコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするための文法の基礎を学びます。ドイツ語で投げかけられた質問に、正しい発音で応じられるようになることが、この授業の最終目標なのです。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		
受講者への要望			
語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。			
講義の順序とポイント			
1　発音の基礎（1） 2　発音の基礎（2） 3　出身や住まいをたずねる 4　趣味をたずねる 5　体調を説明する 6　否定する 7　時刻をたずねる 8　リフレクションテスト：正しい発音と動詞の人称変化ができるか 9　名詞の性 10　買物する 11　できるか 12　したいか 13　しなければいけないか 14　ヨーロッパへの旅行 15　リフレクションテスト：名詞の性を理解し、買物をしたり簡単な意志が伝えられるか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JH0004B01
科目名	入門ドイツ語ｆ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (f)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	前期に引き続いて、ドイツ語文法の基礎を学びながら様々なシーンで使える表現や語彙をさらに増やしていきます。ゲームや音楽、ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。ドイツ語の平易な文章を組み立てて、自発的に発話できるようになるレベルが、この授業の後期の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		
受講者への要望			
語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。			
講義の順序とポイント			
1　前期のおさらい：動詞がこなせるか 2　前期のおさらい：名詞がこなせるか 3　持っているか、持っていないか 4　簡単な感想を言えるか 5　どこへ行くか 6　誰と、どうやって行くか 7　話す・食べる 8　命令できるか 9　リフレクションテスト：前置詞と不規則変化動詞が使いこなせるか 10　何をプレゼントするか 11　気に入ってくれたか 12　どこへ行ったか 13　どう感じたか 14　ドイツ旅行 15　リフレクションテスト：過去の体験を語ることができるか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★	★★		★★

年度	2015	授業コード	JH0004B02
科目名	入門ドイツ語ｆ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (f)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	前期に引き続いて、ドイツ語文法の基礎を学びながら様々なシーンで使える表現や語彙をさらに増やしていきます。ゲームや音楽、ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。ドイツ語の平易な文章を組み立てて、自発的に発話できるようになるレベルが、この授業の後期の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		
受講者への要望			
語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。			
講義の順序とポイント			
1　前期のおさらい：動詞がこなせるか 2　前期のおさらい：名詞がこなせるか 3　持っているか、持っていないか 4　簡単な感想を言えるか 5　どこへ行くか 6　誰と、どうやって行くか 7　話す・食べる 8　命令できるか 9　リフレクションテスト：前置詞と不規則変化動詞が使いこなせるか 10　何をプレゼントするか 11　気に入ってくれたか 12　どこへ行ったか 13　どう感じたか 14　ドイツ旅行 15　リフレクションテスト：過去の体験を語ることができるか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★	★★		★★

年度	2015	授業コード	JH0004B03
科目名	入門ドイツ語ｆ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (f)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	前期に引き続いて、ドイツ語文法の基礎を学びながら様々なシーンで使える表現や語彙をさらに増やしていきます。ゲームや音楽、ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。ドイツ語の平易な文章を組み立てて、自発的に発話できるようになるレベルが、この授業の後期の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		
受講者への要望			
語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。			
講義の順序とポイント			
1　前期のおさらい：動詞がこなせるか 2　前期のおさらい：名詞がこなせるか 3　持っているか、持っていないか 4　簡単な感想を言えるか 5　どこへ行くか 6　誰と、どうやって行くか 7　話す・食べる 8　命令できるか 9　リフレクションテスト：前置詞と不規則変化動詞が使いこなせるか 10　何をプレゼントするか 11　気に入ってくれたか 12　どこへ行ったか 13　どう感じたか 14　ドイツ旅行 15　リフレクションテスト：過去の体験を語ることができるか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★	★★		★★

年度	2015	授業コード	JH0004B0A
科目名	入門ドイツ語ｆ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (f)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	前期に引き続いて、ドイツ語文法の基礎を学びながら様々なシーンで使える表現や語彙をさらに増やしていきます。ゲームや音楽、ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。ドイツ語の平易な文章を組み立てて、自発的に発話できるようになるレベルが、この授業の後期の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		
受講者への要望			
語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。			
講義の順序とポイント			
1　前期のおさらい：動詞がこなせるか 2　前期のおさらい：名詞がこなせるか 3　持っているか、持っていないか 4　簡単な感想を言えるか 5　どこへ行くか 6　誰と、どうやって行くか 7　話す・食べる 8　命令できるか 9　リフレクションテスト：前置詞と不規則変化動詞が使いこなせるか 10　何をプレゼントするか 11　気に入ってくれたか 12　どこへ行ったか 13　どう感じたか 14　ドイツ旅行 15　リフレクションテスト：過去の体験を語ることができるか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★	★★		★★

年度	2015	授業コード	JH0005A01
科目名	入門ドイツ語会話 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German Conversation (s)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	
講義概要	ドイツは 9 つの国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中核的存在として、その動向に何かと注目を集めている国です。「旅行は英語でまにあう」時代ではありますが、実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。なにより、英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもなります。この授業の目標は、ずばりコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をする練習を繰り返します。実践的なコミュニケーションを楽しく学んでいくこと、ドイツ語で投げかけられた質問に、臆することなく正しい発音で応じられるようになることが、この授業の最終目標なのです。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著『ネコと学ぶドイツ語』（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	自分にあう独和辞典を、各自ご用意ください。補助プリントは、毎時間配布します。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく毎時間出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

講義の順序とポイント

1　発音の基礎（1）
2　発音の基礎（2）
3　出身や住まいをたずねる
4　趣味をたずねる
5　体調を説明する
6　否定する
7　時刻をたずねる
8　リフレクションテスト：正しい発音と動詞の人称変化ができるか
9　名詞の性
10　買物する
11　できるか
12　したいか
13　しなければいけないか
14　ヨーロッパへの旅行
15　リフレクションテスト：名詞の性を理解し、買物をしたり簡単な意志が伝えられるか

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JH0005A02
科目名	入門ドイツ語会話 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German Conversation (s)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	
講義概要	ドイツは 9 つの国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中核的存在として、その動向に何かと注目を集めている国です。「旅行は英語でまにあう」時代ではありますが、実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。なにより、英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもなります。この授業の目標は、ずばりコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をする練習を繰り返します。実践的なコミュニケーションを楽しく学んでいくこと、ドイツ語で投げかけられた質問に、臆することなく正しい発音で応じられるようになることが、この授業の最終目標なのです。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著『ネコと学ぶドイツ語』（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	自分にあう独和辞典を、各自ご用意ください。補助プリントは、毎時間配布します。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく毎時間出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

講義の順序とポイント

1　発音の基礎（1）
2　発音の基礎（2）
3　出身や住まいをたずねる
4　趣味をたずねる
5　体調を説明する
6　否定する
7　時刻をたずねる
8　リフレクションテスト：正しい発音と動詞の人称変化ができるか
9　名詞の性
10　買物する
11　できるか
12　したいか
13　しなければいけないか
14　ヨーロッパへの旅行
15　リフレクションテスト：名詞の性を理解し、買物をしたり簡単な意志が伝えられるか

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JH0005B01
科目名	入門ドイツ語会話 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German Conversation (f)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	
講義概要	前期に引き続いて、ドイツ語文法の基礎を学びながら、実際に会話をする練習をします。ゲームや音楽、ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。ドイツ語でのコミュニケーションを積極的に楽しみ、自発的に発話できるようになるレベルが、この授業の後期の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著『ネコと学ぶドイツ語』（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	自分にあう独和辞典を、各自ご用意ください。補助プリントは、毎時間配布します。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復習すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業では毎回、前回の復習から入ります。		
受講者への要望			
語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。			
講義の順序とポイント			
1　前期のおさらい：動詞がこなせるか 2　前期のおさらい：名詞がこなせるか 3　持っているか、持っていないか 4　簡単な感想を言えるか 5　どこへ行くか 6　誰と、どうやって行くか 7　話す・食べる 8　命令できるか 9　リフレクションテスト：前置詞と不規則変化動詞が使いこなせるか 10　何をプレゼントするか 11　気に入ってくれたか 12　どこへ行ったか 13　どう感じたか 14　ドイツ旅行 15　リフレクションテスト：過去の体験を語ることができるか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JH0005B02
科目名	入門ドイツ語会話 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German Conversation (f)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	
講義概要	前期に引き続いて、ドイツ語文法の基礎を学びながら、実際に会話をする練習をします。ゲームや音楽、ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。ドイツ語でのコミュニケーションを積極的に楽しみ、自発的に発話できるようになるレベルが、この授業の後期の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著『ネコと学ぶドイツ語』（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	自分にあう独和辞典を、各自ご用意ください。補助プリントは、毎時間配布します。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復習すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業では毎回、前回の復習から入ります。		
受講者への要望			
語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。			
講義の順序とポイント			
1　前期のおさらい：動詞がこなせるか 2　前期のおさらい：名詞がこなせるか 3　持っているか、持っていないか 4　簡単な感想を言えるか 5　どこへ行くか 6　誰と、どうやって行くか 7　話す・食べる 8　命令できるか 9　リフレクションテスト：前置詞と不規則変化動詞が使いこなせるか 10　何をプレゼントするか 11　気に入ってくれたか 12　どこへ行ったか 13　どう感じたか 14　ドイツ旅行 15　リフレクションテスト：過去の体験を語ることができるか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JH0006A01
科目名	ドイツ語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	German (s)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	
講義概要	ドイツ語は英語に似ていますが、英語と比較して、文法規則が複雑な言語と言われています。ですから１年目のドイツ語教室では、自己表現のために最低限必要な文法規則を中心に学びました。この授業では、１年目に学んだ発音と文法の基礎をいかして、コミュニケーションに必要なドイツ語表現をさらに多く学びます。正しく書く練習、正しく発音する練習を繰り返しながら、様々なシーンで使える表現や語彙を増やしていくのが、このクラスの目標です。		
教材（テキスト）	リスニングやパートナー練習中心のテキストを、初回授業にプリントで配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	自分にあう独和辞典を、各自ご用意ください。補助プリントは、毎時間配布します。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		
受講者への要望			
語学は積み重ねが大事。とにかく毎時間出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。一年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。			
講義の順序とポイント			
1　発音の基礎（1） 2　発音の基礎（2） 3　人と知り合う：名前とスペル 4　人と知り合う：出身と住まい 5　人と知り合う：電話番号と値段 6　人と知り合う：インタビューを聴く 7　専攻と言語：基本的な表現 8　専攻と言語：授業予定を語る 9　専攻と言語：インタビューを聴く 10　リフレクションテスト：相手を知るために、質問をくりだせるか 11　趣味：基本的な表現 12　趣味：どちらが好みか 13　趣味：インタビューを聴く 14　趣味：ドイツ人と余暇 15　リフレクションテスト：趣味について、話題が展開できるか			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JH0006A02
科目名	ドイツ語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	German (s)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	
講義概要	ドイツ語は英語に似ていますが、英語と比較して、文法規則が複雑な言語と言われています。ですから１年目のドイツ語教室では、自己表現のために最低限必要な文法規則を中心に学びました。この授業では、１年目に学んだ発音と文法の基礎をいかして、コミュニケーションに必要なドイツ語表現をさらに多く学びます。正しく書く練習、正しく発音する練習を繰り返しながら、様々なシーンで使える表現や語彙を増やしていくのが、このクラスの目標です。		
教材（テキスト）	リスニングやパートナー練習中心のテキストを、初回授業にプリントで配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	自分にあう独和辞典を、各自ご用意ください。補助プリントは、毎時間配布します。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		
受講者への要望			
語学は積み重ねが大事。とにかく毎時間出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。一年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。			
講義の順序とポイント			
1　発音の基礎（1） 2　発音の基礎（2） 3　人と知り合う：名前とスペル 4　人と知り合う：出身と住まい 5　人と知り合う：電話番号と値段 6　人と知り合う：インタビューを聴く 7　専攻と言語：基本的な表現 8　専攻と言語：授業予定を語る 9　専攻と言語：インタビューを聴く 10　リフレクションテスト：相手を知るために、質問をくりだせるか 11　趣味：基本的な表現 12　趣味：どちらが好みか 13　趣味：インタビューを聴く 14　趣味：ドイツ人と余暇 15　リフレクションテスト：趣味について、話題が展開できるか			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JH0006B01
科目名	ドイツ語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	German (f)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	
講義概要	前期に引き続いて、１年目に学んだ発音と文法の基礎をいかしながら、コミュニケーションに必要なドイツ語表現をさらに多く学んでいく予定です。復習を繰り返すことで、過去に習った表現を確実に自分のものとし、実践的なコミュニケーションが自然にできるようになることを、後期の授業では目指していきます。		
教材（テキスト）	リスニングやパートナー練習中心のテキストを、初回授業に配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	自分にあう独和辞典を、各自ご用意ください。補助プリントは、毎時間配布します。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復習すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業では毎回、前回の復習から入ります。		
受講者への要望			
語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。一年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。			
講義の順序とポイント			
1　前期の復習：発音と表現の確認 2　ドイツ人の食生活：基本的な表現 3　ドイツ人の食生活：1 日の食パターン 4　ドイツ人の食生活：外食 5　ドイツ人の食生活：インタビューを聴く 6　ドイツ人の食生活：日本との比較 7　リフレクションテスト：食について、話題を展開できるか 8　家族と職業：基本的な表現 9　家族と職業：自分の家族を紹介する 10　家族と職業：写真を見て表現する 11　家族と職業：インタビューを聴く 12　持ち物：基本的な表現 13　持ち物：持っているか 14　持ち物：インタビューを聴く 15　リフレクションテスト：見たものについて、自由に感想を語れるか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JH0006B02
科目名	ドイツ語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	German (f)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	
講義概要	前期に引き続いて、１年目に学んだ発音と文法の基礎をいかしながら、コミュニケーションに必要なドイツ語表現をさらに多く学んでいく予定です。復習を繰り返すことで、過去に習った表現を確実に自分のものとし、実践的なコミュニケーションが自然にできるようになることを、後期の授業では目指していきます。		
教材（テキスト）	リスニングやパートナー練習中心のテキストを、初回授業に配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	自分にあう独和辞典を、各自ご用意ください。補助プリントは、毎時間配布します。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復習すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業では毎回、前回の復習から入ります。		
受講者への要望			
語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。一年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。			
講義の順序とポイント			
1　前期の復習：発音と表現の確認 2　ドイツ人の食生活：基本的な表現 3　ドイツ人の食生活：1 日の食パターン 4　ドイツ人の食生活：外食 5　ドイツ人の食生活：インタビューを聴く 6　ドイツ人の食生活：日本との比較 7　リフレクションテスト：食について、話題を展開できるか 8　家族と職業：基本的な表現 9　家族と職業：自分の家族を紹介する 10　家族と職業：写真を見て表現する 11　家族と職業：インタビューを聴く 12　持ち物：基本的な表現 13　持ち物：持っているか 14　持ち物：インタビューを聴く 15　リフレクションテスト：見たものについて、自由に感想を語れるか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JH0007A01
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　授業の説明 ハングルについて 2.　基本母音 3~5.　基本子音 6~7.　複合母音 8~9.　パッチム 10~12.　自己紹介の表現 「私は~です/ですか」 13~14.　有・無の表現 「時間ありますか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JH0007A02
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　授業の説明 ハングルについて 2.　基本母音 3~5.　基本子音 6~7.　複合母音 8~9.　パッチム 10~12.　自己紹介の表現 「私は~です/ですか」 13~14.　有・無の表現 「時間ありますか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JH0007A03
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　授業の説明 ハングルについて 2.　基本母音 3~5.　基本子音 6~7.　複合母音 8~9.　パッチム 10~12.　自己紹介の表現 「私は~です/ですか」 13~14.　有・無の表現 「時間ありますか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JH0007A04
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　授業の説明 ハングルについて 2.　基本母音 3~5.　基本子音 6~7.　複合母音 8~9.　パッチム 10~12.　自己紹介の表現 「私は~です/ですか」 13~14.　有・無の表現 「時間ありますか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JH0007B01
科目名	入門ハングル f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (f)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 『最新チャレンジ！韓国語』　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期の復習 2~3.　職業、趣味の表現 「それは何ですか」 4~5.　尊敬形の作り方 6~7.　うちとけた「です・ます」の作り方 「日曜日は何をしますか」 8~9.　数字を楽しもう 10~12.　変則用言 「何が好きですか」 13~14.　過去形の作り方 「週末に何をしましたか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JH0007B02
科目名	入門ハングル f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (f)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 『最新チャレンジ！韓国語』　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期の復習 2~3.　職業、趣味の表現 「それは何ですか」 4~5.　尊敬形の作り方 6~7.　うちとけた「です・ます」の作り方 「日曜日は何をしますか」 8~9.　数字を楽しもう 10~12.　変則用言 「何が好きですか」 13~14.　過去形の作り方 「週末に何をしましたか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JH0007B0A
科目名	入門ハングル f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (f)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 『最新チャレンジ！韓国語』　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期の復習 2~3.　職業、趣味の表現 「それは何ですか」 4~5.　尊敬形の作り方 6~7.　うちとけた「です・ます」の作り方 「日曜日は何をしますか」 8~9.　数字を楽しもう 10~12.　変則用言 「何が好きですか」 13~14.　過去形の作り方 「週末に何をしましたか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JH0007B0B
科目名	入門ハングル f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (f)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 『最新チャレンジ！韓国語』　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期の復習 2~3.　職業、趣味の表現 「それは何ですか」 4~5.　尊敬形の作り方 6~7.　うちとけた「です・ます」の作り方 「日曜日は何をしますか」 8~9.　数字を楽しもう 10~12.　変則用言 「何が好きですか」 13~14.　過去形の作り方 「週末に何をしましたか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JH0008A01
科目名	ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean (s)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	基礎韓国語の知識を土台しにして、簡単な韓国語の文章を読み、語彙力を増やしつつ、韓国語の理解力と運用能力を高めていく。 自分の意見や主張を文章化する作業を行い、状況矢場面に応じて自分の意見を適切に伝えることができるようになる。 授業ではことはだけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉、阪堂千津子、崔栄美　著 『ちょこっとチャレンジ！韓国語』　白水社、2400 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	韓国語の語彙力、会話力、読解力のスキル・アップを到達目標とする。 韓国の文化・生活などに対する理解を深める。 与えられたテーマについて、適切な語彙や文型を用いて、自分の意見や主張を述べることができるようにする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
異文化に対する知的好奇と心理解心を持つこと。 外国語を学ぶ際、「間違うこと」って当然あります。「間違った」ことで悩まずに、間違っても良いので、積極的な姿勢を心掛けてください。			
講義の順序とポイント			
1~2.　授業の説明 前学年の復習 3~4.　再開の挨拶 「空港に出迎え」 5~6.　状況をより詳しく表現 「部屋探し」 7~8.　自分ことを話す 「自己紹介」 9~10.　尊敬の表現 「友達の家で」 11~12.　様子から推測、判断 「帰り道」 13~14.　素直な気持ちを表現 「百日記念日」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JH0008A02
科目名	ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean (s)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	基礎韓国語の知識を土台しにして、簡単な韓国語の文章を読み、語彙力を増やしつつ、韓国語の理解力と運用能力を高めていく。 自分の意見や主張を文章化する作業を行い、状況矢場面に応じて自分の意見を適切に伝えることができるようになる。 授業ではことはだけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉、阪堂千津子、崔栄美　著 『ちょこっとチャレンジ！韓国語』　白水社、2400 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	韓国語の語彙力、会話力、読解力のスキル・アップを到達目標とする。 韓国の文化・生活などに対する理解を深める。 与えられたテーマについて、適切な語彙や文型を用いて、自分の意見や主張を述べることができるようにする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
異文化に対する知的好奇と心理解心を持つこと。 外国語を学ぶ際、「間違うこと」って当然あります。「間違った」ことで悩まずに、間違っても良いので、積極的な姿勢を心掛けてください。			
講義の順序とポイント			
1~2.　授業の説明 前学年の復習 3~4.　再開の挨拶 「空港に出迎え」 5~6.　状況をより詳しく表現 「部屋探し」 7~8.　自分ことを話す 「自己紹介」 9~10.　尊敬の表現 「友達の家で」 11~12.　様子から推測、判断 「帰り道」 13~14.　素直な気持ちを表現 「百日記念日」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JH0008B01
科目名	ハングル f	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean (f)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	基礎韓国語の知識を土台しにして、簡単な韓国語の文章を読み、語彙力を増やしつつ、韓国語の理解力と運用能力を高めていく。 自分の意見や主張を文章化する作業を行い、状況矢場面に応じて自分の意見を適切に伝えることができるようになる。 授業ではことはだけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉、阪堂千津子、崔栄美　著 『ちょこっとチャレンジ！韓国語』　白水社、2400 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	韓国語の語彙力、会話力、読解力のスキル・アップを到達目標とする。 韓国の文化・生活などに対する理解を深める。 与えられたテーマについて、適切な語彙や文型を用いて、自分の意見や主張を述べることができるようにする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
異文化に対する知的好奇と心理解心を持つこと。 外国語を学ぶ際、「間違うこと」って当然あります。「間違った」ことで悩まずに、間違っても良いので、積極的な姿勢を心掛けてください。			
講義の順序とポイント			
1~2.　春学期の復習 3~4.　注意や指示 「引っ越しの日」 5~6.　やりもらい表現 「汽車に乗ってお出かけ」 7~8.　説明や描写 「村の風景」 9~10.　忠告やアドバイス 「友達を訪ねて」 11~12.　他人の話を伝える 「下宿に帰って」 13~14.　許可と禁止 「診察を受ける」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JH0008B02
科目名	ハングル f	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean (f)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	基礎韓国語の知識を土台しにして、簡単な韓国語の文章を読み、語彙力を増やしつつ、韓国語の理解力と運用能力を高めていく。 自分の意見や主張を文章化する作業を行い、状況矢場面に応じて自分の意見を適切に伝えることができるようになる。 授業ではことはだけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉、阪堂千津子、崔栄美　著 『ちょこっとチャレンジ！韓国語』　白水社、2400 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	韓国語の語彙力、会話力、読解力のスキル・アップを到達目標とする。 韓国の文化・生活などに対する理解を深める。 与えられたテーマについて、適切な語彙や文型を用いて、自分の意見や主張を述べることができるようにする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
異文化に対する知的好奇と心理解心を持つこと。 外国語を学ぶ際、「間違うこと」って当然あります。「間違った」ことで悩まずに、間違っても良いので、積極的な姿勢を心掛けてください。			
講義の順序とポイント			
1~2.　春学期の復習 3~4.　注意や指示 「引っ越しの日」 5~6.　やりもらい表現 「汽車に乗ってお出かけ」 7~8.　説明や描写 「村の風景」 9~10.　忠告やアドバイス 「友達を訪ねて」 11~12.　他人の話を伝える 「下宿に帰って」 13~14.　許可と禁止 「診察を受ける」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JH0010A01
科目名	入門フランス語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (s)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	定期テスト（70%）、授業内小テスト等による平常点（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 授業への積極的な参加を期待しています。
2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに
02. Le?on 00 発音と構文-1
03. Le?on 00 発音と構文-2 （フランス文化解説）
04. Le?on 01 挨拶の表現-1
05. Le?on 01 挨拶の表現-2 （フランス文化解説）
06. Le?on 02 身分・職業・国籍について-1
07. Le?on 02 身分・職業・国籍について-2 （フランス文化解説）
08. Le?on 03 名前・住所について-1
09. Le?on 03 名前・住所について-2 （フランス文化解説）
10. Le?on 04 所有-1
11. Le?on 04 所有-2 （フランス文化解説）
12. Le?on 05 好み・嗜好について-1
13. Le?on 05 好み・嗜好について-2 （フランス文化解説）
14. Le?on 06 言語能力-1
15. Le?on 06 言語能力-2 （フランス文化解説）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★				

年度	2015	授業コード	JH0010A02
科目名	入門フランス語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (s)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	定期テスト（70%）、授業内小テスト等による平常点（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 授業への積極的な参加を期待しています。
2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに
02. Le?on 00 発音と構文-1
03. Le?on 00 発音と構文-2 （フランス文化解説）
04. Le?on 01 挨拶の表現-1
05. Le?on 01 挨拶の表現-2 （フランス文化解説）
06. Le?on 02 身分・職業・国籍について-1
07. Le?on 02 身分・職業・国籍について-2 （フランス文化解説）
08. Le?on 03 名前・住所について-1
09. Le?on 03 名前・住所について-2 （フランス文化解説）
10. Le?on 04 所有-1
11. Le?on 04 所有-2 （フランス文化解説）
12. Le?on 05 好み・嗜好について-1
13. Le?on 05 好み・嗜好について-2 （フランス文化解説）
14. Le?on 06 言語能力-1
15. Le?on 06 言語能力-2 （フランス文化解説）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★				

年度	2015	授業コード	JH0010A03
科目名	入門フランス語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (s)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人...「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	定期テスト（70%）、授業内小テスト等による平常点（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		
受講者への要望			
1） 授業への積極的な参加を期待しています。 2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。 3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。			
講義の順序とポイント			
01. はじめに 02. Le?on 00 発音と構文-1 03. Le?on 00 発音と構文-2 （フランス文化解説） 04. Le?on 01 挨拶の表現-1 05. Le?on 01 挨拶の表現-2 （フランス文化解説） 06. Le?on 02 身分・職業・国籍について-1 07. Le?on 02 身分・職業・国籍について-2 （フランス文化解説） 08. Le?on 03 名前・住所について-1 09. Le?on 03 名前・住所について-2 （フランス文化解説） 10. Le?on 04 所有-1 11. Le?on 04 所有-2 （フランス文化解説） 12. Le?on 05 好み・嗜好について-1 13. Le?on 05 好み・嗜好について-2 （フランス文化解説） 14. Le?on 06 言語能力-1 15. Le?on 06 言語能力-2 （フランス文化解説）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★				

年度	2015	授業コード	JH0010B01
科目名	入門フランス語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (f)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	定期テスト（70%）、授業内小テスト等による平常点（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 授業への積極的な参加を期待しています。
2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに
02. Le?on 07 年齢について-1
03. Le?on 07 年齢について-2 （フランス文化解説）
04. Le?on 08 時間・天候について-1
05. Le?on 08 時間・天候について-2 （フランス文化解説）
06. Le?on 09 身長・体重について-1
07. Le?on 09 身長・体重について-2 （フランス文化解説）
08. Le?on 10 予定と確かな予定-1
09. Le?on 10 予定と確かな予定-2 （フランス文化解説）
10. Le?on 11 相手のことについて-1
11. Le?on 11 相手のことについて-2 （フランス文化解説）
12. Le?on 12 完了・経験（1）-1
13. Le?on 12 完了・経験（1）-2 （フランス文化解説）
14. Le?on 13 完了・経験（2）-1
15. Le?on 13 完了・経験（2）-2 （フランス文化解説）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★				

年度	2015	授業コード	JH0010B02
科目名	入門フランス語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (f)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人...「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	定期テスト（70%）、授業内小テスト等による平常点（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 授業への積極的な参加を期待しています。
2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに
02. Le?on 07 年齢について-1
03. Le?on 07 年齢について-2 （フランス文化解説）
04. Le?on 08 時間・天候について-1
05. Le?on 08 時間・天候について-2 （フランス文化解説）
06. Le?on 09 身長・体重について-1
07. Le?on 09 身長・体重について-2 （フランス文化解説）
08. Le?on 10 予定と確かな予定-1
09. Le?on 10 予定と確かな予定-2 （フランス文化解説）
10. Le?on 11 相手のことについて-1
11. Le?on 11 相手のことについて-2 （フランス文化解説）
12. Le?on 12 完了・経験（1）-1
13. Le?on 12 完了・経験（1）-2 （フランス文化解説）
14. Le?on 13 完了・経験（2）-1
15. Le?on 13 完了・経験（2）-2 （フランス文化解説）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★				

年度	2015	授業コード	JH0010B03
科目名	入門フランス語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (f)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	定期テスト（70%）、授業内小テスト等による平常点（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 授業への積極的な参加を期待しています。
2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに
02. Le?on 07 年齢について-1
03. Le?on 07 年齢について-2 （フランス文化解説）
04. Le?on 08 時間・天候について-1
05. Le?on 08 時間・天候について-2 （フランス文化解説）
06. Le?on 09 身長・体重について-1
07. Le?on 09 身長・体重について-2 （フランス文化解説）
08. Le?on 10 予定と確かな予定-1
09. Le?on 10 予定と確かな予定-2 （フランス文化解説）
10. Le?on 11 相手のことについて-1
11. Le?on 11 相手のことについて-2 （フランス文化解説）
12. Le?on 12 完了・経験（1）-1
13. Le?on 12 完了・経験（1）-2 （フランス文化解説）
14. Le?on 13 完了・経験（2）-1
15. Le?on 13 完了・経験（2）-2 （フランス文化解説）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★				

年度	2015	授業コード	JH0011A01
科目名	フランス語ｓ	単位数	2
科目名（英語表記）	French (s)		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	自然な方法でフランス語を学びましょう。フランス語話者とコミュニケーションをとることに重点を置き、小さいグループやペアで練習します。各学期１つ映画鑑賞を通して、振る舞いやリアルなフランス語に慣れ親しみましょう。		
教材（テキスト）	Interactions 1, Niveau 1 - A1.1, 著者 : Gael Crepieux, Olivier Masse and Jean-Philippe Rousse, 編集 CLE International ISBN 978-2-09-038699-8		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業出席・態度：２０％ 口頭小テスト：４０％ 筆記小テスト：４０％		
到達目標	フランス語話者とコミュニケーションができるようになるために、振る舞いに慣れ、またフランス語の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。		

受講者への要望

毎回の授業出席に加え、グループワークでの他の学生との共同作業。

講義の順序とポイント

01 講義についての説明
02 初対面１　―　オーラルコミュニケーション（１）
03 初対面２　―　読み方
04 初対面３　―　書き方
05 初対面４　―　オーラルコミュニケーション（２）
07 詳しい紹介１　―　オーラルコミュニケーション（１）
08 詳しい紹介２　―　読み方
09 詳しい紹介３　―　書き方
10 詳しい紹介４　―　オーラルコミュニケーション（２）
11 連絡先交換１　―　オーラルコミュニケーション（１）
12 連絡先交換２　―　読み方・書き方
13 連絡先交換３　―　オーラルコミュニケーション（２）
14 映画を通してフランス語と振る舞いについて慣れ親しむ（１）
15 映画を通してフランス語と振る舞いについて慣れ親しむ（２）

講義計画は変更する可能性があります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JH0011A02
科目名	フランス語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	French (s)		
担当者名	阪上　進一	旧科目名称	
講義概要	昨年度の「入門フランス語」と同様に、学生の理解を基本方針として、一緒に発音や練習を繰り返してゆく間にフランス語がゆるやかに定着することを目指して授業を進めてゆく。折に触れ、フランスの映像も紹介して、広い意味でのフランス文化への関心も広げてゆきながら、無理なくフランス語の世界を楽しめるように図ってゆく。尚、この授業は、昨年度の「入門フランス語」で使ったテキストをそのまま使用し、同時に昨年度の授業内容を引き継いでいる。 授業は、今までに学んできたフランス語および９課の簡単な復習から始め、引き続きフランス語の習得を図り運用能力の獲得に努めてゆく。尚、授業の後半で、それまでに学んだ動詞の時制を使って、過去や未来の行動を表現する簡単なレポートを作成する。		
教材（テキスト）	斎藤昌三著、『ル・フランセ・ファシル』、白水社、およびプリント		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への取り組み姿勢等による平常点（３０％）、レポート（２０％）、テスト（５０％）		
到達目標	フランス語運用能力の獲得に必要な「読み、書き、聴く、話す」の４技能を全体的に向上させる。		
準備学習	予習復習に努め学習の準備を整えておく。		
受講者への要望			
分かりやすく楽しい授業を目指してゆくので、授業への積極的な参加を期待している。			
講義の順序とポイント			
１：昨年度の復習および９課の復習① ２：昨年度の復習および９課の復習② ３：９課：代名動詞 ４：１０課：時制一般と複合過去の説明、過去分詞の作り方 ５：１０課：複合過去（avoir と共に） ６：１０課：複合過去（?tre と共に） ７：１１課：半過去 ８：１１課：大過去 ９：１１課：中性代名詞（le, en ,y） 10：１２課：単純未来形 11：１２課：強調構文 12：１２課：非人称構文（天候等） 13：数字（２０～１００万)、曜日、日付の表現等 14：受動態 15：レポートの説明、春学期のまとめと復習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JH0011B01
科目名	フランス語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	French (f)		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	自然な方法でフランス語を学びましょう。フランス語話者とコミュニケーションをとることに重点を置き、小さいグループやペアで練習します。各学期１つ映画鑑賞を通して、振る舞いやリアルなフランス語に慣れ親しみましょう。		
教材（テキスト）	Interactions 1, Niveau 1 - A1.1, 著者 : Gael Crepieux, Olivier Masse and Jean-Philippe Rousse, 編集 CLE International ISBN 978-2-09-038699-8		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント配布やビデオ		
評価方法	授業出席・態度：２０％ 口頭小テスト：４０％ 筆記小テスト：４０％		
到達目標	フランス語話者とコミュニケーションができるようになるために、振る舞いに慣れ、またフランス語の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。		

受講者への要望

毎回の授業出席に加え、グループワークでの他の学生との共同作業。

講義の順序とポイント

０１　個人の好みや嗜好１　―　オーラルコミュニケーション（１）
０２　個人の好みや嗜好２　―　読み方
０３　個人の好みや嗜好３　―　書き方
０４　個人の好みや嗜好４　―　オーラルコミュニケーション（２）
０５　復習１
０６　趣味と提案１　―　オーラルコミュニケーション（１）
０７　趣味と提案２　―　読み方
０８　趣味と提案３　―　書き方
０９　趣味と提案４　―　オーラルコミュニケーション（２）
１０　所有と願望１　―　オーラルコミュニケーション（１）
１１　所有と願望２　―　読み方
１２　所有と願望３　―　書き方
１３　所有と願望４　―　オーラルコミュニケーション（２）
１４　映画を通してフランス語と振る舞いについて慣れ親しむ（１）
１５　映画を通してフランス語と振る舞いについて慣れ親しむ（２）

講義計画及び内容は変更する可能性があります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JH0011B02
科目名	フランス語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	French (f)		
担当者名	阪上　進一	旧科目名称	
講義概要	春学期と同様に、学生の理解を基本方針として、一緒に発音や練習を繰り返してゆく間にフランス語がゆるやかに定着することを目指して授業を進めてゆく。折に触れ、フランスの映像も紹介して、広い意味でのフランス文化への関心も広げてゆきながら、無理なくフランス語の世界を楽しめるように図ってゆく。 授業は、春学期まで使用したテキストに含まれていない残りの文法項目を学習してゆくので、プリントを配り教材として使用する。先ず春学期に学んだ時制の簡単な復習から初めて、引き続きフランス語の習得を図り運用能力の獲得に努めてゆく。フランス語の文法を学習し終えた時点で、簡単なフランス語の文章の読解や会話練習を試みる予定である。尚、授業の後半で、レポートとして、今まで学んできた文法項目を使った作文練習を行いフランス語の文章を作成する。		
教材（テキスト）	プリント		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への取り組み姿勢等による平常点（３０％）、レポート（２０％）、テスト（５０％）		
到達目標	フランス語運用能力の獲得に必要な「読み、書き、聴く、話す」の４技能を全体的に向上させる。		
準備学習	予習復習に努め学習の準備を整えておく。		
受講者への要望			
分かりやすく楽しい授業を目指してゆくので、授業への積極的な参加を期待している。			
講義の順序とポイント			
１：春学期の復習（時制）① ２：春学期の復習（時制）② ３：関係代名詞① ４：関係代名詞② ５：関係代名詞③ ６：現在分詞 ７：ジェロンディフ ８：条件法現在 ９：条件法過去 10：接続法現在 11：接続法過去 12：フランス文の読解および会話練習① 13：フランス文の読解および会話練習② 14：フランス文の読解および会話練習③ 15：レポートの説明、秋学期のまとめと復習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JH0012A01
科目名	フランス語講読 s	単位数	2
科目名（英語表記）	French Reading (s)		
担当者名	池田　潤	旧科目名称	
講義概要	フランス語で書かれた時事ニュースを読み、フランス語の力をつけるだけでなく、フランスの文化にも親しみます。授業では、テキストを日本語訳しながら、表現や文法のポイントを確認し、確実な読みの力を高めます。また、発音のポイントを確認しながら音読練習をしたり、テキストの内容について参加者どうしで意見交換することで、会話力の向上もめざします。さらに、参加者の興味関心にもとづいて、フランス文化の紹介も随時行っていきます。		
教材（テキスト）	『A la page actualit?s francaises 2015』朝日出版社、１９００円＋税		
教材（参考文献）	仏和辞典（電子辞書も可）を持参することが望ましい。		
教材（その他）	授業中に適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（20%）出席状況等による。　小テスト（30%）　定期テスト（50%）		
到達目標	・フランス語で書かれた文章を、辞書を用いて正確に読み取れるようになる ・フランス語の基礎的な文法をしっかりと身につける。 ・フランス語の文章を正しい発音で音読できるようになる。		
準備学習	教科書はフランス語の短い文章と練習問題で構成されています。 これまでに勉強した文法事項の確認は授業中にもしますが、自分でも復習しましょう。 どういった項目を復習すればよいかは、授業中に指示します。		
受講者への要望			
これまでに勉強したことを活用して、さらにフランス語、フランス文化に親しみましょう。			
講義の順序とポイント			
1. 初・中級文法の復習（1） 2. 初・中級文法の復習（2） 3. テクスト1　フランスのメディア（1） 4. テクスト2　フランスのメディア（2） 5. 練習問題 6. 複合過去の復習、過去分詞（1） 7. 複合過去の復習、過去分詞（2） 8. テクスト2　音楽祭（1） 9. テクスト2　音楽祭（2） 10. 練習問題 11. 非人称構文の復習（1） 12. 非人称構文の復習（2） 13. テクスト3　教育制度（1） 14. テクスト3　教育制度（2） 15. 練習問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★		★	★

年度	2015	授業コード	JH0012B01
科目名	フランス語講読 f	単位数	2
科目名（英語表記）	French Reading (f)		
担当者名	池田　潤	旧科目名称	
講義概要	フランス語で書かれた時事ニュースを読み、フランス語の力をつけるだけでなく、フランスの文化にも親しみます。授業では、テキストを日本語訳しながら、表現や文法のポイントを確認し、確実な読みの力を高めます。また、発音のポイントを確認しながら音読練習をしたり、テキストの内容について参加者どうしで意見交換することで、会話力の向上もめざします。さらに、参加者の興味関心にもとづいて、フランス文化の紹介も随時行っていきます。		
教材（テキスト）	『A la page actualites fran?aises 2015』朝日出版社、１９００円＋税		
教材（参考文献）	仏和辞書（電子辞書可）を持参することが望ましい。		
教材（その他）	授業中に適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（出席状況などによる）20% 小テスト 30% 定期テスト 50%		
到達目標	・フランス語で書かれた文章を、辞書を用いて正確に読み取れるようになる ・フランス語の基礎的な文法をしっかりと身につける。 ・フランス語の文章を黙読するだけでなく、正しい発音で音読ができるようになる。		
準備学習	前期に引き続き、フランスの時事問題に関係する文章を読みながら、フランス語力を高めていきます。 自分でも、フランスのメディアに接してみましょう。授業中に、アクセス方法を教えます。		
受講者への要望			
外国についての知識は、自国について考える際にも役立ちます。 授業で用いる教材を出発点にして、フランスについてみずからの関心を深めてください。			
講義の順序とポイント			
1. 春学期の復習 2. 文法の復習、半過去（１） 3. 文法の復習、半過去（２） 4. テクスト４　フランスの学校（１） 5. テクスト４　フランスの学校（２） 6. 練習問題 7. 文法の復習、受動態（１） 8. 文法の復習、受動態（２） 9. テクスト５　フランス経済（１） 10. テクスト５　フランス経済（２） 11. 練習問題 12.　テクスト６　フランスの高級ブランド（１） 13. テクスト６　フランスの高級ブランド（２） 14. 練習問題 15. 全体の復習（文法事項、フランスのメディアについて）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★		★	★

年度	2015	授業コード	JH0013A03
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 I
講義概要	中国語は世界人口の約 5 分の 1 の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第 1 課　人称代名詞など 5.発音基礎、第 1 課「是」など 6.発音基礎、第 1 課「請」など 7.発音基礎、第 2 課否定など 8.総合練習、第 2 課「的」など 9.会話、第 3 課　形容詞述語文など 10.会話、第 3 課　疑問詞など 11.会話、第 4 課　量詞など 12.会話、第 4 課　数詞など 13.会話、第 5 課　在、想、要 14.会話、第 5 課　場所指示代名詞 15.総合練習、テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	JH0013A04
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 I
講義概要	中国語は世界人口の約 5 分の 1 の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第 1 課　人称代名詞など 5.発音基礎、第 1 課「是」など 6.発音基礎、第 1 課「請」など 7.発音基礎、第 2 課否定など 8.総合練習、第 2 課「的」など 9.会話、第 3 課　形容詞述語文など 10.会話、第 3 課　疑問詞など 11.会話、第 4 課　量詞など 12.会話、第 4 課　数詞など 13.会話、第 5 課　在、想、要 14.会話、第 5 課　場所指示代名詞 15.総合練習、テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	JH0013A05
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 I
講義概要	中国語は世界人口の約 5 分の 1 の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第 1 課　人称代名詞など 5.発音基礎、第 1 課「是」など 6.発音基礎、第 1 課「請」など 7.発音基礎、第 2 課否定など 8.総合練習、第 2 課「的」など 9.会話、第 3 課　形容詞述語文など 10.会話、第 3 課　疑問詞など 11.会話、第 4 課　量詞など 12.会話、第 4 課　数詞など 13.会話、第 5 課　在、想、要 14.会話、第 5 課　場所指示代名詞 15.総合練習、テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	JH0013A06
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 I
講義概要	中国語は世界人口の約 5 分の 1 の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第 1 課　人称代名詞など 5.発音基礎、第 1 課「是」など 6.発音基礎、第 1 課「請」など 7.発音基礎、第 2 課否定など 8.総合練習、第 2 課「的」など 9.会話、第 3 課　形容詞述語文など 10.会話、第 3 課　疑問詞など 11.会話、第 4 課　量詞など 12.会話、第 4 課　数詞など 13.会話、第 5 課　在、想、要 14.会話、第 5 課　場所指示代名詞 15.総合練習、テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	JH0013B0C
科目名	入門中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (f)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、第 6 課　有など
2.第 6 課　助数詞
3.第 7 課　時刻
4.第 7 課　時間の長さ
5.第 8 課　了など
6.第 8 課　選択疑問文
7.第 9 課　前置詞
8.総合練習、第 9 課　給など
9.会話、第 10 課　助動詞
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法
11.会話、第 11 課　量詞など
12.会話、第 11 課　去、来
13.会話、第 12 課　是～的など
14. 会話、第 12 課　質問の練習
15.総合練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	JH0013B0D
科目名	入門中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (f)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、第 6 課　有など
2.第 6 課　助数詞
3.第 7 課　時刻
4.第 7 課　時間の長さ
5.第 8 課　了など
6.第 8 課　選択疑問文
7.第 9 課　前置詞
8.総合練習、第 9 課　給など
9.会話、第 10 課　助動詞
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法
11.会話、第 11 課　量詞など
12.会話、第 11 課　去、来
13.会話、第 12 課　是～的など
14. 会話、第 12 課　質問の練習
15.総合練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	JH0013B0E
科目名	入門中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (f)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、第 6 課　有など
2.第 6 課　助数詞
3.第 7 課　時刻
4.第 7 課　時間の長さ
5.第 8 課　了など
6.第 8 課　選択疑問文
7.第 9 課　前置詞
8.総合練習、第 9 課　給など
9.会話、第 10 課　助動詞
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法
11.会話、第 11 課　量詞など
12.会話、第 11 課　去、来
13.会話、第 12 課　是～的など
14. 会話、第 12 課　質問の練習
15.総合練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	JH0013B0F
科目名	入門中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (f)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、第 6 課　有など
2.第 6 課　助数詞
3.第 7 課　時刻
4.第 7 課　時間の長さ
5.第 8 課　了など
6.第 8 課　選択疑問文
7.第 9 課　前置詞
8.総合練習、第 9 課　給など
9.会話、第 10 課　助動詞
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法
11.会話、第 11 課　量詞など
12.会話、第 11 課　去、来
13.会話、第 12 課　是～的など
14. 会話、第 12 課　質問の練習
15.総合練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	JH0014A01
科目名	中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese (s)		
担当者名	劉　暁嵐	旧科目名称	
講義概要	この講義は、すでに入門授業で学んだ基礎文法と単文構造をよりしっかりした語学の基盤に、更に日常的な会話を読解・朗読の訓練を積み重ねて、中国語の実践的な能力を高めるという目標が設定されています。近隣の中国とどう向かい合うべきか、これは日本の未来を担う若者にとっては一大事なのでしょう。地理的だけではなく、文化・経済的にも深い関係のある中国、中国人との今後の交流中、相手と自分の意思や願望、主張などが中国語で表現できたらどんなに頼ましいことでしょう。簡単なことではありませんが、毎度の授業で地味な訓練を受け続けさえすれば、きっとその目標に近づくようになるに違いません。「続けることが外国語勉強の王道である」と言われます。入門知識を中途半端のままに忘れてしまうのはもったいないではないですか。どうか、私と一緒にもうすこし前へ進んでみましょう。その前には新しい発見、新しい楽しみがありますよ。		
教材（テキスト）	葉　紅・飯島啓子「ステップアップ対話で楽しむ中国語」　駿河台出版社　初版 2013 年		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	出席重要視、平常点 30%、レポート・発表 20%、学期末テスト(会話)50% 全授業回数三分の一以上を欠席した場合、学期末テストを受ける資格が喪失、成績は評価できません。		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な外国語の初級知識と学び方を身に着け、中国の現代社会に必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得します。 日常会話の実力の獲得が期待されます。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

入門中国語を習得した学生向け。
週に一回しかないこの時間を大切に、自ら学ぼうという姿勢が望ましいです。
筆記テストがなく、それより積極的に発音・会話の訓練を受けるよう心がけてほしいです。

講義の順序とポイント

1.　授業の進め方と成績評価の解説
2.　第 0 課　ウォーミングアップ
3　.第 1 課　中国から来たのですか。
4.　第 2 課　日本の生活に慣れましたか。
5.　第 1、2 課の筆記・会話の練習
6.　第 3 課　遠慮しないでください
7.　第 4 課　おもてなしありがとうございました。
8.　第 3、4 課の筆記・会話の練習
9.　第 5 課　携帯を買いたいのです
10.　第 6 課　バイトをしに行かなければなりません
11.　第 5、6 課の会話演習
12、　第 7 課　羨ましいわ
13、　第 8 課　夏休みをどう過ごしますか?
14、　第 7、8 課を中心に会話の演習
15、　春学期の統括

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JH0014A02
科目名	中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese (s)		
担当者名	劉　暁嵐	旧科目名称	
講義概要	この講義は、すでに入門授業で学んだ基礎文法と単文構造をよりしっかりした語学の基盤に、更に日常的な会話を読解・朗読の訓練を積み重ねて、中国語の実践的な能力を高めるという目標が設定されています。近隣の中国とどう向かい合うべきか、これは日本の未来を担う若者にとっては一大事なのでしょう。地理的だけではなく、文化・経済的にも深い関係のある中国、中国人との今後の交流中、相手と自分の意思や願望、主張などが中国語で表現できたらどんなに頼ましいことでしょう。簡単なことではありませんが、毎度の授業で地味な訓練を受け続けさえすれば、きっとその目標に近づくようになるに違いません。「続けることが外国語勉強の王道である」と言われます。入門知識を中途半端のままに忘れてしまうのはもったいないではないですか。どうか、私と一緒にもうすこし前へ進んでみましょう。その前には新しい発見、新しい楽しみがありますよ。		
教材（テキスト）	葉　紅・飯島啓子「ステップアップ対話で楽しむ中国語」　駿河台出版社　初版 2013 年		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	出席重要視、平常点 30%、レポート・発表 20%、学期末テスト(会話)50% 全授業回数三分の一以上を欠席した場合、学期末テストを受ける資格が喪失、成績は評価できません。		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な外国語の初級知識と学び方を身に着け、中国の現代社会に必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得します。 日常会話の実力の獲得が期待されます。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

入門中国語を習得した学生向け。
週に一回しかないこの時間を大切に、自ら学ぼうという姿勢が望ましいです。
筆記テストがなく、それより積極的に発音・会話の訓練を受けるよう心がけてほしいです。

講義の順序とポイント

1.　授業の進め方と成績評価の解説
2.　第 0 課　ウォーミングアップ
3　.第 1 課　中国から来たのですか。
4.　第 2 課　日本の生活に慣れましたか。
5.　第 1、2 課の筆記・会話の練習
6.　第 3 課　遠慮しないでください
7.　第 4 課　おもてなしありがとうございました。
8.　第 3、4 課の筆記・会話の練習
9.　第 5 課　携帯を買いたいのです
10.　第 6 課　バイトをしに行かなければなりません
11.　第 5、6 課の会話演習
12、　第 7 課　羨ましいわ
13、　第 8 課　夏休みをどう過ごしますか?
14、　第 7、8 課を中心に会話の演習
15、　春学期の統括

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JH0014B01
科目名	中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese (f)		
担当者名	劉　暁嵐	旧科目名称	
講義概要	春学期に引き続いて同じテキストを使用し、同じ授業の進め方で、読解と会話の練習を繰り返して、すでに中国語の中級レベルに近づいてきた知識をさらにアップすることを図ります。受講生の皆さん、沢山の常用語彙を目で覚え、面白そうな慣用句、表現の豊かな複文を理解して、そしてテキストの文章がすらすら読めるようになっているうちに、中国語勉強の楽しみとそれを身につける有用性を感ずるようになってくるでしょう。週に一回しかの授業ですけれど、これは確実にあなたの、未来を拓く国際的語学力の向上につながっています。さあ、みなさん、中国語の科目にもう少し力を入れて頑張りましょう。あと半年たつと、きっと中国語の一般的な書物が読めるのみならず、中国の名所旧跡を遊覧すること、また中国人とのコミュニケーションなども楽しめます。努力ということは必ず報われる、と信じましょう。		
教材（テキスト）	葉　紅・飯島啓子「ステップアップ対話で楽しむ中国語」　駿河台出版社　初版 2013 年		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	出席重要視、平常点 30%、レポート・発表 20%、学期末テスト(会話テスト)50% 全授業回数三分の一以上を欠席した場合、学期末テストを受ける資格が喪失、成績は評価できません。		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な外国語の初級知識と学び方を身に着け、中国語の現代社会に必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得します。日常会話の実力の獲得が期待されます。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
中国語 s を習得した学生向け。 週に一回しかないこの時間を大切に、自ら学ぼうという姿勢が望ましいです。 筆記試験がなく、それより積極的に発音・会話の訓練を受けるよう心がけてほしいです。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期で学んだ知識を復習しながら、夏休みのことを話し合い、秋学期授業の要求解説 2　.第 9 課　今お忙しいですか。 3.　筆記・会話の練習 4　.第 10 課　学園祭 5.　筆記・会話の練習 6.　第 11 課　誕生日のお祝い 7.　筆記・会話の練習 8　.第 12 課　ラーメンを食べよう 9.　筆記・会話の練習 10　.第 13 課　風邪を引いた 11.　筆記・会話の練習 12　.第 14 課　期末テストを終えてから行くわ。 13.　筆記・会話の練習 14　.第 15 課　時が過ぎるのは早いものです。 15.　筆記・会話の総合演習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JH0014B02
科目名	中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese (f)		
担当者名	劉　暁嵐	旧科目名称	
講義概要	春学期に引き続いて同じテキストを使用し、同じ授業の進め方で、読解と会話の練習を繰り返して、すでに中国語の中級レベルに近づいてきた知識をさらにアップすることを図ります。受講生の皆さん、沢山の常用語彙を目で覚え、面白そうな慣用句、表現の豊かな複文を理解して、そしてテキストの文章がすらすら読めるようになっているうちに、中国語勉強の楽しみとそれを身につける有用性を感ずるようになってくるでしょう。週に一回しかの授業ですけれど、これは確実にあなたの、未来を拓く国際的語学力の向上につながっています。さあ、みなさん、中国語の科目にもう少し力を入れて頑張りましょう。あと半年たつと、きっと中国語の一般的な書物が読めるのみならず、中国の名所旧跡を遊覧すること、また中国人とのコミュニケーションなども楽しめます。努力ということは必ず報われる、と信じましょう。		
教材（テキスト）	葉　紅・飯島啓子「ステップアップ対話で楽しむ中国語」　駿河台出版社　初版 2013 年		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	出席重要視、平常点 30%、レポート・発表 20%、学期末テスト(会話テスト)50% 全授業回数三分の一以上を欠席した場合、学期末テストを受ける資格が喪失、成績は評価できません。		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な外国語の初級知識と学び方を身に着け、中国語の現代社会に必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得します。日常会話の実力の獲得が期待されます。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
中国語 s を習得した学生向け。 週に一回しかないこの時間を大切に、自ら学ぼうという姿勢が望ましいです。 筆記試験がなく、それより積極的に発音・会話の訓練を受けるよう心がけてほしいです。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期で学んだ知識を復習しながら、夏休みのことを話し合い、秋学期授業の要求解説 2　.第 9 課　今お忙しいですか。 3.　筆記・会話の練習 4　.第 10 課　学園祭 5.　筆記・会話の練習 6.　第 11 課　誕生日のお祝い 7.　筆記・会話の練習 8　.第 12 課　ラーメンを食べよう 9.　筆記・会話の練習 10　.第 13 課　風邪を引いた 11.　筆記・会話の練習 12　.第 14 課　期末テストを終えてから行くわ。 13.　筆記・会話の練習 14　.第 15 課　時が過ぎるのは早いものです。 15.　筆記・会話の総合演習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JH0016A01
科目名	ドイツ語講読 s	単位数	2
科目名（英語表記）	German Reading (s)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	
講義概要	ドイツ語は英語に似ていますが、英語と比較して、文法規則が複雑な言語と言われています。ただし文法の基礎を理解してしまえば、パズルを解くように、文章を明快に読み解くことができます。この授業は、文法の基礎を１年学んだ学生を対象に、ドイツ語の文章を読み解く楽しさ、ドイツ人の発想を知る楽しさを、辞書を使いながらじっくり学んでいきます。ドイツの小学生用に書かれたテキストを読みながら、ドイツ人は子供にどうやって公共のマナーを教えているのか、自分たちの歴史を教えているのか、日本と比較しながら考えていきましょう。		
教材（テキスト）	ドイツの小学生用に書かれたテキストを、初回授業にプリントで配布します		
教材（参考文献）			
教材（その他）	自分にあう独和辞典を、各自ご用意ください。補助プリントは、毎時間配布します。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて授業最後の提出物（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	辞書を引いて、わからない箇所があったら、チェックしてきてください。		
受講者への要望			
語学は積み重ねが大事。とにかく毎時間出席して、その日の課題に目をとおし、わからないことがあったら質問してください。そして教科書の表現を口に出してみてください。子供向けに書かれた文章なので、日常会話に便利な表現ばかりです。一年後には驚くほど、ドイツ語の表現力が身についていることでしょう。			
講義の順序とポイント			
1　授業方針とテキストの説明 2　学校（1）学校とは 3　学校（2）学校の歴史 4　学校（3）何のために学ぶのか 5　学校（4）入学準備 6　学校（5）学校の授業 7　学校（6）自宅での心構え 8　到達度確認（7）様々な教育現場の在り方 9　学びのヒント（1）生活に重要な知恵 10　学びのヒント（2）生涯学習 11　学びのヒント（3）どういう機能を用いて学ぶのか 12　学びのヒント（4）どういう環境で学ぶのか 13　学びのヒント（5）学習する方法 14　学びのヒント（6）学習内容の整理 15　到達度確認（7）様々な学習方法の在り方			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JH0016B01
科目名	ドイツ語講読 f	単位数	2
科目名（英語表記）	German Reading (f)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	
講義概要	前期に引き続いて、文法の基礎を 1 年学んだ学生を対象に、ドイツ語の文章を読み解く楽しさ、ドイツ人の発想を知る楽しさを、辞書を使いながらじっくり学んでいきます。ドイツの小学生用に書かれたテキストを読みながら、ドイツ人は子供にどうやって公共のマナーを教えているのか、自分たちの歴史を教えているのか、日本と比較しながら考えていきましょう。		
教材（テキスト）	ドイツの小学生用に書かれたテキストを、初回授業にプリントで配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	自分にあう独和辞典を、各自ご用意ください。補助プリントは、毎時間配布します。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて授業最後の提出物（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	辞書を引いて、わからない箇所があったら、チェックしてきてください。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく毎時間出席して、その日の課題に目をとおし、わからないことがあったら質問してください。そして教科書の表現を口に出してみてください。子供向けに書かれた文章なので、日常会話に便利な表現ばかりです。一年後には驚くほど、ドイツ語の表現力が身についていることでしょう。

講義の順序とポイント

1　授業方針とテキストの説明
2　環境保護（1）環境によい生活とは
3　環境保護（2）エネルギーについて
4　環境保護（3）環境破壊
5　環境保護（4）リサイクル
6　環境保護（5）自宅におけるエネルギー対策
7　環境保護（6）社会における環境活動
8　到達度確認（7）ドイツの環境保護活動と各州の対策
9　クリスマスとキリスト教（1）各国のクリスマス
10　クリスマスとキリスト教（2）クリスマスの由来
11　クリスマスとキリスト教（3）待降節とは
12　クリスマスとキリスト教（4）ニコラウスとは
13　クリスマスとキリスト教（5）クリスマスの準備
14　クリスマスとキリスト教（6）クリスマス当日
15　到達度確認（7）国や州で異なる宗教行事並びに祝日の特徴を把握する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0001A0A
科目名	日本語基礎Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Japanese A		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	日本語文法の基礎を復習し、それらの文型を用いた作文を練習します。 日常生活の様々な場面に応じた会話を練習します。		
教材（テキスト）	プリントを配布		
教材（参考文献）	友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型 200 初・中級 』アルク		
教材（その他）	授業中に適宜指示します		
評価方法	出席状況・授業参加状況などによる平常点（40%） 授業中に行う発表（２0%） 復習小テスト、まとめ試験（40%）		
到達目標	日本語文法、会話、作文の基礎技能の習得、日本語能力試験Ｎ２レベルの日本語力習得を目指します。		
準備学習	学習した項目の復習をしてください。 宿題にした範囲の予習をしてください。 機会をとらえて、日本人学生と積極的に交流しましょう。 インターネット・新聞・テレビ等で日本社会の動きや出来事を把握してください。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけてください。
・授業中配布した資料を必ず持参してください。
・辞書／電子辞書を持ってきて、授業中活用してください。
・課題は期限内に提出してください。
・積極的に授業に参加しましょう。

講義の順序とポイント

１．助詞　挨拶をする
２．活用１　電話の応対１
３．活用２　電話の応対２
４．「は」と「が」　注文する
５．ふつう形　依頼する
６．自分か他者か　復習小テスト
７．自動詞と他動詞　誘う
８．可能動詞　許可する
９．授受　アドバイスする
１０．使役、受身、使役受身　説明する
１１．敬語　意見を述べる
１２．継続性と瞬間性　意見交換する
１３．～ていく、～ている　手紙を書く１
１４．事実か気持ちが入っているか　手紙を書く２
１５．総括と復習(試験対策)
※授業の進度に応じて内容は変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0001A0B
科目名	日本語基礎Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Japanese A		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	日本語文法の基礎を復習し、それらの文型を用いた作文を練習します。 日常生活の様々な場面に応じた会話を練習します。		
教材（テキスト）	プリントを配布		
教材（参考文献）	友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型 200 初・中級 』アルク		
教材（その他）	授業中に適宜指示します		
評価方法	出席状況・授業参加状況などによる平常点（40%） 授業中に行う発表（２0%） 復習小テスト、まとめ試験（40%）		
到達目標	日本語文法、会話、作文の基礎技能の習得、日本語能力試験Ｎ２レベルの日本語力習得を目指します。		
準備学習	学習した項目の復習をしてください。 宿題にした範囲の予習をしてください。 機会をとらえて、日本人学生と積極的に交流しましょう。 インターネット・新聞・テレビ等で日本社会の動きや出来事を把握してください。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけてください。
・授業中配布した資料を必ず持参してください。
・辞書／電子辞書を持ってきて、授業中活用してください。
・課題は期限内に提出してください。
・積極的に授業に参加しましょう。

講義の順序とポイント

１．助詞　挨拶をする
２．活用１　電話の応対１
３．活用２　電話の応対２
４．「は」と「が」　注文する
５．ふつう形　依頼する
６．自分か他者か　復習小テスト
７．自動詞と他動詞　誘う
８．可能動詞　許可する
９．授受　アドバイスする
１０．使役、受身、使役受身　説明する
１１．敬語　意見を述べる
１２．継続性と瞬間性　意見交換する
１３．～ていく、～ている　手紙を書く１
１４．事実か気持ちが入っているか　手紙を書く２
１５．総括と復習(試験対策)
※授業の進度に応じて内容は変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0001A0C
科目名	日本語基礎Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Japanese A		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	
講義概要	日本語文法の基礎を復習し、それらの文型を用いた作文を練習します。 日常生活の様々な場面に応じた会話を練習します。		
教材（テキスト）	プリントを配布		
教材（参考文献）	友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型 200 初・中級 』アルク		
教材（その他）	授業中に適宜指示します		
評価方法	出席状況・授業参加状況などによる平常点（40%） 授業中に行う発表（２0%） 復習小テスト、まとめ試験（40%）		
到達目標	日本語文法、会話、作文の基礎技能の習得、日本語能力試験Ｎ２レベルの日本語力習得を目指します。		
準備学習	学習した項目の復習をしてください。 宿題にした範囲の予習をしてください。 機会をとらえて、日本人学生と積極的に交流しましょう。 インターネット・新聞・テレビ等で日本社会の動きや出来事を把握してください。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけてください。
・授業中配布した資料を必ず持参してください。
・辞書／電子辞書を持ってきて、授業中活用してください。
・課題は期限内に提出してください。
・積極的に授業に参加しましょう。

講義の順序とポイント

１．助詞　挨拶をする
２．活用１　電話の応対１
３．活用２　電話の応対２
４．「は」と「が」　注文する
５．ふつう形　依頼する
６．自分か他者か　復習小テスト
７．自動詞と他動詞　誘う
８．可能動詞　許可する
９．授受　アドバイスする
１０．使役、受身、使役受身　説明する
１１．敬語　意見を述べる
１２．継続性と瞬間性　意見交換する
１３．～ていく、～ている　手紙を書く１
１４．事実か気持ちが入っているか　手紙を書く２
１５．総括と復習(試験対策)
※授業の進度に応じて内容は変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0001A0D
科目名	日本語基礎Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Japanese A		
担当者名	大久保　加奈子	旧科目名称	
講義概要	日本語文法の基礎を復習し、それらの文型を用いた作文を練習します。 日常生活の様々な場面に応じた会話を練習します。		
教材（テキスト）	プリントを配布		
教材（参考文献）	友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型 200 初・中級 』アルク		
教材（その他）	授業中に適宜指示します		
評価方法	出席状況・授業参加状況などによる平常点（40%） 授業中に行う発表（２0%） 復習小テスト、まとめ試験（40%）		
到達目標	日本語文法、会話、作文の基礎技能の習得、日本語能力試験Ｎ２レベルの日本語力習得を目指します。		
準備学習	学習した項目の復習をしてください。 宿題にした範囲の予習をしてください。 機会をとらえて、日本人学生と積極的に交流しましょう。 インターネット・新聞・テレビ等で日本社会の動きや出来事を把握してください。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけてください。
・授業中配布した資料を必ず持参してください。
・辞書／電子辞書を持ってきて、授業中活用してください。
・課題は期限内に提出してください。
・積極的に授業に参加しましょう。

講義の順序とポイント

１．助詞　挨拶をする
２．活用１　電話の応対１
３．活用２　電話の応対２
４．「は」と「が」　注文する
５．ふつう形　依頼する
６．自分か他者か　復習小テスト
７．自動詞と他動詞　誘う
８．可能動詞　許可する
９．授受　アドバイスする
１０．使役、受身、使役受身　説明する
１１．敬語　意見を述べる
１２．継続性と瞬間性　意見交換する
１３．～ていく、～ている　手紙を書く１
１４．事実か気持ちが入っているか　手紙を書く２
１５．総括と復習(試験対策)
※授業の進度に応じて内容は変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0002B0A
科目名	日本語基礎B	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Japanese B		
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	
講義概要	外国人留学生を対象とした日本語プログラムで、日本語の「読む、書く、聴く、話す」の 4 技能の基礎技能を総合的に養う。専門科目の講義の理解に必要となる文法の基礎技能を養成し、様々なテーマについて書かれた文章の理解、簡単な発表ができるように指導する。それに伴う、文章の論理的な組み立て方も学ぶ。 小テストを、授業時間内に 2 回行う。これは、授業で習った確認テストであり、評価の一つとなる。進度によって、授業内容を変更することもある。		
教材（テキスト）	総合的な読解教材を用いる。 使用するテキストは、授業 1 日目に実施する実力テストの後、指示する。		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	適宜補充プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等による平常点(40%)。 確認テスト 2 回(50%)　課題提出(10%)で総合的に評価する。		
到達目標	専門科目の講義および、様々なテーマについて書かれた文章を理解し、日本語で自分の意見を述べたり聞いたりできる日本語の基礎技能を習得する。		
準備学習	日本語能力を確実に向上させるために、各講義の予習・復習を必ず行うこと。		
受講者への要望			
遅刻・欠席をせず、授業に積極的に参加することが最も重要である。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション・基礎力を確認するための実力テスト 2．総合的な読解①・活動① 3．総合的な読解②・活動② 4．総合的な読解③・活動③ 5．総合的な読解④・活動④ 6．総合的な読解⑤・活動⑤ 7．総合的な読解⑥・活動⑥ 8．活動⑦・確認テスト 9．総合的な読解⑦・活動⑧ １０．総合的な読解⑧・活動⑨ １１．総合的な読解⑨・活動⑩ １２．総合的な読解⑩・活動⑪ １３．総合的な読解⑪・活動⑫ １４．総合的な読解⑫・活動⑬ １５．活動⑭・確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JM0002B0B
科目名	日本語基礎B	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Japanese B		
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	
講義概要	外国人留学生を対象とした日本語プログラムで、日本語の「読む、書く、聴く、話す」の 4 技能の基礎技能を総合的に養う。専門科目の講義の理解に必要となる文法の基礎技能を養成し、様々なテーマについて書かれた文章の理解、簡単な発表ができるように指導する。それに伴う、文章の論理的な組み立て方も学ぶ。 小テストを、授業時間内に 2 回行う。これは、授業で習った確認テストであり、評価の一つとなる。進度によって、授業内容を変更することもある。		
教材（テキスト）	総合的な読解教材を用いる。 使用するテキストは、授業 1 日目に実施する実力テストの後、指示する。		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	適宜補充プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等による平常点(40%)。 確認テスト 2 回(50%)　課題提出(10%)で総合的に評価する。		
到達目標	専門科目の講義および、様々なテーマについて書かれた文章を理解し、日本語で自分の意見を述べたり聞いたりできる日本語の基礎技能を習得する。		
準備学習	日本語能力を確実に向上させるために、各講義の予習・復習を必ず行うこと。		
受講者への要望			
遅刻・欠席をせず、授業に積極的に参加することが最も重要である。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション・基礎力を確認するための実力テスト 2．総合的な読解①・活動① 3．総合的な読解②・活動② 4．総合的な読解③・活動③ 5．総合的な読解④・活動④ 6．総合的な読解⑤・活動⑤ 7．総合的な読解⑥・活動⑥ 8．活動⑦・確認テスト 9．総合的な読解⑦・活動⑧ １０．総合的な読解⑧・活動⑨ １１．総合的な読解⑨・活動⑩ １２．総合的な読解⑩・活動⑪ １３．総合的な読解⑪・活動⑫ １４．総合的な読解⑫・活動⑬ １５．活動⑭・確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JM0002B0C
科目名	日本語基礎B	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Japanese B		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	外国人留学生を対象とした日本語プログラムで、日本語の「読む、書く、聴く、話す」の 4 技能の基礎技能を総合的に養う。専門科目の講義の理解に必要となる文法の基礎技能を養成し、様々なテーマについて書かれた文章の理解、簡単な発表ができるように指導する。それに伴う、文章の論理的な組み立て方も学ぶ。 小テストを、授業時間内に 2 回行う。これは、授業で習った確認テストであり、評価の一つとなる。進度によって、授業内容を変更することもある。		
教材（テキスト）	総合的な読解教材を用いる。 使用するテキストは、授業 1 日目に実施する実力テストの後、指示する。		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	適宜補充プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等による平常点(40%)。 確認テスト 2 回(50%)　課題提出(10%)で総合的に評価する。		
到達目標	専門科目の講義および、様々なテーマについて書かれた文章を理解し、日本語で自分の意見を述べたり聞いたりできる日本語の基礎技能を習得する。		
準備学習	日本語能力を確実に向上させるために、各講義の予習・復習を必ず行うこと。		
受講者への要望			
遅刻・欠席をせず、授業に積極的に参加することが最も重要である。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション・基礎力を確認するための実力テスト 2．総合的な読解①・活動① 3．総合的な読解②・活動② 4．総合的な読解③・活動③ 5．総合的な読解④・活動④ 6．総合的な読解⑤・活動⑤ 7．総合的な読解⑥・活動⑥ 8．活動⑦・確認テスト 9．総合的な読解⑦・活動⑧ １０．総合的な読解⑧・活動⑨ １１．総合的な読解⑨・活動⑩ １２．総合的な読解⑩・活動⑪ １３．総合的な読解⑪・活動⑫ １４．総合的な読解⑫・活動⑬ １５．活動⑭・確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JM0002B0D
科目名	日本語基礎B	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Japanese B		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	外国人留学生を対象とした日本語プログラムで、日本語の「読む、書く、聴く、話す」の 4 技能の基礎技能を総合的に養う。専門科目の講義の理解に必要となる文法の基礎技能を養成し、様々なテーマについて書かれた文章の理解、簡単な発表ができるように指導する。それに伴う、文章の論理的な組み立て方も学ぶ。 小テストを、授業時間内に 2 回行う。これは、授業で習った確認テストであり、評価の一つとなる。進度によって、授業内容を変更することもある。		
教材（テキスト）	総合的な読解教材を用いる。 使用するテキストは、授業 1 日目に実施する実力テストの後、指示する。		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	適宜補充プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等による平常点(40%)。 確認テスト 2 回(50%)　課題提出(10%)で総合的に評価する。		
到達目標	専門科目の講義および、様々なテーマについて書かれた文章を理解し、日本語で自分の意見を述べたり聞いたりできる日本語の基礎技能を習得する。		
準備学習	日本語能力を確実に向上させるために、各講義の予習・復習を必ず行うこと。		
受講者への要望			
遅刻・欠席をせず、授業に積極的に参加することが最も重要である。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション・基礎力を確認するための実力テスト 2．総合的な読解①・活動① 3．総合的な読解②・活動② 4．総合的な読解③・活動③ 5．総合的な読解④・活動④ 6．総合的な読解⑤・活動⑤ 7．総合的な読解⑥・活動⑥ 8．活動⑦・確認テスト 9．総合的な読解⑦・活動⑧ １０．総合的な読解⑧・活動⑨ １１．総合的な読解⑨・活動⑩ １２．総合的な読解⑩・活動⑪ １３．総合的な読解⑪・活動⑫ １４．総合的な読解⑫・活動⑬ １５．活動⑭・確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JM0003A0A
科目名	日本語応用Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0003A0B
科目名	日本語応用Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0003A0C
科目名	日本語応用Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese A		
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0003A0D
科目名	日本語応用Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese A		
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0004B0A
科目名	日本語応用B	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese B		
担当者名	大久保　加奈子	旧科目名称	日本語IV
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	『日本語 5 つのとびら－中上級編－』凡人社　1,995 円		
教材（参考文献）	教科書ホームページ｛http://www.apu.ac.jp/language/im2/｝		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等の平常点(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
積極的な態度で授業に参加することを求める。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、自己紹介 2.　第 1 課　ストレス社会と癒し① 3.　第 1 課　ストレス社会と癒し② 4.　第 2 課　世界に広がる一村一品運動① 5.　第 2 課　世界に広がる一村一品運動② 6.　第 3 課　かわりゆく交流都市① 7.　第 3 課　かわりゆく交流都市② 8.　第 4 課　漢字と日本人① 9.　第 4 課　漢字と日本人② 10.　第 5 課　気持ちとことば① 11.　第 5 課　気持ちとことば② 12.　第 6 課　21 世紀の「門戸開放」① 13.　第 6 課　21 世紀の「門戸開放」② 14.　第 7 課　方言と共通語① 15.　第 7 課　方言と共通語②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0004B0B
科目名	日本語応用B	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese B		
担当者名	大久保　加奈子	旧科目名称	日本語IV
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	『日本語 5 つのとびら－中上級編－』凡人社　1,995 円		
教材（参考文献）	教科書ホームページ｛http://www.apu.ac.jp/language/im2/｝		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等の平常点(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
積極的な態度で授業に参加することを求める。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、自己紹介 2.　第 1 課　ストレス社会と癒し① 3.　第 1 課　ストレス社会と癒し② 4.　第 2 課　世界に広がる一村一品運動① 5.　第 2 課　世界に広がる一村一品運動② 6.　第 3 課　かわりゆく交流都市① 7.　第 3 課　かわりゆく交流都市② 8.　第 4 課　漢字と日本人① 9.　第 4 課　漢字と日本人② 10.　第 5 課　気持ちとことば① 11.　第 5 課　気持ちとことば② 12.　第 6 課　21 世紀の「門戸開放」① 13.　第 6 課　21 世紀の「門戸開放」② 14.　第 7 課　方言と共通語① 15.　第 7 課　方言と共通語②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0004B0C
科目名	日本語応用B	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese B		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	日本語IV
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	『日本語 5 つのとびら－中上級編－』凡人社　1,995 円		
教材（参考文献）	教科書ホームページ｛http://www.apu.ac.jp/language/im2/｝		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等の平常点(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
積極的な態度で授業に参加することを求める。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、自己紹介 2.　第 1 課　ストレス社会と癒し① 3.　第 1 課　ストレス社会と癒し② 4.　第 2 課　世界に広がる一村一品運動① 5.　第 2 課　世界に広がる一村一品運動② 6.　第 3 課　かわりゆく交流都市① 7.　第 3 課　かわりゆく交流都市② 8.　第 4 課　漢字と日本人① 9.　第 4 課　漢字と日本人② 10.　第 5 課　気持ちとことば① 11.　第 5 課　気持ちとことば② 12.　第 6 課　21 世紀の「門戸開放」① 13.　第 6 課　21 世紀の「門戸開放」② 14.　第 7 課　方言と共通語① 15.　第 7 課　方言と共通語②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0004B0D
科目名	日本語応用B	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese B		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	日本語IV
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	『日本語 5 つのとびら－中上級編－』凡人社　1,995 円		
教材（参考文献）	教科書ホームページ｛http://www.apu.ac.jp/language/im2/｝		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等の平常点(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
積極的な態度で授業に参加することを求める。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、自己紹介 2.　第 1 課　ストレス社会と癒し① 3.　第 1 課　ストレス社会と癒し② 4.　第 2 課　世界に広がる一村一品運動① 5.　第 2 課　世界に広がる一村一品運動② 6.　第 3 課　かわりゆく交流都市① 7.　第 3 課　かわりゆく交流都市② 8.　第 4 課　漢字と日本人① 9.　第 4 課　漢字と日本人② 10.　第 5 課　気持ちとことば① 11.　第 5 課　気持ちとことば② 12.　第 6 課　21 世紀の「門戸開放」① 13.　第 6 課　21 世紀の「門戸開放」② 14.　第 7 課　方言と共通語① 15.　第 7 課　方言と共通語②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM000600A
科目名	日本語作文演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（テキスト）	友松悦子『小論文への１２のステップ』スリーエーネットワーク、またはプリント配布・		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	出席状況等による平常点３０％、課題作成３０％、最終レポート４０％。		
到達目標	レポート、論文作成のための基礎力を固める。		
準備学習	新聞や雑誌を読んで、さまざまなテーマに関心を持ち、自分の意見を伝えることができるようにすること。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　作文の基本
2　表記の仕方
3　文体１
4　文体２
5　モードチェンジ
6　正しい構造の文
7　文のつながり
8　小論文によく使われる表現
9　段落と中心文
１０　中心文と指示文
１１　要約文を書く
１２　説明文を書く
１３　意見文を書く
１４　事実を示す
１５　小論文のはじめと終わり

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM000600B
科目名	日本語作文演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
講義概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（テキスト）	友松悦子『小論文への１２のステップ』スリーエーネットワーク、またはプリント配布・		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	出席状況等による平常点３０％、課題作成３０％、最終レポート４０％。		
到達目標	レポート、論文作成のための基礎力を固める。		
準備学習	新聞や雑誌を読んで、さまざまなテーマに関心を持ち、自分の意見を伝えることができるようにすること。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　作文の基本
2　表記の仕方
3　文体１
4　文体２
5　モードチェンジ
6　正しい構造の文
7　文のつながり
8　小論文によく使われる表現
9　段落と中心文
１０　中心文と指示文
１１　要約文を書く
１２　説明文を書く
１３　意見文を書く
１４　事実を示す
１５　小論文のはじめと終わり

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM000600C
科目名	日本語作文演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（テキスト）	友松悦子『小論文への１２のステップ』スリーエーネットワーク、またはプリント配布・		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	出席状況等による平常点３０％、課題作成３０％、最終レポート４０％。		
到達目標	レポート、論文作成のための基礎力を固める。		
準備学習	新聞や雑誌を読んで、さまざまなテーマに関心を持ち、自分の意見を伝えることができるようにすること。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　作文の基本
2　表記の仕方
3　文体１
4　文体２
5　モードチェンジ
6　正しい構造の文
7　文のつながり
8　小論文によく使われる表現
9　段落と中心文
１０　中心文と指示文
１１　要約文を書く
１２　説明文を書く
１３　意見文を書く
１４　事実を示す
１５　小論文のはじめと終わり

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM000600D
科目名	日本語作文演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
講義概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（テキスト）	友松悦子『小論文への１２のステップ』スリーエーネットワーク、またはプリント配布・		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	出席状況等による平常点３０％、課題作成３０％、最終レポート４０％。		
到達目標	レポート、論文作成のための基礎力を固める。		
準備学習	新聞や雑誌を読んで、さまざまなテーマに関心を持ち、自分の意見を伝えることができるようにすること。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　作文の基本
2　表記の仕方
3　文体１
4　文体２
5　モードチェンジ
6　正しい構造の文
7　文のつながり
8　小論文によく使われる表現
9　段落と中心文
１０　中心文と指示文
１１　要約文を書く
１２　説明文を書く
１３　意見文を書く
１４　事実を示す
１５　小論文のはじめと終わり

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0007001
科目名	キャリアデザイン	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	変化が大きく混沌とした現代社会において「キャリアデザイン」は個人にとって有意義な人生を送る上で必要なものとなっている。大学という場は、これからの人生をどのように送るかを考える上でとても大事な場であり、時間である。この授業では、自分のキャリアについて考え、計画することについて学ぶ。		
教材（テキスト）	特に使用しない。毎回、資料やワークシートを配布する。		
教材（参考文献）	寿山泰二・宮城まり子・三川俊樹・長尾博暢・宇佐美義尚・柏木理佳共著「大学生のためのキャリアガイドブック」北大路書房　￥2,000 浦上昌則・三宅章介・横山明子著「就職活動を始める前に読む本」北大路書房￥1,300 大久保功・石田坦・西田治子著「18 歳からのキャリアプランニング」北大路書房￥1,200 他、授業中に適宜紹介する		
教材（その他）	適宜プリントを配布する		
評価方法	授業終了時に提出するミニレポート、受講態度、課題レポートで総合的に評価する。 ・講義内容を理解し、その日の気づき・感想などをまとめる（45%） ・授業への取り組み姿勢（ワークや受講態度など）15% ・課題レポート（40%）		
到達目標	・キャリアデザインの基本を理解する ・社会への興味関心を深める ・社会へ出てから活動するために必要な能力を理解し、働くことについてイメージできる		
準備学習	新聞を読み、社会の動きについて情報を収集し、自分なりの意見を考えること。 各授業での気づきを　意識して、学生生活でアウトプットし、考察すること。		

受講者への要望

社会への移行を前提とした大人としての受講マナーや態度で参加してほしい。
遅刻や私語は厳禁とする。
遅刻の場合、理由を求める。
私語が過ぎれば他者への迷惑を勘案し、退出を求める。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション～キャリアデザインとは～
2. 学生と社会人
3. 現代社会の理解
4. 学生生活とキャリア形成
5. 働き方とキャリアプラン
6. 職業と収支
7. 多彩な職種・業種と適職
8. 求職の際の心得
9. 自分の強みを知る
10. 自己理解
11. ライフイベントとキャリアデザイン
12. 社会人としてのルールとコンプライアンス
13. 期待される人材とは
14. 自分を売り込む
15. 振り返りとライフプランニング

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★					

年度	2015	授業コード	JM0007002
科目名	キャリアデザイン	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	変化が大きく混沌とした現代社会において「キャリアデザイン」は個人にとって有意義な人生を送る上で必要なものとなっている。大学という場は、これからの人生をどのように送るかを考える上でとても大事な場であり、時間である。この授業では、自分のキャリアについて考え、計画することについて学ぶ。		
教材（テキスト）	特に使用しない。毎回、資料やワークシートを配布する。		
教材（参考文献）	寿山泰二・宮城まり子・三川俊樹・長尾博暢・宇佐美義尚・柏木理佳共著「大学生のためのキャリアガイドブック」北大路書房　￥2,000 浦上昌則・三宅章介・横山明子著「就職活動を始める前に読む本」北大路書房￥1,300 大久保功・石田坦・西田治子著「18 歳からのキャリアプランニング」北大路書房￥1,200 他、授業中に適宜紹介する		
教材（その他）	適宜プリントを配布する		
評価方法	授業終了時に提出するミニレポート、受講態度、課題レポートで総合的に評価する。 ・講義内容を理解し、その日の気づき・感想などをまとめる（45%） ・授業への取り組み姿勢（ワークや受講態度など）15% ・課題レポート（40%）		
到達目標	・キャリアデザインの基本を理解する ・社会への興味関心を深める ・社会へ出てから活動するために必要な能力を理解し、働くことについてイメージできる		
準備学習	新聞を読み、社会の動きについて情報を収集し、自分なりの意見を考えること。 各授業での気づきを　意識して、学生生活でアウトプットし、考察すること。		

受講者への要望

社会への移行を前提とした大人としての受講マナーや態度で参加してほしい。
遅刻や私語は厳禁とする。
遅刻の場合、理由を求める。
私語が過ぎれば他者への迷惑を勘案し、退出を求める。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション～キャリアデザインとは～
2. 学生と社会人
3. 現代社会の理解
4. 学生生活とキャリア形成
5. 働き方とキャリアプラン
6. 職業と収支
7. 多彩な職種・業種と適職
8. 求職の際の心得
9. 自分の強みを知る
10. 自己理解
11. ライフイベントとキャリアデザイン
12. 社会人としてのルールとコンプライアンス
13. 期待される人材とは
14. 自分を売り込む
15. 振り返りとライフプランニング

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★					

年度	2015	授業コード	JM0008001
科目名	キャリアベーシックトレーニング	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Basic Training		
担当者名	水原　道子	旧科目名称	
講義概要	この科目は、本学のキャリア形成支援講座の１つとして開講されます。 この講座は、就職に必要な基礎能力の修得を目標にしています。 中でも、「読み書き（ビジネス文書)」と「計算・計数・数学的思考」能力の修得が、本講義の目的です。 前半の文書表現では、事務・営業職の職務に必要な文書の知識について、後半の数学・数的処理の基礎では、計算方法、数学的な思考方法や知識について勉強します。		
教材（テキスト）	1　西尾宣明 編　『日本語表現法』　樹村房 2　山田哲也　『社会人の基礎数字』　（株）テックス		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)　到達度確認テスト・定期試験(70%)		
到達目標	・ビジネス文書の約束事や役割を理解している。 ・誤字・脱字に加え、文章表現の妥当性についてチェックし、適切な修正ができる。 ・不定型の文書（企画書等）を論理立てて作成できる。 ・3 桁程度の四則計算（分数、少数を含む）が正確にできる。 ・演繹的・帰納的な手法を用いて数学的・論理的に順序立てて考えることができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲を提示するので、復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
この科目は、各自のキャリア形成のための科目です。 明確な目的意識を持って受講することを望みます。 就職活動において自己アピールするための大きな材料になりますので、多くの学生がチャレンジすることを望みます。			
講義の順序とポイント			
1　文書表現①（文書によるコミュニケーション） 2　文書表現②（ビジネス文書作成の要領） 3　文書表現③（文書作成実務　1） 4　文書表現④（文書作成実務　2） 5　文書表現⑤（企画書を作成する） 6　文書表現⑥（郵送の実務） 7　文書表現⑦（長文を読む） 8　文書表現⑧（復習と到達度の確認） 9　数学・数的処理の基礎①（分数・小数の計算） 10　数学・数的処理の基礎②（計算の工夫、割合） 11　数学・数的処理の基礎③（原価計算、仕事算） 12　数学・数的処理の基礎④（年齢算、鶴亀算） 13　数学・数的処理の基礎⑤（速度算） 14　数学・数的処理の基礎⑥（濃度算） 15　数学・数的処理の基礎⑦（資料、推論） （定期試験　数学・数的処理の基礎）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		★★

年度	2015	授業コード	JM0008002
科目名	キャリアベーシックトレーニング キャリアベーシックトレーニング	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Basic Training		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	この科目は、本学のキャリア形成支援講座の１つとして開講されます。 この講座は、就職に必要な基礎能力の修得を目標にしています。 中でも、「読み書き（ビジネス文書)」と「計算・計数・数学的思考」能力の修得が、本講義の目的です。 前半の文書表現では、事務・営業職の職務に必要な文書の知識について、後半の数学・数的処理の基礎では、計算方法、数学的な思考方法や知識について勉強します。		
教材（テキスト）	1　西尾宣明 編　『日本語表現法』　樹村房 2　山田哲也　『社会人の基礎数字』　（株）テックス		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)　到達度確認テスト・定期試験(70%)		
到達目標	・ビジネス文書の約束事や役割を理解している。 ・誤字・脱字に加え、文章表現の妥当性についてチェックし、適切な修正ができる。 ・不定型の文書（企画書等）を論理立てて作成できる。 ・3 桁程度の四則計算（分数、少数を含む）が正確にできる。 ・演繹的・帰納的な手法を用いて数学的・論理的に順序立てて考えることができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲を提示するので、復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

この科目は、各自のキャリア形成のための科目です。 明確な目的意識を持って受講することを望みます。
就職活動において自己アピールするための大きな材料になりますので、多くの学生がチャレンジすることを望みます。

講義の順序とポイント

1　文書表現①（文書によるコミュニケーション）
2　文書表現②（ビジネス文書作成の要領）
3　文書表現③（文書作成実務　1）
4　文書表現④（文書作成実務　2）
5　文書表現⑤（企画書を作成する）
6　文書表現⑥（郵送の実務）
7　文書表現⑦（長文を読む）
8　文書表現⑧（復習と到達度の確認）
9　数学・数的処理の基礎①（分数・小数の計算）
10　数学・数的処理の基礎②（計算の工夫、割合）
11　数学・数的処理の基礎③（原価計算、仕事算）
12　数学・数的処理の基礎④（年齢算、鶴亀算）
13　数学・数的処理の基礎⑤（速度算）
14　数学・数的処理の基礎⑥（濃度算）
15　数学・数的処理の基礎⑦（資料、推論）
（定期試験　数学・数的処理の基礎）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		★★

年度	2015	授業コード	JM0009001
科目名	コミュニケーション・スキル	単位数	2
科目名（英語表記）	Communication Skill		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「コミュニケーション・スキル」は、「働く」ことだけでなく、人生を送る上で非常に大切なスキルである。コミュニケーションは、人と人をつなぐものであり、「コミュニケーション力」は、私たちの生活や仕事をはじめ、人生を充実したものにしてくれる。大学では、専門分野の勉強をするだけでなく、社会に貢献すべく教養を深め、人や情報との付き合い方を学ぶ場でもある。授業では、これから社会へ出ていくにあたり、ビジネスシーンで必要とされるコミュニケーションの考え方やスキルの基礎を中心に進めていく。コミュニケーションの知識を身に付けるよりも、現実の場で活用できるよう、参加型のトレーニングを予定している。		
教材（テキスト）	特に使用しない 必要があれば、その都度、紹介する。		
教材（参考文献）	大学 1 年生からのコミュニケーション入門　ナカニシヤ出版　中野美香著　￥1,900 対話力を伸ばすビジネスコミュニケーション講座　日経 BP 社　鹿野晴夫・大塚千春著　￥1,800 他、適宜紹介する		
教材（その他）	適宜、プリントやワークシートを配布する		
評価方法	授業中に出すミニレポートや受講態度、課題レポートで総合的に判断する。 ・授業内で実施するミニレポート（60%） ・受講態度（20%） ・提出課題（20%）		
到達目標	・他者の話をしっかり聞くことができる ・相手に自分の考えや意見などを伝わるように話すことができる ・相手との信頼関係を築くことができる		
準備学習	講義終了時に、次回のテーマを紹介するので、自己のコミュニケーション・スキルについて考えておくこと。また、講義内で学んだことを、学生生活でアウトプットし、身に付けるようにすること。		

受講者への要望

・学生間、教員と学生の活発なコミュニケーションを期待する。
・私語や受講態度については厳しく対応する。場合によると、退出を求めることがある。
・遅刻や休みなどは、その理由を求める。
・主体的に大人としての行動、態度をとること（マナーや一般常識など）
・コミュニケーションは実践することにより身につくので、必ず、授業以外の場で実践することを心がけること。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション～大学生とコミュニケーション～
2. 自己のコミュニケーション傾向を知る
3. コミュニケーションと第一印象
4. 言語・非言語のコミュニケーション
5. コミュニケーションの目的と目標
6. 言葉使い
7. 表現方法
8. 話の聞き方
9. 質問する
10. ビジネスレター・E メール
11. チームワーク
12. ディスカッション
13. スピーチ・プレゼンテーション
14. 電話応対
15. 振り返りとコミュニケーションの評価

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★		★			

年度	2015	授業コード	JM0009002
科目名	コミュニケーション・スキル	単位数	2
科目名（英語表記）	Communication Skill		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「コミュニケーション・スキル」は、「働く」ことだけでなく、人生を送る上で非常に大切なスキルである。コミュニケーションは、人と人をつなぐものであり、「コミュニケーション力」は、私たちの生活や仕事をはじめ、人生を充実したものにしてくれる。大学では、専門分野の勉強をするだけでなく、社会に貢献すべく教養を深め、人や情報との付き合い方を学ぶ場でもある。授業では、これから社会へ出ていくにあたり、ビジネスシーンで必要とされるコミュニケーションの考え方やスキルの基礎を中心に進めていく。コミュニケーションの知識を身に付けるよりも、現実の場で活用できるよう、参加型のトレーニングを予定している。		
教材（テキスト）	特に使用しない 必要があれば、その都度、紹介する。		
教材（参考文献）	大学 1 年生からのコミュニケーション入門　ナカニシヤ出版　中野美香著　￥1,900 対話力を伸ばすビジネスコミュニケーション講座　日経 BP 社　鹿野晴夫・大塚千春著　￥1,800 他、適宜紹介する		
教材（その他）	適宜、プリントやワークシートを配布する		
評価方法	授業中に出すミニレポートや受講態度、課題レポートで総合的に判断する。 ・授業内で実施するミニレポート（60%） ・受講態度（20%） ・提出課題（20%）		
到達目標	・他者の話をしっかり聞くことができる ・相手に自分の考えや意見などを伝わるように話すことができる ・相手との信頼関係を築くことができる		
準備学習	講義終了時に、次回のテーマを紹介するので、自己のコミュニケーション・スキルについて考えておくこと。また、講義内で学んだことを、学生生活でアウトプットし、身に付けるようにすること。		

受講者への要望

・学生間、教員と学生の活発なコミュニケーションを期待する。
・私語や受講態度については厳しく対応する。場合によると、退出を求めることがある。
・遅刻や休みなどは、その理由を求める。
・主体的に大人としての行動、態度をとること（マナーや一般常識など）
・コミュニケーションは実践することにより身につくので、必ず、授業以外の場で実践することを心がけること。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション～大学生とコミュニケーション～
2. 自己のコミュニケーション傾向を知る
3. コミュニケーションと第一印象
4. 言語・非言語のコミュニケーション
5. コミュニケーションの目的と目標
6. 言葉使い
7. 表現方法
8. 話の聞き方
9. 質問する
10. ビジネスレター・E メール
11. チームワーク
12. ディスカッション
13. スピーチ・プレゼンテーション
14. 電話応対
15. 振り返りとコミュニケーションの評価

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★		★			

年度	2015	授業コード	JM0010A01
科目名	ジェンダー論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society A		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	ジェンダー論ｓ
講義概要	ジェンダーとは、女性／男性の性の違いを、生物学的本質的な差異ととらえるのではなく、この社会の構成秩序のうちに体系づけられた構築的なものとして、認識する概念である。授業では、ジェンダー論の考え方を学び、既存の社会通念の検証、ジェンダーに関わる理論や具体的事象へのアプローチを通して、ジェンダーの規範性、政治性を問い、また、その構築性や当事者性を確認する。ジェンダー論Ａでは、セクシュアリティの問題を扱うので、最前線の話題でもあり、時事的問題やポップな文化現象も扱いながら、授業を進める。		
教材（テキスト）	テキストは、使用しない。随時、プリント資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業内で、適宜紹介する。		
教材（その他）	随時配布する資料と、ＡＶ資料。特に、理解を深めるために、時事問題とからめた映像資料などを使用する。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝(50%) 定期試験(50%)		
到達目標	ジェンダー、セクシュアリティについて、生得的、宿命的なものとして捉える既存の社会通念の呪縛を解き、社会の構成自体をクリティカルに読み解く理解力、思考力を養う。各人が自らの尊厳を重視し、他者への理解を深め、自他ともに幸福に生きるためには、どのような社会が目指されるべきなのかを考察できるようになること。		
準備学習	授業内でのレポートや小テストには、予め、課題、範囲等を指定するので、準備をして臨むこと。		

受講者への要望

・レポートなどの提出物は、きちんとした文字と文章を心がけること。雑な文字・文章は評価しない。また、オリジナリティを重視するので、他人の物のコピーではなく、自分で考察したものを評価する。
・常識や偏見にとらわれない、柔軟な発想、思考を望みます。

講義の順序とポイント

1. 導入：ジェンダー論について　ジェンダーとは何か
２．ジェンダーの表象、表現、社会通念についての考察
３．「女」とは誰のことか、「男」とは誰のことか
４．性自認を考える
５．性自認と法
６．性的対象選択という問題
７．性的対象選択と婚姻制度
８．性分化をめぐる事象（１）
９．性分化をめぐる事象（２）
１０．性分化をめぐる事象（３）
１１．性と生殖（１）
１２．性と生殖（２）
１３．人権としてのジェンダー・セクシュアリティ
１４．ジェンダー・セクシュアリティの現在と課題（１）
１５．ジェンダー・セクシュアリティの現在と課題（２）
＊上記授業テーマの配列は、授業の進度、その時々の社会情勢やトピックスによって、調整・変更を行う場合があります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0010A02
科目名	ジェンダー論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society A		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	ジェンダー論ｓ
講義概要	ジェンダーとは、女性／男性の性の違いを、生物学的本質的な差異ととらえるのではなく、この社会の構成秩序のうちに体系づけられた構築的なものとして、認識する概念である。授業では、ジェンダー論の考え方を学び、既存の社会通念の検証、ジェンダーに関わる理論や具体的事象へのアプローチを通して、ジェンダーの規範性、政治性を問い、また、その構築性や当事者性を確認する。ジェンダー論Ａでは、セクシュアリティの問題を扱うので、最前線の話題でもあり、時事的問題やポップな文化現象も扱いながら、授業を進める。		
教材（テキスト）	テキストは、使用しない。随時、プリント資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業内で、適宜紹介する。		
教材（その他）	随時配布する資料と、ＡＶ資料。特に、理解を深めるために、時事問題とからめた映像資料などを使用する。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝(50%) 定期試験(50%)		
到達目標	ジェンダー、セクシュアリティについて、生得的、宿命的なものとして捉える既存の社会通念の呪縛を解き、社会の構成自体をクリティカルに読み解く理解力、思考力を養う。各人が自らの尊厳を重視し、他者への理解を深め、自他ともに幸福に生きるためには、どのような社会が目指されるべきなのかを考察できるようになること。		
準備学習	授業内でのレポートや小テストには、予め、課題、範囲等を指定するので、準備をして臨むこと。		

受講者への要望

・レポートなどの提出物は、きちんとした文字と文章を心がけること。雑な文字・文章は評価しない。また、オリジナリティを重視するので、他人の物のコピーではなく、自分で考察したものを評価する。
・常識や偏見にとらわれない、柔軟な発想、思考を望みます。

講義の順序とポイント

1. 導入：ジェンダー論について　ジェンダーとは何か
２．ジェンダーの表象、表現、社会通念についての考察
３．「女」とは誰のことか、「男」とは誰のことか
４．性自認を考える
５．性自認と法
６．性的対象選択という問題
７．性的対象選択と婚姻制度
８．性分化をめぐる事象（１）
９．性分化をめぐる事象（２）
１０．性分化をめぐる事象（３）
１１．性と生殖（１）
１２．性と生殖（２）
１３．人権としてのジェンダー・セクシュアリティ
１４．ジェンダー・セクシュアリティの現在と課題（１）
１５．ジェンダー・セクシュアリティの現在と課題（２）
＊上記授業テーマの配列は、授業の進度、その時々の社会情勢やトピックスによって、調整・変更を行う場合があります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0010B01
科目名	ジェンダー論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society B		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	ジェンダー論ｆ
講義概要	この社会は、女性／男性の二元的構成で秩序づけられ、様々な制度や制度を支える意識も、この二元的構成すなわちジェンダーに基づいている。 授業では、戦後の男女平等政策の変遷について、人権意識や男女の関係性、家族の問題をトピックを立てて検証する。そして、私たちが日常生活で直面する様々な場面とジェンダー・システムとの関連を把握する。また、歴史的な流れを理解し、今後に向けて、私たちが幸福な暮らしを実現するためにはどのような社会が構築されるべきなのか、ジェンダーにセンシティブな視点を養いつつ、社会への問題意識を喚起する。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。随時、資料を配布。		
教材（参考文献）	授業内で、適宜、紹介。		
教材（その他）	授業内で配布する資料と、ＡＶ資料。理解を深めるために、時事的問題を扱う際には、政府啓発映像やテレビ映像なども使用する。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝（50%） 定期試験（50%）		
到達目標	現在の社会問題の諸相が、ジェンダー問題と深く関わっている事実を理解し、女性も男性も誰もが生き生きと幸福に生きられる社会とは何であるのかを、深く考察する姿勢と力を養う。		
準備学習	授業内で行うレポートや小テストについては、事前に課題、範囲を提示するので、準備をして臨むこと。		
受講者への要望			
・レポート、ミニテストなどの提出物は、文字、文章を丁寧に書くこと。雑な提出物は評価しない。また、オリジナリティを重視するので、他人の物のコピーではなく、自分で考察したものを評価する。自分に惹きつけてよく考えられたレポートは意義深いものであり、高く評価される。 ・社会通念や思い込みを廃し、柔軟な思考や発想を持って、テーマと向き合うことを望みます。			
講義の順序とポイント			
１．　導入：ジェンダー論について　ジェンダーとは何か ２．　男性観、女性観をめぐって、マスメディアにおける表象、社会通念を検証 ３．戦後の男女同権 ４．高度経済成長期におけるジェンダー ５．性別特性論（１） ６．性別特性論（２） ７．ジェンダーと暴力（１） ８．ジェンダーと暴力（２） ９．ジェンダーと暴力（３） １０．高度経済成長期以降のジェンダー政策 １１．国際的取り組みとジェンダー １２．労働とジェンダー（１） １３．労働とジェンダー（２） １４．男女共同参画政策 １５．ジェンダー問題の現状と課題 上記授業テーマの配列は、授業の進度や時事的な話題等の状況に応じて、調整・変更することがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0010B02
科目名	ジェンダー論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society B		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	ジェンダー論ｆ
講義概要	この社会は、女性／男性の二元的構成で秩序づけられ、様々な制度や制度を支える意識も、この二元的構成すなわちジェンダーに基づいている。 授業では、戦後の男女平等政策の変遷について、人権意識や男女の関係性、家族の問題をトピックを立てて検証する。そして、私たちが日常生活で直面する様々な場面とジェンダー・システムとの関連を把握する。また、歴史的な流れを理解し、今後に向けて、私たちが幸福な暮らしを実現するためにはどのような社会が構築されるべきなのか、ジェンダーにセンシティブな視点を養いつつ、社会への問題意識を喚起する。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。随時、資料を配布。		
教材（参考文献）	授業内で、適宜、紹介。		
教材（その他）	授業内で配布する資料と、ＡＶ資料。理解を深めるために、時事的問題を扱う際には、政府啓発映像やテレビ映像なども使用する。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝（50%） 定期試験（50%）		
到達目標	現在の社会問題の諸相が、ジェンダー問題と深く関わっている事実を理解し、女性も男性も誰もが生き生きと幸福に生きられる社会とは何であるのかを、深く考察する姿勢と力を養う。		
準備学習	授業内で行うレポートや小テストについては、事前に課題、範囲を提示するので、準備をして臨むこと。		
受講者への要望			
・レポート、ミニテストなどの提出物は、文字、文章を丁寧に書くこと。雑な提出物は評価しない。また、オリジナリティを重視するので、他人の物のコピーではなく、自分で考察したものを評価する。自分に惹きつけてよく考えられたレポートは意義深いものであり、高く評価される。 ・社会通念や思い込みを廃し、柔軟な思考や発想を持って、テーマと向き合うことを望みます。			
講義の順序とポイント			
１．　導入：ジェンダー論について　ジェンダーとは何か ２．　男性観、女性観をめぐって、マスメディアにおける表象、社会通念を検証 ３．戦後の男女同権 ４．高度経済成長期におけるジェンダー ５．性別特性論（１） ６．性別特性論（２） ７．ジェンダーと暴力（１） ８．ジェンダーと暴力（２） ９．ジェンダーと暴力（３） １０．高度経済成長期以降のジェンダー政策 １１．国際的取り組みとジェンダー １２．労働とジェンダー（１） １３．労働とジェンダー（２） １４．男女共同参画政策 １５．ジェンダー問題の現状と課題 上記授業テーマの配列は、授業の進度や時事的な話題等の状況に応じて、調整・変更することがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0012001
科目名	ビジネス実務論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Practical Business		
担当者名	水原　道子	旧科目名称	
講義概要	信頼される職業人としての基礎を養い、日常業務の流れや円滑な人間関係のあり方などを学び、さまざまなビジネスシーンにおいて適切な行動ができるようになることを目指す。 また、就職活動においてプラスになるようビジネスマナーを学び、好感の持てる外見・動作・行動を身に付ける。 加えて、時事問題を題材に、タイムリーなビジネス業界のあり方を知る。		
教材（テキスト）	「ビジネスとオフィスワーク」 樹村房 1900 円		
教材（参考文献）	秘書検定２級問題集（受験希望者）		
教材（その他）	１．ビデオ教材を使用 ２．適宜プリントを配布		
評価方法	１．授業内プリントによる平常点　10% ２．授業内小テストによる提出物　20% ３．各章の確認課題　70% 以上３点による総合評価とする		
到達目標	社会人として、常識のある話し方ができ、態度や行動も含め、好感度の高いコミュニケーションが取れる人物となることを目指す。 また、就職活動に活用できるよう、ビジネス用語・時事用語を積極的に学ぶ。		
準備学習	講義終了時に、講義内容に付随する資料を配布するので、解答を記入し、次回に必ず持参すること。 ニュースや新聞等で興味ある時事問題を収拾し、的確に話せるようにまとめておく。		
受講者への要望			
受講にあたっては、必ずテキスト「ビジネスとオフィスワーク」を持参すること			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス…授業の概要及び受講ルール ２．企業とビジネス活動…ビジネス界の動き ３．学生と社会人…それぞれの立場の違い ４．ビジネス業務と組織…協働の精神と社会人のルール ５．接遇の重要性…挨拶と第一印象の大切さ ６．接遇(1)…ビジネスシーンにおける対応 ７．接遇(2)…敬語と話し方 ８．応対の基本Ⅰ…電話に関する基本マナー ９．応対の基本Ⅱ…訪問に関する基本マナー 10．冠婚葬祭Ⅰ…常識としての冠婚葬祭マナー(1) 11．冠婚葬祭Ⅱ…常識としての冠婚葬祭マナー(2) 12．ファイリングⅠ…ファイリングシステムについて 13．ファイリングⅡ…ファイリングの実際 14．クレーム対応…クレーム処理の原則 15．心構え…ビジネスパーソンとしての知識と行動			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JM0012002
科目名	ビジネス実務論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Practical Business		
担当者名	水原　道子	旧科目名称	
講義概要	信頼される職業人としての基礎を養い、日常業務の流れや円滑な人間関係のあり方などを学び、さまざまなビジネスシーンにおいて適切な行動ができるようになることを目指す。 また、就職活動においてプラスになるようビジネスマナーを学び、好感の持てる外見・動作・行動を身に付ける。 加えて、時事問題を題材に、タイムリーなビジネス業界のあり方を知る。		
教材（テキスト）	「ビジネスとオフィスワーク」 樹村房 1900 円		
教材（参考文献）	秘書検定２級問題集（受験希望者）		
教材（その他）	１．ビデオ教材を使用 ２．適宜プリントを配布		
評価方法	１．授業内プリントによる平常点　10% ２．授業内小テストによる提出物　20% ３．各章の確認課題　70% 以上３点による総合評価とする		
到達目標	社会人として、常識のある話し方ができ、態度や行動も含め、好感度の高いコミュニケーションが取れる人物となることを目指す。 また、就職活動に活用できるよう、ビジネス用語・時事用語を積極的に学ぶ。		
準備学習	講義終了時に、講義内容に付随する資料を配布するので、解答を記入し、次回に必ず持参すること。 ニュースや新聞等で興味ある時事問題を収拾し、的確に話せるようにまとめておく。		
受講者への要望			
受講にあたっては、必ずテキスト「ビジネスとオフィスワーク」を持参すること			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス…授業の概要及び受講ルール ２．企業とビジネス活動…ビジネス界の動き ３．学生と社会人…それぞれの立場の違い ４．ビジネス業務と組織…協働の精神と社会人のルール ５．接遇の重要性…挨拶と第一印象の大切さ ６．接遇(1)…ビジネスシーンにおける対応 ７．接遇(2)…敬語と話し方 ８．応対の基本Ⅰ…電話に関する基本マナー ９．応対の基本Ⅱ…訪問に関する基本マナー 10．冠婚葬祭Ⅰ…常識としての冠婚葬祭マナー(1) 11．冠婚葬祭Ⅱ…常識としての冠婚葬祭マナー(2) 12．ファイリングⅠ…ファイリングシステムについて 13．ファイリングⅡ…ファイリングの実際 14．クレーム対応…クレーム処理の原則 15．心構え…ビジネスパーソンとしての知識と行動			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JM0013101
科目名	フィールドワーク京都（まちなかコミュニティ研究）　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork in Kyoto (Study of City Commun ities)		
担当者名	丹羽　結花	旧科目名称	
講義概要	歴史都市京都にはまちなかに住まうひとびとの知恵がいきづいている。コミュニティとしての町や学区と呼ばれる地域単位のなかでのふるまいやつきあいに必要なしきたりや習慣ともいえる。一方、都市であるからこそ、新しい居住者や観光客などの他者を迎える機会も多く、時代の変化に伴い、少しずつ変わっていくものでもある。 この授業では都市の成り立ちや京都の町家のありかたなどを学びながら、そこに住むひとびとの生活や社会の実態を知ることが重要な目的となる。日常の暮らしに接するためにフィールドワークという手法を学び、実際に現場で学び、問題を発見することがもう一つの大きな目的である。最終的にはコミュニティ活動の一つでもある祇園祭を対象として、いくつかの調査をおこなう。京都のまちを自分で歩き、そこに住むひとびとと交流し、彼らの話を聞くことによって、現代社会や人間関係を理解するきっかけにしてほしい。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する		
教材（その他）	講義ではビデオ教材、パワーポイントなどを使用する。 現場そのもの（まちなか、町家、祭、住まうひとびとなど）が重要な教材となる。五感をとぎすまして京都を体験していただきたい。		
評価方法	平常点（３０％）出席状況と毎回授業後におこなうアンケートなどにより評価する。 調査実習（３０％）実習における積極的な取組を評価する。 レポート（２０％）授業中に随時おこなうミニレポートにより評価する。 成果報告（２０％）最終授業でおこなうプレゼンテーションにより評価する。		
到達目標	京都という歴史都市の成り立ち、まちなみの形成や町家のつくりなどを理解する。 祇園祭の歴史と背景を理解する。 フィールドワークという調査手法を理解する。 さまざまなひとびとの行為を観察し、実際に生活するひとびとの声を聞くことによって、社会や生活の実態を記録して残す。 これらを自分の問題意識に引き寄せて分析・考察し、理解を深めることが最終目標である。		
準備学習	講義または実習内容に関する参考文献やテキストなどを随時紹介するので、事前に読んで、理解すること。		
受講者への要望			
好奇心をもって、積極的に取り組んでいただきたい。京都のまちなかに出かけて、さまざまなひとびとと接することになるため、実習時は住み手に失礼のないように適切な服装などをこころがけること。いずれも授業中に適宜アドバイスをおこなう。行事や住み手の都合により、授業日時を変更する可能性があるが、各自の希望を取り入れて調整する予定である。			
講義の順序とポイント			
講義による事前学習とまちに出ておこなう実習をくみあわせておこなう。 なお、先方の予定などによって、順序や中身が変更となる可能性がある。 １．はじめに　京都のまちの仕組みを知る ２．まちなか探検　まちの構造と通りを実際に歩いて理解する ３．まちなみ調査　テーマに沿って、観察し、記録をとる ４．フィールドワークの基本　背景となる理論と手法を学ぶ ５．京都の町家　伝統的な住まいである町家の仕組みを知る ６．町家の暮らし　その１　実際に訪れて、空間を体験する ７．町家の暮らし　その２　住み手の話を聞く ８．町家の再生　その１　伝統的なものを引き継ぐ仕組みを知る ９．町家の再生　その２　市民活動関係者や職人さんの話を聞く １０．コミュニティとは　町と学区の成り立ちを知る １１．年中行事と祇園祭　コミュニティ活動としての祭を理解する １２．祇園祭の調査　その１　関係者の話を聞く １３．祇園祭の調査　その２　まちなみの変化を観察する			

１４．祇園祭の調査　その３　各自の問題意識に沿って、観察し、記録をとる １５．まとめ　成果を発表し、これからの京都について、討論する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JM0015A01
科目名	フィールドワーク京都（歴史と文化） A 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork in Kyoto (History & Culture) A		
担当者名	平良　聡弘	旧科目名称	
講義概要	一千年を超えて一国のミヤコたり続けた都市、世界に類例のない都市が、世界遺産「京都」。多くの人びとの心をひきつけてやまない京都の魅力は、この都市が積み重ねてきた時間の長さと重厚な文化遺産にあるといえるでしょう。 本科目は、なかでも幕末の京都を中心に、講義とフィールドワーク（巡見）を組み合せて実施します。訪れる史跡や施設の知識を前もって学習しておくと、いままで気づかなかったことも見えてきますし、とても身近に感じられるようになるはずです。 授業は、新町通錦小路上ルにオープンしている「京町家キャンパス」を拠点に、月１度程度の土曜日に開設し、午前の１・２講時を講義、午後の３・４講時をフィールドワークにあてます。なお、フィールドワークの実施にともなう交通費や拝観・入場・観覧に要する費用は、原則、自己負担です。		
教材（テキスト）	毎回プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	学期末にレポート提出を求めますが、成績は、講義・フィールドワークでの活動状況を７０パーセント、レポート３０パーセントとして評価します。		
到達目標	京都を今よりもっと好きになること。 史跡や施設について自分で調べ、実際にその場所を訪ねることができるだけでなく、人を案内できるようになること。		
準備学習	各回の講義に応じて、フィールドワークに出かける場所をあらかじめ決めています。その地域、史跡、施設について前もって学習しておくこと。		

受講者への要望

フィールドワークという性格上、授業への積極的な参加をのぞみます。
せっかく京都の大学に入学したわけですから、祇園祭を支える鉾町の真ん中にある「京町家キャンパス」を拠点として、京都の歴史を学び、フィールドワークで身近な文化にふれる体験をしてみませんか。

講義の順序とポイント

４月２５日（土）　講義「ガイダンス」「フィールドワークの心得」
フィールドワーク
京都府立総合資料館

５月２３日（土）　講義「幕末京都の政治空間」
フィールドワーク
二条城、京都府庁、京都御所、金戒光明寺

６月２０日（土）　講義「幕末京都における大名屋敷と志士の居所」
フィールドワーク
河原町、木屋町、京都文化博物館

７月１８日（土）　講義「歴史のなかの新撰組」
フィールドワーク
壬生、島原、西本願寺

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JM0015B01
科目名	フィールドワーク京都（歴史と文化） B 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork in Kyoto (History & Culture) B		
担当者名	平良　聡弘	旧科目名称	
講義概要	一千年を超えて一国のミヤコたり続けた都市、世界に類例のない都市が、世界遺産「京都」。多くの人びとの心をひきつけてやまない京都の魅力は、この都市が積み重ねてきた時間の長さと重厚な文化遺産にあるといえるでしょう。 本科目は、なかでも幕末の京都を中心に、講義とフィールドワーク（巡見）を組み合せて実施します。訪れる史跡や施設の知識を前もって学習しておくと、いままで気づかなかったことも見えてきますし、とても身近に感じられるようになるはずです。 授業は、新町通錦小路上ルにオープンしている「京町家キャンパス」を拠点に、月１度程度の土曜日に開設し、午前の１・２講時を講義、午後の３・４講時をフィールドワークにあてます。なお、フィールドワークの実施にともなう交通費や拝観・入場・観覧に要する費用は、原則、自己負担です。		
教材（テキスト）	毎回プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	学期末にレポート提出を求めますが、成績は、講義・フィールドワークでの活動状況を７０パーセント、レポート３０パーセントとして評価します。		
到達目標	京都を今よりもっと好きになること。 史跡や施設について自分で調べ、実際にその場所を訪ねることができるだけでなく、人を案内できるようになること。		
準備学習	各回の講義に応じて、フィールドワークに出かける場所をあらかじめ決めています。その地域、史跡、施設について前もって学習しておくこと。		

受講者への要望

フィールドワークという性格上、授業への積極的な参加をのぞみます。
せっかく京都の大学に入学したわけですから、祇園祭を支える鉾町の真ん中にある「京町家キャンパス」を拠点として、京都の歴史を学び、フィールドワークで身近な文化にふれる体験をしてみませんか。

講義の順序とポイント

１０月１７日（土）　講義「文久３年８月１８日の政変」
　　フィールドワーク
　　三十三間堂、妙法院、泉涌寺、京都国立博物館

１１月２１日（土）　講義「禁門の変」
　　フィールドワーク
　　嵯峨嵐山（天龍寺、野宮神社、清涼寺、大覚寺ほか）

１２月１９日（土）　講義「国事殉難志士の招魂」
　　フィールドワーク
　　円山公園、霊山護国神社、霊山歴史資料館、清水寺

１月１６日（土）　講義「岩倉具視と京都の近代化」
　　フィールドワーク
　　岩倉具視幽棲旧宅、京都市歴史資料館、南禅寺、疎水記念館、岡崎公園

※４月時点より日程が変更になっています。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JM0016A01
科目名	マスコミ論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Mass Communication Theory A		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、情報化社会において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらに報道されたニュースの分析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを教材として取り上げるので、一般企業に就職を希望する学生にとっても、一般常識を養うのに大いに役立たせたいと考えています。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々の授業で取り上げる「ニュース」に関する新聞記事や各種データの配布に加えて、国内・海外のテレビニュース映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	積極的に授業に出席して、ジャーナリストでもある私のニュース分析や解説を中心とした講義を熱心に聞くことを望みます。それは、就職の際にきっと役に立つと思います。授業はテキストの理解が基本ですが、話題になっているニュースを取り上げ、それに関する新聞やテレビ報道を分析します。評価方法については、出席状況などを含む平常点（30%）、授業内レポート（10%）、授業内で実施する「小テスト」2 回（(計 60%）です。		
到達目標	現代社会で起きている様々な事象の意味を理解し、それに対する見解、バランスのとれた批判力を養うのが目標です。つまり、それは社会常識の構築にもつながります。この社会常識なくして一人前の社会人にはなれないわけで、それに必要不可欠な基礎知識を身に付けてほしい。それと併せて、民主社会の構成員に求められる問題意識や議題設定能力を磨いてほしい。それを学習することによって就職など進路面で大いに役立つと思われる。		
準備学習	教科書と事前に配布した資料によって予習、復習を完全に行ってください。また、マスコミ論の授業は日々のニュースについてその意味を考え、分析、解説も行いますので、出来るだけテレビニュースや新聞記事を読むようにしてください。新聞社のウェブサイトでニュース記事を閲覧しておくのも一案です。 また、講義終了時に復習用の課題を出しますので、それを次回の授業時に提出してもらいます。 1.「マス・コミュニケーションとマス・メディア、ジャーナリズムの社会的機能」については、教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）を詳しく読んでおいてください。 ２.「わが国における新聞の誕生と新聞業界の発展過程」については、事前に配布した資料に加えて、教科書の「新聞の未来」（7 ページ～20 ページ）をよく読んで、事実関係を把握しておいてください。 ３.「朝日・読売など全国紙・地方紙の現状」については、事前に配布した資料と教科書の「新聞に未来はあるか」（7 ページ～20 ページ）を読んで予習しておくこと。 ４.「テレビの登場とその社会的影響力」については、第 II 部「テレビメディア」（47 ページ～80 ページ）全体を一通り目を通しておくこと。 ５.「キャスターニュースの登場と主役たち」については、教科書の「ニュースキャスター」（81 ページ～86 ページ）を読んで専門用語を理解しておくこと。 ６.「テレビニュース革命とニュースの大衆化」については、配布資料に加えて、教科書の「ニュース革命」（49 ページ～53 ページ）を読んでおくこと。 ７.「ニュースステーションとニュース戦国時代」については、教科書の「ニュースステーションの誕生」（54 ページ～59 ページ）を詳細に読んで経緯を理解しておいてください。 ８.「NHK 的ニュースからの転換」については、ＮＨＫのウェブサイトを閲覧してその概要を知ると同時に、教科書の「ＮＨＫ的ニュース」（60 ページ～66 ページ）を読んで理解しておくこと。 ９.「ニュースキャスターと大衆」については、事前に配布した資料とともに、教科書の「キャスターニュース」（67 ページ～73 ページ）を読んで予習しておいてください。 １０.「久米宏と筑紫哲也」については、教科書の「久米と筑紫のキャスター比較論」（97 ページ～104 ページ）を参照にしながら、事前配布の両者についての資料をよく読んで予習しておいてください。 １１.「職業倫理を崩壊させたテレビの視聴率とコマーシャリズム」については、教科書の「はしがき」（ii		

	～ⅳ）と第 7 章の「視聴率至上主義」全体を一通り目を通しておいてください。 １２.「視聴率買収事件と発掘！あるある大事典Ⅱ」については、事前配布資料とデータに加えて、教科書の「視聴率至上主義」（153 ページ～159 ページ）と「虚偽で固めた生活情報番組」（160 ページ～169 ページ）をよく読んでおくこと。 １３.「ポピュリズムとメディアの選挙報道」については、事前に配布した新聞記事と教科書の「小泉劇場」（105 ページ～113 ページ）を読んで理解しておくこと。 １４.「テレビ局の選挙特番と出口調査」については、教科書の「選挙特番」（114 ページ～119 ページ）と「当確報道」（120 ページ～122 ページ）を読んで準備しておくこと。 １５.「メディアのアナウンスメント効果」については、参考資料として事前に配布した新聞記事と教科書の「投票前の新聞報道」（123 ページ～126 ページ）を読んで予習しておいてください・

受講者への要望

積極的な態度で出席することが第 1 で、遅刻や授業中の私語などはほかの人に迷惑になるので厳禁です。マスコミ報道は世の中で一体、何が起きているのか、それがどのような意味をもつのか、あるいはそれに対する賛否など重要な要素を含んでいます。このようにニュース報道を教材にしてそれを分析、思考するわけですから、出来るだけ日々の新聞やテレビニュース、雑誌などに目を通して情報感度を高めておくことが大切です。もちろん、その蓄積が就職にもつながるので、そのような意識を持つことも大事です。この授業では予習が大切で、それは「準備学習」の項をよく読んで順守してください。また、復習も大切で、それが実行されているか否
か、課題レポートも提出してもらいます。このマスコミ論を受講する学生諸君には、全学共通で教科書も同一の関連科目「ジャーナリズム論 A・B」（福永担当）を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

1　マス・コミュニケーションとマス・メディア、ジャーナリズムの社会的機能
2　わが国における新聞の誕生と今日に至るまでの新聞業界の発展過程
3　朝日・読売など全国紙・地方紙の現状とその組織、そして新聞が誕生するまで
4　テレビの登場とその社会的影響力、ジャーナリズムとしてのテレビニュースの誕生
5　米国に追随した「キャスターニュース」の登場とその華やかな主役たち
6　「テレビニュース革命」によって一般化したニュース報道の大衆化
7　「ニュースステーション」はなぜ、ニュース戦国時代の最終勝利者になれたのか
8　NHK 的ニュースから視聴者本位のニュース報道への転換
9　ニュースキャスターは「大衆（視聴者）の代理人」たり得るか
１０　久米宏（テレビ出身）と筑紫哲也（新聞出身）のキャスター比較論
１１　職業倫理を崩壊させたテレビの視聴率至上主義とコマーシャリズム
１２　テレビ局員による視聴率買収事件と「発掘！あるある大事典Ⅱ」の虚偽報道
１３　「小泉劇場」などポピュリズム（大衆迎合）に翻弄されるメディアの選挙報道
１４　政治ショーと化したテレビ局の「選挙特番」と出口調査による「当確」誤報道
１５　メディアの選挙報道によるアナウンスメント効果とその功罪

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★★

年度	2015	授業コード	JM0016A02
科目名	マスコミ論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Mass Communication Theory A		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、情報化社会において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらに報道されたニュースの分析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを教材として取り上げるので、一般企業に就職を希望する学生にとっても、一般常識を養うのに大いに役立たせたいと考えています。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々の授業で取り上げる「ニュース」に関する新聞記事や各種データの配布に加えて、国内・海外のテレビニュース映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	積極的に授業に出席して、ジャーナリストでもある私のニュース分析や解説を中心とした講義を熱心に聞くことを望みます。それは、就職の際にきっと役に立つと思います。授業はテキストの理解が基本ですが、話題になっているニュースを取り上げ、それに関する新聞やテレビ報道を分析します。評価方法については、出席状況などを含む平常点（30%）、授業内レポート（10%）、授業内で実施する「小テスト」2 回（(計 60%）です。		
到達目標	現代社会で起きている様々な事象の意味を理解し、それに対する見解、バランスのとれた批判力を養うのが目標です。つまり、それは社会常識の構築にもつながります。この社会常識なくして一人前の社会人にはなれないわけで、それに必要不可欠な基礎知識を身に付けてほしい。それと併せて、民主社会の構成員に求められる問題意識や議題設定能力を磨いてほしい。それを学習することによって就職など進路面で大いに役立つと思われる。		
準備学習	教科書と事前に配布した資料によって予習、復習を完全に行ってください。また、マスコミ論の授業は日々のニュースについてその意味を考え、分析、解説も行いますので、出来るだけテレビニュースや新聞記事を読むようにしてください。新聞社のウェブサイトでニュース記事を閲覧しておくのも一案です。 また、講義終了時に復習用の課題を出しますので、それを次回の授業時に提出してもらいます。 1.「マス・コミュニケーションとマス・メディア、ジャーナリズムの社会的機能」については、教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）を詳しく読んでおいてください。 ２.「わが国における新聞の誕生と新聞業界の発展過程」については、事前に配布した資料に加えて、教科書の「新聞の未来」（7 ページ～20 ページ）をよく読んで、事実関係を把握しておいてください。 ３.「朝日・読売など全国紙・地方紙の現状」については、事前に配布した資料と教科書の「新聞に未来はあるか」（7 ページ～20 ページ）を読んで予習しておくこと。 ４.「テレビの登場とその社会的影響力」については、第 II 部「テレビメディア」（47 ページ～80 ページ）全体を一通り目を通しておくこと。 ５.「キャスターニュースの登場と主役たち」については、教科書の「ニュースキャスター」（81 ページ～86 ページ）を読んで専門用語を理解しておくこと。 ６.「テレビニュース革命とニュースの大衆化」については、配布資料に加えて、教科書の「ニュース革命」（49 ページ～53 ページ）を読んでおくこと。 ７.「ニュースステーションとニュース戦国時代」については、教科書の「ニュースステーションの誕生」（54 ページ～59 ページ）を詳細に読んで経緯を理解しておいてください。 ８.「NHK 的ニュースからの転換」については、ＮＨＫのウェブサイトを閲覧してその概要を知ると同時に、教科書の「ＮＨＫ的ニュース」（60 ページ～66 ページ）を読んで理解しておくこと。 ９.「ニュースキャスターと大衆」については、事前に配布した資料とともに、教科書の「キャスターニュース」（67 ページ～73 ページ）を読んで予習しておいてください。 １０.「久米宏と筑紫哲也」については、教科書の「久米と筑紫のキャスター比較論」（97 ページ～104 ページ）を参照にしながら、事前配布の両者についての資料をよく読んで予習しておいてください。 １１.「職業倫理を崩壊させたテレビの視聴率とコマーシャリズム」については、教科書の「はしがき」（ii		

	～ⅳ）と第 7 章の「視聴率至上主義」全体を一通り目を通しておいてください。 １２.「視聴率買収事件と発掘！あるある大事典Ⅱ」については、事前配布資料とデータに加えて、教科書の「視聴率至上主義」（153 ページ～159 ページ）と「虚偽で固めた生活情報番組」（160 ページ～169 ページ）をよく読んでおくこと。 １３.「ポピュリズムとメディアの選挙報道」については、事前に配布した新聞記事と教科書の「小泉劇場」（105 ページ～113 ページ）を読んで理解しておくこと。 １４.「テレビ局の選挙特番と出口調査」については、教科書の「選挙特番」（114 ページ～119 ページ）と「当確報道」（120 ページ～122 ページ）を読んで準備しておくこと。 １５.「メディアのアナウンスメント効果」については、参考資料として事前に配布した新聞記事と教科書の「投票前の新聞報道」（123 ページ～126 ページ）を読んで予習しておいてください・

受講者への要望

積極的な態度で出席することが第 1 で、遅刻や授業中の私語などはほかの人に迷惑になるので厳禁です。マスコミ報道は世の中で一体、何が起きているのか、それがどのような意味をもつのか、あるいはそれに対する賛否など重要な要素を含んでいます。このようにニュース報道を教材にしてそれを分析、思考するわけですから、出来るだけ日々の新聞やテレビニュース、雑誌などに目を通して情報感度を高めておくことが大切です。もちろん、その蓄積が就職にもつながるので、そのような意識を持つことも大事です。この授業では予習が大切で、それは「準備学習」の項をよく読んで順守してください。また、復習も大切で、それが実行されているか否
か、課題レポートも提出してもらいます。このマスコミ論を受講する学生諸君には、全学共通で教科書も同一の関連科目「ジャーナリズム論 A・B」（福永担当）を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

1　マス・コミュニケーションとマス・メディア、ジャーナリズムの社会的機能
2　わが国における新聞の誕生と今日に至るまでの新聞業界の発展過程
3　朝日・読売など全国紙・地方紙の現状とその組織、そして新聞が誕生するまで
4　テレビの登場とその社会的影響力、ジャーナリズムとしてのテレビニュースの誕生
5　米国に追随した「キャスターニュース」の登場とその華やかな主役たち
6　「テレビニュース革命」によって一般化したニュース報道の大衆化
7　「ニュースステーション」はなぜ、ニュース戦国時代の最終勝利者になれたのか
8　NHK 的ニュースから視聴者本位のニュース報道への転換
9　ニュースキャスターは「大衆（視聴者）の代理人」たり得るか
１０　久米宏（テレビ出身）と筑紫哲也（新聞出身）のキャスター比較論
１１　職業倫理を崩壊させたテレビの視聴率至上主義とコマーシャリズム
１２　テレビ局員による視聴率買収事件と「発掘！あるある大事典Ⅱ」の虚偽報道
１３　「小泉劇場」などポピュリズム（大衆迎合）に翻弄されるメディアの選挙報道
１４　政治ショーと化したテレビ局の「選挙特番」と出口調査による「当確」誤報道
１５　メディアの選挙報道によるアナウンスメント効果とその功罪

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★★

年度	2015	授業コード	JM0016B01
科目名	マスコミ論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Mass Communication Theory B		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、「情報化社会」において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらには報道されたニュース解析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを“教材”として取り上げるので、一般企業の入社試験で出される「社会常識」対策としても大いに役立つかと思います。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々の授業で取り上げる「ニュース」に関する新聞記事や各種データに加えて、国内・海外のテレビニュース映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	積極的に授業に出席して、プロのジャーナリストでもある私のニュース分析や解説を聴いて下さい。それは、就職の際に必ず役立つと思います。授業はテキストの理解が基本ですが、話題になっているニュースを取り上げ、それに関する新聞・テレビ報道を皆さんと一緒に批評します。評価方法については、出席状況等などを含む平常点(30%)、授業内レポート(10%)、授業内に実施する「小テスト」2回(計60%)です。		
到達目標	高度情報化時代の今日、世の中で何が起きているか、それがどのような意味を持つのかを正確に理解することが目標です。また、それに対する客観的な判断力も求められます。それが社会人になるためのバランスのとれた社会常識の醸成につながるわけですが、学習の成果が将来の進路、つまり就職に生かされればと思います。		
準備学習	事前に配布した資料や新聞記事に加えて、教科書『衰退するジャーナリズム』をよく読んで充実した予習をしておいてください。それに加えて、マスコミ論の授業は日々起きている社会事象について理解と分析することが不可欠なので、毎日の新聞報道やテレビニュースはよく見ておいてください。新聞社のウェブサイトにアクセスしてニュースをチェックしておくことも大切です。 また、講義終了時に復習用の課題を出しますので、それを次回の授業で提出してもらいます。 1.「IT革命とメディア・ビッグバン」については、事前に配布した資料と教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）、「インターネットの登場と情報環境」（3ページ～5ページ）をよく読んで予習しておいてください。 2.「電子メディアと新聞・テレビ」については、教科書の「新聞に未来はあるか」（7ページ～20ページ）全体に目を通しておいてください。 3.「インターネットの登場と情報通信革命」については、事前配布のデーター資料と教科書の「ユビキタス的環境」「消滅の危機にある新聞」などを読んで理解を深めておいてください。 4.「メディア学者・マクルーハン」については、参考文献としての『メディア論』に加えて、教科書の「グローバル・ビレッジ（地球村）の誕生」（5ページ～7ページ）をよく読んで理解を深めておいてください。 5.「消滅の危機に瀕している新聞」については、事前に配布した資料と新聞記事に加えて、教科書の「ネット時代に新聞の未来はあるか」（7ページ～20ページ）を読んでおくこと。 6.「ネット時代のメディア・ミックス」については、日経と朝日のウェブサイトを閲覧しておくと同時に、教科書の「電子新聞ビジネス」の項を読んで理解しておくこと。 7.「新旧メディアによるM&A」については、事前に配布した各種配布資料に加えて、教科書の第2章全体を読んでおくこと。 8.「メディア界に吹き荒れる再編」については、教科書の「アメリカ・メディア界の再編」「失敗に終わった世紀の合併劇」などの項を読んでおくこと。 9.「ネット時代の覇者としてのグーグル革命」については、教科書の「グーグルは時代の覇者になれるか」の項を事前に読んで理解しておくこと。 １０.「マイクロソフト・ヤフー連合とグーグル」については、事前配布の新聞記事資料と教科書の「ＭＳ・ヤフー連合はグーグルに対抗できるか」「ＭＳによるグーグル包囲網」などの項を読んでおくこと。 １１.「世界のメディア王ルパート・マードック」については、教科書の「マードックによるテレビ朝日株買収の衝撃」（27ページ～30ページ）を読んで理解しておくこと。		

	１２.「ライブドアによるニッポン放送・フジテレビ買収劇」については、事前配布の資料と教科書の「最終目的はフジテレビ」「時価総額によるマネーゲーム」の項（30 ページ～33 ページ）を読んで予習しておいてください。 １３.「TBS に対する楽天の経営統合提案」については、事前配布の資料とともに、教科書の「依然として見えない通信と放送の融合」「利益追求ＶＳ公益性」の項（33 ページ～38 ページ）を読んでおくこと。 １４.「巨大メディア・コングロマリットによる世界的支配」については、事前配布のデータ資料に加えて、教科書の「24 時間専門チャンネル」「マードックの野望」「メディア帝国主義」などの項（38 ページ～46 ページ）を読んで予習しておくこと。 １５.「メディア業界への就職を希望する学生諸君のために」については、教科書の「情報化社会における知識人の役割」「大学におけるジャーナリズム研究とジャーナリスト教育」などの項（274 ページ～297 ページ）を読んで理解を深めておいてください。

受講者への要望

新聞記者歴 30 年の教員が日々のニュース分析を行うのですから、積極的、能動的に授業に出てください。また、遅刻や授業中の私語などはほかの受講生の迷惑になるので、注意すると同時に退出を求めることもあります。授業では専門用語もたくさん出ると思いますので、「準備学習」の項に従って予習をきちんと行ってください。また、復習も大切で、課題を出してレポートを書いてもらいます。世の中で一体何が起きているのか、それが私たちの生活にどのような影響を与えるのか、内外を問わず、世間で話題になっているニュース教材として取り扱うわけですから、新聞やテレビ、雑誌、そしてネットなどを駆使して情報収集をしおいてください。その結果、社会事象に対して興味と好奇心を持つ感度の高い“情報人”になることができるわけで、それがかならずや就職に役立つと思います。また、このマスコミ論を受講する学生諸君には、全学共通で教科書も同一の関連科目「ジャーナリズム論 A・B」（福永担当）を受講することをお奨めします。

講義の順序とポイント

1　IT 革命と「メディア・ビッグバン」によるマス・コミュニケーション機能の変容
2　ネットなど電子メディアと新聞・テレビなど新旧メディアの葛藤
3　インターネットの登場によるユビキタス的「情報通信革命」とは何か
4　メディア学者・マクルーハンが予言していた「グローバル・ビレッジ」（地球村）の誕生
5　消滅の危機に瀕している「新聞」に果たして未来はあるのか
6　ネット時代のメディア・ミックスとしての「電子新聞」は成功するか
7　新旧メディアによる仁義なき「M&A（合併・買収）ウォーズ」の行方
8　アメリカ・メディア界に吹き荒れる「再編」の嵐
9　ネット時代の覇者として脚光を浴びる「グーグル革命」
１０　マイクロソフト・ヤフー連合によるグーグル包囲網
１１　世界のメディア王「ルパート・マードック」によるテレビ朝日株買収事件
１２　ライブドアによるニッポン放送・フジテレビ買収劇とその結末
１３　TBS に対する「楽天」の経営統合提案と通信・放送の融合の困難性
１４　巨大メディア・コングロマリット（複合企業）による情報の世界的支配
１５　メディア業界への就職を希望する学生諸君のために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★★

年度	2015	授業コード	JM0016B02
科目名	マスコミ論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Mass Communication Theory B		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、「情報化社会」において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらには報道されたニュース解析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを“教材”として取り上げるので、一般企業の入社試験で出される「社会常識」対策としても大いに役立つかと思います。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々の授業で取り上げる「ニュース」に関する新聞記事や各種データに加えて、国内・海外のテレビニュース映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	積極的に授業に出席して、プロのジャーナリストでもある私のニュース分析や解説を聴いて下さい。それは、就職の際に必ず役立つと思います。授業はテキストの理解が基本ですが、話題になっているニュースを取り上げ、それに関する新聞・テレビ報道を皆さんと一緒に批評します。評価方法については、出席状況等などを含む平常点(30%)、授業内レポート(10%)、授業内に実施する「小テスト」2回(計60%)です。		
到達目標	高度情報化時代の今日、世の中で何が起きているか、それがどのような意味を持つのかを正確に理解することが目標です。また、それに対する客観的な判断力も求められます。それが社会人になるためのバランスのとれた社会常識の醸成につながるわけですが、学習の成果が将来の進路、つまり就職に生かされればと思います。		
準備学習	事前に配布した資料や新聞記事に加えて、教科書『衰退するジャーナリズム』をよく読んで充実した予習をしておいてください。それに加えて、マスコミ論の授業は日々起きている社会事象について理解と分析することが不可欠なので、毎日の新聞報道やテレビニュースはよく見ておいてください。新聞社のウェブサイトにアクセスしてニュースをチェックしておくことも大切です。 また、講義終了時に復習用の課題を出しますので、それを次回の授業で提出してもらいます。 1.「IT革命とメディア・ビッグバン」については、事前に配布した資料と教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）、「インターネットの登場と情報環境」（3ページ～5ページ）をよく読んで予習しておいてください。 2.「電子メディアと新聞・テレビ」については、教科書の「新聞に未来はあるか」（7ページ～20ページ）全体に目を通しておいてください。 3.「インターネットの登場と情報通信革命」については、事前配布のデーター資料と教科書の「ユビキタス的環境」「消滅の危機にある新聞」などを読んで理解を深めておいてください。 4.「メディア学者・マクルーハン」については、参考文献としての『メディア論』に加えて、教科書の「グローバル・ビレッジ（地球村）の誕生」（5ページ～7ページ）をよく読んで理解を深めておいてください。 5.「消滅の危機に瀕している新聞」については、事前に配布した資料と新聞記事に加えて、教科書の「ネット時代に新聞の未来はあるか」（7ページ～20ページ）を読んでおくこと。 6.「ネット時代のメディア・ミックス」については、日経と朝日のウェブサイトを閲覧しておくと同時に、教科書の「電子新聞ビジネス」の項を読んで理解しておくこと。 7.「新旧メディアによるM&A」については、事前に配布した各種配布資料に加えて、教科書の第2章全体を読んでおくこと。 8.「メディア界に吹き荒れる再編」については、教科書の「アメリカ・メディア界の再編」「失敗に終わった世紀の合併劇」などの項を読んでおくこと。 9.「ネット時代の覇者としてのグーグル革命」については、教科書の「グーグルは時代の覇者になれるか」の項を事前に読んで理解しておくこと。 １０.「マイクロソフト・ヤフー連合とグーグル」については、事前配布の新聞記事資料と教科書の「ＭＳ・ヤフー連合はグーグルに対抗できるか」「ＭＳによるグーグル包囲網」などの項を読んでおくこと。 １１.「世界のメディア王ルパート・マードック」については、教科書の「マードックによるテレビ朝日株買収の衝撃」（27ページ～30ページ）を読んで理解しておくこと。		

	１２.「ライブドアによるニッポン放送・フジテレビ買収劇」については、事前配布の資料と教科書の「最終目的はフジテレビ」「時価総額によるマネーゲーム」の項（30 ページ～33 ページ）を読んで予習しておいてください。 １３.「TBS に対する楽天の経営統合提案」については、事前配布の資料とともに、教科書の「依然として見えない通信と放送の融合」「利益追求ＶＳ公益性」の項（33 ページ～38 ページ）を読んでおくこと。 １４.「巨大メディア・コングロマリットによる世界的支配」については、事前配布のデータ資料に加えて、教科書の「24 時間専門チャンネル」「マードックの野望」「メディア帝国主義」などの項（38 ページ～46 ページ）を読んで予習しておくこと。 １５.「メディア業界への就職を希望する学生諸君のために」については、教科書の「情報化社会における知識人の役割」「大学におけるジャーナリズム研究とジャーナリスト教育」などの項（274 ページ～297 ページ）を読んで理解を深めておいてください。

受講者への要望

新聞記者歴 30 年の教員が日々のニュース分析を行うのですから、積極的、能動的に授業に出てください。また、遅刻や授業中の私語などはほかの受講生の迷惑になるので、注意すると同時に退出を求めることもあります。授業では専門用語もたくさん出ると思いますので、「準備学習」の項に従って予習をきちんと行ってください。また、復習も大切で、課題を出してレポートを書いてもらいます。世の中で一体何が起きているのか、それが私たちの生活にどのような影響を与えるのか、内外を問わず、世間で話題になっているニュース教材として取り扱うわけですから、新聞やテレビ、雑誌、そしてネットなどを駆使して情報収集をしおいてください。その結果、社会事象に対して興味と好奇心を持つ感度の高い“情報人”になることができるわけで、それがかならずや就職に役立つと思います。また、このマスコミ論を受講する学生諸君には、全学共通で教科書も同一の関連科目「ジャーナリズム論 A・B」（福永担当）を受講することをお奨めします。

講義の順序とポイント

1　IT 革命と「メディア・ビッグバン」によるマス・コミュニケーション機能の変容
2　ネットなど電子メディアと新聞・テレビなど新旧メディアの葛藤
3　インターネットの登場によるユビキタス的「情報通信革命」とは何か
4　メディア学者・マクルーハンが予言していた「グローバル・ビレッジ」（地球村）の誕生
5　消滅の危機に瀕している「新聞」に果たして未来はあるのか
6　ネット時代のメディア・ミックスとしての「電子新聞」は成功するか
7　新旧メディアによる仁義なき「M&A（合併・買収）ウォーズ」の行方
8　アメリカ・メディア界に吹き荒れる「再編」の嵐
9　ネット時代の覇者として脚光を浴びる「グーグル革命」
１０　マイクロソフト・ヤフー連合によるグーグル包囲網
１１　世界のメディア王「ルパート・マードック」によるテレビ朝日株買収事件
１２　ライブドアによるニッポン放送・フジテレビ買収劇とその結末
１３　TBS に対する「楽天」の経営統合提案と通信・放送の融合の困難性
１４　巨大メディア・コングロマリット（複合企業）による情報の世界的支配
１５　メディア業界への就職を希望する学生諸君のために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★★

年度	2015	授業コード	JM0018A01
科目名	音声学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics I		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	音声学 s
講義概要	日本語の「あ」の音は 5 種類の音声が観察される。また日本語の「ん」の音は 4 種類の音が観察される。また R の音には世界で通じる R 音、ドイツ語特有の R 音、イギリスの R 音、アメリカの R 音、日本語の R 音など色々な発音の仕方がある。このように、各言語における音声と、意味を区別する音素の関係を理解し、国際音声字母(IPA)表の中の記号を見てその記号の表す音を発音できるようにする。		
教材（テキスト）	IPA 表		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	破裂音、鼻音、顫動音、弾き音、摩擦音、側面摩擦音、接近音、側面接近音などの調音法、一方両唇、唇歯、歯、歯茎、後部歯茎、反り舌、硬口蓋、軟口蓋、口蓋垂、咽頭、喉頭などの調音点を意識して発音できるようになる。IPA の表が理解できる。		
準備学習	幼稚園、保育園時代にどんな音を出して遊んだか思い出しておく。		

受講者への要望

音声学では発音の実技を中心にする。発音が上手になるためには恥じらいを捨てて、大げさに発音する必要がある。さらに毎日の練習が必要なことがある。その覚悟を持って、忍耐強く授業に参加して欲しい。

講義の順序とポイント

１．音声学の対象
２．英語の母音と日本語の母音の大きな相違点
３．調音法
４．調音点
５．破裂音１
６．破裂音２
７．破擦音と確認小テスト
８．鼻音、弾き音
９．摩擦音…両唇～硬口蓋
１０．摩擦音…軟口蓋～喉頭
１１．側音、接近音
１２．非肺呼吸の子音
１３．第１基本母音
１４．第２基本母音
１５．基本母音以外の母音

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★		

年度	2015	授業コード	JM0018A02
科目名	音声学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics I		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	音声学 s
講義概要	日本語の「あ」の音は 5 種類の音声が観察される。また日本語の「ん」の音は 4 種類の音が観察される。また R の音には世界で通じる R 音、ドイツ語特有の R 音、イギリスの R 音、アメリカの R 音、日本語の R 音など色々な発音の仕方がある。このように、各言語における音声と、意味を区別する音素の関係を理解し、国際音声字母(IPA)表の中の記号を見てその記号の表す音を発音できるようにする。		
教材（テキスト）	IPA 表		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	破裂音、鼻音、顫動音、弾き音、摩擦音、側面摩擦音、接近音、側面接近音などの調音法、一方両唇、唇歯、歯、歯茎、後部歯茎、反り舌、硬口蓋、軟口蓋、口蓋垂、咽頭、喉頭などの調音点を意識して発音できるようになる。IPA の表が理解できる。		
準備学習	幼稚園、保育園時代にどんな音を出して遊んだか思い出しておく。		

受講者への要望

音声学では発音の実技を中心にする。発音が上手になるためには恥じらいを捨てて、大げさに発音する必要がある。さらに毎日の練習が必要なことがある。その覚悟を持って、忍耐強く授業に参加して欲しい。

講義の順序とポイント

１．音声学の対象
２．英語の母音と日本語の母音の大きな相違点
３．調音法
４．調音点
５．破裂音１
６．破裂音２
７．破擦音と確認小テスト
８．鼻音、弾き音
９．摩擦音…両唇～硬口蓋
１０．摩擦音…軟口蓋～喉頭
１１．側音、接近音
１２．非肺呼吸の子音
１３．第１基本母音
１４．第２基本母音
１５．基本母音以外の母音

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★		

年度	2015	授業コード	JM0018B01
科目名	音声学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics II		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	音声学 f
講義概要	日本語と英語の発音の相違点に特化して発音記号を見ながら発音する実技指導する。更に、音声が両言語においてどのような素性が有意でどのような素性が無視されるのかを検証して音韻論の分野も解説する。		
教材（テキスト）	IPA 表と毎回の授業で配布するプリント。		
教材（参考文献）	川越いつえ著『英語の音声を科学する』大修館書店　2310 円		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	調音法と調音点を意識した発音ができるようになる。英語や日本語における母音や子音の音声と音素の違いを認識して、正確な発音ができるようになる。イギリス英語の母音１５個とアメリカ英語の母音２２個の正確な発音ができるようになる。		
準備学習	音声学Ｉを履修しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
英語や外国語の発音が上手になるには音声学を学ぶ必要があるという認識を強く持って、忍耐強く授業に参加してほしい。実技が中心となるので恥らいよりは大胆さを持って授業に臨んでほしい。さらに日々の練習が発音上手になる近道だと肝に銘じてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．音声学の対象 ２．IPA の見方…調音点 ３．IPA の見方…調音法 ４．音と文字…訓令式ローマ字表記 ５．音と文字…ヘボン式ローマ字表記 ６．音と文字…国際音声表記 ７．国際音声表記の補助記号と確認小テスト ８．子音の発音…環境による変化 ９．子音の発音…同化現象 １０．母音の発音…イギリス英語の母音 １１．母音の発音…アメリカ英語の母音 １２．意味と音…脳内における誤認識 １３．音声特徴…自然類 １４．音声特徴…音節主音子音 １５．音声と音素と形態素			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★		

年度	2015	授業コード	JM0018B02
科目名	音声学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics II		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	音声学 f
講義概要	日本語と英語の発音の相違点に特化して発音記号を見ながら発音する実技指導する。更に、音声が両言語においてどのような素性が有意でどのような素性が無視されるのかを検証して音韻論の分野も解説する。		
教材（テキスト）	IPA 表と毎回の授業で配布するプリント。		
教材（参考文献）	川越いつえ著『英語の音声を科学する』大修館書店　2310 円		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	調音法と調音点を意識した発音ができるようになる。英語や日本語における母音や子音の音声と音素の違いを認識して、正確な発音ができるようになる。イギリス英語の母音１５個とアメリカ英語の母音２２個の正確な発音ができるようになる。		
準備学習	音声学Ｉを履修しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
英語や外国語の発音が上手になるには音声学を学ぶ必要があるという認識を強く持って、忍耐強く授業に参加してほしい。実技が中心となるので恥らいよりは大胆さを持って授業に臨んでほしい。さらに日々の練習が発音上手になる近道だと肝に銘じてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．音声学の対象 ２．IPA の見方…調音点 ３．IPA の見方…調音法 ４．音と文字…訓令式ローマ字表記 ５．音と文字…ヘボン式ローマ字表記 ６．音と文字…国際音声表記 ７．国際音声表記の補助記号と確認小テスト ８．子音の発音…環境による変化 ９．子音の発音…同化現象 １０．母音の発音…イギリス英語の母音 １１．母音の発音…アメリカ英語の母音 １２．意味と音…脳内における誤認識 １３．音声特徴…自然類 １４．音声特徴…音節主音子音 １５．音声と音素と形態素			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★		

年度	2015	授業コード	JM0021001
科目名	きもの学	単位数	2
科目名（英語表記）	Kimono Studies		
担当者名	清水　宏一	旧科目名称	
講義概要	日本の歴史と風土の中で、日常生活はもとより、公式の場、社交の場を通じて洗練されてきた民族衣装としてのきものの伝統的な形式美や、機能性、経済性を再認識するとともに、多様性に富んだ生地素材や、多彩で清新な色、織り、染め、文様、形態、仕立てなど、きものの奥深さを再発見し、きものの良さを際立たせる着付けや、美しく着こなす振る舞い、さりげなくあしらわれた小物の数々など、あくなき美の追求を嗜好するきもの世界を探ります。		
教材（テキスト）	きもの文化検定公式教本Ⅰ『きものの基本』（社）全日本きもの振興会企画編集		
教材（参考文献）	必要に応じ、講義中で示します		
教材（その他）	必要に応じ、講義中に配布します		
評価方法	①平常点（５０％）出席状況による ②毎回課す授業内レポート及び確認テスト（５０％）		
到達目標	「きもの」を通じた日本文化への理解を深めることを目標とします。		
準備学習	「ゆかた」で良いので、一度は「きもの（和服）」を着てみることが、理解への最低条件です。		

受講者への要望

キャンパスプラザ京都（京都駅前）で行う夏季集中講義であることから、夏季の期間にしっかりと取り組む意志のある学生の参加を希望します。
今年の具体的日程は、8 月 22 日（土）～8 月 30 日（日）の 12:40～16:00（最終日は～17：50）で、月曜日、金曜日は休みになっています。

講義の順序とポイント

※　今年度の講義内容と講師は、まだ決まっておりませんので、参考までに２０１４年度のシラバスを掲示にしています。
※　学外の著名講師による講義ですので、講師の都合により変更される場合があります。

1 回	「ガイダンス・きもの概論」	きものの常識	清水宏一
2 回	「きものに親しむ」	きものの基礎知識	三宅てる乃
3 回	「きものに親しむ」	世界の民族衣装	市田ひろみ
4 回	「きものと生活」	きものは心の表現法	安田多賀子
5 回	「きものと生活」	きものと健康	高橋裕子
6 回	「きものの文化と歴史」	小袖の歴史	馬場まみ
7 回	「きものの文化と歴史」	衣を通じて江戸を知る	小川文男
8 回	「きものの魅力」	名物裂	鈴木一弘
9 回	「きものの魅力」	琳派の美	榊原吉郎
10 回	「きものの魅力」	家紋・女紋の実情	森本景一
11 回	「きものができるまで」	西陣の伝統・技・文化	舞鶴一雄
12 回	「きものができるまで」	友禅染	岡島重雄
13 回	「きものを長く使う」	きものの取り扱い	橋村彰太
14 回	「きものの現在」	きものの現在とこれから	清田のり子
15 回	「まとめ」	まとめと試験	清水宏一

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JM0021002
科目名	きもの学	単位数	2
科目名（英語表記）	Kimono Studies		
担当者名	清水　宏一	旧科目名称	
講義概要	日本の歴史と風土の中で、日常生活はもとより、公式の場、社交の場を通じて洗練されてきた民族衣装としてのきものの伝統的な形式美や、機能性、経済性を再認識するとともに、多様性に富んだ生地素材や、多彩で清新な色、織り、染め、文様、形態、仕立てなど、きものの奥深さを再発見し、きものの良さを際立たせる着付けや、美しく着こなす振る舞い、さりげなくあしらわれた小物の数々など、あくなき美の追求を嗜好するきもの世界を探ります。		
教材（テキスト）	きもの文化検定公式教本Ⅰ『きものの基本』（社）全日本きもの振興会企画編集		
教材（参考文献）	必要に応じ、講義中で示します		
教材（その他）	必要に応じ、講義中に配布します		
評価方法	①平常点（５０％）出席状況による ②毎回課す授業内レポート及び確認テスト（５０％）		
到達目標	「きもの」を通じた日本文化への理解を深めることを目標とします。		
準備学習	「ゆかた」で良いので、一度は「きもの（和服）」を着てみることが、理解への最低条件です。		

受講者への要望

キャンパスプラザ京都（京都駅前）で行う夏季集中講義であることから、夏季の期間にしっかりと取り組む意志のある学生の参加を希望します。
今年の具体的日程は、8 月 22 日（土）～8 月 30 日（日）の 12:40～16:00（最終日は～17：50）で、月曜日、金曜日は休みになっています。

講義の順序とポイント

※　今年度の講義内容と講師は、まだ決まっておりませんので、参考までに２０１４年度のシラバスを掲示にしています。
※　学外の著名講師による講義ですので、講師の都合により変更される場合があります。

1 回	「ガイダンス・きもの概論」	きものの常識	清水宏一
2 回	「きものに親しむ」	きものの基礎知識	三宅てる乃
3 回	「きものに親しむ」	世界の民族衣装	市田ひろみ
4 回	「きものと生活」	きものは心の表現法	安田多賀子
5 回	「きものと生活」	きものと健康	高橋裕子
6 回	「きものの文化と歴史」	小袖の歴史	馬場まみ
7 回	「きものの文化と歴史」	衣を通じて江戸を知る	小川文男
8 回	「きものの魅力」	名物裂	鈴木一弘
9 回	「きものの魅力」	琳派の美	榊原吉郎
10 回	「きものの魅力」	家紋・女紋の実情	森本景一
11 回	「きものができるまで」	西陣の伝統・技・文化	舞鶴一雄
12 回	「きものができるまで」	友禅染	岡島重雄
13 回	「きものを長く使う」	きものの取り扱い	橋村彰太
14 回	「きものの現在」	きものの現在とこれから	清田のり子
15 回	「まとめ」	まとめと試験	清水宏一

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JM0022001
科目名	きもの学（発展） 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Kimono Studies Advanced		
担当者名	清水　宏一	旧科目名称	
講義概要	人間の生活の基本をなすものは衣食住です.食と住は、動物のなかにも加工を試みるものがありますが、衣への加工は人間だけに見られる行動です。繊維を紡ぎ、糸を染め、織って布に加工し、染色をほどこし、デザインし、カットして、縫い合わせ、加飾を施して、衣類が創られます。衣類のなかでも「きもの」は、日本の歴史と風土の中で、日常生活はもとより、公式の場、社交の場を通じて洗練されてきた民族衣装であり、きものの伝統的な形式美や、機能性、経済性を再認識するとともに、多様性に富んだ生地素材や、多彩で清新な色、織り、染め、文様、形態、仕立てなど、きものの奥深さを再発見し、きものの良さを際立たせる着付けや、美しく着こなす振る舞い、さりげなくあしらわれた小物の数々など、あくなき美を追求するきもの世界を探ります。		
教材（テキスト）	講義中で必要に応じて示します。		
教材（参考文献）	講義中で必要に応じて示します。		
教材（その他）	講義中で必要に応じて示します。		
評価方法	平常点５０％、試験及びレポート５０％		
到達目標	学習と見学を通じて「きもの」の良さを学び、自主発表を行います。		
準備学習	この講座では、伝統産業や染織関連企業の現場に出て、「きもの」の世界を探求しますので、受講前には必ず「きもの（ゆかたでも可)」に手を通し、実物や小物（帯、紐、足袋、草履、下駄など）を確かめておいてください。		

受講者への要望

夏季集中講座(8 月 30 日～9 月 6 日）としてキャンパスプラザで行う「きもの学」の発展講座であり、これを履修していることが望ましいのですが、必修要件ではありません。フィールドワークでの現地講義がありますので、土曜日、日曜日、祝日等の授業休講日における参加が必要です。また、見学先によっては、交通費、入場料等の実費負担が発生します。
なお、本学学生以外の受講生（一般聴講生等）がフィールドワークに参加する場合は必ず傷害保険に加入いただくことになります。

講義の順序とポイント

◎　講義と体験授業（訪問の相手方の都合で、順番、曜日、時刻などが変わることがあります。
◎　見学場所によっては、所定の入場料が必要なことがあります。
第　1回　講義　授業ガイダンスときものの一般常識（京町家キャンパス）
第　2回　見学　伝統産業の実際（京都市伝統産業ふれあい館）
第　3回　見学　伝統装束（平安神宮会館）
第　4回　見学　織の技法（織成館）
第　5回　見学　染めの技法（紫織庵）
第　6回　見学　結婚衣装（千總ミュージアム）
第　7回　見学　きものファッションショー（西陣織会館）
第　8回　実習　きものの着付け（京町家キャンパス）
第　9回　実習　帯結び、袴（京町家キャンパス）
第 10 回　実習　くみひも（安達組みひも館）
第 11 回　実習　京友禅（京友禅体験工房）
第 12 回　見学　平安風俗研究（風俗博物館）
第 13 回　見学　織と染の技術（京都市産業技術研究所）
第 14 回　見学　京町家（冨田屋）
第 15 回　講義　きものの未来（京町家キャンパス）
◎　フィールドワーク（見学と実習は、先方の都合等を考慮して決定します）
◎　場合によっては、実施場所を変更することがあります。
その他の見学地例
①　悉皆業（パールトーン）
②　デジタル工房（ジャパンスタイルシステム）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0023001
科目名	環境倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Ethics		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	地球温暖化に代表される環境問題が、しきりに議論されている。しかし、これ以上環境が悪化しないような方策の議論となると、合意に至るのは困難なようである。それもそのはずで、人間の発展繁栄への道は、破滅の危機への道でもあったにもかかわらず、繁栄への道を支えてきた自然観、国家観の基礎に働いてきた倫理に代わる、新たな倫理が未だ構築されていないからである。 本講義では、そこから環境問題が引き起こされてきた淵源にある倫理の問題点を指摘したうえで、新たな倫理を模索した代表的な人々の思想を批判的に紹介する。この講義が、新たな倫理の産屋の場になれば、と望んでいる。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	講義の進行に会わせ、その都度紹介する。		
教材（その他）	講義資料はその都度京学ナビに登録するので、講義前にプリントアウトして講義に臨むこと。		
評価方法	授業中に書いてもらう小論文試験（４回）と最終レポートの合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が６割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。		
到達目標	１．自らの価値判断を根拠づける思考を展開できるようになる。 ２．多面的に思考を展開できるようになる。 ３．環境問題の倫理的側面における問題性を理解できる。		
準備学習	日頃から新聞等でｔ取り上げられる環境問題に関する記事を読んでおくこと。 講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		

受講者への要望

じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈思黙考に心がけること。

講義の順序とポイント

（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。その都度京学なび確認すること。）

１．序論
２．第１章　環境倫理学の成立
　　§１　倫理学とは？
３．　§２　環境とは？
４．　§３　エマソンの思想
５．　§４　ソローの思想
６．（第１回授業内レポート）
　エピソード１－温暖化問題から環境倫理の課題を考える－
７．第２章　環境問題の淵源－近代的自然観再考－
　　§５　環境問題の構造
８．　§６　デカルト的自然観
９．（第２回授業内レポート）
　エピソード２　化石燃料問題－負の連鎖について－
１０．　同上（ビデオ学習）
１１．（第３回授業内レポート）
　エピソード３　バイオ燃料は救世主？
１２．　同上（ビデオ学習）
１３．（第４回授業内レポート）
　第３章　環境倫理学の展開
　　§７　「土地倫理」　－レオポルドの思想－
１４．　同上
１５．　§８　「ディープ・エコロジー」－アルネ・ネスの思想－

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0023002
科目名	環境倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Ethics		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	地球温暖化に代表される環境問題が、しきりに議論されている。しかし、これ以上環境が悪化しないような方策の議論となると、合意に至るのは困難なようである。それもそのはずで、人間の発展繁栄への道は、破滅の危機への道でもあったにもかかわらず、繁栄への道を支えてきた自然観、国家観の基礎に働いてきた倫理に代わる、新たな倫理が未だ構築されていないからである。 本講義では、そこから環境問題が引き起こされてきた淵源にある倫理の問題点を指摘したうえで、新たな倫理を模索した代表的な人々の思想を批判的に紹介する。この講義が、新たな倫理の産屋の場になれば、と望んでいる。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	講義の進行に会わせ、その都度紹介する。		
教材（その他）	講義資料はその都度京学ナビに登録するので、講義前にプリントアウトして講義に臨むこと。		
評価方法	授業中に書いてもらう小論文試験（４回）と最終レポートの合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が６割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。		
到達目標	１．自らの価値判断を根拠づける思考を展開できるようになる。 ２．多面的に思考を展開できるようになる。 ３．環境問題の倫理的側面における問題性を理解できる。		
準備学習	日頃から新聞等でｔ取り上げられる環境問題に関する記事を読んでおくこと。 講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈思黙考に心がけること。			
講義の順序とポイント			
（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。その都度京学なび確認すること。） １．序論 ２．第１章　環境倫理学の成立 §１　倫理学とは？ ３．　§２　環境とは？ ４．　§３　エマソンの思想 ５．　§４　ソローの思想 ６．（第１回授業内レポート） エピソード１－温暖化問題から環境倫理の課題を考える－ ７．第２章　環境問題の淵源－近代的自然観再考－ §５　環境問題の構造 ８．　§６　デカルト的自然観 ９．（第２回授業内レポート） エピソード２　化石燃料問題－負の連鎖について－ １０．　同上（ビデオ学習） １１．（第３回授業内レポート） エピソード３　バイオ燃料は救世主？ １２．　同上（ビデオ学習） １３．（第４回授業内レポート） 第３章　環境倫理学の展開 §７　「土地倫理」　－レオポルドの思想－ １４．　同上 １５．　§８　「ディープ・エコロジー」－アルネ・ネスの思想－			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0024001
科目名	医療倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Medical Ethics		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	倫理学の普遍的課題を前提にしながら、医療倫理学成立の歴史的背景、医療倫理学の学問的性格と今日的課題について、概略的に講義する。この講義の目的は、各自が「人間的な生誕はどうあるべきか」「人間的な死はどうあるべきか」すなわち「人間的な生はどうあるべきか」といった問題を医療と関係づけて、共に考えることである。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に会わせその都度紹介する。		
教材（その他）	講義資料は事前に京学なびに登録するので、 各自プリントアウトして講義に臨むこと。		
評価方法	授業中に書いてもらう小論文試験（４回）と最終レポートの素点合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が６割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。		
到達目標	１．自らの価値判断を根拠づける思考を展開できるようになる。 ２．多面的に思考を展開できるようになる。 ３．医療問題の倫理的側面における問題性を理解できる。		
準備学習	日頃から新聞等でｔ取り上げられる医療問題に関する記事を読んでおくこと。 講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈思黙考に心がけること。			
講義の順序とポイント			

（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。京学なびでその都度確認すること。）

１．序論

２．第１章　医療倫理学とは

　　§１ 倫理学とは？

３．　　同上

４．　§２　医療倫理学の成立

５．　　同上

６．　　同上

７．(第１回授業内レポート)

　第２章　医療倫理学の諸原則

　　§３　自己決定とパターナリズム

８．　§４　ＱＯＬとＳＯＬ

９．(第２回授業内レポート)

　第３章　生殖医療

　　§５　生殖医療の現状

１０．　§６　子をなす自由と子どもの出自を知る権利　（ヴィデオ学習）

１１．(第３回授業内レポート)

　第４章　臓器移植

　　§７　脳死と判定（ヴィデオ学習）

１２．　§８　「改正」臓器移植法

１３．(第４回授業内レポート)

　第５章　安楽死と尊厳死

　　§９　生死の選択？（ヴィデオ学習）

１４．　§１０　「私の」いのち？「私の」からだ？

１５．第６章　個人主義と共同体主義

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0024002
科目名	医療倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Medical Ethics		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	倫理学の普遍的課題を前提にしながら、医療倫理学成立の歴史的背景、医療倫理学の学問的性格と今日的課題について、概略的に講義する。この講義の目的は、各自が「人間的な生誕はどうあるべきか」「人間的な死はどうあるべきか」すなわち「人間的な生はどうあるべきか」といった問題を医療と関係づけて、共に考えることである。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に会わせその都度紹介する。		
教材（その他）	講義資料は事前に京学なびに登録するので、 各自プリントアウトして講義に臨むこと。		
評価方法	授業中に書いてもらう小論文試験（４回）と最終レポートの素点合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が６割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。		
到達目標	１．自らの価値判断を根拠づける思考を展開できるようになる。 ２．多面的に思考を展開できるようになる。 ３．医療問題の倫理的側面における問題性を理解できる。		
準備学習	日頃から新聞等でｔ取り上げられる医療問題に関する記事を読んでおくこと。 講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈思黙考に心がけること。			
講義の順序とポイント			

（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。京学なびでその都度確認すること。）

１．序論

２．第１章　医療倫理学とは

　　§１ 倫理学とは？

３．　　同上

４．　§２　医療倫理学の成立

５．　　同上

６．　　同上

７．(第１回授業内レポート)

　第２章　医療倫理学の諸原則

　　§３　自己決定とパターナリズム

８．　§４　ＱＯＬとＳＯＬ

９．(第２回授業内レポート)

　第３章　生殖医療

　　§５　生殖医療の現状

１０．　§６　子をなす自由と子どもの出自を知る権利　（ヴィデオ学習）

１１．(第３回授業内レポート)

　第４章　臓器移植

　　§７　脳死と判定（ヴィデオ学習）

１２．　§８　「改正」臓器移植法

１３．(第４回授業内レポート)

　第５章　安楽死と尊厳死

　　§９　生死の選択？（ヴィデオ学習）

１４．　§１０　「私の」いのち？「私の」からだ？

１５．第６章　個人主義と共同体主義

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0026001
科目名	京都の文学	単位数	2
科目名（英語表記）	Literature of Kyoto		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	京都の地形やおおよその成り立ちを最初に解説し、京都の地理の全体像を頭に入れてもらってから、個々の名所にまつわる物語を一回読み切り形式で紹介していく。		
教材（テキスト）	毎回プリントを配布する		
教材（参考文献）	『新編日本古典文学全集』各巻の現代語訳など		
教材（その他）	京都周辺の現代および過去の地図を配布します。		
評価方法	授業のなかで小テストや作業を行い、レポートも課すので、それらを総合して評価する。		
到達目標	京都の有名な神社や寺院の場所といわれが頭に入るので 京都の地理に明るく、地形もわかりやすく 古都への理解が進むことが目的である。		
準備学習	現在の京都市について、地図をながめておくこと		
受講者への要望			
授業を聞くだけでなく、自分で京都の名所を訪れてほしい。 少なくとも 70％は授業に出席してください。			
講義の順序とポイント			
１　前置き　京都の地理と交通手段について ２　下鴨神社と上賀茂神社～平安京以前～【山城国風土記】 ３　葵祭～嵯峨野～野宮【源氏物語】 ４　京都御所～源三位頼政～鵺退治　【平家物語】 ５　清水寺～出会いの場所～安寿と厨子王　森鴎外【山椒大夫】 ６・７　絶世の美女・常磐御前～五条の橋～牛若丸と弁慶～鞍馬山【絵本・牛若丸】 ８　白拍子静御前の一生～堀川夜討ち～吉野の別れ【絵本・静御前】 ９　大原寂光院～建礼門院徳子【平家物語】 １０　宇治川の先陣争い【平家物語】 １１　一条戻り橋～渡辺綱～茨木童子【平家物語・歌舞伎】 １２　大江山の酒呑童子【御伽草子】 １３　穴太寺の身代わり観音～亀岡【今昔物語】 １４　三島由起夫【金閣寺】 １５　その他の作品			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0026002
科目名	京都の文学	単位数	2
科目名（英語表記）	Literature of Kyoto		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	京都の地形やおおよその成り立ちを最初に解説し、京都の地理の全体像を頭に入れてもらってから、個々の名所にまつわる物語を一回読み切り形式で紹介していく。		
教材（テキスト）	毎回プリントを配布する		
教材（参考文献）	『新編日本古典文学全集』各巻の現代語訳など		
教材（その他）	京都周辺の現代および過去の地図を配布します。		
評価方法	授業のなかで小テストや作業を行い、レポートも課すので、それらを総合して評価する。		
到達目標	京都の有名な神社や寺院の場所といわれが頭に入るので 京都の地理に明るく、地形もわかりやすく 古都への理解が進むことが目的である。		
準備学習	現在の京都市について、地図をながめておくこと		
受講者への要望			
授業を聞くだけでなく、自分で京都の名所を訪れてほしい。 少なくとも 70%は授業に出席してください。			
講義の順序とポイント			
1　前置き　京都の地理と交通手段について 2　下鴨神社と上賀茂神社～平安京以前～【山城国風土記】 3　葵祭～嵯峨野～野宮【源氏物語】 4　京都御所～源三位頼政～鵺退治　【平家物語】 5　清水寺～出会いの場所～安寿と厨子王　森鴎外【山椒大夫】 6・7　絶世の美女・常磐御前～五条の橋～牛若丸と弁慶～鞍馬山【絵本・牛若丸】 8　白拍子静御前の一生～堀川夜討ち～吉野の別れ【絵本・静御前】 9　大原寂光院～建礼門院徳子【平家物語】 １０　宇治川の先陣争い【平家物語】 １１　一条戻り橋～渡辺綱～茨木童子【平家物語・歌舞伎】 １２　大江山の酒呑童子【御伽草子】 １３　穴太寺の身代わり観音～亀岡【今昔物語】 １４　三島由起夫【金閣寺】 １５　その他の作品			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0027A01
科目名	宇宙と地球の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Science of the Universe and the Earth A		
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	宇宙と地球の科学 s
講義概要	宇宙科学における基礎的な概念をとりあげ、宇宙科学な視点で現象をとらえることはどういうことかについて解説する 科学の発展とともに、人類の持つ宇宙観はいくたびとなく変遷をしてきた。各種観測手法の発明、数学と物理学の発展は人類の宇宙観を大きく変化させてきた主要因の一つである。 「地球人は宇宙人に会えますか？」はよく受講者からされる質問であるが、これに対して科学的に返事をすることは決して容易ではない。そこで、本講義は人類の宇宙観がいかに変化して現代の宇宙観が形成されるに至ったかを理解し、「地球人は宇宙人に会えますか？」という質問について主体的に議論をするための能力を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	福江純著「目からウロコの宇宙論入門」ミネルヴァ書房 岡村ら編　「シリーズ現代天文学第１巻　人類の住む宇宙」　日本評論社		
教材（その他）			
評価方法	受講態度および授業内レポート(40%) 期末レポート（60%）		
到達目標	「地球人は宇宙人に会えますか？」という質問に対し、主体的な議論をするための基礎力を身につける		
準備学習	参考文献を学期中に読破すること 中学卒業程度の数学と理科の復習をすること		
受講者への要望			
高校の数学や物理、地学の知識がなくても理解できる平易な内容の講義であるが、順を追って展開するので、授業に毎回出席しノートをとることが大切である。 私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他の受講生への迷惑を勘案して、退出を求める。			
講義の順序とポイント			
受講生の状況によって、順序を入れ替えるなどの変更を行うことがありますので、ご了承ください。 1.古代・中世の宇宙観とその基盤 2.前近代的宇宙観 -特にガリレオ問題について- 3.望遠鏡の発明と宇宙観の変化 4.ケプラーの法則 5.観測結果を数式で表現する 6.ニュートン力学 7.絶対時間・絶対空間の概念と宇宙像 8.恒星の分類・光度-等級関係 9.観測の進歩 10.相対性理論 11.相対性理論から導かれた宇宙誕生 12.惑星の形成 13.ハビタブルな惑星 14.宇宙人との出会いの可能性について 15.現在の宇宙観			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0027A02
科目名	宇宙と地球の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Science of the Universe and the Earth A		
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	宇宙と地球の科学 s
講義概要	宇宙科学における基礎的な概念をとりあげ、宇宙科学な視点で現象をとらえることはどういうことかについて解説する 科学の発展とともに、人類の持つ宇宙観はいくたびとなく変遷をしてきた。各種観測手法の発明、数学と物理学の発展は人類の宇宙観を大きく変化させてきた主要因の一つである。 「地球人は宇宙人に会えますか？」はよく受講者からされる質問であるが、これに対して科学的に返事をすることは決して容易ではない。そこで、本講義は人類の宇宙観がいかに変化して現代の宇宙観が形成されるに至ったかを理解し、「地球人は宇宙人に会えますか？」という質問について主体的に議論をするための能力を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	福江純著「目からウロコの宇宙論入門」ミネルヴァ書房 岡村ら編　「シリーズ現代天文学第１巻　人類の住む宇宙」　日本評論社		
教材（その他）			
評価方法	受講態度および授業内レポート(40%) 期末レポート（60%）		
到達目標	「地球人は宇宙人に会えますか？」という質問に対し、主体的な議論をするための基礎力を身につける		
準備学習	参考文献を学期中に読破すること 中学卒業程度の数学と理科の復習をすること		
受講者への要望			
高校の数学や物理、地学の知識がなくても理解できる平易な内容の講義であるが、順を追って展開するので、授業に毎回出席しノートをとることが大切である。 私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他の受講生への迷惑を勘案して、退出を求める。			
講義の順序とポイント			
受講生の状況によって、順序を入れ替えるなどの変更を行うことがありますので、ご了承ください。 1.古代・中世の宇宙観とその基盤 2.前近代的宇宙観 -特にガリレオ問題について- 3.望遠鏡の発明と宇宙観の変化 4.ケプラーの法則 5.観測結果を数式で表現する 6.ニュートン力学 7.絶対時間・絶対空間の概念と宇宙像 8.恒星の分類・光度-等級関係 9.観測の進歩 10.相対性理論 11.相対性理論から導かれた宇宙誕生 12.惑星の形成 13.ハビタブルな惑星 14.宇宙人との出会いの可能性について 15.現在の宇宙観			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0027B01
科目名	宇宙と地球の科学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Science of the Universe and the Earth B		
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	宇宙と地球の科学ｆ
講義概要	科学の発展に伴い、人類の地球観は大きく変化してきた。各種観測手法の発明、数学と物理学の発展は人類の地球観を大きく変化させてきた主要因の一つである。 「気候変動とは何か」は受講生からよくされる質問であるが、これに対して科学的に返事をすることは決して容易ではない。そこで、本講義では、地球科学における基礎的な概念をとりあげ、地球科学的な視点で現象をとらえることはどういうことかについて解説し、気候変動について主体的に議論できる基礎力を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	P.ウルムシュナイダー著『宇宙生物学入門-惑星・生命・文明の起源-』シュプリンガー・ジャパン 岡村ら編　「シリーズ現代天文学第１巻　人類の住む宇宙」　日本評論社		
教材（その他）			
評価方法	受講態度および授業内レポート(40%) 期末レポート（６０％）		
到達目標	「気候変動」について主体的に議論できる基礎力を養うことを目標とする		
準備学習	参考書を学期中に読破すること 中学卒業程度の数学と理科の復習をすること		
受講者への要望			
高校の数学や物理、地学の知識がなくても理解できる平易な内容の講義であるが、順を追って展開するので、授業に毎回出席しノートをとることが大切である。 私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案して、退出を求める			
講義の順序とポイント			
受講生の状況によって、順序を入れ替えるなどの変更を行うことがある。 1. 太陽系の形成 2. 地球の内部構造 3. 自然史標本について 4. 生物の誕生と進化 5. 生物の進化と地球環境 6. 物証による過去の気候変動の推定 7. 大気・海洋の構造 8. 放射平衡による地表の温度推定 9. 気候変動を起こす要因 10. 理論に基づく気候変動推定 11. 気候化石論 -過去の気候変動を推定する- 12. 気候変動の予測 -何がわかって何がわからないのか- 13. 気象災害から身を守るために 14. 宇宙と地球の関係 15. 気候変動の理論と観測の同一基準化　過去・現在・未来を展望して			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JM0027B02
科目名	宇宙と地球の科学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Science of the Universe and the Earth B		
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	宇宙と地球の科学ｆ
講義概要	科学の発展に伴い、人類の地球観は大きく変化してきた。各種観測手法の発明、数学と物理学の発展は人類の地球観を大きく変化させてきた主要因の一つである。 「気候変動とは何か」は受講生からよくされる質問であるが、これに対して科学的に返事をすることは決して容易ではない。そこで、本講義では、地球科学における基礎的な概念をとりあげ、地球科学的な視点で現象をとらえることはどういうことかについて解説し、気候変動について主体的に議論できる基礎力を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	P.ウルムシュナイダー著『宇宙生物学入門-惑星・生命・文明の起源-』シュプリンガー・ジャパン 岡村ら編　「シリーズ現代天文学第１巻　人類の住む宇宙」　日本評論社		
教材（その他）			
評価方法	受講態度および授業内レポート(40%) 期末レポート（６０％）		
到達目標	「気候変動」について主体的に議論できる基礎力を養うことを目標とする		
準備学習	参考書を学期中に読破すること 中学卒業程度の数学と理科の復習をすること		
受講者への要望			
高校の数学や物理、地学の知識がなくても理解できる平易な内容の講義であるが、順を追って展開するので、授業に毎回出席しノートをとることが大切である。 私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案して、退出を求める			
講義の順序とポイント			
受講生の状況によって、順序を入れ替えるなどの変更を行うことがある。 1. 太陽系の形成 2. 地球の内部構造 3. 自然史標本について 4. 生物の誕生と進化 5. 生物の進化と地球環境 6. 物証による過去の気候変動の推定 7. 大気・海洋の構造 8. 放射平衡による地表の温度推定 9. 気候変動を起こす要因 10. 理論に基づく気候変動推定 11. 気候化石論 -過去の気候変動を推定する- 12. 気候変動の予測 -何がわかって何がわからないのか- 13. 気象災害から身を守るために 14. 宇宙と地球の関係 15. 気候変動の理論と観測の同一基準化　過去・現在・未来を展望して			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JM0028A01
科目名	京都学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Kyoto Studies I		
担当者名	清水　宏一	旧科目名称	
講義概要	京都は平安建都以来1300年を超える歴史都市であり、三方を山に囲まれ、水に恵まれた自然環境のなか、宮廷、神社、仏閣、町家、花街など多くの伝統的建造物群と、陶磁器、織物、染物、京料理、京菓子などの伝統的産業、さらには、祭事、和装、茶華道などの伝統行事に彩られた文化都市として世界に知られています。そうした「京都らしきもの」を素材に、その歴史やいわれ、現状と展開など、京都に関する基礎的な知識を身につけるとともに、古きものを大事にしながら新たな価値を生み出している「伝統と革新」のチャレンジ精神を学ぶことをめざします。		
教材（テキスト）	授業中に適宜指示します		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します		
教材（その他）	授業中に適宜指示します		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等によります。定期テストおよびレポート（５０％）		
到達目標	「京都で学ぶ・京都に学ぶ」をモットーに、伝統と革新、古きものを大事にしながら新たな価値を生み出していく歴史都市・京都の営みを、くらし、産業、文化など多面的かつ複眼的な視点から学びます。		
準備学習	授業の終了後や休日に、京都の町を散策して、京都の生活を体験しておいてください。		

受講者への要望

この講座は、京都の歴史、産業、文化、観光、風物をテーマに、コミュニケーション力、協働力、適応力、行動力、課題発見力、論理的思考力などの「人間力」を養うために、産学官連係の一環として設定されました。そのため、京都学Ⅰでは、そのための基本的知識を、京都学Ⅱでは実践的課題を学ぶようにカリキュラムされています。
したがって、京都学Ⅰの受講生は京都学Ⅱの履修を前提に取り組んでください。

講義の順序とポイント

鎌倉幕府や江戸幕府など、実質的な政治の中心が地方に移ったことはありましたが、その間も京都には天皇の在所である御所が置かれ、約１２００年もの間、京都はわが国の「みやこ」であり続けました。京都は常に産業と文化の中心地であり、それらは「京もの」「下りもの」「洛中もの」として高い評価を与えられてきました。世界の歴史でもこれだけ長い間、一つの都市が国の中心地であり続けたことはきわめて珍しいことです。その根源は何かを探ります。

第　１回　授業ガイダンスと日本文化理解の基本
第　２回　京都の街並み（古代思想と現代、首都たる条件）
第　３回　京都の伝統産業（伝統産業の基本）
第　４回　ものづくりの伝統（京ものの価値）
第　５回　東京奠都と明治の冒険（琵琶湖疏水）
第　６回　京都の新産業（ベンチャー企業の源流）
第　７回　京都の社寺（世界遺産と風物・自然）
第　８回　京都の伝統（道修業と和文化）
第　９回　京都の文化（京の美意識とこだわり）
第１０回　京都の民俗（京ことば、町家、おもてなし）
第１１回　京都の祭事（まつりの根源）
第１２回　京都の教育（番組小学校、石門心学）
第１３回　京都の値打ち（京モノ神話、ブランド力）
第１４回　京都の風物（京の歳時記、京都人気質）
第１５回　京都の将来（明日への期待）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	JM0028A02
科目名	京都学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Kyoto Studies I		
担当者名	清水　宏一	旧科目名称	
講義概要	京都は平安建都以来1300年を超える歴史都市であり、三方を山に囲まれ、水に恵まれた自然環境のなか、宮廷、神社、仏閣、町家、花街など多くの伝統的建造物群と、陶磁器、織物、染物、京料理、京菓子などの伝統的産業、さらには、祭事、和装、茶華道などの伝統行事に彩られた文化都市として世界に知られています。そうした「京都らしきもの」を素材に、その歴史やいわれ、現状と展開など、京都に関する基礎的な知識を身につけるとともに、古きものを大事にしながら新たな価値を生み出している「伝統と革新」のチャレンジ精神を学ぶことをめざします。		
教材（テキスト）	授業中に適宜指示します		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します		
教材（その他）	授業中に適宜指示します		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等によります。定期テストおよびレポート（５０％）		
到達目標	「京都で学ぶ・京都に学ぶ」をモットーに、伝統と革新、古きものを大事にしながら新たな価値を生み出していく歴史都市・京都の営みを、くらし、産業、文化など多面的かつ複眼的な視点から学びます。		
準備学習	授業の終了後や休日に、京都の町を散策して、京都の生活を体験しておいてください。		

受講者への要望

この講座は、京都の歴史、産業、文化、観光、風物をテーマに、コミュニケーション力、協働力、適応力、行動力、課題発見力、論理的思考力などの「人間力」を養うために、産学官連係の一環として設定されました。そのため、京都学Ⅰでは、そのための基本的知識を、京都学Ⅱでは実践的課題を学ぶようにカリキュラムされています。
したがって、京都学Ⅰの受講生は京都学Ⅱの履修を前提に取り組んでください。

講義の順序とポイント

鎌倉幕府や江戸幕府など、実質的な政治の中心が地方に移ったことはありましたが、その間も京都には天皇の在所である御所が置かれ、約１２００年もの間、京都はわが国の「みやこ」であり続けました。京都は常に産業と文化の中心地であり、それらは「京もの」「下りもの」「洛中もの」として高い評価を与えられてきました。世界の歴史でもこれだけ長い間、一つの都市が国の中心地であり続けたことはきわめて珍しいことです。その根源は何かを探ります。

第　１回　授業ガイダンスと日本文化理解の基本
第　２回　京都の街並み（古代思想と現代、首都たる条件）
第　３回　京都の伝統産業（伝統産業の基本）
第　４回　ものづくりの伝統（京ものの価値）
第　５回　東京奠都と明治の冒険（琵琶湖疏水）
第　６回　京都の新産業（ベンチャー企業の源流）
第　７回　京都の社寺（世界遺産と風物・自然）
第　８回　京都の伝統（道修業と和文化）
第　９回　京都の文化（京の美意識とこだわり）
第１０回　京都の民俗（京ことば、町家、おもてなし）
第１１回　京都の祭事（まつりの根源）
第１２回　京都の教育（番組小学校、石門心学）
第１３回　京都の値打ち（京モノ神話、ブランド力）
第１４回　京都の風物（京の歳時記、京都人気質）
第１５回　京都の将来（明日への期待）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	JM0028B01
科目名	京都学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Kyoto Studies Ⅱ		
担当者名	清水　宏一	旧科目名称	
講義概要	世界的な観光雑誌である「Travel＋Leisure」誌が選ぶ「世界一訪れたい都市」のトップに京都が選ばれました。その京都観光をテーマにプロジェクト推進の実際を学びます。授業中に示す施設や活動、催事などの現場を自らの目で確かめ、それを自らのプロジェクト遂行力を養うとともに、これをとおして、ビジネスパーソンとしてのコミュニケーション力、協働力、適応力、行動力、課題発見力、論理的思考力など、人間力に磨きをかけます		
教材（テキスト）	授業中に適宜指示します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	授業中に適宜指示します。		
評価方法	平常点（50%）出席状況によります。試験及びレポート（50%		
到達目標	「京都で学ぶ・京都に学ぶ」をモットーに、伝統と革新を繰り返してきた歴史都市・京都のまちづくりや観光戦略を通して、産業、文化、くらしなど多様な分野にわたるプロジェクトの実際を多面的かつ複眼的な視点から学び、プロジェクトの遂行力を養います		
準備学習	京都の観光を主体に日本文化の神髄に迫る講座ですので、京都市に出かけて自分で観光を体験しておいてください。特に、年中行事やイベント、観光関連のニュースなどに関心を持って調べておいてください。		

受講者への要望

京都学Ⅰが総論、京都学Ⅱが各論となっているので、京都学Ⅰをすでに受講していることが望ましいのですが、必要条件ではありません。京都観光の実情を良く知っておくことが理解の助けになりますので、放課後や休日には京都市内の観光地に出かけることを推奨します。

講義の順序とポイント

２０００年には４０００万人に満たなかった京都市への観光入込客数は、８年後の２００８年には５０００万人を突破するという急激な増加を見せ、当時の観光業界では「京都の奇跡」とまで称賛されました。また、京都市内ホテルの宿泊客数も、順調に伸び続け、リーマンショックで大幅に落ちたものの、その後は順調な回復を果たし、２０１３年には２７０万人と過去最多を更新し、客室稼働率も８５％を上回る盛況を示しています。その原動力となった観光プロジェクトの実態を探るなかで、プロジェクトを成功に導く方策を探ります。

第　１回　授業ガイダンスとプロジェクトの基本
第　２回　観光統計の重要性と分析のポイント
第　３回　観光客５０００万人構想
第　４回　４つのセン（戦略、宣言、宣伝、先鞭）
第　５回　イベントの仕掛けと宣伝
第　６回　産業観光
第　７回　社寺仏閣と観光（世界遺産）
第　８回　伝統行事（祭事、神道、仏教、和文化）
第　９回　芸術文化と観光（美意識、町衆文化）
第１０回　おもてなしの本質
第１１回　ブランディング
第１２回　ニューツーリズム
第１３回　京都観光の弱点とその克服
第１４回　京都観光の新展開と観光立国
第１５回　京都観光の将来に向けて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	

年度	2015	授業コード	JM0028B02
科目名	京都学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Kyoto Studies II		
担当者名	清水　宏一	旧科目名称	
講義概要	世界的な観光雑誌である「Travel＋Leisure」誌が選ぶ「世界一訪れたい都市」のトップに京都が選ばれました。その京都観光をテーマにプロジェクト推進の実際を学びます。授業中に示す施設や活動、催事などの現場を自らの目で確かめ、それを自らのプロジェクト遂行力を養うとともに、これをとおして、ビジネスパーソンとしてのコミュニケーション力、協働力、適応力、行動力、課題発見力、論理的思考力など、人間力に磨きをかけます		
教材（テキスト）	授業中に適宜指示します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	授業中に適宜指示します。		
評価方法	平常点（50%）出席状況によります。試験及びレポート（50%		
到達目標	「京都で学ぶ・京都に学ぶ」をモットーに、伝統と革新を繰り返してきた歴史都市・京都のまちづくりや観光戦略を通して、産業、文化、くらしなど多様な分野にわたるプロジェクトの実際を多面的かつ複眼的な視点から学び、プロジェクトの遂行力を養います		
準備学習	京都の観光を主体に日本文化の神髄に迫る講座ですので、京都市に出かけて自分で観光を体験しておいてください。特に、年中行事やイベント、観光関連のニュースなどに関心を持って調べておいてください。		

受講者への要望

京都学Ⅰが総論、京都学IIが各論となっているので、京都学Ⅰをすでに受講していることが望ましいのですが、必要条件ではありません。京都観光の実情を良く知っておくことが理解の助けになりますので、放課後や休日には京都市内の観光地に出かけることを推奨します。

講義の順序とポイント

２０００年には４０００万人に満たなかった京都市への観光入込客数は、８年後の２００８年には５０００万人を突破するという急激な増加を見せ、当時の観光業界では「京都の奇跡」とまで称賛されました。また、京都市内ホテルの宿泊客数も、順調に伸び続け、リーマンショックで大幅に落ちたものの、その後は順調な回復を果たし、２０１３年には２７０万人と過去最多を更新し、客室稼働率も８５％を上回る盛況を示しています。その原動力となった観光プロジェクトの実態を探るなかで、プロジェクトを成功に導く方策を探ります。

第　１回　授業ガイダンスとプロジェクトの基本
第　２回　観光統計の重要性と分析のポイント
第　３回　観光客５０００万人構想
第　４回　４つのセン（戦略、宣言、宣伝、先鞭）
第　５回　イベントの仕掛けと宣伝
第　６回　産業観光
第　７回　社寺仏閣と観光（世界遺産）
第　８回　伝統行事（祭事、神道、仏教、和文化）
第　９回　芸術文化と観光（美意識、町衆文化）
第１０回　おもてなしの本質
第１１回　ブランディング
第１２回　ニューツーリズム
第１３回　京都観光の弱点とその克服
第１４回　京都観光の新展開と観光立国
第１５回　京都観光の将来に向けて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	

年度	2015	授業コード	JM0029A01
科目名	京都検定講座Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Certifying Examination for Kyoto Tourism and Culture I		
担当者名	堤　勇二	旧科目名称	
講義概要	世界屈指の観光都市京都を知るには、まずこの都市の歴史や成り立ち、そしてこの地を観光都市たらしめている様々な要素に興味を持ち、正しく理解することが大切です。 京都の特性は、その歴史性、宗教性、芸術性、景観性、ベンチャー性と時代を超えてこの国の基盤を支える文化性にあり、それは衣食住の生活すべてにわたって多彩です。 そして多くの社寺を有し、千年を超えるこの町の歩みには、その背後に数々の神仏が存在したことを理解する必要があります。本講はこの都市を理解するために不可欠な宗教性を基盤に、衣食住の多岐にわたる豊かな京都の魅力を知ることを目的とします。本年は特に有名な社寺を採り上げ、ガイドブックや通り一遍の観光では決して得られない、京都の驚きの真実を読み解くことで、この町の重層性、複層性を学びます。		
教材（テキスト）	特になし。平素より京都に関する書籍、番組、映画などに興味を持ってアンテナを張っておいて下さい。		
教材（参考文献）	増補版　京都・観光文化検定試験公式テキストブック　（淡交社刊　2010） 京都・世界遺産手帳（河原書店刊　2009）		
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席状況等）　50%　受講態度も評価 小テスト　50%　講義最終日実施		
到達目標	受講生が京都への興味持ち、生活全般を通したこの町の成り立ちを理解すること。ガイドブックや観光サイトに紹介されていないことにこの町の真実が隠されており、特別公開などの特殊性ではなく、常に開かれた日常性のなかにこそ無限の魅力が眠っていることを本講の受講を通して学生自らが発見する機会となることを目標とします。		
準備学習	京都観光文化検定試験の過去問にチャレンジしてみておいてください。		

受講者への要望

京都を舞台にした小説や映画、絵画、舞台などに興味をもって意識し、授業に臨んでください。

講義の順序とポイント

1　9/30　京都基礎知識
2　10/7　清水寺　最強観光寺院の秘密
3　10/14 金閣寺　本当の価値は金にあらず
4　10/21 銀閣寺　銀の意味するもの
5　10/28 京都の氏神　平安神宮と時代祭
6　11/4　学問の神　北野天満宮の真実
7　11/11 伏見稲荷大社　増え続ける神々の正体
8　11/18 世界遺産の城　二条城の見方
9　11/25 京都甘味紀行　京菓子の底力
10　12/2　和菓子と儀礼
11　12/9　和菓子と茶の湯
12　12/16 国宝第一号　驚愕の広隆寺
13　1/6　八坂神社　親子神の謎に迫る
14　1/13　魅惑の京都　魅力の庭
15　1/20　京観光総括と小テスト

※シラバスは時宜に応じて内容、順番等変更します。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JM0029A02
科目名	京都検定講座Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Certifying Examination for Kyoto Tourism and Culture I		
担当者名	堤　勇二	旧科目名称	
講義概要	世界屈指の観光都市京都を知るには、まずこの都市の歴史や成り立ち、そしてこの地を観光都市たらしめている様々な要素に興味を持ち、正しく理解することが大切です。 京都の特性は、その歴史性、宗教性、芸術性、景観性、ベンチャー性と時代を超えてこの国の基盤を支える文化性にあり、それは衣食住の生活すべてにわたって多彩です。 そして多くの社寺を有し、千年を超えるこの町の歩みには、その背後に数々の神仏が存在したことを理解する必要があります。本講はこの都市を理解するために不可欠な宗教性を基盤に、衣食住の多岐にわたる豊かな京都の魅力を知ることを目的とします。本年は特に有名な社寺を採り上げ、ガイドブックや通り一遍の観光では決して得られない、京都の驚きの真実を読み解くことで、この町の重層性、複層性を学びます。		
教材（テキスト）	特になし。平素より京都に関する書籍、番組、映画などに興味を持ってアンテナを張っておいて下さい。		
教材（参考文献）	増補版　京都・観光文化検定試験公式テキストブック　（淡交社刊　2010） 京都・世界遺産手帳（河原書店刊　2009）		
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席状況等）　50%　受講態度も評価 小テスト　50%　講義最終日実施		
到達目標	受講生が京都への興味持ち、生活全般を通したこの町の成り立ちを理解すること。ガイドブックや観光サイトに紹介されていないことにこの町の真実が隠されており、特別公開などの特殊性ではなく、常に開かれた日常性のなかにこそ無限の魅力が眠っていることを本講の受講を通して学生自らが発見する機会となることを目標とします。		
準備学習	京都観光文化検定試験の過去問にチャレンジしてみておいてください。		

受講者への要望

京都を舞台にした小説や映画、絵画、舞台などに興味をもって意識し、授業に臨んでください。

講義の順序とポイント

1　9/30　京都基礎知識
2　10/7　清水寺　最強観光寺院の秘密
3　10/14 金閣寺　本当の価値は金にあらず
4　10/21 銀閣寺　銀の意味するもの
5　10/28 京都の氏神　平安神宮と時代祭
6　11/4　学問の神　北野天満宮の真実
7　11/11 伏見稲荷大社　増え続ける神々の正体
8　11/18 世界遺産の城　二条城の見方
9　11/25 京都甘味紀行　京菓子の底力
10　12/2　和菓子と儀礼
11　12/9　和菓子と茶の湯
12　12/16 国宝第一号　驚愕の広隆寺
13　1/6　八坂神社　親子神の謎に迫る
14　1/13　魅惑の京都　魅力の庭
15　1/20　京観光総括と小テスト

※シラバスは時宜に応じて内容、順番等変更します。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JM0029B01
科目名	京都検定講座 II 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Certifying Examination for Kyoto Tourism and Culture II		
担当者名	平良　聡弘	旧科目名称	
講義概要	京都検定は「幅広い切り口で京都通度を認定する検定試験」です。全国各地から毎年 5,000 人以上もの人びとが受験しています。京都がそれだけ人気のある観光地だということです。京都の魅力の一つは、長い歴史のなかではぐくまれてきた独特の文化と伝統にあるといえるでしょう。 本授業では、京都の歴史を、トピックごとに、当時の史料や画像などをまじえて紹介します。京都の歴史と文化について理解を深め、京都検定に合格するステップとすることをめざします。なお、本授業は、新町通錦小路上ルにオープンしている「京町家キャンパス」にて実施します。		
教材（テキスト）	毎回プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	平常点（出席、授業態度、課題等）50%＋レポート 50%		
到達目標	京都の歴史と文化に関する理解・考察を深める。 京都の魅力を他者に対して発信できるようになる。		
準備学習	授業終了時に次回の講義資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また、一定の区切りごとにレポートを課すので、毎回の配布資料をしっかり復習しておくこと。		
受講者への要望			
京都の歴史と文化にふれるとともに、みずから考えることを忘れずに！ 京都検定を受験する予定のない人も受講可能です。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに　―現代の京都イメージ― 2　京の三大祭 3　京の御霊信仰と仏教世界 4　洛中・洛外／町・町組／町触　―京の枠組み― 5　京の名所図会・見聞記　―日本近世の京都イメージ― 6　幕末政治のなかの京都　―御所の政治空間／京の防衛論― 7　幕末京都の「天誅」　―京へ向かう志と人斬り― 8　歴史のなかの新撰組　―壬生の浪士から京の新撰組へ― 9　幕末京都の争乱―京の戦災― １０　東京遷都　―京都の地盤沈下― １１　京都の博覧会　―京の復興をめざして― １２　近代化をめぐる京都の葛藤　―疎水、美術工芸、学校、鉄道― １３　近代京都のジャーナリズムと風刺漫画『我楽多珍報』　―メディア都市・京都の誕生― １４　近代京都の観光事業　―外国人観光客の誘致― １５　おわりに　―近代京都の自画像―			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0030B01
科目名	京都商人論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Kyoto Merchants I		
担当者名	植田　知子	旧科目名称	京都商人論Ⅰ・京都商人論Ⅱ
講義概要	平安遷都以来、長きにわたり日本の都であった京都には、独特の文化が形成されました。その独特の文化を支え、維持・発展に重要な役割を果たしたのが京都の伝統産業です。本講義では、歴史と伝統に育まれたそれらの製品と、高度な技術や技法を今に引き継ぐ老舗のモノ作りについて学びます。また、伝統産業からスタートして、新たな展開を遂げた企業なども取り上げます。		
教材（テキスト）	使用しません。毎回プリントを配布します。		
教材（参考文献）	授業中、適宜指示します。		
教材（その他）	授業は、パワーポイントを使用します。		
評価方法	復習の小テスト（３０％）と 定期試験（７０％）		
到達目標	京都の伝統産業を理解するとともに、それらの産業に携わる商人、技術者のモノ作りの心を学ぶ。		
準備学習	毎回、前回の授業内容に関する「復習の小テスト」をおこないます。復習を怠らないようにして下さい。		
受講者への要望			
皆さんの周囲には、数多くの京都の伝統産業製品や、それらを扱う老舗が存在します。それらの歴史や技術に関心をもちましょう。			
講義の順序とポイント			
１、京都の伝統産業と老舗　　繊維① ２、京都の伝統産業と老舗　　食品① ３、京都の伝統産業と老舗　　工芸① ４、京都の伝統産業と老舗　　食品② ５、京都の伝統産業と老舗　　工芸② ６、京都の伝統産業と老舗　　食品③ ７、京都の伝統産業と老舗　　機械 ８、京都の伝統産業と老舗　　食品④ ９、京都の伝統産業と老舗　　工芸③ １０、京都の伝統産業と老舗　繊維② １１、京都の伝統産業と老舗　工芸④ １２、京都の伝統産業と老舗　サービス １３、京都の伝統産業と老舗　工芸⑤ １４、京都の伝統産業と老舗　食品⑤ １５、今後の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JM0032A01
科目名	経営学入門 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management A		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy.		
教材（テキスト）	ケーススタディーを受講生の興味にあわせ、適宜配布する		
教材（参考文献）	講義にて全て提示する		
教材（その他）			
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととし、秋期の経営学入門 B にてさらに演習の場所を得るものとする。		
準備学習	The preparation of each session should be expected to accomplish along the progress of case study 各セッションの予習、準備はケーススタディーの進行にそって設定されるものとする		
受講者への要望			
熱意を持って、イノベーティブに Be Passionate, Be Innovative			
講義の順序とポイント			
講義内容 第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting 第二回　ビジョンに関して、ケース：ビジョナリーカンパニー Session 2, On Vision /Case study of visionary company and setting attendee's own vision 第三回　戦略に関して、戦略、戦術の定義、ケーススタディー Session 3, On Strategy / Study on definition of strategy, tactics 第四回 競争に関して、競争の戦略、ケーススタディー Session 4, On Competition / Case study in competitive strategy 第五回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics 第六回　経営財務、基礎講座① Session 6, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1 第七回　中間報告、事業計画の中間プレゼンテーション Session 7, Midterm Review, Presentation practice on business plan 第八回　経営財務、基礎講座② Session 8, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2 第九回　ケース：ホスピタリティーマネージメント Session 9, Case Study / Best practice on hospitality management 第十回　ケース：イノベーション Session 10, Case Study / Best practice on innovation 第十一回　ケース：起業家精神 Session 11, Case Study / Best practice on entrepreneurship			

第十二回　ケース：チームマネジメント Session 12, Case Study / Best practice on team management 第十三回　ケース：受講者から一番リクエストがあった企業 Session 13, Case Study / Most requested company 第十四回　事業計画発表① Session 14, Presentation of business plan 1 第十五回　事業計画発表② Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JM0032A02
科目名	経営学入門 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management A		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy.		
教材（テキスト）	ケーススタディーを受講生の興味にあわせ、適宜配布する		
教材（参考文献）	講義にて全て提示する		
教材（その他）			
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととし、秋期の経営学入門 B にてさらに演習の場所を得るものとする。		
準備学習	The preparation of each session should be expected to accomplish along the progress of case study 各セッションの予習、準備はケーススタディーの進行にそって設定されるものとする		
受講者への要望			
熱意を持って、イノベーティブに Be Passionate, Be Innovative			
講義の順序とポイント			
講義内容 第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting 第二回　ビジョンに関して、ケース：ビジョナリーカンパニー Session 2, On Vision /Case study of visionary company and setting attendee's own vision 第三回　戦略に関して、戦略、戦術の定義、ケーススタディー Session 3, On Strategy / Study on definition of strategy, tactics 第四回 競争に関して、競争の戦略、ケーススタディー Session 4, On Competition / Case study in competitive strategy 第五回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics 第六回　経営財務、基礎講座① Session 6, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1 第七回　中間報告、事業計画の中間プレゼンテーション Session 7, Midterm Review, Presentation practice on business plan 第八回　経営財務、基礎講座② Session 8, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2 第九回　ケース：ホスピタリティーマネージメント Session 9, Case Study / Best practice on hospitality management 第十回　ケース：イノベーション Session 10, Case Study / Best practice on innovation 第十一回　ケース：起業家精神 Session 11, Case Study / Best practice on entrepreneurship			

第十二回　ケース：チームマネジメント Session 12, Case Study / Best practice on team management 第十三回　ケース：受講者から一番リクエストがあった企業 Session 13, Case Study / Most requested company 第十四回　事業計画発表① Session 14, Presentation of business plan 1 第十五回　事業計画発表② Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JM0032B01
科目名	経営学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management B		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 f
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、事業、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。当講義のエッセンスは春期経営学入門 A と同じであるが、取り上げるトピックは異なる。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy. The essence of this class would be similar to class A of Management in spring semester, but may use different topic.		
教材（テキスト）	ケーススタディーを受講生の興味にあわせ、適宜配布する		
教材（参考文献）	ケーススタディーを講義毎、適宜配布する		
教材（その他）	適宜配布する		
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととする。（受講者への要望欄も参照のこと）		
準備学習	特になし		

受講者への要望

熱意を持って、イノベーティブに
Be Passionate, Be Innovative
≪到達目標補足≫
To set a goal to all attendee to learn and acknowledge the fundamentals in business strategy, with presentation and discussion skills. Required to achieve basic skill of business analysis on competitive strategy and financials, including accounting.

講義の順序とポイント

第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション
Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting

第二回　ビジョンに関して①　講義、何故ビジョンが重要か
Session 2, On Vision (1) / Lecture on why vision is important

第二回　ビジョンに関して②、ケース：ビジョナリーカンパニー
Session 3, On Vision (2) /Case study of visionary company and setting attendee's own vision

第三回　戦略に関して①、戦略、戦術とは？
Session 3, On Strategy / Lecture on what strategy, tactics are

第四回　戦略に関して②、ケーススタディー
Session 4, On Strategy / Case Study

第五回 競争に関して①　講義
Session 5, On Competition / Lecture on what the completion is

第六回 競争に関して②、競争の戦略、ケーススタディー
Session 6, On Competition / Case study in competitive strategy

第七回　商人（あきんど）の心得
Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics

第八回　中間報告会
Session 8, Midterm Presentation

第九回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー
Session 9, On Ethics, Case study of importance of business ethics

第十回　経営財務、基礎講座①
Session 10, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1

第十一回　経営財務、基礎講座②
Session 11, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2

第十二回　経営財務、基礎講座③
Session 12, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 3

第十三回　効果的なプレゼンテーションとは？
Session 13, Best practice on presentation / Case Study

第十四回　事業計画発表①
Session 14, Presentation of business plan 1

第十五回　事業計画発表②
Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JM0032B02
科目名	経営学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management B		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 f
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、事業、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。当講義のエッセンスは春期経営学入門 A と同じであるが、取り上げるトピックは異なる。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy. The essence of this class would be similar to class A of Management in spring semester, but may use different topic.		
教材（テキスト）	ケーススタディーを受講生の興味にあわせ、適宜配布する		
教材（参考文献）	ケーススタディーを講義毎、適宜配布する		
教材（その他）	適宜配布する		
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととする。（受講者への要望欄も参照のこと）		
準備学習	特になし		

受講者への要望

熱意を持って、イノベーティブに
Be Passionate, Be Innovative
≪到達目標補足≫
To set a goal to all attendee to learn and acknowledge the fundamentals in business strategy, with presentation and discussion skills. Required to achieve basic skill of business analysis on competitive strategy and financials, including accounting.

講義の順序とポイント

第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション
Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting

第二回　ビジョンに関して①　講義、何故ビジョンが重要か
Session 2, On Vision (1) / Lecture on why vision is important

第二回　ビジョンに関して②、ケース：ビジョナリーカンパニー
Session 3, On Vision (2) /Case study of visionary company and setting attendee's own vision

第三回　戦略に関して①、戦略、戦術とは？
Session 3, On Strategy / Lecture on what strategy, tactics are

第四回　戦略に関して②、ケーススタディー
Session 4, On Strategy / Case Study

第五回 競争に関して①　講義
Session 5, On Competition / Lecture on what the completion is

第六回 競争に関して②、競争の戦略、ケーススタディー
Session 6, On Competition / Case study in competitive strategy

第七回　商人（あきんど）の心得
Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics

第八回　中間報告会
Session 8, Midterm Presentation

第九回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー
Session 9, On Ethics, Case study of importance of business ethics

第十回　経営財務、基礎講座①
Session 10, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1

第十一回　経営財務、基礎講座②
Session 11, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2

第十二回　経営財務、基礎講座③
Session 12, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 3

第十三回　効果的なプレゼンテーションとは？
Session 13, Best practice on presentation / Case Study

第十四回　事業計画発表①
Session 14, Presentation of business plan 1

第十五回　事業計画発表②
Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JM0033001
科目名	経済学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Economics		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 120 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特に前半はミクロ経済理論に、また後半はマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）		
教材（参考文献）	①N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年） ②N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（特にミクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング・リストを配布するので、講義の前には必ず、教科書や参考書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は、すぐに理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. 経済学の十大原理Ⅰ（ミクロ経済理論関連） 2. 経済学の十大原理Ⅱ（ミクロ経済理論関連） 3. 科学者としての経済学者 4. 政策アドバイザーとしての経済学者 5. グラフの用法： 概観 6. 相互依存と交易（貿易）からの利益 7. 比較優位の原理 8. 市場と競争、需要と供給 9. 市場における需要と供給の作用 10. 需要、供給、および政府の政策Ⅰ（価格規制） 11. 需要、供給、および政府の政策Ⅱ（税金） 12. 消費者余剰と生産者余剰 13. 市場の効率性 14. 外部性と市場の非効率性 15. 外部性の解決法 16. 経済学の十大原理Ⅲ（マクロ経済理論関連） 17. 国民所得の測定			

18. 国内総生産（GDP）
19. 生計費の測定（消費者物価指数）
20. インフレーションの影響の補正
21. 経済成長と生産性
22. 経済成長と公共政策
23. 失業
24. 貯蓄、投資と金融システム
25. 貸付資金市場
26. 貨幣システム
27. 貨幣の需給とインフレーションの古典派理論
28. 総需要と総供給
29. 経済変動の二つの原因
30. 総需要と総供給のモデルの応用

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JM0033002
科目名	経済学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Economics		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 120 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特に前半はミクロ経済理論に、また後半はマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）		
教材（参考文献）	①N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年） ②N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（特にミクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング・リストを配布するので、講義の前には必ず、教科書や参考書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は、すぐに理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. 経済学の十大原理Ⅰ（ミクロ経済理論関連） 2. 経済学の十大原理Ⅱ（ミクロ経済理論関連） 3. 科学者としての経済学者 4. 政策アドバイザーとしての経済学者 5. グラフの用法： 概観 6. 相互依存と交易（貿易）からの利益 7. 比較優位の原理 8. 市場と競争、需要と供給 9. 市場における需要と供給の作用 10. 需要、供給、および政府の政策Ⅰ（価格規制） 11. 需要、供給、および政府の政策Ⅱ（税金） 12. 消費者余剰と生産者余剰 13. 市場の効率性 14. 外部性と市場の非効率性 15. 外部性の解決法 16. 経済学の十大原理Ⅲ（マクロ経済理論関連） 17. 国民所得の測定			

18. 国内総生産（GDP）
19. 生計費の測定（消費者物価指数）
20. インフレーションの影響の補正
21. 経済成長と生産性
22. 経済成長と公共政策
23. 失業
24. 貯蓄、投資と金融システム
25. 貸付資金市場
26. 貨幣システム
27. 貨幣の需給とインフレーションの古典派理論
28. 総需要と総供給
29. 経済変動の二つの原因
30. 総需要と総供給のモデルの応用

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JM0036001
科目名	現代基礎教養	単位数	2
科目名（英語表記）	Modern General Education		
担当者名	山下　功	旧科目名称	
講義概要	本講義では、公務員試験における教養科目「判断推理」の対策を通じて、皆さんの論理的思考能力のトレーニングを行います。テキストには公務員試験対策の定番の問題集を使用し、多くの演習時間を取る予定です。 「判断推理」の問題は、あまり多くの事前知識を必要としません。問題で与えられた情報から形式的な論理関係を見出し、そこから解答に相応しい結論を演繹することが求められます。 膨大な知識へのアクセスが可能となった現代社会においては、「必要な知識を取捨選択する能力」と「複数の知識を組み合わせて活用する能力」を持った人材が強く求められており、そのため公務員試験のみならず、SPI2 など現在の就職試験においては、「判断推理」のような論理力を問う問題に重きが置かれています。 こうした論理的思考能力はトレーニングを通じて必ず伸ばすことが出来ます。公務員試験を考えている方だけではなく、社会に出て広く羽ばたくことになる学生の皆さん全員を本講義の対象とします。		
教材（テキスト）	資格試験研究会編『大卒程度 警察官 消防官 新スーパー過去問ゼミ 判断推理』実務教育出版,2012 ISBN:9784788939080		
教材（参考文献）	N.G.マンキュー『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社 石川秀樹『試験攻略　新・経済学入門塾Ｖ　計算マスター編』中央経済社 成生達彦『ミクロ経済学入門―需要、供給、市場』有斐閣アルマ		
教材（その他）	適宜講義中にプリントを配布		
評価方法	定期テスト（50%） 授業内小テスト等による平常点（50%）		
到達目標	社会人として求められる論理的な判断力の獲得		
準備学習	テキストにはトピック毎に多くの問題が用意されています。 全ての問題を講義中に演習・解説することは出来ないため、講義中に扱えなかった問題については必ず次回の講義までに解いておくようにしてください。		
受講者への要望			
熱意をもって取り組むこと。 話を聞くことも大切ですが、自ら手を動かして考えてみることが理解への一番の近道です。 また、講義中の質問を歓迎します。			
講義の順序とポイント			
１．講義ガイダンス ２．操作の手順 ３．命題の真偽 ４．発言の真偽 ５．暗号の解読 ６．まとめ１ ７．対応関係 ８．順序関係 ９．位置関係 １０．試合の勝敗 １１．まとめ２ １２．平面図形の移動と軌跡 １３．平面図形の構成と分割 １４．立体図形とその組み立て １５．展開図とその応用			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	★

年度	2015	授業コード	JM0036002
科目名	現代基礎教養	単位数	2
科目名（英語表記）	Modern General Education		
担当者名	山下　功	旧科目名称	
講義概要	本講義では、公務員試験における教養科目「判断推理」の対策を通じて、皆さんの論理的思考能力のトレーニングを行います。テキストには公務員試験対策の定番の問題集を使用し、多くの演習時間を取る予定です。 「判断推理」の問題は、あまり多くの事前知識を必要としません。問題で与えられた情報から形式的な論理関係を見出し、そこから解答に相応しい結論を演繹することが求められます。 膨大な知識へのアクセスが可能となった現代社会においては、「必要な知識を取捨選択する能力」と「複数の知識を組み合わせて活用する能力」を持った人材が強く求められており、そのため公務員試験のみならず、SPI2 など現在の就職試験においては、「判断推理」のような論理力を問う問題に重きが置かれています。 こうした論理的思考能力はトレーニングを通じて必ず伸ばすことが出来ます。公務員試験を考えている方だけではなく、社会に出て広く羽ばたくことになる学生の皆さん全員を本講義の対象とします。		
教材（テキスト）	資格試験研究会編『大卒程度 警察官 消防官 新スーパー過去問ゼミ 判断推理』実務教育出版,2012 ISBN:9784788939080		
教材（参考文献）	N.G.マンキュー『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社 石川秀樹『試験攻略　新・経済学入門塾Ｖ　計算マスター編』中央経済社 成生達彦『ミクロ経済学入門―需要、供給、市場』有斐閣アルマ		
教材（その他）	適宜講義中にプリントを配布		
評価方法	定期テスト（50%） 授業内小テスト等による平常点（50%）		
到達目標	社会人として求められる論理的な判断力の獲得		
準備学習	テキストにはトピック毎に多くの問題が用意されています。 全ての問題を講義中に演習・解説することは出来ないため、講義中に扱えなかった問題については必ず次回の講義までに解いておくようにしてください。		
受講者への要望			
熱意をもって取り組むこと。 話を聞くことも大切ですが、自ら手を動かして考えてみることが理解への一番の近道です。 また、講義中の質問を歓迎します。			
講義の順序とポイント			
１．講義ガイダンス ２．操作の手順 ３．命題の真偽 ４．発言の真偽 ５．暗号の解読 ６．まとめ１ ７．対応関係 ８．順序関係 ９．位置関係 １０．試合の勝敗 １１．まとめ２ １２．平面図形の移動と軌跡 １３．平面図形の構成と分割 １４．立体図形とその組み立て １５．展開図とその応用			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	★

年度	2015	授業コード	JM0038A01
科目名	国際関係論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Relations A		
担当者名	玉井　雅隆	旧科目名称	
講義概要	現在、経済や人の流れのグローバル化がますます進んでいる。経済の相互依存が進んだ現在、世界規模の大規模な戦争の脅威は薄れたが、一方で地球温暖化などの地球規模の問題は、一国及び数か国の単位での解決が困難となってきている。またその行為主体（アクター）も国家のみならず、国際機構や NGO など様々なアクターが活動している。本講義の目的は、国際政治のアリーナにおける様々なアクター及びそれらのアクターによる政策決定に関して、その決定がどのようになされ、そしてどのように実施されるのかという点に関して学ぶことである。		
教材（テキスト）	教科書は以下のとおりである。 ・庄司真理子・宮脇昇（編）『新グローバル公共政策』 晃洋書房、2,484 円		
教材（参考文献）	参考書は以下のとおりである。 ・宮脇昇・玉井雅隆（編）『コンプライアンス論から規範競合論へ―ウソの社会的発生から消滅まで』晃洋書房、2,808 円 ・玉井雅隆『CSCE 少数民族高等弁務官と平和創造』 国際書院、6,048 円 この他、授業にて適宜、参考文献を紹介する。		
教材（その他）	毎回授業開始時に授業に関するレジュメを配布する。		
評価方法	・定期テスト（60%） ・授業中の小テスト（40%）		
到達目標	国際関係や国際公共政策の決定には、どのようなアクターがどのような役割を果たしているのか、ということを理解することができる。また、国際社会における様々な問題を解決するためには何が必要かを、総合的に考察することができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書該当ページ）を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業開始時に前回の授業内容にかかわる小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

授業内容に関する要望
・新聞・ニュースなどで、世界情勢に関して情報を常に集めること。
・講義終了後の質問などは歓迎する。常に「何でだろう」と考えながら、講義を受けてほしい。

授業全般に関する要望
・当然のことながら、授業中の私語は厳禁。私語に関しては厳しく対応する。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション「国際関係論とは？」
key word：国際政治理論、グローバル公共政策、公共財、公共性

第 2 回　国際政治のアクター 1
Key word:国際機構、国際連合

第 3 回　国際政治のアクター 2
Key word:地域的国際機構、OSCE（欧州安全保障協力機構）、EU

第 4 回　国際政治のアクター 3
Key word：世界銀行、IMF、WTO

第 5 回　国際政治のアクター 4
Key word：NGO/NPO、CSO（市民社会組織）

第 6 回　国際政治のアクター 5
Key word：企業、企業の社会的責任論

第 7 回　国際政治と問題領域 1
Key word:安全保障概念の拡大、人間の安全保障

第 8 回　国際政治と問題領域 2
Key word：軍備管理、軍備縮小、NPT 体制

第 9 回　国際政治と問題領域 3
Key word：民主化、人権、選挙監視

第 10 回　国際政治と問題領域 4
Key word：マイノリティ、OSCE 少数民族高等弁務官

第 11 回　国際政治と問題領域 5
Key word：貧困と格差、開発

第 12 回　国際政治と問題領域 6
Key word：環境問題 1（概論）

第 13 回　国際政治と問題領域 7
Key word：環境問題 2（地球温暖化)、新しい問題領域　、極地、宇宙、深海底

第 14 回　国際政治と平和-テロと平和
Key word：IS（イスラム国)、アルカイダ、低強度紛争

第 15 回　国際政治と平和-欧州の事例をもとに
Key word：「民主的平和論」、「民主的安全保障論（Council of Europe)」人権、民主主義、
平和構築、安全保障

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	JM0038A02
科目名	国際関係論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Relations A		
担当者名	玉井　雅隆	旧科目名称	
講義概要	現在、経済や人の流れのグローバル化がますます進んでいる。経済の相互依存が進んだ現在、世界規模の大規模な戦争の脅威は薄れたが、一方で地球温暖化などの地球規模の問題は、一国及び数か国の単位での解決が困難となってきている。またその行為主体（アクター）も国家のみならず、国際機構や NGO など様々なアクターが活動している。本講義の目的は、国際政治のアリーナにおける様々なアクター及びそれらのアクターによる政策決定に関して、その決定がどのようになされ、そしてどのように実施されるのかという点に関して学ぶことである。		
教材（テキスト）	教科書は以下のとおりである。 ・庄司真理子・宮脇昇（編）『新グローバル公共政策』 晃洋書房、2,484 円		
教材（参考文献）	参考書は以下のとおりである。 ・宮脇昇・玉井雅隆（編）『コンプライアンス論から規範競合論へ―ウソの社会的発生から消滅まで』晃洋書房、2,808 円 ・玉井雅隆『CSCE 少数民族高等弁務官と平和創造』 国際書院、6,048 円 この他、授業にて適宜、参考文献を紹介する。		
教材（その他）	毎回授業開始時に授業に関するレジュメを配布する。		
評価方法	・定期テスト（60%） ・授業中の小テスト（40%）		
到達目標	国際関係や国際公共政策の決定には、どのようなアクターがどのような役割を果たしているのか、ということを理解することができる。また、国際社会における様々な問題を解決するためには何が必要かを、総合的に考察することができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書該当ページ）を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業開始時に前回の授業内容にかかわる小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

授業内容に関する要望
・新聞・ニュースなどで、世界情勢に関して情報を常に集めること。
・講義終了後の質問などは歓迎する。常に「何でだろう」と考えながら、講義を受けてほしい。

授業全般に関する要望
・当然のことながら、授業中の私語は厳禁。私語に関しては厳しく対応する。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション「国際関係論とは？」
key word：国際政治理論、グローバル公共政策、公共財、公共性

第 2 回　国際政治のアクター 1
Key word:国際機構、国際連合

第 3 回　国際政治のアクター 2
Key word:地域的国際機構、OSCE（欧州安全保障協力機構）、EU

第 4 回　国際政治のアクター 3
Key word：世界銀行、IMF、WTO

第 5 回　国際政治のアクター 4
Key word：NGO/NPO、CSO（市民社会組織）

第 6 回　国際政治のアクター 5
Key word：企業、企業の社会的責任論

第 7 回　国際政治と問題領域 1
Key word:安全保障概念の拡大、人間の安全保障

第 8 回　国際政治と問題領域 2
Key word：軍備管理、軍備縮小、NPT 体制

第 9 回　国際政治と問題領域 3
Key word：民主化、人権、選挙監視

第 10 回　国際政治と問題領域 4
Key word：マイノリティ、OSCE 少数民族高等弁務官

第 11 回　国際政治と問題領域 5
Key word：貧困と格差、開発

第 12 回　国際政治と問題領域 6
Key word：環境問題 1（概論）

第 13 回　国際政治と問題領域 7
Key word：環境問題 2（地球温暖化)、新しい問題領域　、極地、宇宙、深海底

第 14 回　国際政治と平和-テロと平和
Key word：IS（イスラム国)、アルカイダ、低強度紛争

第 15 回　国際政治と平和-欧州の事例をもとに
Key word：「民主的平和論」、「民主的安全保障論（Council of Europe)」人権、民主主義、
平和構築、安全保障

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	JM0038B01
科目名	国際関係論B	単位数	2
科目名（英語表記）	International Relations B		
担当者名	玉井　雅隆	旧科目名称	
講義概要	現在、経済や人の流れのグローバル化がますます進んでいる。経済の相互依存が進んだ現在、世界規模の大規模な戦争の脅威は薄れたが、一方で地球温暖化などの地球規模の問題は、一国及び数か国の単位での解決が困難となってきている。またその行為主体（アクター）も国家のみならず、国際機構や NGO など様々なアクターが活動している。本講義の目的は、国際政治のアリーナにおける様々なアクター及びそれらのアクターによる政策決定に関して、その決定がどのようになされ、そしてどのように実施されるのかという点に関して学ぶことである。 なお本講義は、国際関係論 A の内容を、より掘り下げたものとなっている。		
教材（テキスト）	教科書は以下のとおりである。 ・庄司真理子・宮脇昇（編）『新グローバル公共政策』 晃洋書房、2,484 円		
教材（参考文献）	参考書は以下のとおりである。 ・宮脇昇・玉井雅隆（編）『コンプライアンス論から規範競合論へ―ウソの社会的発生から消滅まで』晃洋書房、2,808 円 ・玉井雅隆『CSCE 少数民族高等弁務官と平和創造』 国際書院、6,048 円 この他、授業にて適宜、参考文献を紹介する。		
教材（その他）	毎回授業開始時に授業に関するレジュメを配布する。		
評価方法	・定期テスト（60%） ・授業中の小テスト（40%）		
到達目標	1）国内社会と国際社会の相違や、現在国際社会が抱える問題点に関して理解することができる。 2）国際社会における様々な問題を解決するためには何が必要かを、総合的に考察することができる。 3）国際社会の諸問題に関し、我が国や市民としての我々がどのような役割を果たしうるのか、考察することができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書該当ページ）を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業開始時に前回の授業内容にかかわる小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

授業内容に関する要望
・新聞・ニュースなどで、世界情勢に関して情報を常に集めること。
・講義終了後の質問などは歓迎する。常に「何でだろう」と考えながら、講義を受けてほしい。
授業全般に関する要望
・当然のことながら、授業中の私語は厳禁。私語に関しては厳しく対応する。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション「国際関係論とは？」
key word：国際政治理論、リアリズム、リベラリズム、ネオ・リアリズム

第 2 回　国際関係の歴史 1
Key word:ウェストファリア体制、華夷思想、「戦争の家」「平和の家」

第 3 回　国際政治の歴史 2
Key word:植民地体制、国際連盟、国際連合

第 4 回　国際政治と安全保障 1　 安全保障とは何か
Key word：集団的安全保障、個別的安全保障、集団的自衛権

第 5 回　国際政治と安全保障 2　　安全保障概念の多様性
Key word：安全保障の諸類型、包括的安全保障、人間の安全保障

第 6 回　国際政治と安全保障 3　 欧州における安全保障体制
Key Word：欧州安全保障協力会議、欧州安全保障協力機構

第 7 回　国際政治と安全保障 4　 「国家」の安全保障と「市民」の安全保障
Key word：人道的介入、ルワンダ、ユーゴスラヴィア、カンボジア

第 8 回　国際政治と安全保障 5　 軍備管理と軍縮
Key word:軍備管理、軍備縮小、NPT 体制

第 9 回　国際政治と安全保障 6　 核戦略と安全保障
Key word：相互確証破壊、核抑止理論

第 10 回　国際政治と市民社会 1　 民主化
Key word：民主化、人権、選挙監視

第 11 回　国際政治と市民社会 2　 マイノリティ
Key word：マイノリティ、OSCE 少数民族高等弁務官

第 12 回　国際政治と市民社会 3　 貧困と紛争
Key word：貧困と格差、開発

第 13 回　国際政治と市民社会 4　 「水の世紀」と環境問題
Key word：地球温暖化、水問題

第 14 回　国際政治と平和 1　 テロと平和
Key word：IS（イスラム国)、アルカイダ、低強度紛争

第 15 回　国際政治と平和 2　 欧州の事例をもとに
Key word：「民主的平和論」、「民主的安全保障論（Council of Europe)」人権、民主主義、
　　平和構築、安全保障

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	JM0038B02
科目名	国際関係論B	単位数	2
科目名（英語表記）	International Relations B		
担当者名	玉井　雅隆	旧科目名称	
講義概要	現在、経済や人の流れのグローバル化がますます進んでいる。経済の相互依存が進んだ現在、世界規模の大規模な戦争の脅威は薄れたが、一方で地球温暖化などの地球規模の問題は、一国及び数か国の単位での解決が困難となってきている。またその行為主体（アクター）も国家のみならず、国際機構や NGO など様々なアクターが活動している。本講義の目的は、国際政治のアリーナにおける様々なアクター及びそれらのアクターによる政策決定に関して、その決定がどのようになされ、そしてどのように実施されるのかという点に関して学ぶことである。 なお本講義は、国際関係論 A の内容を、より掘り下げたものとなっている。		
教材（テキスト）	教科書は以下のとおりである。 ・庄司真理子・宮脇昇（編）『新グローバル公共政策』 晃洋書房、2,484 円		
教材（参考文献）	参考書は以下のとおりである。 ・宮脇昇・玉井雅隆（編）『コンプライアンス論から規範競合論へ―ウソの社会的発生から消滅まで』晃洋書房、2,808 円 ・玉井雅隆『CSCE 少数民族高等弁務官と平和創造』 国際書院、6,048 円 この他、授業にて適宜、参考文献を紹介する。		
教材（その他）	毎回授業開始時に授業に関するレジュメを配布する。		
評価方法	・定期テスト（60%） ・授業中の小テスト（40%）		
到達目標	1）国内社会と国際社会の相違や、現在国際社会が抱える問題点に関して理解することができる。 2）国際社会における様々な問題を解決するためには何が必要かを、総合的に考察することができる。 3）国際社会の諸問題に関し、我が国や市民としての我々がどのような役割を果たしうるのか、考察することができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書該当ページ）を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業開始時に前回の授業内容にかかわる小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

授業内容に関する要望
・新聞・ニュースなどで、世界情勢に関して情報を常に集めること。
・講義終了後の質問などは歓迎する。常に「何でだろう」と考えながら、講義を受けてほしい。
授業全般に関する要望
・当然のことながら、授業中の私語は厳禁。私語に関しては厳しく対応する。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション「国際関係論とは？」
key word：国際政治理論、リアリズム、リベラリズム、ネオ・リアリズム

第 2 回　国際関係の歴史 1
Key word:ウェストファリア体制、華夷思想、「戦争の家」「平和の家」

第 3 回　国際政治の歴史 2
Key word:植民地体制、国際連盟、国際連合

第 4 回　国際政治と安全保障 1　 安全保障とは何か
Key word：集団的安全保障、個別的安全保障、集団的自衛権

第 5 回　国際政治と安全保障 2　　安全保障概念の多様性
Key word：安全保障の諸類型、包括的安全保障、人間の安全保障

第 6 回　国際政治と安全保障 3　 欧州における安全保障体制
Key Word：欧州安全保障協力会議、欧州安全保障協力機構

第 7 回　国際政治と安全保障 4　 「国家」の安全保障と「市民」の安全保障
Key word：人道的介入、ルワンダ、ユーゴスラヴィア、カンボジア

第 8 回　国際政治と安全保障 5　 軍備管理と軍縮
Key word:軍備管理、軍備縮小、NPT 体制

第 9 回　国際政治と安全保障 6　 核戦略と安全保障
Key word：相互確証破壊、核抑止理論

第 10 回　国際政治と市民社会 1　 民主化
Key word：民主化、人権、選挙監視

第 11 回　国際政治と市民社会 2　 マイノリティ
Key word：マイノリティ、OSCE 少数民族高等弁務官

第 12 回　国際政治と市民社会 3　 貧困と紛争
Key word：貧困と格差、開発

第 13 回　国際政治と市民社会 4　 「水の世紀」と環境問題
Key word：地球温暖化、水問題

第 14 回　国際政治と平和 1　 テロと平和
Key word：IS（イスラム国)、アルカイダ、低強度紛争

第 15 回　国際政治と平和 2　 欧州の事例をもとに
Key word：「民主的平和論」、「民主的安全保障論（Council of Europe)」人権、民主主義、
　　平和構築、安全保障

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	JM0039A01
科目名	産業心理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Industrial Psychology A		
担当者名	森田　敬信	旧科目名称	
講義概要	めまぐるしく変化する世界情勢の中で、わが国においても産業構造の変化、たとえば企業のリストラクチャリングなどにともなって組織の人的構造もまた急激に変化している。それは場合によっては労働者に過酷な適応を求めることになる。職場の人間関係において「感情労働」がストレスとなり、自我防衛機制が強く、心に重いヨロイをつけた人々が多くなり、生き生きした実存感を持てないでいる。 　人生 80 年といわれる高齢化社会における労働市場の変化、また多様化する価値観、職業観によって適性・エゴアイデンティティに悩む若者も多い。コンピューターの発達、デジタル化、ロボット化さらにはＩｏＴ(物のインター―ネット）が職場の在り方を急速に変化させ、人の労働が機械によって奪われる事態やテクノストレスとなって人間関係の欠如、思いやり喪失などを生じてくる。このような産業行動における諸問題について、人の特性を中心とした実証的研究を基に概説する。		
教材（テキスト）	NIP 研究会編『仕事とライフ・スタイルの心理学』福村出版 2,800 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業参加状況等による平常点（30%）、レポート（20%）、定期テスト（50%）		
到達目標	「働く人」になるための基礎的な知識を得ること、心の準備ができること。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回授業の最初に前回授業内容に係る復習小テストをするので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回簡単な質問をするので出席票に回答すること。出席票には質問、感想などメッセージも遠慮なく記入してよい。			
講義の順序とポイント			
1.　産業社会と人間　（講義概要の説明）①　経済のソフト化（情報・知識を扱う産業）と人間 2.　②　労働市場の変化（女性の社会進出、パートタイマー）　③　高齢化社会と労働 3.　働く意欲 ①　代表的人間観（マクレガー、アージリス他） 4.　②　動機づけ管理 5.　職業適性とキャリア　①　職業適性の意味　②　適性の予見性と職務の相補性 6.　③　適性の測定 7.　④　キャリア・アンカーとメンター 8.　職業適応 ①　職務適応と職場適応、職場定着 9.　②　社会的欲求と達成動機（やる気を起こさせるには） 10. ③　職場適応の理論（ハーズバーグ、永丘、樋口他） 11. 産業ストレスとメンタルヘルス ①　ストレスの意味とストレスの測定 12. ②　疾患と行動パターン（A 型行動パターン） 13. 職場のストレスと「感情労働」、メンタルヘルスマネジメント 14.　（実習）感受性訓練（心のヨロイ（自我防衛機制）をはずしてみたら） 15. 職場の安全とヒューマンファクター			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0039A02
科目名	産業心理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Industrial Psychology A		
担当者名	森田　敬信	旧科目名称	
講義概要	めまぐるしく変化する世界情勢の中で、わが国においても産業構造の変化、たとえば企業のリストラクチャリングなどにともなって組織の人的構造もまた急激に変化している。それは場合によっては労働者に過酷な適応を求めることになる。職場の人間関係において「感情労働」がストレスとなり、自我防衛機制が強く、心に重いヨロイをつけた人々が多くなり、生き生きした実存感を持てないでいる。 　人生 80 年といわれる高齢化社会における労働市場の変化、また多様化する価値観、職業観によって適性・エゴアイデンティティに悩む若者も多い。コンピューターの発達、デジタル化、ロボット化さらにはＩｏＴ(物のインター―ネット）が職場の在り方を急速に変化させ、人の労働が機械によって奪われる事態やテクノストレスとなって人間関係の欠如、思いやり喪失などを生じてくる。このような産業行動における諸問題について、人の特性を中心とした実証的研究を基に概説する。		
教材（テキスト）	NIP 研究会編『仕事とライフ・スタイルの心理学』福村出版 2,800 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業参加状況等による平常点（30%）、レポート（20%）、定期テスト（50%）		
到達目標	「働く人」になるための基礎的な知識を得ること、心の準備ができること。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回授業の最初に前回授業内容に係る復習小テストをするので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回簡単な質問をするので出席票に回答すること。出席票には質問、感想などメッセージも遠慮なく記入してよい。			
講義の順序とポイント			
1.　産業社会と人間　（講義概要の説明）①　経済のソフト化（情報・知識を扱う産業）と人間 2.　②　労働市場の変化（女性の社会進出、パートタイマー）　③　高齢化社会と労働 3.　働く意欲 ①　代表的人間観（マクレガー、アージリス他） 4.　②　動機づけ管理 5.　職業適性とキャリア　①　職業適性の意味　②　適性の予見性と職務の相補性 6.　③　適性の測定 7.　④　キャリア・アンカーとメンター 8.　職業適応 ①　職務適応と職場適応、職場定着 9.　②　社会的欲求と達成動機（やる気を起こさせるには） 10. ③　職場適応の理論（ハーズバーグ、永丘、樋口他） 11. 産業ストレスとメンタルヘルス ①　ストレスの意味とストレスの測定 12. ②　疾患と行動パターン（A 型行動パターン） 13. 職場のストレスと「感情労働」、メンタルヘルスマネジメント 14.　（実習）感受性訓練（心のヨロイ（自我防衛機制）をはずしてみたら） 15. 職場の安全とヒューマンファクター			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0039B01
科目名	産業心理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Industrial Psychology B		
担当者名	森田　敬信	旧科目名称	
講義概要	めまぐるしく変化する世界情勢の中で、わが国においても産業構造の変化、たとえば企業のリストラクチャリング、ＩｏＴ(物のインターネット)、ロボット化などにともなって組織の人的構造もまた急激に変化している。それは場合によっては労働者に過酷な適応を求めることになる。 　職場の安全性が脅かされたり、リーダーシップのあり方によって企業の存在が危うくなる。経済的発展による空間移動の多量化、高速化は、それに従事する人々のみならず公害となって多くの人々の健康や安全を脅かしている。 多様化するライフスタイルは消費者行動にも変化をもたらしている。 　このような産業行動における諸問題について、人の特性を中心とした実証的研究を基に概説する。		
教材（テキスト）	NIP 研究会編『仕事とライフ・スタイルの心理学』福村出版 2,800 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業参加状況等による平常点（30%）、レポート（20%）、定期テスト（50%）		
到達目標	「働く人」になるための基礎的な知識を得ること、心の準備ができること。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回授業の最初に前回授業内容に係る復習小テストをするので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回簡単な質問をするので出席票に回答すること。出席票には質問、感想などメッセージも遠慮なく記入してよい。			
講義の順序とポイント			
1.　産業社会と人間　（講義概要の説明、産業心理学Ａのまとめ） 2.　職場の安全とヒューマンファクター　①　事故とヒューマンファクター 3.　②　安全教育 4.　職場集団の構造と集団力学 ①　集団の構造と集団の種類 5.　②　集団力学と社会的態度 6.　③　態度変容 7.　④　リーダーシップ：ＰＭ理論、状況適応理論、代替性理論 8.　（実習）小集団活動の有効性（QC 活動を例に） 9.　高速化社会の行動科学 ①　高速化社会 10.　②　交通にみられる選択（交通手段、経路の選択） 11.　③　空間移動にかかわる安全の問題 12.　経済行動の心理学　①　ライフスタイルと消費者行動 13.　②　消費者の決定過程 14.　③　消費者の心的会計　④　こころと経済 15.　現代勤労者像とそのライフスタイル展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0039B02
科目名	産業心理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Industrial Psychology B		
担当者名	森田　敬信	旧科目名称	
講義概要	めまぐるしく変化する世界情勢の中で、わが国においても産業構造の変化、たとえば企業のリストラクチャリング、ＩｏＴ(物のインターネット)、ロボット化などにともなって組織の人的構造もまた急激に変化している。それは場合によっては労働者に過酷な適応を求めることになる。 　職場の安全性が脅かされたり、リーダーシップのあり方によって企業の存在が危うくなる。経済的発展による空間移動の多量化、高速化は、それに従事する人々のみならず公害となって多くの人々の健康や安全を脅かしている。 多様化するライフスタイルは消費者行動にも変化をもたらしている。 　このような産業行動における諸問題について、人の特性を中心とした実証的研究を基に概説する。		
教材（テキスト）	NIP 研究会編『仕事とライフ・スタイルの心理学』福村出版 2,800 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業参加状況等による平常点（30%）、レポート（20%）、定期テスト（50%）		
到達目標	「働く人」になるための基礎的な知識を得ること、心の準備ができること。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回授業の最初に前回授業内容に係る復習小テストをするので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回簡単な質問をするので出席票に回答すること。出席票には質問、感想などメッセージも遠慮なく記入してよい。			
講義の順序とポイント			
1.　産業社会と人間　（講義概要の説明、産業心理学Ａのまとめ） 2.　職場の安全とヒューマンファクター　①　事故とヒューマンファクター 3.　②　安全教育 4.　職場集団の構造と集団力学 ①　集団の構造と集団の種類 5.　②　集団力学と社会的態度 6.　③　態度変容 7.　④　リーダーシップ：ＰＭ理論、状況適応理論、代替性理論 8.　（実習）小集団活動の有効性（QC 活動を例に） 9.　高速化社会の行動科学 ①　高速化社会 10.　②　交通にみられる選択（交通手段、経路の選択） 11.　③　空間移動にかかわる安全の問題 12.　経済行動の心理学　①　ライフスタイルと消費者行動 13.　②　消費者の決定過程 14.　③　消費者の心的会計　④　こころと経済 15.　現代勤労者像とそのライフスタイル展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0041A01
科目名	自然環境 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Natural Environment and Environmental Co ncerns A		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然環境 s
講義概要	この講義では、日本の自然環境とくに地形について、基礎的な内容を中心に解説する。 自然環境は、人間生活と密接な関わりをもち、人間にとって必要不可欠なものである。とりわけ、日本の自然環境はわれわれの身近な存在であり、自然環境の基礎を理解する上で最も適した題材となる。講義では、日本の代表的な自然環境である火山（テキストの第 1 章「火山」）、および国土の約 7 割を占める山地と山麓にみられる地形（第 2 章「山と川」）を取り上げ、その成り立ちと形成要因、ならびにそれを利用した人間活動や災害などについて説明する。講義は、自然環境の基礎知識、すでに扱った講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	杉谷隆ほか『風景のなかの自然地理』古今書院		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	評価は基本的に定期試験 90％と平常点評価（講義中の問題正解・レポート）10％で行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	(1)自然環境の基礎知識を養い、(2)日本の自然環境をさらに深く理解することが目標である。		
準備学習	各回の講義前に、「講義の順序とポイント」に示したテキストの項目を読み、不明な用語については意味を調べるように。講義が終われば、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解すること。各講義では、それまでの講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートには教員が指示する項目について復習した内容を記述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。

講義の順序とポイント

1. 講義の概要と導入 ― 講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて
2. 第 1 章 火山(1) ― 1.1.1 爆発する日本の火山
3. 第 1 章 火山(2) ― 1.1.2 火山の一生、1.1.3 大カルデラ火山 （前半）
4. 第 1 章 火山(3) ― 1.1.3 大カルデラ火山（後半)、1.1.4 富士・伊豆の火山
5. 第 1 章 火山(4) ― 1.2.1 火山地域の金属資源、1.2.2 歴史時代の金属資源
6. 第 1 章 火山(5) ― 1.2.3 火成岩の利用、1.2.4 火山地域の工業・農業
7. 第 1 章 火山(6) ― 1.3.1 火山体の大規模崩壊、1.3.2 火山地域の土砂災害、1.3.3 噴石などによる災害
8. 第 2 章 山と川(1) ― 2.1.1 河川侵食と谷壁斜面の発達、2.1.2 堆積段丘の形成
9. 第 2 章 山と川(2) ― 2.1.3 扇状地の形成、2.2.1 山腹斜面の地形
10. 第 2 章 山と川(3) ― 2.2.2 崩壊しやすい地質条件、2.2.3 斜面災害の発生
11. 第 2 章 山と川(4) ― 2.3.1 崩壊の免疫性と侵食速度、2.3.2 地殻変動と山地の隆起
12. 第 2 章 山と川(5) ― 2.3.3 水系の発達、2.3.4 山地の成長過程
13. 授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
14. 授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
15. 総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認)、試験の問題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0041A02
科目名	自然環境 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Natural Environment and Environmental Co ncerns A		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然環境 s
講義概要	この講義では、日本の自然環境とくに地形について、基礎的な内容を中心に解説する。 自然環境は、人間生活と密接な関わりをもち、人間にとって必要不可欠なものである。とりわけ、日本の自然環境はわれわれの身近な存在であり、自然環境の基礎を理解する上で最も適した題材となる。講義では、日本の代表的な自然環境である火山（テキストの第 1 章「火山」）、および国土の約 7 割を占める山地と山麓にみられる地形（第 2 章「山と川」）を取り上げ、その成り立ちと形成要因、ならびにそれを利用した人間活動や災害などについて説明する。講義は、自然環境の基礎知識、すでに扱った講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	杉谷隆ほか『風景のなかの自然地理』古今書院		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	評価は基本的に定期試験 90％と平常点評価（講義中の問題正解・レポート）10％で行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	(1)自然環境の基礎知識を養い、(2)日本の自然環境をさらに深く理解することが目標である。		
準備学習	各回の講義前に、「講義の順序とポイント」に示したテキストの項目を読み、不明な用語については意味を調べるように。講義が終われば、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解すること。各講義では、それまでの講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートには教員が指示する項目について復習した内容を記述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。

講義の順序とポイント

1. 講義の概要と導入 ― 講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて
2. 第 1 章 火山(1) ― 1.1.1 爆発する日本の火山
3. 第 1 章 火山(2) ― 1.1.2 火山の一生、1.1.3 大カルデラ火山 （前半）
4. 第 1 章 火山(3) ― 1.1.3 大カルデラ火山（後半)、1.1.4 富士・伊豆の火山
5. 第 1 章 火山(4) ― 1.2.1 火山地域の金属資源、1.2.2 歴史時代の金属資源
6. 第 1 章 火山(5) ― 1.2.3 火成岩の利用、1.2.4 火山地域の工業・農業
7. 第 1 章 火山(6) ― 1.3.1 火山体の大規模崩壊、1.3.2 火山地域の土砂災害、1.3.3 噴石などによる災害
8. 第 2 章 山と川(1) ― 2.1.1 河川侵食と谷壁斜面の発達、2.1.2 堆積段丘の形成
9. 第 2 章 山と川(2) ― 2.1.3 扇状地の形成、2.2.1 山腹斜面の地形
10. 第 2 章 山と川(3) ― 2.2.2 崩壊しやすい地質条件、2.2.3 斜面災害の発生
11. 第 2 章 山と川(4) ― 2.3.1 崩壊の免疫性と侵食速度、2.3.2 地殻変動と山地の隆起
12. 第 2 章 山と川(5) ― 2.3.3 水系の発達、2.3.4 山地の成長過程
13. 授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
14. 授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
15. 総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認)、試験の問題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0041B01
科目名	自然環境Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Natural Environment and Environmental Co ncerns B		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然環境ｆ
講義概要	本講義では、日本の自然環境とくに地形について、基礎的な内容を中心に解説する。 自然環境は、人間生活と密接な関わりをもち、人間にとって必要不可欠なものである。とりわけ、日本の自然環境はわれわれの身近な存在であり、自然環境の基礎を理解する上で最も適した題材になる。講義では、人間生活の主な舞台である平野（テキストの第５章「平野」）と、日本列島の周囲を取り巻く海岸（第７章「海岸」）を取り上げ、その成り立ちと形成要因、ならびにそこでみられる人間活動や環境破壊などについて説明する。講義は、自然環境の基礎知識、すでに扱った講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	杉谷隆ほか『風景のなかの自然地理』古今書院		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	評価は基本的に定期試験 90％と平常点（講義中の問題正解・レポート）10％で行う。詳細は第１回目の講義で説明する。		
到達目標	(1)自然環境の基礎知識を養い、(2)日本の自然環境をさらに深く理解することが目標である。		
準備学習	各回の講義前に、「講義の順序とポイント」に示したテキストの項目を読み、不明な用語については意味を調べるように。講義が終われば、早急にノートの記述内容を見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解すること。各講義では、それまでの講義内容を復習問題として出題する。また、授業内レポートには教員が指示する項目について復習した内容を記述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。

講義の順序とポイント

1. 講義の概要と導入 ― 講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて
2. 第５章 平野(1) ― 5.1.1 日本の自然を反映する平野、5.1.2 沖積低地に恵まれた日本の平野
3. 第５章 平野(2) ― 5.2.1 海水準変動と沖積層の堆積
4. 第５章 平野(3) ― 5.2.2 沖積低地の地形、5.2.3 自然堤防が発達する濃尾平野
5. 第５章 平野(4) ― 5.2.4 海岸砂丘と三角州からなる庄内平野、5.3.1 国土に刻まれる稲作
6. 第５章 平野(5) ― 5.3.2 筑紫平野のクリーク、5.3.3 水辺の喪失
7. 第７章 海岸(1) ― 7.1.1 生命に満ちあふれた干潟、7.1.2 白砂青松の砂浜海岸
8. 第７章 海岸(2) ― 7.1.3 過去の海水準や地震隆起を語る岩石海岸
9. 第７章 海岸(3) ― 7.1.4 生物がつくるサンゴ礁海岸
10. 第７章 海岸(4) ― 7.2.1 古砂丘・旧砂丘・新砂丘
11. 第７章 海岸(5) ― 7.2.3 火山活動とともに変化する海岸、7.3.1 海岸侵食
12. 第７章 海岸(6) ― 7.3.2 地盤沈下と０m地帯、7.3.3 地球温暖化による海面上昇の危機
13. 授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
14. 授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
15. 総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0041B02
科目名	自然環境Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Natural Environment and Environmental Co ncerns B		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然環境ｆ
講義概要	本講義では、日本の自然環境とくに地形について、基礎的な内容を中心に解説する。 自然環境は、人間生活と密接な関わりをもち、人間にとって必要不可欠なものである。とりわけ、日本の自然環境はわれわれの身近な存在であり、自然環境の基礎を理解する上で最も適した題材になる。講義では、人間生活の主な舞台である平野（テキストの第５章「平野」）と、日本列島の周囲を取り巻く海岸（第７章「海岸」）を取り上げ、その成り立ちと形成要因、ならびにそこでみられる人間活動や環境破壊などについて説明する。講義は、自然環境の基礎知識、すでに扱った講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	杉谷隆ほか『風景のなかの自然地理』古今書院		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	評価は基本的に定期試験 90％と平常点（講義中の問題正解・レポート）10％で行う。詳細は第１回目の講義で説明する。		
到達目標	(1)自然環境の基礎知識を養い、(2)日本の自然環境をさらに深く理解することが目標である。		
準備学習	各回の講義前に、「講義の順序とポイント」に示したテキストの項目を読み、不明な用語については意味を調べるように。講義が終われば、早急にノートの記述内容を見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解すること。各講義では、それまでの講義内容を復習問題として出題する。また、授業内レポートには教員が指示する項目について復習した内容を記述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。

講義の順序とポイント

1. 講義の概要と導入 ― 講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて
2. 第５章 平野(1) ― 5.1.1 日本の自然を反映する平野、5.1.2 沖積低地に恵まれた日本の平野
3. 第５章 平野(2) ― 5.2.1 海水準変動と沖積層の堆積
4. 第５章 平野(3) ― 5.2.2 沖積低地の地形、5.2.3 自然堤防が発達する濃尾平野
5. 第５章 平野(4) ― 5.2.4 海岸砂丘と三角州からなる庄内平野、5.3.1 国土に刻まれる稲作
6. 第５章 平野(5) ― 5.3.2 筑紫平野のクリーク、5.3.3 水辺の喪失
7. 第７章 海岸(1) ― 7.1.1 生命に満ちあふれた干潟、7.1.2 白砂青松の砂浜海岸
8. 第７章 海岸(2) ― 7.1.3 過去の海水準や地震隆起を語る岩石海岸
9. 第７章 海岸(3) ― 7.1.4 生物がつくるサンゴ礁海岸
10. 第７章 海岸(4) ― 7.2.1 古砂丘・旧砂丘・新砂丘
11. 第７章 海岸(5) ― 7.2.3 火山活動とともに変化する海岸、7.3.1 海岸侵食
12. 第７章 海岸(6) ― 7.3.2 地盤沈下と０m地帯、7.3.3 地球温暖化による海面上昇の危機
13. 授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
14. 授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
15. 総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて

人間力（６つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0042A01
科目名	自然地理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Geography A		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然地理学 s
講義概要	本講義では、第四紀（概ね人類の時代で約 200 万年前から現在まで）における自然環境のうち、主に気候について自然地理学で研究されてきた内容を解説する。 自然地理学は、自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、気候はその代表的なものの一つにあたる。講義では、数万年前に存在した「氷河期」から近年現出した「都市気候」まで多種類の気候研究を取り扱い、研究の成果だけでなく調査方法についても極力言及したい。講義は、自然環境の基礎知識、すでに扱った講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	評価は基本的に定期試験 90％と平常点（講義中の問題正解・レポート）10％で行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	(1)自然地理学の基本概念を理解し、(2)人類を取り巻いてきた自然環境と(3)それに対する自然地理学の考察方法を知識として身につけることが目標である。		
準備学習	各講義の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解するように。講義は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が次回の講義を理解する上での予習ともなる。各講義では、それまでの講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートには教員が指示するテーマについて復習した内容を記述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．講義の概要と導入 ― 講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて
2．氷河期(1) ― 氷河によって形成された丘の特色
3．氷河期(2) ― 丘の調査による氷河期の発見
4．氷河地形と土壌 ― 人類に恩恵を与えたフィヨルドとレスの形成過程
5．多氷期(1) ― 堆積物から解明された複数の氷河期
6．多氷期(2) ― 複数の氷河期における融氷河段丘の形成
7．気候変化(1) ― 氷河期終了後の寒冷期と放射性炭素年代測定の開発
8．気候変化(2) ― 湖成段丘から紐解かれる過去 2 万年間の降水量変化
9．気候変化(3) ― 古記録からみた歴史時代の気温変化
10．都市気候(1) ― 都市の気温上昇とヒートアイランド
11．都市気候(2) ― ヒートアイランドの形成要因
12．都市気候(3) ― 風、湿度、日射量について
13．授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
14．授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
15．総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0042A02
科目名	自然地理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Geography A		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然地理学 s
講義概要	本講義では、第四紀（概ね人類の時代で約 200 万年前から現在まで）における自然環境のうち、主に気候について自然地理学で研究されてきた内容を解説する。 自然地理学は、自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、気候はその代表的なものの一つにあたる。講義では、数万年前に存在した「氷河期」から近年現出した「都市気候」まで多種類の気候研究を取り扱い、研究の成果だけでなく調査方法についても極力言及したい。講義は、自然環境の基礎知識、すでに扱った講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	評価は基本的に定期試験 90％と平常点（講義中の問題正解・レポート）10％で行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	(1)自然地理学の基本概念を理解し、(2)人類を取り巻いてきた自然環境と(3)それに対する自然地理学の考察方法を知識として身につけることが目標である。		
準備学習	各講義の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解するように。講義は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が次回の講義を理解する上での予習ともなる。各講義では、それまでの講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートには教員が指示するテーマについて復習した内容を記述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．講義の概要と導入 ― 講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて
2．氷河期(1) ― 氷河によって形成された丘の特色
3．氷河期(2) ― 丘の調査による氷河期の発見
4．氷河地形と土壌 ― 人類に恩恵を与えたフィヨルドとレスの形成過程
5．多氷期(1) ― 堆積物から解明された複数の氷河期
6．多氷期(2) ― 複数の氷河期における融氷河段丘の形成
7．気候変化(1) ― 氷河期終了後の寒冷期と放射性炭素年代測定の開発
8．気候変化(2) ― 湖成段丘から紐解かれる過去 2 万年間の降水量変化
9．気候変化(3) ― 古記録からみた歴史時代の気温変化
10．都市気候(1) ― 都市の気温上昇とヒートアイランド
11．都市気候(2) ― ヒートアイランドの形成要因
12．都市気候(3) ― 風、湿度、日射量について
13．授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
14．授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
15．総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0042B01
科目名	自然地理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Geography B		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然地理学ｆ
講義概要	本講義では、第四紀（概ね人類の時代で約 200 万年前から現在まで）における自然環境のうち、地形（平野）とそれに関わる自然環境について、自然地理学で研究されてきた内容を説明する。 自然地理学は、自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、その代表的なものの一つが地形にあたる。講義では、地形の中でも人間生活の主な舞台となった平野と、その形成に深く関与した氷河性海水準変動、ならびに平野で頻繁に発生した水害などを取り上げ、研究成果だけでなく調査方法についてもできる限り触れたい。講義は、自然環境の基礎知識、すでに扱った講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	評価は基本的に定期試験 90％と平常点（講義中の問題正解・レポート）10％で行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	(1)自然地理学の概念を理解し、(2)人類を取り巻いてきた自然環境と(3)それに対する自然地理学の考察方法を知識として身につけることが目標である。		
準備学習	各講義の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解するように。講義は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が次回の講義を理解する上での予習ともなる。各講義では、それまでの講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートには教員が指示するテーマについて復習した内容を記述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．講義の概要と導入 ― 講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて
2．海水準変動(1) ― 氷河性海水準変動の理論
3．海水準変動(2) ― 貝化石と堆積物から解明される過去の海水準 （旧海水準）
4．海水準変動(3) ― 旧海水準の年代決定
5．海水準変動(4) ― 過去約 2 万年間における海水準変動の実態
6．グレーシャル・アイソスタシー ― 地球規模で発生している地殻変動
7．平野(1) ― 日本における沖積平野の定義と扇状地の特色
8．平野(2) ― 自然堤防帯と三角州の特色
9．平野(3) ― 沖積層の分析による環境復原
10．平野(4) ― 沖積平野の形成過程と環境変化
11．水害(1) ― 輪中の成立とその背景
12．水害(2) ― 輪中地域における近世・近代の治水
13．授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
14．授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
15．総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0042B02
科目名	自然地理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Geography B		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然地理学ｆ
講義概要	本講義では、第四紀（概ね人類の時代で約 200 万年前から現在まで）における自然環境のうち、地形（平野）とそれに関わる自然環境について、自然地理学で研究されてきた内容を説明する。 自然地理学は、自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、その代表的なものの一つが地形にあたる。講義では、地形の中でも人間生活の主な舞台となった平野と、その形成に深く関与した氷河性海水準変動、ならびに平野で頻繁に発生した水害などを取り上げ、研究成果だけでなく調査方法についてもできる限り触れたい。講義は、自然環境の基礎知識、すでに扱った講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	評価は基本的に定期試験 90％と平常点（講義中の問題正解・レポート）10％で行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	(1)自然地理学の概念を理解し、(2)人類を取り巻いてきた自然環境と(3)それに対する自然地理学の考察方法を知識として身につけることが目標である。		
準備学習	各講義の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解するように。講義は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が次回の講義を理解する上での予習ともなる。各講義では、それまでの講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートには教員が指示するテーマについて復習した内容を記述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．講義の概要と導入 ― 講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて
2．海水準変動(1) ― 氷河性海水準変動の理論
3．海水準変動(2) ― 貝化石と堆積物から解明される過去の海水準 （旧海水準）
4．海水準変動(3) ― 旧海水準の年代決定
5．海水準変動(4) ― 過去約 2 万年間における海水準変動の実態
6．グレーシャル・アイソスタシー ― 地球規模で発生している地殻変動
7．平野(1) ― 日本における沖積平野の定義と扇状地の特色
8．平野(2) ― 自然堤防帯と三角州の特色
9．平野(3) ― 沖積層の分析による環境復原
10．平野(4) ― 沖積平野の形成過程と環境変化
11．水害(1) ― 輪中の成立とその背景
12．水害(2) ― 輪中地域における近世・近代の治水
13．授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
14．授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
15．総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0044001
科目名	社会学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Sociology		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	出生率や平均寿命の一定方向へのゆるやかな変化が示すように、私たちはみな、生まれてから死ぬまでずっと何らかのかたちで社会の大きな力のなかで生きていく。この授業では、そうした社会学の基本的な考え方とともに、家族・学校・地域・労働をはじめとする社会の様相を、人間の心身の成長の段階にそくして、幅広く学ぶ。そのさい、レポートを書くことなどを通じて身近な社会的体験を自省的に振り返る。そうしたことによって、社会についての幅広く常識的な知識を、より体系的・総合的に学び理解を深めることができるだろう。		
教材（テキスト）	橋爪大三郎『面白くてためになる社会学』（PHP,2014 年）		
教材（参考文献）	アンソニー・ギデンズ『社会学（第 5 版)』（而立書房、2009 年）		
教材（その他）	毎回プリントを配ります。また、適宜パワーポイントを使用します。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（60%）、中間試験（20%）、期末試験（20%）		
到達目標	社会についての幅広く常識的な知識・考えを、とくに社会と個人との関係に的を絞って、学び理解を深めること。		
準備学習	毎回の授業で、前回の授業で予告したテーマと前回の授業内容に関わる小レポートを書いてもらうので、必ず復習をして準備をする。		

受講者への要望

人間文化学部で開講している「社会意識論」と内容上、部分的に重複しています。そのことを理解したうえで受講してください。

講義の順序とポイント

１・社会と個人との関係
２・出産をとりまく家族と社会の諸問題・１
３・出産をとりまく家族と社会の諸問題・２
４・最初期の子どもの心身の発達・１
５・最初期の子どもの心身の発達・２
６・家族のなかでの成長と葛藤・１
７・家族のなかでの成長と葛藤・２
８・家族の歴史・１
９・家族の歴史・２
１０・現代の家族・１
１１・現代の家族・２
１２・家族の病
１３・学校の社会的機能
１４・学校のなかでの成長と葛藤・１
１５・学校のなかでの成長と葛藤・２
１６・前青春期における成長
１７・青春期の様々な心的・社会的課題・１
１８・青春期の様々な心的・社会的課題・２
１９・青春期の様々な心的・社会的課題・３
２０・労働の社会的諸問題・１
２１・労働の社会的諸問題・２
２２・組織と人間
２３・成年期の葛藤と社会・１
２４・成年期の葛藤と社会・２
２５・道徳性の発達
２６・老年期と脱社会化・１
２７・老年期と脱社会化・２
２８・最晩年の諸段階・１

２９・最晩年の諸段階・２
３０・死後の社会的対応

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0044002
科目名	社会学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Sociology		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	出生率や平均寿命の一定方向へのゆるやかな変化が示すように、私たちはみな、生まれてから死ぬまでずっと何らかのかたちで社会の大きな力のなかで生きていく。この授業では、そうした社会学の基本的な考え方とともに、家族・学校・地域・労働をはじめとする社会の様相を、人間の心身の成長の段階にそくして、幅広く学ぶ。そのさい、レポートを書くことなどを通じて身近な社会的体験を自省的に振り返る。そうしたことによって、社会についての幅広く常識的な知識を、より体系的・総合的に学び理解を深めることができるだろう。		
教材（テキスト）	橋爪大三郎『面白くてためになる社会学』（PHP,2014 年）		
教材（参考文献）	アンソニー・ギデンズ『社会学（第 5 版)』（而立書房、2009 年）		
教材（その他）	毎回プリントを配ります。また、適宜パワーポイントを使用します。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（60%）、中間試験（20%）、期末試験（20%）		
到達目標	社会についての幅広く常識的な知識・考えを、とくに社会と個人との関係に的を絞って、学び理解を深めること。		
準備学習	毎回の授業で、前回の授業で予告したテーマと前回の授業内容に関わる小レポートを書いてもらうので、必ず復習をして準備をする。		

受講者への要望

人間文化学部で開講している「社会意識論」と内容上、部分的に重複しています。そのことを理解したうえで受講してください。

講義の順序とポイント

１・社会と個人との関係
２・出産をとりまく家族と社会の諸問題・１
３・出産をとりまく家族と社会の諸問題・２
４・最初期の子どもの心身の発達・１
５・最初期の子どもの心身の発達・２
６・家族のなかでの成長と葛藤・１
７・家族のなかでの成長と葛藤・２
８・家族の歴史・１
９・家族の歴史・２
１０・現代の家族・１
１１・現代の家族・２
１２・家族の病
１３・学校の社会的機能
１４・学校のなかでの成長と葛藤・１
１５・学校のなかでの成長と葛藤・２
１６・前青春期における成長
１７・青春期の様々な心的・社会的課題・１
１８・青春期の様々な心的・社会的課題・２
１９・青春期の様々な心的・社会的課題・３
２０・労働の社会的諸問題・１
２１・労働の社会的諸問題・２
２２・組織と人間
２３・成年期の葛藤と社会・１
２４・成年期の葛藤と社会・２
２５・道徳性の発達
２６・老年期と脱社会化・１
２７・老年期と脱社会化・２
２８・最晩年の諸段階・１

２９・最晩年の諸段階・２
３０・死後の社会的対応

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0045A01
科目名	社会学入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｓ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、音楽、宗教、国家、マスメディア、社会の近代化、などの問題を取り上げます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、身の回りの社会現象についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の４種類に分類できること。
3，（家族）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など)。
4，（学校）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
5，（資本主義）資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で貧富の格差も拡大する。
6，（労働１）経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。
7，（労働２）労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。
8，（基本的人権）国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。
9，（宗教と社会）科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。
10,（管理社会化）社会が近代化してくると管理社会化も進行してくること。
11,（音楽と社会）様々な音楽はその時代の社会の特徴と関係があるということ。
12,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にある。
13,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
14,（日本社会の特徴）日本の社会は外国の社会とどのように違う特徴を持っているのか。
15，社会学と現代社会の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	JM0045A02
科目名	社会学入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｓ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、音楽、宗教、国家、マスメディア、社会の近代化、などの問題を取り上げます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、身の回りの社会現象についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の４種類に分類できること。
3，（家族）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など)。
4，（学校）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
5，（資本主義）資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で貧富の格差も拡大する。
6，（労働１）経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。
7，（労働２）労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。
8，（基本的人権）国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。
9，（宗教と社会）科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。
10,（管理社会化）社会が近代化してくると管理社会化も進行してくること。
11,（音楽と社会）様々な音楽はその時代の社会の特徴と関係があるということ。
12,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にある。
13,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
14,（日本社会の特徴）日本の社会は外国の社会とどのように違う特徴を持っているのか。
15，社会学と現代社会の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	JM0045B01
科目名	社会学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｆ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、など,、現代社会のいろいろな側面について考えます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、現代の日本社会の社会学的な側面についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（家族１）他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。
3，（家族２）社会における家族の役割が、以前の社会とはかなり変化していること。
4，（学校）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を残している面があること。
5，（企業１）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
6，（企業２）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）
7，（格差社会）日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。
8，（政治）祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。
9，（マスメディア１）現在ではマスメディアの力は大変大きく、自分の意見も実はマスメディアの受け売りかもしれない。
10，（マスメディア２）犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライヴァシーのバランスの問題。
11，（国際化）社会は国際化しているが、国内の外国人の実態は必ずしも知られていないこと。
12，（近代化）近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。
13，（高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
14，（社会調査）世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。
15，社会学と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	JM0045B02
科目名	社会学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門 f
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、など,、現代社会のいろいろな側面について考えます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、現代の日本社会の社会学的な側面についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（家族１）他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。
3，（家族２）社会における家族の役割が、以前の社会とはかなり変化していること。
4，（学校）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を残している面があること。
5，（企業１）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
6，（企業２）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）
7，（格差社会）日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。
8，（政治）祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。
9，（マスメディア１）現在ではマスメディアの力は大変大きく、自分の意見も実はマスメディアの受け売りかもしれない。
10，（マスメディア２）犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライヴァシーのバランスの問題。
11，（国際化）社会は国際化しているが、国内の外国人の実態は必ずしも知られていないこと。
12，（近代化）近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。
13，（高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
14，（社会調査）世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。
15，社会学と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	JM0046A01
科目名	宗教学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religions Ⅰ		
担当者名	橋本　章彦	旧科目名称	
講義概要	「宗教学入門」をテーマに講義を行う。総論と各論に分けて講義を展開するが、総論では「宗教」の概念や性格を論じ、各論では世界の諸宗教のいくつかについて簡単に紹介する。		
教材（テキスト）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考文献）	岸本英夫『宗教学』（大朋堂　1991） 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫、1997） 棚次正和『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005） その他授業内で指示。		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを使用する		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点（40%）。授業内小テスト（20%）。期末レポート（40%）		
到達目標	宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。		
準備学習	身の回りの宗教現象に関心を向けつつ、宗教とは人間にとって如何なる意味を持っているのかについて考えること。		

受講者への要望

・講義を聴きながら常に考えることを忘れないで欲しい。
・毎回の授業終了後に自身の振り替えりのために数行のコメントを提出していただくので、能動的に授業を受けること。
・今年度は、インターネットを使った授業（clica）を導入するので、授業にはできるかぎり毎回スマートフォンあるいはタブレット端末を持参してほしい。これにより、簡単な質問にその場で答えたり、クラス内でコメントを発表したり、あるいは理解度を確認できたりが可能となる。積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

1．はじめに―あなたは宗教をどのようにイメージしているか
2．総論Ⅰ　宗教と宗教学―宗教にどのようにアプローチするか―
3．総論Ⅱ　宗教をどのように定義するか。
4．総論Ⅲ　宗教の構造と機能
5．総論Ⅳ　個人において宗教はどのように顕れるか―信仰ということ―
6．総論Ⅴ　宗教における祈りと修行について
7．総論Ⅵ　宗教は人間と世界をどのように見てきたか
8．各論Ⅰ　世界の三大宗教―キリスト教の歴史・それは西欧文化のもとになった
9．各論Ⅱ　世界の三大宗教―イスラーム（その１）・アッラーはユダヤ・キリストの神と同じ！？
10．各論Ⅲ　世界の三大宗教―イスラーム（その２）・スンナ派とシーア派はなぜ生まれた？
11．各論Ⅳ　世界の三大宗教―仏教・釈迦とその後の展開―
12．各論Ⅴ　世界で起こっていることを宗教をキーワードに考える
13．各論Ⅵ　日本の新宗教―伝統宗教と何が違うのか・現代人は宗教になにを求めるのか
14．各論Ⅶ　現代人の宗教観
15．まとめ　人は宗教とどのように向き合うべきか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★		★★	

年度	2015	授業コード	JM0046A02
科目名	宗教学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religions Ⅰ		
担当者名	橋本　章彦	旧科目名称	
講義概要	「宗教学入門」をテーマに講義を行う。総論と各論に分けて講義を展開するが、総論では「宗教」の概念や性格を論じ、各論では世界の諸宗教のいくつかについて簡単に紹介する。		
教材（テキスト）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考文献）	岸本英夫『宗教学』（大朋堂　1991） 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫、1997） 棚次正和『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005） その他授業内で指示。		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを使用する		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点（40%）。授業内小テスト（20%）。期末レポート（40%）		
到達目標	宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。		
準備学習	身の回りの宗教現象に関心を向けつつ、宗教とは人間にとって如何なる意味を持っているのかについて考えること。		

受講者への要望

・講義を聴きながら常に考えることを忘れないで欲しい。
・毎回の授業終了後に自身の振り替えりのために数行のコメントを提出していただくので、能動的に授業を受けること。
・今年度は、インターネットを使った授業（clica）を導入するので、授業にはできるかぎり毎回スマートフォンあるいはタブレット端末を持参してほしい。これにより、簡単な質問にその場で答えたり、クラス内でコメントを発表したり、あるいは理解度を確認できたりが可能となる。積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

1．はじめに―あなたは宗教をどのようにイメージしているか
2．総論Ⅰ　宗教と宗教学―宗教にどのようにアプローチするか―
3．総論Ⅱ　宗教をどのように定義するか。
4．総論Ⅲ　宗教の構造と機能
5．総論Ⅳ　個人において宗教はどのように顕れるか―信仰ということ―
6．総論Ⅴ　宗教における祈りと修行について
7．総論Ⅵ　宗教は人間と世界をどのように見てきたか
8．各論Ⅰ　世界の三大宗教―キリスト教の歴史・それは西欧文化のもとになった
9．各論Ⅱ　世界の三大宗教―イスラーム（その１）・アッラーはユダヤ・キリストの神と同じ！？
10．各論Ⅲ　世界の三大宗教―イスラーム（その２）・スンナ派とシーア派はなぜ生まれた？
11．各論Ⅳ　世界の三大宗教―仏教・釈迦とその後の展開―
12．各論Ⅴ　世界で起こっていることを宗教をキーワードに考える
13．各論Ⅵ　日本の新宗教―伝統宗教と何が違うのか・現代人は宗教になにを求めるのか
14．各論Ⅶ　現代人の宗教観
15．まとめ　人は宗教とどのように向き合うべきか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★		★★	

年度	2015	授業コード	JM0046B01
科目名	宗教学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Religions II		
担当者名	橋本　章彦	旧科目名称	
講義概要	宗教学 II では、ことに日本人の宗教について考える。講義では、さまざまな日本の宗教現象の事例をあげながら、日本的な宗教観のありかたについて考察を加えていきたい。		
教材（テキスト）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考文献）	岸本英夫『宗教学』（大朋堂　1991） 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫、1997） 棚次正和『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005） その他授業内で指示。		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを使用する		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点（40%）。授業内小テスト（20%）。期末レポート（40%）		
到達目標	宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。		
準備学習	身の回りの宗教現象に関心を向けつつ、宗教とは人間にとって如何なる意味を持っているのかについて考えること。		

受講者への要望

・講義を聴きながら常に考えることを忘れないで欲しい。
・毎回の授業終了後に自身の振り替えりのために数行のコメントを提出していただくので、能動的に授業を受けること。
・今年度は、インターネットを使った授業（clica）を導入するので、授業にはできるかぎり毎回スマートフォンあるいはタブレット端末を持参してほしい。これにより、簡単な質問にその場で答えたり、コメントを発表したり、あるいは理解度を確認できたりが可能となり、ひいては授業への関心度や参加意識を高めたい。

講義の順序とポイント

1．はじめに―宗教と宗教学・復習をかねて―
2．日本人の先祖信仰―盆行事を通して「タマ」そして「カミ」の観念を論ず(1)
3．日本人の先祖信仰―盆行事を通して「タマ」そして「カミ」の観念を論ず(2)
4．　映画『大魔神』を材料に日本の神の性格について考える(1)
5．　映画『大魔神』を材料に日本の神の性格について考える(2)
6．　仏教と初めて出会った日本人は如何なる対応をしたか―神仏習合はなぜうまれるのか(１)
7．　仏教と初めて出会った日本人は如何なる対応をしたか―神仏習合はなぜうまれるのか(2)
8．　物忌みしなくなる神―中世的神の変容(1)
10．物忌みしなくなる神―中世的神の変容(2)
11．仏教土着論 I ―生き物は神に供えられて救われる？(1)
12. 仏教土着論 I ―生き物は神に供えられて救われる？(2)
13. 仏教土着論 II ―水神の統御と仏教的神(1)
14. 仏教土着論 II ―水神の統御と仏教的神(2)
15. 眼の霊力について考える――つ目の鬼、節分の放相氏、そして手塚治虫『三つ目が通る』へ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	

年度	2015	授業コード	JM0046B02
科目名	宗教学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Religions II		
担当者名	橋本　章彦	旧科目名称	
講義概要	宗教学 II では、ことに日本人の宗教について考える。講義では、さまざまな日本の宗教現象の事例をあげながら、日本的な宗教観のありかたについて考察を加えていきたい。		
教材（テキスト）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考文献）	岸本英夫『宗教学』（大朋堂　1991） 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫、1997） 棚次正和『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005） その他授業内で指示。		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを使用する		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点（40%）。授業内小テスト（20%）。期末レポート（40%）		
到達目標	宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。		
準備学習	身の回りの宗教現象に関心を向けつつ、宗教とは人間にとって如何なる意味を持っているのかについて考えること。		

受講者への要望

・講義を聴きながら常に考えることを忘れないで欲しい。
・毎回の授業終了後に自身の振り替えりのために数行のコメントを提出していただくので、能動的に授業を受けること。
・今年度は、インターネットを使った授業（clica）を導入するので、授業にはできるかぎり毎回スマートフォンあるいはタブレット端末を持参してほしい。これにより、簡単な質問にその場で答えたり、コメントを発表したり、あるいは理解度を確認できたりが可能となり、ひいては授業への関心度や参加意識を高めたい。

講義の順序とポイント

1．はじめに―宗教と宗教学・復習をかねて―
2．日本人の先祖信仰―盆行事を通して「タマ」そして「カミ」の観念を論ず(1)
3．日本人の先祖信仰―盆行事を通して「タマ」そして「カミ」の観念を論ず(2)
4．　映画『大魔神』を材料に日本の神の性格について考える(1)
5．　映画『大魔神』を材料に日本の神の性格について考える(2)
6．　仏教と初めて出会った日本人は如何なる対応をしたか―神仏習合はなぜうまれるのか(１)
7．　仏教と初めて出会った日本人は如何なる対応をしたか―神仏習合はなぜうまれるのか(2)
8．　物忌みしなくなる神―中世的神の変容(1)
10．物忌みしなくなる神―中世的神の変容(2)
11．仏教土着論 I ―生き物は神に供えられて救われる？(1)
12. 仏教土着論 I ―生き物は神に供えられて救われる？(2)
13. 仏教土着論 II ―水神の統御と仏教的神(1)
14. 仏教土着論 II ―水神の統御と仏教的神(2)
15. 眼の霊力について考える――つ目の鬼、節分の放相氏、そして手塚治虫『三つ目が通る』へ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	

年度	2015	授業コード	JM0051A01
科目名	人権の歴史と現代A	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights A		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
講義概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教材（その他）	毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので、各自印刷・持参のこと（原則火曜日までにアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。		
評価方法	平常点（30%）、講義内小テスト（35%）、最終レポート（35%）から総合的に評価する。 小テスト実施日は 2 週間前までに告知するが、およそ第 10 回前後となる予定。 平常点は、講義中毎回行うミニレポートから判断する。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で、「差別表現」や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
準備学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 資料にはその回の参考文献も掲載するので、必要であればそちらも読むことをお勧めする。 ◆講義資料配布時にミニレポートの課題も発表するので、事前に回答を準備しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講者への要望

中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。
ミニレポートは毎回出題、次の週に講評を行います。課題は基本的にその週の講義内容と関連していますが、場合によっては前週の延長となります。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでください。
質問は随時受け付けますが、私語厳禁。配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

講義の順序とポイント

第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見
第２回：近代の人権思想（１）１７・１８世紀の欧米の政治思想
第３回：近代の人権思想（２）自然権、宗教改革「信仰・良心の自由」から「言論・思想の自由」へ
第４回：近代の人権思想（３）明治期「臣民の権利」から戦後「基本的人権」へ
第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）差別表現と規制
第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって
第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」
第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会
第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ
第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権
第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権
第１２回：差別と環境問題（３）アメリカの環境正義～日本と欧米の違い
第１３回：差別と環境問題（４）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～路上で生きるということ
第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0051A02
科目名	人権の歴史と現代A	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights A		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
講義概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教材（その他）	毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので、各自印刷・持参のこと（原則火曜日までにアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。		
評価方法	平常点（30%）、講義内小テスト（35%）、最終レポート（35%）から総合的に評価する。 小テスト実施日は 2 週間前までに告知するが、およそ第 10 回前後となる予定。 平常点は、講義中毎回行うミニレポートから判断する。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で､「差別表現」や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
準備学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 資料にはその回の参考文献も掲載するので、必要であればそちらも読むことをお勧めする。 ◆講義資料配布時にミニレポートの課題も発表するので、事前に回答を準備しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講者への要望

中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。
ミニレポートは毎回出題、次の週に講評を行います。課題は基本的にその週の講義内容と関連していますが、場合によっては前週の延長となります。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでください。
質問は随時受け付けますが、私語厳禁。配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

講義の順序とポイント

第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見
第２回：近代の人権思想（１）１７・１８世紀の欧米の政治思想
第３回：近代の人権思想（２）自然権、宗教改革「信仰・良心の自由」から「言論・思想の自由」へ
第４回：近代の人権思想（３）明治期「臣民の権利」から戦後「基本的人権」へ
第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）差別表現と規制
第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって
第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」
第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会
第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ
第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権
第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権
第１２回：差別と環境問題（３）アメリカの環境正義～日本と欧米の違い
第１３回：差別と環境問題（４）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～路上で生きるということ
第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0051B01
科目名	人権の歴史と現代B	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights B		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
講義概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教材（その他）	毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので、各自印刷・持参のこと（原則火曜日にアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。		
評価方法	平常点（30%）、講義内小テスト（35%）、最終レポート（35%）から総合的に評価する。 小テスト実施日は 2 週間前までに告知するが、およそ第 10 回前後となる予定。 平常点は、講義中毎回行うミニレポートから判断する。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で､｢差別表現｣や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
準備学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 資料にはその回の参考文献も掲載するので、必要であればそちらも読むことをお勧めする。 ◆講義資料配布時にミニレポートの課題も発表するので、事前に回答を準備しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講者への要望

中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。
ミニレポートは毎回出題、次の週に講評を行います。課題は基本的にその週の講義内容と関連していますが、場合によっては前週の延長となります。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでください。
質問は随時受け付けますが、私語厳禁。配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

講義の順序とポイント

第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見
第２回：近代の人権思想（１）１７・１８世紀の欧米の政治思想
第３回：近代の人権思想（２）自然権、宗教改革「信仰・良心の自由」から「言論・思想の自由」へ
第４回：近代の人権思想（３）明治期「臣民の権利」から戦後「基本的人権」へ
第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）差別表現と規制
第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって
第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」
第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会
第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ
第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権
第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権
第１２回：差別と環境問題（３）アメリカの環境正義～日本と欧米の違い
第１３回：差別と環境問題（４）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～路上で生きるということ
第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0051B02
科目名	人権の歴史と現代B	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights B		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
講義概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教材（その他）	毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので、各自印刷・持参のこと（原則火曜日にアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。		
評価方法	平常点（30%）、講義内小テスト（35%）、最終レポート（35%）から総合的に評価する。 小テスト実施日は 2 週間前までに告知するが、およそ第 10 回前後となる予定。 平常点は、講義中毎回行うミニレポートから判断する。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で､「差別表現」や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
準備学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 資料にはその回の参考文献も掲載するので、必要であればそちらも読むことをお勧めする。 ◆講義資料配布時にミニレポートの課題も発表するので、事前に回答を準備しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		
受講者への要望			
中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。 ミニレポートは毎回出題、次の週に講評を行います。課題は基本的にその週の講義内容と関連していますが、場合によっては前週の延長となります。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでください。 質問は随時受け付けますが、私語厳禁。配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見 第２回：近代の人権思想（１）１７・１８世紀の欧米の政治思想 第３回：近代の人権思想（２）自然権、宗教改革「信仰・良心の自由」から「言論・思想の自由」へ 第４回：近代の人権思想（３）明治期「臣民の権利」から戦後「基本的人権」へ 第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）差別表現と規制 第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって 第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」 第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会 第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ 第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権 第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権 第１２回：差別と環境問題（３）アメリカの環境正義～日本と欧米の違い 第１３回：差別と環境問題（４）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」 第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～路上で生きるということ 第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	★★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0052001
科目名	人文地理学	単位数	4
科目名（英語表記）	Human Geography		
担当者名	波江　彰彦	旧科目名称	
講義概要	人文地理学は、人間と環境・空間・地域との関係について考える学問領域である。この授業では、人文地理学に関する基本的な知識・考え方やさまざまなトピック（地図・都市・農村・経済・文化・歴史・環境・災害など）を幅広く学習する。こうした学習を通じて、地理空間（地域）に生きる者として、地理的諸現象の特徴・構造・影響・課題等について理解・考察・説明する力をつけることがこの授業の目的である。授業は基本的に講義形式で進めるが、授業時間内外で作業を行うこともある。		
教材（テキスト）	二宮書店編集部編（2015）『基本地図帳 2015-2016』二宮書店、1,600 円（予定、税別）。 また、毎回資料を配付する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜提示する。		
教材（その他）	パワーポイントを使用して授業を進める。 地形図を用いた作業を予定している。		
評価方法	定期試験（20%）、授業内小テスト（20%）、複数回の小レポート（30%）、毎回提出するコメントシート（30%）によって総合的に評価する。		
到達目標	(1)人文地理学に関する基本的な知識・考え方が理解できる。 (2)地理空間や地域におけるさまざまな事象に対し、地理学的アプローチで考えることができる。		
準備学習	・教科書として指定した地図帳に目を通し、地図に親しんでおくこと。特に授業で取り上げる地域については、地図でしっかり確認しておくこと。 ・授業中に紹介した文献・資料・ウェブサイトに積極的にアクセスすること。 ・授業内容に関連するニュースや話題に注目し、興味のあるものについては深く追究すること。		

受講者への要望

他の受講生が迷惑・不快に思うような行為（私語・途中入退室・雑音を立てるなど）はしないこと。場合によっては退室を求めることもある。

講義の順序とポイント

01：授業ガイダンス、人文地理学とは何か？
02：世界と日本の地勢
03：人間に影響を及ぼす自然環境
04：地図に関する基礎知識と活用
05：地形図から読み解く地域の特徴
06：新旧地図の比較からみる地域の変化
07：デジタル地図と地理情報システム（GIS）
08：人口の推移・地域差と人口問題
09：国内人口移動と国際人口移動
10：さまざまな都市とその内部構造
11：都市化と大都市圏の形成
12：過疎化と過疎地域問題
13：近代化、産業立地、産業のグローバル化
14：資源・エネルギー問題からみる世界のネットワーク
15：授業内小テストとその解説、前半のまとめ
16：後半のガイダンス、人文地理学の応用とは？
17：メンタルマップの作成：頭の中のイメージ・選好を地図化する
18：子どもやハンディキャップをもつ人々からみた生活空間
19：格差や社会的不平等に対する地理学的アプローチ
20：インナーシティ問題の具体的様相
21：ことばや食からみた地域差と地域文化
22：「外邦図」とは何か？
23：外邦図の活用：台湾・桃園台地の土地利用分析を例に
24：琵琶湖・淀川水系の歴史的変遷
25：環境問題への時空間的アプローチ

26：近・現代都市における廃棄物管理の発展と変容 27：廃棄物リサイクルのグローバル化 28：さまざまな災害とその発生メカニズム 29：防災・減災・災害復興に向けた地理学的アプローチ 30：後半のまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0052002
科目名	人文地理学	単位数	4
科目名（英語表記）	Human Geography		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	人間は地表面を離れて生活でき得ないし、文化を生むこともできない。その意味で、人と場所の関係を探ることは極めて重要である。この人と場所の関係を探るのが人文地理学である。 本講義では近年の学際的な人文地理学の動向に目を向ける。特に行動科学、心理学、社会学、歴史学、メディア研究、文化人類学、民俗学との接点を持つ行動地理学や人文主義地理学の方法論に焦点を当てる。そしてこれらの方法論を使うことによって、どのような研究が出来るのかを具体例をもって示す。 前半は、主に人文地理学のテーマと学際的な特性と可能性について、様々な学問分野との交流の具体的事例をもとに探っていく。後半は前半での理論的展望を引き継ぎ、「空想の場所と現実の場所との交流」というテーマに焦点をしぼり、昔話・神話を題材に、再検討する。特に本講義では人々の頭の中にある空想の場所が、現実の場所に反映されていることを強調する。上記のテーマを探りつつ、と同時に人文地理学の可能性についても模索していく。		
教材（テキスト）	佐々木高弘著『民話の地理学』古今書院、2014 年。		
教材（参考文献）	T.G.Jordan, M.Domosh and Rowntree,L.,The Human Mosaic; A Thematic Introduction to Cultural Geography, Longman, 1997.		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 40%　学期末レポート 60%		
到達目標	様々な文化の空間的特性の重要性を理解することを目標とする。		
準備学習	講義終了後に提示された授業内レポートの課題を復習し、現地調査や図書館での資料調査をしておくこと。		

受講者への要望

受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読むこと。

講義の順序とポイント

1　人文地理学とは：文化とは
2　人文地理学の考える文化：民俗文化と大衆文化
3　近代以降の私たちの場所：sense of place　placelessness
4　文化地域：（形式文化地域圏、機能文化地域、認知文化地域）
5　文化拡散（拡大拡散：伝染的拡散、階層的拡散、刺激的拡散・移転拡散）
6　文化生態学（環境決定論、可能論、環境知覚研究）
7　文化統合（社会科学としての地理学）
8　人文主義地理学（ロード・オブ・ザ・リングスの地図とは）
9　伝統文化と大衆文化の継承性：大統領選挙、フォークソング、ビートルズ、ケルト
10　文化景観：景観を読む（解釈学的分析）
11　東南アジアの都市景観を読む：都市記号論、都市プラン
12　民話の文化地域、文化拡散、文化生態学、文化統合、文化景観
13　現実世界を構築した空想世界：ジャックと豆の木、心のなかの景観
14　昔話の感覚地理―大工と鬼六、グレート・マザー、食わず女房の分析
15　昔話と心のなかの景観―奈良梨採り、通過儀礼との類似点
16　映画と心のなかの景観―映画『エイリアン』
17　宇宙空間とジャングルの類似性：リプリーの自己実現、民俗文化と大衆文化の継承性
18　民話の分布図：池田の民話とサウンドスケープ
19　昔話の触覚地理―木の知恵、二人の旅人、プリント、感覚地理学と触角地理
20　触覚地理からストーリー・パスへ：世界樹で首を吊る
21　昔話の原風景―瞬間の風景（DEF の野原）、プロップの構造分析、
22　原風景とは：『スダンドバイミー』
23　野原の聴覚地理、立ち帰りたい場所、実在する原風景、池田の民話と原風景
24　『ツインズ』と二人の旅人：昔話と映画の空間移動
25　『羊たちの沈黙』と女性の自立：映画に継承された心象風景の伝統
26　落語の二人の旅人：「伊勢参宮神賑」

27　落語に見る近世大坂の環境知覚：「まんじゅうこわい」「質屋蔵」「次の御用日」
28　落語の見る近世京都の環境知覚：「こぶ弁慶」「景清」
29　近世の大坂人の見た異界像：「地獄八景亡者戯」「小倉舟」「月宮殿星都」
30　人文地理学の冒険を展望する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JM0053A01
科目名	政治学原論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Theory A		
担当者名	中村　友一	旧科目名称	
講義概要	政治学原論の目的は、政治について考える際に必要とされる基礎知識を提供することである。政治学原論Ａでは、政治学の対象範囲のうち、権力論、政治体制論、政治経済学、市民社会論、公共政策論などの理論的なテーマを主に取り扱う。イメージしにくい抽象的な議論を扱うこともあるが、しっかり耳と頭を働かせて講義内容の理解に努めてほしい。 なお、政治学原論ＡとＢの双方を受講するのが望ましい。その際の順序としては、政治学原論Ａを先に受講するのが望ましい。		
教材（テキスト）	毎回レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%）出席状況などによる。 レポート（70%）		
到達目標	(1) 政治とは何かという問いに対して、簡潔に答えることができる。 (2) 世界の国々の統治のあり方について、分類を行うことができる。 (3) われわれが暮らす社会と政治との関係について、説明することができる。		
準備学習	(1) リアルタイムの政治の動向に注目し、新聞やテレビニュースなどに意識を向けておくこと。 (2) レジュメにはしっかり目を通しておくこと。 (3) 関心を持ったテーマについては、各自文献にあたって知識を深めてゆくこと。		
受講者への要望			
講義中の私語は厳禁とする。講義の妨げとなる場合には退出を命じることがある。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション：政治とは何か 2. 政治と権力 3. 近代国家とその支配 4. 自由と自由主義 5. デモクラシー 6. 自由民主主義体制 7. 非自由民主主義体制 8. 政治と経済 9. 福祉国家の発展と危機 10. 市民社会 11. ナショナリズム 12. ジェンダーと政治 13. 公共政策と行政 14. 政策過程 15. 制度と政策			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★

年度	2015	授業コード	JM0053A02
科目名	政治学原論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Theory A		
担当者名	中村　友一	旧科目名称	
講義概要	政治学原論の目的は、政治について考える際に必要とされる基礎知識を提供することである。政治学原論Ａでは、政治学の対象範囲のうち、権力論、政治体制論、政治経済学、市民社会論、公共政策論などの理論的なテーマを主に取り扱う。イメージしにくい抽象的な議論を扱うこともあるが、しっかり耳と頭を働かせて講義内容の理解に努めてほしい。 なお、政治学原論ＡとＢの双方を受講するのが望ましい。その際の順序としては、政治学原論Ａを先に受講するのが望ましい。		
教材（テキスト）	毎回レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%）出席状況などによる。 レポート（70%）		
到達目標	(1) 政治とは何かという問いに対して、簡潔に答えることができる。 (2) 世界の国々の統治のあり方について、分類を行うことができる。 (3) われわれが暮らす社会と政治との関係について、説明することができる。		
準備学習	(1) リアルタイムの政治の動向に注目し、新聞やテレビニュースなどに意識を向けておくこと。 (2) レジュメにはしっかり目を通しておくこと。 (3) 関心を持ったテーマについては、各自文献にあたって知識を深めてゆくこと。		
受講者への要望			
講義中の私語は厳禁とする。講義の妨げとなる場合には退出を命じることがある。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション：政治とは何か 2. 政治と権力 3. 近代国家とその支配 4. 自由と自由主義 5. デモクラシー 6. 自由民主主義体制 7. 非自由民主主義体制 8. 政治と経済 9. 福祉国家の発展と危機 10. 市民社会 11. ナショナリズム 12. ジェンダーと政治 13. 公共政策と行政 14. 政策過程 15. 制度と政策			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★

年度	2015	授業コード	JM0053B01
科目名	政治学原論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Theory B		
担当者名	中村　友一	旧科目名称	
講義概要	政治学原論の目的は、政治について考える際に必要とされる基礎知識を提供することである。政治学原論Bでは、政治学の対象範囲のうち、政治制度論、政治過程論、政治文化論などのテーマを主に取り扱う。政治学が扱う領域の多様さに幻惑されないよう、各回の授業に集中して要点の把握に努めてほしい。 なお、政治学原論AとBの双方を受講するのが望ましい。その際の順序としては、政治学原論Aを先に受講するのが望ましい。		
教材（テキスト）	毎回レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%）出席状況などによる。 レポート（70%）		
到達目標	(1) 現代国家を構成する政治制度の各要素が果たす役割を説明できる。 (2) 政治の世界で個人や集団の相互作用が生み出す動態を把握する。 (3) 市民の政治意識と政治過程との関係を理解し、あるべき政治参加のかたちを考える。		
準備学習	(1) リアルタイムの政治の動向に注目し、新聞やテレビニュースなどに意識を向けておくこと。 (2) レジュメにはしっかり目を通しておくこと。 (3) 関心を持ったテーマについては、各自文献にあたって知識を深めてゆくこと。		
受講者への要望			
講義中の私語は厳禁とする。講義の妨げとなる場合には退出を命じることがある。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション：政治制度と政治過程 2. 議会と議会政治 3. 執政制度 4. リーダーシップ 5. 官僚制 6. 司法制度 7. 中央地方関係 8. 選挙と政治参加 9. 投票行動 10. 政治意識と政治文化 11. 世論とメディア 12. 利益集団と政治 13. 政党の機能と組織 14. 政党システム 15. 対外政策			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★

年度	2015	授業コード	JM0053B02
科目名	政治学原論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Theory B		
担当者名	中村　友一	旧科目名称	
講義概要	政治学原論の目的は、政治について考える際に必要とされる基礎知識を提供することである。政治学原論Bでは、政治学の対象範囲のうち、政治制度論、政治過程論、政治文化論などのテーマを主に取り扱う。政治学が扱う領域の多様さに幻惑されないよう、各回の授業に集中して要点の把握に努めてほしい。 なお、政治学原論AとBの双方を受講するのが望ましい。その際の順序としては、政治学原論Aを先に受講するのが望ましい。		
教材（テキスト）	毎回レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%）出席状況などによる。 レポート（70%）		
到達目標	(1) 現代国家を構成する政治制度の各要素が果たす役割を説明できる。 (2) 政治の世界で個人や集団の相互作用が生み出す動態を把握する。 (3) 市民の政治意識と政治過程との関係を理解し、あるべき政治参加のかたちを考える。		
準備学習	(1) リアルタイムの政治の動向に注目し、新聞やテレビニュースなどに意識を向けておくこと。 (2) レジュメにはしっかり目を通しておくこと。 (3) 関心を持ったテーマについては、各自文献にあたって知識を深めてゆくこと。		
受講者への要望			
講義中の私語は厳禁とする。講義の妨げとなる場合には退出を命じることがある。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション：政治制度と政治過程 2. 議会と議会政治 3. 執政制度 4. リーダーシップ 5. 官僚制 6. 司法制度 7. 中央地方関係 8. 選挙と政治参加 9. 投票行動 10. 政治意識と政治文化 11. 世論とメディア 12. 利益集団と政治 13. 政党の機能と組織 14. 政党システム 15. 対外政策			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★

年度	2015	授業コード	JM0056A01
科目名	生命の科学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Life Science A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	医学、生物学、遺伝学などの最新の知見を踏まえ、「生命」について考察する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	生命とは何か、死とは何か、病気とは何かといった問題に科学的に答えるための基本的知識を習得する。		
準備学習	自分の健康や病気、生命といったことに対して常に関心を持つこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「生命の科学 A」→「生命の科学 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス、生と死について
2.心臓死について
3.脳死について
4.脳死とその原因
5.脳死と臓器移植（その１）
6.脳死と臓器移植（その２）
7.脳の構造と機能（その１）
8.脳の構造と機能（その２）
9.脳の構造と機能（その３）
１０.心臓の構造と機能（その１）
１１.心臓の構造と機能（その２）
１２.心臓の病気（その１）
１３.心臓の病気（その２）
１４.血圧について
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	JM0056A02
科目名	生命の科学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Life Science A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	医学、生物学、遺伝学などの最新の知見を踏まえ、「生命」について考察する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	生命とは何か、死とは何か、病気とは何かといった問題に科学的に答えるための基本的知識を習得する。		
準備学習	自分の健康や病気、生命といったことに対して常に関心を持つこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「生命の科学 A」→「生命の科学 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス、生と死について
2.心臓死について
3.脳死について
4.脳死とその原因
5.脳死と臓器移植（その１）
6.脳死と臓器移植（その２）
7.脳の構造と機能（その１）
8.脳の構造と機能（その２）
9.脳の構造と機能（その３）
１０.心臓の構造と機能（その１）
１１.心臓の構造と機能（その２）
１２.心臓の病気（その１）
１３.心臓の病気（その２）
１４.血圧について
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	JM0056B01
科目名	生命の科学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Life Science B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	医学、生物学、遺伝学などの最新の知見を踏まえ、「生命」について考察する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	生命とは何か、死とは何か、病気とは何かといった問題に科学的に答えるための基本的知識を習得する。		
準備学習	自分の健康や病気、生命といったことに対して常に関心を持つこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「生命の科学 A」→「生命の科学 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス、肝臓について
2.肝臓の構造と機能
3.肝臓の病気（その１）
4.肝臓の病気（その２）
5.ガンについて
6.細菌とウィルスについて
7.感染症について（その１）
8.感染症について（その２）
9.遺伝と遺伝子について（その１）
１０.遺伝と遺伝子について（その２）
１１.遺伝子、ＤＮＡ、ゲノムについて（その１）
１２.遺伝子、ＤＮＡ、ゲノムについて（その２）
１３.遺伝子と病気について（その１）
１４.遺伝子と病気について（その２）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	JM0056B02
科目名	生命の科学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Life Science B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	医学、生物学、遺伝学などの最新の知見を踏まえ、「生命」について考察する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	生命とは何か、死とは何か、病気とは何かといった問題に科学的に答えるための基本的知識を習得する。		
準備学習	自分の健康や病気、生命といったことに対して常に関心を持つこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「生命の科学 A」→「生命の科学 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス、肝臓について
2.肝臓の構造と機能
3.肝臓の病気（その１）
4.肝臓の病気（その２）
5.ガンについて
6.細菌とウィルスについて
7.感染症について（その１）
8.感染症について（その２）
9.遺伝と遺伝子について（その１）
１０.遺伝と遺伝子について（その２）
１１.遺伝子、ＤＮＡ、ゲノムについて（その１）
１２.遺伝子、ＤＮＡ、ゲノムについて（その２）
１３.遺伝子と病気について（その１）
１４.遺伝子と病気について（その２）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	JM0058001
科目名	西洋史概説	単位数	4
科目名（英語表記）	General History of Europe		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		

受講者への要望

授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。

講義の順序とポイント

１．西洋史学の課題
２．古代ギリシアの人口と身分構成
３．古代ギリシアの奴隷と社会（１）
４．古代ギリシアの奴隷と社会（２）
５．古代ローマの奴隷と社会
６．死生観の歴史（中世）
７．死生観の歴史（近世）
８．死生観の歴史（近現代）
９．犯罪と刑罰（中世）
１０．犯罪と刑罰（近世）
１１．新大陸の征服史（１）
１２．新大陸の征服史（２）
１３．近代奴隷貿易の起源
１４．近代奴隷貿易の展開（１）
１５．近代奴隷貿易の展開（２）
１６．西洋史学の課題（続）
１７．古代ギリシアにおける女性と社会
１８．古代ギリシアにおける女性の財産権
１９．古代ギリシアにおける女性の地位
２０．キリスト教の成立史
２１．中世における神判と裁判
２２．魔女裁判と中世の社会
２３．魔女裁判と近世の社会
２４．魔女裁判をめぐる学説
２５．イギリスにおける魔女裁判
２６．近代世界システムの理論の概要（１）
２７．近代世界システムの理論の概要（２）
２８．近代世界システムの成立史（１）
２９．近代世界システムの成立史（２）
３０．近代世界システムと奴隷制

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0058002
科目名	西洋史概説	単位数	4
科目名（英語表記）	General History of Europe		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。			
講義の順序とポイント			

１．西洋史学の課題
２．古代ギリシアの人口と身分構成
３．古代ギリシアの奴隷と社会（１）
４．古代ギリシアの奴隷と社会（２）
５．古代ローマの奴隷と社会
６．死生観の歴史（中世）
７．死生観の歴史（近世）
８．死生観の歴史（近現代）
９．犯罪と刑罰（中世）
１０．犯罪と刑罰（近世）
１１．新大陸の征服史（１）
１２．新大陸の征服史（２）
１３．近代奴隷貿易の起源
１４．近代奴隷貿易の展開（１）
１５．近代奴隷貿易の展開（２）
１６．西洋史学の課題（続）
１７．古代ギリシアにおける女性と社会
１８．古代ギリシアにおける女性の財産権
１９．古代ギリシアにおける女性の地位
２０．キリスト教の成立史
２１．中世における神判と裁判
２２．魔女裁判と中世の社会
２３．魔女裁判と近世の社会
２４．魔女裁判をめぐる学説
２５．イギリスにおける魔女裁判
２６．近代世界システムの理論の概要（１）
２７．近代世界システムの理論の概要（２）
２８．近代世界システムの成立史（１）
２９．近代世界システムの成立史（２）
３０．近代世界システムと奴隷制

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0058A01
科目名	西洋史概説Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	General History of Europe A		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、古代から近現代までの西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史学の課題 ２．古代ギリシアの人口と身分構成 ３．古代ギリシアの奴隷と社会（１） ４．古代ギリシアの奴隷と社会（２） ５．古代ローマの奴隷と社会 ６．死生観の歴史（中世） ７．死生観の歴史（近世） ８．死生観の歴史（近現代） ９．犯罪と刑罰（中世） １０．犯罪と刑罰（近世） １１．新大陸の征服史（１） １２．新大陸の征服史（２） １３．近代奴隷貿易の起源 １４．近代奴隷貿易の展開（１） １５．近代奴隷貿易の展開（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0058A02
科目名	西洋史概説Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	General History of Europe A		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、古代から近現代までの西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史学の課題 ２．古代ギリシアの人口と身分構成 ３．古代ギリシアの奴隷と社会（１） ４．古代ギリシアの奴隷と社会（２） ５．古代ローマの奴隷と社会 ６．死生観の歴史（中世） ７．死生観の歴史（近世） ８．死生観の歴史（近現代） ９．犯罪と刑罰（中世） １０．犯罪と刑罰（近世） １１．新大陸の征服史（１） １２．新大陸の征服史（２） １３．近代奴隷貿易の起源 １４．近代奴隷貿易の展開（１） １５．近代奴隷貿易の展開（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0058B01
科目名	西洋史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	General History of Europe B		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、古代から近現代までの西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史学の課題 ２．古代ギリシアにおける女性と社会 ３．古代ギリシアにおける女性の財産権 ４．古代ギリシアにおける女性の地位 ５．キリスト教の成立史 ６．中世における神判と裁判 ７．魔女裁判と中世の社会 ８．魔女裁判と近世の社会 ９．魔女裁判をめぐる学説 １０．イギリスにおける魔女裁判 １１．近代世界システムの理論の概要（１） １２．近代世界システムの理論の概要（２） １３．近代世界システムの成立史（１） １４．近代世界システムの成立史（２） １５．近代世界システムと奴隷制			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0058B02
科目名	西洋史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	General History of Europe B		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、古代から近現代までの西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史学の課題 ２．古代ギリシアにおける女性と社会 ３．古代ギリシアにおける女性の財産権 ４．古代ギリシアにおける女性の地位 ５．キリスト教の成立史 ６．中世における神判と裁判 ７．魔女裁判と中世の社会 ８．魔女裁判と近世の社会 ９．魔女裁判をめぐる学説 １０．イギリスにおける魔女裁判 １１．近代世界システムの理論の概要（１） １２．近代世界システムの理論の概要（２） １３．近代世界システムの成立史（１） １４．近代世界システムの成立史（２） １５．近代世界システムと奴隷制			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0059A01
科目名	地誌 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Geography A		
担当者名	本多　健一	旧科目名称	
講義概要	「地誌」とは、ある特定の地域の特徴・特質をできるだけ詳しく調べ上げて記述すること、あるいはそのような書物を意味する。すなわち地域調査の結果として得られるものである。大学で学ぶべき「地誌学」とは、様々な地域の「地誌」を漫然と覚えるだけではなく、それらを自ら調査・記述できるような能力を身につけることにあろう。 本授業では、様々な見方から比較的身近な地域の特徴・特質を紹介するが、その結果だけでなく、いかにしてそのような結果に至ったかのという方法も紹介していく。すなわち地域調査のために必要な地図（地形図）、文書資料（史料）、統計、写真・映像、フィールドワークなどの基本的方法の習得にも重点をおきたい。 また、本授業は教職資格の取得をめざす学生に重点を置いた内容とする。したがって、毎回出席しなければ理解はむずかしく、小課題を課すことも多い。決して安易な気持ちで選択しないこと。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を行う。 ただし、受講者には 1/25,000 地形図（￥278）を一枚購入してもらう。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回、最低二色の色鉛筆かマーカー、定規を持参すること。		
評価方法	定期テスト 75%、平常点 25%で評価する。 平常点は小課題の提出状況など授業への取り組み姿勢を重視し、私語やスマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。平常点の上限（25%）を越えて減点する場合もあるので注意してほしい。出席状況はあまり重視しない。		
到達目標	様々な地域の特徴・特質を把握するとともに、地図をはじめとする諸資料を通して地域調査の基本的方法を理解できる。		
準備学習	毎回指示する参考文献に必ず目をとおすこと。 電車やバスで移動する際には、まわりの景色をよく観察してみること。		

受講者への要望

毎回、中学または高校の地理の授業で用いた地図帳を持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション－地理学と地誌学
2．地図の基本知識①－地誌と地図、定義と種類
3．地図の基本知識②－地図を理解するための基本知識、地図の歴史
4．地形図の基本知識とその読み方①－1/25,000 地形図、等高線
5．地形図の基本知識とその読み方②－尾根と谷、扇状地
6．地形図の基本知識とその読み方③－自然堤防、地図利用にあたっての注意点
7．日本（列島）の地理的特徴など①－自然的特徴、国土の区分および利用状況
8．日本（列島）の地理的特徴など②－人口の現状と推移
9．亀岡市と亀岡盆地①－亀岡盆地とその開発伝承
10．亀岡市と亀岡盆地②－神社の分布から考える亀岡
11．京都①－京都盆地と平安京、条坊制
12．京都②－都市（市街地）の変遷、秀吉の京都改造
13．京都③－観光都市、入込客数とリピーター
14．京都④－観光戦略、人気観光地の変遷
15．講義を終えるにあたって－風土（あるいは環境）と人間

※諸般の事情で順序や内容を変更する可能性がありうる。
※受講人数によっては、亀岡市内で野外フィールドワークを行う可能性もある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0059A02
科目名	地誌 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Geography A		
担当者名	本多　健一	旧科目名称	
講義概要	「地誌」とは、ある特定の地域の特徴・特質をできるだけ詳しく調べ上げて記述すること、あるいはそのような書物を意味する。すなわち地域調査の結果として得られるものである。大学で学ぶべき「地誌学」とは、様々な地域の「地誌」を漫然と覚えるだけではなく、それらを自ら調査・記述できるような能力を身につけることにあろう。 本授業では、様々な見方から比較的身近な地域の特徴・特質を紹介するが、その結果だけでなく、いかにしてそのような結果に至ったかのという方法も紹介していく。すなわち地域調査のために必要な地図（地形図）、文書資料（史料）、統計、写真・映像、フィールドワークなどの基本的方法の習得にも重点をおきたい。 また、本授業は教職資格の取得をめざす学生に重点を置いた内容とする。したがって、毎回出席しなければ理解はむずかしく、小課題を課すことも多い。決して安易な気持ちで選択しないこと。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を行う。 ただし、受講者には 1/25,000 地形図（￥278）を一枚購入してもらう。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回、最低二色の色鉛筆かマーカー、定規を持参すること。		
評価方法	定期テスト 75%、平常点 25%で評価する。 平常点は小課題の提出状況など授業への取り組み姿勢を重視し、私語やスマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。平常点の上限（25%）を越えて減点する場合もあるので注意してほしい。出席状況はあまり重視しない。		
到達目標	様々な地域の特徴・特質を把握するとともに、地図をはじめとする諸資料を通して地域調査の基本的方法を理解できる。		
準備学習	毎回指示する参考文献に必ず目をとおすこと。 電車やバスで移動する際には、まわりの景色をよく観察してみること。		

受講者への要望

毎回、中学または高校の地理の授業で用いた地図帳を持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション－地理学と地誌学
2．地図の基本知識①－地誌と地図、定義と種類
3．地図の基本知識②－地図を理解するための基本知識、地図の歴史
4．地形図の基本知識とその読み方①－1/25,000 地形図、等高線
5．地形図の基本知識とその読み方②－尾根と谷、扇状地
6．地形図の基本知識とその読み方③－自然堤防、地図利用にあたっての注意点
7．日本（列島）の地理的特徴など①－自然的特徴、国土の区分および利用状況
8．日本（列島）の地理的特徴など②－人口の現状と推移
9．亀岡市と亀岡盆地①－亀岡盆地とその開発伝承
10．亀岡市と亀岡盆地②－神社の分布から考える亀岡
11．京都①－京都盆地と平安京、条坊制
12．京都②－都市（市街地）の変遷、秀吉の京都改造
13．京都③－観光都市、入込客数とリピーター
14．京都④－観光戦略、人気観光地の変遷
15．講義を終えるにあたって－風土（あるいは環境）と人間

※諸般の事情で順序や内容を変更する可能性がありうる。
※受講人数によっては、亀岡市内で野外フィールドワークを行う可能性もある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0059B01
科目名	地誌B	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Geography B		
担当者名	本多　健一	旧科目名称	
講義概要	「地誌」とは、ある特定の地域の特徴・特質をできるだけ詳しく調べ上げて記述すること、あるいはそのような書物を意味する。すなわち地域調査の結果として得られるものである。大学で学ぶべき「地誌学」とは、様々な地域の「地誌」を漫然と覚えるだけではなく、それらを自ら調査・記述できるような能力を身につけることにあろう。 本授業では、様々な見方から比較的身近な地域の特徴・特質を紹介するが、その結果だけでなく、いかにしてそのような結果に至ったかのという方法も紹介していく。すなわち地域調査のために必要な地図（地形図）、文書資料（史料）、統計、写真・映像、フィールドワークなどの基本的方法の習得にも重点をおきたい。 また、本授業は教職資格の取得をめざす学生に重点を置いた内容とする。したがって、毎回出席しなければ理解はむずかしく、小課題を課すことも多い。決して安易な気持ちで選択しないこと。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を行う。 ただし、受講者には 1/25,000 地形図（￥278）を一枚購入してもらう。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回、最低二色の色鉛筆かマーカー、定規を持参すること。		
評価方法	定期テスト 75%、平常点 25%で評価する。 平常点は小課題の提出状況など授業への取り組み姿勢を重視し、私語やスマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。平常点の上限（25%）を越えて減点する場合もあるので注意してほしい。出席状況はあまり重視しない。		
到達目標	様々な地域の特徴・特質を把握するとともに、地図をはじめとする諸資料を通して地域調査の基本的方法を理解できる。		
準備学習	毎回指示する参考文献に必ず目をとおすこと。 電車やバスで移動する際には、まわりの景色をよく観察してみること。		

受講者への要望

原則として地誌Aを履修済みであることが望ましい。
毎回、中学または高校の地理の授業で用いた地図帳を持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション－地理学と地誌学
2．地図の基本知識－地誌と地図、定義と種類、地図の歴史
3．地形図の基本知識とその読み方－1/25,000 地形図、等高線
4．世界の気候－ケッペンの気候区分、ハイサーグラフ
5．古代の亀岡・京都学園大学周辺①－古代の土地管理システム「条里制」
6．古代の亀岡・京都学園大学周辺②－古代の土地管理システム「条里制」
7．滋賀県・草津川と富山県・常願寺川①－河川の治水、天井川
8．滋賀県・草津川と富山県・常願寺川②－河川の治水、天井川
9．滋賀県・琵琶湖①－淡水湖、淡水漁業、水辺の環境
10．滋賀県・琵琶湖②－淡水湖、淡水漁業、水辺の環境
11．千葉県・九十九里浜①－海岸平野、海洋漁業と農業、新田開発
12．千葉県・九十九里浜②－海岸平野、海洋漁業と農業、新田開発
13．世界のエネルギー需給－石油、石炭、天然ガス、原子力
14．エネルギー需給からみる各国の特徴－ノルウェーなどを事例に
15．講義を終えるにあたって－風土（あるいは環境）と人間

※受講生の地誌Aの受講状況によって、順序や内容を大きく変更する可能性がある。
※受講人数によっては、亀岡市内で野外フィールドワークを行う可能性もある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0059B02
科目名	地誌B	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Geography B		
担当者名	本多　健一	旧科目名称	
講義概要	「地誌」とは、ある特定の地域の特徴・特質をできるだけ詳しく調べ上げて記述すること、あるいはそのような書物を意味する。すなわち地域調査の結果として得られるものである。大学で学ぶべき「地誌学」とは、様々な地域の「地誌」を漫然と覚えるだけではなく、それらを自ら調査・記述できるような能力を身につけることにあろう。 本授業では、様々な見方から比較的身近な地域の特徴・特質を紹介するが、その結果だけでなく、いかにしてそのような結果に至ったかのという方法も紹介していく。すなわち地域調査のために必要な地図（地形図）、文書資料（史料）、統計、写真・映像、フィールドワークなどの基本的方法の習得にも重点をおきたい。 また、本授業は教職資格の取得をめざす学生に重点を置いた内容とする。したがって、毎回出席しなければ理解はむずかしく、小課題を課すことも多い。決して安易な気持ちで選択しないこと。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を行う。 ただし、受講者には 1/25,000 地形図（￥278）を一枚購入してもらう。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回、最低二色の色鉛筆かマーカー、定規を持参すること。		
評価方法	定期テスト 75%、平常点 25%で評価する。 平常点は小課題の提出状況など授業への取り組み姿勢を重視し、私語やスマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。平常点の上限（25%）を越えて減点する場合もあるので注意してほしい。出席状況はあまり重視しない。		
到達目標	様々な地域の特徴・特質を把握するとともに、地図をはじめとする諸資料を通して地域調査の基本的方法を理解できる。		
準備学習	毎回指示する参考文献に必ず目をとおすこと。 電車やバスで移動する際には、まわりの景色をよく観察してみること。		

受講者への要望

原則として地誌Aを履修済みであることが望ましい。
毎回、中学または高校の地理の授業で用いた地図帳を持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション－地理学と地誌学
2．地図の基本知識－地誌と地図、定義と種類、地図の歴史
3．地形図の基本知識とその読み方－1/25,000 地形図、等高線
4．世界の気候－ケッペンの気候区分、ハイサーグラフ
5．古代の亀岡・京都学園大学周辺①－古代の土地管理システム「条里制」
6．古代の亀岡・京都学園大学周辺②－古代の土地管理システム「条里制」
7．滋賀県・草津川と富山県・常願寺川①－河川の治水、天井川
8．滋賀県・草津川と富山県・常願寺川②－河川の治水、天井川
9．滋賀県・琵琶湖①－淡水湖、淡水漁業、水辺の環境
10．滋賀県・琵琶湖②－淡水湖、淡水漁業、水辺の環境
11．千葉県・九十九里浜①－海岸平野、海洋漁業と農業、新田開発
12．千葉県・九十九里浜②－海岸平野、海洋漁業と農業、新田開発
13．世界のエネルギー需給－石油、石炭、天然ガス、原子力
14．エネルギー需給からみる各国の特徴－ノルウェーなどを事例に
15．講義を終えるにあたって－風土（あるいは環境）と人間

※受講生の地誌Aの受講状況によって、順序や内容を大きく変更する可能性がある。
※受講人数によっては、亀岡市内で野外フィールドワークを行う可能性もある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0060A01
科目名	哲学概論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy A		
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	哲学（philosophy）とは、ギリシア語におけるその語源にまでさかのぼれば、知（sophia）を愛すること（phileo)、すなわち、知的探求である。現代の知的状況が形作られたのは、十七世紀の科学の世界で起こった知的革命によってである。本講義では、（１）十七世紀を代表する哲学者デカルトをとりあげ、その哲学をまず紹介し、（２）次にその考え方の背景になった源流を古代思想からピックアップし、（３）最後にそのデカルト以後の知的営みの展開を概観したい。これらの紹介を通じて、知識、とりわけ厳密な科学的な知識はいかにして可能であるのか、という問題を考えてみたい。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、出席状況ならびに、授業内で四回実施予定の小テストによる。		
到達目標	知識、とりわけ科学的な知識についてその由来を哲学史を手がかりに考える。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、デカルトの著作は文庫で読めるので、自分で読んでみよう。		

受講者への要望

（１）私語は厳禁である。（２）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（３）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

講義の順序とポイント

１．導入－１「哲学」という名称　２知的探求　３十七世紀の知的革命
２．科学革命－１天動説から地動説へ　２力学の変化　３デカルトの位置
３．デカルトの学問観１－１「理性を導く」　２道　３直観と演繹
４．デカルトの学問観２－１「一切を疑う」　２悪霊の仮説　３「我思うゆえに我あり」
５．デカルトの学問観３－１物心二元論　２「真理の種子」　３哲学の木
６．デカルトの自然学－１目的論　２ デカルトの機械論　３渦動宇宙
７．源流１－１キリスト教　２ギリシア哲学　３ピュタゴラスの数学思想
８．源流２－１プラトン　２「魂を肉体から解放する」　３想起説
９．源流３－１ アリストテレス　２経験と学問　３整理
１０.デカルト対ニュートン－１ニュートン　２実験哲学
１１.経験論－１ロック　２ヒューム
１２.カント１－１若きカント　２超越論哲学
１３.カント２－１感性と悟性　２コペルニクス的転回
１４.カッシーラー－１合理論、経験論、そして超越論哲学　２カッシーラー　３シンボル形式の哲学
１５．「知識はどこから由来するか？」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0060A02
科目名	哲学概論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy A		
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	哲学（philosophy）とは、ギリシア語におけるその語源にまでさかのぼれば、知（sophia）を愛すること（phileo)、すなわち、知的探求である。現代の知的状況が形作られたのは、十七世紀の科学の世界で起こった知的革命によってである。本講義では、（１）十七世紀を代表する哲学者デカルトをとりあげ、その哲学をまず紹介し、（２）次にその考え方の背景になった源流を古代思想からピックアップし、（３）最後にそのデカルト以後の知的営みの展開を概観したい。これらの紹介を通じて、知識、とりわけ厳密な科学的な知識はいかにして可能であるのか、という問題を考えてみたい。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、出席状況ならびに、授業内で四回実施予定の小テストによる。		
到達目標	知識、とりわけ科学的な知識についてその由来を哲学史を手がかりに考える。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、デカルトの著作は文庫で読めるので、自分で読んでみよう。		

受講者への要望

（１）私語は厳禁である。（２）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（３）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

講義の順序とポイント

１．導入－１「哲学」という名称　２知的探求　３十七世紀の知的革命
２．科学革命－１天動説から地動説へ　２力学の変化　３デカルトの位置
３．デカルトの学問観１－１「理性を導く」　２道　３直観と演繹
４．デカルトの学問観２－１「一切を疑う」　２悪霊の仮説　３「我思うゆえに我あり」
５．デカルトの学問観３－１物心二元論　２「真理の種子」　３哲学の木
６．デカルトの自然学－１目的論　２ デカルトの機械論　３渦動宇宙
７．源流１－１キリスト教　２ギリシア哲学　３ピュタゴラスの数学思想
８．源流２－１プラトン　２「魂を肉体から解放する」　３想起説
９．源流３－１ アリストテレス　２経験と学問　３整理
１０.デカルト対ニュートン－１ニュートン　２実験哲学
１１.経験論－１ロック　２ヒューム
１２.カント１－１若きカント　２超越論哲学
１３.カント２－１感性と悟性　２コペルニクス的転回
１４.カッシーラー－１合理論、経験論、そして超越論哲学　２カッシーラー　３シンボル形式の哲学
１５．「知識はどこから由来するか？」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0060B01
科目名	哲学概論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy B		
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	哲学は、紀元前６世紀のギリシアに誕生し現代にいたるまで欧米において独自の発展を遂げてきた学問であるが、同じ時期にインドや中国でも誕生し異なった発展をしてきた。この授業では、これら哲学の三つの伝統をとりあげ、その発展の道筋を比較しながらたどっていく。このことによってそれぞれの伝統の大きな特徴を学び、現代の我々が生きる西洋技術文明についての理解をも深めることができる。また、古代においてインド、中国から影響を受け、また近代の明治維新以降欧米から影響を受けた日本が、諸外国の哲学思想をどのように受容し独自の文化に変容させていったかについても学んでいく。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	野田又夫著『哲学の三つの伝統』岩波書店　平成２５年。そのほか、各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、出席状況ならびに、授業内で四回実施予定の小テストによる。		
到達目標	将来、国際社会に生きる者として他国・自国の文化についての理解を深めるために、諸外国や日本の哲学思想について基本的な知識を習得する。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、参考書にあげた野田又夫著『哲学の三つの伝統』にも目を通しておくこと。		

受講者への要望

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

講義の順序とポイント

１．哲学とは？--哲学の問い・哲学の特徴
２．哲学の始まり１―ギリシア・インド・中国における神話の世界
３．哲学の始まり２―ギリシア・インド・中国における哲学の登場
４．インドにおける哲学の始まり―仏陀の思想
５．中国における哲学の始まり１―孔子の思想
６．中国における哲学の始まり２―道家・諸子百家の思想
７．ギリシアにおける哲学の始まり１―ソクラテス・プラトン
８．ギリシアにおける哲学の始まり２―ディアレクティケとレトリケの区別
９．古代哲学の継承―ギリシア・インド・中国におけるその後
１０．西洋近代のスタート―ルネサンス・大航海時代
１１．世界像の変遷１--世界認識
１２．世界像の変遷２--人生の目標
１３．世界像の変遷３―ロマン主義
１４．日本の哲学思想１--古代におけるインド・中国哲学の受容
１５．日本の哲学思想２--近代における西洋哲学の受容

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0060B02
科目名	哲学概論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy B		
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	哲学は、紀元前６世紀のギリシアに誕生し現代にいたるまで欧米において独自の発展を遂げてきた学問であるが、同じ時期にインドや中国でも誕生し異なった発展をしてきた。この授業では、これら哲学の三つの伝統をとりあげ、その発展の道筋を比較しながらたどっていく。このことによってそれぞれの伝統の大きな特徴を学び、現代の我々が生きる西洋技術文明についての理解をも深めることができる。また、古代においてインド、中国から影響を受け、また近代の明治維新以降欧米から影響を受けた日本が、諸外国の哲学思想をどのように受容し独自の文化に変容させていったかについても学んでいく。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	野田又夫著『哲学の三つの伝統』岩波書店　平成２５年。そのほか、各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、出席状況ならびに、授業内で四回実施予定の小テストによる。		
到達目標	将来、国際社会に生きる者として他国・自国の文化についての理解を深めるために、諸外国や日本の哲学思想について基本的な知識を習得する。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、参考書にあげた野田又夫著『哲学の三つの伝統』にも目を通しておくこと。		

受講者への要望

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

講義の順序とポイント

１．哲学とは？--哲学の問い・哲学の特徴
２．哲学の始まり１―ギリシア・インド・中国における神話の世界
３．哲学の始まり２―ギリシア・インド・中国における哲学の登場
４．インドにおける哲学の始まり―仏陀の思想
５．中国における哲学の始まり１―孔子の思想
６．中国における哲学の始まり２―道家・諸子百家の思想
７．ギリシアにおける哲学の始まり１―ソクラテス・プラトン
８．ギリシアにおける哲学の始まり２―ディアレクティケとレトリケの区別
９．古代哲学の継承―ギリシア・インド・中国におけるその後
１０．西洋近代のスタート―ルネサンス・大航海時代
１１．世界像の変遷１--世界認識
１２．世界像の変遷２--人生の目標
１３．世界像の変遷３―ロマン主義
１４．日本の哲学思想１--古代におけるインド・中国哲学の受容
１５．日本の哲学思想２--近代における西洋哲学の受容

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0063A01
科目名	東洋史概説 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Asian History A		
担当者名	望月　直人	旧科目名称	
講義概要	中国史研究においては，伝統的に外交史に十分な蓄積がなされてこなかったが，近年は多くの成果が出ている分野である。前半は，19 世紀初めまでの政治・経済関係を中心とした中国と諸外国との関係を勉強する。後半は，国際法の受容や世界政治の中の中国外交の姿を辿っていく。それによって，中国と諸外国との関係がどのような歴史を歩んできたのか，一緒に考えていきたい。		
教材（テキスト）	岡田英弘 神田信夫 松村潤 『紫禁城の栄光―明・清全史』（講談社学術文庫） 352 p, ISBN: 978-4061597846		
教材（参考文献）	ポール・A・コーエン（佐藤慎一訳）『知の帝国主義――オリエンタリズムと中国像』平凡社, 1988 年　332p, ISBN: 978-4582744088		
教材（その他）	受講者の必要や要望に応じて，個別に紹介する。		
評価方法	小レポート 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか 期末試験 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか		
到達目標	中国の歴史について理解を深め，中国という国について自分なりの見識を持つことができるようになる。また，多量の文章を読み，要点をつかむ。		
準備学習	上述の参考文献をも使って，中国史全般に関連する疑問を持ち，それを自分自身の言葉で表現できるように準備しておきましょう。一つの学期に数回の小レポートを課す。		
受講者への要望			
中国史に対する基本的な知識を前提とするので，必要な場合は概説書などを読んでおくこと。少なくとも王朝の年代は覚えておくことが望ましい。			
講義の順序とポイント			
第１回 古代日本外交史 第２回 岳飛と秦檜 第３回 クビライの挑戦 第４回 永楽帝 第５回 長城の中国史 第６回 倭寇と勘合貿易 第７回 Vietnam and the Chinese Model 第８回 康熙帝の手紙 第９回 アジアの海の大英帝国 第１０回 万国公法の時代 第１１回 外交官の誕生 第１２回 革命とナショナリズム 第１３回 中国外交と国連の成立 第１４回 毛沢東の朝鮮戦争 第１５回 日中国交正常化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★

年度	2015	授業コード	JM0063A02
科目名	東洋史概説 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Asian History A		
担当者名	望月　直人	旧科目名称	
講義概要	中国史研究においては，伝統的に外交史に十分な蓄積がなされてこなかったが，近年は多くの成果が出ている分野である。前半は，19 世紀初めまでの政治・経済関係を中心とした中国と諸外国との関係を勉強する。後半は，国際法の受容や世界政治の中の中国外交の姿を辿っていく。それによって，中国と諸外国との関係がどのような歴史を歩んできたのか，一緒に考えていきたい。		
教材（テキスト）	岡田英弘 神田信夫 松村潤 『紫禁城の栄光―明・清全史』（講談社学術文庫） 352 p, ISBN: 978-4061597846		
教材（参考文献）	ポール・A・コーエン（佐藤慎一訳）『知の帝国主義――オリエンタリズムと中国像』平凡社, 1988 年　332p, ISBN: 978-4582744088		
教材（その他）	受講者の必要や要望に応じて，個別に紹介する。		
評価方法	小レポート 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか 期末試験 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか		
到達目標	中国の歴史について理解を深め，中国という国について自分なりの見識を持つことができるようになる。また，多量の文章を読み，要点をつかむ。		
準備学習	上述の参考文献をも使って，中国史全般に関連する疑問を持ち，それを自分自身の言葉で表現できるように準備しておきましょう。一つの学期に数回の小レポートを課す。		
受講者への要望			
中国史に対する基本的な知識を前提とするので，必要な場合は概説書などを読んでおくこと。少なくとも王朝の年代は覚えておくことが望ましい。			
講義の順序とポイント			
第１回 古代日本外交史 第２回 岳飛と秦檜 第３回 クビライの挑戦 第４回 永楽帝 第５回 長城の中国史 第６回 倭寇と勘合貿易 第７回 Vietnam and the Chinese Model 第８回 康熙帝の手紙 第９回 アジアの海の大英帝国 第１０回 万国公法の時代 第１１回 外交官の誕生 第１２回 革命とナショナリズム 第１３回 中国外交と国連の成立 第１４回 毛沢東の朝鮮戦争 第１５回 日中国交正常化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★

年度	2015	授業コード	JM0063B01
科目名	東洋史概説B	単位数	2
科目名（英語表記）	Asian History B		
担当者名	望月　直人	旧科目名称	
講義概要	ともすると，中国は停滞していると見做されてきた。それは西洋史の発展段階の図式に当て嵌まらなかったことが大きな要因の一つとなっている。しかし，ひとまず西洋史の枠組みを離れて中国史を観察してみると，その長い歴史に多くの変遷があったこと に気づくだろう。中国の社会はいかなる歴史的変化を経験して今日に至っているのか。政治と社会の変化はどのように連動しているのか，一緒に考えていきたい。		
教材（テキスト）	岡本隆司『近代中国史』（ちくま新書）筑摩書房, 2013 年 288p, ISBN: 978-4-480-06724-1。		
教材（参考文献）	ポール・A・コーエン（佐藤慎一訳）『知の帝国主義――オリエンタリズムと中国像』平凡社, 1988 年　332p, ISBN: 978-4582744088		
教材（その他）	受講者の必要や要望に応じて，個別に紹介する。		
評価方法	小レポート 50% 基準与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか 期末試験 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか		
到達目標	中国の歴史について理解を深め，中国という国について自分なりの見識を持つことができるようになる。また，多量の文章を読み，要点をつかむ。		
準備学習	上述の参考文献をも使って，中国史全般に関連する疑問を持ち，それを自分自身の言葉で表現できるように準備しておきましょう。一つの学期間に数回の小レポートを課す。		
受講者への要望			
中国史に対する基本的な知識を前提とするので，必要な場合は概説書などを読んでおくこと。少なくとも王朝の年代は覚えておくことが望ましい。			
講義の順序とポイント			
第１回 歴史からみる中国 第２回 唐宋の変革と官僚制 第３回 王安石 第４回 大モンゴルの世界 第５回 中国の大盗賊 第６回 万暦十五年 第７回 徽州商人と明清中国 第８回 明清交替と江南社会 第９回 雍正帝 第１０回 「清朝考証学」とその時代 第１１回 李鴻章 第１２回 軍紳政権 第１３回 中国革命の起源(Les origines de la r?volution chinoise) 第１４回 The Last Emperor 第１５回 日本にとって中国とは何か			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★

年度	2015	授業コード	JM0063B02
科目名	東洋史概説B	単位数	2
科目名（英語表記）	Asian History B		
担当者名	望月　直人	旧科目名称	
講義概要	ともすると，中国は停滞していると見做されてきた。それは西洋史の発展段階の図式に当て嵌まらなかったことが大きな要因の一つとなっている。しかし，ひとまず西洋史の枠組みを離れて中国史を観察してみると，その長い歴史に多くの変遷があったこと に気づくだろう。中国の社会はいかなる歴史的変化を経験して今日に至っているのか。政治と社会の変化はどのように連動しているのか，一緒に考えていきたい。		
教材（テキスト）	岡本隆司『近代中国史』（ちくま新書）筑摩書房, 2013 年 288p, ISBN: 978-4-480-06724-1。		
教材（参考文献）	ポール・A・コーエン（佐藤慎一訳）『知の帝国主義――オリエンタリズムと中国像』平凡社, 1988 年　332p, ISBN: 978-4582744088		
教材（その他）	受講者の必要や要望に応じて，個別に紹介する。		
評価方法	小レポート 50% 基準与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか 期末試験 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか		
到達目標	中国の歴史について理解を深め，中国という国について自分なりの見識を持つことができるようになる。また，多量の文章を読み，要点をつかむ。		
準備学習	上述の参考文献をも使って，中国史全般に関連する疑問を持ち，それを自分自身の言葉で表現できるように準備しておきましょう。一つの学期間に数回の小レポートを課す。		
受講者への要望			
中国史に対する基本的な知識を前提とするので，必要な場合は概説書などを読んでおくこと。少なくとも王朝の年代は覚えておくことが望ましい。			
講義の順序とポイント			
第１回 歴史からみる中国 第２回 唐宋の変革と官僚制 第３回 王安石 第４回 大モンゴルの世界 第５回 中国の大盗賊 第６回 万暦十五年 第７回 徽州商人と明清中国 第８回 明清交替と江南社会 第９回 雍正帝 第１０回 「清朝考証学」とその時代 第１１回 李鴻章 第１２回 軍紳政権 第１３回 中国革命の起源(Les origines de la r?volution chinoise) 第１４回 The Last Emperor 第１５回 日本にとって中国とは何か			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★

年度	2015	授業コード	JM0064A01
科目名	統計学入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Statistics A		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、統計学の基本である　記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この2つの項目を総合して評価する。		
到達目標	データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握できること。確率分布の基本を理解すること。		
準備学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるように心がけること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。
テキストにそって講義を進めるので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.統計と情報
2.データの視覚的なまとめ
3.代表値－平均値
4.散布度－分散・標準偏差
5.散布図と相関係数
6.回帰分析
7.事象と確率
8.データの処理と確率について総合演習
9.確率変数
10.9.2 次元以上の確率分布
11.二項分布
12.ポアソン分布
13.正規分布
14.統計量の分布
15.確率分布について総合演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	JM0064A02
科目名	統計学入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Statistics A		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、統計学の基本である　記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この２つの項目を総合して評価する。		
到達目標	データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握できること。確率分布の基本を理解すること。		
準備学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるように心がけること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。
テキストにそって講義を進めるので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.統計と情報
2.データの視覚的なまとめ
3.代表値－平均値
4.散布度－分散・標準偏差
5.散布図と相関係数
6.回帰分析
7.事象と確率
8.データの処理と確率について総合演習
9.確率変数
10.9.2 次元以上の確率分布
11.二項分布
12.ポアソン分布
13.正規分布
14.統計量の分布
15.確率分布について総合演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	JM0064B01
科目名	統計学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Statistics B		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、統計学入門 A で学習した統計学の基本をもとに、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	標本から母集団の特性を論理的に正しく推測検定する方法を習得すること。		
準備学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるように心がけること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。
テキストにそって講義を進めるので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.推定の考え方
2.検定の考え方
3.母分散に関する検定・推定
4.母平均に関する検定・推定
5.母分散の比に関する検定・推定
6.母平均の差に関する検定・推定
7.検定・推定の復習 1
8.推定・検定の考え方と基本的な母数について検定推定の総合演習
9.母比率の差に関する検定・推定
10.適合度の検定
11.独立性の検定
12.ノンパラメトリック検定
13.回帰分析
14.検定・推定の復習 2
15.母比率・適合度・独立性・ノンパラメトリック検定について総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	JM0064B02
科目名	統計学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Statistics B		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、統計学入門 A で学習した統計学の基本をもとに、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	標本から母集団の特性を論理的に正しく推測検定する方法を習得すること。		
準備学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるように心がけること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。
テキストにそって講義を進めるので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.推定の考え方
2.検定の考え方
3.母分散に関する検定・推定
4.母平均に関する検定・推定
5.母分散の比に関する検定・推定
6.母平均の差に関する検定・推定
7.検定・推定の復習 1
8.推定・検定の考え方と基本的な母数について検定推定の総合演習
9.母比率の差に関する検定・推定
10.適合度の検定
11.独立性の検定
12.ノンパラメトリック検定
13.回帰分析
14.検定・推定の復習 2
15.母比率・適合度・独立性・ノンパラメトリック検定について総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	JM0065001
科目名	統計分析の基礎	単位数	4
科目名（英語表記）	The Basic of Metric Analysis		
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	日常生活でも視聴率や世論調査などで広く用いられており、心理学など文系科目にとっても必須である統計学について、基本的なことを解説する。単なる公式の暗記ではなく、統計学の基礎的な考え方がどのように形成されるのか、具体例を挙げながら考えて行く。 特に数学は自分の手で問題を解かないと理解が進まないので、積極的に問題を解いて欲しい。 数列と和の記号、順列と組み合わせといった高校の復習も適宜行う。それから、データをヒストグラム（度数分布図）を使って視覚化したり、平均値や分散のような数値として表わす方法を学習する。次に、確率変数と期待値の基礎も学ぶ。さらに二項分布、正規分布などの確率分布の性質を調べ、推定や検定の考え方や、その方法を解説する。 適宜、エクセルでの統計データの扱い方についても触れる。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	小寺平治、『新統計入門』、裳華房、1996 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（１０点、出席状況等による）＋授業時間内の小テスト（３回×１０点＝３０点）＋定期試験（６０点）		
到達目標	統計学の基本的な考え方を学んでいく。		
準備学習	積極的な姿勢で講義に臨むようにしてください。		

受講者への要望

積み重ねの授業なので、出来るだけ欠席しないように。

講義の順序とポイント

1. 数列と等差数列：数列とは何か、数列の中でも基本的な等差数列とその和の求め方を学ぶ。
2. 等比数列：等比数列の考え方を学び、一般項を求める。
3. 和の記号 Σ：和の記号 Σ の定義とその線形性、簡単な数列の和の求め方を学ぶ。
4. 度数分布表とヒストグラム：与えられたデータを度数分布表と累積度数分布表にまとめ、ヒストグラムにして見やすくする。
5. 代表値：平均・メディアン・モード：データを一つの値で代表させる代表値３種類と、それらの違いを考える。
6. 度数分布表から代表値を求める方法：個々のデータが与えられていなくても、度数分布表から代表値が求められる。
7. 散布度：分散・標準偏差・四分偏差：データの分布を知るには代表値だけでなく、データのばらつきを示す指標も必要である。
8. 相関係数とクロス集計：２種類のデータを集計する方法を学ぶ。また、相関関係と因果関係の違いについても考える。
9. 小テスト・１：1〜8 で扱った範囲の理解度を見ます。
10. 小テストの返却と解説：点数の良し悪しではなく、自分がどこが間違ったかを確認して下さい。
11. 集合と場合の数：集合の表し方と、起こりうる全ての場合の数え上げを学ぶ。
12. 順列と組み合わせ：順列と考え方と、計算法を学ぶ。
13. 組み合わせ：組み合わせの考え方と、計算法を学ぶ。
14. 確率とその計算：確率の定義と意味、その基本性質を学ぶ。
15. 確率変数と期待値：確率変数と確率分布の意味、期待値の考え方と計算の仕方を学ぶ。
16. 二項分布：コインやサイコロを投げたときの確率分布である二項分布を考える。
17. 標準正規分布と正規分布表の見方：正規分布の特徴と正規分布表の見方を学ぶ。
18. 正規分布の標準化：一般の正規分布を標準正規分布に変換する方法を学ぶ。
19. 小テスト・２：11〜18 で扱った範囲の理解度を見ます。
20. 小テストの返却と解説：点数の良し悪しではなく、自分がどこが間違ったかを確認して下さい。
21. 標本調査の考え方：全数調査と標本調査、母集団や無作為抽出の意味を考える。
22. 区間推定：正規分布を使った、母平均の区間推定を行う。
23. ｔ分布：t 分布と、t 分布を使った区間推定を学ぶ。
24. 仮説検定と母平均の検定：仮説検定とは何かを考えた上で、正規分布と t 分布を使って母平均の仮説検定を行う。
25. 母比率の差の検定：二項分布または正規分布を使って、母比率の差の仮説検定を行う。
26. ２次元確率変数と確率変数の独立性：２つの確率変数の扱い方と、独立性の意味を考える。
27. カイ二乗分布・適合度・独立性の検定：カイ二乗分布を使って、適合度と独立性の検定を行う。

28. 小テスト・３：21～27 で扱った範囲の理解度を見ます。
29. 小テストの返却と解説：点数の良し悪しではなく、自分がどこが間違ったかを確認して下さい。
30. これまで学んだ事柄を、エクセルで実行します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2015	授業コード	JM0065002
科目名	統計分析の基礎	単位数	4
科目名（英語表記）	The Basic of Metric Analysis		
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	日常生活でも視聴率や世論調査などで広く用いられており、心理学など文系科目にとっても必須である統計学について、基本的なことを解説する。単なる公式の暗記ではなく、統計学の基礎的な考え方がどのように形成されるのか、具体例を挙げながら考えて行く。 特に数学は自分の手で問題を解かないと理解が進まないので、積極的に問題を解いて欲しい。 数列と和の記号、順列と組み合わせといった高校の復習も適宜行う。それから、データをヒストグラム（度数分布図）を使って視覚化したり、平均値や分散のような数値として表わす方法を学習する。次に、確率変数と期待値の基礎も学ぶ。さらに二項分布、正規分布などの確率分布の性質を調べ、推定や検定の考え方や、その方法を解説する。 適宜、エクセルでの統計データの扱い方についても触れる。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	小寺平治、『新統計入門』、裳華房、1996 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（１０点、出席状況等による）＋授業時間内の小テスト（３回×１０点＝３０点）＋定期試験（６０点）		
到達目標	統計学の基本的な考え方を学んでいく。		
準備学習	積極的な姿勢で講義に臨むようにしてください。		

受講者への要望

積み重ねの授業なので、出来るだけ欠席しないように。

講義の順序とポイント

1. 数列と等差数列：数列とは何か、数列の中でも基本的な等差数列とその和の求め方を学ぶ。
2. 等比数列：等比数列の考え方を学び、一般項を求める。
3. 和の記号 Σ：和の記号 Σ の定義とその線形性、簡単な数列の和の求め方を学ぶ。
4. 度数分布表とヒストグラム：与えられたデータを度数分布表と累積度数分布表にまとめ、ヒストグラムにして見やすくする。
5. 代表値：平均・メディアン・モード：データを一つの値で代表させる代表値３種類と、それらの違いを考える。
6. 度数分布表から代表値を求める方法：個々のデータが与えられていなくても、度数分布表から代表値が求められる。
7. 散布度：分散・標準偏差・四分偏差：データの分布を知るには代表値だけでなく、データのばらつきを示す指標も必要である。
8. 相関係数とクロス集計：２種類のデータを集計する方法を学ぶ。また、相関関係と因果関係の違いについても考える。
9. 小テスト・１：1〜8 で扱った範囲の理解度を見ます。
10. 小テストの返却と解説：点数の良し悪しではなく、自分がどこが間違ったかを確認して下さい。
11. 集合と場合の数：集合の表し方と、起こりうる全ての場合の数え上げを学ぶ。
12. 順列と組み合わせ：順列と考え方と、計算法を学ぶ。
13. 組み合わせ：組み合わせの考え方と、計算法を学ぶ。
14. 確率とその計算：確率の定義と意味、その基本性質を学ぶ。
15. 確率変数と期待値：確率変数と確率分布の意味、期待値の考え方と計算の仕方を学ぶ。
16. 二項分布：コインやサイコロを投げたときの確率分布である二項分布を考える。
17. 標準正規分布と正規分布表の見方：正規分布の特徴と正規分布表の見方を学ぶ。
18. 正規分布の標準化：一般の正規分布を標準正規分布に変換する方法を学ぶ。
19. 小テスト・２：11〜18 で扱った範囲の理解度を見ます。
20. 小テストの返却と解説：点数の良し悪しではなく、自分がどこが間違ったかを確認して下さい。
21. 標本調査の考え方：全数調査と標本調査、母集団や無作為抽出の意味を考える。
22. 区間推定：正規分布を使った、母平均の区間推定を行う。
23. ｔ分布：t 分布と、t 分布を使った区間推定を学ぶ。
24. 仮説検定と母平均の検定：仮説検定とは何かを考えた上で、正規分布と t 分布を使って母平均の仮説検定を行う。
25. 母比率の差の検定：二項分布または正規分布を使って、母比率の差の仮説検定を行う。
26. ２次元確率変数と確率変数の独立性：２つの確率変数の扱い方と、独立性の意味を考える。
27. カイ二乗分布・適合度・独立性の検定：カイ二乗分布を使って、適合度と独立性の検定を行う。

28. 小テスト・３：21～27 で扱った範囲の理解度を見ます。
29. 小テストの返却と解説：点数の良し悪しではなく、自分がどこが間違ったかを確認して下さい。
30. これまで学んだ事柄を、エクセルで実行します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2015	授業コード	JM0066A01
科目名	日本の文学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Literature A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	文学と歴史の宝庫、京都から学ぶ。授業を受け、その後自由な時間を使って各自フィールドワークし、その成果をレポートとする。授業では古典作品を扱うが、すべて現代語訳付なので恐れるには足りない。講義と体験で、古典も京都も自分のものにしよう。 ただし、費用と時間と労力がかかる授業であることを承知の上、受講してほしい。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席・発言等の平常点（40%）　課題（30%×２）		
到達目標	古典と京都に実感的に親しむ。自分の知識として作品を知り、自分の心でそれを味わう。京都についても、自分で調べ自分で歩き、京都の史跡を体感する。		
準備学習	本授業は基礎的教養の養生を目指すので、予備知識は不要。もちろん古典好き・史跡好きは歓迎する。 予習よりも、各講義時間でしっかり味わうことが重要。成果については毎回講義時に問う。		

受講者への要望

しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。

講義の順序とポイント

1　単位取得方法の説明等
2　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生１
3　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生２
4　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生３
5　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生４
6　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生５
7　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生６
8　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生７
9　安倍晴明　平安京ミステリー１
10　安倍晴明　平安京ミステリー２
11　安倍晴明　平安京ミステリー３
12　安倍晴明　平安京ミステリー４
13　安倍晴明　平安京ミステリー５
14　安倍晴明　平安京ミステリー　６
15　安倍晴明　平安京ミステリー　７（レポート外授業）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★★		

年度	2015	授業コード	JM0066A02
科目名	日本の文学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Literature A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	文学と歴史の宝庫、京都から学ぶ。授業を受け、その後自由な時間を使って各自フィールドワークし、その成果をレポートとする。授業では古典作品を扱うが、すべて現代語訳付なので恐れるには足りない。講義と体験で、古典も京都も自分のものにしよう。 ただし、費用と時間と労力がかかる授業であることを承知の上、受講してほしい。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席・発言等の平常点（40%）　課題（30%×２）		
到達目標	古典と京都に実感的に親しむ。自分の知識として作品を知り、自分の心でそれを味わう。京都についても、自分で調べ自分で歩き、京都の史跡を体感する。		
準備学習	本授業は基礎的教養の養生を目指すので、予備知識は不要。もちろん古典好き・史跡好きは歓迎する。 予習よりも、各講義時間でしっかり味わうことが重要。成果については毎回講義時に問う。		

受講者への要望

しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。

講義の順序とポイント

1　単位取得方法の説明等
2　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生１
3　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生２
4　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生３
5　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生４
6　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生５
7　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生６
8　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生７
9　安倍晴明　平安京ミステリー１
10　安倍晴明　平安京ミステリー２
11　安倍晴明　平安京ミステリー３
12　安倍晴明　平安京ミステリー４
13　安倍晴明　平安京ミステリー５
14　安倍晴明　平安京ミステリー　６
15　安倍晴明　平安京ミステリー　７（レポート外授業）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★★		

年度	2015	授業コード	JM0066B01
科目名	日本の文学B	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Literature B		
担当者名	濵中　祐子	旧科目名称	
講義概要	授業は講義形式で行い、適宜プリントやパワーポイントを使用する。 京都は長らく、文化・文学の中心地であった。 京都を舞台にした文学作品を通して、京都の新たな側面を知ってほしい。授業では、京都の名所にまつわる文学作品を読む。今までに訪れたことがある場所であっても、文学作品を通して新たな見方ができるのではないかと思う。 題材としては、主に日本の古典文学作品を扱う。物語、和歌、軍記物、随筆、漢詩文など様々なジャンルにふれられるようにする。高校の古文の授業では扱わないような場面も紹介し、古典文学の魅力にふれる機会を提供する。古典文学は、長く読み続けられるに耐える普遍性を持っている。先人の考え方や、登場人物の生き様にふれることは、自らの志向や体験を相対化する一助となるであろう。 京都を舞台とした文学を、この京都という地で読むという環境は、とても恵まれている。机上の学習に終始せず、文学の舞台となった地に足を運んでほしい。 また、京都近辺で開催されている展示や催し物についても授業中に告知し、積極的な参加を求める。 古典文学を読み、京都の町を実際に歩き、見聞を広げることによって、日本文化・文学についての基礎知識を身につけることができるようにする。		
教材（テキスト）	無し。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	適宜プリントを配布する。また、授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（10%）出席状況などによる。　レポート（40%）　授業中に課す小テスト（50%）		
到達目標	・日本古典文学を通して、日本人の考え方、ものの見方を知り、日本文化への理解を深める。 ・日本文化・文学に対する知識を身につけ、世代間・異文化間におけるコミュニケーション能力を高める。 ・机上の学習に終始せず実際に京都の名所を訪れることによって、自らの目で対象を確認した上で思考し、判断することの重要性を学ぶ。		
準備学習	第 8 回と第 15 回に小テストを課す。配布プリントを中心に各講義の内容を復習した上で次の授業にのぞむこと。		

受講者への要望

能動的な態度で授業に出席するよう心がけてもらいたい。私語は厳禁とする。
レポートでは、実際に授業で取りあげた場所（いずれか一箇所）に出向いた上での調査を求める。ある程度の労力と費用がかかる授業であることを予め承知しておいてほしい。
題材としては主に古典文学を扱うけれども、現代語訳を都度示すため、特に古文の知識は必要としない。京都と日本の文化・文学に関心がある者の履修を歓迎する。

講義の順序とポイント

1 授業のすすめ方　レポート・小テストについての説明　穴太寺 『今昔物語』
2 比叡山 『伊勢物語』
3　三十三間堂 『平家物語』(1)
4　三十三間堂 『平家物語』(2)
5　清水寺 『ものくさ太郎』(1)
6　清水寺 『ものくさ太郎』(2)
7 北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(1)
8 北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(2)　第一回復習小テスト
9　貴船神社 『鉄輪』　和歌
10 見稲荷 『枕草子』
11 野宮神社 『源氏物語』

12 下鴨神社『方丈記』
13 仁和寺『徒然草』
14　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受　『更級日記』(1)
15　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受　『更級日記』(2)　第二回復習小テスト　レポート提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0066B02
科目名	日本の文学B	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Literature B		
担当者名	濵中　祐子	旧科目名称	
講義概要	授業は講義形式で行い、適宜プリントやパワーポイントを使用する。 京都は長らく、文化・文学の中心地であった。 京都を舞台にした文学作品を通して、京都の新たな側面を知ってほしい。授業では、京都の名所にまつわる文学作品を読む。今までに訪れたことがある場所であっても、文学作品を通して新たな見方ができるのではないかと思う。 題材としては、主に日本の古典文学作品を扱う。物語、和歌、軍記物、随筆、漢詩文など様々なジャンルにふれられるようにする。高校の古文の授業では扱わないような場面も紹介し、古典文学の魅力にふれる機会を提供する。古典文学は、長く読み続けられるに耐える普遍性を持っている。先人の考え方や、登場人物の生き様にふれることは、自らの志向や体験を相対化する一助となるであろう。 京都を舞台とした文学を、この京都という地で読むという環境は、とても恵まれている。机上の学習に終始せず、文学の舞台となった地に足を運んでほしい。 また、京都近辺で開催されている展示や催し物についても授業中に告知し、積極的な参加を求める。 古典文学を読み、京都の町を実際に歩き、見聞を広げることによって、日本文化・文学についての基礎知識を身につけることができるようにする。		
教材（テキスト）	無し。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	適宜プリントを配布する。また、授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（10%）出席状況などによる。　レポート（40%）　授業中に課す小テスト（50%）		
到達目標	・日本古典文学を通して、日本人の考え方、ものの見方を知り、日本文化への理解を深める。 ・日本文化・文学に対する知識を身につけ、世代間・異文化間におけるコミュニケーション能力を高める。 ・机上の学習に終始せず実際に京都の名所を訪れることによって、自らの目で対象を確認した上で思考し、判断することの重要性を学ぶ。		
準備学習	第 8 回と第 15 回に小テストを課す。配布プリントを中心に各講義の内容を復習した上で次の授業にのぞむこと。		

受講者への要望

能動的な態度で授業に出席するよう心がけてもらいたい。私語は厳禁とする。
レポートでは、実際に授業で取りあげた場所（いずれか一箇所）に出向いた上での調査を求める。ある程度の労力と費用がかかる授業であることを予め承知しておいてほしい。
題材としては主に古典文学を扱うけれども、現代語訳を都度示すため、特に古文の知識は必要としない。京都と日本の文化・文学に関心がある者の履修を歓迎する。

講義の順序とポイント

1 授業のすすめ方　レポート・小テストについての説明　穴太寺 『今昔物語』
2 比叡山 『伊勢物語』
3　三十三間堂 『平家物語』(1)
4　三十三間堂 『平家物語』(2)
5　清水寺 『ものくさ太郎』(1)
6　清水寺 『ものくさ太郎』(2)
7 北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(1)
8 北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(2)　第一回復習小テスト
9　貴船神社 『鉄輪』　和歌
10 見稲荷 『枕草子』
11 野宮神社 『源氏物語』

12 下鴨神社『方丈記』
13 仁和寺『徒然草』
14　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受　『更級日記』(1)
15　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受　『更級日記』(2)　第二回復習小テスト　レポート提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0068001
科目名	日本語表現法	単位数	2
科目名（英語表記）	Method of Japanese Expression		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	社会人として必要な「書く」「話す」力を習得する。 必要な情報を、適切な構成で分かりやすく相手に伝える。また、一般社会で用いられる定型的な言語表現や、敬語といった言葉を運用する上でのマナーについても身につける。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席、提出課題 50%、学期末課題 50%で総合的に評価する		
到達目標	社会人として必要な日本語表現法を身につける		
準備学習	ニュース、新聞記事などについて、内容だけではなく、含まれている情報や文章としての構成などに注目して読む習慣をつける。		
受講者への要望			
毎回、文章を書く課題を出す。間違いを恐れず積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス　言葉を使う上でのトラブル 2　場所や交通を案内する 3　企画や提案を出す 4　日本語弱者のことを考えて書く 5　レポート、論文を書く①事実と意見 6　レポート、論文を書く②データを引用する 7　レポート、論文を書く③基本的な構成 8　レポート、論文を書く④様々な論の展開 9　復習テスト　レポートの作成 １０　ビジネスメール①基本、敬語 １１　ビジネスメール②依頼、問い合わせ １２　ビジネスメール③確認、回答 １３　ビジネスメール④案内 １４　自己アピールをする① １５　自己アピールをする②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0068002
科目名	日本語表現法	単位数	2
科目名（英語表記）	Method of Japanese Expression		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	社会人として必要な「書く」「話す」力を習得する。 必要な情報を、適切な構成で分かりやすく相手に伝える。また、一般社会で用いられる定型的な言語表現や、敬語といった言葉を運用する上でのマナーについても身につける。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席、提出課題 50%、学期末課題 50%で総合的に評価する		
到達目標	社会人として必要な日本語表現法を身につける		
準備学習	ニュース、新聞記事などについて、内容だけではなく、含まれている情報や文章としての構成などに注目して読む習慣をつける。		
受講者への要望			
毎回、文章を書く課題を出す。間違いを恐れず積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス　言葉を使う上でのトラブル 2　場所や交通を案内する 3　企画や提案を出す 4　日本語弱者のことを考えて書く 5　レポート、論文を書く①事実と意見 6　レポート、論文を書く②データを引用する 7　レポート、論文を書く③基本的な構成 8　レポート、論文を書く④様々な論の展開 9　復習テスト　レポートの作成 １０　ビジネスメール①基本、敬語 １１　ビジネスメール②依頼、問い合わせ １２　ビジネスメール③確認、回答 １３　ビジネスメール④案内 １４　自己アピールをする① １５　自己アピールをする②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0068003
科目名	日本語表現法	単位数	2
科目名（英語表記）	Method of Japanese Expression		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
講義概要	まず現代日本で標準とされる日本語の文体の成立事情を国語史の成果を交えて解説する。その知識を踏まえた上で毎回、様々な種類の文章（論説文、解説マニュアル、小説、詩歌など）を学生諸君に執筆してもらい、どのように表現すればわかりやすい文章が書けるかを学生諸君と探っていきたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回提出してもらう作文によって判断する。学年末には比較的長めのレポートを書いてもらう。		
到達目標	日本語の様々な文体と表現法に習熟し大学生としてふさわしい文章力を身に付ける。		
準備学習	新聞を丁寧に批判的に読むことを心がけて欲しい。		
受講者への要望			
国語辞書、漢和辞典をこまめに引くようにして欲しい。			
講義の順序とポイント			
1　日本語の表現法に関する講義（1） 2　与えられた課題について作文作成（1） 3　学生の作文に対する講評（1） 4　日本語の表現法に関する講義（2） 5　与えられた課題について作文作成（2） 6　学生の作文に対する講評（2） 7　日本語の表現法に関する講義（3） 8　与えられた課題について作文作成（3） 9　学生の作文に対する講評（3） １０　日本語の表現法に関する講義（4） １１　与えられた課題について作文作成（4） １２　学生の作文に対する講評（4） １３　日本語の表現法に関する講義（5） １４　与えられた課題について作文作成（5） １５　学生の作文に対する講評（5）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JM0068006
科目名	日本語表現法	単位数	2
科目名（英語表記）	Method of Japanese Expression		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
講義概要	まず現代日本で標準とされる日本語の文体の成立事情を国語史の成果を交えて解説する。その知識を踏まえた上で毎回、様々な種類の文章（論説文、解説マニュアル、小説、詩歌など）を学生諸君に執筆してもらい、どのように表現すればわかりやすい文章が書けるかを学生諸君と探っていきたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回提出してもらう作文によって判断する。学年末には比較的長めのレポートを書いてもらう。		
到達目標	日本語の様々な文体と表現法に習熟し大学生としてふさわしい文章力を身に付ける。		
準備学習	新聞を丁寧に批判的に読むことを心がけて欲しい。		
受講者への要望			
国語辞書、漢和辞典をこまめに引くようにして欲しい。			
講義の順序とポイント			
1　日本語の表現法に関する講義（1） 2　与えられた課題について作文作成（1） 3　学生の作文に対する講評（1） 4　日本語の表現法に関する講義（2） 5　与えられた課題について作文作成（2） 6　学生の作文に対する講評（2） 7　日本語の表現法に関する講義（3） 8　与えられた課題について作文作成（3） 9　学生の作文に対する講評（3） １０　日本語の表現法に関する講義（4） １１　与えられた課題について作文作成（4） １２　学生の作文に対する講評（4） １３　日本語の表現法に関する講義（5） １４　与えられた課題について作文作成（5） １５　学生の作文に対する講評（5）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JM0069A01
科目名	日本史概説A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japan A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	高校までの日本史といえば暗記科目という印象が強いでしょう。しかし大学で学ぶ歴史では、年号の暗記を求められたりはしません。また歴史といえば、テレビや漫画などで描かれる戦国武将や新選組などのイメージが強いかもしれません。しかし歴史は一部の有名人だけが活躍するものではありません。本講義では、主に江戸時代の歴史に関して、さまざまな話題をとりあげながら、歴史学の基本である、史料に基づきながら、過去の社会のありようや人々の営みを明らかにする手法を学び、江戸時代の社会の仕組みや、その歴史の流れを把握してもらいます。		
教材（テキスト）	特に使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の質問ペーパー（50%） 定期テスト（50%）		
到達目標	日本史、特に江戸時代の歴史の大きな流れを把握して、史料から歴史を読み解く歴史学という学問の特徴を学ぶこと。		
準備学習	テレビで大河ドラマをみたり、近所の神社仏閣に訪れたり、普段の生活のなかで歴史を意識してみて下さい。また講義の後は必ずレジュメを読み返してください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　史料とは歴史の材料である、ということ 3　歴史学と歴史創作 ―新選組を事例に― 4　歴史学と歴史創作 part2 ―屋根の上に鴨はいたか！？― 5　古文書のなかの新選組 6　保津川下りの歴史 7　土のなかの戦場 8　江戸時代の法 9　流行病とその対応 10　疱瘡神と病 11　江戸時代のお殿様 12　坂本龍馬の書状を読んでみる 13　江戸時代の祇園祭 14　休日の歴史 15　歴史とはなにか			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0069A02
科目名	日本史概説 A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japan A		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	近年の高校日本史の教科書では、中世を鎌倉幕府ではなく、院政時代から始めるものが増えている。学界の定説を反映させたものであるが、これは中世の始まりが 150 年早くなったというだけの話ではない。鎌倉幕府の成立よりも、院政時代の方が重要な歴史的画期であるということだ。それはまた、中世を武士・幕府・鎌倉新仏教で捉えてきた歴史像への批判であるし、鎌倉新仏教という概念の有効性すら否定されようとしている。日本中世は本当に武士の時代なのだろうか。鎌倉新仏教の時代なのか。本講では、古代仏教の中世的変革過程を論じながら、中世とは何なのかについて考える。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）	平雅行『親鸞とその時代』（法蔵館）		
教材（その他）	プリントを適宜配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期テスト（70%）		
到達目標	・批判的で柔軟な思考様式を体得する。 ・最新の歴史の見方を理解する。		
準備学習	・高校日本史の教科書の古代・中世の項を復習しておく。		

受講者への要望

・講義内容については理解することが必要だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。

講義の順序とポイント

1.鎌倉新仏教は中世仏教か？
2.技術と宗教
3.祈りと呪い
4.王朝国家における政策転換
5.王朝国家の宗教政策
6.古代仏教の中世化
7.所領の聖化
8.末法思想と顕密仏教
9.強訴と民衆
10.顕密仏教と民衆
11.悪僧と仏教改革運動
12.禅律僧
13.叡尊と忍性
14. 禅宗の展開
15.専修念仏の歴史的意義

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0069B01
科目名	日本史概説B	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japan B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	高校までの日本史といえば暗記科目という印象が強いでしょう。しかし大学で学ぶ歴史では、年号の暗記を求められたりはしません。また歴史といえば、テレビや漫画などで描かれる戦国武将や新選組などのイメージが強いかもしれません。しかし歴史は一部の有名人だけが活躍するものではありません。本講義では、主に江戸時代の歴史に関して、さまざまな話題をとりあげながら、歴史学の基本である、史料に基づきながら、過去の社会のありようや人々の営みを明らかにする手法を学び、江戸時代の社会の仕組みや、その歴史の流れを把握してもらいます。		
教材（テキスト）	特に使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の質問ペーパー（50%） 定期テスト（50%）		
到達目標	日本史、特に江戸時代の歴史の大きな流れを把握して、史料から歴史を読み解く歴史学という学問の特徴を学ぶこと。		
準備学習	テレビで大河ドラマをみたり、近所の神社仏閣に訪れたり、普段の生活のなかで歴史を意識してみて下さい。また講義の後は必ずレジュメを読み返してください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　水戸黄門の虚像と実像 3　水戸黄門の歴史学 4　亀岡祭りの歴史 5　秀吉の平和　―惣無事令の発見― 6　惣無事令はなかった！？ 7　江戸時代の遊女・芸者・遊廓 8　江戸時代の舞妓ハーン 9　忍者の歴史 10　石造物から歴史をよみとく 11　隠された藩主の恋心　―活字史料の裏側― 12　史料批判について考える　―絵師の年齢詐称疑惑をあばけ！― 13　災害と歴史学 14　初詣の歴史 15　歴史と史料			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	JM0069B02
科目名	日本史概説B	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japan B		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	日本の古代から中世末にいたる歴史の展開を、近年の歴史研究の達成を踏まえ、政治史を中心に文化・社会の諸方面にわたって考察する。特に文化や意識が歴史に与えた影響や東アジア世界が日本の社会に及ぼした影響について、ていねいに考察したい。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期テスト（70%）		
到達目標	・日本の古代中世についての最新の歴史の見方を理解する。 ・柔軟で批判的な思考様式を体得する。		
準備学習	・高校日本史の教科書の古代・中世の項を復習しておく。		

受講者への要望

・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。

講義の順序とポイント

1.なぜ歴史を学ぶのか？
2.東アジアと古代朝廷
3.桓武天皇の政策転換
4.王朝国家体制と荘園公領制
5.国風文化
6.中世王権の登場
7.武士の支配と民衆の抵抗
8.鎌倉幕府の成立と展開
9.朝廷と九条道家
10.鎌倉時代の仏教改革
11.モンゴル襲来
12.後醍醐天皇と南北朝内乱
13.室町幕府と東アジア世界
14.戦国時代の下克上
15.京都と文化財

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0070001
科目名	梅岩「心学」研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Ethics of Ishida Baigan		
担当者名	植田　知子	旧科目名称	
講義概要	石田梅岩（１６８５～１７４４）は、丹波国桑田郡東懸村（現在の亀岡市東別院東掛）の出身です。梅岩は、人間社会における君臣・父子・夫婦・長幼・朋友の５つの基本的関係を正しく保つための道＝「五倫の道」を、人びとが実行するよう教え導くことを、自身の学問の目的と考えました。そのため性を知ること（＝知性）と、人間の本質である「心」を知ることを、心学修行の１つの到達点としました。この心学の修行と、それぞれの家業の実践とを１つに統合したところに、梅岩教学の特色があります。講義では、梅岩の著した『都鄙問答』を中心に、門人たちによる「道話」も取り入れて、梅岩の教えについての理解を深めます。		
教材（テキスト）	石田梅岩著『都鄙問答』などを、資料プリントとして配布します。		
教材（参考文献）	適宜、お知らせします。		
教材（その他）	毎回、資料プリントを配布します。		
評価方法	授業中に毎回課す小レポート（６０％）、課題レポート（４０％）		
到達目標	梅岩の教えを理解し、現代社会において梅岩心学のもつ意味について、深く考えることを目標とします。		
準備学習	毎回、講義終了時に次回の講義資料を配布します。次回の講義までに読んで、内容を把握しておいて下さい。		
受講者への要望			
各回配布する資料は、その内容をじっくりと、深く読みこむよう心がけて下さい。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに ２、石田梅岩の生い立ちと業績 ３、心を尽くして性を知る ４、商人の社会的役割 ５、「道話」から　；その１ ６、商人にとって学問の必要性 ７、正直とは ８、「道話」から　；その２ ９、私欲ということ １０、私心と公共心 １１、梅岩門人たちの活動 １２、社会に目を向ける；その１ １３、倹約論 １４、生き方を問う １５、社会に目を向ける；その２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JM0071A01
科目名	美術工芸史 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Artistic Handicrafts History A		
担当者名	角谷　江津子	旧科目名称	
講義概要	工芸史は芸術分野では絵画・彫刻に比べ地味でそれほど注目を浴びないが、人々の生活に深くかかわりを持ち、各時代の生活史を反映している。本講義では、まず「工芸」の概念をとらえ、その工芸のなかから特に日本の陶磁器を中心に先史時代から中世・近世までを概説していく。陶磁器は人間生活に密着しており、その歴史を概観することで、各時代の生活・文化との関わりにもふれ、ひろく文化史的な立場より考えていく。各時代の造形感覚が、作品の文様・形体にどのように表現されているかなどの「もの」としての陶磁器についてもあわせて言及していく。 経営学科 設置科目であることから、窯の経営、殖産興業としての側面、工芸品の需要と供給などの観点にも着目していく。		
教材（テキスト）	なし。適宜プリントなど配布。		
教材（参考文献）	矢部良明『日本やきもの史』　美術出版社　1998 年		
教材（その他）			
評価方法	授業態度・課題(小レポート）等の提出状況 をふくむ平常点　10～30%　定期テスト（あるいはレポート）70%		
到達目標	日本の陶磁器の歴史とそれが生み出された時代を理解すること。また陶磁器を見て、基本的なものについてはその特徴などから区別ができること。		
準備学習	日本の歴史に関心をもち、博物館・美術館あるいは書籍などで陶磁器を見て親しむこと。 毎回、授業終了時に、授業内容に関する小レポートを書いて提出させるので、授業を集中して聞くこと、。 毎回授業の最初に前回内容に関わる復習をするので、きちんと復習しておくこと。		
受講者への要望			
遅刻はしないこと。また、主体的に聴講すること。			
講義の順序とポイント			
1　工芸の概念 2　日本の陶磁史入門 3　縄文土器 4　弥生土器 5　須恵器・土師器 6　奈良三彩 7　緑釉陶器と灰釉陶器 8　中世日本の窯業 9　茶の湯の成立と陶磁器 １０　茶の湯の発展と窯業の展開 １１　日本における磁器生産の開始 １２　京都における窯業生産の歴史 １３　近世 京焼の発展 １４　陶磁の東西交流 １５　出土陶磁器研究と美術工芸史 以上は予定			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	JM0071B01
科目名	美術工芸史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Artistic Handicrafts History B		
担当者名	角谷　江津子	旧科目名称	
講義概要	工芸史は芸術分野では絵画・彫刻に比べ地味でそれほど注目を浴びないが、人々の生活に深くかかわりを持ち、各時代の生活史を反映している。本講義では、まず「工芸」の概念をとらえ、その工芸のなかから特に世界の陶磁器を広くアジアからヨーロッパまでを概説していく。陶磁器は人間生活に密着しており、その歴史を概観することで、各時代の生活・文化との関わりにもふれ、ひろく文化史的な立場より考えていく。各時代の造形感覚が、作品の文様・形体にどのように表現されているかなどの「もの」としての陶磁器についてもあわせて言及していく。 経営学部設置科目であることから、窯の経営、殖産興業としての側面、工芸品の需要と供給などの観点にも着目していく。		
教材（テキスト）	なし。適宜プリントなど配布。		
教材（参考文献）	長谷部楽爾『世界やきもの史』　美術出版社　1999 年		
教材（その他）			
評価方法	授業態度・課題等の提出状況をふくむ平常点　10～30%　定期テスト（あるいはレポート）　70%		
到達目標	世界の陶磁器の歴史と、それが生み出された地域の特色と時代を理解すること。また陶磁器を見て、基本的なものについてはその特徴などから区別ができること。		
準備学習	世界の歴史と地理に関心をもち、博物館・美術館あるいは書籍などで陶磁器を見て親しむこと。 毎回、授業終了時に、授業内容に関する小レポートを書いて提出させるので、授業を集中して聞くこと。 毎回授業の最初に前回内容に関わる復習をするので、きちんと復習しておくこと。		
受講者への要望			
遅刻はしないこと。また、主体的に聴講すること。			
講義の順序とポイント			
1　工芸の概念―世界の陶磁史研究にあたって 2　世界の陶磁史入門 3　先史時代の土器 4　ギリシャ・ローマ陶器 5　中国大陸の陶磁器Ⅰ（古代） 6　中国大陸の陶磁器Ⅱ（中世） 7　中国大陸の陶磁器Ⅲ（近世） 8　朝鮮半島の陶磁器 9　世界に輸出される中国磁器 １０　イスラム陶器Ⅰ １１　イスラム陶器Ⅱ １２　ヨーロッパの陶器Ⅰ １３　ヨーロッパの陶器Ⅱ（磁器の生産開始） １４　ヨーロッパの陶器Ⅲ（磁器の展開） １５　現代の美術工芸―課題と展望 以上は予定			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						★

年度	2015	授業コード	JM0072A01
科目名	物質の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Materials Science A		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	物質の科学 f
講義概要	自然科学の最も基本的な分野である物質の科学は、現代社会の科学技術の基礎としてのみならず、その考え方や方法は他の科学の人文科学や社会科学を勉強する上でも重要であろう。 この授業は、日常生活で体験するような身近な自然現象を通して、その基本概念と法則を理解し、自然現象を科学的に捉える態度を身につけることを目標としている。具体的には、音と光、物質と原子、原子核と放射線などを題材にして、講義形式で授業を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	木下紀正 他　『物理学の基礎（身近なアプローチ)』　東京教学社		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)　定期試験(70%)		
到達目標	・物理学の基本概念と法則を理解している。 ・自然現象を科学的に捉える態度を身に付けている。		
準備学習	講義終了後、次回の講義のレジメを京学なびにアップロードするので、専門用語等を調べ予習しておくこと。		
受講者への要望			
高校で物理を履修していない学生にも理解出来るように進めるつもりであるが、新しい概念が次々と出てくるので、毎回授業に出席すること。			
講義の順序とポイント			
1．物質の科学の講義について 2．音と光(1)　音 3．音と光(2)　波 4．音と光(3)　光 5．音と光(4)　電磁波 6．物質と原子(1)　物質 7．物質と原子(2)　原子 8．物質と原子(3)　原子と光 9．物質と原子(4)　オーロラ 10．物質と原子(5)　オーロラ 11．原子核と放射線(1)　原子と原子核 12．原子核と放射線(2)　同位体 13．原子核と放射線(3)　不安定な原子 14．原子核と放射線(4)　放射線 15．原子核と放射線(5)　放射線			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2015	授業コード	JM0072A02
科目名	物質の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Materials Science A		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	物質の科学 f
講義概要	自然科学の最も基本的な分野である物質の科学は、現代社会の科学技術の基礎としてのみならず、その考え方や方法は他の科学の人文科学や社会科学を勉強する上でも重要であろう。 この授業は、日常生活で体験するような身近な自然現象を通して、その基本概念と法則を理解し、自然現象を科学的に捉える態度を身につけることを目標としている。具体的には、音と光、物質と原子、原子核と放射線などを題材にして、講義形式で授業を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	木下紀正 他　『物理学の基礎（身近なアプローチ)』　東京教学社		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)　定期試験(70%)		
到達目標	・物理学の基本概念と法則を理解している。 ・自然現象を科学的に捉える態度を身に付けている。		
準備学習	講義終了後、次回の講義のレジメを京学なびにアップロードするので、専門用語等を調べ予習しておくこと。		
受講者への要望			
高校で物理を履修していない学生にも理解出来るように進めるつもりであるが、新しい概念が次々と出てくるので、毎回授業に出席すること。			
講義の順序とポイント			
1．物質の科学の講義について 2．音と光(1)　音 3．音と光(2)　波 4．音と光(3)　光 5．音と光(4)　電磁波 6．物質と原子(1)　物質 7．物質と原子(2)　原子 8．物質と原子(3)　原子と光 9．物質と原子(4)　オーロラ 10．物質と原子(5)　オーロラ 11．原子核と放射線(1)　原子と原子核 12．原子核と放射線(2)　同位体 13．原子核と放射線(3)　不安定な原子 14．原子核と放射線(4)　放射線 15．原子核と放射線(5)　放射線			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2015	授業コード	JM0072B01
科目名	物質の科学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Materials Science B		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	物質の科学ｓ
講義概要	自然科学の最も基本的な分野である物質の科学は、現代社会の科学技術の基礎としてのみならず、その考え方や方法は他の科学の人文科学や社会科学を勉強する上でも重要であろう。 この講義では、日常生活で体験する自然現象やそこで利用している科学技術を通して、その根本に横たわる基本的な物理現象や法則について勉強します。前半は、光の関係する現象（虹と青空）を考察することによって、光の性質や物質の性質について理解を深めます。後半は、電気と磁気の現象を利用した機器（電子レンジと電磁調理器）を通して、電磁波の性質や物質の性質について理解を深めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	木下紀正 他　『物理学の基礎（身近なアプローチ)』　東京教学社		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)　定期試験(70%)		
到達目標	・物理学の基本概念と法則を理解している。 ・自然現象を科学的に捉える態度を身に付けている。		
準備学習	講義終了後、次回の講義のレジメを京学なびにアップロードするので、専門用語等を調べ予習しておくこと。		
受講者への要望			
高校で物理を履修していない学生にも理解出来るように進めるつもりであるが、新しい概念が次々と出てくるので、毎回授業に出席すること。			
講義の順序とポイント			
1　物質の科学の講義について 2　光のはなし(1)　光の性質 3　光のはなし(2)　光の性質 4　光のはなし(3)　光と電磁波 5　虹のはなし(1)　虹の現象 6　虹のはなし(2)　光の分散と虹 7　青空のはなし(1)　青空の現象 8　青空のはなし(2)　光と粒子の散乱 9　電磁気のはなし(1)　電気と磁気の現象 10　電磁気のはなし(2)　電磁波 11　電磁気のはなし(3)　電磁波 12　電子レンジのはなし(1)　電子レンジの構造 13　電子レンジのはなし(2)　電子レンジの発熱の原理 14　電磁調理器のはなし(1)　電磁調理器の構造 15　電磁調理器のはなし(2)　電磁調理器の発熱の原理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2015	授業コード	JM0072B02
科目名	物質の科学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Materials Science B		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	物質の科学ｓ
講義概要	自然科学の最も基本的な分野である物質の科学は、現代社会の科学技術の基礎としてのみならず、その考え方や方法は他の科学の人文科学や社会科学を勉強する上でも重要であろう。 この講義では、日常生活で体験する自然現象やそこで利用している科学技術を通して、その根本に横たわる基本的な物理現象や法則について勉強します。前半は、光の関係する現象（虹と青空）を考察することによって、光の性質や物質の性質について理解を深めます。後半は、電気と磁気の現象を利用した機器（電子レンジと電磁調理器）を通して、電磁波の性質や物質の性質について理解を深めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	木下紀正 他　『物理学の基礎（身近なアプローチ)』　東京教学社		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)　定期試験(70%)		
到達目標	・物理学の基本概念と法則を理解している。 ・自然現象を科学的に捉える態度を身に付けている。		
準備学習	講義終了後、次回の講義のレジメを京学なびにアップロードするので、専門用語等を調べ予習しておくこと。		
受講者への要望			
高校で物理を履修していない学生にも理解出来るように進めるつもりであるが、新しい概念が次々と出てくるので、毎回授業に出席すること。			
講義の順序とポイント			
1　物質の科学の講義について 2　光のはなし(1)　光の性質 3　光のはなし(2)　光の性質 4　光のはなし(3)　光と電磁波 5　虹のはなし(1)　虹の現象 6　虹のはなし(2)　光の分散と虹 7　青空のはなし(1)　青空の現象 8　青空のはなし(2)　光と粒子の散乱 9　電磁気のはなし(1)　電気と磁気の現象 10　電磁気のはなし(2)　電磁波 11　電磁気のはなし(3)　電磁波 12　電子レンジのはなし(1)　電子レンジの構造 13　電子レンジのはなし(2)　電子レンジの発熱の原理 14　電磁調理器のはなし(1)　電磁調理器の構造 15　電磁調理器のはなし(2)　電磁調理器の発熱の原理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2015	授業コード	JM0073A01
科目名	文化人類学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Anthropology A		
担当者名	梶丸　岳	旧科目名称	
講義概要	文化人類学とは広い意味で「他者」を理解しようとする学問であり、その基礎はフィールドワークにある。本講義では最初に文化人類学という学問分野の概観を示したうえで、テキストに沿ってさまざまな調査研究事例を検討し、解説していく。受講を通して文化人類学のエッセンスを学ぶことで、自己と他者について知る技法、「他者」を知ることの面白さと困難さを知ることができる。これが、大学や社会で経験するさまざまな事象を自分で見て考えながら生きていく力の土台となる。日々の出会いや暮らしを「フィールド」とする視点を獲得することで、世界の奥行きを感じることができるようになってほしい。		
教材（テキスト）	菅原和孝（編）『フィールドワークへの挑戦－〈実践〉人類学入門』世界思想社 2415 円		
教材（参考文献）	椎野若菜・白石壮一郎（編）『フィールドに入る』古今書院		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	平常点（15%）：出席状況等による。 小テスト（45%）：小テストは 3 回実施し、各 15%の評価とする。 学期末レポート（40%）：具体的な課題は今学期後半に告知する。ウェブや書籍、他人の記述などからの盗用は一律 0 点とする。		
到達目標	文化人類学の概要および文化人類学におけるフィールドワークの目的・方法・トピックと留意点について理解する。とりわけ、講義内で解説する文化人類学のものの見方や概念について理解し、自分のものとして応用することができる。		
準備学習	講義前にテキストの該当部分を予習し、講義後には講義の内容を踏まえて復習すること。また、参考書を読んでフィールドワークへのイメージを身につけ、学んだことを踏まえて自分の身の回りの出来事や見聞きしたものについて自分なりに考えておく。		

受講者への要望

他の受講生の迷惑となるような私語などの行為は厳に慎むように。遅刻も認めない。
学期末レポートでは単純な暗記知識ではなく、講義内容を各自応用してもらうようなテーマを与える予定なのでそのつもりで能動的に講義に出席して欲しい。

講義の順序とポイント

1. イントロダクション：文化人類学へようこそ
2. 文化人類学とはなにか
3. 他者との出会い（1）：「他者」とはなにか
4. 他者との出会い（2）：他者との出会い方
5. 仕事の世界（1）： 身体知に近づく
6. 仕事の世界（2）：社会的状況と文化的な構築
7. 社会とその周縁（1）：見えない力と社会の底辺
8. 社会とその周縁（2）：隠された領域
9. コミュニケーション（1）：会話と振る舞い
10. コミュニケーション（2）：社会をつくる
11. 信心と宗教（1）：信じることと信じないこと
12. 信心と宗教（2）：信心の合理性
13. 「外国人／異文化」との遭遇（1）：旅行・移動・アイデンティティ
14. 「外国人／異文化」との遭遇（2）：フィールドとの往還
15. まとめ：文化人類学のはじめかた

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	JM0073A02
科目名	文化人類学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Anthropology A		
担当者名	梶丸　岳	旧科目名称	
講義概要	文化人類学とは広い意味で「他者」を理解しようとする学問であり、その基礎はフィールドワークにある。本講義では最初に文化人類学という学問分野の概観を示したうえで、テキストに沿ってさまざまな調査研究事例を検討し、解説していく。受講を通して文化人類学のエッセンスを学ぶことで、自己と他者について知る技法、「他者」を知ることの面白さと困難さを知ることができる。これが、大学や社会で経験するさまざまな事象を自分で見て考えながら生きていく力の土台となる。日々の出会いや暮らしを「フィールド」とする視点を獲得することで、世界の奥行きを感じることができるようになってほしい。		
教材（テキスト）	菅原和孝（編）『フィールドワークへの挑戦－〈実践〉人類学入門』世界思想社 2415 円		
教材（参考文献）	椎野若菜・白石壮一郎（編）『フィールドに入る』古今書院		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	平常点（15%）：出席状況等による。 小テスト（45%）：小テストは 3 回実施し、各 15%の評価とする。 学期末レポート（40%）：具体的な課題は今学期後半に告知する。ウェブや書籍、他人の記述などからの盗用は一律 0 点とする。		
到達目標	文化人類学の概要および文化人類学におけるフィールドワークの目的・方法・トピックと留意点について理解する。とりわけ、講義内で解説する文化人類学のものの見方や概念について理解し、自分のものとして応用することができる。		
準備学習	講義前にテキストの該当部分を予習し、講義後には講義の内容を踏まえて復習すること。また、参考書を読んでフィールドワークへのイメージを身につけ、学んだことを踏まえて自分の身の回りの出来事や見聞きしたものについて自分なりに考えておく。		

受講者への要望

他の受講生の迷惑となるような私語などの行為は厳に慎むように。遅刻も認めない。
学期末レポートでは単純な暗記知識ではなく、講義内容を各自応用してもらうようなテーマを与える予定なのでそのつもりで能動的に講義に出席して欲しい。

講義の順序とポイント

1. イントロダクション：文化人類学へようこそ
2. 文化人類学とはなにか
3. 他者との出会い（1）：「他者」とはなにか
4. 他者との出会い（2）：他者との出会い方
5. 仕事の世界（1）： 身体知に近づく
6. 仕事の世界（2）：社会的状況と文化的な構築
7. 社会とその周縁（1）：見えない力と社会の底辺
8. 社会とその周縁（2）：隠された領域
9. コミュニケーション（1）：会話と振る舞い
10. コミュニケーション（2）：社会をつくる
11. 信心と宗教（1）：信じることと信じないこと
12. 信心と宗教（2）：信心の合理性
13. 「外国人／異文化」との遭遇（1）：旅行・移動・アイデンティティ
14. 「外国人／異文化」との遭遇（2）：フィールドとの往還
15. まとめ：文化人類学のはじめかた

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	JM0073B01
科目名	文化人類学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Anthropology B		
担当者名	梶丸　岳	旧科目名称	
講義概要	本講義では文化人類学の幅広い研究領域を紹介しながら、文化人類学によって人びとの世界がどのように捉えられるかを学ぶ。まず文化人類学の歴史を振り返ったあと、親族や生業、認識やコミュニケーション、さらにアイデンティティをめぐる研究を解説する。文化人類学は参与観察を基本とするフィールドワークから他者を、そして世界を見る学問である。文化人類学的な世界の見方を学ぶことを通して、世界と人間の在り方の多様さを知り、社会で生きていくうえで欠かせない柔軟な視野を獲得してほしい。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	山下晋司・船曳健夫（編）『文化人類学キーワード　改訂版』有斐閣　1785 円 その他、講義中に随時提示する。		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	平常点（15%）：出席状況等による。 小テスト（45%）：小テストは第 4 回、10 回、15 回講義のはじめに実施し、各 15%の評価とする。 定期テスト（40%）：秋学期全体の講義内容から出題する。カンニングは一律 0 点とする。		
到達目標	文化人類学の歩みとその多様な広がりから得られた知見についての基礎知識を身につける。また、文化人類学的な思考から生み出された、多彩な領域にまたがる概念やものの考え方について理解し、世界を複雑なものとして捉える方法を身につける。		
準備学習	参考文献は講義で直接とりあげることはないが、文化人類学の多彩なテーマについて簡潔に解説してあるものなのでなるべく入手したうえで講義内容と関係する部分の予習をしてくること。また、講義内容を復習するとともにさまざまな文化人類学の関連書籍を読んで講義内容に対して理解を深めること。		
受講者への要望			
他の受講生の迷惑となるような私語などの行為は厳に慎むように。遅刻も認めない。 小テストおよび定期テストは講義内容に基づいて出題するので、必ずテスト前には出題範囲について復習をすること。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション：文化人類学とはなにか 2. 人類学の歴史（1）：進化論と伝播論 3. 人類学の歴史（2）：機能主義から象徴主義まで 4. 親族とは誰か？ 5. ジェンダーの多様性 6. 生業の世界（1）：狩猟採集民の生き方 7. 生業の世界（2）：牧畜民の生き方 8. 贈与と交換（1）：経済と人間社会 9. 贈与と交換（2）：市場の世界 10. 世界の見方：分類と象徴と認識 11. コミュニケーションの民族誌 12. 芸能のすがた 13. 民族と国家 14. 観光と表象 15. まとめ：文化人類学とはなにか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JM0073B02
科目名	文化人類学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Anthropology B		
担当者名	梶丸　岳	旧科目名称	
講義概要	本講義では文化人類学の幅広い研究領域を紹介しながら、文化人類学によって人びとの世界がどのように捉えられるかを学ぶ。まず文化人類学の歴史を振り返ったあと、親族や生業、認識やコミュニケーション、さらにアイデンティティをめぐる研究を解説する。文化人類学は参与観察を基本とするフィールドワークから他者を、そして世界を見る学問である。文化人類学的な世界の見方を学ぶことを通して、世界と人間の在り方の多様さを知り、社会で生きていくうえで欠かせない柔軟な視野を獲得してほしい。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	山下晋司・船曳健夫（編）『文化人類学キーワード　改訂版』有斐閣　1785 円 その他、講義中に随時提示する。		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	平常点（15%）：出席状況等による。 小テスト（45%）：小テストは第 4 回、10 回、15 回講義のはじめに実施し、各 15%の評価とする。 定期テスト（40%）：秋学期全体の講義内容から出題する。カンニングは一律 0 点とする。		
到達目標	文化人類学の歩みとその多様な広がりから得られた知見についての基礎知識を身につける。また、文化人類学的な思考から生み出された、多彩な領域にまたがる概念やものの考え方について理解し、世界を複雑なものとして捉える方法を身につける。		
準備学習	参考文献は講義で直接とりあげることはないが、文化人類学の多彩なテーマについて簡潔に解説してあるものなのでなるべく入手したうえで講義内容と関係する部分の予習をしてくること。また、講義内容を復習するとともにさまざまな文化人類学の関連書籍を読んで講義内容に対して理解を深めること。		

受講者への要望

他の受講生の迷惑となるような私語などの行為は厳に慎むように。遅刻も認めない。
小テストおよび定期テストは講義内容に基づいて出題するので、必ずテスト前には出題範囲について復習をすること。

講義の順序とポイント

1. イントロダクション：文化人類学とはなにか
2. 人類学の歴史（1）：進化論と伝播論
3. 人類学の歴史（2）：機能主義から象徴主義まで
4. 親族とは誰か？
5. ジェンダーの多様性
6. 生業の世界（1）：狩猟採集民の生き方
7. 生業の世界（2）：牧畜民の生き方
8. 贈与と交換（1）：経済と人間社会
9. 贈与と交換（2）：市場の世界
10. 世界の見方：分類と象徴と認識
11. コミュニケーションの民族誌
12. 芸能のすがた
13. 民族と国家
14. 観光と表象
15. まとめ：文化人類学とはなにか

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JM0075A01
科目名	法学概論A（日本国憲法を含む）	単位数	2
科目名（英語表記）	Law A (including the Constitution)		
担当者名	原　弘明	旧科目名称	
講義概要	本講義は、日本国憲法を中心にしてその基本的な考え方や原理について概説します。また各回のテーマに沿ったかたちで関連する法令についても取り扱います。 法律の条文には専門的な用語や難解な言い回しが数多くあるため、法学は初めて学ぼうとする者にとって比較的理解しづらい学問領域です。しかし「社会あるところに法あり」と言われるように、法を学び理解することは、その社会を理解することでもあり、これから社会人として生活を営むうえで有用であるのはもちろん、むしろ必須でもあります。そこで本講義では、イメージをつかみやすくするため用語や言い回しについても可能な限り平易な言葉を用い、折に触れて具体例や現実に生じている問題・出来事を取り上げます。 また法学は「実践の学」であり、実際に自分で用いて意味をなすものです。それゆえ本講義は知識の確認に加えて、学んだことを具体的な問題に即して応用するためのレポート課題を設定します。		
教材（テキスト）	指定しません。		
教材（参考文献）	比較的平易とされる教科書を挙げておきます。個人の好みにあったものを学習参考書として使用することを勧めます。 高橋和之『立憲主義と日本国憲法〔第３版〕』（有斐閣、２０１３年） 芦部信喜＝高橋和之補訂『憲法〔第５版〕』（岩波書店、２０１１年）		
教材（その他）	必要に応じて講義用のレジュメを配布します。		
評価方法	1. 定期試験 70% 2. 平常点 30%授業への貢献度などから総合的に判断します。		
到達目標	（１）法（特に憲法）についての基本的な考え方や原理を理解すること （２）専門的な用語や言い回しについて正確に説明できるようになること （３）具体的な問題に対して講義で学んだことを応用すること		
準備学習	初回講義時に毎回の講義内容を指示するので、予習しておいてください。記憶の定着や定期試験の準備のために、毎回の講義内容やレジュメをまとめた自分専用のノートを作成することをお勧めします。		

受講者への要望

受講に際しては積極的な態度で臨んでください。また日々の生活でもニュースや新聞に目を通す時など、法との関わりを意識して下さい。
私語・携帯電話の通話など、他の受講生に迷惑となる行為をした者は、受講の意思を放棄したものとみなして、その回の出席点を与えず、次回以降の出席を認めないこともあり得ます。
講義で配布する資料を集めてテスト前に勉強するだけでは、単位の取得は難しいと考えてください。

講義の順序とポイント

1. はじめに―日々の暮らしに憲法はいらないのか
 ガイダンス、法令の分類と段階構造
2. 日本国憲法の基礎―憲法はなぜ大切なのか
 憲法における基本的な考え方、日本国憲法の成立史、日本国憲法の基本的特質
3. 基本的人権の保障内容とその限界―人権によって何がどこまで保障されるのか
 基本的人権の体系、人権制約の根拠
4. 自己決定権―自分のやりたいことが校則違反だったら
 憲法 13 条の意義、自己決定権の保障内容とその限界
5. 法の下の平等―何を「平等」にするのか
 平等の観念、性差別をめぐる問題
6. 信教の自由―信仰しない人には関係ないのか
 信教の自由とその限界、政教分離原則
7. 表現の自由―どのような表現でも憲法で守られる「表現」なのか
 「知る権利」、名誉毀損的表現や性表現の規制
8. 職業選択の自由―就きたくても就けない職業はあるのか
 営業の自由、営業規制の様々な類型
9. 生存権―生活保護はお恵みか権利か
 生存権の法的性格、生存権を具体化する様々な立法

10. 教育を受ける権利―誰が子どもたちの教育への責任を負うのか
学習権と国の責務、教育権の所在
11. 参政権―投票は行かなきゃいけないのか
選挙権の法的性格、選挙制度
12. 国会―国会議員は「特別」か
国会の地位、国会と議院の権能
13. 内閣―内閣は国民とどのような関係に立つのか
行政権、議院内閣制
14. 裁判所―裁判所は何のためにあるのか
裁判所の構成と権能
15. 地方自治―もしも住民の暮らしが「自治」じゃなかったら
地方自治の本旨、地方公共団体の機関、条例の制定

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						★

年度	2015	授業コード	JM0075A02
科目名	法学概論A（日本国憲法を含む）	単位数	2
科目名（英語表記）	Law A (including the Constitution)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	法学概論のうち、法とは何かについての基礎知識と日本国憲法の全体像を講義する。		
教材（テキスト）	特に使用しない。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験（80%）　平常点（20%）		
到達目標	法学の基本的な考え方を理解するとともに、日本国憲法の基礎的な知識と現代的な課題を学ぶ。		
準備学習	レジュメや資料を配付するので、必ず復習すると共に次回のテーマについて指摘する課題について事前に準備すること。		

受講者への要望

法学や日本国憲法についての学説・判例の学習だけでなく、日々起こっている憲法をめぐる国会や政府の動き、裁判所の新しい判決に注目するのでテレビや新聞の社会面の記事に関心をはらってほしい。

講義の順序とポイント

１．法とは何か
２．憲法とは何か
３．日本国憲法の成立
４．国民主権と象徴天皇制
５．平和主義
６．包括的人権
７．精神的自由①
８．精神的自由②
９．経済的自由
１０．刑事手続と人身の自由
１１．社会権
１２．国会と内閣
１３．司法権
１４．地方自治
１５．憲法改正

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0075B01
科目名	法学概論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Law B		
担当者名	大塚　泰寿	旧科目名称	
講義概要	この講義は、法を理解する上で必須と思われる基礎的な知識を得ることを目的とするものである。 具体的には、法学の初学者には難解と思われる法律用語の説明や、日本の裁判制度や主要な法律の基本原理や概要などを中心に解説していく。 また学生の理解を助けるために、新聞などで注目を集めている事例もいくつか紹介する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	末川博編『法学入門［第 6 版補訂版］』（有斐閣双書、2014 年） 伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門［第 4 版］』（有斐閣双書、2005 年）		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	定期試験 100%。試験は持込不可で行われる。		
到達目標	（1）基本的な法律用語を理解し、説明できるようになること。 （2）法制度や日本の主要な法律の基本原理や概要を理解し、説明できるようになること		
準備学習	参考文献の関連部分を読んで、予習・復習することが望ましい。		

受講者への要望

講義には緊張感をもって望んで頂きたい。私語などは一切厳禁である。

講義の順序とポイント

1．はじめに／法とは何か
　ガイダンス／法の特色
2．法と裁判（1）法と裁判①
　裁判制度、民事裁判・刑事裁判
3．法と裁判（2）法と裁判②
　裁判所と裁判官、裁判手続の基本原則
4．法と裁判（3）裁判の基準
　法源、制定法、慣習法、判例法
5．法と裁判（4）法の解釈
　法の適用、法の解釈
6．法の体系（1）法の体系
　公法、私法、社会法
7．法の体系（2）国家と憲法
　近代国家と憲法、近代憲法、現代憲法
8．法の体系（3）権力分立
　選挙権、国会、議院内閣制、違憲立法審査権
9．法の体系（4）基本的人権①
　人権の歴史と分類、日本国憲法で保障されている人権（個人の尊重、公共の福祉、平等権など）
10．法の体系（5）基本的人権②
　日本国憲法で保障されている人権（自由権、社会権など）
11．法の体系（6）犯罪と刑罰に関する法
　罪刑法定主義、犯罪とは何か
12．法の体系（7）市民社会に関する法①
　家族関係に関する法、夫婦、親子、相続
13．法の体系（8）市民社会に関する法②
　財産関係に関する法、法律関係の主体、財産、契約
14．法の体系（9）国際社会の法
　国際法の成立形式、武力行使の禁止と国際連合

１５．法の体系（１０）労働者の権利／社会保障に関する法

労働法、日本の社会保障制度の展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JM0075B02
科目名	法学概論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Law B		
担当者名	大塚　泰寿	旧科目名称	
講義概要	この講義は、法を理解する上で必須と思われる基礎的な知識を得ることを目的とするものである。 具体的には、法学の初学者には難解と思われる法律用語の説明や、日本の裁判制度や主要な法律の基本原理や概要などを中心に解説していく。 また学生の理解を助けるために、新聞などで注目を集めている事例もいくつか紹介する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	末川博編『法学入門［第 6 版補訂版］』（有斐閣双書、2014 年） 伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門［第 4 版］』（有斐閣双書、2005 年）		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	定期試験 100%。試験は持込不可で行われる。		
到達目標	（1）基本的な法律用語を理解し、説明できるようになること。 （2）法制度や日本の主要な法律の基本原理や概要を理解し、説明できるようになること		
準備学習	参考文献の関連部分を読んで、予習・復習することが望ましい。		

受講者への要望

講義には緊張感をもって望んで頂きたい。私語などは一切厳禁である。

講義の順序とポイント

1．はじめに／法とは何か
　ガイダンス／法の特色
2．法と裁判（1）法と裁判①
　裁判制度、民事裁判・刑事裁判
3．法と裁判（2）法と裁判②
　裁判所と裁判官、裁判手続の基本原則
4．法と裁判（3）裁判の基準
　法源、制定法、慣習法、判例法
5．法と裁判（4）法の解釈
　法の適用、法の解釈
6．法の体系（1）法の体系
　公法、私法、社会法
7．法の体系（2）国家と憲法
　近代国家と憲法、近代憲法、現代憲法
8．法の体系（3）権力分立
　選挙権、国会、議院内閣制、違憲立法審査権
9．法の体系（4）基本的人権①
　人権の歴史と分類、日本国憲法で保障されている人権（個人の尊重、公共の福祉、平等権など）
10．法の体系（5）基本的人権②
　日本国憲法で保障されている人権（自由権、社会権など）
11．法の体系（6）犯罪と刑罰に関する法
　罪刑法定主義、犯罪とは何か
12．法の体系（7）市民社会に関する法①
　家族関係に関する法、夫婦、親子、相続
13．法の体系（8）市民社会に関する法②
　財産関係に関する法、法律関係の主体、財産、契約
14．法の体系（9）国際社会の法
　国際法の成立形式、武力行使の禁止と国際連合

１５．法の体系（１０）労働者の権利／社会保障に関する法

労働法、日本の社会保障制度の展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JM0078001
科目名	論理学入門	単位数	4
科目名（英語表記）	Introduction to Logic		
担当者名	西條　玲奈	旧科目名称	
講義概要	この講義では、論理的思考のスキルの習得を目標とする。医師、科学者、政治家といった人々の推論の妥当性を評価することはわれわれの生活に直接影響するし、生活を共有する近親者との会話において、その妥当性適切に評価することは、私たちの日常生活円滑なコミュニケーションをおこなう上でも重要なものである。論理的思考のスキルは、大きく、(1)提示された推論の構造を把握し、分析して評価することと、(2)論理的に妥当な論証を自ら構成できることに区別できる。(1)の種類のスキルを身につけるため、論証の形式化に必要な記号論理学の記述法を学びながら、論証の結論と前提を見抜き、それぞれの正しさを評価する方法、およびどのような含意をもつか引き出す方法を学ぶ。他方、(2)論理的思考に基づく主張を発信するスキルを身につけるために、(1)で習得した分析能力を活用して、アウトプットの練習を同時に行なう。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	伊勢田哲治＋戸田山和久＋調麻佐志＋村上祐子（編），(2013).『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』.名古屋大学出版会. 金子洋之, (1994). 『記号論理入門』.産業図書. トムソン,アン,(2008).『論理のスキルアップ：実践クリティカルリーズニング入門』，斉藤浩文＋小口裕史（訳），春秋社. 前原昭二, (2005).『記号論理入門』．日本評論社.		
教材（その他）			
評価方法	授業中に課す小テスト（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	記号論理学による言語の形式化を助けとしながら、日常生活で行なわれている推論のうち妥当なものを識別し、自身でも妥当な論証を行なう能力を身につけることを目標とする。		
準備学習	予習のため、講義終了時に関連する資料を配布するので目を通しておくこと。また毎回講義の最後に課題として、講義内容に関連する小テスト・レポートを課すので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

・各講義で小テスト・レポートを実施する。
・講義内容にわかりにくい点や理解が不十分な点があれば、理解したつもりにならず、適宜質問をする、もしくは自身で参考文献に当たるなど能動的な対応を心がけてもらいたい。
・学問的誠実さをもって講義に臨むこと。カンニングや剽窃が発覚した場合、当該テスト・レポートの得点を一切カウントしない。
・通年の講義として構成されている点に留意すること。

講義の順序とポイント

【春学期】
1.オリエンテーション
2.何が妥当な論証か
3.論理学の射程と論証の一般規則
4.まとめ：論証の形式を見抜くこと
5.命題論理(1) 論理結合子
6.命題論理(2) 真理表
7.述語論理(1) 変項と量化子
8.述語論理(2) 述語論理の式の値
9.まとめ：自然言語を形式化すること
10.演繹的推論(1)前件肯定式、後件否定式
11.演繹的推論(2)仮言的三段論法、選言三段論法
12.演繹的推論(3)ジレンマ
13.演繹的推論(4)帰謬法
14.よくある誤謬推論(1)
15.定期テスト

【秋学期】
16.オリエンテーション

17.帰納的推論：一般化
18.帰納的推論：アナロジーによる推論
19.帰納的推論：原因についての論証
20.まとめ：帰納的推論と演繹的推論
21.よくある誤謬推論(2)
22.情報ソースとその評価
23.言葉の定義について
24.議論を広げる：話題の設定と議論の組み立て方
25.小論文レポート(1)：妥当な議論を構築・評価する
26.小論文レポート(2):議論を洗練させる
27.口頭で行なう論証：説得的なプレゼンテーションのために
28.プレセンテーション課題(1):妥当な議論を構築する・評価する
29.プレゼンテーション課題(2)：議論を洗練させる
30.定期テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2015	授業コード	JM0078002
科目名	論理学入門	単位数	4
科目名（英語表記）	Introduction to Logic		
担当者名	西條　玲奈	旧科目名称	
講義概要	この講義では、論理的思考のスキルの習得を目標とする。医師、科学者、政治家といった人々の推論の妥当性を評価することはわれわれの生活に直接影響するし、生活を共有する近親者との会話において、その妥当性適切に評価することは、私たちの日常生活円滑なコミュニケーションをおこなう上でも重要なものである。論理的思考のスキルは、大きく、(1)提示された推論の構造を把握し、分析して評価することと、(2)論理的に妥当な論証を自ら構成できることに区別できる。(1)の種類のスキルを身につけるため、論証の形式化に必要な記号論理学の記述法を学びながら、論証の結論と前提を見抜き、それぞれの正しさを評価する方法、およびどのような含意をもつか引き出す方法を学ぶ。他方、(2)論理的思考に基づく主張を発信するスキルを身につけるために、(1)で習得した分析能力を活用して、アウトプットの練習を同時に行なう。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	伊勢田哲治＋戸田山和久＋調麻佐志＋村上祐子（編），(2013).『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』.名古屋大学出版会. 金子洋之, (1994). 『記号論理入門』.産業図書. トムソン,アン,(2008).『論理のスキルアップ：実践クリティカルリーズニング入門』，斉藤浩文＋小口裕史（訳），春秋社. 前原昭二, (2005).『記号論理入門』．日本評論社.		
教材（その他）			
評価方法	授業中に課す小テスト（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	記号論理学による言語の形式化を助けとしながら、日常生活で行なわれている推論のうち妥当なものを識別し、自身でも妥当な論証を行なう能力を身につけることを目標とする。		
準備学習	予習のため、講義終了時に関連する資料を配布するので目を通しておくこと。また毎回講義の最後に課題として、講義内容に関連する小テスト・レポートを課すので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

・各講義で小テスト・レポートを実施する。
・講義内容にわかりにくい点や理解が不十分な点があれば、理解したつもりにならず、適宜質問をする、もしくは自身で参考文献に当たるなど能動的な対応を心がけてもらいたい。
・学問的誠実さをもって講義に臨むこと。カンニングや剽窃が発覚した場合、当該テスト・レポートの得点を一切カウントしない。
・通年の講義として構成されている点に留意すること。

講義の順序とポイント

【春学期】
1.オリエンテーション
2.何が妥当な論証か
3.論理学の射程と論証の一般規則
4.まとめ：論証の形式を見抜くこと
5.命題論理(1) 論理結合子
6.命題論理(2) 真理表
7.述語論理(1) 変項と量化子
8.述語論理(2) 述語論理の式の値
9.まとめ：自然言語を形式化すること
10.演繹的推論(1)前件肯定式、後件否定式
11.演繹的推論(2)仮言的三段論法、選言三段論法
12.演繹的推論(3)ジレンマ
13.演繹的推論(4)帰謬法
14.よくある誤謬推論(1)
15.定期テスト

【秋学期】
16.オリエンテーション

17.帰納的推論：一般化
18.帰納的推論：アナロジーによる推論
19.帰納的推論：原因についての論証
20.まとめ：帰納的推論と演繹的推論
21.よくある誤謬推論(2)
22.情報ソースとその評価
23.言葉の定義について
24.議論を広げる：話題の設定と議論の組み立て方
25.小論文レポート(1)：妥当な議論を構築・評価する
26.小論文レポート(2):議論を洗練させる
27.口頭で行なう論証：説得的なプレゼンテーションのために
28.プレセンテーション課題(1):妥当な議論を構築する・評価する
29.プレゼンテーション課題(2)：議論を洗練させる
30.定期テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2015	授業コード	JM0078A01
科目名	論理学入門 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Logic A		
担当者名	西條　玲奈	旧科目名称	
講義概要	この講義では、論理的思考のスキルの習得を目標とする。医師、科学者、政治家といった人々の推論の妥当性を評価することはわれわれの生活に直接影響するし、生活を共有する近親者との会話において、その妥当性適切に評価することは、私たちの日常生活円滑なコミュニケーションをおこなう上でも重要なものである。論理的思考のスキルは、大きく、(1)提示された推論の構造を把握し、分析して評価することと、(2)論理的に妥当な論証を自ら構成できることに区別できる。(1)の種類のスキルを身につけるため、論証の形式化に必要な記号論理学の記述法を学びながら、論証の結論と前提を見抜き、それぞれの正しさを評価する方法、およびどのような含意をもつか引き出す方法を学ぶ。他方、(2)論理的思考に基づく主張を発信するスキルを身につけるために、(1)で習得した分析能力を活用して、アウトプットの練習を同時に行なう。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	金子洋之, (1994). 『記号論理入門』.産業図書. トムソン,アン,(2008).『論理のスキルアップ：実践クリティカルリーズニング入門』, 斉藤浩文＋小口裕史（訳), 春秋社. 前原昭二, (2005).『記号論理入門』. 日本評論社.		
教材（その他）			
評価方法	授業中に課す小テスト（40%)、定期テスト（60%）		
到達目標	記号論理学による言語の形式化を助けとしながら、日常生活で行なわれている推論のうち妥当なものを識別し、自身でも妥当な論証を行なう能力を身につけることを目標とする。		
準備学習	予習のため、講義終了時に関連する資料を配布するので目を通しておくこと。また毎回講義の最後に課題として、講義内容に関連する小テスト・レポートを課すので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

・各講義で小テスト・レポートを実施する。
・講義内容にわかりにくい点や理解が不十分な点があれば、理解したつもりにならず、適宜質問をする、もしくは自身で参考文献に当たるなど能動的な対応を心がけてもらいたい。
・学問的誠実さをもって講義に臨むこと。カンニングや剽窃が発覚した場合、当該テスト・レポートの得点を一切カウントしない。
・論理学入門 B と併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.何が妥当な論証か
3.論理学の射程と論証の一般規則
4.まとめ：論証の形式を見抜くこと
5.命題論理(1) 論理結合子
6.命題論理(2) 真理表
7.述語論理(1) 変項と量化子
8.述語論理(2) 述語論理の式の値
9.まとめ：自然言語を形式化すること
10.演繹的推論(1)前件肯定式、後件否定式
11.演繹的推論(2)仮言的三段論法、選言三段論法
12.演繹的推論(3)ジレンマ
13.演繹的推論(4)帰謬法
14.よくある誤謬推論(1)
15.定期テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2015	授業コード	JM0078A02
科目名	論理学入門 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Logic A		
担当者名	西條　玲奈	旧科目名称	
講義概要	この講義では、論理的思考のスキルの習得を目標とする。医師、科学者、政治家といった人々の推論の妥当性を評価することはわれわれの生活に直接影響するし、生活を共有する近親者との会話において、その妥当性適切に評価することは、私たちの日常生活円滑なコミュニケーションをおこなう上でも重要なものである。論理的思考のスキルは、大きく、(1)提示された推論の構造を把握し、分析して評価することと、(2)論理的に妥当な論証を自ら構成できることに区別できる。(1)の種類のスキルを身につけるため、論証の形式化に必要な記号論理学の記述法を学びながら、論証の結論と前提を見抜き、それぞれの正しさを評価する方法、およびどのような含意をもつか引き出す方法を学ぶ。他方、(2)論理的思考に基づく主張を発信するスキルを身につけるために、(1)で習得した分析能力を活用して、アウトプットの練習を同時に行なう。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	金子洋之, (1994). 『記号論理入門』.産業図書. トムソン,アン,(2008).『論理のスキルアップ：実践クリティカルリーズニング入門』, 斉藤浩文＋小口裕史（訳), 春秋社. 前原昭二, (2005).『記号論理入門』. 日本評論社.		
教材（その他）			
評価方法	授業中に課す小テスト（40%)、定期テスト（60%）		
到達目標	記号論理学による言語の形式化を助けとしながら、日常生活で行なわれている推論のうち妥当なものを識別し、自身でも妥当な論証を行なう能力を身につけることを目標とする。		
準備学習	予習のため、講義終了時に関連する資料を配布するので目を通しておくこと。また毎回講義の最後に課題として、講義内容に関連する小テスト・レポートを課すので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

・各講義で小テスト・レポートを実施する。
・講義内容にわかりにくい点や理解が不十分な点があれば、理解したつもりにならず、適宜質問をする、もしくは自身で参考文献に当たるなど能動的な対応を心がけてもらいたい。
・学問的誠実さをもって講義に臨むこと。カンニングや剽窃が発覚した場合、当該テスト・レポートの得点を一切カウントしない。
・論理学入門 B と併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.何が妥当な論証か
3.論理学の射程と論証の一般規則
4.まとめ：論証の形式を見抜くこと
5.命題論理(1) 論理結合子
6.命題論理(2) 真理表
7.述語論理(1) 変項と量化子
8.述語論理(2) 述語論理の式の値
9.まとめ：自然言語を形式化すること
10.演繹的推論(1)前件肯定式、後件否定式
11.演繹的推論(2)仮言的三段論法、選言三段論法
12.演繹的推論(3)ジレンマ
13.演繹的推論(4)帰謬法
14.よくある誤謬推論(1)
15.定期テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2015	授業コード	JM0078B01
科目名	論理学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Logic B		
担当者名	西條　玲奈	旧科目名称	
講義概要	この講義では、論理的思考のスキルの習得を目標とする。医師、科学者、政治家といった人々の推論の妥当性を評価することはわれわれの生活に直接影響するし、生活を共有する近親者との会話において、その妥当性適切に評価することは、私たちの日常生活円滑なコミュニケーションをおこなう上でも重要なものである。論理的思考のスキルは、大きく、(1)提示された推論の構造を把握し、分析して評価することと、(2)論理的に妥当な論証を自ら構成できることに区別できる。(1)の種類のスキルを身につけるため、論証の形式化に必要な記号論理学の記述法を学びながら、論証の結論と前提を見抜き、それぞれの正しさを評価する方法、およびどのような含意をもつか引き出す方法を学ぶ。他方、(2)論理的思考に基づく主張を発信するスキルを身につけるために、(1)で習得した分析能力を活用して、アウトプットの練習を同時に行なう。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	伊勢田哲治＋戸田山和久＋調麻佐志＋村上祐子（編），(2013).『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』.名古屋大学出版会. 金子洋之, (1994). 『記号論理入門』.産業図書. トムソン,アン,(2008).『論理のスキルアップ：実践クリティカルリーズニング入門』，斉藤浩文＋小口裕史（訳），春秋社. 前原昭二, (2005).『記号論理入門』．日本評論社.		
教材（その他）			
評価方法	授業中に課す小テスト（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	記号論理学による言語の形式化を助けとしながら、日常生活で行なわれている推論のうち妥当なものを識別し、自身でも妥当な論証を行なう能力を身につけることを目標とする。		
準備学習	予習のため、講義終了時に関連する資料を配布するので目を通しておくこと。また毎回講義の最後に課題として、講義内容に関連する小テスト・レポートを課すので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

・各講義で小テスト・レポートを実施する。
・講義内容にわかりにくい点や理解が不十分な点があれば、理解したつもりにならず、適宜質問をする、もしくは自身で参考文献に当たるなど能動的な対応を心がけてもらいたい。
・学問的誠実さをもって講義に臨むこと。カンニングや剽窃が発覚した場合、当該テスト・レポートの得点を一切カウントしない。
・論理学入門 A と併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

16.オリエンテーション
17.帰納的推論：一般化
18.帰納的推論：アナロジーによる推論
19.帰納的推論：原因についての論証
20.まとめ：帰納的推論と演繹的推論
21.よくある誤謬推論(2)
22.情報ソースとその評価
23.言葉の定義について
24.議論を広げる：話題の設定と議論の組み立て方
25.小論文レポート(1)：妥当な議論を構築・評価する
26.小論文レポート(2):議論を洗練させる
27.口頭で行なう論証：説得的なプレゼンテーションのために
28.プレセンテーション課題(1):妥当な議論を構築する・評価する
29.プレゼンテーション課題(2)：議論を洗練させる
30.定期テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★★

年度	2015	授業コード	JM0078B02
科目名	論理学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Logic B		
担当者名	西條　玲奈	旧科目名称	
講義概要	この講義では、論理的思考のスキルの習得を目標とする。医師、科学者、政治家といった人々の推論の妥当性を評価することはわれわれの生活に直接影響するし、生活を共有する近親者との会話において、その妥当性適切に評価することは、私たちの日常生活円滑なコミュニケーションをおこなう上でも重要なものである。論理的思考のスキルは、大きく、(1)提示された推論の構造を把握し、分析して評価することと、(2)論理的に妥当な論証を自ら構成できることに区別できる。(1)の種類のスキルを身につけるため、論証の形式化に必要な記号論理学の記述法を学びながら、論証の結論と前提を見抜き、それぞれの正しさを評価する方法、およびどのような含意をもつか引き出す方法を学ぶ。他方、(2)論理的思考に基づく主張を発信するスキルを身につけるために、(1)で習得した分析能力を活用して、アウトプットの練習を同時に行なう。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	伊勢田哲治＋戸田山和久＋調麻佐志＋村上祐子（編），(2013).『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』.名古屋大学出版会. 金子洋之, (1994). 『記号論理入門』.産業図書. トムソン,アン,(2008).『論理のスキルアップ：実践クリティカルリーズニング入門』，斉藤浩文＋小口裕史（訳），春秋社. 前原昭二, (2005).『記号論理入門』．日本評論社.		
教材（その他）			
評価方法	授業中に課す小テスト（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	記号論理学による言語の形式化を助けとしながら、日常生活で行なわれている推論のうち妥当なものを識別し、自身でも妥当な論証を行なう能力を身につけることを目標とする。		
準備学習	予習のため、講義終了時に関連する資料を配布するので目を通しておくこと。また毎回講義の最後に課題として、講義内容に関連する小テスト・レポートを課すので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

・各講義で小テスト・レポートを実施する。
・講義内容にわかりにくい点や理解が不十分な点があれば、理解したつもりにならず、適宜質問をする、もしくは自身で参考文献に当たるなど能動的な対応を心がけてもらいたい。
・学問的誠実さをもって講義に臨むこと。カンニングや剽窃が発覚した場合、当該テスト・レポートの得点を一切カウントしない。
・論理学入門 A と併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

16.オリエンテーション
17.帰納的推論：一般化
18.帰納的推論：アナロジーによる推論
19.帰納的推論：原因についての論証
20.まとめ：帰納的推論と演繹的推論
21.よくある誤謬推論(2)
22.情報ソースとその評価
23.言葉の定義について
24.議論を広げる：話題の設定と議論の組み立て方
25.小論文レポート(1)：妥当な議論を構築・評価する
26.小論文レポート(2):議論を洗練させる
27.口頭で行なう論証：説得的なプレゼンテーションのために
28.プレセンテーション課題(1):妥当な議論を構築する・評価する
29.プレゼンテーション課題(2)：議論を洗練させる
30.定期テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★★

年度	2015	授業コード	JM0079001
科目名	フィールドワーク京都(現代企業研究) 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	成岡　秀夫	旧科目名称	
講義概要	京都は 1100 年首都のあった地であり、伝統工芸企業から最先端の IT 企業まで幅広い企業が集積している非常に珍しい、稀な地域である。 その京都にある伝統産業系の企業や、金属精密加工企業、食品関連企業、観光関連産業企業など、京都市内に点在する各企業、施設を訪れ、実際の現場を見学する。 また、15 回の講義のうち、数回は座学での授業を行い、京都地区の歴史、背景などを学習する。		
教材（テキスト）	具体的な教材は特にない。		
教材（参考文献）	特に具体的に指定はしないが、一般的な京都の歴史に関する書籍などは、事前に学習することがこのましい。 また、中世以降現代に至る近現代史を事前に学習することが好ましい。		
教材（その他）	特に指定はない。		
評価方法	授業への積極的な参加およびその態度、質問意見交換などのコミュニケーションと理解力が 50%。 講義、見学のつど次回に提出するレポートが 25%。 最終回のまとめのレポートが 25%。		
到達目標	京都という日本や世界でも独特の地域性に基づいたいろいろな産業、ビジネスの実態に触れ、京都の産業を理解する。将来、社会人になった際に、この学習が必ず役に立ったと確信できるような効果を得ることを目標とする。		
準備学習	毎回次回に訪問する企業や施設を事前に紹介するので、その施設、企業のホームページなどを閲覧し、予習をする。		

受講者への要望

京都市内の地理的感覚を身につけること。施設や企業への見学の際は、京都市内の公共交通機関を利用し、現地集合することが多い。

講義の順序とポイント

対象企業の都合など不確定要素があるが、現在の予定では下記の通り。

番号 日程 形式 内容
第 01 講 4 月 9 日 講義・座学 講義：オリエンテーション・フィールドワーク京都概論
第 02 講 4 月 16 日 企業見学 フィールドワーク繊維製造：西陣織会館・西陣織企業
第 03 講 4 月 23 日 企業見学 フィールドワーク伝統産業：京都市伝統工芸館・伝統産業企業
第 04 講 4 月 30 日 企業見学 フィールドワーク観光産業：嵐山西利会館・企業訪問
第 05 講 5 月 7 日 企業見学 フィールドワーク観光産業：ハンディクラフトセンター・みやこメッセ
第 06 講 5 月 14 日 講義・座学 講義：京都の産業歴史と背景その 1
第 07 講 5 月 21 日 企業見学 フィールドワーク商店街：錦市場商店街・企業訪問
第 08 講 5 月 28 日 企業見学 フィールドワーク卸売市場：京都市中央市場・企業訪問
第 09 講 6 月 4 日 企業見学 フィールドワーク日本酒製造：伏見大倉記念館・企業訪問
第 10 講 6 月 11 日 講義・座学 講義：京都の産業歴史と背景その 2
第 11 講 6 月 18 日 企業見学 フィールドワーク社会インフラ：琵琶湖疏水記念館
第 12 講 6 月 25 日 企業見学 フィールドワーク精密製品製造：島津製作所記念館
第 13 講 7 月 2 日 企業見学 フィールドワーク部品加工：長濱製作所
第 14 講 7 月 9 日 企業見学 講義：京都の産業歴史と背景その 3
第 15 講 7 月 16 日 講義・座学 最終講義・まとめ・小テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★	★		★

年度	2015	授業コード	JM0089A01
科目名	英語講読 I	単位数	2
科目名（英語表記）	English Reading I		
担当者名	Sean Bell	旧科目名称	
講義概要	Help beginning students write sentences and paragraphs. Use the text's time-proven approach to integrate sentence structure, paragraph organization, grammar, mechanics, vocabulary, and the writing process.		
教材（テキスト）	Longman Academic Reading Series (Book 1) ? ペーパーバック: 176 pages ? Publisher: Pearson Japan; 1 edition (June 20, 2013) ? Language: 英語, 英語, 英語 ? ISBN-10: 0132786648 ? ISBN-13: 978-0132786645 ? Release Date: June 20, 2013		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	評価方法　Way of evaluating 60% Report. (30% as oral report / 30% as written) 20% Class work. Working in pairs, homework, role-plays, participation, etc. (Please come to class) 20% Effort. Raising hand, asking questions, pair work, and so on.		
到達目標	To build basic reading skills. Be able to use English skills at a level good enough for basic everyday writing. Vocabulary, listening, and speaking skills will also improve.		
準備学習	Finish homework before class. Attendance is important to cover all units and understand them. Ask questions when you don’t understand.		

受講者への要望

Please buy the textbook. We will be using it a lot.
A dictionary would be useful for unknown words.
Ask questions if you don't understand.
Make notes in your book or keep a notebook.

講義の順序とポイント

1. Introductions. Explain grading and class rules. Talk about the course and what is expected.

2. Reading techniques and basic skills
Chapter 1 ? Health Sciences

3. Chapter 1 ? Health Sciences Cont.

4. Note taking skills
Chapter 2 ? Psychology

5. Chapter 2 ? Psychology Cont.

6. Chapter 3 ? Linguistics

7. Chapter 3 ? Linguistics Cont.

8. More reading skills to increase speed
Chapter 4 - Animal Behavior

9. Chapter 4 - Animal Behavior Cont.

10. Chapter 5 ? Social Psychology

11. Chapter 5 ? Social Psychology Cont.

12. Chapter 6 ? Public Art

13. Talk about the final report and hand out information.
Chapter 6 ? Public Art Cont.

14. Work on the report in class and questions.

15. Present your report in class.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★			★	

年度	2015	授業コード	JM0089A02
科目名	英語講読 I	単位数	2
科目名（英語表記）	English Reading I		
担当者名	Sean Bell	旧科目名称	
講義概要	Help beginning students write sentences and paragraphs. Use the text's time-proven approach to integrate sentence structure, paragraph organization, grammar, mechanics, vocabulary, and the writing process.		
教材（テキスト）	Longman Academic Reading Series (Book 1) ? ペーパーバック: 176 pages ? Publisher: Pearson Japan; 1 edition (June 20, 2013) ? Language: 英語, 英語, 英語 ? ISBN-10: 0132786648 ? ISBN-13: 978-0132786645 ? Release Date: June 20, 2013		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	評価方法　Way of evaluating 60% Report. (30% as oral report / 30% as written) 20% Class work. Working in pairs, homework, role-plays, participation, etc. (Please come to class) 20% Effort. Raising hand, asking questions, pair work, and so on.		
到達目標	To build basic reading skills. Be able to use English skills at a level good enough for basic everyday writing. Vocabulary, listening, and speaking skills will also improve.		
準備学習	Finish homework before class. Attendance is important to cover all units and understand them. Ask questions when you don’t understand.		

受講者への要望

Please buy the textbook. We will be using it a lot.
A dictionary would be useful for unknown words.
Ask questions if you don't understand.
Make notes in your book or keep a notebook.

講義の順序とポイント

1. Introductions. Explain grading and class rules. Talk about the course and what is expected.

2. Reading techniques and basic skills
Chapter 1 ? Health Sciences

3. Chapter 1 ? Health Sciences Cont.

4. Note taking skills
Chapter 2 ? Psychology

5. Chapter 2 ? Psychology Cont.

6. Chapter 3 ? Linguistics

7. Chapter 3 ? Linguistics Cont.

8. More reading skills to increase speed
Chapter 4 - Animal Behavior

9. Chapter 4 - Animal Behavior Cont.

10. Chapter 5 ? Social Psychology

11. Chapter 5 ? Social Psychology Cont.

12. Chapter 6 ? Public Art

13. Talk about the final report and hand out information.
Chapter 6 ? Public Art Cont.

14. Work on the report in class and questions.

15. Present your report in class.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★			★	

年度	2015	授業コード	JM0089B01
科目名	英語講読II	単位数	2
科目名（英語表記）	English Reading II		
担当者名	Sean Bell	旧科目名称	
講義概要	Helps high-beginning to low-intermediate students write varied academic paragraphs. The text used has a time-proven approach to integrate paragraph organization, grammar, mechanics, vocabulary, and the writing process.		
教材（テキスト）	Longman Academic Reading Series (Book 2) ? ペーパーバック: 272 pages ? Publisher: Pearson Japan; 1 edition (June 20, 2013) ? Language: 英語, 英語, 英語 ? ISBN-10: 013278582X ? ISBN-13: 978-0132785822 ? Release Date: June 20, 2013		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	60% Report. (30% as oral report / 30% as written) 20% Class work. Working in pairs, homework, role-plays, participation, etc. (Please come to class) 20% Effort. Raising hand, asking questions, pair work, and so on.		
到達目標	To build intermediate reading skills. Be able to use English skills at a level good enough for basic everyday writing. Vocabulary, listening, and speaking skills will also improve.		
準備学習	Finish homework before class. Attendance is important to cover all units and understand them. Ask questions when you don’t understand.		

受講者への要望

Please buy the textbook. We will be using it a lot.
A dictionary would be useful for unknown words.
Ask questions if you don't understand.
Make notes in your book or keep a notebook.

講義の順序とポイント

1. Introductions. Explain grading and class rules. Talk about the course and what is expected.

2. Reading techniques and basic skills
Chapter 1 ? Health Cultural Studies

3. Chapter 1 ? Cultural Studies Cont.

4. Note taking skills
Chapter 2 ? Multicultural Literature

5. Chapter 2 ? Multicultural Literature Cont.

6. Chapter 3 ? Health Science

7. Chapter 3 ? Health Science Cont.

8. More reading skills to increase speed
Chapter 4 - Education

9. Chapter 4 - Education Cont.

10. Chapter 5 ? Psychology

11. Chapter 5 ? Psychology Cont.

12. Chapter 6 ? Business

13. Talk about the final report and hand out information.
Chapter 6 ? Business Cont.

14. Work on the report in class and questions.

15. Present your report in class.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★			★	

年度	2015	授業コード	JM0089B02
科目名	英語講読II	単位数	2
科目名（英語表記）	English Reading II		
担当者名	Sean Bell	旧科目名称	
講義概要	Helps high-beginning to low-intermediate students write varied academic paragraphs. The text used has a time-proven approach to integrate paragraph organization, grammar, mechanics, vocabulary, and the writing process.		
教材（テキスト）	Longman Academic Reading Series (Book 2) ? ペーパーバック: 272 pages ? Publisher: Pearson Japan; 1 edition (June 20, 2013) ? Language: 英語, 英語, 英語 ? ISBN-10: 013278582X ? ISBN-13: 978-0132785822 ? Release Date: June 20, 2013		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	60% Report. (30% as oral report / 30% as written) 20% Class work. Working in pairs, homework, role-plays, participation, etc. (Please come to class) 20% Effort. Raising hand, asking questions, pair work, and so on.		
到達目標	To build intermediate reading skills. Be able to use English skills at a level good enough for basic everyday writing. Vocabulary, listening, and speaking skills will also improve.		
準備学習	Finish homework before class. Attendance is important to cover all units and understand them. Ask questions when you don’t understand.		

受講者への要望

Please buy the textbook. We will be using it a lot.
A dictionary would be useful for unknown words.
Ask questions if you don't understand.
Make notes in your book or keep a notebook.

講義の順序とポイント

1. Introductions. Explain grading and class rules. Talk about the course and what is expected.

2. Reading techniques and basic skills
Chapter 1 ? Health Cultural Studies

3. Chapter 1 ? Cultural Studies Cont.

4. Note taking skills
Chapter 2 ? Multicultural Literature

5. Chapter 2 ? Multicultural Literature Cont.

6. Chapter 3 ? Health Science

7. Chapter 3 ? Health Science Cont.

8. More reading skills to increase speed
Chapter 4 - Education

9. Chapter 4 - Education Cont.

10. Chapter 5 ? Psychology

11. Chapter 5 ? Psychology Cont.

12. Chapter 6 ? Business

13. Talk about the final report and hand out information.
Chapter 6 ? Business Cont.

14. Work on the report in class and questions.

15. Present your report in class.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★			★	

年度	2015	授業コード	JM0090001
科目名	倫理学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Ethics		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	我々は日常的に、様々なものに関し「これはいいが、あれはいただけない」といった類の判断を下しながら生きている。生とは、この判断の連続性である。そして誰しも「よき生」を願っている。 それでは、「よさ」とは何か。「よい」と形容される当のものはなにか。その判断が拠り所とするものは何か。「よい」という判断は何に基づいているのか。その基礎付けは正当か。となると「正当」ということも当然反省されるべきであろう。これらが、非常に大雑把で一面的な表現であるが、倫理学の主要な問題群であり、これらの問題群を廻る反省の中で、さらに様々な事柄が問題化される。 本講義では、「今ここで」生きている我々の諸問題、例えば環境倫理上の、或いは医療倫理上の諸問題を射程に置きながら、上述した倫理学的営為を展開し、問題の問題性、問題の関連性等を確認する中で、本講義が倫理学の臨床的な現場（産屋）に成るよう努める。 カリキュラム体系の位置づけからいえば、本講義は、「環境倫理学」、「医療倫理学」を学んだ者がさらに倫理学的考察を深めるためのものである。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に合わせ、その都度紹介する。		
教材（その他）	講義資料は京学なびに事前に登録するので、 各自プリントアウトして講義に臨むこと。		
評価方法	授業中に書いてもらう小論文試験（7 回）と最終レポートの素点合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が 6 割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。		
到達目標	1．倫理学的に問うことが身に付き、自分の価値観を反省できるようになる。 2．上述のことを可能にする倫理学的概念が、理解できるようなる。 3．倫理上の諸問題の関連性が見て取れるようになる。		
準備学習	講義資料を事前に配布するので、目を通して問題意識を養っておくこと。 授業内レポート作成のために、講義後は毎回講義内容を文章化しておくこと 授業内レポートは事前予告するので、しっかり論点を整理しておくこと。		
受講者への要望			
じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈思黙考に心がけること。			
講義の順序とポイント			
（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。その都度京学ナビで確認すること） 1．　序論　本講義について 2．　§ 1　倫理学とは 3．　同上 4．　§ 2　現代の倫理学的問題 5．　同上 6．　第 1 章　倫理学の成立と変遷 § 3　ソクラテス以前 7．　同上 8．（第 1 回授業内レポート） § 4　ソクラテス 9．　同上 10．　同上 11．（第 2 回授業内レポート） § 5　ソクラテス以後のポリスの倫理 12．　同上 13．　§ 6　ユダヤ・キリスト教的倫理 14．　同上 15．　同上 16．（第 3 回授業内レポート） § 7　近代の倫理			

①近代とキリスト教
17. ②デカルトの倫理
18. 同上
19.（第4回授業内レポート）
第2章　善とその諸相
§8　客体的善
①アリステレスの倫理
20. ②功利主義、責任倫理
21. §9　主体的善
①アリストテレスの徳論
22. ②カントの道徳性
23. 同上
24.（第5回授業内レポート）
第3章　善と規範
§10　価値と事実
25. §11　規範の正当化
26. 同上
27.（第6回授業内レポート）
第4章　自由と良心
§12　自由
28. 同上
29. （第7回授業内レポート）
§13　良心
30. 同上

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0090002
科目名	倫理学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Ethics		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	我々は日常的に、様々なものに関し「これはいいが、あれはいただけない」といった類の判断を下しながら生きている。生とは、この判断の連続性である。そして誰しも「よき生」を願っている。 それでは、「よさ」とは何か。「よい」と形容される当のものはなにか。その判断が拠り所とするものは何か。「よい」という判断は何に基づいているのか。その基礎付けは正当か。となると「正当」ということも当然反省されるべきであろう。これらが、非常に大雑把で一面的な表現であるが、倫理学の主要な問題群であり、これらの問題群を廻る反省の中で、さらに様々な事柄が問題化される。 本講義では、「今ここで」生きている我々の諸問題、例えば環境倫理上の、或いは医療倫理上の諸問題を射程に置きながら、上述した倫理学的営為を展開し、問題の問題性、問題の関連性等を確認する中で、本講義が倫理学の臨床的な現場（産屋）に成るよう努める。 カリキュラム体系の位置づけからいえば、本講義は、「環境倫理学」、「医療倫理学」を学んだ者がさらに倫理学的考察を深めるためのものである。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に合わせ、その都度紹介する。		
教材（その他）	講義資料は京学なびに事前に登録するので、 各自プリントアウトして講義に臨むこと。		
評価方法	授業中に書いてもらう小論文試験（7 回）と最終レポートの素点合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が 6 割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。		
到達目標	1．倫理学的に問うことが身に付き、自分の価値観を反省できるようになる。 2．上述のことを可能にする倫理学的概念が、理解できるようなる。 3．倫理上の諸問題の関連性が見て取れるようになる。		
準備学習	講義資料を事前に配布するので、目を通して問題意識を養っておくこと。 授業内レポート作成のために、講義後は毎回講義内容を文章化しておくこと 授業内レポートは事前予告するので、しっかり論点を整理しておくこと。		
受講者への要望			
じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈思黙考に心がけること。			
講義の順序とポイント			
（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。その都度京学ナビで確認すること） 1．　序論　本講義について 2．　§ 1　倫理学とは 3．　同上 4．　§ 2　現代の倫理学的問題 5．　同上 6．　第 1 章　倫理学の成立と変遷 § 3　ソクラテス以前 7．　同上 8．（第 1 回授業内レポート） § 4　ソクラテス 9．　同上 10．　同上 11．（第 2 回授業内レポート） § 5　ソクラテス以後のポリスの倫理 12．　同上 13．　§ 6　ユダヤ・キリスト教的倫理 14．　同上 15．　同上 16．（第 3 回授業内レポート） § 7　近代の倫理			

①近代とキリスト教
17. ②デカルトの倫理
18. 同上
19.（第4回授業内レポート）
第2章　善とその諸相
§8　客体的善
①アリステレスの倫理
20. ②功利主義、責任倫理
21. §9　主体的善
①アリストテレスの徳論
22. ②カントの道徳性
23. 同上
24.（第5回授業内レポート）
第3章　善と規範
§10　価値と事実
25. §11　規範の正当化
26. 同上
27.（第6回授業内レポート）
第4章　自由と良心
§12　自由
28. 同上
29. （第7回授業内レポート）
§13　良心
30. 同上

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0091A01
科目名	科学の歴史 A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。 また自然科学と人文・社会科学の違いについても学ぶ。具体的な学習項目は、科学の定義およびその方法と限界、古代文明と科学、古代ギリシャ・古代ローマ・中世ヨーロッパの科学、非西洋圏の科学、科学革命とその影響、などである。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい）		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。		
準備学習	現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「科学の歴史 A」→「科学の歴史 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
2.科学の定義と領域について
3.科学の方法と限界について
4.古代文明と科学、技術について
5.暦、占星術と天文学について
6.古代ギリシャの科学（その１）
7.古代ギリシャの科学（その２）
8.古代ローマ帝国の科学
9.中世ヨーロッパの科学
１０.アラビアの科学
１１.宗教と科学について
１２.錬金術と化学について
１３.科学革命について（その１）
１４.科学革命について（その２）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	★

年度	2015	授業コード	JM0091A02
科目名	科学の歴史 A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。 また自然科学と人文・社会科学の違いについても学ぶ。具体的な学習項目は、科学の定義およびその方法と限界、古代文明と科学、古代ギリシャ・古代ローマ・中世ヨーロッパの科学、非西洋圏の科学、科学革命とその影響、などである。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい）		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。		
準備学習	現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「科学の歴史 A」→「科学の歴史 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
2.科学の定義と領域について
3.科学の方法と限界について
4.古代文明と科学、技術について
5.暦、占星術と天文学について
6.古代ギリシャの科学（その１）
7.古代ギリシャの科学（その２）
8.古代ローマ帝国の科学
9.中世ヨーロッパの科学
１０.アラビアの科学
１１.宗教と科学について
１２.錬金術と化学について
１３.科学革命について（その１）
１４.科学革命について（その２）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	★

年度	2015	授業コード	JM0091B01
科目名	科学の歴史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。また自然科学と人文・社会科学の違いについても学ぶ。具体的な学習項目は、科学革命とその影響、科学と産業革命、現代の科学、科学と情報社会、科学と宗教、科学と戦争、今後の科学のありかた、などである。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい）		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。		
準備学習	現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「科学の歴史 A」→「科学の歴史 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
2.科学と技術について
3.科学革命とその影響
4.解剖学と医学の発展
5.産業革命期の科学について
6.化学の発展
7.進化論について
8.生物学と生命科学の発展
9.新しい物質観と物理学の発展
１０.科学と戦争について（その１）
１１.科学と戦争について（その２）
１２.コンピューターの歴史
１３.インターネットの歴史
１４.科学者の社会的責任について
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	★

年度	2015	授業コード	JM0091B02
科目名	科学の歴史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。また自然科学と人文・社会科学の違いについても学ぶ。具体的な学習項目は、科学革命とその影響、科学と産業革命、現代の科学、科学と情報社会、科学と宗教、科学と戦争、今後の科学のありかた、などである。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい）		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。		
準備学習	現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「科学の歴史 A」→「科学の歴史 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
2.科学と技術について
3.科学革命とその影響
4.解剖学と医学の発展
5.産業革命期の科学について
6.化学の発展
7.進化論について
8.生物学と生命科学の発展
9.新しい物質観と物理学の発展
１０.科学と戦争について（その１）
１１.科学と戦争について（その２）
１２.コンピューターの歴史
１３.インターネットの歴史
１４.科学者の社会的責任について
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	★

年度	2015	授業コード	JM0093001
科目名	京都の歴史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Kyoto		
担当者名	小林　昌代	旧科目名称	
講義概要	長きにわたり都が置かれていた京都の歴史は、日本の歴史と言っても過言ではない。しかし、「京都」を一つの地域として見るとき、そこには京都独特の風土に根ざした歴史や文化を見ることができる。また、それを支えた人々の姿や町の仕組みは、他の地域にはない京都の特徴である。 本講では、一都市京都の歴史を、「文化」・「経済」・「産業」・「教育」の面から読み解き、日本の歴史の中で京都が果たした役割についてみるとともに、現在我々がもつ京都のイメージがどのように構築されていったかを考える。なお、学期中に１回のフィールドワークを実施したい。		
教材（テキスト）	教科書の指定はしない。授業中にプリントなどを配布する。		
教材（参考文献）	小林丈広　著　『明治維新と京都』　臨川書店　２４８４円 高橋昌明　著　『京都＜千年の都＞の歴史』　岩波書店　９０７円 小林昌代　著　『京都の学校社会史 -web』 Google Books その他授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	写真などを適宜利用する。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（３０％）。定期テスト（７０％）		
到達目標	京都の町の成り立ちや、産業、文化を理解し、それらが、現代の京都や、日本の文化の基礎になっていることを理解する。また、フィールドワークを通じて、自分で知り実感することの大切さを学んでほしい。		
準備学習	京都の地図を用意し、普段から目を通すこと。授業で紹介した参考文献のうち１冊を、学期中に読破し感想をまとめておくこと。町中にある石碑や駒札（史跡あとに立てられた木の札）を発見したら、書き留めるか撮影してあとでその史跡について調べておく。		
受講者への要望			
理由のない遅刻・早退は認めない。私語は厳禁とし、厳しく対処する。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに：京都の概要 ２、京都研究のあゆみ ３、平安京以前 ４、平安京遷都 ５、平安京の変容 ６、日宋貿易と日明貿易 ７、洛中洛外 ８、京都の学問 ９、町衆と祭礼 １０、京都ブランドの形成 １１、幕末の京都　―尊攘派と町民 １２、近代京都の再生 １３、小学校の建設 １４、戦時下の京都 ―空襲と学童疎開 15、戦後の復興と現代京都の風景			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	JM0093002
科目名	京都の歴史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Kyoto		
担当者名	小林　昌代	旧科目名称	
講義概要	長きにわたり都が置かれていた京都の歴史は、日本の歴史と言っても過言ではない。しかし、「京都」を一つの地域として見るとき、そこには京都独特の風土に根ざした歴史や文化を見ることができる。また、それを支えた人々の姿や町の仕組みは、他の地域にはない京都の特徴である。 本講では、一都市京都の歴史を、「文化」・「経済」・「産業」・「教育」の面から読み解き、日本の歴史の中で京都が果たした役割についてみるとともに、現在我々がもつ京都のイメージがどのように構築されていったかを考える。なお、学期中に１回のフィールドワークを実施したい。		
教材（テキスト）	教科書の指定はしない。授業中にプリントなどを配布する。		
教材（参考文献）	小林丈広　著　『明治維新と京都』　臨川書店　２４８４円 高橋昌明　著　『京都＜千年の都＞の歴史』　岩波書店　９０７円 小林昌代　著　『京都の学校社会史 -web』 Google Books その他授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	写真などを適宜利用する。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（３０％）。定期テスト（７０％）		
到達目標	京都の町の成り立ちや、産業、文化を理解し、それらが、現代の京都や、日本の文化の基礎になっていることを理解する。また、フィールドワークを通じて、自分で知り実感することの大切さを学んでほしい。		
準備学習	京都の地図を用意し、普段から目を通すこと。授業で紹介した参考文献のうち１冊を、学期中に読破し感想をまとめておくこと。町中にある石碑や駒札（史跡あとに立てられた木の札）を発見したら、書き留めるか撮影してあとでその史跡について調べておく。		
受講者への要望			
理由のない遅刻・早退は認めない。私語は厳禁とし、厳しく対処する。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに：京都の概要 ２、京都研究のあゆみ ３、平安京以前 ４、平安京遷都 ５、平安京の変容 ６、日宋貿易と日明貿易 ７、洛中洛外 ８、京都の学問 ９、町衆と祭礼 １０、京都ブランドの形成 １１、幕末の京都　―尊攘派と町民 １２、近代京都の再生 １３、小学校の建設 １４、戦時下の京都 ―空襲と学童疎開 15、戦後の復興と現代京都の風景			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	JM0094A01
科目名	ジェンダー論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society I		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	ジェンダー」とは社会的・文化的につくられた性別のことで、生物学的な性別である「セックス」と区別して使われてきました。ジェンダーの身近な例は「女らしさ」や「男らしさ」という社会規範です。ジェンダーというと女性問題と勘違いしている人は多いようですが、多くの男性が抱える問題はジェンダー規範が関わり、女性だけでなく男性にも「生きづらさ」をもたらしています。本授業は、これまでジェンダーとは無関係と考えられてきた様々な社会問題を、ジェンダー・リテラシーを通して読み解く「女と男の人間関係学」です。前期は主に、ジェンダーの総論と各論トピックスを扱います。		
教材（テキスト）	毎回の授業のはじめで、レジメと参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	『女性学事典』岩波書店　2002		
教材（その他）	適宜配布する		
評価方法	平常点（30%)出席状況などによる、テストと授業提出物など（70%）		
到達目標	ジェンダー・リテラシーを用いて女と男の人間関係を理解する		
準備学習	各授業にて準備学習を指定する		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発送や想像力で女と男の問題をとらえてください			
講義の順序とポイント			
1,イントロダクション 2, ジェンダー・セックス・セクシュアリティの関係 3, ジェンダーの学習と社会化 4. ジェンダー平等とは 5,　憲法から男女共同参画まで 6、性別役割分担とその誕生 7.　労働とジェンダー 1. 8.　 労働とジェンダー 2 9.　セクシュアリティとは 10. 性の多様性 11.人権問題としてのセクシュアリティ 12.ビデオで見るジェンダー問題 13,母性愛と父性愛 14. ビデオで見る生殖技術と家族 15. 生殖技術の光と陰			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0094A02
科目名	ジェンダー論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society I		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	
講義概要	ジェンダー」とは社会的・文化的につくられた性別のことで、生物学的な性別である「セックス」と区別して使われてきました。ジェンダーの身近な例は「女らしさ」や「男らしさ」という社会規範です。ジェンダーというと女性問題と勘違いしている人は多いようですが、多くの男性が抱える問題はジェンダー規範が関わり、女性だけでなく男性にも「生きづらさ」をもたらしています。本授業は、これまでジェンダーとは無関係と考えられてきた様々な社会問題を、ジェンダー・リテラシーを通して読み解く「女と男の人間関係学」です。前期は主に、ジェンダーの総論と各論トピックスを扱います。		
教材（テキスト）	毎回の授業のはじめで、レジメと参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	『女性学事典』岩波書店　2002		
教材（その他）	適宜配布する		
評価方法	平常点（30%)出席状況などによる、テストと授業提出物など（70%）		
到達目標	ジェンダー・リテラシーを用いて女と男の人間関係を理解する		
準備学習	各授業にて準備学習を指定する		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発送や想像力で女と男の問題をとらえてください			
講義の順序とポイント			
1,イントロダクション 2, ジェンダー・セックス・セクシュアリティの関係 3, ジェンダーの学習と社会化 4. ジェンダー平等とは 5,　憲法から男女共同参画まで 6、性別役割分担とその誕生 7.　労働とジェンダー 1. 8.　 労働とジェンダー 2 9.　セクシュアリティとは 10. 性の多様性 11.人権問題としてのセクシュアリティ 12.ビデオで見るジェンダー問題 13,母性愛と父性愛 14. ビデオで見る生殖技術と家族 15. 生殖技術の光と陰			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0094B01
科目名	ジェンダー論 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society II		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	「ジェンダー」とは社会的・文化的につくられた性別のことで、生物学的な性別である「セックス」と区別して使われてきました。ジェンダーの身近な例は「女らしさ」や「男らしさ」という社会規範です。ジェンダーというと女性問題と勘違いしている人は多いようですが、多くの男性が抱える問題はジェンダー規範が関わり、女性だけでなく男性にも「生きづらさ」をもたらしています。本授業は、これまでジェンダーとは無関係と考えられてきた様々な社会問題を、ジェンダー・リテラシーを通して読み解く「女と男の人間関係学」です。後期は主に、ジェンダーの各論トピックスを扱います。		
教材（テキスト）	毎回の授業のはじめで、レジメと参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	『女性のデータブック』第 4 版　有斐閣、『女性学事典』岩波書店（図書館にあります		
教材（その他）	ビデオや DVD を使います		
評価方法	平常点（30%)出席状況等による、テストと提出物など（70%）		
到達目標	ジェンダー・リテラシーを用いて女と男の人間関係を理解する		
準備学習	各授業最後に次回の準備学習を指定する		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発送や想像力で女と男の問題をとらえてください			
講義の順序とポイント			
1. 後期イントロダクション 2. ジェンダー研究・女性学・フェミニズムズ 3. 男性のジェンダー問題と男性学 4. 変わる「男性らしさ」 5. 近代家族 1 6. 近代家族 2 7. 教育とジェンダー 8. マスメディアとジェンダー 9. メディアリテラシー 10, 恋愛と仕事と結婚 11. 言語にみるジェンダー 12.「こころの社会学」から見るジェンダー 13. 宗教とジェンダー 14. 少子化とワークライフ・バランス 15.. 高齢社会とライフコースの変化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0094B02
科目名	ジェンダー論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society II		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	ジェンダー論ｆ
講義概要	この社会は、女性／男性の二元的構成で秩序づけられ、様々な制度や制度を支える意識も、この二元的構成すなわちジェンダーに基づいている。 授業では、戦後の男女平等政策の変遷について、人権意識や男女の関係性、家族の問題をトピックを立てて検証する。そして、私たちが日常生活で直面する様々な場面とジェンダー・システムとの関連を把握する。また、歴史的な流れを理解し、今後に向けて、私たちが幸福な暮らしを実現するためにはどのような社会が構築されるべきなのか、ジェンダーにセンシティブな視点を養いつつ、社会への問題意識を喚起する。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。随時、資料を配布。		
教材（参考文献）	授業内で、適宜、紹介。		
教材（その他）	授業内で配布する資料と、ＡＶ資料。理解を深めるために、時事的問題を扱う際には、政府啓発映像やテレビ映像なども使用する。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝（50%） 定期試験（50%）		
到達目標	現在の社会問題の諸相が、ジェンダー問題と深く関わっている事実を理解し、女性も男性も誰もが生き生きと幸福に生きられる社会とは何であるのかを、深く考察する姿勢と力を養う。		
準備学習	授業内で行うレポートや小テストについては、事前に課題、範囲を提示するので、準備をして臨むこと。		

受講者への要望

・レポート、ミニテストなどの提出物は、文字、文章を丁寧に書くこと。雑な提出物は評価しない。また、オリジナリティを重視するので、他人の物のコピーではなく、自分で考察したものを評価する。自分に惹きつけてよく考えられたレポートは意義深いものであり、高く評価される。
・社会通念や思い込みを廃し、柔軟な思考や発想を持って、テーマと向き合うことを望みます。

講義の順序とポイント

１．　導入：ジェンダー論について　ジェンダーとは何か
２．　男性観、女性観をめぐって、マスメディアにおける表象、社会通念を検証
３．戦後の男女同権
４．高度経済成長期におけるジェンダー
５．性別特性論（１）
６．性別特性論（２）
７．ジェンダーと暴力（１）
８．ジェンダーと暴力（２）
９．ジェンダーと暴力（３）
１０．高度経済成長期以降のジェンダー政策
１１．国際的取り組みとジェンダー
１２．労働とジェンダー（１）
１３．労働とジェンダー（２）
１４．男女共同参画政策
１５．ジェンダー問題の現状と課題

上記授業テーマの配列は、授業の進度や時事的な話題等の状況に応じて、調整・変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	JM0095A01
科目名	歴史入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to History A		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（テキスト）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（期末レポート）（４０％）、平常点（４０％）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を繰り返し守らない場合は、減点の対象になります。			
講義の順序とポイント			
１．講義の概要と評価方法等の確認 ２．魔女裁判、概要 ３．魔女裁判、異端審問の成立 ４．魔女裁判、裁判の方法 ５．魔女裁判、魔女の自供 ６．魔女裁判、宗教改革との関連 ７．魔女裁判、科学者と魔女 ８．魔女裁判、学説（１） ９．魔女裁判、学説（２） １０．ハーメルンの笛吹き男伝説（１） １１．ハーメルンの笛吹き男伝説（２） １２．ハーメルンの笛吹き男伝説（３） １３．吸血鬼伝説（１） １４．吸血鬼伝説（２） １５．吸血鬼伝説（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0095A02
科目名	歴史入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to History A		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（テキスト）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（期末レポート）（４０％）、平常点（４０％）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を繰り返し守らない場合は、減点の対象になります。			
講義の順序とポイント			
１．講義の概要と評価方法等の確認 ２．魔女裁判、概要 ３．魔女裁判、異端審問の成立 ４．魔女裁判、裁判の方法 ５．魔女裁判、魔女の自供 ６．魔女裁判、宗教改革との関連 ７．魔女裁判、科学者と魔女 ８．魔女裁判、学説（１） ９．魔女裁判、学説（２） １０．ハーメルンの笛吹き男伝説（１） １１．ハーメルンの笛吹き男伝説（２） １２．ハーメルンの笛吹き男伝説（３） １３．吸血鬼伝説（１） １４．吸血鬼伝説（２） １５．吸血鬼伝説（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0095B01
科目名	歴史入門Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to History B		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（テキスト）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（期末レポート）（４０％）、平常点（４０％）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を繰り返し守らない場合は、減点の対象になります。			
講義の順序とポイント			
１．講義の概要と評価方法等の確認 ２．動物裁判（１） ３．動物裁判（２） ４．動物裁判（３） ５．西洋中世・近代の犯罪と刑罰（１） ６．西洋中世・近代の犯罪と刑罰（２） ７．西洋中世・近代の犯罪と刑罰（３） ８．ペストの歴史（１） ９．ペストの歴史（２） １０．ペストの歴史（３） １１．コロンブス（１） １２．コロンブス（２） １３．奴隷貿易と近代世界システム（１） １４．奴隷貿易と近代世界システム（２） １５．奴隷貿易と近代世界システム（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0095B02
科目名	歴史入門Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to History B		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（テキスト）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（期末レポート）（４０％）、平常点（４０％）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を繰り返し守らない場合は、減点の対象になります。			
講義の順序とポイント			
１．講義の概要と評価方法等の確認 ２．動物裁判（１） ３．動物裁判（２） ４．動物裁判（３） ５．西洋中世・近代の犯罪と刑罰（１） ６．西洋中世・近代の犯罪と刑罰（２） ７．西洋中世・近代の犯罪と刑罰（３） ８．ペストの歴史（１） ９．ペストの歴史（２） １０．ペストの歴史（３） １１．コロンブス（１） １２．コロンブス（２） １３．奴隷貿易と近代世界システム（１） １４．奴隷貿易と近代世界システム（２） １５．奴隷貿易と近代世界システム（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JM0096A01
科目名	経済学概論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economics A		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 120 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特にマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。なお、本授業の続篇として、秋学期の経済学概論Bの授業では、マクロ経済理論について講義する予定である。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）		
教材（参考文献）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（特にミクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング・リストを配布するので、講義の前には必ず、教科書や参考書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は、すぐに理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. 経済学の十大原理Ⅰ 2. 経済学の十大原理Ⅱ 3. 科学者としての経済学者 4. 政策アドバイザーとしての経済学者 5. グラフの用法： 概観 6. 相互依存と交易（貿易）からの利益 7. 比較優位の原理 8. 市場と競争、需要と供給 9. 市場における需要と供給の作用 10. 需要、供給、および政府の政策Ⅰ（価格規制） 11. 需要、供給、および政府の政策Ⅱ（税金） 12. 消費者余剰と生産者余剰 13. 市場の効率性 14. 外部性と市場の非効率性 15. 外部性の解決法			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JM0096A02
科目名	経済学概論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economics A		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 120 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特にマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。なお、本授業の続篇として、秋学期の経済学概論Bの授業では、マクロ経済理論について講義する予定である。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）		
教材（参考文献）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（特にミクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング・リストを配布するので、講義の前には必ず、教科書や参考書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は、すぐに理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. 経済学の十大原理Ⅰ 2. 経済学の十大原理Ⅱ 3. 科学者としての経済学者 4. 政策アドバイザーとしての経済学者 5. グラフの用法： 概観 6. 相互依存と交易（貿易）からの利益 7. 比較優位の原理 8. 市場と競争、需要と供給 9. 市場における需要と供給の作用 10. 需要、供給、および政府の政策Ⅰ（価格規制） 11. 需要、供給、および政府の政策Ⅱ（税金） 12. 消費者余剰と生産者余剰 13. 市場の効率性 14. 外部性と市場の非効率性 15. 外部性の解決法			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JM0096B01
科目名	経済学概論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Economics B		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 120 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特にマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。なお、本授業の前篇として、春学期の経済学概論 A の授業では、ミクロ経済理論について講義した。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）		
教材（参考文献）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学 II マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（特にマクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング・リストを配布するので、講義の前には必ず、教科書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は、すぐに理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. 経済学の十大原理 2. 国民所得の測定 3. 国内総生産（GDP） 4. 生計費の測定（消費者物価指数） 5. インフレーションの影響の補正 6. 経済成長と生産性 7. 経済成長と公共政策 8. 失業 9. 貯蓄、投資と金融システム 10. 貸付資金市場 11. 貨幣システム 12. 貨幣の需給とインフレーションの古典派理論 13. 総需要と総供給 14. 経済変動の二つの原因 15. 総需要と総供給のモデルの応用			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JM0096B02
科目名	経済学概論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Economics B		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 120 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特にマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。なお、本授業の前篇として、春学期の経済学概論 A の授業では、ミクロ経済理論について講義した。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）		
教材（参考文献）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学 II マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（特にマクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング・リストを配布するので、講義の前には必ず、教科書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は、すぐに理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. 経済学の十大原理 2. 国民所得の測定 3. 国内総生産（GDP） 4. 生計費の測定（消費者物価指数） 5. インフレーションの影響の補正 6. 経済成長と生産性 7. 経済成長と公共政策 8. 失業 9. 貯蓄、投資と金融システム 10. 貸付資金市場 11. 貨幣システム 12. 貨幣の需給とインフレーションの古典派理論 13. 総需要と総供給 14. 経済変動の二つの原因 15. 総需要と総供給のモデルの応用			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JM0097A01
科目名	心の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	The Mind A		
担当者名	橋本　京子	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。 この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	斎藤　勇編　『図説心理学入門』　誠信書房		
教材（参考文献）	授業の中で、適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期テスト　50% 授業内小テスト　50%		
到達目標	心理学の基礎的な理論を学び，人間についての理解を深め，多面的な見方ができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講者への要望

自分なりに考えを深め，積極的に授業に参加することを期待する。他の受講生の受講の妨げになるような行動は厳禁。

講義の順序とポイント

1. 心と行動 （講義概要の説明） ① 心の科学の領域や分野の概観 ② 行動の法則
2. 知覚と認知：ものの見え方、見方の心理 ① 知覚・認知とは何か ② かたちの知覚
3. 空間・運動知覚 ① 知覚の選択性 ② 知覚情報処理 ③ 知覚のずれ（錯視の実験） ④ 社会的認知
4. 欲求と感情：欲望と喜怒哀楽の心理 ① 欲求と動機づけ ② 欲求の種類 ③ 欲求と認知の関連
   ④ フラストレーションとコンフリクト
5. ⑤ 感情とは何か ⑥ 感情の構造 ⑦ 感情に関する理論
6. 学習と思考：学ぶこと、考えることの心理 ①条件づけ
7. （鏡映描写の実験） 学習の転移
8. ② 記憶 （連想価と記憶の実験）
9. ① 概念と課題解決（創造性テスト） ② 社会的学習
10. 発達と教育：育つ心と育てる心 ① 発達とは何か ② 発達の様相 （エリクソンの自我同一性の確立）
    ③ 発達と教育に関わる問題
11. 性格と異常心理：心のやまいとパーソナリティ ① 精神病 ② 神経症
12. ③ 精神分析理論 ④ 行動理論 ⑤ 自己理論 （性格テスト）
13. 対人心理と社会心理：人間関係の心理 ① 対人認知とその過程 ② 親和と対人魅力
    ③ 社会的態度と態度変容
14. ④ 社会的相互作用 ：援助行動、攻撃行動、群集心理
15. 臨床心理：①アセスメント、② 心理検査法 ③ 心理療法：精神分析療法、クライエント中心療法
    行動療法、認知療法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JM0097A02
科目名	心の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	The Mind A		
担当者名	橋本　京子	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。 この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	斎藤　勇編　『図説心理学入門』　誠信書房		
教材（参考文献）	授業の中で、適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期テスト　50% 授業内小テスト　50%		
到達目標	心理学の基礎的な理論を学び，人間についての理解を深め，多面的な見方ができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講者への要望

自分なりに考えを深め，積極的に授業に参加することを期待する。他の受講生の受講の妨げになるような行動は厳禁。

講義の順序とポイント

1. 心と行動 （講義概要の説明） ① 心の科学の領域や分野の概観 ② 行動の法則
2. 知覚と認知：ものの見え方、見方の心理 ① 知覚・認知とは何か ② かたちの知覚
3. 空間・運動知覚 ① 知覚の選択性 ② 知覚情報処理 ③ 知覚のずれ（錯視の実験） ④ 社会的認知
4. 欲求と感情：欲望と喜怒哀楽の心理 ① 欲求と動機づけ ② 欲求の種類 ③ 欲求と認知の関連
   ④ フラストレーションとコンフリクト
5. ⑤ 感情とは何か ⑥ 感情の構造 ⑦ 感情に関する理論
6. 学習と思考：学ぶこと、考えることの心理 ①条件づけ
7. （鏡映描写の実験） 学習の転移
8. ② 記憶 （連想価と記憶の実験）
9. ① 概念と課題解決（創造性テスト） ② 社会的学習
10. 発達と教育：育つ心と育てる心 ① 発達とは何か ② 発達の様相 （エリクソンの自我同一性の確立）
    ③ 発達と教育に関わる問題
11. 性格と異常心理：心のやまいとパーソナリティ ① 精神病 ② 神経症
12. ③ 精神分析理論 ④ 行動理論 ⑤ 自己理論 （性格テスト）
13. 対人心理と社会心理：人間関係の心理 ① 対人認知とその過程 ② 親和と対人魅力
    ③ 社会的態度と態度変容
14. ④ 社会的相互作用 ：援助行動、攻撃行動、群集心理
15. 臨床心理：①アセスメント、② 心理検査法 ③ 心理療法：精神分析療法、クライエント中心療法
    行動療法、認知療法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JM0097A03
科目名	心の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	The Mind A		
担当者名	橋本　京子	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。 この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	斎藤　勇編　『図説心理学入門』　誠信書房		
教材（参考文献）	授業の中で、適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期テスト　50% 授業内小テスト　50%		
到達目標	心理学の基礎的な理論を学び，人間についての理解を深め，多面的な見方ができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講者への要望

自分なりに考えを深め，積極的に授業に参加することを期待する。他の受講生の受講の妨げになるような行動は厳禁。

講義の順序とポイント

1. 心と行動 （講義概要の説明） ① 心の科学の領域や分野の概観 ② 行動の法則
2. 知覚と認知：ものの見え方、見方の心理 ① 知覚・認知とは何か ② かたちの知覚
3. 空間・運動知覚 ① 知覚の選択性 ② 知覚情報処理 ③ 知覚のずれ（錯視の実験） ④ 社会的認知
4. 欲求と感情：欲望と喜怒哀楽の心理 ① 欲求と動機づけ ② 欲求の種類 ③ 欲求と認知の関連
   ④ フラストレーションとコンフリクト
5. ⑤ 感情とは何か ⑥ 感情の構造 ⑦ 感情に関する理論
6. 学習と思考：学ぶこと、考えることの心理 ①条件づけ
7. （鏡映描写の実験） 学習の転移
8. ② 記憶 （連想価と記憶の実験）
9. ① 概念と課題解決（創造性テスト） ② 社会的学習
10. 発達と教育：育つ心と育てる心 ① 発達とは何か ② 発達の様相 （エリクソンの自我同一性の確立）
    ③ 発達と教育に関わる問題
11. 性格と異常心理：心のやまいとパーソナリティ ① 精神病 ② 神経症
12. ③ 精神分析理論 ④ 行動理論 ⑤ 自己理論 （性格テスト）
13. 対人心理と社会心理：人間関係の心理 ① 対人認知とその過程 ② 親和と対人魅力
    ③ 社会的態度と態度変容
14. ④ 社会的相互作用 ：援助行動、攻撃行動、群集心理
15. 臨床心理：①アセスメント、② 心理検査法 ③ 心理療法：精神分析療法、クライエント中心療法
    行動療法、認知療法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JM0097A04
科目名	心の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	The Mind A		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。 この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	斎藤　勇編　『図説心理学入門』　誠信書房		
教材（参考文献）	授業の中で、適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期テスト　50% 授業内小テスト　50%		
到達目標	心理学の基礎的な理論を学び，人間についての理解を深め，多面的な見方ができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講者への要望

自分なりに考えを深め，積極的に授業に参加することを期待する。他の受講生の受講の妨げになるような行動は厳禁。

講義の順序とポイント

1. 心と行動 （講義概要の説明） ① 心の科学の領域や分野の概観 ② 行動の法則
2. 知覚と認知：ものの見え方、見方の心理 ① 知覚・認知とは何か ② かたちの知覚
3. 空間・運動知覚 ① 知覚の選択性 ② 知覚情報処理 ③ 知覚のずれ（錯視の実験） ④ 社会的認知
4. 欲求と感情：欲望と喜怒哀楽の心理 ① 欲求と動機づけ ② 欲求の種類 ③ 欲求と認知の関連
   ④ フラストレーションとコンフリクト
5. ⑤ 感情とは何か ⑥ 感情の構造 ⑦ 感情に関する理論
6. 学習と思考：学ぶこと、考えることの心理 ①条件づけ
7. （鏡映描写の実験） 学習の転移
8. ② 記憶 （連想価と記憶の実験）
9. ① 概念と課題解決（創造性テスト） ② 社会的学習
10. 発達と教育：育つ心と育てる心 ① 発達とは何か ② 発達の様相 （エリクソンの自我同一性の確立）
    ③ 発達と教育に関わる問題
11. 性格と異常心理：心のやまいとパーソナリティ ① 精神病 ② 神経症
12. ③ 精神分析理論 ④ 行動理論 ⑤ 自己理論 （性格テスト）
13. 対人心理と社会心理：人間関係の心理 ① 対人認知とその過程 ② 親和と対人魅力
    ③ 社会的態度と態度変容
14. ④ 社会的相互作用 ：援助行動、攻撃行動、群集心理
15. 臨床心理：①アセスメント、② 心理検査法 ③ 心理療法：精神分析療法、クライエント中心療法
    行動療法、認知療法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JM0098A09
科目名	キャリアデザインⅠ （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design Ⅰ		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。大学生活は，これからの人生をどのように歩んでいくのかについて考えていく上で，非常に重要な期間です。本科目では，人生を自ら切りひらく力の涵養を目的とし，自らが進む方向を定め，目標や計画を実現実行する力を養います。これらを通じて，これからの人生のあり方ついて考える機会を提供します。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布します。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題 2 回：40%		
到達目標	1. 主体的に今後の生活を送るために必要なスキルを身に付ける。 2. 目標を持って今後の生活をデザインすることができる。		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めることがあります。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返る 3. 自分を客観視する 4. 今後の生活を思い描く 5. 主体的に今後の生活を送るための自己管理（1） 6. 主体的に今後の生活を送るための自己管理（2） 7. 主体的に今後の生活を送るためのスキル（1） 8. 主体的に今後の生活を送るためのスキル（2） 9. 主体的に今後の生活を送るためのスキル（3） 10. 今後の生活をデザインしよう（1） 11. 今後の生活をデザインしよう（2） 12. 今後の生活をデザインしよう（3） 13.　計画の実行に必要なこと（1） 14.　計画の実行に必要なこと（2） 15.　明るい将来のために			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	JM0098A10
科目名	キャリアデザインⅠ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design Ⅰ		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JM0098A11
科目名	キャリアデザインⅠ （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design Ⅰ		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。大学生活は，これからの人生をどのように歩んでいくのかについて考えていく上で，非常に重要な期間です。本科目では，人生を自ら切りひらく力の涵養を目的とし，自らが進む方向を定め，目標や計画を実現実行する力を養います。これらを通じて，これからの人生のあり方ついて考える機会を提供します。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布します。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題 2 回：40%		
到達目標	1. 主体的に今後の生活を送るために必要なスキルを身に付ける。 2. 目標を持って今後の生活をデザインすることができる。		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めることがあります。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返る 3. 自分を客観視する 4. 今後の生活を思い描く 5. 主体的に今後の生活を送るための自己管理（1） 6. 主体的に今後の生活を送るための自己管理（2） 7. 主体的に今後の生活を送るためのスキル（1） 8. 主体的に今後の生活を送るためのスキル（2） 9. 主体的に今後の生活を送るためのスキル（3） 10. 今後の生活をデザインしよう（1） 11. 今後の生活をデザインしよう（2） 12. 今後の生活をデザインしよう（3） 13.　計画の実行に必要なこと（1） 14.　計画の実行に必要なこと（2） 15.　明るい将来のために			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	JMC001ABC
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	１．本学の各種システムを理解する。 ２．資料を読んで内容を要約できる。 ３．400字以上のレポートが書ける。 ４．人前で発表できる。 ５．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JMC001ABD
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JMC001AFA
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001AFB
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	中川　重年	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001AFC
科目名	スタートアップゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001AFD
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	關谷　次郎	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001AFE
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001AFF
科目名	スタートアップゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001AFG
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001AFH
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001AFI
科目名	スタートアップゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001AHA
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001AHB
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001AHC
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001AHD
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001AHE
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001AHF
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001AHG
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001AHH
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001AHJ
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001AHS
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001AHY
科目名	スタートアップゼミA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001AHZ
科目名	スタートアップゼミＡ スタートアップゼミＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０％）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０％）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001AJE
科目名	スタートアップゼミA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	大学の勉強は、高校までの勉強のやり方では対応できない場合が多い。そこで、スタートアップゼミＡでは、大学で学ぶ際に必要とされる以下の基礎的な能力と技術の習得を目指し、ゼミ形式で学習していただくものとする。なお、本ゼミで身につけていただきたい能力と技術は、以下の通りである。 ・平易な文章を読み、内容を理解し、それを表現する能力・技術 ・説得ある文章を書く能力・技術 ・講義でノートをとり、その内容を文章化する能力・技術 ・一定の調査の結果を口頭で報告する能力・技術 ・報告や文書に対して意見を述べる能力・技術 ・レジュメを作成する能力・技術 ・レポートを作成する能力・技術 以上につき、各担当教員が工夫を凝らした教材を用いてゼミを進めることになる。		
教材（テキスト）	京都学園大学法学会編『法学の扉（第３版)』（成文堂、２００７年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	演習運営への貢献度(30%)、課題の提出物(作文、レジュメ、口頭発表等)(70%)によって評価する。出席状況が不良の場合には単位を認定しないこともある。		
到達目標	１）解説文等を読解して、要約・縮約することができる。 ２）意見文等を読解して、意見文を作成することができる。 ３）複数の資料を読解して、レポートを作成することができる。 ４）資料を参考にして、レジュメを作成することができる。		
準備学習	教材『法学の扉』の事前に指定された箇所や、事前に配布される資料を読んで、不明な箇所を調べておくこと。演習内で解説した課題に関しては、後日理解度の確認のための試験を行うので復習しておくこと。		

受講者への要望

ゼミで課せられる作業や宿題に、まじめに、こつこつ取り組むこと。
本ゼミの単位を取得していなければ卒業できないので、休まずに心して取り組むこと。

講義の順序とポイント

『法学の扉』第１章の内容を中心に、担当教員それぞれが工夫をこらしたプログラムを展開するが、以下のポイントについては共通である。なお、図書館ガイダンス等の共通プログラムの日程により、多少、変更の可能性がある。

1　イントロダクション
2　解説文等を読解して、要約・縮約する。その１
3　解説文等を読解して、要約・縮約する。その２
4　解説文等を読解して、要約・縮約する。その３
5　図書館ガイダンス
6　資料や意見文等を読解して、意見文を作成する。その１
7　資料や意見文等を読解して、意見文を作成する。その２
8　資料や意見文等を読解して、意見文を作成する。その３
9　複数の資料を読解して、一つのレポートを作成する。その１
10　複数の資料を読解して、一つのレポートを作成する。その２
11　複数の資料を読解して、一つのレポートを作成する。その３
12　資料を参考にレジュメを作成し、口頭発表をする。その１
13　資料を参考にレジュメを作成し、口頭発表をする。その２
14　資料を参考にレジュメを作成し、口頭発表をする。その３
15　資料を参考にレジュメを作成し、口頭発表をする。その４

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	JMC001AKA
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミAでは、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JMC001AKB
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミAでは、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JMC001AKC
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミAでは、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		

受講者への要望

単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。

講義の順序とポイント

1 イントロダクション　大学で学ぶ
2 「話」を聞いて記録する力
3 「活字」を読む力
4 「レポート」のまとめ方
5 「文章」を要約する力
6 言いたいことを書く力
7 いろいろ発想　ブレーンストーミング
8 いろいろ発想　KJ 法
9 発想したものをまとめる力
10 自分の疑問を深めてみる
11 情報を集める
12 集めた情報を読み解く
13 情報を足がかりに行動する
14 成果発表
15 成果発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JMC001AKD
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミAでは、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JMC001AKE
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミAでは、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JMC001AKF
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミAでは、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		

受講者への要望

単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。

講義の順序とポイント

1 イントロダクション　大学で学ぶ
2 「話」を聞いて記録する力
3 「活字」を読む力
4 「レポート」のまとめ方
5 「文章」を要約する力
6 言いたいことを書く力
7 いろいろ発想　ブレーンストーミング
8 いろいろ発想　KJ 法
9 発想したものをまとめる力
10 自分の疑問を深めてみる
11 情報を集める
12 集めた情報を読み解く
13 情報を足がかりに行動する
14 成果発表
15 成果発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JMC001AKG
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミAでは、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JMC001AKH
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミAでは、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JMC001ASA
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミAでは、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001ASB
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	一丸　直哉	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001ASC
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001ASD
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001ASE
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001ASF
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	清水　昌	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミAでは、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001ASG
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミAでは、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001ASJ
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001ASK
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001ASL
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BBB
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JMC001BBC
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JMC001BFA
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B では前半は秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指し、さらなる国語力を身に付ける。後半はグループでのディスカッションを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想する（KJ 法）
9. 発想を表現する
10. グループディスカッション（課題を発見する）
11. グループディスカッション（課題を解決する）
12. 人に伝える発表方法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BFB
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	中川　重年	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B では前半は秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指し、さらなる国語力を身に付ける。後半はグループでのディスカッションを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想する（KJ 法）
9. 発想を表現する
10. グループディスカッション（課題を発見する）
11. グループディスカッション（課題を解決する）
12. 人に伝える発表方法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BFC
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B では前半は秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指し、さらなる国語力を身に付ける。後半はグループでのディスカッションを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想する（KJ 法）
9. 発想を表現する
10. グループディスカッション（課題を発見する）
11. グループディスカッション（課題を解決する）
12. 人に伝える発表方法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BFD
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	關谷　次郎	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B では前半は秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指し、さらなる国語力を身に付ける。後半はグループでのディスカッションを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想する（KJ 法）
9. 発想を表現する
10. グループディスカッション（課題を発見する）
11. グループディスカッション（課題を解決する）
12. 人に伝える発表方法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BFE
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B では前半は秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指し、さらなる国語力を身に付ける。後半はグループでのディスカッションを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想する（KJ 法）
9. 発想を表現する
10. グループディスカッション（課題を発見する）
11. グループディスカッション（課題を解決する）
12. 人に伝える発表方法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BFF
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B では前半は秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指し、さらなる国語力を身に付ける。後半はグループでのディスカッションを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想する（KJ 法）
9. 発想を表現する
10. グループディスカッション（課題を発見する）
11. グループディスカッション（課題を解決する）
12. 人に伝える発表方法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BFG
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B では前半は秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指し、さらなる国語力を身に付ける。後半はグループでのディスカッションを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想する（KJ 法）
9. 発想を表現する
10. グループディスカッション（課題を発見する）
11. グループディスカッション（課題を解決する）
12. 人に伝える発表方法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BFH
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B では前半は秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指し、さらなる国語力を身に付ける。後半はグループでのディスカッションを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想する（KJ 法）
9. 発想を表現する
10. グループディスカッション（課題を発見する）
11. グループディスカッション（課題を解決する）
12. 人に伝える発表方法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BFI
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B では前半は秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指し、さらなる国語力を身に付ける。後半はグループでのディスカッションを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想する（KJ 法）
9. 発想を表現する
10. グループディスカッション（課題を発見する）
11. グループディスカッション（課題を解決する）
12. 人に伝える発表方法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BHA
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」で sy が、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。　参考文献にあげられている本を読むこと。		

受講者への要望

と もかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構え をもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを 得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001BHB
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」で sy が、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。　参考文献にあげられている本を読むこと。		

受講者への要望

と もかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構え をもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを 得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001BHC
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」で sy が、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。　参考文献にあげられている本を読むこと。		

受講者への要望

と もかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構え をもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを 得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001BHD
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」で sy が、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。　参考文献にあげられている本を読むこと。		

受講者への要望

と もかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構え をもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを 得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001BHE
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」で sy が、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。　参考文献にあげられている本を読むこと。		

受講者への要望

と もかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構え をもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを 得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001BHF
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」で sy が、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。　参考文献にあげられている本を読むこと。		

受講者への要望

と もかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構え をもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを 得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001BHG
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」で sy が、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。　参考文献にあげられている本を読むこと。		

受講者への要望

と もかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構え をもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを 得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001BHH
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」で sy が、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。　参考文献にあげられている本を読むこと。		

受講者への要望

と もかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構え をもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを 得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001BHJ
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」で sy が、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。　参考文献にあげられている本を読むこと。		

受講者への要望

と もかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構え をもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを 得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001BHS
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」で sy が、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。　参考文献にあげられている本を読むこと。		

受講者への要望

と もかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構え をもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを 得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001BHZ
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」で sy が、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。　参考文献にあげられている本を読むこと。		

受講者への要望

と もかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構え をもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを 得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JMC001BJH
科目名	スタートアップゼミＢ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	大学の勉強は、高校までの勉強のやり方では通用しない場合が多い。法律学という新しい学問を学ぶ場合には、特にそうだといえる。そこで、スタートアップゼミＢでは、スタートアップゼミＡの成果を発展させつつ、さらに法学を学ぶための基礎学力の錬成と、法学の学習に見合った基本的な技術の習得とを目指すこととする。		
教材（テキスト）	京都学園大学法学会編『法学の扉〔第３版〕』（成文堂、2007 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	演習運営への貢献度（30%）、課題の提出物（作文、レジュメ、口頭発表等）（70%）によって評価する。出席状況が不良の場合には単位を認定しないこともある。		
到達目標	１）法的思考に慣れる。 ２）事案・判決文など論理性の高い文章を読みとる。 ３）スタートアップゼミＡで培った能力・技術をさらに発展させる。		
準備学習	教材『法学の扉』の事前に指示された箇所や、事前に配布される資料を読んで、不明な箇所を調べておくこと。演習内で解説した課題に関しては、後日理解度の確認のための試験を行うので復習しておくこと。		

受講者への要望

ゼミで課せられる作業や宿題に、まじめに、こつこつ取り組むこと。
本ゼミの単位を取得していなければ卒業できないので、休まずに心して取り組むこと。

講義の順序とポイント

『法学の扉』第３章で取り上げられているテーマを中心に、工夫をこらしたプログラムを展開する。
以下は講義の順序とポイントの目安である。

１　　イントロダクション
２　　法律の基礎知識
３　　日本の裁判システム
４　　裁判員制度　その１
５　　裁判員制度　その２
６　　報告
７　　マクドナルドのあぶないコーヒー　その１
８　　マクドナルドのあぶないコーヒー　その２
９　　あなたは大人？ ――子供の自己決定権について考えてみよう
１０　　エレベーターの取り替え費用
１１　交通事故　その１
１２　交通事故　その２
１３　会社は誰のものか？　その１
１４　報告
１５　報告とまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JMC001BKA
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ B では、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	課題解決を通じで、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想　MN 法 8 いろいろ発想　マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JMC001BKB
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミBでは、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	課題解決を通じで、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想　MN 法 8 いろいろ発想　マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JMC001BKC
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミBでは、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	課題解決を通じで、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想　MN 法 8 いろいろ発想　マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JMC001BKD
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	辻村　茂男	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミBでは、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	課題解決を通じで、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想　MN 法 8 いろいろ発想　マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JMC001BKE
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミBでは、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	課題解決を通じで、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想　MN 法 8 いろいろ発想　マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JMC001BKF
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ B では、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	課題解決を通じで、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想　MN 法 8 いろいろ発想　マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JMC001BKG
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ B では、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	課題解決を通じで、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想　MN 法 8 いろいろ発想　マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JMC001BKH
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミBでは、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	課題解決を通じで、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想　MN 法 8 いろいろ発想　マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JMC001BSA
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BSB
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	一丸　直哉	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		

受講者への要望

内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。

講義の順序とポイント

1）夏期休暇の課題レポート発表
2）小論文の書き方：主張のあるレポート
3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集
4）文章を読解する：アカデミック・リーディング
5）文章を要約する：パラグラフの分析
6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門
7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン
8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン
9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド
１０）ディベートの技法：議論の深め方

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BSC
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BSD
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BSE
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		

受講者への要望

内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。

講義の順序とポイント

1）夏期休暇の課題レポート発表
2）小論文の書き方：主張のあるレポート
3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集
4）文章を読解する：アカデミック・リーディング
5）文章を要約する：パラグラフの分析
6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門
7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン
8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン
9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド
１０）ディベートの技法：議論の深め方

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BSF
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	清水　昌	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		

受講者への要望

内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。

講義の順序とポイント

1）夏期休暇の課題レポート発表
2）小論文の書き方：主張のあるレポート
3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集
4）文章を読解する：アカデミック・リーディング
5）文章を要約する：パラグラフの分析
6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門
7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン
8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン
9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド
１０）ディベートの技法：議論の深め方

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BSG
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BSJ
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		

受講者への要望

内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。

講義の順序とポイント

1）夏期休暇の課題レポート発表
2）小論文の書き方：主張のあるレポート
3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集
4）文章を読解する：アカデミック・リーディング
5）文章を要約する：パラグラフの分析
6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門
7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン
8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン
9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド
１０）ディベートの技法：議論の深め方

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BSK
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC001BSL
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JMC002A0A
科目名	私の人生設計ＩＡ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IA		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。大学生活は，これからの人生をどのように歩んでいくのかについて考えていく上で，非常に重要な期間です。本科目では，人生を自ら切りひらく力の涵養を目的とし，自らが進む方向を定め，目標や計画を実現実行する力を養います。これらを通じて，これからの人生のあり方ついて考える機会を提供します。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布します。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題 2 回：40%		
到達目標	1. 主体的に今後の生活を送るために必要なスキルを身に付ける。 2. 目標を持って今後の生活をデザインすることができる。		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めることがあります。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返る 3. 自分を客観視する 4. 今後の生活を思い描く 5. 主体的に今後の生活を送るための自己管理（1） 6. 主体的に今後の生活を送るための自己管理（2） 7. 主体的に今後の生活を送るためのスキル（1） 8. 主体的に今後の生活を送るためのスキル（2） 9. 主体的に今後の生活を送るためのスキル（3） 10. 今後の生活をデザインしよう（1） 11. 今後の生活をデザインしよう（2） 12. 今後の生活をデザインしよう（3） 13.　計画の実行に必要なこと（1） 14.　計画の実行に必要なこと（2） 15.　明るい将来のために			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	JMC002A0B
科目名	私の人生設計ＩＡ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IA		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	事前に提示した課題を元に授業を進めますので，そのための事前準備が必要です。授業開始時までに必ず課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 自分を伝える・他者を知る
3. 高校生活と大学生活（1）
4. 高校生活と大学生活（2）
5. 高校生活と大学生活（3）
6. 主体的な大学生活を送るために
7. 円滑な意思疎通
8. 適切な情報共有のあり方
9. 「聴く」ことの大切さ
10. 他者への配慮
11. 合意形成の図り方
12. 成果を出すことと PDCA サイクル
13. 今後の大学生活を考える（1）
14. 今後の大学生活を考える（2）
15. 今後の大学生活を考える（3）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JMC002A0H
科目名	私の人生設計ＩＡ （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IA		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。大学生活は，これからの人生をどのように歩んでいくのかについて考えていく上で，非常に重要な期間です。本科目では，人生を自ら切りひらく力の涵養を目的とし，自らが進む方向を定め，目標や計画を実現実行する力を養います。これらを通じて，これからの人生のあり方ついて考える機会を提供します。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布します。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題 2 回：40%		
到達目標	1. 主体的に今後の生活を送るために必要なスキルを身に付ける。 2. 目標を持って今後の生活をデザインすることができる。		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めることがあります。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返る 3. 自分を客観視する 4. 今後の生活を思い描く 5. 主体的に今後の生活を送るための自己管理（1） 6. 主体的に今後の生活を送るための自己管理（2） 7. 主体的に今後の生活を送るためのスキル（1） 8. 主体的に今後の生活を送るためのスキル（2） 9. 主体的に今後の生活を送るためのスキル（3） 10. 今後の生活をデザインしよう（1） 11. 今後の生活をデザインしよう（2） 12. 今後の生活をデザインしよう（3） 13.　計画の実行に必要なこと（1） 14.　計画の実行に必要なこと（2） 15.　明るい将来のために			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	JMC002B0A
科目名	私の人生設計ＩＢ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IB		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，大学生活はこれからの人生をどのように歩んでいくのかについて考えていく上で，非常に重要な期間です。本科目では，私たちをとりまく社会環境について,「働く」ということを軸に理解を深めます。またそれと同時に，社会的生活には欠かせない，人と協力しながら成果を出す方法を学びます。これらにより，変化が激しい社会環境に適応し，生き抜く力を培うことを目的としています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題 2 回：40%		
到達目標	1. 現代の社会環境について理解を深め、その上で「働く」ということを多面的に理解する 2. 他者と協働して成果を出すことができる		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		

受講者への要望

1. 講義への主体的な参加を求めます。ペアあるいはグループ単位でワークを行うことがあり，欠席や遅刻をすると，それだけで他の人に迷惑をかける場合があります。
2. 課題達成に向けて，周囲の人と協働して動くことが求められます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンス
2. 「学ぶ」と「働く」の違い
3. 働くことの意味（1）
4. 働くことの意味（2）
5. 職業研究（1）
6. 職業研究（2）
7. 働く人の思考法（1）
8. 働く人の思考法（2）
9. 働く人の思考法（3）
10. 個人で成果を出すということ
11. チームで成果を出すということ
12. 協働を阻む要因
13. チームでの成果と PDCA サイクル
14. 社会で生き抜く力を考える
15. 社会で生き抜く力を身につけるために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★		★	★	

年度	2015	授業コード	JMC002B0H
科目名	私の人生設計ＩＢ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IB		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，大学生活はこれからの人生をどのように歩んでいくのかについて考えていく上で，非常に重要な期間です。本科目では，私たちをとりまく社会環境について,「働く」ということを軸に理解を深めます。またそれと同時に，社会的生活には欠かせない，人と協力しながら成果を出す方法を学びます。これらにより，変化が激しい社会環境に適応し，生き抜く力を培うことを目的としています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題 2 回：40%		
到達目標	1. 現代の社会環境について理解を深め、その上で「働く」ということを多面的に理解する 2. 他者と協働して成果を出すことができる		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		

受講者への要望

1. 講義への主体的な参加を求めます。ペアあるいはグループ単位でワークを行うことがあり，欠席や遅刻をすると，それだけで他の人に迷惑をかける場合があります。
2. 課題達成に向けて，周囲の人と協働して動くことが求められます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンス
2. 「学ぶ」と「働く」の違い
3. 働くことの意味（1）
4. 働くことの意味（2）
5. 職業研究（1）
6. 職業研究（2）
7. 働く人の思考法（1）
8. 働く人の思考法（2）
9. 働く人の思考法（3）
10. 個人で成果を出すということ
11. チームで成果を出すということ
12. 協働を阻む要因
13. チームでの成果と PDCA サイクル
14. 社会で生き抜く力を考える
15. 社会で生き抜く力を身につけるために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★		★	★	

年度	2015	授業コード	JMC003A0D
科目名	私の人生設計ⅡA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning ⅡA		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	人生を理解する上で重要な視点の一つに「役割」があります。職業社会に参入することにより，学生諸君は重要な役割が「学生」から「労働者」に変化すると同時に，この劇的な変化に適応していくことが求められます。このような変化に適応する為に必要になる事柄が「自己理解」そして「社会理解」です。 本科目では，「自己理解」「社会理解」を促進させる上で必要になる学術的知識を深く理解することを目的としています。ⅡAでは，特に「社会理解」に焦点を当てて授業を行います。		
教材（テキスト）	岩上真珠・大槻奈巳（編）　『大学生のためのキャリアデザイン入門』有斐閣　1800円＋税		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：65%　最終レポート：35%		
到達目標	現在の自分を取り巻く職業社会の状況について深く理解することができる 職業社会の状況と対比して，現在の自分が置かれている状況を客観視することができる 自らの人生設計を行う上でのヒントを得ることができる		
準備学習	授業は教科書の内容を踏まえて行います。そのため，指定された範囲の内容について事前に理解してくることが必要です。また，授業内では教科書の内容に基づいた発表を実施しますので，そのための事前準備や図書館などでの資料検索などが必要となります。		

受講者への要望

1. 能動的な姿勢で講義に出席してください。他者と協力する姿勢を持つことは必須要件です。
2. 周囲の人に迷惑となる行為（授業とは関係ない過度な私語など）を行わないこと。指示に従わない場合，教室からの退出を求め欠席扱いとします。
3. 提出期限等の期日を守ること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（授業の進め方）
《第１クール》：働くことに対する意識（第１章～第４章）
2. チームビルディング（担当箇所の決定）＆関連資料の収集
3. 資料をまとめる，発表の準備(1)
4. 資料をまとめる，発表の準備(2)
5. 発表と解説（第１章：ライフコースを知ろう）
6. 発表と解説（第２章：「大人になる」ことの意味）
7. 発表と解説（第３章：働くことを考える）
8. 発表と解説（第４章：変化のなかの若者と意識）
《第２クール》：職業社会を取り巻く状況と個人（第５章～第７章，第９章）
9. チームビルディング（担当箇所の決定）＆関連資料の収集
10. 資料をまとめる，発表の準備(1)
11. 資料をまとめる，発表の準備(2)
12. 発表と解説（第５章：大学から労働への移行）
13. 発表と解説（第６章：企業のフレキシビリティと労働者のキャリア）
14. 発表と解説（第７章：ワーク・ライフ・バランス）
15. 発表と解説（第９章：学びをいかし深める）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	JMC003A0G
科目名	私の人生設計ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning ⅡA		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	人生を理解する上で重要な視点の一つに「役割」があります。職業社会に参入することにより，学生諸君は重要な役割が「学生」から「労働者」に変化すると同時に，この劇的な変化に適応していくことが求められます。このような変化に適応する為に必要になる事柄が「自己理解」そして「社会理解」です。 本科目では，「自己理解」「社会理解」を促進させる上で必要になる学術的知識を深く理解することを目的としています。ⅡAでは，特に「社会理解」に焦点を当てて授業を行います。		
教材（テキスト）	岩上真珠・大槻奈巳（編）　『大学生のためのキャリアデザイン入門』有斐閣　1800円＋税		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：65%　最終レポート：35%		
到達目標	現在の自分を取り巻く職業社会の状況について深く理解することができる 職業社会の状況と対比して，現在の自分が置かれている状況を客観視することができる 自らの人生設計を行う上でのヒントを得ることができる		
準備学習	授業は教科書の内容を踏まえて行います。そのため，指定された範囲の内容について事前に理解してくることが必要です。また，授業内では教科書の内容に基づいた発表を実施しますので，そのための事前準備や図書館などでの資料検索などが必要となります。		

受講者への要望

1. 能動的な姿勢で講義に出席してください。他者と協力する姿勢を持つことは必須要件です。
2. 周囲の人に迷惑となる行為（授業とは関係ない過度な私語など）を行わないこと。指示に従わない場合，教室からの退出を求め欠席扱いとします。
3. 提出期限等の期日を守ること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（授業の進め方）
《第1クール》：働くことに対する意識（第1章～第4章）
2. チームビルディング（担当箇所の決定）＆関連資料の収集
3. 資料をまとめる，発表の準備(1)
4. 資料をまとめる，発表の準備(2)
5. 発表と解説（第1章：ライフコースを知ろう）
6. 発表と解説（第2章：「大人になる」ことの意味）
7. 発表と解説（第3章：働くことを考える）
8. 発表と解説（第4章：変化のなかの若者と意識）
《第2クール》：職業社会を取り巻く状況と個人（第5章～第7章，第9章）
9. チームビルディング（担当箇所の決定）＆関連資料の収集
10. 資料をまとめる，発表の準備(1)
11. 資料をまとめる，発表の準備(2)
12. 発表と解説（第5章：大学から労働への移行）
13. 発表と解説（第6章：企業のフレキシビリティと労働者のキャリア）
14. 発表と解説（第7章：ワーク・ライフ・バランス）
15. 発表と解説（第9章：学びをいかし深める）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	JMC003B0D
科目名	私の人生設計ⅡＢ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning ⅡB		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	人生を理解する上で重要な視点の一つに「役割」があります。職業社会に参入することにより，学生諸君は重要な役割が「学生」から「労働者」に変化すると同時に，この劇的な変化に適応していくことが求められます。このような変化に適応する為に必要になる事柄が「自己理解」そして「社会理解」です。 本科目では，「自己理解」「社会理解」を促進させる上で必要になる学術的知識を深く理解することを目的としています。ⅡＢでは，特に「自己理解」に焦点を当てて授業を行います。		
教材（テキスト）	若松養亮・下村英雄（編）　『詳解　大学生のキャリアガイダンス論』金子書房　2600 円＋税		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：65%　最終レポート：35%		
到達目標	将来のキャリアを考える上でヒントとなる学術的知見，理論を深く理解することができる 現在の自分が置かれている状況を客観視することができる 自らの人生設計を行う上でのヒントを得ることができる		
準備学習	授業は教科書の内容を踏まえて行います。そのため，指定された範囲の内容について事前に理解してくることが必要です。また，授業内では教科書の内容に基づいた発表を実施しますので，そのための事前準備や図書館などでの資料検索などが必要となります。		

受講者への要望

1. 能動的な姿勢で講義に出席してください。他者と協力する姿勢を持つことは必須要件です。
2. 周囲の人に迷惑となる行為（授業とは関係ない過度な私語など）を行わないこと。指示に従わない場合，教室からの退出を求め欠席扱いとします。
3. 提出期限等の期日を守ること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（授業の進め方）
《第１クール》：大学生のキャリア選択と支援（第１章～第４章）
2. チームビルディング（担当箇所の決定）＆関連資料の収集
3. 資料をまとめる，発表の準備①
4. 資料をまとめる，発表の準備②
5. 発表と解説（第１章：環境はどう変わったのか）
6. 発表と解説（第２章：就職はなぜ難しいのか）
7. 発表と解説（第３章：決められないのはなぜか）
8. 発表と解説（第４章：何のために働くのか）
《第２クール》：キャリアを考える（第５章，第７章，第８章，第 10 章）
9. チームビルディング（担当箇所の決定）＆関連資料の収集
10. 資料をまとめる，発表の準備①
11. 資料をまとめる，発表の準備②
12. 発表と解説（第５章：キャリア選択の性差）
13. 発表と解説（第７章：社会人になるとはどういうことか）
14. 発表と解説（第８章：キャリアガイダンスでは何が重要か）
15. 発表と解説（第 10 章：学生から職業人への橋渡し）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	JMC003B0G
科目名	私の人生設計ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning ⅡB		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	人生を理解する上で重要な視点の一つに「役割」があります。職業社会に参入することにより，学生諸君は重要な役割が「学生」から「労働者」に変化すると同時に，この劇的な変化に適応していくことが求められます。このような変化に適応する為に必要になる事柄が「自己理解」そして「社会理解」です。 本科目では，「自己理解」「社会理解」を促進させる上で必要になる学術的知識を深く理解することを目的としています。ⅡBでは，特に「自己理解」に焦点を当てて授業を行います。		
教材（テキスト）	若松養亮・下村英雄（編）　『詳解　大学生のキャリアガイダンス論』金子書房　2600円＋税		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：65%　最終レポート：35%		
到達目標	将来のキャリアを考える上でヒントとなる学術的知見，理論を深く理解することができる 現在の自分が置かれている状況を客観視することができる 自らの人生設計を行う上でのヒントを得ることができる		
準備学習	授業は教科書の内容を踏まえて行います。そのため，指定された範囲の内容について事前に理解してくることが必要です。また，授業内では教科書の内容に基づいた発表を実施しますので，そのための事前準備や図書館などでの資料検索などが必要となります。		

受講者への要望

1. 能動的な姿勢で講義に出席してください。他者と協力する姿勢を持つことは必須要件です。
2. 周囲の人に迷惑となる行為（授業とは関係ない過度な私語など）を行わないこと。指示に従わない場合，教室からの退出を求め欠席扱いとします。
3. 提出期限等の期日を守ること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（授業の進め方）
《第1クール》：大学生のキャリア選択と支援（第1章～第4章）
2. チームビルディング（担当箇所の決定）＆関連資料の収集
3. 資料をまとめる，発表の準備①
4. 資料をまとめる，発表の準備②
5. 発表と解説（第1章：環境はどう変わったのか）
6. 発表と解説（第2章：就職はなぜ難しいのか）
7. 発表と解説（第3章：決められないのはなぜか）
8. 発表と解説（第4章：何のために働くのか）
《第2クール》：キャリアを考える（第5章，第7章，第8章，第10章）
9. チームビルディング（担当箇所の決定）＆関連資料の収集
10. 資料をまとめる，発表の準備①
11. 資料をまとめる，発表の準備②
12. 発表と解説（第5章：キャリア選択の性差）
13. 発表と解説（第7章：社会人になるとはどういうことか）
14. 発表と解説（第8章：キャリアガイダンスでは何が重要か）
15. 発表と解説（第10章：学生から職業人への橋渡し）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	JMC004001
科目名	インターンシップ入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship (Introduction)		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	学生が京都の企業に企業留学し，学修へのモチベーションを高めるとともに，卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（アドバンスト・インターンシップ・プログラム；ＡＩＰ）の「最初」に位置付けられる科目である。 ①ビジネスマナー・ビジネス文書の作成等のビジネススキルの実習を行うほか、②なぜ、インターンシップに取り組むのかを考え、実習に向けた目標の設定をグループワーク形式で行い、実習メンバー間の目的意識を共有することを通じて、実習経験を最大限活かせるような「態度」を身につけることとする。		
教材（テキスト）	プリント資料の配付		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	事前授業の取組態度(20％) 具体的には、発言等々の授業への参加状況を総合的に評価する 実習前の「事前レポート」(80％)		
到達目標	１．企業で働く上で、必要となる基礎的マナーを身につける ２．企業で働く上でのルールや注意しなければならない点について理解する。 ３．実習に取り組む上で個人的な目標設定を行う。 ４．インターンシップそのものの重要性について理解する。		
準備学習	講義内容は全て今後の実習において実際に活用しうる内容であるため、必ず復習を行い、実践できるようにすること。また、予習として新聞(日本経済新聞)・雑誌(東洋経済･ダイヤモンド・プレジデントなど)等を読み、企業社会の実情や企業所属する個人の働き方等に触れること。 （授業内でも、当日の新聞･雑誌記事を素材に、意見交換を行うことがある。）		

受講者への要望

授業は、教員･学生間双方向でやっていく予定であるので、あらゆる局面において、自分の意見を持ち、活発な意見交換をお願いする。これからのインターシップ実習を想定しながら、意欲的に取り組んで欲しい。

講義の順序とポイント

Ⅰ　目的意識の明確化
1. 参加メンバーの相互理解
2. インターンシップに取り組む目的とその共有
3. 先輩から学ぶ AIP
4.大学の学びとインターンシップ①
　　－学部での学びから次の STEP へ
5. 大学の学びとインターンシップ②
　　－インターンシップで何を学ぶか

Ⅱ　職場での基礎的なルールとマナーを学ぶ
6. ビジネスでのルールを知る①
7. ビジネスでのルールを知る②
8. ビジネスでのルールを知る③
9. メンタルヘルス①
10. メンタルヘルス②
11. インターンシップの危機管理

Ⅲ　実習に向けた準備
12. 実習に向けた目標設定①
13. 実習に向けた目標設定②

14. 実習に向けた目標設定③
15.実習に向けた目標設定④

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★			★		

年度	2015	授業コード	JMC005001
科目名	企業実務A	単位数	4
科目名（英語表記）			
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を理解し，組織に適応するプロセスについて学びます。		
教材（テキスト）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて適宜資料を提示する。		
評価方法	実務での取組姿勢や面談指導，情報共有会での取組を総合的に判断して評価する。 なお，単位認定の為には面談指導，情報共有会への出席を必須とする。		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を深く理解することができる (2)：組織に適応していくことができる		
準備学習	実務前に自らが取り組む予定である業務がどのようなものであるかについて調べ，具体的なイメージを固めておくこと。合わせて，実務に取り組むにあたり必要となる事柄について準備を進めた上で実務に臨むこと。		
受講者への要望			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるように努力すること。			
講義の順序とポイント			
企業での実務（週4日）と面談指導（週1回）のペースで4週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月に1回情報共有会を実施するため，必ず参加すること。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JMC006001
科目名	企業実務Ｂ	単位数	4
科目名（英語表記）			
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（テキスト）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて適宜資料を提示する。		
評価方法	実務での取組姿勢や面談指導，情報共有会での取組を総合的に判断して評価する。 なお，単位認定の為には面談指導，情報共有会への出席を必須とする。		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：組織に適応し，与えられた職務・役割を通じて貢献していくことができる (3)：社会で必要な「学び」についてのヒントを得ることができる		
準備学習	自らが取り組んでいる業務・役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		
受講者への要望			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるように努力すること。			
講義の順序とポイント			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 4 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月に 1 回情報共有会を実施するため，必ず参加すること。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JMC007001
科目名	企業実務C	単位数	4
科目名（英語表記）			
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行する上で必要なこと，そして社会で必要な「学び」と大学での「学び」の繋がりについて学びます。		
教材（テキスト）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて適宜資料を提示する。		
評価方法	実務での取組姿勢や面談指導，情報共有会での取組を総合的に判断して評価する。 なお，単位認定の為には面談指導，情報共有会への出席を必須とする。		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：社会で必要となる「学び」の本質について理解することができる		
準備学習	自らが取り組んでいる業務・役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		
受講者への要望			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるように努力すること。			
講義の順序とポイント			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 4 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月に 1 回情報共有会を実施するため，必ず参加すること。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JMC008001
科目名	企業実務D	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行する上で必要なこと，そして社会で必要な「学び」と大学での「学び」の繋がりについて学びます。		
教材（テキスト）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて適宜資料を提示する。		
評価方法	実務での取組姿勢や面談指導，情報共有会での取組を総合的に判断して評価する。 なお，単位認定の為には面談指導，情報共有会への出席を必須とする。		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：社会で必要となる「学び」の本質について理解することができる		
準備学習	自らが取り組んでいる業務・役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		
受講者への要望			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるように努力すること。			
講義の順序とポイント			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 2 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月に 1 回情報共有会を実施するため，必ず参加すること。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JMC009001
科目名	京の企業A	単位数	2
科目名（英語表記）	Small and Medium Enterprises in Kyoto A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	本科目は企業で「働く」という事に対する理解を深めると同時に，京都の企業に対する興味関心を深め，自分なりの「働く」ことに対する意味を探求する科目です。組織の中で働くとはどういうことか，そして与えられた役割を果たすとはどういうことかについて考え，職業社会への参入に向けた準備を行います。なお，本科目はアドバンスト・インターンシップ・プログラムを修了する為の必須科目（事前学修科目）に指定されています。		
教材（テキスト）	特になし．必要に応じて適宜指示する．		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する．		
教材（その他）	必要に応じて適宜指示する．		
評価方法	授業中に指示する課題への取組(50%)，レポート課題(50%)		
到達目標	企業で働くことに対する理解を深めることができる 京都の企業に対する理解を深めることができる 「働く」ことに対する自分なりの意味づけを持つことができる		
準備学習	授業内で提示した課題に関する事前調査が必須となるので，授業開始時までに必ず指示した内容について調べ，内容を整理しておくこと．		

受講者への要望

本科目はインターンシップとして職業社会に参入するための準備的意味合いを持つ科目です。よって，普段の行動についても社会人と同様の水準で評価します。理由なき遅刻，欠席は厳禁です。提出物についても必ず期日を守ること。また，本科目を受講しなければ企業実務への参加をすることが出来ませんので，真摯な態度で受講してください。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス＆職業の意義とは何か？
2.先輩から学ぶインターンシップ
3.「社会的役割を果たす」とは？
4.「労働力」と「給料」
5.「天職とは？」
6.日本の雇用と働く仕組み
7.京都の企業を知る①
8.京都の企業を知る②
9.京都の企業を知る③
10.職務を理解する①
11.職務を理解する②
12.職務を理解する③
13.「社会的役割」としての仕事①
14.「社会的役割」としての仕事②
15.「社会的役割」としての仕事③

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JMC010001
科目名	京の企業Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Small and Medium Enterprises in Kyoto B		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	本科目はインターンシップを通じた実務経験の振り返りを通じて,「働く」ことの意味について再構築する科目です。インターンシップでの実務経験と対比しながら「働く」ということについて考えると同時に，社会で必要となる「学び」の形とは何かについて考えます。なお，本科目はアドバンスト・インターンシップ・プログラムを修了する為の必須科目（事後学修科目）に指定されています。		
教材（テキスト）	特になし．必要に応じて資料を配付する．		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する．		
教材（その他）	必要に応じて適宜資料を提示する．		
評価方法	授業中に提示する課題への取組(50%)とレポート課題(50%)		
到達目標	「働く」ことについて，実務経験を踏まえてその意味を再認識することができる 社会で必要となる「学び」の形について深く理解することができる インターンシップでの経験を体系化してまとめることができる		
準備学習	実務経験を通じて感じた事柄を具体化していく作業を授業内で実施しますので，自分の考えや感じたことをあらかじめメモや文章などにしてまとめておくことが必要となります。また，授業内で資料作成等の指示を出しますので，期日までに必ず完成させること。		

受講者への要望

これまでの経験を踏まえ，普段の行動についても社会人と同様の水準で評価します。理由なき遅刻，欠席は厳禁です。提出物についても必ず期日を守ること。

講義の順序とポイント

1.実務経験を考える
2.組織社会化①
3.組織社会化②
4.職業の意義・再考
5.企業で働くことの意味①
6.企業で働くことの意味②
7.学校から職業への移行①
8.学校から職業への移行②
9.京の企業で働く①
10.京の企業で働く②
11.京の企業で働く③
12.社会に繋がる学び①
13.社会に繋がる学び②
14.社会に繋がる学び③
15.社会に繋がる学び④

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JMQ001701
科目名	インターンシップA	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship A		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境学部では企業や行政機関との間でインターンシップ制度を設ける。参加した学生が、実際にバイオサイエンスや環境の技術を応用研究している研究所等で実体験を通して研究する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	参加したプログラムの時間数や内容により、終了後本学に提出されたレポートやインターンシップの受け入れ先からの評価書を基に、担当教員が審査の上、「インターンシップA」として単位認定する。		
到達目標	自らの研究テーマをより確実なものとすることを目指す。		
準備学習	準備のために必要な説明会を開催する。 参加企業で事前に出された課題について準備すること。 一日の終了後は、その日に行ったこと、何が問題であったかを記録し、翌日の改善に利用する。		
受講者への要望			
時間厳守で望むこと。受け入れ先のルールを守り、行動の規律を遵守すること。誠実に参加することを求めます。			
講義の順序とポイント			
以下の順序で行う ・説明会を開催し、受け入れ先の紹介、各受講生の希望聴取などを行う。 ・各受講生の受け入れ先を決定。 ・インターンシップの実施 ・報告書の提出 ・適当な時期に、発表会を開催し、各受講生が体験等を発表する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	21	18	24	24	20	20
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2015	授業コード	JMQ001702
科目名	インターンシップA	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	本学が指定および募集を行う企業や行政機関におけるインターンシップに参加し、現場を実体験することを通して、今後の学習のみならず将来の進路決定に役立てる。		
教材（テキスト）	＊説明会や事前研修において指示する。 ＊受け入れ先、ならびにキャリアサポートセンター、大学コンソーシアム京都、教育修学支援センターなどの関係部所や機関からの指示に従うこと。		
教材（参考文献）	＊説明会や事前研修において指示する。 ＊受け入れ先、ならびにキャリアサポートセンター、大学コンソーシアム京都、教育修学支援センターなどの関係部所や機関からの指示に従うこと。		
教材（その他）	＊説明会や事前研修において指示する。 ＊受け入れ先、ならびにキャリアサポートセンター、大学コンソーシアム京都、教育修学支援センターなどの関係部所や機関からの指示に従うこと。		
評価方法	本学が当該科目と関係すると判断した受け入れ先において研修を受けた時間とその内容、受け入れ先からの所見または評価、ならびに参加者自身がインターンシップ終了後、本学に提出あるいは/且つ発表したレポートを基に、審査の上、「インターンシップA」として単位認定する。		
到達目標	＊自らの学習を振り返るとともに、自身において不足している学習領域を確認する。 ＊進路決定に役立てる。 ＊ビジネスマナーやコミュニケーション力を向上させる。		
準備学習	＊キャリアサポートセンターや教育修学支援センターや大学コンソーシアム京都などの各関連部所からの要請や指示に従うことが、例えば、選考会、説明会、事前研修、終了後報告会などへの参加や発表が求められる。 ＊事前に、ビジネスマナーや受け入れ先までのルートや到着時間などについて指導を受けるので、それらについて自身で何度も確認しておくことが必要となる。 ＊上記の例示において記載されているように、インターンシップ終了後は、自身の到達目標に届いたか否かを含み学んだことをレポートにまとめ提出すること、あるいは/且つ発表することも求められる。		
受講者への要望			
＊選抜が行われることもある。 ＊時間厳守で望むこと。受け入れ先のルールを守り、行動の規律を遵守し、誠実に参加すること。 ＊キャリアサポートセンターや教育修学支援センターや大学コンソーシアム京都などの各関連部所からの要請や指示に従うこと。 ＊インターンシップ終了後は、自身の到達目標に届いたか否かを含み学んだことをレポートにまとめ提出すること、あるいは/且つ発表することも求められる。			
講義の順序とポイント			
大まかには、以下の順序で行う 1.説明会を開催し、受け入れ先の紹介、または必要に応じて各受講生の希望聴取や選考会などを行う 2.各受講生の受け入れ先を決定 3.事前研修 4.〜13.受け入れ先での研修 14〜15.研修日誌やレポートの提出あるいは/且つ発表 ＊研修期間は受け入れ先によって異なる。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JMQ001703
科目名	インターンシップA	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship A		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	企業や行政機関における現場での実体験を通して、現場を知るとともに、将来の進路決定にも役立てる。		
教材（テキスト）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
教材（参考文献）	説明会・事前研修において指示する。		
教材（その他）	説明会・事前研修などにおいて指示する・		
評価方法	参加した時間数、内容、 課題のレポート・発表 インターンシップ受け入れ先からの評価書を基に単位を認定する。		
到達目標	社会に出て働く上で時分に不足している知識や能力を知る。 社会における基本的なマナーや責任の意識を身につける。 将来の進路決定に役立てる。		
準備学習	事前研修などで指定されるのでそれに従うこと。必ず復習をして、身につけること。 スケジュールの管理が出来るよう準備すること。		
受講者への要望			
時間厳守。受け入れ先のルールを守り、責任を持って行動の規律を遵守し、誠実に参加すること。			
講義の順序とポイント			
以下の順序で行う。 ・　説明会を開催し、受け入れ先の紹介、（必要に応じて）各受講生の希望聴取や選考会を行う。 ・　各受講生の受け入れ先を決定 ・　事前研修 ・　インターンシップの実施 ・　レポート、　報告書などの提出			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JMQ001704
科目名	インターンシップA	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship A		
担当者名	松田　哲	旧科目名称	
講義概要	インターンシップで職業体験をすることおよびそのためにその前後に行う学習で必要な知識・マナーを身につける。 【注意】　対象となるインターンシップは、京都学園大学が主催するものおよび大学コンソーシアム京都主催のものに限る。いずれも募集期間中に応募し、履修が認められることが必要である。		
教材（テキスト）	説明会、事前研修等において指示する。		
教材（参考文献）	説明会、事前研修等において指示する。		
教材（その他）	説明会、事前研修等において指示する。		
評価方法	本学または大学コンソーシアム京都主催の ・インターンシップ・プログラムの履修が認められ、 ・すべての事前・事後学習に出席し、 ・実習に休まず参加し、かつ、 ・課題レポートを提出した者について そのレポートおよび受入先企業からの評価書を基に単位を認定する。		
到達目標	・自らに不足している知識を認識すること。 ・自らに不足している能力を認識すること。 ・働くことの責任を認識すること。 ・目標とするキャリアの仕事内容およびやりがいを理解すること。		
準備学習	・それぞれの事前研修等で指定される。 ・事前研修で習った事柄を次回までに必ず復習し、しっかりと身につけること。 ・あらかじめ規則正しく生活することを身につけること。		

受講者への要望

・大学で開催される説明会には、必ず参加すること。
・常に時間厳守であること。
・スケジュール管理を怠らないこと。

講義の順序とポイント

(1)京都学園大学のインターンシップおよび(2)コンソーシアム京都主催のインターンシップの概要は下記のとおり。なお、事前事後の研修の詳細については、各主催者のパンフレットを参照すること。

(1)京都学園大学のインターンシップ
第 1 回　履修についてのオリエンテーション
第 2 回　実習のための準備について
第 3 回　一般的マナーについて
第 4 回　ビジネスマナーについて
第 5 回　ビジネスマナー実習
第 6 回　グループワーク
第 7 回　プレゼンテーションスキル
第 8 回　実習準備
第 9 回　実習直前ミーティング
～インターンシップ実習（10 日～30 日間）～
第 10 回　インターンシップ実習結果報告
第 11 回　インターンシップ結果報告会 1
第 12 回　インターンシップ結果報告会 2

(2)大学コンソーシアム京都主催のインターンシップ
○プログレスコース・・・6 月～11 月の約 5 ヶ月間、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）が提示したテーマに沿ってプロジェクト型のインターンシップを行う。

○ビジネス・パブリックコース・・・8 月中旬～9 月中旬に、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）において 2 週間～1 ヶ月程度の実習を行う。

○プログレスコース内容
第 1 講　オリエンテーション
第 2 講　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト・マネジメントの概要 －PCM の講義- ）
第 3 講　企業人ならびに修了生によるプレゼンテーション
第 4 講　コミュニケーショントレーニング
第 5 講　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン①）
第 6 講　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン②）
第 7 講　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン③）
第 8 講　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン④）
第 9 講　プロジェクト・マネジメント（今後の活動の確認、活動計画の発表）
第 10 講　プロジェクト・マネジメント（他プロジェクトとの意見交換）
～夏期休暇中に受入先企業にてプロジェクト～
第 11 講　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト中間報告）
第 12 講　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト評価方法の概要）
第 13 講　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーショントレーニング）
第 14 講　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備①）
第 15 講　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備②）
第 16 講　プロジェクト・マネジメント（自己評価：プログラム受講を通しての自己の変化を振り返る）
第 17 講　 成果報告会・修了式
第 18 講　 成果報告会・修了式
第 19 講　 成果報告会・修了式
第 20 講　 成果報告会・修了式
※　1 日 2 講の講義を行い、 成果報告会・修了式は 1 日かけて行う。

○ビジネスコース・パブリックコース
第 1 講　オリエンテーション ： 実習参加の心構え
第 2 講　クラスの相互理解
第 3 講　実習に向けた目標と仮説設定＜グループディスカッション＞
第 4 講　コミュニケーショントレーニング
第 5 講　コミュニケーショントレーニング
第 6 講　スキルアップトレーニング
第 7 講　スキルアップトレーニング
第 8 講　業界と社会に対する学習①＜ゲストスピーカーの講演＞
第 9 講　業界と社会に対する学習②＜ディスカッション＞
第 10 講　実習に向けた目標と仮説設定①＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
第 11 講　実習に向けた目標と仮説設定②＜実習直前の相互確認＞
第 12 講　リスクマネジメント講習
第 13 講　オリエンテーション ： 実習にあたって
～実習（8 月中旬～9 月中旬）～
補講　 ※クラスによって実施される場合があります
第 14 講　実習における経験交流＜経験の共有①＞
第 15 講　実習における経験交流＜経験の共有②＞
第 16 講　実習における経験交流＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
第 17 講　今後の学生生活を考える＜レポート作成に向けてのまとめ＞
第 18 講　全体講評・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	JMQ001705
科目名	インターンシップA	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	インターンシップで職業体験をすることおよびそのためにその前後に行う学習で必要な知識・マナーを身につける。 【注意】　対象となるインターンシップは、京都学園大学が主催するものおよび大学コンソーシアム京都主催のものに限る。いずれも募集期間中に応募し、履修が認められることが必要である。		
教材（テキスト）	説明会、事前研修等において指示する。		
教材（参考文献）	説明会、事前研修等において指示する。		
教材（その他）	説明会、事前研修等において指示する。		
評価方法	本学または大学コンソーシアム京都主催の ・インターンシップ・プログラムの履修が認められ、 ・すべての事前・事後学習に出席し、 ・実習に休まず参加し、かつ、 ・課題レポートを提出した者について そのレポートおよび受入先企業からの評価書を基に単位を認定する。		
到達目標	・自らに不足している知識を認識すること。 ・自らに不足している能力を認識すること。 ・働くことの責任を認識すること。 ・目標とするキャリアの仕事内容およびやりがいを理解すること。		
準備学習	・それぞれの事前研修等で指定される。 ・事前研修で習った事柄を次回までに必ず復習し、しっかりと身につけること。 ・あらかじめ規則正しく生活することを身につけること。		

受講者への要望

・大学で開催される説明会には、必ず参加すること。
・常に時間厳守であること。
・スケジュール管理を怠らないこと。

講義の順序とポイント

(1)京都学園大学のインターンシップおよび(2)コンソーシアム京都主催のインターンシップの概要は下記のとおり。なお、事前事後の研修の詳細については、各主催者のパンフレットを参照すること。

(1)京都学園大学のインターンシップ
第 1 回　履修についてのオリエンテーション
第 2 回　実習のための準備について
第 3 回　一般的マナーについて
第 4 回　ビジネスマナーについて
第 5 回　ビジネスマナー実習
第 6 回　グループワーク
第 7 回　プレゼンテーションスキル
第 8 回　実習準備
第 9 回　実習直前ミーティング
～インターンシップ実習（10 日～30 日間）～
第 10 回　インターンシップ実習結果報告
第 11 回　インターンシップ結果報告会 1
第 12 回　インターンシップ結果報告会 2

(2)大学コンソーシアム京都主催のインターンシップ
○プログレスコース・・・6 月～11 月の約 5 ヶ月間、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）が提示したテーマに沿ってプロジェクト型のインターンシップを行う。

○ビジネス・パブリックコース・・・8 月中旬～9 月中旬に、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）において 2 週間～1 ヶ月程度の実習を行う。

○プログレスコース内容
第 1 講　オリエンテーション
第 2 講　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト・マネジメントの概要 －PCM の講義- ）
第 3 講　企業人ならびに修了生によるプレゼンテーション
第 4 講　コミュニケーショントレーニング
第 5 講　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン①）
第 6 講　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン②）
第 7 講　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン③）
第 8 講　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン④）
第 9 講　プロジェクト・マネジメント（今後の活動の確認、活動計画の発表）
第 10 講　プロジェクト・マネジメント（他プロジェクトとの意見交換）
～夏期休暇中に受入先企業にてプロジェクト～
第 11 講　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト中間報告）
第 12 講　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト評価方法の概要）
第 13 講　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーショントレーニング）
第 14 講　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備①）
第 15 講　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備②）
第 16 講　プロジェクト・マネジメント（自己評価：プログラム受講を通しての自己の変化を振り返る）
第 17 講　 成果報告会・修了式
第 18 講　 成果報告会・修了式
第 19 講　 成果報告会・修了式
第 20 講　 成果報告会・修了式
※　1 日 2 講の講義を行い、 成果報告会・修了式は 1 日かけて行う。

○ビジネスコース・パブリックコース
第 1 講　オリエンテーション ： 実習参加の心構え
第 2 講　クラスの相互理解
第 3 講　実習に向けた目標と仮説設定＜グループディスカッション＞
第 4 講　コミュニケーショントレーニング
第 5 講　コミュニケーショントレーニング
第 6 講　スキルアップトレーニング
第 7 講　スキルアップトレーニング
第 8 講　業界と社会に対する学習①＜ゲストスピーカーの講演＞
第 9 講　業界と社会に対する学習②＜ディスカッション＞
第 10 講　実習に向けた目標と仮説設定①＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
第 11 講　実習に向けた目標と仮説設定②＜実習直前の相互確認＞
第 12 講　リスクマネジメント講習
第 13 講　オリエンテーション ： 実習にあたって
～実習（8 月中旬～9 月中旬）～
補講　 ※クラスによって実施される場合があります
第 14 講　実習における経験交流＜経験の共有①＞
第 15 講　実習における経験交流＜経験の共有②＞
第 16 講　実習における経験交流＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
第 17 講　今後の学生生活を考える＜レポート作成に向けてのまとめ＞
第 18 講　全体講評・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	JMQ001706
科目名	インターンシップA	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	本学が指定および募集を行う企業や行政機関におけるインターンシップに参加し、現場を実体験することを通して、今後の学習のみならず将来の進路決定に役立てる。		
教材（テキスト）	＊説明会や事前研修において指示する。 ＊受け入れ先、ならびにキャリアサポートセンター、大学コンソーシアム京都、教育修学支援センターなどの関係部所や機関からの指示に従うこと。		
教材（参考文献）	＊説明会や事前研修において指示する。 ＊受け入れ先、ならびにキャリアサポートセンター、大学コンソーシアム京都、教育修学支援センターなどの関係部所や機関からの指示に従うこと。		
教材（その他）	＊説明会や事前研修において指示する。 ＊受け入れ先、ならびにキャリアサポートセンター、大学コンソーシアム京都、教育修学支援センターなどの関係部所や機関からの指示に従うこと。		
評価方法	本学が当該科目と関係すると判断した受け入れ先において研修を受けた時間とその内容、受け入れ先からの所見または評価、ならびに参加者自身がインターンシップ終了後、本学に提出あるいは/且つ発表したレポートを基に、審査の上、「インターンシップA」として単位認定する。		
到達目標	＊自らの学習を振り返るとともに、自身において不足している学習領域を確認する。 ＊進路決定に役立てる。 ＊ビジネスマナーやコミュニケーション力を向上させる。		
準備学習	＊キャリアサポートセンターや教育修学支援センターや大学コンソーシアム京都などの各関連部所からの要請や指示に従うことが、例えば、選考会、説明会、事前研修、終了後報告会などへの参加や発表が求められる。 ＊事前に、ビジネスマナーや受け入れ先までのルートや到着時間などについて指導を受けるので、それらについて自身で何度も確認しておくことが必要となる。 ＊上記の例示において記載されているように、インターンシップ終了後は、自身の到達目標に届いたか否かを含み学んだことをレポートにまとめ提出すること、あるいは/且つ発表することも求められる。		
受講者への要望			
＊選抜が行われることもある。 ＊時間厳守で望むこと。受け入れ先のルールを守り、行動の規律を遵守し、誠実に参加すること。 ＊キャリアサポートセンターや教育修学支援センターや大学コンソーシアム京都などの各関連部所からの要請や指示に従うこと。 ＊インターンシップ終了後は、自身の到達目標に届いたか否かを含み学んだことをレポートにまとめ提出すること、あるいは/且つ発表することも求められる。			
講義の順序とポイント			
大まかには、以下の順序で行う 1.説明会を開催し、受け入れ先の紹介、または必要に応じて各受講生の希望聴取や選考会などを行う 2.各受講生の受け入れ先を決定 3.事前研修 4.〜13.受け入れ先での研修 14〜15.研修日誌やレポートの提出あるいは/且つ発表 ＊研修期間は受け入れ先によって異なる。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JMQ003901
科目名	インターンシップB	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship B		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境学部では企業や行政機関との間でインターンシップ制度を設ける。参加した学生が、実際にバイオサイエンスや環境の技術を応用研究している研究所等で実体験を通して研究する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	インターンシップに参加した場合、終了後、本学に提出され、レポートやインターンシップの受け入れ先からの評価書を基に、担当教員が審査の上、「インターンシップB」として、単位認定する。		
到達目標	自らの研究テーマをより確実なものとすることを目指す。		
準備学習	準備のために必要な説明会を開催する。 参加企業で事前に出された課題について準備すること。 一日の終了後は、その日に行ったこと、何が問題であったかを記録し、翌日の改善に利用する。		
受講者への要望			
時間厳守で望むこと。受け入れ先のルールを守り、行動の規律を遵守すること。誠実に参加することを求めます。			
講義の順序とポイント			
以下の順序で行う ・説明会を開催し、受け入れ先の紹介、各受講生の希望聴取などを行う。 ・各受講生の受け入れ先を決定。 ・インターンシップの実施 ・報告書の提出 ・適当な時期に、発表会を開催し、各受講生が体験等を発表する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	21	18	24	24	20	20
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2015	授業コード	JMQ003902
科目名	インターンシップB	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	本学が指定および募集を行う企業や行政機関におけるインターンシップに参加し、現場を実体験することを通して、今後の学習のみならず将来の進路決定に役立てる。		
教材（テキスト）	＊説明会や事前研修において指示する。 ＊受け入れ先、ならびにキャリアサポートセンター、大学コンソーシアム京都、教育修学支援センターなどの関係部所や機関からの指示に従うこと。		
教材（参考文献）	＊説明会や事前研修において指示する。 ＊受け入れ先、ならびにキャリアサポートセンター、大学コンソーシアム京都、教育修学支援センターなどの関係部所や機関からの指示に従うこと。		
教材（その他）	＊説明会や事前研修において指示する。 ＊受け入れ先、ならびにキャリアサポートセンター、大学コンソーシアム京都、教育修学支援センターなどの関係部所や機関からの指示に従うこと。		
評価方法	本学が当該科目と関係すると判断した受け入れ先において研修を受けた時間とその内容、受け入れ先からの所見または評価、ならびに参加者自身がインターンシップ終了後、本学に提出あるいは/且つ発表したレポートを基に、審査の上、「インターンシップＢ」として単位認定する。		
到達目標	＊自らの学習を振り返るとともに、自身において不足している学習領域を確認する。 ＊進路決定に役立てる。 ＊ビジネスマナーやコミュニケーション力を向上させる。		
準備学習	＊キャリアサポートセンターや教育修学支援センターや大学コンソーシアム京都などの各関連部所からの要請や指示に従うことが、例えば、選考会、説明会、事前研修、終了後報告会などへの参加や発表が求められる。 ＊事前に、ビジネスマナーや受け入れ先までのルートや到着時間などについて指導を受けるので、それらについて自身で何度も確認しておくことが必要となる。 ＊上記の例示において記載されているように、インターンシップ終了後は、自身の到達目標に届いたか否かを含み学んだことをレポートにまとめ提出すること、あるいは/且つ発表することも求められる。		
受講者への要望			
＊選抜が行われることもある。 ＊時間厳守で望むこと。受け入れ先のルールを守り、行動の規律を遵守し、誠実に参加すること。 ＊キャリアサポートセンターや教育修学支援センターや大学コンソーシアム京都などの各関連部所からの要請や指示に従うこと。 ＊インターンシップ終了後は、自身の到達目標に届いたか否かを含み学んだことをレポートにまとめ提出すること、あるいは/且つ発表することも求められる。			
講義の順序とポイント			
大まかには、以下の順序で行う 1.説明会を開催し、受け入れ先の紹介、または必要に応じて各受講生の希望聴取や選考会などを行う 2.各受講生の受け入れ先を決定 3.事前研修 4.〜13.受け入れ先での研修 14〜15.研修日誌やレポートの提出あるいは/且つ発表 ＊研修期間は受け入れ先によって異なる。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JMQ003903
科目名	インターンシップB	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship B		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	企業や行政機関における現場での実体験を通して、現場を知るとともに、将来の進路決定にも役立てる。		
教材（テキスト）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
教材（参考文献）	説明会・事前研修において指示する。		
教材（その他）	説明会・事前研修などにおいて指示する・		
評価方法	参加した時間数、内容、 課題のレポート・発表 インターンシップ受け入れ先からの評価書を基に単位を認定する。		
到達目標	社会に出て働く上で時分に不足している知識や能力を知る。 社会における基本的なマナーや責任の意識を身につける。 将来の進路決定に役立てる。		
準備学習	事前研修などで指定されるのでそれに従うこと。必ず復習をして、身につけること。 スケジュールの管理が出来るよう準備すること。		
受講者への要望			
時間厳守。受け入れ先のルールを守り、責任を持って行動の規律を遵守し、誠実に参加すること。			
講義の順序とポイント			
以下の順序で行う。 ・　説明会を開催し、受け入れ先の紹介、（必要に応じて）各受講生の希望聴取や選考会を行う。 ・　各受講生の受け入れ先を決定 ・　事前研修 ・　インターンシップの実施 ・　レポート、　報告書などの提出			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JMQ003904
科目名	インターンシップB	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship B		
担当者名	松田　哲	旧科目名称	
講義概要	インターンシップで職業体験をすることおよびそのためにその前後に行う学習で必要な知識・マナーを身につける。 【注意】　対象となるインターンシップは、京都学園大学が主催するものおよび大学コンソーシアム京都主催のものに限る。いずれも募集期間中に応募し、履修が認められることが必要である。		
教材（テキスト）	説明会、事前研修等において指示する。		
教材（参考文献）	説明会、事前研修等において指示する。		
教材（その他）	説明会、事前研修等において指示する。		
評価方法	本学または大学コンソーシアム京都主催の ・インターンシップ・プログラムの履修が認められ、 ・すべての事前・事後学習に出席し、 ・実習に休まず参加し、かつ、 ・課題レポートを提出した者について そのレポートおよび受入先企業からの評価書を基に単位を認定する。		
到達目標	・自らに不足している知識を認識すること。 ・自らに不足している能力を認識すること。 ・働くことの責任を認識すること。 ・目標とするキャリアの仕事内容およびやりがいを理解すること。		
準備学習	・それぞれの事前研修等で指定される。 ・事前研修で習った事柄を次回までに必ず復習し、しっかりと身につけること。 ・あらかじめ規則正しく生活することを身につけること。		

受講者への要望

・大学で開催される説明会には、必ず参加すること。
・常に時間厳守であること。
・スケジュール管理を怠らないこと。

講義の順序とポイント

(1)京都学園大学のインターンシップおよび(2)コンソーシアム京都主催のインターンシップの概要は下記のとおり。なお、事前事後の研修の詳細については、各主催者のパンフレットを参照すること。

(1)京都学園大学のインターンシップ
第 1 回　履修についてのオリエンテーション
第 2 回　実習のための準備について
第 3 回　一般的マナーについて
第 4 回　ビジネスマナーについて
第 5 回　ビジネスマナー実習
第 6 回　グループワーク
第 7 回　プレゼンテーションスキル
第 8 回　実習準備
第 9 回　実習直前ミーティング
～インターンシップ実習（10 日～30 日間）～
第 10 回　インターンシップ実習結果報告
第 11 回　インターンシップ結果報告会 1
第 12 回　インターンシップ結果報告会 2

(2)大学コンソーシアム京都主催のインターンシップ
○プログレスコース・・・6 月～11 月の約 5 ヶ月間、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）が提示したテーマに沿ってプロジェクト型のインターンシップを行う。

○ビジネス・パブリックコース・・・8 月中旬～9 月中旬に、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）において 2 週間～1 ヶ月程度の実習を行う。

○プログレスコース内容
第 1 講　オリエンテーション
第 2 講　コミュニケーショントレーニング
第 3 講　企業人ならびに修了生によるプレゼンテーション
第 4 講　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト・マネジメントの概要－PCM の講義－）
第 5 講　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン①）
第 6 講　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン②）
第 7 講　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン③）
第 8 講　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン④）
第 9 講　プロジェクト・マネジメント（今後の活動の確認、活動計画の発表）
第 10 講　プロジェクト・マネジメント（他プロジェクトとの意見交換）
～夏期休暇中に受入先企業にてプロジェクト～
第 11 講　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト中間報告）
第 12 講　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト評価方法の概要）
第 13 講　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーショントレーニング）
第 14 講　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備①）
第 15 講　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備②）
第 16 講　プロジェクト・マネジメント（自己評価：プログラム受講を通しての自己の変化を振り返る）
第 17 講　　成果報告会・修了式
第 18 講　　成果報告会・修了式
第 19 講　　成果報告会・修了式
第 20 講　　成果報告会・修了式
※　1 日 2 講の講義を行い、 成果報告会・修了式は 1 日かけて行う。

○ビジネスコース・パブリックコース
第 1 講　オリエンテーション ： 実習参加の心構え
第 2 講　クラスの相互理解
第 3 講　実習に向けた目標と仮説設定＜グループディスカッション＞
第 4 講　コミュニケーショントレーニング
第 5 講　コミュニケーショントレーニング
第 6 講　スキルアップトレーニング
第 7 講　スキルアップトレーニング
第 8 講　業界と社会に対する学習①＜ゲストスピーカーの講演＞
第 9 講　業界と社会に対する学習②＜ディスカッション＞
第 10 講　実習に向けた目標と仮説設定①＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
第 11 講　実習に向けた目標と仮説設定②＜実習直前の相互確認＞
第 12 講　リスクマネジメント講習
第 13 講　オリエンテーション ： 実習にあたって
～実習（8 月中旬～9 月中旬）～
補講　　※クラスによって実施される場合があります
第 14 講　実習における経験交流＜経験の共有①＞
第 15 講　実習における経験交流＜経験の共有②＞
第 16 講　実習における経験交流＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
第 17 講　今後の学生生活を考える＜レポート作成に向けてのまとめ＞
第 18 講　全体講評・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	JMQ003905
科目名	インターンシップB	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	インターンシップで職業体験をすることおよびそのためにその前後に行う学習で必要な知識・マナーを身につける。 【注意】　対象となるインターンシップは、京都学園大学が主催するものおよび大学コンソーシアム京都主催のものに限る。いずれも募集期間中に応募し、履修が認められることが必要である。		
教材（テキスト）	説明会、事前研修等において指示する。		
教材（参考文献）	説明会、事前研修等において指示する。		
教材（その他）	説明会、事前研修等において指示する。		
評価方法	本学または大学コンソーシアム京都主催の ・インターンシップ・プログラムの履修が認められ、 ・すべての事前・事後学習に出席し、 ・実習に休まず参加し、かつ、 ・課題レポートを提出した者について そのレポートおよび受入先企業からの評価書を基に単位を認定する。		
到達目標	・自らに不足している知識を認識すること。 ・自らに不足している能力を認識すること。 ・働くことの責任を認識すること。 ・目標とするキャリアの仕事内容およびやりがいを理解すること。		
準備学習	・それぞれの事前研修等で指定される。 ・事前研修で習った事柄を次回までに必ず復習し、しっかりと身につけること。 ・あらかじめ規則正しく生活することを身につけること。		

受講者への要望

・大学で開催される説明会には、必ず参加すること。
・常に時間厳守であること。
・スケジュール管理を怠らないこと。

講義の順序とポイント

(1)京都学園大学のインターンシップおよび(2)コンソーシアム京都主催のインターンシップの概要は下記のとおり。なお、事前事後の研修の詳細については、各主催者のパンフレットを参照すること。

(1)京都学園大学のインターンシップ
第 1 回　履修についてのオリエンテーション
第 2 回　実習のための準備について
第 3 回　一般的マナーについて
第 4 回　ビジネスマナーについて
第 5 回　ビジネスマナー実習
第 6 回　グループワーク
第 7 回　プレゼンテーションスキル
第 8 回　実習準備
第 9 回　実習直前ミーティング
～インターンシップ実習（10 日～30 日間）～
第 10 回　インターンシップ実習結果報告
第 11 回　インターンシップ結果報告会 1
第 12 回　インターンシップ結果報告会 2

(2)大学コンソーシアム京都主催のインターンシップ
○プログレスコース・・・6 月～11 月の約 5 ヶ月間、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）が提示したテーマに沿ってプロジェクト型のインターンシップを行う。

○ビジネス・パブリックコース・・・8 月中旬～9 月中旬に、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）において 2 週間～1 ヶ月程度の実習を行う。

○プログレスコース内容
第 1 講　オリエンテーション
第 2 講　コミュニケーショントレーニング
第 3 講　企業人ならびに修了生によるプレゼンテーション
第 4 講　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト・マネジメントの概要－PCM の講義－）
第 5 講　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン①）
第 6 講　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン②）
第 7 講　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン③）
第 8 講　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン④）
第 9 講　プロジェクト・マネジメント（今後の活動の確認、活動計画の発表）
第 10 講　プロジェクト・マネジメント（他プロジェクトとの意見交換）
～夏期休暇中に受入先企業にてプロジェクト～
第 11 講　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト中間報告）
第 12 講　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト評価方法の概要）
第 13 講　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーショントレーニング）
第 14 講　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備①）
第 15 講　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備②）
第 16 講　プロジェクト・マネジメント（自己評価：プログラム受講を通しての自己の変化を振り返る）
第 17 講　　成果報告会・修了式
第 18 講　　成果報告会・修了式
第 19 講　　成果報告会・修了式
第 20 講　　成果報告会・修了式
※　1 日 2 講の講義を行い、 成果報告会・修了式は 1 日かけて行う。

○ビジネスコース・パブリックコース
第 1 講　オリエンテーション ： 実習参加の心構え
第 2 講　クラスの相互理解
第 3 講　実習に向けた目標と仮説設定＜グループディスカッション＞
第 4 講　コミュニケーショントレーニング
第 5 講　コミュニケーショントレーニング
第 6 講　スキルアップトレーニング
第 7 講　スキルアップトレーニング
第 8 講　業界と社会に対する学習①＜ゲストスピーカーの講演＞
第 9 講　業界と社会に対する学習②＜ディスカッション＞
第 10 講　実習に向けた目標と仮説設定①＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
第 11 講　実習に向けた目標と仮説設定②＜実習直前の相互確認＞
第 12 講　リスクマネジメント講習
第 13 講　オリエンテーション ： 実習にあたって
～実習（8 月中旬～9 月中旬）～
補講　　※クラスによって実施される場合があります
第 14 講　実習における経験交流＜経験の共有①＞
第 15 講　実習における経験交流＜経験の共有②＞
第 16 講　実習における経験交流＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
第 17 講　今後の学生生活を考える＜レポート作成に向けてのまとめ＞
第 18 講　全体講評・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	JMQ003906
科目名	インターンシップB	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	本学が指定および募集を行う企業や行政機関におけるインターンシップに参加し、現場を実体験することを通して、今後の学習のみならず将来の進路決定に役立てる。		
教材（テキスト）	＊説明会や事前研修において指示する。 ＊受け入れ先、ならびにキャリアサポートセンター、大学コンソーシアム京都、教育修学支援センターなどの関係部所や機関からの指示に従うこと。		
教材（参考文献）	＊説明会や事前研修において指示する。 ＊受け入れ先、ならびにキャリアサポートセンター、大学コンソーシアム京都、教育修学支援センターなどの関係部所や機関からの指示に従うこと。		
教材（その他）	＊説明会や事前研修において指示する。 ＊受け入れ先、ならびにキャリアサポートセンター、大学コンソーシアム京都、教育修学支援センターなどの関係部所や機関からの指示に従うこと。		
評価方法	本学が当該科目と関係すると判断した受け入れ先において研修を受けた時間とその内容、受け入れ先からの所見または評価、ならびに参加者自身がインターンシップ終了後、本学に提出あるいは/且つ発表したレポートを基に、審査の上、「インターンシップＢ」として単位認定する。		
到達目標	＊自らの学習を振り返るとともに、自身において不足している学習領域を確認する。 ＊進路決定に役立てる。 ＊ビジネスマナーやコミュニケーション力を向上させる。		
準備学習	＊キャリアサポートセンターや教育修学支援センターや大学コンソーシアム京都などの各関連部所からの要請や指示に従うことが、例えば、選考会、説明会、事前研修、終了後報告会などへの参加や発表が求められる。 ＊事前に、ビジネスマナーや受け入れ先までのルートや到着時間などについて指導を受けるので、それらについて自身で何度も確認しておくことが必要となる。 ＊上記の例示において記載されているように、インターンシップ終了後は、自身の到達目標に届いたか否かを含み学んだことをレポートにまとめ提出すること、あるいは/且つ発表することも求められる。		
受講者への要望			
＊選抜が行われることもある。 ＊時間厳守で望むこと。受け入れ先のルールを守り、行動の規律を遵守し、誠実に参加すること。 ＊キャリアサポートセンターや教育修学支援センターや大学コンソーシアム京都などの各関連部所からの要請や指示に従うこと。 ＊インターンシップ終了後は、自身の到達目標に届いたか否かを含み学んだことをレポートにまとめ提出すること、あるいは/且つ発表することも求められる。			
講義の順序とポイント			
大まかには、以下の順序で行う 1.説明会を開催し、受け入れ先の紹介、または必要に応じて各受講生の希望聴取や選考会などを行う 2.各受講生の受け入れ先を決定 3.事前研修 4.〜13.受け入れ先での研修 14〜15.研修日誌やレポートの提出あるいは/且つ発表 ＊研修期間は受け入れ先によって異なる。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JP0005A01
科目名	教育原論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Education		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	中学校・高校の教員として働くにふさわしい知力、そして豊かな人間性を、４年間の大学教育を通して培うプログラムが教職課程である。 この科目は、「教職」のための教養の基礎部分にあたるもので、教育の理念、思想および歴史を学ぶことによって、人間社会でなされる教育というの活動の本質と意味を理解することをめざしている。		
教材（テキスト）	林　勲 編 『教育の原理［第３版］』 法律文化社、2014 年		
教材（参考文献）	とくに指定するものはない。		
教材（その他）	プリント資料を多数配布する。また、ＶＴＲやＤＶＤなどの映像資料も講義内で活用する。		
評価方法	授業への出席は当然重視するが、それは学期末試験を受けるための条件に過ぎず、その筆記試験での得点を、成績評価の最大の材料とする。		
到達目標	人間という生き物にとって「教育」が必要であることの確信を得ること。		
準備学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のためにテキストを精読して出席すること。		
受講者への要望			
「先生になりたい」という強い意志があればよい、というわけではない。教職への憧れだけではなく、〈読み〉、〈書き〉、〈考える〉自分自身の力に自信をもっている者のみに、受講を制限したい。基本的に、１、２回生を対象とする科目である。			
講義の順序とポイント			
１．　講義の概要と成績の評価方法 ２．　教育の必要性――ヒトと動物の違い ３．　教育の必要性――人間の独自性 ４．　脳の発達と教育――人間の脳の特殊性 ５．　人間形成の諸要素――素質（遺伝） ６．　人間形成の諸要素――環境 ７．　素質と環境にたいする教育（学習経験）の関係 ８．　教育の諸側面――自然の生命力 ９．　教育の諸側面――文化への適応 10. 教育の諸側面――学校教育の機能 11. 教育の諸側面――「脱学校」の思想 12. 教育の目的――教育思想の歴史 13. 教育の歴史――公教育の成立まで 14. これからの学校教育の課題 15. 学期末試験に向けた、本年度の講義のポイント整理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JP0005A02
科目名	教育原論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Education		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	中学校・高校の教員として働くにふさわしい知力、そして豊かな人間性を、４年間の大学教育を通して培うプログラムが教職課程である。 この科目は、「教職」のための教養の基礎部分にあたるもので、教育の理念、思想および歴史を学ぶことによって、人間社会でなされる教育というの活動の本質と意味を理解することをめざしている。		
教材（テキスト）	林　勲 編 『教育の原理［第３版］』 法律文化社、2014 年		
教材（参考文献）	とくに指定するものはない。		
教材（その他）	プリント資料を多数配布する。また、ＶＴＲやＤＶＤなどの映像資料も講義内で活用する。		
評価方法	授業への出席は当然重視するが、それは学期末試験を受けるための条件に過ぎず、その筆記試験での得点を、成績評価の最大の材料とする。		
到達目標	人間という生き物にとって「教育」が必要であることの確信を得ること。		
準備学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のためにテキストを精読して出席すること。		
受講者への要望			
「先生になりたい」という強い意志があればよい、というわけではない。教職への憧れだけではなく、〈読み〉、〈書き〉、〈考える〉自分自身の力に自信をもっている者のみに、受講を制限したい。基本的に、１、２回生を対象とする科目である。			
講義の順序とポイント			
１．　講義の概要と成績の評価方法 ２．　教育の必要性――ヒトと動物の違い ３．　教育の必要性――人間の独自性 ４．　脳の発達と教育――人間の脳の特殊性 ５．　人間形成の諸要素――素質（遺伝） ６．　人間形成の諸要素――環境 ７．　素質と環境にたいする教育（学習経験）の関係 ８．　教育の諸側面――自然の生命力 ９．　教育の諸側面――文化への適応 10. 教育の諸側面――学校教育の機能 11. 教育の諸側面――「脱学校」の思想 12. 教育の目的――教育思想の歴史 13. 教育の歴史――公教育の成立まで 14. これからの学校教育の課題 15. 学期末試験に向けた、本年度の講義のポイント整理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JP0005A03
科目名	教育原論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Education		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	中学校・高校の教員として働くにふさわしい知力、そして豊かな人間性を、４年間の大学教育を通して培うプログラムが教職課程である。 この科目は、「教職」のための教養の基礎部分にあたるもので、教育の理念、思想および歴史を学ぶことによって、人間社会でなされる教育というの活動の本質と意味を理解することをめざしている。		
教材（テキスト）	林　勲 編 『教育の原理［第３版］』 法律文化社、2014 年		
教材（参考文献）	とくに指定するものはない。		
教材（その他）	プリント資料を多数配布する。また、ＶＴＲやＤＶＤなどの映像資料も講義内で活用する。		
評価方法	授業への出席は当然重視するが、それは学期末試験を受けるための条件に過ぎず、その筆記試験での得点を、成績評価の最大の材料とする。		
到達目標	人間という生き物にとって「教育」が必要であることの確信を得ること。		
準備学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のためにテキストを精読して出席すること。		
受講者への要望			
「先生になりたい」という強い意志があればよい、というわけではない。教職への憧れだけではなく、〈読み〉、〈書き〉、〈考える〉自分自身の力に自信をもっている者のみに、受講を制限したい。基本的に、１、２回生を対象とする科目である。			
講義の順序とポイント			
１．　講義の概要と成績の評価方法 ２．　教育の必要性――ヒトと動物の違い ３．　教育の必要性――人間の独自性 ４．　脳の発達と教育――人間の脳の特殊性 ５．　人間形成の諸要素――素質（遺伝） ６．　人間形成の諸要素――環境 ７．　素質と環境にたいする教育（学習経験）の関係 ８．　教育の諸側面――自然の生命力 ９．　教育の諸側面――文化への適応 10. 教育の諸側面――学校教育の機能 11. 教育の諸側面――「脱学校」の思想 12. 教育の目的――教育思想の歴史 13. 教育の歴史――公教育の成立まで 14. これからの学校教育の課題 15. 学期末試験に向けた、本年度の講義のポイント整理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JP0007001
科目名	教育相談 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Counseling		
担当者名	竹中　菜苗	旧科目名称	
講義概要	近年、学校の教員にも基本的なカウンセリング的知識が求められるようになってきている。 教員にとって必要なカウンセリング的視点や、その実践方法、子どもの問題行動をいかに理解し関わっていくかについて学ぶ。グループでの討論などにより、他者とコミュニケーションをとりながら自分で考える力を身につけるために実習も行う。		
教材（テキスト）	「教師のためのカウンセリングワークブック」菅野純（金子書房）		
教材（参考文献）	「フツーの子の思春期」岩宮恵子（岩波書店） 「キャラ化する／される子どもたち－排除型社会における新たな人間像」土井隆義（岩波書店）		
教材（その他）			
評価方法	グループでの討論、意見の発表など、授業への積極的な参加、レポート提出などの平常点、および試験を総合し、60 点以上で合格とします。		
到達目標	子どもの発達的課題や心理的障害についての知識、カウンセリングの基本的な姿勢を習得し、現場で柔軟に考え、対応するための力を身につける。		
準備学習	発達障害、いじめ、不登校、親子関係が子どもに及ぼす影響といったテーマについての文献を読んでおくこと。また、教育の問題と関連する事件やニュースに関心をもち、文献を参照しながら自分なりの考えをまとめておいてください。		

受講者への要望

授業への積極的な参加、討論やレポートを通じて真摯に課題に取り組む姿勢を大切にしてください。

講義の順序とポイント

1. カウンセリングとは
2. 話を「聴く」ということ
3. 教員による生徒のコントロールの問題
4. 生徒の見分け
5. いじめ　事例①教員が気付かない場合のいじめ
6. いじめ　事例②教員が気付いた場合
7. いじめ　事例③インターネット上でのいじめ
8. 発達障害の基礎知識
9. 発達障害　事例①軽度の場合
10. 発達障害　事例②重度の場合
11. 不登校①さまざまな不登校
12. 不登校②長引く不登校
13. 生徒理解のために必要な工夫・配慮
14. 保護者への対応
15. 教員自身のストレスについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★			

年度	2015	授業コード	JP0008001
科目名	教育方法 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Methods of Teaching		
担当者名	立田　慶裕	旧科目名称	
講義概要	本講義では、継続的な学習者としての教員の資質向上を図り、従来の教育方法に加えてIT活用を重視し、学習者の動機付けと学習スキルの向上を図る多様な教育と学習法を実践的手法により論じる。 目標　（1）教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を第一の目的とする。		
教材（テキスト）	各回でプリントを配布		
教材（参考文献）	赤尾勝己・山本慶裕『学びのデザイン』玉川大学出版部		
教材（その他）	立田慶裕編『読書教育の方法』学文社、2015		
評価方法	成績は平常受講の評価と課題達成を重視。下記のミニッツレポート 15 回（40%），中間課題レポート2回（40%），最終課題レポート(20%）の総合判断。		
到達目標	（1）教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を第一の目的とする。 （2）今後の学校組織では、教員の専門的職能の継続的な開発が期待されている。 （3）また、教育方法としてのＩＴ活用を積極的に活用するこ		
準備学習	講義終了後に、次回の講義についての予告を行いますので、関連する情報や本を読んでおいてください。 また、できれば、教育方法に関する多様なメディアについての情報を収集しておいてください。		

受講者への要望

授業を通じて、話すのが苦手な人にも伝え方、表現の方法などを学んでいってもらいます。ノートの取り方や情報収集の方法を身につけていきますので、コンピュータが苦手な人にもわかりやすく解説しますが、みなさんがいろんなことに興味を持つようにしてください。

講義の順序とポイント

第1回　オリエンテーション
講義の目標、内容と方法、評価の説明
第2回　学習意欲を引き出す工夫
アイスブレイクの手法について多様な方法を紹介し、体験する
第3回　教育方法論の系譜
メディアの発展をふりかえり、それが教育指導法の変化に及ぼした歴史を考える
第4回　教育方法論の意義と目標
実際の授業では、学習指導要領を参考とするため、その内容を方法論的に検討する
第5回　授業の計画
授業構成と指導案の書き方を説明し、書いてもらう
第6回　授業の方法（1）
知識の整理法として、ノートや電子ファイルでナレッジベースを作成する
第7回　授業の方法（2）
デジタル教材とアナログ教材の長短と利用法を論じ、体験する
第8回　授業の方法（3）
進化するデータベースの利用と、学校図書館の活用法を論じる
第9回　授業の方法（4）
ＩＴを活用したワークショップの方法を論じ、体験する
第10回　授業の方法（5）
授業に必須のプレゼンテーション活用のコツを論じ、学ぶ
第11回　授業の方法（6）マルチメディアの活用
学習法として多様なマルチメディアの活用法を紹介する
第12回　授業の実践例（1）
具体的な教科として社会科をとりあげ、ネットワークを用いた国際理解学習について学ぶ
第13回　授業の実践例（2）
算数や数学教科での多様な数学ソフトの活用法を学ぶ
第14回　授業の評価
授業の必須事項、e ポートフォリオの評価の実態と課題を学ぶ
第15回　総論

テクノロジーの進歩の中で教育方法を学び続ける工夫を論じる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	JP0009001
科目名	教育課程論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Curriculum(Special Activities Education)		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	教育課程・特別活動論
講義概要	まず始めに、一人一人の生徒が、いきいき学び同時に確かな学力を身に付けられる教育課程とは、どのような構成原理、基準、内容を持つものなのか考察を進める。 次に、いくつかの「教育課程・カリキュラム」を取り上げ、その具体的な内容について授業やその構成、教材や教授行為など様々な観点から検討する。 受講生には具体的な授業計画が作成できる知識･技能と、学校現場におけるさまざまな指導の場面に於いて、より望ましい指導ができる知識・技能を身につけられるよう、授業を進める。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領　解説　総則編』（平成 20 年改正） 『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領　解説　総則編』（平成 21 年に改正）		
教材（参考文献）	林勲編『教育の原理』法律文化社		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	平常点・小テスト 30%　（各授業の最後に提出する） 課題レポート 30%　（2 回以上おこなう　課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験 40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。		
到達目標	・教育課程について、その基本的な概念や構成原理を理解する。 ・さまざまなカリキュラムについて、それらの長所や短所を指摘できる。 ・教育課程の編成や指導計画の作成のために必要な、「目標」「教育内容」「教材」などを正確に表現できる。 ・「学習指導要領」の改正に見られる、それぞれの時代背景や課題をふまえ、今後の「教育課程」について検討する。		
準備学習	・1 回生で履修した教職に関する講義の内容を復習しておく（テキスト、ノートを読み直すなど） ・各学校や教員が行った「実践記録」や「授業記録」が出版されている。その中で、自分が興味を持ったものに目を通しておくと、指導計画や授業の具体的なイメージが作りやすい。 ・現在、学校や教育の分野で話題や問題となっていることに関心を持ち、情報を収集するように心がける。		

受講者への要望

・教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。
・授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。

講義の順序とポイント

1．教育課程とは何か
2．カリキュラムの構成原理
3．経験主義と系統主義
4．「問題解決的学習」
5．「仮説実験授業」
6．教育課程の検討①　（目標と評価）
7．教育課程の検討②　（教材）
8．教育課程の検討③　（授業研究１）
9．教育課程の検討④　（授業研究２）
１０．「学力」とは何か
１１．学習指導要領の変遷①　カリキュラム改革運動
１２．学習指導要領の変遷②　教育内容の現代化
１３．学習指導要領の変遷③　「ゆとり」と「生きる力」
１４．新しい学習指導要領のポイント①　学力にかかわる問題
１５．新しい学習指導要領のポイント②　「習得」「活用」「探究」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JP0009002
科目名	教育課程論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Curriculum(Special Activities Education)		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	教育課程・特別活動論
講義概要	まず始めに、一人一人の生徒が、いきいき学び同時に確かな学力を身に付けられる教育課程とは、どのような構成原理、基準、内容を持つものなのか考察を進める。 次に、いくつかの「教育課程・カリキュラム」を取り上げ、その具体的な内容について授業やその構成、教材や教授行為など様々な観点から検討する。 受講生には具体的な授業計画が作成できる知識･技能と、学校現場におけるさまざまな指導の場面に於いて、より望ましい指導ができる知識・技能を身につけられるよう、授業を進める。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領　解説　総則編』（平成 20 年改正） 『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領　解説　総則編』（平成 21 年に改正）		
教材（参考文献）	林勲編『教育の原理』法律文化社		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	平常点・小テスト 30%　（各授業の最後に提出する） 課題レポート 30%　（2 回以上おこなう　課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験 40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。		
到達目標	・教育課程について、その基本的な概念や構成原理を理解する。 ・さまざまなカリキュラムについて、それらの長所や短所を指摘できる。 ・教育課程の編成や指導計画の作成のために必要な、「目標」「教育内容」「教材」などを正確に表現できる。 ・「学習指導要領」の改正に見られる、それぞれの時代背景や課題をふまえ、今後の「教育課程」について検討する。		
準備学習	・1 回生で履修した教職に関する講義の内容を復習しておく（テキスト、ノートを読み直すなど） ・各学校や教員が行った「実践記録」や「授業記録」が出版されている。その中で、自分が興味を持ったものに目を通しておくと、指導計画や授業の具体的なイメージが作りやすい。 ・現在、学校や教育の分野で話題や問題となっていることに関心を持ち、情報を収集するように心がける。		

受講者への要望

・教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。
・授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。

講義の順序とポイント

1．教育課程とは何か
2．カリキュラムの構成原理
3．経験主義と系統主義
4．「問題解決的学習」
5．「仮説実験授業」
6．教育課程の検討①　（目標と評価）
7．教育課程の検討②　（教材）
8．教育課程の検討③　（授業研究１）
9．教育課程の検討④　（授業研究２）
１０．「学力」とは何か
１１．学習指導要領の変遷①　カリキュラム改革運動
１２．学習指導要領の変遷②　教育内容の現代化
１３．学習指導要領の変遷③　「ゆとり」と「生きる力」
１４．新しい学習指導要領のポイント①　学力にかかわる問題
１５．新しい学習指導要領のポイント②　「習得」「活用」「探究」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JP0010A01
科目名	教育実習Ａ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice A		
担当者名	谷野　二郎	旧科目名称	
講義概要	学校現場での実践的な学習体験を通して、教職の実際にかかわり、自己の教育的な力量を高めることが教育実習の主旨であり、これはまさに大学における教職課程の総決算となる科目である。 ２週間の実習（教育実習Ｂと合わせると３週間もしくは４週間）の中で、第一にめざさなければならないのは、やはり学習指導力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちが興味をもって学習するためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そのとき、教材の研究だけでなく、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な側面をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。 さらに、学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感的に理解し、生活指導的な働きかけが――それが安易にできると考えてはならないが――少しでもできたならば、実習の意義はいっそう高まるだろう。 基本は何か。自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、自分の人間性全体で応えることである。		
教材（テキスト）	「教育実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考文献）	とくになし。		
教材（その他）	とくになし。		
評価方法	実習ノートの内容（２０％）。実習校による評価（６０％）。リポート（２０％）。		
到達目標	中等段階の学校における教育の全体的な理解と一定の指導力を、実践経験を通して獲得すること。		
準備学習	実際に授業を行なう以上、その計画書として指導案作りに時間とエネルギーをかけなければならない。事前に自分が教えることになる単元の教材研究をある程度進めておくことが必要である。実習に入れば、学習指導以外の生徒指導やクラブ指導、学校行事などで時間を取られることが多いので。		

受講者への要望

１．あらためていうまでもないが、教員をめざす実習生が、実習中に企業等の就職活動を行なうことはゆるされない。
２．教育実習に行くことと各都道府県の教員採用試験を受験することは、一つのセットとして考えなければならない。およそ実習生を受け入れる学校は、採用試験の受験を受け入れの当然の条件としている。

講義の順序とポイント

１．実際の実習（５月後半ないし６月の前半からがほとんど）に行く前に、実習の意義や目的、あるいはその手続きなどについて講義を行なう。手引きや資料、VTR などを活用して実習への構えを整えてもらうが、３年生の「教育実習事前指導」に参加して、仕上げの模擬授業を行なうこともたいへん有意義である。
２．実習期間中には、本学の教員がかならず実習校におもむき、訪問指導を行なう。研究授業の参観を同時に行なうことが多い。実習中も本学との連絡を怠らぬこと。
３．実習終了後には、事後指導として全体の反省会を行ない、リポートの提出も求める。
４．成績評価に際しては、実習校からいただく「教育実習成績評価表」が大きな材料となる．そこで評価されている事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。

学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術
生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導
実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★	★★

年度	2015	授業コード	JP0010A02
科目名	教育実習Ａ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice A		
担当者名	谷野　二郎	旧科目名称	
講義概要	学校現場での実践的な学習体験を通して、教職の実際にかかわり、自己の教育的な力量を高めることが教育実習の主旨であり、これはまさに大学における教職課程の総決算となる科目である。 ２週間の実習（教育実習Ｂと合わせると３週間もしくは４週間）の中で、第一にめざさなければならないのは、やはり学習指導力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちが興味をもって学習するためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そのとき、教材の研究だけでなく、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な側面をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。 さらに、学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感的に理解し、生活指導的な働きかけが――それが安易にできると考えてはならないが――少しでもできたならば、実習の意義はいっそう高まるだろう。 基本は何か。自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、自分の人間性全体で応えることである。		
教材（テキスト）	「教育実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考文献）	とくになし。		
教材（その他）	とくになし。		
評価方法	実習ノートの内容（２０％）。実習校による評価（６０％）。リポート（２０％）。		
到達目標	中等段階の学校における教育の全体的な理解と一定の指導力を、実践経験を通して獲得すること。		
準備学習	実際に授業を行なう以上、その計画書として指導案作りに時間とエネルギーをかけなければならない。事前に自分が教えることになる単元の教材研究をある程度進めておくことが必要である。実習に入れば、学習指導以外の生徒指導やクラブ指導、学校行事などで時間を取られることが多いので。		

受講者への要望

１．あらためていうまでもないが、教員をめざす実習生が、実習中に企業等の就職活動を行なうことはゆるされない。
２．教育実習に行くことと各都道府県の教員採用試験を受験することは、一つのセットとして考えなければならない。およそ実習生を受け入れる学校は、採用試験の受験を受け入れの当然の条件としている。

講義の順序とポイント

１．実際の実習（５月後半ないし６月の前半からがほとんど）に行く前に、実習の意義や目的、あるいはその手続きなどについて講義を行なう。手引きや資料、VTR などを活用して実習への構えを整えてもらうが、３年生の「教育実習事前指導」に参加して、仕上げの模擬授業を行なうこともたいへん有意義である。
２．実習期間中には、本学の教員がかならず実習校におもむき、訪問指導を行なう。研究授業の参観を同時に行なうことが多い。実習中も本学との連絡を怠らぬこと。
３．実習終了後には、事後指導として全体の反省会を行ない、リポートの提出も求める。
４．成績評価に際しては、実習校からいただく「教育実習成績評価表」が大きな材料となる．そこで評価されている事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。

学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術
生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導
実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★	★★

年度	2015	授業コード	JP0010B01
科目名	教育実習Ｂ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice B		
担当者名	小田　憲夫	旧科目名称	
講義概要	四回生で行う、「教育実習」とそれにかかわる事前・事後の講義である。中学校で教育実習を行う場合は、「教育実習 A」と「教育実習 B」の両方を履修しなければならない。 事前の学習では、教育実習の概要を知るとともに具体的な準備を行い、事後の学習では、実習での成果と課題を明らかにして、教員となるための準備を行う。		
教材（テキスト）	「実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点２０％、実習ノート２０％、実習校による評価６０％ 実習校での「教育実習成績評価表」の事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。 学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術 生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導 実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野		
到達目標	・教育実習で必要となる、「学習指導」や「生徒指導」にかかわる知識・技能・能力・態度を身につける。 ・教育実習での体験を通して、教員となるための最終的な準備を行う。		
準備学習	新聞や文献等を通して、教育をめぐる社会動向やトピックに常に関心を向け、理解しておくこと。さらに、実習教科に関する指導法や教科専門性を養うため、いわゆる指導法系科目や「教科に関する科目」の履修を通して研鑽に努めること。 事前に実習校との連絡をとり、実習の内容、担当する授業の単元などについて理解し、予習しておくておくこと。 実習の終了後は、「実習ノート」をまとめるとともに、「履修カルテ」についても整理し、授業担当者に提出する。その中で指摘された各自に課題に取り組むようにする。		

受講者への要望

２週間あるいは３週間（4 週間）におよぶ実習でまず取り組まなければならないのは、やはり学習指導の力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちに興味をもって学習してもらうためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そしてまた、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な特性をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。

学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感をもって理解し、生活指導的な働きかけが（安易にそれができると考えてはならないが）少しでもできたならば実習の意義はいっそう高まるだろう。

自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、人間性全体で応えることを忘れないでほしい。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.教育実習の概要について（DVD の視聴など）
3.学習指導について　①授業参観について
4.学習指導について　②学習指導案の書き方
5.生徒指導について　①中学校における問題事象
6.学級指導について　①学級担任の仕事
7.教育実習の準備
8.教育実習　①　 実習授業
9.教育実習　②　学級指導
10.教育実習　③　生徒指導
11.教育実習のまとめ　実習ノートによる整理
12.教育実習報告　①　各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する
13.教育実習報告　②　各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する
14.討議　各自の発表を踏まえ話題を設定し、討議する
15.まとめ カルテの整理

教育実習の期間がそれぞれの実習校で異なるため、時間を変更して講義を行うことがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★			★

年度	2015	授業コード	JP0010B02
科目名	教育実習Ｂ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice B		
担当者名	小田　憲夫	旧科目名称	
講義概要	四回生で行う、「教育実習」とそれにかかわる事前・事後の講義である。中学校で教育実習を行う場合は、「教育実習 A」と「教育実習 B」の両方を履修しなければならない。 事前の学習では、教育実習の概要を知るとともに具体的な準備を行い、事後の学習では、実習での成果と課題を明らかにして、教員となるための準備を行う。		
教材（テキスト）	「実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点２０％、実習ノート２０％、実習校による評価６０％ 実習校での「教育実習成績評価表」の事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。 学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術 生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導 実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野		
到達目標	・教育実習で必要となる、「学習指導」や「生徒指導」にかかわる知識・技能・能力・態度を身につける。 ・教育実習での体験を通して、教員となるための最終的な準備を行う。		
準備学習	新聞や文献等を通して、教育をめぐる社会動向やトピックに常に関心を向け、理解しておくこと。さらに、実習教科に関する指導法や教科専門性を養うため、いわゆる指導法系科目や「教科に関する科目」の履修を通して研鑽に努めること。 事前に実習校との連絡をとり、実習の内容、担当する授業の単元などについて理解し、予習しておくておくこと。 実習の終了後は、「実習ノート」をまとめるとともに、「履修カルテ」についても整理し、授業担当者に提出する。その中で指摘された各自に課題に取り組むようにする。		

受講者への要望

２週間あるいは３週間（4 週間）におよぶ実習でまず取り組まなければならないのは、やはり学習指導の力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちに興味をもって学習してもらうためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そしてまた、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な特性をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。

学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感をもって理解し、生活指導的な働きかけが（安易にそれができると考えてはならないが）少しでもできたならば実習の意義はいっそう高まるだろう。

自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、人間性全体で応えることを忘れないでほしい。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.教育実習の概要について（DVD の視聴など）
3.学習指導について　①授業参観について
4.学習指導について　②学習指導案の書き方
5.生徒指導について　①中学校における問題事象
6.学級指導について　①学級担任の仕事
7.教育実習の準備
8.教育実習　①　 実習授業
9.教育実習　②　学級指導
10.教育実習　③　生徒指導
11.教育実習のまとめ　実習ノートによる整理
12.教育実習報告　①　各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する
13.教育実習報告　②　各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する
14.討議　各自の発表を踏まえ話題を設定し、討議する
15.まとめ カルテの整理

教育実習の期間がそれぞれの実習校で異なるため、時間を変更して講義を行うことがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★			★

年度	2015	授業コード	JP0012001
科目名	教育制度論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Education System		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	教育制度の中心はいうまでもなく学校制度であり、それは国民すべてを巻き込んで国家の管理のもとに運営されている。その巨大なシステムを支える原理は「平等」ということである。そこから「教育の機会均等」という原則が立てられるのだが、その原則が実際にどのような仕組みで行われているのか、またその仕組みに問題はないのか、といった点について考えてみたい。		
教材（テキスト）	上記の問題を詳しく扱った論説をテキストとして使用する。コピー配布の予定。		
教材（参考文献）	特に指定しない。		
教材（その他）	メディアからの資料（ＴＶ報道、新聞記事など）を多用する。		
評価方法	学期末の筆記試験の成績が評価の柱となる。授業への出席は期末試験を受けるための基礎条件で、出席点というものはない。逆に出席不良は減点の対象となる。		
到達目標	国家社会の制度としての学校教育が、どのような原理・原則から組み立てられているのかを理解すること。		
準備学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のためにテキストを精読しておくこと。		

受講者への要望

教職課程の導入部分の科目のひとつである。教職への強い意志はもちろんだが、自身の基礎学力に十分な自信をもっていることが受講の条件。１、２回生向けの授業である。

講義の順序とポイント

1．講義の概要と目標
2．教育と近代の平等原則
3．福沢諭吉の『学問のすゝめ』
4．メリトクラシー
5．教育による平等の保障
6．教育は社会の平衡論
7．教育の機会均等
8．単線型学校体系
9．複線型学校体系
10.「普商工農」とトラッキング
11. 普通教育と職業教育
12. 新制高校と高校三原則
13. 学校教育法をどう理解するか
14. 中等職業教育
15. 普通科における職業教育

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JP0012002
科目名	教育制度論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Education System		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	教育制度の中心はいうまでもなく学校制度であり、それは国民すべてを巻き込んで国家の管理のもとに運営されている。その巨大なシステムを支える原理は「平等」ということである。そこから「教育の機会均等」という原則が立てられるのだが、その原則が実際にどのような仕組みで行われているのか、またその仕組みに問題はないのか、といった点について考えてみたい。		
教材（テキスト）	上記の問題を詳しく扱った論説をテキストとして使用する。コピー配布の予定。		
教材（参考文献）	特に指定しない。		
教材（その他）	メディアからの資料（ＴＶ報道、新聞記事など）を多用する。		
評価方法	学期末の筆記試験の成績が評価の柱となる。授業への出席は期末試験を受けるための基礎条件で、出席点というものはない。逆に出席不良は減点の対象となる。		
到達目標	国家社会の制度としての学校教育が、どのような原理・原則から組み立てられているのかを理解すること。		
準備学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のためにテキストを精読しておくこと。		

受講者への要望

教職課程の導入部分の科目のひとつである。教職への強い意志はもちろんだが、自身の基礎学力に十分な自信をもっていることが受講の条件。１、２回生向けの授業である。

講義の順序とポイント

1．講義の概要と目標
2．教育と近代の平等原則
3．福沢諭吉の『学問のすゝめ』
4．メリトクラシー
5．教育による平等の保障
6．教育は社会の平衡論
7．教育の機会均等
8．単線型学校体系
9．複線型学校体系
10.「普商工農」とトラッキング
11. 普通教育と職業教育
12. 新制高校と高校三原則
13. 学校教育法をどう理解するか
14. 中等職業教育
15. 普通科における職業教育

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JP0012003
科目名	教育制度論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Education System		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	教育制度の中心はいうまでもなく学校制度であり、それは国民すべてを巻き込んで国家の管理のもとに運営されている。その巨大なシステムを支える原理は「平等」ということである。そこから「教育の機会均等」という原則が立てられるのだが、その原則が実際にどのような仕組みで行われているのか、またその仕組みに問題はないのか、といった点について考えてみたい。		
教材（テキスト）	上記の問題を詳しく扱った論説をテキストとして使用する。コピー配布の予定。		
教材（参考文献）	特に指定しない。		
教材（その他）	メディアからの資料（ＴＶ報道、新聞記事など）を多用する。		
評価方法	学期末の筆記試験の成績が評価の柱となる。授業への出席は期末試験を受けるための基礎条件で、出席点というものはない。逆に出席不良は減点の対象となる。		
到達目標	国家社会の制度としての学校教育が、どのような原理・原則から組み立てられているのかを理解すること。		
準備学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のためにテキストを精読しておくこと。		

受講者への要望

教職課程の導入部分の科目のひとつである。教職への強い意志はもちろんだが、自身の基礎学力に十分な自信をもっていることが受講の条件。１、２回生向けの授業である。

講義の順序とポイント

1．講義の概要と目標
2．教育と近代の平等原則
3．福沢諭吉の『学問のすゝめ』
4．メリトクラシー
5．教育による平等の保障
6．教育は社会の平衡論
7．教育の機会均等
8．単線型学校体系
9．複線型学校体系
10.「普商工農」とトラッキング
11. 普通教育と職業教育
12. 新制高校と高校三原則
13. 学校教育法をどう理解するか
14. 中等職業教育
15. 普通科における職業教育

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JP0013A01
科目名	教育実習事前指導Ⅰ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	横井　靖男	旧科目名称	教職演習Ⅰ
講義概要	教育実習の事前指導のための科目である。教育実習を真に実りあるものにするために、本学ではとくにこの演習を設けている。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 各自が模擬授業を行う１ヶ月前には科目や単元を教職指導室に連絡し、授業までの計画を作成する。また、少なくとも１週間前には学習指導案を指導教員に一旦は提出する。この期限が守られない場合は、模擬授業を取りやめ、演習を放棄したものとみなす。指導案提出から模擬授業までの期間は、授業や指導餡を完成させるために使う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。す べては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる		
教材（テキスト）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）。		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。		
準備学習	授業づくりや教材研究は一朝一夕では困難である。日頃より情報を収集し、文献や資料を読む努力をしてほしい。 必ず 1 カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の 1 週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		
受講者への要望			
毎回出席は当たり前。介護体験や次年度の実習のための諸手続きについても、この授業時に指導がなされるので、介護体験などの理由以外では欠席をしないように。 受講者は、次年度に「教育実習」を履修するだけの単位取得（教職課程だけでなく一般教科もふくめて）ができている者に限る。 自分から意欲的に授業を「見せ合う」ことができるようになってもらいたい。 教育実習を見通して演習を行っている。提出期限の遅れや低い次元での自己満足は許されない。			

講義の順序とポイント
1.オリエンテーション 2.模擬授業参観　①　前年度の受講生の授業を参観する 3.模擬授業参観　②　前年度の受講生の授業を参観する 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で 2 度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.教育実習報告会 15.「履修カルテ」作成　今学期の学習内容のまとめと次学期への課題発見

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JP0013A02
科目名	教育実習事前指導Ⅰ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	教職演習Ⅰ
講義概要	教育実習の事前指導のための科目である。教育実習を真に実りあるものにするために、本学ではとくにこの演習を設けている。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 各自が模擬授業を行う１ヶ月前には科目や単元を教職指導室に連絡し、授業までの計画を作成する。また、少なくとも１週間前には学習指導案を指導教員に一旦は提出する。この期限が守られない場合は、模擬授業を取りやめ、演習を放棄したものとみなす。指導案提出から模擬授業までの期間は、授業や指導餡を完成させるために使う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。す べては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる		
教材（テキスト）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）。		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。		
準備学習	授業づくりや教材研究は一朝一夕では困難である。日頃より情報を収集し、文献や資料を読む努力をしてほしい。 必ず 1 カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の 1 週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		
受講者への要望			
毎回出席は当たり前。介護体験や次年度の実習のための諸手続きについても、この授業時に指導がなされるので、介護体験などの理由以外では欠席をしないように。 受講者は、次年度に「教育実習」を履修するだけの単位取得（教職課程だけでなく一般教科もふくめて）ができている者に限る。 自分から意欲的に授業を「見せ合う」ことができるようになってもらいたい。 教育実習を見通して演習を行っている。提出期限の遅れや低い次元での自己満足は許されない。			

講義の順序とポイント
1.オリエンテーション 2.模擬授業参観　①　前年度の受講生の授業を参観する 3.模擬授業参観　②　前年度の受講生の授業を参観する 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で 2 度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.教育実習報告会 15.「履修カルテ」作成　今学期の学習内容のまとめと次学期への課題発見

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JP0013A03
科目名	教育実習事前指導Ⅰ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	奥野　浩之	旧科目名称	教職演習Ⅰ
講義概要	教育実習の事前指導のための科目である。教育実習を真に実りあるものにするために、本学ではとくにこの演習を設けている。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 各自が模擬授業を行う１ヶ月前には科目や単元を教職指導室に連絡し、授業までの計画を作成する。また、少なくとも１週間前には学習指導案を指導教員に一旦は提出する。この期限が守られない場合は、模擬授業を取りやめ、演習を放棄したものとみなす。指導案提出から模擬授業までの期間は、授業や指導餡を完成させるために使う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。す べては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる		
教材（テキスト）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）。		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。		
準備学習	授業づくりや教材研究は一朝一夕では困難である。日頃より情報を収集し、文献や資料を読む努力をしてほしい。 必ず 1 カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の 1 週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		
受講者への要望			
毎回出席は当たり前。介護体験や次年度の実習のための諸手続きについても、この授業時に指導がなされるので、介護体験などの理由以外では欠席をしないように。 受講者は、次年度に「教育実習」を履修するだけの単位取得（教職課程だけでなく一般教科もふくめて）ができている者に限る。 自分から意欲的に授業を「見せ合う」ことができるようになってもらいたい。 教育実習を見通して演習を行っている。提出期限の遅れや低い次元での自己満足は許されない。			

講義の順序とポイント
1.オリエンテーション 2.模擬授業参観　①　前年度の受講生の授業を参観する 3.模擬授業参観　②　前年度の受講生の授業を参観する 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で 2 度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.教育実習報告会 15.「履修カルテ」作成　今学期の学習内容のまとめと次学期への課題発見

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JP0013B01
科目名	教育実習事前指導Ⅱ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	教職演習Ⅱ
講義概要	「教職演習Ⅰ」から継続して行う。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 「教職演習Ⅱ」では、それまでとは異なる科目、分野・単元での授業づくりを行う。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 春学期から継続し、準備を進める。「教職演習Ⅰ」と同様に期限を守って学習指導案を作り、練習を行う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。すべては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる。		
教材（テキスト）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。 これらに加え、教育実習での実習授業や教員となることを意識し、複数の校種、教科などの模擬授業を行う。		
準備学習	模擬授業は授業者だけが学ぶものではない。参観者は講評するだけでなく、授業での不明な点や不十分と考える点を自分で明らかにできるように努力してほしい。その積み重ねが自分の教材研究・授業づくりを質の高いものにしていくことになる。 また、授業を参観する機会を意識して増やそうと努力してほしい。 必ず１カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の１週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		

受講者への要望

教育実習では実習校の指導計画にあわせて、科目や単元が決まる。苦手なものでも授業を行うことが求められる場合がある。また、教員になれば、教科の内容をすべて受け持つ可能性がある。
このような状況にできるだけ円滑に対応するためにも、さまざまな授業を計画、練習しておく必要がある。「教職演習Ⅱ」では、あえて苦手なものに挑戦する意欲をもって臨んでもらいたい。
介護体験など３回生には忙しい時期となるが、事前の準備をしっかりと行うことを求める。「忙しい」「時間がなかった」は不十分な授業の理由にはならない。満足な授業ができないと判断した場合は、教育実習を辞退してもらうことになる。

講義の順序とポイント
「教職演習Ⅰ」と同様に行う。科目や分野を幅広く選択し、苦手なものを少なくしてほしい。 1.オリエンテーション 2.模擬授業 3.模擬授業 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で2度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.介護等体験報告会 15.「履修カルテ」作成　本年度のまとめと次年度への課題発見

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★	★★	

年度	2015	授業コード	JP0013B02
科目名	教育実習事前指導Ⅱ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	小田　憲夫	旧科目名称	教職演習Ⅱ
講義概要	「教職演習Ⅰ」から継続して行う。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 「教職演習Ⅱ」では、それまでとは異なる科目、分野・単元での授業づくりを行う。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 春学期から継続し、準備を進める。「教職演習Ⅰ」と同様に期限を守って学習指導案を作り、練習を行う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。すべては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる。		
教材（テキスト）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。 これらに加え、教育実習での実習授業や教員となることを意識し、複数の校種、教科などの模擬授業を行う。		
準備学習	模擬授業は授業者だけが学ぶものではない。参観者は講評するだけでなく、授業での不明な点や不十分と考える点を自分で明らかにできるように努力してほしい。その積み重ねが自分の教材研究・授業づくりを質の高いものにしていくことになる。 また、授業を参観する機会を意識して増やそうと努力してほしい。 必ず１カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の１週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		

受講者への要望

教育実習では実習校の指導計画にあわせて、科目や単元が決まる。苦手なものでも授業を行うことが求められる場合がある。また、教員になれば、教科の内容をすべて受け持つ可能性がある。
このような状況にできるだけ円滑に対応するためにも、さまざまな授業を計画、練習しておく必要がある。「教職演習Ⅱ」では、あえて苦手なものに挑戦する意欲をもって臨んでもらいたい。
介護体験など３回生には忙しい時期となるが、事前の準備をしっかりと行うことを求める。「忙しい」「時間がなかった」は不十分な授業の理由にはならない。満足な授業ができないと判断した場合は、教育実習を辞退してもらうことになる。

講義の順序とポイント
「教職演習Ⅰ」と同様に行う。科目や分野を幅広く選択し、苦手なものを少なくしてほしい。 1.オリエンテーション 2.模擬授業 3.模擬授業 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で2度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.介護等体験報告会 15.「履修カルテ」作成　本年度のまとめと次年度への課題発見

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★	★★	

年度	2015	授業コード	JP0013B03
科目名	教育実習事前指導Ⅱ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	奥野　浩之	旧科目名称	教職演習Ⅱ
講義概要	「教職演習Ⅰ」から継続して行う。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 「教職演習Ⅱ」では、それまでとは異なる科目、分野・単元での授業づくりを行う。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 春学期から継続し、準備を進める。「教職演習Ⅰ」と同様に期限を守って学習指導案を作り、練習を行う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。すべては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる。		
教材（テキスト）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。 これらに加え、教育実習での実習授業や教員となることを意識し、複数の校種、教科などの模擬授業を行う。		
準備学習	模擬授業は授業者だけが学ぶものではない。参観者は講評するだけでなく、授業での不明な点や不十分と考える点を自分で明らかにできるように努力してほしい。その積み重ねが自分の教材研究・授業づくりを質の高いものにしていくことになる。 また、授業を参観する機会を意識して増やそうと努力してほしい。 必ず１カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の１週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		

受講者への要望
教育実習では実習校の指導計画にあわせて、科目や単元が決まる。苦手なものでも授業を行うことが求められる場合がある。また、教員になれば、教科の内容をすべて受け持つ可能性がある。 このような状況にできるだけ円滑に対応するためにも、さまざまな授業を計画、練習しておく必要がある。「教職演習Ⅱ」では、あえて苦手なものに挑戦する意欲をもって臨んでもらいたい。 介護体験など３回生には忙しい時期となるが、事前の準備をしっかりと行うことを求める。「忙しい」「時間がなかった」は不十分な授業の理由にはならない。満足な授業ができないと判断した場合は、教育実習を辞退してもらうことになる。

講義の順序とポイント
「教職演習Ⅰ」と同様に行う。科目や分野を幅広く選択し、苦手なものを少なくしてほしい。 1.オリエンテーション 2.模擬授業 3.模擬授業 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で2度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.介護等体験報告会 15.「履修カルテ」作成　本年度のまとめと次年度への課題発見

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★	★★	

年度	2015	授業コード	JP0016001
科目名	教職入門 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Teaching Profession		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	現在日本では、明治期・戦後改革期とならぶ教育改革が進められている。教育改革が進む中で、求められる教師像も大きく変わろうとしている。本講義では、教師の職務及び教師に必要とされる資質・能力のうち、時代や社会が変わっても必要とされる「不易の部分」と、時代や社会の変化に対応する「流行の部分」の両方を取り上げていきたい。		
教材（テキスト）	林勲編『教育の原理』法律文化社		
教材（参考文献）	参考文献については、講義内容とかかわるものをその都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点・小テスト 30% （各授業の最後に提出する） 課題レポート 30%　（2 回以上おこなう　課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験 40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。		
到達目標	・学校教育や教員について関心を持ち、その概要について理解を進める。 ・教職課程のカリキュラム全体を見通し、計画的に学習を進めることができるようになる。 ・学習指導、生徒指導など学校教育の中心となる活動について理解を進め、基本的な能力を身につける。		
準備学習	・基礎的な学力（知識だけではない）が身についていないと、高い目標を目指すことはできない。「読む」「書く」「調べる」「まとめる」などのことが正確にできるように予習や復習を心がけること。 ・授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。予習や復習に利用するだけでなく、さらに関連する内容を自分で学んでもらいたい。 ・ボランティアや公開授業など、学校現場に直接かかわる機会を積極的に作り、学んだことを実際に確認できるようにしてもらいたい。		

受講者への要望
教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。
講義の順序とポイント
1.オリエンテーション 2.教育にかかわる問題（学力低下など） 3.教育にかかわる問題（学校の国際化など） 4.教職員の種類と職務（教員の資格と要件） 5.教職員の種類と職務（教員の任用） 6.教職員の種類と職務（教員の服務　教員の分限と懲戒） 7.教員の資質・能力（学習指導） 8.教員の資質・能力（教材研究） 9.教員の資質・能力（授業研究） 10.教員の資質・能力（教育評価） 11.教員の資質・能力（生徒理解） 12.教員の資質・能力（生徒指導） 13.教員の資質・能力（学校経営への参画） 14.教員の研修 15.教育改革と学校（今後の学校について考える）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	JP0016002
科目名	教職入門 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Teaching Profession		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	現在日本では、明治期・戦後改革期とならぶ教育改革が進められている。教育改革が進む中で、求められる教師像も大きく変わろうとしている。本講義では、教師の職務及び教師に必要とされる資質・能力のうち、時代や社会が変わっても必要とされる「不易の部分」と、時代や社会の変化に対応する「流行の部分」の両方を取り上げていきたい。		
教材（テキスト）	林勲編『教育の原理』法律文化社		
教材（参考文献）	参考文献については、講義内容とかかわるものをその都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点・小テスト 30% （各授業の最後に提出する） 課題レポート 30%　（2 回以上おこなう　課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験 40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。		
到達目標	・学校教育や教員について関心を持ち、その概要について理解を進める。 ・教職課程のカリキュラム全体を見通し、計画的に学習を進めることができるようになる。 ・学習指導、生徒指導など学校教育の中心となる活動について理解を進め、基本的な能力を身につける。		
準備学習	・基礎的な学力（知識だけではない）が身についていないと、高い目標を目指すことはできない。「読む」「書く」「調べる」「まとめる」などのことが正確にできるように予習や復習を心がけること。 ・授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。予習や復習に利用するだけでなく、さらに関連する内容を自分で学んでもらいたい。 ・ボランティアや公開授業など、学校現場に直接かかわる機会を積極的に作り、学んだことを実際に確認できるようにしてもらいたい。		

受講者への要望

教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.教育にかかわる問題（学力低下など）
3.教育にかかわる問題（学校の国際化など）
4.教職員の種類と職務（教員の資格と要件）
5.教職員の種類と職務（教員の任用）
6.教職員の種類と職務（教員の服務　教員の分限と懲戒）
7.教員の資質・能力（学習指導）
8.教員の資質・能力（教材研究）
9.教員の資質・能力（授業研究）
10.教員の資質・能力（教育評価）
11.教員の資質・能力（生徒理解）
12.教員の資質・能力（生徒指導）
13.教員の資質・能力（学校経営への参画）
14.教員の研修
15.教育改革と学校（今後の学校について考える）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★			

年度	2015	授業コード	JP0016003
科目名	教職入門 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Teaching Profession		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	現在日本では、明治期・戦後改革期とならぶ教育改革が進められている。教育改革が進む中で、求められる教師像も大きく変わろうとしている。本講義では、教師の職務及び教師に必要とされる資質・能力のうち、時代や社会が変わっても必要とされる「不易の部分」と、時代や社会の変化に対応する「流行の部分」の両方を取り上げていきたい。		
教材（テキスト）	林勲編『教育の原理』法律文化社		
教材（参考文献）	参考文献については、講義内容とかかわるものをその都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点・小テスト 30% （各授業の最後に提出する） 課題レポート 30%　（2 回以上おこなう　課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験 40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。		
到達目標	・学校教育や教員について関心を持ち、その概要について理解を進める。 ・教職課程のカリキュラム全体を見通し、計画的に学習を進めることができるようになる。 ・学習指導、生徒指導など学校教育の中心となる活動について理解を進め、基本的な能力を身につける。		
準備学習	・基礎的な学力（知識だけではない）が身についていないと、高い目標を目指すことはできない。「読む」「書く」「調べる」「まとめる」などのことが正確にできるように予習や復習を心がけること。 ・授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。予習や復習に利用するだけでなく、さらに関連する内容を自分で学んでもらいたい。 ・ボランティアや公開授業など、学校現場に直接かかわる機会を積極的に作り、学んだことを実際に確認できるようにしてもらいたい。		

受講者への要望
教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。
講義の順序とポイント
1.オリエンテーション 2.教育にかかわる問題（学力低下など） 3.教育にかかわる問題（学校の国際化など） 4.教職員の種類と職務（教員の資格と要件） 5.教職員の種類と職務（教員の任用） 6.教職員の種類と職務（教員の服務　教員の分限と懲戒） 7.教員の資質・能力（学習指導） 8.教員の資質・能力（教材研究） 9.教員の資質・能力（授業研究） 10.教員の資質・能力（教育評価） 11.教員の資質・能力（生徒理解） 12.教員の資質・能力（生徒指導） 13.教員の資質・能力（学校経営への参画） 14.教員の研修 15.教育改革と学校（今後の学校について考える）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2015	授業コード	JP0017A01
科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Cibics I		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	中学校社会科公民的分野の授業を行うために必要な、学習内容や学習方法を学ぶ。三回生で履修する「教職演習」に向けて、「学習指導案」の作成と具体的な場面での「授業作り」（発問・指示や板書）を練習する機会を作る。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領』（平成 20 年改訂） 『中学校学習指導要領　解説　社会科編』（同）		
教材（参考文献）	講義で紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点 20％　学習指導案などレポート 30％　試験（小テストを含む）50％		
到達目標	中学校社会科の公民的分野の「学習指導案」を作成し、その一部を実際の授業として行う。 このためには、「政治・経済・社会の基本的な内容を理解している」「公民的資質の育成という社会科の目標や特徴を理解している」「教材研究や授業作りを本に、発問や板書などを計画できる」ということが必要になります。		
準備学習	高等学校の「現代社会」「政治経済」「倫理社会」の復習を行うこと。 「公民」は現代の問題を扱う教科・科目・分野であるので、常に社会的な問題を意識し、新しい情報を収集すること。		

受講者への要望

授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。

社会科が苦手であったり、社会科の内容を忘れてしまっていてはどうしようもがないので、社会科を中心に、全般的な教科の学習内容について丁寧に学び直す機会を持ち、小テストで繰り返し内容理解の定着度を確認する。自分でも高等学校、中学校の復習を心がけること。

授業を実際に見る機会が少ない。児童・生徒とかかわる機会が少ない。こういうことが内容に各自積極的に学校現場の活動に参加するようにしてほしい。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.小学校における政治学習・経済学習
3.「公民的資質」とは何か
4.政治に関する学習　「法教育」など
5.経済に関する学習　「金融教育」など
6.社会に関する学習　「開発教育」など
7.学習指導案の書き方　①目標と評価
8.学習指導案の書き方　②教材観、生徒観、指導観
9.学習指導案の書き方　③展開計画
１０.授業作り　発問・指示　板書計画
１１～１３．ミニ模擬授業及び授業の批評
受講生を生徒にし、15-30 分程度の模擬授業を行う。たがいに講評を行う。
１４．ミニ模擬授業の反省と学習指導案の修正
１５.社会科、公民科の授業の今後のあり方（新しい授業のあり方）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JP0017A02
科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Cibics I		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	中学校社会科公民的分野の授業を行うために必要な、学習内容や学習方法を学ぶ。三回生で履修する「教職演習」に向けて、「学習指導案」の作成と具体的な場面での「授業作り」（発問・指示や板書）を練習する機会を作る。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領』（平成 20 年改訂） 『中学校学習指導要領　解説　社会科編』（同）		
教材（参考文献）	講義で紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点 20％　学習指導案などレポート 30％　試験（小テストを含む）50％		
到達目標	中学校社会科の公民的分野の「学習指導案」を作成し、その一部を実際の授業として行う。 このためには、「政治・経済・社会の基本的な内容を理解している」「公民的資質の育成という社会科の目標や特徴を理解している」「教材研究や授業作りを本に、発問や板書などを計画できる」ということが必要になります。		
準備学習	高等学校の「現代社会」「政治経済」「倫理社会」の復習を行うこと。 「公民」は現代の問題を扱う教科・科目・分野であるので、常に社会的な問題を意識し、新しい情報を収集すること。		

受講者への要望

授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。

社会科が苦手であったり、社会科の内容を忘れてしまっていてはどうしようもがないので、社会科を中心に、全般的な教科の学習内容について丁寧に学び直す機会を持ち、小テストで繰り返し内容理解の定着度を確認する。自分でも高等学校、中学校の復習を心がけること。

授業を実際に見る機会が少ない。児童・生徒とかかわる機会が少ない。こういうことが内容に各自積極的に学校現場の活動に参加するようにしてほしい。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.小学校における政治学習・経済学習
3.「公民的資質」とは何か
4.政治に関する学習　「法教育」など
5.経済に関する学習　「金融教育」など
6.社会に関する学習　「開発教育」など
7.学習指導案の書き方　①目標と評価
8.学習指導案の書き方　②教材観、生徒観、指導観
9.学習指導案の書き方　③展開計画
１０.授業作り　発問・指示　板書計画
１１～１３．ミニ模擬授業及び授業の批評
受講生を生徒にし、15-30 分程度の模擬授業を行う。たがいに講評を行う。
１４．ミニ模擬授業の反省と学習指導案の修正
１５.社会科、公民科の授業の今後のあり方（新しい授業のあり方）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JP0017B01
科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Cibics Ⅱ		
担当者名	奥野　浩之	旧科目名称	
講義概要	「良い公民の授業とは何か。それはどのような内容をどのように教えることなのか。」本講義では、中学校社会科公民的分野の中でも、特に政治学習に焦点を当て、この問いに多様な視点から答えていく。講義では実際の中学校社会科公民的分野（政治学習）の指導案やビデオの分析を行いながら、グループ活動を通して、自分の考え・他者の考えを検討し、これからの中学校社会科公民的分野（政治学習）における授業観を作り上げてもらいたい。		
教材（テキスト）	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版（２００８年)、 東京書籍編『新しい社会 公民』東京書籍（２０１２年）		
教材（参考文献）	全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書（２０１１年） 『中学校学習指導要領』		
教材（その他）			
評価方法	受講態度：２０％、小テスト：２０％、模擬授業：３０％、レポート：３０％		
到達目標	教科と子どもの実態を踏まえて、中学校社会科公民的分野（政治学習）を指導できる基礎的な力量を養う。 ①中学校社会科公民的分野（政治学習）の役割と意義を理解できる。 ②中学校社会科公民的分野（政治学習）の授業を分析し、意義と課題を評価できる。 ③中学校社会科公民的分野（政治学習）の授業構造を考察し、授業を「学習指導案」の形で表現できる。		
準備学習	・社会の動きを知り，授業の種を見つけるためにも，テレビ・ウェブ・新聞・雑誌などから情報を収集してほしい。 ・これまで受けてきた授業や，多様な指導案・テレビの教育番組を通して「良い授業」「悪い授業」について考えてもらいたい。		

受講者への要望

１．この講義では，授業を「受ける」側から「作る」側に視点を転換してもらいたい。：そのため，①遅刻・欠席などには厳しく取り組むこと，②講義において活動に積極的にとりくむこと，③子ども達や社会状況をめぐる動きを探ること，を意識的に行ってもらいたい。

２．第１回の講義でこれからの進め方について説明を行う。資料を読んで，内容を理解してもらいたい。

講義の順序とポイント

第１回：オリエンテーション（科目の役割、講義の進め方、良い公民の授業とは）
第２回：中学校社会科公民的分野の役割と意義
第３回：小学校社会科の政治学習
第４回：高等学校公民科の「政治・経済」
第５回：中学校社会科公民的分野（政治学習）の目標・内容
第６回：中学校社会科地理的分野・歴史的分野における学習成果の活用
第７回：中学校社会科公民的分野における学習指導案の作り方
第８回：「人権と日本国憲法」の模擬授業と分析・検討
第９回：「人権と共生社会」の模擬授業と分析・検討
第１０回：「これからの人権保障」の模擬授業と分析・検討
第１１回：「現代の民主政治」の模擬授業と分析・検討
第１２回：「国の政治のしくみ」の模擬授業と分析・検討
第１３回：「地方の政治と自治」の模擬授業と分析・検討
第１４回：模擬授業の振り返り
第１５回：中学校社会科公民的分野（政治学習）の現状と課題
定期試験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JP0017B02
科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Cibics Ⅱ		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	「良い公民の授業とは何か。それはどのような内容をどのように教えることなのか。」本講義では、中学校社会科公民的分野の中でも、特に政治学習に焦点を当て、この問いに多様な視点から答えていく。講義では実際の中学校社会科公民的分野（政治学習）の指導案やビデオの分析を行いながら、グループ活動を通して、自分の考え・他者の考えを検討し、これからの中学校社会科公民的分野（政治学習）における授業観を作り上げてもらいたい。		
教材（テキスト）	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版（２００８年)、 東京書籍編『新しい社会 公民』東京書籍（２０１２年）		
教材（参考文献）	全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書（２０１１年） 『中学校学習指導要領』		
教材（その他）			
評価方法	受講態度：２０％、小テスト：２０％、模擬授業：３０％、レポート：３０％		
到達目標	教科と子どもの実態を踏まえて、中学校社会科公民的分野（政治学習）を指導できる基礎的な力量を養う。 ①中学校社会科公民的分野（政治学習）の役割と意義を理解できる。 ②中学校社会科公民的分野（政治学習）の授業を分析し、意義と課題を評価できる。 ③中学校社会科公民的分野（政治学習）の授業構造を考察し、授業を「学習指導案」の形で表現できる。		
準備学習	・社会の動きを知り，授業の種を見つけるためにも，テレビ・ウェブ・新聞・雑誌などから情報を収集してほしい。 ・これまで受けてきた授業や，多様な指導案・テレビの教育番組を通して「良い授業」「悪い授業」について考えてもらいたい。		

受講者への要望

１．この講義では，授業を「受ける」側から「作る」側に視点を転換してもらいたい。：そのため，①遅刻・欠席などには厳しく取り組むこと，②講義において活動に積極的にとりくむこと，③子ども達や社会状況をめぐる動きを探ること，を意識的に行ってもらいたい。

２．第１回の講義でこれからの進め方について説明を行う。資料を読んで，内容を理解してもらいたい。

講義の順序とポイント

第１回：オリエンテーション（科目の役割、講義の進め方、良い公民の授業とは）
第２回：中学校社会科公民的分野の役割と意義
第３回：小学校社会科の政治学習
第４回：高等学校公民科の「政治・経済」
第５回：中学校社会科公民的分野（政治学習）の目標・内容
第６回：中学校社会科地理的分野・歴史的分野における学習成果の活用
第７回：中学校社会科公民的分野における学習指導案の作り方
第８回：「人権と日本国憲法」の模擬授業と分析・検討
第９回：「人権と共生社会」の模擬授業と分析・検討
第１０回：「これからの人権保障」の模擬授業と分析・検討
第１１回：「現代の民主政治」の模擬授業と分析・検討
第１２回：「国の政治のしくみ」の模擬授業と分析・検討
第１３回：「地方の政治と自治」の模擬授業と分析・検討
第１４回：模擬授業の振り返り
第１５回：中学校社会科公民的分野（政治学習）の現状と課題
定期試験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JP0018A01
科目名	社会科・地歴科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Social Studies I		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	まず、「地理歴史は暗記」という概念を捨てること、公の場で教師が言うべきものではない。そうすると、「暗記ではなく何？」という疑問が出てきます。この疑問に対する答えを見つけることがこの講義の内容です。「なぜ学習するのか」を教師が理解していないと、「覚えなさい」というおもしろくない授業になります。「良い授業」を作るためにはどのような要素が必要か考えていきたいと思います。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領』（平成 20 年改訂） 『中学校学習指導要領　解説　社会科編』（同）		
教材（参考文献）	講義の内容にかかわるものをその都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点 20％　学習指導案などレポート 30％　試験（小テストを含む）50%		
到達目標	中学校社会科の地理的分野、歴史的分野の授業を「学習指導案」の形で表現できる。 このためには、「地理や歴史の基本的な内容を理解している」「社会科の教科としての目標や特徴を理解してい る」「教材研究や授業作りを自主的に行うことができる」ということが必要になります。		
準備学習	授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。 まず、中学校や高等学校の地理・歴史に関する復習が必要、特に高等学校で学習していない科目（地理の場合が多い）は意識して取り組むようにしてほしい。 出版されている授業記録などを読み、「良い授業」とはどのようなものか考えてほしい。		

受講者への要望

社会科が苦手であったり、社会科の内容を忘れてしまっていてはどうしようもがないので、社会科を中心に、全般的な教科の学習内容について丁寧に学び直す機会を持ち、小テストで繰り返し内容理解の定着度を確認する。自分でも高等学校、中学校の復習を心がけること。

授業を実際に見る機会が少ない。児童・生徒とかかわる機会が少ない。こういうことが内容に各自積極的に学校現場の活動に参加するようにしてほしい。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.社会科の歴史
3.小学校の歴史学習・地理学習
4.高等学校地歴科との関連
5.地理的分野の目標・内容　①世界の様々な地域
6.地理的分野の目標・内容　②日本の様々な地域
7.地理的分野の目標・内容　③主題を設けて行う学習
8.地理的分野の目標・内容　④地域的特色をとらえる学習
9.地理的分野の目標・内容　⑤地図と統計資料
１０.歴史的分野の目標・内容　①歴史のとらえ方
１１.歴史的分野の目標・内容　②古代までの日本
１２.歴史的分野の目標・内容　③中世～近世の日本
１３.歴史的分野の目標・内容　④近代の日本と世界
１４.歴史的分野の目標・内容　⑤現代の日本と世界
１５.地理歴史教育の現状と課題（求められている授業改善）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JP0018A02
科目名	社会科・地歴科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Social Studies I		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	まず、「地理歴史は暗記」という概念を捨てること、公の場で教師が言うべきものではない。そうすると、「暗記ではなく何？」という疑問が出てきます。この疑問に対する答えを見つけることがこの講義の内容です。「なぜ学習するのか」を教師が理解していないと、「覚えなさい」というおもしろくない授業になります。「良い授業」を作るためにはどのような要素が必要か考えていきたいと思います。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領』（平成 20 年改訂） 『中学校学習指導要領　解説　社会科編』（同）		
教材（参考文献）	講義の内容にかかわるものをその都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点 20％　学習指導案などレポート 30％　試験（小テストを含む）50%		
到達目標	中学校社会科の地理的分野、歴史的分野の授業を「学習指導案」の形で表現できる。 このためには、「地理や歴史の基本的な内容を理解している」「社会科の教科としての目標や特徴を理解してい る」「教材研究や授業作りを自主的に行うことができる」ということが必要になります。		
準備学習	授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。 まず、中学校や高等学校の地理・歴史に関する復習が必要、特に高等学校で学習していない科目（地理の場合が多い）は意識して取り組むようにしてほしい。 出版されている授業記録などを読み、「良い授業」とはどのようなものか考えてほしい。		

受講者への要望

社会科が苦手であったり、社会科の内容を忘れてしまっていてはどうしようもがないので、社会科を中心に、全般的な教科の学習内容について丁寧に学び直す機会を持ち、小テストで繰り返し内容理解の定着度を確認する。自分でも高等学校、中学校の復習を心がけること。

授業を実際に見る機会が少ない。児童・生徒とかかわる機会が少ない。こういうことが内容に各自積極的に学校現場の活動に参加するようにしてほしい。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.社会科の歴史
3.小学校の歴史学習・地理学習
4.高等学校地歴科との関連
5.地理的分野の目標・内容　①世界の様々な地域
6.地理的分野の目標・内容　②日本の様々な地域
7.地理的分野の目標・内容　③主題を設けて行う学習
8.地理的分野の目標・内容　④地域的特色をとらえる学習
9.地理的分野の目標・内容　⑤地図と統計資料
１０.歴史的分野の目標・内容　①歴史のとらえ方
１１.歴史的分野の目標・内容　②古代までの日本
１２.歴史的分野の目標・内容　③中世～近世の日本
１３.歴史的分野の目標・内容　④近代の日本と世界
１４.歴史的分野の目標・内容　⑤現代の日本と世界
１５.地理歴史教育の現状と課題（求められている授業改善）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JP0018B01
科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Social Studies Ⅱ		
担当者名	奥野　浩之	旧科目名称	
講義概要	「良い地理歴史の授業とは何か。それはどのような内容をどのように教えることなのか。」本講義では、この問いに多様な視点から答えていく。講義では実際の中学校、高等学校の指導案やビデオの分析を行いながら、グループ活動を通して、自分の考え・他者の考えを検討し、これからの地理、歴史における授業観を作り上げてもらいたい。		
教材（テキスト）	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版（２００８年） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』教育出版（２０１０年）		
教材（参考文献）	全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書（２０１１年） 『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』		
教材（その他）			
評価方法	受講態度：２０％、小テスト：２０％、模擬授業：３０％、レポート：３０％		
到達目標	教科と子どもの実態を踏まえて、中学校社会科　地理的分野、歴史的分野と高等学校地歴科を指導できる基礎的な力量を養う。 ①中学校社会科地理的分野、歴史的分野と高等学校地歴科の役割と意義を理解できる。 ②中学校社会科地理的分野、歴史的分野と高等学校地歴科の授業を分析し、意義と課題を評価できる。 ③中学校社会科地理的分野、歴史的分野と高等学校地歴科の授業構造を考察し、授業を「学習指導案」の形で表現できる。		
準備学習	・社会の動きを知り，授業の種を見つけるためにも，テレビ・ウェブ・新聞・雑誌などから情報を収集してほしい。 ・これまで受けてきた授業や，多様な指導案・テレビの教育番組を通して「良い授業」「悪い授業」について考えてもらいたい。		
受講者への要望			
１．この講義では，授業を「受ける」側から「作る」側に視点を転換してもらいたい。：そのため，①遅刻・欠席などには厳しく取り組むこと，②講義において活動に積極的にとりくむこと，③子ども達や社会状況をめぐる動きを探ること，を意識的に行ってもらいたい。 ２．第１回の講義でこれからの進め方について説明を行う。資料を読んで，内容を理解してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
第１回：オリエンテーション（科目の役割、講義の進め方、良い地理、歴史の授業とは） 第２回：地理歴史教育の役割と意義 第３回：中学校社会科の地理的分野と歴史的分野の目標・内容 第４回：地理 A、地理 B の目標・内容 第５回：日本史 A、日本史 B の目標・内容 第６回：世界史 A、世界史 B の目標・内容 第７回：学習指導案の作り方 第８回：中学校地理的分野の模擬授業と分析・検討 第９回：地理 A　B の模擬授業と分析・検討 第１０回：日本史 A　B の模擬授業と分析・検討 第１１回：世界史 A　B の模擬授業と分析・検討 第１２回：模擬授業の振り返り　世界史について 第１３回：模擬授業の振り返り　日本史、中学校歴的分野について 第１４回：模擬授業の振り返り　地理、中学校地理的分野について 第１５回：地理、歴史の授業の現状と課題 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JP0018B02
科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Social Studies Ⅱ		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	「良い地理歴史の授業とは何か。それはどのような内容をどのように教えることなのか。」本講義では、この問いに多様な視点から答えていく。講義では実際の中学校、高等学校の指導案やビデオの分析を行いながら、グループ活動を通して、自分の考え・他者の考えを検討し、これからの地理、歴史における授業観を作り上げてもらいたい。		
教材（テキスト）	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版（２００８年） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』教育出版（２０１０年）		
教材（参考文献）	全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書（２０１１年） 『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』		
教材（その他）			
評価方法	受講態度：２０％、小テスト：２０％、模擬授業：３０％、レポート：３０％		
到達目標	教科と子どもの実態を踏まえて、中学校社会科　地理的分野、歴史的分野と高等学校地歴科を指導できる基礎的な力量を養う。 ①中学校社会科地理的分野、歴史的分野と高等学校地歴科の役割と意義を理解できる。 ②中学校社会科地理的分野、歴史的分野と高等学校地歴科の授業を分析し、意義と課題を評価できる。 ③中学校社会科地理的分野、歴史的分野と高等学校地歴科の授業構造を考察し、授業を「学習指導案」の形で表現できる。		
準備学習	・社会の動きを知り，授業の種を見つけるためにも，テレビ・ウェブ・新聞・雑誌などから情報を収集してほしい。 ・これまで受けてきた授業や，多様な指導案・テレビの教育番組を通して「良い授業」「悪い授業」について考えてもらいたい。		
受講者への要望			
１．この講義では，授業を「受ける」側から「作る」側に視点を転換してもらいたい。：そのため，①遅刻・欠席などには厳しく取り組むこと，②講義において活動に積極的にとりくむこと，③子ども達や社会状況をめぐる動きを探ること，を意識的に行ってもらいたい。 ２．第１回の講義でこれからの進め方について説明を行う。資料を読んで，内容を理解してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
第１回：オリエンテーション（科目の役割、講義の進め方、良い地理、歴史の授業とは） 第２回：地理歴史教育の役割と意義 第３回：中学校社会科の地理的分野と歴史的分野の目標・内容 第４回：地理 A、地理 B の目標・内容 第５回：日本史 A、日本史 B の目標・内容 第６回：世界史 A、世界史 B の目標・内容 第７回：学習指導案の作り方 第８回：中学校地理的分野の模擬授業と分析・検討 第９回：地理 A　B の模擬授業と分析・検討 第１０回：日本史 A　B の模擬授業と分析・検討 第１１回：世界史 A　B の模擬授業と分析・検討 第１２回：模擬授業の振り返り　世界史について 第１３回：模擬授業の振り返り　日本史、中学校歴的分野について 第１４回：模擬授業の振り返り　地理、中学校地理的分野について 第１５回：地理、歴史の授業の現状と課題 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JP0020A01
科目名	情報科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Information Studies I		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	教科情報免許を取得しようとする受講生に、「学習指導要領」に基づき情報に関する指導事項を講義する。具体的事例を示し講義をすすめる。高等学校情報教育に従事しようとする者を対象に、教科情報とはいかなるものかを学び、指導法の習得、教材研究のありかた、指導案の組み立てなど、教員に必要な資質と教養を身につけることを目標としている。他、新学習指導要領に関する内容も含む。具体的事例をとりあげ、教育の本質と教師の役割を学習できるように講義を進める。		
教材（テキスト）	教科書： 高等学校学習指導要領 大蔵省印刷局 高等学校学習指導要領解説情報編 開隆堂出版		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	講義内課題（20%）、レポート（30%）　定期テスト（50%）		
到達目標	教科情報（普通科）の取り扱うべき内容の指導案を作成し、授業が行える。		
準備学習	コンピュータ操作や機能を把握し、使い方や規則を他に説明するため、プレゼン資料にまとめ、コンピュータを情報処理に活用できるよう努める。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1.年間講座計画の説明、学習指導要領における情報教育
情報教育の体系化、文部科学省の定める教科目標
2.情報教育の目標 （情報活用の実践力、科学的な理解、情報社会に参画する態度）
3.普通教科「情報」の概要（教科内容、必修事項）
4.普通教科「情報」新設の趣旨、目標
　中学技術家庭学習内容、他教科科目との関連
5-1.普通教科情報の目標と内容
　普通教科情報の科目構成、２科目の特徴
5-2.新学習指導要領
　情報ＡＢＣと社会と情報、情報の科学
6.専門教科「情報」の目標、科目構成
7.指導計画の作成と実習等の取扱い
8.単元の構成、単元指導計画、指導案
9.他教科との連携
10.実習の目的、座学と実習の効果的な配置
11.実習設計と教材開発（実習計画と実習指導案作成）
12.情報モラルの指導
　（情報化の影の部分への対応、情報手段による社会参加
　　情報と著作権、情報発信者の責任、情報活用と知的所有権）
13.指導案の作成（教育の目標、年間指導計画、指導案課題の提出）
14.模擬授業（ビデオ撮影）
15.模擬授業の検討、指導案・授業実施資料の作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JP0020B01
科目名	情報科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Information Studies Ⅱ		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	高等学校の情報教育に従事しようとする者を対象に、教科情報とはいかなるものかを学び、指導法の習得、教材研究のありかた、指導案の組み立てなど、教員に必要な資質と教養を身につけることを目標としている。他、新学習指導要領に関する内容も含む。具体的事例をとりあげ、教育の本質と教師の役割を学習できるように講義を進める。教科情報免許を取得しようとする受講生に、「学習指導要領」に基づき情報に関する指導事項を講義する。		
教材（テキスト）	教科書： 高等学校学習指導要領 大蔵省印刷局 高等学校学習指導要領解説情報編 開隆堂出版		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	講義内課題（20%）、レポート（30%）　定期テスト（50%）		
到達目標	教科情報（普通・専門科）の取り扱うべき内容の指導案を作成し、授業が行える。さらに、教科を取り巻く現状に応じ、指導内容の改善が行える。		
準備学習	情報科教育法Ⅱでは、専門分野を主に取り扱うため、情報各分野において情報科教育法Ⅰの内容を踏まえ、アルゴリズム・プログラム言語・設計技法等の基礎を学習後、受講されたい。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1-1.後期講座計画の説明、普通教科情報 A・B・C と専門教科情報、専門教科教育目標
1-2.新学習指導要領
2.専門教科指導と評価
3.専門教科「情報」の目標、科目構成、教科目標と 3 つの分野
　（システム設計・管理分野、共通分野、マルチメディア分野）
4.専門教育課程と科目、教育目標に沿った課程と科目
5.教育課程編成（教育目標に沿った各科目の単位数、各科目の時間配分）
6.カリキュラム編成
　（進路とカリキュラム編成、モデル学科教育課程の作成、教科指導計画の作成）
7.各科目の取扱う内容、専門科目指導計画
8.実習等の取扱い
　（指導計画の作成と実習等の取扱い、実習演習：スクリプトと Web ページ）
9.実習と課題研究
10.地域・産業界との連携
11.実習指導計画作成と教材開発（単元の指導計画作成）
12.教科「情報」の模擬授業（ビデオ撮影）
13.模擬授業の改善（ビデオを元に）
14.新しいメディアの利用（情報機器を使った授業展開）
15.進路を考慮した学科・教育課程の作成、教科指導計画課題の作成

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	JP0022001
科目名	生徒・進路指導論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Guidance		
担当者名	黒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	生徒指導の基礎・基本的な考え方、問題行動に対する指導方法や、いじめ・不登校などの今日的な課題について、「生徒指導提要」(平成 22 年 3 月文部科学省)をもとにグループディスカッションも取り入れながら学ぶ。 生徒指導上のいろいろな問題に対して、日ごろの学校教育活動を通じて、健全な発達の支援をいかに行うか、また、生徒や保護者との関係づくりや対応をどのように行うかなどロールプレーイングなども行い具体的に考察する。 「中学校キャリア教育の手引き」(文部科学省) を基にしながら従来の進路指導からキャリア教育への移行についての理論と学校現場での実践について考察する。		
教材（テキスト）	「生徒指導提要」(文部科学省平成 22 年 3 月) を事前に購入しておくこと		
教材（参考文献）	授業時に指示する		
教材（その他）	講義の内容に関する参考資料を授業時に配布する		
評価方法	平常点・小テスト 30%（各授業時に提出する） 課題レポート 2 回 30%（課題レポートの未提出は授業を放棄したものとみなす） 学期末試験　40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。(出席重視)		
到達目標	・生徒指導・進路指導にかかわる基本的な理解を進める ・学級担任（教員）として、生徒・進路指導上の具体的な場面で、実際的な指導ができる ・生徒や保護者からの相談・要望・苦情に対して適切に対応することができる		
準備学習	・準備学習として、学習指導要領や生徒指導提要などのテキストをシラバスに記された次回の講義内容に該当する箇所を読んで内容や専門用語等を理解しておくこと。 ・授業時に配布されたレジメなどをもとにその日の授業内容を復習しておくこと。 ・授業 5 回ごとにレポートを課すのでその備えをし、指定期日までに提出すること。 ・いじめや不登校をはじめ、生徒指導上で話題になっていることに関心をもち、普段から新聞やテレビなどの情報をもとに考える習慣をつけること。		

受講者への要望

・教職への強い意志、および真摯な受講態度・学習態度を求める。
・グループ討議や発表の機会が多いので積極的に参加することが求められる
・出席重視。遅刻の場合、その理由を尋ねる。
・私語などの言動で他者への迷惑になる場合は、退出を求める。

講義の順序とポイント

1. 講義の概要および生徒指導の意義と原理
2. 教育課程と生徒指導
3. 生徒の心理と生徒理解
4. いじめ・不登校問題
5. 学校における生徒指導体制
6. 教育相談
7. 少年非行
8. 問題行動の早期発見と効果的な指導
9. 保護者から寄せられる相談・苦情・要求
10. 学校と家庭・地域・関係機関との連携活動

11.キャリア教育と進路指導
12..キャリア教育の進め方
13.事例演習
14.事例演習
15.学級担任の生徒指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JP0023001
科目名	道徳教育の指導法 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Study on Moral Education		
担当者名	黒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	中学校学習指導要領および同解説（道徳編）をもとに学校における道徳教育の目標や内容について基本的な考え方を身に付ける。 また、読み物資料を用いての模擬授業やグループ討議を通して、道徳の時間の指導が何をめざして、どのように行われるべきなのかなどについて具体的な指導方法を考えていきたい。		
教材（テキスト）	中学校学習指導要領、同解説（道徳編）を事前に購入しておくこと。		
教材（参考文献）	「道徳教育とは何だろうか」、「道徳教育画餅からの脱却」(横山利弘著)など授業時に指示する。		
教材（その他）	講義の内容に関する参考資料を授業時に配布する。		
評価方法	平常点・小テスト 30%（各授業時に提出する） 課題レポート（指導案を含む）2 回 30%（課題レポートの未提出は授業放棄したものとみなす） 学期末試験　40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。（出席重視）		
到達目標	・道徳教育の目標・内容、指導計画、指導方法などについての基本的な事項を理解する。 ・学級担任（教員）として、指導案を作成し、道徳の時間の指導ができる。		
準備学習	・準備学習として、学習指導要領や同解説、配布資料など、次回の講義内容に該当する箇所を読んで予習しておくこと。 ・授業時に学習した内容を毎回、小レポートとして提出する。 ・授業のまとめとして、5 回区切りごとに大レポートとして課すので、毎授業後に復習をして次回の授業に備えるとともに、レポートに備えておくこと。そのレポートは指定された期日までに提出すること。（未提出者は授業を放棄したものとみなす）		

受講者への要望

・教職への強い意志、および真摯な受講態度・学習態度を求める。
・グループ討議や発表の機会が多いので積極的に参加することが求められる。
・出席重視。遅刻の場合、その理由を尋ねる。
・私語など、他者への迷惑行為がある場合は退出を求める。

講義の順序とポイント

1. 講義の概要と学習指導要領で求められている道徳教育
2. 道徳教育の基本的な在り方及び目標
3.道徳の内容
4. 学校における指導体制
5.全体計画・年間指導計画
6.道徳の時間の指導
7. 学習指導案の作成
8. 道徳授業のポイント
9. 他教科との関連
10. 道徳資料の読み方
11.道徳資料の読み及びミニ模擬授業
12.道徳資料の読み及びミニ模擬授業
13.模擬授業および授業の振り返り
14.模擬授業および授業の振り返り
15.模擬授業および授業の振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JP0024001
科目名	特別活動論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Extra-curriculum Activity		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	現在、学校教育の中で行われている「特別活動」を取り上げ、学校行事・学級活動・生徒会活動などがどのように位置づけられているのかを考える。 これまでの『学習指導要領』の変遷を踏まえて、「特別活動」がどのように取り扱われていたのかを概観する。そして、教科や道徳、さらには「総合的な学習」などとの関連を整理し、 「特別活動」がどのようなことを目指して、どのような方法で行われていくべきなのかを考えていきたい。 各自が、「特別活動」の指導計画を作成できるようになることを目標としている。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領　解説　特別活動編』（平成 20 年改正） 『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領　解説　特別活動編』（平成 21 年改正）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	講義の内容に関する参考資料を配布、紹介する。		
評価方法	平常点・小テスト 30%　（各授業の最後に提出する） 課題レポート 30%　（2 回以上おこなう　課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験 40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。		
到達目標	・学校で行われている「特別活動」について理解を進める。教育目標と活動の関係を意識し、さまざまな教育活動が行われていることを知る。 ・「学級指導」や「学級活動」など特別活動の具体的な場面を想定し、実際の指導を考え、学習指導案にまとめることができる。 ・さまざまな教育目標に対して、「特別活動」の指導計画を作成することができる。		
準備学習	・1 回生で履修した教職に関する講義の内容を復習しておく（テキスト、ノートを読み直すなど） ・授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。 ・各学校で行われている、特徴的な活動や取り組みについて、さまざまな記録が出版されている。その中で、自分が興味を持ったものに目を通しておくと、指導計画や授業の具体的なイメージが作りやすい。 ・現在、学校や教育の分野で話題や問題となっていることに関心を持ち、情報を収集するように心がける。		
受講者への要望			
教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。 各講義で行う小テストや紹介した参考資料などを利用し、学校教育の課題や新しい動向などを常に意識するように。			
講義の順序とポイント			
１．特別活動とは何か ２．学習指導要領の変遷 ３．新しい学習指導要領 ４．特別活動の目標（小レポートⅠ） ５．特別活動の内容①学級活動の特質 ６．特別活動の内容②学級活動の実践 ７．特別活動の内容③生徒会活動 ８．特別活動の内容④学校行事 ９．特別活動と必修教科・選択教科 １０．特別活動と道徳 １１．特別活動と総合的な学習 １２．特別活動と生徒指導 １３．特別活動の指導計画①調査・計画 １４．特別活動の指導計画②指導計画案作成（小レポートⅡ） １５．教育改革と特別活動（今後の特別活動の方向）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JP0024002
科目名	特別活動論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Extra-curriculum Activity		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	現在、学校教育の中で行われている「特別活動」を取り上げ、学校行事・学級活動・生徒会活動などがどのように位置づけられているのかを考える。 これまでの『学習指導要領』の変遷を踏まえて、「特別活動」がどのように取り扱われていたのかを概観する。そして、教科や道徳、さらには「総合的な学習」などとの関連を整理し、 「特別活動」がどのようなことを目指して、どのような方法で行われていくべきなのかを考えていきたい。 各自が、「特別活動」の指導計画を作成できるようになることを目標としている。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領　解説　特別活動編』（平成 20 年改正） 『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領　解説　特別活動編』（平成 21 年改正）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	講義の内容に関する参考資料を配布、紹介する。		
評価方法	平常点・小テスト 30%　（各授業の最後に提出する） 課題レポート 30%　（2 回以上おこなう　課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験 40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。		
到達目標	・学校で行われている「特別活動」について理解を進める。教育目標と活動の関係を意識し、さまざまな教育活動が行われていることを知る。 ・「学級指導」や「学級活動」など特別活動の具体的な場面を想定し、実際の指導を考え、学習指導案にまとめることができる。 ・さまざまな教育目標に対して、「特別活動」の指導計画を作成することができる。		
準備学習	・1 回生で履修した教職に関する講義の内容を復習しておく（テキスト、ノートを読み直すなど） ・授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。 ・各学校で行われている、特徴的な活動や取り組みについて、さまざまな記録が出版されている。その中で、自分が興味を持ったものに目を通しておくと、指導計画や授業の具体的なイメージが作りやすい。 ・現在、学校や教育の分野で話題や問題となっていることに関心を持ち、情報を収集するように心がける。		
受講者への要望			
教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。 各講義で行う小テストや紹介した参考資料などを利用し、学校教育の課題や新しい動向などを常に意識するように。			
講義の順序とポイント			
１．特別活動とは何か ２．学習指導要領の変遷 ３．新しい学習指導要領 ４．特別活動の目標（小レポートⅠ） ５．特別活動の内容①学級活動の特質 ６．特別活動の内容②学級活動の実践 ７．特別活動の内容③生徒会活動 ８．特別活動の内容④学校行事 ９．特別活動と必修教科・選択教科 １０．特別活動と道徳 １１．特別活動と総合的な学習 １２．特別活動と生徒指導 １３．特別活動の指導計画①調査・計画 １４．特別活動の指導計画②指導計画案作成（小レポートⅡ） １５．教育改革と特別活動（今後の特別活動の方向）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JP0025001
科目名	発達と学習の心理学 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Development and Learning Psychology		
担当者名	日髙　正宏	旧科目名称	
講義概要	主題　教育現場で心理学を応用する 目標　今、学校現場では、非社会的児童・生徒への対応や、反社会的児童・生徒への対応など、さまざまな課題が見られます。困難をかかえる現代の学校で、教科指導にも、生徒指導にも、保護者対応にも心理学的アプローチが必要となっています。この科目では、まず、教育の対象たる児童･生徒の発達を踏まえて、心理学的理解を進めます。次に、児童・生徒との効果的接し方や、個人指導と集団指導、校内連携の必要性などを学びます。またアセスメント、測定などを考え、活き活き生きる児童・生徒を目指す教員のありかたを考えます。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使いません。必要に応じ、資料を配布します。		
教材（参考文献）	必要に応じて提示します。		
教材（その他）	必要に応じ、資料を配布します。ビデオ教材も使います。		
評価方法	毎回の小レポート（60%）　最終レポート（40%）		
到達目標	教員になった場合に必要な、児童・生徒理解の基本を学ぶ。		
準備学習	毎回の授業で提示される小レポートを作成する。		
受講者への要望			
教員の講義を聞くだけではなく、提示される体験学習に積極的に参加すること。 学外での人間観察など、児童・生徒理解に資することも積極的に行うこと。			
講義の順序とポイント			
1.個性の形成、発達の基礎を考える。新生児期から高齢期に至るプロセスと意味を考える。 2.乳幼児の特徴と発達。人生の基礎である乳幼児期の特徴と発達の道筋を考える。 3.児童期の特徴と発達。主として小学校期間に相当する児童の変化と成長を考える。 4.中学生、高校生の発達と心理①　思春期と言われる時期の心理的特徴と意味を考える。 5.中学生、高校生の発達と心理②　第二反抗期の意味と対応方法を考える。 6.児童･生徒の心理的問題①　不登校児童・生徒の実際と、そのメカニズム、社会的背景を考える。 7.児童･生徒の心理的問題②　不登校児童・生徒への対応と予防、早期発見･早期対応を考える。 8.児童・生徒の心理的問題③　反抗のメカニズムとその実際、対応を考える。 9、学習の心理学　学校教育の中での学習の意味や方法、教育の工夫を考える。 １０.測定と評価　ひとりひとりの児童・生徒が劣等感を持つことなく、自己成長への意欲につながる測定と評価を考える。 １１.測定と生徒理解　数字による測定と、数字によらない生徒理解を考える。 １２.こころとからだの健康①　こころとからだの健康を考え、児童･生徒の持てる力を育てる教育を考える。 １３.こころとからだの健康②　活き活き生きることを阻害するのは人権侵害である。人権教育と人権感覚を考える。 １４.質疑応答と討議　ここまで進めてきた中で学んだこと、考えたこと、疑問などについて、ともに考える。 １５.まとめ　半年分の授業をふりかえり、心理学を生かした教育、活き活き生きる児童・生徒を考える。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JP0025002
科目名	発達と学習の心理学 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Development and Learning Psychology		
担当者名	日髙　正宏	旧科目名称	
講義概要	主題　教育現場で心理学を応用する 目標　今、学校現場では、非社会的児童・生徒への対応や、反社会的児童・生徒への対応など、さまざまな課題が見られます。困難をかかえる現代の学校で、教科指導にも、生徒指導にも、保護者対応にも心理学的アプローチが必要となっています。この科目では、まず、教育の対象たる児童･生徒の発達を踏まえて、心理学的理解を進めます。次に、児童・生徒との効果的接し方や、個人指導と集団指導、校内連携の必要性などを学びます。またアセスメント、測定などを考え、活き活き生きる児童・生徒を目指す教員のありかたを考えます。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使いません。必要に応じ、資料を配布します。		
教材（参考文献）	必要に応じて提示します。		
教材（その他）	必要に応じ、資料を配布します。ビデオ教材も使います。		
評価方法	毎回の小レポート（60%）　最終レポート（40%）		
到達目標	教員になった場合に必要な、児童・生徒理解の基本を学ぶ。		
準備学習	毎回の授業で提示される小レポートを作成する。		
受講者への要望			
教員の講義を聞くだけではなく、提示される体験学習に積極的に参加すること。 学外での人間観察など、児童・生徒理解に資することも積極的に行うこと。			
講義の順序とポイント			
1.個性の形成、発達の基礎を考える。新生児期から高齢期に至るプロセスと意味を考える。 2.乳幼児の特徴と発達。人生の基礎である乳幼児期の特徴と発達の道筋を考える。 3.児童期の特徴と発達。主として小学校期間に相当する児童の変化と成長を考える。 4.中学生、高校生の発達と心理①　思春期と言われる時期の心理的特徴と意味を考える。 5.中学生、高校生の発達と心理②　第二反抗期の意味と対応方法を考える。 6.児童･生徒の心理的問題①　不登校児童・生徒の実際と、そのメカニズム、社会的背景を考える。 7.児童･生徒の心理的問題②　不登校児童・生徒への対応と予防、早期発見･早期対応を考える。 8.児童・生徒の心理的問題③　反抗のメカニズムとその実際、対応を考える。 9、学習の心理学　学校教育の中での学習の意味や方法、教育の工夫を考える。 １０.測定と評価　ひとりひとりの児童・生徒が劣等感を持つことなく、自己成長への意欲につながる測定と評価を考える。 １１.測定と生徒理解　数字による測定と、数字によらない生徒理解を考える。 １２.こころとからだの健康①　こころとからだの健康を考え、児童･生徒の持てる力を育てる教育を考える。 １３.こころとからだの健康②　活き活き生きることを阻害するのは人権侵害である。人権教育と人権感覚を考える。 １４.質疑応答と討議　ここまで進めてきた中で学んだこと、考えたこと、疑問などについて、ともに考える。 １５.まとめ　半年分の授業をふりかえり、心理学を生かした教育、活き活き生きる児童・生徒を考える。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	JP0026A01
科目名	理科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	
講義概要	中等理科教育（特に高等学校理科）の目標や内容についての基礎知識を、高等学校学習指導要領解説・理科編の精読とグループ討議を通して、課題解決的に習得できるようにする。また、理科教育における特徴的な指導法や環境教育などの事例研究を通して、授業づくりの手がかりを得る。さらに、安全管理や学習指導案の構成・評価方法などの講義を通して、実務上の課題についての見識を深める。		
教材（テキスト）	文部科学省　「高等学校学習指導要領解説・理科編　理数編」　実教出版（平成 21 年 12 月）発行 ３３６円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリント配付する。		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等による。 授業時の課題提出状況や発表内容などの積極的な取り組み（３０％） 授業内実施のまとめのテスト（４０％）		
到達目標	１．高等学校学習指導要領・理科の目標と、改訂の要点を説明できる。 ２．高等学校理科の科目構成、新設科目を中心とした内容の構成と取扱いの要点を説明できる。 ３．めざしたい理科の授業像や重視したい指導法を、具体例を挙げて提案できる。		
準備学習	・課題研究や文献調査などの報告書作成の課題を複数回だす。指定期日までにレポートを提出する。 ・課題研究の結果や課題レポートは、口頭発表の機会があるので、練習して臨む。		

受講者への要望

課題の発表やグループでの意見交換の機会を多くつくるので、積極的に参加してほしい。

講義の順序とポイント

１．理科教育の目的と目標
２．理科教育の歴史　―主として、学習指導要領の変遷―
３．高等学校学習指導要領（平成 21 年 3 月公示）・理科における
　　(1)　改訂の趣旨・要点
４．　〃　(2)　科目構成、新設科目の内容の構成と取扱いの要点
５．理科の授業の進め方　―探究学習―
　　(1) グループワークによる課題研究
６．　〃　(2) 研究結果の発表
７．高等学校学習指導要領（平成 21 年 3 月公示）・理科における
　　(3)「生物基礎」・「生物」を主とした内容の構成と取扱いの要点
８．　〃　(4)-1　指導計画の作成・内容の取扱いにおける配慮事項
９．　〃　(4)-2　内容の取扱いにおける配慮事項　―主として、事故防止・安全管理―
１０．課題レポートの発表
１１．　〃
１２．理科教育における環境教育、エネルギー教育
　　(1) グループワークによる事例研究
１３．　〃　(2) 研究結果の発表
１４．理科学習指導案の構成と、高等学校理科の評価
１５．理科教育法Ⅰのまとめ　―ふりかえりとテスト―

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★	★		

年度	2015	授業コード	JP0026B01
科目名	理科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	
講義概要	高等学校理科の授業づくりの要件の習得と、教材研究をいかした学習指導案の作成ができるようになることをめざす。また、模擬授業と事後の授業検討会などを通して、わかりやすい授業の要素と授業参観の視点を体得する。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	１．左巻健男．内村　浩編「授業にいかす！　理科教育法　中学校・高校編」 東京書籍（２００９年４月）発行　２，２００円 ２．高等学校理科に関する検定教科書		
教材（その他）	適宜プリント配付する。 理科教育法Ⅰ受講時の講義資料及び記録ノート		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等による。 授業時の課題提出状況や、模擬授業内容及び積極的な発言など（４０％） 模擬授業２の学習指導案（３０％）		
到達目標	１．教材研究をいかした高等学校理科学習指導案が作成できる。 ２．わかりやすさを観点にして、模擬授業などの良い点や問題点を指摘できる。		
準備学習	・文献や新聞記事などから、高等学校理科の教材になりそうな情報を収集する。 ・模擬授業の展開計画・板書計画、カード等の教材作成、模擬授業実施後の評価と感想や学習指導案など、各自で作成する課題を複数回だす。指定期日までに提出する。 ・2 回の模擬授業は、練習をして授業に臨む。		

受講者への要望

模擬授業やグループ討議の機会が多いので、積極的に発言してほしい。

講義の順序とポイント

１．楽しくわかる理科の授業とは？
２．理科教育における「習得・活用・探究型の学習活動」
３．高等学校理科での教材取扱いの工夫及び授業の進め方
４．高等学校理科の授業づくり　「模擬授業１の計画と実施」　―『生物領域』からの選択―
(1) 授業例のビデオ視聴と授業検討
５．　〃　(2) 学習指導案の書き方１　―主として、展開計画―
６．　〃　(3)グループワークによる模擬授業１の計画
７．　〃　(4) グループ別のマイクロティーチング
８．　〃　(5) 全体での模擬授業１の実施
９．高等学校理科の授業づくり　「模擬授業２の計画と実施」　―『基礎を付した科目』　『科学と人間生活』からの選択―
(1) 内容選択と教材研究、展開計画の作成（各自）
１０．　〃　(2) 展開計画の作成（各自）
１１．　〃　(3)カードなどの教材作成
１２．　〃　(4) グループ別のマイクロティーチング
１３．　〃　(5)学習指導案の書き方２　―主として、教材観・生徒観・指導観、目標と評価―
１４．　〃　(6)模擬授業２の学習指導案の作成
１５．高等学校理科授業についてのまとめ、模擬授業２の学習指導案の修正・提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★	★★		★

年度	2015	授業コード	JP0026C01
科目名	理科教育法Ⅲ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	
講義概要	中等理科教育（特に中学校理科）の目標や内容についての基礎知識を、中学校学習指導要領解説・理科編の精読とグループ討議を通して、課題解決的に習得できるようにする。また、検定教科書や学校現場の実践例を資料にした講義・演習をもとに、中学校理科の教材や授業の進め方及び評価方法についての理解を深める。これらを通して、中学校理科の授業づくりの基礎・基本の習得をめざす。		
教材（テキスト）	文部科学省　「中学校学習指導要領解説・理科編」　大日本図書（平成 20 年 9 月）発行 １１０円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリント配付する。		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等による。 授業時の課題提出状況や発表など積極的な態度（３０％） 授業内実施のまとめのテスト（４０％）		
到達目標	１．中学校学習指導要領・理科の目標と、改訂の要点を説明できる。 ２．中学校学習指導要領・理科において「追加及び移行された内容」を例に挙げて、その意図や背景を説明できる。 ３．中学校理科で取り上げられている、観察・実験を行う授業の展開計画を立案できる。 ４．理科を通して身につけさせたい力と、重視したい指導法や授業の工夫を提案できる。		
準備学習	・文献調査や資料分析等の課題を複数回だす。指定期日までにレポートを提出する。 ・模擬授業の展開計画、実施後の修正などの課題をだす。指定期日までに展開計画をまとめて提出する。 ・模擬授業の機会があるので、練習して臨む。		
受講者への要望			
課題の発表やグループでの意見交換の機会を多くつくるので、積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
１．心に残る理科授業と、重視したい指導法 ２．中学校学習指導要領（平成 20 年 3 月公示）・理科における (1) 改訂の要点と理科の目標 ３．　〃　(2) 小学校・中学校理科の内容の構成と、中学校理科の評価 ４．　〃　(3) 第１分野の内容と改訂の特徴 ５．　〃　(4) 第２分野の内容と改訂の特徴 ６．　〃　(5) 指導計画の作成と,, 内容の取扱いにおける配慮事項 ７．　〃　(6) 追加された内容の模擬授業　　―グループワークによる展開計画の立案― ８．　〃 ９．　〃　　―グループ別模擬授業の実施― １０．　〃　　―グループ代表者による模擬授業の実施― １１．中学校理科教科書における教材の具体例　―主として、観察・実験の内容― １２．　〃 １３．中学校理科の授業の進め方１　　―グループ学習、ノート指導、課題研究など― １４．中学校理科の授業の進め方２　　―主として、環境教育の事例― １５．理科教育法Ⅲのまとめ　　―ふりかえりとテスト―			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★		

年度	2015	授業コード	JP0026D01
科目名	理科教育法Ⅳ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	
講義概要	中学校理科の授業づくりの要件の習得と、教材研究をいかした学習指導案の作成ができるようになることをめざす。また、模擬授業と事後の授業検討会などを通して、わかりやすい授業の要素と授業参観の視点を体得する。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	１．左巻健男．内村　浩編　「授業にいかす！　理科教育法　中学校・高校編」 東京書籍（２００９年４月）発行　　２，２００円 ２．中学校理科検定教科書		
教材（その他）	適宜プリント配付する。 理科教育法Ⅲ受講時の講義資料及び記録ノート		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等による。 授業時の課題提出状況や、模擬授業内容及び積極的な発言など（４０％） 模擬授業２の学習指導案（３０％）		
到達目標	１．教材研究をいかした中学校理科学習指導案が作成できる。 ２．わかりやすさを観点にして、模擬授業などの良い点や問題点を指摘できる。		
準備学習	・文献や新聞記事などから、中学校理科の教材になりそうな情報を収集する。 ・模擬授業の展開計画・板書計画、模擬授業実施後の感想と評価や学習指導案など、各自で作成する課題を複数回だす。指定期日までに提出する。 ・模擬授業のための準備物作成や予備実験の課題をだす。準備して授業に臨む。 ・2 回の模擬授業は、練習して臨む。		

受講者への要望

模擬授業やグループ討議の機会が多いので、積極的に発言してほしい。

講義の順序とポイント

１．楽しくわかる理科の授業とは？
２．中学校理科の授業の進め方　　―「活用する力」を育てる授業の実践例―
３．中学校理科の授業における教材・教具の工夫
４．中学校理科の授業づくり
　　(1) 授業例の参観と授業検討　　―講義 担当者による演示―
５．　〃　(2) 学習指導案の内容　　―主として、展開計画、板書計画―
６．　〃　(3) 授業例のビデオ視聴と授業検討　　―観察・実験を取り入れた授業―
７．中学校理科の授業づくり　「模擬授業１の計画と実施」　―観察・実験の基本操作のマイクロティーチング―
　　(1) 内容選択と教材研究、展開計画の作成（各自）
８．　〃　(2) 展開計画の作成（各自)、予備実験
９．　〃　(3) グループ別のマイクロティーチング
１０．中学校理科の授業づくり　「模擬授業２の計画と実施」　―発問を中心としたマイクロティーチング―
　　(1) 内容選択と教材研究、展開計画の作成（各自）
１１．　〃　(2) 展開計画の作成（各自）
１２．　〃　(3)グループ別のマイクロティーチング
１３．　〃　(4)学習指導案の書き方　　―主として、各項目の表記のし方―
１４．　〃　(5)模擬授業２の学習指導案の作成
１５．中学校理科授業についてのまとめ、模擬授業２の学習指導案の修正・提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JP0027001
科目名	図書館サービス特論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Communication in Libraries		
担当者名	作野　誠	旧科目名称	
講義概要	市民がどのようにこまったとき、図書館を利用するか。図書館は、こまって図書館に来た市民にどのようなサービスを提供すべきかを、「図書館海援隊」の挑戦を基に、検討します。		
教材（テキスト）	神代浩『困ったときは図書館に－図書館海援隊の挑戦』』?光堂、2014 今まど子編『図書館学基礎資料　第 12 版』樹村房、2015		
教材（参考文献）	佐藤望編著『アカデミック・スキルズ』慶應義塾出版会、2012 大串夏身・常世田良著『第 2 版図書館概論』、学文社、2014 志保田務・杉山誠司・ 家禰淳一編著『図書館サービス概論』学芸図書出版、2013 小林麻美『図書館員はコミュニティ創造の場』勉誠出版、2009 溝上智恵子・呑海沙織・綿抜豊昭『高齢社会につなぐ図書館の役割』学文社、2012 花井裕一郎『はなぼん』文屋、2013 猪谷千香『つながる図書館』、ちくま新書、2014 鎌倉幸子『走れ！移動図書館』ちくまプリマー新書、2014		
教材（その他）			
評価方法	予習・復習と授業への積極的な参加を条件に、授業への参加状況 50 点、レポート 50 点を目安にし、総合的に評価します。		
到達目標	司書資格を取得するために、大学において「図書館に関する科目」を学ぶ意義をについて考え、図書館サービスの実態についての学修をとおして、以下の 3 項目を達成することをこの授業の目標とします。 1.我が国の図書館サービスの実態を理解する。 2.公立図書館の医療情報サービス提供の実態を理解する。 3.公共図書館の生活支援サービスの実態を理解する。		
準備学習	授業は、テキストに従って講義形式で行ない、適宜、演習も取り入れます。テキストは、必ず全員求めてください。予習・復習に役立つように、『講義ノート』を配付します。ディスカッション等、授業参加の機会を創り、コミュニケーションを密にする工夫をします。授業中には、積極的な発言を求めます。参考文献は適宜、図書館で閲覧する等して、予習・復習に必要なもの、興味のあるものは購入してください。授業で学修したことを復習し、次回の授業範囲を予習しておいてください。その際、身近な図書館で、学修したことを実際に確認しておくようにしてもらいたい。		

受講者への要望

なるべく授業時間内に質問してください。
なにごとにも、積極的にはっきりと意思表示をしてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス・授業の進め方とこの科目の省令上の位置づけ
2、生涯学び続け、主体的に考えることが出来る社会と公共図書館を考える
3. 図書館を取り巻く現状と課題
4. 仕事に困ったら図書館へ
5. サッカー好きなら図書館へ
6. がんになったら図書館へ
7. 図書館海援隊フォーラムの開催
8. 世の中をよくする図書館を目指して
9. がん患者さんを支えるために
10、公立図書館の医療情報サービス
11、公立図書館の地域経済活性化支援サービス
12、公立図書館の生活支援サービス
13、公立図書館のビズネス支援サービス
14、図書館海援隊サッカー部
15、図書館海援隊の挑戦から図書館サービスのあり方を考える

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	JP0030001
科目名	情報資源組織論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Resources of Organiation and Represention		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	資料組織概説
講義概要	図書館の資料は、組織されることによって活用される状態となる。かつての目録・分類・件名という図書館の伝統的技術は、電子化によって大きく変化を受けざるを得なくなっている。目録は電子化、ネットワーク化されることによって、社会的な存在意義を増しているのだ。理論的な理解をしっかりと進めるとともに、経緯と変化にも注目したい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	根本彰『文献世界の構造』勁草書房		
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（40%）レポート（60%）		
到達目標	図書館情報資源は、印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源から組織され構成される。組織化についての理論と技術を理解し、「情報資源組織演習」で実際に身につけることになる。書誌階層、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、機械可読目録（MARC）と書誌データの活用法等々、歴史的経緯を含めて概観する。		
準備学習	司書課程の中では難解な講義になるので、参考書などを読んで理解を進めるように。また具体例を実際の図書館に求めるので情報収集に時間を要する。		

受講者への要望

図書館の目録は電子化、ネットワーク化することによって社会的な存在意義が重たくなっている。そのことをインターネット等を使用する際に意識し、関心を持つように。

講義の順序とポイント

1、情報資源組織化の意義と理論
2、書誌コントロールの理解
3、標準化
4、書誌記述法、日本目録規則（NCR）等
5、主題分析の意義と理論
6、主題分析と分類法　日本十進分類法（NDC）等
7、主題分析と索引法　基本件名標目表（BSH）等
8、書誌情報の作成と書誌構造、階層理解
9、書誌情報の流通、書誌ユーティリティ
10、書誌情報の提供、OPAC の管理運用
11、ネットワーク情報資源の組織化
12、検索エンジン、オンライン書店との比較
13、多様な情報資源の組織化
14、目録のネットワーク化と出版
15、メタデータ、ダブリンコア等

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JP0031001
科目名	図書館情報資源概論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Library Information Resources		
担当者名	作野　誠	旧科目名称	
講義概要	印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。		
教材（テキスト）	宮沢厚雄『図書館情報資源概論　全訂第 3 版』理想社、2015 今まど子編『図書館学基礎資料　第 12 版』樹村房、2015		
教材（参考文献）	山本順一編『新しい時代の図書館情報学』有斐閣、2013 上田修一・倉田敬子編著『図書館情報学』勁草書房、2013 山本順一編著『情報の特性と利用』創成社、2012 　高山正也・平野英俊編著『図書館情報資源概論』樹村房、2012 伊藤民雄『図書館情報資源概論』学文社、2012 馬場敏明編著『図書館情報資源概論』日本図書館協会、2012 根本彰『理想の図書館とは何か』ミネルヴァ書房、2011 大串夏身編著『これからの図書館・増補版』青弓社、2011		
教材（その他）			
評価方法	予習・復習と授業への積極的な参加を条件に、授業への参加状況 50 点、レポート 50 点を目安にし、総合的に評価します。		
到達目標	司書資格を取得するために、大学において「図書館に関する科目」を学ぶ意義を理解し、「図書館情報学」の重要性と図書館情報資源を有効に活用出来る情報リテラシーを修得し、以下の 3 項目を達成することをこの授業の目標とします。 1.有形図書館情報資源と無形図書館情報資源の特性を理解する。 2.図書館情報資源の効果的・効率的な収集・保存システムを理解する。 3.図書館情報資源の効果的・効率的な提供システムを理解する。		
準備学習	授業は、テキストに従って講義形式で行ないます。テキストは、必ず全員求めてください。予習・復習に役立つように、『講義ノート』を配付します。ディスカッション等、授業参加の機会を創り、コミュニケーションを密にする工夫をします。授業中には、積極的な発言を求めます。参考文献は適宜、図書館で閲覧する等して、予習・復習に必要なもの、興味のあるものは購入してください。授業で学修したことを復習し、次回の授業範囲を予習しておいてください。その際、身近な図書館で、学修したことを実際に確認しておくようにしてもらいたい。 可能であれば授業時間外での希望者による他の大学図書館や公立図書館の見学等も考えます。		
受講者への要望			
なるべく授業時間内に質問してください。 なにごとにも、積極的にはっきりと意思表示をしてください。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　イダンス・授業の進め方とこの科目の省令上の位置づけ ―図書館情報資源と京都学園大学司書課程で育まれる「司書力」の特性を考える－ 第 2 回　生涯学び続け、主体的に考えることが出来る社会と公共図書館を考える 第 3 回　我が国の図書館の概要と図書館情報資源の種類 第 4 回　京都学園大学図書館を見学しよう 第 5 回　図書の構造 第 6 回　図書の流通 第 7 回　図書館における図書の管理 第 8 回　商業雑誌の特徴 第 9 回　学術雑誌の特徴 第 10 回　図書館情報資源としての新聞 第 11 回　図書館情報資源としての政府刊行物 第 12 回　ネットワーク型情報資源 第 13 回　図書館業務と類縁機関の情報資源 第 14 回　図書館情報資源の収集と保存			

第 15 回　まとめ　学問の分野別特性と図書館情報資源

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★					★

年度	2015	授業コード	JP0033001
科目名	図書館制度・経営論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Library Management		
担当者名	古川　保彦	旧科目名称	図書館経営論
講義概要	生涯学習社会の中で図書館の占める位置は大きい。それぞれのライフステージに果たす役割を図書館に関わる人々が意識し、整備していかなければならない。経営という視点から見るとまず自治体がいかに図書館を経営していくかという問題から始まる。つまり都市における図書館論である。そして館長論にまでいたる。この過程で、図書館の整備計画、サービス計画、情報ネットワーク、組織、職員論さらに活動の評価方法にまで考察を及ぼす。		
教材（テキスト）	特に指定しない。そのつど、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	安藤友張編著 『図書館制度･経営論ーライブラリー･マネジメントの現在』（ミネルヴァ書房） ISBN978-4-623-06529-5		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。　レポート(70%)。 以上を総合的に評価する。		
到達目標	図書館経営における必須事項の把握と、図書館の意義について知識と理念を獲得する。		
準備学習	実際に身近な公共図書館に足を運び、運営状況をできるだけ客観的に観察しておくこと。 そこでの感想や気付きを授業のトピックスとして意見交換を行うので必ず見学しておくこと。 参考文献欄に挙げた文献及び授業で紹介する文献すべてを学期中に読破すること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。
遅刻・私語は厳に慎むこと。

講義の順序とポイント

1.図書館経営の意義
2.図書館経営と関係法規１
3.図書館経営と関係法規２
4.図書館の自由
5.図書館の職員
6.図書館の組織
7.図書館資料の収集と保存
8.図書館の施設と設備
9.図書館ネットワークの形成
10.図書館の計画 とマーケティング
11.図書館業務
12.図書館サービスの評価１
13.図書館サービスの評価２
14.図書館経営の実際
15.今後の課題

（備考）授業計画は、進度等の都合により変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	JP0034A01
科目名	情報資源組織実習Ⅰ 【司】	単位数	1
科目名（英語表記）	Knowledge Organization 1		
担当者名	高橋　和子	旧科目名称	
講義概要	日本目録規則、日本十進分類法、基本件名標目表という図書館における資料組織のための三大ツールを実際に使いこなすことができるような整理業務の実践力を養成する。春季のⅠでは資料の分類について、実践的な能力を身につけるよう『NDC 日本十進分類表』を使って分類法を学ぶ。		
教材（テキスト）	大学側で用意する、日本十進分類法を使用する。		
教材（参考文献）	必要に応じてプリントを配布する。		
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点（20%）、実習課題、レポート、小テスト等の課題点（80%）。出席が少ない者は評価の対象にしない。		
到達目標	図書館における主題分析の方法および、日本十進分類法の習得を通じて、主題にふさわしい分類とは何かを考える力をつける。		
準備学習	日頃から幅広く新聞やTV・ネット情報等に関心を持ち、図書館へ頻繁に足を運ぶこと。		
受講者への要望			
実習なので2/3以上の出席するが第一の条件となる。授業内での課題には積極的に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1、オリエンテーション 2、図書館の分類と一般的な分類の相違点 3、主要な分類法 4、日本十進分類法 5、分類規定、主題分析 6、分類法練習（1） 7、分類法練習（2） 8、分類法練習（3） 9、分類法練習（4） １０、分類法練習（5） １１、分類法練習（6） １２、分類法練習（7） １３、分類法練習（8） １４、分類法練習（9） １５、基本件名表目表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★	★	

年度	2015	授業コード	JP0034B02
科目名	情報資源組織実習Ⅱ 【司】	単位数	1
科目名（英語表記）	Knowledge Organization Ⅱ		
担当者名	高橋　和子	旧科目名称	資料組織実習ｆ，資料組織演習ｆ、資料組織実習Ⅱ
講義概要	日本目録規則、日本十進分類法、基本件名標目表という図書館における資料組織のための三大ツールを実際に使いこなすことができるような整理業務の実践力を養成する。秋季のⅡは目録を中心として講義する。 おもに日本目録規則に従って、パソコン教室にてエクセルでの目録作業を実践する。ミスなく正確な目録作業をするためには、パソコンのブラインドタッチが重要になる。情報抽出方法と同時にキーボードやエクセルの習熟も目的とする		
教材（テキスト）	必要なレジメは原則 USB メモリーで提供する。		
教材（参考文献）	必要に応じて授業中に紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて配布する。		
評価方法	出席状況等平常点（20%）と、実習課題、レポート、小テスト等の課題（80%）で評価する。出席が少ない者は評価の対象にしない。		
到達目標	図書館において利用者ニーズに即した目録方法を習得する。		
準備学習	日頃からパソコンに慣れ、特にキーボードは原稿を見ながら打てるようにしておく。		
受講者への要望			
実習なので出席することが第一の条件となる。授業内での課題には積極的に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1、オリエンテーション 2、日本目録規則について 3、資料組織法練習（1） 4、資料組織法練習（2） 5、資料組織法練習（3） 6、資料組織法練習（4） 7、資料組織法練習（5） 8、資料組織法練習（6） 9、資料組織法練習（7） １０、資料組織法練習（8） １１、資料組織法練習（9） １２、資料組織法練習（10） １３、資料組織法練習（11） １４、抄録とキーワード抽出 １５、資料組織法小テスト			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	JP0036001
科目名	児童サービス論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Library Services for Children		
担当者名	古川　保彦	旧科目名称	
講義概要	図書館の児童サービスの目的は、子どもたちに読書の楽しさを知らせ、将来の図書館利用者としての手助けをするためである。また読書のみならず児童文化の伝達、社会教育の場としての役割も担っている。そのための児童図書と中学・高校生のためのヤングアダルトサービスの資料の収集、排架、整理と児童のための設備備品などについて考える。 図書館が児童にとって楽しいところであり児童文化を伝達する場所としての児童室の運営と、ストーリーテリング、読み聞かせ、ブックトーク、紙芝居などの技術を習得する。また児童の読書を推進するために学校図書館や地域との協力連携など、社会に目を向けた児童サービスの在り方と課題を検討していく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。そのつど、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	金沢みどり著　『児童サービス論』　（学文社）　ISBN：978-4-7620-2305-7		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する		
評価方法	授業内小テスト等による 平常点(30%)。　レポート(70%)。 以上を総合的に評価する。		
到達目標	子どもという存在を理解し、その成長に対して読書がどのような意義を持つかを理解し、図書館の 役割と機能がどのようにあるべきかを認識することを目指す。		
準備学習	科目開始前、あるいは途中において、身近な公共図書館に出向き、児童サービスのためのコーナーが どのように作られているか、またその蔵書や図書館員の動きを観察しておくこと。 そうした体験を受講者全員で共有し、授業のトピックスとして意見交換をするので、必ず見学しておくこと。 参考文献欄に挙げた文献及び授業で紹介する文献すべてを学期中に読破すること。		

受講者への要望

読書導入の手段としての絵本、読み聞かせ（読み語り）を体験します。
遅刻・私語は厳禁です。読み語り実施時の途中入室は慎んでください。

講義の順序とポイント

1.児童サービスの意義
2.児童サービスの歴史
3.児童の資料の種類と特性について(絵本)
4.児童の資料の種類と特性について(児童図書)
5.児童の資料の各分野における評価と蔵書構成
6.児童の資料の収集、分類、配架、廃棄
7.児童のための設備と備品
8.児童に対するコミュニケーション、レファレンスサービス
9.実技指導（読み聞かせ） 1
10.実技指導（読み聞かせ） 2
11.実技指導（読み聞かせ） 3
12.解説（ブックトーク）
13.解説（紙芝居、ストーリーテリング）
14.他の機関、地域と図書館の児童サービスとの関わり
15.今後の課題

（備考）授業計画は、進度等の都合により変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JP0039001
科目名	図書館施設論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Books,Buildings and Social Engineering		
担当者名	高橋　和子	旧科目名称	
講義概要	大量の情報を扱ったり、細かい作業の多い図書館業務を円滑に進めるためにはコンピュータは必要不可欠なツールである。初心者を対象にデータベースソフトなどこれからの図書館に求められる情報化について基本的な知識、操作技術、現状について概説する。（講義の順番や項目は進捗状況により変更することがある）。ほぼ毎回簡単なレポート提出がある。		
教材（テキスト）	（社）情報科学技術協会編　情報検索の基礎知識　新訂 2 版		
教材（参考文献）	各々に USB メモリーにてレジメ等配布		
教材（その他）			
評価方法	レポート・出席状況・などによる総合評価、（社）情報科学技術協会主催「検索技術者検定 3 級」に合格した者は合格点を付与する。		
到達目標	図書館員として必要な「検索技術者検定 3 級」合格レベル以上の習得を目指す。		
準備学習	大学の PC にインストールされている OZAWAKEN 等のキーボード練習ソフトを利用して、入力がスムーズにできるようにしてください。 また、エクセルやワードの基本知識は必須です。		

受講者への要望

PC を利用した授業となりますので、できるだけ入力がスムーズにできるようにしてください。実習に近い授業となりますので、2/3 以上の出席が必須です。

講義の順序とポイント

１．授業ガイダンスとコミュニケーション力
２．図書館における情報機器
　活用事例など紹介
３．コンピュータのハードウエアとソフトウエア
　周辺機器、機器の種類、構成、基本的な機能、周辺機器との接続の知識
　ソフトウエアの種類、機能の特徴等
４．拡張子等に関する基礎知識
５．ＵＲＬの種類と安全性・信頼性
６．セキュリティー対策と注意点
７．EXCEL 実習
　　セル保護方法等
８～９．EXCEL 関数の利用法
１０．検索リスト等ダウンロードデータの変換作業
１１～１３．データベースソフト（アクセス、ファイルメーカーPRO）
１４．図書館設計事例
１５．理想的な図書館設計

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	JP0041001
科目名	図書館サービス概論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Library Services		
担当者名	作野　誠	旧科目名称	
講義概要	図書館サービスの考え方と構造の理解を図り、資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者・高齢者・多文化サービス等の各種のサービス、著作権、接遇・コミュニケーション等の基本を解説する。		
教材（テキスト）	志保田務・杉山誠司・ 家禰淳一編著『図書館サービス概論』学芸図書出版、2013 今まど子編『図書館学基礎資料　第 12 版』樹村房、2015		
教材（参考文献）	佐藤望編著『アカデミック・スキルズ』慶應義塾出版会、2012 宮沢厚雄『図書館概論改訂版』理想社、2011 大串夏身・常世田良著『第 2 版図書館概論』、学文社、2014 宮部頼子編『図書館サービス概論』樹村房、2012 金沢みどり『図書館サービス概論』学文社、2014 菅谷明子『未来をつくる図書館－ニューヨークかれの報告』岩波新書、2003 溝上智恵子・呑海沙織・綿抜豊昭『高齢社会につなぐ図書館の役割』学文社、2012 仁上幸治『図書館員のための PR 実践講座』樹村房、2014		
教材（その他）			
評価方法	予習・復習と授業への積極的な参加を条件に、授業への参加状況 50 点、レポート 50 点を目安にし、総合的に評価します。		
到達目標	司書資格を取得するために、大学において「図書館に関する科目」を学ぶ意義を確認し、図書館サービスについての学修をとおして、京都学園大学司書課程修了者に求められる「司書力」を考慮しながら、協働の意味を理解し、以下の 3 項目を達成することをこの授業の目標とします。 1.我が国の図書館サービスの概要を理解する。 2.マネジメントとマーケティングの重要性を理解する。 3.公共機関・施設のサービスの特徴を理解する。		
準備学習	授業は、テキストに従って講義形式で行ないます。テキストは、必ず全員求めてください。予習・復習に役立つように、『講義ノート』を配付します。ディスカッション等、授業参加の機会を創り、コミュニケーションを密にする工夫をします。授業中には、積極的な発言を求めます。参考文献は適宜、図書館で閲覧する等して、予習・復習に必要なもの、興味のあるものは購入してください。授業で学修したことを復習し、次回の授業範囲を予習しておいてください。その際、身近な図書館で、学修したことを実際に確認しておくようにしてもらいたい。 最後に、ビブリオバトルをやります。		
受講者への要望			
なるべく授業時間内に質問してください。 なにごとにも、積極的にはっきりと意思表示をしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス・授業の進め方とこの科目の省令上の位置づけ －図書館と図書館サービス－ 2. 生涯学び続け、主体的に考えることが出来る社会と公共図書館を考える －図書館の原則、図書館の原理－ 3. 図書館サービスの遍歴 4. 日本における図書館の原則 5. 直接サービスの種類 ６. 資料提供と図書館の自由、図書館員の倫理 7. 閲覧サービスと貸出サービス 8. 図書館サービスと著作権 9. 全域サービス・図書館相互貸借 10. 非来館型サービスと電子書籍 11. アウトリーチサービス・多文化サービス 12. 障害者サービス 13. 図書館評価			

14. 更なる図書館サービス 15. 最後にビブリオバトルをやろう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★					★

年度	2015	授業コード	JP0042001
科目名	博物館教育論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Methods of Museology		
担当者名	千田　康治	旧科目名称	教育学概論
講義概要	博物館学芸員として業務をすすめるにあたり、博物館教育の役割を認識し、その理論を学ぶ。そして様々な目的・対象にあわせた博物館における教育手法の実際を学ぶ。		
教材（テキスト）	レジュメを適時配布		
教材（参考文献）	講義時に適時紹介します。		
教材（その他）	資料等を適時配布します。		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点６０％、定期試験４０％で評価します。		
到達目標	社会教育施設である博物館における教育活動について、その基盤となる理論や実践に関する知識を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。		
準備学習	様々な博物館・美術館等を訪れ、展示見学・講座聴講・ワークショップ参加等の経験する。		

受講者への要望

博物館教育は、実際に見たり、体験しないと理解できません。京都とその一円には、良質なコレクションを所蔵していたり、独自の活動を展開している博物館・美術館が数多く存在しており、これらに興味を持ち、足を運んでください。

講義の順序とポイント

第 1 回 社会教育施設としての博物館教育の意義
第 2 回 博物館教育の歴史
第 3 回 博物館教育の特性
第 4 回 設置者・種別による博物館教育の目的の違い
第 5 回 コミュニケーションとしての博物館教育
第 6 回 文化財の保存と博物館教育
第 7 回 博物館と学校教育
第 8 回 博物館と生涯学習
第 9 回 調査研究と博物館教育
第 10 回 博物館教育の実際Ⅰ　体制
第 11 回 博物館教育の実際Ⅱ　展示
第 12 回 博物館教育の実際Ⅲ　ワークシート
第 13 回 博物館教育の実際Ⅳ　教材開発
第 14 回 博物館教育の実際Ⅴ　体験教室
第 15 回 博物館教育の今後

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JP0042002
科目名	博物館教育論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Methods of Museology		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	博物館学芸員として、業務をすすめるにあたり、博物館教育の役割を認識し、その理論的枠組みを学ぶ。そのうえで、さまざまな目的・対象に合わせた博物館における教育手法の実際を学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	講義時に適宜紹介する		
教材（その他）	毎回資料コピーを配布する		
評価方法	平常点（５０％）はノートなど毎回の授業における努力で評価する。のこりの５０％は２・３回提出を求める簡単な課題レポートで評価する。		
到達目標	博物館の教育機能に関する基礎的能力の習得		
準備学習	博物館相当の施設を実際に訪れて、その具体的な運営・活動の姿をを体験しておくこと		

受講者への要望

博物館学芸員資格や社会教育主事の資格を取得することを目指すもののための講義であることを自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。

講義の順序とポイント

１・　社会教育施設としての博物館教育の意義
２・　博物館教育の歴史
３・　博物館と学校教育
４・　博物館と生涯学習
５・　博物館教育の実際（教育の考え方）
６・　博物館教育の実際（展示）
７・　博物館教育の実際（ワークシート）
８・　博物館教育の実際（体験教室）
９・　博物館教育の実際（公開講座）
１０・　博物館教育の実際（教材開発）
１１・　博物館教育の実際（調査研究との連携）
１２・　博物館教育の実際（文化財保存の促進）
１３・　博物館教育の実際（博物館相当施設の種別による特性）
１４・　博物館教育の担い手
１５・　博物館教育の今後

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JP0045001
科目名	博物館経営論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Management		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
講義概要	博物館・資料館等を取り巻く環境は、年々厳しい状況となっているが、博物館・資料館等の目的・役割と機能 を十分に発揮するための経営的理念・手法が求められている。 職員体制及び施設・設備の充実に、行政・財政施策における博物館・資料館等の位置付けが重要であるといえる。 講義では具体的な実践例を紹介しながら、博物館・資料館等の経営論としての基本的理念・指針・方針の理解と、地域に連動し市民協働によるまちづくりとも連携する博物館・資料館等の方法論の習得を図る。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等の経営に関する基本的理念・指針・方針の理解と、人づくり、まちづくりに連携するための方法論の習得を目標とする。		
準備学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておく こと。		
受講者への要望			
学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
1　博物館・資料館等における経営論全般について＜概説１＞ 2　博物館経営論について　財務・予算（各論１） 3　博物館経営論について　財務・予算（各論２） 4　博物館経営論について　財務・予算（各論３） 5　博物館・資料館等における事業計画実施・事業評価について＜概説２＞ 6　博物館事業計画の戦略・理念について（各論１） 7　博物館事業計画の指針・方針について（各論２） 8　博物館事業実施について　地域連携（各論３） 9　博物館事業実施について　市民協働（各論４） 10　博物館事業評価について（各論５） 11　博物館施設管理について＜概説３＞ 12　博物館施設管理について　もの（各論１） 13　博物館施設管理について　ひと（各論２） 14　博物館施設管理について　ば（各論３） 15　博物館経営論の課題と将来展望について＜概説４＞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JP0045002
科目名	博物館経営論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Management		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
講義概要	博物館・資料館等を取り巻く環境は、年々厳しい状況となっているが、博物館・資料館等の目的・役割と機能 を十分に発揮するための経営的理念・手法が求められている。 職員体制及び施設・設備の充実に、行政・財政施策における博物館・資料館等の位置付けが重要であるといえる。 講義では具体的な実践例を紹介しながら、博物館・資料館等の経営論としての基本的理念・指針・方針の理解と、地域に連動し市民協働によるまちづくりとも連携する博物館・資料館等の方法論の習得を図る。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等の経営に関する基本的理念・指針・方針の理解と、人づくり、まちづくりに連携するための方法論の習得を目標とする。		
準備学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておく こと。		
受講者への要望			
学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
1　博物館・資料館等における経営論全般について＜概説１＞ 2　博物館経営論について　財務・予算（各論１） 3　博物館経営論について　財務・予算（各論２） 4　博物館経営論について　財務・予算（各論３） 5　博物館・資料館等における事業計画実施・事業評価について＜概説２＞ 6　博物館事業計画の戦略・理念について（各論１） 7　博物館事業計画の指針・方針について（各論２） 8　博物館事業実施について　地域連携（各論３） 9　博物館事業実施について　市民協働（各論４） 10　博物館事業評価について（各論５） 11　博物館施設管理について＜概説３＞ 12　博物館施設管理について　もの（各論１） 13　博物館施設管理について　ひと（各論２） 14　博物館施設管理について　ば（各論３） 15　博物館経営論の課題と将来展望について＜概説４＞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JP0046001
科目名	博物館資料論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Materials & Artifacts		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
講義概要	博物館・資料館等において、各分野の各種資料を蓄積することは、重要な機能のひとつといえる。資料は収集・整理・保管の手続き処理の過程を経て初めて博物館資料としての価値を持ち、展示・普及などに活用され、さらに調査・研究の重要な素材・原資料となる。 講義では、特に歴史資料を中心として、具体的な方法論を紹介しいかなる理論で展示・調査・研究に活用するかを概説する。また、貴重な資料の保存・管理等についても言及する。学芸員や社会教育主事などの職種に従事しようとする者への博物館・資料館等における資料論に関する基礎的知識と技術の習得を図る。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等における資料の収集・整理・保管についての具体的方法論の理解。貴重な資料の保存・管理等に関する基礎的技術知識の習得を目標とする。		
準備学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。		
受講者への要望			
学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
1　博物館資料論全般について＜概説１＞ 2　博物館資料について　文化財（各論１） 3　博物館資料について　文化財（各論２） 4　博物館資料について　文化財（各論３） 5　博物館資料について　文化財（各論４） 6　博物館資料の収集・整理・保管について＜概説２＞ 7　博物館資料の収集・整理・保管について　歴史資料（各論１） 8　博物館資料の収集・整理・保管について　歴史資料（各論２） 9　博物館資料の収集・整理・保管について　歴史資料（各論３） 10　博物館資料の調査・研究・展示について＜概説３＞ 11　博物館資料の取り扱い技術について　歴史資料（各論１） 12　博物館資料の取り扱い技術について　歴史資料（各論２） 13　博物館資料の取り扱い技術について　歴史資料（各論３） 14　博物館資料の調査研究への活用について＜概説４＞ 15　博物館資料論の課題と将来展望について＜概説５＞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JP0046002
科目名	博物館資料論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Materials & Artifacts		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
講義概要	博物館・資料館等において、各分野の各種資料を蓄積することは、重要な機能のひとつといえる。資料は収集・整理・保管の手続き処理の過程を経て初めて博物館資料としての価値を持ち、展示・普及などに活用され、さらに調査・研究の重要な素材・原資料となる。 講義では、特に歴史資料を中心として、具体的な方法論を紹介しいかなる理論で展示・調査・研究に活用するかを概説する。また、貴重な資料の保存・管理等についても言及する。学芸員や社会教育主事などの職種に従事しようとする者への博物館・資料館等における資料論に関する基礎的知識と技術の習得を図る。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等における資料の収集・整理・保管についての具体的方法論の理解。貴重な資料の保存・管理等に関する基礎的技術知識の習得を目標とする。		
準備学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。		

受講者への要望

学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。

講義の順序とポイント

1　博物館資料論全般について＜概説１＞
2　博物館資料について　文化財（各論１）
3　博物館資料について　文化財（各論２）
4　博物館資料について　文化財（各論３）
5　博物館資料について　文化財（各論４）
6　博物館資料の収集・整理・保管について＜概説２＞
7　博物館資料の収集・整理・保管について　歴史資料（各論１）
8　博物館資料の収集・整理・保管について　歴史資料（各論２）
9　博物館資料の収集・整理・保管について　歴史資料（各論３）
10　博物館資料の調査・研究・展示について＜概説３＞
11　博物館資料の取り扱い技術について　歴史資料（各論１）
12　博物館資料の取り扱い技術について　歴史資料（各論２）
13　博物館資料の取り扱い技術について　歴史資料（各論３）
14　博物館資料の調査研究への活用について＜概説４＞
15　博物館資料論の課題と将来展望について＜概説５＞

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JP0054001
科目名	図書・図書館史 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Books and Libraries		
担当者名	古川　保彦	旧科目名称	図書及び図書館史
講義概要	粘土版文書から電子書籍まで、多様な形態をとる図書の生産(印刷等含む)、普及、 流通等の歴史を概観し、それらを収集・整理し、利用に供してきた図書館の歴史的発展について考察する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。そのつど、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	佃一可編　『図書・図書館史』 （樹村房） ISBN:978-4-88367-211-0		
教材（その他）	レジメ、講義資料を配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による 平常点(30%)。　レポート(70%) 。 以上を総合的に評価する。		
到達目標	図書というメディアの歴史と、図書館という機関の成立事情を把握し、現代における情報メディアのあり方と図書館という存在の現代的な意義について認識することを目指す。		
準備学習	受講者各自が関心を持って授業に臨むため、シラバスで各回のテーマを確認し、関連する資料について事前に図書館等で参照し、そのアウトラインをつかんでおくこと。 授業で紹介する文献すべてを学期中に読破すること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。
遅刻・私語は厳に慎むこと。

講義の順序とポイント

1.文字と記録の誕生
2.古代の図書と図書館史（１）ー西洋
3.古代の図書と図書館史（２）ー中国・インド
4.古代の図書と図書館史（３）ー日本
5.宗教図書館と大学
6.中世日本の文庫と中国の図書館
7.活版印刷と出版・図書館
8.日本の封建時代の出版と図書館
9.明・清時代の中国の出版と図書館
10.近代社会と図書館
11.日本の近代化と出版・図書館
12.２０世紀の図書館
14.電子書籍と図書館
15.図書館の未来像

（備考）授業計画は、進度等の都合により変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	JP0055A01
科目名	日本語教授法 A（日本語表現） 【日】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Japanese as a Foreign Language A		
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	
講義概要	日本語学習者に日本語を教える場合、何を教えればいいのだろうか。 日本語を母語としない日本語学習者のための、日本語教育の基礎となる文法事項について学ぶ。		
教材（テキスト）	プリントを中心に進める。		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等による平常点(50%)。　レポートまたは定期テスト(50%)		
到達目標	日本語教育における日本語について理解する。		
準備学習	日本語の表現について、常に意識し、関心を持っておくこと。		
受講者への要望			
柔軟な思考を持ち、授業に積極的に参加することを望む。 日本語教育に興味・関心がある学生は、是非受講してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション 2. 文法について 3. 動詞の活用① 4. 動詞の活用② 5. 時間に関する表現① 6. 時間に関する表現② 7. 受身形 8. 使役形 9. 話し手の気持ちや考えを表す表現① 10.話し手の気持ちや考えを表す表現② 11.接続節① 12.接続節② 13.接続節③ 14.敬語① 15.敬語②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JP0055B01
科目名	日本語教授法Ｂ（教科研究）　【日】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Japanese as a Foreign Language B		
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	日本語教授法Ｂ（教科教育）
講義概要	日本語を学ぶ人々は、日本や海外で学び、またその学習目的も様々である。このような人々に日本語を教える場合、何を知っておかなければならないのだろうか。日本語学習者に対する理解を深めるとともに、日本語教育の歴史や教授法、コースデザイン、評価について学ぶ。		
教材（テキスト）	プリントを中心に授業を進める。		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等による平常点(50%)。　レポートまたは定期テスト(50%)		
到達目標	日本語教育の歴史、代表的な教授法、学習者の学び方、評価方法などについて理解する。		
準備学習	学習方法や学習スタイル等について、常に関心を持っておくこと。		
受講者への要望			
柔軟な思考を持ち、授業に積極的に参加することを望む。 日本語教育に興味がある学生は、是非受講してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション 2. 日本語学習者① 3. 日本語学習者② 4. 日本語教育の歴史① 5. 日本語教育の歴史② 6. いろいろな教授法① 7. いろいろな教授法② 8. いろいろな教授法③ 9. いろいろな教授法④ 10.コースデザイン① 11.コースデザイン② 12.コースデザイン③ 13.コースデザイン④ 14.評価方法① 15.評価方法②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	

年度	2015	授業コード	JP0062A01
科目名	日本語教授法C（教材研究） 【日】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Japanese as a Foreign Language C (Teaching Materials)		
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	
講義概要	日本語教育の教室活動において、具体的に何をどのように教えればいいのだろうか。 初級・中級・上級に関する教材、また具体的な教授内容・教室活動について学ぶ。		
教材（テキスト）	プリントを中心に授業を進める。		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等による平常点(50%)。　レポートまたは定期テスト(50%)		
到達目標	日本語教育の教材、また言語技能別・レベル別教室活動について理解する。		
準備学習	日本語の表現と日本事情について常に関心を持っておくこと。		

受講者への要望

柔軟な思考を持ち、授業に積極的に参加することを望む。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. 教室活動について
3. レベル別教室活動①
4. レベル別教室活動②
5. 言語技能別教室活動①
6. 言語技能別教室活動②
7. 言語技能別教室活動③
8. 言語技能別教室活動④
9. 教材・教具①
10.教材・教具②
11.教材・教具③
12.教材・教具④
13.初級クラス
14.中級クラス
15.上級クラス

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JP0062B01
科目名	日本語教授法Ｄ（教育実習）　【日】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Japanese as a Foreign Language D (Teaching Practice)		
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	
講義概要	教案作成について学び、日本語学習者を対象に実習を行う。		
教材（テキスト）	プリントを中心に授業を進める。		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等による平常点(30%)。　実習(40%)　レポート(30%)		
到達目標	教案作成を行い、実際にクラス活動が行えることを目標とする。		
準備学習	日本語の表現について、どのように用いられているのかを常に意識すること。		

受講者への要望

柔軟な思考を持ち、授業に積極的に参加することを望む。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション・実習の予定について
2.教案作成①
3.教案作成②・模擬授業①
4.教案作成③
5.教案作成④・模擬授業②
6.教案作成⑤
7.教案作成⑥・模擬授業③
8.教案作成⑦
9.教案作成⑧・実習予定
10.教案作成⑨・実習予定
11.教案作成⑩・実習予定
12.教案作成⑪・実習予定
13.教案作成⑫・実習予定
14.教案作成⑬
15.内省

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JP0064001
科目名	博物館実習 【博】	単位数	3
科目名（英語表記）	Practical Museum Training		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	博物館の学芸員資格の取得を目指すものに、必要な実務的経験の場を提供し、知識を教授して、学芸員としての実践的能力を養う。具体的には、見学を含むあらかじめの学内実習を通じて博物館実務の実際に習熟したうえで、館園実習に赴いて現場体験を積む。館園実習後ふたたび学内実習において、現場体験に基づいて、博物館理解をさらに深める。		
教材（テキスト）	授業中に適宜配布する。		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）			
評価方法	平常点５０％（実習状況等と報告内容による）と学外実習成績５０％		
到達目標	学内における実習と、実際に活動している博物館における実習を通じて、博物館学芸員として必要とされる業務に対する理解、必要とされる技術の習得を目指す。		
準備学習	各回終了後に、参考文献を提示するので、実習内容が確実に理解できていたかどうか、間違って覚えていなかったかどうかをしっかり確認しておくこと。自ら体験して体得する授業です。積極的に授業の課題に取り組むことが何より必要です。		

受講者への要望

主に学外博物館の実習に備えた実習科目です。原則的に欠席は認められません。実習科目なので、変則的な授業が行われることがあります。かならず掲示を確認してください。
また、興味本位の履修は断ります。学芸員資格取得に必要な単位の大部分を取得しているか否かを確認したうえで、要件を満たしている履修希望者のみに最終的な履修登録を認めます。

講義の順序とポイント

1．学内実習ー考古系博物館の見学実習１
2．学内実習ー考古系博物館の見学実習２
3．学内実習ー美術系博物館の見学実習１
4．学内実習ー美術系博物館の見学実習２
5．学内実習ー展示・資料の保管の実務１
6．学内実習ー展示・資料の保管の実務２
7．学内実習ー陶磁器・掛軸・巻物の取り扱い実習１
8．学内実習ー陶磁器・掛軸・巻物の取り扱い実習２
9．学内実習 ー各種茶道具の取り扱い実習１
10．学内実習ー各種茶道具の取り扱い実習２
11．学内実習 ー館園実習に関する事前指導、注意点の把握
12．館園実習ー博物館における実務体験１
13．館園実習ー博物館における実務体験２
14．学内実習ー各自の博物館実習体験の報告と問題点の指摘並びに指導
15．学内実習ー館園実習経験による理解に基づいて、各自の理想の博物館像を構想して発表する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	

年度	2015	授業コード	JP0068A01
科目名	職業指導Ⅰ（農業）【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Vocational Guidance I		
担当者名	名取　一好	旧科目名称	
講義概要	職業指導Ⅰでは、教育政策に見られる進路指導・キャリア教育、職業の概念、職業指導の役割や課題、専門高校生の進路状況や進路意識、専門高校と高等教育機関や産業界との連携の現状などについて解説する。また、近年、フリーターやニートの著しい増加など、若者の職業離れが社会問題となっていることから、その原因や解決策等について意見交換することによる討議形式の授業も行う。		
教材（テキスト）	高等学校学習指導要領解説(特別活動)、自作資料		
教材（参考文献）	中央教育審議会答申資料、国立教育政策研究所生徒指導研究センター資料、厚生労働白書等		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内での小テスト等による平常点(30％)、授業中に課す小レポート(30％)、授業終了時の最終レポート(40％)。		
到達目標	職業指導の意義、専門高校生の進路状況や進路意識、専門高校と高等教育機関や産業界との連携等を理解するとともに、わが国における産業・就業構造の現状や専門教育の実態を考慮に入れた職業指導を行えるための力をつけることを目指す。		
準備学習	参考文献欄に挙げた文献すべてを学期中に読破する。さらに、講義終了時に次回使用する資料を指定するので、必ず予習しておくこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、自分の意見を臆せず述べることができるよう心がける。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス
2．職業の概念
3．職業分類について
4．職業観・勤労観
5．職業指導の役割と課題
6．職業指導・進路指導の歴史
7．職業指導と進路指導の定義
8．高等学校における職業指導
9．高等学校学習指導要領（特別活動における進路指導）
10．職業適性検査
11．専門高校生の進路状況・進路意識
12．職業教育の現状と課題
13．わが国における学校教育・職業教育制度
14．専門高校における職業教育、専門高校と高等教育機関や産業界との連携
15．職業指導Ⅰのまとめ（総括と復習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★★	★

年度	2015	授業コード	JP0068B01
科目名	職業指導Ⅱ（農業）【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Vocational Guidance Ⅱ		
担当者名	名取　一好	旧科目名称	
講義概要	職業指導Ⅱでは、職業指導・キャリア教育に関する教育行政や労働政策、わが国におけるキャリア教育や諸外国における職業・キャリア教育の現状と課題等について解説する。また、高等学校は、就職するにせよ、進学するにせよ、生徒を学校から社会へ導く重要な役割を持つ教育機関であるが、解決すべき課題もあることから、高等学校におけるキャリア教育の今後の在り方等について互いに意見交換する討議形式の授業も行う。		
教材（テキスト）	文部科学省「高等学校キャリア教育の手引」（文部科学省ホームページ）， 自作資料		
教材（参考文献）	国立教育政策研究所教育課程研究センター・生徒指導研究センター資料， 中央教育審議会答申資料		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内での小テスト等による平常点（30%）、授業中に課す小レポート（30%）、授業終了時の最終レポート（40%）。		
到達目標	学校におけるキャリア教育、諸外国における職業・キャリア教育の現状等を理解するとともに、労働関係法規等を考慮に入れた職業指導を行えるための力をつけることを目指す。		
準備学習	参考文献欄に挙げた文献すべてを学期中に読破する。さらに、講義終了時に次回使用する資料を指定するので、必ず予習しておくこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、自分の意見を臆せず述べることができるよう心がける。

講義の順序とポイント

1．職業指導Ⅰの復習
2．キャリア教育の定義と意義
3．キャリア教育の現状と課題
4．学校におけるキャリア教育の現状と課題(普通高校・総合高校)
5．学校におけるキャリア教育の現状と課題(専門高校)
6．職業指導・キャリア教育に関する教育行政
7．職業指導・キャリア教育の方法論
8．諸外国における職業・キャリア教育（アメリカ合衆国）
9．諸外国における職業・キャリア教育（ドイツ）
10．諸外国における職業・キャリア教育（イギリス）
11．諸外国における職業・キャリア教育（フランス）
12．職業指導・キャリア教育の評価について
13．労働関係法規
14．職業指導Ⅱのまとめ（総括と復習）
15．これからの高等学校教育や職業指導の在り方についての展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★		★★	★

年度	2015	授業コード	JP0069A01
科目名	農業科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	名取　一好	旧科目名称	
講義概要	農業科教育法Ⅰでは，教育基本法、教育振興基本計画等に見られるわが国の教育政策全般に関わる内容、教育制度、職業教育政策の現状と課題について解説し、基本的な理解を図る。また、農業教育の変遷および現状の分析から，その特質を探るとともに，高等学校学習指導要領の意義や内容および農業高校における生徒の意欲・関心・態度を向上させるための授業のあり方やその方法など，当該教科の指導の基礎や背景について広い視野から総論的に考察し，当該教科についての多面的な理解の徹底とともに、教授能力の育成を図る。また、その時々の農業や教育に関する政策及び雑誌や新聞記事について紹介するとともに、農業や教育に関するテレビ番組などの映像資料も用いる。授業は講義を中心に進めるが，教師としての教授能力育成の観点から，これらの内容をテーマとした討議法による授業も予定している。		
教材（テキスト）	高等学校学習指導要領(総則、農業)、各講義で自作資料を配布する。		
教材（参考文献）	中央教育審議会答申資料、その他、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内での小テスト等による平常点(30%)、授業中に課す小レポート(30%)、授業終了時のレポート(40%)。		
到達目標	高等学校学習指導要領等、中等農業教育に関する基礎的・基本的な事項を理解するとともに、農業の実態をも考慮に入れた視点から教授できる力量をつけることを目指す。		
準備学習	参考文献欄に挙げた文献すべてを学期中に読破する。さらに、講義終了時に次回使用する資料を指定するので、必ず予習しておくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席し、自分の意見を臆せず述べることができるよう心がける。			
講義の順序とポイント			
1．わが国の教育制度 2．職業教育政策の現状と課題 3．明治以降における教育制度及び農業教育の歴史 4．農業教育の現状と課題 5．教育課程行政の現状と高等学校学習指導要領の意義 6．中央教育審議会答申の内容と高等学校学習指導要領の見方 7．高等学校学習指導要領（総則） 8．高等学校学習指導要領（農業） 9．高等学校学習指導要領（農業基礎科目） 10．高等学校学習指導要領（課題研究・総合実習） 11．高等学校学習指導要領（農業経営系科目） 12．高等学校学習指導要領（栽培・畜産系科目） 13．高等学校学習指導要領（生活系科目・他） 14．農業教科の特質 15．農業科教育法Ⅰのまとめ（総括と復習）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★		★★	★

年度	2015	授業コード	JP0069B01
科目名	農業科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	名取　一好	旧科目名称	
講義概要	農業科教育法Ⅱでは、農業科教育法Ⅰで学んだ内容を受け、学習指導要領、農業科目の教科書、ならびに農業に関する教材を基にして、プロジェクト学習法などの農業教科の学習指導法、指導計画や学習評価の目的とその方法について解説する。 授業は、農業科教育法Ⅰで解説した農業教科の学習指導要領を基に、学習指導計画、学習評価、教科書行政の解説を中心に行うが、その時々の農業や教育に関する政策及び雑誌や新聞記事についても紹介する。また、授業は講義を中心に進めるが、教師としての教授能力育成の観点から、農業高校の授業ビデオ等を用いて授業分析を行うとともに、最近の教育や農業の動向等をテーマ討議法による授業も予定している。		
教材（テキスト）	高等学校農業関係教科書、高等学校学習指導要領解説(総則、農業)、自作資料		
教材（参考文献）	中央教育審議会答申資料、その他、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内での小テスト等による平常点（30%）、授業中に課す小レポート（30%）、授業終了時の最終レポート（40%）。		
到達目標	農業教科の学習指導法、指導計画や学習評価の意義・目的・方法等について理解するとともに、指導計画案の作成、模擬授業等を通して、指導の実践的感覚および力量の形成を目指す。		
準備学習	参考文献欄に挙げた文献すべてを学期中に読破する。さらに、講義終了時に次回使用する資料を指定するので、必ず予習しておくこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、自分の意見を臆せず述べることができるよう心がける。

講義の順序とポイント

1．農業科教育法Ⅰの復習
2．農業教科に関する学習指導法
3．学習指導計画の意義等
4．指導計画案の作成法及び注意点
5．指導計画案の作成及びそれに基づいた模擬授業
6．農業教科における評価規準
7．農業教科における学習評価の特性
8．学習評価の目的や方法
9．学習評価の具体的な事例解説
10．教科書の検定・供給制度
11．農業教科に関する教材研究
12．諸外国の教育制度・農業教育の現状
13．農業問題および教育問題等についての解説と討議
14．これからの高等学校教育と専門高校の在り方についての展望
15．農業科教育法Ⅱのまとめ（総括と復習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JP0070001
科目名	図書館情報技術論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	コンピュータの基礎、図書館業務システムの理解、データベースの基礎・概要、検索エンジン、デジタルアーカイブ、クラウドコンピューティング等々図書館をめぐる情報技術を解説する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（40%）レポート（60%）		
到達目標	図書館業務にかかわる情報技術は、飛躍的に発展して来ている。その到達状況を理解し、また可能性についても把握しておくことが必要になっている。そして技術である以上、実際に使いこなせることが求められるため、演習も実施する。		
準備学習	インターネットでデジタル・アーカイブズに手軽に触れられるようになっているので、自らの関心分野に積極的に使用するように。データベース等の理解には数学的センスも必要なので予習復習が必要。		
受講者への要望			
それぞれが所属する学部、学科、専攻の学問分野に、学習したことを生かせるように取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1.コンピュータとネットワークの基礎 2.情報技術と社会、地方公共団体の電子化 3.蔵書管理と貸出管理、情報技術活用の現状 4.蔵書検索と図書館間ネットワーク 5.図書館の業務システム 6.図書館からの情報発信、ホームページの組み立て 7.データベース概要 8.データベースの仕組み 9.検索エンジンの位置と可能性 10.検索エンジンの仕組み 11.電子化、電子資料の管理技術 12.コンピュータシステム管理概要 13.デジタルアーカイブの設計 14.デジタルアーカイブの仕組み 15.ソリューションと図書館			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	JP0071001
科目名	博物館資料保存論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	千田　康治	旧科目名称	
講義概要	博物館の使命は資料（文化財）を適切に保存し、活用しながら次世代へと伝えることである。 保存の対象となる資料の材質・特性を知ると共に、温度・湿度・空気環境等の諸条件が資料を保存にどのような影響をあたえるかを学ぶ。そして資料の適切な保存に必要な博物館の建物や設備といったハード面と、資料の取り扱いなどのソフト面について知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	レジュメを適時配布		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点（６０％）　定期試験（４０％）		
到達目標	博物館施設における資料保存に必要な科学的知識や手法を習得することで、資料の保存に関する基礎的な能力を養う。		
準備学習	他の博物館・美術館等施設を見学する		
受講者への要望			
「百聞は一見に如かず」の言葉のとおり、自分の足で博物館や美術館をまわっていろいろ見て、感じてください。			
講義の順序とポイント			
第１回　博物館における資料保存の意義 第２回　資料の保存と科学１　温湿度管理① 第３回　資料の保存と科学２　温湿度管理② 第４回　資料の保存と科学３　温湿度管理③ 第５回　資料の保存と科学４　照明 第６回　資料の保存と科学５　空気環境 第７回　資料の保存と科学６　有害生物対策① 第８回　資料の保存と科学７　有害生物対策② 第９回　資料の保存と科学８　有害生物対策③ 第１０回　資料保存の実際１　文化財の取り扱い 第１１回　資料保存の実際２　防災① 第１２回　資料保存の実際３　防災②と博物館の施設・機能IV 第１３回　資料保存の実際４　防災③と博物館の施設・機能Ⅴ 第１４回　資料保存の実際５　修復① 第１５回　資料保存の実際６　修復②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★		★	★

年度	2015	授業コード	JP0071002
科目名	博物館資料保存論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	博物館の最も根本的な使命に、収蔵品（文化財）を適切に保存し、後世に伝える責務がある。保存の対象となる資料にどのような種類のものがあり、それらに湿度・温度・環境の諸条件がどのような影響を及ぼすかを学ぶ。そのうえで、資料の適切な保存を行うための建物や設備などの施設面と、資料の取り扱いなどの行動面についての知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	講義時に適宜紹介する		
教材（その他）	毎回、資料コピーを配布する		
評価方法	平常点（５０％）はノートなど毎回の授業における努力を見極めて評価する。残り５０％は２・３回提出を求める簡単な課題レポートで行う		
到達目標	博物館相当施設における資料保存に不可欠な知識・手法を習得すること		
準備学習	博物館相当施設を実際に訪れて、どのように資料が扱われているかを確認しておくこと		
受講者への要望			
博物館学芸員資格や社会教育主事の資格の取得を目指すもののための講義であることを自覚して、真摯な姿勢・態度で受講することを望む			
講義の順序とポイント			
１・　博物館における資料保存の意義 ２・　資料の保存（収蔵庫） ３・　資料の保存（温湿度管理） ４・　資料の保存（光と照明） ５・　資料の保存（空気汚染） ６・　資料の保存（有害生物による被害） ７・　資料の保存（防災、火災・地震・水害） ８・　資料の取り扱い（資料の取り扱い１） ９・　資料の取り扱い（資料の取り扱い２） １０・　資料の取り扱い（収蔵品の点検作業） １１・　資料の取り扱い（梱包と輸送） １２・　資料の取り扱い（修復） １３・　資料保存と行政・法律 １４・　埋蔵文化財の保存 １５・　文化財保存の将来			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JP0072001
科目名	博物館展示論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	千田　康治	旧科目名称	
講義概要	博物館の主要な機能の一つである展示について、展示の歴史や様々な展示の形態を学ぶ。そして、博物館での展示活動の実際を、企画立案から展示作業、展示解説、展示の終了まで一連の流れの中で解説するとともに、展示の制作、演出手法、解説手法などの現場で必要とされる知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	適時レジュメを配布		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点（６０％）。　定期試験（４０％）		
到達目標	博物館での展示について、その歴史、方法、展示による教育活動、諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。		
準備学習	美術館や博物館、ショールーム等の見学		

受講者への要望

美術館や博物館のみならず、店のショーウィンドウの飾り付け等、様々な展示や演出を日頃から注意して見てください。

講義の順序とポイント

第１回　博物館展示の意義
第２回　展示と展示論の歴史
第３回　展示の分類
第４回　博物館展示の実際１　事業展開の流れ
第５回　博物館展示の実際２　事前準備１
第６回　博物館展示の実際３　事前準備２
第７回　博物館展示の実際４　展示のプランニング１
第８回　博物館展示の実際５　展示のプランニング２
第９回　博物館展示の実際６　展示照明１
第１０回　博物館展示の実際７　展示照明２
第１１回　博物館展示の実際８　展示の工夫
第１２回　博物館展示の実際９　ポスター・図録の作成
第１３回　博物館展示の実際１０　キャプション・展示解説１
第１４回　博物館展示の実際１１　キャプション・展示解説２
第１５回　博物館展示と法律

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★		★	

年度	2015	授業コード	JP0072002
科目名	博物館展示論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
講義概要	博物館や資料館Ｉにおける展示は、　来館者、見学者にとって、様々な資料を知り理解し興味や関心を高める契機となるため、最も重要な要素といえる。 　この講義では、博物館や資料館での展示の歴史とその現状、展示理念と展示環境などに言及し、歴史・民俗・考古・美術工芸・彫刻の各分野の具体的展示手法を紹介する。あわせて、新しい展示技術にも触れながら、展示計画の作成、実施手順について講義する。 学芸員としての展示論の習得を図る。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館や資料館における学芸員として、展示理念と展示方法・技術、環境の理解と、展示計画・実施のノウハウの習得を目標とする		
準備学習	博物館や資料館における各分野の展示会に関心を持ち、積極的に見学参加し、展示の実際を知っておくこと。		
受講者への要望			
学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
1　博物館・資料館における展示の歴史と現状について＜概説１＞ 2　博物館での展示理念について（各論１） 3　博物館での展示技法・技術について（各論２） 4　博物館での展示設備・環境について（各論３） 5　博物館・資料館における分野別展示について＜概説２＞ 6　博物館での民俗分野の展示について（各論１） 7　博物館での考古分野の展示について（各論２） 8　博物館での歴史分野の展示について（各論３） 9　博物館での美術工芸・彫刻の展示について（各論４） 10　博物館での新しい展示方法について－その１－（各論５） 11　博物館での新しい展示手法について－その２－（各論６） 12　博物館・資料館における展示計画と実施について＜概説３＞ 13　博物館での具体的展示計画の作成について（各論１） 14　博物館での具体的展示実施の手順について（各論２） 15　博物館・資料館における展示の課題と展望について			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JP0073001
科目名	教職実践演習 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小田　憲夫	旧科目名称	
講義概要	教育実習での校種や教科、受講者の課題などを考慮して６～８名程度のグループに分け授業を進める。前半は教育実習での経験をふまえ、「授業」「生徒理解」「学級経営と学校運営」の３つをテーマに学内での講義・講演、グループ討論、ロールプレイ、模擬授業などを行う。後半は、学校現場の参観・見学や児童・生徒と直接触れ合う機会をとおしてより実践的な資質能力を身につける。また、学校現場の今日的な課題について講義を聞く場を設け、その内容を踏まえて地域や保護者とのかかわり方、組織の一員として自覚などのテーマについてグループ討論を行う。		
教材（テキスト）	その都度指定する		
教材（参考文献）	その都度指示する。		
教材（その他）	その都度指示する。		
評価方法	各活動に対する参加状況や態度、グループ討論などでの発言などを評価するとともに、模擬授業、見学・参観、実習での相互評価や外部からの評価をふまえ総合的に判断する。		
到達目標	教員として最小限必要な資質能力を身につけるために、これまでの教職課程の他の授業科目や教職課程外での様々な活動を通じて学んだことを実践的に統合することを目標とする。また、教科学習での指導力、生徒理解や学級経営の能力のみならず、組織の一員としての使命感や責任感、社会性や対人関係力（保護者や地域の関係者との人間関係の構築等）などを身につけるようにする。		
準備学習	「教育実習ノート」を整理しておく、「教職履修カルテ」に添って各自の課題を見つけておく。 最初の授業で各単元の履修内容を確認するための課題を出す。授業の内容について、予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。		

受講者への要望

教育実習を終えて、教職課程の最終段階であることを自覚し、積極的に取り組む姿勢を持ってほしい。

講義の順序とポイント

第１回 オリエンテーション　履修カルテの整理と教育実習の振り返り　（＊は合同）
受講生を３つのグループに分け、３人の担当教員がそれぞれを順に担当する
第２回 「授業１」模擬授業に向けての指導案作り　グループ討論
第３回 「授業２」模擬授業に向けての指導案作り　グループ討論
第４回 「生徒理解１」教育相談のための基礎演習（事例研究）
第５回 「生徒理解２」教育相談のための基礎演習（ロールプレイ）
第６回 「学級経営」　学級経営案作り　グループ討論
第７回 「学校運営」　教育目標や校務分掌についてグループ討論
第８回 講義　学校現場の今日的な問題について＊
第９回 「保護者や地域の関係者との人間関係の構築等」について　グループ討論＊
第１０回　学校現場などの参観・見学　その１
・ 日本語教室（外国人児童・生徒を対象とした教室）
・ 教育研究発表会への参加　　など。
第１１回　学校現場などの参観・見学　その２
・ 保育園、幼稚園
・ 福祉施設などの関連機関　など
第１３回 子どもや保護者と直接触れ合う実習　その１
・ サイエンスフェスタなどの地域の行事への参加
第１４回 子どもや保護者と直接触れ合う実習　その２
・ 放課後の補充指導や「学びサポーター」への参加
・ 宿泊学習や校外学習への協力
10～13までは、 それぞれの中から１つ以上（合計２つ以上）の参観・見学、実習を行う（3名の担当教員が分担し、引率と事前事後の指導を行う）

第１４回 模擬授業発表会　模擬授業と事後研究会　演習のまとめ　グループ討論＊
第１５回 総括　履修カルテの完成と相互評価

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JSJ040101
科目名	生涯スポーツ実技（ゴルフ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Golf)		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	《ゴルフ》というスポーツは、 ①国際的な種目であるゴルフは、人種、宗教、性別に無関係にいつでもどこでも共通の仲間意識で結ばれるという、真に国際的なスポーツである。 ②少年から高齢者そして、男女とも参加できる。ティショットの位置をそれなりにずらすことによって、老若男女すべてが一緒に楽しむことができる。 ③ハンディキャップ制を採用している。 ハンディキャップというシステムのおかげで、スキルの上手・下手に関係なく共通のコンペティションに参加することができ、誰にでもスポーティングチャンス（勝つ可能性）が保証されている。 ④自己の年齢、体力に応じてそれぞれがプレーを楽しめる ゴルフゲームにおいては、体力、体格などの差は大した意味を持たず、長い経験によって磨かれた知恵と技術がものをいう。 ⑤未知の人との出会いがある ゴルフは個人競技であるが、一般に行われるストロークプレーでは 3〜4 人が一組となってプレーするため、自然とそこに会話が生まれ、心の交流が生まれる。ゴルフは大自然の中でそれぞれ個性をもつ様々な男女が、各自の責任において、それぞれ個性的なやり方で共通のターゲットに向かってプレーできるのである。そこには相互理解、相互学習、公正な競い合い、協力など人間的なマナーが必用となる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	構成員一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化の生活化をはかることを目的として授業を行います。 将来ラウンドができるためのマナーや基礎的な能力・技術を体得する。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。ゴルフ用手袋（@500 円）が必要。授業内で用意できるので、持っていない学生は担当者に申し出ること。			
講義の順序とポイント			
・ゴルフ概略指導（ルール・マナー）、安全指導 ・ボールを真っ直ぐに打つための理論 ・コースラウンド（水無瀬コース）希望者（1 ラウンド 2150 円、が別途必要になります） 〔初心者〕・正しいゴルフスイングを理解する　・ショートアイアン（PW）のショット練習　・ミドルアイアン（7 番）のアプローチ練習　・10〜50 ヤードのアプローチ練習　・パターマットを使ってのパッティング練習 〔中・上級者〕・ゴルフコースラウンドを目標　・ショートアイアンを正確に　・ミドルアイアンを真っ直ぐに打つ　・ロングアイアンの練習　・ウッド（1W、3W．4W．5W）の練習　・パテイング練習　・正確なアプローチ 1.オリエンテーション、フィットネステスト A（体育館シューズを準備すること） 2.フィットネステスト B（室内練習－グリップ、アドレス、スイング理論） 3.ショートアイアン（ＰW）の振り子理論・ショートアイアンのハーフスイング 4.ショートアイアンのハーフスイング　軸を作ってのスイング 5.ショートアイアンのハーフスイング　体重移動のスイング 6.ミドルアイアン（７Ｉ）のハーフスイング 7.ヘッドスピードの加速　ホロースイング 8.アプローチ　ランニング・アプローチとロブショット 9.ヘッドスピードの加速　ホロー・スイング．ミドルアイアン			

10.テニスコートでコースラウンドの仕方とパター練習、アプローチ向上 11.グラウンドでのコースラウンド練習　方向性の向上 12.コースを仮定してのラウンド練習、ルールとマナー 13.ＰＷ，７Ｉ，アプローチ・テスト 14. 15.コースラウンド（学外実習)個別指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JSJ040505
科目名	生涯スポーツ実技（ゴルフ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Golf)		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	《ゴルフ》というスポーツは、 ①国際的な種目であるゴルフは、人種、宗教、性別に無関係にいつでもどこでも共通の仲間意識で結ばれるという、真に国際的なスポーツである。 ②少年から高齢者そして、男女とも参加できる。ティショットの位置をそれなりにずらすことによって、老若男女すべてが一緒に楽しむことができる。 ③ハンディキャップ制を採用している。 ハンディキャップというシステムのおかげで、スキルの上手・下手に関係なく共通のコンペティションに参加することができ、誰にでもスポーティングチャンス（勝つ可能性）が保証されている。 ④自己の年齢、体力に応じてそれぞれがプレーを楽しめる ゴルフゲームにおいては、体力、体格などの差は大した意味を持たず、長い経験によって磨かれた知恵と技術がものをいう。 ⑤未知の人との出会いがある ゴルフは個人競技であるが、一般に行われるストロークプレーでは 3〜4 人が一組となってプレーするため、自然とそこに会話が生まれ、心の交流が生まれる。ゴルフは大自然の中でそれぞれ個性をもつ様々な男女が、各自の責任において、それぞれ個性的なやり方で共通のターゲットに向かってプレーできるのである。そこには相互理解、相互学習、公正な競い合い、協力など人間的なマナーが必用となる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	構成員一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化の生活化をはかることを目的として授業を行います。 将来ラウンドができるためのマナーや基礎的な能力・技術を体得する。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。ゴルフ用手袋（@500 円）が必要。授業内で用意できるので、持っていない学生は担当者に申し出ること。			
講義の順序とポイント			
・ゴルフ概略指導（ルール・マナー）、安全指導 ・ボールを真っ直ぐに打つための理論 ・コースラウンド（水無瀬コース）希望者（1 ラウンド 2150 円、が別途必要になります） 〔初心者〕・正しいゴルフスイングを理解する　・ショートアイアン（PW）のショット練習　・ミドルアイアン（7 番）のアプローチ練習　・10〜50 ヤードのアプローチ練習　・パターマットを使ってのパッティング練習 〔中・上級者〕・ゴルフコースラウンドを目標　・ショートアイアンを正確に　・ミドルアイアンを真っ直ぐに打つ　・ロングアイアンの練習　・ウッド（1W、3W．4W．5W）の練習　・パテイング練習　・正確なアプローチ 1.オリエンテーション、フィットネステスト A（体育館シューズを準備すること） 2.フィットネステスト B（室内練習－グリップ、アドレス、スイング理論） 3.ショートアイアン（ＰW）の振り子理論・ショートアイアンのハーフスイング 4.ショートアイアンのハーフスイング　軸を作ってのスイング 5.ショートアイアンのハーフスイング　体重移動のスイング 6.ミドルアイアン（７Ｉ）のハーフスイング 7.ヘッドスピードの加速　ホロースイング 8.アプローチ　ランニング・アプローチとロブショット 9.ヘッドスピードの加速　ホロー・スイング．ミドルアイアン			

10.テニスコートでコースラウンドの仕方とパター練習、アプローチ向上 11.グラウンドでのコースラウンド練習　方向性の向上 12.コースを仮定してのラウンド練習、ルールとマナー 13.ＰＷ，７Ｉ，アプローチ・テスト 14. 15.コースラウンド（学外実習)個別指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JSJ060101
科目名	生涯スポーツ実技（ソフトボール）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Softball)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	ソフトボールを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレイに具体的に活かし、楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	態度３０％・レポート３０％・技術４０％		
到達目標	ソフトボールのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむことができるためのスキルを習得する。自ら試合の企画・立案・運営ができるようにする。		
準備学習	事前にソフトボールの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講者への要望

運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄA
２．ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄB
３．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム①
・キャッチボール（正確さ・速さ・遠投）
・バッティング（トス・フリー・バンド）
４．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム②
５．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
・投法（スタンダード・ウインドミル・エイトフィギア）
・ノック（内野・外野）
・ランニング（ベース・ランニング・盗塁）
６．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
７．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
８．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
．守備フォーメイション
・攻撃フォーメイション
９．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
１０．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
１１．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。①
１２．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。②
１３．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。③
１４．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。④
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JSJ060202
科目名	生涯スポーツ実技（ソフトボール）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Softball)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	ソフトボールを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレイに具体的に活かし、楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	態度３０％・レポート３０％・技術４０％		
到達目標	ソフトボールのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむことができるためのスキルを習得する。自ら試合の企画・立案・運営ができるようにする。		
準備学習	事前にソフトボールの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講者への要望

運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＡ
２．ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＢ
３．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム①
・キャッチボール（正確さ・速さ・遠投）
・バッティング（トス・フリー・バンド）
４．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム②
５．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
・投法（スタンダード・ウインドミル・エイトフィギア）
・ノック（内野・外野）
・ランニング（ベース・ランニング・盗塁）
６．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
７．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
８．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
．守備フォーメイション
・攻撃フォーメイション
９．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
１０．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
１１．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。①
１２．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。②
１３．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。③
１４．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。④
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JSJ070101
科目名	生涯スポーツ実技（テニス）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Tennis)		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供からお年寄りまで、性別を問わず誰でも気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができるだろう。　しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに立ってプレーしてみると、なかなかおもいどおりにはいかないものである。そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達してテニスの素晴らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップやフェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリースポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	1. 少なくともダブルスのゲームが楽しめるようにする。（戦略・理論を含む） 2. 練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 3. 社会人として色々な施設を利用してテニスを楽しむことができるようにする。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。三国山オムニコートで実施するため、テニスシューズが必要。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション、フィットネステストA 2. フィットネステストB　グリップ 3. グリップと面作りストローク 4. 簡単なグランドストローク(ラケットに慣れる・ボールのバウンドに慣れる) 5. 移動によるグランドストローク(フットワークを覚える・打点の位置を覚える) 6. ボール出しによるグランドストローク 7. ボレーとストロークの打ち方を覚える 8. 簡単なサーブを覚える　　サーブからラリーを覚える 9. ローボレー、オバーハンドサービス　ラリー練習からダブルスゲーム 10. 簡単なダブルスゲーム 11. ダブルスのホーメーシヨン(雁行陣営) 12. ダブルスの簡単なスコアーを付けてのゲーム 13. ゲームの運営（5 人でのダブルス） 14. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト 15. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JSJ070303
科目名	生涯スポーツ実技（テニス）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Tennis)		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供からお年寄りまで、性別を問わず誰でも気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができるだろう。　しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに立ってプレーしてみると、なかなかおもいどおりにはいかないものである。そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達してテニスの素晴らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップやフェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリースポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	1. 少なくともダブルスのゲームが楽しめるようにする。（戦略・理論を含む） 2. 練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 3. 社会人として色々な施設を利用してテニスを楽しむことができるようにする。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。三国山オムニコートで実施するため、テニスシューズが必要。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション、フィットネステストA 2. フィットネステストB　グリップ 3. グリップと面作りストローク 4. 簡単なグランドストローク(ラケットに慣れる・ボールのバウンドに慣れる) 5. 移動によるグランドストローク(フットワークを覚える・打点の位置を覚える) 6. ボール出しによるグランドストローク 7. ボレーとストロークの打ち方を覚える 8. 簡単なサーブを覚える　　サーブからラリーを覚える 9. ローボレー、オバーハンドサービス　ラリー練習からダブルスゲーム 10. 簡単なダブルスゲーム 11. ダブルスのホーメーシヨン(雁行陣営) 12. ダブルスの簡単なスコアーを付けてのゲーム 13. ゲームの運営（5 人でのダブルス） 14. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト 15. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JSJ080101
科目名	生涯スポーツ実技(バスケットボール)	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Basketball)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バスケットボールはこれまでの学校教育の中でも取り組んだことのあるスポーツと思われるが、この講義の中では、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身に付けると共に、集団技能も身に付け、バスケットボール競技経験者も未経験者も互いに協力し合い、ゲームを楽しむこと目的とする。 また、ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。 平常点(技能・態度)70%、レポート点 30%		
到達目標	毎時の練習により、個人スキルを高め、バスケットボールのゲームが楽しくできるようにする。 また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。 更にはグループワークにおいてコミュニケーション能力、協調性等様々な力を養う。		
準備学習	事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。		

受講者への要望

活動にふさわしい、スポーツウェアー・シューズを用意すること。
グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出ること。

講義の順序とポイント

＊内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。

1. オリエンテーション、フィットネステスト A
2. コーディネーション、フィットネステスト B、個人技能練習（シュート）
3. コーディネーション、スキルテスト（シュート)、個人技能練習（パス)、パッシングゲーム（ハーフコート）
4. コーディネーション、スキルテスト（パス)、個人技能練習（ドリブル)、ハーフコートゲーム
5. 技能練習（シュート・パス・ドリブル)、スキルテスト（ドリブル)、
   対人練習（1 対 0・2 対 1・3 対 2　数的優位な場面でのオフェンス及びディフェンス)、ハーフコートゲーム
6. 技能練習（シュート・ドリブル・パス)、対人練習（1 対 1・2 対 2・3 対 3　同数場面でのオフェンス及びディフェンス)、ゲーム
7. グループ編成、グループワークⅠ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

8.9.10. グループワークⅠ、リーグ戦Ⅰ～Ⅲ

11.グループ編成、グループワークⅡ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

12.13.14　グループワークⅡ、リーグ戦Ⅳ～Ⅵ

15. 最終スキルテスト、まとめのゲーム、レポートの説明、及び提出について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JSJ080202
科目名	生涯スポーツ実技(バスケットボール)	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Basketball)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バスケットボールはこれまでの学校教育の中でも取り組んだことのあるスポーツと思われるが、この講義の中では、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身に付けると共に、集団技能も身に付け、バスケットボール競技経験者も未経験者も互いに協力し合い、ゲームを楽しむこと目的とする。 また、ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。 平常点(技能・態度)70%、レポート点 30%		
到達目標	毎時の練習により、個人スキルを高め、バスケットボールのゲームが楽しくできるようにする。 また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。 更にはグループワークにおいてコミュニケーション能力、協調性等様々な力を養う。		
準備学習	事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。		

受講者への要望

活動にふさわしい、スポーツウェアー・シューズを用意すること。
グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出ること。

講義の順序とポイント

＊内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。

1. オリエンテーション、フィットネステスト A
2. コーディネーション、フィットネステスト B、個人技能練習（シュート）
3. コーディネーション、スキルテスト（シュート)、個人技能練習（パス)、パッシングゲーム（ハーフコート）
4. コーディネーション、スキルテスト（パス)、個人技能練習（ドリブル)、ハーフコートゲーム
5. 技能練習（シュート・パス・ドリブル)、スキルテスト（ドリブル)、
   対人練習（1 対 0・2 対 1・3 対 2　数的優位な場面でのオフェンス及びディフェンス)、ハーフコートゲーム
6. 技能練習（シュート・ドリブル・パス)、対人練習（1 対 1・2 対 2・3 対 3　同数場面でのオフェンス及びディフェンス)、ゲーム
7. グループ編成、グループワークⅠ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

8.9.10. グループワークⅠ、リーグ戦Ⅰ～Ⅲ

11.グループ編成、グループワークⅡ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

12.13.14　グループワークⅡ、リーグ戦Ⅳ～Ⅵ

15. 最終スキルテスト、まとめのゲーム、レポートの説明、及び提出について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JSJ090404
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JSJ090707
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JSJ090808
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JSJ090909
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JSJ091010
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JSJ091111
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JSJ100101
科目名	生涯スポーツ実技（バレーボール）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Volleyball)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バレーボールには、「ボールを落とさないでラリーを続ける楽しさ」、「いろいろな攻撃を通じてボールを落としあう楽しさ」、「相手のプレイを予測して攻守を工夫していく楽しさ」というようにさまざまな楽しさがあります。 自分たちの現状を見つめ可能性を求めて、一人一人の力を結集する。共に協力しながら活動をする協同の気持ちを大切にしながら楽しい授業展開を目指します。 また、健康の保持増進を目的とした運動を導入し、技術の向上だけではなく、トータルバランスのとれた授業展開を目的とします。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	バレーボールの特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全に関する知識を習得する。また、仲間とのコミュニケーション、健康、体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		

受講者への要望

実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション、フィットネステスト A
2.フィットネステスト B 、グループ編成
3.各種ボールトレーニング、パス、サーブ、簡易ゲーム
4.基礎技術の習得とルール、試しのゲームと今後の課題
5.トス、アタック、ブロック練習、ゲーム
6.組織的な攻撃と防御　ゲーム
7.組織的な攻撃と防御　ゲーム　ゲーム分析と今後の課題
8.サーブレシーブとアタックレシーブのフォーメーション、攻撃フォーメーション、ゲーム
9.攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーション、ゲーム
10.ゲームと審判法
11.ゲームと審判法
12.ゲームと審判法
13.ゲームと審判法
14.ゲームと審判法

15.ゲーム

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JSJ100202
科目名	生涯スポーツ実技（バレーボール）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Volleyball)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バレーボールには、「ボールを落とさないでラリーを続ける楽しさ」、「いろいろな攻撃を通じてボールを落としあう楽しさ」、「相手のプレイを予測して攻守を工夫していく楽しさ」というようにさまざまな楽しさがあります。 自分たちの現状を見つめ可能性を求めて、一人一人の力を結集する。共に協力しながら活動をする協同の気持ちを大切にしながら楽しい授業展開を目指します。 また、健康の保持増進を目的とした運動を導入し、技術の向上だけではなく、トータルバランスのとれた授業展開を目的とします。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	バレーボールの特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全に関する知識を習得する。また、仲間とのコミュニケーション、健康、体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		

受講者への要望

実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション、フィットネステスト A
2.フィットネステスト B 、グループ編成
3.各種ボールトレーニング、パス、サーブ、簡易ゲーム
4.基礎技術の習得とルール、試しのゲームと今後の課題
5.トス、アタック、ブロック練習、ゲーム
6.組織的な攻撃と防御　ゲーム
7.組織的な攻撃と防御　ゲーム　ゲーム分析と今後の課題
8.サーブレシーブとアタックレシーブのフォーメーション、攻撃フォーメーション、ゲーム
9.攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーション、ゲーム
10.ゲームと審判法
11.ゲームと審判法
12.ゲームと審判法
13.ゲームと審判法
14.ゲームと審判法

15.ゲーム

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JSJ110101
科目名	生涯スポーツ実技（フィットネス）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Fitness)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	人生 80 年以上の長寿社会を迎えた現代。課題とされるのは全てのライフステージで健康で活気のある時を過ごすということである。それは個人のライフステージや目的に応じたものであり、自主的に継続できる身体活動でなければならない。本授業では、生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を理論および実技を通して身につけることを目的とする。 具体的には、「心身の健康」を維持・増進するための体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を運動・スポーツの科学的根拠に基づいたエアロビクス運動（有酸素運動）・筋力アップ運動・コンディショニング運動を主軸に理解・実践する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にプリントを配布。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	平常点（50%）、トレーニング計画（20%）、レポート（30%） 評価は出席・意欲等を重視するとともに課題達成度等の総合評価とする。		
到達目標	この授業では、トレーニング科学の知見に基づく正しいフィットネストレーニングの方法を理解するとともにトレーニング機器の安全かつ効果的な利用方法も習得する。また、個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成・実践することにより、安全で適切な健康体力づくりの方法および要点を習得する。		
準備学習	実技科目であり、トレーニングルームを使用するため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理を十分に留意すること。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認められない。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション、フィットネステストA 2　フィットネステストB、トレーニングルーム利用説明 3　ストレッチングの理論と実技 4　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 5　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 6　フィットネスプロフィールの作成 7　フィットネストレーニング 8　フィットネストレーニング 9　フィットネストレーニング 10　フィットネストレーニング 11　フィットネストレーニング 12　フィットネストレーニング 13　トレーニング計画立案と実践 14　トレーニング計画立案と実践 15　トレーニング計画立案と実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JSJ110202
科目名	生涯スポーツ実技（フィットネス）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Fitness)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	人生 80 年以上の長寿社会を迎えた現代。課題とされるのは全てのライフステージで健康で活気のある時を過ごすということである。それは個人のライフステージや目的に応じたものであり、自主的に継続できる身体活動でなければならない。本授業では、生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を理論および実技を通して身につけることを目的とする。 具体的には、「心身の健康」を維持・増進するための体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を運動・スポーツの科学的根拠に基づいたエアロビクス運動（有酸素運動）・筋力アップ運動・コンディショニング運動を主軸に理解・実践する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にプリントを配布。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	平常点（50%）、トレーニング計画（20%）、レポート（30%） 評価は出席・意欲等を重視するとともに課題達成度等の総合評価とする。		
到達目標	この授業では、トレーニング科学の知見に基づく正しいフィットネストレーニングの方法を理解するとともにトレーニング機器の安全かつ効果的な利用方法も習得する。また、個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成・実践することにより、安全で適切な健康体力づくりの方法および要点を習得する。		
準備学習	実技科目であり、トレーニングルームを使用するため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理を十分に留意すること。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認められない。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション、フィットネステストA 2　フィットネステストB、トレーニングルーム利用説明 3　ストレッチングの理論と実技 4　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 5　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 6　フィットネスプロフィールの作成 7　フィットネストレーニング 8　フィットネストレーニング 9　フィットネストレーニング 10　フィットネストレーニング 11　フィットネストレーニング 12　フィットネストレーニング 13　トレーニング計画立案と実践 14　トレーニング計画立案と実践 15　トレーニング計画立案と実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JSJ120303
科目名	生涯スポーツ実技（フットサル）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Futsal)		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	フットサルとは、ポルトガル語とスペイン語のサッカーを表す言葉と、室内を表す言葉の合成語で、いつの間にか短く略され「フットサロ」→「フットサル」と変化して、全世界で定着していったものである。 　フットサルはミニチュアサッカーに近いが、タッチラインは 40 メートル、ゴールラインは 20 メートルと従来のサッカーコートの約 9 分の 1 の広さを使用する。コートからボールが出ればキックインで再開し、オフサイドがないなど、コートだけでなく競技規則がサッカーと異なる。ボールはサッカーよりひと回り小さく弾みにくいうえに、人数も少いためキック力などよりも、トラップや小さいパスなどの個人技が求められるスポーツである。 　授業では、楽しくフットサルをおこなうために必要な個人技術を身につけ、個人技術の応用であるグループ戦術を目指す。また、授業を通して仲間と積極的にコミュニケーション取り、継続して授業をおこなうことで体力の維持増進につながり、心身の健康を目指す。授業後半では、ルールを理解し審判ができるように目指し、ゲーム運営が出来るようになる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技６０％　レポート２０％　学習態度２０％		
到達目標	フットサルとサッカーのルールの違いを理解する。ゲームを円滑に行えるテクニックを身に付け、チームメイトと積極的にコミュニケーションが取れるようになる。最終的には、受講生でゲーム運営ができるようになる。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション、フィットネステストＡ ２．フィットネステストＢ ３．競技の特性及び競技規則を理解する。 ４．ボールコントロール - ボールキープ(個人、グループ) ５．パス - 対面パス（固定、動きながら、２グループ） ６．パス - スクエアパス（２タッチ、ワンツー、３人目） ７．シュート - ポストシュート、ドリブルシュート ８．シュート - パス～シュート(ワントラップ、ダイレクト） ９．対人 - １対１、２対１、２対２、３対２ １０．ウォーミングアップ - ゲーム（ドリブル） - クールダウン １１．ウォーミングアップ - ゲーム（パス） - クールダウン １２．ウォーミングアップ - ゲーム（シュート） - クールダウン １３．ウォーミングアップ - ゲーム（リーグ戦） - クールダウン １４．ウォーミングアップ - ゲーム（リーグ戦） - クールダウン １５．総合的ゲーム運営			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★			

年度	2015	授業コード	JSJ120404
科目名	生涯スポーツ実技（フットサル）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Futsal)		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	フットサルとは、ポルトガル語とスペイン語のサッカーを表す言葉と、室内を表す言葉の合成語で、いつの間にか短く略され「フットサロ」→「フットサル」と変化して、全世界で定着していったものである。 　フットサルはミニチュアサッカーに近いが、タッチラインは 40 メートル、ゴールラインは 20 メートルと従来のサッカーコートの約 9 分の 1 の広さを使用する。コートからボールが出ればキックインで再開し、オフサイドがないなど、コートだけでなく競技規則がサッカーと異なる。ボールはサッカーよりひと回り小さく弾みにくいうえに、人数も少いためキック力などよりも、トラップや小さいパスなどの個人技が求められるスポーツである。 　授業では、楽しくフットサルをおこなうために必要な個人技術を身につけ、個人技術の応用であるグループ戦術を目指す。また、授業を通して仲間と積極的にコミュニケーション取り、継続して授業をおこなうことで体力の維持増進につながり、心身の健康を目指す。授業後半では、ルールを理解し審判ができるように目指し、ゲーム運営が出来るようになる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技６０％　レポート２０％　学習態度２０％		
到達目標	フットサルとサッカーのルールの違いを理解する。ゲームを円滑に行えるテクニックを身に付け、チームメイトと積極的にコミュニケーションが取れるようになる。最終的には、受講生でゲーム運営ができるようになる。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション、フィットネステストＡ ２．フィットネステストＢ ３．競技の特性及び競技規則を理解する。 ４．ボールコントロール - ボールキープ(個人、グループ) ５．パス - 対面パス（固定、動きながら、２グループ） ６．パス - スクエアパス（２タッチ、ワンツー、３人目） ７．シュート - ポストシュート、ドリブルシュート ８．シュート - パス～シュート(ワントラップ、ダイレクト） ９．対人 - １対１、２対１、２対２、３対２ １０．ウォーミングアップ - ゲーム（ドリブル） - クールダウン １１．ウォーミングアップ - ゲーム（パス） - クールダウン １２．ウォーミングアップ - ゲーム（シュート） - クールダウン １３．ウォーミングアップ - ゲーム（リーグ戦） - クールダウン １４．ウォーミングアップ - ゲーム（リーグ戦） - クールダウン １５．総合的ゲーム運営			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★			

年度	2015	授業コード	JSJ150101
科目名	生涯スポーツ実技（柔道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Judo)		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	柔道は日本古来の柔術が近代化され、今日では世界で多くの人が競技している。 しかし、本学で取り組む柔道は、生涯スポーツとして位置づけるために、競技力よりも、技術の理論性を理解し、他のスポーツにも応用できるよう実施していきたい。柔道着を持参できない学生は大学より貸し与える。学期末時に必ず返却すること。 3 セメスター以上単位修得者は希望により京都府柔道連盟に初段の推薦をする。（有料）		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	相手と対応して、身体を操作する武道の技術と礼法		
準備学習	前回までの技術の把握、礼法の確認、体調管理		

受講者への要望

柔道着を必ず着用すること。（※柔道着は大学にて貸し出す。）

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション、フィットネステストA
2. フィットネステストB　武道としての柔道(現代に生きる礼法)
3. 組み方と体捌き(自然本体と崩し、後方と側方受け身)
4. 相手が前に出てきた力を利用して倒す技(背負投と受け身)
5. 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技(大外刈と受け身)
6. 相手が右横に移動した力を利用して倒す技(送足払と受け身)
7. 相手が左横に移動した力を利用して倒す技(体落と受け身)
8. 相手に倒されないための組み方と移動方法(背負投とその防御) (大外刈とその防御)
9. 連続技の工夫 （送足払、体落とその防御)
10. 寝技の効用・袈裟固とその逃れ方 ・横四方固とその逃れ方
11. 上四方固、縦四方固とその逃れ方 ・安全な締め技の方法　活法の理論と実技 ・力のいらない間接技
12. 相手が前に出てきた力を利用して倒す技と返し技の工夫
13. 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技と返し技の工夫
14. 相手が横に移動した力を利用して倒す技と返し技の工夫
15.レポート指導(自分の生活における精力善用・自他共栄とは)

・実技テスト
相手が前に出てきた力を利用して倒す技
相手が後ろに下がる力を利用して倒す技
相手が横に移動した力を利用して倒す技（上級者同じ技で行う）
・レポート
自分の生活における精力善用・自他共栄とは
自分の生活における礼法とは

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JSJ150202
科目名	生涯スポーツ実技（柔道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Judo)		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	柔道は日本古来の柔術が近代化され、今日では世界で多くの人が競技している。 しかし、本学で取り組む柔道は、生涯スポーツとして位置づけるために、競技力よりも、技術の理論性を理解し、他のスポーツにも応用できるよう実施していきたい。柔道着を持参できない学生は大学より貸し与える。学期末時に必ず返却すること。 3 セメスター以上単位修得者は希望により京都府柔道連盟に初段の推薦をする。（有料）		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	相手と対応して、身体を操作する武道の技術と礼法		
準備学習	前回までの技術の把握、礼法の確認、体調管理		

受講者への要望

柔道着を必ず着用すること。（※柔道着は大学にて貸し出す。）

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション、フィットネステストA
2. フィットネステストB　武道としての柔道(現代に生きる礼法)
3. 組み方と体捌き(自然本体と崩し、後方と側方受け身)
4. 相手が前に出てきた力を利用して倒す技(背負投と受け身)
5. 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技(大外刈と受け身)
6. 相手が右横に移動した力を利用して倒す技(送足払と受け身)
7. 相手が左横に移動した力を利用して倒す技(体落と受け身)
8. 相手に倒されないための組み方と移動方法(背負投とその防御) (大外刈とその防御)
9. 連続技の工夫 （送足払、体落とその防御)
10. 寝技の効用・袈裟固とその逃れ方 ・横四方固とその逃れ方
11. 上四方固、縦四方固とその逃れ方 ・安全な締め技の方法　活法の理論と実技 ・力のいらない間接技
12. 相手が前に出てきた力を利用して倒す技と返し技の工夫
13. 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技と返し技の工夫
14. 相手が横に移動した力を利用して倒す技と返し技の工夫
15.レポート指導(自分の生活における精力善用・自他共栄とは)

・実技テスト
相手が前に出てきた力を利用して倒す技
相手が後ろに下がる力を利用して倒す技
相手が横に移動した力を利用して倒す技（上級者同じ技で行う）
・レポート
自分の生活における精力善用・自他共栄とは
自分の生活における礼法とは

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JSJ160101
科目名	生涯スポーツ実技（卓球）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Table Tennis)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	卓球は、安全で手軽であるため、老若男女を問わず親しまれ、生涯を通じて楽しめるスポーツとされている。　以前に「ピンポン」という名称で親しまれていたこともあり、感覚的に遊びのイメージを持たれることもあるが、本授業では、卓球の特性とルールやマナー、そして安全に楽しめるための知識等、技術向上とともに習得することを目的とする。 また、健康の維持増進を目的とした運動も導入し、技術の向上だけでなく、トータルバランスの充実した授業展開を目指します。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度 20%、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	卓球の特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全性に関する知識を習得する。 また、仲間とのコミュニケーション、健康体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		
受講者への要望			
実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーリング、フィットネステストA 2　フィットネステストB、卓球授業のためのオリエンテーション 3　卓球台の設置と準備、ラケットの選び方とグリップ、簡易試合と技術レベルの確認 4　スイングの仕方と乱打 5　サービス、シングルスのルール、シングルスの簡易ゲーム 6　クロス打ちの乱打、シングルスゲーム 7　ドライブ、バックハンド、シングルスゲーム 8　ショート、ツッツキ、シングルスゲーム 9　カット、　シングルスゲーム 10　スマッシュ、シングルスゲーム 11　シングルスリーグ戦 12　シングルスリーグ戦 13　ダブルスのルール、ダブルスゲーム 14　ダブルスリーグ戦 15　ダブルスリーグ戦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JSJ160202
科目名	生涯スポーツ実技（卓球）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Table Tennis)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	卓球は、安全で手軽であるため、老若男女を問わず親しまれ、生涯を通じて楽しめるスポーツとされている。　以前に「ピンポン」という名称で親しまれていたこともあり、感覚的に遊びのイメージを持たれることもあるが、本授業では、卓球の特性とルールやマナー、そして安全に楽しめるための知識等、技術向上とともに習得することを目的とする。 また、健康の維持増進を目的とした運動も導入し、技術の向上だけでなく、トータルバランスの充実した授業展開を目指します。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度 20%、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	卓球の特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全性に関する知識を習得する。 また、仲間とのコミュニケーション、健康体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		
受講者への要望			
実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーリング、フィットネステストA 2　フィットネステストB、卓球授業のためのオリエンテーション 3　卓球台の設置と準備、ラケットの選び方とグリップ、簡易試合と技術レベルの確認 4　スイングの仕方と乱打 5　サービス、シングルスのルール、シングルスの簡易ゲーム 6　クロス打ちの乱打、シングルスゲーム 7　ドライブ、バックハンド、シングルスゲーム 8　ショート、ツッツキ、シングルスゲーム 9　カット、　シングルスゲーム 10　スマッシュ、シングルスゲーム 11　シングルスリーグ戦 12　シングルスリーグ戦 13　ダブルスのルール、ダブルスゲーム 14　ダブルスリーグ戦 15　ダブルスリーグ戦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★	★★	★	

年度	2015	授業コード	JSJ200101
科目名	生涯スポーツ実技（剣道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Kendo)		
担当者名	加藤　隆司	旧科目名称	
講義概要	剣道は、先人が命をかけた真剣勝負を通して悟道した剣の理法の修練による人間形成の道である。 実習では、相手への打突という剣道における特殊な運動の理解・実践に加えて、相手との関係に基づく「技」の学習を通じて、相手を尊重する態度や自己を最大限に発揮する態度などを習得します。 特に武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を重視しており、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められます。 日常生活のなかでも、しっかりと挨拶（礼）ができることを目標とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	実技科目なので出席することが大前提です。 ・関心・意欲・態度ー安全に留意する。互いに助言したりできる。公正な態度で相手を尊重できる。(30%) ・知識・理解　　ー技術・正確に道具の着脱ができる。有効打突を理解する。（50%） ・　　レ　　ポ　　ー　　ト　　ー(20%)		
到達目標	基本動作、基本技術の習得と応用技術を用いた試合ができるようにする。		
準備学習	日本の武道に関心を持ち、剣道の技術書や武人に関する小説などを読み意欲を高め心の準備をしてください。		

受講者への要望

体操服で出席してください。防具・竹刀・稽古着・袴は個人で準備しなくて良い。裸足で行います。相手と打突する場面が出てきます、粗暴な行動は謹んでください。
初回はオリエンテーションとフィットネステストをします。

講義の順序とポイント

1.　　オリエンテーションとフィットネステスト（２回目にシャトルランを実施します。）
2.　　基本動作１ー礼法・構え・足さばき・す振り
3ー5.　基本動作２ー打とつの基本１～４、）　　日本剣道形（１～３）
6.　　剣道具の着脱・手拭いの付け方，対人的技能（打とつの基本１）
7－9　対人的技能（切り返し、二・三段の技ー連続技，　　日本剣道形（１～３）
10-13　対人的技能(応じ技）　かかりげいこ、互角げいこ，日本剣道形（１～３）
14　　審判規則・試合規則、試合（簡易試合）
15　　試合（簡易試合・互角げいこ)、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JSJ200202
科目名	生涯スポーツ実技（剣道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Kendo)		
担当者名	加藤　隆司	旧科目名称	
講義概要	剣道は、先人が命をかけた真剣勝負を通して悟道した剣の理法の修練による人間形成の道である。 実習では、相手への打突という剣道における特殊な運動の理解・実践に加えて、相手との関係に基づく「技」の学習を通じて、相手を尊重する態度や自己を最大限に発揮する態度などを習得します。 特に武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を重視しており、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められます。 日常生活のなかでも、しっかりと挨拶（礼）ができることを目標とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	実技科目なので出席することが大前提です。 ・関心・意欲・態度ー安全に留意する。互いに助言したりできる。公正な態度で相手を尊重できる。(30%) ・知識・理解　　ー技術・正確に道具の着脱ができる。有効打突を理解する。(50%) ・　　レ　　ポ　　ー　　ト　　ー(20%)		
到達目標	基本動作、基本技術の習得と応用技術を用いた試合ができるようにする。		
準備学習	日本の武道に関心を持ち、剣道の技術書や武人に関する小説などを読み意欲を高め心の準備をしてください。		

受講者への要望

体操服で出席してください。防具・竹刀・稽古着・袴は個人で準備しなくて良い。裸足で行います。相手と打突する場面が出てきます、粗暴な行動は謹んでください。
初回はオリエンテーションとフィットネステストをします。

講義の順序とポイント

1.　オリエンテーションとフィットネステスト（２回目にシャトルランを実施します。）
2.　基本動作１ー礼法・構え・足さばき・す振り
3ー5.　基本動作２ー打とつの基本１～４、）　日本剣道形（１～３）
6.　剣道具の着脱・手拭いの付け方，対人的技能（打とつの基本１）
7－9　対人的技能（切り返し、二・三段の技ー連続技，　日本剣道形（１～３）
10-13　対人的技能(応じ技)　かかりげいこ、互角げいこ，日本剣道形（１～３）
14　審判規則・試合規則、試合（簡易試合）
15　試合（簡易試合・互角げいこ)、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JSJ210101
科目名	生涯スポーツ実技（生涯スポーツ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Lifelong Sports)		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高める。また、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を学びあい、実技指導・実践能力を高める。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力につなげる。できれば健康スポーツ理論の受講を進めます。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学ぼう。		
教材（テキスト）	教養としての身体運動・健康科学 東京大学身体運動科学研究室		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	レポート及び提出物		
到達目標	１．運動を楽しむ ２．グループで協力して、役割を果たせる。 ３．運動を計画的に実施できる。 ４．集団をまとめることができる。 ５．準備、片付け、安全管理ができる		
準備学習	各グループで計画的に練習できるよう事前準備をしてください。 運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。		
受講者への要望			
２時間（１８０分）の連続授業です。体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方、ルールについての説明。 ２．講義　グループ分けと役割分担　エアロビクスダンス ３．バドミントン ４．レクリエーション ５．バドミントン ６．レクリエーション ７．バスケットボール ８．卓球 ９．バスケットボール 10．卓球 11．バレーボール 12．ローンボウルズ 13．バレーボール 14．ローンボウルズ 15．グループワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★★	★	★★

年度	2015	授業コード	JSJ210202
科目名	生涯スポーツ実技（生涯スポーツ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Lifelong Sports)		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高める。また、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を学びあい、実技指導・実践能力を高める。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力につなげる。できれば健康スポーツ理論の受講を進めます。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学ぼう。		
教材（テキスト）	教養としての身体運動・健康科学 東京大学身体運動科学研究室		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	レポート及び提出物		
到達目標	１．運動を楽しむ ２．グループで協力して、役割を果たせる。 ３．運動を計画的に実施できる。 ４．集団をまとめることができる。 ５．準備、片付け、安全管理ができる		
準備学習	各グループで計画的に練習できるよう事前準備をしてください。 運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。		
受講者への要望			
２時間（１８０分）の連続授業です。体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方、ルールについての説明。 ２．講義　グループ分けと役割分担　エアロビクスダンス ３．バドミントン ４．レクリエーション ５．バドミントン ６．レクリエーション ７．バスケットボール ８．卓球 ９．バスケットボール 10．卓球 11．バレーボール 12．ローンボウルズ 13．バレーボール 14．ローンボウルズ 15．グループワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★★	★	★★

年度	2015	授業コード	JSR012A01
科目名	スポーツ社会学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Sociology		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	人間は社会から離れて、一人だけで生活することはできない。住む、働く、学ぶ、遊ぶなどといった生活活動は特定の人々や集団をよりどころに営まれている。現代における、スポーツが社会生活と、どのように結びついているか、又健康に影響をもたらすか学び、社会生活を行う上で、スポーツの価値を如何に利用し社会生活に役立つ方法として、スポーツの企画運営できる能力を養うことにより、リーダーシップがとれるようにすることを期待する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	現代体育・スポーツ体系 スポーツ社会学講座		
教材（その他）	京学なびのアップロードで配布		
評価方法	授業内レポート 60%、中間レポート 20%、最終レポート 20%		
到達目標	スポーツと社会について学び生涯スポーツの実施に役立たせる。		
準備学習	○「参考文献欄に挙げた文献を学期中に読破すること」 ○「次期講義内容を読破し問題点を把握すること」 ○「次期講義内容を読破し疑問点を把握すること」		

受講者への要望

30 分以上の遅刻は教室への入室を禁ずる。遅刻せず毎回出席し、その日のレポートを提出すること。
出来るたけ生涯スポーツの実技を受講すること。

講義の順序とポイント

1.生涯スポーツとは？簡単なトーナメントとリーグ戦の組み合わせ。
2.現代生活とスポーツ。
3.これからの生活とスポーツ。我国のスポーツ。変わる社会とスポーツ。諸外国のスポーツ。
4.生涯にわたってスポーツを楽しむためには
5.ライフサイクルとスポーツ
6.スポーツ指導の上手な受け方
7.すぐれたスポーツ選手の共通点
8.トーナメント並びにリーグ戦の組み方
9.生涯スポーツイベントの企画運営
10.スポーツ技術論　各スポーツの技術とその理論
11.スポーツ指導論　生涯スポーツ指導者に求められるもの
12.指導計画とリーダーシップ　年齢と指導特性
13.スポーツと産業　企業とスポーツ　プロスポーツ　スポーツとマスメディア
14.スポーツ事業の企画運営　生涯スポーツとしての今後の大会運営
15.5 人によるダブルスの理想的な組み合わせ、スポーツ社会学のまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JSR012A02
科目名	スポーツ社会学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Sociology		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	人間は社会から離れて、一人だけで生活することはできない。住む、働く、学ぶ、遊ぶなどといった生活活動は特定の人々や集団をよりどころに営まれている。現代における、スポーツが社会生活と、どのように結びついているか、又健康に影響をもたらすか学び、社会生活を行う上で、スポーツの価値を如何に利用し社会生活に役立つ方法として、スポーツの企画運営できる能力を養うことにより、リーダーシップがとれるようにすることを期待する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	現代体育・スポーツ体系 スポーツ社会学講座		
教材（その他）	京学なびのアップロードで配布		
評価方法	授業内レポート 60%、中間レポート 20%、最終レポート 20%		
到達目標	スポーツと社会について学び生涯スポーツの実施に役立たせる。		
準備学習	○「参考文献欄に挙げた文献を学期中に読破すること」 ○「次期講義内容を読破し問題点を把握すること」 ○「次期講義内容を読破し疑問点を把握すること」		

受講者への要望

30 分以上の遅刻は教室への入室を禁ずる。遅刻せず毎回出席し、その日のレポートを提出すること。
出来るたけ生涯スポーツの実技を受講すること。

講義の順序とポイント

1.生涯スポーツとは？簡単なトーナメントとリーグ戦の組み合わせ。
2.現代生活とスポーツ。
3.これからの生活とスポーツ。我国のスポーツ。変わる社会とスポーツ。諸外国のスポーツ。
4.生涯にわたってスポーツを楽しむためには
5.ライフサイクルとスポーツ
6.スポーツ指導の上手な受け方
7.すぐれたスポーツ選手の共通点
8.トーナメント並びにリーグ戦の組み方
9.生涯スポーツイベントの企画運営
10.スポーツ技術論　各スポーツの技術とその理論
11.スポーツ指導論　生涯スポーツ指導者に求められるもの
12.指導計画とリーダーシップ　年齢と指導特性
13.スポーツと産業　企業とスポーツ　プロスポーツ　スポーツとマスメディア
14.スポーツ事業の企画運営　生涯スポーツとしての今後の大会運営
15.5 人によるダブルスの理想的な組み合わせ、スポーツ社会学のまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JSR012B01
科目名	運動学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Kinematics		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	人生を豊かに営む上には健康は欠かせないものがあります。そのためには基礎体力を養い、周りの環境破壊から来る。様々な外敵より身を守り続ける必要があります。若い時代に築き上げられた体力も、今日の文明や精神的ストレスによって、直ぐ様剥奪されてしまいます。健康の維持増進には、その年齢や体力に合った運動をする必要がありスポーツが身体の発達にどのように貢献するか、又健康や体力に影響をもたらすか学び、スポーツを行う上で障害の防止やトレーニング方法を理解し、各人の目標に合ったトレーニング方法を追求する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	現代体育・スポーツ体系 スポーツ社会学講座 身体運動学概論 日本人の体力標準値第三版 体力の診断とトレーニング		
教材（その他）	京学なびのアップロードで配布		
評価方法	授業内レポート 60%、中間レポート 20%、最終レポート 20%		
到達目標	スポーツと身体について学び、生涯スポーツの実施に役立たせる。 体力測定を行ない各自の目標に合ったトレーニング処方を追求する。		
準備学習	○「参考文献欄に挙げた文献を学期中に読破すること」 ○「次期講義内容を読破し問題点を把握すること」 ○「次期講義内容を読破し疑問点を把握すること」		
受講者への要望			
30 分以上の遅刻は教室への入室を禁ずる。遅刻せず毎回出席し、その日のレポートを提出すること。 出来るたけ生涯スポーツの実技を受講すること。実技を受講しない学生は 2・3 週目の授業後に体力測定を行なう。上記測定しなかった学生は各自で測定を行なう。			
講義の順序とポイント			
1.人類とスポーツ 2.身体の発達とスポーツ（体力測定） 3.健康・体力とスポーツ（体力測定） 4.青少年期の健康・体力とスポーツ 5.中高年の健康・体力とスポーツ 6.スポーツと健康管理 7.身体のしくみと運動 8.運動力学 9.体力測定の統計処理とその利用 10.トレーニングの科学 11.体力とトレーニング 12.健康とトレーニング 13.各種トレーニング 14.各個人の目標に合ったトレーニング 15.各個人の今後の課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JSR012B02
科目名	運動学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Kinematics		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	人生を豊かに営む上には健康は欠かせないものがあります。そのためには基礎体力を養い、周りの環境破壊から来る。様々な外敵より身を守り続ける必要があります。若い時代に築き上げられた体力も、今日の文明や精神的ストレスによって、直ぐ様剥奪されてしまいます。健康の維持増進には、その年齢や体力に合った運動をする必要がありスポーツが身体の発達にどのように貢献するか、又健康や体力に影響をもたらすか学び、スポーツを行う上で障害の防止やトレーニング方法を理解し、各人の目標に合ったトレーニング方法を追求する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	現代体育・スポーツ体系 スポーツ社会学講座 身体運動学概論 日本人の体力標準値第三版 体力の診断とトレーニング		
教材（その他）	京学なびのアップロードで配布		
評価方法	授業内レポート 60%、中間レポート 20%、最終レポート 20%		
到達目標	スポーツと身体について学び、生涯スポーツの実施に役立たせる。 体力測定を行ない各自の目標に合ったトレーニング処方を追求する。		
準備学習	○「参考文献欄に挙げた文献を学期中に読破すること」 ○「次期講義内容を読破し問題点を把握すること」 ○「次期講義内容を読破し疑問点を把握すること」		
受講者への要望			
30 分以上の遅刻は教室への入室を禁ずる。遅刻せず毎回出席し、その日のレポートを提出すること。 出来るたけ生涯スポーツの実技を受講すること。実技を受講しない学生は 2・3 週目の授業後に体力測定を行なう。上記測定しなかった学生は各自で測定を行なう。			
講義の順序とポイント			
1.人類とスポーツ 2.身体の発達とスポーツ（体力測定） 3.健康・体力とスポーツ（体力測定） 4.青少年期の健康・体力とスポーツ 5.中高年の健康・体力とスポーツ 6.スポーツと健康管理 7.身体のしくみと運動 8.運動力学 9.体力測定の統計処理とその利用 10.トレーニングの科学 11.体力とトレーニング 12.健康とトレーニング 13.各種トレーニング 14.各個人の目標に合ったトレーニング 15.各個人の今後の課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JSR031A01
科目名	スポーツ国際交流論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of International Sports Exchange A		
担当者名	堀込　孝二	旧科目名称	
講義概要	近年、我が国では、競技団体（NF）や地方公共団体を中心に、国や企業等の協力の下にこれまで数多くの国際競技大会が開催され、国際大会を我が国で開催することにより、スポーツの振興や国際親善などに大きく寄与してきた。そして、世界のトッププレーヤーの競技を目の当たりにすることにより、多くの国民にスポーツのすばらしさや大きな感動を与えるなど、トップスポーツ選手のパフォーマンスは一般の多くの人々に夢や希望を与えている。 　スポーツを通じた国際交流は、我が国におけるスポーツの普及・発展に寄与することはもとより、諸外国との相互理解と友好親善の促進に大きな役割を果たす極めて重要な意義を持つものである。そこで、このようなスポーツについて深く学び、学生一人ひとりが、自分の住む地域でスポーツにかかわり、支援する人材として力をつけられるように講義を展開する。 　このようなスポーツの実態について深く学び、スポーツの現状把握からどのような国際交流が今後必要かを考えていく。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	受講態度と取組姿勢、授業内レポートにより評価を行なう。		
到達目標	スポーツによる国際交流の実態報告書を作成する能力やプレゼンテーション能力を養う。		
準備学習	世界主要各国のスポーツ環境やスポーツ状況を調べておく。		
受講者への要望			
必ず出席すること。 遅刻をしないこと。 授業をしっかり聞いてレポートを提出すること。			
講義の順序とポイント			
1、はじめに（ガイダンス） 2、サッカーの事例から見るステークホルダーを考える 3、スポーツの意味と歴史的考察 4、スポーツ国際交流の意義と使命 5、日本のスポーツ国際交流の現状 6、スポーツ文化の国際比較 7、スポーツ国際交流の構図 8、団体競技とスポーツ 9、個人競技とスポーツ 10、障がい者スポーツの現状 11、記録と科学技術の推移 12、オリンピックの歴史、その意義と問題点 13、夏季オリンピックと競技規則 14、スポーツ国際交流の現状 15、学生による報告発表会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JSR031A02
科目名	スポーツ国際交流論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of International Sports Exchange A		
担当者名	堀込　孝二	旧科目名称	
講義概要	近年、我が国では、競技団体（NF）や地方公共団体を中心に、国や企業等の協力の下にこれまで数多くの国際競技大会が開催され、国際大会を我が国で開催することにより、スポーツの振興や国際親善などに大きく寄与してきた。そして、世界のトッププレーヤーの競技を目の当たりにすることにより、多くの国民にスポーツのすばらしさや大きな感動を与えるなど、トップスポーツ選手のパフォーマンスは一般の多くの人々に夢や希望を与えている。 　スポーツを通じた国際交流は、我が国におけるスポーツの普及・発展に寄与することはもとより、諸外国との相互理解と友好親善の促進に大きな役割を果たす極めて重要な意義を持つものである。そこで、このようなスポーツについて深く学び、学生一人ひとりが、自分の住む地域でスポーツにかかわり、支援する人材として力をつけられるように講義を展開する。 　このようなスポーツの実態について深く学び、スポーツの現状把握からどのような国際交流が今後必要かを考えていく。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	受講態度と取組姿勢、授業内レポートにより評価を行なう。		
到達目標	スポーツによる国際交流の実態報告書を作成する能力やプレゼンテーション能力を養う。		
準備学習	世界主要各国のスポーツ環境やスポーツ状況を調べておく。		
受講者への要望			
必ず出席すること。 遅刻をしないこと。 授業をしっかり聞いてレポートを提出すること。			
講義の順序とポイント			
1、はじめに（ガイダンス） 2、サッカーの事例から見るステークホルダーを考える 3、スポーツの意味と歴史的考察 4、スポーツ国際交流の意義と使命 5、日本のスポーツ国際交流の現状 6、スポーツ文化の国際比較 7、スポーツ国際交流の構図 8、団体競技とスポーツ 9、個人競技とスポーツ 10、障がい者スポーツの現状 11、記録と科学技術の推移 12、オリンピックの歴史、その意義と問題点 13、夏季オリンピックと競技規則 14、スポーツ国際交流の現状 15、学生による報告発表会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JSR031B01
科目名	スポーツ国際交流論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of International Sports Exchange B		
担当者名	堀込　孝二	旧科目名称	
講義概要	現代においてスポーツは言葉の壁を越え、グローバル時代のコミュニケーションツールとして価値を持っている。世界の各地域ではさまざまなスポーツを通して、人と人が交流し、地域の活性化や国際関係や異文化への理解を深めることに役立っている。 スポーツ国際交流論Ｂが目指すところは、真の国際交流。心とからだをはじめとするすべての感覚をとぎすまし、総合的なコミュニケーション能力を育み高めるために、スポーツ知識を高めるだけでなく、自ら実践する能力を養うことである。自分が得意なスポーツ種目を持つことは人生にとって大きな収穫と言える。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	受講態度と取組姿勢、授業内レポートにより評価を行なう。		
到達目標	スポーツによる国際交流の実態報告書を作成する能力やプレゼンテーション能力を養う。		
準備学習	世界主要各国のスポーツ環境やスポーツ状況を調べておく。		

受講者への要望

必ず出席すること。
遅刻をしないこと。
授業をしっかり聞いてレポートを提出すること。

講義の順序とポイント

1、はじめに（ガイダンス）
2、日韓スポーツ交流事業
3、アジア地区スポーツ交流事業
4、アメリカンスポーツ交流事業
5、諸外国とのスポーツ交流事業
6、スポーツ国際交流の構図
7、スポーツ国際交流の受け入れ準備の内容①
8、スポーツ国際交流の受け入れ準備の内容②
9、スポーツ国際交流の事例発表会
10、外国に遠征するスポーツ国際交流①　交流プログラム
11、外国に遠征するスポーツ国際交流②　日程と費用の計算、企画書の作成
12、外国に遠征するスポーツ国際交流③　事前準備について
13、外国遠征事例報告
14、国際交流とネットワーク組織の実態
15、海外遠征企画書発表会とまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JSR031B02
科目名	スポーツ国際交流論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of International Sports Exchange B		
担当者名	堀込　孝二	旧科目名称	
講義概要	現代においてスポーツは言葉の壁を越え、グローバル時代のコミュニケーションツールとして価値を持っている。世界の各地域ではさまざまなスポーツを通して、人と人が交流し、地域の活性化や国際関係や異文化への理解を深めることに役立っている。 スポーツ国際交流論Ｂが目指すところは、真の国際交流。心とからだをはじめとするすべての感覚をとぎすまし、総合的なコミュニケーション能力を育み高めるために、スポーツ知識を高めるだけでなく、自ら実践する能力を養うことである。自分が得意なスポーツ種目を持つことは人生にとって大きな収穫と言える。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	受講態度と取組姿勢、授業内レポートにより評価を行なう。		
到達目標	スポーツによる国際交流の実態報告書を作成する能力やプレゼンテーション能力を養う。		
準備学習	世界主要各国のスポーツ環境やスポーツ状況を調べておく。		

受講者への要望

必ず出席すること。
遅刻をしないこと。
授業をしっかり聞いてレポートを提出すること。

講義の順序とポイント

1、はじめに（ガイダンス）
2、日韓スポーツ交流事業
3、アジア地区スポーツ交流事業
4、アメリカンスポーツ交流事業
5、諸外国とのスポーツ交流事業
6、スポーツ国際交流の構図
7、スポーツ国際交流の受け入れ準備の内容①
8、スポーツ国際交流の受け入れ準備の内容②
9、スポーツ国際交流の事例発表会
10、外国に遠征するスポーツ国際交流①　交流プログラム
11、外国に遠征するスポーツ国際交流②　日程と費用の計算、企画書の作成
12、外国に遠征するスポーツ国際交流③　事前準備について
13、外国遠征事例報告
14、国際交流とネットワーク組織の実態
15、海外遠征企画書発表会とまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	JSR051001
科目名	生涯スポーツの理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Lifetime Sports		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	適切な運動・スポーツの実施は、正常なヒトの発育発達を促し、生涯にわたる健康づくり、体力づくりのために必須である。 「生涯スポーツの理論」では、ヒトの Aging と身体機能の変化と健康課題、身体活動量や体組成の評価方法、各ライフステージに応じた運動（トレーニング）の実際と障害や熱中症などのリスク管理について、講義と演習を通して学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	平常点（10%）、レポート（20 点）、定期試験（70%）		
到達目標	各ライフステージに必要な運動（トレーニング）および運動に伴うケガや熱中症などのリスク回避の理論と方法を理解し、実践できる知識を身につける。		
準備学習	講義終了時に、次の講義内容について示すので必ず事前学習をしてくる。また、必要に応じてレポート課題を出す。これらの成果を講義の中で発表する機会をつくる。		

受講者への要望

自分に適する運動（スポーツ）に関心を持つ。
授業には、毎回出席し、意欲的に取り組んで欲しい。
演習のあるときにはレポートを課すので、次回までに提出して下さい。
教職課程の科目の一つあり、遅刻・早退は認めません。

講義の順序とポイント

1. はじめにーなぜ生涯スポーツなのか―
2. ヒトの Aging と身体機能の発達（1）幼児期・学童期
3. ヒトの Aging と身体機能の発達（2）青年期・成人期
4. ヒトの Aging と身体機能の発達（3）高齢期
5. 身体活動量の評価
6. 身体組成の評価
7. 運動の実際（1）体力の評価（体力測定：演習を含む）
8. 運動の実際（2）身近な運動（ストレッチ、筋トレ：演習を含む）
9. 運動の実際（3）身近な運動（ウオーキング・ランニング；演習を含む）
10. 運動の実際（3）高齢者のための運動（演習を含む）
11. 運動（トレーニング）のリスク（1）ケガへの対応
12. 運動（トレーニング）のリスク（2）熱中症への対応
13. 運動習慣化のための行動変容
14. わが国における運動・スポーツ推進のための各種施策
15. まとめ：ヒトの一生と健康寿命（各ライフステージで必要なこと）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★	★★

年度	2015	授業コード	JSR051A01
科目名	健康スポーツ理論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports A		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
講義概要	生涯における健康スポーツは健康維持・増進、疾病の予防、精神疾患の予防のために重要となってきている。生活習慣病による死亡率は高い。また、ストレスによる精神疾患の発症も増加しており、これらの疾患を予防するための運動の知識や実践は重要となっている。スライド・動画・印刷物を使用した講義を通じて健康のあり方、栄養管理のあり方、生活習慣病・癌、スポーツ障害、救急医療、健康管理の考え方などの基礎知識を学修する。臨床例をケースとした講義を通じて学生自身による健康管理や指導者の育成も目指す。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『新・健康スポーツの科学』（晃洋書房）　吉中康子 他 著 2,268 円 『健康・スポーツ科学講義』（杏林書院）　出村愼一 監修 2,700 円 『スポーツ医学研修ハンドブック［基礎科目］』（文光堂）　公益財団法人日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会 監修 4,104 円 『スポーツ医学研修ハンドブック［応用科目］』（文光堂）　公益財団法人日本体育協会 指導者育成専門委員会スポーツドクター部会 監修 4,860 円		
教材（その他）			
評価方法	課題レポートの評価を 60%、学習態度、テストなどを 40%とする。		
到達目標	健康の概念を把握し、健康の維持・増進について理解する。		
準備学習	厚生労働省の健康関連情報について、チェックしておくこと。		

受講者への要望

質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。
講義中は静粛に願います。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション・健康とは何か・健康づくり施策
２．栄養摂取と運動
３．骨の病気、筋肉の病気
４．放射線の ABC・被曝の基礎知識・緊急被曝ガイド（美藤先生・水田先生）
５．人体の解剖・画像解剖（美藤先生・水田先生）
６．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 1
７．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 2
８．生活習慣病としての発癌
９．運動療法の基礎
１０．解剖学とストレッチ（木下先生）
１１．心臓病と高血圧・動脈硬化の運動療法
１２．スポーツ障害と画像診断
１３．運動負荷試験
１４．運動プログラムの管理
１５．健康管理、まとめ

京都府立医科大学放射線科の美藤先生、水田先生、京都メディカルクラブ 木下先生（日本体育協会公認アスレティックトレーナー）に講義をお願いしています。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JSR051A02
科目名	健康スポーツ理論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports A		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
講義概要	生涯における健康スポーツは健康維持・増進、疾病の予防、精神疾患の予防のために重要となってきている。生活習慣病による死亡率は高い。また、ストレスによる精神疾患の発症も増加しており、これらの疾患を予防するための運動の知識や実践は重要となっている。スライド・動画・印刷物を使用した講義を通じて健康のあり方、栄養管理のあり方、生活習慣病・癌、スポーツ障害、救急医療、健康管理の考え方などの基礎知識を学修する。臨床例をケースとした講義を通じて学生自身による健康管理や指導者の育成も目指す。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『新・健康スポーツの科学』(晃洋書房) 『健康・スポーツ科学講義』(杏林書院) 『スポーツ医学研修ハンドブック(基礎科目・応用科目)』(文光堂)		
教材（その他）			
評価方法	課題レポートの評価を 60%、学習態度、テストなどを 40%とする。		
到達目標	健康の概念を把握し、健康の維持・増進について理解する。		
準備学習	厚生労働省の健康関連情報について、チェックしておくこと。		
受講者への要望			
質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。 講義中は静粛に願います。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション・健康とは何か・健康づくり施策 2. 栄養摂取と運動 3. 骨の病気、筋肉の病気 4. 放射線の ABC・被曝の基礎知識・緊急被曝ガイド(美藤先生・水田先生) 5. 生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 1 6. 人体の解剖・画像解剖(美藤先生・水田先生) 7. 生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 2 8. 生活習慣病としての発癌 9. 解剖学とストレッチ(木下先生) 10. 運動療法の基礎 11. 心臓病と高血圧・動脈硬化の運動療法 12. スポーツ障害と画像診断 13. 運動負荷試験 14. 運動プログラムの管理 15. 健康管理、まとめ 京都府立医科大学放射線科の美藤先生、水田先生、京都メディカルクラブ　木下先生(日本体育協会公認 アスレティックトレーナー)に講義をお願いしています。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	JSR051A03
科目名	健康スポーツ理論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports A		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の３分の２が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約６割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで２位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。春学期にスポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学んでください。		
教材（テキスト）	『教養としての身体運動・健康科学』（東京大学出版会）　東京大学身体運動科学研究室 編 2,592 円		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ 健康運動実践指導者テキスト		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。		
受講者への要望			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを５点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
講義の順序とポイント			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労 １３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	JSR051A04
科目名	健康スポーツ理論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports A		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の３分の２が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約６割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで２位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。春学期にスポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学んでください。		
教材（テキスト）	『教養としての身体運動・健康科学』（東京大学出版会）　東京大学身体運動科学研究室 編 2,592 円		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ 健康運動実践指導者テキスト		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。		
受講者への要望			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを５点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
講義の順序とポイント			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労 １３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	JSR051B01
科目名	健康スポーツ理論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports B		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	生涯スポーツの理論Ｂ
講義概要	わが国に「体育」が誕生したのは，身体教育ということばを簡略化した明治 9 年である．フランス式の教育に範をとり，ロック（1632～1704），スペンサー（1820～1903）らの教育学から知育・徳育・体育を重要な教育目標と定め，体育についても早くからその特性について着目していた．さて、体育スポーツ･レクリエーションはどのようにわれわれの生活の中に溶け込んでいったのか？その歴史を探ろう。 　また、上記の理解の上にスポーツビジネスやスポーツマネジメントの新たな展開について学んでいく。スポーツの進化した現場簿ノウハウを共に学び、新たなスポーツに意義や意味づけについて考えよう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	新スポーツと健康の科学　晃陽書房 レクリエーション支援の基礎　（財）日本レクリエーション協会２００８ スポーツ白書　笹川スポーツ財団２０１２		
教材（その他）	印刷資料、DVD、参考図書など随時提示します。		
評価方法	授業内ミニレポート(40%)、定期試験（60%） 授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを 5 点満点で評価。優れた内容には加点をします。		
到達目標	体育･スポーツ･レクリエーションの歴史を探り、市民目線で組織の成立・維持・発展について学ぶ。		
準備学習	スポーツの歴史について調べておくこと。前回の講義で学んだことを復習しておくこと。		
受講者への要望			
遅刻は許されません。ミニレポートの用紙は授業おわりに配ります。ミニテストを行う場合もあります。			
講義の順序とポイント			
1．　体育・スポーツ・レクリエーションの始まり 2．　中世の体育・スポーツ・レクリエーション 3．20 世紀の体育・スポーツ・レクリエーション 4．スポーツ・レクリエーションの現状と課題 5．スポーツ活動の意義と魅力 6．スポーツ団体と組織 7．スポーツ指導者の現状と課題 8．２１世紀の地域スポーツ 9．スポーツボランティア 10．障がい者スポーツと組織 11．地域総合型スポーツクラブ 12．スポーツ政策と行政 13．スポーツマーケティングの概念 14．スポーツビジネスの背景 15．今後の展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JSR051B02
科目名	健康スポーツ理論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports B		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	生涯スポーツの理論Ｂ
講義概要	わが国に「体育」が誕生したのは，身体教育ということばを簡略化した明治９年である．フランス式の教育に範をとり，ロック（1632～1704），スペンサー（1820～1903）らの教育学から知育・徳育・体育を重要な教育目標と定め，体育についても早くからその特性について着目していた．さて、体育スポーツ･レクリエーションはどのようにわれわれの生活の中に溶け込んでいったのか？その歴史を探ろう。 　また、上記の理解の上にスポーツビジネスやスポーツマネジメントの新たな展開について学んでいく。スポーツの進化した現場簿ノウハウを共に学び、新たなスポーツに意義や意味づけについて考えよう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	新スポーツと健康の科学　晃陽書房 レクリエーション支援の基礎　（財）日本レクリエーション協会２００８ スポーツ白書　笹川スポーツ財団２０１２		
教材（その他）	印刷資料、DVD、参考図書など随時提示します。		
評価方法	授業内ミニレポート(40%)、定期試験（60%） 授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを５点満点で評価。優れた内容には加点をします。		
到達目標	体育･スポーツ･レクリエーションの歴史を探り、市民目線で組織の成立・維持・発展について学ぶ。		
準備学習	スポーツの歴史について調べておくこと。前回の講義で学んだことを復習しておくこと。		
受講者への要望			
遅刻は許されません。ミニレポートの用紙は授業おわりに配ります。ミニテストを行う場合もあります。			
講義の順序とポイント			
１．　体育・スポーツ・レクリエーションの始まり ２．　中世の体育・スポーツ・レクリエーション ３．20 世紀の体育・スポーツ・レクリエーション ４．スポーツ・レクリエーションの現状と課題 ５．スポーツ活動の意義と魅力 ６．スポーツ団体と組織 ７．スポーツ指導者の現状と課題 ８．２１世紀の地域スポーツ ９．スポーツボランティア 10．障がい者スポーツと組織 11．地域総合型スポーツクラブ 12．スポーツ政策と行政 13．スポーツマーケティングの概念 14．スポーツビジネスの背景 15．今後の展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	JSR052001
科目名	やさしい健康科学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	「不老長寿」の達成は地球上に人類誕生以来の長年の夢であった。現在の日本人の平均寿命は、男性 80.2 歳、女性 86.6 歳（平成 25 年簡易生命表）で、いずれも世界のトップレベルである。信長が好んだ「敦盛」の一節に「人間 50 年、下天の内くらぶれば、夢、幻、如くなり（人間がどのような一生を送ろうと、それはほんの五十年くらいの 短い間に過ぎない)」とういのがある。そんな時代とは比較にならない「長寿」となったが、手放しで喜べない事情がある。健康問題もその一つで、特に注目されているのが、日本人の死因や国民医療費において大きな構成割合を占めるがん、心臓病、脳血管疾患、糖尿病などの生活習慣病である。 「やさしい健康科学」では、このような生活習慣病と日常生活との関連について学ぶ。将来、社会の一員として重要な役割を担い、あるいは親として役目を果たさなくてはならない時に、病気でリタイアしないために、自らが実施できる生活の中での生活習慣病予防対策を考える時間とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	津田謹輔著：「健康科学（知っておきたい予防医学)」　丸善出版		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	平常点（10%）、ミニテスト（20%）、定期試験（70%）		
到達目標	がんや動脈硬化、糖尿病と日常の生活習慣との関連について理解し、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	授業のテキスト（レジメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業 1 週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。		

受講者への要望

講義には毎回出席し、意欲的に取り組んで欲しい。
毎回、授業の初めに、前回の内容についてのミニテスト（5 分以内でできる問題）を行うので、そのためにしっかり復習して欲しい。これは定期試験で役立つはず。
自分ばかりでなく、家族や身近な人についても日頃からの健康管理に関心を持つこと。

講義の順序とポイント

1.はじめに－やさしい健康科学で学んで欲しいこと－
　長寿・高齢社会とは
2.日本人の死因とその変遷、わが国における健康課題
3.がんと日常生活
4.動脈硬化と日常生活
5.高血圧と生活習慣
6.糖尿病（Ⅰ型糖尿病とⅡ型糖尿病）
7.アルコールとたばこ
8.肥満と肥満症
9.肥満（倹約遺伝子と環境）
10.日本人の食生活の変遷と課題、ひとり暮らしの食生活
11.何を、どのように食べるのか
12.運動不足がもたらすもの
13.運動がもたらす効果
14.こころの健康
15.まとめ：健康寿命延伸のためにできること

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★★

年度	2015	授業コード	JSR052002
科目名	やさしい健康科学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	「不老長寿」の達成は地球上に人類誕生以来の長年の夢であった。現在の日本人の平均寿命は、男性 80.2 歳、女性 86.6 歳（平成 25 年簡易生命表）で、いずれも世界のトップレベルである。信長が好んだ「敦盛」の一節に「人間 50 年、下天の内くらぶれば、夢、幻、如くなり（人間がどのような一生を送ろうと、それはほんの五十年くらいの 短い間に過ぎない)」とういのがある。そんな時代とは比較にならない「長寿」となったが、手放しで喜べない事情がある。健康問題もその一つで、特に注目されているのが、日本人の死因や国民医療費において大きな構成割合を占めるがん、心臓病、脳血管疾患、糖尿病などの生活習慣病である。 「やさしい健康科学」では、このような生活習慣病と日常生活との関連について学ぶ。将来、社会の一員として重要な役割を担い、あるいは親として役目を果たさなくてはならない時に、病気でリタイアしないために、自らが実施できる生活の中での生活習慣病予防対策を考える時間とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	津田謹輔著：「健康科学（知っておきたい予防医学)」　丸善出版		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	平常点（10%）、ミニテスト（20%）、定期試験（70%）		
到達目標	がんや動脈硬化、糖尿病と日常の生活習慣との関連について理解し、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	授業のテキスト（レジメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業 1 週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。		

受講者への要望

講義には毎回出席し、意欲的に取り組んで欲しい。
毎回、授業の初めに、前回の内容についてのミニテスト（5 分以内でできる問題）を行うので、そのためにしっかり復習して欲しい。これは定期試験で役立つはず。
自分ばかりでなく、家族や身近な人についても日頃からの健康管理に関心を持つこと。

講義の順序とポイント

1.はじめに－やさしい健康科学で学んで欲しいこと－
　長寿・高齢社会とは
2.日本人の死因とその変遷、わが国における健康課題
3.がんと日常生活
4.動脈硬化と日常生活
5.高血圧と生活習慣
6.糖尿病（Ⅰ型糖尿病とⅡ型糖尿病）
7.アルコールとたばこ
8.肥満と肥満症
9.肥満（倹約遺伝子と環境）
10.日本人の食生活の変遷と課題、ひとり暮らしの食生活
11.何を、どのように食べるのか
12.運動不足がもたらすもの
13.運動がもたらす効果
14.こころの健康
15.まとめ：健康寿命延伸のためにできること

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★★

年度	2015	授業コード	JSR053001
科目名	運動生理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	1 世紀も前に、ドイツの発生学者のウィルヘルム・ルーWilhelm Roux（1850-1924）は、「全ての器官は適度に使えば機能的にも形態的にも発達するが、使いすぎれば発達は損なわれ、使わなければ機能も形態も低下する」ことを述べた。簡潔に言えば「身体（筋肉）の機能は適度に使うと発達し、使わなければ萎縮（退化）し、過度に使えば障害を起こす」というものである。これはルーの法則と呼ばれ、生理学の基本法則の一つであり、現代のスポーツや体育のトレーニングにおいてもこの考え方が用いられている。すなわち、ヒトは生涯にわたって健康であるために、あるいはスポーツで強くなるためにも、適切な運動（トレーニング）が必要になる。 運動生理学では、運動することによってからだにどのような変化が生ずるのか、その現象と仕組みを学ぶ。この分野では今までに多くの業績が蓄積されているが、ここでは、健康づくりやスポーツトレーニングの基礎となる内容を、なるべく簡潔にわかりやすく解説・学習する。		
教材（テキスト）	勝田茂編集：第 4 版「入門運動生理学」　杏林書院		
教材（参考文献）	山路啓司・大築立志・田中宏暁編著：「スポーツ・運動生理学概説」　明和出版		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	平常点（10%）、ミニテスト（20%）、定期試験（70%）		
到達目標	筋、循環、呼吸などのからだの機能と運動により変化する仕組みについて、その概要が理解できる。		
準備学習	講義終了時に次の範囲（教科書 p.**～p.**まで）を指定するので、必ず事前学習しておくこと。 毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。		

受講者への要望

講義には毎回出席し、意欲的に取り組んで欲しい。
毎回、授業の初めに、前回の内容についてのミニテスト（5 分以内でできる問題）を行うので、そのためにしっかり復習して欲しい。これは定期試験で役立つはず。
運動すると体がどのように変化するか、日頃から関心を持っておくこと。

講義の順序とポイント

1. はじめに　―運動生理学とはー
2. 筋収縮とエネルギー供給系
3. 筋繊維の種類とその特徴
4. 神経系の役割
5. 筋の収縮様式と筋力
6. 運動と循環
7. 運動と呼吸
8. 運動とホルモン
9. 身体組成と肥満
10. 運動と体温調節
11. 筋疲労の要因
12. 老化に伴う身体機能の変化
13. 運動と栄養
14. コンディショニング
15. まとめ：より健康に、より強くなるために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JSR053002
科目名	運動生理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	1 世紀も前に、ドイツの発生学者のウィルヘルム・ルーWilhelm Roux（1850-1924）は、「全ての器官は適度に使えば機能的にも形態的にも発達するが、使いすぎれば発達は損なわれ、使わなければ機能も形態も低下する」ことを述べた。簡潔に言えば「身体（筋肉）の機能は適度に使うと発達し、使わなければ萎縮（退化）し、過度に使えば障害を起こす」というものである。これはルーの法則と呼ばれ、生理学の基本法則の一つであり、現代のスポーツや体育のトレーニングにおいてもこの考え方が用いられている。すなわち、ヒトは生涯にわたって健康であるために、あるいはスポーツで強くなるためにも、適切な運動（トレーニング）が必要になる。 運動生理学では、運動することによってからだにどのような変化が生ずるのか、その現象と仕組みを学ぶ。この分野では今までに多くの業績が蓄積されているが、ここでは、健康づくりやスポーツトレーニングの基礎となる内容を、なるべく簡潔にわかりやすく解説・学習する。		
教材（テキスト）	勝田茂編集：第 4 版「入門運動生理学」　杏林書院		
教材（参考文献）	山路啓司・大築立志・田中宏暁編著：「スポーツ・運動生理学概説」　明和出版		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	平常点（10%）、ミニテスト（20%）、定期試験（70%）		
到達目標	筋、循環、呼吸などのからだの機能と運動により変化する仕組みについて、その概要が理解できる。		
準備学習	講義終了時に次の範囲（教科書 p.**～p.**まで）を指定するので、必ず事前学習しておくこと。 毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。		

受講者への要望

講義には毎回出席し、意欲的に取り組んで欲しい。
毎回、授業の初めに、前回の内容についてのミニテスト（5 分以内でできる問題）を行うので、そのためにしっかり復習して欲しい。これは定期試験で役立つはず。
運動すると体がどのように変化するか、日頃から関心を持っておくこと。

講義の順序とポイント

1. はじめに　―運動生理学とはー
2. 筋収縮とエネルギー供給系
3. 筋繊維の種類とその特徴
4. 神経系の役割
5. 筋の収縮様式と筋力
6. 運動と循環
7. 運動と呼吸
8. 運動とホルモン
9. 身体組成と肥満
10. 運動と体温調節
11. 筋疲労の要因
12. 老化に伴う身体機能の変化
13. 運動と栄養
14. コンディショニング
15. まとめ：より健康に、より強くなるために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	★

年度	2015	授業コード	JV0010001
科目名	コンピュータ・ネットワーク入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Computer Networks		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	現在、インターネットが社会の情報基盤となり、IT(情報技術)革命が進行している。ネットワークで何が可能であるか、何が最適であるか、どのようにコミュニケーション方法が変化していくかなどを考えることが非常に重要になっている。しかし、携帯電話などのメディアの表面的な技術進歩を追求しても本質を見失うだけである。ここ十数年の間に確立されたネットワークの基本的なスケルトンを理解し、それをもとにして現在を位置づけていくのが賢明のように思われる。この授業ではネットワーク技術の基本となる TCP/IP について、その構造と利用方法を理論と実践を通して学習する。 ネットワーク学習の基本ソフトウェア(OS)として Linux を中心に利用する。		
教材（テキスト）	白鳥則郎 監修　『情報ネットワーク』　共立出版		
教材（参考文献）	初歩からのネットワーク(実教出版)		
教材（その他）	DVD-R 1 枚。8GB 以上の USB メモリ。その他は適宜指示する。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。		
評価方法	演習の課題・レポート(70%)、定期試験(30%)で評価する。		
到達目標	インターネットの基本技術である TCP/IP を理論と実践により理解する。 また，ネットワークの応用技術を TCP/IP プロトコル階層の考え方で理解する。		
準備学習	Linux に触れておく。 MS-Windows (Vista, 7 等)のコマンドプロンプトの使用経験を積んでおくこと。 タッチタイピングができるようにしておくこと。		

受講者への要望

コマンドライン操作(CUI)が基本となるので、Windows 環境(GUI)しか知らない場合、最初慣れるまで注意が必要である。授業の特性上、欠席すると以後の授業についていけなくなるので、留意して欲しい。

講義の順序とポイント

講義は、は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1.ユビキタス情報社会とネットワーク
2.ネットワーク・サービスの事例
3.ネットワークアーキテクチャ
4.アプリケーション層
5.トランスポート層
6.ネットワーク層
7.データリンク層
8.ローカルエリアネットワーク
９.ワイドエリアネットワーク
10.物理層
11.無線とモバイルネットワーク
12.マルチメディア通信
13.ネットワークセキュリティ
14.ネットワーク運用と管理
15.ネットワークとは何か，現状と未来

講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★	★	★

年度	2015	授業コード	JV0010002
科目名	コンピュータ・ネットワーク入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Computer Networks		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	現在、インターネットが社会の情報基盤となり、IT(情報技術)革命が進行している。ネットワークで何が可能であるか、何が最適であるか、どのようにコミュニケーション方法が変化していくかなどを考えることが非常に重要になっている。しかし、携帯電話などのメディアの表面的な技術進歩を追求しても本質を見失うだけである。ここ十数年の間に確立されたネットワークの基本的なスケルトンを理解し、それをもとにして現在を位置づけていくのが賢明のように思われる。この授業ではネットワーク技術の基本となる TCP/IP について、その構造と利用方法を理論と実践を通して学習する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート(80%)、総合レポート(20%)で評価する。		
到達目標	インターネットの基本技術である TCP/IP を理論と実践により理解する。また，ネットワークの応用技術を TCP/IP プロトコル階層の考え方で理解する。		
準備学習	MS-Windows (XP, Vista, 7 等)のコマンドプロンプトの使用経験を積んでおくこと。 タッチタイピングができるようにしておくこと。		

受講者への要望

コマンドライン操作(CUI)が基本となるので、Windows 環境(GUI)しか知らない場合、最初慣れるまで注意が必要である。授業の特性上、欠席すると以後の授業についていけなくなるので、留意して欲しい。　少し難しいテキストですが説明が完備していますので毎回最初の要約部分は最低目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。
1.受講ガイダンス・ネットワークとは
2.ネットワークの基礎知識(1)
3.ネットワークの基礎知識(2)　TCP/IP プロトコルスイート
4.TCP/IP　ネットワークインターフェース層（物理層・データリンク層）
5.TCP/IP　インターネット層　IP アドレス
6.TCP/IP　インターネット層　ヘッダ・経路制御
7.TCP/IP　DNS　トランスポート層
8.TCP/IP　トランスポート層(ポート番号)
9.TCP/IP　アプリケーション層
10.ネットワークの構築
11.サーバの役割
12.Web サーバ(1)　Apache
13.Web サーバ(2)　Apache の管理・設定
14.ネットワークの保守・セキュリティ・何のためのネットワーク?
15.まとめ
講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 担当教員のホームページ に公開する。ホームページアドレスは授業の際に告知する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	JV0030001
科目名	パソコン応用A	単位数	1
科目名（英語表記）	Applied Computing A		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	Excel の応用科目です。パソコン初心者向けの科目「パソコン入門」の内容をマスターしていることを前提にしています。ここでは、さまざまな関数の使い方、複合グラフや図形の作成、データの集計やテーブルの利用、ピボットテーブルやピボットグラフの作成など、Excel の応用的な機能の習得と効率よく作業を進めるテクニックを習得します。		
教材（テキスト）	富士通オフィス機器(株)『よくわかる　Excel2010　応用』FOM 出版，2000 円富士通オフィス機器(株)『よくわかる　Excel2010　応用』FOM 出版，2000 円		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習状況等（45%）と、Excel 等によるレポート提出（55%）の総合評価とします。単位取得には 2 / 3 以上の出席が必要です。		
到達目標	表計算ソフトを使ってデータを分析・加工し、結果を適切かつ効果的に表現する能力を習得すること。		
準備学習	Excel の既習事項の復習とキーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

パソコンの基本的な使い方(Word、Excel の基本操作)を習得していることを前提にしています。遅刻をしないこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないようにしてください。懇切丁寧に解説している教科書がありますので毎回授業前に学習内容の予習を心がけてください。

講義の順序とポイント

1　入門の復習
2　関数の利用　Ⅰ（１章）　順位付け、条件判断、データ検索
3　関数の利用　Ⅱ
4　関数の利用　Ⅲ
5　表作成の活用（２章）　条件付き書式、入力規則
6　表作成の活用　練習問題
7　グラフの活用（３章）　複合グラフ、グラフの編集、
8 グラフィックの利用（4 章）　図形の作成
9　グラフィックの活用　練習問題
10　複数ブックの操作とデータベースの活用（５・６章）　データの集計と統合、テーブルの利用
11　複数ブックの操作とデータベースの活用　練習問題
12　ピボットテーブルとピボットグラフ（７章）　ピボットテーブル・グラフの作成と編集
13　ピボットテーブルとピボットグラフ　練習問題
14　マクロ（８章）　マクロの作成と実行
15　マクロ　練習問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	JV0030007
科目名	パソコン応用A	単位数	1
科目名（英語表記）	Applied Computing A		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	Excel の応用科目です。パソコン初心者向けの科目「パソコン入門」の内容をマスターしていることを前提にしています。ここでは、さまざまな関数の使い方、複合グラフや図形の作成、データの集計やテーブルの利用、ピボットテーブルやピボットグラフの作成など、Excel の応用的な機能の習得と効率よく作業を進めるテクニックを習得します。		
教材（テキスト）	富士通オフィス機器(株)『よくわかる　Excel2010　応用』FOM 出版，2000 円富士通オフィス機器(株)『よくわかる　Excel2010　応用』FOM 出版，2000 円		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習状況等（45%）と、Excel 等によるレポート提出（55%）の総合評価とします。単位取得には 2 / 3 以上の出席が必要です。		
到達目標	表計算ソフトを使ってデータを分析・加工し、結果を適切かつ効果的に表現する能力を習得すること。		
準備学習	Excel の既習事項の復習とキーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

パソコンの基本的な使い方(Word、Excel の基本操作)を習得していることを前提にしています。遅刻をしないこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないようにしてください。懇切丁寧に解説している教科書がありますので毎回授業前に学習内容の予習を心がけてください。

講義の順序とポイント

1　入門の復習
2　関数の利用　Ⅰ（１章）　順位付け、条件判断、データ検索
3　関数の利用　Ⅱ
4　関数の利用　Ⅲ
5　表作成の活用（２章）　条件付き書式、入力規則
6　表作成の活用　練習問題
7　グラフの活用（３章）　複合グラフ、グラフの編集、
8 グラフィックの利用（4 章）　図形の作成
9　グラフィックの活用　練習問題
10　複数ブックの操作とデータベースの活用（５・６章）　データの集計と統合、テーブルの利用
11　複数ブックの操作とデータベースの活用　練習問題
12　ピボットテーブルとピボットグラフ（７章）　ピボットテーブル・グラフの作成と編集
13　ピボットテーブルとピボットグラフ　練習問題
14　マクロ（８章）　マクロの作成と実行
15　マクロ　練習問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	JV0030010
科目名	パソコン応用A	単位数	1
科目名（英語表記）	Applied Computing A		
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	Excel の応用科目です。パソコン初心者向けの科目「パソコン入門」の内容をマスターしていることを前提にしています。ここでは、さまざまな関数の使い方、複合グラフや図形の作成、データの集計やテーブルの利用、ピボットテーブルやピボットグラフの作成など、Excel の応用的な機能の習得と効率よく作業を進めるテクニックを習得します。		
教材（テキスト）	富士通オフィス機器(株)『よくわかる　Excel2010　応用』FOM 出版，2000 円富士通オフィス機器(株)『よくわかる　Excel2010　応用』FOM 出版，2000 円		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習状況等（45%）と、Excel 等によるレポート提出（55%）の総合評価とします。単位取得には 2 / 3 以上の出席が必要です。		
到達目標	表計算ソフトを使ってデータを分析・加工し、結果を適切かつ効果的に表現する能力を習得すること。		
準備学習	Excel の既習事項の復習とキーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

パソコンの基本的な使い方(Word、Excel の基本操作)を習得していることを前提にしています。遅刻をしないこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないようにしてください。懇切丁寧に解説している教科書がありますので毎回授業前に学習内容の予習を心がけてください。

講義の順序とポイント

1　入門の復習
2　関数の利用　Ⅰ（１章）　順位付け、条件判断、データ検索
3　関数の利用　Ⅱ
4　関数の利用　Ⅲ
5　表作成の活用（２章）　条件付き書式、入力規則
6　表作成の活用　練習問題
7　グラフの活用（３章）　複合グラフ、グラフの編集、
8 グラフィックの利用（4 章）　図形の作成
9　グラフィックの活用　練習問題
10　複数ブックの操作とデータベースの活用（５・６章）　データの集計と統合、テーブルの利用
11　複数ブックの操作とデータベースの活用　練習問題
12　ピボットテーブルとピボットグラフ（７章）　ピボットテーブル・グラフの作成と編集
13　ピボットテーブルとピボットグラフ　練習問題
14　マクロ（８章）　マクロの作成と実行
15　マクロ　練習問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★	★	

年度	2015	授業コード	JV0050001
科目名	パソコン応用Ｂ	単位数	1
科目名（英語表記）	Applied Computing B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	●　プリゼンテーション作成の訓練を行う。Microsoft Office の Power Point を使用し、（１）作成方法に習熟すること、（２）実際に発表して注意点を学ぶこと、の２つを目指す。 ●　練習問題を多数用意しておくので、パソコンの初心者でも中級者でも区別なしに受講できる。 ●　毎回の練習問題に加え、２つの課題を消化しなければならない。（１）自分の出身地の紹介（例えば観光案内）の power point を作成して提出。（２）自由課題で power point を作成し、約４分間の発表を受講者全員の前で行う。 ●教職「情報」を希望する学生は、この授業（森田担当）を取らなければならない。		
教材（テキスト）	毎回、「京学なび」で、資料、練習問題、課題などを配布		
教材（参考文献）	よくわかる Microsoft Office Power Point 2010、応用 FOM 出版		
教材（その他）			
評価方法	毎回の練習問題と課題の作成結果を提出（４０％）、出身地紹介の power point 作成（２０％）、自由課題の power point の作成と発表（４０％）		
到達目標	power point 作成の技術的な手法を身につけること。 作成した power point を発表すること。		
準備学習	EXCEL と WORD は知っておいた方がよい。高校で習ってその後忘れた人は復習しておくこと。 予習：事前配布資料に練習問題と課題を示してあるので、見ておくこと。 復習：事前配布資料の最後に、課題（発展問題）を示しておくので、次回の授業までに課題を解いて、「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		
受講者への要望			
人によって習熟度が違うが、気にすることはない。初心者用、中級者用の練習問題を用意しておくので、各自のレベルに応じて進んでいけばよい。			
講義の順序とポイント			
１．プリゼンテーションの作成（導入部分） ２．プレースホルダーと文字（編集、配置） ３．同上 ４．図やオブジェクトの挿入・編集 ５．同上 ６．図形の作成と編集 ７．同上 ８．「出身地の紹介」の power point 作成 ９．同上 １０．特殊効果（アニメーション） １１．ビデオ、音声の入力 １２．その他のプリゼンテーション手法（prezi, PDF） １３．総合問題 １４．「自由課題」の power point 作成 １５．発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★★	★		★

年度	2015	授業コード	JV0050002
科目名	パソコン応用Ｂ	単位数	1
科目名（英語表記）	Applied Computing B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	●　プリゼンテーション作成の訓練を行う。Microsoft Office の Power Point を使用し、（１）作成方法に習熟すること、（２）実際に発表して注意点を学ぶこと、の２つを目指す。 ●　練習問題を多数用意しておくので、パソコンの初心者でも中級者でも区別なしに受講できる。 ●　毎回の練習問題に加え、２つの課題を消化しなければならない。（１）自分の出身地の紹介（例えば観光案内）の power point を作成して提出。（２）自由課題で power point を作成し、約４分間の発表を受講者全員の前で行う。 ●教職「情報」を希望する学生は、この授業（森田担当）を取らなければならない。		
教材（テキスト）	毎回、「京学なび」で、資料、練習問題、課題などを配布		
教材（参考文献）	よくわかる Microsoft Office Power Point 2010、応用 FOM 出版		
教材（その他）			
評価方法	毎回の練習問題と課題の作成結果を提出（４０％）、出身地紹介の power point 作成（２０％）、自由課題の power point の作成と発表（４０％）		
到達目標	power point 作成の技術的な手法を身につけること。 作成した power point を発表すること。		
準備学習	EXCEL と WORD は知っておいた方がよい。高校で習ってその後忘れた人は復習しておくこと。 予習：事前配布資料に練習問題と課題を示してあるので、見ておくこと。 復習：事前配布資料の最後に、課題（発展問題）を示しておくので、次回の授業までに課題を解いて、「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		

受講者への要望

人によって習熟度が違うが、気にすることはない。初心者用、中級者用の練習問題を用意しておくので、各自のレベルに応じて進んでいけばよい。

講義の順序とポイント

１．プリゼンテーションの作成（導入部分）
２．プレースホルダーと文字（編集、配置）
３．同上
４．図やオブジェクトの挿入・編集
５．同上
６．図形の作成と編集
７．同上
８．「出身地の紹介」の power point 作成
９．同上
１０．特殊効果（アニメーション）
１１．ビデオ、音声の入力
１２．その他のプリゼンテーション手法（prezi, PDF）
１３．総合問題
１４．「自由課題」の power point 作成
１５．発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★★	★		★

年度	2015	授業コード	JV005000A
科目名	パソコン応用Ｂ	単位数	1
科目名（英語表記）	Applied Computing B		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	この講義ではプレゼンテーションを支援するソフトウェアの代表的なもののひとつである、マイクロソフト社パワーポイント（ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔ）を教材として使い、基本操作を学びます。パワーポイントの機能をある程度使いこなし、明確で効果的なプレゼンテーションができるようになることをめざして学習を進めていきます。 学期の最後には、自ら選んだ事柄を題材にしたプレゼンテーションを実際に制作し、発表します。		
教材（テキスト）	講義開始日に指示します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（４５％）、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	プレゼンテーションソフト（ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔ）の機能を使って、効果的なスライドを作成する知識を習得します。 作成したスライドを使って、効果的なプレゼンテーションができることを目標とします。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおいてください。 復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

Ｗｏｒｄの基本操作を習得していることを前提にしています。
遅刻をしないこと。私語等、他の受講生の迷惑になる行為をしないようにしてください。

講義の順序とポイント

1　大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Ｕドライブ
2　図書館の情報検索（検索結果の印刷)、情報倫理（ネチケット、コンピュータウィルス等）
3　Web メールの初期設定と利用（パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付）
4　京学なび（課題提出)、Ｒドライブ、タッチタイピング、パワーポイントの基本的な操作
5　図形の作成
　パワーポイントではワードと同じように、図形製作用の機能が備え付けられています。それを使って図形を作成します。
6　組織図の作成
　パワーポイントには組織図を書くための専用のソフトが組み込まれています。それを使い組織図の例を作ってみます。
7　アニメーションの設定等
　アニメーションの設定やイラストの挿入等を行い、印象に残るようなスライドを作ってみます。
8　新聞記事を用いたスライドの作成
9　発表
10　表とグラフの作成の基礎
　Excel を使用して表とグラフを作成し、パワーポイントに挿入する方法を学びます。
11　表とグラフの作成の応用
　インターネットから統計データを収集して表とグラフを作成し、パワーポイントに挿入する方法を学びます。
12　プレゼンテーションの実際の制作（１）
　この授業で習ったことを使い、自分なりのプレゼンテーションを作ります。
13　プレゼンテーションの実際の制作（２）
14　発表
15　パソコン応用Ｂを通して学んだことの総括

授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★★	★★	★	★

年度	2015	授業コード	JV0070001
科目名	パソコン応用C	単位数	1
科目名（英語表記）	Applied Computing C		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	データベースソフト(Access) を用いて、データベースの考え方およびデータベース活用方法を学習します。 コンピュータ利用の大きな目的の一つがデータ管理です。大量のデータを蓄積し、いろいろな条件を指定してデータを抽出する、これを実現するソフトウェアがデータベースです。例えば、学生名簿や成績もデータベースで管理されています。最近話題になっている個人情報の漏洩も、企業のデータベースから誰かが持ち出したものです。 本講義では、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社のアクセス(Access)を用いて、データの「入力」、「保存」、「抽出」、「印刷」といったデータベースソフトの基本的な操作を理解しながら、データベースを活用できる能力を習得することを目的とします。 普段あまりなじみのないソフトですが、それだけに、習熟しておくと卒業後もいろいろと役に立ちます。		
教材（テキスト）	『できる Access 2010』インプレス		
教材（参考文献）	なし。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	平常点（受講態度や取組姿勢など）50%。課題（50%）。		
到達目標	Access を使ってデータベースを作成することができる。		
準備学習	本日の内容を教科書でしっかり復習しておくこと。また講義終了時に次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。		
受講者への要望			
授業は教科書に沿って行うので、教科書は必ず授業に持参すること。			
講義の順序とポイント			
教科書に沿って実習を行います。最後に課題として、Access を使ったデータベースを作成してもらいます。 1.　データベースとは 2.　データの保存・・・テーブルとは(1) 3.　データの保存・・・テーブルとは(2) 4.　データの抽出・・・クエリとは(1) 5.　データの抽出・・・クエリとは(2) 6.　データの入力・・・フォームとは(1) 7.　データの入力・・・フォームとは(2) 8.　データの印刷・・・レポートとは(1) 9.　データの印刷・・・レポートとは(2) 10.　リレーショナルデータベースについて(1) 11.　リレーショナルデータベースについて(2) 12.　データベースの活用(1)・・・課題作成 13.　データベースの活用(2)・・・課題作成 14.　データベースの活用(3)・・・課題作成 15.　データベースの活用(4)・・・課題作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★★		★★

年度	2015	授業コード	JV0070002
科目名	パソコン応用C	単位数	1
科目名（英語表記）	Applied Computing C		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	データベースソフト(Access) を用いて、データベースの考え方およびデータベース活用方法を学習します。 コンピュータ利用の大きな目的の一つがデータ管理です。大量のデータを蓄積し、いろいろな条件を指定してデータを抽出する、これを実現するソフトウェアがデータベースです。例えば、学生名簿や成績もデータベースで管理されています。最近話題になっている個人情報の漏洩も、企業のデータベースから誰かが持ち出したものです。 本講義では、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社のアクセス(Access)を用いて、データの「入力」、「保存」、「抽出」、「印刷」といったデータベースソフトの基本的な操作を理解しながら、データベースを活用できる能力を習得することを目的とします。 普段あまりなじみのないソフトですが、それだけに、習熟しておくと卒業後もいろいろと役に立ちます。		
教材（テキスト）	『できる Access 2010』インプレス		
教材（参考文献）	なし。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	平常点（受講態度や取組姿勢など）50%。課題（50%）。		
到達目標	Access を使ってデータベースを作成することができる。		
準備学習	本日の内容を教科書でしっかり復習しておくこと。また講義終了時に次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。		
受講者への要望			
授業は教科書に沿って行うので、教科書は必ず授業に持参すること。			
講義の順序とポイント			
教科書に沿って実習を行います。最後に課題として、Access を使ったデータベースを作成してもらいます。 1.　データベースとは 2.　データの保存・・・テーブルとは(1) 3.　データの保存・・・テーブルとは(2) 4.　データの抽出・・・クエリとは(1) 5.　データの抽出・・・クエリとは(2) 6.　データの入力・・・フォームとは(1) 7.　データの入力・・・フォームとは(2) 8.　データの印刷・・・レポートとは(1) 9.　データの印刷・・・レポートとは(2) 10.　リレーショナルデータベースについて(1) 11.　リレーショナルデータベースについて(2) 12.　データベースの活用(1)・・・課題作成 13.　データベースの活用(2)・・・課題作成 14.　データベースの活用(3)・・・課題作成 15.　データベースの活用(4)・・・課題作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★★		★★

年度	2015	授業コード	JV0250001
科目名	プログラミングＢＩ	単位数	4
科目名（英語表記）	Programming BI		
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	Ｃ言語とその発展形であるＣ＋＋はプログラミングにおける汎用性と自由度の高さから、現在、コンピュータのソフトウエア開発において最も多く用いられている言語の一つである。この言語の取得を通じて、コンピュータによる情報処理の有効性を確認し、「情報資産」を自主的に運用できる情報基礎力を養うことを目的とする。 Ｃ言語は現在、情報処理技術者試験の出題言語である。		
教材（テキスト）	林晴比古著「明快入門Ｃ スーパービギナー編」ソフトバンクパブリッシング		
教材（参考文献）	株）アンク著「アルゴリズムの絵本　プログラミングが好きになる９つの扉」翔泳社 細川義洋著　「なぜ、システム開発は必ずモメるのか？　４９のトラブルから学ぶプロジェクト管理術」　日本実業出版社		
教材（その他）	林晴比古著「明快入門Ｃ」「新訂新Ｃ言語入門シニア編」ソフトバンクパブリッシング		
評価方法	授業中に作成されたプログラムの完成度(60%) 授業中の質疑応答(20%) 授業内レポートの完成度(20%)		
到達目標	1.自力で教科書を読み、必要な技術を自学自習できるようになるための教科書の使い方を習得する 2.コンピュータを用いた情報処理と人間の行う情報処理の違いについて理解し、その効果的な役割分担について理解する		
準備学習	パソコン入門程度のパソコンの技術を復習すること 参考文献欄にあげた文献を学期中に読破すること		

受講者への要望

パソコン入門程度のパソコンの技術を習得していること
遅刻は厳禁とする

講義の順序とポイント

講義の順序は受講者のレベルや状況によって入れ替えますので、注意してください

1.電子計算機の歴史
2.C 言語を使うにあたっての基礎知識（MS－DOS とコンパイラの使い方など）について
3.C 言語を使うにあたっての基礎知識の技術的習得（１）
4.C 言語を使うにあたっての基礎知識の技術的習得（２）
5.プログラム構造の基礎
6.C 言語における変数について
7.見やすいプログラムについて
8.標準入出力（１）
9.標準入出力（２）
10.for 文による繰り返し処理（１）for 文の基礎知識
11.for 文による繰り返し処理（2）for 文の発展的利用法
12.for 文による繰り返し処理（3）高度な for 文の使い方
13.情報理論（１）データ処理の基礎概念
14.配列の表現法・変数や配列の初期化について
15.ファイル入出力（１）ファイルの入力
16.ファイル入出力（２）ファイルの出力
17.ファイル入出力（３）ファイルの入出力
18.基礎技術の確認（１）
19.基礎技術の確認（２）
20.do-while 文による繰り返し処理
21.分岐処理の基礎
22.分岐処理の応用
23.構造化プログラミングについて

24.構造化プログラミングによるプログラムの作成（1）
25.構造化プログラミングによるプログラムの作成（2）
26.情報理論（2）いいプログラムと悪いプログラム
27.総合演習（1）短いプログラムを効率的に作成する
28.総合演習（2）複雑なプログラムを作成する
29.総合演習（3）使いやすい工夫をしたプログラムを作成する
30.情報理論（3）人間と計算機の共存する社会における諸問題について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★		

年度	2015	授業コード	JV0250002
科目名	プログラミングＢＩ	単位数	4
科目名（英語表記）	Programming BI		
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	Ｃ言語とその発展形であるＣ＋＋はプログラミングにおける汎用性と自由度の高さから、現在、コンピュータのソフトウエア開発において最も多く用いられている言語の一つである。この言語の取得を通じて、コンピュータによる情報処理の有効性を確認し、「情報資産」を自主的に運用できる情報基礎力を養うことを目的とする。 Ｃ言語は現在、情報処理技術者試験の出題言語である。		
教材（テキスト）	林晴比古著「明快入門Ｃ スーパービギナー編」ソフトバンクパブリッシング		
教材（参考文献）	株）アンク著「アルゴリズムの絵本　プログラミングが好きになる９つの扉」翔泳社 細川義洋著　「なぜ、システム開発は必ずモメるのか？　４９のトラブルから学ぶプロジェクト管理術」　日本実業出版社		
教材（その他）	林晴比古著「明快入門Ｃ」「新訂新Ｃ言語入門シニア編」ソフトバンクパブリッシング		
評価方法	授業中に作成されたプログラムの完成度(60%) 授業中の質疑応答(20%) 授業内レポートの完成度(20%)		
到達目標	1.自力で教科書を読み、必要な技術を自学自習できるようになるための教科書の使い方を習得する 2.コンピュータを用いた情報処理と人間の行う情報処理の違いについて理解し、その効果的な役割分担について理解する		
準備学習	パソコン入門程度のパソコンの技術を復習すること 参考文献欄にあげた文献を学期中に読破すること		

受講者への要望

パソコン入門程度のパソコンの技術を習得していること
遅刻は厳禁とする

講義の順序とポイント

講義の順序は受講者のレベルや状況によって入れ替えますので、注意してください

1.電子計算機の歴史
2.C 言語を使うにあたっての基礎知識（MS－DOS とコンパイラの使い方など）について
3.C 言語を使うにあたっての基礎知識の技術的習得（１）
4.C 言語を使うにあたっての基礎知識の技術的習得（２）
5.プログラム構造の基礎
6.C 言語における変数について
7.見やすいプログラムについて
8.標準入出力（１）
9.標準入出力（２）
10.for 文による繰り返し処理（１）for 文の基礎知識
11.for 文による繰り返し処理（2）for 文の発展的利用法
12.for 文による繰り返し処理（3）高度な for 文の使い方
13.情報理論（１）データ処理の基礎概念
14.配列の表現法・変数や配列の初期化について
15.ファイル入出力（１）ファイルの入力
16.ファイル入出力（２）ファイルの出力
17.ファイル入出力（３）ファイルの入出力
18.基礎技術の確認（１）
19.基礎技術の確認（２）
20.do-while 文による繰り返し処理
21.分岐処理の基礎
22.分岐処理の応用
23.構造化プログラミングについて

24.構造化プログラミングによるプログラムの作成（1）
25.構造化プログラミングによるプログラムの作成（2）
26.情報理論（2）いいプログラムと悪いプログラム
27.総合演習（1）短いプログラムを効率的に作成する
28.総合演習（2）複雑なプログラムを作成する
29.総合演習（3）使いやすい工夫をしたプログラムを作成する
30.情報理論（3）人間と計算機の共存する社会における諸問題について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★	★		

年度	2015	授業コード	JV0280001
科目名	プログラミングＢⅡ	単位数	4
科目名（英語表記）	Programming BⅡ		
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	現在のコンピュータプログラミングは、多くの人が互いに協力し合って行われている。そのため、協力関係を有効に機能させるための様々な教養もまた、純粋な技術的能力と同様に必要とされている。 そこで、本講義では、コンピュータや OS の種類にかかわりなく動作するプログラムの作成が可能な Java 言語を用いてコンピュータやプログラミングの基礎知識を学び、これらを踏まえて Java 言語の基本構文やオブジェクト指向プログラミングについて学習する。また、それと並行して、コンピュータにかかわる基礎的な教養について解説し、他者と協力して行う現代コンピュータプログラミングの基礎的な能力を養う		
教材（テキスト）	富士通エフ・オー・エム株式会社著　はじめてでもわかる　Java 入門　FOM 出版		
教材（参考文献）	（株）アンク著「Java の絵本 増補改訂版　Java が好きになる９つの扉」翔泳社 細川義洋著　「なぜ、システム開発は必ずモメるのか？　４９のトラブルから学ぶプロジェクト管理術」　日本実業出版社		
教材（その他）			
評価方法	プログラミングの技術の到達度（５０点）、課題への取り組み（２５点）、基礎教養への理解度（２５点）		
到達目標	１．Java の基礎を理解し、オブジェクト指向プログラミングの有効性を理解する ２．教科書から自力で必要な情報を取得し、活用する ３．コンピュータに関係する基礎的な教養を身につけ、他人と協力してプログラミングをするための基礎的な能力を養う		
準備学習	パソコン入門で習う程度の基本的なパソコン操作が確実にできること 参考文献欄にあげた文献を学期中に読破すること		

受講者への要望

Windows やワープロの操作に熟達し、OS やファイルの構成を最低限知っていることが望ましい。
基本的に教科書に従って講義を進めていくので、教科書は必ず準備すること。

講義の順序とポイント

講義の順序は受講者のレベルや状況によって入れ替えますので、注意してください

第１回　　プログラミングにかかわる基礎知識
第２回　　Java の基本構造
第３回　　Java プログラムの基本構造
第４回　　変数と配列の構造と理解
第５回　　制御文と算術演算処理の構造と理解（1）
第６回　　制御文と算術演算処理の構造と理解（2）
第７回　　プログラミング基礎知識確認
第８回　　オブジェクト指向プログラムの作成
第９回　　クラスからオブジェクトの作成
第１０回　アクセス修飾子の追加とアクセス制限
第１１回　コンストラクタの作成と同時処理
第１２回　オーバーロードの作成と動作
第１３回　クラスの継承とサブクラスの作成（1）
第１４回　クラスの継承とサブクラスの作成（2）
第１５回　オブジェクト指向プログラム確認
第１６回　コマンドライン入力とオブジェクトの作成
第１７回　エラー発生時の処理の追加方法について
第１８回　エラーにおける例外処理について（1）
第１９回　コマンドライン入力とオブジェクト確認
第２０回　テキストファイル入出力の概要
第２１回　テキストファイルへのデータ書き込み（1）
第２２回　テキストファイルへのデータ書き込み（2）
第２３回　テキストファイルからのデータ読み込み

第２４回　サブクラスに対応したテキストファイル入出力
第２５回　GUI 画面の作成
第２６回　GUI 画面からのデータ書き込み
第２７回　商品データ読み込みのための GUI 画面作成と商品データの読み込み
第２８回　サブクラスに対応した GUI への拡張
第２９回　Java による課題プログラムの作成
第３０回　Java にかかわる情報理論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★		

年度	2015	授業コード	JV0280002
科目名	プログラミングＢⅡ	単位数	4
科目名（英語表記）	Programming BⅡ		
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	現在のコンピュータプログラミングは、多くの人が互いに協力し合って行われている。そのため、協力関係を有効に機能させるための様々な教養もまた、純粋な技術的能力と同様に必要とされている。 そこで、本講義では、コンピュータや OS の種類にかかわりなく動作するプログラムの作成が可能な Java 言語を用いてコンピュータやプログラミングの基礎知識を学び、これらを踏まえて Java 言語の基本構文やオブジェクト指向プログラミングについて学習する。また、それと並行して、コンピュータにかかわる基礎的な教養について解説し、他者と協力して行う現代コンピュータプログラミングの基礎的な能力を養う		
教材（テキスト）	富士通エフ・オー・エム株式会社著　はじめてでもわかる　Java 入門　FOM 出版		
教材（参考文献）	（株）アンク著「Java の絵本 増補改訂版　Java が好きになる９つの扉」翔泳社 細川義洋著　「なぜ、システム開発は必ずモメるのか？　４９のトラブルから学ぶプロジェクト管理術」　日本実業出版社		
教材（その他）			
評価方法	プログラミングの技術の到達度（５０点）、課題への取り組み（２５点）、基礎教養への理解度（２５点）		
到達目標	１．Java の基礎を理解し、オブジェクト指向プログラミングの有効性を理解する ２．教科書から自力で必要な情報を取得し、活用する ３．コンピュータに関係する基礎的な教養を身につけ、他人と協力してプログラミングをするための基礎的な能力を養う		
準備学習	パソコン入門で習う程度の基本的なパソコン操作が確実にできること 参考文献欄にあげた文献を学期中に読破すること		

受講者への要望

Windows やワープロの操作に熟達し、OS やファイルの構成を最低限知っていることが望ましい。
基本的に教科書に従って講義を進めていくので、教科書は必ず準備すること。

講義の順序とポイント

講義の順序は受講者のレベルや状況によって入れ替えますので、注意してください

第１回　　プログラミングにかかわる基礎知識
第２回　　Java の基本構造
第３回　　Java プログラムの基本構造
第４回　　変数と配列の構造と理解
第５回　　制御文と算術演算処理の構造と理解（1）
第６回　　制御文と算術演算処理の構造と理解（2）
第７回　　プログラミング基礎知識確認
第８回　　オブジェクト指向プログラムの作成
第９回　　クラスからオブジェクトの作成
第１０回　アクセス修飾子の追加とアクセス制限
第１１回　コンストラクタの作成と同時処理
第１２回　オーバーロードの作成と動作
第１３回　クラスの継承とサブクラスの作成（1）
第１４回　クラスの継承とサブクラスの作成（2）
第１５回　オブジェクト指向プログラム確認
第１６回　コマンドライン入力とオブジェクトの作成
第１７回　エラー発生時の処理の追加方法について
第１８回　エラーにおける例外処理について（1）
第１９回　コマンドライン入力とオブジェクト確認
第２０回　テキストファイル入出力の概要
第２１回　テキストファイルへのデータ書き込み（1）
第２２回　テキストファイルへのデータ書き込み（2）
第２３回　テキストファイルからのデータ読み込み

第２４回　サブクラスに対応したテキストファイル入出力
第２５回　GUI 画面の作成
第２６回　GUI 画面からのデータ書き込み
第２７回　商品データ読み込みのための GUI 画面作成と商品データの読み込み
第２８回　サブクラスに対応した GUI への拡張
第２９回　Java による課題プログラムの作成
第３０回　Java にかかわる情報理論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★		

年度	2015	授業コード	JV0290001
科目名	プログラミングC	単位数	4
科目名（英語表記）	Programming C		
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	WEB アプリケーションを開発するために作られた PHP（Hypertext Preprocessor）というプログラミング言語を使って、ホームページを作る演習を行います。 WEB アプリケーションとは、インターネットを使って利用できる様々なサービスのことですが、PHP は初心者でもこういったアプリを簡単に開発できるのが特徴です。 いくつか簡単なホームページを作成することを通して、基本的なプログラムの書き方を理解し、最終的には自分の作りたいホームページを作ってみましょう。		
教材（テキスト）	オフィス加減著　『最初のキホンがやさしくわかる　絵で学ぶ PHP 入門』　アスキー・メディアワークス　１８００円		
教材（参考文献）	山田祥寛著　『１０日でおぼえる　PHP 入門教室（第４版)』　翔泳社　２５８０円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（３０％）…受講態度等による。 課題到達度（７０％）…授業中に作成するプログラムの完成度と提出レポートにより評価する。		
到達目標	PHP 言語を使ってホームページを作成することで、プログラミングの楽しさを知る。		
準備学習	毎講義終了時に、次回の講義内容と予習・復習すべき点を指示する。		
受講者への要望			
授業に遅刻、欠席しないこと。どうしても欠席する場合も、連続して休まないように。			
講義の順序とポイント			
1　プログラムを書いてみよう（HTML の基本） 2　最初の PHP プログラム 3　PHP で計算してみよう 4　テキストボックスを使ってみよう 5　現在の日時を表示しよう 6　名簿を作ってみよう 7　繰り返してみよう１（for 文） 8　繰り返してみよう２（while 文と foreach 文） 9　名簿を詳しくしよう １０　名簿で検索してみよう１（if 文） １１　名簿で検索してみよう２（switch 文） １２　ここまで覚えたことを使ってホームページを作ろう１ １３　いろいろな形でデータを入力しよう １４　入力されたデータを受け取ろう １５　入力されたデータをチェックしよう１ １６　入力されたデータをチェックしよう２（正規表現） １７　ファイルをつかってみよう １８　ここまで覚えたことを使ってホームページを作ろう２ １９　データベースを作ってみよう ２０　データベースの操作を理解しよう ２１　データベースのデータを編集しよう ２２　データベースのデータを検索しよう ２３　PHP でデータベースを操作しよう ２４　スケジュールを登録しよう ２５　スケジュールの一覧表示をしよう ２６　スケジュールを更新しよう ２７　ここまで覚えたことを使ってホームページを作ろう３ ２８　自分の作りたいホームページを作ろう（設計）		

２９　自分の作りたいホームページを作ろう（作成）
３０　自分の作りたいホームページを作ろう（改良）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★		★★

年度	2015	授業コード	JV0290002
科目名	プログラミングC	単位数	4
科目名（英語表記）	Programming C		
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	WEBアプリケーションを開発するために作られたPHP（Hypertext Preprocessor）というプログラミング言語を使って、ホームページを作る演習を行います。 WEBアプリケーションとは、インターネットを使って利用できる様々なサービスのことですが、PHPは初心者でもこういったアプリを簡単に開発できるのが特徴です。 いくつか簡単なホームページを作成することを通して、基本的なプログラムの書き方を理解し、最終的には自分の作りたいホームページを作ってみましょう。		
教材（テキスト）	オフィス加減著　『最初のキホンがやさしくわかる　絵で学ぶPHP入門』　アスキー・メディアワークス　１８００円		
教材（参考文献）	山田祥寛著　『１０日でおぼえる　PHP入門教室（第4版)』　翔泳社　２５８０円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（３０％）…受講態度等による。 課題到達度（７０％）…授業中に作成するプログラムの完成度と提出レポートにより評価する。		
到達目標	PHP言語を使ってホームページを作成することで、プログラミングの楽しさを知る。		
準備学習	毎講義終了時に、次回の講義内容と予習・復習すべき点を指示する。		
受講者への要望			
授業に遅刻、欠席しないこと。どうしても欠席する場合も、連続して休まないように。			
講義の順序とポイント			
1　プログラムを書いてみよう（HTMLの基本） 2　最初のPHPプログラム 3　PHPで計算してみよう 4　テキストボックスを使ってみよう 5　現在の日時を表示しよう 6　名簿を作ってみよう 7　繰り返してみよう1（for文） 8　繰り返してみよう2（while文とforeach文） 9　名簿を詳しくしよう １０　名簿で検索してみよう1（if文） １１　名簿で検索してみよう2（switch文） １２　ここまで覚えたことを使ってホームページを作ろう1 １３　いろいろな形でデータを入力しよう １４　入力されたデータを受け取ろう １５　入力されたデータをチェックしよう1 １６　入力されたデータをチェックしよう2（正規表現） １７　ファイルをつかってみよう １８　ここまで覚えたことを使ってホームページを作ろう2 １９　データベースを作ってみよう ２０　データベースの操作を理解しよう ２１　データベースのデータを編集しよう ２２　データベースのデータを検索しよう ２３　PHPでデータベースを操作しよう ２４　スケジュールを登録しよう ２５　スケジュールの一覧表示をしよう ２６　スケジュールを更新しよう ２７　ここまで覚えたことを使ってホームページを作ろう3 ２８　自分の作りたいホームページを作ろう（設計）			

２９　自分の作りたいホームページを作ろう（作成）
３０　自分の作りたいホームページを作ろう（改良）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★		★★

年度	2015	授業コード	JV0330A01
科目名	マルチメディア表現 s	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Multi-Media Expression (s)		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	現在のメディアの世界で、コンピュータによる表現には目覚ましものがあります。文字情報だけでなく、視覚・聴覚 に訴える作品が作られています。 従来の広告・デザインなど特殊な分野だけではなく、一般のビジネスや教育の分野にもそのようなコンピュータ 表現が必要になってきています。 画像、音声、文字などを組み合わせ、作品制作を通して、メディア表現ができる能力獲得を目指します。		
教材（テキスト）	スタジオ イー・スペース著『Photoshop レッスンブック CS6』ソシム，2376 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（45%）受講姿勢等と、各回の作業結果と，完成作品の機能性，デザイン性，システムとしての完成度（55%）の総 合評価とします。		
到達目標	Photoshop で，写真の加工や web のデザインなどが出来るようになること。		
準備学習	ホームページのデザイン，雑誌のデザインなど，デザイン全般を注意しておくこと。		
受講者への要望			
基本的な技術を積み重ねて創作していくので，各回の内容をよく復習しておくこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心が けてください。			
講義の順序とポイント			
1.Photoshop の基本 2.ペイントツールとパネルの操作 3.文字ツール 4. 選択ツールの理解と実践 基本的な選択ツール 5. 選択範囲の加工・修正・保存 6.レイヤーの基本機能 7. レイヤーの応用・階層・スタイルの習得 8.シェイプ 9. 写真を加工 フィルター機能のぼかし・色相・彩度・露光量の調整・塗りつぶし 10. 写真を加工 レタッチ・ハイダ名ミックレンジ画像・イラスト風加工 11.フィルター機能を使ってゼロから作品を作る?：調整レイヤーのレベル補正・色相・彩度・レイヤースタイルのグラデーションオーバ ーレイ 12.フィルター機能を使ってゼロから作品を作る?：フィルタの雲模様・ブラシストローク・レイヤースタイルの組み合わせ 13.ブログデザインを作る 14.プログデザイン等の自主制作の立案・試行 15.プログデザイン等の自主制作の完成			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	JV0330A02
科目名	マルチメディア表現 s	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Multi-Media Expression (s)		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	現在のメディアの世界で、コンピュータによる表現には目覚ましものがあります。文字情報だけでなく、視覚・聴覚 に訴える作品が作られています。 従来の広告・デザインなど特殊な分野だけではなく、一般のビジネスや教育の分野にもそのようなコンピュータ 表現が必要になってきています。 画像、音声、文字などを組み合わせ、作品制作を通して、メディア表現ができる能力獲得を目指します。		
教材（テキスト）	スタジオ イー・スペース著『Photoshop レッスンブック CS6』ソシム，2376 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（45%）受講姿勢等と、各回の作業結果と，完成作品の機能性，デザイン性，システムとしての完成度（55%）の総 合評価とします。		
到達目標	Photoshop で，写真の加工や web のデザインなどが出来るようになること。		
準備学習	ホームページのデザイン，雑誌のデザインなど，デザイン全般を注意しておくこと。		
受講者への要望			
基本的な技術を積み重ねて創作していくので，各回の内容をよく復習しておくこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心が けてください。			
講義の順序とポイント			
1.Photoshop の基本 2.ペイントツールとパネルの操作 3.文字ツール 4. 選択ツールの理解と実践 基本的な選択ツール 5. 選択範囲の加工・修正・保存 6.レイヤーの基本機能 7. レイヤーの応用・階層・スタイルの習得 8.シェイプ 9. 写真を加工 フィルター機能のぼかし・色相・彩度・露光量の調整・塗りつぶし 10. 写真を加工 レタッチ・ハイダ名ミックレンジ画像・イラスト風加工 11.フィルター機能を使ってゼロから作品を作る?：調整レイヤーのレベル補正・色相・彩度・レイヤースタイルのグラデーションオーバ ーレイ 12.フィルター機能を使ってゼロから作品を作る?：フィルタの雲模様・ブラシストローク・レイヤースタイルの組み合わせ 13.ブログデザインを作る 14.プログデザイン等の自主制作の立案・試行 15.プログデザイン等の自主制作の完成			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	JV0330B01
科目名	マルチメディア表現 f	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Multi-Media Expression (f)		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	現在のメディアの世界で、コンピュータによる表現には目覚ましものがあります。文字情報だけでなく、視覚・聴覚に訴える作品が作られています。 　従来の広告・デザインなど特殊な分野だけではなく、一般のビジネスや教育の分野にもそのようなコンピュータ表現が必要になってきています。 　画像、音声、文字などを組み合わせ、作品制作を通して、メディア表現ができる能力獲得を目指します。		
教材（テキスト）	加藤才智，まつばら あつし 著 『Flash レッスンブック Flash CS6』ソシム　2012 年刊　2484 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（45%）出席姿勢等と、各回の作業結果と，完成作品の機能性，デザイン性，システムとしての完成度（55%）の総合評価とします。		
到達目標	Flash で，動きのあるホームページを作成すること。		
準備学習	WEB デザインのなかで，アニメーション関係のサイトを閲覧しておくこと。		
受講者への要望			
基本的な技術を積み重ねて創作していくので，各回の内容をよく復習しておくこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心がけてください。			
講義の順序とポイント			
1.Flash について 2．アニメーションの基本のキホン　モーショントゥイーン ３．モーションプリセット・モーショントゥイーンの応用 ４.動くコンテンツを作る　ボタン　オープニングムービー ５．アニメーションのさまざまなテクニック　フレームアニメーション・マスク・３D 回転ツール ６．アニメーションのさまざまなテクニック　他のアプリケーションのデータの利用・テクニックの応用 ７．　シーンを分けてストリーのある動画を作成 ８．Actionscript の基本 ９．サウンドとビデオの利用 １０．ムービーの活用 11.アクションスクリプトを利用して車の制御 １２．アクションスクリプトを利用して写真のスライドの制作 13.Flash で一貫した Web サイトを制作 14.アニメーションの自主制作　　試行と立案 １５.アニメーションの自主制作　　完成			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	JV0330B02
科目名	マルチメディア表現 f	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Multi-Media Expression (f)		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	現在のメディアの世界で、コンピュータによる表現には目覚ましものがあります。文字情報だけでなく、視覚・聴覚に訴える作品が作られています。 　従来の広告・デザインなど特殊な分野だけではなく、一般のビジネスや教育の分野にもそのようなコンピュータ表現が必要になってきています。 　画像、音声、文字などを組み合わせ、作品制作を通して、メディア表現ができる能力獲得を目指します。		
教材（テキスト）	加藤才智，まつばら あつし 著 『Flash レッスンブック Flash CS6』ソシム　2012 年刊　2484 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（45%）出席姿勢等と、各回の作業結果と，完成作品の機能性，デザイン性，システムとしての完成度（55%）の総合評価とします。		
到達目標	Flash で，動きのあるホームページを作成すること。		
準備学習	WEB デザインのなかで，アニメーション関係のサイトを閲覧しておくこと。		
受講者への要望			
基本的な技術を積み重ねて創作していくので，各回の内容をよく復習しておくこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心がけてください。			
講義の順序とポイント			
1.Flash について 2．アニメーションの基本のキホン　モーショントゥイーン ３．モーションプリセット・モーショントゥイーンの応用 ４.動くコンテンツを作る　ボタン　オープニングムービー ５．アニメーションのさまざまなテクニック　フレームアニメーション・マスク・３D 回転ツール ６．アニメーションのさまざまなテクニック　他のアプリケーションのデータの利用・テクニックの応用 ７．　シーンを分けてストリーのある動画を作成 ８．Actionscript の基本 ９．サウンドとビデオの利用 １０．ムービーの活用 11.アクションスクリプトを利用して車の制御 １２．アクションスクリプトを利用して写真のスライドの制作 13.Flash で一貫した Web サイトを制作 14.アニメーションの自主制作　　試行と立案 １５.アニメーションの自主制作　　完成			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		

年度	2015	授業コード	T2000200B
科目名	日本経済入門 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	2012 年に発足した安倍内閣のもとで,「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な取り組みが実施される中, 我が国経済も今年こそは内需主導の本格的な経済成長を実現するとの期待が高まっている．2014 年には消費税率が引き上げられ, 財政健全化に向けての取組がなされたものの, その後の経済成長の低迷を受け, 2015 年に予定されていた消費税率の引き上げを見送るべく，総選挙が実施された. この間とくに注目すべきは，経済のグローバル化の進展により，円安にもかかわらず輸出が伸び悩んでいる．我が国経済の本格的な回復には,「第 3 の矢」を放ち，内需主導の経済成長を実現することが喫緊の課題である．第 3 の矢がいつ放たれるのか，国際的には，TPP への参加問題も大きな課題となっているし，アジア諸国との外交関係も景気に微妙な影響を及ぼすことになるかも知れない. 本講義では，その時々のトピックスにも注意を向けながら，日本経済の特徴を理解できるように平易に解説する.		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版		
教材（その他）	講義用レジュメを配付する		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を理解する		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		

受講者への要望

「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける.

講義の順序とポイント

1. 序　章　日本経済の現況
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
4. 第 2 章　バブル景気と失われた 20 年
5. 第 2 章　バブル景気と失われた 20 年
6. 第 2 章　バブル景気と失われた 20 年
7. 第 3 章　金融システムの動揺
8. 第 3 章　金融システムの動揺
9. 第 4 章　財政赤字の急増
10. 第 4 章　財政赤字の急増
11. 第 5 章　産業構造の変化と労働市場の変容
12. 第 5 章　産業構造の変化と労働市場の変容
13. 第 6 章　生活不安とセイフティネット
14. 第 6 章　生活不安とセイフティネット
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	T20021A01
科目名	デリバティブ入門Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Derivatives A		
担当者名	無相　大拙	旧科目名称	
講義概要	・デリバティブ（派生商品）の基礎に係る説明を行うとともに、世間一般に多く観られるデリバティブを使った商品・事業・経営の実際を教授する。 ・受講者が、明日から身近に使える「デリバティブの考え方、利用方法」を会得するため、今の経済実態或いは 企業で活用されている資産・経営管理という観点から、デリバティブの実際を観ていく。		
教材（テキスト）	随時指示		
教材（参考文献）	随時指示		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点出席状況(60%)。授業中に使用するプリントあるいは小テストの評価（４０％）		
到達目標	生活のあらゆる場所で、当たり前のように使用されているデリバティブ商品の分析と組成方法の習得		
準備学習	経済・国際面の動向を、新聞・ネット・TV 等で追うこと。		
受講者への要望			
正解、不正解を問わず、自由闊達な発言を望む。			
講義の順序とポイント			
１．世界経済の動向と予測 ２．予測に沿った資産価格の動き ３．資産価格を決定する要因 ４．株式 ５．債券 ６．為替 ７．デリバティブの使用例ー先物 ８．デリバティブの使用例ーオプション ９．デリバティブの使用例ースワップ １０．リスク管理手法とは １１．リスク管理手法とデリバティブ １２．金融商品とデリバティブ １３．デリバティブによる商品組成 １４．デリバティブによる商品組成 １５．今後のデリバティブの発展 ※講義日について この科目は、次の日時に開講します。いずれも金曜日の４・５講時連続です。 4 月 10 日、4 月 24 日、5 月 8 日、5 月 22 日、6 月 5 日、6 月 19 日、7 月 3 日、7 月 17 日			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	T20021B01
科目名	デリバティブ入門Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Derivatives B		
担当者名	無相　大拙	旧科目名称	
講義概要	・デリバティブ（派生商品）の基礎に係る説明の詳細は、春季のデリバティブ入門 A に譲ることとし,B では、世間一般に多く観られるデリバティブを使った商品・事業・経営の実際を中心に教授する。 ・受講者が、明日から身近に使える「デリバティブの考え方、利用方法」を会得するため、今の経済実態或いは 企業で活用されている資産・経営管理という観点から、デリバティブの実際を観ていく。		
教材（テキスト）	随時指示		
教材（参考文献）	随時指示		
教材（その他）	教材（その他） 適宜プリントを配布		
評価方法	平常点出席状況(60%)。授業中に使用するプリントあるいは論文の評価（４０％）		
到達目標	生活のあらゆる場所で、当たり前のように使用されているデリバティブ商品の分析と組成方法の習得		
準備学習	経済・国際面の動向を、新聞・ネット・TV 等で追うこと。		
受講者への要望			
正解、不正解を問わず、自由闊達な発言を望む。			
講義の順序とポイント			
１．世界経済の動向と予測 ２．予測に沿った資産価格の動き ３．資産価格を決定する要因 ４．株式 ５．債券 ６．為替 ７．デリバティブの使用例ー先物 ８．デリバティブの使用例ーオプション ９．デリバティブの使用例ースワップ １０．リスク管理手法とは １１．リスク管理手法とデリバティブ １２．金融商品とデリバティブ １３．デリバティブによる商品組成 １４．デリバティブによる商品組成 １５．今後のデリバティブの発展 ※講義日について この科目は、次の日時に開講します。いずれも金曜日の４・５講時連続です。 9 月 25 日、10 月 9 日、10 月 30 日、11 月 13 日、11 月 27 日、12 月 11 日、1 月 8 日、1 月 22 日			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	T20029A01
科目名	日本経済論Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Japanese Economy A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	日本経済の現状について解説し、日本が直面している問題の解決策について考察します。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	『ゼミナール日本経済入門』（日本経済新聞社）		
教材（その他）			
評価方法	レポート（30%）、授業内発表（5%）、定期試験（65%）		
到達目標	日本の置かれている立場を理解する。		
準備学習	上記の教材（参考文献）が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

自分の国に対する理解を深めてほしいと思います。

講義の順序とポイント

1　家族のあり方の変化と日本経済①
2　家族のあり方の変化と日本経済②
3　デフレとは何か
4　近年の日本経済の歩み①　プラザ合意
5　近年の日本経済の歩み②　バブルの発生
6　近年の日本経済の歩み③　バブルの崩壊
8　近年の日本経済の歩み④　デフレの始まり
9　近年の日本経済の歩み⑤　デフレからの脱却
10　日本と近隣諸国の関係①　総説
11　日本と近隣諸国の関係②　ロシア
12　日本と近隣諸国の関係③　韓国
13　日本と近隣諸国の関係④　韓国
14　日本と近隣諸国の関係⑤　中国
15　日本と近隣諸国の関係⑥　中国

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★★

年度	2015	授業コード	T20029B01
科目名	日本経済論Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Japanese Economy B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	第 2 次世界大戦後の日本経済は、戦後復興期、高度経済成長期、オイルショックと円高不況期、バブル経済の崩壊と失われた 10 年（あるいは 20 年）の時期を経て、大きく変化してきた。その結果、経済の目標も生産の量的拡大から生活の質を重視する方向へとシフトしつつある。しかし一方では、近年急速に進む経済のグローバル化と少子高齢化のなかで、日本経済の将来に対する深刻な不安材料も指摘されていて、これまでの社会システムでは対応しきれない、さまざまな問題が生じている。 本講義は、必要に応じて多くの統計資料を用いながら、日本経済の仕組みと日本経済が抱えている今日的課題について理論的かつ総合的に解説することを目的とする。		
教材（テキスト）	塚崎公義『増補改訂・よくわかる日本経済入門』（朝日新書、2015 年）		
教材（参考文献）	片岡剛士『アベノミクスのゆくえ――現在・過去・未来の視点から考える』（光文社新書）2013 年 服部茂幸『アベノミクスの終焉』（岩波新書）2014 年		
教材（その他）	毎回プリント配布（毎回の講義ファイルは事前に「京学なび」の授業資料としてアップする）		
評価方法	平常点（６０％）宿題 6 回提出＋授業内発表（１０％）＋定期試験（３０％）		
到達目標	受講生自身が自分の身の周りで日々生じている経済事象の変化を自分の感性で感じ取り、授業で学んだ経済知識を使って理解できる学習能力を身につけてもらうことを、到達目標とする。		
準備学習	指定された教科書の、講義にかかわるところを事前に読んで授業に出席すること。		

受講者への要望

①「日本経済論Ａ」とは内容が重ならないように調整しているので、「日本経済論Ａ」とあわせて受講することが望ましい。
②授業への意欲的な受講を臨む。受講生からの質問、あるいは教員から受講生への問いかけにたいする積極的発言は、「授業内発表」の評価点とする。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス（講義の目標、成績評価）
２．日本経済の TODAY（最近の日本経済の動向）
３．景気の謎を解く①（景気循環など）
４　景気の謎を解く②
５．新成長の設計①（経済成長の理論、国民所得の決定など）
６．新成長の設計②
７．物価と市場経済①（デフレ・インフレの経済学、日本の物価問題など）
８．物価と市場経済②
９．人口減少時代の財政①（財政の役割、公共財の理論など）
１０．人口減少時代の財政②
１１．金融システムの再構築①（金融政策、不良債権問題など）
１２．金融システムの再構築②
１３．アベノミクスについて考える①
１４．アベノミクスについて考える②
１５．経営革新と雇用問題（企業経営など）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			★

年度	2015	授業コード	T20030A01
科目名	産業組織論Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Industrial Organization A		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	今日，日本の産業では、企業間で様々な競争が繰り広げられている。この競争は企業にとって，また社会にとってどの様な意味を持つのだろうか。 　この講義ではベインの産業組織論に基づいて、産業組織分析の方法を学び、日本の市場での企業間の競争の実態と原理をとらえよう。 　はじめに、産業組織を学ぶために必要な理論を確認する。１～３章が理論編で、ベインらの産業組織論の方法と体系に基づく。そのあと具体的な企業間の競争の状態を見ていく。 それぞれの項目で日本の産業組織の実態を紹介する。 　こうして産業組織論の原理の理解と現実の産業における競争関係を明らかにする。		
教材（テキスト）	『産業組織論入門』，土井教之編、ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）	毎回プリントを配付する。		
教材（その他）	なし		
評価方法	平常点２０点(授業内容について質問，要望，感想を書いて提出。(出席点ではない。) 試験に代わるレポート 80 点。		
到達目標	産業組織論の基礎範畴である市場構造，市場行動，市場成果，産業政策を理解する。 具体的な日本の産業における自由競争，寡占支配の実態を知っておくこと。 就職しようとする業界でどのような競争が繰り広げられているかつかんでおくこと。		
準備学習	寡占価格を理解しなければならないので価格論（「ミクロ経済学１」「ミクロ経済学２」で講義）を学習しておくとよい。スティグリッツ『ミクロ経済学』が参考になる。		

受講者への要望

価格論を学習しておくこと。
現在の日本の産業における企業間の競争に関心を持っておくこと。
就職しようとする業界の競争状態に関心を持っておくこと。

講義の順序とポイント

Ⅰ　産業組織論の方法
１ (1)産業組織論の枠組み
(2)産業組織論の主要概念
２　　①産業・市場構造
３　　②競争・市場行動
４　　③企業・市場成果
５　　④産業政策
Ⅱ　市場の構造と企業の行動
ミクロ経済学の基礎
６ (1)完全競争
７ (2)独占的競争
８ (3)独占
(4)寡占
９　①協調
１０　②複占
企業の経済学
(5)企業の理論
１１ ①利潤極大化，売上高極大化
１２ ②所有と経営の分離
Ⅲ　産業組織論の発展

１３ (1)ゲームの理論１
１４ (2)ゲームの理論２
１５　産業組織理論　市場構造，市場行動，市場成果分析の枠組み

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	T20030B01
科目名	産業組織論Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Industrial Organization B		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	今日，日本の産業では、企業間で様々な競争が繰り広げられている。この競争は企業にとって，また社会にとってどの様な意味を持つのだろうか。 この講義ではベインの産業組織論に基づいて、産業組織分析の方法を学び、日本の市場での企業間の競争の実態と原理をとらえよう。 　はじめに産業組織を学ぶために必要な理論を確認する。そのあと具体的な企業間の競争の状態を見ていく。 それぞれの項目で日本の産業組織の実態を紹介する。 　こうして産業組織論の原理の理解と現実の産業における競争関係を明らかにする。		
教材（テキスト）	『産業組織論入門』，土井教之編、ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）	毎回授業でレジュメを配付する		
教材（その他）	なし		
評価方法	平常点２０点(授業内容について質問，要望，感想を書いて提出。(出席点ではない.) 試験に代わるレポート 80 点。		
到達目標	到達目標 産業組織論の基礎範疇である市場構造，市場行動，市場成果，産業政策を理解する。 具体的な日本の産業における自由競争，寡占支配の実態を知っておくこと。 就職しようとする業界でどのような競争が繰り広げられているかつかんでおくこと。		
準備学習	寡占価格を理解しなければならないので価格論（「ミクロ経済学１」「ミクロ経済学２」で講義）を学習しておくとよい。スティグリッツ『ミクロ経済学』が参考になる。		

受講者への要望

価格論を学習しておくこと。
現在の日本の産業における企業間の競争に関心を持っておくこと。
就職しようとする業界の競争状態に関心を持っておくこと。

講義の順序とポイント

戦略と競争の分析
Ⅳ　合併
１ 合併の効果，実態
Ⅴ　企業協定
２ (1)カルテル，事例
３ (2)垂直的取引制限
Ⅵ　戦略的行動
４ (1)戦略的行動
５ (2)参入阻止価格論
Ⅶ　企業の価格・非価格戦略
６ (1)価格・非価格戦略
７ (2)製品差別化
Ⅷ　最近の産業組織
８ (1)ネットワーク
９ (2)イノベーション
10 (3)グローバル化，貿易
Ⅸ　公共政策
11 (1)競争政策 独禁政策
12 (2)規制緩和 規制と規制緩和
Ⅹ　日本の産業組織

13 (1)大型家電販売
14 (2)大型スーパー
15　産業組織論の見方　市場構造，市場行動，市場成果，産業政策

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T20055A01
科目名	経済政策Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面しています．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きいといえます．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類することができます．こうした個別具体的な政策を 理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論を理解する必要があります． 　本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げます．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』高菅出版， 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	経済政策論の基礎理論の理解を目標とする．		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1.　日本経済の現況と政策課題（１） 2.　日本経済の現況と政策課題（２） 3.　経済政策論の誕生と学問的性格 4.　市場社会の変容（１） 5.　市場社会の変容（２） 6.　多元社会化と国家の変質（１） 7.　多元社会化と国家の変質（２） 8.　政策形成過程 9.　利益団体の役割とその諸問題 10. 政策目的の階層構造 11. 政策手段とその分類 12. 市場メカニズムの諸問題 13. 政治的調整メカニズムの諸問題 14. 団体交渉メカニズムの諸問題 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T20055B01
科目名	経済政策Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy B		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	我が国は人口減少社会に移行する中，経済社会のあり方が問われています．高度経済成長の成果を踏まえ，「日本型福祉国家」の建設を目指してきましたが，経済的・社会的環境の変化により，福祉国家政策は行き詰まり，いまや政策体系の根本的な見直しを迫られています．欧州諸国でも「福祉国家の危機」が，1980 年以降急速に政治問題化し，欧州委員会を中心に「持続可能な社会保障制度の再構築」が模索されています． 本講義では，マクロ経済政策の基本的な事項の理解に努めるとともに，人口減少社会における持続可能な社会保障制度のあり方について考えます．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	人口減少社会における社会保障保を巡る諸問題の理解を目標とする		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1. 社会体制と政策思想 2.福祉国家の 2 類型 3.新しい社会問題 4.福祉国家の基本構想 5.成長と分配の総合政策（１） 6.成長と分配の総合政策（２） 7.成長と分配の総合政策（３） 8.成長と分配の総合政策（４） 9.成長と分配の総合政策（５） 10.雇用と経済安定化政策（１） 11.雇用と経済安定化政策（２） 12.雇用と経済安定化政策（３） 13.移行的労働市場論 14.フレキシキュリティ政策 15.社会的包摂のための政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T20056A01
科目名	社会政策Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Policy A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	今日、わが国では他に類を見ない速さで少子・高齢化が進んでいる。こうした状況の下で、社会保障に期待される役割はますます大きくなっているが、それが大きな困難に直面していることも周知の通りである。 そこでこの講義では、今日われわれの生活にとって欠くことのできないものとなっている社会保障について、はじめにその全体像を概観した上で、医療保障、所得保障、介護保障というその主要な分野を取り上げ、それぞれの制度の目的と概要を確認するとともに、その現状と問題点などについて考察を行う。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	足立正樹・井上久子（編著）『社会保障の光と陰』高菅出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
評価方法	授業内課題（45%）、　学期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の諸制度の目的と意義を理解すること。		
準備学習	・日ごろから社会保障関係のみならず、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・理解をより深めるため、秋学期開講予定の「社会政策Ｂ」をあわせて受講することが望ましい。
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．授業の進め方と講義の概要：国民生活と社会保障
２．少子・高齢化の進行
３．医療保障の概念と制度
４．医療保障の制度体系
５．医療保険制度の現状
６．医療保険制度の課題
７．所得保障の諸制度
８．年金制度の概要①
９．年金制度の概要②
１０．年金制度の現状
１１．年金制度の課題
１２．高齢者介護をめぐる状況①
１３．高齢者介護をめぐる状況②
１４．介護保険制度の概要と課題
１５．高齢者介護システムの類型

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	T20056B01
科目名	社会政策Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Policy B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	今日、わが国では他に類を見ない速さで少子・高齢化が進んでいる。こうした状況の下で、社会保障に期待される役割はますます大きくなっているが、それが大きな困難に直面していることも周知の通りである。 そこでこの講義では、まず、社会保障の概念と制度体系について述べた上で、社会保障が私たちの社会において必要になった理由を、歴史的視点および超歴史的視点から考える。 さらに、社会保障の登場から今日に至るまでの歴史的展開を見ていくことで、戦後西側諸国の指導像となった「福祉国家」がどのように成立し、どのような特徴を持つのか、そしてそこに生じた困難とはどのようなものなのかを考察する。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	足立正樹・井上久子（編著）『社会保障の光と陰』高菅出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
評価方法	授業内課題（45%）、　学期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の諸制度の目的と意義を理解すること。		
準備学習	・日ごろから社会保障関係のみならず、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・理解をより深めるため、春学期開講予定の「社会政策Ａ」を受講しておくことが望ましい。
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．授業の進め方と講義の概要：国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度①
３．社会保障の概念と制度②
４．社会保障の体系と二定型
５．わが国における社会保障の概念
６．社会保障の必要性：超歴史的視点から①
７．社会保障の必要性：超歴史的視点から②
８．社会保障の必要性：歴史的視点から①
９．社会保障の必要性：歴史的視点から②
１０．社会保障の必要性：歴史的視点から③
１１．社会保障の源流
１２．社会保障の登場と発展
１３．福祉国家の光と陰①　福祉国家の発展
１４．福祉国家の光と陰②　福祉国家の危機
１５．わが国における社会保障の歴史的展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	T20057A01
科目名	ファイナンシャル・エコノミクス s 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics (s)		
担当者名	秋田　将知	旧科目名称	
講義概要	金融全般についての，幅広い講義を行う．特に，金融取引，金融市場，金融機関，金融システム，プルーデンス政策についての基礎的な知識の習得を目標とする．これらの言葉の意味，概念は，なんとなく知っているが上手く説明できない，という学生も多い．この講義では，これらをきちんと認識できるように順序立てて説明していく．そもそも，金融とはなにか，なんのために金融取引が行われているのか，なんのために金融市場や金融機関が存在するのか，という根本から説明する．		
教材（テキスト）	特になし．		
教材（参考文献）	講義中に紹介する．		
教材（その他）	適宜プリントを配布する．		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（４０％），定期テスト（６０％）．		
到達目標	金融全般について，大学生にふさわしい知識を習得する．		
準備学習	去年までに金融関連科目を受講していることが望ましい．		
受講者への要望			
ひとつひとつの物事，事象を区別して見たり覚えるだけではなく，それぞれがどのように結びついているのか，関係しているのか，という視点を持ってください．			
講義の順序とポイント			
１：ガイダンス（金融とは） ２：経済学における金融 ３：金融の本質と役割 ４：金融取引１ ５：金融取引２ ６：金融市場１ ７：金融市場２ ８：金融機関１ ９：金融機関２ １０：金融システム１ １１：金融システム２ １２：金融制度・規制１ １３：金融制度・規制２ １４：金融と情報の非対称性 １５：金融とは（見直し・確認）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T20057B0A
科目名	ファイナンシャル・エコノミクス f 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics (f)		
担当者名	秋田　将知	旧科目名称	
講義概要	企業および個人の意思決定に焦点を当て，前半は企業金融について学び，後半は金融契約について考える．この講義では，個人の意思決定，相互作用の環境に注目した金融のテーマを掘り下げて解説する．これらのテーマを理解するうえで重要なのは，物事を順序立てて，論理的に考えることである．ファイナンシャル・エコノミクス s（春学期）で学んだ知識，認識，理解を活用する講義であり，毎回，学生諸君に思考することを要求する．		
教材（テキスト）	特になし．		
教材（参考文献）	講義中に紹介する．		
教材（その他）	適宜プリントを配布する．		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（４０％），定期テスト（６０％）．		
到達目標	物事を論理的に考える．		
準備学習	去年までに金融関連科目を受講していることが望ましい．		
受講者への要望			
ある時点での意思決定が将来にどのような影響を及ぼすか，ということについて論理的に考える意識を持ってください．			
講義の順序とポイント			
１：ガイダンス（金融とは） ２：企業金融とは ３：資本コスト１ ４：資本コスト２ ５：企業の投資１ ６：企業の投資２ ７：企業の資金調達１ ８：企業の資金調達２ ９：情報の非対称性と金融契約 １０：逆選択問題 １１：モラル・ハザード問題 １２：インセンティブ契約 １３：企業統治１ １４：企業統治２ １５：金融とは（見直し・確認）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T20062A01
科目名	財政学 A 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Finance A		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	現在の我が国はバブル崩壊後に長期の不況に陥り、その一方で少子高齢化に伴う社会保障問題や多額の政府債務残高に直面し、2014 年 4 月から消費税の引き上げが行われた。本講義では日本や諸外国の財政状況や政府の役割に注目する。特にミクロ的な視点に立ち、上記の問題や現象がなぜ生じるのか、また我々の日常生活にどのような影響を及ぼすのか、そして解決方法をモデルや現実に観測されるデータを用い理解する。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	授業で使用するレジュメを配布する。		
評価方法	授業態度 10%、小テスト 20%、期末試験 70%		
到達目標	税金が家計や企業に与える影響や公共財の役割を理解する。		
準備学習	・ミクロ経済学の知識があることが望ましいので、１年次に履修したミクロ経済学基礎の講義ノートを読み返し　　ておくこと。 ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。

講義の順序とポイント

1.はじめに
2.需要と供給
3.市場メカニズム(1)
4.市場メカニズム(2)
5.余剰分析
6.課税と超過損失(1)
7.課税と超過損失(2)
8.小テスト及び公共財とは
9.公共財の最適供給(1)
10.公共財の最適供給(2)
11.公共財の最適供給(3)
12.外部性とは
13.外部性：ピグー税とコースの定理(1)
14.外部性：ピグー税とコースの定理(2)
15.外部性：ピグー税とコースの定理(3)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	★

年度	2015	授業コード	T20062B01
科目名	財政学Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Finance B		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	現在の我が国はバブル崩壊後に長期の不況に陥り、その一方で少子高齢化に伴う社会保障問題や多額の政府債務残高に直面し、2014 年 4 月から消費税の引き上げが行われた。本講義では日本や諸外国の財政状況や政府の役割に注目する。特にマクロ的な視点に立ち、上記の問題や現象がなぜ生じるのか、また我々の日常生活にどのような影響を及ぼすのか、そして解決方法をモデルや現実に観測されるデータを用い理解する。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	授業で使用するレジュメを配布する。		
評価方法	授業態度 10%、小テスト 20%、期末試験 70%		
到達目標	政府の役割、経済政策の効果、我が国の年金制度が直面する問題を理解すること。		
準備学習	・マクロ経済学の知識があることが望ましいので、１年次に履修したマクロ経済学基礎の講義ノートを読み返しておくこと ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
・積極的な質問を歓迎します。 ・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。			
講義の順序とポイント			
1.はじめに 2.政府の役割 3.GDP とは何か 4.GDP と三面等価の定理 5.景気と需要(1) 6.景気と需要(2) 7.フィスカルポリシー(1) 8.小テストとフィスカルポリシー(2) 9.ビルトインスタビライザー(1) 10.ビルトインスタビライザー(2) 11.社会保障(1)：社会保障と再分配 12.社会保障(2)：我が国の社会保障制度① 13.社会保障(3)：我が国の社会保障制度② 14.社会保障(4)：少子高齢化と年金制度① 15.社会保障(5)：少子高齢化と年金制度②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	★

年度	2015	授業コード	T20064A01
科目名	金融論Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Money and Banking A		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	金融の基礎について講義をする。貨幣の役割、中央銀行の役割、民間金融機関の役割を中心に、金融を学ぶことは何故必要かが分かってもらえる講義にする。短期金融市場、株式市場、債券市場、為替市場についても説明し、ファイナンシャルプランナーを目指す人、金融機関就職を希望する人はもちろんのこと、今後社会に出た時に必要な基礎教養を身に付けたい人にも十分役立つ講義にする。金融政策を中心に扱う金融論Ｂも併せて受講してほしい。		
教材（テキスト）	第１回目の講義時に紹介します。		
教材（参考文献）	講義の進展に応じて紹介していきます。		
教材（その他）			
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：出席,小テスト等を含む 20%		
到達目標	ファイナンスについての基本的知識を身に着ける。		
準備学習	講義前に新聞やニュースでその日の経済の動きを事前に把握しておくこと。少なくともその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		
受講者への要望			
「金融論Ｂ」「企業金融論」「金融入門」は併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい			
講義の順序とポイント			
1.貨幣とは何か 2.銀行の役割 3.中央銀行の役割 4.金融政策の方法 5.信用創造について 6.金融政策はどのように経済に影響するのか 7.短期金融市場の役割 8.債券についてⅠ 9.債券についてⅡ 10 株式についてⅠ 11 株式についてⅡ 12.為替レートについてⅠ 13..為替レートについてⅡ 14.物価の決定理論Ⅰ 15.物価の決定理論Ⅱ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	T20064B01
科目名	金融論Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Money and Banking B		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	金融政策および金融システムについて講義する。具体的には日本銀行やアメリカの中央銀行、連邦準備銀行は日々どのように金融政策を実施し、危機が生じたときにどのように政策対応するのか、また金融システムを健全に維持するためにはどのような規制が必要であるかを中心に講義する。とくに本年度は、アベノミクスを中心に日本の長期デフレ不況と日銀の金融政策について解説する。身近な事例を紹介しつつ、金融政策の理解を深める。できるだけ平易な解説になるように努めたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	講義の進展に応じて参考文献を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：出席,小テスト等を含む 20%		
到達目標	金融政策、金融危機に関する、新聞記事などが十分理解でき、経済政策、とくに金融政策に関して自分なりの意見が述べられるようにする。		
準備学習	ノートを整理すること。新聞の経済記事をよく読んでおくこと。講義の前に必ずその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		

受講者への要望

「金融論 A」「企業金融論」「金融入門」は併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい。

講義の順序とポイント

1 金融危機と金融政策（概説）
2 伝統的金融政策と非伝統的金融政策
3 日銀の伝統的金融調節
4 連邦準備の伝統的金融政策
5 デフレと金融政策
6 金融政策の評価
　テーラルール、NAIRU、オーカンの法則
7 大恐慌（29 年の株価大暴落と連銀の政策対応）
　金本位制、債務デフレ、クレディットビュー、マネビュー
8 日本のバブル：1980 年代後半の金融政策と政治
9　日本の長期デフレ不況：1990 年代
10　アベノミクス登場の背景と意義
11 アメリカの住宅バブルと金融政策
12 リーマンショックと金融政策
　too big to fail 政策、モラルハザード、影の金融システム、スティグマ
13　2000 年代の金融政策、日米比較
14 北欧の金融システムと金融危機
　公的資金の役割、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー
15 金融規制のあり方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	T20065001
科目名	ファイナンスの数理 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics of Finance		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	本講義では、投資理論として「どのようなポートフォリオを構築すればよいのか」について代表的な考えを述べる。 具体的には、PC 上で稼働する表計算ソフトとして幅広く利用されている Excel を活用しながら、証券投資分析手法を寛容に学んでいく。証券投資理論に関しては、株式投資分析、債券投資分析、先物とオプションについて、講義を行うつもりである。また、ファイナンスの基礎知識が全くないことを前提に、PC を使いながら出来るだけ平易に解説するつもりである。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント配布を行う。		
教材（参考文献）	藤林/岡村/矢野（2001）『Excel で学ぶファイナンス：証券投資分析』 金融財政事情研究会. 藤田康範（2013）『金融・経済のための統計学入門』 日本実業出版社. 今野浩（2000）『金融工学の挑戦』　中央新書.		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	平常点(30%)；複数回のレポート等による。 定期試験(70%)。		
到達目標	ファイナンスの基本理論を EXCEL などの演習を通じて理解度を深めてゆく 。		
準備学習	証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 複数回、小テストを行うので前回の講義内容を復習すること。 ファイナンス関連科目を多く履修していることが望ましい。		
受講者への要望			
統計学の正規分布等の基礎知識を有していることが望ましいが、とくになくても問題はない。 レポート課題を Excel で解くが、これも初めから指導する。			
講義の順序とポイント			
１．ポートフォリオのリターンとリスク ２．同上 ３．マーケット・モデル ４．同上 ５．資本資産価格モデル（CAPM） ６．同上 ７．債券の価格と利回り ８．同上 ９．イールドカーブの特性 １０．債券のリスク（価格変動リスク、信用リスク）とポートフォリオ １１．同上 １２．先物の理論価格とヘッジ １３．オプションの概要 １４．同上 １５．まとめ： 演習の復習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★

年度	2015	授業コード	T20066A01
科目名	時系列データ分析Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Analysis A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	時系列データ分析
講義概要	月次や四半期などの経済データはその時々の経済ショックを受けながら変動する。また、GDP やマネー、金利、物価などはお互いに影響しながら動いていく。それらの間にどのような関係が成り立つかを分析する。さまざまな分析手法を用いるが、特に、この講義では、最小二乗法を中心に、定常、非定常の検定を学ぶ。EViews という分析ソフトを使用。EViews という経済分析ソフトを使って、経済データのいろいろな分析、推計、モデル作成などを行う。		
教材（テキスト）	毎回、「京学なび」にて、必要な資料を EXCEL で、使用データを EViews のファイルで配布。		
教材（参考文献）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教材（その他）			
評価方法	毎回の課題提出（30%）と２回程度のレポート提出（20%）、定期試験（50%）		
到達目標	（１）最小二乗法による推定ができるようになり、推定結果が解釈できる。 （２）経済データが定常か非定常かを単位根検定できる。 （３）系列相関の有無（毎回の経済ショックが過去の影響を引きずっているか）。		
準備学習	EViews というソフトはクリックするだけで結果を出してくれる。計算手法そのものの理解は、統計学や数学、コンピュータのプログラムなど膨大な知識を要求するので、気にしなくてもよい。大事なことは、何を分析しているのか、分析結果の経済学的な意味合いである。経済学の基礎知識として、ミクロ、マクロ、金融論、計量経済学などを履修済、あるいは、履修中であることが望ましい。 予習：毎回の資料を「京学なび」で事前配布するので、読んでおくこと。 復習：毎回の資料（課題）の最後に、次週までに解いておくべき課題（発展問題）を示しておくので、その課題を解いて、次の授業までに「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		

受講者への要望

数学やコンピュータへの拒否反応を持たないようにしてほしい。これらははじめは難しそうでも、使っていれば慣れてくる。
経済学的な意味合いがもっとも大事である。経済の基礎勉強に励んでほしい。

講義の順序とポイント

（１）データ取得と加工、EViews の基本操作とグラフ表示
（２）季節調整、平均化、smoothing、記述統計
（３）最小二乗法による推定――回帰直線
（４）最小二乗法による推定――重回帰
（５）最小二乗法による推定――ダミー変数導入による賃金の推定（男女、年齢、経験の影響）
（６）自己相関、相互相関
（７） 時系列データにおける相関関数（時間遅れの影響）
（８）レベル変数（非定常）と階差変数（定常）
（９）系列相関の考え方
（１０）単位根検定（定常、非定常）――トレンドの検定、ERS 検定、KPSS 検定
（１１）単位根検定――日本のデータ
（１２） 単位根検定――ヨーロッパのデータ、アメリカのデータ
（１３）レベル変数間の推定
（１４）階差変数（成長率）間の推定
（１５）レベル推定と階差推定の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T20066B01
科目名	時系列データ分析Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Analysis B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	時系列データ分析
講義概要	月次や四半期などの経済データはその時々の経済ショックを受けながら変動する。また、GDP やマネー、金利、物価などはお互いに影響しながら動いていく。それらの間にどのような関係が成り立つかを分析する。さまざまな分析手法を用いるが、特に、この講義では、主として、最小二乗推定を用いて、マクロ経済システムを推定する。経済時系列手法により、GDP、マネー、金利、株式などの変数からなる VAR モデルを推定する。インパルス応答によるモデルの動きを調べて、作成したモデルの検証方法も調べる。		
教材（テキスト）	毎回、必要な資料を EXCEL で、使用データを EViews のファイルで事前配布。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の課題提出（30%）と２回程度のレポート提出（20%）、定期試験（50%）		
到達目標	（１）最小二乗法による推定ができるようになり、推定結果の経済的な意味合いを理解できる。 （２）VAR モデルの推定ができる。 （３）インパルス応答によるモデルの検証ができる。		
準備学習	経済学の基礎知識として、ミクロ、マクロ、金融論、計量経済学などを履修済、あるいは、履修中であることが望ましい。 予習：毎回、EXCEL によって資料と課題を事前配布するので、読んでおくこと。 復習：毎回の資料配布時に、資料の最後に課題（発展問題）を入れておくので、次回の授業までに、課題を解いて「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		
受講者への要望			
数学やコンピュータへの拒否反応を持たないようにしてほしい。これらははじめは難しそうでも、使っていれば慣れてくる。 経済学的な意味合いがもっとも大事である。経済の基礎勉強に励んでほしい。			
講義の順序とポイント			
（１）EViews の基本操作とグラフ表示 （２）最小二乗法による推定――その１ （３）最小二乗法による推定――その２ （４）最小二乗法による推定――その３ （５）自己相関、相互相関 （６） 時系列データにおける相関関数（時間遅れの影響） （７）レベル変数（非定常）と階差変数（定常） （８）物価の特徴（インフレ率）と Phillips 曲線 （９）金利の特徴（短期金利、長期金利） （１０）推定と AIC 規範 （１１）VAR モデルの推定、level 変数 （１２）VAR モデルの推定、成長率モデル （１３）インパルス応答 （１４）GDP とマネーと金利の関係 （１５）日本・USA・ヨーロッパ諸国の具体例と相違点			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T20070001
科目名	金融市場論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Financial Market		
担当者名	秋田　将知	旧科目名称	
講義概要	先ず，金融市場の分類や機能についての包括的な説明をする．次に，特に重要である証券市場（株式市場・債券市場），貸出市場について講義する．これらの後に，金融市場を理解する上で欠かすことができない要素である，情報の非対称性が引き起こす様々な問題について考える． この講義では，金融および金融市場について，大学生にふさわしい知識を習得することを目標としている．したがって，特別に専門的な内容は扱わない．ただし，利子率を用いた簡単な計算は講義に用いる．		
教材（テキスト）	特になし．		
教材（参考文献）	講義中に紹介する．		
教材（その他）	適宜プリントを配布する．		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（４０％），定期テスト（６０％）．		
到達目標	金融および金融市場について，大学生にふさわしい知識を習得する．		
準備学習	去年までに金融関連科目を受講していることが望ましい．		
受講者への要望			
他の金融関連科目にも出席するようにしてください．			
講義の順序とポイント			
１：ガイダンス（金融とは） ２：金融市場の概要 ３：金融市場の種類と性質 ４：株式市場１ ５：株式市場２ ６：債券市場１ ７：債券市場２ ８：貸出市場１ ９：貸出市場２ １０：利子率 １１：割引現在価値 １２：情報の非対称性とは １３：逆選択問題と金融市場 １４：モラル・ハザード問題と金融市場 １５：金融市場とは（見直し・確認）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T20075A01
科目名	国際金融論Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	国際金融論は，国際間の金融取引に焦点を当て，そこで無視することができない為替レートについて学習する学問になっています．国際金融論 A では，国際金融取引の現状から比較的初歩的な為替レート決定理論について説明します．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○高木信二(1992)『入門　国際金融』　日本評論社 ○藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 ○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○藤原秀夫・小川英治・地主敏樹(2001)『国際金融』 有斐閣アルマ ○小川英治(2002)『国際金融入門』　日本経済新聞社 ○宮尾龍蔵(2005)『コアテキスト・マクロ経済学』　新世社		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際金融論の初歩的な内容である国際金融取引の基礎や外国為替の仕組み，為替レートと貿易収支の関係についてまず学習し，最終的に初歩的な為替レート決定理論である購買力平価や金利平価を理解することを目標とする．		
準備学習	金融論とマクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましいので，できればそれらの授業を受講した上でのぞんでください．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに提出するようにして下さい．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とします．遅刻の場合，その理由を求めます．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求めます．			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．国際金融取引の基礎：グローバル化するもの・お金の動き 3．国際金融取引の基礎：開放経済における国民所得勘定 4．国際金融取引の基礎：開放経済における国民所得勘定 5．国際金融取引の基礎：国際収支表の見方・書き方 6．国際金融取引の基礎：国際資本移動が生じる理由 7．外国為替の基礎：外国為替の仕組み，外国為替市場の特徴 8．外国為替の基礎：為替レートの見方，名目為替レートと実質為替レート 9．為替レートと貿易収支の調整：円高・円安と貿易収支 10．為替レートと貿易収支の調整：マーシャル・ラーナー条件 11．為替レートと貿易収支の調整：J カーブ効果 12．為替レートの決定：購買力平価（絶対的購買力平価） 13．為替レートの決定：購買力平価（相対的購買力平価） 14．為替レートの決定：購買力平価不成立に関する理論（バラッサ・サミュエルソンの定理） 15．為替レートの決定：金利平価			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T20075B01
科目名	国際金融論Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	国際金融論は，国際間の金融取引に焦点を当て，そこで無視することができない為替レートについて学習する学問になっています．国際金融論 B では，主要な為替レート決定モデルから為替レート変動が実体経済に与える影響について説明します．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○高木信二(1992)『入門　国際金融』　日本評論社 ○藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 ○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○藤原秀夫・小川英治・地主敏樹(2001)『国際金融』 有斐閣アルマ ○小川英治(2002)『国際金融入門』　日本経済新聞社 ○宮尾龍蔵(2005)『コアテキスト・マクロ経済学』　新世社		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際金融論の主要な内容である為替レートの決定と為替変動がマクロ経済に与える影響について理解することを目標とする．		
準備学習	金融論とマクロ経済学と国際金融論 A の授業を履修しておくことが望ましいので，できればそれらの授業を受講した上でのぞんでください．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに提出するようにして下さい．		

受講者への要望

遅刻や私語を厳禁とします．遅刻の場合，その理由を求めます．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求めます．

講義の順序とポイント

1．イントロダクション
2．為替レート決定理論を分析するための準備
3．為替レート決定理論を分析するための準備
4．為替レート決定理論：フローアプローチ
5．為替レート決定理論：伸縮価格マネタリーモデル
6．為替レート決定理論：硬直価格マネタリーモデル
7．為替レート決定理論：為替リスク，リスク・プレミアム
8．為替レート決定理論：ポートフォリオ・バランス・モデル
9．為替介入の方法と効果：介入の仕組みと効果経路
10．開放経済における政策効果を分析するための準備：マクロ経済学の分野である IS-LM 分析の復習
11．開放経済における政策効果を分析するための準備：マクロ経済学の分野である IS-LM 分析の復習
12．開放経済における政策効果：固定相場制における財政金融政策（資本移動が完全なケース）
13．開放経済における政策効果：変動相場制における財政金融政策（資本移動が完全なケース）
14．開放経済における政策効果：固定相場制における財政金融政策（資本移動がないケース）
15．開放経済における政策効果：変動相場制における財政金融政策（資本移動がないケース）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T20085A01
科目名	マーケティングⅠ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Marketing I		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	マーケティング・マインドを身につけるための講座です。 マーケティング・マインドとは、普段日常として見ている現実を意識的に要素に細分化し、要素を組みなおして再構築、さらに新しいアイデアによってデザインし直すための思考能力です。 デザインする対象は商品であったり、コミュニケーションであったり、世代や嗜好で分類される人であったり、様々なものが対象となり、社会に夢を作っていきます。 前期はマーケティングの学問としての枠組みを学び、後期は様々な題材をテーマにしながら戦略的マーケティングからソーシャルマーケティングまでカバーする予定です。社会に役立つマーケティングの科学を実感します。		
教材（テキスト）	和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略（第４版）』有斐閣アルマ　2,160 円		
教材（参考文献）	適宜指示します。		
教材（その他）	パワーポイントおよびプリントを適宜配布		
評価方法	小レポート(20%)、定期テスト(60%)、授業時の発言の積極性(20%)		
到達目標	●マーケティングの独特の考え方を身につける ●抽象的なものの見方や思考ができるようにする ●マーケティングの視点で現実を分析できるようにする ●マーケティングの基礎的な理論構成と概念を理解する		
準備学習	ホットトピックスについて、その都度授業で指示しますので、その問題について、ネットや新聞で概要を予習することを求めます。		

受講者への要望

遅刻、途中退席は不可。
授業中の私語と SNS の使用の禁止を求めます。
授業に主体的に参加し、講義への積極的なコントリビューション(貢献）を期待します。
一回でも授業が欠けるとその後の理解に支障が出ますので連続的に出席してください。

講義の順序とポイント

1. マーケティング・マインドとは
2. マーケティング課題の作り方
3. 細分化(セグメンテーション)１　時代の変遷と世代論
4. 細分化(セグメンテーション)２　嗜好や特徴による分類
5. 細分化(セグメンテーション)３　多変量解析の方法
6. 構造化１　情報を整理する基本的な方法について
7. 構造化２　ラダリング
8. 構造化３　ポジショニング
9. 差別化
10. マーケティングの領域　４Ｐ理論
11. 商品と価格
12. 流通とプロモーション　売り場の科学
13. ブランド論１　アーカー教授のブランド・エクイティ
14. ブランド論２　ブランド・ビルディングからブランド・マネジメントへ
15. 戦略的マーケティング

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	T20085B01
科目名	マーケティングII 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Marketing II		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	マーケティング・マインドを更に深めるための講座です。 マーケティング課題に対してのソリューション手法の数々を学びます。 戦略的マーケティング、ソーシャルマーケティング、共創マーケティング（マーケティング 2.0）、マイクロファイナンスなどの最新のマーケティングトレンドも取り入れて、マーケティングのダイナミックな現在進行形の展開を学びます。		
教材（テキスト）	和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略（新版）』有斐閣アルマ　2000 円＋税		
教材（参考文献）	フィリップ・コトラー他　恩蔵直人監訳『コトラーのマーケティング 3.0　ソーシャル・メディア時代の新法則』朝日新聞出版　2,592 円		
教材（その他）	パワーポイントおよびプリントを適宜配布		
評価方法	小レポート(20%)、定期テスト(60%)、授業時の発言の積極性(20%)		
到達目標	●社会の問題をソリューション可能なマーケティング課題への課題設定ができるようにする ●マーケティングのダイナミクスを実感する		
準備学習	ホットトピックスについて、その都度授業で指示しますので、その問題について、ネットや新聞で概要を予習することを求めます。		

受講者への要望

●遅刻、途中退席は不可。授業中の私語と SNS の使用の禁止を求めます。
●授業中の積極的な発言や質問により、授業にコントリビューション(貢献)を期待します。
●一回でも授業が欠けるとその後の理解に支障が出ますので連続的に出席してください。

講義の順序とポイント

1. 戦略的マーケティング
2. マーケティングの様々な手法
3. ソーシャルマーケティング
4. 消費者とは誰か　消費者から生活者へ
5. 戦後の消費と現在の消費
6. トレンドとヒット商品
7. トレンドの消滅とインサイト
8. マイクロトレンド　マストレンドから小さいけれど強力な魅力のある市場
9. スペンド・シフト　モノの買い方が変わりつつある。投票のようにモノを買う。モノを買うのはそれを作った人を承認することにつながる
10. ソーシャルマーケティング　社会を良くすることと消費の共存
11. キュレーション　消費者同士が盛り立てる市場
12. マイクロファイナンス　少額の投資で作り手に関わりながら消費を楽しむ新型消費
13. 作り手と買い手の一体化　プロシューマーと呼ばれるメイカーズ革命
14. マーケティング 3.0　消費者が商品を通して社会をデザインする共創消費
15. 欲望創造のマーケティングへの挑戦

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	T20190A01
科目名	西洋経済史Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic History of Western Countries A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	農耕の始まりから産業革命に至るまでの経済の歴史を通観します。まず、西アジアで始まったムギの栽培や牧畜がヨーロッパに伝わり発達していった過程を跡付けます。併せてヨーロッパの粗放的な休閑農業と日本の労働集約的な中耕農業を比較します。 　次いで大航海時代の到来に伴うヨーロッパ諸国の海外進出が産業革命へと連なっていく過程を追います。新世界（アメリカ大陸）と旧世界（ヨーロッパ）の出会いから生じた様々な変化について考えます。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	鵜飼保雄・大澤良（2010 年）『品種改良の世界史　作物編』悠書館。		
教材（その他）			
評価方法	レポート（30%）、授業内発表（5%）、定期試験（65%）		
到達目標	経済史の大きな流れを理解する。		
準備学習	上記の教材（参考文献）が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

歴史を学ぶことに興味をもってほしい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　人類、初めてパンを焼く（農耕の起源）
3　人類、初めてチーズを作る（牧畜の起源）
4　ムギとイネ（西洋の粗放農業と東洋の集約農業）
5　二圃式農法
6　三圃式農法
7　農業革命
8　食の東西比較
9　宗教と経済
１０　キリスト教世界の膨張（レコンキスタ）
１１　コロンブスとはどのような人だったのか（大航海時代の幕明け）
12　アメリカ大陸から来た栽培植物①タバコ・トマト
13　アメリカ大陸から来た栽培植物②トウモロコシ・ジャガイモ
14　砂糖と綿の世界史
15　産業革命（工業化）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★★

年度	2015	授業コード	T20190B01
科目名	西洋経済史Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic History of Western Countries B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	コーヒーと絹（生糸）の２つの物産を通して経済の歴史について考えます。現在の日本では大手コーヒー・チェーン店が各地にあるため、コーヒーは欧米のものだと思い込んでいる人がいるようです。しかし、コーヒーを世界で最初に飲んだのはイスラーム世界の人びとでした。その後、ヨーロッパ諸国が植民地でコーヒーを生産するようになり、ジャワやサントスといったブランドが誕生した過程をたどります。 　絹（シルク）を世界で最初に利用したのは中国ですが、絹織物の原料になる生糸を器械的に生産する技術はヨーロッパで確立されました。日本は器械製糸の技術を富岡製糸場などを通じて知り、世界最大の生糸輸出国へと成長したのですが、その過程で様々な困難を解決しなければなりませんでした。生糸の輸出をめぐって日本がイタリアや中国を相手に展開した国際競争について考えます。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	玉川寛治（2002 年）『製糸工女と富国強兵の時代』新日本出版社。		
教材（その他）			
評価方法	レポート（30%）、授業内発表（5%）、定期試験（65%）		
到達目標	歴史を学ぶ中で経済学の基本的な考え方を身につける。		
準備学習	上記の教材（参考文献）が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
歴史を学ぶことに興味をもってほしい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　コーヒーに関する予備知識 3　イスラーム世界におけるコーヒーの発見と普及 4　ヨーロッパ諸国へのコーヒーの伝播 5　ヨーロッパ諸国の植民地におけるコーヒーの生産 6　ブラジルにおけるコーヒー産業の発展① 7　ブラジルにおけるコーヒー産業の発展② 8　絹に関する予備知識（養蚕・製糸・絹織） 9　ヨーロッパ絹産業の特徴とアメリカ絹工業の台頭 10　日本の開国と生糸輸出の始まり １１　製糸結社によるシグナリングと逆選択の解消 12　製糸結社による綛の標準化とアメリカ的生産方式 13　風土と蚕品種（ヨーロッパ・日本・中国の比較） 14　富岡製糸場の意義と限界（信州上一番格生糸の長所と短所） 15　欧米の生糸市場における国際競争の帰趨			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★★

年度	2015	授業コード	T20199A01
科目名	経済数学Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics for Economics A		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、高校で既習の 1 次関数・2 次関数からはじめて、微分・偏微分や行列などより高度な抽象的な内容（B で取り上げる）に発展させていく。ただ、従来の数学のように定理・証明の積み重ねではなく、定理の直感的な意味の把握とその実践としての問題演習を中心に進めていく予定である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントと Web のホームページ		
評価方法	授業レポート（52%），その理解度を確認する演習・試験（48%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 特に数列の計算・関数のグラフ・微分の計算と応用などの能力を獲得すること。		
準備学習	高校の数学の教科書や図書館の参考書などで復習すること。		
受講者への要望			
数学的な記号や法則は，本だけで自習するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，その演習として簡単な問題を課し提出してもらう予定である。 高校数学の復習から始めるので事前に高校教科書の該当箇所に目を通しておいてください。			
講義の順序とポイント			
1. 数と集合 2. 集合と命題 3. 整式の計算・方程式・不等式 ４．２次関数・２次不等式・２次不等式・ 5. 数列 6. 数列の極限 7. 関数 8. 集合・関数・方程式・不等式・数列について総合演習 9. 指数関数 １０．対数関数 11. 関数の極限と微分 12. 微分の公式 13. 微分の計算 14. 微分の応用 15. 指数・対数関数・関数の極限・微分法について総合演習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	T20199B01
科目名	経済数学Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics for Economics B		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、経済数学 A で学習した内容をもとに、微分・偏微分や行列などより高度な抽象的な内容を取り上げていく。ただ、従来の数学のように定理・証明の積み重ねではなく、定理の直感的な意味の把握とその実践としての問題演習を中心に進めていく予定である。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	レジメプリントと Web のホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 特に行列の計算と応用・偏微分の計算と応用などの能力を獲得すること。		
準備学習	高校の数学の教科書や図書館の参考書などで復習すること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで自習するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，その演習として簡単な問題を課し提出してもらう予定である。
数学は積み重ねなので毎回の授業プリントとレポートの解答を見て復習しておいてください。

講義の順序とポイント

1. ベクトル
2. 行列
3. 行列式
4. 逆行列
5. 掃き出し法
6. ランク
7. ベクトルと行列の計算の演習
8. ベクトルと行列について総合演習
9. 固有値と対角化
10. 2 次形式
11. 2 変数関数の偏微分
12. 2 変数関数の極大・極小
13. 2 変数関数の条件付極値
14. 固有値・2 次形式・多変数関数について練習
15. 行列の応用と偏微分について総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	T20206A01
科目名	経済学史 A 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economic Thought A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	経済学は、封建制の解体のなかから生まれてきた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するための学問である。封建制がいち早く解体したイギリスでは、早くも１６世紀の絶対王政の時代に近代社会を経済学的に把握しようとする試みが、主として当時の商人や政策担当者によって開始された。こうした「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776 年）によってその原型が完成され、その後今日に至まで２００年以上の歴史をへて発展してきた。 経済学史Ａでは、近代国家の成立とともに始まる経済学の歴史を、第１部「資本主義成立期の経済学」（重商主義と重農主義）と第２部「古典派経済学の成立と解体」（スミスからＪ・Ｓ・ミルまで）にわけて概説する。		
教材（テキスト）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）		
教材（参考文献）	日本経済新聞社編『経済学をつくった巨人たち―先駆者の理論・時代・思想』（日経ビジネス人文庫）、同『経済学の巨人― 危機と闘う』（同上）		
教材（その他）	毎回の講義資料を、講義当日にプリントにて配布するとともに、「京学なび」→「授業資料」として事前にアップする。		
評価方法	平常点（３０％）毎回の確認テスト・出席状況など＋レポート試験（７０％）		
到達目標	現代経済学の理解に決定的な意味を持つイギリス古典派経済学の成立・発展・解体の学説史的流れを探求する。これによって、現代経済学が抱えている問題をより一層深く理解するとともに、今日の経済問題について新たな知見を得ることを目標とする。		
準備学習	「講義の順序」に即して、あらかじめ指定された教科書の当該章をしっかり予習してから授業に出席すること。		

受講者への要望

授業で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問すること。また、教員から受講生に授業内容に関連して質問するので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの問いかけに対する積極的な発言については、いずれも平常点の加点対象とする。

講義の順序とポイント

１．経済学史Ａの課題
２．重商主義の定義
３．重商主義の経済政策論
４．重商主義の経済学説
５．重農主義成立の歴史的背景
６．ケネー『経済表』の分析(1)
７．ケネー『経済表』の分析(2)
８．アダム・スミスの生涯と著作
９．『国富論』解説(1)
１０．『国富論』解説(2)
１１．『国富論』解説(3)
１２．マルサス人口論
１３．リカードウの経済学(1)
１４．リカードウの経済学(2)
１５．Ｊ・Ｓ・ミルと現代

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	T20206B01
科目名	経済学史 B 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economic Thought B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	経済学は、封建制の解体のなかから生まれてきた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するためにつくられた学問である。「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776 年）によってその原型が完成されたが、経済学史Ｂでは、そのスミスに始まるイギリス古典派経済学の解体にともなう近代経済学成立と、「ケインズ革命」を経て現代に至るまでの現代経済学の発展史を概説する。		
教材（テキスト）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）		
教材（参考文献）	日本経済新聞社編『現代経済学の巨人たち― 20 世紀の人・時代・思想』（日経ビジネス人文庫）、同『経済学の巨人― 危機と闘う』（同上）		
教材（その他）	毎回の講義資料を、講義当日にプリントにて配布するとともに、「京学なび」→「授業資料」として事前にアップする。		
評価方法	平常点（３０％）毎回の確認テスト・出席状況など＋レポート試験（７０％）		
到達目標	現代経済学の出発点は 1870 年代の「限界革命」理論の確立に求められる。この「限界革命」と 1930 年代の「ケインズ革命」によって飛躍的な発展をとげた現代経済学の流れを正しく理解することによって、今日の経済問題の解明について新たな知見を得ることを目標とする。		
準備学習	「講義の順序」に即して、あらかじめ指定されたテキストを予習してから授業に出席すること。テキストに記載がない項目については、事前に授業資料を「京学なび」にアップしておくので、予習しておくことを求める。		

受講者への要望

授業で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問すること。また、こちらからも授業内容に関連して質問するので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの質問に対する積極的な発言については、いずれも平常点の加点対象とする。

講義の順序とポイント

１．経済学史Ｂの課題――古典派経済学から近代経済学へ
２．マルクスと現代(1)
３．マルクスと現代(2)
４．近代経済学の成立(1)
５．近代経済学の成立(2)
６．イギリス・ケンブリッジ学派の経済学（マーシャルとピグー）
７．シュンペーターの経済学
８．ソースタイン・ヴェブレンの制度主義経済学
９．ケインズ革命(1)
１０．ケインズ革命(2)
１１．ケインズ革命(3)
１２．ケインズ以降の現代経済学の展開(1)
１３．ケインズ以降の現代経済学の展開(2)
１４．現代経済学の新潮流
１５．現代経済学の課題と経済学史研究

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						★

年度	2015	授業コード	T20207A01
科目名	計量経済学Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Econometrics A		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済・社会データを数量的に分析するための基本的な方法の学習、データの分析。 当初、データは教員が提供し、それを Excel 等を使って分析する。 分析結果をレポートにして完成させる。図表の書き方、文章の書き方などもチェックし、細かく修正してもらう。 （なぜ注意されるのか、どう修正すれば社会的要求水準になるのか考えてもらう） これを何回も題材を変えながら繰り返す。 A、B を別々に履修可能であるが、A はより入門的である。B は必ずしも A を受けていなくても良いが、A を前提にした内容になる場合があるため、出来るだけ連続して取って欲しい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料を何回か提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する。 レポートの書き方や図表の作り方を詳細に指示するので、それを守る必要がある。指示した水準で作業できれば合格できる。 毎回出席は当然であり、3 回欠席（病気等を除く）した場合は不合格とする。 期末テストは実施しない。		
到達目標	Excel を使いこなす 回帰分析など分析手法を身につける 高い水準のレポートが書けるようにする		
準備学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでは全く不十分なので、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 授業外の時間にその勉強をすること、次回の授業でそれを確かめること、ノートの整理などに時間を使ってほしい。 計量経済学 B も受講することが望ましい。		
受講者への要望			
ノートを必ず作り、書き込むことが重要である。 積極的に参加することが必要。授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすることが必要。			
講義の順序とポイント			
１　講義の全体構成 ２　平均と分散 ３　平均と分散の実例 ４　課題（１）の提示と分析 ５、６　課題（１）の修正と完成 ７　回帰分析その１ ８　回帰分析その２ ９　回帰分析を使った課題（２）の提示と分析 １０、１１　課題（２）の修正と完成 １２　回帰分析と評価 １３　回帰分析と評価その２ １４　最終課題（３）の提示と分析 １５　課題（３）の修正と提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★

年度	2015	授業コード	T20207B01
科目名	計量経済学Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Econometrics B		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済・社会データを数量的に分析する。 回帰分析などやや高度な分析手法も学ぶ。 データは投書は教員が提供し、それを Excel 等を使って分析するが、やがて、官庁統計などを自分で利用して分析に用いる。 分析結果をレポートにして完成させる。 これを何回も題材を変えながら繰り返す。 この科目は、A よりも進んだ内容となるが、必ずしも A が前提になるわけではない。A、B と連続して受講することが望まし い。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料をその都度提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する。 期末テストは実施しない。 出席は当然であるので、3 回欠席（病気等を除く）したら不合格とする。		
到達目標	Excel を使いこなす 回帰分析など分析手法を身につける 高い水準のレポートが書けるようにする		
準備学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでなく、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 計量経済学 A と併せ学習することを望ましい		
受講者への要望			
積極的に参加することが必要である。 授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすることが重要である。			
講義の順序とポイント			
1 授業の全体構成の説明と入門的分析事例 2 回帰分析の入門 3 回帰分析方法 4 回帰分析方法 その２ 5 統計的検定 6 統計的検定 その２ 7 分析課題への取り組み ８～１０ 同改訂 １１ 課題（２）の提示と分析 １２ 同改訂 １３ 同改訂 １４ 多変量解析入門 １５ 多変量解析入門 その２			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★

年度	2015	授業コード	T20209A01
科目名	マクロ経済学 A 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics A		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	経済学 A
講義概要	マクロ経済学基礎、もしくはマクロ経済学入門に続く講義である。マクロ経済の仕組みを理解するとき、初めは貨幣が存在しないという仮定を置くと良い。しかし、現実には貨幣が存在し、資金の貸借が行われている。資金の動きを決定づけるものが利子率（金利）であり、本講義では貨幣と利子率の導入からマクロ経済の描写が始まる。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	プリント、動画教材等		
教材（その他）	新聞記事などを適宜紹介する。		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	本学では、マクロ経済学の講義を貨幣の存在しない財市場だけからなるモデルから始める。本講義ではそこに貨幣が登場するが、そもそも貨幣とは何であるのかを理解できることが第一の目標である。そして、貨幣と同時に導入されるのが利子率であり、貨幣市場で決まる利子率が財市場において投資行動に影響するという相互作用を理解することが第二の目標である。		
準備学習	次に学習する内容の中で用いられる数学の知識が不足している場合には、数学の事前学習をする。しかし、本講義で用いられる数学の知識は中学校までで学習するものである。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済学基礎の復習 第 2 回 貨幣の定義 第 3 回 マネーサプライ 第 4 回 ハイパワードマネーと信用乗数 第 5 回 景気と信用乗数 第 6 回 貨幣数量式 第 7 回 貨幣需要と金利、GDP 第 8 回 中間試験と振り返り学習 第 9 回 資産市場と財市場 第 10 回 金融政策 第 11 回 財政政策 第 12 回 発展的な経済モデル 第 13 回 フィリップス曲線とインフレ 第 14 回 失業 第 15 回 現実の労働市場			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★★

年度	2015	授業コード	T20209B01
科目名	マクロ経済学Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics B		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	
講義概要	本講義はマクロ経済学Ａに続く講義である。財市場と貨幣市場を想定したマクロ経済モデルでは、均衡において国内所得と利子率が決定する。しかし、均衡状態は他の事情が変化することによって不均衡状態となる。また、均衡における国内所得が失業を見過ごせないほど低い場合がある。このような場合の経済の動きを解説する時に IS-LM モデルが用いられる。講義としては、労働市場を考慮し、国際間の経済取引を導入するといった方向で展開していく。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	プリント、動画教材等		
教材（その他）	適宜指定する。		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	毎日の新聞報道に登場する経済事象を、マクロ経済モデルを用いて説明できるようになることが目標である。		
準備学習	かなり複雑な経済モデルになるので、毎回練習問題を復習する必要がある。それを行ったかどうかは講義中の口頭による質疑応答で確認される。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済モデルの復習 第 2 回 IS-LM モデルの応用 第 3 回 物価の変化と IS-LM モデル 第 4 回 総需要曲線と総供給曲線 第 5 回 財政とマクロ経済 第 6 回 初期の経済成長モデル 第 7 回 新古典派の経済成長モデル 第 8 回 中間試験と振り返り学習 第 9 回 開放経済と外国為替 第 10 回 外国為替レートの変動要因 第 11 回 マンデル=フレミングの理論 第 12 回 比較優位 第 13 回 景気循環 第 14 回 景気動向指数の仕組み 第 15 回 マクロ経済学と関わる経済学の他分野			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★★

年度	2015	授業コード	T20211A01
科目名	ミクロ経済学Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomics A		
担当者名	今井　晴雄	旧科目名称	
講義概要	ミクロ経済学基礎からより深い内容へと導く内容となる。概念の一般性や、限界を明確に受け止められるようになって、ミクロ経済学の全体を概観できるようになることが主眼である。		
教材（テキスト）	伊藤元重著、『入門経済学（第３版）』日本評論社　3000 円＋税		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	教員が作成したスライドのプリント（無料配布）：予定。		
評価方法	毎回の復習テスト(60%) 最終レポート試験(40%) ＊授業への貢献や、随意レポート、実験点やその補助等の加点項目を設ける場合がありうる。		
到達目標	市場の働きのもととなる、需要と供給の背景にある要因と、その意味について、人に説明できるようになること。		
準備学習	ミクロ経済学基礎を復習し、需要供給曲線のグラフのいろいろな見方とその実際例について準備する。講義中の質疑や復習レポートとしてその結果が反映される。		
受講者への要望			
数式等は、なるべくそれを用いた方が好都合と思う人にだけ使うようにする予定であるが、記号は用いざるをえないことがあるので、記号表記については予期して下さい。			
講義の順序とポイント			
１．復習と展望：ミクロ経済学の目的：「資源配分問題」 ２．概念の復習：財・サービス、需要、供給 ３．需要と供給の一致（黄金のクロス）の復習 ４．需要と供給の一致（黄金のクロス）の利用 ５．需要の決定要因と価格、１　弾力性 ６．需要の決定要因と価格、２消費者全体 ７．生産費用と供給量 ８．企業の利潤最大化行動と供給量 ９．消費者余剰と生産者余剰 １０．自由競争市場と余剰最大化 １１．最適な資源配分と競争市場 １２．余剰の利用：消費税 １３．ゲーム理論：人々の行動の直接的な相互依存 １４．ゲーム理論：応用 １５．ゲーム理論：経済学での意義			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	T20211B01
科目名	ミクロ経済学Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomics B		
担当者名	今井　晴雄	旧科目名称	
講義概要	ミクロ経済学基礎、ミクロ経済学 A の内容をさらに深化させた内容となる。需要や供給概念の背景にある関係のさらなる一般化や、市場とそれ以外の仕組みの比較が視野に入るようになる。		
教材（テキスト）	伊藤元重著、『入門経済学(第 3 版)』日本評論社　3000 円＋税。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	教員が作成したスライドのプリント（無料配布）予定。		
評価方法	毎回の復習テスト(60%) 期末レポートテスト(40%) ＊授業への貢献や、随意レポート、実験点やその補助当の加点項目を設ける場合がありうる。		
到達目標	いろいろな企業行動についての理解のいとぐちを目にし、また、消費者の需要決定の背後にある関係を掘り下げることによって何が得られるかを理解するようになること。		
準備学習	若干の数式操作が必要になる場合がある。別の理解法もつねに設ける予定であるが、このような操作を用いる方が理解の早道にはなるので、最低限の技術を経済数学等で身に着けることが望ましい。復習レポート等でこれらはチェックされる機会がある。		
受講者への要望			
ミクロ経済学基礎、ミクロ経済学 A の上位コースである点を弁えて履修すること。			
講義の順序とポイント			
１．独占市場 ２．独占はなぜ問題か ３．独占と競争の間：寡占 ４．独占と競争の間：別の可能性 ５．外部性の問題 ６．外部性のさまざまな形 ７．外部性の弊害を補正する政策 ８．不完全情報と市場：レモン ９．不完全情報と市場：モラルハザード １０．上級ミクロに向けて：効用関数 １１．上級ミクロに向けて：所得の効果、価格の効果と需要 １２．上級ミクロに向けて：弾力性再訪 １３．上級ミクロに向けて：生産関数と企業行動 １４．上級ミクロに向けて：費用関数 １５．上級ミクロに向けて：長期と短期			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	T20214001
科目名	やさしい税の話 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Elementary Theory of Tax		
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
講義概要	税とは、私たちの生活に密接にかかわるものであり、その数は５０種類にも及ぶといわれています。この授業では、特に私たちの生活に直接かかわる身の回りの税について、わかりやすく解説します。 講義の順序とポイントは以下に示すとおりですが、これとは別に特別講師を迎えた授業の実施も予定しています。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリントを中心に授業を進めます。		
教材（参考文献）	授業中に必要に応じて指示します。		
教材（その他）			
評価方法	平常点 50%、授業内提出物（小テストを含む）50%から総合的に評価します。		
到達目標	テレビや新聞等の税に関する報道の意味内容を正しく理解することができるように、税に関する基礎的な知識や考え方を知り、納税者としての義務と権利に深い関心を持ってもらうことができれば、この授業の目標が達成されたものと考えます。		
準備学習	テレビ、新聞等の税に関する報道には特に関心を持って注目し、その具体的な意味内容や影響について考えるよう心掛けてください。		
受講者への要望			
授業には積極的に参加し、税に関する基礎的な知識の習得を目指して下さい。税に対する関心を深め、納税の義務と納税者としての権利について考えてみて下さい。			
講義の順序とポイント			
１，　税金って何？ ２，　税の歴史 ３，　所得にかかる税金 ４，　サラリーマンと税金 ５，　事業経営者と税金 ６，　学生と税金 ７，　保険金・年金と税金 ８，　相続・贈与と税金 ９，　会社経営と税金 １０，その他の税金 １１，ちょっと得する税金豆知識！ １２，税金についての不服申し立て １３，納税者の義務と権利 １４，特別講演 １５，税に関する復習の授業			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	T20219A01
科目名	公共経済学 A 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	公共経済学
講義概要	本講義では政府の経済的役割について検討する。独占や外部効果、あるいは公共財供給など「市場の失敗」と呼ばれる、市場機構が効率的な資源配分に失敗するいくつかケースについて、政府が果たすべき役割を社会的厚生という観点から分析を行う。 また、政府活動の結果として生じる財政赤字や所得再分配についても経済学的な視点から検討を加える。		
教材（テキスト）	教科書は特に指定しない。独自の講義資料を配布する。		
教材（参考文献）	（1）井堀利宏『基礎コース・公共経済学』新世社 （2）土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社 （3）スティグリッツ『公共経済学（上)』東洋経済新報社		
教材（その他）	講義に関連する新聞記事等を適宜配布する。		
評価方法	中間・期末試験６０％　平常点２０％　レポート点２０％		
到達目標	（1）資源配分の効率性とは何か、またその経済学的な判断基準を理解する。 （2）市場の失敗において生じる資源配分の非効率性を理解する。 （3）市場の失敗への政府の政策対応がもたらす資源配分上の効果について理解する。 （4）政府の失敗が生じるメカニズムについて理解する。		
準備学習	配布資料の指定箇所について事前に目を通し、問題意識や理解が不明瞭な点を明確にして講義に臨むことが望ましい。		

受講者への要望

（1）現代社会の公共経済学的課題とその背景を理解しよう。
（2）学んだ理論について現実の経済問題への応用可能性とその限界を考えよう。

講義の順序とポイント

1．公共経済学とはどのような学問か ：公共経済学の分析対象、公共経済学成立の歴史的背景、政府部門拡大のメカニズム
2．公共経済学における政府の役割 ：政府の範囲、資源配分機能、所得再配分機能、安定化機能
3．所得分配の公平性：所得再分配と公正、補償原理、功利主義、ロールズ基準
4．資源配分の効率性（1）：パレート最適、ｴｯｼﾞﾜｰｽﾎﾞｯｸｽ・ﾀﾞｲｱｸﾞﾗﾑ、効用可能性曲線
5．資源配分の効率性（2）：完全競争市場均衡、消費者余剰、生産者余剰
6．資源配分の効率性（3）：政府の市場介入と死荷重１、価格規制、数量規制
7．資源配分の効率性（4）：政府の市場介入と死荷重２、参入規制、課税
8．市場の失敗（1）：独占、費用逓減産業
9．市場の失敗（2）：外部効果、外部経済、外部不経済
10．市場の失敗（3）：外部効果の内部化、ピグー税、コースの定理
11．市場の失敗（4）：公共財の定義、公共財の最適供給、リンダール均衡
12．政府の失敗（1）：財政赤字、基礎的財政収支、ソブリン・リスク、クラウディング・アウト
13．政府の失敗（2）：公債、リカードの中立性命題、公債の世代間負担問題
14．現代日本における公共経済学的課題（1）：震災復興における政府の役割
15．現代日本における公共経済学的課題（2）：社会保障制度改革、税制改革

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	T20219B01
科目名	公共経済学 B 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	公共経済学
講義概要	本講義では、政治過程を市場として捉え、民主主義的な政治運営の限界を理解する。 まず、社会的意思決定の方法としての様々な投票制度の性質を検討する。次に、社会的意思決定過程に影響を与える有権者、政治家、官僚、圧力団体などの各主体の行動原理について考察する。そのうえで、非効率な資源配分をもたらす「市場の失敗」を補完すべき役割にある政府が最適な政策の選択に失敗するメカニズムについて理解する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。独自の講義資料を配布する。		
教材（参考文献）	（1）加藤寛『入門公共選択：政治の経済学』勁草書房 （2）フェルドマン＆セラーノ 『厚生経済学と社会的選択』ｼｰｴｰﾋﾞｰ出版 （3）谷口洋志『公共経済学』創成社		
教材（その他）	講義に関連する新聞記事等を適宜配布する。		
評価方法	中間・期末試験６０％　平常点２０％　レポート点２０％		
到達目標	（1） 政府を構成する各主体、およびその外部から影響を与えうる各主体の行動原理、およびその行動が政府の意思決定に与える影響とそのメカニズムについて理解する。 （2） 政府の失敗がもたらす資源配分上の非効率性を理解する。		
準備学習	配布資料の指定箇所を事前に目を通し、問題意識や理解が不明瞭な点を明確にしてから講義に臨むことが望ましい。		
受講者への要望			
（1）講義前の予習が重要である。記憶よりも理解を優先して学ぶ姿勢が近道である。 （2）学んだ理論について現実の経済問題への応用可能性とその限界を考える習慣を身に着けよう。			
講義の順序とポイント			
1．公共選択論とはどのような学問か？：公共選択論の分析対象と範囲 2．政府とは何か？：政府の誕生、政府の範囲と類型 3．投票（1）：集合的意思決定、投票のルール 4．投票（2）：各種の投票ルール、各種投票ルールの論理的非整合性 5．投票（3）：ｱｼﾞｪﾝﾀﾞ・ｺﾝﾄﾛｰﾙ、戦略的投票 6．投票（4）：投票のパラドックス、中位投票者定理、単峰性選好 7．投票（5）：アローの一般不可能性定理 8．選挙（1）：有権者の投票行動、棄権、政党とイデオロギー 9．選挙（2）：小選挙区制と比例代表制、政治的景気循環、足による投票 10．官僚制（1）：官僚制、ニスカネン・モデル 11．官僚制（2）：ミギュエ＝ベランジェ・モデル、日本の官僚制 12．レント・シーキング：レント・シーキングとその類型、日本の財政投融資制度 13．圧力団体：圧力団体の定義と類型、日本の圧力団体、政権交代と圧力団体 14．財政赤字の政治経済学：J.M.ブキャナン、立憲的政治経済学 15．現代日本における公共選択論的課題：高齢化と選挙、財政赤字、地方分権			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	T20265001
科目名	ネットワークセキュリティ論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Network Security		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	インターネットの普及とともに，ネットワークの世界も，サーバを攻撃対象とする不正アクセス，ユーザを対象とする詐欺など，現実の社会と同じような危険に直面している。脅威と対策に関するいくつかの事例をオープンソースの OS である Linux 上で実験することにより，セキュリティに対する具体的な理解を深めていく。		
教材（テキスト）	教科書： 独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　540 円		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（60%）、その理解度を確認するレポート試験（40%）、この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	ネットワークにおける脅威と対策の基本を習得すること。		
準備学習	普段から新聞・テレビ・インターネットなどで取り上げられるネットワーク上の脅威・リスク・事件に注意をはらっておくこと。		

受講者への要望

第一に実習においてキーボード入力（アルファベット）が必要なので、標準的なスピードでタイピングが出来ること。
第二に大学の電子メールのＩＤを取得し、使い方を理解していること。
簡潔に書かれたテキストを採用していますので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.今日のセキュリティリスク
2.情報セキュリティの基礎
3.マルウェア(コンピュータウィルス)
4.見えない脅威とその対策
5.組織の一員としての情報セキュリティ対策
6.実際のセキュリティ対策
7.セキュリティ技術
8.情報セキュリティの基本についてのまとめと演習
9.暗号
10.電子認証
11.暗号化通信 1
12.暗号化通信 2
13.ファイアウォール
14.情報セキュリティ関連の法規と制度
15.情報セキュリティのまとめと現在の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T20265002
科目名	ネットワークセキュリティ論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Network Security		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	インターネットの普及とともに，ネットワークの世界も，サーバを攻撃対象とする不正アクセス，ユーザを対象とする詐欺など，現実の社会と同じような危険に直面している。脅威と対策に関するいくつかの事例をオープンソースの OS である Linux 上で実験することにより，セキュリティに対する具体的な理解を深めていく。		
教材（テキスト）	教科書： 独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　540 円		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（60%）、その理解度を確認するレポート試験（40%）、この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	ネットワークにおける脅威と対策の基本を習得すること。		
準備学習	普段から新聞・テレビ・インターネットなどで取り上げられるネットワーク上の脅威・リスク・事件に注意をはらっておくこと。		

受講者への要望

第一に実習においてキーボード入力（アルファベット）が必要なので、標準的なスピードでタイピングが出来ること。
第二に大学の電子メールのＩＤを取得し、使い方を理解していること。
簡潔に書かれたテキストを採用していますので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.今日のセキュリティリスク
2.情報セキュリティの基礎
3.マルウェア(コンピュータウィルス)
4.見えない脅威とその対策
5.組織の一員としての情報セキュリティ対策
6.実際のセキュリティ対策
7.セキュリティ技術
8.情報セキュリティの基本についてのまとめと演習
9.暗号
10.電子認証
11.暗号化通信 1
12.暗号化通信 2
13.ファイアウォール
14.情報セキュリティ関連の法規と制度
15.情報セキュリティのまとめと現在の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T20328001
科目名	金融入門 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	この講義は NPO 法人「エイプロシス」の協力で実施されます。毎回、現場で証券取引に実体験してこられた、実務経験者による講義となります。レジメは毎回用意され、それに沿って講義が展開されます。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説していただきます。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義されます。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。		
教材（テキスト）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	期末試験 60%、平常点：出席,小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得し、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。		
準備学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		
受講者への要望			
毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。			
講義の順序とポイント			
1．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて 2．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み 3．　マネープランの必要性と金融商品 4．　債券の基礎知識 5．　債券投資の実際 6.　株式投資の魅力とリスク 7.　株価の変動要因 8.　決算書の見方 9.　主な投資指標の見方 10.　株式投資の判断 11.　投資信託をの基礎知識 12.　投資信託を選ぶポイント 13.　資産運用の概要 14.　資産運用はどうあるべきか 15．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T20329001
科目名	財政入門 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	景気の低迷、所得格差、少子高齢化など、今日の我が国はさまざまな問題を抱えている。そして、こうした問題を解決していくために、改めて政府の役割やあるべき姿を見直す必要がある。本講義では政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深めることを目的とする。講義の前半では、主にマクロ経済学の視点から講義を進め、後半では主にミクロ経済学の視点から講義を進める。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	「コンパクト財政学　第 2 版」　上村 敏之　新世社		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	授業態度 10%、小テスト 20%、期末試験 70%		
到達目標	政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深める。		
準備学習	・経済学に関する基礎科目を並行して受講することが望ましい。 ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
・積極的な質問を歓迎します。 ・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。			
講義の順序とポイント			
1.はじめに 2.財政の 3 機能 3.経済安定化機能(1):経済安定化の必要性 4.経済安定化機能(2):需要と景気 5.経済安定化機能(3):政府の景気対策① 6.経済安定化機能(4):政府の景気対策② 7.所得再分配(1):再分配の必要性 8.小テスト及び所得再分配(2):再分配の方法 9.所得再分配(3):ジニ係数と所得格差 10.資源の効率的配分(1):需要と供給 11.資源の効率的配分(2):市場メカニズム 12.資源の効率的配分(3):市場の失敗 13.租税(1):租税三原則 14.租税(2):所得税と消費税① 15.租税(3):所得税と消費税②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★

年度	2015	授業コード	T20330001
科目名	情報社会 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Society		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報と社会の関わりを、情報技術・システム・産業・機器・生活からふれ、情報化が社会生活に及ぼす影響、情報機器の発達と生活意識様式の変化について概略する。コンピュータ情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化により、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を述べる。情報化社会の情報と個人、職業・教育について理解し、自己のあり方生き方と職業を考える。		
教材（テキスト）	なし、各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	講義時の小課題（10%）、レポート（35%）、定期試験（55%）		
到達目標	情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に講義前には、任意の情報関連の事項を一件選択し、概要を他の人に説明できるように整理する。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事を素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。

講義の順序とポイント

1.消費社会と情報社会
情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化
マスメディアの多様化と情報環境の変化、ディジタル経済
2.情報技術
情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理
3.新しい情報技術
ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題
電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点
電子署名・電子認証、電子取引
4.情報システム
集中と分散、情報産業の多様化
コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業
5.情報と産業
情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化
企業倫理
高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット
6.情報と職業
労働・職業上の問題
情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質
職業と自己実現、職業観と職業意識
7.情報と個人
日常生活と情報システム、情報モラル、ディジタル格差
個人情報の保護、個人情報の取得・利用に際してのルール
知的財産、企業等による個人情報の利用
8.情報と著作権
情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権
知的所有権
9.情報と教育
人間形成、情報社会で求められる教育

情報環境、マルチメディア
10.IT 技術者
IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用
IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法
11.情報と通信
u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消
情報アクセスへの格差、情報格差
通信・放送の融合・連携
12.情報倫理 （1）
情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護
13.情報倫理 （2）
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール
個人情報の保護
14.情報化と社会 （1）
高度情報通信社会の諸課題
情報化とグローバル化に伴う生活の変化
15.情報化と社会 （2）
産業、社会生活、モラル、人との関わり
現代社会の情報の意義役割の理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T20440A01
科目名	労働経済論Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Labor Economics A		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	我が国はバブル崩壊後に長期の不況に陥り、それに伴い労働者を取り巻く環境が大きく変化した。企業の業績悪化に伴い、日本の雇用形態の特徴である終身雇用や年功序列型賃金が見直され、また近年は契約社員やパートタイマーなどの非正規雇用の増加が観測される。さらに日本の総人口が減少を始め、少子高齢化による労働力の確保が必要とされる。労働経済学の授業では、雇用や賃金、失業の決定などを理論的に解説し、現在の我が国で観測される問題を考察する。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	太田 聰一・橘木 俊詔「労働経済学入門 新版」有斐閣(2012/2)		
教材（その他）	授業で使用するレジュメを配布する。		
評価方法	授業態度 10%、小テスト 20%、期末試験 70%		
到達目標	我が国の雇用および労働市場を取り巻く問題を理解する。		
準備学習	新聞やニュースなどを通じ、我が国や諸外国の労働市場で観測される問題に関心を持つこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。
・労働経済論 B も受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

1.はじめに
2.労働経済学とは(1)働くことの意味
3.労働経済学とは(2)雇用者と自営業
4.賃金と雇用(1)労働需要
5.賃金と雇用(2)労働供給
6.我が国の現状(1)経済成長率、インフレ率、失業率
7.我が国の現状(2)出生率、高齢化率、政府債務残高
8.小テスト及び賃金格差(1)教育と生産性
9.賃金格差(2)企業内訓練と生産性
10.賃金格差(3)賃金交渉、効率賃金仮説
11.教育・訓練の効果(1)教育の役割
12.教育・訓練の効果(2)企業内訓練
13.離職(1)離職のメカニズム
14.離職(2)若年の離職
15.非正規雇用

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★

年度	2015	授業コード	T20440B01
科目名	労働経済論Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Labor Economics B		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	我が国はバブル崩壊後に長期の不況に陥り、それに伴い労働者を取り巻く環境が大きく変化した。企業の業績悪化に伴い日本の雇用形態の特徴でもある終身雇用や年功序列型賃金が見直され、また近年は契約社員やパートタイマーなどの非正規雇用の増加が観測される。さらに日本の総人口が減少を始め、少子高齢化による労働力の確保が必要とされる。労働経済学の授業では、雇用や賃金、失業の決定などを理論的に解説し、現在の我が国で観測される問題を考察する。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	太田 聰一・橘木 俊詔「労働経済学入門 新版」有斐閣(2012/2)		
教材（その他）	授業で使用するレジュメを配布する。		
評価方法	授業態度 10%、小テスト 20%、期末試験 70%		
到達目標	我が国の雇用および労働市場を取り巻く問題を理解する。		
準備学習	新聞やニュースなどを通じ、我が国や諸外国の労働市場で観測される問題に関心を持つこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。
・労働経済論 A を受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

1.はじめに
2.失業(1)我が国の失業率の推移
3.失業(2)失業発生のメカニズム
4.失業(3)失業対策
5.若年の雇用(1)平成不況と若年失業
6.若年の雇用(2)若年失業の問題①
7.若年の雇用(3)若年失業の問題②
8.小テスト及び若年の雇用(4)若年失業解消に向けて
9.女性の雇用(1)女性の就業と M 字カーブ
10.女性の雇用(2)統計的差別
11.女性の雇用(3)男女共同参画社会
12.高齢者の雇用(1)我が国における高齢化の現状
13.高齢者の雇用(2)定年の延長と高齢者の雇用
14.高齢者の雇用(3)高齢化と技能継承問題
15.高齢者の雇用(4)高齢者の雇用に向けて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★

年度	2015	授業コード	T20478001
科目名	企業金融論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics for Business		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	企業金融は金融論の一分野であり、とくに企業の資金調達の方法を中心に学ぶ。 具体的には、資金調達の方法である株式発行と社債発行に大別し、それぞれに関連した分析方法を学ぶ。分析方法を学ぶ際には、主に計算を通じた算定を行うので、数学や数式に抵抗を感じるかもしれない。しかしながら、電卓で計算できる簡単な設定から学ぶ予定なので、心配はない。 本講義では、企業金融における基本的な考え方を理解し、確認することを目的としている。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	平常点(20%)；複数回のレポート等による。 定期試験(80%)。		
到達目標	証券市場や金融市場について理解する。 企業金融における理論や技法の基礎的知識を習得する。		
準備学習	各回のレジュメを事前に「京学なび」にアップロードするので、講義前に目を通しておくこと。 証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 自分の好きな企業の経営方針、事業内容および財務情報等を学期中に調査すること。 金融論、ファイナンスの数理を併せて受講することが望ましい。		
受講者への要望			
授業中の私語厳禁・携帯電話利用禁止。 電卓を毎回持参すること。			
講義の順序とポイント			
1. 企業金融輪なぜ学ぶか 2. 金融市場の役割 3. 財務諸表の基礎と企業の資金調達手段 4. 企業の資金調達 - 株式発行 5. 財務諸表の分析 ① - 収益性 6. 財務諸表の分析 ② - 財務安全性と成長性 7. 株式分析 - 配当割引モデル 8. 株式分析 - ポートフォリオ分析 ① 9. 株式分析 - ポートフォリオ分析 ② 10. 株式分析 - マーケット・モデル 11. 株式分析 - 資本資産価格評価モデル（CAPM） 12. 企業の資金調達 - 社債発行と証券化 13. 債券の価格と利回り ① 14. 債券の価格と利回り ② 15. まとめ： 演習の復習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★

年度	2015	授業コード	T20523001
科目名	家計金融論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics for Household		
担当者名	坂本　勝	旧科目名称	
講義概要	こだわりのライフスタイルがもてはやされる時代。 好きなように生きるのは個人の自由ですが、そこには「自己責任」の認識を持たなければなりません。 得をするのも損をするのも、自分の選択した「ライフプランニング」の巧拙で大きく変わります。 実社会では現実に「知っている人は得をして、知らない人は損をする」ことが起こります。 この講座では、上手なライフプランの実現に必要な知識となるファイナンシャルプランニングを学びます。 金融商品･年金･保険･税金や実現の前提となる金融や経済情勢を、家計簿やチラシの見方、ポイントカードなど日常生活の身近な事例から解説していきます。 人生 80 年、あなたのこれからの人生で、いくらの生活資金が必要でしょう？また、いくら準備できますか？ 全て、この視点を持って講義に参加してください。		
教材（テキスト）	なし、各講義で適時プリントを配布する。		
教材（参考文献）	日々の新聞（新聞名は問わない）　朝刊・夕刊・曜日版など		
教材（その他）	学生生活マネー＆キャリアハンドブック（日本 FP 協会） その他プリントを適時配布		
評価方法	授業中に行なう確認テスト（40%）　レポート課題（20%）　定期テスト（40%）		
到達目標	最終目標は、生涯に必要となる資金計画を具体的に把握し、 そのために必要な手立てが行なえる能力を身につけるレベルです。 全ての講義回はそのための基本知識です。		
準備学習	新聞等経済ニュースには目を通すように。 特に、自分の生活に直結する『金銭・データ』は、メモをしておくように。 毎回の授業最初に行う確認テストにおいて、質問を行ないます。		

受講者への要望

各回の講義内容は難しいものではありません。
「面白そう」「ためになりそう」など履修動機は問いませんが、成績は、公表している評価方法により厳密に判定します。

経済状況を知る上で、新聞は必読です。購読が無理でも図書館で確認してください。
日々の習慣にないのであれば、必ず読むように心がけてください。
半期続ければ、今後の展開に自分なりの意見が持てるようになります。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス
2.ライフプランニング①（一生涯に必要な金額）
3.ライフプランニング②（ライフイベントに必要となる金額）
4.ライフプランニング③（社会保険制度の仕組み）
5.ライフプランニング④（年金制度の概要）
6.保険の知識①（生命保険の仕組み）
7.保険の知識②（損害保険の仕組み）
8.金融商品①（経済状況と金融の関連性）
9.金融商品②（各金融機関の特性と金融商品）
10.金融商品③（主な金融商品の知識）
11.金融商品④（投資型金融商品の知識）
12.不動産の知識①（不動産関連法規）
13.不動産の知識②（不動産の活用と税金）
14.生活に関連する税の知識①（所得税の仕組み）
15.生活に関連する税の知識②（消費税、相続・贈与税）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	T20565001
科目名	情報処理技術 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Processing Technology		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	社会人には、一定の情報に関する知識と情報技術が求められている。データの特徴に応じた情報の整理・分類、必要に応じた表・グラフの作成、さらに、業務・処理フローを把握し、改善を加え、情報処理が行える情報技術である。これら、知識・技術を習得するための講座である。		
教材（テキスト）	なし　各講義で資料をネットワークから配布する。		
教材（参考文献）	教材から指示する。		
教材（その他）	ネットワークから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況と提出物（40%）等,e-learning により課す課題評価（60%）		
到達目標	社会人として必要なコンピュータ操作が行え、機能を把握し、データから表・関係データベースを作成し、業務に活用できる。		
準備学習	新技術・機器等の推移を知ることを心がけ、情報関連機器等に用いられている技術等を調べ、概要を把握する。また、関連するソフトウエアは単純な例を用い、実際に使用し、特性等を理解しておく。		

受講者への要望

能動的な姿勢で課題に取り組むことを期待する。

講義の順序とポイント

1.講義の概要、e-learning の進め方
　セキュリティ問題と対策
　　セキュリティと暗号技術、ディジタル署名
　システムの信頼性、ネットワークの接続と信頼性
2.基本的なデータ構造
　各種データ構造の特徴
　線形構造と木構造、表・スタック・キュー・2 分探索木
　表計算
　　表計算を使った集計・統合処理および検索・抽出処理
3.SQL 文から見たデータベース
　　テーブル作成からサブクエリ
4.データベース
　データベースの種類と特徴
　ファイル 正規化演習
5.リレーショナルデータベース
　構造と正規化、設計
6.データベースを使ったデータ処理（1　正規化作業）
　データ整理、集計、分析
7.データベースを使ったデータ処理（2　Select 文の基本）
　データ整理、集計、分析
8.データベースと SQL（1　データ処理演習）
　SQL 言語による操作
　　問い合わせ、副問い合わせ
9.データベースと SQL（2　流れのある処理）
　SQL 言語による定義・生成と修正
　　表の設計、表・ビューの定義
10.データベースの設計・利用
　　演習　ＳＱＬ操作理解確認演習
11.SQL によるデータベースの定義・利用
　　演習　SQL・データベースまとめ課題
12.スクリプト(java)
　スクリプト記述の基本

基本処理手順のスクリプト記述 13.スクリプトと基本アルゴリズム 連接・繰り返し・判断 イベント処理 14.基本的なアルゴリズム 並べ替え処理と記述、関数作成・割り込み スクリプト演習：バブルソート 15.総合演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	T20566001
科目名	情報社会と経済 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Enocomics		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	20 世紀末に情報通信技術分野のイノベーションにより、世界各国で「工業社会から情報社会」への進化」が加速してきた。日本の経済や個人の生活の枠組みはこの IT 革命と呼ばれているイノベーションと同期するスピードで変わり始め、その先には「進化する高度情報社会」が到来しようとしている。これからの高度情報社会では、生活や経済がどのように さらに変化していくのでしあろうか？ 21 世紀の情報社会ではこれまでの工業社会では経験できなかった新しい事業形態や製品が創発されてきている。その結果、経済活動に大きな影響力のある銀行・証券などの金融業界をはじめ、製造業、農業、個人生活のインフラである交通、エネルギー、流通、さらには行政、教育、サービス等のあらゆる分野で変化がおこりつつある。 本講義は、①この IT 革命を引き起こした技術イノベーションはどのようなものなのか？ ②IT イノベーションによって各分野でどのような変化がおこっているのか？ を考察し、暮らしへの影響や企業経営への影響、国家経済への影響等について学習し、その結果、これからの私たちの「経済活動」すなわち「暮らし」はどのように変化していくのか推測する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に適時指示する		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+「平常点」(30%)		
到達目標	IT イノベーションよる暮らしへの影響や企業経営への影響、国家経済への影響等について学習し、これからの高度情報化社会での「経済活動」すなわち「暮らし」はそのように進化するのか等の知見の習得。		
準備学習	情報社会になって「新しく創出された事業は各業界でどのような例があるか？」、あるいは「インターネットバンキング」、「電子マネー」など工業社会での事業携帯の違いを予習しておくこと。		

受講者への要望

1. 講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。
2. 講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

1. 講義の内容と進め方について
2. 工業社会から情報社会へ （産業革命から IT 革命）
3. IT 革命を引き起こした技術イノベーション
4. IT 革命を引き起こしたキーテクノロジー(1) ノイマン式コンピュータの開発
5. IT 革命を引き起こしたキーテクノロジー(2) 情報通信技術の進歩（インターネット）
6. IT 革命を引き起こしたキーテクノロジー(3) 半導体の発明と開発競争（集積技術、量産技術）
7. 情報社会を創発したグローバル企業 （インテル、モトローラ、ノキア、マイクロソフト、アップル）
8. 情報社会で創業した企業（グーグル、フェイスブック、楽天、ヤフー等）
9. 情報社会での企業の技術経営
10. 情報社会での新しい事業(1) モバイルフォン
11. 情報社会での新しい事業(2) 電子商取引
12. 情報社会での新しい事業(3) 電子マネー
13. 情報社会での既存業界における新しい事業形態 （金融（銀行、証券)、小売り（百貨店、スーパー、書店）等）
14. 情報社会が経済に与える影響
15. これからの高度情報社会での暮らしと経済

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	T20569001
科目名	Ｗｅｂ技術応用 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Web Technological Application Theory		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	Web アプリケーションを構築するために必要な機能を解説し、Web ページ作成と効果的な Web ページ技法の修得をねらいとする。ホームページを記述する HTML 言語、またホームページ作成ソフトを用いてホームページを作成し、HTML の構造・特徴、運用上必要な事項、スクリプトによる動的なページの作成について説明する。インターネット技術の多様性と Web 技術を体系的に学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、各講義で資料をネットワークドライブから配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	ネットワークドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	授業中に課す課題（70%）および課題 Web ページ作成（30%）により評価する。（課題 Web ページ作成は必修）		
到達目標	目的に応じた Web ページの製作が行え、効果的な情報発信が行える。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、Web ページ記述言語等の仕様の推移を調べ、追加された事項等を把握し、可能ならば試用する。試用できない場合は、仮記述を講義時に確認することとし、記述のみを行う。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

１．ホームページとインターネット
　インターネット技術の多様性
２．ホームページ閲覧ソフト、公開ソフトの解説
　Web アプリケーションを構築するために必要な機能
３．ホームページ作成ソフトと HTML の解説
４．タグを用いたページの作成
　基本的なタグの解説、画像を含むページの作成
５．ページ間リンク記述
演習：基本的なタグ、各種リンクタグの適用
６．ページの公開
　ウエブサーバ機能の解説
演習：サイト管理
７．ホームページ作成ソフトを用いたページの作成
　スタイルシートと適用
演習：スタイルシートの作成と適用
８．フレームを持つページの作成、各種リンクの作成
演習：フレームを持つページの作成
９．マルチメディアの組み込み
演習：マルチメディアを含んだページの作成
１０．HTML とスクリプト
　スクリプトの基礎、HTML の生成、マウス処理
演習：スクリプトによる動的なページの作成
１１．フォームとスクリプト処理
　フォームとスクリプトの利用、データベースの利用
演習：データベースとの連携
演習：アンケートページの作成
１２．情報モラルについて
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、
プライバシーの保護
１３．既存資料から Web ページの作成 （携帯端末の利用）

演習：既存資料から Web ページの作成 １４．Web ページの作成と提出 演習：課題 Web ページ作成 １５．Web ページの作成と提出 演習：Web ページの改善

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	T20570A01
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅠ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Planning Ⅰ		
担当者名	岡本　久嗣	旧科目名称	
講義概要	本講義はＦＰの基礎である不動産運用設計、金融商品設計、保険、リタイヤメントプランニングの基礎を学習する。また、春学期の「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ資格の認定講義となっているため、本講義の位置づけはそれらの科目と同様にＦＰ資格取得を目指す講義としたい。		
教材（テキスト）	『ファイナンシャル・プランニング入門　第 2 版』(日本 FP 協会)および、「FP 基礎」学習時のテキストとして、『FP 総論』（日本 FP 協会）		
教材（参考文献）	宮口定雄『税務ハンドブック　平成 27 年度版』パーソナル社、『3 級 FP テキストⅠ・Ⅱ　2015～2016 年度版』　FPK 研修センター		
教材（その他）	問題集の使用を予定		
評価方法	レポートの提出を義務づける。そのレポートの内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	難易度を高く設定はしないが、FP としての基本を理解し、AFP 資格審査試験取得チャレンジに向けた知識の習得を図る。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		

受講者への要望

受講者への要望

春学期の「ファイナンシャルプランニングⅠ」「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ認定の講座になっているのでＦＰ資格の取得を目指す学生は全科目を受講すること。(ファイナンシャルプランニングⅠ・Ⅱ・Ⅲと金融入門の合計 4 科目)

講義の順序とポイント

1　ファイナンシャル・プランニングを学ぶ意味
2　FP の社会的役割
3 社会的責任とコンプライアンス
4 不動産の見方
5 不動産の動向と分析
6 金融・経済の知識
7 最近の金融動向
8 利回り計算と割引現在価値
9 株式と債券
10 投資信託
11 金融派生商品
12 生命保険
13 損害保険
14 リタイヤメントプラントと年金問題
15 ファイナンシャルプランニングⅡに向けて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T20570B01
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅡ 【他】	単位数	4
科目名（英語表記）	Financial PlanningⅡ		
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	日本の税制の仕組みと各税目を理解したうえで、「ライフサイクル(人間の一生)」の中で税金とどのように向き合うことになるのかを学ぶ講義である。よって「税金の話」だと考えてもらいたい。なお、住宅取得、金融商品売買、退職等のライフイベントの内容については春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」の中で学習をする。		
教材（テキスト）	『タックスプランニング』(日本 FP 協会)、『税務ハンドブック　平成 27 年度版』(宮口定雄著・コントロール社)他		
教材（参考文献）	国税庁 パンフレット「暮らしの税情報」(平成 27 年度版) 三木義一　『日本の税金』　岩波新書		
教材（その他）	ファイナンシャルプランニングⅠで使用する『FP3 級テキストⅠ・Ⅱ』(FPK 研修センター)		
評価方法	レポート(提案書)の提出を義務づける。その提案書の内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	社会人になるということは『納税者』になること。税を学びながら、自分の将来設計をより具体的に描けるようになってもらいたい。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		

受講者への要望

春学期のファイナンシャル・プランニングⅠと共にファイナンシャル・プランニングⅡは AFP 認定の講義となっているので FP 資格に興味のある学生は併せて履修をしてほしい。

講義の順序とポイント

1	租税法律主義と税法体系
2	直接税と間接税
3	申告納税方式と賦課課税方式
4	所得税の概要と仕組み
5	利子所得
6	配当所得
7	不動産所得
8	事業所得
9	給与所得
10	退職所得
11	山林所得
12	譲渡所得
13	一時所得
14	雑所得
15	非課税所得
16	相続税①
17	相続税②
18	相続税③
19	贈与税①
20	贈与税②
21	金融商品売買に関わる税金①
22	金融商品売買に関わる税金②
23	不動産に関わる税金①
24	不動産に関わる税金②
25	不動産に関わる税金③
26	公的年金等の税金①
27	公的年金等の税金②
28	公的年金等の税金③

29	実例の考察①
30	実例の考察②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	T20572A01
科目名	情報処理概論 A 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Information Processing A		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	情報社会において企業、学校、家庭を問わずパーソナルコンピュータやインターネットは必需品として使用されており、社会科学系、自然科学系を問わず、社会でどのような分野の仕事に就こうとも多かれ少なかれ情報処理システムを利用することになる。このような情報社会での進化に取り残されることなく暮らしてしていくにはワープロ、表計算ソフトウエアの操作方法等の知識だけではなく、情報処理に関する知識を習得することが必要不可欠となってきている。 　本講義では、「コンピュータの歴史」、「ハードウエア、ソフトウエアの基本的構成」等の情報社会での生活に不可欠な情報処理技術の基礎知識を習得する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	井上　義祐、小池　俊隆　編書　「経営情報処理概論（改訂版）」　同文館出版 飯島　淳一　著　「入門　情報システム学」 上山　清二　著　「Web で学ぶ情報処理概論」　晃洋書房		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+平常点(30%)		
到達目標	コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	現代の進化している情報社会での「暮らしの中の情報機器・システムはどのようなものがあるか？」、また「それらの機器・システムでのコンピュータの役割は何か？」等を予習しておくこと。		

受講者への要望

1. 講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。
2. 講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

1. 講義の内容と進め方
2. コンピュータの歴史
3. コンピュータの種類
4. ディジタルとアナログ
5. ハードウエアとソフトウエア
6. 情報の表現　10 進数と 2 進数
7. コンピュータの計算の仕組みー2 進数による計算
8. コンピュータの基本論理回路
9. コンピュータの構成装置(1) 入力装置　出力装置
10. コンピュータの構成装置(2) 制御装置　演算装置　記憶装置
11. コンピュータの情報処理方式(1)　コンピュータシステムと信頼性
12. コンピュータの情報処理方式(2)　集中処理と分散処理
13. コンピュータの情報処理方式(3)　シンプレックス、デュプレックス、デュアルシステム等
14. 情報技術と通信技術の結合
15. これからの情報処理技術

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	T20572B01
科目名	情報処理概論Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Information Processing B		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	情報社会において企業、学校、家庭を問わずパーソナルコンピュータやインターネットは必需品として使用されており、社会科学系、自然科学系を問わず、社会でどのような分野の仕事に就こうとも多かれ少なかれ情報処理システムを利用することになる。このような情報社会での進化に取り残されることなく暮らしてしていくにはワープロ、表計算ソフトウエアの操作方法等の知識だけではなく、情報処理に関する知識を常に習得することが必要不可欠となってきている。 　本講義では、「OS」、「情報システム」、「ネットワーク技術」、「セキュリティ技術」等の情報社会での生活に不可欠な情報処理技術の基礎知識を習得する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	井上　義祐、小池　俊隆　編書　「経営情報処理概論（改訂版）」　同文館出版 飯島　淳一　著　「入門　情報システム学」 上山　清二　著　「Web で学ぶ情報処理概論」　晃洋書房		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+平常点(30%)		
到達目標	コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	現代の進化している情報社会での「暮らしの中の情報機器・システムはどのようなものがあるか？」、また「それらの機器・システムでのコンピュータの役割は何か？」等を予習しておくこと。		

受講者への要望

1.　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。
2.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

1.　講義の内容と進め方
2.　OS について
3.　情報システム（1）　勘定系システム、　POS システム、
4.　情報システム（2）　地理情報システム、図書館システム
5.　情報ネットワークシステム　LAN WAN PAN
6.　電話ネットワークとインターネット
7.　SNS
8.　個人情報
9.　情報社会での知的財産権
10. 反社会的情報
11.　コンピュータウイルス
12. 情報社会での危険
13. 情報倫理とネチケット
14. 企業での情報セキュリティ
15　高度情報社会への発展（暮らしのなかの情報処理）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	T20573A01
科目名	国際経済学 A 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年，グローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつのかを学習するのが国際経済学です．国際経済学 A では，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，基礎的な貿易モデルから貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明します．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の初歩的な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，貿易政策の貿易効果に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	ミクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましいので，できればミクロ経済学を受講した上でのぞんでください．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに提出するようにして下さい．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とします．遅刻の場合，その理由を求めます．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求めます．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰 3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰 4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡 5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1) 6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2) 7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1) 8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2) 9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡 10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1) 11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2) 12. 貿易政策の理論：関税の効果(1) 13. 貿易政策の理論：関税の効果(2) 14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果 15. 貿易政策の理論：消費税の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T20573B01
科目名	国際経済学 B 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年，グローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつのかを学習するのが国際経済学です．国際経済学 B では，まず，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，応用的な貿易モデルから貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明します．また，別のグローバル化の要因であるヒトやカネの国際移動が経済に当たる影響についても説明します．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の主要な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，生産要素移動の経済に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	ミクロ経済学と国際経済学 A の授業を履修しておくことが望ましいので，できればそれらの科目を受講した上でのぞんでください．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに提出するようにして下さい．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とします．遅刻の場合，その理由を求めます．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求めます．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. リカード・モデル：絶対優位と比較優位 3. リカード・モデル：生産可能性フロンティア 4. リカード・モデル：相対価格と貿易パターン 5. リカード・モデル：世界市場での相対価格の決定 6. リカード・モデル：自由貿易均衡と貿易利益 7. ヘクシャー=オリーン・モデル：リカード・モデルとヘクシャー=オリーン・モデル 8. ヘクシャー=オリーン・モデル：固定係数モデル 9. ヘクシャー=オリーン・モデル：リプチンスキー定理 10. ヘクシャー=オリーン・モデル：ヘクシャー=オリーン定理 11. ヘクシャー=オリーン・モデル：ストルパー=サミュエルソン定理 12. ヘクシャー=オリーン・モデル：要素価格均等化定理 13. 生産要素の国際移動：国際間の資本移動とは 14. 生産要素の国際移動：リカード・モデルにおける労働移動の効果 15. 生産要素の国際移動：2 生産要素モデルでの資本移動の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T20574A01
科目名	福祉社会論 A 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Welfare Society A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	戦後、西側各国が政策目標として掲げた「福祉国家」は、高度経済成長期にその黄金期を迎えた。しかし、高度成長が終わりを告げ、加えて人口構造の高齢化が進む中で、従来の福祉国家路線を歩み続けることが困難であるということは誰の目にも明らかになっていった。こうした状況の下で、福祉国家をめぐっては様々な方向から議論が展開されてきたが、近年、それらの中でも、福祉国家をたんに再生させようとするのではなく、それを超えようとする議論、すなわち「福祉社会」への移行の道を探る動きが活発になっている。 そこで本講義では、現代の少子高齢社会日本が抱える諸問題について、年金、医療、介護といった社会保障の各分野との関連において多角的に検討し、来たるべき福祉社会を展望したい。 なお、本講義は「福祉社会論」であって、「社会福祉論」ではないので、受講（予定）者には誤解のないよう注意してもらいたい。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	足立正樹（著）『高齢社会と福祉社会』高管出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、　学期末試験（55%）		
到達目標	高齢化の進行とともに先進諸国にどのような問題が発生しているのか、その背景も含めて理解し、今後のわが国の社会のあり方について考える視座を得ること。		
準備学習	・日ごろから広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・理解をより深めるため、「福祉社会論Ｂ」（秋学期開講）をあわせて受講することが望ましい。
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．授業の進め方と講義の概要
２．国民生活と社会保障
３．少子・高齢社会の到来①　（参考文献の第１章）
４．少子・高齢社会の到来②　（同上）
５．社会保障の誕生　（同上）
６．社会保障の普及　（同上）
７．日本の社会保障　（同上）
８．高齢化と医療保障　（同上）
９．高齢化と年金問題　（同上）
１０．介護問題登場の背景　（参考文献の第２章）
１１．四種類の介護供給システム　（同上）
１２．わが国の介護保障システムの展開　（同上）
１３．公的介護保険の構造と問題点　（同上）
１４．介護保険の 2005 年改正とその後の展開　（同上）
１５．福祉国家から福祉社会へ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	T20574B01
科目名	福祉社会論 B 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Welfare Society B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	戦後、西側各国が政策目標として掲げた「福祉国家」は、高度経済成長期にその黄金期を迎えた。しかし、高度成長が終わりを告げ、加えて人口構造の高齢化が進む中で、従来の福祉国家路線を歩み続けることが困難であるということは誰の目にも明らかになっていった。こうした状況の下で、福祉国家をめぐっては様々な方向から議論が展開されてきたが、近年、それらの中でも、福祉国家をたんに再生させようとするのではなく、それを超えようとする議論、すなわち「福祉社会」への移行の道を探る動きが活発になっている。 そこで本講義では、現代の少子高齢社会日本における労働のあり方、さらには少子化、高齢化の要因とその影響について考察することを通じて、来たるべき「福祉社会」を展望したい。 なお、本講義は「福祉社会論」であって、「社会福祉論」ではないので、受講（予定）者には誤解のないよう注意してもらいたい。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	足立正樹（著）『高齢社会と福祉社会』高管出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、　学期末試験（55%）		
到達目標	高齢化の進行とともに先進諸国にどのような問題が発生しているのか、その背景も含めて理解し、今後のわが国の社会のあり方について考える視座を得ること。		
準備学習	・日ごろから広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・理解をより深めるため、本科目とともに「福祉社会論Ａ」（春学期開講）をあわせて受講することが望ましい。
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．少子化と高齢化
２．労働時間の短縮　（参考文献の第３章）
３．労働と自由時間　（同上）
４．わが国の勤労観　（同上）
５．自由時間の意識と活用形態　（同上）
６．無償労働と自由時間の使途　（同上）
７．少子社会の問題　（参考文献の第４章）
８．少子化の趨勢　（同上）
９．　「近代」の原理と人口動態　（同上）
１０．社会保障の限界　（同上）
１１．少子化対策の種類と各国の少子化対策　（同上）
１２．近代の精神　（参考文献の第５章）
１３．自由主義の構想と資本主義の内在的諸問題　（同上）
１４．福祉国家の誕生と経済社会問題　（同上）
１５．福祉国家批判と福祉社会の展望　（同上）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	★

年度	2015	授業コード	T20575001
科目名	技術移転論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	２１世紀の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。２０世紀におけるわが国の企業における技術経営戦略の一つであった「追いつき、追い越せ」のキャッチアップ時代とは異なり、いまや我々の前に進むべき用意された道はなく自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。その実現の手段として大学等の「知」を活用した国の産業競争力の強化という観点から産学官連携における技術移転は２１世紀における重要な位置付けであると考えられている。 　本講義では「技術移転」についての基礎知識を習得し、産学官連携や企業の技術経営の事例、地域との連携事例を学習していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	「産学官連携推進の知恵」、文部科学省産学官連携企画編集員会 「産学官連携の新たな展開に向けて」、文部科学省研究振興局		
教材（その他）			
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)＋「レポート＋試験」(50%) ＋平常点(30%)		
到達目標	技術移転に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	技術移転、産学官連携活動の興味ある事例を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
１） 講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること ２） 講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める			
講義の順序とポイント			
1. 講義の内容と進め方 2. 技術移転とは？　産学官連携とは？ 3. 産学官連携支援体制づくり 4. 大学の「知」の発掘・発信と産業界のニーズ把握 5. マッチング 6. 共同研究契約と知的財産権 7. イノベーションを誘発する仕組み 8. 大学発ベンチャーの育成と支援 9. 産学官の連携事例（その１） 10. 産学官の連携事例（その２） 11. 産学官の連携事例（その３） 12. 地域と大学の連携事例（その１） 13. 地域と大学の連携事例（その２） 14. 地域と大学の連携事例（その３） 15. これからの連携と技術移転			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T30033001
科目名	スポーツ栄養学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Nutrition		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	最近の日本人スポーツ選手には、プロ・アマを問わず、世界で活躍する選手が増えてきた。このような活躍の裏には、科学的理論に基づいたトレーニングの積み重ねがあるのは当然であるが、忘れてはいけないのがそのトレーニング効果を最大にする栄養・食事サポートである。 「スポーツ栄養学」では、スポーツに必要な体づくりや骨づくり、あるいはスポーツ能力に影響するスタミナや疲労回復のための栄養・食事の在り方について、その基礎と実際を学ぶ。ここで学ぶ理論と実際は、競技に関わる運動選手ばかりでなく、健康づくりのために運動・スポーツを愛好している者や、運動と栄養でもう少し健康になりたいと願っている全ての者に適用できるものである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	岡村浩嗣編著「市民からアスリートまでのスポーツ栄養学」		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	平常点（10%）、ミニテスト（20%）、定期試験（70%）		
到達目標	スポーツに必要な体づくりや骨づくり、あるいはスポーツ能力に影響するスタミナや疲労回復のための栄養・食事の在り方についてその理論を理解し、実際のスポーツや生活に生かせる知識を身につける。		
準備学習	授業のテキスト（レジメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業１週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。		

受講者への要望

日頃から、自分の食生活に関心を持つこと。
講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。
講義で得た知識を用いて健康増進や競技力向上を目指した食事を実践してほしい。
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません

講義の順序とポイント

1. はじめに：スポーツ栄養の意義
2. マクロ栄養素とその機能
3. ミクロ栄養素とその機能
4. エネルギー発生のメカニズムとエネルギー代謝
5. 運動と糖質および脂質代謝
6. 運動と蛋白質・アミノ酸代謝
7. 消化吸収
8. 体づくり（筋肉づり・骨づくり）と栄養
9. スタミナづくりと栄養
10. 運動と水分補給
11. 貧血・疲労の予防、回復と栄養
12. 肥満、痩せの健康障害と体重調節
13. コンディショニングと試合前・試合後の食事
14. 食事摂取基準
15. まとめ：健康づくりに必要な効果的なトレーニングと食生活

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	T30052A01
科目名	ブランド・マネジメント論Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Brand Management I		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	ブランドがなぜマーケティングの中心課題となったのか、ブランド論が成立するまでの成り立ちを中心に、ブランドとは何か、ブランドをどう作るかについて学びます。 ブランドはマーケティングの歴史の中でも最も華やかな理論であり、マーケティングの集大成としての意味合いも持っています。 ブランドの本質を知ることで、ブランドをつくり、ブランドをコントロールするという、経営に最も近いマーケティング最高のスキルを学ぶことができます。		
教材（テキスト）	デービッド・アーカー『ブランド論---無形の差別化を作る 20 の基本原則』ダイアモンド社 2,592 円		
教材（参考文献）	田中洋『企業価値を高めるブランド戦略』講談社新書　820 円		
教材（その他）	パワーポイントおよびプリントを適宜配布		
評価方法	小レポート(20%)、定期テスト(60%)、授業時の発言の積極性(20%)		
到達目標	●ブランドを表面的な理解ではなく、本質から理解する ●ブランドの成り立ちを理解することで、ブランドの未来を洞察できるようにする		
準備学習	ブランド事例について、資料を事前に配布する場合があるので、その際は事前に資料を購読することを求めます		

受講者への要望

●遅刻、途中退席は不可。私語と授業中のＳＮＳの使用は禁止します。
●授業中の積極的な発言や質問により、授業にコントリビューション(貢献)を期待します
●一回でも授業が欠けるとその後の理解に支障が出ますので連続的に出席してください。

講義の順序とポイント

1. ブランドの起源　特にマーケティングコミュニケーションの視点から
2. 記号論としてのブランド　記号の消費
3. ブランド以前とブランド以降のマーケティングの考え方
4. ブランドとは何か　ブランドの種類、ブランドという体験、ブランドとＣＩの違い
5. デービッド・アーカー教授のブランド・エクイティ論
6. ブランドの時代としての 1990 年
7. ブランド・ビルディング　ブランドをどのようにつくるのか、つくれるのか
8. ブランド事例研究　飲料におけるブランド
9. 経営課題としてのブランド　ブランド・マネジメント、ブランドマネージャー
10. ブランドデザイン
11. ブランドのコミュニケーション
12. ブランドの測定と評価
13. ブランドからの逃走　倦ブランド、嫌ブランド　マクドナルド化する社会
14. インターネット時代のブランド　統一したブランドイメージの解体
15. これからの人はブランドの何にお金を払うのか（モノ、記号、安心、ブランド世界、体験）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	T30052B01
科目名	ブランド・マネジメント論Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Brand Management Ⅱ		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	ブランドによって成功した事例を多数学びます。 マーケティングが経営課題として捉えられ、マスメディアからネットを含んだクロスメディア時代への変遷のなかで戦略的なコミュニケーション戦略としても捉えられています。 ダイナミックなマーケティングの展開の古典的な事例から最新の事例まで、アイデアいっぱいのマーケティングの世界を堪能します。		
教材（テキスト）	パワーポイントおよびプリントを適宜配布		
教材（参考文献）	熊本県庁チームくまモン『くまモンの秘密　地方公務員集団が起こしたサプライズ』幻冬舎新書 886 円 佐藤可士和『佐藤可士和の超整理術』日経ビジネス人文庫 571 円		
教材（その他）			
評価方法	小レポート(20%)、定期テスト(60%)、授業時の発言の積極性(20%)		
到達目標	●ブランドの応用事例を多数学び、世の中をブランドの体系として見ることができる眼力を養うと共に、ブランドをつくり、マネージできる基礎的なノウハウを身につけます		
準備学習	ブランド事例について、資料を事前に配布しますので、事前に資料を熟読することを求めます。		
受講者への要望			
●遅刻、途中退席は不可。授業中の私語と SNS 使用の禁止を求めます。 ●授業中の積極的な発言や質問により、授業にコントリビューション(貢献)を期待します ●一回でも授業が欠けるとその後の理解に支障が出ますので連続的に出席してください。			
講義の順序とポイント			
1. ブランド vs 低価格品　企業ビジョン　コモディティ化の回避 2. ブランドとユーザーの高齢化対策 3. サウス・ウエスト航空　優位なバリューチェーンをつくる 4. スターバックス　人の価値観を変える 5. ナイキ　こだわりでブランドを作る 6. 無印良品　シンプルという究極の価値のデザイン 7. ユニクロ　進化を続けるブランド 8. くまモン　拡散させるためのデザイン 9. R25　市場を開拓するためのデザイン 10. 缶コーヒー　競合を制するブランド 11. マルちゃん製麺　プレミアム商品戦略 12. 政党　政策をブランディングする 13. 大学のブランディング 14. 日本のブランディング 15. ブランド視点で見た消費社会の将来（人生と消費とブランドの関係）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	T30061001
科目名	ベンチャー・ビジネス論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Venture Business Management		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	ベンチャービジネスについては、数次にわたるブーム（流行）の都度盛んに論じられてきた。しかし今日の経営を取り巻く環境変化を考えると、その変化への対応にはイノベーションの概念にかかる理解が不可分であり、ビジネスには、常にイノベーションを根幹とした、ベンチャービジネスの側面があると捉えることも可能である。その意味において、本講座ではベンチャービジネスの「流行」の側面を考察するに留まらず「不易」の側面からの接近も行いたい。このためベンチャービジネスの根底にあるイノベーションの本質およびベンチャービジネスをになう企業家(起業家）の理念・戦略・組織を中心に実践的な側面も併せ講義をする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	井形浩治、梅木晃編『事業構想と経営』（嵯峨野書院、2004 年） 井形浩治共著『ベンチャー型新規開業事業の新展開』（嵯峨野書院、2007） Ｐ.Ｆ.ドラッカー著上田惇夫訳『イノベーションと企業家精神』（ダイヤモンド社、2007）		
教材（その他）	必要に応じて講義内容についてのプリントを配布する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	ベンチャービジネスについての「基本と原則」および「実践」についての理解を目標として、社会においてもその知識およびその思考プロセスについて、活用が図れることを目的に学習を行う。		
準備学習	日頃からベンチャービジネスに関心を持つとともに、それらに関する諸情報の入手にあらゆるメディアの活用を心掛ける。 　授業で用いる資料については事前配布を行うので熟読されたい。		
受講者への要望			
ベンチャービジネスへの興味を持ち、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに(本講義の概要) 2　ベンチャービジネス(以下 VB という）の定義 3　VB の変遷の歴史 4　VB とイノベーション・企業（起業）家精神 5　VB の経営理念 6　VB の組織と戦略 1 7　VB の組織と戦略 2 8　VB とリーダーシップ 9　VB における会計的側面 １０　VB における資本政策と資金調達 １１　VB 創造の実際（VB のデザインからプランニングへ） １２　VB の事業機会の認識(ビジネスチャンスの発見) １３　VB の経営資源の調達(ベンチャー支援策の活用) １４　VB システムの構築(ビジネスモデル特許など) １５　本論の将来展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T30070001
科目名	応用商業簿記 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Bookkeeping for a Commercial Fir m		
担当者名	伊藤　久人	旧科目名称	
講義概要	日本商工会議所簿記検定 3 級程度の実力を前提にして、より実践的な取引の記帳など中級程度の簿記の学習を進めます。日本商工会議所簿記検定 2 級商業簿記のうち、株式会社の会計処理と本支店会計をカバーすることを目指します（各種取引の処理は「商業簿記Ⅱ」でカバーします)。		
教材（テキスト）	1 回目の講義にて使用するテキストを紹介する（購入は必要)。 また、テキストとは別に、レジュメの配布を行う場合もある。		
教材（参考文献）	講義において必要に応じ推薦する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点(取組姿勢)30%、試験 70%		
到達目標	1. 複式簿記の意義と特徴を理解している 2. 中規模企業の資金調達（株式および社債の発行）取引の記帳ができる 3. 本支店合併財務諸表を作成できる		
準備学習	1. テキスト等において事前に目を通してください 2. 講義で指示された課題を解いて、次回の講義に臨んでください 3.　講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、次回の講義で質問してください		

受講者への要望

1. 原則として、「商業簿記Ⅰ」の単位取得者または日商簿記 3 級合格者が対象です。 「商業簿記Ⅱ」との同時履修を強く勧めます。
2. 簿記の基礎知識がない人は、「入門簿記」または「簿記原理」を履修してください。
3. 自分の理解度を確認するために、また、就職活動の一助とするために、日商簿記検定への挑戦を勧めます。
4. 講義を欠席すると、その後の理解に著しい支障が出る恐れがあります。欠席する講義のフォローは必ず行ってください。

講義の順序とポイント

Ⅰ商業簿記Ⅰの復習
1．簡単なテスト（成績には関係ありません）と講義概要の紹介（商業簿記Ⅱとの違い）
2．商業簿記Ⅰの復習

Ⅱ商業簿記Ⅰから応用商業簿記へ
3．株式会社の会計（その１）：株式会社の設立
4．株式会社の会計（その２）：増資
5．株式会社の会計（その３）：剰余金
6．株式会社の会計（その４）：利益の処分/損失の処理
7．株式会社の会計（その５）：社債(1)
8．株式会社の会計（その６）：社債(2)
9．株式会社の会計（その７）：株式会社会計の総復習
10. 本支店会計（その１）：本支店会計の意義と連結財務諸表
11. 本支店会計（その２）：本支店間の取引
12. 本支店会計（その３）：未達事項
13. 本支店会計（その４）：内部取引と内部利益の控除
14. 本支店会計（その５）：本支店合併財務諸表
15. 本支店会計（その６）：本支店会計の総復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T30088001
科目名	外書講読 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading of Foreign Literature on Busines s Administration		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	講義では、ブランドに関するノウハウを数ページずつの 22 話に知識ハックとしてまとめた本を教材にします。この本は、「あたるもマーケ、売れるもマーケ、マーケティング 22 の法則」という大ベストセラーに続く第 2 弾で、前著の内容をブランド風に書き直したもので、この本もまたわかりやすさからベストセラーになりました。 短い文章の中に含蓄の深い文言を発見することができます。 毎回の冒頭にある見出しのワードを分析するだけで、マーケティングと英語の感覚を養えます。 事例豊富で読者を引き込むアメリカ人らしい本の書き方も楽しんでもらいたいと思います。		
教材（テキスト）	Al Ries and Laura Ries The 22 Immutable Laws of Branding　1,800 円程度		
教材（参考文献）	パワーポイントおよびプリントを適宜配布		
教材（その他）			
評価方法	定期テスト(70%)、授業時の発言の積極性(30%)		
到達目標	●ブランド論で学んだことを改めて整理する ●英語で書かれた論理によってブランドを改めて理解しなおす		
準備学習	各回の授業に該当する部分について、事前に読んで理解しておくことを求めます。		
受講者への要望			
●遅刻、途中退席は不可。授業中の私語と SNS 使用の禁止を求めます。 ●授業中の積極的な発言や質問により、授業にコントリビューション(貢献)を期待します。 ●一回でも授業が欠けるとその後の理解に支障が出ますので連続的に出席してください。			
講義の順序とポイント			
1. ブランド拡張をするときに犯しがちな誤り 2. ブランドの核心を焦点化する 3. ブランドは広告ではつくれない 4. ブランドの維持には広告が必要 5. 心に刺さるブランドワードを 1 つだけ作れ 6. 信頼を獲得すること 7. ブランド力に必要な知覚品質 8. カテゴリーの代名詞になること 9. 他のブランドと共生すること 10. 一般名詞になってはいけない 11. ブランドと社名の関係 12. 安易なサブブランドの危険性 13. ブランドロゴの視覚的効果 14. ブランドの成功は 10 年単位で考える 15. ブランドに寿命はあるか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T30098001
科目名	管理会計論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Accounting		
担当者名	大田　住吉	旧科目名称	
講義概要	・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 ① 実際のビジネス現場で起きるケーススタディ（事例研究）について学ぶ「ビジネス・スクール形式」。 ② グループ討議、プレゼン、質疑応答などを繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学ぶ。 ③ 定員 30 名程度の少人数グループ討議形式。 ・学習テーマは、以下のとおりです。 (a) 管理会計は「攻めの会計」「戦略のための会計」と言われます。それは何を意味するのか？ (b) なぜ、管理会計を学ぶことが必要なのか？ (c) 管理会計は、財務会計や税務会計とは明らかに異なるルールがあります。それは、何か？ (d) 管理会計を、ビジネス戦略にどう活かせば良いのか？		
教材（テキスト）	・すべて担当教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布します。		
教材（参考文献）	・必要に応じ、参考文献などを紹介します。		
教材（その他）	・必要に応じ、解答例、参考資料などを配布します。 ・なお、授業には計算問題があります。電卓（一般的なもので可）を必ず持参下さい。		
評価方法	①グループ討議への参加意欲・発言内容（40%）、 ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力（30%）、 ③プレゼン力および質疑応答対応力（30%） による総合評価		
到達目標	・実社会で通用するビジネス・リーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・管理会計をビジネス戦略にどう活かせば良いのかについて分析し、判断し、表現する、実践的な能力を身に つけることを期待します。		
準備学習	＜予習＞ ・授業で配布するオリジナルテキストは、事前に熟読しておいて下さい。 ・業界事情、専門用語などについては、自分で調べ、理解して下さい。 ＜復習＞ ・授業の最後には、必ず 5～10 分の「本日のポイント」の講義があります。その内容について、しっかり復習し、 自分の「武器」として使えるようにしておいて下さい。 ・授業の中で、他のグループメンバーの意見等で参考になると感じたものは、その内容をしっかり復習して下さ い。		

受講者への要望

・29 年間の民間企業でのビジネス経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！
・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　～この授業で何を学ぶのか？、管理会計とは、何か？～

2～5　【ビジネス事例Ⅰ】「空席に怯まず、満席に奢らず」（イタリアレストランA社の事例）
＜テーマ＞　安定的な利益を計上し、創業・開業を成功させるために必要な管理会計とは？
＜ポイント＞　開業・企業設立準備、売上・利益計画、資金繰り、損益分岐点ほか

6～9　【ビジネス事例Ⅱ】「犯人を探せ！」（リサイクルショップB社の事例）
＜テーマ＞　性質の異なる複数店舗の利益をどう分析し、マネジメントするのか？
＜ポイント＞　要因分析、影響度分析、多店舗小売業の販売戦略ほか

１０～１５　【ビジネス事例Ⅲ】「輝け！インストアベーカリー」（パン製造小売業C社の事例）
＜テーマ＞　市場環境や取引先ニーズに合わせた製造小売業における新製品の価格決定戦略とは？

＜ポイント＞　　標的市場と価格設定、標的顧客別の新製品価格決定手法、ビジネス戦略の策定ポイントほか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T30101001
科目名	人材ポートフォリオ論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大石　友子	旧科目名称	企業と人材
講義概要	産業構造が変化し、企業活動も変革をもとめられているが、その中で企業と人材の関係も大きく様変わりしてきている。また、行政機関、大企業、中小企業、ベンチャー企業等、企業形態や企業文化による違いを理解する。 どういった人材を採用育成し､」能力を最大限に発揮させるかは､経営者にとって重要な課題であることに着目し、企業における人材ポートフォリオを実例とともに学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回レジュメプリントを配布する。		
評価方法	各回小レポート（50%）・授業内テスト(50%)		
到達目標	企業にとっての人材の重要性を知り、企業内ポートフォリオのありかたについて自ら考える力をつける。		
準備学習	日常的に企業と人材に関わる事柄に興味をもち、ニュース等で最新の情報を得る努力をすること。		

受講者への要望

他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。
積極的に授業に参加してもらいたい。
やむを得ない遅刻・欠席の場合は、必ず事前または事後に報告すること。

講義の順序とポイント

1. 人材をめぐる動向
2. 人材ポートフォリオとは何か
3. 経済の変化と人材の変化
4. 日本型雇用の変化
5. 新しい雇用形態と就労形態
6. 人材サービス業の変遷
7. 大企業における人材
8. 中小企業と人材
9. ベンチャー企業と人材
10. 行政機関と人材
11. ポートフォリオの新しい考え方
12. コンピテンシー
13. 企業内起業家の育成
14. 評価制度の功罪
15. 人材をめぐる課題と展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★	★★

年度	2015	授業コード	T30103001
科目名	企業家史 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Great Entrepreneurs		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	明治より昭和戦後まで、都市型産業の成長、大量生産体制の構築を先導した企業家を取り　　上げる。 可能であれば、いま少し取り上げる企業家を増やしたいと考えている。		
教材（テキスト）	なし。毎回資料を配付する。		
教材（参考文献）	講義の中でその都度紹介し、必要な文献は配付資料に記載する。		
教材（その他）	次の書籍を推薦する。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎『企業家たちの挑戦』中央公論新社 宇田川・生島編『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣		
評価方法	試験を中心とするが、レポートなどを加味して、総合的に評価する。		
到達目標	経営学・経営史の基礎的知識を習得し、企業家の行動原理を理解する。		
準備学習	講義終了時に次回講義のテーマをお知らせするので予習をすること。		

受講者への要望

おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をすること。
日本経済の発展を導いた企業家の考察を通して、その革新性と普遍性について問いかけたい。

講義の順序とポイント

1.企業家史の課題、企業家・企業者と革新
2.財閥組織者の企業家活動(中上川彦次郎)
3.工業化期の建設業の革新(大林芳五郎)
4.電気鉄道網の形成(小林一三)
5.国産ウィスキーの製造と洋酒文化の普及(鳥居信治郎・竹鶴政孝)
6.在来産業・酒造業の革新(大倉恒吉)
7.重化学工業の成長(野口 遵)
8.電気機械国産化の道のり(小平浪平)
9.家庭電器産業の興隆(松下幸之助)
10.自動車国産化への挑戦(豊田喜一郎・鮎川義介)
11.本田宗一郎･藤沢武夫と「世界のホンダ」
12.井深 大･盛田昭夫とソニー
13.日本型生産システムの構築(大野耐一)
14.流通のイノベーション(中内功・鈴木敏文)
15.大量生産時代と大量消費時代の担い手

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	T30113A01
科目名	京都の観光産業Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Tourism Industry in Kyoto I		
担当者名	櫻井　正明	旧科目名称	京都の観光産業A
講義概要	世界での「観光」の重要性を理解し、我が国の取り組みや地域での取り組み、観光関連産業などを考察するので、「京都の観光産業」を念頭に置きつつ、主として「国際観光」についての講義となる。 パワーポイント・スライドを中心とした講義形式とし、授業ごとにプリント資料を配布する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	『観光白書』各年度版　観光庁編 『観光学大事典』　香川　眞編　木楽舎発行		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、授業ごとにプリントを配布する		
評価方法	授業への取組状況（授業中課題ミニッツ・レポート、受講態度等）を 20% 期中でのレポートを 20% 期末での定期テストを 60% カードリーダーの不正使用は 3 回で授業取組状況配点を 0 点とする。		
到達目標	現代社会における「観光の重要性」を理解する。		
準備学習	新聞などのメディアに掲載される観光関連情報に日々関心を持っておくこと		
受講者への要望			
筆記具、ノートを持って教室に入ること。 私語厳禁，教室内飲食厳禁、　教室内脱帽である。　他学生の受講への迷惑行為と認められた者は退室させる。			
講義の順序とポイント			
1.この科目のオリエンテーション（講義概要、評価方法など） 2.観光とは 3.現代における観光の意義 4.観光の歴史 5.観光の現状と課題（国内観光、京都市の事例） 6.観光の現状と課題（海外観光） 7.観光の現状と課題（訪日外国人観光、京都市の事例） 8.観光対象と観光資源（世界の観光資源、京都市の観光資源） 9.地域社会と観光振興 10.旅行産業 11.運輸産業 12.宿泊産業 13.テーマパーク産業 14.クルーズ 15.「観光産業」のこれから			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	T30113B01
科目名	京都の観光産業Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Tourism Industry in Kyoto Ⅱ		
担当者名	櫻井　正明	旧科目名称	京都の観光産業Ｂ
講義概要	日本の観光政策、国と自治体,京都の事例を含めて講義する。また観光マーケティングについて旅行産業、航空産業、宿泊産業など産業別に学ぶ。 教科書は用いないが、パワーポイント・スライドを中心とした講義とし、授業ごとにプリント資料を配布する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	『観光マーケティング論』　山上　徹著　白桃書房 『観光白書』　各年度版　観光庁編 『観光学大事典』　香川　眞編　木楽舎		
教材（その他）	パワーポイントを活用し授業ごとにプリントを配布する。		
評価方法	授業への取組状況（授業中課題ミニッツレポート、受講態度等）を 20% 期中でのレポートを 20% 期末での定期テストを 60% カードリーダーの不正使用は 3 回で授業取組状況配分を 0 点とする。		
到達目標	国、自治体の観光政策、観光関連産業の事業取り組みでのマーケティングの基本について理解を深める。		
準備学習	新聞等のメディアによる観光関連の情報に日々関心を持っておくこと。		

受講者への要望

観光を総合的に理解する意欲を持って受講すること。
筆記具、ノートを持って教室に入ること。
私語厳禁、教室内飲食厳禁、教室内脱帽である。他学生の受講への迷惑行為と認められたものは退室させる。

講義の順序とポイント

1.この科目のオリエンテーション（講義概要、評価方法など）
2.世界での観光事象データの解説
3.日本の観光政策①
4.日本の観光政策②
5.観光マーケティング理論①
6.観光マーケティング理論②
７.地方自治体のマーケティング
8.地方自治体のマーケティング(京都市のケース①)
9.地方自治体のマーケティング(京都市のケース②)
10.観光産業のマーケティング（旅行産業）
11.観光産業のマーケティング（航空産業①）
12.観光産業のマーケティング（航空産業②）
13 観光産業のマーケティング（宿泊産業）.
14.観光産業のマーケティング（テーマパークなど）
15.「観光産業」のこれから

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	T30126001
科目名	業界事情研究 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	A Study of the Industry		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	日本の産業は戦後「奇跡」と呼ばれるまでの大きな発展と変貌を遂げてきた。また今日グローバル化時代を迎え、今後の課題などが明らかとなってきている。そこで日本を代表する業界を取り上げその過去・現在・未来についての考察を行いたい。加えてその業界の発展の要となった経営手法(例えば自動車産業におけるトヨタ看板方式、アパレル産業における SPA、流通・外食産業におけるチェーンマネジメントシステムなどについての理解も進めたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	講義内容についてのプリントを配布する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、試験 50%		
到達目標	日本産業を代表する業界に関する知識を涵養するとともに、受講生の進路選択への参考とすることを目標とする。		
準備学習	さまざまな業界に興味を持つとともに、関連する情報収集に新聞、雑誌、テレビなど多くのメディアを通じて努め受講に望むこと。 授業に用いる資料については事前に配布を行うので熟読されたうえ、授業に臨まれたい。また適宜レポートを求めるためその準備として、学習した事項については、常に復讐を心掛けられたい。		
受講者への要望			
真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに(本講座の概要) 2　戦後日本産業の軌跡 ① 3　② 4　③ 5　加工組立産業（業界）① 6　② 7　消費財産業（業界）　① 8　② 9　流通産業（業界）　① 10　② 11　外食産業（業界）　① 12　② 13　金融産業（業界）　① 14　② 15　各業界の展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	T30140001
科目名	経営学史 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Management Theories		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	学説の流れを学ぶことを通して、いかなる経営課題に対して先人はどのように取り組んだかを理解する。経営学は課題解決に必要とされる知識を様々な学問領域から借用しており、経営課題によって、その課題の解決に向けて採択されるアプローチは異なってくる。よって、この講義においては、多角的視点の涵養と温故知新につながると捉えている。		
教材（テキスト）	なし。プリントを適時配布する。　DVD 教材や OHC を活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	中間課題・宿題（45%）と期末課題・宿題（45%）、 および講義内小テストや感想文、等により評価する（10%）。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊多角的な視点で事象を分析することができる。		
準備学習	＊毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくべきかを指示するので、熟読しておくこと。 ＊課題・宿題（問題集）を手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		

受講者への要望

＊経営学総論の単位を取得している方が望ましい。
＊遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
＊配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。

講義の順序とポイント

1.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。（テイラー、フォード、ファヨール、クーンツ、労働組合、等）
2.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。
3.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。（メイヨー、レスリスバーガー、等）
4.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。
5.近代管理論、協働システム、誘因―貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。（バーナード、サイモン、マーチ、サイアート、オルセン、等）　　中間課題 について。
6.近代管理論、協働システム、誘因―貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。
7.ドイツ経営経済学、方法論争、私経済学、規範的経営経済学、技術論的経営経済学、経営共同決定法、意思決定、等。（ワイヤーマン、シェーニッツ、ブレンターノ、シュマーレンバッハ、グーデンベルグ、ニックリッシュ、フィッシャー、等）
8.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、職務再設計、期待理論、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、等。（マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等）
9.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、職務再設計、期待理論、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、等。（マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等）
10.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。（ウッドワード、バーンズ、ストーカー、ローレンス、ローシュ、等）
11.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。
12.日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。
13.日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。　　期末課題について。
14.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。（チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーグ、BCG、ポーター、ハメル、プラハラード、等）
15.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	T30166A01
科目名	経営組織論Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Organization Theory I		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	組織とは，なんらかの目的のために形成されるものであるが，個人はそのような組織を自ら形成したり，あるいはすでに形成されている組織に自らの主体的な意思決定で入ったりするものである。現代社会においては，このような組織がさまざまな形で存在しているが，個人が生活を営んでいく上では，これらの組織との関係を避けて通ることはできない。したがって，個人がより良く生きていくためには，組織というものを理解することが不可欠なのである。 経営組織論は，そのような組織の中でも、我々の日常生活に密接な関わりを持つ企業組織を研究対象としているが，経営組織論Ⅰでは，組織の特徴と組織における個人に関して基本的な点を理解することを目的としている。 また，本講義を通して，企業組織に参加する自分をイメージしてもらい，現代社会を生き抜いていくための基礎力が養われれば幸いである。		
教材（テキスト）	基本的に、教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。		
教材（参考文献）	バーナード著，山本安次郎 / 田杉競 / 飯野春樹訳『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社，1968 年。 その他，必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントやレジュメをを配布する。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで 1 度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. 「個人」、「組織」および「個人と組織との関係」とはどのようなものであるのかを理解する。 2. 個人はなぜ組織に入り、そこで活動を続けるのかという個人の行動原理を理解する。 3. 組織の立場から管理者は個人に対してどのような役割を果たすべきかということを理解する。		
準備学習	1. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 2. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 3. 日常において組織と個人の関係に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講者への要望

1．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
2．講義への積極的な参加を望む。

講義の順序とポイント

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

1. オリエンテーション
2. 経営学における組織論の展開
3. 組織における個人の捉え方
4. 組織の定義と成立条件①
5. 組織の定義と成立条件②
6. 公式組織と非公式組織・組織の起源と成長
7. 組織の専門化と組織形態
8. 前半のまとめと理解度の確認 （小テストを予定）
9. 個人の行動原理と組織の行動原理
10. 組織の均衡① -誘因の方法-
11. 組織の均衡② -説得の方法-
12. 組織における権限の理論
13. 組織の道徳的側面
14. 組織における意思決定と人間の合理性
15. 経営組織論Ⅰの講義を通して学んだことの総括

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	T30166B01
科目名	経営組織論Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Organization Theory Ⅱ		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	組織とは，なんらかの目的のために形成されるものであるが，個人はそのような組織を自ら形成したり，あるいはすでに形成されている組織に自らの主体的な意思決定で入ったりするものである。現代社会においては，このような組織がさまざまな形で存在しているが，個人が生活を営んでいく上では，これらの組織との関係を避けて通ることはできない。したがって，個人がより良く生きていくためには，組織というものを理解することが不可欠なのである。 経営組織論は、そのような組織の中でも、我々の日常生活に密接な関わりを持つ企業組織を研究対象としているものである。経営組織論Ⅰでは組織の特徴と組織における個人に関して学習したが、その内容を踏まえ、経営組織論Ⅱでは、アメリカとドイツにおいて経営組織論がどのように生成し、展開されてきたのかということを検討し、そのことによって、現実の組織の諸問題を解明していきたいと考えている。また、本講義を通して、企業組織に参加する自分をイメージしてもらい、現代社会を生き抜いていくための基礎力が養われれば幸いである。		
教材（テキスト）	基本的に、教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。		
教材（参考文献）	バーナード著，山本安次郎 / 田杉競 / 飯野春樹訳『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社，1968 年。 その他，必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントやレジュメをを配布する。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで 1 度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. 「個人」、「組織」および「個人と組織との関係」とはどのようなものであるのかを理解する。 2. 個人はなぜ組織に入り、そこで活動を続けるのかという個人の行動原理を理解する。 3. 組織の立場から管理者は個人に対してどのような役割を果たすべきかということを理解する。		
準備学習	1. 講義終了時に次回の範囲（参考文献で関係する部分の章）を指定するので、その内容を熟読しておくこと。 2. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 3. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 4. 日常において組織と個人の関係に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講者への要望

1．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
2．講義への積極的な参加を望む。

講義の順序とポイント

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

1. オリエンテーション
2. 経営学における組織論の展開
3. 組織における個人の捉え方
4. 組織の定義と成立条件①
5. 組織の定義と成立条件②
6. 公式組織と非公式組織・組織の起源と成長
7. 組織の専門化と組織形態
8. 前半のまとめと理解度の確認 （小テストを予定）
9. 個人の行動原理と組織の行動原理
10. 組織の均衡① -誘因の方法-
11. 組織の均衡② -説得の方法-
12. 組織における権限の理論
13. 組織の道徳的側面
14. 組織における意思決定と人間の合理性
15. 経営組織論Ⅱの講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	T30173001
科目名	経営分析論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statement Analysis		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	みなさんにとって良い会社とはどのような会社を意味するのでしょうか。技術力があってユニークな製品やサービスを提供している会社、それは消費者の視点からみると確かに良い会社です。給料が高くて休みがたくさんあって福利厚生が充実している会社、就職先としては理想的かもしれません。これらは極端な例ですが、つまるところ、会社に対する視点が変わればよい会社の判断基準も変わってくるのです。 企業を評価する手法として知られる経営分析は、貸借対照表や損益計算書といった財務諸表に代表される会計情報をもとに、収益性、安全性、成長性といった観点から企業の業績や状態を見極める有力な方法です。そのような分析を進めるためにはまず、財務諸表の構造と基本的な性質を理解しておく必要があります。さらには経営学全般にわたる知識も必要になります。 本講義では、このような財務分析の特質をふまえ、経営分析を総合的に把握することから開始し、続いて財務諸表分析の手法について解説していく予定です。		
教材（テキスト）	内藤文雄　『会計学エッセンス』中央経済社　2600 円		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する予定です		
評価方法	授業内レポート(40 点)、授業内テスト(60 点)		
到達目標	会計情報の読み方を理解している。 会計情報の開示制度を理解し、利用できる。 財務諸表の分析手法を活用し、財政状態、経営成績、資金運用上の問題を発見できる。		
準備学習	毎回授業の最後に次回の内容を紹介するので、教科書の指定ページを読んでくること		
受講者への要望			
積極的な講義への参加を期待します。			
講義の順序とポイント			
1. 企業分析の意義 2. 会計の役割と株式会社 3. ディスクロージャー制度 4. 貸借対照表の見方 5. 損益計算書の見方 6. いくつかの業種の財務諸表 7. 収益性の分析(1) 8. 収益性の分析(2) 9. 損益分岐点分析(1) 10. 損益分岐点分析(2) 11. 安全性分析 12. 資金繰りの分析 13. キャッシュフロー計算書の見方 14. 企業グループと連結決算 15. 企業の総合評価			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	T30185001
科目名	原価計算論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Cost Accounting		
担当者名	大田　住吉	旧科目名称	
講義概要	・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 ① 実際のビジネス現場で起きるケーススタディ（事例研究）について学ぶ「ビジネス・スクール形式」。 ② グループ討議、プレゼン、質疑応答などを繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学ぶ。 ③ 定員 30 名程度の少人数グループ討議形式。 ・学習テーマは、以下のとおりです。 (a) 「原価計算」とは、何か？ 新製品開発において、「原価」や「価格」はどういう意味を持つのか？ (b) なぜ、原価計算を学ぶことが必要なのか？ (c) 業種、用途、品質、製造方法、生産量などが全く異なる様々な製品の「原価」を、具体的にどうやって計算 すれば良いのか？ (d) 原価計算を、ビジネス戦略にどう活かせば良いのか？		
教材（テキスト）	・すべてオリジナル担当教員による作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用します。		
教材（参考文献）	・必要に応じ、参考文献などを紹介します。		
教材（その他）	・必要に応じ、解答例、参考資料などを配布します。 ・なお、授業には、計算問題があります。電卓（一般的なもので可）を必ず持参下さい。		
評価方法	①グループ討議への参加意欲・発言内容（40%）、 ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力（30%）、 ③プレゼン力および質疑応答対応力（30%） による総合評価		
到達目標	・実社会で「戦力」として通用するビジネス・リーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・原価計算をビジネス戦略にどう活かせば良いのかについて分析し、判断し、表現する、実践的な能力を身に つけることを期待します。		
準備学習	＜予習＞ ・授業で配布するオリジナルテキストは、事前に熟読しておいて下さい。 ・業界事情、専門用語などについては、自分で調べ、理解して下さい。 ＜復習＞ ・授業の最後には、必ず 5～10 分の「本日のポイント」の講義があります。その内容について、しっかり復習し、 自分の「武器」として使えるようにしておいて下さい。 ・授業の中で、他のグループメンバーの意見等で参考になると感じたものは、その内容をしっかり復習して下さ い。		

受講者への要望

・29 年間の民間企業でのビジネス経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！
・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　～この授業で何を学ぶのか？、原価計算とは、何か？～

2～7　【ビジネス事例Ⅰ】 「『新製品開発』を考える」（健康食品製造販売業Ｄ社の事例）
＜テーマ＞　新製品・新商品開発を成功させるために必要な原価計算とは？
＜ポイント＞　直接費と間接費、変動費と固定費、目標生産量、目標利益、赤字転落の理由ほか

8～１１　【ビジネス事例Ⅱ】 「攻める原価管理」（地方銀行Ｅ社の事例）
＜テーマ＞　マンレート、マシンレート、限界利益等を用いたコストマネジメントとは？
＜ポイント＞　製品１個あたりの原価計算、マンレート、マシンレート、コスト差異分析、完成品原価と仕掛品原価、

限界利益ほか

１２～１５　【ビジネス事例Ⅲ】「『新製品開発』を考える EpisodeⅡ」（健康食品製造販売業Ｄ社の事例）

＜テーマ＞　実際のビジネス現場で使われている原価計算手法とは？

＜ポイント＞　全部原価計算、直接原価計算、活動基準原価計算、原価マネジメント戦略ほか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★★	★★		★★

年度	2015	授業コード	T30194A01
科目名	工業簿記Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Factory Bookkeeping I		
担当者名	島　吉伸	旧科目名称	
講義概要	本講義は、製造業において実施される工業簿記および原価計算の基本知識を身につけてもらうことを目的としています。日商簿記２級工業簿記程度の内容を扱います。		
教材（テキスト）	上埜　進他著「工業簿記・原価計算の基礎　第３版」税務経理協会		
教材（参考文献）	岡本　清・廣本敏郎（編著）　「新検定　簿記講義２級工業簿記」　中央経済社 岡本　清・廣本敏郎（編著）　「新検定　簿記ワークブック２級工業簿記」　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 60%　 中間テスト 40%		
到達目標	工業簿記および原価計算の基礎知識を身につけること。		
準備学習	毎講義終了時に指示する。		
受講者への要望			
学習内容を定着させるために、講義終了後、問題集を利用して学習した内容を繰り返し演習しておくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回　　工業簿記とはなにか 第２回　　原価計算の手続きと工業簿記の構造 第３回　　材料費の計算（１） 第４回　　材料費の計算（２） 第５回　　材料費の計算（３） 第６回　　労務費の計算（１） 第７回　　労務費の計算（２） 第８回　　経費の計算 第９回　　中間テスト 第 10 回　　製造間接費の計算（１） 第 11 回　　製造間接費の計算（２） 第 12 回　　個別原価計算 第 13 回　　総合原価計算（１） 第 14 回　　総合原価計算（２） 第 15 回　　講義全体のまとめ 定期試験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T30194B01
科目名	工業簿記Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Factory Bookkeeping Ⅱ		
担当者名	島　吉伸	旧科目名称	
講義概要	本講義は、製造業において実施される工業簿記および原価計算の基本知識を身につけてもらうことを目的としています。日商簿記２級工業簿記程度の内容を扱います。		
教材（テキスト）	上埜　進他著「工業簿記・原価計算の基礎　第２版」税務経理協会		
教材（参考文献）	岡本　清・廣本敏郎（編著）　「新検定　簿記講義２級工業簿記」　中央経済社 岡本　清・廣本敏郎（編著）　「新検定　簿記ワークブック２級工業簿記」　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 60%　小テスト 40%		
到達目標	工業簿記および原価計算の基礎知識を身につけること。		
準備学習	毎講義終了時に指示する。		
受講者への要望			
学習内容を定着させるために、講義終了後、問題集を利用して学習した内容を繰り返し演習しておくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回　　原価計算総論・「工業簿記Ⅰ」の確認 第２回　　部門費の計算（1） 第３回　　部門費の計算（２） 第４回　　部門別個別原価計算 第５回　　単純総合原価計算・組別総合原価計算 第６回　　等級別総合原価計算 第７回　　工程別総合原価計算 第８回　　仕損・減損の処理 第９回　　連産品の原価計算・副産物の処理 第 10 回　　中間テスト 第 11 回　　標準原価計算（１） 第 12 回　　標準原価計算（２） 第 13 回　　直接原価計算（１） 第 14 回　　直接原価計算（２） 第 15 回　　工場会計の独立 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T30196001
科目名	広告ビジネス論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Advertising Business Studies		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	「説明」ではなく「説得」のビジネスとしての広告ビジネスへの理解を学びます。 広告メッセージの作り方を知るためのコンセプトづくりの技術、伝える相手（ターゲット）に有効に伝えるために徹底的にターゲットを研究する手法としてのセグメンテーション(細分化)とポジショニング、買ってもらうためのコミュニケーションから買い続けるためのコミュニケーションを提唱するブランド論、そしてインターネットが登場して以降のオムニチャネル対応など、広告の有効性と限界、その特性について学びます。 普段何気なく見ている広告の裏にも緻密な戦略や企画、アイデアがあることを知り、面白さを追求しただけに見える広告コミュニケーションにも単なる思い付きではなくビジネスとしての厳しい戦略性、コスト意識、リスクテイクを求められていることを学びます。		
教材（テキスト）	岸志津江・田中洋・島村和恵『現代広告論　新版』有斐閣アルマ 2,268 円		
教材（参考文献）	電通「日本の広告費」　電通ホームページ		
教材（その他）			
評価方法	小レポート(20%)、定期テスト(60%)、授業時の発言の積極性(20%)		
到達目標	●広告の裏にある戦略やアイデアを読み解く力をつける ●広告によって、商品の売上にレバレッジをかけるという発想と手法を理解する		
準備学習	資料を事前に配布しますので、事前に資料を熟読することを求めます		

受講者への要望

●遅刻、途中退席は不可。授業中の私語と SNS 使用の禁止を求めます。
●授業中の積極的な発言や質問により、授業にコントリビューション(貢献)を期待します。
●一回でも授業が欠けるとその後の理解に支障が出ますので連続的に出席してください。

講義の順序とポイント

1. 広告コミュニケーションとは　広告の種類と機能
2. 広告ビジネスの流れ　オリエンから媒体計画まで
3. 市場調査
4. 広告戦略の構築　コンセプトと広告表現
5. 時代のトレンド
6. 広告の変遷　新聞広告からテレビ広告へ
7. テレビ広告のトレンド１　1980 年代の広告　ポストモダン手法
8. テレビ広告のトレンド２　1990 年代の広告　ＩＭＣ
9. テレビ広告のトレンド３　2000 年代の広告　ポストモダン手法
10. 広告の記号論　テレビＣＭを読み解く
11. インターネット時代の広告　オムニチャネル化
12. ビッグデータの時代
13. マス広告か PR かイベントか
14. 社会の流行をつかむポストモダン調査法
15. 広告ビジネスの課題　　広告はモノを売れるか／広告は夢をつくれるか

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	T30226001
科目名	女性経営者論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Women Own's Businesses		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	近年、新規開業率が低下している中、女性が経営する企業は増加し、従来の男性経営者とは違った発想や支店を持つ女性経営者の活躍が注目されている。女性経営者の増加の背景、社会的役割、その経営の特徴を知り、企業経営の多様性を理解する。 女性経営者の特徴として、①生活に密着した視点、属性にとらわれない豊かな人脈、③地域や教育機関等との連携、④ＩＴ化や国際化によるビジネスチャンスの獲得、等が挙げられる。それぞれの事例を基に学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	毎回レジュメプリントと資料を配布する。		
教材（その他）	必要に応じてビデオ・ＤＶＤ教材を活用する。		
評価方法	各回小レポート（50%）・授業内テスト（50%）。		
到達目標	女性経営者の増加の背景とその経営の特徴を知り、企業経営に必要な幅広い視点を持つ重要性を学ぶ。 また、属性にとらわれない人材活用の意味と効果について理解する。		
準備学習	・マスコミに登場する女性経営者や、身近な女性経営者についての情報を収集しておくこと。 ・授業終了時に課したレポートテーマについて、配布資料に基づき次回までに書けるようにしておくこと。		
受講者への要望			
他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。 積極的に授業に参加してもらいたい。 女子学生だけでなく、男子学生の受講を期待する。			
講義の順序とポイント			
1 .女性経営者の社会的役割と現状 2. 女性経営者増加の背景と女性の働き方 3. 女性経営者の競争優位性 4. 新規開業者に見る女性経営者の特徴と課題 5. ケーススタディ　事業機会の認識 6. 〃　起業プロセス 7. 〃　資金調達 8. 〃　マーケティング 9. 〃　人材活用 10. 女性が中心となるＮＰＯ 11. ＳＯＨＯと在宅ワーク 12. アメリカの女性経営者 13. ヨーロッパの女性経営者 14. アジアの女性経営者 15. 女性経営者に関わる課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★		★	★★

年度	2015	授業コード	T30230001
科目名	商学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Business and Commerce		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本講義は、商学を理解するための基礎理論を解説する。より具体的には、①商業の機能および②商業と消費者、小売、卸売の関係を解説する。その主たる問いは、①なぜ社会で商業が必要となるのかであり、②商業は社会でどのように展開されているのかである。 商学は、生産を伴わず販売のみに従事する商業者に注目した学問である。なぜ彼らが利益を得るのか。このような疑問を解くためには自分の頭で考えることが必要となる。このために、本講義は主として板書形式をとる。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	石原武政・池尾恭一・佐藤善信（2000）『新版 商業学』,有斐閣　2,100 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	講義内小試験（40%）、講義内中試験（20%）、講義内大試験（40%）		
到達目標	受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 ①商業の機能を説明することができる。 ②実際の商業者に興味を抱く。		
準備学習	講義終了時に、参考文献における次回の講義範囲を示す。指示のあった範囲を次回までに熟読しておくこと。なお、講義内では前回の講義範囲に関連する小試験を課す。復習をしておくこと。		
受講者への要望			
私語は厳禁。			
講義の順序とポイント			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2.「分析視座」：簡単なゲームから、商学を理解するための視座を解説する 3.「商業の機能 1」：品揃え概念 1；取引費用を解説する 4.「商業の機能 2」：品揃え概念 2；取引総数最小化の原理を解説する 5.「商業の機能 3」：品揃え形成過程 1；垂直的市場メカニズムを解説する 6.「商業の機能 4」：品揃え形成過程 2；投機と延期の原理を解説する 7.「中間総括」：これまでの理解度を問う記述式試験を行う 8.「消費者の買い物行動 1」：消費者の店舗間選択を解説する 9.「消費者の買い物行動 2」：小売の輪の理論と真空地帯理論を解説する 10.「小売業 1」：小売の機能とその業態を解説する 11.「小売業 2」：マーケティングとの関係を理解するため系列小売店を解説する 12.「卸売業 1」：卸売の機能とその業態を解説する 13.「卸売業 2」：国際貿易との関係を理解するため総合商社を解説する 14.「商業論の今後」：これまでの講義を総括し、最新の展開を解説する 15.「講義の限界」：講義の限界を示し、今後の展望を解説する		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	T30240001
科目名	消費者行動論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Consumer Behavior		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	消費は人生の活動の一面であると共に、人生の目的でもある最も重要な活動です。 消費はライフスタイルやライフステージ、また時代によってその意味合いが変わります。消費することがあたりまえの時代が終わり、消費が低迷している今日では「人がなぜ消費をするのか」に取り組むことはマーケティングにとって最大の課題になっています。 というのは「里山資本主義」や「専業主婦 2.0」など従来の消費社会から距離を置く生き方に魅力を感じる人も増えているからで、アメリカの経済学者ガルブレイスは著書『ゆたかな社会』の中で「人々が商品に対して欲望を抱かなくなることが資本主義最大の危機である」と述べています。 このような時代に消費の未来を見通し、消費や消費者の活動を通して、人間に対する理解を深めます。		
教材（テキスト）	青木幸弘『消費者行動の知識 （日経文庫）』日本経済新聞社 992 円(大きさは新書版です)		
教材（参考文献）	パワーポイントおよびプリントを適宜配布		
教材（その他）			
評価方法	小レポート(20%)、定期テスト(60%)、授業時の発言の積極性(20%)		
到達目標	消費者の行動を通して、人間の活動の目的や達成感を学び、消費とは何かを深く理解する。		
準備学習	消費者心理に関係する心理学の実験について、事前に回答するように求めます。回答内容を元に授業を進めますので、必ず回答結果を持ち寄るように求めます。		

受講者への要望

●遅刻、途中退席は不可。授業中の私語と SNS 使用の禁止を求めます。
●授業中の積極的な発言や質問により、授業にコントリビューション(貢献)を期待します。
●一回でも授業が欠けるとその後の理解に支障が出ますので連続的に出席してください。

講義の順序とポイント

1. 消費者とは誰か
2. 消費に至るプロセス　AIDMA から AISAS へ
3. 関与のレベル
4. 欲求と欲望
5. 動機付け
6. 知覚
7. 態度
8. 消費のための情報探索行動　情報の収集と処理のメカニズム
9. 選択の科学　買う瞬間の意識、良い選択肢の作り方とは
10. モノからコトへ　消費の満足感を与えるものは何か
11. 自分へのご褒美と利他的な消費
12. 消費の主人公の変化　世帯から個人へ　生活ニーズから瞬間へ
13. 消費社会からの離脱者　里山資本主義、専業主婦 2.0
14. これから人々は何を買うのか
15. 消費は経済社会を救うか（人口減少を克服する需要創造への挑戦）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	T30248001
科目名	情報と職業 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Occupation		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報通信技術は社会と職に大きな変化をもたらし、社会に影響を及ぼしている。このような情報化社会において、若者を取り巻く現状を多角的に捕え、現状を把握し、情報化社会での職業の意義と役割、自己のあり方、生き方と職業を論じる。大量の情報が交換蓄積され、利用される高度情報通信社会の中で、職業と自己のあり方、生き方と職業を考え、望ましい勤労観と職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択し、将来職業人として活躍するための情報に関する知識や技術、さらに情報通信をどのように活用していくか言及する。		
教材（テキスト）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況等と各回課題による。(30%）,e-learning により課す課題評価（70%）		
到達目標	職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、白書や今週の指標等の Web ページは週 1 回以上閲覧し、短く説明できるように整理する。		

受講者への要望

本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、任意の時間にｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室で受講のこと。学期
の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意志がないものとみなす場合がある。能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1．白書等から、若者を取り巻く現状
　職業の意義と役割
　職業とキャリア
1-1．職業指導とは何か
　学習指導要領の規定
2．情報産業の現状
　これからの情報化社会で求められる人材
　人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル
3．厚生労働省等統計データから、現状分析
3-1．高等学校における進路指導の現状
4．高校生の就職に関わる法・制度・仕組み
　職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法
　公共職業安定所と学校との職業紹介の分担
　新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等
　統一応募書類
5．高等学校卒業者・大卒の就職の推移と現状
　高卒者と大奏者の評価、採用問題
　雇用情勢・経済成長
6．職業意識
　自分が望むあるいは目標とする職業
　何のために働くか
6-1．生徒の職業意識の希薄化
7．インターンシップの実施
8．キャリアデザイン
　職種に必要な能力、何が必要か
8-1．ホームルーム等での進路指導
9．職業と職業生活について

職業及び職業生活
勤労・職業の意義と役割
職業生活と法令
１０．情報化と社会の変化について
情報化に伴う産業と社会生活の変化
情報関連産業の発達と資源・環境問題
情報社会のモラル
１１．職業と自己実現
職業適性の理解
自己のあり方生き方と職業
進路選択と自己実現
１２．求められる進路指導の改善
キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策
１３．インターネットの進路指導への活用
１４．若年失業者問題と対策
１５．職業とキャリアの形成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	T30250001
科目名	情報セキュリティ論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Privacy Protection		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	コンピュータを単体で利用する時代が終わりを告げ、コンピュータが相互にネットワーク接続された状態が日常となっている昨今、私たちは常にコンピュータウイルス、不正アクセス、機密漏洩、物理的破損といった危険と常に向き合っている。このような情報環境下では、セキュリティを従来のように一部の人に任せておけば良いというわけにはならず、一人一人が最低限のセキュリティ知識を身につけておかなければ本人が知らないうちに情報面で被害者になったり、加害者になったりする可能性がある。本講義では、セキュリティの概念を整理するとともに、情報社会を生きていく我々が知っておきたいセキュリティ知識の理解を深める。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	情報セキュリティ標準テキスト編集委員会『情報セキュリティ標準テキスト』オーム社		
教材（参考文献）	情報処理推進機構『情報セキュリティ読本―IT 時代の危機管理入門』実教出版 相戸浩志『情報セキュリティの基本と仕組み第 3 版　基礎から学ぶセキュリティリテラシー』秀和システム 新藤茂・加藤直樹『教師のための情報セキュリティ入門』日本標準 その他は適宜紹介する。		
教材（その他）	プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 Twitter が利用できるスマートフォン･ケータイ等の準備が望ましい。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。		
評価方法	授業内提出物及び小テストほか(45%)、レポート(25%)、定期試験(30%)で評価する。		
到達目標	情報システム、中でもネットワークシステムにおけるセキュリティについて理解を深め、実際に適用行動をとることが出来る知識を身につける。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 授業終了時に次回のテーマや範囲について告知するので、事前にテキストを読んで、専門用語の確認などを行っておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。		
受講者への要望			
講義と講義に基づいた実践のための考察を多く取り入れているため、遅刻、欠席すると理解が困難になるので、注意されたい。			
講義の順序とポイント			

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．受講ガイダンス、IT(情報技術)に潜む危険
2．企業における情報セキュリティの対象
3．情報セキュリティを取り巻く状況
4．情報漏えいの防止
5．インターネットの安全を図る(1)
6．インターネットの安全を図る(2)
7．電子メールの安全を図る技術
8．暗号化とデジタル署名
9．情報資産のライフサイクルマネジメント
10. 情報セキュリティマネジメントシステム
11. 個人情報保護
12. 事業継続管理
13. リスクマネジメントシステム
14. 情報セキュリティリテラシの強化
15. 情報セキュリティの展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	T30252A01
科目名	情報ネットワーク論Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Information Network Communi ty I		
担当者名	天野　秀治	旧科目名称	
講義概要	インターネットや携帯端末の技術革新、並びに急速な普及により大量の情報を多様な媒体で自由に得ることができる社会が形成されたため、人々の生活様式にも変化がもたらされている。そのため企業活動や様々な分野でさらなる応用が期待されている。反面ネット犯罪は多様化を極め、犯罪に巻き込まれないための法令遵守や情報倫理に関する知識が必要な社会環境となっている。本講義では社会におけるネットワークの利便性や重要性を認識し、その役割、安全性、危機管理などに活かすことができるスキルを身につけることを目的としている。「Ⅰ」ではネットワークに係る基本的な知識の習得に重点をおいている。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。PowerPoint を活用する。		
教材（参考文献）	岸川典昭, 中村雅章, 『現代経営とネットワーク』, 同文舘出版, 2009 村嶋修一, 『ベテランが丁寧に教えてくれるネットワークの知識と実務』, 翔泳社, 2007 Gene, 『ネットワーク構築の基礎』, 毎日コミュニケーションズ, 2009 福崎稔,守屋政平他, 『情報化時代の基礎知識』, 弓箭書院, 2014		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（受講態度、授業への貢献度、取組姿勢・30%）、講義内レポート（20%）、最終レポート（50%）		
到達目標	・ネットワークの仕組みや活用方法に関する基本的な知識を体系的に修得する。 ・情報化の光と影について理解し、危険に対する抑止力を身につける。 ・通信トラブルへの対応に関するノウハウを身につける。 ・実社会の職場における情報ネットワークスキルの重要性、有意性を理解する。 ・今後のネットワーク活用の方向性を理解する。		
準備学習	講義終了時に次回のテーマを示すので予習しておくこと。		

受講者への要望

ほぼ全ての学生が日頃からインターネットを使用していると思われるが、ビジネスで使うとなると相応のスキルが求められる。また、利便性の反面、危険性や注意すべき事項が多数存在することも常に認識しておく必要がある。本講義を通じ、社会で役立つネットワークスキルを修得すると同時に、ネット犯罪に巻き込まれないための情報倫理を体得することを目指してもらいたい。企業および政治・地方自治における現場経験者として講義を行うので、実社会で役立つ知識を身につけることを期待する。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス、情報ネットワークとは
2. ネットワーク技術の歴史
3. ネットワーク機器、身近なネットワーク
4. インターネット通信の基礎
5. WWW（ホームページ閲覧)、DNS（アドレス解決)、メールの仕組み
6. 企業内ネットワーク
7. 無線 LAN、VLAN（仮想 LAN）の仕組みと事例
8. ネットワークのトラブルシューティング
9. ネットワークセキュリティ
10. ネット犯罪に巻き込まれないための法令遵守と情報倫理
11. コンピューターウイルス
12. 知的所有権、著作権
13. ネットビジネス
14. 企業活動現場で必要な情報ネットワークに関するスキル
15. これからの情報ネットワーク

最終レポート

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★	

年度	2015	授業コード	T30252B01
科目名	情報ネットワーク論II 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Information Network Communi ty II		
担当者名	天野　秀治	旧科目名称	
講義概要	情報技術の急激な進歩により社会全体の情報化やネットワーク化が進み、仕事の仕組みや人々の生活様式にも劇的な変革が生じている。情報ネットワークのもたらす恩恵は企業のみならず行政サイドにも生じており、その仕組みや技術革新の状況を知ることにより、私たちの生活にもたらす利便性を最高の水準に高めることができる。反面、こうした技術革新には光と影の部分があり、近年発生しているネット犯罪から身を守る抑止力を体得することも肝要である。本講義では、情報ネットワークの応用編として社会の中でネットワークがどのように活用され寄与しているのかについて理解を深め、現実社会における変革の動向や可能性、さらに問題点を考えることによりネット社会への対応力を高めることに重点をおいている。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。PowerPoint を活用する。		
教材（参考文献）	蒲生毅, 『第 4 次情報革命と新しいネット社会』, コモンズ, 2014 村嶋修一, 『ベテランが丁寧に教えてくれるネットワークの知識と実務』, 翔泳社, 2007 Gene, 『ネットワーク構築の基礎』, 毎日コミュニケーションズ, 2009 福崎稔,守屋政平他, 『情報化時代の基礎知識』, 弓箭書院, 2014		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（受講態度、授業への貢献度、取組姿勢・30%）、講義内レポート（20%）、最終レポート（50%）		
到達目標	・国内外の情報化やネットワーク事情について理解を深める。 ・企業活動や行政における情報化についての知識を高める。 ・情報化の光と影について理解し、危険に対する抑止力を身につける。 ・実社会の職場における情報ネットワークスキルの重要性、有意性を理解する。 ・今後のネットワーク活用の方向性を理解する。		
準備学習	講義終了時に次回のテーマを示すので予習しておくこと。		

受講者への要望

インターネットの本質や将来性を理解しておくことは今後の社会生活において有用であることは間違いない。既にインターネットを日常的に利活用している学生においても表面的な使用法だけでなく仕組みや将来展望を理解することにより、より有用性を増すことができる。よって積極的に情報ネットワークに興味をもって学習に取り組むことを希望する。また情報化には光と影があるので、自ら犯罪抑止力を身につけてもらいたい。企業および政治・地方自治における現場経験者として講義を行うので、実社会で役立つ知識を身につけることを期待する。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス、現代の情報ネットワーク
2. コンピューターとネットワークの技術的進歩
3. ネットワーク社会の推移
4. ネットワークとビジネス
5. ネットワークと政治
6. 行政分野における情報ネットワークの歴史と発展
7. ネットワークの進化とグローバル経済への影響
8. 諸外国の IT 事情
9. 日本の IT 戦略と地域の情報化
10. グループ研究 I（調査）
11. グループ研究II（企画・立案）
12. グループ研究III（計画）
13. グループ発表
14. 企業活動現場で必要な情報ネットワークに関するスキル
15. これからの情報ネットワーク

最終レポート

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★	★	★	

年度	2015	授業コード	T30256A01
科目名	情報科学Ｉ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Science I		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	コンピュータを使って問題を解くときには、具体的なものを抽象化した上で、論理を追って考え、それを明確な形で表さなければならない。この問題の解法をアルゴリズムという。アルゴリズムは、すべてのプログラミング言語の中心的な概念を取り扱っている流れ図言語で表現される。流れ図言語を理解すれば、ＦＯＲＴＲＡＮ、C、Ｊａｖａ、Ruby などの言語を容易に学ぶことができる。この講義では、まず流れ図言語について学び、続いてこの流れ図言語を用いて、種々の問題に対してのアルゴリズムの作成法について考察する。また、それぞれの問題に対して、パソコンを用いて Ruby のプログラムを作成し、実行を行ってもらう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	A.I.フォーサイス他著、浦昭二訳『改訂コンピュータサイエンス入門Ｉ』培風館		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内レポート（60%）　定期試験（40%）		
到達目標	情報処理の知識についての理解を深め、アルゴリズムを学ぶことにより論理的思考を身につけることを目標とする。		
準備学習	講義終了後、次回の講義の資料を京学なびにアップロードするので、復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
授業内において、適宜、練習問題を説いて、レポートとして提出する事が要求される。			
講義の順序とポイント			
1．アルゴリズムとは何か 2．アルゴリズムと流れ図 3．数のアルゴリズム 4．変数 5．入力と出力 6．浮動小数点表示 7．基本的な流れ図 8．カウンタと見張り役 9．部分文字列の探索 10．算術式 11．まるめ 12．最大値を求めるアルゴリズム 1 13．最大値を求めるアルゴリズム 2 14．集計のアルゴリズム 15．総括（アルゴリズムとプログラム） 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		★★

年度	2015	授業コード	T30256B01
科目名	情報科学Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Science Ⅱ		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	コンピュータを使って問題を解くときには、具体的なものを抽象化した上で、論理を追って考え、それを明確な形で表さなければならない。この問題の解法をアルゴリズムという。アルゴリズムは、すべてのプログラミング言語の中心的な概念を取り扱っている流れ図言語で表現される。流れ図言語を理解すれば、ＦＯＲＴＲＡＮ、C、Ｊａｖａ、Ruby などの言語を容易に学ぶことができる。この講義では、まず流れ図言語について学び、続いてこの流れ図言語を用いて、種々の問題に対してのアルゴリズムの作成法について考察する。また、それぞれの問題に対して、パソコンを用いて Ruby のプログラムを作成し、実行を行ってもらう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	A.I.フォーサイス他著、浦昭二訳『改訂コンピュータサイエンス入門Ｉ』培風館		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内レポート（60%）　定期試験（40%）		
到達目標	情報処理の知識についての理解を深め、アルゴリズムを学ぶことにより論理的思考を身につけることを目標とする。		
準備学習	講義終了後、次回の講義資料を京学なびにアップロードするので、復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
授業内において、適宜、練習問題を説いて、レポートとして提出する事が要求される。			
講義の順序とポイント			
1．ユークリッドのアルゴリズム１ 2．ユークリッドのアルゴリズム２ 3．平方根のアルゴリズム 4．多重判断の簡潔な表現 5．一次元配列１ 6．一次元配列２ 7．整列のアルゴリズム１ 8．整列のアルゴリズム２ 9．整列のアルゴリズム３ 10．ループ構造 11．探索のアルゴリズム 12．二次元配列１ 13．二次元配列２ 14．段階的分解 15．総括（アルゴリズムとプログラム） 定期試験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★		★★

年度	2015	授業コード	T30260A01
科目名	情報管理論Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management I		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。 Twitter が利用できるケータイ・スマホ等を用意することが望ましい。(無線 LAN 環境は大学が用意)		
評価方法	授業内提出物及び小テストほか(45%)、レポート(20%)、定期試験(35%)で評価する。		
到達目標	今日の企業における情報管理の重要性について理解し、経営体における科学的な意思決定について理解し、みずから考察できるようになる。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 授業終了時に次回のテーマや範囲について告知するので、事前にテキストを読んで、専門用語の確認などを行っておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。		
受講者への要望			
経営、情報に関する諸科目をより多く受講しておいていただきたい。			
講義の順序とポイント			

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．受講ガイダンス
2．情報化技術の理解
3．経営戦略の理解
4．情報化戦略の立案
5．反転学習
6．情報の収集
7．情報の整理 I
8. 情報の整理 II
9. 情報の加工
10. 情報の表現
11. 反転学習
12. パソコンソフトの活用 I
13. パソコンソフトの活用 II
14. 関連法規の理解
15. 理論的側面の課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	T30260A02
科目名	情報管理論Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management I		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。 Twitter が利用できるケータイ・スマホ等を用意することが望ましい。(無線 LAN 環境は大学が用意)		
評価方法	授業内提出物及び小テストほか(45%)、レポート(20%)、定期試験(35%)で評価する。		
到達目標	今日の企業における情報管理の重要性について理解し、経営体における科学的な意思決定について理解し、みずから考察できるようになる。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 授業終了時に次回のテーマや範囲について告知するので、事前にテキストを読んで、専門用語の確認などを行っておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。		
受講者への要望			
経営、情報に関する諸科目をより多く受講しておいていただきたい。			
講義の順序とポイント			
講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。 1．受講ガイダンス 2．情報化技術の理解 3．経営戦略の理解 4．情報化戦略の立案 5．反転学習 6．情報の収集 7．情報の整理 I 8．情報の整理 II 9．情報の加工 10．情報の表現 11．反転学習 12．パソコンソフトの活用 I 13．パソコンソフトの活用 II 14．関連法規の理解 15．理論的側面の課題と展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	T30260B01
科目名	情報管理論Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management Ⅱ		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。 Twitter が利用できるケータイ・スマホ等の準備が望ましい。(無線 LAN 環境は大学が用意)		
評価方法	授業内提出物及びテストほか(45%)、レポート(20%)、定期試験(35%)で評価する。		
到達目標	今日の企業における情報管理の重要性について理解し、経営体における科学的な意思決定について理解し、みずから考察できるようになる。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。		

受講者への要望

経営、情報に関する諸科目をより多く受講しておいていただきたい。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．受講ガイダンス
2．情報システムの種類
3．IT ソリューションの調達方法
4．IT ソリューションの活用
5．反転学習
6．システム化計画の立案
7．システム要求の分析と要件定義 I
8．システム要求の分析と要件定義 II
9．システム開発におけるその他の業務
10．システムの運用
11．反転学習
12．情報セキュリティ I
13．情報セキュリティ II
14．情報システム導入の失敗の原因
15．システム面からの課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	T30260B02
科目名	情報管理論Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management Ⅱ		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。 Twitter が利用できるケータイ・スマホ等の準備が望ましい。(無線 LAN 環境は大学が用意)		
評価方法	授業内提出物及びテストほか(45%)、レポート(20%)、定期試験(35%)で評価する。		
到達目標	今日の企業における情報管理の重要性について理解し、経営体における科学的な意思決定について理解し、みずから考察できるようになる。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。		

受講者への要望

経営、情報に関する諸科目をより多く受講しておいていただきたい。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．受講ガイダンス
2．情報システムの種類
3．IT ソリューションの調達方法
4．IT ソリューションの活用
5．反転学習
6．システム化計画の立案
7．システム要求の分析と要件定義 I
8．システム要求の分析と要件定義 II
9．システム開発におけるその他の業務
10．システムの運用
11．反転学習
12．情報セキュリティ I
13．情報セキュリティ II
14．情報システム導入の失敗の原因
15．システム面からの課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★

年度	2015	授業コード	T30270001
科目名	人的資源管理論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Resources Management		
担当者名	楠奥　繁則	旧科目名称	
講義概要	企業の労働力を他の経営資源と同じく価値を創造するという見方に立った人材マネジメントのことを「人的資源管理」という。 ところで、今日、わが国ではメンタルヘルスに問題を抱えている労働者が増加傾向にあることが大きな問題となっています。言い換えますと、多くの組織が、人的資源管理をうまく行えていないということになるのではないでしょうか。では、なぜ、その管理がうまく行えていないのでしょうか？そこで、本講義では組織と個人の視点から、組織や、マネジメントに関する理論などを基に、その原因を考えていきます。そして、その問題を解決するための仮説についても考えていきます。 卒業後、君たちのほとんどがどこかの組織に所属することになるでしょう。その組織で君たちが充実したキャリアを歩むためにも、是非、この講義を受講してもらいたいと思います。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	労働政策研究・研修機構(2012)職場におけるメンタルヘルス対策に関する調査 <http://www.jil.go.jp/institute/research/2012/documents/0100.pdf>.		
教材（その他）	配布資料などに基づいて授業を行います。		
評価方法	試験(100%) ※出席回数が 9 回以下の場合、試験を受けることはできません。		
到達目標	理論などの高度専門知識を用いて、仮説を導けるようになることを到達目標とします。そんなに難しいことではございません。しっかりと、説明しますので、御心配なく！		
準備学習	授業で学んだ理論などの高度専門知識と、みなさん自身の経験(例えば、サークルやアルバイトの経験)や、身の周りの出来事、あるいは、社会問題などとを関連させて考えるようにしてほしいです。なお、講義でもその指導はいたします。		

受講者への要望

最高の授業というのは，残念ながら授業者 1 人で作り上げることはできません。それを作るには，受講学生のみなさんの協働が必要です。授業者である私は，全ての受講学生が経営学に夢中になれるよう，懸命に努力します。ですから，受講学生の皆さんにお願いしたい。“経営学を楽しむ努力をしてほしい”（経営学を楽しむコツについては，みなさんに毎授業，語っていくつもりです)。君たちの協働が得られたとき，私たちは経営学の世界に夢中になるであろう。

講義の順序とポイント

1. 科学するとは？:大学での学びを楽しむ方法について
2. 問題:わが国の職場におけるメンタルヘルスの問題について
3. 職務ストレスとストレスマネジメントについて①:ストレスとは？ストレスマネジメントとは？
4. 職務ストレスとストレスマネジメントについて②:セルフ・エフィカシーと SOC の視点からみたストレスマネジメントについて
5. 組織とは？:Barnard 組織論からみた組織について
6. 組織の病理について①:ブラック企業やブラック NPO などについて
7. 組織の病理について②:わが国の自殺研究から組織の病理について考える
8. 労働者のワーク・モチベーションについて①:モチベーション理論の紹介
9. 労働者のワーク・モチベーションについて②:賃金管理、人事評価からのアプローチ
10. 労働者のキャリアと権利について
11. 組織文化とリーダーシップ
12. 事例分析:サウスウエスト航空を分析する
13. 仮説①:個人の視点から、職場におけるメンタルヘルスの対策・解決方法について考える
14. 仮説②:組織の視点から、職場におけるメンタルヘルスの対策・解決方法について考える
15. 今後の課題:仮説を検証する方法について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★★

年度	2015	授業コード	T30282001
科目名	税務会計論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）本講義における税務会計としては、個人企業所得に課される税金(所得税)と法人企業所得に課される税金 (法人税)の双方の計算分野を対象とする。すなわち、所得税法会計と法人税法会計を内容とし、両者の基 礎を学ぶのが本講義の主目的である。そこでは、課税所得を確定したうえで税額が算定されることになる。 （2）このような観点から、本講義においては、所得税法及び法人税法に従って課税所得がどのように計算され るのか、また、それに基づく税額の計算及び申告がどのように行われるのかといった論点を中心に、その 要点を平易に講述する。そこでの内容としては、後述のように、租税制度の概要を確認したうえで、所得 税法・法人税法会計の順に課税所得及び税額の計算システムの概観を解説することにしたい。 （3）なお、所得税に関するケース・スタディとして、架空の家族構成と収入状況を想定し、実際の納税申告書の 作成演習を行い、提出してもらう予定である。その際には、受講生の様子を勘案しながら、税務職員の応援 を要請し、講演および実務面の補助指導をして頂くことも計画している。 （4）また、科目内容の実践的重要性をも考慮して、実務検定として定評のある全国経理学校協会主催の税務 会計能力検定試験の内容に関連するプリント演習も活用したい。		
教材（テキスト）	経理教育研究会 編 『基本税法【平成 27 年版】』 英光社、￥1,000		
教材（参考文献）	中田 信正 著 『税務会計要論【13 訂版】』 同文舘出版 ￥3,600		
教材（その他）	適宜、必要に応じてプリント配布を行う。		
評価方法	原則として、平素の受講状況等(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）税法の概要および税務会計の基礎を理解している。 （2）所得税会計と法人税会計における「課税所得と税額」の計算構造を理解している。 （3）基本的な所得税の確定申告書が作成できる。 （4）法人税申告書「別表４」の構造を理解している。		
準備学習	（1）講義時に指示された次回講義に関連するテキスト部分について、事前に解読し、予習すること。 （2）毎回配布する私製アンケート「Minute Paper」に質問・疑問を記入できるように、予習の段階で疑問点が あればメモをし、講義後に疑問が解けなければアンケートに明記すること。質問内容には、可能な限り 次回の講義時に説明する予定であるので、積極的に質問されたい。 （3）所得税確定申告書の作成演習に際しては、講義者の方で納税者家族のケース設定を行うが、自主的なケース設定も歓迎するので、積極的に講義に参加するように準備すること。 （4）税務職員の講演がある場合は、積極的に質疑応答に参加するように事前準備をすること。 （5）国税庁のホームページへのアクセスを積極的に試み、租税制度の仕組みや申告書の作成など、身近な事例を想定しながら平素より税務への関心を高めるように学習すること。		
受講者への要望			
(1)企業所得の算定に関しては簿記・会計的知識が基礎となるが、そうした基礎知識が充分に無い場合も想定して講義を進める。 (2)実務上は税法無視の経理実践はあり得ず、特に中小企業経理では税務会計が極めて重視されている点に注意して頂きたい。 (3)実学としての税務に興味ある諸君の積極的な履修を希望している。 (4)遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎる場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。			

講義の順序とポイント
講義の主要な論点は以下の通りであるが、必要に応じて変更することもある。 【税務会計の基礎】 （1）講義展開のガイダンスと租税制度の概要 （2）企業会計と税務会計 【所得税会計分野】 （3）所得税の概要 （4）所得の種類とその計算方法 （5）課税標準と所得控除の内容 （6）課税総所得金額と所得税額の計算方法 （7）納税申告書の作成演習 【法人税会計分野】 （8）法人税の概要 （9）所得金額の計算 （10）「益金の額」の計算 （11）「損金の額」の計算① （12）「損金の額」の計算② （13）「損金の額」の計算③ （14）法人税額の計算と申告・納税 （15）事業所得および法人所得の計算演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T30401A01
科目名	中小企業経営論Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Small & Medium Business Management I		
担当者名	大田 住吉	旧科目名称	
講義概要	・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 ① 実際のビジネス現場で起きるケーススタディ（事例研究）について学ぶ「ビジネス・スクール形式」。 ② グループ討議、プレゼン、質疑応答などを繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学ぶ。 ③ 定員 30 名程度の少人数グループ討議形式。 ・学習テーマは、以下のとおりです。 (a) 中小企業のビジネス現場において、小売業、卸売業、製造業、それぞれのビジネスに必要なマーケティン グ戦略とは何か？ (b) なぜ、中小企業のマーケティング戦略を学ぶことが必要なのか？ (c) 中小企業のマーケティング戦略とは、大企業の戦略と具体的に何が違うのか？ (d) 中小企業経営におけるマーケティング戦略が、企業業績にどう結び付くのか？		
教材（テキスト）	・すべて担当教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用します。		
教材（参考文献）	・必要に応じ、参考文献などを紹介します。		
教材（その他）	・必要に応じ、解答例、参考資料などを配布します。 ・なお、授業には、計算問題があります。電卓（一般的なもので可）を必ず持参下さい。		
評価方法	①グループ討議への参加意欲・発言内容（40%）、 ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力（30%）、 ③プレゼン力および質疑応答対応力（30%） による総合評価		
到達目標	・実社会で「戦力」として通用するビジネス・リーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・中小企業におけるビジネス・マーケティング戦略について分析し、判断し、表現する、実践的な能力を身につけ ることを期待します。		
準備学習	＜予習＞ ・授業で配布するオリジナルテキストは、事前に熟読しておいて下さい。 ・業界事情、専門用語などについては、自分で調べ、理解して下さい。 ＜復習＞ ・授業の最後には、必ず 5～10 分の「本日のポイント」の講義があります。その内容について、しっかり復習し、 自分の「武器」として使えるようにしておいて下さい。 ・授業の中で、他のグループメンバーの意見等で参考になると感じたものは、その内容をしっかり復習して下さ い。		

受講者への要望

・29 年間の民間企業でのビジネス経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！
・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　～この授業で何を学ぶのか？、中小企業のためのマーケティング戦略とは、何か？～

2～5　【ビジネス事例Ⅰ】　「老舗酒店は生き残れるのか？」（酒小売業Ｈ社の事例）
＜テーマ＞　全国大手のライバル店進出に対抗し、生き残るための小売業のマーケティング戦略とは戦略とは？
＜ポイント＞　ＳＷＯＴ分析、クロスＳＷＯＴ戦略、商圏強度分析ほか

6～9　【ビジネス事例Ⅱ】　「流れに棹差す」（食品卸売商社Ｊ社の事例）
＜テーマ＞　大企業との競合の中で、市場を勝ち抜くための卸売業のマーケティング戦略とは？
＜ポイント＞　卸売業の存在意義、品揃え、店舗レイアウト、客動線、貢献度分析ほか

１０～１５　【ビジネス事例Ⅲ】「マーケティング戦略って、何だろう？」（水産加工食品製造業Ｋ社の事例）

＜テーマ＞　下請けから脱却し、奮闘し、成長する製造業のマーケティング戦略とは？

＜ポイント＞　法人販売と個人販売、流通チャネル戦略、卸小売業と製造業とのマーケティング戦略の違いほか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T30410A01
科目名	日本経営史Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Business History I		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	江戸時代より明治時代に至る企業経営の近代化過程について概説する。 江戸時代商家経営の特質を指摘し、明治時代の会社制度の導入定着と実業家層の成長を講義する。		
教材（テキスト）	なし。毎回資料を配付する。		
教材（参考文献）	講義の中でその都度紹介し、必要な文献は配付資料に記載する。		
教材（その他）	次の書籍を薦める。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実『日本経営史』新版、有斐閣 宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』有斐閣		
評価方法	定期試験を中心とするが、レポートなどを加味して、総合的に評価する。		
到達目標	経営学・経営史の基礎的知識を習得し、現代の問題を長期的・歴史的な視点から考えることができる。		
準備学習	講義終了時に次回講義のテーマをお知らせするので予習をしておくこと。これに関連した小レポート実施する。		
受講者への要望			
おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をとること。 日本の経済・経営発展に対する興味をもつことを勧め、歴史の連続と断絶を問いかけたい。			
講義の順序とポイント			
1.日本経営史の課題 2.江戸時代の経済発展 3.豪商の企業者活動 4.商家の企業形態(上方商人・三井家) 5.近江商人の企業者活動 6.明治維新改革と近代経営の形成 7.三菱の創立と多角化(岩崎弥太郎・弥之助) 8.渋沢栄一の合本主義と産業化の促進 9.銀行業の生成と発展（国立銀行の発足と普通銀行への過程） 10.会社制度の導入と発展(多角的出資と重役兼任) 11.近江商人の企業者活動と滋賀県企業家 12.明治維新と三井家の家政改革 13.財閥の形成過程 14.経済団体の形成 15.現代の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	T30410B01
科目名	日本経営史Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Business History Ⅱ		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	大正期より昭和戦後期に至る企業経営の発展過程を概説する。 第一次大戦期の企業成長と戦後不況期の企業経営の困難、さらに第二次大戦後の日本型企業経営の構築について講義する。		
教材（テキスト）	なし。毎回資料を配付する。		
教材（参考文献）	講義の中でその都度紹介し、必要なものは配付資料に記載する。		
教材（その他）	次の書籍を薦める。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実『日本経営史』新版、有斐閣 宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』有斐閣		
評価方法	定期試験を中心とするが、レポートなどを加味して、総合的に評価する。		
到達目標	経営学・経営史の基礎的知識を習得し、現代の問題を長期的・歴史的な視点から考えることができる。		
準備学習	講義終了時に次回講義のテーマをお知らせするので予習をしておくこと。これに関連した小レポートを実施する。		
受講者への要望			
おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をとること。 日本の経済・経営発展に対する興味をもつことを勧め、歴史の連続と断絶を問いかけたい。			
講義の順序とポイント			
1.日本経営史の課題 2.近代産業企業の誕生と専門経営者の成長 3.大企業時代の到来と企業間関係の変化 4.財閥の巨大化 5.企業金融の構造と展開(間接金融制と株式・社債発行) 6.日本的労務管理の形成（第一次大戦・戦後期の労働問題） 7.大企業の流通政策 8.「商業革命」と流通 9.重化学工業化とコンツェルンの発展 10.戦前から戦後へ、「財界追放」と新経営者の登場 11.企業集団の成立とその機能 12.家電量産・量販体制の形成 13.自動車産業の発展 14.流通の革新と流通企業 15.中間組織と日本型企業			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	T30435001
科目名	簿記原理 【他】	単位数	4
科目名（英語表記）	Theory of Bookkeeping		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	企業の経営活動の記録は複式簿記の技法により行われ、その結果として企業の成績表ともいえる決算書が作成される。企業が日常的にどのような活動を行っているのかを簡潔な事例で知ることは経営学全般の基礎知識となるし、簿記の技法とその背景にある理論を知ることは、会計領域科目のを理解するための基礎として必要不可欠になる。 実務的には、ほとんどの会計事務はコンピュータ処理されているであろうが、インプットするのは人間の手であり、アウトプットされた会計資料を読み解くのは人間の頭によらざるを得ない。複式簿記に関する技法と理論を理解しておくことが求められるのである。 このような観点から、本講義では、簿記をはじめて学ぶ者を対象として分かり易い解説を行い、複式簿記の基礎的知識と記帳技法の効率的な修得を図ることにその目的がおかれている。 なお、簿記検定に挑戦しようと思う学生は 2 月に実施される日商簿記検定を目標にしてほしいが、授業では対応できないいくつかの応用問題を各自で挑戦し、解法を理解しておく必要がある。また 11 月の検定に挑戦しようと思うものは、キャリアサポートセンターが提供している課外講座の活用も有効である。		
教材（テキスト）	渡部 裕亘・片山 覚・北村 敬子編著『新検定簿記講義／３級商業簿記』中央経済社		
教材（参考文献）	渡部 裕亘・片山 覚・北村 敬子編著『新検定簿記ワークブック／３級商業簿記』中央経済社		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する予定です		
評価方法	定期試験(70%)、授業内小テスト(30%)		
到達目標	商業簿記における各種取引の内容を理解し、仕訳と転記ができる 決算の意義を理解し、適切に決算整理事項の処理ができる 簿記の一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している		
準備学習	講義で指示された教科書のページに事前に目を通しておくこと 講義で指示された課題を解いてきて，次回の講義の開始時に提出すること 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は，講義終了後、あるいは次回の講義までに担当教員に質問すること		

受講者への要望

簿記の習得には日々の積み重ねが最善の方法であり、毎回の講義に積極的に参加し、その日のうちに理解しておくことが何よりも大事である。自分の理解度を確認するためにも日商簿記検定にも挑戦してほしい。

講義の順序とポイント

1 簿記の基本原理(1)：貸借対照表と損益計算書
2 簿記の基本原理(2)：取引と仕訳
3 簿記の基本原理(3)：勘定転記
4 簿記の基本原理(4)：試算表と精算表
5 簿記の基本原理(5)：決算処理
6 現金処理の記帳(1)：現金と当座預金
7 現金処理の記帳(2)：現金過不足、インプレスト・システム
8 商品売買の記帳(1)：分記法と三分法
9 商品売買の記帳(2)：三分法による決算整理
10 商品売買の記帳(3)：仕入帳、売上帳、商品有高帳
11 商品売買の記帳(4)：売掛金、買掛金と貸倒れ
12 手形の記帳(1)：約束手形と為替手形
13 手形の記帳(2)：裏書と割引
14 有価証券の取得と売却
15 その他の債権債務(1)：前受金と前払金
16 その他の債権債務(2)：未収金と未払金
17 その他の債権債務(3)：借入金、貸付金、立替金、預り金
18 その他の債権債務(4)：仮払金と仮受金
19 固定資産の取得と減価償却

20 固定資産の売却
21 営業費の記帳
22 資本金の処理
23 税金の処理
24 決算整理(1)：商品売買益、減価償却、貸倒の見積もり
25 決算整理(2)：費用の見越し･繰り延べ(1)
26 決算整理(3)：費用の見越し･繰り延べ(2)
27 決算整理(4)：8 桁精算表
28 決算整理(5)：8 桁精算表(2)
29 財務諸表の作成
30 総合復習：簿記の機能と学習する意義

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	T30459001
科目名	財務管理論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Management		
担当者名	中園　宏幸	旧科目名称	
講義概要	本講義では、①個人投資家が投資にかかわる意思決定をどのように行うのか、②企業は資金調達をどのように行うのか、③企業は資金をどのように活用するのかにかかわる諸問題を取り扱う。本講義では、基礎的な考え方や理論を理解してもらうために、多様なケース教材を用いる。		
教材（テキスト）	砂川伸幸（2004）『コーポレート・ファイナンス入門（日経文庫）』日本経済新聞社		
教材（参考文献）	講義中に適宜紹介します。		
教材（その他）	講義はスライド資料を活用します。		
評価方法	講義内小レポート等による平常点（20%）。レポート（80%）。		
到達目標	財務管理論にかかわる基礎的な考え方と理論を理解すること。企業経営に財務管理がどのような意味を持つのか理解する。経営戦略を財務管理の視点から評価できるようになること。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲を指定するので、テキストを活用して予習すること。また、講義で解説した内容を踏まえたうえで、適当な事例を探しておくこと。		

受講者への要望

テキストを用意すること。飲料の持ち込みは許可するが、食事は厳禁とする。遅刻や私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退室を求める可能性がある。数学の基礎的な知識があることが望ましい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション: 講義の進め方、財務管理とは何か、数学の復習
2. 金融市場における企業と投資家: 投資家の意思決定
3. 行動ファイナンスの基礎
4. 投資家のポートフォリオ
5. 企業の資金調達と負債の意義
6. 資本コストと資本構成
7. 内部事業投資プロジェクトの評価①
8. 内部事業投資プロジェクトの評価②
9. 外部投資プロジェクトの評価
10. 企業の買収と合併
11. 企業価値の評価①: 財務分析
12. 企業価値の評価②: 無形資産の評価
13. 企業価値の評価③: 経営戦略と利益モデル
14. 経営戦略と財務管理
15. 企業の利益還元と配当政策

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2015	授業コード	T30460001
科目名	財務諸表論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Accounting		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	現在ほど、企業経営における会計の役割と影響が注目されている時代はない。さまざまな利害関係者と関わりながら活動している企業は、ある時点の財政状態と一定期間の経営成績を財務諸表にまとめ、報告することが要請されている。本講義は、財務諸表の作成が要請される背景や作成原理、表示方法を理解することを目標にする。 企業を取り巻く経済環境の変化に伴う会計の最新の潮流を紹介しながら、種々の企業活動がどのように会計情報に反映されているか紹介していく。 また時に、簿記１、２級レベルの練習問題にも取り組んでいく予定である。		
教材（テキスト）	桜井久勝・須田一幸著　『財務会計･入門　改訂中（3 月上旬出来予定)』　有斐閣		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する予定です		
評価方法	授業内レポート(40 点)、授業内テスト(60 点)		
到達目標	財務会計の意義と機能について理解している。 会計情報の開示制度を理解している。 財務諸表の意義･特徴を理解している。 会計が企業経営に与える影響について理解している。		
準備学習	講義終了時に次回の内容を明示するので、教科書の指定された部分を熟読しておくこと。		
受講者への要望			
簿記原理を履修済みか、日商簿記３級の合格者であることが望ましい。 受講生は積極的に講義に参加すること			
講義の順序とポイント			
1.会計を学ぶ意義 2.会計と企業経営の関わり 3.日本の会計制度 4.財務会計のシステムと複式簿記 5.会計基準と会計原則 6.貸借対照表の内容 7.損益計算書の内容 8.キャッシュ･フロー計算書の内容 9.その他のディスクロージャー 10.企業集団と連結会計 11.企業の設立・資金調達と会計 12.仕入・生産活動と会計 13.販売活動と会計 14.会計の国際化 15.総括：改めて会計とは何か			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	T30464001
科目名	野球ビジネス論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Baseball Business Theory		
担当者名	堀込　孝二	旧科目名称	
講義概要	机上の空論ではなく実際に起こったことをテキストを中心に講義を進める。 さらに四国アイランドリーグ plus という独立リーグでの現場も知ってもらい実際に役立つ知識やスキルを身に付けることを目標とする。 正解を求めるというよりも論理的に物事を考え、自分の意思を伝えるというコミュニケーション能力の向上も求める。		
教材（テキスト）	藤井純一著「監督・選手が変わってもなぜ強い? 北海道日本ハムファイターズのチーム戦略」光文社新書		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	受講態度と取組姿勢、授業内レポートにより評価を行なう。		
到達目標	プロスポーツビジネスの現場を知る。 問題解決能力を身に付ける。 自分の考えを論理的に伝える能力を身に付ける。 企画書作成ノウハウを学習する。		
準備学習	プロ野球(NPB）における基礎知識（システムや成り立ちなど）を最低限学習しておくこと。 教材は一通り目を通しておくこと。疑問点があれば講義内で質問し解決すること。		

受講者への要望

自主的、積極的に講義に出席、レポートを提出するよう心掛けてください。
講義内で私語が過ぎれば他者への迷惑を勘案し退出を求める。
様々な情報を集めることを推進、その中で自らのアイデアをねん出することを求める。
ビジネススキルを身に付けるため、根気よく作業に取り組むよう期待する。

講義の順序とポイント

1.はじめに（ガイダンス）
2.スポーツビジネスとは何か
3.フロントはファンを見よ
4.試合収入
5.ホスピタリティ
6.放映権収入
7.スポンサー収入
8.グループワーク①（球団編成）
9.グループワーク②（球団編成）
10.マーチャンダインジング収入
11.スポーツビジネスのための IT 戦略
12.地域密着がスポーツビジネスを成功に導く
13.グループワーク③（球団づくり）
14.グループワーク④（球団づくり）
15.まとめ（レポート）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	T30465001
科目名	サッカービジネス論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Soccer Business Theory		
担当者名	柳　久恒	旧科目名称	
講義概要	本講義は、スポーツビジネスの中でも特に世界中で人気のあるサッカーに関わるビジネスを題材として授業を展開する。サッカービジネスは、サッカー協会やリーグ、クラブなどの組織だけでなく、それらを取り巻く様々なステークホルダーによって成立している。本講義では、それらの組織や事業の事例を用いて説明する。 本講義の受講生は、それら組織や事業の内容について認識し、課題を発見するとともに、解決するための方法論について思考する。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	エステベ・カルサーダ「SHOW ME THE MPNEY! ビジネスを勝利に導く FC バルセロナのマーケティング実践講座」ソル・メディア、2013、1800 円 広瀬一郎「サッカービジネスの基礎知識」東邦出版、2012、1500 円 ステファン・シマンスキー、アンドリュー・ジンバリスト「サッカーで燃える国　野球で儲ける国―スポーツ文化の経済史」ダイヤモンド社、2006、1,800 円 武藤泰明「プロスポーツクラブのマネジメント　第 2 版」東洋経済新報社、2013、3,800 円		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業内レポート（50%）、小テスト（50%）		
到達目標	・サッカービジネスの内容を説明することができる。 ・サッカービジネスに興味を抱く。		
準備学習	サッカーを「する」「みる」「ささえる」などして消費する。 例）サッカーの「試合（ゲーム）」をスタジアムに足を運んで観戦する。 例）サッカーの「試合（ゲーム）」をテレビ等で観戦する。 例）サッカーの「試合（ゲーム）」でボランティア活動をする。		

受講者への要望

授業の進行や他の受講生の妨げになる言動は慎みましょう。
例えば、正当な理由のない遅刻や途中退室は認めません。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション：講義の目標や進め方について説明し、評価方法を理解する
2. サッカービジネスの諸相：サッカーのビジネスにかかわるリーグやクラブ、イベントなどについて紹介する
3. サッカーイベントのビジネス①：サッカーイベントのビジネスについて解説する
4. サッカーイベントのビジネス②：サッカーイベントのビジネスについて解説する
5. サッカーイベントのビジネス③：サッカーイベントのビジネスについて解説する
6. サッカーリーグのビジネス①：サッカーリーグのビジネスについて解説する
7. サッカーリーグのビジネス②：サッカーリーグのビジネスについて解説する
8. サッカーリーグのビジネス③：サッカーリーグのビジネスについて解説する
9. サッカークラブのビジネス①：サッカークラブのビジネスについて解説する
10. サッカークラブのビジネス②：サッカークラブのビジネスについて解説する
11. サッカークラブのビジネス③：サッカークラブのビジネスについて解説する
12. サッカークラブのビジネス④：サッカークラブのビジネスについて解説する
13. サッカークラブのビジネス⑤：サッカークラブのビジネスについて解説する
14. サッカービジネスの現状と課題①：サッカービジネスの現状と課題について
15. サッカービジネスの現状と課題②：サッカービジネスの現状と課題について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T30466001
科目名	競技スポーツ論（野球） 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Competitive Sports(Baseball)		
担当者名	原田　冨士雄	旧科目名称	
講義概要	野球の基本を理論的に技術的に学び、団体スポーツという観点から人間関係も 重視し、野球を通してスポーツの楽しさを感じる授業を目指すとともに、将来指導者としての資質を高めることを目的とする授業としたい。		
教材（テキスト）	必要時にプリントを用意		
教材（参考文献）	授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	要時にプリントを用意		
評価方法	授業内試験（60 点以上）およびレポート、学習への参加や取組みにより総合的に評価する。		
到達目標	プロスポーツとしての野球から、アマチュアスポーツの野球まで、選手・監督・組織の理解を深める。野球の楽しさを知り、人に伝え、文化としての野球の発展についてのポリシーを持つことができる。 準備学習 他のスポーツと野球はどこが違うのか、グローバルな考え方と地域での野球人口拡大のための定期的で継続的な活動について知るために現場を知る、本を読むなど興味の幅を広げること。		
準備学習	他のスポーツと野球はどこが違うのか、グローバルな考え方と地域での野球人口拡大のための定期的で継続的な活動について知るために現場を知る、本を読むなど興味の幅を広げる。毎回、次の学習のために課題を指示する。		

受講者への要望

遅刻早退はしないこと。礼に始まり、礼に終わるという態度で臨んでください。

講義の順序とポイント

1. " はじめに（オリエンテーション）
　授業概要、方法の説明と同時にどのような授業を目指すのかを、野球を通じて スポーツの楽しさを説明する。（試合観戦）"
2. "野球の組織（野球とは）
　日本の野球界には大別してアマとプロの組織がある。アマの中には社会人・大学・高校の組織があり、更には少年野球もある。これらを判り易く説明し理解してもらう。"
3. 日本の野球と世界の野球
4. "野球のマネージメント 監督の役割　（指導者の行動範囲）
　コーチのあるべき姿を指導者という名のもとに、どのような 形で勝利に結びつけて行くのかを、説明すると共に一緒に学んでいく。"
5. "技能向上コーチング（指導方法）
　育てるというスポーツの中で一番重要なことを、基本論議から指導者に必要なセンス（能力とは）を説明していく。"
6. 野球における指導者のリーダーシップ
7. "一流選手への道
　一流選手になるには一流選手を育てるには 何が必要なのか、その指導方法や巧くなっていく過程を代表選手を例に挙げて説明していく。（イチロー、王、長島、ダルビッシュ）"
8. "育てて勝った名将達
　野球界の名将といわれる方達（数人）の指導理論や共通性を探っていき、 類稀なる能力を考察できるよう説明を行う。"
9. "育てて勝った名将達
　野球界の名将といわれる方達（数人）の指導理論や共通性を探っていき、 類稀なる能力を考察できるよう説明を行う。"
10. "必勝法と必敗法
　どうすれば勝てるのか？なぜ負けるのか？ を 具体的事例を挙げて説明する。"
11. "ミーティングとサイン
　スポーツについて、ミーティングの必要性とサインの重要性を説明する。"
12. "ワンプレーの重さ
　一ツ一ツ のプレーには重みがある。 事例を挙げ、プレーの組合わせが勝利に直結もするし、敗因になることも説明する。"
13. 戦術を説明し、それに対するディスカッションを行う
14. "データの活用と感ピューター
　データ に基づく 第六感の活用はどのようなものか、プレーの確率を例に挙げ説明する。"
15. 硬式野球というジャンルの全体像について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★			★	

年度	2015	授業コード	T30471001
科目名	トレーニング論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Training Theory		
担当者名	渡邊　裕也	旧科目名称	
講義概要	体力トレーニングとは，運動負荷に対する身体的・精神的適応能力の開発過程である。実際のスポーツ現場では，さらに狭義的な行動体力の開発を目的とした，数多くのトレーニングが行われている。最近ではスポーツ現場を越え，一般人にまで，体力トレーニングについての情報はあふれており，さらに新しい理論が加わってきている。 本講義では一般的体力の向上を目指した，体力トレーニングの基礎を学ぶ。体力トレーニングの目的を理解し，体力を総括的にとらえた上で,目的とするパフォーマンス向上のためには、動作様式の特異性などを考慮して、どのような方法をどのように取り入れるかをテーマに，具体例を提示しながら進めていく。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）		
教材（参考文献）	・使える筋肉・使えない筋肉 理論編―筋トレでつけた筋肉は本当に「使えない」のか? 谷本 道哉(著), 石井 直方（監修）ベースボールマガジン社 ・スポーツ科学の教科書――強くなる・うまくなる近道 谷本 道哉（著, 編集), 石井 直方（監修）岩波ジュニア新書 ・究極のトレーニング 最新スポーツ生理学と効率的カラダづくり 石井 直方 講談社		
教材（その他）	必要時にプリントを用意		
評価方法	定期試験（60 点以上）およびレポート、学習態度により総合的に評価する。		
到達目標	身体の機能や特徴に関する知識を踏まえて、トレーニング科学の理解を深めること、さらに、実際のトレーニング状況を想定し、トレーニングメニューを作成する際に必要な基礎的能力を養うことを目的としている。		
準備学習	身体の機能や特徴に関する知識を踏まえて、トレーニング科学の理解を深めて欲しい。 事前に解剖学や運動生理学の基礎的な知識を得ておくこと。		
受講者への要望			
講義と実際の実技を取り入れて行う。指示された日はトレーニングウェアとトレーニングシューズを準備すること。 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに 2　アスリートにとっての体力 3　体力テスト 4　健康と体力 5　体力要素による分類 6　トレーニングの種類 7　トレーニングの進め方 8　健康づくりと運動プログラム 9　パフォーマンスを上げる運動プログラム 10　トレーニング計画とその実際 1 11　トレーニング計画とその実際 2 12　体脂肪量・筋肉量の測定 13　体力テスト 14　試験 15　体力の前後比較			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	T30472001
科目名	競技スポーツ実技（サッカー）　【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Competitive Sports Practice(Soccer)		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	競技スポーツとしてのサッカーで重要なことは、何よりも試合に勝つことであり、そのためには得点をしなければなりませんが、それがサッカーの楽しさです。選手には、パーフェクトスキルを獲得し、状況に応じたプレーを行うことが求められ、ゴールを奪うために攻撃を継続的に行うことが求められます。守備については、ボールを取られたらすばやく奪い返すことや、相手チームのボールをどのように奪い、効果的に攻撃につなげることが出来るかの視点で考えなければなりません。 そこで、この授業では、競技スポーツ論（サッカー）と連携し、サッカー競技における理論の理解（技術・戦術）とスキルの向上を目指します。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技６０％　レポート２０％ 学習態度２０％		
到達目標	この授業では、受講者一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、スキルの向上をはかり、クリエイティブでたくましい選手として、友情や人間関係を深め、アスリートとしての資質向上をはかる。		
準備学習	スポーツを安全に実施できる知識（ウォーム・アップ・クーリングダウン、ケガに対する応急処置）を事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

競技スポーツの目的は、最高のパホーマンスを達成することであり、そのためにはコンディションをよい状態に保つことが必要であり、自己の健康管理を行え、生活することが必要である。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＡ
２．.ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＢ、安全対策（ウォームアップ、クーリングダウン、応急処置）
３．技術と戦術を結ぶ重要な要素（ボールによる・パスしたら動く・周りを観る・ボールを奪いに行く）ミニゲーム①
- ボールリフティング、ドリブル、ボールコントロール、スクリーン&ターン
- インターセプト、ボディーコンタクト、タックル

４．技術と戦術を結ぶ重要な要素（ボールによる・パスしたら動く・周りを観る・ボールを奪いに行く）を理解する。ミニゲーム②
５．技術と戦術を結ぶ重要な要素（ボールによる・パスしたら動く・周りを観る・ボールを奪いに行く）を理解する。ミニゲーム③
６．個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム
- パス、ドリブル、シュート
- スルーパス、壁パス、クロスオーバー、
- ポジショニング、アプローチ、チャレンジ&カバー

７．個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム①
８．個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム②
９．個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム③
１０．個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム④
１１．個人、グループ、チームが、より高度な技術・戦術をゲームで発揮出来るようになる。
- ＭＴＭ、ホーメイション、ゲーム分析

１２．個人、グループ、チームが、より高度な技術・戦術をゲームで発揮出来るようになる。フルコートゲーム①
１３．個人、グループ、チームが、より高度な技術・戦術をゲームで発揮出来るようになる。フルコートゲーム②
１４．個人、グループ、チームが、より高度な技術・戦術をゲームで発揮出来るようになる。フルコートゲーム③
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待		★	★			

年度	2015	授業コード	T30473001
科目名	競技スポーツ実技（野球） 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Competitive Sports Practice(Baseball)		
担当者名	原田　冨士雄	旧科目名称	
講義概要	野球の基本を理論的に技術的に学び、団体スポーツという観点から人間関係も 重視し、野球を通してスポーツの楽しさを感じる授業を目指すとともに、将来指導者としての資質を高めることを目的とする授業としたい。		
教材（テキスト）	必要時にプリントを用意		
教材（参考文献）	授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	必要時にプリントを用意		
評価方法	実技試験（60 点以上）およびレポート、学習態度により総合的に評価する。		
到達目標	野球はライセンスを取得すればマネージャー(監督)やコーチに就けるというものではありません。野球の指導は多種多様な戦術と攻、守に分かれて複雑なゲームを制していく力が求められます。選手の体力、技術、心理が大きくゲームを動かします。授業では、これらをいかにコントロールしていくか、また、これらに俊敏に対応できるプレーヤーをどう育てるかを、自身が様々な経験をし、学ぶ事で指導者への入口が見えるようにします。		
準備学習	野球ルールを徹底的に学習する。そのために、毎回次の授業のために課題を指示します。		

受講者への要望

準備・片づけはグループ単位で輪番制で行います。当番の学生は責務をこなすこと。
遅刻早退はしないこと。礼で始まり、礼で終わる授業を心掛けてください。

講義の順序とポイント

. " はじめに（オリエンテーション）
授業の概要説明と野球 投・攻・守 の練習方法を理解させる。"
2. "硬式野球実技（基本） * 準備運動　　* キャッチボール　　* トスバッティング　　* 守備練習
（投・打・捕の体験） * 打撃練習 （野球を体験して難しさ、楽しさを感じてもらう）"
3. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は守備練習
グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。"
4. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は守備練習
グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。"
5. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は打撃練習
グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。"
6. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は打撃練習
グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。"
7. "実技 （ゲーム形式）
遠投、走力等を計測し、自己の能力の分析を自身が行う事が出来るようにする。"
8. "実技 （ゲーム形式）
遠投、走力等を計測し、自己の能力の分析を自身が行う事が出来るようにする。"
9. "実技 （ゲーム形式）
遠投、走力等を計測し、自己の能力の分析を自身が行う事が出来るようにする。"
10. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
11. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
12. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
13. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
14. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
15. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	T3047400A
科目名	スポーツ実技（水泳・水中運動）【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice (Swim and Exercise in Wa ter)		
担当者名	奥田　千代	旧科目名称	
講義概要	水泳・水中運動については、水の特性・環境を理解し、陸上運動との違いや水中における身体の動かし方を体験しながら生理学的な変化を体感する。 　水中運動を構成する各種運動・動作を実習し、運動プログラムの作成方法を理解し運動プログラムを作成し適切な動きの選択や運動強度変換と指導上の留意点を理解する。また、水と体の衛生及び環境、救急法などの安全対策を理解する。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者養成用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）		
教材（参考文献）	アクアエクササイズ指導理論（公益社団法人　日本フィットネス協会）		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	試験：実技試験２回（評価割合５０％）、授業内筆記試験１回（評価割合２０％）、指導案（評価割合２０％）授業態度（評価割合１０％）これらを総合して評価を行う		
到達目標	健康維持・増進のための運動を実践する必要性を理解し、自ら見本を示す実技能力と、グループ指導に対する知識及び指導技術を習得する。		
準備学習	毎回授業内で指示する。		

受講者への要望

健康運動実践指導者の受験資格認定科目です。原則的に遅刻・早退は認められません。
外部施設を利用するため、他の利用者の方の迷惑にならないように、服装・マナーには気を付けましょう。
授業は講義の場合は教室、実技の場合は現地集合、現地解散になります。
実技では必ず水着、キャップ、ゴーグルが必要です。なお、水着は水泳用の水着を着用すること。

講義の順序とポイント

1.　オリエンテーション
２．水の特性と水中運動の効果
３．水中運動（水中歩行、水泳体験）
４．水中におけるレジスタンス運動と水中ストレッチについて（体験）
５．水中エアロビックダンス（体験）
６．水中における有酸素運動のプログラミング方法
７．水中歩行のプログラミング、水中動作の習得
８．水中歩行のプログラミング、運動強度の変換方法
９．実技テスト（水中歩行指導法）
１０．水中レジスタンスの種類と効果、動作習得
１１．水中レジスタンスのプログラミング、強度変換と指導
１２．水中レジスタンスプログラム指導（器具を利用したプログラム含む）
１３．実技テスト
１４．水中運動およびプールにおける安全管理
１５．水中運動プログラム指導案の作成と提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★		

年度	2015	授業コード	T3047500A
科目名	スポーツ実技(エアロビックスポーツ) 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice(Aerobic Sports)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	スポーツ実技（エアロビックスポーツ）では QOL の向上、健康づくり、介護予防を目的に有酸素運動を楽しさの中で効果的に指導する方法を学び、自らが指導できるように実践力を獲得する。健康運動実践指導者やレクリエーション・インストラクター資格の取得を目指して、運動プログラムと簡単なゲームのノウ・ハウを習得しよう。また、イベントや集会などの「みんなで楽しむ」場面を盛り上げ、演出する能力も磨く。 　将来は地域・非営利組織・企業での活動や業務の一環として、さまざまな場で健康運動実践指導者やレクリエーションで学んだことを実践に生かし、生涯自由時間を創造的にデザインするプログラムの開発・提供、調査・提案を行なえるようキャリアアップしていこう。 先ずは自分の身体を動かすところから始め、自分の身体の変化に気付く事を実習を通じて行って行こう。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団） 資格取得者のみ購入すること。授業内で希望をとる。		
教材（参考文献）	レクリエーション支援の基礎・スポーツと健康の科学		
教材（その他）	体操祭やレクリエーションフェスティバルの記録映像 チラシやパンフレット		
評価方法	試験は、実技試験を 2 回実施する（評価割合 60%）。また、授業内筆記テスト（評価割合 25%）、振り返りメモ（評価割合 20%）、学習態度（評価割合 5%）など、これらの結果を総合して成績評価を行う。		
到達目標	健康運動実践指導者独自の活動範囲及び少子高齢社会に対応した新たな役割は、自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者となるよう知識及び指導スキルを習得することである。 準備学習 事前に有酸素運動についての理論を学習しておくこと。		
準備学習	事前に有酸素運動についての理論を学習しておくこと。毎回、授業で実施したプログラムについて、次の時間は運動の目的や注意点を含め、説明し、キューイングが上手にできるように練習しておいてください。 実技のコーチングができるまでしっかり予習してください。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。この授業は、実践を通して学ぶことが目的である。心拍数を測定し、主観的な運動強度などを実感しながら進めていく。正しい食生活と睡眠に注意して参加すること。			
講義の順序とポイント			
1．ホスピタリティトレーニングの内容と方法・エアロビックスポーツを楽しむために 2．コミュニケーションゲームの体験とエアロビックスポーツ 3．エアロビックダンス初級 4．エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導） 5．エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導）と 対象を想定したレクリエーション支援の実際① 6．中高年者のための健康体操 7．エアロビックダンス中級と対象に合わせたアクティビティの 選択方法とその視点 8．ウォーミングアップの方法と ニュースポーツの展開① 9．ニュースポーツ体験とクーリングダウン 10．アイスブレーキングの実習とスポーツ 11．アイスブレーキングの実習とスポーツ 12．対象者間の相互作用の引き出し方・活用方法 13. アクティビティの指導案の作成 14. 指導実習・プログラム作成と指導案の提出 15. 指導実習・プログラム作成と指導案の提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★		

年度	2015	授業コード	T30477001
科目名	メンタルトレーニング論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Mental Training Theory		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
講義概要	この講義は、運動習慣の確立を含む、生活習慣病予防の望ましい行動変容について理解するとともに、メンタルヘルスのためのストレスマネジメントについて、ストレスアセスメントとその対処方法を理解する。 またスポーツ選手・指導者に必要な心理的スキルを獲得し、実際に活用できるようになることを目的としたメンタルトレーニングの知識・技法をスポーツ心理学の学問的成果に基づいて理解する。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」(健康・体力づくり事業財団)、授業時のスライドを配布資料として用意。		
教材（参考文献）	健康スポーツの心理学　竹中晃二編　大修館書店 スポーツメンタルトレーニング教本　日本スポーツ心理学会編		
教材（その他）			
評価方法	授業時に取り組む課題を 30%、課題に取り組む授業態度を 20%、ポストテストを 50%とする。		
到達目標	運動・スポーツを心理的側面から捉え、健康づくりの運動における行動変容と競技スポーツにおける心理的スキルをさまざまな場面で応用できるように取り組むこと。		
準備学習	毎回の講義で指示する。		

受講者への要望

健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は厳禁。5 分前には着席すること。授業時に示す課題に対し積極的に取組む姿勢(発言・行動)を期待します。

講義の順序とポイント

1 はじめに　オリエンテーション
2 ヘルスプロモーションの現状と課題～運動のベネフィット・疫学研究の成果
3 健康スポーツの心理学：生活習慣病予防と運動の習慣化
4 運動指導の心理的基礎：身体活動を決定する心理的要因
5 行動変容の理論～健康に関する行動変容モデル
6 健康に関する行動変容～ケーススタディ
7 運動と心の健康～運動・スポーツのストレス低減効果とストレスマネジメントの方法
8 運動と心の健康～他者との関わり・コミュニケーション
9 メンタルトレーニング①ピークパフォーマンス
10 メンタルトレーニング②バイフィードバック
11 メンタルトレーニング③リラクセイションとイメージトレーニング
12 メンタルトレーニング④さまざまな技法
13 メンタルトレーニング⑤目標設定の理論と実際
14 あがりとパフォーマンス～情動のコントロール
15 健康と運動心理の応用～自らの実践活動に活かすには

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T3047800A
科目名	トレーニング実習 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Training Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	補強運動の必要性とプログラムへの取り入れ方を理解させる。目的に応じたトレーニングの重要性とその方法、実施上の注意点を実習を通して説明し、指導方法を学ばせる。特に上体起こし、腕立て伏せなどの筋力系と柔軟性、調整力などのトレーニングの実施法を習得させる。アイソメトリックやウェイト、サーキットなどのさまざまなトレーニングの原則・効果・組み立て方などを学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	必要時にプリントを用意。		
評価方法	試験は、実技試験を実施する（評価割合 60%）。また、授業内筆記テスト（評価割合 25%）、トレーニングメニューの作成（評価割合 20%）、学習態度（評価割合 5%）。これらの結果を総合して成績評価を行う。		
到達目標	補強運動の必要性とプログラムへの取り入れ方を理解する。目的に応じたトレーニングの重要性とその方法、実施上の注意点について実習を通して学び、応用できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

トレーニングルームを使用するので、トレーニングウェアとトレーニングシューズを準備してください。また、トレーニング器具の正しい使用法を守り、安全に、大切に扱うこと。
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。

講義の順序とポイント

1．はじめに
2．補強運動の必要性
3．目的に応じた体操
4．トレーニングの特徴
5．ウェイト・トレーニングの原則、効果
6．ウェイト・トレーニングの原則、効果
7．サーキット・トレーニングの原則・効果
8．サーキット・トレーニングの原則・効果
9．トレーニングの期分け
10．ハイパワートレーニング
11．ミドルパワートレーニング
12．ローパワートレーニング
13．実技試験
14．実技試験
15.実技試験の確認と今後の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2015	授業コード	T30481001
科目名	コーチング実習（生涯スポーツ）【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Sport Coaching Practice(Lifelong Sports)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	コーチング実習（生涯スポーツ）の学習目的は各種スポーツの指導者としての指導実践を磨くことと、レクリエーション・インストラクターの資格取得にも役立てることです。特に、「対人関係」のトレーニングとしてレクリエーション理論に基づき学びます。 特に、「ホスピタリティトレーニング」等、相手を思いやるコミュニケーション力、レクリエーション事業を考えていく場合の「企画力」なども授業で身につけたい力です。 次の段階として、希望者は実際の授業に TA(ティーチングアシスタント）として入り、授業をサポートする体験もできます。また、学外での事業参加も資格取得希望者にはたくさんの選択肢があります。 本来のスポーツ・レクリエーション教育は、「楽しさを通して社会が抱える課題に対してアプローチする」という基本コンセプトがあります。例えば、クーベルタンはオリンピックを戦争のない平和な世界の構築のために始め、100 年が経過しました。 まずは、ジェントルマインドを身につけて、挨拶、言葉遣い、時間や約束を守るという、当たり前のことを当たり前にできる社会人としてのキャリアアップをしましょう。(実習や事業参加の交通費などは各自の実費負担です)		
教材（テキスト）	レクリエーション支援の基礎　(財)日本レクリエーション協会 2008		
教材（参考文献）	印刷資料、ＤＶＤ、参考図書などを随時提示します。		
教材（その他）	適宜指示する。		
評価方法	指導案、指導レポート、事業の企画書の作成（５０％） 模擬授業・事業参加(５０％)		
到達目標	自分の得意なスポーツ種目の指導ができるようになる。 レクリエーション・インストラクターとして、さまざまなイベントのサポートができる。		
準備学習	ＴＡをする種目について、歴史、ルール、技術など徹底的に学習する。 レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は、教科書内の知識を事前学習する。 毎回、課題を指示します。事前に指示した課題の準備は確実にこなしてください。わかりやすい説明をするためには、自分で書いて、読んで、修正し、できるだけシンプルな表現を使えるように取り組む。		

受講者への要望

挨拶、言葉遣い、時間や約束を守るという社会的なルールを守り、向上心を持って、常に積極的に取り組むこと。
ＴＡに参加した場合は担当教員と事前に綿密な打ち合わせをした後に指導サポートをすること。学生に対し、次の行動を予測したり、安全配慮をするなど、常によい授業となるように働きかけること。

講義の順序とポイント

授業以外の現場実習だけでなく、授業内での TA 実習なども取り入れます。

1．コーチング実習（生涯スポーツ）オリエンテーション・
　さまざまな対象とアクティビティ・生涯スポーツのＴＡ及びレクリエーションインストラクターの資格についての説明
　ホスピタリティトレーニング①
2．ホスピタリティトレーニング②
3．ニュースポーツ体験（対象を規定したスポーツ・レク支援の体験）
4．アイスブレーキング①
5．　アイスブレーキング②
6．生涯スポーツ指導実習・希望者は事業参加（対象を規定したスポーツ・レク支援の体験）
7．生涯スポーツ指導実習・希望者は事業参加（対象を規定したスポーツ・レク支援の体験）
8．生涯スポーツ指導実習・希望者は事業参加（対象に合わせたアレンジ法）
9．生涯スポーツ指導実習・希望者は事業参加（対象に合わせたアレンジ法）
10．イベントの企画と運営
11．イベントの企画と運営
12．事業参加①（レク楽園・ワークショップの出席）
13．事業参加②（レク楽園の出席）
14．事業参加③（レク楽園の出席）
15．事業参加体験報告会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T30482A01
科目名	スポーツ生理学Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Physiology of Physical Exercise I		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	人間の身体構造（解剖学）と機能（生理学）の基礎を講義する。健康運動実践指導者養成講座のうちの１つ。 なお個々のスポーツ実技に関する実践的な内容は含まない。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示または配布する		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０%）、期末試験（５０%）。		
到達目標	生理学と解剖学の基礎を修得する。		
準備学習	常に健康や運動について関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

１.暗記する項目が多いので、自ら積極的に学習に取り組む意欲が必要である。
２.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
３.教室内は飲食禁止。
４.健康運動実践指導者の受験資格認定科目であるため、遅刻・早退は認めない。

講義の順序とポイント

１.授業ガイダンス
２.骨・骨格について（その１）
３.骨・骨格について（その２）
４.関節、靱帯、腱について
５.筋肉について
６.骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構
７.筋線維タイプと収縮特性
８.筋収縮の様式と筋力、トレーニングと骨格筋
９.身体運動に関係する骨（その１）
１０.身体運動に関係する骨（その２）
１１.身体運動に関係する骨（その３）
１２.身体運動に関係する筋（その１）
１３.身体運動に関係する筋（その２）
１４.身体運動に関係する筋（その３）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	T30482B01
科目名	スポーツ生理学Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Physiology of Physical Exercise Ⅱ		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	人間の身体構造（解剖学）と機能（生理学）の基礎を講義する。健康運動実践指導者養成講座のうちの１つ。 なお個々のスポーツ実技に関する実践的な内容は含まない。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示または配布する		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０%）、期末試験（５０%）。		
到達目標	生理学と解剖学の基礎を修得する。		
準備学習	常に健康や運動について関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

１.暗記する項目が多いので、自ら積極的に学習に取り組む意欲が必要である。
２.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
３.教室内は飲食禁止。
４.健康運動実践指導者の受験資格認定科目であるため、遅刻・早退は認めない。

講義の順序とポイント

１.授業ガイダンス
２.呼吸について
３.呼吸器系の解剖学（その１）
４.呼吸器系の解剖学（その２）
５.呼吸のメカニズム（その１）
６.呼吸のメカニズム（その２）
７.運動と呼吸について（その１）
８.運動と呼吸について（その２）
９.血液循環について
１０.循環器系の解剖学（その１）
１１.循環器系の解剖学（その２）
１２.循環器系の生理学（その１）
１３.循環器系の生理学（その２）
１４.運動と血液循環について
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	T30485A01
科目名	スポーツ医学Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Medicine I		
担当者名	丸中　良典	旧科目名称	
講義概要	本講義は病気のなりたちとその予防・治療をはじめ、環境や生活様式を含む社会と健康とのかかわり等から構成され、個人および集団の健康を守るために必要となる知識、実践活動について概説する。健康の基礎が日々の暮しの中にあり、食生活、運動、勉学、労働等を中心とした生活習慣と環境との長年にわたる相互作用が健康状態に大きな影響を及ぼすことを理解し、各人が積極的な実践活動を通じて、自分に適した健康を獲得するだけでなく，学んだ知識及び指導スキルを、健康増進や介護予防にも十分に生かせるよう課題研究レポートも課す。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）、必要時にプリントを用意。		
教材（参考文献）	授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）			
評価方法	課題解決レポートの評価を 50%、学習態度、ポストテストなどを 50%とする。		
到達目標	健康管理・生活習慣病・救急処置など、生活に密接した医学の知識を子どもたちの発達段階をふまえた健康教育、中高年のメタボリックシンドロームや介護予防にも十分に生かせるよう学ぶことが到達目標である。		
準備学習	毎回の講義で指示する。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は厳禁。5 分前には着席しておいてください。座席指定とします。			
講義の順序とポイント			
1 健康管理と運動の役割（1） 2 健康管理と運動の役割（2） 3 健康管理と運動の役割（3） 4 健康管理と運動の役割（4） 5 健康管理と運動の役割（5） 6 救急処置（一部実技も行なう）（1） 7 救急処置（一部実技も行なう）（2） 8 感染症とその他の疾患 9 スポーツ生理学（1） 10 スポーツ生理学（2） 11 スポーツ生理学（3） 12 生活習慣病（1） 13 生活習慣病（2） 14 生活習慣病（3） 15 生活習慣病（4）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T30485B01
科目名	スポーツ医学Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Medicine Ⅱ		
担当者名	丸中　良典	旧科目名称	
講義概要	スポーツの医学的な意義を理解する。運動処方の基礎や慢性疾患における運動療法の理論と実際なども取り上げることによって疾病予防、治療の一環としてのスポーツ医学の意義についても言及する。運動環境、運動と疾病の関係を医学的に考察する。スポーツに伴う身体環境の変化と疾病への影響、さらにスポーツ外傷・障害の概要等について学習する。また、運動場面で遭遇する、熱中症（熱疲労、熱痙攣、熱射病）過換気症候群、突き指、骨折、捻挫、頭部外傷などの応急処置やテーピングの方法を習得させる。スポーツ傷害の予防等を題材として取り上げるなかで課題研究レポートも課す。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）、必要時にプリントを用意。		
教材（参考文献）	授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）			
評価方法	課題解決レポートの評価を 50%、学習態度、ポストテストなどを 50%とする。		
到達目標	運動開始前・中・後の症状、徴候から運動中止を判定する方法を理解する。スポーツ医学的障害として熱中症、過換気症候群、高山病、整形外科的外傷などでの症状と徴候および予防法を理解する。学校や各種スポーツ活動で教育者、指導者として必要なスポーツ医学の知識を体得することが到達目標である。		
準備学習	毎回の講義で指示する		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は厳禁。5 分前には着席しておいてください。座席指定とします。			
講義の順序とポイント			
1 スポーツ選手の健康管理 2 健康管理のシステム 3 トレーニングの生理学的適応現象 4 トレーニング中の注意事項 5 トレーニングによる病的現象 6 運動障害と予防（1） 7 運動障害と予防（2） 8 運動障害と予防（3） 9 運動障害と予防（4） 10 運動障害と予防（5） 11 運動障害と予防（6） 12 スポーツによる内科的障害とその対策 13 スポーツ選手におこりやすい病気とその予防 14 スポーツによる外科的傷害とその対策 15 発育期に多いケガ・成人で多いケガ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★	★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T30502001
科目名	事業承継論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Study for Business Succession		
担当者名	伊藤　久人	旧科目名称	
講義概要	日本経済を支える中小企業では、近年、経営者の高齢化が進行する一方で、後継者の確保がますます困難になっています。　対策をせずに放置していると、いざ事業承継という時に、相続を巡ってもめ事が起きる、後継者が経営ノウハウを知らない、取引先・従業員の信頼を得られない、といった問題が生じ、最悪の場合、廃業に至ってしまいます。 こうした現状を踏まえ、事業承継の背景、承継すべきもの、特に財産の承継以外に重要なその精神、人材といったものまで検討し、現状の問題点や課題の認識その対応策を、学習としてだけではなく実務面を考慮した面からも検討を行いたい。		
教材（テキスト）	事業承継の実務　中野公認会計士事務所　編（中央経済社 2009）を予定しているが、第 1 回目の講義において指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点(取組姿勢)30 点、期末レポート 70 点		
到達目標	1. 事業承継が問題となる状況を把握し、何が問題となっているのかを認識する。 2. 税制を踏まえたその対策について理解する。 3. 円滑な事業承継のために必要なことを自身で検討する。		
準備学習	講義での配賦資料等の復習を中心にしてください。		
受講者への要望			
日本経済を支える中小企業の事業承継という財産面、経営面及びそのたの問題について興味がある者が望ましい。			
講義の順序とポイント			
1. 事業承継とはなにか 2. 老舗の事業承継の特徴 3. 公開会社の事業承継の特徴 4. 事業承継の手順 5. 事業承継計画とは 6. 事業承継の方法 7. 事業承継の精神 8. 後継者等人材の育成の重要性 9. 財産移転方法（1） 10. 財産移転方法（2） 11. 財産移転方法（3） 12. 相続（1） 13. 相続（2） 14. 遺留分 15. 金融支援策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T40012001
科目名	法哲学Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal Philosophy I		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	法哲学
講義概要	本講義の受講対象になる者は、実定法の基礎的な部分は既に履修した者であることが、予想される。その履修の過程において、「そもそも法律とは何か」という疑問を抱いた者もいるのではないであろうか。本講義は、その問をめぐって共に思考を深めるために展開される。 本講義では、法の目的とされる「正義」についての議論を中心に展開する。法哲学における「正義論」の位置づけ、正義概念の歴史的展開を確認しつつ、これらの正義論と法体系の相互関係（例えば立法精神）、正義論と実定法解釈のあり方にも言及する予定である。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に合わせてその都度紹介する。		
教材（その他）	講義のレジュメを用意する。京学なびに登録するので、事前に各自プリントアウトしておくこと。		
評価方法	授業中に小論文を書いていただく。実施日は事前に講義並びに京学なびで告知する。 この小論文の素点の合計が成績となる。 それぞれの小論文の素点が６割未満だった場合には、再レポートを課す。		
到達目標	法学に関わる問題を媒介として哲学的思考を身につける。 正義論から法律を批判的に考察できるようになる。		
準備学習	講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
安易に結論に飛びつくことなく、あるいは自明性に逃げ込むことなく、じっくり腰を据えて思考するよう心がけてください。			
講義の順序とポイント			

（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。事前連絡（講義時と京学なび）で確認すること。）

１．　初めに
２．　序論　§１　法哲学とは？（法を哲学するとは？）
３．　　§２　法の目的とは？（法が目的とするとされている諸々の事柄と正義の関係）
４．（第１回授業内レポート）
　第１章　古典的正義論　　§３　ソクラテス
５．　　同上
６．　　§４　アリストテレス
７．　　同上
８．　　同上
９．　（第２回授業内レポート）
　第２章　近代的正義論　　§６　カント
１０．　　同上
１１．　　同上
１２．（第３回授業内レポート）
　　§７　Ｊ．Ｓ．ミル
１３．　　同上
１４．（第４回授業内レポート）
　第３章　現代の正義論　　§８　近代的正義論の限界
１５．　　§９　ロールズ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	T40014001
科目名	法社会学Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Law I		
担当者名	沼口　智則	旧科目名称	法社会学
講義概要	春学期は、まず序論として日本・欧米の法社会学の歴史をたどる中から、「法社会学とは何か」という問いへの基礎知識の獲得を行う。次に、各論として裁判をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅳ）・生命をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）・宗教をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）のテーマの下で「法社会学とは何か」と言う問いへの各自の総論的視座の形成をめざす。		
教材（テキスト）	竹下賢・角田猛之編著『改訂版マルチ・リーガル・カルチャー』晃洋書房		
教材（参考文献）	講義の都度紹介していく。		
教材（その他）			
評価方法	学期末試験（80%）、講義の際の小レポート（20%）による総合評価。		
到達目標	裁判・生命・宗教と法との関係をしっかり把握させ、法社会学の学問的意義を自覚させる。		
準備学習	法にかかわる記事は新聞の切り抜きを行い、講義ノートにはりつけていくこと。		
受講者への要望			
現代社会の様々な事件や問題に積極的関心を持って望むこと。			
講義の順序とポイント			
１．開講にあたって　―春・秋の講義全体のアウトライン― ２．法社会学とは何か　Ⅰ　日本の法社会学（１） ３．法社会学とは何か　Ⅱ　欧米の法社会学（１） ４．裁判をめぐる法社会学　Ⅰ　民事裁判・行政裁判・刑事裁判 ５．裁判をめぐる法社会学　Ⅱ　冤罪 ６．裁判をめぐる法社会学　Ⅲ　死刑制度（１） ７．裁判をめぐる法社会学　Ⅳ 死刑制度（２） ８．裁判をめぐる法社会学　Ⅴ　裁判員制度（１） ９．裁判をめぐる法社会学　Ⅵ　裁判員制度（２） １０．生命をめぐる法社会学　Ⅰ　生殖技術と法 １１．生命をめぐる法社会学　Ⅱ　脳死・臓器移植と法 １２．宗教をめぐる法社会学　Ⅲ　安楽死・尊厳死と法 １３．宗教をめぐる法社会学　Ⅰ　政治と宗教と法 １４．宗教をめぐる法社会学　Ⅱ　政教分離 １５．宗教をめぐる法社会学　Ⅲ　愛媛玉串料訴訟最高裁判決の分析			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★		★★	★★

年度	2015	授業コード	T40027001
科目名	消費者法 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Consumer Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	世の中ではさまざまな消費者問題が起こっている。まずは、どのような被害があるのか。それに対して法律はどのような対処を行ってきたのか。現在どのような問題が指摘されているのか。そういったことについて触れていきたい。消費者法というのは、非常に捉えにくい分野であると思われるので、適宜裁判例等を取り上げ、具体例を示しながら講義する予定である。		
教材（テキスト）	長尾治助・中田邦博・鹿野菜穂子『レクチャー消費者法』（法律文化社）		
教材（参考文献）	日本弁護士連合会編『消費者法講義』（日本評論社） 坂東 俊矢、細川 幸一『18 歳から考える消費者と法 』（法律文化社）		
教材（その他）	資料を京学なびにて配付する。各自講義までにプリントしておいて頂きたい。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	消費者とはどのような存在か、消費者問題とは何か、消費者問題にいかに対応するかを理解する。		
準備学習	・日々新聞やテレビにおいて報道される消費者問題を常に意識しておくこと。 Evernote 等のシステムを使って、スクラップしていくのも良い。 ・レジュメを事前にプリントして一読しておくこと。 ・レジュメ中の不明な法律用語を調べておくこと。		

受講者への要望

・平行して民法の講義も受講しておくこと。
・六法を必ず持参すること。

講義の順序とポイント

1. 消費者法の原理
2. 消費者・消費者団体・事業者・事業者団体
3. 製品の種類ごとにみる安全確保の現状と課題
4. 消費者契約と民事法１
   契約法の一般原則と消費者契約
   民法の契約ルールとその限界１
5. 消費者契約と民事法２
   民法の契約ルールとその限界２
6. 消費者契約と民事法３
   約款による取引
7. 消費者契約と民事法４
   消費者契約法の内容１
8. 消費者契約と民事法５
   消費者契約法の内容２
9. 消費者契約と民事法６
   事業者の責任
10. 特定商取引法１
   特定商取引法とは何か
   訪問販売１
11. 特定商取引法２
   訪問販売２―クーリング・オフ
12. 割賦販売法１
   個別信用購入あっせんとクーリングオフ
13. 割賦販売法２
   個別信用購入あっせんと抗弁の対抗
14. 事例演習１― 習ったことを立体的に理解しよう
15. 事例演習２― 習ったことを立体的に理解しよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T40027002
科目名	消費者法 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Consumer Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	世の中ではさまざまな消費者問題が起こっている。まずは、どのような被害があるのか。それに対して法律はどのような対処を行ってきたのか。現在どのような問題が指摘されているのか。そういったことについて触れていきたい。消費者法というのは、非常に捉えにくい分野であると思われるので、適宜裁判例等を取り上げ、具体例を示しながら講義する予定である。		
教材（テキスト）	長尾治助・中田邦博・鹿野菜穂子『レクチャー消費者法』（法律文化社）		
教材（参考文献）	日本弁護士連合会編『消費者法講義』（日本評論社） 坂東 俊矢、細川 幸一『18 歳から考える消費者と法 』（法律文化社）		
教材（その他）	資料を京学なびにて配付する。各自講義までにプリントしておいて頂きたい。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	消費者とはどのような存在か、消費者問題とは何か、消費者問題にいかに対応するかを理解する。		
準備学習	・日々新聞やテレビにおいて報道される消費者問題を常に意識しておくこと。 Evernote 等のシステムを使って、スクラップしていくのも良い。 ・レジュメを事前にプリントして一読しておくこと。 ・レジュメ中の不明な法律用語を調べておくこと。		

受講者への要望

・平行して民法の講義も受講しておくこと。
・六法を必ず持参すること。

講義の順序とポイント

1. 消費者法の原理
2. 消費者・消費者団体・事業者・事業者団体
3. 製品の種類ごとにみる安全確保の現状と課題
4. 消費者契約と民事法１
   契約法の一般原則と消費者契約
   民法の契約ルールとその限界１
5. 消費者契約と民事法２
   民法の契約ルールとその限界２
6. 消費者契約と民事法３
   約款による取引
7. 消費者契約と民事法４
   消費者契約法の内容１
8. 消費者契約と民事法５
   消費者契約法の内容２
9. 消費者契約と民事法６
   事業者の責任
10. 特定商取引法１
   特定商取引法とは何か
   訪問販売１
11. 特定商取引法２
   訪問販売２―クーリング・オフ
12. 割賦販売法１
   個別信用購入あっせんとクーリングオフ
13. 割賦販売法２
   個別信用購入あっせんと抗弁の対抗
14. 事例演習１― 習ったことを立体的に理解しよう
15. 事例演習２― 習ったことを立体的に理解しよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T40038A01
科目名	会社法Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law I		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社法は、現代資本主義社会に不可欠な存在である、企業形態のひとつである会社に関する法律である。 会社法Ⅰでは、企業・会社の諸形態、設立、資金調達(コーポレート・ファイナンス)の一場面としての株式・社債に関する規制などを扱う。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.205・会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年）。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、総論・会社の設立・資金調達等に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 会社の法的性質 3. 会社の種類 4. 会社法の総則規定 5. 株主の有限責任と資本制度 6. 株式会社の設立 7. 株式の意義、株主の権利 8. 株式の内容と種類 9. 株主名簿、株式の譲渡 10. 株式の消却・併合・分割等 11. 株式会社の資金調達 12. 募集株式の発行 13. 株式発行の瑕疵 14. 新株予約権 15. 社債			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	T40038A02
科目名	会社法Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law I		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社法は、現代資本主義社会に不可欠な存在である、企業形態のひとつである会社に関する法律である。 会社法Ⅰでは、企業・会社の諸形態、設立、資金調達(コーポレート・ファイナンス)の一場面としての株式・社債に関する規制などを扱う。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.205・会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年）。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、総論・会社の設立・資金調達等に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 会社の法的性質 3. 会社の種類 4. 会社法の総則規定 5. 株主の有限責任と資本制度 6. 株式会社の設立 7. 株式の意義、株主の権利 8. 株式の内容と種類 9. 株主名簿、株式の譲渡 10. 株式の消却・併合・分割等 11. 株式会社の資金調達 12. 募集株式の発行 13. 株式発行の瑕疵 14. 新株予約権 15. 社債			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	T40038B01
科目名	会社法Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law Ⅱ		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	現代社会において、一定規模以上の重要な取引を担うのは個人ではなく、共同企業形態としての会社であり、特に株式会社が重要なのは言うまでもない。この講義では、株主総会・取締役・取締役会・代表取締役・監査役会・会計監査人など、会社の機関（コーポレート・ガバナンス）について、大規模株式会社を念頭に、基本的な枠組みを講義する。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.205・会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年）。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。期末定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、株式会社の機関（コーポレート・ガバナンス）に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．株式会社の機関設計 ３．株主総会の権限・招集 ４．株主総会の議事・決議 ５．取締役 ６．取締役の義務 ７．取締役会 ８．代表取締役 ９．監査役・監査役会 １０．会計監査人 １１．委員会設置会社 １２．役員等の責任 １３．株主代表訴訟 １４．計算 １５．合併・会社分割			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	T40038B02
科目名	会社法Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law Ⅱ		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	現代社会において、一定規模以上の重要な取引を担うのは個人ではなく、共同企業形態としての会社であり、特に株式会社が重要なのは言うまでもない。この講義では、株主総会・取締役・取締役会・代表取締役・監査役会・会計監査人など、会社の機関（コーポレート・ガバナンス）について、大規模株式会社を念頭に、基本的な枠組みを講義する。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.205・会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年）。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。期末定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、株式会社の機関（コーポレート・ガバナンス）に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．株式会社の機関設計 ３．株主総会の権限・招集 ４．株主総会の議事・決議 ５．取締役 ６．取締役の義務 ７．取締役会 ８．代表取締役 ９．監査役・監査役会 １０．会計監査人 １１．委員会設置会社 １２．役員等の責任 １３．株主代表訴訟 １４．計算 １５．合併・会社分割			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	T40043001
科目名	金融商品取引法 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Instruments and Exchange Law		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	たとえある企業が優秀な人材に恵まれ、優れた技術を持っていたとしても、資金を必要なタイミングで必要な量だけ調達できなければ、ビジネスで成功することはできません。企業がビジネスに必要な資金を銀行から借りる場合、たとえ赤字でも借りた資金は利子をつけて返さなければなりません。しかし、株式を発行して集めた資金は、その企業が存続する限り返す必要はなく、黒字の時だけ株主に利益の分け前である配当を渡せばよいのです。リスクがつきもののビジネスにとっては、株式による資金調達が非常に適していることは明らかです。 　しかし、投資が安心して株式を買うためには、様々なルールが整っていることが必要です。金融商品取引法は、そのようなルールを整え、投資家が安心して株式等に投資し、企業がスムーズに資金調達をし、円滑な企業活動を行い、ひいては経済が発達することを目的にしています。 　この講義では金融商品取引法の基本的な仕組みを中心に学びます。		
教材（テキスト）	近藤光男ほか『基礎から学べる金融商品取引法 第３版　』（弘文堂，２０１５年）		
教材（参考文献）	黒沼悦郎『金融商品取引法入門　第６版』（日経文庫、２０１５年）		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布する。		
評価方法	平常点（授業内レポート等 40%） 小テスト２回（60%）」		
到達目標	金融商品取引法の基本概念を理解し、企業の資金調達に関係するニュースに関心を持ち、何が問題になっているのか、理解できるようになる。		
準備学習	次回の内容を予告するので、教科書の該当部分を読んでおくこと。		
受講者への要望			
企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること			
講義の順序とポイント			
1　金融商品市場の基本的な仕組み 2　金融商品取引法の目的と全体像 3　有価証券の取引方法 4　企業内容の開示規制①（発行開示制度） 5　企業内容の開示規制①（継続開示制度） 7．金融商品取引業者の規制と小テスト１ 8　企業支配に関する開示制度①（公開買い付け） 9　企業支配に関する開示制度②（株券等の大量保有状況の開示） １０　投資信託および集団投資スキーム １１　不公正な取引方法の規制①（インサイダー取引） １２　不公正な取引方法の規制②（相場操縦） １３　不公正な取引方法の規制③（金融商品取引業者による不公正取引） １４　罰則と課徴金 １５．金融商品取引法の課題と小テスト２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	T40048001
科目名	刑法Ⅰ（刑法総論）　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law I (General Part)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法Ⅰ（刑法総論）では、犯罪論の基本構造（全ての犯罪に共通する犯罪成立要件）を主に解説する。このことから、刑法総論は抽象的な議論が多く、初学者には難解に感じられるかもしれないが、具体的な事例を通じてわかりやすく解説する。		
教材（テキスト）	佐久間修『刑法総論』（成文堂・２００９年）		
教材（参考文献）	指定教科書が難しいと感じられる学生には、具体例を豊富に用い、わかりやすく説明したものとして、佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） 判例教材として、 ・大谷實編『判例講義刑法Ⅰ総論〔第２版〕』（悠々社・２０１４年） ・山口厚＝佐伯仁志『刑法判例百選Ⅰ総論（第７版）』（有斐閣・２０１４年） ・井田良＝城下裕二編『刑法総論判例インデックス』（商事法務・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅰ総論』（信山社・２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（８０％）と、適宜実施する確認テスト（２０％）によって評価する。		
到達目標	刑法総論をめぐる様々な争点について理解を深めることにより、学んだ知識を具体的な事例にあてはめ、分析、解決する能力を身につけることを目標とする。		
準備学習	刑法総論は、各論点が体系的に関連づけられているため、前回までの講義内容を理解できていないと、次の講義内容の理解が難しくなる。そのため、必ず、各講義の終了後は、該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として、判例教材の該当箇所を読むこと。		
受講者への要望			
刑法総論は体系的に構成されており、一度の欠席が理解を困難にする可能性があるため、毎回講義に出席することが大切である。 また、準備学習でも触れた通り、講義後の復習をしっかりすることが必要である。			
講義の順序とポイント			
１．刑法の意義と機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、犯罪論の体系 ２．構成要件該当性（１）実行行為 ３．構成要件該当性（２）因果関係 ４．構成要件該当性（３）構成要件的故意と事実の錯誤 ５．構成要件該当性（４）構成要件的過失 ６．構成要件該当性（５）未遂犯と中止未遂 ７．違法性（１）違法性の基本問題 ８．違法性（２）正当行為と緊急行為 ９．違法性（３）被害者の同意 １０．有責性（１）責任の本質、責任能力 １１．有責性（２）違法性の意識、期待可能性 １２．共犯論（１）正犯と共犯 １３．共犯論（２）共同正犯 １４．共犯論（３）教唆犯と従犯 １５．共犯論（４）共犯論の諸問題 補．罪数			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T40048002
科目名	刑法Ⅰ（刑法総論）　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law I (General Part)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法Ⅰ（刑法総論）では、犯罪論の基本構造（全ての犯罪に共通する犯罪成立要件）を主に解説する。このことから、刑法総論は抽象的な議論が多く、初学者には難解に感じられるかもしれないが、具体的な事例を通じてわかりやすく解説する。		
教材（テキスト）	佐久間修『刑法総論』（成文堂・２００９年）		
教材（参考文献）	指定教科書が難しいと感じられる学生には、具体例を豊富に用い、わかりやすく説明したものとして、佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） 判例教材として、 ・大谷實編『判例講義刑法Ⅰ総論〔第２版〕』（悠々社・２０１４年） ・山口厚＝佐伯仁志『刑法判例百選Ⅰ総論（第７版）』（有斐閣・２０１４年） ・井田良＝城下裕二編『刑法総論判例インデックス』（商事法務・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅰ総論』（信山社・２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（８０％）と、適宜実施する確認テスト（２０％）によって評価する。		
到達目標	刑法総論をめぐる様々な争点について理解を深めることにより、学んだ知識を具体的な事例にあてはめ、分析、解決する能力を身につけることを目標とする。		
準備学習	刑法総論は、各論点が体系的に関連づけられているため、前回までの講義内容を理解できていないと、次の講義内容の理解が難しくなる。そのため、必ず、各講義の終了後は、該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として、判例教材の該当箇所を読むこと。		
受講者への要望			
刑法総論は体系的に構成されており、一度の欠席が理解を困難にする可能性があるため、毎回講義に出席することが大切である。 また、準備学習でも触れた通り、講義後の復習をしっかりすることが必要である。			
講義の順序とポイント			
１．刑法の意義と機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、犯罪論の体系 ２．構成要件該当性（１）実行行為 ３．構成要件該当性（２）因果関係 ４．構成要件該当性（３）構成要件的故意と事実の錯誤 ５．構成要件該当性（４）構成要件的過失 ６．構成要件該当性（５）未遂犯と中止未遂 ７．違法性（１）違法性の基本問題 ８．違法性（２）正当行為と緊急行為 ９．違法性（３）被害者の同意 １０．有責性（１）責任の本質、責任能力 １１．有責性（２）違法性の意識、期待可能性 １２．共犯論（１）正犯と共犯 １３．共犯論（２）共同正犯 １４．共犯論（３）教唆犯と従犯 １５．共犯論（４）共犯論の諸問題 補．罪数			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	T40050001
科目名	刑法Ⅱ（刑法各論）　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law Ⅱ (Specific Offences)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法各論では、殺人罪、窃盗罪、放火罪等、個別の犯罪における固有の保護法益と成立要件を明らかにし、解釈論上の問題点を検討する。総論が、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件の検討という点で、体系的かつ抽象的であるのに対して、各論は、個別の犯罪成立要件の検討という点で、断片的かつ具体的である。総論の方がパズル的で面白いという側面があるが、各論は私たちの身近にある問題と直結しているので、より理解しやすい。 本講義では、刑法典に記載された犯罪のうち特に重要な犯罪を取り上げ、その問題点を考える。		
教材（テキスト）	佐久間修『刑法各論（第２版）』（成文堂・２０１２年）		
教材（参考文献）	指定教科書が難しいと感じられる学生には、具体例を豊富に用い、わかりやすく説明したものとして、 佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） また、判例教材として、 ・山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選Ⅱ各論〔第７版〕』（有斐閣・２０１４年） ・大谷實編『判例講義刑法Ⅱ各論（第２版）』（悠々社・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅱ各論』（信山社・２０１２年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（８０％）と、適宜実施する確認テスト（２０％）によって評価する。		
到達目標	個々の犯罪の保護法益と成立要件を理解し、主要な争点を考察する基礎を身につける。		
準備学習	各講義の該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として、判例教材の該当箇所を読むこと。		

受講者への要望

刑法各論の分野では、具体的な、個別の犯罪を取り扱うことから、身近に感じやすく、テレビ、新聞などのメディアでも事件としてよく見かける。このことから、講義で得た知識で、ニュースなどで取り扱われている事件にはどの犯罪が成立するか、しないか、自分なりに考える姿勢を身につけて欲しい。

講義の順序とポイント

１．刑法各論の考察対象、保護法益論と刑法の解釈
第Ⅰ部　個人的法益に対する罪
２．殺人の罪
３．傷害の罪、過失傷害の罪、堕胎の罪
４．遺棄の罪
５．脅迫の罪、逮捕・監禁の罪、略取・誘拐及び人身売買の罪
６．強制わいせつの罪（風俗に対する罪を含む）、住居を侵す罪
７．名誉に対する罪、秘密を冒す罪、信用・業務に対する罪
８．財産犯総論
９．窃盗の罪、強盗の罪
１０．詐欺・恐喝の罪
１１．横領の罪、背任の罪
１２．盗品等に関する罪、毀棄隠匿の罪
第Ⅱ部　社会的法益に対する罪
１３．公共危険罪
１４．取引の安全に対する罪
第Ⅲ部　国家的法益に対する罪
１５．公務の執行を妨害する罪、司法の作用に対する罪、汚職の罪

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	T40050002
科目名	刑法Ⅱ（刑法各論）　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law Ⅱ (Specific Offences)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法各論では、殺人罪、窃盗罪、放火罪等、個別の犯罪における固有の保護法益と成立要件を明らかにし、解釈論上の問題点を検討する。総論が、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件の検討という点で、体系的かつ抽象的であるのに対して、各論は、個別の犯罪成立要件の検討という点で、断片的かつ具体的である。総論の方がパズル的で面白いという側面があるが、各論は私たちの身近にある問題と直結しているので、より理解しやすい。 本講義では、刑法典に記載された犯罪のうち特に重要な犯罪を取り上げ、その問題点を考える。		
教材（テキスト）	佐久間修『刑法各論（第２版）』（成文堂・２０１２年）		
教材（参考文献）	指定教科書が難しいと感じられる学生には、具体例を豊富に用い、わかりやすく説明したものとして、 佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） また、判例教材として、 ・山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選Ⅱ各論〔第７版〕』（有斐閣・２０１４年） ・大谷實編『判例講義刑法Ⅱ各論（第２版）』（悠々社・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅱ各論』（信山社・２０１２年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（８０％）と、適宜実施する確認テスト（２０％）によって評価する。		
到達目標	個々の犯罪の保護法益と成立要件を理解し、主要な争点を考察する基礎を身につける。		
準備学習	各講義の該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として、判例教材の該当箇所を読むこと。		

受講者への要望

刑法各論の分野では、具体的な、個別の犯罪を取り扱うことから、身近に感じやすく、テレビ、新聞などのメディアでも事件としてよく見かける。このことから、講義で得た知識で、ニュースなどで取り扱われている事件にはどの犯罪が成立するか、しないか、自分なりに考える姿勢を身につけて欲しい。

講義の順序とポイント

１．刑法各論の考察対象、保護法益論と刑法の解釈
第Ⅰ部　個人的法益に対する罪
２．殺人の罪
３．傷害の罪、過失傷害の罪、堕胎の罪
４．遺棄の罪
５．脅迫の罪、逮捕・監禁の罪、略取・誘拐及び人身売買の罪
６．強制わいせつの罪（風俗に対する罪を含む）、住居を侵す罪
７．名誉に対する罪、秘密を冒す罪、信用・業務に対する罪
８．財産犯総論
９．窃盗の罪、強盗の罪
１０．詐欺・恐喝の罪
１１．横領の罪、背任の罪
１２．盗品等に関する罪、毀棄隠匿の罪
第Ⅱ部　社会的法益に対する罪
１３．公共危険罪
１４．取引の安全に対する罪
第Ⅲ部　国家的法益に対する罪
１５．公務の執行を妨害する罪、司法の作用に対する罪、汚職の罪

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	T40052001
科目名	犯罪学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminology		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	毎日ニュースをながめていると、殺人、交通事故、少年非行、犯罪被害者など、日々世の中では犯罪が起こり、それに伴い、日本における刑事事件に関する政策がさまざまに変わってきている。特に、２０００年以降は、刑事立法の改正が進み、新たな法律、新たな制度など刑事司法が動いている時代である。そのような状況において、改めて「人はなぜ犯罪を犯すのか」、「どうすれば犯罪が発生しない社会がつくれるのか」、「そのための対策としてはどのようなものがあるのか」、「犯罪を犯した人は、どのように処遇されているのか」、「犯罪の被害者はどのような立場に置かれているのだろうか」ということについて理解する必要がある。これらのことを考察するのがこの講義で扱う「犯罪学」、「刑事政策」、「被害者学」である。この講義では、まず、わが国の犯罪情勢や刑事司法制度などについて検討したうえで、近年改正がなされた犯罪被害者、児童虐待、交通犯罪関連の特別法における犯罪対策についての理解を深めていく予定である。		
教材（テキスト）	大谷實『新版刑事政策講義』（弘文堂、2009）		
教材（参考文献）	授業の中で必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。		
評価方法	学期末の論述式試験の結果（８０％）、そのほか、出席や授業の中で行う感想文等（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事司法制度の現状を正しく理解し、各種の犯罪対策の現状と問題点を考察することができるようになる。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、単元ごとに、それまでの授業の感想文や小テストを求めるので、復習しておくこと。		

受講者への要望

毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。特に、理由のない欠席・遅刻、そして私語は厳禁とする。

講義の順序とポイント

1　犯罪学、刑事政策とは
2　犯罪情勢
3　治安状況
4　犯罪の原因
5　犯罪化と非犯罪化
6　日本の警察制度
7　刑罰制度
8　犯罪者の施設内処遇
9　犯罪者の社会内処遇
１０　犯罪者処遇の新しい動き
１１　少年非行対策
１２　犯罪被害者対策
１３　交通犯罪
１４　薬物犯罪
１５　精神障害者の犯罪

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	T40052002
科目名	犯罪学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminology		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	毎日ニュースをながめていると、殺人、交通事故、少年非行、犯罪被害者など、日々世の中では犯罪が起こり、それに伴い、日本における刑事事件に関する政策がさまざまに変わってきている。特に、２０００年以降は、刑事立法の改正が進み、新たな法律、新たな制度など刑事司法が動いている時代である。そのような状況において、改めて「人はなぜ犯罪を犯すのか」、「どうすれば犯罪が発生しない社会がつくれるのか」、「そのための対策としてはどのようなものがあるのか」、「犯罪を犯した人は、どのように処遇されているのか」、「犯罪の被害者はどのような立場に置かれているのだろうか」ということについて理解する必要がある。これらのことを考察するのがこの講義で扱う「犯罪学」、「刑事政策」、「被害者学」である。この講義では、まず、わが国の犯罪情勢や刑事司法制度などについて検討したうえで、近年改正がなされた犯罪被害者、児童虐待、交通犯罪関連の特別法における犯罪対策についての理解を深めていく予定である。		
教材（テキスト）	大谷實『新版刑事政策講義』（弘文堂、2009）		
教材（参考文献）	授業の中で必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。		
評価方法	学期末の論述式試験の結果（８０％）、そのほか、出席や授業の中で行う感想文等（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事司法制度の現状を正しく理解し、各種の犯罪対策の現状と問題点を考察することができるようになる。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、単元ごとに、それまでの授業の感想文や小テストを求めるので、復習しておくこと。		

受講者への要望

毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。特に、理由のない欠席・遅刻、そして私語は厳禁とする。

講義の順序とポイント

1　犯罪学、刑事政策とは
2　犯罪情勢
3　治安状況
4　犯罪の原因
5　犯罪化と非犯罪化
6　日本の警察制度
7　刑罰制度
8　犯罪者の施設内処遇
9　犯罪者の社会内処遇
１０　犯罪者処遇の新しい動き
１１　少年非行対策
１２　犯罪被害者対策
１３　交通犯罪
１４　薬物犯罪
１５　精神障害者の犯罪

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	T40054001
科目名	刑事訴訟法Ⅰ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure I		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	刑事訴訟法
講義概要	テレビの刑事ドラマをみていると、事件が発生し、それを刑事が捜査し、だんだんと真相に迫っていき、最終的に犯人が逮捕される。 では、実際の刑事手続はどのような流れか知っているだろうか。事件の捜査はいつから始まり、捜査するうえでのルールとしてはどのようなものが存在しているのか。このルールとして刑事手続を定める法律の代表格が「刑事訴訟法」である。 この講義では、刑事手続の流れと刑事訴訟法のさまざまな基本ルールを概観したうえで、主として公訴が提起される前の段階について解説する。		
教材（テキスト）	渡辺咲子『刑事訴訟法講義』（信山社、第７版、2014）		
教材（参考文献）	井上正仁編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。六法を毎回持参すること。		
評価方法	学期末試験の結果（８０％）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事手続の全体の流れや捜査に関して定めた条文について理解し、刑事手続に関する体系的な基礎知識を身につけることができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、授業の最初に前回の授業内容に係るおさらいテストをするので、復習しておくこと。さらに、それとともに、新聞やニュースを見て、報道された刑事事件の内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
刑事訴訟法はその流れ全体を理解する必要があるので、学期末試験や小テストのためにも、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。			
講義の順序とポイント			
１　刑事訴訟法とは ２　強制捜査 ３　任意捜査 ４　捜査の端緒 ５　逮捕・勾留 ６　検証・捜索・差押え① ７　捜索・差押え② ８　被疑者の身体に関する検査 ９　中間テスト １０　起訴状 １１　訴因変更 １２　証拠開示 １３　違法収集証拠排除法則 １４　自白 １５　伝聞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						★

年度	2015	授業コード	T40054002
科目名	刑事訴訟法Ⅰ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure I		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	刑事訴訟法
講義概要	テレビの刑事ドラマをみていると、事件が発生し、それを刑事が捜査し、だんだんと真相に迫っていき、最終的に犯人が逮捕される。 では、実際の刑事手続はどのような流れか知っているだろうか。事件の捜査はいつから始まり、捜査するうえでのルールとしてはどのようなものが存在しているのか。このルールとして刑事手続を定める法律の代表格が「刑事訴訟法」である。 この講義では、刑事手続の流れと刑事訴訟法のさまざまな基本ルールを概観したうえで、主として公訴が提起される前の段階について解説する。		
教材（テキスト）	渡辺咲子『刑事訴訟法講義』（信山社、第７版、2014）		
教材（参考文献）	井上正仁編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。六法を毎回持参すること。		
評価方法	学期末試験の結果（８０％）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事手続の全体の流れや捜査に関して定めた条文について理解し、刑事手続に関する体系的な基礎知識を身につけることができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、授業の最初に前回の授業内容に係るおさらいテストをするので、復習しておくこと。さらに、それとともに、新聞やニュースを見て、報道された刑事事件の内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
刑事訴訟法はその流れ全体を理解する必要があるので、学期末試験や小テストのためにも、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。			
講義の順序とポイント			
１　刑事訴訟法とは ２　強制捜査 ３　任意捜査 ４　捜査の端緒 ５　逮捕・勾留 ６　検証・捜索・差押え① ７　捜索・差押え② ８　被疑者の身体に関する検査 ９　中間テスト １０　起訴状 １１　訴因変更 １２　証拠開示 １３　違法収集証拠排除法則 １４　自白 １５　伝聞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						★

年度	2015	授業コード	T40056001
科目名	国際法Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law I		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法Ⅰでは、国際法の総論、国際法における国家、ならびに国際社会の空間秩序について講義する。導入部では、国際社会と国際法の独自の基本的な性格や国際法の法主体について概観する。第１部では、国際法の中心的な法主体である国家について講義する。国家がどのようにして成立するのか、国家は国際法に基づいて何をすることができ、何をしなければならないのかなどについて検討する。第２部では、国家領域や海洋法などを中心にして、地球上の空間が国際法上どのように構成されているのかについて講義する。 講義では、メディアで取り上げられる国際問題や北方領土など日本に関わる問題にも随時言及しながら、国際法が私たちの日常生活とどのように関わっているのかイメージできるように話を進めていきたい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門～逆から学ぶ～』（法律文化社、２０１４年） 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第２版］』（東信堂、２０１３年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、２００９年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。 詳細は、初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．国際社会ならびに国際法の独自の基本的性格を理解する。 ２．国際法の中心的な主体である国家について理解する。 ３．世界の空間秩序（陸・海・空）が国際法上どのように構成されているのか理解する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．六法を必ず持参すること。
２．講義中は私語をつつしむこと。
３．講義では、休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

導入部　総論
１．受講ガイダンス、国際社会の性質と国際法
２．国際社会の性質と国際法（つづき）
３．国際法の主体

第１部　国際法における国家
４．国家の成立と変動（１）ー国家承認
５．国家の成立と変動（２）ー国家承継
６．国家の機関

７．国家の基本的権利義務
８．国家管轄権の規律
９．主権免除

第２部　国際社会の空間秩序
１０．国家領域（１）ー国家領域の構造
１１．国家領域（２）ー日本の領土問題
１２．海の国際法（１）ー現代の海洋秩序の構造
１３．海の国際法（２）ー航行利用制度
１４．海の国際法（３）ー海域の境界画定など
１５．空の国際法

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	T40056002
科目名	国際法Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law I		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法Ⅰでは、国際法の総論、国際法における国家、ならびに国際社会の空間秩序について講義する。導入部では、国際社会と国際法の独自の基本的な性格や国際法の法主体について概観する。第１部では、国際法の中心的な法主体である国家について講義する。国家がどのようにして成立するのか、国家は国際法に基づいて何をすることができ、何をしなければならないのかなどについて検討する。第２部では、国家領域や海洋法などを中心にして、地球上の空間が国際法上どのように構成されているのかについて講義する。 講義では、メディアで取り上げられる国際問題や北方領土など日本に関わる問題にも随時言及しながら、国際法が私たちの日常生活とどのように関わっているのかイメージできるように話を進めていきたい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門～逆から学ぶ～』（法律文化社、２０１４年） 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第２版］』（東信堂、２０１３年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、２００９年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。 詳細は、初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．国際社会ならびに国際法の独自の基本的性格を理解する。 ２．国際法の中心的な主体である国家について理解する。 ３．世界の空間秩序（陸・海・空）が国際法上どのように構成されているのか理解する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．六法を必ず持参すること。
２．講義中は私語をつつしむこと。
３．講義では、休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

導入部　総論
１．受講ガイダンス、国際社会の性質と国際法
２．国際社会の性質と国際法（つづき）
３．国際法の主体

第１部　国際法における国家
４．国家の成立と変動（１）ー国家承認
５．国家の成立と変動（２）ー国家承継
６．国家の機関

７．国家の基本的権利義務
８．国家管轄権の規律
９．主権免除

第２部　国際社会の空間秩序
１０．国家領域（１）ー国家領域の構造
１１．国家領域（２）ー日本の領土問題
１２．海の国際法（１）ー現代の海洋秩序の構造
１３．海の国際法（２）ー航行利用制度
１４．海の国際法（３）ー海域の境界画定など
１５．空の国際法

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	T40058001
科目名	国際法Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law Ⅱ		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法Ⅱでは、分権的な国際社会における国際法の形成ならびに適用・実施について講義する。第１部では、国際法の法源である慣習法や条約がどのように作られるのかなどについて説明する。第２部では、国内社会と国際社会における国際法の適用・実施について講義し、国際違法行為に対する国家責任の成立・追及や国際裁判所などによる紛争の平和的処理などについて説明する。また、国際司法裁判所についての DVD 鑑賞も行う予定である。 講義では、国際社会と国内社会の相違を踏まえ、日本などの具体的事例なども頻繁に取り上げながら国際法の形成や適用・実施のプロセスを通じて国際法秩序の独自の性格を分かりやすく説明するようにしたい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門～逆から学ぶ～』（法律文化社、２０１４年） 毎回講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第２版］』（東信堂、２０１３年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、２００９年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）	国際司法裁判所の活動に関するビデオ教材を用いる。		
評価方法	毎回行う小テスト（４０％）、定期試験（６０％） 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．分権的な国際社会で国際法（条約や慣習法）がどのように形成されるのか理解する。 ２．国際紛争の平和的処理の全体像を把握する。 ３．分権的な国際社会における国際裁判の役割、手続ならびに課題について把握する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．六法を必ず持参すること。
２．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。
３．講義では、適宜休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

第１部　国際法の成立
１．受講ガイダンス、国際法の法源
２．国際法の法源（つづき）
３．条約法（１）ー条約の成立
４．条約法（２）ー留保
５．条約法（３）ー条約の無効など

第２部　国際法の適用・実施
６．国際法の国内的適用ー日本の場合を中心に

7．国家責任（1）ー国家責任の成立
8．国家責任（2）ー国家責任の追及
9．紛争の平和的処理
１０．紛争の司法的解決（1）－国際司法裁判所の手続
１１．紛争の司法的解決（2）ー国際司法裁判所の活動
１２．国際司法裁判所についての DVD 鑑賞
１３．紛争の司法的解決（3）ー紛争処理の「司法化」
１４．日本と国際裁判
１５．国連の政治的機関による紛争処理

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T40058002
科目名	国際法Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law Ⅱ		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法Ⅱでは、分権的な国際社会における国際法の形成ならびに適用・実施について講義する。第１部では、国際法の法源である慣習法や条約がどのように作られるのかなどについて説明する。第２部では、国内社会と国際社会における国際法の適用・実施について講義し、国際違法行為に対する国家責任の成立・追及や国際裁判所などによる紛争の平和的処理などについて説明する。また、国際司法裁判所についての DVD 鑑賞も行う予定である。 講義では、国際社会と国内社会の相違を踏まえ、日本などの具体的事例なども頻繁に取り上げながら国際法の形成や適用・実施のプロセスを通じて国際法秩序の独自の性格を分かりやすく説明するようにしたい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門～逆から学ぶ～』（法律文化社、２０１４年） 毎回講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第２版］』（東信堂、２０１３年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、２００９年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）	国際司法裁判所の活動に関するビデオ教材を用いる。		
評価方法	毎回行う小テスト（４０％）、定期試験（６０％） 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．分権的な国際社会で国際法（条約や慣習法）がどのように形成されるのか理解する。 ２．国際紛争の平和的処理の全体像を把握する。 ３．分権的な国際社会における国際裁判の役割、手続ならびに課題について把握する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．六法を必ず持参すること。
２．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。
３．講義では、適宜休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

第１部　国際法の成立
１．受講ガイダンス、国際法の法源
２．国際法の法源（つづき）
３．条約法（１）ー条約の成立
４．条約法（２）ー留保
５．条約法（３）ー条約の無効など

第２部　国際法の適用・実施
６．国際法の国内的適用ー日本の場合を中心に

7．国家責任（1）ー国家責任の成立
8．国家責任（2）ー国家責任の追及
9．紛争の平和的処理
１０．紛争の司法的解決（1）－国際司法裁判所の手続
１１．紛争の司法的解決（2）ー国際司法裁判所の活動
１２．国際司法裁判所についての DVD 鑑賞
１３．紛争の司法的解決（3）ー紛争処理の「司法化」
１４．日本と国際裁判
１５．国連の政治的機関による紛争処理

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T40060001
科目名	国際法Ⅲ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law Ⅲ		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法Ⅲでは、国連などの国際機構を中心にして国際社会の公益を保護するための協力の国際法について講義する。国家間の相互依存が深まる現在の国際社会では、平和の維持などの国際社会の共通・一般の利益を保護するために、諸国家が場合によっては国益を犠牲にしてまで連帯し協力しあうことが求められる。そこで重要な役割を担うのが国際機構である。本講義では、まず国連を中心として国際機構の役割について説明し（第１部）、次に平和の維持、貿易および環境保全などの分野における国際法について講義する（第２部）。また、国連の活動に関する DVD 鑑賞も予定している。 講義では、各分野における具体例や実態にもできるだけ触れながら、諸国家の国際協力がいかに重要でかつ困難であるのか分かりやすく理解できるように心がけたい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門～逆から学ぶ～』（法律文化社、２０１４年） 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第２版］』（東信堂、２０１３年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 山形英郎編『国際法入門（仮題）』（法律文化社、２０１４年４月刊行予定） 【条約集】 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、２００９年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）	国連の活動に関するビデオ教材を用いる。		
評価方法	毎回行う小テスト（４０％）、定期試験（６０％） 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．相互依存が深まる国際社会の中での国際機構の意義や組織構造を理解する。 ２．国連の集団安全保障体制の仕組みと展開を把握する。 ３．条約などを通じた環境保全の仕組みと国際協力の意義を把握する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		
受講者への要望			
１．六法を必ず持参すること。 ２．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。 ３．講義では、休憩を取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。			
講義の順序とポイント			
第１部　国際社会の組織化と国際機構 １．受講ガイダンス、国際機構の展開（１）ー第二次大戦まで ２．国際機構の展開（２）ー第二次大戦以降 ３．国際機構の設立および組織構造－国連を中心に ４．国際機構の表決手続 ５．国連の活動に関する DVD 鑑賞			

６．地域的国際機構の活動

第２部　国際公益のための国際協力
７．平和の維持（１）ー国際連盟における戦争の禁止と集団安全保障
８．平和の維持（２）ー国連における武力行使の禁止との集団安全保障
９．平和の維持（３）ー自衛権、国連の平和維持活動
１０．平和の維持（４）ー軍縮、国際人道法
１１．国際公域における国際協力
１２．経済的国際協力
１３．環境保全（１）ー展開・基本原則
１４．環境保全（２）ー地球温暖化の防止
１５．環境保全（３）－生物多様性の保全

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T40065001
科目名	国際経済法 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economic Law		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、国際貿易・海外投資・国際金融を中心にして国際経済に関わる国際法について講義する。現代では、経済分野の国内法や政策、さらには私たちの日常生活も国際経済と密接に関わっている。また、貿易や海外投資に関する紛争が国際法に依拠して司法的に解決される事例が急増しており、国際経済法の知識や考え方の習得はますます重要になっている。 講義では、日本に関わる具体的な事例や TPP などの時事問題にも触れながら、WTO 体制、海外投資、国際金融・通貨を中心しながら国際経済についての法的枠組みについて分かりやすく説明していきたい。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。講義レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考文献）	【教科書】 中川淳司ほか『国際経済法［第２版］』（有斐閣、２０１２年） 小室程夫『新版　国際経済法』（東信堂、２００７年） 滝川敏明『WTO 法［第２版］』（三省堂、２０１０年） 中川淳司『WTO－貿易自由化を超えて』（岩波新書、２０１３年） 【判例集】 松下満雄ほか編『ケースブック WTO 法』（有斐閣、２００９年） 【条約集】 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、２００９年） 小原喜雄ほか編『国際経済条約・法令集［第２版］』（東信堂、２００２年）		
教材（その他）			
評価方法	講義の最後に毎回行う小テスト（６０％）。レポート（４０％）。 詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．国際経済法が私たちの日常生活とどのように関わっているのか理解する。 ２．WTO 体制を中心にした国際貿易の法的枠組みを理解する。 ３．海外投資や国際金融についての法的枠組みを理解する。		
準備学習	講義を終了する際に、次回の講義内容を指定し、レジュメを配布するので、事前に目を通してくること。		

受講者への要望

１．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。
２．講義では、休憩も取ることもあるので集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

導入部
１．受講ガイダンス、国際経済秩序と国際法

第１部　国際貿易と国際法
２．貿易に関する国際法の展開
３．GATT の成立と展開
４．WTO 体制の成立と概要
５．WTO の紛争解決手続
６．WTO におけるサービス貿易
７．WTO における知的財産権
８．WTO における農業貿易
９．WTO と地域経済統合
１０．WTO と途上国
１１．WTO と非貿易的価値

第２部　海外投資および国際金融と国際法

１２．海外投資に関する国際法の展開
１３．投資紛争解決
１４．国際金融に関する国際法の展開
１５．ＩＭＦ・世界銀行の組織構造と活動

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T40068A01
科目名	労働法Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law I		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	労働法の領域には、個別的労働関係法と集団的労働関係法という２つの主要な領域がある。いずれの分野も重要であるが、近年における労働立法の動向（パートタイム労働法および育児・介護休業法、労働契約法の成立、並びに、労働基準法および男女雇用機会均等法等の改正など）や、労働法を初めて学ぶ人にとっての必要性等から、本講義は「個人としての労働者」に焦点をあてて前者に比重を置きながら基礎的な展開する。 まず、労働基準法および労働契約法を中心に、採用内定、労働契約の内容、賃金・退職金、労働時間法制、および解雇など、労働契約の成立から終了に至るまでの過程で生じる様々な法律問題および集団的労働関係法のうち「労働法Ⅰ」を理解するために必要な基礎的事項を検討する。		
教材（テキスト）	水町勇一郎『労働法〔第５版〕』（有斐閣、2014 年）3400 円＋税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第８版〕」（有斐閣、2009 年）2476 円＋税		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第１０版〕』（有斐閣、2012 年）　5300 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則１回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	職場において必要とされる法律知識のうち、本講義では個別的労働法に比重をおいてて講義を進めていく。最低限知っておいた方がよいと思われる労働法の基礎的な知識や判例理論等を身に着けてもらうことが本講義の到達目標である。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。

また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第１回　講義の進め方・その他諸注意
第２回　労働法の概観（歴史・労働法とは）
第３回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合）
第４回　労働契約と権利・義務
第５回　就業規則
第６回　労働協約
第７回　募集・採用内定
第８回　男女雇用平等
第９回　解雇・労働契約の終了（１）
第 10 回　解雇・労働関係の終了（２）
第 11 回　賃金・退職金（１）
第 12 回　賃金・退職金（２）
第 13 回　労働時間（１）
第 14 回　労働時間（２）
第 15 回　最近の個別的労働法をめぐる諸問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待					★	

年度	2015	授業コード	T40068A02
科目名	労働法Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law I		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	労働法の領域には、個別的労働関係法と集団的労働関係法という２つの主要な領域がある。いずれの分野も重要であるが、近年における労働立法の動向（パートタイム労働法および育児・介護休業法、労働契約法の成立、並びに、労働基準法および男女雇用機会均等法等の改正など）や、労働法を初めて学ぶ人にとっての必要性等から、本講義は「個人としての労働者」に焦点をあてて前者に比重を置きながら基礎的な展開する。 まず、労働基準法および労働契約法を中心に、採用内定、労働契約の内容、賃金・退職金、労働時間法制、および解雇など、労働契約の成立から終了に至るまでの過程で生じる様々な法律問題および集団的労働関係法のうち「労働法Ⅰ」を理解するために必要な基礎的事項を検討する。		
教材（テキスト）	水町勇一郎『労働法〔第５版〕』（有斐閣、2014 年）3400 円＋税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第８版〕」（有斐閣、2009 年）2476 円＋税		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第１０版〕』（有斐閣、2012 年）　5300 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則１回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	職場において必要とされる法律知識のうち、本講義では個別的労働法に比重をおいてて講義を進めていく。最低限知っておいた方がよいと思われる労働法の基礎的な知識や判例理論等を身に着けてもらうことが本講義の到達目標である。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。

また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第１回　講義の進め方・その他諸注意
第２回　労働法の概観（歴史・労働法とは）
第３回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合）
第４回　労働契約と権利・義務
第５回　就業規則
第６回　労働協約
第７回　募集・採用内定
第８回　男女雇用平等
第９回　解雇・労働契約の終了（１）
第 10 回　解雇・労働関係の終了（２）
第 11 回　賃金・退職金（１）
第 12 回　賃金・退職金（２）
第 13 回　労働時間（１）
第 14 回　労働時間（２）
第 15 回　最近の個別的労働法をめぐる諸問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待					★	

年度	2015	授業コード	T40068B01
科目名	労働法Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law Ⅱ		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	本講義では、労働法の領域のうち、個別的労働関係法のなかの応用的な事項につき、講義科目「労働法Ⅰ」を履修していることを前提に、学説・判例等も踏まえたうえでより深く学んでいく。 法理論的には少し難しい問題もあるが、上記の事項における基本的な知識を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	水町勇一郎『労働法〔第5版〕』（有斐閣、2014年）3400円＋税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第8版〕」（有斐閣、2009年）2476円＋税		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第10版〕』（弘文堂、2012年）5300円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則1回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）およびレポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	社会人として求められる労働法の基礎知識を判例等も踏まえたうえで理解すること。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。できれば講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持っていただきたい。
　また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第1回　講義の進め方・その他諸注意
第2回　配置転換・出向
第3回　時間外労働・休日労働（1）
第4回　時間外労働・休日労働（2）
第5回　年次有給休暇
第6回　派遣労働（1）
第7回　派遣労働（2）
第8回　パートタイム労働
第9回　女性労働・年少労働
第10回　外国人労働
第11回　職場規律・懲戒
第12回　災害補償（1）
第13回　災害補償（2）
第14回　労働関係紛争の解決手続
第15回　最近の個別的労働法をめぐる諸問題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T40068B02
科目名	労働法Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law Ⅱ		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	本講義では、労働法の領域のうち、個別的労働関係法のなかの応用的な事項につき、講義科目「労働法Ⅰ」を履修していることを前提に、学説・判例等も踏まえたうえでより深く学んでいく。 法理論的には少し難しい問題もあるが、上記の事項における基本的な知識を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	水町勇一郎『労働法〔第5版〕』（有斐閣、2014年）3400円＋税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第8版〕」（有斐閣、2009年）2476円＋税		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第10版〕』（弘文堂、2012年）5300円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則1回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）およびレポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	社会人として求められる労働法の基礎知識を判例等も踏まえたうえで理解すること。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。できれば講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持っていただきたい。
　また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第1回　講義の進め方・その他諸注意
第2回　配置転換・出向
第3回　時間外労働・休日労働（1）
第4回　時間外労働・休日労働（2）
第5回　年次有給休暇
第6回　派遣労働（1）
第7回　派遣労働（2）
第8回　パートタイム労働
第9回　女性労働・年少労働
第10回　外国人労働
第11回　職場規律・懲戒
第12回　災害補償（1）
第13回　災害補償（2）
第14回　労働関係紛争の解決手続
第15回　最近の個別的労働法をめぐる諸問題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	T40070001
科目名	社会保障法 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Security Law		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	伝統的な市民法では、老齢・障がい・貧困などは個人の責任で対処すべきものとされていた。憲法に規定される生存権（25 条）を、労働法とは異なり、私的契約関係を媒介とせずに、直接的に実現しようとする法分野が社会保障法である。 それには大きく（１）社会保険（医療・介護・労災・雇用・年金)、（２）社会福祉（老人・児童・障がい者)、（３）生活扶助の法が含まれる。このように、その範囲はきわめて広く多様である。		
教材（テキスト）	西村健一郎『社会保障法入門〔第 2 版〕』（有斐閣、2014 年）2100 円＋税 西村健一郎ほか編「社会保障判例百選〔第 4 版〕」（有斐閣、2008 年）2600 円＋税		
教材（参考文献）	小西國友『社会保障法』（有斐閣、2001 年）3200 円＋税 西村健一郎『社会保障法』（有斐閣、2003 年）3500 円＋税		
教材（その他）	その他の参考文献等については開講時に指示する。		
評価方法	出席を前提に、期末試験（80%）および授業内小テスト等（20%）で評価する予定である。		
到達目標	社会保障法全体像の基本的な枠組みと各論点を理解することを目標とする。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持ち、また、次回の授業項目について、関連する新聞記事を最低１つは入手しておくこと。		
受講者への要望			
教科書および百選は必ず持参すること。また、社会保障に関する制度は非常に複雑になっているため、教科書以外の参考書や厚生白書等を参照し、さらにＴＶニュースや新聞記事等にも大いに関心をもつこと。 また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。			
講義の順序とポイント			
第１回　講義の進め方・その他諸注意 第２回　社会保障法とは　社会保障法の体系 第３回　医療保険法（１）　健康保険法 第４回　医療保険法（２）　国民健康保険法 第５回　年金保険法（１）　国民年金法 第６回　年金保険法（２）　厚生年金保険法 第７回　介護保険法 第８回　授業内小テスト 第９回　労災保険法 第 10 回　雇用保険法 第 11 回　児童手当　児童福祉　母子福祉　障がい者福祉 第 12 回　高齢者福祉　生活保護法 第 13 回　社会保障法総論　社会保障法の共通事項　憲法と条約 第 14 回　社会保障法総論　権利救済 第 15 回　最近の社会保障法をめぐる諸問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T40070002
科目名	社会保障法 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Security Law		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	伝統的な市民法では、老齢・障がい・貧困などは個人の責任で対処すべきものとされていた。憲法に規定される生存権（25 条）を、労働法とは異なり、私的契約関係を媒介とせずに、直接的に実現しようとする法分野が社会保障法である。 それには大きく（１）社会保険（医療・介護・労災・雇用・年金)、（２）社会福祉（老人・児童・障がい者)、（３）生活扶助の法が含まれる。このように、その範囲はきわめて広く多様である。		
教材（テキスト）	西村健一郎『社会保障法入門〔第 2 版〕』（有斐閣、2014 年）2100 円＋税 西村健一郎ほか編「社会保障判例百選〔第 4 版〕」（有斐閣、2008 年）2600 円＋税		
教材（参考文献）	小西國友『社会保障法』（有斐閣、2001 年）3200 円＋税 西村健一郎『社会保障法』（有斐閣、2003 年）3500 円＋税		
教材（その他）	その他の参考文献等については開講時に指示する。		
評価方法	出席を前提に、期末試験（80%）および授業内小テスト等（20%）で評価する予定である。		
到達目標	社会保障法全体像の基本的な枠組みと各論点を理解することを目標とする。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持ち、また、次回の授業項目について、関連する新聞記事を最低１つは入手しておくこと。		
受講者への要望			
教科書および百選は必ず持参すること。また、社会保障に関する制度は非常に複雑になっているため、教科書以外の参考書や厚生白書等を参照し、さらにＴＶニュースや新聞記事等にも大いに関心をもつこと。 また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。			
講義の順序とポイント			
第１回　講義の進め方・その他諸注意 第２回　社会保障法とは　社会保障法の体系 第３回　医療保険法（１）　健康保険法 第４回　医療保険法（２）　国民健康保険法 第５回　年金保険法（１）　国民年金法 第６回　年金保険法（２）　厚生年金保険法 第７回　介護保険法 第８回　授業内小テスト 第９回　労災保険法 第 10 回　雇用保険法 第 11 回　児童手当　児童福祉　母子福祉　障がい者福祉 第 12 回　高齢者福祉　生活保護法 第 13 回　社会保障法総論　社会保障法の共通事項　憲法と条約 第 14 回　社会保障法総論　権利救済 第 15 回　最近の社会保障法をめぐる諸問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T40071001
科目名	経済法Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Competition Law I		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	経済法
講義概要	スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。そして、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。 　この授業では、市場経済をうまく機能させるために不可欠な「競争」を守る「独占禁止法」の基本的な仕組み及び、競争への悪影響が大きな「入札談合」などの「カルテル」と「私的独占」を中心に学びます。		
教材（テキスト）	・川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法 第４版』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）	・船田正之・金井貴嗣・泉水文雄編 『経済法判例・審決百選』（有斐閣、２０１０年） ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法』（有斐閣、２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポート等 40%） 小テスト２回（60%）		
到達目標	入札談合などのカルテルの仕組みと独占禁止法上の基本概念を理解し、基本的な事例について、独占禁止法を適用して判断することができるようになる。		
準備学習	企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること。 各回の講義で指示する教科書の該当箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席すること。			
講義の順序とポイント			
１．市場経済と競争 ２．独占禁止法の目的と企業結合 ３．独占禁止法の全体像と不公正な取引方法 ４．不当な取引制限①（入札談合） ５．不当な取引制限②（規制の概要） ６．不当な取引制限③（行為要件） ７．不当な取引制限④(弊害要件) ８． 前半のまとめと小テスト１ ９．事業者団体に対する規制 １０．私的独占①（規制の概要） １１．私的独占②（排除型私的独占） １２・私的独占③（支配型私的独占） １３．エンフォースメント①（全体像・公正取引委員会） １４．エンフォースメント②（民事救済・刑事罰） １５．独占禁止法の課題と小テスト２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	T40071002
科目名	経済法Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Competition Law I		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	経済法
講義概要	スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。そして、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。 　この授業では、市場経済をうまく機能させるために不可欠な「競争」を守る「独占禁止法」の基本的な仕組み及び、競争への悪影響が大きな「入札談合」などの「カルテル」と「私的独占」を中心に学びます。		
教材（テキスト）	・川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法 第４版』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）	・船田正之・金井貴嗣・泉水文雄編 『経済法判例・審決百選』（有斐閣、２０１０年） ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法』（有斐閣、２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポート等 40%） 小テスト２回（60%）		
到達目標	入札談合などのカルテルの仕組みと独占禁止法上の基本概念を理解し、基本的な事例について、独占禁止法を適用して判断することができるようになる。		
準備学習	企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること。 各回の講義で指示する教科書の該当箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席すること。			
講義の順序とポイント			
１．市場経済と競争 ２．独占禁止法の目的と企業結合 ３．独占禁止法の全体像と不公正な取引方法 ４．不当な取引制限①（入札談合） ５．不当な取引制限②（規制の概要） ６．不当な取引制限③（行為要件） ７．不当な取引制限④(弊害要件) ８． 前半のまとめと小テスト１ ９．事業者団体に対する規制 １０．私的独占①（規制の概要） １１．私的独占②（排除型私的独占） １２・私的独占③（支配型私的独占） １３．エンフォースメント①（全体像・公正取引委員会） １４．エンフォースメント②（民事救済・刑事罰） １５．独占禁止法の課題と小テスト２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	T40076001
科目名	地方自治論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Local Autonomy		
担当者名	長澤　高明	旧科目名称	
講義概要	本講義は現代日本の自治体が抱えている問題点を理解し、解決の方途を探るために、基礎的知識を提供することを目的としています。テキストは使用しません。毎回レジュメを配付します。話が抽象的にならないように常に具体的な問題を提示しながら説明します。まだ社会人としての生活を送っていない学生諸君にとって地方自治はピンとこない分野かもしれませんが、今の諸君の生活にも密接にかかわる分野であるということをきちんと理解できる講義にしたいと思っています。新聞記事も題材に取り上げます。		
教材（テキスト）	使用しません。		
教材（参考文献）	そのつど指示しますが、さしあたり、今井照『図解　よくわかる地方自治のしくみ　第３次改訂版』学陽書房、２００８。		
教材（その他）			
評価方法	定期試験５０％、レポート５０％。 定期試験は、基礎用語の理解と論述問題をくみあわせたもの。 レポートは、２０００字程度。テーマは各自が設定する。最終講義時までに担当者に直接手渡すこと。 もちろん講義への積極的な姿勢も加味して評価する。		
到達目標	自分の住んでいる自治体の出している議会報告や広報を読んで理解できるようになること。また新聞の地方版を読んで理解できるようになること。		
準備学習	毎日、新聞に目を通す習慣をつけ、疑問を感じた事柄を自分で調べておくこと。		

受講者への要望

諸君とともに問題を考えながら講義し、時には諸君にマイクを向けることもあるので常に頭をフル回転の状態にしておくこと。また、受講者の人数にもよるが、諸君を複数のグループに分けて討論してもらうこともあるので、積極的に発言すること。

講義の順序とポイント

1　地方自治についての私たちの知識と意識の確認。
2　地方自治体についての基礎知識。住民自治と団体自治。
3　自治体の権力とサービス。自治体の仕事について考える。
4　自治体の成立過程とその必然性について考える。
5　明治期以降の自治体について。版籍奉還や廃藩置県の意味を再確認する。
6　第二次世界大戦後の自治体について。戦後改革の意味を考える。
7　政策と手段①：都市型社会の到来とそれへの対応。少子高齢化問題を考える。
8　政策と手段②：公共事業と政策評価システム。ダム問題や空港問題についても考える。
9　自治体の地域経営と条例。さまざまな条例について紹介する。
１０　財務と運営：国税と地方税。直接税と間接税。補助金。
１１　直接請求権と常設型住民投票について考える。
１２　市民活動とＮＰＯについて考える。
１３　地方議会と地方公務員の役割について考える。
１４　首長のリーダーシップとは何かについて考える。
１５　全般をまとめ、今後何を考えなければならないか、皆で議論する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★★	

年度	2015	授業コード	T40079001
科目名	憲法Ⅰ（憲法総論）　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law I (General Part)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	日本国憲法について、基本原理と全体像を入門的な位置づけで学ぶ。 憲法の意味、基本的人権、統治機構の概略を学ぶとともに、現在の改憲の動きを見据える。、		
教材（テキスト）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』(法律文化社、2014 年)		
教材（参考文献）	市川正人・倉田原志編『憲法入門』(法律文化社、2012 年)		
教材（その他）			
評価方法	定期試験(80%)　平常点(20%)出席状況等による。		
到達目標	憲法の意味、日本国憲法の成立、基本的人権、統治機構について学説と判例の基本的な知識を習得する。 2 回生以降、憲法Ⅱ(基本的人権)、憲法Ⅲ(統治機構)を学ぶための基礎学力を養成する。		
準備学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、該当する憲法の条文、教科書の該当頁を読んで予習する。		

受講者への要望

講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。
それ以外に、テレビや新聞で取り上げられている憲法問題にも注目してほしい。憲法についてはさまざまな立場があるが、一方的な情報に基づいて判断するのではなく、講義で取り上げる憲法の基本原理、学説・判例を習得したうえで現在の諸問題について多角的に検討する力をつけてほしい。

講義の順序とポイント

1．憲法とは何か
2．平和主義①
3．平和主義②
4．基本的人権とは
5．信教の自由と政教分離
6．表現の自由
7．家族
8．生存権
9．教育を受ける権利
10．内閣・国会
11．選挙制度と政党
12．地方自治
13．天皇制
14．改憲手続
15．改憲の動き

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T40079002
科目名	憲法Ⅰ（憲法総論）　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law I (General Part)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	日本国憲法について、基本原理と全体像を入門的な位置づけで学ぶ。 憲法の意味、基本的人権、統治機構の概略を学ぶとともに、現在の改憲の動きを見据える。、		
教材（テキスト）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』(法律文化社、2014 年)		
教材（参考文献）	市川正人・倉田原志編『憲法入門』(法律文化社、2012 年)		
教材（その他）			
評価方法	定期試験(80%)　平常点(20%)出席状況等による。		
到達目標	憲法の意味、日本国憲法の成立、基本的人権、統治機構について学説と判例の基本的な知識を習得する。 2 回生以降、憲法Ⅱ(基本的人権)、憲法Ⅲ(統治機構)を学ぶための基礎学力を養成する。		
準備学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、該当する憲法の条文、教科書の該当頁を読んで予習する。		

受講者への要望

講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。
それ以外に、テレビや新聞で取り上げられている憲法問題にも注目してほしい。憲法についてはさまざまな立場があるが、一方的な情報に基づいて判断するのではなく、講義で取り上げる憲法の基本原理、学説・判例を習得したうえで現在の諸問題について多角的に検討する力をつけてほしい。

講義の順序とポイント

1．憲法とは何か
2．平和主義①
3．平和主義②
4．基本的人権とは
5．信教の自由と政教分離
6．表現の自由
7．家族
8．生存権
9．教育を受ける権利
10．内閣・国会
11．選挙制度と政党
12．地方自治
13．天皇制
14．改憲手続
15．改憲の動き

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T40081001
科目名	憲法Ⅱ（基本的人権） 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law Ⅱ (Fundamental Human Rights)		
担当者名	大西　貴之	旧科目名称	
講義概要	本講義では、憲法学における基本的人権に関する部分を取り扱います。 まず基本的人権一般に関わる総論部分（基本的人権の歴史、分類とその享有主体、限界）について学び、それを踏まえて個別の人権規定についての理解を深めていきます。 憲法の条文や関連する専門的概念には抽象的で曖昧なものが数多くありますが、その意味は各々の時代や社会を生きる人々によって具体的な現実の中でどのように解釈されてきたかを理解することでより一層明らかになるものです。そこで本講義では、具体的な事例を出発点として、また可能な限り多くの判例を取り上げることによって、具体的局面における各々の人権の内容やその限界について検討していきます。 さらに基本的人権に関する論述問題を授業外の課題として数回設定します（提出は任意）。具体的な状況において自らが拠って立つ見解を説得的に論じるための訓練としてこの機会を活かしてください。		
教材（テキスト）	渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法１　人権［第５版］』（有斐閣） 野中俊彦・江橋崇『憲法判例集［第 10 版］』（有斐閣）		
教材（参考文献）	各回の個別分野に関連する文献については、講義の中でその都度指示します。		
教材（その他）	講義用のレジュメを配布します。		
評価方法	定期試験 70%、平常点 30%（講義中に確認テストを 1、2 回程度実施します。）		
到達目標	（１）憲法学における基本的人権および関連する学説や判例についての基本的理解を深めること （２）基本的人権をめぐる諸問題について、自らの意見を（１）を踏まえて説得的に論じること		
準備学習	各回の講義終了時に教科書の次回該当部分を指示するので、予習として必ず一読しておいてください。また各回のレジュメには内容確認のための問題を付しているので、復習に利用してください。さらに記憶の定着や定期試験の準備のために、毎回の講義内容やレジュメをまとめた自分専用のノートを作成することをお勧めします。		

受講者への要望

受講に際しては積極的な態度で臨んでください。また日々の生活でもニュースや新聞に目を通す時など、憲法との関わりを意識して下さい。
私語など講義を妨害する行為については厳正な対応をします。
講義で配布する資料を集めてテスト前に勉強するだけでは、単位の取得は難しいと考えてください。

講義の順序とポイント

1. 人身の自由
居住・移転の自由、奴隷的拘束からの自由
2. 適正手続の保障、国務請求権
被疑者・被告人の権利、裁判を受ける権利
3. 生存権
生存権を具体化する様々な法律、生存権の法的性格
4. 教育を受ける権利、労働基本権
学習権、教育権の所在、労働基本権の保障内容
5. 職業選択の自由
営業の自由、規制の諸類型、規制目的二分論
6. 財産権の保障
私有財産制と所有権、「正当な補償」
7. 思想・良心の自由、学問の自由
思想・良心の自由の意義と保障内容、先端科学技術と研究の自由、大学の自治
8. 表現の自由
表現の自由の価値、表現の自由の保障内容、表現の自由規制の諸法理
9. 信教の自由
信教の自由の保障内容とその限界、政教分離原則
10. 集会・結社の自由
保障内容とその限界、公安条例や道路交通法による諸規制
11. 包括的基本権

幸福追求権、新しい人権
12. 法の下の平等
何を平等とするのか、平等保障の具体的制度、差別をめぐる諸問題
13. 基本的人権の歴史
人権思想はどのような歴史をたどってきたのか、人権の社会化・国際化
14. 基本的人権の分類とその享有主体
人権の観念とその内容、人権は誰に帰属するのか―外国人や法人の場合
15. 基本的人権の限界
人権を制約するための根拠、特別権力関係、人権の私人間効力

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	T40081002
科目名	憲法Ⅱ（基本的人権） 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law Ⅱ (Fundamental Human Rights)		
担当者名	大西　貴之	旧科目名称	
講義概要	本講義では、憲法学における基本的人権に関する部分を取り扱います。 まず基本的人権一般に関わる総論部分（基本的人権の歴史、分類とその享有主体、限界）について学び、それを踏まえて個別の人権規定についての理解を深めていきます。 憲法の条文や関連する専門的概念には抽象的で曖昧なものが数多くありますが、その意味は各々の時代や社会を生きる人々によって具体的な現実の中でどのように解釈されてきたかを理解することでより一層明らかになるものです。そこで本講義では、具体的な事例を出発点として、また可能な限り多くの判例を取り上げることによって、具体的局面における各々の人権の内容やその限界について検討していきます。 さらに基本的人権に関する論述問題を授業外の課題として数回設定します（提出は任意）。具体的な状況において自らが拠って立つ見解を説得的に論じるための訓練としてこの機会を活かしてください。		
教材（テキスト）	渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法１　人権［第５版］』（有斐閣） 野中俊彦・江橋崇『憲法判例集［第 10 版］』（有斐閣）		
教材（参考文献）	各回の個別分野に関連する文献については、講義の中でその都度指示します。		
教材（その他）	講義用のレジュメを配布します。		
評価方法	定期試験 70%、平常点 30%（講義中に確認テストを 1、2 回程度実施します。）		
到達目標	（１）憲法学における基本的人権および関連する学説や判例についての基本的理解を深めること （２）基本的人権をめぐる諸問題について、自らの意見を（１）を踏まえて説得的に論じること		
準備学習	各回の講義終了時に教科書の次回該当部分を指示するので、予習として必ず一読しておいてください。また各回のレジュメには内容確認のための問題を付しているので、復習に利用してください。さらに記憶の定着や定期試験の準備のために、毎回の講義内容やレジュメをまとめた自分専用のノートを作成することをお勧めします。		

受講者への要望

受講に際しては積極的な態度で臨んでください。また日々の生活でもニュースや新聞に目を通す時など、憲法との関わりを意識して下さい。
私語など講義を妨害する行為については厳正な対応をします。
講義で配布する資料を集めてテスト前に勉強するだけでは、単位の取得は難しいと考えてください。

講義の順序とポイント

1. 人身の自由
居住・移転の自由、奴隷的拘束からの自由
2. 適正手続の保障、国務請求権
被疑者・被告人の権利、裁判を受ける権利
3. 生存権
生存権を具体化する様々な法律、生存権の法的性格
4. 教育を受ける権利、労働基本権
学習権、教育権の所在、労働基本権の保障内容
5. 職業選択の自由
営業の自由、規制の諸類型、規制目的二分論
6. 財産権の保障
私有財産制と所有権、「正当な補償」
7. 思想・良心の自由、学問の自由
思想・良心の自由の意義と保障内容、先端科学技術と研究の自由、大学の自治
8. 表現の自由
表現の自由の価値、表現の自由の保障内容、表現の自由規制の諸法理
9. 信教の自由
信教の自由の保障内容とその限界、政教分離原則
10. 集会・結社の自由
保障内容とその限界、公安条例や道路交通法による諸規制
11. 包括的基本権

幸福追求権、新しい人権
12. 法の下の平等
何を平等とするのか、平等保障の具体的制度、差別をめぐる諸問題
13. 基本的人権の歴史
人権思想はどのような歴史をたどってきたのか、人権の社会化・国際化
14. 基本的人権の分類とその享有主体
人権の観念とその内容、人権は誰に帰属するのか―外国人や法人の場合
15. 基本的人権の限界
人権を制約するための根拠、特別権力関係、人権の私人間効力

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	T40082001
科目名	憲法Ⅲ（統治機構） 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law Ⅲ (Frame of Governm ent)		
担当者名	大西　貴之	旧科目名称	
講義概要	本講義では、憲法学における統治機構に関する部分を取り扱います。本講義は、憲法Ⅱ（基本的人権）の履修を前提として進められます。統治機構はそもそも基本的人権の保障に資することにその存在理由を有しているため、学習においても基本的人権との関連を念頭に置きながら体系的・統合的に理解をすることが重要です。 まず統治機構を含めた憲法全体に関わる基本的な考え方（立憲主義）やその構成原理（国民主権、権力分立、法の支配）を概観してから、次いで具体的な機関や制度（国会、内閣、裁判所、財政、地方自治）のあり方について検討していきます。その際、現行規定の内容を覚えることに終始するのではなく、判例や学説を通してその機関や制度のどのような点が問題とされてきたのかを学びます。 さらに統治機構に関する論述問題を授業外の課題として数回設定します（提出は任意）。具体的な状況において自らが拠って立つ見解を説得的に論じるための訓練としてこの機会を活かしてください。		
教材（テキスト）	渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法２ 統治［第５版］』（有斐閣） 野中俊彦・江橋崇『憲法判例集［第 10 版］』（有斐閣）		
教材（参考文献）	各回の個別分野に関連する文献については、講義の中でその都度指示します。		
教材（その他）	講義用のレジュメを配布します。		
評価方法	定期試験 70％、平常点 30％（講義中に確認テストを 1、2 回程度実施します。）		
到達目標	（１）憲法学における統治機構および関連する学説や判例についての基本的理解を深めること （２）統治機構をめぐる諸問題について、自らの意見を（１）を踏まえて説得的に論じること		
準備学習	各回の講義終了時に教科書の次回該当部分を指示するので、予習として必ず一読しておいてください。また各回のレジュメには内容確認のための問題を付しているので、復習に利用してください。さらに記憶の定着や定期試験の準備のために、毎回の講義内容やレジュメをまとめた自分専用のノートを作成することをお勧めします。		

受講者への要望

受講に際しては積極的な態度で臨んでください。また日々の生活でもニュースや新聞に目を通す時など、憲法との関わりを意識して下さい。
私語など講義を妨害する行為については厳正な対応をします。
講義で配布する資料を集めてテスト前に勉強するだけでは、単位の取得は難しいと考えてください。

講義の順序とポイント

1. 議院内閣制
議会と行政部の関係、内閣総辞職と衆議院の解散
2. 国会
立法の概念、国の唯一の立法機関、法律制定過程
3. 内閣
行政の概念、独立行政委員会の仕組み、内閣の権限
4. 両院制
議院の権限、議員の地位と権限、内閣の組織、内閣総理大臣の地位と権限
5. 裁判所（１）
司法権の意義、法律上の争訟、司法権の限界
6. 裁判所（２）
司法権の独立、裁判所の組織と構成
7. 裁判所（３）
違憲審査制の意義と性格、司法積極主義と消極主義
8. 裁判所（４）
憲法訴訟、文面審査と適用審査、合憲性審査基準
9. 地方自治（１）
地方自治の本旨、地方公共団体の機関
10. 地方自治（２）
地方公共団体の権能、条例制定権の範囲

11．統治機構の構成原理（1）
法の支配、立憲主義の歴史的展開
12．統治機構の構成原理（2）
権力分立
13．統治機構の構成原理（3）
国民主権
14．選挙と政党
選挙制度、政党の地位と自律性
15．立憲主義
憲法規範の特質

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	T40082002
科目名	憲法Ⅲ（統治機構） 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law Ⅲ (Frame of Governm ent)		
担当者名	大西　貴之	旧科目名称	
講義概要	本講義では、憲法学における統治機構に関する部分を取り扱います。本講義は、憲法Ⅱ（基本的人権）の履修を前提として進められます。統治機構はそもそも基本的人権の保障に資することにその存在理由を有しているため、学習においても基本的人権との関連を念頭に置きながら体系的・統合的に理解をすることが重要です。 まず統治機構を含めた憲法全体に関わる基本的な考え方（立憲主義）やその構成原理（国民主権、権力分立、法の支配）を概観してから、次いで具体的な機関や制度（国会、内閣、裁判所、財政、地方自治）のあり方について検討していきます。その際、現行規定の内容を覚えることに終始するのではなく、判例や学説を通してその機関や制度のどのような点が問題とされてきたのかを学びます。 さらに統治機構に関する論述問題を授業外の課題として数回設定します（提出は任意）。具体的な状況において自らが拠って立つ見解を説得的に論じるための訓練としてこの機会を活かしてください。		
教材（テキスト）	渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法２ 統治［第５版］』（有斐閣） 野中俊彦・江橋崇『憲法判例集［第 10 版］』（有斐閣）		
教材（参考文献）	各回の個別分野に関連する文献については、講義の中でその都度指示します。		
教材（その他）	講義用のレジュメを配布します。		
評価方法	定期試験 70％、平常点 30％（講義中に確認テストを 1、2 回程度実施します。）		
到達目標	（１）憲法学における統治機構および関連する学説や判例についての基本的理解を深めること （２）統治機構をめぐる諸問題について、自らの意見を（１）を踏まえて説得的に論じること		
準備学習	各回の講義終了時に教科書の次回該当部分を指示するので、予習として必ず一読しておいてください。また各回のレジュメには内容確認のための問題を付しているので、復習に利用してください。さらに記憶の定着や定期試験の準備のために、毎回の講義内容やレジュメをまとめた自分専用のノートを作成することをお勧めします。		

受講者への要望

受講に際しては積極的な態度で臨んでください。また日々の生活でもニュースや新聞に目を通す時など、憲法との関わりを意識して下さい。
私語など講義を妨害する行為については厳正な対応をします。
講義で配布する資料を集めてテスト前に勉強するだけでは、単位の取得は難しいと考えてください。

講義の順序とポイント

1. 議院内閣制
議会と行政部の関係、内閣総辞職と衆議院の解散
2. 国会
立法の概念、国の唯一の立法機関、法律制定過程
3. 内閣
行政の概念、独立行政委員会の仕組み、内閣の権限
4. 両院制
議院の権限、議員の地位と権限、内閣の組織、内閣総理大臣の地位と権限
5. 裁判所（１）
司法権の意義、法律上の争訟、司法権の限界
6. 裁判所（２）
司法権の独立、裁判所の組織と構成
7. 裁判所（３）
違憲審査制の意義と性格、司法積極主義と消極主義
8. 裁判所（４）
憲法訴訟、文面審査と適用審査、合憲性審査基準
9. 地方自治（１）
地方自治の本旨、地方公共団体の機関
10. 地方自治（２）
地方公共団体の権能、条例制定権の範囲

11．統治機構の構成原理（1）
法の支配、立憲主義の歴史的展開
12．統治機構の構成原理（2）
権力分立
13．統治機構の構成原理（3）
国民主権
14．選挙と政党
選挙制度、政党の地位と自律性
15．立憲主義
憲法規範の特質

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★★

年度	2015	授業コード	T40085001
科目名	行政法Ⅰ（総論） 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law I (Introduction)		
担当者名	石塚　武志	旧科目名称	
講義概要	行政活動と法の関係に関する重要な原理について学習する。国や自治体の行政活動がどのような組織によって成り立っているかについて、法律を参照しつつ学習する。行政保有情報の管理について、法律・条例を参照して学習する。		
教材（テキスト）	櫻井敬子・橋本博之『行政法［第 4 版］』（弘文堂、2013 年）		
教材（参考文献）	宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅰ［第 6 版］』（有斐閣、2012 年） 高橋滋編著『行政法 Visual Materials』（有斐閣、2014 年）		
教材（その他）			
評価方法	時おり課題を提出してもらい、それを平常点として 30 点分として評価します。 定期試験ないしレポート課題を学期末に実施し、70 点分として評価します。		
到達目標	「行政法」は、公務員試験等の試験科目となっている場合があります。そのような試験の受験勉強を進める基礎となる学力を習得することを目標とします。		
準備学習	授業予定を示しますので、テキストの該当箇所を通読してから授業に臨むよう心がけてください。		
受講者への要望			
テキストに指定するものに限りませんが、『行政法』に関する教科書・体系書を何か一つ手にして、学習を進めるようにしてください。授業中に法律の条文を参照することがありますので、六法を持参する等してください。			
講義の順序とポイント			
1. 行政活動と法、具体的な行政活動の例（食品衛生法） 2. 具体的な行政活動の例②（社会保障行政と条例） 3. 具体的な行政活動の例③（まちづくり行政と法律・条例） 4. 行政活動の主体と組織① 5. 行政活動の主体と組織②、地方自治法① 6. 地方自治法② 7. 法律による行政の原理① 8. 法律による行政の原理② 9. 行政活動の手続法的統制 10. 行政救済制度の概要 11. 行政活動に対する信頼の保護 12. 公法と私法 13. 情報公開法 14. 個人情報保護法 15. まとめと復習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T40090001
科目名	民法Ⅰ（総則）　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law I (General Provisions)		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法全体に共通するルールである民法第１編「総則」の内容をおおむね条文配列の順序で学習する。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン民法総論〔第２版〕』（日本評論社、2011 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。出席状況、講義中の質問への応答、小テストの結果等を補充的に考慮する。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．民法総則の主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 ２．民法総則の主要論点に関する学説・判例を理解する。 ３．民法全体を体系的に理解するための基礎を形成する。		
準備学習	１．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 ３．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		

受講者への要望

民法総則は民法以外の法分野においても思考方法や制度の基礎となっており、最重要科目のひとつですが、内容が極めて抽象的であるため、難解、退屈といった印象を受ける受講者も多いと思います。最初のうちは我慢も必要です。粘り強く学習を進めてゆきましょう。当然のことですが、受講に際しては必ず「六法」を持参すること。

講義の順序とポイント

１．　受講にあたっての注意／民法とは／民法の法体系における位置／民法の構造
２．　権利の主体（１）　権利能力／意思能力
３．　権利の主体（２）　行為能力／未成年者／成年後見制度
４．　権利の主体（３）　法人
５．　法律行為　法律行為とは何か／強行法規違反・公序良俗違反
６．　不完全な意思表示（１）　心裡留保／虚偽表示／錯誤
７．　不完全な意思表示（２）　詐欺／強迫
８．　無効と取消し
９．　代理（１）　代理権
１０．代理（２）　無権代理
１１．代理（３）　表見代理
１２．時効（１）　時効の意義・存在理由／取得時効
１３．時効（２）　消滅時効／時効の中断・停止
１４．時効（３）　時効の効力／時効と除斥期間
１５．練習問題を通じた総復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T40090002
科目名	民法Ⅰ（総則）　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law I (General Provisions)		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法全体に共通するルールである民法第１編「総則」の内容をおおむね条文配列の順序で学習する。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン民法総論〔第２版〕』（日本評論社、2011 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。出席状況、講義中の質問への応答、小テストの結果等を補充的に考慮する。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．民法総則の主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 ２．民法総則の主要論点に関する学説・判例を理解する。 ３．民法全体を体系的に理解するための基礎を形成する。		
準備学習	１．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 ３．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		

受講者への要望

民法総則は民法以外の法分野においても思考方法や制度の基礎となっており、最重要科目のひとつですが、内容が極めて抽象的であるため、難解、退屈といった印象を受ける受講者も多いと思います。最初のうちは我慢も必要です。粘り強く学習を進めてゆきましょう。当然のことですが、受講に際しては必ず「六法」を持参すること。

講義の順序とポイント

１．　受講にあたっての注意／民法とは／民法の法体系における位置／民法の構造
２．　権利の主体（１）　権利能力／意思能力
３．　権利の主体（２）　行為能力／未成年者／成年後見制度
４．　権利の主体（３）　法人
５．　法律行為　法律行為とは何か／強行法規違反・公序良俗違反
６．　不完全な意思表示（１）　心裡留保／虚偽表示／錯誤
７．　不完全な意思表示（２）　詐欺／強迫
８．　無効と取消し
９．　代理（１）　代理権
１０．代理（２）　無権代理
１１．代理（３）　表見代理
１２．時効（１）　時効の意義・存在理由／取得時効
１３．時効（２）　消滅時効／時効の中断・停止
１４．時効（３）　時効の効力／時効と除斥期間
１５．練習問題を通じた総復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T40091001
科目名	民法Ⅱ（物権法） 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Ⅱ (Law of Real Estates)		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	民法典の第 2 編物権について、その前半部分（第 1 章総則～第 6 章地役権）を扱う（175 条から 294 条）。 内容としては物権変動、占有権、所有権、用益物権を扱うことになる。		
教材（テキスト）	千葉恵美子・藤原正則・七戸克彦『民法 2（物権）』有斐閣アルマ		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276 その他は授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	講義中に用いるプレゼン資料を事前に京学なびを通じて提供するし、それを講義までに各自でプリントしてもらうことになる予定。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	債権に対して物権がどのような特徴を持つのかを理解する。 動産及び不動産に対する権利に関する知識を習得する。 後半は土地に対する権利について言及する。どうして土地だけが問題となっているのかを理解する。		
準備学習	・講義用レジュメを事前に（5 日前をめどに）京学なびにアップロードするので、事前にプリントアウトし、不明な法律用語を調べておくこと（調べられているかは講義中に確認する）。 ・講義で説明した箇所について、もう一度教科書その他の基本書を読んで、知識として身につけること。		

受講者への要望

・講義中の出入りは周りの迷惑になる。トイレは休み時間中に済ませること。
・六法は必ず持参すること。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

おおよその目安であるが、次の通りに進める。

1. ガイダンス； 所有権の内容 ― 所有権絶対の原則
2. 所有権に基づく請求権 ― 請求権の意義・根拠・性質・要件・効果
3. 所有権の原始取得 ― 付合・混和・加工；無主物・遺失物
4. 共同所有 1 ― 意義・発生・内容
5. 共同所有 2 ― 消滅・準共有・建物の区分所有
6. 占有の保護 ― 占有訴権
7. 占有と本権 ― 本権の推定・占有による本権の取得（取得時効）
8. 物権変動 ― 物権変動とは何か；契約による不動産物権変動
9. 不動産物権変動 1 ― 不動産物権変動と対抗要件
10. 不動産物権変動 2 ― 登記を要する物権変動・177 条の第三者
11. 不動産物権変動 3 ― 不動産登記制度・登記の推定力と公信力
12. 動産物権変動 ― 対抗要件・立木の物権変動と対抗要件
13. 公信の原則 ― 動産取引の場合・不動産上の物権
14. 物権の性質と効力
15. 物権法定主義の意義

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T40091002
科目名	民法Ⅱ（物権法） 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Ⅱ (Law of Real Estates)		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	民法典の第 2 編物権について、その前半部分（第 1 章総則～第 6 章地役権）を扱う（175 条から 294 条）。 内容としては物権変動、占有権、所有権、用益物権を扱うことになる。		
教材（テキスト）	千葉恵美子・藤原正則・七戸克彦『民法 2（物権)』有斐閣アルマ		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276 その他は授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	講義中に用いるプレゼン資料を事前に京学なびを通じて提供するし、それを講義までに各自でプリントしてもらうことになる予定。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	債権に対して物権がどのような特徴を持つのかを理解する。 動産及び不動産に対する権利に関する知識を習得する。 後半は土地に対する権利について言及する。どうして土地だけが問題となっているのかを理解する。		
準備学習	・講義用レジュメを事前に（5 日前をめどに）京学なびにアップロードするので、事前にプリントアウトし、不明な法律用語を調べておくこと（調べられているかは講義中に確認する)。 ・講義で説明した箇所について、もう一度教科書その他の基本書を読んで、知識として身につけること。		

受講者への要望

・講義中の出入りは周りの迷惑になる。トイレは休み時間中に済ませること。
・六法は必ず持参すること。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

おおよその目安であるが、次の通りに進める。

1. ガイダンス； 所有権の内容 ― 所有権絶対の原則
2. 所有権に基づく請求権 ― 請求権の意義・根拠・性質・要件・効果
3. 所有権の原始取得 ― 付合・混和・加工；無主物・遺失物
4. 共同所有 1 ― 意義・発生・内容
5. 共同所有 2 ― 消滅・準共有・建物の区分所有
6. 占有の保護 ― 占有訴権
7. 占有と本権 ― 本権の推定・占有による本権の取得（取得時効）
8. 物権変動 ― 物権変動とは何か；契約による不動産物権変動
9. 不動産物権変動 1 ― 不動産物権変動と対抗要件
10. 不動産物権変動 2 ― 登記を要する物権変動・177 条の第三者
11. 不動産物権変動 3 ― 不動産登記制度・登記の推定力と公信力
12. 動産物権変動 ― 対抗要件・立木の物権変動と対抗要件
13. 公信の原則 ― 動産取引の場合・不動産上の物権
14. 物権の性質と効力
15. 物権法定主義の意義

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T40094A01
科目名	法制史Ｉ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal History I		
担当者名	小宮山　直子	旧科目名称	法制史 s
講義概要	この授業では、主に中世から近代にいたるヨーロッパ法の歴史について学びます。特にフランス・ドイツの近代法の成立と発展について重点を置きます。ヨーロッパ法が明治以降の日本近代法の形成に大きな影響を与えたことを念頭におきつつ、日本とは異なる文化をもつヨーロッパにおける法の発展過程を、当時の社会とのかかわりを含めて考察します。また最後に、明治維新以降の日本における近代法の成立過程を、憲法・民法を中心に考察します。図版や映像などの資料も活用しつつ、授業を進めていきます。		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	岩村等、三成賢次、三成美保著『法制史入門』（ナカニシヤ出版） その他は、講義の中で適宜紹介します。		
教材（その他）	毎回レジュメや資料を配布します。必要に応じて映像資料を活用します。		
評価方法	期末試験７０％ 、平常点（小テスト・レポートなどの課題）３０％		
到達目標	ヨーロッパ法の歴史について基礎的な知識を習得し、さらに日本における近代法成立の過程を学ぶことを目的とします。		
準備学習	毎回の授業で、前回授業内容にかかわる小テスト（もしくは小レポート）を実施するので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回、レジュメを配布しますが、教員の口述内容もしっかりとノートにまとめてください。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス（近代日本における西洋文化の受容） 第２回　中世の社会と法①（中世におけるローマ法の復活） 第３回　中世の社会と法②（中世ヨーロッパ社会の市民と農民） 第４回　近世の社会と法（自然法思想の成立） 第５回　啓蒙期の社会と法 第６回　フランス革命①（旧制度の解体） 第７回　フランス革命②（民法典の成立） 第８回　１９世紀フランスの社会と近代法① 第９回　１９世紀フランスの社会と近代法② 第１０回　１９世紀ドイツの社会と近代法①（法典論争） 第１１回　１９世紀ドイツの社会と近代法②（民法典の成立） 第１２回　フランス・ドイツの戦間期の法 第１３回　明治維新と西洋近代法の受容①（憲法典の成立） 第１４回　明治維新と西洋近代法の受容②（民法典の成立） 第１５回　戦後、社会の変化と法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T40094B01
科目名	法制史Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal History Ⅱ		
担当者名	小宮山　直子	旧科目名称	法制史ｆ
講義概要	この授業では、ヨーロッパそして近代日本の裁判制度の歴史を学びます。ヨーロッパ法は、明治以降の日本における近代法形成に大きな影響を与えましたが、裁判制度も同様です。ヨーロッパについては、ギリシア・ローマ時代、そしてヨーロッパ中世から現代までの裁判を、具体的事件を取りあげながら説明し、最後に明治以降の日本の裁判の展開について考察します。図版や映像資料などを活用しつつ、授業を進めていきます。		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	岩村等・三成賢次・三成美保著『法制史入門』（ナカニシヤ出版） その他は、講義の中で随時紹介します。		
教材（その他）	毎回、レジュメや資料を配布します。必要に応じて映像資料を活用します。		
評価方法	期末試験７０％、平常点（授業内の小テスト・レポートなど）３０％		
到達目標	ヨーロッパにおける裁判の歴史および日本近代における裁判制度の特徴について基礎的な知識を習得することを目標とします。		
準備学習	毎回の授業で、前回授業内容にかかわる小テスト（もしくは小レポート）を実施するので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回、レジュメを配布しますが、教員の口述内容もしっかりとノートにまとめてください。 春学期の続編ですが、秋学期のみの受講も可能です。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス（日本と西洋の裁判の比較） 第２回　ギリシア・ローマの裁判 第３回　古代ゲルマン社会の裁判 第４回　イングランドの裁判（陪審制度の成立） 第５回　近世の裁判①（教会裁判の発展、魔女裁判） 第６回　近世の裁判②（フランス・アンシャンレジーム期） 第７回　フランス革命期 第８回　１９世紀における裁判①（１９世紀、フランス・ドイツの概観） 第９回　１９世紀におけるる裁判②（フランス、ドレフェス事件） 第１０回　２０世紀の裁判①（戦前・戦中） 第１１回　２０世紀の裁判②（戦後） 第１２回　日本・明治維新と西洋近代法の受容 第１３回　明治以降の日本における裁判制度①（刑事裁判） 第１４回　明治以降の日本における裁判制度②（民事裁判） 第１５回　裁判への市民参加制度の国際比較			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	T40103002
科目名	民法Ⅴ（家族法） 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Ⅴ (Family and Inheritance)		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	民法Ⅴ（家族法），家族法
講義概要	夫婦や親子の法律関係（民法第 4 編親族）、相続や死後の財産処分（第 5 編相続）について学ぶ。		
教材（テキスト）	高橋 朋子、床谷 文雄、棚村 政行 『民法 7 親族・相続』（有斐閣）		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276		
教材（その他）	講義中にプロジェクターで表示するものを京学なびにて配付します。事前にプリントして持参して下さい。		
評価方法	期末試験のみに基づき評価する。		
到達目標	親族相続法上の制度とその背後にある民法の考え方を知識として得る。		
準備学習	提供する資料を事前にプリントし 1 度目を通しておくこと。必ず復習すること。		

受講者への要望

評価は期末テストの結果に従いますが、期末テストの結果は、受講生の出席と受講態度に左右されることが明白です。履修登録をしても出席しなければ、単位は取れません。 主に一年生が受講する講義ですので、メモをとり易く話すよう心がけますから、とる練習もしましょう。

講義の順序とポイント

民法の第 4 編及び第 5 編を扱う。他の民法科目は、最大でも 1 編で 1 科目となっているところ、本講義は 2 編を扱わなければならないため、最初の 7 回を親族法に当て、後半の 8 回を相続法に当てる。

第 1 回 導入、婚姻の成立、婚姻意思、婚姻障害事由
第 2 回 婚姻の効果、日常家事債務、婚姻の解消
第 3 回 有責配偶者からの離婚請求、離婚の効果
第 4 回 実親子関係（父性推定、認知、準正）
第 5 回 養親子関係（普通養子縁組、特別養子縁組）
第 6 回 親権（親権者、身上監護、財産管理）
第 7 回 後見（未成年後見、成年後見制度）
第 8 回 相続（相続人、代襲相続、同時死亡の推定）
第 9 回 相続権の剥奪（相続欠格、相続人の廃除）、相続の承認と放棄
第 10 回 相続財産、債権・債務の相続、遺産共有、
第 11 回 相続分（法定相続分・指定相続分）
第 12 回 相続人間の平等（特別受益の持ち戻し、寄与分） 、遺産分割
第 13 回 遺言（遺言の種類、自筆証書遺言の方式、遺言の撤回）
第 14 回 遺留分（遺留分の範囲、基礎財産）
第 15 回 遺留分額、遺留分減殺請求権、減殺の方法

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T40113001
科目名	経済法Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Competition Law Ⅱ		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	経済法
講義概要	スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。そして、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。 　この授業では、独占禁止法の全体像と、合併などの「企業結合」と「不公正な取引方法」を中心に学びます。		
教材（テキスト）	・川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）	・船田正之・金井貴嗣・泉水文雄編 『経済法判例・審決百選』（有斐閣、２０１０年） ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法』（有斐閣、２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポート等 40%） 小テスト２回（60%）		
到達目標	合併の理由およびメリット・デメリットを理解し、独占禁止法上の立場から分析できるようになる。 さまざまな種類の不公正な取引方法について、どのような行為か理解し、独占禁止法の視点から考えることができるようになる。		
準備学習	企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること。 各回の講義で指示する教科書の該当箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席すること。			
講義の順序とポイント			
１．市場経済と競争 ２．独占禁止法の目的と全体像 ３．企業結合規制①（企業結合の目的と形態） ４．企業結合規制②（市場画定） ５．企業結合規制③（競争の実質的制限） ６．企業結合規制④（企業結合の規制手続と一般集中規制） ７．前半のまとめ金と小テスト１ ８．不公正な取引方法 ９．取引拒絶 １０．不当廉売 １１．抱き合わせ販売 １２．排他条件付取引 １３．再販売価格維持 １４．優越的地位の濫用 １５． 公正取引委員会・エンフォースメントと小テスト２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

年度	2015	授業コード	T40115001
科目名	法哲学Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal Philosophy Ⅱ		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	法哲学特別講義
講義概要	本講義の受講対象になる者は、実定法の基礎的な部分は既に履修した者であることが、予想される。その履修の過程において、「そもそも法律とは何か」という疑問を抱いた者もいるのではないであろうか。本講義は、その問をめぐって共に思考を深めるために展開される。 本講義では、「法哲学」と同様、法の目的とされる「正義」についての議論を中心に展開する。「法哲学」に確認した課題、すなわち法哲学における「正義論」の位置づけ、正義概念の歴史的展開を前提にしつつ、いくつかの法領域にいて正義論の展開の具体層を概観すると同時に、正義論と法体系の相互関係（例えば立法精神）、正義論と実定法解釈のあり方、正義論と国家論、正義論と人権論にも言及する。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に合わせその都度紹介する。		
教材（その他）	講義のレジュメは京学なびに登録するので、事前にプリントアウトしておくこと。		
評価方法	授業内で書いてもらう、４回の小論文の素点の合計が成績となる。 その都度評価して返却するので、合格点に至らなかった者は再レポートを提出すること。		
到達目標	法学に関わる問題を媒介として哲学的思考を身につける。 正義論から法律を批判的に考察できるようになる。		
準備学習	講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
安易に結論に飛びつくことなく、あるいは自明性に逃げ込むことなく、じっくり腰を据えて思考するよう心がけてください。			
講義の順序とポイント			
（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。事前連絡（講義時と京学ナビ）で確認すること。） １．初めに ２．序論　「法哲学Ⅰ」で学習したことの確認 ３．　同上 ４．（第１回授業内レポート） 第１章　生命倫理と法 §１　臓器移植法と正義 ５．　同上 ６．　同上 ７．（第２回授業内レポート） §２　安楽死・尊厳死と法規制 ８．　同上 ９．　同上 １０．（第３回授業内レポート） 第２章　環境倫理と法 §３　水俣公害事件から考える ①水俣公害事件とは １１．　同上 １２．　②認定問題と訴訟 １３．　同上 １４．　（第４回授業内レポート） 第３章　法哲学の課題再考 §４　正義論の諸相			

１５．　　同上

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	T40116001
科目名	法社会学Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Law Ⅱ		
担当者名	沼口　智則	旧科目名称	法社会学特別講義
講義概要	秋学期は、これまでの春学期の成果の上に日本・欧米の法社会学の現状を概観し、さらに各論的テーマとしてフェミニズムをめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅳ）・天皇制をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）・正義をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅱ）を取り上げる。最後に講義全体の総括として、法社会学の役割と任務に及び、二十一世紀前半を法社会学の視座から展望する。		
教材（テキスト）	竹下賢・角田猛之編著『改訂版マルチ・リーガル・カルチャー』晃洋書房		
教材（参考文献）	講義の都度紹介していく。		
教材（その他）			
評価方法	学期末試験（80%）・講義の際の小レポート（20%）による総合評価。		
到達目標	フェミニズム・天皇制・正義と法との関係をしっかり把握させ、法社会学の学問的意義と課題を自覚させる。		
準備学習	法にかかわる記事は新聞の切抜きを行い、講義ノートにはりつけていくこと。		
受講者への要望			
現代社会の様々な事件や問題に積極的関心を持って臨むこと。			
講義の順序とポイント			
１．法社会学の現状　Ⅰ　日本の法社会学（２） ２．　〃　Ⅱ　欧米の法社会学（２） ３．フェミニズムをめぐる法社会学　Ⅰ　女性の権利の歴史（１） ４．　〃　Ⅱ　〃　（２） ５．　〃　Ⅲ　〃　（３） ６．　〃　Ⅳ　男女平等－特に憲法１４条と第２４条－ ７．　〃　Ⅴ　男女平等－夫婦別氏（姓）論議－ ８．天皇制をめぐる法社会学　Ⅰ　天皇制とは？ ９．　〃　Ⅱ　近代神権的天皇制 １０．　〃　Ⅲ　象徴天皇制 １１．　〃　Ⅳ　ビデオ学習「日本国憲法の誕生」（ＮＨＫ） １２．正義をめぐる法社会学　Ⅰ法哲学と法社会学 １３．　〃　Ⅱ　正義と法 １４．法社会学の役割と任務　Ⅰ　－全体の総括－ １５．　〃　Ⅱ　〃			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待			★		★★	★★

年度	2015	授業コード	T40121001
科目名	刑事訴訟法Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure Ⅱ		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	刑事訴訟法特別講義
講義概要	２００９年５月から裁判員制度が始まり、刑事手続に関しての国民の感心が高まってきているなかで、刑事裁判はどのような流れで進んでいくのか、どのようなルールがあるのか、誰もが裁判員になり、刑事裁判に参加する可能性がある今、知っておくべきである。また、刑事手続における問題解決のためには、判例やそれに対する学説の対立などによって、どのような相違が生じるのかといった発展的な議論についての知識も重要となる。そこで、この講義では、捜査から公判までの刑事手続の全体の流れを把握したうえで、刑事訴訟法のさまざまな基本ルールを概観しながら、憲法や刑事訴訟法の条文解釈、重要判例、学説の対立などの重要論点を解説する。主として公訴提起後の段階について解説する。		
教材（テキスト）	井上正仁編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。六法を毎回持参すること。		
評価方法	学期末試験の結果（８０％）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事手続に関する基礎知識を身につけ、刑事手続上の問題について具体例事例を素材に、条文に即し、主要な判例・学説の基本的な考え方を踏まえて説明することができるようになること、また、重要判例および学説の意義を深く正確に理解したうえで、それを前提に事例について妥当な解決策を導き出すことができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回取り扱う判例百選の関係箇所をを指定するので、読んで予習しておくこと。また、授業の最初に、前回の授業内容に係る小テストをするので、復習しておくこと。		

受講者への要望

「刑事訴訟法Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。
捜査に関する基本知識を理解していることを前提に授業を進めるので、より刑事訴訟法について理解を深めたいと考えている意欲的な受講生を望む。

講義の順序とポイント

1　　刑事手続の流れ
2　　任意捜査と強制捜査の区別
3　　任意捜査
4　　令状呈示前の立入り・電話検証
5　　強制採尿
6　　違法収集証拠排除法則①
7　違法収集証拠排除法則②
8　　接見交通
9　　起訴状
１０　　訴因変更
１１　証拠開示
１２　自白法則
１３　伝聞法則①
１４　伝聞法則②
１５　裁判員制度

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						★

年度	2015	授業コード	T40122001
科目名	国際人権法 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Human Rights Law		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	人権は伝統的に個人対国家の脈絡で語られ、国家による保障が基本である。他方で、国際人権保障は国連の基本目的の１つとなり、国連の７０年に及ぶ活動の中で大きな成果をあげた分野であるといっても過言ではない。それでは、国際人権保障の意義やはたらき、限界は何なのであろうか。また、国際人権保障から見て日本おける人権保障はどのように捉えられるであろうか。この授業では、このような問題意識を念頭に置きながら、第１部で国際人権保障の意義や特徴さらには仕組みなどについて講義する。第２部では、日本における具体的な人権問題を取り上げ、人権条約規定の日本の裁判所と条約機関の解釈を比較検討しながら、国際人権法の観点から日本の人権問題についてともに考えていきたい。 ＊国際人権保障は、教員採用試験では頻出分野なので、教職志望の学生には学部を問わず受講を勧める。		
教材（テキスト）	芹田健太郎・薬師寺公夫・坂元茂樹『ブリッジブック国際人権法』（信山社、２００８年） 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書・概説書】 田畑茂二郎『国際化時代の人権問題』（岩波書店、１９８８年） 阿部浩己ほか『テキストブック国際人権法〔第３版〕』（日本評論社、２００９年） 畑　博行・水上千之編『国際人権法概論〔第４版〕』（有信堂、２００６年） 薬師寺公夫ほか『法科大学院ケースブック　国際人権法』（日本評論社、２００６年） 【条約集】 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、２００９年） 松井芳郎ほか編『国際人権条約・宣言集〔第３版〕』（東信堂、２００６年）		
教材（その他）	世界人権宣言に関するビデオ教材を用いる。		
評価方法	講義の最後に毎回行う小テスト（６０％）、レポート（４０％）。 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．国際人権保障の意義と限界を理解する。 ２．人権条約や国連における国際人権保障の仕組みを理解する。 ３．日本の人権問題に対して国際人権法がどのような役割を果たすことができるのか考える。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．六法を必ず持参すること。
２．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。
３．講義では、休憩も取るので、集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

第１部　国際人権保障の仕組み
１．受講ガイダンス、国際人権保障の意義と展開
２．国際人権保障の理念と特徴
３．国連による人権保護活動（世界人権宣言に関するＤＶＤ鑑賞も行う）
４．国連による人権保護活動（つづき）
５．人権条約の実施措置（１）－普遍的人権条約
６．人権条約の実施措置（２）－地域的人権条約
７．個人の国際刑事責任（１）－国際犯罪の成立と展開
８．個人の国際刑事責任（２）－国際刑事裁判所の活動

第２部　日本における国際人権法の実施
９．総論、国籍
１０．外国人の出入国管理と人権

１１．難民の保護
１２．非嫡出子の人権
１３．刑事施設における被拘禁者の処遇
１４．少数者の権利
１５．社会権、男女平等

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	T40123001
科目名	労働法Ⅲ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law Ⅲ		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	労働法特別講義
講義概要	本講義では、労働法の領域のうち、集団的労働法を学んでいく。労使関係における制度および法的枠組み、並びに、法的問題について考察する。労働組合の結成から、その組織を維持・運営していくための様々の活動、使用者との労働条件をめぐる団体交渉、場合によっては争議行為をへて、労働協約の締結にいたるまでの過程を考察対象とする。 　本講義は科目名「労働法」または「労働法Ⅰ」および「労働法Ⅱ」の履修が前提となる。履修していない場合は、理解することにかなりの努力を必要とするので注意すること。		
教材（テキスト）	西谷　敏『労働組合法〔第 3 版〕』（有斐閣、2012 年）4100 円＋税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第 8 版〕（有斐閣、2009 年）2476 円＋税		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第１０版〕』（弘文堂、2012 年）5300 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則１回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト(70%)およびレポート等（３０％）などで評価する予定である。		
到達目標	社会人として求められる労働法の基礎知識（とくに労働組合法）を判例等も踏まえたうえで理解すること。		
準備学習	各講義の最後に、参考文献等を指摘したうえで、次回講義のための準備学習を指示する。毎回講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、復習しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		
受講者への要望			
教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 また、講義時のマナーが守れない場合には、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。			
講義の順序とポイント			
第１回　講義の進め方・その他諸注意 第２回　労働法とは　集団的労働法の概観 第３回　労働基本権 第４回　労働組合の結成および運営（１） 第５回　労働組合の結成および運営（２） 第６回　組合活動 第７回　団体交渉 第８回　労働協約（１） 第９回　労働協約（２） 第 10 回　争議行為 第 11 回　使用者の争議行為（ロック・アウト） 第１２回　不当労働行為およびその救済（１） 第１３回　不当労働行為およびその救済（２） 第１４回　最近の集団的労働法をめぐる諸問題(1) 第 15 回　最近の集団的労働法をめぐる諸問題(2)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T40136001
科目名	現代日本政治 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Modern Japanese Politics		
担当者名	服部　聡	旧科目名称	
講義概要	日本政治に関するニュースや新聞の記事がわかるような知識の習得を目指す。そのために、日本政治の仕組みと現状についての基礎知識を確認しつつ、解説を進めてゆく。そして、最終的に、日本政治の課題と政治とは何かということを見通す力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	北山・久米・真淵編『初めて出会う政治学』（有斐閣　２００３年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	筆記試験による。		
到達目標	日本を取り巻く政治問題について、自分なりの理性と価値観に基づいて理解し判断する力をつける。		
準備学習	可能な限り、テキストを読んでから出席することが望ましい。		

受講者への要望

現代日本の政治問題を論じるので、常に政治問題に関心を持って欲しい。具体的には、教科書とともに、常に新聞の社会面、政治面を読んだり、テレビのニュースを見たりしておくこと。授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止します。

講義の順序とポイント

1	明治憲法体制	戦前日本政治と官僚主導体制の成立について
2	新憲法体制	戦後日本政治の特徴について
3	国会と立法過程	立法過程の特徴とその問題について
4	国会と予算成立過程	予算成立過程とその問題について
5	官僚制	日本における官僚制の特徴について
6	政治家・官僚・財界	日本政治における癒着の問題について
7	日本の政党１	各政党の特徴について
8	日本の政党２	
9	選挙１	選挙制度とその特徴について
１０	選挙２	
１２	地方自治１	日本における地方自治の歴史とその現状について
１２	地方自治２	
１３	政治とマス・メディア	政治とマス・メディアの関係について
１４	日本と国際政治	戦後日本の外交政策とその課題について
１５	福祉政策	福祉政策の現状とその問題点について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T40136002
科目名	現代日本政治 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Modern Japanese Politics		
担当者名	服部　聡	旧科目名称	
講義概要	日本政治に関するニュースや新聞の記事がわかるような知識の習得を目指す。そのために、日本政治の仕組みと現状についての基礎知識を確認しつつ、解説を進めてゆく。そして、最終的に、日本政治の課題と政治とは何かということを見通す力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	北山・久米・真淵編『初めて出会う政治学』（有斐閣　２００３年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	筆記試験による。		
到達目標	日本を取り巻く政治問題について、自分なりの理性と価値観に基づいて理解し判断する力をつける。		
準備学習	可能な限り、テキストを読んでから出席することが望ましい。		

受講者への要望

現代日本の政治問題を論じるので、常に政治問題に関心を持って欲しい。具体的には、教科書とともに、常に新聞の社会面、政治面を読んだり、テレビのニュースを見たりしておくこと。授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止します。

講義の順序とポイント

1	明治憲法体制	戦前日本政治と官僚主導体制の成立について
2	新憲法体制	戦後日本政治の特徴について
3	国会と立法過程	立法過程の特徴とその問題について
4	国会と予算成立過程	予算成立過程とその問題について
5	官僚制	日本における官僚制の特徴について
6	政治家・官僚・財界	日本政治における癒着の問題について
7	日本の政党１	各政党の特徴について
8	日本の政党２	
9	選挙１	選挙制度とその特徴について
１０	選挙２	
１２	地方自治１	日本における地方自治の歴史とその現状について
１２	地方自治２	
１３	政治とマス・メディア	政治とマス・メディアの関係について
１４	日本と国際政治	戦後日本の外交政策とその課題について
１５	福祉政策	福祉政策の現状とその問題点について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T40137001
科目名	外交史 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Diplomatic History		
担当者名	服部　聡	旧科目名称	
講義概要	外交の基本的な仕組みと日本外交の歴史に関する基本的な知識の習得を目指す。具体的には、鎖国によって国際社会との関わりを制限していた日本が、いかにして国際社会に参入していったのか、その歴史的展開を論 じる。それを踏まえたうえで、今、日本外交について考える力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	入江昭『日本の外交』（中公新書）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布する		
評価方法	筆記試験による。		
到達目標	日本外交史に関する基礎知識を習得する。同時に、ヨーロッパ外交史にも留意する。		
準備学習	テキストをよく読んでおくこと。		
受講者への要望			
本講義は「史」という名前がついているように、基本的に歴史の話が中心となるので、明治維新以降の日本史について、高校で学習した程度の知識をつけておいて欲しい。 授業中に携帯電話やスマートフォンを使用することは禁止する。			
講義の順序とポイント			
1　外交とは　外交の歴史と基本的な仕組みについて 2　様々な国際秩序　国際秩序について 3　開国と近代化　江戸時代の特徴と開国以後の日本について 4　日清戦争とその意味　日清戦争の意味について 5　日露戦争とその意味　日露戦争の意味について 6　欧米との対等化の達成　日露戦争後の日本外交と条約改正について 7　第一次世界大戦　第一次世界大戦と日本の対応 8　ベルサイユ体制の成立　ベルサイユ体制の成立とその実態について 9　ワシントン体制の成立　ワシントン体制の成立とその実態について １０　満州事変と満州国建国　満州事変の原因とその結果について １１　華北分離工作と日中戦争　日中戦争の原因とその展開 １２　太平洋戦争　太平洋戦争の原因とその展開について １３　敗戦と占領　アメリカの対日占領政策について １４　戦後日本の再出発　戦後日本外交の展開について １５　冷戦と日本外交			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	T40166A01
科目名	消防と法Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Fire Fighting and Law I		
担当者名	廣瀬　仁久	旧科目名称	
講義概要	公務員の中でも、住民の生命と財産を守るために、時には我が身の危険を顧みず消火活動や人名救助に当たる消防職員は、一般の事務職員とは異なり阪神淡路大震災以降、大きな注目を浴び、男女を問わずこの職業を目指す若者が増加しています。 一方、消防職員の日常業務、災害現場における活動等、その真の姿を理解している方は多くはないと思います。 この講義では、消防の仕事を知り、理解することで、将来消防職員に就こうとする学生諸君の目的意識の向上を図ると共に、身近な防火・防災に関心を持ってもらうこと。併せて消防職員になるためには何をなすべきか、なしたなら如何にあるべきかを伝えていきます。 講義の内容は、机上学習の他に、訓練参加、実技、事例研究などを取り入れ多彩なものとします。		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	その都度、紹介します。		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布します。		
評価方法	平常点（20%)出席状況等による。　　授業中のプリント問題等（30%）　　期末レポート(50%)		
到達目標	地方公務員である消防職員の仕事と多様化する災害を知り、防災に関する知識を高めると共に、目的とする進路へのモチベーションを高め、維持する。		
準備学習	・消防職員を目指そうとする学生は、日常の体力作りが大切であり、大学のジムを利用しての体づくりに努めること。なお、一定の基準があるので、その基準をクリアーできること。 ・現在、地球上では前例のない災害が毎年のように発生しています。このような災害の発生メカニズムから被災者の自立支援にまで関心を持ち、その防災の一端に携わっている消防の活動をテレビや新聞、雑誌等で常に注視して、関係する記事等をファイリングすること。 ・講義で扱った表示等を生活の中で見つけた時は、写真に撮って、上記ファイルとともに保存しておくこと。		

受講者への要望

消防は、どのような法律を根拠に活動しており、起こりうる災害に対してどのように備えているのか? 住民の生命・財産を守る消防職員に興味を持ち、進路を考える上での一助にしてほしい。同時に現在の公務員の姿、倫理に関心を持ち、厳しく見つめてほしい。

なお、「消防と法Ⅰ」は、法令等に基づき消防の業務や今日の災害を知り、その対処の方法などを学び、「消防と法Ⅱ」では、訓練や講習などを体験する実技を含めた講義とします。

「消防と法Ⅰ」「消防と法Ⅱ」はどちらか一方、または双方の受講が可能です。

講義の順序とポイント

1　講時　公務員と消防職員
2　講時　日本における災害の現状
3　講時　消防業務の概要
4　講時　消防の日常業務と現場活動
5　講時　消防組織法
6　講時　消防法
7　講時　その他の消防関係法令
8　講時　消防財政
9　講時　警防業務（火災）
10　講時　警防業務（火災原因調査）
11　講時　警防業務（救助）
12　講時　警防業務（救急）
13　講時　予防業務（防火査察）
14　講時　予防業務（危険物の知識と防火査察）
15　講時　地域防災の実践（自主防災組織）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T40166B01
科目名	消防と法Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Fire Fighting and Law Ⅱ		
担当者名	廣瀬　仁久	旧科目名称	
講義概要	「消防と法Ⅱ」は、実技訓練や実災害の検証等の他、各種講習などを体験する消防実技を含めた講義とします。		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	その都度、紹介します。		
教材（その他）	必要に応じプリント等を配布します。		
評価方法	平常点(20%)出席状況等による。　授業中のプリント問題等(30%)　　期末レポート(50%)		
到達目標	消防職員の仕事と災害を知り、防災に関する知識を高めると共に、目的とする進路へのモチベーションを高め、維持する。		
準備学習	・消防職員を目指そうとする学生は、日常の体力作りが大切であり、大学のジムを利用しての体力作りに努めること。なお、一定の規準があるのでその基準をクリアーできること。 ・消防の活動に絶えず関心を持ち、テレビや新聞、雑誌等から消防に対する知識を吸収するとともに、関係する記事等をファイリングすること。 ・講義で扱った表示等を生活の中で見つけた時は、写真に撮って、上記ファイルとともに保存しておくこと。		

受講者への要望

消防の実践的活動を目にし、また自ら体験し、住民の生命・財産を守る消防職員が実際にどんなことをしているのかを知るなどして、進路を考える上での一助にしてほしい。同時に、現在の公務員の姿、倫理に関心を持ち、厳しく見つめてほしい。

講義の順序とポイント

1　講時　消防活動の概要
2　講時　危機管理と安全管理
3　講時　救急講習（普通救命講習）
4　講時　救急講習（普通救命講習）
5　講時　緊急消防援助隊の活動
6　講時　消火訓練及び地震体験
7　講時　災害事例
8　講時　原子力防災
9　講時　危険予知訓練（ＫＹＴ）と災害対策（ＤＩＧ）
10　講時　消防防災ヘリ
11　講時　防災の基礎知識を学ぶ（東日本大震災から）
12　講時　災害の基礎知識
13　講時　災害への備え
14　講時　いざというとき役立つ知識
15　講時　災害ボランティア活動

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2015	授業コード	T40167001
科目名	少年法 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Juvenile Law		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	過去数十年の間だけでも、神戸の児童連続殺傷事件、佐世保小６女自殺害事件、山口県光市母子殺害事件、そして裁判員裁判で死刑が問題となった石巻男女殺傷事件などの少年事件が報道で大きく取り上げられている。しかし、事件を犯した少年が、どのような手続を経て、どのような処分を受けるのかということを正確に理解しているだろうか。「少年法」という言葉は知っていてもその法律の理念・全体像を理解しているだろうか。 警察官や法曹など、犯罪に関わっていく職業はもちろん、裁判員制度が施行された今では、少年法に関する基本的知識は不可欠になってくるだろう。そこで、この講義では、少年法の意義や少年法による手続の流れなどを概観したうえで、警察や家庭裁判所等の役割および少年法をめぐる問題について理解を深めてもらう。		
教材（テキスト）	レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業の中で必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。毎回六法を持参すること。		
評価方法	学期末試験の結果（８０％）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	少年事件や少年審判の流れについて理解し、少年法に関する体系的な基礎知識を身につけることができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、授業の最初に前回の授業内容に係るおさらいテストをするので、復習しておくこと。		

受講者への要望

この講義では、少年事件の手続を中心に解説するので、少年非行の実態やその原因などについて学びたいという学生はこの講義ではなく「犯罪学」を受講すること。

学期末試験や小テストのためにも、少年事件の手続全体および少年法の意義を理解する必要がある。したがって、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。

講義の順序とポイント

１　少年法とは
２　少年法制の沿革
３　少年法の目的と対象
４　少年保護事件の対象と手続
５　警察による捜査・予防活動（１）
６　警察による捜査・予防活動（２）
７　警察による捜査・予防活動（３）
８　警察における非行防止活動
９　家庭裁判所における事件受理
１０　観護措置
１１　調査
１２　少年審判
１３　試験観察・終局決定①
１４　終局決定②
１５　検察官送致（逆送）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	★

年度	2015	授業コード	T40211001
科目名	行政法Ⅱ（作用法）　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law Ⅱ (Actions)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	本学部の行政法は、総論、作用法、救済法の３つの講義で構成される。本講義では、行政作用法の部分と行政の義務履行確保の部分、行政手続、情報公開、個人情報保護を扱う。		
教材（テキスト）	高橋　滋『行政法　Visual Materials』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）	宇賀克也・交告尚史『行政判例百選Ⅰ[第６版]』、『行政判例百選Ⅱ[第６版]』（有斐閣、2012 年）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験（60%）　授業内テスト（20%）　平常点（20%）		
到達目標	行政作用のそれぞれの特色を理解するとともに、行政救済法との関係も学ぶ。		
準備学習	毎回、講義終了時に確認テストとして公務員試験の過去問を解く。 次回の範囲の教科書該当頁と関連判例を予習する。		
受講者への要望			
公務員試験や行政書士などの資格試験を目指している人は必ず受講すること。 憲法科目は履修すること。行政法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは必ずセットで履修すること。 地方自治法も履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．　行政法の学び方と講義の概要 ２．　行政作用の種類 ３．　行政立法 ４．　行政行為の概念と種類 ５．　行政裁量 ６．　行政行為の効力 ７．　行政行為の瑕疵 ８．　行政行為の取消しと撤回 ９．　行政行為の附款 １０．行政計画 １１．行政契約 １２．行政指導 １３．行政上の強制執行 １４．行政上の即時強制 １５．行政罰			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	

年度	2015	授業コード	T40211002
科目名	行政法 II（作用法） 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law II (Actions)		
担当者名	石塚　武志	旧科目名称	
講義概要	国や自治体の行政機関が、私たち市民や私企業に対して行う活動を、その法的な性格によって、行政処分・行政指導などに分類し、それぞれがどのような法的ルールに従って行われるのかを検討します。		
教材（テキスト）	櫻井敬子・橋本博之『行政法［第 4 版］』（弘文堂、2013 年）		
教材（参考文献）	宇賀克也ほか編『行政判例百選 I［第 6 版］』（有斐閣、2012 年） 高橋滋編著『行政法 Visual Materials』（有斐閣、2014 年）		
教材（その他）			
評価方法	時おり課題を提出してもらい、それを平常点として 30 点分として評価します。 定期試験ないしレポート課題を学期末に実施し、70 点分として評価します。		
到達目標	「行政法」は、公務員試験等の試験科目となっている場合があります。そのような試験の受験勉強を進める基礎となる学力を習得することを目標とします。		
準備学習	授業予定を示しますので、テキストの該当箇所を通読してから授業に臨むよう心がけてください。		
受講者への要望			
テキストに指定するものに限りませんが、『行政法』に関する教科書・体系書を何か一つ手にして、学習を進めるようにしてください。授業中に法律の条文を参照することがありますので、六法を持参する等してください。			
講義の順序とポイント			
1. 行政活動と法、行政立法① 2. 行政立法② 3. 行政行為の概念と分類 4. 行政行為の効力 5. 行政行為の職権取消し・撤回 6. 行政手続法の具体的内容 7. 行政裁量① 8. 行政裁量② 9. 行政上の義務履行確保 10. 行政罰 11. 行政指導① 12. 行政指導② 13. 行政計画 14. 行政契約 15. 行政調査			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	T40221001
科目名	商法総則・商行為法 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Commercial Code (General Provisions and Commercial Transaction)		
担当者名	小野里 光広	旧科目名称	
講義概要	商法総則と、商行為について講義する。民法上の契約は、商人でない者同士のものを想定しているが、商法総則・商行為法では、商人同士のもの及び商人と消費者のものが想定されている。これらについてモデル・ケースなどを提示しつつ、講義する。		
教材（テキスト）	落合誠一=大塚龍児=山下友信『商法 I 総則・商行為[第 5 版]』（有斐閣、2013 年）		
教材（参考文献）	江頭憲治郎=山下友信『商法（総則・商行為）判例百選[第 5 版]』（有斐閣、2008 年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期期末試験（60%）。		
到達目標	1.社会において商法がどのように役立っているか、法的に理解できる。 2.商法総則・商行為法について、簡単な説明問題・事例問題を文章で説明できる。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		

受講者への要望

民法総則・契約法を履修済であるか、並行して履修すること。

講義の順序とポイント

1．イントロダクション
2．商法の法源、商人の意義
3．商人資格の得喪
4．営業
5．商号規制
6．商業帳簿、資産の評価
7．商業使用人、代理商
8．商業登記
9．商行為概念とその効果
10.商行為の代理・商事契約の成立
11.商事担保
12.企業取引の補助者
13.商事売買
14.問屋営業・運送営業
15.場屋営業・倉庫営業

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期 待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	T40221002
科目名	商法総則・商行為法 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Commercial Code (General Provisions and Commercial Transaction)		
担当者名	小野里 光広	旧科目名称	
講義概要	商法総則と、商行為について講義する。民法上の契約は、商人でない者同士のものを想定しているが、商法総則・商行為法では、商人同士のもの及び商人と消費者のものが想定されている。これらについてモデル・ケースなどを提示しつつ、講義する。		
教材（テキスト）	落合誠一=大塚龍児=山下友信『商法 I 総則・商行為[第 5 版]』（有斐閣、2013 年）		
教材（参考文献）	江頭憲治郎=山下友信『商法（総則・商行為）判例百選[第 5 版]』（有斐閣、2008 年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期期末試験（60%）。		
到達目標	1.社会において商法がどのように役立っているか、法的に理解できる。 2.商法総則・商行為法について、簡単な説明問題・事例問題を文章で説明できる。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
民法総則・契約法を履修済であるか、並行して履修すること。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．商法の法源、商人の意義 3．商人資格の得喪 4．営業 5．商号規制 6．商業帳簿、資産の評価 7．商業使用人、代理商 8．商業登記 9．商行為概念とその効果 10.商行為の代理・商事契約の成立 11.商事担保 12.企業取引の補助者 13.商事売買 14.問屋営業・運送営業 15.場屋営業・倉庫営業			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期 待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	T40227001
科目名	民法Ⅳ（契約・不法行為法） 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法第 3 編のうち、債権発生原因である契約および不法行為を中心に学習する。順序としては、契約一般に共通するルール（契約総則）をみた後に、各種の契約の中でもとくに重要なもの（売買・賃貸借など）を扱い、最後に不法行為法を概観する。講義にあたっては具体的な事例を適宜紹介して理解を助けるように努める。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン債権法〔第 5 版〕』（日本評論社、2010 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。出席状況、講義中の質問への応答、小テストの結果等を補充的に考慮する。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．契約および不法行為に関する主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 ２．主要論点に関する判例・学説を理解する。 ３．具体的な事例に条文を当てはめ、解決することができる。		
準備学習	１．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 ３．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		
受講者への要望			
民法は全体として密接に関連しているので、民法 I（総則）、民法 III（債権総論）などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。また、受講に際しては必ず「六法」を持参すること。			
講義の順序とポイント			
１．　受講にあたっての注意／契約・不法行為法序説 ２．　契約の成立 ３．　契約の効力（１）同時履行の抗弁権 ４．　契約の効力（２）危険負担 ５．　契約の解除 ６．　契約総則の復習（練習問題） ７．　売買（１） ８．　売買（２）売主の担保責任 ９．　贈与 １０．賃貸借（１） １１．賃貸借（２） １２．不動産賃貸借～借地借家法 １３．その他の典型契約 １４．不法行為（１） １５．不法行為（２）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T40227002
科目名	民法IV（契約・不法行為法） 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	民法のうち契約や不法行為の重要テーマについて具体的事例を用いながら入門的な講義を行います。これらは、皆さんがどんな職業につくにせよ、市民社会・企業社会の中で生きていくための不可欠のルールですので、確実の自分のものにする必要があります。 毎回の講義では、具体的な事例を使って、そこへの参加者が円滑の利害調整を図るためには、どのようにルールを使うかを考えていくことにしたいと思います。		
教材（テキスト）	レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	道垣内弘人『リーガルベイシス民法入門』(2014 年、日本経済新聞社)		
教材（その他）			
評価方法	70％　試験 30％　授業内課題または小テスト		
到達目標	市民社会に直結した法律である民法のうち、消費者としての私たちに関連する契約や不法行為について学習し、日常生活で発生する法的諸問題の解決のために、民法ルールをどのように適用していけばよいか、その方法を体得する。		
準備学習	次回のテーマは、事前に通知するので、予習して、自分なりの答をもって授業に臨んでいただきたい。 なお、「受講者への要望」の箇所も参照。		

受講者への要望

取り上げる素材は、私たちの日常生活およびその延長線である。
学びのレベルにかかわらず、少し考えれば、それなりの答があるはずである。
こういった受講生の問題意識を大事にしながら、これに基づき、教員との間で「対話」を試み、合理的な紛争解決方法は何なのかについて考えていくこととしたいので、予習して、自分なりの答をもって授業に臨んでいただきたい。

講義の順序とポイント

1 民法とはどういうものか。民法の組み立て。
　契約法・不法行為法の基本を中心にして
2 不法行為による損害賠償(1)
　不法行為とは
　不法行為の成立要件
3 不法行為による損害賠償(2)
　不法行為責任の内容
　その他不法行為制度をめぐるいくつかの問題
　　損害賠償請求権の時効・共同不法行為など
4 特殊な不法行為
　使用者責任、土地工作物責任など
5 不法行為制度のまとめ
　具体的な紛争事例の検討を行うと共に、授業内課題に取り組んでいただきます。

6 契約の成立
　申込みと承諾、隔地者間の契約成立、電子契約
7 契約の効力
　同時履行の抗弁権、危険負担
8 契約の履行・不履行と履行の強制
　決済
　債務不履行
9 売買(1)
　売買契約の成立
　売主・買主の義務
10 売買(2)

売主の担保責任など
11 賃貸借(1)
貸主・借主の権利義務など
12 賃貸借(2)
不動産賃借権の対抗力
賃貸借の譲渡と転貸
13 その他の契約
消費貸借・請負など
14 消費者契約の取消・無効
消費者契約法の概要
不当な勧誘行為の取消し
不当な契約条項の無効
15 まとめにかえて－事例研究
契約にかかる具体的な紛争事例を検討を行うと共に、授業内課題に取り組んでいただきます

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T50321001
科目名	社会問題論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Problems		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現在の日本社会には、格差の拡大や派遣労働者の解雇など、人々が安定した社会生活を営むことを妨げるような問題が多数存在する。この講義では、いくつかの社会問題について、実態を説明し、それらを解決するために提案されている方法について紹介する。 なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースの解説をおこなう。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	現代の日本社会がかかえる社会問題の基本を理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，貧困：格差、ホームレス、生活保護。
3，労働１：派遣労働。
4，労働２：過労死、失業、ニート。
5，外国人：不法入国と国内定住。
6，女性：パート労働、母子家庭。
7，子ども：学童保育、子どもの権利条約。
8，高齢者：介護保険、高齢者医療。
9，年金：年金財政、年金負担と給付。
10，医療：一部に見られる医師不足。
11，健康保険：国民医療費。
12，税金：税制、税負担、国家財政、国債残高。
13，食料：自給率、地産地消、フェア・トレード、食品添加物。
14，政治の責任と「自己責任」
15，社会問題の見方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	T50321002
科目名	社会問題論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Problems		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現在の日本社会には、格差の拡大や派遣労働者の解雇など、人々が安定した社会生活を営むことを妨げるような問題が多数存在する。この講義では、いくつかの社会問題について、実態を説明し、それらを解決するために提案されている方法について紹介する。 なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースの解説をおこなう。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	現代の日本社会がかかえる社会問題の基本を理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，貧困：格差、ホームレス、生活保護。
3，労働１：派遣労働。
4，労働２：過労死、失業、ニート。
5，外国人：不法入国と国内定住。
6，女性：パート労働、母子家庭。
7，子ども：学童保育、子どもの権利条約。
8，高齢者：介護保険、高齢者医療。
9，年金：年金財政、年金負担と給付。
10，医療：一部に見られる医師不足。
11，健康保険：国民医療費。
12，税金：税制、税負担、国家財政、国債残高。
13，食料：自給率、地産地消、フェア・トレード、食品添加物。
14，政治の責任と「自己責任」
15，社会問題の見方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	T50416001
科目名	政治社会学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代の社会では個人の自由は大きいように思われる。結婚相手の選択や、身につける衣装の好み、自分の意見を発表することも、自由であるように見える。しかし、少し深く考えてみると、本当に自由なのかどうかは確かではない。何についても全く自由に発言できるとは誰も思っていないし、メディアにおいて触れられないタブーの問題もある。また、近年では街のあちこちに監視カメラが増えていて、プライヴァシー侵害の問題が指摘されている。この講義では、現代社会のこのような問題について考える手がかりを提供する。 なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースの解説を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	政治社会学の基本事項を知り、現代日本社会の監視社会的な特徴について理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、現代社会の諸側面に関心をもっていてほしい。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて
2，監視カメラの増加とプライヴァシー
3，国民総背番号制と個人情報の保護
4，信教の自由と国家の強制力
5，政教分離
6，国旗の問題
7，国歌の問題
8，教科書検定
9，愛国心とは何か
10，民主主義の意味
11，自由主義の意味
12，国家の概念
13，現在の天皇制の特色
14，天皇制と民主主義の関わり
15，政治と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	T50416002
科目名	政治社会学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代の社会では個人の自由は大きいように思われる。結婚相手の選択や、身につける衣装の好み、自分の意見を発表することも、自由であるように見える。しかし、少し深く考えてみると、本当に自由なのかどうかは確かではない。何についても全く自由に発言できるとは誰も思っていないし、メディアにおいて触れられないタブーの問題もある。また、近年では街のあちこちに監視カメラが増えていて、プライヴァシー侵害の問題が指摘されている。この講義では、現代社会のこのような問題について考える手がかりを提供する。 なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースの解説を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	政治社会学の基本事項を知り、現代日本社会の監視社会的な特徴について理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、現代社会の諸側面に関心をもっていてほしい。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて
2，監視カメラの増加とプライヴァシー
3，国民総背番号制と個人情報の保護
4，信教の自由と国家の強制力
5，政教分離
6，国旗の問題
7，国歌の問題
8，教科書検定
9，愛国心とは何か
10，民主主義の意味
11，自由主義の意味
12，国家の概念
13，現在の天皇制の特色
14，天皇制と民主主義の関わり
15，政治と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	

年度	2015	授業コード	T60006001
科目名	環境教育・富良野自然塾 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Education/ Furano Field		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	大学コンソーシアム京都の単位互換科目として開講するもの。「北の国から」などで著名な脚本家の倉本聰氏が主宰する「富良野自然塾」（講座協賛 三井住友銀行）の全面的協力で、北海道での現地実習を行う。京都における事前学習および事後学習も実施する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	・「愚者の質問」　倉本聰、林原博光 著　（日本経済新聞出版社　2010 年） ・「ヒトに問う」　倉本聰 著　（双葉社　2013 年）		
教材（その他）			
評価方法	事前学習、現地実習、事後学習の出席状況や実習への取り組み状況等による（７０％） レポート（３０％）		
到達目標	森林フィールドでの環境教育についての深い理解と体験（遊学）		
準備学習	参考文献欄に挙げた文献を読んでおいてください。		

受講者への要望

自然のなかで無心に遊んでみてください。鈍感になった感性が生き返ってきます。楽しい協力的な集いになるように、各人それぞれが心がけてください。
「富良野自然塾・倉本聰対談集　愚者の質問」日本経済新聞出版社を読んでおくと参考になります。

講義の順序とポイント

環境問題に対する特定の解決策を導き出すことを目的としているのではなく、自然体験活動と学生間の交流を通して、環境問題や自然環境に関する豊かな見かたや価値観が醸成されてくることをめざす。 富良野自然塾は、人間が自らの五感を使って自然から学ぶことをデザインした環境教育・五感プログラムを、そしてそれらのすぐれたインストラクターを用意している。

富良野自然塾からのメッセージ（エクアドルの民話「ハチドリの一滴」）：　山火事のおこった森林で、/小さなハチドリが一滴ずつ/水を運んで火を消そうとします。/ そんなことして山火事が消せるかと、/ 動物たちが笑います。/でもハチドリは真剣に云います。/ 「ジブンニデキルコトハコレクライダカラ」と。/ 我々の仕事はハチドリの一滴に過ぎません。/ でも、全ては一滴からしか始まりません。

事前学習（キャンパスプラザ京都）：　７月２４日（金）５講時　１８：２０～（３時間）

現地実習（北海道・富良野自然塾）：　８月２９日（土）～３１日（月）

事後学習（キャンパスプラザ京都）：　９月４日（金）５講時　１８：２０～（３時間）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★			

年度	2015	授業コード	T80000101
科目名	日本経済入門 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	2012 年に発足した安倍内閣のもとで，「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な取り組みが実施されてきたことにより，我が国経済も今年こそ内需主導の本格的な経済成長を実現するとの期待が高まっている．2014 年度の予算編成の基礎となる「2014 年度経済見通し」によると，消費税率引き上げの影響を除いてもプラスの消費者物価上昇率(1.2%)が見込まれ，我が国経済はデフレから脱却し，名実逆転が解消し，プラスの経済成長が見込まれているからである．とくに注目すべきは，円安にもかかわらず輸出が伸び悩み，個人消費などの国内需要が確実に伸びている． とはいえ，本年 4 月の消費税引き上げは，実際には景気動向にどのように影響するのだろうか．国際的には，TPP への参加問題も大きな課題となっているし，アジア諸国との外交関係も景気に微妙な影響を及ぼすことになるかも知れない． 本講義では，その時々のトピックスにも注意を向けながら，日本経済の特徴を理解できるように平易に解説する．		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版		
教材（その他）			
評価方法	授業内レポートと学期末試験		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を理解する		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		
受講者への要望			
「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける．			
講義の順序とポイント			
1．序　章　日本経済の現況 2．第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長 3．第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長 4．第 2 章　バブル景気と失われた 20 年 5．第 2 章　バブル景気と失われた 20 年 6．第 2 章　バブル景気と失われた 20 年 7．第 3 章　金融システムの動揺 8．第 3 章　金融システムの動揺 9．第 4 章　財政赤字の急増 10．第 4 章　財政赤字の急増 11．第 5 章　産業構造の変化と労働市場の変容 12．第 5 章　産業構造の変化と労働市場の変容 13．第 6 章　生活不安とセイフティネット 14．第 6 章　生活不安とセイフティネット 15．終　章　日本経済の課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					★	

年度	2015	授業コード	T80000201
科目名	経営学総論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Business Administration		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	欧米では「経営学」という名称は一般的には使われていない。わが国でいう「経営学」とは、欧米の経営経済学・経営社会学・経営心理学・経営工学の総体をさす。そしてそれぞれが別個の研究者によって研究が進められている。またそれぞれが独自の研究対象・研究方法・学問体系を持つ。したがって、わが国でも、「経営学」という名称よりも「経営諸学」という名称の方が正確なのである。「経営学」という名称は便宜的に使われているに過ぎない。 本講義では、この「経営諸学」の基本的な内容をできるだけ分かりやすく説明したい。これによって、経営学とはどのようなことを研究するのか、またどのような応用ができそうなのか、分かってもらえればよい。もともと経営学は難しいところがある。時には論者の主張が対立し、矛盾さえ感じることもある。このようなことも分かってもらえればよい。こうした中で、より重要で本質的なことを考える手立てとしてもらいたい。 より詳しく、より専門的には、これから経営学部が提供する諸講義・ゼミで深めていってもらいたい。		
教材（テキスト）	・教科書は使いませんが、毎回の講義用の資料は、ホームページ「http://hasegawa02.nukimi.com/」上にア　ップロードしておきます。 ・トップページの中の「講義用資料」→「経営学総論」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリン　トアウトし、目を通してから講義を聞いて下さい。 ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第１回目の講義で言います。 ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかり聴いて穴埋めをして下さい。 ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくと便利です。		
教材（参考文献）	一般的な「経営学総論」の参考書は第１回目の講義で言います。本によっては、「経営学原理」とか「経営学概論」とか「経営学入門」とか単に「経営学」という書名になっています。書店で買い求めて、大学４年間で、最低２冊は頭に叩き込むようにして下さい。 各回の講義の参考書は、上記参考書にも載っていますが、それ以外はそのつど指示します。		
教材（その他）	パワーポイントを使って、虫食い状態でない講義用資料に基づいて講義を進めます。 ビデオや新聞の切抜き等も使います。		
評価方法	原則として、 平常点　　20% 期末試験　　80%		
到達目標	経営学とはどういう学問かを理解し、そして経営学を深めていき、それを応用できるための基礎的な知識を習得すること。 経営学は、経営学部生に限らず現代人すべてにとって必須の学問である。		
準備学習	事前に講義用のプリントに目を通しておくこと。		
受講者への要望			
私語は禁止とする。時々小テストをするので、熱心に聞いておくこと。			
講義の順序とポイント			
０１．豊かさの時代と企業 ０２．大企業の誕生 ０３．大企業の行きづまり ０４．日本の企業 ０５．企業の新たな歩み			

０６．経営･企業･管理
０７．アメリカの経営学
０８．ドイツの経営学
０９．経営組織のいろいろ
１０．「選択と集中」と組織能力の戦略
１１．企業統治（コーポレート･ガバナンス）とは
１２．企業の国際化と比較優位の理論
１３．未来を見据えて　②技術の未来
１４．未来を見据えて　③経営の未来
１５．経営学とその周辺分野

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★

年度	2015	授業コード	T85000101
科目名	チャレンジショップ入門Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T85000102
科目名	チャレンジショップ入門Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T85000201
科目名	チャレンジショップ入門Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T85000202
科目名	チャレンジショップ入門Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T85000601
科目名	女性企業家講座 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	ビジネスの第一線で活躍する女性企業家を講師にお迎えして、今の仕事につくまでの体験やキャリア形成等についての講義を行っていただきます。どのようにして起業したのか、どのようにしてトップになったのか、管理職の仕事とは何か等を聞くこと通じて、自らのキャリアをデザインし、就職力を向上させることを目指します。		
教材（テキスト）	未定		
教材（参考文献）	未定		
教材（その他）	メモ用紙を持参し、質問したいことなどをメモしてください。		
評価方法	各回の講義内容についての感想文（100％）。		
到達目標	経営の現場の知識を学び、新しいものの見方を身につける。 自分らしいキャリアをデザインするための知識を習得する。		
準備学習	各講師の所属されている会社のホームページなどを読み、予備知識をもって受講してください。		

受講者への要望

企業等から講師をお招きするため、遅刻、私語、居眠りは厳禁。マナーを守れない学生は受講を控えてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 女性企業家を取り巻く環境
3. (4 /28) 松田 直子様 （株式会社 Hibana 代表取締役）
4. (5/12) 未定
5. (5/19) 未定
6. まとめと予習
7. (6/2) いしい 佳子様 （関西女性起業家研究会 、 Office・苑 代表）
8. (6/9) 吉川 和美様 （公認会計士、有限責任監査法人トーマツ/トーマツベンチャーサポート株式会）
9. (6/16) 未定
10. まとめと予習
11. (6/30) 未定
12. (7/7) 福本 アユ子様（星光メンテナンス株式会社 代表取締役）
13. (7/14) 浦中 順子様 （花プラス株式会社 代表取締役）
14. (7/21) 神戸 貴子様 （ビューテイスタジオ フェリス オーナー）
15. 女性企業家講座を通して学んだことの総括

講師の都合などにより変更になる可能性があります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★★	★★	★

年度	2015	授業コード	T86013901
科目名	チャレンジショップA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T86013902
科目名	チャレンジショップA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T86013903
科目名	チャレンジショップA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T86013904
科目名	チャレンジショップA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T86013905
科目名	チャレンジショップA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T86013906
科目名	チャレンジショップA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T86013907
科目名	チャレンジショップA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T86014001
科目名	チャレンジショップB 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T86014002
科目名	チャレンジショップB 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T86014003
科目名	チャレンジショップB 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T86014004
科目名	チャレンジショップB 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T86014005
科目名	チャレンジショップB 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	T86014006
科目名	チャレンジショップB 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理

13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2015	授業コード	TM0030B01
科目名	京都商人論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Kyoto Merchants I		
担当者名	植田　知子	旧科目名称	京都商人論Ⅰ・京都商人論Ⅱ
講義概要	平安遷都以来、長きにわたり日本の都であった京都には、独特の文化が形成されました。その独特の文化を支え、維持・発展に重要な役割を果たしたのが京都の伝統産業です。本講義では、歴史と伝統に育まれたそれらの製品と、高度な技術や技法を今に引き継ぐ老舗のモノ作りについて学びます。また、伝統産業からスタートして、新たな展開を遂げた企業なども取り上げます。		
教材（テキスト）	使用しません。毎回プリントを配布します。		
教材（参考文献）	授業中、適宜指示します。		
教材（その他）	授業は、パワーポイントを使用します。		
評価方法	復習の小テスト（３０％）と 定期試験（７０％）		
到達目標	京都の伝統産業を理解するとともに、それらの産業に携わる商人、技術者のモノ作りの心を学ぶ。		
準備学習	毎回、前回の授業内容に関する「復習の小テスト」をおこないます。復習を怠らないようにして下さい。		
受講者への要望			
皆さんの周囲には、数多くの京都の伝統産業製品や、それらを扱う老舗が存在します。それらの歴史や技術に関心をもちましょう。			
講義の順序とポイント			
１、京都の伝統産業と老舗　　繊維① ２、京都の伝統産業と老舗　　食品① ３、京都の伝統産業と老舗　　工芸① ４、京都の伝統産業と老舗　　食品② ５、京都の伝統産業と老舗　　工芸② ６、京都の伝統産業と老舗　　食品③ ７、京都の伝統産業と老舗　　機械 ８、京都の伝統産業と老舗　　食品④ ９、京都の伝統産業と老舗　　工芸③ １０、京都の伝統産業と老舗　繊維② １１、京都の伝統産業と老舗　工芸④ １２、京都の伝統産業と老舗　サービス １３、京都の伝統産業と老舗　工芸⑤ １４、京都の伝統産業と老舗　食品⑤ １５、今後の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2015	授業コード	TM0070001
科目名	梅岩「心学」研究 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Ethics of Ishida Baigan		
担当者名	植田　知子	旧科目名称	
講義概要	石田梅岩（１６８５～１７４４）は、丹波国桑田郡東懸村（現在の亀岡市東別院東掛）の出身です。梅岩は、人間社会における君臣・父子・夫婦・長幼・朋友の５つの基本的関係を正しく保つための道＝「五倫の道」を、人びとが実行するよう教え導くことを、自身の学問の目的と考えました。そのため性を知ること（＝知性）と、人間の本質である「心」を知ることを、心学修行の１つの到達点としました。この心学の修行と、それぞれの家業の実践とを１つに統合したところに、梅岩教学の特色があります。講義では、梅岩の著した『都鄙問答』を中心に、門人たちによる「道話」も取り入れて、梅岩の教えについての理解を深めます。		
教材（テキスト）	石田梅岩著『都鄙問答』などを、資料プリントとして配布します。		
教材（参考文献）	適宜、お知らせします。		
教材（その他）	毎回、資料プリントを配布します。		
評価方法	授業中に毎回課す小レポート（６０％）、課題レポート（４０％）		
到達目標	梅岩の教えを理解し、現代社会において梅岩心学のもつ意味について、深く考えることを目標とします。		
準備学習	毎回、講義終了時に次回の講義資料を配布します。次回の講義までに読んで、内容を把握しておいて下さい。		
受講者への要望			
各回配布する資料は、その内容をじっくりと、深く読みこむよう心がけて下さい。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに ２、石田梅岩の生い立ちと業績 ３、心を尽くして性を知る ４、商人の社会的役割 ５、「道話」から　；その１ ６、商人にとって学問の必要性 ７、正直とは ８、「道話」から　；その２ ９、私欲ということ １０、私心と公共心 １１、梅岩門人たちの活動 １２、社会に目を向ける；その１ １３、倹約論 １４、生き方を問う １５、社会に目を向ける；その２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						